年度	2018	授業コード	A80000101
科目名	日本経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放った．そして昨年(2017 年)11 月に発足した第 4 次安倍内閣は、「人づくり革命」と「生産性革命」を車の両輪として、経済の好循環の実現に向けて取り組むことになった． この間、財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる予定であったが、「世界経済のリスク」を考慮して見送られた．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（教科書）	特に使用しない		
教材（参考資料）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版 伊藤元重(2015)『日本経済を「見通す」力』（光文社新書 758），光文社 盛山和夫(2015)『社会保障が経済を強くする』（光文社新書 740），光文社		
教育方法	講義資料にもとづいて講義する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題をデータに基づいて説明することができる		
授業時間外学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける．			
授業スケジュール			
1．序　章　日本経済の現況(1) 2．序　章　日本経済の現況(2) 2．第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長 3．第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉 4．第 3 章　プラザ合意と円高不況 5．第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（1） 6．第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（2） 7．第 5 章　金融システムの動揺（1） 8．第 5 章　金融システムの動揺（2） 9．第 6 章　財政赤字の急増（1） 10．第 6 章　財政赤字の急増（2） 11．第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1） 12．第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2） 13．第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）			

14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	A80000102
科目名	日本経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放った．しかし、我が国経済の現状は「失われた 20 年」に生じた様々な問題を解決できたというのにはほど遠い． 　財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる予定であったが、「世界経済のリスク」を考慮して見送られた．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 　講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（教科書）	使用しない		
教材（参考資料）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版 伊藤元重(2015)『日本経済を「見通す」力』（光文社新書 758），光文社 盛山和夫(2015)『社会保障が経済を強くする』(光文社新書 740)，光文社		
教育方法	講義用レジュメを配付しながら、講義法で行う。		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題について説明できる。		
授業時間外学習	毎回提示された課題について、インターネットなどで調べ、講義用レジメの裏面に内容を記述し、次回の授業時に提出。また、予習としては、次回の講義用レジメも配布するので、空欄箇所について、インターネットなどで調べておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
インターネット、新聞、経済雑誌などで、講義（配布するレジメ）と関連する記事、項目を講義前後で必ず調べておくこと。
受講ルール
私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し、退出を求める。
学習上の助言
自分のいろいろな選択行動を振り返ることが、経済を考えることにつながります。今週一週間に買ったもの、なぜそれを選んだのか、から考えてみよう。

授業スケジュール

1. 序　章　日本経済の現況(1)
2. 序　章　日本経済の現況(2)
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉
4. 第 3 章　プラザ合意と円高不況
5. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（１）
6. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（２）
7. 第 5 章　金融システムの動揺（１）

8. 第 5 章　金融システムの動揺（2）
9. 第 6 章　財政赤字の急増（1）
10. 第 6 章　財政赤字の急増（2）
11. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1）
12. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2）
13. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）
14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	A81000103
科目名	マクロ経済入門 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	本講義は、初めてマクロ経済学を体系的に学ぶ学生を対象として、マクロ経済学の基本的な考え方や分析の枠組みについて学びます。まず一国全体の経済活動の水準がどのように測定されているか学習したのちに、金融、貨幣、財政について順に学びます。授業の後半では、「マクロ経済学の基本モデル」として、前半で学んだ GDP や物価といった経済変数の値が、どのような要因によって決定されるのかについて考察します。		
教材（教科書）	平口良司、稲葉大(2015)『マクロ経済学 入門の「一歩前」から応用まで』有斐閣ストゥディア		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介する予定です。		
教育方法	授業は、講義スライドと板書を用いて進めます。		
評価方法	平常点評価（30%）: 課題の提出、授業への参加度により評価します。 期末試験（70%）		
到達目標	１．マクロ経済学に関する専門用語・基礎概念について説明できる ２．マクロ経済に関連する幅広い知識を身に着け、ニュース、新聞報道等ついて説明できる		
授業時間外学習	事前学習： 教科書の該当箇所を読んでおくこと（30 分程度） 事後学習： 講義スライドの内容を復習・理解すること（30 分程度）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

グラフや数式の展開などは実際に手を動かして理解を深めてください。

授業スケジュール

1. イントロダクション
2. マクロ経済学を観察するⅠ：GDP
3. マクロ経済学を観察するⅡ：物価・失業率 (1)
4. マクロ経済学を観察するⅡ：物価・失業率 (2)
5. マクロ経済を支える金融市場 (1)
6. マクロ経済を支える金融市場 (2)
7. 貨幣の機能と中央銀行の役割 (1)
8. 貨幣の機能と中央銀行の役割 (2)
9. 財政の仕組みと機能 (1)
10. 財政の仕組みと機能 (2)
11. 国内総生産と金利の決まり方 (1)
12. 国内総生産と金利の決まり方 (2)
13. 総需要・総供給と物価の決まり方 (1)
14. 総需要・総供給と物価の決まり方 (2)
15. 総需要・総供給と物価の決まり方 (3)

※登録する受講生の人数や理解度に応じて、進度やトピックは変更になる場合があります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	A81000204
科目名	ミクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川﨑　雄二郎	旧科目名称	ミクロ経済学基礎
授業概要	市場のメカニズムとその長所・短所を理解することはミクロ経済学を学ぶ上での第一歩であるといえる。そこで、市場取引に関わる家計と企業双方がどのような行動原理によって消費と生産を行っているかに付いて学んだ上で、市場における価格や取引がどのように調整されるか、さらには市場を通して社会全体の利益（厚生）や財の配分はどうなるかについて理解する。		
教材（教科書）	伊藤元重（2003）『ミクロ経済学 第２版』日本評論社　3,240 円　ISBN-13: 978-4535552616		
教材（参考資料）	講義中に適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	レポート（30%）と試験（70%）により評価する。		
到達目標	１．消費者と生産者の行動原理や市場のメカニズムなどの概念や分析方法を身につけ、発展的な分野に応用することができる。 ２．講義で学んだ概念や分析方法をもとに現実の市場の動向を分析することができる。		
授業時間外学習	毎回の講義は、それまでの講義内容を十分に理解しているものとして進められる。各講義を受けたその都度に復習し（『あとでまとめて復習』では遅い）、分からないことがあれば必ず質問すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＜受講のルール＞
１．講義中の私語は、他の受講者の迷惑となるため厳禁とする。私語がひどい場合は注意をし、改善されない場合は退出を求める。
２．先にも述べたとおり、分からないことがあれば必ず質問すること。

授業スケジュール

１．経済とは？ミクロ経済学とは？
２．経済学の基礎概念：費用便益分析・限界分析
３．消費者の行動：効用と予算制約
４．所得・価格との消費の関わり
５．需要曲線
６．需要の価格弾力性
７．企業の行動：利潤と生産費用
８．利潤最大化：生産量ルール
９．平均総費用と平均可変費用
１０．損益分岐点と操業停止点
１１．（短期の）供給曲線
１２．長期の生産計画・供給曲線
１３．市場の価格調整メカニズム
１４．余剰分析
１５．効率的な資源配分

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	－	★★

年度	2018	授業コード	A81000301
科目名	国際経済入門 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し、グローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学という学問である。国際経済入門では、グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て、基礎的な貿易モデル、例えば、部分均衡分析や２財の貿易モデルを用いて貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する。加えて、近年、FTA などの経済連携の枠組みを通じた関税の撤廃が議論されているが、関税の賦課や撤廃の効果についても説明する。		
教材（教科書）	なし、講義でプリントを配付する。		
教材（参考資料）	・澤田康幸（2003 年）『基礎コース　国際経済学』 新世社 ・大川昌幸（2007 年）『コアテキスト・国際経済学』 新世社 ・石川城太・菊地徹・椋寛（2007 年）『国際経済学をつかむ』 有斐閣 （その他） ・井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治（2000 年）『基礎　国際経済学』 中央経済社 ・若杉隆平（2001 年）『現代経済学入門　国際経済学』 岩波書店		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	基本的に、授業内小テスト等による平常点（60%）、レポート(40%)の成績によって評価する。		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し、まず、それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする。また、貿易政策が貿易に与える効果についても学習し、理解することを目標とする。		
授業時間外学習	１年生時に開講されるミクロ経済入門の内容を復習してのぞむこと。また、各回の終わりに宿題としてレポートを課すので、授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

遅刻や私語を厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。

授業スケジュール

１．イントロダクション
２．部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰
３．部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰
４．部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡
５．部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益（１）
６．部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益（２）
７．２財の貿易モデル：消費者行動の理論（１）
８．２財の貿易モデル：消費者行動の理論（２）
９．２財の貿易モデル：自給自足経済の均衡
１０．２財の貿易モデル：自由貿易均衡（１）
１１．２財の貿易モデル：自由貿易均衡（２）
１２．貿易政策の理論：関税の効果（１）
１３．貿易政策の理論：関税の効果（２）
１４．貿易政策の理論：生産補助金の効果
１５．貿易政策の理論：消費税の効果

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	A81000302
科目名	国際経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し、グローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学という学問である。国際経済入門では、グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て、基礎的な貿易モデル、例えば、部分均衡分析や２財の貿易モデルを用いて、受講生が貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかが理解できるようになることを目的とする。加えて、近年、TPP の参加を通じて参加国内で関税を撤廃することが議論されてきたが、関税が賦課されていると、１国の国益がどのように損なわれかが理解できるようになることも目的とする。		
教材（教科書）	なし、講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	【教科書】 澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣 井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
教育方法	事前に配布した講義レジュメ・資料に沿って、基本的に講義法で行う。教員は講義する内容をホワイトボードに書いてポイントを明確にし、学生はそれをノートに写しながら受講する。講義内容が理解できているかどうかを判断するために小テストを課す。		
評価方法	基本的に、授業内小テスト等による平常点（60%）、レポート（40%）の成績によって評価する。		
到達目標	1. 国際経済学の初歩的な理論モデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解できるようになる。 2. 貿易政策が貿易に与える効果を学習し、その効果を説明できるようになる。		
授業時間外学習	講義で配布するプリントを予め読んで予習しておくこと。また、各回の終わりに宿題としてレポートを極力課すので、授業時間外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. １回生時に開講されるミクロ経済入門の内容を復習してのぞむこと。
2. 遅刻や私語は厳禁とする。
3. トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい。
4. 授業内容に関する理論モデルから得られる結果は高い現実妥当性をもつものも少なからず存在する。モデル分析から得られる結果を現実経済に当てはめて考えてみよう。

授業スケジュール

1. イントロダクション
2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰
3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰
4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡
5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1)
6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2)
7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1)
8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2)
9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡
10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1)
11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2)
12. 貿易政策の理論：関税の効果(1)
13. 貿易政策の理論：関税の効果(2)
14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果
15. 貿易政策の理論：消費税の効果

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	A81000303
科目名	国際経済入門 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し、グローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学という学問である。国際経済入門では、グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て、基礎的な貿易モデル、例えば、部分均衡分析や２財の貿易モデルを用いて、受講生が貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかが理解できるようになることを目的とする。加えて、近年、TPP の参加を通じて参加国内で関税を撤廃することが議論されてきたが、関税が賦課されていると、１国の国益がどのように損なわれかが理解できるようになることも目的とする。		
教材（教科書）	なし、講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	【教科書】 澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣 井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
教育方法	事前に配布した講義レジュメ・資料に沿って、基本的に講義法で行う。教員は講義する内容をホワイトボードに書いてポイントを明確にし、学生はそれをノートに写しながら受講する。講義内容が理解できているかどうかを判断するために小テストを課す。		
評価方法	基本的に、授業内小テスト等による平常点（60%）、レポート（40%）の成績によって評価する。		
到達目標	1. 国際経済学の初歩的な理論モデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解できるようになる。 2. 貿易政策が貿易に与える効果を学習し、その効果を説明できるようになる。		
授業時間外学習	講義で配布するプリントを予め読んで予習しておくこと。また、各回の終わりに宿題としてレポートを極力課すので、授業時間外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. １回生時に開講されるミクロ経済入門の内容を復習してのぞむこと。
2. 遅刻や私語は厳禁とする。
3. トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい。
4. 授業内容に関する理論モデルから得られる結果は高い現実妥当性をもつものも少なからず存在する。モデル分析から得られる結果を現実経済に当てはめて考えてみよう。

授業スケジュール

1. イントロダクション
2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰
3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰
4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡
5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1)
6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2)
7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1)
8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2)
9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡
10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1)
11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2)
12. 貿易政策の理論：関税の効果(1)
13. 貿易政策の理論：関税の効果(2)
14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果
15. 貿易政策の理論：消費税の効果

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	A81000402
科目名	経済政策入門 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面している．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きい．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類される．こうした個別具体的な政策を理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論の理解が不可欠となる． 本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げる．		
教材（教科書）	特に使用しない		
教材（参考資料）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』高菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教育方法	講義資料に基づいて講義する		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	我が国の経済政策論の課題をデータに基づいて説明することができる		
授業時間外学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．

授業スケジュール

1. 経済政策論の誕生と学問的性格
2. 日本経済の現況と政策課題（1）
3. 日本経済の現況と政策課題（2）
4. 日本経済の現況と政策課題（3）
5. 市場社会の変容と三重秩序（1）
6. 市場社会の変容と三重秩序（2）
7. 市場社会の変容と三重秩序（3）
8. 市場社会の変容と三重秩序（4）
9. 国家の変質と福祉国家の誕生（1）
10. 国家の変質と福祉国家の誕生（2）
11. 国家の変質と福祉国家の誕生（3）
12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（1）
13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（2）
14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（3）
15. 国家主権超克の動き

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	A81000503
科目名	財政入門 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	本講義では、政府の役割を明らかにしつつ、財政とはなにかについて理解を深めることを目的として、税制および予算制度を家計や企業の経済活動との関係を現実のデータを踏まえて解説する。特に、企業活動とのかかわりでは、主にマクロ経済学の視点から解説し、家計活動という我々の日々の生活とのかかわりでは、ミクロ経済学の視点から解説する。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	橋本徹・山本栄一・林宜嗣・中井英雄・高林喜久生『基本財政学』有斐閣		
教育方法	講義用レジメを配布しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業中の課題（30%）、３回のレポート（30%）、試験（40%）で評価する。		
到達目標	税制や予算制度などの財政制度がさまざまな経済活動にどのようにか変わっているかについて説明できる。		
授業時間外学習	授業で毎回提示された課題について、インターネットなどで調べ、講義用レジメの裏面に内容を記述し、次回の授業時に提出。また、予習としては、次回の講義用レジメも配布するので、空欄箇所について、インターネットなどで調べておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
インターネット、新聞、経済雑誌などで、講義（配布するレジメ）と関連する記事・項目を講義前後で必ず調べておくこと。
受講ルール
私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し、退出を求める。
学習上の助言
財務省のホームページで、2018 年度予算について、概要、トピック、社会保障関連や教育関連の解説を調べておくことが、授業の理解、レポート作成に役立ちます。

授業スケジュール

第１回　講義の概要説明
第２回　政府の役割：その１　所得分配の公正化
第３回　政府の役割：その２　資源配分の効率化
第４回　資源の有効利用としての予算：その１　雇用
第５回　資源の有効利用としての予算：その２　公共投資
第６回　資源の有効利用としての予算：その３　教育
第７回　資源の有効利用としての予算：その４　国防・司法・公衆衛生
第８回　資源の有効利用としての予算：その５　中小企業
第９回　資源の有効利用としての予算：その６　医療・介護
第１０回　再分配としての予算：その１　所得税・相続税贈与税
第１１回　再分配としての予算：その２　年金
第１２回　再分配としての予算：その３　生活保護
第１３回　財源調達としての予算：その１　法人税
第１４回　財源調達としての予算：その２　消費税
第１５回　財源調達としての予算：その３　公債　＆　総まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	A81000601
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	資産運用の基本について学ぶ。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説します。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義します。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。		
教材（教科書）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 春学期に於いては、実務経験を有する外部講師との共同講義となる。		
評価方法	期末試験 60%、平常点：小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得することができる。 ファイナンシャルプランナー（FP）になるための基礎知識を得ることができる。		
授業時間外学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。
・当然のことながら、スマートフォンを見るなど不適切な学生が発見されれば、ただちに退室してもらいます。

・毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、
　講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。
・受講マナーを欠いていると判断した場合には、ただちに退場してもらいます。もちろん単位も認めません。

授業スケジュール

１．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて

２．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み

３．　マネープランの必要性と金融商品

４．　債券の基礎知識
５．　債券投資の実際
６．　株式投資の魅力とリスク
７．　株価の変動要因
８．　決算書の見方
９．　主な投資指標の見方
１０．　株式投資の判断
１１．　投資信託をの基礎知識
１２．　投資信託を選ぶポイント
１３．　資産運用の概要
１４．　資産運用はどうあるべきか

１５．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	A81000602
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	資産運用の基本について学ぶ。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説します。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義します。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。		
教材（教科書）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 春学期に於いては、実務経験を有する外部講師との共同講義となる。		
評価方法	期末試験 60%、平常点：小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得することができる。 ファイナンシャルプランナー（FP）になるための基礎知識を得ることができる。		
授業時間外学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。
・当然のことながら、スマートフォンを見るなど不適切な学生が発見されれば、ただちに退室してもらいます。

・毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、
　講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。
・受講マナーを欠いていると判断した場合には、ただちに退場してもらいます。もちろん単位も認めません。

授業スケジュール

１．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて

２．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み

３．　マネープランの必要性と金融商品

４．　債券の基礎知識
５．　債券投資の実際
６．　株式投資の魅力とリスク
７．　株価の変動要因
８．　決算書の見方
９．　主な投資指標の見方
１０．　株式投資の判断
１１．　投資信託をの基礎知識
１２．　投資信託を選ぶポイント
１３．　資産運用の概要
１４．　資産運用はどうあるべきか

１５．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	A81001302
科目名	白書で学ぶ現代日本	単位数	2
科目名（英語表記）	Lectures on Contemporary Japan in White Paper		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
授業概要	（1）本講義は政府機関が発表している様々な白書および報告書を、実際にその作成に携わった政府関係者より説明して頂き、現代の日本社会の様々な側面を系統立てて理解することを目的とする。経済問題だけでなく、新聞やＴＶ等で取り上げられる様々な現代日本の社会問題の本質を理解したいと考える者にとって、必ず有益な講義内容となるであろう。 （2）毎年、政府が発表する膨大な報告書類の中でも「白書」は、より正式な政府の見解として各方面から注目されている。この白書には、①法律に基いて国会に提出される白書、②閣議に報告または配布される白書、③その他の白書、の３つのタイプがある。いずれも政府の見解には違いないが、閣議了解を必要とする白書は内閣の統一見解としての性格を有するため、原案作成を担当する各省庁は他の関係省庁との協議を必要とする。本講義では、各省庁間の現場で展開される協議・調整についても一定の解説が期待できる。 （3）白書の基本的な構成は、①現状分析、②これまでの政策の効果と今後の政策課題、③特集、というケースが多い。特に、③特集では、その時々に社会的関心の高いテーマに焦点が当てられ、そのテーマへの系統だった理解には有益な内容となっている。		
教材（教科書）	毎回の講義で解説資料等を配布する。		
教材（参考資料）	（1）白書の要約版等を予習資料として京学なび上で配布する。 （2）各白書の本文は、製作省庁 HP 上で閲覧・ダウンロード可能である。活用されたい。		
教育方法	（1）毎回、講義形式で白書の解説を聴く。 （2）毎回、指定の受講レポートを解説内容に基づいて作成し、提出してもらう。 （3）毎回、質疑応答の時間を設ける。		
評価方法	（1）毎回の受講レポート 60% （2）中間試験および授業内発表 40%		
到達目標	（1）現在日本が直面する個々の政策課題の概要について正確に理解し、その説明ができる。 （2）自分の専門領域と直接・間接に関連する政策課題について情報を整理し、卒業研究に役立てることができる。 （3）解説内容を正確に理解することができる「聞き取り力」、相手からの情報に対して自分が有する情報と理解を関連付けて発展的方向に議論を導くことができる「質問力」を高める。		
授業時間外学習	（1）講義で取り上げる白書の概要をまとめた資料を京学なび上に用意するので、予習教材として目を通しておく。 （2）自分の関心ある領域については、省庁 HP 上にある白書関連サイトを閲覧し、概要を把握すると同時に疑問点を明確にしてから講義に臨む。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．就職活動に向けた準備の一環と位置付けて取り組む。 2．卒業論文のテーマ選択を意識して受講する。 3．私語や途中退席など、問題のある受講態度には厳しく対応する。			
授業スケジュール			
1．講義の順序 第 1 回：講義の概要の説明、「白書」の歴史と目的 第 2 回：白書解説 1 第 3 回：白書解説 2 第 4 回：白書解説 3 第 5 回：白書解説 4 第 6 回：白書解説 5 第 7 回：白書解説 6			

第 8 回：前半の白書の要点整理とその確認テスト
第 9 回：白書解説 7
第 10 回：白書解説 8
第 11 回：白書解説 9
第 12 回：白書解説 10
第 13 回：白書解説 11
第 14 回：白書解説 12
第 15 回：後半の白書の要点整理と試験／レポート課題

２．昨年 2017 年度の本講義で取り上げた白書は以下の通りである。
① 経済財政白書（内閣府）　② 労働経済白書（厚生労働省）　③ 消防白書（消防庁）　④ 情報通信白書（総務省）
⑤ 国土交通白書（国土交通省）　⑥ 食料・農業・農村白書（農林水産省）　⑦ 防衛白書（防衛省）
⑧ 外交青書（外務省）　⑨ 観光白書（観光庁）　⑩ 犯罪白書（法務省）　⑪ 京都市・地域創生計画（京都市）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	A85000301
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	会計はビジネスの言語とも言われ、その企業が属する業界、業種、規模を問わず、そして会計の専門部署に限らず必要とされる知識です。それはつまり、経営学科すべての学生にとって今後経営学を学んで行くうえで会計の用語や基本的な考え方をきちんと理解しておくことが必須であることを意味しています。ビジネス社会において最低限必要とされる会計の基本的な考え方と用語を正しく理解すると同時に、発展的な経営学・会計学の諸科目を履修する上での基礎を身につけること、そしてアカウンティング・マインドを身につけることが本講義の目的です。		
教材（教科書）	指定しない		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	レジュメに沿った講義形式で行います。学生が受け身にならないよう、ケーススタディ等では意見を発表する機会を設けます。		
評価方法	授業内レポート(30%)、授業内小テスト数回(70%)		
到達目標	会計が企業経営において果たす役割を説明できる。 主要な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書)について、その意義と内容を説明できる 。		
授業時間外学習	毎回の講義レジュメの最後に、次回への準備学習は指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講生は積極的に講義に参加すること

授業スケジュール

1. ガイダンス：会計を学ぶ意義
2. 会計が果たす役割
3. 簿記と会計の関係
4. 会計の基礎概念(1)：資産、負債、資本
5. 会計の基礎概念(2)：収益、費用、純利益、期間損益計算
6. 会計の基礎概念(3)：発生主義
7. 売上高と利益の関係
8. 貸借対照表の構成と内容
9. 損益計算書の構成と内容
10. キャッシュ・フロー計算書の構成と内容
11. 企業経営の国際化と会計の国際化
12. 企業経営に役立つ会計：管理会計
13. 原価計算の基本的な仕組み
14. 損益分岐点
15. 総括：改めて会計を学ぶ意義

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	A85000302
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	会計はビジネスの言語とも言われ、その企業が属する業界、業種、規模を問わず、そして会計の専門部署に限らず必要とされる知識です。それはつまり、経営学科すべての学生にとって今後経営学を学んで行くうえで会計の用語や基本的な考え方をきちんと理解しておくことが必須であることを意味しています。ビジネス社会において最低限必要とされる会計の基本的な考え方と用語を正しく理解すると同時に、発展的な経営学・会計学の諸科目を履修する上での基礎を身につけること、そしてアカウンティング・マインドを身につけることが本講義の目的です。		
教材（教科書）	指定しない		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	レジュメに沿った講義形式で行います。学生が受け身にならないよう、ケーススタディ等では意見を発表する機会を設けます。		
評価方法	授業内レポート(30%)、授業内小テスト数回(70%)		
到達目標	会計が企業経営において果たす役割を説明できる。 主要な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書)について、その意義と内容を説明できる 。		
授業時間外学習	毎回の講義レジュメの最後に、次回への準備学習は指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講生は積極的に講義に参加すること

授業スケジュール

1. ガイダンス：会計を学ぶ意義
2. 会計が果たす役割
3. 簿記と会計の関係
4. 会計の基礎概念(1)：資産、負債、資本
5. 会計の基礎概念(2)：収益、費用、純利益、期間損益計算
6. 会計の基礎概念(3)：発生主義
7. 売上高と利益の関係
8. 貸借対照表の構成と内容
9. 損益計算書の構成と内容
10. キャッシュ・フロー計算書の構成と内容
11. 企業経営の国際化と会計の国際化
12. 企業経営に役立つ会計：管理会計
13. 原価計算の基本的な仕組み
14. 損益分岐点
15. 総括：改めて会計を学ぶ意義

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	A85000401
科目名	商学	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	商学はビジネスの基本となる知識を習得するための講義です。 経営学とマーケティングが中心となりますが、財務諸表や企業のファイナンス（お金の調達）についても基本的なことを学びます。 この講義を受けることによって、当たり前に存在しているように見える企業が、大企業であれ中小の企業であれ、日々、時間に追われながら業務をこなし、時代の変化に対応していかなければならないことが深く理解できるようになります。 社会に出るとなぜ厳しいのか、働くためにはなぜがんばらなければならないのかがわかります。社会や企業で生き抜いていくためには、この講義や他の講義で学ぶ知識がなぜ必要である理由もわかるでしょう。 今後の就活のエントリーシートの記入や面接の際に、何を書き何を言うべきかを今から準備するために必要な知識が得られる講義です。		
教材（教科書）	【購入必須です】柳井正『経営者になるためのノート』2015 年　PHP　￥1,204		
教材（参考資料）	適宜、リアルタイムに掲載される記事などの資料を配布します。		
教育方法	（1）教科書を中心に進めます。本文を読みながら、出てきた言葉から商学のテーマを引き出して講義します。 →従って、教科書は毎回携帯し、ボロボロになるまで書き込んで使ってもらいます。 （2）商学のテーマについてはパワーポイントで講義します。 （3）企業経営、ファイナンスに関する経済番組の映像を視聴する時間も取り入れてリアルに理解できるようにします		
評価方法	（1）レポート課題を出します（70%） （2）授業における参加と貢献の度合いを評価します（30%）		
到達目標	（1）ビジネスがなぜ厳しいのかを心から理解して話すことができるようになる （2）経営学、マーケティング、ファイナンス、財務諸表について、一通りの理解をし、次のステップに進めるだけの基礎力を身に着けることができる		
授業時間外学習	各回の予習として、以下に指定する箇所を読んで授業に臨んでください。 第 3 回　第 1 項　p10-13 第 4 回　第 2 項　p14-22 第 5 回　p48-56 第 6 回　p10-14 第 7 回　p10-14 第 8 回　p32-35, p81-85 第 9 回　p36-41, p66-71 第 10 回　　p86-99 第 11 回　p26-31, p42-47 第 12 回　p104--115 第 13 回　p72-80 第 14 回　p116-128 第 15 回　p144-164		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」について評価します。 ●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加）、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。 ●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、 2 回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。			

●私語は厳しく注意します。場合によっては座席を変更します。
●（就活に関係するなど特別な場合を除き）スマートフォンの電源は授業の始まり時に切ってもらいます。電源を切れない場合は授業の初めに講師まで申し出てください。
●授業をよりよく理解するためには、日本経済新聞、日経ビジネス（雑誌）、テレビ東京系列のワールドビジネスサテライト（月-金 23:00～）にできる限り接しておくことをお勧めします。

授業スケジュール

【第 1 回　オリエンテーション】
商学とは何か。ひとつの入り口としてユニクロや G.U.を展開するファーストリテイリングがどのような業態であり消費者がメリットを受けることができるかを知り、商業について興味を持つことができる。
【第 2 回　企業とは何か】
企業はあたりまえにあるものではなく、経営者の意図と資本家の資金を元にビジネスを展開することから始まる。株式会社の成り立ち、成長の必要性、企業のミッションなどについて理解することで、企業のダイナミックな存在について知ることができる。
【第 3 回　ビジネスとは何か】
商人と評論家と慈善家はそれぞれ狙いをもって社会と関わり、自らの達成感を得ながら社会を良くしようとしている。それぞれどのような役割を持ち、とりわけ商人はどのような人でなければならないか、新たな認識を持つことができる。
【第 4 回　商品やサービスを提供する企業】
ビジネスの川上にある企業について、どのように利益を挙げているのかを理解する。売上だけでなく、コストや時間制約も含めて、どのように売上を高め利益を作るのかをいくつかの業界について理解する。
【第 5 回　流通業】
メーカーと消費者をつなぐ役割を持つ流通業の役割と利益について考える。コンビニ、スーパー、百貨店、ショッピングモールについてそれぞれのビジネス上の特徴をふまえて、流通の果たす役割を理解する。
【第 6 回　消費者】
消費者とはどのような人々なのか。セグメンテーションによってどのように消費者像（ターゲット）が作られるのかの実際を知ることで、消費者であった自分が実は企業にコントロールされていたことを知り、驚くことになる。
【第 7 回　イノベーション】
企業は漫然と同じことを繰り返すことはなく、日々存続をかけて変革に取り組んでいる。その結果がイノベーションとなる。イノベーションによって商品が改良されて競争力を発揮し、新商品が生まれて新たな利益を生む。なぜ、社会が厳しいのか、その根本の姿を見ることができる。
【第 8 回　組織と人材】
イノベーションを生むための組織はどうあるべきか。経営者層のリーダーシップや社員のモチベーションを高めて企業の競争力を生み出すための組織と人材を知ることで、これから就職するにあたって何を学ぶべきかを自覚できるようになる。
【第 9 回　顧客志向】
企業が最も重視するのは顧客志向である。企業がマーケティングを取り入れているのも顧客の満足を高め企業のファンを作るためである。企業がどれほど顧客を重視し、そのためにどのような対応をしているのかを知ることで、なぜ優れた企業が利益を挙げ続けられるかを知ることができる。
【第 10 回　売上と利益】
利益はどのように生まれるのか。売上を増やす方法とコストを削減する方法がある。
さらに大きな利益を挙げるためには、企業は借入を行って事業を拡大することが必要なこともある。また、最近問題になっている企業の内部留保はどのように活用すべきなのか。
決算書の基本的な読み方を学ぶといかに企業が借金をしているかに驚き、企業会計の実態を知ることになる。
【第 11 回　成長論】
企業は成長しなければならない。それはなぜなのか。成長するためにはどうすればよいのか。アンゾフやボストンコンサルティングの PPM を基礎知識として、成長の必要性を学んだうえで、最近の企業の在り方や官庁、NPO の役割についても成長論の視点から思考実験を行う。
【第 12 回　組織論】
企業の仕事の多くは組織で行う。個人プレーと組織の仕事はどのように異なるのか。チーム作業に欠かせない「信頼」はどうすれば生まれるのか、多様性を認めると組織の力がなぜ強くなるのかを学び、自身の人間関係の強化に結び付けてほしい。
【第 13 回　働き方革命】
組織の中で自己実現することは可能か。内発的な動機付けによって仕事を行う「クリエイティブクラス」を一つのモデルとして

知り、これからの就活で活用してもらう。
その一方で、仕事に全身全霊を傾けるモーレツな経営者の考え方と、そうしなければ生き残れない企業の現実を知り、自分なりの働き方のイメージを形成できるようになる。
【第 14 回　ビジョナリー・カンパニー】
企業にとって最終的に重要なのは利益である。しかし、長期的に利益を最大化するためには、利益を少なくしてでも売上を高めて業界内のシェアを高める戦略が有効な時代もあった。しかし、利益以上に企業のミッションの達成を重視する企業が、最終的には高い利益を挙げているという見方もある。ミッションと売り上げと利益をめぐる企業経営の考え方を学び、今の時代にはどの考え方が最もフィットするかを具体的な企業を通じて議論する。
【第 15 回　マイケル・ポーターの CSV】
これからの企業のミッションは何になるか。また、これからの消費者は何を買うのか。その二つのベクトルの焦点にあるのが「社会の課題を解決するビジネス」であり、マイケル・ポーター教授が CSV として提示したものである。今のビジネスが流れている大きな方向を理解し、本筋に沿った人生のキャリアデザインができるようになる。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	A85000402
科目名	商学	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	商学はビジネスの基本となる知識を習得するための講義です。 経営学とマーケティングが中心となりますが、財務諸表や企業のファイナンス（お金の調達）についても基本的なことを学びます。 この講義を受けることによって、当たり前に存在しているように見える企業が、大企業であれ中小の企業であれ、日々、時間に追われながら業務をこなし、時代の変化に対応していかなければならないことが深く理解できるようになります。 社会に出るとなぜ厳しいのか、働くためにはなぜがんばらなければならないのかがわかります。社会や企業で生き抜いていくためには、この講義や他の講義で学ぶ知識がなぜ必要である理由もわかるでしょう。 今後の就活のエントリーシートの記入や面接の際に、何を書き何を言うべきかを今から準備するために必要な知識が得られる講義です。		
教材（教科書）	【購入必須です】柳井正『経営者になるためのノート』2015 年　PHP　￥1,204		
教材（参考資料）	適宜、リアルタイムに掲載される記事などの資料を配布します。		
教育方法	（1）教科書を中心に進めます。本文を読みながら、出てきた言葉から商学のテーマを引き出して講義します。 →従って、教科書は毎回携帯し、ボロボロになるまで書き込んで使ってもらいます。 （2）商学のテーマについてはパワーポイントで講義します。 （3）企業経営、ファイナンスに関する経済番組の映像を視聴する時間も取り入れてリアルに理解できるようにします		
評価方法	（1）レポート課題を出します（70%） （2）授業における参加と貢献の度合いを評価します（30%）		
到達目標	（1）ビジネスがなぜ厳しいのかを心から理解して話すことができるようになる （2）経営学、マーケティング、ファイナンス、財務諸表について、一通りの理解をし、次のステップに進めるだけの基礎力を身に着けることができる		
授業時間外学習	各回の予習として、以下に指定する箇所を読んで授業に臨んでください。 第 3 回　第 1 項　p10-13 第 4 回　第 2 項　p14-22 第 5 回　p48-56 第 6 回　p10-14 第 7 回　p10-14 第 8 回　p32-35, p81-85 第 9 回　p36-41, p66-71 第 10 回　　p86-99 第 11 回　p26-31, p42-47 第 12 回　p104--115 第 13 回　p72-80 第 14 回　p116-128 第 15 回　p144-164		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」について評価します。 ●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加）、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。 ●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、 2 回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。			

●私語は厳しく注意します。場合によっては座席を変更します。
●（就活に関係するなど特別な場合を除き）スマートフォンの電源は授業の始まり時に切ってもらいます。電源を切れない場合は授業の初めに講師まで申し出てください。
●授業をよりよく理解するためには、日本経済新聞、日経ビジネス（雑誌）、テレビ東京系列のワールドビジネスサテライト（月-金 23:00～）にできる限り接しておくことをお勧めします。

授業スケジュール

【第 1 回　オリエンテーション】
商学とは何か。ひとつの入り口としてユニクロや G.U.を展開するファーストリテイリングがどのような業態であり消費者がメリットを受けることができるかを知り、商業について興味を持つことができる。
【第 2 回　企業とは何か】
企業はあたりまえにあるものではなく、経営者の意図と資本家の資金を元にビジネスを展開することから始まる。株式会社の成り立ち、成長の必要性、企業のミッションなどについて理解することで、企業のダイナミックな存在について知ることができる。
【第 3 回　ビジネスとは何か】
商人と評論家と慈善家はそれぞれ狙いをもって社会と関わり、自らの達成感を得ながら社会を良くしようとしている。それぞれどのような役割を持ち、とりわけ商人はどのような人でなければならないか、新たな認識を持つことができる。
【第 4 回　商品やサービスを提供する企業】
ビジネスの川上にある企業について、どのように利益を挙げているのかを理解する。売上だけでなく、コストや時間制約も含めて、どのように売上を高め利益を作るのかをいくつかの業界について理解する。
【第 5 回　流通業】
メーカーと消費者をつなぐ役割を持つ流通業の役割と利益について考える。コンビニ、スーパー、百貨店、ショッピングモールについてそれぞれのビジネス上の特徴をふまえて、流通の果たす役割を理解する。
【第 6 回　消費者】
消費者とはどのような人々なのか。セグメンテーションによってどのように消費者像（ターゲット）が作られるのかの実際を知ることで、消費者であった自分が実は企業にコントロールされていたことを知り、驚くことになる。
【第 7 回　イノベーション】
企業は漫然と同じことを繰り返すことはなく、日々存続をかけて変革に取り組んでいる。その結果がイノベーションとなる。イノベーションによって商品が改良されて競争力を発揮し、新商品が生まれて新たな利益を生む。なぜ、社会が厳しいのか、その根本の姿を見ることができる。
【第 8 回　組織と人材】
イノベーションを生むための組織はどうあるべきか。経営者層のリーダーシップや社員のモチベーションを高めて企業の競争力を生み出すための組織と人材を知ることで、これから就職するにあたって何を学ぶべきかを自覚できるようになる。
【第 9 回　顧客志向】
企業が最も重視するのは顧客志向である。企業がマーケティングを取り入れているのも顧客の満足を高め企業のファンを作るためである。企業がどれほど顧客を重視し、そのためにどのような対応をしているのかを知ることで、なぜ優れた企業が利益を挙げ続けられるかを知ることができる。
【第 10 回　売上と利益】
利益はどのように生まれるのか。売上を増やす方法とコストを削減する方法がある。
さらに大きな利益を挙げるためには、企業は借入を行って事業を拡大することが必要なこともある。また、最近問題になっている企業の内部留保はどのように活用すべきなのか。
決算書の基本的な読み方を学ぶといかに企業が借金をしているかに驚き、企業会計の実態を知ることになる。
【第 11 回　成長論】
企業は成長しなければならない。それはなぜなのか。成長するためにはどうすればよいのか。アンゾフやボストンコンサルティングの PPM を基礎知識として、成長の必要性を学んだうえで、最近の企業の在り方や官庁、NPO の役割についても成長論の視点から思考実験を行う。
【第 12 回　組織論】
企業の仕事の多くは組織で行う。個人プレーと組織の仕事はどのように異なるのか。チーム作業に欠かせない「信頼」はどうすれば生まれるのか、多様性を認めると組織の力がなぜ強くなるのかを学び、自身の人間関係の強化に結び付けてほしい。
【第 13 回　働き方革命】
組織の中で自己実現することは可能か。内発的な動機付けによって仕事を行う「クリエイティブクラス」を一つのモデルとして

知り、これからの就活で活用してもらう。
その一方で、仕事に全身全霊を傾けるモーレツな経営者の考え方と、そうしなければ生き残れない企業の現実を知り、自分なりの働き方のイメージを形成できるようになる。
【第 14 回　ビジョナリー・カンパニー】
企業にとって最終的に重要なのは利益である。しかし、長期的に利益を最大化するためには、利益を少なくしてでも売上を高めて業界内のシェアを高める戦略が有効な時代もあった。しかし、利益以上に企業のミッションの達成を重視する企業が、最終的には高い利益を挙げているという見方もある。ミッションと売り上げと利益をめぐる企業経営の考え方を学び、今の時代にはどの考え方が最もフィットするかを具体的な企業を通じて議論する。
【第 15 回　マイケル・ポーターの CSV】
これからの企業のミッションは何になるか。また、これからの消費者は何を買うのか。その二つのベクトルの焦点にあるのが「社会の課題を解決するビジネス」であり、マイケル・ポーター教授が CSV として提示したものである。今のビジネスが流れている大きな方向を理解し、本筋に沿った人生のキャリアデザインができるようになる。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	A85000501
科目名	事業構想概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Design		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	
授業概要	Entrepreneurship is a key concept for any business spirit, but not a title. No text required, but all students are expected to experience the reality of entrepreneurship with Case Study Method (Harvard Business School) during this courses. Every year set a reference book and discuss the essence of entrepreneurship during this courses. Set a goal to present students' own start-up / turnaround business plan at the end . Logical thinking and presentation skill are also required to accomplish during this courses. 起業家精神は事業構想の基礎であり、魂：資格ではない。試験は行わないが、受講生はこの講義を通じてケースメソッド(HBS)の中にその真髄を学んでいただくことになる。毎年参考書を設定するが、それに加え、何が本質かを議論する。最後に自ら起業したい、または改革したい企業の事業計画を策定しプレゼンテーションを行う。よって受講生は本講義を通じて論理的思考、プレゼンテーション能力を講義の中で培うものことができる。		
教材（教科書）	Shoe Dog, A Memoir by the creator of Nike (by Phil Night, Simon Schuster, ISBN 978-1-4711-4670-1) または日本語訳本　東洋経済新報社　ISBN978-4-492-04617-3 Handout and Case should be distributed at the each session, upon Students' best interest (Past examples, Nike, Starbucks, Apple, Google, NBA, MLB, Ritz Carlton, Seven Eleven, Yoshinoya etc.) 受講生の興味ある産業、分野を考慮し、毎回提示する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	Never to excuse your life, Never to be late, Never to cheat/short cut. All students should be communicated by faculty, one by one. 授業は講義法と学生によるプレゼンテーションを中心に行われる。言い訳を言わない、今からでも遅くない、ごまかさない。 全ての受講生は教官により認識されコミュニケーションが取られる。		
評価方法	50% Class contribution, 35% Last presentation, 15% Quiz at the each session		
到達目標	学生は起業家精神とは？を説明できるようになるとともに、コミュニケーション、論理的思考、マナー、基礎的語学、会計知識を身につけることができる。		
授業時間外学習	Quick quiz should be distributed at the each session and Students should submit before the next session. Expected to spend 20-30 minutes each and send by e-mail. 毎回次回の Quiz が提示されるので、学生は次回講義の期限までにメールで提出することとなる（想定毎回 20-30 分活用）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
Stay Hungry, Stay Foolish (Steve Jobs)			
授業スケジュール			
1．Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting オリエンテーション、事業計画の説明、目標設定 2．Chapter 1962, 1963 / 参考書　1962, 1963 年 3．Chapter 1964, 1965, 1966, 1967, 1968 / 参考書　1964, 1965, 1966, 1967, 1968 年 4．Chapter 1969, 1970, 1971, 1972, 1973, 1974 / 参考書　1969, 1970, 1971, 1972, 1973, 1974 年 5．Chapter 1975, 1976, 1977, 1978, 1979 /　参考書　1975, 1976, 1977, 1978, 1979 年 6．Chapter 1980, Night / 参考書　1980 年、夜			

7．Midterm Review, Goal Setting / 中間レビュー、事業選択

8．On Financials/ Fundamental of financials 財務、会計に関しての基礎

9．On Innovation / Best practice at innovation イノベーションのベストプラクティス

１０．On Venture Capital　ベンチャーキャピタルに関して

１１．What is Silicon Valley シリコンバレーとは？

１２．On Presentation　プレゼンテーションとは？

１３．Case, Most requested company 受講者から一番リクエストあった企業

１４．Presentation of Business Plan 1 事業計画発表 1

１５．Presentation of Business Plan 2 事業計画発表 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	A85000502
科目名	事業構想概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Design		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	
授業概要	Entrepreneurship is a key concept for any business spirit, but not a title. No text required, but all students are expected to experience the reality of entrepreneurship with Case Study Method (Harvard Business School) during this courses. Every year set a reference book and discuss the essence of entrepreneurship during this courses. Set a goal to present students' own start-up / turnaround business plan at the end . Logical thinking and presentation skill are also required to accomplish during this courses. 起業家精神は事業構想の基礎であり、魂：資格ではない。試験は行わないが、受講生はこの講義を通じてケースメソッド(HBS)の中にその真髄を学んでいただくことになる。毎年参考書を設定するが、それに加え、何が本質かを議論する。最後に自ら起業したい、または改革したい企業の事業計画を策定しプレゼンテーションを行う。よって受講生は本講義を通じて論理的思考、プレゼンテーション能力を講義の中で培うものことができる。		
教材（教科書）	Shoe Dog, A Memoir by the creator of Nike (by Phil Night, Simon Schuster, ISBN 978-1-4711-4670-1) または日本語訳本　東洋経済新報社　ISBN978-4-492-04617-3 Handout and Case should be distributed at the each session, upon Students' best interest (Past examples, Nike, Starbucks, Apple, Google, NBA, MLB, Ritz Carlton, Seven Eleven, Yoshinoya etc.) 受講生の興味ある産業、分野を考慮し、毎回提示する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	Never to excuse your life, Never to be late, Never to cheat/short cut. All students should be communicated by faculty, one by one. 授業は講義法と学生によるプレゼンテーションを中心に行われる。言い訳を言わない、今からでも遅くない、ごまかさない。 全ての受講生は教官により認識されコミュニケーションが取られる。		
評価方法	50% Class contribution, 35% Last presentation, 15% Quiz at the each session		
到達目標	学生は起業家精神とは？を説明できるようになるとともに、コミュニケーション、論理的思考、マナー、基礎的語学、会計知識を身につけることができる。		
授業時間外学習	Quick quiz should be distributed at the each session and Students should submit before the next session. Expected to spend 20-30 minutes each and send by e-mail. 毎回次回の Quiz が提示されるので、学生は次回講義の期限までにメールで提出することとなる（想定毎回 20-30 分活用）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
Stay Hungry, Stay Foolish (Steve Jobs)			
授業スケジュール			
1．Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting オリエンテーション、事業計画の説明、目標設定 2．Chapter 1962, 1963 / 参考書　1962, 1963 年 3．Chapter 1964, 1965, 1966, 1967, 1968 / 参考書　1964, 1965, 1966, 1967, 1968 年 4．Chapter 1969, 1970, 1971, 1972, 1973, 1974 / 参考書　1969, 1970, 1971, 1972, 1973, 1974 年 5．Chapter 1975, 1976, 1977, 1978, 1979 /　参考書　1975, 1976, 1977, 1978, 1979 年 6．Chapter 1980, Night / 参考書　1980 年、夜			

7．Midterm Review, Goal Setting / 中間レビュー、事業選択

8．On Financials/ Fundamental of financials 財務、会計に関しての基礎

9．On Innovation / Best practice at innovation イノベーションのベストプラクティス

１０．On Venture Capital　ベンチャーキャピタルに関して

１１．What is Silicon Valley シリコンバレーとは？

１２．On Presentation　プレゼンテーションとは？

１３．Case, Most requested company 受講者から一番リクエストあった企業

１４．Presentation of Business Plan 1 事業計画発表 1

１５．Presentation of Business Plan 2 事業計画発表 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	A85000701
科目名	経営戦略論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、受講生が経営戦略の基本と実践力が身につくことを目的とします。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になることを目指します。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考資料）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行います。 毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。それによって授業内容の理解度を確認します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	受講者は経済新聞や経済雑誌の経営戦略に関する記事を読んで、内容を説明できる。		
授業時間外学習	講義資料を 1 週間前までに京学なびに掲載するので、事前に読んで内容を理解しておくこと。(各回の学習推定時間は 45 分) 1 経営戦略とは 2 トレードオフ 3 コンビニ 4 ポイントカード 5 事例研究：餃子の王将 6 差別価格 7 消費の外部性 8 ビジネスモデル 9 参入障壁 10 デファクトスタンダード 11 株式会社 12 M&A 13 企業価値 14 日本型経営 15 事例研究：スティーブジョブズ		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。
授業スケジュール
1 経営戦略とは 2 トレードオフ 3 コンビニ 4 ポイントカード 5 事例研究：餃子の王将 6 差別価格

7 消費の外部性
8 ビジネスモデル
9 参入障壁
10 デファクトスタンダード
11 株式会社
12 M&A
13 企業価値
14 日本型経営
15 事例研究：スティーブジョブズ
常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	A85000702
科目名	経営戦略論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、受講生が経営戦略の基本と実践力が身につくことを目的とします。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になることを目指します。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考資料）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行います。 毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。それによって授業内容の理解度を確認します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	受講者は経済新聞や経済雑誌の経営戦略に関する記事を読んで、内容を説明できる。		
授業時間外学習	講義資料を 1 週間前までに京学なびに掲載するので、事前に読んで内容を理解しておくこと。(各回の学習推定時間は 45 分) 1 経営戦略とは 2 トレードオフ 3 コンビニ 4 ポイントカード 5 事例研究：餃子の王将 6 差別価格 7 消費の外部性 8 ビジネスモデル 9 参入障壁 10 デファクトスタンダード 11 株式会社 12 M&A 13 企業価値 14 日本型経営 15 事例研究：スティーブジョブズ		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。
授業スケジュール
1 経営戦略とは 2 トレードオフ 3 コンビニ 4 ポイントカード 5 事例研究：餃子の王将 6 差別価格

7 消費の外部性
8 ビジネスモデル
9 参入障壁
10 デファクトスタンダード
11 株式会社
12 M&A
13 企業価値
14 日本型経営
15 事例研究：スティーブジョブズ
常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	A85000801
科目名	経営情報システム論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	企業は・継続・発展するものとするならば、企業の経営課題は変化する内外の情勢を的確に把握し、経営をどのように舵取りしていくか・又経営諸資源の活用をどのように展開していくかが、非常に重要な役割をもつことになる。企業を人体にたとえれば、情報は人体の諸機関を動かす信号であり、コンピュータや通信ネットワークは脳や神経に相当することとなる。現代では、経営活動が情報をフルに活用して、積極的に経営活動を推進しなければきびしい企業競争に生き残れない。 本講義では、企業モデルでの経営機能と情報の関係を説明し、情報技術の進歩によって情報の扱い方、処理方法、システム化などが・どのように時代と共に変遷してきたかを歴史的過程を辿って講述する。更に現代から将来への展望に関する考察も試みる。 学生は本講義によって、企業経営と経営情報システムとの関係を理解し、今後の環境変化に対応した情報システムの変化を考察できるようになる。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。		
教材（教科書）	遠山暁／村田潔『経営情報論 新版補訂（有斐閣アルマ)』有斐閣		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	電子黒板を利用しながら講義法で授業は進められる。		
評価方法	2/3 以上の受講を単位認定要件とし、単位認定要件を満たした上で、 授業内提出物及び小テスト(35%)、 レポート(30%)、 定期試験(35%) で評価する。		
到達目標	企業経営にとって経営情報システムの重要性を科学的な観点から説明できる。		
授業時間外学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 各回の授業内容に該当する教科書のページを事前に読んで、専門用語の確認などを含めて事前学習をしておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。 01:教科書該当ページなし 02:教科書 pp1-pp28 03:教科書 pp29-pp54 04:教科書 pp55-pp78 05:教科書 pp1-pp78 06:教科書 pp79-pp108 07:教科書 pp109-pp136 08:教科書 pp137-pp164 09:教科書 pp165-pp186 10:教科書 pp79-pp186 11:教科書 pp187-pp212 12:教科書 pp213-pp240 13:教科書 pp241-pp260 14:教科書 pp261-pp286 15:教科書 pp287-pp318		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業に毎回出席すること。講義を聞くだけでなく、必ずノートやメモをとること。遅刻・早退・私語は厳禁。			
授業スケジュール			

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1． 受講ガイダンス
2. 経営情報論の基礎
3. 経営情報論の基礎理論
4. 経営情報システムの変遷
5. 反転学習(理解度確認)
6. 情報通信技術の進展
7. 経営情報システムの設計・開発
8. 経営情報システムの管理
9. 情報通信技術とビジネス・プロセス革新
10. 反転学習(理解度確認)
11. ネット・ビジネス
12. 情報通信技術と組織変革
13. 情報通信技術と組織コミュニケーション
14. 情報通信技術と社会
15. まとめと今後の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	A85000802
科目名	経営情報システム論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	企業は・継続・発展するものとするならば、企業の経営課題は変化する内外の情勢を的確に把握し、経営をどのように舵取りしていくか・又経営諸資源の活用をどのように展開していくかが、非常に重要な役割をもつことになる。企業を人体にたとえれば、情報は人体の諸機関を動かす信号であり、コンピュータや通信ネットワークは脳や神経に相当することとなる。現代では、経営活動が情報をフルに活用して、積極的に経営活動を推進しなければきびしい企業競争に生き残れない。 本講義では、企業モデルでの経営機能と情報の関係を説明し、情報技術の進歩によって情報の扱い方、処理方法、システム化などが・どのように時代と共に変遷してきたかを歴史的過程を辿って講述する。更に現代から将来への展望に関する考察も試みる。 学生は本講義によって、企業経営と経営情報システムとの関係を理解し、今後の環境変化に対応した情報システムの変化を考察できるようになる。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。		
教材（教科書）	遠山暁／村田潔『経営情報論 新版補訂（有斐閣アルマ)』有斐閣		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	電子黒板を利用しながら講義法で授業は進められる。		
評価方法	2/3 以上の受講を単位認定要件とし、単位認定要件を満たした上で、 授業内提出物及び小テスト(35%)、 レポート(30%)、 定期試験(35%) で評価する。		
到達目標	企業経営にとって経営情報システムの重要性を科学的な観点から説明できる。		
授業時間外学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 各回の授業内容に該当する教科書のページを事前に読んで、専門用語の確認などを含めて事前学習をしておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。 01:教科書該当ページなし 02:教科書 pp1-pp28 03:教科書 pp29-pp54 04:教科書 pp55-pp78 05:教科書 pp1-pp78 06:教科書 pp79-pp108 07:教科書 pp109-pp136 08:教科書 pp137-pp164 09:教科書 pp165-pp186 10:教科書 pp79-pp186 11:教科書 pp187-pp212 12:教科書 pp213-pp240 13:教科書 pp241-pp260 14:教科書 pp261-pp286 15:教科書 pp287-pp318		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業に毎回出席すること。講義を聞くだけでなく、必ずノートやメモをとること。遅刻・早退・私語は厳禁。			
授業スケジュール			

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1． 受講ガイダンス
2. 経営情報論の基礎
3. 経営情報論の基礎理論
4. 経営情報システムの変遷
5. 反転学習(理解度確認)
6. 情報通信技術の進展
7. 経営情報システムの設計・開発
8. 経営情報システムの管理
9. 情報通信技術とビジネス・プロセス革新
10. 反転学習(理解度確認)
11. ネット・ビジネス
12. 情報通信技術と組織変革
13. 情報通信技術と組織コミュニケーション
14. 情報通信技術と社会
15. まとめと今後の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	A90009001
科目名	公衆衛生学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Health		
担当者名	竹内　正人	旧科目名称	
授業概要	公衆衛生の基本となる知識、関係法規等の理解とともに、日本における公衆衛生の現状について学修する。また、喫煙や飲酒などの嗜好品摂取、生活習慣、メタボリックシンドローム対策等、公衆衛生の分野において問題となっているトピックについて、そのアプローチ等についても実例を挙げて教授する。健康を守るためには、医療だけでなく、個人の生活、ならびに地域・社会の環境等様々な方面からのアプローチが必要であることを学ぶ。		
教材（教科書）	『シンプル公衆衛生学』（南江堂）2592 円（税込み）		
教材（参考資料）	『国民衛生の動向』（厚生労働統計協会）2500 円（税込み）		
教育方法	講義による。		
評価方法	定期試験により評価する		
到達目標	個人だけでなく集団としての健康増進、疾病予防を考えるという公衆衛生的な考え方を身につける。 1．日本における保健体制、健康政策を理解する。 2．保健・医療・福祉の連携の必要性と現状、及びその問題点について理解する。 3．疫学的な考え方や衛生統計を理解し、地域保健等にどのように役立てるかを知る。 4．実践活動としての健康教育、ヘルスプロモーション等について理解する。		
授業時間外学習	授業前にテキストを読んでおくことが望ましい。また、新聞等で社会情勢をみておくことも必要である。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

遠慮せずに理解できないこと等について質問すること。
授業中に質問できなかった場合は、メール等で質問することが必要である。

授業スケジュール

1. 健康の概念と公衆衛生
2. 環境衛生
3. 食品衛生
4. 感染症対策
5. 学校保健
6. 労働衛生
7. 成人・老人保健
8. 健康データ、衛生統計と疫学
9. 国際保健・危機管理
10. 公衆衛生行政と関連衛生法規
11. 医療保健制度と介護、社会保障
12. 健康教育、ヘルスプロモーションと行動変容
13. 母子保健
14. 精神保健
15. 地域保健

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	A90009002
科目名	公衆衛生学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Health		
担当者名	竹内　正人	旧科目名称	
授業概要	公衆衛生の基本となる知識、関係法規等の理解とともに、日本における公衆衛生の現状について学修する。また、喫煙や飲酒などの嗜好品摂取、生活習慣、メタボリックシンドローム対策等、公衆衛生の分野において問題となっているトピックについて、そのアプローチ等についても実例を挙げて教授する。健康を守るためには、医療だけでなく、個人の生活、ならびに地域・社会の環境等様々な方面からのアプローチが必要であることを学ぶ。		
教材（教科書）	『シンプル公衆衛生学』（南江堂）2592 円（税込み）		
教材（参考資料）	『国民衛生の動向』（厚生労働統計協会）2500 円（税込み）		
教育方法	講義による。		
評価方法	定期試験により評価する		
到達目標	個人だけでなく集団としての健康増進、疾病予防を考えるという公衆衛生的な考え方を身につける。 1．日本における保健体制、健康政策を理解する。 2．保健・医療・福祉の連携の必要性と現状、及びその問題点について理解する。 3．疫学的な考え方や衛生統計を理解し、地域保健等にどのように役立てるかを知る。 4．実践活動としての健康教育、ヘルスプロモーション等について理解する。		
授業時間外学習	授業前にテキストを読んでおくことが望ましい。また、新聞等で社会情勢をみておくことも必要である。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

遠慮せずに理解できないこと等について質問すること。
授業中に質問できなかった場合は、メール等で質問することが必要である。

授業スケジュール

1. 健康の概念と公衆衛生
2. 環境衛生
3. 食品衛生
4. 感染症対策
5. 学校保健
6. 労働衛生
7. 成人・老人保健
8. 健康データ、衛生統計と疫学
9. 国際保健・危機管理
10. 公衆衛生行政と関連衛生法規
11. 医療保健制度と介護、社会保障
12. 健康教育、ヘルスプロモーションと行動変容
13. 母子保健
14. 精神保健
15. 地域保健

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	A90010001
科目名	栄養学	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Nutrition		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	栄養とは、生物が食物を摂取することによって、生命および健康の維持、発育・成長などの生命活動に必要な物質、すなわち栄養素を体内に取り込み、利用する営みである。本講義では、栄養素の種類とそれらの構造および生理機能、消化・吸収、エネルギー代謝などの基本的概念を正しく理解することを目的とする。さらに、健康の保持・増進、疾病予防と回復促進、体づくりのために必要な栄養と食生活など、実践的な栄養学についても理解を深める。		
教材（教科書）	特に定めない		
教材（参考資料）	『ポケットアトラス栄養学』（ガイアブックス） ハンス・コンラート・ビーザルスキ 著 2,808 円 『基礎栄養学（健康・栄養科学シリーズ）改訂第 4 版』（南江堂） 奥恒行、柴田克己 編 3,024 円		
教育方法	パワーポイントやプリントを用いながら，講義法で行う。 京学なびによりスライドのデータを提供する。		
評価方法	定期テスト（50%）、授業内小テスト（30%）、レポート（20%）		
到達目標	栄養の基礎知識について正しく説明できる。 栄養に関する知識を基に健康づくり・体づくりなどを正しく実践することができる。		
授業時間外学習	毎回、京学なびにて予習・復習レポートを提供する。 レポートによる授業の予復習に留まらず、関連分野についても発展的に調べておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義には毎回出席すると共に、毎回提供する課題についても意欲的に取り組んでほしい。 日頃から新聞等のメディアを意識し、自分自身が摂取している食事や食品成分に関心を持っておくこと。			
授業スケジュール			
1．はじめに　-栄養学とは- 2．栄養成分の消化吸収 3．糖質の機能と代謝 4．アミノ酸とタンパク質の機能と代謝 5．脂質の機能と代謝 6．エネルギー代謝 7．ビタミン、ミネラルおよび水の生理作用 8．疾病予防や健康づくり・体づくりのための食生活			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	A90012001
科目名	内科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Internal Medicine		
担当者名	古倉　聡	旧科目名称	
授業概要	ここ半世紀、日本を含む先進国では、その疾病・死亡構造は感染症から生活習慣病へと大きく変貌してきた。がん、脳血管障害、心臓病、糖尿病などの代謝疾患、アレルギー性疾患などの生活習慣病は、個々人の誕生から現在に至る数十年間にわたる環境履歴により形成されたライフスタイルと遺伝素因が複雑に交絡しあい、加齢による効果と相まって発症する。しかもその発症率は 40~50 歳代から大きく増加することから、我が国のように少子高齢化が急激に進行する社会では、大きな健康脅威となっている。本講義では、このような生活習慣病増加の制御を中心に講義を行う。		
教材（教科書）	看護のための臨床病態顎　改訂　３版　南山堂		
教材（参考資料）	講義中に配布する資料		
教育方法	配布資料とほぼ同様のスライドにて講義を進めるが、特に重要なところは、講義中に口頭で説明するので、その内容を資料に書き込んで、復習する事。また、基本的に講義は、教材の内容に従って進める為、予習としては、教材を少なくとも１度は熟読し、自分なりに理解しておくと。講義内容がスムーズに理解できる。		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	内科の疾患、目の疾患、皮膚の疾患について、「解剖と生理」、「症候」、「検査と治療」の一般的な知識を講義する。 学生は、講義の前に予習をしておかないとまず講義は理解できないと考えて授業に望んでほしい。そのかわり、授業で理解した事は、慢性期疾病病態学や、臨地実習には大いに役立つ事を約束する。 各臓器疾患の「解剖と生理」、「症候」、「検査と治療」を完璧に学修する。		
授業時間外学習	シラバスを確認して、講義の前に教科書を用いて、しっかりと予習をする事。これが出来ていないとまず講義は理解できない。逆に、予習がしっかりできていると講義内容は、講義中に頭に刻み込まれると考える。 教材による予習が必須である。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
徹底した予習を期待する。講義中は、私語を慎み、退屈なら静かに入眠して他人の邪魔にならない様にしてほしい。ただし、入眠していた時間は、自分にとって大きな損失になる事を自覚してほしい。また、講義で口頭で説明したことで、配布資料に記載の無いものは、ノートをとるようにしてほしい。（これが重要です）本講義を通じて、内科学の基礎を徹底的に叩き込む予定である。			
授業スケジュール			
１）呼吸器 ２）循環器 ３）消化器 ４）肝臓・胆・膵臓 ５）代謝栄養 ６）内分泌 ７）腎・泌尿器 ８）脳・神経 ９）膠原病・アレルギー １０）感染症 １１）眼 １２）皮膚 １３）消化管治療の実際 １４）癌治療 １５）復習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★★

年度	2018	授業コード	A90013001
科目名	小児科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Pediatrics		
担当者名	全　有耳	旧科目名称	
授業概要	子どもは、出生から身体の成長と発達を経て大人になる。小児科学は、出生から思春期までの、身体の構造と機能の異常を扱う診療科目である。本講義では、新生児と幼児期・学童期の成長と発達、出生時や赤ちゃんの観察と神経心理学的評価、運動・言語・適応行動の発達の指標を学ぶ。また、小児の健康障害として先天異常（ダウン症等）、脳性麻痺、呼吸・循環器疾患、感染症等、各種疾患の原因および経過と症状、治療について解説をする。		
教材（教科書）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	『小児科学・発達障害学第 2 版』（医学書院）　宮尾益知　編　3,780 円		
教育方法	パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内の小テスト等(30%)、授業中に課すレポート(70%)		
到達目標	出生から成人に至るまでの身体および精神の成長と発達を正常及び異常である疾患の両面から理解することができる。		
授業時間外学習	8 つの単元について授業内に小テストを行うので復習すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
能動的な姿勢で講義に出席するように心がけてもらいたい。			
授業スケジュール			
1．小児の発達と成長　：（富田）11/13(火)① 2．胎児医学と出生前医学、周産期医学　：（久保）11/20(火)① 3．脳性麻痺と運動器疾患　：（太田）11/27(火)① 4．てんかんと痙攣性疾患　：（阪上）12/4(火)① 5．中枢神経の奇形、変性疾患、脳腫瘍など　：（河辺）12/11(火)① 6．感染症　：（一瀬）12/18(火)① 7．発達障害の診断と障害特性　：（全）1/8(火)① 8．その他[循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、内分泌・代謝疾患、膠原病・アレルギー疾患、血液疾患、泌尿生殖器疾患、精　　神疾患（心身症を含む）　：（宮垣）1/15(火)①			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	★★

年度	2018	授業コード	A90014001
科目名	精神医学	単位数	1
科目名（英語表記）	Psychiatry		
担当者名	西川　隆	旧科目名称	
授業概要	精神医学は、精神の異常あるいは病的な状態の理解と治療を行なう診療科目である。本講義では、意識・思考形式・思考内容・欲動・気分・感情・自我意識などの精神症候に関する基本的概念と、小児・思春期・成人・高齢者の精神心理的特徴、パーソナリティ（人格）、精神評価、診断分類（ＩＣＤ、ＤＳＭ）、ならびに主要な精神疾患（統合失調症、気分障害、不安障害、物質関連障害、てんかん、摂食障害、睡眠障害）の特徴と治療、薬剤の副作用、メンタルヘルスについて概説する。		
教材（教科書）	『精神医学 マイテキスト 改訂 2 版』 （金芳堂） 武田雅俊 監　4,104 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	パワーポイントを活用し、適宜プリントを配布し、講義形式で行う。		
評価方法	定期試験（100％）		
到達目標	１．基本的な精神症状の概念を理解し、用語を正しく使用できる。 ２．精神疾患の分類体系を理解し、その概要を説明できる。 ３．代表的な精神疾患の特徴と病態、治療方針が理解できる。		
授業時間外学習	講義終了時に次回に講義する教科書の範囲を指定するので、熟読しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
医学・医療を学ぶにふさわしい厳粛な姿勢・態度で授業の場に臨んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. はじめに（精神医学・医療の重要性、精神医学の方法的特性） 2. 精神症候学（意識障害・幻覚・妄想・躁状態・うつ状態・自我意識障害） 3. 精神疾患各論①　統合失調症 4. 精神疾患各論②　気分障害（うつ病、双極性障害） 5. 精神疾患各論③　神経症性障害（不安障害、解離性障害、身体化障害） 6. 精神疾患各論④　小児・思春期精神障害（自閉症スペクトラム、てんかん、摂食障害、パーソナリティ障害） 7. 精神疾患各論⑤　器質性精神障害その他（物質関連性障害、認知症、睡眠障害） 8. 精神科治療総論（薬物療法、精神療法、身体療法）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	A90015001
科目名	リハビリテーション概論	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Rehabilitation		
担当者名	奥田　良樹	旧科目名称	
授業概要	リハビリテーションは、外傷および疾病により生じた機能障害、能力低下、社会的不利に対して、訓練や指導、社会的支援により、障害の回復と自立を促し、全人的な社会復帰を目指す取り組みである。本講義では、リハビリテーションの理念と歴史について、医療的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、教育的リハビリテーション、現代の日本の医療および福祉とリハビリテーションの現状を取り上げ、その課題について解説をする。		
教材（教科書）	『リハビリテーション総論　ＰＴ・ＯＴ・ＳＴ・ナースを目指す人のための要点整理と用語解説　改訂第２版』　（診断と治療社）　椿原彰夫　著　3,888 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義内容のスライドを用いて、講義形式で行う。		
評価方法	1．講義と臨床実習では必ず出席をとる。適時実施される小テスト、レポートを評価に加味する。 ２．系統講義終了時の定期試験を行う。追再試験も同様とする。 ３．総合成績評価		
到達目標	１．リハビリテーションの概念を理解する。 ２．運動器障害、脳血管障害、内部障害、摂食嚥下障害のリハビリテーションについての基礎知識を理解する。 ３．リハビリテーションチーム医療の重要性について理解する。 ４．最新のリハビリテーション医療について理解する。		
授業時間外学習	講義内容のスライドと教科書内の該当する部位を復習しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
能動的な姿勢で講義に出席するように心がけてもらいたい 各講義後に確認の小テストを実施する			
授業スケジュール			
１．リハビリテーション概論１ ２．リハビリテーション概論２ ３．リハシステム ４．障害評価１ ５．障害評価２ ６．理学療法 ７．作業療法 ８．義肢装具療法			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2018	授業コード	A90016001
科目名	リハビリテーション医学	単位数	2
科目名（英語表記）	Rehabilitation Medicine		
担当者名	共通使用	旧科目名称	
授業概要	リハビリテーション医学は、疾病の医学的治療によって回復できない、身体および精神の能力低下や社会的不利に対して、専門的な訓練と指導により、社会復帰と参加を促進する取り組みである。本講義では、リハビリテーションの評価と治療の枠組み、チーム・アプローチと各職種の役割（医師、看護師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、メディカルソーシャルワーカー、運動指導士他)、リハビリテーションでの基本的な評価と治療 の方法を解説する。また理学療法士、作業療法士、義肢装具士に講義に来ていただいて、実務について理解を深める。		
教材（教科書）	『リハビリテーション総論 ＰＴ・ＯＴ・ＳＴ・ナースを目指す人のための要点整理と用語解説 改訂第 2 版』 （診断と治療社） 椿原彰夫 著 3,888 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	1. 講義と臨床実習では必ず出席をとる。適時実施される小テスト、レポートを評価に加味する。 ２．系統講義終了時の定期試験を行う。追再試験も同様とする。 ３．総合成績評価		
到達目標	1. リハビリテーションに関与する各疾患について理解を深める。 2. 運動器リハビリテーションについては特に知識を得る。 3. リハビリテーション関連職種（理学療法士、作業療法士）の業務内容について理解を深める。		
授業時間外学習	講義内容のスライドと教科書内の該当する部位を復習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義中は私語は行わない。
質問事項があれば適宜これを受ける。
各講義後に確認の小テストを実施する。
リハビリテーションについて興味を抱いていただきたい。

授業スケジュール

1. 運動器リハビリテーション（1） （奥田）：4/12(木)
2. 作業療法の実際 作業療法士にて(1) （八田）：4/19(木)
3.関節リウマチ （八田）：4/26(木)
4. 理学療法の実際 理学療法士にて （八田）：5/10(木)
5.作業療法の実際 作業療法士にて(2) （八田）：5/17(木)
6. 切断・神経筋疾患 （八田）：5/24(木)
7. 高次脳機能障害 （奥田）：5/31(木)
8. 発達障害・CP （八田）：6/7(木)
9. 骨粗鬆症 （八田）：6/14(木)
10. 作業療法の実際 作業療法士にて(3) （八田）：6/21(木)
11.脊髄損傷 （内座）：6/28(木)
12. 運動器リハビリテーション（２） （八田）：7/5（木）
13. 関節疾患・アスリハ・障碍者スポーツ （八田）：7/12(木)
14. 慢性疼痛・生活習慣病 （内座）：7/19(木)
15. 講義内容まとめ （八田）：7/26(木)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期 待	−	−	★	−	★	★

年度	2018	授業コード	A90017001
科目名	音声学	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
授業概要	ヒトが話すことは、社会生活を送るうえで欠かせない。話すことは、言語という信号を話し手が発信することであり、聞き手が受信をすることで音声コミュニケーションは成立する。音声学は、ヒトの話し言葉（音声言語）の科学であり、音声言語の生成と知覚についての学問である。音声言語の特徴を理解することで、日常や仕事での良好なやりとりのための条件を知ることができる。本講義では、ヒト音声の基本的事項（分節と変動）と日本語音声の特徴（母音と子音、超分節）を提示する。ヒトの身体がどのように音声信号を生み出すのか、ヒトはどのようにして連続的な音信号から言葉を解読するのか、代表的な実験を紹介しながら、科学的な疑問と解決の筋道を提示する。		
教材（教科書）	『聞くと話すの脳科学』　（　コロナ社）　廣谷定夫編著　3780 円		
教材（参考資料）	『実践音声学入門』　（大修館）　ジョン・キャットフォード 著 2,916 円 『基礎から学ぶ 音声学講義』　（研究社）　加藤重広・安藤智子 著 2,916 円 『新ことばの科学入門（医学書院)』 廣瀬肇 訳 6，696 円		
教育方法	適宜、資料を配布し、講義形式で行う。		
評価方法	定期試験（100％）		
到達目標	１．音声学の基本的事項（母音と子音、言語音の生成と知覚）を理解する。 ２．ヒト音声の理解のために行われてきた諸実験（方法、結果、考察）を知る。 ３．日常の音声言語コミュニケーションの現象を説明できる。		
授業時間外学習	講義の内容を復習する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回の講義で示される内容（背景、疑問と実験、用語等の解説、現象の説明）を整理しておくこと。			
授業スケジュール			

（1）音声学 phonetics の世界

１．　音声学の領域と応用、音声学者　　シネマ：「マイフェアレディ」（前半）
２．　音素と音声、異音、音声記号 IPA　　シネマ：「マイフェアレディ」（後半）
３．　音声生成の仕組み：　呼吸・発声、共鳴、構音　　神経系・運動・声道空気力学
４．　言語音（母音と子音）の生成と知覚　　音声信号を見る、「分節の問題」と逆転音声

（2）音声生成と知覚の諸実験

５．　母音の生成　　音声の音響理論、声道モデル、音響分析、Fant の研究
６．　子音の出し分けと識別　　調音点が異なる子音の音響情報の違い　　Stevens らの実験
７．　音環境（前後の音）の影響　　パラトグラムでの観察、構音（運動）の変動　Daniloff の実験
８．　連続音声の理解　　知覚修復　　Warren の実験、視聴覚情報の統合　McGurk 効果
９．　選択的注意と適応行動　　Cocktail Party 効果、騒音下での声＝　Lombard 効果

（3）日常の音声言語コミュニケーションの諸現象

１０．　音声（言語）の発達　　子音　Eimas の実験　、母音　Kuhl の実験 、子音の獲得（順序性）
１１．　話しことばの速さ　　News キャスター、最大能力との関係、話芸　『志の輔落語』
１２．　言い誤りの起源　　スピーチエラーの種別、　早口言葉、　いいまつがい（糸井重里）
１３．　言語特有の分節・超分節特徴　　2L 学習（特殊音素と抑揚)、外国人の日本語発話、世界言語
１４．　音声情報からの話者認識　　犯罪捜査での利用、話者の年齢当て、老人音声の特徴
１５．　音声の自動認識　　機械・ソフトウエアによる音声認識、日本語辞書

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★★	−	★	★

年度	2018	授業コード	A90018001
科目名	高次脳科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Higher Brain Mechanism		
担当者名	西川　隆	旧科目名称	
授業概要	大脳は、ヒトが複雑な社会を発展させ、その環境に適応した生活を営む過程で進化してきた器官であり、思考、言語、記憶、認知、行為などの高次の機能を司っている。脳の活動と働きは、ｆＭＲＩ 等の画像診断法や検査課題により、近年飛躍的に理解が進んでいる。本講義では、脳神経系の階層的な構造と機能分化に関する基本的知識を解説し、大脳半球の機能的特異性、言語・記憶や認知・行為の実現と異常、未知の課題について論じる。		
教材（教科書）	『脳血管障害と神経心理学 第 2 版』 （医学書院） 平山惠造・田川皓一 編 12,960 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	パワーポイントを活用し、適宜プリントを配布し、講義形式で行う。		
評価方法	定期試験（100％）		
到達目標	１．大脳の解剖生理学的概説が理解できる。 ２．高次脳機能障害の原因病巣と症状、診察方法が理解できる。		
授業時間外学習	講義の内容について、事前にテキストを読んで予習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
医学・医療を学ぶにふさわしい厳粛な姿勢・態度で授業の場に臨んでいただきたい。			
授業スケジュール			
１．はじめに、神経系の進化・発達概説 ２．大脳の解剖生理学的概説（4 つの頭葉の機能分化、大脳の階層構造、主要な機能系） ３．病因からみた神経心理学（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血と高次脳機能） ４．病変部位別の高次脳機能障害の症状①　前頭葉 ５．病変部位別の高次脳機能障害の症状②　頭頂葉 ６．病変部位別の高次脳機能障害の症状③　後頭葉 ７．病変部位別の高次脳機能障害の症状④　側頭葉 ８．画像診断			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	A90019001
科目名	臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Psychology		
担当者名	山添　正	旧科目名称	
授業概要	臨床心理学は、病気や障害を経験した、また、している人に働きかけることを焦点化した心理的な処遇に関する学問である。 つまり心の健康について、人間の一生を通しての人間の心理的な健康の促進や、適応スキルの向上、そして人格の成長をなどについての心理学的理論と実践方法を学ぶ。 本講義では、様々な現代日本人が抱えている心理的病気や不適応上の問題に関するアセスメント方法治療方法、そして予防方法についてのさまざまな理論と実践について学ぶ。		
教材（教科書）	『臨床心理学のすべてが分かる本』　（ナツメ社）　松原達哉　編著　１６００円		
教材（参考資料）	菅　佐和子編著　２００４年　「医療現場に生かす　臨床心理学」　朱鷺書房　１６００円		
教育方法	毎回、教科書のテーマン関連する DVD の視聴をする事で、教科書の理解を助ける。		
評価方法	授業の最後に毎回行う作文６０％、レポート４０％。評価方法については、勉強方法と関連しているので授業の始めに説明します。臨床心理学の勉強は客観的に進める方法と主観的に進める二つの方法があります。本講義は、後者の方法をとっていますので、勉強法の理解が大切になります。		
到達目標	現代日本人が抱えている心理的病気や不適応上の問題に関するアセスメント方法、治療方法、そして予防方法につ基礎的な知識を学習し、自分の生活に当てはめて其の理解を深める。		

授業時間外学習

回数	２０１８年	章のタイトル	内容	ページ
1	4 月 12 日	はじめに	なぜ臨床心理を学ぶのか	P8－１７
2	4 月 19 日	臨床心理学の理解	臨床心理学の定義と歴史	P１８－２９
3	4 月 26 日	臨床心理学の基礎知識	力動論フロイトとユング	P　３０－４９
4	5 月 10 日	心理的な諸問題１	神経症・精神障害	P５４－５７
5	5 月 17 日	心理的な諸問題２	パニック障害	P５８－６１
6	5 月 24 日	心理的な諸問題３	統合失調症	P７８－８７
7	5 月 31 日	心理アセスメント１	知能検査	P１０８－１１３
8	6 月 7 日	心理アセスメント２	性格検査	P１１４－１２１
9	6 月 14 日	心理アセスメント３	その他の心理検査	P１２２－１２４
10	6 月 21 日	心理療法の諸技法１	体験・関係的アプローチ	p１４４－１４５
11	6 月 28 日	心理療法の諸技法２	認知・行動的アプローチ	p１５２－１５３
12	7 月 5 日	心理療法の諸技法３	家族システム的アプローチ	p１８４－１８５
13	7 月 12 日	コミュニティ援助	セルフヘルプ	P１８２－１８３
14	7 月 19 日	臨床心理学の実践	倫理	P２４６－２４８
15	7 月 26 日	おわりに		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学んだ臨床心理学的知識を自分の生活の中に生かす事を本講義の目標としていますから、単に受け身の学習でなく、主体的な学習態度が大切です。そのために、授業の最後に毎回実施する作文を書くために、授業中、または DVD 視聴中に感じたり、考えた事をメモする癖を付けてください。

授業スケジュール

回数	２０１８年	章のタイトル	内容
1	4 月 12 日	はじめに	なぜ臨床心理を学ぶのか
2	4 月 19 日	臨床心理学の理解	臨床心理学の定義と歴史
3	4 月 26 日	臨床心理学の基礎知識	力動論フロイトとユング

4	5 月 10 日	心理的な諸問題 1　神経症・精神障害
5	5 月 17 日	心理的な諸問題 2　依存症・適応障害
6	5 月 24 日	心理的な諸問題 3　トラウマ・発達障害
7	5 月 31 日	心理アセスメント 1 知能検査
8	6 月 7 日	心理アセスメント 2 性格検査
9	6 月 14 日	心理アセスメント 3 その他の心理検査
10	6 月 21 日	心理療法の諸技法 1 体験・関係的アプローチ
11	6 月 28 日	心理療法の諸技法 2 認知・行動的アプローチ
12	7 月 5 日	心理療法の諸技法 3 家族システム的アプローチ
13	7 月 12 日	コミュニティ援助　セルフヘルプ
14	7 月 19 日	臨床心理学の実践　倫理
15	7 月 26 日	おわりに

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	−

年度	2018	授業コード	A90020001
科目名	発達心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental Psychology		
担当者名	吉田　絵美	旧科目名称	
授業概要	発達心理学は、人の心の発達的変化を研究する心理学の一分野であり、その内容には受胎から死まで人の一生の道筋が含まれる。発達は、自分自身や身近な人々に常に起こっている事柄でもある。本講義では、受講者自身の身近な問題と関連させながら、人間の心理や行動がどのように発達するかということと、発達が人間の社会生活とどのように結びついているかについての理解を深める。人間の発達の可塑性の大きさを実感し、自身の過去・現在・未来の生き方を発達的な視点から捉える姿勢を養うことを目標とする。		
教材（教科書）	『よくわかる発達心理学　第 2 版』（ミネルヴァ書房）　無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）　2,700 円		
教材（参考資料）	『図で理解する発達 新しい発達心理学への招待』（福村出版）　川島一夫（編）　2,484 円 『キーワードコレクション 発達心理学　改訂版』（新曜社）　子安増生・二宮克美（編）　2,592 円		
教育方法	講義形式で行う。		
評価方法	定期試験（50%），授業内小テスト（50%）		
到達目標	1. 人間の発達に関する基礎的な考え方を理解し説明できる 2. 人間の誕生から死に至るまでの発達の過程を理解し説明できる 3. 各々の発達段階（乳児期，幼児期，児童期，青年期，成人期，老年期）にある連続性を説明できる		
授業時間外学習	1.教材（テキスト）を講義の前後に読み、ノートをつくること。 2.講義終了後に次回実施の小テストの予告をするので、指定範囲の復習をし備えること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
上記の到達目標が達成できるよう努めてもらいたい。また、新聞やニュース（特に子ども関係のトピックス）に目を通す習慣をつけ、講義で紹介された知識と現実社会とのリンクをより強固なものにすること。			
授業スケジュール			
1.　発達心理学とは何か 2.　発達の規定要因：発達の持つ性質、発達における遺伝と環境の問題 3.　発達段階と発達課題：初期経験の重要性、発達段階と発達課題の考え方 4.　新生児期・乳児期(1)：乳児の認知能力の発達、視覚の発達、行動の特徴 5.　新生児期・乳児期(2)：人見知り、乳児の気質、愛着の形成と親子関係 6.　幼児期(1)：乳児期～幼児期のことばの発達過程 7.　幼児期(2)：乳児期～幼児期の自我・自己の発達、第一反抗期 8.　幼児期(3)：認知・思考の発達、ピアジェの認知発達論、幼児期の思考の特徴 9.　幼児期(4)：遊びの発達と心の理論 10.　児童期(1)：児童期の仲間関係の発達、集団成員間の人間関係 11.　児童期(2)：「読み書き計算」の能力の発達、道徳性の発達 12.　思春期・青年期(1)：思春期・青年期の認知の発達 13.　思春期・青年期(2)：自我同一性と社会性の発達 14.　成人期・老年期(1)：　成人期、老年期の特徴、家庭生活と職業生活 15.　成人期・老年期(2)：成人期・老年期の知的機能、死への準備			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	A90021001
科目名	学習・認知心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning and Cognitive Psychology		
担当者名	竹島　康博	旧科目名称	
授業概要	人は，学習によって知識やスキルを身につけ，環境に適応している。本講義では，人間がどのように外的環境を捉えているのか，それに基づいてどのように新しい行動や知識を獲得していくのか，という問題が扱われている。本講義では，感覚・知覚，学習，記憶，思考といった学習・認知心理学の主要なトピックについて取り上げ，人間の認知システムの仕組みおよび特性について理解を深める。人間および日常生活について，認知心理学的な視点から理解を深めることを目標とする。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	『認知心理学』箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原茂 著 有斐閣 3400 円 『認知と感情の心理学』高橋雅延 著 岩波書店 2600 円 『行動の基礎 改訂版』小野浩一 著 培風館 2600 円		
教育方法	スライドを使用した講義を基本とし，適宜簡単な実験などの実習を実施する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況，授業態度による評価。定期試験（50%）。		
到達目標	1. 認知心理学的研究方法（考え方）を理解する。 2. 人間の認知機能についての仮説，理論を理解する思考力を身につける。 3. 人間の認知機能について見につけた知識や考え方を日常に活かす。		
授業時間外学習	適宜，一回前の授業の終わりに指示する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
上記 3 つの到達目標を達成できるよう努めてもらいたい。なお，授業計画は予定である。受講状況等に応じてある程度変更する可能性がある。			
授業スケジュール			
1. 授業のガイダンス・心理学の歴史とその研究方法 2. 感覚・知覚（1）：視覚のしくみと特徴 3. 感覚・知覚（2）：高次な視覚認知 4. 感覚・知覚（3）：多感覚処理 5. 認知（1）：視覚パターンと顔の認知 6. 認知（2）：感性認知 7. 記憶（1）：記憶のしくみと性質 8. 記憶（2）：日常における記憶 9. 注意：注意のしくみ 10. 感情：感情の生起過程 11. 学習（4）：動機づけと情動 12. 学習（1）：レスポンデント行動 13. 学習（2）：オペラント行動 I 14. 学習（3）：オペラント行動 II 15. 思考：思考・問題解決			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	★★

年度	2018	授業コード	A90025001
科目名	バイオメカニクス	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomechanics		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
授業概要	地球上における人体の運動動作は物理的な作用を受ける。筋肉によって生み出された力は関節を介して骨に伝達され、重力に抗した様々な運動動作が生み出される。本講義では骨格筋の働きの仕組みから、骨の構造、巧みな関節の働きを学び、骨格筋の起始と停止を知ることで発揮される協調的な動きを理解する。これらの学びを基に、身近な運動動作を例題にして、人間の身体構造とその動きの素晴らしさを認識するとともに、身体運動発現のメカニズムを運動学および運動力学の両面から理解する。この講義は、学科関連系科目として設定されており、看護学科教員が、看護現場でのバイオメカニクス的な問題についても触れる。		
教材（教科書）	『スポーツバイオメカニクス』（化学同人） はじめて学ぶ　健康・スポーツ科学シリーズ４　宮西智久著 毎回の授業時に使うスライドは京学ナビからダウンロードの上、各自で印刷して授業に臨むこと。その他、表在筋肉・主な骨格・関節の起始・停止、働きなどについて著した資料を配布する場合がある。		
教材（参考資料）	解剖生理で用いたテキスト。『目で見る動きの解剖学』（大修館書店） ロルフ・ヴィルヘード 著 2,592 円、適時、講義内容に適した資料を紹介する。		
教育方法	この授業の前に基礎となる運動生理学、解剖生理学、などの知識が授業を進めるうえで重要になる。したがってバイオメカニクスに即した内容だけではなく、必要に応じて運動生理学や解剖学などを復習とバイオメカニクスに関連させて展開していく。そのために教科書だけではなく補足資料を印刷して配布するので保存しておくこと。またこの授業で学んだ知識は 2 年次での実験実習でも実践して行うので、そのことについても授業内で触れて関連性について記憶しておくこと。授業は教科書を主体にして進めるので準備すること。またスライドにて教科書の記載部分の図表などを映すが配布資料としては準備しない。場合によっては補足資料で配布資料は準備する。筋骨格やそれらの働きも重要であるので、配布資料で説明する。		
評価方法	定期試験（70%）、小テスト（30%）、		
到達目標	人体の骨格や筋肉の名称、関節の働きについての理解を深める。日常生活における例えば歩行やランニングにおける骨格筋の働きや、外部に発揮した力の変化を観察して、これらのメカニズムが説明できる。		
授業時間外学習	前期開講の「健康医療学概論」や、「解剖生理学」が基礎的な講義となるので、十分理解して本講義の受講に備えること。各回の授業終わりに次回の講義内容について説明するので、テキストに目を通して、不明な点などについて確認しておく。あるいは質問の準備とすること。講義の後はあらかじめ不明に思った個所や、専門用語について覚えるように工夫すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

物理学における力学が関係するが、理解しやすいように努める。スライドを中心に授業が進むが、ノートに書き留めること。必要な部分についてノートすることを指示するが、関心のある部分についてもしっかりノートすること。

授業スケジュール

1．スポーツバイオメカニクスの基礎１
　バイオメカニクスとは？、人の運動と”てこ”の関係、筋の付着部と関節軸との距離、筋肉って？、関節運動動作の定義
2．スポーツバイオメカニクスの基礎２
　骨格筋の収縮様式、筋電図って？、筋放電と力、運動単位、単収縮と強縮、骨格筋線維のタイプ
3．スポーツバイオメカニクスの基礎３
　骨格筋線維の種類と特徴、運動強度と運動単位の動員様式（サイズの原理）、筋の長さと張力との関係、筋の起始と停止
4．スポーツバイオメカニクスの基礎４
　見かけの力と真の力、骨の役割、骨のリモデリング、骨の構造と機能、関節の種類と構造、運動と力学の基礎、国際単位
5．スポーツバイオメカニクスの基礎５
　力の合成と分解、内力と外力、運動量と力積、運動の力学的エネルギー、関節トルクと関節パワー
6．スポーツバイオメカニクスの基礎６
　身体重心とは？、身体と重心および重心線、身体重心を求める方法

7．スポーツバイオメカニクスの応用
良い動きのバイオメカニクス的原則：反動動作と振込動作、緩衝動作、歩行運動における効率、経済性と有効性
8．力学的エネルギーの基礎知識と動態
9．関節・運動器の機能（実際の身体動作と関連させて）
跳ぶということのバイオメカニクス（反動動作、ドロップジャンプホッピングなど）
１０．脳の構造と運動を支配する脳
脳動静脈、体性感覚野、１次運動野、神経のコントロール（動きのコントロールと反射による動作の調整）
１１．スポーツバイオメカニクスの実際１
陸上での運動・動作、歩行・走行運動のバイオメカニクス
１２．スポーツバイオメカニクスの実際２
水泳・水中運動のバイオメカニクス
１３．スポーツバイオメカニクスの実際３
跳躍運動・投球運動のバイオメカニクス
１４．スポーツ医学とバイオメカニクスによる貢献
１５．スポーツバイオメカニクス分析結果データーから理解できる事
A/D変換って？、力積、筋電図積分値

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	AC1210305
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	玉井　信吾	旧科目名称	
授業概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版		
教材（参考資料）	PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	1.パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 2.講義法と学生の発表を織り交ぜ授業を進める。		
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。 自己表現のために、情報の分析、評価、整理の方法がおこなえ、表現のための情報取集スキルを身に付ける。 自分のメッセージを相手にきちんと理解してもらえるスキルを身に付ける。 説得力のあるプレゼンテーション技法を身に付ける。		
授業時間外学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。 授業資料に提示されたパワーポイント資料をプレゼンを行うための準備を行う。 任意課題の情報の分析・評価・整理・表現のための情報取集を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

授業スケジュール

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出

課題演習[スライドを仕様に従い修正] 13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価 話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術 15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	AC1220202
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ｉ」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる増強をはかり、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の４技能の基礎力をさらに発展させる。「総合英語Ｉ」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力をさらに向上させることを目指す。 このクラスでは、英語に馴染むことを第一目的として音読を軸とした演習を行うとともに、併せて基本英文法の復習をしながらも将来のビジネスの現場で多少とも役立つ英語表現の習得を図っていく。		
教材（教科書）	Teruhiko Kadoyama & Simon Capper、Let's Read Aloud More!　(『音読で極める基礎英語』)、成美堂、2,200 円		
教材（参考資料）	１．ハンドアウト（プリント）教材 ２．英和辞典などの英語の辞書		
教育方法	１．名簿順指名での発表： 名簿順に指名して問題への答えや音読などを求めていく。予習不足で直ぐに答えられない場合は「パス」とはっきり申し出ること。発表があれば、正誤に関わらず発表点を記録する。 ２．指名に基づかない発表： クラス全体に問いかけることがある。その場合は、複数の受講生が一斉に答えてよい。所定（通常、小テスト）の用紙に、発表回数（１／３／５回以上）を誠実に自主申告する。 ３．小テスト用紙の提出： 通常、教科書のいずれかの演習問題を小テストとする。用紙は、出席の最終確認の用紙でもあるため、提出を怠ると欠席となる。 ４．時間の都合上、授業では教科書の演習を省略することがある。		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ１回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	１．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 ２．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および口頭や文章で伝達する力を身につける。		
授業時間外学習	各回とも、 １．音声ファイルについては、教科書に記載のサイトより（無料）ダウンロードし、再生して活用する。 ２．WARM-UP では、"Vocabulary Preview"の問題に解答し、かつ、 "Grammar Point"をよく読んでおく。 ３．次は GRAMMAR の頁に進み、A と B の問題だけは解いておく。 ４．LET'S CHECK & READ ALOUD! の頁に戻り、音声を聴いて空所を補充する。 ５．最後に LET'S READ! の頁で、枠内の英文（パッセージ）を何十回も音読する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。必要な教材を持たずに授業出席することは断じて認めない。
２．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
３．可能な限り大きな声を出して英文を何度も音読し、諳んじられるようにすること。
４．英検や TOEIC?などの英語資格試験の受験に挑戦すること。

授業スケジュール

１回の授業で 1 つの Unit を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 01: This is my first visit there. 、現在形・過去形 1
2．Unit 02: How do you like Bangkok?、現在形・過去形 2
3．Unit 03: It's going well so far.、進行形・未来形
4．Unit 04: Have they decided on the design yet?、現在完了形
5．Unit 05: Could you take a look at them?、助動詞
6．授業内課題 1 、Unit 06: My flight was cancelled.、受動態
7．Unit 07: What do you want me to do?、不定詞
8．Unit 08: She knows marketing very well.、関係詞 1
9．Unit 09: Thank you for coming to our interview.、動名詞
10．Unit 10: The competition will be very strong.、形容詞・副詞
11．Unit 11: This is where we hold meetings.、関係詞 2
12．Unit 12: I'd like to talk about our latest model.、分詞
13．授業内課題 2 、Unit 13: You are much better than me.、比較
14．Unit 14: If I were you, I wouldn't miss it.、仮定法
15．Unit 15: I'd like to propose a toast.、接続詞・前置詞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2018	授業コード	AC1220204
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	村上　陽香	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ⅰ」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」の4技能の基礎力をさらに発展させることを目指し、受講生への課題、発表を含む演習を実施する。「総合英語Ⅰ」に引き続き、英語圏での生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解出来る力をさらに向上させることを目指す。		
教材（教科書）	Akira Morita, Makiko Lio, Takehiro Hashimoto, 他, 著 Target!: Elementary（金星堂） その他プリント教材		
教材（参考資料）	英和、和英、英英辞書などを持参してください。予習・復習でも使用すること。 電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能は使用不可です。		
教育方法	テキストに沿ってユニットの内容を確認し、問題演習やペアワークなどを行います。 随時、音声 CD を用います。		
評価方法	授業内テスト（小テスト含む）70%、予習課題・授業への参加態度 30%で総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。ただし、これは 3 分の 2 以上の出席があれば必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までに学んだ文法事項を点検しながら、英語の基礎固めを行います。英語で自分の意思を伝え、相手の意思を理解出来るようになることを目標とします。		
授業時間外学習	第二回以降、前回の授業で扱った範囲に関する小テストを行います。そのテストの準備として、学んだことを十分に復習して来てください。テストはボキャブラリーや文法問題を含みます。 また、授業の際に、次回に向けての予習箇所を課題として指定する場合があります。次回授業は該当箇所を予習済みと見なして進めますので、必ず準備した上で授業に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・授業には積極的に参加し、欠席しないよう心がけてください。遅刻や私語は進行の支障になるだけではなく、他の受講生にも迷惑をかけますので、注意してください。
・指定された予習箇所は、間違えてもいいので自分なりに必ずやって来てください。明らかに予習が行われていない場合は減点対象とします。
・英和、和英、英英辞書などを持参してください。高校時代に使用していたものがあればそれでも構いませんし、電子辞書でも構いません。ただし、携帯電話の辞書機能は使用不可です。

授業スケジュール

テキストを一回の授業あたり 1 ユニット進めていきます。
第二回以降、前回授業の内容に関する小テストを行います。

第一回：イントロダクション/In Your Free Time
　　「基本的な数字の聞き取り」＆「be 動詞と一般動詞」
第二回：Communication Skills
　　「時間・日付・年号の聞き取り」＆「代名詞」
第三回：World Languages and Cultures
　　「聞き分けにくい音の聞き取り」＆「否定文」
第四回：Healthy Body, Healthy Mind
　　「カタカナ語とのギャップ」＆「疑問文の基本」
第五回：Carrers Nowadays
　　「短縮形の聞き取り」＆「過去形の基本」
第六回：Fashion Trends

「つながる音」＆「進行形の基本」
第七回：Planning a Trip Abroad
「消える音」＆「未来を表す表現」
第八回：Are You into Sports?
「イントネーション（上昇・下降)」＆「現在完了」
第九回：Parties Are a Lot of Fun!
「写真や絵を見ながらの聞き取り」＆「助動詞の基本」
第十回：Art in Our Life
「挨拶文の聞き取り」＆「動名詞の基本」
第十一回：What Shall We Eat?
「誘う時の表現」＆「不定詞（名詞的用法)」
第十二回：What Makes a Good Company?
「依頼する時の表現」＆「不定詞（形容詞/副詞的用法)」
第十三回：Advances in Science
「Yes/No 疑問文とその答え方」＆「受動態の基本」
第十四回：Life with Technology
「Wh-疑問文とその答え方」＆「前置詞の基本」
第十五回：Eco-Friendly Life/まとめ
「付加疑問文の聞き取り」＆「接続詞の基本」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	AC1220209
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	越間　将平	旧科目名称	
授業概要	この授業では、総合英語Ⅰに引き続き、比較的平易な英語で書かれたテキストの学習を通じて、英語の基礎となる語彙や文法の定着を図り、読解力と聴解力の向上を目指していきます。日常的な場面や異国の文化を題材とした文章に触れ、英語に対する理解を深めていきます。		
教材（教科書）	靜哲人，望月正道，熊澤孝昭. Ambitions: Elementary（金星堂）		
教材（参考資料）	英語の学習には辞書が必要です。授業の時は辞書を持参するようにしましょう。電子辞書でも構いません。		
教育方法	授業は基本的にテキストに沿って進めます。授業担当者による説明と、受講者による問題への取り組み、発表（質問に対する回答等）が含まれます。		
評価方法	授業内テスト 70%、課題・授業への参加状況 30%の割合で総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	英語の基礎となる語彙や文法の定着を図り、読解力と聴解力の向上を目指す。		
授業時間外学習	授業では毎回小テストを実施します。授業で学んだ内容を復習するようにしましょう。詳しくは授業中に説明します。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
公欠等で、授業を欠席・遅刻する場合は、事前に授業担当者へお知らせください。			
授業スケジュール			
※2 度の授業で 1 ユニット分を学んでいくことを目標とします。（進捗状況によって変更する可能性もあります）。 1.イントロダクション（授業概要や評価方法に関する説明を行います） Unit 1 Cross-Cultural Understanding（強く発音される語を聞き取る / 文の主語を見つける ） 2. Unit 1 Cross-Cultural Understanding（強く発音される語を聞き取る / 文の主語を見つける ） 3. Unit 2 Foods（語順のまま理解する / 文の動詞を見つける） 4. Unit 2 Foods（語順のまま理解する / 文の動詞を見つける） 5. Unit 3 Foreign Language Learning（消えるｔとｄを聞き取る / 動詞の目的語を見つける） 6. Unit 3 Foreign Language Learning（消えるｔとｄを聞き取る / 動詞の目的語を見つける） 7. Unit 4 Sports（似た音に注意して聞き取る / 補語を見つける） 8. Unit 4 Sports（似た音に注意して聞き取る / 補語を見つける） 9. Unit 5 Fashion（n でつながる語句を聞き取る / 何の代わりかを見抜く[代名詞]） 10. Unit 5 Fashion（n でつながる語句を聞き取る / 何の代わりかを見抜く[代名詞]） 11. Unit 6 Living Things（弱い can を聞き取る / 「to＋動詞」を理解する[不定詞]） 12. Unit 6 Living Things（弱い can を聞き取る / 「to＋動詞」を理解する[不定詞]） 13. Unit 7 Art（話の展開を予測する / 「動詞＋ing」を理解する[動名詞]） 14. Unit 7 Art（話の展開を予測する / 「動詞＋ing」を理解する[動名詞]） 15. Unit 8 Global Issues（強弱のリズムに慣れる / 主語が「されること」を理解する[受動態]）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	AC1220252
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	越間　将平	旧科目名称	
授業概要	この授業では、総合英語Ⅰに引き続き、比較的平易な英語で書かれたテキストの学習を通じて、英語の基礎となる語彙や文法の定着を図り、読解力と聴解力の向上を目指していきます。日常的な場面や異国の文化を題材とした文章に触れ、英語に対する理解を深めていきます。		
教材（教科書）	靜哲人，望月正道，熊澤孝昭. Ambitions: Elementary（金星堂）		
教材（参考資料）	英語の学習には辞書が必要です。授業の時は辞書を持参するようにしましょう。電子辞書でも構いません。		
教育方法	授業は基本的にテキストに沿って進めます。授業担当者による説明と、受講者による問題への取り組み、発表（質問に対する回答等）が含まれます。		
評価方法	授業内テスト 70%、課題・授業への参加状況 30%の割合で総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	英語の基礎となる語彙や文法の定着を図り、読解力と聴解力の向上を目指す。		
授業時間外学習	授業では毎回小テストを実施します。授業で学んだ内容を復習するようにしましょう。詳しくは授業中に説明します。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
公欠等で、授業を欠席・遅刻する場合は、事前に授業担当者へお知らせください。			
授業スケジュール			
※2 度の授業で 1 ユニット分を学んでいくことを目標とします。（進捗状況によって変更する可能性もあります）。 1.イントロダクション（授業概要や評価方法に関する説明を行います） Unit 1 Cross-Cultural Understanding（強く発音される語を聞き取る / 文の主語を見つける ） 2. Unit 1 Cross-Cultural Understanding（強く発音される語を聞き取る / 文の主語を見つける ） 3. Unit 2 Foods（語順のまま理解する / 文の動詞を見つける） 4. Unit 2 Foods（語順のまま理解する / 文の動詞を見つける） 5. Unit 3 Foreign Language Learning（消えるｔとｄを聞き取る / 動詞の目的語を見つける） 6. Unit 3 Foreign Language Learning（消えるｔとｄを聞き取る / 動詞の目的語を見つける） 7. Unit 4 Sports（似た音に注意して聞き取る / 補語を見つける） 8. Unit 4 Sports（似た音に注意して聞き取る / 補語を見つける） 9. Unit 5 Fashion（n でつながる語句を聞き取る / 何の代わりかを見抜く[代名詞]） 10. Unit 5 Fashion（n でつながる語句を聞き取る / 何の代わりかを見抜く[代名詞]） 11. Unit 6 Living Things（弱い can を聞き取る / 「to＋動詞」を理解する[不定詞]） 12. Unit 6 Living Things（弱い can を聞き取る / 「to＋動詞」を理解する[不定詞]） 13. Unit 7 Art（話の展開を予測する / 「動詞＋ing」を理解する[動名詞]） 14. Unit 7 Art（話の展開を予測する / 「動詞＋ing」を理解する[動名詞]） 15. Unit 8 Global Issues（強弱のリズムに慣れる / 主語が「されること」を理解する[受動態]）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	AC1220402
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	英語会話演習 I で学んだ会話の語彙・文法・表現をより広い舞台で応用する実施的講座です。「グローバル人材」になるため、異文化を理解したうえ、世界で通用する対話力や発表力を身に付けることを主な目的とします。毎回ペアワークで会話を徹底的に練習した後、教員との短い会話テストやプレゼンテーションで発表します。グローバルな言語能力、モティベーションを同時に向上させます。		
教材（教科書）	Shinichi Shibata, Rie Jindo, Lindsay Wells. Must-have English Skills for Global Communication. Kinseido Publishing ISBN: 9784764740594		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	英会話の文法、語彙、フレーズを習ってすぐペアワークや会話テストに進む参加型コミュニケーションコース。英和・和英辞典や単語帳用ノートを持参すること。		
評価方法	授業内態度・参加度　２０％　授業内テスト・発表　８０％		
到達目標	１．本コース終了時で、英語会話で意志到達、問題解決、簡単なスピーチアクト（お願いする、アドバイスするなど）ができるようになります。 ２．コミュニケーションに関する異文化理解を深めていきます。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1. Course Introduction/Unit 1 : May I help you? 困っている人に話しかける

2. What do you do on the weekend?　初対面の人と会話を続ける

3. That sounds interesting!　ポジティブ／ネガティブな意見を述べる

?4. I'm not feeling well. 体調を伝える

5. You shouldn't step there! 注意する

?6. Why don't we buy potatoes, too? 提案する

?7. Would 5pm be convenient for you? スケジュールを調整する

8. I'll have to pass. 依頼を断る

?9. I have an idea. 解決策を提案する／協働作業する

10. Could you do me a favor?　お願いする

11. I think you could explain this more.　アドバイスをする

?12. I don't get what you mean.　発言を聞き返す

?13. I’m so sorry to hear that.　相手を励ます

?14. That’s not what I meant.　誤解を解く／真意を伝える

15. Let’s keep in touch!　別れの挨拶／感謝を伝える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	–	★	–	–

年度	2018	授業コード	AC1220403
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills. Students who can not register for 英語会話演習 I, please register for this course.		
教材（教科書）	Richards, Jack. "Interchange 1", (Cambridge University Press 2013)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Class introductions. TEST. 2) Describing school. 3) Talking about prices. 4) Likes and dislikes. 5) Family. 6) Exercise and routine. 7) PRESENTATION. 8) Past activities. 9) Describing places. 10) Describing people. 11) Describing experiences. 12) Cities and towns. 13) Health problems. 14) Food. 15) PRESENTATION.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	AC1220404
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	英語会話演習 I で学んだ会話の語彙・文法・表現をより広い舞台で応用する実施的講座です。「グローバル人材」になるため、異文化を理解したうえ、世界で通用する対話力や発表力を身に付けることを主な目的とします。毎回ペアワークで会話を徹底的に練習した後、教員との短い会話テストやプレゼンテーションで発表します。グローバルな言語能力、モティベーションを同時に向上させます。		
教材（教科書）	Shinichi Shibata, Rie Jindo, Lindsay Wells. Must-have English Skills for Global Communication. Kinseido Publishing ISBN: 9784764740594		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	英会話の文法、語彙、フレーズを習ってすぐペアワークや会話テストに進む参加型コミュニケーションコース。英和・和英辞典や単語帳用ノートを持参すること。		
評価方法	授業内態度・参加度　２０％　授業内テスト・発表　８０％		
到達目標	１．本コース終了時で、英語会話で意志到達、問題解決、簡単なスピーチアクト（お願いする、アドバイスするなど）ができるようになります。 ２．コミュニケーションに関する異文化理解を深めていきます。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1. Course Introduction/Unit 1 : May I help you? 困っている人に話しかける
2. What do you do on the weekend?　初対面の人と会話を続ける
3. That sounds interesting!　ポジティブ／ネガティブな意見を述べる
4. I'm not feeling well. 体調を伝える
5. You shouldn't step there! 注意する
6. Why don't we buy potatoes, too? 提案する
7. Would 5pm be convenient for you? スケジュールを調整する
8. I'll have to pass. 依頼を断る
9. I have an idea. 解決策を提案する／協働作業する
10. Could you do me a favor?　お願いする
11. I think you could explain this more.　アドバイスをする
12. I don't get what you mean.　発言を聞き返す
13. I'm so sorry to hear that.　相手を励ます
14. That's not what I meant.　誤解を解く／真意を伝える
15. Let's keep in touch!　別れの挨拶／感謝を伝える

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	AC1220553
科目名	ビジネス英語Ⅰ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
授業概要	最初にこのクラスの履修を希望するみなさまへの注意事項です。 　このクラスはグローバルコースの学生を中心に組織されますので、その内容はかなり高度なものとなり、課題の提出も多く、単位の修得も厳しい基準になると理解しておいてください。 　インターネットの進展と世界のボーダレス化に伴い、高度に情報化・国際化した現代社会において、英語は今やコミュニケーションの手段として、政治、経済、文化、外交などの分野で非常に大きな役割を果たしています。　また、企業の海外進出、海外企業との合弁事業、海外での子会社の設立といった激変するビジネス・ワールドに対応して、ビジネス英語のニーズも急速に増大し、その対象範囲も飛躍的に広がってきています。 　この授業では、日本を代表する有名企業の商品開発及び研究に関する記事や、ホームページに掲載された英文を素材として、語彙力と読解力の養成を目的としたテキストを用いて、それぞれの企業の最新研究の動向や、ヒット商品にまつわる興味深いエピソードなどを学びます。 　この授業に参加する皆さんはビジネス英語を読み、書き、聞き、話すための基本的な力を育成することができるだけでなく、TOEIC テストや TOEFL　iBT テストなども念頭に置き、同義語選択問題や空所補充問題、内容把握問題になどを通して検定試験受験対策もできます。		
教材（教科書）	Innovative Japanese Companies （松柏社）		
教材（参考資料）	辞書（英和、英英辞典など）。 文法事項の復習には「総合英語 FACTBOOK 」（桐原書店）、 ビジネス場面での口語表現の修得には「ビジネスフォレスト」（桐原書店）が最適な参考資料なので、購入を勧めます。なお、亀岡キャンパス図書館にも設置してあります。		
教育方法	この授業では、事前に当日の授業範囲に関する練習問題を京学なびで課題として提出していただきます。 　毎回の授業では、最初にその解答と解説を行い、何を理解できていて、まだ何が理解出来ていないかを各人で確認していただき、その後にテキスト内容の確認を行います。したがって、事前学修としての課題提出はは不可欠です。 　授業は全員がタスクをこなし、自発的にすすめてアクティブな授業にしていく予定です。 　がんばって取り組んでください。		
評価方法	「ビジネス英語Ⅰ」では、授業中の発表など授業参加（10%）、課題提出（30%）、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 　まお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	高校や大学１年間で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、日常的な話題から専門的な問題にまだ活用できる英語力を身につけることができます。EGP（English for General Purposes）から ESP（English for Specific Purposes）へと、ビジネスシーンで基本的な事柄に関しては英語を活用できるようになれます。春学期修了までに TOEIC500 点・英検２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
授業時間外学習	授業開始までに、高校や大学１年間で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、毎回の授業の前に、当日のｕｎｉｔ に関する事前学修として、京学なびを通じて練習問題等の課題の提出を求めます。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
① 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ② この授業以外にもできるだけ多くの英語科目を履修するようにしてください。			

③ 実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。
授業スケジュール
第 1 回　Intoroduction to the class 第 2 回　Unit 1:　サイバーダイン株式会社 第 3 回　Unit 2: 株式会社ミライセンス 第 4 回　Unit 3: フリュー株式会社 第 5 回　Unit 4: マリンバイオテクノロジー株式会社 第 6 回　Unit 5: アサヒ飲料株式会社 第 7 回　Unit 6: 株式会社キーストーンテクノロジー 第 8 回　Unit 7: 三菱重工株式会社 および前半のふり返りと反転学習 第 9 回　Unit 8: 富士フイルム・ホールディングス株式会社 第 10 回　Unit 9: 株式会社アシックス 第 11 回　Unit　10:　シャチハタ株式会社 第 12 回　Unit 11: アイシン精機株式会社 第 13 回　Unit 12: 任天堂株式会社 第 14 回　Unit 13: 株式会社タニタ および後半のふり返りと反転学習 第 15 回　Unit 14: AuthaGraph 株式会社

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2018	授業コード	AC1220654
科目名	ビジネス英語Ⅱ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
授業概要	最初に、このクラスの履修を希望するみなさまへの注意事項です。 このクラスはグローバルコースの学生を中心に組織されますので、その内容はかなり高度なものとなり、課題の提出も多く、単位の修得も厳しい基準になると理解しておいてください。 この授業は春学期開講の「ビジネス英語Ⅰ」の上級クラスです。 世界中がインターネットでつながる現代、今後ますますグローバル化が進み、英語による情報の発信力、受信力がさらに問われる時代になります。この授業では、知っておきたいビジネスルールを書き下ろしたエッセイです。ビジネス界で活躍するために必要な、コミュニケーションと文化、会議と交渉、ソーシャルメディアと情報支援、オフィス街の外交、の 4 つに野ジャンルから学生に役立つトピックが選ばれています。そして、学生たちが自ら考え、判断し、課題を解決できる思考力を養えるような形式になっています。 主体的に英語に慣れ親しむことができる学習活動を盛り込み、楽しく無理なく英語に向き合っていただけようになっています。 この授業を受けたみなさんはビジネス英語を読み、書き、聞き、話すための基本的な力を育成することができるだけでなく、このテキストで学んだ英語を活用して、仕事現場で使える英語を身につけることが出来ます。 授業においても、ペアワークやロールプレイを取り入れて、実際の仕事現場のように、アクティブラーニングを行えるように進めていきたいと思っています。		
教材（教科書）	English Indicator 4 [Upper Intermediate]　（南雲堂）		
教材（参考資料）	辞書（英和、英英辞典など）。 文法事項の復習には「総合英語 FACTBOOK 」（桐原書店）、 ビジネス場面での口語表現の修得には「ビジネスフォレスト」（桐原書店）が最適な参考資料なので、購入を勧めます。なお、亀岡キャンパス図書館にも設置してあります。		
教育方法	テキストには CD がついていますので、リスニングやスピーキング能力の育成に活用してください。 毎回の授業では、最初に事前学修として自宅で行った練習問題の解答と解説を行い、その後にテキスト内容の確認を行います。したがって、授業の予習は不可欠です。がんばって取り組んでください。授業は、できるだけ指名ではなく挙手によって進める予定です。受講者のみなさんが積極的に参加できるような教育環境にし、アクティブラーニング方式で行い、将来の仕事現場で活用できる英語力を身につけることが出来るようにします。		
評価方法	「ビジネス英語Ⅱ」では、授業中の発表など授業参加およびプレゼンテーション（20%）、課題提出（30%）、および定期試験（50%）の評価を合算して最終評価をします。 まお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	「ビジネス英語Ⅰ」で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらにビジネスで必要な語彙を獲得し、日常的な話題から専門的な問題にまで活用できる英語力を身につけることを目標としています。 受講生のみなさんは EGP(English for General Purposes)から ESP(English for Specific Purposes)へと英語力をアップすることにより、ビジネスシーンで英語を活用できるようになります。		
授業時間外学習	① 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ② この授業以外にもできるだけ多くの英語科目を履修するようにしてください。 ③ 実用英語検定、TOEIC、TOEFL などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 当日の Unit に関する事前学修として、京学なびを通じて練習問題等の課題の提出を求めます。 授業終了後には、事後学修として復習にも努めてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など	
授業開始までに、高校や大学１年間で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各 Unit に入る前に、事前学修を兼ねて、京学なびを通じて課題の提出を求めます。	
授業スケジュール	
第１回　Intoroduction to the class 第２回　Uni 1 : It's pleasure to meet you. 第３回　Unit 2 : Business English 第４回　Unit 3: Culture Skills 第５回　Unit 4 : More than Just Words 第６回　Unit 5 : Meetings 第７回　Unit 6: Business Communication Style 第８回　Unit 7: Let's negotiate.　Half time quiz. 第９回　Unit 8 : The Modern Workplace 第 10 回　Unit 9:　The Use of Social Media 第 11 回　Unit 10: Effective Business Writing 第 12 回　Unit 11: The Modern Office 第 13 回　Unit 12 : Socializing with a Purpose 第 14 回　Unit 13: The Business Trip & Final Check. 第 15 回　Unit 15:　Business Presentations by Students	

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J2000900A
科目名	経済学のための数学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Mathematics for Economic s		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
授業概要	この講義では、高校で既習の 1 次関数・2 次関数からはじめて、微分・偏微分や行列などより高度な抽象的な内容（B で取り上げる）に発展させていく。ただ、従来の数学のように定理・証明の積み重ねではなく、定理の直感的な意味の把握とその実践としての問題演習を中心に進めていく予定である。		
教材（教科書）	なし，各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	講義中に適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら，講義法で授業は進められる。		
評価方法	授業レポート（56%），その理解度を確認する演習・試験（44%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	経済学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 特に数列の計算・関数のグラフ・微分の計算と応用などの能力を獲得することで，具体的な事例について定量的な説明ができるようになること。		
授業時間外学習	高校の数学の教科書や図書館の参考書などで復習すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

数学的な記号や法則は，本だけで自習するのは困難であるので，毎回受講することが望ましい。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，その演習として簡単な問題を課し提出してもらう予定である。　　高校数学の復習から始めるので事前に高校教科書の該当箇所に目を通しておいてください。

授業スケジュール

1. 数と集合
2. 集合と命題
3. 整式の計算・方程式・不等式
４．２次関数・２次不等式・２次不等式・
5. 数列
6. 数列の極限
7. 関数
8. 集合・関数・方程式・不等式・数列について総合演習
9. 指数関数
１０．対数関数
11. 関数の極限と微分
12. 微分の公式
13. 微分の計算
14. 微分の応用
15. 指数・対数関数・関数の極限・微分法について総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J20019002
科目名	白書で学ぶ現代日本	単位数	2
科目名（英語表記）	Lectures on Contemporary Japan in White Paper		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
授業概要	（1）本講義は政府機関が発表している様々な白書および報告書を、実際にその作成に携わった政府関係者より説明して頂き、現代の日本社会の様々な側面を系統立てて理解することを目的とする。経済問題だけでなく、新聞やＴＶ等で取り上げられる様々な現代日本の社会問題の本質を理解したいと考える者にとって、必ず有益な講義内容となるであろう。 （2）毎年、政府が発表する膨大な報告書類の中でも「白書」は、より正式な政府の見解として各方面から注目されている。この白書には、①法律に基いて国会に提出される白書、②閣議に報告または配布される白書、③その他の白書、の３つのタイプがある。いずれも政府の見解には違いないが、閣議了解を必要とする白書は内閣の統一見解としての性格を有するため、原案作成を担当する各省庁は他の関係省庁との協議を必要とする。本講義では、各省庁間の現場で展開される協議・調整についても一定の解説が期待できる。 （3）白書の基本的な構成は、①現状分析、②これまでの政策の効果と今後の政策課題、③特集、というケースが多い。特に、③特集では、その時々に社会的関心の高いテーマに焦点が当てられ、そのテーマへの系統だった理解には有益な内容となっている。		
教材（教科書）	毎回の講義で解説資料等を配布する。		
教材（参考資料）	（1）白書の要約版等を予習資料として京学なび上で配布する。 （2）各白書の本文は、製作省庁 HP 上で閲覧・ダウンロード可能である。活用されたい。		
教育方法	（1）毎回、講義形式で白書の解説を聴く。 （2）毎回、指定の受講レポートを解説内容に基づいて作成し、提出してもらう。 （3）毎回、質疑応答の時間を設ける。		
評価方法	（1）毎回の受講レポート 60% （2）中間試験および授業内発表 40%		
到達目標	（1）現在日本が直面する個々の政策課題の概要について正確に理解し、その説明ができる。 （2）自分の専門領域と直接・間接に関連する政策課題について情報を整理し、卒業研究に役立てることができる。 （3）解説内容を正確に理解することができる「聞き取り力」、相手からの情報に対して自分が有する情報と理解を関連付けて発展的方向に議論を導くことができる「質問力」を高める。		
授業時間外学習	（1）講義で取り上げる白書の概要をまとめた資料を京学なび上に用意するので、予習教材として目を通しておく。 （2）自分の関心ある領域については、省庁 HP 上にある白書関連サイトを閲覧し、概要を把握すると同時に疑問点を明確にしてから講義に臨む。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．就職活動に向けた準備の一環と位置付けて取り組む。 2．卒業論文のテーマ選択を意識して受講する。 3．私語や途中退席など、問題のある受講態度には厳しく対応する。			
授業スケジュール			
1．講義の順序 第 1 回：講義の概要の説明、「白書」の歴史と目的 第 2 回：白書解説 1 第 3 回：白書解説 2 第 4 回：白書解説 3 第 5 回：白書解説 4 第 6 回：白書解説 5 第 7 回：白書解説 6			

第 8 回：前半の白書の要点整理とその確認テスト
第 9 回：白書解説 7
第 10 回：白書解説 8
第 11 回：白書解説 9
第 12 回：白書解説 10
第 13 回：白書解説 11
第 14 回：白書解説 12
第 15 回：後半の白書の要点整理と試験／レポート課題

２．昨年 2017 年度の本講義で取り上げた白書は以下の通りである。
① 経済財政白書（内閣府）　② 労働経済白書（厚生労働省）　③ 消防白書（消防庁）　④ 情報通信白書（総務省）
⑤ 国土交通白書（国土交通省）　⑥ 食料・農業・農村白書（農林水産省）　⑦ 防衛白書（防衛省）
⑧ 外交青書（外務省）　⑨ 観光白書（観光庁）　⑩ 犯罪白書（法務省）　⑪ 京都市・地域創生計画（京都市）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J20021A01
科目名	デリバティブ入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Derivatives A		
担当者名	坂本　勝	旧科目名称	
授業概要	資産運用の必要性が強調される時代において、金融商品が多様化している。 伝統的な金融商品はもちろん、今日においては、金融派生商品を利用した商品が数多く販売されている。 金融派生商品（デリバティブ）の内容を理解せずに、投資行動を起こすことは、 人生をリスクにさらしていると同義である。 この講義では、代表的なデリバティブである、先物・オプション・スワップの各取引形態を、 その背景や機能について理解し、その利点とリスクについて入門的解説を行う。 先物価格の決定方法やオプションプレミアム(価格の決定）を、実例に置き換えて、 数式や複雑な数学を使うことなく、図式を中心に直感的に理解できるように工夫して解説を行う。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義中に適宜指示する		
教育方法	各講義回テーマに沿い、基本的に講義法にて行う。 講義では教員がテーマを示し、図式や計算方法・過程を記述する。 毎回の講義内容の確認として、次回講義冒頭に確認テストを行う。 また確認テストでは、流れ・モメンタムを自身で理解できるように デリバティブの対象となる「株価」「金利」「為替」「商品」の代表指数に関する質問項目を設ける。 確認テストは毎回返却する。見返しにより相場の流れ及び各デリバティブ知識の確認と各種指数によるデリバティブの変動を理解できるように努める。		
評価方法	授業冒頭に行なう確認テスト（40%）　レポート課題（20%）　定期テスト（40%） 期末試験は各講義回の理解度を確認できる内容とする。 評価方法の詳細は初回講義にて説明する。		
到達目標	先物取引、オプション取引、スワップ取引、それぞれの意味と内容を理解し、 金融の世界で、どのように活用されているかを把握できるようになるまでを目標とする。		
授業時間外学習	日本経済新聞のマーケット総合欄を日々確認すること。 短期金融・債券・株式・コモディティの各代表指数の数値を記録しておくのが望ましい。 特に各種指標に影響を与えるような、政治・経済に関するイベントや社会・経済ニュースに関心を持ち、 その出来事によって、相場がどのように動くのか（上昇するのか下落するのか）を予測し、またその数値を記録すること。 当然、予測に対しての結果は、後日検証すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1、後期科目に連動するため、一貫しての履修可能者が望ましい。 2、履修動機は問いませんが、成績は公表している評価方法により厳密に判定します。 3、他受講者に影響を与える、私語は厳禁。注意はするがやめない場合は、退出させ欠席として取扱う。 経済状況を知る上で、新聞は必読です。 日々の習慣にないのであれば、必ず読むように心がけてください。			
授業スケジュール			

1.デリバティブの概念
2.デリバティブ市場の規模
3.デリバティブの歴史
4.金融市場の知識１（金融市場取引．相対取引）
5.金融市場の知識２（株式と株価指数、金利と債券、外国為替市場と商品市場）
6.先物取引の基礎１（先渡取引と先物取引、価格決定のメカニズム）
7.先物取引の基礎２（先物価格と現物価格、為替予約）
8.先物取引の基礎３（レバレッジ、決済方法、裁定取引）
9.オプション取引の基礎１（オプションとは、保険や手付金など）
10.オプション取引の基礎２（オプション価格の決定、コールとプット）
11.オプション取引の基礎３（リスクと行使期間、レバレッジ）
12.スワップ取引の基礎１（キャッシュフロー）
13.スワップ取引の基礎２（金利スワップの仕組み）
14.スワップ取引の基礎３（通貨スワップの仕組み）
15.デリバティブを利用して（天候や物価デリバティブ）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J20021B01
科目名	デリバティブ入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Derivatives B		
担当者名	坂本　勝	旧科目名称	
授業概要	デリバティブ市場の発達によって、従来の金融機関の区別や役割が大きく変化している。 その変化に伴い、個別の金融機関・各国家ごとの金融規制では対応できない事例も表面化している。 デリバティブの有効性を理解し、適切に利用・活用するためにはどのような対応が必要なのかを、 確認および検討する講義となる。 新しい時代に対応した金融行政、金融規制はどのようなものが適切なのかを 既存のデリバティブ商品を参考にしながら、講義する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義内にて適宜指示する		
教育方法	各講義回テーマに沿い、基本的に講義法にて行う。 講義では教員がテーマを示し、図式や計算方法・過程を記述する。 毎回の講義内容の確認として、次回講義冒頭に確認テストを行う。 また確認テストでは、流れ・モメンタムを自身で理解できるように デリバティブの対象となる「株価」「金利」「為替」「商品」の代表指数に関する質問項目を設ける。 確認テストは毎回返却する。見返しにより相場の流れ及び 各デリバティブ知識の確認と各種指数によるデリバティブの変動を理解できるように努める。		
評価方法	授業冒頭に行なう確認テスト（40%）　レポート課題（20%）　定期テスト（40%） 期末試験は各講義回の理解度を確認できる内容とする。 評価方法の詳細は初回講義にて説明する。		
到達目標	今日の世界経済において、デリバティブがどのように活用され、また役割を果たしているかを理解し、 今後の情勢に合わせ、どのように各デリバティブを利用し、ポジションを取ったほうがよいかを 自分で判断できるようになるまでを目標とする。		
授業時間外学習	日本経済新聞のマーケット総合欄を日々確認すること。 短期金融・債券・株式・コモディティの各代表指数の数値を記録しておく。 特に各種指標に影響を与えるような、政治・経済に関するイベントや社会・経済ニュースに関心を持ち、 その出来事によって、相場がどのように動くのか（上昇するのか下落するのか）を予測すること。 その予測は、メモとして残しておくこと。 当然、予測に対しての結果は、後日検証 可能であれば、各自それぞれのデリバティブを利用し シュミレーションポジションを短期タームにて設定、後日ポジション解消時の成果確認の作業を求める。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
前期「デリバティブ入門 A」の内容を踏まえての講義となるので、基本的知識がなければかなり負担のかかる講義となります。 1、前期科目に連動するため、一貫しての履修可能者が望ましい。 2、履修動機は問わないが、成績は公表している評価方法により厳密に判定する。 3、他受講者に影響を与える、私語は厳禁。注意はするがやめない場合は、退出させ欠席として取扱う。			

経済状況を知る上で、新聞は必読。
日々の習慣にないのであれば、必ず読むように心がけてください。

授業スケジュール

1.デリバティブ商品とは
2.デリバティブを利用しているケーススタディ
3.サブプライム危機とデリバティブの関係
4.デリバティブを活用したヘッジ
5.株式信用取引、為替証拠金取引とデリバティブ
6.先物取引の実際（国債と債券先物、株式と株価指数先物）
7.オプションによるヘッジと利用（株式を中心に）
8.スワップの利用（金利スワップと為替スワップ）
9.コモディティデリバティブと応用
10.デリバティブを使った金融商品 1（EB.DC.満期選択などの仕組債）
11.デリバティブを使った金融商品 2（カバードワラントを使って）
12.伝統的金融商品と金融派生商品
13.リスク対応にデリバティブをどのように活用するか
14.デリバティブによる商品組成
15.今後のデリバティブ展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J20029A01
科目名	日本経済論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	The Japanese Economy A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	第 2 次世界大戦後の復興から台頭する中国に向き合うまでの日本経済の歩みを概観します。前半は日本経済が高い経済成長率を実現した時期に当たり、後半は低成長を余儀なくされた時期に当たります。なぜ経済成長率に大きな変化が起きたのか、その原因を探っていきます。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考資料）	橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齋藤直（2011）『現代日本経済』第 3 版、有斐閣。		
教育方法	学生による発表に基づいて質疑応答形式で授業を進めます。		
評価方法	授業内発表（100%）		
到達目標	１．日本経済に起きた大きな変化の原因を理解する。 ２．経済学のツールを用いて日本経済について説明できるようになる。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する参考文献のページを読んで授業の各回で取り上げる内容を予め要約し、レジュメとして持参すること。んでおくこと（各回の学習推定時間は 1 時間）。 第 1 回　橋本・長谷川・宮島・齋藤(2011)33－50 頁。 第 2 回　橋本・長谷川・宮島・齋藤(2011)52－72 頁。 第 3 回　橋本・長谷川・宮島・齋藤(2011)73－86 頁。 第 4 回　橋本・長谷川・宮島・齋藤(2011)87－99 頁。 第 5 回　橋本・長谷川・宮島・齋藤(2011)116－119 頁。 第 6 回　橋本・長谷川・宮島・齋藤(2011)　130－139 頁。 第 7 回　橋本・長谷川・宮島・齋藤(2011)142－170 頁。 第 8 回　橋本・長谷川・宮島・齋藤(2011)171－180 頁。 第 9 回　橋本・長谷川・宮島・齋藤(2011)181－191 頁。 第 10 回　橋本・長谷川・宮島・齋藤(2011)192－205 頁。 第 11 回　橋本・長谷川・宮島・齋藤(2011)215－224 頁。 第 12 回　橋本・長谷川・宮島・齋藤(2011)260ー266 頁。 第 13 回　橋本・長谷川・宮島・齋藤(2011)267－277 頁。 第 14 回　橋本・長谷川・宮島・齋藤(2011)299－318 頁。 第 15 回　橋本・長谷川・宮島・齋藤(2011)341－357 頁。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数十年間に亘る日本経済の変化を跡付けていくので、休まず全ての授業に出席すること。			
授業スケジュール			
1　経済復興 2　高度成長 3　産業政策 4　メインバンク・システム 5　大衆消費社会 6　エネルギー革命 7　安定成長への移行 8　赤字国債の発行 9　経済の二重構造 10　自動車産業の発展 11　円高とバブルの発生 12　半導体産業の動向			

13　トヨタ生産システム
14　バブル崩壊と失われた 20 年
15　台頭する東アジアと日本の関係

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J20029B01
科目名	日本経済論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	The Japanese Economy B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
授業概要	第二次世界大戦後の日本経済は、戦後復興期、高度経済成長期、オイルショックと円高不況期、バブル経済の崩壊と失われた１０年（あるいは２０年）の時期を経て、大きく変化してきた。その結果、経済成長の目標も生産の量的拡大から生活の質的向上を重視する方向へとシフトしつつある。しかし一方では、近年急速に進む経済のグローバル化と少子高齢化のなかで、日本経済の将来に対する深刻な不安材料が指摘されており、これまでの社会システムでは対応しきれない、さまざまな問題が生じている。 　本講義では、必要に応じて各種の統計資料を用いながら、日本経済の仕組みと日本経済が抱えている今日的課題について、わかりやすく理論的かつ総合的に学習する。		
教材（教科書）	使用しない。毎回講義資料をプリントして配布する。		
教材（参考資料）	塚崎公義『一番わかりやすい日本経済入門』（河出書房新社）2018 年		
教育方法	1．毎回配布する講義資料に基づき、講義形式で授業をおこなう。 2．前回講義で出題された「確認問題」への応答や授業時間内での受講生からの積極的な質問については、双方向的授業という観点から、評価対象とする。		
評価方法	平常点（15%）平常点＋授業内発表（15%）＋レポート試験（70%）		
到達目標	自分の身の周りで日々生じている経済変化を、受講生が自分の感性で感じ取り、授業で学んだ経済知識と経済情報を使って理解できるレベルに到達することを目標とする。		
授業時間外学習	１．毎回の講義ファイルは事前（1 週間前）に「京学なび」の授業資料としてアップする。受講生は、あらかじめ次回の講義資料に目を通してから授業にすること。 2．毎回配布される講義資料の最後には、その日の要点を復習するための「確認問題」が出題されている。受講生は、前回の復習を兼ねて「確認問題」について解答を準備し、次回の授業で発言を求められたら自主的に回答すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.「日本経済論Ａ」とは内容が重ならないように調整しているので、「日本経済論Ａ」とあわせて受講することが望ましい。
2．授業への意欲的な受講を臨む。受講生からの質問、あるいは教員から受講生への問いかけにたいする積極的発言は、「授業内発表」の評価点とする。

授業スケジュール

1．ガイダンス（講義の目標、成績評価）
2．日本経済の TODAY（最近の日本経済の動向）
3．景気の謎を解く①（景気循環など）
4　景気の謎を解く②
5．新成長の設計①（経済成長の理論、国民所得の決定など）
6．新成長の設計②
7．物価と市場経済①（デフレ経済とインフレ経済、日本の物価問題など）
8．物価と市場経済②
9．人口減少時代の財政①（財政の役割、日本の財政問題など）
10．人口減少時代の財政②
11．金融システムの再構築①（金融問題と金融政策）
12．金融システムの再構築②
13．アベノミクスについて考える①
14．アベノミクスについて考える②
15．経営革新と雇用問題（企業経営など）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J20039002
科目名	情報システム設計実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practice of Information System Design		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
授業概要	現代の情報社会はそれ自体がシステムであり、産業、地域社会、家庭などもそれぞれシステムとして機能している。このような時代背景のもとで必要とされるシステムの設計、運用に関する基本的な知識・技術などについて実習をふまえて習得を目指す。 　本講義では、情報処理システムがどのような仕組みなのか、実際にシステムを開発する立場となって必要な基本設計、外部設計、内部設計、プログラミング、テスト、保守・管理の基礎知識を学ぶ。 実習では、システムの設計を経験して、高度情報社会に対応できる基本的な想像能力と実践的な技術の習得を目標とする		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	木暮　仁　著「情報システム設計論」　日科技連 加藤　英雄　著　「SE のための図解システム設計の基礎」　　共立出版株式会社		
教育方法	講義 1～10 はパワーポイントあるいは板書を活用しながら講義法でおこなう 講義 11～15 は講義法と課題演習を組み合わせておこなう		
評価方法	「課題演習+レポート」(30%)+「システム設計実習」(30%)+授業内小テスト等による平常点(40%)		
到達目標	1.　情報システムの設計、運用に関する基本的な知識、技術の習得。 2.　基本的なシステム設計の実習により、情報社会で必要な実践的な技術の習得。		
授業時間外学習	1.　どのような情報システムがあるのか事前に学習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.　第 1 回はガイダンスを行うので必ず出席すること。欠席の場合は「受講の意思がない」とみなす。
2.　毎回講義の最後に、当日の講義のまとめと次回の実習内容に関して説明を行うので各自復習および予習を行うこと。
3.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める

授業スケジュール

1.　情報システム設計実習の学び方
2.　システム設計とは
3.　システムの開発について
4.　システムの開発手順
5.　基本設計
6.　外部設計
7.　内部設計
8.　プログラミング設計
9.　システムの試験
10.　システムの保守管理
11.　システム設計実習(1)
12.　システム設計実習(2)
13.　システム設計実習(3)
14.　システム設計実習(4)
15.　設計実習したシステムの検証と考察

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J20055A01
科目名	経済政策 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面している．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きい．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類される．こうした個別具体的な政策を理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論の理解が不可欠となる． 　本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げる．		
教材（教科書）	特に使用しない。		
教材（参考資料）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』高菅出版， 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教育方法	講義資料に基づいて講義を行う。		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	我が国の経済政策の課題をデータに基づいて説明することができる．		
授業時間外学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
授業スケジュール			
1.　経済政策論の誕生と学問的性格 2.　日本経済の現況と政策課題（１） 3.　日本経済の現況と政策課題（２） 4.　日本経済の現況と政策課題（３） 5.　市場社会の変容と三重秩序（１） 6.　市場社会の変容と三重秩序（２） 7.　市場社会の変容と三重秩序（３） 8.　市場社会の変容と三重秩序（４） 9. 国家の変質と福祉国家の誕生（１） 10. 国家の変質と福祉国家の誕生（２） 11. 国家の変質と福祉国家の誕生（３） 12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（１） 13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（２） 14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（３） 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J20055A02
科目名	経済政策 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面している．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きい．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類される．こうした個別具体的な政策を理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論の理解が不可欠となる． 　本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げる．		
教材（教科書）	特に使用しない。		
教材（参考資料）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』高菅出版， 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教育方法	講義資料に基づいて講義を行う。		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	我が国の経済政策の課題をデータに基づいて説明することができる．		
授業時間外学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
授業スケジュール			
1.　経済政策論の誕生と学問的性格 2.　日本経済の現況と政策課題（１） 3.　日本経済の現況と政策課題（２） 4.　日本経済の現況と政策課題（３） 5.　市場社会の変容と三重秩序（１） 6.　市場社会の変容と三重秩序（２） 7.　市場社会の変容と三重秩序（３） 8.　市場社会の変容と三重秩序（４） 9. 国家の変質と福祉国家の誕生（１） 10. 国家の変質と福祉国家の誕生（２） 11. 国家の変質と福祉国家の誕生（３） 12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（１） 13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（２） 14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（３） 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J20055A03
科目名	経済政策 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面している．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きい．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類される．こうした個別具体的な政策を理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論の理解が不可欠となる． 本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げる．		
教材（教科書）	特に使用しない。		
教材（参考資料）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』高菅出版， 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教育方法	講義資料に基づいて講義を行う。		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	我が国の経済政策の課題をデータに基づいて説明することができる．		
授業時間外学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
授業スケジュール			
1.　経済政策論の誕生と学問的性格 2.　日本経済の現況と政策課題（１） 3.　日本経済の現況と政策課題（２） 4.　日本経済の現況と政策課題（３） 5.　市場社会の変容と三重秩序（１） 6.　市場社会の変容と三重秩序（２） 7.　市場社会の変容と三重秩序（３） 8.　市場社会の変容と三重秩序（４） 9. 国家の変質と福祉国家の誕生（１） 10. 国家の変質と福祉国家の誕生（２） 11. 国家の変質と福祉国家の誕生（３） 12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（１） 13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（２） 14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（３） 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J20055B01
科目名	経済政策Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	我が国は人口減少社会に移行する中，経済社会のあり方が問われている．高度経済成長の成果を踏まえ，「日本型福祉国家」の建設を目指してきたが，経済的・社会的環境の変化により，福祉国家政策は行き詰まり，いまや政策体系が根本的に見直されなければならない．欧州諸国でも「福祉国家の危機」が，1980年以降急速に政治問題化し，欧州委員会を中心に「持続可能な社会保障制度の再構築」が模索されている． 本講義では，マクロ経済政策の基本的な事項の理解に努めるとともに，人口減少社会における持続可能な社会保障制度のあり方について考える．		
教材（教科書）	特に使用しない		
教材（参考資料）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』高菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教育方法	講義資料に基づいて講義する		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	人口減少社会における我が国経済政策の課題をデータに基づいて説明することができる		
授業時間外学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
授業スケジュール			
1. 社会体制と政策思想 2.福祉国家の 2 類型 3.新しい社会問題 4.福祉国家の基本構想 5.成長と分配の総合政策（１） 6.成長と分配の総合政策（２） 7.成長と分配の総合政策（３） 8.成長と分配の総合政策（４） 9.成長と分配の総合政策（５） 10.雇用と経済安定化政策（１） 11.雇用と経済安定化政策（２） 12.雇用と経済安定化政策（３） 13.移行的労働市場論 14.フレキシキュリティ政策 15.社会的包摂のための政策			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J20056A01
科目名	社会政策 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Policy A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	本科目では、まず雇用・労働、福祉・介護、年金といった分野において政府が対応を求められてきた代表的な「社会問題」を取り上げ、それらを引き起こしている要因について考える。その上で、それらの問題を解決するために実際にどのような手段が講じられているか、またその際にどのような課題に直面しているかについて説明する。 こうして、政府による社会問題解決に向けた政策、すなわち社会政策の実例を考察することを通じて、社会政策の意義と必要性、および今日的課題についての理解を促す。		
教材（教科書）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考資料）	社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規		
教育方法	毎回資料を配布する。資料には空欄を設けてあり、講義中にそこに入る適切な語句を指示する。学生は資料にそれを書き込むとともに、講義内容についてノートをとり、資料の内容を補足する。		
評価方法	授業内課題（45%）、　学期末試験（55%）		
到達目標	社会政策という政策分野の概要とそれに関する今日の社会問題について理解し、自らの視点からそれに対する意見を述べることができること。		
授業時間外学習	・社会保障関係をはじめ、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。

授業スケジュール

１．授業の進め方と概要：社会政策とは
２．少子化と人口減少：少子社会の現状と課題
３．高齢化の進行：高齢社会の現状と将来
４．労働と雇用①：労働時間をめぐる課題
５．労働と雇用②：若年者の雇用問題
６．貧困と格差①：生活保護制度
７．貧困と格差②：格差社会の現状
８．高齢者介護問題①：介護をめぐる状況
９．高齢者介護問題②：介護保険制度
１０．医療問題①：国民皆保険制度
１１．医療問題②：医療保障の危機
１２．年金問題①：国民皆年金制度
１３．年金問題②：年金の危機
１４．社会保障の給付と負担：社会保障給付費の増加
１５．少子高齢社会：政策的対応のあり方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J20056B01
科目名	社会政策Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Policy B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	本科目では、社会政策実践の歴史について、その源流から今日までを振り返り、それらがいかなる事情と目的の下に展開されてきたかを説明する。さらに、その間に社会政策の対象や概念がどのように変化してきたかに着目することを通じて、社会政策の意義と必要性、そしてその体系について理解を深める。また、少子高齢化や人口減少など、わが国が直面している社会構造の変化を念頭に置きつつ、今日の社会政策に期待される役割とそこに生じている課題について検討を行う。		
教材（教科書）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考資料）	足立正樹・井上久子（編著）『社会保障の光と陰』高菅出版 社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規出版		
教育方法	毎回資料を配布する。資料には空欄を設けてあり、講義中にそこに入る適切な語句を指示する。学生は資料にそれを書き込むとともに、講義内容についてノートをとり、資料の内容を補足する。		
評価方法	授業内課題（45％）、学期末試験（55％）		
到達目標	社会保障の目的と必要性の根拠を多面的に理解するとともに、今後の社会保障のあり方について自らの視点で考察し、説明できる。		
授業時間外学習	・社会保障関係はもちろんのこと、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・「社会政策Ａ」を受講済みであることが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

授業スケジュール

１．授業の進め方と講義の概要：国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度①
３．社会保障の概念と制度②
４．社会保障の体系と二定型
５．わが国における社会保障の概念
６．社会保障の必要性：超歴史的視点から①
７．社会保障の必要性：超歴史的視点から②
８．社会保障の必要性：歴史的視点から①
９．社会保障の必要性：歴史的視点から②
１０．社会保障の必要性：歴史的視点から③
１１．社会保障の源流
１２．社会保障の登場と発展
１３．福祉国家の光と陰①　福祉国家の発展
１４．福祉国家の光と陰②　福祉国家の危機
１５．わが国における社会保障の歴史的展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J20062A01
科目名	財政学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance A		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	本講義では、経済理論から政府の役割を導出し、政府はなにをすべきかを明らかにし、それを踏まえて財政とはなにかについての理解を深めることを基本的な目的とする。具体的には、政府の歳出と歳入の背後にある個々の政策についての理論を踏まえて、政策の効果および影響を評価する方法等を具体的事例を用いて解説し、今後の政府の政策のあり方を考える力を培うことを主目標とする。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	橋本徹・山本栄一・林宜嗣・中井英雄・高林喜久生『基本財政学』有斐閣		
教育方法	講義用レジメを配布しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業中の課題（30%）、３回のレポート（30%）、試験（40%）で評価する。		
到達目標	政府の役割という観点から個々の財政政策を位置づけつつ、その背後にある理論を踏まえながら個々の政策の効果および影響について説明できる。		
授業時間外学習	授業で毎回提示された課題について、インターネットなどで調べ、講義用レジメの裏面に内容を記述し、次回の授業時に提出。また、予習としては、次回の講義用レジメも配布するので、空欄箇所について、インターネットなどで調べておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
インターネット、新聞、経済雑誌などで、講義（配布するレジメ）と関連する記事・項目を講義前後で必ず調べておくこと。
受講ルール
私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し、退出を求める。
学習上の助言
財務省、厚生労働省、総務省など、中央省庁のホームページで、2018 年度の主要政策予算について、調べておくことが授業の理解、レポート作成に役立ちます。

授業スケジュール

第１回　講義の概要説明
第２回　政府の役割：厚生経済学の第一基本定理
第３回　政府の役割：厚生経済学の第二基本定理
第４回　夜警国家論と政府
第５回　ケインズ経済学と政府
第６回　IS-LM 分析と政府
第７回　サプライサイド経済学と政府
第８回　合理的期待学説と政府
第９回　中央銀行と政府
第１０回　再分配政策としての所得税
第１１回　再分配政策としての社会保障
第１２回　資源配分政策としての公共投資
第１３回　資源配分政策としての規制政策
第１４回　資源配分政策としての金融政策
第１５回　資源配分政策としての財務政策　＆　総まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J20064A01
科目名	金融論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Money and Banking A		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	金融の基礎について講義をする。貨幣の役割、中央銀行の役割、民間金融機関の役割を中心に、金融を学ぶことは何故必要かが分かってもらえる講義にする。短期金融市場、株式市場、債券市場、為替市場についても説明し、ファイナンシャルプランナーを目指す人、金融機関就職を希望する人はもちろんのこと、今後社会に出た時に必要な基礎教養を身に付けたい人にも十分役立つ講義にする。金融政策を中心に扱う金融政策論も併せて受講してほしい。		
教材（教科書）	第 1 回目の講義時に紹介する。 また、適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	講義の進展に応じて紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：講義参加意欲、小テスト 20%		
到達目標	ファイナンスについての基本的知識を身につけることができる。		
授業時間外学習	講義前に新聞やニュースでその日の経済の動きを事前に把握しておくこと。少なくともその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「金融政策論」「金融入門」は併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい

授業スケジュール

1.貨幣とは何か
2.銀行の役割
3.中央銀行の役割
4.金融政策の方法
5.信用創造について
6.金融政策はどのように経済に影響するのか
7.短期金融市場の役割
8.債券について I
9.債券について II
10 株式について I
11 株式について II
12.為替レートについて I
13..為替レートについて II
14.物価の決定理論 I
15.物価の決定理論 II

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J20064B01
科目名	金融論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Money and Banking B		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	金融政策および金融システムについて講義する。具体的には日本銀行やアメリカの中央銀行、連邦準備銀行は日々どのように金融政策を実施し、危機が生じたときにどのように政策対応するのか、また金融システムを健全に維持するためにはどのような規制が必要であるかを中心に講義する。とくに本年度は、アベノミクスを中心に日本の長期デフレ不況と日銀の金融政策について解説する。身近な事例を紹介しつつ、金融政策の理解を深める。できるだけ平易な解説になるように努めたい。		
教材（教科書）	最初の講義時に紹介する。 また、適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	講義の進展に応じて参考文献を紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：講義参加意欲、および小テスト 20%		
到達目標	金融政策、金融危機に関する、新聞記事などが十分理解できるようになる。 また、経済政策、とくに金融政策に関して自分なりの意見が述べられるようになる。		
授業時間外学習	ノートを整理すること。新聞の経済記事をよく読んでおくこと。講義の前に必ずその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「金融論」(旧「金融論」Ａ）を併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい。

授業スケジュール

1 金融危機と金融政策（概説）
2 伝統的金融政策と非伝統的金融政策
3 日銀の伝統的金融調節
4 連邦準備の伝統的金融政策
5 デフレと金融政策
6 金融政策の評価
　テーラルール、NAIRU、オーカンの法則
7 大恐慌（29 年の株価大暴落と連銀の政策対応）
　金本位制、債務デフレ、クレディットビュー、マネビュー
8 日本のバブル：1980 年代後半の金融政策と政治
9　日本の長期デフレ不況：1990 年代
10　アベノミクス登場の背景と意義
11 アメリカの住宅バブルと金融政策
12 リーマンショックと金融政策
　too big to fail 政策、モラルハザード、影の金融システム、スティグマ
13　2000 年代の金融政策、日米比較
14 北欧の金融システムと金融危機
　公的資金の役割、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー
15 金融規制のあり方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J20065001
科目名	ファイナンスの数理	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics of Finance		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	本講義では、投資理論として「どのようなポートフォリオを構築すればよいのか」について代表的な考えを述べる。 具体的には、PC 上で稼働する表計算ソフトとして幅広く利用されている Excel を活用しながら、証券投資分析手法を寛容に学んでいく。証券投資理論に関しては、株式投資分析、債券投資分析、先物とオプションについて、講義を行うつもりである。特に、先物とオプションに関しては、離散時間型の簡単な 2 項モデルを紹介し、このモデルを基に、裁定取引の考え方およびオプション価格(プレミアム)の決定方法を学ぶ。また、ファイナンスの基礎知識が全くないことを前提に、PC を使いながら出来るだけ平易に解説するつもりである。		
教材（教科書）	必要に応じてプリント配布を行う。		
教材（参考資料）	・ 藤林/岡村/矢野（2009）『Excel で学ぶファイナンス：証券投資分析』 第 3 版, 金融財政事情研究会. ・ 藤田康範（2013）『金融・経済のための統計学入門』 日本実業出版社. ・ 野口 悠紀雄（2000）『金融工学、こんなに面白い』文春新書.		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 また、レポート課題を Excel で解く。		
評価方法	・ 平常点(30%)；複数回のレポート等による。 ・ 定期試験(70%)。		
到達目標	ファイナンスの基本理論を EXCEL などの演習を通じて理解できる。		
授業時間外学習	・ 証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 ・ 複数回の講義内容を復習を兼ねたレポートを課す。 ① 個別証券のリスクとリターンを比べる。 ② 2 つの証券の共分散および相関係数を調べる。 ③ 2 つの証券を用いたポートフォリオを構築する。 ④ 3～4 つの証券からなるポートフォリオのリスクとリターンを計算する。 ⑤ 最適ポートフォリオを計算する。 ⑥ シングル・ファクター・モデルの観点から、リスクとリターンを計算する。 ⑦ マルチ・ファクター・モデルの観点から、リスクとリターンを計算する。 ⑧ CAPM を計算する。 ⑨ 債券価格と利回りを計算する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・ 統計学の正規分布等の基礎知識を有していることが望ましいが、とくになくても問題はない。
・ レポート課題を Excel で解くが、これも初めから指導する。
・ ファイナンス関連科目を多く履修していることが望ましい。

授業スケジュール

1．ポートフォリオのリターンとリスク
2．同上
3．マーケット・モデル
4．同上
5．資本資産価格モデル（CAPM）
6．同上
7．債券の価格と利回り
8．同上
9．イールドカーブの特性
10．債券のリスク（価格変動リスク、信用リスク）とポートフォリオ
11．同上

１２．先物の理論価格とヘッジ １３．オプションの概要 １４．同上 １５．まとめ： 演習の復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J20066A01
科目名	時系列データ分析 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Analysis A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	時系列データ分析
授業概要	月次や四半期などの経済データはその時々の経済ショックを受けながら変動する。また、GDP やマネー、金利、物価などはお互いに影響しながら動いていく。それらの間にどのような関係が成り立つかを分析する。さまざまな分析手法を用いるが、特に、この講義では、最小二乗法を中心に、定常、非定常の検定を学ぶ。EViews という分析ソフトを使用。EViews という経済分析ソフトを使って、経済データのいろいろな分析、推計、モデル作成などを行う。		
教材（教科書）	毎回、「京学なび」にて、必要な資料を EXCEL で、使用データを EViews のファイルで配布。		
教材（参考資料）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教育方法	（1）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （2）原データを EXCEL で加工して、EViews という分析ソフトに移す。 （3）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（1）から（3）を、テーマごとに繰り返す。 EXCEL や EViews の操作方法をまず最初に覚え、次にデータ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	毎回の課題提出（30%）と 2 回程度のレポート提出（20%）、定期試験（50%）		
到達目標	（1）最小二乗法による推定ができるようになり、推定結果が解釈できる。 （2）経済の各種データが時間差を伴って関連性（相関）を持つかどうを判定できる。 （3）系列相関の有無（毎回の経済ショックが過去の影響を引きずっているか）。		
授業時間外学習	EViews というソフトはクリックするだけで結果を出してくれる。計算手法そのものの理解は、統計学や数学、コンピュータのプログラムなど膨大な知識を要求するので、気にしなくてもよい。大事なことは、何を分析しているのか、分析結果の経済学的な意味合いである。経済学の基礎知識として、ミクロ、マクロ、金融論、計量経済学などを履修済、あるいは、履修中であることが望ましい。 予習：毎回の資料を「京学なび」で事前配布するので、読んでおくこと。 復習：毎回の資料（課題）の最後に、次週までに解いておくべき課題（発展問題）を示しておくので、その課題を解いて、次の授業までに「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

数学やコンピュータへの拒否反応を持たないようにしてほしい。これらははじめは難しそうでも、使っていれば慣れてくる。
経済学的な意味合いがもっとも大事である。経済の基礎勉強に励んでほしい。

授業スケジュール

（1）データ取得と加工、EViews の基本操作とグラフ表示
（2）季節調整、平均化、smoothing、記述統計
（3）最小二乗法による推定――回帰直線
（4）最小二乗法による推定――重回帰
（5）最小二乗法による推定――ダミー変数導入による賃金の推定（男女、年齢、経験の影響）
（6）自己相関、相互相関
（7） 時系列データにおける相関関数（時間遅れの影響）
（8）レベル変数（非定常）と階差変数（定常）
（9）系列相関の考え方
（10）単位根検定（定常、非定常）――トレンドの検定、ERS 検定、KPSS 検定
（11）単位根検定――日本のデータ
（12） 単位根検定――ヨーロッパのデータ、アメリカのデータ

（１３）レベル変数間の推定
（１４）階差変数（成長率）間の推定
（１５）レベル推定と階差推定の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J20066B01
科目名	時系列データ分析B	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Analysis B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	時系列データ分析
授業概要	月次や四半期などの経済データはその時々の経済ショックを受けながら変動する。また、GDP やマネー、金利、物価などはお互いに影響しながら動いていく。それらの間にどのような関係が成り立つかを分析する。さまざまな分析手法を用いるが、特に、この講義では、主として、最小二乗推定を用いて、マクロ経済システムを推定する。経済時系列手法により、GDP、マネー、金利、株式などの変数からなる VAR モデルを推定する。インパルス応答によるモデルの動きを調べて、作成したモデルの検証方法も調べる。		
教材（教科書）	毎回、必要な資料を EXCEL で、使用データを EViews のファイルで事前配布。		
教材（参考資料）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教育方法	（1）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （2）原データを EXCEL で加工して、EViews という分析ソフトに移す。 （3）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（1）から（3）を、テーマごとに繰り返す。 EXCEL や EViews の操作方法をまず最初に覚え、次にデータ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	毎回の課題提出（30%）と 2 回程度のレポート提出（20%）、定期試験（50%）		
到達目標	（1）最小二乗法による推定ができるようになり、推定結果の経済的な意味合いを理解できる。 （2）VAR モデルの推定ができる。 （3）インパルス応答によるモデルの検証ができる。		
授業時間外学習	経済学の基礎知識として、ミクロ、マクロ、金融論、計量経済学などを履修済、あるいは、履修中であることが望ましい。 予習：毎回、EXCEL によって資料と課題を事前配布するので、読んでおくこと。 復習：毎回の資料配布時に、資料の最後に課題（発展問題）を入れておくので、次回の授業までに、課題を解いて「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

数学やコンピュータへの拒否反応を持たないようにしてほしい。これらははじめは難しそうでも、使っていれば慣れてくる。
経済学的な意味合いがもっとも大事である。経済の基礎勉強に励んでほしい。

授業スケジュール

（1）EViews の基本操作とグラフ表示
（2）最小二乗法による推定――その 1
（3）最小二乗法による推定――その 2
（4）最小二乗法による推定――その 3
（5）自己相関、相互相関
（6） 時系列データにおける相関関数（時間遅れの影響）
（7）レベル変数（非定常）と階差変数（定常）
（8）物価の特徴（インフレ率）と Phillips 曲線
（9）金利の特徴（短期金利、長期金利）
（１０）推定と AIC 規範
（１１）VAR モデルの推定、level 変数
（１２）VAR モデルの推定、成長率モデル
（１３）インパルス応答
（１４）GDP とマネーと金利の関係

（１５）日本・USA・ヨーロッパ諸国の具体例と相違点

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J20069001
科目名	リスク・マネジメント論	単位数	2
科目名（英語表記）	Risk Management		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	金融工学とは、金融市場で資金を運用する際に生じるリスクを工学的な手法を用いて計測し、適切に管理することを目的して発展してきた学問である。当該分野は、数学、統計学、経済学等の手法を駆使してリスク測定・管理を行う。本講義では、金融・経済で用いられる統計学に焦点を当てながら、金融工学におけるリスク測定・管理の手法を理解していく。ただし、数学が苦手な文系の受講者を想定しており、初歩から理解を深めていく予定である。		
教材（教科書）	・ 藤田康範（2013）『金融・経済のための統計学入門』 日本実業出版社.		
教材（参考資料）	・ 田渕 直也（2015）『カラー図解でわかる金融工学「超」入門』 サイエンス・アイ新書. ・ 足立 光生（2004）『金融工学を勉強しよう』 日本評論社.		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	・ 平常点(30%)；複数回のレポート等による。 ・ 定期試験(70%)。		
到達目標	データ整理の基本から、ブラック・ショールズ・モデルまでを理解することができる。また、統計学を使って、株式を安く買って高く売る、しかもリスクを減らす方法を理解することができる。		
授業時間外学習	・ 事前に各回のテキストを読んで、自分なりの解釈をして講義に臨むこと。 ・ 参考文献欄に挙げた文献すべてを学期中に読破すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業中の私語厳禁・携帯電話利用禁止。
ファイナンス関連科目を多く履修していることが望ましい。

授業スケジュール

1. データ整理の基本： 平均と分散、標準偏差
2. データ整理の基本： 共分散と相関係数
3. ポートフォリオの適切な組合せ方： 収益率の平均と標準偏差
4. ポートフォリオの適切な組合せ方： 資本資産評価モデル（CAPM）と$\sqrt{t}$ルール
5. 「めったにない安値」で買い、「めったにない高値」で売る： 確率分布とは？
6. 「めったにない安値」で買い、「めったにない高値」で売る： めったにない安値と高値の計算
7. 最悪の損失を最小化する方法： バリュー・アット・リスク(VaR)とは？
8. 最悪の損失を最小化する方法： ポートフォリオの VaR を求める
9. 「よくある価格」を知るための方法： 「よくある価格」の推定
10. 「よくある価格」を知るための方法： 「よくある価格」が変化したかを検定する
11. 売買する権利の価格を求める： オプションとは？
12. 売買する権利の価格を求める： オプションの価格を求める
13. ブラック・ショールズ・モデル： 連続時間における元利合計を求める
14. ブラック・ショールズ・モデル： ブラック・ショールズ・モデルでオプション価格を求める
15. まとめ： 演習の復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J20070001
科目名	金融市場論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Financial Market		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	
授業概要	This course is designed for all students/attendants to understand the system of capital market and security market, and deeply recognize the fundamentals of “what is Money?” from the theory to the practical manor. Expected all attendants to bring a skill of mathematics with “passion to learn” to the classroom. Also setting stock picking and will run hypothetical stock portfolio through the whole sessions, the all attendants will be examined on their performance and depth of analysis. Class should be handled in English. Expected to achieve CMA Level 1, (CFA level 1, Market Analysis (SHOKEN BUNSEKI). 当講座は、学生が証券市場、金融市場の仕組みを学び、証券アナリスト１次レベル：証券市場の知識を得ることとする。 講義は英語で行われる。		
教材（教科書）	CMA Level 1, Market Analysis (SHOKEN BUNSEKI), ISBN978-4-8132-6526-9		
教材（参考資料）	Will be delivered at each session.		
教育方法	Analysis of stock market at the each session, which will be analyzed at every session.		
評価方法	50 % Class Contribution 35% Presentation / Portfolio at the last session 15% Quiz at each session		
到達目標	Students to be expected to achieve CMA (CFA in Japan) at Security Analysis (SHOKEN BUNSEKI)		
授業時間外学習	Fundamental Mathematics (including differential and integral) should be set prior to this session. This class will be driven in English.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
Be Passionate Be Hungry			
授業スケジュール			
To prepare to be able to explain your Bio. Session 1 Orientation Session 2 On Market Session 3　On Money Session 4　On Stock Session 5　On Bond, FX, Commodity Session 6　On Portofolio Session 7　On Stock Picking Session 8　Portfolio Setting Session 9　On Capital Market Session 10　On Fund Raising / IPO Session 11　On Venture Capital Session 12　On Valuation Session 13　On Corporate Analysis 1 Session 14　On Corporate Analysis 2 Session 15　Presentation			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J20075A01
科目名	国際金融論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	国際金融論は、国際間の金融取引に焦点を当て、そこで無視することができない為替レートについて学習する学問である。国際金融論Ａでは、まず、国際金融取引の現状を説明したうえで、受講生がそこで必要となる為替レートがどのように決まるかについて理解できるようになることを目的とする。特に、購買力平価や金利平価といった比較的初歩的な為替レート決定理論に基づいて為替レートがどのように決まるかが理解できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	なし、講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	【教科書】 高木信二(1992)『入門　国際金融』　日本評論社 藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣 藤原秀夫・小川英治・地主敏樹(2001)『国際金融』 有斐閣アルマ 小川英治(2002)『国際金融入門』　日本経済新聞社 宮尾龍蔵(2005)『コアテキスト・マクロ経済学』　新世社		
教育方法	事前に配布した講義レジュメ・資料に沿って、基本的に講義法で行う。教員は講義する内容をホワイトボードに書いてポイントを明確にし、学生はそれをノートに写しながら受講する。講義内容が理解できているかどうかを判断するために小テストを課す。		
評価方法	基本的に、授業内小テスト等による平常点（60%）、レポート（40%）の成績によって評価する。		
到達目標	1. 国際金融取引の基礎や外国為替の仕組み、為替レートと貿易収支の関係について理解できるようになる。 2. 初歩的な為替レート決定理論である購買力平価や金利平価を説明できるようになる。		
授業時間外学習	講義で配布するプリントを予め読んで予習しておくこと。また、各回の終わりに宿題としてレポートを極力課すので、授業時間外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 金融論とマクロ経済学の授業を履修してのぞむことが望ましい。
2. 遅刻や私語は厳禁とする。
3. トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい。
4. 授業内容に関する理論モデルから得られる結果は高い現実妥当性をもつものも少なからず存在する。モデル分析から得られる結果を現実経済に当てはめて考えてみよう。

授業スケジュール

1．イントロダクション
2．国際金融取引の基礎：グローバル化するモノ・おカネの動き
3．国際金融取引の基礎：開放経済における国民所得勘定
4．国際金融取引の基礎：開放経済における国民所得勘定
5．国際金融取引の基礎：国際収支表の見方・書き方
6．国際金融取引の基礎：国際資本移動が生じる理由
7．外国為替の基礎：外国為替の仕組み，外国為替市場の特徴
8．外国為替の基礎：為替レートの見方，名目為替レートと実質為替レート
9．為替レートと貿易収支の調整：円高・円安と貿易収支
10．為替レートと貿易収支の調整：マーシャル・ラーナー条件
11．為替レートと貿易収支の調整：Ｊカーブ効果
12．為替レートの決定：購買力平価（絶対的購買力平価）
13．為替レートの決定：購買力平価（相対的購買力平価）
14．為替レートの決定：購買力平価不成立に関する理論（バラッサ・サミュエルソンの定理）

15．為替レートの決定：金利平価

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J20075B01
科目名	国際金融論B	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	国際金融論は、国際間の金融取引に焦点を当て、そこで無視することができない為替レートについて学習する学問である。国際金融論 B では、まず、受講生が主要な為替レート決定モデル（フローアプローチやマネタリーモデル等）から為替レートがどのように決まるかが理解できるようになることを目的とする。また、為替レート変動が実体経済に与える影響も重要なトピックであるため、それについて理解できるようになることも目的とする。		
教材（教科書）	なし、講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	【教科書】 高木信二(1992)『入門　国際金融』　日本評論社 藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣 藤原秀夫・小川英治・地主敏樹(2001)『国際金融』 有斐閣アルマ 小川英治(2002)『国際金融入門』　日本経済新聞社 宮尾龍蔵(2005)『コアテキスト・マクロ経済学』　新世社		
教育方法	事前に配布した講義レジュメ・資料に沿って、基本的に講義法で行う。教員は講義する内容をホワイトボードに書いてポイントを明確にし、学生はそれをノートに写しながら受講する。講義内容が理解できているかどうかを判断するために小テストを課す。		
評価方法	基本的に、授業内小テスト等による平常点（60%）、レポート（40%）の成績によって評価する。		
到達目標	1. 為替レートがどのように決まるか理解できるようになる。 2. 為替変動がマクロ経済に与える影響について説明できるようになる。		
授業時間外学習	講義で配布するプリントを予め読んで予習しておくこと。また、各回の終わりに宿題としてレポートを極力課すので、授業時間外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 金融論とマクロ経済学と国際金融論 A の授業を履修してのぞむことが望ましい。それゆえ、できればそれらの授業を受講した上でのぞむこと。
2. 遅刻や私語は厳禁とする。
3. トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい。
4. 授業内容に関する理論モデルから得られる結果は高い現実妥当性をもつものも少なからず存在する。モデル分析から得られる結果を現実経済に当てはめて考えてみよう。

授業スケジュール

1．イントロダクション
2．為替レート決定理論を分析するための準備
3．為替レート決定理論を分析するための準備
4．為替レート決定理論：フローアプローチ
5．為替レート決定理論：伸縮価格マネタリーモデル
6．為替レート決定理論：硬直価格マネタリーモデル
7．為替レート決定理論：為替リスク，リスク・プレミアム
8．為替レート決定理論：ポートフォリオ・バランス・モデル
9．為替介入の方法と効果：介入の仕組みと効果経路
10．開放経済における政策効果を分析するための準備：マクロ経済学の分野である IS-LM 分析の復習
11．開放経済における政策効果を分析するための準備：マクロ経済学の分野である IS-LM 分析の復習
12．開放経済における政策効果：固定相場制における財政金融政策（資本移動が完全なケース）
13．開放経済における政策効果：変動相場制における財政金融政策（資本移動が完全なケース）
14．開放経済における政策効果：固定相場制における財政金融政策（資本移動がないケース）

15．開放経済における政策効果：変動相場制における財政金融政策（資本移動がないケース）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J20078A01
科目名	簿記原理Ｉｓ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Bookkeeping I (s)		
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
授業概要	簿記とは、企業の経営活動の結果を帳簿に記録する手法であり、技術です。簿記の原理を知り、財務諸表から企業の財政状態や経営成績を読み取る能力は、現在の企業人に強く求められる必須の教養であるといってもよいでしょう。 日本商工会議所が主催する日商簿記検定試験は、簿記検定試験の中でも最も規模が大きく、知名度の高い検定試験であり、一般的には３級の資格から履歴書にも書ける資格であると言われています。 この授業では、初めて簿記を学ぶ人を対象に日商簿記検定試験３級合格レベルの知識を身に付けるとともに、練習問題を取り入れることでその技術を高めることを目指します。		
教材（教科書）	『合格テキスト　日商簿記３級　Ｖｅｒ．９．０』（ＴＡＣ出版）		
教材（参考資料）	必要に応じて指示します。		
教育方法	テキスト・授業内プリントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業内提出物等による平常点（５０％）、授業内小テスト等による平常点（５０％）		
到達目標	学生が、各勘定科目の内容について説明でき、商店の財務諸表の作成ができることを目指します。		
授業時間外学習	次の授業までに前回の授業内容と練習問題の解答を心掛けてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
この授業は複式簿記の基礎的な知識と技術の習得を目的としています。授業には積極的に出席し、簿記に対する関心を深め、しっかりとした知識と技術を身に付けるよう心掛けてください。			
授業スケジュール			
１．　簿記って何！簿記の目的と種類 ２．　簿記の５つの要素 ３．　損益計算書 ４．　貸借対照表 ５．　仕訳①と練習問題 ６．　仕訳②と練習問題 ７．　仕訳③と練習問題 ８．　仕訳④と練習問題 ９．　決算処理①と練習問題 １０．決算処理②と練習問題 １１．主要簿と補助簿 １２．試算表と練習問題 １３．精算表と練習問題 １４．簿記一巡の手続き １５．日商簿記検定試験３級実践演習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J20085A01
科目名	マーケティングⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Marketing Ⅰ		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	本講義は、マーケティングという言葉を初めて聞く人を想定して、マーケティングとはどのようなものでそれが社会でどのように役立っているのか、から始めます。 具体的には、①マーケティングの概念および基礎理論②現在の市場でのマーケティング課題③マーケティングの時代対応と進化、について事例を紹介しながら授業を組み立てていきます。 マーケティングは商品を売るためのビジネススキルであるだけでなく、社会の課題を解決したり、社会をより良くするための社会のデザインを提供するための武器にもなることを理解してもらいます。さらには、自分のポジショニングを確立して仲間やアルバイト先での存在意義を主張したり、自分をブランド化して就活に役立てられるなど、人生におけるあらゆる企画を考える基礎体力を身に着けることができます。		
教材（教科書）	和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略（第 5 版）』有斐閣アルマ		
教材（参考資料）	適宜プリントを配布します。		
教育方法	（1）講義が中心になります （2）座席表に従って着席してもらいますので、授業中にいくつもの質問を投げかけて答えてもらいます。授業に貢献する回答ができれば評価に加点します。 （3）人数にもよりますが、指名する形でディスカッションも取り入れていきます。		
評価方法	（1）期末にレポート提出を求めます。このレポートは評価の 70%を占めます。 インターネットからのコピー＆ペイストでは対応できないよう毎年工夫していますのでので、授業を理解していなければ回答できない課題になっています。 （2）授業時の発言の積極性・貢献 （評価の 15%を占めます） （3）授業の進展を確認するために 3 回程度小レポートの提出を求めます（評価の 15%を占めます）		
到達目標	（1）初めての人も、マーケティングという科目について興味を持ち、マーケティングとは何かについて述べ、マーケティングの社会的な役割を話すことができる （2）社会をマーケティングの視点で見ることができ、企画する頭を持つことができる		
授業時間外学習	事前に授業のパワーポイントを京学ナビに掲載しますので、各自でそれを見た上で、何を学びたいかを明確にしてから授業に臨んでください。 授業資料には教科書に対応していない部分もありますが、以下の回では対応していますので、併せて事前に読んできてください。 第 2 回　序章　p1-20 第 3 回　第 3 章　p58-78 第 4 回　第 3 章　p58-78 第 5 回　　― 第 6 回　第 5 章　p104-128 第 7 回　第 8 章　p173-196 第 8 回　第 9 章　p197-217 第 9 回　第 7 章　p152-172 +第 11 章　p239-245 第 10 回　第 10 章　p240-244 第 11 回　第 10 章　p218-239 第 12 回　第 6 章　p129-151+第 12 章　p265-290 第 13 回　　― 第 14 回　　― 第 15 回　第 15 章 p337-356		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」について評価します。			

●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●私語は厳しく注意します。場合によっては座席を変更します。
●（就活に関係するなど特別な場合を除き）スマートフォンの電源は授業の始まり時に切ってもらいます。電源を切れない場合は授業の初めに講師まで申し出てください。

授業スケジュール

1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法の説明、マーケティングとは何か
2. マーケティングの機能と役割
3. ターゲット研究（世代論）
4. ライフスタイルによるセグメンテーション
5. ポジショニング
6. 消費者行動論
7.「４Ｐ理論１」：製品政策
8.「４Ｐ理論２」：価格政策
9.「４Ｐ理論３」：流通対応
10.「４Ｐ理論４」：販売促進
11. マーケティング・コミュニケーション
12. 競争戦略（８０年代）
13. ブランド論（９０年代）
14. 経験経済：モノ消費からコト消費へ（２０００年代）
15. ビッグデータと関係性のマーケティング（２０１０年代）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J20190A01
科目名	西洋経済史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic History of Western Countries A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	人類の誕生から大航海時代に至るまでの経済の歴史を概観します。具体的には、マルコ＝ポーロは実在の人物だったのか、コロンブスはなぜインドを目指したのか、映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」で有名になったカリブ海の海賊が登場した背景は何か、といった問題を取り上げます。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考資料）	酒井伸雄（2011）『文明を変えた植物たち　コロンブスが遺した種子』NHK 出版。 ユヴァル・ノア・ハラリ（2016）『サピエンス全史　上』河出書房新社。 宮崎正勝（2011）『風が変えた世界史』原書房。 宮崎正勝（2013）『世界史の読み方』角川学芸出版。		
教育方法	主に講義法によって授業を進めつつ、学生による発表も適時交えることを予定しています。		
評価方法	授業内レポートと授業外レポートの合計（80 %）、授業内発表（20%）		
到達目標	1．様々な意味で日本とは異なる世界があったことを知り、思考の幅を広げる。 2．大航海時代に至るまでの歴史の大きな流れを理解する。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する参考文献のページを読んでおくこと（各回の学習推定時間は 45 分間）。 第 1 回　ハラリ（2016）14－33 頁。 第 2 回　ハラリ（2016）59－85 頁。 第 3 回　ハラリ（2016）104－127 頁。 第 4 回　キャメロン／ニール(2013)59―74 頁。 第 5 回　宮崎（2013）80―88 頁。 第 6 回　宮崎（2011）160―169 頁。 第 7 回　宮崎（2013）88―92 頁。 第 8 回　宮崎（2013）105―107 頁。 第 9 回　宮崎（2013）108―109 頁。 第 10 回　宮崎（2013）117―121 頁。 第 11 回　宮崎（2011）193―201 頁。 第 12 回　宮崎（2013）126―131 頁。 第 13 回　第 13 回　酒井（2011）17－258 頁。 第 14 回　宮崎（2011）210―212 頁。 第 15 回　宮崎（2011）201―209 頁。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「西洋経済史 A」は経済の歴史について考える科目ですから、歴史に関心のある学生が受講することを期待しています。

授業スケジュール

1　人類の誕生
2　狩猟採集民の暮らし
3　農耕の始まり
4　中世ヨーロッパの農業
5　モンゴル帝国の台頭
6　マルコ＝ポーロとジパング
7　火薬・鉄砲・大砲
8　イタリア諸都市の台頭
9　レコンキスタ

10　エンリケ航海王子からヴァスコ＝ダ＝ガマまで
11　コロンブスとは、どのような人物だったのか
12　アメリカ大陸の征服
13　コロンブスの交換とネオ・ヨーロッパの成立
14　銀とカリブ海の海賊
15　太平洋の歴史

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J20190B01
科目名	西洋経済史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic History of Western Countries B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	コーヒーや綿(コットン)といった物産を通じて歴史について考えることが、この科目の目的です。コーヒーを世界で最初に飲んだのは、どのような人たちだったのでしょうか。コーヒーが広く世界で飲まれるようになると熱帯や亜熱帯の地域には大きな変化が起きましたが、それはどのようなものだったのでしょうか。また綿(コットン)が広まったことも大きな変化をもたらし、今日見るような世界が形成されていきました。なぜコーヒーや綿(コットン)が世界史を変えたのか、その理由について考えます。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考資料）	小澤卓也（2010）『コーヒーのグローバル・ヒストリー』ミネルヴァ書房。 キャメロン／ニール(2013)『概説　世界経済史　Ⅰ』東洋経済新報社。 ポメランツ（2015）『大分岐』名古屋大学出版会。 宮崎正勝（2013）『世界史の読み方』角川学芸出版。 UCC コーヒー博物館（2016）『図説　コーヒー』河出書房新社。 金七紀男(2014)『図説　ブラジルの歴史』河出書房新社。		
教育方法	主に講義法によって授業を進めつつ、学生による発表も適時交えることを予定しています。		
評価方法	定期試験（約 66%）・授業外レポート（約 17%）・授業内発表（約 17%）の合計（100%）		
到達目標	１．様々な意味で日本とは異なる世界があったことを知り、思考の幅を広げる。 ２．コーヒーやコットンのような物産の歴史を通じて今日の世界ができた経緯を理解する。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する参考文献のページを読んでおくこと（各回の学習推定時間は 45 分間）。 第 1 回　小澤（2010）8―55 頁。 第 2 回　UCC コーヒー博物館（2016）8―11 頁。 第 3 回　UCC コーヒー博物館（2016）11―15 頁。 第 4 回　UCC コーヒー博物館（2016）20―21 頁。 第 5 回　UCC コーヒー博物館（2016）22―29 頁。 第 6 回　金七（2014）8―17 頁。 第 7 回　UCC コーヒー博物館（2016）16―19 頁。 第 8 回　金七（2014）38―55 頁。 第 9 回　金七（2014）56―77 頁。 第 10 回　宮崎（2013）149―150 頁。 第 11 回　宮崎（2013）151―155 頁。 第 12 回　キャメロン／ニール(2013)244―246 頁。 第 13 回　キャメロン／ニール(2013)239―244 頁。 第 14 回　キャメロン／ニール(2013)238―239 頁。 第 15 回　ポメランツ（2015）272 頁―305 頁。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
「西洋経済史Ｂ」は経済の歴史について考える科目ですから、歴史に関心のある学生が受講することを期待しています。			
授業スケジュール			
１．　コーヒーの原料は何か（コーヒーの生産と流通） ２．　世界で最初にコーヒーを飲んだのはだれか（コーヒーの起源） ３．　ウィンナーコーヒーはどのようにして生まれたか（コーヒーの普及） ４．　どのような器にコーヒーやココアを入れて飲んだのか（磁器の歴史） ５．　イギリスでは主に茶を、アメリカでは主にコーヒーを飲むのはなぜか(ボストン茶会事件をめぐって) ６．　ブラジルでは何語が話されているか（トルデシリャス条約をめぐって）			

7. ブラジルがコーヒー生産国になったきっかけは何か（アラビカ種の伝播）
8. ナポレオンの登場はブラジルをどう変えたか（ブラジル独立までの経緯）
9. ブラジルでコーヒー生産が増えたのはなぜか（粗放農業とテラ・ローシャ）
10. コーヒーや紅茶に入れる砂糖は世界をどのように変えたか（奴隷貿易の歴史）
11. 綿（コットン）の流行は何をもたらしたか（インド更紗をめぐって）
12. 産業革命はなぜイギリスで起きたのか（工業化の始点）
13. 産業革命期に紅茶と砂糖の消費が伸びたのはなぜか（プロト工業化論と労働の社会経済史）
14. 地球の温暖化が始まったのはいつか（石炭利用技術の革新）
15. ヨーロッパが優位に立つようになったのはなぜか（大分岐）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J2020100A
科目名	経済データの見方	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Analysis of Economic Data		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	経済の動き、企業を取り巻く環境を理解するためには、現実のデータ（経済統計、企業統計など）から現状を見る必要があります。経済の主要なデータ、たとえば、国全体の経済の動きは SNA というシステムにまとめられています。GDP など経済の基本中の基本となっている用語を理解するとともに、その動きがどうなっているか、他のどのような要因と関連しているかなど、主にデータ面から理解を深めます。 　また、企業活動から見たデータもビジネスをとらえるために重要です。事業所や、売り上げ、利益など経済だけにとどまらないデータを紹介し、理解を深めます。		
教材（教科書）	資料はプリントを配布します。授業の進捗に合わせて、内容を変更することがあります。		
教材（参考資料）	経済財政白書（2017 年）		
教育方法	パワーポイントによる講義法で行う。 パワーポイントの資料は毎回、印刷したものを配布するが、同じ資料を「京学なび」にて全 15 回分、配布。		
評価方法	何回か授業内テストをします。その成績が 20%。（毎回必ず出席しなければ得点できません） 期末試験が残りの 80%です。		
到達目標	マクロ経済の基本用語とその現実の動きを理解する 経済の要素間の関連（理論的バックグラウンド）を理解する。 企業関連データの実際を知る。		
授業時間外学習	マクロ経済学を勉強することが望ましい。 時々、宿題を出すので、授業外の時間にそれをまとめ、次回の授業で提出する。 予習復習、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
①授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、入退室などマナー違反は許さない ②実際に手を動かして文章を作ったり、計算したりする			
授業スケジュール			
1　講義の全体構成 2　付加価値とＧＤＰ 3　ＧＤＰと需要項目 4　１人あたりＧＤＰ、日本は豊かな国か 5　経済成長と需要の寄与度 6　景気変動と景気動向 7　物価指数 8　物価指数の実際 9　人口 、労働人口、失業 １０　マネー １１　為替と貿易 １２　産業構造、事業所 １３　利益の構造 １４　企業の世界展開 １５　ブラック企業			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J20206A01
科目名	経済学史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economic Thought A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	新英語表記 History of Economics
授業概要	経済学は、封建制の解体期に生まれた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するためにつくられた学問である。「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成されたが、本講義では、スミスに始まるイギリス古典派経済学以後の経済学の発展史を学習するために、近代経済学の成立事情について理解し、「ケインズ革命」を経て今日に至るまでの現代経済学の歴史を学ぶことができる。		
教材（教科書）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）3,200 円 授業において、また授業時間外の学習（予習・復習）でも使用する。 その他毎時間、講義資料を配布する。		
教材（参考資料）	日本経済新聞社編『経済学４１の巨人』（日本経済新聞社、2014 年） その他の参考資料については、授業で適宜紹介する。		
教育方法	１．パワーポイントを利用し、講義形式で授業を行う。毎回の講義資料は、講義日にプリントとしてて配布するとともに、「京学なび」の「授業資料」として事前（1 週間前）にアップする。受講生は教科書の当該箇所と講義資料にあらかじめ目を通しておくこと。 2．また、毎回配布する講義資料の最後に「確認問題」（課題）を出題している。受講生には、次の講義日までに回答を準備することで前回講義の「復習」を行い、講義内容の理解の定着に務めるとともに、次回の講義でその成果について自主的に発表することを求める。		
評価方法	課題の発表・受講態度（平常点 30%）＋レポート試験（70%）		
到達目標	1.　現代経済学の出発点となった 1870 年代の「限界革命」理論の成立事情について理解することができる。 2．1930 年代の「ケインズ革命」の画期的意義がなにかを説明することができる。 3. 現代経済学の流れを正しく理解することによって、今日の経済問題の解明について新たな知見を得ること　ができる。		
授業時間外学習	講義のスケジュール」に即して、あらかじめ指定された教科書の当該頁と講義資料をしっかり予習してから授業に出席すること。 第 1 回　教科書当該頁なし 第 2 回　教科書 172-177 頁 第 3 回　教科書当該頁なし 第 4 回　教科書 177-186 頁 第 5 回　教科書 208-221 頁 第 6 回　教科書 226-233 頁, 244-259 頁 第 7 回　教科書 288-303 頁 第 8 回　教科書 306-315 頁 第 9 回　教科書 144-149 頁 第 10 回　教科書 318-323 頁 第 11 回　教科書 323-330 頁 第 12 回　教科書 330-336 頁 第 13 回　教科書 344-349 頁 第 14 回　教科書当該頁なし 第 15 回　教科書当該頁なし		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			

授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、こちらからも授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの質問に対する積極的な応答については、いずれも平常点の加点対象とする。
授業スケジュール
1. 経済学史の課題――古典派経済学から近代経済学へ 2. マルクスと現代(1) 3. マルクスと現代(2) 4. マルクスと現代(3) 5. 近代経済学の成立(1) 6. 近代経済学の成立(2) 7. イギリス・ケンブリッジ学派の経済学（マーシャルとピグー） 8. シュンペーターの経済学 9. ヴェブレンの制度主義経済学 10. ケインズ革命(1) 11. ケインズ革命(2) 12. ケインズ革命(3) 13. ケインズ以降の現代経済学の展開(1) 14. ケインズ以降の現代経済学の展開(2) 15. 現代経済学の新潮流

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J20206B01
科目名	経済学史 B	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economic Thought B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
授業概要	経済学は、封建制の解体期に生まれた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するためにつくられた学問である。「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成されたが、本講義では、スミスに始まるイギリス古典派経済学以後の経済学の発展史を学習するために、近代経済学の成立事情について理解し、「ケインズ革命」を経て今日に至るまでの現代経済学の歴史を学ぶことができる。		
教材（教科書）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）3,200 円 授業において、また授業時間外の学習（予習・復習）でも使用する。 その他毎時間、講義資料を配布する。		
教材（参考資料）	日本経済新聞社編『経済学４１の巨人』（日本経済新聞社、2014 年） その他の参考資料については、授業で適宜紹介する。		
教育方法	1. パワーポントを利用しながら講義形式で授業を行う。毎回の講義資料は、講義日にプリントとしてて配布するとともに、「京学なび」の「授業資料」として事前（1 週間前）にアップする。受講生は教科書の当該箇所と講義資料にあらかじめ目を通しておくこと。 2. また、毎回配布する講義資料の最後に「確認問題」（課題）を出題している。受講生には、次の講義日までに回答を準備することで前回講義内容の「復習」を行い、講義内容の理解の定着に務めるとともに、次回の講義でその成果について自主的に発表することを求める。		
評価方法	課題の発表・受講態度（平常点 30%）＋レポート試験（70%）		
到達目標	1.　現代経済学の出発点となった 1870 年代の「限界革命」理論の成立事情について理解することができる。 2. 1930 年代の「ケインズ革命」の画期的意義がなにかを説明することができる。 3. 現代経済学の流れを正しく理解することによって、今日の経済問題の解明について新たな知見を得ること　ができる。		
授業時間外学習	講義のスケジュール」に即して、あらかじめ指定された教科書の当該頁と講義資料をしっかり予習してから授業に出席すること。 第 1 回　教科書当該頁なし 第 2 回　教科書 172-177 頁 第 3 回　教科書当該頁なし 第 4 回　教科書 177-186 頁 第 5 回　教科書 208-221 頁 第 6 回　教科書 226-233 頁, 244-259 頁 第 7 回　教科書 288-303 頁 第 8 回　教科書 306-315 頁 第 9 回　教科書 144-149 頁 第 10 回　教科書 318-323 頁 第 11 回　教科書 323-330 頁 第 12 回　教科書 330-336 頁 第 13 回　教科書 344-349 頁 第 14 回　教科書当該頁なし 第 15 回　教科書当該頁なし		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、こちらからも授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの質問に対する積極的な応答については、いずれも平常点の加点対象とする。			

授業スケジュール
1. 経済学史 B の課題――古典派経済学から近代経済学へ 2. マルクスと現代(1) 3. マルクスと現代(2) 4. マルクスと現代(3) 5. 近代経済学の成立(1) 6. 近代経済学の成立(2) 7. イギリス・ケンブリッジ学派の経済学（マーシャルとピグー） 8. シュンペーターの経済学 9. ヴェブレンの制度主義経済学 10. ケインズ革命(1) 11. ケインズ革命(2) 12. ケインズ革命(3) 13. ケインズ以降の現代経済学の展開(1) 14. ケインズ以降の現代経済学の展開(2) 15. 現代経済学の新潮流

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J20207A01
科目名	計量経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Econometrics A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	経済・社会データを数量的に分析するための統計手法の学習、データ分析の実際を学ぶ。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って分析する。 とくに最小 2 乗法や検定（t 検定）を理解することが重要である。また、実際の分析には重回帰分析や、要因分析、これらを駆使したデータマイニングの課題を解いていくことが重要である。 こういった分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方などもチェックし、細かく修正してもらう。 （なぜ注意されるのか、どう修正すれば社会的要求水準になるのか考えてもらう） これを何回も題材を変えながら繰り返す。		
教材（教科書）	毎回、データと分析方法を、EXCEL にて配布。		
教材（参考資料）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教育方法	（1）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （2）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（1）から（2）を、テーマごとに繰り返し、データ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料を適当な段階で提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する(100%)。 期末テストは実施しない。		
到達目標	Excel を使いこなす 回帰分析など分析手法を身につける 高い水準のレポートが書けるようにする		
授業時間外学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでは全く不十分なので、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 授業外の時間にその勉強をすること、次回の授業でそれを確かめること、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ノートを必ず作り書き込むことが重要である。
積極的に参加することが必要で、授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすること。
授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、途中退席は厳禁である。

授業スケジュール

1　講義の全体構成
2　平均と分散
3　平均と分散の実例
4　課題（1）の分析
5～7　課題（1）の修正と完成
8　回帰分析その 1
9　回帰分析その 2
10　より進んだ回帰分析
11　回帰分析と評価

１２　回帰分析と評価その２
１３　回帰分析と評価その３
１４　課題（２）の分析
１５　課題（２）の修正と完成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J20209A01
科目名	マクロ経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics A		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	本講義では、「マクロ経済入門」を前提とし、一国の経済全体の活動である「マクロ経済」の仕組みに関して、基礎的な概念・理論について学びます。まず一国の経済活動水準はどのように測定されているか復習したのちに、経済がどのように成長していくのか、また、消費や投資といった GDP の構成要素がどのように決定されるのかについて経済モデルを用いて分析します。授業の後半では、所得分配や少子高齢化といった日本経済の重要問題を理解していきます。講義は、最新のデータや図表および簡単な数式、数値例を用いてできるだけわかりやすく行う予定です。		
教材（教科書）	柴田章久、宇南山卓（2013）『マクロ経済学の第一歩』有斐閣ストゥディア		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介する予定です。		
教育方法	授業は、講義スライドと板書を用いて進めます。		
評価方法	平常点評価（30%）: 課題の提出、授業への参加度により評価します。 期末試験（70%）		
到達目標	1．マクロ経済学の基礎理論について説明できる 2．日本経済の重要課題について理解できる		
授業時間外学習	事前学習： 教科書の該当箇所を読んでおくこと（30 分程度） 事後学習： 講義スライドの内容を復習・理解すること（30 分程度）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「マクロ経済入門」を履修済みであること
経済分析のために使う数学は「マクロ経済入門」よりやや高度になります。
「マクロ経済入門」と同様に、数式の展開やグラフの描画などは実際に手を動かして理解を深めてください。

授業スケジュール

1. イントロダクション：マクロ経済学とは何か？
2. GDP とは何か？
3. 経済成長と技術の役割（1）
4. 経済成長と技術の役割（2）
5. 消費の決定（1）
6. 消費の決定（2）
7. 投資の決定（1）
8. 投資の決定（2）
9. 労働市場と失業（1）
10. 労働市場と失業（2）
11. 所得分配と格差（1）
12. 所得分配と格差（2）
13. 再分配政策（1）
14. 再分配政策（2）
15.少子高齢化と財政

※登録する受講生の人数や理解度に応じて、進度やトピックは変更になる場合があります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J20211A01
科目名	ミクロ経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics A		
担当者名	川﨑　雄二郎	旧科目名称	
授業概要	完全競争市場においては効率的な資源配分が達成されるが、「完全な競争」が成り立たない場合は資源配分が効率的になるとは限らない。そこで本講義では、数理モデルによる消費者による消費・企業による生産の分析手法やゲーム理論の考えを用いながら「市場の失敗」が起こるケース（独占・寡占、外部性、情報の不確実性など）について学んでいく。		
教材（教科書）	神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社　3,456 円　ISBN-13: 978-4535557567		
教材（参考資料）	ハル＝ヴァリアン原著・佐藤隆三翻訳（2015）『入門ミクロ経済学 原著第 9 版（日本語訳版）』勁草書房　4,320 円　ISBN-13: 978-4326951321 武隈慎一（2016）『新版 ミクロ経済学』新世社　3,218 円　ISBN-13: 978-4883842391 他、講義中に適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	レポート（30%）と試験（70%）により評価する。		
到達目標	ミクロ経済学やゲーム理論の概念や分析方法を身につけ、発展的な分野に応用することができる。		
授業時間外学習	毎回の講義は、それまでの講義内容を十分に理解しているものとして進められる。各講義を受けたその都度に復習し（『あとでまとめて復習』では遅い）、分からないことがあれば必ず質問すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＜受講の前提＞
「ミクロ経済入門」を受講し内容を十分に理解していることが前提である。よく覚えていない場合は事前に復習しておくこと。
＜受講のルール＞
1．講義中の私語は、他の受講者の迷惑となるため厳禁とする。私語がひどい場合は注意をし、改善されない場合は退出を求める。
2．先にも述べたとおり、分からないことがあれば必ず質問すること。

授業スケジュール

1．イントロ：消費者と企業の合理的行動、市場の効率性
2．消費者の行動①：効用最大化と需要曲線
3．消費者の行動②：双対性、需要の法則
4．企業の行動①：利潤最大化と供給曲線
5．企業の行動②：短期と長期の生産計画
6．需要と供給についてのまとめ
7．市場の効率性：余剰分析、間接税、厚生経済学の基本定理
8．ゲーム理論①：ナッシュ均衡
9．ゲーム理論②：部分ゲーム完全均衡
10．独占：市場支配力
11．寡占①：数量競争
12．寡占②：価格競争
13．外部性：外部経済・不経済、ピグー税
14．不確実性①：リスク選好
15．不確実性②：モラルハザードと逆選択

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2018	授業コード	J20214001
科目名	やさしい税の話	単位数	2
科目名（英語表記）	Elementary Theory of Tax		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
授業概要	受講生が、租税法の体系と基本原理を理解したうえで、主要な税目（所得税、法人税等）についての課税要件を習得できるように、基礎的知識を中心に講義を進める。内容は、租税法総論及び租税実体法を中心とする。 できる限り、実務上の問題や現実の租税事件等にも言及し、また、税に関連する最近のニュースや話題を解説するなど、税実務の現状や税制についての興味がもてるような内容とする。 学生は、社会と税との関わりの重要性を知り、基本的な税の仕組みを把握することができる。		
教材（教科書）	清永敬次『税法(新装版)』(ミネルヴァ書房)　3,360 円　(改訂の可能性あり)		
教材（参考資料）	岡村忠生ほか『租税法』(有斐閣アルマ)2,100 円 その他は、初回の講義時に説明する。　また、授業中に適宜指示する。		
教育方法	授業では、テキストの他に毎回補助レジュメ(5~8 枚程度)を配布し、講義形式で行う。 授業開始 15 分程度、最近の新聞記事等における税・財政関係のトピックを解説する。 授業では、最初に『疑問点』(このテーマで何を学ぶか)を数点提示し、これをテーマに沿って解説することで疑問点の解決を図り、発展的な内容について『さらに疑問』を提示(及び検討)する。		
評価方法	定期テスト　70% レポート・復習テスト　25% 平常点(講義への取組み、講義内容への質問や理解の状況等)　5%		
到達目標	1　税が自分の生活と如何に関わり合いをもつ問題であるかを理解する。 2　税法の基本原則と憲法との関係を理解する。 3　主要税目についての基本的な仕組や理論を理解し、そこでの問題や税と社会との関わりが説明できることを目標とする。		
授業時間外学習	日常生活をはじめ、さまざまな経済活動には「税」が密接に関連していることを意識し、普段から、マスコミ報道等の税に関する情報には、関心を持っておくこと。 授業中に配布したプリントの重要項目については、テキスト、参考文献で確認(復習)しておくこと。復習のための小テストを複数回実施する。 講義初回に詳細な授業計画(各回のテキストの該当ページを記載したもの)を配布するので、次回履修予定部分(以下のとおり)のテキスト該当ページを予習しておくこと。(各回の学習時間　45 分程度) 第 1 回　なし 第 2 回　テキスト 1 編 1 章 1 節、2 章 2 節 第 3 回　テキスト 1 編 3 章 1 節、2 節 第 4 回　テキスト 1 編 4 章 2 節、3 節 第 5 回　テキスト 2 編 3 章 1 節一 第 6 回　テキスト 2 編 3 章 1 節一～三 第 7 回　テキスト 2 編 3 章 1 節四(1)(2) 第 8 回　テキスト 2 編 3 章 1 節四(3) 第 9 回　テキスト 2 編 3 章 1 節四(4)(5) 第 10 回　テキスト 2 編 3 章 1 節四(6)、五 第 11 回　テキスト 2 編 3 章 2 節一 第 12 回　テキスト 2 編 3 章 2 節二三四(1)(2) 第 13 回　テキスト 2 編 3 章 2 節四(3) 第 14 回　テキスト 2 編 3 章 2 節五 第 15 回　テキスト 2 編 3 章 2 節五、六		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
税法が記載された六法、法規集を持参することが望ましい。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい(初			

回の講義時に指示する)。
授業スケジュール
1. ガイダンス　導入、租税と税法 2. 総論１　租税の意義と根拠 3. 総論２　租税法律主義・租税平等主義 4. 総論３　租税法の解釈と適用 5. 所得税１　所得税の概要、納税義務者 6. 所得税２　所得概念、帰属 7. 所得税３　所得税の計算の仕組み、課税標準 8. 所得税４　収入金額 9. 所得税５　必要経費 10. 所得税６　所得控除、税率、確定申告、確定申告書作成演習 11. 法人税１　法人税の概要 12. 法人税２　納税義務者、課税所得 13. 法人税３　益金及び損金の原則 14. 法人税４　益金及び損金の別段の定め(その 1) 15. 法人税５　益金及び損金の別段の定め(その 2)、税額計算

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J20219A01
科目名	公共経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	公共経済学
授業概要	本講義では政府の経済的役割について検討する。独占や外部効果、あるいは公共財供給など「市場の失敗」と呼ばれる、市場機構が効率的な資源配分に失敗するいくつかケースについて、政府が果たすべき役割を社会的厚生という観点から分析を行う。また、政府活動の結果として生じる財政赤字や所得再分配についても経済学的な視点から検討を加える。		
教材（教科書）	教科書は特に指定しない。独自の講義資料を配布する。		
教材（参考資料）	（1）井堀利宏『基礎コース・公共経済学』新世社 （2）土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社 （3）スティグリッツ『公共経済学（上)』東洋経済新報社		
教育方法	配布資料に基づき講義形式で進める。 必要に応じて確認テストを実施する。		
評価方法	中間・期末試験 60%　平常点 20%　レポート点 20%		
到達目標	（1）資源配分の効率性とは何か、またその経済学的な判断基準を理解する。 （2）「市場の失敗」において生じる資源配分の非効率性を理解する。 （3）「政府の失敗」が生じるメカニズムについて理解する。 （4） 学んだ理論について現実の経済問題への応用可能性とその限界を理解する。		
授業時間外学習	（1）配布資料の指定箇所について事前に目を通し、問題意識や理解が不明瞭な点を明確にした上で講義に臨む。 （2）経済学の理論に基づく分析については、丁寧な確認と理解を心がけると同時に、その前提条件や演繹プロセスに対して批判的視点を持って学習する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（1）「ミクロ経済学入門」の単位修得を受講条件とする。
（2）途中入退室、私語は原則、禁止とし、違反者には厳しく対応する。
（3）学習としては、記憶ではなく理解を求める。

授業スケジュール

1．公共経済学とはどのような学問か ：公共経済学の分析対象、公共経済学成立の歴史的背景、政府膨張のメカニズム
2．公共経済学における政府の役割 ：政府の範囲、資源配分機能、所得再配分機能、安定化機能
3．所得分配の公平性：所得再分配と公正、補償原理、功利主義、ロールズ基準
4．資源配分の効率性（1）：パレート最適、ｴｯｼﾞﾜｰｽﾎﾞｯｸｽ・ﾀﾞｲｱｸﾞﾗﾑ、効用可能性曲線
5．資源配分の効率性（2）：完全競争市場均衡、消費者余剰、生産者余剰
6．資源配分の効率性（3）：政府の市場介入と死荷重１、価格規制、数量規制
7．資源配分の効率性（4）：政府の市場介入と死荷重２、参入規制、課税
8．市場の失敗（1）：独占、費用逓減産業
9．市場の失敗（2）：外部効果、外部経済、外部不経済
10．市場の失敗（3）：外部効果の内部化、ピグー税、コースの定理
11．市場の失敗（4）：公共財の定義、公共財の最適供給、リンダール均衡
12．政府の失敗（1）：財政赤字、基礎的財政収支、ソブリン・リスク、クラウディング・アウト
13．政府の失敗（2）：公債、リカードの中立性命題、公債の世代間負担問題
14．現代日本における公共経済学的課題（1）：震災復興における政府の役割
15．現代日本における公共経済学的課題（2）：税と社会保障の改革

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J20219B01
科目名	公共経済学 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	公共経済学
授業概要	本講義では、政治過程を市場として捉え、民主主義的な政治運営の限界を理解する。まず、社会的意思決定の方法としての様々な投票制度の性質を検討する。次に、社会的意思決定過程に影響を与える有権者、政治家、官僚、圧力団体などの各主体の行動原理について考察する。そのうえで、非効率な資源配分をもたらす「市場の失敗」を補完すべき役割にある政府が最適な政策の選択に失敗するメカニズムについて理解する。		
教材（教科書）	特に指定しない。独自の講義資料を配布する。		
教材（参考資料）	（1）加藤寛『入門公共選択：政治の経済学』勁草書房 （2）フェルドマン＆セラーノ 『厚生経済学と社会的選択』ｼｰｴｰﾋﾞｰ出版 （3）谷口洋志『公共経済学』創成社		
教育方法	（1）講義資料に基づき講義形式で進める。 （2）重要テーマについては、レポート作成を求める。		
評価方法	中間・期末試験 60%　平常点 20%　レポート点 20%		
到達目標	（1） 政府を構成する各主体、およびその外部から影響を与えうる各主体の行動原理、およびその行動が政府の意思決定に与える影響とそのメカニズムについて理解する。 （2） 政府の失敗がもたらす資源配分上の非効率性を理解する。		
授業時間外学習	配布資料の指定箇所を事前に目を通し、問題意識や理解が不明瞭な点を明確にして講義に臨む。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（1）講義前の予習が重要である。記憶よりも理解を優先して学ぶ姿勢を大切にして欲しい。
（2）学んだ理論について現実の経済問題への応用可能性とその限界を考える習慣を、意識的に身に着けて欲しい。

授業スケジュール

1．公共選択論とはどのような学問か？：公共選択論の分析対象と範囲
2．政府とは何か？：政府の誕生、政府の範囲と類型
3．投票（1）：集合的意思決定、投票のルール
4．投票（2）：各種の投票ルール、各種投票ルールの論理的非整合性
5．投票（3）：ｱｼﾞｪﾝﾀﾞ・ｺﾝﾄﾛｰﾙ、戦略的投票
6．投票（4）：投票のパラドックス、中位投票者定理、単峰性選好
7．投票（5）：アローの一般不可能性定理
8．選挙（1）：有権者の投票行動、棄権、政党とイデオロギー
9．選挙（2）：小選挙区制と比例代表制、政治的景気循環、足による投票
10．官僚制（1）：官僚制、ニスカネン・モデル
11．官僚制（2）：ミギュエ＝ベランジェ・モデル、日本の官僚制
12．レント・シーキング：レント・シーキングとその類型、日本の財政投融資制度
13．圧力団体：圧力団体の定義と類型、日本の圧力団体、政権交代と圧力団体
14．財政赤字の政治経済学：J.M.ブキャナン、立憲的政治経済学
15．現代日本における公共選択論的課題：高齢化と選挙、財政赤字、地方分権

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J2024000A
科目名	ゼミ 7	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅶ		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	ゼミ 6 までに得た知識をもとに、各自で研究テーマを設定し、卒業論文の作成に向けた準備を行う。そのために、各自の選択したテーマ（文献）について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。 なお、時間の一部を就職活動に関する情報交換や指導に充てる場合がある。		
教材（教科書）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（参考資料）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教育方法	学生は各自の選択したテーマについて文献を収集し、その内容の要約報告を行う。担当教員はそれについてコメントを行い、徐々に卒業論文の骨格が出来上がるよう助言・指導する。また、必要に応じてさらに必要な文献等を指示する。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けた十分な知識を得ること。		
授業時間外学習	・各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けて必要な文献・資料を収集し、熟読の上、報告時に配布するためのレジュメを作成すること。 ・スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の 3 分の 1 以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。ただし、就職試験等による欠席を事前に申し出た場合にはその限りではないので、担当者に連絡し指示を受けること。
・毎回必ず 1 回以上発言（質問等）をすること。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないようにし、メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡するとともに、「京学なび」へ再登録すること。

授業スケジュール

1.各自の選択した研究テーマについての報告と確認
2.卒業論文作成に向けての研究計画報告(1)
3.卒業論文作成に向けての研究計画報告(2)
4.卒業論文作成に向けての研究計画報告(3)
5.卒業論文作成に向けての研究計画報告(4)
6.卒業論文作成に向けての中間報告(1-1)
7.卒業論文作成に向けての中間報告(1-2)
8.卒業論文作成に向けての中間報告(1-3)
9.卒業論文作成に向けての中間報告(1-4)
10.卒業論文作成に向けての中間報告(2-1)
11.卒業論文作成に向けての中間報告(2-2)
12.卒業論文作成に向けての中間報告(2-3)
13.卒業論文作成に向けての中間報告(2-4)
14.今学期のまとめ(1)：今学期の学習・研究の成果の確認
15.今学期のまとめ(2)：来学期に向けての課題の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J2024200A
科目名	ゼミ８	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar Ⅷ		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	ゼミ７に引き続き、各自の設定したテーマに基づいて研究を行い、大学生活の総仕上げとして卒業論文を完成させる。 授業では、毎回数名に卒業論文の概要および研究の進捗状況を報告してもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。 このようにして互いに助言し刺激しあうことで、各ゼミ生の卒業論文がより高い水準に達することを目指す。		
教材（教科書）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（参考資料）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教育方法	学生は夏季休業中に卒業論文の大まかな構成を考えておき、授業ではそれについての中間報告を行う。担当教員はそれに対するコメントを行い、卒業論文の完成に向けた個別指導を行う。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	各自の設定したテーマについて、卒業論文を完成させること。		
授業時間外学習	・各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けて必要な文献・資料を収集し、熟読すること。 ・各自の卒業論文の概要を、中間報告時に配布するためのレジュメにまとめること。 ・スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の３分の１以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。ただし、就職試験等による欠席を事前に申し出た場合にはその限りではないので、担当者に連絡し指示を受けること。
・毎回必ず１回以上発言（質問等）をすること。発言のない場合には、欠席とみなすなど、減点対象となる場合がある。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないようにし、メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡するとともに、「京学なび」へ再登録すること。
・卒業論文の完成・合格は単位認定要件である。

授業スケジュール

1.夏季休業中の学習・研究の進捗状況についての報告
2.卒業論文の概要報告(1-1)
3.卒業論文の概要報告(1-2)
4.卒業論文の概要報告(1-3)
5.卒業論文の概要報告(1-4)
6.卒業論文の概要報告(1-5)
7.卒業論文の概要報告(2-1)
8.卒業論文の概要報告(2-2)
9.卒業論文の概要報告(2-3)
10.卒業論文の概要報告(2-4)
11.卒業論文の概要報告(2-5)
12.卒業論文の最終報告(1)
13.卒業論文の最終報告(2)
14.卒業論文の最終報告(3)
15.卒業論文の最終確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J20265002
科目名	ネットワークセキュリティ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Network Security		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
授業概要	インターネットの普及とともに，ネットワークの世界も，サーバを攻撃対象とする不正アクセス，ユーザを対象とする詐欺など，現実の社会と同じような危険に直面している。脅威と対策に関するいくつかの事例をオープンソースの OS である Linux 上で実験することにより，セキュリティに対する具体的な理解を深めていく。		
教材（教科書）	教科書： 独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　540 円　授業時間外学習使用する。		
教材（参考資料）	講義中に適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら，講義法で授業は進められる。		
評価方法	授業レポート（52%）、その理解度を確認するレポート試験（48%）、この２つの項目を総合して評価する。		
到達目標	ネットワークにおける脅威と対策の基本を習得し，実際の個々の事例についての脅威と対策を説明できるようになること。		
授業時間外学習	普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

第一に実習においてキーボード入力（アルファベット）が必要なので、標準的なスピードでタイピングが出来ること。
第二に大学の電子メールのＩＤを取得し、使い方を理解していること。
簡潔に書かれたテキストを採用していますので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

授業スケジュール

1.今日のセキュリティリスク
2.情報セキュリティの基礎
3.マルウェア(コンピュータウィルス)
4.見えない脅威とその対策
5.組織の一員としての情報セキュリティ対策
6.実際のセキュリティ対策
7.セキュリティ技術
8.情報セキュリティの基本についてのまとめと演習
9.暗号
10.電子認証
11.暗号化通信 1
12.暗号化通信 2
13.ファイアウォール
14.情報セキュリティ関連の法規と制度
15.情報セキュリティのまとめと現在の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J20328001
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	資産運用の基本について学ぶ。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説します。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義します。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。		
教材（教科書）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 春学期に於いては、実務経験を有する外部講師との共同講義となる。		
評価方法	期末試験 60%、平常点：小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得することができる。 ファイナンシャルプランナー（FP）になるための基礎知識を得ることができる。		
授業時間外学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。
・当然のことながら、スマートフォンを見るなど不適切な学生が発見されれば、ただちに退室してもらいます。

・毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、
　講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。
・受講マナーを欠いていると判断した場合には、ただちに退場してもらいます。もちろん単位も認めません。

授業スケジュール

１．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて

２．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み

３．　マネープランの必要性と金融商品

４．　債券の基礎知識
５．　債券投資の実際
６．　株式投資の魅力とリスク
７．　株価の変動要因
８．　決算書の見方
９．　主な投資指標の見方
１０．　株式投資の判断
１１．　投資信託をの基礎知識
１２．　投資信託を選ぶポイント
１３．　資産運用の概要
１４．　資産運用はどうあるべきか

１５．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J20328002
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	資産運用の基本について学ぶ。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説します。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義します。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。		
教材（教科書）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 春学期に於いては、実務経験を有する外部講師との共同講義となる。		
評価方法	期末試験 60%、平常点：小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得することができる。 ファイナンシャルプランナー（FP）になるための基礎知識を得ることができる。		
授業時間外学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。
・当然のことながら、スマートフォンを見るなど不適切な学生が発見されれば、ただちに退室してもらいます。

・毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、
　講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。
・受講マナーを欠いていると判断した場合には、ただちに退場してもらいます。もちろん単位も認めません。

授業スケジュール

１．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて

２．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み

３．　マネープランの必要性と金融商品

４．　債券の基礎知識
５．　債券投資の実際
６．　株式投資の魅力とリスク
７．　株価の変動要因
８．　決算書の見方
９．　主な投資指標の見方
１０．　株式投資の判断
１１．　投資信託をの基礎知識
１２．　投資信託を選ぶポイント
１３．　資産運用の概要
１４．　資産運用はどうあるべきか

１５．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J20329001
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	本講義では、政府の役割を明らかにしつつ、財政とはなにかについて理解を深めることを目的として、税制および予算制度を家計や企業の経済活動との関係を現実のデータを踏まえて解説する。特に、企業活動とのかかわりでは、主にマクロ経済学の視点から解説し、家計活動という我々の日々の生活とのかかわりでは、ミクロ経済学の視点から解説する。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	橋本徹・山本栄一・林宜嗣・中井英雄・高林喜久生『基本財政学』有斐閣		
教育方法	講義用レジメを配布しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業中の課題（30%）、３回のレポート（30%）、試験（40%）で評価する。		
到達目標	税制や予算制度などの財政制度がさまざまな経済活動にどのようにか変わっているかについて説明できる。		
授業時間外学習	授業で毎回提示された課題について、インターネットなどで調べ、講義用レジメの裏面に内容を記述し、次回の授業時に提出。また、予習としては、次回の講義用レジメも配布するので、空欄箇所について、インターネットなどで調べておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
インターネット、新聞、経済雑誌などで、講義（配布するレジメ）と関連する記事・項目を講義前後で必ず調べておくこと。
受講ルール
私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し、退出を求める。
学習上の助言
財務省のホームページで、2018 年度予算について、概要、トピック、社会保障関連や教育関連の解説を調べておくことが、授業の理解、レポート作成に役立ちます。

授業スケジュール

第１回　講義の概要説明
第２回　政府の役割：その１　所得分配の公正化
第３回　政府の役割：その２　資源配分の効率化
第４回　資源の有効利用としての予算：その１　雇用
第５回　資源の有効利用としての予算：その２　公共投資
第６回　資源の有効利用としての予算：その３　教育
第７回　資源の有効利用としての予算：その４　国防・司法・公衆衛生
第８回　資源の有効利用としての予算：その５　中小企業
第９回　資源の有効利用としての予算：その６　医療・介護
第１０回　再分配としての予算：その１　所得税・相続税贈与税
第１１回　再分配としての予算：その２　年金
第１２回　再分配としての予算：その３　生活保護
第１３回　財源調達としての予算：その１　法人税
第１４回　財源調達としての予算：その２　消費税
第１５回　財源調達としての予算：その３　公債　＆　総まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J20329002
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	本講義では、政府の役割を明らかにしつつ、財政とはなにかについて理解を深めることを目的として、税制および予算制度を家計や企業の経済活動との関係を現実のデータを踏まえて解説する。特に、企業活動とのかかわりでは、主にマクロ経済学の視点から解説し、家計活動という我々の日々の生活とのかかわりでは、ミクロ経済学の視点から解説する。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	橋本徹・山本栄一・林宜嗣・中井英雄・高林喜久生『基本財政学』有斐閣		
教育方法	講義用レジメを配布しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業中の課題（30%）、３回のレポート（30%）、試験（40%）で評価する。		
到達目標	税制や予算制度などの財政制度がさまざまな経済活動にどのようにか変わっているかについて説明できる。		
授業時間外学習	授業で毎回提示された課題について、インターネットなどで調べ、講義用レジメの裏面に内容を記述し、次回の授業時に提出。また、予習としては、次回の講義用レジメも配布するので、空欄箇所について、インターネットなどで調べておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
インターネット、新聞、経済雑誌などで、講義（配布するレジメ）と関連する記事・項目を講義前後で必ず調べておくこと。
受講ルール
私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し、退出を求める。
学習上の助言
財務省のホームページで、2018 年度予算について、概要、トピック、社会保障関連や教育関連の解説を調べておくことが、授業の理解、レポート作成に役立ちます。

授業スケジュール

第１回　講義の概要説明
第２回　政府の役割：その１　所得分配の公正化
第３回　政府の役割：その２　資源配分の効率化
第４回　資源の有効利用としての予算：その１　雇用
第５回　資源の有効利用としての予算：その２　公共投資
第６回　資源の有効利用としての予算：その３　教育
第７回　資源の有効利用としての予算：その４　国防・司法・公衆衛生
第８回　資源の有効利用としての予算：その５　中小企業
第９回　資源の有効利用としての予算：その６　医療・介護
第１０回　再分配としての予算：その１　所得税・相続税贈与税
第１１回　再分配としての予算：その２　年金
第１２回　再分配としての予算：その３　生活保護
第１３回　財源調達としての予算：その１　法人税
第１４回　財源調達としての予算：その２　消費税
第１５回　財源調達としての予算：その３　公債　＆　総まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J20329003
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	本講義では、政府の役割を明らかにしつつ、財政とはなにかについて理解を深めることを目的として、税制および予算制度を家計や企業の経済活動との関係を現実のデータを踏まえて解説する。特に、企業活動とのかかわりでは、主にマクロ経済学の視点から解説し、家計活動という我々の日々の生活とのかかわりでは、ミクロ経済学の視点から解説する。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	橋本徹・山本栄一・林宜嗣・中井英雄・高林喜久生『基本財政学』有斐閣		
教育方法	講義用レジメを配布しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業中の課題（30%）、３回のレポート（30%）、試験（40%）で評価する。		
到達目標	税制や予算制度などの財政制度がさまざまな経済活動にどのようにか変わっているかについて説明できる。		
授業時間外学習	授業で毎回提示された課題について、インターネットなどで調べ、講義用レジメの裏面に内容を記述し、次回の授業時に提出。また、予習としては、次回の講義用レジメも配布するので、空欄箇所について、インターネットなどで調べておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
インターネット、新聞、経済雑誌などで、講義（配布するレジメ）と関連する記事・項目を講義前後で必ず調べておくこと。
受講ルール
私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し、退出を求める。
学習上の助言
財務省のホームページで、2018 年度予算について、概要、トピック、社会保障関連や教育関連の解説を調べておくことが、授業の理解、レポート作成に役立ちます。

授業スケジュール

第１回　講義の概要説明
第２回　政府の役割：その１　所得分配の公正化
第３回　政府の役割：その２　資源配分の効率化
第４回　資源の有効利用としての予算：その１　雇用
第５回　資源の有効利用としての予算：その２　公共投資
第６回　資源の有効利用としての予算：その３　教育
第７回　資源の有効利用としての予算：その４　国防・司法・公衆衛生
第８回　資源の有効利用としての予算：その５　中小企業
第９回　資源の有効利用としての予算：その６　医療・介護
第１０回　再分配としての予算：その１　所得税・相続税贈与税
第１１回　再分配としての予算：その２　年金
第１２回　再分配としての予算：その３　生活保護
第１３回　財源調達としての予算：その１　法人税
第１４回　財源調達としての予算：その２　消費税
第１５回　財源調達としての予算：その３　公債　＆　総まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J20330001
科目名	情報社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
授業概要	情報と社会の関わりを、情報技術・システム・産業・機器・生活からふれ、情報化が社会生活に及ぼす影響、情報機器の発達と生活意識様式の変化について概略する。コンピュータ情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化により、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を述べる。情報化社会の情報と個人、職業・教育について理解し、自己のあり方生き方と職業を考える。		
教材（教科書）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考資料）	ウエブサイト: 総務省情報通信統計データベース http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	1.パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
授業時間外学習	毎回授業中に課題を出すので京学なび「課題提出」に指定期日（次週講義日の前日までに）提出すること。新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。			
授業スケジュール			
1.消費社会と情報社会 情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化 マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済 2.情報技術 情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理 3.新しい情報技術 ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題 電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点 電子署名・電子認証、電子取引 4.情報システム 集中と分散、情報産業の多様化 コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業 5.情報と産業 情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化 企業倫理 高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット 6.情報と職業 労働・職業上の問題 情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質 職業と自己実現、職業観と職業意識 7.情報と個人			

日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差
個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール
知的財産、企業等による個人情報の利用
8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権
知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育
情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用
IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法
11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消
情報アクセスへの格差、情報格差
通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護
13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール
個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化
15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり
現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J20330002
科目名	情報社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
授業概要	情報と社会の関わりを、情報技術・システム・産業・機器・生活からふれ、情報化が社会生活に及ぼす影響、情報機器の発達と生活意識様式の変化について概略する。コンピュータ情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化により、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を述べる。情報化社会の情報と個人、職業・教育について理解し、自己のあり方生き方と職業を考える。		
教材（教科書）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考資料）	ウエブサイト: 総務省情報通信統計データベース http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	1.パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
授業時間外学習	毎回授業中に課題を出すので京学なび「課題提出」に指定期日（次週講義日の前日までに）提出すること。新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。			
授業スケジュール			
1.消費社会と情報社会 情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化 マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済 2.情報技術 情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理 3.新しい情報技術 ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題 電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点 電子署名・電子認証、電子取引 4.情報システム 集中と分散、情報産業の多様化 コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業 5.情報と産業 情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化 企業倫理 高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット 6.情報と職業 労働・職業上の問題 情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質 職業と自己実現、職業観と職業意識 7.情報と個人			

日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差
個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール
知的財産、企業等による個人情報の利用
8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権
知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育
情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用
IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法
11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消
情報アクセスへの格差、情報格差
通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護
13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール
個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化
15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり
現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J20565001
科目名	情報処理技術	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Processing Technology		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
授業概要	社会人には、一定の情報に関する知識と情報技術が求められている。データの特徴に応じた情報の整理・分類、必要に応じた表・グラフの作成、さらに、業務・処理フローを把握し、改善を加え、情報処理が行える情報技術である。これら、知識・技術を習得するための講座である。		
教材（教科書）	なし　各講義で資料をネットワークから配布する。		
教材（参考資料）	教材から指示する。		
教育方法	1.e ラーニングシステムを使用します。 2.e ラーニングシステムの教材・資料を用いて学習し、課題の提出等も e ラーニングで行います。		
評価方法	学習履歴状況と提出物（40%）等,e-learning により課す課題評価（60%）		
到達目標	社会人として必要なコンピュータ操作が行え、機能を把握し、データから表・関係データベースを作成し、業務に活用できる。		
授業時間外学習	新技術・機器等の推移を知ることを心がけ、情報関連機器等に用いられている技術等を調べ、概要を把握する。また、関連するソフトウエアは単純な例を用い、実際に使用し、特性等を理解しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で課題に取り組むことを期待する。

授業スケジュール

1.講義の概要、e-learning の進め方
　セキュリティ問題と対策
　　セキュリティと暗号技術、ディジタル署名
　システムの信頼性、ネットワークの接続と信頼性
2.基本的なデータ構造
　各種データ構造の特徴
　線形構造と木構造、表・スタック・キュー・2 分探索木
　表計算
　　表計算を使った集計・統合処理および検索・抽出処理
3.SQL 文から見たデータベース
　テーブル作成からサブクエリ
4.データベース
　データベースの種類と特徴
　ファイル 正規化演習
5.リレーショナルデータベース
　構造と正規化、設計
6.データベースを使ったデータ処理（1　正規化作業）
　データ整理、集計、分析
7.データベースを使ったデータ処理（2　Select 文の基本）
　データ整理、集計、分析
8.データベースと SQL（1　データ処理演習）
　SQL 言語による操作
　　問い合わせ、副問い合わせ
9.データベースと SQL（2　流れのある処理）
　SQL 言語による定義・生成と修正
　　表の設計、表・ビューの定義
10.データベースの設計・利用

演習　ＳＱＬ操作理解確認演習
11.SQL によるデータベースの定義・利用
演習　SQL・データベースまとめ課題
12.スクリプト(java)
スクリプト記述の基本
基本処理手順のスクリプト記述
13.スクリプトと基本アルゴリズム
連接・繰り返し・判断
イベント処理
14.基本的なアルゴリズム
並べ替え処理と記述、関数作成・割り込み
スクリプト演習：バブルソート
15.総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J20569001
科目名	Ｗｅｂ技術応用	単位数	1
科目名（英語表記）	Web Technological Application Theory		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
授業概要	Web アプリケーションを構築するために必要な機能を解説し、Web ページ作成と効果的な Web ページ技法の修得をねらいとする。ホームページを記述する HTML 言語、またホームページ作成ソフトを用いてホームページを作成し、HTML の構造・特徴、運用上必要な事項、スクリプトによる動的なページの作成について説明する。インターネット技術の多様性と Web 技術を体系的に学ぶ。		
教材（教科書）	なし、各講義で資料をネットワークドライブから配布する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	1.パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 2.学内 Web サーバを用い、Web ページの作成と公開を行う。		
評価方法	授業中に課す課題（70%）および課題 Web ページ作成（30%）により評価する。（課題 Web ページ作成は必修）		
到達目標	目的に応じた Web ページの製作が行え、効果的な情報発信が行える。		
授業時間外学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、Web ページ記述言語等の仕様の推移を調べ、追加された事項等を把握し、可能ならば試用する。試用できない場合は、仮記述を講義時に確認することとし、記述のみを行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

授業スケジュール

１．ホームページとインターネット
　インターネット技術の多様性
２．ホームページ閲覧ソフト、公開ソフトの解説
　Web アプリケーションを構築するために必要な機能
３．ホームページ作成ソフトと HTML の解説
４．タグを用いたページの作成
　基本的なタグの解説、画像を含むページの作成
５．ページ間リンク記述
演習：基本的なタグ、各種リンクタグの適用
６．ページの公開
　ウエブサーバ機能の解説
演習：サイト管理
７．ホームページ作成ソフトを用いたページの作成
　スタイルシートと適用
演習：スタイルシートの作成と適用
８．フレームを持つページの作成、各種リンクの作成
演習：フレームを持つページの作成
９．マルチメディアの組み込み
演習：マルチメディアを含んだページの作成
１０．HTML とスクリプト
　スクリプトの基礎、HTML の生成、マウス処理
演習：スクリプトによる動的なページの作成
１１．フォームとスクリプト処理
　フォームとスクリプトの利用、データベースの利用

演習：データベースとの連携 演習：アンケートページの作成 １２．情報モラルについて 情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、 プライバシーの保護 １３．既存資料から Web ページの作成 （携帯端末の利用） 演習：既存資料から Web ページの作成 １４．Web ページの作成と提出 演習：課題 Web ページ作成 １５．Web ページの作成と提出 演習：Web ページの改善

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J20570A01
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Planning Ⅰ		
担当者名	岡本　久嗣	旧科目名称	
授業概要	本講義はＦＰの基礎である不動産運用設計、金融商品設計、保険、リタイヤメントプランニングの基礎を学習する。また、春学期の「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ資格の認定講義となっているため、本講義の位置づけはそれらの科目と同様にＦＰ資格取得を目指す講義としたい。		
教材（教科書）	『3級FPテキストⅠ・Ⅱ　2018～2019年度版』（6月上旬発刊予定）　FPK研修センター		
教材（参考資料）	『ファイナンシャル・プランニング入門　第3版』(日本FP協会)および、「FP基礎」学習時のテキストとして、『FP総論』（日本FP協会）、宮口定雄『税務ハンドブック　平成30年度版』　コントロール社		
教育方法	各回ともに要点を板書でまとめ、解説し、その後問題演習を配布プリント（こちらで準備）にて行い、解説していくスタイルにより授業を進めていく。		
評価方法	レポートの提出を義務づける。そのレポートの内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答等(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	難易度を高く設定はしないが、FP としての基本を理解し、AFP 資格審査試験取得チャレンジに向けた知識の習得、そしてＦＰ３級程度の問題を解くことができるようになることを目標とする。		
授業時間外学習	日常行う小テストは必ず直前の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

春学期の「ファイナンシャルプランニングⅠ」「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ認定の講座になっているのでＦＰ資格の取得を目指す学生は全科目を受講すること。(ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱ・Ⅲと金融入門の合計4科目)

授業スケジュール

1　ファイナンシャル・プランニングを学ぶ意味
2　FP の社会的役割
3 社会的責任とコンプライアンス
4 不動産の見方
5 不動産の動向と分析
6 金融・経済の知識
7 最近の金融動向
8 利回り計算と割引現在価値
9 株式と債券
10 投資信託
11 金融派生商品
12 生命保険
13 損害保険
14 リタイヤメントプラントと年金問題
15 ファイナンシャルプランニングⅡに向けて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J20570B01
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅡ	単位数	4
科目名（英語表記）	Financial PlanningⅡ		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
授業概要	本講義ではタックスプランニングを基軸とする。 日本の税制の仕組みと各税目を理解したうえで、「ライフサイクル(人間の一生)」の中で税金とどのように向き合うことになるのかを学ぶ講義である。なお、税金以外の住宅取得、金融商品売買、退職等を含むその他のライフイベントの内容については春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」の中で学習をする。		
教材（教科書）	3 級 FP テキスト第 2 分冊：タックスプランニング、不動産、相続・事業承継(FPK 研修センター) 三木義一　『日本の税金』　岩波新書		
教材（参考資料）	国税庁 パンフレット「暮らしの税情報」（平成 30 年度版）		
教育方法	タックスプランニングについて不動産・相続に関連した箇所を中心に講義を行う。		
評価方法	レポート(提案書)の提出を義務づける。その提案書の内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	社会人になるということは『納税者』になること。税を学びながら、自分の将来設計をより具体的に描くことができる。		
授業時間外学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、学んだ箇所を復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャル・プランニングⅡ」の３科目を併せて受講することが、AFP 認定修了の要件となっているので、就職活動の際、履歴書に「ＡＦＰ研修認定修了」と記載ができるように目指す学生は、3 科目を同時に履修すること。			
授業スケジュール			
1？　租税法律主義と税法体系① 2？　租税法律主義と税法体系② 3　？?申告納税方式と賦課課税方式① 4　？?申告納税方式と賦課課税方式② 5?？？?利子所得① 6?？？?利子所得② 7?？？?不動産所得① 8？？？?不動産所得② 9？？？?給与所得① 10？？?給与所得② 11?？　?山林所得① 12?？　?山林所得② 13？？　?一時所得① 14?？？?一時所得② 15？？?非課税所得① 16?？？?非課税所得② 17　?相続税①？？？？ 18？？?相続税② 19？？？ 贈与税 20？？？ 贈与税 21？？？ 金融商品売買に関わる税金 22？？？ 金融商品売買に関わる税金 23？？？ 不動産に関わる税金①			

24？？？ 不動産に関わる税金②
25？？？ 不動産に関わる税金③
26？？？ 不動産に関わる税金④
27？？？ 公的年金等の税金①
28？？？ 公的年金等の税金②
29？？？ 実例の考察①
30？？？ 実例の考察②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★★	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J20572A02
科目名	情報処理概論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Processing A		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
授業概要	情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしてしていくにはワープロ、表計算ソフトウエアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を習得することが必要不可欠となってきている。 　本講義では、「コンピュータの歴史」、「ハードウエア、ソフトウエアの基本的構成」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	井上　義祐、小池　俊隆　編書　「経営情報処理概論（改訂版）」　同文館出版 飯島　淳一　著　「入門　情報システム学」 上山　清二　著　「Web で学ぶ情報処理概論」　晃洋書房		
教育方法	パワーポイントあるいは板書を活用しながら講義法でおこなう		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+授業内小テスト等による平常点(30%)		
到達目標	コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得。		
授業時間外学習	現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか？」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か？」等を予習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

授業スケジュール

1.　講義の内容と進め方
2.　コンピュータの歴史
3.　コンピュータの種類
4.　ディジタルとアナログ
5.　ハードウエアとソフトウエア
6.　情報の表現　10 進数と 2 進数
7.　コンピュータの計算の仕組みー2 進数による計算
8.　コンピュータの基本論理回路
9.　コンピュータの構成装置(1) 入力装置　出力装置
10.　コンピュータの構成装置(2) 制御装置　演算装置　記憶装置
11.　コンピュータの情報処理方式(1)　コンピュータシステムと信頼性
12.　コンピュータの情報処理方式(2)　集中処理と分散処理
13.　コンピュータの情報処理方式(3)　シンプレックス、デュプレックス、デュアルシステム等
14.　情報技術と通信技術の結合
15.　これからの情報処理技術

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★★	−	★	★

年度	2018	授業コード	J20572B02
科目名	情報処理概論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Information Processing B		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
授業概要	情報社会において企業、学校、家庭を問わずパーソナルコンピュータやインターネットは必需品として使用されており、社会科学系、自然科学系を問わず、社会でどのような分野の仕事に就こうとも多かれ少なかれ情報処理システムを利用することになる。このような情報社会での進化に取り残されることなく暮らしてしていくにはワープロ、表計算ソフトウエアの操作方法等の知識だけではなく、情報処理に関する知識を常に習得することが必要不可欠となってきている。 　本講義では、「OS」、「情報システム」、「ネットワーク技術」、「セキュリティ技術」等の情報社会での生活に不可欠な情報処理技術の基礎知識を習得する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	井上　義祐、小池　俊隆　編書　「経営情報処理概論（改訂版）」　同文館出版 飯島　淳一　著　「入門　情報システム学」 上山　清二　著　「Web で学ぶ情報処理概論」　晃洋書房		
教育方法	パワーポイントあるいは板書を活用しながら講義法でおこなう		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)+「レポート＋試験」(50%)+授業内小テスト等による平常点(30%)		
到達目標	コンピュータおよび情報処理に関する基本的な知識の習得。		
授業時間外学習	現代の進化している情報社会での「暮らしの中の情報機器・システムはどのようなものがあるか？」、また「それらの機器・システムでのコンピュータの役割は何か？」等を予習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること。
2.　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退出を求める。

授業スケジュール

1.　講義の内容と進め方
2.　OS について
3.　情報システム（1）　勘定系システム、　POS システム、
4.　情報システム（2）　地理情報システム、図書館システム
5.　情報ネットワークシステム　LAN WAN PAN
6.　電話ネットワークとインターネット
7.　SNS
8.　個人情報
9.　情報社会での知的財産権
10. 反社会的情報
11.　コンピュータウイルス
12. 情報社会での危険
13. 情報倫理とネチケット
14. 企業での情報セキュリティ
15　高度情報社会への発展（暮らしのなかの情報処理）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J20573A01
科目名	国際経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics A		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	近年、グローバル化している経済状況を理解し、グローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学という学問である。国際経済学 A では、グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て、基礎的な貿易モデル、例えば、部分均衡分析や 2 財の貿易モデルを用いて、受講生が貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかが理解できるようになることを目的とする。加えて、近年、TPP の参加を通じて参加国内で関税を撤廃することが議論されてきたが、関税が賦課されていると、１国の国益がどのように損なわれかが理解できるようになることも目的とする。		
教材（教科書）	なし、講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	【教科書】 澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣 井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
教育方法	事前に配布した講義レジュメ・資料に沿って、基本的に講義法で行う。教員は講義する内容をホワイトボードに書いてポイントを明確にし、学生はそれをノートに写しながら受講する。講義内容が理解できているかどうかを判断するために小テストを課す。		
評価方法	基本的に、授業内小テスト等による平常点（60%）、レポート（40%）の成績によって評価する。		
到達目標	1. 国際経済学の初歩的な理論モデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解できるようになる。 2. 貿易政策が貿易に与える効果を学習し、その効果を説明できるようになる。		
授業時間外学習	講義で配布するプリントを予め読んで予習しておくこと。また、各回の終わりに宿題としてレポートを極力課すので、授業時間外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. ミクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましい。それゆえ、できればミクロ経済学を受講した上でのぞむこと。
2. 遅刻や私語は厳禁とする。
3. トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい。
4. 授業内容に関する理論モデルから得られる結果は高い現実妥当性をもつものも少なからず存在する。モデル分析から得られる結果を現実経済に当てはめて考えてみよう。

授業スケジュール

1. イントロダクション
2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰
3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰
4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡
5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1)
6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2)
7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1)
8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2)
9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡
10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1)
11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2)
12. 貿易政策の理論：関税の効果(1)
13. 貿易政策の理論：関税の効果(2)
14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果
15. 貿易政策の理論：消費税の効果

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J20573A02
科目名	国際経済学　A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し、グローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学という学問である。国際経済入門では、グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て、基礎的な貿易モデル、例えば、部分均衡分析や２財の貿易モデルを用いて貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する。加えて、近年、FTA などの経済連携の枠組みを通じた関税の撤廃が議論されているが、関税の賦課や撤廃の効果についても説明する。		
教材（教科書）	なし、講義でプリントを配付する。		
教材（参考資料）	・澤田康幸（2003 年）『基礎コース　国際経済学』 新世社 ・大川昌幸（2007 年）『コアテキスト・国際経済学』 新世社 ・石川城太・菊地徹・椋寛（2007 年）『国際経済学をつかむ』 有斐閣 （その他） ・井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治（2000 年）『基礎　国際経済学』 中央経済社 ・若杉隆平（2001 年）『現代経済学入門　国際経済学』 岩波書店		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	基本的に、授業内小テスト等による平常点（60%）、レポート(40%)の成績によって評価する。		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し、まず、それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする。また、貿易政策が貿易に与える効果についても学習し、理解することを目標とする。		
授業時間外学習	１年生時に開講されるミクロ経済入門の内容を復習してのぞむこと。また、各回の終わりに宿題としてレポートを課すので、授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

遅刻や私語を厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。

授業スケジュール

１．イントロダクション
２．部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰
３．部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰
４．部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡
５．部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益（１）
６．部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益（２）
７．２財の貿易モデル：消費者行動の理論（１）
８．２財の貿易モデル：消費者行動の理論（２）
９．２財の貿易モデル：自給自足経済の均衡
１０．２財の貿易モデル：自由貿易均衡（１）
１１．２財の貿易モデル：自由貿易均衡（２）
１２．貿易政策の理論：関税の効果（１）
１３．貿易政策の理論：関税の効果（２）
１４．貿易政策の理論：生産補助金の効果
１５．貿易政策の理論：消費税の効果

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J20573A03
科目名	国際経済学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	近年、グローバル化している経済状況を理解し、グローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学という学問である。国際経済学 A では、グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て、基礎的な貿易モデル、例えば、部分均衡分析や 2 財の貿易モデルを用いて、受講生が貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかが理解できるようになることを目的とする。加えて、近年、TPP の参加を通じて参加国内で関税を撤廃することが議論されてきたが、関税が賦課されていると、１国の国益がどのように損なわれかが理解できるようになることも目的とする。		
教材（教科書）	なし、講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	【教科書】 澤田康幸(2003)『基礎コース　国際経済学』　新世社 大川昌幸(2007)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣 井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治(2000)『基礎　国際経済学』　中央経済社 若杉隆平(2001)『現代経済学入門　国際経済学』　岩波書店		
教育方法	事前に配布した講義レジュメ・資料に沿って、基本的に講義法で行う。教員は講義する内容をホワイトボードに書いてポイントを明確にし、学生はそれをノートに写しながら受講する。講義内容が理解できているかどうかを判断するために小テストを課す。		
評価方法	基本的に、授業内小テスト等による平常点（60%）、レポート（40%）の成績によって評価する。		
到達目標	1. 国際経済学の初歩的な理論モデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解できるようになる。 2. 貿易政策が貿易に与える効果を学習し、その効果を説明できるようになる。		
授業時間外学習	講義で配布するプリントを予め読んで予習しておくこと。また、各回の終わりに宿題としてレポートを極力課すので、授業時間外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. ミクロ経済学の授業を履修しておくことが望ましい。それゆえ、できればミクロ経済学を受講した上でのぞむこと。
2. 遅刻や私語は厳禁とする。
3. トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい。
4. 授業内容に関する理論モデルから得られる結果は高い現実妥当性をもつものも少なからず存在する。モデル分析から得られる結果を現実経済に当てはめて考えてみよう。

授業スケジュール

1. イントロダクション
2. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰
3. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰
4. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡
5. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(1)
6. 部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益(2)
7. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(1)
8. 2 財の貿易モデル：消費者行動の理論(2)
9. 2 財の貿易モデル：自給自足経済の均衡
10. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(1)
11. 2 財の貿易モデル：自由貿易均衡(2)
12. 貿易政策の理論：関税の効果(1)
13. 貿易政策の理論：関税の効果(2)
14. 貿易政策の理論：生産補助金の効果
15. 貿易政策の理論：消費税の効果

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J20573B01
科目名	国際経済学 B	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics B		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し、グローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学という学問である。まず、グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て、国際経済入門で講義した初歩的な貿易モデルを念頭に置きながら、応用的な貿易モデルを用いて貿易のパターンや貿易の利益を説明する。また、別のグローバル化の要因であるヒトやカネの国際移動が経済に与える影響についても説明する。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配付する。		
教材（参考資料）	・澤田康幸（2003 年）『基礎コース　国際経済学』 新世社 ・大川昌幸（2007 年）『コアテキスト・国際経済学』 新世社 ・石川城太・菊地徹・椋寛（2007 年）『国際経済学をつかむ』 有斐閣 （その他） ・井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治（2000 年）『基礎　国際経済学』 中央経済社 ・若杉隆平（2001 年）『現代経済学入門　国際経済学』 岩波書店		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	基本的に、授業内小テスト等による平常点（60%）、レポート（40%）の成績によって評価する。		
到達目標	国際経済学の主要な理論モデルを学習し、まず、それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする。また、生産要素移動の経済に与える効果についても学習し、理解することを目標とする。		
授業時間外学習	ミクロ経済学と国際経済入門の授業を履修しておくことが望ましい。それゆえ、できればそれらの科目を受講したうえでのぞむこと。また、各回の終わりに宿題としてレポートを課すので、授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

遅刻や私語を厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。

授業スケジュール

1．イントロダクション
2．リカード・モデル：絶対優位と比較優位
3．リカード・モデル：生産可能性フロンティア
4．リカード・モデル：相対価格と貿易パターン
5．リカード・モデル：世界市場での相対価格の決定
6．リカード・モデル：自由貿易均衡と貿易利益
7．ヘクシャー＝オリーン・モデル：リガード・モデルとヘクシャー＝オリーン・モデル
8．ヘクシャー＝オリーン・モデル：固定係数モデル
9．ヘクシャー＝オリーン・モデル：リプチンスキー定理
１０．ヘクシャー＝オリーン・モデル：ヘクシャー＝オリーン定理
１１．ヘクシャー＝オリーン・モデル：ストルパー＝サミュエルソン定理
１２．ヘクシャー＝オリーン・モデル：要素価格均等化定理
１３．生産要素の国際移動：国際間の資本移動とは
１４．生産要素の国際移動：リカード・モデルにおける労働移動の効果
１５．生産要素の国際移動：２生産要素モデルでの資本移動の効果

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J20574A01
科目名	福祉社会論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Welfare Society A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	本講義では、社会保障の給付の負担と受益による分類、すなわち公的扶助、社会保険、社会扶助という三分類に沿って、それぞれの役割と方法について明らかにする。また、現代社会における社会保障の必要性についても多面的に考察する。さらに、社会保障の中でも今日特に重要な位置を占めている領域、つまり所得保障、医療保障、介護保障等の具体的制度と現状について詳説するとともに、今日の少子高齢化の進行とも関連付けながら、それぞれが抱える課題について検討する。		
教材（教科書）	授業中に資料を配布する。		
教材（参考資料）	社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』（中央法規出版） 足立正樹、井上久子（編）『社会保障の光と陰』（高菅出版）		
教育方法	毎回資料を配布する。資料には空欄を設けてあり、講義中にそこに入る適切な語句を指示する。学生は資料にそれを書き込むとともに、講義内容についてノートをとり、資料の内容を補足する。		
評価方法	授業内課題（45%）、期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の理念および制度について理解し、その今日的課題について自身の視座から考察し、意見を述べることができる。		
授業時間外学習	日ごろから各メディアで報じられる社会保障関係の情報に注意を払うこと。 配布する教材を予め熟読し、参考文献などを利用して空欄部分（重要単語等）を埋めておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・「社会政策Ａ」を受講済みであることが望ましい。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として単位を認定しない。特別な理由により途中退室する場合には、担当者に報告し指示を受けること。レポートの代筆など、その他の不正行為に対しても、上記同様に厳正に対処するので、絶対にしないこと。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

授業スケジュール

１．国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度
３．少子・高齢化の進行
４．医療保障の概念と方法
５．医療保険制度の概要
６．医療保険制度の現状と課題
７．高齢者介護をめぐる状況
８．介護保険制度の概要
９．介護保険制度の現状と課題
１０．所得保障の諸制度
１１．年金制度の概要
１２．年金制度の現状と課題
１３．社会保障の必要性
１４．社会保障の誕生と歴史的展開
１５．福祉国家の発展と危機

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J20575001
科目名	技術移転論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
授業概要	２１世紀の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。２０世紀におけるわが国の企業における技術経営戦略の一つであった「追いつき、追い越せ」のキャッチアップ時代とは異なり、いまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。その実現の手段として大学等の「知」を活用した国の産業競争力の強化という観点から産学官連携における技術移転は２１世紀における重要な位置付けであると考えられている。 　本講義では「技術移転」についての基礎知識を習得し、産学官連携や企業の技術経営の事例、地域との連携事例を学習していく。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	「産学官連携推進の知恵」、文部科学省産学官連携企画編集員会 「産学官連携の新たな展開に向けて」、文部科学省研究振興局		
教育方法	パワーポイントあるいは板書を活用しながら講義法でおこなう		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)＋「レポート＋試験」(50%）＋授業内小テスト等による平常点(30%)		
到達目標	技術移転に関する基本的な知識の習得。		
授業時間外学習	技術移転、産学官連携活動の興味ある事例を事前学習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１）　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること
２）　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める

授業スケジュール

1.　　講義の内容と進め方
2.　技術移転とは？　産学官連携とは？
3.　　産学官連携支援体制づくり
4.　大学の「知」の発掘・発信と産業界のニーズ把握
5.　マッチング
6.　共同研究契約と知的財産権
7.　イノベーションを誘発する仕組み
8.　大学発ベンチャーの育成と支援
9.　産学官の連携事例（その１）
10.　産学官の連携事例（その２）
11.　産学官の連携事例（その３）
12.　地域と大学の連携事例（その１）
13.　地域と大学の連携事例（その２）
14.　地域と大学の連携事例（その３）
15.　これからの連携と技術移転

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J30009001
科目名	アントレプレナー論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Entrepreneurship		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
授業概要	急速に変動する社会におけるアントレプレナー（起業家）の現状と課題を知り、新しく事業を起こすために必要な考え方やノウハウとスキル、そのステップを理解する。 単に自ら事業を起こすだけでなく、企業内においても企業内起業や新規事業立ち上げができるアントレプレナーシップ（起業家精神）が求められている。その社会的背景と現状、起業の意義、そして起業するためには何をしなければならないのか、どのような課題設定をし、問題解決しなければならないのかを、起業の段階ごとに事例とともに学ぶことができる。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	『事業構想と経営』梅木晃、井形浩治、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2004 年） 『ベンチャー型新規開業事業の新動向』梅木晃、井形浩治、村上義昭、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2007 年） 『起業学入門』高橋徳行著（経済産業調査会）		
教育方法	講義法で授業は進められる。 授業は講義法に主に基づくが、配布資料及びＤＶＤ教材も活用し、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	各回授業の最後に行う小レポート（50%）・授業内テスト（50%） テストでは授業の理解度の確認問題や課題を考え論理的に記述する。		
到達目標	１．アントレプレナーの現状と課題を説明できるようになる。 ２．新しく事業を起こすことの社会的意味を説明できるようになる。 ３．そのために必要な考え方とステップを説明できるようになる。 ４．アントレプレナーシップ（起業家精神）を説明できるようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に課題を指定するので、それに関わる情報をインターネットや新聞等で読んでおくこと。 １．２．　アントレプレナーの意味を調べる ３．４．　興味のある国内の経営者の経歴を調べる ５．６．　興味のある海外の経営者の経歴を調べる ７．８．　起業するために必要な要素をピックアップする ９．１０．　次回の授業テーマに沿ったキーワードをピックアップする １１．１２．　次回の授業テーマに沿ったキーワードをピックアップする １３．１４　次回の授業テーマに沿ったキーワードをピックアップする １５．　全体を通して復習しておく		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。 積極的に授業参加をしてもらいたい。 やむを得ない遅刻・欠席の場合は、必ず事前または事後に報告すること。			
授業スケジュール			
1.　アントレプレナーの定義と役割 2.　産業構造の変化とアントレプレナー 3.　労働市場から見た起業の意味 4.　新規開業調査に見る起業の実態 5.　さまざまな支援体制 6.　海外のアントレプレナー 7.　アメリカのアントレプレナー 8.　起業のステップ 9.　ケーススタディ　事業機会の認識			

10.	〃	経営資源の調達
11.	〃	資金調達
12.	〃	組織の作り方
13.	〃	人材確保と育成
14.	〃	創業時のマーケティング
15.	起業に関わる動向と課題	

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J30011001
科目名	インターネットビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Internet Business		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	今日のビジネスはインターネットの利用を抜きに成り立たないほど、インターネットは企業にとって重要なツールになっている。そのなかで、インターネットを活用して新しいビジネスモデルの構築に成功した企業は、企業間での競争優位を獲得している。 本講義では受講生が、ビジネスでインターネットがどのように利用・活用されているのかをさまざまな事例にもとづいて理解できるようになるとともに、インターネットを利用したビジネスの成功要因や問題点についても考察できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	中村忠之著『ネットビジネス進化論　第 2 版』中央経済社、2015 年 安達房子著『ＩＣＴを活用した組織変革』晃洋書房、2016 年 総務省『情報通信白書 平成 29 年版』日経印刷株式会社、2017 年（インターネットでダウンロード可能） 経済産業省『平成 28 年度　我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備（電子商取引に関する市場調査）』、2017 年（インターネットでダウンロード可能） ※その他、授業中に適宜指示する。		
教育方法	基本的に講義法で行う。ビデオ教材やパワーポイントも活用する。		
評価方法	平常点 45％（授業中に課す小テストおよび感想文）。期末試験（55％）。		
到達目標	1.インターネットの普及とともに企業のビジネスモデルがどのように進化したのかを説明できる。 2.企業がインターネットを使ってビジネスを行う上で、何が重要な要因になっているのかを説明できる。		
授業時間外学習	各回の学習推定時間は 45 分。 第 1 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 2 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 3 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 4 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 5 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 6 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 7 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 8 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 9 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 10 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 11 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 12 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 13 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 14 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 15 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.私語や遅刻は厳禁。私語が過ぎれば退出を求める。問題のある受講態度に対しては減点等、厳しく対処する。
2.新聞等のメディアを活用し、インターネットを利用したビジネスの動向に関心を持つようにしておくこと。

授業スケジュール

1　ガイダンス（授業の進め方、目的の説明等、インターネットビジネスとは）
2　消費者向けネットビジネスの特徴（ヤフーの事例）
3　競争優位を巡る争い（アマゾンの事例）
4　消費者向けネットビジネスの動向（シェアリングエコノミーとは）
5　ネットビジネスを支える仕組み（クラウドコンピューティングとは）
6　IoT とビジネス

7　人工知能とビジネス
8　前半のまとめ、小テストの予定
9　ソーシャルメディアとビジネス
10　インターネット広告
11　ネットショップにおける検索戦略（グーグルの事例）
12　FinTech（フィンテック）とは
13　ネットビジネスを利用する上で注意すること（セキュリティ、著作権などの法律）
14　インターネットによる働き方の変革（テレワーク、クラウドソーシングとは）
15　インターネットビジネスの展望

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J30061001
科目名	ベンチャー・ビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Venture Business Management		
担当者名	谷村　真理	旧科目名称	
授業概要	ベンチャービジネスについては、数次にわたるブーム（流行）の都度、盛んに論じられてきた。しかし、今日の経営を取り巻く環境変化を考えると、その変化への対応にはイノベーションの概念にかかる理解が不可分であり、ビジネスには、常にイノベーションを根幹としたベンチャービジネスの側面があると捉えることもできる。その意味において、本講義ではベンチャービジネスの「流行」の側面を考察するに留まらず「不易」の側面から本質への接近も行いたい。このため、ベンチャービジネスの根底にあるイノベーションの概念およびベンチャービジネスを担う企業家（起業家）の精神面（アントレプレナーシップ）・理念・戦略・組織等を中心に実践的な側面も併せ講義を行う。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	井形浩治、梅木晃編『事業構想と経営』（嵯峨野書院、2004 年） P.F.ドラッガー著、上田惇夫訳『イノベーションと企業家精神』（ダイヤモンド社、2007）		
教育方法	必要に応じて資料を配布する。 また、適宜事例を紹介し、ディスカッションを行う。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	ベンチャービジネスについての「基本と原則」および「実践」を的確に説明することができる。 社会においてもその知識および思考プロセスを活用することができる。		
授業時間外学習	日頃からベンチャービジネスに関心を持つとともに、それらに関連する諸情報の入手にあらゆるメディアの活用を心がける。 次回までにしておくことを、毎回の終了時に指摘する（推定授業時間外学習 30 分以上）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ベンチャービジネスへの興味を持ち、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
授業スケジュール			
１．はじめに（本講義の概要） ２．ベンチャービジネス（以下 VB という）の定義 ３．VB の変遷の歴史 ４．VB の根幹にあるイノベーション・企業家（起業家）精神について① ５．VB の根幹にあるイノベーション・企業家（起業家）精神について② ６．VB の根幹にあるイノベーション・企業家（起業家）精神について③ ７．VB の企業理念 ８．VB の組織と戦略 ９．VB とリーダーシップ １０．VB における資本政策と資金調達 １１．VB 創造の実際（VB のデザインからプランニングへ） １２．VB の事業機会の認識（ビジネスチャンスの発見） １３．VB の経営資源の調達（ベンチャー支援策の活用） １４．VB の成功と失敗 １５．VB の将来展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J30069001
科目名	リーダーシップ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Leadership		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
授業概要	組織とは，なんらかの目的のために形成されるものであるが，現代社会においては，このような組織がさまざまな形で存在している。そのような組織が目的を達成するためには，その組織の構成員の諸活動を目的達成の方向にむかって１つにまとめなければならないが，そのような働きかけの１つとして重要な役割を果たすものがリーダーシップである。 企業を取り巻く環境が非常に複雑で動態的な今日，このリーダーシップ研究の重要性はますます高くなっている。そこで本講義では，リーダーシップに関する基礎理論の学習を中心に行うことによって，リーダーシップの本質について検討してみたいと考えている。本講義を通して，将来，学生諸子が企業組織に参加したときに，主体的に行動し，活躍するための基礎力が養われれば幸いである。		
教材（教科書）	基本的に教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。 毎回、プリントやレジュメをを配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて指示する。		
教育方法	講義形式で授業を行う。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで 1 度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. リーダーシップとはどのようなものかということについて、簡単な説明をすることができる。 2. リーダーシップ論の歴史的な変遷を理解する。 3. 代表的なリーダーシップ論を簡単に説明することができる。		
授業時間外学習	1. 次の講義内容（シラバスに掲載しているとおりであるが、講義終了時にも指示する。）について図書館等で予め調べ、それに関する文献を探してその部分を熟読しておく。たとえば第 3 回目の講義がはじまるまでに、「リーダーシップの特性論」について図書館で文献をさがし、その内容が書かれている部分を熟読しておく。 2. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 3. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 4. 日常においてリーダーシップに関する現象に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
２．講義への積極的な参加を望む。
３．板書が多いので、日ごろから文字を書く練習をしておくこと。

授業スケジュール

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

1. オリエンテーション
2. 組織におけるマネジメントとリーダーシップ
3. リーダーシップの特性論
4. リーダーシップの行動論① －ミシガン・オハイオ研究－
5. リーダーシップの行動論② －マネジリアル・グリッド－
6. リーダーシップの行動論③ －PM 理論－
7. 個人の動機とリーダーシップ
8. 前半のまとめと理解度の確認　（小テストを予定）

9. リーダーシップの条件適合理論① - リーダー行動の連続線モデル、コンティンジェンシー・モデル -
10. リーダーシップの条件適合理論② - 目標経路理論 -
11. リーダーシップの条件適合理論③ - 3 次元リーダー効果性モデル -
12. リーダーシップ論のその後の動向① - リーダーシップ研究センターの状況対応リーダーシップ -
13. リーダーシップ論のその後の動向② - EQ リーダーシップ、サーバント・リーダーシップ、変革のリーダーシップなど－
14. リーダーシップ論のその後の動向③ - リーダーシップとフォロワーシップ－
15. リーダーシップ論の講義を通して学んだこと

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J30076001
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	会計はビジネスの言語とも言われ、その企業が属する業界、業種、規模を問わず、そして会計の専門部署に限らず必要とされる知識です。それはつまり、経営学科すべての学生にとって今後経営学を学んで行くうえで会計の用語や基本的な考え方をきちんと理解しておくことが必須であることを意味しています。ビジネス社会において最低限必要とされる会計の基本的な考え方と用語を正しく理解すると同時に、発展的な経営学・会計学の諸科目を履修する上での基礎を身につけること、そしてアカウンティング・マインドを身につけることが本講義の目的です。		
教材（教科書）	指定しない		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	レジュメに沿った講義形式で行います。学生が受け身にならないよう、ケーススタディ等では意見を発表する機会を設けます。		
評価方法	授業内レポート(30%)、授業内小テスト数回(70%)		
到達目標	会計が企業経営において果たす役割を説明できる。 主要な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書)について、その意義と内容を説明できる 。		
授業時間外学習	毎回の講義レジュメの最後に、次回への準備学習は指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講生は積極的に講義に参加すること

授業スケジュール

1. ガイダンス：会計を学ぶ意義
2. 会計が果たす役割
3. 簿記と会計の関係
4. 会計の基礎概念(1)：資産、負債、資本
5. 会計の基礎概念(2)：収益、費用、純利益、期間損益計算
6. 会計の基礎概念(3)：発生主義
7. 売上高と利益の関係
8. 貸借対照表の構成と内容
9. 損益計算書の構成と内容
10. キャッシュ・フロー計算書の構成と内容
11. 企業経営の国際化と会計の国際化
12. 企業経営に役立つ会計：管理会計
13. 原価計算の基本的な仕組み
14. 損益分岐点
15. 総括：改めて会計を学ぶ意義

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J30098001
科目名	管理会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Accounting		
担当者名	河合　伸	旧科目名称	
授業概要	管理会計は，企業経営に必要な財務的数値（お金の単位の数字）・非財務的数値（お金以外の単位で計る数字）を利用して，経営者・経営管理者の意思決定を支援するための情報を提供するシステムです。言葉を換えれば，管理会計は企業が戦略を実施するための会計です。 この講義では，管理会計で用いられる具体的な技法を紹介し，計算の演習を交えて理解を深めます。同時に，それらの技法が経営の実務の中でどのように役立つのかを考えていきます。		
教材（教科書）	谷武幸（2013）『エッセンシャル管理会計：第 3 版』中央経済社。		
教材（参考資料）	加登豊・梶原武久（2017）『管理会計入門：第 2 版』日本経済新聞社。 浅田孝幸・頼誠・鈴木研一・中川優・佐々木郁子（2017）『管理会計・入門：第 4 版』有斐閣。 櫻井通晴（2015）『管理会計：第 6 版』同文館出版。		
教育方法	PowerPoint のスライドを用いて講義を行います。当該資料をハンドアウトとします。 授業の冒頭に前回の復習にあたる小テストを行います。		
評価方法	定期試験（70%），小テストの得点の合計（30%）		
到達目標	・管理会計の意義と基礎的概念を説明することができる。 ・管理会計が実務でどのように利用され，役立っているのかを説明することができる。 ・管理会計の主要な技法について説明することができる。		
授業時間外学習	・シラバスを参考に，次回の授業で取り上げる内容について教科書を一読しておくこと。 ・教科書とハンドアウトを用いて復習をし，小テストに備えること		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・学習の過程で計算問題に取り組む機会があります。指示に従って授業に電卓を持参してください。
・簿記の基礎知識を持っていることが望ましいですが，必須ではありません。前提知識のない学生も受講できます。
・管理会計は経営管理と密接に関連しています。経営学関連の他の授業で学ぶ内容と関連づけて理解するように努めてください。
・原価計算論（工業簿記）と併修すればより理解が深まるでしょう。

授業スケジュール

1．ガイダンスとイントロダクション：管理会計の意義
2．管理会計の基礎概念：原価の概念，計画の種類
3．意思決定アプローチ：マネジメントコントロールにおける意思決定とは
4．業績管理アプローチ：業績管理のシステム，責任センター
5．原価管理(1)：原価管理の PDCA サイクル，直接費と間接費
6．原価管理(2)：今日的な原価管理への期待
　長期経営計画：意義とプロセス
7．設備投資計画(1)：設備投資計画，経済性の評価
8．設備投資計画(2)：資本コスト
　利益計画(1)：利益管理，CVP 関係①
9．利益計画(2)： CVP 関係②
　予算管理(1)：意義，プロセス，運用
10．予算管理(2)：予算差異分析
　事業部の業績管理(1)：責任センターと事業部制組織

１１．事業部の業績管理(2)：プロフィットセンター，インベストメントセンター，コストセンター １２．ABC/ABM：伝統的原価計算の限界，ABC の計算構造，ABM とプロセスの視点 １３．バランスト・スコアカード：4 つの視点，戦略マップ １４．原価企画：製品開発の基礎，源流管理，3 つの視座 １５．(1)アメーバ経営：MPC，アメーバ経営の全体像 (2)品質コストのマネジメント：PAF アプローチ，TQC/TQM

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J30103001
科目名	企業家史	単位数	2
科目名（英語表記）	Great Entrepreneurs		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
授業概要	明治より昭和戦後まで、都市型産業の成長、大量生産体制の構築を先導した企業家を取り 上げる。可能であれば、いま少し取り上げる企業家を増やしたいと考えている。		
教材（教科書）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考資料）	次の書籍を推薦する。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎『企業家たちの挑戦』中央公論新社 宇田川・生島編『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣 講義の中でその都度紹介し、必要な文献は配付資料に記載する。		
教育方法	パワーポイントを利用し講義の形ですすめ、適宜意見聴取を行い、小レポートの作成を求める。		
評価方法	試験（100%）		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、企業家の行動原理を説明することができる。		
授業時間外学習	講義テーマは次の通りであり、これに付き予習しておくこと。各回これに関連したレポートを実施する。 １講・企業家、２講・工業化の基盤、３講・「顧客創造」、４講・市場創造、５講・事業継承、６講・都市化と電力化、７講・大量生産の経営理念、８講・専門経営者、９講・化学肥料と化学繊維、10 講・企業家精神、11 講・差別化投資、12 講・事業戦略、13 講・流通革新、14 講・POS		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をすること。
日本経済の発展を導いた企業家の考察を通して、その革新性と普遍性について問いかけたい。

授業スケジュール

1 講.企業家史の課題、企業家・企業者と革新
2 講.工業化期の建設業の革新(大林芳五郎)
3 講.電気鉄道網の形成(小林一三)
4 講.国産ウィスキーの製造と洋酒文化の普及(鳥居信治郎・竹鶴政孝)
5 講.在来産業・酒造業の革新(大倉恒吉)
6 講.家庭電器産業の興隆(松下幸之助)
7 講.大量生産時代の経営理念(松下幸之助)
8 講.電気機械国産化の道のり(小平浪平)
9 講.重化学工業の成長(野口 遵)
10 講.自動車国産化への挑戦(豊田喜一郎・鮎川義介)
11 講.本田宗一郎･藤沢武夫と「世界のホンダ」
12 講.井深 大･盛田昭夫とソニー
13 講.流通のイノベーション(中内功)
14 講.大規模小売業の進化(鈴木敏文)
15 講.大量生産時代と大量消費時代の担い手

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J30140001
科目名	経営学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Management Theories		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	学説の流れを学ぶことを通して、いかなる経営課題に対して先人はどのように取り組んだかを理解する。経営学は課題解決に必要とされる知識を様々な学問領域から借用しており、経営課題によって、その課題の解決に向けて採択されるアプローチは異なってくる。よって、この講義においては、受講者は多面的な視点と論理的な思考を有することができる。		
教材（教科書）	なし。プリントを適時配布する。		
教材（参考資料）	なし。プリントを適時配布する。		
教育方法	事前に配布した講義資料・レジュメに沿って、プロジェクタ（Word, Excel, PowerPoint,等）を使いながら、基本的に講義法で行なう。講義では、教員が冒頭で学習目標・ポイントを述べる。学生は、配布した講義資料・レジュメに、書き込みながら受講する。毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示する。　ＤＶＤを使用する場合は、視聴後、講義時間内に感想や気づきを書くことになる。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。 課題・宿題（問題集）については講義内で手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		
到達目標	＊経営理論に基づき組織・管理の変遷を説明することができる。 ＊受講者は企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊受講者は多面的な視点で事象を分析することができる。		
授業時間外学習	毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントのどこまでを読んでおくべきかを指示する（各回の推定授業時間外学習は 30 分以上）。 第 1 回目　配布プリントにおける＜はじめに＞。 第 2 回目　配布プリントにおける第 1 章。 第 3 回目　配布プリントにおける第 2 章。 第 4 回目　配布プリントにおける第 3 章。 第 5 回目　中間課題を解き、提出すること。 第 6 回目　配布プリントにおける第 4 章。 第 7 回目　配布プリントにおける第 5 章。 第 8 回名　配布プリントにおける第 6 章。 第 9 回目　配布プリントにおける第 7 章。 第 10 回目　配布プリントにおける第 8 章。 第 11 回目　配布プリントにおける第 9 章。 第 12 回目　配布プリントにおける第 10 章。 第 13 回目　配布プリントにおける第 11 章。 第 14 回目　期末課題を解き、提出すること。 第 15 回目　配布プリントにおける第 12 章。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＊経営学総論の単位を取得している方が望ましい。
＊遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
＊配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。

授業スケジュール

1. 経営学史を学ぶ目的。内部請負制とその崩壊理由。問：肉体労働と頭脳労働が分離されたのはなぜだろか？　マニュアルってなんだろうか？（1)。登場人物：テイラー、フォード、ファヨール、クーンツ、等。体系的管理運動、動作・時間研究、職能的組織、

2. 問：肉体労働と頭脳労働が分離されたのはなぜだろか。マニュアルってなんだろうか？（2)。キーワード：管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。
3. 問：感情は働きぶりにどのような影響をもたらすだろうか？　帰属欲求の充足が主たる組織参加理由か？（1)。　登場人物：メイヨー、レスリスバーガー、等。キーワード：ホーソン実験、人間関係論、アノミー、非公式組織、等。
4. 問：感情は働きぶりにどのような影響をもたらすだろうか？　帰属欲求の充足が主たる組織参加理由か？（2)。キーワード：制度学派との論争。調査方法、ニューディール政策、ワーグナー法、産業別労働組合の動向。
5. 問：合理性とは？　組織とは？　人間は蟻か？（1)。　登場人物：バーナード、サイモン、マーチ、サイアート、オルセン、等。
キーワード---近代管理論、システム論、協働システム、誘因ー貢献理論、道徳準則、等。　中間課題 について。
6. 問：合理性とは？　組織とは？　人間は蟻か？（2)。　キーワード：意思決定、認知的限界、満足化原理、人工知能、等。
7. 問：経済学、商学、経営学の相違は何か？　労働者にとっての成果とは？　費用とは？（1)。　登場人物：ワイヤーマン、シェーニッツ、ブレンターノ、シュマーレンバッハ、グーデンベルグ、ニックリッシュ、フィッシャー、等。キーワード：方法論争、私経済学、規範的経営経済学、技術論的経営経済学。
8. 問：経済学、商学、経営学の相違は何か？　労働者にとっての成果とは？　費用とは？（2)。キーワード：精神、経営共同決定法、費用曲線（Ｓ字型か直線か)、等。
9. 問：モチベーションって何だろうか？（1)　登場人物：マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等。キーワード：行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、X・Y 理論、目標による管理、
10. 問：モチベーションって何だろうか？（2)　キーワード：2 要因理論、職務充実、期待理論、職務再設計、等。
11. 問：環境変化が組織にどのような影響を及ぼすのだろうか？ 変化に適応するだけが存続の条件か？　(1)。登場人物：ウッドワード、バーンズ、ストーカー、ローレンス、ローシュ、等。キーワード：条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。
12. 問：環境変化が組織にどのような影響を及ぼすのだろうか？ 変化に適応するだけが存続の条件か？　(2)。キーワード：コンフィギュレーションの見解、戦略論への展開、他国のキャッチアップ、等。
13. 問：日本的経営の「日本的」とは何だろうか？（1)　キーワード：日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、等。期末課題について。
14. 問：日本的経営の「日本的」とは何だろうか？（2)　キーワード：護送船団方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊。崩壊後の対応、等。
15. 問：戦略とは何だろか？　イノベーションとは何だろうか？。登場人物：チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ、BCG、ポーター、ハメル、プラハラード、等。キーワード：戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J30155001
科目名	経営情報概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Management and Information Systems		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	企業は・継続・発展するものとするならば、企業の経営課題は変化する内外の情勢を的確に把握し、経営をどのように舵取りしていくか・又経営諸資源の活用をどのように展開していくかが、非常に重要な役割をもつことになる。企業を人体にたとえれば、情報は人体の諸機関を動かす信号であり、コンピュータや通信ネットワークは脳や神経に相当することとなる。現代では、経営活動が情報をフルに活用して、積極的に経営活動を推進しなければきびしい企業競争に生き残れない。 本講義では、企業モデルでの経営機能と情報の関係を説明し、情報技術の進歩によって情報の扱い方、処理方法、システム化などが・どのように時代と共に変遷してきたかを歴史的過程を辿って講述する。更に現代から将来への展望に関する考察も試みる。 学生は本講義によって、企業経営と経営情報システムとの関係を理解し、今後の環境変化に対応した情報システムの変化を考察できるようになる。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。		
教材（教科書）	遠山暁／村田潔『経営情報論 新版補訂（有斐閣アルマ)』有斐閣		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	電子黒板を利用しながら講義法で授業は進められる。		
評価方法	2/3 以上の受講を単位認定要件とし、単位認定要件を満たした上で、 授業内提出物及び小テスト(35%)、 レポート(30%)、 定期試験(35%) で評価する。		
到達目標	企業経営にとって経営情報システムの重要性を科学的な観点から説明できる。		
授業時間外学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 各回の授業内容に該当する教科書のページを事前に読んで、専門用語の確認などを含めて事前学習をしておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。 01:教科書該当ページなし 02:教科書 pp1-pp28 03:教科書 pp29-pp54 04:教科書 pp55-pp78 05:教科書 pp1-pp78 06:教科書 pp79-pp108 07:教科書 pp109-pp136 08:教科書 pp137-pp164 09:教科書 pp165-pp186 10:教科書 pp79-pp186 11:教科書 pp187-pp212 12:教科書 pp213-pp240 13:教科書 pp241-pp260 14:教科書 pp261-pp286 15:教科書 pp287-pp318		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業に毎回出席すること。講義を聞くだけでなく、必ずノートやメモをとること。遅刻・早退・私語は厳禁。			
授業スケジュール			

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1． 受講ガイダンス
2. 経営情報論の基礎
3. 経営情報論の基礎理論
4. 経営情報システムの変遷
5. 反転学習(理解度確認)
6. 情報通信技術の進展
7. 経営情報システムの設計・開発
8. 経営情報システムの管理
9. 情報通信技術とビジネス・プロセス革新
10. 反転学習(理解度確認)
11. ネット・ビジネス
12. 情報通信技術と組織変革
13. 情報通信技術と組織コミュニケーション
14. 情報通信技術と社会
15. まとめと今後の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J30163A01
科目名	経営戦略論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Strategy I		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、受講生が経営戦略の基本と実践力が身につくことを目的とします。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になることを目指します。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考資料）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行います。 毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。それによって授業内容の理解度を確認します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	受講者は経済新聞や経済雑誌の経営戦略に関する記事を読んで、内容を説明できる。		
授業時間外学習	講義資料を 1 週間前までに京学なびに掲載するので、事前に読んで内容を理解しておくこと。(各回の学習推定時間は 45 分) 1 経営戦略とは 2 トレードオフ 3 コンビニ 4 ポイントカード 5 事例研究：餃子の王将 6 差別価格 7 消費の外部性 8 ビジネスモデル 9 参入障壁 10 デファクトスタンダード 11 株式会社 12 M&A 13 企業価値 14 日本型経営 15 事例研究：スティーブジョブズ		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。
授業スケジュール
1 経営戦略とは 2 トレードオフ 3 コンビニ 4 ポイントカード 5 事例研究：餃子の王将 6 差別価格

7 消費の外部性
8 ビジネスモデル
9 参入障壁
10 デファクトスタンダード
11 株式会社
12 M&A
13 企業価値
14 日本型経営
15 事例研究：スティーブジョブズ
常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J30163B01
科目名	経営戦略論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Strategy II		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、受講生が経営戦略の基本と実践力が身につくことを目的とします。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になることを目指します。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考資料）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行います。 毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。それによって授業内容の理解度を確認します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	受講者は経済新聞や経済雑誌の経営戦略に関する記事を読んで、内容を説明できる。		
授業時間外学習	講義資料を 1 週間前までに京学なびに掲載するので、事前に読んで内容を理解しておくこと。(各回の学習推定時間は 45 分) 1 成長マトリックス 2 多角化戦略 3 選択と集中 4 垂直統合と水平分業 5 ブランド戦略 6 ブランド戦略 2 7 PB（プライベートブランド） 8 事例研究：アシックス 9 PPM 10 イノベーションのジレンマ 11 サンクコスト 12 事例研究：デジカメ 13 ブルーオーシャン戦略 14 組織と戦略 15 経営者とは		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
授業スケジュール			
1 成長マトリックス 2 多角化戦略 3 選択と集中 4 垂直統合と水平分業 5 ブランド戦略 6 ブランド戦略 2			

7 PB（プライベートブランド）
8 事例研究：アシックス
9 PPM
10 イノベーションのジレンマ
11 サンクコスト
12 事例研究：デジカメ
13 ブルーオーシャン戦略
14 組織と戦略
15 経営者とは
常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J30166A01
科目名	経営組織論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Organization Theory I		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	経営とは経営組織内の資源を活用することによってはじめて成立する。本講義では、経営の基盤となる組織についての理論、組織内におけるヒトの活用において重要になる理論についての基礎的知識を学習する。具体的には、組織設計・組織編成、組織と個人の関係、リーダーシップ、組織とジェンダーや組織的公正などの組織を考える上で欠かせない知識を習得する。また、近年の経営組織において重要なトピックとなっているダイバーシティ・マネジメントやストレス（メンタルヘルス）などについての基礎的知識についても学習する。		
教材（教科書）	特になし。教員作成の資料を配布します。		
教材（参考資料）	適宜指示します。		
教育方法	講義法で授業を進められる。適宜確認テストなどを行う。		
評価方法	授業内小テストなど（25%）、定期テスト（75%）		
到達目標	経営組織及び組織内でのマネジメントを考えるために必要となる基礎知識を身に着けて、経営組織や組織行動に関する事象について説明できる。		
授業時間外学習	毎回授業の前々日までに、「京学なび」内に授業レジュメをアップロードするので、穴埋め部分以外に目を通しておくこと。 毎回、講義後の復習を忘れずに行うこと。 不明点や質問がある場合、次回の講義までに質問できるようにまとめておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的な姿勢で講義に取り組んでもらいたい。
質問などが生じた場合、そのまま放置せずに、オフィスアワーなどを積極的に活用してもらいたい。
授業中の私語は厳禁とする。私語によって他者に迷惑をかける場合は、退出を求める。

授業スケジュール

第 1 回　オリエンテーション、イントロダクション：組織とは何か
第 2 回　企業組織の基本①：組織を取り巻く環境と組織、組織設計の方法
第 3 回　企業組織の基本②：機能別組織、事業部組織、マトリックス型組織、及びそれらのメリット・デメリット
第 4 回　組織と個人の統合①：変化する組織像・個人像①
第 5 回　組織と個人の統合②：変化する組織像・個人像②、マネジメントの変化と経営組織
第 6 回　ワーク・グループ①：ワーク・グループとは何か、ワーク・グループの理論①
第 7 回　ワーク・グループ②：ワーク・グループの理論②、少数派・多数派の形成と問題
第 8 回　組織とジェンダー：ジェンダーと組織の関係
第 9 回　ダイバーシティ・マネジメント：ダイバーシティ・マネジメントとは何か、ダイバーシティ・マネジメントの基本・実際
第 10 回 リーダーシップ①：リーダーシップとは何か
第 11 回 リーダーシップ②：リーダーシップの理論①
第 12 回 リーダーシップ③：リーダーシップの理論②
第 13 回 組織ストレス①：組織ストレスとは何か
第 14 回 組織ストレス②：組織ストレスの課題、メンタルヘルス
第 15 回 組織的公正：組織における公正、組織的公正の実際

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2018	授業コード	J30170001
科目名	経営特別講義 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Studies A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	ビジネスの第一線で活躍する女性企業家を講師としてお迎えし、今の仕事につくまでの体験やキャリア形成等についての講義を行っていただく講座である。本講義では受講生が、どのようにして起業したのか、どのようにしてトップになったのか、管理職の仕事とは何か等を聞くこと通じて、自らのキャリアをデザインし、就職力を向上させることができるようになることを目的とする。 各講義では、質問時間を設けるので、多くの質問ができるようにすること。 ※女子学生だけでなく、男子学生も受講可能。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	講義法を中心として行う。		
評価方法	各回の講義内容についてのレポート（55%）、各回の受講態度および講師への質問（45%）。 レポートでは各講義内容の理解力を問う。		
到達目標	1. 経営の現場の知識を学び、新しいものの見方を身につけることができる。 2. 自分らしいキャリアをデザインするための知識を習得することができる。 3. 聞き取り力、質問力など、就職活動で役立つスキルを習得することができる。		
授業時間外学習	各回の学習推定時間は 60 分。 第 1 回　女性を取り巻く環境に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 2 回　第 3 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 3 回　第 4 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 4 回　第 5 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 5 回　第 3〜第 5 回の講師が配布した資料を読み、要点をまとめる 第 6 回　第 7 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 7 回　第 8 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 8 回　第 7 回・第 8 回の講師が配布した資料を読み、要点をまとめる 第 9 回　第 10 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 10 回　第 11 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 11 回　第 10 回・第 11 回の講師が配布した資料を読み、要点をまとめる 第 12 回　第 13 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 13 回　第 14 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 14 回　第 13 回・第 14 回の講師が配布した資料を読み、要点をまとめる 第 15 回　すべての講師の講演に対する要点と感想をまとめる		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.外部から講師を迎えることもあり、受講態度については通常以上に十分気を遣うこと。講義中の私語、飲食および無用な出入り、スマートフォンの操作は厳禁。注意をしても改善しない者には単位を授与しないことがある。
ルールに納得できない者は履修しないこと。
2. メモ用紙を持参し、質問したいことなどをメモすること。

授業スケジュール

1.　ガイダンス
2.　女性企業家を取り巻く環境①
3.　女性企業家を取り巻く環境②
4.　(5/8)　　望月　美佐緒 氏　「~動けば変わる　動けば分かる~　企業の中で新たな事業を生み出すために…」
　　（株式会社ルネサンス　常務執行役員、 ヘルスケア・新業態　新規事業担当補佐、新規事業推進部　部長）
5.　(5/15)　未定

6.　要点整理と確認テスト
7.　（5 /29）　未定
8.　（6/5）　　未定
9.　要点整理と確認テスト
10.（6/19）　未定
11.（6/26）　　未定
12.　要点整理と確認テスト
13.（7/10）　未定
14.（7/17）　未定
15. 女性企業家講座を通して学んだことの展望

講師の都合などにより変更になる可能性がある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J30173001
科目名	経営分析論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statement Analysis		
担当者名	川端　千暁	旧科目名称	
授業概要	(1) 講義の目的: 近年、財務諸表を理解できる能力(会計リテラシー)の重要性が高まっています。企業活動がグローバル化、複雑化、多様化する中で、ビジネス・パーソンとしての自社や取引先などの経営実態を正しくタイムリーに把握することが必要不可欠になってきたからである。本講義の目的は、企業の経営方針や事業戦略を理解するため、財務諸表を分析する力を身につけることです。 (2) 講義の概要: 具体的には、ビジネス会計検定 2 級に関する学習内容を講義形式で行います。		
教材（教科書）	大阪商工会議所(2014)『ビジネス会計検定試験公式テキスト 2 級』，中央経済社。		
教材（参考資料）	桜井久勝(2017)『財務諸表分析(第 7 版)』，中央経済社。 大阪商工会議所(2014)『ビジネス会計検定試験公式テキスト 3 級』，中央経済社。		
教育方法	パワー・ポイントによる講義の後、復習問題を解いていただきます。また、授業後、授業内容に関する小テストまたはレポート課題を課します。		
評価方法	小テストまたは受講者による課題レポート等の平常点		
到達目標	授業終了段階でビジネス会計検定 2 級レベルの問題を解ける。		
授業時間外学習	その週の授業までに、各自で指定したテキストの箇所を熟読してください。授業後は、学習した内容に関して、小テストまたは受講者による課題レポートを課します。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1) 電卓、テキストを(初回の授業を含めて)毎講義に必ず持参してください。 (2) 予習と復習は必ず行ってください。また、学習の効率を高めるため、受講者同士のグループで復習することが望まれます。			
授業スケジュール			
１．企業会計の意義と制度 ２．財務諸表 ３．貸借対照表 ４．損益計算書 ５．連結包括利益計算書 ６．株主資本等変動計算書 ７．連結キャッシュ・フロー計算書 ８．付属明細書と注記 ９．基本分析 １０．安全性分析 １１．収益性分析 １２．キャッシュ・フローの分析 １３．不確実性の分析 １４．１株当たり分析 １５．生産性分析			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J30181014
科目名	研究ゼミナールII	単位数	4
科目名（英語表記）	Research Seminar II		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	研究ゼミナールIで学んだことをさらに深く研究し、卒業研究としてまとめます。 受講生が卒業論文を完成させることを目的とします。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介します。		
教育方法	演習主体で行う。 教員は学生個別に進捗状況を把握しながら、適宜アドバイスを行う。基本的には学生が主体で、資料調査、分析、論文作成を行う。		
評価方法	取組姿勢（50%）。成果物（50%）。		
到達目標	卒業論文を完成することができる。		
授業時間外学習	ゼミの時間は議論と発表が中心となるので、議論のための事前準備、発表のための資料作成を事前に十分行っておくこと。具体的には、企業のホームページや企業に関する文献・新聞・雑誌記事の収集・分析・整理、それに基づく考察を行う。（各回の学習推定時間は 60 分）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ゼミのメンバー間での意見交換が重要ですので、他のメンバーの発表はしっかり聞き、必ず質問・意見を述べること。

授業スケジュール

1. 研究の進め方、論文のまとめ方について説明
2. 研究テーマ案の発表
3. 関連文献、資料の調査
4. 関連文献、資料の調査
5. 研究計画の作成
6. 研究計画の作成
7. 研究テーマ、研究計画の発表、意見交換
8. 研究テーマ、研究計画の発表、意見交換
9. 研究テーマ、研究計画の決定
10. 研究論文作成
11. 研究論文作成
12. 研究論文作成
13. 途中経過発表、意見交換
14. 途中経過発表、意見交換
15. 研究論文作成、個別指導
16. 研究論文作成、個別指導
17. 研究論文作成、個別指導
18. 途中経過発表、意見交換
19. 途中経過発表、意見交換
20. 研究論文作成、個別指導
21. 研究論文作成、個別指導
22. 研究論文作成、個別指導
23. 途中経過発表、意見交換
24. 途中経過発表、意見交換
25. 研究論文作成、個別指導
26. 研究論文作成、個別指導
27. 研究論文作成、個別指導
28. 研究論文完成

29.　研究発表
30.　研究発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J30185001
科目名	原価計算論	単位数	2
科目名（英語表記）	Cost Accounting		
担当者名	小山　真実	旧科目名称	
授業概要	本講義では、原価とは何か、原価はどのように計算するのか、経営活動において原価情報がいかに役立つのか、に関して講義を行います。とりわけ、日商簿記 2 級工業簿記の試験範囲内における、製品原価計算の具体的手法が、講義の中心的な内容です。本講義では、ただ計算問題を解けるようになるだけでなく、そのように計算を行う意味を理解することを目標としています。 製品原価に限らない一般的な原価計算や、組織内において原価情報がいかに活用されるのか、などに関心のある学生は、管理会計論を併せて受講することを勧めます。本講義においても上記内容に触れますが、管理会計論ではより詳しい解説が得られると思います。		
教材（教科書）	滝澤ななみ, (2017), 「みんなが欲しかった簿記の教科書　日商 2 級　工業簿記　第 4 版」, TAC 出版.		
教材（参考資料）	滝澤ななみ, (2017), 「みんなが欲しかった簿記の問題集　日商 2 級　工業簿記　第 6 版」, TAC 出版. 谷武幸, (2012), 「エッセンシャル原価計算」, 中央経済社.		
教育方法	本講義ではまず、スライドを用いて教員が講義を行います。 次に、その日の講義内容に対応した演習問題を各自で解く時間を設け、その後解説します。		
評価方法	平常点（10%）、小テスト（30%）、中間試験（30%）、期末試験（30%） ・小テストは不定期に行います。 ・中間試験は、第 8 回ごろに行うことを予定しています。 出題範囲は、中間試験までの講義内容です。 ・期末試験は、講義全体の内容を出題範囲とします。		
到達目標	・原価計算の目的および意義について理解している。 ・原価計算の手続きを理解し、実際に計算することができる。 ・原価計算の手続きを理解し、なぜそのような手続きが必要とされるのか説明できる。		
授業時間外学習	本講義の内容は積み上げであるので、途中で分からなくなると、以降の内容を理解することが難しくなります。問題演習に取り組むなどして、特に復習に力を入れてください。 なお、必ずしもテキストおよび参考文献として指定している文献でなくとも、日商簿記 2 級工業簿記に関するテキストや問題集であれば、本講義の準備学習に活用できると思います。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義において問題演習を行うため、電卓を持参してください。
また、必須ではありませんが、日商簿記 3 級の内容を理解していると講義の理解がより深まると思います。

授業スケジュール

1. イントロダクション（講義の概要・簿記の基礎知識）
2. 原価計算の基礎知識
3. 原価計算の役立ち
4. 材料費（1）
5. 材料費（2）
6. 労務費
7. 経費
8. 個別原価計算と総合原価計算の概要
9. 単純個別原価計算
10. 部門別個別原価計算
11. 単純総合原価計算
12. 工程別総合原価計算・組別総合原価計算・等級別総合原価計算
13. 総合原価計算（仕損・減損の処理、材料の追加投入）
14. 標準原価計算（1）
15. 標準原価計算（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J30194A01
科目名	工業簿記 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Factory Bookkeeping I		
担当者名	川端　千暁	旧科目名称	
授業概要	(1) 講義の目的: 簿記は、ビジネス社会における「共通言語」といわれています。したがって、その習得は将来のビジネス・パーソンとしての基礎知識習得のため、有意義でしょう。本講義の目的は、中小企業経営及び会計主任者相当の(工業)簿記の知識を身につけることです。 (2) 講義の概要: 具体的には、日商簿記検定 2 級の工業簿記に関する学習内容を問題演習形式で行います。		
教材（教科書）	(1) TAC 簿記検定講座（2015）『合格トレーニング 日商簿記 2 級 工業簿記 Ver.8.0 (よくわかる簿記シリーズ)』, TAC 出版。 （2） TAC 簿記検定講座（2015）『合格テキスト 日商簿記 2 級 工業簿記 Ver.8.0 (よくわかる簿記シリーズ）』, TAC 出版。		
教材（参考資料）	講義時に指示します。また、講義資料は web に掲載します。		
教育方法	テキストの練習問題を用いて各論点のポイントのみを復習し、次にワークブックの復習問題を解いていただきます。また、授業の最初には前回の授業内容に関する小テストを行います。この授業は「簿記原理」及び「工業簿記」の履修を前提としているため、教員による詳細な解説（いわゆる講義）は、原則として行いません。		
評価方法	(1) 試験の成績と平常点に基づき、総合的に評価します。 (2) 試験の成績は、小テスト（復習問題）の成績（30%程度）と定期試験（70%程度）の総合成績によって決定します。なお、小テストは出席状況を確認するものではありません。 (3) 平常点は、授業中の発言や貢献度によって決定します。		
到達目標	授業終了段階で日商簿記検定 2 級レベルの工業簿記の問題を解ける。		
授業時間外学習	その週の授業までに、各自でテキストの内容を熟読してください。授業後は、学習した内容に関して、指定した箇所を必ず復習してください。また、余裕があれば指定した箇所以外の問題も解いてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

(1) 本講義では、簿記検定 3 級程度の知識を前提とした講義になるため、そのような知識がなければ講義の理解は困難です。履修者にあたっては、「簿記原理」及び「工業簿記」を履修済か日商簿記検定試験 3 級を取得済であることを強く推奨します。また、講義前の予習及び講義後の復習は必須です。
(2) 電卓、テキスト、ワークブックを(初回の授業を含めて)毎講義に必ず持参してください。
(3) 予習と復習は必ず行ってください。また、学習の効率を高めるため、受講者同士のグループで復習することが望まれます。
(4) 最初の授業で「工業簿記の基礎/工業簿記の勘定連絡」に関する小テストを行います。これは、履修前の受講者の理解を確認するため行うため、成績評価の対象ではありません。ただし、この小テストを受けなければ、原則として単位を認めません。

授業スケジュール

第 1 部 費目別計算と個別原価計算
1．オリエンテーション/ 工業簿記の基礎【テーマ 01】/ 工業簿記の勘定連絡【テーマ 02】
2．材料費【テーマ 03-04】
3．労務費/ 経費【テーマ 05-07】
4．個別原価計算【テーマ 08-09】
5．部門別個別原価計算【テーマ 10-11】
6．これまでの復習(受講者の苦手論点の整理)
第 2 部 総合原価計算
7．総合原価計算（1）【テーマ 12-13】
8．総合原価計算（2）【テーマ 14】
9．組別総合原価計算/ 等級別総合原価計算【テーマ 16】
１０．これまでの復習(受講者の苦手論点の整理)
第 3 部 原価管理と原価計算
１１．標準原価計算（1）【テーマ 18】

１２．標準原価計算（2）【テーマ 19】 １３．直接原価計算（1）【テーマ 20】 １４．直接原価計算（2）【テーマ 21】 １５．総復習(重要論点の整理)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J30196001
科目名	広告ビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advertising Business Studies		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
授業概要	企業や行政、団体や NPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPO の広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008 年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995 年		
教育方法	毎回、プリントなど、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意し、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞するなど、具体的な題材をもとに講義をすすめる。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	日常生活でふれるさまざまな広告・広報について、消費者としてだけでなく、企業や行政など発信主体の立場から、マーケティングやコミュニケーション戦略の一環としてとらえられるようにする。		
授業時間外学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）日常生活で接するさまざまな広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
CM や広告を眺めることに労力はいらないが、送り手の立場に立ち、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業ではその双方の立場に立ち、さまざまな広告表現を読み解き、批評し、ビジネスの主体の立場を想定しつつ自ら構想する努力が求められよう。			
授業スケジュール			
第 1 回　開講にあたって 第 2 回　広告広報とは何か？　マス・コミュニケーションのさまざまな発信主体 第 3 回　広告の定義／その類似概念（宣伝／広告／PR／パブリシティ） 第 4 回　宣伝（プロパガンダ）と広告 第 5 回　宣伝とメディア・リテラシー／授業内レポート 第 6 回　宣伝・広報の媒体（１）：人にふれるもの、すべてがメディアになる 第 7 回　宣伝・広報の媒体（２）：放送メディア／印刷メディア 第 8 回　宣伝・広報の媒体（３）：インターネットほか 第 9 回　ブランド商品の誕生と広告 第 10 回　市場情報システムとしての広告：市場情報のコストは誰が負担するか？ 第 11 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（１）コカ・コーラ CM 等 第 12 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（２）ビール類 CM 等 第 13 回　広告広報のキャンペーンはこんなふうに展開される：日清食品・カップヌードル CM 等 第 14 回　広告広報の課題／授業内レポート 第 15 回　今後の展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J30201A01
科目名	国際経営論A	単位数	2
科目名（英語表記）	International Management A		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	
授業概要	This curse focus on competitive strategy and how Japan can compete in this global competition. Using Case Method (Harvard Business School) and appropriate reference book (presented at each session), and Students to expect to analyze the competitive strategy of Japanese industries and how each student survive in this market. Logical thinking and presentation skill should be accomplished during this course. No test is requested, Expected to summarize their own analysis at the final presentation. 当講座は日本を取り巻く競争社会においてどのように日本経済、日本産業が生き残る競争戦略を策定するかを議論する。その中で学生諸氏がいかに生き抜くかを分析し、最終プレゼンを策定するものとする。HBSのケースメソッドを活用、試験は行わないが学生は講義を通じて論理的思考、並びにプレゼンテーション能力も養うことができる。		
教材（教科書）	Handout and Case should be distributed at the each session, upon topic at each session (How Japan Compete? Sony, Apple, Google etc.)　毎回の講義の内容に即し、毎回提示する。		
教材（参考資料）	Strategy Rules (By David B.Yoffie and Michael A. Cusumano, Harper ISBN 978-0-06-237-395-3)		
教育方法	Never to excuse your life, Never to be late, Never to cheat/short cut.　All students should be communicated by faculty, one by one. 授業は講義法と学生によるプレゼンテーションを中心に行われる。言い訳を言わない、今からでも遅くない、ごまかさない。 全ての受講生は教官により認識されコミュニケーションが取られる。		
評価方法	50% Class contribution, 35% Last presentation, 15% Quiz at the each session		
到達目標	学生は自己マネジメントのための戦略は？を説明できるようになるとともに、コミュニケーション、論理的思考、マナー、基礎的語学、会計知識を身につけることをができる。		
授業時間外学習	Quick quiz should be distributed at the each session and Students should submit before the next session. Expected to spend 20-30 minutes each and send by e-mail. 毎回次回の Quiz が提示されるので、学生は次回講義の期限までにメールで提出することとなる（想定毎回 20-30 分活用）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
Be Humble, Be Hungry, Be Innovative			
授業スケジュール			
1．Orientation, Goal Setting / オリエンテーション、目標設定 2．On Global Economics / 現状世界経済分析 3．On Global Politics / 現状地政学分析 4．History of Heisei / 平成年代で何が起こったか？ 5．Case Sony / ケース　ソニー 6．Case Seibu, Tokyu / ケース　コクド、東急グループ 7．Case Silicon Valley / ケース　シリコンバレー 8．Midterm Review / 中間報告 9．How Japan Compete? / マイケルポーターの提言分析 １０．Issue Tree Analysis 1 / イッシューツリー分析 1			

１１. Issue Tree Analysis 2 / イッシューツリー分析 2

１２．On Presentation　プレゼンテーションとは？

１３．Case, Most requested topics 受講者から一番リクエストあったトピック

１４．Final Presentation 1 最終発表 1
１５．Final Presentation 2 最終発表 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	–	–	★	–	★★

年度	2018	授業コード	J30226001
科目名	女性経営者論	単位数	2
科目名（英語表記）	Women Own's Businesses		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
授業概要	近年、新規開業率が低下している中、女性が経営する企業は増加し、従来の男性経営者とは違った発想や支店を持つ女性経営者の活躍が注目されている。女性経営者の増加の背景、社会的役割、その経営の特徴を知り、企業経営の多様性を理解する。 女性経営者の特徴として、①生活に密着した視点、属性にとらわれない豊かな人脈、③地域や教育機関等との連携、④ＩＴ化や国際化によるビジネスチャンスの獲得、等が挙げられる。それぞれの事例を基に学ぶことによって、新しい視点や経営について理解できる。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	毎回レジュメプリントと資料を配布する。		
教育方法	講義法で授業は進められる。 授業は講義法に主に基づくが、配布資料及びＤＶＤ教材も活用し、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	各回授業の最後に行う小レポート（50%）・授業内テスト（50%） テストでは授業の理解度の確認問題や課題を考え論理的に記述する。		
到達目標	１．女性経営者の増加の背景とその経営の特徴を説明できるようになる。 ２．企業経営に必要な幅広い視点を持つ重要性を説明できるようになる。 ３．属性にとらわれない人材活用の意味と効果について説明できるようになる。 ４．女性経営者の果たす社会的意義について説明できるようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に課題を指定するので、それに関わる情報をインターネットや新聞等で読んでおくこと。 １．２．　女性経営者についてのイメージを書きだす ３．４．　身近な働く女性について男性との違いを考えておく ５．６．　次回の授業テーマに沿ったキーワードをピックアップする ７．８．　次回の授業テーマに沿ったキーワードをピックアップする ９．１０．　次回の授業テーマに沿ったキーワードをピックアップする １１．１２　次回の授業テーマに沿ったキーワードをピックアップする １３．１４　興味のある海外の女性経営者の経歴を調べる １５．　全体を通して復習しておく		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。
積極的に授業に参加してもらいたい。
女子学生だけでなく、男子学生の受講を期待する。

授業スケジュール

1 .女性経営者の社会的役割と現状
2. 女性経営者増加の背景と女性の働き方
3. 女性経営者の競争優位性
4. 新規開業者に見る女性経営者の特徴と課題
5. ケーススタディ　事業機会の認識
6. 〃　起業プロセス
7. 〃　資金調達
8. 〃　マーケティング
9. 〃　人材活用

10. 女性が中心となるＮＰＯ
11. ＳＯＨＯと在宅ワーク
12. アメリカの女性経営者
13. ヨーロッパの女性経営者
14. アジアの女性経営者
15. 女性経営者に関わる課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J30230001
科目名	商学	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	商学はビジネスの基本となる知識を習得するための講義です。 経営学とマーケティングが中心となりますが、財務諸表や企業のファイナンス（お金の調達）についても基本的なことを学びます。 この講義を受けることによって、当たり前に存在しているように見える企業が、大企業であれ中小の企業であれ、日々、時間に追われながら業務をこなし、時代の変化に対応していかなければならないことが深く理解できるようになります。 社会に出るとなぜ厳しいのか、働くためにはなぜがんばらなければならないのかがわかります。社会や企業で生き抜いていくためには、この講義や他の講義で学ぶ知識がなぜ必要である理由もわかるでしょう。 今後の就活のエントリーシートの記入や面接の際に、何を書き何を言うべきかを今から準備するために必要な知識が得られる講義です。		
教材（教科書）	柳井正『経営者になるためのノート』2015 年　PHP　￥1,204		
教材（参考資料）	適宜、リアルタイムに掲載される記事などの資料を配布します。		
教育方法	（1）教科書を中心に進めます。本文を読みながら、出てきた言葉から商学のテーマを引き出して講義します。 →従って、教科書は毎回携帯し、ボロボロになるまで書き込んで使ってもらいます。 （2）商学のテーマについてはパワーポイントで講義します。 （3）企業経営、ファイナンスに関する経済番組の映像を視聴する時間も取り入れてリアルに理解できるようにします		
評価方法	（1）レポート課題を出します（70%） （2）授業における参加と貢献の度合いを評価します（30%）		
到達目標	（1）ビジネスがなぜ厳しいのかを心から理解して話すことができるようになる （2）経営学、マーケティング、ファイナンス、財務諸表について、一通りの理解をし、次のステップに進めるだけの基礎力を身に着けることができる		
授業時間外学習	各回の予習として、以下に指定する箇所を読んで授業に臨んでください。 第 3 回　第 1 項　p10-13 第 4 回　第 2 項　p14-22 第 5 回　p48-56 第 6 回　p10-14 第 7 回　p10-14 第 8 回　p32-35, p81-85 第 9 回　p36-41, p66-71 第 10 回　　p86-99 第 11 回　p26-31, p42-47 第 12 回　p104--115 第 13 回　p72-80 第 14 回　p116-128 第 15 回　p144-164		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」について評価します。 ●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加）、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。 ●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、 2 回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。			

●私語は厳しく注意します。場合によっては座席を変更します。
●（就活に関係するなど特別な場合を除き）スマートフォンの電源は授業の始まり時に切ってもらいます。電源を切れない場合は授業の初めに講師まで申し出てください。
●授業をよりよく理解するためには、日本経済新聞、日経ビジネス（雑誌）、テレビ東京系列のワールドビジネスサテライト（月-金 23:00～）にできる限り接しておくことをお勧めします。

授業スケジュール

【第 1 回　オリエンテーション】
商学とは何か。ひとつの入り口としてユニクロや G.U.を展開するファーストリテイリングがどのような業態であり消費者がメリットを受けることができるかを知り、商業について興味を持つことができる。
【第 2 回　企業とは何か】
企業はあたりまえにあるものではなく、経営者の意図と資本家の資金を元にビジネスを展開することから始まる。株式会社の成り立ち、成長の必要性、企業のミッションなどについて理解することで、企業のダイナミックな存在について知ることができる。
【第 3 回　ビジネスとは何か】
商人と評論家と慈善家はそれぞれ狙いをもって社会と関わり、自らの達成感を得ながら社会を良くしようとしている。それぞれどのような役割を持ち、とりわけ商人はどのような人でなければならないか、新たな認識を持つことができる。
【第 4 回　商品やサービスを提供する企業】
ビジネスの川上にある企業について、どのように利益を挙げているのかを理解する。売上だけでなく、コストや時間制約も含めて、どのように売上を高め利益を作るのかをいくつかの業界について理解する。
【第 5 回　流通業】
メーカーと消費者をつなぐ役割を持つ流通業の役割と利益について考える。コンビニ、スーパー、百貨店、ショッピングモールについてそれぞれのビジネス上の特徴をふまえて、流通の果たす役割を理解する。
【第 6 回　消費者】
消費者とはどのような人々なのか。セグメンテーションによってどのように消費者像（ターゲット）が作られるのかの実際を知ることで、消費者であった自分が実は企業にコントロールされていたことを知り、驚くことになる。
【第 7 回　イノベーション】
企業は漫然と同じことを繰り返すことはなく、日々存続をかけて変革に取り組んでいる。その結果がイノベーションとなる。イノベーションによって商品が改良されて競争力を発揮し、新商品が生まれて新たな利益を生む。なぜ、社会が厳しいのか、その根本の姿を見ることができる。
【第 8 回　組織と人材】
イノベーションを生むための組織はどうあるべきか。経営者層のリーダーシップや社員のモチベーションを高めて企業の競争力を生み出すための組織と人材を知ることで、これから就職するにあたって何を学ぶべきかを自覚できるようになる。
【第 9 回　顧客志向】
企業が最も重視するのは顧客志向である。企業がマーケティングを取り入れているのも顧客の満足を高め企業のファンを作るためである。企業がどれほど顧客を重視し、そのためにどのような対応をしているのかを知ることで、なぜ優れた企業が利益を挙げ続けられるかを知ることができる。
【第 10 回　売上と利益】
利益はどのように生まれるのか。売上を増やす方法とコストを削減する方法がある。
さらに大きな利益を挙げるためには、企業は借入を行って事業を拡大することが必要なこともある。また、最近問題になっている企業の内部留保はどのように活用すべきなのか。
決算書の基本的な読み方を学ぶといかに企業が借金をしているかに驚き、企業会計の実態を知ることになる。
【第 11 回　成長論】
企業は成長しなければならない。それはなぜなのか。成長するためにはどうすればよいのか。アンゾフやボストンコンサルティングの PPM を基礎知識として、成長の必要性を学んだうえで、最近の企業の在り方や官庁、NPO の役割についても成長論の視点から思考実験を行う。
【第 12 回　組織論】
企業の仕事の多くは組織で行う。個人プレーと組織の仕事はどのように異なるのか。チーム作業に欠かせない「信頼」はどうすれば生まれるのか、多様性を認めると組織の力がなぜ強くなるのかを学び、自身の人間関係の強化に結び付けてほしい。
【第 13 回　働き方革命】
組織の中で自己実現することは可能か。内発的な動機付けによって仕事を行う「クリエイティブクラス」を一つのモデルとして

知り、これからの就活で活用してもらう。
その一方で、仕事に全身全霊を傾けるモーレツな経営者の考え方と、そうしなければ生き残れない企業の現実を知り、自分なりの働き方のイメージを形成できるようになる。
【第 14 回　ビジョナリー・カンパニー】
企業にとって最終的に重要なのは利益である。しかし、長期的に利益を最大化するためには、利益を少なくしてでも売上を高めて業界内のシェアを高める戦略が有効な時代もあった。しかし、利益以上に企業のミッションの達成を重視する企業が、最終的には高い利益を挙げているという見方もある。ミッションと売り上げと利益をめぐる企業経営の考え方を学び、今の時代にはどの考え方が最もフィットするかを具体的な企業を通じて議論する。
【第 15 回　マイケル・ポーターの CSV】
これからの企業のミッションは何になるか。また、これからの消費者は何を買うのか。その二つのベクトルの焦点にあるのが「社会の課題を解決するビジネス」であり、マイケル・ポーター教授が CSV として提示したものである。今のビジネスが流れている大きな方向を理解し、本筋に沿った人生のキャリアデザインができるようになる。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J30231A02
科目名	商業簿記Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Bookkeeping for a Commercial Firm I		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	企業の経営活動の記録は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として企業の成績表ともいえる決算書(財務諸表）が作成される。現在の会計事務はほとんどコンピュータ処理されているが、取引情報をインプットする場合には、人間の手と頭によらざるを得ない。その際には、「複式簿記」の技法と理論に関する理解が求められることになる。 このような観点から、本講義では、「簿記の基本的原理の習得」をテーマとする。具体的には、日本商工会議所主催の簿記検定試験３級の内容に関する基礎的知識と記帳技法の効率的な習得を図ることに目的が置かれ、前段階科目としての 「入門簿記」と「簿記原理」と合わせて日商簿記３級合格レベルまでの知識を身に付ける。		
教材（教科書）	（１）渡部裕亘・片山　覚・北村敬子　編著 『検定 簿記講義・３級商業簿記』 （中央経済社） （２）渡部裕亘・片山　覚・北村敬子　編著 『検定 簿記ワークブック・３級商業簿記』 （中央経済社）		
教材（参考資料）	適宜指定する。		
教育方法	講義中は日商簿記３級レベルの内容を説明し、問題練習を行い、解説する。		
評価方法	小テスト 20%　　期末試験 80%		
到達目標	教科書の後半の知識点を把握し、それらに関連する日商簿記３級の試験問題を解ける。		
授業時間外学習	講義後指定した資料に基づき必ず自主練習をすること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
重ねる練習が必要ですので、意欲的に行動してください。			
授業スケジュール			
１．貸付金・借入金、未収入金・未払金 ２．立替金・預り金、仮払金・仮受金、商品券・他店商品券 ３．手形の振出し・受入れ、手形代金の取立て・支払い、手形の裏書譲渡と割引 ４．受取手形記入帳と支払手形記入帳 ５．有価証券の取得と売却、利息と配当金 ６．有形固定資産の取得と売却 ７．減価償却 ８．貸倒れと貸倒損失 ９．資本金と引出金、費用とならない税金 １０．収益と費用、収益及び費用の見越し・繰延べ １１．消耗品費の処理 １２．仕訳帳と伝票、３伝票制、伝票から帳簿への記入 １３．伝票の集計 １４．決算と決算手続き １５．財務諸表の作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J30231B01
科目名	商業簿記II	単位数	2
科目名（英語表記）	Bookkeeping for a Commercial Firm II		
担当者名	川端　千暁	旧科目名称	
授業概要	(1) 講義の目的: 簿記は、ビジネス社会における「共通言語」といわれています。したがって、その習得は将来のビジネス・パーソンとしての基礎知識習得のため、有意義でしょう。本講義の目的は、中小企業経営及び会計主任者相当の(商業)簿記の知識を身につけることです。 (2) 講義の概要: 具体的には、日商簿記検定 2 級の商業簿記に関する学習内容を問題演習形式で行います。		
教材（教科書）	(1) TAC 簿記検定講座（2017）『合格テキスト 日商簿記 2 級 商業簿記 Ver.11.0（よくわかる簿記シリーズ)』, TAC 出版。 (2) TAC 簿記検定講座（2017）『合格トレーニング 日商簿記 2 級 商業簿記 Ver.11.0（よくわかる簿記シリーズ)』, TAC 出版。		
教材（参考資料）	講義時に指示します。また、講義資料は web に掲載します。		
教育方法	テキストの練習問題を用いて各論点のポイントのみを復習し、次にワークブックの復習問題を解いていただきます。また、授業の最初には前回の授業内容に関する小テストを行います。この授業は「簿記原理」及び「商業簿記」の履修を前提としているため、教員による詳細な解説（いわゆる講義）は、原則として行いません。		
評価方法	(1) 試験の成績と平常点に基づき、総合的に評価します。 (2) 試験の成績は、小テスト（復習問題）の成績（30%程度）と定期試験（70%程度）の総合成績によって決定します。なお、小テストは出席状況を確認するものではありません。 (3) 平常点は、授業中の発言や貢献度によって決定します。		
到達目標	授業終了段階で日商簿記検定 2 級レベルの商業簿記の問題を解ける。		
授業時間外学習	その週の授業までに、各自でテキストの内容を熟読してください。授業後は、学習した内容に関して、指定した箇所を必ず復習してください。また、余裕があれば指定した箇所以外の問題も解いてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

(1) 本講義では、簿記検定 3 級程度の知識を前提とした講義になるため、そのような知識がなければ講義の理解は困難です。履修者にあたっては、「簿記原理」及び「商業簿記」を履修済か日商簿記検定試験 3 級を取得済であることを強く推奨します。また、講義前の予習及び講義後の復習は必須です。
(2) 電卓、テキスト、ワークブックを(初回の授業を含めて)毎講義に必ず持参してください。
(3) 予習と復習は必ず行ってください。また、学習の効率を高めるため、受講者同士のグループで復習することが望まれます。
(4) 最初の授業で「簿記一巡の手続」に関する小テストを行います。これは、履修前の受講者の理解を確認するため行うため、成績評価の対象ではありません。ただし、この小テストを受けなければ、原則として単位を認めません。

授業スケジュール

第 1 部 商業簿記の基礎
1．オリエンテーション/ 簿記一巡の手続き【テーマ 00】
2．損益計算書と貸借対照表【テーマ 01】/ 商品売買【テーマ 02】
3．現金及び預金【テーマ 03】/ 債権債務【テーマ 04】
4．有価証券【テーマ 05】
5．有形固定資産【テーマ 06 及び 07】
6．リース取引【テーマ 08】/これまでの復習(受講者の苦手論点の整理)
第 2 部 個別論点
7．無形固定資産と研究開発費【テーマ 09】
8．引当金【テーマ 10】及び税金【テーマ 12】
9．外貨換算会計【テーマ 11】
１０．株式の発行【テーマ 13】/ 剰余金の配当と処分【テーマ 14】
１１．決算手続【テーマ 15】/これまでの復習(受講者の苦手論点の整理)
第 3 部 総合論点

１２．本支店会計【テーマ 19】/ 合併と事業譲渡【テーマ【テーマ 20】】 １３．連結会計【テーマ 21 及び 22】 １４．連結会計【テーマ 23】 １５．総復習(重要論点の整理)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J30248002
科目名	情報と職業	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
授業概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（教科書）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考資料）	ウエブサイト： 厚生労働省 白書、年次報告書 http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/ 経済産業省 白書、報告書 http://www.meti.go.jp/report/whitepaper/index.html その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	e ラーニング講義には教室講義との併用と、e ラーニング講義のみで行う講義を組み合わせる。必要とする資料はレポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況等と各回課題による。（30%）,e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
授業時間外学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

授業スケジュール

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等

統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
高卒者と大奏者の評価、採用問題
雇用情勢・経済成長
6．職業意識
自分が望むあるいは目標とする職業
何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について
職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J30248003
科目名	情報と職業	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
授業概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（教科書）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考資料）	ウエブサイト： 厚生労働省 白書、年次報告書 http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/ 経済産業省 白書、報告書 http://www.meti.go.jp/report/whitepaper/index.html その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	e ラーニング講義には教室講義との併用と、e ラーニング講義のみで行う講義を組み合わせる。必要とする資料はレポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況等と各回課題による。（30%）,e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
授業時間外学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

授業スケジュール

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等

統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
高卒者と大奏者の評価、採用問題
雇用情勢・経済成長
6．職業意識
自分が望むあるいは目標とする職業
何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について
職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J30256A01
科目名	情報科学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Science I		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
授業概要	コンピュータを使って問題を解くときには、具体的なものを抽象化した上で、論理を追って考え、それを明確な形で表さなければならない。この問題の解法をアルゴリズムという。アルゴリズムは、流れ図とプログラムに表され、コンピュータで処理される。 この授業は、種々の問題をコンピュータで処理する力を養うため、アルゴリズムと流れ図について理解し、アルゴリズムと流れ図の作成方法、プログラムの作成方法を修得することを目的としている。プログラミング言語として Ruby 言語を使用し、パソコンを用いてプログラムを作成し、実行する。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	高橋・後藤、まつもとゆきひろ監修「たのしい Ruby」SoftBank Creative		
教育方法	パソコンを用いて、実習形式で行う。各講義で配布されるプリントをもとに、アルゴリズムと流れ図を考え、作成したプログラムを実行する。作成したアルゴリズム、流れ図、プログラム等を授業内レポートとして提出する。		
評価方法	授業内レポート（60%）　定期試験（40%）		
到達目標	1．簡単なアルゴリズムが作成できる。 2．アルゴリズムに沿った流れ図が作成できる。 3．流れ図に沿ったプログラムが作成できる。		
授業時間外学習	講義終了後、次回の講義の資料を京学なびにアップロードするので、キーワードや専門用語等を調べておくこと。また、資料に記載されたプログラムを作成し、実行しておくこと。 第 1 回　プログラムの編集方法、プログラムの実行方法 第 2 回　アルゴリズム、流れ図 第 3 回　四則計算の方法 第 4 回　変数、メモリ、データの記憶 第 5 回　入力の方法、出力の方法 第 6 回　処理の分岐の方法、処理の繰返しの方法 第 7 回　一次元配列、要素の表示方法 第 8 回　要素の追加の方法、要素の削除の方法 第 9 回　二次元配列、要素の表示方法 第 10 回　関数、記述の方法、グローバル変数 第 11 回　木構造データ、深さ優先探索アルゴリズム 第 12 回　深さ優先探索の方法 第 13 回　幅優先探索アルゴリズム 第 14 回　幅優先探索の方法 第 15 回　探索アルゴリズム、練習問題		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
2．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。

授業スケジュール

1．情報科学について
2．アルゴリズムと流れ図
3．数のアルゴリズム
4．変数
5．入力と出力
6．基本的な流れ図

7．一次元配列１ 8．一次元配列２ 9．二次元配列 10．関数 11．探索アルゴリズム１（深さ優先） 12．探索アルゴリズム２（深さ優先） 13．探索アルゴリズム３（幅優先） 14．探索アルゴリズム４（幅優先） 15．総括（アルゴリズムとプログラム） 定期試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J6012302C
科目名	専攻演習 （春延長）	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	バイオサイエンスの知識と技術で社会に貢献するためには、当該分野に関する幅広い文献・資料を読み解くことが出来るだけの基礎的な読解力、背景知識、及び英語力が必要である。本演習では、各受講生の課題研究のテーマ、および微生物学・応用微生物学分野一般についての文献・資料を題材に、科学的思考や学術論文の様式について学び、科学英語の読解力を養成することを目的とする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock 微生物学（2003）Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳　オーム社		
教育方法	関連文献をまとめたレジュメを使って，議論する。		
評価方法	・ゼミへの取り組み（50%） ・文献・資料の理解度（25%） ・科学英語の読解力（25%）		
到達目標	1）化学、生化学などの基礎知識、ならびに応用微生物学の専門知識が、創造的な研究活動にどのように応用されるのかを報告する。 2）科学英語の読解力を身につける。		
授業時間外学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講生は教員の指導の下、それぞれの課題研究のテーマに関する文献・資料に基づいてグループでディスカッションを行う。主体的な取り組みを要求する。

授業スケジュール

1） 担当教員による文献・資料の読み方についての講述（1）
2） 担当教員による文献・資料の読み方についての講述（2）
3） 受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料1）
4） 受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料2）
5） 受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料3）
6） 受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料4）
7） 受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料5）
8） 受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料6）
9） 受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料7）
10） 受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料1）
11） 受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料2）
12） 受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料3）
13） 受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料4）
14） 受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料5）
15） 受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料6）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012302D
科目名	専攻演習 （春延長）	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	各自が分析技術・機能性評価技術（原理、用途、操作法など）の紹介およびテーマおよびテーマに付随した文献情報の紹介を行う。また、実験の進捗の報告を行なう。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	ゼミ形式で実施する。		
評価方法	以下で評価する。 発表のための準備状況（20%） プレゼンテーション力（20%） 質疑に対する的確な応答（20%） 質疑への参加度（20%） 平常点（20%）：受講態度など		
到達目標	各自が発表することによって、内容を深く理解する。実験の進捗報告によって、問題点等を理解する。プレゼンテーションにも慣れる。		
授業時間外学習	各自、発表内容を準備し、発表資料とする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
必ず出席すること。発表内容のポイントを理解すること。			
授業スケジュール			
春学期（週 1 回） テーマに関連した項目の調査内容の発表を行なう（質疑応答を含めて 45 分程度、各自 2 回。）。 秋学期（週 2 回） テーマに関連した項目の調査内容の発表を行なう（質疑応答を含めて 45 分程度、各自 2 回。）。 各自の実験進捗（10 分、各自隔週に発表）。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J6012302I
科目名	専攻演習 （春延長）	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	各自が卒業研究で取り組む研究課題を題材に、先行研究の検索と読解、研究課題設定のポイント、フィールド調査やデータ解析の方法論、データの解釈とディスカッション、論文骨子の作成、効果的なプレゼンテーションの手法等に関する基礎知識と応用力を身につけることを目的とする。		
教材（教科書）	授業時に配布する。		
教材（参考資料）	「これからレポート・卒論を書く若者のために」　酒井聡樹 著　（2007 年　共立出版） 「これから学会発表する若者のために」　酒井聡樹 著　（2008 年　共立出版） 「論文の教室　レポート作成から卒論まで」　戸田山和久 著　（2012 年　NHK 出版）		
教育方法	・パワーポイントを用いた講義法 ・学生による口頭発表 ・ゼミ形式のディスカッション、グループワーク		
評価方法	演習への出席状況、中間発表・最終発表の内容、ディスカッションへの参加状況により総合的に評価する。		
到達目標	・先行研究の効率的な検索・収集方法の習得。 ・関連分野の論文読解力と、未解決の課題を発見する能力の涵養。 ・データ解析や論文骨子作成に必要な論理的思考力の習得。 ・効果的なプレゼンテーション技術の習得。		
授業時間外学習	参考文献に挙げた文献を、学期中に熟読しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
文献紹介、中間発表、最終発表等は、決められた期日に必ず行ってください（締切厳守）。また、他人の発表をよく聴き、積極的にディスカッションに参加してください。			
授業スケジュール			
１．はじめに ２．関連分野の論文検索・読解（１） ３．関連分野の論文検索・読解（２） ４．文献紹介（１） ５．文献紹介（２） ６．文献紹介（３） ７．研究テーマの設定（１） ８．研究テーマの設定（２） ９．研究テーマの設定（３） １０．フィールド調査手法の検討（１） １１．フィールド調査手法の検討（２） １２．フィールド調査手法の検討（３） １３．中間発表（１） １４．中間発表（２） １５．中間発表（３） １６．データ解析手法の検討（１） １７．データ解析手法の検討（２） １８．データ解析手法の検討（３） １９．データ解析手法の検討（４） ２０．データ解析手法の検討（５） ２１．データの解釈とディスカッション（１） ２２．データの解釈とディスカッション（２） ２３．データの解釈とディスカッション（３）			

２４．論文骨子の作成（１） ２５．論文骨子の作成（２） ２６．プレゼンテーションの方法論 ２７．最終発表（１） ２８．最終発表（２） ２９．最終発表（３） ３０．最終発表（４）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012302S
科目名	専攻演習 （春延長）	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	大学の集大成である卒業研究をまとめるためには、論文の形式を学び、論理的な思考をする必要がある。 ここでは、それらの力を修得することを目的としている。英語あるいは日本語の論文を深く読み込み、他者への紹介説明を通して、論理的思考力を高め、科学的なものの見方を学び、表現力を高める。 各自の研究テーマの紹介、研究の中間報告、研究の最終段階の報告を行い、その内容についてディスカッションを通して、批判的なものの見方を身に付ける。		
教材（教科書）	発表者が配布するレジメ		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	初めに統計についての演習と講義を行う。 その後は、あらかじめ発表者を講義 1 回あたり 2，3 人を決め、発表者は自分の卒業論文に関連する論文の紹介あるいは、研究計画、研究の中間報告を行う。 発表後は質疑応答を行い、内容理解を深める。		
評価方法	質問の内容や頻度など講義への参加にかかわる平常点（５０％）、発表内容（５０％）		
到達目標	日本語あるいは英語の論文を読解し、人に説明できるようになる。 自分の研究を論理的に組立て説明できるようになる。 自分の研究を文章にまとめられる。 自分の研究結果をわかりやすく図や表にまとめることができる。		
授業時間外学習	論文紹介については、発表の数週間前には論文を選択し、内容を十分に読み込む。 必要に応じて参考文献を読み、必要な知識を学習する。 いつでも研究報告が行えるように、日ごろから結果をノートに丁寧にまとめておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．十分な時間をもって、発表に臨む。
２．失敗を恐れずに、積極的に発表や質問をする。
３．受講態度のみならず生活態度においても、社会人になるという自覚を持って自ら考え行動する。

授業スケジュール

１．研究の基本、研究室のルール
２、３．統計処理の必要性の講義と演習
４．研究論文の実例紹介
５－８．各自の研究テーマの紹介と実験計画の発表
９－１５．日本語あるいは英語論文の紹介
１６－２５．各自の研究テーマの中間報告
２６、２７．研究論文のまとめ方
２８－３０．研究の最終報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012400A
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	生物有機化学研究室の卒業研究では、生理活性天然有機化合物の単離構造決定、合成実験及びフェロモン等による化学生態学的研究や行動科学的研究を主として行う。材料としてはハチ類等の昆虫、ダニ、その他節足動物である。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教員が提示したテーマに沿って、自主的に実験を計画し、実行し、取りまとめる。テーマについては、教員の指導の下、学生自身の提案が認められる場合もある。学生は、大学院生の指導や指示を受けることもできる。		
評価方法	卒業研究論文及び口頭発表で評価するが、日常的な研究態度も評価対象とする。		
到達目標	卒業論文を「緒論、材料及び方法、結果、考察」を含む科学論文として完成させる。		
授業時間外学習	指導者との意思疎通を十分に図った上で、実験前に実施内容を理解し、実験器具、実験材料の準備を行う。安全面に留意して実験を行えるように準備する。また実際のポイントを整理しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎日決められた時間に登校し、周囲の教員や学生とも協調して実験を進める。就活や欠席などの届けはきちんと行い、社会人になるための訓練と認識して節度ある言動をする。			
授業スケジュール			
１－５週　実験テーマの設定 ６－１５週　テーマに関する文献情報や Web 情報の取得、理解 １６－５０週　テーマの取り組み ５１－５８週　卒業論文の作成 ５９－６０週　卒業研究の発表練習および発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012400B
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	卒業研究の課題はバイオサイエンス分野の中でも (1)　生体内・生体外の環境変化に伴う遺伝子の発現・抑制機構に関して，その分子的な基盤を解明する. (2)　ゲノミクス・プロテオミクスによる環境ストレス応答シグナル伝達機構を理解する. (3)　遺伝子やタンパク質の構造と機能解析のための新たな技法の開発を対象にした課題に取り組む. (4)　病気の原因解明や健康の維持に関する課題に分子レベルで明らかにする.		
教材（教科書）	最新の学術雑誌の発表論文や総説などの文献や特許申請書類などを有効に利用する.		
教材（参考資料）	ライフサイエンス分野の学術雑誌，技術書，総説，単行書，バイオ関連公共データーベースなどを利用する.		
教育方法	実験に取り組み結果をまとめる. 関連学会や研究会、セミナーなどに参加する.		
評価方法	卒業研究の課題の把握と理解　(20%), 実験計画の策定　(20%), 実験の遂行と結果　(20%）およびその評価　(20%), 他者からの評価を議論できる能力　(10%), 発表表現能力　(10%）などを総合的に評価する.		
到達目標	新規性を追求して、課題に真摯に向かい、オリジナルな卒業論文として完成させること.		
授業時間外学習	研究進行中に遭遇した失敗を一つ一つ反省し，同じミスをくり返さないように事前に心がけ、準備と対策を整えることを習得すること.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

研究室で求められることは，社会に出ても求められることになります.
大学生活の集大成として与えられた研究テーマに意欲的に取り組むこと.
研究室構成員の一員として，各自が研究活動の遂行と維持に協力し合うこと.
大学院進学希望者は，いつからでも随時個別指導をおこなうので申し出ること.
　各自の進行状況は，随時教員に報告し，事前事後の対策などを議論することで
　各自の課題解決能力を育成することを目指しています.

授業スケジュール

主に以下の内容の研究活動をおこなうので，分担以外の他の研究課題にも相互に理解すること.

1-5.　神経疾患（パーキンソン病など）に関与するシグナル伝達因子の機能解析
6-10.　がん疾患に関与するシグナル因子の機能解析
11-15.　機能性食品成分の機能解析と生体内応答反応因子の探索
16-20.　副作用のない分子標的抗がん剤の開発
21-25.　AGEs(終末糖化産物)による疾患（アルツハイマー病、糖尿病など）メカニズムの解明
26-30.　科学的根拠のある新しい機能性食品の開発
31-35.　タンパク質品管理機構の解明
36-40.　プロテアソーム阻害によるレドックス依存的な細胞死の機構解析
41-45.　異常タンパク質の細胞内機能解析
46-50.　小胞体タンパク品質管理 におけるレドックス制御機構の解析
51-55.　改変タンパク質の機能変化の評価と構造解析
56-60.　ゲノム、プロテオーム解析のための技術評価と開発

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J6012400C
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	微生物機能開発学領域における課題研究を通して、バイオサイエンスの知識と技術を実践的に修得する。環境と調和した物質生産、未利用資源の有効利用、発酵・醸造における微生物の役割と有用微生物の探索といった問題に関して、（1）微生物のスクリーニング、（2）微生物相の解析、（3）微生物機能の代謝／酵素／遺伝子レベルでの解析、といった実験を行う。これらの研究の成果を卒業論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock 微生物学（2003）Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳　オーム社		
教育方法	研究課題を設定し，実験を行う。		
評価方法	課題研究と卒業論文について、 次の点で評価する。 ・研究への取り組み（50%） ・バイオサイエンスの知識と技術の修得度（25%） ・卒業論文の論理性（25%）		
到達目標	1）バイオサイエンスの知識と技術の実践を通して修得する。 2）一定の様式に則り論理的に完結した応用微生物学分野の卒業論文（和文）を完成させる。		
授業時間外学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・微生物機能の開発をテーマとした課題研究に受講者一人一人が取り組む。 ・担当教員の指示に従って実験を行い、その成果を卒業論文としてまとめる。 ・1 年間、全力で努力することを求める。			
授業スケジュール			
担当教員が個別的な研究指導を随時行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	−	★★

年度	2018	授業コード	J6012400D
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	卒業研究では野菜・作物から低分子成分を抽出・単離し、分析技術を駆使して、それらの成分を同定する。機能性評価技術を通して、機能性のプロファイリングを行う。また、新しい機能性評価方法を確立する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教員の指導の下，実験の計画，実行，取りまとめを行う。		
評価方法	卒業研究論文およびその口頭発表で評価する。		
到達目標	卒業論文を「緒論、実験方法、結果、考察」を含む科学論文として完成させる。		
授業時間外学習	実験前に実施内容を理解し、実験器具、実験材料の準備を行なう。また、実験のポイントを整理しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎日９時半に研究室にくること。			
授業スケジュール			
１～５．実験テーマの設定 ６～１５．テーマに関する文献情報や web 情報の取得、理解 １６～５０．テーマの取り組み ５１～５８．卒業論文の作成 ５９～６０．卒業研究の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J60177001
科目名	生物化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biological Chemistry		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	私たちは、毎日、食べ物を食べて、これを消化して吸収し、分解してエネルギーを得るとともに、体を構成している細胞を新しく作り直して、古い細胞と入れ替えている。その細胞の中では、化学反応が常に行われており、私たちの日々の活動を可能にしている。生物の体内でどんな反応が起こり、どのようにして生命が維持されるのかは、私たちの健康や、他の生物の生態を考えるための基本となる事柄である。また、iPS 細胞や遺伝子組換え食品など、私たちに身近な話題になってきたバイオテクノロジーを理解するためにも必要な基本的な事項である。この講義で、生命維持に重要な化学反応の概要を理解することが出来る。		
教材（教科書）	森　誠著「生化学ノート」　講談社　2200 円＋消費税		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	基本的に講義法で行う。内容を補完するためのプリントも配布する。教科書やプリントを色鉛筆で塗ることにより理解を深める。ＤＶＤやパワーポイントも活用する。		
評価方法	期末試験（60%）と小テスト（40%）		
到達目標	１．生命を維持するために細胞内で行われている化学反応を理解する。 ２．iPS 細胞の利用や遺伝子組換え食品の安全性など、バイオテクノロジーの応用について理解し、自分なりの見解を持つことができる。 ３．健康食品やサプリメントなどの効果について、自分なりに判断できる。		
授業時間外学習	復習をしっかりと行い、基本となる用語を、その日のうちに暗記し理解しておくこと。シラバスに毎回の講義の範囲を書いているので、予習をしておくこと。なお、授業の進行によって、シラバスの記載とのズレを生じたときには、講義終了時に次回の講義範囲を指定する。授業で色鉛筆（12 色）を使用するので持参すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
化学式の苦手な人は、学修支援室を利用するなどして、化学の基本を勉強し理解すること。基本となる用語を暗記すること。高校の「生物」の教科書も参照すること。			
授業スケジュール			
１．化学の基本：原子、分子、共有結合　（教科書 116-121 ページ） ２．生きるために必要な物質（１）： 糖（1-9 ページ） ３．生体をつくる物質（２）： タンパク質、脂質（10-25 ページ） ４．生体をつくる物質（３）：核酸、ビタミン、ミネラル（26-36 ページ） ５．　化学の基本：化学のことば、共有結合の強さ、pH（124-142 ページ） ６．体の中の化学反応：酵素（37-52 ページ） ７．　タンパク質と遺伝子の関係（１）：転写　（53-57 ページ） ８．　タンパク質と遺伝子の関係（２）：翻訳（58-61 ページ） ９．　タンパク質と遺伝子の関係（３）：DNA の複製（62-69 ページ） １０．遺伝子工学（１）：PCR 法（70-71 ページ） １１．遺伝子工学（２）：サンガー法（プリント配布） １２．遺伝子工学（３）：遺伝子組換え技術（72-74 ページ） １３．炭水化物の消化と吸収、糖質代謝（75-87 ページ） １４．脂質とアミノ酸の代謝（88-94 ページ） １５．生命の維持			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60178001
科目名	微生物学Ⅰ -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Microbiology I		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
授業概要	微生物は、食品（発酵・食中毒）、疾病・公衆衛生、農業（堆肥・植物栄養・植物病害）、地球環境（元素循環・廃棄物処理）、バイオテクノロジー（微生物生産・遺伝子工学）に関わる。それ故に、食・農・バイオ産業の従事者ににとって微生物に係る知識・技術は欠かせない。本講義は、微生物の性質と扱いについての全般的な基礎知識の習得を目標として行う。		
教材（教科書）	講義内容をまとめた資料（教科書形式）を配布する。		
教材（参考資料）	『Brock 微生物学』　Madigan MT 他著、室伏きみ子 他訳 オーム社　18,000 円 『標準微生物学』　中込治 他編集 医学書院　7,000 円 『IFO 微生物学概論』　発酵研究所 監修 培風館　4,700 円		
教育方法	講義始めに配布する資料プリントに沿って、スライドを使って講義を進める。プリントは穴埋め式になっているため、学生はスライドを見てキーワードを記入しながら受講する（記入する時間を与える）。		
評価方法	確認テスト 3 回（合計 40%） 定期試験（60%）		
到達目標	1．微生物学の歴史展開を説明できるようになる。 2．細菌・アーキア・真核微生物それぞれの細胞構造の特徴を説明できるようになる。 3．微生物の代謝とその生理的な意味を説明できるようになる。 4．微生物を取り扱う方法（培養・滅菌）を説明できるようになる。 5．微生物による感染症の種類・特徴と、ヒトの感染防御機構を説明できるようになる。		
授業時間外学習	前回までの講義内容を参考文献を活用して復習し、テキストの空欄も全て埋めておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．講義で配布するプリントはテキスト形式になっているため、ファイルに綴じ、大学卒業まで保管・活用してください。
2．本講義では、微生物についての知識を大量に教えるので、それらをしっかり暗記してください。
3．確認テストは 4 択問題の形式で出題しますが、暗記に加えて思考力が必要となります。
4．本講義の知識は、食農基礎実験、食品衛生学実験、基礎バイオサイエンス実験、応用微生物学実験のベースとなります。
5．微生物学ＩＩ、発酵醸造学 A.・B、応用微生物学 A・B を後の学期に受講したい人は、本講義を受講することが望ましいです。

授業スケジュール

1．　微生物学の歴史
2．　微生物の形態
3．　微生物の細胞構造
4．　微生物の栄養と生育
5．　第１～４回の確認テストと解説
6．　微生物の培養と滅菌
7．　微生物の一般的な代謝
8．　微生物の代謝の多様性　1
9．　微生物の代謝の多様性　2
１０．　第６～９回の確認テストと解説
１１．　微生物感染、ヒトの感染防御機構
１２．　細菌由来の感染症
１３．　真菌・原生動物由来の感染症
１４．　ウイルス由来の感染症

１５．　第１１～１５回の確認テストと解説

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60178002
科目名	微生物学Ⅰ -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Microbiology I		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	微生物は、食品（発酵・食中毒）、疾病・公衆衛生、農業（堆肥・植物栄養・植物病害）、地球環境（元素循環・廃棄物処理）、バイオテクノロジー（微生物生産・遺伝子工学）に関わる。それ故に、食・農・バイオ産業の従事者ににとって微生物に係る知識・技術は欠かせない。本講義は、微生物の性質と扱いについての全般的な基礎知識の習得を目標として行う。		
教材（教科書）	講義内容をまとめた資料（教科書形式）を配布する。		
教材（参考資料）	『Brock 微生物学』　Madigan MT 他著、室伏きみ子 他訳 オーム社　18,000 円 『標準微生物学』　中込治 他編集 医学書院　7,000 円 『IFO 微生物学概論』　発酵研究所 監修 培風館　4,700 円		
教育方法	講義始めに配布する資料プリントに沿って、スライドを使って講義を進める。プリントは穴埋め式になっているため、学生はスライドを見てキーワードを記入しながら受講する（記入する時間を与える）。		
評価方法	確認テスト 3 回（合計 40%） 定期試験（60%）		
到達目標	1．微生物学の歴史展開を説明できるようになる。 2．細菌・アーキア・真核微生物それぞれの細胞構造の特徴を説明できるようになる。 3．微生物の代謝とその生理的な意味を説明できるようになる。 4．微生物を取り扱う方法（培養・滅菌）を説明できるようになる。 5．微生物による感染症の種類・特徴と、ヒトの感染防御機構を説明できるようになる。		
授業時間外学習	前回までの講義内容を参考文献を活用して復習し、テキストの空欄も全て埋めておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．講義で配布するプリントはテキスト形式になっているため、ファイルに綴じ、大学卒業まで保管・活用してください。
2．本講義では、微生物についての知識を大量に教えるので、それらをしっかり暗記してください。
3．確認テストは 4 択問題の形式で出題しますが、暗記に加えて思考力が必要となります。
4．本講義の知識は、食農基礎実験、食品衛生学実験、基礎バイオサイエンス実験、応用微生物学実験のベースとなります。
5．微生物学ＩＩ、発酵醸造学 A.・B、応用微生物学 A・B を後の学期に受講したい人は、本講義を受講することが望ましいです。

授業スケジュール

1．　微生物学の歴史
2．　微生物の形態
3．　微生物の細胞構造
4．　微生物の栄養と生育
5．　第１～４回の確認テストと解説
6．　微生物の培養と滅菌
7．　微生物の一般的な代謝
8．　微生物の代謝の多様性　1
9．　微生物の代謝の多様性　2
１０．　第６～９回の確認テストと解説
１１．　微生物感染、ヒトの感染防御機構
１２．　細菌由来の感染症
１３．　真菌・原生動物由来の感染症
１４．　ウイルス由来の感染症

１５．　第１１～１５回の確認テストと解説

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60180001
科目名	京野菜栽培加工実習 -sk	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐藤　隆徳	旧科目名称	
授業概要	京都に在来する野菜を栽培しつつ京都文化を理解する．京都野菜の栽培と加工を通じて生き物を育てることの意義と食生産の重要性を理解する．さらに収穫物を加工し口にすることの意義をフィールドで理解させる．		
教材（教科書）	特に指定しない．		
教材（参考資料）	「図説　野菜新書」　朝倉書店　　「京野菜を楽しむ」　淡交社		
教育方法	−		
評価方法	管理作業状況　70%,　レポート　30%		
到達目標	1．栽培体験を通じて作物の成長変化を具体的に説明できる． 2．栽培技術の初歩および食品加工の具体例について習得してそれらを応用ができる． 3．共食の重要性に討議できる．		
授業時間外学習	農業関係，食関係の書籍を読んでおくこと．特に京野菜の文献「京野菜を楽しむ」,「地方野菜大全」は必ず目を通し関連の作物についてメモをとること．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
多くの学生にとって作物の栽培は初めてであると思うので，努めて畑に通い，その変化を観察することが重要である．また様々な食文化について情報を得るようにする．特に和食については社会が注目しているので，新聞や他のメディアを通じ情報収集するように努力すること．			
授業スケジュール			
1．京野菜のガイダンス 2．土づくりと播種準備，栽培に向けての注意事項 3．うね立てと整地 4．播種 5．畑作業と記録 6．除草中耕 7．間引きと記録 8．追肥・除草と地中温度の測定 9．除草・中耕と土壌中の生き物 10，間引き菜の料理と生体内 11．栽培した根菜類を用いた料理（ 12．畑作業の記録（畑作物の病虫害の観察） 13．京都大学大学院農学研究科附属農場見学 14．加工実習（2）　千枚漬 15．加工実習（3）　実習を終わるに当たってのレポート作成／冬野菜の料理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	J60180002
科目名	京野菜栽培加工実習 -f	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	京都に在来する野菜を栽培しつつ京都文化を理解する．京都野菜の栽培と加工を通じて生き物を育てることの意義と食生産の重要性を理解する．さらに収穫物を加工し口にすることの意義をフィールドで理解させる．		
教材（教科書）	特に指定しない．		
教材（参考資料）	「図説　野菜新書」　朝倉書店　　「京野菜を楽しむ」　淡交社		
教育方法	−		
評価方法	管理作業状況　70%,　レポート　30%		
到達目標	1．栽培体験を通じて作物の成長変化を具体的に説明できる． 2．栽培技術の初歩および食品加工の具体例について習得してそれらを応用ができる． 3．共食の重要性に討議できる．		
授業時間外学習	農業関係，食関係の書籍を読んでおくこと．特に京野菜の文献「京野菜を楽しむ」,「地方野菜大全」は必ず目を通し関連の作物についてメモをとること．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
多くの学生にとって作物の栽培は初めてであると思うので，努めて畑に通い，その変化を観察することが重要である．また様々な食文化について情報を得るようにする．特に和食については社会が注目しているので，新聞や他のメディアを通じ情報収集するように努力すること．			
授業スケジュール			
1．京野菜のガイダンス 2．土づくりと播種準備，栽培に向けての注意事項 3．うね立てと整地 4．播種 5．畑作業と記録 6．除草中耕 7．間引きと記録 8．追肥・除草と地中温度の測定 9．除草・中耕と土壌中の生き物 10，間引き菜の料理と生体内 11．栽培した根菜類を用いた料理（ 12．畑作業の記録（畑作物の病虫害の観察） 13．京都大学大学院農学研究科附属農場見学 14．加工実習（2）　千枚漬 15．加工実習（3）　実習を終わるに当たってのレポート作成／冬野菜の料理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	J60181001
科目名	作物栄養学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
授業概要	高等植物は、一般に光独立栄養生物であり、光と水と空気、土壌から供給されるミネラル栄養を吸収することによってその生活環を完了することができる。本講義では、主に土壌から供給される水やミネラルの吸収メカニズムやそれらの機能について理解することを目的としている。また、作物の栄養として土壌に投入する肥料等の種類や性質、それらを用いた農作物の肥培管理の考え方を理解する。講義はプリント資料を配布して行う。講義３回終了ごとに小テストを実施し、理解度を確認する。		
教材（教科書）	教材（テキスト）　なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	「植物栄養学」第２版　間藤 徹、馬 建鋒、藤原 徹　編 著、文英堂出版 「土壌診断と作物生育改善」土壌医検定２級試験対応、日本土壌協会 「肥料の来た道帰る道」高橋英一著、研成社		
教育方法	講義法及び質問法		
評価方法	受講態度(飲食や携帯電話使用、私語など不適切な態度をとらない)10% 小テストの理解度判定 30%、定期試験 60%		
到達目標	①植物が必要とする栄養成分や、体内での物質代謝について説明できる。 ②農作物の肥培管理の考え方を説明できる。		
授業時間外学習	毎回の講義後にプリントとノートで復習し、不明な点は提示した参考書などで該当する部分を読んで、理解を確かなものにしておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
植物の栄養確保の方法や、確保した栄養の体内代謝に関する基礎的な知識を学び、それらの知識に基づいて肥培管理技術が開発されてきたことを学んでほしい。			
授業スケジュール			
１　農作物の栄養特性　～肥料の科学史と植物栄養～ ２　光合成と呼吸　～養分吸収のためのエネルギー生産～ ３　植物の必須元素（１）　窒素 ４　植物の必須元素（２）　リン、カリウム 、マグネシウム、イオウなど ５　植物の必須元素（３）　微量必須元素、有用元素 ６　養水分の吸収・移動と養分の過不足　～植物による栄養の吸収と循環～ ７　作物の栄養志向　～作物が好きな養分、嫌いな養分～ ８　不良土壌への植物の対応　～困難な状況でも、がんばる植物～ ９　土づくりと肥料の役割　～生産性向上と環境保全～ １０　肥料の種類と性質（１）化学肥料　～すばやく摂取できる栄養～ １１　肥料の種類と性質（２）肥効調節型肥料　～効率良く摂取できる栄養～ １２　肥料の種類と性質（３）有機質肥料　～ゆるやかに摂取できる栄養～ １３　土壌改良資材と有用微生物　～土壌環境を改善する・整える～ １４　土壌診断と作物栄養診断　～より良い処方箋づくり～ １５　施肥設計の実践　～作物の栄養摂取のレシピづくり～			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60182001
科目名	分子生物学演習 …春第二期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	バイオサイエンス分野では日々新たなバイオ技術が使われ，今日のバイオ産業に発展を担ってきました． 本講義では，それぞれの技法の基本的なコンセプトを理解することで，技法を習得することで，将来の応用力の基礎を身につけることを目指しています． 生体高分子であるタンパク質と核酸の分子性状と特性を把握し，種々の応用実験の原理と活する展開を理解できる課題に取り組み，種々のタンパク質に対応できる技術基盤とあらゆる生物の遺伝子資源を活用できる		
教材（教科書）	特定の教科書は指定しない． 必要に応じて，専門実験の分子生物学実験の実験指導書を利用し，適宜プリントも配布する．		
教材（参考資料）	分子生物学分野の最新技法の理解を深めるのに必要な参考図書や実験技法のビデオライブラリーなどは，バイオ環境館・図書室内に推薦参考図書・ビデオなどを，閲覧活用できるような利便を図っている．		
教育方法	毎回の実験開始前にパワーポイントやビデオ教材などを用いて説明し、質問を受けた後に演習を行う。		
評価方法	必修の演習であり，全回出席しなければならない． 成績の評価は，以下に示す内容を考慮し，総合的に評価する． ・演習課題の達成度(70%) ・演習中の評価・実験ノートやレポートの課題の評価(15%) ・実験課題の発表会の発表(15%)		
到達目標	以下の 5 項目を重点的な達成目標とする． ・演習課題の理解・解決の達成 ・実験に必要な試薬濃度などの計算演習の習得と実験結果の整理法の把握 ・実験機器の操作手順と注意事項の把握 ・実験成果のプレゼン・スキルの習得 ・研究グループ内のコミュニケーションによる意思疎通の徹底		
授業時間外学習	事前に演習内容を把握しておくこと． 履修する前に配布してある実験手引書の指定日時の実験前に、実験を理解するうえで重要な原理・原則の項目をしっかり精読し、自分の実験ノートに実験の目的と実験目標となる技能をしかっり認識して実験講義に臨むこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
遅刻は安全な実験を行う上であってはならないことである．開始前の注意事項や連絡事項をメモする機会であるから，しっかりメモする習慣も身につけること．午後の始めにある演習であることから，自己の体調管理をしっかりして臨むこと． 理解が十分でない点は，積み残さないで，演習担当者から早めに演習を受けること			
授業スケジュール			
1.　　分子生物学演習のガイド			

2.	実験結果の精度と誤差および統計処理について
3.	緩衝液の原理とｐＨの理解
4.	タンパク質の等電点とアミノ酸組成について
5.	イオン交換クロマトグラフィーの原理
6.	ゲルろ過クロマトグラフィーの理解
7.	アクリルアミドゲル・アガロースゲルの理解
8.	電気泳動・遠心力による生体高分子の分離原理の理解
9.	検量線作成の基本と理解
10.	分子量の求め方について
11.	PCR 反応や酵素反応の反応特性の理解
12.	遺伝子組換え操作と制限酵素や修飾酵素の理解
13.	遺伝子選別の原理と遺伝子発現制御機構の理解
14.	測定機器の操作と原理の理解
15.	測定器具の操作と原理の理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★★	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J60183001
科目名	有機化学演習 …春第一期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	有機化学実験を実施するにあたり、必須事項である有機化合物の性質、安全な取扱い方法、実験器具や機器についての正しい使用法等を演習形式で習得する。また、有機機器分析法の基本概念や、生物試験の特徴を習得する。合わせて、実験ノートや報告書の作成についての演習を行う。		
教材（教科書）	有機化学実験指示書、配布資料, 関数電卓、分子模型		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	有機化学実験実施の事前教育として、実験内容について指示書とパワポを使って解説する。		
評価方法	レポート、小テストの成績(70%)、受講態度(30%)等を考慮に入れ総合的に評価する。		
到達目標	有機化学実験の目的と内容、手順を理解すること。実験結果の整理、解釈、考察が適切に出来ることを目標とする。		
授業時間外学習	指示書、配布資料を熟読して、有機合成化学実験にかかわる知識、手順を整理しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本演習は有機合成化学実験をスムーズかつ効果的に実施するために必要な知識や手順を体得するためのものである。本演習を受講しない学生や遅刻した学生には安全対策の観点から実験の履修を認めない。

授業スケジュール

1）　有機合成化学、安全教育
2）　酸化反応、甘味料
3）　実験ノート、実験報告書の作成
4）　バイオアッセイ　（甘味試験他）
5）　光学異性体の旋光度測定
6）　光学分割
7）　光学異性体と天然物
8）　光学異性体と不斉合成
9）　置換反応、植物生長調節剤の用途、農薬
10）　有機反応機構
11）　バイオアッセイ　（植物試験他）
12）　クロマトグラフィー
13）　Ｗｉｔｔｉｇ反応と炭素－炭素結合形成反応
14）　有機機器分析Ⅰ
15）　有機機器分析Ⅱ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76D01BBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，紹介する．		
教育方法	−		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につける．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
授業スケジュール			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01BCC
科目名	【院】バイオ環境特別演習II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，紹介する．		
教育方法	－		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につける．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
授業スケジュール			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01BDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，紹介する．		
教育方法	－		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につける．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
授業スケジュール			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01BEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，紹介する．		
教育方法	－		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につける．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
授業スケジュール			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01BFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，紹介する．		
教育方法	－		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につける．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
授業スケジュール			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01BGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，紹介する．		
教育方法	－		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につける．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
授業スケジュール			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J90196003
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
授業概要	この専門ゼミでは、2 年後の卒業論文作成を最終ゴールにする。テーマとしては、健康・運動（身体活動）・栄養・体力・エイジング等をキーワードにした課題を考えている。 具体的には、専門ゼミ A では、最初は、ぜひとも読んで欲しい文献を紹介するので、論文の概要をレポートにまとめる。これを何回か繰り返し、次は、自分の興味ある領域から文献を探して、それをしっかり読み込んで、論文の概要、意義や課題をレポートにまとめる。また、地域に出向き、高齢者の調査や測定会に参加し、体力や筋量、身体活動量等の測定や対象者への対応について実習する。この実習は、卒業研究の実践的方法論を学修するだけではなく、将来、現場で使えるテクニックを身につけることにもつながる。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	適宜		
教育方法	自分で調べて発表したり、現場に出かけて調査・測定に参加するなど、自らが動いて学修をすすめる演習授業。		
評価方法	レポートや発表を通して総合的に評価する。		
到達目標	1）文献の概要をまとめることができる。 2）興味ある領域の文献検索ができる。 3）調査や測定に参加し、参加者への対応や方法論を学ぶ。 上記を行いながら卒業研究への扉を開く。		
授業時間外学習	文献は必ず前の時間に渡すので読んでから授業に参加する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義には毎回出席し、意欲的に取り組んで欲しい。
研究を難しく考えないで、“なんでやろう”の気持ちが大事。
身近なところで”なんでやろう”を探して欲しい。
よい論文をいっぱい読もう！
機会があれば、研究者の研究に積極的に参加し、研究現場の体験を積もう！
いつでも必ず自分の意見を発表しよう。

授業スケジュール

1. 専門ゼミをはじめるにあたり（ぜみとは、研究とは？）
2. 研究における文献の役割
3. 文献を読む・レポートにまとめる
4. 文献を読む・レポートにまとめる
5. 文献を読む・レポートにまとめる
6. 文献を読む・レポートにまとめる
7. 文献を読む・レポートにまとめる
8. 地域高齢者の測定・事前学習
9. 地域高齢者の測定参加
10. 地域高齢者の測定参加
11. 地域高齢者の測定・反省・まとめ
12. 現時点での関心あるテーマについて
13. 現時点での関心あるテーマについて
14. 現時点での関心あるテーマについて

15.まとめ（卒論テーマへ）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90196004
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミAでは、３・４年次の専門ゼミA～Dを通して取り組む卒業研究に関して、まず文献検索・論文の読み方・まとめ方、発表・論議の仕方等、基本的なアカデミックスキルの学びと実践を通して、研究活動に必要な能力・進め方について修得できる。　具体的には、動作の仕組みや、体力・トレーニング・コンディショニングに関する基礎知識を再確認し、続いて、自ら興味・関心のある課題についてゼミ生全員と調査・まとめ・発表・論議を繰り返して課題を深めることにより、研究に関する見方・考え方を深めることが出来る。		
教材（教科書）	特に指定はない。 授業において適時紹介するとともに、資料を配布する。		
教材（参考資料）	特に指定はない。 授業において適時紹介するとともに、資料として配布する。		
教育方法	ゼミ生が輪番で発表することを原則とする。 パワーポイントの活用と資料配布による講義法とグループディスカッションを組み合わせて授業を行う。		
評価方法	授業における発表レポート（50%）、プレゼンテーション能力（30%）、受講平常点（20%）		
到達目標	健康・体力・トレーニング・コンディショニングに係わる知識を修得するとともに、課題に対して具体的に説明できる。		
授業時間外学習	・発表を担当する学生は、１週間前に発表内容の資料を作成し、教員・ゼミ生に配布する。 ・ゼミ生は配布された資料を事前に読み、ゼミ発表時の質問内容を事前にまとめておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール

・遅刻や私語・寝ることは厳禁とする。授業中携帯の使用は厳禁とする。これらのことが過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退室を求めることがある。

学習上の助言

・自ら進んで学ぶ姿勢で臨むように。その姿勢ない場合、面倒を見ることが難しい。
・ゼミでの発表等を担当する場合、しっかりと準備し、自信を持って発表する。
・ゼミ生はお互い助け・支え合い、何事も積極的に協力し合う。
・人前で話し行動することを積極的に心掛けなければならない。
・ゼミ活動は全出席を目標とする。

授業スケジュール

ゼミ生の人数を 10 名（１回に２～３名）程度として計画する。

1．　ゼミガイダンス：運営方針の説明、ゼミ生の役割
2．　解説①：「身体活動の成り立ちと身体諸能力の測定・評価について」
3．　解説②：「運動処方の基本的考え方について」
4．　第１回調査・研究課題発表と論議　①
5．　第１回調査・研究課題発表と論議　②
6．　第１回調査・研究課題発表と論議　③
7．　アカデミックスキルに関するポイントおよび実践についての解説と一般教養対策　①
8．　第２回調査・研究課題発表と論議　①

9.　第２回調査・研究課題発表と論議　②
10.　第２回調査・研究課題発表と論議　③
11.　アカデミックスキルに関するポイントおよび実践についての解説と一般教養対策　②
12.　第３回調査・研究課題発表と論議　①
13.　第３回調査・研究課題発表と論議　②
14.　第３回調査・研究課題発表と論議　③
15.　専門ゼミＡの総括と専門ゼミＢに向けての課題解説と一般教養対策　③

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90196005
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
授業概要	一般の人々に健康・体力づくりや生活習慣病の予防のためには運動が大切であることを伝え、安全で効果的な正しいトレーニング方法を指導していくことは健康スポーツの専門家としての重要な使命のひとつであり、わたしたちが大きく社会貢献できる可能性のある分野である。 本演習では、健康体力科学に関する文献資料を収集して発表することによって理論をより深く学び、各自が興味のあるテーマについて研究計画を立案・遂行し、卒業研究論文としてまとめ、研究成果を発表する。これと並行して、一般人を対象とした体力測定の企画・運営に参加したり、一般人を対象とした健康づくりのための運動指導法（理論・実技）について学修し、GFI、健康運動実践指導者、健康運動指導士の資格取得を目指す。 将来、スポーツクラブやフィットネスジムで活動するインストラクターやトレーナー、健康増進施設や医療機関併設の運動施設等での一般人を対象とした健康体力づくりの運動指導者を目指している人向けの実践的内容を含む。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	必要に応じて資料を配布して授業を行う。グループワークや実習を含む。		
評価方法	ゼミの活動への取り組み（参加態度、発表・発言、等）、レポートの総合評価		
到達目標	一般人を対象とした体力測定の企画・運営に参加したり、一般人を対象とした健康づくりのための簡単な運動指導ができる。		
授業時間外学習	分担して発表を行うので、自分の担当部分をしっかり予習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
目的意識を持って、ゼミの活動に積極的に取り組むこと。			
授業スケジュール			
１．ゼミの概要説明と今後の計画について ２．健康（理論・実技）運動指導法１ ３．健康（理論・実技）運動指導法２ ４．健康（理論・実技）運動指導法３ ５．健康（理論・実技）運動指導法４ ６．健康（理論・実技）運動指導法５ ７．健康（理論・実技）運動指導法６ ８．健康（理論・実技）運動指導法７ ９．健康（理論・実技）運動指導法８ １０．健康（理論・実技）運動指導法９ １１．健康（理論・実技）運動指導法１０ １２．健康（理論・実技）運動指導法１１ １３．健康（理論・実技）運動指導法１２ １４．健康（理論・実技）運動指導法１３ １５．健康（理論・実技）運動指導法１４			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J90196006
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
授業概要	健康・スポーツビジネスの実践における健康フィットネス企業、スポーツ製造・物販企業、スポーツ指導関連企業、プロスポーツビジネス企業、スポーツイベント関連企業、体力重視専門職等の事例を調査し、それらの概要及び実態、人材活用についてプレゼンテーション（個人調査発表）を行う。		
教材（教科書）	資料随時配布		
教材（参考資料）	図とイラストで学ぶ新しいスポーツマネジメント　山下秋二ら編著（大修館書店）		
教育方法	講義・リサーチ・フィールドワーク・プレゼン等の形式。		
評価方法	出席、毎回の進捗状況報告と調査発表での総合評価。		
到達目標	健康・スポーツビジネスの企業実態及び人材活用を知る。		
授業時間外学習	①スポーツマネジメントに関する情報収集（ネット記事、新聞記事、専門誌、専門書籍等）に努める ②スポーツマネジメントの関連書籍を積極的に読破する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①自己都合による遅刻・無断欠席は厳禁
②積極的な提案、行動力、問題解決思考を要望
③ゼミ員間の協調性にも意識努力する事を要望

授業スケジュール

1. 健康・スポーツビジネスの実践基礎調査１（健康フィットネス企業：事例１）
2. 健康・スポーツビジネスの実践基礎調査２（健康フィットネス企業：事例２）
3. 健康・スポーツビジネスの実践基礎調査３（スポーツ製造・物販企業：事例１）
4. 健康・スポーツビジネスの実践基礎調査４（スポーツ製造・物販企業：事例２）
5. 健康・スポーツビジネスの実践基礎調査５（スポーツ指導関連企業：事例１）
6. 健康・スポーツビジネスの実践基礎調査６（スポーツ指導関連企業：事例２）
7. 健康・スポーツビジネスの実践基礎調査７（プロスポーツビジネス企業：事例１）
8. 健康・スポーツビジネスの実践基礎調査８（プロスポーツビジネス企業：事例２）
9. 健康・スポーツビジネスの実践基礎調査９（スポーツイベント関連企業：事例１）
10. 健康・スポーツビジネスの実践基礎調査１０（スポーツイベント関連企業：事例２）
11. 健康・スポーツビジネスの実践基礎調査１１（体力重視専門職：事例１）
12. 健康・スポーツビジネスの実践基礎調査１２（体力重視専門職：事例２）
13. プレゼンテーション１（個人調査発表）
14. プレゼンテーション２（個人調査発表）
15. プレゼンテーション３（個人調査発表）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J90196007
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
授業概要	深刻化している高齢化社会では、積極的な健康寿命の延伸に向けた取組みが進められている。健康スポーツ関連分野でも、「生活習慣病・運動器症候群・認知症などの健康寿命の阻害因子に対する運動の有効性」の普及活動と「安全で効果的な運動指導の確立」が求められるが、これらには科学的な証拠や根拠を示す必要があり、健康やスポーツに関連する分野で活躍する人材は、科学的な知識・理解力・思考力が必須であると考えられる. 「専門ゼミ A」では「健康寿命とその阻害因子」に関して個々に興味のある領域を決定し、関連文献を調べてレポートを作成し、科学的な根拠となる基礎知識と考え方について学ぶ。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	研究テーマ関連文献を適宜紹介したり、自ら検索する。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	文献発表、レポート、授業態度を総合的に評価する。		
到達目標	1．　研究テーマの背景となる「健康寿命の阻害因子」について簡潔に説明できるようになる。 2．　文献検索のスキルを身につけ、必要な文献を探すことができるようになる。 3．　科学論文を読んで、その概要を理解できるようになる。		
授業時間外学習	1．　これまで履修した理系科目（特に、解剖生理学）を復習しておく。 2．　最近の健康に関連した新聞・雑誌記事を見つけてチェックしておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．　能動的な態度で臨み、主体的に課題に取り組む。
2．　何事にも興味を持ち、目標を達成する努力をする。
3.　ゼミでの研究内容は、一定の区切りごとにレポート提出を課すので、毎回のディスカッションの内容などの記録をしっかりと取ること。
4.　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
5.　ゼミ内容に関わる健康長寿・生活習慣病関連の報道・新聞記事などに目を通すよう心がける。

授業スケジュール

1．　研究をスタートする心構え
2．　研究テーマの探索　（1）
3．　研究テーマの探索　（2）
4．　研究テーマの探索　（3）
5．　論文検索サイト・アプリの利用方法
6．　研究テーマ関連文献検索
7．　論文解読と概要のまとめ　（1）
8．　論文解読と概要のまとめ　（2）
9．　論文解読と概要のまとめ　（3）
10．　論文解読と概要のまとめ　（4）
11．　論文内容のレポート作成
12．　論文内容のレポート作成
13．　論文内容のプレゼンテーション資料作成
14．　論文内容のプレゼンテーション資料作成
15．　論文内容のプレゼンテーションと総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90196008
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
授業概要	我が国をはじめとして世界的な潮流であるヘルスプロモーションの概念と取組みを理解する。特に公衆衛生・疫学的な視点から、子どもから高齢者まであらゆる人々の健康の維持・増進と運動・身体活動との関係に主眼をおく。そのためにまずヘルスプロモーションに関する資料や文献の検索方法を実際のデータベースを活用して修得するとともに、健康に寄与する運動・身体活動のエビデンスを疫学的な視点から捉えるための基礎的な見方・考え方を身につける。		
教材（教科書）	必要に応じて適宜配布する		
教材（参考資料）	・考える技術・書く技術　山﨑康司, ダイヤモンド社 ・健康・スポーツ科学のための研究方法　出村眞一, 杏林書院 ・保健医療福祉の研究ナビ　福田吉治監修　金原出版株式会社		
教育方法	ゼミ内で自分の考えを伝えるるとともに、他者の意見に耳を傾けることができるように、グループディスカッションを通じて、実践的なコミュニケーション力を身につけていく。		
評価方法	・授業回数の３分の２以上出席していること ・授業内課題（60％） ・出席及び授業態度(40%)		
到達目標	・学際的かつ国際的な視野に立って、ヘルスプロモーションの動向を理解している。 ・学生自らの経験や現在行っている活動から、問題を見出し、問題解決に向けた方向性と具体的な方法を身につける。		
授業時間外学習	・授業内に与えられた課題をやり遂げること ・論文抄読の準備		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・受講に際し自ら考え、仲間と協力し、工夫する積極的な姿勢を望む。 ・できる限り空いた時間はゼミ室に来ること。			
授業スケジュール			
１．ガイダンス・ゼミの方針 ２．問題発見の方法１ ３．問題発見の方法２ ４．課題解決の方法１ ５．課題解決の方法２			

6．フィールドワーク１：イベントの準備

7．フィールドワーク２：イベントの運営

8．論文抄読とは
9．論文抄読１：論文を探す
10．論文抄読２：要約して発表
11．フィールドワーク３：障がい児デイサービス訪問

12．フィールドワークふりかえり

13．実践研究１：プログラム企画

14．実践研究２：プログラム準備

15．実践研究３：プログラム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J90196009
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
授業概要	子どもの成長過程における身体活動や健康及び障がい者のスポーツや身体活動について学びながら、その背景について考える。必要に応じて適切な文献を見つけて調べる。		
教材（教科書）	適宜紹介する。		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	受講生が必要とする資料を提示しながら、必要に応じて実際に調査や実験を行い、全体および個別に指導を進める。		
評価方法	授業中に実施する課題への積極的姿勢・態度(50%)、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換(50%)		
到達目標	子どもや障がい者と運動やスポーツに関して、さまざまな書籍や論文から知識を得るとともに、自分の関心のあるテーマを見つけ研究計画を立案し、データ収集ができるとともに処理の方法を知る。		
授業時間外学習	発表担当の場合は、自信をもって発表や質疑応答ができるように、発表内容について熟知ししっかりと理解するまで、事前に準備をしてくること。 発表担当時、90 分間質の高い論議ができなかった場合は、次週に再度発表できるように準備しなければならない。　詳細は授業において指示するが、常に努力を惜しまない姿勢で臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自ら疑問に思ったことを追求するとともに、一つひとつの体験・観察・実験・レポート・発表・討論等に意欲的に取り組むよう努めること。
お互いのテーマや内容に関心をもち、協力し合って研究や実験を進めること。
障害者スポーツ、発育発達、自分の研究テーマ等に関する情報を常に収集（ネット記事、新聞記事、専門誌、専門書籍等）するように努めること。

ゼミの活動方針として
- ・何事にも関心をもち、自ら進んで学ぶ姿勢でいること。
- ・ゼミでの発表等を担当する場合、しっかりと準備し、自信を持って発表する。
- ・ゼミ生はお互い助け・支え合い、何事も積極的に協力し合う。
- ・今以上に身もこころも元気で、明るく溌剌と人に接することができなければならない。
- ・積極的に人前で話し行動するよう心掛けなければならない。

授業スケジュール

1.オリエンテーション、今後の予定と課題
2.子どもや障がい者に関する研究と方法の実際
3. 論文検索方法と実験計画の作り方
4.受講者が研究論文を紹介(実施したい研究に関する背景および内容の説明)と研究計画の作成 1
5.研究計画の確認・実験開始 1
6. 実験結果の整理・統計処理 1
7. レポートの書き方について解説
8. 受講者が研究論文を紹介(実施したい研究に関する背景および内容の説明)と研究計画の作成 2
9. 研究計画の確認、実験開始 2
10. 実験結果の整理・統計処理 2
11. 受講者が研究論文を紹介(実施したい実験に関する背景および内容の説明)と研究計画の作成 3
12. 研究計画の確認、実験開始 3
13. 実験結果の整理・統計処理 3
14. プレゼンテーション方法
15. プレゼンテーションとまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J90196010
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
授業概要	本ゼミでは、パフォーマンス向上のためのトレーニング方法やその効果、さらにスポーツ外傷のリコンディショニングや予防エクササイズなどを扱う。本ゼミでは、出来る限りスポーツの現場へ足を運び、自分の目や体験を通して興味のあるテーマを選択する。さらに興味のあるテーマを見つけ出した後は、テーマと関連する文献、専門書の検索方法や記録したデータの解釈方法を学ぶ。最終的に現場で取得したデータを関連する文献を基に読み解き、文章化する作業を学ぶ。		
教材（教科書）	特に指定しないが、必要な資料等は適宜配布する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	実験や発表、調査など基本的に体験型学習法で行う。		
評価方法	レポートなどの提出物から発表など授業に取り組む姿勢から総合的に評価する。欠席は総合評価から減点される。		
到達目標	卒業論文制作に必要な基本的な知識・文章作成能力を学んでいくことを目標とする。		
授業時間外学習	『解剖生理学』、『バイオメカニクス』等基本的な知識の復習をしておいてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
専門ゼミは自ら興味のあるテーマを探し、研究していくのが大きな目的です。積極的な授業参加を望みます。			
授業スケジュール			
1,ゼミで扱うトピックについて：教員からいくつかのテーマに沿って講義＆ディスカッションをします（スポーツ医学編 1） 2,ゼミで扱うトピックについて：教員からいくつかのテーマに沿って講義＆ディスカッションをします（スポーツ医学編 2） 3,ゼミで扱うトピックについて：教員からいくつかのテーマに沿って講義＆ディスカッションをします(バイオメカニクス編 1) 4,ゼミで扱うトピックについて：教員からいくつかのテーマに沿って講義＆ディスカッションをします(バイオメカニクス編 2) 5,ゼミで扱うトピックについて：教員からいくつかのテーマに沿って講義＆ディスカッションをします(トレーニング科学編 1) 6,ゼミで扱うトピックについて：教員からいくつかのテーマに沿って講義＆ディスカッションをします(トレーニング科学編 2) 7,『卒業論文とはなにか？』：卒論作成までのアウトラインを提示し、自身の大まかな計画を作成する 8,関連書籍の見つけ方 1：図書館やインターネット等での検索方法を確認します 9,関連書籍の見つけ方 2：図書館やインターネット等での検索方法を確認します 10, 科学レポートの書き方 1:文章の作成方法について 11,科学レポートの書き方 2:図表の作成について 12,興味のあるテーマをみつけよう 1 13,興味のあるテーマをみつけよう 2 14,興味のあるテーマをみつけよう 3 15, グループ発表：興味のあるテーマについて			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JP0008002
科目名	教育方法 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Methods of Teaching		
担当者名	立田　慶裕	旧科目名称	
授業概要	本講義では、継続的な学習者としての教員の資質向上を図り、従来の教育方法に加えて IT 活用を重視し、学習者の動機付けと学習スキルの向上を図る多様な教育と学習法を実践的手法により論じる。 目標　（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。		
教材（教科書）	各回でプリントを配布		
教材（参考資料）	赤尾勝己・山本慶裕『学びのデザイン』玉川大学出版部		
教育方法	グループ学習の方法の学習、電子ポートフォリオを用いたアクティブラーニングにより、板書やノートテイキング についての学習、動画作成ソフトによる教材作成。		
評価方法	成績は平常受講の評価と課題達成を重視。下記のミニッツレポート 15 回（40%），中間課題レポート 2 回（40%），最終課題レポート(20%）の総合判断。		
到達目標	（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。 （2）今後の学校組織では、教員の専門的職能の継続的な開発が期待されている。 （3）また、教育方法としてのＩＴ活用を積極的に活用するこ		
授業時間外学習	講義終了後に、次回の講義についての予告を行いますので、関連する情報や本を読んでおいてください。また、できれば、教育方法に関する多様なメディアについての情報を収集しておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業を通じて、話すのが苦手な人にも伝え方、表現の方法などを学んでいってもらいます。ノートの取り方や情報収集の方法を身につけていきますので、コンピュータが苦手な人にもわかりやすく解説しますが、みなさんがいろんなことに興味を持つようにしてください。

授業スケジュール

第 1 回　オリエンテーション
講義の目標、内容と方法、評価の説明
第 2 回　学習意欲を引き出す工夫
アイスブレイクの手法について多様な方法を紹介し、体験する
第 3 回　教育方法論の系譜
メディアの発展をふりかえり、それが教育指導法の変化に及ぼした歴史を考える
第 4 回　教育方法論の意義と目標
実際の授業では、学習指導要領を参考とするため、その内容を方法論的に検討する
第 5 回　授業の計画
授業構成と指導案の書き方を説明し、書いてもらう
第 6 回　授業の方法（1）
知識の整理法として、ノートや電子ファイルでナレッジベースを作成する
第 7 回　授業の方法（2）
デジタル教材とアナログ教材の長短と利用法を論じ、体験する
第 8 回　授業の方法（3）
進化するデータベースの利用と、学校図書館の活用法を論じる
第 9 回　授業の方法（4）
ＩＴを活用したワークショップの方法を論じ、体験する
第 10 回　授業の方法（5）
授業に必須のプレゼンテーション活用のコツを論じ、学ぶ
第 11 回　授業の方法（6）マルチメディアの活用
学習法として多様なマルチメディアの活用法を紹介する
第 12 回　授業の実践例（1）
具体的な教科として社会科をとりあげ、ネットワークを用いた国際理解学習について学ぶ

第 13 回　授業の実践例（２） 算数や数学教科での多様な数学ソフトの活用法を学ぶ 第 14 回　授業の評価 授業の必須事項、e ポートフォリオの評価の実態と課題を学ぶ 第 15 回　総論 テクノロジーの進歩の中で教育方法を学び続ける工夫を論じる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JP0008003
科目名	教育方法 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Methods of Teaching		
担当者名	立田　慶裕	旧科目名称	
授業概要	本講義では、継続的な学習者としての教員の資質向上を図り、従来の教育方法に加えて IT 活用を重視し、学習者の動機付けと学習スキルの向上を図る多様な教育と学習法を実践的手法により論じる。 目標　（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。		
教材（教科書）	各回でプリントを配布		
教材（参考資料）	赤尾勝己・山本慶裕『学びのデザイン』玉川大学出版部		
教育方法	グループ学習の方法の学習、電子ポートフォリオを用いたアクティブラーニングにより、板書やノートテイキング についての学習、動画作成ソフトによる教材作成。		
評価方法	成績は平常受講の評価と課題達成を重視。下記のミニッツレポート 15 回（40%），中間課題レポート 2 回（40%），最終課題レポート(20%）の総合判断。		
到達目標	（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。 （2）今後の学校組織では、教員の専門的職能の継続的な開発が期待されている。 （3）また、教育方法としてのＩＴ活用を積極的に活用するこ		
授業時間外学習	講義終了後に、次回の講義についての予告を行いますので、関連する情報や本を読んでおいてください。また、できれば、教育方法に関する多様なメディアについての情報を収集しておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業を通じて、話すのが苦手な人にも伝え方、表現の方法などを学んでいってもらいます。ノートの取り方や情報収集の方法を身につけていきますので、コンピュータが苦手な人にもわかりやすく解説しますが、みなさんがいろんなことに興味を持つようにしてください。

授業スケジュール

第 1 回　オリエンテーション
講義の目標、内容と方法、評価の説明
第 2 回　学習意欲を引き出す工夫
アイスブレイクの手法について多様な方法を紹介し、体験する
第 3 回　教育方法論の系譜
メディアの発展をふりかえり、それが教育指導法の変化に及ぼした歴史を考える
第 4 回　教育方法論の意義と目標
実際の授業では、学習指導要領を参考とするため、その内容を方法論的に検討する
第 5 回　授業の計画
授業構成と指導案の書き方を説明し、書いてもらう
第 6 回　授業の方法（1）
知識の整理法として、ノートや電子ファイルでナレッジベースを作成する
第 7 回　授業の方法（2）
デジタル教材とアナログ教材の長短と利用法を論じ、体験する
第 8 回　授業の方法（3）
進化するデータベースの利用と、学校図書館の活用法を論じる
第 9 回　授業の方法（4）
ＩＴを活用したワークショップの方法を論じ、体験する
第 10 回　授業の方法（5）
授業に必須のプレゼンテーション活用のコツを論じ、学ぶ
第 11 回　授業の方法（6）マルチメディアの活用
学習法として多様なマルチメディアの活用法を紹介する
第 12 回　授業の実践例（1）
具体的な教科として社会科をとりあげ、ネットワークを用いた国際理解学習について学ぶ

第 13 回　授業の実践例（２） 算数や数学教科での多様な数学ソフトの活用法を学ぶ 第 14 回　授業の評価 授業の必須事項、e ポートフォリオの評価の実態と課題を学ぶ 第 15 回　総論 テクノロジーの進歩の中で教育方法を学び続ける工夫を論じる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JP0009001
科目名	教育課程論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Curriculum(Special Activities Education)		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
授業概要	各学校の教育活動の中核として最も重要な役割を担う教育課程について，学習指導要領解説総則編に基づいて理解を深めていく。さらに，教育課程に関する具体的な事例を通して，教育課程の編成・実施・評価・改善（カリキュラム・マネジメント）などについての考察を進めていく。 教育課程について学ぶことにより，学校現場でより効果的な教育活動をするための指導計画の作成における基礎的な知識や考え方を身に付けていく。		
教材（教科書）	「中学校学習指導要領　解説　総則編」（平成 29 年 7 月　文部科学省）		
教材（参考資料）	「高等学校学習指導要領　解説　総則編」（平成 21 年 1 月　文部科学省）		
教育方法	基本的にはスライドを用いて授業を進め，最後には小レポート（授業内容のまとめ，自分の考えなど）を書いて提出するようにする。また，授業の中では小グループ及び全体で話し合いなどの活動を取り入れていく。		
評価方法	授業内小レポート等による平常点（30%）　学期末試験（70%）		
到達目標	・学校教育において教育課程が有する役割や機能，並びに意義などについて，学習指導要領解説総則編の文言を用いて説明できる。 ・教育課程編成の基本原理，並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法やカリキュラム・マネジメントについての考え方を例示できる。		
授業時間外学習	毎回の授業の復習を行う。具体的には，授業で取り扱った教科書の該当箇所や資料をもう一度読み直したり，まとめ直したりする。また，教育の時事的な話題は新聞やテレビ，インターネットを通じて入手しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・教員免許の取得目指すものとしてふさわしい態度で授業に臨むこと。ふさわしくない態度であれば指摘をさせてもらう。
・話し合いなどの場面では，積極的に発言をしたり，他者の意見を真摯な態度で聞いたりすること。
・常に思考を働かせること。
・授業内小レポートを書く際は，できるだけ丁寧な文字で書き，用紙すべてを使いきること。

授業スケジュール

第１回：オリエンテーション
第２回：教育課程の意義
第３回：教育課程とその基準、教育課程に関する法令
第４回：学習指導要領の変遷
第５回：教育課程編成の原則
第６回：教育課程の編成①「各学校の教育目標と教科横断的な視点に立った資質・能力」
第７回：教育課程の編成②「授業時数等の取扱い」
第８回：教育課程の編成③「学校段階等間の接続」
第９回：教育課程の実施
第１０回：特別な配慮を必要とする生徒への指導
第１１回：教育課程外の学校教育と教育課程との関連
第１２回：教育課程の改善と学校評価
第１３回：カリキュラム・マネジメントの充実
第１４回：諸外国の教育課程
第１５回：授業のまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	JP0009002
科目名	教育課程論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Curriculum(Special Activities Education)		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
授業概要	各学校の教育活動の中核として最も重要な役割を担う教育課程について，学習指導要領解説総則編に基づいて理解を深めていく。さらに，教育課程に関する具体的な事例を通して，教育課程の編成・実施・評価・改善（カリキュラム・マネジメント）などについての考察を進めていく。 教育課程について学ぶことにより，学校現場でより効果的な教育活動をするための指導計画の作成における基礎的な知識や考え方を身に付けていく。		
教材（教科書）	「中学校学習指導要領　解説　総則編」（平成 29 年 7 月　文部科学省）		
教材（参考資料）	「高等学校学習指導要領　解説　総則編」（平成 21 年 1 月　文部科学省）		
教育方法	基本的にはスライドを用いて授業を進め，最後には小レポート（授業内容のまとめ，自分の考えなど）を書いて提出するようにする。また，授業の中では小グループ及び全体で話し合いなどの活動を取り入れていく。		
評価方法	授業内小レポート等による平常点（30%）　学期末試験（70%）		
到達目標	・学校教育において教育課程が有する役割や機能，並びに意義などについて，学習指導要領解説総則編の文言を用いて説明できる。 ・教育課程編成の基本原理，並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法やカリキュラム・マネジメントについての考え方を例示できる。		
授業時間外学習	毎回の授業の復習を行う。具体的には，授業で取り扱った教科書の該当箇所や資料をもう一度読み直したり，まとめ直したりする。また，教育の時事的な話題は新聞やテレビ，インターネットを通じて入手しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・教員免許の取得目指すものとしてふさわしい態度で授業に臨むこと。ふさわしくない態度であれば指摘をさせてもらう。
・話し合いなどの場面では，積極的に発言をしたり，他者の意見を真摯な態度で聞いたりすること。
・常に思考を働かせること。
・授業内小レポートを書く際は，できるだけ丁寧な文字で書き，用紙すべてを使いきること。

授業スケジュール

第１回：オリエンテーション
第２回：教育課程の意義
第３回：教育課程とその基準、教育課程に関する法令
第４回：学習指導要領の変遷
第５回：教育課程編成の原則
第６回：教育課程の編成①「各学校の教育目標と教科横断的な視点に立った資質・能力」
第７回：教育課程の編成②「授業時数等の取扱い」
第８回：教育課程の編成③「学校段階等間の接続」
第９回：教育課程の実施
第１０回：特別な配慮を必要とする生徒への指導
第１１回：教育課程外の学校教育と教育課程との関連
第１２回：教育課程の改善と学校評価
第１３回：カリキュラム・マネジメントの充実
第１４回：諸外国の教育課程
第１５回：授業のまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	JP0010A01
科目名	教育実習Ａ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice A		
担当者名	眞里谷　隆司	旧科目名称	
授業概要	学校現場での実践的な学習体験を通して、教職の実際にかかわり、自己の教育的な力量を高めることが教育実習の主旨であり、これはまさに大学における教職課程の総決算となる科目である。 ２週間の実習（教育実習Ｂと合わせると３週間もしくは４週間）の中で、第一にめざさなければならないのは、やはり学習指導力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちが興味をもって学習するためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そのとき、教材の研究だけでなく、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な側面をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。 さらに、学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感的に理解し、生活指導的な働きかけが――それが安易にできると考えてはならないが――少しでもできたならば、実習の意義はいっそう高まるだろう。 基本は何か。自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、自分の人間性全体で応えることである。		
教材（教科書）	「教育実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考資料）	とくになし。		
教育方法	中等教育の教員を目指すため、学習指導要領に明記されている「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けて、多様な教育方法（指導方法）を用い、体験させる。		
評価方法	実習ノートの内容（２０％）、実習校による評価（６０％）、反省会での報告（２０％） 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。 学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術 生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導 実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野		
到達目標	中等段階の学校における教育の全体的な理解と一定の指導力を、実践経験を通して獲得すること。		
授業時間外学習	実際に授業を行なう以上、その計画書として指導案作りに時間とエネルギーをかけなければならない。事前に自分が教えることになる単元の教材研究をある程度進めておくことが必要である。実習に入れば、学習指導以外の生徒指導やクラブ指導、学校行事などで時間を取られることが多いので。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．あらためていうまでもないが、教員をめざす実習生が、実習中に企業等の就職活動を行なうことはゆるされない。
２．教育実習に行くことと各都道府県の教員採用試験を受験することは、一つのセットとして考えなければならない。およそ実習生を受け入れる学校は、採用試験の受験を受け入れの当然の条件としている。

授業スケジュール

１．オリエンテーション　①　教育実習の意義・目的　②　教育実習の手続き　③　教育実習の概要
２．学校教育を担う教員　①　求められる教員の資質能力　②　教職員の服務　③　教職員の研修
３．教育の基本理念　①　目指す人間像　②　育みたい力　③　未来を創造する人づくりに向けた教育
４．教科指導の基本的な考え方　①　各教科で育てる学力　②　学習指導の基本的な在り方　③　指導に生きる評価　④　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業　⑤　授業参観の視点　⑥　学習指導案の書き方
５．領域等の指導の基本的な考え方　①　総合的な学習の時間　②　特別活動　③　課外活動（部活動等）
６．学級(ホームルーム)経営　①　中学校における学級経営　②　高等学校におけるホームルーム経営　③　学級担任の役割と職務内容
７．生徒指導・教育相談　①　生徒指導と教育相談の基本的な考え方及び生徒理解　②　生徒への接し方
８．教育実習（1）　訪問指導（授業参観・授業研究）
９．教育実習（2）　特別活動、総合的な学習の時間、部活動等
１０．教育をめぐる状況　①　社会の動向　②　子どもの状況

１１．教育課程の編成と学校運営　①　中学校における教育課程の編成　②　高等学校における教育課程の編成　③　教育課程の具体化のために
１２．学校・家庭・地域　①　学校が果たすべき役割と学校の組織　②　生涯学習社会における学校の役割と家庭・地域社会との連携
１３．学級事務　①　学級事務の内容　②　学級事務の処理と適正な文書管理
１４．教育実習報告　教育実習の成果と課題を発表
１５．教育実習のまとめ　課題の克服のための、さらに習得すべき知識・技能の明確化
教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JP0010A02
科目名	教育実習Ａ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice A		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
授業概要	学校現場での実践的な学習体験を通して、教職の実際にかかわり、自己の教育的な力量を高めることが教育実習の主旨であり、これはまさに大学における教職課程の総決算となる科目である。 ２週間の実習（教育実習Ｂと合わせると３週間もしくは４週間）の中で、第一にめざさなければならないのは、やはり学習指導力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちが興味をもって学習するためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そのとき、教材の研究だけでなく、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な側面をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。 さらに、学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感的に理解し、生活指導的な働きかけが――それが安易にできると考えてはならないが――少しでもできたならば、実習の意義はいっそう高まるだろう。 基本は何か。自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、自分の人間性全体で応えることである。		
教材（教科書）	「教育実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考資料）	とくになし。		
教育方法	中等教育の教員を目指すため、学習指導要領に明記されている「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けて、多様な教育方法（指導方法）を用い、体験させる。		
評価方法	実習ノートの内容（２０％）、実習校による評価（６０％）、反省会での報告（２０％） 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。 学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術 生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導 実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野		
到達目標	中等段階の学校における教育の全体的な理解と一定の指導力を、実践経験を通して獲得すること。		
授業時間外学習	実際に授業を行なう以上、その計画書として指導案作りに時間とエネルギーをかけなければならない。事前に自分が教えることになる単元の教材研究をある程度進めておくことが必要である。実習に入れば、学習指導以外の生徒指導やクラブ指導、学校行事などで時間を取られることが多いので。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．あらためていうまでもないが、教員をめざす実習生が、実習中に企業等の就職活動を行なうことはゆるされない。
２．教育実習に行くことと各都道府県の教員採用試験を受験することは、一つのセットとして考えなければならない。およそ実習生を受け入れる学校は、採用試験の受験を受け入れの当然の条件としている。

授業スケジュール

１．オリエンテーション　①　教育実習の意義・目的　②　教育実習の手続き　③　教育実習の概要
２．学校教育を担う教員　①　求められる教員の資質能力　②　教職員の服務　③　教職員の研修
３．教育の基本理念　①　目指す人間像　②　育みたい力　③　未来を創造する人づくりに向けた教育
４．教科指導の基本的な考え方　①　各教科で育てる学力　②　学習指導の基本的な在り方　③　指導に生きる評価　④　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業　⑤　授業参観の視点　⑥　学習指導案の書き方
５．領域等の指導の基本的な考え方　①　総合的な学習の時間　②　特別活動　③　課外活動（部活動等）
６．学級(ホームルーム)経営　①　中学校における学級経営　②　高等学校におけるホームルーム経営　③　学級担任の役割と職務内容
７．生徒指導・教育相談　①　生徒指導と教育相談の基本的な考え方及び生徒理解　②　生徒への接し方
８．教育実習（1）　訪問指導（授業参観・授業研究）
９．教育実習（2）　特別活動、総合的な学習の時間、部活動等
１０．教育をめぐる状況　①　社会の動向　②　子どもの状況

１１．教育課程の編成と学校運営　①　中学校における教育課程の編成　②　高等学校における教育課程の編成　③　教育課程の具体化のために
１２．学校・家庭・地域　①　学校が果たすべき役割と学校の組織　②　生涯学習社会における学校の役割と家庭・地域社会との連携
１３．学級事務　①　学級事務の内容　②　学級事務の処理と適正な文書管理
１４．教育実習報告　教育実習の成果と課題を発表
１５．教育実習のまとめ　課題の克服のための、さらに習得すべき知識・技能の明確化
教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JP0010A03
科目名	教育実習Ａ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice A		
担当者名	眞里谷　隆司	旧科目名称	
授業概要	学校現場での実践的な学習体験を通して、教職の実際にかかわり、自己の教育的な力量を高めることが教育実習の主旨であり、これはまさに大学における教職課程の総決算となる科目である。 ２週間の実習（教育実習Ｂと合わせると３週間もしくは４週間）の中で、第一にめざさなければならないのは、やはり学習指導力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちが興味をもって学習するためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そのとき、教材の研究だけでなく、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な側面をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。 さらに、学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感的に理解し、生活指導的な働きかけが――それが安易にできると考えてはならないが――少しでもできたならば、実習の意義はいっそう高まるだろう。 基本は何か。自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、自分の人間性全体で応えることである。		
教材（教科書）	「教育実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考資料）	とくになし。		
教育方法	中等教育の教員を目指すため、学習指導要領に明記されている「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けて、多様な教育方法（指導方法）を用い、体験させる。		
評価方法	実習ノートの内容（２０％）、実習校による評価（６０％）、反省会での報告（２０％） 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。 学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術 生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導 実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野		
到達目標	中等段階の学校における教育の全体的な理解と一定の指導力を、実践経験を通して獲得すること。		
授業時間外学習	実際に授業を行なう以上、その計画書として指導案作りに時間とエネルギーをかけなければならない。事前に自分が教えることになる単元の教材研究をある程度進めておくことが必要である。実習に入れば、学習指導以外の生徒指導やクラブ指導、学校行事などで時間を取られることが多いので。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．あらためていうまでもないが、教員をめざす実習生が、実習中に企業等の就職活動を行なうことはゆるされない。
２．教育実習に行くことと各都道府県の教員採用試験を受験することは、一つのセットとして考えなければならない。およそ実習生を受け入れる学校は、採用試験の受験を受け入れの当然の条件としている。

授業スケジュール

１．オリエンテーション　①　教育実習の意義・目的　②　教育実習の手続き　③　教育実習の概要
２．学校教育を担う教員　①　求められる教員の資質能力　②　教職員の服務　③　教職員の研修
３．教育の基本理念　①　目指す人間像　②　育みたい力　③　未来を創造する人づくりに向けた教育
４．教科指導の基本的な考え方　①　各教科で育てる学力　②　学習指導の基本的な在り方　③　指導に生きる評価　④　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業　⑤　授業参観の視点　⑥　学習指導案の書き方
５．領域等の指導の基本的な考え方　①　総合的な学習の時間　②　特別活動　③　課外活動（部活動等）
６．学級(ホームルーム)経営　①　中学校における学級経営　②　高等学校におけるホームルーム経営　③　学級担任の役割と職務内容
７．生徒指導・教育相談　①　生徒指導と教育相談の基本的な考え方及び生徒理解　②　生徒への接し方
８．教育実習（1）　訪問指導（授業参観・授業研究）
９．教育実習（2）　特別活動、総合的な学習の時間、部活動等
１０．教育をめぐる状況　①　社会の動向　②　子どもの状況

１１．教育課程の編成と学校運営　①　中学校における教育課程の編成　②　高等学校における教育課程の編成　③　教育課程の具体化のために
１２．学校・家庭・地域　①　学校が果たすべき役割と学校の組織　②　生涯学習社会における学校の役割と家庭・地域社会との連携
１３．学級事務　①　学級事務の内容　②　学級事務の処理と適正な文書管理
１４．教育実習報告　教育実習の成果と課題を発表
１５．教育実習のまとめ　課題の克服のための、さらに習得すべき知識・技能の明確化
教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JP0010A04
科目名	教育実習Ａ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice A		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
授業概要	学校現場での実践的な学習体験を通して、教職の実際にかかわり、自己の教育的な力量を高めることが教育実習の主旨であり、これはまさに大学における教職課程の総決算となる科目である。 ２週間の実習（教育実習Ｂと合わせると３週間もしくは４週間）の中で、第一にめざさなければならないのは、やはり学習指導力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちが興味をもって学習するためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そのとき、教材の研究だけでなく、生徒たちのものの考え方､感じ方などの心理的な側面をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。 さらに、学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感的に理解し、生活指導的な働きかけが――それが安易にできると考えてはならないが――少しでもできたならば、実習の意義はいっそう高まるだろう。 基本は何か。自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、自分の人間性全体で応えることである。		
教材（教科書）	「教育実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考資料）	とくになし。		
教育方法	中等教育の教員を目指すため、学習指導要領に明記されている「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けて、多様な教育方法（指導方法）を用い、体験させる。		
評価方法	実習ノートの内容（２０％）、実習校による評価（６０％）、反省会での報告（２０％） 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。 学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術 生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導 実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野		
到達目標	中等段階の学校における教育の全体的な理解と一定の指導力を、実践経験を通して獲得すること。		
授業時間外学習	実際に授業を行なう以上、その計画書として指導案作りに時間とエネルギーをかけなければならない。事前に自分が教えることになる単元の教材研究をある程度進めておくことが必要である。実習に入れば、学習指導以外の生徒指導やクラブ指導、学校行事などで時間を取られることが多いので。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．あらためていうまでもないが、教員をめざす実習生が、実習中に企業等の就職活動を行なうことはゆるされない。
２．教育実習に行くことと各都道府県の教員採用試験を受験することは、一つのセットとして考えなければならない。およそ実習生を受け入れる学校は、採用試験の受験を受け入れの当然の条件としている。

授業スケジュール

１．オリエンテーション　①　教育実習の意義・目的　②　教育実習の手続き　③　教育実習の概要
２．学校教育を担う教員　①　求められる教員の資質能力　②　教職員の服務　③　教職員の研修
３．教育の基本理念　①　目指す人間像　②　育みたい力　③　未来を創造する人づくりに向けた教育
４．教科指導の基本的な考え方　①　各教科で育てる学力　②　学習指導の基本的な在り方　③　指導に生きる評価　④　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業　⑤　授業参観の視点　⑥　学習指導案の書き方
５．領域等の指導の基本的な考え方　①　総合的な学習の時間　②　特別活動　③　課外活動（部活動等）
６．学級(ホームルーム)経営　①　中学校における学級経営　②　高等学校におけるホームルーム経営　③　学級担任の役割と職務内容
７．生徒指導・教育相談　①　生徒指導と教育相談の基本的な考え方及び生徒理解　②　生徒への接し方
８．教育実習（1）　訪問指導（授業参観・授業研究）
９．教育実習（2）　特別活動、総合的な学習の時間、部活動等
１０．教育をめぐる状況　①　社会の動向　②　子どもの状況

１１．教育課程の編成と学校運営　①　中学校における教育課程の編成　②　高等学校における教育課程の編成　③　教育課程の具体化のために
１２．学校・家庭・地域　①　学校が果たすべき役割と学校の組織　②　生涯学習社会における学校の役割と家庭・地域社会との連携
１３．学級事務　①　学級事務の内容　②　学級事務の処理と適正な文書管理
１４．教育実習報告　教育実習の成果と課題を発表
１５．教育実習のまとめ　課題の克服のための、さらに習得すべき知識・技能の明確化
教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T86014006
科目名	チャレンジショップB 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。		

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T86014102
科目名	チャレンジショップC 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。		

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T86014103
科目名	チャレンジショップC 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。		

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T86014202
科目名	チャレンジショップD 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。		

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T86014203
科目名	チャレンジショップD 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T86014204
科目名	チャレンジショップD 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	TC1110301
科目名	日本史 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　英一	旧科目名称	
授業概要	本講義では、古代から近世に至る日本の歴史について、政治・社会・文化などいくつかのテーマをとりあげて検討する。特に、平安京・京都を中心に展開する政治、祭礼やそれに関わる人々などを素材に、京都という場を通して日本の歴史の展開と特質について考えることとする。平安京遷都以来、京都は日本の首都として、日本の歴史の中心的な位置に存在し続けてきたのであり、京都の歴史には政治・社会・経済・文化などあらゆる側面にわたって、日本史の様々な特徴があらわれているからである。また、災害・戦争など現代的課題に関わるテーマもとりあげ、現代社会をとらえ直す新しい視座を獲得することも目指す。その際、我々が普段見聞きする日本史叙述が、史料の内容を踏まえて構築されているという歴史学の方法論にもできるだけ触れていきたい。		
教材（教科書）	特になし。各授業で適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	参考文献は授業中に適宜紹介する。		
教育方法	授業は講義形式で行う。毎回プリントを配布し、それに沿って授業を進める。また、期間中に数回、講義内容に関する小テストを行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１、日本の歴史や伝統・文化について認識を深め、現代日本社会がその歴史的所産の上に成り立っていることを正しく理解する。 ２、日本史の基礎的知識を習得・確認するとともに、自らの歴史認識を他者に伝達するための論理的な思考法を磨く。 ３、授業中にとりあげた事項やそれに関連する事項について、自分で調べる・考えるという姿勢を身につける。		
授業時間外学習	授業前に各自、概説書や通史などで日本史の通説的理解を確認しておくこと。概説書・通史については授業中にも適宜紹介する予定である。高校の日本史教科書を参照してもよいが、本講義では教科書的・一般的歴史像を批判・再検討する内容も含まれるので注意すること。 また、毎回の授業の終了後、その日のうちにノートや配布プリントを見直し・整理したり、紹介された参考文献を熟読しておくと、授業の復習や理解の深化に役に立つ。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業では集中して聴講し、板書や必要と判断した事項をきちんとノートにとることが、授業内容の理解のために不可欠である。私語・飲食や携帯電話・スマートフォンの利用など、授業の妨げになる行為は厳禁とする。過剰な場合は退出を求める。			
授業スケジュール			
１、はじめに ２、古代（１）　古代日本の誕生 ３、古代（２）　藤原京・平城京から平安京へ ４、古代（３）　平安京の変貌と貴族社会 ５、古代（４）　平安京の衛生環境と祇園御霊会（１） ６、古代（５）　平安京の衛生環境と祇園御霊会（２） ７、中世（１）　武士とは何か ８、中世（２）　源平合戦と鎌倉幕府の成立 ９、中世（３）　鎌倉時代の公武関係と都市京都 １０、中世（４）　中世社会と仏教・寺院 １１、中世（５）　室町幕府の確立と東アジア １２、中世（６）　中世後期の京都と祇園祭 １３、中世（７）　飢饉・戦争と戦国時代の日本 １４、近世（１）　天下統一と京都の変貌 １５、近世（２）　江戸幕府と朝廷			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	TC1110302
科目名	日本史 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　英一	旧科目名称	
授業概要	本講義では、古代から近世に至る日本の歴史について、政治・社会・文化などいくつかのテーマをとりあげて検討する。特に、平安京・京都を中心に展開する政治、祭礼やそれに関わる人々などを素材に、京都という場を通して日本の歴史の展開と特質について考えることとする。平安京遷都以来、京都は日本の首都として、日本の歴史の中心的な位置に存在し続けてきたのであり、京都の歴史には政治・社会・経済・文化などあらゆる側面にわたって、日本史の様々な特徴があらわれているからである。また、災害・戦争など現代的課題に関わるテーマもとりあげ、現代社会をとらえ直す新しい視座を獲得することも目指す。その際、我々が普段見聞きする日本史叙述が、史料の内容を踏まえて構築されているという歴史学の方法論にもできるだけ触れていきたい。		
教材（教科書）	特になし。各授業で適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	参考文献は授業中に適宜紹介する。		
教育方法	授業は講義形式で行う。毎回プリントを配布し、それに沿って授業を進める。また、期間中に数回、講義内容に関する小テストを行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１、日本の歴史や伝統・文化について認識を深め、現代日本社会がその歴史的所産の上に成り立っていることを正しく理解する。 ２、日本史の基礎的知識を習得・確認するとともに、自らの歴史認識を他者に伝達するための論理的な思考法を磨く。 ３、授業中にとりあげた事項やそれに関連する事項について、自分で調べる・考えるという姿勢を身につける。		
授業時間外学習	授業前に各自、概説書や通史などで日本史の通説的理解を確認しておくこと。概説書・通史については授業中にも適宜紹介する予定である。高校の日本史教科書を参照してもよいが、本講義では教科書的・一般的歴史像を批判・再検討する内容も含まれるので注意すること。 また、毎回の授業の終了後、その日のうちにノートや配布プリントを見直し・整理したり、紹介された参考文献を熟読しておくと、授業の復習や理解の深化に役に立つ。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業では集中して聴講し、板書や必要と判断した事項をきちんとノートにとることが、授業内容の理解のために不可欠である。私語・飲食や携帯電話・スマートフォンの利用など、授業の妨げになる行為は厳禁とする。過剰な場合は退出を求める。			
授業スケジュール			
１、はじめに ２、古代（１）　古代日本の誕生 ３、古代（２）　藤原京・平城京から平安京へ ４、古代（３）　平安京の変貌と貴族社会 ５、古代（４）　平安京の衛生環境と祇園御霊会（１） ６、古代（５）　平安京の衛生環境と祇園御霊会（２） ７、中世（１）　武士とは何か ８、中世（２）　源平合戦と鎌倉幕府の成立 ９、中世（３）　鎌倉時代の公武関係と都市京都 １０、中世（４）　中世社会と仏教・寺院 １１、中世（５）　室町幕府の確立と東アジア １２、中世（６）　中世後期の京都と祇園祭 １３、中世（７）　飢饉・戦争と戦国時代の日本 １４、近世（１）　天下統一と京都の変貌 １５、近世（２）　江戸幕府と朝廷			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	TC1110303
科目名	日本史 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　英一	旧科目名称	
授業概要	本講義では、古代から近世に至る日本の歴史について、政治・社会・文化などいくつかのテーマをとりあげて検討する。特に、平安京・京都を中心に展開する政治、祭礼やそれに関わる人々などを素材に、京都という場を通して日本の歴史の展開と特質について考えることとする。平安京遷都以来、京都は日本の首都として、日本の歴史の中心的な位置に存在し続けてきたのであり、京都の歴史には政治・社会・経済・文化などあらゆる側面にわたって、日本史の様々な特徴があらわれているからである。また、災害・戦争など現代的課題に関わるテーマもとりあげ、現代社会をとらえ直す新しい視座を獲得することも目指す。その際、我々が普段見聞きする日本史叙述が、史料の内容を踏まえて構築されているという歴史学の方法論にもできるだけ触れていきたい。		
教材（教科書）	特になし。各授業で適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	参考文献は授業中に適宜紹介する。		
教育方法	授業は講義形式で行う。毎回プリントを配布し、それに沿って授業を進める。また、期間中に数回、講義内容に関する小テストを行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１、日本の歴史や伝統・文化について認識を深め、現代日本社会がその歴史的所産の上に成り立っていることを正しく理解する。 ２、日本史の基礎的知識を習得・確認するとともに、自らの歴史認識を他者に伝達するための論理的な思考法を磨く。 ３、授業中にとりあげた事項やそれに関連する事項について、自分で調べる・考えるという姿勢を身につける。		
授業時間外学習	授業前に各自、概説書や通史などで日本史の通説的理解を確認しておくこと。概説書・通史については授業中にも適宜紹介する予定である。高校の日本史教科書を参照してもよいが、本講義では教科書的・一般的歴史像を批判・再検討する内容も含まれるので注意すること。 また、毎回の授業の終了後、その日のうちにノートや配布プリントを見直し・整理したり、紹介された参考文献を熟読しておくと、授業の復習や理解の深化に役に立つ。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業では集中して聴講し、板書や必要と判断した事項をきちんとノートにとることが、授業内容の理解のために不可欠である。私語・飲食や携帯電話・スマートフォンの利用など、授業の妨げになる行為は厳禁とする。過剰な場合は退出を求める。			
授業スケジュール			
１、はじめに ２、古代（１）　古代日本の誕生 ３、古代（２）　藤原京・平城京から平安京へ ４、古代（３）　平安京の変貌と貴族社会 ５、古代（４）　平安京の衛生環境と祇園御霊会（１） ６、古代（５）　平安京の衛生環境と祇園御霊会（２） ７、中世（１）　武士とは何か ８、中世（２）　源平合戦と鎌倉幕府の成立 ９、中世（３）　鎌倉時代の公武関係と都市京都 １０、中世（４）　中世社会と仏教・寺院 １１、中世（５）　室町幕府の確立と東アジア １２、中世（６）　中世後期の京都と祇園祭 １３、中世（７）　飢饉・戦争と戦国時代の日本 １４、近世（１）　天下統一と京都の変貌 １５、近世（２）　江戸幕府と朝廷			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J30256B01
科目名	情報科学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Science II		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
授業概要	コンピュータを使って問題を解くときには、具体的なものを抽象化した上で、論理を追って考え、それを明確な形で表さなければならない。この問題の解法をアルゴリズムという。アルゴリズムは、流れ図とプログラムに表され、コンピュータで処理される。 この授業は、種々の問題をコンピュータで処理する力を養うため、アルゴリズムと流れ図について理解し、アルゴリズムと流れ図の作成方法、プログラムの作成方法を修得することを目的としている。プログラミング言語として Ruby 言語と JavaScript 言語を使用する。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	高橋・後藤、まつもとゆきひろ監修「たのしい Ruby」SoftBank Creative		
教育方法	パソコンを用いて、実習形式で行う。各講義で配布されるプリントをもとに、アルゴリズムと流れ図を考え、作成したプログラムを実行する。作成したアルゴリズム、流れ図、プログラム等を授業内レポートとして提出する。		
評価方法	授業内レポート（60%）　定期試験（40%）		
到達目標	1．簡単なアルゴリズムが作成できる。 2．アルゴリズムに沿った流れ図が作成できる。 3．流れ図に沿ったプログラムが作成できる。		
授業時間外学習	講義終了後、次回の講義の資料を京学なびにアップロードするので、キーワードや専門用語等を調べておくこと。また、資料に記載されたプログラムを作成し、実行しておくこと。 第 1 回　プログラムの編集方法、プログラムの実行方法 第 2 回　経路図、深さ優先経路探索 第 3 回　幅優先経路探索 第 4 回　HTML の記述方法 第 5 回　JavaScript の記述方法 第 6 回　JavaScript、タイマー処理 第 7 回　JavaScript、キーイベント 第 8 回　HTML と迷路図、迷路探索、経路探索 第 9 回　HTML、深さ優先探索プログラム 第 10 回　HTML、幅優先探索プログラム 第 11 回　深さ優先迷路探索アルゴリズム 第 12 回　深さ優先迷路探索の方法 第 13 回　幅優先迷路探索アルゴリズム 第 14 回　幅優先迷路探索の方法 第 15 回　探索アルゴリズム、練習問題		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
2．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。
3．情報科学 I を履修していることが望ましい。

授業スケジュール

1．情報科学 II について
2．経路探索アルゴリズム 1（深さ優先）
3．経路探索アルゴリズム 2（幅優先）
4．HTML
5．JavaScript

6．アニメーション１（タイマー）
7．アニメーション２（キー）
8．迷路探索
9．HTML と探索プログラム１（深さ優先）
10．HTML と探索プログラム２（幅優先）
11．迷路探索アルゴリズム１（深さ優先）
12．迷路探索アルゴリズム２（深さ優先）
13．迷路探索アルゴリズム３（幅優先）
14．迷路探索アルゴリズム４（幅優先）
15．総括（アルゴリズムとプログラム）
定期試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	–	★★

年度	2018	授業コード	J30260A02
科目名	情報管理論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management I		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 学生は本講義によって情報管理の重要性について理解し、情報管理について実際にどのような行動をとるべきかを自ら考えることができるようになる。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（教科書）	『情報管理学』　　深井裕二(著)　コロナ社		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	電子黒板を利用しながら講義法で授業は進められる。		
評価方法	授業内提出物及び小テストほか(35%)、レポート(30%)、定期試験(35%)で評価する。		
到達目標	今日の企業における情報管理の重要性について理解し、説明できるようになる　。		
授業時間外学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 各回の授業内容に該当する教科書のページを事前に読んで、専門用語の確認などを含めて事前学習をしておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。 01:教科書該当ページなし 02:教科書 pp1-pp11 03:教科書 pp12-pp29 04:教科書 pp30-pp57 05:教科書 pp1-pp57 06:教科書 pp58-pp75 07:教科書 pp76-pp94 08:教科書 pp95-pp102 09:教科書 pp103-pp118 10:教科書 pp58-pp118 11:教科書 pp119-pp131 12:教科書 pp132-pp139 13:教科書 pp140-pp153 14:教科書 pp154-pp172 15:教科書 pp173-pp185		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。

授業スケジュール

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1. 受講ガイダンス
2. インターネット社会と情報管理
3. 情報収集

4. コンピュータ技術
5. 反転学習(理解度確認)
6. インターネット技術
7. インターネットの活用
8. 情報倫理と関連法規 1
9. 情報倫理と関連法規 2
10. 反転学習(理解度確認)
11. 情報セキュリティ 1
12. 情報セキュリティ 2
13. 企業と情報システム
14. データの運用と管理
15. システム開発とプログラミング

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J30270001
科目名	人的資源管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	経営学とは、ヒト・モノ・カネ・情報をいかにマネジメントするか（するべきか）を追求する学問である。また、ヒトの集まりである組織をいかにマネジメントするか（するべきか）についても追及する学問である。 人的資源管理論では、経営学において最も重要な資源であるとも言われる「ヒト（＝人的資源）」に焦点を当てて、組織の中で「ヒトがいかにマネジメントされているのか」「企業はいかにヒトをマネジメントしているのか」を学習する。		
教材（教科書）	特になし。 資料を配布する。		
教材（参考資料）	佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣アルマ、2007 年 スティーブン・ロビンス著（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント―入門から実践へ』ダイヤモンド社、2009 年 佐藤博樹・藤村博之・八代充史『マテリアル　人事労務管理』有斐閣、2006 年 これら以外の参考図書は必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	講義法で授業は進められる。適宜確認テスト（小テスト）を実施する。		
評価方法	小レポート（不定期）など（10%）、期末試験（90%）		
到達目標	ヒトのマネジメント、そしてヒトの集まりである組織のマネジメントを学び、将来的に役立つヒト・組織の管理に関する知識を身につけて、ヒト・組織の管理について説明できる。		
授業時間外学習	毎回授業の前々日までに、「京学なび」内に授業レジュメをアップロードするので、穴埋め部分以外に目を通しておくこと。 毎回、講義後の復習を忘れずに行うこと。 不明点や質問がある場合、次回の講義までに質問できるようにまとめておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的な姿勢で講義に取り組んでもらいたい。
質問などが生じた場合、そのまま放置せずに、オフィスアワーなどを積極的に活用してもらいたい。
授業中の私語は厳禁とする。私語によって他者に迷惑をかける場合は、退出を求める。

授業スケジュール

第 1 回　オリエンテーション、人的資源管理の概要①：　本講義の概要・進め方などについて、人的資源管理とは何か①
第 2 回　人的資源管理の概要②：　人的資源管理とは何か②
第 3 回　人的資源管理の特徴：　人事部の役割、人的資源管理の歴史
第 4 回　雇用管理①：　人的資源の採用・配置
第 5 回　雇用管理②：　雇用調整、定年制
第 6 回　人事制度①：　職能資格制度・人事考課制度①
第 7 回　人事制度②：　職能資格制度・人事考課制度②
第 8 回　能力開発①：　能力開発の考え方、教育訓練マネジメント①
第 9 回　能力開発②：　教育訓練マネジメント②、OJT と Off-JT
第 10 回 労働時間管理：　労働時間制度、働き方改革
第 11 回 賃金管理：　賃金管理、個別賃金、年功賃金と日本型雇用慣行
第 12 回 昇進管理①：　職能資格と選抜・昇進
第 13 回 昇進管理②：　ポジティブアクション、配置・異動
第 14 回 労働組合：　労働組合の機能、労使関係
第 15 回 福利厚生・退職給付：　付加給付管理、福利厚生・退職給付管理、戦略としての福利厚生

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J30282001
科目名	税務会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Accounting		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
授業概要	法人税法は、課税所得の計算原理を税法だけで完結的、網羅的に規定することはせず、その相当部分を適正な企業の会計慣行に委ねている。すなわち、税法の課税所得計算原理は独立に存在しているのではなく、公正な会計慣行をベースとして、税法固有の目的を実現するために必要な調整を加えているのである。したがって、「税務会計」を理解するには会計学と法人税法の両方の知識が不可欠となる。税法は強行法規であり、とくにわが国の法人税法は確定決算主義をとっているため、税法の諸規定は企業会計の実務に強い影響を与えている。 講義では、法人の課税所得算定の基礎となる企業会計の基準、会社法の計算規定などを説明しながら、法人税法及び租税特別措置法における法人税の規定及びこれらに係る政令、省令、通達による法人の所得計算の算定プロセスについて、基本的事項に絞って平易に説明する。課税所得の調整計算や法人税申告書の記載方法にも時間を割く。		
教材（教科書）	小池敏範『実務家養成シリーズ　わかりやすい法人税』（税務研究会出版局）		
教材（参考資料）	渡辺淑夫『法人税法　平成 30 年版』（中央経済社） その他講義でその都度紹介する。		
教育方法	配布レジュメ及び板書を活用し、講義法で行う。		
評価方法	授業中の取組姿勢（30%）、授業中の小テスト（30%）、期末試験（40%）		
到達目標	法人税の課税所得計算のしくみを理解し、法人税申告書（とくに別表 4、別表 5）を作成することができる。		
授業時間外学習	授業終了時に、次回のレジュメを配布するとともに,テキストの次回範囲を指定するので、予習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「税務会計論」という学問領域は会計学および税法の基礎知識がない受講生には理解が困難です。そのため、会計学（特に簿記論、財務諸表論）及び租税法（特に法人税）の科目を履修済の学生の登録を希望します。

授業スケジュール

1. 法人の区分と課税の範囲、法人税の体系
2. 課税所得の計算構造
3. 損益の期間帰属、受取配当等
4. 外貨建取引、減価償却資産、繰延資産
5. 給与、寄附金、交際費、その他の損金
6. 引当金・準備金制度、圧縮記帳制度
7. 税額の計算
8. 税効果会計（1）
9. 税効果会計（2）
10. 新会計基準と法人税（1）
11. 新会計基準と法人税（2）
12. 新会計基準と法人税（3）
13 中小企業の会計
14. グループ法人税制
15. 法人税申告書

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	★★

年度	2018	授業コード	J30401A01
科目名	中小企業経営論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Small & Medium Business Management Ⅰ		
担当者名	谷村　真理	旧科目名称	
授業概要	かつて経営学の父、P.F.ドラッガーは「経営とは成果を生むための活動」と定義した。企業は、経営理念を掲げ、組織を編成し、商品と価格を決定し、流通を確保し、プロモーションを行う。また、生産効率や流通量を上げるために様々な取組みを行う。しかしながら中小企業においては、経営資源が乏しいことから、あらゆる制約の中での意思決定や工夫が求められる。 本講義では、中小企業経営のあり方を、3 大経営資源（ヒト・モノ・カネ）の観点から紐解き、現状や課題、解決のための方法論について考察を行う。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	必要に応じて紹介する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布する。 また、適宜事例を紹介し、ディスカッションを行う。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	中小企業経営における「基本と原則」および「実践」を的確に説明することができる。 社会においても組織の歯車のひとつに堕することなく、成果を生み出すチームの一員として貢献できる知識および思考プロセスの習得することができる。		
授業時間外学習	日頃から中小企業や身近な商店に関心を持つとともに、それらに関連する諸情報の入手にあらゆるメディアの活用を心がける。 次回までにしておくことを、毎回の終了時に指摘する（推定授業時間外学習 30 分以上）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
中小企業経営への興味を持ち、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
授業スケジュール			
１．はじめに（本講義の概要） ２．企業と個人事業 ３．経営理念 ４．中小企業の経営戦略 ５．中小企業の人材マネジメント① ６．中小企業の人材マネジメント② ７．中小企業の組織マネジメント ８．中小企業のマーケティング① ９．中小企業のマーケティング② １０．中小企業の財務マネジメント① １１．中小企業の財務マネジメント① １２．中小企業の事業連携 １３．中小企業の国際化 １４．中小企業の危機管理 １５．中小企業の将来展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J30410A01
科目名	日本経営史Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Business History I		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
授業概要	江戸時代より昭和戦後時代に至る企業経営の近代化過程について概説する。 江戸時代商家経営の特質を指摘し、明治時代の会社制度の導入定着と実業家層の成長を講義する。 20 世紀に入って大企業社会の成長と日本型企業経営の発展について講義する。		
教材（教科書）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考資料）	次の書籍を薦める。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎･岡部桂史･平野恭平『１からの経営史』中央経済社 宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実『日本経営史』新版、有斐閣 宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』有斐閣 必要な文献は配付資料に記載し、そのほかに講義の中でその都度紹介する。		
教育方法	パワーポイントを利用し講義の形で進め、適宜意見聴取を行い、小レポートの作成を求める。		
評価方法	定期試験（100％）		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、現代の問題を長期的・歴史的な視点から説明することができる。		
授業時間外学習	講義のテーマは次ぎの通りであり、これに付き予習しておくこと。各回これに関連した小レポート実施する。 ２講.創業者と相続、３講・合名会社、４講・行商と店舗商業、５講・合本主義、６講・資産家と企業家と経営者、７講・在来経営と会社、８講・財閥、９講・専門経営者と経営者企業、10 講・大企業、11 講・「現金正札販売」、12 講・日本的経営、13 講・新経営者、14 講・トヨタ生産方式、15 講・スーパーとコンビニ		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をとること。
日本の経済・経営発展に対する興味をもつことを勧め、歴史の連続と断絶を問いかけたい。

授業スケジュール

１講.日本経営史の課題
２講.豪商の企業者活動(上方商人・三井家)
３講.三井家大元方の成立
４講.近江商人の経営発展
５講.明治時代の企業家と渋沢栄一
６講.会社制度の導入と発展
７講.豪商の家業改革と家政改革
８講.財閥の形成過程
９講.大企業時代の到来
10 講.第一次大戦期、都市型産業の発展
11 講.都市化と国内商業
12 講.日本的労務関係の形成
13 講.財閥解体と「財界追放」
14 講.自動車産業の発展と日本的生産システム
15 講.大規模流通企業の生成と展開

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J3042200C
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	(1) 簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 (2) この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 (3) 簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 (4) この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 (5) この講義は、次のステップの「簿記原理」（日商簿記検定 3 級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。		
教材（教科書）	渡部　裕亘　『ファーストステップ　簿記を学ぶ 第 2 版』 中央経済社		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義と演習を織り交ぜて進めます。		
評価方法	原則として、 小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。		
到達目標	日商簿記初級レベルの勘定科目に基づいて (1)　貸借対照表と損益計算書が作成できる。 (2)　基本的な取引の仕訳と転記ができる。 (3)　個人商店における決算処理ができる。 (4)　仕訳から財務諸表の作成に至るまでの過程を説明できる。		
授業時間外学習	(1) 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 (2) 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

(1) 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング･アップを行ってください。この講義を理解せずに、「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。
(2) 科目の性格上、1 回休むだけで理解が困難になります。出席するだけでは不十分であり、毎回その回の内容をしっかり理解してください。

授業スケジュール

この講義は、原則、次の順序で展開します。

1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的･種類
2. 資産･負債･純資産（資本）と貸借対照表
3. 収益･費用と損益計算書
4. 取引と取引要素の結合関係
5. 取引と勘定記入
6. 仕訳① [資産･負債･純資産（資本)]
7. 仕訳② [収益・費用]
8. 仕訳と転記
9. 仕訳帳と総勘定元帳
10. 試算表の原理
11. 6 桁精算表
12. 決算手続き

13. 貸借対照表と損益計算書の作成 14. 決算演習 15. 簿記一巡の取引に関するプリント演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J3042200D
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	秋口　達也	旧科目名称	
授業概要	(1) 簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 (2) この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 (3) 簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 (4) この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 (5) この講義は、次のステップの「簿記原理」（日商簿記検定 3 級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。		
教材（教科書）	渡部　裕亘　『ファーストステップ　簿記を学ぶ 第 2 版』 中央経済社		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義と演習を織り交ぜて進めます。		
評価方法	原則として、 小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。		
到達目標	日商簿記初級レベルの勘定科目に基づいて (1)　貸借対照表と損益計算書が作成できる。 (2)　基本的な取引の仕訳と転記ができる。 (3)　個人商店における決算処理ができる。 (4)　仕訳から財務諸表の作成に至るまでの過程を説明できる。		
授業時間外学習	(1) 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 (2) 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

(1) 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング･アップを行ってください。この講義を理解せずに、「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。
(2) 科目の性格上、1 回休むだけで理解が困難になります。出席するだけでは不十分であり、毎回その回の内容をしっかり理解してください。

授業スケジュール

この講義は、原則、次の順序で展開します。

1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的･種類
2. 資産･負債･純資産（資本）と貸借対照表
3. 収益･費用と損益計算書
4. 取引と取引要素の結合関係
5. 取引と勘定記入
6. 仕訳① [資産･負債･純資産（資本)]
7. 仕訳② [収益・費用]
8. 仕訳と転記
9. 仕訳帳と総勘定元帳
10. 試算表の原理
11. 6 桁精算表
12. 決算手続き

13. 貸借対照表と損益計算書の作成 14. 決算演習 15. 簿記一巡の取引に関するプリント演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J3042200E
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	川端　千暁	旧科目名称	
授業概要	(1) 簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 (2) この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 (3) 簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 (4) この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 (5) この講義は、次のステップの「簿記原理」（日商簿記検定 3 級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。		
教材（教科書）	渡部　裕亘　『ファーストステップ　簿記を学ぶ 第 2 版』 中央経済社		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義と演習を織り交ぜて進めます。		
評価方法	原則として、 小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。		
到達目標	日商簿記初級レベルの勘定科目に基づいて (1)　貸借対照表と損益計算書が作成できる。 (2)　基本的な取引の仕訳と転記ができる。 (3)　個人商店における決算処理ができる。 (4)　仕訳から財務諸表の作成に至るまでの過程を説明できる。		
授業時間外学習	(1) 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 (2) 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

(1) 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング･アップを行ってください。この講義を理解せずに、「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。
(2) 科目の性格上、1 回休むだけで理解が困難になります。出席するだけでは不十分であり、毎回その回の内容をしっかり理解してください。

授業スケジュール

この講義は、原則、次の順序で展開します。

1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的･種類
2. 資産･負債･純資産（資本）と貸借対照表
3. 収益･費用と損益計算書
4. 取引と取引要素の結合関係
5. 取引と勘定記入
6. 仕訳① [資産･負債･純資産（資本)]
7. 仕訳② [収益・費用]
8. 仕訳と転記
9. 仕訳帳と総勘定元帳
10. 試算表の原理
11. 6 桁精算表
12. 決算手続き

13. 貸借対照表と損益計算書の作成 14. 決算演習 15. 簿記一巡の取引に関するプリント演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J30452001
科目名	コーチング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Theory of Sport Coaching		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
授業概要	スポーツコーチングは、運動学、スポーツ社会学、心理学、運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ医学、栄養学などの科学や歴史、経験に裏づけられた技術指導に加え、選手との信頼関係を確立するためのコミュニケーションスキルや環境を整備するためのマネジメントスキルなど様々な要素が必要とされる。 そこで、コーチング論ではサッカーを中心に、指導者及び選手からの観点を理解し、すべてのスポーツに共通するメンタル、テクニック、フィジカルの知識を学び、トレーニングに活用する能力を身につける。		
教材（教科書）	プリントを配布する。		
教材（参考資料）	授業内で専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	平常点５０％（授業態度含む）、確認テスト５０％		
到達目標	さまざまな世代にスポーツを指導するための基礎を学び、実際にコーチングできる。		
授業時間外学習	毎回の講義終了時に、次回の範囲や課題を指定するので、予習・復習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
指導を志す学生として、遅刻・早退は認めません。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション ２．コーチングとは ３．コーチングとスポーツ界の歴史 ４．競技スポーツと生涯スポーツのコーチング ５．各年代の発育発達によるコーチング 6.指導者の役割 7．トレーニングの原理・原則 8．トレーニング処方 9．動機づけとその工夫 10．コーチング事例 11．コミュニケーションスキル 12．リスクマネジメント 13．コーチング事例 １４．理想のコーチ像 １５．コーチングの講義を通して学んだこと			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J30454001
科目名	生産管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Production Management		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	「生産管理」無くして効率的な生産活動は望めない。品質・時間・原価・調達に関わる活動、代表的な生産形態・生産方式、生産管理を取り巻く環境、等について学習する。研究開発、マーケティング、営業・販売といった他機能との連携も欠かせないことから本講義では、生産管理を幅広い視点から捉え、またモノづくりに少しでも関心を抱けるような方向で講義を行なう。ゆえに本講義を通して、オペレーション、コスト、品質、スピード、それらに関連する計画などの現実の対応を理解できるだけでなく、ものづくりへの関心をも高めることができる。		
教材（教科書）	なし。プリントを適時配布する。		
教材（参考資料）	藤本隆宏『生産マネジメント入門Ⅰ』日本経済新聞出版社,2001 年。 藤本隆宏『生産マネジメント入門Ⅱ』日本経済新聞出版社,2001 年。 泉英明『わかりやすい生産管理』日刊工業新聞社,2015 年。 田島悟『生産管理の基本が面白いほど分かる本』KADOKAWA,2017 年。		
教育方法	事前に配布した講義資料・レジュメに沿って、プロジェクタ（Word, Excel, PowerPoint,等）を使いながら、基本的に講義法で行なう。講義では、教員が冒頭で学習目標・ポイントを述べる。学生は、配布した講義資料・レジュメに、書き込みながら受講する。毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示する。ＤＶＤを使用する場合は、視聴後、講義時間内に感想や気づきを書くことになる。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。 課題・宿題（問題集）については講義内で手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		
到達目標	＊受講者は生産の全体像を理解でき、生産工程を支えるメカニズムを説明できる。 ＊受講者は多面的な視点でものづくりを分析することができる。		
授業時間外学習	第 1 回目　配付プリント「多様な指標でチェックされことを理解しよう」を読み,重要な点をまとめる。 第 2 回目　配付プリント「生産性って何だろう？ 原価って何だろう？」を読み,重要な点をまとめる。 第 3 回目　配付プリント「日々カイゼンが基本。カイゼンを知ろう(1)」を読み,重要な点をまとめる。 第 4 回目　配付プリント「日々カイゼンが基本。カイゼンを知ろう(2)」を読み,重要な点をまとめる。 第 5 回目　配付プリント「近代的なモノづくりはいつ頃からはじまったか？」を読み,重要な点をまとめる。 第 6 回目　配付プリント「生産方式と生産形態を理解しよう(1)」を読み,重要な点をまとめる。 第 7 回目　配付プリント「生産方式と生産形態を理解しよう(2)」を読み,重要な点をまとめる。 第 8 回目　配付プリント「計画の重要性とその仕方を知ろう(1)」を読み,重要な点をまとめる。 第 9 回目　配付プリント「計画の重要性とその仕方を知ろう(2)」を読み,重要な点をまとめる。 第 10 回目 配付プリント「計画の重要性とその仕方を知ろう(3)」を読み,重要な点をまとめる。 第 11 回目 配付プリント「注文して何時間・何日間、待てますか？」を読み,重要な点をまとめる。 第 12 回目 配付プリント「どのように働いているのかを知ろう」を読み,重要な点をまとめる。 第 13 回目 配付プリント「ISO とは何だろう？」を読み,重要な点をまとめる。 第 14 回目 配付プリント「製品だけではない、工程においても革新はあり得るか？」を読み,重要な点をまとめる。 第 15 回目 配付プリント「供給業者や販売業者との関係は？」を読み,重要な点をまとめる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊経営学総論の単位を取得している方が望ましい。 ＊遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。 ＊配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。			

授業スケジュール
1．多様な指標でチェックされことを理解しよう。キーワード） Productivity（生産性）または Products（品種）、Quality（品質）、Cost（原価）、Delivery（数量および納期）、Safety（安全）、Morale（意欲）、Environment または Ecology（環境性）。 2．生産性って何だろう？　原価って何だろう？　　キーワード）労働生産性、設備生産性、原材料生産性、エネルギー生産性、売上原価、製造原価、標準原価計算と実際原価計算、等。 3．日々カイゼンが基本。カイゼンを知ろう（1)。　キーワード）問題と課題, ECRS, 三現主義, 5 ゲン主義, 5W1H と 5 W2H, PDCA サイクル、等。中間課題について。 4．日々カイゼンが基本。カイゼンを知ろう（2)。　キーワード）アメリカでの評価 Kaizen、QC(Quality control)、TQC (Total Quality control)、TQM(Total Quality Management)、等。 5．近代的なものづくりはいつ頃からはじまったか？　キーワード）内部請負制とその崩壊理由。体系的管理運動、科学的管理法、動作・時間研究、現業と計画の分離、大量生産、テイラー、フォード、等。 6．生産方式と生産形態を理解しよう（1)。　キーワード）見込生産、受注生産、デカップリングポイント、多種少量生産、少種多量生産、Just in Time、リーン生産方式、等。 7．生産方式と生産形態を理解しよう（2)。　キーワード）個別生産・ロット生産・連続生産、等。 8．計画の重要性とその仕方を知ろう（1)。　キーワード）日程計画、PERT（Program Evaluation and Review Technique）, 等。 9．計画の重要性とその仕方を知ろう（2)。　キーワード）生産計画、線形計画法(Linear Programming),等。 10.　計画の重要性とその仕方を知ろう（3)。　キーワード）MRP（Material Requirements Planning:資材所要量計画), APS（Advanced Planning and Scheduling:先進的計画スケジューリング）,等。 11.　注文して何時間・何日、待てますか？。　　キーワード）リードタイム(Lead　Time)、SCM (Supply Chain Management) , 等。期末課題について。 12.　どのように働いているのかを知ろう。働く人の Safety（安全）と Morale（意欲）は？　　キーワード）多能工と単能工、多工程もち作業、多台もち作業、ストレスによる管理,等。 13.　ISO とは何だろう？　　キーワード）ISO9000、ISO14000 s、国際標準化機構との関係、等。 14.　製品だけではない、工程においても革新はあり得るか？　　キーワード）　ライフサイクル、プロセス・イノベーション、プロダクト・イノベーション、Utterback-Abernathy model、等。 15.　供給業者や販売業者との関係は？　キーワード）　CIM（Computer Integrated Manufacturing：コンピュータ統合生産)、下請け、系列（keiretu)、一次サプライヤー、二次サプライヤー、三次サプライヤー、グローバルな生産管理?　人件費が安いから海外に工場に？、ディーラー、代理店、等。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J30459001
科目名	財務管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Management		
担当者名	秋口　達也	旧科目名称	
授業概要	本講義では、①財務管理の基本理念と財務諸表の基本的な見方、分析方法について　②資本調達から運用、資金の管理までの流れ　③企業の成り立ちと多様な資金調達方法、株式市場、企業再編について　④株式投資に必要な分析方法、企業価値について取り扱う。本講義では、財務管理にかかわる基礎的な考え方や理論を理解してもらうために、多様な教材を用いる。本講義は講義中に多様な分析について演習を行うことで理解を深めてもらう。		
教材（教科書）	なし。独自の資料を使います。		
教材（参考資料）	財務管理の基礎知識（白桃書房）		
教育方法	講義法で授業は進められる。		
評価方法	講義内の演習に基づく評価（70%）。テスト（30%）		
到達目標	財務管理論にかかわる基本的な考え方と理論を理解し説明できる。企業経営に財務管理がどのような意味を持つのか理解し説明できる。		
授業時間外学習	講義終了時に今回・次回の範囲で質問をするので、資料等を調べ自分なりの回答を準備しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
遅刻や私語は厳禁とする。講義内で電卓を使うことがあるので準備しておくこと。　数学の基本的な知識、簿記・会計について基本的な知識があることが望ましい。			
授業スケジュール			
１．財務管理の基礎概念 ２．財務管理と会計 ３．貸借対照表 ４．損益計算書 ５．その他の計算書（キャッシュ・フロー計算書・原価計算） ６．財務分析 ７．利益管理 ８．資本調達管理 ９．資本運用管理 １０．資金管理 １１．企業・会社とは何か １２．資本調達の多様化と株式市場 １３．株式投資分析 １４．企業価値の算定方法 １５．総括-財務管理と企業評価			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J30460001
科目名	財務諸表論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Accounting		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	現在ほど、企業経営における会計の役割と影響が注目されている時代はない。さまざまな利害関係者と関わりながら活動している企業は、ある時点の財政状態と一定期間の経営成績を財務諸表にまとめ、報告することが要請されている。本講義は、財務諸表の作成が要請される背景や作成原理、表示方法を理解することを目標にする。 企業を取り巻く経済環境の変化に伴う会計の最新の潮流を紹介しながら、種々の企業活動がどのように会計情報に反映されているか紹介していく。		
教材（教科書）	片山覚他著　『入門会計学』　実教出版		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	レジュメを活用した講義形式です。学生が受け身にならないよう、時々自分の意見を発表する機会を設けます。		
評価方法	授業内レポート(40 点)、授業内テスト(60 点)		
到達目標	財務会計の意義と機能について説明できる。 会計情報の開示制度を説明できる。 財務諸表の意義･特徴を説明できる。 会計が企業経営に与える影響について説明できる。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の内容を明示するので、教科書の指定された部分を熟読しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
簿記原理を履修済みか、日商簿記３級の合格者であることが望ましい。 受講生は積極的に講義に参加すること			
授業スケジュール			
1.会計を学ぶ意義 2.会計と企業経営の関わり 3.財務会計のシステムと複式簿記 4.日本の会計制度 5.会計情報のディスクロージャー 6.会計の国際化 7.中間小テスト 8.財務諸表の体系 9.貸借対照表の内容 10.損益計算書の内容 11.キャッシュ･フロー計算書の内容 12.その他のディスクロージャー 13.企業集団と連結会計(1) 14.企業集団と連結会計(2) 15.総括：改めて会計とは何か			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J30463001
科目名	スポーツ指導者論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Sports Leader		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
授業概要	スポーツ行動は、本質的には社会特性を持つ現象であり、それ故、単純な自然現象だけでなく、文化的、社会的な側面を持つ。このような人間の営みとしてのスポーツの重要性を学習し、併せて社会生活にどのような意味をもたらすかを考えていく。学校や社会において、また行政においても、スポーツの振興は重要な課題であり、その基盤となるスポーツ指導者の育成と資質の向上、活動環境の整備が行われつつある。本授業では、スポーツの指導について、その目的、方法、計画、安全対策等を学習する。		
教材（教科書）	「健康運動実践指導者用テキスト」　（健康・体力づくり事業財団）		
教材（参考資料）	レクリエーション支援の基礎　(財)日本レクリエーション協会 2008		
教育方法	講義法で授業は進められる。		
評価方法	課題解決レポートの評価を 30%、学習態度、テストなどを 70%とする。		
到達目標	スポーツ指導について、正しい知識と効果的な指導法を理解し、スポーツ需要の質的変容について説明できる。		
授業時間外学習	スポーツ指導者になるためには、スポーツを幅広く学ぶことが大事である。スポーツの歴史やルール、指導者の自伝など、本をできるだけ読んでください。毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと.。 １回目：　配布プリントを読み、重要な点をマークすること。 ２回目：　配布プリントを読み、問に答えておくこと。 ３回目：　指導者の心構え・視点について、問に答えておくこと。 ４回目：　課題　　トレーニングの原理・原則について、レポート提出。 ５回目：　課題　　スキャモンの発育発達曲線について、レポート提出。 ６回目：　ゴールデンエイジの特性について説明出来るように準備すること。 ７回目：　スポーツ指導方法について、問いに答えておくこと。 ８回目：　スポーツ指導方法について、問いに答えておくこと。 ９回目：　課題　　トレーニング計画書を立案し、レポート提出。 １０回目：　中高年の運動計画について、問に答えておくこと。 １１回目：　安全確保のための指針について、説明できるように準備すること。 １２回目：　５大栄養素の役割について、レポート提出。 １３回目：　モチベーションを高める方法について、説明できるように準備すること・ １４回目：　刑法第２０４条及び２０９条について調べる。 １５回目：　スポーツ支援者の役割について、説明できるように準備すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

健康運動実践指導者の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割は、より高度なレベルの実技能力と、多様な対象に対する指導スキルの知識を修得することである。望ましいスポーツ指導者やリーダーを目指し、真剣に学ぶこと。

授業スケジュール

1	はじめに、文化としてのスポーツ・レクリエーション
2	指導者の役割①－人を支える「支援者」にとってのスポーツ・レクリエーション－
3	指導者の役割②－スポーツ・レクリエーション支援の考え方－
4	トレーニング論①
5	トレーニング論②
6	成長・発育のスキルの発達
7	スポーツ指導の方法と運動の学習理論
8	スポーツ指導の方法と運動の学習理論

9	指導計画のたて方
１０	性，年齢に応じたスポーツ指導計画
１１	スポーツ・レクリエーション活動と安全管理
１２	スポーツと栄養
１３	スポーツと心理的な要因
１４	スポーツと法
１５	スポーツ・レクリエーション支援者の資格と期待される役割

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J30484001
科目名	スポーツビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Business Theory		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
授業概要	本講義は、市場と組織という経営学の基本概念を用いながらスポーツビジネスを解説する。より具体的には、①スポーツビジネスと呼ばれる業界の構造および②スポーツというサービスの流通の仕方を解説する。その主たる問いは、①スポーツビジネスと呼ばれる業界とは何なのかであり、②なぜそのような業界構造が生まれたのかである。 　現実のスポーツビジネスはきわめて複雑である。それは、商品化された身体技能の流通に関わるからである。この複雑な問題を解きほぐすためには、自分の頭で考えることが必要となる。受講者は本講義を通してスポーツビジネスの基本を理解することができる。		
教材（教科書）	武井寿他『現代マーケティング論　第 2 版』実教出版, 2018. （1,900 円）		
教材（参考資料）	菊幸一・齋藤健司・真山達志・横山勝彦［編］『スポーツ政策論』成文堂 2011　3,500 円		
教育方法	本講義は主として板書形式をとる。		
評価方法	講義内小試験（40%）、講義内中試験（20%）、講義内大試験（40%）		
到達目標	受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 1. スポーツビジネスとは何かを説明することができる。 2. 現実のスポーツ界で生じる問題を市場と組織という視点で説明することができる。		
授業時間外学習	第 1 回から第 9 回：教科書の第 1 章と第 21 章を熟読しておくこと。講義内ではこの範囲に関連する小試験を課す。 第 10 回から第 15 回：教科書の第 22 章を熟読しておくこと。講義内ではこの範囲に関連する小試験を課す。 各回の推定授業時間外学習は 30 分以上となる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義初回に細かなルールを説明する。
教科書は、講義内で説明する図表集として、また試験の問題としても使用されるので準備しておくこと。

授業スケジュール

1．「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2．「分析視座」：簡単なゲームから、スポーツビジネスの分析視座を解説する
3．「説明するということ」：社会科学の立場からスポーツを説明する方法を解説する
4．「市場 1」：スポーツの勝敗と販売市場を解説する
5．「市場 2」：スポーツ選手と労働市場を解説する
6．「市場 3」：スポーツの市場における利益率を解説する
7．「組織 1」：強化部と事業部の分業を解説する
8．「組織 2」：試合というサービスの性質を解説する
9．「組織 3」：リーグという市場構造を解説する
10．「中間総括」：これまでの講義を振り返り、ポイントをまとめる
11．「スポーツマネジメント論入門」：スポーツマネジメント論が答える問いを解説する
12．「スポーツマーケティング論入門」：スポーツマーケティング論が答える問いを解説する
13．「スポーツビジネス論の今後」：最新の研究成果および業界事情を解説する
14．「スポーツビジネス論の最新動向」：これまでの講義を総括し、最新の業界動向を解説する
15．「講義の限界と今後の課題」：講義内容の実社会への展開を議論する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J30502001
科目名	事業承継論	単位数	2
科目名（英語表記）	Study for Business Succession		
担当者名	長谷川　佐喜男	旧科目名称	
授業概要	人材・資金・情報の豊富な大企業とは違い、日本の中小企業の持つ経営課題は幅広く、深刻なものが多い。その中でも『事業承継』は、企業存続と技術伝承という両面から重要な課題と言えます。 平成 18 年度税制改正では、10 年間の特例として大幅な事業承継税制の改正が行われます。税制面の優遇やそれぞれのスキームを利用した現実問題についても触れて、中小企業経営者を取り巻く事業承継の諸問題について、学生と共に議論を深めていきたいと考えています。事業承継の背景に迫り、財産承継だけではなく、経営の承継、特に経営理念・人材及び後継者教育、技術の承継等について、現状の問題点や課題を認識し、その対処法について事例を通じて学んで頂きたいと考えます。		
教材（教科書）	『事業承継成功のシナリオ』総合経営グループ　監修 長谷川佐喜男、著者 西川吉典、著者 長谷川 真也 出版 中央経済社		
教材（参考資料）	毎回、レジュメを作成配布		
教育方法	各講義で概要を説明した後に、学生とのフリーディスカッションを交えて、授業内容の理解度を図りたい		
評価方法	確認テスト 30 点　　期末レポート 70 点　受講姿勢		
到達目標	1．　事業承継の問題点を探り、それぞれの課題を理解する。 2．　財務の承継について、税制面など具体的なスキームを理解し、説明出来るようにする。 3．　円滑な事業承継を行うには何が必要か、各人が説明出来るようにする。		
授業時間外学習	講義での配布資料は、復習してくること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
事業承継には、決まった答えがあるわけではないので、経営者になった積もりで、積極的に意見を発表して欲しい。			
授業スケジュール			
1．事業承継の意味 2．事業承継における重要な問題点 3．親族内承継 4．第三者における承継（従業員・M＆A） 5．経営の承継 6．経営承継円滑法 7．事業承継税制の重要なポイント 8．資産の承継（相続との関係） 9．相続の基礎知識 10．相続税の計算方法 11．事業承継ガイドライン 12．後継者教育 13．理念・技術の承継 14．老舗の事業承継 15．事業承継計画			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J30506001
科目名	スポーツチームマネジメント論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
授業概要	講義では、スポーツチームマネジメントの基礎的な考え方と共に、スポーツチームマネジメントに必要な知識と技術について学ぶ。また、プロスポーツ組織のマネジメントとアマチュア組織のマネジメントの差異を考察し、「人財」「資材」「財源」を生み出すチーム運営について学ぶ。		
教材（教科書）	適宜プリント配布する。		
教材（参考資料）	授業内で専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	平常点（参加態度等）５０％　レポート２５％　発表２５％		
到達目標	スポーツチームマネジメントを題材に、社会組織でも応用できる基礎を学び実践できる。		
授業時間外学習	講義で学んだ内容を復習し、次回の講義予習を毎回指示する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業に積極的に参加し、遅刻等しないこと。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション、 ２．スポーツチームマネジメントとは ３．学生スポーツをめぐる社会的背景 ４．プロスポーツをめぐる社会的背景 ５．スポーツ組織のマネジメント概要 ６．クラブマネジメント ７．総合型地域スポーツクラブ ８．中間まとめ ９．チームマネジメント １０．チームマネジメント １１．チームビルディング １２．チームビルディング １３．チームビルディング １４．チームビルディング １５．スポーツチームマネジメントの講義を通して学んだこと			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J30509A01
科目名	フィールドワークゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	民間企業でのインターンシップを通して、天職・ライフワークを探求でき、学んだ知識を就職活動や社会において活用できる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	東洋経済新報社（編集）『就職四季報(総合版)』，『就職四季報(優良・中堅企業版)』		
教育方法	事前に配布した資料・レジュメに沿って、Word, Excel, PowerPoint を使いながら、講義法とグループワークを併用する。学生は、Word, Excel, PowerPoint,を使って、インターンシップ参加報告書や適職発見シートを完成させていく。		
評価方法	課題・宿題・小テスト（50%)、受講・発表・取組姿勢（50％）で評価する。		
到達目標	＊受講者は、企業をはじめとする組織における現実の経営を体験し、自己と社会の接点について深く考えることができる。 ＊受講者は、自身の卒業後の進路を明確に表明することができる。		
授業時間外学習	初回の授業においてこれから使う資料について説明を行う。 どの資料を次回使用するかを毎回指示する。宿題や小テストなどを通してゼミで習ったことの確認を行う場合もあるので、授業で使用した資料を必ず熟読しておくこと（各回の推定授業時間外学習は 30 分以上)。 第 1 回目…Word, Excel, PowerPoint の操作を確認しておく。インターンシップについて。 第 2 回目…株とは何か、株式会社とは何か、を読み、要約する。 第 3 回目…配布資料の総合職と一般職の相違、営業とそれ以外の職能との相違についてを読み、要約する。 第 4 回目…配布資料の大企業と中小企業の相違について、を読み、要約する。 第 5 回目…配布資料の業界の特徴、を読み、要約する。 第 6 回目…1day インターンシップに参加する。 第 7 回目…1day インターンシップに参加する。 第 8 回目…1day インターンシップに参加する。 第 9 回目…配布資料の新規学卒就職者の 3 年以内の離職率を、読み、要約する。 第 10 回目…配布資料の転勤の状況を読み、要約する。 第 11 回目…配布資料の有給休暇について、を読み、要約する。 第 12 回目…配布資料の法定労働時間と法定時間外労働について、を読み、要約する。 第 13 回目…配布資料の法定休日と法定外休日について、を読み、要約する。 第 14 回目…インターンシップ参加報告書を作成する。 第 15 回目…適職発見シートを作成する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＊インターンシップ/就職活動予定者を対象としているので科目選択の際には注意すること。
＊人的資源管理論の単位を取得している方が望ましい。
＊パソコンを使うことが多いので、そのつもりで履修すること。ワードやエクセル等のソフトを活用できる方が望ましい。

授業スケジュール

1. パソコンにおける各種設定、ゼミの進行について、各種ビジネスソフトの教習。
2. インターンシップについて。
3. 株式会社とは何か、上場・未上場の違いは何かを把握する。
4. 総合職と一般職の相違、営業とそれ以外の職能の相違について理解する。
5. 業界について（メーカー、商社、卸について)。
6. 業界について（サービス産業について)。
7. 1day インターンシップをどのように活用するかについて。
8. 企業規模・年齢・業界別の所得を把握する。
9. 額面と手取りを理解する。

10. 全国の新卒採用状況、志望者数ランキングにおける企業の特徴とその真実を明らかにする。
11. 法定労働時間、法定時間外労働、を理解する。
12. 法定休日、法定外休日、を理解する。
13. 企業規模・年齢・業界別の所得を把握する。
14. インターンシップ参加報告書を修正する。
15. 適職発見シートを修正する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J4000400K
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	・われわれは日々法律に囲まれて生活しているために、法律を学ぶことには十分意義がある。この演習では、取引の基本となるような事柄を取り上げて、まずは、法律用語になれること、法律用語辞典を使うことを通じて、財産法の大まかな知識を備えることを目的とする。 ・ゼミ生の報告を中心に演習を進めるが、報告者以外の参加者は、報告者に対して質問することにより理解を深める。他人の前で質問するためには、考えながら話を聞く必要がある。みんなの前で発言できるようにすることも、もう一つの目標である。		
教材（教科書）	・『デイリー六法』（三省堂）または『ポケット六法』（有斐閣）のいずれか ※演習に必携。もちろん予習復習に用いる。		
教材（参考資料）	・潮見佳男・中田邦博・松岡久和編『18 歳からはじめる民法』（法律文化社） ・中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276		
教育方法	・ゼミ生を 5 班程度に分けて、班ごとに報告することとする。 ・ゼミ用に参考文献を 1 冊購入するので、担当班はそれを読んだ上で、レジュメを作成すること。 ・報告者は、PC を使ってあらかじめ A3 用紙 2 枚程度までのレジュメを作成する。 ・発表が内容について、次回冒頭に小テストを行い、受講者の理解度を図る。		
評価方法	・取り扱うテーマに向かう真摯な態度を、報告内容、他人の報告に対する質問内容等を考慮要素として評価する。 ・報告に用いたレジュメを報告後、誤字脱字をはじめ、表現等が分りにくかった点調べきれていなかった点を追加・修正して提出すること。 ・１５回出席することを前提として（やむを得ない場合を除く）、報告関連（レジュメ・報告態度・内容）35%、質疑・議論への参加 35%、小テスト 30%。		
到達目標	・民法の入門書を読んで理解できる。 ・レジュメを作成できる。 ・みんなに分りやすく説明できる。 ・みんなの前で質問できる。		
授業時間外学習	・報告者は事前に報告内容をレジュメにした上で、研究室に報告に来ること。―もちろん修正を求める。 ・復習に際しては、法律用語等の意味を、参考書を用いて調べておくこと。― 調べられているかは、ゼミの際に確認する。 1. 今期の目標を考え、京学なびに登録する。 2. 自分の発表用にワードで最低限必要な項目を記録したテンプレートを作成する。 3. 六法を引けるように、家で練習する。 4. 「バイクで人身事故を起こしたら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。 5.「インターネット上で中傷されたら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。 6. 買った自動車が故障していたらのレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。 7. 「スーパーで食品を買ったら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。 8. 「英会話教室に通ったら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。 9. 「インターネット通販で靴を買ったら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。 10. 「友人に貸した自転車を取り戻したい」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向		

	けて、報告内容を復習する。 11.「入学するときにお金を借りたら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。 12.「自分のクレジットカードを作ったら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。 13.「アパートを借りたら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。 14.「親が家を新築したら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。 15. 自分の報告したレジュメを再度確認して、必要箇所を修正する。

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・受講しておいて欲しい科目：法学、民事法入門、民法総則、債権法、契約・不法行為法など。
・平行して受講して欲しい科目：物権法、消費者法
・遅刻のないようにすること。欠席は、事前に連絡すること（病欠も含む）。
・演習中の入退室を禁じる。
・その他、履修要項の「第 1 部　履修の心得」参照。

授業スケジュール

１．イントロダクション（自己紹介、班分け、発表順序の決定）
２．内容の読み合わせとゼミでの報告の仕方
３．法律文の読み方（『法学の扉』2-1）
４．バイクで人身事故を起こしたら
５．インターネット上で中傷されたら
６．買った自動車が故障していたら
７．スーパーで食品を買ったら
８．英会話教室に通ったら
９．インターネット通販で靴を買ったら
１０．友人に貸した自転車を取り戻したい
１１．入学するときにお金を借りたら
１２．自分のクレジットカードを作ったら
１３．アパートを借りたら
１４．親が家を新築したら
１５．第 14 回報告分の小テスト。夏休みの宿題発表とそのやり方の実践。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J4000400M
科目名	専門演習１	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar Ⅰ		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
授業概要	日本における経済法の中心は、独占禁止法です。この法律は、市場経済における経済活動の基本ルール「公正かつ自由な競争」を定めています。独占禁止法の基礎理論は、主に経済法の講義で学びます。この専門演習では、２年間かけて経済法の勉強を掘り下げ、４回生で、自分で選んだテーマについて卒業研究を執筆することを目標とします。まず、３回生春の専門演習１では、経済法の前提知識として、実際の企業行動や私たち消費者の行動の理解に役立つツールである、経済学の基本概念を理解することを目的とします。		
教材（教科書）	吉本佳生『出社が楽しい経済学』（ＮＨＫ出版、2009 年） その他、適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』（有斐閣、2012 年） その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	予習をしてきていることを前提に、教科書に沿って、受講者と質疑をしながら内容を確認していきます。 受講生による説明や意見の発表などの機会を毎回含みます。		
評価方法	平常点（予習に基づく発言など、積極的な授業参加）　３０％ 報告　　４０％ 学期末レポート　３０％ 成績評価の詳細は、初回の講義で説明する。		
到達目標	・次のキーワードについて、具体例を挙げて説明できるようになる。 サンクコスト、機会費用、比較優位、インセンティブ、モラルハザード 逆選択、価格差別、裁定、囚人のジレンマ、共有地の悲劇、割引現在価値 ネットワーク外部性		
授業時間外学習	第２回以降については、教科書の該当ページを読み、授業の終了時に指示する課題を行う。 （各回の学習推定時間は１時間。ただし、第８・１５回については３時間。） 以下のほか、学期末レポートの作成を計画的に行う。 第１回　シラバスを読んでおく 第２回　教科書 p11~22 第３回　教科書 p23~34 第４回　教科書 p35~46 第５回　教科書 p47~58 第６回　教科書 p59~70 第７回　教科書 p71~82 第８回　報告の準備 第９回　教科書 p83~94 第 10 回　教科書 p95~106 第 11 回　教科書 p107~118		

	第 12 回　教科書 p119~130 第 13 回　教科書 p131~142 第 14 回　教科書 p143~155 第 15 回　報告の準備

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1　「経済法」を受講すること
2　毎回出席し、課題に積極的に取り組むこと
3　ビジネスや企業に興味を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること

授業スケジュール

1　オリエンテーション
2　 サンクコスト
3　機会費用
4　比較優位
5　インセンティブ
6　モラルハザード
7　逆選択
8　報告
9　価格差別
１０　裁定
１１　囚人のジレンマ
１２　共有地の悲劇
１３　現在割引域価値
１４　ネットワーク外部性
１５　報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	J4000500K
科目名	専門演習２	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar II		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	・判例を通じて民法を学ぶ。取り扱う判例は、比較的新しいものとしたい。 ・ある問題について、判例に学説が対峙し、または学説が多岐にわたることがある。判例の考え方や学説の考え方を深く勉強することで、ものの見方・考え方を学び取ることを目的とする。 ・本演習は、受講生が担当判例を報告することにより進める。		
教材（教科書）	すでに配布済みの、京都学園大学法学会編『法学の扉』（成文堂）。		
教材（参考資料）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007） 遠藤浩・川井健編『民法基本判例集』（勁草書房） 民法判例百選Ⅰ		
教育方法	・報告担当者がレジュメを配布する。 ・小型の六法 ・各自がこれまで履修してきた民法科目の教科書。		
評価方法	・取り扱うテーマに向かう真摯な態度を、報告内容、他人の報告に対する質問内容等を考慮要素として評価する。 ・１５回出席することを前提として（やむを得ない場合を除く）、報告関連（レジュメ・報告態度・内容）35%、質疑・議論への参加 35%、レポート 15%、宿題の実施状況 15%。		
到達目標	・法学部生として求められる最低限度の内容でレジュメが作成できるようになる。 ・他人に対して自分の意見を正しく伝えることができるようになる。 ・自らのスケジュールをしっかり管理し、事前連絡・事後報告ができるようになる。 ・民法がおもしろいと思えるようになる。		
授業時間外学習	・報告者は事前に報告内容レジュメにした上で、研究室に報告に来ること。―もちろん修正を求める。 ・報告担当でないときも、判例百選やデータベース等で事前に判例には目を通し、事実関係について図を書いてくること。― 目を通してきたかは、ゼミの際に確認する。 ・判例を読んでいて分からない法律用語等は、参考書を用いて意味を調べておくこと。― 調べられているかは、ゼミの際に確認する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・携帯を忘れても、六法は持参すること。
・民法関連の単位は積極的に取得すること。ゼミと平行していても構わない。
・ゼミはコミュニケーションの場であり、恥ずかしがらずに、色々質問しよう。
・やむを得ないものを除き、大幅な遅刻や欠席は厳禁！！
・やむを得ず欠席する場合には、事前に連絡をすること。事前に連絡がない欠席を無断欠席と言い、成績評価の際に減点する。

授業スケジュール

【進め方】
　担当者は担当判例の理解に必要な民法上の制度についてまず 1 度報告し、参加者が判例を確実に理解できる前提を整えた上で、2 日目に最高裁判決そのものについて発表し、参加者で議論する。

【各回の内容】
1．ガイダンス 1 ―ゼミでの心構え、ゼミの運営方法等の確認、参加者の自己紹介、報告者（ないし報告班）の決定、ゼミでの報告について
　　渡邊博己「判例の調べ方とゼミでの報告」『法学の扉』110 頁～114 頁
《課題》
　　・自分の報告日を確認し、その 1 週間前に事前確認をするとして、いつまでにレジュメを仕上げなければならないか、いつまでに文献を収集し、読まなければならないか、計画しよう。
　　・生活の乱れを防止するために、まず時間割を基本にして 1 週間の生活を考えよう。

2．ガイダンス２―情報の調べ方、レジュメの作り方、
　新井京・西片聡哉「法情報の調べ方」『法学の扉』87 頁～109 頁
　判決文には何が書かれているのかの確認
3．94 条 2 項・110 条の類推適用（最判平 18・2・23 判時 1925 号 92 頁）（百選１ 22 事件）
　事件に関する事実の概要
　民法の制度の確認
4．同上
　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
5．無権代理人の本人相続（最判平 5・1・21 判時 1478 号 107 頁）（百選１ 36 事件）
　事件に関する事実の概要
　民法の制度の確認
6．同上
　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
7．賃貸借契約の終了と転借人への対抗（最判平 14・3・28 判時 1787 号 119 頁）（百選１ 3 事件）
　事件に関する事実の概要
　民法の制度の確認
8．同上
　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
9．民法 194 条に該当する善意占有者の使用収益権（最判平 12・6・27 判時 1715 号 12 頁）（百選１ 66 事件）
　事件に関する事実の概要
　民法の制度の確認
10．同上
　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
11．分筆後の残余地の特定承継と袋地所有者の通行権（最判平 2・11・20 判時 1398 号 60 頁）（百選１ 68 事件）
　事件に関する事実の概要
　民法の制度の確認
12．同上
　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
13．ゼミレポートを書く１― 卒業論文を念頭に
　脚注の付け方の確認、参考文献の書き方の再確認
　今まで読んできた文献の形をまねしながら、発表した判例についてレポートにしましょう。
14．ゼミレポートを書く２― 卒業論文を念頭に
　レポート作成中の質問・相談を行う時間
15．ゼミレポートを書く３― 卒業論文を念頭に
　書いたもののチェックを受けて、修正。
　（宿題）　レポートを提出期限までに完成させる。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J4000500N
科目名	専門演習２	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Seminar II		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
授業概要	日本における経済法の中心は、独占禁止法です。この法律は、市場経済における経済活動の基本ルール「公正かつ自由な競争」を定めています。独占禁止法の基礎理論は、主に経済法の講義で学びます。この専門演習では、２年間かけて経済法の勉強を掘り下げ、４回生で、自分で選んだテーマについて卒業研究を執筆することを目標とします。 　まず、３回生秋の専門演習２では、経済法の講義で学んだ知識を確認し、不公正な取引方法を中心とする、重要な事例について、丁寧に事実関係を確認し、独禁法の考え方について理解を深めます。そして、独占禁止法の考え方を使って、事例を説明できるようなることを目指します。		
教材（教科書）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法　（第４版)』（有斐閣、2014 年）		
教材（参考資料）	主な参考文献 ・金井貴嗣・泉水文雄・武田邦宣編　『経済法判例・審決百選[第２版]』（ジュリスト増刊)(有斐閣、2017 年） ・鈴木孝之・河谷清文　『事例で学ぶ　独占禁止法』(有斐閣、2017 年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法[第２版]』（有斐閣、2015 年） ・根岸哲・舟田正之『独占禁止法概説[第５版]』（有斐閣、2015 年） その他については、授業で適宜紹介するl。		
教育方法	予習を前提に、学生との質疑を交えた講義と、学生による報告を中心に授業を行います。		
評価方法	平常点（課題への取り組み）３０％ 報告　　４０％ 学期末レポート　３０％ 評価方法の詳細は、初回の講義で説明する。		
到達目標	・独占禁止法の主な行為類型について説明できるようになる。 ・授業で取り上げた事例について、独占禁止法上の分析を行うことができるようになる。 ・事例につき、事実関係を図で表現できるようになる。		
授業時間外学習	毎回、次回までに読むべきと指示された教科書の該当箇所又は配布資料を読み、課題を を行う。課題の内容には、事例を読み図で説明できるように準備することが含まれる。 （各回の学習推定時間は１～２時間）		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１　「経済法」の講義の復習をすること ２　毎回出席し、課題に積極的に取り組むこと ３　ビジネスや企業に興味を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること			

授業スケジュール
＜第１部　導入・公共の利益に反して＞ １．オリエンテーション　　独占禁止法の全体像 ２．公共の利益に反して（１）（概要） ３．公共の利益に反して（２）（デジコン電子事件） ＜第２部　不公正な取引方法＞ ４．不公正な取引方法の全体像 ５．優越的地位の濫用（１）（山陽マルナカ事件） ６．優越的地位の濫用（２）（日本トイザらス事件） ７．優越的地位の濫用（３）（ローソン事件） ８．優越的地位の濫用（４）（その他の事例） ９．報告（１） １０．不当廉売（１）（概要） １１．不当廉売（２）（都立芝浦と畜場事件） １２．再販売価格の拘束（１）（概要） １３．再販売価格の拘束（２）（ハーゲンダッツ事件） １４．報告（２） １５．その他の不公正な取引方法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J40017001
科目名	税法	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
授業概要	受講生が、租税法の体系と基本原理を理解したうえで、主要な税目（所得税、法人税等）についての課税要件を習得できるように、基礎的知識を中心に講義を進める。内容は、租税法総論及び租税実体法を中心とする。 できる限り、実務上の問題や現実の租税事件等にも言及し、また、税に関連する最近のニュースや話題を解説するなど、税実務の現状や税制についての興味がもてるような内容とする。 学生は、社会と税との関わりの重要性を知り、基本的な税の仕組みを把握することができる。		
教材（教科書）	清永敬次『税法(新装版)』(ミネルヴァ書房)　3,360 円　(改訂の可能性あり)		
教材（参考資料）	岡村忠生ほか『租税法』(有斐閣アルマ)2,100 円 その他は、初回の講義時に説明する。　また、授業中に適宜指示する。		
教育方法	授業では、テキストの他に毎回補助レジュメ(5~8 枚程度)を配布し、講義形式で行う。 授業開始 15 分程度、最近の新聞記事等における税・財政関係のトピックを解説する。 授業では、最初に『疑問点』(このテーマで何を学ぶか)を数点提示し、これをテーマに沿って解説することで疑問点の解決を図り、発展的な内容について『さらに疑問』を提示(及び検討)する。		
評価方法	定期テスト　70% レポート・復習テスト　25% 平常点(講義への取組み、講義内容への質問や理解の状況等)　5%		
到達目標	1　税が自分の生活と如何に関わり合いをもつ問題であるかを理解する。 2　税法の基本原則と憲法との関係を理解する。 3　主要税目についての基本的な仕組や理論を理解し、そこでの問題や税と社会との関わりが説明できることを目標とする。		
授業時間外学習	日常生活をはじめ、さまざまな経済活動には「税」が密接に関連していることを意識し、普段から、マスコミ報道等の税に関する情報には、関心を持っておくこと。 授業中に配布したプリントの重要項目については、テキスト、参考文献で確認(復習)しておくこと。復習のための小テストを複数回実施する。 講義初回に詳細な授業計画(各回のテキストの該当ページを記載したもの)を配布するので、次回履修予定部分(以下のとおり)のテキスト該当ページを予習しておくこと。(各回の学習時間　45 分程度) 第 1 回　なし 第 2 回　テキスト 1 編 1 章 1 節、2 章 2 節 第 3 回　テキスト 1 編 3 章 1 節、2 節 第 4 回　テキスト 1 編 4 章 2 節、3 節 第 5 回　テキスト 2 編 3 章 1 節一 第 6 回　テキスト 2 編 3 章 1 節一～三 第 7 回　テキスト 2 編 3 章 1 節四(1)(2) 第 8 回　テキスト 2 編 3 章 1 節四(3) 第 9 回　テキスト 2 編 3 章 1 節四(4)(5) 第 10 回　テキスト 2 編 3 章 1 節四(6)、五 第 11 回　テキスト 2 編 3 章 2 節一 第 12 回　テキスト 2 編 3 章 2 節二三四(1)(2) 第 13 回　テキスト 2 編 3 章 2 節四(3) 第 14 回　テキスト 2 編 3 章 2 節五 第 15 回　テキスト 2 編 3 章 2 節五、六		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
税法が記載された六法、法規集を持参することが望ましい。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい(初			

回の講義時に指示する)。
授業スケジュール
1. ガイダンス　導入、租税と税法 2. 総論１　租税の意義と根拠 3. 総論２　租税法律主義・租税平等主義 4. 総論３　租税法の解釈と適用 5. 所得税１　所得税の概要、納税義務者 6. 所得税２　所得概念、帰属 7. 所得税３　所得税の計算の仕組み、課税標準 8. 所得税４　収入金額 9. 所得税５　必要経費 10. 所得税６　所得控除、税率、確定申告、確定申告書作成演習 11. 法人税１　法人税の概要 12. 法人税２　納税義務者、課税所得 13. 法人税３　益金及び損金の原則 14. 法人税４　益金及び損金の別段の定め(その 1) 15. 法人税５　益金及び損金の別段の定め(その 2)、税額計算

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J40027001
科目名	消費者法	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	世の中ではさまざまな消費者問題が起こっている。まずは、どのような被害があるのか。それに対して法律はどのような対処を行ってきたのか。現在どのような問題が指摘されているのか。そういったことについて触れていきたい。消費者法というのは、非常に捉えにくい分野であると思われるので、適宜裁判例等を取り上げ、具体例を示しながら講義する予定である。人は皆消費者の側面を持つ。また、社会人として消費者に対する商品販売等を業とする学生もいるであろう。われわれの日常生活に欠かせない法的知識を習得することが目的である。		
教材（教科書）	・『デイリー六法』（三省堂）または『ポケット六法』（有斐閣）のいずれか ※講義に必携。もちろん予習復習に用いる。例年テストの際の持込みも認めている。		
教材（参考資料）	中田邦博、鹿野菜穂子『基本講義消費者法』（日本評論社） 日本弁護士連合会編『消費者法講義』（日本評論社） 坂東 俊矢、細川 幸一『18 歳から考える消費者と法 』（法律文化社） 長尾治助・中田邦博・鹿野菜穂子『レクチャー消費者法』（法律文化社）		
教育方法	レジュメを配布し講義する。重要語句等を空欄にしておき、受講生が講義を聴きながら補充する方式を採る。講義の最後には、同日扱った内容についての確認を行う。この確認は、受講生の受講意識を高め、講義の内容をもう一度受講生自ら整理することを目的としている。		
評価方法	各講義の最後に行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	・消費者とはどのような存在かを理解する。 ・消費者問題がなぜ起るのかを理解する。 ・訪問販売（キャッチセールスを含む）で不本意な契約をした場合にいかに対応するかを理解する。 ・通信販売で不本意な契約をした場合にいかに対応するかを理解する。 ・マルチ商法とはどのようなものかを理解する。 ・クレジット契約がどのような構造化を分った上で、同契約のクーリング・オフがどのような仕組みかを理解する。		
授業時間外学習	・日々新聞やテレビにおいて報道される消費者問題を常に意識しておくこと。 Evernote 等のシステムを使って、スクラップしていくのも良い。 ・レジュメ中の不明な法律用語を調べておくこと。 ・参考文献に掲げた書籍をひもとき、講義と関連する部分に目を通すこと（復習）。 ・各回、事前に次の点について参考資料に目を通しておくと良い（予習）。 1. なぜ消費者問題が起こるのか。 2. 消費者・消費者団体・事業者・事業者団体とは何か。 3. 製品の種類ごとにこれまでどのような問題が起こり、何が問題だったのか。 4. 契約法の一般原則を確認すること。消費者契約では、なぜ、どのような修正が必要か。 5. 同上 6. 約款とは何か、なぜ必要か、どんな問題があるか。 7. 消費者契約法はなぜ定められたのか。どのようなことが定められているか。民法とどう違うのか。 8. 同上 9. 事業者は、どのような場面で、どのような責任を負うか。 10. 特定商取引法とはどんな法律か。訪問販売とは、どのような販売方法か。どのような問題があるか。 11. 訪問販売で締結した契約のクーリング・オフはなぜ必要か。どのようなルールになっているか。 12. マルチ商法とはどのような商法か。なぜ問題か。どのような措置が取られているか。 13. 通信販売で締結した契約の返品権とはどのような権利か。クーリング・オフとどう違うのか。どのような広告規制がされているか。 14. 個別信用購入あっせんとはどのような取引か。クーリング・オフはどのような仕組みになっているか。		

	15. 抗弁の対抗とは何か。

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・事前に履修しておいて欲しい科目：法学、民法総則、物権法、債権総論
※上記科目は平行していても履修することが望ましい。
・六法を必ず持参すること。

授業スケジュール

1. 消費者法の原理
2. 消費者・消費者団体・事業者・事業者団体
3. 製品の種類ごとにみる安全確保の現状と課題
4. 消費者契約と民事法１
　　契約法の一般原則と消費者契約
　　民法の契約ルールとその限界１
5. 消費者契約と民事法２
　　民法の契約ルールとその限界２
6. 消費者契約と民事法３
　　約款による取引
7. 消費者契約と民事法４
　　消費者契約法の内容１
8. 消費者契約と民事法５
　　消費者契約法の内容２
9. 消費者契約と民事法６
　　事業者の責任
10. 特定商取引法１
　　特定商取引法とは何か
　　訪問販売１
11. 特定商取引法２
　　訪問販売２―クーリング・オフ
12. 特定商取引法３
　　マルチ商法―マルチ商法はなぜ問題か。どのような措置が取られているか。
13. 特定商取引法４
　　通信販売―クーリング・オフに代わる返品権、広告規制
14. 割賦販売法１
　　個別信用購入あっせんとクーリングオフ
15. 割賦販売法２
　　個別信用購入あっせんと抗弁の対抗

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J40038A01
科目名	会社法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law I		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	会社は商品やサービスを提供し、雇用の場を創出し、貯蓄の機会を提供するなど、私達の生活を支えている。本講義は、この現代社会に不可欠な存在である会社に関する法規制について講義する。また、その時々において現実に問題となっている会社に関するトピックスも取り上げ解説を行う。「会社法Ⅰ」では、企業・会社の諸形態、株式会社の設立、資金調達(コーポレート・ファイナンス)の一場面としての株式・社債に関する規制や、計算に関する規定、会社の清算などの範囲を扱う。なお、国際的観点から、配布資料における説明文や条文は原則として日本語と同内容のものが英語でも提示され、また、アメリカ会社法との比較がなされる場合がある。		
教材（教科書）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）、最新版を用いる。六法（『ポケット六法』（有斐閣）など）を必ず持参すること。 その他に、毎回講義レジュメ・資料を配布する。		
教材（参考資料）	『別冊ジュリスト No.229 会社法判例百選　第３版』（有斐閣、2016 年）　2,592 円		
教育方法	事前に「京学なび」にアップロードした講義レジュメに沿って、講義法で行う。講義では、教員が冒頭で基本例題を提示しながらポイントを明確にし、学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講する。授業中には基本的な知識・考察を問う質問を行うこととし、正解ができた受講者、適切に考慮した見解を発言した受講者にはポイントを与える。授業の最後には、公認会計士試験「企業法」分野を念頭におきながら、講義内容に関する確認テストを行い、次回の授業で解説を行う。		
評価方法	授業の最後に行う小テスト（正誤問題やコメント　40%)、期末試験（正誤問題と記述問題　60%)。期末試験は、出題問題の理解力や論理的な説明力を問う。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．株式会社の特徴とその社会的意義について説明できるようになる。 ２．株式会社を設立する手続きについて具体的に説明できるようになる。 ３．株主の基本的権利について、少数株主権を含め、説明できるようになる。 ４．株式発行と利益配当に係わる会社法の規制の意義について説明できるようになる。 ５．株式会社の清算手続きについて具体的に説明できるようになる。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する教科書のページ（以下のページ数は 19 版による）と講義レジュメに目を通し、レジュメの空欄に記入するキーワードを考えてくること（各回の学習推定時間は 45 分)。 第 1 回　教科書 1-12 頁 第 2 回　教科書 42-64 頁 第 3 回　教科書 318-323 頁 第 4 回　教科書 13-19 頁 第 5 回　教科書 20-25 頁 第 6 回　教科書 65-74 頁 第 7 回　教科書 75-91 頁 第 8 回　教科書 92-116 頁 第 9 回　教科書 135-144 頁 第 10 回　教科書 144-164 頁 第 11 回　教科書 280-296 頁 第 12 回　教科書 303-312 頁 第 13 回　教科書 297-302 頁 第 14 回　教科書 316-317 頁 第 15 回　教科書 313-315 頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．履修が望ましい他の関連科目：会社法Ⅱ、金融商品取引法 ２．新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済・経営との関係を考えてみよう。			

授業スケジュール
1. イントロダクション（Introduction） 2. 株式会社の設立（Incorporation of Joint Stock Corporation） 3. 合同会社の設立（Incorporation of Limited Liability Company） 4. 株式会社の継続的要件（On-going Requirements of Joint Stock Corporation） 5. 公開会社（Public Corporation） 6. 株主有限責任（Shareholders' Limited Liability） 7. 種類株主（Class Shares） 8. 少数株主権（Minority Shareholders' Rights） 9. 株式発行（Issuance of Shares） 10. 自己株式の取得（Share Repurchase） 11. 決算（Settlement of Accounts） 12. 利益配当（Dividends） 13. 資本金の額の減少（Reduction in Stated Capital） 14. 清算（Liquidation） 15. 破綻処理手続（Insolvency Proceedings）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2018	授業コード	J40038B01
科目名	会社法Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law Ⅱ		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	会社は商品やサービスを提供し、雇用の場を創出し、貯蓄の機会を提供するなど、私達の生活を支えている。本講義は、この現代社会に不可欠な存在である会社に関する法規制について講義する。また、その時々において現実に問題となっている会社に関するトピックスも取り上げ解説を行う。「会社法Ⅱ」では、株主総会・取締役・取締役会・代表取締役・監査役会・会計監査人など、会社の機関（コーポレート・ガバナンス）と会社の組織再編について、大規模株式会社を念頭に、基本的な枠組みを講義する。なお、国際的観点から、配布資料における説明文や条文は原則として日本語と同内容のものが英語でも提示され、また、アメリカ会社法との比較がなされる場合がある。		
教材（教科書）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）、最新版を用いる。六法（『ポケット六法』（有斐閣）など）を必ず持参すること。 その他に、毎回講義レジュメ・資料を配布する。		
教材（参考資料）	『別冊ジュリスト No.229 会社法判例百選　第 3 版』（有斐閣、2016 年） 2,592 円		
教育方法	事前に「京学なび」にアップロードした講義レジュメに沿って、講義法で行う。講義では、教員が冒頭で基本例題を提示しながらポイントを明確にし、学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講する。授業中には基本的な知識・考察を問う質問を行うこととし、正解ができた受講者、適切に考慮した見解を発言した受講者にはポイントを与える。授業の最後には、公認会計士試験「企業法」分野を念頭におきながら、講義内容に関する確認テストを行い、次回の授業で解説を行う。		
評価方法	授業の最後に行う小テスト（正誤問題やコメント　40%）、期末試験（正誤問題と記述問題　60%）。期末試験は、出題問題の理解力や論理的な説明力を問う。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	1．会社法上認められる会社の機関について説明できるようになる。 2．株主総会の権限と株主の議決権行使について、具体的に説明できるようになる。 3．取締役の基本的義務と責任、競業取引や利益相反取引の規制について説明できるようになる。 4．代表取締役の権限について、具体的に説明できるようになる。 5．監査役と会計監査役の職務と権限について具体的に説明できるようになる。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する教科書のページ（以下のページ数は 19 版による）と講義レジュメに目を通し、レジュメの空欄に記入するキーワードを考えてくること（各回の学習推定時間は 45 分）。 第 1 回　教科書 177-184 頁 第 2 回　教科書 185-188 頁 第 3 回　教科書 189-193 頁 第 4 回　教科書 194-203 頁 第 5 回　教科書 204-213 頁 第 6 回　教科書 227-237 頁 第 7 回　教科書 214-221 頁 第 8 回　教科書 222-226 頁 第 9 回　教科書 241-245 頁 第 10 回　教科書 246-247 頁 第 11 回　教科書 251-255 頁 第 12 回　教科書 257-268 頁 第 13 回　教科書 269-279 頁 第 14 回　教科書 342-351 頁 第 15 回　教科書 352-374 頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．履修が望ましい他の関連科目：会社法Ⅰ、金融商品取引法 2．新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済・経営との関係を考えてみよう。			

授業スケジュール
１．株式会社の役員・会議体（Officers and Decision-Making Meetings of Joint Stock Corporation）
２．株主総会の権限（Powers of Shareholders' Meeting）
３．株主総会の開催（Convocation of Shareholders' Meetings）
４．株主総会の決議要件（Resolution Requirements for Shareholders' Meetings）
５．取締役（Directors）
６．取締役の義務（Duties of Directors）
７．取締役会（Board of Directors）
８．代表取締役（Representative Director）
９．監査役会（Board of Statutory Auditors）
１０．会計監査人（Accounting Auditor）
１１．指名委員会等設置会社（Corporation with Committes）
１２．役員等の責任（Directors' Liabilities）
１３．責任追及訴訟（Shareholder Derivative Suits）
１４．合併手続（Steps for Merger）
１５．買収防衛策（Defensive Measures in Hostile Takeover）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J40043001
科目名	金融商品取引法	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Instruments and Exchange Law		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
授業概要	たとえある企業が優秀な人材に恵まれ、優れた技術を持っていたとしても、資金を必要なタイミングで必要な量だけ調達できなければ、ビジネスで成功することはできません。企業がビジネスに必要な資金を調達するには、いくつかの方法がありますが、最も重要な方法が株式による資金調達です。 しかし、投資家が安心して株式を買うためには、様々なルールが整っていることが必要です。金融商品取引法の目的は、そのようなルールを整え、投資家が安心して株式等に投資し、企業がスムーズに資金調達をし、円滑な企業活動を行い、ひいては経済が発達することです。 　この講義では、企業、投資家、社会の３つの視点から、金融商品取引法の基本的な仕組みと役割を理解できるようになることを目的としています		
教材（教科書）	黒沼悦郎『金融商品取引法 （第６版)』（日経文庫、2015 年） その他に、毎回講義レジュメを配布する。		
教材（参考資料）	近藤光男ほか『基礎から学べる金融商品取引法入門（第３版)』（弘文堂、2015 年） その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	講義法で授業を行う。毎回、講義の冒頭で、その回の理解すべきポイントと、授業内レポートのテーマを説明する。受講生は、レポートのテーマを意識しながら授業に取り組み、授業の最後に授業内レポートを作成する。優秀な授業内レポートは、次回の講義で紹介する。授業内レポートで全体的な理解度を把握し、次回に復習及び補足説明を行う。		
評価方法	平常点（授業内レポート） 30% 期末テスト　70％ 評価方法の詳細は、初回の講義で説明する。		
到達目標	・発行開示と継続開示の仕組みをキーワードを使って説明できるようになる。 ・不実の開示を防ぐための仕組みを説明できるようになる。 ・平易な事例について、インサイダー取引に該当するか判断できるようになる。 ・適合性原則について説明できるようになる。		
授業時間外学習	予習として以下の教科書の箇所を読み、復習として、レジュメと教科書を活用して、各回のポイントについて自筆ノートを作成する。この自筆ノートに限り、期末テストに持ち込むことができる。 （各回の学習推定時間は１時間） 第１回　教科書　該当箇所無し。 第２回　教科書　ｐ２０－２３ 第３回　教科書　ｐ２３－３６ 第４回　教科書　ｐ３６－５５ 第５回　教科書　ｐ５８－６８ 第６回　教科書　ｐ６９－７７、８５－８６ 第７回　教科書　ｐ８８－１１７ 第８回　教科書　ｐ１２０－１３７ 第９回　教科書　ｐ４１－４４ 第１０回　教科書　ｐ１４０－１５７ 第１１回　教科書　ｐ１６０－１７０ 第１２回　教科書　ｐ１７１－１８４ 第１３回　教科書　ｐ１８６－２０６		

	第１４回　教科書　ｐ２４４－２５８ 第１５回　教科書　ｐ２０８－２４１

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・事前に、ビジネス法入門を受講していることが望ましい。
・企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴すること。
・お互いに気持ちよく授業を受け勉強に集中できるように、受講マナーを守ること。
　（受講マナーについては、最初の授業で確認する。）

授業スケジュール

1　企業の資金調達と株式
2　資本市場の仕組みと役割
3　金融商品取引法の内容と目的
4　資本市場の取引対象とプレーヤー
5　有価証券の発行（１）（発行開示）
6　有価証券の発行（２）（不実の発行開示）
7　上場会社のディスクロージャー
8　公開買い付けの規制
9　市場における有価証券の売買・デリバティブ取引（１）（デリバティブ取引）
１０　市場における有価証券の売買・デリバティブ取引（２）（上場・売買取引・市場）
１１　市場における不公正な取引の規制（１）（インサイダー取引）
１２　市場における不公正な取引の規制（２）（相場操縦）
１３　有価証券の売買・デリバティブの勧誘
１４　金融商品取引法のエンフォースメント
１５　金融商品取引法の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J40048001
科目名	刑法Ⅰ（刑法総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law I (General Part)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
授業概要	刑法Ⅰ（刑法総論）では、犯罪論の基本構造（全ての犯罪に共通する犯罪成立要件）を主に解説する。このことから、刑法総論は抽象的な議論が多く、初学者には難解に感じられるかもしれない。しかし、本講義では、できる限り具体的な事例を通じて、問題を簡略化し、判例・学説がどのように成立したか、学説等の理論背景の問題、また理論の対立状況を解説する。これらを通じて、犯罪の基本的構造とその論点を理解できること目標とする。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	予習・復習のために購入すべき文献として、以下の文献を紹介する。 ・佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） 上記文献以外により深く学習したい学生には、以下の文献を紹介する。 ・佐久間修『刑法総論』（成文堂・２００９年） 判例教材として、以下の文献を紹介する。 ・大谷實編『判例講義刑法Ⅰ総論〔第２版〕』（悠々社・２０１４年） ・山口厚＝佐伯仁志『刑法判例百選Ⅰ総論（第７版）』（有斐閣・２０１４年） ・井田良＝城下裕二編『刑法総論判例インデックス』（商事法務・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅰ総論』（信山社・２０１０年）		
教育方法	毎回配布するレジュメをもとに、講義法で行う。 また、知識の定着度を確認するため、最低３回は小テストを行う予定である。		
評価方法	期末試験（７０％）と、適宜実施する確認テスト（３０％）によって評価する。		
到達目標	刑法総論をめぐる様々な争点について理解を深めることにより、学んだ知識を具体的な事例にあてはめ、分析、解決できるようになることを目標とする。		
授業時間外学習	刑法総論は、各論点が体系的に関連づけられているため、前回までの講義内容を理解できていないと、次の講義内容の理解が難しくなる。そのため、必ず、各講義の終了後は、該当箇所の教科書と判例教材を読み、復習すること。 また、どのような事例が問題となるか把握するため、予習として各回の教科書該当箇所の事例を見ておくこと。（推定学習時間 30 分～45 分） 第１回　２３頁～４３頁 第２回　４５頁～５４頁、６３頁～７１頁 第３回　５４頁～６３頁 第４回　９７頁～１１５頁 第５回　１１７頁～１３７頁 第６回　１３９頁～１４８頁 第７回　１５６頁～１８０頁 第８回　１４８頁～１５６頁 第９回　１８１頁～１９６頁 第１０回　１９７頁～２１３頁 第１１回　７３頁～９５頁 第１２回　２１５頁～２１８頁、２２３頁～２２８頁 第１３回　２２３頁～２３０頁 第１４回　２３５頁、２３６頁、２１８頁～２２０頁 第１５回　２３０頁～２３４頁		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
・他の受講生の学習を妨げるような私語・食事は厳禁である。 ・毎日流れる犯罪に関するニュースに触れて、自分なりに考える姿勢を身につけて欲しい。 ・講義や復習の際に出てきた条文は必ず六法で参照する癖をつけて欲しい。一度だけでなく、何度も見ることが重要である。
授業スケジュール
１．刑法の意義と機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、犯罪論の体系 ２．構成要件該当性（１）実行行為 ３．構成要件該当性（２）因果関係 ４．構成要件該当性（３）構成要件的故意と事実の錯誤 ５．構成要件該当性（４）構成要件的過失 ６．違法性（１）違法性の基本問題 ７．違法性（２）正当行為と緊急行為 ８．違法性（３）被害者の同意 ９．有責性（１）責任の本質、責任能力 １０．有責性（２）違法性の意識、期待可能性 １１．有責性（３）過失責任 修正された構成要件－未遂犯と中止未遂 １２．修正された構成要件－共犯論（１）正犯と共犯・共同正犯論１ １３．修正された構成要件－共犯論（２）共同正犯論２ １４．修正された構成要件－共犯論（３）共同正犯論３・狭義の共犯１ １５．修正された構成要件－共犯論（４）狭義の共犯２

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J40050001
科目名	刑法Ⅱ（刑法各論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law Ⅱ (Specific Offences)		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
授業概要	刑法各論では、殺人罪、窃盗罪、放火罪等、個別の犯罪における固有の保護法益と成立要件を明らかにし、解釈論上の問題点を検討する。総論が、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件の検討という点で、体系的かつ抽象的であるのに対して、各論は、個別の犯罪成立要件の検討という点で、断片的かつ具体的である。総論の方がパズル的で面白いという側面があるが、各論は私たちの身近にある問題と直結しているので、より理解しやすい。 本講義では、刑法典に記載された犯罪のうち特に重要な犯罪を取り上げ、個別の犯罪の成立要件とその問題点を理解し、個々の事例における犯罪の成否について自身で考えることができるようになること目的とする。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	予習・復習のために購入すべき文献として、以下の文献を紹介する。 ・佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） より刑法各論を深く学びたい学生のために、以下の文献を紹介する。 ・佐久間修『刑法各論（第２版）』（成文堂・２０１２年） また、判例教材として、以下の文献を紹介する。 ・山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅱ各論〔第７版〕』（有斐閣・２０１４年） ・大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版）』（悠々社・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅱ各論』（信山社・２０１２年）		
教育方法	毎回配布するレジュメをもとに、講義法で行う。 また、知識の定着度を確認するため、最低３回は小テストを行う予定である。		
評価方法	期末試験（７０％）と、適宜実施する確認テスト（３０％）によって評価する。		
到達目標	個々の犯罪の保護法益と成立要件を理解し、主要な争点を考察する基礎を身につけ、簡易な事例について犯罪の成否を自身で考えることができるようになる。		
授業時間外学習	刑事法に関心をもつために、日々報道される犯罪報道、特に新聞記事を毎日読むこと。 また、各回の教科書の該当ページを復習として読み、次回の準備として、教科書該当箇所のケースを読み、どのような事例において問題となるか把握しておくこと。（推定学習時間 30 分～45 分） 第１回　２７１頁～２７７頁 第２回　２７７頁～２８２頁 第３回　２８９頁～２９９頁 第４回　２９９頁～３０１頁、２８３頁～２８７頁頁 第５回　３０３頁～３１７頁 第６回　３０９頁～３２６頁 第７回　３２６頁～３３９頁 第８回　３４２頁～３４９頁 第９回　３４９頁～３６１頁 第１０回　３７３頁～３８５頁、３８９頁～４０５頁 第１１回　３８５頁～３８８頁、４０７頁～４１５頁 第１２回　４１５頁～４２２頁、３６９頁～３７２頁 第１３回　４２３頁～４３３頁 第１４回　４３３頁～４３６頁 第１５回　４９９頁～５０９頁		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
・刑法各論は個別の犯罪の成立要件について勉強するが、それはすべての犯罪の成立要件を前提としたものである。 そのため、刑法Ⅰを受講済みであることが望ましい。 ・他の受講生の学習を妨げるような私語・食事は厳禁である。 ・刑法各論の分野では、具体的な、個別の犯罪を取り扱うことから、身近に感じやすく、テレビ、新聞などのメディアでも事件としてよく見かける。このことから、講義で得た知識で、ニュースなどで取り扱われている事件にはどの犯罪が成立するか、しないか、自分なりに考える姿勢を身につけて欲しい。
授業スケジュール
１．刑法各論の考察対象、保護法益論と刑法の解釈 第Ⅰ部　個人的法益に対する罪 ２．殺人の罪 ３．傷害の罪、過失傷害の罪、堕胎の罪 ４．遺棄の罪 ５．脅迫の罪、逮捕・監禁の罪、略取・誘拐及び人身売買の罪１ ６．略取・誘拐及び人身売買の罪２、住居を侵す罪 ７．名誉に対する罪、秘密を冒す罪、信用・業務に対する罪 ８．財産犯総論 ９．窃盗の罪 １０．強盗の罪、詐欺の罪 １１．恐喝の罪、横領の罪 １２．背任の罪、毀棄隠匿の罪 第Ⅱ部　社会的法益に対する罪 １３．放火の罪１ １４．放火の罪２ 第Ⅲ部　国家的法益に対する罪 １５．公務の執行を妨害する罪、司法の作用に対する罪、汚職の罪

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J40052001
科目名	犯罪学	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminology		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
授業概要	毎日ニュースをながめていると、殺人、交通事故、少年非行、犯罪被害者など、日々世の中では犯罪が起こり、それに伴い、日本における刑事事件に関する政策がさまざまに変わってきている。特に、２０００年以降は、刑事立法の改正が進み、新たな法律、新たな制度など刑事司法が動いている時代である。そのような状況において、改めて「人はなぜ犯罪を犯すのか」、「どうすれば犯罪が発生しない社会がつくれるのか」、「そのための対策としてはどのようなものがあるのか」、「犯罪を犯した人は、どのように処遇されているのか」、「犯罪の被害者はどのような立場に置かれているのだろうか」ということについて理解する必要がある。これらのことを考察するのがこの講義で扱う「犯罪学」、「刑事政策」、「被害者学」である。刑事政策の分野は、自分とはほど遠い世界に感じるかもしれないが、一般常識として、今後知っておかなければならないものも多い。この講義を通して、受講生は、わが国の犯罪情勢や刑事司法制度に加えて、近年改正がなされた犯罪被害者、ストーカー犯罪、児童虐待、少年犯罪、交通犯罪関連など、広く、刑事政策に関する知識を身につけることで、日々のニュースに対しての関心を高め、より深く刑事政策全般に関する時事問題について読み解くことが出来るようになる。		
教材（教科書）	毎回レジュメ・資料を配布する。		
教材（参考資料）	大谷實『新版刑事政策講義』（弘文堂、2009）。 法務省　犯罪白書 HP（{http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html}） その他は授業の中で必要に応じて紹介する。		
教育方法	事前に配布したレジュメ・資料に沿って、基本的に講義法で行う。授業では、レジュメにあるキーワードの穴埋めおよびクエスチョンの解答について、学生は記入しながら、受講する。授業の最後に、当日取り上げたテーマに対する課題と、次回取り上げるテーマに関する感想文等を用紙に書かせる。次の授業の冒頭にそれらの解答について尋ねる。毎回ではないが、パワーポイントを使用し、写真、表や図を示しながら解説することもある。第１０回（予定が前後する可能性がある）は、犯罪被害者の方に来ていただき、犯罪被害者の心情についてご講演いただく予定である。また、第１４回では、薬物犯罪についての DVD（警察２４時）を見る。		
評価方法	学期末の論述式試験の結果（８０％）、そのほか、授業の中で行う感想文等（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事司法制度の現状を正しく理解し、日々の刑事政策に関するニュースを理解して見ることができるようになり、各種の犯罪対策の現状と問題点を説明することができるようになる。		
授業時間外学習	第１回　　初回授業で、最近の刑事政策に関するニュースについて聞くので、その内容を調べてくること。 第２回　　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第１回授業最後に第２回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第３回　　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第２回授業最後に第３回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第４回　　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第３回授業最後に第４回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第５回　　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第４回授業最後に第５回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第６回　　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第５回授業最後に第６回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第７回　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて		

	考えてくること。また、第６回授業最後に第７回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第８回　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第７回授業最後に第８回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第９回　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第８回授業最後に第９回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第１０回　犯罪被害者の方への講演の予定（予定が前後することがある）なので、犯罪被害者への現状等を調べたうえで、質問を考えてくること。 第１１回　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第９回授業最後に第１１回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第１２回　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第１１回授業最後に第１２回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第１３回　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第１２回授業最後に第１３回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第１４回　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第１３回授業最後に第１４回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第１５回　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第１４回授業最後に第１５回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。
受講条件・受講のルール・学習上の助言など	
理由のない欠席・遅刻、そして私語は厳禁とする。日々刑事政策に関するニュースに目を通し、考えてもらいたい。	
授業スケジュール	
１　犯罪学、刑事政策とは ２　犯罪情勢 ３　犯罪の原因①（生物学的、心理学的、社会学的アプローチ） ４　犯罪の原因②（新しい犯罪学、環境犯罪学など） ５　犯罪化と非犯罪化 ６　刑罰制度 ７　犯罪者の施設内処遇 ８　犯罪者の社会内処遇 ９　犯罪者処遇の新しい動き １０　犯罪被害者の方の講演 １１　少年非行対策 １２　犯罪被害者対策 １３　交通犯罪 １４　薬物犯罪 １５　精神障害者の犯罪	

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J40054001
科目名	刑事訴訟法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure I		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	刑事訴訟法
授業概要	日々ニュースでは、たくさんの犯罪発生や犯人逮捕、刑事裁判の結果などが報道されている。また、テレビの刑事ドラマをみていると、事件が発生し、それを刑事が捜査し、だんだんと真相に迫っていき、最終的に犯人が逮捕される。ドラマは、そこで終わってしまう。 しかし、実際、事件の捜査はいつから始まり、捜査するうえでのルールとしてはどのようなものが存在しているのか知っているだろうか。さらに、逮捕された犯人は、その後どのような手続を経て、裁判にかけられるのか、意外とそれについては知られていない。このような犯罪の発生から、裁判までの刑事手続を定めた法律の代表格が「刑事訴訟法」である。この授業を通して、受講生は、犯罪が発生した場合、どのような手続によって、捜査や裁判が行われていくかという刑事訴訟法の知識を知ること、わが国における刑事手続制度をより理解できるようになる。		
教材（教科書）	毎回レジュメ、資料を配布する。		
教材（参考資料）	井上正仁、大澤裕、川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第 10 版、2017） 渡辺咲子『刑事訴訟法講義』（信山社、第 7 版、2014）		
教育方法	事前に配布したレジュメ・資料に沿って、基本的に講義法で行う。冒頭に、事例問題を提示し、レジュメのキーワードの穴埋めおよびクエスチョンの解答について、学生は記入しながら、受講する。授業の最後に、次回に取り上げる事例を紹介し、その場で、解答を予想させる。そのうえで、次回までに事例の解答を再度考えてくるように指示し、次回の授業冒頭で、それぞれの解答について解説する。また、第６回、第 11 回、第１２回では、パワーポイントを使用し、表や図を示しながら解説する。第８回には DVD（警察２４時）を視聴する。		
評価方法	授業の中で実施する小テスト（用語穴埋め、４０％）、期末試験（記述問題、６０％）によって成績を評価する。　評価方法の詳細は初回の授業で説明する。		
到達目標	刑事手続の全体の流れや捜査に関して説明できるようになる。日本の刑事裁判制度について理解し、その特徴を説明できるようになる。		
授業時間外学習	第１回　　初回授業で、最近の事件や刑事裁判について聞くので、その内容を調べてくること。 第２回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第３回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第４回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第５回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第６回　　小テスト（穴埋め、○×）を実施するので、第１回から第４回までの内容を復習してくること。 第７回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第８回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第９回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてく		

	ること。 第１０回　小テスト（穴埋め、○×）を実施するので、第５回から第８回までの内容を復習してくること。 第１１回　　レジュメに第１回の復習についての穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第１２回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、刑事裁判制度について学習するので、授業までにみた、刑事裁判のニュースについて調べてくること。授業時に学生に問う。 第１３回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第１４回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第１５回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。
受講条件・受講のルール・学習上の助言など	
刑事訴訟法はその流れ全体を理解する必要があるので、学期末試験や小テストのためにも、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。	
授業スケジュール	
１　　刑事訴訟法とは ２　　強制捜査 ３　　任意捜査 ４　　捜査の端緒 ５　　逮捕・勾留 ６　　小テスト①と解説 ７　　検証・捜索・差押え① ８　　捜索・差押え② ９　　被疑者の身体に関する検査 １０　小テスト②と解説 １１　起訴状 １２　刑事裁判の基本、訴因変更 １３　違法収集証拠排除法則 １４　自白 １５　伝聞	

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J40060001
科目名	国際法Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law Ⅲ		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
授業概要	国際法Ⅲでは、国連などの国際機構を中心にして国際社会の公益を保護するための協力の国際法について講義する。国家間の相互依存が深まる現在の国際社会では、平和の維持などの国際社会の共通・一般の利益を保護するために、諸国家が場合によっては国益を犠牲にしてまで連帯し協力しあうことが求められる。そこで重要な役割を担うのが国連などの国際機構である。この授業では、平和や環境など世界全体の問題を法の視点から捉える力を養うために、受講生が国際機構がどのような役割を果たしているのかを知り、国際協力の意義や限界について理解できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年） 教科書は授業時間外学習で使用する。 毎回、講義レジュメ・資料を事前に配付する。		
教材（参考資料）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第３版］』（東信堂、２０１６年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） 【ウェブサイト】 外務省 HP　{http://www.mofa.go.jp/mofaj/} 国際連合広報センターHP　{http://www.unic.or.jp/} ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教育方法	事前に配布した講義レジュメ・資料に沿って、基本的に講義法で行う。講義では、教員が冒頭で具体例を提示しながらポイント・目標を明確にし、学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講する。授業中に、記入するキーワードや基本的な知識を問う質問を行い、正解ができた受講生にはポイントを与える。授業の最後に、講義内容についての確認テストを行い、次回の授業の休憩時に返却する。また第 5 回では、DVD を視聴する。		
評価方法	授業の最後に毎回行う小テスト（用語穴埋めやコメント　40%）、レポート（60%）。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．相互依存が深まる国際社会の中での国際機構の役割について具体的に説明できる。 ２．国連の集団安全保障体制の仕組みと展開を具体的に説明できる。 ３．条約などを通じた地球環境保全の仕組みと国際協力の意義について具体的に説明できる。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する教科書のページと講義レジュメ・資料に目を通し、レジュメの空欄に記入するキーワードを考えてくること（各回の学習推定時間は 45 分）。 第１回　シラバス 第２回　第２回のレジュメ・資料 第３回　第３回のレジュメ・資料		

	第 4 回　第 4 回のレジュメ・資料 第 5 回　教科書 272－285 頁 第 6 回　第 5 回のレジュメ・資料 第 7 回　第 6 回のレジュメ・資料、教科書 28－30 頁 第 8 回　第 7 回のレジュメ・資料、教科書 13－17、30－37 頁 第 9 回　第 8 回のレジュメ・資料、教科書 17－27、38－43 頁 第 10 回　第 9 回のレジュメ・資料 第 11 回　第 10 回のレジュメ・資料、教科書 128－131、176－186 頁 第 12 回　第 11 回のレジュメ・資料、教科書 244－255 頁 第 13 回　第 12 回のレジュメ・資料、教科書 257－270 頁 第 14 回　第 13 回のレジュメ・資料 第 15 回　第 14 回のレジュメ・資料

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．履修が望ましい他の関連科目：国際法Ⅰ・Ⅱ
2．受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。
3．トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい（体調が悪い場合は申し出ること）。
4．授業内容に関わる国際問題は日本内外で頻発している。メディアでの国際ニュースに目を通し、法的に考えてみよう。

授業スケジュール

第１部　国際社会の組織化と国際機構
1．受講ガイダンス、国際機構の展開（1）ー第二次大戦まで
2．国際機構の展開（2）ー第二次大戦以降
3．国際機構の設立および組織構造－国連を中心に
4．国際機構の表決手続
5．国連の活動に関する DVD 鑑賞
6．地域的国際機構の活動

第２部　国際公益のための国際協力
7．平和の維持（1）ー国際連盟における戦争の禁止と集団安全保障
8．平和の維持（2）ー国連における武力行使の禁止との集団安全保障
9．平和の維持（3）ー自衛権、国連の平和維持活動
１０．平和の維持（4）ー軍縮、国際人道法
１１．国際公域における国際協力
１２．経済的国際協力
１３．地球環境の保全（1）ー展開・基本原則
１４．地球環境の保全（2）ー地球温暖化の防止
１５．地球環境の保全（3）－生物多様性の保全

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J40065001
科目名	国際経済法	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economic Law		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
授業概要	日本は世界でも有数の貿易大国であり、また今日のグローバル化社会において多くの日本企業が国境を越えたビジネスを展開している。このことから、日本の法令や政策、さらには私たちの日常生活も国際経済と密接に関わっている。また、貿易や海外投資に関する紛争が国際法に依拠して司法的に解決される事例が急増しており、国際経済法の知識や考え方の習得はますます重要になっている。この授業では、国際的な経済活動を法の視点から捉える力を養うために、受講生が国際貿易・海外投資・国際金融にどのようなルールがあるのかを知り、国際経済法の考え方やはたらきについて理解できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	教科書は指定しない。講義レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考資料）	【教科書】 中川淳司ほか『国際経済法［第２版］』（有斐閣、２０１２年） 小室程夫『新版　国際経済法』（東信堂、２００７年） 滝川敏明『WTO 法［第２版］』（三省堂、２０１０年） 中川淳司『WTO－貿易自由化を超えて』（岩波新書、２０１３年） 【判例集】 松下満雄ほか編『ケースブック WTO 法』（有斐閣、２００９年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 小寺彰・中川淳司編『基本経済条約集［第２版］』（有斐閣、２０１４年） 【ウェブサイト】 経済産業省 HP　{http://www.meti.go.jp/} 外務省 HP　{http://www.meti.go.jp/} ジェトロ HP　{https://www.jetro.go.jp/}		
教育方法	事前に配布した講義レジュメ・資料に沿って、基本的に講義法で行う。講義では、教員が冒頭で具体例を提示しながらポイント・目標を明確にし、学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講する。授業中に、記入するキーワードや基本的な知識を問う質問を行い、正解ができた受講生にはポイントを与える。授業の最後に、講義内容についての確認テストを行い、次回の授業の休憩時に返却する。また第７回では、DVD を視聴する。		
評価方法	授業の最後に毎回行う小テスト（用語穴埋めやコメント　40%）、期末試験（記述問題　60%）。その他に、任意提出のレポートで加点する（10%）。期末試験は、出題問題の理解力や論理的な説明力を問う。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．国際経済法が私たちの日常生活とどのように関わっているのか具体的に説明できるようになる。 ２．WTO 体制を中心にした国際貿易の法的枠組みについて説明できるようになる。 ３．海外投資や国際金融に関する法的枠組みについて説明できるようになる。		
授業時間外学習	事前に配布するレジュメ・資料に目を通し、空所に記入するキーワードを考えてくること（推定時間 45 分）。 第１回　シラバス 第２回　第２回のレジュメ・資料 第３回　第３回のレジュメ・資料		

	第 4 回　第 4 回のレジュメ・資料 第 5 回　第 5 回のレジュメ・資料 第 6 回　第 6 回のレジュメ・資料 第 7 回　第 7 回のレジュメ・資料 第 8 回　第 8 回のレジュメ・資料 第 9 回　第 9 回のレジュメ・資料 第 10 回　第 10 回のレジュメ・資料 第 11 回　第 11 回のレジュメ・資料 第 12 回　第 12 回のレジュメ・資料 第 13 回　第 13 回のレジュメ・資料 第 14 回　第 14 回のレジュメ・資料 第 15 回　第 15 回のレジュメ・資料

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．履修が望ましい他の関連科目：国際法、国際経済学（国際経済入門でも可）
2．受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。
3．トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい（体調が悪い場合は申し出ること）。
4．授業内容に関わる国際経済問題は日本内外で頻発している。メディアでの国際ニュースに目を通し、法的に考えてみよう。

授業スケジュール

導入
1．受講ガイダンス、国際経済秩序と国際法
第１部　国際貿易と国際法
2．貿易に関する国際法の展開
3．GATT の成立と展開
4．WTO 体制の成立と概要
5．WTO の紛争解決手続
6．WTO におけるサービス貿易
7．WTO における知的財産権（ＤＶＤ鑑賞も行う）
8．WTO における農業貿易
9．WTO と地域経済統合
１０．WTO と途上国
１１．WTO と非貿易的価値
第２部　海外投資および国際金融と国際法
１２．海外投資に関する国際法の展開
１３．投資紛争解決
１４．国際金融に関する国際法の展開
１５．ＩＭＦ・世界銀行の組織構造と活動

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2018	授業コード	J40068A01
科目名	労働法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law I		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
授業概要	労働法の領域には、個別的労働関係法と集団的労働関係法という２つの主要な領域がある。いずれの分野も重要であるが、近年における労働立法の動向（パートタイム労働法および育児・介護休業法、労働契約法の成立、並びに、労働基準法および男女雇用機会均等法等の改正など）や、労働法を初めて学ぶ人にとっての必要性等から、本講義は「個人としての労働者」に焦点をあてて前者に比重を置きながら、講義法および対話的なやり取りによって行なう(事前にキーワード等を明示する)。 まず、労働基準法および労働契約法を中心に、採用内定、労働契約の内容、賃金・退職金、労働時間法制、および解雇など、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な法律問題および集団的労働関係法のうち「労働法Ⅰ」を理解するために必要な基礎的事項を検討する。		
教材（教科書）	水町勇一郎『労働法〔第７版〕』（有斐閣、2018 年）3400 円＋税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第 9 版〕」（有斐閣、2016 年）2400 円＋税 最新版六法		
教材（参考資料）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税		
教育方法	テーマ毎にレジュメを配布する（原則１回のみ）・教科書・百選・最新版六法に沿って、講義法で行なう。このほかに、対話的なやり取りに対し優れた解答した場合は、所定の用紙と提出した場合に加点する。		
評価方法	毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート(30%）で評価する。その他に、講義中の対話的なやり取りに対し、優れた解答をした場合は、指定の用紙を提出することを要件に加点する。		
到達目標	1)個別的労働法および集団的労働法の基本的な事項における専門用語・および定義が説明できるようになる。 2)個別的労働法および集団的労働法の基本的な事項における判例理論を説明できるようになる。 3)個別的労働法および集団的労働法の基本的な事項における論点を説明できるようになる。		
授業時間外学習	1)講義終了時に、次回の講義内容キーワードを明示するので、テキストの事項索引を利用して次回までに通読しておくこと。 2)各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1)イヤ・フォーンをはずすこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
2)スマートフォンなどの電子機器は、電源を切って机上におくこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
3)私語および食事は，厳禁とする。
4)トイレは原則として講義前にすませること(体調が悪い場合は申し出ること)。
5)教科書および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。
6)法学又は民事法入門などの基本的な法律科目を履修済みであること。
7)期末のレポートは、指定された方法によって期日までに提出すること。教員への直接の提出および遅延は、認められない。

授業スケジュール

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。
第１回　講義の進め方・その他諸注意
第２回　労働法の概観（歴史・労働法とは）
第３回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第４回　労働契約と権利・義務
第５回　就業規則
第６回　労働協約

第 7 回　募集・採用内定
第 8 回　男女雇用平等
第 9 回　解雇・労働契約の終了（1）
第 10 回　解雇・労働関係の終了（2）
第 11 回　賃金・退職金（1）
第 12 回　賃金・退職金（2）
第 13 回　労働時間（1）
第 14 回　労働時間（2）
第 15 回　最近の個別的労働法をめぐる諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	★★

年度	2018	授業コード	J40068B01
科目名	労働法 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law II		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
授業概要	本講義では、労働法の領域のうち、個別的労働関係法のなかの応用的な事項につき、講義科目「労働法Ⅰ」を履修していることを前提に、学説・判例等も踏まえたうえでより深く学んでいく。 法理論的には少し難しい問題もあるが、上記の事項における基本的な知識を身につけることを目的とする。		
教材（教科書）	水町勇一郎『労働法〔第 7 版〕』（有斐閣、2018 年）3400 円＋税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第 9 版〕」（有斐閣、2016 年）2400 円＋税		
教材（参考資料）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税		
教育方法	テーマ毎にレジュメを配布する（原則 1 回のみ）・教科書・百選・最新版六法に沿って、講義法で行なう。このほかに、対話的なやり取りに対し優れた解答した場合は、所定の用紙と提出した場合に加点する。		
評価方法	毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート(30%）で評価する。その他に、講義中の対話的なやり取りに対し、優れた解答をした場合は、指定の用紙を提出することを要件に加点する。		
到達目標	1)個別的労働法の応用的な事項および集団的労働法の基本的な事項における専門用語・および定義が説明できるようになる。 2)個別的労働法の応用的な事項および集団的労働法の基本的な事項における判例理論を説明できるようになる。 3)個別的労働法の応用的な事項および集団的労働法の基本的な事項における論点を説明できるようになる。		
授業時間外学習	1)講義終了時に、次回の講義内容キーワードを明示するので、テキストの事項索引を利用して次回までに通読しておくこと。 2)各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1)イヤ・フォーンをはずすこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
2)スマートフォンなどの電子機器は、電源を切って机上におくこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
3)私語および食事は，厳禁とする。
4)トイレは原則として講義前にすませること(体調が悪い場合は申し出ること)。
5)教科書および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。
6)法学又は民事法入門などの基本的な法律科目を履修済みであること。
7)期末のレポートは、指定された方法によって期日までに提出すること。教員への直接の提出および遅延は、認められない。

授業スケジュール

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第１回　講義の進め方・その他諸注意
第２回　配置転換・出向
第３回　時間外労働・休日労働（１）
第４回　時間外労働・休日労働（２）
第５回　年次有給休暇
第６回　派遣労働（１）
第７回　派遣労働（２）

第８回　パートタイム労働
第９回　女性労働・年少労働
第 10 回　外国人労働
第 11 回　職場規律・懲戒
第 12 回　災害補償（１）
第 13 回　災害補償（２）
第 14 回　労働関係紛争の解決手続
第 15 回　最近の個別的労働法をめぐる諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J40070001
科目名	社会保障法	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Security Law		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
授業概要	伝統的な市民法では、老齢・障がい・貧困などは個人の責任で対処すべきものとされていた。憲法に規定される生存権（25 条）を、労働法とは異なり、私的契約関係を媒介とせずに、直接的に実現しようとする法分野が社会保障法である。 それには大きく（１）社会保険（医療・介護・労災・雇用・年金)、（２）社会福祉（老人・児童・障がい者)、（３）生活扶助の法が含まれる。このように、その範囲はきわめて広く多様である。		
教材（教科書）	西村健一郎『社会保障法入門〔第 3 版〕』（有斐閣、2017 年）2100 円＋税 岩村正彦編「社会保障判例百選〔第 5 版〕」（有斐閣、2016 年）2500 円＋税 最新版六法		
教材（参考資料）	小西國友『社会保障法』（有斐閣、2001 年）3200 円＋税 西村健一郎『社会保障法』（有斐閣、2003 年）3500 円＋税		
教育方法	教科書および判例百選に沿って、基本的に講義法で行なう。対話的なやり取りに対し、優れた解答には加点する。		
評価方法	期末レポート（70%）および冒頭のペーパー(15%)・授業内小テスト(15%）で評価する。		
到達目標	1)社会保障法全体像の基本的な枠組みを説明できるようになる。 2)社会保障法の各論点を理解することができるようになる。。		
授業時間外学習	1)講義終了時に、次回の講義内容キーワードを明示するので、テキストの事項索引を利用して次回までに通読しておくこと。 2)各講義の冒頭に上記内容について、ペーパーを記入してもらう。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1)イヤ・フォーンをはずすこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
2)スマートフォンなどの電子機器は、電源を切って机上におくこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
3)私語および食事は，厳禁とする。
4)トイレは原則として講義前にすませること(体調が悪い場合は申し出ること)。
5)教科書および百選並びに最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で社会保障法に関連する問題に大いに関心を持つこと。
6)法学又は民事法入門などの基本的な法律科目を履修済みであること。
7)期末のレポートは、指定された方法によって期日までに提出すること。教員への直接の提出および遅延は、認められない.。

授業スケジュール

第１回　講義の進め方・その他諸注意
第２回　社会保障法とは　社会保障法の体系
第３回　医療保険法（１）　健康保険法
第４回　医療保険法（２）　国民健康保険法
第５回　年金保険法（１）　国民年金法
第６回　年金保険法（２）　厚生年金保険法
第７回　介護保険法
第８回　授業内小テスト
第９回　労災保険法
第 10 回　雇用保険法
第 11 回　児童手当　児童福祉　母子福祉　障がい者福祉
第 12 回　高齢者福祉　生活保護法
第 13 回　社会保障法総論　社会保障法の共通事項　憲法と条約

第 14 回　社会保障法総論　権利救済 第 15 回　最近の社会保障法をめぐる諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J40071001
科目名	経済法Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Competition Law I		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	経済法
授業概要	スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。そして、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。 　この授業では、市場経済をうまく機能させるために不可欠な「競争」を守る「独占禁止法」の基本的な仕組みについて、実際の事件を通して、具体的なイメージができるように、学びます。それを通じて、企業の様々な活動について、独占禁止法の観点から検討できるようになることを目指します。		
教材（教科書）	川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法　（第 4 版)』（有斐閣、2014 年） その他に、毎回講義レジュメを配布する。		
教材（参考資料）	主な参考文献 ・金井貴嗣・泉水文雄・武田邦宣編　『経済法判例・審決百選[第 2 版]』（ジュリスト増刊)(有斐閣、2017 年） ・鈴木孝之・河谷清文『事例で学ぶ　独占禁止法』（有斐閣、2017 年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法[第 2 版]』（有斐閣、2015 年） ・根岸哲・舟田正之『独占禁止法概説[第 5 版]』（有斐閣、2015 年） 以下は、公正取引委員会の HP により入手可能。 ・公正取引委員会「企業結合審査に関する独占禁止法の運用指針」 ・公正取引委員会「流通・取引慣行に関する独占禁止法の指針」 *その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	講義法で授業を行う。毎回、講義の冒頭で、その回に理解すべきポイントと、授業内レポートのテーマを説明する。受講生は、レポートのテーマを意識しながら、授業に取り組み、授業の最後に授業内レポートを作成する。優秀な授業内レポートは、次の回の講義で紹介する。授業内レポートで全体的な理解度を確認し、次の回に復習及び補足説明を行う。		
評価方法	平常点（授業内レポート）　３０％ 期末テスト　７０％ 評価方法の詳細は、初回の講義で説明する。		
到達目標	・入札談合について、どのようなものであり、なぜ悪いのかを説明できるようになる。 ・平易な事例について、カルテル(不当な取引制限）に該当するかどうか判断できるようになる。 ・平易な事例について、私的独占に該当するかどうか判断できるようになる。 ・不公正な取引方法について、代表的な事例を一つ挙げて説明できる。 ・独占禁止法違反に対するエンフォースメントについて説明できるようになる。		
授業時間外学習	第１回　教科書１～１９頁を読んでくる。 第２回～１５回　前回の授業で指示された教科書の該当箇所を読み、レジュメと教科書を活用して復習し、ポイントをまとめた自筆ノートを作成する。この自筆ノートに限り、期末試験に持ち込むことができる。 （各回の学習推定時間は１時間）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

企業活動に関するニュースを意識して視聴すること
お互いに気持ちよく受講できるように、講義マナーを守り、良好な学習環境に協力すること
（講義マナーについては、最初の講義で確認します。）

授業スケジュール

第１部　導入
１．市場経済と競争
２．独占禁止法の目的と全体像
３．入札談合

第２部　独占禁止法の主な内容
４．独禁法のキーワードと企業結合規制（１）
５．独禁法のキーワードと企業結合規制（２）
６．不当な取引制限（１）（東芝ケミカル事件）
７．不当な取引制限（２）（多摩談合事件）
８．不当な取引制限（３）（デジコン電子事件）
９．私的独占（１）（東洋製缶事件・雪印・北海道バター事件）
１０．私的独占（２）（JASRAC 事件・NTT 東日本事件）
１１．私的独占（３）（日本医療食協会事件・パラマウントベット事件）
１２．不公正な取引方法（１）（ヤマト運輸事件・マイクロソフト事件）
１３．不公正な取引方法（２）（ハーゲンダッツ事件・ローソン事件）

第３部　エンフォースメントと応用問題
１４．エンフォースメント
１５．独占禁止法の応用問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J40079001
科目名	憲法Ⅰ（憲法総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law I (General Part)		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
授業概要	日本国憲法について、基本原理と全体像を入門的な位置づけで学ぶ。 憲法の意味、基本的人権、統治機構の概略を学ぶとともに、現在の改憲の動きを見据える。		
教材（教科書）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考資料）	市川正人・倉田原志編『憲法入門』(法律文化社、2012 年)		
教育方法	講義レジュメにしたがって講義をする。関連する DVD 教材などを活用して憲法と現実社会のつながりの理解を深める。		
評価方法	定期試験(80%)　出席状況、授業内レポート等による平常点(20%)。		
到達目標	憲法の意味、日本国憲法の成立、基本的人権、統治機構について学説と判例の基本的な知識を習得する。 公務員試験や就職活動における試験対策の第一歩にもなる。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、該当する憲法の条文、教科書の該当頁を読んで予習する。 教科書にしたがって章ごとに講義を進めるので、次回の範囲に該当する憲法の条文と教科書の該当頁を読んで予習する。毎日のテレビ、新聞を必ずチェックすること。 1　教科書 2 頁～12 頁 2　教科書 121 頁～126 頁 3　教科書 59 頁～66 頁 4　法の下の平等に関する判例を調べる 5　教科書 67 頁～72 頁 6　教科書 74 頁～81 頁 7　経済的自由権をめぐる判例を調べる 8　教科書 89 頁～94 頁 9　教科書 108 頁～113 頁 10　教科書 101 頁～107 頁 11　教科書 101 頁～107 頁 12　司法改革をめぐる話題をネットで調べる 13　教科書 115 頁～120 頁 14　教科書 32 頁～58 頁 15　教科書 13 頁～30 頁		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。
それ以外に、テレビや新聞で取り上げられている憲法問題にも注目してほしい。憲法についてはさまざまな立場があるが、一方的な情報に基づいて判断するのではなく、講義で取り上げる憲法の基本原理、学説・判例を習得したうえで現在の諸問題について多角的に検討する力をつけてほしい。

授業スケジュール

1．憲法とは何か
2．天皇制
3．幸福追求権
4．法の下の平等
5．信教の自由と政教分離
6．表現の自由
7．経済的自由権
8．生存権
9．刑事手続と人身の自由

１０．国会 １１．内閣 １２．裁判所 １３．地方自治 １４．平和主義 １５．改憲の動き

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J40090001
科目名	民法Ⅰ（総則）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law I (General Provisions)		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
授業概要	民法全体に共通するルールである民法第１編「総則」の内容をおおむね条文配列の順序で学習する。条文の意味内容と関連する判例・学説について理解し、民法総則の基本的・標準的な知識を習得する。		
教材（教科書）	各回の授業でレジュメを配布する。		
教材（参考資料）	池田真朗『スタートライン民法総論〔第２版〕』（日本評論社、2011 年） その他、授業中に適宜指示する。		
教育方法	配布したレジュメおよび資料に沿って講義形式で行う。授業中に教員が補足したことや強調した点をレジュメに記入しながら受講する。内容的な区切りごとに練習問題を解くことで基本的な知識の定着を図る。		
評価方法	期末試験の成績による。小テストの結果や授業への参加状況等を補充的に考慮する。評価方法の詳細については初回の授業で説明する。なお、授業中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．民法総則の主要な条文・制度について基礎的な知識を習得する。 ２．民法総則の主要論点に関する判例・学説を理解する。 ３．民法全体を体系的に理解するための基礎を形成する。		
授業時間外学習	受講者のほとんどが法律学を体系的に学習していないことから、授業時間外学習は復習が中心となる。 １．授業時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、授業で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．授業中に配布した練習問題を次回の授業開始時までに解いておく。 ３．授業内容の理解をより深めるため、授業中に指示した判例・文献を読む。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

民法総則は民法以外の法分野においても思考方法や制度の基礎となっており、最重要科目のひとつですが、内容が極めて抽象的であるため、難解、退屈といった印象を受ける受講者も多いと思います。最初のうちは我慢も必要です。粘り強く学習を進めてゆきましょう。また、民法は全体として密接に関連しているので、公務員試験や資格試験等で民法を学習する必要のある受講者は、契約・不法行為法、債権法、物権法など他の民法科目を併せて履修することを強く勧めます。

授業スケジュール

１．　受講にあたっての注意／民法とは／民法の法体系における位置／民法の構造
２．　権利の主体（１）　権利能力／意思能力
３．　権利の主体（２）　行為能力／未成年者／成年後見制度
４．　法律行為、不完全な意思表示（１）　心裡留保／虚偽表示
５．　不完全な意思表示（２）　錯誤
６．　不完全な意思表示（３）　詐欺／強迫
７．　無効と取消し
８．　代理（１）　代理権
９．　代理（２）　無権代理
１０．代理（３）　表見代理
１１．時効（１）　時効の意義・存在理由／取得時効
１２．時効（２）　消滅時効／時効の中断・停止
１３．時効（３）　時効の効力／時効と除斥期間
１４．法律行為の効力が否定される場合のまとめ
１５．実社会における民法総則

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J40091001
科目名	民法Ⅱ（物権法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Ⅱ（Law of Real Estates）		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	民法典の第 2 編物権の内容を扱う。前半の中心は所有権である。ある物の所有権を取得したところ、自分以外にも所有権を取得したと主張する者が居る場合にどう解決するか、といった問題を扱う。所有権を持たない者は居ないから、非常に重要である。後半は、担保物権の中から抵当権を中心に扱う。金融機関に勤めればしばしば扱うであろうし、事業をする中で金融機関から融資を受ける場合にも設定しなければならないであろうから、知っていてそんはない。この講義では、以上のように、当然知っておくべきことを説明できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	・渡邊博己編『ユーリカ民法 2 物権・担保物権』（法律文化社）【18 年 4 月刊行予定】 ※主として講義の予習復習に用いる。 ・『デイリー六法』（三省堂）または『ポケット六法』（有斐閣）のいずれか ※講義に必携。もちろん予習復習に用いる。例年テストの際の持込みも認めている。		
教材（参考資料）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 潮見 佳男、道垣内 弘人編 『民法判例百選 1 総則・物権 第 7 版 』（別冊ジュリスト No.223） その他は授業中に適宜指示する。		
教育方法	スライドを用いて講義する。重要語句を中心に空欄を作成したスライドを受講生に配布する。講義の最後には、同日扱った内容についての確認を行う。この確認は、受講生の受講意識を高め、講義の内容をもう一度受講生自ら整理することを目的としている。		
評価方法	各講義の最後に行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	債権に対して物権がどのような特徴を持つのかを理解する。 不動産物権変動の対抗要件を理解し、対抗問題に関する知識を習得する。 動産物権変動の対抗要件を理解し、即時取得制度を説明できる。 抵当権に関する基礎的知識を習得する。 譲渡担保の必要性と大まかな仕組みを理解する。		
授業時間外学習	・各講義の該当箇所について、講義の前後に必ず一度は教科書を読んで、知識として身につけること。 1. 第 1 章 1「物権の意義」 2. 第 8 章 1「所有権の意義」および 2「所有権の内容」 3. 第 1 章 2「物権の効力」 4. 第 8 章 3「所有権の取得」 5. 第 8 章 4「共有」および 5「建物の区分所有」 6. 第 7 章 1「占有の成立」 7. 第 7 章 2「占有の効力」 8. 第 2 章「物権変動総論」、第 3 章 2「不動産登記」および第 4 章 1「不動産物権変動の意思主義と対抗要件主義の関係」 9. 第 4 章 2「取消しと登記」および 3「解除と登記」 10. 第 4 章 4「相続と登記」および 5「取得時効と登記」 11. 第 5 章「177 条の第三者の範囲」 12. 第 6 章「動産物権変動」 13. 第 10 章「担保物権法序論」および第 13 章 1「抵当権の成立とその効力」 14. 第 13 章 3「抵当不動産の使用収益をめぐる利害調整」 15. 第 14 章「非典型担保」		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・履修が望ましい他の関連科目：法学、民事法入門、民法総則 ・講義中の出入りは周りの迷惑になる。トイレは休み時間中に済ませること。その他は、履修要綱にある受講の心得を参照。			

・六法は必ず持参すること。

授業スケジュール

おおよその目安であるが、次の通りに進める。

1. ガイダンス
2. 所有権の内容 ― 所有権絶対の原則
3. 所有権に基づく請求権 ― 請求権の意義・根拠・性質・要件・効果
4. 所有権の原始取得 ― 付合・混和・加工；無主物・遺失物
5. 共同所有 ― 意義・発生・内容・消滅・準共有・建物の区分所有
6. 占有１ ― 占有の保護・占有と本権
7. 占有２ ― 不適法占有者と所有者間の法律関係
8. 物権変動１― 物権変動とは・不動産物権変動・対抗問題
9. 物権変動２― 登記を要する物権変動１
10. 物権変動３― 登記を要する物権変動２
11. 物権変動４― 177 条の第三者
12. 物権変動５― 動産物権変動の対抗要件・即時取得
13. 担保物権１― 債権者平等の原則・担保物権の種類と性質・抵当権１（設定・効力の及ぶ範囲）
14. 担保物権２― 抵当権２（物上代位、法定地上権、抵当不動産の第三取得者と賃借人）
15. 担保物権３― 根抵当権、譲渡担保、所有権留保、代理受領・振込指定

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J40103001
科目名	民法Ⅴ（家族法）	単位数	2
科目名（英語表記）	Civil Law Ⅴ (Family and Inheritance)		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
授業概要	一般に「家族法」と呼ばれる民法第 4 編および第 5 編の内容をおおむね条文配列に沿って学習する。家族法の現行規定を正確に理解した上で、その問題点や解決の方向を考える。具体的な事例を適宜紹介して理解を助けるとともに、「財産法」の諸制度との関係を意識しつつ、民法の全体像の理解を深めることができるように努める。		
教材（教科書）	各回の授業でレジュメを配布する。		
教材（参考資料）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） 民法判例百選 3（有斐閣、2015 年） その他、授業中に適宜指示する。		
教育方法	配布したレジュメおよび資料に沿って講義形式で行う。授業中に教員が補足したことや強調した点をレジュメに記入しながら受講する。内容的な区切りごとに練習問題を解くことで基本的な知識の定着を図る。とりわけ、相続分野については、具体的事例に即した練習問題を繰り返すことで段階的に知識を積み上げることができるようにする。		
評価方法	期末試験の成績による。小テストの結果や授業への参加状況等を補充的に考慮する。評価方法の詳細については初回の授業で説明する。なお、授業中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．家族法の主要な条文・制度について基礎的な知識を習得する。 ２．家族法の主要論点に関する判例・学説を理解する。 ３．現行家族法の問題を把握し、その解決の方向を考えることができる。		
授業時間外学習	受講者のほとんどが法律学を体系的に学習していないことから、授業時間外学習は復習が中心となる。 １．授業時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、授業で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．授業中に配布した練習問題を次回の授業開始時までに解いておく。 ３．授業内容の理解をより深めるため、授業中に指示した判例・文献を読む。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
家族に関しては個人的な経験や常識から判断しがちですが、多様な考え方や家族があることに留意しつつ受講してください。民法は全体として密接に関連しているので、民法総則、契約・不法行為法など他の民法科目を併せて履修することを強く勧めます。			
授業スケジュール			
１．　受講にあたっての注意／家族法序説 ２．　離婚の成立 ３．　離婚の効果（１）子に関する効果 ４．　離婚の効果（２）財産に関する効果 ５．　親子（１）嫡出推定・嫡出否認制度（１） ６．　親子（２）嫡出推定・嫡出否認制度（２） ７．　親子（３）認知／現代的な問題 ８．　相続法序説 ９．　相続人／法定相続分 １０．相続資格の剥奪／相続の選択 １１．相続財産 １２．具体的相続分（１）特別受益・寄与分 １３．具体的相続分（２）計算問題 １４．遺産分割 １５．遺言			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J40104001
科目名	民法Ⅳ（債権総論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Obligations		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	2014 年度生民法Ⅲ（債権総論）
授業概要	民法典の第 3 編「債権」中、第 1 章「総則」の内容を取り上げる。ここで民法は、発生した債権とは、どのような内容のもので、どのような効力があり、どのようにして消滅していくのか、また、当事者が複数である場合や発生した債権を譲渡する場合はどうなるのかを規律している。どうしても内容が抽象的であるが、起業において重要な資金調達手段として用いられる債権譲渡や、銀行で融資を受ける場合には用いられる保証も本講義の対象である。金を払えと言う場合、言われる場合に関する法律関係を理解できるようになるのが目的である。 ※この分野は近時大きく改正され、2020 年 4 月 1 日より施行予定である。そこで、現行法とは異なる部分もあるが、新法の内容で講義する。		
教材（教科書）	・池田真朗『スタートライン債権法〔第 6 版〕』（日本評論社） ・『デイリー六法』（三省堂）または『ポケット六法』（有斐閣）のいずれか ※講義に必携。もちろん予習復習に用いる。例年テストの際の持込みも認めている。		
教材（参考資料）	●分からない言葉があるとき ・中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007） ●教科書と読み比べるとき ・平野 裕之『コア・テキスト 民法〈4〉債権総論（ライブラリ民法コア・テキスト)』（新世社） ●基本書 ・平野 裕之『債権総論』（日本評論社） ●辞書的存在 ・潮見 佳男『新債権総論 1(法律学の森)』（信山社） ・潮見 佳男『新債権総論 2(法律学の森)』（信山社）		
教育方法	スライドを用いて講義する。重要語句を中心に空欄を作成したスライド（レジュメ）を受講生に配布する。講義の最後には、同日扱った内容についての確認を行う。この確認は、受講生の受講意識を高め、講義の内容をもう一度受講生自ら整理することを目的としている。		
評価方法	各講義の最後に行う理解度確認の評価（30%）と期末試験の評価（70%）に従う。		
到達目標	・発生した債権がいかなる事由により消滅するかを理解する。 ・債務不履行があった場合の、損害賠償について理解する。 ・世の中で利用される保証制度について理解する。 ・債権譲渡についての基本を理解する。 ・債権の対外的効力について理解する。		
授業時間外学習	・不明な法律用語は、参考文献に掲げた用語辞典で意味を調べ、レジュメ等にメモしておくこと。 ・講義の前後に教科書の、次の内容に該当する部分に目を通すこと。 第 1 回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類 1（特定物債権） 第 2 回　債権の目的と種類 2（特定物債権種類債権～利率・利息制限・選択債権） 第 3 回　債権の消滅 1（消滅の意義・弁済） 第 4 回　債権の消滅 2（代物弁済、供託、相殺） 第 5 回　当事者の交替 1（債権譲渡） 第 6 回　当事者の交替 2（債権譲渡 2、債務引受） 第 7 回　債務不履行 1（債務の本旨に従わざる履行、債務者の帰責事由） 第 8 回　債務不履行 2（履行の強制、416 条の理解)、損害賠償、受領遅滞 第 9 回　多数当事者の債権関係 1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務） 第 10 回　多数当事者の債権関係 2（連帯債務）		

	第 11 回　多数当事者の債権関係 3（連帯債務 2） 第 12 回　多数当事者の債権関係 4（保証債務） 第 13 回　多数当事者の債権関係 5（連帯保証債務、共同保証、根保証） 第 14 回　債権の対外的効力 1（債権者代位権） 第 15 回　債権の対外的効力 2（詐害行為取消権）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・事前に履修しておいて欲しい科目：法学、民事法入門、民法総則、契約・不法行為法
・内容が抽象的で、自分達がこれまで経験していないものであるため、主体的な学習が求められ、自らも理解しようと必死で努めることが必要である。
・講義への出席なしには理解が難しいと思われるため、出席するつもりのない者は、登録しないこと。

授業スケジュール

第 1 回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類 1（特定物債権）
第 2 回　債権の目的と種類 2（特定物債権種類債権～利率・利息制限・選択債権）
第 3 回　債権の消滅 1（消滅の意義・弁済）
第 4 回　債権の消滅 2（代物弁済、供託、相殺）
第 5 回　当事者の交替 1（債権譲渡）
第 6 回　当事者の交替 2（債権譲渡 2、債務引受）
第 7 回　債務不履行 1（債務の本旨に従わざる履行、債務者の帰責事由）
第 8 回　債務不履行 2（履行の強制、416 条の理解)、損害賠償、受領遅滞
第 9 回　多数当事者の債権関係 1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務）
第 10 回　多数当事者の債権関係 2（連帯債務）
第 11 回　多数当事者の債権関係 3（連帯債務 2）
第 12 回　多数当事者の債権関係 4（保証債務）
第 13 回　多数当事者の債権関係 5（連帯保証債務、共同保証、根保証）
第 14 回　債権の対外的効力 1（債権者代位権）
第 15 回　債権の対外的効力 2（詐害行為取消権）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J40123001
科目名	労働法Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law Ⅲ		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	労働法特別講義
授業概要	本講義では、労働法の領域のうち、集団的労働法を学んでいく。労使関係における制度および法的枠組み、並びに、法的問題について考察する。労働組合の結成から、その組織を維持・運営していくための様々の活動、使用者との労働条件をめぐる団体交渉、場合によっては争議行為をへて、労働協約の締結にいたるまでの過程を考察対象とする。 　本講義は科目名「労働法」または「労働法Ⅰ」および「労働法Ⅱ」の履修が前提となる。履修していない場合は、理解することにかなりの努力を必要とするので注意すること。		
教材（教科書）	水町勇一郎『労働法〔第 7 版〕』（有斐閣、2018 年）3400 円＋税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第 9 版〕（有斐閣、2016 年）2400 円＋税 最新版六法		
教材（参考資料）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2012 年）6200 円＋税		
教育方法	テーマ毎にレジュメを配布する（原則 1 回のみ）・教科書・百選・最新版六法に沿って、講義法で行なう。このほかに、対話的なやり取りに対し優れた解答した場合は、所定の用紙と提出した場合に加点する。		
評価方法	毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート(30%）で評価する。その他に、講義中の対話的なやり取りに対し、優れた解答をした場合は、指定の用紙を提出することを要件に加点する。		
到達目標	1)集団的労働法の応用的な事項における専門用語・および定義が説明できるようになる。 2)集団的労働法の基本的な事項における判例理論を説明できるようになる。 3)集団的労働法の基本的な事項における論点を説明できるようになる。		
授業時間外学習	1)講義終了時に、次回の講義内容キーワードを明示するので、テキストの事項索引を利用して次回までに通読しておくこと。 2)各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1)イヤ・フォーンをはずすこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
2)スマートフォンなどの電子機器は、電源を切って机上におくこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
3)私語および食事は，厳禁とする。
4)トイレは原則として講義前にすませること(体調が悪い場合は申し出ること)。
5)教科書および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。
6)法学又は民事法入門などの基本的な法律科目を履修済みであること。
7)期末のレポートは、指定された方法によって期日までに提出すること。教員への直接の提出および遅延は、認められない。

授業スケジュール

第１回　講義の進め方・その他諸注意
第２回　労働法とは　集団的労働法の概観
第３回　労働基本権
第４回　労働組合の結成および運営（１）
第５回　労働組合の結成および運営（２）
第６回　組合活動
第７回　団体交渉
第８回　労働協約（１）
第９回　労働協約（２）

第 10 回　争議行為
第 11 回　使用者の争議行為（ロック・アウト）
第 12 回　不当労働行為およびその救済（１）
第 13 回　不当労働行為およびその救済（２）
第 14 回　最近の集団的労働法をめぐる諸問題(1)
第 15 回　最近の集団的労働法をめぐる諸問題(2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J4014500A
科目名	キャリアゼミ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Development Seminar		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
授業概要	大学卒業後、ほとんどの学生は「実社会」に出ていくことになるが、その際の進路の決定は、企業就職、公務員試験、資格取得、開業といったキャリア（職業）に関係するものになる。社会人として従事するキャリア（職業）を選択するためには、これまでの自分を振り返り、自らの資質・価値観・人生観を見極め、自分なりの職業観を構築することが必要になる。そして、求めるキャリアに就くためには、不断の努力を惜しまないことが必要になる。キャリア・ゼミでは、希望する進路を実現するために必要となる基本的な準備作業を行い、キャリア形成の第一歩を円滑に踏み出すことができるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	キャリアサポートセンター編『就職ガイド 2018』 その他、プリントを配布する。		
教材（参考資料）	プリントを配布する。 受講生の希望進路に応じたものについて、授業で、適宜紹介する。		
教育方法	演習方式である。つまり、主として、学生による課題への取り組み、発表、質疑などを通じて授業を進める。		
評価方法	原則的には、出席が良好で、かつ、以下の 3 要件を満たした者に単位を認定する。 ①自己分析シートの作成。 ②自己ＰＲ文の作成。 ③自己分析シートと自己ＰＲ文の作成時にキャリアサポートセンターによる個別面談の受講。 評価方法の詳細は、初回の講義で説明する。		
到達目標	１）就職活動の流れを理解し、何を準備すべきかを把握する。 ２）自己分析シートを作成する。 ３）自己ＰＲ文を作成する。		
授業時間外学習	各回の授業で指示される課題に取り組む。 （各回の学習推定時間は 45 分） 第１回　自分の進路について考えてくる。 第２回　指示された課題に取り組む 第３回　業界研究のための課題に取り組む 第４回　資料を読み課題に取り組む 第５回　過去の自分を知るための課題に取り組む 第６回　他人から見た自分を知るための課題に取り組む 第７回　自己分析シート作成のための課題に取り組む 第８回　自己分析シート作成のための課題に取り組む 第９回　自己分析シート作成のための課題に取り組む。 第１０回　業界研究のための課題に取り組む 第１１回　資料を読んで課題に取り組む 第１２回　自己 PR 文作成のための課題に取り組む 第１３回　自己 PR 文作成のための課題に取り組む 第１４回　プレゼンの練習 第１５回　プレゼンの練習		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など	
大学卒業後の進路選択の方法を学んでいく重要なゼミである。課題には真剣かつ積極的に取り組んでいただきたい。	
授業スケジュール	
1．　ガイダンス―今何をすべきか 2．　就職登録票の作成 3．　業界研究（1） 4．　自己分析がなぜ必要なのか 5．　過去の自分を知る 6．　他人から見た自分を知る 7．　自己分析シートの作成（1） 8．　自己分析シートの作成（2） 9．　自己分析シートの作成（3） 10．業界研究（2） 11．　自己 PR の方法を学ぶ 12．　自己 PR 文の作成　（1） 13．　自己 PR 文の作成（2） 14．　プレゼンの練習（1） 15．　プレゼンの練習（2）	

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2018	授業コード	J4018200A
科目名	現代社会と法 2	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues 2		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
授業概要	このゼミでは、法律学について、現代社会との関わりを考慮しつつ、将来就職および起業をすることが多いことから、労働法に関するテーマについて学習する。具体的には、労働法分野における基礎的な概念・制度の趣旨を把握し、以下の特定のテーマについて、判例によって事例を検討し、タイムリーな論点を取り上げて報告をする。 そして、いわゆるブラック企業とホワイト企業の峻別をする。		
教材（教科書）	水町勇一郎ほか編『事例演習労働法〔第 3 版〕』（有斐閣、2017 年）2700 円＋税および最新版六法		
教材（参考資料）	土田道夫=山川隆一編「労働法の争点」（有斐閣、2014 年）2600 円＋税		
教育方法	教科書・最新版六法にしたがって、ゼミ方式で行なう。このほかに、対話的なやり取りに対し優れた解答した場合は、加点する。		
評価方法	ゼミ内での発言内容および冒頭に執筆するペーパー（50%）並びに報告（50%）とで評価する。		
到達目標	1)労働法における基本的な専門用語が説明できるようになる。 2)労働法における判例理論を説明できるようになる。		
授業時間外学習	次回の項目について、教科書の Unit を読み込んでくること。次回ゼミの冒頭にペーパーを記入してもらう。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1)イヤ・フォーンをはずすこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
2)スマートフォンなどの電子機器は、電源を切って机上におくこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
3)私語および食事は，厳禁とする。
4)トイレは原則として講義前にすませること(体調が悪い場合は申し出ること)。
5)ゼミ終了時に次回の Unit のキーワードを説明するので、次回までに読んでおくこと。
6)ゼミ中には積極的な発言態度で臨む等、意欲ある学生を希望する。遅刻および無断欠席は厳禁とする。

授業スケジュール

教科書の Unit にしたがって、以下の内容で進める予定であるが、ゼミ生と相談して内容を多少組み替える場合がある。

第 1 回　演習の進め方・その他諸注意・報告の仕方の説明
第 2 回　Unit 1　労働法上の「労働者」
第 3 回　Unit 2　労働法上の「使用者」　Unit 17　労働組合
第 4 回　Unit 19 労働協約
第 5 回　Unit 4　就業規則
第 6 回　Unit 5　労働契約
第 7 回　Unit 6　労働契約の成立　--―オワハラとはなにか
第 8 回　Unit 7　人　事
第 9 回　Unit 8　懲　戒
第 10 回　Unit 9　解　雇
第 11 回　Unit 11　労働者の人格権 ――言葉によるセクシュアル・ハラスメントの内容は
第 12 回　Unit 12　雇用差別――マタハラとされた事例を含めて
第 13 回　Unit 13　賃　　金
第 14 回　Unit 14　労働時間　　Unit 15　休暇・休業
第 15 回　Unit 18　団体交渉　　Unit 20　団体行動

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J40221001
科目名	商法総則・商行為法	単位数	2
科目名（英語表記）	Commercial Code (General Provisions and Commercial　Transaction)		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	本講義では、商法分野のうち、「商法総則・商行為法」を中心に講義し、商法上の制度や商取引の仕組みについて基本的な知識を修得する。商法総則とほぼ同内容を会社について規定する「会社法総則」についても適宜触れる。民法上の契約は、商人でない者同士の取引を想定するのに対し、本講義の取り扱う商法総則・商行為は、商人間の取引および商人と消費者の取引が想定される。これらをモデル・ケースを提示しつつ講義し、法的なものの見方を養成する。なお、国際的観点から配布資料における主要条文は日本語とともに英語訳でも提示される。		
教材（教科書）	弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法＜第 2 版補訂版＞』（有斐閣、2014 年）　2,160 円。 六法（『ポケット六法』（有斐閣）など）を必ず持参すること。 その他に、毎回講義レジュメ・資料を配布する。		
教材（参考資料）	江頭憲治郎=山下友信『商法（総則・商行為）判例百選[第 5 版]』（有斐閣、2008 年）　2,592 円		
教育方法	事前に「京学なび」にアップロードした講義レジュメに沿って、講義法で行う。講義では、教員が冒頭で基本例題を提示しながらポイントを明確にし、学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講する。授業中には基本的な知識・考察を問う質問を行うこととし、正解ができた受講者、適切に考慮した見解を発言した受講者にはポイントを与える。授業の最後には、講義内容に関する確認テストを行い、次回の授業で解説を行う。		
評価方法	授業の最後に行う小テスト（正誤問題やコメント　40%）、期末試験（正誤問題と記述問題　60%）。期末試験は、出題問題の理解力や論理的な説明力を問う。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	1．社会において商法がどのように役立っているか、具体的に説明できる。 2．商人と商行為の定義・内容を具体的に説明することができる。 3．民法が適用された場合と商法が適用された場合の相違を説明することができる。 4．商行為各論に出てくる各種営業につき、基本的事項を説明できる。 5．商法に関する基本的な説明問題・事例問題を文章で説明できる。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する教科書のページと講義レジュメに目を通し、レジュメの空欄に記入するキーワードを考えてくること（各回の学習推定時間は 45 分）。 第 1 回　教科書 1-5 頁 第 2 回　教科書 17-22 頁 第 3 回　教科書 33-46 頁 第 4 回　教科書 61-66 頁 第 5 回　教科書 67-80 頁 第 6 回　教科書 81-84 頁 第 7 回　教科書 23-32 頁 第 8 回　教科書 11-16 頁 第 9 回　教科書 85-104 頁 第 10 回　教科書 105-110 頁 第 11 回　教科書 177-180 第 12 回　教科書 119-122 頁 第 13 回　教科書 122-128 頁 第 14 回　教科書 135-152 頁 第 15 回　教科書 153-161 頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
履修が望ましい他の関連科目：民法総則			
授業スケジュール			

1．イントロダクション（Introduction）
2．商人（Merchants）
3．商号（Trade names）
4．商業帳簿（Commercial Books）
5．商業使用人（Employees of Merchants）
6．代理商（Commercial Agents）
7．商業登記（Commercial Registration）
8．商行為（Commercial Transactions）
9．商行為の代理（Agency for Commercial Transactions）
10.売買（Sale）
11.交互計算（Current Account）
12.仲立営業（Brokerage Business）
13.問屋営業（Commission Agency Business）
14.運送営業（Transportation Business）
15.倉庫営業（Warehouse Business）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J40227001
科目名	民法Ⅳ（契約・不法行為法）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
授業概要	民法第３編のうち、債権発生原因である契約および不法行為を中心に学習する。順序としては、契約一般に共通するルール（契約総則）をみた後に、各種の契約の中でもとくに重要なもの（売買・賃貸借など）を扱い、最後に不法行為法を概観する。条文の意味内容と関連する判例・学説について理解し、契約および不法行為に関する基本的・標準的な知識を習得する。		
教材（教科書）	各回の授業でレジュメを配布する。		
教材（参考資料）	池田真朗『スタートライン債権法〔第６版〕』（日本評論社、2017 年） その他、授業中に適宜指示する。		
教育方法	配布したレジュメおよび資料に沿って講義形式で行う。授業中に教員が補足したことや強調した点をレジュメに記入しながら受講する。内容的な区切りごとに練習問題を解くことで基本的な知識の定着を図る。講義にあたっては具体的な事例を適宜紹介して理解を助けるように努める。		
評価方法	期末試験の成績による。小テストの結果や講義への参加状況等を補充的に考慮する。評価方法の詳細については初回の授業で説明する。なお、授業中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．契約および不法行為に関する主要な条文・制度について基礎的な知識を習得する。 ２．主要論点に関する判例・学説を理解する。 ３．具体的な事例に条文を当てはめ、解決することができる。		
授業時間外学習	受講者のほとんどが法律学を体系的に学習していないことから、授業時間外学習は復習が中心となる。 １．講義時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、講義で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．講義中に配布した練習問題を次回の授業開始時までに解いておく。 ３．講義内容の理解をより深めるため、講義中に指示した判例・文献を読む。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
民法は全体として密接に関連しているので、公務員試験や資格試験等で民法を学習する必要のある受講者は、民法総則、物権法、債権法など他の民法科目を併せて履修することを強く勧めます。			
授業スケジュール			
１．　受講にあたっての注意／契約・不法行為法序説 ２．　契約の成立 ３．　契約の効力（１）同時履行の抗弁権 ４．　契約の効力（２）危険負担 ５．　契約の解除 ６．　契約総則の復習（練習問題） ７．　売買（１） ８．　売買（２）売主の担保責任 ９．　贈与 １０．賃貸借（１） １１．賃貸借（２） １２．不動産賃貸借と借地借家法 １３．その他の典型契約 １４．不法行為（１） １５．不法行為（２）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J40228002
科目名	宅建特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Real Estate Agent Exam inations		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
授業概要	公正な不動産取引のための国家資格である宅地建物取引士（旧・宅地建物取引主任者）試験に合格するために必要な知識を学習する。同試験の出題範囲は広範であるため、本講義では、独学では理解が困難な「権利関係（民法、借地借家法、区分所有法など)」を中心に講義と問題演習を行う。		
教材（教科書）	市販のテキストと過去問題集を指定する。本講義はテキストと過去問題集に沿って展開するため、テキストおよび過去問題集の購入が必須となる（すべて定価で購入すると 1 万円～1 万 2 千円くらいかかる。)。受講者の経済的負担を軽減するため、キャリアサポートセンターの課外講座と同じテキストを用いる予定である。詳細は初回の講義で指示するので、テキスト等をあらかじめ購入しておく必要はない。		
教材（参考資料）	-		
教育方法	適宜、レジュメを配布する。		
評価方法	数回実施する小テストおよび期末試験の成績による。期末試験では、実際の試験の過去問を中心に出題する予定である。成績評価において出席状況、受講態度は考慮されない。		
到達目標	1．宅地建物取引主任者試験に合格するために必要な知識を取得する。 2．自律的に受験対策を進めるための学習方法を確立する。		
授業時間外学習	講義時間の多くを問題の解説に費やすため、受講者はテキストの指定箇所を一読した上で、前回の講義で配布された問題をあらかじめ解いておくこと。予習・復習のために自習室等を積極的に活用すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講義は 2018 年 10 月に実施される本試験を受験する明確な意思がある者を対象としている。単位の数合わせや空き時間を埋めるために本講義を登録することはくれぐれもご遠慮願いたい。一般に、宅建合格のためには 250-300 時間の学習が必要であるといわれているが、本講義の 1 回 90 分、15 回を合計してもわずか 22.5 時間でしかない。受講者には、大学の内外で自主的に受験勉強に取り組むことが求められる。受験勉強の経験がない、意思が弱いなどの理由で独学に自信がない場合、キャリアサポートセンターの課外講座や民間の資格試験講座をあわせて受講することを勧める。

問題演習が中心となるため、なるべく多くの民法科目を履修済みであるか、同時に履修していることが望ましい。なお、同じ担当者による「民法特別研究 B」と内容的に重複する部分がある。

授業スケジュール

出題範囲のうち、いわゆる「権利関係」が中心となるが、学習の進捗状況を確認するために他の分野（「宅建業法」など）を扱うこともある。

1．　オリエンテーション
2．　権利主体
3．　意思表示
4．　代理
5．　債務不履行・解除
6．　危険負担・売主の担保責任
7．　売買
8．　物権変動
9．　宅建業法（1）
10．抵当権
11．保証・連帯債務
12．不法行為
13．賃貸借
14．借地借家法
15．宅建業法（2)、法令上の制限・税・その他

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	-	-	★	★★	-	★

年度	2018	授業コード	J40230001
科目名	税務会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Accounting		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
授業概要	法人税法は、課税所得の計算原理を税法だけで完結的、網羅的に規定することはせず、その相当部分を適正な企業の会計慣行に委ねている。すなわち、税法の課税所得計算原理は独立に存在しているのではなく、公正な会計慣行をベースとして、税法固有の目的を実現するために必要な調整を加えているのである。したがって、「税務会計」を理解するには会計学と法人税法の両方の知識が不可欠となる。税法は強行法規であり、とくにわが国の法人税法は確定決算主義をとっているため、税法の諸規定は企業会計の実務に強い影響を与えている。 講義では、法人の課税所得算定の基礎となる企業会計の基準、会社法の計算規定などを説明しながら、法人税法及び租税特別措置法における法人税の規定及びこれらに係る政令、省令、通達による法人の所得計算の算定プロセスについて、基本的事項に絞って平易に説明する。課税所得の調整計算や法人税申告書の記載方法にも時間を割く。		
教材（教科書）	小池敏範『実務家養成シリーズ　わかりやすい法人税』（税務研究会出版局）		
教材（参考資料）	渡辺淑夫『法人税法　平成 29 年版』（中央経済社） その他講義でその都度紹介する。		
教育方法	配布レジュメ及び板書を活用し、講義法で行なう。		
評価方法	授業中の取組姿勢（30%）、授業中の小テスト（30%）、期末試験（40%）		
到達目標	法人税の課税所得計算のしくみを理解し、法人税申告書（とくに別表 4、別表 5）を作成することができる。		
授業時間外学習	授業終了時に、次回のレジュメを配布するとともに、テキストの次回範囲を指定するので、予習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「税務会計論」という学問領域は、会計学及び租税法の基礎知識がない受講生には理解が困難です。そのため、会計学（特に簿記論、財務諸表論）及び租税法（特に法人税）の科目を履修済の学生の登録を希望します。

授業スケジュール

1. 法人の区分と課税の範囲、法人税の体系
2. 課税所得の計算構造
3. 損益の期間帰属、受取配当等
4. 外貨建取引、減価償却資産、繰延資産
5. 給与、寄附金、交際費、その他の損金
6. 引当金・準備金制度、圧縮記帳制度
7. 税額の計算
8. 税効果会計（1）
9. 税効果会計（2）
10. 新会計基準と法人税（1）
11. 新会計基準と法人税（2）
12. 新会計基準と法人税（3）
13 中小企業の会計
14. グループ法人税制
15. 法人税申告書

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	★★

年度	2018	授業コード	J50022001
科目名	カウンセリング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories and Methods of Counseling		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
授業概要	カウンセリングとは一定以上健康な人が「対話を通して自らよりよい状態へと変化していく」プロセスを援助する営みであり、1940 年代のカール・ロジャーズによる非指示的心理療法・来談者中心療法によって、その土台が作られた。 本講義では、ロールプレイを通して、カウンセラーとクライエントのやりとり・感情体験を具体的に学ぶことを目的とし、カウンセリングで用いられる様々な技法を理解し、カウンセラーのあり方と治療の流れの関連について考えを深めることができる。		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	毎回課題を出し、その後グループディスカッションによって考えを深める。最終的には、受講生同士でロールプレイを実施する。		
評価方法	平常点(出席および課題)　５０％　及び　レポート提出　５０％。		
到達目標	1 カウンセリングで用いられる治療技法とその理論的基礎の概略を説明できる。 2 初歩的なカウンセリング的応答を行うことができる。		
授業時間外学習	1 第一回授業までに「臨床心理学Ⅱ」の教科書を再読し、カウンセリングの基本となるロジャーズの理論について復習しておく。 2 毎回、講義終了時に、来週までに実施すべき課題を出すので、次週授業開始時に提出する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
臨床心理学Ⅰ・Ⅱの単位を取得済みであることが必要。
受講のルール
遅刻・早退せず主体的に参加すること。カウンセリングのロールプレイをやるため、学期に 1、2 回土曜ないし休日に授業を実施するので、予定しておくこと。初回の授業時に日程の決定をするため、必ず出席のこと。

授業スケジュール

１～２．カウンセリングとは
３～４．カウンセリングの基本的技法－－マイクロ・カウンセリング
５．カウンセリングの実際－－　ａ．ロジャーズの来談者中心療法
６．　ｂ．パールズのゲシュタルト療法
７．　ｃ．エリスの論理療法
８～10．紙上応答練習
11～14．ロールプレイ－－－（ロールの設定・ロールプレイの実施・話し合い）
15．各グループ毎の発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J50025001
科目名	コミュニケーション社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Communication		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
授業概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。 具体的なテーマは、記号を扱う理論とこれに基づいた社会の分析、現代社会の様々な領域におけるコミュニケーションの特徴などである。ポップなものからシリアスなものまで、できるだけ多様な事例を交えて論じる予定である。		
教材（教科書）	なし。プリント教材を講義中に配付する（京学なびにも掲示する）。ビデオ教材を使用する。		
教材（参考資料）	各回のプリント教材の末尾に記載する。		
教育方法	教材をスクリーンに表示しながら講義形式で行なう。 毎回、授業内レポートを課し、その回の内容を確認する。京学なびの「授業資料」、「課題」を利用する。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（50%）、定期テスト（50%）。		
到達目標	コミュニケーション社会学の理論について説明ができる。 コミュニケーション社会学の理論を用いて、現代社会の現象について説明ができる。		
授業時間外学習	各回の 3 日前までに、京学なびにプリント教材を掲示するので、よく読んでおくこと。 授業内レポート課題の一部は各回の 2 日後に締切を設定しているので、その間に解答して提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義中に配付したプリント教材は、以降の講義でも持参すること。
ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。また、ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。

授業スケジュール

《イントロダクション》
1. 講義概要、予備知識

《記号と社会――日常世界を意味づける》
2. 記号
3. ファッション
4. 二元論(1)
5. 二元論(2)
6. ラベリング(1)
7. ラベリング(2)
8. 復習と補足(1)

《現代社会のコミュニケーション》
9. 大衆社会
10. ネット社会
11. ソーシャルメディア
12. 流言
13. グローバルなコミュニケーション
14. フィルターバブル
15. 復習と補足(2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J50026A01
科目名	コミュニケーション社会学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Communication A		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
授業概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要ないくつかの理論を紹介し、さまざまな場面でこれを適用しながら現代社会の理解に努める。 具体的なテーマは、記号を扱う理論とこれに基づいた社会の分析、現代社会の様々な領域におけるコミュニケーションの特徴などである。ポップなものからシリアスなものまで、できるだけ多様な事例を交えて論じる予定である。		
教材（教科書）	なし。プリント教材を講義中に配付する（京学なびにも掲示する）。ビデオ教材を使用する。		
教材（参考資料）	各回のプリント教材の末尾に記載する。		
教育方法	教材をスクリーンに表示しながら講義形式で行なう。 毎回、授業内レポートを課し、その回の内容を確認する。京学なびの「授業資料」、「課題」を利用する。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（50%）、定期テスト（50%）。		
到達目標	コミュニケーション社会学の理論について説明ができる。 コミュニケーション社会学の理論を用いて、現代社会の現象について説明ができる。		
授業時間外学習	各回の 3 日前までに、京学なびにプリント教材を掲示するので、よく読んでおくこと。 授業内レポート課題の一部は各回の 2 日後に締切を設定しているので、その間に解答して提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義中に配付したプリント教材は、以降の講義でも持参すること。
ただ講義を理解するだけでなく、さらに理解した内容を通して自分で現代社会について考えること。また、ふだんから現代文化に関心をもっておくこと。

授業スケジュール

《イントロダクション》
1. 講義概要、予備知識

《記号と社会――日常世界を意味づける》
2. 記号
3. ファッション
4. 二元論(1)
5. 二元論(2)
6. ラベリング(1)
7. ラベリング(2)
8. 復習と補足(1)

《現代社会のコミュニケーション》
9. 大衆社会
10. ネット社会
11. ソーシャルメディア
12. 流言
13. グローバルなコミュニケーション
14. フィルターバブル
15. 復習と補足(2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J50030001
科目名	シミュレーション・ゲーム	単位数	2
科目名（英語表記）	Simulation and Gaming		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
授業概要	この授業では、集団を用いた実験をいくつか体験しながら集団心理学についての理解を深める。扱うテーマは集団の意思決定、CMC（コンピュータを媒介するコミュニケーション）と FTF（対面コミュニケーション）による協同作業の効率性、集団間関係などである。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する		
教育方法	Slack などを用いて教材・データ配布を行うほか、適宜プリントを配布する		
評価方法	平常点 40%出席状況などによる。レポート 60%		
到達目標	多くの社会現象は原因となる要因を特定できない複雑系現象である。しかし私たちは、どこかに原因となる要因やリーダーがいるという考え方に慣れているため、社会や人間に対して誤った原因を求める傾向がある。この授業は、このような因果関係の認知を脱して柔軟な視点で社会や他者を眺める視点を得ることを目的としている。		
授業時間外学習	各講義時間中に参考資料をプリントあるいは、教員個人の教材フォルダから配布する。この資料を、次の授業までに読んで準備をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

一般的な IT リテラシー（インターネット・PC 使用経験）を持っておくこと。
出席重視なので、遅刻、欠席のないように。
やむを得ず欠席する場合は、必ず事前にメールで連絡をしてください。

授業スケジュール

1．　概論
2．　Edmodo,Slack の使い方
3．　囚人のジレンマゲーム
4．　ジレンマゲームのシミュレーション
5．　FTF 集合知実験
6．　CMC 集合知実験
7．　FTF 社会的共有認知
8．　CMC 社会的共有認知
9．　FTF　空間認知の共有
10．CMC　空間認知の共有
11．仮想空間の制作
12．人工知能ボット
13．　ゲーミニフィケーション
14．　集団間関係のシミュレーション
15．　集合知

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50032001
科目名	ジェンダー論	単位数	4
科目名（英語表記）	Gender and Society		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
授業概要	一般的には「ジェンダー」とは社会的・文化的につくられた性別として、生物学的な性別である「セックス」と区別して使われてきました。身近な例は「女らしさ」や「男らしさ」という社会規範です。残念ながら多くの学生は、ジェンダー論を女性問題と理解しているようです。しかし男性が抱える問題はジェンダー規範が関わり、女性だけでなく男性にも「生きづらさ」をもたらしています。学生には、これまでジェンダーとは無関係と考えられてきた様々な社会問題を、ジェンダー・リテラシーを通して読み解いてもらいます。		
教材（教科書）	毎回の授業のはじめで、レジメと参考資料を配布する。		
教材（参考資料）	『女性学事典』岩波書店、(『図解雑学　ジェンダー』ナツメ社、『はじめてのジェンダー論』有斐斐　（図書館所蔵）		
教育方法	講義。DVD を使った課題などを授業後に提出してもらい、フィードバックは翌週に行う。		
評価方法	平常点（出席状況と授業内課題など）:40%、　テスト：60%		
到達目標	ジェンダー・リテラシーを用いて女と男の人間関係を理解する		
授業時間外学習	各授業最後に次回の準備学習を指定する		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ジェンダーをめぐる国内外の最新ニュースなどをもとに、常識や偏見にとらわれないで考えてみよう。			
授業スケジュール			
1,イントロダクション: ジェンダーとセックス 2,　ジェンダーの学習と社会化 3,主婦の誕生と性別役割分担 4. 女性労働の実態と格差社会 5,憲法から男女共同参画まで 6、セクシュアリティとは 7.人権問題としてのセクシュアリティ 8.母性愛と父性愛 9. 生殖技術の光と陰 10. 男性学：なぜ男性は「生きづらい」 11 近代家族 12.恋愛・結婚・仕事 13,少子化社会とジェンダー役割 14. 超高齢社会とライフコースの変化 15.　宗教とジェンダー			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J50067001
科目名	プロジェクトワーク論	単位数	2
科目名（英語表記）	Study of Project Work		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
授業概要	"なんらかの目標を達成するための「計画」を意味する「プロジェクト（project)」の語源は「pro＋ject＝前方（未来）に向かって投げかける」である。また、究極の “personal computer＝dynabook” プロジェクトの提唱者である Alan Kay は次のようにも語っている。“The best way to predict the future is to invent it.（未来を予測する最良の方法は、それを発明してしまうことである）”。 本講義では、コミュニケーションの手段としての「メディア（media)」についてのこれまでのいくつかのプロジェクトの実践例を検証するとともに、「未来を構築する」をテーマに、グループワークで実際にプロジェクトの立案／運営を試みる。 "		
教材（教科書）	必要に応じてプリント等を配布する		
教材（参考資料）	"西村佳哲『自分の仕事をつくる』ちくま文庫 2009 関口久雄『メディアのブリコラージュ:つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008"		
教育方法	講義と映像資料等を使用。		
評価方法	"最終レポート（100%）"		
到達目標	プロジェクトを、ワークを、考える／実践する。		
授業時間外学習	"自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。 "		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主体的に参加することを望む			
授業スケジュール			
01 オリエンテーション 02 プロジェクトについて［1］ 03 プロジェクトの実例検証［1］ 04 プロジェクトの実例検証［2］ 05 プロジェクトの実例検証［3］ 06 プロジェクトの実例検証［4］ 07 ワークについて［1］ 08 ワークについて［2］ 09 ワークについて［3］ 10 ワークについて［4］ 11 ワークについて［5］ 12 プロジェクトワークについて［1］ 13 プロジェクトワークについて［2］			

14 プロジェクトワークについて［3］ 15 プロジェクトワークについて［4］

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J50140001
科目名	医療心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychology of Medical Care		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
授業概要	近年、医療心理臨床の領域は、総合病院精神科や単科精神科病院に限らず、小児科、心療内科、内科、外科、リハビリテーション科、産婦人科など、多方面に拡大している。そこでは、心の病気への援助を目標とする臨床心理学だけではなく、身体の病気やそれに苦しむ患者を理解し援助していく医療心理学が求められている。本講では、様々な病気に苦しむ患者やその家族に対して、医療心理学の観点から行う心理的援助について学習し、医療現場で出会う様々な問題に対応できるようになることを目指す。		
教材（教科書）	講義形式で行うが、臨床現場で出会う様々な問題を具体的な事例を用いて解説する。		
教材（参考資料）	菅佐和子編　「医療現場に生かす臨床心理学」　朱鷺書房		
教育方法	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	定期試験（７０％）と、授業終了時に求める質問・感想表に基づく平常点（３０％）等による。		
到達目標	医療現場で心理的援助を行う際に求められる医療心理学の基礎的な理論や治療技法の理解し応用できるようになる。		
授業時間外学習	授業１週間前までに、授業資料を京学ナビにアップロードするので、事前に読んで予習しておくこと。わからない専門用語は、調べておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
私語や遅刻、教室の出入りを厳禁とする。私語が過ぎる場合、他者への迷惑を考慮して退室を求める。			
授業スケジュール			
１　オリエンテーション ２　患者の心理Ⅰ ３　患者の心理Ⅱ ４　患者の心理Ⅲ ５　精神科（入院）領域 ６　精神科（外来）領域 ７　心療内科領域 ８　小児科領域（乳児期・幼児期） ９　小児科領域（児童期・思春期） １０　小児科領域（ダウン症児とその家族への心理的援助） １１　内科領域（糖尿病患者への心理的援助） １２　外科領域 １３　ターミナルケア領域 １４　ＨＩＶ感染症領域 １５　医療スタッフのストレスと対応			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50178001
科目名	家族社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Family Sociology		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	
授業概要	「家族」とは何なのだろう。通常、「家族」は、家族愛や家族の絆、というような言葉で表現されるように、一般に流通するイメージがあって、あるべき姿が共有されているように思われる。そして、そのあるべき姿からの距離を測りながら、家族の問題を憂えたり、危ぶんだりするという状況にあるようだ。 しかし、私たちが現在、「家族」イメージとしてとらえているものは、マスメディア等が流布させる限定的なイメージであり、実態を概観すると、これら流通しているイメージが現代の日本社会に遍くいきわたっているライフスタイルとは言い難いということがわかる。家族のスタンダードとされてきた、夫と妻と子どもから成る核家族の形態は、歴史的にも普遍的なものではなく、もはや多数派でもない。 授業では、イメージ家族を脱却して、制度としての「家族」の歴史的な変化や、「家族」概念の変化及び様々な側面から家族の実態を見て行きたい。さらに、「家族」における現代の諸問題をトピックとして取り上げ、人権の問題やジェンダーの視点に沿って、「家族」を読み解いていく。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介する		
教育方法	パワーポイントや映像資料を活用する。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝５０％ 定期試験＝５０％		
到達目標	固定的な「家族」イメージを検証し、自分と家族の関わりを見つめ直し、社会における家族の位置を相対的に捉え、人が幸福に生きるためには何が大切なのかを模索する視点を養う。		
授業時間外学習	授業内レポート、ミニテストを行うに当たって、予め課題や範囲を提示するので、準備をして臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

普段の授業を大切にすること。授業内レポート等の作成にあたっては、丁寧な文字と文章を心がけ、真面目に取り組んでください。
社会通念や偏見にとらわれず、それらを相対化し、思考する態度を望みます。

授業スケジュール

１　導入：授業ガイダンス　「家族」とは何か
２　社会とともに変化する家族（１）
３　社会とともに変化する家族（２）
４　高度経済成長期の家族の特徴
５　高度経済成長期から変化する家族
６　子どもと家族（１）
７　子どもと家族（２）
８　家族と暴力（１）
９　家族と暴力（２）
１０　現代家族のかかえる諸問題（１）
１１　現代家族のかかえる諸問題（２）
１２　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（１）
１３　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（２）
１４　多様化する家族（１）
１５　多様化する家族（２）

上記テーマの配列は、授業の進度、その時々の社会情勢などにからめて、調整します。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50182001
科目名	学校臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical School Psychology		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
授業概要	学校臨床心理学とは、「学校における臨床心理学」および「学校と臨床心理学」の二つの視点を併せ持つ、実践的な研究領域である。第一の観点からは、学校という場と、そこで必要とされる臨床心理学的実践についての知識を得て、スクールカウンセラー活動の実際を知ることができる。第二の観点については、学校教育と臨床心理学が互いに補い合って児童生徒を援助していく際の、それぞれの方法論や観点の異同を理解することができる。 最終的にはこれらを総合的に考察することで、現代社会における子供の問題への対処方法が包括的に理解できる。		
教材（教科書）	毎回、プリントを配布する。		
教材（参考資料）	横湯園子　教育臨床心理学　東京大学出版会 倉光修編　学校臨床心理学　誠信書房		
教育方法	本講義においてはまず、学校現場で発生している様々な臨床心理学的課題について、受講生が書籍・報道などを用いて実情をまとめ、発表し、その諸課題に対して、上述の二つの観点から分析・解説するものとする。		
評価方法	定期試験　50%　　授業内レポート　30%　　課題提出　20%		
到達目標	1．学校現場においてどのような問題が発生しているかを理解する。 2. 学校における諸課題のうちに、臨床心理学的問題がどのように含まれているかを理解する。 3．問題解決に向けていかに臨床心理学が応用されているか、またその過程でどのような課題が存在しているかを、具体的に理解する。 4．学校現場で必要とされる、基本的な臨床心理学的知識を習得する。		
授業時間外学習	講義の最後に、次回取り扱う学校臨床心理学的課題を指定するので、それについての新聞やインターネットにおける報道や、そういった学校の課題を分析した書籍等を調べる。調べた内容に基づくグループディスカッションを行うこともある。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
臨床心理学Ⅰ・Ⅱの単位修得済みであること。
受講のルール
授業中は私語厳禁。
学習上の助言
社会的にも関心の高い領域であるので、新聞やインターネットを用いて、積極的に勉強することが重要である。

授業スケジュール

1．学校とはどのようなところか
2．学校教育と心理臨床の考え方の違いと相補性
3．学校臨床心理学とは
4．児童期・思春期の心理的発達
5．学校現場での問題　①不登校
6．　②不登校児童生徒の実態
7．　③いじめ 1
8．　④いじめ 2
9．　⑤非行
10．　⑥発達障害
11．家族の問題　①子供を取り巻く環境

12.　　②虐待 13～14.　スクールカウンセラーの仕事 15.　コミュニティ心理学の視点・まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50186001
科目名	学習の動機づけ	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Motivation		
担当者名	増田　優子	旧科目名称	
授業概要	学習の動機づけとは，一般にいう”やる気”に近い概念です。動機づけに関する概念はとても多くあり，これは人間の活動のほとんどが”やる気”と関りがあるということを反映していると考えられます。 「どうして，やらなくてはいけないとわかっているのにやる気にならないんだろう」「どうすればやる気になるのだろう」という疑問を誰しも一度は抱いたことがあるでしょう。動機づけを理解することは，自己や他者を理解する上でとても大切な心の側面であるといえます。 本授業では，動機づけにおけるさまざまな課題を解決する手掛かりとなるような理論や視点について学習します。また，動機づけることが難しい課題や状況に対しては，その解決のための考え方について学習します。それにより，学習や日常生活において，どのような思考や行動が動機づけを高めるために有効であるかを発見する力を習得します。		
教材（教科書）	使用しない。毎回の授業でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	伊藤崇達（編著）『【改訂版】やる気を育む心理学』北樹出版　1,800 円＋税		
教育方法	パワーポイントを活用しながら講義法とワーク（個人またはグループ）を組み合わせて行う。		
評価方法	授業内での課題および理解度の確認による平常点（毎回，授業内で配布するミニシートに課題への解答や授業の感想，質問事項を記入，授業終わりに提出），ならびに授業態度　40% 最終筆記試験　60%		
到達目標	１．動機づけ概念を用いて，日常の行動を説明することができるようになる ２．さまざまな動機づけ概念を理解し，動機づけを高めるための方法や工夫について深く考えられるようになる		
授業時間外学習	毎回の講義内容はのちの講義内容の理解にも関わるため，毎回の講義内容を理解したうえで次の講義に望むよう心がけること		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．毎回の講義から何かを学ぶ，得る，という形で，目標を持って参加してください
２．日常的に学習内容に関係することに関心を持ち疑問点や知りたいことを明確にし，積極的に学習を進めてください

授業スケジュール

１．講義概要　動機づけとは何か
２．達成動機づけ
３．ネガティブ思考と動機づけ
４．社会的比較と動機づけ
５．動機づけの階層性
６．期待ー価値理論
７．自己効力感
８．原因帰属理論
９．テスト不安・学習性無力感
１０．達成目標理論
１１．内発的動機づけと自己決定理論
１２．自律性と感情調整
１３．自己調整学習の理論
１４．自己調整学習方略
１５．動機づけの総合理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J50204A01
科目名	教育心理学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Psychology I		
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
授業概要	教育心理学は、教育に関連する諸事象について心理学的に研究し、教育の効果を高めるのに役立つような心理的知見と心理的技術とを提供しようとする学問である。子どもの発達や学習、人格の形成などに関する心理的事象や法則を学び、教育を効果的に実施するために役立つ知識の習得をめざす。一人ひとりの子どもの発達の特性や個に応じた教育的対応、集団の状況に応じた指導・援助についての理解を深めていく。		
教材（教科書）	設定しない。授業中に資料を配布する。		
教材（参考資料）	講義中に適宜，紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行い、必要に応じてグループワーク等を用いた講義を行う。		
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	①　教育心理学の基本的な事項について理解し、説明することができる。 ②　教育心理学的なものの見方や考え方により、現在の教育について考えることができる。 ③　教育心理学の知識・知見から，よりよい教育実践を提案することががができる。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、予習を行うことが望ましい。また，授業ごとに欠かさず復習をし，次の授業までに内容をしっかりと理解しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
特別な事情がある場合を除き，すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること。授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求める。			
授業スケジュール			
1．　教育心理学とは 2．　生涯発達Ⅰ：乳・幼児期 3．　生涯発達Ⅱ：児童期・青年期 4．　生涯学習Ⅲ：　壮年期・老年期 5．　記憶のメカニズム 6．　学習理論と行動の理解 7．　学習理論の教育への応用 8．　様々な学習　プログラム学習 9．　様々な学習　運動学習と観察学習 10.　　動機づけ 11.　達成動機と原因帰属 12.　教授法　レディネスと最近接領域 13.　教授法　学習性無力感 14.　教授法　自己効力感 15.　学級集団の理解			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50204B01
科目名	教育心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Psychology Ⅱ		
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
授業概要	「教育心理学Ⅰ」で学んだことをもとに，学校現場で有用な実践力の基礎をさらに発展させる。「教育心理学Ⅱ」では，講義とグループ学習・全体討論を組み合わせて進める。教育心理学に関する基礎的な知識を活用しながら，教育現場での今日的課題について考えそれらを解決するアプローチを考える。また、児童生徒だけでなく、保護者、教師との協力関係の構築、さらに、学校や家庭、地域とも協力しながら児童生徒理解および児童生徒への介入に必要な方法についても理解を深める。		
教材（教科書）	設定しない。授業中に資料を配布する。		
教材（参考資料）	おにつかるみ　2005　さとこ先生のホームルーム　新日本出版社 竹田レイ子　2007　ボクのこと大好き―自尊感情を高める　あいり出版		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行い、必要に応じてグループワーク等を用いた講義を行う。		
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	① 教育心理学についての基礎的な知識を応用できる力を養う。 ② 学校現場における今日的課題に対処できる能力の基礎をさらに発展させる。 ③児童生徒への心理教育的援助方法について主体的に考える力をつける。		
授業時間外学習	教科外学習として，講義内容に関連した課題を出しますので積極的に取り組んでください。課題には必ず取り組み，期限までに提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教育心理学Ⅰを履修している事が望ましい。グループ単位でのディスカッションや全体の場での発表の機会を設け、コミュニケーション能力の育成も図ります。授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求めます。特別な理由がない限り、すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること。

授業スケジュール

1. オリエンテーション（「教育心理学Ⅰ」の復習）
2. 教育相談とは
3. 傾聴とカウンセリングマインド
4. 乳幼児期に起こりやすい問題と対応
5. 児童期に起こりやすい問題と対応
6. 青年期に起こりやすい問題と対応
7. 自我の防衛機制
8. ストレスマネジメント
9. ソーシャルスキルトレーニング
10. 問題行動と問題の見立て
11. 相談におけるニーズの理解と子どもの行動評価
12. 教育相談に見る子育ての環境
13. 相談機関と連携する際の留意点
14. キャリア教育および地域社会との連携について
15. 教育現場における今日的問題に対する心理学的理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J50220A01
科目名	教育社会学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Sociology A		
担当者名	新堂　粧子	旧科目名称	教育社会学 s
授業概要	教育の機能は、国民社会にとって有用でありかつそれの要請に適応する人間を形成することに限られない、という論点を明示するために、「社会化」とは区別される「超社会化」という用語を呈示する。人間の欲望と能力はたしかに社会によって変容され補完されるが、この社会化により人間の潜在性がすべて開発されるわけではない。逆にその潜在性を損ない歪めて現実化することもある。はたして人間の独創性や創造力はどこからやってくるのだろうか。このような問いを発する時、我々は社会化には還元できない人間形成のもうひとつの側面＝超社会化について論じざるをえないだろう。 本講義ではまず社会化の教育論として、教育社会学の基礎文献である E.デュルケームの『道徳教育論』を学習する。「規律の精神」「社会集団への愛着」「意志の自律性」を道徳の 3 要素とする彼の教育論は、彼が生きた近代国民社会の成立期に、理想の社会の形成にとって必要とされる教育とはどのようなものか、を問う議論であった。彼の議論をたどりながら、社会化の教育論の特徴と不十分な点を理解し、超社会化の教育論へとつなげてゆく。次に、超社会化の教育論の可能性を探るために、超社会化概念の成立根拠となる、生成の思想にもとづく人間学の一端に触れる。H.ベルクソンの「閉じたもの」と「開いたもの」、作田啓一の「拡大体験」と「溶解体験」など。最後に社会化と超社会化を念頭に置きながら、生命感や自己意識とは何かを問い、現代社会における教育の課題について考える。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	作田啓一『三次元の人間 ― 生成の思想を語る』行路社、1998 年再版 亀山佳明・麻生武・矢野智司編『野性の教育をめざして ― 子どもの社会化から超社会化へ』新曜社、2000 年 エミール・デュルケム（麻生誠・山村健訳）『道徳教育論』講談社学術文庫、2010 年		
教育方法	適宜配布するプリントを用いながら、講義法で行う。		
評価方法	授業中に適宜課するレポート、または学期末の試験。 受講者の人数や理解度により変更し、配点その他の詳細については授業の中で示す。		
到達目標	今日の社会における教育を論じるさいに「社会化」とは区別される「超社会化」概念を用いることの意味を理解し、この概念により検討されうる人間形成の根源的側面への各自の関心、直観力を引き出すことを目標とする。		
授業時間外学習	毎回の授業後に学習内容を整理するノートを各自で作成しておくこと。次の授業のはじめに復習のための質疑応答時間を設けるので、ノートを見ながら応答できるように、また疑問が出た場合は質問できるように準備をしておくこと（各回の学習推定時間は３０分程度）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席した以上は、私語を慎んでほしい。			
授業スケジュール			
1. 社会化と超社会化 2. デュルケームによる道徳の三要素：規律の精神 3. デュルケームによる道徳の三要素：社会集団への愛着 4. ナショナリズムとコスモポリタニズム 5. デュルケームによる道徳の三要素：意志の自律性 6. 近代国民社会と人格崇拝の観念 7. 2 つの道徳と 2 つの正義・愛・自由(1) 8. 2 つの道徳と 2 つの正義・愛・自由(2) 9. 自己境界の拡大と 溶解(1) 10. 自己境界の拡大と溶解(2) 11. 主体－客体関係の三類型(1) 12. 主体－客体関係の三類型(2)			

13. 生命感について
14. 自己意識論
15. 現代社会における教育の諸課題／超近代の教育に向けて
16.定期試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50239001
科目名	現代社会とメディア	単位数	2
科目名（英語表記）	Contemporary Society and Media		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
授業概要	"「コミュニケーションするための手段」であるメディアは、声や身振り、絵や文字からはじまり、いわゆる技術を介することによって、電信、電話、録音、印刷、放送等を経て、今日のデジタルな時代に至る。新たなメディアの登場によって人間および社会のコミュニケーションは変化を続けている。 本講義は、そのような「現代社会とメディア」について、すでに社会環境として機能している検索はじめとするネット文化や個々人が対峙することになった著作権等々を考察する。具体的には、博物館・美術館・図書館等の収蔵品をデジタル化することによって、新たな形で保存・公開等を行うことを目的とするデジタルアーカイブは、近年の文化遺産・資源の再活用化の大きな課題の 1 つである。そして、デジタルで情報を分類することによって、これまで当然とされていた知識の形成の方法も大きく変わろうとしている。そのようなデジタルアーカイブの歴史や方法等を整理すると共に、アナログからデジタルへのメディアの変遷によって生じてきた知の体系化における新たな可能性や問題点等を考えていく。"		
教材（教科書）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考資料）	福井健策『誰が「知」を独占するのか：デジタルアーカイブ戦争』集英社新書 2014 野口悠紀雄『知の進化論：百科全書・グーグル・人工知能』朝日新書 2016 東浩紀『弱いつながり：検索ワードを探す旅』幻冬舎 2014（幻冬舎文庫／Kindle 版 2016）		
教育方法	プリント、映像教材他。		
評価方法	毎回の小レポート及び最終レポートで総合的に評価。		
到達目標	デジタルを中心に、各メディアの歴史やその社会的な役割を知る。		
授業時間外学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

主体的に参加することを望む。

授業スケジュール

1．オリエンテーション
2．現代社会とメディアを考える（01）
3．現代社会とメディアを考える（02）
4．現代社会とメディアを考える（03）
5．現代社会とメディアを考える（04）
6．現代社会とメディアを考える（05）
7．現代社会とメディアを考える（06）
8．現代社会とメディアを考える（07）
9．現代社会とメディアを考える（08）
10．現代社会とメディアを考える（09）
11．現代社会とメディアを考える（10）
12．現代社会とメディアを考える（11）
13．現代社会とメディアを考える（12）
14．現代社会とメディアを考える（13）
15．現代社会とメディアを考える（14）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J50256101
科目名	古文書学　Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Paleography Ⅰ		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	古文書の写真コピーを使いながらその読解を行う。古文書の多様な形態に触れる中で、古文書学の基礎をマスターすることを目ざす。文書を読むことは、内容を把握することである以上、文字を読むだけではなく、それぞれの史料の性格や歴史的意義を考えてゆく。取りあげる古文書は比較的やさしいものから始め、順次、レベルの高い古文書へと進んでゆく。		
教材（教科書）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考資料）	・佐藤進一『新版　古文書学入門』（法政大学出版局） ・『演習　古文書選』（吉川弘文館）古代・中世編、様式編、荘園編上下など。 ・東京大学史料編纂所 HP のデータベース検索画面〈 http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller〉に入ると「電子くずし字字典データベース」がある。これはくずし字の用例が非常に多いので、図書館架蔵の『くずし字事典』とともに、これを参考にして予習してくること。		
教育方法	－		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	古代中世の古文書学の基礎を学び、古文書の読解とそれぞれの史料の歴史的背景や、史料批判の方法を学ぶ。		
授業時間外学習	教材となる史料は事前に配付しておくので、十分に予習してほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・古文書学の基礎をじっくり学ぶ機会にしたい。
・分からないことは恥ではない。何でも積極的に質問してほしい。分からないこと、疑問に思ったこと、これがすべての始まりだ。

授業スケジュール

1.古文書学とは？
2.古文書習得の基礎
3.浄土寺文書の読解
4.浄土寺文書の読解
5.浄土寺文書の読解
6.鶴岡八幡宮文書の読解
7.鶴岡八幡宮文書の読解
8.鶴岡八幡宮文書の読解
9.東寺百合文書の読解
10.東寺百合文書の読解
11.東寺百合文書の読解
12.東寺百合文書の読解
13.東寺百合文書の読解
14.東寺百合文書の読解
15.東寺百合文書の読解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J50256202
科目名	古文書学　II	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Paleography II		
担当者名	佐竹　朋子	旧科目名称	
授業概要	江戸時代は、文書に基づいて社会の仕組みが整えられていた時代であった。すなわち、支配者層のみならず、庶民にいたるまでが日々文書を作成していた。 そこで、本講義では、江戸時代に作成された文書（古文書）の解読の仕方を解説していきながら、共に様々な種類の古文書を読み解いていくことで、江戸時代の社会の特質や社会のあり様を考えていくことを目的とする。また、古文書の基礎的な解読方法を身につけることを目的とする。		
教材（教科書）	授業で用いるテキストは、適宜配布する。		
教材（参考資料）	児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、１９９３年） 児玉幸多編『くずし字解読辞典』（東京堂出版、１９７０年） 日本歴史学会編『概説　古文書学　近世編』（吉川弘文館、１９８９年）		
教育方法	事前に配布したテキストを解読していく形で、講義を進めていく。具体的には、学生がノートやルーズリーフなどに予習してくることを前提とし、講義では教員や時には学生に回答を答えを求めながら、答え合わせをしていく。その際、教員が、テキストについて、古文書の解読方法について説明するとともに、このテキストから、江戸時代のどのような特質が分かるのかについての解説を行う。		
評価方法	評価は、受講態度やレポート等による平常点（５０％）と、定期テスト（記述問題５０％）の合計で算出する。 レポートの提出時期や内容については、授業中に提示します。 期末試験は、講義で取り組んだテキストと同類の問題を出すことで、講義が理解出来ているのかを問います。		
到達目標	①江戸時代の武家、天皇・朝廷、村、町など様々な社会集団において作成された文書を通じて、各自の文書の様式や種類を学び、江戸時代の古文書全般についての理解を深める。 ②江戸時代に発給された文書を学ぶことで、行政（江戸幕府）と社会との関係を考える。 ③古文書の初歩的な解読方法を学ぶ。		
授業時間外学習	予習方法 ・ノートまたはルーズリーフを必ず準備すること。そして、授業終了時に配布されたテキストを、ノートまたはルーズリーフに解読し、分からない文字はどれであるのかを確認してくること。 復習方法 ・授業で用いたテキストを、何度か読み上げたり、書き写していくことで理解を深め、解答を見ずとも答えられるようにしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。 ・遅刻や私語を厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案して退出を求める。 ・常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。			
授業スケジュール			
第１回：ガイダンス―史料と資料について― 第２回：近世社会と文書 第３回：紙の種類と形態 第４回：変体仮名について 第５回：崩し字の勉強の仕方について 第６回：朝廷・公家関係文書 第７回：将軍関係			

第８回：将軍関係
第９回：幕府関係
第１０回：幕府関係
第１１回：藩関係
第１２回：藩関係
第１３回：町方文書
第１４回：村方文書
第１５回：全体のまとめ
定期試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50259A01
科目名	口承文芸論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Oral Literature A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	本講義は口承文芸の作品を紹介すると共に口承文芸に関する先行研究を検討するものです。口承文芸とは、語られたもの、歌われたもののことを言います。例えば昔話、神話、語り物、歌、うわさ話、諺、ジョークが、これに該当します。一見するとこれらは、たいへん古くさく（実際たいへん長い歴史をもっています、文字が発明される前から、世界各地で話され歌われてきました）みえますが、コンピュータゲームやポップミュージックなどの現代文化とも密接に結びついています。口承文芸は何時の時代でも、古くてかつ斬新なものなのです。 Ａでは口承文芸の作品に親しむことからはじめ、作品分析の主要な方法論を理解することを目標にします。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	レポート（７０％）　授業内提出物（３０％）		
到達目標	作品分析の主要な方法論を理解すること。		
授業時間外学習	次週に取り上げる作品は予め配布しておくので、熟読してくること。また授業で取り上げた分析方法をよりよく理解するために、関連文献を授業中に示すので、読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。			
授業スケジュール			
1.口承文芸的発想とはなにか。（書くことと語ること・歌うことは果たして同じ次元なのか考えてみましょう） 2.神話学の系譜　（神話をどのように読むのか、これまでの様々なアプローチを概括します） 3.神話分析　民族学的アプローチ１　（まずは『金枝篇』から取り組んでみましょう） 4.神話分析　民族学的アプローチ２ 5.神話分析　心理学的アプローチ１（ユング派の物語の読み方について考えてみましょう） 6.神話分析　心理学的アプローチ２ 7.神話分析　構造分析１（レヴィ＝ストロースの分析する神話に触れてみましょう） 8.神話分析　構造分析２ 9.昔話研究（AT による昔話の分類） 10.昔話分析　系統論的アプローチ 11.昔話分析　構造分析１　（プロップの分析手法について検討してみましょう） 13.昔話分析　構造分析２　（ダンダスの分析手法について検討してみましょう） 14.日本神話の研究 15.日本昔話研究			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50259B01
科目名	口承文芸論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Oral Literature B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	本講義は口承文芸の作品を紹介すると共に口承文芸に関する先行研究を検討するものです。口承文芸とは、語られたもの、歌われたもののことを言います。例えば昔話、神話、語り物、歌、うわさ話、諺、ジョークが、これに該当します。一見するとこれらは、たいへん古くさく（実際たいへん長い歴史をもっています、文字が発明される前から、これらは世界各地で話され歌われてきました）みえますが、コンピュータゲームやポップミュージックなどの現代文化とも密接に結びついています。口承文芸は何時の時代でも、古くてかつ斬新なものなのです。 Ｂでは口承文芸が、カミとヒトの、人と人のコミュニケーションであることに焦点をあて、関連する先行研究を通じてその分析方法を理解し、学生自身で作品分析することを、目標とします。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	レポート（７０％）　授業内提出物（３０％）		
到達目標	口承文芸に関する先行研究を通じてその分析方法を理解し、学生自身で作品分析すること。		
授業時間外学習	口承文芸の作品は長大なものが多いので、授業の前に熟読し、自分なりに筋立てを整理しておくこと。次週取り上げる作品は予め配布するか、文献を示します。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。			
授業スケジュール			
１イントロダクション ２ヒトとヒトを超えるもの ３シャーマニズムと口承文芸１　（シャーマニズムと歌や語りは深い関係を持っています。） ４シャーマニズムと口承文芸２　（ユーラシア大陸のいくつかのシャーマニズム文化をとりあげます。） ５儀礼から語り物へ ６語り物 ７ヒトとヒトのコミュニケーション ８詩の始まりを民俗学的･文化人類学的に考える ９うたはひとつでいい １０変なコミュニケーション １１英雄叙事詩 １２ナラティブ構成法１　（長大な英雄叙事詩はどのように伝承されてきたのか、そのメカニズムについて考えます。） １３ナラティブ構成法２ １４口承文芸とポップカルチャー１　（「古くて新しい」について考えます。） １５口承文芸とポップカルチャー２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50262A01
科目名	広告広報論 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Advertising and Public Relat ions I		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
授業概要	企業や行政、団体や NPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPO の広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008 年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995 年		
教育方法	毎回、プリントなど、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意し、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞するなど、具体的な題材をもとに講義をすすめる。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	基礎編：日常生活でふれているさまざまな広告・広報について、メディア・リテラシーの見方で批判的にとらえられるようになること。		
授業時間外学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）日常生活で接するさまざまな広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１)「広告広報論 I 」（基礎編)、「広告広報論II」（応用編）はできれば双方を履修することが望ましい。
２)「CM 表現論」の履修を希望する学生は、少なくとも「広告広報論 I 」、できれば「広告広報論II」を履修した上で登録を行うこと。
３）CM や広告を眺めることに労力はいらないが、送り手の立場に立ち、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業ではその双方の立場に立ち、さまざまな広告表現を読み解き、批評し、自ら構想する努力が求められよう。

授業スケジュール

第 1 回　開講にあたって
第 2 回　広告広報とは何か？　マス・コミュニケーションのさまざまな発信主体
第 3 回　広告の定義／その類似概念（宣伝／広告／PR／パブリシティ）
第 4 回　宣伝（プロパガンダ）と広告
第 5 回　宣伝とメディア・リテラシー／授業内レポート
第 6 回　宣伝・広報の媒体（１)：人にふれるもの、すべてがメディアになる
第 7 回　宣伝・広報の媒体（２)：放送メディア／印刷メディア
第 8 回　宣伝・広報の媒体（３)：インターネットほか
第 9 回　ブランド商品の誕生と広告
第 10 回　市場情報システムとしての広告：市場情報のコストは誰が負担するか？
第 11 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（１）コカ・コーラ CM 等
第 12 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（２）ビール類 CM 等

第 13 回　広告広報のキャンペーンはこんなふうに展開される：日清食品・カップヌードル CM 等
第 14 回　広告広報の課題／授業内レポート
第 15 回　今後の展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J50270001
科目名	表現文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Culture Expression		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	表現文化論
授業概要	作品表現は、作家の心的イメージや経験、予見が表現されたものであると同時に、社会の人々の経験や意識、願望が凝縮されたものでもある。それは、多くの人に作家自身の思考を広めるとともに、作品に触れる者には自己の心象風景との照合や同一視を起こさせ、新たな経験をもたらす。 社会のなかで「対話や共有の相手」をつくり出す作品表現の役割、作品表現をはぐくむ社会のしくみや人と人との相互作用、新たな時代に求められる社会運営やまちづくりの場に活用される新たな作品表現のあり方――メディア論や芸術社会学の視点からこれらを解き明かしつつ、新たな社会をつくり、そこで生き残っていくために、「作品表現」のこれまで・これからをとらえ直していく。 音楽・映画・美術・写真・広告などさまざまな表現分野を扱い、映像や音楽、図版などなるべく多くの作品素材をもとに進めていく。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	徳丸吉彦、青山昌文著『芸術・文化・社会』放送大学教育振興会、2003 年 渡辺潤『アイデンティティの音楽』世界思想社、2000 年 若林直樹・白尾隆太郎編『イメージ編集』武蔵野美術大学出版局、2003 年		
教育方法	毎回、プリントなど、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意し、映画・映像・音楽・美術・コマーシャル・アートなどさまざまな作品表現を鑑賞しつつ、具体的な題材をもとに講義をすすめる。		
評価方法	平常点（40%）：授業内課題２回程度。提示した課題を持ち帰って作成し、受講生全員で発表を行う。 最終課題（60%）：最終レポートないし作品制作（作品の形式は自由。ただしオリジナル作品であること）		
到達目標	1）さまざまな表現文化をメディア論、芸術社会学の視点でとらえ、社会の中でのコミュニケーション（対話）の重要な手だてとなり、人と人との相互行為がはぐくむ作品表現の特性やメカニズムについて学ぶ。 2）今後の社会でアートやデザインの方法を幅広い仕事の世界に活かしていく手立てを学ぶ。		
授業時間外学習	良質な作品を多数鑑賞することは、人生を豊かにしてくれるとともに、制作者として作品表現そのものやそれらを活用した事業を行う上で、不可欠のことである。授業で扱う作例は、オリジナルや複製にあたって自分の目で確認しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

メディアやアートで表現をしたい人、人がなぜ作品表現に惹かれるのかを考えてみたい人、自分の好きな作品やアーティストへの思いを他人と共有したいと考えている人の受講を待っています。

授業スケジュール

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　メディアとしての芸術・デザイン
第 3 回　コミュニケーションとしての作品表現（1）：さまざまなコミュニケーション・モデルと作品表現
第 4 回　コミュニケーションとしての作品表現（2）：アーティストとオーディエンス（観客・読者・ファン）
第 5 回　メディアが現実・経験をつくる：芸術社会学の見方／メディア表現のメカニズム
第 6 回　課題の発表とコメント（1）
第 7 回　作品表現をつくる社会の力：儀礼としての音楽（宗教音楽、ゴスペルと R & B）
第 8 回　ポピュラーカルチャーとは何か（1）：「ブリコラージュ」としてのヒップホップ
第 9 回　ポピュラーカルチャーとは何か（2）：ゴスペル、ブルース、ジャズから現代の R&B へ
第 10 回　社会における相互行為を通じた感情の共有：「ノスタルジー」と作品表現
第 11 回　課題の発表とコメント（2）
第 12 回　社会の中のアート、デザイン（1）：アーティスト、クリエイターの表現活動・事例研究 1
第 13 回　社会の中のアート、デザイン（2）：アーティスト、クリエイターの表現活動・事例研究 2
第 14 回　社会の中のアート、デザイン（3）：アートやデザインの創造性やスキルを社会運営に活かす
第 15 回　最終課題の発表とコメント

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J50281001
科目名	子どもの社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Child's Sociology		
担当者名	野村　洋平	旧科目名称	
授業概要	子どもは、とても不思議な存在だ。元気で明るい姿に輝きを感じることもあれば、大人から見て非常に残酷な行動を平気でおこなったりする。私たち自身が「子ども」であったときも、おそらく不思議な存在であっただろう。 子ども時代というのは、人間の一生のなかで非常に特殊な時期である。私たちは子ども時代を通して社会の仕組みを学ぶだけでなく、その「社会の外」にあるものを直観的・身体的に学んでいく。接するもの何もかもが新鮮に感じられ、自分が生き生きとしている感覚を強く得られるのが、子ども時代の特徴であろう。 しかし、子どもたちは、楽しかった経験だけでなく、「苦悩」の経験にもたくさん触れ、子ども時代の感覚が鋭いだけに、その「苦悩」は子どもたちにとって切実なものとならざるをえない。その「苦悩」は、時に子どもたちの生命の感覚を奪ってしまう。例えば、学校において経験する「いじめ」はその一つであるといえる。 子ども（あるいは子ども時代）に貫いて流れているものはいったい何なのか。「子ども」について考えることは、子どもの本質を探ることにつながるとともに、私たちの内に引き継いできている子ども時代の感覚を呼び起こして、人間と社会との関係性を知る手がかりにもなる。		
教材（教科書）	使用しない。講義状況に応じて、プリントを配布する。		
教材（参考資料）	講義時に適宜紹介していく。		
教育方法	授業時に配布するプリントや映像資料などを参照しながら、講義形式で授業を行なう。その際、重要となる概念やキーワードなどは板書をし、重点的に解説を行なっていく。受講する学生は講義内容や板書をノートにとることを通して、こちらが提示した論点のみでなく、学生自身が感じたこと、考えたことをノートに追加して書き留める。試験において、講義内容を踏まえ、その知識を利用して自身のこれまでの経験を論じる問題を出題する。この試験で、学生がどれだけ授業を通して内容を深めることができたかが確認されることとなる。		
評価方法	平常点（10%）：出席状況等による 小レポート（30%）：全３回。講義時に数回、DVD やビデオ視聴を行う。その際、課するテーマに基づいて、小レポートを作成してもらう。 試験（60%）：試験は、講義内容を踏まえた上で自身の意見を論じる論述形式の試験とする。 ※小レポートを２回以上提出していない場合、試験を受けても採点の対象としない。		
到達目標	「子どもとはいかなる存在であるのか」をまず社会学的な観点から理解する。社会学的な観点から子どもをとらえるようになると、子どもとは社会には完全におさまりきらない部分があることが分かる。「社会におさまらない部分とは何か」を次に考えていくことにより、そこには私たちの「生命」に関する現象が待ち受けている。子どもを通して「社会」と「生命」との間にある視点を得ること、これが当授業の最終目標となる。		
授業時間外学習	日常生活において、「子ども」に関する現象、社会問題、行動などに対して、常に興味関心を持つようにする。また、対照的に「大人」というものについて考えることによって、「子ども」と「大人」の差異について敏感になるようにしておく。授業では子どもについての DVD、ビデオ、文学作品などを見てレポートを作成していくことになるが、その他授業内で適宜紹介する、子どもに関するの社会問題を取り扱った新聞記事、文学や映画等を準備学習として学び、レポートおよび試験に反映させられるようにしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自分自身の子ども時代の感覚や経験を振り返りながら、講義に臨むこと。講義時に生じた疑問等については、講義終了後質問を受け付けるので、積極的に尋ねてほしい。質問された内容は、必ず講義内容に反映させていく。また、この授業は講義形式である。授業に関する学生への連絡、学生からの質問の受け付け・返答などは、教室の対面の場で行う。（一部は大学での掲示として連絡。）メール、インターネット等でのやり取りは原則行わないものとする。積極的に授業に参加し、生のコミュニケーションを			

取ってほしい。

授業スケジュール

【講義の順序】
1．導入（この授業について）、現代社会における子どもに関わる問題
2．子どもとは何か、子どもと大人
3．子どもと社会（1）：子どもと大人の違い、映像資料鑑賞→小レポート提出
4．子どもと社会（2）　：社会の中で「子ども」はどのように捉えられてきたか
5．子どもと社会（3）　：子どもはどのように社会に入っていくのか
6．子どもと社会（4）：子どもの遊びと社会との関連
7．子どもの「苦悩」の経験（1）：学校における人間関係、映像資料鑑賞→小レポート提出
8．子どもの「苦悩」の経験（2）　：いじめ現象の社会的背景
9．子どもの「苦悩」の経験（3）　：いじめ研究の概略
10．子どもの「苦悩」の経験（4）：いじめのメカニズムと子どもの苦悩
11．子どもの生命感について（1）：現代の家族における子どもの位置、映像資料鑑賞①（12 回目と連続）
12．子どもの生命感について（2）：子どもの生命感のありか、映像資料鑑賞②（11 回目と連続）→小レポート提出
13．子どもの生命感について（3）：現代社会における家族と子どもの問題
14．子どもの生命感について（4）　：学校教育における子どもの生命感の扱い方
15．子どもの社会学の可能性について：子どもの生命感から見た子どもと大人の違い

※映像資料を鑑賞した回には、小レポートの提出を求める（授業時にコメントを書いてもらう場合もあるので、注意してほしい）。
※授業の進捗状況により、内容を変更する際は、講義時に学生に対して説明を行う。

【講義のポイント：上記講義の順序に沿って】
1～2 については、「子どもの社会学」という授業の持つ意義を説明していく。また、わたしたちが普段「子ども」と「大人」をどのようにとらえているかを説明する。
3～6 については、子どもを通して社会というものを学ぶとともに、社会学の基本的な考え方に触れられるようにする。
7～10 については、子どもの「苦悩」の経験、特に学校において子どもたちが経験するいじめの現象を取り上げることにより、「苦悩」の経験が子どもたちになにをもたらしているのかを考える。
11～14 については、子どもが感じる生命感というのは、どこから生まれてくるのかを考える。社会学的な視点の限界を乗り越えて、子どもについて考える。
15 において、これまでの講義を振り返りながら、子どもの社会学の今後の可能性について、他の学問分野や社会現象との関連において考える。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J5028300A
科目名	思考心理学上級実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Psychology of Thinking		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
授業概要	認知心理学領域の心理学実験の実習を行う。授業では 3 個程度の実験課題を予定している。各実験について，実験材料の準備，実験実施によるデータ収集，データの分析をおこない，報告書を作成する。これらを通して，認知心理学的な実験手法の基礎を身につけて欲しい。		
教材（教科書）	使用しない		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業中に文献を紹介する。		
評価方法	授業への参加状況に基づく日常点（60%），実験レポート（40%）を総合して評価する。		
到達目標	心理学実験の実験計画を立てることができる。 心理学実験の材料を入念に準備し，実験を適切に実施することができる。 実験結果を分析し，科学論文の用件を備えた報告書を作成することができる。		
授業時間外学習	毎回の授業で，次回までの課題を指示するので，確実に行って次回の授業に参加すること。 課題の内容は，関連文献を読む，実験材料の作成，データ収集，実験レポートの作成等であり，実験課題の進行に応じて指示する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業に積極的に参加し，実験によって人間の思考の性質を探る楽しさを感じて欲しい。
授業時間は実験の立案や準備，結果の分析等が中心となるので，授業外の時間にも実験を行う必要がある。

授業スケジュール

1. 心理学研究における実験の役割
2. 実験計画立案のポイント，実験報告書の作成の仕方
3.PC を用いた実験制御(1)
4. PC を用いた実験制御(2)
5. PC を用いた実験制御(3)
6. PC を用いた実験制御(4)
7. 記憶の実験(1)
8. 記憶の実験(2)
9. 記憶の実験(3)
10. 記憶の実験(4)
11. 思考過程に関する実験(1)
12. 思考過程に関する実験(2)
13. 思考過程に関する実験(3)
14. 思考過程に関する実験(4)
15. 研究報告会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J50290001
科目名	質的社会調査法	単位数	2
科目名（英語表記）	Qualitative Social Research Methods		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	質的調査は他者理解の優れた方法のひとつです。調査者が調査される人々とコミュニケーションを取りながら、その内側に入って行き、その豊かな世界を共に味わうことができるからです。とはいうものの、質的調査の作品は文学作品ではありませんから、どこかで客観性が担保されなければなりません。　本講義では社会科学の方法論としての質的調査のあり方を講義すると共に、受講生の皆さんが質的調査を実施しそれを作品に仕上げるまでの具体的な方法についても教授します。受講生の皆さんは実際に調査を行い、その成果を作品として提出しなければなりません。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	提出物（７０％）　授業への貢献度（３０％）		
到達目標	質的調査を実施し,それを作品に仕上げる。		
授業時間外学習	他者への感受性をあげておく。毎回課題が課されるので、それを次回までにしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

提出された作品の評価は、全講義出席の前提のもとに行います。講義を欠席する場合は、その講義の内容を、自分自身でフォローしておくことが必要です。

授業スケジュール

１質的調査　質的調査の特徴と代表的な質的調査の方法について概括する
２ライフヒストリー　クラスメイトのライフヒストリーを聞き取り、それを記述する。
３ライフヒストリー　方法論としてのライフヒストリーを考える。
４ライフヒストリー　代表的なライフヒストリーの作品を読む。
５ライフヒストリー　前回の作品をグループ毎に検討し、次の作品へのインタビュー計画を個々に立てる。
６フィールドワーク　人類学的なフィールドワーク方法について概括する。
７フィールドワーク　人類学的手法によるモノグラフを読む。
８フィールドワーク　民俗学的なフィールドワークについて概括する。
９フィールドワーク　民俗学的手法による民族誌を読む。
１０フィールドワークの企画　個々あるいはグループ別にフィールドワークを企画する。
１１聞き手と語り手　インタビュー調査やフィールドワークにおける聞き手と語り手の権力関係について考える。
１２ライフヒストリー作品の作成　インタビュー済みの資料をライフヒストリー作品にまとめる。
１３モノグラフの作成　フィールドで得た資料をモノグラフに記述する。
１４日本におけるフィールドワークの歴史
１５作品合評会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J50304A01
科目名	社会心理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Psychology I		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
授業概要	社会心理学は非常に幅の広い分野です。認知心理学と密接に関連する社会的認知の分野では、厳密な実験手法を使って記憶の構造や人間の判断の誤りなどの研究が行われています。一方、社会心理学ならではの現実社会の諸問題に取り組む分野も活発に行われており、会社組織や政治からインターネットに至るまで研究対象とされています。この講義ではこのような諸分野を総花的に概観するために、１テーマ１時間を原則として順次解説する。社会心理Ⅰでは主に個人過程をとりあげ、社会的認知・対人関係・コミュニケーションなどについて学びます この科目は、2018 年度入学生以降については公認心理師対応科目となり、開講年度に科目名とシラバスが改訂される。なお、公認心理師対応科目の詳細については、別途、公開する予定である。		
教材（教科書）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する		
教育方法	Edmodo、ビデオ教材やパワーポイントを活用する 授業中にＳＮＳを通じて意見を求める、あるいは課題の提出を求めることがあります		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	心理学を支える基礎科学の知識を得て説明する 知識と体験を結びつけて理解する 人間と社会の関係を説明する		
授業時間外学習	パワーポイントを Edmodo から配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。パワーポイント内に参考書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教育用ＳＮＳを使いますので、意見や疑問点は積極的にタイムラインに投げてクラスで共有して下さい。
この授業の課題やレポート通じて、新しい知識を自分の体験や知識に関連づけながら組み込む練習をしてください。
卒業してからも新しい知識がすんなり入ってくるように、自分の中に知識マップを作っておきましょう。

授業スケジュール

講義の順序とポイント
数字は、教科書の章番号を示しています。

第 1 回 概論
第 2 回 感情と記憶
第 3 回 認知心理学の基礎
第 4 回 対人認知
第 5 回 推論
第 6 回 自己概念
第 7 回 自己評価
第 8 回 動機
第 9 回 表情判断
第 10 回 非言語的コミュニケーション
第 11 回 説得的コミュニケーション
第 12 回 態度
第 13 回 マインドコントロール

第 14 回 対人関係
第 15 回 レポート指導

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J50304B01
科目名	社会心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Psychology Ⅱ		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
授業概要	社会心理Ⅱでは主に集団過程を取りあげ、集団の影響力や集合現象について学びます。これらの講義を通じて、我々の相互作用によって生まれた価値観や規範が社会を作り上げ、社会が我々の自己を形作っていくという循環する過程を理解して頂くことがねらいとなります。		
教材（教科書）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する		
教育方法	Edmodo,ビデオ教材・パワーポイントを用いた授業を行う。 授業中にＳＮＳを通じて意見を求める、あるいは課題の提出を求めることがあります		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	心理学を支える基礎科学の知識を得て説明する 知識と体験を結びつけて理解する 人間と社会の関係を説明する		
授業時間外学習	パワーポイントを Edmodo から配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。 パワーポイント内に参考書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教育用ＳＮＳを使いますので、意見や疑問点は積極的にタイムラインに投げてクラスで共有して下さい。
この授業の課題やレポート通じて、新しい知識を自分の体験や知識に関連づけながら組み込む練習をしてください。
卒業してからも新しい知識がすんなり入ってくるように、自分の中に知識マップを作っておきましょう。

授業スケジュール

第 1 回　状況の力
第 2 回　攻撃性と援助行動
第 3 回　 社会的影響
第 4 回　 集団の意思決定
第 5 回　 集団過程
第 6 回　 リーダーシップ
第 7 回　 社会的アイデンティティ
第 8 回　社会的共有認知
第 9 回　 ジレンマ状況
第 10 回 集合現象
第 11 回 メディア
第 12 回 ネットワーク
第 13 回 インターネット
第 14 回 文化と進化
第 15 回 レポート指導

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J5030700A
科目名	社会心理学上級実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Social Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
授業概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索する方法を学ぶ。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生の春学期は主に文献探索を行い、秋学期で各自の研究計画をたてて社会心理学上級実験で実験・調査を実施し、その研究成果を発展させて４回生の演習Ⅱで卒業研究を行うことになる。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	極端化する社会　有馬著　北大路書房 参考文献は無料で配布する		
教育方法	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
評価方法	平常点（40%)と、発表(20%)、提出物(40%)により評価する。		
到達目標	ベースとなる背景知識なしには独自の考えも出てこない。 この授業は、文献を読みこなした上で、新たな観点から研究を企画する力を養うことを目的とする。		
授業時間外学習	社会心理学Ⅰ・Ⅱ、集団心理学を履修のこと 授業終了後、読むべき文献を指示するので、発表の日までにレジュメを作成しておくこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
授業スケジュール			
1. 概論　各自の興味関心分野についてディスカッション　文献の分担を決める 2. 方法論概論　指定された参考文献の背景知識を概論として伝える 3. 文献報告　序章 4. 文献報告　第１章 5. 文献報告　第２章 6. 文献報告　第３章 7. 文献報告　第４章 8. 文献報告　第５章 9. 文献報告　第６章 10. 文献報告　第７章 11.　文献報告　終章 12. ディスカッション１ 13. ディスカッション２ 14. ディスカッション３ 15. 夏休みの課題決定			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50310A01
科目名	社会調査法 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
授業概要	社会調査を行なうための基礎知識を学習する。社会調査の意義、種類、調査倫理といった基本事項を学習する。 社会調査士資格の【A】 社会調査の基本的事項に関する科目に該当するが、資格取得を目指す（だけの）科目ではない。人文学のため調査の考え方、方法の基礎を学ぶ。 社会調査士資格について、詳しくは、一般社団法人社会調査協会のウェブページ「社会調査士とは」（{http://jasr.or.jp/participation/what_sr.html}）を、カリキュラムについては「社会調査士のカリキュラム」（{http://jasr.or.jp/participation/curriculum_sr.html}）を参照。		
教材（教科書）	なし。プリント教材を講義中に配付する（京学なびにも掲?する）。ビデオ教材を使?する。		
教材（参考資料）	各回のプリント教材の末尾に記載する。		
教育方法	教材をスクリーンに表?しながら講義形式で?なう。 毎回、授業内レポートを課し、その回の内容を確認する 。京学なびの「授業資料」、「課題」を利?する。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（60%）、定期テスト（40%）。		
到達目標	一般社団法人社会調査協会のウェブページ「社会調査士のカリキュラム」（{http://jasr.or.jp/participation/curriculum_sr.html}）の【A】の諸事項について説明ができる。		
授業時間外学習	各回の 3?前までに、京学なびにプリント教材を掲?するので、よく読んでおくこと。 授業内レポート課題の?部は各回の 2?後に締切を設定しているので、その間に解答し て提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義中に配付したプリント教材は、以降の講義でも持参すること。
「統計分析の基礎」または「心理統計学 I」・「同 II」を、予めあるいは並行して、履修してほしい。

授業スケジュール

《I イントロダクション》
1. イントロダクション：講義の概要、事前知識など

《II 社会調査の基本的事項》
2. 社会調査の目的
3. 社会調査の歴史：チャールズ・ブース、横山源之助
4. 社会調査実施時の注意点：倫理、アナウンスメント効果
5. 社会調査のための情報収集
6. 既存の統計データへのアクセス：国勢調査と公式統計
7. 既存の調査研究へのアクセス：世論調査、市場調査
8. 復習と補足(1)

《III 調査の種類》
9. 調査の種類
10. 調査票調査
11. インタビュー
12. 参与観察
13. 非参与観察
14. ドキュメント分析
15. 復習と補足(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50310B01
科目名	社会調査法 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
授業概要	社会調査を行なうための基礎知識を学習する。社会調査の設計、具体的な調査方法、調査データの整理といった、実践的知識を学習する。 社会調査士資格の【B】 調査設計と実施方法に関する科目に該当するが、資格取得を目指す（だけの）科目ではない。人文学のため調査の考え方、方法の基礎を学ぶ。 社会調査士資格について、詳しくは、一般社団法人社会調査協会のウェブページ「社会調査士とは」（{http://jasr.or.jp/participation/what_sr.html}）を、カリキュラムについては「社会調査士のカリキュラム」（{http://jasr.or.jp/participation/curriculum_sr.html}）を参照。		
教材（教科書）	なし。プリント教材を講義中に配付する（京学なびにも掲?する）。ビデオ教材を使?する。		
教材（参考資料）	各回のプリント教材の末尾に記載する。		
教育方法	教材をスクリーンに表?しながら講義形式で?なう。 毎回、授業内レポートを課し、その回の内容を確認する 。京学なびの「授業資料」、「課題」を利?する。 可能であれば PC 教室で PC を操作しながら学習する（第 11、13、14 回講義）。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（60%）、レポート（40%）。		
到達目標	調査票調査の手順について説明ができる。 量的調査と質的調査の違いについて説明ができる。		
授業時間外学習	各回の 3?前までに、京学なびにプリント教材を掲?するので、よく読んでおくこと。 授業内レポート課題の?部は各回の 2?後に締切を設定しているので、その間に解答し て提出すること。また、レポート課題に先立って、そのためのデータ収集の課題を出題する予定。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義中に配付したプリント教材は、以降の講義でも持参すること。
「社会調査法 I」を予め履修してほしい。
「統計分析の基礎」または「心理統計学 I」・「同 II」を、予めあるいは並行して、履修してほしい。

授業スケジュール

《I 量的調査の設計と実施》
1. 調査票調査のための事前知識など
2. 調査票調査の概要
3. 問題・概念・仮説
4. 調査票の作り方(1)：ワーディング
5. 調査票の作り方(2)：選択肢、その他
6. サンプリング(1)：サンプリングの重要性、諸技法
7. サンプリング(2)：サンプリングの論理を理解するための統計指標
8. サンプリング(3)：標本と母集団の関係
9. サンプリング(4)：標本数の決め方、サンプリング台帳
10. 調査票の配付と回収：自記式・他記式各方法、回収率
11. 調査データの整理：エディティング、コーディング
12. 統計パッケージ：種類、使用の注意点
13. 報告書の書き方：必須項目、公開することの意義、記述と説明
14. 復習と練習問題

《II 質的調査の設計と実施》
15. 質的調査の設計と実施、量的調査との相違

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J50311002
科目名	社会病理学	単位数	4
科目名（英語表記）	Social Pathology		
担当者名	高橋　裕子	旧科目名称	
授業概要	現代社会において、私たちは「自分らしさ」や「その人らしさ」、「個性」といったものに価値を置く。 「個々人が尊重されることは大切だ」と私たちは思うし、逆に言うと、このような考え方に異を唱えることは容易ではない。「人格の尊重」は良いことだと一般には信じられているのだ。 しかし、「不登校」や「ひきこもり」問題の深刻化、児童虐待や家庭内暴力の増加、頻発するデート DV やセクハラ問題といった社会問題は「人格の尊重」に源を発しているし、善きにつけ悪しきにつけ、異なった次元にある様々な社会現象の多くは「人格の尊重」を絶対視する傾向を抜きにして語ることができない。だとするならば、私たちは「人格の尊重」をいかに捉え、それとどのように付き合っていけば良いのだろうか。 閉塞感の漂う、不安定な現状況にあればなおのこと、「自由」や「自立」、「個性」、「私らしさ」、「自尊心」など、「私が私らしくあること」と「他者と共にあること」のかねあい、「他者と繋がること」の意味を今一度立ち止まって、ゆっくりと、考えてみる時間が必要なのではないだろうか。 「社会病理学」の授業が、みなさんにとって、そのような機会のひとつとなれば幸いである。 本講義では、まず、社会学の知見を借りながら、社会病理が生成されるメカニズムを学習する。 その上で事例研究を行ない、最終的には、「社会に鋳型取られた個人がいかにしてアクションを起こすことのできる主体たりえるのか」というテーマへとみなさんを誘って行きたい。 授業を通して、論理的に考えたり、互いの意見を交換したり、参考文献をもとにレポートを書いたりする経験を積んでいただきたいと思う。		
教材（教科書）	使用しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	基本的には課題レポート（50%）と検証テスト（50%）による総合評価によって成績を判定するが、授業中にミニテストを行ない加算することも考えている。		
到達目標	1）社会病理が生成されるメカニズムを理論的に理解できるようになること。 2）社会学の用語を用いてレポートを書けるようになること。 3）自分自身の問題関心に即して「社会病理」とは何かを考え自らの見解を述べることができるようになること。		
授業時間外学習	グループワークやディスカッションの前にはワークシートを配布するので、参考文献の指定されたページを 読み、ワークシートを完成させてから講義に臨むこと。 講義形式の授業においてはミニテストを課すので講義後の復習をすること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
社会学系科目の既習が望ましいが、未履修の学生はとりわけ継続的に講義に出席することが不可欠である。 参考文献を適宜紹介するので自分で学習を進めていく姿勢をもってほしい。 その上で、学習の進め方や講義内容に関する質問はいつでも歓迎するので遠慮なく尋ねてくること。 授業中、学生の発言や参加、作業を求めるので、そのつもりでいて欲しい。 当然のことながら、講義時間内の飲食、携帯電話やスマートフォンの使用、私語は、禁止する。 退室は特段の事情がない限り認めない。			
授業スケジュール			
1.イントロダクション　（自己紹介・授業の進め方・約束事の確認など） 2.イデオロギーの磁場としての社会 3.社会病理学の方法論			

4.『愛を乞う人』鑑賞
5.事例研究：児童虐待①
6.事例研究：児童虐待②
7.「家族愛」の発見
8.「近代家族」の形成
9.「近代家族」の崩壊
10.グループワーク：リスク化する家族
11.【レポート課題指導】①
12.【レポート課題指導】②
13.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）①
14.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）②
15.論文提出(＋検証テスト)
16.事例研究：「まなざしの地獄」①
17.事例研究：「まなざしの地獄」②
18.ラベリング論
19.グループワーク：いじめ問題
20.狂気①
21.狂気②
22.『17 歳のカルテ』鑑賞
23.【レポート課題指導】③
24.事例研究：自殺①
25.事例研究：自殺②
26.デュルケイム『自殺論』
27.自殺データから見る現代日本
28.若者の「労働」問題
29.若者の「貧困」問題
30.検証テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50313A01
科目名	社会病理学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Pathology I		
担当者名	高橋　裕子	旧科目名称	
授業概要	現代社会において、私たちは「自分らしさ」や「その人らしさ」、「個性」といったものに価値を置く。 「個々人が尊重されることは大切だ」と私たちは思うし、逆に言うと、このような考え方に異を唱えることは容易ではない。「人格の尊重」は良いことだと一般には信じられているのだ。 しかし、「不登校」や「ひきこもり」問題の深刻化、児童虐待や家庭内暴力の増加、頻発するデート DV やセクハラ問題といった社会問題は「人格の尊重」に源を発しているし、善きにつけ悪しきにつけ、異なった次元にある様々な社会現象の多くは「人格の尊重」を絶対視する傾向を抜きにして語ることができない。だとするならば、私たちは「人格の尊重」をいかに捉え、それとどのように付き合っていけば良いのだろうか。 閉塞感の漂う、不安定な現状況にあればなおのこと、「自由」や「自立」、「個性」、「私らしさ」、「自尊心」など、「私が私らしくあること」と「他者と共にあること」のかねあい、「他者と繋がること」の意味を今一度立ち止まって、ゆっくりと、考えてみる時間が必要なのではないだろうか。 「社会病理学」の授業が、みなさんにとって、そのような機会のひとつとなれば幸いである。 本講義では、まず、社会学の知見を借りながら、社会病理が生成されるメカニズムを学習する。 その上で事例研究を行ない、最終的には、「社会に鋳型取られた個人がいかにしてアクションを起こすことのできる主体たりえるのか」というテーマへとみなさんを誘って行きたい。 授業を通して、論理的に考えたり、互いの意見を交換したり、参考文献をもとにレポートを書いたりする経験を積んでいただきたいと思う。		
教材（教科書）	使用しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	基本的には課題レポート（100％）によって成績を判定するが、授業中に検証テストを行ない加算することも考えている。		
到達目標	1）社会病理が生成されるメカニズムを理論的に理解できるようになること。 2）社会学の用語を用いてレポートを書けるようになること。 3）自分自身の問題関心に即して「社会病理」とは何かを考え自らの見解を述べることができるようになること。		
授業時間外学習	グループワークやディスカッションの前にはワークシートを配布するので、参考文献の指定されたページを 読み、ワークシートを完成させてから講義に臨むこと。 講義形式の授業においてはミニテストを課すので講義後の復習をすること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
社会病理学 II を受講することを履修の条件とする。 参考文献を適宜紹介するので自分で学習を進めていく姿勢をもってほしい。 その上で、学習の進め方や講義内容に関する質問はいつでも歓迎するので遠慮なく尋ねてくること。 授業中、学生の発言や参加、作業を求めるので、そのつもりでいて欲しい。 当然のことながら、講義時間内の飲食、携帯電話やスマートフォンの使用、私語は、禁止する。 退室は特段の事情がない限り認めない。			
授業スケジュール			
1.イントロダクション　（自己紹介・授業の進め方・約束事の確認など） 2.イデオロギーの磁場としての社会			

3.社会病理学の方法論 4.『愛を乞う人』鑑賞 5.事例研究：児童虐待① 6.事例研究：児童虐待② 7.「家族愛」の発見 8.「近代家族」の形成 9.「近代家族」の崩壊 10.グループワーク：リスク化する家族 11.【レポート課題指導】① 12.【レポート課題指導】② 13.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）① 14.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）② 15.論文提出(＋検証テスト)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50313B01
科目名	社会病理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Pathology Ⅱ		
担当者名	高橋　裕子	旧科目名称	
授業概要	現代社会において、私たちは「自分らしさ」や「その人らしさ」、「個性」といったものに価値を置く。 「個々人が尊重されることは大切だ」と私たちは思うし、逆に言うと、このような考え方に異を唱えることは容易ではない。「人格の尊重」は良いことだと一般には信じられているのだ。 しかし、「不登校」や「ひきこもり」問題の深刻化、児童虐待や家庭内暴力の増加、頻発するデート DV やセクハラ問題といった社会問題は「人格の尊重」に源を発しているし、善きにつけ悪しきにつけ、異なった次元にある様々な社会現象の多くは「人格の尊重」を絶対視する傾向を抜きにして語ることができない。だとするならば、私たちは「人格の尊重」をいかに捉え、それとどのように付き合っていけば良いのだろうか。 閉塞感の漂う、不安定な現状況にあればなおのこと、「自由」や「自立」、「個性」、「私らしさ」、「自尊心」など、「私が私らしくあること」と「他者と共にあること」のかねあい、「他者と繋がること」の意味を今一度立ち止まって、ゆっくりと、考えてみる時間が必要なのではないだろうか。 「社会病理学」の授業が、みなさんにとって、そのような機会のひとつとなれば幸いである。 本講義では、まず、社会学の知見を借りながら、社会病理が生成されるメカニズムを学習する。 その上で事例研究を行ない、最終的には、「社会に鋳型取られた個人がいかにしてアクションを起こすことのできる主体たりえるのか」というテーマへとみなさんを誘って行きたい。 授業を通して、論理的に考えたり、互いの意見を交換したり、参考文献をもとにレポートを書いたりする経験を積んでいただきたいと思う。		
教材（教科書）	使用しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	講義内に実施する検証テスト（１００％）によって成績を判定するが、授業中にミニテストを行ない加算することも考えている。		
到達目標	１）社会病理が生成されるメカニズムを理論的に理解できるようになること。 ２）社会学の用語を用いてレポートを書けるようになること。 ３）自分自身の問題関心に即して「社会病理」とは何かを考え自らの見解を述べることができるようになること。		
授業時間外学習	グループワークやディスカッションの前にはワークシートを配布するので、参考文献の指定されたページを 読み、ワークシートを完成させてから講義に臨むこと。 講義形式の授業においてはミニテストを課すので講義後の復習をすること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
社会病理学Ⅰの履修が不可欠である。 参考文献を適宜紹介するので自分で学習を進めていく姿勢をもってほしい。 その上で、学習の進め方や講義内容に関する質問はいつでも歓迎するので遠慮なく尋ねてくること。 授業中、学生の発言や参加、作業を求めるので、そのつもりでいて欲しい。 当然のことながら、講義時間内の飲食、携帯電話やスマートフォンの使用、私語は、禁止する。 退室は特段の事情がない限り認めない。			
授業スケジュール			
1.事例研究：「まなざしの地獄」① 2.事例研究：「まなざしの地獄」②			

3.ラベリング論
4.グループワーク：いじめ問題
5.狂気①
6.狂気②
7.『17 歳のカルテ』鑑賞
8.【レポート課題指導】③
9.事例研究：自殺①
10.事例研究：自殺②
11.デュルケイム『自殺論』
12.自殺データから見る現代日本
13.若者の「労働」問題
14.若者の「貧困」問題
15.検証テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50318A01
科目名	社会福祉論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory I		
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
授業概要	人間は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、国は憲法第 25 条に生存権を規定し、生活の安定を図るとともに国民の最低限度の生活を保障する公的な制度である社会保障制度を設けている。また社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障害者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、大多数の人にとっては，自分とはあまり関係のないものとして、捉えがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などが抱える諸問題により、社会保障や社会福祉は、若者から高齢者まで誰もが関わりを持つ普遍的な制度として認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化により、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、今後も機能していくかどうかが、国民の最大の関心事になっているのは新聞やテレビなどの報道をみれば、間違いのないことであろう。社会福祉論Ⅰでは、社会保障・社会福祉の概要、社会保障や社会福祉を取り巻くさまざまな問題や課題を取り上げ，学生の皆さんと考えたい。また社会福祉論Ⅰでは、福祉の現場で活躍している２～3 名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（教科書）	テキストはなし。 テーマに合わせてレジュメを配布する。 また理解を促すためにＤＶＤ視聴や新聞記事も使用する。		
教材（参考資料）	テーマに合わせて、その都度、参考文献等を紹介したい。		
教育方法	テーマに合わせて、その都度、鑑賞してもらいたいＤＶＤ等を紹介する。		
評価方法	評価方法は、授業内での小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価、出席を重視する。なお、レポート課題は、受取等のトラブル等を防ぐために就学支援センターの窓口に提出。		
到達目標	1. 社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 2. 社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 3. 社会保障や社会福祉の事例や課題を通して社会の動きを考える。		
授業時間外学習	日頃からインターネットやテレビ・新聞などの情報に接して、現在、世間や社会ではどのような問題が起こっているのか、把握しておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

社会保障や社会福祉は、政治や経済、社会の状況がダイレクトに反映され、人々の暮らしに及ぼす影響は極めて大きい。インターネットやテレビ・新聞などの情報に接して、現在、世間や社会ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてほしい。現在、社会で起こっている社会保障や社会福祉の問題を題材に取り上げ、講義を進めていきたい。

授業スケジュール

1　オリエンテーション
2 障害を持って生きるということ
3 社会保障と社会福祉①
4 社会保障と社会福祉②
5 社会保障・社会福祉の動向
6 社会保障制度の諸問題①
7 社会保障制度の諸問題②
8 ゲストスピーカーの講義①
9 社会保障制度の諸問題③
10 社会保障制度の諸問題④
11 ゲストスピーカーの講義②
12 社会福祉制度の諸問題①

13 社会福祉制度の諸問題②
14 社会福祉制度の諸問題③
15 社会福祉制度の諸問題④
※講義の内容・順番を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50318B01
科目名	社会福祉論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory Ⅱ		
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
授業概要	人間は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、国は憲法第 25 条に生存権を規定し、生活の安定を図るとともに国民の最低限度の生活を保障する公的な制度である社会保障制度を設けている。また社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障害者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、大多数の人にとっては，自分とはあまり関係のないものとして、捉えがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などが抱える諸問題により、社会保障や社会福祉は、若者から高齢者まで誰もが関わりを持つ普遍的な制度として認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化により、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、今後も機能していくかどうかが、国民の最大の関心事になっているのは新聞やテレビなどの報道をみれば、間違いのないことであろう。社会福祉論Ⅱの授業テーマとしては、障害者運動及び自立生活の展開、バリアフリー、ノーマライゼーション、出生診断、就労支援、差別・虐待など障害者・高齢者・児童にまつわるさまざまな問題や課題を取り上げ，学生の皆さんと考えたい。また社会福祉論Ⅱでは、福祉の現場で活躍している２～3 名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（教科書）	テキストはなし。 テーマに合わせてレジュメを配布する。 また理解を促すためにＤＶＤ視聴や新聞記事も使用する。		
教材（参考資料）	テーマに合わせて、その都度、参考文献等を紹介したい。		
教育方法	テーマに合わせて、その都度、鑑賞してもらいたいＤＶＤ等を紹介する。		
評価方法	評価方法は、授業内での小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価、出席を重視する。なお、レポート課題は、受取等のトラブル等を防ぐために就学支援センターの窓口に提出。		
到達目標	1. 障害者・高齢者・児童の問題から社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 2. 障害者・高齢者・児童の問題から社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 3. 障害者・高齢者・児童の問題や課題を通して社会の動きを考える。		
授業時間外学習	日頃からインターネットやテレビ・新聞などの情報に接して、現在、世間や社会ではどのような問題が起こっているのか、把握しておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

社会保障や社会福祉は、政治や経済、社会の状況がダイレクトに反映され、人々の暮らしに及ぼす影響は極めて大きい。インターネットやテレビ・新聞などの情報に接して、現在、世間や社会ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてほしい。現在、社会で起こっている障害者や高齢者及び子どもの問題を取り上げ、授業を進めていきたい。

授業スケジュール

1　オリエンテーション
2　障害者福祉の諸問題①障害者差別
3　障害者福祉の諸問題②障害者運動及び自立生活の展開
4　障害者福祉の諸問題③バリアフリーとまちづくり
5　障害者福祉の諸問題④障害者運動の到達点
6　障害者福祉の諸問題⑤障害者の恋愛と性
7　障害者福祉の諸問題⑥優性思想と強制不妊手術
8 ゲストスピーカーの講義①
9　障害者福祉の諸問題⑦障害者の就労①
10　障害者福祉の諸問題⑧障害者の就労②
11 ゲストスピーカーの講義②

12　高齢者福祉の諸問題①高齢者の動向
13　高齢者福祉の諸問題②介護保険と介護問題
14　高齢者福祉の諸問題③高齢者の貧困
15　高齢者福祉の諸問題④高齢者の社会参加
※講義の内容・順番を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50321001
科目名	社会問題論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Problems		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
授業概要	人々の生活と心理に大きな影響を与える現代社会の諸側面、特にその問題点について講じる。個人の心理をよりよく理解するためには、その個人が生きている社会の実情･問題点を把握しておくことが必要である。この講義ではそれらについて講義する。 また、それらの理解に役立つので、その時々の時事問題についても解説する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義時に紹介する。		
教育方法	主に講義による。毎時間、授業の初めに前回の授業内容の復習をおこなう。毎時間、授業の終わりに受講者に、質問･意見などを書いてもらう。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。授業終了時の質問カード提出による。）		
到達目標	現代社会の様々な社会問題について知る。 現代社会について関心を持つ。 日々のニュースに触れる。 現代社会の諸事情が将来の自分の就職とどのような関係があるかについて考える。		
授業時間外学習	1．現代の日本社会にはどんな問題があるか考えて、200 字程度でまとめておくこと。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、授業の見通しを付けておくこと） 2．配付資料 No.1「貧困」 3．配付資料 No.2「子どもの貧困」 4．配付資料 No.3「母子家庭の経済的脆弱性」 5．配付資料 No.4「非正規雇用」 6．配付資料 No.5「少子高齢化」 7．配付資料 No.6「医療制度」 8．配付資料 No.7「健康保険制度」 9．配付資料 No.8「財政」 10．配付資料 No.9「税制」 11．配付資料 No.10「食糧自給率」 12．配付資料 No.11「食品添加物」 13．配付資料 No.12「グローバリゼーション」 14．配付資料 No.13「監視社会」 15．配付資料 No.14「現代社会についての考察」 また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。 なお、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．積極的に学ぼうという姿勢を持って講義に臨んでほしい。
2．私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑になるので、退室を求める。

授業スケジュール

1．ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて
2．経済的格差と貧困
3．子どもの貧困
4．母子家庭の経済的弱者性

5．非正規雇用
6．少子高齢化
7．医療制度
8．健康保険制度
9．財政
10．税制
11．食糧自給率
12．食品添加物
13．グローバリゼーション
14．監視社会・管理社会
15．現代社会についての考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50326001
科目名	宗教社会学	単位数	4
科目名（英語表記）	Sociology of Religion		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
授業概要	本講義では、近代以降の社会制度の発展による宗教の世俗化にもかかわらず、新しい宗教がその都度出現してきたことを理解する。第１に、日本の明治維新という政治体制の転換期に、「教派神道」と呼ばれた天理教のような「新宗教」が、どのように成立したのかを学ぶ。第２に、明治後期から大正時代にかけて資本主義経済が地方の民衆層にまで浸透する時期に、上記の教派神道をモデルとしつつも、よりラディカルな社会変革を予言する大本のような新宗教がどのように成立したかも学ぶ。これらの歴史的な事例の学習を踏まえて、第３に、オウム真理教のような「カルト」と呼ばれる未成熟の宗教集団の一部が、高度経済成長終了後のどのような状況において、悪質な犯行に踏み切るようになったかを考える。このような未解明な事件の考察を踏まえて、「スピリチュアリティ」と呼ばれる自己の霊性の聖化による世界の浄化を目指す「新霊性運動」が、バブル景気終了後にどのような方向に向かおうとしているかを予想する。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔編著『宗教と社会のフロンティア――宗教社会学からみる現代日本』勁草書房 村上重良『近代民衆宗教研究史の研究』法蔵館 安丸良夫『出口なお』朝日新聞社 対馬路人「解説『人類愛善新聞』」細田哲史編『復刻版　人類愛善新聞　別冊』不二出版 櫻井義秀『「カルト」を問い直す――信教の自由というリスク』中公新書ラクレ 201 島薗進『精神世界のゆくえ――現代世界と新霊性運動』東京堂出版		
教育方法	１授業でとりあげる各教団の教義書の一部を、授業の目的に合わせて解読したり、一部の教団のビデオの一部を視聴する。 ２現代の宗教現象についてのテレビ番組の一部を視聴したり、新聞記事のコピーを講読してから、各自の意見や疑問を述べ合ってもらうこともある。		
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割）、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割）、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	世俗化した現代社会において、小さくなった多様な宗教がどのように存立しているかを理解し、それらに私たちがどのように関わったらよいかを考える。		
授業時間外学習	噂や新聞やテレビ、インターネットにおいて、新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームがどのような社会現象としてとりあげられているかを見聞しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
身の周りの新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームについて、事実に即して考え、言葉に表すことによって、いずれも他人事ではなく私たち自身の生き方を左右する問題であることに気づいて欲しい。			
授業スケジュール			
1　秋学期の目標と計画 2　日本の近代における「世俗化」と「宗教革新」 3　幕末維新期における「教派神道」の出現 4　「民衆宗教」から「新宗教」へ 5　教祖崇拝の展開 6　「生命主義的救済観」の形成 7　新宗教の組織化 8　明治大正期における宗教革新 9　開祖と後継者の協力と葛藤			

１０　新宗教と国民国家の緊張
１１　新宗教から「新新宗教」へ
１２　「カルト」の台頭
１３　「スピリチュアリティ」の追求
１４　神秘主義から合理主義へ
１５　秋学期のまとめと補足

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50330B01
科目名	宗教社会学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Religion B		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
授業概要	本講義では、近代以降の社会制度の発展による宗教の世俗化にもかかわらず、新しい宗教がその都度出現してきたことを理解する。第１に、日本の明治維新という政治体制の転換期に、「教派神道」と呼ばれた天理教のような「新宗教」が、どのように成立したのかを学ぶ。第２に、明治後期から大正時代にかけて資本主義経済が地方の民衆層にまで浸透する時期に、上記の教派神道をモデルとしつつも、よりラディカルな社会変革を予言する大本のような新宗教がどのように成立したかも学ぶ。これらの歴史的な事例の学習を踏まえて、第３に、オウム真理教のような「カルト」と呼ばれる未成熟の宗教集団の一部が、高度経済成長終了後のどのような状況において、悪質な犯行に踏み切るようになったかを考える。このような未解明な事件の考察を踏まえて、「スピリチュアリティ」と呼ばれる自己の霊性の聖化による世界の浄化を目指す「新霊性運動」が、バブル景気終了後にどのような方向に向かおうとしているかを予想する。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔編著『宗教と社会のフロンティア――宗教社会学からみる現代日本』勁草書房 村上重良『近代民衆宗教研究史の研究』法蔵館 安丸良夫『出口なお』朝日新聞社 対馬路人「解説『人類愛善新聞』」細田哲史編『復刻版　人類愛善新聞　別冊』不二出版 櫻井義秀『「カルト」を問い直す――信教の自由というリスク』中公新書ラクレ 201 島薗進『精神世界のゆくえ――現代世界と新霊性運動』東京堂出版		
教育方法	１授業でとりあげる各教団の教義書の一部を、授業の目的に合わせて解読したり、一部の教団のビデオの一部を視聴する。 ２現代の宗教現象についてのテレビ番組の一部を視聴したり、新聞記事のコピーを講読してから、各自の意見や疑問を述べ合ってもらうこともある。		
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割）、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割）、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	世俗化した現代社会において、小さくなった多様な宗教がどのように存立しているかを理解し、それらに私たちがどのように関わったらよいかを考える。		
授業時間外学習	噂や新聞やテレビ、インターネットにおいて、新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームがどのような社会現象としてとりあげられているかを見聞しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
身の周りの新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームについて、事実に即して考え、言葉に表すことによって、いずれも他人事ではなく私たち自身の生き方を左右する問題であることに気づいて欲しい。			
授業スケジュール			
１　秋学期の目標と計画 ２　日本の近代における「世俗化」と「宗教革新」 ３　幕末維新期における「教派神道」の出現 ４　「民衆宗教」から「新宗教」へ ５　教祖崇拝の展開 ６　「生命主義的救済観」の形成 ７　新宗教の組織化 ８　明治大正期における宗教革新 ９　開祖と後継者の協力と葛藤 １０　新宗教と国民国家の緊張			

１１　新宗教から「新新宗教」へ
１２　「カルト」の台頭
１３　「スピリチュアリティ」の追求
１４　神秘主義から合理主義へ
１５　秋学期のまとめと補足

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50333A01
科目名	宗教民俗学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religious folklore I		
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
授業概要	本講義では、暮しの中にとけこみ、私達の生活習慣や思想の基盤となっている民間信仰について学んでいきます。 民間信仰とは、神職や僧侶などの宗教者から離れ、民間のみで行われている宗教現象を指すといわれています。この民間信仰は、祭礼・年中行事、人生儀礼を主とし、生活の基盤となる生業や衣食住にも反映されています。 また、この民間信仰は、あらゆる宗教を吸収し、各地域の伝統文化に影響を与えながら独特な展開をみせます。その基礎となる組織として宮座や講が挙げら、これらの祭祀組織の動向をみることにより該当地域の信仰形態の一端を知ることができます。しかし、そのためには各地域の歴史も知る必要性があります。 この講義では民間信仰の歴史も踏まえながら、日本人の宗教観、すなわち日本の民俗宗教について一緒に探っていければと思います。		
教材（教科書）	なし。プリント類は各回の講義のみで配布します。		
教材（参考資料）	・宮家準『宗教民俗学への招待』（丸善ライブラリー） ・『日本民俗大辞典』（吉川弘文館） ・『国史大辞典』（吉川弘文館） ・『神道事典』（弘文堂）		
教育方法	講義および講義内容と関連する映像資料を使いながら講義を行います。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点４０％ レポート６０％ 最終講義のレポート未提出者は授業放棄とみなします。		
到達目標	受講者のゆかりのある地域の信仰、歴史、伝統文化に興味を持ち、自らの手で調査・研究する意欲を有するところまで進んでください。これらを知ることは人生の糧となります。		
授業時間外学習	今までで聞いたことのない用語や難解な事例が出てきます。分からない場合は記録し、自ら調べるという姿勢を望みます。また、各自が今まで見てきた、体験してきた事例は貴重な資料となりますので、まとめておくと役に立つでしょう。また、両親や祖父、祖母などから自分自身とゆかりの強い地域に関する祭礼や習慣、信仰などに関する事例を聞いておくと理解度が増します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール
・遅刻や私語は厳禁。
・私語が過ぎる場合は退出を命じます。
・授業内の態度も評価の対象となります。
学習上の助言
・直接、お祭りを見に行くことを勧めます。

授業スケジュール

１，宗教民俗学とは何か
２，宗教の種類と民間宗教の研究方法
３，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅰ（古代）
４，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅱ（中世）
５，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅲ（近世）
６，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅳ（近代）
７，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅴ（現代）
８，神道と民俗宗教
９，仏教と民俗宗教
１０，山岳信仰－修験道

１１，シャーマニズムの世界
１２，俗信の世界
１３，京都の民間信仰と研究者
１４，日本人の原風景－風土論
１５，日本人と宗教

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50333B01
科目名	宗教民俗学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religious folklore Ⅱ		
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
授業概要	この講義では、日本固有の宗教である神道について学びます。「神道とは？」と尋ねられ、明快な回答はできるでしょうか。これは研究者の中でも難解な問題の一つです。神道は自然崇拝から派生したといわれ、日本人の生活の中の宗教として捉えられています。しかし、神道をどう捉えるのかと考えは、時代によって大きく変化しています。また、どの部分に焦点をあてるのかによってみえてくる姿も違い、場合によっては全く捉えどころのない宗教となります。そこで、本講義では、あらゆる学問がみる「神道とは何か？」ということを時間をかけてみていきます。		
教材（教科書）	阪本是丸・石井研士編『プレステップ神道学』（弘文堂）。1800 円＋税。 プリント類は各回の講義のみ配布します。		
教材（参考資料）	『国史大辞典』（吉川弘文館） 宮地直一・佐伯有義監修『神道大辞典』（平凡社）（縮刷版：臨川書店） 國學院大學日本文化研究所編『神道事典』（弘文堂） 國學院大學日本文化研究所編『神道要語集』全五巻（國學院大學日本文化研究所） 小口偉一・堀一郎監修『宗教学辞典』（東京大学出版会）		
教育方法	講義および各講義のテーマに関した映像を用います。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点４０％ レポート６０％ 最終講義のレポート未提出者は授業放棄とみなします。		
到達目標	宗教民俗学Ⅰと同様に、自らの手で神社や祭礼を調査・研究する意欲を有するところまで進んでください。 そして、私達の遠祖の思いがこもった神道について考えてください。		
授業時間外学習	できるだけ、神社に参拝に行く、お祭りを見るという体験をして下さい。 今は「観光」という目的で様々なメディアで「神道」、「神社」が伝えられることが多くなりました。 大きく変貌しようとするのか、伝統を維持するのか、自分の目で確認して下さい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール
遅刻や私語は厳禁。
私語が過ぎる場合は退出を命じる。
学習上の助言
京都には、朝廷とつながりのある神社、民衆が支える神社、神仏習合色の濃い神社、摩訶不思議な神社など色々あります。目の前に貴重な資料があります。直接、見て体験してください。

授業スケジュール

１、神道とは何か
２、神社とは何か
３、神道と神話－神代の時代・古事記と日本書紀－
４、神道と歴史Ⅰ（古代）
５、神道と歴史Ⅱ（中世）
６、神道と歴史Ⅳ（近世）
７、神道と歴史Ⅴ（近代）
８、神道と歴史Ⅵ（現代）
９、神道と祭礼－山車・鉾・屋台－
１０、神道と祭礼－神事の根幹・宮中祭祀－
１１、神道と祭礼－祈りと感謝のまつり・予祝と新嘗－
１２、神道と祭礼－神饌の世界－
１３、Japanologist たちがみた神道

１４、式年遷宮－継承のこころ １５、まとめ－日本人の宗教・神道

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J50342A01
科目名	社会調査実習 I	単位数	1
科目名（英語表記）	Social Research Practice I		
担当者名	横井　桃子	旧科目名称	
授業概要	社会調査の企画から報告書の作成までの全過程を一通り体験的に学習する。社会調査とはなにかという点を踏まえた上で、本演習では質的調査の方法について学習し、実際にインタビュー調査をおこなう。学生は自身にとって身近なテーマや関心のある事柄を選択し、インタビュー・データの収集、整理、分析、レポートの作成、レポートの報告、討論をおこなう。 なおこの授業は、2018 年度・秋学期の「社会調査実習 II（担当：横井）」とあわせて単位取得することで、「社会調査士」資格取得のための【G：社会調査の実習を中心とする科目】の認定要件となる。（他年度の「社会調査実習 II」では不可。）		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	谷富夫・芦田徹郎 編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』 ミネルヴァ書房　2500 円		
教育方法	講義法やグループワークを組み合わせておこなう。実習であることから、自分で考え・計画を立てて作業を遂行することが求められる。		
評価方法	平常点（50%）：出席状況および小課題の提出による。 学期末レポート（50%）		
到達目標	質的調査の特徴を理解し、技法を身につけることを目標とする。先行研究を調べ、自分自身で問題設定をおこなった上で、質的調査（本学期は、若者へのインタビュー調査を予定）をおこない、収集したデータを分析して明らかになったことをレポートとしてまとめる。		
授業時間外学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。また授業時間外の学習として適宜、小課題の提出を求める。 データ収集に関しては、一部授業時間外に課題としておこなってもらう。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 毎回授業に出席することは当然のものとして、問題設定や質的調査のデータ収集・分析についての議論に積極的に質問や発言をすること。
2. 自分が本実習で明らかにしたい問題について、CiNii などの学術情報データベースなどで先行研究を調べる努力を惜しまないこと。論文等の検索の方法は授業内で指示する。

授業スケジュール

1. 質的調査の概説
2. 質的調査の方法・企画
3. 質的調査の先行理論、仮説構成
4. 質的調査の問い・対象者・トピックの設定
5. インタビュー調査の方法
6. フィールドワークの方法
7. 参与観察の方法
8. 会話分析・ライフヒストリー分析の方法
9. インタビュー調査・フィールドワークの実施
10. データの整理
11. 収集した質的データの分析(1)
12. 収集した質的データの分析(2)
13. 質的データの読み方・解釈
14. 分析結果報告の作成
15. 研究成果の報告と討論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J50342B01
科目名	社会調査実習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）	Social Research Practice Ⅱ		
担当者名	横井　桃子	旧科目名称	
授業概要	社会調査の企画から報告書の作成までの全過程を一通り体験的に学習する。質的調査のより発展的な方法を学習した上で、実際に雑誌や新聞記事を材料としたドキュメント分析を経験してもらう。学生は自身にとって身近なテーマや関心のある事柄を選択し、ドキュメント・データの収集、整理、分析、レポートの作成、レポートの報告、討論をおこなう。テーマに関しては、可能な限り春学期の「社会調査実習Ⅰ」で扱ったテーマを発展的に分析することを目標とする。 なお、この授業は、2018 年度・春学期の「社会調査実習Ⅰ（担当：横井）」とあわせて単位取得することで、「社会調査士」資格取得のための【G：社会調査の実習を中心とする科目】の認定要件となる。（他年度の「社会調査実習Ⅰ」では不可。）		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	谷富夫・芦田徹郎 編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』 ミネルヴァ書房　2500 円		
教育方法	講義法やグループワークを組み合わせておこなう。実習であることから、自分で考え・計画を立てて作業を遂行することが求められる。		
評価方法	平常点（50%）：出席状況および小課題の提出による。 学期末レポート（50%）		
到達目標	質的調査の特徴を理解し、技法を身につけることを目標とする。先行研究を調べ、自分自身で問題設定をおこなった上で、質的調査（本学期は、新聞記事を材料にしたドキュメント分析を予定）をおこない、収集したデータを分析して明らかになったことをレポートとしてまとめる。		
授業時間外学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。また授業時間外の学習として適宜、小課題の提出を求める。 データ収集に関しては、一部授業時間外に課題としておこなってもらう。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 毎回授業に出席することは当然のものとして、問題設定や質的調査のデータ収集・分析についての議論に積極的に質問や発言をすること。
2. 自分が本実習で明らかにしたい問題について、CiNii などの学術情報データベースなどで先行研究を調べる努力を惜しまないこと。論文等の検索の方法は授業内で指示する。

授業スケジュール

1. 質的調査と量的調査の違い、それぞれの長所と短所
2. 内容分析の方法
3. ドキュメント分析の方法
4. 新聞・雑誌の読み方
5. 映像メディアの読み方
6. 新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析法
7. コンピューターを用いた質的データの整理・分析法
8. 収取した新聞記事データのコーディング
9. 自由回答データのコーディング
10. 新聞記事・自由回答データの度数分布、クロス集計
11. 新聞記事・自由回答データの分析(1)
12. 新聞記事・自由回答データの分析(2)
13. 質的データを用いた研究論文の紹介
14. 分析結果報告の作成
15. 研究成果の報告と討論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50363A01
科目名	心理学基礎 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Psychology I		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	心理学入門 I
授業概要	わたしたちは，日常生活の中で，様々なことを感じ，考え，行動しています。このような「人のこころ」について理解するための学問が心理学です。 さて，みなさんは，「心理学」について，どのようなイメージをもっているでしょうか。 おそらく，多くの人がイメージしている「心理学」と，実際の心理学の間にはギャップがあります。 そのギャップを埋めるために，この講義では，様々な心理学の研究領域を取りあげ，日常の様々な問題が心理学でどのように取り扱われているのかを説明します。講義を通して，日常生活にある様々な「なぜ？」について，心理学の立場から考える力を身につけていきましょう。		
教材（教科書）	指定しません。適宜，資料を配布します。		
教材（参考資料）	講義中に適宜，紹介します。		
教育方法	パワーポイントを用いた講義を中心とし，講義内容に関連した実験や調査を適宜実施します。		
評価方法	授業中に実施される小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(10%) 筆記試験（50%）		
到達目標	①日常場面で直面する様々な現象を，心理学の専門用語を用いて説明できる。 ②自分の持つ興味を具体化し，それが心理学とどのように関連しているかを説明できる。		
授業時間外学習	各講義で学んだことを日常場面の問題に関連づけて考え，理解を深めてください。 また，講義中にランダムなタイミングで，復習のための小レポートを実施する場合があります。前回分の講義の内容を理解したうえで，次の講義に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①講義中の私語や携帯電話による通話は，他の受講者の迷惑になるため，厳禁とします。どうしても，誰かと話したい，話さなければならない，という場合は，一度退室してください。また，場合により，講師から退室を求めることがあります。
②質問や要望を記入する用紙を講義中に配布します。何かあれば，用紙に記入し，講義後に提出してください。
③また，講師に直接の質問したい場合は，原則として講義後にお願いします。
④講義期間中に，様々な心理学実験や調査のデモを行う予定です。是非，積極的に参加してください。

授業スケジュール

1　心理学の成り立ち①―心理学とは―
2　心理学の成り立ち②―心理学の歴史―
3　学習
4　発達
5　感情・情動①―感情と情動の起源―
6　感情・情動②―感情と情動のもたらす効果―
7　感覚・知覚
8　注意
9　認知
10 言語・思考
11 集団・文化
12 社会的認知
13 パーソナリティ
14 臨床・障害
15 臨床心理学と基礎心理学

受講者の希望を取り入れながら，講義の内容・順序・ボリュームを調整していく予定です。
また，講義中に受講者に課題を課すことがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50363B01
科目名	心理学基礎Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Psychology Ⅱ		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
授業概要	ひとは，日常生活の中で，様々に感じ，考え，行動しています。心理学は，このような「人のこころ」の知るための学問です。心理学者たちは，「人のこころ」の謎に迫るために，長年にわたって様々な研究を行ってきました。 この講義では，私たちが日常生活で直面する様々な問題や疑問を取りあげながら，心理学によって明らかにされてきた「人のこころ」について紹介していきます。講義を通して，一般的にイメージされる「心理学」とは違う，学問としての心理学を知ってもらいたいと思います。 心理学基礎ⅠⅠでは，日常で出会う問題を取り上げながら，様々な心理学の研究領域について講義します。具体的な研究の内容を紹介し，心理学で使用されている実験，調査などの方法についても説明します。 講義で得た知識を使い，日常で出会う「人のこころ」に関する疑問について考える力を身につけていきましょう。		
教材（教科書）	指定しません。適宜，資料を配布します。		
教材（参考資料）	講義中に適宜，紹介します。		
教育方法	パワーポイントを用いた講義を中心とし，講義内容に関連した実験や調査を適宜実施します。		
評価方法	授業中に実施される小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(10%) 筆記試験（50%）		
到達目標	①心理学の諸領域に関する幅広い知識を身につける。 ②日常で出会う様々な問題を，心理学の視点から理解できるようになる。		
授業時間外学習	各講義で学んだことを日常場面の問題に関連づけて考え，理解を深めてください。 また，講義の冒頭に復習のための小テストを実施する場合があるので，前回分の講義の内容を理解したうえで，次の講義に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①講義中の私語や携帯電話による通話は，他の受講者の迷惑になるため，厳禁とします。どうしても，誰かと話したい，話さなければならない，という場合は，一度退室してください。また，場合により，講師から退室を求めることもありますので，注意してください。
②質問や要望を記入する用紙を講義中に配布します。何かあれば，用紙に記入し，講義後に提出してください。
③また，講師に直接の質問したい場合は，原則として講義後にお願いします。
④講義期間中に，様々な心理学実験や調査のデモを行う予定です。是非，積極的に参加してください。
⑤春学期開講科目の心理学基礎Ⅰを受講しておくことで，講義内容を理解しやすくなると思います。

授業スケジュール

1 心理学と関連する諸領域
2 感覚・知覚
3　学習
4　発達
5　感情・情動
6　注意
7 記憶
8　認知①―情報処理過程―
9　認知②―記憶―
10 言語・思考
11 集団・文化
12 社会的認知
13 パーソナリティ

14 臨床・障害
15 心理学の展開

受講者の希望を取り入れながら，講義の内容・順序・ボリュームを調整していく予定です。
また，講義中に受講者に課題を課すことがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50364001
科目名	心理アセスメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychological Assessment		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	心理臨床活動において心理アセスメント（査定）はひとつの重要な柱であり、それをとおして援助の方向を定め、修正していく。そして、アセスメント（査定）の意味のなかには、その人の健康なところ、強いところなど、ポジティブな側面を見出すことも含まれている。心理アセスメントは決して心理検査法だけのことを指すのではないが、心理検査法の解説や簡単な実習に費やす時間が比較的多い。学生にとって、心理検査をそれ以上でも以下でもなく受け入れることのできる最初の機会になる。心理検査は用い方や読み方を誤れば非常に危険である。しかし、対象者の援助に役立てる方向で慎重に用いることによって有益な情報が得られる。学生は、これらの検査の限界と効用の両方のバランスが理解できる。また、心理検査データ以外の情報によるアセスメント、家族アセスメントなどについても知ることができる。さらに心理的異常に関しては、別に「精神病理学」が開講されているのでここでは簡単にふれられる。この科目は 2018 年度以降の入学生については公認心理師対応科目となり、開講年度に科目名とシラバスが改定される。なお、公認心理師対応科目の詳細については、別途、公開する予定である。		
教材（教科書）	とくに指定しない。必要に応じてプリント類を配布する。		
教材（参考資料）	下山晴彦編「よくわかる臨床心理学　改訂新版」ミネルヴァ書房 3,240 円 皆藤章編「よくわかる心理臨床」ミネルヴァ書房 2,376 円 下山晴彦著「臨床心理アセスメント入門」金剛出版 3,456 円 その他、授業のなかで随時紹介する。		
教育方法	授業資料にそって講義する。		
評価方法	受講態度等による平常点（５０％）。授業内レポート（５０％）		
到達目標	心理アセスメントに関する基本的な考え方が身につき、面接法や行動観察法、代表的な心理検査等についてその概要が把握できる。また、家族やコミュニティにおける人間関係についても、そこで起きていることを理解できる力の基礎を身につけることができる。		
授業時間外学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう授業内レポートの作成にも大いに役立つ。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「精神病理学」も併せて受講することをすすめる。各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。また、配布した資料にはよく目を通してほしい。

授業スケジュール

1.はじめに～アセスメントとは何か
2.初回面接を中心に
3.心理学的異常と臨床心理学
4..面接法や観察法
5.検査法①質問紙法や投影法、作業検査法
6. 同②知能・発達検査法
7. 同③その他の検査法
8.個人のアセスメントに関する補足と関連するテーマ
9.心理的異常について
10.家族やコミュニティのアセスメント
11.自分の家族について考えてみる
12.不登校事例のアセスメントと処遇例
13.非行事例についてのアセスメントと処遇例
14 児童虐待事例についてのアセスメントと処遇例
15.心理的異常について
15.あらためてアセスメントについて考える

※講義の内容や順序は変更されることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50367A0A
科目名	心理学基礎実験 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Experiments in Psychology A		
担当者名	水谷　聡秀	旧科目名称	
授業概要	心理学の研究では，実験や調査等の研究を行い，そこから得られたデータをもとに人間の心理を解明するという実証的な研究方法が重要である。この授業では，実験法，心理検査法，観察法等の基礎的な実験実習を行い，心理学における実験的研究の基礎を修得する。心理学実験・実習に実験者および実験参加者・調査協力者等として参加するとともに，得られたデータを分析・考察して，実験報告書にまとめる。それらを通じて，心理学研究を行っていく上で必須の実証的研究手法を体系的に身につける。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教育方法	実習形式で授業を進める。それぞれの実験・実習課題は，実験参加者や実験者としての参加，各課題の講義あるいは演習形式での解説，実験結果の分析と解釈，実験報告書の作成からなる。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。平常点は，実験への参加や結果の分析への取り組み状況によって評価する。		
到達目標	心理学の実験・実習に，実験者や実験参加者として適切な態度で参加することができる。 実験結果を，それぞれの課題の実験計画に応じた適切な方法で分析することができる。 科学論文の要件に従って，実験報告書（レポート）を作成することができる。		
授業時間外学習	各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁である。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

授業スケジュール

心理検査法，面接法（担当：久保・福田・富永・水谷）
第 1 回　心理検査 1：性格検査（YG 性格検査）
第 2 回　心理検査 2：投影法（PF スタディ）
第 3 回　心理検査 3：作業検査法（クレペリン検査）
第 4 回　心理検査 4：知能検査（WAIS－Ⅲ）
第 5 回　面接法

質問紙調査法，観察法（担当：橋本・福田・富永・水谷）
第 6 回　観察法①：大学内のフィールドワーク・グループディスカッション
第 7 回　観察法②：データ分析とレポート作成
第 8 回　質問紙法①：既存の質問紙を用いた調査計画
第 9 回　質問紙法②：SD 法・データ収集
第 10 回　質問紙法③：データの分析とレポート作成

実験法（担当：行廣・福田・富永・水谷）
第 11 回　知覚：錯視
第 12 回　社会：社会的認知①：実験の実施と，実験概要の学習および結果の基本的な分析
第 13 回　社会：社会的認知②：実験結果の詳細な分析とレポート作成
第 14 回　認知：大域処理と局所処理①：実験の実施と，実験概要の学習および結果の基本的な分析

第 15 回　認知：大域処理と局所処理②：実験結果の詳細な分析とレポート作成

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50367B0A
科目名	心理学基礎実験Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Experiments in Psychology B		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
授業概要	心理学基礎実験 B(実践プロジェクト B)では、春学期の心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A)に続き、心理学の基本的な実験方法，データの分析法，アセスメント法などを学修することを目的とする。 さらに、質問紙調査法・心理学実験法・臨床実習それぞれについて、発展的課題を学ぶ。 質問紙調査法では、５回の実習を通じて一つの質問紙の作成・統計的分析を行い、レポートを作成する。 心理学実験法では、おおむね３つの実験課題についてレポートを作成する。 臨床実習では、子どもや家族を対象としたアセスメント法や、面接、事例検討の方法についても学ぶ。		
教材（教科書）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の担当教員フォルダに各「実験課題」のレジュメを配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。さらに，人間の心や行動をより正確に理解する方法を身につけることを目標とする。		
授業時間外学習	データ分析実習を含むため統計の授業を履修しておくことが望ましい。 各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席重視の授業である。積極的な態度で参加すること。一斉に実験や作業を開始するので、遅刻は厳禁。 授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。			
授業スケジュール			
臨床実習　　（担当：　川畑・福田・富永・増田） 第１回　子どもと家族のアセスメント①　：発達・知能検査や描画テストの実習 第２回　子どもと家族のアセスメント②　：子どもとの面接と行動観察。家族合同描画の体験。 第３回　子どもと家族のアセスメント③　：ジェノグラム（家族関係図）の作成と家族を視る視点。 第４回　面接法Ⅱ：面接の「言語的内容」に焦点を当てた実習と面接場面の検討。 第５回　事例検討とロールプレイ　：臨床事例（創作）についての話し合いやロールプレイによる理解。 実験法　（担当：　有馬・福田・富永・増田） 第６回　社会　：感情錯誤帰属の実験 第７回　認知①　：虚記憶と系列位置効果 第８回　認知②　：虚記憶と系列位置効果 第９回　生理①　：α 波減衰実験			

第１０回　生理②　：α 波減衰実験

質問紙調査法　（担当：　服部・福田・富永・増田）
第１１回：心理尺度に関する講義、質問項目の作成
第１２回：予備調査１：用紙の作成、予備調査の実施
第１３回：予備調査２：結果の分析
第１４回：本調査１：用紙の作成、本調査の実施
第１５回：本調査２：結果の分析

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50369001
科目名	心理学研究法	単位数	2
科目名（英語表記）	Research Methods in Psychology		
担当者名	富永　仁志	旧科目名称	
授業概要	心理学は，わたしたちのこころの働きを科学的に探求する学問である．本授業では，心理学研究の計画を立て，実験・調査を実施し，データ分析をするまでのスキルに関する講義を行う．特に，心理学研究の方法の特徴や，心理学研究から何が分かるのか，どのようにデータを収集するのか，データをどのように分析するのか，データから何を読み取るのか，について考えたい．具体的には，実験的研究と観察的研究に大別しつつ，実験法，調査法，観察法，検査法，面接法といった基本的な研究法における，それぞれの実証的論理を把握することを目標とする．これらの学習を通して，こころの働き，ならびにこころが関わる諸現象に対して，的確な科学的問いを立て，実証的にアプローチできるようにする．また，心理学研究に伴う倫理的問題・配慮についても知り，こころの働きを実証するにあたって注意すべきセンスを獲得する．そして，人の心を科学的，客観的にとらえるということはどういうことか，またその重要性について理解を深めていく．		
教材（教科書）	設定しない．授業中に資料を配布する．		
教材（参考資料）	高野 陽太郎・岡 隆［編］『心理学研究法 - 心を見つめる科学のまなざし』（有斐閣） 西村 純一・井上 俊哉 『これから心理学を学ぶ人のための研究法と統計法』（ナカニシヤ出版） その他は講義中に適宜紹介する．		
教育方法	講義形式による授業が基本とするが，各授業に対して主体的な参加を促すため，小レポートやグループワークを課すことがある．		
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	① 主な実験や調査の方法や特徴を理解し，具体的な方法の手続きや注意点を説明できる． ② 学術論文から研究計画を読み取ることができる． ③ 自分で研究を計画することや研究の問題点を指摘することができる．		
授業時間外学習	授業内容の確認のための課題を設定することがあるが，設定された課題には必ず取り組み，期限までに提出すること． 授業ごとに欠かさず復習をし，次の授業までに内容をしっかりと理解しておくこと． グループワークは数週間にわたって取り組む場合があり，授業時間内で課題を終えることができなければ授業時間外の作業が必要となることにも留意しておくこと．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

心理学における基礎的な統計の知識を前提として講義を行う．不安な学生は心理統計に関する参考書を読み，各自復習すること．
また，事前に心理学基礎実験 A・B，心理統計学などの単位を取得し，基礎的な知識を獲得していることが望ましい．
講義内容は平易とはいい難いため，授業ごとに復習を欠かさず行うことを求める．
さらに，演習としてグループを構成し，他者とのディスカッションや，協力してのデータ収集，研究発表などを行う場合がある．グループの構成員が欠ければ，それらの活動を行うことができなくなるため，特別な事情がある場合を除き，すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること．授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求める．

授業スケジュール

1. オリエンテーション　私たちはこころの何を知っているのか
2. 「科学的にこころをとらえる」とは
3. こころを科学する２つのアプローチ
4. 実験法①：独立変数の操作
5. 実験法②：従属変数の測定
6. 実験法③：剰余変数の検討
7. 実験的研究を読み解く
8. 調査法

9.	観察法
10.	面接法
11.	検査法
12.	観察的研究を読み解く
13.	こころの研究の実際と注意点
14.	こころの研究をデザインする①：思考を具体化する
15.	こころの研究をデザインする②：知っておくべき問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J50369101
科目名	心理学概論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	心理学は人間の心や行動を研究対象とする学問である。心理学とはどのような学問であるのか、その歴史、基本的な研究法、考え方を習得することによって、人間の心について理解を深めることができる。 注）この科目は、2018 年度入学生以降については公認心理師対応科目となり、開講年度に科目名とシラバスが改訂される。なお、公認心理師対応科目の詳細については、別途、公開する予定である。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	パワーポイント、DVD を用いながら講義を行う。 全員参加の実験を行うこともある。		
評価方法	授業中に実施する小テスト及び読書レポート。		
到達目標	心理学の基本的な理論と考え方について学び、心についての理解を深める。		
授業時間外学習	事前に配布される教材を読んで出席する。幅広い読書の習慣をつける。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
私語は一切厳禁。授業の妨げになる場合には、退室を求める場合もある。能動的に授業に出席すること。 心理学科必修の授業なので、必ず本年度に取得できるよう最大限の努力をすること。			
授業スケジュール			
1　オリエンテーション、授業の進め方、勉強の仕方、成績評価について 2　「私の歴史」を振り返る、歴史と研究方法 3　感覚と知覚 4　注意と思考 5　記憶 6　記憶：実験 7　記憶と心 8　発達心理学（1）　発達段階 9　発達心理学（2）　各段階の特徴 １０　深層心理学（1）　テーマ：「見えないものを見る」 １１　深層心理学（2）授業内レポート作成 12　心理臨床学（1）テーマ：物語・記憶・癒し 13　心理臨床学（2）授業内レポート作成 14　臨床心理学 15　臨床の現場から：臨床心理士の話を聞く			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50371001
科目名	心理学上級実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Psychology		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
授業概要	社会心理学の実験・調査研究をグループまたは個人で行う。具体的には実験者として実験を実施する以外に、実験機材のセッティング、被験者の手配（時間の設定）、結果の分析までの一連の作業が含まれる。実験結果はＳＰＳＳにより統計的に分析できるようになる。実験はグループで行った場合も仮説は各自で異なる仮説を立てて、個人レポートを作成する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	必要な文献、教材は授業中に適宜指示する		
教育方法	実験や調査に必要な教材は授業中に供与する		
評価方法	平常点により評価する。作業過程は授業中にディスカッションしながらフォローする		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。加えて、実験参加者に負担を強いるだけの価値を信じる、ある種の「蛮勇」も必要となります。これらのさまざまな力を身につけることが目標となります。		
授業時間外学習	授業時間中に実験を計画し質問紙の作成などを行う。実験や調査、質問紙は授業時間内に実施できない場合が多い。適宜、調査対象者が得られる機会に実験調査を行うことになる。それに要した時間も評価に加える。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

実験実施に成功するか失敗するかではなく、その過程を評価対象とする。
失敗を恐れずに実験に挑戦していただきたい。

授業スケジュール

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　文献レビューのみで卒論をまとめる方法
第 3 回　集団心理学で用いた実験方法の振り返り
第 4 回　質問紙を用いた実験　心理テスト・尺度のいろいろ
第 5 回　質問紙を用いた実験　場面想定法・条件の設定
第 7 回　インターネットを利用した質問紙法
第 8 回　仮想空間を用いた観察研究
第 10 回　実験室実験に使えるツール
第 11 回　実験室実験　PowerPoint を用いた刺激呈示
第 12 回　実験室実験　Inquisit を用いた実験例
第 13 回　実験室実験　Inquisit を用いた実験の作り方
第 14 回　実験室実験　簡易脳波系の使い方
第 15 回　方法の書き方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J50371002
科目名	心理学上級実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Psychology		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
授業概要	認知心理学領域の心理学実験の実習を行う。授業では 3 個程度の実験課題を予定している。各実験について，実験材料の準備，実験実施によるデータ収集，データの分析をおこない，報告書を作成する。これらを通して，認知心理学的な実験手法の基礎を身につけて欲しい。		
教材（教科書）	使用しない		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	授業への参加状況に基づく日常点（60%），実験レポート（40%）を総合して評価する。		
到達目標	心理学実験の実験計画を立てることができる。 心理学実験の材料を入念に準備し，実験を適切に実施することができる。 実験結果を分析し，科学論文の用件を備えた報告書を作成することができる。		
授業時間外学習	毎回の授業で，次回までの課題を指示するので，確実に行って次回の授業に参加すること。 課題の内容は，関連文献を読む，実験材料の作成，データ収集，実験レポートの作成等であり，実験課題の進行に応じて指示する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業に積極的に参加し，実験によって人間の思考の性質を探る楽しさを感じて欲しい。 授業時間は実験の立案や準備，結果の分析等が中心となるので，授業外の時間にも実験を行う必要がある。			
授業スケジュール			
1. 心理学研究における実験の役割 2. 実験計画立案のポイント，実験報告書の作成の仕方 3.PC を用いた実験制御(1) 4. PC を用いた実験制御(2) 5. PC を用いた実験制御(3) 6. PC を用いた実験制御(4) 7. 記憶の実験(1) 8. 記憶の実験(2) 9. 記憶の実験(3) 10. 記憶の実験(4) 11. 思考過程に関する実験(1) 12. 思考過程に関する実験(2) 13. 思考過程に関する実験(3) 14. 思考過程に関する実験(4) 15. 研究報告会			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J50371003
科目名	心理学上級実験	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Psychology		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
授業概要	思考・感情制御に関する実験を行うために，個人あるいはグループで演習を行う。ベースとなる先行研究を選択し，実験計画の案出，実験材料の作成，データ収集，分析，考察を行う。さらに，これらの成果を，心理学研究の書式に則った報告書にまとめる。これらの演習を通して，心理学実験の基礎的な知識・スキルを獲得するとともに，研究成果を報告するためのスキルを向上させる。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜，指示する。		
教育方法	なし		
評価方法	授業中に取り組む課題（50%），実験に関する報告書（50%）を総合して評価する。		
到達目標	独力で心理学実験を計画・実施できる。 心理学実験に関する報告書を作成できる。		
授業時間外学習	次回までに行うべき課題について指示をする場合がある。指示があった場合は，その課題を確実にクリアできるよう，準備を怠らないこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

4 回生では，「感情」と「制御」についての卒業研究（実験・調査）を各自で行うことになるが，本授業はその準備のひとつに位置づけられる。全 15 回の演習に遅刻・欠席なく参加することが望ましい。やむを得ず欠席する場合は，事前に担当教員に連絡すること。また，事前に心理統計学の授業を履修済みであることが望ましい。

授業スケジュール

1. ガイダンス・参考文献の選択
2. 実験計画法・方法論
3. 参考文献についての発表①－グループ①・②－
4. 参考文献についての発表②－グループ③・④－
5. 研究計画①－グループ①・②－
6. 研究計画②－グループ③・④－
7. 実験準備①－材料の探索・作成―
8. 実験準備②－材料の作成と修正―
9. 実験の実施
10. データの整理
11. データ分析
12. 考察・報告書の作成
13. 報告書の作成
14. 研究報告会
15. 講評

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50378001
科目名	心理測定法	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychological Measurement		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
授業概要	心理測定尺度の作成や使用に重要な統計的手法を学習する。ここで学習する分析は，質問紙法や心理検査を用いた研究を行う上で重要な手法であり，また，心理臨床・教育・福祉等の分野で使用される心理検査の原理を正しく理解して使用するために必要な知識である。 具体的には，(1) 心理測定尺度を用いてよいデータを収集するための重要な視点であり，尺度の作成や結果の利用に重要な，信頼性と妥当性の概念とその評価方法，(2) 多変量解析法の中から，心理尺度の構成や尺度間の関係を分析するために特に重要な手法の概要とその利用法，の 2 点を修得する。		
教材（教科書）	小塩真司 (2011)『SPSS と Amos による心理・調査データ解析－因子分析・共分散構造分析まで[第 2 版]』 東京図書 3,024 円 教科書は，授業中に参照する他，授業時間外の課題で PC を使った分析を行う時の参考資料としても必要である。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義形式を中心に授業を進めるが，分析の実行や分析結果の結果の読み取り等の演習を毎回含める。また，授業外課題を通して，PC を使った分析の実習を行う。		
評価方法	レポート課題（ほぼ毎回出題）30%，授業中に行う確認テスト 30%，期末試験 40%。		
到達目標	質問紙尺度や心理テストの開発，尺度間の相関関係の分析等で必要になる，測定理論や多変量解析の基礎を修得する。各手法について，以下の 4 点を目標とする。 (1)どんな手法を使用するかを研究計画やデータから判断することができる。 (2)コンピュータソフトウェアを用いて自らデータ分析を行うことができる。 (3)分析結果を解釈し報告書等に記述することができる。 (4)論文等に書かれた解析結果の説明を理解することができる。		
授業時間外学習	毎回，課題を出題する。課題の内容は，授業内容の確認や，学習した分析手法を PC の統計解析ソフトを使って実践することなどを含む。必ず毎回課題に取り組み，指定期日までに提出すること。 また，毎回の授業の始めに前回までの内容の確認テストを行うので，授業の復習をしっかりして次の授業に出席すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

基礎的な統計学の知識を前提とする。「心理統計学 I・II」を履修済であること（あるいは，同等の内容を既に習得していること）。
授業内容は易しくないので，毎回授業に確実にかつ積極的に参加し，さらに毎回の課題をきちんとこなしていく覚悟で履修すること。安易な態度では単位修得は難しい。
学習内容の積み上げが重要な科目であるので，遅刻や欠席をしないこと。

授業スケジュール

1. 授業の目的と方針，量的変数の記述統計手法に関する基礎知識
2. 回帰分析(1)：散布図，相関係数と回帰直線
3. 回帰分析(2)：分析例による回帰分析と重回帰分析の概説
4. 回帰分析(3)：回帰分析モデルの詳説
5. 回帰分析(4)：回帰係数の意味と解釈，研究例に見る分析の実際
6. パス解析：パス解析の概要と，研究例による分析の実際
7. 尺度の信頼性と妥当性(1)：信頼性と妥当性の概念，古典的テスト理論の基本モデル
8. 尺度の信頼性と妥当性(2)：信頼性係数の推定の諸方法
9. 尺度の信頼性と妥当性(3)：信頼性の高い尺度構成のための指針
10. 尺度の信頼性と妥当性(4)：妥当性の評価の視点と方法
11. 因子分析(1)：因子分析の基本的な発想
12. 因子分析(2)：因子分析の基本モデル
13. 因子分析(3)：因子回転，分析結果の解釈の仕方，質問紙尺度の例を用いた因子分析の実際

14. 因子分析(4)：因子数の決定，回転方法の選択基準，因子抽出法の選択基準 15. 授業内容の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50380A01
科目名	心理統計学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Statistical Methods in Psychology I		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
授業概要	心理学研究では，データに基づいて判断を下すために統計的な方法が不可欠である。心理統計学 I では，質的変数と量的変数のそれぞれについて，分析の視点，データの収集と整理の方法，分析結果の解釈の仕方について，記述統計学の手法を中心に学習する。 これらの学習を通して，自ら収集したデータを解析できる能力，また公刊されている論文や資料等に報告されている統計分析結果を読むことができる能力を身につける。 これらは，卒業研究等で自らデータを収集し研究を行う時に重要な能力であり，さらには科学的証拠に基づいて論理的に判断を行うことができる思考力の獲得につながる。		
教材（教科書）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　3,024 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義形式を中心に，毎回演習の時間を授業中に設ける。演習の内容は，実際に計算を伴う分析を行うことや，分析結果を解釈することである。		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理学研究に必要な統計手法のうち，表やグラフの作成，要約指標（平均，標準偏差，相関係数，等）の算出とについて，以下を達成する。 (1)研究計画と収集されるデータの種類に応じて適切な手法を選択することができる。 (2)各手法を用いて計算や作表等の実際の分析を行うことができる。 (3)分析結果を適切に判断することができる。		
授業時間外学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や欠席は厳禁である。また，講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的に授業に参加すること。
授業には電卓を準備すること。授業内の演習に必要である。
毎回の授業時間外課題（レポート課題）は，学習内容を確認するとともに，次回以降の授業を理解するための基礎として大変重要である。

授業スケジュール

1. 統計データの役割，種類，収集の方法
2. 変数のタイプ分類（量的変数と質的変数）とその分析の視点
3. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(1)：　クロス集計表を用いた記述，比率の比較
4. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(2)：　連関と連関係数
5. 量的変数の分析(1)：　度数分布とヒストグラム，代表値
6. 量的変数の分析(2)：　代表値と散布度，グラフによる記述
7. 量的変数の分析(3)：　変数の標準化と集団内での相対的位置の評価，正規分布
8. 量的変数の条件間比較(1)：　条件間比較のポイント，グラフを用いた比較，散布度の重要性，効果量
9. 量的変数の条件間比較(2)：　t 検定の概説
10. 量的変数の条件間比較(3)：　対応のあるデータ（反復測定データ）の性質とその分析方法
11. 量的変数の条件間比較(4)：　分布の偏りに関する留意点，平均と中央値の違い
12. 二つの量的変数間の関係の分析(1)：　散布図と相関係数
13. 二つの量的変数間の関係の分析(2)：　相関係数の算出方法と特性
14. 二つの量的変数間の関係の分析(3)：　相関の解釈における留意点，相関関係と因果関係
15.学習した手法についての整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50380B01
科目名	心理統計学 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Statistical Methods in Psychology II		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
授業概要	心理学を学ぶ学生が，研究に必要な統計的手法を理解し，自らデータに手法を適用できるようになることを目標とする。心理統計学 II では，心理学研究で利用されることの多い代表的な統計的手法について，推測統計の手法（検定など）を中心にその原理と使用方法を学習する。 どのような研究デザインにどのような手法が適用できるのかという枠組みから整理した上で，各手法を用いて実際に分析を行うために必要な手続きと，分析結果の解釈のしかたを修得する。また，分析を正しく使用するために必要な，分析手法の原理を理解する。 推測統計の各手法は，得られた研究データから得られた知見を，一般化するための判断基準として大変重要な視点である。それらの学習を通して，実証的な心理学研究を行うための基礎的能力と，科学的証拠に基づいて論理的に判断を?うことができる思考?を身につける。		
教材（教科書）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　3,024 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義形式を中?に，毎回演習の時間を授業中に設ける。演習の内容は，実際に計算を伴う分析を?うことや，分析結果を解釈することである。		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理時計学 I での学習内容を基礎として，以下の事項を理解・習得する。 (1) 推測統計の原理を理解し，統計的検定を正しく用いることができる。 (2) 各種の統計的検定の目的を理解し，研究計画に合わせて適切な手法を選択できる。 (3) 各手法を正しく使用できる。 (4) 特に，分散分析の原理と使用方法，結果の意味を理解し，実験計画に合わせて適切に使用できる。		
授業時間外学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

心理統計学 I を先に履修しておくこと。
学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や?席は厳禁である。また，講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的に授業に参加すること。
授業には電卓を準備すること。授業内の演習に必要である。
毎回の授業時間外課題（レポート課題）は，学習内容を確認するとともに，次回以降の授業を理解するための基礎として?変重要である。

授業スケジュール

1. 授業の目的と方針，統計的手法の役割（記述統計と推測統計），研究デザインを整理する視点
2. 統計的検定の原理(1)：　t 検定（平均の群間比較）の使い方と考え方の概説，母集団と標本の概念
3. 統計的検定の原理(2)：　確率変数と確率分布，母数と統計量，統計量の分布（標本分布）
4. 統計的検定の原理(3)：　帰無仮説と対立仮説，第 1 種の誤りと第 2 種の誤り，検定力
5. 相関係数に関する検定
6. クロス集計表の独立性：　連関係数，χ2 乗検定
7. 検定手法の選択基準と手法間の関係
8. 分散分析の導入，一要因分散分析(1)
9. 一要因分散分析(2)，多重比較
10. 二要因分散分析(1)：　要因と水準，各要因の主効果
11. 二要因分散分析(2)：　交互作用効果
12. 二要因分散分析(3)：　主効果と交互作用の意味と解釈，単純効果の検定
13. 被験者内要因の分散分析
14. ノンパラメトリック検定

15. 学習した手法についての整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J5038300A
科目名	心理面接実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Training in Counseling		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
授業概要	ロールプレイやその逐語録の分析を通して、あらゆるカウンセリング・心理療法の技法の基礎となる、ロジャーズの三原則に基づいた応答技法について学び、基本的なカウンセリング的応答ができるようになる。 また、カウンセラー自身の応答パターンの分析も必要であるため、受講者の心の動きにも注意を向けながら実習を行なう。		
教材（教科書）	実習内容については、適宜プリントを配布する。但し、臨床心理学Ⅱおよびカウンセリング論で使用しているテキストは、各自準備しておくこと。		
教材（参考資料）	必要な図書は、授業中に適宜指示する。		
教育方法	受講生同士でペアを作り、連続してロールプレイを行う。カウンセラー役・クライエント役の両方を体験する。全員がロールプレイを体験し終えた後、全員でそれぞれのプロトコールを分析し、カウンセラーとしての態度について学習する。		
評価方法	授業中の発表・平常点　５０％　及び　レポート　５０％		
到達目標	心理面接の基本を学習し、カウンセリング的応答ができるようになることを目標とする。		
授業時間外学習	講義の開始前に臨床心理学Ⅱの教科書を再読し、ロジャーズのカウンセリング理論を復習すること。 各回がロールプレイの実施とその検討が中心となるので、ロール設定・応答練習・記録おこしなど、その時に出される課題を実行すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講条件 臨床心理学Ⅰ・Ⅱ、カウンセリング論の単位が取得済みであること。 受講のルール 各人に科せられた課題について、積極的に取り組むこと。			
授業スケジュール			
１～３　カウンセリングの基礎 ４～６　ロールプレイ　　１ ７～8　結果の検討および討論 ９～12　ロールプレイ　２ 13～14　結果の検討及び討論 15　総合的検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J50384001
科目名	心理療法	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychotherapy		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
授業概要	この講義では代表的な心理療法の理論や歴史についての知識を身に着け、また守秘義務やプライバシーへの配慮など、相談を受けるものにとって守るべき倫理について理解する。 基本的な心理療法から、学校や保健所など地域における心理療法がどのようなものであるのかを理解するための視野を養う。また自分自身の良好なコミュニケーションや、心の健康を守るために必要な知識を身に着け、ストレスと程よく関われるようにする。　『この科目は、2018 年度入学生以降については公認心理師対応科目となり、　開講年度に科目名とシラバスが改訂される。 なお、公認心理師対応科目の詳細については、別途、公開する予定である。』		
教材（教科書）	特になし　適宜指示する		
教材（参考資料）	A・ストー　心理面接の教科書　河合隼雄　心理療法序説,カウンセリングの実際問題,心理療法個人授業		
教育方法	講義形式で行う。またテーマによってはグループでの話し合いの形をとる。		
評価方法	授業態度５０％、試験５０％		
到達目標	心理療法の様々な側面についての知識を学び、考えること。また実践につながるものとして、心理療法における事例研究の意義を知り、事例研究から学ぶ場合にも、クライエントを尊重することができるようになること.		
授業時間外学習	授業理解に必要なテキストのページ、あるいはプリント等を指示した回には、事前に読んで予習してくること。 身の回りの問題について、心理療法的な視点で自分なりに考えてみること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

臨床心理学１、または２の単位を取得していること。
授業だけで知識を身に着けることは難しく、定着させるためには、自分なりに勉強することが不可欠です。授業内で指示する参考文献や、自分なりに興味をもった本などを積極的に読んで下さい。また、授業への積極的な参加、つまりレポートや、授業内で他の学生の授業理解にもつながるような質問などを評価します。私語など、他の学生の授業理解を妨害するような態度に対しては、退室を求めたり、単位を出さない場合もあります。事例などから学ぶ場合にも、クライエントを尊重する態度を大切にできるようになってください。

授業スケジュール

１、　心理療法について　適応および限界　守秘義務、プライバシーへの配慮などの倫理
２、　心理療法の歴史　心理療法のモデルと古代の心理療法
３　、心理療法における枠、時間、場所、料金について、
４、　治療的人間関係,
５、　心理療法における話の聞き方、学派による違い、
６、　学派による違い　力動論　他
７、　ロジャーズの心理療法　治療者の態度
８、　フロイト理論　心的外傷理論の変遷
９、　ユング、アドラーの理論
１０、ウィニコットの理論
１１、子どもの心理療法、プレイセラピー
１２、描画を使用した事例
１３、地域における心理療法の様々な形（病院・学校・保健所・少年院・サポートスタッフへの支援など）
１４、ストレスと心の健康　良好なコミュニケーションのために
１５、復習テスト　、疑問点についての解説

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50385001
科目名	心理療法実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Training in Psychotherapy		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
授業概要	実習を通して他者と関わり、自分を知ることを目標とする。心理療法の実習そのものだけではなく、それを体験し、振り返り、自分について考えることや、他者に意見や気持ちを伝えることができるようになること。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	ゼミ形式で行う。グループで行う作業もあるので欠席しないこと。		
評価方法	出席、レポート、自分なりのテーマをもち、自主的に学ぼうとする姿勢などの総合評価		
到達目標	実習を通して自分について理解を深める。自分が何を感じたか、どのように分析できるか、など考えることの訓練も目指す。		
授業時間外学習	心理療法について多くの文献に接すること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自主的に学ぼうとする姿勢を大切にして下さい。レポートなどの自主的な提出や、積極的に学ぶ姿勢を評価します			
授業スケジュール			
１、オリエンテーション ２、バウムテスト、風景構成法 ３、事例・グループでの討論 ４、箱庭 ５、事例・グループでの討論 ６、コラージュ ７、グループでのコラージュ ８、言語連想 ９、言語連想分析 １０、スクイグル １１、事例・グループで討論 １２、プレイセラピー １３、事例を読む １４、夢について　事例を読む １５、実習をふりかえって			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50391001
科目名	深層心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Depth Psychology		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	深層心理学においては、心の中に無意識の領域の存在を仮定する。つまり、心のなかには自分自身が意識できない部分があることを前提として考えるのである。本講義ではまず、深層心理学の創始者であると考えられるフロイトの理論とユングの無意識についての基本的な考え方を理解する。その上で、ユング心理学の視点に立ち、昔話、文学、芸術作品、アニメなどを素材にして深く人間の心について洞察するできるようになることが期待される。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	河合隼雄著　『ユング心理学入門』　培風館,『昔話と日本人の心』　岩波書店 山中康裕編　『知の教科書』　ユング　講談社選書メチエ 山　愛美著　『言葉の深みへ』　誠信書房,『香月泰男　黒の創造』　遠見書房 ＊他の文献についても適宜紹介するので興味、関心のあるものを自発的に読み進めてもらいたい。		
教育方法	DVD,CD、パワーポイントを用いながら講義方式で行う。		
評価方法	授業中に課すテスト・課題（６０％） 読書レポート課題　　（４０％）		
到達目標	深層心理学的な見方の基礎を理解する。		
授業時間外学習	授業中配布するリストの中から自らの興味、関心に合わせて読むこと。 注)読書レポート課題を出す。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１遅刻・私語は厳禁。場合によっては退出を求める。
２課題図書として、文学（小説)、児童文学、古典文学，神話、などを挙げて、読むことを課すので、読書をする習慣のない者は本講義の受講を機会に活字に親しむこと。そのつもりで登録して欲しい。
３能動的に講義に出席をし、自らの興味、関心の方向性を探りながら勉強して欲しい。

授業スケジュール

1　オリエンテーション（講義の進め方など） 読書課題についての説明・・・受講希望者は必ず出席すること。
2　深層心理学の考え方（意識/無意識、日常/非日常、境界)、現代社会と心の問題について
3　深層心理学的視点から見たアニメ（１）アニメを見る
4　深層心理学的視点から見たアニメ（2）解説
5　日本文化における「異界」性
6　フロイトーその生涯と理論
7　ユングーその生涯と理論（１）タイプ論、意識と無意識
8　ユングーその生涯と理論（２）元型、夢
9　昔話の深層心理学的アプローチ
10　物語（１)：時間と空間を超えて
11　物語　（２)：語りの力
12　イメージを介する心理療法ー箱庭療法、夢、描画
13　心の深層と表現（１）美術作品に注目して
14　心の深層と表現（2）文学作品に注目して
15　心の深層と表現（３）生きることと表現について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J50395001
科目名	人格心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Personality Psychology		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
授業概要	心理学が人間の心に共通する一般的な法則を明らかにすることを目的として発展してきた一方で，心の個人差にも注目が集まり，人間のパーソナリティ（人格・性格）に関する考察や研究が行われてきた。そして，パーソナリティ心理学は，社会心理学，感情心理学，臨床心理学などの多様な心理学領域と密接に関わり合いながら，現在も発展を続けている。この授業では，パーソナリティに関する基本的な理論について概観した後に，パーソナリティと関連の深い各心理学領域で得られた知見を紹介する。それらを通してパーソナリティについての理解を深め，パーソナリティという観点から，心の個人差について思考する力を身につけることを，この授業の目的とする。		
教材（教科書）	指定しません。適宜，資料を配布します。		
教材（参考資料）	講義中に適宜，紹介します。		
教育方法	パワーポイントを用いた講義を中心とし，講義内容に関連した実験や調査を適宜実施します。		
評価方法	授業中に実施される小レポートなど（50%） 筆記試験（50%）		
到達目標	①心理学の諸領域に関する幅広い知識を身につける。 ②日常で出会う様々な問題を，心理学の視点から理解できるようになる。		
授業時間外学習	講義の冒頭に復習のための小テストを実施する場合があるので，前回分の講義の内容を理解したうえで，次の講義に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①講義中の私語や携帯電話による通話は，他の受講者の迷惑になるため，厳禁とします。どうしても，誰かと話したい，話さなければならない，という場合は，一度退室してください。また，場合により，講師から退室を求めることもありますので，注意してください。
②質問や要望を記入する用紙を講義中に配布します。何かあれば，用紙に記入し，講義後に提出してください。
③また，講師に直接の質問したい場合は，原則として講義後にお願いします。
④講義期間中に，様々な心理学実験や調査のデモを行う予定です。是非，積極的に参加してください。

授業スケジュール

1. ガイダンス・パーソナリティとは
2. パーソナリティの測定
3. 類型論と特性論①ー類型論とはー
4. 類型論と特性論②ー特性論への展開ー
5. パーソナリティの形成過程①－遺伝と環境－
6. パーソナリティの形成過程②－発達－
7. パーソナリティ障害
8. 感情とは
9. 感情喚起の機序
10. 感情の測定
11. 感情と認知①－記憶ー
12.感情と認知②－解釈・推論ー
13. 感情と行動①－感情制御ー
14. 感情と行動②－対人関係・援助ー
15. パーソナリティと感情

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50420A01
科目名	生涯学習概論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning I		
担当者名	林　潤平	旧科目名称	
授業概要	生涯学習の考え方や思想は、社会教育行政に携わるための基本的な知識であるのはもちろんのこと、今日ではしばしばメディア上などの、様々な場面で耳にする言葉となっています。本科目では生涯学習の基本的な概念や理論を、行政組織や他の教育機関との関係、社会教育施設などの幅広い問題と関連づけながら解説することで、生涯学習の本質と意義の理解を目指します。また本科目では、とくに生涯学習の歴史と現状との関連という側面を重視し、その視点から現在推進されている具体的な生涯学習実践を眺めてみることで、生涯学習に関する今日的な課題を理解することを目指します。		
教材（教科書）	特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介します。		
教育方法	主として黒板・ホワイトボードを用いた講義法で授業を行います。具体的には授業の最初に配布したレジュメに必要事項を記入しながら進行する講義を実施します。またそのなかで発言や発表を求める場面もあります。そして講義の最後では、毎回の授業内容理解を問い、同時にその内容に対する感想や意見を問う、授業内アンケートの記入を行い、平常点評価の対象としていきます。		
評価方法	成績は、平常点と授業内に実施する小テスト、レポートの 3 点を総合して評価します。 成績に占める各課題の採点配分は以下のとおりとなっています。 授業内アンケートを中心とする平常点（授業内の発言・発表等を含む）（40%） 小テスト（20%） レポート（40%）		
到達目標	・生涯学習、社会教育に関する基本的な知識を身につける。 ・上記の基本的な知識の理解の上にたって、生涯学習の本質や現代的な意味、意義について、説明することができるようになる。 ・今日的な課題との関連で、生涯学習に対する自身の考えを確立し、その考えを説明することができるようになる。		
授業時間外学習	毎回の講義終了時に次回の講義及び小テストに関連する資料を配布し、同時に予習キーワードを伝達するので、次回の講義までに目を通し、キーワードを参考にしながらわからない箇所を自分で調べるようにしてください。また学期中に小テストを数回実施するので、授業後には復習として、内容の確認と要点の整理をかかさず行うようにしてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

【受講のルール】
遅刻をしないこと、及び他者の学習環境を阻害するような私語・食事をしないなど、最低限のマナーを守ってください。悪質な場合は退室を命じたり、平常点の減点対象としたりすることがあります。
【学習上の助言】
メディア（新聞・テレビ・インターネットなど）上に登場する色々な学習の形の報告や記事に目を通し、気になったものをメモしておくと、生涯学習の知識の取得に役立ちますので、日々この点を意識してもらうことを推奨します。

授業スケジュール

1．ガイダンス：本講義の概要と成績評価方法
2．イントロダクション：生涯学習とは何か
3．世界の生涯学習の理論①：ユネスコの提唱した生涯教育、生涯学習論
4．世界の生涯学習の理論②：OECD の提唱する生涯学習
5．世界の生涯学習の理論③：アメリカの生涯学習
6．世界の生涯学習の理論④：さまざまな学習論、成人教育論の諸相
7．日本における生涯学習の展開と実践①：青少年・若者を対象とした生涯学習の実践
8．日本における生涯学習の展開と実践②：生涯スポーツの実践
9．日本における生涯学習の展開と実践③：日本における生涯学習政策の推移と現状

１０．日本における生涯学習の展開と実践④：地方自治体による生涯学習行政
１１．社会教育の展開と関連施設①：社会教育の歴史
１２．社会教育の展開と関連施設②：図書館の機能と役割
１３．社会教育の展開と関連施設③：公民館の機能と役割
１４．社会教育の展開と関連施設④：博物館の機能と役割
１５．今後の生涯学習の課題と生涯学習を実践していくこと

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50420A02
科目名	生涯学習概論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning I		
担当者名	林　潤平	旧科目名称	
授業概要	生涯学習の考え方や思想は、社会教育行政に携わるための基本的な知識であるのはもちろんのこと、今日ではしばしばメディア上などの、様々な場面で耳にする言葉となっています。本科目では生涯学習の基本的な概念や理論を、行政組織や他の教育機関との関係、社会教育施設などの幅広い問題と関連づけながら解説することで、生涯学習の本質と意義の理解を目指します。また本科目では、とくに生涯学習の歴史と現状との関連という側面を重視し、その視点から現在推進されている具体的な生涯学習実践を眺めてみることで、生涯学習に関する今日的な課題を理解することを目指します。		
教材（教科書）	特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介します。		
教育方法	主として黒板・ホワイトボードを用いた講義法で授業を行います。具体的には授業の最初に配布したレジュメに必要事項を記入しながら進行する講義を実施します。またそのなかで発言や発表を求める場面もあります。そして講義の最後では、毎回の授業内容理解を問い、同時にその内容に対する感想や意見を問う、授業内アンケートの記入を行い、平常点評価の対象としていきます。		
評価方法	成績は、平常点と授業内に実施する小テスト、レポートの 3 点を総合して評価します。 成績に占める各課題の採点配分は以下のとおりとなっています。 授業内アンケートを中心とする平常点（授業内の発言・発表等を含む）（40%） 小テスト（20%） レポート（40%）		
到達目標	・生涯学習、社会教育に関する基本的な知識を身につける。 ・上記の基本的な知識の理解の上にたって、生涯学習の本質や現代的な意味、意義について、説明することができるようになる。 ・今日的な課題との関連で、生涯学習に対する自身の考えを確立し、その考えを説明することができるようになる。		
授業時間外学習	毎回の講義終了時に次回の講義及び小テストに関連する資料を配布し、同時に予習キーワードを伝達するので、次回の講義までに目を通し、キーワードを参考にしながらわからない箇所を自分で調べるようにしてください。また学期中に小テストを数回実施するので、授業後には復習として、内容の確認と要点の整理をかかさず行うようにしてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

【受講のルール】
遅刻をしないこと、及び他者の学習環境を阻害するような私語・食事をしないなど、最低限のマナーを守ってください。悪質な場合は退室を命じたり、平常点の減点対象としたりすることがあります。
【学習上の助言】
メディア（新聞・テレビ・インターネットなど）上に登場する色々な学習の形の報告や記事に目を通し、気になったものをメモしておくと、生涯学習の知識の取得に役立ちますので、日々この点を意識してもらうことを推奨します。

授業スケジュール

1．ガイダンス：本講義の概要と成績評価方法
2．イントロダクション：生涯学習とは何か
3．世界の生涯学習の理論①：ユネスコの提唱した生涯教育、生涯学習論
4．世界の生涯学習の理論②：OECD の提唱する生涯学習
5．世界の生涯学習の理論③：アメリカの生涯学習
6．世界の生涯学習の理論④：さまざまな学習論、成人教育論の諸相
7．日本における生涯学習の展開と実践①：青少年・若者を対象とした生涯学習の実践
8．日本における生涯学習の展開と実践②：生涯スポーツの実践
9．日本における生涯学習の展開と実践③：日本における生涯学習政策の推移と現状

１０．日本における生涯学習の展開と実践④：地方自治体による生涯学習行政
１１．社会教育の展開と関連施設①：社会教育の歴史
１２．社会教育の展開と関連施設②：図書館の機能と役割
１３．社会教育の展開と関連施設③：公民館の機能と役割
１４．社会教育の展開と関連施設④：博物館の機能と役割
１５．今後の生涯学習の課題と生涯学習を実践していくこと

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50420B01
科目名	生涯学習概論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning Ⅱ		
担当者名	林　潤平	旧科目名称	
授業概要	私たちの生きる現代社会は、実は生涯学習の理論を理解することにとどまらないで、その理論を実際に適用し、生涯学習を実践していくことまで実現できる能力に、重要な価値をおく社会になります。本科目では生涯学習の理論に目を配りつつも、とくにその「応用」の側面、つまりこの生涯学習の実践がいかになされているのかを、実際例に即しながら理解することを目指します。そしてその理解の上にたって、自ら生涯学習の実践を、着実に積み上げていける態度を養成することを目指します。		
教材（教科書）	特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介します。		
教育方法	主として黒板・ホワイトボードを用いた講義法で授業を行います。具体的には授業の最初に配布したレジュメに必要事項を記入しながら進行する講義を実施します。またそのなかで発言や発表を求める場面もあります。そして講義の最後では、毎回の授業内容理解を問い、同時にその内容に対する感想や意見を問う、授業内アンケートの記入を行い、平常点評価の対象としていきます。		
評価方法	成績は、平常点と授業内に実施する小テスト、レポートの 3 点を総合して評価します。 成績に占める各課題の採点配分は以下のとおりとなっています。 授業内アンケートを中心とする平常点（授業内の発言・発表等を含む）（40%） 小テスト（20%） レポート（40%）		
到達目標	・生涯学習の実践とその方法に関する基本的な知識を習得する。 ・それらの知識と生涯学習の理論及び現代社会の課題との関連を理解し、説明することができるようになる。 ・上記の知識・理解を踏まえて、実際に生涯学習を実践していくための展望を、明示することができるようになる。		
授業時間外学習	毎回の講義終了時に次回の講義及び小テストに関連する資料を配布するので、次回の講義までに目を通しておいて、わからない箇所などを調べるようにしてください。また学期中に小テストを数回実施するので、授業後には復習として、内容の確認と要点の整理をかかさず行うようにしてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

【受講条件】
事前に「生涯学習概論Ⅰ」を履修しておいてもらうことが望ましいです。
【受講のルール】
遅刻をしないこと、及び他者の学習環境を阻害するような私語・食事をしないなど、最低限のマナーを守ってください。悪質な場合は退室を命じたり、平常点の減点対象としたりすることがあります。
【学習上の助言】
授業中に紹介した事例などを参考に、とくに興味をもった生涯学習の実践や関連施設について、運動の実態を調べたり施設に実際に訪問してみたりするなど、調査・体験を積極的に行うようにしてもらうことを推奨します。

授業スケジュール

1．ガイダンス：本講義の概要と成績評価方法
2．生涯学習理論・実践の現状と現代社会との関係
3．現代社会の課題に対応する生涯学習の実践①：個人化の進行と人権尊重の実現を目指す生涯学習
4．現代社会の課題に対応する生涯学習の実践②：自己実現・生きがいづくりのための生涯学習
5．現代社会の課題に対応する生涯学習の実践③：格差・孤立の解消を目指す若者支援の生涯学習
6．現代社会の課題に対応する生涯学習の実践④：生涯学習と環境教育・ESD
7．問題解決のための生涯学習の取り組み①：すべての人へのサービスをめざす図書館の実践と理念・方法
8．問題解決のための生涯学習の取り組み②：資格取得・キャリア形成の生涯学習
9．問題解決のための生涯学習の取り組み③：職業能力開発の生涯学習

１０．問題解決のための生涯学習の取り組み④：ボランティアなどに結実した青少年・若者たちへの生涯学習プラン
１１．ESD の観点から生涯学習の実践を考える①：公民館の実践する ESD 実践
１２．ESD の観点から生涯学習の実践を考える②：エコミュージアムを例にみた博物館教育のありよう
１３．ESD の観点から生涯学習の実践を考える③：京都で ESD を実践してみる（1）
１４．ESD の観点から生涯学習の実践を考える④：京都で ESD を実践してみる（2）
１５．これまでの授業の総括：生涯学習を実践していくことの意味をさらに深めてみる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50420B02
科目名	生涯学習概論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Lifelong Learning Ⅱ		
担当者名	林　潤平	旧科目名称	
授業概要	私たちの生きる現代社会は、実は生涯学習の理論を理解することにとどまらないで、その理論を実際に適用し、生涯学習を実践していくことまで実現できる能力に、重要な価値をおく社会になります。本科目では生涯学習の理論に目を配りつつも、とくにその「応用」の側面、つまりこの生涯学習の実践がいかになされているのかを、実際例に即しながら理解することを目指します。そしてその理解の上にたって、自ら生涯学習の実践を、着実に積み上げていける態度を養成することを目指します。		
教材（教科書）	特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介します。		
教育方法	主として黒板・ホワイトボードを用いた講義法で授業を行います。具体的には授業の最初に配布したレジュメに必要事項を記入しながら進行する講義を実施します。またそのなかで発言や発表を求める場面もあります。そして講義の最後では、毎回の授業内容理解を問い、同時にその内容に対する感想や意見を問う、授業内アンケートの記入を行い、平常点評価の対象としていきます。		
評価方法	成績は、平常点と授業内に実施する小テスト、レポートの 3 点を総合して評価します。 成績に占める各課題の採点配分は以下のとおりとなっています。 授業内アンケートを中心とする平常点（授業内の発言・発表等を含む）（40%） 小テスト（20%） レポート（40%）		
到達目標	・生涯学習の実践とその方法に関する基本的な知識を習得する。 ・それらの知識と生涯学習の理論及び現代社会の課題との関連を理解し、説明することができるようになる。 ・上記の知識・理解を踏まえて、実際に生涯学習を実践していくための展望を、明示することができるようになる。		
授業時間外学習	毎回の講義終了時に次回の講義及び小テストに関連する資料を配布するので、次回の講義までに目を通しておいて、わからない箇所などを調べるようにしてください。また学期中に小テストを数回実施するので、授業後には復習として、内容の確認と要点の整理をかかさず行うようにしてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

【受講条件】
事前に「生涯学習概論Ⅰ」を履修しておいてもらうことが望ましいです。
【受講のルール】
遅刻をしないこと、及び他者の学習環境を阻害するような私語・食事をしないなど、最低限のマナーを守ってください。悪質な場合は退室を命じたり、平常点の減点対象としたりすることがあります。
【学習上の助言】
授業中に紹介した事例などを参考に、とくに興味をもった生涯学習の実践や関連施設について、運動の実態を調べたり施設に実際に訪問してみたりするなど、調査・体験を積極的に行うようにしてもらうことを推奨します。

授業スケジュール

1．ガイダンス：本講義の概要と成績評価方法
2．生涯学習理論・実践の現状と現代社会との関係
3．現代社会の課題に対応する生涯学習の実践①：個人化の進行と人権尊重の実現を目指す生涯学習
4．現代社会の課題に対応する生涯学習の実践②：自己実現・生きがいづくりのための生涯学習
5．現代社会の課題に対応する生涯学習の実践③：格差・孤立の解消を目指す若者支援の生涯学習
6．現代社会の課題に対応する生涯学習の実践④：生涯学習と環境教育・ESD
7．問題解決のための生涯学習の取り組み①：すべての人へのサービスをめざす図書館の実践と理念・方法
8．問題解決のための生涯学習の取り組み②：資格取得・キャリア形成の生涯学習
9．問題解決のための生涯学習の取り組み③：職業能力開発の生涯学習

１０．問題解決のための生涯学習の取り組み④：ボランティアなどに結実した青少年・若者たちへの生涯学習プラン
１１．ESD の観点から生涯学習の実践を考える①：公民館の実践する ESD 実践
１２．ESD の観点から生涯学習の実践を考える②：エコミュージアムを例にみた博物館教育のありよう
１３．ESD の観点から生涯学習の実践を考える③：京都で ESD を実践してみる（1）
１４．ESD の観点から生涯学習の実践を考える④：京都で ESD を実践してみる（2）
１５．これまでの授業の総括：生涯学習を実践していくことの意味をさらに深めてみる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50425A01
科目名	生物学概論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology A		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	これから多岐にわたる生物系の分野を学習する上で、基礎となり、かつ、生命現象全般に対する見通しのある視点を提供する。		
教材（教科書）	ビジュアル生物学（ニュートンプレス：￥2593＋税）		
教材（参考資料）	池内・伊藤・箸本（訳）、キャンベル生物学　原書９版、丸善出版（￥16,200）		
教育方法	教科書に沿って講義を行い、演習問題などをおこないつつ、効果的に知識を定着していく。また、まとまった単元ごとに、授業中に演習を行う。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	生命現象について、どのようなメカニズムで生命現象が実現されているのかという視点と、どのような機能を果たしているのかという視点の双方を習得する。 多岐にわたる生物系の分野に対し、知見を広げるとともに、それらを個別の知識に終わらせることなく、生命現象全般を見通す力を養う。		
授業時間外学習	授業終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この講義では生物学の基礎を学んでもらいます。これまでに生物学を学んだ経験の有無は問いませんが、好奇心を持って講義を楽しんでください。生物学も例外なく、細分化されてしまっていますが、本講義では、細分化されてしまった分野を統合して生物を理解することを試みます。各講義で扱う現象を理解するとともに、全体を見通す視点を養ってください。さまざまなレベルの生命現象を理解して、生命のすばらしさを堪能してください。

授業スケジュール

１　生命現象を理解するための４つの視点：ティンバーゲンの４つのなぜ
２　遺伝の法則・遺伝子 DNA
３　タンパク質と酵素
４　遺伝子の発現調節
５　遺伝子プールとハーディ・ワインベルグ平衡
６　自然選択と性選択
７　遺伝子のダイナミクス
８　性について
９　生命の歴史：系統樹
１０　生命の起源・繁栄・絶滅
１１　細胞の構造と機能
１２　個体の構造と機能
１３　生物の社会
１４　生態系
１５　ヒトの生物学

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50425A02
科目名	生物学概論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology A		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
授業概要	生物学は、進化の結果としての生命体を維持している構造、生命継承の仕組み、生命体間の相互作用の原理を解き明かすことを目的とする。本講義では主に動物に焦点を当て、進化、細胞・形態と機能、遺伝、行動・生態の基礎について概観し、最近の話題を取り入れながら講義する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』丸善　16,200 円		
教育方法	パワーポイントを活用した講義法で行う。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	生物に共通する普遍的性質と生物間で異なる多様な性質を理解する。		
授業時間外学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。

授業スケジュール

1. ガイダンス
2. 進化・適応　自然淘汰（選択）
3. 生態学　性淘汰（選択）
4. 生態学　捕食、食う食われる関係
5. 生態学　種間競争
6. 細胞の基本構造
7. 細胞膜、細胞間の情報連絡
8. 細胞周期
9. 遺伝の仕組み
10. 染色体と DNA
11. 遺伝子からタンパク質へ
12. 免疫系
13. ホルモンと内分泌系
14. 神経系
15. 総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J50425B01
科目名	生物学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology B		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
授業概要	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について講義する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	・Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』　丸善 ・橋本祐一・村田道雄編著 『生体有機化学』　東京化学同人 ・Molly M. Blomfield 著　伊藤俊洋ら共訳 『生命科学のための基礎科学ー有機・生化学編』　丸善		
教育方法	パワーポイントを活用した講義法で行う。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について理解する。		
授業時間外学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。			
授業スケジュール			
1　ガイダンス 2　糖質（炭水化物） 3　アミノ酸 4　タンパク質の構造 5　タンパク質の機能 6　演習 1 7　ヌクレオチドと核酸 8　核酸の機能 9　脂質 10　ビタミン 11　演習 2 12　サイトカイン 13　動物のホルモン 14　フェロモン／神経伝達物質 15　植物ホルモン			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J50425B02
科目名	生物学概論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology B		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
授業概要	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について講義する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	・Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』　丸善 ・橋本祐一・村田道雄編著 『生体有機化学』　東京化学同人 ・Molly M. Blomfield 著　伊藤俊洋ら共訳 『生命科学のための基礎科学ー有機・生化学編』　丸善		
教育方法	パワーポイントを活用した講義法で行う。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について理解する。		
授業時間外学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。			
授業スケジュール			
1　ガイダンス 2　糖質（炭水化物） 3　アミノ酸 4　タンパク質の構造 5　タンパク質の機能 6　演習 1 7　ヌクレオチドと核酸 8　核酸の機能 9　脂質 10　ビタミン 11　演習 2 12　サイトカイン 13　動物のホルモン 14　フェロモン／神経伝達物質 15　植物ホルモン			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J50463A01
科目名	伝統文化実習 A（茶道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Traditional Culture A		
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
授業概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎をビデオ・プリント等交えて概観し、茶の湯の実技を中心に行う。また茶の湯の菓子をデザインし、抹茶を点てる、頂くという、もてなしも体験していただきます。 また日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化の茶との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違にも言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、伝統文化の茶の湯を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	成果物 50%、レポート（課題）50%		
到達目標	茶の湯の実践を通じて日本の伝統文化を理解する		
授業時間外学習	実技の予習及び復習とプリントの確認をする		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日本の伝統文化である「茶の湯」に興味のある方			
授業スケジュール			
１．実習のための総論 ２．　茶の湯の基礎・割稽古 ３．　同上 ４．　同上 ５．　茶の湯の基礎・盆略点前 ６．　同上 ７．　同上 ８．　同上 ９．　同上独自のお菓子をデザインして創作する １０．　実践茶の湯のもてなし １１．　同上 １２．　同上 １３．　同上 １４．　伝統的なお菓子と濃茶を体験する １５．　世界のお茶でもてなす			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	J50463B01
科目名	伝統文化実習Ｂ（能楽）	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Traditional Culture B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	仕舞は、扇を持って、舞台で着物・紋付き、袴（はかま）の姿で能の一部分を舞うものです。 　謡は能の台本を、登場人物のせりふと、ナレーターの部分をみんなで一緒に謡って練習します。 どちらも能を演じる上での、修業の基本の部分ですが、仕舞では身体を動かし足拍子のリズムを楽しみ、 謡では少し慣れたら、鬼や姫君や殿様などいろんな登場人物のせりふ回しを学んでみましょう。 着付けも練習します。 平安神宮の薪能を見学に行きます。		
教材（教科書）	プリントと CD を配布します		
教材（参考資料）	能・狂言図典　　小林保治・森田拾四郎編　　小学館　　2003 刊		
教育方法	毎回、舞の実技を行い、後半の時間で謡の実技を行います。 最初はお手本をする「先生のまねをしていますが、しだいに ３人ずつ、２人ずつで舞うようになり完璧に動きを覚えると１人で舞えるようになります。 １人で舞えるようになると、注意を受けながら少しずつ修正をしていきます。 謡のリズムに合わせて舞えるようになれば完成です。 １０回の練習で完成するように計画的に行います。 謡の場合も同じです。		
評価方法	授業への参加度や熱意。練習の習熟度。最後の発表会参加は必須です。薪能見学のレポート。		
到達目標	仕舞が一番（一曲）舞えるようになること 海外で日本の伝統文化を紹介出来るようになること 姿勢が正しくなり、大きな声が出るようになること		
授業時間外学習	配布したＣＤを、繰り返し聞いて復習してください。 牛若丸（源義経）と弁慶の話を漫画でもよいので読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
初心者歓迎。伝統文化論Ｂの講義をあらかじめ受講する必要はありません。 不安な場合は担当者に相談してください。 授業時間内に他の人の練習を見学する時間もありますが、「芸は盗むもの」といいます。 伝統芸能は熱心に見ることで上達しますから、そのつもりで意欲的に授業に取り組んでください。 フィールドワークとして平安神宮の薪能の見学があります。 チケット代自己負担が千円程度かかります。たびを持っていない人は、購入費千円程度を用意して下さい。
授業スケジュール
１　仕舞の基本　　扇の持ち方と構え方　運歩　足拍子のリズム ２　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（前半） ３　復習 ４　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（後半） ５　薪能見学の事前学習 ６　薪能の見学（フィールドワーク） ７　謡　復習・仕舞の復習 ８　謡「橋弁慶」弁慶と従者のやりとり　　仕舞「鶴亀」 ９　謡「橋弁慶」牛若丸登場　　仕舞「鶴亀」 １０　謡「橋弁慶」五条の橋の対決　　仕舞「鶴亀」 １１　練習 １２　リハーサル １３　着物や袴を身につけて仕舞を舞う　発表会　第一グループ 14　　同上　第二グループ

１５　着物や袴のたたみ方の習得

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J50476A01
科目名	伝統文化論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Traditional Culture A		
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
授業概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎や歴史を教科書・ビデオ等交えて概観し、茶の湯の舞台ともいえる茶の湯の庭(露地)と茶の湯の建築(茶室)の成り立ち、茶人のこだわり、そしてそこから窺える精神性をも解説したい。 更に、日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違に言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、自国の伝統文化を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。		
教材（教科書）	『茶道文化検定公式テキスト３級』飯島照仁共著　淡交社		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	成果物 20%、レポート（課題）30%、筆記試験 50%		
到達目標	茶の湯を通じて日本の伝統文化を理解する。		
授業時間外学習	教科書の予習及び復習		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日本の伝統文化である「茶の湯」に興味のある方			
授業スケジュール			
１．　伝統文化総論 ２．　日本の伝統文化(茶の湯)と衣・食・住の基礎知識 ３．　同上 ４．　茶の湯入門 ５．　同上 ６．　同上 ７．　同上 ８．　茶の湯の建築入門 ９．　同上 １０．　同上 １１．　同上 １２．　茶の湯の庭入門 １３．　同上 １４．　同上 １５．　茶の湯体験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J50476B01
科目名	伝統文化論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Traditional Culture B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	日本の伝統文化は、中世に源流があると言われる。伝統文化論Ａは茶道を取りあげ、 この伝統文化論Ｂは能楽を取りあげるがいずれも中世に確立し、今日まで発展している 日本の伝統文化である。とくに京都は、その本場であるから、しっかり知識を身につけて欲しい。 茶道は静寂を旨とするから、音楽であり、劇である能楽は、茶道が持っていない面を補い、茶道と能楽は深く関わりつつ互いに補完する関係である。 講義では、伝統芸能の歴史から、能楽の内容、つまり文学（謡曲）・音楽（囃子）・工芸（能衣装）・彫刻（能面）・演技（型と舞）・能舞台（建築）の諸要素を、実際にシテ方能楽師（＝能面をかけて主役を担当する）として長年活動している山﨑が演技者の立場から解説する。 　百聞は一見にしかず、というが、演劇に関してはまさにその通りなので、１２月８日（土）に行われる能の催しを見学する。		
教材（教科書）	プリントを作成して配布する。		
教材（参考資料）	『能楽と崑曲』（赤松紀彦他編　汲古書院　２５００円）		
教育方法	基本的には作品内容の講義とビデオ鑑賞を組み合わせて１回とする。 １回は実際に能楽堂へのフィールドワークをする。 能のワークショップの機会が得られれば、フィールドワークを行う。 毎回ではないが、質問を記入してもらい次の時間に説明して疑問を解消していく。		
評価方法	授業内小テスト 能見学レポート 授業内の質問など		
到達目標	日本の伝統芸能の基本的な知識の修得。 舞台を見て能楽・文楽・歌舞伎の区別がつくこと。 芸能の素地となっている物語を理解していること。 実技がどんなものか、体験をしていること。 実際の生の舞台を見る経験をすること。		
授業時間外学習	前回の授業内容の復習をすること。 興味をもって専門用語などを調べてみること。 古典芸能のテレビ放送などを見ておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回の講義を簡単にノートにまとめてみること。きちんと授業に出席すること。 能見学のチケット代が自己負担千円程度必要です。 １２月８日（土）はフィールドワークなので午後の予定を空けておくこと。			
授業スケジュール			
1　古典芸能史……能楽・文楽・歌舞伎のちがい 2　いちばん面白い能・「道成寺」…ＤＶＤで見る 3　「道成寺」後半を見る 4　能面のいろいろ 5　能「鉄輪」と『陰陽師』 6　能の五番立て　　神・男（武将）・女（姫君）・現在物（ドラマ）・鬼 7　フィールドワーク事前学習 8　フィールドワーク能の見学（12 月 8 日（土）午後）			

（都合がつかない人は別の日の公演を代用します）
9　「橋弁慶」牛若丸・弁慶の出会いと間狂言の寸劇
１０　能楽の楽器のいろいろ　大鼓・小鼓・笛・太鼓
１１「松風」伊勢物語と能
１２　「海士」玉取り伝説と能
１３「邯鄲」中国の伝説と能
１４　「靱猿（うつぼざる)」の狂言
１５　能装束の工芸品としての要素

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50478B01
科目名	都市文化史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Urban Culture History B		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
授業概要	都市伝説というコトバが学術用語ではなく一般の日常会話のなかに現れるようになったのは、それほど古い話ではない。村落共同体での口頭伝承である昔話の研究が進められる中で、都市においてもかつての昔話や伝説のような口頭伝承が生成されつつあることが明らかになり、「学校の怪談」などポピュラーな切り口がされるに至って、一般の人気を得たものと思われる。近代都市が生み出した様々な文化のあり処に思いを致す時、都市伝説の語感による都市と、文化史を結びつけた都市文化史は、その複雑怪奇性といい、百鬼夜行性といい申し分のない括り方ではないだろうか。都市文化史Ｂでは大衆と死の共同体という観点から都市文化史を考える。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	板書とパワーポイントによる講義形式で行う。その都度文献を紹介するので、関心を持った部分についてそれを読むようにすると、「都市」への理解が深まるだろう。		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（30%）レポート（70%）		
到達目標	現代文明への批評的観点の養成と、歴史的事実との接続への関心。		
授業時間外学習	各自関連文献を読んでおくのは重要である。毎回関連文献を提示するので、適時それに時間を割くように。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
一見合理的に成立しているような事象でも、歴史的に検証するとまったく違う理由から成立していることがわかったりする。そういうことへの関心を育てるように。			
授業スケジュール			
（1）大衆と都市 （2）秋葉原と夢野久作 （3）バタイユ『青空』 （4）死の共同体 （5）神話としてのドン・ジュアン （6）ファウスト （7）死の時代 （8）虐殺・神話 （9）図像学の誕生 （10）アビ・ヴァールブルグ （11）ゴーレム （12）絵引 （13）街をあるく （14）異形異類 （15）再び江戸の大衆社会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50501A01
科目名	歴史学特殊講義（日本近現代史） Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Modern J apanese History) I		
担当者名	平良　聡弘	旧科目名称	
授業概要	本授業のテーマは、「幕末維新の政治社会と人物群像」です。今年は「明治 150 年」にあたり、全国的に記念事業が催される予定ですが、この機会に、明治の幕開けとなった幕末維新の歩みについて、歴史学的に眺め直してみようというのが狙いです。 授業の前半では、幕末維新期における政治社会の展開過程について、研究史をふまえながら、概説的な流れをおさえていきます。後半では、幕末維新期に実在した人物をとりあげ、その人物の軌跡を通じて幕末維新という時代の特質を考えていきます。 なお授業は、主に講義形式で進めますが、小レポートを課したり話を振るなど、学生の諸君とのコミュニケーションをはかるつもりです。		
教材（教科書）	とくに使用しません。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介します。		
教育方法	毎回、レジュメ・資料プリントを配布します。		
評価方法	平常点（出席・授業態度・小レポート等）50％　＋　学期末課題 50％		
到達目標	「なんとなくそうだと思っていること（思わされていること）」を疑い、みずからの考えを変えていける柔軟性と思考力を、歴史を題材に身につける。		
授業時間外学習	授業のなかで紹介する文献に目を通す。 授業のあとにはかならず、レジュメ・資料プリントを読みなおし、復習する。 歴史を題材にした映画・ドラマ・小説などにふれる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日本史に関する知識の多寡は問いません。授業で得たものを通じて自分で考えること、これだけを望みます。 ばくぜんと受け身で授業に臨むのではなく、問題関心をもって能動的な姿勢を求めます。 なお、授業態度については厳しく対処します（とくに途中退席・スマホなど）。			
授業スケジュール			
1　ガイダンス 2　日本の開国 3　幕末政治の展開 4　維新の諸相 5　日本近代の明治維新像 6　大久保利通と西郷隆盛　―薩摩藩「誠忠組」の若人たち― 7　木戸孝允と高杉晋作・久坂玄瑞　―吉田松陰の「遺志」を継ぐものたち― 8　坂本龍馬と中岡慎太郎　―新たな国家を目指して― 9　近藤勇　―浪士組から新撰組へ― １０　徳川慶喜　―大政奉還の真意やいかに？― １１　岩倉具視　―王政復古への道― １２　湯浅五郎兵衛　―名もなき志士の軌跡― １３　羽山大学　―政治情報を求める地方知識人― １４　若山要助　―洛中郊外から見た幕末維新― １５　アーネスト・サトウ　―英国外交官の見た幕末維新―			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50501B01
科目名	歴史学特殊講義（日本近現代史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Modern J apanese History) II		
担当者名	平良　聡弘	旧科目名称	
授業概要	本授業のテーマは、「外国から見た日本の近代」です。外国人が日本の近代をどのように認識していたのか、同時代の外国人の言説や図像にふれながら、日本の近代史を多面的に再考することを狙いとしています。 具体的には、外国で刊行されていた新聞・雑誌、日本に設けられた居留地に居住する外国人が発刊した居留地新聞、来日・滞在・帰化した外国人の日記・随筆・紀行文にもとづき、外国人の日本イメージについて理解を深め、日本の近代史を外の視点から見直そうと試みます。 本授業の性格上、使用する資料はもとは外国語のものですが、私のほうで翻訳したものや翻訳刊行文献を用いますので、外国語が読めなくてもまったく支障ありません。 なお授業は、主に講義形式で進めますが、小レポートを課したり話を振るなど、学生諸君とのコミュニケーションをはかるつもりです。		
教材（教科書）	とくに使用しません。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介します。		
教育方法	毎回、レジュメ・資料プリントを配布します。		
評価方法	平常点（出席・授業態度・小レポート等）50%　＋　学期末課題 50%		
到達目標	「なんとなくそうだと思っていること（思わされていること)」を疑い、みずからの考えを変えていける柔軟性と思考力を、歴史を題材に身につける。		
授業時間外学習	授業のなかで紹介する文献に目を通す。 授業のあとにはかならず、レジュメ・資料プリントを読みなおし、復習する。 歴史を題材にした映画・ドラマ・小説などにふれる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日本史に関する知識の多寡は問いません。授業で得たものを通じて自分で考えること、これだけを望みます。 ばくぜんと受け身で授業に臨むのではなく、問題関心をもって能動的な姿勢を求めます。 なお、授業態度については厳しく対処します（とくに途中退席・スマホなど)。			
授業スケジュール			
1　ガイダンス 2　不平等条約と日本近代 3　日本開国運動から見た日本 4　外国新聞・雑誌から見た日本開国 5　外国新聞・雑誌から見た幕末維新 6　外国新聞・雑誌から見た文明開化 7　外国新聞・雑誌から見た日本の近代化 8　外国新聞・雑誌から見た日清・日露戦争 9　「日本的市場」論 １０　「日本的社会」論 １１　「日本的精神」論 １２　ジャパノロジーの成立 １３　アジアイメージのなかの日本 １４　オリエンタリズムと「文明化の使命」論 １５　「日本文化」論について考える			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50505A01
科目名	歴史学特殊講義（日本近世史）Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (History at the Early Modern Age of Japan) I		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	江戸時代は書物の時代ともいわれています。色鮮やかな錦絵や、小説や教科書、辞書、儒学書、まじないの本など、多種多様な本が出版され、日本各地の村々にいたるまで書物が行き渡った時代です。本講義では、そのような江戸時代の多様な出版物を紹介し、さらにそれらがどのように作られ、広まっていたのかを検討しながら、書物を史料として、江戸時代という時代の特色を読み解いていきます。		
教材（教科書）	使用しません。		
教材（参考資料）	その都度、指示します。		
教育方法	パワーポイントと毎回、配布するレジュメを使用する講義。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　30% レポート　70% ※受講生の数によって、試験になる場合があります。		
到達目標	・江戸時代の書物文化の特色を理解する ・歴史へのアプローチの方法がさまざまにあることを理解する ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を理解する		
授業時間外学習	・教科書は用いないので、予習を行う必要はない。 ・毎回のレジュメを熟読して復習をすること。 ・また講義を休んだ人も、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくこと。 ・15 回の講義のなかで、気になる回について、最低１冊は関連する本を読むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。なお授業中もスマホをずっとやっていたい、スマホ中毒の人の受講は認めません。当方がそのように判断した場合、単位はだしません。			
授業スケジュール			
第１回　ガイダンス 第２回　江戸時代の地震となまず絵 第３回　江戸時代の『源氏物語』 第４回　錦絵の生産と流通 第５回　江戸時代前期の出版関係法令 第６回　歌麿と幕府の出版統制 第７回　奇想の画家国芳と風刺浮世絵 第８回　判じ絵を読み解く 第９回　出版文化と日用教養書 第 10 回　京都の通り名歌の歴史 第 11 回　江戸時代教養文化のなかの天皇・公家像 第 12 回　江戸時代の七夕文化 第 13 回　江戸時代、書物文化の広がりと常識の形成 第 14 回　疱瘡神の詫び証文と小浜の豪商組屋六郎左衛門 第 15 回　おまじないの歴史			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50505B01
科目名	歴史学特殊講義（日本近世史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (History at the early modern age of Japan) II		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	近世史研究、すなわち、江戸時代を対象とした歴史研究について、さまざまな分野の研究をとりあげて、古典的論文から最新研究成果まで紹介する講義である。秀吉、休日、法律からおっぱいまでさまざまなものが歴史の対象となる。この講義を通して江戸時代の豊かな世界に触れることとなる。また歴史学の対象としての江戸時代の特色は、それまでの時代と比べて、格段に大量の、またバラエティに富んだ史料が残されていることにある。そのような史料を読み解く眼も養う。		
教材（教科書）	使用しません。		
教材（参考資料）	その都度、指示します。		
教育方法	パワーポイントと毎回、配布するレジュメを使用する講義。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　30% レポート　70% ※受講生の数によって、試験になる場合があります。		
到達目標	・江戸時代の社会の仕組みを理解する ・歴史へのアプローチの方法がさまざまにあることを理解する ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を理解する		
授業時間外学習	・教科書は用いないので、予習を行う必要はない。 ・毎回のレジュメを熟読して復習をすること。 ・また講義を休んだ人も、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくこと。 ・15 回の講義のなかで、気になる回について、最低 1 冊は関連する本を読むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。なお授業中もスマホをずっとやっていたい、スマホ中毒の人の受講は認めません。当方がそのように判断した場合、単位はだしません。			
授業スケジュール			
第 1 回　ガイダンス 第 2 回　政治史：秀吉の平和 第 3 回　政治史：「惣無事令」はなかった！？ 第 4 回　政治史：江戸時代のお殿様の役割 第 5 回　文化史：江戸時代における文字の役割 第 6 回　文化史：音読と黙読 第 7 回　文化史：江戸時代の識字率は世界一！？ 第 8 回　女性史：遊女へのまなざし 第 9 回　女性史：おっぱいの歴史 第 10 回　社会史：休日の歴史 第 11 回　地域史：保津川の歴史 第 12 回　地域史：隠岐と京都 第 13 回　史料論：一次史料と二次史料 第 14 回　史料論：史料批判について考える 第 15 回　卒業論文の書き方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J50510C01
科目名	日本文学特殊講義Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature C		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	文学と歴史の宝庫、京都から学ぶ。授業を受け、その後自由な時間を使って各自フィールドワークし、その成果をレポートとする。授業では古典作品を扱うが、すべて現代語訳付なので恐れるには足りない。講義と体験で、古典も京都も自分のものにしよう。 ただし、費用と時間と労力がかかる授業であることを承知の上、受講してほしい。		
教材（教科書）	プリントを配布する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	毎回の授業における発言、朗読、提出物による平常点（40%）　課題（30%×２）		
到達目標	古典文学と資料を読み解きながら、京都に実感的に親しむ。作品や史料を知識として知るだけでなく、自分の心でそれを鑑賞・考察する。京都についても、自分で調べ自分で歩き、京都の史跡を体感する。		
授業時間外学習	授業外の任意の時間を使って、課題であるフィールドワークを行うこと。 卒業研究に平安時代の文学・歴史・文化を予定している場合は、授業時に紹介される参考文献を読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。

授業スケジュール

1　単位取得方法の説明等
2　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生１
3　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生２
4　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生３
5　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生４
6　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生５
7　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生６
8　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生７
9　安倍晴明　平安京ミステリー１
10　安倍晴明　平安京ミステリー２
11　安倍晴明　平安京ミステリー３
12　安倍晴明　平安京ミステリー４
13　安倍晴明　平安京ミステリー５
14　安倍晴明　平安京ミステリー　６
15　安倍晴明　平安京ミステリー　７（レポート外授業）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50510D01
科目名	日本文学特殊講義Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature D		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	日本の江戸時代の文化を中心に扱う。江戸時代、三都と言われたのは江戸・京・大坂であった。江戸前期に京・大坂を中心とする上方文化が栄え、後期は文化が東漸し江戸文化が栄える。この講義では、東西の文化を比較しつつ、江戸文化を紹介することによって、上方、特に京都文化を逆照射することを試みたい。 武士・町人の人口割合も影響したといわれる当時の東西文化の特徴が、現代の当地気質にも及んでいることを考察したいと考える。 具体的には、浮世絵を文学の立場から読み解いてみることを試みたい。 北斎の『北斎漫画』や国芳の絵本を題材に、北斎に取りあげられユーモラスに描かれた 江戸時代の町の人々のくらしの様子を読み解き、 時には歴史上の英雄や妖怪などの 絵にまつわる日本と中国の多彩な物語を紹介していく。 フィールドワークとして、江戸時代の遊里の代表的な建築物である島原の「角屋」の見学を行う。		
教材（教科書）	『北斎漫画』『国芳の絵本』（岩崎美術社）の必要部分をプリントして配布する		
教材（参考資料）	『北斎漫画』１～５編、『国芳の絵本』一二、（岩崎美術社）		
教育方法	初めから数回は北斎や江戸時代絵画史について講義。 中盤以降は各学生が担当部分について調べてきて発表する。		
評価方法	授業中の発言や作業の提出２０％、発表５０％、およびフィールドワークのレポート３０％。		
到達目標	絵の出典はさまざまなので、 多様な資料に接することになる。		
授業時間外学習	葛飾北斎について、展覧会などがあったら見に行ってほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回出席すること。 意見や感想を遠慮なく発言すること			
授業スケジュール			
１　江戸時代の絵画 ２　浮世絵師の勢力分布と画風 ３　葛飾北斎の画風の変遷 ４　『北斎漫画』の紹介 ５　『国芳の絵本』の紹介 ６～１１　各図の出典を考える １２　フィールドワーク　島原の「角屋」見学 １３　同じ画題がどのように絵師によって違ってえがかれているかを比較する １４　清水勲著『北斎漫画～日本マンガの原点～』について考察する（１） １５　清水勲著『北斎漫画～日本マンガの原点～』について考察する（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J50513A01
科目名	歴史学特殊講義（日本古代史）Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese Ancient History) I		
担当者名	西山　良平	旧科目名称	
授業概要	古代都市（首都）は日本の歴史の総体を直接に反映する。日本の古代都市の成立から、摂関・院政期の平安京の変貌までを理解する。日本の古代都市の成立は、７世紀末の都城・藤原京とされることが多い。古代都城・藤原京の意義と限界、平城京の特質と実態を修得し、さらに長岡京遷都の背景を理解する。ついで平安京遷都の経過を検証し、初期平安京の構造を理念と実際の両面から学習する。つぎに、西暦 1000 年前後の平安京の変貌を多面的に考察し、院政期の開発・再開発を権門と都市住人の両面から修得する。平城京・平安京の都市社会や住人に焦点をあて、西暦 1000 年前後の画期を強調する。文献史料のほか、近年は発掘調査の成果が顕著であるので、発掘調査のデータや絵画史料を活用する。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	木下正史・佐藤信編『飛鳥から藤原京へ』（古代の都１）吉川弘文館、２０１０年 田辺征夫・佐藤信編『平城京の時代』（古代の都２）吉川弘文館、２０１０年 西山良平・鈴木久男編『恒久の都 平安京』（古代の都３）吉川弘文館、２０１０年		
教育方法	プリントを画面に映写し、板書しつつ講義する。発掘調査や絵画資料のスライドを使用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０％）。定期テスト（５０％）。		
到達目標	１ 日本の７世紀末から１２世紀までの正確で幅広い知識を獲得する。 ２ 発掘調査の成果や文献史料の原典から新しい情報を発見して歴史像を組み立てる。 ３ 歴史情報を外部に発信するための技術を身につける。		
授業時間外学習	授業のテキスト（プリント）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、資料や図面の内容を理解しておくこと。また、参考文献の該当箇所を読んでおくこと。授業終了時に復習課題を指示する。授業の区切りごとに復習課題から小テストを出題する。小テストの範囲は事前に知らせるので、学習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件：日本史概説Ａ・日本史概説Ｂを履修していることが望ましい。
受講のルール：能動的な姿勢で講義に出席すること。遅刻や私語は禁止。遅刻は理由を申告すること。私語は退出を求める。
学習上の助言：教材（参考資料）を読むことを推奨する。

授業スケジュール

1　「古代」都市の変遷と日本都市史
2　藤原京の成立過程
3　藤原京の意義と限界
4　平城京遷都
5　平城宮・京の特質
6　平城京の社会構造
7　長岡京遷都
8　平安京遷都
9　初期平安京の特質
10　初期平安京の社会構造
11　平安京の変貌と町屋の成立
12　摂関期の「随近の人」「近辺の人々」
13　摂関・院政期の町小路
14　院政期の開発と再開発
15　西暦 1000 年前後の画期と院政期以降の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50513B01
科目名	歴史学特殊講義（日本古代史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese Ancient History) II		
担当者名	西山　良平	旧科目名称	
授業概要	八世紀・九世紀を中心に、日本の歴史を学習する。八世紀・九世紀には様々な政変・謀反が生起する。政変・謀反を素材に王権や政治のあり方を理解する。岸俊男氏は天皇・太上天皇の「崩御」に注目し、「皇権」の所在や強度を測定する。皇太子は自分を任命した天皇が存命するかぎり地位は安泰であるが、その天皇が死亡した場合、先帝の決定は不安定となる。ここに天皇の実権の限界があり、そのため天皇の死後にしばしば王位継承の紛争（政変）が勃発するとする。早川庄八氏は宣命を素材に、八世紀の天皇は「率直であり、人間的」であるが、桓武天皇を起源に定型化し、「人間性を喪失」するとする。岸氏や早川氏の見解を手がかりに、紛争・政変の目的と顛末を追跡し、八世紀・九世紀の王権や政治のあり方を修得する。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	岸　俊男『日本古代政治史研究』塙書房、１９６６年 早川庄八『天皇と古代国家』講談社学術文庫、２０００年 河内祥輔『古代政治史における天皇制の論理［増訂版］』吉川弘文館、２０１４年		
教育方法	プリントを画面に映写し、板書しつつ講義する。平城宮・京や平安宮・京の発掘調査のスラ		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０％）。定期テスト（５０％）。		
到達目標	１　８世紀から９世紀の歴史とその背景を具体的な素材を通して理解し、歴史的に思考する。 ２　歴史的な思考の根拠となる歴史史料・情報（文字資料、発掘調査など）を読み解く。 ３　外部に意見や情報を発信できる知識を身につける。		
授業時間外学習	授業のテキスト（プリント）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、資料や図面の内容を理解しておくこと。また、１週間前に参考文献の該当箇所を指示するので、読んでおくこと。授業終了時に復習課題を指示する。授業の区切りごとに復習課題から小テストを出題する。小テストの範囲は事前に知らせるので、学習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件：日本史概説Ａ・日本史概説Ｂを履修していることが望ましい。
受講のルール：能動的な姿勢で講義に出席すること。遅刻や私語は禁止。遅刻は理由を申告すること。私語は退出を求める。
学習上の助言：教材（参考資料）を読むことを推奨する。

授業スケジュール

1　八世紀の政変と八世紀政治史の方法
2　橘奈良麿の変の計画
3　橘奈良麻呂の変の前史
4　橘奈良麻呂の変の結末
5　藤原仲麻呂の乱の経過
6　藤原仲麻呂の乱の戦闘
7　藤原仲麻呂の乱の結末
8　廃太子の実態
9　廃皇后の特色
10　廃帝の実例
11　謀反人の幽閉
12　九世紀の謀反人の行方
13　八世紀前半の謀反の結末
14　八世紀中期の変化
15　九世紀以降の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50527A01
科目名	日本語学講読Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading on Japanese Language Study A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	講読の授業であるから、はじめのうちは、教員が講義するが、資料に慣れてきた段階で学生諸君に調べたところを発表してもらう。 「講読」は、３回生の「演習」、４回生の「卒論」に対する基礎を学ぶ科目であり、その基礎を築く重要な科目である。 歴史、京都文化、ことば、に興味のある人に受講してもらいたい。		
教材（教科書）	テキストは、江戸時代の『皇都午睡（みやこの昼寝)』を用いる。 テキストは、コピーして配布するので、教科書を購入する必要はない。		
教材（参考資料）	『浮世風呂』（岩波、新日本古典文学大系他） 『浮世床』（新潮社　日本古典文学集成）		
教育方法	双方型の講義形式で行う。 割り当てられた担当箇所について学生は発表し、それについての教員の説明を聞く。		
評価方法	授業内発表(50%)と期末レポート(50%)で評価する。		
到達目標	注釈書などが出ていない、言わば手垢のついていない作品を読み、その作品の時代背景や作者の意図することに鑑みながら、深い理解が出来るようになる。		
授業時間外学習	授業終了時に次回の講義の資料を配布するので、次回までの読んでおくこと。また、その日のうちに、当日の授業内容を反復して読み直すこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件　特になし

受講のルール　私語は厳に慎むこと。

学習上の助言　江戸時代の戯作文学を一冊でよいから読了してみること。

授業スケジュール

１．作品の背景
２．講読
３．講読
４．講読発表
５．講読発表
６．講読発表
７．講読発表
８．講読発表
９．講読発表
１０．講読発表
１１．講読発表
１２．講読発表
１３．講読発表
１４．講読発表
１５．講読発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J50529C01
科目名	日本語学特殊講義C	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Language Study C		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	「京ことば」を多角的に探究する講義である。 京都が舞台となるテレビや映画、アニメは多いが、それらで使われている京都の言葉に問題はないかを検証することから始める。 また、京都の言葉は長く日本の中央語であった。つまり、京都語の歴史はそのまま日本語の歴史と言ってよい。本講義では、その京都語の中央語性に鑑み、その音韻的・文法的・語彙的な変遷を詳しく見ていきたい。		
教材（教科書）	こちらで用意する。		
教材（参考資料）	授業内で適宜紹介する。		
教育方法	講義形式。		
評価方法	期末試験 or レポート（100%）による評価。		
到達目標	京都語学（日本語学）の基礎知識が身につく。 京都の大学に通っていたことを将来示せるような京ことばについての知識が身につく。		
授業時間外学習	京都が舞台の番組、映画、小説などに触れておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件　なし
受講ルール　授業中の私語は厳禁。
学習上の助言　常に京ことばと自分の出身地のことばを比較すること。

授業スケジュール

1　ドラマ・映画・アニメの京ことば
2　京ことばリテラシー
3　京ことばの位置
4　中央語としての京都語の変遷
5　京都語の文法１
6　京都語の文法２
7　京都語の音韻
8　唇音退化
9　ハ行転呼音現象
10　仮名遣
11　アクセント１
12　アクセント２
13　現代の京ことば研究
14　標準語は存在するか
15　将来の京ことば像

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50539101
科目名	日本史研究入門　Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Study of Japanese Histor y Ⅰ		
担当者名	中町　美香子	旧科目名称	
授業概要	日本史を研究していく上で、史料を読み、内容を正確に理解することは最も基本であり、また、不可欠なことである。この講義では、そのためにまず知っておくべき基礎知識を学び、また、史料解釈や研究に必要なさまざまな事柄を調べる方法を学ぶ。そして、実際に調べたり史料の読解を行ったりしながら、それらを習得していく。春学期の「日本史研究入門Ⅰ」はその基礎編、秋学期の「日本史研究入門Ⅱ」はその応用編という位置づけである。「日本史研究入門Ⅰ」では、とくに基礎的な知識を身につけ、調べる力を養うことに重点をおく予定である。		
教材（教科書）	プリントを配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて指示する。		
教育方法	基本は講義形式で行うが、実習や演習の形式も取り入れる。		
評価方法	講義への参加態度や講義内での課題等による平常点（60%）と期末課題（40%）で評価する。		
到達目標	日本史の史料を読む上での基本的な事項を理解する。日本史の研究に必要なさまざまな事柄を自力で調べられるようになる。		
授業時間外学習	学んだことを復習し、それを利用して出された課題を仕上げる。あらかじめプリントを配布した場合は指示した作業を行っておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義ではあるが、各自に作業してもらうことも多いので、積極的に取り組んでもらいたい。 指示した時以外の携帯・スマホの使用は禁止する。一時退室する場合は理由を述べる。			
授業スケジュール			
１．　ガイダンス ２．　日本史の基礎知識① ３．　日本史の基礎知識② ４．　日本史関係の辞書・文献① ５．　日本史関係の辞書・文献② ６．　日本史関係のデータベース等 ７．　図書館・博物館等 ８．　日本史の史料① ９．　日本史の史料② １０．日本史の史料③ １１．日本史の史料④ １２．日本史の史料⑤ １３．日本史の研究分野① １４．日本史の研究分野② １５．日本史の論文の作法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50539201
科目名	日本史研究入門　II	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Study of Japanese Histor y II		
担当者名	中町　美香子	旧科目名称	
授業概要	日本史を研究していく上で、史料を読み、内容を正確に理解することは最も基本であり、また、不可欠なことである。この講義では、そのためにまず知っておくべき基礎知識を学び、また、史料解釈や研究に必要なさまざまな事柄を調べる方法を学ぶ。そして、実際に調べたり史料の読解を行ったりしながら、それらを習得していく。春学期の「日本史研究入門Ⅰ」はその基礎編、秋学期の「日本史研究入門Ⅱ」はその応用編という位置づけである。「日本史研究入門Ⅱ」では、「日本史研究入門Ⅰ」で学んだ知識を活かしながら、史料を読み、関連事項を調べて、史料解釈の能力を養うことに重点をおく予定である。なお、史料は古代・中世史料が中心となる。		
教材（教科書）	プリントを配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて指示する。		
教育方法	基本は講義形式で行うが、実習や演習の形式も取り入れる。		
評価方法	講義への参加態度や講義内での課題等による平常点（60%）と期末課題（40%）で評価する。		
到達目標	日本史の史料を読む上での基本的な事項を理解し、日本史の研究に必要なさまざまな事柄を自力で調べられるようになる。史料読解の基礎力を身につける。		
授業時間外学習	学んだことを復習し、それを利用して出された課題を仕上げる。あらかじめプリントを配布した場合は指示した作業を行っておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義ではあるが、各自に作業してもらうことも多いので、積極的に取り組んでもらいたい。 指示した時以外の携帯・スマホの使用は禁止する。一時退室する場合は理由を述べる。			
授業スケジュール			
１．　ガイダンス ２．　史料読解の基礎① ３．　史料読解の基礎② ４．　史料読解の基礎③ ５．　古代史の研究と史料 ６．　中世史の研究と史料 ７．　近世史の研究と史料 ８．　近代史の研究と史料 ９．　史料の読解① １０．史料の読解② １１．史料の読解③ １２．史料の読解④ １３．史料の読解⑤ １４．総合的な課題にとりくむ １５．日本史の論文の作法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50544A01
科目名	歴史学特殊講義（日本中世史）Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese History in the Middle Ages) I		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	中世の歴史文化に関して、２つのテーマをとりあげる。第１は、中世の人々はなぜ宗教を信じていたのかという問題を、技術史的背景から考える、第２は外来文化である仏教がなぜナショナリズムと結びついたのかという問題を、神仏関係を素材に考察する。 ①中世は技術が進歩したという側面と、技術がまだまだ未熟であるという二つの側面をもつ。宗教は合理性を超越したものだが、しかし技術や知識が進歩してくると、宗教の内部に合理性を取り入れなければ社会の信頼を維持することができなくなる。他方、技術の未熟さ、人間の力の限界は、呪術や宗教への依存を不可避とする。これらを通して、中世仏教における合理と非合理との関係について考えたい。 ②仏教はもともと外来文化であるが、それが日本社会に定着するようになると、仏教が日本的なものとみなされ、仏教の繁栄が日本の卓越性を示すものとされた。そしてそれがモンゴル襲来を機に独善的な神国思想へと変容してゆく。外来文化がナショナルな感情と結びついていった原因について考えたい。		
教材（教科書）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期テスト（70%）		
到達目標	・日本中世の歴史文化について、最新の研究動向を理解する。 ・柔軟で批判的な思考を涵養する。		
授業時間外学習	・高校の日本史教科書の古代・中世の文化の項を復習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。

授業スケジュール

1.中世は呪術からの解放の時代か？
2.肖像画と呪詛
3.護持僧
4.顕密仏教の合理性
5.治病と祈祷
6.万能でない神仏
7.古代・中世における神と仏
8.神仏同体論
9.賀茂社と神仏習合
10.伊勢神宮と仏教
11.神々と三国世界
12.辺土小国観の克服
13.中世神道と顕密仏教
14.神国思想と仏国思想
15.仏教の時代の終焉と世界地図

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J50544B01
科目名	歴史学特殊講義（日本中世史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese History in the Middle Ages) II		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	近年の高校日本史の教科書では、中世を鎌倉幕府ではなく、院政時代から始めるものが増えている。学界の定説を反映させたものであるが、これは中世の始まりが 150 年早くなったというだけの話ではない。鎌倉幕府の成立よりも、院政時代の方が重要な歴史的画期であるということだ。それはまた、中世を武士・幕府・鎌倉新仏教で捉えてきた歴史像への批判であるし、鎌倉新仏教という概念の有効性すら否定されようとしている。日本中世は本当に武士の時代なのだろうか。鎌倉新仏教の時代なのか。 本講では、仏教・寺院を中心的素材としながら、日本の古代社会から中世社会への転換過程を検討する。		
教材（教科書）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	プリントを適宜配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期テスト（70%）		
到達目標	・日本の古代中世史についての最新の学説を理解する。 ・柔軟で批判的な思考様式を体得する。		
授業時間外学習	・高校日本史の教科書の古代・中世の項を復習しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。			
授業スケジュール			
1.「鎌倉新仏教」概念の破綻 2.呪詛と祈祷 3.律令体制から王朝国家体制へ 4.宗教政策の転換 5.中世寺院への転換 6.寺院による文書偽造 7.末法思想の流布 8.民衆にとっての強訴とは？ 9.　顕密仏教の民衆的基盤 10.鎌倉初期の仏教改革 11.異端とその弾圧 12.禅律僧の時代 13.非人救済活動の二面性 14. 禅宗と朝廷・幕府 15.法然・親鸞の登場			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J50551A01
科目名	日本美術史Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Arts A		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
授業概要	日本の絵画史の概説を行う。日本の絵画の歴史は、大陸からもたらされる外来美術の摂取と、それを吸収したうえでの独自の様式の確立を繰り返すという著しい特色がある。その具体的内容は、時代によってさまざまながら、技法や様式を摂取しつつ日本独自の繊細な感性的世界の表出に用いるありさまには、共通点が認められる。 その特色を、各時代の絵画作品の具体例を紹介しつつ解説する。		
教材（教科書）	特に用いない。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	守屋正彦「すぐわかる日本の絵画」（東京美術、２００２年）		
教育方法	講義の性格上、毎回、図版プリントを配布し、OHC・動画を併用してカラー画像を数多く見てもらいながら説明を加えてゆく講義方法をとる。		
評価方法	期末のレポート(７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了後に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。出席回数が極端に少ない場合は、評価の対象としないので、注意すること。		
到達目標	・各時代において絵画の果たした役割について、正しく説明できる。 ・絵画の主題として描かれるものに見える時代の美意識について、正しく説明できる。 ・中国・ヨーロッパとの貿易を通じて、日本の絵画が受けた影響について、正しく説明できる。		
授業時間外学習	毎回。授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 当日の復習と併せて参考文献などを用いてその具体的な意味内容を調べて、次回の授業のノートを取る部分の最初に記入しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講のルール 授業中の私語を慎むこと。繰り返して注意しても従わないものには、退席を求めることがある。 学習上の助言 各地の美術館における日本絵画関連の展示の参観を推奨する。			
授業スケジュール			
１．　奈良時代以前の絵画 ２．　平安時代の絵画１（仏画） ３．　平安時代の絵画２（絵巻物） ４．　鎌倉時代の絵画（肖像画と縁起絵巻） ５．　室町時代の絵画(水墨画) ６．　安土桃山時代の絵画１（狩野派ほか） ７．　安土桃山時代の絵画２（風俗画・長谷川派） ８．　江戸時代の狩野派・土佐派 ９．　琳派 １０．浮世絵 １１．文人画 １２．円山・四条派 １３．洋風画 １４．奇想の画家たち(曽我蕭白・伊藤若冲) １５．絵画の材料と絵の具			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50551B01
科目名	日本美術史Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Arts B		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
授業概要	日本の陶磁史の概説を行う。日本は古くは中国文化圏の周辺に位置した島国であり、その陶磁発展の歴史的過程では、たびたび大陸の先進的な陶磁製作技術が導入されるとともに、それを意欲的かつ柔軟に吸収しながらも日本独自の感性に根ざした様式美を発展させてきた。また、日本には歴代にわたって大量の中国陶磁が輸入されており、その存在を抜きにしては日本における陶磁の使用状況を語ることができない。その特色を、各時代の陶磁の具体例を紹介しつつ解説する。		
教材（教科書）	特に用いない。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	矢部良明「日本やきもの史」（美術出版社、１９９８年）		
教育方法	講義の性格上、毎回図版プリントを配布し、OHC・動画を併用してカラー画像を数多く見てもらいながら説明を加えてゆく講義方法を取る。		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	・各時代の陶磁が果たした役割につぃて、正しく説明することができる。 ・陶磁の文様に見える時代ごとの美意識について、正しく説明することができる。 ・中国と日本の貿易に占める陶磁の位置づけについて、正しく説明することができる。		
授業時間外学習	毎回、授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、当日の復習と併せて参考文献などを用いてその具体的な意味内容を調べて、次回の授業のノートを取る部分の最初に記入しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講のルール 私語を慎むこと。繰り返して注意しても従わないものには退席を求めることがある。 学習上の助言 各地の美術館における日本陶磁関連の展示の参観を推奨する			
授業スケジュール			
１．　縄文土器・弥生土器 ２．　土師器・須恵器・奈良三彩 ３．　初期貿易陶磁（三彩ほか） ４．　初期貿易陶磁（青磁・白磁） ５．　灰釉・緑釉 ６．　荘園貿易の時代 ７．　六古窯 ８．　鎌倉・室町時代の輸入陶磁 ９．　新安海底遺物 １０．安土桃山時代の茶陶 １１．伊万里焼 １２．後期伊万里・鍋島 １３．磁器、ヨーロッパへ １４．京焼 １５．明治以降の陶磁			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50564A01
科目名	日本文化論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan I		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	一般に「国風文化」と呼ばれる平安中期に新しく起こった日本文化について、『源氏物語』の関係するエピソードを通じて理解する。		
教材（教科書）	プリントを用意する		
教材（参考資料）	授業時に適宜紹介する		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 授業内容によっては、グループワークを行う回も予定している。		
評価方法	期末レポート点 50％と平常点 50％で評価する。 期末レポートは、次の内容とする。 ①授業内容のまとめ ②大覚寺文献調査 ③大覚寺フィールドワーク報告		
到達目標	『源氏物語』に描かれている平安期の貴族や庶民の生活文化を知り、その思想や美意識について考える。		
授業時間外学習	受講前に、高校で学習した古代（平安時代まで）の文学史または文化史について、復習しておくこと。 新単元開始の前の授業で次の単元のプリントを配布するので、あらかじめ内容を読んでおくこと。 毎時、または毎単元の終了時にレポートの「授業内容のまとめ」部分を作成すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本時のレポートは大覚寺のフィールドワークを伴うため、作成に時間と手間と経費が掛かる。
それを了承の上で積極的に授業に参加し、意欲的なレポートを提出してほしい。

授業スケジュール

1　授業の進め方
2　「桐壷」巻――平安の都と政治１
3　「桐壷」巻――平安の都と政治２
4　「桐壷」巻――平安の都と政治３
5　「桐壷」巻――平安の都と政治４
6　番外編　陰陽師・僧・医師・武士
7　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異１
8　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異２
9　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異３
10　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異４
11 番外編　平安京心霊スポット
12　「少女」巻――子供たちの成長１
13　「少女」巻――子供たちの成長２
14　「少女」巻――子供たちの成長３
15　番外編　初恋のかなえ方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J50564A02
科目名	日本文化論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan I		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	一般に「国風文化」と呼ばれる平安中期に新しく起こった日本文化について、『源氏物語』の関係するエピソードを通じて理解する。		
教材（教科書）	プリントを用意する		
教材（参考資料）	授業時に適宜紹介する		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 授業内容によっては、グループワークを行う回も予定している。		
評価方法	期末レポート点 50％と平常点 50％で評価する。 期末レポートは、次の内容とする。 ①授業内容のまとめ ②大覚寺文献調査 ③大覚寺フィールドワーク報告		
到達目標	『源氏物語』に描かれている平安期の貴族や庶民の生活文化を知り、その思想や美意識について考える。		
授業時間外学習	受講前に、高校で学習した古代（平安時代まで）の文学史または文化史について、復習しておくこと。 新単元開始の前の授業で次の単元のプリントを配布するので、あらかじめ内容を読んでおくこと。 毎時、または毎単元の終了時にレポートの「授業内容のまとめ」部分を作成すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本時のレポートは大覚寺のフィールドワークを伴うため、作成に時間と手間と経費が掛かる。
それを了承の上で積極的に授業に参加し、意欲的なレポートを提出してほしい。

授業スケジュール

1　授業の進め方
2　「桐壷」巻――平安の都と政治１
3　「桐壷」巻――平安の都と政治２
4　「桐壷」巻――平安の都と政治３
5　「桐壷」巻――平安の都と政治４
6　番外編　陰陽師・僧・医師・武士
7　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異１
8　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異２
9　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異３
10　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異４
11 番外編　平安京心霊スポット
12　「少女」巻――子供たちの成長１
13　「少女」巻――子供たちの成長２
14　「少女」巻――子供たちの成長３
15　番外編　初恋のかなえ方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J50564B01
科目名	日本文化論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan Ⅱ		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	日本文化論Ⅰで平安時代までの文化を扱うので、この授業では中世以降の日本の文化を取り上げたい。 今日の日本の文化は、中世にその源流があるものがたくさんある。茶道・華道・香道・能楽など多くの分野に関わる芸術が中世を源流としている。 この講義では、世界から見て大変魅力的な日本独自の文化を、いろいろな角度から眺めてみたい。各回に一つのテーマを設定し、取り上げていく。 この講義はそれぞれの分野の紹介であり、いわば入り口に過ぎないので、各自興味を持った分野の追及をしていってもらいたい。しかし、将来どんな分野に進む人も、日本の文化について最低限の知識が身に付くような講義を展開する予定である。		
教材（教科書）	プリントを配布する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	分野ごとの２～３回の講義が終わるごとに、小テストをしていく。 最後に小テストの成績が良くない場合は追加の補習プリントを記入して提出してもらう。 比較的自由な課題レポートを途中で課す。 映像、実技の見学を組み込みつつ行う。		
評価方法	授業中の確認テストや課題レポートを総合する		
到達目標	日本の文化について総括的な知識の習得を目標とする。各種の文化的事象の理解は必要であるがそれぞれの事象を有機的に関連付けて理解できるようにするのこの授業の目標である。		
授業時間外学習	文化的な事象に触れる機会を増やすため積極的に京都やその他の観光地に出かけてほしい.。 シラバスにテーマが書いてあるので、関連の分野の事物に触れておいてほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業中の私語はほかの人の迷惑になるのでしないこと。 授業中のスマホ使用は、授業内容に関係のあるものを調べる場合に限定してください。			
授業スケジュール			
中世からの文化 １、茶道と文化 ２、茶道の歴史・小テスト ３、華道　外部講師による「生け花」実演と華道のお話 ４、香道 ５、まとめと小テスト ６、能・狂言の紹介 ７、能楽 ８、狂言 ９、まとめと小テスト １０、中世までの庭園 １１、大名庭園 １２、茶庭 １３、まとめと小テスト １４、尾形光琳 １５、尾形光琳			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J50564B02
科目名	日本文化論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan Ⅱ		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	日本文化論Ⅰで平安時代までの文化を扱うので、この授業では中世以降の日本の文化を取り上げたい。 今日の日本の文化は、中世にその源流があるものがたくさんある。茶道・華道・香道・能楽など多くの分野に関わる芸術が中世を源流としている。 この講義では、世界から見て大変魅力的な日本独自の文化を、いろいろな角度から眺めてみたい。各回に一つのテーマを設定し、取り上げていく。 この講義はそれぞれの分野の紹介であり、いわば入り口に過ぎないので、各自興味を持った分野の追及をしていってもらいたい。しかし、将来どんな分野に進む人も、日本の文化について最低限の知識が身に付くような講義を展開する予定である。		
教材（教科書）	プリントを配布する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	分野ごとの２～３回の講義が終わるごとに、小テストをしていく。 最後に小テストの成績が良くない場合は追加の補習プリントを記入して提出してもらう。 比較的自由な課題レポートを途中で課す。 映像、実技の見学を組み込みつつ行う。		
評価方法	授業中の確認テストや課題レポートを総合する		
到達目標	日本の文化について総括的な知識の習得を目標とする。各種の文化的事象の理解は必要であるがそれぞれの事象を有機的に関連付けて理解できるようにするのこの授業の目標である。		
授業時間外学習	文化的な事象に触れる機会を増やすため積極的に京都やその他の観光地に出かけてほしい.。 シラバスにテーマが書いてあるので、関連の分野の事物に触れておいてほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業中の私語はほかの人の迷惑になるのでしないこと。 授業中のスマホ使用は、授業内容に関係のあるものを調べる場合に限定してください。			
授業スケジュール			
中世からの文化 １、茶道と文化 ２、茶道の歴史・小テスト ３、華道　外部講師による「生け花」実演と華道のお話 ４、香道 ５、まとめと小テスト ６、能・狂言の紹介 ７、能楽 ８、狂言 ９、まとめと小テスト １０、中世までの庭園 １１、大名庭園 １２、茶庭 １３、まとめと小テスト １４、尾形光琳 １５、尾形光琳			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J50575A01
科目名	日本文学講読Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading: Japanese Literature A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	くずし字で書かれた資料を解読する。		
教材（教科書）	毎回、プリントを用意する。		
教材（参考資料）	初回にくずし字の一覧を配布する。		
教育方法	－		
評価方法	毎回の課題で読めた字数により評価する。		
到達目標	課題の文字をすべて読め、内容を理解できること。		
授業時間外学習	授業の開始前に、古文の歴史的かなづかいと文法について復習しておくこと。 毎回の授業では、復習に力を置き、授業後に再度資料を読み直すこと。 解読した資料については、トレーシングペーパーを置いて文字を写し その字体を習得すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業では、自分の解答を発表してもらうことがあるので、積極的に参加すること。

授業スケジュール

1　くずし字(変体仮名)の解説
2　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　定家様 1
3　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　定家様 2
4　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　定家様 3
5　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　定家様 4
6　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　嵯峨本 1
7　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　嵯峨本 2
8　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　嵯峨本 3
9　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　嵯峨本 4
10　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　（全体の進度により字体を決定）
11　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　（全体の進度により字体を決定）
12　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　名筆 1
13　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　名筆 2
14　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　名筆 3
15　崩し字作品の制作

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J50575B01
科目名	日本文学講読Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading: Japanese Literature B		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	身近な日本文化である小倉百人一首を素材に、和歌を読み調査して発表する。		
教材（教科書）	谷知子『ビギナーズ・クラッシクス日本の古典　百人一首（全）』角川ソフィア文庫　734 円		
教材（参考資料）	授業内で提示する		
教育方法	－		
評価方法	非担当時間の質問・発言・議論等（40%） 担当発表（60%）		
到達目標	文学作品について、自分で調べ・まとめ・発表する力を養う。また、他者の発表を聞き評価する態度を養う。		
授業時間外学習	発表に関しては、担当の和歌をしっかり調査・鑑賞した上、充実した発表資料を作成して持参すること。 フロアにおいても、教科書を熟読し、発表に対してきちんとした評価ができるよう準備してくること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自分の発表時以外にも、積極的に意見や質問を行うこと。

授業スケジュール

1　授業の進め方
　担当歌決定
　参考図書紹介
2 レジュメ・パワーポイント・プレゼンテーション模擬発表　（山本）
3　受講者の発表　受講者数により、各回２首または３首（２名または３名）ずつ発表の予定。
① 担当の和歌および歌人についての解説と、その和歌の鑑賞について発表　20 分程度
（これについて、レジュメ・パワーポイント・プレゼンテーションの各要素を評価する）
②フロアとの質疑応答　10 分程度
（フロアからの発言者について「フロア・発言点」を、担当者について「担当者・応答点」を評価する）
4～15　3 の繰り返し

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J50577001
科目名	日本文学講読Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Reading: Japanese Literature C		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	京都の文化に関わる資料を読む入門編。 江戸初期の町人の生活を描いた井原西鶴の短編小説から京都に関連する作品を選んで読み、当時の都市の人々のくらしの実態を理解していきます。作品名は『好色一代男』『世間胸算用』『日本永代蔵』など。子供の成長に合わせたしきたりから恋愛や家庭生活、社会のしくみや新しい商売のアイデアまで、広い範囲の問題がテーマとなる基礎編の講読です。		
教材（教科書）	プリントを配布。		
教材（参考資料）	小学館『新編日本古典文学全集　西鶴（一）（二）（三)』		
教育方法	毎回一話読み切る形を取る。(多くの内容を広く知ることを目標にする） 疑問点、問題点を担当者を決めて調べてきてもらう。 次の回に結果を発表する。		
評価方法	基本的に授業への参加度。発表の担当や、授業中の作業など。		
到達目標	江戸時代のくらしを感覚的に知ること。約１５０年前までは江戸時代だったので 現代に残っている慣習も多い。現代の生活のルーツを知り、そこからどう変わってきたか 自分で考えることができるようになることが望ましい。		
授業時間外学習	担当が当たっているときはその準備が必要。当たっていない場合も、予習は大切。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業時間内に扱うのは膨大な資料の一部なので、他の部分は自主的に読んで欲しい。			
授業スケジュール			
１　『好色一代男』より ２　『好色一代男』より ３　『好色一代男』より ４　総括　江戸時代の三都と遊郭 ５　『世間胸算用』より ６　『世間胸算用』より ７　『世間胸算用』より ８　総括　江戸時代の貨幣経済 ９　『本朝桜陰比事』より １０　『本朝桜陰比事』より １１　『本朝桜陰比事』より １２　『本朝桜陰比事』より １３　総括　江戸時代の京都のくらし １４　番外編１ １５　　フィールドワーク　「町家」周辺			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50577101
科目名	日本文学講読Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	江戸時代の歴史上の人物を取り上げ、その人の生い立ちを調べ、京都との関わりに関する資料を読んでみます。人物は、徳川家康・淀君・尾形光琳・徳川光圀（水戸黄門）・茶屋四郎二郎・細川ガラシャ・徳川吉宗・松尾芭蕉・上田秋成・本居宣長・大石内蔵助・坂本龍馬などから選びますが、文学史上の人物を選ぶことが望ましいです。江戸時代から少々はずれても要望があれば対応します。柔軟に対応する発展編となります。		
教材（教科書）	プリントを配布する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	最初に担当日と担当者を決める。 １人３０分の持ち時間。１回に３名が発表し質疑応答する予定である。		
評価方法	授業内の発表担当に重点をおいて評価する。		
到達目標	江戸時代の実在の人物の伝記を調べる方法を学ぶ。		
授業時間外学習	担当部分について調査をしてくること。 前の人の発表をよく学習すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自分より先に発表する人の内容を参考にすること。			
授業スケジュール			
１　本阿弥光悦　『本阿弥行状記』の場合 ２　新井白石『折りたく柴の記』の場合 ３　伝記資料の紹介 ４　『京都名家墳墓録』など ５　徳川家康(以下は状況によって変更の可能性があります) ６　淀君 ７　水戸光圀 ８　尾形光琳 ９　細川ガラシャ １０　松尾芭蕉 １１　坂本龍馬 １２　徳川吉宗 １３　茶屋四郎次郎 １４　本居宣長 １５　人物研究の先駆者			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	J50594001
科目名	認知心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Cognitive Psychology		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
授業概要	認知心理学は，人間が外界からの情報を受け取り，理解したり貯蔵したり，あるいは情報を加工して出力する，といった心の働きの仕組みを研究対象としています。この授業では，人間の認知の主要領域につて，その性質と，それを説明する心理学的なモデルや理論，また理論の根拠となっている心理学実験等を合わせて学習することによって，人間の認知の仕組みについて理解します。このような人間の認知機能の性質を理解することは，日常生活の中での人間の認識と行動の理解につながります。また，さまざまな認知機能に関する実験的研究と心理学理論を中心に，神経科学やシミュレーション研究などからの知見も合わせて学習することを通して，認知心理学における研究方法の特徴を理解し，科学的に研究し，論理的に考える方法を修得します。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	スライドによる資料呈示を活用しながら，講義法で授業を進めます。また，授業中に心理学実験のデモを適宜行います。		
評価方法	授業中に出題する課題への解答(50%）と，期末テスト(50%)をあわせて評価します。		
到達目標	人間の認知の各領域の性質と，それを説明する心理学理論を，根拠となっている実験等の内容とあわせて説明できる。 認知の仕組みを説明する理論がどのような証拠（実験結果等）によって示されているのかという議論の流れを理解し，それを論理的に説明できる。		
授業時間外学習	講義の中で，授業内容の理解を確認するための小テストを実施します。毎回の授業内容をよく復習して次回の授業に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業の中で，各回のテーマに関わる実験のデモなどを行いますので，これに積極的に参加することが，授業理解の促進につながります。
毎回の授業ごとにテーマが分かれていますが，各回の授業の内容にはつながりがあります。前回までの授業内容をよく復習しておくことが，次回以降の授業理解につながります。

授業スケジュール

1. 認知心理学とは
2. 感覚と知覚
3. 注意
4. さまざまな記憶
5. 短期記憶，ワーキングメモリーと認知の制御
6. 自伝的記憶，目撃証言，虚偽の記憶
7. 知識の構造
8. イメージと空間情報の処理
9. 推論と思考のバイアス
10. 判断と意思決定
11. 思考の二重性
12. 潜在認知
13. 感情と認知
14. 認知の個人差と障害
15. 認知心理学の歴史と方法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50596001
科目名	博物館概論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museology		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
授業概要	近年、博物館・資料館等を取り巻く環境は、経済状況の厳しさからその社会的役割・機能についての見直しが厳しく行われており、決して好調で順調に推移しているとはいえない。 講義では、博物館・資料館等が社会の発展とともにどのように進歩してきたのか、その歴史と現状・課題について概説する。 また現在求められている基本的な目的と機能、さらに関連法律等にも言及し、学芸員の職種に従事しようとする者への博物館・資料館等に関する全般的かつ基本的な知識の習得を図る。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	講義時に随時紹介する。		
教育方法	板書を中心に講義を進め、関係資料コピー等を配布して解説し、内容の理解を深めるようにする。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況、受講態度、コメントシートの提出。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等の発達・発展の歴史的背景の理解と、現代社会におけるその基本的目的・役割・機能に関する認識に、さらに関連法律に関する知識の習得を目標とする。		
授業時間外学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学芸員資格の取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。

授業スケジュール

1　博物館・資料館等の歴史と現状について＜概説１＞
2　博物館等の歴史的変遷（各論１）
3　博物館等の現状について（各論２）
4　博物館等の現状について（各論３）
5　博物館・資料館等の基本的な目的・機能について＜概説２＞
6　博物館等の目的について（各論１）
7　博物館等の機能について（各論２）
8　博物館・資料館等の関連法律について＜概説３＞
9　博物館等の関連法律・博物館法（各論１）
10　博物館等の関連法律・博物館法（各論２）
11　博物館等の関連法律・その他（各論３）
12　博物館・資料館等の今後の課題と展望について＜概説４＞
13　博物館等の今後の課題について（各論１）
14　博物館等の展望について（各論２）
15　博物館・資料館等と生涯学習について＜概説５＞

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★★	－	★	－

年度	2018	授業コード	J50596002
科目名	博物館概論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museology		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
授業概要	社会教育の一環を担う博物館相当施設には、博物館・美術館から水族館・植物園まで大変幅広いものが含まれている。それらの施設が社会の発展とともにどのように進化してきたのか、その歴史と現在求められている基本的な役割・機能や現状・課題について理解し、学芸員という職種に従事しようとする者に必要な博物館・資料館等に関する全般的かつ基本的知識を修得する。		
教材（教科書）	特に指定しない。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	講義時に随時紹介する		
教育方法	毎回図版プリントを配布する。OHC・動画を併用して画像を多く見てもらいながら説明を加えてゆく講義方法を取る。		
評価方法	平常点（５０％）は、ノートなど毎回の授業における努力で評価する。残りの５０％は合計３回提出を求める簡単な課題レポートで評価する。		
到達目標	・博物館・資料館などの発展の歴史的背景・存在意義を具体的に説明できる。 ・現代社会における博物館の基本的目的・機能を具体的に説明できる。 ・現在活動している各種博物館の種別ごとの具体的業務を説明できる。		
授業時間外学習	各種の博物館を実際に参観したり、各館のホームページを数多く見て、博物館の活動の実態を理解しておいて欲しい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール

博物館学芸員資格の取得を目指すもの向けの講義である点を認識して、真摯な
姿勢・態度での受講を望む。大学で　　の講義の形にはなっているが、実際は
国家資格取得のための講習会であることを自覚して受講して欲しい。
なお、この科目は卒業に必要な単位には、いかなる形でも算入されないので、
資格取得希望者以外は履修登録をしないこと。

学習上の助言

各館のホームページを数多く見て、実際の博物館の活動を理解して欲しい。

授業スケジュール

１・　博物館とは
２・　博物館の歴史
３・　博物館関連の法律
４・　日本の博物館
５・　これからの博物館
６・　博物館の運営（施設）
７・　博物館の運営（陳列）
８・　博物館の運営（展示・平常展）
９・　博物館の運営（展示・特別展）
１０・　博物館の運営（広報、情報メディア）
１１・　博物館の運営（資料収集）
１２．博物館の運営（保存・調査・研究）
１３・　文化財の保護とその歴史
１４・　文化財保護行政
１５・　指定文化財

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J50597001
科目名	博物館情報・メディア論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Information & Media		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	博物館情報論
授業概要	博物館や資料館を取り巻く環境の中で、日進月歩で発展しているのが情報技術であり、その進化のシステムをどのように博物館や資料館で活用利用するのかが大きな課題となっている。 講義では博物館や資料館にとっての情報とは何を意味するのか、各分野の資料に関する情報の収集とその処理と活用について、具体的な実例を紹介しながら、学芸員としての情報の基本的理念・処理・活用・公開の理解と方法論の習得を図る。 あわせて、博物館や資料館とマスメディアとの関係を考えるとともに、その展望と課題について言及したい。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	講義時に随時紹介する。		
教育方法	板書を中心に講義を進め、関係資料コピー等を配布して解説し、内容の理解を深めようにする。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況、受講態度、コメントシートの提出。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館や資料館における情報に関する基本的理念・処理・活用・公開の理解とその方法論の習得を目標とする。		
授業時間外学習	博物館や資料館の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、いろいろなメディアに注意を払っておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学芸員の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な態度での受講を望む。			
授業スケジュール			
１　博物館・資料館における情報全般について＜概説＞ ２　博物館情報論について　民俗資料 ３　博物館情報論について　歴史資料 ４　博物館情報論について　その他 ５　博物館・資料館の情報技術の活用について＜概説＞ ６　博物館と情報技術について　デジタル技術 ７　博物館と情報技術について　マルチメディア ８　博物館と情報技術について　情報システム ９　博物館と情報技術について　文化財システム１ １０　博物館と情報技術について　　文化財システム２ １１　博物館と情報技術について　　文化財システム３ １２　博物館と情報技術について　　展示公開 １３　博物館と情報技術について　　調査研究 １４　博物館と情報技術について　　著作権 １５　博物館情報の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50597002
科目名	博物館情報・メディア論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Information & Media		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	博物館情報論
授業概要	博物館や資料館を取り巻く環境の中で、日進月歩で発展しているのが情報技術であり、その進化のシステムをどのように博物館や資料館で活用利用するのかが大きな課題となっている。 講義では博物館や資料館にとっての情報とは何を意味するのか、各分野の資料に関する情報の収集とその処理と活用について、具体的な実例を紹介しながら、学芸員としての情報の基本的理念・処理・活用・公開の理解と方法論の習得を図る。 あわせて、博物館や資料館とマスメディアとの関係を考えるとともに、その展望と課題について言及したい。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	講義時に随時紹介する。		
教育方法	板書を中心に講義を進め、関係資料コピー等を配布して解説し、内容の理解を深めようにする。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況、受講態度、コメントシートの提出。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館や資料館における情報に関する基本的理念・処理・活用・公開の理解とその方法論の習得を目標とする。		
授業時間外学習	博物館や資料館の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、いろいろなメディアに注意を払っておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学芸員の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な態度での受講を望む。			
授業スケジュール			
１　博物館・資料館における情報全般について＜概説＞ ２　博物館情報論について　民俗資料 ３　博物館情報論について　歴史資料 ４　博物館情報論について　その他 ５　博物館・資料館の情報技術の活用について＜概説＞ ６　博物館と情報技術について　デジタル技術 ７　博物館と情報技術について　マルチメディア ８　博物館と情報技術について　情報システム ９　博物館と情報技術について　文化財システム１ １０　博物館と情報技術について　　文化財システム２ １１　博物館と情報技術について　　文化財システム３ １２　博物館と情報技術について　　展示公開 １３　博物館と情報技術について　　調査研究 １４　博物館と情報技術について　　著作権 １５　博物館情報の課題と展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50600A01
科目名	発達心理学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental psychology I		
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
授業概要	ヒトは誕生後，母子関係を中心として，徐々に世界を広げていく。その中で，認知や感情，社会性等，人間が生きていくために必要な基礎的能力を獲得していく。本講義では，胎児期から児童期までを中心にそれぞれの年代に応じた課題や心の成長とはどのようなものかを理解する。母子関係を初めとする環境や対人関係によって育まれるもの、持って生まれた気質、それらとの相互関係によって、人の心はどのように変化するのかを理論や研究を通して，科学的な視点から理解を深める。 『この科目は、2018 年度入学生以降については公認心理師対応科目となり、開講年度に科目名とシラバスが改訂される。なお、公認心理師対応科目の詳細については、別途、公開する予定である。』		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜紹介する		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行い、必要に応じてグループワーク等を用いた講義を行う。		
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなどによる平常点（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	生涯発達的視点に立ちながら，胎児期から児童期までの各発達段階における特徴や課題を理解し，多面的な側面から人間の変化と成長を説明することが出来る。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、予習を行うことが望ましい。また、授業内容の全てをプリントにするわけではないため、口頭での説明箇所等については、各自授業後にノートを整理するなど積極的な予習復習を行うこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
特別な事情がある場合を除き，すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること。授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求める。			
授業スケジュール			
1．　オリエンテーション：発達心理学とは 2．　胎児期の発達：胎内の成長過程 3．　新生児期の発達：知覚とコミュニケーション 4．　乳児期の愛着の形成 5．　乳児期の知覚発達 6．　乳児期の身体発達 7．　乳幼児の認知能力①言語の発達 8．　乳幼児の認知能力②ピアジェ理論 9．　乳幼児の認知能力③ポストピアジェ理論 10．　乳幼児の感情発達 11．　乳幼児の社会性発達 12．　乳幼児の道徳性発達 13．児童期の発達と仲間関係 14．　学校への適応と心の問題 15．　子どもの発達障害			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J50600B01
科目名	発達心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental psychology Ⅱ		
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
授業概要	人間は生まれてから、老年期を向かえて亡くなるまでの間にそれぞれの年代に応じた課題や心の成長、変化がある。本講義では，青年期から高齢期までを中心に，それぞれの年代に応じた課題や心の成長とはどのようなものかを理解する。主に、親からの自立、新たな家族を持ち、後の世代を育てること、老いること、死などのテーマを中心に考える。人の心はその生涯の中でどのように変化・成長するのかをいくつかの代表的な理論・研究等を参照しながら、「生涯発達」の視点から理解を深める。 『この科目は、2018 年度入学生以降については公認心理師対応科目となり、開講年度に科目名とシラバスが改訂される。なお、公認心理師対応科目の詳細については、別途、公開する予定である。』		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜紹介する		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行い、必要に応じてグループワーク等を用いた講義を行う。		
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなどによる平常点（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	生涯発達的視点に立ちながら，青年期から高齢期までの各発達段階における特徴や課題を理解し，多面的な側面から人間の変化と成長を説明することが出来る。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、予習を行うことが望ましい。また、授業内容の全てをプリントにするわけではないため、口頭での説明箇所等については、各自授業後にノートを整理するなど積極的な予習復習を行うこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
特別な事情がある場合を除き，すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること。授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求める。			
授業スケジュール			
1　オリエンテーション 2　　青年期の身体的変化と自尊感情の発達 3　　青年期の身体的変化と性役割 4　　育児スタイルと青年期発達 5　　エリクソンの人格発達理論 6　　青年期の発達課題とアイデンティティ 7　　青年期における他者との親密な関係 8　　青年期と摂食障害 9　　青年の自立と職業選択 10　中年期の危機 11　高齢期の生物的加齢 12　高齢期の心理的加齢 13　高齢期の社会関係 14　高齢期の適応 15　発達と環境			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J5060300A
科目名	発達臨床実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Training in Clinical Developmental Psych ology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	(以下、「臨床心理学専門演習ＩB」と同じ内容である)臨床心理学はその専門家になる人にだけでなく、広く対人援助を志したい人、職業生活や日常生活での対人関係をより豊かなものにしていきたい人にとって、役に立つ学である。そしてその学の実践は「自分」が行なっていくのであり、そのためにはよく勉強し、その学を一定以上身につけなければならない。この演習では、とくに発達臨床心理学領域における基本的知識がより定着し、それらに関連する社会的に重要なテーマについての認識が拡がる。近隣の社会福祉施設の見学実習等を希望する学生の相談にはのる。また、対人援助系のボランティア等の募集が当ゼミにはよく届けられるので、そのような社会的活動の機会を自分のために積極的に活かすことができる。		
教材（教科書）	使用しない。必要に応じてプリント類を配布する。		
教材（参考資料）	授業で紹介する。		
教育方法	学生と教員の相互のやりとりを中心に進める。映像も用いる。		
評価方法	受講態度などの平常点（５０%）、授業内の課題への取り組みの評価点（５０%）。		
到達目標	どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての自己評価が少しでも上がる。		
授業時間外学習	前回行なった内容について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。また、とくに「人間模様」に関する事柄にかんして、読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

秋学期開講の「心理アセスメント」を受講してほしい。提供されたテーマに対して積極的に取り組むこと。受け身だけでは身につくものも身につかない。

授業スケジュール

本授業については、その後コマの「臨床心理学専門演習ＩB」と２コマ連続で同一テーマを扱うので、
「臨床心理学専門演習ＩB」のシラバスと同一の内容になっている。

１．オリエンテーション、福祉現場を知る
２.「発達臨床心理学」の重要事項の確認(人間発達・障害)
３．映像による発達の理解
４.「発達臨床心理学」の重要事項の確認(家族・その他の発達上にあらわれる課題)
５．映像による家族の理解
６.「司法・矯正・福祉心理学」の重要事項の確認(児童福祉臨床・児童虐待)
７．映像による児童虐待の理解
８.「司法・矯正・福祉心理学」の重要事項の確認(社会的養護・その他の福祉的課題)
９．映像による幸福についての理解
１０．臨床的ワーク(コミュニケーション)
１１．臨床的ワーク(想像力・理解・解釈)
１２．臨床的ワーク(家族・システム)　１３．
映像による人間心理の理解
１４．臨床的ワーク(コラボレーション)
１５．臨床的ワーク(心理検査・心理療法周辺)
※以上については、内容や順序の変更があり得る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	J50604001
科目名	発達臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental Clinical Psychology		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	乳幼児期から中年期・老年期にわたっての人間の発達像と、それに複雑な社会的諸要因等が絡んで生じる具体的なエピソードを聴くことをとおして、人間の発達上の諸課題を理解する力を身につける。また、その理解のうえにたってどのように支援を行っていくのかという視点を理解することができる。発達臨床心理学を実践し支える現場は多岐にわたるが、担当者は児童相談所勤務を経てきたので、その経験をベースに児童福祉臨床（調査、アセスメント、指導、治療、協働等の実際）について多くを語る。したがって抽象的ではなく具体的な現場の実際に触れることができるし、そこには子どもの発達、子どもを育てる場としての家族の発達やその他の重要な要因が含まれる。学生が自分自身の生活や進路をも考える機会になると考える。この科目は 2018 年度以降の入学生については公認心理師対応科目となり、開講年度に科目名とシラバスが改定される。なお、公認心理師対応科目の詳細については、別途、公開する予定である。		
教材（教科書）	必要に応じてプリント類を配布する。		
教材（参考資料）	川畑隆著「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」明石書店 2,376 円 麻生武・浜田寿美男編「よくわかる臨床発達心理学・第２版」　ミネルヴァ書房 3,024 円 その他、授業のなかで随時紹介する。		
教育方法	授業資料を配布し、それにそって講義する。映像等も用いる。		
評価方法	受講態度等による平常点（５０％）。授業内に課すレポート（５０％）。		
到達目標	発達臨床、対人援助に関する基本的な考え方が身に付き、子どもが健全に育成されるための視点を自らの内にもてるようになる。		
授業時間外学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう授業内レポートの作成にも大いに役立つ。また、子どもから高齢者に至るまでの生活、発達に関する事象や社会の動きは様々に報道されている。それらに日々接して思考することも発達臨床心理学を学習するために重要なので、ぜひ勧めたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「福祉心理学」もぜひ受講してほしい。各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。また、配布した資料にはよく目を通してほしい。

授業スケジュール

1.発達臨床心理学の対象としての受講者の進路
2.発達臨床心理学にかかわる現場
3.あらわれる課題①乳幼児期
4.同②児童期・思春期
5.同 ③青年期
6.同④中年期・老年期
7.家族の機能とその発達
8.発達的視点についての補足とその他のテーマ
9.身体障害や知的障害
10.発達障害とは何か
11.発達障害と合理的配慮
12.不登校や社会的ひきこもり
13.非行や少年犯罪など
14.その他の子どもたちが示す現象
15.症状や問題行動等に関する補足とその他のテーマ

※授業の内容や順序は変更されることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J5061200A
科目名	表現療法実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Psychotherapy and Expression		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	描画や箱庭を実際に体験することを通して、イメージを介した心理療法について習得する。		
教材（教科書）	配布資料あり。		
教材（参考資料）	実習の中で紹介する。		
教育方法	実際に描画、箱庭を体験する。		
評価方法	平常点（50%） レポート（50%）		
到達目標	「表現」をキーワードとする心理療法の基礎を正しく理解する。		
授業時間外学習	積極的に参考文献などに目を通しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
実習は専門的に高度な内容であるため、心して受講すること。守秘義務を守ることが求められる。			
授業スケジュール			
実習の具体的な運営方法は、受講生の人数によって変わるので、受講生と相談の上で決定する。 1　オリエンテーション 2　言語連想実験―実習 3　描画法―バウム、風景構成法―実習 5．6．描画法の理解 7．箱庭療法とは 8～12．箱庭―実習（ゼミ生が全員順番に作成する。セラピスト役、クライエント役、オブザーバとなる） 13．14　箱庭療法の理解 15　表現療法のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50613A01
科目名	文化遺産論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Heritage A		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
授業概要	考古学は我々の政治・経済・社会文化の基礎となるものが、どのようなものであったかを正しく認識するための大事な手助けとなることから、過去に日本のさまざまな分野に大きな影響を与えた中国のことを学んでゆきます。講義では中国の考古学的な通史に対する理解を身につけることで、その歴史的発展を多角的に理解することができます。		
教材（教科書）	特に用いない。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	西江清高ほか『中国の考古学』（世界の考古学７、１９９９年、同成社）		
教育方法	講義の性格上、毎回図版プリントを配布し、OHC・動画を併用してカラー画像を数多く見てもらいながら説明を加えてゆく講義方法を取る。		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックし、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに与える。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	・東アジア世界の歴史的様相について、考古学的に説明することができる。 ・日本の政治・経済・社会・文化の源流について、考古学的に説明することができる。 ・中華世界・ユーラシア世界と日本とのつながりについて、考古学的に説明することができる。		
授業時間外学習	授業終了時までに、次回の講義のキーワードをいくつか提示するので、当日の復習と併せて参考文献などを用いて、その具体的意味内容を調べて、次回の授業のノートを取る部分の最初に記入しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール

私語を慎んで、授業に集中すること。繰り返して注意しても従わないものには、他の学生の妨げとなるので退室を求めることがある。

学習上の助言

各地の博物館における中国関連の展示の参観を推奨する。

授業スケジュール

1. 中国の歴史の概説
2. 旧石器時代　北京原人と周口店遺跡
3. 新石器時代１　華北の彩陶文化の発達
4. 新石器時代２　華中の河姆渡遺跡と稲作文化
5. 殷周時代１　殷の城壁都市と王墓
6. 殷周時代２　西周の周原遺跡と青銅器
7. 春秋戦国時代　貨幣経済の発達
8. 秦漢時代１　秦の始皇帝
9. 秦漢時代２　前漢の都・長安と皇帝陵
10. 魏晉南北朝時代１　魏晉の都城と城坊制都市
11. 魏晉南北朝時代２　仏教の伝来と石窟寺院
12. 隋唐時代１　国際都市・長安と陵墓の構造
13. 隋唐時代２　唐三彩と大運河の物資輸送
14. シルクロードの考古学（中国の海外交流）
15. 日中の交易の歴史

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J50613B01
科目名	文化遺産論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Heritage B		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
授業概要	考古学は我々の政治・経済・社会文化の基礎となるものが、どのようなものであったかを正しく認識するための手助けとなることから、その特色を理解してゆきます。奈良時代以前の日本の政治・経済・文化の様相に対する理解を身につけることで、日本の歴史的発展を幅広く理解することができます。		
教材（教科書）	特に指定しない。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	「日本の古代遺跡」４（奈良飛鳥）、同７（奈良北部）（保育社刊、２００５年）		
教育方法	講義の性格上、毎回図版プリントを配布し、ＯＨＣ・動画を併用してカラー画像を数多く見てもらいながら説明を加えてゆく講義方法を取る。		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックし、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに与える。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	・大和地方の発展の具体的様相について、考古学的に説明することができる。 ・大陸からの先進文化の流入が日本に与えた影響について、考古学的に説明することができる。 ・広範なユーラシア大陸各地の文化と日本のつながりについて、考古学的に説明することができる。		
授業時間外学習	授業終了時までに、次回の講義のキーワードをいくつか提示するので、当日の復習と併せて参考文献などを用いて、その具体的意味内容を調べて、次回の授業のノートを取る部分の最初に記入しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール

私語を慎んで、授業に集中すること。繰り返して注意しても従わないものには、他の学生の妨げとなるので退室を　　求めることがある。

学習上の助言

各地の博物館の考古関連の展示の参観を推奨する。

授業スケジュール

1. 大和（奈良）の歴史概説並びに大和（奈良）の地理・交通路
2. 旧石器時代・縄文時代
3. 弥生時代
4. 古墳時代前期
5. 古墳時代中期・後期
6. 古墳時代特論（纏向遺跡）
7. 飛鳥時代１ー　宮殿・苑池遺跡
8. 飛鳥時代２－　飛鳥寺・水落遺跡
9. 飛鳥時代３－　高松塚古墳・キトラ古墳
10. 飛鳥時代４－　飛鳥の石造物
11. 藤原京の時代
12. 奈良時代１ー平城京
13. 奈良時代２ー東大寺大仏の建立
14. 奈良時代３－正倉院宝物
15. 奈良時代４－シルクロードと遣唐使

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50639A01
科目名	民俗学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Folklore Studies A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	日本の民俗学は江戸の国学を基とし、明治の近代国家形成期に、日本とは何か、われわれとは何者かという探求を重ねることによって始まりました。 本講義では、日本の民俗学の黎明期から現代にいたる先行研究のなかで、今後も読み継がれるであろう著作を、皆さんとともに、読み解いていきたい。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせながら行う。		
評価方法	学期末考査および授業内提出物		
到達目標	民俗学の代表的な著作について理解する。		
授業時間外学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示します。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義で言及された文献は、自分でも読んでみましょう。			
授業スケジュール			
第１回　日本民俗学について 第２回　柳田国男 第３回　柳田国男 第４回　折口信夫 第５回　折口信夫 第６回　南方熊楠 第７回　南方熊楠 第８回　宮本常一 第９回　宮本常一 第１０回石田栄一郎 第１１回石田栄一郎 第１２回リクエスト（受講生の皆さんからリクエストがあった研究者を取り上げます） 第１３回リクエスト（受講生の皆さんからリクエストがあった研究者を取り上げます） 第１４回小松和彦 第１５回小松和彦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50639B01
科目名	民俗学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Folklore Studies B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	受講生の皆さんが、何気なく行っている日常の習慣や節目の行事に注目し、その由来や意味を考えることによって、日本文化とは何かを相対的に考えていきたい。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせながら行う。		
評価方法	学期末考査および授業内提出物		
到達目標	日本文化を相対的にとらえる視点を持つ。		
授業時間外学習	授業中に紹介された文献をあらかじめ読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
生活の中の季節の行事や人生の節目の儀礼などにできるだけ参加してみましょう。			
授業スケジュール			
第１回　民俗文化についてⅠ 第２回　日本神話とその広がりⅠ 第３回　日本神話とその広がりⅡ 第４回　発酵食品Ⅰ 第５回　発酵食品Ⅱ 第６回　日本の祭Ⅰ 第７回　日本の祭Ⅱ 第８回　日本の葬式 第９回　アジアの葬式 第１０回　稲作儀礼　収穫祭　大嘗祭 第１１回　正月行事 第１２回　稲作儀礼　御田植え行事 第１３回　日本の昔話とその広がりⅠ 第１４回　日本の昔話とその広がりⅡ 第１５回　民俗文化についてⅡ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50655A01
科目名	妖怪文化論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture and Conceptions of the Strange A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになっています。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、漫画、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。 妖怪文化論 A では、そのうち特に、語られた妖怪と、妖怪が出没する場所、風景について論じます。		
教材（教科書）	佐々木高弘著『怪異の風景学―妖怪文化の民俗地理』古今書院、2014 年		
教材（参考資料）	小松和彦著『妖怪文化入門』せりか書房、2006 年		
教育方法	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 20%、学期末レポート 80%		
到達目標	妖怪文化が様々な学問分野にまたがっている点、妖怪文化の多様な見方がある点を理解することを目標とする。		
授業時間外学習	講義ごとに提示する教科書の指定箇所を予習・復習した上で受講すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。

授業スケジュール

1　妖怪文化とは：語りから造形化へ（百鬼夜行絵巻、画図百鬼夜行、水木しげる）
2　妖怪文化研究の歴史：井上円了・柳田国男から小松和彦まで
3　妖怪の見える風景：『今昔物語集』『源氏物語』『宇治拾遺物語』
4　妖怪体験とことば：風景認識の三角形
5　妖怪の走る風景：柳田国男の『妖怪談義』、「クビナシウマ」と「首切れ馬」
6　集団の見た妖怪：妖怪の出没場所を選ぶ伝承集団
7　頭の中の妖怪地図：伝説の構造分析とメンタルマップ
8　妖怪の二つの場所：妖怪の聞き取り調査
9　『千と千尋の神隠し』に描かれた怪異世界の風景：少女の引っ越し
10　怪異世界と心のなかの景観：見えない風景の知覚
11　現代日本人の怪異世界イメージ：『リング』『ワンダフル・ライフ』『呪怨』
12　廃墟と幽霊・怪異世界：18 世紀後半の妖怪画革命とピクチャレスクの流行
13　現代の廃墟と近代化遺産：18 世紀後半と現代の比較
14　妖怪の出没する場所と時代：妖怪のメッセージ
15　世界に進出する妖怪文化：求められる日本人の世界観

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50655B01
科目名	妖怪文化論B	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture and Conceptions of the Strange B		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
授業概要	古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになっています。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、マンガ、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。 　妖怪文化論Bでは、そのうち特に、描かれた妖怪と、妖怪が跳梁するメディア、表現について論じます。		
教材（教科書）	小松和彦『妖怪文化論入門』角川ソフィア文庫		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	板書とパワーポイントでの講義形式をとる。妖怪文化論Bは造形ー妖怪の段階を扱うので、映像を紹介したり分析したりすることが多い。これをただのテレビ番組のように見ておしまいとするのではなく、取り扱う手つきや、分析の方法として学ぶように工夫している。フィールドワークの成果も取り入れているので、「現場へ行って見る」ことも促している。		
評価方法	平常点（30%）レポート（70%）		
到達目標	妖怪文化論という視点、位置を理解する。		
授業時間外学習	テキストは事前に読んでおくこと。また各講義で参考文献を提示するので、読んで理解を深めるための学習に時間を割く必要がある。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
テクスト『妖怪文化論入門』は各自読んでおくこと。それを前提に講義をする。適宜紹介する文献についても、講義の展開について行きたいのなら、できるだけ読んでおくこと。前半にかなり詳細に方法論に触れるので、自らの卒業研究などに応用するつもりでいるとよいだろう。			
授業スケジュール			
（1）イントロダクション I.絵を解読する （2）絵を読む方法 （3）図像学 （4）絵引き （5）絵解き （6）アニメ『平成狸合戦ぽんぽこ』 （7）狸のイメージ II. 妖怪の造形 （8）狸という妖怪存在 （9）八百八狸 （10）八百八狸続 （11）絵巻物の表現 （12）絵巻物と芸能 （13）浮世絵の表現 （14）仏教美術の表現 （15）神経にもぐりこんだ妖怪			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50662A01
科目名	臨床心理学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Psychology I		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	臨床心理学 s
授業概要	臨床心理学とは、病気や障害あるいは不幸な出来事などによってひき起こされる心の悩みや苦しみを軽減するために、心理的援助を行い、それを通して問題の解決や改善を目指す学問である。本講では、臨床心理学の成り立ちや、その理論や治療技法に関する主要な考え方について学習し、心理的援助ができるようになるための基礎的な力の獲得を目指す。		
教材（教科書）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考資料）	適宜、資料を配布する。		
教育方法	講義形式で行うが、心理臨床の現場で出会う様々な問題を解決できるようになるために、具体的な事例を用いて解説する。		
評価方法	定期試験（７０％）と、授業終了時に求める質問・感想表に基づく平常点（３０％）等による。		
到達目標	こころの問題への心理的援助に求められる基本的な理論や治療技法を理解する。		
授業時間外学習	授業１週間前までに、授業資料を京学ナビにアップロードするので、事前に読んで予習しておくこと。わからない専門用語は、調べておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
私語や遅刻、教室の出入りを厳禁とする。私語が過ぎる場合、他者への迷惑を考慮して退室を求める。			
授業スケジュール			
１　オリエンテーション ２　臨床心理学とは何か・臨床心理学の研究法 ３　臨床心理学の歴史 ４　心理アセスメント　知能検査（ビネー式） ５　心理アセスメント　知能検査（ウェクスラー式） ６　心理アセスメント　人格検査（質問紙法） ７　心理アセスメント　人格検査（投影法） ８　異常心理学　正常と異常 ９　異常心理学　精神障害の分類 １０　異常心理学　精神障害の症状 １１　カウンセリングの基本的問題 １２　カウンセリングの基本的技術 １３　カウンセリングの理論（フロイト・ユング） １４　カウンセリングの理論（ロジャース・行動療法） １５　臨床心理士の活動領域			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J50662B01
科目名	臨床心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Psychology Ⅱ		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	臨床心理学ｆ
授業概要	臨床心理学Ⅰでの学習内容を踏まえて、心理的問題に対する援助に必要な基礎的理論・治療技法の概略を学ぶ。 人格構造やその形成過程についての様々な理論を学習し、心の問題を分析・理解する枠組みを学ぶ。その上で、 人生の様々な年代における臨床心理学的課題の内容を、発達心理学的な分析も加えながら理解し、様々な援助技法を用いて援助していく過程を学習する。		
教材（教科書）	平木典子・袰岩秀章　編著　カウンセリングの基礎　臨床の心理学を学ぶ　北樹出版		
教材（参考資料）	川瀬・松本・松本　　心とかかわる臨床心理－基礎・実際・方法　ナカニシヤ出版		
教育方法	教科書と配布プリントを用いた講義法が中心となる。		
評価方法	学期末試験　７０％　レポート及び平常点　３０％		
到達目標	臨床心理学の基礎的理論を習得するとともに、様々な心理的問題・精神的障害についての理解を深める。		
授業時間外学習	各講義の最後に、次回の講義内容にかんする資料を配布するか、該当する教科書の箇所を指示するので、それを熟読しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講のルール 授業中は私語厳禁。 学習上の助言 関連図書を読むなど、自らの関心に従って積極的に学ぶことを推奨する。			
授業スケジュール			
1～5. 臨床心理学における基礎理論－－人格・発達理論 （フロイト、エリクソン、ロジャーズなど） 6～10. 臨床心理学的治療論及び具体的治療技法 （精神分析、来談者中心療法、行動療法など） 11. 各発達段階にみられる様々な問題－－乳幼児期 12. 各発達段階にみられる様々な問題－－児童期 13. 各発達段階にみられる様々な問題－－青年期 14. 各発達段階にみられる様々な問題－－成人期・老年期 15. 心理臨床の実際 但し、1～5 と 6～10 は適宜順序を入れ換えて、組み合わせて講義する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50667A0C
科目名	臨床心理学専門演習ＩＩ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIA in Clinical Psychology		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
授業概要	卒業論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち、重点的に取り組もうとする個別テーマを絞り込むことができ、そのテーマに即して、先行研究を展望し、卒業研究を行い、論文にまとめることができるようになることを目指す。これらを通じて、臨床心理学や医療心理学のより専門的な探求を推し進めることができる。 特に春学期は、卒業論文の作成に向けて、下記のテキストを全員で講読することを中心に行う。		
教材（教科書）	都筑学著　「心理学論文の書き方」　有斐閣		
教材（参考資料）	文献購読は、講義形式と発表形式で行う。先行研究の展望は、発表形式と全員参加の議論形式で行う。		
教育方法	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による、発表（３０％)、議論への参加（２０％)。		
到達目標	・卒業研究に取り組むテーマを見つけることができる。 ・そのテーマに即して、先行研究の展望を行い、卒業論文作成の準備をすることができる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
演習での発表や議論には積極的・主体的に参加してほしい。			
授業スケジュール			
１　オリエンテーション・個人面談① ２　個人面談② ３　文献講読① ４　文献講読② ５　文献講読③ ６　文献講読④ ７　文献講読⑤ ８　文献講読⑥ ９　　先行研究展望の発表① １０　先行研究展望の発表② １１　先行研究展望の発表③ １２　先行研究展望の発表④ １３　先行研究展望の発表⑤ １４　先行研究展望の発表⑥ １５　先行研究展望の発表⑦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J50667B0C
科目名	臨床心理学専門演習ＩＩ Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar IIB in Clinical Psychology		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
授業概要	卒業論文の作成卒業論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち、重点的に取り組もうとする個別テーマを絞り込むことができ、そのテーマに即して、先行研究を展望し、卒業研究を行い、論文にまとめることができるようになることを目指す。これらを通じて、臨床心理学や医療心理学のより専門的な探求を推し進めることができる。 特に秋学期は、各自のテーマに即して、研究計画を立て、卒業研究を行い、論文に仕上げていくが、途中経過の中間発表や個別指導を行う。		
教材（教科書）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考資料）	中間発表では、各自の卒業研究の途中経過を発表する。個別指導では、各自が作成した卒業論文に教員が添削指導を行う。		
教育方法	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（２０％）。		
到達目標	各自が取り組むテーマに即して、卒業論文を作成することができる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
演習での発表や議論には積極的・主体的に参加してほしい。			
授業スケジュール			
１　オリエンテーション・個人面談① ２　個人面談② ３　卒業研究の中間発表① ４　卒業研究の中間発表② ５　卒業研究の中間発表③ ６　卒業研究の中間発表④ ７　卒業研究の中間発表⑤ ８　卒業研究の中間発表⑥ ９　　卒業研究の個人指導① １０　卒業研究の個人指導② １１　卒業研究の個人指導③ １２　卒業研究の個人指導④ １３　卒業研究の個人指導⑤ １４　卒業研究の個人指導⑥ １５　卒業研究の個人指導⑦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J50681B01
科目名	歴史地理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Historical Geography B		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	私たちの歴史時代の地理的行動と、その結果としての地理的空間を研究するのが、歴史地理学である。歴史地理学Ｂでは、心理学や文化人類学の研究成果を積極的に取り入れた、人文主義地理学の観点からの歴史地理学の研究史、方法論を紹介、検討する。また、この方法論にもとづく野外調査（特に聞き取り調査）の方法についても講義する。 特に歴史地理学Ｂでは、文化・民俗・環境に焦点を当てる。私たちの祖先の地理的行動は、彼らの時代の文化や民俗を知ることなしには説明できない。彼らがどのように環境を知覚し、行動を起こし、環境と共存してきたのかを知ることは、歴史時代の地理的行動の知識を得るだけでなく、これからの私たちの環境思想にとっても重要なことである。以上のような観点から、古代文化、異文化から現在に伝承される民俗までを見据え、過去の人間集団の環境への接し方から、これからの環境問題についても講義する。		
教材（教科書）	佐々木高弘『神話の風景』古今書院、2014。		
教材（参考資料）	菊池利夫『歴史地理学方法論』大明堂。佐々木高弘『民話の地理学』古今書院。		
教育方法	プリントの配布、パワーポイント、ビデオを使用		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）学期末レポート（８０％）		
到達目標	歴史地理学の方法論とフィールドワークの融合の重要性の理解を目標とする。		
授業時間外学習	受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、配布されたプリントの予習と復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。			
授業スケジュール			
1　歴史地理学の三つの分野と領域、歴史地理学の時代区分 2　北欧神話の歴史地理－オーディンの供儀 3　象徴化される生き物－オシリスの冥界： 4　土蜘蛛と蛇－オホクニヌシの苦悩 5　星座の神話の風景―世界を守護する北極星 6　星座の伝承と古代都市－天と地を結ぶ物語 7　旧約聖書の原初的風景、世界軸、信濃の国造り神話―神話世界の風景① 8　上田市の口頭伝承群、開拓神話の原点―神話世界の風景② 9　北欧神話の風景－ウプサラの樹と排水 10　中つ国（中間世界）へ語りかける神々―深層心理学的解釈 11　洪水神話の環境知覚－災害知覚の歴史地理 12　洪水神話の構造と変容－伝承から神話へ 13　日本の洪水神話－失われた伝承 14　平安京の神話空間－疫病の神の登場 15　永遠回帰の神話風景－想像された欠損と充足			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50701B0B
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡB		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	本演習は、歴史民俗専門学演習ⅡＢ の受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	発表者のレジュメ、パワーポイント		
評価方法	ゼミ生の発表（70%）と毎回の討論（20%）、11 月に行われる卒業研究の中間発表会での発表（10%）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
授業時間外学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論、及び卒業論文の作成を望みます。			
授業スケジュール			
１　卒論の準備状況の発表 ２～９　ゼミ生の発表と討論 １０　卒論中間発表会（歴史民俗学専攻全体） １１～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50701B0C
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡB		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	本演習は、歴史民俗学演習ⅡA の受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	ゼミ生の発表（70%）と毎回の討論（20%）、11 月に行われる卒業研究の中間発表会での発表（10%）		
到達目標	レベルの高いプレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
授業時間外学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論、及び卒業論文の作成を望みます。			
授業スケジュール			
１　卒論の準備状況の発表 ２～９　ゼミ生の発表と討論 １０　卒論中間発表会（歴史民俗学専攻全体） １１～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50701B0D
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡB		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	いよいよ4年間の大学生活の集大成である卒業論文執筆に取りかかります。分析を、一章ごとに、一歩ずつ進めていき、最終的に論文を書き上げることになります。年内に、論文を一度書き上げることを目標として、逆算して作業を計画的に進めていきましょう。この授業では、段階に応じて各人が報告を行い、他の受講生もまじえた質疑応答を行います。さらに担当教員のコメントと指導を受けることで、研究を深めていきます。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	学生による発表で進めていく授業		
評価方法	発表（60%） 討論（40%）		
到達目標	・一定水準以上の卒論を執筆すること ・自らのテーマに関して適切な先行研究を収拾して、その成果を理解すること ・自らのテーマに関して適切な史料を読み込み、オリジナルな分析を行うこと		
授業時間外学習	専門ゼミDの発表=卒論の執筆経過報告となります。とにかく卒論のために机に向かうことが重要になります。秋学期は最低1日1時間は卒論のために時間を割いてください。最終的には1日中、卒論執筆にとりかかることになります。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
卒業論文は、あなたがどのような学生生活を送り、何を学んだのかを表現する手段です。 自らの課題に関して、どこまでも貪欲に、調べて調べて調べつくしてください。			
授業スケジュール			
1・2　発表その1　テーマ：卒論の全体像を考える 発表内容：卒論の各章の構成の確認、夏休みの成果報告、今後の方向性の確認 3～6　発表その2　テーマ：先行研究をまとめる 発表内容：卒論の1章分10頁くらい文章を書いてみる 報告レジュメは実際の文章 7～10　発表その3　テーマ：オリジナルの考察を深める 発表内容：論文のなかでもっとも売りの部分を文章化してみる 報告レジュメは実際の文章 11～13　発表その4（1回2人）　テーマ：とりあえず書く、どんどん書く 発表内容：卒論の目次と全体の内容の再考+新しく文章化したところ 14　卒論提出のための最終確認 15　卒論修正のための相談会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J50701B0E
科目名	歴史民俗学専門演習ⅡＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar: History and Folklore ⅡB		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	本演習は、歴史民俗学演習ⅡA の受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	先行研究から調査の仕方、方法を学び、実際に自らが計画を立てて調査を実施する。調査はさまざまな機会を捉え、何回も行うことになるだろう。その成果をまとめて、必要な資料も添えて、提示しながらゼミ発表を行う。 発表に対する質問やアドヴァイスに応じて、それをさらなる理論的枠組みの強化や、調査方法の検討などに生かしていかなければならない。文献調査も軽んじてはならず、すでに先人が調査済みのことは、しっかりとその成果を活用すべきだろう。 そして、最終目的は卒業論文の執筆である。理論で見通しをつけ、文献探索によって関係資料を整理、紹介し、調査によって肉付けをすれば完成するだろう。		
評価方法	ゼミ生の発表（70%）と毎回の討論（20%）、11 月に行われる卒業研究の中間発表会での発表（10%）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
授業時間外学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
すべては卒業研究のために生かされなければならないので、これまでの発表、研究を総合的に活用できるように、無駄にせずに戦略を練るべきだろう。先行研究や文献資料などを、行き当たりばったりに使うのではなく、蓄積して、後から活用できるようにしておかなければならない。			
授業スケジュール			
１　卒論の準備状況の発表 ２～９　ゼミ生の発表と討論 １０　卒論中間発表会（歴史民俗学専攻全体） １１～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50703A02
科目名	歴史民俗学特殊講義ＩＡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore IA		
担当者名	堤　邦彦	旧科目名称	
授業概要	ある特定の説話が時をこえて数世代にわたり語り伝えられることは、珍しくない。たとえば古代社会に発生した神話や伝説が今日の昔話、童話の世界に引き継がれているのはその一例といえるだろう。 ただし、だからといって、それらが時代の移り変わりとまったく無縁に存在していないことも事実である。古くから語り継がれた話は、つねに各時代のものの考え方や思想、価値観の影響を受け、さらには文芸の流行色などの大衆文化に左右されてきた。 以上の観点にもとづき、本年度は近世以降の怪異小説、芝居、絵画などに描かれた怪異談の流れをとりあげ、日本怪談が成立する文化基層となった仏教の役割について考えてみたい。日本人の霊魂観、冥府観や因果応報を怖れる観念は、いかにして生成したのか。これらの点を明らかにしながら、江戸から明治にかけて流行した怪談文芸の宗教・思想的な原風景を明らかにしていく。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	・堤邦彦『現代語で読む「江戸怪談」傑作選』（祥伝社、2008） ・高田衛『江戸の悪霊祓い師』（角川ソフィヤ文庫、2015）		
教育方法	特になし		
評価方法	小レポート３回：15%×３、最終レポート１回：40%、コミュニケーションペーパーなどの授業参加度：15%		
到達目標	（１）日本の怪異談を生み出す背景となった仏教思想や宗教民俗について理解を深める。 （２）現代の表現文化と古典の連続性を理解する。 （３）上記をことばで説明できる能力を身につける。		
授業時間外学習	小レポート（3 回分）の作成などに週 4 時間の学習時間を要する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

説話・伝承史が対象とする領域は、文芸を中心として民俗、宗教、芸能、メディアなどの多分野におよぶ。ひとつの作品をさまざまな角度から読み解くので、途中欠席すると全体像がつかみにくくなる。休まず遅刻せず授業に集中して欲しい。

　また、講義中に使う専門用語やキーワードを予習し、小レポートにまとめて提出してもらう（月１回）。こうした学習をふまえて授業にのぞむことにより、皆さんの理解度は倍増するはずである。したがって指定された小レポートの提出期限を厳守するようにしていただきたい。

授業スケジュール

１．説話・伝承史の視点とは何か。
２．寺と怪談
　・『墓場の鬼太郎』のルーツ
　・京都の幽霊飴伝説
　・寺と葬送民俗
３．幽婚説話の伝統と現代・その１
　・一休伝説
　・子を産む幽霊
４．幽婚説話の伝統と現代・その２
　・ムカサリ絵馬の習俗
　・TV ドラマ『幽婚』より
　※小レポート①の提出と評価
５．死霊結婚説話のアジア的ひろがり

・東アジアそして東南アジアへ
・タイ映画『ナン・ナーク』の場合
6．東南アジアの仏教儀礼と妖怪変化
・「ピイ（精霊）」のまつりと仏教
・山岳民族の霊魂観
7．仏教と江戸怪談
・因果、因縁を語るということ
・鈴木正三『因果物語』
・奥方の呪いと血筋の断絶
8．祟る女の系譜と女人蛇体
・道成寺の縁起とものがたり
・くちなわ道心の懺悔
※小レポート②の提出と評価
9．説教が怪談に変わるとき
・女と蛇と黒髪と
・鳥山石燕・妖怪絵本の世界
・杉浦日向子『百物語』の表現
10．幽霊画を供養するということ
・幽霊画は美術品か
・伝円山応挙の寺蔵幽霊画
・祭りと鎮魂の死者図像
11．累ヶ淵怪談の原風景
・浄土僧・祐天の法力と水辺の風土
・『死霊解脱物語聞書』の刊行
・累曼荼羅の絵解き
12．馬琴、京伝、南北から三遊亭円朝へ
・江戸小説、芝居の脚色
・人情咄の成立
※小レポート③の提出と評価
13．「累ヶ淵」の映像化
・昭和の怪談邦画
・歌舞伎の影響
14．中田秀夫『怪談』の映像表現・その 1
・リングホラーとの共通点
・雪の日の因縁
・因果応報の現代的アレンジ
15．中田秀夫『怪談』の映像表現・その 2
・逃げる男と祟る女の構図
・仏教説話から怪談へ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J50726A0C
科目名	メディア専門演習ＩＩ Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡA: Media		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
授業概要	メディア専門演習Ｉ Ａ・Ｂに引き続き、メディアについてのワークショップをおこなう。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005 関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教育方法	プリント、映像教材他。		
評価方法	総合的に評価。		
到達目標	メディアで遊び、メディアについて考え、メディアをつくる。		
授業時間外学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自ら体験し、多面的に考え、主体的に行動することを望む（面倒なこと多し）。

授業スケジュール

各人で、卒業研究（論文／制作）を完成させる。

01　オリエンテーション
02　卒業研究演習 01
03　卒業研究演習 02
04　卒業研究演習 03
05　卒業研究演習 04
06　卒業研究演習 05
07　卒業研究演習 06
08　卒業研究演習 07
09　卒業研究演習 08
10　卒業研究演習 09
11　卒業研究演習 10
12　卒業研究演習 11
13　卒業研究演習 12
14　卒業研究演習 13
15　卒業研究演習 14

★メディア《つくる》工房　{http://media-tukuru.jp}

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★

年度	2018	授業コード	J50726B0C
科目名	メディア専門演習ＩＩＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Seminar ⅡB: Media		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
授業概要	メディア専門演習ＩＡ・Ｂに引き続き、メディアについてのワークショップをおこなう。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	水越伸『メディア・ビオトープ：メディアの生態系をデザインする』紀伊国屋書店 2005 関口久雄『メディアのブリコラージュ：つくる・遊ぶ・考える』冬弓舎 2008		
教育方法	プリント、映像教材他。		
評価方法	総合的に評価。		
到達目標	メディアで遊び、メディアについて考え、メディアをつくる。		
授業時間外学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自ら体験し、多面的に考え、主体的に行動することを望む（面倒なこと多し）。

授業スケジュール

各人で、卒業研究（論文／制作）を完成させる。

01　オリエンテーション
02　卒業研究演習 15
03　卒業研究演習 16
04　卒業研究演習 17
05　卒業研究演習 18
06　卒業研究演習 19
07　卒業研究演習 20
08　卒業研究演習 21
09　卒業研究演習 22
10　卒業研究演習 23
11　卒業研究演習 24
12　卒業研究演習 25
13　卒業研究演習 26
14　卒業研究演習 27
15　卒業研究演習 28

★メディア《つくる》工房　{http://media-tukuru.jp}

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★

年度	2018	授業コード	J50742001
科目名	脳と心	単位数	2
科目名（英語表記）	Brain and Mind		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
授業概要	近年、医療機器の発展により脳と心との関係が少しずつ明確化してきている。本講では、心はどのようにして生まれるのか、脳と心の関係をどう考えるのか、心が脳をコントロールできる側面などを検討し、脳を活性化させる重要性を理解し、その方法を修得する。		
教材（教科書）	各講義でレジュメ・資料を配布する。		
教材（参考資料）	適宜資料を配布す 。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら講義を行うと同時に、グループワークを組み合わせて行う。 グループワークでは、簡単な実験を行う。		
評価方法	定期試験(60%)、授業中に実施す 課題(20%)、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換(20%)		
到達目標	1. 心理学が扱う心の様々な現象を神経科学の観点から学ぶことにより、心と中枢神経系との繋がりを理解し、説明することができる。 2. 簡便な方法を用いて脳の活動を客観的に計測することができる。		
授業時間外学習	講義内で紹介する脳と心の関する動画や資料を閲覧し、講義中の質問に答えられるようにすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

心理学入門、心理学概論を履修したものとして、講義を進めます。
授業時に示すグループワークや課題に対し積極的に取組む姿勢(発言・行動)を求めます。
遅刻や私語は厳禁とする。遅刻の場合は、理由を求めます。
私語が過ぎる場合は、他者への迷惑を勘案し退出を求めます。

授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. 脳神経の構造および機能
3. 注意と印象形成
4. 睡眠の構造と特徴
5. 記憶・感情等の生理学的反応の機序
6. 神経伝達物質と気分
7. 自律神経系および中枢神経系
8. 神経・生理心理学における非侵襲的測定法と評価
9. 心電図・脈波および精神性発汗の計測方法
10. バイオフィードバック
11. 高次脳機能障害の概要
12. 意思決定と脳機能
13. 運動と認知機能
14. 脳を活性化させる方法
15. まとめ（本講義で学んだことを振り返り日常生活でどのように活用するかについて考える）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J50743A02
科目名	歴史民俗学上級講読（歴史）Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced class of Reading: Historical Fo lklore Materials (Japanese History) Ⅰ		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	歴史学は、当時の人々が残した史料を読み解きながら、考察を深める学問です。しかし現代に残る古文書のうち翻刻（現代の文字に直すこと）されて史料集として出版されているものは 1%にもみたず、ほとんどの史料はくずし字のまま残されています。つまりくずし字の読解能力を持てば、より広い歴史世界を自分で足で歩き回ることが可能になります。本講義では往来物や浮世絵などの写真をテキストとして、実際のくずし字をみなさんに読んでもらいます。		
教材（教科書）	古文書のコピーをその都度、配布します。		
教材（参考資料）	『くずし字用例辞典　普及版』(東京堂出版)。購入方法はガイダンスにて指示します。		
教育方法	毎回、前の週にだした課題について、その場で指名された受講生が黒板に板書する形で進めていきます。毎回１人１回は板書が当たる予定です。毎回の予習が必須です。		
評価方法	平常点　　30%　毎回の授業に予習をして臨んでいるかどうか。 定期試験　70%　江戸時代の史料の読解能力について試験します。		
到達目標	・くずし字で書かれた史料の初級程度の読解能力を獲得すること ・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習得すること		
授業時間外学習	毎回、次回の課題プリント（古文書のコピー）を配布します。講義では受講者全員に、黒板に読みを板書してもらい、口頭で読み上げてもらいます。当然、授業でいきなり古文書に目を通しても読めないので、課題プリントを図書館や家で、くずし字辞典や国語辞典などを参照しながら、読んでくる作業が必要になります。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

古文書の多くはくずし字（草書体）で書かれています。初めてみた方は同じ日本語とは思えない、アラビア語をみるような感覚になるかもしれません。購入を指定した『くずし字用例辞典』はもちろん、国語辞典、漢和辞典、さらには歴史事典なども駆使して、読解に挑戦してみてください。くずし字読解能力というパスポートを手に入れて、ぜひ一緒に歴史世界に旅立ちましょう。なおくずし字を学ぶ意欲がない学生の受講は認めません。

授業スケジュール

1　ガイダンス　―くずし字のまなび方―
2　なまず絵を読み解く
3　はしか絵を読み解く
4　双六を読み解く
5　妖怪本を読み解く
6　女大学を読み解く
7　福沢諭吉『世界国尽』を読み解く
8　京都のガイドブックを読み解く
9　まじない本を読み解く
10　手紙のマニュアル本を読み解く 1
11　手紙のマニュアル本を読み解く 2
12　証文のマニュアル本を読み解く 1
13　証文のマニュアル本を読み解く 2
14　太閤記を読み解く
15　古文書の世界へ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	★	–	–	–	–

年度	2018	授業コード	J50743B02
科目名	歴史民俗学上級講読（歴史）II	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced class of Reading: Historical Fo lklore Materials (Japanese History) II		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	歴史学は、当時の人々が残した史料を読み解きながら、考察を深める学問です。しかし現代に残る古文書のうち翻刻（現代の文字に直すこと）されて史料集として出版されているものは 1%にもみたず、ほとんどの史料はくずし字のまま残されています。つまりくずし字の読解能力を持てば、より広い歴史世界を自分で足で歩き回ることが可能になります。本講義では古文書の写真をテキストとして、実際のくずし字をみなさんに読んでもらいます。		
教材（教科書）	古文書のコピーをその都度、配布します。		
教材（参考資料）	『くずし字用例辞典　普及版』(東京堂出版)。購入方法はガイダンスにて指示します。		
教育方法	毎回、前の週にだした課題について、その場で指名された受講生が黒板に板書する形で進めていきます。毎回１人１回は板書が当たる予定です。毎回の予習が必須です。		
評価方法	平常点　　30%　毎回の授業に予習をして臨んでいるかどうか。 定期試験　70%　江戸時代の史料の読解能力について試験します。		
到達目標	・くずし字で書かれた史料の中級程度の読解能力を獲得すること ・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習得すること		
授業時間外学習	毎回、次回の課題プリント（古文書のコピー）を配布します。講義では受講者全員に、黒板に読みを板書してもらい、口頭で読み上げてもらいます。当然、授業でいきなり古文書に目を通しても読めないので、課題プリントを図書館や家で、くずし字辞典や国語辞典などを参照しながら、読んでくる作業が必要になります。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この授業は、基本的に当該講義の前期の授業の合格者、すなわち、くずし字初級程度の読解能力を有していることを前提として授業を進めます。特に強い意欲がない場合、上記の条件にあてはまらない方は受講しないでください。

授業スケジュール

1　ガイダンス　―くずし字のまなび方―
2　名頭を読み解く
3　村尽しを読み解く
4　手本往来物を読み解く 1
5　手本往来物を読み解く 2
6　家康の書状を読み解く
7　龍馬の書状を読み解く
8　幕末の風説留を読み解く
9　山ノ内村の文書を読み解く 1
10　山ノ内村の文書を読み解く 2
11　乳母奉公人請状を読み解く
12　まじないを読み解く
13　祇園町文書を読み解く 1
14　祇園町文書を読み解く 2
15　くずし字の世界

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J50768001
科目名	司法・矯正・福祉心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychology for Justice, Remedy and Welfa re		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	福祉とは“幸福(しあわせ)”のことだが、学生は全編をとおして人間の幸福について考えることができるだろう。とくに幸福から距離をおかれやすい社会的弱者といわれる人たちへの援助が本講義の中心となるが、担当者が児童相談所に勤務した機関が長く、現在も児童虐待防止活動に関わっていることもあり、児童虐待防止についての解説には多くの時間をあてる。学生は児童虐待の現実から透けて見える現代社会の課題にも直面することになると思われる。現場の業務は、福祉に限らずそうだが、法律や現場のシステムにもとづいて動いている。したがって、それら抜きには現場の業務については語れないし、実際の業務は理解しえない。本授業は心理学に関するものであるにもかかわらず、法律や現場のシステムに関する説明が多くなるが、現実的でリアルな人間の心理を見つめるよい機会になるだろう。「司法・矯正」の部分については「犯罪心理学」の授業に譲り、ここでは福祉に焦点化する。この科目は 2018 年度以降の入学生については公認心理師対応科目となり、開講年度に科目名とシラバスが改定される。なお、公認心理師対応科目の詳細については、別途、公開する予定である。		
教材（教科書）	使用しない。必要に応じてプリント類を配布する。		
教材（参考資料）	川崎二三彦「児童虐待〜現場からの提言」岩波新書 842 円 川畑隆著「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」明石書店 2,376 円		
教育方法	授業資料を配布し、それにそって講義する。映像等も用いる。		
評価方法	授業態度等による平常点（５０％）と、授業内レポート（５０％）		
到達目標	社会的弱者といわれる人たちへの援助について学ぶことで、人間や社会についての理解 t が深まる。		
授業時間外学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう授業内レポートの作成にも大いに役立つ。また、福祉に関する事象や社会の動き、論評は様々に報道されている。授業で学習したことがらを背景に思い浮かべながら、自分なりに報道内容についてどういうことが起きている可能性があるのか、検討してみてほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「発達臨床心理学」もぜひ受講してほしい。各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。配布した資料にはよく目を通してほしい。

授業スケジュール

01.臨床心理学における福祉分野の実際
02.福祉分野の諸課題
03.児童虐待防止に関する法律
04.児童虐待の実態や原因
05.児童虐待の通告や対応
06.児童虐待における心理と家族支援
07.家庭養護と社会的養護
08.児童の健全育成の視点とこれまでの補足
09.ドメスティック・バイオレンス(DV)とストーカー対策
10.障害者福祉臨床
11.高齢者福祉臨床
12.貧困家庭の子どもへの援助
13.非社会的、反社会的な子どもへのアプローチ
14.コミュニティ・アプローチ(臨床心理学的地域援助)
15.福祉分野の臨床心理学についての補足
※講義の内容と順序は変更があり得る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50768101
科目名	政治学原論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松田　哲	旧科目名称	
授業概要	本講義の目的は、国内社会と国際社会に存在する様々な政治的問題について、政治学の知識を活用しながら考える力を養うことにある。そのために本講義では、種々の問題を考える際に必要とされる基礎的な知識を、幅広いテーマに渡って講義していくこととしたい。国内政治の内容がメインとなるが、国際政治の内容についても講義する。 具体的なテーマとしては、国内政治では、①政治とは何か（政治の定義）、②政治権力、③政治的アクター、④政治体制、⑤市民社会論の５つのテーマについて、国際政治では、国際政治の特徴と国際社会の変容について講義する。テーマによっては難しい内容が含まれてもいるが、「アカデミックな知識にもとづいた政治観」を身につけることができるよう、頑張っていただきたい。		
教材（教科書）	レジュメを配布する。		
教材（参考資料）	①加茂・大西・石田『現代政治学（第４版）』（有斐閣アルマ、2012 年） ②川崎・杉田『現代政治理論（新版）』（有斐閣アルマ、2012 年） ③久米・川出・古城・田中・真渕『政治学　補訂版』（有斐閣、2011 年）		
教育方法	配布したレジメに基づき講義法で行う。		
評価方法	①定期試験（７０％） ②講義内コメントカード（３０％）		
到達目標	①日本の国内政治が抱える諸問題の中から少なくとも何かひとつについて、政治学の知識をもとにその原因と解決策とを説明することができる。 ②国内社会と国際社会の違いを踏まえた上で、それが国内政治と国際政治にどのような違いをもたらしているかを説明することができる。 ③よりよい民主政治を実現するために何が必要とされているかを説明することができる。		
授業時間外学習	①新聞やテレビのニュースから、 講義テーマに関わるようなリアルタイムの出来事や事件の情報を入手しておくこと。 ②配布されたレジュメを熟読し、重要な専門用語を理解しておくこと。 ③関心を持った問題について、参考文献などにあたって知識を深めておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１）講義に出席すること。出席しない学生の単位取得は不可能である。 ２）定期テスト前にしっかりと勉強すること。 ３）必修科目であるから、とりわけ真面目に勉強すること。			
授業スケジュール			
第１回：ガイダンス－政治学研究の概要－ 第２回：政治とは何か－集団的意思決定と社会統合－ 第３回：政治権力（１）－実体的権力論と関係論的権力論－ 第４回：政治権力（２）－権力作用の３つの次元－ 第５回：政治権力（３）－フーコーの４次元的権力論－ 第６回：政治的アクター（１）－エリート論－ 第７回：政治的アクター（２）－リーダーシップ論－ 第８回：政治体制（１）－全体主義体制・権威主義体制・自由民主主義体制－ 第９回：政治体制（２）－民主化の政治学とポスト・ポリアーキーの課題－ 第１０回：市民社会論（１）－ポスト･ポリアーキーとしての市民社会論－ 第１１回：市民社会論（２）－二回路制のデモクラシー－ 第１２回：国際政治学（１）－国内社会と国際社会の違い－ 第１３回：国際政治学（２）－国際政治の４つのイメージ－ 第１４回：国際政治学（３）－国際社会の変容と国際政治理論			

第１５回：総括と展望－日本政治の課題－

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50769001
科目名	エコの知恵	単位数	2
科目名（英語表記）	Wisdom of Ecology		
担当者名	小島　富佐江	旧科目名称	
授業概要	京都の伝統的な住宅である京町家は京都の暮しや町並みを育んできました、１９６０年代になって、それまでの町家の多くはビル等に建て替わり、京都の街は大きく変貌しました。近年、京町家の価値は再評価されていますが、減少は今も止まっていません。他方、飲食店や宿泊施設（ゲストハウス）への活用が急激に増え、町家が持つ本来の暮しから育まれた文化は失われつつあります。昨今の状況をふまえ、①京町家と京都のまち、その成り立ちと現状を把握すること、②実際に町家に触れること、様々な知恵と工夫の活かした暮しの一端を体験すること、(四季折々の暮らし、生活の知恵、食文化など)、③町家の利活用の状況をふまえ、これからの暮らしを考えること、④町家の暮らしと文化の継承について考えること、を目的とします。		
教材（教科書）	なし 講義時にプリントを配布する		
教材（参考資料）	講義時に適宜指示する		
教育方法	講義時に適宜指示する		
評価方法	毎回講義時にその日のまとめを提出　３０％ 見学、体験　　３０％　　参加後のレポート 出題テーマに合わせた中間レポート　２０％ 期末レポート　２０％		
到達目標	京都のまちと暮しを知ることにより、多様な文化への理解度を深めることができる		
授業時間外学習	講義時に配布した資料を熟読し、問題点、自身との共通項目を検討しておくこと。 中間、期末にレポートを課すので、指定期限に完成させて、提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件

1. 京都の文化に対する興味があること
2. 積極的に考え、行動すること

受講のルール

1. 遅刻や私語を厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案した退出を求める。
2. 学外での学習には、ルールを守り、不必要な行動はさけること。

授業スケジュール

1. 概要
2. 町家見学（基本的な町家を知る）
3. 講義　まちと町家
4. 町家見学（まちと町家の関係）
5. 講義　町家見学のまとめと比較
6. 講義　町家の暮らし　居住スタイル
7. 町家見学（町家の暮らしを体験）
8. 講義　町家活用の実情
9. 見学　町家の活用事例
10. 講義　暮らしを継承するための方策
11. 意見交換　グループデイスカッション
12. 講義　まちと祇園祭
13. 祇園祭の視察
14. 京都の町家と暮らしを継承する為の提案作成と発表
15. 提出された提案をもとに、町家の暮らしを継承するための方策を議論する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50772001
科目名	サムライ文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	History of　Samurai culture		
担当者名	中西　裕樹	旧科目名称	
授業概要	近年、映画やアニメ、スポーツなど、さまざまな場面で「サムライ」という言葉が使用され、その歴史・文化は海外からも注目されています。この「サムライ」と、歴史的存在である「侍」「士」には、共通する部分とそうではない部分があります。また、サムライは時代によって性格を変え、精神的活動を含む文化に自らを反映しました。 本講義では、サムライの歴史を確認しながら、その文化や考え方を学びます。また、各論として、民俗学・歴史地理学の視点からもサムライの存在を考えます。これらの作業を通じ、今の私たちが使うサムライという言葉の中身をとらえ、文化への視野を広げることを目的とします。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	適宜紹介します。		
教育方法	パワーポイントや映像、プリントなどを使用。		
評価方法	平常点 20%(出席状況による)、学期末レポート 80%として評価します。		
到達目標	歴史学など様々な分野の研究成果をふまえ、現代をとらえる視点を養う。		
授業時間外学習	日本史の知識が必要になるので、不明な点は質問や自主学習で補ってほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
「サムライ」をキーワードとする文化や事象を自らで考え、講義との対比を行った上でレポート作成に臨むこと。			
授業スケジュール			
1　武士道とサムライ(中西裕樹) 2　現代のサムライ文化論(佐々木高弘) 3　民俗とサムライ文化論(堀田穣) 4　源氏と平氏(中西裕樹) 5　鎌倉と京都(中西裕樹) 6　刀と甲冑(中西裕樹) 7　戦国と下克上(中西裕樹) 8　城郭の歴史(中西裕樹) 9　信長と秀吉(中西裕樹) 10　江戸時代のサラリーマン(鍛治宏介) 11　武士と恋愛(鍛治宏介) 12　切腹(鍛治宏介) 13　敵討ちの歴史(鍛治宏介) 14　江戸時代の城(鍛治宏介) 15　忍者の歴史(鍛治宏介)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J50785101
科目名	脳と心	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
授業概要	近年、医療機器の発展により脳と心との関係が少しずつ明確化してきている。本講では、心はどのようにして生まれるのか、脳と心の関係をどう考えるのか、心が脳をコントロールできる側面などを検討し、脳を活性化させる重要性を理解し、その方法を修得する。		
教材（教科書）	各講義でレジュメ・資料を配布する。		
教材（参考資料）	適宜資料を配布す 。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら講義を行うと同時に、グループワークを組み合わせて行う。 グループワークでは、簡単な実験を行う。		
評価方法	定期試験(60%)、授業中に実施す 課題(20%)、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換(20%)		
到達目標	1. 心理学が扱う心の様々な現象を神経科学の観点から学ぶことにより、心と中枢神経系との繋がりを理解し、説明することができる。 2. 簡便な方法を用いて脳の活動を客観的に計測することができる。		
授業時間外学習	講義内で紹介する脳と心の関する動画や資料を閲覧し、講義中の質問に答えられるようにすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

心理学入門、心理学概論を履修したものとして、講義を進めます。
授業時に示すグループワークや課題に対し積極的に取組む姿勢(発言・行動)を求めます。
遅刻や私語は厳禁とする。遅刻の場合は、理由を求めます。
私語が過ぎる場合は、他者への迷惑を勘案し退出を求めます。

授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. 脳神経の構造および機能
3. 注意と印象形成
4. 睡眠の構造と特徴
5. 記憶・感情等の生理学的反応の機序
6. 神経伝達物質と気分
7. 自律神経系および中枢神経系
8. 神経・生理心理学における非侵襲的測定法と評価
9. 心電図・脈波および精神性発汗の計測方法
10. バイオフィードバック
11. 高次脳機能障害の概要
12. 意思決定と脳機能
13. 運動と認知機能
14. 脳を活性化させる方法
15. まとめ（本講義で学んだことを振り返り日常生活でどのように活用するかについて考える）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J50785201
科目名	心理学研究法	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	富永　仁志	旧科目名称	
授業概要	心理学は，わたしたちのこころの働きを科学的に探求する学問である．本授業では，心理学研究の計画を立て，実験・調査を実施し，データ分析をするまでのスキルに関する講義を行う．特に，心理学研究の方法の特徴や，心理学研究から何が分かるのか，どのようにデータを収集するのか，データをどのように分析するのか，データから何を読み取るのか，について考えたい．具体的には，実験的研究と観察的研究に大別しつつ，実験法，調査法，観察法，検査法，面接法といった基本的な研究法における，それぞれの実証的論理を把握することを目標とする．これらの学習を通して，こころの働き，ならびにこころが関わる諸現象に対して，的確な科学的問いを立て，実証的にアプローチできるようにする．また，心理学研究に伴う倫理的問題・配慮についても知り，こころの働きを実証するにあたって注意すべきセンスを獲得する．そして，人の心を科学的，客観的にとらえるということはどういうことか，またその重要性について理解を深めていく．		
教材（教科書）	設定しない．授業中に資料を配布する．		
教材（参考資料）	高野 陽太郎・岡 隆［編］『心理学研究法 - 心を見つめる科学のまなざし』（有斐閣） 西村 純一・井上 俊哉 『これから心理学を学ぶ人のための研究法と統計法』（ナカニシヤ出版） その他は講義中に適宜紹介する．		
教育方法	講義形式による授業が基本とするが，各授業に対して主体的な参加を促すため，小レポートやグループワークを課すことがある．		
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	① 主な実験や調査の方法や特徴を理解し，具体的な方法の手続きや注意点を説明できる． ② 学術論文から研究計画を読み取ることができる． ③ 自分で研究を計画することや研究の問題点を指摘することができる．		
授業時間外学習	授業内容の確認のための課題を設定することがあるが，設定された課題には必ず取り組み，期限までに提出すること． 授業ごとに欠かさず復習をし，次の授業までに内容をしっかりと理解しておくこと． グループワークは数週間にわたって取り組む場合があり，授業時間内で課題を終えることができなければ授業時間外の作業が必要となることにも留意しておくこと．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

心理学における基礎的な統計の知識を前提として講義を行う．不安な学生は心理統計に関する参考書を読み，各自復習すること．
また，事前に心理学基礎実験 A・B，心理統計学などの単位を取得し，基礎的な知識を獲得していることが望ましい．
講義内容は平易とはいい難いため，授業ごとに復習を欠かさず行うことを求める．
さらに，演習としてグループを構成し，他者とのディスカッションや，協力してのデータ収集，研究発表などを行う場合がある．グループの構成員が欠ければ，それらの活動を行うことができなくなるため，特別な事情がある場合を除き，すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること．授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求める．

授業スケジュール

1. オリエンテーション　私たちはこころの何を知っているのか
2. 「科学的にこころをとらえる」とは
3. こころを科学する２つのアプローチ
4. 実験法①：独立変数の操作
5. 実験法②：従属変数の測定
6. 実験法③：剰余変数の検討
7. 実験的研究を読み解く
8. 調査法

9.	観察法
10.	面接法
11.	検査法
12.	観察的研究を読み解く
13.	こころの研究の実際と注意点
14.	こころの研究をデザインする①：思考を具体化する
15.	こころの研究をデザインする②：知っておくべき問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J50785301
科目名	学習の動機づけ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	増田　優子	旧科目名称	
授業概要	学習の動機づけとは，一般にいう”やる気”に近い概念です。動機づけに関する概念はとても多くあり，これは人間の活動のほとんどが”やる気”と関りがあるということを反映していると考えられます。 「どうして，やらなくてはいけないとわかっているのにやる気にならないんだろう」「どうすればやる気になるのだろう」という疑問を誰しも一度は抱いたことがあるでしょう。動機づけを理解することは，自己や他者を理解する上でとても大切な心の側面であるといえます。 本授業では，動機づけにおけるさまざまな課題を解決する手掛かりとなるような理論や視点について学習します。また，動機づけることが難しい課題や状況に対しては，その解決のための考え方について学習します。それにより，学習や日常生活において，どのような思考や行動が動機づけを高めるために有効であるかを発見する力を習得します。		
教材（教科書）	使用しない。毎回の授業でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	伊藤崇達（編著）『【改訂版】やる気を育む心理学』北樹出版　1,800 円＋税		
教育方法	パワーポイントを活用しながら講義法とワーク（個人またはグループ）を組み合わせて行う。		
評価方法	授業内での課題および理解度の確認による平常点（毎回，授業内で配布するミニシートに課題への解答や授業の感想，質問事項を記入，授業終わりに提出），ならびに授業態度　40% 最終筆記試験　60%		
到達目標	１．動機づけ概念を用いて，日常の行動を説明することができるようになる ２．さまざまな動機づけ概念を理解し，動機づけを高めるための方法や工夫について深く考えられるようになる		
授業時間外学習	毎回の講義内容は，のちの講義内容の理解にも関わるため，毎回の講義内容を理解したうえで次の講義に望むよう心がけること		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．毎回の講義から何かを学ぶ，得る，という形で，目標を持って参加してください
２．日常的に学習内容に関係することに関心を持ち，疑問点や知りたいことを明確にし，積極的に学習を進めてください

授業スケジュール

１．講義概要　動機づけとは何か
２．達成動機づけ
３．ネガティブ思考と動機づけ
４．社会的比較と動機づけ
５．動機づけの階層性
６．期待一価値理論
７．自己効力感
８．原因帰属理論
９．テスト不安・学習性無力感
１０．達成目標理論
１１．内発的動機づけと自己決定理論
１２．自律性と感情調整
１３．自己調整学習の理論
１４．自己調整学習方略
１５．動機づけの総合理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J50785401
科目名	カウンセリング論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
授業概要	カウンセリングとは一定以上健康な人が「対話を通して自らよりよい状態へと変化していく」プロセスを援助する営みであり、1940 年代のカール・ロジャーズによる非指示的心理療法・来談者中心療法によって、その土台が作られた。 本講義では、ロールプレイを通して、カウンセラーとクライエントのやりとり・感情体験を具体的に学ぶことを目的とし、カウンセリングで用いられる様々な技法を理解し、カウンセラーのあり方と治療の流れの関連について考えを深めることができる。		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	毎回課題を出し、その後グループディスカッションによって考えを深める。最終的には、受講生同士でロールプレイを実施する。		
評価方法	平常点(出席および課題)　５０％　及び　レポート提出　５０％。		
到達目標	1 カウンセリングで用いられる治療技法とその理論的基礎の概略を説明できる。 2 初歩的なカウンセリング的応答を行うことができる。		
授業時間外学習	1 第一回授業までに「臨床心理学Ⅱ」の教科書を再読し、カウンセリングの基本となるロジャーズの理論について復習しておく。 2 毎回、講義終了時に、来週までに実施すべき課題を出すので、次週授業開始時に提出する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
臨床心理学Ⅰ・Ⅱの単位を取得済みであることが必要。
受講のルール
遅刻・早退せず主体的に参加すること。カウンセリングのロールプレイをやるため、学期に 1、2 回土曜ないし休日に授業を実施するので、予定しておくこと。初回の授業時に日程の決定をするため、必ず出席のこと。

授業スケジュール

１～２．カウンセリングとは
３～４．カウンセリングの基本的技法－－マイクロ・カウンセリング
５．カウンセリングの実際－－　ａ．ロジャーズの来談者中心療法
６．　ｂ．パールズのゲシュタルト療法
７．　ｃ．エリスの論理療法
８～10．紙上応答練習
11～14．ロールプレイ－－－（ロールの設定・ロールプレイの実施・話し合い）
15．各グループ毎の発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J50785501
科目名	学校臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
授業概要	学校臨床心理学とは、「学校における臨床心理学」および「学校と臨床心理学」の二つの視点を併せ持つ、実践的な研究領域である。第一の観点からは、学校という場と、そこで必要とされる臨床心理学的実践についての知識を得て、スクールカウンセラー活動の実際を知ることができる。第二の観点については、学校教育と臨床心理学が互いに補い合って児童生徒を援助していく際の、それぞれの方法論や観点の異同を理解することができる。 最終的にはこれらを総合的に考察することで、現代社会における子供の問題への対処方法が包括的に理解できる。		
教材（教科書）	毎回、プリントを配布する。		
教材（参考資料）	横湯園子　教育臨床心理学　東京大学出版会 倉光修編　学校臨床心理学　誠信書房		
教育方法	本講義においてはまず、学校現場で発生している様々な臨床心理学的課題について、受講生が書籍・報道などを用いて実情をまとめ、発表し、その諸課題に対して、上述の二つの観点から分析・解説するものとする。		
評価方法	定期試験　50%　　授業内レポート　30%　　課題提出　20%		
到達目標	１．学校現場においてどのような問題が発生しているかを理解する。 2. 学校における諸課題のうちに、臨床心理学的問題がどのように含まれているかを理解する。 ３．問題解決に向けていかに臨床心理学が応用されているか、またその過程でどのような課題が存在しているかを、具体的に理解する。 ４．学校現場で必要とされる、基本的な臨床心理学的知識を習得する。		
授業時間外学習	講義の最後に、次回取り扱う学校臨床心理学的課題を指定するので、それについての新聞やインターネットにおける報道や、そういった学校の課題を分析した書籍等を調べる。調べた内容に基づくグループディスカッションを行うこともある。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
臨床心理学Ⅰ・Ⅱの単位修得済みであること。
受講のルール
授業中は私語厳禁。
学習上の助言
社会的にも関心の高い領域であるので、新聞やインターネットを用いて、積極的に勉強することが重要である。

授業スケジュール

１．学校とはどのようなところか
２．学校教育と心理臨床の考え方の違いと相補性
３．学校臨床心理学とは
４．児童期・思春期の心理的発達
５．学校現場での問題　①不登校
６．　②不登校児童生徒の実態
７．　③いじめ 1
８．　④いじめ 2
９．　⑤非行
10.　⑥発達障害
11. 家族の問題　①子供を取り巻く環境

12.　　②虐待 13～14.　スクールカウンセラーの仕事 15.　コミュニティ心理学の視点・まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50785601
科目名	心理アセスメント	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	心理臨床活動において心理アセスメント（査定）はひとつの重要な柱であり、それをとおして援助の方向を定め、修正していく。そして、アセスメント（査定）の意味のなかには、その人の健康なところ、強いところなど、ポジティブな側面を見出すことも含まれている。心理アセスメントは決して心理検査法だけのことを指すのではないが、心理検査法の解説や簡単な実習に費やす時間が比較的多い。学生にとって、心理検査をそれ以上でも以下でもなく受け入れることのできる最初の機会になる。心理検査は用い方や読み方を誤れば非常に危険である。しかし、対象者の援助に役立てる方向で慎重に用いることによって有益な情報が得られる。学生は、これらの検査の限界と効用の両方のバランスが理解できる。また、心理検査データ以外の情報によるアセスメント、家族アセスメントなどについても知ることができる。さらに心理的異常に関しては、別に「精神病理学」が開講されているのでここでは簡単にふれられる。この科目は 2018 年度以降の入学生については公認心理師対応科目となり、開講年度に科目名とシラバスが改定される。なお、公認心理師対応科目の詳細については、別途、公開する予定である。		
教材（教科書）	とくに指定しない。また、必要に応じてプリント類を使用する。		
教材（参考資料）	下山晴彦編「よくわかる臨床心理学　改訂新版」ミネルヴァ書房 3,240 円 皆藤章編「よくわかる心理臨床」ミネルヴァ書房 2,376 円 下山晴彦著「臨床心理アセスメント入門」金剛出版 3,456 円 その他、授業のなかで随時紹介する。		
教育方法	授業資料にそって講義する。		
評価方法	受講態度等による平常点（５０％）。授業内レポート（５０％）		
到達目標	心理アセスメントに関する基本的な考え方が身につき、面接法や行動観察法、代表的な心理検査等についてその概要が把握できる。また、家族やコミュニティにおける人間関係についても、そこで起きていることを理解できる力の基礎を身につけることができる。		
授業時間外学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう授業内レポートの作成にも大いに役立つ。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
「精神病理学」も併せて受講することをすすめる。各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。また、配布した資料にはよく目を通してほしい。			
授業スケジュール			
1.はじめに～アセスメントとは何か 2.初回面接を中心に 3.心理学的異常と臨床心理学 4..面接法や観察法 5.検査法①質問紙法や投影法、作業検査法 6. 同②知能・発達検査法 7. 同③その他の検査法 8.個人のアセスメントに関する補足と関連するテーマ 9.心理的異常について 10.家族やコミュニティのアセスメント 11.自分の家族について考えてみる 12.不登校事例のアセスメントと処遇例 13.非行事例についてのアセスメントと処遇例 14 児童虐待事例についてのアセスメントと処遇例 15.心理的異常について 15.あらためてアセスメントについて考える			

※講義の内容や順序は変更されることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50785701
科目名	発達臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	乳幼児期から中年期・老年期にわたっての人間の発達像と、それに複雑な社会的諸要因等が絡んで生じる具体的なエピソードを聴くことをとおして、人間の発達上の諸課題を理解する力を身につける。また、その理解のうえにたってどのように支援を行っていくのかという視点を理解することができる。発達臨床心理学を実践し支える現場は多岐にわたるが、担当者は児童相談所勤務を経てきたので、その経験をベースに児童福祉臨床（調査、アセスメント、指導、治療、協働等の実際）について多くを語る。したがって抽象的ではなく具体的な現場の実際に触れることができるし、そこには子どもの発達、子どもを育てる場としての家族の発達やその他の重要な要因が含まれる。学生が自分自身の生活や進路をも考える機会になると考える。この科目は 2018 年度以降の入学生については公認心理師対応科目となり、開講年度に科目名とシラバスが改定される。なお、公認心理師対応科目の詳細については、別途、公開する予定である。		
教材（教科書）	使用しない。必要に応じてプリント類を配布する。		
教材（参考資料）	川畑隆著「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」明石書店 2,376 円 麻生武・浜田寿美男編「よくわかる臨床発達心理学・第２版」　ミネルヴァ書房 3,024 円 その他、授業のなかで随時紹介する。		
教育方法	授業資料を配布し、それにそって講義する。映像等も用いる。		
評価方法	受講態度等による平常点（５０％）。授業内に課すレポート（５０％）。		
到達目標	発達臨床、対人援助に関する基本的な考え方が身に付き、子どもが健全に育成されるための視点を自らの内にもてるようになる。		
授業時間外学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう授業内レポートの作成にも大いに役立つ。また、子どもから高齢者に至るまでの生活、発達に関する事象や社会の動きは様々に報道されている。それらに日々接して思考することも発達臨床心理学を学習するために重要なので、ぜひ勧めたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「福祉心理学」もぜひ受講してほしい。各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。また、配布した資料にはよく目を通してほしい。

授業スケジュール

1.発達臨床心理学の対象としての受講者の進路
2.発達臨床心理学にかかわる現場
3.あらわれる課題①乳幼児期
4.同②児童期・思春期
5.同 ③青年期
6.同④中年期・老年期
7.家族の機能とその発達
8.発達的視点についての補足とその他のテーマ
9.身体障害や知的障害
10.発達障害とは何か
11.発達障害と合理的配慮
12.不登校や社会的ひきこもり
13.非行や少年犯罪など
14.その他の子どもたちが示す現象

15.症状や問題行動等に関する補足とその他のテーマ
※授業の内容や順序は変更されることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50785801
科目名	心理療法	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
授業概要	この講義では代表的な心理療法の理論や歴史についての知識を身に着け、また守秘義務やプライバシーへの配慮など、相談を受けるものにとって守るべき倫理について理解する。 基本的な心理療法から、学校や保健所など地域における心理療法がどのようなものであるのかを理解するための視野を養う。また自分自身の良好なコミュニケーションや、心の健康を守るために必要な知識を身に着け、ストレスと程よく関われるようにする。　『この科目は、2018 年度入学生以降については公認心理師対応科目となり、　開講年度に科目名とシラバスが改訂される。 なお、公認心理師対応科目の詳細については、別途、公開する予定である。』		
教材（教科書）	特になし　適宜指示する		
教材（参考資料）	A・ストー　心理面接の教科書　河合隼雄　心理療法序説,カウンセリングの実際問題,心理療法個人授業		
教育方法	講義形式で行う。またテーマによってはグループでの話し合いの形をとる。		
評価方法	授業態度５０％、試験５０％		
到達目標	心理療法の様々な側面についての知識を学び、考えること。また実践につながるものとして、心理療法における事例研究の意義を知り、事例研究から学ぶ場合にも、クライエントを尊重することができるようになること.		
授業時間外学習	授業理解に必要なテキストのページ、あるいはプリント等を指示した回には、事前に読んで予習してくること。 身の回りの問題について、心理療法的な視点で自分なりに考えてみること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

臨床心理学１、または２の単位を取得していること。
授業だけで知識を身に着けることは難しく、定着させるためには、自分なりに勉強することが不可欠です。授業内で指示する参考文献や、自分なりに興味をもった本などを積極的に読んで下さい。また、授業への積極的な参加、つまりレポートや、授業内で他の学生の授業理解にもつながるような質問などを評価します。私語など、他の学生の授業理解を妨害するような態度に対しては、退室を求めたり、単位を出さない場合もあります。事例などから学ぶ場合にも、クライエントを尊重する態度を大切にできるようになってください。

授業スケジュール

１、　心理療法について　適応および限界　守秘義務、プライバシーへの配慮などの倫理
２、　心理療法の歴史　心理療法のモデルと古代の心理療法
３　、心理療法における枠、時間、場所、料金について、
４、　治療的人間関係,
５、　心理療法における話の聞き方、学派による違い、
６、　学派による違い　力動論　他
７、　ロジャーズの心理療法　治療者の態度
８、　フロイト理論　心的外傷理論の変遷
９、　ユング、アドラーの理論
１０、ウィニコットの理論
１１、子どもの心理療法、プレイセラピー
１２、描画を使用した事例
１３、地域における心理療法の様々な形（病院・学校・保健所・少年院・サポートスタッフへの支援など）
１４、ストレスと心の健康　良好なコミュニケーションのために
１５、復習テスト　、疑問点についての解説

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50785901
科目名	深層心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	深層心理学においては、心の中に無意識の領域の存在を仮定する。つまり、心のなかには自分自身が意識できない部分があることを前提として考えるのである。本講義ではまず、深層心理学の創始者であると考えられるフロイトの理論とユングの無意識についての基本的な考え方を理解する。その上で、ユング心理学の視点に立ち、昔話、文学、芸術作品、アニメなどを素材にして深く人間の心について洞察するできるようになることが期待される。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	河合隼雄著　『ユング心理学入門』　培風館,『昔話と日本人の心』　岩波書店 山中康裕編　『知の教科書』　ユング　講談社選書メチエ 山　愛美著　『言葉の深みへ』　誠信書房,『香月泰男　黒の創造』　遠見書房 ＊他の文献についても適宜紹介するので興味、関心のあるものを自発的に読み進めてもらいたい。		
教育方法	DVD,CD、パワーポイントを用いながら講義方式で行う。		
評価方法	授業中に課すテスト・課題（６０％） 読書レポート課題　　（４０％）		
到達目標	深層心理学的な見方の基礎を理解する。		
授業時間外学習	授業中配布するリストの中から自らの興味、関心に合わせて読むこと。 注)読書レポート課題を出す。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１遅刻・私語は厳禁。場合によっては退出を求める。 ２課題図書として、文学（小説)、児童文学、古典文学，神話、などを挙げて、読むことを課すので、読書をする習慣のない者は本講義の受講を機会に活字に親しむこと。そのつもりで登録して欲しい。 ３能動的に講義に出席をし、自らの興味、関心の方向性を探りながら勉強して欲しい。			
授業スケジュール			
1　オリエンテーション（講義の進め方など）読書課題についての説明・・・受講希望者は必ず出席すること。 2　深層心理学の考え方（意識/無意識、日常/非日常、境界)、現代社会と心の問題について 3　深層心理学的視点から見たアニメ（１）アニメを見る 4　深層心理学的視点から見たアニメ（2）解説 5　日本文化における「異界」性 6　フロイトーその生涯と理論 7　ユングーその生涯と理論（１）タイプ論、意識と無意識 8　ユングーその生涯と理論（２）元型、夢 9　昔話の深層心理学的アプローチ 10　物語（１)：時間と空間を超えて 11　物語　（２)：語りの力 12　イメージを介する心理療法ー箱庭療法、夢、描画 13　心の深層と表現（１）美術作品に注目して 14　心の深層と表現（2）文学作品に注目して 15　心の深層と表現（３）生きることと表現について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J50785A01
科目名	社会調査実習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	横井　桃子	旧科目名称	
授業概要	社会調査の企画から報告書の作成までの全過程を一通り体験的に学習する。社会調査とはなにかという点を踏まえた上で、本演習では質的調査の方法について学習し、実際にインタビュー調査をおこなう。学生は自身にとって身近なテーマや関心のある事柄を選択し、インタビュー・データの収集、整理、分析、レポートの作成、レポートの報告、討論をおこなう。 なおこの授業は、2018 年度・秋学期の「社会調査実習Ⅱ（担当：横井）」とあわせて単位取得することで、「社会調査士」資格取得のための【G：社会調査の実習を中心とする科目】の認定要件となる。（他年度の「社会調査実習Ⅱ」では不可。）		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	谷富夫・芦田徹郎 編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』 ミネルヴァ書房　2500 円		
教育方法	講義法やグループワークを組み合わせておこなう。実習であることから、自分で考え・計画を立てて作業を遂行することが求められる。		
評価方法	平常点（50%）：出席状況および小課題の提出による。 学期末レポート（50%）		
到達目標	質的調査の特徴を理解し、技法を身につけることを目標とする。先行研究を調べ、自分自身で問題設定をおこなった上で、質的調査（本学期は、若者へのインタビュー調査を予定）をおこない、収集したデータを分析して明らかになったことをレポートとしてまとめる。		
授業時間外学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。また授業時間外の学習として適宜、小課題の提出を求める。 データ収集に関しては、一部授業時間外に課題としておこなってもらう。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 毎回授業に出席することは当然のものとして、問題設定や質的調査のデータ収集・分析についての議論に積極的に質問や発言をすること。
2. 自分が本実習で明らかにしたい問題について、CiNii などの学術情報データベースなどで先行研究を調べる努力を惜しまないこと。論文等の検索の方法は授業内で指示する。

授業スケジュール

1. 質的調査の概説
2. 質的調査の方法・企画
3. 質的調査の先行理論、仮説構成
4. 質的調査の問い・対象者・トピックの設定
5. インタビュー調査の方法
6. フィールドワークの方法
7. 参与観察の方法
8. 会話分析・ライフヒストリー分析の方法
9. インタビュー調査・フィールドワークの実施
10. データの整理
11. 収集した質的データの分析(1)
12. 収集した質的データの分析(2)
13. 質的データの読み方・解釈
14. 分析結果報告の作成
15. 研究成果の報告と討論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J50785B01
科目名	社会調査実習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	横井　桃子	旧科目名称	
授業概要	社会調査の企画から報告書の作成までの全過程を一通り体験的に学習する。質的調査のより発展的な方法を学習した上で、実際に雑誌や新聞記事を材料としたドキュメント分析を経験してもらう。学生は自身にとって身近なテーマや関心のある事柄を選択し、ドキュメント・データの収集、整理、分析、レポートの作成、レポートの報告、討論をおこなう。テーマに関しては、可能な限り春学期の「社会調査実習Ⅰ」で扱ったテーマを発展的に分析することを目標とする。 なお、この授業は、2018 年度・春学期の「社会調査実習Ⅰ（担当：横井)」とあわせて単位取得することで、「社会調査士」資格取得のための【G：社会調査の実習を中心とする科目】の認定要件となる。（他年度の「社会調査実習Ⅰ」では不可。）		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	谷富夫・芦田徹郎 編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』 ミネルヴァ書房　2500 円		
教育方法	講義法やグループワークを組み合わせておこなう。実習であることから、自分で考え・計画を立てて作業を遂行することが求められる。		
評価方法	平常点（50%）：出席状況および小課題の提出による。 学期末レポート（50%）		
到達目標	質的調査の特徴を理解し、技法を身につけることを目標とする。先行研究を調べ、自分自身で問題設定をおこなった上で、質的調査（本学期は、新聞記事を材料にしたドキュメント分析を予定）をおこない、収集したデータを分析して明らかになったことをレポートとしてまとめる。		
授業時間外学習	各講義の最後に、次の講義のための準備学習を指示する。また授業時間外の学習として適宜、小課題の提出を求める。 データ収集に関しては、一部授業時間外に課題としておこなってもらう。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 毎回授業に出席することは当然のものとして、問題設定や質的調査のデータ収集・分析についての議論に積極的に質問や発言をすること。
2. 自分が本実習で明らかにしたい問題について、CiNii などの学術情報データベースなどで先行研究を調べる努力を惜しまないこと。論文等の検索の方法は授業内で指示する。

授業スケジュール

1. 質的調査と量的調査の違い、それぞれの長所と短所
2. 内容分析の方法
3. ドキュメント分析の方法
4. 新聞・雑誌の読み方
5. 映像メディアの読み方
6. 新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析法
7. コンピューターを用いた質的データの整理・分析法
8. 収取した新聞記事データのコーディング
9. 自由回答データのコーディング
10. 新聞記事・自由回答データの度数分布、クロス集計
11. 新聞記事・自由回答データの分析(1)
12. 新聞記事・自由回答データの分析(2)
13. 質的データを用いた研究論文の紹介
14. 分析結果報告の作成
15. 研究成果の報告と討論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50786101
科目名	医療心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
授業概要	近年、医療心理臨床の領域は、総合病院精神科や単科精神科病院に限らず、小児科、心療内科、内科、外科、リハビリテーション科、産婦人科など、多方面に拡大している。そこでは、心の病気への援助を目指す臨床心理学だけではなく、身体の病気やそれに苦しむ患者を理解し援助していく医療心理学が求められている。本講では、様々な病気に苦しむ患者やその家族に対して、医療心理学の観点から行う心理的援助について学習し、医療現場で出会う様々な問題を解決できるようになることを目指す。		
教材（教科書）	講義形式で行うが、医療現場で出会う様々な問題を具体的な事例を用いて解説する。		
教材（参考資料）	菅佐和子編　「医療現場に生かす臨床心理学」　朱鷺書房		
教育方法	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	定期試験（７０％）と、授業終了時に求める質問・感想表に基づく平常点（３０％）等による。		
到達目標	医療現場で心理的援助を行う際に求められる医療心理学の基礎的な理論や治療技法の理解し応用できるようになる。		
授業時間外学習	授業１週間前までに、授業資料を京学ナビにアップロードするので、事前に読んで予習しておくこと。わからない専門用語は、調べておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
私語や遅刻、教室の出入りを厳禁とする。私語が過ぎる場合、他者への迷惑を考慮して退室を求める。			
授業スケジュール			
１　オリエンテーション ２　患者の心理Ⅰ ３　患者の心理Ⅱ ４　患者の心理Ⅲ ５　精神科（入院）領域 ６　精神科（外来）領域 ７　心療内科領域 ８　小児科領域（乳児期・幼児期） ９　小児科領域（児童期・思春期） １０　小児科領域（ダウン症児とその家族への心理的援助） １１　内科領域（糖尿病患者への心理的援助） １２　外科領域 １３　ターミナルケア領域 １４　ＨＩＶ感染症領域 １５　医療スタッフのストレスと対応			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50786201
科目名	福祉心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	福祉とは“幸福(しあわせ)”のことだが、学生は全編をとおして人間の幸福について考えることができるだろう。とくに幸福から距離をおかれやすい社会的弱者といわれる人たちへの援助が本講義の中心となるが、担当者が児童相談所に勤務した期間が長く、現在も児童虐待防止活動に関わっていることもあり、児童虐待防止についての解説には多くの時間をあてる。学生は児童虐待の現実から透けて見える現代社会の課題にも直面することになると思われる。現場の業務は、福祉に限らずそうだが、法律や現場のシステムにもとづいて動いている。したがって、それら抜きには現場の業務については語れないし、実際の業務は理解しえない。本授業は心理学に関するものであるにもかかわらず、法律や現場のシステムに関する説明が多くなるが、現実的でリアルな人間の心理を見つめるよい機会になるだろう。この科目は 2018 年度以降の入学生については公認心理師対応科目となり、開講年度に科目名とシラバスが改定される。なお、公認心理師対応科目の詳細については、別途、公開する予定である。		
教材（教科書）	使用しない。必要に応じてプリント類を配布する。		
教材（参考資料）	川崎二三彦「児童虐待～現場からの提言」岩波新書 842 円 川畑隆著「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」明石書店 2,376 円		
教育方法	授業資料を配布し、それにそって講義する。映像等も用いる。		
評価方法	授業態度等による平常点（５０％）と、授業内レポート（５０％）		
到達目標	社会的弱者といわれる人たちへの援助について学ぶことで、人間や社会についての理解 t が深まる。		
授業時間外学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながるし、第８回と第１５回授業で行なう授業内レポートの作成にも大いに役立つ。また、福祉に関する事象や社会の動き、論評は様々に報道されている。授業で学習したことがらを背景に思い浮かべながら、自分なりに報道内容についてどういうことが起きている可能性があるのか、検討してみてほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「発達臨床心理学」もぜひ受講してほしい。各回の最初に用紙を配布するので、質問や感想、意見などを記入して提出してほしい。次回の授業で質問等に答える。配布した資料にはよく目を通してほしい。

授業スケジュール

01.臨床心理学における福祉分野の実際
02.福祉分野の諸課題
03.児童虐待防止に関する法律
04.児童虐待の実態や原因
05.児童虐待の通告や対応
06.児童虐待における心理と家族支援
07.家庭養護と社会的養護
08.児童の健全育成の視点とこれまでの補足
09.ドメスティック・バイオレンス(DV)とストーカー対策
10.障害者福祉臨床
11.高齢者福祉臨床
12.貧困家庭の子どもへの援助
13.非社会的、反社会的な子どもへのアプローチ
14.コミュニティ・アプローチ(臨床心理学的地域援助)
15.福祉分野の臨床心理学についての補足
※講義の内容と順序は変更があり得る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50786301
科目名	家族社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	桂　容子	旧科目名称	
授業概要	「家族」とは何なのだろう。通常、「家族」は、家族愛や家族の絆、というような言葉で表現されるように、一般に流通するイメージがあって、あるべき姿が共有されているように思われる。そして、そのあるべき姿からの距離を測りながら、家族の問題を憂えたり、危ぶんだりするという状況にあるようだ。 しかし、私たちが現在、「家族」イメージとしてとらえているものは、マスメディア等が流布させる限定的なイメージであり、実態を概観すると、これら流通しているイメージが現代の日本社会に遍くいきわたっているライフスタイルとは言い難いということがわかる。家族のスタンダードとされてきた、夫と妻と子どもから成る核家族の形態は、歴史的にも普遍的なものではなく、もはや多数派でもない。 授業では、イメージ家族を脱却して、制度としての「家族」の歴史的な変化や、「家族」概念の変化及び様々な側面から家族の実態を見て行きたい。さらに、「家族」における現代の諸問題をトピックとして取り上げ、人権の問題やジェンダーの視点に沿って、「家族」を読み解いていく。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介する		
教育方法	パワーポイントや映像資料を活用する。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝５０％ 定期試験＝５０％		
到達目標	固定的な「家族」イメージを検証し、自分と家族の関わりを見つめ直し、社会における家族の位置を相対的に捉え、人が幸福に生きるためには何が大切なのかを模索する視点を養う。		
授業時間外学習	授業内レポート、ミニテストを行うに当たって、予め課題や範囲を提示するので、準備をして臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

普段の授業を大切にすること。授業内レポート等の作成にあたっては、丁寧な文字と文章を心がけ、真面目に取り組んでください。
社会通念や偏見にとらわれず、それらを相対化し、思考する態度を望みます。

授業スケジュール

１　導入：授業ガイダンス　「家族」とは何か
２　社会とともに変化する家族（１）
３　社会とともに変化する家族（２）
４　高度経済成長期の家族の特徴
５　高度経済成長期から変化する家族
６　子どもと家族（１）
７　子どもと家族（２）
８　家族と暴力（１）
９　家族と暴力（２）
１０　現代家族のかかえる諸問題（１）
１１　現代家族のかかえる諸問題（２）
１２　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（１）
１３　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（２）
１４　多様化する家族（１）
１５　多様化する家族（２）

上記テーマの配列は、授業の進度、その時々の社会情勢などにからめて、調整します。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50786401
科目名	子どもの社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	野村　洋平	旧科目名称	
授業概要	子どもは、とても不思議な存在だ。元気で明るい姿に輝きを感じることもあれば、大人から見て非常に残酷な行動を平気でおこなったりする。私たち自身が「子ども」であったときも、おそらく不思議な存在であっただろう。 子ども時代というのは、人間の一生のなかで非常に特殊な時期である。私たちは子ども時代を通して社会の仕組みを学ぶだけでなく、その「社会の外」にあるものを直観的・身体的に学んでいく。接するもの何もかもが新鮮に感じられ、自分が生き生きとしている感覚を強く得られるのが、子ども時代の特徴であろう。 しかし、子どもたちは、楽しかった経験だけでなく、「苦悩」の経験にもたくさん触れ、子ども時代の感覚が鋭いだけに、その「苦悩」は子どもたちにとって切実なものとならざるをえない。その「苦悩」は、時に子どもたちの生命の感覚を奪ってしまう。例えば、学校において経験する「いじめ」はその一つであるといえる。 子ども（あるいは子ども時代）に貫いて流れているものはいったい何なのか。「子ども」について考えることは、子どもの本質を探ることにつながるとともに、私たちの内に引き継いできている子ども時代の感覚を呼び起こして、人間と社会との関係性を知る手がかりにもなる。		
教材（教科書）	使用しない。講義状況に応じて、プリントを配布する。		
教材（参考資料）	講義時に適宜紹介していく。		
教育方法	授業時に配布するプリントや映像資料などを参照しながら、講義形式で授業を行なう。その際、重要となる概念やキーワードなどは板書をし、重点的に解説を行なっていく。受講する学生は講義内容や板書をノートにとることを通して、こちらが提示した論点のみでなく、学生自身が感じたこと、考えたことをノートに追加して書き留める。試験において、講義内容を踏まえ、その知識を利用して自身のこれまでの経験を論じる問題を出題する。この試験で、学生がどれだけ授業を通して内容を深めることができたかが確認されることとなる。		
評価方法	平常点（10%）：出席状況等による 小レポート（30%）：全３回。講義時に数回、DVD やビデオ視聴を行う。その際、課するテーマに基づいて、小レポートを作成してもらう。 試験（60%）：試験は、講義内容を踏まえた上で自身の意見を論じる論述形式の試験とする。 ※小レポートを２回以上提出していない場合、試験を受けても採点の対象としない。		
到達目標	「子どもとはいかなる存在であるのか」をまず社会学的な観点から理解する。社会学的な観点から子どもをとらえるようになると、子どもとは社会には完全におさまりきらない部分があることが分かる。「社会におさまらない部分とは何か」を次に考えていくことにより、そこには私たちの「生命」に関する現象が待ち受けている。子どもを通して「社会」と「生命」との間にある視点を得ること、これが当授業の最終目標となる。		
授業時間外学習	日常生活において、「子ども」に関する現象、社会問題、行動などに対して、常に興味関心を持つようにする。また、対照的に「大人」というものについて考えることによって、「子ども」と「大人」の差異について敏感になるようにしておく。授業では子どもについての DVD、ビデオ、文学作品などを見てレポートを作成していくことになるが、その他授業内で適宜紹介する、子どもに関するの社会問題を取り扱った新聞記事、文学や映画等を準備学習として学び、レポートおよび試験に反映させられるようにしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自分自身の子ども時代の感覚や経験を振り返りながら、講義に臨むこと。講義時に生じた疑問等については、講義終了後質問を受け付けるので、積極的に尋ねてほしい。質問された内容は、必ず講義内容に反映させていく。また、この授業は講義形式である。授業に関する学生への連絡、学生からの質問の受け付け・返答などは、教室の対面の場で行う。（一部は大学での掲示として連絡。）メール、インターネット等でのやり取りは原則行わないものとする。積極的に授業に参加し、生のコミュニケーションを			

取ってほしい。

授業スケジュール

【講義の順序】
1．導入（この授業について）、現代社会における子どもに関わる問題
2．子どもとは何か、子どもと大人
3．子どもと社会（1）：子どもと大人の違い、映像資料鑑賞→小レポート提出
4．子どもと社会（2）　：社会の中で「子ども」はどのように捉えられてきたか
5．子どもと社会（3）　：子どもはどのように社会に入っていくのか
6．子どもと社会（4）：子どもの遊びと社会との関連
7．子どもの「苦悩」の経験（1）：学校における人間関係、映像資料鑑賞→小レポート提出
8．子どもの「苦悩」の経験（2）　：いじめ現象の社会的背景
9．子どもの「苦悩」の経験（3）　：いじめ研究の概略
10．子どもの「苦悩」の経験（4）：いじめのメカニズムと子どもの苦悩
11．子どもの生命感について（1）：現代の家族における子どもの位置、映像資料鑑賞①（12 回目と連続）
12．子どもの生命感について（2）：子どもの生命感のありか、映像資料鑑賞②（11 回目と連続）→小レポート提出
13．子どもの生命感について（3）：現代社会における家族と子どもの問題
14．子どもの生命感について（4）　：学校教育における子どもの生命感の扱い方
15．子どもの社会学の可能性について：子どもの生命感から見た子どもと大人の違い

※映像資料を鑑賞した回には、小レポートの提出を求める（授業時にコメントを書いてもらう場合もあるので、注意してほしい）。
※授業の進捗状況により、内容を変更する際は、講義時に学生に対して説明を行う。

【講義のポイント：上記講義の順序に沿って】
1～2 については、「子どもの社会学」という授業の持つ意義を説明していく。また、わたしたちが普段「子ども」と「大人」をどのようにとらえているかを説明する。
3～6 については、子どもを通して社会というものを学ぶとともに、社会学の基本的な考え方に触れられるようにする。
7～10 については、子どもの「苦悩」の経験、特に学校において子どもたちが経験するいじめの現象を取り上げることにより、「苦悩」の経験が子どもたちになにをもたらしているのかを考える。
11～14 については、子どもが感じる生命感というのは、どこから生まれてくるのかを考える。社会学的な視点の限界を乗り越えて、子どもについて考える。
15 において、これまでの講義を振り返りながら、子どもの社会学の今後の可能性について、他の学問分野や社会現象との関連において考える。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50786501
科目名	表現文化論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	表現文化論
授業概要	作品表現は、作家の心的イメージや経験、予見が表現されたものであると同時に、社会の人々の経験や意識、願望が凝縮されたものでもある。それは、多くの人に作家自身の思考を広めるとともに、作品に触れる者には自己の心象風景との照合や同一視を起こさせ、新たな経験をもたらす。 社会のなかで「対話や共有の相手」をつくり出す作品表現の役割、作品表現をはぐくむ社会のしくみや人と人との相互作用、新たな時代に求められる社会運営やまちづくりの場に活用される新たな作品表現のあり方――メディア論や芸術社会学の視点からこれらを解き明かしつつ、新たな社会をつくり、そこで生き残っていくために、「作品表現」のこれまで・これからをとらえ直していく。 音楽・映画・美術・写真・広告などさまざまな表現分野を扱い、映像や音楽、図版などなるべく多くの作品素材をもとに進めていく。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	徳丸吉彦、青山昌文著『芸術・文化・社会』放送大学教育振興会、2003 年 渡辺潤『アイデンティティの音楽』世界思想社、2000 年 若林直樹・白尾隆太郎編『イメージ編集』武蔵野美術大学出版局、2003 年		
教育方法	毎回、プリントなど、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意し、映画・映像・美術・音楽などさまざまな作品表現を鑑賞しつつ、具体的な題材をもとに講義をすすめる。		
評価方法	平常点（40%）：授業内課題２回程度。提示した課題を持ち帰って作成し、受講生全員で発表を行う。 最終課題（60%）：最終レポートないし作品制作（作品の形式は自由。ただしオリジナル作品であること）		
到達目標	1）さまざまな表現文化をメディア論、芸術社会学の視点でとらえ、社会の中でのコミュニケーション（対話）の重要な手だてとなり、人と人との相互行為がはぐくむ作品表現の特性やメカニズムについて学ぶ。 2）今後の社会でアートやデザインの方法を幅広い仕事の世界に活かしていく手立てを学ぶ。		
授業時間外学習	良質な作品を多数鑑賞することは、人生を豊かにしてくれるとともに、制作者として作品表現そのものやそれらを活用した事業を行う上で、不可欠のことである。授業で扱う作例は、オリジナルや複製にあたって自分の目で確認しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

メディアやアートで表現をしたい人、人がなぜ作品表現に惹かれるのかを考えてみたい人、自分の好きな作品やアーティストへの思いを他人と共有したいと考えている人の受講を待っています。

授業スケジュール

第１回　イントロダクション
第２回　メディアとしての芸術・デザイン
第３回　コミュニケーションとしての作品表現（１）：さまざまなコミュニケーション・モデルと作品表現
第４回　コミュニケーションとしての作品表現（２）：アーティストとオーディエンス（観客・読者・ファン）
第５回　メディアが現実・経験をつくる：芸術社会学の見方／メディア表現のメカニズム
第６回　課題の発表とコメント（１）
第７回　作品表現をつくる社会の力：儀礼としての音楽（宗教音楽、ゴスペルと R & B）
第８回　ポピュラーカルチャーとは何か（１）：「ブリコラージュ」としてのヒップホップ
第９回　ポピュラーカルチャーとは何か（２）：ゴスペル、ブルース、ジャズから現代の R&B へ
第 10 回　社会における相互行為を通じた感情の共有：「ノスタルジー」と作品表現
第 11 回　課題の発表とコメント（２）
第 12 回　社会の中のアート、デザイン（１）：アーティスト、クリエイターの表現活動・事例研究１
第 13 回　社会の中のアート、デザイン（２）：アーティスト、クリエイターの表現活動・事例研究２
第 14 回　社会の中のアート、デザイン（３）：アートやデザインの創造性やスキルを社会運営に活かす
第 15 回　最終課題の発表とコメント

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J50786601
科目名	心理測定法	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
授業概要	心理測定尺度の作成や使用に重要な統計的手法を学習する。ここで学習する分析は，質問紙法や心理検査を用いた研究を行う上で重要な手法であり，また，心理臨床・教育・福祉等の分野で使用される心理検査の原理を正しく理解して使用するために必要な知識である。 具体的には，(1) 心理測定尺度を用いてよいデータを収集するための重要な視点であり，尺度の作成や結果の利用に重要な，信頼性と妥当性の概念とその評価方法，(2) 多変量解析法の中から，心理尺度の構成や尺度間の関係を分析するために特に重要な手法の概要とその利用法，の 2 点を修得する。		
教材（教科書）	小塩真司 (2011)『SPSS と Amos による心理・調査データ解析－因子分析・共分散構造分析まで[第 2 版]』 東京図書 3,024 円 教科書は，授業中に参照する他，授業時間外の課題で PC を使った分析を行う時の参考資料としても必要である。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義形式を中心に授業を進めるが，分析の実行や分析結果の結果の読み取り等の演習を毎回含める。また，授業外課題を通して，PC を使った分析の実習を行う。		
評価方法	レポート課題（ほぼ毎回出題）30%，授業中に行う確認テスト 30%，期末試験 40%。		
到達目標	質問紙尺度や心理テストの開発，尺度間の相関関係の分析等で必要になる，測定理論や多変量解析の基礎を修得する。各手法について，以下の 4 点を目標とする。 (1)どんな手法を使用するかを研究計画やデータから判断することができる。 (2)コンピュータソフトウェアを用いて自らデータ分析を行うことができる。 (3)分析結果を解釈し報告書等に記述することができる。 (4)論文等に書かれた解析結果の説明を理解することができる。		
授業時間外学習	毎回，課題を出題する。課題の内容は，授業内容の確認や，学習した分析手法を PC の統計解析ソフトを使って実践することなどを含む。必ず毎回課題に取り組み，指定期日までに提出すること。 また，毎回の授業の始めに前回までの内容の確認テストを行うので，授業の復習をしっかりして次の授業に出席すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

基礎的な統計学の知識を前提とする。「心理統計学 I・II」を履修済であること（あるいは，同等の内容を既に習得していること）。
授業内容は易しくないので，毎回授業に確実にかつ積極的に参加し，さらに毎回の課題をきちんとこなしていく覚悟で履修すること。安易な態度では単位修得は難しい。
学習内容の積み上げが重要な科目であるので，遅刻や欠席をしないこと。

授業スケジュール

1. 授業の目的と方針，量的変数の記述統計手法に関する基礎知識
2. 回帰分析(1)：散布図，相関係数と回帰直線
3. 回帰分析(2)：分析例による回帰分析と重回帰分析の概説
4. 回帰分析(3)：回帰分析モデルの詳説
5. 回帰分析(4)：回帰係数の意味と解釈，研究例に見る分析の実際
6. パス解析：パス解析の概要と，研究例による分析の実際
7. 尺度の信頼性と妥当性(1)：信頼性と妥当性の概念，古典的テスト理論の基本モデル
8. 尺度の信頼性と妥当性(2)：信頼性係数の推定の諸方法
9. 尺度の信頼性と妥当性(3)：信頼性の高い尺度構成のための指針
10. 尺度の信頼性と妥当性(4)：妥当性の評価の視点と方法
11. 因子分析(1)：因子分析の基本的な発想
12. 因子分析(2)：因子分析の基本モデル
13. 因子分析(3)：因子回転，分析結果の解釈の仕方，質問紙尺度の例を用いた因子分析の実際

14. 因子分析(4)：因子数の決定，回転方法の選択基準，因子抽出法の選択基準 15. 授業内容の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50786A01
科目名	歴史学特殊講義（近世）Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	江戸時代は書物の時代ともいわれています。色鮮やかな錦絵や、小説や教科書、辞書、儒学書、まじないの本など、多種多様な本が出版され、日本各地の村々にいたるまで書物が行き渡った時代です。本講義では、そのような江戸時代の多様な出版物を紹介し、さらにそれらがどのように作られ、広まっていたのかを検討しながら、書物を史料として、江戸時代という時代の特色を読み解いていきます。		
教材（教科書）	使用しません。		
教材（参考資料）	その都度、指示します。		
教育方法	パワーポイントと毎回、配布するレジュメを使用する講義。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　30% レポート　70% ※受講生の数によって、試験になる場合があります。		
到達目標	・江戸時代の書物文化の特色を理解する ・歴史へのアプローチの方法がさまざまにあることを理解する ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を理解する		
授業時間外学習	・教科書は用いないので、予習を行う必要はない。 ・毎回のレジュメを熟読して復習をすること。 ・また講義を休んだ人も、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくこと。 ・15 回の講義のなかで、気になる回について、最低１冊は関連する本を読むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。なお授業中もスマホをずっとやっていたい、スマホ中毒の人の受講は認めません。当方がそのように判断した場合、単位はだしません。			
授業スケジュール			
第１回　ガイダンス 第２回　江戸時代の地震となまず絵 第３回　江戸時代の『源氏物語』 第４回　錦絵の生産と流通 第５回　江戸時代前期の出版関係法令 第６回　歌麿と幕府の出版統制 第７回　奇想の画家国芳と風刺浮世絵 第８回　判じ絵を読み解く 第９回　出版文化と日用教養書 第 10 回　京都の通り名歌の歴史 第 11 回　江戸時代教養文化のなかの天皇・公家像 第 12 回　江戸時代の七夕文化 第 13 回　江戸時代、書物文化の広がりと常識の形成 第 14 回　疱瘡神の詫び証文と小浜の豪商組屋六郎左衛門 第 15 回　おまじないの歴史			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50786B01
科目名	歴史学特殊講義（近世）II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	近世史研究、すなわち、江戸時代を対象とした歴史研究について、さまざまな分野の研究をとりあげて、古典的論文から最新研究成果まで紹介する講義である。秀吉、休日、法律からおっぱいまでさまざまなものが歴史の対象となる。この講義を通して江戸時代の豊かな世界に触れることとなる。また歴史学の対象としての江戸時代の特色は、それまでの時代と比べて、格段に大量の、またバラエティに富んだ史料が残されていることにある。そのような史料を読み解く眼も養う。		
教材（教科書）	使用しません。		
教材（参考資料）	その都度、指示します。		
教育方法	パワーポイントと毎回、配布するレジュメを使用する講義。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　30% レポート　70% ※受講生の数によって、試験になる場合があります。		
到達目標	・江戸時代の社会の仕組みを理解する ・歴史へのアプローチの方法がさまざまにあることを理解する ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を理解する		
授業時間外学習	・教科書は用いないので、予習を行う必要はない。 ・毎回のレジュメを熟読して復習をすること。 ・また講義を休んだ人も、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくこと。 ・15 回の講義のなかで、気になる回について、最低 1 冊は関連する本を読むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。なお授業中もスマホをずっとやっていたい、スマホ中毒の人の受講は認めません。当方がそのように判断した場合、単位はだしません。			
授業スケジュール			
第 1 回　ガイダンス 第 2 回　政治史：秀吉の平和 第 3 回　政治史：「惣無事令」はなかった！？ 第 4 回　政治史：江戸時代のお殿様の役割 第 5 回　教育史：江戸時代における文字の役割 第 6 回　教育史：江戸時代の識字率は世界一！？ 第 7 回　女性史：遊女へのまなざし 第 8 回　女性史：おっぱいの歴史 第 9 回　社会史：休日の歴史 第 10 回　社会史：民俗学と歴史学 第 11 回　卒業論文の書き方 第 12 回　地域史：保津川の歴史 第 13 回　地域史：隠岐と京都 第 14 回　史料論：一次史料と二次史料 第 15 回　史料論：史料批判について考える			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J50787A01
科目名	歴史学特殊講義（中世）Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	中世の歴史文化に関して、２つのテーマをとりあげる。第１は、中世の人々はなぜ宗教を信じていたのかという問題を、技術史的背景から考える、第２は外来文化である仏教がなぜナショナリズムと結びついたのかという問題を、神仏関係を素材に考察する。 ①中世は技術が進歩したという側面と、技術がまだまだ未熟であるという二つの側面をもつ。宗教は合理性を超越したものだが、しかし技術や知識が進歩してくると、宗教の内部に合理性を取り入れなければ社会の信頼を維持することができなくなる。他方、技術の未熟さ、人間の力の限界は、呪術や宗教への依存を不可避とする。これらを通して、中世仏教における合理と非合理との関係について考えたい。 ②仏教はもともと外来文化であるが、それが日本社会に定着するようになると、仏教が日本的なものとみなされ、仏教の繁栄が日本の卓越性を示すものとされた。そしてそれがモンゴル襲来を機に独善的な神国思想へと変容してゆく。外来文化がナショナルな感情と結びついていった原因について考えたい。		
教材（教科書）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期テスト（70%）		
到達目標	・日本中世の歴史文化について、最新の研究動向を理解する。 ・柔軟で批判的な思考を涵養する。		
授業時間外学習	・高校の日本史教科書の古代・中世の文化の項を復習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。

授業スケジュール

1.中世は呪術からの解放の時代か？
2.肖像画と呪詛
3.護持僧
4.顕密仏教の合理性
5.治病と祈祷
6.万能でない神仏
7.古代・中世における神と仏
8.神仏同体論
9.賀茂社と神仏習合
10.伊勢神宮と仏教
11.神々と三国世界
12.辺土小国観の克服
13.中世神道と顕密仏教
14.神国思想と仏国思想
15.仏教の時代の終焉と世界地図

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J50787B01
科目名	歴史学特殊講義（中世）II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	近年の高校日本史の教科書では、中世を鎌倉幕府ではなく、院政時代から始めるものが増えている。学界の定説を反映させたものであるが、これは中世の始まりが 150 年早くなったというだけの話ではない。鎌倉幕府の成立よりも、院政時代の方が重要な歴史的画期であるということだ。それはまた、中世を武士・幕府・鎌倉新仏教で捉えてきた歴史像への批判であるし、鎌倉新仏教という概念の有効性すら否定されようとしている。日本中世は本当に武士の時代なのだろうか。鎌倉新仏教の時代なのか。 本講では、仏教・寺院を中心的素材としながら、日本の古代社会から中世社会への転換過程を検討する。		
教材（教科書）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	プリントを適宜配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期テスト（70%）		
到達目標	・日本の古代中世史についての最新の学説を理解する。 ・柔軟で批判的な思考様式を体得する。		
授業時間外学習	・高校日本史の教科書の古代・中世の項を復習しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。			
授業スケジュール			
1.「鎌倉新仏教」概念の破綻 2.呪詛と祈祷 3.律令体制から王朝国家体制へ 4.宗教政策の転換 5.中世寺院への転換 6.寺院による文書偽造 7.末法思想の流布 8.民衆にとっての強訴とは？ 9.　顕密仏教の民衆的基盤 10.鎌倉初期の仏教改革 11.異端とその弾圧 12.禅律僧の時代 13.非人救済活動の二面性 14. 禅宗と朝廷・幕府 15.法然・親鸞の登場			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J50788001
科目名	自然地理学総論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	
授業概要	自然地理学は自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、中でも代表的なものに気候と地形が挙げられる。これらをはじめとする自然環境は、第四紀（人類の時代で約 200 万年前から現在まで）における人間生活と密接に関係し、人間の活動に多大な影響を及ぼしてきた。ゆえに自然環境は、人間社会を理解する上での大切な知識になるとともに、人間が活動する際に必要な教養に数えられる。 この授業では、こうした第四紀の自然環境を具体的に認識するために、気候と地形を中心とする包括的な自然環境について習得し、その基本的な内容の記述・説明ができるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	なし。プリントを適宜配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて紹介する。		
教育方法	授業は、基本的に講義法で行い、要点と簡単な図を黒板（ボード）に板書しながら進める。また多くの授業では、問題を 5 つ前後出題する。問題は以前の授業内容や自然環境の基礎知識などに関するものである。問題には挙手をして答えてもらい、正解すれば加点する。 15 回のうち 2 回の授業はレポート（授業内レポート）を作成・提出するものである。		
評価方法	基本的に定期試験の成績（90%）と授業中の問題正解や授業内レポートによる平常点（10%）とで評価を行う。定期試験、授業における問題の出題、ならびに授業内レポートは到達目標(1)(2)(3)に関する達成の度合いを確認するため実施する。これらを総合した点数が 60 点以上であれば、単位を認定する。 詳細は第 1 回授業で説明する。		
到達目標	(1) 自然地理学で多用する用語とその意味を記述することができる。 (2) 第四紀における自然環境の基本的内容を説明することができる。 (3) 自然地理学の調査・考察方法を知識として身につけ、その要点を説明できる。		
授業時間外学習	各授業の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、授業内容を深くしっかり理解するように（各授業後の学習推定時間は 60〜120 分）。 授業は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が授業を理解する上での予習にもなる。多くの授業では、以前の授業内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートは教員が指示するテーマについて復習した内容を論述するもので、定期試験も授業内容からの出題となる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1) 受講マナーを守ること。とくに私語、携帯電話（スマートフォンを含む）の無断使用、食事は厳禁なので注意するように。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。 (2) 授業に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。 (3) 授業では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。 (4) 質問などは、授業終了後の約 5 分間に授業の教室で受け付ける。			
授業スケジュール			
1. 講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講上の注意事項などについて 2. 氷河期(1) ― 丘（ターミナルモレーン）とその堆積物について 3. 氷河期(2) ― 氷河の性質と丘の堆積物から分析された氷河期の発見について 4. 氷河地形と土壌 ― 人類に恩恵を与えたフィヨルドとレスの特色及び形成過程について 5. 気候変化(1) ― 氷河期終了後の温暖期における寒冷化について 6. 気候変化(2) ― 段丘地形によって明かされた過去約 2 万年間の降水量変化について 7. 平野(1) ― 沖積平野の定義と扇状地の特色について 8. 平野(2) ― 沖積平野に分布する自然堤防帯と三角州の特色について 9. 平野(3) ― 三角州における沖積層の特色と環境復原の分析について 10. 平野(4) ― 日本の河川下流部における沖積平野の形成過程と環境変化について 11. 水害(1) ― 水害常襲地域における輪中の成立とその背景について			

12. 水害(2) ― 近世・近代の輪中地域における人間と洪水の闘いについて
13. 授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下がる。
14. 授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下がる。
15. 総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認)、試験の出題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J50788A01
科目名	日本の美術 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
授業概要	日本の絵画史の概説を行う。日本の絵画の歴史は、大陸からもたらされる外来美術の摂取と、それを吸収したうえでの独自の様式の確立を繰り返すという著しい特色がある。その具体的内容は、時代によってさまざまながら、技法や様式を摂取しつつ日本独自の繊細な感性的世界の表出に用いるありさまには、共通点が認められる。その特色を、各時代の絵画作品の具体例を紹介しつつ解説する。		
教材（教科書）	特に用いない。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	守屋正彦「すぐわかる日本の絵画」（東京美術、２００２年）		
教育方法	講義の性格上、毎回図版プリントを配布し、OHC・動画を併用してカラー画像を数多く見てもらいながら説明を加えてゆく講義方法を取る。		
評価方法	期末のレポート(７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了後に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。出席回数が極端に少ない場合は、評価の対象としないので、注意すること。		
到達目標	・各時代において絵画の果たした役割について、正しく説明できる。 ・絵画の主題として描かれるものに見える時代の美意識について、正しく説明できる。 ・中国・ヨーロッパとの交易を通じて、日本の絵画が受けた影響について、正しく説明できる。		
授業時間外学習	毎回。授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、当日の復習と併せて参考文献などを用いてその具体的な意味内容を調べて、次回の授業のノートを取る部分の最初に記入しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール

授業中の私語を慎むこと。繰り返して注意しても従わないものには、退席を求めることがある。

学習上の助言

各地の美術館における展示の参観を推奨する

授業スケジュール

１．　奈良時代以前の絵画
２．　平安時代の絵画１（仏画）
３．　平安時代の絵画２（絵巻物）
４．　鎌倉時代の絵画（肖像画と縁起絵巻）
５．　室町時代の絵画（水墨画）
６．　安土桃山時代の絵画１（狩野派ほか）
７．　安土桃山時代の絵画２（風俗画・長谷川派）
８．　江戸時代の狩野派・土佐派
９．　琳派
１０．浮世絵
１１．文人画
１２．円山・四条派
１３．洋風画
１４．奇想の画家たち（曽我蕭白・伊藤若冲）
１５．絵画の材料と絵の具

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J50788B01
科目名	日本の美術 B	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
授業概要	日本の陶磁史の概説を行う。日本は古くは中国文化圏の周辺に位置した島国であり、その陶磁発展の歴史的過程では、たびたび大陸の先進的な陶磁製作技術が導入されるとともに、それを意欲的かつ柔軟に吸収しながらも日本独自の感性に根ざした様式美を発展させてきた。また、日本には歴代にわたって大量の中国陶磁が輸入されており、その存在を抜きにしては日本における陶磁の使用状況を語ることができない。その特色を、各時代の陶磁の具体例を紹介しつつ解説する。		
教材（教科書）	特に用いない。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	矢部良明「日本やきもの史」（美術出版社、１９９８年）		
教育方法	講義の性格上、毎回図版プリントを配布し、OHC・動画を併用してカラー画像を数多く見てもらいながら説明を加えてゆく講義方法を取る。		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	・各時代の陶磁が果たした役割について、正しく説明することができる。 ・陶磁の文様に見える時代ごとの美意識について、正しく説明することができる。 ・中国と日本の貿易に占める陶磁の位置付けについて、正しく説明することができる。		
授業時間外学習	毎回、授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、当日の復習と併せて参考文献などを用いてその具体的な意味内容を調べて、次回の授業のノートを取る部分の最初に記入しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講上のルール 私語を慎むこと。繰り返して注意しても従わないものには退席を求めることがある。 学習上の助言 各地の美術館における日本陶磁関連の展示の参観を推奨する。			
授業スケジュール			
１．　縄文土器・弥生土器 ２．　土師器・須恵器・奈良三彩 ３．　初期貿易陶磁（三彩ほか） ４．　初期貿易陶磁（青磁・白磁） ５．　灰釉・緑釉 ６．　荘園貿易の時代 ７．　六古窯 ８．　鎌倉・室町時代の輸入陶磁 ９．　新安海底遺物 １０．安土桃山時代の茶陶 11．伊万里焼 12．後期伊万里・鍋島 １３．磁器、ヨーロッパへ １４．京焼 １５．明治以降の陶磁			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50789001
科目名	自然地理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Geography		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	
授業概要	自然地理学は自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、中でも代表的なものに気候と地形が挙げられる。これらをはじめとする自然環境は、第四紀（人類の時代で約 200 万年前から現在まで）における人間生活と密接に関係し、人間の活動に多大な影響を及ぼしてきた。ゆえに自然環境は、人間社会を理解する上での大切な知識になるとともに、人間が活動する際の重要な教養に数えられる。さらに、これは教職の自然地理分野に必須の項目にあたり、教職を目指す場合に必要な要素でもある。 この授業では、こうした第四紀の自然環境を具体的に認識するために、気候と地形を中心とする包括的な自然環境について習得し、その基本的な内容の記述・説明ができるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	なし。プリントを適宜配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて紹介する。		
教育方法	授業は、基本的に講義法で行い、要点と簡単な図を黒板（ボード）に板書しながら進める。また多くの授業では、問題を 5 つ前後出題する。問題は以前の授業内容や自然環境の基礎知識などに関するものである。問題には挙手をして答えてもらい、正解すれば加点する。 15 回のうち 2 回の授業はレポート（授業内レポート）を作成・提出するものである。		
評価方法	基本的に定期試験の成績（90%）と授業中の問題正解や授業内レポートによる平常点（10%）とで評価を行う。定期試験、授業における問題の出題、ならびに授業内レポートは到達目標(1)(2)(3)に関する達成の度合いを確認するため実施する。これらを総合した点数が 60 点以上であれば、単位を認定する。 詳細は第 1 回授業で説明する。		
到達目標	(1) 自然地理学で多用する用語とその意味を記述することができる。 (2) 自然環境の基本的内容（教職に必要なものを含む）を説明することができる。 (3) 自然地理学の調査・考察方法を知識として身につけ、その要点を説明できる。		
授業時間外学習	各授業の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、授業内容を深くしっかり理解するように（各授業後の学習推定時間は 60〜120 分）。 授業は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が授業を理解する上での予習にもなる。多くの授業では、以前の授業内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートは教員が指示するテーマについて復習した内容を論述するもので、定期試験も授業内容からの出題となる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

(1) 受講マナーを守ること。とくに私語、携帯電話（スマートフォンを含む）の無断使用、食事は厳禁なので注意するように。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。
(2) 授業に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。
(3) 授業では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。
(4) 質問などは、授業終了後の約 5 分間に授業の教室で受け付ける。

授業スケジュール

第 1 回　授業の概要と導入 ― 授業のテーマ、授業の進め方と計画、成績評価方法、受講上の注意事項などについて
第 2 回　氷河期(1) ― 丘（ターミナルモレーン）とその堆積物について
第 3 回　氷河期(2) ― 氷河の性質と丘の堆積物から分析された氷河期の発見について
第 4 回　氷河地形と土壌 ― 人類に恩恵を与えたフィヨルドとレスの特色及び形成過程について
第 5 回　気候変化(1) ― 氷河期終了後の温暖期における寒冷化について
第 6 回　気候変化(2) ― 段丘地形によって明かされた過去約 2 万年間の降水量変化について
第 7 回　平野(1) ― 沖積平野の定義と扇状地の特色について
第 8 回　平野(2) ― 沖積平野に分布する自然堤防帯と三角州の特色について
第 9 回　平野(3) ― 三角州における沖積層の特色と環境復原の分析について
第 10 回　平野(4) ― 日本の河川下流部における沖積平野の形成過程と環境変化について

第 11 回　水害(1) ― 水害常襲地域における輪中の成立とその背景について
第 12 回　水害(2) ― 近世・近代の輪中地域における人間と洪水の闘いについて
第 13 回　授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下がる。
第 14 回　授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下がる。
第 15 回　総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認)、試験の出題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50789501
科目名	デジタルアーカイブ学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
授業概要	博物館・美術館・図書館等の収蔵品をデジタル化することによって、新たな形で保存・公開等を行うことを目的とするデジタルアーカイブは、近年の文化遺産・資源の再活用化の大きな課題の１つである。そして、デジタルで情報を分類することによって、これまで当然とされていた知識の形成の方法も大きく変わろうとしている。 本講義は、デジタルとアーカイブについて具体的な事例によって検証するとともに、すでに社会環境として機能している検索はじめとするネット文化や個々人が対峙することになった著作権等々の、アナログからデジタルへのメディアの変遷によって生じてきた知の体系化における新たな可能性や問題点等を考えていく。		
教材（教科書）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考資料）	福井健策『誰が「知」を独占するのか：デジタルアーカイブ戦争』集英社新書 2014 野口悠紀雄『知の進化論：百科全書・グーグル・人工知能』朝日新書 2016 東浩紀『弱いつながり：検索ワードを探す旅』幻冬舎 2014（幻冬舎文庫／Kindle 版 2016）		
教育方法	プリント、映像教材他。		
評価方法	毎回の小レポート及び最終レポートで総合的に評価。		
到達目標	デジタルとアーカイブについて、実践的に考察する。		
授業時間外学習	各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

主体的に参加することを望む。

授業スケジュール

01 オリエンテーション
02 デジタルアーカイブについて(1)
03 デジタルについて(1)
04 デジタルについて(2)
05 デジタルについて(3)
06 デジタルについて(4)
07 デジタルについて(5)
08 デジタルについて(6)
09 アーカイブについて(1)
10 アーカイブについて(2)
11 アーカイブについて(3)
12 アーカイブについて(4)
13 アーカイブについて(5)
14 デジタルアーカイブについて(2)
15 デジタルアーカイブについて(3)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J50789502
科目名	デジタルアーカイブ学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
授業概要	博物館・美術館・図書館等の収蔵品をデジタル化することによって、新たな形で保存・公開等を行うことを目的とするデジタルアーカイブは、近年の文化遺産・資源の再活用化の大きな課題の１つである。そして、デジタルで情報を分類することによって、これまで当然とされていた知識の形成の方法も大きく変わろうとしている。 本講義は、デジタルとアーカイブについて具体的な事例によって検証するとともに、すでに社会環境として機能している検索はじめとするネット文化や個々人が対峙することになった著作権等々の、アナログからデジタルへのメディアの変遷によって生じてきた知の体系化における新たな可能性や問題点等を考えていく。		
教材（教科書）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考資料）	福井健策『誰が「知」を独占するのか：デジタルアーカイブ戦争』集英社新書 2014 野口悠紀雄『知の進化論：百科全書・グーグル・人工知能』朝日新書 2016 東浩紀『弱いつながり：検索ワードを探す旅』幻冬舎 2014（幻冬舎文庫／Kindle 版 2016）		
教育方法	プリント、映像教材他。		
評価方法	毎回の小レポート及び最終レポートで総合的に評価。		
到達目標	デジタルとアーカイブについて、実践的に考察する。		
授業時間外学習	各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

主体的に参加することを望む。

授業スケジュール

01 オリエンテーション
02 デジタルアーカイブについて(1)
03 デジタルについて(1)
04 デジタルについて(2)
05 デジタルについて(3)
06 デジタルについて(4)
07 デジタルについて(5)
08 デジタルについて(6)
09 アーカイブについて(1)
10 アーカイブについて(2)
11 アーカイブについて(3)
12 アーカイブについて(4)
13 アーカイブについて(5)
14 デジタルアーカイブについて(2)
15 デジタルアーカイブについて(3)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J50789601
科目名	古文書講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	歴史学は、当時の人々が残した史料を読み解きながら、考察を深める学問です。しかし現代に残る古文書のうち翻刻（現代の文字に直すこと）されて史料集として出版されているものは 1%にもみたず、ほとんどの史料はくずし字のまま残されています。つまりくずし字の読解能力を持てば、より広い歴史世界を自分で足で歩き回ることが可能になります。本講義では往来物や浮世絵などの写真をテキストとして、実際のくずし字をみなさんに読んでもらいます。		
教材（教科書）	古文書のコピーをその都度、配布します。		
教材（参考資料）	『くずし字用例辞典　普及版』(東京堂出版)。購入方法はガイダンスにて指示します。		
教育方法	毎回、前の週にだした課題について、その場で指名された受講生が黒板に板書する形で進めていきます。毎回１人１回は板書が当たる予定です。毎回の予習が必須です。		
評価方法	平常点　　30%　毎回の授業に予習をして臨んでいるかどうか。 定期試験　70%　江戸時代の史料の読解能力について試験します。		
到達目標	・くずし字で書かれた史料の初級程度の読解能力を獲得すること ・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習得すること		
授業時間外学習	毎回、次回の課題プリント（古文書のコピー）を配布します。講義では受講者全員に、黒板に読みを板書してもらい、口頭で読み上げてもらいます。当然、授業でいきなり古文書に目を通しても読めないので、課題プリントを図書館や家で、くずし字辞典や国語辞典などを参照しながら、読んでくる作業が必要になります。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

古文書の多くはくずし字（草書体）で書かれています。初めてみた方は同じ日本語とは思えない、アラビア語をみるような感覚になるかもしれません。購入を指定した『くずし字用例辞典』はもちろん、国語辞典、漢和辞典、さらには歴史事典なども駆使して、読解に挑戦してみてください。くずし字読解能力というパスポートを手に入れて、ぜひ一緒に歴史世界に旅立ちましょう。なおくずし字を学ぶ意欲がない学生の受講は認めません。

授業スケジュール

1　ガイダンス　―くずし字のまなび方―
2　なまず絵を読み解く
3　はしか絵を読み解く
4　双六を読み解く
5　妖怪本を読み解く
6　女大学を読み解く
7　福沢諭吉『世界国尽』を読み解く
8　京都のガイドブックを読み解く
9　まじない本を読み解く
10　手紙のマニュアル本を読み解く 1
11　手紙のマニュアル本を読み解く 2
12　証文のマニュアル本を読み解く 1
13　証文のマニュアル本を読み解く 2
14　太閤記を読み解く
15　古文書の世界へ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	★	–	–	–	–

年度	2018	授業コード	J50789701
科目名	古文書講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	歴史学は、当時の人々が残した史料を読み解きながら、考察を深める学問です。しかし現代に残る古文書のうち翻刻（現代の文字に直すこと）されて史料集として出版されているものは 1%にもみたず、ほとんどの史料はくずし字のまま残されています。つまりくずし字の読解能力を持てば、より広い歴史世界を自分で足で歩き回ることが可能になります。本講義では古文書の写真をテキストとして、実際のくずし字をみなさんに読んでもらいます。		
教材（教科書）	古文書のコピーをその都度、配布します。		
教材（参考資料）	『くずし字用例辞典　普及版』(東京堂出版)。購入方法はガイダンスにて指示します。		
教育方法	毎回、前の週にだした課題について、その場で指名された受講生が黒板に板書する形で進めていきます。毎回１人１回は板書が当たる予定です。毎回の予習が必須です。		
評価方法	平常点　　30%　毎回の授業に予習をして臨んでいるかどうか。 定期試験　70%　江戸時代の史料の読解能力について試験します。		
到達目標	・くずし字で書かれた史料の中級程度の読解能力を獲得すること ・史料読解に必要となる歴史的事項の調査方法を習得すること		
授業時間外学習	毎回、次回の課題プリント（古文書のコピー）を配布します。講義では受講者全員に、黒板に読みを板書してもらい、口頭で読み上げてもらいます。当然、授業でいきなり古文書に目を通しても読めないので、課題プリントを図書館や家で、くずし字辞典や国語辞典などを参照しながら、読んでくる作業が必要になります。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この授業は、基本的に当該講義の前期の授業の合格者、すなわち、くずし字初級程度の読解能力を有していることを前提として授業を進めます。特に強い意欲がない場合、上記の条件にあてはまらない方は受講しないでください。

授業スケジュール

1　ガイダンス　―くずし字のまなび方―
2　名頭を読み解く
3　村尽しを読み解く
4　手本往来物を読み解く 1
5　手本往来物を読み解く 2
6　家康の書状を読み解く
7　龍馬の書状を読み解く
8　幕末の風説留を読み解く
9　山ノ内村の文書を読み解く 1
10　山ノ内村の文書を読み解く 2
11　乳母奉公人請状を読み解く
12　まじないを読み解く
13　祇園町文書を読み解く 1
14　祇園町文書を読み解く 2
15　くずし字の世界

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J50789801
科目名	異文化交渉史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	主として、中世から近世における、日本とヨーロッパ、日本と中国大陸・朝鮮半島の文化的交流について考える。 ヨーロッパは特にポルトガル・イタリア、オランダが対象地域であり、中国・朝鮮は宋・明、李氏朝鮮が考察対象となる。		
教材（教科書）	すべて、こちらで用意する。		
教材（参考資料）	ルイスフロイス『日本史』（東洋文庫）、『朝鮮通信使の研究』（李元植）など。		
教育方法	講義の形態をとる。		
評価方法	テストかレポートのいずれかを選択しその成績によって決定する。１００％		
到達目標	中世から近世にかけての対外交渉を理解し、近現代の外交問題を考える力をつける。		
授業時間外学習	興味ある外交問題を見つける。最初の時間にそれについてアンケートを取る。 毎日、新聞の政治面文化面を読む。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件　　なし

受講のルール　私語は厳禁。

学習上の助言　積極的な問題意識を持って受講していただきたい。

授業スケジュール

１．中世ヨーロッパ事情
２．映画にみる日欧関係
３．キリシタンの宗教
４．キリシタンの文学
５．同上
６．同上
７．キリシタンの歴史教育
８．キリシタンの日本語学習
９．ポルトガルからオランダへ
１０．中国からみた日本
１１．中国の日本語研究
１２．朝鮮との交流史概観
１３．秀吉時代の朝鮮
１４．李氏朝鮮の日本語教育
１５．現代の歴史問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50789901
科目名	歴史学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	私たちは資料をもとにしながら、歴史像を構築している。とはいえ、資料それ自体は客観的なものではなく、さまざまな偏見で塗り固められている。私たちの世界にはそもそも客観的なデータなど存在しない。資料を取り扱うには、そうしたバイアスを取り除く作業が不可欠である。そのうえで資料を丹念に読みといてゆけば、過去の時代の生活や臭いが浮かび上がってくる。あるいは、偏見の在り方そのものにも、時代の特徴がある。さまざまな資料に触れながら、そこから何が読み取れるのか、一緒に考えてゆきたい。		
教材（教科書）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	課題に対する発表（60%）および授業での発言や貢献度（40%）		
到達目標	・義絶・離縁・葬送・差別・密懐など多様な資料に触れることによって、過去の社会への認識を深めるとともに、読み取る力、調べる力、考える力を養う。 ・さまざまな論文に触れて、理解する力、まとめる力、発表する力を養う。		
授業時間外学習	・史料・テキストは事前に配付しておくので、十分な準備が必要である。 ・適宜指名して報告してもらうので、準備のうえレジュメを作成して発表する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・授業では、文献史料や絵画資料・論文など、さまざまな素材をとりあげる。資料や論文を読み込み、そこから何が読み取れるのか、自由に意見交換をすすめるなかで、社会の成り立ちや心性について一緒に考えたい。好奇心と探求心にみちた学生を歓迎したい。			
授業スケジュール			
1.　歴史学と資料 2.　『今昔物語集』を読む 3.　『今昔物語集』を読む 4.　貴族の日記を読む 5.　貴族の日記を読む 6.　『沙石集』を読む 7.　戦国法を読む 8.　織田信長を読む 9.　候文の読み方 10.　往来物を読む 11.　名所図会を読む 12.　山ノ内村の史料を読む 13.　本能寺の変の史料を読む 14.　『史料京都の歴史』の発表 15.　『史料京都の歴史』の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50789902
科目名	歴史学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	歴史学は暗記科目ではありません。調べて調べて調べつくす科目です。過去のさまざまな歴史について、これまでの研究者たちは、各自の問題関心に基づきながら、さまざまなテーマについて、史料を読み解き、明らかにしてきました。みなさんも自分の問題関心に基づきながら、過去の研究や史料を読み解き、何かについての歴史をあきらかにする卒業論文を書くための基礎的な力をこの授業では身につけていただきます。さまざまな時代、さまざまな人たちが残してくれた史料を深く読み解きながら、歴史的な事項を調べる力を身につけましょう。		
教材（教科書）	さまざまな時代の史料（コピーを配布します）		
教材（参考資料）	その都度、指示します。		
教育方法	学生の発表により進めていく授業です。		
評価方法	各自の発表の内容・授業への取り組み方で判断します。		
到達目標	・歴史史料の読解能力の基礎的能力を獲得すること ・辞書やサイトなど、歴史的事項を調べるためのツールに習熟すること		
授業時間外学習	講義では、受講者全員にあたる輪読形式で史料の読みを確認しますので、毎回、テキストの予習は必須です。さらに一回につき数人、事前に担当を決めて、調べてきたことを発表してもらいます。発表者は入念な準備が必要になります。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

歴史学の魅力は、史料の中に広がる豊かな世界を、自らの手で掘り起こして読み解いていくことにあります。この講義は、みなさんがその豊かな世界へ、自らの足でアプローチできる力をつけるための授業です。発表担当者は、興味をもった事項について、貪欲に調べてみてください。卒論に繋がるようなテーマがそこから見つかるかもしれません。

授業スケジュール

1.歴史学と史料（ガイダンス）
2. 往来物を読む ―候文の読み方―
3. 『史料京都の歴史』を読む
4. 名所図会を読む
5. 山ノ内村の史料を読む
6. 本能寺の変の史料を読む
7. 『史料京都の歴史』の発表
8. 『史料京都の歴史』の発表
9. 『一遍聖絵』の世界
10. 『餓鬼草紙』の世界
11. 『西行物語絵巻』の世界
12. 『石山寺縁起』の世界
13. 『法華験記』の世界
14. 『法然上人絵伝』の世界
15. 『慕帰絵詞』の世界

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50789A01
科目名	歴史学特殊講義（古代）Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西山　良平	旧科目名称	
授業概要	古代都市（首都）は日本の歴史の総体を直接に反映する。日本の古代都市の成立から、摂関・院政期の平安京の変貌までを理解する。日本の古代都市の成立は、７世紀末の都城・藤原京とされることが多い。古代都城・藤原京の意義と限界、平城京の特質と実態を修得し、さらに長岡京遷都の背景を理解する。ついで平安京遷都の経過を検証し、初期平安京の構造を理念と実際の両面から学習する。つぎに、西暦 1000 年前後の平安京の変貌を多面的に考察し、院政期の開発・再開発を権門と都市住人の両面から修得する。平城京・平安京の都市社会や住人に焦点をあて、西暦 1000 年前後の画期を強調する。文献史料のほか、近年は発掘調査の成果が顕著であるので、発掘調査のデータや絵画史料を活用する。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	木下正史・佐藤信編『飛鳥から藤原京へ』（古代の都１）吉川弘文館、２０１０年 田辺征夫・佐藤信編『平城京の時代』（古代の都２）吉川弘文館、２０１０年 西山良平・鈴木久男編『恒久の都 平安京』（古代の都３）吉川弘文館、２０１０年		
教育方法	プリントを画面に映写し、板書しつつ講義する。発掘調査や絵画資料のスライドを使用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０％）。定期テスト（５０％）。		
到達目標	１ 日本の７世紀末から１２世紀までの正確で幅広い知識を獲得する。 ２ 発掘調査の成果や文献史料の原典から新しい情報を発見して歴史像を組み立てる。 ３ 歴史情報を外部に発信するための技術を身につける。		
授業時間外学習	授業のテキスト（プリント）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、資料や図面の内容を理解しておくこと。また、参考文献の該当箇所を読んでおくこと。授業終了時に復習課題を指示する。授業の区切りごとに復習課題から小テストを出題する。小テストの範囲は事前に知らせるので、学習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件：日本史概説Ａ・日本史概説Ｂを履修していることが望ましい。
受講のルール：能動的な姿勢で講義に出席すること。遅刻や私語は禁止。遅刻は理由を申告すること。私語は退出を求める。
学習上の助言：教材（参考資料）を読むことを推奨する。

授業スケジュール

1　「古代」都市の変遷と日本都市史
2　藤原京の成立過程
3　藤原京の意義と限界
4　平城京遷都
5　平城宮・京の特質
6　平城京の社会構造
7　長岡京遷都
8　平安京遷都
9　初期平安京の特質
10　初期平安京の社会構造
11　平安京の変貌と町屋の成立
12　摂関期の「随近の人」「近辺の人々」
13　摂関・院政期の町小路
14　院政期の開発と再開発
15　西暦 1000 年前後の画期と院政期以降の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50789B01
科目名	歴史学特殊講義（古代）Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西山　良平	旧科目名称	
授業概要	八世紀・九世紀を中心に、日本の歴史を学習する。八世紀・九世紀には様々な政変・謀反が生起する。政変・謀反を素材に王権や政治のあり方を理解する。岸俊男氏は天皇・太上天皇の「崩御」に注目し、「皇権」の所在や強度を測定する。皇太子は自分を任命した天皇が存命するかぎり地位は安泰であるが、その天皇が死亡した場合、先帝の決定は不安定となる。ここに天皇の実権の限界があり、そのため天皇の死後にしばしば王位継承の紛争（政変）が勃発するとする。早川庄八氏は宣命を素材に、八世紀の天皇は「率直であり、人間的」であるが、桓武天皇を起源に定型化し、「人間性を喪失」するとする。岸氏や早川氏の見解を手がかりに、紛争・政変の目的と顛末を追跡し、八世紀・九世紀の王権や政治のあり方を修得する。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	岸　俊男『日本古代政治史研究』塙書房、１９６６年 早川庄八『天皇と古代国家』講談社学術文庫、２０００年 河内祥輔『古代政治史における天皇制の論理［増訂版］』吉川弘文館、２０１４年		
教育方法	プリントを画面に映写し、板書しつつ講義する。平城宮・京や平安宮・京の発掘調査のスライドを使用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０％）。定期テスト（５０％）。		
到達目標	１　８世紀から９世紀の歴史とその背景を具体的な素材を通して理解し、歴史的に思考する。 ２　歴史的な思考の根拠となる歴史史料・情報（文字資料、発掘調査など）を読み解く。 ３　外部に意見や情報を発信できる知識を身につける。		
授業時間外学習	授業のテキスト（プリント）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、資料や図面の内容を理解しておくこと。また、１週間前に参考文献の該当箇所を指示するので、読んでおくこと。授業終了時に復習課題を指示する。授業の区切りごとに復習課題から小テストを出題する。小テストの範囲は事前に知らせるので、学習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件：日本史概説Ａ・日本史概説Ｂを履修していることが望ましい。
受講のルール：能動的な姿勢で講義に出席すること。遅刻や私語は禁止。遅刻は理由を申告すること。私語は退出を求める。
学習上の助言：教材（参考資料）を読むことを推奨する。

授業スケジュール

1　八世紀の政変と八世紀政治史の方法
2　橘奈良麿の変の計画
3　橘奈良麻呂の変の前史
4　橘奈良麻呂の変の結末
5　藤原仲麻呂の乱の経過
6　藤原仲麻呂の乱の戦闘
7　藤原仲麻呂の乱の結末
8　廃太子の実態
9　廃皇后の特色
10　廃帝の実例
11　謀反人の幽閉
12　九世紀の謀反人の行方
13　八世紀前半の謀反の結末
14　八世紀中期の変化
15　九世紀以降の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50790001
科目名	哲学総論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
授業概要	哲学は、紀元前６世紀のギリシアに誕生し現代にいたるまで欧米において独自の発展を遂げてきた学問であるが、同じ時期にインドや中国でも誕生し異なった発展をしてきた。この授業では、これら哲学の三つの伝統をとりあげ、その発展の道筋を比較しながらたどっていく。このことによってそれぞれの伝統の大きな特徴を学び、現代の我々が生きる西洋技術文明についての理解をも深めることができる。また、古代においてインド、中国から影響を受け、また近代の明治維新以降欧米から影響を受けた日本が、諸外国の哲学思想をどのように受容し独自の文化に変容させていったかについても学んでいく。		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	野田又夫著『哲学の三つの伝統』岩波書店　平成２５年。そのほか、各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教育方法	講義法で授業は進められる。授業内で学生の発言を求めることがある。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	将来、国際社会に生きる者として他国・自国の文化についての理解を深めるために、諸外国や日本の哲学思想について基本的な知識を習得する。		
授業時間外学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、参考書にあげた野田又夫著『哲学の三つの伝統』にも目を通しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

授業スケジュール

１　導入－－１哲学とは？　２哲学の問いと三つの起源　３哲学的思考の特徴　４枢軸時代
２　人間をめぐる神話－－１哲学以前の神話　２インドの神話　３中国の神話　４ギリシアの神話
３　神話と哲学－－１神話から哲学へ　２ウパニシャッド　３『易経』　４ヘラクレイトス
４　インドの哲学１－－１仏陀　２仏典結集　３法（ダルマ）　４三法印
５　中国の哲学１－－１孔子　２孔子の弟子たち　３徳治主義　４孔子以降の儒教
６　中国の哲学２－－１老荘思想　２墨家　３孫子　４韓非子
７　ギリシアの哲学１－－１最初の「哲学者」タレス　２ソクラテス　３対話術
８　ギリシアの哲学２－－１産婆術　２哲人統治論
９　古代哲学の継承－－１大乗仏教の成立　２中国における仏教の衝撃　３儒教の発展　４新しい神話との出会い
１０　西洋近代のスタート－－１整理　２新しい神話としてのキリスト教　３ルネサンスと大航海時代
１１　世界像の変遷１－－１天動説　２太陽中心説と太陽崇拝思想　３力学的自然観
１２　世界像の変遷２－－１信仰か理性か　２啓蒙主義　３信仰と理性の棲み分け　４徳治主義への批判
１３　世界像の変遷３－－１汎神論　２疾風怒濤　３ロマン主義の哲学　４美徳なき世界？
１４　日本の哲学思想１－－１儒教・仏教の伝来　２仏教の隆盛　３仏教の展開　４儒教の再登場
１５　日本の哲学思想２－－１西洋哲学の導入　２インド哲学と西洋哲学との融合

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50790101
科目名	歴史学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	私たちは資料をもとにしながら、歴史像を構築している。とはいえ、資料それ自体は客観的なものではなく、さまざまな偏見で塗り固められている。私たちの世界にはそもそも客観的なデータなど存在しない。資料を取り扱うには、そうしたバイアスを取り除く作業が不可欠である。そのうえで資料を丹念に読みといてゆけば、過去の時代の生活や臭いが浮かび上がってくる。あるいは、偏見の在り方そのものにも、時代の特徴がある。さまざまな資料に触れながら、そこから何が読み取れるのか、一緒に考えてゆきたい。		
教材（教科書）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	課題に対する発表（60%）および授業での発言や貢献度（40%）		
到達目標	・女人結界、身売り、肉食、神の戦など、多様な資料に触れることによって、過去の社会への認識を深めるとともに、読み取る力、調べる力、考える力を養う。 ・さまざまな論文に触れて、理解する力、まとめる力、発表する力を養う。		
授業時間外学習	・史料・テキストは事前に配付しておくので、十分な準備が必要である。 ・適宜指名して報告してもらうので、準備のうえレジュメを作成して発表する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・授業では、文献史料や絵画資料・論文など、さまざまな素材をとりあげる。資料や論文を読み込み、そこから何が読み取れるのか、自由に意見交換をすすめるなかで、社会の成り立ちや心性について一緒に考えたい。好奇心と探求心にみちた学生を歓迎したい。			
授業スケジュール			
1.歴史学と資料（ガイダンス） 2.『吾妻鏡』を読む 3.貴族の日記を読む 4.貴族の日記を読む 5.『正法眼蔵』を読む 6.説話史料を読む 7.説話史料を読む 8.文書史料を読む 9 .町触を読む 10.芸者の契約書を読む 11.真田信繁の書状を読む 12.新選組の史料を読む 13.幕末京都町人の日記を読む 14.自治体史の発表 15.自治体史の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50790102
科目名	歴史学資料講読II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	歴史学は暗記科目ではありません。調べて調べて調べつくす科目です。過去のさまざまな歴史について、これまでの研究者たちは、各自の問題関心に基づきながら、さまざまなテーマについて、史料を読み解き、明らかにしてきました。みなさんも自分の問題関心に基づきながら、過去の研究や史料を読み解き、何かについての歴史をあきらかにする卒業論文を書くための基礎的な力をこの授業では身につけていただきます。さまざまな時代の史料や論文を深く読み解きながら、歴史的な事項を調べる力を身につけましょう。		
教材（教科書）	毎回配布する史料（コピーを配布します）		
教材（参考資料）	その都度、指示します。		
教育方法	学生による発表中心の授業です		
評価方法	各自の発表の内容・授業への取り組み方で判断します。		
到達目標	・昔の史料の読解能力を養うこと ・辞書やサイトなど、歴史的事項を調べるためのツールに習熟すること		
授業時間外学習	講義では、受講者全員にあたる輪読形式で史料の読みを確認しますので、毎回、テキストの予習は必須です。さらに一回につき数人、事前に担当を決めて、調べてきたことを発表してもらいます。発表者は入念な準備が必要になります。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
歴史学の魅力は、史料の中に広がる豊かな世界を、自らの手で掘り起こして読み解いていくことにあります。この講義は、みなさんがその豊かな世界へ、自らの足でアプローチできる力をつけるための授業です。発表担当者は、興味をもった事項について、貪欲に調べてみてください。卒論に繋がるようなテーマがそこから見つかるかもしれません。			
授業スケジュール			
1. 歴史学と史料（ガイダンス） 2. 町触を読む 3. 芸者の契約書を読む 4. 真田信繁の書状を読む 5. 新選組の史料を読む 6. 幕末京都町人の日記を読む 7. 自由選択史料の発表 8. 自由選択史料の発表 9. 絵画資料の読解 10.説話史料の世界 11.法制史料の世界 12.法制史料の世界 13.思想家を読む 14.論文を読む 15.論文を読む			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50790201
科目名	歴史民俗学概論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	歴史民俗学概論は、民俗学コースの導入教育として開講する。特に歴史民俗学におけるフィールドワークの重要性と、その方法について解説する。特に地域における伝統的な生業や祭、年中行事、慣習、口承文芸のフィールドワークの方法を、担当者が実施するフィールドワーク実習にも参加を求め、資料の収集方法、整理方法、プレゼンテーション、レポート作成までを指導する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	小松和彦編『妖怪学の基礎知識』角川学芸出版、2011 年		
教育方法	プリントの配布、パワーポイント、ビデオを使用		
評価方法	授業内レポート３回（６０％）、授業内課題（４０％）		
到達目標	歴史民俗学の方法論とフィールドワークの融合の重要性の理解を目標とする。		
授業時間外学習	受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、教科書の予習と復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業内の作業、現地調査や図書館での資料調査をした上でレポート等を作成すること。

授業スケジュール

1　歴史民俗学とは－資料・時代・研究領域
2　口頭伝承を地図化する、地籍図、条里地割
3　文献と古地図を利用して城下町の怪談を解読する
4　古典に描かれた怪異を平安京に探る
5　イメージ世界の地図化作業
6　検索エンジンではないインターネット検索
7　怪しい話を随筆に探す　日本随筆索引、日本随筆大成
8　絵画から歴史や文化を読み解く　日本常民生活絵引、都名所図会
9　これはどんな古典に載っているの？　古事類苑、大漢和辞典
10　京都を歩き回って神社や寺の歴史を探る　京都市の地名、日本の神々：神社と聖地
11　フィールドのユリイカ
12　資料を読む　保津川を例にして
13　地域に生きる市民として民俗学を考える
14　日本の神話を世界のなかで考える
15　ワークショップ　昔話

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J50790301
科目名	宗教民俗学 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
授業概要	本講義では、暮しの中にとけこみ、私達の生活習慣や思想の基盤となっている民間信仰について学んでいきます。 民間信仰とは、神職や僧侶などの宗教者から離れ、民間のみで行われている宗教現象を指すといわれています。この民間信仰は、祭礼・年中行事、人生儀礼を主とし、生活の基盤となる生業や衣食住にも反映されています。 また、この民間信仰は、あらゆる宗教を吸収し、各地域の伝統文化に影響を与えながら独特な展開をみせます。その基礎となる組織として宮座や講が挙げら、これらの祭祀組織の動向をみることにより該当地域の信仰形態の一端を知ることができます。しかし、そのためには各地域の歴史も知る必要性があります。この講義では民間信仰の歴史も踏まえながら、日本人の宗教観、すなわち日本の民俗宗教について一緒に探っていければと思います。		
教材（教科書）	なし。プリント類は各回の講義のみで配布します。		
教材（参考資料）	・宮家準『宗教民俗学への招待』（丸善ライブラリー） ・『日本民俗大辞典』（吉川弘文館） ・『国史大辞典』（吉川弘文館） ・『神道事典』（弘文堂）		
教育方法	講義および講義内容と関連する映像資料を使いながら講義を行います。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点４０％ レポート６０％ 最終講義のレポート未提出者は授業放棄とみなします。		
到達目標	受講者のゆかりのある地域の信仰、歴史、伝統文化に興味を持ち、自らの手で調査・研究する意欲を有するところまで進んでください。これらを知ることは人生の糧となります。		
授業時間外学習	今までで聞いたことのない用語や難解な事例が出てきます。分からない場合は記録し、自ら調べるという姿勢を望みます。また、各自が今まで見てきた、体験してきた事例は貴重な資料となりますので、まとめておくと役に立つでしょう。また、両親や祖父、祖母などから自分自身とゆかりの強い地域に関する祭礼や習慣、信仰などに関する事例を聞いておくと理解度が増します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール
・遅刻や私語は厳禁。
・私語が過ぎる場合は退出を命じます。
・授業内の態度も評価の対象となります。
学習上の助言
・直接、お祭りを見に行くことを勧めます。

授業スケジュール

１，宗教民俗学とは何か
２，宗教の種類と民間宗教の研究方法
３，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅰ（古代）
４，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅱ（中世）
５，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅲ（近世）
６，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅳ（近代）
７，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅴ（現代）
８，神道と民俗宗教
９，仏教と民俗宗教
１０，山岳信仰－修験道

１１，シャーマニズムの世界
１２，俗信の世界
１３，京都の民間信仰と研究者
１４，日本人の原風景－風土論
１５，日本人と宗教

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50790401
科目名	宗教民俗学 B	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
授業概要	この講義では、日本固有の宗教である神道について学びます。「神道とは？」と尋ねられ、明快な回答はできるでしょうか。これは研究者の中でも難解な問題の一つです。神道は自然崇拝から派生したといわれ、日本人の生活の中の宗教として捉えられています。しかし、神道をどう捉えるのかと考えは、時代によって大きく変化しています。また、どの部分に焦点をあてるのかによってみえてくる姿も違い、場合によっては全く捉えどころのない宗教となります。そこで、本講義では、あらゆる学問がみる「神道とは何か？」ということを時間をかけてみていきます。		
教材（教科書）	阪本是丸・石井研士編『プレステップ神道学』（弘文堂）。1800 円＋税。 プリント類は各回の講義のみ配布します。		
教材（参考資料）	『国史大辞典』（吉川弘文館） 宮地直一・佐伯有義監修『神道大辞典』（平凡社）（縮刷版：臨川書店） 國學院大學日本文化研究所編『神道事典』（弘文堂） 國學院大學日本文化研究所編『神道要語集』全五巻（國學院大學日本文化研究所） 小口偉一・堀一郎監修『宗教学辞典』（東京大学出版会）		
教育方法	講義および各講義のテーマに関した映像を用います。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点４０％ レポート６０％ 最終講義のレポート未提出者は授業放棄とみなします。		
到達目標	宗教民俗学Ⅰと同様に、自らの手で神社や祭礼を調査・研究する意欲を有するところまで進んでください。 そして、私達の遠祖の思いがこもった神道について考えてください。		
授業時間外学習	できるだけ、神社に参拝に行く、お祭りを見るという体験をして下さい。 今は「観光」という目的で様々なメディアで「神道」、「神社」が伝えられることが多くなりました。 大きく変貌しようとするのか、伝統を維持するのか、自分の目で確認して下さい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール
遅刻や私語は厳禁。
私語が過ぎる場合は退出を命じる。
学習上の助言
京都には、朝廷とつながりのある神社、民衆が支える神社、神仏習合色の濃い神社、摩訶不思議な神社など色々あります。目の前に貴重な資料があります。直接、見て体験してください。

授業スケジュール

１、神道とは何か
２、神社とは何か
３、神道と神話－神代の時代・古事記と日本書紀－
４、神道と歴史Ⅰ（古代）
５、神道と歴史Ⅱ（中世）
６、神道と歴史Ⅳ（近世）
７、神道と歴史Ⅴ（近代）
８、神道と歴史Ⅵ（現代）
９、神道と祭礼－山車・鉾・屋台－
１０、神道と祭礼－神事の根幹・宮中祭祀－
１１、神道と祭礼－祈りと感謝のまつり・予祝と新嘗－
１２、神道と祭礼－神饌の世界－
１３、Japanologist たちがみた神道

１４、式年遷宮－継承のこころ １５、まとめ－日本人の宗教・神道

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J50790501
科目名	京都文化学概論 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	古代から中世にいたるまで、京都という都市において形成されてきた諸文化の様相について、より深く理解する。		
教材（教科書）	プリント等を用意する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介する。		
教育方法	−		
評価方法	10 回終了 j 時に授業内試験を実施する。また、15 回終了後にレポートを課する。		
到達目標	ことば、芸能、京都人独特と言われる価値観などについて、多方面から考える。		
授業時間外学習	授業開始前には、高校の教科書・副読本、または一般の概説書で、日本の古代から中世までの歴史の概要を読んでおくこと。 毎回の授業で行った小テストについては、復習して知識を蓄積しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

私語は厳禁。
一方、しばしば意見や感想を求めるので、積極的に授業に参加すること。

授業スケジュール

古代　10 回　山本担当
主として平安時代の京都文化を扱う。女流文学をはじめ貴族の生活を彩った宮廷文化、都市文化、信仰を中心に論じていく。

1. 平安遷都
2. 菅原道真―和漢兼学の政治家から怨霊、そして神へ 1
3. 菅原道真―和漢兼学の政治家から怨霊、そして神へ 2
4. 菅原道真―和漢兼学の政治家から怨霊、そして神へ 3
5. 菅原道真―和漢兼学の政治家から怨霊、そして神へ 4
6. 枕草子―摂関政治の中の栄華と没落 1
7. 枕草子―摂関政治の中の栄華と没落 2
8. 枕草子―摂関政治の中の栄華と没落 3
9. 枕草子―摂関政治の中の栄華と没落 4
10. 枕草子―摂関政治の中の栄華と没落 5

中世前期　5 回　丸田担当
仏教文化やキリシタン文化と京都の関わりを中心に論じていく。
11. 中世とは
12. 院政から平家政権
13. 鎌倉幕府成立の意味
14. 承久の乱　御成敗式目
15. 中世前期の文化

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J50790601
科目名	京都文化学概論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	京都文化学概論Ｂを受けて、中世から近代に至るまでの、京都という都市において形成されてきた諸文化の様相を探る。それと並行して現代の京都が抱える問題についても考えていく。 丸田担当（５回） 　主として中世から近世にかけての日本語の変遷を題材に、京都と関東などの比較をしつつ京都文化を論じていく。 山崎担当（１０回） 　中世の京都で確立した、茶道・華道・能楽などの芸術文化を下地に、近世の京都の町衆が主導して江戸時代に開化した諸文化を紹介し、近現代につなげて考えてみたい。京都の文化にはどのような特色が見られるのか、京都人の価値観はどうして形成されてきたのか、江戸や大阪など他の都市と比較することによって、文化の違いを見ていきたい。		
教材（教科書）	プリントを配布する。		
教材（参考資料）	林屋辰三郎著『京都』（岩波新書）		
教育方法	講義が基本である。 講義のテーマごとに、部分的な史料を翻字するなどの作業や、小テストなどを行う。		
評価方法	まとまった内容が終わった時点で知識が定着するように小テストを行う。学期の途中で小レポートの課題を出すので、テストとレポートで評価を行う。丸田評価が三分の一、山崎評価が三分の二、合計点で評価する。		
到達目標	日本における京都の町と京都文化の存在価値を理解すること。京都の文化を知ることを通して、日本の文化への理解を深めること。		
授業時間外学習	毎回授業の開始までに、前回のプリントに目を通しておくこと。 前回の授業で興味を持ったことばを調べておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業で聞いた内容を定着させるためには、積極的に市内へ出かけていろいろなものを見聞きして下さい。文化財だけでなく、住んでいる人間を見ること。ファッションや食べ物を観察し、京都の人と会話する機会を作って下さい。			
授業スケジュール			
丸田博之担当 １　義満と北山文化 ２　義政と東山文化 ３　戦国大名と下剋上 ４　キリシタン文化 ５　信長・秀吉・家康 山崎ふさ子担当 ６　近世前期京都の町衆（１）　角倉了以の事業 ７　近世前期「京都の町衆（２）　灰屋と吉野太夫 ８　近世前期京都の町衆（３）　京都所司代の治安 ９　近世前期京都の町衆（４）　法華信仰の人々 １０　近世前期京都の町衆（５）　伊藤仁斎先生の日常生活 １１　近世後期の文人　与謝蕪村 １２　近世後期の絵画　丸山応挙と伊藤若沖の写生画 １３　『平安人物誌』の読み方 １４　『東海道中膝栗毛』に描かれた京都			

１５　外部講師による話　「現代の京都と文化」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J50790701
科目名	京都学（文化財）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	町田　香	旧科目名称	
授業概要	ユネスコは 1994 年「古都京都の文化財」を世界文化遺産と定め、京都市内を中心にした上賀茂・下鴨神社、東寺など 17 箇所の寺院等を、世界遺産登録基準を満たすものと認めた。本講義では、それらの世界遺産指定文化財を取り上げ、その歴史、芸術的価値、景観的価値、文化的意義などについて考える。また、世界遺産とはなっていない日本の文化財についても、文化財行政や歴史、政策、事例を学び、訴求力のある京都の文化財の魅力を分析する。		
教材（教科書）	教材（テキスト）　なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	教材（参考文献）　授業中に適宜指示する。		
教育方法	教材（その他）　パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（50%）、定期テスト（50%）。		
到達目標	1. 京都を中心とした世界遺産をはじめとする文化財の基礎（歴史・価値・実態）を理解する。 2. 文化財を取り巻く日本の文化財保護行政のあり方を理解する。 3. 自身を取り巻く文化的事物を文化財として捉える思考を養う。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読み、専門用語等を理解しておくこと。また、毎回授業の最初に前回授業内容に係る復習小テストを行うので、復習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1：能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。
2：遅刻や私語を厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。
3：各講義で確認小テストを実施する。
4：講義内容を理解し、自分なりの課題発見を行う。

授業スケジュール

1：文化財、世界遺産とは何か－総論
2：世界遺産と世界遺産条約
3：日本の世界遺産
4：世界遺産「古都京都の文化財」①-歴史、芸術的価値、景観的価値、文化的意義など
5：世界遺産「古都京都の文化財」②
6：世界遺産「古都京都の文化財」③
7：世界遺産「古都京都の文化財」④
8：世界遺産「古都京都の文化財」⑤
9：日本の世界遺産登録をめぐる議論
10：日本の文化財行政と文化財保護法
11：日本の文化財保護の歴史
12：日本の文化財①-世界遺産に登録されていない文化財とその保護のあり方
13：日本の文化財②
14：日本の文化財③
15：日本の文化財④

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50790801
科目名	京都学（祭礼）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
授業概要	米大手旅行雑誌に２０１４・２０１５年と２年連続で京都が世界都市ランキングで１位となった。 ２０１６年は６位となったが、今もなお、世界を代表する観光都市と言えよう。 この原動力となった観光資源のひとつに神社・仏閣が挙げられる。 インバウンドの人々だけでなく、日本人も京都の社寺に対し憧れを抱きながら、参拝に訪れている。 しかし、その反面、社寺にランキングを付ける組織もあり、興味を主観とした観光資源ともなっている。 あらゆるものが多様化し、社寺の役割も変化しつつある。 これらの人々を迎える人々も多様化し、改めて「京都とはなにか」という問題が挙がってくる。 本講義では、この社寺の祈りの世界である「信仰」が表現された「祭礼」に注目し、本来の京都の社寺の姿の一端を把握した上で、「京都」というテーマについて学んでいきたい。		
教材（教科書）	なし。プリント類は各回の講義のみ配布します。		
教材（参考資料）	江馬務『日本歳事史－京都の部－』（内外出版） 田中緑紅『緑紅叢書』（京を語る会） 井上頼壽『京都古習志』（再版：臨川書店） 井上頼壽『京都民俗志』（改訂版：東洋文庫） 佐和隆研ほか編『京都大事典』（淡交社）		
教育方法	各講義のテーマに関した映像を用いながら、各地域の祭礼の講義を行います。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点４０％ レポート６０％ 最終講義のレポート未提出者は授業放棄とみなします。		
到達目標	京都市内だけでなく、京都府全域の社寺分布並びに祭礼の基層の一端を把握し、自らの足で現地に赴き、人々の祈りの世界を見るところまで進んでください。		
授業時間外学習	京都の祭礼に関しては、様々な書籍や映像化されたソフトがあります。また、テレビなどにおいても、番組のテーマとして用いられているものが数多くあります。一度はこれらに目を通してください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講のルール ・遅刻や私語は厳禁。 ・私語が過ぎると退出を命じる。 学習上の助言 祭礼を直接、管見する。			
授業スケジュール			
１、祭礼とは－宗教学の立場から－ ２、京都の祭礼について ３、京の三大祭－賀茂祭（葵祭）・信仰編 ４、京の三大祭－賀茂祭（葵祭）・祭礼編 ５、京の三大祭－祇園祭・信仰編 ６、京の三大祭－祇園祭・祭礼編 ７、京の三大祭－時代祭・信仰編 ８、京の三大祭－時代祭・祭礼編 ９、京の民間信仰の祭礼・神社編 １０、京の民間信仰の祭礼・寺院編 １１、京都府南部の祭礼 １２、丹波地方の祭礼 １３、丹後地方の祭礼			

１４、自然と祭礼－風土祭祀－ １５、京都の祭礼－日本の祭礼－

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50790901
科目名	京都学（くらし）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小島　富佐江	旧科目名称	エコの知恵
授業概要	京都の伝統的な住宅である京町家は京都の暮しや町並みを育んできました、１９６０年代になって、それまでの町家の多くはビル等に建て替わり、京都の街は大きく変貌しました。近年、京町家の価値は再評価されていますが、減少は今も止まっていません。他方、飲食店や宿泊施設（ゲストハウス）への活用が急激に増え、町家が持つ本来の暮しから育まれた文化は失われつつあります。昨今の状況をふまえ、①京町家と京都のまち、その成り立ちと現状を把握すること、②実際に町家に触れること、様々な知恵と工夫の活かした暮しの一端を体験すること、(四季折々の暮らし、生活の知恵、食文化など)、③町家の利活用の状況をふまえ、これからの暮らしを考えること、④町家の暮らしと文化の継承について考えること、を目的とします。		
教材（教科書）	なし 講義時にプリントを配布する		
教材（参考資料）	講義時に適宜指示する		
教育方法	講義時に適宜指示する		
評価方法	毎回講義時にその日のまとめを提出　　３０％ 見学、体験　　３０％　　参加後のレポート 出題テーマに合わせた中間レポート　２０％ 期末レポート　２０％		
到達目標	京都のまちと暮しを知ることにより、多様な文化への理解度を深めることができる		
授業時間外学習	講義時に配布した資料を熟読し、問題点、自身との共通項目を検討しておくこと。 中間、期末にレポートを課すので、指定期限に完成させて、提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件

1.　京都の文化に対する興味があること
2.　積極的に考え、行動すること

受講のルール

1.　遅刻や私語を厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案した退出を求める。
2.　学外での学習には、ルールを守り、不必要な行動はさけること。

授業スケジュール

1.　概要
2.　町家見学（基本的な町家を知る）
3.　講義　　まちと町家
4.　町家見学（まちと町家の関係）
5.　講義　　町家見学のまとめと比較
6.　講義　　町家の暮らし　　居住スタイル
7.　町家見学（町家の暮らしを体験）
8.　講義　　町家活用の実情
9.　見学　　町家の活用事例
10.　講義　　暮らしを継承するための方策
11.　意見交換　　グループデイスカッション
12.　講義　　まちと祇園祭
13.　祇園祭の視察
14.　京都の町家と暮らしを継承する為の提案作成と発表

15. 提出された提案をもとに、町家の暮らしを継承するための方策を議論する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50790A01
科目名	教育心理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
授業概要	教育心理学は、教育に関連する諸事象について心理学的に研究し、教育の効果を高めるのに役立つような心理的知見と心理的技術とを提供しようとする学問である。子どもの発達や学習、人格の形成などに関する心理的事象や法則を学び、教育を効果的に実施するために役立つ知識の習得をめざす。一人ひとりの子どもの発達の特性や個に応じた教育的対応、集団の状況に応じた指導・援助についての理解を深めていく。		
教材（教科書）	設定しない。授業中に資料を配布する。		
教材（参考資料）	講義中に適宜，紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行い、必要に応じてグループワーク等を用いた講義を行う。		
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	①　教育心理学の基本的な事項について理解し、説明することができる。 ②　教育心理学的なものの見方や考え方により、現在の教育について考えることができる。 ③　教育心理学の知識・知見から，よりよい教育実践を提案することががができる。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、予習を行うことが望ましい。また，授業ごとに欠かさず復習をし，次の授業までに内容をしっかりと理解しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
特別な事情がある場合を除き，すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること。授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求める。			
授業スケジュール			
1．　教育心理学とは 2．　生涯発達Ⅰ：乳・幼児期 3．　生涯発達Ⅱ：児童期・青年期 4．　生涯学習Ⅲ：　壮年期・老年期 5．　記憶のメカニズム 6．　学習理論と行動の理解 7．　学習理論の教育への応用 8．　様々な学習　プログラム学習 9．　様々な学習　運動学習と観察学習 10．　動機づけ 11．　達成動機と原因帰属 12．　教授法　レディネスと最近接領域 13．　教授法　学習性無力感 14．　教授法　自己効力感 15．　学級集団の理解			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50790B01
科目名	教育心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
授業概要	「教育心理学Ⅰ」で学んだことをもとに，学校現場で有用な実践力の基礎をさらに発展させる。「教育心理学Ⅱ」では，講義とグループ学習・全体討論を組み合わせて進める。教育心理学に関する基礎的な知識を活用しながら，教育現場での今日的課題について考えそれらを解決するアプローチを考える。また、児童生徒だけでなく、保護者、教師との協力関係の構築、さらに、学校や家庭、地域とも協力しながら児童生徒理解および児童生徒への介入に必要な方法についても理解を深める。		
教材（教科書）	設定しない。授業中に資料を配布する。		
教材（参考資料）	おにつかるみ　2005　さとこ先生のホームルーム　新日本出版社 竹田レイ子　2007　ボクのこと大好き―自尊感情を高める　あいり出版		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行い、必要に応じてグループワーク等を用いた講義を行う。		
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなど（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	① 教育心理学についての基礎的な知識を応用できる力を養う。 ② 学校現場における今日的課題に対処できる能力の基礎をさらに発展させる。 ③児童生徒への心理教育的援助方法について主体的に考える力をつける。		
授業時間外学習	教科外学習として，講義内容に関連した課題を出しますので積極的に取り組んでください。課題には必ず取り組み，期限までに提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教育心理学Ⅰを履修している事が望ましい。グループ単位でのディスカッションや全体の場での発表の機会を設け、コミュニケーション能力の育成も図ります。授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求めます。特別な理由がない限り、すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること。

授業スケジュール

1.　オリエンテーション（「教育心理学Ⅰ」の復習）
2.　教育相談とは
3.　傾聴とカウンセリングマインド
4.　乳幼児期に起こりやすい問題と対応
5.　児童期に起こりやすい問題と対応
6.　青年期に起こりやすい問題と対応
7.　自我の防衛機制
8.　ストレスマネジメント
9.　ソーシャルスキルトレーニング
10.　問題行動と問題の見立て
11.　相談におけるニーズの理解と子どもの行動評価
12.　教育相談に見る子育ての環境
13.　相談機関と連携する際の留意点
14.　キャリア教育および地域社会との連携について
15.　教育現場における今日的問題に対する心理学的理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	–	–	–	–	★★

年度	2018	授業コード	J50791001
科目名	哲学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy		
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
授業概要	哲学は、紀元前６世紀のギリシアに誕生し現代にいたるまで欧米において独自の発展を遂げてきた学問であるが、同じ時期にインドや中国でも誕生し異なった発展をしてきた。この授業では、これら哲学の三つの伝統をとりあげ、その発展の道筋を比較しながらたどっていく。このことによってそれぞれの伝統の大きな特徴を学び、現代の我々が生きる西洋技術文明についての理解をも深めることができる。また、古代においてインド、中国から影響を受け、また近代の明治維新以降欧米から影響を受けた日本が、諸外国の哲学思想をどのように受容し独自の文化に変容させていったかについても学んでいく。		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	野田又夫著『哲学の三つの伝統』岩波書店　平成２５年。そのほか、各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教育方法	講義法で授業は進められる。授業内で学生の発言を求めることがある。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	将来、国際社会に生きる者として他国・自国の文化についての理解を深めるために、諸外国や日本の哲学思想について基本的な知識を習得する。		
授業時間外学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、参考書にあげた野田又夫著『哲学の三つの伝統』にも目を通しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

授業スケジュール

１　導入－－１哲学とは？　２哲学の問いと三つの起源　３哲学的思考の特徴　４枢軸時代
２　人間をめぐる神話－－１哲学以前の神話　２インドの神話　３中国の神話　４ギリシアの神話
３　神話と哲学－－１神話から哲学へ　２ウパニシャッド　３『易経』　４ヘラクレイトス
４　インドの哲学１－－１仏陀　２仏典結集　３法（ダルマ）　４三法印
５　中国の哲学１－－１孔子　２孔子の弟子たち　３徳治主義　４孔子以降の儒教
６　中国の哲学２－－１老荘思想　２墨家　３孫子　４韓非子
７　ギリシアの哲学１－－１最初の「哲学者」タレス　２ソクラテス　３対話術
８　ギリシアの哲学２－－１産婆術　２哲人統治論
９　古代哲学の継承－－１大乗仏教の成立　２中国における仏教の衝撃　３儒教の発展　４新しい神話との出会い
１０　西洋近代のスタート－－１整理　２新しい神話としてのキリスト教　３ルネサンスと大航海時代
１１　世界像の変遷１－－１天動説　２太陽中心説と太陽崇拝思想　３力学的自然観
１２　世界像の変遷２－－１信仰か理性か　２啓蒙主義　３信仰と理性の棲み分け　４徳治主義への批判
１３　世界像の変遷３－－１汎神論　２疾風怒濤　３ロマン主義の哲学　４美徳なき世界？
１４　日本の哲学思想１－－１儒教・仏教の伝来　２仏教の隆盛　３仏教の展開　４儒教の再登場
１５　日本の哲学思想２－－１西洋哲学の導入　２インド哲学と西洋哲学との融合

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50791101
科目名	京都学（食文化）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	杉本　節子	旧科目名称	
授業概要	京都学の学びを深めるために、平安の時代より日本の政治・経済・文化の中心であった京都の『都ぶり』を食文化をテーマとした側面から考究する。京都の食生活・食文化の歴史をたどることは、すなわち日本料理の歴史を体系的に時代ごと分野ごとに検証することであり、それは他の京都文化の授業科目と関連づけて幅広い学問的知識を習得することに繋がる。 本授業では、当代の料理に関する文献を教科書、参考資料として取り上げ、画像、映像資料も使用しながら京料理の千二百年の歴史を振り返ってゆく。 平安貴族と大饗料理、仏教文化と精進料理、武家文化と本膳料理、茶の湯と懐石料理、江戸時代に胎動をはじめた京料理、京町衆と家庭料理（おばんざい）について、そして近代から現代における日本の食文化の変容、世界的に有名なグルメガイドのミシュランによる評価、ユネスコ無形文化遺産への登録について、その意味することにも学びを広げてゆく。 また、京料理を支えるだしとその食材（昆布、かつお節)、しょうゆをはじめとする発酵調味料、京野菜、漬物についても、歴史・文化的背景からその重要性がいかなるものかを知識を深める。		
教材（教科書）	1.『日本料理の歴史（歴史文化ライブラリー)』熊倉功夫著　吉川弘文館　定価１７００円＋税 2．1．に加えて授業枚にプリントを配布する。		
教材（参考資料）	1.『京料理千二百年和の味の追求』熊倉功夫著 NHK 出版　定価５６０円＋税 2.『京料理の文化史』上田純一著　思文閣出版　定価２３００円＋税 3.『和食と日本文化』原田信男著　小学館　　定価２１００円＋税 4.『京都の郷土料理』飯塚久子・滋野幸子・堀浪子共著　定価３８００＋税 5.『京料理の品格』森川裕之著　　PHP 研究所　定価９５０円＋税 1、2、3、4、の資料とその他の資料のプリントを授業枚に配布する。		
教育方法	教科書を講師が読みながら、配布した資料を引用しての講義法で行う。 折に触れ、DVD・ビデオ映像を使用する場合がある。授業毎に、短いレポートを筆記し都度提出を基本的な受講ルールとする。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（３０%)、授業中に課すレポート（７０%）		
到達目標	京都の食文化を知ることで京都学への深い理解を導く。 食は単に生命を維持するためだけの行為ではなく、文化史として捉えることが人文学を捉える重要な要素であることの理解につなげること。		
授業時間外学習	教科書を授業前に読み込んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．規定時間以上の遅刻は欠席扱いとする。ただし、受講は認める。 2．受講生の学習環境を阻害するような私語・飲食は禁止とする。 3．トイレは原則として授業前に済ませておくこと。ただし体調不良の場合はその限りではない。			
授業スケジュール			
1．日本料理と京料理　文化史としての捉え方（冒頭に履修ガイダンス） 2．京料理のなりたち（1）年中行事との関係 3．　　（2）だし・調味料と京のうす味 4．日本料理の誕生（1）先史時代の食文化―神話にみる食物の体系 5．　　（2）古代国家と食事体系―米文化と天皇、中世の日記からみる和食 6．京料理への道程（1）大饗料理の成立と背景（まな板・包丁と個人食器）			

7．　　（2）本膳料理の成立と背景
8．京料理の誕生　　精進料理の影響
9．京料理の展開　　懐石料理との関係
１０．京料理の完成　　会席料理
１１．京の家庭料理（1）江戸期町衆の食のならわし―信仰とケの日の献立、お茶漬け
１２．　　（2）　　―ハレの行事食
１３．京料理の伝統と創造（1）近世京都の料理屋と京の名物―京野菜・漬物
　　（2）料理書の流れと料理論
１４．　　（3）茶と菓子
１５．日本料理・京料理の未来―日本料理ブームとユネスコ世界無形文化遺産登録の意味

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50791201
科目名	京都学（京ことば）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	「京ことば」を多角的に探究する講義である。 京都が舞台となるテレビや映画、アニメは多いが、それらで使われている京都の言葉に問題はないかを検証することから始める。 また、京都の言葉は長く日本の中央語であった。つまり、京都語の歴史はそのまま日本語の歴史と言ってよい。本講義では、その京都語の中央語性に鑑み、その音韻的・文法的・語彙的な変遷を詳しく見ていきたい。		
教材（教科書）	こちらで用意する。		
教材（参考資料）	授業内で適宜紹介する。		
教育方法	講義形式。		
評価方法	期末試験 or レポート（100％）による評価。		
到達目標	京都語学（日本語学）の基礎知識が身につく。 京都の大学に通っていたことを将来示せるような京ことばについての知識が身につく。		
授業時間外学習	京都が舞台の番組、映画、小説などに触れておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件　なし
受講ルール　授業中の私語は厳禁。
学習上の助言　常に京ことばと自分の出身地のことばを比較すること。

授業スケジュール

1　ドラマ・映画・アニメの京ことば
2　京ことばリテラシー
3　京ことばの位置
4　中央語としての京都語の変遷
5　京都語の文法１
6　京都語の文法２
7　京都語の音韻
8　唇音退化
9　ハ行転呼音現象
10　仮名遣
11　アクセント１
12　アクセント２
13　現代の京ことば研究
14　標準語は存在するか
15　将来の京ことば像

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50791301
科目名	京都学（伝統産業）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐藤　敬二	旧科目名称	
授業概要	経済産業省の産地指定、府や市が認定した伝統的工芸品産業は京都に６５種以上ある。その課題と将来を考える。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	授業の都度、資料やコピーを配る。業界ごとのトレンド情報のビデオ映像を参考教材とする。		
教育方法	パワーポイントやビデオ、配布資料を活用しながら講義する。		
評価方法	毎授業後の小レポートによる平常点（５０％）。期末の定期レポート（５０％）		
到達目標	主要な京都の伝統産業の文化的背景、意匠（デザイン）、製造工程、経営の実態を理解し、その課題を解明する。今のライフスタイルに合わせてどのような事を変革していけばよいのかを考える能力を醸成する。		
授業時間外学習	博物館や資料館、伝統産業会館の催しを随時紹介するので、各自フィールドワーク･調査を行うこと。教室での学習の時に、前回配布された資料があれば、事前学習してくること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎回の授業終了前１５分ほど時間をとるので、その日の授業内容に関する小レポートを書いて頂きます。それを出席点（５０％）とします。毎回欠席しない様にしてください。期末の定期レポートまたは試験（５０％）と合わせ評価します。

授業スケジュール

１．　はじめに　　京都の生活文化と伝統産業　　伝統産業とは？　　授業スケジュールについて
２．　テーマ　　職人尽くし絵に見るものつくり産業

３．　テーマ　　金壁障壁画と伝統意匠
４．　テーマ　　近世琳派～近代琳派の意匠
５．　テーマ　　東京遷都と京都の伝統産業振興施策について
６．　テーマ　　伝統産業の近代化と意匠１　　浅井忠と関西美術院、京都高等工藝学校

７．　テーマ　　伝統産業の近代化と意匠２　　神坂雪佳・谷口香喬と五二会、佳都美会

８．　テーマ　　伝統産業の近代化と意匠３　　京都高等工藝学校と京都市美術工藝学校の役割
９．　テーマ　　西川一草亭･津田青楓・杉林古香と「小美術」
１０．テーマ　　西陣織と京友禅
１１．テーマ　　京指物（さしもの）と竹工芸
１２．テーマ　　京仏具･仏壇、京漆器
１３．テーマ　　金属工芸　鍛金･彫金･鋳物・象嵌･七宝
１４．テーマ　　和紙工芸と京唐紙　諸工芸その他
１５．テーマ　　レポートの作成と発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50791401
科目名	王朝文化論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	文学と歴史の宝庫、京都から学ぶ。授業を受け、その後自由な時間を使って各自フィールドワークし、その成果をレポートとする。授業では古典作品を扱うが、すべて現代語訳付なので恐れるには足りない。講義と体験で、古典も京都も自分のものにしよう。 ただし、費用と時間と労力がかかる授業であることを承知の上、受講してほしい。		
教材（教科書）	プリントを配布する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	毎回の授業における発言、朗読、提出物による平常点（40%）　課題（30%×２）		
到達目標	古典文学と資料を読み解きながら、京都に実感的に親しむ。作品や史料を知識として知るだけでなく、自分の心でそれを鑑賞・考察する。京都についても、自分で調べ自分で歩き、京都の史跡を体感する。		
授業時間外学習	授業外の任意の時間を使って、課題であるフィールドワークを行うこと。 卒業研究に平安時代の文学・歴史・文化研究を予定している場合は、授業時に紹介する参考文献を読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。

授業スケジュール

1　単位取得方法の説明等
2　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生１
3　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生２
4　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生３
5　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生４
6　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生５
7　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生６
8　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生７
9　安倍晴明　平安京ミステリー１
10　安倍晴明　平安京ミステリー２
11　安倍晴明　平安京ミステリー３
12　安倍晴明　平安京ミステリー４
13　安倍晴明　平安京ミステリー５
14　安倍晴明　平安京ミステリー　６
15　安倍晴明　平安京ミステリー　７（レポート外授業）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50791502
科目名	江戸文化論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	日本の江戸時代の文化を中心に扱う。江戸時代、三都と言われたのは江戸・京・大坂であった。江戸前期に京・大坂を中心とする上方文化が栄え、後期は文化が東漸し江戸文化が栄える。この講義では、東西の文化を比較しつつ、江戸文化を紹介することによって、上方、特に京都文化を逆照射することを試みたい。 武士・町人の人口割合も影響したといわれる当時の東西文化の特徴が、現代の当地気質にも及んでいることを考察したいと考える。 具体的には、浮世絵を文学の立場から読み解いてみることを試みたい。 北斎の『北斎漫画』や国芳の絵本を題材に、北斎に取りあげられユーモラスに描かれた 江戸時代の町の人々のくらしの様子を読み解き、 時には歴史上の英雄や妖怪などの 絵にまつわる日本と中国の多彩な物語を紹介していく。 フィールドワークとして、江戸時代の遊里の代表的な建築物である島原の「角屋」の見学を行う。		
教材（教科書）	『北斎漫画』『国芳の絵本』（岩崎美術社）の必要部分をプリントして配布する		
教材（参考資料）	『北斎漫画』１～５編、『国芳の絵本』一二、（岩崎美術社）		
教育方法	初めから数回は北斎や江戸時代絵画史について講義。 中盤以降は各学生が担当部分について調べてきて発表する。		
評価方法	授業中の発言や作業の提出２０％、発表５０％、およびフィールドワークのレポート３０％。		
到達目標	絵の出典はさまざまなので、 多様な資料に接することになる。		
授業時間外学習	葛飾北斎について、展覧会などがあったら見に行ってほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回出席すること。 意見や感想を遠慮なく発言すること			
授業スケジュール			
１　江戸時代の絵画 ２　浮世絵師の勢力分布と画風 ３　葛飾北斎の画風の変遷 ４　『北斎漫画』の紹介 ５　『国芳の絵本』の紹介 ６～１１　各図の出典を考える １２　フィールドワーク　島原の「角屋」見学 １３　同じ画題がどのように絵師によって違ってえがかれているかを比較する １４　清水勲著『北斎漫画～日本マンガの原点～』について考察する（１） １５　清水勲著『北斎漫画～日本マンガの原点～』について考察する（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J50791601
科目名	サブカルチャー論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
授業概要	都市伝説というコトバが学術用語ではなく一般の日常会話のなかに現れるようになったのは、それほど古い話ではない。村落共同体での口頭伝承である昔話の研究が進められる中で、都市においてもかつての昔話や伝説のような口頭伝承が生成されつつあることが明らかになり、「学校の怪談」などポピュラーな切り口がされるに至って、一般の人気を得たものと思われる。そのように見てみると、それはほとんどサブカルチャーと同義とも考えられる。カルチャー以前、対抗文化、大衆文化等々のサブカルチャーに関する言説と重なるのである。大衆社会が登場するのは近代においてであるが、我が国の場合、江戸後期にはすでにその萌芽が生まれており、江戸が生み出した怪談までを対象とする。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	板書とパワーポイントによる講義形式で行う。その都度文献を紹介するので、関心を持った部分についてそれを読むようにすると、「都市」への理解が深まるだろう。 また適宜寒冷映像を紹介するので、それを関心の入り口にするのもよい。		
評価方法	平常点（30%）レポート（70%）		
到達目標	現代文明への批評的観点の養成と、歴史的事実との接続への関心。		
授業時間外学習	各自関連文献を読んでおくのは重要である。毎回関連文献を提示するので、適時それに時間を割くように。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

一見合理的に成立しているような事象でも、歴史的に検証するとまったく違う理由から成立していることがわかったりする。そういうことへの関心を育てるように。民俗学、文化人類学、歴史地理学、口承文芸論、質的調査法などの基礎的関連科目を履修しておくと、理解がしやすくなる。

授業スケジュール

（1）サブカルチャー都市伝説
（2）口裂け女
（3）言説研究
（4）本所七不思議
（5）江戸の発展
（6）皿屋敷
（7）都市のイメージ　金沢
（8）東海道四谷怪談
（9）真景累ヶ淵
（10）累ヶ淵の江戸
（11）江戸のエクソシスト
（12）憑霊
（13）日光・江戸開発
（14）祐天上人
（15）市神・市祭

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50791701
科目名	京都学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	くずし字で書かれた資料を解読する。		
教材（教科書）	伊地知鐵男『増補改訂　仮名変体集』（新典社 350 円） その他、毎回プリントを用意する。		
教材（参考資料）	初回にくずし字の一覧を配布する。		
教育方法	－		
評価方法	毎回の課題で読めた字数により評価する。		
到達目標	課題の文字をすべて読め、内容を理解できることを目標とする。		
授業時間外学習	授業の開始前に、古文の歴史的かなづかいと文法について復習しておくこと。 毎回の授業では、復習に力を置き、授業後に資料を再度読み直すこと。 解読した資料については、トレーシングペーパーを置いて文字を写し その字体を習得すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業では自分の解答を発表してもらうことがあるので、積極的に参加すること。			
授業スケジュール			
1　くずし字(変体仮名)の解説 2　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　定家様 1 3　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　定家様 2 4　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　定家様 3 5　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　定家様 4 6　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　嵯峨本 1 7　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　嵯峨本 2 8　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　嵯峨本 3 9　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　嵯峨本 4 10　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　（全体の進度により字体を決定） 11　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　（全体の進度により字体を決定） 12　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　名筆 1 13　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　名筆 2 14　くずし字資料の読解約 45 分　解答約 25 分　解説約 20 分　名筆 3 15　崩し字作品の制作			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J50791702
科目名	京都学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	京都の文化に関わる資料を読む入門編。 江戸初期の町人の生活を描いた井原西鶴の短編小説から京都に関連する作品を選んで読み、当時の都市の人々のくらしの実態を理解していきます。作品名は『好色一代男』『世間胸算用』『日本永代蔵』など。子供の成長に合わせたしきたりから恋愛や家庭生活、社会のしくみや新しい商売のアイデアまで、広い範囲の問題がテーマとなる基礎編の講読です。		
教材（教科書）	プリントを配布。		
教材（参考資料）	小学館『新編日本古典文学全集　西鶴（一）（二）（三)』		
教育方法	毎回一話読み切る形を取る。(多くの内容を広く知ることを目標にする） 疑問点、問題点を担当者を決めて調べてきてもらう。 次の回に結果を発表する。		
評価方法	基本的に授業への参加度。発表の担当や、授業中の作業など。		
到達目標	江戸時代のくらしを感覚的に知ること。約１５０年前までは江戸時代だったので 現代に残っている慣習も多い。現代の生活のルーツを知り、そこからどう変わってきたか 自分で考えることができるようになることが望ましい。		
授業時間外学習	担当が当たっているときはその準備が必要。当たっていない場合も、予習は大切。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業時間内に扱うのは膨大な資料の一部なので、他の部分は自主的に読んで欲しい。			
授業スケジュール			
１　『好色一代男』より ２　『好色一代男』より ３　『好色一代男』より ４　総括　江戸時代の三都と遊郭 ５　『世間胸算用』より ６　『世間胸算用』より ７　『世間胸算用』より ８　総括　江戸時代の貨幣経済 ９　『本朝桜陰比事』より １０　『本朝桜陰比事』より １１　『本朝桜陰比事』より １２　『本朝桜陰比事』より １３　総括　江戸時代の京都のくらし １４　番外編１ １５　　フィールドワーク　「町家」周辺			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50791703
科目名	京都学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	講読の授業であるから、はじめのうちは、教員が講義するが、資料に慣れてきた段階で学生諸君に調べたところを発表してもらう。 「講読」は、３回生の「演習」、４回生の「卒論」に対する基礎を学ぶ科目であり、その基礎を築く重要な科目である。 歴史、京都文化、ことば、に興味のある人に受講してもらいたい。		
教材（教科書）	テキストは、江戸時代の『皇都午睡（みやこの昼寝)』を用いる。 テキストは、コピーして配布するので、教科書を購入する必要はない。		
教材（参考資料）	『浮世風呂』（岩波、新日本古典文学大系他） 『浮世床』（新潮社　日本古典文学集成）		
教育方法	授業内に適宜紹介する。		
評価方法	授業内発表(50%)と期末レポート(50%)で評価する。		
到達目標	注釈書などが出ていない、言わば手垢のついていない作品を読み、その作品の時代背景や作者の意図することに鑑みながら、深い理解が出来るようになる。		
授業時間外学習	授業終了時に次回の範囲を指定するので予習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件　なし
受講ルール　私語は厳禁。
学習上の助言　高校までの授業は、言わば「受け身」の授業であったが、この「購読」は、学生諸君が主体的に運営する科目であり、まさに大学で学ぶにふさわしいものである。しっかり、取り組んで欲しい。

授業スケジュール

１．作品の背景
２．講読
３．講読
４．講読発表
５．講読発表
６．講読発表
７．講読発表
８．講読発表
９．講読発表
１０．講読発表
１１．講読発表
１２．講読発表
１３．講読発表
１４．講読発表
１５．講読発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J50791801
科目名	京都学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	身近な日本文化である小倉百人一首を素材として、和歌や作者について調べ、調査内容を発表する。		
教材（教科書）	谷知子『ビギナーズ・クラッシクス日本の古典　百人一首（全）』角川ソフィア文庫　734 円		
教材（参考資料）	授業内で提示する		
教育方法	－		
評価方法	非担当時間の質問・発言・議論等（40%） 担当発表（60%）		
到達目標	文学作品について、自分で調べ・まとめ・発表する力を養う。また、他者の発表を聞き評価する態度を養う。		
授業時間外学習	発表に関しては、教科書の内容を超えた発表ができるよう、担当の和歌をしっかり調査・鑑賞した上、充実した発表資料を作成して持参すること。 フロアにおいても、教科書を熟読し、次回の和歌について質問ポイントを準備すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自分の発表時以外にも、積極的に意見や質問を行うこと。

授業スケジュール

1　授業の進め方
 担当歌決定
 参考図書紹介
2 レジュメ・パワーポイント・プレゼンテーション模擬発表　（山本）
3　受講者の発表　受講者数により、各回 2 首または 3 首（2 名または 3 名）ずつ発表の予定。
① 担当の和歌および歌人についての解説と、その和歌の鑑賞について発表　20 分程度
（これについて、レジュメ・パワーポイント・プレゼンテーションの各要素を評価する）
②フロアとの質疑応答　10 分程度
（フロアからの発言者について「フロア・発言点」を、担当者について「担当者・応答点」を評価する）
4～15　3 の繰り返し

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J50791802
科目名	京都学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	江戸時代の歴史上の人物を取り上げ、その人の生い立ちを調べ、京都との関わりに関する資料を読んでみます。人物は、徳川家康・淀君・尾形光琳・徳川光圀（水戸黄門）・茶屋四郎二郎・細川ガラシャ・徳川吉宗・松尾芭蕉・上田秋成・本居宣長・大石内蔵助・坂本龍馬などから選びますが、江戸時代から少々はずれても要望があれば対応します。柔軟に対応する発展編となります。		
教材（教科書）	プリントを配布する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	最初に担当日と発表者を決める。 １人３０分で１回に３名が担当し質疑応答する。		
評価方法	授業内の発表担当に重点をおいて評価する。		
到達目標	江戸時代の実在の人物の伝記を調べる方法を学ぶ。		
授業時間外学習	担当部分について調査をしてくること。 前の人の発表をよく学習すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自分より先に発表する人の内容を参考にすること。			
授業スケジュール			
1　本阿弥光悦　『本阿弥行状記』の場合 2　新井白石『折りたく柴の記』の場合 3　伝記資料の紹介 4　『京都名家墳墓録』など 5　徳川家康(以下は状況によって変更の可能性があります) 6　淀君 7　水戸光圀 8　尾形光琳 9　細川ガラシャ １０　松尾芭蕉 １１　坂本龍馬 １２　徳川吉宗 １３　茶屋四郎次郎 １４　本居宣長 １５　人物研究の先駆者			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	J50791803
科目名	京都学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	講読の授業であるから、はじめのうちは、教員が講義するが、資料に慣れてきた段階で学生諸君に調べたところを発表してもらう。 「講読」は、３回生の「演習」、４回生の「卒論」に対する基礎を学ぶ科目であり、その基礎を築く重要な科目である。 歴史、京都文化、ことば、に興味のある人に受講してもらいたい。		
教材（教科書）	近世京都の小咄を読む。教材は、こちらで用意し、毎回配布する。		
教材（参考資料）	『浮世風呂』（新日本古典文学大系、岩波） 『浮世床』（日本古典文学集成、新潮社）		
教育方法	発表と講義を織り交ぜた形式。		
評価方法	授業内発表（５０％）と期末レポート（５０％）で評価する。		
到達目標	近世文学の理解にとどまらず当時の日本の様子を歴史的見地からも読み解くことができる。		
授業時間外学習	どのような文献でもよいので、江戸時代（近世）の作品に目を通しておくこと。 次回の範囲の予習と、その日の授業についてはその日のうちに復習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講条件　なし 受講のルール　私語は厳禁 学習上の助言　高校までの授業は、言わば「受け身」の授業であったが、この「購読」は、学生諸君が主体的に運営する科目であり、まさに大学で学ぶにふさわしいものである。しっかり、取り組んで欲しい。			
授業スケジュール			
１．概要説明 ２．発表 ３．発表 ４．発表 ５．発表 ６．発表 ７．発表 ８．発表 ９．発表 １０．発表 １１．発表 １２．発表 １３．発表 １４．発表 １５．発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50791901
科目名	社会調査法 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
授業概要	社会調査を行なうための基礎知識を学習する。社会調査の意義、種類、調査倫理といった基本事項を学習する。 社会調査士資格の【A】 社会調査の基本的事項に関する科目に該当するが、資格取得を目指す（だけの）科目ではない。人文学のため調査の考え方、方法の基礎を学ぶ。 社会調査士資格について、詳しくは、一般社団法人社会調査協会のウェブページ「社会調査士とは」（{http://jasr.or.jp/participation/what_sr.html}）を、カリキュラムについては「社会調査士のカリキュラム」（{http://jasr.or.jp/participation/curriculum_sr.html}）を参照。		
教材（教科書）	なし。プリント教材を講義中に配付する（京学なびにも掲?する）。ビデオ教材を使?する。		
教材（参考資料）	各回のプリント教材の末尾に記載する。		
教育方法	教材をスクリーンに表?しながら講義形式で?なう。 毎回、授業内レポートを課し、その回の内容を確認する 。京学なびの「授業資料」、「課題」を利?する。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（60%）、定期テスト（40%）。		
到達目標	一般社団法人社会調査協会のウェブページ「社会調査士のカリキュラム」（{http://jasr.or.jp/participation/curriculum_sr.html}）の【A】の諸事項について説明ができる。		
授業時間外学習	各回の 3?前までに、京学なびにプリント教材を掲?するので、よく読んでおくこと。 授業内レポート課題の?部は各回の 2?後に締切を設定しているので、その間に解答し て提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義中に配付したプリント教材は、以降の講義でも持参すること。
「統計分析の基礎」または「心理統計学 I」・「同 II」を、予めあるいは並行して、履修してほしい。

授業スケジュール

《I イントロダクション》
1. イントロダクション：講義の概要、事前知識など

《II 社会調査の基本的事項》
2. 社会調査の目的
3. 社会調査の歴史：チャールズ・ブース、横山源之助
4. 社会調査実施時の注意点：倫理、アナウンスメント効果
5. 社会調査のための情報収集
6. 既存の統計データへのアクセス：国勢調査と公式統計
7. 既存の調査研究へのアクセス：世論調査、市場調査
8. 復習と補足(1)

《III 調査の種類》
9. 調査の種類
10. 調査票調査
11. インタビュー
12. 参与観察
13. 非参与観察
14. ドキュメント分析
15. 復習と補足(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50791A01
科目名	民俗学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	歴史民俗学講読（歴史地理学）A では、John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 を講読します。本書は分かりやすい英文で書かれており、初心者には最適のテキストです。 本講読では、本書第１章の「The Origins of the Vikings」を読みます。受講者には、事前にコピーを配付し、訳してきてもらいます。英語の授業ではないので、主に書かれている内容について解説します。また、英語に自信のない学生も、ゆっくり訳していきますので、受講して下さい。英語で専門書を読んでみたいという学生ももちろん歓迎します。特に大学院進学を考えている学生は、英語が必要なので、受講することを勧めます。		
教材（教科書）	John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 の講読部分をコピーして配布する。		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	－		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）、発表（６０％）、レポート（２０％）		
到達目標	歴史地理学の基本的な英文を読めるようになること。		
授業時間外学習	配布資料の予習		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ノートパソコンで電子辞書を引き、訳文を作成していくことを望む。			
授業スケジュール			
１　教科書の選定と解説 ２～１４　受講者による講読 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J50791A02
科目名	民俗学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	（1）昔話の分析理論の代表的なものを輪読する。 （2）自分の愛する研究者をひとり発見しましょう。		
教材（教科書）	ウラジミール　プロップ『昔話の形態学』		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	発表（７０％）　授業への貢献度（３０％）		
到達目標	昔話の分析方法について理解する。 自分の愛する研究者をひとり発見する。		
授業時間外学習	必ず事前にテキストの指定された箇所を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自分の愛する研究者を発見するためには、たくさんの書物を読まなければなりません。			
授業スケジュール			
1　輪読担当者およびスケジュールの決定 2『昔話の形態学』輪読 3『昔話の形態学』輪読 4『昔話の形態学』輪読 5『昔話の形態学』輪読 6『昔話の形態学』輪読 7『昔話の形態学』輪読 8『昔話の形態学』輪読 9『昔話の形態学』輪読 10『昔話の形態学』の理論を使って物語を作る。 11『昔話の形態学』の理論を使って物語を作る。 12　私の愛する研究者について、ブックバトル形式で発表する。 13　私の愛する研究者について、ブックバトル形式で発表する。 14　私の愛する研究者について、ブックバトル形式で発表する。 15　私の愛する研究者５			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J50791A03
科目名	民俗学資料講読Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
授業概要	『共同幻想論』は画期的な国家論として有名だが、実は柳田国男『遠野物語』と日本の神話『古事記』を大きな対象としている。その「角川文庫版のための序」には「この本の主題は国家が成立する以前のことをとり扱っているから、もともとは民俗学とか文化人類学とかが対象にする領域になっている。だが民俗学とか人類学とかが普通扱っているような主題の扱い方をとろうとはおもわなかった。(中略) ただ個人の幻想とは異なった次元に想定される共同の幻想のさまざまな形態としてだけ、対象をとりあげようとおもったのである。」とあるように、日本神話と日本民俗学の聖典をまったく違う視点から読もうとしている。受講生はテキストを読み解いていくが、自分の理解を他の受講生に示し、質疑応答、検討を繰り返していく。		
教材（教科書）	『共同幻想論』吉本隆明著、角川ソフィア文庫		
教材（参考資料）	『遠野物語』柳田国男、角川ソフィア文庫		
教育方法	『共同幻想論』を受講生が読み解いていく。名簿の順番に沿って、順番、担当頁を決める。テクストを読み解くことは、これまでの国語の授業のような、語釈、要約だけで済む訳ではない。対比的な叙述の箇所は、対比されている事柄、項目を抜き出して表や図式にして明確に図示することを学ぶ。重要な理解が引用文で示されていることも多いので、精密な解読をそこに関しては行わなければならない。また、自分の当てられた箇所のみに目が行きがちだが、文脈を読みとるためには、必ず、読み進んできた以前の文章との関連にも注意が必要なので、関連文の頁数を挙げなければならない。 　春学期はそれを板書での発表によって行う。		
評価方法	発表によって評価する（50%）。さらに担当でない時の、発表に対する質問も評価対象になる（50%）。		
到達目標	専門的研究にとりかかるための文献読解力、調査力、構想力を身につける。		
授業時間外学習	担当の部分の読解のため、特に引用されている文章の原典に当たり、全体の文意を把握、理解しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
初日に発表順を決めるので、欠席者は発表が一巡するまで、発表の機会が与えられない。発表できなければ評価できないということになる。出だしが肝心である。『共同幻想論』は初日には持参すべきなので、事前に購入しておくこと。 　取り扱われている『遠野物語』についての基礎知識として、民俗学関係の科目を受講するとか、入門書等を読んでおくこと。また、口承文芸、昔話についての知識も必要である。フシギな話への興味や関心をもともと持っていればだいじょうぶだろう。		
授業スケジュール			
テキストの前半『遠野物語』の読解部分を、順番に読んで、どのように理解しているかを発表する。 １～１５　受講生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J50791B01
科目名	民俗学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	歴史民俗学講読Ｂでは、John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 のテーマ別に分かれたパートを受講生一人ずつに担当してもらい、レジュメを作成して発表する。 したがって、この歴史民俗学講読Ｂでは、ある程度の分量を訳してもらい、レジュメを作成した上での発表形式で行います。特に大学院進学を考えている学生は、専門的な英語が必要なので、受講することを勧めます。		
教材（教科書）	John Haywood, Historical Atlas of the Vikings, Penguin Books, 1995 の担当部分をコピーして配布する。		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	－		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）、発表（６０％）、レポート（２０％）		
到達目標	歴史地理学の専門的な英文を読めるようになること。		
授業時間外学習	教科書の予習と関連文献の把握		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
直訳ではなく日本語として理解できる翻訳文を作成する努力を要望			
授業スケジュール			
1　教科書の選定と解説 2～14　受講者による講読 15　総合討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J50791B02
科目名	民俗学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	神話研究の第一人者であるレヴィ＝ストロースの論文を読みます。語られている内容は難解なものですが、神話や物語を 学術的に分析してみたいと考えている人なら、取り組む価値があると思います。		
教材（教科書）	レヴィ＝ストロース　『神話論理』Ⅰ		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	発表（７０％）授業への貢献度（３０％）		
到達目標	レヴィ＝ストロースを怖がらないで読めるようになること。		
授業時間外学習	毎回前もって『神話論理』の指定された箇所を読んでくること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自分の担当する箇所は、せめて一ヶ月前から読み始めること。			
授業スケジュール			
１講読の進め方について ２レヴィ＝ストロースについて ３神話論理１の輪読１ ４神話論理１の輪読２ ５神話論理１の輪読３ ６神話論理１の輪読４ ７神話論理１の輪読５ ８神話論理１の輪読６ ９神話論理１の輪読７ １０神話論理１の輪読８ １１神話論理１の輪読９ １２神話論理１の輪読１０ １３神話論理１の輪読１１ １４神話論理１の輪読１２ １５神話論理を振り返って			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50791B03
科目名	民俗学資料講読Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
授業概要	『共同幻想論』は画期的な国家論として有名だが、実は柳田国男『遠野物語』と日本の神話『古事記』を大きな対象としている。後半は特に日本の古代史を『古事記』を読み解くことで解析して行く。古代史研究も考古学上の発見により大きく飛躍して来ている。邪馬台国の位置の確定などもあと一歩のところまでのようだが、国家とは何かという点での理論的な枠組みが問題になってくる。エンゲルス『家族・私有財産・国家の起源』は古代国家の成立論に大きな影響を与えたが、『共同幻想論』はそれを批判的に読み込むことで新しい地平を切り拓いたのだった。古代国家の成立についての問題意識を持つことが必要になる。受講生はテキストを読み解いていくが、自分の理解を他の受講生に示し、質疑応答、検討を繰り返していく。		
教材（教科書）	『共同幻想論』吉本隆明著、角川ソフィア文庫		
教材（参考資料）	『口語訳　古事記　神代篇』三浦佑之・訳・注釈、文春文庫		
教育方法	『共同幻想論』を受講生が読み解いていく。名簿の順番に沿って、順番、担当頁を決める。テクストを読み解くことは、これまでの国語の授業のような、語釈、要約だけで済む訳ではない。対比的な叙述の箇所は、対比されている事柄、項目を抜き出して表や図式にして明確に図示することを学ぶ。重要な理解が引用文で示されていることも多いので、精密な解読をそこに関しては行わなければならない。また、自分の当てられた箇所のみに目が行きがちだが、文脈を読みとるためには、必ず、読み進んできた以前の文章との関連にも注意が必要なので、関連文の頁数を挙げなければならない。 秋学期はレジメを各自作成し、それによって発表を行う。		
評価方法	発表によって評価する（50%）。さらに担当でない時の、発表に対する質問も評価対象になる（50%）。		
到達目標	専門的研究にとりかかるための文献読解力、調査力、構想力を身につける。		
授業時間外学習	担当の部分の読解のため、特に引用されている文章の原典に当たり、全体の文意を把握、理解しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
初日に発表順を決めるので、欠席者は発表が一巡するまで、発表の機会が与えられない。発表できなければ評価できないということになる。出だしが肝心である。『共同幻想論』は初日には持参すべきなので、事前に購入しておくこと。 取り扱われている『古事記』についての基礎知識として、古代史関係の科目を受講するとか、入門書等を読んでおくこと。また、神話についての知識も必要である。国家の形成に関しての興味と感心を持つことが望ましい。			
授業スケジュール			
テキストの後半『古事記』の読解部分を、順番に読んで、どのように理解しているかを発表する。 １～１５　受講生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J50792001
科目名	社会コミュニケーション基礎	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
授業概要	社会コミュニケーションコースの学習の基礎として、社会学やメディア学、コミュニケーション論の分野の基礎を学ぶ。人と人との間のコミュニケーションを成り立たせる社会の特質は何か。人は社会の中で、どのように行動し役割を果たすのか、また、他人との間でどのような相互作用をおこない、どのような集団をつくるのか、そして、その時、集団の側からはどのような影響を受けるのか、などについて考える。さらに、コミュニケーションの手段となるメディアも取り上げる。メディアが発達することによって社会の特徴が変化する点も重要である。メディアの発達による現代の情報社会としての側面についても学ぶ。		
教材（教科書）	なし。各講義で資料を配付する。		
教材（参考資料）	なし。		
教育方法	主に講義によるが、ビデオ教材も活用する。		
評価方法	（出席を前提として）授業中に課すレポート（100％）		
到達目標	社会やコミュニケーション、メディアについて、基礎的な知識を得る. 社会やコミュニケーション、メディアについて関心を持つ。 社会やコミュニケーション､メディアが人間の心理とどのように関係を持つかについて考えられるようになる。		
授業時間外学習	1.「社会」や「コミュニケーション」について今自分が知っていることを 200 字程度でまとめておくこと。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、授業の見通しをもっておくこと） 2. 配付資料 No.1「いじめ」 3. 配付資料 No.2「親子関係」 4. 配付資料 No.3「リーダーシップ」 5. 配付資料 No.4「上司と部下」 6. 配付資料 No.5「マインドコントロール」 7. 配付資料 No.6「情報と監視社会」 8. 配付資料 No.7「ネット社会」 9. 配付資料 No.8「「わかりえない」から始まるコミュニケーション」 10. 配付資料 No.9「コミュニケーションに不可欠なもの」 11. 配付資料 No.10「情報環境とメディア：疑似環境･説得コミュニケーション」 12. 配付資料 No.11「表現文化とメディア：わかちあうコミュニケーション」 13. 配付資料 No.12「社会調査法入門」 14. 配付資料 No.13「コミュニケーション社会学入門」 15. 配付資料 No.14「社会とコミュニケーション」		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
能動的な姿勢で講義に出席してほしい。 常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考を求める。			
授業スケジュール			
1，イントロダクション（コミュニケーションと社会） 2，学校の生徒集団での「いじめ」 3，家族の役割と行動（父と子、母と子、など） 4，企業の仕組み（官僚制）とリーダーシップの特徴 5，企業での人間相互の関係とお互いの影響（上司と部下など） 6，集団によるマインドコントロール 7，情報社会１（管理社会・監視社会） 8，情報社会２（ネット社会）			

9.「わかりえない」から始まるコミュニケーション
10. コミュニケーションに不可欠なもの
11. 情報環境とメディア：疑似環境･説得コミュニケーション
12. 表現文化とメディア：わかちあうコミュニケーション
13. 社会調査法入門
14. コミュニケーション社会学入門
15, 社会とコミュニケーション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50792101
科目名	社会調査法 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
授業概要	社会調査を行なうための基礎知識を学習する。社会調査の設計、具体的な調査方法、調査データの整理といった、実践的知識を学習する。 社会調査士資格の【B】 調査設計と実施方法に関する科目に該当するが、資格取得を目指す（だけの）科目ではない。人文学のため調査の考え方、方法の基礎を学ぶ。 社会調査士資格について、詳しくは、一般社団法人社会調査協会のウェブページ「社会調査士とは」（{http://jasr.or.jp/participation/what_sr.html}）を、カリキュラムについては「社会調査士のカリキュラム」（{http://jasr.or.jp/participation/curriculum_sr.html}）を参照。		
教材（教科書）	なし。プリント教材を講義中に配付する（京学なびにも掲?する）。ビデオ教材を使?する。		
教材（参考資料）	各回のプリント教材の末尾に記載する。		
教育方法	教材をスクリーンに表?しながら講義形式で?なう。 毎回、授業内レポートを課し、その回の内容を確認する 。京学なびの「授業資料」、「課題」を利?する。 可能であれば PC 教室で PC を操作しながら学習する（第 11、13、14 回講義）。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（60%）、レポート（40%）。		
到達目標	調査票調査の手順について説明ができる。 量的調査と質的調査の違いについて説明ができる。		
授業時間外学習	各回の 3?前までに、京学なびにプリント教材を掲?するので、よく読んでおくこと。 授業内レポート課題の?部は各回の 2?後に締切を設定しているので、その間に解答し て提出すること。また、レポート課題に先立って、そのためのデータ収集の課題を出題する予定。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義中に配付したプリント教材は、以降の講義でも持参すること。
「社会調査法 I」を予め履修してほしい。
「統計分析の基礎」または「心理統計学 I」・「同 II」を、予めあるいは並行して、履修してほしい。

授業スケジュール

《I 量的調査の設計と実施》
1. 調査票調査のための事前知識など
2. 調査票調査の概要
3. 問題・概念・仮説
4. 調査票の作り方(1)：ワーディング
5. 調査票の作り方(2)：選択肢、その他
6. サンプリング(1)：サンプリングの重要性、諸技法
7. サンプリング(2)：サンプリングの論理を理解するための統計指標
8. サンプリング(3)：標本と母集団の関係
9. サンプリング(4)：標本数の決め方、サンプリング台帳
10. 調査票の配付と回収：自記式・他記式各方法、回収率
11. 調査データの整理：エディティング、コーディング
12. 統計パッケージ：種類、使用の注意点
13. 報告書の書き方：必須項目、公開することの意義、記述と説明
14. 復習と練習問題

《II 質的調査の設計と実施》
15. 質的調査の設計と実施、量的調査との相違

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J50792201
科目名	精神病理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	林　晶子	旧科目名称	
授業概要	心理士として医療機関における他職種連携に寄与するために、代表的な精神疾患についての成因、症状、経過、診断法、薬物療法も含めた治療法を理解した上で、効果的な連携に至る合意形成を習得する		
教材（教科書）	なし　各講義でプリントを配布		
教材（参考資料）	精神医学入門　第２版（南山堂）　TEXT 精神医学　改訂４版　（南山堂）		
教育方法	配布資料を用いた講義とグループワークを組み合わせて行う		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（３０％）定期テスト（７０％）		
到達目標	代表的な精神疾患についての成因・症状・診断法・治療法・経過を理解し、病態に応じた医療機関との連携を考察できるようになる		
授業時間外学習	講義終了日に次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な参加を求める

授業スケジュール

１　精神医学総論①
２　精神医学総論②
３　統合失調症　成因・症状・経過
４　統合失調症　診断法・治療法・支援
５　気分障害　成因・症状・経過
６　感情障害　診断法・治療法・支援
７　神経症性障害　成因・症状・経過
８　神経症性障害　診断法・治療法・支援
９　器質性精神疾患　成因・症状・経過
１０器質性精神疾患　診断法・治療法・支援
１１精神作用物質の使用による精神および行動の障害
１２薬物療法総論
１３向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化
１４医療機関との連携①
１５医療機関との連携②

※講義日は４月７日　４月２１日　５月１２日　５月１９日　６月２日　６月１６日　６月３０日　７月７日に２時間連続で実施します。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J50792301
科目名	犯罪心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	河合　弘靖	旧科目名称	
授業概要	第Ⅰ部は犯罪・非行の基礎（犯罪・非行の定義や理論，犯罪・非行の個別的要因や社会的要因等），第Ⅱ部は犯罪・非行の心理臨床（犯罪者・非行少年の処遇システムやアセスメント，犯罪・非行の治療教育等）について講義形式で授業を行う。また，犯罪・非行の心理学的基礎，現代日本における犯罪・非行の現状や犯罪・非行に対処するための社会的制度等を理解することによって犯罪・非行の問題に対処するための基礎的知識や方法等を修得する。なお，犯罪や非行にかかわる業務に携わるのは主に国家公務員や地方公務員であり，各職場や職種について授業の中で紹介する。		
教材（教科書）	なし，各回の授業でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	藤岡淳子（編）『犯罪・心理の心理学』有斐閣ブックス　2,400 円 越智啓太・桐生正幸（編著）『テキスト』北大路書房　5,800 円		
教育方法	パワーポイントを活用しながら講義形式で授業を行う。		
評価方法	授業への参加態度，授業中の発言や質問の内容等による平常点（30%）。小レポート 10 回（20%）。第Ⅰ部・第Ⅱ部授業の到達度の確認のための小テスト 2 回（50%）。		
到達目標	1．犯罪・非行の心理学的基礎や現状，課題について理解し説明できる。 2．犯罪・非行に対処するための社会的制度について説明できる。 3．犯罪の加害者や被害者にならないための対策を提示できる。		
授業時間外学習	1．講義内容は整理しノートにまとめておく。それが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながる。 2．第 2 回～第 7 回，第 10 回～第 13 回授業の初めに提示する課題について小レポートを作成する。 3．犯罪や非行に関する事象や社会の動き，論評は様々に報道されている。授業で学習した事柄を思い浮かべながら，自分なりに報道内容等についてどういうことが起きている可能性があるのか，検討する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．受講生の学習環境を阻害するような私語や飲食等は禁止する。
2．犯罪や非行に関する事象や社会の動き，論評は様々に報道されている。それらに興味・関心を持つ学生に，また，将来の資格取得（臨床心理士，公認心理師等）や，職業との関連を考えている学生に受講してほしい。
3．犯罪・非行臨床の現場での臨床経験や事例等を踏まえながら授業を進めていきたいと考えている。

授業スケジュール

第Ⅰ部　犯罪・非行の基礎
第 1 回　犯罪・非行心理学を学ぶにあたって　コラム①「性犯罪」　受講者アンケート
第 2 回　犯罪・非行研究の基礎理論　コラム②「窃盗」　小レポート 1
第 3 回　犯罪・非行の個別的要因（1）パーソナリティ要因　コラム③「放火」　小レポート 2
第 4 回　犯罪・非行の個別的要因（2）発達障害　コラム④「薬物犯罪」　小レポート 3
第 5 回　非行と家族関係，及び家事事件　コラム⑤「女性犯罪」　小レポート 4
第 6 回　犯罪・非行と学校・職場・地域　コラム⑥「殺人」　小レポート 5
第 7 回　犯罪捜査　1．犯罪者プロファイリング，2．ポリグラフ検査，3．目撃証言
　　コラム⑦「強盗・恐喝」　小レポート 6
第 8 回　第Ⅰ部授業の到達度の確認と，第Ⅰ部授業の補足（DV 等）
第Ⅱ部　犯罪・非行の心理臨床
第 9 回　犯罪・非行の心理臨床の基礎　コラム⑧「詐欺」
第 10 回　犯罪者・非行少年の処遇システム　コラム⑨「ストーキング」　小レポート 7
第 11 回　犯罪者・非行少年のアセスメント　コラム⑩「交通犯罪」　小レポート 8
第 12 回　犯罪・非行の治療教育　コラム⑪「サイバー犯罪」　小レポート 9
第 13 回　犯罪被害者の精神的被害　コラム⑫「被害者相談」　小レポート 10
第 14 回　犯罪・非行の心理学の課題と展望　コラム⑬「マスメディアと犯罪」

第 15 回　第 II 部授業の到達度の確認と，第 II 部授業の補足（事例検討等）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J50792401
科目名	臨床心理学実習	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	描画や箱庭を実際に体験することを通して、イメージを介した心理療法を習得する。		
教材（教科書）	配布資料あり。		
教材（参考資料）	実習の中で紹介する。		
教育方法	実際に教員の指導のもと、箱庭、描画を体験する。		
評価方法	平常点（50%） レポート（50%）		
到達目標	「表現」をキーワードとする心理療法の基礎を正しく理解する。		
授業時間外学習	積極的に参考文献などに目を通しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
実習は専門的に高度な内容であるため、心して受講すること。守秘義務を守ることが求められる。			
授業スケジュール			
実習の具体的な運営方法は、受講生の人数によって変わるので、受講生と相談の上で決定する。 1　オリエンテーション 2　言語連想実験―実習 3　描画法―バウム、風景構成法―実習 5．6．描画法の理解 7．箱庭療法とは 8～12．箱庭―実習（ゼミ生が全員順番に作成する。セラピスト役、クライエント役、オブザーバとなる） 13．14　箱庭療法の理解 15　表現療法のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50792402
科目名	臨床心理学実習	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
授業概要	ロールプレイやその逐語録の分析を通して、あらゆるカウンセリング・心理療法の技法の基礎となる、ロジャーズの三原則に基づいた応答技法について学び、基本的なカウンセリング的応答ができるようになる。 また、カウンセラー自身の応答パターンの分析も必要であるため、受講者の心の動きにも注意を向けながら実習を行なう。		
教材（教科書）	実習内容については、適宜プリントを配布する。但し、臨床心理学Ⅱで使用しているテキストは、各自準備しておくこと。		
教材（参考資料）	必要な図書は、授業中に適宜指示する。		
教育方法	受講生同士でペアを作り、連続してロールプレイを行う。カウンセラー役・クライエント役の両方を体験する。全員がロールプレイを体験し終えた後、全員でそれぞれのプロトコールを分析し、カウンセラーとしての態度について学習する。		
評価方法	授業中の発表・平常点　５０％　及び　レポート　５０％		
到達目標	心理面接の基本を学習し、カウンセリング的応答ができるようになることを目標とする。		
授業時間外学習	講義の開始前に臨床心理学Ⅱの教科書を再読し、ロジャーズのカウンセリング理論を復習すること。 各回がロールプレイの実施とその検討が中心となるので、ロール設定・応答練習・記録おこしなど、その時に出される課題を実行すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講条件 臨床心理学Ⅰ・Ⅱ、カウンセリング論の単位が取得済みであること。 受講のルール 各人に科せられた課題について、積極的に取り組むこと。			
授業スケジュール			
１～３　カウンセリングの基礎 ４～６　ロールプレイ　　１ ７～8　結果の検討および討論 ９～12　ロールプレイ　２ 13～14　結果の検討及び討論 15　総合的検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J50792403
科目名	臨床心理学実習	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	(以下、「専門ゼミ B」と同じ内容である)臨床心理学はその専門家になる人にだけでなく、広く対人援助を志したい人、職業生活や日常生活での対人関係をより豊かなものにしていきたい人にとって、役に立つ学である。そしてその学の実践は「自分」が行なっていくのであり、そのためにはよく勉強し、その学を一定以上身につけなければならない。この演習では、とくに発達臨床心理学領域における基本的知識がより定着し、それらに関連する社会的に重要なテーマについての認識が拡がる。近隣の社会福祉施設の見学実習等を希望する学生の相談にはのる。また、対人援助系のボランティア等の募集が当ゼミにはよく届けられるので、そのような社会的活動の機会を自分のために積極的に活かすことができる。		
教材（教科書）	使用しない。また、必要に応じてプリント類を使用する。		
教材（参考資料）	授業で紹介する。		
教育方法	学生と教員が相互にやりとりして進めるが、映像等も用いることがある。		
評価方法	受講態度などの平常点（５０%）、授業内の課題への取り組みの評価点（５０%）。		
到達目標	どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての自己評価が少しでも上がる。		
授業時間外学習	前回行なった内容について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。また、とくに「人間模様」に関する事柄にかんして、読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

秋学期開講の「心理アセスメント」を受講してほしい。提供されたテーマに対して積極的に取り組むこと。受け身だけでは身につくものも身につかない。

授業スケジュール

本授業については、その後コマの「専門ゼミ B」と 2 コマ連続で同一テーマを扱うので、
「専門ゼミ B」のシラバスと同一の内容になっている。

１．オリエンテーション、福祉現場を知る
２．「発達臨床心理学」の重要事項の確認(人間発達・障害)
３．映像による発達の理解
４．「発達臨床心理学」の重要事項の確認(家族・その他の発達上にあらわれる課題)
５．映像による家族の理解
６．「司法・矯正・福祉心理学」の重要事項の確認(児童福祉臨床・児童虐待)
７．映像による児童虐待の理解
８．「司法・矯正・福祉心理学」の重要事項の確認(社会的養護・その他の福祉的課題)
９．映像による幸福についての理解
１０．臨床的ワーク(コミュニケーション)
１１．臨床的ワーク(想像力・理解・解釈)
１２．臨床的ワーク(家族・システム)　１３．映像による人間心理の理解
１４．臨床的ワーク(コラボレーション)
１５．臨床的ワーク(心理検査・心理療法周辺)
※以上については、内容や順序の変更があり得る。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	J50792404
科目名	臨床心理学実習	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
授業概要	実習を通して他者と関わり、自分を知ることを目標とする。心理療法の実習そのものだけではなく、それを体験し、振り返り、自分について考える力を養う。また他者に意見や気持ちを伝えることができるようになること。		
教材（教科書）	特になし　適宜指示する		
教材（参考資料）	なし　適宜指示する		
教育方法	ゼミ形式で行う。グループで行う作業もあるので欠席しないこと。		
評価方法	出席、レポート、自分なりのテーマをもち、自主的に学ぼうとする姿勢などの総合評価		
到達目標	実習を通して自分について理解を深める。自分が何を感じたか、どのように分析できるか、など考えることの訓練も目指す。		
授業時間外学習	心理療法について多くの文献に接すること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自主的に学ぼうとする姿勢を大切にして下さい。レポートなどの自主的な提出や、積極的に学ぶ姿勢を評価します			
授業スケジュール			
１、オリエンテーション ２、バウムテスト、風景構成法/スクイッグル ３、事例・グループでの討論 ４、箱庭 ５、事例・グループでの討論 ６、コラージュ ７、グループでのコラージュ ８、言語連想 ９、言語連想分析 １０、プレイセラピー １２、ロールプレイ １３、事例を読む １４、夢について　事例を読む １５、実習をふりかえって			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50792501
科目名	コミュニティ社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大橋　松行	旧科目名称	
授業概要	今日、グローバル化、リスク社会化、第二の近代化など、社会が大きく変化している。このような社会の大きな変化に伴い、コミュニティのあり方もさまざまな変化が生じてきている。特に日本では、少子・高齢社会の到来によってコミュニティの衰退や崩壊がいわれ、他方では、まちづくりを担う人びとによるコミュニティの復活や再生がクローズアップされている。地域の防災や防犯、育児や介護に関して、コミュニティの必要性が主張されている。本講義ではこうしたコミュニティの現実を踏まえつつ、コミュニティの基本的な考え方について論じるとともに、現実の具体的なコミュニティの様態についても言及する。実際に地域コミュニティと関わりながら調査研究を進めるために必要な知識の習得を念頭に置いて講義を進めていく。		
教材（教科書）	使用しない。各講義でプリントを配付する。		
教材（参考資料）	増田寛也編著『地方消滅』中央公論新社、820 円＋税 山崎亮著『コミュニティデザインの時代』中央公論新社、860 円＋税		
教育方法	適宜プリントを配付する。		
評価方法	授業中に課す小レポート（50%）、定期テスト（50%）。		
到達目標	１．現代コミュニティのあり方に関して社会学の観点から具体的な現実を解明し、理解することを目標とする。 ２．コミュニティへの関心を深め、コミュニティの将来と自己の将来とを結びつけて考えることができることを目標とする。		
授業時間外学習	参考文献欄に挙げた文献 2 冊を読み、学期中に内容を理解する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講生の当該授業への興味・関心を深めてもらえるようなテーマを取り上げて話をする予定なので、自身が住む地域コミュニティでの出来事に常に目を向けるよう心がけてほしい。

授業スケジュール

１．コミュニティを考える社会学的視点：行為、関係性、構造、自己、日常生活世界など
２．「現代コミュニティ」とは何か：コミュニティの概念など
３．少子・高齢社会の現実：三大都市圏、消滅可能性都市など
４．コミュニティの衰退と再生：コミュニティの変容など
５．二十一世紀のコミュニティの現実：コミュニティの福祉化、グローバル化、情報化など
６．都市社会における地域構造・空間構造の変容：社会地図、シカゴ学派、都心再利用など
７．都市コミュニティにおける人間関係：都市的相互作用など
８．変化するコミュニティデザイン：ハード整備のコミュニティデザイン、ハード整備を前提としないコミュニティデザインなど
９．地方都市中心市街地の再生：中心市街地の衰退、まちづくりを担う人びとなど
10．コミュニティ活動の担い手：住民組織（町内会、自治会）など
11.住みよいコミュニティのイメージ①：防災・防犯、絆・結びつきなど
12．住みよいコミュニティのイメージ②：医療・福祉・介護、子育て・教育など
13．コミュニティ文化：都市の祭り、農村の祭りなど
14．コミュニティ・メディアとコミュニティ・コミュニケーション：コミュニティ FM 放送、CATV など
15．情報コミュニティと地域コミュニティ：電子コミュニティなど

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J50792601
科目名	情報環境論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
授業概要	現代の情報環境をつくる多様なメディアを通じたコミュニケーションが人びと（オーディエンス）にどのようにうけとめられ、その意識や行動にどのような影響を与えるか、そして、さまざまな送り手がそれらを考慮しつつどのようにコミュニケーションを組み立てるかを考察していく。ニュースや芸術作品、広告表現などのマスメディアを通じたマクロな過程、SNS などを通じたマスや小集団における過程の双方を取り扱う。身の回りの情報環境の分析や、メディア・メッセージの批判的解読、簡易な制作体験を通じた送り手の活動の理解など、具体的な題材を通じてこれらを考えていく。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	石田英敬『大人のためのメディア論講義』、筑摩書房（ちくま新書）、2016 年 日本応用心理学会企画、浮谷秀一・大坊郁夫編『現代社会と応用心理学 5　メディア』、福村出版、2015 年 ダニエル・ブーニュー、水島久光監訳、西兼志訳『コミュニケーション学講義』、書籍工房早山、2010 年		
教育方法	毎回、プリントなど、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意し、記事・番組・広告・作品など近年のさまざまなメディア表現や映像素材を閲読・鑑賞するなど、具体的な題材をもとに講義をすすめる。		
評価方法	授業への出席・ディスカッション：50%、課題への参加・提出：50%		
到達目標	1）社会を取り囲む情報環境やメディアのしくみとはたらきを理解し、環境の監視、事業や制度の運営、文化の共有などに利用されるメディアの必要性と問題性の両面を学習する。 2）メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行い、あらゆる社会的活動に不可欠となる「他者からの理解と支持」を得るための情報発信の姿勢を持てるようにする。		
授業時間外学習	1）テレビやインターネット、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について日頃から考える習慣を身につける。 2）日常生活で接するさまざまなメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手(媒体社、広告会社等）の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がける。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
本科目は、講義、授業内課題、ディスカッションと共同作業の 3 つで成り立つ。授業の理解や発展学習のため、授業内課題を 3 ～ 4 回課し、受講者による討論や発表の機会を設ける。テーマについて高い関心をもち、積極的な発言と活動を行う意欲のある受講者を求める。			
授業スケジュール			
第 1 回　イントロダクション：情報環境から語りかけるのは誰？ 第 2 回　メディアとは何か？：定義と範囲 第 3 回　情報とは何か？：「ニュース」を題材に 第 4 回　パブリック・メディアのはたらき（1）：環境を監視するメディア／ジャーナリズムの歴史と役割 第 5 回　課題（1）：各受講生＆グループワーク 第 6 回　パブリック・メディアのはたらき（2）：宣伝・推奨するメディア／プロパガンダ 第 7 回　ソーシャル・メディアをめぐって：SNS のはたらき／ネット炎上の実態／SNS が社会やパーソナリティを変える？ 第 8 回　産業としてのパブリック・メディア：販売モデルと広告モデル／対オーディエンス戦略／コンテンツ・ビジネス 第 9 回　課題（2）：各受講生＆グループワーク 第 10 回　情報環境をつくる：マーケティング・メディアと消費（1）消費の制御 第 11 回　情報環境をつくる：マーケティング・メディアと消費（2）ブランドと市場運営 第 12 回　情報環境をつくる：メディア・クリエイターの仕事 第 13 回　課題（3）：各受講生＆グループワーク 第 14 回　まとめ＆補足 第 15 回　今後の展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J50792701
科目名	集団心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
授業概要	この授業では、集団を用いた実験をいくつか体験しながら集団心理学についての理解を深める。扱うテーマは集団の意思決定、CMC（コンピュータを媒介するコミュニケーション）と FTF（対面コミュニケーション）による協同作業の効率性、集団間関係などである。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する		
教育方法	Slack などを用いて教材・データ配布を行うほか、適宜プリントを配布する		
評価方法	平常点 40%は授業への参加を見て採点する。レポートは 3 件ほど課す予定。60%		
到達目標	多くの社会現象は原因となる要因を特定できない複雑系現象である。しかし私たちは、どこかに原因となる要因やリーダーがいるという考え方に慣れているため、社会や人間に対して誤った原因を求める傾向がある。この授業は、このような因果関係の認知を脱して柔軟な視点で社会や他者を眺める視点を得ることを目的としている。		
授業時間外学習	各講義時間中に参考資料をプリントあるいは、教員個人の教材フォルダから配布する。この資料を、次の授業までに読んで準備をしておくこと。また、毎回の授業で得たデータを教材に解説を行うので、その結果をまとめてレポートとして提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

一般的な IT リテラシー（インターネット・PC 使用経験）を持っておくこと。
欠席・遅刻者が出ると、事前に準備したアクティビティが行えない場合があります。遅刻、欠席のないように。
やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に登録した SNS から連絡をしてください。

授業スケジュール

1．　概論
2．　Edmodo,Slack の使い方
3．　囚人のジレンマゲーム
4．　ジレンマゲームのシミュレーション
5．　FTF 集合知実験
6．　CMC 集合知実験
7．　FTF 社会的共有認知
8．　CMC 社会的共有認知
9．　FTF　空間認知の共有
10．CMC　空間認知の共有
11．仮想空間の制作
12．人工知能ボット
13．　ゲーミニフィケーション
14．　集団間関係のシミュレーション
15．　集合知

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J50792801
科目名	伝統文化論Ａ実習（茶道）	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
授業概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎をビデオ・プリント等交えて概観し、茶の湯の実技を中心に行う。また茶の湯の菓子をデザインし、抹茶を点てる、頂くという、もてなしも体験していただきます。 また日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化の茶との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違にも言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、伝統文化の茶の湯を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	成果物 50%、レポート（課題）50%		
到達目標	茶の湯の実践を通じて日本の伝統文化を理解する		
授業時間外学習	実技の予習及び復習とプリントの確認をする		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日本の伝統文化である「茶の湯」に興味のある方			
授業スケジュール			
１．　実習のための総論 ２．　茶の湯の基礎・割稽古 ３．　同上 ４．　同上 ５．　茶の湯の基礎・盆略点前 ６．　同上 ７．　同上 ８．　同上 ９．　同上独自のお菓子をデザインして創作する １０．　実践茶の湯のもてなし １１．　同上 １２．　同上 １３．　同上 １４．　伝統的なお菓子と濃茶を体験する １５．　世界のお茶でもてなす			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	J50792901
科目名	伝統文化論Ｂ実習（能楽）	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	仕舞は、扇を持って、舞台で着物・紋付き、袴（はかま）の姿で能の一部分を舞うものです。 　謡は能の台本を、登場人物のせりふと、ナレーターの部分をみんなで一緒に謡って練習します。 どちらも能を演じる上での、修業の基本の部分ですが、仕舞では身体を動かし足拍子のリズムを楽しみ、 謡では少し慣れたら、鬼や姫君や殿様などいろんな登場人物のせりふ回しを学んでみましょう。 着付けも練習します。 平安神宮の薪能を見学に行きます。		
教材（教科書）	プリントと CD を配布します		
教材（参考資料）	能・狂言図典　　小林保治・森田拾四郎編　　小学館　　2003 刊		
教育方法	毎回、舞の実技を行い、後半の時間で謡の実技を行います。 最初はお手本をする「先生のまねをしていますが、しだいに ３人ずつ、２人ずつで舞うようになり完璧に動きを覚えると１人で舞えるようになります。 １人で舞えるようになると、注意を受けながら少しずつ修正をしていきます。 謡のリズムに合わせて舞えるようになれば完成です。 １０回の練習で完成するように計画的に行います。 謡の場合も同じです。		
評価方法	授業への参加度や熱意。練習の習熟度。最後の発表会参加は必須です。薪能見学のレポート。		
到達目標	仕舞が一番（一曲）舞えるようになること 海外で日本の伝統文化を紹介出来るようになること 姿勢が正しくなり、大きな声が出るようになること		
授業時間外学習	配布したＣＤを、繰り返し聞いて復習してください。 牛若丸（源義経）と弁慶の話を漫画でもよいので読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
初心者歓迎。伝統文化論Ｂの講義をあらかじめ受講する必要はありません。 不安な場合は担当者に相談してください。 授業時間内に他の人の練習を見学する時間もありますが、「芸は盗むもの」といいます。 伝統芸能は熱心に見ることで上達しますから、そのつもりで意欲的に授業に取り組んでください。 フィールドワークとして平安神宮の薪能の見学があります。 チケット代自己負担が千円程度かかります。たびを持っていない人は、購入費千円程度を用意して下さい。
授業スケジュール
１　仕舞の基本　　扇の持ち方と構え方　運歩　足拍子のリズム ２　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（前半） ３　復習 ４　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（後半） ５　薪能見学の事前学習 ６　薪能の見学（フィールドワーク） ７　謡　復習・仕舞の復習 ８　謡「橋弁慶」弁慶と従者のやりとり　　仕舞「鶴亀」 ９　謡「橋弁慶」牛若丸登場　　仕舞「鶴亀」 １０　謡「橋弁慶」五条の橋の対決　　仕舞「鶴亀」 １１　練習 １２　リハーサル １３　着物や袴を身につけて仕舞を舞う　発表会　第一グループ 14　　同上　第二グループ

１５　着物や袴のたたみ方の習得

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J50792A01
科目名	人文地理学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	人間は地表面を離れて生活でき得ないし、文化を生むこともできない。その意味で、人と場所の関係を探ることは極めて重要である。この人と場所の関係を探るのが人文地理学である。人文地理学ｓでは、文化の空間的特性を探る、人文地理学の５つのテーマ、文化地域、文化拡散、文化生態学、文化的相互作用、文化景観について、具体例を示しつつ概説する。また様々な学問分野との交流の具体的事例についても紹介する。		
教材（教科書）	佐々木高弘著『民話の地理学』古今書院、2014 年。		
教材（参考資料）	T.G.Jordan, M.Domosh and Rowntree,L.,The Human Mosaic; A Thematic Introduction to Cultural Geography, Longman, 1997.		
教育方法	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 40%　学期末レポート 60%		
到達目標	様々な文化の空間的特性の重要性を理解することを目標とする。		
授業時間外学習	講義終了後に提示された授業内レポートの課題を復習し、現地調査や図書館での資料調査をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読むこと。			
授業スケジュール			
1　人文地理学とは：文化とは 2　人文地理学の考える文化：民俗文化と大衆文化 3　近代以降の私たちの場所：sense of place　placelessness 4　文化地域：形式文化地域圏、機能文化地域、認知文化地域 5　文化拡散：拡大拡散：伝染的拡散、階層的拡散、刺激的拡散・移転拡散 6　文化生態学：環境決定論、可能論 7　文化生態学：環境知覚、平安京の意思決定、三輪山の知覚と文化拡散、地理的空間知覚の概念図、メンタルマップ 8　文化的相互作用：社会科学、人文主義地理学、economic man、賢者の贈り物、 9　人文主義地理学：貴船の本地、天狗の内裏、一条戻橋、妖怪研究 10　伝統文化と大衆文化の継承性：大統領選挙、フォークソング、ビートルズ、ケルト 11　文化景観：景観を読む（解釈学的分析） 12　東南アジアの都市景観を読む：都市記号論、都市プラン 13　民話の文化地域、文化拡散、文化生態学、文化統合、文化景観 14　民俗文化と大衆文化の景観、sense of place, placelessness、映画の文化景観 15　生命としての風景：アニメーションの文化景観、クールジャパンとは		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50792B01
科目名	人文地理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	近年の学際的な人文地理学の動向に目を向ける。特に行動科学、心理学、社会学、歴史学、文化研究、文化人類学、民俗学との接点を持つ、行動地理学や人文主義地理学の方法論に焦点を当てる。そしてこれらの方法論を使うことによって、どのような研究が出来るのかを具体例をもって示す。特に本講義では、空想の場所と現実の場所の関係を、内外の具体的事例を示し、人文地理学の可能性についても模索していく。		
教材（教科書）	佐々木高弘著『民話の地理学』古今書院、2014 年。		
教材（参考資料）	T.G.Jordan, M.Domosh and Rowntree,L.,The Human Mosaic; A Thematic Introduction to Cultural Geography, Longman, 1997.		
教育方法	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 40%　学期末レポート 60%		
到達目標	化の空様々な文間的特性の重要性を理解することを目標とする。		
授業時間外学習	講義終了後に提示された授業内レポートの課題を復習し、現地調査や図書館での資料調査をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読むこと。			
授業スケジュール			
1　民話とは、神話・伝説・昔話、民話の地理学（人文主義地理学・環境知覚研究） 2　研究の集大成としての文化景観、ログハウスとニューヨークの摩天露、狂気の景観、 3　昔話の感覚地理：鬼の鼻、心のなかの景観、視覚以外の感覚世界、無意識 4　大工と鬼六、大工と鬼六の分析、地理学的意義、聴覚を使う場所の世界的共通点 5　山姥の口、グレート・マザー、食わず女房 6　昔話と心のなかの景観：奈良梨採り 7　映画エイリアンと心のなかの景観：「原初の卵」「原風景」、リプリーのアニムス 8　宇宙空間とジャングル、母殺しのテーマ、リプリーの自己実現 9　心と交流する景観、通過儀礼との類似点、池田の民話とサウンドスケープ 10　昔話の触覚地理：木の知恵、二人の旅人、感覚地理学と触覚地理 11　世界樹で首を吊る、瞬間の風景、神聖甲虫、科学の知と神話の知 12　昔話の原風景：瞬間の風景（DEF の野原）、プロップの構造分析、野原の聴覚地理 13　野原の聴覚地理、立ち帰りたい場所、 14　実在する原風景、池田の民話と原風景 15　『ツインズ』と二人の旅人：昔話と映画の空間移動			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50793001
科目名	伝統文化論Ａ（茶道）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
授業概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎や歴史を教科書・ビデオ等交えて概観し、茶の湯の舞台ともいえる茶の湯の庭(露地)と茶の湯の建築(茶室)の成り立ち、茶人のこだわり、そしてそこから窺える精神性をも解説したい。 更に、日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違に言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、自国の伝統文化を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。		
教材（教科書）	『茶道文化検定公式テキスト３級』飯島照仁共著　淡交社		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	成果物 20%、レポート（課題）30%、筆記試験 50%		
到達目標	茶の湯の実践を通じて日本の伝統文化を理解する		
授業時間外学習	教科書の予習及び復習		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日本の伝統文化、茶の湯に関心のあること			
授業スケジュール			
１．　伝統文化総論 ２．　日本の伝統文化(茶の湯)と衣・食・住の基礎知識 ３．　同上 ４．　茶の湯入門 ５．　同上 ６．　同上 ７．　同上 ８．　茶の湯の建築入門 ９．　同上 １０．　同上 １１．　同上 １２．　茶の湯の庭入門 １３．　同上 １４．　同上 １５．　茶の湯体験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J50793101
科目名	伝統文化論Ｂ（能楽）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	日本の伝統文化は、中世に源流があると言われる。伝統文化論Ａは茶道を取りあげ、 この伝統文化論Ｂは能楽を取りあげるがいずれも中世に確立し、今日まで発展している 日本の伝統文化である。とくに京都は、その本場であるから、しっかり知識を身につけて欲しい。 茶道は静寂を旨とするから、音楽であり、劇である能楽は、茶道が持っていない面を補い、茶道と能楽は深く関わりつつ互いに補完する関係である。 講義では、伝統芸能の歴史から、能楽の内容、つまり文学（謡曲）・音楽（囃子）・工芸（能衣装）・彫刻（能面）・演技（型と舞）・能舞台（建築）の諸要素を、実際にシテ方能楽師（＝能面をかけて主役を担当する）として長年活動している山﨑が演技者の立場から解説する。 　百聞は一見にしかず、というが、演劇に関してはまさにその通りなので、１２月８日（土）に行われる能の催しを見学する。		
教材（教科書）	プリントを作成して配布する。		
教材（参考資料）	『能楽と崑曲』（赤松紀彦他編　汲古書院　２５００円）		
教育方法	基本的には作品内容の講義とビデオ鑑賞を組み合わせて１回とする。 １回は実際に能楽堂へのフィールドワークをする。 能のワークショップの機会が得られれば、フィールドワークを行う。 毎回ではないが、質問を記入してもらい次の時間に説明して疑問を解消していく。		
評価方法	授業内小テスト 能見学レポート 授業内の質問など		
到達目標	日本の伝統芸能の基本的な知識の修得。 舞台を見て能楽・文楽・歌舞伎の区別がつくこと。 芸能の素地となっている物語を理解していること。 実技がどんなものか、体験をしていること。 実際の生の舞台を見る経験をすること。		
授業時間外学習	前回の授業内容の復習をすること。 興味をもって専門用語などを調べてみること。 古典芸能のテレビ放送などを見ておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回の講義を簡単にノートにまとめてみること。きちんと授業に出席すること。 能見学のチケット代が自己負担千円程度必要です。 １２月８日（土）はフィールドワークなので午後の予定を空けておくこと。			
授業スケジュール			
1　古典芸能史……能楽・文楽・歌舞伎のちがい 2　いちばん面白い能・「道成寺」…ＤＶＤで見る 3　「道成寺」後半を見る 4　能面のいろいろ 5　能「鉄輪」と『陰陽師』 6　能の五番立て　　神・男（武将）・女（姫君）・現在物（ドラマ）・鬼 7　フィールドワーク事前学習 8　フィールドワーク能の見学（12 月 8 日（土）午後）			

（都合がつかない人は別の日の公演を代用します）
9　「橋弁慶」牛若丸・弁慶の出会いと間狂言の寸劇
１０　能楽の楽器のいろいろ　大鼓・小鼓・笛・太鼓
１１「松風」伊勢物語と能
１２　「海士」玉取り伝説と能
１３「邯鄲」中国の伝説と能
１４　「靱猿（うつぼざる)」の狂言
１５　能装束の工芸品としての要素

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50793202
科目名	経済学総論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
授業概要	「経済学は，日常生活における人々を研究するものである.」これは，19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが，1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である．それから 120 年以上が過ぎ，その間に経済学は格段の進歩を果たしたが，今でもこの経済学の定義は変わらない． ハーバード大学のマンキュー教授は，21 世紀に生きる学生諸君が，なぜ経済学を学ぶべきなのか，その 3 つの理由を挙げている． （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから． （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから． （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから． したがって，経済学の諸原理というものは，日常生活のさまざまな局面に応用できるものであり，とても役立つものである． 本授業の目的は，経済学の諸原理を修得することで，その考え方を使えば現実の世界の多くを説明することができるということを理解することである．また、その考え方を日常生活のさまざまな局面に活かせるようになることである．前半はミクロ経済理論として「消費者」と「企業」の行動に，また後半はマクロ経済理論として「政府」の行動に焦点をあてる．		
教材（教科書）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳）『マンキュー入門経済学』（第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年） 3,200 円 （英語名： N.Gregory Mankiw: Principles of Economics, Sixth Edition, 2012） この教科書は世界的ベストセラーであり，世界の何十もの国や何百もの大学の経済学の授業で用いられている．世界で最も読まれている経済学テキストとも呼ばれ，ハーバード大学，シカゴ大学などの一流校でも使用されている．高校生でも十分読みこなせると言われるほどの解り易い記述ながら，内容の水準は非常に高い教科書である．		
教材（参考資料）	（1） N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳）『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） （2） N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳）『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年） これらの参考書は，中級レベルの経済学の授業で使用されている教科書である．今回使用する初級レベルの教科書『マンキュー入門経済学』は，これら 2 冊の中級レベルの教科書の基本的な章を集めて構成されている．（参考書も図書館に各 3 冊を設置していますので，閲覧できます.）		
教育方法	1. 毎回の授業は講義形式で，書き込み式の授業ノートを配布して，教科書の内容をできるだけわかりやすく解説していく． 2. 授業内容を深く理解するために，教科書『マンキュー入門経済学』を出版している東洋経済新報社が提供しているイーラーニングサービス（各学生がネットにログインして問題を解いてネットで教員に宿題を提出するシステム）を利用する． 3. 学んだ経済学の諸原理を応用して，我々を取り巻く国内問題や国際問題についても考察していく．そのために、新聞や雑誌等の資料も配布する．		
評価方法	1. 宿題（演習問題）の提出（30%） 2. 中間試験（take home）（30%）		

	3. 期末試験（40%）
到達目標	1. 自分の暮らしている経済や社会がなぜそうなっているのかを理解できるようになる. 2. 現実の経済や社会へもっと積極的に参加できるようになる. 3. 政府の経済政策（たとえばアベノミクス）の可能性と限界が理解できるようになる. 4. 人生において A か B かの選択をする際に合理的（ベスト）な選択ができるようになる. 5. 論理的に物事を考える（根拠に基づいて考える）ことができるようになる.
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回　教科書 4-28，64-76 頁（推定時間 45 分） 第 2 回　教科書 104-121 頁（推定時間 30 分） 第 3 回　教科書 121-132 頁（推定時間 30 分） 第 4 回　教科書 140-153 頁（推定時間 30 分） 第 5 回　教科書 153-165 頁（推定時間 30 分） 第 6 回　教科書 184-197 頁（推定時間 30 分） 第 7 回　教科書 197-205 頁（推定時間 30 分） 第 8 回　教科書 230-246 頁（推定時間 30 分） 第 9 回　教科書 262-286 頁（推定時間 45 分） 第 10 回　教科書 294-315 頁（推定時間 45 分） 第 11 回　教科書 322-336 頁（推定時間 30 分） 第 12 回　教科書 336-352 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　教科書 378-392 頁（推定時間 30 分） 第 14 回　教科書 392-407 頁（推定時間 30 分） 第 15 回　教科書 414-435 頁（推定時間 45 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 経済学では，はじめて遭遇する概念や用語を理解するのは難しい．したがって、講義の前に教科書を読んで準備し，
　　授業内容を理解しやすくすることが重要である.
2. 経済学は数学と同じで，問題を解くことで深く理解することができるので，イーラーニングサービスを使って，
　　必ず問題を解いてネットから提出すること.
3. 毎回の授業で配布する書き込み式の授業ノート（自筆のもの）は、期末試験での持ち込みを許可するので，
　　毎回の授業に出席して授業ノートに書き込んで整理すること.

授業スケジュール

1. 経済学の十大原理・グラフの用法　＜教科書第 1 章・第 2 章付論＞

＜ミクロ経済学＞
2. 市場と競争，需要と供給　＜教科書第 4 章＞
3. 市場における需要と供給の作用　＜　〃　＞
4. 政府の政策（価格規制）　＜教科書第 5 章＞
5. 政府の政策（税金）　＜　〃　＞
6. 消費者余剰と生産者余剰　＜教科書第 6 章＞
7. 市場の効率性　＜　〃　＞
8. 外部性と市場の非効率性　＜教科書第 7 章＞

＜マクロ経済学＞
9. 国民所得の測定（国内総生産： GDP）　＜教科書第 8 章＞
10. 生計費の測定（消費者物価指数： CPI）　＜教科書第 9 章＞
11. 経済成長と生産性　＜教科書第 10 章＞

12. 経済成長と公共政策	＜　〃　＞
13. 貯蓄，投資と金融システム	＜教科書第 11 章＞
14. 貸付資金市場	＜　〃　＞
15. 貨幣システム・貨幣の需給	＜教科書第 11 章付論＞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J50793301
科目名	宗教学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　章彦	旧科目名称	
授業概要	「宗教学入門」をテーマに講義を行う。総論と各論に分けて講義を展開するが、総論では「宗教」の概念や性格を論じ、各論では世界の諸宗教のいくつかについて簡単に紹介する。		
教材（教科書）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考資料）	岸本英夫『宗教学』（大朋堂　1991） 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫、1997） 棚次正和『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005） その他授業内で指示。		
教育方法	ビデオやパワーポイントを使用する		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（40%）。授業内小テスト（20%）。期末レポート（40%）		
到達目標	宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。		
授業時間外学習	身の回りの宗教現象に関心を向けつつ、宗教とは人間にとって如何なる意味を持っているのかについて考えること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・講義を聴きながら常に考えることを忘れないで欲しい。
・毎回の授業終了後に自身の振り替えりのために数行のコメントを提出していただくので、能動的に授業を受けること。
・今年度は、インターネットを使った授業（clica）を導入するので、授業にはできるかぎり毎回スマートフォンあるいはタブレット端末を持参してほしい。これにより、簡単な質問にその場で答えたり、クラス内でコメントを発表したり、あるいは理解度を確認できたりが可能となる。積極的に参加してもらいたい。

授業スケジュール

1．はじめに―あなたは宗教をどのようにイメージしているか
2．総論Ⅰ　宗教と宗教学―宗教にどのようにアプローチするか―
3．総論Ⅱ　宗教をどのように定義するか。
4．総論Ⅲ　世界の宗教を分類する
5．総論Ⅳ　個人において宗教はどのように顕れるか―信仰ということ―
6．総論Ⅴ　宗教における祈りと修行について
7．総論Ⅵ　宗教は人間と世界をどのように見てきたか
8．各論Ⅰ　世界の三大宗教―キリスト教の歴史・それは西欧文化のもとになった
9．各論Ⅱ　世界の三大宗教―イスラーム（その１）・アッラーはユダヤ・キリストの神と同じ！？
10．各論Ⅲ　世界の三大宗教―イスラーム（その２）・スンナ派とシーア派はなぜ生まれた？
11．各論Ⅳ　世界の三大宗教―仏教・釈迦とその後の展開―
12．各論Ⅴ　日本の仏教ー神仏関係の展開
13．各論Ⅵ　日本の新宗教概説
14．各論Ⅶ　世界で起こっていることを宗教をキーワードに考える
15．まとめ　人は宗教とどのように向き合うべきか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50793401
科目名	質的社会調査法	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	質的調査は他者理解の優れた方法のひとつです。調査者が調査される人々とコミュニケーションを取りながら、その内側に入って行き、その豊かな世界を共に味わうことができるからです。とはいうものの、質的調査の作品は文学作品ではありませんから、どこかで客観性が担保されなければなりません。　本講義では社会科学の方法論としての質的調査のあり方を講義すると共に、受講生の皆さんが質的調査を実施しそれを作品に仕上げるまでの具体的な方法についても教授します。受講生の皆さんは実際に調査を行い、その成果を作品として提出しなければなりません。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	提出物（７０％）　授業への貢献度（３０％）		
到達目標	質的調査を実施し,それを作品に仕上げる。		
授業時間外学習	他者への感受性をあげておく。毎回課題が課されるので、それを次回までにしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

提出された作品の評価は、全講義出席の前提のもとに行います。講義を欠席する場合は、その講義の内容を、自分自身でフォローしておくことが必要です。

授業スケジュール

１質的調査　質的調査の特徴と代表的な質的調査の方法について概括する
２ライフヒストリー　クラスメイトのライフヒストリーを聞き取り、それを記述する。
３ライフヒストリー　方法論としてのライフヒストリーを考える。
４ライフヒストリー　代表的なライフヒストリーの作品を読む。
５ライフヒストリー　前回の作品をグループ毎に検討し、次の作品へのインタビュー計画を個々に立てる。
６フィールドワーク　人類学的なフィールドワーク方法について概括する。
７フィールドワーク　人類学的手法によるモノグラフを読む。
８フィールドワーク　民俗学的なフィールドワークについて概括する。
９フィールドワーク　民俗学的手法による民族誌を読む。
１０フィールドワークの企画　個々あるいはグループ別にフィールドワークを企画する。
１１聞き手と語り手　インタビュー調査やフィールドワークにおける聞き手と語り手の権力関係について考える。
１２ライフヒストリー作品の作成　インタビュー済みの資料をライフヒストリー作品にまとめる。
１３モノグラフの作成　フィールドで得た資料をモノグラフに記述する。
１４日本におけるフィールドワークの歴史
１５作品合評会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J50793501
科目名	社会学概論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
授業概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義時に紹介する。		
教育方法	主に講義による。毎時間、授業の初めに前回の授業内容の復習をおこなう。毎時間、授業の終わりに受講者に、質問･意見などを書いてもらう。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。授業終了時の質問カード提出による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解する。 身の回りの社会現象についての関心と理解を深める。 自分の専門分野が社会とどのように関わりがあるかについて考える。		
授業時間外学習	1.「社会」という言葉について考えることを 200 字程度でまとめておくこと。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、授業の見通しを付けておくこと） 2. 配付資料 No.1「遊び」 3. 配付資料 No.2「家族」 4. 配付資料 No.3「学校」 5. 配付資料 No.4「資本主義」 6. 配付資料 No.5「労働 1」 7. 配付資料 No.6「労働 2」 8. 配付資料 No.7「基本的人権」 9. 配付資料 No.8「宗教と社会」 10. 配付資料 No.9「管理社会化」 11. 配付資料 No.10「音楽と社会」 12. 配付資料 No.11「スポーツ」 13. 配付資料 No.12「犯罪」 14. 配付資料 No.13「日本社会の特質」 15. 配付資料 No.14「社会学と現代社会の関係」 また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

授業スケジュール

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の４種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など）。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。
9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。
10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。

11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15, 社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50793601
科目名	社会学総論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
授業概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義時に紹介する。		
教育方法	主に講義による。毎時間、授業の初めに前回の授業内容の復習をおこなう。毎時間、授業の終わりに受講者に、質問･意見などを書いてもらう。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。授業終了時の質問カード提出による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解する。 身の回りの社会現象についての関心と理解を深める。 自分の専門分野が社会とどのように関わりがあるかについて考える。		
授業時間外学習	1.「社会」という言葉について考えることを 200 字程度でまとめておくこと。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、授業の見通しを付けておくこと.。） 2. 配付資料 No.1「遊び」 3. 配付資料 No.2「家族」 4. 配付資料 No.3「学校」 5. 配付資料 No.4「資本主義」 6. 配付資料 No.5「労働 1」 7. 配付資料 No.6「労働 2」 8. 配付資料 No.7「基本的人権」 9. 配付資料 No.8「宗教と社会」 10. 配付資料 No.9「管理社会化」 11. 配付資料 No.10「音楽と社会」 12. 配付資料 No.11「スポーツ」 13. 配付資料 No.12「犯罪」 14. 配付資料 No.13「日本社会の特質」 15. 配付資料 No.14「社会学と現代社会の関係」 また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

授業スケジュール

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の 4 種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など）。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。
9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。

10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。
11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15, 社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50793702
科目名	メディア・リテラシー	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
授業概要	「コミュニケーションするための手段」であるメディアは、声や身振り、絵や文字からはじまり、いわゆる技術を介することによって、電信、電話、録音、印刷、放送等を経て、今日のデジタルな時代に至る。新たなメディアの登場によって人間および社会のコミュニケーションは変化を続けている。 本講義は、そのような「メディアと社会」を大学で学ぶための入門的講義である。時間や空間を越えて、より多くの人たちとの、音や映像等さまざまなメディアを用いたコミュニケーションの、これまで／これからを具体的な事例を基に考えていく。		
教材（教科書）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	プリント、映像教材他。		
評価方法	毎回の小レポート及び最終レポートで総合的に評価。		
到達目標	各メディアの歴史やその社会的な役割を知る。		
授業時間外学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主体的に参加することを望む。			
授業スケジュール			
01　オリエンテーション： 02　メディアとは 03　過去／未来の人とのコミュニケーション（1） 04　過去／未来の人とのコミュニケーション（2） 05　遠くの人とのコミュニケーション（1） 06　遠くの人とのコミュニケーション（2） 07　多くの人たちとのコミュニケーション（1） 08　多くの人たちとのコミュニケーション（2） 09　映像を見る／読む（1） 10　映像を見る／読む（2） 11　音を聴く／音を視る（1） 12　音を聴く／音を視る（2） 13　メディアのリテラシーとは（1） 14　メディアのリテラシーとは（2） 15　メディアのリテラシーとは（3）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J50793703
科目名	メディア・リテラシー	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
授業概要	「コミュニケーションするための手段」であるメディアは、声や身振り、絵や文字からはじまり、いわゆる技術を介することによって、電信、電話、録音、印刷、放送等を経て、今日のデジタルな時代に至る。新たなメディアの登場によって人間および社会のコミュニケーションは変化を続けている。 本講義は、そのような「メディアと社会」を大学で学ぶための入門的講義である。時間や空間を越えて、より多くの人たちとの、音や映像等さまざまなメディアを用いたコミュニケーションの、これまで／これからを具体的な事例を基に考えていく。		
教材（教科書）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	プリント、映像教材他。		
評価方法	毎回の小レポート及び最終レポートで総合的に評価。		
到達目標	各メディアの歴史やその社会的な役割を知る。		
授業時間外学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。 各回の講義はすべて連関している。毎回配布するレジュメに記載している文献／web サイト等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主体的に参加することを望む。			
授業スケジュール			
01　オリエンテーション： 02　メディアとは 03　過去／未来の人とのコミュニケーション（1） 04　過去／未来の人とのコミュニケーション（2） 05　遠くの人とのコミュニケーション（1） 06　遠くの人とのコミュニケーション（2） 07　多くの人たちとのコミュニケーション（1） 08　多くの人たちとのコミュニケーション（2） 09　映像を見る／読む（1） 10　映像を見る／読む（2） 11　音を聴く／音を視る（1） 12　音を聴く／音を視る（2） 13　メディアのリテラシーとは（1） 14　メディアのリテラシーとは（2） 15　メディアのリテラシーとは（3）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J50793801
科目名	経済学概論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
授業概要	「経済学は，日常生活における人々を研究するものである.」これは，19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが，1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である．それから 120 年以上が過ぎ，その間に経済学は格段の進歩を果たしたが，今でもこの経済学の定義は変わらない． ハーバード大学のマンキュー教授は，21 世紀に生きる学生諸君が，なぜ経済学を学ぶべきなのか，その 3 つの理由を挙げている． （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから． （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから． （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから． したがって，経済学の諸原理というものは，日常生活のさまざまな局面に応用できるものであり，とても役立つものである． 本授業の目的は，経済学の諸原理を修得することで，その考え方を使えば現実の世界の多くを説明することができるということを理解することである．また、その考え方を日常生活のさまざまな局面に活かせるようになることである．前半はミクロ経済理論として「消費者」と「企業」の行動に，また後半はマクロ経済理論として「政府」の行動に焦点をあてる．		
教材（教科書）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳）『マンキュー入門経済学』（第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年） 3,200 円 （英語名： N.Gregory Mankiw: Principles of Economics, Sixth Edition, 2012） この教科書は世界的ベストセラーであり，世界の何十もの国や何百もの大学の経済学の授業で用いられている．世界で最も読まれている経済学テキストとも呼ばれ，ハーバード大学，シカゴ大学などの一流校でも使用されている．高校生でも十分読みこなせると言われるほどの解り易い記述ながら，内容の水準は非常に高い教科書である．		
教材（参考資料）	（1） N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳）『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） （2） N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳）『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年） これらの参考書は，中級レベルの経済学の授業で使用されている教科書である．今回使用する初級レベルの教科書『マンキュー入門経済学』は，これら 2 冊の中級レベルの教科書の基本的な章を集めて構成されている．（参考書も図書館に各 3 冊を設置していますので，閲覧できます.）		
教育方法	1. 毎回の授業は講義形式で，書き込み式の授業ノートを配布して，教科書の内容をできるだけわかりやすく解説していく． 2. 授業内容を深く理解するために，教科書『マンキュー入門経済学』を出版している東洋経済新報社が提供しているイーラーニングサービス（各学生がネットにログインして問題を解いてネットで教員に宿題を提出するシステム）を利用する． 3. 学んだ経済学の諸原理を応用して，我々を取り巻く国内問題や国際問題についても考察していく．そのために、新聞や雑誌等の資料も配布する．		
評価方法	1. 宿題（演習問題）の提出（30%） 2. 中間試験（take home）（30%）		

	3. 期末試験（40%）
到達目標	1. 自分の暮らしている経済や社会がなぜそうなっているのかを理解できるようになる. 2. 現実の経済や社会へもっと積極的に参加できるようになる. 3. 政府の経済政策（たとえばアベノミクス）の可能性と限界が理解できるようになる. 4. 人生において A か B かの選択をする際に合理的（ベスト）な選択ができるようになる. 5. 論理的に物事を考える（根拠に基づいて考える）ことができるようになる.
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回　教科書 4-28，64-76 頁（推定時間 45 分） 第 2 回　教科書 104-121 頁（推定時間 30 分） 第 3 回　教科書 121-132 頁（推定時間 30 分） 第 4 回　教科書 140-153 頁（推定時間 30 分） 第 5 回　教科書 153-165 頁（推定時間 30 分） 第 6 回　教科書 184-197 頁（推定時間 30 分） 第 7 回　教科書 197-205 頁（推定時間 30 分） 第 8 回　教科書 230-246 頁（推定時間 30 分） 第 9 回　教科書 262-286 頁（推定時間 45 分） 第 10 回　教科書 294-315 頁（推定時間 45 分） 第 11 回　教科書 322-336 頁（推定時間 30 分） 第 12 回　教科書 336-352 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　教科書 378-392 頁（推定時間 30 分） 第 14 回　教科書 392-407 頁（推定時間 30 分） 第 15 回　教科書 414-435 頁（推定時間 45 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 経済学では，はじめて遭遇する概念や用語を理解するのは難しい．したがって、講義の前に教科書を読んで準備し，
　　授業内容を理解しやすくすることが重要である.
2. 経済学は数学と同じで，問題を解くことで深く理解することができるので，イーラーニングサービスを使って，
　　必ず問題を解いてネットから提出すること.
3. 毎回の授業で配布する書き込み式の授業ノート（自筆のもの）は、期末試験での持ち込みを許可するので，
　　毎回の授業に出席して授業ノートに書き込んで整理すること.

授業スケジュール

1. 経済学の十大原理・グラフの用法　＜教科書第 1 章・第 2 章付論＞

＜ミクロ経済学＞
2. 市場と競争，需要と供給　＜教科書第 4 章＞
3. 市場における需要と供給の作用　＜　〃　＞
4. 政府の政策（価格規制）　＜教科書第 5 章＞
5. 政府の政策（税金）　＜　〃　＞
6. 消費者余剰と生産者余剰　＜教科書第 6 章＞
7. 市場の効率性　＜　〃　＞
8. 外部性と市場の非効率性　＜教科書第 7 章＞

＜マクロ経済学＞
9. 国民所得の測定（国内総生産： GDP）　＜教科書第 8 章＞
10. 生計費の測定（消費者物価指数： CPI）　＜教科書第 9 章＞
11. 経済成長と生産性　＜教科書第 10 章＞

12. 経済成長と公共政策	＜　〃　＞
13. 貯蓄，投資と金融システム	＜教科書第 11 章＞
14. 貸付資金市場	＜　〃　＞
15. 貨幣システム・貨幣の需給	＜教科書第 11 章付論＞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J50793A01
科目名	考古学概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
授業概要	考古学は我々の政治・経済・社会文化の基礎となるものが、どのようなものであったかを正しく認識するための大事な手助けとなることから、過去に日本のさまざまな分野に大きな影響を与えた中国のことを学んでゆきます。講義では中国の考古学的な通史に対する理解を身につけることで、その歴史的発展を多角的に理解することができます。		
教材（教科書）	特に用いない。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	西江清高ほか『中国の考古学』（世界の考古学７、１９９９年、同成社）		
教育方法	講義の性格上、毎回図版プリントを配布し、OHC・動画を併用してカラー画像を数多く見てもらいながら説明を加えてゆく講義方法を取る。		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックし、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに与える。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	・東アジア世界の歴史的的様相につぃて、考古学的に説明することができる。 ・日本の政治・経済・社会・文化の源流について、考古学的に説明することができる。 ・中華世界・ユーラシア世界と日本とのつながりについて、考古学的に説明することができる。		
授業時間外学習	授業終了時までに、次回の講義のキーワードをいくつか提示するので、当日の復習と併せて参考文献などを用いて、その具体的意味内容を調べて、次回の授業のノートを取る部分の最初に記入しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール

私語を慎んで、授業に集中すること。繰り返して注意しても従わないものには、他の学生の妨げとなるので退室を求めることがある。

学習上の助言

各地の博物館における中国関連の展示の参観を推奨する

授業スケジュール

1. 中国の歴史の概説
2. 旧石器時代　北京原人と周口店遺跡
3. 新石器時代１　華北の彩陶文化の発達
4. 新石器時代２　華中の河姆渡遺跡と稲作文化
5. 殷周時代１　殷の城壁都市と王墓
6. 殷周時代２　西周の周原遺跡と青銅器
7. 春秋戦国時代　貨幣経済の発達
8. 秦漢時代１　秦の始皇帝
9. 秦漢時代２　前漢の都・長安と皇帝陵
10. 魏晉南北朝時代１　魏晉の都城と城坊制都市
11. 魏晉南北朝時代２　仏教の伝来と石窟寺院
12. 隋唐時代１　国際都市・長安と陵墓の構造
13. 隋唐時代２　唐三彩と大運河の物資輸送
14. シルクロードの考古学（中国の海外交流）
15. 日中の交易の歴史

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J50793B01
科目名	考古学概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
授業概要	考古学は我々の政治・経済・社会文化の基礎となるものが、どのようなものであったかを正しく認識するための手助けとなることから、その特色を理解してゆきます。奈良時代以前の日本の政治・経済・社会・文化の様相に対する理解を身に着けることで、日本の歴史的発展過程を幅広く理解することができます。		
教材（教科書）	特に指定しない。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	「日本の古代遺跡」４（奈良飛鳥）、同７（奈良北部）（保育社刊、２００５年）		
教育方法	講義の性格上、毎回図版プリントを配布し、OHC・動画を併用してカラー画像を数多く見てもらいながら説明を加えてゆく講義方法を取る。		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックし、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに与える。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	・大和地方の発展の具体的様相について、考古学的に説明することができる。 ・大陸からの先進文化の流入が日本に与えた影響について、考古学的に説明することができる。 ・広範なユーラシア大陸各地の文化と日本のつながりについて、考古学的に説明することができる。		
授業時間外学習	授業終了時までに、次回の講義のキーワードをいくつか提示するので、当日の復習と併せて参考文献などを用いて、その具体的意味内容を調べて、次回の授業のノートを取る部分の最初に記入しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール

私語を慎んで、授業に集中すること。繰り返して注意しても従わないものには、他の学生の妨げとなるので退室を求めることがある。

学習上の助言

各地の博物館の考古関連の展示の参観を推奨する。

授業スケジュール

1. 大和（奈良）の歴史概説並びに大和（奈良）の地理・交通路
2. 旧石器時代・縄文時代
3. 弥生時代
4. 古墳時代前期
5. 古墳時代中期・後期
6. 古墳時代特論（纏向遺跡）
7. 飛鳥時代１ー　宮殿・苑池遺跡
8. 飛鳥時代２－　飛鳥寺・水落遺跡
9. 飛鳥時代３－　高松塚古墳・キトラ古墳
10. 飛鳥時代４－　飛鳥の石造物
11. 藤原京の時代
12. 奈良時代１ー平城京
13. 奈良時代２ー東大寺大仏の建立
14. 奈良時代３－正倉院宝物
15. 奈良時代４－シルクロードと遣唐使

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50794A01
科目名	社会心理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
授業概要	社会心理学は非常に幅の広い分野です。認知心理学と密接に関連する社会的認知の分野では、厳密な実験手法を使って記憶の構造や人間の判断の誤りなどの研究が行われています。一方、社会心理学ならではの現実社会の諸問題に取り組む分野も活発に行われており、会社組織や政治からインターネットに至るまで研究対象とされています。この講義ではこのような諸分野を総花的に概観するために、１テーマ１時間を原則として順次解説する。社会心理Ⅰでは主に個人過程をとりあげ、社会的認知・対人関係・コミュニケーションなどについて学びます この科目は、2018 年度入学生以降については公認心理師対応科目となり、開講年度に科目名とシラバスが改訂される。なお、公認心理師対応科目の詳細については、別途、公開する予定である。		
教材（教科書）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する		
教育方法	Edmodo,ビデオ教材やパワーポイントを活用する 授業中にＳＮＳを通じて意見を求める、あるいは課題の提出を求めることがあります		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	心理学を支える基礎科学の知識を得て説明する 知識と体験を結びつけて理解する 人間と社会の関係を説明する		
授業時間外学習	パワーポイントを Edmodo から配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。パワーポイント内に参考書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教育用ＳＮＳを使いますので、意見や疑問点は積極的にタイムラインに投げてクラスで共有して下さい。 この授業の課題やレポート通じて、新しい知識を自分の体験や知識に関連づけながら組み込む練習をしてください。 卒業してからも新しい知識がすんなり入ってくるように、自分の中に知識マップを作っておきましょう。			
授業スケジュール			
講義の順序とポイント 数字は、教科書の章番号を示しています。 第 1 回 概論 第 2 回 感情と記憶 第 3 回 認知心理学の基礎 第 4 回 対人認知 第 5 回 推論 第 6 回 自己概念 第 7 回 自己評価 第 8 回 動機 第 9 回 表情判断 第 10 回 非言語的コミュニケーション 第 11 回 説得的コミュニケーション 第 12 回 態度 第 13 回 マインドコントロール 第 14 回 対人関係			

第 15 回 レポート指導

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50794B01
科目名	社会心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
授業概要	社会心理Ⅱでは主に集団過程を取りあげ、集団の影響力や集合現象について学びます。これらの講義を通じて、我々の相互作用によって生まれた価値観や規範が社会を作り上げ、社会が我々の自己を形作っていくという循環する過程を理解して頂くことがねらいとなります。		
教材（教科書）	よくわかる社会心理学　山田・北村・結城編著　ミネルヴァ書房		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する		
教育方法	Edmodo,ビデオ教材・パワーポイントを用いた授業を行う。 授業中にＳＮＳを通じて意見を求める、あるいは課題の提出を求めることがあります		
評価方法	レポート（60%）と小テストによる平常点（40%）により評価する。		
到達目標	心理学を支える基礎科学の知識を得て説明する 知識と体験を結びつけて理解する 人間と社会の関係を説明する		
授業時間外学習	パワーポイントを Edmodo から配布しますので、事前にプリントアウトをして、授業に持参してください。 パワーポイント内に参考書の関連する単元のページが示されています。事前に読んでわからない語句など確認しておいてください。 授業の最後にはできるだけ毎回、ミニレポートを書いていただく予定です。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教育用ＳＮＳを使いますので、意見や疑問点は積極的にタイムラインに投げてクラスで共有して下さい。 この授業の課題やレポート通じて、新しい知識を自分の体験や知識に関連づけながら組み込む練習をしてください。 卒業してからも新しい知識がすんなり入ってくるように、自分の中に知識マップを作っておきましょう。			
授業スケジュール			
第 1 回　状況の力 第 2 回　攻撃性と援助行動 第 3 回　社会的影響 第 4 回　集団の意思決定 第 5 回　集団過程 第 6 回　リーダーシップ 第 7 回　社会的アイデンティティ 第 8 回　社会的共有認知 第 9 回　ジレンマ状況 第 10 回 集合現象 第 11 回 メディア 第 12 回 ネットワーク 第 13 回 インターネット 第 14 回 文化と進化 第 15 回 レポート指導			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J50795101
科目名	歴史地理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	私たちの歴史時代の地理的行動と、その結果としての地理的空間を研究するのが、歴史地理学である。歴史地理学Ｂでは、心理学や文化人類学の研究成果を積極的に取り入れた、人文主義地理学の観点からの歴史地理学の研究史、方法論を紹介、検討する。また、この方法論にもとづく野外調査（特に聞き取り調査）の方法についても講義する。 特に歴史地理学Ｂでは、文化・民俗・環境に焦点を当てる。私たちの祖先の地理的行動は、彼らの時代の文化や民俗を知ることなしには説明できない。彼らがどのように環境を知覚し、行動を起こし、環境と共存してきたのかを知ることは、歴史時代の地理的行動の知識を得るだけでなく、これからの私たちの環境思想にとっても重要なことである。以上のような観点から、古代文化、異文化から現在に伝承される民俗までを見据え、過去の人間集団の環境への接し方から、これからの環境問題についても講義する。		
教材（教科書）	佐々木高弘『神話の風景』古今書院、2014。		
教材（参考資料）	菊池利夫『歴史地理学方法論』大明堂。佐々木高弘『民話の地理学』古今書院。		
教育方法	プリントの配布、パワーポイント、ビデオを使用		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）学期末レポート（８０％）		
到達目標	歴史地理学の方法論とフィールドワークの融合の重要性の理解を目標とする。		
授業時間外学習	受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、配布されたプリントの予習と復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。			
授業スケジュール			
1　歴史地理学の三つの分野と領域、歴史地理学の時代区分 2　北欧神話の歴史地理－オーディンの供儀 3　象徴化される生き物－オシリスの冥界： 4　土蜘蛛と蛇－オホクニヌシの苦悩 5　星座の神話の風景―世界を守護する北極星 6　星座の伝承と古代都市－天と地を結ぶ物語 7　旧約聖書の原初的風景、世界軸、信濃の国造り神話―神話世界の風景① 8　上田市の口頭伝承群、開拓神話の原点―神話世界の風景② 9　北欧神話の風景－ウプサラの樹と排水 10　中つ国（中間世界）へ語りかける神々―深層心理学的解釈 11　洪水神話の環境知覚－災害知覚の歴史地理 12　洪水神話の構造と変容－伝承から神話へ 13　日本の洪水神話－失われた伝承 14　平安京の神話空間－疫病の神の登場 15　永遠回帰の神話風景－想像された欠損と充足			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50795A01
科目名	社会福祉論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
授業概要	人間は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、国は憲法第 25 条に生存権を規定し、生活の安定を図るとともに国民の最低限度の生活を保障する公的な制度である社会保障制度を設けている。また社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障害者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、大多数の人にとっては，自分とはあまり関係のないものとして、捉えがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などが抱える諸問題により、社会保障や社会福祉は、若者から高齢者まで誰もが関わりを持つ普遍的な制度として認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化により、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、今後も機能していくかどうかが、国民の最大の関心事になっているのは新聞やテレビなどの報道をみれば、間違いのないことであろう。社会福祉論Ⅰでは、社会保障・社会福祉の概要、社会保障や社会福祉を取り巻くさまざまな問題や課題を取り上げ，学生の皆さんと考えたい。また社会福祉論Ⅰでは、福祉の現場で活躍している２～3 名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（教科書）	テキストはなし。 テーマに合わせてレジュメを配布する。 また理解を促すためにＤＶＤ視聴や新聞記事も使用する。		
教材（参考資料）	テーマに合わせて、その都度、参考文献等を紹介したい。		
教育方法	テーマに合わせて、その都度、鑑賞してもらいたいＤＶＤ等を紹介する。		
評価方法	評価方法は、授業内での小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価、出席を重視する。なお、レポート課題は、受取等のトラブル等を防ぐために就学支援センターの窓口に提出。		
到達目標	1. 社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 2. 社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 3. 社会保障や社会福祉の事例や課題を通して社会の動きを考える。		
授業時間外学習	日頃からインターネットやテレビ・新聞などの情報に接して、現在、世間や社会ではどのような問題が起こっているのか、把握しておいてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
社会保障や社会福祉は、政治や経済、社会の状況がダイレクトに反映され、人々の暮らしに及ぼす影響は極めて大きい。インターネットやテレビ・新聞などの情報に接して、現在、世間や社会ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてほしい。現在、社会で起こっている社会保障や社会福祉の問題を題材に取り上げ、講義を進めていきたい。			
授業スケジュール			
1　オリエンテーション 2 障害を持って生きるということ 3 社会保障と社会福祉① 4 社会保障と社会福祉② 5 社会保障・社会福祉の動向 6 社会保障制度の諸問題① 7 社会保障制度の諸問題② 8 ゲストスピーカーの講義① 9 社会保障制度の諸問題③ 10 社会保障制度の諸問題④ 11 ゲストスピーカーの講義② 12 社会福祉制度の諸問題①			

13 社会福祉制度の諸問題②
14 社会福祉制度の諸問題③
15 社会福祉制度の諸問題④
※講義の内容・順番を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50795B01
科目名	社会福祉論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
授業概要	人間は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、国は憲法第 25 条に生存権を規定し、生活の安定を図るとともに国民の最低限度の生活を保障する公的な制度である社会保障制度を設けている。また社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障害者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、大多数の人にとっては，自分とはあまり関係のないものとして、捉えがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などが抱える諸問題により、社会保障や社会福祉は、若者から高齢者まで誰もが関わりを持つ普遍的な制度として認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化により、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、今後も機能していくかどうかが、国民の最大の関心事になっているのは新聞やテレビなどの報道をみれば、間違いのないことであろう。社会福祉論Ⅱの授業テーマとしては、障害者運動及び自立生活の展開、バリアフリー、ノーマライゼーション、出生診断、就労支援、差別・虐待など障害者・高齢者・児童にまつわるさまざまな問題や課題を取り上げ，学生の皆さんと考えたい。また社会福祉論Ⅱでは、福祉の現場で活躍している２～3 名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（教科書）	テキストはなし。 テーマに合わせてレジュメを配布する。 また理解を促すためにＤＶＤ視聴や新聞記事も使用する。		
教材（参考資料）	テーマに合わせて、その都度、参考文献等を紹介したい。		
教育方法	テーマに合わせて、その都度、鑑賞してもらいたいＤＶＤ等を紹介する。		
評価方法	評価方法は、授業内での小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価、出席を重視する。なお、レポート課題は、受取等のトラブル等を防ぐために就学支援センターの窓口に提出。		
到達目標	1. 障害者・高齢者・児童の問題から社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 2. 障害者・高齢者・児童の問題から社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 3. 障害者・高齢者・児童の問題や課題を通して社会の動きを考える。		
授業時間外学習	日頃からインターネットやテレビ・新聞などの情報に接して、現在、世間や社会ではどのような問題が起こっているのか、把握しておいてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
社会保障や社会福祉は、政治や経済、社会の状況がダイレクトに反映され、人々の暮らしに及ぼす影響は極めて大きい。インターネットやテレビ・新聞などの情報に接して、現在、世間や社会ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてほしい。現在、社会で起こっている障害者や高齢者及び子どもの問題を取り上げ、授業を進めていきたい。			
授業スケジュール			
1　オリエンテーション 2 障害者福祉の諸問題①障害者差別 3 障害者福祉の諸問題②障害者運動及び自立生活の展開 4 障害者福祉の諸問題③バリアフリーとまちづくり 5 障害者福祉の諸問題④障害者運動の到達点 6　障害者福祉の諸問題⑤障害者の恋愛と性 7　障害者福祉の諸問題⑥優性思想と強制不妊手術 8 ゲストスピーカーの講義① 9　障害者福祉の諸問題⑦障害者の就労① 10　障害者福祉の諸問題⑧障害者の就労② 11 ゲストスピーカーの講義②			

12　高齢者福祉の諸問題①高齢者の動向
13　高齢者福祉の諸問題②介護保険と介護問題
14　高齢者福祉の諸問題③高齢者の貧困
15　高齢者福祉の諸問題④高齢者の社会参加
※講義の内容・順番を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50796A01
科目名	心理統計学 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
授業概要	心理学研究では，データに基づいて判断を下すために統計的な方法が不可欠である。心理統計学 I では，質的変数と量的変数のそれぞれについて，分析の視点，データの収集と整理の方法，分析結果の解釈の仕方について，記述統計学の手法を中心に学習する。 これらの学習を通して，自ら収集したデータを解析できる能力，また公刊されている論文や資料等に報告されている統計分析結果を読むことができる能力を身につける。 これらは，卒業研究等で自らデータを収集し研究を行う時に重要な能力であり，さらには科学的証拠に基づいて論理的に判断を行うことができる思考力の獲得につながる。		
教材（教科書）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　3,024 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義形式を中心に，毎回演習の時間を授業中に設ける。演習の内容は，実際に計算を伴う分析を行うことや，分析結果を解釈することである。		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理学研究に必要な統計手法のうち，表やグラフの作成，要約指標（平均，標準偏差，相関係数，等）の算出とについて，以下を達成する。 (1)研究計画と収集されるデータの種類に応じて適切な手法を選択することができる。 (2)各手法を用いて計算や作表等の実際の分析を行うことができる。 (3)分析結果を適切に判断することができる。		
授業時間外学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や欠席は厳禁である。また，講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的に授業に参加すること。
授業には電卓を準備すること。授業内の演習に必要である。
毎回の授業時間外課題（レポート課題）は，学習内容を確認するとともに，次回以降の授業を理解するための基礎として大変重要である。

授業スケジュール

1. 統計データの役割，種類，収集の方法
2. 変数のタイプ分類（量的変数と質的変数）とその分析の視点
3. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(1)：　クロス集計表を用いた記述，比率の比較
4. 質的変数（カテゴリカル変数）の分析(2)：　連関と連関係数
5. 量的変数の分析(1)：　度数分布とヒストグラム，代表値
6. 量的変数の分析(2)：　代表値と散布度，グラフによる記述
7. 量的変数の分析(3)：　変数の標準化と集団内での相対的位置の評価，正規分布
8. 量的変数の条件間比較(1)：　条件間比較のポイント，グラフを用いた比較，散布度の重要性，効果量
9. 量的変数の条件間比較(2)：　t 検定の概説
10. 量的変数の条件間比較(3)：　対応のあるデータ（反復測定データ）の性質とその分析方法
11. 量的変数の条件間比較(4)：　分布の偏りに関する留意点，平均と中央値の違い
12. 二つの量的変数間の関係の分析(1)：　散布図と相関係数
13. 二つの量的変数間の関係の分析(2)：　相関係数の算出方法と特性
14. 二つの量的変数間の関係の分析(3)：　相関の解釈における留意点，相関関係と因果関係
15.学習した手法についての整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50796B01
科目名	心理統計学 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
授業概要	心理学を学ぶ学生が，研究に必要な統計的手法を理解し，自らデータに手法を適用できるようになることを目標とする。心理統計学 II では，心理学研究で利用されることの多い代表的な統計的手法について，推測統計の手法（検定など）を中心にその原理と使用方法を学習する。 どのような研究デザインにどのような手法が適用できるのかという枠組みから整理した上で，各手法を用いて実際に分析を行うために必要な手続きと，分析結果の解釈のしかたを修得する。また，分析を正しく使用するために必要な，分析手法の原理を理解する。 推測統計の各手法は，得られた研究データから得られた知見を，一般化するための判断基準として大変重要な視点である。それらの学習を通して，実証的な心理学研究を行うための基礎的能力と，科学的証拠に基づいて論理的に判断を?うことができる思考?を身につける。		
教材（教科書）	山田剛史・村井潤一郎（2004）『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房　3,024 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義形式を中?に，毎回演習の時間を授業中に設ける。演習の内容は，実際に計算を伴う分析を?うことや，分析結果を解釈することである。		
評価方法	レポート課題（授業ごとに毎回出題，50%）および学期末試験（50%）を総合して評価する。		
到達目標	心理時計学 I での学習内容を基礎として，以下の事項を理解・習得する。 (1) 推測統計の原理を理解し，統計的検定を正しく用いることができる。 (2) 各種の統計的検定の目的を理解し，研究計画に合わせて適切な手法を選択できる。 (3) 各手法を正しく使用できる。 (4) 特に，分散分析の原理と使用方法，結果の意味を理解し，実験計画に合わせて適切に使用できる。		
授業時間外学習	毎回の授業で復習課題を出題する。各回の授業内容をよく復習したうえで，出題された課題に必ず解答して指定期日までに提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

心理統計学 I を先に履修しておくこと。
学習内容の積み重ねが重要な科目であるので，遅刻や?席は厳禁である。また，講義内容をただ聞いているのではなく，演習問題への取り組みを含め積極的に授業に参加すること。
授業には電卓を準備すること。授業内の演習に必要である。
毎回の授業時間外課題（レポート課題）は，学習内容を確認するとともに，次回以降の授業を理解するための基礎として?変重要である。

授業スケジュール

1. 授業の目的と方針，統計的手法の役割（記述統計と推測統計），研究デザインを整理する視点
2. 統計的検定の原理(1)：　t 検定（平均の群間比較）の使い方と考え方の概説，母集団と標本の概念
3. 統計的検定の原理(2)：　確率変数と確率分布，母数と統計量，統計量の分布（標本分布）
4. 統計的検定の原理(3)：　帰無仮説と対立仮説，第 1 種の誤りと第 2 種の誤り，検定力
5. 相関係数に関する検定
6. クロス集計表の独立性：　連関係数，χ2 乗検定
7. 検定手法の選択基準と手法間の関係
8. 分散分析の導入，一要因分散分析(1)
9. 一要因分散分析(2)，多重比較
10. 二要因分散分析(1)：　要因と水準，各要因の主効果
11. 二要因分散分析(2)：　交互作用効果
12. 二要因分散分析(3)：　主効果と交互作用の意味と解釈，単純効果の検定
13. 被験者内要因の分散分析
14. ノンパラメトリック検定

15. 学習した手法についての整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50797A01
科目名	発達心理学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
授業概要	ヒトは誕生後，母子関係を中心として，徐々に世界を広げていく。その中で，認知や感情，社会性等，人間が生きていくために必要な基礎的能力を獲得していく。本講義では，胎児期から児童期までを中心にそれぞれの年代に応じた課題や心の成長とはどのようなものかを理解する。母子関係を初めとする環境や対人関係によって育まれるもの、持って生まれた気質、それらとの相互関係によって、人の心はどのように変化するのかを理論や研究を通して，科学的な視点から理解を深める。 『この科目は、2018 年度入学生以降については公認心理師対応科目となり、開講年度に科目名とシラバスが改訂される。なお、公認心理師対応科目の詳細については、別途、公開する予定である。』		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜紹介する		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行い、必要に応じてグループワーク等を用いた講義を行う。		
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなどによる平常点（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	生涯発達的視点に立ちながら，胎児期から児童期までの各発達段階における特徴や課題を理解し，多面的な側面から人間の変化と成長を説明することが出来る。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、予習を行うことが望ましい。また、授業内容の全てをプリントにするわけではないため、口頭での説明箇所等については、各自授業後にノートを整理するなど積極的な予習復習を行うこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
特別な事情がある場合を除き，すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること。授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求める。			
授業スケジュール			
1．　オリエンテーション：発達心理学とは 2．　胎児期の発達：胎内の成長過程 3．　新生児期の発達：知覚とコミュニケーション 4．　乳児期の愛着の形成 5．　乳児期の知覚発達 6．　乳児期の身体発達 7．　乳幼児の認知能力①言語の発達 8．　乳幼児の認知能力②ピアジェ理論 9．　乳幼児の認知能力③ポストピアジェ理論 10．　乳幼児の感情発達 11．　乳幼児の社会性発達 12．　乳幼児の道徳性発達 13．児童期の発達と仲間関係 14．　学校への適応と心の問題 15．　子どもの発達障害			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J50797B01
科目名	発達心理学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
授業概要	人間は生まれてから、老年期を向かえて亡くなるまでの間にそれぞれの年代に応じた課題や心の成長、変化がある。本講義では，青年期から高齢期までを中心に，それぞれの年代に応じた課題や心の成長とはどのようなものかを理解する。主に、親からの自立、新たな家族を持ち、後の世代を育てること、老いること、死などのテーマを中心に考える。人の心はその生涯の中でどのように変化・成長するのかをいくつかの代表的な理論・研究等を参照しながら、「生涯発達」の視点から理解を深める。 『この科目は、2018 年度入学生以降については公認心理師対応科目となり、開講年度に科目名とシラバスが改訂される。なお、公認心理師対応科目の詳細については、別途、公開する予定である。』		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜紹介する		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行い、必要に応じてグループワーク等を用いた講義を行う。		
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなどによる平常点（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	生涯発達的視点に立ちながら，青年期から高齢期までの各発達段階における特徴や課題を理解し，多面的な側面から人間の変化と成長を説明することが出来る。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、予習を行うことが望ましい。また、授業内容の全てをプリントにするわけではないため、口頭での説明箇所等については、各自授業後にノートを整理するなど積極的な予習復習を行うこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
特別な事情がある場合を除き，すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること。授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求める。			
授業スケジュール			
1　オリエンテーション 2　　青年期の身体的変化と自尊感情の発達 3　　青年期の身体的変化と性役割 4　　育児スタイルと青年期発達 5　　エリクソンの人格発達理論 6　　青年期の発達課題とアイデンティティ 7　　青年期における他者との親密な関係 8　　青年期と摂食障害 9　　青年の自立と職業選択 10　中年期の危機 11　高齢期の生物的加齢 12　高齢期の心理的加齢 13　高齢期の社会関係 14　高齢期の適応 15　発達と環境			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J50798A01
科目名	東洋史概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　隆司	旧科目名称	
授業概要	ここでいう「近代中国史」とは、西洋「近代」が始動し、東アジアに影響をあたえて、中国を近代国家の形成に向かわせる、西暦でいえば、16 世紀から 20 世紀初頭までの歴史過程を指す。本講義では、そのプロセスを中心とする東洋史全体を社会経済史的な視野でたどる。とりわけ最も近隣に位置し、のちに抜き差しならない間柄になる日本との対比・関係を重視する。		
教材（教科書）	毎回の授業に講義レジュメを配布する。その具体的・展開的な内容として、以下を必ず熟読すること。 岡本隆司『近代中国史』ちくま新書（2013 年）		
教材（参考資料）	岡本隆司『中国「反日」の源流』講談社選書メチエ（2011 年） 岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会（2013 年） 岡本隆司『ラザフォード・オルコック』ウェッジ選書（2012 年）		
教育方法	－		
評価方法	試験ないしレポートの成績によって、評価をくだす。論述方式により、授業内容の理解をみて成績を判断する。なお平常の受講態度をみて、適宜平常点も加味する。		
到達目標	・近代中国史を中心に東洋史を概論する。アジア史・日本史・西洋史を一国史・専門の枠内だけにとどまらず、世界的な全体的な規模と角度から分析する視野を養う。		
授業時間外学習	指示した教科書ないしは参考文献で予習、復習を怠らないこと。具体的には授業時に解説する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教科書・参考文献をよく読んで授業に臨んでください。留意点は授業中に説明します。

授業スケジュール

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：公権力と社会
第３回：古代中世のアジア史――遊牧世界と農耕世界
第４回：二元的世界の形成――江南の開発と唐宋変革の世界史的意義
第５回：14 世紀の危機と明朝の世界史的位置
第６回：明から清へ――「近世」日本との対比
第７回：マクロな社会経済動向
第８回：19 世紀の転換
第９回：西洋近代との邂逅――開港（アジア）と開国（日本）
第１０回：動乱の時代と社会構成の変化
第１１回：「督撫重権」――アジアからの視点と国民国家と対比
第１２回：「洋務」の時代――日本・西アジアとの比較
第１３回：国民経済へ向かって
第１４回：産業革命と「黄金時代」――第一次大戦前後
第１５回：戦争と革命

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50798B01
科目名	東洋史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　隆司	旧科目名称	
授業概要	ここでいう「近代中国史」とは、西洋「近代」が始動し、東アジアに影響をあたえて、中国を近代国家の形成に向かわせる、西暦でいえば、16 世紀から 20 世紀初頭までの歴史過程を指す。本講義では、そのプロセスを中心とする東洋史全体を政治外交史的な視野でたどる。とりわけ最も近隣に位置し、のちに抜き差しならない間柄になる朝鮮・日本との関係を重視する。		
教材（教科書）	毎回の授業に講義レジュメを配布する。その具体的・展開的な内容として、以下を必ず熟読すること。 岡本隆司『李鴻章』岩波新書（2011 年） 岡本隆司『世界のなかの日清韓関係史』講談社選書メチエ（2008 年）		
教材（参考資料）	岡本隆司『ラザフォード・オルコック』ウェッジ選書（2012 年） 岡本隆司『中国「反日」の源流』講談社選書メチエ（2011 年）		
教育方法	－		
評価方法	試験ないしレポートの成績によって、評価をくだす。論述方式により、授業内容の理解をみて成績を判断する。なお平常の受講態度をみて、適宜平常点も加味する。		
到達目標	・近代中国史を中心に東洋史を概論する。アジア史・日本史・西洋史を一国史・専門の枠内だけにとどまらず、世界的な全体的な規模と角度から分析する視野を養う。		
授業時間外学習	指示した教科書ないしは参考文献で予習、復習を怠らないこと。具体的には授業時に解説する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教科書・参考文献をよく読んで授業に臨んでください。留意点は授業中に説明します。			
授業スケジュール			
授業計画 第１回：ガイダンス 第２回：「東アジアにおける古代の終末」――東アジア世界の特質と西アジア・中央アジア 第３回：多元化のアジア――宋・遼・金とイスラーム世界 第４回：モンゴル帝国の「混一」と「蒙古襲来」の位置づけ 第５回：14 世紀の危機と秩序の再編――「朝貢システム」とティムール・オスマン 第６回：大航海時代――16 世紀の世界 第７回：日本と満洲族の興起――17 世紀の北東アジア 第８回：清朝と徳川の平和――18 世紀の東アジアとイスラーム世界の危機 第９回：西洋近代との邂逅――開港（アジア）と開国（日本） 第１０回：日清修好条規と日朝修好条規 第１１回：台湾出兵と琉球処分――西アジアとの比較 第１２回：李鴻章と対外関係――グレート・ゲームのなかで 第１３回：日清戦争――東アジアの分水嶺 第１４回：変法・反動・列強 第１５回：日露戦争から革命へ――アジアの変貌		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50799A01
科目名	西洋史概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
授業概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（教科書）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	板書を中心にした講義法を行う。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
授業時間外学習	中間レポート課題と期末レポート課題以外の教科書の各章を学期中に読破する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
　西洋史を学ぶ意欲を持っていること。
受講のルール
　授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。
学習上の助言
　過去と現在との違いを認識して、両者を理解するように努めて下さい。

授業スケジュール

１．西洋史学の課題
２．古代ギリシアの人口と身分構成
３．古代ギリシアの奴隷と社会（１）　―　奴隷の労働形態
４．古代ギリシアの奴隷と社会（２）　―　奴隷の事例
５．犯罪と刑罰（１）　―　中世における処刑の意味
６．犯罪と刑罰（２）　―　処刑方法
７．犯罪と刑罰（３）　―　考察
８．動物裁判（１）　―　世俗裁判所の事例
９．動物裁判（２）　―　教会裁判所の事例
１０．動物裁判（３）　―　動物裁判についての学説
１１．新大陸の征服史（１）　―　新大陸の古代文明
１２．新大陸の征服史（２）　―　征服の歴史
１３．新大陸の征服史（３）　―　考察
１４．近代奴隷貿易の展開（１）　―　奴隷貿易の起源
１５．近代奴隷貿易の展開（２）　―　奴隷貿易の意味

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50799B01
科目名	西洋史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	General History of Europe B		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
授業概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（教科書）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	板書を中心にした講義法を行う。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
授業時間外学習	中間レポート課題と期末レポート課題以外の教科書の各章を学期中に読破する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
　西洋史を学ぶ意欲を持っていること。
講義のルール
　授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。
学習上の助言
　過去と現在との違いを認識して、両者を理解するように努めて下さい。

授業スケジュール

１．西洋史学の課題
２．古代ギリシアにおける女性と社会
３．古代ギリシアにおける女性の財産権
４．古代ギリシアにおける女性の地位
５．疫病の歴史（１）　―　ペストの歴史
６．疫病の歴史（２）　―　ペストと人々
７．疫病の歴史（３）　―　コレラの歴史
８．「流行」と社会（１）　―　贅沢禁止法の歴史
９．「流行」と社会（２）　―　流行と産業革命
１０．「流行」と社会（３）　―　流行の企業化
１１．近代世界システムの理論の概要（１）　―　従属理論の基礎
１２．近代世界システムの理論の概要（２）　―　世界システム論の基礎
１３．近代世界システムの成立史（１）　―　16 世紀の世界
１４．近代世界システムの成立史（２）　―　世界システムの意義
１５．近代世界システムと奴隷制　―　奴隷貿易との関わり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50800101
科目名	心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	水谷　聡秀	旧科目名称	
授業概要	心理学の研究では，実験や調査等の研究を行い，そこから得られたデータをもとに人間の心理を解明するという実証的な研究方法が重要である。この授業では，実験法，心理検査法，観察法等の基礎的な実験実習を行い，心理学における実験的研究の基礎を修得する。心理学実験・実習に実験者および実験参加者・調査協力者等として参加するとともに，得られたデータを分析・考察して，実験報告書にまとめる。それらを通じて，心理学研究を行っていく上で必須の実証的研究手法を体系的に身につける。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教育方法	実習形式で授業を進める。それぞれの実験・実習課題は，実験参加者や実験者としての参加，各課題の講義あるいは演習形式での解説，実験結果の分析と解釈，実験報告書の作成からなる。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。平常点は，実験への参加や結果の分析への取り組み状況によって評価する。		
到達目標	心理学の実験・実習に，実験者や実験参加者として適切な態度で参加することができる。 実験結果を，それぞれの課題の実験計画に応じた適切な方法で分析することができる。 科学論文の要件に従って，実験報告書（レポート）を作成することができる。		
授業時間外学習	各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的な態度で参加すること。一斉に作業を開始するので、遅刻は厳禁である。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

授業スケジュール

心理検査法，面接法（担当：久保・福田・富永・水谷）
第 1 回　心理検査 1：性格検査（YG 性格検査）
第 2 回　心理検査 2：投影法（PF スタディ）
第 3 回　心理検査 3：作業検査法（クレペリン検査）
第 4 回　心理検査 4：知能検査（WAIS－Ⅲ）
第 5 回　面接法

質問紙調査法，観察法（担当：橋本・福田・富永・水谷）
第 6 回　観察法①：大学内のフィールドワーク・グループディスカッション
第 7 回　観察法②：データ分析とレポート作成
第 8 回　質問紙法①：既存の質問紙を用いた調査計画
第 9 回　質問紙法②：SD 法・データ収集
第 10 回　質問紙法③：データの分析とレポート作成

実験法（担当：行廣・福田・富永・水谷）
第 11 回　知覚：錯視
第 12 回　社会：社会的認知①：実験の実施と，実験概要の学習および結果の基本的な分析
第 13 回　社会：社会的認知②：実験結果の詳細な分析とレポート作成

第 14 回　認知：大域処理と局所処理①：実験の実施と，実験概要の学習および結果の基本的な分析
第 15 回　認知：大域処理と局所処理②：実験結果の詳細な分析とレポート作成

※講義の順序は変更されることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800201
科目名	心理学基礎実験 B（実践プロジェクト B）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
授業概要	心理学基礎実験 B(実践プロジェクト B)では、春学期の心理学基礎実験 A（実践プロジェクト A)に続き、心理学の基本的な実験方法，データの分析法，アセスメント法などを学修することを目的とする。 さらに、質問紙調査法・心理学実験法・臨床実習それぞれについて、発展的課題を学ぶ。 質問紙調査法では、５回の実習を通じて一つの質問紙の作成・統計的分析を行い、レポートを作成する。 心理学実験法では、おおむね３つの実験課題についてレポートを作成する。 臨床実習では、子どもや家族を対象としたアセスメント法や、面接、事例検討の方法についても学ぶ。		
教材（教科書）	松井 豊「改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 1,836 円 日本心理学会「執筆・投稿の手びき」 http://www.psych.or.jp/publication/inst.html		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の担当教員フォルダに各「実験課題」のレジュメを配付する。		
評価方法	平常点およびレポートを総合して評価する。原則として，すべての課題に実験者・実験参加者として実習に参加するとともに，全課題について指定期限内にレポートを提出することが評価の前提となる。 レポートは，原則として各課題の目的，方法，結果，考察，引用文献などの項目に分けて記述され，科学論文の要件を満たすことが求められる。		
到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。そのため，心理学の基礎実験・実習を経験するとともに，得られたデータを分析・考察して実験報告書（レポート）に毎回まとめることを通じて，実験的技法・実証的手法の体系的な知識を確実に身につける。さらに，人間の心や行動をより正確に理解する方法を身につけることを目標とする。		
授業時間外学習	データ分析実習を含むため統計の授業を履修しておくことが望ましい。 各回の授業で課題が提出されるので，期限までに必ず取り組むこと。全課題についてレポートの作成が課題となる。また，課題によっては授業時間外にデータ収集の課題が課される場合がある。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

出席重視の授業である。積極的な態度で参加すること。一斉に実験や作業を開始するので、遅刻は厳禁。
授業への出席（実習への参加）とレポート提出はセットになっている。一方だけではカウントされない。

授業スケジュール

臨床実習　　（担当：　川畑・福田・富永・増田）
第１回　子どもと家族のアセスメント①　：発達・知能検査や描画テストの実習
第２回　子どもと家族のアセスメント②　：子どもとの面接と行動観察。家族合同描画の体験。
第３回　子どもと家族のアセスメント③　：ジェノグラム（家族関係図）の作成と家族を視る視点。
第４回　面接法Ⅱ：面接の「言語的内容」に焦点を当てた実習と面接場面の検討。
第５回　事例検討とロールプレイ　：臨床事例（創作）についての話し合いやロールプレイによる理解。

実験法　（担当：　有馬・福田・富永・増田）
第６回　社会　：感情錯誤帰属の実験
第７回　認知①　：虚記憶と系列位置効果
第８回　認知②　：虚記憶と系列位置効果

第９回　生理①　：α 波減衰実験
第１０回　生理②　：α 波減衰実験

質問紙調査法　（担当：　服部・福田・富永・増田）
第１１回：心理尺度に関する講義、質問項目の作成
第１２回：予備調査１：用紙の作成、予備調査の実施
第１３回：予備調査２：結果の分析
第１４回：本調査１：用紙の作成、本調査の実施
第１５回：本調査２：結果の分析

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800301
科目名	教育社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新堂　粧子	旧科目名称	教育社会学 s
授業概要	教育の機能は、国民社会にとって有用でありかつそれの要請に適応する人間を形成することに限られない、という論点を明示するために、「社会化」とは区別される「超社会化」という用語を呈示する。人間の欲望と能力はたしかに社会によって変容され補完されるが、この社会化により人間の潜在性がすべて開発されるわけではない。逆にその潜在性を損ない歪めて現実化することもある。はたして人間の独創性や創造力はどこからやってくるのだろうか。このような問いを発する時、我々は社会化には還元できない人間形成のもうひとつの側面＝超社会化について論じざるをえないだろう。 本講義ではまず社会化の教育論として、教育社会学の基礎文献である E.デュルケームの『道徳教育論』を学習する。「規律の精神」「社会集団への愛着」「意志の自律性」を道徳の 3 要素とする彼の教育論は、彼が生きた近代国民社会の成立期に、理想の社会の形成にとって必要とされる教育とはどのようなものか、を問う議論であった。彼の議論をたどりながら、社会化の教育論の特徴と不十分な点を理解し、超社会化の教育論へとつなげてゆく。次に、超社会化の教育論の可能性を探るために、超社会化概念の成立根拠となる、生成の思想にもとづく人間学の一端に触れる。H.ベルクソンの「閉じたもの」と「開いたもの」、作田啓一の「拡大体験」と「溶解体験」など。最後に社会化と超社会化を念頭に置きながら、生命感や自己意識とは何かを問い、現代社会における教育の課題について考える。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	作田啓一『三次元の人間 ― 生成の思想を語る』行路社、1998 年再版 亀山佳明・麻生武・矢野智司編『野性の教育をめざして ― 子どもの社会化から超社会化へ』新曜社、2000 年 エミール・デュルケム（麻生誠・山村健訳）『道徳教育論』講談社学術文庫、2010 年		
教育方法	適宜配布するプリントを用いながら、講義法で行う。		
評価方法	授業中に適宜課するレポート、または学期末の試験。 受講者の人数や理解度により変更し、配点その他の詳細については授業の中で示す。		
到達目標	今日の社会における教育を論じるさいに「社会化」とは区別される「超社会化」概念を用いることの意味を理解し、この概念により検討されうる人間形成の根源的側面への各自の関心、直観力を引き出すことを目標とする。		
授業時間外学習	毎回の授業後に学習内容を整理するノートを各自で作成しておくこと。次の授業のはじめに復習のための質疑応答時間を設けるので、ノートを見ながら応答できるように、また疑問が出た場合は質問できるように準備をしておくこと（各回の学習推定時間は３０分程度）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席した以上は、私語を慎んでほしい。			
授業スケジュール			
1. 社会化と超社会化 2. デュルケームによる道徳の三要素：規律の精神 3. デュルケームによる道徳の三要素：社会集団への愛着 4. ナショナリズムとコスモポリタニズム 5. デュルケームによる道徳の三要素：意志の自律性 6. 近代国民社会と人格崇拝の観念 7. 2 つの道徳と 2 つの正義・愛・自由(1) 8. 2 つの道徳と 2 つの正義・愛・自由(2) 9. 自己境界の拡大と 溶解(1) 10. 自己境界の拡大と溶解(2) 11. 主体－客体関係の三類型(1)			

12. 主体－客体関係の三類型(2)
13. 生命感について
14. 自己意識論
15. 現代社会における教育の諸課題／超近代の教育に向けて
16.定期試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800401
科目名	現代社会論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
授業概要	人々の生活と心理に大きな影響を与える現代社会の諸側面、特にその問題点について講じる。個人の心理をよりよく理解するためには、その個人が生きている社会の実情･問題点を把握しておくことが必要である。この講義ではそれらについて講義する。 また、それらの理解に役立つので、その時々の時事問題についても解説する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義時に紹介する。		
教育方法	主に講義による。毎時間、授業の初めに前回の授業内容の復習をおこなう。毎時間、授業の終わりに受講者に、質問･意見などを書いてもらう。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。授業終了時の質問カード提出による。）		
到達目標	現代社会の様々な社会問題について知る。 現代社会について関心を持つ。 日々のニュースに触れる。 現代社会の諸事情が将来の自分の就職とどのような関係があるかについて考える。		
授業時間外学習	1．現代の日本社会にはどんな問題があるか考えて、200 字程度でまとめておくこと。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、授業の見通しを付けておくこと） 2．配付資料 No.1「貧困」 3．配付資料 No.2「子どもの貧困」 4．配付資料 No.3「母子家庭の経済的脆弱性」 5．配付資料 No.4「非正規雇用」 6．配付資料 No.5「少子高齢化」 7．配付資料 No.6「医療制度」 8．配付資料 No.7「健康保険制度」 9．配付資料 No.8「財政」 10．配付資料 No.9「税制」 11．配付資料 No.10「食糧自給率」 12．配付資料 No.11「食品添加物」 13．配付資料 No.12「グローバリゼーション」 14．配付資料 No.13「監視社会」 15．配付資料 No.14「現代社会についての考察」 また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。 なお、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．積極的に学ぼうという姿勢を持って講義に臨んでほしい。
2．私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑になるので、退室を求める。

授業スケジュール

1．ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて
2．経済的格差と貧困
3．子どもの貧困
4．母子家庭の経済的弱者性

5．非正規雇用
6．少子高齢化
7．医療制度
8．健康保険制度
9．財政
10．税制
11．食糧自給率
12．食品添加物
13．グローバリゼーション
14．監視社会・管理社会
15．現代社会についての考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800501
科目名	サムライ文化論	単位数	2
科目名（英語表記）	History of　Samurai culture		
担当者名	中西　裕樹	旧科目名称	
授業概要	近年、映画やアニメ、スポーツなど、さまざまな場面で「サムライ」という言葉が使用され、その歴史・文化は海外からも注目されています。この「サムライ」と、歴史的存在である「侍」「士」には、共通する部分とそうではない部分があります。また、サムライは時代によって性格を変え、精神的活動を含む文化に自らを反映しました。 本講義では、サムライの歴史を確認しながら、その文化や考え方を学びます。また、各論として、民俗学・歴史地理学の視点からもサムライの存在を考えます。これらの作業を通じ、今の私たちが使うサムライという言葉の中身をとらえ、文化への視野を広げることを目的とします。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	適宜紹介します。		
教育方法	パワーポイントや映像、プリントなどを使用。		
評価方法	平常点 20%(出席状況による)、学期末レポート 80%として評価します。		
到達目標	歴史学など様々な分野の研究成果をふまえ、現代をとらえる視点を養う。		
授業時間外学習	日本史の知識が必要になるので、不明な点は質問や自主学習で補ってほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「サムライ」をキーワードとする文化や事象を自らで考え、講義との対比を行った上でレポート作成に臨むこと。

授業スケジュール

1　武士道とサムライ(中西裕樹)
2　現代のサムライ文化論(佐々木高弘)
3　民俗とサムライ文化論(堀田穣)
4　源氏と平氏(中西裕樹)
5　鎌倉と京都(中西裕樹)
6　刀と甲冑(中西裕樹)
7　戦国と下克上(中西裕樹)
8　城郭の歴史(中西裕樹)
9　信長と秀吉(中西裕樹)
10　江戸時代のサラリーマン(鍛治宏介)
11　武士と恋愛(鍛治宏介)
12　切腹(鍛治宏介)
13　敵討ちの歴史(鍛治宏介)
14　江戸時代の城(鍛治宏介)
15　忍者の歴史(鍛治宏介)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J50800A01
科目名	日本史概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	日本の古代から中世後期にいたる歴史の展開を、近年の歴史研究の達成を踏まえ、政治史を中心に文化・社会の諸方面にわたって考察する。特に文化や意識が歴史に与えた影響や東アジア世界が日本の社会に及ぼした影響について、ていねいに考察したい。		
教材（教科書）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	授業で実施する小テスト（30%）、定期テスト（70%）		
到達目標	・日本の古代中世についての最新の歴史の見方を理解する。 ・柔軟で批判的な思考様式を体得する。		
授業時間外学習	・高校日本史の教科書の古代・中世の項を復習しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。			
授業スケジュール			
1.なぜ歴史を学ぶのか？ 2.東アジアと古代朝廷 3.平安前期の朝廷 4.平安京の光と影 5.中世は武士の時代か 6.王朝国家体制 7.中世王権の登場 8.荘園公領制の成立 9.平氏政権と『平家物語』 10.鎌倉幕府の成立 11.大殿九条道家と将軍九条頼経 12.仏教革新運動の登場 13.モンゴル襲来 14.室町幕府と東アジア世界 15.京都の文化財と戦争			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50800B01
科目名	日本史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	高校までの日本史といえば暗記科目という印象が強いでしょう。しかし大学で学ぶ歴史では、年号の暗記を求められたりはしません。また歴史といえば、テレビや漫画などで描かれる戦国武将や新選組などのイメージが強いかもしれません。しかし歴史は一部の有名人だけが活躍するものではありません。本講義では、主に江戸時代以降の日本史に関して、さまざまな話題をとりあげながら、歴史学の基本である、史料に基づきながら、過去の社会のありようや人々の営みを明らかにする手法を学び、当時の社会の仕組みや、その歴史の流れを把握してもらいます。		
教材（教科書）	特に使用しません。		
教材（参考資料）	その都度、指示します。		
教育方法	パワーポイントによるスライドと、毎回、配布するレジュメを使用する講義形式の授業。		
評価方法	毎回の感想・質問ペーパー（30%） 定期テスト（70%）		
到達目標	・日本の社会や文化の歴史にかんして興味をもち、それを深く探る方法をしっている ・江戸時代から近代までの日本史のおおまかな流れを理解している ・史料から歴史を読み解く歴史学の学問としての基礎を理解している		
授業時間外学習	・教科書は用いないので、毎回の予習を行う必要はないが、高校で日本史Ｂを習っていない人は、通読して日本史の流れを理解しておくこと。 ・毎回のレジュメを熟読して復習をすること。 ・また講義を休んだ人も、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくこと。 ・15 回の講義のなかで、気になる回について、最低１冊は関連する本を読むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。			
授業スケジュール			
第１回：歴史と歴史学 第２回：史料とは歴史の材料である、ということ 第３回：土のなかの戦場　―考古史料からみる島原の乱― 第４回：水戸黄門の歴史学 第５回：生類憐れみの令と〈子供〉の発見 第６回：江戸時代の教育 第７回：江戸時代の流行病とその対応 第８回：江戸時代の舞妓ハーン 第９回：歴史学と歴史創作　―新選組を事例に― 第１０回：歴史学と歴史創作　―屋根の上に鴨はいるか― 第１１回：史料から歴史をよむ ―坂本龍馬と大政奉還― 第１２回：幕末期諷刺錦絵と武鑑 第１３回：初詣の歴史 第１４回：この世界の片隅から歴史を読み解く 第１５回：歴史学とはなにか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800C01
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	卒業論文の作成に向けての演習である。自分自身で研究テーマを決め、先行研究や史料を集めて作業を進めてゆく。主要な論文と史料の蒐集は、夏休み前に終えることが望ましい。また、卒論のおおまかな構成を考えて、章立てができるようになるまで作業を進めたい。研究の進展に応じて各人が報告し、他の受講生もまじえて質疑応答を行う。報告の際には必ず論文リストを提示すること。 できるだけ自分の力で作業を進めることが望ましいが、行き詰まった時や、悩んだ時は、遠慮なく担当教員と相談することが必要である。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生による発表で進めていく授業		
評価方法	発表（70%）討論（30%）		
到達目標	・卒論の構成を考えながら、先行研究を読み込み、その到達点と課題を把握すること ・史料を読み込み、オリジナルな分析を行うこと		
授業時間外学習	・発表の準備を入念に行う。 ・報告の要旨を記したレジュメを作成したうえで発表する。レジュメの末尾に必ず論文リストを添付すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・卒業論文は、これまでの学生生活の集大成です。自分が決めた課題について、貪欲に徹底的に調べ尽くしてください。この授業で培った調べる能力と、それをまとめて発表する能力は、皆さんが社会に出て行った時の武器になるはずです。
・自由に卒論テーマを決めて自由に研究を進めてゆくことは、実際にはかなり苦しいことです。その苦しさも含めて、楽しんでください。苦しんだ分だけきっと成長するはずです。
・秋季に向けて、夏休みに 4000 字のレポートを課しますので、秋季の 1 回目に提出してください。

授業スケジュール

発表は基本的に 3 人ずつ実施。5 回目と 9 回目には発表 2 、発表 3 の人が混じることになる。

1.ガイダンス(研究テーマと論文リストを記したメモを全員が提出し、一人 5 分で報告する)
2.発表 1 (先行研究を 1.2 本読んで内容を要約し、今後の課題と方向性について 20 分報告する)
3.発表 1 (先行研究を 1.2 本読んで内容を要約し、今後の課題と方向性について 20 分報告する)
4.発表 1 (先行研究を 1.2 本読んで内容を要約し、今後の課題と方向性について 20 分報告する)
5.発表 1 (先行研究を 1.2 本読んで内容を要約し、今後の課題と方向性について 20 分報告する)
6.発表 2 (自分の研究で使う予定の史料を 1 点以上とりあげて分析し 20 分報告する)
7.発表 2 (自分の研究で使う予定の史料を 1 点以上とりあげて分析し 20 分報告する)
8.発表 2 (自分の研究で使う予定の史料を 1 点以上とりあげて分析し 20 分報告する)
9.発表 2 (自分の研究で使う予定の史料を 1 点以上とりあげて分析し 20 分報告する)
10.発表 3 (新しい論文を読んで内容を要約し、今後の課題と方向性について 20 分報告する)
11.発表 3 (新しい論文を読んで内容を要約し、今後の課題と方向性について 20 分報告する)
12.発表 3 (新しい論文を読んで内容を要約し、今後の課題と方向性について 20 分報告する)
13.発表 4 (中間報告会で発表予定のレジュメを提出し、夏休みに行う作業について 10 分報告する)
14.発表 4 (中間報告会で発表予定のレジュメを提出し、夏休みに行う作業について 10 分報告する)
15.歴史学コース卒業論文中間報告会 1 回目（合同ゼミでの発表会）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800C02
科目名	専門ゼミＣ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
授業概要	本演習は、専門ゼミ Ａ・Ｂ の受講生が引き続き受講することを原則とします。演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 　受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 　演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	先行研究から調査の仕方、方法を学び、実際に自らが計画を立てて調査を実施する。調査はさまざまな機会を捉え、何回も行うことになるだろう。その成果をまとめて、必要な資料も添えて、提示しながらゼミ発表を行う。 　発表に対する質問やアドヴァイスに応じて、それをさらなる理論的枠組みの強化や、調査方法の検討などに生かしていかなければならない。文献調査も軽んじてはならず、すでに先人が調査済みのことは、しっかりとその成果を活用すべきだろう。		
評価方法	発表（60%）毎回の討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
授業時間外学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
すべては卒業研究のために生かされなければならないので、これまでの発表、研究を総合的に活用できるように、無駄にせずに戦略を練るべきだろう。先行研究や文献資料などを、行き当たりばったりに使うのではなく、蓄積して、後から活用できるようにしておかなければならない。			
授業スケジュール			
1　卒論の書き方 2　各自のテーマ設定 ３～15　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800C03
科目名	専門ゼミＣ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	受講生の卒業研究のテーマに合わせて展開する。 受講生には４月~6 月に各自のテーマについて先行研究の調査、 資料収集についての発表を試み、 １０月の中間発表を目標に準備する。		
教材（教科書）	受講生のテーマに共通するものがあれば用いる		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	毎回担当者を決めて発表してもらい、質疑応答を行う。 答えられなかった場合や調べが不十分と認められる場合は 再度、発表を行う。		
評価方法	発表７０％、授業中の発言、質問、調査などの実績 30% 。		
到達目標	テーマを詳しく調べる力を養うこと 誰にでもわかるように話し、説得力があるようになること 卒業研究を完成させること		
授業時間外学習	自分の興味のあるテーマを考えること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業に出席するだけでなく、積極的に自分のテーマを発見し 卒業研究にむけて調査をしていくこと			
授業スケジュール			
１　各自テーマの選定 ２　図書館で調査～カードの取り方 ３　小発表と討論 ４　小発表と討論 ５　書誌学的調査の方法 ６　調査 ７　参考文献の紹介 ８　参考資料の紹介 ９　先行研究を考える １０　先行研究の紹介 １１　発表 １２　発表 １３　課題を考える １４　課題を考える １５　論文の完成のしかた			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50800C04
科目名	専門ゼミＣ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	卒業論文作成のための基礎体力を養う。おおまかでもよいので、受講生は自らが卒業論文で扱うであろうテーマについての既存研究を調査し、その結果を何度かにわたって授業内で報告する。この作業を通じて、受講生は、論文の何たるかを知り、また自らの卒論テーマがどの程度研究されているものか、自分の入り込む余地は残されているのか、などを直截に知ることにより、卒論テーマの設定の難しさを体験する。秋学期の演習Ｂへの礎とする。		
教材（教科書）	特定のものはない。		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜紹介する。		
教育方法	発表形式。		
評価方法	授業内で行われる「報告」によって評価する。		
到達目標	卒業論文のテーマ設定の端緒を掴む。		
授業時間外学習	３回生までの演習レジメに目を通しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講条件　なし 受講のルール　私語は厳禁 学習上の助言　とにかく自分に厳しく、コツコツと地道に作業を進めること。			
授業スケジュール			
１．卒論テーマ設定に関するディスカッション ２．資料検索方法の実際 ３．図書館の利用法 ４．卒論テーマの外枠 ５．調査報告 ６．調査報告 ７．調査報告 ８．調査報告 ９．調査報告 １０．調査報告 １１．調査報告 １２．調査報告 １３．調査報告 １４．調査報告 １５．夏休みに取り組むべき課題の確認			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800C05
科目名	専門ゼミＣ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	本演習は、専門ゼミ A・B の受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	発表者のレジュメ、パワーポイント		
評価方法	ゼミ生の発表と毎回の討論		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
授業時間外学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論、及び卒業論文の作成を望みます。			
授業スケジュール			
1　卒論の書き方 2　各自のテーマ設定 ３～15　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J50800C06
科目名	専門ゼミＣ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	卒業研究の指導を行う。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	学期開始時の発表（40%） 卒業研究の制作に向けての通常の進行状況（60%）		
到達目標	各自の卒業研究制作を機会に、より思考を深めるとともに、論述・創作能力の実質的な伸長を図る。		
授業時間外学習	個別指導にもとづき、卒業研究のための資料収集と資料読解を行う。 卒業研究制作計画に基づき、考察と執筆を進める。 執筆分を教員にメールで送り、次回の授業での個別指導に備える。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
卒業研究は大学での学習の総まとめである。生涯の記念とする気構えで制作に臨むこと。			
授業スケジュール			
受講者の人数・状況に応じて柔軟に対応する。 １　卒業研究第一次合同発表会 (各自の卒業研究の大テーマと小テーマ、おおまかな目次と主な参考資料を発表する) ２　研究計画の作成と提出 ３～１５　卒業研究制作作業の報告と確認、今後の作業の見通し、問題点等について、個別に綿密な指導を行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800C07
科目名	専門ゼミＣ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	本演習は、演習 A・B の受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	発表（５０％）毎回の討論（５０％）		
到達目標	卒業研究についてのレベルの高いプレゼンテーション、それにもとづいた活発な討論、卒業論文の章立て作成		
授業時間外学習	文献調査をし、それを読み込み、フィールドワークをしたうえで、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
フィールドワークと資料読解については、各自計画を立て、自主的に行っておくこと。			
授業スケジュール			
１.卒業研究のスケジュール作成 ２.図書館での文献調査 ３.～１３.ゼミ生の発表と討論 １４.１５.　コース全体での卒業研究の中間発表会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800C08
科目名	専門ゼミＣ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	いよいよ４年間の大学生活の集大成である卒業論文作成に取りかかります。論文の構成を考えながら、先行研究や史料を集めて読み込んでいく作業を進めていきます。夏休みまでには論文のおおまかな構成を考えて、章立てができるようになるまで作業を進めましょう。この授業では、段階に応じて各人が報告を行い、他の受講生もまじえた質疑応答を行います。さらに担当教員のコメントと指導を受けることで、研究を深めていきます。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	学生による発表で進めていく授業		
評価方法	発表（60%） 討論（40%）		
到達目標	・卒論の構成を考えながら、先行研究を読み込み、その到達点と課題を把握すること ・史料を読み込み、オリジナルな分析を行うこと		
授業時間外学習	自らの発表の準備を入念に行う。 《発表その１・その３》 ・教員と相談しながら論文を決定する ・まず論文を熟読し、その内容をまとめる。 ・難しい用語などはジャパンナレッジなどを活用したり、時には、他の論文も読んだりしながら、内容の理解を深める ・論文を読んでもっとも気になった点、わからなかった点などを列挙する ・わかりやすく簡潔なレジュメを作成する。論文の丸写しでは駄目。 《発表その２》 ・これまで読んできた論文で使われていた史料などを入手して、自分で分析をしてみる ・その史料そのものに対して説明を行う ・史料分析からわかったことをまとめる 《発表その４》 ・前期の報告内容をまとめて、これまでわかったことを整理する ・夏休みにどのような作業をするか、読むべき論文やするべき作業の計画をたてる		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
卒業論文は、あなたがどのような学生生活を送り、何を学んだのかを表現する手段です。 自らの課題に関して、どこまでも貪欲に、調べて調べて調べつくしてください。			
授業スケジュール			
１回目：ガイダンス ２～５回目：発表その１（１回３人） 　テーマ　：先行研究をまとめよう 　発表内容：先行研究を１・２本読み内容を要約する ７～９回目：発表その２（１回４人） 　テーマ　：史料をよみとく			

発表内容：自分の研究で使える史料を一点以上分析して、
そこからわかることをまとめてみる

10～14 回目：発表その３（１回３人）
テーマ　：新たな論文を読んでみる
発表内容：先行研究を１・２本読み内容を要約する

15 回目：歴史学コース卒業論文中間報告会１回目

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J50800C09
科目名	専門ゼミＣ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	演習ＩＡ・Ｂの延長としての発達臨床心理学演習、各自の卒業研究指導、進路に関する相談などを目的として、大学生活最後の１年間であることを意識しながら、各時間を構成する。		
教材（教科書）	川畑隆「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント－」明石書店 2,376 円　※１回目の授業で割引販売を行なうので事前に購入する必要はない。また、必要に応じてプリント類を配布する。		
教材（参考資料）	都筑学著「心理学論文の書き方～おいしい論文のレシピ～」有斐閣アルマ　2,052 円		
教育方法	学生と教員が相互にやりとりして進め、映像等も用いることがある。		
評価方法	受講態度などの平常点（５０％）、授業内の課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自のテーマにそった卒業研究の実施に向けた準備ができる。		
授業時間外学習	前回行なった内容について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。そのノートや、自分の卒業研究のテーマについて学習した内容について点検することがある。また、とくに「人間模様」に関する事柄について読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。についての学習を行なうこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

就職活動を行ないながらの出席、卒業研究の準備となるが、大学での学習の締めくくりなので頑張ってほしい。

授業スケジュール

１．進路・卒業研究に関するガイダンス、個人の状況聴取
２．文献購読(相談を受けたら何を援助したらよいのか)
３．文献購読(つながりをみつけ悪循環を切るために)
４．文献購読(1 人で考えこまずにみんなで考えよう)
５．文献購読(かかわりをつくるためにどんな工夫をすればよいか)
６．文献購読(つながりのもつ意味を 6 つの家族像から考える)
７．グループ研究の計画
８．グループ研究の実施(資料収集)
９．グループ研究の実施(展開)
１０．グループ研究の実施(まとめ)
１１．卒業研究についての確認や検討
１２．グループ研究の発表(前半)
１３．グループ研究の発表(後半)
１４．過去の卒業研究の検討
１５．進路・卒業研究に関する個別面談
※上記の内容や順序は変更があり得る。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	★	－	★

年度	2018	授業コード	J50800C10
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	卒業論文の作成を念頭に置きながら、各人の興味関心合わせて研究を進めることを通して、臨床心理学・深層心理学について学ぶ。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	各自がテーマを決め研究発表を行い、全員で討論。		
評価方法	平常点：討論への参加状況など（５０％） 発表及びその内容をまとめたレポート（50%）		
到達目標	専門演習 IB で絞り込んだ研究テーマに関する先行文献を探して、自らの研究の位置づけを明らかにしながら、卒業研究の計画を進める。		
授業時間外学習	討論に積極的に参加できるように、関連のある文献に目を通しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自ら能動的に学ぶ姿勢を身につけてほしい。			
授業スケジュール			
1　オリエンテーション 2　文献購読 3　文献購読 4　先行研究に関する発表 5　先行研究に関する発表 6　先行研究に関する発表 7　先行研究に関する発表 8　先行研究に関する発表 9　卒業研究計画発表 10　卒業研究計画発表 11　卒業研究計画発表 12　卒業研究計画発表 13　卒業研究計画発表 14　卒業研究計画発表 15　卒業研究計画発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800C11
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
授業概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索できるようになる。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生ゼミでの研究成果を発展させて卒業研究を行い、各自で卒業研究レポートまたは卒業論文にまとめる。卒業研究レポートは卒業論文の半分（6000 字）程度の分量を目安としている。		
教材（教科書）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
教材（参考資料）	授業中適宜指示する		
教育方法	Edmodo を通じて教材配布と課題提出を行う		
評価方法	平常点（40%)と、Google Apps 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Google Apps にアップ、発表要旨に互いにコメントをつける。 Google Apps の書き込み内容すべてを評価対象とする。		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。３回生ゼミから引き続き、これらの力を養うことを目標とします。		
授業時間外学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する 各自の研究テーマに沿う雑誌論文を文献検索により複数読み、１本を選んで発表の日までにレジュメを用意すること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
授業スケジュール			
第 1 回　3 回生のふりかえり 第 2 回　研究計画書に基づくプレゼンテーションの作成 第 3 回　研究計画プレゼンテーション　1 第 4 回　研究計画プレゼンテーション　2 第 5 回　研究計画プレゼンテーション　3 第 6 回　コメントに基づく研究計画の修正 第 7 回　予備実験のためのディスカッション　1 第 8 回　予備実験のためのディスカッション　2 第 9 回　予備実験結果報告　1 第 10 回　予備実験結果報告　2 第 11 回　予備実験結果報告　3 第 12 回　本実験のための修正 第 13 回　本実験計画作成 第 14 回　本実験研究計画書作成 第 15 回　振り返り、夏休みの課題確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800C12
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
授業概要	コミュニケーション、広告広報、マーケティング、メディア、表現文化、地域づくりなどをテーマとする卒業論文の執筆、作品制作を行う。自分自身の研究テーマを立て、章の構成や必要な調査や分析、制作を行い、最終稿・作品を仕上げる。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	受講生のテーマに応じ、適時指示する。		
教育方法	各受講生の卒業研究の個別発表を進めるとともに、ゼミ生全員で共通のテーマについて発表・ディスカッションを行う。適宜プリントや映像資料を活用する。		
評価方法	平常点（40%）：テキストの講読、特定テーマでの発表、広報媒体やメディア表現などの制作 定期試験（60%）：レポート		
到達目標	自己のテーマをきわめ、卒業研究ないし作品としてまとめあげるとともに、就職活動や卒業後に学部での自分の専攻はこれだと明言できるように各自が努力を行う。		
授業時間外学習	1）自己のテーマに役立つ文献やウェブサイトを自ら閲読し、また参考・目標とするメディアやマーケティングの事例、作品表現や広告表現（映画、番組、音楽、SNS、CM、印刷広告、インターネット広告等）の情報や作例は日頃から収集しておくこと。 2）他の受講生の卒業研究・制作についても、事前に目を通して、ゼミ内で質問や意見を出せるよう準備すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。

授業スケジュール

各受講生の卒業研究の個別発表を進めるとともに、ゼミ生全員で共通のテーマについて発表・ディスカッションを行う。

＜講義予定＞
第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（1）
第 3 回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（2）
第 4 回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第 5 回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第 6 回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第 7 回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第 8 回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション
第 9 回：卒業研究の発表・指導
第 10 回：卒業研究の発表・指導
第 11 回：卒業研究の発表・指導
第 12 回：卒業研究の発表・指導
第 13 回：卒業研究の発表・指導
第 14 回：卒業研究の発表・指導
第 15 回：春学期のふりかえり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	–	★★	–

年度	2018	授業コード	J50800C13
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
授業概要	私たちはどんなコミュニケーションを?なっているのか、現代社会はどんなコミュニケーションを?なう社会なのかという視点から、現代社会を考える。 4 回?の春学期は、3 回生で立てた研究計画に従って研究を進める。研究の進捗を報告し、自らの研究にとって重要な文献、データについて報告する。あわせて、研究倫理、アカデミック・ライティングの方法や考え方についても理解を深める。これらは、これまで講義やゼミで繰り返し教わってきているはずのものだが、ある程度研究が進んだ段階であらためて考えておきたい。また、専門ゼミ D で予定している中間報告の準備を行なう。		
教材（教科書）	必要に応じて、授業中にプリント教材を配付する。		
教材（参考資料）	各自の研究テーマに応じて、授業中に指示する。		
教育方法	研究発表は、学?の発表とディスカッションにより?なう。受講?の数によって発表時間、回数は異なるが、基本的に 3 回の発表を予定している。他の受講?の発表の際は積極的に質問・意?を出してもらう。また他の受講?の発表の際の司会も交代で担当する。研究発表以外は、ゼミ担当教員による資料提示と、それに基づく実習により行なう。		
評価方法	ディスカッション（60%）、発表（40%）。		
到達目標	・自ら立てた計画に沿って研究を進めることができる。 ・状況に応じて研究計画を修正することができる。 ・研究テーマに即して資料やデータを収集することができる。		
授業時間外学習	報告の準備をする。紙媒体のレジュメは必須とする。必要に応じて、他のメディアも準備する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・無断欠席は厳禁とする。
・発表担当日は欠席しないこと。
・発表の準備は、他のすべてのスケジュールよりも優先させること。

授業スケジュール

《ガイダンス》
1. ガイダンス
2. 研究倫理およびアカデミック・ライティングについての復習と実習

《研究発表》
3. 発表 1 回目（担当者 2 人）発表内容：これまでの研究の報告
4. 発表 1 回目（担当者 2 人）発表内容：これまでの研究の報告
5. 発表 1 回目（担当者 2 人）発表内容：これまでの研究の報告
6. 発表 1 回目（担当者 2 人）発表内容：これまでの研究の報告
7. 発表 2 回目（担当者 2 人）発表内容：参考文献の要約と評価
8. 発表 2 回目（担当者 2 人）発表内容：参考文献の要約と評価
9. 発表 2 回目（担当者 2 人）発表内容：参考文献の要約と評価
10. 発表 2 回目（担当者 2 人）発表内容：参考文献の要約と評価
11. 発表 3 回目（担当者 2 人）発表内容：収集した資料・データの報告
12. 発表 3 回目（担当者 2 人）発表内容：収集した資料・データの報告
13. 発表 3 回目（担当者 2 人）発表内容：収集した資料・データの報告
14. 発表 3 回目（担当者 2 人）発表内容：収集した資料・データの報告

《次のセメスターのための準備》
15. 中間報告資料作成についての解説

※上記の計画は受講?8?を想定した計画である。受講? の数により、発表者数・発表時間は増減する可能性がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800C14
科目名	専門ゼミＣ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
授業概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。心理学専門演習ＩＡ・Ｂで行った学習をもとに，各自の研究テーマにしたがって実験や調査等の実証研究を行い，卒業研究を進める。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	各回の担当の学生の発表と，それに対する討論を中心に，演習形式で授業を進める。		
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と期末レポート(30%)によって評価する。		
到達目標	文献を，自らの研究テーマに基づいて批判的に読解することができる。 自分の研究テーマに基づいて先行研究のレビューを完成させる。 卒業研究の研究計画を立案する。		
授業時間外学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。 その他の学生も，卒業研究の進行状況について，週の成果を簡潔に毎回報告すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。			
授業スケジュール			
1. 年間の研究進行計画の立案 2. 卒業研究のテーマ検討 3. 卒業研究のテーマ検討 4. 研究計画の発表と検討 5. 研究計画の発表と検討 6. 研究計画の発表と検討 7. 研究計画の発表と検討 8. 研究計画の発表と検討 9. 実験・調査の実施準備 10. 実験・調査の実施準備 11. 実験・調査の実施準備 12. 実験・調査の実施準備 13. 実験・調査の実施準備 14. 実験・調査の実施準備 15. 学期の学習内容と卒業研究の今後の進め方の整理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50800C15
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
授業概要	各自の興味あるテーマを絞って文献をさがすことができるようになる。またそれを理解すると同時に批判的に読み、疑問点を明らかにし、考察へとつなげることができるようにする。それらをさらに発展させて、発表し他者へ伝える能力を身に着け、考察を通して論文へとつなげていくことができるようにすること。発表を聞く側は、発表内容に対して、発表者がさらに研究を進めるに役立つようにコメントができるコメント力を養うこと。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	ゼミ形式で行う。		
評価方法	授業への積極的な参加		
到達目標	各自の興味あるテーマを選び、調べ、まとめること。 他者の発表を聞き、自分の意見も言えること。		
授業時間外学習	心理療法に関する文献を読むこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
積極的に参加して下さい。			
授業スケジュール			
1 オリエンテーション 2 個別面談・図書館 3 個別面談・図書館 4 事例を読む 5 事例を読む 6 各自のテーマに沿って発表 7 各自のテーマに沿って発表 8 各自のテーマに沿って発表 9 各自のテーマに沿って発表 10 各自のテーマに沿って発表 11 各自のテーマに沿って発表 12 各自のテーマに沿って発表 13 各自のテーマに沿って発表 14 各自のテーマに沿って発表 15 各自のテーマに沿って発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800C16
科目名	専門ゼミＣ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
授業概要	現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究の成果を発表する。それに関して全員で議論を行い、理解を深める。研究の総まとめとしての卒業論文を執筆する準備をする。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースについても研究する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	授業時に指示する。		
教育方法	受講者のテーマに沿った研究内容の報告を受け、それについて全員で議論する。議論の結果、深まった内容を文章にまとめる。		
評価方法	平常点と、発表とレポートに依る。		
到達目標	卒業論文を執筆できる準備をする。		
授業時間外学習	1. 自分の卒業論文のテーマについて 200 字程度でまとめておく。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、ゼミの見通しを付けておくこと） 2. 配付資料 No.1「家族の歴史」 3. 配付資料 No.2「現代の家族」 4. 配付資料 No.3「地域社会・大都市」 5. 配付資料 No.4「地域社会・地方都市」 6. 配付資料 No.5「教育」 7. 配付資料 No.6「学校教育」 8. 配付資料 No.7「日本の企業」 9. 配付資料 No.8「日本の企業の変化」 10. 配付資料 No.9「労働と社会」 11. 配付資料 No.10「資本主義社会」 12. 配付資料 No.11「国家と政治」 13. 配付資料 No.12「国家と基本的人権」 14. 配付資料 No.13「メディアの特質」 15. 配付資料 No.14「現代のメディア」		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
積極的に参加してほしい。			
授業スケジュール			
１．ガイダンス ２．家族の歴史 ３．現代の家族 ４．地域社会・大都市 ５．地域社会・地方都市 ６．教育 ７．学校教育 ８．日本の企業 ９．日本の企業の変化 １０．労働と社会 １１．資本主義社会 １２．国家と政治 １３．国家と基本的人権 １４．メディアの特質			

１５．現代のメディア

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800C17
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
授業概要	本演習では，「感情」と「制御」を主たるテーマとして，それらに対する実証的なアプローチに関するスキル及び知識の獲得を目指す。受講者は，卒業研究の実施に向けて，先行研究の読解，研究計画，予備実験を行う。また，進捗をレジュメやパワーポイントのまとめて発表し，ゼミ内で互いに議論する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	関口貴裕・森田泰介・雨宮有里（編著）ふと浮かぶ記憶と思考の心理学：無意図的な心的活動の基礎と臨床　北大路書房 丹野義彦（2001）エビデンス臨床心理学 ―認知行動療法の最前線― 日本評論社		
教育方法	－		
評価方法	演習発表（50%）と，議論への参加の程度・内容（50%）を評価する。		
到達目標	自らの興味を既存の研究の文脈の中に位置づけることができる。 学術論文の内容を理解することができる。 読解した文献の内容をまとめ，発表することができる。 他者の発表を聴き，発表内容を理解し，疑問点について質問できる。		
授業時間外学習	発表担当者は，自分の発表に向けて計画的に準備し，発表にのぞんでもらいたい。また，発表を聴く立場にある学生は，事前に資料を読み，発表内容についての疑問点をまとめておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「感情」と「制御」について，データに基づいた卒業研究（実験・調査）を行うことを目指す学生の受講を望む。また，全 15 回の演習に遅刻・欠席なく参加することを前提とする。やむを得ず欠席する場合は，事前に担当教員に連絡すること。事前に心理統計学の授業を履修済みであることが望ましい。
演習では受講者に意見を求める機会を設ける。また，ディスカッションや発表を課す場合がある。各課題への積極的な参加を求める。

授業スケジュール

1. オリエンテーション 1 (授業概要の説明，発表担当回の決定)
2. 先行研究の精査
3. 先行研究の読解
4. 論文発表①―グループ①・②―
5. 論文発表②―グループ③・④―
6. 研究計画の立案
7. 研究計画の報告
8. 研究計画の修正
9. 研究計画の発表①―グループ①・②―
10. 研究計画の発表②―グループ③・④―
11. 研究の実施準備①―手続きと材料の精査―
12. 研究の実施準備②―材料の作成―
13. 今後の予定の発表①―グループ①・②―
14. 今後の予定の発表②―グループ③・④―
15. 個別面談（研究計画の詳細についての確認など）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50800D01
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	・卒業論文の作成に向けての演習である。卒論の構成を考えて、章立てをし、話の中身を詰めてゆく。研究の進展に応じて各人が報告し、他の受講生もまじえて質疑応答を行う。報告の際には必ず論文リストを提示すること。 ・できるだけ自分の力で作業を進めることが望ましいが、行き詰まった時や、悩んだ時は、遠慮なく担当教員と相談することが必要である。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生による発表で進めていく授業		
評価方法	発表（40%）レポート（40%）討論（20%）		
到達目標	・卒論の構成を考えながら、先行研究を読み込み、卒業論文を完成させる ・史料を読み込み、オリジナルな分析を行うこと		
授業時間外学習	・自らの発表の準備を入念に行う。 ・報告の要旨を記したレジュメを作成したうえで発表する。レジュメの末尾に必ず論文リストを添付すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・卒業論文は、これまでの学生生活の集大成です。自分が決めた課題について、貪欲に徹底的に調べ尽くしてください。この授業で培った調べる能力と、それをまとめて発表する能力は、皆さんが社会に出て行った時の武器になるはずです。
・自由に卒論テーマを決めて自由に研究を進めてゆくことは、実際にはかなり苦しいことです。その苦しさも含めて、楽しんでください。苦しんだ分だけきっと成長するはずです。
・１回目の授業で、夏休みの課題レポート(4000 字)を提出します。

授業スケジュール

1.ガイダンス(夏休みの課題レポートを提出し、研究の進展状況について一人 5 分で報告する)
2.発表 1 (中間報告会で発表予定のレジュメを提出し、一人 10 分で報告する)
3.発表 1 (中間報告会で発表予定のレジュメを提出し、一人 10 分で報告する)
4..歴史学コース卒業論文中間報告会 2 回目（合同ゼミでの発表会）
5.発表 2 (論文の構成とその内容について 20 分報告する)
6.発表 2 (論文の構成とその内容について 20 分報告する)
7.発表 2 (論文の構成とその内容について 20 分報告する)
8.発表 2 (論文の構成とその内容について 20 分報告する)
9.発表 3 (論文の構成とその内容、および執筆を始めてからの悩みについて 20 分報告する)
10.発表 3 (論文の構成とその内容、および執筆を始めてからの悩みについて 20 分報告する)
11.発表 3 (論文の構成とその内容、および執筆を始めてからの悩みについて 20 分報告する)
12.発表 3 (論文の構成とその内容、および執筆を始めてからの悩みについて 20 分報告する)
13.その他(論文執筆に際しての悩みについて個別に相談にのる)
14.卒論の最終確認
15.卒論の修正の相談

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800D02
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
授業概要	本演習は、専門ゼミCの受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	先行研究から調査の仕方、方法を学び、実際に自らが計画を立てて調査を実施する。調査はさまざまな機会を捉え、何回も行うことになるだろう。その成果をまとめて、必要な資料も添えて、提示しながらゼミ発表を行う。 発表に対する質問やアドヴァイスに応じて、それをさらなる理論的枠組みの強化や、調査方法の検討などに生かしていかなければならない。文献調査も軽んじてはならず、すでに先人が調査済みのことは、しっかりとその成果を活用すべきだろう。 そして、最終目的は卒業論文の執筆である。理論で見通しをつけ、文献探索によって関係資料を整理、紹介し、調査によって肉付けをすれば完成するだろう。		
評価方法	ゼミ生の発表（30%）と毎回の討論（30%）、11 月に行われる卒業研究の中間発表会での発表（40%）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
授業時間外学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
すべては卒業研究のために生かされなければならないので、これまでの発表、研究を総合的に活用できるように、無駄にせずに戦略を練るべきだろう。先行研究や文献資料などを、行き当たりばったりに使うのではなく、蓄積して、後から活用できるようにしておかなければならない。			
授業スケジュール			
１　卒論の準備状況の発表 ２～９　ゼミ生の発表と討論 １０　卒論中間発表会（歴史民俗学専攻全体） １１～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800D03
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	受講生の卒業研究のテーマに合わせて展開する。 １０月に題目を決定し 中間発表を目標に準備、 書き進めながら、ほかのメンバーに内容を知ってもらい 質問を受け、意見交換をする。		
教材（教科書）	受講生のテーマに共通するものがあれば用いる		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	卒業論文の題目を決める 卒業論文の中間発表に向けて準備を行う。 下発表を行う。 中間発表後はそれぞれの進捗状況を ゼミの中で発表し批評や意見交換を行う。		
評価方法	授業中の発言による他の学生への貢献、調査などの実績、授業中の発表。		
到達目標	テーマを詳しく調べる力を養うこと 誰にでもわかるように話し、説得力があるようになること 卒業研究を完成させること		
授業時間外学習	自分の興味のあるテーマを考えること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業に出席するだけでなく、積極的に自分のテーマを発見し 卒業研究にむけて調査をしていくこと			
授業スケジュール			
１　各自テーマの選定 ２　図書館で調査～カードの取り方 ３　小発表と討論 ４　小発表と討論 ５　書誌学的調査の方法 ６　調査 ７　参考文献の紹介 ８　参考資料の紹介 ９　先行研究を考える １０　先行研究の紹介 １１　発表 １２　発表 １３　課題を考える １４　課題を考える １５　論文の細かい注意点など			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★	－

年度	2018	授業コード	J50800D04
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	卒論作成の具体的な作業を行う。春学期演習ⅡＡの成果を踏まえ、大まかなテーマから徐々にテーマを絞って行き、少なくとも１０月中期段階で明確なテーマを見つけ出すことを目標とする。その後、先行研究の調査を十分に行った上で、さらにテーマにふるいをかけて、実際に書き進める作業に入る。		
教材（教科書）	特定のものはなし。		
教材（参考資料）	適宜紹介はするが、最小限に留める。		
教育方法	発表形式。		
評価方法	論文がすべて。１００％		
到達目標	学部レベルの卒論を書き上げることが最低限の目標だが、実際には「論文」として一般に通用するもの書けるようになる。		
授業時間外学習	授業終了時に自己の進捗状況をチェックしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件　なし
受講のルール　私語厳禁
学習上の助言　焦らず、念入りに調査すること。卒論の完成ばかりを気にしないで執筆までの準備期間を大切にすること。

授業スケジュール

１．先行研究の研究（１）
２．先行研究の研究（２）
３．先行研究の研究（３）
４．論文テーマの吟味（１）
５．論文テーマの吟味（２）
６．進捗状況の発表
７．進捗状況の発表
８．進捗状況の発表
９．進捗状況の発表
１０．専攻主催の卒論中間発表
１１．論文検討
１２．論文検討
１３．論文検討
１４．論文検討
１５．論文検討

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800D05
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	本演習は、専門ゼミＣの受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、３回生演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	発表者のレジュメ、パワーポイント		
評価方法	ゼミ生の発表（70%）と毎回の討論（20%）、11 月に行われる卒業研究の中間発表会での発表（10%）		
到達目標	プレゼンテーション、討論、論文作成を目標とする。		
授業時間外学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論、及び卒業論文の作成を望みます。			
授業スケジュール			
１　卒論の準備状況の発表 ２～９　ゼミ生の発表と討論 １０　卒論中間発表会（歴史民俗学専攻全体） １１～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50800D06
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	卒業研究の指導を行う。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	学期開始時の発表（40%） 卒業研究の制作進行（60%）		
到達目標	各自の卒業研究制作を通じて、独創的発想・論理的思考・粘り強い調査・明快な文章作成能力の、実質的な伸長を図る。		
授業時間外学習	卒業研究を執筆して教員にメールで送り、次回の個別指導に備える。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
卒業研究は大学での学習の総まとめである。生涯の記念とする気構えで制作に臨むこと。			
授業スケジュール			
受講者の人数・状況に応じて柔軟に対応する。 １　卒業研究・創作　合同中間発表会 ２～１５　卒業研究の執筆分を報告。その問題点の指導、書き直し、今後の執筆作業の見通し、調査上の問題点などについて、個別に綿密な指導を行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J50800D07
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	本演習は、専門ゼミ C の受講生が引き続き受講することを原則とします。したがって、演習のテーマは上記演習を継承し、卒業論文を作成することが目的となります。 受講生は、これまでの演習で行ってきた発表を土台に、卒業論文のテーマを設定し、資料調査やフィールドワークを行い、卒論の焦点をしぼる作業を行います。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。その上で、卒業論文の内容を深め、卒論の作成を行います。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	ゼミ生の発表（70%）と毎回の討論（30%）。なお 11 月に行われる卒業研究の中間発表会での発表は必須である。		
到達目標	レベルの高いプレゼンテーション、活発な討論、卒業論文の完成を目標とする。		
授業時間外学習	発表に際する早めの文献調査、フィールドワーク、レジュメ、パワーポイントの作成を準備しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論、及び卒業論文の作成を望みます。			
授業スケジュール			
１.卒論の準備状況についての確認 ２.～９.ゼミ生の発表と討論 １０.卒論中間発表会（民俗学コース全体） １１.～１５ .ゼミ生の発表と討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50800D08
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	いよいよ4年間の大学生活の集大成である卒業論文執筆に取りかかります。分析を、一章ごとに、一歩ずつ進めていき、最終的に論文を書き上げることになります。年内に、論文を一度書き上げることを目標として、逆算して作業を計画的に進めていきましょう。この授業では、段階に応じて各人が報告を行い、他の受講生もまじえた質疑応答を行います。さらに担当教員のコメントと指導を受けることで、研究を深めていきます。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	学生による発表で進めていく授業		
評価方法	発表（60%） 討論（40%）		
到達目標	・一定水準以上の卒論を執筆すること ・自らのテーマに関して適切な先行研究を収拾して、その成果を理解すること ・自らのテーマに関して適切な史料を読み込み、オリジナルな分析を行うこと		
授業時間外学習	専門ゼミ D の発表=卒論の執筆経過報告となります。とにかく卒論のために机に向かうことが重要になります。秋学期は最低1日1時間は卒論のために時間を割いてください。最終的には1日中、卒論執筆にとりかかることになります。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
卒業論文は、あなたがどのような学生生活を送り、何を学んだのかを表現する手段です。 自らの課題に関して、どこまでも貪欲に、調べて調べて調べつくしてください。			
授業スケジュール			
1・2　発表その1　テーマ：卒論の全体像を考える 発表内容：卒論の各章の構成の確認、夏休みの成果報告、今後の方向性の確認 3～6　発表その2　テーマ：先行研究をまとめる 発表内容：卒論の1章分10頁くらい文章を書いてみる 報告レジュメは実際の文章 7～10　発表その3　テーマ：オリジナルの考察を深める 発表内容：論文のなかでもっとも売りの部分を文章化してみる 報告レジュメは実際の文章 11～13　発表その4（1回2人）　テーマ：とりあえず書く、どんどん書く 発表内容：卒論の目次と全体の内容の再考+新しく文章化したところ 14　卒論提出のための最終確認 15　卒論修正のための相談会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J50800D09
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	各自の卒業研究指導、進路に関する相談などを目的として、大学生活最後の１年間であることを意識しながら、各時間を活用できる。		
教材（教科書）	とくに指定しない。また、必要に応じてプリント類を配布する。		
教材（参考資料）	都筑学著「心理学論文の書き方～おいしい論文のレシピ～」 有斐閣アルマ 2,052 円		
教育方法	学生と教員が相互にやりとりして進める。		
評価方法	受講態度などの平常点（５０%）、授業内の課題への取り組みの評価点（５０%）。		
到達目標	各自のテーマにそった卒業研究の実施と完成。		
授業時間外学習	自分の卒業研究の完成に向けたあらゆる準備を行なうこと。その進行具合や内容について随時チェックを行なう。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

就職活動を行ないながらの出席、卒業研究の実施、完成となるが、大学での学習の締めくくりなので頑張ってほしい。

授業スケジュール

１．卒業研究と進路について
２．卒業研究に関する個別相談指導等(前半グループ)
３．同(後半グループ)
４．卒業研究の中間プレゼンテーションと全体での検討(第１グループ)
５．同(第２グループ)
６．同(第３グループ)
７．社会的自立に向けて(日本語)
８．社会的自立に向けて(英語)
９．社会的自立に向けて(社会的マナー)
１０．社会的自立に向けて(地理)
１１．社会的自立に向けて(法律や制度)
１２．社会的自立に向けて(その他)
１３．卒業研究についての最終確認
１４．「発達臨床心理学」の基礎知識の確認
１５．最後の授業にあたって
※上記の内容や順序は変更があり得る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50800D10
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	卒業研究を進め、論文作成の指導を中心に行う。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	卒業研究についての研究発表、討論。		
評価方法	平常点：討論への参加状況など（５０％） 発表及びその内容をまとめたレポート（50%）		
到達目標	卒業論文の作成。		
授業時間外学習	発表の関連文献を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
能動的に、積極的に研究に取り組むこと。			
授業スケジュール			
1　　オリエンテーション 2　　卒業研究の中間発表 3　　卒業研究の中間発表 4　　卒業研究の中間発表 5　　卒業研究の中間発表 6　　卒業研究の中間発表 7　　卒論指導 8　　卒論指導 9　　卒論指導 10　卒論指導 11　卒論指導 12　卒論指導 13　卒論指導 14　卒論指導 15　発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50800D11
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
授業概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索できるようになる。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生ゼミでの研究成果を発展させて卒業研究を行い、各自で卒業研究レポートまたは卒業論文にまとめる。卒業研究レポートは卒業論文の半分（6000 字）程度の分量を目安としている。		
教材（教科書）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
教材（参考資料）	事業中適宜指示する		
教育方法	Edmodo を通じて教材配布と課題提出を行う		
評価方法	平常点（40%)と、発表(20%)、提出物(40%)により評価する。		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。３回生ゼミから引き続き、これらの力を養うことを目標とします。		
授業時間外学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する データ分析や論文執筆などを、各自で行う		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
授業スケジュール			
第 1 回　本実験計画プレゼンテーション＆ディスカッション　1 第 2 回　本実験計画プレゼンテーション＆ディスカッション　2 第 3 回　本実験計画プレゼンテーション＆ディスカッション　3 第 4 回　データスクリーニングの方法 第 5 回　データ解析の方法　1 第 6 回　データ解析の方法　2 第 7 回　仮説に対応する結果の書き方 第 8 回　本実験結果プレゼンテーション　1 第 9 回　本実験結果プレゼンテーション　2 第 10 回　本実験結果プレゼンテーション　3 第 11 回　卒論の書き方　序論 第 12 回　卒論の書き方　方法と結果 第 13 回　卒論の書き方　図表と資料 第 14 回　卒論の書き方　考察と文献リスト 第 15 回　振り返りとフィードバック			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800D12
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
授業概要	コミュニケーション、広告広報、マーケティング、メディア、表現文化、地域づくりなどをテーマとする卒業論文の執筆、作品制作を行う。4 回生春学期時提出のテーマ、章立てと草稿を深め、必要な調査や分析、制作を行い、最終稿・作品を仕上げる。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	受講生のテーマに応じ、適宜指示する。		
教育方法	各受講生の卒業研究の個別発表を進めるとともに、ゼミ生全員で共通のテーマについて発表・ディスカッションを行う。適宜プリントや映像資料を活用する。		
評価方法	平常点（40%）：自己のテーマでの発表、広報媒体・メディア表現などの制作 卒業研究（60%）：論文ないし作品		
到達目標	自己のテーマをきわめ、卒業研究ないし作品としてまとめあげるとともに、就職活動や卒業後に学部での自分の専攻はこれだと明言できるように各自が努力を行う。		
授業時間外学習	1）自己のテーマに役立つ文献やウェブサイトを自ら閲読し、また参考・目標とするメディアやマーケティングの事例、作品表現や広告表現（映画、番組、音楽、SNS、CM、印刷広告、インターネット広告等）の情報や作例は日頃から収集しておくこと。 2）他の受講生の卒業研究・制作についても、事前に目を通して、ゼミ内で質問や意見を出せるよう準備すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
テーマに自分なりの関心を持ち、専門分野で必要な知識や方法を身につけたいと考えている人の参加を希望します。関心のある人には楽しいゼミとなるはずです。			
授業スケジュール			
各受講生の卒業研究の個別発表を進めるとともに、ゼミ生全員で共通のテーマについて発表・ディスカッションを行う。 ＜講義予定＞ 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（1） 第 3 回：各自の卒業研究テーマとすすめ方の相談（2） 第 4 回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第 5 回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第 6 回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第 7 回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第 8 回：卒業研究の進捗報告・ディスカッション 第 9 回：卒業研究の発表・指導 第 10 回：卒業研究の発表・指導 第 11 回：卒業研究の発表・指導 第 12 回：卒業研究の発表・指導 第 13 回：卒業研究の発表・指導 第 14 回：卒業研究の発表・指導 第 15 回：秋学期のふりかえり			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J50800D13
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
授業概要	私たちはどんなコミュニケーションを?なっているのか、現代社会はどんなコミュニケーションを?なう社会なのかという視点から、現代社会を考える。 4 回?の秋学期では、これまでの研究成果をもとに、中間報告を行ない、卒業論文を完成させる。		
教材（教科書）	必要に応じて、授業中にプリント教材を配付する。		
教材（参考資料）	なし。		
教育方法	中間報告、卒業論文の相互添削は、学?の発表とディスカッションにより?なう。他の受講?の発表の際は積極的に質問・意?を出してもらう。また他の受講?の発表の際の司会も交代で担当する。研究発表以外は、ゼミ担当教員による資料提?と、それに基づく実習により?なう。		
評価方法	発表、ディスカッション等の平常点（50%）、卒業論文（50%）。		
到達目標	・研究成果をわかりやすく説得力をもって発表することができる。 ・研究成果をわかりやすく説得力をもって学術論文の形式で表わすことができる。		
授業時間外学習	・報告の準備をする。紙媒体のレジュメは必須とする。必要に応じて、他のメディアも準備する。 ・卒業論文を執筆する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・無断?席は厳禁とする。
・発表担当?は?席しないこ と。
・発表の準備は、他のすべてのスケ ジュールよりも優先させること。

授業スケジュール

《ガイダンス》
1. この科目のねらい、スケジュールの概説、発表順序の決定

《中間報告会》
2. 発表 1 回?（担当者 2?）発表内容?中間報告
3. 発表 1 回?（担当者 2?）発表内容?中間報告
4. 発表 1 回?（担当者 2?）発表内容?中間報告
5. 発表 1 回?（担当者 2?）発表内容?中間報告

《卒業論文の執筆》
7. 長文ライティングのコツ(1)
8. 長文ライティングのコツ(2)
9. 発表 2 回目（担当者 4 人）発表内容：卒業論文の原稿　これに基づく相互添削
10. 発表 2 回目（担当者 4 人）発表内容：卒業論文の原稿　これに基づく相互添削
11. 発表 3 回目（担当者 4 人）発表内容：卒業論文の原稿　これに基づく相互添削
12. 発表 3 回目（担当者 4 人）発表内容：卒業論文の原稿　これに基づく相互添削

《成果物の整理》
13. 研究協力者へのフィードバック原稿の作成
14. 卒業論文集の作成(1)
15. 卒業論文集の作成(2)

※上記の計画は受講?8?を想定した計画である。受講? の数により、発表者数・発表時間は増減する可能性がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J50800D14
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
授業概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。4 回生前期までに行った学習をもとに，各自の研究テーマにしたがって実験や調査等の実証研究を行い，卒業研究を完成させる。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	各回の担当の学生の発表と，それに対する討論を中心に，演習形式で授業を進める。		
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(50%)と，卒業研究の論文およびその研究発表(50%)によって評価する。		
到達目標	卒業研究を進め，科学的拳銃論文の用件を備えた論文を完成させる。 自身の卒業研究を。発表の聴取者が適切に理解できるように，研究発表を行う。		
授業時間外学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。 その他の学生も，卒業研究の進行状況について，週の成果を簡潔に毎回報告すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。			
授業スケジュール			
1. 研究の進行状況に関する発表と討論 2. 実験・調査の実施状況の検討 3. 実験・調査の実施状況の検討 4. 実験・調査の実施状況の検討 5. 実験・調査の実施状況の検討 6. 実験・調査の結果分析 7. 実験・調査の結果分析 8. 実験・調査の結果分析 9. 実験・調査の結果分析 10. 論文作成 11. 論文作成 12. 論文作成 13. 研究発表の準備と練習 14. 研究発表の準備と練習 15. 研究発表会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50800D15
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
授業概要	ゼミ生が中心になって学んでいく授業です。責任をもってしっかり参加して下さい。		
教材（教科書）	特になし　適宜指示する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	ゼミ形式で行う。		
評価方法	授業への積極的な参加		
到達目標	テーマを絞り、それについて調べ、まとめること。		
授業時間外学習	自分の興味あるテーマに沿って文献を読むこと.読むべき文献については個別で相談の上検討します。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自分で興味をもって学んで下さい。			
授業スケジュール			
1 オリエンテーション 2 個別面談・文献講読（こちらが指定します） 3 個別面談・文献講読（こちらが指定します） 4 文献講読（こちらが指定します） 5 文献講読（こちらが指定します） 6 各自のテーマに沿って発表 7 各自のテーマに沿って発表 8 各自のテーマに沿って発表 9 各自のテーマに沿って発表 10 各自のテーマに沿って発表 11 各自のテーマに沿って発表 12 各自のテーマに沿って発表 13 各自のテーマに沿って発表 14 各自のテーマに沿って発表 15 各自のテーマに沿って発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50800D16
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
授業概要	現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究の成果を発表する。それに関して全員で議論を行い、理解を深める。研究の総まとめとして卒業論文を執筆する。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースについても研究する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	授業時に指示する。		
教育方法	受講者のテーマに沿った研究内容の報告を受け、それについて全員で議論する。議論の結果、深まった内容を文章にまとめる。		
評価方法	平常点と、発表とレポートに依る。		
到達目標	卒業論文を執筆する。		
授業時間外学習	1. 自分の研究テーマについて 200 字程度でまとめておく。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、授業の見通しを付けておくこと） 2. 配付資料 No.1「社会の高齢化」 3. 配付資料 No.2「現代の高齢社会」 4. 配付資料 No.3「社会の情報化」 5. 配付資料 No.4「現代の情報社会」 6. 配付資料 No.5「国際化と外国人」 7. 配付資料 No.6「日本社会の外国人」 8. 配付資料 No.7「社会の近代化」 9. 配付資料 No.8「近代化の負の側面」 10. 配付資料 No.9「宗教と社会」 11. 配付資料 No.10「現代社会の宗教」 12. 配付資料 No.11「社会の文明化」 13. 配付資料 No.12「弁明が社会に当てる影響」 14. 卒業論文を執筆 １5. 卒業論文を推敲		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
積極的に参加してほしい。			
授業スケジュール			
１．ガイダンス ２．社会の高齢化 ３．現代の高齢社会 ４．社会の情報化 ５．現代の情報社会 ６．国際化と外国人 ７．日本社会の外国人 ８．社会の近代化 ９．近代化の負の側面 １０．宗教と社会 １１．現代社会の宗教 １２．社会の文明化 １３．文明が社会に与える影響 １４．卒業論文執筆			

１５．卒業論文発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50800D17
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
授業概要	本演習では，「感情」と「制御」をテーマとする卒業研究の完成を目指す。受講者は，各自の設定したテーマで卒業研究を行い，適宜，その進捗をレジュメやパワーポイントでまとめて発表する。それらの内容に関する議論を通して，論理的な思考力とプレゼンテーション能力を獲得する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	なし		
評価方法	進捗の報告(20%)と卒業論文の内容(80%)から評価する。		
到達目標	自身の力で研究を計画・実施できる。 得られたデータを適切な方法で分析できる。 卒業論文を執筆できる。 自らの研究についてまとめ，発表できる。		
授業時間外学習	発表担当者は，自分の発表に向けて計画的に準備し，発表にのぞんでもらいたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「感情」と「制御」について，データに基づいた卒業研究（実験・調査）を行うことを目指す学生の受講を望む。また，全 15 回の演習に遅刻・欠席なく参加することを前提とする。やむを得ず欠席する場合は，事前に担当教員に連絡すること。事前に心理統計学の授業を履修済みであることが望ましい。
演習では受講者に意見を求める機会を設ける。また，ディスカッションや発表を課す場合がある。各課題への積極的な参加を求める。

授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. 卒業研究の進捗報告
3. 卒業研究の方針決定
4. 卒業研究の実施―手続きと材料の精査―
5. 卒業研究の実施―材料の作成―
6. データ収集
7. データ整理
8. 中間報告会
9. データ収集・整理
10. データと分析方針の確認
11. 卒業論文の作成・チェック―グループ①・②－
12. 卒業論文の作成・チェック―グループ②・④－
13. 最終報告会準備
14. 最終報告会準備
15. 卒業研究の最終報告・総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50801A01
科目名	フィールドワーク京都 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	フィールドワーク形態の授業。「京都歩き」をコンセプトとして、京都地域に所在する史跡、文化遺跡、遺構、文化施設、歴史や文学に関わる名所旧跡などについて、調査・探訪・発表する。		
教材（教科書）	適宜紹介する。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	野外観察活動形式。		
評価方法	各回終了時に課するレポートにより評価する。１００％		
到達目標	京都の文化に触れ、そのよき理解者となる。		
授業時間外学習	探訪先について、事前に文献等で調査しておくこと.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講ルール　授業には交通費・拝観料を要することがある。
授業は不定期に実施するので、実施日に注意すること。
京都学園大学生としての自覚を忘れず、模範的に行動すること。

学習上の助言　ネットや書籍を利用して、事前学習をすると興味が倍増する。

授業スケジュール

授業は下記の日程で、１回につき５校時ずつ実施する。

第一回　月日　4 月 14 日（土）
集合場所　京都太秦キャンパスラーニングコモンズ
集合時間　午前９時
探訪場所　京都御所・廬山寺・下鴨神社
費用　交通費　廬山寺拝観料（５００円）が必要。

第二回　月日　5 月 12 日(土)
集合場所　東山七条の京都国立博物館正門前
集合時間　午前１０時
探訪場所　京都国立博物館
費用　入館料

第三回　月日　6 月 23 日（土）
集合場所　太秦キャンパス　東館南側
集合時間　午前 9 時 30 分
探訪場所　比叡山延暦寺と三井寺
費用　交通費不要。昼食代と拝観料

なお、各回とも学生証を必ず持参すること。
また、この授業では学生諸君から最大 3000 円は徴収が可能になっている。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★	−	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J50801B01
科目名	フィールドワーク京都 B	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	フィールドワーク形態の授業。「京都歩き」をコンセプトとして、京都地域に所在する史跡、文化遺跡、遺構、文化施設、歴史や文学に関わる名所旧跡などについて、調査・探訪・発表する。		
教材（教科書）	適宜紹介する。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	野外活動形式。		
評価方法	各回終了時に課するレポートにより評価する。100%		
到達目標	京都の文化に触れ、そのよき理解者となる。		
授業時間外学習	探訪先について、事前に文献等で調べておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業には、交通費・拝観料を要することがある。
授業は不定期に実施するので、実施日に注意すること。
京都学園大学生としての自覚を忘れず、模範的に行動すること。

授業スケジュール

授業は下記の日程で、１回につき５校時ずつ実施する。

第一回　　月日　　10 月 13 日（土）
集合場所　京都学園大学京町家
集合時間　9 時 30 分
探訪場所　平安京大内裏・内裏跡・平安京創生館・風俗博物館
費用　　交通費　風俗博物館入館料 500 円

第二回　　月日　　11 月 3 日（土）
集合場所　百万遍交差点南東角
集合時間　午前 9 時 30 分
探訪場所　京大総合博物館　京大構内　相国寺承天閣美術館　同志社構内
費用　　交通費　博物館美術館入館料が必要。

第三回　　月日　　12 月 1 日（土）
集合場所　京町家キャンパス
集合時間　午前 9 時
探訪場所　銀閣寺
費用　　銀閣寺は拝観料(500 円)が必要。

なお、各回、学生証を必ず持ってくること。
また、この授業では、学生諸君から最大 3000 円の徴収が可能となっている。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J50802101
科目名	社会意識論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
授業概要	みなさんは、これまできっと、漫画や映画などを通じて、いろいろな「物語」を楽しんできたと思います。物語は、自分とは何の関係もない作り事なのに、なぜ面白かったり感動したりするのでしょうか。そこにはどんなカラクリや感情や現実が隠されているのでしょうか。 この授業では、こちらからいろいろな物語を紹介するとともに、みなさんにも自分の好きな物語を紹介してもらいます。昔話や漫画、あるいは映画など、なんでも結構です。そして、その物語のどんなところが面白いのか、なぜ魅力的なのか、などについて一緒に考えていきます。さらに、その物語のなかに、どんな個人的な願望や社会的・集合的な現実・価値観・世界観などが織り込まれているのか、探っていきます。 ところで、この授業の名称である「社会意識」とは、一つの社会のなかで広く共有される価値観・偏見・美意識・ものの感じ方などの総称です。授業では、こうした物語の分析を通して、この社会意識を読みとる視点と方法を身につけて行きます。そのさい、この作業に必要な、社会学や心理学をはじめとする人文学的研究の諸成果を幅広く紹介し、そのことで、みなさんが社会のなかで生きる人間をより深く多面的に理解できるように導きたいと思います。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	毎回の授業でプリントを配る。		
教育方法	講義法を中心にするが、適宜意見を求め、小レポートを書いてもらう。また発表を２回（受講生が多ければ１回）してもらう。毎回の授業でプリントを求める。		
評価方法	授業内小レポートなどによる平常点（40%）＋授業内での発表（30%）＋授業内小テスト（30%）		
到達目標	神話・昔話・小説・映画・漫画などの物語のなかに込められた、社会的・心理的な要素・意味を洞察する視点と方法を、人文研究の諸成果のエッセンスを学びながら、身につけること。		
授業時間外学習	授業内での発表を２回（ないし１回）担当しますので、そのための準備をしてください。また、物語をあらかじめ読んできてもらうことがあります。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業の主役は、あなたです。授業の進行に積極的に関与して、いろいろしゃべって、よい発表をしてくれることを大いに期待しています。また、受講者の人数によって授業の進行の仕方が変わりますので、そのつもりでいてください。			
授業スケジュール			
１・社会意識とは何か ２・意識と無意識について ３・無意識とその表現について ４・物語と願望 ５・物語と無意識的願望 ６・神話・昔話の心理学的解釈 ７・社会構造の人間への精神的影響 ８・社会と無意識的願望 ９・現代的な物語の社会学的・心理的解釈、その１ 10・現代的な物語の社会学的・心理的解釈、その２ 11・個人発表、その１ 12・個人発表、その２ 13・個人発表、その３ 14・物語のなかの人間と社会、その１			

15・物語のなかの人間と社会、その 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J50802A01
科目名	文化人類学 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中谷　和人	旧科目名称	
授業概要	文化人類学は、他者について学ぶことを通して、自分自身を不断に変容させてゆく学問です。これは、この学問が「フィールドワーク」（現地調査）という方法を土台にしてきたことと深く関連しています。この授業では、こうした文化人類学のエッセンスを、さまざまな地域／領域における具体的な事例と共に学ぶことで、文化人類学的な思考と実践のための感性を磨くことを目指します。		
教材（教科書）	教科書は使用しません。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示します。		
教育方法	パワーポイント、DVD を活用するとともに、適宜資料を配布します。		
評価方法	授業後の質問・感想（20%）、期末レポート（80%）		
到達目標	文化人類学の基本的な方法と知見を具体的な事例と共に学ぶことで、他者と自己の世界についての「当たり前」を疑い、それをより深いところから捉え直すための新しい視座の獲得を目指します。同時にこの学びを、身近な出来事や自分自身の体験と関連づけて熟考し、自分の言葉で人に説明できるようになることを目標にします。		
授業時間外学習	あなたが最近出会った「他者」について考えてくること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この講義は授業後の復習を重視しています。配布資料を読み返しながら授業内容を振り返り、身近な出来事や自分の体験に照らして熟考する中で、文化人類学を一般的知識としてだけでなく、世界や自分自身を新しく捉え直すための方法として学ぶことを目指しています。

授業スケジュール

1. イントロダクションーなぜ文化人類学を学ぶのか？
2. マリノフスキとクラ―贈与がつくる社会関係
3. 野生のナヴィゲーション―イヌイットにおける移動と動物に「なる」こと
4. レヴィ＝ストロースの思想(1)―「構造」の発見
5. レヴィ＝ストロースの思想(2)―神話とブリコラージュ
6. 「文化」概念再考―誰が文化を語る権利を持つのか？
7. 前半のまとめ
8. 生命を人類学的に考える(1)―アニミズムと「心」の問題
9. 生命を人類学的に考える(2)―動きが生命をつくる
10. 医療を人類学的に考える(1)―病いと疾患
11. 医療を人類学的に考える(2)―医療人類学の現在
12. 芸術を人類学的に考える(1)―誰が「アール・ブリュット」を語るのか？
13. 芸術を人類学的に考える(2)―芸術の生態学に向かって
14. 芸術を人類学的に考える(3)―「線」が物語る生
15. 全体のまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J50802B01
科目名	文化人類学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中谷　和人	旧科目名称	
授業概要	芸術作品は何を「する」のか？アルフレッド・ジェルは、彼の遺作となった『芸術とエージェンシー』(1998年）において、芸術的な対象/物（西洋のいわゆる「芸術作品」だけでなく、宗教的な偶像や呪物、装飾模様なども含む）が社会関係の中で「仕事をする」様態について分析しました。それは芸術を美や象徴的意味の観点から論じる既存の方法とは全く異なった、「人類学的」な芸術理論の構築を目指すものでした。この授業では、芸術の人類学のみならず、芸術理論一般に対しても大きな影響を及ぼしてきたこの著作を読みながら、芸術が今日の私たちの生にもたらす可能性について考えます。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	原著（Art and Agency: An Anthropological Theory, 1998 Oxford University Press）は高価なので教材には指定しません。レジュメと日本語の引用集を配布資料として用います。		
評価方法	授業後の質問・感想（20%）、期末レポート（80%）		
到達目標	ジェルの著作を深く読み解く中で、芸術についてのステレオタイプ的な見方を脱し、世界とそこに生きる私たちの生をもっと面白く捉え直すための感性を磨くことを目標とします。		
授業時間外学習	「芸術とは何か？」という問いに自分ならどう答えるかを考えておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この講義では、より創造的な眼で世界を見直してみたいという熱意を重視しています。授業内容を身近な出来事や事物、また自分自身の体験と関連づけながら熟考することが求められます。芸術に関する事前の知識は必ずしも必要ありませんが、受講者は同じ担当者による「文化人類学 A」を受講しておくことが望ましいです。

授業スケジュール

1. イントロダクション―『芸術とエージェンシー』を読む目的
2. 第 1 章 問題の定義：芸術の人類学の必要性
3. 第 2 章 芸術のネクサス理論
4. 第 3 章 芸術のネクサスとインデックス
5. 第 4 章 芸術のネクサスにおけるインデックスの内旋
6. 第 5 章 インデックスの創生
7. 第 6 章 インデックスの批評
8. 第 7 章 分配された人格(1)
9. 第 7 章 分配された人格(2)
10. 第 7 章 分配された人格(3)
11. 第 8 章 様式と文化(1)
12. 第 8 章 様式と文化(2)
13. 第 9 章 結論：拡張した心(1)
14. 第 9 章 結論：拡張した心(2)
15. まとめ―世界の再魔術化のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J50803A01
科目名	歴史学特殊講義（近現代） I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平良　聡弘	旧科目名称	
授業概要	本授業のテーマは、「幕末維新の政治社会と人物群像」です。今年は「明治 150 年」にあたり、全国的に記念事業が催される予定ですが、この機会に、明治の幕開けとなった幕末維新の歩みについて、歴史学的に眺め直してみようというのが狙いです。 授業の前半では、幕末維新期における政治社会の展開過程について、研究史をふまえながら、概説的な流れをおさえていきます。後半では、幕末維新期に実在した人物をとりあげ、その人物の軌跡を通じて幕末維新という時代の特質を考えていきます。 なお授業は、主に講義形式で進めますが、小レポートを課したり話を振るなど、学生の諸君とのコミュニケーションをはかるつもりです。		
教材（教科書）	とくに使用しません。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介します。		
教育方法	毎回、レジュメ・資料プリントを配布します。		
評価方法	平常点（出席・授業態度・小レポート等）50％　＋　学期末課題 50％		
到達目標	「なんとなくそうだと思っていること（思わされていること）」を疑い、みずからの考えを変えていける柔軟性と思考力を、歴史を題材に身につける。		
授業時間外学習	授業のなかで紹介する文献に目を通す。 授業のあとにはかならず、レジュメ・資料プリントを読みなおし、復習する。 歴史を題材にした映画・ドラマ・小説などにふれる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日本史に関する知識の多寡は問いません。授業で得たものを通じて自分で考えること、これだけを望みます。 ばくぜんと受け身で授業に臨むのではなく、問題関心をもって能動的な姿勢を求めます。 なお、授業態度については厳しく対処します（とくに途中退席・スマホなど）。			
授業スケジュール			
1　ガイダンス 2　日本の開国 3　幕末政治の展開 4　維新の諸相 5　日本近代の明治維新像 6　大久保利通と西郷隆盛　―薩摩藩「誠忠組」の若人たち― 7　木戸孝允と高杉晋作・久坂玄瑞　―吉田松陰の「遺志」を継ぐものたち― 8　坂本龍馬と中岡慎太郎　―新たな国家を目指して― 9　近藤勇　―浪士組から新撰組へ― １０　徳川慶喜　―大政奉還の真意やいかに？― １１　岩倉具視　―王政復古への道― １２　湯浅五郎兵衛　―名もなき志士の軌跡― １３　羽山大学　―政治情報を求める地方知識人― １４　若山要助　―洛中郊外から見た幕末維新― １５　アーネスト・サトウ　―英国外交官の見た幕末維新―			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50803B01
科目名	歴史学特殊講義（近現代）II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平良　聡弘	旧科目名称	
授業概要	本授業のテーマは、「外国から見た日本の近代」です。外国人が日本の近代をどのように認識していたのか、同時代の外国人の言説や図像にふれながら、日本の近代史を多面的に再考することを狙いとしています。 具体的には、外国で刊行されていた新聞・雑誌、日本に設けられた居留地に居住する外国人が発刊した居留地新聞、来日・滞在・帰化した外国人の日記・随筆・紀行文にもとづき、外国人の日本イメージについて理解を深め、日本の近代史を外の視点から見直そうと試みます。 本授業の性格上、使用する資料はもとは外国語のものですが、私のほうで翻訳したものや翻訳刊行文献を用いますので、外国語が読めなくてもまったく支障ありません。 なお授業は、主に講義形式で進めますが、小レポートを課したり話を振るなど、学生諸君とのコミュニケーションをはかるつもりです。		
教材（教科書）	とくに使用しません。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介します。		
教育方法	毎回、レジュメ・資料プリントを配布します。		
評価方法	平常点（出席・授業態度・小レポート等）50%　＋　学期末課題 50%		
到達目標	「なんとなくそうだと思っていること（思わされていること）」を疑い、みずからの考えを変えていける柔軟性と思考力を、歴史を題材に身につける。		
授業時間外学習	授業のなかで紹介する文献に目を通す。 授業のあとにはかならず、レジュメ・資料プリントを読みなおし、復習する。 歴史を題材にした映画・ドラマ・小説などにふれる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日本史に関する知識の多寡は問いません。授業で得たものを通じて自分で考えること、これだけを望みます。 ばくぜんと受け身で授業に臨むのではなく、問題関心をもって能動的な姿勢を求めます。 なお、授業態度については厳しく対処します（とくに途中退席・スマホなど）。			
授業スケジュール			
1　ガイダンス 2　不平等条約と日本近代 3　日本開国運動から見た日本 4　外国新聞・雑誌から見た日本開国 5　外国新聞・雑誌から見た幕末維新 6　外国新聞・雑誌から見た文明開化 7　外国新聞・雑誌から見た日本の近代化 8　外国新聞・雑誌から見た日清・日露戦争 9　「日本的市場」論 １０　「日本的社会」論 １１　「日本的精神」論 １２　ジャパノロジーの成立 １３　アジアイメージのなかの日本 １４　オリエンタリズムと「文明化の使命」論 １５　「日本文化」論について考える			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50804A01
科目名	口承文芸論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	本講義は口承文芸の作品を紹介すると共に口承文芸に関する先行研究を検討するものです。口承文芸とは、語られたもの、歌われたもののことを言います。例えば昔話、神話、語り物、歌、うわさ話、諺、ジョークが、これに該当します。一見するとこれらは、たいへん古くさく（実際たいへん長い歴史をもっています、文字が発明される前から、世界各地で話され歌われてきました）みえますが、コンピュータゲームやポップミュージックなどの現代文化とも密接に結びついています。口承文芸は何時の時代でも、古くてかつ斬新なものなのです。 Ａでは口承文芸の作品に親しむことからはじめ、作品分析の主要な方法論を理解することを目標にします。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	レポート（７０％）　授業内提出物（３０％）		
到達目標	作品分析の主要な方法論を理解すること。		
授業時間外学習	次週に取り上げる作品は予め配布しておくので、熟読してくること。また授業で取り上げた分析方法をよりよく理解するために、関連文献を授業中に示すので、読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。

授業スケジュール

1.口承文芸的発想とはなにか。　（書くことと語ること・歌うことは果たして同じ次元なのか考えてみましょう）
2.神話学の系譜　（神話をどのように読むのか、これまでの様々なアプローチを概括します）
3.神話分析　民族学的アプローチ１　（まずは『金枝篇』から取り組んでみましょう）
4.神話分析　民族学的アプローチ２
5.神話分析　心理学的アプローチ１　（ユング派の物語の読み方について考えてみましょう）
6.神話分析　心理学的アプローチ２
7.神話分析　構造分析１　（レヴィ＝ストロースの分析する神話に触れてみましょう）
8.神話分析　構造分析２
9.昔話研究（AT による昔話の分類）
10.昔話分析　系統論的アプローチ
11.昔話分析　構造分析１　（プロップの分析手法について検討してみましょう）
13.昔話分析　構造分析２　（ダンダスの分析手法について検討してみましょう）
14.日本神話の研究
15.日本昔話研究

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50804B01
科目名	口承文芸論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	本講義は口承文芸の作品を紹介すると共に口承文芸に関する先行研究を検討するものです。口承文芸とは、語られたもの、歌われたもののことを言います。例えば昔話、神話、語り物、歌、うわさ話、諺、ジョークが、これに該当します。一見するとこれらは、たいへん古くさく（実際たいへん長い歴史をもっています、文字が発明される前から、これらは世界各地で話され歌われてきました）みえますが、コンピュータゲームやポップミュージックなどの現代文化とも密接に結びついています。口承文芸は何時の時代でも、古くてかつ斬新なものなのです。 Ｂでは口承文芸が、カミとヒトの、人と人のコミュニケーションであることに焦点をあて、関連する先行研究を通じてその分析方法を理解し、学生自身で作品分析することを、目標とします。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	レポート（７０％）　授業内提出物（３０％）		
到達目標	口承文芸に関する先行研究を通じてその分析方法を理解し、学生自身で作品分析すること。		
授業時間外学習	口承文芸の作品は長大なものが多いので、授業の前に熟読し、自分なりに筋立てを整理しておくこと。次週取り上げる作品は予め配布するか、文献を示します。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義のうちの何時間かが、フィールドワークおよびその準備に振り替えられるかもしれませんが、できるだけそれにも出席してください。			
授業スケジュール			
１イントロダクション ２ヒトとヒトを超えるもの ３シャーマニズムと口承文芸１　（シャーマニズムと歌や語りは深い関係を持っています。） ４シャーマニズムと口承文芸２　（ユーラシア大陸のいくつかのシャーマニズム文化をとりあげます。） ５儀礼から語り物へ ６語り物 ７ヒトとヒトのコミュニケーション ８詩の始まりを民俗学的･文化人類学的に考える ９うたはひとつでいい １０変なコミュニケーション １１英雄叙事詩 １２ナラティブ構成法１　（長大な英雄叙事詩はどのように伝承されてきたのか、そのメカニズムについて考えます。） １３ナラティブ構成法２ １４口承文芸とポップカルチャー１　（「古くて新しい」について考えます。） １５口承文芸とポップカルチャー２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J50805A01
科目名	妖怪文化論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになっています。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、漫画、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。 妖怪文化論Ａでは、そのうち特に、語られた妖怪と、妖怪が出没する場所、風景について論じます。		
教材（教科書）	佐々木高弘著『怪異の風景学―妖怪文化の民俗地理』古今書院、2014 年		
教材（参考資料）	小松和彦著『妖怪文化入門』せりか書房、2006 年		
教育方法	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 20%、学期末レポート 80%		
到達目標	妖怪文化が様々な学問分野にまたがっている点、妖怪文化の多様な見方がある点を理解することを目標とする。		
授業時間外学習	講義ごとに提示する教科書の指定箇所を予習・復習した上で受講すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。			
授業スケジュール			
1　妖怪文化とは：語りから造形化へ（百鬼夜行絵巻、画図百鬼夜行、水木しげる） 2　妖怪文化研究の歴史：井上円了・柳田国男から小松和彦まで 3　妖怪の見える風景：『今昔物語集』『源氏物語』『宇治拾遺物語』 4　妖怪体験とことば：風景認識の三角形 5　妖怪の走る風景：柳田国男の『妖怪談義』、「クビナシウマ」と「首切れ馬」 6　集団の見た妖怪：妖怪の出没場所を選ぶ伝承集団 7　頭の中の妖怪地図：伝説の構造分析とメンタルマップ 8　妖怪の二つの場所：妖怪の聞き取り調査 9　『千と千尋の神隠し』に描かれた怪異世界の風景：少女の引っ越し 10　怪異世界と心のなかの景観：見えない風景の知覚 11　現代日本人の怪異世界イメージ：『リング』『ワンダフル・ライフ』『呪怨』 12　廃墟と幽霊・怪異世界：18 世紀後半の妖怪画革命とピクチャレスクの流行 13　現代の廃墟と近代化遺産：18 世紀後半と現代の比較 14　妖怪の出没する場所と時代：妖怪のメッセージ 15　世界に進出する妖怪文化：求められる日本人の世界観		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J50805B01
科目名	妖怪文化論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
授業概要	古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになっています。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、マンガ、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。 　妖怪文化論Ｂでは、そのうち特に、描かれた妖怪と、妖怪が跳梁するメディア、表現について論じます。		
教材（教科書）	小松和彦『妖怪文化論入門』角川ソフィア文庫		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	板書とパワーポイントでの講義形式をとる。妖怪文化論Ｂは造形ー妖怪の段階を扱うので、映像を紹介したり分析したりすることが多い。これをただのテレビ番組のように見ておしまいとするのではなく、取り扱う手つきや、分析の方法として学ぶように工夫している。フィールドワークの成果も取り入れているので、「現場へ行って見る」ことも促している。		
評価方法	平常点（30%）レポート（70%）		
到達目標	妖怪文化論という視点、位置を理解する。		
授業時間外学習	テキストは事前に読んでおくこと。また各講義で参考文献を提示するので、読んで理解を深めるための学習に時間を割く必要がある。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
テクスト『妖怪文化論入門』は各自読んでおくこと。それを前提に講義をする。適宜紹介する文献についても、講義の展開について行きたいのなら、できるだけ読んでおくこと。前半にかなり詳細に方法論に触れるので、自らの卒業研究などに応用するつもりでいるとよいだろう。			
授業スケジュール			
（1）イントロダクション I.絵を解読する （2）絵を読む方法 （3）図像学 （4）絵引き （5）絵解き （6）アニメ『平成狸合戦ぽんぽこ』 （7）狸のイメージ II. 妖怪の造形 （8）狸という妖怪存在 （9）八百八狸 （10）八百八狸続 （11）絵巻物の表現 （12）絵巻物と芸能 （13）浮世絵の表現 （14）仏教美術の表現 （15）神経にもぐりこんだ妖怪			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J50901A01
科目名	心理学概論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	心理学は人間の心や行動を研究対象とする学問である。心理学とはどのような学問であるのか、その歴史、基本的な研究法、考え方を習得することによって、人間の心について理解を深めることができる。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	パワーポイント、DVD を用いながら講義を行う。 全員参加の実験を行うこともある。		
評価方法	授業中に実施する小テスト及び読書レポート。		
到達目標	心理学の基本的な理論と考え方について学び、心についての理解を深める。		
授業時間外学習	事前に配布される教材を読んで出席する。幅広い読書の習慣をつける。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
私語は一切厳禁。授業の妨げになる場合には、退室を求める場合もある。能動的に授業に出席すること。 心理学科必修の授業なので、必ず本年度に取得できるよう最大限の努力をすること。			
授業スケジュール			
1　オリエンテーション、授業の進め方、勉強の仕方、成績評価について 2　「私の歴史」を振り返る、歴史と研究方法 3　感覚と知覚 4　注意と思考 5　記憶 6　記憶：実験 7　記憶と心 8　発達心理学（1） 9　発達心理学（2） １０　深層心理学（1）　テーマ：「見えないものを見る」 １１　深層心理学（2）授業内レポート作成 12　心理臨床学（1）テーマ：物語・記憶・癒し 13　心理臨床学（2）授業内レポート作成 14　臨床心理学 15　臨床の現場から：臨床心理士の話を聞く			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J60001001
科目名	自然保護思想	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy of nature conservation		
担当者名	阿野　晃秀	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境学部では自然保護、環境問題に取り組むための多くの学問分野を学ぶことができるのだが、それぞれの専門分野を深く掘り下げていくと同時に、時に立ち止まり、そもそも「自然を守る」とはどういうことなのか（何を自然と呼び、何のために守るのか）と言う根本的な問いについても考えてみて欲しい。現代の自然保護分野における自身の目指す立ち位置や自然保護の動機を、より明確に認識できるようになることも重要であるからだ。 この授業では、主に近・現代の自然保護概念をめぐるを主要な議論とイベントをなぞりながら、歴史的・伝統的な自然保護・共生の概念も紹介し、現在世界的潮流となっている自然共生概念へとつながる哲学的議論の変遷を紹介する。また各議論の争点についてグループディスカッションなどを通して学生自らが論理的に塾考することで、豊かな自然観を形成する基盤を獲得することを目標とする。		
教材（教科書）	尾関周二、環境思想・教育研究会 編 『「環境を守る」とはどういうことか 環境思想入門』 岩波書店 520 円		
教材（参考資料）	加藤尚武 編 『環境と倫理』 有斐閣アルマ　1,800 円 鬼頭秀一, 福永真弓 編 『環境倫理学』 東京大学出版会　3,000 円 吉永明弘 著 『都市の環境倫理』 勁草書房　2,200 円		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。適宜、グループディスカッションを取り入れる。		
評価方法	小テスト・ミニレポート（40%)、期末課題レポート（60%）		
到達目標	自然保護に関する基本思想と議論の争点を理解し、現代における自然保護の意義と方向性を認識できるようになる。		
授業時間外学習	自然保護や地球環境問題に関連したインターネット、新聞、テレビ等のニュースに意識して目を通す。毎回の講義内容を良く復習し、理解、習得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

街の公園などで見かける身近な草花から、旅行先の雄大な自然まで、多様な自然体験を楽しんで下さい。それぞれの自然の原体験が皆さんの「自然保護思想」の原点となるでしょう。ヨセミテ国立公園（米国）の設立にも尽力したミューアは、自然保護に関する価値観の醸成に関して「自然に触さえすれば、残りは自然がやってくれる」とまで主張しています。

授業スケジュール

1．導入：なぜ環境思想・哲学を学ぶのか？
2．人間中心主義と人間非中心主義： 原生自然・動物解放論・自然の権利など
3．人間中心主義と人間非中心主義：ディープエコロジー・生態系中心主義など
4．環境正義
5．環境プラグマティズムへ：現実の問題解決に役立つ哲学を目指して
6．環境思想の見取り図
7．生物多様性という革命：対話のための新しいプラットフォーム
8．人間と自然との共生 1：歴史的な自然保護・共生概念
9．人間と自然との共生 2：日本からの提案 SATOYAMA イニシアティブ
10．人間と自然との共生 3: ローカルの視点、風土性と文化
11．自然保護の現場と倫理的論争 1: 外来種の駆除など
12．自然保護の現場と倫理的論争 2: 市場を使って自然を守る
13．自然保護の現場と倫理的論争 3: 都市の自然は偽物か？
14．自然保護の現場と倫理的論争 4: 都市の自然、風土性とアメニティ
15．自然保護のこれから

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	–	★	–	–	★★

年度	2018	授業コード	J60006001
科目名	環境教育・富良野自然塾	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Education/ Furano Field		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	大学コンソーシアム京都の単位互換科目として開講するもの。環境問題に対する特定の解決策を導き出すことを目的としているのではなく、自然体験活動と学生間の交流を通して、環境問題や自然環境に関する豊かな見かたや価値観が醸成されてくることをめざす。「北の国から」などで著名な脚本家の倉本聰氏が主宰する「富良野自然塾」（講座協賛 三井住友銀行）の全面的協力で、北海道での現地実習を行う。京都における事前学習および事後学習も実施する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	・「愚者の質問」　倉本聰、林原博光 著　（日本経済新聞出版社　2010 年） ・「ヒトに問う」　倉本聰 著　（双葉社　2013 年）		
教育方法	・野外実習 ・農作業体験 ・コミュニケーション WS ・パワーポイントを用いた講義法		
評価方法	事前学習、現地実習、事後学習の出席状況や実習への取り組み状況等による（７０％） レポート（３０％）		
到達目標	・フィールドでの体験を通じ、環境問題を主体的に考える力を身につける。 ・森林フィールドでの環境教育について深く理解する。		
授業時間外学習	参考文献欄に挙げた文献を読んでおいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自然のなかで無心に遊んでみてください。鈍感になった感性が生き返ってきます。楽しい協力的な集いになるように、各人それぞれが心がけてください。
「富良野自然塾・倉本聰対談集　愚者の質問」日本経済新聞出版社を読んでおくと参考になります。

授業スケジュール

富良野自然塾は、人間が自らの五感を使って自然から学ぶことをデザインした環境教育・五感プログラムを、そしてそれらのすぐれたインストラクターを用意している。

富良野自然塾からのメッセージ（エクアドルの民話「ハチドリの一滴」）：　山火事のおこった森林で、/小さなハチドリが一滴ずつ/水を運んで火を消そうとします。/ そんなことして山火事が消せるかと、/ 動物たちが笑います。/でもハチドリは真剣に云います。/ 「ジブンニデキルコトハコレクライダカラ」と。/ 我々の仕事はハチドリの一滴に過ぎません。/ でも、全ては一滴からしか始まりません。

事前学習（キャンパスプラザ京都）：７月２７日（金）　１８：１０～（３時間）

現地実習（北海道・富良野自然塾）：８月３１日（金）～９月２日（日）

事後学習（キャンパスプラザ京都）：９月７日（金）　１６：２０～（３時間）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J60007001
科目名	科学技術史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science and Technology		
担当者名	但馬　亨	旧科目名称	
授業概要	現在の科学技術の発展の鍵は制度化・巨大化・精密化という三語に要約されるといえます．この講義では，科学技術の発展過程が必ずしも単線的・直線的になされてきたわけではないことを明らかにし，科学的知識のもつ本質的性質と呼べるものを浮き彫りにすることを目的としています．また，この性質の理解から科学者の在るべき姿について考察するという科学技術倫理の要素も講義には含まれています．実際に扱うトピックとしては数学や物理学，情報工学，環境についての諸問題があり，幅広い問題関心が講義参加者には必要だと思われます．		
教材（教科書）	特になし．プリント配布します．		
教材（参考資料）	野家 啓一（著）『パラダイムとは何か クーンの科学史革命』講談社学術文庫，2008 年		
教育方法	上記以外にも適切な参考書を複数紹介します．パワーポイントや映像資料も用います．		
評価方法	ミニッツペーパー（30%）、定期試験(70%)． 有意義な意見の発表等がある場合等は加点します． また授業参加者の状況を考慮して，ディベート課題を出す場合があります．		
到達目標	１．各時代ごとの科学的技術的知識の形態を正しく把握すること． ２．科学理論の変遷についての理論的把握を行うこと． ３．現代科学に内在する問題点について批判的検討を加える視点をもつこと．		
授業時間外学習	授業内で紹介する文献や資料等を授業開始前までに読解し，次週の講義開始以前に予備的知識を得ていること．ミニッツペーパーの一環として、次回授業開始時に小テスト等を行い、予習の成果を確認することがあります。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．自然科学だけでなく文理問わない幅広い知的好奇心をもって積極的に講義に臨んでください．
２．私語や携帯電話の使用等には、減点や期末試験の受験を認めないなど厳しく対処します．

授業スケジュール

１．　ガイダンス
２．　古代の科学：ギリシャにおける科学の曙
３．　中世の科学：精密科学としての天文学
４．　アラビア科学の成立
５．　初期近代(1)：万能人と人文主義的科学
６．　初期近代(2)：近代解剖学の成立，印刷技術の発展
７．　前半内容の確認
８．　17 世紀(1)：二つの科学革命論
９．　17 世紀(2)：科学方法論の成立，ガリレオ，デカルト
１０．18 世紀：ニュートンと啓蒙主義
１１．19 世紀(1)：フランス革命後の社会と科学の制度化
１２．19 世紀(2)：ダーウィニズムと自然誌
１３．20 世紀(1)：巨大科学の誕生と戦争
１４．20 世紀(2)：情報科学の発展
１５．21 世紀の諸問題：環境と科学技術の関係

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60008001
科目名	日本の農業	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Agriculture		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
授業概要	国民経済の発展と豊かな食生活を送るためには，食とその生産を担う農業に対する理解が必要である．そこで，農耕の起源と農業技術の発達史を概観し，日本及び世界の農業，日本の農業生産性や農業経営，農業政策，農業と環境との関わりなど農業に関する諸課題を概説する．特に，日本の農業が直面する課題である，生産性，食料，環境などの現状とそれらの課題の解決に向けた技術を紹介する．		
教材（教科書）	パワーポイント説明資料のプリントを配布する．		
教材（参考資料）	祖田修・杉村和彦（編）　「食と農を学ぶ人のために」　（2010）　世界思想社 中尾佐助（著）　「栽培植物と農耕の起源」　（1966）　岩波新書　青版 G-103（583） 農林水産省（編）　食料・農業・農村白書　http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h27/index.html		
教育方法	パワーポイント等を用いて講義法で行う．予習や復習が出来るように，講義内容は事前にプリント配布する．また、授業の中で順次参考資料を紹介する．		
評価方法	小テストなどによる平常点（50%）および定期試験（50%）で評価する．		
到達目標	・農業及び農業技術，農業と食品産業など他産業との関わり，日本の農業政策など，農業に対する基本的な知識を習得する． ・日本の農業が直面する諸課題を解決するための農業政策や技術を習得する． ・農業の社会的な意義や役割について学び，日本の農業の将来や食の姿について主体的に考える能力を養う．		
授業時間外学習	授業の進行に合わせて，講義内容は事前にプリント配布するので，次回までに予習をしておくこと． また，復習を兼ねて小テストを行うので，講義内容を復習しておくこと．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１０回程度小テストを行うので，講義内容を復習しておくこと．

授業スケジュール

1．オリエンテーション，農業とは何か
2．作物の栽培化
3．農耕の起源と伝播
4．世界の農業
5．日本の農業発達史
6．日本の農業の現状と農業政策
7．穀物の生産（稲作）
8．穀物の生産（麦類，豆類）
9．畑作物の生産（イモ類など）
１０．野菜の生産
１１．果樹・花き・茶などの生産
１２．畜産
１３．飼料生産と畜産の環境問題
１４．農業と環境問題，食の安全
１５．農業技術の発達と今後の農業の展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60009001
科目名	食の安全安心（2014 生まで）	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	植野　洋志	旧科目名称	
授業概要	「食」は衣食住という私たちの生活における基本要素のなかでは，ヒトの生命（いのち）そのものに直接関与する重要な要素である．どのように「食」が生命とかかわるかを理解しないと，安全安心の概念は生じない． 本講義では，「食」を１）食素材から食品という製品として，２）食物として体内に取り込み，代謝されるとき，３）外部環境要因がいかに１）や２）に関与するか，という点を中心に理解を深めることになる． 一般に知られている食の安全安心という言葉の意味をより正確にとらえるためには，「食」のもつ性質を知る必要がある．食の性質とは，もちろん，物質としての概念であろう．食素材は化学物質としてとらえないとだめで，その本質は，食素材が物質変換（化学反応）することに他ならない．一般教養として，食素材がどのように変化するのかを理解し，いわゆる発酵や腐敗という言葉が何を意味するのかを本質的に判ることを目標とする． 近年，「食」と安全で話題になっている食中毒，鳥インフルエンザ，遺伝子組み換え食品，バイオ燃料といった内容にも触れる予定でいる．		
教材（教科書）	別に用いない		
教材（参考資料）	京学なびを活用した情報提供		
教育方法	−		
評価方法	不定期に実施する予定でいる小テストもしくはレポート提出（40%），そして平常点（受講態度や取組姿勢）（40%），学期末のレポート提出（20%）を総計して評価する．場合によっては，筆記試験を期末試験とする．		
到達目標	社会常識として，生命現象を化学というツールで眺めることが大切である．そうすると，共通する基本概念が見えてくる．生命の大原則と「食」が密接につながっていること，また，その関連性に影響をあたえるようが現象が安全安心という側面から理解することができる．このような自然のなかの関連性に気づくことが本講義の目標である．また，これまで耳学問で習得した知識を，科学的裏付けで考えることができる力を育成する．		
授業時間外学習	市民教養科目なので，基本，準備学習を期待しない．ただ，希望者にはネットを利用した教材（配布プリントと授業でのパワポ）閲覧を推奨する．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
一般教養的内容なのと，生活と密接に関係するので，講義中の話題がいろんな方向に飛ぶことがある．きちんとノートやメモをとれることを学習しよう．質問はできるだけその場でするように心がけよう．積極的な授業への参加が望ましい．			
授業スケジュール			
1〜3. ヒトの体に影響を与える食生活について，DVD を教材として学習する 4〜5. 体に取り込まれる栄養素はどのようにして使われるのか，代謝という概念を習得する 6〜7. 化学反応が生命体の基本であることを学ぶ 8. 環境因子（農薬・殺虫剤などを含む）がどのように体に影響するのかを DVD を教材として学習する 9〜10. 食素材がもたらす効果（たとえば，食中毒）について，安全安心の観点と分子生物学の観点から眺める 11〜12. 遺伝子組換え技術について概説する 13〜14. 食品の保存・保蔵の基礎と原理を理解する 15. 食にまつわる話題を共有する			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J60009002
科目名	食の安全安心（2014 生まで）	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
授業概要	食の安全については、毎年のように表示偽造や、食中毒が発生しており、またその原因に大手食品企業がなることも多く、大きな社会問題となっている。ひるがえって、一般家庭における食の安全に関する知識も十分とは言えず、ノロウイルスによる食中毒をはじめ、自然毒に対する知識不足から生じる祥中毒に関しても、問題が起こったときには、その都度食品の安全性に関する機運が高まりはするが、その時だけで終わってしまい定着しているとはいえないのが現状である。 ところで、多くの一般の人が食品に手を触れ、眼に入れることが多いのは、スーパーや飲食店であろう。このように食品が流通するためには、消費者庁、厚生労働省、農林水産省、等の多くの省庁が絡んだ基準や規格が多く存在している。例えば食品に記載されている義務表示に関しても、カップラーメン一つとっても原材料表示をはじめとして、エネルギー量などの栄養表示、卵由来などのアレルギー表示さらには分別に関する、「プラ」や「紙」等の表示もあり、すべてを理解している消費者は少ないであろう。さらに、これに関わる表示基準を正確に理解することは、食品を扱う会社のも者であっても大変難しい。 一方、食品を安全に流通させるためには、加工食品であれば、保存料等の食品添加物、農産物であれば農薬を使用しており、これらの使用方法や事例について、単に「化学合成品」であるから危険、と言うイメージだけで判断するのではなく、どのようにその安全基準が決められているのかを知る機会は少ないと思われる。 また、生鮮食品も必ずしも安全というわけではなく、調理法を誤ればジャガイモやインゲン豆でも毒になり得ることを理解しておかなければいけない。 そこで、本講義では、食品の安全や安心について、より身近なところの知識を得ることを目的として、日常生活に生かせる講義を行いたい。		
教材（教科書）	特定の教科書を指定しない。		
教材（参考資料）	・食品表示検定認定テキスト・中級-一般社団法人食品表示検定協会編-(ダイヤモンド社) ・食品安全検定テキスト中級-食品安全検定協会編-(中央法規出版) ・「食をめぐるほんとうの話」講談社現代新書		
教育方法	・基本的に配付資料に従って講義法により行う。 ・補助的な資料を OHC での説明や、内閣府食品安全委員会作成の DVD を使用して説明を行う。		
評価方法	指定した課題に対するレポート 80% 授業後アンケート 20%		
到達目標	本来、「安全」とは、客観的な科学的根拠を持って評価される物であり、逆に「安心」とは主観的であり、個人によってとらえ方が異なる物である。本講義においては、「安全」について、どのように科学的に検証されてきたかを理解し、どのように担保されてきたのかを考えると共に、それを前提に「安心」をどのようにとらえるかについて学習する。		
授業時間外学習	・参考図書を読むことや、消費者庁の食の安全性に関するホームページや、食品安全委員会のホームページを閲覧するなど、安全性に関する知識を得るとともに、現在どのようなことが問題になっているか、知るように努める。 消費者庁 HP {http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/food_safety/} 食品安全委員会 HP {http://www.fsc.go.jp/index.html}		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・受講生の学習環境を阻害するような私語は禁止する。 ・毎日食べている食品のみならず、食事そのもの、さらには流通についても興味を持ち、常に行動できること。			
授業スケジュール			
1～4：食品の表示について理解しよう。			

食品に表示する義務のある事項、表記方法について学ぶ(食品表示基準)。
5～7：食品に係わる有害物質について理解しよう。
食中毒を起こす原因となる、微生物、動植物に含まれる毒素、有害金属、等について学ぶ。
8～10：加工食品や農産物に使用される食品添加物や農薬について理解しよう。
食品添加物や農薬がどのように評価され使用されてきたかを学ぶ。
11～12：遺伝子組会食品について理解しよう。
遺伝子組み換え食品とはどういう物か、またその安全性についても理解する。
13　：食品の加工や流通における安心システムについて理解しよう。
14　：安全な食品を担保するための加工システム（HACCP、等)や流通経路についても
15　：健康食品の安全について理解しよう。
様々な健康食品が流通しているが、これらの食品の安全性だけでなく、その有効性についても理解する。
講義全体を通して、専門的な知識を得ることを目的にするのではなく、より日常生活に生かせる食の安全について知ることを目的として進めていく。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J60009003
科目名	食の安全安心（2014 生まで）	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	渡部　紀久子	旧科目名称	
授業概要	「食」は衣食住という私たちの生活における基本要素のなかでは、ヒトの命（いのち）そのものに直接関与する重要な要素である。どのように「食」が生命とかかわるかを理解しないと、安全安心の概念は生じない。 本講義では、「食」を１）食素材から食品という製品として、２）食物として体内に取り込み、代謝されるとき、３）外部環境要因がいかに１）や２）に関与するか、という点を中心に理解を深めることになる。 一般に知られている食の安全安心という言葉の意味をより正確にとらえるためには、「食」のもつ性質を知る必要がある。食の性質とは、もちろん、物質としての概念であろう。食素材は化学物質としてとらえないとだめで、その本質は、食素材が物質変換（化学反応）することに他ならない。一般教養として、食素材がどのように変化するのかを理解し、いわゆる発酵や腐敗という言葉が何を意味するのかを本質的に判ることを目標とする。 近年、「食」と安全で話題になっている食中毒、鳥インフルエンザ、遺伝子組み換え食品、バイオ燃料といった内容にも触れる予定でいる。		
教材（教科書）	別に用いない		
教材（参考資料）	京学なびを活用した情報提供		
教育方法	「スーパーサイズ・ミー」および「未来の食卓」の DVD を講義の進行に合わせて放映し、これらを DVD をもとに、食について学生自ら、考える力を身につける。 また、「食の安全安心」について基礎力を身につけるために、栄養、食中毒、添加物等の基本的知識、情報をポワーポイントを使って講義する。		
評価方法	不定期に実施する予定でいる小テスト（２０％）（京学なび）、レポート提出（４０％）、そして平常点（４０％）を総計して評価する。場合によっては、筆記試験を期末試験とする。なお、特別な理由がない５回以上の欠席は、評価対象外とする。		
到達目標	社会常識として、生命現象を化学というツールで眺めることが大切である。そうすると、共通する基本概念が見えてくる。生命の大原則と「食」が密接につながっていること、また、その関連性に影響をあたえるような現象が安全安心という側面から理解することができる。このような自然のなかの関連性に気づくことが本講義の目標である。また、これまで耳学問で習得した知識を、科学的裏付けで考えることができる力を育成する。		
授業時間外学習	市民教養科目なので、基本、準備学習を期待しない。ただ、希望者にはネットを利用した教材（配布プリントと 授業でのパワポ）閲覧を推奨する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
一般教養内容なのと、生活と密接に関係するので、講義中の話題がいろんな方向に飛ぶことがある。きちんとノートやメモをとれることを学習しよう。質問はできるだけその場でするように心がけよう。積極的な授業への参加が望ましい。			
授業スケジュール			
１～２．ヒトの体に影響を与える食生活について、DVD を教材として学習する。 ３～４．体に取り込まれる栄養素はどのようにして使われるのか、代謝という概念を習得する。 ５～６．化学反応が生命体の基本であることを学ぶ。 ７～８．食素材がもたらす効果（たとえば、食中毒）について、安全安心の観点と分子生物学の観点から眺める。 ９～１０．遺伝子組換え技術について概説する。 １１～１２．食品の保存・保蔵の基礎と原理を理解する。 １３～１５．食にまつわる制約（法律や規則）、輸入食品の安全性、農薬とはなど広く生活に関係する話題を共有する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J60010001
科目名	シリーズ特別講義 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Lecture Series A		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	現代社会が直面している環境問題は人間社会が解決すべき緊急の課題である。本シリーズでは、自然環境、生産環境、消費環境、あるいは都市環境、地球環境の現場で発生している諸問題に取り組んでいる先達の豊かな活動経験を聴くことによって、環境問題への関心を高め、それに取り組む視点と方向性を各人が思考し、バイオ環境学部での学習のおもしろさと重要性を認識するきっかけとなることを期待する。1 回目と１５回目を除き、外部からの専門講師を招いての貴重な体験談を聞くことができるというのが本講義の特徴であり、講師の方々は、この 90 分に凝縮して自らの経験や考えなどを若い学生に是非伝えたいと、1 年間準備されてきた内容である。		
教材（教科書）	特に定めないが、各講師の方から、講義中に参考書を推薦してもらう。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	各分野の最先端で活躍する講師から直接体験談などを聞くことで幅広くバイオ環境学部のテーマを掘り下げる		
評価方法	講義後、講義の感想文を提出する。提出方法に関しては、講義の最初に説明する。15 回の感想文の内容によって評価する。		
到達目標	環境問題への関心を高め、それに取り組む視点と方向性、そしてバイオ環境学部での学習の重要性を認識する。		
授業時間外学習	種々の環境問題に視野をできるだけ広くとって、日常生活を送ること。講義内容に関連する話題がニュースとして取り扱われることも多いので、新聞などで情報収集に努めること。復習として、各講師が執筆している著作を含め関連分野の書籍の読書を求める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

各講師が活動の経験を聞き、大学で学習する意義をつかんで欲しい。

授業スケジュール

昨年（2017 年）度の 15 回の講義実績は以下のとおりである

- 原　雄一　京都学園大学
  歩くツーリズム クラウド道コモンズの紹介
- 土井 孝則　亀岡市文化資料館主任研究員
  亀岡の歴史と文化について
- 尾崎 零　産消循環自給農場代表
  保障なき時代を生きる～“自立農力”探求のすすめ
- 川上 聰　淀川水系流域委員会・元委員の会
  特別天然記念物オオサンショウウオから考える川とダム
- 佐伯 昌和　京野菜無農薬栽培農業経営
  三里四方の旬
- 茂木正人　東京海洋大学
  南極海の生態
- 佐藤隆芳　京都ユースホステル協会
  京都の隠れた地域資源探索まち歩きツアーの魅力
- 松岡 正富　琵琶湖漁師・滋賀県朝日漁協組合副委員長
  琵琶湖の漁業
- 湯浅 勲　南丹市日吉森林組合理事
  今日は森林のことを考えてみよう
- 藤井 絢子　NPO 菜の花プロジェクトネットワーク代表
  地域からのエネルギー改革：菜の花プロジェクトから学ぶ

・　浄慶 耕造　大徳醤油代表取締役
　　小さな醤油蔵の役割
・　丸谷 一耕　NPO 法人木野環境 EMS 構築支援部
　　環境学生ベンチャーNPO 法人木野環境
・　佐藤 正吾　公益財団法人京都市都市緑化協会
　　和の花プロジェクトと都市の生物多様性
・　山本　元　NPO 法人気候ネットワーク研究員
　　地球温暖化の現状と対策
・　高澤伸枝　京都学園大学
　南極の科学　知られざる世界へのいざない

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J60011001
科目名	シリーズ特別講義B	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Lecture Series B		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
授業概要	日本のバイオ技術は、農学分野だけでなく、食品、医薬品等、幅広く応用されている。このような技術は、日本にとどまらず、世界に向け技術発信されている。この講義では、各分野で第一線で活躍されている、企業や研究施設で研究されている、研究者・技術者の方々を講師としてお招きし、バイオテクノロジーを応用した商品開発について講演して頂き、将来の展望についてもお話をして頂く。		
教材（教科書）	指定する教科書はない。 講師の先生により適宜講義資料を配布する。		
教材（参考資料）	講師の先生から紹介があった参考資料をその都度紹介して頂く。		
教育方法	講義の中で説明された技術に関して自分なりに興味を持った分野について勉強し、レポートを書く際に反映できるようにする。 レポートの書き方については、相手にわかりやすいようにまとめる努力をする。		
評価方法	指定した課題に対するレポート 80% 毎回の授業に関する感想 20%		
到達目標	商品開発にバイオの技術がどのように生かされているかを理解する。 最前線で働いている研究者の生の声を聞くことで、研究することの意義やその進め方について勉強する。 また、このような技術開発に必要な項目について学び取る。 今後、バイオ環境学部で勉強していく時に、バイオ技術を応用することで何ができそうか、自分なりに考えてみて、学習のための意欲を高める。 生産管理や製品管理についても勉強する。		
授業時間外学習	各回の講義で、講師が異なり、講演内容もかわるため事前の準備は難しいかもしれないが、関連する産業やバイオ技術について興味を持って情報収集を行うこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義の中で説明された技術に関して、自分なりに興味を持った分野について勉強し、レポートを書く際に反映させるよう努力する。
また、レポートの書き方についても、相手にわかりやすいように工夫ができるにする。

授業スケジュール

講義の順番に関しては、講師の方の都合により内容や順番が入れ替わる可能性があるため、現時点では確定してないが、下記の内容で行う予定である。
1)科学技術とバイオテクノロジー
2)バイオ基盤技術産業(I)
3)バイオ基盤技術産業(II)
4)創薬産業(I)
5)創薬産業(II)
6)生化学産業(I)
7)生化学産業(II)
8)食品産業(I)
9)食品産業(II)
10)醸造産業(I)
11)醸造産業(II)
12)植物関連産業(I)
13)植物関連産業(II)
14)バイオ基盤産業(I)
15)バイオ基盤産業(II)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J60012001
科目名	社会と環境問題	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Problems and Society		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	2011 年に、福島第一原子力発電所の事故により、大量の放射性物質が環境中へ撒き散らされ、現在も、放射性物質の排出は、一時よりは減ったとはいえ、まだ続いている。このような放射能汚染という環境問題に、私たちは、どう対処すべきなのか。 明治期には、工業や鉱業の発展によって、有毒な排ガスや廃水が放出されて、作物が育たないという事態や健康被害が起こった。戦後には、工業のめざましい発達に伴い、空気、水、および食べ物の汚染が急激に進行して、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくなど、大きな健康被害が出た。しかし、国も加害者も被害の拡大防止に努めず、また被害者への補償もまだ十分とは言いがたい。多くの被害者は悲惨な状況下に置かれた。加害者の責任逃れの行為が目立ち、また、一般市民が被害者をさらに悲惨な状況に追いやってしまう事態も発生した。また、公共工事による環境破壊も起こった。 放射能汚染や不当な公共工事など、現在の環境問題に正しく対応し、また、将来、環境問題が起きないように事前に手当てをしていくためには、過去に起こった環境問題について、加害者がどう行動し、国がどのように対応し、被害者や一般市民がどう考えて、どう対処したのかを学んで、ここから得られた教訓をいかすことが重要である。 この講義では、過去の環境問題とその時の社会情勢を学び、現在の環境問題への対処を考える。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	小田康徳編「公害･環境問題史を学ぶ人のために」世界思想社、2000 円＋消費税		
教育方法	事前に配布した資料にそって、講義方式で行う。資料では、講義内容のうちの重要な部分を空白にしてあるので、そこに語句を書き足す。水俣病については、DVD も利用する。		
評価方法	期末試験（60%）、小テスト（40%）		
到達目標	１．現在の環境問題について自分なりに考えて行動できるようになる。 ２．将来起きそうな環境問題を把握し、未然に防止する行動をとることができるようになる。		
授業時間外学習	参考書やインターネットなどを利用して授業の予習をしておくこと。前回の内容を復習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
「環境化学」を受講しておくことが望ましい。 わからないことがあれば、授業の途中でもよいから質問をすること。 放射能に関連するニュースなど、現在の環境問題の関する情報をを把握して、自分なりに解決策を考えること。			
授業スケジュール			
１．現在の環境問題：放射性物質による汚染 ２．現在の環境問題：公共工事による環境破壊 ３．汚染による被害と損害賠償について ４．明治期の富国強兵政策と足尾鉱毒事件の発生 ５．足尾鉱毒事件への政府の対応と田中正造の直訴 ６．足尾鉱毒事件のその後、今も続く鉱山排水問題 ７．別子銅山と日立鉱山の煙害対策 ８．戦前の大阪の工業化と大気汚染、戦前の石炭鉱業被害 ９．戦後の高度成長と公害の発生、水俣病の発生 １０．水俣病の補償問題、公害被害者への差別と住民間の対立 １１．　イタイイタイ病、四日市公害 １２．四日市の水質汚濁、公害法規 １３．公益・公共性の思想と公害 １４．公共工事の問題点			

１５．歴史から学ぶ教訓を活かし、現在の環境問題を考える

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60013001
科目名	環境問題と法	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Problems and Laws		
担当者名	吉田　佳督	旧科目名称	環境問題と法
授業概要	環境問題が国際化・深刻化するにつれて、国際協調の基で環境保全のために様々な法政策がとられている。それは身近な地方自治体の条例から、国の法律に至るまでの国内法領域、さらには国際的な地球環境問題を扱うような国際法領域に及ぶ。このため、環境法に関する基礎教養を身につけ、環境法の現代社会における役割について理解できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	第 1 回目の授業時間中に、全 15 回分の講義レジュメ・資料を配布する。		
教材（参考資料）	高橋信隆編著『環境法講義（第 2 版）』信山社		
教育方法	－		
評価方法	期末レポート(60%)と講義中の小レポート(40%)による評価を原則とする。		
到達目標	環境問題と法の基礎を学び、環境問題を解決するために望ましい法政策を考える力を修得する。		
授業時間外学習	受講にあたり、環境問題に関連するメディア報道について 2 ～3 の事例を予め調べておくこと。また、1 回目の講義中に全 15 回の講義資料を配布するので、各授業の受講前までに、その講義内容を簡潔にまとめておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

環境問題を身近な問題として捉え、各講義で提出を求める小レポート等を通じて、各自の見解を積極的に示してください。

授業スケジュール

1）環境法の基本理念
2）環境法の体系
3）環境基本法
4）環境法の発展史
5）水質汚濁と法
6）大気汚染と法
7）循環型社会の法Ⅰ－循環基本法－
8）循環型社会の法Ⅱ－リサイクルの法と行政－
9）自然保護の法
10）環境アセスメントの法Ⅰ－リスク管理制度の視点から－
11）環境アセスメントの法Ⅱ－リスクコミュニケーションの視点から－
12）環境問題と裁判
13）地球環境問題と国際法
14）地球温暖化と法
15）環境ガバナンスと法

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J60016001
科目名	生物の分類	単位数	2
科目名（英語表記）	Taxonomy		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	私たちは、さまざまな生き物を、種として認識している。このような生き物を類別することについて学ぶ。種はさらに上位の分類群にまとめられて、種と種の関係が示されている。これを系統関係と呼ぶが、系統関係を論理的に構築する方法について概説し、生物の進化の道筋についても考える。さらに、現在、地球上に暮らしているといわれている数千万種の生物を概観してみたい。数千万種を見渡すのはあまりに無謀なので、様々な分類群を紹介し、地球にどんな生き物がいるのかを「知る」努力を試みる。		
教材（教科書）	池内・伊藤・箸本（訳）、キャンベル生物学　原書９版、丸善出版（￥16,200）		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	教科書に沿って講義を行い、演習問題などをおこないつつ、効果的に知識を定着していく。また、まとまった単元ごとに、授業中に演習を行う。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	この地球にどのような生き物がいて、どのような進化の歴史をたどったと考えられているのかについても概観し、地球上の様々な生物を知る。		
授業時間外学習	授業終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
地球上には数千万種の生物が暮らしていると言われています。こうした自然界の驚異を楽しんでください。			
授業スケジュール			
１　種概念 ２　種分化 ３　地球の生命史 ４　系統と生命の樹 ５　絶滅の歴史 ６　現生の生物　細菌と古細菌 ７　現生の生物　原生生物 ８　現生の生物　植物 ９　現生の生物　菌類 １０　現生の生物　動物（動物の系統） １１　現生の生物　動物（無脊椎動物） １２　現生の生物　動物（脊椎動物の起源と進化１、ヌタウナギ～両生類） １３　現生の生物　動物（脊椎動物の起源と進化２、羊膜類） １４　現生の生物　ヒトの系統 １５　生物地理学			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60018001
科目名	昆虫の科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Entomology		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	昆虫種の数は、地球上に存在する生物種の半数以上、未知種が加わると 80％にも達すると推定されるほど多様性に富み、海中以外のあらゆる場所に生息している。本講義では、昆虫の初歩的分類学や形態と機能といった生理学的側面を中心に学び、同種並びに他種生物との相互作用といった生態学的理解への基礎を深める。		
教材（教科書）	特に定めない		
教材（参考資料）	適宜推薦する		
教育方法	あらかじめ配布した資料を読み込んいることを前提に、パワーポイントを使って講義する。		
評価方法	期間中のレポート(小論文数回)と期末試験を基本とし、これに平常点を加味して評価する。		
到達目標	人々の生活を豊かにするものもあり、危険にさらすものもある。あるものはヒトの生活とは無縁な存在でもある。そのような昆虫という多様な生き物の多様な生活についての関心と理解を深め、基本的知識を養う。		
授業時間外学習	次回の資料を授業終了時に配布するので必ず読み込んでくること。また、昆虫にに関する書物を 1 冊以上読破してほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
昆虫をはじめとした生き物の生活への関心を深め、たとえ「昆虫嫌い」の人でも、生き物をいつくしむ心を育ててほしい。そして、生き物をいつくしむ心をほかの誰かに伝えられるようにしてほしい。			
授業スケジュール			
1.　昆虫とは　－　昆虫学事始め 2.　昆虫の形態学　－　ヒトとの体構造との違い 3.　昆虫の分類学　－　多様性に富む生物群 4.　昆虫の成長　－　生活様式を一変させる変態・時空間を旅する休眠 5.　昆虫の栄養　－　意外と似ているヒトと昆虫 6.　昆虫の呼吸　－　まったく異質なヒトと昆虫 7.　昆虫の感覚　－　昆虫には第六感がある！ 8.　昆虫の行動　－　昆虫行動研究でノーベル賞 9.　昆虫の生殖　－　不思議な雌雄のめぐり逢い 10.　昆虫の移動　－　海を渡る昆虫たち 11.　捕食と寄生　－　エレガントにして残酷な関係 12.　役に立つ昆虫　－　日本の近代化を支えた昆虫とは？ 13.　個体群動態　－　昆虫の大発生が予言する未来とは 14.　農作物害虫の管理　－　環境保全型農業をめざして 15.　昆虫の学名　－　”芸者”という名の昆虫			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60019001
科目名	土壌の科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Soil Science		
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
授業概要	土壌は陸上植物にとって、必須の環境のひとつである。特に高等植物の生存を支え、農業生産において重要な役割を持っている。土壌の生成や機能について学ぶことはバイオ環境を理解する上で不可欠である。土壌の特性について理解を進め、土壌と植物、農作物を栽培する土壌、土壌の適切な管理方法、土壌と地球環境との関わりについて学ぶ。講義はプリント資料を配布して行う。さらに講義 3 回終了ごとに小テストを実施し、理解度を確認する。		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	「土壌学の基礎　―生成・機能・肥沃度・環境－」松中照夫著、農文協 「土づくりと作物生産」土壌医検定 3 級試験対応、日本土壌協会 「土の科学」PHP 新書、久馬一剛著、PHP 出版 「健康な土」「病んだ土」」岩田進午著、新日本出版		
教育方法	講義法及び質問法		
評価方法	受講態度(飲食や携帯電話使用、私語など不適切な態度をとらない)10% 小テストの理解度判定 30%、定期試験 60%		
到達目標	①土壌の成り立ちや構成など基本的な特徴について説明できる。 ②植物の生育を支える土壌の機能について説明できる。		
授業時間外学習	毎回の講義後にプリントとノートで復習し、不明な点は提示した参考書などで該当する部分を読んで、理解を確かなものにしておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

農業生産をする上で、土壌は重要な役割を果たしている。また、農業を主要産業とする地域の環境を考える上で、重要な要素のひとつである。本講義では、農耕地土壌を主な対象とするが、多くの学生に土壌についての基礎的な知識と、現代的課題を学んでほしい。

授業スケジュール

1　土壌とは何か？　　～土壌の基本的な役割～
2　土壌はどうして作られたのか？　　～土壌は環境の産物～
3　土壌のなかみは何か？　　～有機物が土壌をつくる～
4　物理的な性質　　～水と空気との関係～
5　化学的な性質　　～イオン交換現象と酸度～
6　生物の働きかけ　　～物質の分解と合成～
7　水田土壌　　～特色ある日本の土壌～
8　畑土壌　　～野菜、麦、豆類の土壌～
9　草地・樹園地土壌　　～牧草、果樹、チャの土壌～
１０　土壌の肥沃度　　～生産性の高い農法の発明～
１１　作物養分の種類と土壌中での挙動　～窒素、リン酸、カリウムなどの動き～
１２　作物生産に生かす土壌診断　　～土壌の健康をはかる～
１３　作物生産のための土壌管理　　～土づくりと作物生産～
１４　土壌汚染と環境汚染　　～窒素、炭素、重金属の行方～
15　土壌と地球環境　　～持続的食料生産への課題～

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60020001
科目名	微生物の世界	単位数	2
科目名（英語表記）	The World of Microorganisms		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	地球上には、きわめて多数のまた多種類の微生物が存在し、動物、植物とともに人間生活に影響を与えている。これらの微生物は、健康へ負の影響を与えたり、発酵食品、工業製品などの有用物質の生産にかかわり、また、自然界の物質循環に関与することにより地球環境の保全さらには環境浄化に役立っている。本講義では、人間生活において微生物の果たしている役割を、生物学的、産業的、環境的視点から学びし、暮らしの中の身近な微生物の特長を理解する。		
教材（教科書）	指定なし		
教材（参考資料）	1）応用微生物学　第２版　（２００８）　清水昌、堀之内末治　編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（２００８）熊谷英彦ら　編　朝倉書店		
教育方法	パワーポイントを活用しながら講義法で行う。		
評価方法	以下の項目に基づいて評価する。 ・平常点（課題の提出など）（４０％） ・期末試験　（６０％）		
到達目標	1）生物界における微生物の位置を区分できるようになる。 2）生態系における微生物の存在形態を列挙できるようになる。 3）人間生活と微生物との関わりについて具体的に説明できるようになる。		
授業時間外学習	人間生活と微生物との関わりについて関心をもつこと。講義終了時に予習の内容を課すので授業までに調べておくこと。講義中に取ったノートを整理しておくこと，また単元の区切りごとのレポートを課す。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ノートに基づいて講義の内容を要約できるようにしておくこと。 興味を持った内容について関連する書籍を読んで、理解を深めておくこと。			
授業スケジュール			
1）　緒論 2）　生物界における微生物の位置 3）　有用微生物：食品の製造 4）　有害微生物：病原微生物、腐敗 5）　文化と微生物 6）　健康と微生物 7）　家庭環境と微生物 8）　環境浄化と微生物 9）　共生と微生物 １０）　生物の進化と微生物 １１）　農林水畜産業と微生物 １２）　鉱業と微生物 １３）　石油と微生物 １４）　食糧と微生物 １５）　エネルギー問題と微生物 （上記内容は目安であり、講師の方の都合などによって変更する場合がある。）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J60021001
科目名	生物の多様性	単位数	2
科目名（英語表記）	Biodiversity		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	生態系を理解し、生物との共存を考える上で欠くことのできない生物多様性について、さまざまな階層での生物の多様性のあり方を理解し、生物多様性を保全することで、人間の生活を改善して持続的発展を実現する視点を養う。		
教材（教科書）	池内・伊藤・箸本（訳）、キャンベル生物学　原書９版、丸善出版（¥16,200）		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	教科書に沿って講義を行い、演習問題などをおこないつつ、効果的に知識を定着していく。また、まとまった単元ごとに、授業中に演習を行う。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	多様性の意味、多様性が生み出される仕組み、人間活動の持続性に多様性が果たす役割を理解する。		
授業時間外学習	授業終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日頃から、自分の身の回りの生物多様性を理解するようにつとめ、講義内容を自分の身近な問題として関連付け、理解を深めること。事前に生物学的な知識は問わないが、事実を柔軟な視点で理解する力が必要。			
授業スケジュール			
１）様々な多様性と多様性の必要性 ２）遺伝的変異と進化 ３）植物の多様性 ４）動物の多様性 ５）地球環境の地域差、季節性、歴史的変化 ６）気候による生物の分布の多様性 ７）撹乱による生物の分布の多様性 ８）水界の多様性の区分 ９）生物の分散と分布 １０）生物の分布に影響する生物的要因 １１）生物の分布に影響する非生物的要因 １２）生活史の多様性 １３）群集の多様性と栄養構造 １４）群集の多様性と撹乱 １５）群集の多様性と地理的要因			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60022001
科目名	生物学 -k(2014 生まで)	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	これから多岐にわたる生物系の分野を学習する上で、基礎となり、かつ、生命現象全般に対する見通しのある視点を提供する。		
教材（教科書）	池内・伊藤・箸本（訳)、キャンベル生物学　原書 9 版、丸善出版（¥16,200）		
教材（参考資料）	東京大学生命科学教科書編集委員会「理系総合のための生命科学 第 2 版―分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ」羊土社		
教育方法	教科書に沿って講義を行い、演習問題などをおこないつつ、効果的に知識を定着していく。また、まとまった単元ごとに、授業中に演習を行う。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	生命現象について、どのようなメカニズムで生命現象が実現されているのかという視点と、どのような機能を果たしているのかという視点の双方を習得する。 多岐にわたる生物系の分野に対し、知見を広げるとともに、それらを個別の知識に終わらせることなく、生命現象全般を見通す力を養う。		
授業時間外学習	授業終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この講義では生物学の基礎を学んでもらいます。これまでに生物学を学んだ経験の有無は問いませんが、好奇心を持って講義を楽しんでください。生物学も例外なく、細分化されてしまっていますが、本講義では、細分化されてしまった分野を統合して生物を理解することを試みます。各講義で扱う現象を理解するとともに、全体を見通す視点を養ってください。さまざまなレベルの生命現象を理解して、生命のすばらしさを堪能してください。

授業スケジュール

1　イントロダクション　生物とは何か　生物構成する物質
2　メンデルと遺伝子の概念
3　染色体の挙動と遺伝子
4　遺伝子の複製
5　遺伝子の発現
6　タンパク質の構造
7　タンパク質の機能
8　遺伝子からタンパク質へ　遺伝子の発現制御
9　細胞
１０　動物の生殖と発生
１１　動物の内分泌系と神経系
１２　種の起源
１３　ダーウィンの生命観　集団の進化（１）自然淘汰
１４　ダーウィンの生命観　集団の進化（２）性淘汰
１５　動物の行動の進化

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60022002
科目名	生物学 -s(2014 生まで)	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	本講義は、バイオ環境学部で行われる様々な講義の導入科目として位置づけている。従って、生物学全般についてできるだけ幅広くその概略を説明するとともに、以後の学科の講義で必要となる基礎知識、専門用語をしっかりと理解する。この講義をとおして、生命活動を物質レベルで考える力を身につける。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	Eric J. Simon 著　池内正彦監訳 『エッセンシャル　キャンベル生物学』　丸善　7,000 円 Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』丸善　16,200 円 Richard Allan 著 後藤太一郎監訳 『ワークブックで学ぶ生物学の基礎 第 3 版』オーム社　3,200 円 南雲保　編著　今井一志・大島海一・鈴木秀和・田中次郎　著 『やさしい基礎生物学第 2 版』羊土社　2,900 円		
教育方法	パワーポイントを用いて説明する。 説明後に演習問題を行う。		
評価方法	期末試験(75%)　毎回の演習およびレポート(25%)		
到達目標	生物学の基本事項について正しく理解する。 生物学の専門用語について説明ができる。 生物学関連のマスコミや科学雑誌などの記事を理解し、説明できる。 講義後に行う演習問題をしっかりと理解し解答することができる。		
授業時間外学習	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の教員個人フォルダ内の資料提供フォルダに、次回のレジメを入れておくので、授業までに読んでおくこと。復習の演習問題は、同じファルダに入れておくので、自分で解けるようにしておくこと。疑問点があれば次回の授業までにまとめておくこと。 講義で学んだ基本事項、専門用語については、次の講義までに説明できるようにしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

バイオサイエンス学科の学生は積極的にこの講義を受けること。
演習問題やレポート提出などが重要な評価対象となるので、講義の中で理解し分からないところはそのままにしないこと。
日頃から生物学の分野について関心を持つように心がける。

授業スケジュール

1. ガイダンス　（科目の概略説明。講義の心構え、勉強の方法などについて言及）
2. 生物学とは？　（生物と無生物の違い、バイオとは？）
3. 生物の進化　（進化論、生物多様性など）
4. 生態学　（生物の分布、個体群、生態系など）
5. 細胞の基本構造　（生命の基本単位である細胞とは）
6. 生命の化学 I　（生命の化学的基盤、水と環境）
7. 生命の化学 II　（生命分子の多様性、高分子の構造）
8. 確認試験とその解説
9. 遺伝のしくみ（メンデルと遺伝子の概念）
10. 遺伝子からタンパク質へ　（遺伝子の複製、転写、翻訳、セントラルドグマなど）
11. バイオテクノロジー　（バイオ研究の基本技術）
12. 生物の恒常性　（内分泌系とホルモンなど）

13. 植物の機能　（光合成、植物のバイオテクノロジーなど）
14. 細胞呼吸と発酵　（解糖系、電子伝達系など）
15. 生物学の講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J60023001
科目名	化学 -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Chemistry		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	化学は物質の構造や性質、反応について追究する学問であるとされる。我々の肉体はもちろんのこと、我々を取り巻く世界そのものが物質の集合体であり、我々の体内や身の回りで起こるすべての事象－そこには心や感情の動きすらも含まれる－には、物質による化学反応が関与している。したがって、それらの反応について深く考察できる力は、社会に対して説得力のある意見を発する力や、人生の分岐点において的確な判断を下せる力につながる。そのように成長するための教養として物質の構造や性質、つまり「化学反応を支配する要素」について学ぶ。		
教材（教科書）	サイエンスビュー化学総合資料　（実教出版）		
教材（参考資料）	ベーシック化学　高校の化学から大学の化学へ　（化学同人） 化学（高等学校教科書）		
教育方法	教科書を随時参照しながらの板書と講義を組み合わせ、復習課題や演習課題は学生諸君に板書して解答してもらう。		
評価方法	授業期間内中間試験（50%）、および期末試験（50%）によって評価する。		
到達目標	1)　物質量（単位 mol）の概念を、化学反応における質量や体積の変化と関連付けて理解できる。 2)　原子や分子の構造について、電子軌道を関連付けて理解できる。 3)　種々の化学反応について、分子の電子状態から反応性を予測できる。 4)　サイエンス学科の共通基礎となる有機化学の基礎的理解力を養う。		
授業時間外学習	高等学校の化学の教科書（履修しなかった人は、あらためてぜひ購入してほしい）を手元において、何度も読み返してほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

大学の化学は「電子」から始まると思ってほしい。原子や分子の性質および反応性をより深く理解するためには、「電子」について捉え直す必要がある。特に、元素の周期表を眺め、日常生活に見かける化学物質と関連付ける習慣を身につけることが、「電子」の理解の入り口である。

授業スケジュール

1．化学を学ぶ意味　実力テスト
2．原子の構造と周期表
3．元素の電子配置、イオン化の周期性
4．化学結合と電気陰性度
5．化学式と物質量
6．典型元素の性質と反応
7．化学式・組成式・分子式・構造式
8．化学反応と化学熱力学
9．反応速度
10．酸と塩基
11．中和滴定と緩衝液（バッファー）
12．無機化合物　(C, N, O, P, S)
13．酸化還元反応
14．有機化学入門
15．化学全版について質問と回答

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60023002
科目名	化学 -k	単位数	2
科目名（英語表記）	Chemistry		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
授業概要	原子と分子、無機化学および有機化学の各項目について概要を説明し、我々を取り巻く世界が物質の集合体であり、物質の構成と物質の反応を取り扱う学問が化学であることを理解する。さらに、我々の周囲で起きる科学や技術に関する問題、特に環境問題に関連する事項について化学的知識をもとに考察できる習慣をつける。講義内容の理解度確認として毎回、チェックプリントを実施する。小テストを複数回実施する。		
教材（教科書）	中川徹夫著　化学の基礎－元素記号からおさらいする化学の基本　化学同人　1500 円＋税		
教材（参考資料）	高等学校の化学の教科書、便覧等		
教育方法	教科書に沿って基本的に講義法で行う。講義の最初に前回の授業内容のチェックプリントを行う。チェックプリントの答え合わせと自己採点を行い、各自、自分の理解度を確認する。授業のポイントを板書するので、学生は各自ノートをまとめる。授業で板書する演習問題もしくは配布するプリントを使い、内容の理解を深める。小テストを複数回実施する。		
評価方法	チェックプリント、授業中の演習問題に対する取組態度等による平常点（20%）、小テスト（40%）、定期テスト（40%）		
到達目標	単位の変換や有効数字を理解し、計算することができる。 物質の成り立ちを理解し、原子の構造が説明できる。 物質量の概念を理解し、説明や計算ができる。 さまざまな濃度計算ができる。 物質変換を化学反応として認識し、化学反応式を立てることができる。		
授業時間外学習	毎回、講義後に講義内容を復習し、該当する部分の例題や演習問題を自習すること		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業と並行して例題の問題集などの演習に積極的に取り組むこと。疑問点や苦手な点は自習して次回の講義までには解決するように努力すること。バイオ環境館 10 階の学修支援室を積極的に利用して、内容の理解に取り組むこと。
化学実験・化学演習の履修を予定する学生は、この「化学」を受講していることが望ましい。

授業スケジュール

授業の進度によって外れることがある
1. 化学とは
2. 測定の体系
3. 有効数字
4. 原子の構造、元素記号
5. 同位体と原子量、周期表
6. 電子配置
7. 化学結合：イオン結合
8. 化学結合：共有結合
9. 分子間結合
10. 化学変化と化学反応式
11. 物質量
12. 溶液の濃度 1
13. 溶液の濃度 2
14. 化学反応式と量的関係
15. 様々な化学反応

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	★	−	★★

年度	2018	授業コード	J60023003
科目名	化学 -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Chemistry		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	世の中にあるすべての物質は、原子からできている。この講義では原子と分子、無機化学および有機化学の各項目について概要を説明し、我々を取り巻く世界が物質の集合体であり、物質の構成と物質の反応を取扱う学問が化学であることを理解することを目的としている。我々の周囲で起きている事象を科学的に説明する基礎を身に付ける。		
教材（教科書）	中川徹夫著　『化学の基礎―元素記号からおさらいする化学の基本』　化学同人　1500 円＋税		
教材（参考資料）	A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円＋税 J.E.Brady, G.E.Humiston 著　『一般化学』（上）（下）　東京化学同人　各 2980 円＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－　問題と解答』　東京化学同人　1700 円（＋税）		
教育方法	講義法で行う。講義内で確認テストを行うので修学状況を自ら確認する。 成績評価の対象となる小テストを 2 回行う。 テキスト内の問題を宿題として課す。		
評価方法	小テスト等講義中の課題（50%）、宿題（10%）、定期テスト（40%）		
到達目標	単位の変換や有効数字を理解し、計算することができる。 物質の成り立ちを理解し、原子の構造が説明できる。 物質量の概念を理解し、説明や計算ができる。 様々な濃度計算の式をたてることができる。 物質変換を化学反応として認識し、反応式を作成することができる。		
授業時間外学習	講義の順番は、以下に示したとおりであるので、次回の講義内容に相当する部分のテキストを読んでおく。 毎回講義後に講義内容を復習し、該当する部分の例題や演習問題を自習する。 宿題が課されたときは、期日までに行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．これまでの化学の履修経験は問わない。
2．授業と並行して例題や教材の問題集などの演習に積極的に取り組むことが望ましい。
3．講義で学んだ部分を自習し、次回の授業までに理解するように努める。

授業スケジュール

授業の進度によってはずれることもある
1. 化学とはどのような学問か（テキスト 0 章）
2. 測定の体系（テキスト付録）
3. 有効数字（テキスト付録）
4. 原子の構造（テキスト 1 章 1.1）
5. 同位体と原子量（テキスト 1 章 1.2－1.4）
6. 電子配置（テキスト 2 章 2.1－2.4）　小テスト 1 回目
7. 化学結合 1：共有結合（テキスト 2 章 2.5－2.6）
8. 化学結合 2：イオン結合（テキスト 3 章）
9. 分子間結合（テキスト 4 章）
10. 物質量（テキスト 5 章）
11. 物質量とその他の物理量（テキスト 6 章）　小テスト 2 回目
12. 溶液の濃度 1：百分率濃度（テキスト 7 章 7.1－7.2）
13. 溶液の濃度 2：モル濃度（テキスト 7 章 7.3－7.4）
14. 化学反応式（テキスト 8 章）
15. 化学反応式の量的関係（テキスト 9 章）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J60025001
科目名	地球科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Earth Science		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	地球科学は自然科学，特に物理学・化学などの分野を基礎として自然体系を構成する総合科学である。したがって，自然の総合的体系の精確な理解のためにはまず最初に物理・化学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では自然科学の体系の中で地球科学の基礎となる宇宙空間，太陽系，惑星運動，固体地球，地球回転などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	１．自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力を修得する。 ２．目的に応じた適切なデータ解析力を修得する。 ３．結果について考察する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学，物理学を履修することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．宇宙空間（１）：膨張宇宙 ２．宇宙空間（２）：銀河 ３．宇宙空間（３）：恒星 ４．太陽系（１）：銀河系 ５．太陽系（２）：惑星 ６．太陽系（３）：衛星 ７．惑星運動（１）：万有引力 ８．惑星運動（２）：惑星軌道 ９．惑星運動（３）：公転周期 １０．固体地球（１）：地球測定 １１．固体地球（２）：経緯度 １２．固体地球（３）：地球楕円体 １３．地球回転（１）：重力 １４．地球回転（２）：ジオイド １５．地球回転（３）：転向力			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60026002
科目名	数学	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	数学は自然科学のすべての分野を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の理解のためにはまず最初に数学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では数学の体系の中で解析学の基礎となる行列，行列式，微分，積分，複素関数などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税）		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	１．数学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力を修得する。 ２．目的に応じた適切なデータ解析力を修得する。 ３．結果について考察する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
物理学，地球科学を履修することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．行列（１）：ベクトル ２．行列（２）：スカラー積 ３．行列（３）：行列演算 ４．行列式（１）：逆行列 ５．行列式（２）：ベクトル積 ６．行列式（３）：関数行列式 ７．微分（１）：スカラー場 ８．微分（２）：ベクトル場 ９．微分（３）：直交曲線座標 10．積分（１）：線積分 11．積分（２）：面積分 12．積分（３）：体積積分 13．複素関数（１）：複素微分 14．複素関数（２）：複素積分 15．複素関数（３）：級数展開			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60027001
科目名	生物学実験 -k(春前半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Field Biology		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
授業概要	生物学における知識を習得・錬成するために、様々な植物、動物を材料として観察・調査・実験を行う。 また、レポートの書き方、生物データの扱い方，特に PC によるデータ処理についても学ぶ。		
教材（教科書）	担当教員が作成し、適宜配布する。		
教材（参考資料）	『キャンベル生物学　原書 9 版』丸善,『フローチャート標準生物学実験』実教出版		
教育方法	各回のテーマに沿った実験を行う。 実験室だけでなく、野外での調査・測定も行う。		
評価方法	実験レポート(80%)　実験への取り組み方（20%）		
到達目標	1. 実験に臨む心構えや態度を身につける。 2. 実験に必要な器具の使用法を習熟する。 3. 実験結果の扱い方とレポートの書き方を習得する。 4. 実験をとおした生物学の実践的知識を習得する。 5. 生物データの統計学的計算法を習得する。		
授業時間外学習	参考資料に挙げた文献を読み、実験内容の予習・復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各回の実験で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。			
授業スケジュール			
第 1 回：ガイダンス 第 2 回：微生物・動物細胞の観察 第 3 回：減数分裂・体細胞分裂の観察 第 4 回：雑草の分布・同定 1 第 5 回：雑草の分布・同定 2 第 6 回：植物組織・気孔の観察 第 7 回：葉内でんぷん量の定量 第 8 回：　データのまとめ方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J60027002
科目名	生物学実験 -s(秋後半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Field Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	講義の概要： 生物学で学んだ知識を習得・錬成するために、様々な微生物、植物、動物を材料として実験・観察を行う。これから学ぶバイオサイエンス系の実験の基礎をこの生物学実験をとおして体得する。また、レポートの書き方、生物データーの扱い方も学ぶ。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	『キャンベル生物学　原書 9 版』丸善　16,200 円 『フローチャート標準生物学実験』　実教出版　2,300 円		
教育方法	実験書を渡すのでそれに従って実習の最初に説明する。		
評価方法	実験レポート(80%)　実験ノートと実験への取り組み方（20%）		
到達目標	実験に臨む心構えや態度を身につける。 実験に必要な器具の使用法を習熟する。 実験結果の扱い方とレポートの書き方を習得する。 実験をとおした生物学の実践的知識を習得する。 生物データーの統計学的計算法を習得する。		
授業時間外学習	事前に配られたテキストで実験内容を予習し、実験ノートを作成しておくこと。 実験終了後は、理解できなかったところを調べて、次の実験までに解決しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

バイオサイエンス学科の学生は積極的にこの実験を受けること。春学期の生物学とセットでとると良い。
レポート提出が重要な評価対象となるので、実験終了後は実験結果をしっかりと整理してレポートを作成すること。
実験結果に基づいて、論理的な思考を持ち、生命現象を理解する訓練をして欲しい。また根気よく観察する力を養ってもらいたい。

授業スケジュール

1. ガイダンス
2. 統計的な考え方
3. 微生物の観察
4. 植物細胞の観察
5. 体細胞分裂の観察
6. 動物細胞の観察
7. ピペットマン操作と検量線
8. 酵素実験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J60027003
科目名	生物学実験 -f(秋後半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Field Biology		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
授業概要	生物学で学んだ知識を基に実践的な知識・技術を身につけるため、実験操作、データ処理（統計処理）、結果考察、実験ノートの作成を行う。植物を主な材料として扱い、その構造（細胞）・成分（色素・DNA）・生体反応（酵素反応）の基礎を実験を通して学んでいく。実験の中でピペット、顕微鏡、分光光度計、電気泳動層などの器具・機器を使用し、それらの使い方を習得する。		
教材（教科書）	実験書を配布する		
教材（参考資料）	『フローチャート標準生物学実験』　標準生物学実験編修委員会 編 実教出版　2,300 円 『生物学実験』　佐藤温重 他著 東海大学出版部　2,000 円		
教育方法	授業のはじめに、その日の実験の概要を説明する。2〜4 人で 1 組となり、実験書に従って実験を進めてもらう。実験途中には随時、方法や結果を実験ノートにとり、実験終了後には結果をまとめ、考察まで記入するようにする。使用した実験器具の洗浄・片付け、実験台の整備までを行う。		
評価方法	実験ノート（途中回にチェック、最終回に提出）と実験への取組み方をあわせ総合的に評価（100%）		
到達目標	1．実験を行う上での心構え・規則・作法を身につける。 2．実験器具を正しく使えるようになる。 3．十分な内容の実験ノートを書けるようになる。 4．生物学の実践的知識を習得する。		
授業時間外学習	事前に配布する実験書を熟読し、また併せて生物学の教科書も利用して、実験内容の予習をしておくこと。必要に応じて、実験ノートを予め書いておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．出会った科学現象に対して、疑問や課題を持てることが研究者・技術者に必要な要素です。これまでに学んできた生物学の知識をベースにして、意欲的に学習を展開してください。また、実験に丁寧に根気よく取り組み、実験結果を論理的に考察するように努めてください。 2．実験ノートが必要になります。初回の授業に様式を指示します。			
授業スケジュール			
1．　ガイダンス 2．　生物材料のスケッチ 3．　植物細胞の顕微鏡観察 4．　生体膜にかかる浸透圧 5．　植物色素の抽出と吸光分析 6．　生物個体のバラツキと測定誤差 7．　アガロースゲル電気泳動による DNA の分離と視覚化 8．　アミラーゼ（酵素）によるデンプンの糖化反応			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J60028001
科目名	化学実験 -s(秋前半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Chemistry		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
授業概要	化学実験を行う上で基本となる試薬の取り扱いや実験器具・機器類の正しい使用法を実践的に学ぶ。また実験により得られたデータの扱いとまとめ方を実験ノートとレポートの書き方を通して習得する。実験を安全に行うために、危険物の取扱方法等の教育訓練も適宜行う。		
教材（教科書）	実験指示書（生物有機化学研究室編集・化学実験指示書） 適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	安全の手引き（京都学園大学バイオ環境学部編） ＤＶＤ「安全な化学実験のために」 各種データ処理に使用する関数電卓（1500 円程度）		
教育方法	実験の目的と方法を口頭とモニターを使って解説した後、グループになって実験を行う。試薬の扱い方、溶液の調製法、器具類の使用法の説明では、事故が起こらないように細かく指示を出す。また溶液の調製に必要なさまざまな濃度の計算方法は、演習形式で確実に習得させる。実験ノートやレポートの書き方、器具類の洗浄はすべての実験科目に共通する重要な項目であるので、スキルアップを目指して実験ごとに繰り返し指導する。		
評価方法	実験レポートの成績(70%)、受講態度(30%)等を考慮に入れ総合的に評価する。		
到達目標	化学関連の実験に共通の実験操作を経験させるとともに、化学の研究を進めるうえで要求される観察力、論理的思考力、想像力を養う。		
授業時間外学習	配布資料の実験指示書を予め読み、実施内容の概要を把握しておく。その上で、実験ノートに当日行う実験の目的と方法を事前に記載して実験に備える。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

専門課程の実験や卒業研究の際の基本になる実験態度、化学物質の取扱方法、器具や機器の使用法を習得する良い機会なので、受講者は毎講時出席した上で実験に慣れて欲しい。

授業スケジュール

1. 安全講習、実験器具の取り扱い、ガラス細工
2. 秤量操作と滴定操作の習得
3. 各種試薬・溶液の調製
4. 弱酸の電離平衡と電離定数
5. 緩衝液（バッファー）の pH
6. 反応速度と濃度・温度の関係
7. 植物から精油の抽出
8. 化学実験に必要な基礎知識の理解度テスト、実験器具の整理整頓

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J60028002
科目名	化学実験 -k(春前半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Chemistry		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
授業概要	化学で学んだ理論を定性および定量実験を通して理解することを目的としている。さらに、化学的な実験をおこなうための基本的な技術を習得する。実験の基本的な考え方を身につける。		
教材（教科書）	初日に配布する実験書		
教材（参考資料）	飯田隆ら　編　『イラストで見る化学実験の基礎知識』　丸善　3000 円＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円＋税 高等学校の化学の教科書や図録等		
教育方法	2-4 人の班で実験を行う。実験当日までに該当実験の予習、実験ノートの作成を行い、当日は速やかに、効率よく実験を行えるようにする。当日、実験概要・実験操作のポイントを教員が示した後は、各班で実験を進める。実験後は指定する日までに実験レポートを作成し提出する。		
評価方法	レポート（60%）、小テスト（30%）、実験の取り組み態度による平常点（10%）		
到達目標	基本的な実験操作を習得し、説明することができる。 基本的な実験器具の名称と特徴を理解できる。 化学実験のレポートの基本的な書き方が理解し、適切に記述することができる。		
授業時間外学習	必ず実験手順の予習をし、実験ノートを作成する。また、実験と関連する理論を予習する。指定日までに実験のデータの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

実験用のノート（ルーズリーフは不可）を用意すること。実験中は白衣を着用すること。
化学の理論を勉強しておくこと。
環境化学実験と合わせて受講することが望ましい。
水環境化学実験の履修を予定する学生は、この「化学実験」を受講していることが望ましい。

授業スケジュール

1. ガイダンス、化学実験基礎操作１（ガラス器具の名称）
2. 化学実験基礎操作２ーフェーリング反応－（はかり、バーナーの使い方）
3. 化学実験基礎操作３ー残留塩素測定ー（定量ガラス器具の扱い方）
4. クロマトグラフィーによる混合物の分離
5. アボガドロ数の測定
6. 無機定性実験１（金属イオンの分離と確認）
7. 無機定性実験２（未知イオンの同定）
8. 小テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J60028003
科目名	化学実験 -f(春前半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Chemistry		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	化学で学んだ理論を定性および定量実験を通して理解することを目的としている。化学実験でよく使用する器具の名称や特徴、使用方法を習得し、それらを用いて行う基本的な実験技術も併せて習得する。レポートを形式通りに書けるようにする。		
教材（教科書）	初回に配布する実験書		
教材（参考資料）	飯田隆ら　編　『イラストで見る化学実験の基礎知識』　丸善　3000 円＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』東京化学同人　2850 円＋税 高等学校の化学の教科書および図録		
教育方法	3 人程度（受講者数によって変わる）の班で実験を行う。 事前に実験書の内容を予習し、効率よく実験を行う。 実験ごとに、決められた期日までにレポートを作成し提出する。		
評価方法	レポート（60%）、小テスト（30%）、実験の取り組み態度による平常点（10%）		
到達目標	基本的な実験操作を習得し、説明することができる。 基本的な実験器具の名称と特徴を理解できる。 基本的な実験器具を正しく使用することができる。 化学実験のレポートの基本的な書き方を理解し、適切に記述することができる。		
授業時間外学習	必ず実験手順の予習をし、実験ノートを作成し、実験と関連する理論を予習する。 期日までに実験のデータの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．環境化学実験とともに受講することが望ましい。
2．実験用のノート（ルーズリーフは不可）を用意する。
3．実験中は動きやすい服装をし、白衣を着用する。
4．実験中は実験室のルールに従って行動する（具体的ルールはオリエンテーションで説明する）
5．化学の理論を勉強しておくこと。

授業スケジュール

1. ガイダンス、化学実験基礎操作１（ガラス器具の名称）
2. 化学実験基礎操作２ーフェーリング反応－（はかり、バーナーの使い方）
3. 化学実験基礎操作３ー残留塩素測定ー（定量ガラス器具の扱い方）
4. クロマトグラフィーによる混合物の分離
5. アボガドロ数の測定
6. 無機定性実験１（金属イオンの分離と確認）
7. 無機定性実験２（未知イオンの同定）
8. 小テストと解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	J60029001
科目名	物理学実験（春前半）	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Physics		
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	
授業概要	実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり，これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて，長さ，質量，時間，単振子，ばね振子，衝突，電気，磁気などあらゆる測定の基本となる物理量について具体的な現象の観察を通して求め，さらに，得られたデータの信頼性については，コンピュータを活用した処理をとおして考察する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教育方法	授業冒頭に実験の目的を明示したのち必要な予備知識について講義し、具体的な手順を提示しながら実験を進める。		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集・処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当する参考文献の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当する参考文献の問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学・演習，物理学・演習，地球科学・演習，環境物理学・実験，環境地球科学を履修することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．長さ：面積・体積 ２．質量：天秤・密度 ３．時間：速度・加速度 ４．単振子：振幅・周期 ５．ばね振子：力・振動数 ６．衝突：運動量・力学的エネルギー ７．電気：電流・ジュール熱 ８．磁気：電磁石・磁力			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J60030001
科目名	地球科学実験（秋前半）	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Earth Science		
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	
授業概要	実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり，これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて，年周視差，恒星，惑星，重力，自転，太陽，気象，海洋などあらゆる測定の基本となる観測量について具体的な現象の観察を通して求め，さらに，得られたデータの信頼性については，コンピュータを活用した処理をとおして考察する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教育方法	授業冒頭に実験の目的を明示したのち必要な予備知識について講義し、具体的な手順を提示しながら実験を進める。		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集・処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当する参考文献の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当する参考文献の問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習・実験を履修することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．年周視差：天文単位・パーセク ２．恒星：光度・絶対等級 ３．惑星：平均距離・公転周期 ４．重力：万有引力・重力加速度 ５．自転：遠心力・転向力 ６．太陽：視直径・太陽定数 ７．気象：気温・気圧 ８．海洋：塩分・組成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J6003100A
科目名	情報処理実習Ⅰ -k(再)	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Course in Information Processi ng I		
担当者名	鈴木　真理子	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
授業概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（教科書）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考資料）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円 『パソコン利用ガイドブック』（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）		
教育方法	主に教科書とパワーポイントに沿って講義法で行い、各自がパーソナルコンピュータを使って受講内容に従い実習する。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

授業スケジュール

1．情報基礎（1）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3．情報通信（1）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用
4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化
7．文書処理（4）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成
8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存
9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
10．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成
11．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
12．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションの基礎（1）、プレゼンテーションソフトの基礎
13．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションの基礎（2）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現
14．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成
15．情報表現基礎（4）：プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J6003100C
科目名	情報処理実習Ⅰ -s1(再)	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Course in Information Processi ng I		
担当者名	北島　宣	旧科目名称	
授業概要	現代の科学技術研究の過程において、情報機器の利用は不可欠である。本実習は、情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として、最初にパーソナルコンピューターについての基本的な知識を学修する。その後、文書作成、表計算ソフトウエアによるデータ処理技術、プレゼンテーションソフトウェアによる資料作成技術について学修する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	嶋貫健二著「実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書」　カットシステム　2,500 円		
教育方法	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル）や e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」などを用い、実習形式で行う。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	1．コンピュータのハードウェアについての基本的な俊樹の修得 2．文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 3．コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 4．プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．定刻には着席し、受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。
2．原則としてトイレは授業前に済ませるか休憩時に行く（体調が悪い場合は申し出ること）。

授業スケジュール

1．情報基礎（1）：情報処理実習概論・コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3．情報通信（1）：WEB プラウザを用いたインターネットの利用
4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化
7．文書処理（4）：文書作成ソフト文書の体裁とオブジェクトの作成
8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
１０．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成
１１．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
１２．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションソフトの基礎
１３．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携
１４．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成
１５．情報表現基礎（3）：プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J6003100D
科目名	情報処理実習Ⅰ -s2(再)	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Course in Information Processi ng I		
担当者名	北島　宣	旧科目名称	
授業概要	現代の科学技術研究の過程において、情報機器の利用は不可欠である。本実習は、情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として、最初にパーソナルコンピューターについての基本的な知識を学修する。その後、文書作成、表計算ソフトウエアによるデータ処理技術、プレゼンテーションソフトウェアによる資料作成技術について学修する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	嶋貫健二著「実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書」　カットシステム　2,500 円		
教育方法	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル）や e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」などを用い、実習形式で行う。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	1．コンピュータのハードウェアについての基本的な俊樹の修得 2．文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 3．コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 4．プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．定刻には着席し、受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。
2．原則としてトイレは授業前に済ませるか休憩時に行く（体調が悪い場合は申し出ること）。

授業スケジュール

1．情報基礎（1）：情報処理実習概論・コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3．情報通信（1）：WEB プラウザを用いたインターネットの利用
4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化
7．文書処理（4）：文書作成ソフト文書の体裁とオブジェクトの作成
8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
１０．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成
１１．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
１２．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションソフトの基礎
１３．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携
１４．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成
１５．情報表現基礎（3）：プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J6003200C
科目名	情報処理実習Ⅱ -s1(再)	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Course in Information Processi ng II		
担当者名	北島　宣	旧科目名称	
授業概要	情報処理実習Ⅰで修得した知識を応用し、より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎ソフトウエア活用の基礎を踏まえながら、初歩的なプログラミングを行い、今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	嶋貫健二著「実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書」　カットシステム　2,500 円		
教育方法	「パソコン利用ガイドブック」(大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル）や e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」などを用い、実習形式で行う。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	1．情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 2．表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 3．プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 4．HTML による基本的な WEB ページの作製技術の修得 5．ソフトワエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の修得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．定刻には着席し、受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。
2．原則としてトイレは授業前に済ませるか休憩時に行く（体調が悪い場合は申し出ること)。

授業スケジュール

1．情報機器応用（1)：情報処理実習概論
2．情報機器応用（2)：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産
3．情報表現応用（1)：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4．データ処理応用（1)：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ
5．データ処理応用（2)：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理
6．データ処理応用（3)：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化
7．データ処理応用（4)：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化
8．データ処理応用（5)：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9．情報表現応用（2)：長文レポート作成（1）レポートの形式
10．情報表現応用（3)：長文レポート作成（2）データ表現の形式
11．情報表現応用（4)：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティー、インターネットでの情報表現
12．情報表現応用（5)：表計算ソフトの応用・表計算ソフトを使った学習（1）数式の数表化
13．情報表現応用（6)：表計算ソフトの応用・表計算ソフトを使った学習（2）数式のグラフ化
14．情報表現応用（7)：表計算ソフトの応用・表計算ソフトを使った学習（2）シミュレーションモデルの構築
15．情報表現応用（8)：表計算ソフトの応用・表計算ソフトを使った学習（3）シミュレーションモデル結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J6003200D
科目名	情報処理実習Ⅱ -s2(再)	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Course in Information Processi ng II		
担当者名	北島　宣	旧科目名称	
授業概要	情報処理実習Ⅰで修得した知識を応用し、より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎ソフトウエア活用の基礎を踏まえながら、初歩的なプログラミングを行い、今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	嶋貫健二著「実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書」　カットシステム　2,500 円		
教育方法	「パソコン利用ガイドブック」(大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル）や e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」などを用い、実習形式で行う。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	1．情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 2．表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 3．プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 4．HTML による基本的な WEB ページの作製技術の修得 5．ソフトワエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の修得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．定刻には着席し、受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。
2．原則としてトイレは授業前に済ませるか休憩時に行く（体調が悪い場合は申し出ること)。

授業スケジュール

1．情報機器応用（1)：情報処理実習概論
2．情報機器応用（2)：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産
3．情報表現応用（1)：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4．データ処理応用（1)：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ
5．データ処理応用（2)：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理
6．データ処理応用（3)：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化
7．データ処理応用（4)：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化
8．データ処理応用（5)：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9．情報表現応用（2)：長文レポート作成（1）レポートの形式
10．情報表現応用（3)：長文レポート作成（2）データ表現の形式
11．情報表現応用（4)：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティー、インターネットでの情報表現
12．情報表現応用（5)：表計算ソフトの応用・表計算ソフトを使った学習（1）数式の数表化
13．情報表現応用（6)：表計算ソフトの応用・表計算ソフトを使った学習（2）数式のグラフ化
14．情報表現応用（7)：表計算ソフトの応用・表計算ソフトを使った学習（2）シミュレーションモデルの構築
15．情報表現応用（8)：表計算ソフトの応用・表計算ソフトを使った学習（3）シミュレーションモデル結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J6003300E
科目名	科学英語Ⅰ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English I		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

授業スケジュール

１．英文・和文基礎
２．英文・和文基礎演習
３．可算名詞・不可算名詞
４．可算名詞・不可算名詞演習
５．自動詞・他動詞・人称代名詞
６．自動詞・他動詞・人称代名詞演習
７．第１文型・第３文型
８．第１文型・第３文型演習
９．形容詞
１０．形容詞演習
１１．第２文型
１２．第２文型演習
１３．第４文型・第５文型
１４．第４文型・第５文型演習
１５．総合演習（１）：英文・和文基礎～第１文型・第３文型
１６．総合演習（２）：形容詞～第４文型・第５文型
１７．副詞
１８．副詞演習
１９．形容詞・副詞の比較級・最上級
２０．形容詞・副詞の比較級・最上級演習
２１．前置詞
２２．前置詞演習
２３．助動詞
２４．助動詞演習
２５．動詞の時制
２６．動詞の時制演習

２７．受動態 ２８．受動態演習 ２９．総合演習（３）：副詞～前置詞 ３０．総合演習（４）：助動詞～受動態

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	J6003400A
科目名	科学英語Ⅱ -s1(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English Ⅱ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	「科学英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（教科書）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考資料）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教育方法	パワーポイントや CD などを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
授業スケジュール			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2.～16.「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に 「The　Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の文章を読解する。 17.　　中間テストをする。 18.～30.「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、 図表などについて学習する。同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と 「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	★	–	–

年度	2018	授業コード	J6003400B
科目名	科学英語Ⅱ -s2(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English Ⅱ		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
授業概要	「科学英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（教科書）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考資料）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教育方法	パワーポイントや CD などを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。

授業スケジュール

1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。

2.～16.「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に
「The　Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の文章を読解する。

17.　　中間テストをする。

18.～30.「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、
図表などについて学習する。同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と
「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	★	–	–

年度	2018	授業コード	J6003400C
科目名	科学英語Ⅱ -s3(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English Ⅱ		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
授業概要	「科学英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（教科書）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考資料）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教育方法	パワーポイントや CD などを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。

授業スケジュール

1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。

2.～16.「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に
「The　Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の文章を読解する。

17.　　中間テストをする。

18.～30.「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、
図表などについて学習する。同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と
「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	★	–	–

年度	2018	授業コード	J6003400E
科目名	科学英語Ⅱ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English Ⅱ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語　Ⅰ・科学英語基礎　Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

授業スケジュール

１．基本英語
２．基本英語演習
３．疑問詞・特殊疑問文
４．疑問詞・特殊疑問文演習
５．一般・選択・付加疑問文
６．一般・選択・付加疑問文演習
７．命令文・特殊な文
８．命令文・特殊な文演習
９．否定文
１０．否定文演習
１１．動名詞・不定詞
１２．動名詞・不定詞演習
１３．分詞・不定詞基本
１４．分詞・不定詞基本演習
１５．総合演習（1）：基本英語～命令文・特殊な文
１６．総合演習（2）：否定文～分詞・不定詞基本
１７．品詞・句・節
１８．品詞・句・節演習
１９．目的語をとる分詞句
２０．目的語をとる分詞句演習
２１．目的語をとる不定詞句
２２．目的語をとる不定詞句演習
２３．使役動詞と原型不定詞
２４．使役動詞と原型不定詞演習
２５．知覚動詞

２６．知覚動詞演習 ２７．等位接続詞 ２８．等位接続詞演習 ２９．総合演習（３）：品詞・句・節～目的語をとる不定詞句 ３０．総合演習（４）：使役動詞と原型不定詞～等位接続詞

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	J6003400F
科目名	科学英語Ⅱ -s(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English Ⅱ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	「科学英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（教科書）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考資料）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教育方法	パワーポイントや CD などを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
授業スケジュール			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2.～16.「Road to Scientific English」を通して、動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習すると同時に 「The　Earth and Our Health」の「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の文章を読解する。 17.　　中間テストをする。 18.～30.「Road to Scientific English」を通して、文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞、 図表などについて学習する。同時に「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と 「Stress and illness」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	★	–	–

年度	2018	授業コード	J6003500A
科目名	科学英語 A -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	総合英語ならびに科学英語基礎で学習した基礎的な英語力をさらにレベルアップするため、サイエンスを題材としたテキストを用い、文法訳読法での精読などを行う。英文法についての理解を深め、語彙を増やして、英文読解力を向上させる。		
教材（教科書）	”The Earth and Our Health"（小林　敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部　文英堂）（萩下先生のクラスの学生のみ）		
教材（参考資料）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第 3 版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社） "Road to Scientific English"（科学英語への道）(Prieto Rafael 京都学園大学)		
教育方法	パワーポイントを活用した講義法で行う。		
評価方法	平常点（授業内の小テスト、課題の提出など） 中間試験 期末試験		
到達目標	2 回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、 各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
授業時間外学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また，毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので，復習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義外での自学を必須とする。
各講義で確認小テストを実施する。

授業スケジュール

1） Guidance
2, 3） Unit 5　Hahhhhhch! Allergies
4, 5） Unit 6　Preventing Cancer: Knowing the Warning Signs
6, 7） Unit 7　Is a Little Alcohol Healthy?
8, 9） Unit 8　Playing Mother Nature: Genetically Engineering Crops
10, 11） Unit 9　What's Really in My Food? Organic Food Labeling
12, 13） Unit 10 Getting an Extra Boost: Sports Supplement
14, 15） Unit 11 Better than Chicken Soup? A New Cold Medicine
16） Midterm Exam
17, 18） Unit 12 Drug-resistant Superbugs
19, 20） Unit 13 Global Warming: A Global Warming
21, 22） Unit 14 Solar Energy: A Gift from the Sun
23, 24） Unit 15 A Drop in the Bucket: Storing Drinking Water
25, 26） Unit 16 A Brown Cloud over Asia
27, 28） Unit 17 Cleaning up the Mess: Oil Spills
29, 30） Unit 18 Building a Nuclear Mountain
（ただし、各クラスによって進捗は前後する。）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★★	−	★	−

年度	2018	授業コード	J6003500B
科目名	科学英語Ａ -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

授業スケジュール

1．時・場所・原因・結果を表す従属接続詞
2．読解問題
3．譲歩・条件を表す従属接続詞
4．読解問題
5．名詞節を導く接続詞
6．読解問題
7．指示代名詞と不定代名詞
8．読解問題
9．関係代名詞：主格 that／which
10．関係代名詞：主格 who
11．関係代名詞：目的格 that／which
12．関係代名詞:目的格 who／whom
13．関係代名詞:所有格
14．関係代名詞:前置詞句中
15．総合演習（1）：時・場所・原因・結果を表す従属接続詞～関係代名詞
16．関係代名詞:what
17．関係代名詞:as／but／than
18．関係副詞:when／where
19．関係副詞:how／why
20．複合関係詞
21．読解問題
22．分詞構文（1）
23．分詞構文（2）:完了形・受動態
24．独立分詞構文・独立不定詞
25．読解問題
26．仮定法
27．準否定と部分否定

28. 二重否定
29. 読解問題
30. 総合演習（2）：関係代名詞～二重否定

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	J6003500C
科目名	科学英語A -G	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
授業概要	生化学をはじめとして学術研究を行う者にとって英語研究論文を読んで理解することは必須である。特に、バイオサイエンスを学ぶ際には、生化学をはじめ、医学・農学・薬学に関する英語研究論文を読解、あるいは作成するための基礎力を育成するため、今までの日常英語表現しか学んでいない学生にとって科学英語を学ぶことは必要不可欠である。従って、この講義においては 1 年次に学んだ基礎的な科学英語の知識を基により生化学的な知識を英語で読解できるように学習する。		
教材（教科書）	特定の教科書を指定しない		
教材（参考資料）	Essential Cell Biology 4th edition　講義で行う部分をその都度配布する。 ライフサイエンス必須英和・和英辞典　改訂第 3 版（羊土社)、英和辞書 必要に応じ適宜プリントを配布する。		
教育方法	・配付資料に従い講義を進めるが、各人にあらかじめ和訳する箇所を指示するので、英語での読み合わせと和訳を行い内容について理解を進めるような輪読形式で行う。 ・また、発表する部分では教科書の内容を補完するような資料を準備する。		
評価方法	中間試験(30%)、期末試験(50%)、宿題(20%)		
到達目標	・科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるよう基礎学力をつける。 ・最終的に原著論文を通読できる英語理解力を身につける		
授業時間外学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず読み込んでおき理解しておくこと。 ・指定された部分については、英語を理解するだけでなく何が書いてあるかも説明できるようにしておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・必ず予習をしてくること。
・最終的には、学術論文を読解する能力だけでなく、実際に書く能力も身につけられるように努力し、忍耐力を持ってあきらめずに理解できるまで自学自習の意思を持って受講する。
・受講生の学習環境を阻害するような私語は禁止する。

授業スケジュール

1. ガイダンス（受講の心構えと勉強法）
2、3. Cells: The fundamental Units of Life; 1-1.Microscopy
4、5. Cells: The fundamental Units of Life; 1-1.cell architecture
6、7. What are macromolecules?; Chemical bond and groups
8、9. What are macromolecules?; The chemical properties of water
10、11. What are macromolecules?; An outline of some of the types of sugars
12、13. What are macromolecules?; Fatty acids and other lipids
14.　What are macromolecules?; The 20 amino acids found in proteins
15. 中間試験
16.　What are macromolecules?; The 20 amino acids found in proteins
17、18. What are macromolecules?; A survey of the nucleotides
19、20. What are macromolecules?; The principle types of weak noncovalent bonds
21、22. Energy catalysis, and biosynthesis

23、24. Protein structure and function; A few example of some general protein functions 25、26. Protein structure and function; Making and using antibody 27、28. Protein structure and function; Cell breakage and initial fractionation of cell extracts 29、30. Protein structure and function; Separation by chromatography

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J6003500D
科目名	科学英語A -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

授業スケジュール

1．時・場所・原因・結果を表す従属接続詞
2．読解問題
3．譲歩・条件を表す従属接続詞
4．読解問題
5．名詞節を導く接続詞
6．読解問題
7．指示代名詞と不定代名詞
8．読解問題
9．関係代名詞：主格 that／which
10．関係代名詞：主格 who
11．関係代名詞：目的格 that／which
12．関係代名詞:目的格 who／whom
13．関係代名詞:所有格
14．関係代名詞:前置詞句中
15．総合演習（1）：時・場所・原因・結果を表す従属接続詞～関係代名詞
16．関係代名詞:what
17．関係代名詞:as／but／than
18．関係副詞:when／where
19．関係副詞:how／why
20．複合関係詞
21．読解問題
22．分詞構文（1）
23．分詞構文（2）:完了形・受動態
24．独立分詞構文・独立不定詞
25．読解問題
26．仮定法
27．準否定と部分否定

28. 二重否定
29. 読解問題
30. 総合演習（2）：関係代名詞～二重否定

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	J6003500E
科目名	科学英語A -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
授業概要	総合英語ならびに科学英語基礎で学習した基礎的な英語力をさらにレベルアップするため、サイエンスを題材としたテキストを用い、文法訳読法での精読などを行う。英文法についての理解を深め、語彙を増やして、英文読解力を向上させる。		
教材（教科書）	”The Earth and Our Health"（小林　敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部　文英堂）（萩下先生のクラスの学生のみ）		
教材（参考資料）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第3版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社） "Road to Scientific English"（科学英語への道）(Prieto Rafael 京都学園大学)		
教育方法	パワーポイントを活用した講義法で行う。		
評価方法	平常点（授業内の小テスト、課題の提出など） 中間試験 期末試験		
到達目標	2回生修了時に英文の教科書を読解できる英語力を身につけるという目標に向けて、 各自の英語力を受講者のレベルに応じて増強する。		
授業時間外学習	事前に指定された範囲を熟読してくること。また，毎回授業の最初に前回の授業内容に係る復習テストをするので，復習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義外での自学を必須とする。
各講義で確認小テストを実施する。

授業スケジュール

1） Guidance
2, 3） Unit 5　Hahhhhhch! Allergies
4, 5） Unit 6　Preventing Cancer: Knowing the Warning Signs
6, 7） Unit 7　Is a Little Alcohol Healthy?
8, 9） Unit 8　Playing Mother Nature: Genetically Engineering Crops
10, 11） Unit 9　What's Really in My Food? Organic Food Labeling
12, 13） Unit 10 Getting an Extra Boost: Sports Supplement
14, 15） Unit 11 Better than Chicken Soup? A New Cold Medicine
16） Midterm Exam
17, 18） Unit 12 Drug-resistant Superbugs
19, 20） Unit 13 Global Warming: A Global Warming
21, 22） Unit 14 Solar Energy: A Gift from the Sun
23, 24） Unit 15 A Drop in the Bucket: Storing Drinking Water
25, 26） Unit 16 A Brown Cloud over Asia
27, 28） Unit 17 Cleaning up the Mess: Oil Spills
29, 30） Unit 18 Building a Nuclear Mountain
（ただし、各クラスによって進捗は前後する。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★★	－	★	－

年度	2018	授業コード	J6003500F
科目名	科学英語A -f1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
授業概要	世界レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。それらは、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な英語として記 述されている。また、海外から輸入された商品（例えば、食品・化学品・試薬・機器）の説明書の多くは英語 で書かれている。科学研究のみならず就職先の仕事でも、科学英語に触れる機会は今後ますます増えてくるだろう。 本講義では、高校英文法の復習と一般科学話題の英文の和訳を通し、科学英文の読解力を養成する。		
教材（教科書）	『Science in Our Dairy Life　科学の恩恵と私たちの暮らし』　小林敏彦 他著 成美堂　1,900 円 『シグマ基本問題集　英文法』 文英堂　900 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業時間の前半では、スライドを使って、教科書の英文を 1 文ずつ取り上げ英文法と和訳を説明していく。学 生は、訳を丸写しするのではなく、説明をしっかり聴いて「訳し方」を学ぶ。後半では、シグマ英文法の説明ま たは小テストを行う。		
評価方法	英文法の小テスト（20%） 中間試験（40%） 期末試験（40%）		
到達目標	1．英文読解に必要な英文法を身につける。 2．科学の英文に出てくる専門用語や特有の表現を覚える。 3．英和辞典を使って科学の英文を和訳できるようになる。		
授業時間外学習	1．教科書（Science in Our Dairy Life）を一読し、知らない英単語は辞書で調べておく。 2．シグマ英文法の指定された範囲の問題を解いてくる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．講義の際に英和辞典（紙辞書または電子辞書）を持参すること。
2．海外旅行、留学、科学研究、海外勤務・業務、英語の書籍・記事など、英語に関わる自分の生活や将来を意識して講義に臨んでください。
3．大学院への進学を考えている人：　もし新規に電子辞書を購入するなら、リーダーズ英和辞典とリーダーズ・プラスが入って
いる英語強化の電子辞書（カシオ製またはシャープ製）をおすすめします。学術論文に出てくる専門用語にも対応できます。

授業スケジュール

1．ガイダンス
2．Unit 1 Phone Dirt Reveals Personal data，英文法 1 章「文」2 章「文構造」
3．Unit 1 Phone Dirt Reveals Personal data，英文法 3 章 4 章「修飾語句」
4．Unit 1 Phone Dirt Reveals Personal data，英文法 小テスト
5．Unit 2 Driverless Buses，英文法 5 章「動詞の活用」
6．Unit 2 Driverless Buses，英文法 6 章「現在形・過去形」7 章「未来を表す表現」8 章「進行形」
7．Unit 2 Driverless Buses，英文法 小テスト
8．Unit 3 Stealth Kyes，英文法 9 章「現在完了」10 章「過去完了・未来完了」
9．Unit 3 Stealth Kyes，英文法 11 章「受動態」

１０．Unit 3 Stealth Kyes，英文法 小テスト
１１．Unit 4 Unfamiliar Sources of Energy，英文法 12 章「不定詞の用法」
１２．Unit 4 Unfamiliar Sources of Energy，英文法 13 章「不定詞の重要構文」14 章「原型不定詞・不定詞の完了形など」
１３．Unit 4 Unfamiliar Sources of Energy，英文法 小テスト
１４．学術論文についての概説
１５．中間試験と解説
１６．Unit 5 Delivery by Drone，英文法 15 章「動名詞」
１７．Unit 5 Delivery by Drone，英文法 16 章「分詞」17 章「分詞構文」
１８．Unit 5 Delivery by Drone，英文法 小テスト
１９．Unit 6 Uber and its Future，18 章「助動詞」
２０．Unit 6 Uber and its Future，英文法 21 章 22 章「比較」
２１．Unit 6 Uber and its Future，英文法 小テスト
２２．Unit 7 Convenience Stores in Japan，英文法 23 章「関係代名詞」
２３．Unit 7 Convenience Stores in Japan，英文法 24 章「関係副詞・複合関係詞」
２４．Unit 7 Convenience Stores in Japan，英文法 小テスト
２５．Unit 8 Learn English with a Robot，英文法 25 章「仮定法」
２６．Unit 8 Learn English with a Robot，英文法 31 章「時制の一致・話法」
２７．Unit 8 Learn English with a Robot，英文法 小テスト
２８．Unit 9 Noise Level and Disease
２９．Unit 9 Noise Level and Disease
３０．英文法のまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J6003500G
科目名	科学英語A -f2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
授業概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。「科学英語 A」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目的とする。		
教材（教科書）	『The Earth and Our Health』　（小林　敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版　（文英堂編集部　文英堂）		
教材（参考資料）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第 3 版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社）		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	小テスト、課題の提出 ：（20%） 中間試験 ：（20%） 期末試験 ：（60%）		
到達目標	1.　基本となる専門用語の意味を理解するとともに、科学英語特有の文章表現を覚える。 2.　英文の構造解析ができ、和英辞典を用いて適切な文章の和訳ができる。		
授業時間外学習	1.　事前に指定された範囲を熟読してくること。 2.　分からない英単語は英和辞典で意味を確認しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.　シグマ基本問題集英文法の学習を宿題として毎回課し、その内容は小テストの出題範囲とする。
2.　講義中に英単語の小テストを実施する。
3.　講義の際に英和辞典を持参すること。

授業スケジュール

『The Earth and Our Health』を精読することによって、英語のパラグラフ構成を理解し、科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。
『シグマ基本問題集 英文法』を用いて、英文法の基礎を復習する。

1.　ガイダンス
2.　Unit 1 : よく寝てよく学べ,　英文法 1 章「文」
3.　Unit 1 : よく寝てよく学べ,　英文法 2 章「文構造」
4.　Unit 1 : よく寝てよく学べ,　英文法 3 章「修飾語句①」
5.　Unit 1 : よく寝てよく学べ,　英文法 4 章「修飾語句②」
6.　英文法 5 章「動詞の活用」,　英単語テスト
7.　Unit 2 : 散歩は健康の第一歩,　英文法 6 章「現在形・過去形」
8.　Unit 2 : 散歩は健康の第一歩,　英文法 7 章「未来を表す表現」
9.　Unit 2 : 散歩は健康の第一歩,　英文法 8 章「進行形」
10.　Unit 2 : 散歩は健康の第一歩,　英文法 9 章「現在完了」
11.　英文法 10 章「過去完了・未来完了」,　英単語テスト
12.　Unit 3 : 喫煙は不健康な選択,　英文法 11 章「受動態」
13.　Unit 3 : 喫煙は不健康な選択,　英文法 12 章「不定詞の用法」
14.　Unit 3 : 喫煙は不健康な選択,　英文法 15 章「動名詞」
15.　Unit 3 : 喫煙は不健康な選択,　英文法 16 章「分詞」
16.　中間試験と解説
17.　Unit 4 : ストレスは病気のもと,　英文法 17 章「分詞構文」
18.　Unit 4 : ストレスは病気のもと,　英文法 18 章「助動詞」
19.　Unit 4 : ストレスは病気のもと,　英文法 19 章「名詞・冠詞」

20. Unit 4：ストレスは病気のもと，　英文法 20 章「代名詞」
21. 英文法 21 章「比較①」，　英単語テスト
22. Unit 5：もういや！アレルギーよ、さらば，　英文法 22 章「比較②」
23. Unit 5：もういや！アレルギーよ、さらば，　英文法 23 章「関係代名詞」
24. Unit 5：もういや！アレルギーよ、さらば，　英文法 24 章「関係副詞・複合関係詞」
25. Unit 5：もういや！アレルギーよ、さらば，　英文法 25 章「仮定法」
26. 英文法 27 章「前置詞」，　英単語テスト
27. Unit 6：がんの徴候を見逃すな，　英文法 28 章「接続詞①」
28. Unit 6：がんの徴候を見逃すな，　英文法 29 章「接続詞②」
29. Unit 6：がんの徴候を見逃すな，　英文法 30 章「否定」
30. Unit 6：がんの徴候を見逃すな，　英文法 31 章「時制の一致・話法」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J6003500H
科目名	科学英語Ａ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English A		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	なし各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

授業スケジュール

1．時・場所・原因・結果を表す従属接続詞
2．読解問題
3．譲歩・条件を表す従属接続詞
4．読解問題
5．名詞節を導く接続詞
6．読解問題
7．指示代名詞と不定代名詞
8．読解問題
9．関係代名詞：主格 that／which
10．関係代名詞：主格 who
11．関係代名詞：目的格 that／which
12．関係代名詞:目的格 who／whom
13．関係代名詞:所有格
14．関係代名詞:前置詞句中
15．総合演習（1）：時・場所・原因・結果を表す従属接続詞～関係代名詞
16．関係代名詞:what
17．関係代名詞:as／but／than
18．関係副詞:when／where
19．関係副詞:how／why
20．複合関係詞
21．読解問題
22．分詞構文（1）
23．分詞構文（2）:完了形・受動態
24．独立分詞構文・独立不定詞
25．読解問題

26. 仮定法
27. 準否定と部分否定
28. 二重否定
29. 読解問題
30. 総合演習（2）：関係代名詞～二重否定

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	J6003600A
科目名	科学英語Ｂ -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	自然科学分野のテキストである「明日を見つめて: Imaging Tomorrow」の各 Unit を読み、専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（教科書）	『明日を見つめて：Imaging Tomorrow』　（成美堂）1,944 円		
教材（参考資料）	『科学英語への道（Road to Scientific English)』（本学オリジナルプリント） 『ライフサイエンス必須英和辞典 改訂第 3 版』　（羊土社）		
教育方法	教科書の英文を訳してもらい、それについて詳細に解説する。		
評価方法	期末試験(60%)、小テスト(20%)、受講態度、講義での発表など(20%)の結果を総合的に評価する。		
到達目標	・英語のパラグラフ構成を理解する。 ・専門用語、語彙力の定着を図る。 ・ 英文をできるだけ早く、大量に読みこなす能力を身につける ・科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。		
授業時間外学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・予習時には、英文のヒアリングを行って音声を確認し、更に音読も行うこと。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。
TOEIC や英語検定試験を受験することにより自分の英語力を確認してください。

授業スケジュール

1.　ガイダンス（講義の心構え、勉強の方法など）
2~4.　Lesson1　The March of the Microbes: Evolution of Germ and Disease
5~7.　Lesson2　Genetic Doping: The Latest Challenge to Spots
8~10.　Lesson3　Ethics in Science: Facing the Pressures for Research Success
11~13.　Lesson4　Stem Cell Research: Promises and Problems
14.　中間テスト
15~17.　Lesson5　Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
18~20.　Lesson6　World Population: Too many ?or Too Few?
21~23.　Lesson7　After the Peak Oil Crash: Visions of a Post-Petroleum Future
24~26.　Lesson8　Starvation, Famine, and Hunger: Getting to the Roots
27~30.　Lesson9　Nanotechnology: Miniature Machines to the Rescue?

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★	−	★★

年度	2018	授業コード	J6003600B
科目名	科学英語Ｂ -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

授業スケジュール

1．長文読解：欧米の科学教科書：科学（1）～数学～
2．長文読解：欧米の科学教科書：科学（2）～物理学～
3．長文読解：欧米の科学教科書：科学（3）～化学～
4．長文読解：欧米の科学教科書：科学（4）～生物学～
5．長文読解：欧米の科学教科書：科学（5）～地球科学～
6．総合演習（1）：科学（1）～（5）
7．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（1）～力学～
8．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（2）～電磁気学～
9．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（3）～熱力学～
10．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（4）～近代物理学～
11．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（5）～現代物理学～
12．総合演習（2）：物理学（1）～（5）
13．長文読解：欧米の科学教科書：化学（1）～原子～
14．長文読解：欧米の科学教科書：化学（2）～分子～
15．長文読解：欧米の科学教科書：化学（3）～物理化学～
16．長文読解：欧米の科学教科書：化学（4）～無機化学～
17．長文読解：欧米の科学教科書：化学（5）～有機化学～
18．総合演習（3）：化学（1）～（5）
19．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（1）～生命～
20．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（2）～ドメイン～
21．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（3）～古細菌～
22．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（4）～細菌～
23．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（5）～真核生物～
24．総合演習（4）：生物学（1）～（5）
25．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（1）～地球～
26．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（2）～太陽～
27．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（3）～太陽系～

28. 長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（４）～銀河系～ 29. 長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（５）～宇宙～ 30. 総合演習（５）：地球科学（１）～（５）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	J6003600C
科目名	科学英語Ｂ -sG	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
授業概要	総合英語ならびに科学英語基礎で学習した基礎的な英語力をさらにレベルアップするため、サイエンスを題材としたテキストを用い、文法訳読法での精読などを行う。英文法についての理解を深め、語彙を増やして、英文読解力を向上させる。		
教材（教科書）	”Science Avenue"（田吹昌俊/Robert Long/江口雅子. 成美堂）		
教材（参考資料）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典　改訂第 3 版（羊土社）、英和辞書 シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部　文英堂） 必要に応じ適宜プリントを配布する。		
教育方法	・基本的教科書に従って講義法により行う。 ・講義では、各講義でのポイントについて説明を行い、目標を明確にして授業を進める。英語の読み合わせ、日本語訳をするとともに、内容について理解を求める。 ・CD の聞き合わせを行い、科学英語独自の発音、表現を学ぶ。		
評価方法	中間試験(30%)、期末試験(50%)、宿題(20%)		
到達目標	・科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるよう基礎学力をつける。 ・最終的に原著論文を通読できる英語理解力を身につける。		
授業時間外学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず読み込んでおき理解しておくこと。 ・セクションごとに課題を設定するので復習し覚えておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・必ず予習をしてくること。
・最終的には、学術論文を読解する能力だけでなく、実際に書く能力も身につけられるように努力し、忍耐力を持ってあきらめずに理解できるまで自学自習の意思を持って受講する。
・受講生の学習環境を阻害するような私語は禁止する。

授業スケジュール

1）　Guidance
2, 3）　Chaptor 1 Crops for food or fuel?
4, 5）　Chaptor 6　Making stem cell therapy into reality
6, 7）　Chaptor 11 A bright futer for LED lights
8, 9）　Chaptor 16 Erectric cars
10, 11）　Chaptor 2 Ocean a wash in toxic plastic
12, 13）　Chaptor 7 Learning from the 2011 Tohoku tsunami
14, 15）　Chaptor 12 Kindles and iPads: reshaping Japanese
16）　Midterm Exam
17, 18）　Chaptor 17 Preparing for the trip to Mars
19）　Chaptor 3 Grobal-warming super typhoons
20）　Chaptor 8 Gigantic oil spills and clean-ups
21）　Chaptor 13 Civil engineers test new comcreete
22）　Chaptor 18 3D TV gadgets
23）　Chaptor 4 Slingshot: Water purification innovation
24）　Chaptor 9 Public construction projects under review
25) Chaptor 14 Solar-pwered planes and yachts
26）　Chaptor 19 Controlling gadgets with your own thoughts
27) Chaptor 5 Engineering earth is possible
28) Chaptor 10 Grand unified theory of artificial intelligence

29) Chaptor 15 A sonic refrigerator: cooling with sound
30) Chaptor 20 Gesture-based computing
なお、進捗度合いによって前後することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	J6003600D
科目名	科学英語Ｂ -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

授業スケジュール

1．長文読解：欧米の科学教科書：科学（1）～数学～
2．長文読解：欧米の科学教科書：科学（2）～物理学～
3．長文読解：欧米の科学教科書：科学（3）～化学～
4．長文読解：欧米の科学教科書：科学（4）～生物学～
5．長文読解：欧米の科学教科書：科学（5）～地球科学～
6．総合演習（1）：科学（1）～（5）
7．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（1）～力学～
8．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（2）～電磁気学～
9．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（3）～熱力学～
10．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（4）～近代物理学～
11．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（5）～現代物理学～
12．総合演習（2）：物理学（1）～（5）
13．長文読解：欧米の科学教科書：化学（1）～原子～
14．長文読解：欧米の科学教科書：化学（2）～分子～
15．長文読解：欧米の科学教科書：化学（3）～物理化学～
16．長文読解：欧米の科学教科書：化学（4）～無機化学～
17．長文読解：欧米の科学教科書：化学（5）～有機化学～
18．総合演習（3）：化学（1）～（5）
19．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（1）～生命～
20．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（2）～ドメイン～
21．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（3）～古細菌～
22．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（4）～細菌～
23．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（5）～真核生物～
24．総合演習（4）：生物学（1）～（5）
25．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（1）～地球～
26．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（2）～太陽～
27．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（3）～太陽系～

28. 長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（４）～銀河系～ 29. 長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（５）～宇宙～ 30. 総合演習（５）：地球科学（１）～（５）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	J6003600E
科目名	科学英語Ｂ -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
授業概要	自然科学分野のテキストである「明日を見つめて: Imaging Tomorrow」の各 Unit を読み、専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（教科書）	『明日を見つめて：Imaging Tomorrow』　（成美堂）1,944 円		
教材（参考資料）	『科学英語への道（Road to Scientific English)』（本学オリジナルプリント） 『ライフサイエンス必須英和辞典 改訂第 3 版』　（羊土社）		
教育方法	教科書の英文を訳してもらい、それについて詳細に解説する。		
評価方法	期末試験(60%)、小テスト(20%)、受講態度、講義での発表など(20%)の結果を総合的に評価する。		
到達目標	・英語のパラグラフ構成を理解する。 ・専門用語、語彙力の定着を図る。 ・ 英文をできるだけ早く、大量に読みこなす能力を身につける ・科学的英語の内容を理解し、正確な日本語に訳す力を養う。		
授業時間外学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・予習時には、英文のヒアリングを行って音声を確認し、更に音読も行うこと。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。
TOEIC や英語検定試験を受験することにより自分の英語力を確認してください。

授業スケジュール

1.　ガイダンス（講義の心構え、勉強の方法など）
2~4.　Lesson1　The March of the Microbes: Evolution of Germ and Disease
5~7.　Lesson2　Genetic Doping: The Latest Challenge to Spots
8~10.　Lesson3　Ethics in Science: Facing the Pressures for Research Success
11~13.　Lesson4　Stem Cell Research: Promises and Problems
14.　中間テスト
15~17.　Lesson5　Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
18~20.　Lesson6　World Population: Too many ?or Too Few?
21~23.　Lesson7　After the Peak Oil Crash: Visions of a Post-Petroleum Future
24~26.　Lesson8　Starvation, Famine, and Hunger: Getting to the Roots
27~30.　Lesson9　Nanotechnology: Miniature Machines to the Rescue?

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J6003600F
科目名	科学英語Ｂ -f1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	世界レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。それらは、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な英語として記 述されている。また、海外から輸入された商品（例えば、食品・化学品・試薬・機器）の説明書の多くは英語 で書かれている。科学研究のみならず就職先の仕事でも、科学英語に触れる機会は今後ますます増えてくるだろう。 本講義では、高校英文法の復習と一般科学話題の英文の和訳を通し、科学英文の読解力を養成する。		
教材（教科書）	『Science in Our Dairy Life　科学の恩恵と私たちの暮らし』　小林敏彦 他著 成美堂　1,900 円 『シグマ基本問題集　英文法』 文英堂　900 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	適宜プリント配布。 教科書の英文を 1 文ずつ取り上げ英文法と和訳を説明していく。 学生は、訳を丸写しするのではなく、説明をしっかり聴いて「訳し方」を学ぶ。 文章の文法はシグマ英文法を使って説明する。 章ごとに小テストを実施する。		
評価方法	小テスト　（20%） 中間試験　（40%） 期末試験　（40%）		
到達目標	１．英文読解に必要な英文法を身につける。 ２．科学の英文に出てくる専門用語や特有の表現を覚える。 ３．英和辞典を使って科学の英文を和訳できるようになる。		
授業時間外学習	１．教科書（Science in Our Dairy Life）を一読し、知らない英単語は辞書で調べておく。 ２．シグマ英文法の指定された範囲の問題を解いてくる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．事前に指定された範囲を熟読してくること。
２．講義の際に英和辞典（紙辞書または電子辞書）を持参すること。
３．章の終了後、必ず単語と英文は復習すること。次回にその章の小テストを実施する。
４．海外旅行、留学、科学研究、海外勤務・業務、英語の書籍・記事など、英語に関わる自分の生活や将来を意識して講義に臨んでください。
５．大学院への進学を考えている人：　もし新規に電子辞書を購入するなら、リーダーズ英和辞典とリーダーズ・プラスが入って
いる英語強化の電子辞書（カシオ製またはシャープ製）をおすすめします。学術論文に出てくる専門用語にも対応できます。

授業スケジュール

１．ガイダンス
２．Unit 10 Reading Faces 訳と文法の説明
３．Unit 10 訳と文法の説明
４．Unit 10 小テスト、Unit 11 Meditation and Sports　訳と文法の説明
５．Unit 10 小テストの復習、Unit 11 訳と文法の説明
６．Unit 11 訳と文法の説明
７．Unit 11 小テスト、Unit 12 Digital Disabilities 訳と文法の説明

８．Unit 11 小テストの復習、Unit 12 訳と文法の説明
９．Unit 12 訳と文法の説明
１０．Unit 12 小テスト、Unit 13 Euglena Dietary Supplements 訳と文法の説明
１１．Unit 12 小テストの復習、Uni13 訳と文法の説明
１２．Uni13 訳と文法の説明
１３．Unit 13 小テスト、Unit 14 Facts about Koalas 訳と文法の説明
１４．Unit 13 小テストの復習、Unit 14 訳と文法の説明
１５．Unit 14 訳と文法の説明、 中間試験（Unit 10~Unit 13）
１６．Unit 14 小テスト、Unit 15 Ants 訳と文法の説明
１７．Unit 14 小テストの復習、Unit 15 訳と文法の説明
１８．Unit 15 訳と文法の説明
１９．Unit 15 小テスト、Unit 16 Exotic Pets 訳と文法の説明
２０．Unit 15 小テスの復習、Unit 16 訳と文法の説明
２１．Unit 16 訳と文法の説明
２２．Unit 16 小テスト、Unit 17 Culling Feral Cats 訳と文法の説明
２３．Unit 16 小テスの復習、Unit 17 訳と文法の説明
２４．Unit 17 訳と文法の説明
２５．Unit 17 小テスト、Unit 18 When Do We Become "Old"? 訳と文法の説明
２６．Unit 17 小テスの復習、Unit 18 訳と文法の説明
２７．Unit 18 訳と文法の説明
２８．Unit 18 小テスト、Unit 19 Protecting Earth from Collisions 訳と文法の説明
２９．Unit 17 小テスの復習、Unit 19 訳と文法の説明
３０．Unit 19 訳と文法の説明、Unit 14~Unit 19 の復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J6003600G
科目名	科学英語Ｂ -f2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
授業概要	「科学英語Ａ」に続く科目として、2 回生の秋学期に開講する。科学英語Ａ同様に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現の習得を目指しながら、さらに自然科学分野で多用される専門用語の理解を深め、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（教科書）	『The Earth and Our Health』（小林 敏彦/Shawn M. Clankie 成美堂） シグマ基本問題集英文法 新課程版（文英堂編集部 文英堂）		
教材（参考資料）	『ライフサイエンス必須英和・和英辞典』 改訂第３版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社） 『農業技術の教科書　　Textbook of Agriculture Science and Technology』（発行　マイファーム　　発売　農文協） 『THE TEA BOOK』　（LINDA GAYLARD）		
教育方法	講義法及び質問法		
評価方法	受講態度(飲食、携帯電話使用、私語など不適切な態度を取らないこと。辞書を持参する。予習している。)10% 小テスト（各 Unit 終了毎に、英文や英単語の和訳など）15% 課題(「おぼえて欲しい英文 100 選」の暗記など）への対応：15% 中間試験：30% 定期試験：30%		
到達目標	1　英語の５文型を含めた、文章構造を説明できる。 2 英文和訳では、厳密な直訳をした上で、平易な日本語に訳すことができる。		
授業時間外学習	次の講義の範囲について、予習（英単語の意味を調べ、英文を熟読）しておいてください。「おぼえて欲しい英文 100 選」について前の講義で指定した英文を次の講義までにおぼえておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「文法」以外の講義では、教材テキストの文章構造や文法内容に基づき日本語への訳し方を説明しますので、理解を深めるためには、講義には必ず出席し、予習・復習を積極的に行うようにしてください。具体的には、テキストに書かれている単語の意味や発音、アクセントを調べ、内容をしっかりと訳してきてください。そして、英文の構造を理解しやすくするために、事前に配布する「覚えて欲しい英文１００選」を使用して英文を暗記してください。必ず教材と辞書を持参してください。

授業スケジュール

『The Earth and Our Health』のパラグラフ構成を理解し、科学的英語の内容を理解して正確な日本語に訳す力を養う。シグマ基本問題集英文法から抽出した『おぼえて欲しい英文 100 選』の例文を暗記し、英文の基本構造の理解を進める。また『Textbook of Agricultural Science and Technology』や『THE TEA BOOK』などを読み進めることにより、具体的な技術分野について科学的英語の読解力を養成する。

1　ガイダンス
2　英文法：名詞・冠詞・代名詞の説明と演習
3 The Earth and Our Health: Unit13（１～５）、単語テスト
4　The Earth and Our Health: Unit13（６～１０）、単語テスト
5 .The Earth and Our Health: Unit13（１１～15)、単語テスト
6　The Earth and Our Health: Unit13（１6～20)、小テスト
7　英文法：修飾語句の説明と演習
8 The Earth and Our Health: Unit15（１～５）　、単語テスト

9　The Earth and Our Health: Unit15（６～１０）　、単語テスト
１０The Earth and Our Health: Unit15（１１～15)、単語テスト
１１　The Earth and Our Health: Unit15（16～19)、小テスト
１２　英文法：現在完了・過去完了・未来完了の説明と演習
１３ The Earth and Our Health: Unit17（１～５)、単語テスト
１４　The Earth and Our Health: Unit17　（６～１０)、単語テスト
１５The Earth and Our Health: Unit17　（１１～15)、単語テスト
１６　The Earth and Our Health: Unit17（16～19)、小テスト
１７　文法テスト
１８　英文法：不定詞、分詞構文、動名詞の説明と演習
１９　The Earth and Our Health: Unit19、単語テスト
２０　The Earth and Our Health: Unit19、単語テスト
２１The Earth and Our Health: Unit19、単語テスト
２２　The Earth and Our Health: Unit19、小テスト
２３　英文法：関係代名詞・関係副詞の説明と演習
２４　Textbook of Agricultural Science and Technology:Chapter2 Soil、単語テスト
２５　Textbook of Agricultural Science and Technology:Chapter3 Fertilizer、単語テスト
２６　Textbook of Agricultural Science and Technology:Chapter4 Compost、小テスト
２７　英文法：仮定法、比較説明と演習
２８　THE TEA BOOK　　What is tea?、単語テスト
２９　THE TEA BOOK　　Teas of the world、単語テスト
３０　THE TEA BOOK　　Features、小テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J6003600H
科目名	科学英語Ｂ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific English B		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

授業スケジュール

1．長文読解：欧米の科学教科書：科学（1）～数学～
2．長文読解：欧米の科学教科書：科学（2）～物理学～
3．長文読解：欧米の科学教科書：科学（3）～化学～
4．長文読解：欧米の科学教科書：科学（4）～生物学～
5．長文読解：欧米の科学教科書：科学（5）～地球科学～
6．総合演習（1）：科学（1）～（5）
7．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（1）～力学～
8．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（2）～電磁気学～
9．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（3）～熱力学～
10．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（4）～近代物理学～
11．長文読解：欧米の科学教科書：物理学（5）～現代物理学～
12．総合演習（2）：物理学（1）～（5）
13．長文読解：欧米の科学教科書：化学（1）～原子～
14．長文読解：欧米の科学教科書：化学（2）～分子～
15．長文読解：欧米の科学教科書：化学（3）～物理化学～
16．長文読解：欧米の科学教科書：化学（4）～無機化学～
17．長文読解：欧米の科学教科書：化学（5）～有機化学～
18．総合演習（3）：化学（1）～（5）
19．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（1）～生命～
20．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（2）～ドメイン～
21．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（3）～古細菌～
22．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（4）～細菌～
23．長文読解：欧米の科学教科書：生物学（5）～真核生物～
24．総合演習（4）：生物学（1）～（5）
25．長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（1）～地球～

26. 長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（２）～太陽～
27. 長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（３）～太陽系～
28. 長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（４）～銀河系～
29. 長文読解：欧米の科学教科書：地球科学（５）～宇宙～
30. 総合演習（５）：地球科学（１）～（５）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	J6004300A
科目名	バイオサイエンス概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bioscience Research		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	バイオ環境概論 I
授業概要	バイオサイエンス学科の全専任教員が担当するオムニバス形式の講義であり，各教員が関わってきた研究や学問分野のトピックスなどが紹介される。本講義では，バイオサイエンスの諸科学やその展開過程での考え方、哲学、面白さなどについて理解できるようになることを目的とする		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	パワーポイントやプリントを用いながら，講義法で行う。		
評価方法	興味をもった教官の講義 2 件について、期末に内容を 1000 字程度のリポートとして提出してもらい、当該教員がその内容を評価する。		
到達目標	バイオサイエンスのカバーする広い分野について、全般的な知識を身につけることができる。		
授業時間外学習	オムニバス形式の講義であるため予習を指示するのが難しいが，第 1 回目のイントロダクションでの講義概要の解説に基づき，授業内容に関連した用語などを調べておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

バイオサイエンス学科の専任教員全員の専門分野の紹介であるので、将来の卒論を始め、この学科での学びのバックグラウンドとして真剣に受講して欲しい。

授業スケジュール

1）イントロダクション（バイオサイエンス概論とは）オムニバス形式の講義内容の紹介。
2）植物細胞工学（植物バイオの現状と展望）持続可能な社会における「植物」の役割と植物バイオ技術の現状と展望。
3）分子植物生理学（植物の形つくりの秘密）植物を形づくる細胞生長過程ー細胞伸長の制御タンパク質を中心に。
4）食品化学（機能性食品の開発）食品及び食品成分の栄養性、健康機能性の解説。
5）生体栄養科学（がん発生と食品）がん発生のメカニズム、食品中の発がん性物質および発がん抑制物質の紹介。
6）食品薬理学(食品の持つ生体調節機能)食品の持っている医薬品に似た効能効果やその評価法について。
7）天然物有機化学（医薬品の化学）身の回りの化学物質（特に有機化合物）と人類との関わりについて、医薬品開発の視点から概説する。
8）化学生態学（化学生態学とは何か）生物学と有機化学の境界領域である化学生態学の概要紹介。
9）生物有機化学（生物活性物質の化学）主に天然の生物活性物質の構造と生物活性の関係について具体的に解説する。
10）天然物化学（さまざまな機能性分子）有機化学の基礎の解説、多様な生理活性物質の紹介。
11）応用微生物学（役に立つ微生物）微生物はどのように人間の役に立ってきたか。発酵・醸造や物質生産への応用について。
12）産業微生物学（微生物と環境問題）環境問題、地球温暖化問題に対して微生物に何ができるか。産業微生物学からの解答。
13）分子生物学（遺伝子、タンパク質研究の最前線）生命活動や病気との関わりなども含め、遺伝子やタンパク質研究の最前線について概説。
14）細胞生物学（タンパク質の一生）生命活動を担う分子であるタンパク質の誕生である合成からタンパク質の死である分解に至るタンパク質の一生を紹介する。
15）バイオサイエンス概論を学んで　（総合討論）　このオムニバス講義で得た新しい知見や視点についての討議とエッセイ。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J6004500A
科目名	作物栽培実習（実践プロジェクトA） -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Crop Cultivation (Career Field Experience A)		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
授業概要	実習農園でグループ単位で一定面積の区画で夏野菜を中心に栽培する。苗作りからその収穫までの栽培法や栽培環境管理方法などを体験する。単に栽培技術の重要性の認識だけでなく、実践的な学びを通じて、土壌、温度などの物理的環境、肥料、農薬などの化学的環境、病害虫や益虫などの生物的環境など生物と環境について広く考えるきっかけを作る。「キャンパスの横に農場がある」、「農場の中に教室がある」地の利を活かし、実習時間以外の観察・体験も大切にし、作物を育て、収穫し、食する喜びを体験する。		
教材（教科書）	なし、適宜講義プリントを配布する。		
教材（参考資料）	「新版野菜栽培の基礎」池田英男・川城英男編著、農山漁村文化協会 「おいしい野菜づくり」加藤義松監修、成美堂出版など 図書館バイオ環境分室にあります。		
教育方法	パワーポイントを活用した講義法。適宜 DVD を活用した講義法。グループワークによる栽培計画と、実習農場での栽培管理実習。		
評価方法	栽培作業状況などの平常点　50% レポート　50%		
到達目標	作物の生育の状況を観察・判断し、栽培管理に必要な情報を自ら収集し、作業計画を立て、実行できる。 生物と環境との関わりについて考え、バイオサイエンスの意義を表現できる。		
授業時間外学習	毎回，作物栽培に関する調べ学習を指示するので，書籍やインターネットなどで調べる。また，実習で観察したこと，疑問に思ったこと，興味を持ったこと，作業中に超面した疑問などを，書籍やインターネットで調べ，自学した内容を次回の実習に活かすとともに、学期末のレポートに反映させる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ルール

天候による休校はありません。無断欠席はしない。作業中に実習農場から離れる必要が生じた際には、教員に許可を得る。単独行動はしない。

２回目以降は、農場で作業ができる服装と長靴、軍手、野帳（持ち運びできるハンディーな観察記録ノート）などを準備して臨む。鋭利な農機具を使うこともあるので、作集中して作業する。熱中症の恐れがあるので、適宜、水分補給し、また休憩を入れる。

授業スケジュール

1．オリエンテーション、播種、作物資料調査
2．実習講義および区割り，耕起・畝立て・整地、播種、育苗
3．実習講義および耕起・畝立て・整地・マルチ張り、播種、育苗
4．実習講義および耕起・畝立て・整地・マルチ張り、移植・支柱の準備
5．実習講義および移植，支柱やネットの設置などの栽培管理と記録
6．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録
7．実習講義および除草，施肥，害虫駆除などの栽培管理と記録
8．中間検討会
9．実習講義および除草，施肥，整枝，害虫駆除などの栽培管理と記録
10．実習講義および除草，施肥，整枝，害虫駆除などの栽培管理と記録
11．実習講義および除草，施肥，整枝，害虫駆除などの栽培管理と記録、収穫
12．実習講義および除草，施肥，整枝，害虫駆除などの栽培管理と記録、収穫
13．収穫、後片付けと整理、品評会

14. 収穫、後片付けと整理、検討会 15. 収穫、後片付けと整理、栽培記録の取りまとめ、レポート作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J6004500B
科目名	作物栽培実習（実践プロジェクトA） -k	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Crop Cultivation (Career Field Experience A)		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	作物栽培管理実習
授業概要	畑（夏野菜・黒豆）と水田（イネ）での栽培体験を通じて作物の栽培の大筋をつかむ。同時に栽培にかかわる準備調整についても手順や内容について理解をする。畑水田のあぜなどの周辺部の管理を確認する。栽培技術については敷藁などの生物素材の有効性について理解を深める。		
教材（教科書）	作物リスト、その栽培法など必要に応じて準備します。		
教材（参考資料）	京野菜を楽しむ　淡交社 現代農業など		
教育方法	・野外実習 ・屋内実験（土壌分析、糖度測定） ・パワーポイントを用いた講義		
評価方法	管理作業状況 70%、レポート 30%		
到達目標	・栽培体験を通じて作物の成長変化をまなぶ。 ・栽培技術の初歩を習得する。		
授業時間外学習	農業関係の書籍を読んで置くこと。例えば現代農業、最新園芸技術 6 野菜の生態と作型の該当する作物について読んで理解を深めておくこと。さらにキャンパス周辺の農地などを観察し,どのような作業をしているかをつかんでおく。最終的にまとめのレポートを提出することも考慮し、毎回終了後の作業日誌などの記録を必ず取っておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
多くの学生にとって作物の栽培は初めてのことと思われます。毎週自分の管理する作物と農地（畑と水田）の変化を記録するようにしてください。			
授業スケジュール			
1.実習のガイダンス 2.資材の調達（支柱、敷き藁、ネット、肥料の調整） 3.畑作業と記録１（整地、区割り、ネット） 4.畑作業２（播種） 5.水田作業と記録１（区割りなど田植え準備） 6.水田作業と記録２（田植え） 7.畑作業と記録３（敷き藁調整、畦除草） 8.畑作業と記録４（除草） 9.畑作業と記録５（除草） 10.水田管理と記録３（施肥と除草） 11.水田管理と記録４（水田生物観察と除草効果観察） 12.畑作業と記録６（黒豆播種、除草と記録） 13.水田管理と記録５（病害虫の観察、除草） 14.畑作業と記録７（収穫、重量測定記録） 15.農作物の加工と利用			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	★★	★	★	–	–

年度	2018	授業コード	J6004500C
科目名	作物栽培実習（実践プロジェクトA） -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Crop Cultivation (Career Field Experience A)		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	畑圃場（夏野菜）と水田（イネ）での栽培体験を通じて作物の栽培の大筋をつかむ．同時に栽培にかかわる準備調整についても手順や内容について理解をする．畑圃場・水田のあぜなどの周辺部の管理を確認する．栽培技術については農薬は使用せず，紙マルチを使用するなど，環境に優しい方法についての理解をも深める．		
教材（教科書）	作物リスト，その栽培法などを必要に応じて準備する．		
教材（参考資料）	「京野菜を楽しむ」　上田耕司・星川真一　著　（淡交社） 月刊 「現代農業」 （農文教）　など		
教育方法	授業の最初約１時間は教室において，取り扱う作物の説明，作業内容の意味とやり方等についての解説，食品としての利用方法の解説等を講義する．後は圃場に出て実際の作業を教員の指示の下で行う．この際には記録すべき項目等についても指示を行う．		
評価方法	管理作業状況７０％，レポート 30%		
到達目標	1．栽培体験を通じて作物の成長変化について説明できる． 2．複数の作物を栽培することにより，その栽培技術の初歩を習得する． 3．作物の生育不良について考察ができる．		
授業時間外学習	農業関係の書籍を読んで置くこと．例えば月刊誌である「現代農業」,「最新園芸技術　6　野菜の生態と作型」の該当する作物について読んで理解を深めておくこと．さらにキャンパス 周辺の農地などを観察し，どのような作業をしているかをつかんでおく．最終的にまとめのレポートを提出することも考慮し，毎回終了後の作業日誌などの記録 を必ず取っておくこと．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

多くの学生にとって作物の栽培は初めてのことと思われる．どのよう作業を行い，それが収穫物にどのような影響を与えたかを理解するために，毎週自分の管理する作物と農地（畑と水田）の変化を記録するのが望ましい．

授業スケジュール

１．実習のガイダンス
2．資材の調達（支柱，ポリマルチ，肥料の調整）
3．畑作業と記録１（整地，区割り，マルチ敷設）
4．畑作業２（播種・定植）
5．水田作業と記録１（区割りなど田植え準備）
6．水田作業と記録２（田植え）
7．畑作業と記録３（畑圃場除草・畦除草）
8．畑作業と記録４（除草）
9．畑作業と記録５（除草）
10．水田管理と記録３（施肥と除草）
11．水田管理と記録４（水田生物観察と除草効果観察）
12．畑作業と記録６（黒豆播種，除草と記録）
13．水田管理と記録５（病害虫の観察，除草）
14．畑作業と記録７（収穫，重量測定記録）
15．農作物の加工と利用

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★★	−	★	★	−

年度	2018	授業コード	J60047001
科目名	バイオ環境技術動向	単位数	2
科目名（英語表記）	Trends in Bioenvironmental Techniques		
担当者名	田﨑　雅晴	旧科目名称	
授業概要	地球環境が危惧されている現代、バイオテクノロジーを利用した技術が注目されている。しかし我々はそれ以前より、環境に生物を取り入れた技術の恩恵を受けている。 　本講義では、生物と環境との基本的な繋がりを確認して、それを利用してきた技術の流れを理解してもらうことから始める。それを理解した上で、「地球環境の現状と対策」「環境の利用/浄化」「環境の創造」等について、普遍的な環境バイオ技術から、近年注目されている新しい環境バイオの話題までを紹介する。 　講義は３日間のうち、前半 1.5 日でバイオテクノロジーの基礎を産業的視点より解説し、地球環境やバイオマス利用、環境浄化を講義する。後半 1.5 日では講師を変えて「自然環境の保全・修復・創造」について解説する。 　この講義により環境バイオテクノロジーを学ぶ研究者としての最低限の知識と考え方を身につけて頂きたい。		
教材（教科書）	使用せず		
教材（参考資料）	必要に応じて随時指示		
教育方法	・できるだけ現状のトピックスを入れて、バイオテクノロジーと身近な生活の繋がり、必要性を理解してもらいたいと考える。 ・前半は幅広く生活、社会とバイオテクノロジーの繋がりを知ってもらう。 ・後半では環境の創造について、自らの創造力を活かした考える講義としたい。		
評価方法	前半及び後半での筆記試験と平常点（受講態度、積極性等）。		
到達目標	・環境とバイオテクノロジーの歴史を理解する。 ・身の回りの生活にバイオテクノロジーが密着に関与していることを認識する。 ・現社会における問題とバイオテクノロジーとの関連を理解する。 ・生態系、生物多様性の意味と重要性を理解する。		
授業時間外学習	・日常、マスコミ等で報道されている現代社会の問題を「地球環境」「バイオテクノロジー」を研究する者の目で考えておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・常識的な態度で受講すること。
・試験は前半と後半の２回に分けて実施する予定である。
・就職活動等、正当な理由での欠席の場合は、必ず申し出て、所定の手続きを行うこと。

授業スケジュール

１．導入：
　1-1. 環境とは何か？
　1-2. バイオテクノロジーとは何か？
２．バイオテクノロジーを利用した環境の利用/浄化
　2-1. バイオテクノロジーと環境
　2-2. 地球環境の現状（温暖化への対策）
　2-3. 最近の未利用バイオマスの利用技術について
　2-4. バイオマスの生産（植物工場、藻類培養　等）
　2-5. 「浄化」とはなにか
　2-6. 生物を利用した水質浄化（水処理）について
　2-7. バイオテクノロジーを利用した土壌汚染浄化について
　2-8. 環境に関するトピックス
３．自然環境の保全・修復・創造
　3-1. 生物多様性の現状と動向
　3-2. 環境アセスメントとミティゲーション

3-3. 生態系のプランニングとデザイン 3-4. 都市の緑化・自然環境の創造 3-5. これからの環境計画（参加型）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J6004900A
科目名	基礎バイオサイエンス実験	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Bioscience		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	バイオサイエンス学科の全ての専任教員による各分野の基本的な実験をオムニバス方式で体験する。 バイオサイエンス各分野の特徴的な基礎実験を体験することで、専門分野で必要となる機器操作や基本技術、実験に関する規範を修得する。 グループで実験をすることにより、コミュニケーション力を身につける。		
教材（教科書）	各分野毎に、各研究室から配布される実験の手順書や指南書を用いる。		
教材（参考資料）	『イラストで見る超基本バイオ実験ノート』（羊土社）(ISBN4-89706-920-3) 『アット・ザ・ベンチ』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）(ISBN4-89592-258-8)		
教育方法	実験開始前に実習書とパワーポイントを用いて実験の上で重要なポイントを説明する。		
評価方法	すべての実験レポート提出が必須であり、各分野毎に実験レポートの成績（70%)と教員各位からの実験課題の内容を評価（30%)し、研究分野毎の評価を総計し、五研究室分の評価を総合して評価する。		
到達目標	バイオサイエンス分野の基礎的な実験の内容と原理を理解し、技法を習得し、結果を整理し、まとめて発表できるレポートを毎回期日内に作成する。 基本的な技量を身につけ、各課題を探求し学修することで理解を深めることを達成目標にする。		
授業時間外学習	各実験の実験指示書に前もって必ず目を通し、実験前に自分で実験の概要を各自の実験ノートに記載し、準備すること。 実験課題について先ず把握に努め，理解できる部分と不明な部分、理解できない部分、疑問点などを区別できるように準備して実験実習に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

バイオサイエンス分野で必要となる専門実験実習の正しい基本を習得するものであり、レポート作成も含めて基礎教育訓練であるから、事前にしっかり準備して、実験開始の 10 分前までに白衣に着替えて大実験室に入室すること。

授業スケジュール

1. 実験全体の説明・実験室の機器利用説明・実験準備・レポートの書き方など　（松原）
2. グリニャール反応を利用したトリフェニルカルビノールの合成　（若村・清水伸）
3. クロマトグラフィーによる物質の分離　（若村・清水伸）
4. 定性分析実験と機器分析の基礎実習　（若村・清水伸）
5. 生体試料の扱いと DNA の抽出と定量　（松原・寳関）
6. 生体試料からのタンパク質の調製と分画の基礎　（松原・寳関）
7. 微生物学実験法：培地調製　（萩下・櫻間）
8. 微生物学実験法：無菌操作　（萩下・櫻間）
9. 微生物学実験法：形態観察　（萩下・櫻間）
10. デンプンの酵素分解と生成グルコースの定量　（矢野・藤田）
11. 食品中に含まれるビタミンＣの定量　（矢野・藤田）
12. 酵素の反応速度論的解析　（矢野・藤田）
13. 植物の生体成分の定量　（髙瀬・プリエト）
14. 植物のタンパク質含量の定量　（髙瀬・プリエト）
15. 実験技術の確認と 3 回生の専門実験に向けてのグループ討論　（髙瀬・プリエト）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	J6005000A
科目名	バイオ環境事業見学実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Trips for Learning Bioenvironmental Scie nce		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境の事業体・事業地ないしは工場の現地見学。		
教材（教科書）	見学先事業所から配布される資料。		
教材（参考資料）	見学先事業所のホームページ、類似する事業所のウエブサイト、バイオ環境に関わる事業に関する一般書籍。		
教育方法	事業所の見学と事業所所員による案内説明。		
評価方法	実習レポート評価（100%）		
到達目標	バイオ環境事業所の現場の取り組みを知り、講義科目（座学）の理解に活かすことが出来る。		
授業時間外学習	訪問する事業所の情報をインターネット等で収集し、事業内容、取り組み、社会的背景、歴史的背景などを事前学習すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
事前説明（集中）および事業所見学を無断欠席しないこと。複数のコース中の１コースを事業所見学する。事前説明（集中）にてコースの希望調査を行うが、受け入れ先事業体の定員の関係で、希望に沿わないことがある。大学から事業所への移動には、大学が手配したバスで行う。事業所見学において個別対応が必要な場合、事前説明（集中）時に受け付けるので、届けること。			
授業スケジュール			
複数のコース中の１コースを選択し、バイオ関連企業の工場、ないしは環境保全事業体などを訪れ、実地に現場技術と現場・経営環境を見学し、説明案内を受ける。実習後、レポートを提出する。なお、予備知識を得るため、事前説明（集中）を実施する。見学実習時期は、は９月初旬あるいは中旬を予定している。実施詳細は７月に公示する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J60051001
科目名	環境生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Biology		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	地球温暖化、森林破壊、食糧危機など、21 世紀に深刻化することが危惧される諸問題の理解には、地球環境や地域環境に対する学際的・分野横断的なアプローチが不可欠である。本科目では、大気、地形、土壌などの非生物的環境と、その中で生きる主体としての生物との相互作用を理解すると共に、その相互作用の中での人間活動の関わりを総合的な視点で捉えることを目的とする。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	分野が多岐にわたるため、毎回の授業の中で紹介する。		
教育方法	・パワーポイントを用いた講義法 ・小テスト形式による課題演習		
評価方法	小テスト等による平常点（40 点）と、期末試験（60 点）により評価する。		
到達目標	・非生物的環境と生物の相互作用に関わる基礎知識を習得する。 ・上述の相互作用の中での人間活動の関わりを理解する。 ・これまでの人間活動の功罪と、今後の暮らしのあり方を論ずる視点を身につける。		
授業時間外学習	講義のレジメを事前に京学なびにアップロードしておくので、各自で打ち出して予習をしておくこと。 また、毎回の講義で、前回講義の復習のための小テスト（ノート持込み可）を行うので、しっかりと復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教員と受講者の対話を重視した講義を行いたいので、皆さんの積極的な発言を期待します。			
授業スケジュール			
1　環境生物学とは？ 2　土壌は一日にしてならず：岩石が土に変わるまで 3　土壌と生物の相互作用：いのちを育む土の役割 4　大気と生物の相互作用：炭素循環を考える 5　世界を変えた窒素固定：ハーバー・ボッシュ法の功罪 6　自然の価値の評価法の変遷：自然度から生物多様性へ 7　自然条件下の植生遷移：極相林と動的平衡 8　人為作用下の植生遷移：草地や林地の持続的管理 9　生物の多様性を支えるしくみ１：競争排他 vs 多種共存 10　生物の多様性を支えるしくみ２：自然選択と共進化 11　動物と植物の相互作用１：送粉 12　動物と植物の相互作用２：種子散布 13　森を畑に、畑を森に：焼畑に受け継がれる在来知 14　焼畑を活かした日本の森づくり：焼畑の現代的意義 15　生態資源の持続的利用：生物生産と環境保全の調和			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J60052001
科目名	環境化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Chemistry		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	私たちの身の回りには、私たちの健康に直接の害作用がある物質がいくつかある。これらの物質は、空気を通じて、また飲み水や食べ物を通じて体内に入り込み、害作用を示す。このような直接的に害作用を及ぼす物質が、どこで発生して、どんな害をもたらすのかを化学的な視点から講義する。前半では、ダイオキシンや農薬などの問題などを取り上げる。またそれに加え、放射性物質についても取り上げる。後半では、地球環境問題として二酸化炭素の発生、アスベスト問題、シックハウス症候群、重金属汚染問題などを取り上げる。		
教材（教科書）	講義に必要な教材は適宜指示あるいは配布する。		
教材（参考資料）	新版生活と環境三共出版 わかる環境科学三共出版 「放射線･アイソトープを取り扱う前に－教育訓練テキスト－」、日本アイソトープ協会、丸善、2005		
教育方法	配布資料を基に、パワーポイントまたは板書による講義を行う。		
評価方法	前半はレポートと事前学習などの平常点(30 点)と中間小テスト(20 点)で 50 点、後半は小テスト(20 点)期末テス(30 点)で 50 点、合計 100 点満点で評価する。		
到達目標	各種の環境化学物質について正当な評価ができ、害がある物質で被害を受けないように、基礎知識を身に付ける。		
授業時間外学習	身近にある食品、洗剤、化粧品、スプレーなどに書いてある「成分」の表示を普段から見るように心がけること。また、ＴＶや新聞に見かける化学物質についてインターネットなどで化学構造や性質について調べる習慣をつけること。講義に必要な資料は事前配布する。予習して内容や質問点をまとめておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講義を通して、環境問題の本質を理解して貰いたい。また、秋学期に「社会と環境問題」履修する人は、この講義を必ず履修して欲しい。

授業スケジュール

1. ダイオキシン問題　－　その後ん十年、今も続くリスク
2. ダイオキシンと環境ホルモン　－　おそれるな、あなどるな
3. 放射性物質とは　－　核爆弾と原子炉で作られる人工放射性物質
4. 放射線の生物への影響　－　放射線で誘発される突然変異
5. 放射線の人体への影響　－　原爆被爆者と原子炉事故の被曝者の健康状態から推定するしかない
6. 農薬の基礎知識　－　農薬取締法
7. 「農薬」をめぐる様々な問題　－　功罪を冷静に見きわめよう
8. 環境化学前半の振り返り　☆ 中間小テスト☆
9. 燃焼の化学　－　一酸化炭素と二酸化炭素の発生
10. 石油石炭の燃焼　－　硫黄酸化物と窒素酸化物の発生、光化学オキシダントの生成
11. アスベスト（石綿）問題
12. シックハウス症候群　－　ホルムアルデヒドや有機溶剤の害
13. 混ぜるな危険　－　塩素ガスの発生
14. 鉱工業からの廃水　－　重金属による公害病
15. 重金属の害

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60053001
科目名	環境物理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Physics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	物理学は自然科学のすべての分野の中で，精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では物理学の体系の中で環境物理学の基礎となる質点系，連続体，振動，波動，光などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	１．自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力を修得する。 ２．目的に応じた適切なデータ解析力を修得する。 ３．結果について考察する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学実験，環境地球科学を履修することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．質点系（１）：並進運動 ２．質点系（２）：回転運動 ３．質点系（３）：角運動量保存則 ４．連続体（１）：剛体 ５．連続体（２）：弾性体 ６．連続体（３）：流体 ７．振動（１）：円運動 ８．振動（２）：単振動 ９．振動（３）：弾性ポテンシャル 10．波動（１）：波動方程式 11．波動（２）：音波 12．波動（３）：光波 13．光波（１）：干渉 14．光波（２）：回折 15．光波（３）：偏光			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60054001
科目名	環境地球科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Earth Science		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	地球科学は自然科学，特に物理学・化学などの分野を基礎として自然体系を構成する総合科学である。したがって，自然の総合的体系の精確な理解のためにはまず最初に物理・化学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では自然科学の体系の中で地球科学の基礎となる地殻，地震，火山，地球内部，地球磁場などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	１．自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力を修得する。 ２．目的に応じた適切なデータ解析力を修得する。 ３．結果について考察する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学・実験を履修することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．地殻（１）：大陸地殻 ２．地殻（２）：海洋地殻 ３．地殻（３）：アイソスタシー ４．地震（１）：プレートテクトニクス ５．地震（２）：地震波 ６．地震（３）：マグニチュード ７．火山（１）：火山活動 ８．火山（２）：マグマ ９．火山（３）：火山地形 10．地球内部（１）：マントル 11．地球内部（２）：外核 12．地球内部（３）：内核 13．地球磁場（１）：磁極 14．地球磁場（２）：地磁気 15．地球磁場（３）：極性変化			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60055001
科目名	環境生物学実験 -f(秋前半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Bio logy		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	本科目では、里山などの身近な自然の植生調査や検索図鑑を用いた植物の同定、土の簡易分析など、植生と土壌に関するフィールド調査法の基礎を習得すると共に、身近な自然の中での体験を通じ、立地や土地利用の違いが植生や土壌に与える影響について理解を深めることを目的とする。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	「森林立地調査法 -森の環境を測る」 森林立地調査法編集委員会 「土壌調査ハンドブック」 日本ペドロジー学会		
教育方法	・野外実習 ・屋内実験（土壌分析） ・グループワーク ・パワーポイントを用いた講義法		
評価方法	実習への参加状況等による平常点（50 点）と、最終レポート（50 点）により評価する。		
到達目標	・植物標本の作成方法を身につける。 ・樹木同定のための識別ポイントを理解する。 ・視覚・触覚による土壌の簡易診断法を体得する。		
授業時間外学習	参考資料に挙げた文献を読み、実験内容の予習・復習をしておくこと。 事前に関連資料を配布するので、必ず目を通しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
フィールドでの体験を通じ、身近な自然を読み解く目を養ってください。			
授業スケジュール			
1　ガイダンス 2　里山の環境を調査するⅠ：植生調査・標本採取 3　里山の環境を調査するII：植物相調査 4　身近な樹木の名前を知ろうⅠ：植物標本の作製・同定 5　身近な樹木の名前を知ろうII：植物標本の同定・スケッチ 6　農地・林地の土壌の違いⅠ：土を観て、触って比較する 7　農地・林地の土壌の違いII：土の簡易分析 8　レポートのまとめ方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2018	授業コード	J60055002
科目名	環境生物学実験 -s(秋前半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Bio logy		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
授業概要	野外での生物調査で必要となる生物の同定・分類、調査・分析、データ解析の基礎的な方法を体験する。特に本科目では樹木植生と土壌に関する調査に焦点を当て、検索図鑑を用いた植物の同定、里山などの身近な自然の植生調査や土の簡易分析など、植生と土壌に関するフィールド調査法の基礎を習得する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	「森林立地調査法 -森の環境を測る」 森林立地調査法編集委員会 「土壌調査ハンドブック」 日本ペドロジー学会		
教育方法	各回のテーマに沿った実験を行う。 実験室だけでなく、野外での調査・測定も行う。		
評価方法	実験レポート（80%）、実験への取り組み（20%）により評価する。		
到達目標	植物標本の作成方法と、樹木同定のための識別ポイントを理解する。また、視覚・触覚による土壌の簡易診断法を体得する。と共に、身近な自然の中での体験を通じ、立地や土地利用の違いが植生や土壌に与える影響について理解を深める。		
授業時間外学習	参考資料に挙げた文献を読み、実験内容の予習・復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

フィールドでの体験を通じ、身近な自然に潜む因果関係に対する洞察力を養ってください。

授業スケジュール

1　ガイダンス
2　身近な樹木の名前を知ろうⅠ：植物標本の作製・同定
3　身近な樹木の名前を知ろうII：植物標本の同定・スケッチ
4　里山の環境を調査するⅠ：植生調査・標本採取
5　里山の環境を調査するII：毎木調査
6　農地・林地の土壌の違いⅠ：土を観て、触って比較する
7　農地・林地の土壌の違いII：土の簡易分析
8　データのまとめ方とレポートの書き方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J60055003
科目名	環境生物学実験 -k(春後半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Bio logy		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	本科目では、里山などの身近な自然の植生調査や検索図鑑を用いた植物の同定、土の簡易分析など、植生と土壌に関するフィールド調査法の基礎を習得すると共に、身近な自然の中での体験を通じ、立地や土地利用の違いが植生や土壌に与える影響について理解を深めることを目的とする。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	「森林立地調査法 -森の環境を測る」 森林立地調査法編集委員会 「土壌調査ハンドブック」 日本ペドロジー学会		
教育方法	・野外実習 ・屋内実験（土壌分析） ・グループワーク ・パワーポイントを用いた講義法		
評価方法	実習への参加状況等による平常点（50 点）と、最終レポート（50 点）により評価する。		
到達目標	・植物標本の作成方法を身につける。 ・樹木同定のための識別ポイントを理解する。 ・視覚・触覚による土壌の簡易診断法を体得する。		
授業時間外学習	参考資料に挙げた文献を読み、実験内容の予習・復習をしておくこと。 事前に関連資料を配布するので、必ず目を通しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
フィールドでの体験を通じ、身近な自然を読み解く目を養ってください。			
授業スケジュール			
1　ガイダンス 2　里山の環境を調査するⅠ：植生調査・標本採取 3　里山の環境を調査するII：植物相調査 4　身近な樹木の名前を知ろうⅠ：植物標本の作製・同定 5　身近な樹木の名前を知ろうII：植物標本の同定・スケッチ 6　農地・林地の土壌の違いⅠ：土を観て、触って比較する 7　農地・林地の土壌の違いII：土の簡易分析 8　レポートのまとめ方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	★

年度	2018	授業コード	J60056001
科目名	環境化学実験 -s(秋後半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Chemistry		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	環境分析法の初歩的な実習として無機環境化学実験（3 回分）と有機環境化学実験（4 回分）を秋学期の後半に実施する。		
教材（教科書）	必要な教材・器具は教官が配布あるいは準備するが、一部の材料は実験者自身で準備する。		
教材（参考資料）	特に定めない		
教育方法	実験に先立ち、指示書の熟読や関連事項の調査によって、予備知識を養ったうえで、実験に臨むことを求める。物性や状態の変化を、座学や事前調査から得た知識を総動員して理解し、実験で得られた知見を報告書にまとめる技術を身に着けることを求める。		
評価方法	実験ごとのレポート(7 回分)と実験ノートの内容で 80%、これに準備学習や受講態度などの平常点 20%を加味して評価する。		
到達目標	生活に欠かせない水。生活や産業活動により、様々な物質が水に含まれてくる。水の浄化や水質検査の基本的な手法に触れ、分析法の基本的技術を学んでほしい。生活の中で廃棄せざるを得ないプラスチックや食用油の再利用法を実際に行ってみて、分別や再利用の大切さや問題点についての認識を深めてほしい。		
授業時間外学習	実験の１週間前には、実験指示書を配布して概要を説明する。実験当日までに指示書を熟読し、手順や質問事項を実験ノートにまとめておくこと。また、それぞれの実験の基礎的知見に関する課題を出題する。実験当日までに、書籍やインターネットを活用して調べておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本実験は、これに先立つ化学実験に続いて化学の基本操作を習熟し、２回生配分の基礎バイオ実験に橋渡しする意味でも重要でもある。化学と化学実験を受講して基本的な知識と操作について習熟しておいてほしい。
実験には、危険性が高い試薬や操作が含まれる。取り扱い方を間違えると取扱者自身だけでなく、近くにいる人にも危害が及ぶ。実験開始前の教員の説明と指示を注意深く聴き、役割分担について同じ班のメンバーと十分に意思疎通をはかって進めること。
実験には、背綴じのノートを持参すること。ページの差し替え可能なルーズリーフタイプは不可。
実験ノートは、実験の最初から最後まですべての記録であると心得てほしい。

授業スケジュール

有機環境化学実験
1 プラスチック製品の科学的識別　－　身近なプラスチックの素材を見分ける
2 発泡ポリスチレンのリサイクル　－　かさばるポリスチレンをコンパクトに回収
3 廃食用油からバイオジーゼル燃料油の調製　－　エステル交換反応
4 廃食用油からセッケンを作る　－　油脂のけん化
実験２～４にはそれぞれ１週間放置する操作が含まれるため、２～３回にわたって実施する。
操作は２～３回にわたっても、レポートはそれぞれの実験テーマごとに提出する。
無機環境化学実験
1 環境水の水質と浄化　－　汚濁水の浄化とは
2 環境水中のチッソ成分の測定　－　アンモニア態チッソと硝酸態チッソを別々に測定
3 水道水中の残留塩素の測定　－　水道水を安全に飲めるのは？

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60056003
科目名	環境化学実験 -k(春後半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Chemistry		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
授業概要	環境の評価は化学的な分析による数値を元に行う場合が多い。そこで、滴定を中心とした実験をおこない、定量実験の手法、データ解析を理解する。また、考察内容を決めて、実際に実験計画を立てて実行する。		
教材（教科書）	初日に配布する実験書		
教材（参考資料）	飯田隆ら　編　『イラストで見る化学実験の基礎知識』　丸善　3000 円＋税 中川徹夫著『化学の基礎ー元素記号からおさらいする化学の基礎』　化学同人　1500＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円＋税		
教育方法	2-4 人の班で実験を行う。実験当日までに該当実験の予習、実験ノートの作成を行い、当日は速やかに、効率よく実験を行えるようにする。当日、実験概要・実験操作のポイントを教員が示した後は、各班で実験を進める。実験後は指定する日までに実験レポートを作成し提出する。		
評価方法	レポート（90%）、実験の取り組み態度による平常点（10%）		
到達目標	基本的な実験の操作を習得する。 化学反応式から定量的な解析ができる。 検量線を用いた定量分析の解析ができる。 考察内容を考えながら実験計画を立てることができる。		
授業時間外学習	必ず実験手順の予習をし、実験ノートを作成する。また、実験と関連する理論を予習する。指定日までに実験のデータの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
実験用のノート（ルーズリーフは不可）を用意すること。実験中は白衣を着用すること。 実験で得られたデータをしっかりと解析した上でレポートを作成すること。 化学実験とあわせて受講することが望ましい。			
授業スケジュール			
1.　ガイダンス－注意事項－　実験の基礎操作の復習 2.　pH の測定と緩衝液 3.　中和滴定 4.　酸化還元滴定 5.　廃油のリサイクル１（石鹸） 6.　廃油のリサイクル２（BDF） 7.　廃油のリサイクル３　窒素酸化物の定量１ 8.　窒素酸化物の定量２			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J60056004
科目名	環境化学実験 -f(春後半)	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Chemistry		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	環境評価は化学的な分析による数値を元に行う場合が多い。そのために必要な、滴定を中心とした定量実験の手法、データ解析を理解することを目的としている。レポートには、データ解析を途中経過を含めて示す。さらに対照実験を行うなど具体的な実験計画の立て方を学び、考察を行う。		
教材（教科書）	初日に配布する実験書		
教材（参考資料）	飯田隆ら　編　『イラストで見る化学実験の基礎知識』　丸善　3000 円＋税 中川徹夫著『化学の基礎ー元素記号からおさらいする化学の基礎』　化学同人　1500＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円＋税		
教育方法	3 人程度（受講者数によって変わる）の班で実験を行う。 事前に実験書の内容を予習し、効率よく実験を行う。 実験ごとに、決められた期日までにレポートを作成し提出する。		
評価方法	レポート（90%）、実験の取り組み態度による平常点（10%）		
到達目標	基本的な実験の操作を習得する。 化学反応式から定量的な解析ができる。 検量線を用いた定量分析の解析ができる。 考察内容を考えながら実験計画を立てることができる。		
授業時間外学習	必ず実験手順の予習をし、実験ノートを作成し、実験と関連する理論を予習する。 期日までに実験のデータの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．化学実験とともに受講することが望ましい。
2．実験用のノート（ルーズリーフは不可）を用意する。
3．実験中は動きやすい服装をし、白衣を着用する。
4．実験中は実験室のルールに従って行動する（具体的ルールはオリエンテーションで説明する）
5．化学の理論を勉強しておくこと。

授業スケジュール

1. ガイダンス－注意事項－ 実験の基礎操作の復習
2. pH の測定と緩衝液
3. 中和滴定
4. 酸化還元滴定
5. 廃油のリサイクル１（石鹸）
6. 廃油のリサイクル２（BDF）
7. 廃油のリサイクル３　窒素酸化物の定量１
8. 窒素酸化物の定量２

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60057001
科目名	環境物理学実験（春後半）	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Phy sics		
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	
授業概要	実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり，これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて，連成系，回転系，流体，音波，光波，固体，熱，気体などあらゆる測定の基本となる物理量について具体的な現象の観察を通して求め，さらに，得られたデータの信頼性については，コンピュータを活用した処理をとおして考察する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教育方法	授業冒頭に実験の目的を明示したのち必要な予備知識について講義し、具体的な手順を提示しながら実験を進める。		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集・処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当する参考文献の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当する参考文献の問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習，環境物理学，環境地球科学を履修することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．連成系：重心・安定平衡 ２．回転系：角速度・遠心力 ３．流体：浮力・密度 ４．音波：振動数・音階 ５．光波：反射・屈折 ６．固体：原子半径・モル体積 ７．熱量：温度・比熱 ８．気体：ボイル・シャルル			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J60058001
科目名	環境地球科学実験（秋後半）	単位数	1
科目名（英語表記）	Experimental Course in Environmental Ear th Science		
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	
授業概要	実験や観測における仮説の検証は自然科学において最も重要な要素であり，これらの測定データは信頼性の高さが求められる。この実験では物理量の測定原理にもとづいて，アイソスタシー，地震，地磁気，岩石，鉱物，結晶，地質，化石などあらゆる測定の基本となる観測量について具体的な現象の観察を通して求め，さらに，得られたデータの信頼性については，コンピュータを活用した処理をとおして考察する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教育方法	授業冒頭に実験の目的を明示したのち必要な予備知識について講義し、具体的な手順を提示しながら実験を進める。		
評価方法	レポート（１００％）		
到達目標	自然科学の基本原理にもとづいた測定の具体的な構成力，目的に応じた適切なデータ収集・処理 およびそれらの結果について考察する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当する参考文献の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当する参考文献の問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習を履修することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．アイソスタシー：大陸地殻・海洋地殻 ２．地震：走時・震央距離 ３．地磁気：偏角・伏角 ４．岩石：色指数・造岩鉱物 ５．鉱物：硬度・密度 ６．結晶：結晶格子・対称性 ７．地質：地形図・地質図 ８．化石：示準化石・示相化石			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J60063001
科目名	バイオ環境デザイン原論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of sustainable design		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境学部の教育目標を理解し、学部を取り巻く大きな流れとして、少子高齢化社会、産業構造や土地利用の変遷などが挙げられる。次に、デザインという言葉に着眼し、地球・日本・森林・河川・都市がどのようにデザインされたのか基本的な構造を学ぶ。さらに、農村や都市の疲弊を象徴する人口流出などの身近な社会の諸問題に関心を広げる。このような地域の問題への対処として地域の再生が各地で広がってきていることの情報を整理し、デザインというキーワードを中心に地域再生の具体的な手法を学ぶ。地域再生を考えるときに必要となる「地域」に関して日本の国土に広がる「地域」を最初に理解する必要がある。		
教材（教科書）	教科書は使用せず、プリントを配布する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教室内では主にパワーポイントや関連したビデオの上映などで学習し、野外でのフィールドワークでは現場で課題に気づくことに配慮する		
評価方法	講義中に確認テストを実施する。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点（50 点）と平常点（50 点）の総合的な評価とする。平常点とは複数回小レポートを実施し、その結果を積算する。		
到達目標	地域の課題に気づき、何が問題か、解決方法はあるのか、一連の流れと仕組みを理解することで地域再生の具体的な方向性を組み立てる		
授業時間外学習	各地での地域再生などの事例やニュースなどに触れておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義以外の時間にビデオ学習などがあるので積極的に参加すること
また、フィールドワークを実施するので積極的に参加すること。

授業スケジュール

1.バイオ環境学部の目標と地域のデザインが意味するもの
2.地球、日本列島は如何にデザインされたか？
3.森林、河川は如何にデザインされたか
4.都市・農村は如何にデザインされたか
5.地域構造・産業構造・土地利用の歴史的変遷
6.人口減少と少子高齢化社会、過疎化の促進
7.島々の分布、離島問題と離島振興
8.地域の創造と再生に向けた活動事例
9.地域資源の発見手法１　土地の記憶、暮らしの記憶
10. 地域資源の発見手法２　ダークツーリズム
11.グループ分けとグループディスカッションの課題
12.グループディスカッションの実施
13.発表会用パワポ作成
14.グループディスカッションの結果発表
15.結果発表とフィードバック

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J60064001
科目名	環境汚染物質動態論	単位数	2
科目名（英語表記）	Evolution of Contaminants in the Environ ment		
担当者名	古武家　善成	旧科目名称	
授業概要	現代社会は多くの合成化学物質の恩恵を受け私たちの生活は化学物質で溢れている。しかし，合成化学物質の多くは何らかの有害性を有するため，健康影響や環境影響が強く懸念されており，化学物質による環境汚染問題は地球温暖化などと同様に地球規模の環境問題として認識されている。また，重金属類は日本および各国の公害病の主要な原因の一つであり，今なお環境と健康に影響を及ぼしている。 本講義では，新規化学物質を含めこれら環境汚染物質について，汚染状況・環境動態・毒性・リスク等に関する基礎を学ぶ。最近大きな話題となっている水域のマイクロプラスチック汚染を通した化学物質の生態影響については，新たに一項を設けて講義ずる。 なお，福島第一原発事故については，私たちのライフスタイルを大きく変化させる環境とエネルギー問題の視点から，原発の原理，環境リスク，原発政策の今後について特論として学ぶ。		
教材（教科書）	特に定めない。		
教材（参考資料）	「環境科学入門：地球と人類の未来のために」川合真一郎，張野宏也　山本義和，化学同人（2011）		
教育方法	資料プリントを毎回配布する。講義はパワーポイントと板書で行う。		
評価方法	感想文等授業提出物への対応：10% 課題レポート：90%（まとめテスト（資料持込可）が 60 点以上でないと，課題レポート提出を認めない） 復習の評価を行う。復習に関して授業中に質問し，その解答により加点・減点を行う。		
到達目標	日本の環境問題の歴史や現状を把握するとともに，重金属や合成化学物質の汚染状況・環境動態・毒性・リスクに関する基礎知識を習得する。 環境ディベートを通して，自分の意見をまとめ発表するスキルを磨く。		
授業時間外学習	授業前 1 週間の環境関連ニュースをまとめる（授業時に発表）。 授業中の復習質問に答えられるように，適宜復習を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

環境問題の解決には，暗記的知識による対応ではなく自分の発想法で対処することが重要である。しかし，発想法を高めるためには基礎的知識の十分な習得が必要である。十分な復習とレポート作成を通して両方の重要性を学んでほしい。

授業スケジュール

1)　ガイダンスおよび「環境科学序論」日本の環境問題の歴史
2)「環境科学概論 1」地域環境問題と地球環境問題の特徴と関係（1）
3)「環境科学概論 2」地域環境問題と地球環境問題の特徴と関係（2）
4)「環境科学特論」原子力発電の原理と原発事故・原発政策の今後
5)「重金属汚染とその動態」イタイイタイ病・ヒ素中毒・水俣病
6)「化学物質汚染とその動態 1」化学物質汚染総論　発生と毒作用・影響評価と管理
7)「化学物質汚染とその動態 2」化学物質汚染各論　強毒性物質の汚染機序と影響
8)　環境ディベート 1　最新の環境問題に関するディベート
9)　環境ディベート 2・環境ビデオ鑑賞　選抜対抗ディベート，環境ビデオの鑑賞
10)「化学物質汚染とその動態 3」化学物質汚染各論　微量有害化学物質の広域汚染
11)「化学物質汚染とその動態 4」マイクロプラスチックの水域汚染と化学物質汚染
12)「身近な環境問題 1」家庭の化学物質問題　洗剤・医薬品・香粧品
13)「身近な環境問題 2」ゴミ問題と食品添加物
14)「新しいライフスタイルへの展望」低・脱炭素，循環型，グリーン社会と再生可能エネルギー
15)「まとめテスト」授業全体の復習のためのテスト（資料持込可）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60065001
科目名	保全生態学	単位数	2
科目名（英語表記）	Conservation Ecology		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	保全生態学は、生物の自生地における、種や個体群およびその遺伝的多様性の保全、生態系や景観の保全において重要な役割を果たす学問である。また、問題の所在を科学的に明らかにし、保全の科学的な方法や技術を提示し、科学的な立場から社会に実践を要求する応用科学である。本講義では、保全生態学の基本的な理論を学び、様々な事例学習の科学的な立場を理解する。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	「保全生態学入門」鷲谷いづみ、矢原徹一著（文一総合出版 1996 年） 「保全生物学のすすめ」改訂版リチャード B プリマック、小堀洋美著(文一総合出版 2008 年）		
教育方法	新聞記事の読解やレポートにより思考能力を高める。		
評価方法	小テスト等による平常点（50%)、課題レポート（50%）により評価する。		
到達目標	生物多様性を保全することの意義を理解し、自分の考えを論ずることができる。		
授業時間外学習	社会で実際に起こっている生物多様性に係る問題に関心を持ち、自ら理解を深めておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教員と受講者の対話を重視した講義を行うので、積極的な発言を期待する。			
授業スケジュール			
1.保全生態学とは 2.生物多様性 3.人間の影響 4.生息地の破壊 5.生息地の攪乱 6.生息地の攪乱：外来種 7.保護区の設定 8.保護地域の管理：法律 9.種の保護：生息地での保全 10.種の保護：生息地以外での保全と再導入 11.生態系保全と経済学 12.事例学習：アユモドキ 13.事例学習：コウノトリ 14.事例学習：獣害 15.事例学習：まとめ 注）進行状況等により適宜変更することがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J60066001
科目名	食品安全学	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety II		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	食品は人の生命を維持するために必要不可欠であり、その安全性について考慮することが非常に重要である。 本講義では残留農薬、環境汚染物質、食品添加物等の作用と安全性についての解説を聞き、これらの化学物質による健康への影響についての理解する。また、食糧の確保や安全の面から注目されている遺伝子組換え食品や BSE について、食品の安全性を確保するための法的規制や方策について知識を身につける。 さらに、従来のように食品成分だけに注目した安全性を考えるのではなく、自然環境、社会制度、経済構造、国際的な食糧需給など，幅広い視野から食の安全性について考察する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	菅家 祐輔編『食安全の科学』三共出版　2,940 円 小倉 諭編『イラスト　食の安全性』東京教学社　2,300 円		
教育方法	パワーポイントやプリントを用いながら，講義法で行う。 京学なびによりスライドのデータを提供する。		
評価方法	レポート(100%)		
到達目標	１．安全評価法や社会制度などの食品安全に関連する基本的知識を習得する。 ２．食品の安全性について，科学的根拠に基づき幅広い観点から評価する。		
授業時間外学習	講義終了時に，次回の講義のアウトラインを示すので，関連分野について調べておくこと。 日頃から食の安全性を意識し，新聞等のメディアや自分自身が摂取している食品成分に関心を持っておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。 感情やイメージではなく科学的根拠に基づいて食品の安全性を考える視野を養ってほしい。			
授業スケジュール			
1.はじめに　－食品の安全性とは何か－ 2.食品安全の基準　－わが国の食品安全行政の構図と関連法規－ 3.食品の安全評価法　－食品成分の分析法とその安全評価システム－ 4.生体異物の体内動態　－農薬や環境汚染物質等の毒性と代謝－ 5.食品添加物の用途　－食品添加物の定義，種類，構造ならびに効能－ 6.食品添加物の安全性　－食品添加物の安全基準と使用規制の現状－ 7.農薬の種類と安全性　－農薬の種類，構造，効能，安全基準および使用リスク－ 8.環境汚染物質のよる食品汚染　－PCB，ダイオキシン等による食品汚染の現状とそのリスク－ 9.遺伝子組換え作物の安全性　－遺伝子組換え作物の導入効果とそのリスク－ 10.食中毒とその対策　－食中毒の発生メカニズムと予防のための衛生管理システム－ 11.BSE 汚染とその対策　－BSE 対策の歴史と現状におけるリスク－ 12.放射線照射食品の安全性　－放射線照射食品の長所とリスク－ 13.健康食品の安全性　－健康食品の効能とリスクおよび法的規制－ 14.食品成分表示の現状と問題点　－食品の規格，表示規制とトレーサビリティーシステム－ 15.食のグローバリゼーションとハーモニゼーション　－国際化時代における食の安全確保のための課題と方向性－			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60067A01
科目名	測量学	単位数	2
科目名（英語表記）	Surveying		
担当者名	阿野　晃秀	旧科目名称	
授業概要	まちづくりに重要な都市計画やランドスケープデザイン・アーバンデザインの提案に必要となる基礎的な理論と表現方法について紹介し、習得するための演習を行う。前半は、空間の構成要素とその形・色・スケールが示唆する「人間にとっての意味・機能」を読み取り、分析できるようになるためのトレーニングを行う。また、人間にとってより心地がよく、豊かな景観体験を可能にするための空間デザインの理論についても学ぶ。後半は、実際の空間に対するデザイン提案の演習を通して、空間分析の表現方法・デザイン提案の表現方法などを学び、より実践的なトレーニングを行う。		
教材（教科書）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	ヤン ゲール 著 『人間の街：公共空間のデザイン』 鹿島出版会　3,456 円 レイチェル・カプラン、スティーブン・カプラン、ロバート・L・ライアン 著 『自然をデザインする 環境心理学からのアプローチ』 誠信書房　2,400 円 東京大学都市デザイン研究室 編 『図説 都市空間の構想力』 学芸出版社 3,700 円 シビック・ランドスケープ研究会 編 『シビック・ランドスケープ 公共空間の景をデザインする』 公害対策技術同友会 3,800 円		
教育方法	パワーポイントを活用した講義法に加えて、テーマごとにフィールドワーク、グループワーク、実習を取り入れる。		
評価方法	テーマごとのミニレポート（70%)、最終課題(デザイン提案)（30%）		
到達目標	ランドスケープデザイン、アーバンデザインに必要となる基礎的な概念を理解する。加えて、空間の分析、デザインを提案するために有効な初歩的な表現方法を習得する。		
授業時間外学習	ミニレポートの課題に応じて、日常生活や旅行先の空間を分析・考察し、写真やスケッチで記録する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

スケッチブック（F5 程度）を準備して下さい。
「ランドスケープデザイン実習」（秋学期）の受講を考えている学生は、原則受講して下さい。
造園、緑化などランドスケープ関係への進学・就学、および、ランドスケープデザイン研究室への分属を考えている学生は受講を推奨。

授業スケジュール

1．導入：空間デザインとは？
2．空間を構成する形態と要素 1：「空間」
3．空間を構成する形態と要素 2：「道」
4．空間を構成する形態と要素 3：「縁」
5．空間を構成する形態と要素 4：「焦点・境界点」
6．地形の操作
7．空間の表現方法：平面・パース
8．断面・立面
9．都市のデザイン：都市のイメージ
10．都市のデザイン：街の履歴
11．都市のデザイン：にぎわい
12．デザインサーベイ
13．コンセプト立案
14．デザイン
15．プレゼンテーション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★★	★	★	−

年度	2018	授業コード	J60072001
科目名	生態学	単位数	2
科目名（英語表記）	Ecology		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
授業概要	生態学は生物の生活様式・相互作用を合理的に解釈・説明することを目的とする。生物社会における個体・個体群・群集の各階層でみられる生活様式・相互作用を概観し、どのような合理的解釈・説明がなされているのかについて講義する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	・Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』　丸善 ・伊藤嘉昭ら著 『動物生態学』　蒼樹書房 ・John R. Krebs & Nicholas B. Davis 著　山岸哲、巌佐庸監訳 『進化から見た行動生態学』　蒼樹書房 ・長谷川真理子ら著 『シリーズ進化学 6　行動・生態の進化』　岩波書店 ・日本生態学会編 『シリーズ現代の生態学 5　行動生態学』　共立出版		
教育方法	パワーポイントを活用した講義法で行う。		
評価方法	不定期の小テスト・レポート課題（50%）、期末テスト（50%）により評価する。		
到達目標	生態現象の合理的説明の根本は適応・進化の原理であることを理解する。		
授業時間外学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

現在のあなたが持っている生態現象に対する解釈と講義でなされた解釈は同じであるだろうか、異なるものであろうか。どちらの解釈がもっともらしいと感じるだろうか。それはなぜだろうか。考えながら講義に臨んでほしい。

授業スケジュール

1. ガイダンス
2. 適応進化
3. 最適戦略・トレードオフ、最適卵サイズ、表現型可塑性 1
4. 最適戦略・トレードオフ、最適卵サイズ、表現型可塑性 2
5. 採餌理論
6. タカハトゲーム
7. 性比
8. 同性内の性淘汰
9. 異性間の性淘汰
10. 利他行動
11. 個体群動態
12. 食う-食われる関係、捕食回避
13. ニッチと種間競争
14. 繁殖干渉
15. 総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J60073001
科目名	水環境化学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
授業概要	水環境について、全球的な規模の水環境から身近な水環境まで、特に化学の観点から幅広く理解する。水環境を評価するための様々な指標について知り、今後の水環境と人間活動について考察する。		
教材（教科書）	プリントを配布する		
教材（参考資料）	生物海洋学入門　第 2 版　監訳：關文威, 訳：長沼毅　講談社　4212 円 明解　水質環境学　浦瀬太郎著　プレアデス出版　2300 円 よくわかる　水環境と水質　武田育郎著　オーム社　2400 円		
教育方法	講義法とグループワークによる。プリントに沿って、水環境について幅広く講義する。講義内容を深めるため、実際の水環境のデータを用いて各自図表を作成し、その図表からグループで水環境の現状を解釈する。		
評価方法	小テスト・レポート（図表作成を含む）・グループワーク参加度等による平常点（40%） 定期テスト（60%）		
到達目標	海洋・湖沼・河川を含む水環境の役割を理解する。 水環境の現状を評価するための様々な指標について幅広い知識を得る。 水環境の現状について解釈するため、自分の目的に合った図表を作成できる。 様々な評価手法、図表により、実際の水環境を評価することができる。		
授業時間外学習	授業で配布するプリントをもとに講義内容をしっかり復習して、次週の講義に備えること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義内容に関する小テスト・ミニレポートを作成し提出していただくので、気を抜くことなく取り組んでいただきたい 水環境研究室への研究室配属を希望する可能性がある学生は、この「水環境化学」を受講していることが望ましい。			
授業スケジュール			
1. 水環境化学への招待 2. 水の特殊性と水循環 3. 海洋環境の構造 4. 身近な水質 5. 海洋の循環 6. 海洋の化学環境 7. 海洋における一次生産 8. 海洋におけるエネルギー輸送 9. 海洋における物質循環 10. 海と地球環境 11. 河川と海 12. 淡水環境の物理学的特性 13. 淡水環境の生物学的特性 14. 窒素循環とリン循環 15. 人間生活と水環境			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J60074001
科目名	水環境化学実験	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
授業概要	水環境（河川、湖沼、海洋等）の現状を定量的に把握するための高度な分析技術を習得し、水環境について生物・物理・化学的側面から総合的に解釈することを目指す。		
教材（教科書）	実験初日に、教科書：実験指導書（水環境化学実験ノート）を配布する。		
教材（参考資料）	新編　湖沼調査法 第 2 版　西條八束、三田村緒佐武著　講談社 3800 円 水の分析　第 4 版　日本分析化学会北海道支部編　化学同人　4800 円 JIS K 0102:2013 工場排水試験方法 - 日本工業規格の簡易閲覧　http://kikakurui.com/k0/K0102-2013-01.html 海洋観測ガイドライン　日本海洋学会　http://kaiyo-gakkai.jp/jos/guide/content 滋賀県　環境白書　http://www.pref.shiga.lg.jp/biwako/koai/hakusyo/		
教育方法	2 人から 4 人でグループを作り実験に取り組む。事前に実験内容について予習・実験ノートの作製を行い、当日の実験作業を効率よく進められるようにしておく。当日は、教員が実験内容のポイントを解説するので、学生は予習した内容とその内容をもとに実験を実施する。実験には各自が積極的に作業に参加し、グループで協力して結果を得る。実験後は、各自、実験内容を振り返り、自分たちの得た結果を他の水環境等と比較検討するなどして実験レポートを完成させ、提出する。		
評価方法	実験への取組態度、各実験レポートを総合的に評価する。		
到達目標	水環境の種々の環境要素（物理・化学・生物的要素）の現状を定量的に把握するための高度な分析技術を習得する。		
授業時間外学習	毎回の実験を受講するまでに実験指導書の当該範囲を熟読し、わからない専門用語などを調べ、実験内容をよく理解しておくこと。実験ノートを作成すること。また、実験レポートの提出を求める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

すべての実験に積極的に取り組むこと。
班のメンバーで取り組む実験では意思疎通を図り、協力して行うこと。
化学実験・環境化学実験を履修しておくことが望ましい。
野外に出かける日があるので、長靴・カッパを用意すること。
水環境研究室への研究室配属を希望する可能性がある学生は、この「水環境化学実験」を受講していることが望ましい。

授業スケジュール

1. 実験オリエンテーションと化学実験の基礎講習
2. 廃水処理に使われる活性汚泥の微生物濃度と沈降性の測定
3. 廃水処理に使われる活性汚泥の微生物濃度の測定（つづき）と顕微鏡観察
4. 分析化学実験の基礎講習、精度確認
5. プランクトン採集と顕微鏡観察
6. クロロフィル a の定量
7. COD（化学的酸素要求量）の定量
8. 河川における流量測定
9. 一般環境項目の水質測定と採水
10. 溶存酸素濃度の定量
11. アンモニア態窒素の定量
12. リン酸態リンの定量
13. キレート滴定によるカルシウムイオン、マグネシウムイオンの濃度分析、硬度の計算
14. 原子吸光分析によるカルシウムイオンの濃度分析、残留塩素の分析
15. 調査結果の考察、効果的な水質調査方法について検討

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J60076001
科目名	流域環境デザイン論	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Watershed Design		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	亀岡市で使用した水の大部分は保津川（正式名称は桂川）に入り、淀川を経て大阪湾に流れ込んでいる。淀川の水は大阪府民の水道資源として利用されており、亀岡市においては、生活廃水などを適切に処理して、保津川へ流れ込む水の質を良好に保つことが求められている。生活廃水の処理については、下水処理場で処理するという考え方だけでなく、水路や河川での浄化作用も利用することが重要である。なぜなら、現在の多くの河川の水質は、下水処理場から放流される処理水よりも格段に良好であり、下水処理場に廃水を流し込むことだけを考えるよりは、自然の浄化能力を利用することも考えた方が、水質が良くなると考えられるからである。従来からの考え方では、家庭下水は人工的に処理を行うということだけであったが、今後は、これに自然の浄化能力を利用するという考え方をつけ加えて、全体として、よりよい水質を実現することが重要である。そこで、家庭下水や工場廃水にについて、BOD 成分だけではなく、窒素とリンの除去も含めて人工的に処理を行うことと、河川での自然の浄化について解説し、河川の水質を改善するための方策を考える。		
教材（教科書）	金川貴博著『ありがとう、微生物たち』リーダーズノート社(または東洋書店)、2,200 円＋消費税		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教科書の内容にそって講義法で行う。追加の資料を配布して解説する。		
評価方法	期末試験（60 点）、適宜行う小テスト（40 点）		
到達目標	１．河川の水質を良くする自然の仕組みを理解する。 ２．水環境をどのようにデザインすると自然の浄化能力を最大限に生かせるのかを理解し、実際に世の中がそのような方向へ行っているのかを判断できる。 ３．河川水を汚さないための方法を理解する。		
授業時間外学習	教科書の該当部分を事前に読んで、理解しておくこと。また、復習をして専門用語を暗記し、内容を理解すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

黒板やスライドの文字を書き写すだけでなく、話を聞きながらメモをとること

授業スケジュール

１．水質汚濁をもたらす物質：毒物、有機物、栄養塩類
２．なぜ下水処理が必要なのか？　河川水の溶存酸素と BOD
３．廃水処理技術（１）：活性汚泥法（教科書 p.23-40）
４．廃水処理技術（２）：生物膜法（教科書 p.40-54）
５．廃水処理技術（３）：メタン発酵法（教科書 p.54-67）
６．河川がもつ浄化能力の向上策
７．富栄養化の防止：窒素化合物の生物学的除去技術（１）（p.139）
８．富栄養化の防止：窒素化合物の生物学的除去技術（２）
９．富栄養化の防止：リンの除去技術
１０．自然環境中での水質の浄化（p.99-109）
１１．環境微生物の働き（p.14-22）
１２．環境中の微生物を理解する（１）（p.146-154）
１３．環境中の微生物を理解する（２）（p.155-171）
１４．環境中の微生物を有効に利用する（p.115-144）
１５．自然界の生物の作用を活かした家庭下水の処理政策（p.110-114）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60077001
科目名	ランドスケープエコロジー	単位数	2
科目名（英語表記）	Landscape Ecology and Planning		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	ランドスケープ＝地域の景観は人と自然の共同作品である。地球４６億年の歴史とともに、人間によるごくわずかな期間の間になされた、大きな働きかけ＝土地利用と資源利用、およびその結果発生したさまざまなインパクトが、景観を作ってきた。それゆえ、景観を丁寧に分析すれば、自然環境の論理と、それに対応してきた人間の文化の論理を浮かび上がらせることができる。 一方、地球環境危機の現在、自然との共生や低炭素、循環型社会への転換が求められる中、自然立地的な土地利用への転換が不可欠である。この講義では、そのプランニングとデザインの手がかりとして、景観生態学の基礎を学ぶ。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	森本幸裕・編著『景観の生態史観－攪乱が再生する豊かな大地』京都通信社 モニカＧ．ターナー（中越・原、監訳）『景観生態学生態学からの新しい景観理論とその応用』文一総合出版		
教育方法	課題発表やレポートを通じて思考能力を高める。		
評価方法	小テスト等による平常点（50%）、課題レポート（50%）により評価する。		
到達目標	身の回りから国土レベルまで、景観をその生成要因とともにとらえられるようになり、新たな望ましい景観がイメージできるようになること。		
授業時間外学習	印象に残った景観の成り立ちについて、読み解く習慣を付ける。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
できるだけ多くの事例を紹介するので、 ランドスケープエコロジーの役割を考えてみる。			
授業スケジュール			
1.景観生態学とは 2.スケール 3.スケール 4.景観パターン 5.景観パターン 6.生物と景観パターン 7.生物と景観パターン 8.景観と攪乱 9.景観と攪乱 10.景観における生態系プロセス 11.景観における生態系プロセス 12.景観生態学におけるモデル 13.景観生態学におけるモデル 14.景観生態学の応用：都市計画 15.景観生態学の応用：森林管理 注）進行状況等により適宜変更することがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J60079001
科目名	エコミュージアム構想学	単位数	2
科目名（英語表記）	Ecomuseum Design		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	エコミュージアムは、地域の暮らしの知恵が地域の環境の中で息づく博物館です。従来型の博物館や知識に対する評価では、地域の暮らしの知恵には価値を見いだせませんでしたが、エコミュージアムが大切にするのは、こうした日常的な暮らしの知恵です。また、日常的な出来事を建物の中に保存することは難しいので、必然的に人が暮らしている日常そのものを活用して、住民が主体となる生活空間そのものが従来の博物館と同等の価値を持つという考え方です。 　この視点は、バイオ環境デザインにおいて欠くことができません。なぜなら、地域の人の暮らしを抜きにしたバイオ環境のデザインはあり得ないからです。 　本講義では、実際の国内でのエコミュージアム活動を紹介し、関連する農村開発やエコツーリズムなどと比較することで、エコミュージアムの特徴をさぐり、どのような状況でエコミュージアム活動が生きるのかを探ります。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	星山幸男「自然との共生とまちづくり」北樹出版 大原一興「エコミュージアムへの旅」鹿島出版会 小松光一編「エコミュージアム」家の光協会		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義を行う。また、エコミュージアムの事例紹介においては、Web ページを適宜紹介し、具体的な取り組みの事例の理解につなげる。		
評価方法	講義内でのレポート発表(40%)、レポート提出(60%)の双方を勘案する。		
到達目標	人の暮らしについて、さまざまな視点から見つめ直して、人の暮らしを重視した地域発展に必要な視点を理解する。		
授業時間外学習	農業など、人の生業（なりわい）に関連する講義を受講しておくことが望ましい。参考文献を読み講義に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

地域の人の暮らしに関心のある学生の参加を待っています。既存の議論や価値観にとらわれずに、人の暮らしについて何が大事なことなのかをよく考えて、自由な発想で各自のエコミュージアム構想を展開してください。

授業スケジュール

1　エコミュージアムとはなにか
2　日本におけるエコミュージアムの現状
3　国内の事例紹介　山形県朝日町
4　国内の事例紹介　兵庫県豊岡市
5　国内の事例紹介　岡山県賞田町
6　国内の事例紹介　高知県柏島
7　農村開発との比較
8　エコツーリズムとの比較
9　ナショナルトラスト運動との比較
10　環境保全活動との比較
11　エコミュージアム構想１　調査結果の発表会
12　エコミュージアム構想２　調査結果の発表会
13　エコミュージアム構想３　調査結果の発表会
14　エコミュージアム構想４　調査結果の発表会
15　エコミュージアムのゆくさき　これから何を目指すのか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J60080001
科目名	流域環境デザイン演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Environmental Waters hed Design		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
授業概要	持続可能な環境社会・豊かな水環境を実現するため、まず、水環境を評価するための手法を計算問題を通して理解する。さらに、多項目にわたる水環境の実測データを用いて、必要情報の抽出・計算・図表の作成等を行う。パートナーもしくはグループを作り、自分の計算結果や図表を作成・考察・発表・意見交換することで、水環境の現状を把握し、今後の水環境のあり方を考察する。演習課題、ミニレポートの提出、小テストを実施する。		
教材（教科書）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	生物海洋学入門　第 2 版　監訳：關文威, 訳：長沼毅　講談社　4212 円 明解　水質環境学　浦瀬太郎著　プレアデス出版　2300 円 よくわかる　水環境と水質　武田育郎著　オーム社　2400 円 海洋観測ガイドライン　日本海洋学会　http://kaiyo-gakkai.jp/jos/guide/content 滋賀県　環境白書　http://www.pref.shiga.lg.jp/biwako/koai/hakusyo/		
教育方法	前半は講義法、後半はグループワークによる。		
評価方法	演習課題・ミニレポート・小テストの結果（90%）と演習への取り組み態度（10%）を総合的に評価する。		
到達目標	水環境を定量的に評価するための手法を理解する。特に、水環境の現状について解釈するため、自分の目的に合った図表を作成できる。様々な評価手法、図表により、実際の水環境を評価することができる。		
授業時間外学習	講義内容をしっかり復習して次回の講義に備えること。水環境化学、水環境化学実験受講者は内容を復習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

湖沼・河川・海洋を含む水環境の利用・再生・環境問題に関する話題は新聞紙上などで頻繁に出てくるので、常に情報収集に努めること。授業中にパートナーもしくはグループで積極的に意見交換すること。

授業スケジュール

1. 水環境と地球史
2. 水循環と平均滞留時間
3. 溶存酸素
4. 有機物の指標
5. 富栄養化
6. 栄養塩の循環
7. 水循環と溶存物質
8. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化 1（流下図）
9. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化 2（散布図、相関）
10. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化 3（鉛直分布図）
11. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化 4（等値線図）
12. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化 5（目的設定）
13. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化 6（図示）
14. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化 7（発表）
15. 水環境の指標物質類のデータのグラフ化 8（考察）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J60081001
科目名	農環境論	単位数	2
科目名（英語表記）	Agricultural Environments		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	農業は人間が生きていく上で不可欠な，食糧供給という重要な役割を担っている．その農業の発達過程と実態を理解するとともに，我々が生活している様々な環境との関連について考えてみる．さらに食料生産のための制御された環境での栽培，つまり施設栽培や植物工場についても講じる．		
教材（教科書）	特に指定しない．		
教材（参考資料）	藤本文弘　著　「生物多様性と農業」　農文協		
教育方法	板書中心に授業を行い，必要な事項は PowerPoint で表示する．データなどの資料を必要に応じて配付する．		
評価方法	５～６回行う小レポートによる平常点（30 %）および 2 回の課題レポート（70 %）で評価する．		
到達目標	1．農業がこの地球環境に大きな関わりを持っていることを説明できる． 2．環境も農業に大きな影響をおよぼしている点についても説明できる． 3．農業と環境の相互作用について十分に理解し，食料生産手段としての農業の将来までも見据えて考察・議論できる．		
授業時間外学習	授業の終わりに，その日の講義で重要である内容についてのミニレポートを課す．次回の授業につながる点なので，特にこの内容について復習をして準備をすること．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日常生活の中で出会う「生き物」に関心を持ち，観察眼を養うように心がけて欲しい．

授業スケジュール

１．農業が環境におよぼす影響　(1) 農業の成立と歴史
２．農業が環境におよぼす影響　(2) 近代農業の成立と環境
３．農業が環境におよぼす影響　(3) 栽培植物の起源
４．農業が環境におよぼす影響　(4) 農業生産と環境汚染
５．農業が環境におよぼす影響　(5) 農業生産と環境保全機能
６．環境が農業におよぼす影響　(1) 花芽分化と低温
７．環境が農業におよぼす影響　(2) 花芽分化と日長
８．環境が農業におよぼす影響　(3) 花芽分化と日長 ／ 課題レポート作成①
９．環境の変化と農業　(1) 地球温暖化のメカニズム
10．環境の変化と農業　(2) 地球温暖化が農業におよぼす影響
11．環境の変化と農業　(3) 汚染物質の影響
12．農業と生物多様性　(1) 栽培環境
13．農業と生物多様性　(2) 農耕地における生物多様性
14．環境制御下の農業 (1)　施設栽培
15．環境制御下の農業 (2) 養液栽培と植物工場 ／ 課題レポート作成②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J60082001
科目名	野生動物保全学	単位数	2
科目名（英語表記）	Wildlife Management		
担当者名	高柳　敦	旧科目名称	
授業概要	野生動物の保全で重要な事柄の中には、絶滅しないようにして生物の多様性を保つことと、人間に大きな被害をもたらさないようにすることの 2 つがあり、その 2 つをいかにバランスよく実現しながら、野生動物のもたらす価値を享受するかが重要な課題である。本講義では、カモシカやシカ、クマなどの大型野生動物による農林業被害の問題の問題を中心に外来生物の問題など、野生動物保全問題の背景、解決のための科学的なアプローチについて解説する。特に、被害問題の現状について理解を深めると共に、被害問題の解決には、野生動物の生態や被害の発生プロセス、人間社会の対応の在り方など、さまざまな要素が関係していることについて理解する。また、自分の関心のあるテーマを見つけて、それについて自分の意見を文章化する技能についても学ぶ。		
教材（教科書）	特に指定しないが、以下に、参考図書の中でも特に講義内容に近いものを上げておく。 「森林の再発見」（p285-316：第 8 章「人間と野生動物との新たな関係」） 大田誠一編、京都大学学術出版会、2007　（4,410 円） 「ワイルドライフ・マネジメント入門」三浦慎吾、岩波書店、2008　（1,260 円） 「野生動物管理・理論と技術」　羽山伸一，三浦慎悟　文永堂出版 2012 (7,350 円)		
教材（参考資料）	被害問題に関する文献として以下のものがある。 「森林環境〈2007〉動物反乱と森の崩壊」森林環境研究会、森林文化協会　2007 「動物たちの反乱」河合 雅雄・ 林 良博編著　PHP サイエンスワールド新書　2009 「動物による農作物被害の総合対策」江口祐輔　監修　誠文堂新光社　2013 「シカの脅威と森の未来-シカ柵による植生保全の有効性と限界」　前迫・高槻　文一総合出版 2015 「シカ問題を考える－バランスを崩した自然の行方」　高槻成紀著　山と渓谷社　2015 生物の保全に関する文献として 「生物保全の生態学」鷲谷いづみ　共立出版　1999 「保全生物学のすすめ 改訂版」リチャード B プリマック　文一総合出版 2008 「野生生物保全事典」野生生物保全論研究会 2008		
教育方法	講義で用いるパワーポイントの必要箇所をまとめたものを講義資料として毎回配布し、パワーポイントで資料を提示しながら講義する。講義のはじめに、先週の内容の復習をする。適宜、あてて意見や答えを求める。		
評価方法	期末の試験と 1 回のレポート提出の成績で評価する。試験とレポートの評価の比率は 8 対 2 から 6 対 4 で、試験結果などを基に決定する。評価に当たっては出席状況も考慮する。　評価方法については最初の講義で説明する。　出席は、基本的には学生証による認証による記録をもとにする。欠席については、理由によっては事情を配慮する。		
到達目標	生物多様性の保全において重要な事項を理解すること。ニホンカモシカ、ニホンジカ、ツキノワグマの生態とその被害の発生と防除の関連について理解すること。野生動物の保護管理を総合的に行うとはどういうことかを理解すること。		
授業時間外学習	野生動物の保全の問題は、テレビ番組や新聞記事で触れるだけでなく、必ず身近なところにも見られる問題である。知識として何かを学ぶというより、自分の身近な問題を解決するという主体的な姿勢で講義に臨んで欲しい。講義では、前回講義の復習や課題についての意見を求めたりするので、間違っても良いので必ず答えるように心がけて欲しい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義への関心を高めるために出席カードに講義に関連する質問を挙げてあるので、それには講義の内容を答えるのではなく、講義の内容などを参考にしながら自分の意見を書いて欲しい。ここに意見を書くことで、学んだことを理解して、素早く自分の言葉で意見をまとめる技能を高め、文章によるコミュニケーション力を付けてもらいたい。講義終了後に回収して、講義に対する関心などの参考にする。また、			
授業スケジュール			
第　1 回　野生動物を保全するとはどういうことか。野生動物保全学へのイントロダクション。			

第　２回　生物多様性とは何か、なぜ生物多様性の保全が重要か。生物多様性を理解する。
第　３回　日本の野生動物相はどういう特徴があるのか。日本の野生動物についての基礎。
第　４回　外来生物とはどんな生物でなぜ問題か。外来生物問題の解説。
第　５回　レポート計画発表会
第　６回　カモシカなど希少生物の保全の抱える課題について解説。
第　７回　カモシカによる農林業被害問題とは何か。被害問題の背景などについて解説。
第　８回　保護地域による野生動物の保全。保護地域による保全の課題について解説。
第　９回　ニホンジカの生態とその被害について解説。
第１０回　ニホンジカ被害問題をの背景、解決のための個体数の捕殺や被害防除について解説。
第１１回　京都府南丹市芦生地域における野生動物保護管理について解説。
第１２回　クマ類の生態と保全。ツキノワグマを中心にクマ類の生態と保全について解説。
第１３回　ツキノワグマによる被害と防除。林業被害や出没被害について解説。
第１４回　野生動物のもたらす被害とその防除、および総合的管理と野生動物が組み込まれた社会について解説。
第１５回　全体の復習
　以上は進行の目安であり、受講者の理解や興味などによって変更することもある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60084001
科目名	森林環境・林業論	単位数	2
科目名（英語表記）	Forest Environment and Forestry		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	森林は林業資源としての性質を持っているだけでなく、森林生態系として環境を形成し、人間社会からみて、多面的機能と呼ばれるさまざまな恵みも提供している。 その豊かな恵みを持続的に享受していくことを目的として、森林生態系の現状と傾向、課題と対応について概説し、これからのありかたを展望する。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	日本生態学会編『森の不思議を解き明かす』文一総合出版 森林・林業白書（林野庁）		
教育方法	演習により実践的な力を身につけ、レポートにより思考能力を高める。		
評価方法	小テスト等による平常点（50%）、課題レポート（50%）により評価する。		
到達目標	森林・林業をめぐる循環と共生、ストック（生態系、林木蓄積）とフロー（生態系サービス、林木成長の収穫）、伐採と更新、時間と空間の秩序づけ等々における深さと豊かさについての理解をめざす。森をみて森の多様な構成者や環境、履歴、人との関わりが読み解けるようになる。		
授業時間外学習	自宅周辺や通学途中など、身近な森林を観察し、そこから読み解けることを考察する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

森林管理のあり方を考えるために、新聞などをもとに森林に関係した話題を収集し社会情勢を理解する。

授業スケジュール

1.ガイダンス
2.森を読む：森林構成種
3.森を読む：森林構成種
4.森を読む：樹木の適応戦略
5.森を読む：森林の構造
6.森を読む：森林の成長・再生
7.日本の森林植生：植生単位
8.日本の森林植生：植生分布
9.植生の判読：植生図の作成
10.植生の判読：植生図の作成
11.人と森林の関わりの変遷
12.林業の現状
13.林業の仕組み：森林計画
14.林業の仕組み：造林・育林・収穫・更新
15.森林認証と REDD、オフセット
注）進行状況等により適宜変更することがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J60085001
科目名	里山学	単位数	2
科目名（英語表記）	SATOYAMA Studies		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	人々の暮らしが生み出してきた二次的自然である里山は、原生的自然とは異なる多様な生物を育んできた。しかしながら、人間生活の変化に伴い、このような二次的自然は急速に失われようとしている。また、近代化の過程で森林・農地・河川は分断され、個別の場での効率が追い求められてきた結果、多くの環境問題を引き起こし、良好な生産や環境の維持が困難な状況に至っている。本講義では、失われつつある二次的自然の価値を見直しながら、国内外の学術的・実践的事例に学び、人と多様な生物の共生を可能とする暮らしのあり方を考える力を涵養することを目的とする。また、これらの内容に関連するテーマを各自が設定して文献調査や聞き取り調査等を行い、その成果をレポートにとりまとめ、口頭発表を行う。		
教材（教科書）	講義時に随時配布する		
教材（参考資料）	武内 和彦 他偏著「里山の環境学」　東京大学出版会 広木詔三偏「里山の生態学」　名古屋大学出版会 養父志乃夫著「里地里山文化論」農文協		
教育方法	・パワーポイントを用いた講義法 ・グループワーク ・学生によるプレゼンテーション		
評価方法	発表への取り組みやデスカッションへの参加状況等による平常点（30 点）、口頭発表（30 点）、最終レポート（40 点）で評価する。		
到達目標	・テーマ設定・レポート作成に必要な課題発見力を身につける。 ・人と多様な生物の共生を可能とする暮らしのあり方を主体的に考える力を身につける。 ・上記の考えに実践や先行事例を元に裏付けを与える論理力を身につける。 ・分かりやすい口頭発表に必要なプレゼンテーション能力を習得する。		
授業時間外学習	講義のレジメや講義で使用する学術論文を事前に京学なびにアップロードしておくので、各自で打ち出して予習をしておくこと。 各自の口頭発表・レポート作成に活かせるよう、講義で使用した学術論文の背景・目的・方法・結果・考察・まとめの流れを復習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
専門書を読むに堪える能力をみにつけること。 「現場」の出来事と日々向き合い、学ぶこと。			
授業スケジュール			
1　里山学とは？ 2　里山の暮らしと生物多様性 3　里山の機能Ⅰ：水田の生態系 4　里山の機能Ⅱ：焼畑の生態系 5　日本の里山の現状と課題Ⅰ 6　里山林の保全と循環型農業 7　生物保全と水田農業の関わり：アユモドキとコウノトリ 8　日本の里山の現状と課題Ⅱ 9　日本の水田と里山：亀岡市西別院町大槻並の事例 10　日本の焼畑と里山：長浜市余呉町中河内の事例 11　里山の生態系と生業の繋がりの再構築に向けてⅠ 12　里山の生態系と生業の繋がりの再構築に向けてⅡ 13　里山の生態系と生業の繋がりの再構築に向けてⅢ 14　里山の生態系と生業の繋がりの再構築に向けてⅣ 15　里山の生態系と生業の繋がりの再構築に向けてⅤ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60086001
科目名	里山学実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Vocational Guidance I		
担当者名	上萩　寛	旧科目名称	
授業概要	里山は、ほんの半世紀ほど前までは、農山村の生活や生業が依存する重要な場所であったが、急速な燃料の石油等への転換等によってその存在価値が失われ、また林業の低迷、マツノザイセンチュウ病やナラ枯れ被害等からますます顧みられない場所になっている。 しかし、近年市民活動や環境教育等人と自然との接点として、また生物多様性等の観点から里山の持つ価値が見直されてきている。 そこで、過去の里山利用をマツタケ発生を目指したアカマツ林再生作業等を通じて体験し、改めて里山の価値を考えるとともに、その価値を現代に生かすきっかけ作りにする。		
教材（教科書）	なし。必要に応じてプリントを配布する。		
教材（参考資料）	中川重年監修「森作りワークブック（雑木林編）」全国林業改良普及協会､2003 木文化研究所編「Ｑ＆Ａ里山林ハンドブック」日本林業調査会、1999 黒田慶子編著「ナラ枯れと里山の健康」全国林業改良普及協会、2008		
教育方法	適宜資料配付。 講義時はパワーポイント等を使用。		
評価方法	実習態度等による平常点（８０％）。授業中に課すレポート（２０％）。		
到達目標	里山の再生、管理作業をとおして里山の生態系の見方や、人にとっての里山の大切さを体験に基づき理解する。		
授業時間外学習	・春学期の早い段階に上記参考文献等を読んで、地域の人々が里山とどのように関わってきたかを理解しておく。 ・普段から森林生態や環境保全に関する新聞記事等に注意し、批判力を持って読む習慣を身につける。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義と書かれた日以外は実際に里山に入って作業を行うので、それに適した服装にすること ・袖をボタン等で止められる長袖 ・裾が広がっていない長ズボン ・引っかかりにくく､汚れても構わないもの ・作業手袋（ゴムのついた軍手等） ・トレッキングシューズもしくは滑りにくい長靴等 ・雨の可能性があるときはカッパ等の雨具 実習作業では汗をかくので、飲用水、タオル等を準備すること。 大学から現地へはバスで移動するので､乗り物に弱い人は対策をすること。 雨などで作業ができない時は講義に変更するが、判断が難しいときは両方の準備をすること。			
授業スケジュール			
１．里山の現状と問題－本実習に関する基礎知識（講義） ２．里山を調べる（実習） ３．同上 ４．人工林の間伐 ５．同上 ６．放置竹林の整備－竹の伐採 ７．同上 ８．どんな里山を作るのか（講義とワークショップ） ９．目標とする里山作り（マツタケ発生のためのアカマツ林再生）			

１０．同上 １１．同上 １２．目標とする里山作り（放置竹林等の整備） １３．同上 １４．同上 １５．実習のまとめ（講義）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J60087001
科目名	有機農業論	単位数	2
科目名（英語表記）	Organic Agriculture		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	わが国における有機農業および世界の有機農業の現状を把握する. 有機農業の今後の展望について理解する.		
教材（教科書）	特に指定しないが，講義の中で順次紹介・指示する.		
教材（参考資料）	講義の中で適宜紹介・指示する.		
教育方法	板書中心に授業を行い，必要な事項は PowerPoint で表示する．データなどの資料を配付する.		
評価方法	授業終了後に 8 回実施するミニレポートで評価する平常点（30%）および 2 回の課題レポート（70%）で評価する.		
到達目標	1．有機農法を科学的な観点から理解して非科学的な俗説との区別が説明できる. 2．有機農法の基本となる技術の概要を具体的に述べることができる.		
授業時間外学習	板書を基にしてノートをとることが多いので，講義終了後にノートをまとめ直すなどの復習を行う．また，授業終了後にその日の重要な内容に関するミニレポートを課すことがあるので，それを基に良く復習して，次回の講義に備えること.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

有機農業についてはマスコミなどで取り上げられることが多く，耳にする機会も多いが誤った情報も多い．科学的な視点から有機農業の本来の意味を理解できるよう努力してほしい.

授業スケジュール

1．有機農業の概要／農業の基本となる土
2．土と物質循環
3．土の性質を支配する粘土と腐植
4．植物の栄養吸収
5．植物と微生物の共生～窒素固定細菌
6．植物と微生物の共生～菌根
7．土壌における有機質肥料（1）【課題レポート①】
8．土壌における有機質肥料（2）～堆肥化
9．アレロパシー
10．農地におけるアレロパシーの利用
11．有機農業の歴史
12．日本の有機農業
13．アメリカの有機農業
14．欧州・豪州の有機農業
15．日本の有機農業の展望について　【課題レポート②】

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J60090001
科目名	都市環境論	単位数	2
科目名（英語表記）	Urban Environments		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	都市水辺環境論
授業概要	都市の成り立ちの履歴や痕跡について学び、現在の都市の水辺空間に着眼してその魅力の背景を知る。次に世界の地域の風土を知ることで日本との比較を行う。また、都市での水供給、排水問題、廃棄物問題、ヒートアイランドなどの都市特有の課題の原因と対策を学ぶ。さらに地域での一定の地区や集落単位など、比較的小さな空間スケールでの自然、地形、気候、人口、交通、産業、歴史、文化などをフィールドワークも加えて総合的に把握する手法を学ぶ。		
教材（教科書）	教科書は使用せず、プリントを配布する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教室内では主にパワーポイントや関連したビデオの上映などで学習し、野外でのフィールドワークでは現場で課題に気づくことに配慮する		
評価方法	講義中に確認テストを実施する。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点（50 点）と平常点（50 点）の総合的な評価とする。平常点とは複数回小レポートを実施し、その結果を積算する。		
到達目標	都市や地域が国土の中でどのように発展してきたかを理解し、現在の生活と環境の諸問題を総合的に把握し、地域の再生、都市の再生に繋げることができる		
授業時間外学習	新聞やテレビその他のメディアなどへのアンテナを立て関心を高めておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義以外の時間にフィールドワーク、ビデオ学習、PDF 学習、映画上映などがあるので積極的に参加し、わからないことは授業終了後、いつでも聞きにきてください。

授業スケジュール

1.都市の成り立ちの痕跡をさぐる
2.日本の貴重な都市の水辺空間を概観する
3.世界に目を向け、モンゴル、ラオス、カンボジアの風土を知る
4.都市の中の水問題・排水に係る課題
5.都市の中の廃棄物に係る課題
6.地域資源の有効活用の事例を知る
7.江戸時代の暮らしと循環型社会を知る
8.都市のヒートアイランドについて学ぶ
9.地域の身近な自然・環境と暮らし　水辺・森・地形・気象
10.地域の歴史・文化・観光について学ぶ
11.グループ分けとグループディスカッションの課題
12.グループディスカッションの実施
13.フィールドワークの実施 1
14.フィールドワークの実施 2
15.結果発表とフィードバック

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J60092001
科目名	地域再生・まちづくり論	単位数	2
科目名（英語表記）	Community Development		
担当者名	寺川　政司	旧科目名称	
授業概要	わが国の都市や町の成り立ちを振り返りながら現在のまちが抱える多様な問題について学び、都市のマイノリティに関わる居住問題と実践事例をもとに市民参画型のまちづくりと今後の専門家のあり方について考察する。とくに、亀岡市内のフィールドワークを通じて、現在のまちづくりの手法を学びながら、現代的なテーマ型まちづくりの課題と展望を考察する。		
教材（教科書）	プリントを配布		
教材（参考資料）	「これからの住まいとまち―住む力をいかす地域生活空間の創造」朝倉書店 「現代集合住宅のリ・デザイン―事例で読む[ひと・時間・空間]の計画」彰国社 内田雄造編著「まちづくりとコミュニティワーク」解放出版社 寺川政司監修「北芝まんだら物語」		
教育方法	資料を授業時に配布する。		
評価方法	授業時提出のレポート　20% 授業に対する熱意　30% フィールドワーク等への参画と成果　50%		
到達目標	・日本のまちの成り立ち、制度を学びながら、歴史的経緯から現在をとらえる感覚を学ぶ。 ・多様なテーマで実践されているまちづくりのダイナミズム、面白さ、課題等について理解する。 ・大学が位置する亀岡市のまちづくりを体感するとともに、今後の自分自身とまちとの積極的な関わり方を意識する。		
授業時間外学習	・様々なメディア（新聞・冊子・ＴＶ・Ｗｅｂ・現場　等）を用いて、「テーマ型まちづくり」に関する情報を得ておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
フィールドワーク等への参画と授業に対する意欲を重視します。			
授業スケジュール			
1. まちづくり概論 2. わが国の都市とまちの変遷 3. 住宅政策の変遷とまちづくり 4. 共同住宅団地の変遷＜軍艦アパート＞ 5. 戦前長屋地域の再生　＜関西の戦前長屋と空堀地区の挑戦＞ 6. まちの再生と多様な住まい＜コーポラティブ住宅・コレクティブ住宅＞ 7. マイノリティコミュニティにおける地域再生とまちづくり 8.~14　亀岡市フィールドワーク・ワークショップ 15.コミュニティマネジメントとコレクティブタウン （市民主体のまちづくりと専門家）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J60093001
科目名	都市自然化デザイン論	単位数	2
科目名（英語表記）	Design of Urban Naturalization		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	本講義では、都市の中の河川に着眼して自然の再生のデザインを学ぶ。具体的には、ドブ川の再生、洪水対策での生態的手法、海外での都市の水辺再生などを対象として、具体的なイメージを確立する。さらに、多くの人々が暮らす都市の中に潜み分散して存在する自然の価値を再評価することに触れる。また、実際のフィールドワークに参加することで、具体的な問題を現場で感じ取ることとする。これらの事項を学んだあとグループに分かれて、都市の自然を再生する手法などに関するグループディスカッションとパワポによる発表を行う。		
教材（教科書）	教科書は使用せず、プリントを配布する。		
教材（参考資料）	フィールドワーク　新曜社 地域診断法　新評論 学びの旅　地域の見方・とらえ方・楽しみ方 ワークショップ　学芸出版 コミュニティデザインの時代　中公新書		
教育方法	教室内では主にパワーポイントや関連したビデオの上映などで学習し、野外でのフィールドワークでは現場で課題に気づくことに配慮する		
評価方法	講義中に確認テストを実施する。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点（50 点）と平常点（50 点）の総合的な評価とする。平常点とは複数回小レポートを実施し、その結果を積算する。		
到達目標	都市自然化の分野でグループディスカッションとフィールドワークを経験し、自分なりの考えを表現できる		
授業時間外学習	自分でも各地に自主的なフィールドワークに参加し、現場から問題点を発見することになれておくこと 確認テストはそれまでの講義内容の理解度を確認するものであり、理解が不十分な箇所に関して、翌週フィードバックにより復習を行うこととする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
この講義は都市の自然化という課題をフィールドワークで学ぶことがテーマであるので、フィールドワーカーとして将来活躍していきたい学生に積極的に受講してもらいたい			
授業スケジュール			
1 講義全体の概要　都市自然化デザイン論とフィールドワーク 2 都市河川の再生による生態系の回復 埼玉県の芝川の事例 3 粗朶沈床による水害の防止と生態系の維持 新潟の事例 4 ソウル清渓川（チョンゲチョン）の河川の再生と日本橋の事例 5 東南アジアの自然 メコン川 トンレサップ湖 琵琶湖、霞ヶ浦の事例 ヨシ原のビデオ 6 都市の中にうもれた自然、暗渠探検 7 都市の住宅団地の町山の管理 8 都市の中に分散する自然エネルギーを見つけよう 9 都市の中の生き物　哺乳類　新宿御苑のビデオ 10 グループディスカッション 11 グループディスカッション発表 1 12 グループディスカッション発表 2 13 フィールドワーク　開発から守った湿地 中池見湿地 敦賀 1 14 フィールドワーク　開発から守った湿地 中池見湿地 敦賀 2 15 全体フィードバック			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J60094001
科目名	都市緑化材料学	単位数	2
科目名（英語表記）	Materials for Urban Tree-Planting		
担当者名	阿野　晃秀	旧科目名称	
授業概要	緑化材料を適材適所に使用できるかどうかで、ランドスケーププロジェクトの成否は大きく左右される。この授業では、都市緑化に用いられる植物材料や植栽基盤の種類や性質と主要な環境緑化技術について紹介する。また、土曜・日曜を活用したフィールドワークを数回取り入れ、実際のプロジェクトにおける各緑化材料の使われ方について解説する。		
教材（教科書）	森本幸裕・小林達明 編著 『最新 環境緑化工学』 朝倉書店 3,900 円		
教材（参考資料）	亀山章 監修、小林達明・倉本宣 編著 『生物多様性緑化ハンドブック』 地人書館 3,800 円 山崎誠子 『緑のランドスケープデザイン -正しい植栽計画に基づく景観設計-」 オーム社 2,300 円 養父志及夫 著 『ビオトープづくり実践帳』 誠文堂新光社 2,800 円		
教育方法	パワーポイントを活用しながら講義法により行う。適宜、フィールドワークも取り入れる（土日を活用予定）。		
評価方法	小テスト・ミニレポート（20%） レポート「都市緑化材料ノート（仮称）」(80%)		
到達目標	各種緑化事業に用いられる代表的な緑化材料と緑化技術について基礎的な知識を習得する。		
授業時間外学習	公園・庭園・街路樹・屋上緑化・壁面緑化などを実際に訪れ、使用されている植物材料について記録する（最終課題レポート「都市緑化材料ノート(仮称)」として提出)。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
「樹木学」の履修を推奨。 樹木や草花に関する図鑑類を購入し、植物を同定する習慣を身につけて下さい。			
授業スケジュール			
１．導入：なぜ緑化材料について学ぶのか？ ２．環境緑化の基礎知識１：地形と土壌環境・植物群落 ３．環境緑化の基礎知識２：地球環境問題と緑化 ４．植栽基盤 ５．公園・庭園の緑化１：樹木 ６．公園・庭園の緑化２：草本 ７．屋上緑化・壁面緑化 ８．室内緑化・斜面緑化・街路樹 ９．生態系の再生と管理：環境林・草地・水辺など １０．グリーンインフラストラクチャーと緑化材料 １１．フィールドワーク （予定：太秦キャンパス） １２．フィールドワーク （予定：梅小路公園） １３．フィールドワーク （予定：京都御所） １４．フィールドワーク （予定：亀岡キャンパス周辺） １５．フィールドワーク （予定: 大本花明山植物園）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	★	−	★

年度	2018	授業コード	J60097001
科目名	都市環境解析学	単位数	2
科目名（英語表記）	Analysis of Urban Environments		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	都市環境診断学
授業概要	本講義では、都市環境を診断する上での生物指標や持続可能指標など指標について学ぶ。指標を算出する過程で統計学が必要となる。分散や標準偏差などの統計の基礎的な理論とビッグデータなどの最新の統計学の潮流についても学習する。解析結果に関しては地理情報システム（GIS）と連携させた表現方法を習得する。その後、実際の地域をケーススタディとして取り上げて、統計的な手法により地域特性分析を行う。春学期の都市自然化デザイン論（フィールドワーク）とも関連が深いので合わせて受講することが望ましい。		
教材（教科書）	教科書は使用せず、プリントを配布する		
教材（参考資料）	環境統計学入門　オーム社 多変量解析の実践　上下　現代数学社 統計解析の話　東京図書 分散分析の話　東京図書		
教育方法	教室内では主にパワーポイントや関連したビデオの上映などで学習し、野外でのフィールドワークでは現場で課題に気づくことに配慮する		
評価方法	講義中に確認テストを実施する。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。確認テストの合計点（50 点）と平常点（50 点）の総合的な評価とする。平常点とは複数回小レポートを実施し、その結果を積算する。		
到達目標	都市環境や持続可能な社会に関する指標について理解し、グループ単位でのフィールドワークと発表を行うことができる		
授業時間外学習	都市の問題に関しては新聞やテレビその他のメディアに登場する頻度が高いので、アンテナを立てて関心を高めておくこと。確認テストはそれまでの講義内容の理解度を確認するものであり、理解が不十分な箇所に関して、翌週フィードバックにより復習を行うこととする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
フィールドワークはグループ単位で実施する。グループリーダーはその後パワーポイントで教室にて発表をする。			
授業スケジュール			
1.都市環境の痕跡の把握 2.都市の中の健康診断手法 3.持続可能な指標の種類と算出方法 4.統計学の基礎１　平均値、中央値、ヒストグラム 5.統計学の基礎２　分散、標準偏差、偏差値 6.統計データの表現手法（可視化） 7. 捕獲再捕獲法などの統計学の応用解析手法 8.サンプリングによる調査手法 9.アンケート調査の方法 10.統計データの可視化手法 11.グループ分けとグループディスカッションの実施 12.グループディスカッションの発表 13.フィールドワークの実施１ 14.フィールドワークの実施２ 15.結果発表とフィードバック			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J60098001
科目名	ランドスケープデザイン実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental design studio: Urban landscapes		
担当者名	阿野　晃秀	旧科目名称	
授業概要	都市から里地・里山・奥山にわたる、人と自然がおりなす美しいランドスケープの保全・再生・創造のプランニング（≒計画）、デザイン（≒設計）、施工、マネジメント・メンテナンス（≒維持・管理）がランドスケープ・アーキテクトの仕事である。この授業は、その中でもデザインの領域について、実際の空間を対象にしたデザイン提案を行うデザイン・スタジオである。 「空間デザイン演習（春学期）」で学んだ概念・理論・技法を復習しながら、より専門的な理論や技法についても紹介する。また、デザインの検討を通して景観デザインの役割や意義・より良い景観デザインとはどういったものなのかについて実践的に学習する。各グループがプレゼンテーションを行う合評会では、空間デザインにおけるアイデア（解決策であるデザイン）の多様性を体感するとともに、質疑応答の議論を通して景観を批評する力を養う。		
教材（教科書）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	森本幸裕・白幡洋三郎 編著 『環境デザイン学：ランドスケープの保全と創造』 朝倉書店 5,200 円 RLA ガイドブック出版の会 編著 『ランドスケープアーキテクトになる本』 成隆出版 1,900 円 八木健一 著 『はじめてのランドスケープデザイン』 学芸出版 2,000 円 山崎誠子 『緑のランドスケープデザイン -正しい植栽計画に基づく景観設計-』 オーム社 2,300 円 丸茂喬 編 『ランドスケープデザイン（雑誌）』 マルモ出版 各 1,995 円（図書館に蔵書あり）		
教育方法	グループワークによる実習を基本とし、適宜、フィールドワーク、パワーポイントによる講義法により補足を行う。		
評価方法	課題提出作品とプレゼンテーション（100%） （各回の内容に連続性があるため、原則皆勤で出席）		
到達目標	身近な空間の課題や資源を発見し、それらを解決・活用して、より質の高いランドスケープデザインが提案できるようになる。		
授業時間外学習	1）「I want to be a Landscape Architect（下記リンク）」を見て、ランドスケープデザインの世界のイメージを掴む。 {https://www.youtube.com/watch?v=zbx3FDDNeQM} 2）優れたランドスケープ作品の事例を検索する （例）雑誌ランドスケープデザイン（上参考資料）、事例検索サイト「LANDEZINE」 {http://www.landezine.com} 3）日常生活や旅行先で公園、庭園、広場を訪れたり、街歩きなどを楽しみ、授業で理解した内容をもとに空間を分析・考察 する（写真やスケッチで記録に残すことも推奨）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「空間デザイン演習」（春学期）・「ランドスケープデザイン」と合わせての受講を推奨。
スケッチブック（F5 程度）を準備して下さい（授業内の演習・最終評価に使用します）。
造園、緑化などランドスケープ関係への進学・就学、および、ランドスケープデザイン研究室への分属を考えている学生は受講を推奨。

授業スケジュール

1．導入：ランドスケープデザインとは？ / クイックスケッチ・製図・敷地分析の表現方法
2．デザインサーベイ 1 （フィールドワーク：穴太寺 予定）
3．デザインサーベイ 2 （フィールドワーク：梅小路公園 予定）
4．デザインサーベイ 1,2 のプレゼンテーション / ミニデザインプロジェクト
5．デザインサーベイ 3: 最終課題現地調査（フィールドワーク）
6．デザインサーベイ 3 のプレゼンテーション・コンセプト作成
7．エスキース：コンセプトプランの作成
8．コンセプトプラン・スタディ模型の作成

９．平面図とスタディ模型を用いた中間発表と改善点の洗い出し １０．クイックスケッチ・デザインの精製（平面図・断面図・模型作成） １１．クイックスケッチ・デザインの精製（平面図・断面図・模型作成） １２．デザインの精製（平面図・断面図・模型作成） １３．デザインの精製（平面図・断面図・模型作成）・プレゼン資料作成 １４．プレゼンテーション１５．ポートフォリオ（スケッチブックにこれまでの課題をまとめた作品集）の作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J60099001
科目名	環境地球科学演習	単位数	2
科目名（英語表記）	環境地球科学演習		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	地球科学は自然科学，特に物理学・化学などの分野を基礎として自然体系を構成する総合科学である。したがって，自然の総合的体系の精確な理解のためにはまず最初に物理・化学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では自然科学の体系の中で地球科学の基礎となる岩石，鉱物，結晶，地質，地史などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	１．自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力を修得する。 ２．目的に応じた適切なデータ解析力を修得する。 ３．結果について考察する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・実験を履修することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．岩石（１）：火成岩 ２．岩石（２）：堆積岩 ３．岩石（３）：深成岩 ４．鉱物（１）：造岩鉱物 ５．鉱物（２）：偏光顕微鏡 ６．鉱物（３）：ケイ酸塩鉱物 ７．結晶（１）：結晶格子 ８．結晶（２）：結晶系 ９．結晶（３）：結晶光学 10．地質（１）：地形 11．地質（２）：地層 12．地質（３）：地質構造 13．地史（１）：化石 14．地史（２）：地質年代 15．地史（３）：放射年代			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60105001
科目名	バイオマス概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Biomass		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	今日の私たちの生活は、再生不可能な資源である化石資源（石油、石炭、天然ガスなど）に大きく依存しており、このことが、地球の温暖化や大気汚染、水質汚染など、様々な環境問題を引き起こしている。さらには、私たちの生活を支える基盤であるこのような資源が、近い将来に枯渇することが確実視されており、現在のような大量生産、大量消費の生活様式はやがて破綻する。また、原子力で生産する電気に頼るのも、災害の危険性や使用済み核燃料の処分の困難さなど、多くの問題を抱えている。一方、古来より人類は、樹木や草木（イネ、麦、野菜など）を、食料、原材料、エネルギー源として利用してきた。これらは、太陽エネルギーを利用して育った生物であり、持続的に再生可能な資源である。 　将来、資源の枯渇が起こることは確実であり、これに対処するためには、持続的に再生可能な資源の利用を促進することが必要になる。この講義では、人類の生存を支えてきた生物システムの全体像を、地球規模での物質循環という視点から説明し、生物由来の再生可能な資源（バイオマス）の利用のあり方や、環境問題およびエネルギー問題を考えるための基礎的な事項を修得する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	金川貴博著『ありがとう、微生物たち』リーダーズノート社、2,200 円＋消費税		
教育方法	事前に配布した資料にそって、講義方式で行う。資料では、講義内容のうちの重要な部分を空白にしてあるので、そこに語句を書き足す。		
評価方法	期末試験（70 点）、適宜行う小テスト（30 点）		
到達目標	１．人類の生存を支える生物システムの基本を理解する。 ２．再生可能な資源の確保と利用方法を学ぶ。 ３．現在の環境問題およびエネルギー問題を自らの視点で考えられるようになる。		
授業時間外学習	授業の復習をしっかりと行い重要な事項を暗記すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

バイオマスに関連するニュースを読んでおくこと

授業スケジュール

１．バイオマスを有効利用していた昔の生活と、ナウル共和国（資源枯渇の 10 年前から対策を打ち始めたが失敗した）の事例
２．自然界での食物連鎖と物質の循環。有機物の生産と消費。生物の生育に必須である水の循環。
３．地球規模でのリンの循環：リンの循環での生物の大きな役割
４．地球規模での窒素の循環（１）：窒素循環の全体像
５．地球規模での窒素の循環（２）：窒素循環の個別の解説
６．地球規模での窒素の循環（３）：過剰な窒素化合物の害と窒素化合物の処理
７．地球規模での物質循環のまとめ
８．バイオマスの枯渇と文明の滅亡
９．バイオマス利用の長所と欠点
１０．バイオマスの利用技術の概要（１）：炭化、化学的ガス化、メタン発酵
１１．バイオマスの利用技術の概要（２）：エタノール発酵の方法
１２．バイオマスの利用技術の概要（２）：バイオエタノール・バイオディーゼルの製造
１３．バイオマスの利用技術の概要（３）：堆肥化の方法
１４．バイオマスの利用技術の概要（４）：堆肥の効能。堆肥化の利点と欠点。
１５．バイオマス利用の将来性

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J60106001
科目名	環境化学演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	何が起きるとどうなるという定性的な事象は理解しやすいが、環境問題を考えるに当たっては、その事象がどの程度に環境へ影響を与えるのかを定量的に把握しなければならない。 そこで、環境に関係するさまざまな事象について、定量的に物事を把握できるようにするために、計算問題を解くことを通じて定量的に物事を考えられるように演習を行い、環境への理解を深めて、正確に事象を把握する方法を習得する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	金川貴博著『ありがとう、微生物たち』リーダーズノート社、2,200 円＋消費税		
教育方法	4-8 人で 1 班とし、相談しながら練習問題を解く。問題を解けた受講生が、まだ解けてない受講生を指導することで、他の受講生の理解を手助けするだけでなく、自分自身の練習問題への理解を深める。		
評価方法	期末試験（60 点）、適宜行う小テスト（40 点）		
到達目標	１．身の回りのさまざまな事象を定量的にとらえる力を身に付ける。 ２．身近にある危険物について、危険性を正確に把握できる。		
授業時間外学習	前回の復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
環境問題に関するニュースなどを普段から読むようにこころがけること。演習問題は同じ班の人たちで協力して解くこと。理解できてない人が他の班にいたら、その人たちの手助けもして欲しい。			
授業スケジュール			
１．計算問題の基本 ２．放射線の影響（１）：シーベルト、ベクレル ３．放射線の影響（２）：外部被曝、内部被曝 ４．濃度（密度）の把握 ５．希釈と濃度の関係 ６．溶質が複数ある溶液の濃度 ７．モルという概念の理解 ８．化学反応を定量的に理解する演習 ９．モル濃度の計算 １０．ガスに関する演習：燃焼、爆発、酸素不足 １１．ガス状の危険物：一酸化炭素中毒、混ぜたら危険なガスが出るもの １２．水環境（１）：BOD の測定 １３．水環境（２）：COD の測定 １４．水環境（３）：BOD 除去率、BOD 除去速度 １５．環境基準の定量的な把握			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J60109001
科目名	バイオマス科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomass Science		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	バイオマス資源材料学
授業概要	バイオマスの中で木質系のバイオマスつまり樹木は重要である。樹木の組織のほとんどは細胞壁である。木材の一般的な性質は細胞壁の構造や成分によるところが多い。樹木には大きく分けると針葉樹と広葉樹が存在するが、両者には外観のみならず細胞組織に大きな違いがあり、木材の性質に影響を与えている。本講義では針葉樹材、広葉樹材の比較をしながら、木材の理解に必要な生物学的・ 物理学的・化学的性質の基礎知識を習得することを目的としている。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	古野毅・澤辺攻編　　『木材科学講座 2 組織と材質』 海青社 高橋徹・中山義雄編　『木材科学講座 3 物理』　海青社 城代進・鮫島一彦編　『木材科学講座 4 化学』　海青社		
教育方法	板書を中心とした講義方式で行う。 受講者数が多い場合は、パワーポイントで板書内容を映写する。 単元の区切りで小テストを行う。 また、講義終了時に復習のための確認問題の提出を求めることがある。		
評価方法	小テスト（60%）、定期テスト（40% ）		
到達目標	木本植物の特徴を理解する。 針葉樹および広葉樹の構造の違いを理解する。 細胞壁の成分を理解する。 構造や成分がどのような特性と関係するか説明できる。		
授業時間外学習	初日の講義が始まるまでに、針葉樹材や広葉樹材がどこに利用されているかを考えて、特徴を推測しておく。 毎回講義終了時に、ノートを整理し、針葉樹の特徴と広葉樹の特徴、木材として共通の特徴を分類してまとめる。次回の講義までに不明な点を明らかにし、質問をする。 講義をまとめたレポートの提出が必要な時に、いつでも提出できるような状態にするつもりでまとめる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．内容が多岐にわたるため、あやふやな理解で次の講義を聞くと混乱する。したがって、毎週復習をしておくこと。
2．板書講義であるのは、書くことでの理解を深めることが目的なので、写真撮影は禁止する。

授業スケジュール

1.　樹木の外観構造
2.　木本植物の植物学上の分類
3.　針葉樹の細胞
4.　広葉樹の細胞
5.　その他の木化植物の細胞
6.　伸長生長と二次肥大生長　小テスト１（組織）
7.　細胞壁の構造
8.　特殊な細胞壁（あて材）
9.　糖科学の基礎（多糖と単糖）　小テスト２（壁構造・材形成）
10.　細胞壁の主要３成分１　セルロース１（分子構造・立体配座・立体配置）
11.　細胞壁の主要３成分１　セルロース２　（水素結合）
12.　細胞壁の主要３成分２　ヘミセルロース　（化学構造）
13.　細胞壁の主要３成分３　リグニン　（前駆体物質・合成過程）
14.　木材の物理特性（水分と比重）　小テスト３（細胞壁成分）
15.　木材の物理特性（力学的特性）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	J60112001
科目名	バイオマス実験	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Biomass		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	バイオマス実験Ｂ、バイオマスエネルギー実験
授業概要	卒業研究での実験が円滑に進むように、酵素実験、 木質バイオマスの分析、土壌分析の基本技術を修得すること、およびレポート作成技術やデータ解析力の醸成を目的としている。具体的には全体を四部に分けそれぞれ、一部：木材の成分分析、二部：木材の組織観察、三部：酵素活性測定、四部：土壌分析を行い、実験データの数的処理法を体得する。		
教材（教科書）	実験書（実験初日に配布）		
教材（参考資料）	古野毅・澤辺攻編　　『木材科学講座 2 組織と材質』 海青社 城代進・鮫島一彦編　『木材科学講座 4 化学』　海青社		
教育方法	実験は、3 人から 4 人程度の班で行う。 授業の冒頭で前回の実験レポートに対するコメントを述べたのちに、当日行う実験の注意事項を説明する。 実験終了後は指定された日時までにレポートを提出する。		
評価方法	レポート（100%） 形式が整っているか、実験結果が書かれているか、データの解析が正しくできているか、考察が書かれているかといった点を採点する。		
到達目標	木材の成分とその分析法を説明することができる。 酵素反応実験を通して、実験操作を習得する。酵素の特徴を説明することができる。 簡単な土壌分析ができる。 実験の方法を順序立てて説明することができる。 得られた実験結果を適切に処理し、得られた内容を考察することができる。		
授業時間外学習	必ず実験の予習をする。実験書に書かれた実験手順を簡便にわかりやすく実験ノート（ルーズリーフは不可）に簡単にまとめる。 実験終了後は、ノートに記載された実験データの整理をしながら理論の復習をし、レポートを作成する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 受講が望ましい関連科目：バイオマス科学
2. 実験用のノートを用意する。実験中は動きやすい服装をし、白衣を着用する。
3. 実験は協働で行うので他人任せにせずに、必ず自分の仕事を分担して行う。
4. レポートでは実験データをしっかりと解析した上でレポートを作成する。「提出さえすればいい」わけでなく、内容が重要であることを理解する。
5. バイオマス科学を履修していない場合は、参考資料で事前に予習をしておくと実験内容が理解しやすい。

授業スケジュール

1.　ガイダンス　注意事項
2.　酵素反応実験１　標準溶液の調製
3.　酵素反応実験２　至適条件測定１
4.　酵素反応実験３　至適条件測定２
5.　一般木材分析１　含水量、灰分量の測定
6.　一般木材分析２　有機溶媒抽出物の定量
7.　一般木材分析３　リグニンの定量
8.　一般木材分析４　ヘミセルロースの定量
9.　一般木材分析５　セルロースの定量
10. 土壌分析１　土壌の物理的性質１　土壌採取方法
11. 土壌分析２　土壌の物理的性質２　土壌三相の測定
12. 土壌分析３　土壌の腐植の定量
13. 土壌分析４　土壌微生物の測定
14. 木材組織の観察１　針葉樹

15. 木材組織の観察 2　広葉樹

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60113001
科目名	環境アセスメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Assessment		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	日本における環境問題の変遷の大きな流れを学び、環境アセスメントの制度が成立してきた経緯を理解する。環境アセスメントを実施する際、地域の概況を的確に理解することは、その後の環境影響評価を行う上で重要なステップであり、本講義では自然地理学の観点から、地域の概況に関する地圏、気圏、水圏、生物圏などの自然のつかみ方を学ぶ。また、実際のフィールドワークに参加することで、具体的な問題を現場で感じ取ることとする。これらの事項を学んだあとグループに分かれて、環境アセスメントのなかで自然地理学がどのように関連づくか、グループディスカッションとパワポによる発表を行う。		
教材（教科書）	教科書は使用せず、プリントを配布する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教室内では主にパワーポイントや関連したビデオの上映などで学習し、野外でのフィールドワークでは現場で課題に気づくことに配慮する		
評価方法	講義中に確認テストを実施する。確認テストに際しては、自分のノートのみ参照することができる。配布したプリントなどは参照できない。		
到達目標	環境アセスメントの基本概念と地域の概況調査に必要となる地圏、気圏、水圏、生物圏の基礎について理解できる		
授業時間外学習	環境アセスメントはダムや道路などの公共事業のあり方と密接に関連づいているので、政治や経済の動向にも関心を寄せること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義以外の時間にフィールドワークやビデオ学習、PDF 学習などがあるので積極的に参加すること			
授業スケジュール			
1.講義の概要　環境アセスメントとは 2 明治以降の環境問題の変遷 3.環境アセスメントの制度の概要 4.環境アセスメントの手法と課題 5 地域の地圏の把握 6.地域の気圏の把握 7.地域の水圏の把握 8.地域の生物圏の把握 9 地域の生活環境、社会環境の把握 10 グループディスカッション 11 グループディスカッション発表 1 12 グループディスカッション発表 2 13 フィールドワーク 1 14 フィールドワーク 2 15 全体フィードバック			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J60114001
科目名	環境アセスメント演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Environmental Assess ment		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	本講義では、地理情報システム(GIS:Geographical Information System)の理論と実際の使い方を学ぶ。GIS は環境アセスメントの実践の中でも広く使われてきているが、防災、教育、マーケティングなど、その他の分野でも幅広く利活用が進んでいる汎用的な意思決定のためのツールである。最初に GIS の理論を講義形式で学び、以降は、GIS のソフトウェアを３F のパソコンルームで実際に起動させることによって、基礎から応用まで体感的に理解し、自由に操作できるレベルを目指す。その際、日本国土の生活、社会、自然などに関する空間データの利用方法、表現の仕方についても習得する。GIS はクラウド環境に移行しつつあるので、ArcGIS online やスマートフォンでの活用、ストーリーマップの作成を学び、カシミール３D による地形表現に関しても学ぶ。		
教材（教科書）	教科書は使用せず、演習用のプリントを配布する		
教材（参考資料）	ARCGIS　Desktop 逆引きガイド　ＥＳＲＩジャパン株式会社　著 ARCGIS10　PART1　身近な事例で学ぼう　古今書院		
教育方法	主に PC ルームにて実際のパソコンにインストールされている GIS ソフトを使用し、さらにクラウド GIS へと発展させる。その際、スマートフォンなどの携帯端末も使用する		
評価方法	講義中に複数回、レポートの提出を実施する。レポートの合計点（80 点）と平常点（20 点）の総合的な評価とする		
到達目標	環境アセスメントにおける各種の調査において、GIS（地理情報システム）など空間情報の解析ツールや携帯端末の操作方法がわかる		
授業時間外学習	学内のサーバーである R ドライブや U ドライブ、あるいは dropbox などのクラウドサービスなど、コンピュータの基礎的な事項を十分に理解しておくこと。レポートはそれまでの講義内容の理解度を確認するものであり、理解が不十分な箇所に関して、翌週フィードバックにより復習を行うこととする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業は 3 階の PC ルームにて実施するので PC 操作に慣れておくこと。			
授業スケジュール			
1.GIS の概念と活用事例（講義） 2.GIS ソフト ArcGIS の使用方法 1（実習） 3.GIS ソフト ArcGIS の使用方法 2（実習） 4.GIS ソフト ArcGIS の使用方法 3（実習） 5.ArcGIS online の使用方法 1（実習） 6.ArcGIS online の使用方法 2（実習） 7.ArcGIS online の使用方法 3（実習） 8.カシミール 3D と地形図・空中写真の操作方法 1（実習） 9.カシミール 3D と地形図・空中写真の操作方法 2（実習） 10.カシミール 3D と地形図・空中写真の操作方法 3（実習） 11.ストーリーマップの作成 1（実習） 12.ストーリーマップの作成 2（実習） 13.ストーリーマップの作成 3（実習） 14.スマートフォンによる野外調査 1（実習） 15. スマートフォンによる野外調査 2（実習）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★	★	–	★★

年度	2018	授業コード	J60115001
科目名	環境リスクマネジメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Risk Management		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
授業概要	環境と人間活動との相互作用により生じる様々な負の影響（リスク）を管理（マネジメント）するための分類・評価手法について講義する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	化学物質評価研究機構著　「化学物質のリスク評価がわかる本」　丸善出版 吉田喜久雄，中西準子著　「環境リスク解析入門」　東京図書 浦野紘平，松田裕之共編　「生態環境リスクマネジメントの基礎」　オーム社 松田裕之著　「生態リスク学入門：予防的順応的管理」　共立出版		
教育方法	パワーポイントを活用した講義法で行う。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	リスクを 0（ゼロ）にすることは難しいことを理解し、リスク管理の客観的、論理的説得力の重要性を理解する。		
授業時間外学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

リスクに対する当事者意識を持ち、講義に臨んでほしい。

授業スケジュール

1） ガイダンス　環境リスクマネジメントの意義
2） 環境リスク評価の基本的考え方
3） 環境リスクの評価方法：閾値がある場合 1
4） 環境リスクの評価方法：閾値がある場合 2
5） 環境リスクの評価方法：閾値がない場合
6） リスクのトレードオフ：水道水の塩素消毒による感染症防止
7） リスクのトレードオフ：水道水の塩素消毒による発ガン性物質の生成
8） 水銀のリスク評価
9） 生態リスクの評価方法 1
１０） 生態リスクの評価方法 2
１１） 外来生物のリスク評価
１２） 生物多様性の喪失と絶滅危惧種
１３） 野生動物の保護と獣害
１４） リスク管理と生物多様性
１５） リスクコミュニケーション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J60117001
科目名	環境マネジメント演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	蔡　佩宜	旧科目名称	環境マネジメント演習
授業概要	現代の様々な環境問題を考え、環境マネジメントシステムを現実的に理解する。本講義では、環境経済学の知見を活用しながら、持続可能な環境マネジメントシステムを構築するために必要な基礎知識や概念、手法について学びます。また、企業・行政が行っている環境マネジメントの実際についても理解を深めます。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	環境省、環境報告ガイドライン（2012 年版）、2012 植田和弘・岡敏弘・新澤秀則 編著「環境政策の経済学」（日本評論社、1997）		
教育方法	講義および必要に応じて演習を加えます。毎回の授業でプリントを配付します。		
評価方法	授業内課題（100%）に応じて評価します。課題は各回の授業でみなさんに書いてもらうコメントシートの内容に基いて評価します。		
到達目標	環境マネジメントの基本的知識を習得し、環境問題を多面的に考える力をつけます。		
授業時間外学習	毎回の授業で配付するプリントの内容を、次回の授業を受ける前に復習すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

エネルギーや地球温暖化など、私たちの暮らしは様々な環境問題に直面しています。受講者の皆さんには、ぜひ自分の将来に関わる問題の一つとして環境問題を考えてほしいと思います。日頃から、インターネットや新聞、または環境本を活用して、自分の興味のある環境問題をフォローしておくようにして下さい。

授業スケジュール

講義の計画は以下の通りです。

1. オリエンテーション：環境マネジメントとは何か
2. 現代の環境問題考察（1）
3. 現代の環境問題考察（2）
4. 環境問題発生のメカニズム
5. 環境政策の理論
6. 政策手段の選択
7. 環境の価値評価（1）
8. 環境の価値評価（2）
9. 持続可能な発展（1）
10. 持続可能な発展（2）
11. 環境アセスメント
12. 企業の環境マネジメント
13. 企業の環境的責任
14. 地域住民による環境マネジメント
15. 授業のまとめ

なお、みなさんの問題関心や授業の進捗状況に応じて、講義の順番・内容を変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J60118001
科目名	化学生態学	単位数	2
科目名（英語表記）	Chemical Ecology		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	本講義では、「生物間で取り交わされる情報化学物質を読み解いて生き物の生き様を解き明かす生物学」という見地にたって、生物間相互作用について学ぶ。すべての生物は他の生物との相互作用の中で生活している。ヒトもその例外ではない。相互作用の基本は、食う－食われるという栄養関係にあるが、本講義の中心は、たとえば食物探索に利用される匂いや味といった情報を運ぶ化学物質とその役割について学ぶことにある。すなわち、同種、異種の生物間でやりとりされる生物情報について、情報化学物質とその機能を中心に知識と理解を深める。		
教材（教科書）	講義に必要な教材は、１回前の授業終了時に配布する。		
教材（参考資料）	ハルボーン化学生態文永堂 化学生態学への招待三共出版		
教育方法	あらかじめ配布した資料を読み込んでいることを前提に、パワーポイントを利用して講義する。		
評価方法	期間中および期末のレポート(小論文、4〜5 回)で評価する。 本科目では知識の多寡だけを問わない。知見の整理と情報発信力を中心に小論文形式のレポートで評価し、試験は実施しない。したがって、レポート提出が１回でも滞ると単位認定が危うくなること、認定されてもごく低い評価点にとどまることに留意すること。		
到達目標	自然界における化学物質による生物間の相互作用についての関心を高め、理解を深める。		
授業時間外学習	生物学と有機化学の境界領域である。授業内容の理解に有機化学の知識が不可欠というわけではない。化学の専門知識がなくても、十分楽しめる内容であるが、より深い理解には、有機化学の基本的知識が必要になるであろう。受講中に興味がわき化学的知識の不足を感じることがあれば、化学を学びなおすきっかけにすれば良いではないか。事前に配布した資料をよく読み込んで、興味や質問を整理しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

対象となる生物や現象が非常に多様である。多くの知識を得ることも大切であるが、それ以上に、それぞれの生き物が多様で巧みな生き方をしていることを、だれか他の人にも面白く楽しく語って伝えてほしい。
生物有機化学研究室分属希望の学生は、必ず受講すること。

授業スケジュール

1. 化学生態学とは
2. 昆虫と寄主植物摂食刺激物質－カイコはなぜクワしか食べないか?－
3. 昆虫と寄主植物植物の有毒物質－カイコはなぜクワを食べられるのか？－
4. アレロパシー植物間の化学的交渉
5. 動物による送粉－ 動物と植物の共進化
6. フェロモン－ 化学物質で交わす言葉
7. 昆虫のフェロモン－ 配偶者探索におけるフェロモンの役割
8. 合成性フェロモンの農作物害虫防除への利用
9. 性フェロモンの化学的解明－ 超微量分析化学
10. 社会性昆虫の化学交信－ アリは化学物質で周りを「見て」いる！
11. 社会性昆虫の化学交信－ ミツバチの不思議
12. 天敵の寄主探索－ 寄主の化学交信に付け込む天敵たち
13. 化学擬態－見た目にもそっくり、見えなくものまでそっくり
14. 昆虫が誘導する植物の病原菌抵抗性 －ウンカに吸汁されるといもち病に強くなる？
15. 脊椎動物のフェロモン － 哺乳類の複雑さ

10〜14 は順序の入れ替えや一部最新情報の紹介に変更する場合があります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60119001
科目名	応用微生物学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Microbiology B		
担当者名	櫻間　晴子	旧科目名称	
授業概要	エネルギー資源の乏しい日本において、「ものづくり」は全産業の中でも最も国際競争力のある分野である。その中でも、微生物機能を活用する「ものづくり」は、先人達による実学分野での数多くの輝かしい独創的な研究成果から生まれた技術であり、世界からも評価されている。 本講義では、こうした微生物機能を産業に活用した技術を取り扱う「産業微生物学」を題材にする。代表的な「微生物を活用したものづくり（食品、医薬品、化成品）」について、時代的背景や開発の歴史、ならびにその特徴を説明する。さらに、今後注目されるであろう環境問題などの新分野についての現状を説明する。その学びを通じて、微生物を活用したものづくりについての理解を深めるとともに、その価値を認識することが目的である。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	1）　応用微生物学　第２版（2008）　清水昌、堀之内末治　編　文永堂出版 2）　遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦　他　編　朝倉書店 3）　ブラック（J. G. Black）微生物学　第２版　林ら監訳　丸善株式会社		
教育方法	パワーポイントとプリントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	以下の項目に基づいて評価する。 ・期末試験（50%） ・授業内レポート（50%）		
到達目標	1）微生物利用による工業的生産方法の特徴・利点について説明することができる。 2）講義で取り扱った事例について、産業として成立した時代的背景、社会的要請、技術の優秀性などの観点から説明することができる。 3）　講義で取り扱っていない事例に対しても、産業として成立する背景、社会的要請、技術の優秀性などの観点から、その技術の利点を分析することができる。		
授業時間外学習	受講前に、「微生物学Ⅰ」を復習すること。 各講義後は、プリントに基づいて講義の内容を要約できるようにしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1）「微生物学Ⅰ」を履修していることを推奨する。 2）微生物産業についての理解を深めるため、「応用微生物学Ａ」とあわせて受講することを推奨する。 3）受講生の学習環境を阻害するような態度（私語や食事等）は禁止する。 4）トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい（体調が悪い場合は申し出ること）。			
授業スケジュール			
授業計画 第１回：…身近なバイオとものづくり 第２回：…生命の仕組みの本質的理解とその応用 第３回：…アルコール発酵 第４回：…有機酸発酵 第５回：…アミノ酸発酵（１）：生合成経路とアミノ酸の製造法 第６回：…アミノ酸発酵（２）：アミノ酸の発酵法 第７回：…核酸関連物質（１）：核酸の呈味性と生合成経路 第８回：…核酸関連物質（２）：核酸の発酵法 第９回：…抗生物質の開発の歴史 第 10 回：…抗生物質の種類、作用機構、ならびに問題点（耐性化） 第 11 回：…抗生物質の構造、探索、物質生産 第 12 回：…微生物を利用した環境浄化 第 13 回：…酵素の発見と分類			

第 14 回：…酵素産業 第 15 回：…世の中に役立つ微生物 定期試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J6012100A
科目名	専門外書講読Ａ -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English A		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	科学英語で学修した基礎的な英語力を運用し、バイオサイエンス分野の英文やテキストを精読する。 これによって科学英語に慣れ、科学英語に対する読解力をつけるとともに、テキストに記載されている内容を理解し、将来さらに高度な専門書や論文を講読するために必要な科学的基礎知識や専門用語、科学論文の表現法を身につける。		
教材（教科書）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	・新バイオテクノロジーテキストシリーズ「バイオ英語入門」（NPO 法人日本バイオ技術教育学会／監、池北雅彦，田口速男／著 2013） ・ライフサイエンス必須英和・和英辞典 改訂第 3 版（ライフサイエンス辞書プロジェクト 羊土社 2010） ・ライフサイエンス文例で身につける英単語・熟語（河本健，大武博／著　ライフサイエンス辞書プロジェクト／監　Dan Savage／英文校閲・ナレーター　羊土社　2009） ・“General, Organic, and Biochemistry" , Eighth Edition, K.J. Denniston, J.J. Topping and R.L. Caret (McGraw-Hill)		
教育方法	事前に渡した専門的な英文を黒板に書いてもらいその訳を書いてもらう。それについて黒板やパワーポイントで開設する。		
評価方法	中間試験(30%)、期末試験(40%)、毎回の理解度テスト(20%)、受講態度や提出物や発表への取り組み方(10%)		
到達目標	科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるように、基礎学力をつける。最終的に原著論文を通読できる英語理解力を身につける。		
授業時間外学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・前回授業内容に関する復習小テストを行うので、復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

必ず予習をしてくること。 使用する教科書は英語を学ぶために書かれた書ではなく、内容を理解させるために書かれた書である。従って英文読解ばかりでなく記述内容を理解することにも、相当の力を割くことが肝要である。学業は自ら学ぶ意思を持ち、それを実行しなければ身につかない。従って自学自習の意思を持って受講すること。

授業スケジュール

1. ガイダンス（受講の心構えと勉強法）
2. 単位、物質に関する表現
3. 実験器具、実験方法に関する表現
4. 生化学における英語表現①
5. 生化学における英語表現②
6. 微生物学における英語表現①
7. 微生物学における英語表現②
8. 中間試験
9. 植物化学における英語表現①
10. 植物化学における英語表現②
11. 有機・食品化学における英語表現①
12. 有機・食品化学における英語表現②
13. "General, Organic, and Biochemistry"の英文読解①
14. "General, Organic, and Biochemistry"の英文読解②
15. "General, Organic, and Biochemistry"の英文読解③

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J6012100B
科目名	専門外書講読Ａ -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English A		
担当者名	小槻　日吉三	旧科目名称	
授業概要	一般化学、有機化学及び生化学の基礎を解説した専門外書（英文）を精読する。外書を講読することによって科学英語に慣れ、科学英語に対する読解力をつけること、及び当該外書に記載されている内容を理解し、将来さらに高度な専門書や論文を講読するために必要な科学的基礎知識を系統的に養うことである。このために秋学期の専門外書講読Ｂと同じ教科書を使い、両講義の連続性を保ち、科学の基礎に対する系統的な理解と知識の蓄積を図る。		
教材（教科書）	“General, Organic, and Biochemistry" , Ninth Edition, K.J. Denniston, J.J. Topping, D.R. Quirk Dorr, and R.L. Caret （McGraw-Hill）		
教材（参考資料）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典　改訂第３版（羊土社） 英和辞書		
教育方法	テキストを全員で輪読しながら、必要な場合には適宜プリントによる解説を加え、講義法で行う。		
評価方法	期末試験(50%)、毎回の理解度小テスト(30%)、受講態度や発表への取り組み方(20%)		
到達目標	科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるように、基礎学力を身につける。最終的には、原著論文を通読できるだけの英語理解力を身につける。		
授業時間外学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・毎回、授業開始時に授業内容に関係する小テストを行う。予習・復習を欠かさないこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

必ず予習をしてくること。 使用する教科書は英語を学ぶために書かれた書ではなく、内容を理解させるために書かれた書である。従って英文読解ばかりでなく記述内容を理解することにも、相当の力を割くことが肝要である。学業は自ら学ぶ意思を持ち、それを実行しなければ身につかない。自学自習の意思を強く持って受講すること。

授業スケジュール

1. ガイダンス（授業の進め方、および受講の心構えと勉強法）
2. Protein Building Blocks: The α-Amino Acids
3. The Peptide Bond
4. The Primary Structure of Proteins
5. The Secondary Structure of Proteins
6. The Tertiary Structure of Proteins
7. The Quaternary Structure of Proteins
8. An Overview of Protein Structure and Function
9. Myoglobin and Hemoglobin
10. Proteins in the Blood
11. Denaturation of Proteins
12. Dietary Protein and Protein Digestion
13. Medical Perspective: Collagen, Cosmetic Procedures, and Clinical Applications
14. Medical Perspective: Immunoglobulins: Proteins That Defend the Body
15. Nature Topics

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J6012100C
科目名	専門外書講読Ａ -s3	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English A		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	科学論文で汎用される専門用語を習得し，科学論文の内容を理解するための英文読解力を高める。バイオ産業を支える専門性に優れたバイオ技術者として，英文で書かれた専門書の方法を理解して，実験ができるようになることを目標とする。		
教材（教科書）	新バイオテクノロジーテキストシリーズ 「バイオ英語入門」（講談社） ＮＰＯ法人日本バイオ技術教育学会監修　北池雅彦・田口速男著		
教材（参考資料）	ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）英和辞典		
教育方法	パワーポイントを活用しながら講義法で行う。		
評価方法	以下の基準で評価する。 中間テスト（４０％） 期末テスト（４０％） 毎回の単語テストや小テスト（２０％）		
到達目標	英語で表記されている実験方法を理解でき，実験を遂行するための英文読解力が身に着く。		
授業時間外学習	授業範囲の英文をノートに書き写しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
英語が解らない・できないという気持ちを捨てて，やってみるという気持ちで受講してください。必ず予習を行い，分からない単語は事前に辞書等で意味を調べておくこと。			
授業スケジュール			
１）試薬の調製方法ー１ ２）試薬の調製方法ー２ ３）試薬の調製方法ー３ ４）微生物学分野の実験方法ー１ ５）微生物学分野の実験方法ー２ ６）微生物学分野の実験方法ー３ ７）生化学分野の実験方法ー１ ８）生化学分野の実験方法ー２ ９）生化学分野の実験方法ー３ １０）細胞工学の実験方法ー１ １１）細胞工学の実験方法ー２ １２）細胞工学の実験方法ー３ １３）遺伝子工学の実験方法ー１ １４）遺伝子工学の実験方法ー２ １５）遺伝子工学の実験方法ー３			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J6012100D
科目名	専門外書講読Ａ -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English A		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
授業概要	科学に基づいて書かれた食品や環境の話題に関連するコラムを精読する。これらのコラムを読むことによって、科学論文で汎用される専門用語を学習し、高度な英文読解力を身に付ける。		
教材（教科書）	プリント配布		
教材（参考資料）	『General, Organic, and Biochemistry』 （Eighth Edition,　McGraw-Hill International） ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）、英和辞書		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	中間テスト（45%） 定期試験（45%） 訳文の提出など（10%）		
到達目標	1.　科学分野の洋雑誌・洋書の適切な和訳ができ、内容の理解ができる。 2.　農学系大学院の入試レベルで求められる英文読解力が身に付く。		
授業時間外学習	1.　予習として、テキストの英文とその訳文を並列して、Word 文書で書いておく。 2.　予習で間違った箇所は、授業時間に修正して、終了時にレポートとして提出する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.　講義の予習は必ず行うこと。
2.　 講義の際に英和辞典を持参すること。
3.　大学院進学を考えている人は、必ず履修すること。

授業スケジュール

1.　　ガイダンス（講義の進め方、勉強の方法など）
2.　　The Scientific Method
3-4.　Food Calories
5.　　Detergents
6-7.　Fermentations: The Good, the Bad, and the Ugly
8.　　中間テストと解説
9.　　Solubility, Surfactants, and the Dishwasher
10-11.　Amazing Chocolate
12.　　The Magic of Garlic
13.　　Browning Reactions and Flavor: The Maillard Reaction
14-15.　The Chemistry of Caramels

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J60121A0A
科目名	専門演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading A		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためには、まず最初に英語の文章構造の理解と 文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体 例をもとに考察する。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円 その他　英和・和英・英英辞典等の英語辞書		
教育方法	各回に用意された課題を解くことによる演習形式で行う。		
評価方法	演習課題（100％）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。 記述された内容に関する問題解決能力を向上させる。		
授業時間外学習	講義後に、課題の訳と課題の解法をレポートとして提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
授業スケジュール			
1．What are the ages? 2．Prove that! 3．Where do you live? 4．Find the positive value! 5．What is the relationship? 6．What is the minimum number? 7．Which lockers? 8．Into how many regions? 9．Can you deduce? 10．Is it possible to tile? 11．What is the speed? 12．When was sunrise? 13．How many steps? 14．What is the length? 15．What is the winning strategy? 注）進行状況等により適宜変更することがある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60121A1A
科目名	専門演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading A		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためには、まず最初に英語の文章構造の理解と 文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体 例をもとに考察する。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円 その他　英和・和英・英英辞典等の英語辞書		
教育方法	各回に用意された課題を解くことによる演習形式で行う。		
評価方法	演習課題（100%）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。 記述された内容に関する問題解決能力を向上させる。		
授業時間外学習	講義後に、課題の訳と課題の解法をレポートとして提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

授業スケジュール

1．What are the ages?
2．Prove that!
3．Where do you live?
4．Find the positive value!
5．What is the relationship?
6．What is the minimum number?
7．Which lockers?
8．Into how many regions?
9．Can you deduce?
10．Is it possible to tile?
11．What is the speed?
12．When was sunrise?
13．How many steps?
14．What is the length?
15．What is the winning strategy?

注）進行状況等により適宜変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60121B0B
科目名	専門演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading B		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円		
教育方法	各回に用意された課題を解くことによる演習形式で行う。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。 記述された内容に関する問題解決能力を向上させる。		
授業時間外学習	参考文献『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』を熟読しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
授業スケジュール			
1．How many people? 2．How do you do it? 3．What is the smallest possible value? 4．What happened? 5．Can they do it? 6．How many faces? 7．Prove this by induction! 8．What is the largest integer n? 9．Complete the proof! 10．What can you say? 11．Can you do it with a picture? 12．Solve it in a few seconds! 13．What is the length? 14．Determine the minimum perimeter! 15．How high above the floor?			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J60121B1B
科目名	専門演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Scientific Reading B		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『科学英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	萩野　敏　他　著『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法　』改訂版　文英堂　１，６８０円		
教育方法	各回に用意された課題を解くことによる演習形式で行う。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本的文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。 記述された内容に関する問題解決能力を向上させる。		
授業時間外学習	参考文献『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』を熟読しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
授業スケジュール			
1．How many people? 2．How do you do it? 3．What is the smallest possible value? 4．What happened? 5．Can they do it? 6．How many faces? 7．Prove this by induction! 8．What is the largest integer n? 9．Complete the proof! 10．What can you say? 11．Can you do it with a picture? 12．Solve it in a few seconds! 13．What is the length? 14．Determine the minimum perimeter! 15．How high above the floor?			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J6012200A
科目名	専門外書講読Ｂ -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English B		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
授業概要	・春学期の専門外書講読 A に続く科目である。 ・一般化学、有機化学及び生化学の基礎を解説した専門外書（英文）を精読する。外書を講読することによって科学英語に慣れ、科学英語に対する読解力をつけること、及び当該外書に記載されている内容を理解し、将来さらに高度な専門書や論文を講読するために必要な科学的基礎知識を系統的に養う。このため、春学期の専門外書講読 A と同じ教科書を使い、科学の基礎に対する系統的な理解と知識の蓄積を図る。		
教材（教科書）	“General, Organic, and Biochemistry" , Eighth Edition, K.J. Denniston, J.J. Topping and R.L. Caret (McGraw-Hill) なお、講義に使用する部分を別途配布する。		
教材（参考資料）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典　改訂第 3 版（羊土社） 適宜プリントを配布する。		
教育方法	基本的教科書に従って講義法により行う。 講義では、各講義でのポイントについて説明を行い、目標を明確にして授業を進める。英語の読み合わせ、日本語訳をするとともに、内容について理解を求める。		
評価方法	・中間レポート(30%)、期末レポート(50%)、宿題(20%)		
到達目標	科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるよう基礎学力をつける。最終的に原著論文を通読できる英語理解力を身につける。		
授業時間外学習	・英文読解で終わるのではなく記述内容を理解し、自身の知識としていくために相当の力を割く必要がある。忍耐力を持ってあきらめずに理解するところまでを完遂し、自学自習の意思を持って受講する。 ・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・和訳するだけではなく周辺の知識について学んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・必ず予習をしてくること。
・最終的には、学術論文を読解する能力だけでなく、実際に書く能力も身につけられるように努力し、忍耐力を持ってあきらめずに理解できるまで自学自習の意思を持って受講する。
・受講生の学習環境を阻害するような私語は禁止する。

授業スケジュール

1. ガイダンス（受講の心構えと勉強法）
2. The Structure of the Nucleotide
3. The Structure of DNA and RNA
4. DNA Replication
5. Information Flow in Biological Systems
6. The Genetic Code
7. Protein Synthesis
8. 中間試験
9. Mutation, Ultraviolet Light, and DNA Repair
10. Recombinant DNA
11. Polymerase Chain Reaction
12. The Human Genome Project
13. Medical Perspective: Molecular Genetics and Detection of Human Genetic Disorders
14. Medical Perspective: Carcinogens
15. Nature Topics

なお、進捗度によって前後することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012200B
科目名	専門外書講読Ｂ -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English B		
担当者名	小槻　日吉三	旧科目名称	
授業概要	春学期の専門外書講読 A に続く科目である。一般化学、有機化学及び生化学の基礎を解説した専門外書（英文）を精読する。外書を講読することによって科学英語に慣れ、科学英語に対する読解力をつけること、及び当該外書に記載されている内容を理解し、将来さらに高度な専門書や論文を講読するために必要な科学的基礎知識を系統的に養うことである。このために春学期の専門外書講読 A と同じ教科書を使い、両講義の連続性を保ち、科学の基礎に対する系統的な理解と知識の蓄積を図る。		
教材（教科書）	“General, Organic, and Biochemistry" , Ninth Edition, K.J. Denniston, J.J. Topping, D.R. Quirk Dorr, and R.L. Caret （McGraw-Hill）		
教材（参考資料）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典　改訂第 3 版（羊土社） 英和辞書		
教育方法	テキストを全員で輪読しながら、必要な場合には適宜プリントによる解説を加え、講義法で行う。		
評価方法	期末試験(30%)、毎回の理解度小テスト(20%)、課題レポート(30%)、受講態度や発表への取り組み方(20%)		
到達目標	科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるように、基礎学力を身につける。最終的には、原著論文を通読できるだけの英語理解力を身につける。		
授業時間外学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず日本語に訳してくること。 ・毎回、授業開始時に授業内容に関係する小テストを行う。予習・復習を欠かさないこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

必ず予習をしてくること。 使用する教科書は英語を学ぶために書かれた書ではなく、内容を理解させるために書かれた書である。従って英文読解ばかりでなく記述内容を理解することにも、相当の力を割くことが肝要である。学業は自ら学ぶ意思を持ち、それを実行しなければ身につかない。自学自習の意思を強く持って受講すること。

授業スケジュール

1. ガイダンス（授業の進め方、および受講の心構えと勉強法）
2. The Structure of the Nucleotide―その 1
3. The Structure of the Nucleotide―その 2
4. The Structure of DNA and RNA
5. DNA Replication
6. Information Flow in Biological Systems
7. The Genetic Code
8. Protein Synthesis
9. Mutation, Ultraviolet Light, and DNA Repair
10. Recombinant DNA
11. Polymerase Chain Reaction
12. The Human Genome Project
13. Medical Perspective: Molecular Genetics and Detection of Human Genetic Disorders
14. Medical Perspective: Carcinogens
15. Nature Topics

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J6012200C
科目名	専門外書講読Ｂ -s3	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English B		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
授業概要	科学英語 I～IVを総括する科目として、有機化学と生化学の基礎を解説した専門外書を講読する。科学論文独特の用語や英語表現、関連する文法について学習する。		
教材（教科書）	General, organic and biochemistry （McGraw-Hill） Denniston, Topping, Caret 共著		
教材（参考資料）	英和辞書		
教育方法	生化学分野の英文を和訳しながら、科学英語独特の表現や用語を習得する。一人２～３文の短文を割り当てて和訳させ、予習が十分にできていればポイントを与える。前回授業の内容が理解できているかを確認する目的で、授業のはじまりに単語と日本語訳の小テストを毎回行う。		
評価方法	中間試験（３０％）、定期試験（３０％）、理解度テスト（３０％）、出席状況・受講態度（１０％）		
到達目標	卒業研究で必要となる科学論文の読解力をつける。		
授業時間外学習	予習は必ず行うこととする。初めて学習する英単語については辞書で意味や発音を調べ、講義までに英文を訳せるようにしておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業後には復習を行い英文読解の基礎力を確実に身につける。 併せて授業内容と合致する単元を、他の講義で使用した教科書等を参考にして内容をより深く理解する。			
授業スケジュール			
1. 講義の進め方を説明する。"23 章 Fatty acid metabolism"のイントロダクションを読む。 2. Lipid metabolism in animals 1 3. Lipid metabolism in animals 2 4. Fatty acid degradation 1 5. Fatty acid degradation 2 6. Ketone bodies 1 7. Ketone bodies 2 8. 中間試験 9. Fatty acid synthesis 1 10. Fatty acid synthesis 2 11. The regulation of lipid and carbohydrate metabolism 1 12. The regulation of lipid and carbohydrate metabolism 2 13. The effects of insulin and glucagon on cellular metabolism 1 14. The effects of insulin and glucagon on cellular metabolism 2 15. Chapter of summary			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★

年度	2018	授業コード	J6012200D
科目名	専門外書講読Ｂ -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English B		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	「総合英語」「科学英語」で学習した基礎的な英語力を運用し、たくさんの英文を読んで英語のまま内容を理解するトレーニングを積み重ねると共に、その「理解力」を向上させるための精読を行う。		
教材（教科書）	プリントを配布する。		
教材（参考資料）	・Proof: The Science of Booze, Adam Rogers ・Penguin Readers（図書館本館所蔵） ・Oxford Reading Tree（図書館本館所蔵）		
教育方法	英文の多読と精読を組み合わせ、 1）各人の英語力に応じた平易な文章を多読することで、辞書を使わずに英語だけで内容を「読み取る」トレーニングを行う 2）定期的な精読の授業において、難しい文章を「読み解く」練習を行う。		
評価方法	精読授業における英文和訳（50%） 期末試験（50%）		
到達目標	英語に対する苦手意識を払拭する。		
授業時間外学習	多読授業においては、授業以外の時間にも本を読む。 精読授業においては、事前に配布されたプリントの英文和訳をしてくる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
多読本を 1 週間に一冊読み終えることを要求する。			
授業スケジュール			
1)　Placement test（1） 2)　Extensive reading（1） 3)　Extensive reading（2） 4)　Extensive reading（3） 5)　Proof: The Science of Booze (1) 6)　Extensive reading（4） 7)　Extensive reading（5） 8)　Extensive reading（6） 9)　Proof: The Science of Booze (2) 10)　Extensive reading（7） 11)　Extensive reading（8） 12)　Extensive reading（9） 13)　Proof: The Science of Booze (3) 14)　Extensive reading（10） 15)　Placement test （2）for self assessment			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	★★	−	−	★

年度	2018	授業コード	J6012300A
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	研究遂行に資する分析技術（原理、用途、操作法など）の紹介や解析技術の習得、自身のテーマに付随した文献情報の紹介を行う。また実験の進捗状況を発表する。また関係する文献の輪読を行う		
教材（教科書）	教員からの配布資料、および各自が用意する資料。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	生物有機化学に関する英語原著論文の輪読、ならびに機器分析データの解析を行う。演習には、教員のほか大学院生も加わる。		
評価方法	演習への出席、受講態度を含め、卒業研究論文及び口頭発表で評価する。		
到達目標	各自が発表することによって、内容の理解が深くなり、実験の進捗報告と相まって、問題点の整理が深まることを期待している。各自の発表と相互の討論を重視する。		
授業時間外学習	各自が資料を読み込み、聞き手が発表内容を理解しやすいように工夫する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
積極的に質問やコメントを行うこと。			
授業スケジュール			
春学期（第１回～第１５回） 共通する化学情報や文献情報を共有するために、各自のテーマに関連した文献の輪読、調査内容の発表を行う。 秋学期（第１６回～第３０回） 生物有機化学研究室の基本スキルである有機機器分析に関するデータ解析、テーマに関連した項目の調査および内容発表を持ち回りで順次行う。また、各自が卒業研究の進捗状況の発表を２回程度行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012300B
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	生体の内外環境変化に応じて遺伝子とその産物である mRNA やタンパク質の発現調節とその制御機構を (1) 細胞内小器官の構造レベル (2) 細胞の分化の時空間的レベル・組織特異的なレベル (3) 情報伝達の経路レベル (4) シグナル伝達に関わる分子レベル (5) その他，関連の生体高分子の複合体構成分子レベルについて， 基本的な専門技法の習熟，専門知識の習得と理解を各自のレベルに応じて，専門課題に取り組む． 研究テーマの理解，課題の設定，計画の立案，実行，成果の整理，課題を解決する能力を身につける． それらとともに、ゼミ参加学生間のコミュニケーションと連帯的な作業環境の構築を築き，社会性を身につける．		
教材（教科書）	最新の学術雑誌の発表論文や総説を題材として扱う． 春学期は専門分野の概要を把握できる題材を， 秋学期は専門分野の優れた英文の論文を題材にする．		
教材（参考資料）	各専門分野の教科書，参考書，辞典など．		
教育方法	毎回、調査した内容、実験した結果をパワーポイントで発表する．		
評価方法	選択課題の理解度，課題の整理，解決手段や技法の理解，成果の理解と分析，結果とその評価について，全体を要約し理解できる能力（50%）と表現力（30%），事後調査や整理（20%）を総合的に判断する。		
到達目標	ライフサイエンス分野の研究の理解と成果を評価できることとさらに応用や発案できる力量を習熟すること． また，学習の終えた領域については，キーワードを整理し，正しく内容を説明できるようにする．		
授業時間外学習	講義概要の（1）から（5）の内容に合わせて，3 回生までに修学したことを整理し，各人の卒業研究に必要な重点項目を理解できていることと，不十分な理解を区別して把握することを事前に準備して，専攻演習に臨むこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
勤勉に取り組むことと失敗の内容を認識し、同じ失敗を繰り返さないように努力し，常に課題解決に意欲的に研究課題に取り組むこと． 時間の自己管理をしっかりすること． 具体的には， 研究室レベルでの共同時間． 卒業研究に向けての自己管理の時間． 完全なプライベートな時間． この３種を明確に区別をつけて過ごすこと．			
授業スケジュール			
1-2.　細胞内小器官構造の理解 3-4.　小胞体に関わるタンパク質と複合体の機能 5-6.　小胞体ストレスとは何か 7-8.　細胞内レドックス制御の理解 9-10.　細胞分化の制御と組織特異性の制御 11-12.　組織特異的な制御とそれらの維持と破綻			

13-14. 細胞外シグナルの種類と受容体の特異性
15-16. シグナル伝達経路と関連因子の機能
17-18. シグナルの分子形態
19-20. シグナルの発生と消失と細胞周期
21-22. 新規解析手法の理解
23-24. 機能性食品の細胞レベルでの効果検証
25-26. 病因関連因子の動態と解析法
27-28. 生体の恒常性維持と破綻
29-30. 科学リテラシーと文献･特許などの調査とプレンゼンテーション技法について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J6012300C
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	バイオサイエンスの知識と技術で社会に貢献するためには、当該分野に関する幅広い文献・資料を読み解くことが出来るだけの基礎的な読解力、背景知識、及び英語力が必要である。本演習では、各受講生の課題研究のテーマ、および微生物学・応用微生物学分野一般についての文献・資料を題材に、科学的思考や学術論文の様式について学び、科学英語の読解力を養成することを目的とする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock 微生物学（2003）Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳　オーム社		
教育方法	関連文献をまとめたレジュメを使って，議論する。		
評価方法	・ゼミへの取り組み（50%） ・文献・資料の理解度（25%） ・科学英語の読解力（25%）		
到達目標	1）化学、生化学などの基礎知識、ならびに応用微生物学の専門知識が、創造的な研究活動にどのように応用されるのかを報告する。 2）科学英語の読解力を身につける。		
授業時間外学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講生は教員の指導の下、それぞれの課題研究のテーマに関する文献・資料に基づいてグループでディスカッションを行う。主体的な取り組みを要求する。

授業スケジュール

1） 担当教員による文献・資料の読み方についての講述（1）
2） 担当教員による文献・資料の読み方についての講述（2）
3） 受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料1）
4） 受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料2）
5） 受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料3）
6） 受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料4）
7） 受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料5）
8） 受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料6）
9） 受講生の発表と質疑（微生物学に関する文献・資料7）
10） 受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料1）
11） 受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料2）
12） 受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料3）
13） 受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料4）
14） 受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料5）
15） 受講生の発表と質疑（応用微生物学に関する文献・資料6）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012300D
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	各自が分析技術・機能性評価技術（原理、用途、操作法など）の紹介およびテーマおよびテーマに付随した文献情報の紹介を行う。また、実験の進捗の報告を行なう。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	ゼミ形式で実施する。		
評価方法	以下で評価する。 発表のための準備状況（20%） プレゼンテーション力（20%） 質疑に対する的確な応答（20%） 質疑への参加度（20%） 平常点（20%）：受講態度など		
到達目標	各自が発表することによって、内容を深く理解する。実験の進捗報告によって、問題点等を理解する。プレゼンテーションにも慣れる。		
授業時間外学習	各自、発表内容を準備し、発表資料とする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
必ず出席すること。発表内容のポイントを理解すること。			
授業スケジュール			
春学期（週 1 回） テーマに関連した項目の調査内容の発表を行なう（質疑応答を含めて 45 分程度、各自 2 回。）。 秋学期（週 2 回） テーマに関連した項目の調査内容の発表を行なう（質疑応答を含めて 45 分程度、各自 2 回。）。 各自の実験進捗（10 分、各自隔週に発表）。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J6012300E
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
授業概要	テーマを決めて、適切な原著論文を検索・精選し、それを精読してその内容を理解する。これを取りまとめて研究の背景と目的、実験方法、実験結果の解釈などを要約してレジメを作成し、パワーポイント等も使用しながら紹介する。また紹介した論文をもとに、その分野の研究の展望などについてグループ討論する。これらを通して、問題抽出能力や問題解決能力を養う。また卒業研究をそざいにして研究の取りまとめとプレゼンテーション能力の修得を行う。		
教材（教科書）	学術雑誌などを適宜指示する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	パワーポイントを活用しながらのプレゼン。		
評価方法	演習用教材の理解度・発表・討論への参加状況などから評価する。		
到達目標	植物バイオテクノロジーを支える知識と理論の理解を深め、問題解決能力、取りまとめ能力、プレゼンテーション能力を修得する。植物バイオテクノロジーの情報を理解、考察、情報発信、評価できる。		
授業時間外学習	１年を通じ、研究資料の収集と読み込みを行う。パワーポイント作成に時間がかかる為、計画的に準備する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ルール
無断欠席は認めない。卒業研究の方針発表１回、研究論文紹介２回、卒業研究の中間発表１回をノルマとしている。

これまで履修してきた講義や実験・実習の内容を、相互の関連性などを意識しながら復習する。英語の教材を使用することが望ましいことから、英語論文に慣れ親しむこと、英語力をつけることに努める。毎回、発言する機会を設けるので、質問、コメント、アドバイスを述べることを期待する。
４年間の総集編として、積極的かつ自発的に取り組むことを望む。

授業スケジュール

１．ガイダンスと原著論文の検索法等の実習
２．演習用教材の準備
３．原著論文の構成や論理構成等についての説明
４～３０．原著論文や研究結果等の取りまとめ、紹介、発表、討論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012300F
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
授業概要	卒業研究として取り組む研究課題に関して、必要となる文献・資料の調査、各自の研究活動での進捗状況の検討を行い、卒業研究を完成させるための基礎力を充実させる。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	ワークショップ、分析、調査を取り入れて行う。		
評価方法	受講態度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	自分の研究について周辺知識を身につけ、計画を立て、実行し、論理的に考察することができる基礎力を充実させる。		
授業時間外学習	自分が希望する研究テーマについて、事前に十分な勉強を済ませておく。具体的には、文献・資料について十分な検索を行い、先行研究について多くの知見を得ておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

演習・研究・発表に気力を充実させて臨むこと

授業スケジュール

1. 研究の基本的なことがら
2. 研究論文の書き方の紹介と実例紹介
3. 研究論文の書き方の紹介と実例紹介
4. 研究計画発表（1）
5. 研究計画発表（2）
6. 研究計画発表（2）
7. 研究の予算
8. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
9. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
10. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
11. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
12. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
13. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
14. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
15. 観測方法の紹介
16. 観測方法の紹介
17. 観測方法の紹介
18. 分析方法の紹介
19. 分析方法の紹介
20. 分析方法の紹介
21. 分析方法の紹介
22. 分析方法の紹介
23. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
24. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
25. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
26. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
27. 各自の卒業研究に関連する論文紹介
28. 研究のまとめ方について
29. 各自の研究発表

30. 各自の研究発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J6012300G
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	「卒業研究」と一体化させて、都市の自然環境とランドスケープの保全と復元に関する、さまざまな現代的な課題への取組みについて、演習を行う。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	課題に応じて指定する。		
教育方法	ゼミ形式で調査結果の分析方法やとりまとめ方法を修得する。		
評価方法	「卒論研究」と一体的に評価する。平常点（１００％）		
到達目標	課題発見能力を向上させ、取組みの枠組みを構築する能力を高め、自分で新たな課題に取り組む方法が身につく。		
授業時間外学習	ランドスケープとその科学・計画・デザイン・マネジメントに関する参考図書や雑誌、論文などたくさん読むとともに、環境関連の各種報道もチェックし、基礎能力を高めること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
卒業研究の課題設定と遂行にあたっては自主性・自立性を尊重しますが、ゼミの仲間と緊密に協力して進めてください。お互いの効率と向上に貢献するのみならず、幅広いランドスケープ分野の豊かな理解に役立ちます。			
授業スケジュール			
１～３回　卒業研究の課題設定について ＜参考＞ ・京都のエコロジカルネットワーク「和の花」プロジェクト ・大阪万博記念公園の森づくりモニタリング ・ビオトープいのちの森のモニタリング ・雨庭（レインガーデン）の計画とデザイン ・樹木医や自然再生士のサポートツール ・宝ヶ池「里山公園」のマネジメント ・癒しのランドスケープデザイン ・UAV を利用した生態系モニタリング ４～７．調査研究方法についての基礎演習 ８～１２．先行研究のレビュー 13-15.調査研究計画検討 16-19.進捗状況中間報告 20-25:調査研究進捗状況に応じた指導 26-30:論文作成・研究発表指導			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012300H
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	卒業研究をすすめるにあたって必要な、英語文献の読解や、方法論の検討などについて、演習を行う。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	各自の卒業研究の関連論文のレビュー等をゼミ形式で行う。		
評価方法	専攻演習への取り組みの過程と成果で総合的に判断する。		
到達目標	卒業研究を専門分野の中で位置付けるための体系だった知識を修得する。		
授業時間外学習	生物学、環境生物学、水圏生態学、生物の生態、生物の多様性、生物の分類、生物学実験、環境生物学実験、流域環境デザイン論、流域環境デザイン演習などの習得が必要。卒業研究に関連する論文紹介、レビューを課すので、日頃から、卒業研究に関連する文献の検索、精読を行い、研究の関連分野に関して幅広い知見を深めること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
課題設定の過程で大いに迷い、勉強してください。選んだ課題を、じっくりとねばり強く追究してください。			
授業スケジュール			
客観的な視点で、文献や資料を読解し、議論の妥当性や方法論の妥当性などについて検討する中で、観測事実と向き合い、理解を深める過程について深く検討する。これらの経験をもとに、各自の卒業研究の進め方などについても議論を重ねたい。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J6012300I
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	各自が卒業研究で取り組む研究課題を題材に、先行研究の検索と読解、研究課題設定のポイント、フィールド調査やデータ解析の方法論、データの解釈とディスカッション、論文骨子の作成、効果的なプレゼンテーションの手法等に関する基礎知識と応用力を身につけることを目的とする。		
教材（教科書）	授業時に配布する。		
教材（参考資料）	「これからレポート・卒論を書く若者のために」　酒井聡樹 著　（2007 年　共立出版） 「これから学会発表する若者のために」　酒井聡樹 著　（2008 年　共立出版） 「論文の教室　レポート作成から卒論まで」　戸田山和久 著　（2012 年　NHK 出版）		
教育方法	・パワーポイントを用いた講義法 ・学生による口頭発表 ・ゼミ形式のディスカッション、グループワーク		
評価方法	演習への出席状況、中間発表・最終発表の内容、ディスカッションへの参加状況により総合的に評価する。		
到達目標	・先行研究の効率的な検索・収集方法の習得。 ・関連分野の論文読解力と、未解決の課題を発見する能力の涵養。 ・データ解析や論文骨子作成に必要な論理的思考力の習得。 ・効果的なプレゼンテーション技術の習得。		
授業時間外学習	参考文献に挙げた文献を、学期中に熟読しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
文献紹介、中間発表、最終発表等は、決められた期日に必ず行ってください（締切厳守）。また、他人の発表をよく聴き、積極的にディスカッションに参加してください。			
授業スケジュール			
１．はじめに ２．関連分野の論文検索・読解（１） ３．関連分野の論文検索・読解（２） ４．文献紹介（１） ５．文献紹介（２） ６．文献紹介（３） ７．研究テーマの設定（１） ８．研究テーマの設定（２） ９．研究テーマの設定（３） １０．フィールド調査手法の検討（１） １１．フィールド調査手法の検討（２） １２．フィールド調査手法の検討（３） １３．中間発表（１） １４．中間発表（２） １５．中間発表（３） １６．データ解析手法の検討（１） １７．データ解析手法の検討（２） １８．データ解析手法の検討（３） １９．データ解析手法の検討（４） ２０．データ解析手法の検討（５） ２１．データの解釈とディスカッション（１） ２２．データの解釈とディスカッション（２） ２３．データの解釈とディスカッション（３）			

２４．論文骨子の作成（１） ２５．論文骨子の作成（２） ２６．プレゼンテーションの方法論 ２７．最終発表（１） ２８．最終発表（２） ２９．最終発表（３） ３０．最終発表（４）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012300L
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	卒業論文作成、就職活動、社会に出てからの活躍に必要となるスキルを習得する。具体的なプログラムは、ゼミ生からの要望なども踏まえて、ディスカッション方式で作り上げていく。		
教材（教科書）	文献、論文、ビデオなど、その都度配布する		
教材（参考資料）	ArcGIS 説明書、スマートフォンの地図アプリの使い方に関しても学ぶ		
教育方法	卒業論文の基本となる、文章作成、文献調査、現地調査、GIS 操作、パワポによる発表、ドローンの操作方法など実践を主体に行う		
評価方法	出席状況・学ぶ意欲・フィールドワーク参加・関連ビデオ学習による総合評価		
到達目標	文章作成、文献調査、現地調査、GIS 操作、パワポによる発表が卒論作成に必要となるレベルに到達する		
授業時間外学習	環境アセスメント演習などの GIS 学習やこれまでの講義で学んだことをよく理解しておくこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
フィールドワークは、普段歩きなれていない学生には最初体力面でついていけないかもしれないが、徐々にペースアップして慣れるようになってほしい			
授業スケジュール			
ゼミ学生と教員との総合的なグループディスカッションにより、専攻演習での課題を詰めていく キーワードとして、GIS、スマートフォン、地域再生、フィールドワーク、ドローンなどの基本を押さえていく			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	−	★	★

年度	2018	授業コード	J6012300M
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	「食と農のゼネラリスト」として社会に貢献するためには、当該分野に関する知識や技術と共に、資料を読み解き、研究成果をまとめ、それを伝える「読解力」「論理的思考力」「プレゼンテーション力」が必要である。本演習では、各受講生の課題研究のテーマを題材に、科学的思考や学術論文の様式、表計算やプレゼンテーションソフトの実践的な活用法などを学び、ものごとの根幹を捉え、論理的に考え、説得的に人に伝える能力を養成することを目的とする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	理系のための文章術入門: 作文の初歩から,レポート,論文,プレゼン資料の書き方まで 西出 利一 (2015) 化学同人		
教育方法	課題研究を題材として、研究室全体で行う 春の研究計画発表会 夏の研究進捗報告会 冬の研究進捗報告会 におけるプレゼンテーションを通して、教員が受講生に適宜必要な指導を行う。		
評価方法	・ゼミへの取り組み（50%） ・文献・資料の理解度（25%） ・科学英語の読解力（25%）		
到達目標	1）課題解決に必要な情報を（ウェブ上にないものを含め）自ら収集し、それらを総合的に理解してその要点をつかむことが出来るようになる。 2）参考資料や自らの実験結果などの情報に基づいて、論理的に考えることが出来るようになる。 3）Excel を使って必要な計算が出来、PowerPoint を使って効果的なプレゼンテーションが出来る。		
授業時間外学習	普段の生活から「ものごとの根幹を捉え、論理的に考え、説得的に人に伝える」ことを心がける。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・与えられた課題に積極的に取り組み、全力で努力することを求める。			
授業スケジュール			
1～2）　担当教員による資料の読み方についての講述 3～4）　担当教員による研究結果の解釈の仕方についての講述 5～6）　担当教員による Excel についての講述 7～8）　担当教員による Powerpoint についての講述 9～１８）　受講生の発表と質疑（発酵醸造によるものづくり） １９～２５）　受講生の発表と質疑（発酵・醸造における微生物の役割の解明） ２６～３０）　受講生の発表と質疑（農業生産を支える植物共生微生物の機能解明）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012300N
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	各自が食品加工分野における諸技術（分析技術・物性評価技術やその原理、用途、操作法など）の紹介およびテーマに付随した文献情報の紹介を行う。また、実験の進捗の報告を行なう。		
教材（教科書）	各自資料を準備する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	関連分野の情報や技術は、各自がパワーポイントの資料を準備して発表する。また、実験の進捗は実験ノート、生データで説明する。		
評価方法	発表のための準備状況（20%） プレゼンテーション力（20%） 質疑に対する的確な応答（20%） 質疑への参加度（20%） 平常点（20%）：受講態度など		
到達目標	各自が発表することによって、内容を深く理解する。実験の進捗報告によって、問題点等を理解する。プレゼンテーションにも慣れる。		
授業時間外学習	各自、発表内容を準備し、発表資料とする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
必ず出席すること。発表内容のポイントを理解すること。			
授業スケジュール			
春学期（週 1 回） テーマに関連した項目の調査内容の発表を行なう（質疑応答を含めて 45 分程度、各自 2 回。）。 秋学期（週 2 回） テーマに関連した項目の調査内容の発表を行なう（質疑応答を含めて 45 分程度、各自 2 回。）。 各自の実験進捗（10 分、各自隔週に発表）。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J6012300O
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	この演習では，無機系環境材料の開発と応用および資源の有効利用に関する研究に必要な，物質の合成，解析，分析，評価の基礎を理論と実験の両面から学修する。具体的には，結晶合成装置，Ｘ線解析装置，Ｘ線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を，理論的な面からの系統的な取り扱いについて修得する。また，基礎理論学修とは独立に，『Oxford University Press』から出版されているシリーズ『Very Short Introductions』の自然科学関連分野から単行本１冊を各人で選択し，その解題作成に向けた科学英文解釈の演習を行う。		
教材（教科書）	後藤　憲一　他　編　『詳解　理論・応用　量子力学演習』　共立出版（４，２００円＋税）		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税） 築山　光一　他　編　『ベーシックマスター　物理化学』　オーム社（４，３００円＋税） 萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	１．量子物理学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力を修得する。 ２．目的に応じた適切なデータ解析力を修得する。 ３．結果について考察する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習・実験，物理化学を履修することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．結晶構造（１）：対称性 ２．結晶構造（２）：結晶格子 ３．結晶構造（３）：結晶系 ４．Ｘ線回折（１）：放射線 ５．Ｘ線回折（２）：Ｘ線 ６．Ｘ線回折（３）：散乱 ７．結晶解析（１）：実格子 ８．結晶解析（２）：逆格子 ９．結晶解析（３）：フーリエ解析 10．分子結合（１）：単原子分子 11．分子結合（２）：２原子分子 12．分子結合（３）：分子間力 13．結晶結合（１）：共有結晶 14．結晶結合（２）：金属結晶 15．結晶結合（３）：半導体 16．エネルギーバンド（１）：共有結晶 17．エネルギーバンド（２）：金属結晶 18．エネルギーバンド（３）：半導体			

19. 共有結晶（1）：単体
20. 共有結晶（2）：酸化物
21. 共有結晶（3）：珪酸塩
22. 金属結晶（1）：アルカリ金属
23. 金属結晶（2）：典型元素
24. 金属結晶（3）：遷移元素
25. 半導体（1）：半金属
26. 半導体（2）：Si
27. 半導体（3）：Ge
28. 光学物性（1）：反射・屈折
29. 光学物性（2）：誘電率
30. 光学物性（3）：吸収スペクトル

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J6012300P
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	研究とは何をすることをいうのか、科学的な思考とはどういうものか、最新の研究はどのような形で発表されるのか、どのようにして自分の研究を外部に発表するかのを身に付けるために、公表されている研究論文や、先輩の卒業論文を読んで内容を理解する。また、論理的な思考法と表現法を身に付けるために、英語で記述された文章を受講者が音読し、日本語に訳し、文の構造を日本語と比較するする。さらに、受講生が各自の卒業研究の内容をより深く理解するために、テーマの紹介、研究の中間報告、研究の最終段階の報告を行い、その内容について受講者全員が討議する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業のはじめに教材を配布する。英語の文については、ランダムに受講者を指名して音読と翻訳を行う。文献紹介については、担当を決めて、担当の学生が内容を理解して紹介する。		
評価方法	受講態度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	１．自分の卒業研究について、実験結果から論理的に結論を導き出す思考方法が身につく ２．実験結果を論文としてまとめる技術が身に付く。		
授業時間外学習	配布した教材の該当部分を事前に読んで、理解しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
疑問に思うことは、その都度、積極的に発言して、理解を深めるように努めること			
授業スケジュール			
１．研究の基本的なことがら ２．研究論文の書き方の紹介と研究論文の実例紹介 ３．配布した英語教材の音読と翻訳　p.1-10 ４．配布した英語教材の音読と翻訳　p.11-20 ５．配布した英語教材の音読と翻訳　p.21-30 ６．配布した英語教材の音読と翻訳　p.31-40 ７．配布した英語教材の音読と翻訳　p.41-50 ８．配布した英語教材の音読と翻訳　p.51-60 ９．各自の卒業研究の研究テーマと進捗状況の紹介（１） １０．文献紹介（１） １１．文献紹介（２） １２．文献紹介（３） １３．文献紹介（４） １４．各自の卒業研究の研究テーマと進捗状況の紹介（２） １５．各自の卒業研究の研究テーマと進捗状況の紹介（３） １６．配布した英語教材の音読と翻訳　p.61-70 １７．配布した英語教材の音読と翻訳　p.71-80 １８．配布した英語教材の音読と翻訳　p.81-90 １９．各自の研究の中間報告（１） ２０．各自の研究の中間報告（２） ２１．研究のまとめ方について ２２．卒業論文の実例を使った演習（１） ２３．卒業論文の実例を使った演習（２） ２４．卒業論文の実例を使った演習（３） ２５．卒業論文の実例を使った演習（４） ２６．各自の研究発表（１）		

２７．各自の研究発表（２）
２８．各自の研究発表（３）
２９．各自の研究発表（４）
３０．各自の研究発表（５）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012300Q
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	野菜を中心とした園芸作物およびイネ・ムギ類を中心とした作物の栽培に当たって必要な知識を学ぶ．各自が論文をとりまとめて発表し，それについて教員･学生間で意見交換を行う．		
教材（教科書）	特に定めない．		
教材（参考資料）	授業時に配布する．		
教育方法	演習は卒業論文作成と連動した形で行い，各人が卒業論文のテーマとして選んだ作物を中心にして専門誌等に発表された関連論文を読んでとりまとめ，発表を行う．前半では教員が提示した論文を読むが，後半は各自の卒業論文のテーマに関する文献を検索・入手し，発表を行う．ここでは論文検索の方法についても学ぶ．発表は１校時に３，４名が行うが，聞いている学生は必ず質問を行う．また，前半には各自の卒論のテーマについて紹介を行う．		
評価方法	日常の達成度(100%)		
到達目標	１．野菜を中心とした園芸作物の育種，成育生理，生産技術および利用に関する知見を得る． ２．イネ・ムギ類を中心とした作物の成育生理，特性，生産技術および利用に関する知見を得る． ３．専門誌に掲載された論文を正確に読み，とりまとめる能力をつける． ４．PowerPoint を使ったわかりやすい発表方法を習得する． ５．農業生産に関わる種々のテーマで討議することができる．		
授業時間外学習	卒業研究のために実際に作物を育てているので，その成育等について常に目を配っていること．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
最初は教員が提示する資料に基づき発表を行うが，それに頼ることなく，自ら必要な文献を探す努力をし，それを習慣としてほしい．また，自分が理解したことを他の人に説明するための努力，つまりコミュニケーション力もつけてほしい．			
授業スケジュール			
１．論文のとりまとめ方法および PowerPoint による発表方法について ２．論文のとりまとめ／発表 ３．論文のとりまとめ／発表 ４．論文のとりまとめ／発表 ５．論文のとりまとめ／発表 ６．論文のとりまとめ／発表 ７．卒業論文研究について（１） ８．卒業論文研究について（２） ９．論文検索と論文のとりまとめ／発表 11．論文検索と論文のとりまとめ／発表 12．論文検索と論文のとりまとめ／発表 13．論文検索と論文のとりまとめ／発表 14．論文検索と論文のとりまとめ／発表 15．実験結果のとりまとめと論文作成方法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J6012300S
科目名	専攻演習	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	大学の集大成である卒業研究をまとめるためには、論文の形式を学び、論理的な思考をする必要がある。 ここでは、それらの力を修得することを目的としている。英語あるいは日本語の論文を深く読み込み、他者への紹介説明を通して、論理的思考力を高め、科学的なものの見方を学び、表現力を高める。 各自の研究テーマの紹介、研究の中間報告、研究の最終段階の報告を行い、その内容についてディスカッションを通して、批判的なものの見方を身に付ける。		
教材（教科書）	発表者が配布するレジメ		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	初めに統計についての演習と講義を行う。 その後は、あらかじめ発表者を講義 1 回あたり 2，3 人を決め、発表者は自分の卒業論文に関連する論文の紹介あるいは、研究計画、研究の中間報告を行う。 発表後は質疑応答を行い、内容理解を深める。		
評価方法	質問の内容や頻度など講義への参加にかかわる平常点（５０％）、発表内容（５０％）		
到達目標	日本語あるいは英語の論文を読解し、人に説明できるようになる。 自分の研究を論理的に組立て説明できるようになる。 自分の研究を文章にまとめられる。 自分の研究結果をわかりやすく図や表にまとめることができる。		
授業時間外学習	論文紹介については、発表の数週間前には論文を選択し、内容を十分に読み込む。 必要に応じて参考文献を読み、必要な知識を学習する。 いつでも研究報告が行えるように、日ごろから結果をノートに丁寧にまとめておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．十分な時間をもって、発表に臨む。
２．失敗を恐れずに、積極的に発表や質問をする。
３．受講態度のみならず生活態度においても、社会人になるという自覚を持って自ら考え行動する。

授業スケジュール

１．研究の基本、研究室のルール
２、３．統計処理の必要性の講義と演習
４．研究論文の実例紹介
５－８．各自の研究テーマの紹介と実験計画の発表
９－１５．日本語あるいは英語論文の紹介
１６－２５．各自の研究テーマの中間報告
２６、２７．研究論文のまとめ方
２８－３０．研究の最終報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012302A
科目名	専攻演習 （春延長）	単位数	4
科目名（英語表記）	Seminar on Specialized Scientific Topics		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	研究遂行に資する分析技術（原理、用途、操作法など）の紹介や解析技術の習得、自身のテーマに付随した文献情報の紹介を行う。また実験の進捗状況を発表する。また関係する文献の輪読を行う		
教材（教科書）	教員からの配布資料、および各自が用意する資料。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	生物有機化学に関する英語原著論文の輪読、ならびに機器分析データの解析を行う。演習には、教員のほか大学院生も加わる。		
評価方法	演習への出席、受講態度を含め、卒業研究論文及び口頭発表で評価する。		
到達目標	各自が発表することによって、内容の理解が深くなり、実験の進捗報告と相まって、問題点の整理が深まることを期待している。各自の発表と相互の討論を重視する。		
授業時間外学習	各自が資料を読み込み、聞き手が発表内容を理解しやすいように工夫する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
積極的に質問やコメントを行うこと。			
授業スケジュール			
春学期（第１回～第１５回） 共通する化学情報や文献情報を共有するために、各自のテーマに関連した文献の輪読、調査内容の発表を行う。 秋学期（第１６回～第３０回） 生物有機化学研究室の基本スキルである有機機器分析に関するデータ解析、テーマに関連した項目の調査および内容発表を持ち回りで順次行う。また、各自が卒業研究の進捗状況の発表を２回程度行う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012400E
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
授業概要	特定の課題について、その課題に関する研究のレビュー、目的の設定、実験方法の策定、実験の実施、結果のとりまとめと解析・考察し、ついで論文としての取りまとめ、中間検討会や卒業研究発表会で発表を行う。 これら一連の卒業研究を行うことを通して課題解決能力を涵養する。		
教材（教科書）	研究の遂行に必要な学術論文や資料などを適宜指示する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	個人あるいはグループ単位で、講義と実験指導、データ処理、結果解釈を組み合わせて行う。		
評価方法	特定の課題の理解度、実験・研究の実施および取りまとめ･発表などから評価する。		
到達目標	卒業研究課題における問題点を抽出できる。関連資料を収集し、理解し、卒業研究に応用できる。実験技法を計画し実施できる。実験結果を処理できる。実験結果を考察できる。論文やパワーポイントに取りまとめ、発表できる。		
授業時間外学習	研究計画を通じ、参考資料などで課題、実験手法などの確認と理解の深化させること。実験ノートには、事前に実験計画と手順、事後には結果の整理と今後の予定をまとめること。また、課題・実験手順・結果をプレゼン資料としてまとめる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ルール 無断欠席は認めない。 ４年間の総集編として、積極的かつ自発的に卒業研究に取り組むことを望む。これまでの学習が不十分であったと思われる場合は、卒業研究を実施する中で実践的に補って欲しい。			
授業スケジュール			
特定の課題を設定し、課題に関する研究のレビュー、目的の設定、実験方法の策定、実験の実施、結果のとりまとめと解析、考察、論文作成を行う。この間、中間発表会を 3 回程度行う。また取りまとめた卒業研究を卒業研究発表会で各自発表する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	−	★★

年度	2018	授業コード	J6012400F
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
授業概要	水環境デザインは多様・多元的なアプローチを必要としている。卒業研究では野外調査・ケース・スタディを重視する。選んだテーマと地域に即し、現地実態調査とその分析を指導する。また、ケース・スタディとして室内培養実験等も実施する。湖沼・河川・海洋それぞれの水環境において、人間活動がその水域に及ぼしている影響や、水環境と生物の関わり、物質循環について研究テーマを設定し、研究を行う。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	各自、自分の取り組むテーマを選定し、参考文献・教員の指導をもとに、調査・分析・研究の取りまとめに取り組む。一連の研究活動を卒業論文にまとめ、口頭発表を行う。		
評価方法	卒業研究への取り組みの過程と成果で総合的に判断する。		
到達目標	各自が選び、取り組んだテーマに関して、得られた研究成果を科学論文にふさわしい内容で卒業論文を完成させる。		
授業時間外学習	自分が希望する研究テーマに関して、事前に十分な下調べをしておく。研究テーマを決定してからは、自分の研究テーマに関連する文献・資料について十分な検索を行い、先行研究についてできる限り多くの情報を集めておく。また、卒業論文の書き方についても検討しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
卒業研究に全力で専念できるだけの単位数をすでに取得していること。			
授業スケジュール			
1-5. 研究テーマの選定と関連資料の検索 6-10. 調査や実験の計画立案 11-25. 調査や実験の実施 26-30. 調査や実験の結果の中間段階のまとめ 31-45. 調査や実験の実施 46-50. 調査や実験結果のまとめ 51-55. 論文の作成 56-58. 研究内容の口頭発表の準備 59. 研究内容の口頭発表の予行演習 60. 口頭発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J6012400G
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	各自が主体的に取組むテーマを定めて、実験、フィールド調査、文献購読、計画・デザイン、分析評価、取りまとめなど、完結した一連の研究課程を経験する。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	課題に応じて指定する。		
教育方法	ゼミ形式で調査結果の分析方法やとりまとめ方法を修得する。		
評価方法	卒業論文やプレゼンテーションなどの最終成果とともに、取組みの課程とその熱心さも含め評価する。		
到達目標	ランドスケープに関する現代的課題背景を理解し、限られたリソースを有効に活用して、自分なりにオリジナルな知見や課題解決への道筋などを見つけて取りまとめ、プレゼンテーションができるようになる。		
授業時間外学習	ランドスケープの科学・計画・デザインに関する基礎知識の修得		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
世の中には、ランドスケープに関して、いっぱいテーマが転がっています。目と耳を開いて、本質に迫ってみろう。			
授業スケジュール			
以下の順で行う。 1）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む） 2）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討 3）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする) 4）とりまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012400H
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	フィールドワークを通じた観察から、課題（研究テーマ）を定め、その課題を探求・解決・実践する。 主な対象は以下の通り。 １）水田生態系・農地生態系の動物の生態・行動・保全に関わる課題 ２）上記と関連して、エコ ミュージアム、国立公園、ナショナルトラスト運動、保全活動、自然保護区などの周辺住民との関係についての課題		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	各自が設定した研究テーマについて、研究を深める。ゼミ発表や指導教員との議論を通じて、より洗練された研究となるようつとめる。		
評価方法	卒業研究への取り組みの過程と成果で総合的に判断する。		
到達目標	卒業研究を専門分野の中で位置付けるための体系だった知識を修得する。		
授業時間外学習	生物学、環境生物学、水圏生態学、生物の生態、生物の多様性、生物の分類、生物学実験、環境生物学実験などの習得が必要。　研究のプログレスレポートを課すので、日頃からデータの整理を心がけ、ゼミ発表などで受けたアドバイスを反映させつつ、研究を進めること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
課題設定の過程で大いに迷い、勉強してください。選んだ課題を、じっくりとねばり強く追究してください。			
授業スケジュール			
実際にフィールドで観測された現象をもとに、自分で課題を設定して、その普遍的な意義について深く検討する。そして、その成果が、バイオ環境を実現するにあたって、どのような意味を持つのかについて議論する過程で、柔軟かつ論理的な思考能力を培う。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012400I
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	各自が主体的に設定した研究課題に基づき、フィールド調査や化学分析などを行い、「専攻演習」と一体的な指導の下、卒業論文をとりまとめることを目的とする。卒業論文の研究課題の例としては、以下のようなものが挙げられる。 １）二次的自然の生物多様性やその保全に関する調査研究 ２）里山林や放棄里山林における森林動態に関する調査研究 ３）地形や土壌などの自然環境条件が森林植生に及ぼす影響に関する調査研究 ４）焼畑の火入れが土壌肥沃度や休閑期の植生回復に与える影響に関する調査研究 ５）焼畑の技術と知恵を活かした里山再生と中山間地域の活性化に向けた実践的研究 ６）東南アジアにおける焼畑休閑地の植生回復や生物多様性に関する研究		
教材（教科書）	授業時に配布する。		
教材（参考資料）	授業時に紹介する。		
教育方法	・野外調査 ・屋内実験 ・パワーポイントを用いた講義法		
評価方法	卒業論文と口頭発表の完成度をもとに評価する。		
到達目標	・各自が興味を持った専門分野に関する知識を深める。 ・各自が取り組んだ研究課題の専門分野における位置づけを理解し、その学術的意義を論理的に説明できる能力を身につける。 ・「専攻演習」で学んだ内容を踏まえ、科学論文にふさわしい内容の卒業論文を完成させる。		
授業時間外学習	各自の研究課題に関連する論文や文献を紹介するので、必ず読んでおくこと。また、主体的に関連論文の検索・収集を行い、最低でも 3−5 本の論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
卒業研究を完成させるのに必要な論理的思考力、課題発見力、行動力などは、社会にでてからも必ず役立つ能力です。各自が興味を持って１年間取り組み続けられるテーマをみつけ、主体的に卒業研究に取り組んでください。			
授業スケジュール			
１．　はじめに ２．先行研究の読解（１） ３．先行研究の読解（２） ４．先行研究の読解（３） ５．研究課題の設定（１） ６．研究課題の設定（２） ７．研究課題の設定（３） ８．研究課題の設定（４） ９．研究課題の設定（５） １０．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（１） １１．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（２） １２．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（３） １３．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（４） １４．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（５） １５．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（６） １６．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（７） １７．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（８） １８．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（９）			

１９．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（10）
２０．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（11）
２１．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（12）
２２．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（13）
２３．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（14）
２４．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（15）
２５．データ解析・論文のとりまとめ（１）
２６．データ解析・論文のとりまとめ（２）
２７．データ解析・論文のとりまとめ（３）
２８．データ解析・論文のとりまとめ（４）
２９．口頭発表（１）
３０．口頭発表（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J6012400L
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	卒業研究では、ゼミ生のほうから主体的に自分のやりたいテーマに関して提案をすること。具体的な卒業論文の絞込みや進め方は、教員との協議やゼミでの発表などを通じて具体化していく。		
教材（教科書）	教科書は使用せず、プリントや GIS データを配布する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	週 1 回の卒論ゼミにて、現在進めている卒論の課題の発表を行う		
評価方法	出席状況・学ぶ意欲・卒業研究の成果による総合評価		
到達目標	ゼミへの出席と研究発表を通じて卒業研究として所定の水準を超える		
授業時間外学習	並行する専攻演習や 3 回生までの講義で学んだことをよく理解しておくこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
就職活動と同時進行となるが、しっかりとゼミに出席してほしい。結果的にはその緊張感が就職にも結びつく。			
授業スケジュール			
毎週、春学期と秋学期で通算約 30 回の卒論ゼミを行う。発表は、1 回につき 3 名程度とし、順に発表を行うので、おおむね 3 週間に 1 回の発表となる。発表は、パワーポイントで行い、事前にレジュメを学生の人数分用意しておくこと。発表の学生は事前にパワポとレジュメを準備する。発表のあと、他の学生は質問や感想を一人一人必ず述べること。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J6012400M
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	発酵醸造に関する課題研究を通して、食と農に関わる知識と技術を実践的に修得するとともに、それらを地域の経済的、社会的な発展に繋げようとする活動に取り組むことで、「食と農のゼネラリスト」にふさわしいオールラウンドな力を養う。 発酵醸造によるものづくり、発酵・醸造における微生物の役割の解明、農業生産を支える植物共生微生物の機能解明といった課題に対して、（１）ものづくりをめぐる技術的課題の解決、（２）微生物の培養とスクリーニング、（３）微生物機能の代謝／タンパク質／遺伝子レベルでの解析、といった実験、検討を行う。これらの研究の成果を卒業論文・報告としてまとめる。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	先行研究、先行事例に関する文献（原著論文・総説・成書）など		
教育方法	テーマをいくつかの課題に分けて学生一人一人に分担させ、1 年間研究室で主体的に研究活動を行わせる。個々の課題の解決と共に、担当学生にチームワークを促し、テーマの発展による地域への貢献を目指させる。		
評価方法	課題研究について、次の点で評価する。 ・研究への取り組み（50%） ・食と農の知識と技術の修得度（25%） ・卒業論文・報告の論理性（25%）		
到達目標	１）食と農の知識と技術の、実践を通じた修得。 ２）論理的に完結した応用微生物学分野の卒業論文・報告（和文）の完成。		
授業時間外学習	3 回生までに学習した内容をよく身につけておくと共に、発酵醸造に関して普段の生活の中で常にアンテナを張り、社会の動きや人びとの嗜好に気を配っておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・与えられた課題研究に積極的に取り組み、1 年間全力で努力することを求める。			
授業スケジュール			
担当教員が個別的な研究指導を随時行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	−	★★

年度	2018	授業コード	J6012400N
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	卒業研究では 野菜・作物の加工・調理における分析的、物性的評価をおこなう。農産物の加工・調理によって新しい食品を提案する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	卒業研究論文およびその口頭発表で評価する。		
到達目標	卒業論文を「緒論、実験方法、結果、考察」を含む科学論文として完成する。		
授業時間外学習	実験前に実施内容を理解し、実験器具、実験材料の準備を行なう。また、実験のポイントを整理しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎日 9 時半に研究室にくること。			
授業スケジュール			
1．実験テーマの設定 2．テーマに関する文献情報や web 情報の取得、理解 3．テーマの取り組み 4．卒業論文の作成 5．卒業研究の発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J6012400O
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	この研究では，無機系環境材料の開発と応用および資源の有効利用に関する研究に必要な，物質の合成，解析，分析，評価の基礎を理論と実験の両面から学修する。この研究では，結晶合成装置，Ｘ線解析装置，Ｘ線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を，実験的な面からの系統的な取り扱いについて修得する。また，実験研究とは独立に，『Oxford University Press』から出版されているシリーズ『Very Short Introductions』の自然科学関連分野から各人で選択した単行本１冊を完全訳出し，その解題を作成する.		
教材（教科書）	後藤　憲一　他　編　『詳解　理論・応用　量子力学演習』　共立出版（４，２００円＋税）		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税） 築山　光一　他　編　『ベーシックマスター　物理化学』　オーム社（４，３００円＋税） 萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	卒業論文（１００％）		
到達目標	１．量子物理学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力を修得する。 ２．目的に応じた適切なデータ解析力を修得する。 ３．結果について考察する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習・実験，物理化学を履修することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．結晶合成法（１）：ブリッジマン法 ２．結晶合成法（２）：CZ 法 ３．結晶合成法（３）：TSSG 法 ４．結晶合成実験（１）：ブリッジマン炉 ５．結晶合成実験（２）：CZ 炉 ６．結晶合成実験（３）：TSSG 炉 ７．結晶解析法（１）：粉末法 ８．結晶解析法（２）：ラウエ法 ９．結晶解析法（３）：電子線回折 10．結晶解析実験（１）：粉末 X 線回折装置 11．結晶解析実験（２）：ラウエ写真 12．結晶解析実験（３）：TEM 13．成分分析法（１）：定性分析 14．成分分析法（２）：定量分析 15．成分分析法（３）：機器分析 16．成分分析実験（１）：XRD 17．成分分析実験（２）：XRF 18．成分分析実験（３）：EPMA			

19. 結晶評価法（1）：力学物性
20. 結晶評価法（2）：磁気物性
21. 結晶評価法（3）：光学物性
22. 結晶評価実験（1）：弾性実験
23. 結晶評価実験（2）：磁力計
24. 結晶評価実験（3）：分光計
25. 固体物性測定法（1）：温度計
26. 固体物性測定法（2）：圧力計
27. 固体物性測定法（3）：高温高圧発生装置
28. 固体物性測定実験（1）：高温実験
29. 固体物性測定実験（2）：高圧実験
30. 固体物性測定実験（3）：高温高圧実験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J6012400P
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	課題発見力、論理的思考力、文章表現力、コミュニケーション能力を高めるため、研究テーマを１つ選んで、実験や調査を行い、卒業論文としてまとめる。テーマとしては、河川の自然浄化能力の調査、新しい廃水処理技術の開発、廃水処理などに関与する微生物集団の研究、その微生物集団を研究するための DNA 解析法、さらには DNA 解析法の応用の範囲内から選ぶ。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	研究テーマに則した教材を選んで貸与する		
教育方法	研究テーマを選定し、それに関連する文献をを調べ、実験または調査を行い、論文にまとめる。		
評価方法	平常点（50%）、卒業論文（50%）		
到達目標	１．テーマに沿って調査や実験を実施して、その結果を取りまとめることで、課題発見力と論理的な思考力が身につく。 ２．研究の進め方などについての指導教員との話し合いを通じて、コミュニケーション能力が上がる。 ３．研究内容を論文としてまとめることで、文章表現力が向上する。		
授業時間外学習	配布した教材を読んで内容を理解すること。多くの文章を読んで、文章によって表現する能力を高めるように心がけること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究室は勉学の場であることを常に念頭において行動すること。使用した器具類の後片付けや整理整頓をしっかりと行うこと。疑問点は積極的に質問して理解を深めるように努めること。			
授業スケジュール			
１～５．研究テーマの選定と関連資料の探索、および資料の内容の理解 ６～１０．調査や実験計画の立案 １１～２５．調査や実験の実施 ２６～３０．調査や実験の結果の中間段階でのまとめ ３１～４４．調査や実験の実施 ４５～４９．調査や実験結果のまとめ ５０～５４．論文の作成 ５５～５８．研究内容の口頭発表の準備 ５９．研究内容の口頭発表の予行演習 ６０．口頭発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012400Q
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	各自が興味を持つ課題解決のために実験を行い，研究論文の完成をめざす.		
教材（教科書）	特に指定しない.		
教材（参考資料）	授業時／実験実施時に配布する.		
教育方法	授業時／実験実施時に配布する.		
評価方法	研究に対する取り組み方（60%）と論文の完成度（40%）		
到達目標	実験・研究の方法を身につけ，結果の解析が的確にできる.		
授業時間外学習	新しい実験手法を使うことが多いので，自ら勉強しておくこと.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ほぼ 1 年近くをかけて実験を行うので，規則的な生活を送るように努めること．特に栽培に関わることが多いので，夏休み中も植物の面倒を見る必要が出てくることを理解してほしい.

授業スケジュール

1．　はじめに
2．問題点の設定について
3．問題点の設定について
4．問題点の解決法について
5．問題点の解決法へのアプローチ
6．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
7．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
8．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
9．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
10．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
11．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
12．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
13．実験･フィールド調査でその問題点を深化させる
14．論文の構成
15．論文の発表会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J6012400S
科目名	卒業研究	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	大学の集大成として、自ら作成した研究計画を遂行し、これまでに獲得した課題発見力、論理的思考力、批判力、情報収集力、データ処理力を統合して、卒業論文としてまとめることを目的とする。農地やその周りの環境は、作物栽培に大きな影響を与える。土壌環境が作物に与える影響、有効な施肥方法の検討、里山に豊富に存在する資源であるバイオマス（特に木質系バイオマス）の農業利用や地域循環型の資源利用、などをテーマとして調査や研究を行い、卒業論文としてまとめる。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	研究テーマに即した書籍や文献を適宜指示する。 研究テーマに即した文献を自ら検索する。		
教育方法	前年度の卒業研究の内容や自身の興味から関心のあるテーマを見つけ、そのテーマについて実験計画をたて、実験を行い結果を考察して卒業研究としてまとめる。		
評価方法	卒業論文（100%）		
到達目標	問題点を見出す力や解決への道筋を策定する力を身に付ける。 調査や実験を実施する力を身に付ける。 研究内容を口頭で発表し、かつ論文としてまとめる能力を身に付ける。		
授業時間外学習	実験テーマやその背景を理解するために、関連する文献等を読む。 実験ごとに結果を報告書としてまとめておく。 常に、実験結果から導ける内容を考える。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．卒業研究は自分が主体となって行うものであり、待っていても進展しないことを認識する。
2．実験室は共同で使用するので、片付けや整理整頓をきちんとする。
3．研究室は 4 回生全員で使用するので、その維持は自主的に協力して行う。
4．原則平日の 10 時から 16 時半まで研究室に在室し、卒業研究のための勉強や実験を行う。

授業スケジュール

1－4．研究テーマの選定と関連資料の探索、および資料の内容の理解
5－10．実験計画の立案
11－26．実験の実施
27－30．実験の結果の中間まとめ
31－50．実験の実施
51－54．卒業論文の作成
55－59．研究内容の口頭発表の準備
60．研究内容の口頭発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012402A
科目名	卒業研究 （春延長）	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	生物有機化学研究室の卒業研究では、生理活性天然有機化合物の単離構造決定、合成実験及びフェロモン等による化学生態学的研究や行動科学的研究を主として行う。材料としてはハチ類等の昆虫、ダニ、その他節足動物である。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教員が提示したテーマに沿って、自主的に実験を計画し、実行し、取りまとめる。テーマについては、教員の指導の下、学生自身の提案が認められる場合もある。学生は、大学院生の指導や指示を受けることもできる。		
評価方法	卒業研究論文及び口頭発表で評価するが、日常的な研究態度も評価対象とする。		
到達目標	卒業論文を「緒論、材料及び方法、結果、考察」を含む科学論文として完成させる。		
授業時間外学習	指導者との意思疎通を十分に図った上で、実験前に実施内容を理解し、実験器具、実験材料の準備を行う。安全面に留意して実験を行えるように準備する。また実際のポイントを整理しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎日決められた時間に登校し、周囲の教員や学生とも協調して実験を進める。就活や欠席などの届けはきちんと行い、社会人になるための訓練と認識して節度ある言動をする。			
授業スケジュール			
１－５週　実験テーマの設定 ６－１５週　テーマに関する文献情報や Web 情報の取得、理解 １６－５０週　テーマの取り組み ５１－５８週　卒業論文の作成 ５９－６０週　卒業研究の発表練習および発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J6012402C
科目名	卒業研究 （春延長）	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	微生物機能開発学領域における課題研究を通して、バイオサイエンスの知識と技術を実践的に修得する。環境と調和した物質生産、未利用資源の有効利用、発酵・醸造における微生物の役割と有用微生物の探索といった問題に関して、（1）微生物のスクリーニング、（2）微生物相の解析、（3）微生物機能の代謝／酵素／遺伝子レベルでの解析、といった実験を行う。これらの研究の成果を卒業論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock 微生物学（2003）Madigan, M.T. 他 編 室伏きみ子 他 訳　オーム社		
教育方法	研究課題を設定し，実験を行う。		
評価方法	課題研究と卒業論文について、 次の点で評価する。 ・研究への取り組み（50%） ・バイオサイエンスの知識と技術の修得度（25%） ・卒業論文の論理性（25%）		
到達目標	1）バイオサイエンスの知識と技術の実践を通して修得する。 2）一定の様式に則り論理的に完結した応用微生物学分野の卒業論文（和文）を完成させる。		
授業時間外学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・微生物機能の開発をテーマとした課題研究に受講者一人一人が取り組む。 ・担当教員の指示に従って実験を行い、その成果を卒業論文としてまとめる。 ・1 年間、全力で努力することを求める。			
授業スケジュール			
担当教員が個別的な研究指導を随時行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	−	★★

年度	2018	授業コード	J6012402D
科目名	卒業研究 （春延長）	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	卒業研究では野菜・作物から低分子成分を抽出・単離し、分析技術を駆使して、それらの成分を同定する。機能性評価技術を通して、機能性のプロファイリングを行う。また、新しい機能性評価方法を確立する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教員の指導の下，実験の計画，実行，取りまとめを行う。		
評価方法	卒業研究論文およびその口頭発表で評価する。		
到達目標	卒業論文を「緒論、実験方法、結果、考察」を含む科学論文として完成させる。		
授業時間外学習	実験前に実施内容を理解し、実験器具、実験材料の準備を行なう。また、実験のポイントを整理しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎日９時半に研究室にくること。			
授業スケジュール			
１～５．実験テーマの設定 ６～１５．テーマに関する文献情報や web 情報の取得、理解 １６～５０．テーマの取り組み ５１～５８．卒業論文の作成 ５９～６０．卒業研究の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J6012402I
科目名	卒業研究 （春延長）	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	各自が主体的に設定した研究課題に基づき、フィールド調査や化学分析などを行い、「専攻演習」と一体的な指導の下、卒業論文をとりまとめることを目的とする。卒業論文の研究課題の例としては、以下のようなものが挙げられる。 １）二次的自然の生物多様性やその保全に関する調査研究 ２）里山林や放棄里山林における森林動態に関する調査研究 ３）地形や土壌などの自然環境条件が森林植生に及ぼす影響に関する調査研究 ４）焼畑の火入れが土壌肥沃度や休閑期の植生回復に与える影響に関する調査研究 ５）焼畑の技術と知恵を活かした里山再生と中山間地域の活性化に向けた実践的研究 ６）東南アジアにおける焼畑休閑地の植生回復や生物多様性に関する研究		
教材（教科書）	授業時に配布する。		
教材（参考資料）	授業時に紹介する。		
教育方法	・野外調査 ・屋内実験 ・パワーポイントを用いた講義法		
評価方法	卒業論文と口頭発表の完成度をもとに評価する。		
到達目標	・各自が興味を持った専門分野に関する知識を深める。 ・各自が取り組んだ研究課題の専門分野における位置づけを理解し、その学術的意義を論理的に説明できる能力を身につける。 ・「専攻演習」で学んだ内容を踏まえ、科学論文にふさわしい内容の卒業論文を完成させる。		
授業時間外学習	各自の研究課題に関連する論文や文献を紹介するので、必ず読んでおくこと。また、主体的に関連論文の検索・収集を行い、最低でも 3−5 本の論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
卒業研究を完成させるのに必要な論理的思考力、課題発見力、行動力などは、社会にでてからも必ず役立つ能力です。各自が興味を持って１年間取り組み続けられるテーマをみつけ、主体的に卒業研究に取り組んでください。			
授業スケジュール			
１．　はじめに ２．先行研究の読解（１） ３．先行研究の読解（２） ４．先行研究の読解（３） ５．研究課題の設定（１） ６．研究課題の設定（２） ７．研究課題の設定（３） ８．研究課題の設定（４） ９．研究課題の設定（５） １０．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（１） １１．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（２） １２．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（３） １３．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（４） １４．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（５） １５．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（６） １６．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（７） １７．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（８） １８．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（９）			

１９．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（10）
２０．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（11）
２１．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（12）
２２．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（13）
２３．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（14）
２４．フィールド調査や実験に基づく仮説形成と検証（15）
２５．データ解析・論文のとりまとめ（１）
２６．データ解析・論文のとりまとめ（２）
２７．データ解析・論文のとりまとめ（３）
２８．データ解析・論文のとりまとめ（４）
２９．口頭発表（１）
３０．口頭発表（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J6012402S
科目名	卒業研究 （春延長）	単位数	8
科目名（英語表記）	Graduation Research		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	大学の集大成として、自ら作成した研究計画を遂行し、これまでに獲得した課題発見力、論理的思考力、批判力、情報収集力、データ処理力を統合して、卒業論文としてまとめることを目的とする。農地やその周りの環境は、作物栽培に大きな影響を与える。土壌環境が作物に与える影響、有効な施肥方法の検討、里山に豊富に存在する資源であるバイオマス（特に木質系バイオマス）の農業利用や地域循環型の資源利用、などをテーマとして調査や研究を行い、卒業論文としてまとめる。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	研究テーマに即した書籍や文献を適宜指示する。 研究テーマに即した文献を自ら検索する。		
教育方法	前年度の卒業研究の内容や自身の興味から関心のあるテーマを見つけ、そのテーマについて実験計画をたて、実験を行い結果を考察して卒業研究としてまとめる。		
評価方法	卒業論文（100%）		
到達目標	問題点を見出す力や解決への道筋を策定する力を身に付ける。 調査や実験を実施する力を身に付ける。 研究内容を口頭で発表し、かつ論文としてまとめる能力を身に付ける。		
授業時間外学習	実験テーマやその背景を理解するために、関連する文献等を読む。 実験ごとに結果を報告書としてまとめておく。 常に、実験結果から導ける内容を考える。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．卒業研究は自分が主体となって行うものであり、待っていても進展しないことを認識する。
2．実験室は共同で使用するので、片付けや整理整頓をきちんとする。
3．研究室は 4 回生全員で使用するので、その維持は自主的に協力して行う。
4．原則平日の 10 時から 16 時半まで研究室に在室し、卒業研究のための勉強や実験を行う。

授業スケジュール

1－4．研究テーマの選定と関連資料の探索、および資料の内容の理解
5－10．実験計画の立案
11－26．実験の実施
27－30．実験の結果の中間まとめ
31－50．実験の実施
51－54．卒業論文の作成
55－59．研究内容の口頭発表の準備
60．研究内容の口頭発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J60125001
科目名	有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Organic Chemistry		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
授業概要	有機化学は順序立ててバランスよく学ぶことで、暗記だけに頼らない体系だった学問であることが分かる。例えば一見、無関係に見える個々の有機化合物も、その構造式をしっかりと見れば性質や反応性の類似点が浮かび上がってくる。講義の前半では官能基別に有機化合物の命名法、構造、物理的性質、基本的な反応を体系的に解説していく。講義の後半では、有機化合物の立体構造をもとに異性体の区別を理解する。また、数多い有機反応は分子を構成する電子の働き（動き）により引き起こされていることを解説する。		
教材（教科書）	『ハート基礎有機化学 三訂版』 H.ハートら著（培風館） 適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	『ブルース有機化学概説 第３版』P.Y. ブルース著（化学同人）		
教育方法	配布するプリントや指定テキストに従って、講義ごとに異なる化合物群の性質、構造、反応などの具体例を提示しながら解説する。講義中に到達目標を示すので、受講生は指示に従って配布プリントやノートに重要なポイントを書き込む。化合物の構造の説明では、必要があれば分子模型を使用して理解を深める。		
評価方法	中間試験および定期試験（７０％）、授業内小テスト・レポート課題等による平常点（３０％）		
到達目標	1. 有機化合物の構造式を正確に書き、命名できる。 2. 構造式からその性質を説明でき、いくつかの反応を例示できる。 3. 異性体の概念を理解し、構造式が正確に区別して書ける。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の講義の範囲を指定するので、予習しておく。また、講義終了時に宿題を課すので、次回の講義までに解答しておく。それはレポート課題として提出してもらうこともある。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
積極的な姿勢で講義を受講してもらうため、問題形式の設問に口頭あるいは板書で解答してもらう。 講義内容の理解度を把握するため、講義内で定期的に小テストを行う。			
授業スケジュール			
1. 電子と化学結合 2. アルカンの構造と命名法 3. アルケンとアルキン 4. 芳香族化合物 5. アルコール、フェノール、チオール 6. エーテルとエポキシド 7. アルデヒドとケトン 8. 有機化合物の構造と結合 9. カルボン酸とその誘導体 10. 酸と塩基 11. アミン 12. 異性体と立体化学 I 13. 異性体と立体化学 II 14. ヒドロキシ基をもつ化合物の構造、反応、利用 15. アルデヒドとケトンの合成法と求核付加反応			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60125002
科目名	有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Organic Chemistry		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
授業概要	有機化学は順序立ててバランスよく学ぶことで、暗記だけに頼らない体系だった学問であることが分かる。例えば一見、無関係に見える個々の有機化合物も、その構造式をしっかりと見れば性質や反応性の類似点が浮かび上がってくる。講義の前半では官能基別に有機化合物の命名法、構造、物理的性質、基本的な反応を体系的に解説していく。講義の後半では、有機化合物の立体構造をもとに異性体の区別を理解する。また、数多い有機反応は分子を構成する電子の働き（動き）により引き起こされていることを解説する。		
教材（教科書）	『ハート基礎有機化学 三訂版』 H.ハートら著（培風館） 適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	『ブルース有機化学概説 第３版』P.Y. ブルース著（化学同人）		
教育方法	配布するプリントや指定テキストに従って、講義ごとに異なる化合物群の性質、構造、反応などの具体例を提示しながら解説する。講義中に到達目標を示すので、受講生は指示に従って配布プリントやノートに重要なポイントを書き込む。化合物の構造の説明では、必要があれば分子模型を使用して理解を深める。		
評価方法	中間試験および定期試験（７０％）、授業内小テスト・レポート課題等による平常点（３０％）		
到達目標	1. 有機化合物の構造式を正確に書き、命名できる。 2. 構造式からその性質を説明でき、いくつかの反応を例示できる。 3. 異性体の概念を理解し、構造式が正確に区別して書ける。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の講義の範囲を指定するので、予習しておく。また、講義終了時に宿題を課すので、次回の講義までに解答しておく。それはレポート課題として提出してもらうこともある。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
積極的な姿勢で講義を受講してもらうため、問題形式の設問に口頭あるいは板書で解答してもらう。 講義内容の理解度を把握するため、講義内で定期的に小テストを行う。			
授業スケジュール			
1. 電子と化学結合 2. アルカンの構造と命名法 3. アルケンとアルキン 4. 芳香族化合物 5. アルコール、フェノール、チオール 6. エーテルとエポキシド 7. アルデヒドとケトン 8. 有機化合物の構造と結合 9. カルボン酸とその誘導体 10. 酸と塩基 11. アミン 12. 異性体と立体化学 I 13. 異性体と立体化学 II 14. ヒドロキシ基をもつ化合物の構造、反応、利用 15. アルデヒドとケトンの合成法と求核付加反応			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60126001
科目名	有機機器分析学	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Organic Spectroscopy		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
授業概要	化学者は未知化合物の分子構造をどのようにして知るのだろうか。本講義では有機化合物の構造決定を目的として、まずはクロマトグラフィーによる分離技術を学び、次いで核磁気共鳴分光法（NMR)、質量分析法（MS)、赤外分光法（IR)、紫外・可視分光法（UV-VIS）の原理とスペクトルの解析法について概説する。講義の後半では、各種スペクトルデータから得られた情報をもとに、有機化合物の構造を導き出す演習を重点的に行う。		
教材（教科書）	『基礎から学ぶ有機化合物のスペクトル解析』 小川桂一郎ら 著（東京化学同人） 適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	『入門機器分析化学』 庄野利之、脇田久伸 編著（三共出版） 『入門クロマトグラフィー第 2 版』 Roy J. Gritter ほか 著（東京化学同人） 『第 2 版 機器分析のてびき―IR、NMR、MS、UV データ集』 泉美治ら監修 （化学同人）		
教育方法	各種スペクトルの原理、測定法、スペクトル解析の順で、指定テキストに従って講義を進めていく。特にスペクトルの帰属では演習プリントを配布して、解答しながら低分子化合物の構造決定の方法を理解していく。講義の前半のクロマトグラフィーでは、配布するプリントに重要なポイントを書き込む形式で講義を進める。		
評価方法	中間試験および定期試験（７０%)、授業内小テスト等による平常点（３０%）		
到達目標	１）有機化合物の分子構造を知る上で、どのようなスペクトルを測定すればよいかが判断できる。 ２）各種スペクトルより主要な情報を的確に抽出できる。 ３）分離法から分析法まで一連の構造決定スキームを立案できる。		
授業時間外学習	有機化学の基礎（有機化合物の構造とその特徴、命名法）をよく理解しておく。講義終了時に、次回の講義の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、講義終了時に宿題を課すので、次回の講義までに解答しておく。それはレポート課題として提出してもらうこともある。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

単に有機化合物の分離法、分析機器の操作、方法を覚えるのではなく、原理や構造を十分理解して、応用能力を養ってもらいたい。本講義で学んだ内容は、バイオサイエンス分野の卒業研究で十分活かしていただきたい。

授業スケジュール

1. クロマトグラフィーⅠ（ガスクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィー）
2. クロマトグラフィーⅡ（薄層クロマトグラフィー、カラムクロマトグラフィー）
3. 構造解析とスペクトル
4. 紫外・可視分光法（UV-VIS）
5. 赤外分光法（IR）Ⅰ（基本原理、測定装置）
6. 赤外分光法（IR）Ⅱ（IR スペクトルの解析）
7. 核磁気共鳴分光法（NMR）Ⅰ（基本原理、1H NMR）
8. 前半のまとめと理解度の確認
9. 核磁気共鳴分光法Ⅱ（1H NMR の応用）
10. 核磁気共鳴分光法Ⅲ（13C NMR）
11. 核磁気共鳴分光法Ⅳ（NMR スペクトルの解析）
12. 質量分析法（MS）Ⅰ（基本原理、測定装置）
13. 質量分析法Ⅱ（イオン化法、開裂パターン、フラグメンテーション）
14. 質量分析法Ⅲ（マススペクトルの解析）
15. 総合演習（各種スペクトルを組み合わせた有機化合物の構造解析）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J60127001
科目名	有機反応機構論	単位数	2
科目名（英語表記）	Organic Reaction Mechanisms		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
授業概要	有機反応は一見、無秩序に起こっているように見えるが、反応性の背後にはそうなる理由が必ずある。有機分子を構成する電子の偏りや働き（動き）を官能基と関連付けて体系的に理解できれば、有機化学が暗記だけに頼らなくてもよいことが分かる。本講義では、代表的な有機反応の機構を、有機電子理論（誘起効果、共鳴効果）の立場から平易に解説していく。授業内容はできるだけ精選し、網羅的ではなく、本質的で重要な事項に限定する。基礎的な概念を十分理解できるように演習問題に取り組み、知識を整理して概念の応用力を身につける。		
教材（教科書）	『ハート基礎有機化学 三訂版』 H.ハートら著（培風館） 適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	『ブルース有機化学概説 第３版』P.Y. ブルース著（化学同人） 『マクマリー有機化学 上・中 第６版』J. McMurry 著（東京化学同人） ＨＧＳ分子構造模型Ｃ型セット（丸善）		
教育方法	配布するプリントや指定テキストに従って、反応形式ごとに有機反応の具体例を提示しながら有機電子論の観点から解説する。講義中に到達目標を示すので、受講生は教員の指示に従って配布プリントやノートに重要なポイントを書き込む。複雑な構造および反応を説明する場合、必要があれば分子模型を使用して理解を促す。		
評価方法	中間試験および定期試験（７０％）、授業内小テスト等による平常点（３０％）		
到達目標	１）有機化合物の構造式を正確に書き、官能基の種類から化合物の性質を推測できる。 ２）分子を構成する電子の働きから反応を説明できる。 ３）種々の異性体の立体構造を明確に区別して、正確に描くことができる。		
授業時間外学習	有機化学の基礎（有機化合物の構造とその特徴、命名法）をよく理解しておく。講義終了時に、次回の講義の範囲を指定するので、予習しておくこと。また、講義終了時に宿題を課すので、次回の講義までに解答しておくこと。それはレポート課題として提出してもらうこともある。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的な姿勢で講義を受講してもらうため、問題形式の設問に口頭あるいは板書で解答してもらう。有機化学反応のメカニズムはただ暗記するのではなく、有機化学の基礎を踏まえた上で考察することが重要である。独自の反応機構を提案し、議論できることを期待している。

授業スケジュール

1. 有機化合物の結合と構造式
2. 結合の開裂・生成と電子の動き
3. 電子の偏りと結合の分極
4. 電子の非局在化と共鳴
5. 酸と塩基、求核剤と求電子剤
6. 有機化合物の立体構造
7. アルケンとアルキンⅠ
8. 前半のまとめと理解度の確認
9. アルケンとアルキンⅡ
10. 芳香族化合物Ⅰ
11. 芳香族化合物Ⅱ
12. 求核置換反応
13. 脱離反応
14. カルボン酸誘導体
15. カルボニル化合物

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60128001
科目名	生物有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Bioorganic Chemistry		
担当者名	坂本　文夫	旧科目名称	
授業概要	我々人間を含めたあらゆる生物は、有機化合物の集合体である。したがって、有機化合物の構造特性や反応様式は、生命の維持や活動に重要な要因になっている。現代の科学ではその細部まで解明されている訳ではないが、生命現象に影響を与える有機化合物、すなわち「生物活性物質」について最新の情報を紹介していく。特に生体内における化合物の合成経路や、生成した化合物の構造と活性の相関について詳しく解説する。		
教材（教科書）	生物有機化学―生物活性物質を中心に―　（東京化学同人）		
教材（参考資料）	ハート　基礎有機化学　三訂版　（培風館）		
教育方法	毎回プリントに講義のポイントを示し、ポイントに関連する重要事項を書き込みして補充するやり方で進める。出来るだけ身近な事例を取り上げて、講義内容が身につくように配慮する。構造式の理解には分子模型も使い、理解を深める。		
評価方法	授業開始時に配布するプリントに授業内容をまとめ、終了時に提出してもらう。 これをレポートとして評価する（30%）。提出がない場合には「欠席」として処理する。 プリントは次回の授業開始時に返却するので、保管して期末試験（70%）に向けた学習に活用してほしい。		
到達目標	生物活性を有する有機化合物について、 １）　構造式が描ける。 ２）　構造式から分子式を導き、分子式から分子量を計算できる。 ３）　構造全体を眺めた時の特性や、構造に含まれる官能基を指摘できる。 ４）　構造の特性や構造中の官能基がもたらす生物活性について考察できる。		
授業時間外学習	テキスト内の授業回に対応するページをあらかじめ読んでおくこと。 授業終了時に次回の授業範囲となるページを指示する。また、シラバスにも掲載しておく。 参考文献（ハート　基礎有機化学）は有機化学の指定教科書で、バイオ環境館の図書館分室にて閲覧できる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業では様々な生物活性物質の構造式を板書することになる。受講者もそれらをプリント上に描き、有機化合物に慣れ親しんでくれるとよい。複雑な構造の中に、活性の決め手となる単純な官能基が隠れている。描いた構造式を何度もじっくりと眺めることで、それらを見出す楽しみを味わってほしい。

授業スケジュール

１．生物有機化学と生物活性物質　（p.1-p.25）
２．脂肪酸　（p.25-p.33）
３．ポリケチド　（p.33-p.42）
４．テルペノイド　（p.42-p.60）
５．シキミ酸経路とフラボノイド　（p.60-p.65）
６．アルカロイド　（p.65-p.69）
７．ペプチド Ⅰ　（p.69-p.80）
８．ペプチド Ⅱ　（p.69-p.80）
９．植物ホルモンとファイトアレキシン　（p.81-p.92, p.136-p.137）
１０．動物のホルモン　（p.92-p.123）
１１．フェロモン　（p.123-p.132）
１２．ビタミン　（p.146-p.153）
１３．昆虫成長調節物質（p.153-p.157）
１４．抗生物質　（p.157-p.170）
１５．生物毒　（p.177-p.185）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60130001
科目名	生化学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Biochemistry I		
担当者名	竇関　淳	旧科目名称	
授業概要	生命の基本単位である細胞を構成している高分子であるタンパク質・核酸・糖質及び脂質とこれらの構成単位であるアミノ酸・ヌクレオチド・単糖について、分子構造とその特性について学習する。また、細胞における物質代謝を担う化学反応の方向性を決める熱力学と化学反応を促進する酵素の基本的な性質についても学習する。本講義を通じて、生化学 II において細胞及び生体維持の基本システムを学習するための基礎力を習得する。		
教材（教科書）	『ヴォート基礎生化学(第５版)』 東京化学同人 その他に講義レジュメと講義内容に関する確認問題に加えて、アミノ酸、ヌクレオチド、単糖の構造に関する演習問題を配付する		
教材（参考資料）	『ヴォート生化学　上、下』（第４版） 東京化学同人 『Essential 細胞生物学』（原書第４版） 南江堂		
教育方法	適宜配布する講義レジュメに従って、パワーポイントを使い、基本的に講義法で行う。学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講し、講義後にその基本内容に関する確認問題に解答し、最後に答え合わせを行うことで解答を確認する。アミノ酸の表記及び構造、ヌクレオチド及び単糖の構造に関する演習を行ったうえで、これについての中間テストを実施する。		
評価方法	中間テスト及び講義中の評価（４０％）と期末テスト（６０％）として、総合的に評価する。		
到達目標	生体分子の基本的な性質を十分に理解し、その基本分子の構造を書くことができる。また、反応の方向性を決める熱力学及び生化学反応の触媒である酵素の特徴についても十分に理解する。		
授業時間外学習	講義前に教科書の各章巻頭の学習のポイントを通読し、内容を把握しておくこと。講義後には教科書や参考書を読み直すことで復習して下さい。特にヌクレオチド、アミノ酸、単糖の構造については十分理解した上で、しっかり書けるようになるまで何度でも復習して下さい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学習上の助言

講義で話すアミノ酸、ヌクレオチド、単糖の構造の覚え方のポイントをしっかりと聞いたうえで、そのポイントを意識しながら何度も書くことで覚えるようにして下さい。講義内容について?分理解できない点については積極的に質問して下さい。

授業スケジュール

1. 生命の起源と生命の基本単位である細胞の構成、水の性質
2. ヌクレオチド及びこれを構成する塩基と糖の構造
3. 核酸の構造と機能
4. アミノ酸の種類と構造
5. アミノ酸の構造の復習１、タンパク質の構造 ～ 一次構造から高次構造まで
6. アミノ酸の構造の復習２、タンパク質の分離・精製法
7. 単糖の種類と構造
8. 中間テスト(アミノ酸、ヌクレオチド、単糖の構造について)、多糖の種類と構造
9. 脂質の種類と構造
10. 生体膜の構造と膜タンパク質
11. 膜輸送の種類とこれを担うトランスポーター
12. 反応の方向性を決める熱力学
13. 酵素の特徴とその調節機構
14. 酵素の反応速度解析
15. シグナル伝達の生化学

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J60130002
科目名	生化学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Biochemistry I		
担当者名	竇関　淳	旧科目名称	
授業概要	生命の基本単位である細胞を構成している高分子であるタンパク質・核酸・糖質及び脂質とこれらの構成単位であるアミノ酸・ヌクレオチド・単糖について、分子構造とその特性について学習する。また、細胞における物質代謝を担う化学反応の方向性を決める熱力学と化学反応を促進する酵素の基本的な性質についても学習する。本講義を通じて、生化学 II において細胞及び生体維持の基本システムを学習するための基礎力を習得する。		
教材（教科書）	『ヴォート基礎生化学(第５版)』 東京化学同人 その他に講義レジュメと講義内容に関する確認問題に加えて、アミノ酸、ヌクレオチド、単糖の構造に関する演習問題を配付する		
教材（参考資料）	『ヴォート生化学　上、下』（第４版） 東京化学同人 『Essential 細胞生物学』（原書第４版） 南江堂		
教育方法	適宜配布する講義レジュメに従って、パワーポイントを使い、基本的に講義法で行う。学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講し、講義後にその基本内容に関する確認問題に解答し、最後に答え合わせを行うことで解答を確認する。アミノ酸の表記及び構造、ヌクレオチド及び単糖の構造に関する演習を行ったうえで、これについての中間テストを実施する。		
評価方法	中間テスト及び講義中の評価（４０％）と期末テスト（６０％）として、総合的に評価する。		
到達目標	生体分子の基本的な性質を十分に理解し、その基本分子の構造を書くことができる。また、反応の方向性を決める熱力学及び生化学反応の触媒である酵素の特徴についても十分に理解する。		
授業時間外学習	講義前に教科書の各章巻頭の学習のポイントを通読し、内容を把握しておくこと。講義後には教科書や参考書を読み直すことで復習して下さい。特にヌクレオチド、アミノ酸、単糖の構造については十分理解した上で、しっかり書けるようになるまで何度でも復習して下さい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学習上の助言

講義で話すアミノ酸、ヌクレオチド、単糖の構造の覚え方のポイントをしっかりと聞いたうえで、そのポイントを意識しながら何度も書くことで覚えるようにして下さい。講義内容について?分理解できない点については積極的に質問して下さい。

授業スケジュール

1. 生命の起源と生命の基本単位である細胞の構成、水の性質
2. ヌクレオチド及びこれを構成する塩基と糖の構造
3. 核酸の構造と機能
4. アミノ酸の種類と構造
5. アミノ酸の構造の復習１、タンパク質の構造 ～ 一次構造から高次構造まで
6. アミノ酸の構造の復習２、タンパク質の分離・精製法
7. 単糖の種類と構造
8. 中間テスト(アミノ酸、ヌクレオチド、単糖の構造について)、多糖の種類と構造
9. 脂質の種類と構造
10. 生体膜の構造と膜タンパク質
11. 膜輸送の種類とこれを担うトランスポーター
12. 反応の方向性を決める熱力学
13. 酵素の特徴とその調節機構
14. 酵素の反応速度解析
15. シグナル伝達の生化学

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J60131001
科目名	生化学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Biochemistry Ⅱ		
担当者名	寳関　淳	旧科目名称	
授業概要	多種多様な有機化合物の集合体である生細胞や生体において、これらの構成要素がどのようにして産生されているのか、いかにしてエネルギーの産生と貯蔵が行われているのか、そしてこれらがどのように調節されているのかについて学習することで、生命における基本システムを理解する。		
教材（教科書）	『ヴォート基礎生化学(第５版)』　東京化学同人 その他に講義レジュメ及び確認問題を配付する		
教材（参考資料）	『ヴォート生化学　上、下』(第４版)　東京化学同人 『Essential 細胞生物学』(原書第４版)　南江堂		
教育方法	適宜配布する講義レジュメに従って、パワーポイントを使い、基本的に講義法で行う。学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講し、講義後にその基本内容に関する確認問題に解答し、最後に答え合わせを行うことで解答を確認する。		
評価方法	小テスト、講義中の評価(３０％)と期末テスト(７０％)として、総合的に評価する。		
到達目標	生命における基本システムを十分理解し、生命科学全般の学習に必要な生命における基本システムに関する知識を習得する。		
授業時間外学習	講義前に教科書の各章の学習のポイントを通読し、内容を把握しておくこと。講義後には教科書や参考書を読み直すことで復習して下さい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

生化学Ⅰを履修していることが望ましい。
生化学Ⅰで習得したアミノ酸、核酸、単糖等の基本構造を復習しておくこと。

学習上の助言
講義前に教科書の各章の学習のポイントを通読し、内容を把握しておくこと。講義中は講義内容の概要を良く理解した上で基本的な知識を習得するということに重点を置き、講義後に教科書や参考書を読み直すことで復習して下さい。十分理解できない点については積極的に質問して下さい。

授業スケジュール

1. 代謝とは
2. 解糖系
3. ペントースリン酸経路とグリコーゲン代謝
4. 糖新生
5. クエン酸サイクル
6. ミトコンドリアと電子伝達系
7. 酸化的リン酸化
8. 光合成
9. 脂質代謝
10. アミノ酸代謝１(アミノ酸分解)
11. アミノ酸代謝２(アミノ酸生合成)
12. タンパク質の代謝
13. 哺乳類燃料分子の代謝
14. ヌクレオチド代謝
15. 老化の生化学

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J60131002
科目名	生化学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Biochemistry Ⅱ		
担当者名	寳関　淳	旧科目名称	
授業概要	多種多様な有機化合物の集合体である生細胞や生体において、これらの構成要素がどのようにして産生されているのか、いかにしてエネルギーの産生と貯蔵が行われているのか、そしてこれらがどのように調節されているのかについて学習することで、生命における基本システムを理解する。		
教材（教科書）	『ヴォート基礎生化学(第５版)』　東京化学同人 その他に講義レジュメ及び確認問題を配付する		
教材（参考資料）	『ヴォート生化学　上、下』(第４版)　東京化学同人 『Essential 細胞生物学』(原書第４版)　南江堂		
教育方法	適宜配布する講義レジュメに従って、パワーポイントを使い、基本的に講義法で行う。学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講し、講義後にその基本内容に関する確認問題に解答し、最後に答え合わせを行うことで解答を確認する。		
評価方法	小テスト、講義中の評価(３０％)と期末テスト(７０％)として、総合的に評価する。		
到達目標	生命における基本システムを十分理解し、生命科学全般の学習に必要な生命における基本システムに関する知識を習得する。		
授業時間外学習	講義前に教科書の各章の学習のポイントを通読し、内容を把握しておくこと。講義後には教科書や参考書を読み直すことで復習して下さい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

生化学Ⅰを履修していることが望ましい。
生化学Ⅰで習得したアミノ酸、核酸、単糖等の基本構造を復習しておくこと。

学習上の助言
講義前に教科書の各章の学習のポイントを通読し、内容を把握しておくこと。講義中は講義内容の概要を良く理解した上で基本的な知識を習得するということに重点を置き、講義後に教科書や参考書を読み直すことで復習して下さい。十分理解できない点については積極的に質問して下さい。

授業スケジュール

1. 代謝とは
2. 解糖系
3. ペントースリン酸経路とグリコーゲン代謝
4. 糖新生
5. クエン酸サイクル
6. ミトコンドリアと電子伝達系
7. 酸化的リン酸化
8. 光合成
9. 脂質代謝
10. アミノ酸代謝１(アミノ酸分解)
11. アミノ酸代謝２(アミノ酸生合成)
12. タンパク質の代謝
13. 哺乳類燃料分子の代謝
14. ヌクレオチド代謝
15. 老化の生化学

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J60132001
科目名	生理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physiology		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	生体は多種多様な外部環境の変化に曝されているにもかかわらず，その内部環境は常にある一定の状態に維持されている。この恒常性の維持には生体を構成している組織，器官，臓器などの連携と調和が必要不可欠である。本講義では人体の恒常性の維持機構を理解するために神経系，内分泌系および免疫系を中心に学習し，個体全体がどのようにして生体反応を統合的に制御し，生体システムを維持しているのかについて理解する。さらに，生体システムの破綻が引き起こす疾病についても理解を深める。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	森本武利 編『やさしい生理学』南江堂 高津聖志 監訳『免疫学イラストレイテッド』南江堂		
教育方法	パワーポイントやプリントを用いながら，講義法で行う。 京学なびによりスライドのデータを提供する。		
評価方法	授業内確認テスト（40%），　期末テスト(40%)，　レポート(20%)		
到達目標	ヒトの生体システム全体について，制御のメカニズムを説明できる。 生体システムの破綻が引き起こす疾病について説明できる。		
授業時間外学習	生化学ⅠおよびⅡの内容を復習しておくこと。 毎回の授業終了後に，京学なびにて予習・復習レポートを提供するので，期限内に提出すること。 レポートの内容だけに留まらず，関連分野についても発展的に調べておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義には毎回出席すると共に，毎回提供する発展的課題についても意欲的に取り組んでほしい。

授業スケジュール

1.はじめに　ー生理学とはー
2.血液成分，体液成分とその機能
3.血液循環とその調節
4.肺による体液成分の調節
5.腎による体液成分の調節
6.情報伝達物質とその受容体
7.ホルモンの作用
8.ニューロンとシナプス
9.中枢神経と末梢神経
10.自律神経
11.代謝の統合的調節
12.免疫担当細胞の種類と働き
13.体液性免疫と細胞性免疫
14.免疫疾患
15.生体システムの総合的な維持機構

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J60133001
科目名	生体高分子学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomacromolecular Science		
担当者名	寳関　淳	旧科目名称	
授業概要	生体内の機能を担う最も重要な生体高分子であるタンパク質の構造とその進化に関して学習した上で、PCを用いたアミノ酸配列解析やタンパク質の立体構造表示に関する演習を行い、これらを駆使して作成した課題のプレゼンテーションを行う。		
教材（教科書）	特定の教科書は使用せず、講義レジュメやタンパク質構造解析法に関するマニュアルを配布する。		
教材（参考資料）	『Essential タンパク質科学』 南江堂 『タンパク質の構造と機能』 メディカル・サイエンス・インターナショナル 『ヴォート基礎?化学(第５版)』 東京化学同? 『Essential 細胞?物学』（原書第４版） 南江堂		
教育方法	適宜配布する講義レジュメに従って、パワーポイントを使い、一部講義法で?う。アミノ酸の表記及び構造について復習した上で、これらについての小テストを実施する。授業の大半は PC を用いたアミノ酸配列解析法やタンパク質の立体構造表示法に講義を行った上で、これらを用いた演習を行う。後半は演習で学習した手法を駆使して課題に関するスライド作成を行ったうえで、最後にプレゼンテーションを行う。		
評価方法	アミノ酸構造と表記に関する小テスト(30%)と講義中に行う課題の提出及びそのプレゼンテーション(70%)に基づき、総合的に評価する。		
到達目標	タンパク質の構造機能解析に必要なアミノ酸配列とタンパク質の立体構造の解析方法に習熟し、これによりタンパク質の構造と機能に関する理解を深める。		
授業時間外学習	生化学 I において学習したアミノ酸の構造及びタンパク質に関する基礎知識を復習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

演習を通じてアミノ酸配列解析及びタンパク質の立体構造表示の手法を習熟することで、タンパク質のアミノ酸配列と構造に関する理解を深めて下さい。

授業スケジュール

1. アミノ酸構造と表記の復習、タンパク質の構造とこれを構築する様々な相互作用
2. タンパク質の構造モチーフ、タンパク質の立体構造を視覚化する Rasmol の使い方
3. Rasmol を使ったタンパク質構造表示に関する演習
4. タンパク質のドメイン
5. タンパク質の構造と進化
6. ホモロジー検索とその配列解析（BLAST, CLUSTAL W）
7. ホモロジー検索とその配列解析（BLAST, CLUSTAL W)に関する演習
8. タンパク質データベース Uniprot
9. タンパク質構造とアミノ酸配列解析に関する課題作成 1 (Uniprot からの情報取得)
10. タンパク質構造とアミノ酸配列解析に関する課題作成 2 (BLAST 及び CLUSTAL W 解析)
11. タンパク質構造とアミノ酸配列解析に関する課題作成 3 (Rasmol 解析)
12. タンパク質構造とアミノ酸配列解析に関する課題作成 4 (プレゼンテーションスライド作成)
13. 課題発表会 1
14. 課題発表会 2
15. 課題発表会 3

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J60136001
科目名	分子生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Molecular Biology		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	分子生物学では，生命現象の基本である遺伝とタンパク質合成を中心に，生体高分子合成反応を理解することを目標とする。本講義では，DNA の二重らせん構造と染色体構造，DNA の複製と DNA からタンパク質へ遺伝情報が伝達される仕組み（転写，翻訳）及びその調節機構を分子レベルで解説する。さらに，遺伝子の組換え，DNA の突然変異，修復及び環境適応等についても分子レベルで講義する。遺伝子の構造と機能に関する重要な知見は実際どのような実験によって明らかになったかをふまえた講義とする。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	Donald Voet 他著『ヴォート基礎生化学、第 2 版』（東京化学同人）。 田村隆明、村松正實著『基礎分子生物学、第 2 版』（東京化学同人）。 Bruce Alberts 他著『Essential 細胞生物学、第 2 版』（南江堂）。 和田勝著　『基礎から学ぶ生物学．細胞生物学』（羊土社）。 その他の参考書については最初の講義で紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	期末試験（50%）、小テスト、実力問題、課題など（50%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	分子生物学の全体像を理解することを目標としている。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　講義終了時に、小テストを行って、次回の授業の最初にその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。資料の実力問題と課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。			
授業スケジュール			
1. シラバスの説明、ガイダンス、分子生物学とは？ 2. 生物と遺伝とは。メンデルの遺伝法則 3. 情報高分子：DNA と RNA の化学的構造とその立体構造。核酸の物理的性質 4. 情報物質としての遺伝子、染色体、染色質（クロマチン）の性質 5. 生体高分子集合体：原核生物と真核生物のゲノム構造 6. 遺伝子が組換わる：相同組変えと非相同組変え 7. 遺伝子地図 8. 遺伝情報の保存：DNA ポリメラーゼ、DNA の二方向複製メカニズム、DNA の修復 9. 遺伝情報の転写：RNA ポリメラーゼによる RNA 合成メカニズム 10. 真核生物 RNA の転写後修飾とスプライシング 11. 真核生物における発現制御機構 12. 原核生物の転写制御：トリプトファンオペロンの調節、ラクトースオペロンの調節 13. 遺伝暗号の翻訳：mRNA の読み枠、tRNA の合成とアミノ酸選択機構 14. タンパク質の合成機構の流れ：リボゾームの構造、ペプチド鎖伸長の分子機構 15. DNA の変異：突然変異の種類、変異と適応			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J60137001
科目名	細胞生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Cell Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	生化学 I,II および分子生物学を充分に理解したことを前提に、生命現象の基本単位である細胞の構造と機能について分子レベルで説明できるようにする。 生命現象における様々な物質の挙動を各細胞内小器官との関連で説明でき、その解析法についても理解できるようにする。また、細胞輸送、細胞骨格、細胞間コミュニケーションなど、多細胞生物に必要な仕組み、更に細胞内情報伝達、細胞周期、細胞分裂、細胞死の制御機構やこれらの異常と各種疾患との関連について理解する。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	Bruce Alberts 他　著（中村桂子他　監訳）『Essential 細胞生物学　原書第 4 版』（南江堂）8,000 円 和田勝著　『基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第 3 版』（羊土社）3,200 円 尾張部克志、神谷律　著『ベーシックマスター細胞生物学』（オーム社）3,600 円		
教育方法	毎回プリントに印刷した資料についてパワーポイントで解説する。解説後に演習問題を行って授業内容を確認する。		
評価方法	期末試験(60%)、毎回のレポート(30%)、講義での発表、受講態度など(10%)の結果を総合的に評価する。		
到達目標	・生物を構成する基本単位「細胞」の構成要素および細胞内小器官の構造と機能を理解する。 ・細胞内区画と物質の輸送、細胞内シグナル伝達機構のしくみを理解する。 ・細胞骨格や細胞接着、細胞内マトリックスに関わるタンパク質の種類と役割について概説できる。 ・正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。 ・この講義で学んだことを、専門実験や卒業演習で適用できる能力を身につける。		
授業時間外学習	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の教員個人フォルダ内の資料提供フォルダに、次回のレジメを入れておくので、授業までに読んでおくこと。復習の演習問題は、同じファルダに入れておくので、自分で解けるようにしておくこと。疑問点があれば次回の授業までにまとめておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義の復習を積極的に行うようにすること。
疑問点があれば積極的に聞くようにすること。
細胞生物学で学んだ用語について、自分の言葉で表現できる能力を身につけること。

授業スケジュール

1. ガイダンス
2. 細胞とは何か
3. 細胞の膜構造と細胞小器官
4. 細胞内区画と細胞内輸送
5. 細胞骨格と細胞運動
6. 細胞外マトリックスと細胞間コミュニケーション
7. 細胞内情報伝達
8. 細胞周期、時間の細胞生物学
9. がんの細胞生物学①
10. がんの細胞生物学②
11. 生殖と発生・細胞分化
12. 細胞の再生、老化と細胞死
13. 脳神経系の細胞生物学
14. 免疫系の細胞生物学

15. 細胞生物学に関する最新技術動向

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60138001
科目名	遺伝子工学	単位数	2
科目名（英語表記）	Genetics Engineering		
担当者名	寳関　淳	旧科目名称	
授業概要	現代社会において医学・創薬・物質生産などに不可欠な技術である遺伝子改変技術について、その技術の分子生物学的な基礎からその応用までを理解する。		
教材（教科書）	特定の教科書は使用せず、講義レジュメ及び確認問題を配付する。		
教材（参考資料）	『基礎から学ぶ遺伝子工学』 羊土社 『遺伝子工学』 化学同人 『ヴォート基礎生化学 第５版』東京化学同人 『Essential 細胞生物学　原書第４版』 南江堂		
教育方法	毎回配布する講義レジュメに従って、パワーポイントを使い、基本的に講義法で行う。学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講し、講義後にその基本内容に関する確認問題に解答し、最後に答え合わせを行うことで解答を確認する。		
評価方法	講義中の評価（３０％）と期末テスト（７０％）として、総合的に評価する。		
到達目標	遺伝子操作の基礎技術とその応用に関する知識を習得し、バイオテクノロジーがどのように社会に貢献しているかを理解する。		
授業時間外学習	講義後には配布したレジュメを用いて講義内容を十分理解できているか確認し、参考書等を読み直すことで復習して下さい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義の各トピックを十分理解できるように、生化学、分子生物学、細胞生物学の基本事項を復習しておくこと。 講義中は講義内容をしっかり理解しながら受講し、不明な点は質問するようにして下さい。			
授業スケジュール			
1.　遺伝子工学とは何か、遺伝子工学の歴史(制限酵素/DNA リガーゼ) 2.　基本的な DNA 操作と分析(PCR、シークエンス、プライマー設計) 3.　クローニング、ベクター 4.　遺伝子発現調節(オペロン、青白スクリーニング) 5.　タンパク質生産 6.　進化工学 7.　動物細胞への遺伝子導入と遺伝子産物の解析 8.　RNA 干渉 9.　ゲノム編集 10.　細胞工学 11.　発生工学～クローン動物 12.　再生医療～ES 細胞と iPS 細胞 13.　医療における遺伝子工学 14.　ゲノム工学・バイオインフォマティクス 15.　バイオエネルギー、バイオ材料			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60141001
科目名	微生物学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Microbiology II		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
授業概要	微生物学Ｉでは一般微生物学を学んだのに対し、微生物学ＩＩでは環境微生物学・微生物生態学を主に学ぶ。具体的には、微生物の進化・分類・多様性や自然環境中での働きの内容となる。さらに、微生物生態の研究に用いられる最新の分子生物学的・遺伝子工学的の解析技術についても解説する。本講義は、微生物についての専門知識を高め、さらにバイオ研究（卒業研究）に取り組んでいくための基盤づくりも目指す。		
教材（教科書）	講義で使うスライドを載せたプリントを配布する。		
教材（参考資料）	『IFO 微生物学概論』　発酵研究所 監修 培風館　4,700 円 『環境微生物学』　久保 幹 他著 化学同人　3,000 円		
教育方法	講義始めに配布する資料プリントに沿って、スライドを使って講義を進める。学生は、スライドで色付き文字になっている重要ワードや、講義の説明をプリントにチェック・記入しながら受講する。		
評価方法	確認テスト 3 回（合計 40%） 期末試験（60%）		
到達目標	１．微生物の系統分類と多様性について説明できるようになる。 ２．微生物の環境生態と地球環境における役割について説明できるようになる。 ３．微生物の分子生物学・遺伝学・遺伝子工学についての知識を身につけ、バイオ実験に活用できるようになる。 ４．ウイルスの性質を説明できるようになる。		
授業時間外学習	前回までの講義内容を参考資料を活用して復習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．本講義では、微生物についての知識を大量に教えるので、それらをしっかり暗記してください。
２．確認テストは 4 択問題の形式で出題しますが、暗記に加えて思考力が必要となります。
３．応用微生物学 A・B を受講したい人は、本講義を受講することが望ましいです。

授業スケジュール

１．　微生物の進化
２．　微生物の系統分類
３．　微生物の進化・変異の遺伝学的メカニズム
４．　特徴的な微生物グループ（藍藻、放線菌、酵母など）
５．　第１～４回の確認テストと解説
６．　微生物の生態系
７．　微生物による元素循環
８．　生物間相互作用 （微生物－微生物／植物／動物の共生関係）
９．　微生物生態の解析技術 1
１０．　第６～９回の確認テストと解説
１１．　微生物生態の解析技術 2
１２．　微生物のゲノム
１３．　ウイルス の性質
１４．　ウイルス の環境生態
１５．　第１１～１４回の確認テストと解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J60142001
科目名	応用微生物学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Microbiology A		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	微生物を使って製造される各種の食品・飲料・調味料について概説する。京都、亀岡の発酵・醸造関連企業で働いておられる方々にもご登壇頂き、製造方法や企業活動そのものについてお話し頂く。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	発酵食品学　小泉武夫 編著（2012）講談社 参考図書（手に取りやすいもののみ挙げた）： うま味の誕生　―発酵食品物語―　柳田友道　岩波書店 食と日本人の知恵　小泉武夫　岩波書店 発酵食品礼讃　小泉武夫　文藝春秋 ワインづくりの思想　銘醸地神話を超えて　麻井宇介　中央公論新社 ワインの科学　「私のワイン」のさがし方　清水健一　講談社 日本酒の科学　水・米・麹の伝統の技　和田美代子　講談社 日本の酒　坂口謹一郎　岩波文庫 純米酒を極める　上原浩　光文社新書 極上の酒を生む土と人　大地を醸す　山同敦子　講談社＋α 文庫 ビールの科学　麦とホップが生み出すおいしさの秘密　渡淳二　講談社 ビールの教科書　青井博幸　講談社 ウイスキーの科学　古賀邦正　講談社 世界のスピリッツ焼酎　関根 彰　技報堂出版 醤油手帖　杉村啓　河出書房新社 一日一杯の味噌汁が身体を守る　車浮代　日経プレミアシリーズ 漬物入門　宮尾茂雄　日本食糧新聞社 パンの文化史　舟田詠子　講談社学術文庫 なぜ日本のフランスパンは世界一になったのか　阿古真理　NHK 出版新書		
教育方法	企業の方にお話し頂く際のディスカッション（質疑応答）によって、理解を深めることを企図している。		
評価方法	・講義開始時に行う、発酵・醸造学の基本的な事項に関する「確認テスト」（20%） ・定期試験（論述式）（80%）		
到達目標	1）発酵・醸造学の基本的な事項を知識として身につける。 2）日本では様々な発酵・醸造を用いた製品が発達していることを理解する。 3）日常生活の中で発酵・醸造を用いた製品に関心を持てるようになる。		
授業時間外学習	上記参考文献のうち参考図書としてあるものを一冊は読んで、発酵醸造についてあらかじめ何らかのイメージをつかんでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「確認テスト」の内容は理解し、覚えること。
「応用微生物学 A」は微生物による「食品や醸造物の製造」を対象とするのに対し、応用微生物学 B は医薬品や化成品など、「工業製品の製造」を対象としている。微生物産業全体についての理解を深めるため、「応用微生物学 B」とあわせて受講することを勧める。

授業スケジュール

第 1 回 発酵・醸造学とは何か：その微生物学・生化学・化学
第 2 回 酒類総論（醸造酒）
第 3 回 酒類各論：ワイン　丹波ワイン様
第 4 回 酒類各論：ビール　一乗寺ブリュワリー様
第 5 回 酒類各論：清酒

第 6 回 酒類総論（蒸留酒）
第 7 回 酒類各論：酒販　谷垣裕二郎（リカーランドひかみや）様
第 8 回 発酵調味料総論
第 9 回 発酵調味料各論：醤油　難波醤油醸造様
第 10 回 発酵調味料各論：味噌　片山商店様
第 11 回 発酵調味料各論：食酢　飯尾醸造様
第 12 回 発酵食品総論
第 13 回 発酵食品各論：漬物
第 14 回 発酵食品各論：なっとう　ユーアンドミー様
第 15 回 発酵食品各論：パン　天然酵母パングリム様
外部講師の方は年によって交代で担当して頂きます。都合により内容・順番は変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60143001
科目名	バイオインダストリー論	単位数	2
科目名（英語表記）	Bioindustry		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	今世紀の社会の様々な問題は、バイオサイエンスを基盤とした産業を抜きに考えることは出来ない。本講義では様々な分野で実施されるバイオ関連の実験や研究に従事する技術者としての基礎力ならびに応用力を養うことを目的とする。生物機能を利用するための技術を中心として，生化学，分子生物学，遺伝子工学の３つの分野をはじめ，微生物バイオテクノロジー，植物バイオテクノロジー，動物バイオテクノロジーの基礎知識，技術関連知識を学び，実際のバイオテクノロジーに対応可能な知識を持ったバイオ技術者を目指す。		
教材（教科書）	特にもうけない		
教材（参考資料）	中級バイオ技術者認定試験対策問題集 上級バイオ技術者認定試験対策問題集 新バイオテクノロジーシリーズ　ＮＰＯ法人日本バイオ技術教育学会編集　（講談社） バイオ英語入門，分子生物学第２版，新・微生物学新装第２版，遺伝子工学第２版，生化学第２版		
教育方法	パワーポイントや例題を活用しながら講義法で行う。		
評価方法	・授業内の小テスト（20%） ・定期テスト（80%）		
到達目標	産業利用の観点から多様な生物機能について科学的に理解し、関連分野のバイオ技術者の認定試験に合格できるようになる。		
授業時間外学習	バイオ分野に関連する項目を幅広くを受講していることが望ましい。 各項目について，これまで学習した内容と関連付けて考えるようにすることが望ましい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・中級バイオ技術者もしくは上級バイオ技術者認定試験を受験をすること。
・能動的な姿勢で講義に出席すること。
・欠席や遅刻の場合は理由を申告すること。

授業スケジュール

１）　バイオテクノロジー総論
２）　バイオ機器取扱いとバイオテクニカルターム
３）　バイオ分野における環境と安全性
４）バイオ　インダストリーにおける生化学－１
５）バイオ　インダストリーにおける生化学ー２
６）バイオ　インダストリーにおける生化学ー３
７）バイオ　インダストリーにおける微生物学－１
８）バイオ　インダストリーにおける微生物学－２
９）バイオ　インダストリーにおける微生物学－３
１０）バイオ　インダストリーにおける分子生物学－１
１１）バイオ　インダストリーにおける分子生物学－２
１２）バイオ　インダストリーにおける分子生物学－３
１３）バイオ　インダストリーにおける遺伝子工学　－１
１４）　バイオ　インダストリーにおける遺伝子工学－２
１５）　バイオ　インダストリーにおける遺伝子工学－３

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J60144001
科目名	食品化学 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Chemistry I		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	食品や食品成分を化学的に理解し、日常の食品を化学的側面で考え、把握することを目的とする。 ・食品は栄養性（一次機能）、嗜好性（二次機能）の他に三次機能として、健康機能性が現在注目されている。おもな食品成分を上記機能に関連付けて化学的側面から理解する。 ・蛋白質、脂肪、炭水化物の分解・吸収およびエネルギーを含む栄養としての体内での変化はすべて、化学反応であり、化学反応として理解する。 ・化学反応として理解するために、食品・栄養に基本的かつ基礎的な有機化学（加水分解、脱水、酸化・還元反応など）を理解し、さらにそれらを触媒する酵素についても概略を理解する。 ・嗜好性に影響を持つ食品の物性（コロイド、レオロジー、テクスチャー）についても理解する。 以上を理解することによって、食品に関わるもの（食品、栄養性、機能性、食品産業などを含む）にとって必要な知識を修得できる。		
教材（教科書）	なし。講義の各章ごとに資料を配付。		
教材（参考資料）	早瀬文孝・佐藤隆一郎編著『わかりやすい食品化学』（三共出版）（ISBN978-4-7827-0549-0）		
教育方法	各章ごとに資料は提供する。 パワーポイントを使って講義する。 各章の講義の終わりに問題を与えるので、次週までに、資料や参考書、インターネットを参考にして、解答する。次週に解説を行う。		
評価方法	定期試験の成績（75%） 各章ごとの練習問題（10%） 受講態度など（15%）		
到達目標	食品の栄養性、機能性や食品成分を理解するための化学的基礎知識および概念を修得する。		
授業時間外学習	各章の講義プリントを 1 週間前に京学ナビの「授業資料」に提示する。 講義プリントは印刷し、しっかり読んでおく。わからない場合には参考書やインターネットで調べておく。 各章の講義の終わりに問題（3 問程度）を与えるので、次週までに、資料や参考書、インターネットを参考にして、解答する。次週に解説するので、それを参考にして、修正し、提出する。解答は必ずワープロで、修正は手書きで行う。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
席は指定席とする。 講義プリントを前もって読んでおく。 復習問題は必ずやっておくこと（提出する）。試験の一部はその問題を改変して出題する。 スマホは許可した場合を除いて禁止。 私語も禁止。			
授業スケジュール			
1．はじめに（食品化学で学ぶことおよび食品化学の講義とは）および講義「調理の化学」 2．食品成分の概要と機能性 3．食品・栄養を理解するための化学１（化学構造、加水分解反応および関与する酵素） 4．食品・栄養を理解するための化学２（脱水反応および関与する酵素） 5．食品・栄養を理解するための化学３（酸化・還元反応および関与する酵素） 6．水（水と食品の関わり） 7．中間試験と解説。 8．炭水化物１（炭水化物の種類とその化学的性質、およびその利用）			

９．脂肪（脂肪の種類とその化学的性質、およびその利用）
１０．蛋白質（アミノ酸、蛋白質の構造と化学的性質）
１１．蛋白質（アミノ酸、蛋白質の利用）
１２．ビタミン・ミネラル（種類と生体での分布・作用）
１３．食品の物性（コロイド・テクスチャー）
１４．食品の安全（食品安全の用語、GMO や BSE などについて解説する）
１５．各項目のポイントレビュー

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J60145001
科目名	食品化学II	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Chemistry II		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	食品や食品成分を化学的に理解し、日常の食品を化学的側面で考え、把握することを目的とする。 ・植物性食品や動物性食品の成分と機能性を化学的に、また、貯蔵・加工・調理における食品成分の変化を化学的に理解する。 ・いくつかの機能性成分や色素については化学構造と機能性を理解する。 以上を理解することによって、食品に関わるもの（食品、栄養性、機能性、食品産業などを含む）にとって必要な知識を修得できる。		
教材（教科書）	資料を提供する。		
教材（参考資料）	川岸舜朗・中村良編著『新しい食品化学』（三共出版）（ISBN4-7827-0425-9 C3061） 安井勉・桐山修八編著『食品科学』（三共出版）（ISBN4-7827-0285-X）		
教育方法	各章ごとに資料は提供する。 パワーポイントを使って講義する。 各章の講義前の、前週に課題（キーワードを含む）を与えるので、参考書やインターネットを参考にして、その課題について調べておく。そのことについて、各章の講義の前に、当たった人は答えること。		
評価方法	定期試験の成績（70%） 課題調査と発表（20%） 受講態度など（10%）		
到達目標	植物性食品や動物性食品の成分と機能性を化学的に、また、貯蔵・加工・調理における食品成分の変化を化学的に理解することによって、それらの概念および知識を修得する。		
授業時間外学習	各章の事前課題を１週間前に京学ナビの「授業資料」に、あるいは授業時に提示する。 事前課題を参考書やインターネットで調べて、答えをパワーポイントのスライドにし、印刷しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

席は指定席とする。
事前課題の資料をつくっておく。
その授業中にスマホで調べるのは禁止。
私語も禁止。

授業スケジュール

１．ガイダンス（講義の進め方、勉強の仕方）および「麹のはなし」
２．　植物性食品１（穀物類の成分と機能性）
３．　植物性食品２（大豆、芋、野菜および果実の成分と機能性）
４．　動物性食品１（食肉の成分と機能性）
５．　動物性食品２（牛乳、卵および乳製品の成分と機能性および製造）
６．　油脂食品（油脂および油脂製品の成分と機能性および製造）
７．　嗜好品と調味料（飲料、甘味料、調味料、香辛料の成分と機能性および製造）
８．　機能性成分１（植物成分のポリフェノール、リグニン構造と機能性）
９．　機能性成分２（その他の植物成分および動物成分の構造と機能性、機能性食品）
１０．　食品色素の化学（食品成分としての色素の構造と機能性）
１１．　貯蔵・加工・調理に伴う食品成分の化学変化１（糖、アミノ酸、脂肪酸）

１２．　貯蔵・加工・調理に伴う食品成分の化学変化２（核酸、ポリフェノールなど）
１３．　食品の安全性（有害微生物その他による食品の汚染と防止）
１４．　特定保健用食品と機能性表示食品（その制度、トクホ食品および実例の紹介）
１５．　各項目のポイントレビュー

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J60147001
科目名	生体栄養科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Nutritional Science		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	何をどのくらい食べたらどうなるか？について生化学的なアプローチを実施する。すなわち，個体の栄養成分である糖、タンパク質、脂質、ビタミンなどの機能や代謝系、これらを摂取した時の生体反応や調節機構について、全ての栄養素が相互に関連しあって生体が維持されていることを理解する。さらに、動脈硬化や糖尿病といった生活習慣病と食品成分との関係など、栄養と疾病との関わりについて、その研究方法などを含め、知識を深める。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	薗田勝 編『栄養科学イラストレイテッド生化学』羊土社　2,800 円 垣沼淳司 著『分子栄養学―栄養素と生活習慣病の分子生物学 』光生館　2,520 円		
教育方法	パワーポイントやプリントを用いながら，講義法で行う。 京学なびによりスライドのデータを提供する。		
評価方法	授業内確認テスト（40%），　期末テスト(40%)，　レポート(20%)		
到達目標	生体の維持機構について説明出来る。 栄養成分の生理機能や代謝系とその調節機構について説明出来る。		
授業時間外学習	生化学ⅠおよびⅡの内容を復習しておくこと。 毎回の授業終了後に，京学なびにて予習・復習レポートを提供するので，期限内に提出すること。 レポートによる授業の予復習に留まらず，関連分野についても発展的に調べておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義には毎回出席すると共に，毎回提供する課題についても意欲的に取り組んでほしい。			
授業スケジュール			
1.はじめに　ー生体栄養科学とはー 2.栄養成分の消化吸収 3.糖質の化学 4.糖質の機能と代謝 5.アミノ酸とタンパク質の化学 6.アミノ酸とタンパク質の機能と代謝 7.脂質の化学 8.脂質の機能と代謝 9.三大栄養素の相互変換 10.代謝の調節と疾病 11.ビタミンの生理作用 12.ミネラルの生理作用 13.食品成分の生体調節機能（１）ー抗酸化作用ー 14.食品成分の生体調節機能（２）ー代謝調節作用ー 15.機能性食品の現状と今後			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60148001
科目名	食品衛生学	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Hygiene		
担当者名	山﨑　裕康	旧科目名称	
授業概要	生活の基本である「食」は、我々の健康ひいては生命に直接影響を及ぼすきわめて重要な因子であることから、食品の安全性確保に関する知識と理解を深めることを目標とする。 食品の安全確保は、我々の生活の質（QOL）に直接影響するものであるが、近年における我が国の食生活多様化と輸入食品の増大に伴い、その重要性がますます高まってきている。本講義では、我が国における食品の安全確保のための法的規制と体制ならびに手法について概説すると共に、食品に起因する健康障害について原因別に解説し、同時に健康障害防止策についても述べる。		
教材（教科書）	教科書：未定(決定次第連絡)		
教材（参考資料）	国民衛生の動向 2017/2018（厚生労働統計協会）		
教育方法	講義は、パワーポイントを用いて行う。 単元ごとに講義資料とサブノート形式のプリントを配布し、テキストの該当箇所を示しながら解説する。 学生諸君はサブノートを完成させるとともに、要点を簡潔にまとめること。		
評価方法	定期試験（70%)、講義終了時に適宜実施する到達度確認小テスト（30%）により評価する。ただし、受講出席状況が２／３未満の場合は定期試験受験資格を与えない。		
到達目標	１．我が国における食品の安全確保政策について説明できる。 ２．食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。 ３．腐敗、変敗の機構および食品保存法について説明できる。 ４．代表的な食中毒原因（微生物や自然毒）について説明できる。 ５．調理等による食品成分の有害化について説明できる。 ６．食品添加物の法的規制および代表的な食品添加物について、用途、働きを説明できる。		
授業時間外学習	講義のはじめに前回の簡単な復習を、また最後に次回の講義内容を予告するので、教科書該当ページに目を通しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

食品衛生に関するニュース等に常日頃から関心を持つように心がけること。
私語は厳禁とする。私語が過ぎる場合には、他の受講者への迷惑を勘案し退出を求める。

授業スケジュール

第 1 回　わが国の食品衛生行政と法的規制
第 2 回　わが国の食品衛生行政と法的規制（その 2）
第 3 回　食品の安全確保（HACCP 他）
第 4 回　食品に起因する健康障害、食中毒発生状況
第 5 回　微生物による食中毒(1)
第 6 回　微生物による食中毒(2)
第 7 回　自然毒(1) 植物性自然毒
第 8 回　自然毒(2) 動物性自然毒
第 9 回　カビ毒
第 10 回　化学物質による食品汚染(1) 環境汚染重金属
第 11 回　化学物質による食品汚染(2)有害有機化合物
第 12 回　食品の変質、食品保存法
第 13 回　食品成分の有害化、遺伝子組み換え食品
第 14 回　食品添加物総論
第 15 回　食品添加物各論
第 16 回　定期試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2018	授業コード	J60149001
科目名	植物生理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plant Physiology		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	植物は、太陽エネルギーを利用して無機物から種々の有機物を作ることにより地上のあらゆる生物の生命維持に極めて重要な役割を担っている。本講義では、植物や細胞の構造と機能、水・重力・光などの環境要因と植物、植物ホルモン、光合成、植物の栄養などの植物で行われている様々な生化学反応を知ることにより、植物の生理的な機構および環境応答について学ぶ。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	L. Taiz, E. Zeiger ら著「テイツ・ザイガー植物生理学（第３版）」（培風館）。 B.B. Buchanan ら著「植物の生化学・分子生物学」（学会出版センター）。 その他の参考書については最初の講義で紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	期末試験（50%）、小テスト、実力問題、課題など（50%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	農資源やバイオテクノロジーについて学ぼうとする人が、植物の生理機能について個体、細胞、分子のレベルで理解することを目標とする。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　講義終了時に、小テストを行って、次回の授業の最初にその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の講義の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。資料の実力問題と課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。			
授業スケジュール			
１．シラバスの説明、ガイダンス、植物生理学とは ２．植物細胞の構造と機能 ３．植物の成長と分化 ４．水と植物細胞 ５．無機栄養。物質輸送 ６．葉緑体の構造と機能 ７．光合成の明反応：光合成における電子伝達反応 ８．光合成の暗反応：カルビン回路、 ９．光合成：光呼吸とＣ４光合成 １０．デンプンとショ糖の生合成 １１．植物ホルモンとその作用（１）オーキシン １２．植物ホルモンとその作用（２）サイトカイニン １３．植物ホルモンとその作用（３）エチレン １４．植物ホルモンとその作用（４）ジベレリン １５．植物ホルモンとその作用（５）アブシジン酸、ブラシノステロイド			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J60150001
科目名	植物生化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plant Biochemistry		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
授業概要	植物は、人間を頂点とする食物連鎖において、炭素化合物（糖類や脂質）や窒素化合物（アミノ酸やタンパク質）の第 1 次供給者である。本講義では、植物における基本的な一次代謝物と二次代謝物とその生合成経路を概説する。まず、一次代謝から窒素同化、生物的窒素固定、有機窒素化合物を取り上げ、これら化合物の生合成について概説する。次に、一次代謝から脂肪酸を取り上げ、生合成経路とその改良について概説する。さらに、二次代謝からアルカロイドを取り上げ、生合成経路とその改良について概説する。単元に応じて、これら生合成経路の改良についても概説し、代謝工学への応用事例についてを紹介する。		
教材（教科書）	毎回、講義資料を配布する。適宜、ビデオ教材などを活用する。		
教材（参考資料）	植物の生化学・分子生物学（学会出版センター）、テイツ・ザイガー植物生理学（第 3 版）（培風館）、植物生化学（シュプリンガー・フェアラーク東京）、植物生理学（シュプリンガー・フェアラーク東京）など		
教育方法	パワーポイントを活用した講義法。適宜 DVD 等を活用した講義法。		
評価方法	課題等による平常点（50%）と定期試験（50%）		
到達目標	植物固有の代謝物とその生合成について説明できる。植物における代謝調節とその多段階的な制御機構について説明できる。		
授業時間外学習	当日までに配布講義資料に目を通し、該当する生物学、生化学、植物生理学の分野の振り返りをした上で講義に望むこと。毎回課題をだすので、講義資料に基づき、講義内容を振り返り、理解を定着させること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

無断欠席はしない。課題は期日までに仕上げること。

講義内容は連続性があり、理解には積み重ねが不可欠となる。生活や産業とバイオテクノロジーの関わりに興味を持ち続けて欲しい。より高度な内容を学びたい学生には、個別に参考図書等を紹介する。

授業スケジュール

1．植物生化学とは
2．窒素化合物と産業
3．窒素同化経路
4．窒素化合物の生合成（アミノ酸）
5．窒素化合物の生合成（アミノ酸以外）
6．生物的窒素固定
7．窒素化合物の生合成経路の改良
8．脂肪酸と産業
9．脂肪酸の生合成
10．脂肪酸の生合成経路の改良
11．アルカロイドと産業
12．アルカロイドの生合成
13．アルカロイド生合成と環境応答
14．アルカロイド生合成経路の改良
15．植物細胞工学の展開

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J60151001
科目名	植物細胞工学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plant Cell Engineering		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
授業概要	植物細胞工学の基礎となる個体の成り立ち、細胞の構造と機能、遺伝子の構造と機能発現、組織培養の要素技術、遺伝子組換えの要素技術を概説する。また、遺伝子組換え技術の具体的な事例と課題、今後の可能性について紹介する。		
教材（教科書）	毎回、講義資料を配布する。適宜、ビデオ教材などを活用する。		
教材（参考資料）	植物バイオテクノロジー（幸書房）、細胞の分子生物学（ニュートンプレス）、ヴォート基礎生化学 第 2 版（東京化学同人）、植物の生化学・分子生物学（学会出版センター）。		
教育方法	パワーポイントを活用した講義法。適宜 DVD 等を活用した講義法。		
評価方法	課題等による平常点（50%）と定期試験（50%）		
到達目標	植物細胞の基本構造とその働きを分子レベルで説明できる。 植物遺伝子の構造と機能発現を分子レベルで説明できる。 遺伝子組換え技術とその意義を説明できる。		
授業時間外学習	当日までに配布講義資料に目を通し、該当する植物生理学、植物生化学、生化学、分子生物学の分野の振り返りをした上で講義に望むこと。毎回課題をだすので、講義資料に基づき、講義内容を振り返り、理解を定着させること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

無断欠席はしない。課題は期日までに仕上げること。

講義内容は連続性があり、理解には積み重ねが不可欠となる。生活や産業とバイオテクノロジーの関わりに興味を持ち続けて欲しい。より高度な内容を学びたい学生には、個別に参考図書等を紹介する。

授業スケジュール

1．植物細胞工学の歴史と概要
2．植物個体の成り立ち
3．細胞の構造
4．細胞小器官の構造
5．細胞小器官の機能
6．細胞内選別輸送 の基礎
7．細胞内輸送選別の応用
8．遺伝子の機能発現
9．植物遺伝子の構造と機能
10．植物遺伝子の転写調節
11．核遺伝子組換え技術の基礎
12．核遺伝子組換え技術の応用
13．葉緑体遺伝子組換え技術の基礎
14．植物遺伝子組換え技術の産業への応用
15．植物細胞工学の展開

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J60153001
科目名	有用産業植物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Plants of Industrial Interest		
担当者名	秋田　徹	旧科目名称	
授業概要	植物は、古くから香辛料あるいは医薬品や食品添加物の素材として人類に利用されてきたが、２１世紀の今日、人類は植物に対して産業素材として大きな期待を寄せている。新たなバイオアッセイ法との組み合わせで新規な生理活性を示す植物成分の発見、あるいはメタボリックエンジニアリングによって有用成分の生産性の向上が計られるなど産業的にも植物が再評価されている。これら産業的に有用な植物を医薬品に関連する植物、食品産業に有用な植物に分けて、その特性などについて理解を深めることを目標とする。		
教材（教科書）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考資料）	講義の最初に紹介する。		
教育方法	パワーポイントを用いる。		
評価方法	平常点（10%）は受講態度等による。各講義日の最後に行う試験によって評価（90%）する。		
到達目標	医薬品、食品添加物などの産業で重要な役割を果たしている植物について理解する。		
授業時間外学習	これまでに履修した本講義に関連する植物の分類や植物生理生化学、有機化学、食品化学などについて事前によく復習（予習）しておくこと。また教材の講義プリントを事前に配布するので予習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義中に疑問に思った点があれば積極的に質問などをしてほしい。 講義プリントとパワーポイントを用いて講義を進めるが、重要な点はメモを取ること。			
授業スケジュール			
１．医薬品と植物（１）薬用植物の定義（ハーブから最新医薬品まで） ２．医薬品と植物（２）医薬品の歴史 ３．医薬品と植物（３）生薬としての利用 ４．医薬品と植物（４）植物からの医薬品創製（成分としての利用） ５．医薬品と植物（５）現在と将来、そして課題 ６．食品と植物（１）食品添加物概説 ７．食品と植物（２）食品添加物と植物 ８．食品と植物（３）多糖類の利用１ ９．食品と植物（４）多糖類の利用２ １０．食品と植物（５）色素成分の利用１ １１．食品と植物（６）色素成分の利用２ １２．食品と植物（７）香料成分の利用１ １３．食品と植物（８）香料成分の利用２ １４．食品と植物（９）機能性食品への応用 １５．食品と植物（１０）まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60162001
科目名	化学演習 -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Chemistry		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	春学期の化学に引き続き化学の基礎知識を講義する。化学物質の基本構造が分子や原子であることを理解したうえで、実際に起きている化学反応について理解を深めることを目的としている。特に、熱化学反応式や化学平衡を中心に講義する。あわせて演習を行い、具体例の中から理解を深め、反応を数的に理解する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	中川徹夫著　化学の基礎―元素記号からおさらいする化学の基本　1500 円＋税 A. Sherman, S. Sherman, L. Russikoff 著　『化学－基本の考え方を中心に－』　東京化学同人　2850 円＋税 J.E.Brady, G.E.Humiston 著　『一般化学』（上）（下）　東京化学同人　各 2980 円＋税		
教育方法	演習を多く取り入れた講義法で行う。 次回の講義時間内に前回の宿題を受講生は黒板に解答する。それを解説する。 成績評価となる小テストを 3 回行う。		
評価方法	定期テスト（40%）、講義中の小テスト（60%）		
到達目標	化学量論の計算を一般式を使って表記することができる。 酸と塩基を説明し、pH との関係を明らかにすることができる。 酸化、還元の意味を説明できる。 化学平衡の概念を説明できる。 中和反応や酸化還元反応などの反応式を作り、量的関係やエネルギーの出入りを理解できる。		
授業時間外学習	1.「化学」の受講者はテキストであった中川徹夫著「化学の基礎―元素記号からおさらいする化学の基本」を熟読しておくこと。 2．未受講者は、同本の内容を確認し、苦手な部分があれば、自習しておくこと。 3．次回の講義までに内容を理解するように学習すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．化学の履修は問わないが、化学式や化学反応式は書けることが望ましい。
2．講義内の宿題などを自力で行うのが難しい場合は、積極的に質問し、課題を克服する。
3．講義内の内容が十分に理解できる場合は、参考資料である「一般化学」などを自習し、知識を深めることが望ましい。
4．授業と並行して例題や教材の問題集などの演習に積極的に取り組むことが望ましい。

授業スケジュール

1. 化学反応式・濃度の復習
2. 物質の三態
3. 化学式の種類（示性式・組成式・構造式）
4. 酸と塩基 1－アレニウスの定義
5. 酸と塩基 2－ブレンステッドの定義
6. 酸と塩基 3－ルイスの定義
7. 化学平衡
8. 酸塩基の強さ（酸解離定数と塩基解離定数）
9. 中和反応と塩
10. 水素イオン濃度と pH
11. 緩衝液
12. 酸化数
13. 酸化と還元
14. 酸化還元反応
15. 熱化学反応式

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	J60162002
科目名	化学演習 -k	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Chemistry		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
授業概要	環境科学を学ぶ上で必要な化学の基礎知識を演習を行いながら講義する。講義内容の理解度確認として、毎回、チェックプリントを実施する。小テストを複数回実施する。		
教材（教科書）	授業中にプリントを配布する。		
教材（参考資料）	中川徹夫著　化学の基礎－元素記号からおさらいする化学の基本　化学同人　1500 円＋税 多賀光彦、中村博、吉田登著　物質化学の基礎　三共出版　2808 円 高校の化学の教科書、参考書		
教育方法	配布する演習問題に沿って基本的に講義法で行う。講義の最初に前回の授業内容のチェックプリントを行う。チェックプリントの答え合わせと自己採点を行い、各自、自分の理解度を確認する。授業のポイントを板書するので、学生は各自ノートをまとめる。授業で板書する演習問題もしくは配布するプリントの演習問題を解き、内容の理解を深める。小テストを複数回実施する。		
評価方法	チェックプリント、授業中の演習問題に対する取組態度等による平常点（20%）、小テスト（40%）、定期テスト（40%）		
到達目標	化学量論の計算を一般式を使って表記することができる。 酸と塩基を説明し、pH との関係を明らかにすることができる。 化学平衡の概念を説明できる。 中和反応のの反応式を作り量的関係を理解できる。 酸化・還元の意味を説明し、反応式を作ることができる。		
授業時間外学習	配布する演習問題、参考資料にある演習問題を解いておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「化学」の受講者はテキストであった中川徹夫著「化学の基礎－元素記号からおさらいする化学の基本」を熟読しておくこと。また、未受講者は、同本の内容を確認し、苦手な部分があれば自習しておくこと。
授業と並行して問題集などの演習に積極的に取り組むこと。疑問点や苦手な点は自習して次回の講義までには解決するように努力すること。積極的に学習支援室を利用すること。

授業スケジュール

授業の進度によって外れることがある
1. 化学反応式・濃度の復習
2. モル濃度と質量パーセント濃度
3. 化学式の種類
4. 電離
5. 化学平衡
6. 酸と塩基　その 1
7. 酸と塩基　その 2
8. 酸・塩基の中和反応
9. 中和反応と量的関係
10. 水素イオン濃度と pH
11. 酸・塩基反応の種類
12. 緩衝液
13. 酸化数
14. 酸化と還元
15. 酸化還元反応

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	★	−	★★

年度	2018	授業コード	J60163001
科目名	数学演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Mathematics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	数学は自然科学のすべての分野を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の理解のためにはまず最初に数学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では数学の体系の中で解析学の基礎となる直交関数系，積分変換，常微分方程式，偏微分方程式，変分法などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税）		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	１．数学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力を修得する。 ２．目的に応じた適切なデータ解析力を修得する。 ３．結果について考察する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学，物理学・演習，地球科学・演習を履修することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．直交関数系（１）：内積 ２．直交関数系（２）：直交多項式 ３．直交関数系（３）：フーリエ級数 ４．積分変換（１）：フーリエ変換 ５．積分変換（２）：ラプラス変換 ６．積分変換（３）：δ 関数 ７．常微分方程式（１）：変数分離形 ８．常微分方程式（２）：線形同次方程式 ９．常微分方程式（３）：線形非同次方程式 10．偏微分方程式（１）：ラプラス方程式 11．偏微分方程式（２）：熱伝導方程式 12．偏微分方程式（３）：波動方程式 13．変分法（１）：変分原理 14．変分法（２）：最速降下線 15．変分法（３）：懸垂線			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60164001
科目名	物理学演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Physics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	物理学は自然科学のすべての分野の中で，精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では物理学の体系の中で古典物理学の基礎となる電場，電流，磁場，電磁誘導，電磁波などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	１．自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力を修得する。 ２．目的に応じた適切なデータ解析力を修得する。 ３．結果について考察する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学・演習，物理学，地球科学・演習を履修することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．電場（１）：静電場 ２．電場（２）：静電ポテンシャル ３．電場（３）：誘電体 ４．電流（１）：電荷保存 ５．電流（２）：定常電流 ６．電流（３）：電力 ７．磁場（１）：静磁場 ８．磁場（２）：磁気ポテンシャル ９．磁場（３）：磁性体 10．電磁誘導（１）：変動電場 11．電磁誘導（２）：変動磁場 12．電磁誘導（３）：電磁誘導 13．電磁波（１）：電磁ポテンシャル 14．電磁波（２）：電磁方程式 15．電磁波（３）：波動方程式			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60166001
科目名	樹木学実習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	物質生産や生物の多様性の場である森林を構成する樹木について、その形態や生態を中心に実物を通じて理解を深める。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	各種図鑑。		
教育方法	実物の観察により、同定能力や観察力を高める。		
評価方法	課題の提出等による平常点（50%）、実習での理解（50%）により評価する。		
到達目標	実際の樹木を正確に観察しスケッチすることや立木を観察することで生物の多様性の理解を深める。		
授業時間外学習	キャンパスをはじめとする身近にある樹木を観察する。実習内容が時間内に終わらない場合には自習し、遅れないように務めること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

生物に対する漠然とした見方を変え、生き物を突き詰めて観察することを勧めます。

授業スケジュール

1.種子の観察１：樹木の源である種子の観察を行い種子発芽につなげる
2.種子の観察２
3.冬芽の観察１：普段見ないさまざまな樹木の冬芽の構造を観察する
4.冬芽の観察２
5.花の観察１：普段見ないさまざまな樹木の花の構造を観察する
6.花の観察２
7.根の観察１：普段見ない根について観察する
8.根の観察２
9.樹形の観察１：樹形の特徴を学ぶ
10.樹形の観察２
11.樹皮の観察１：樹種による樹皮の違い及び樹齢による差異を理解する
12.樹皮の観察２
13.木材の観察木材の組織を観察する
14.森林の観察１
15.森林の観察２
注）進行状況等により適宜変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★★	★	−	−

年度	2018	授業コード	J60168001
科目名	環境物理学演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	物理学は自然科学のすべての分野の中で，精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では物理学の体系の中で環境物理学の基礎となる熱，熱力学，相対論，量子論，物性論などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	１．自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力を修得する。 ２．目的に応じた適切なデータ解析力を修得する。 ３．結果について考察する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・実験，環境地球科学・演習・実験を履修することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．熱量（１）：温度 ２．熱量（２）：熱伝導方程式 ３．熱量（３）：状態方程式 ４．熱力学（１）：第１法則 ５．熱力学（２）：第２法則 ６．熱力学（３）：第３法則 ７．相対論（１）：相対運動 ８．相対論（２）：特殊相対性原理 ９．相対論（３）：一般相対性原理 10．量子論（１）：量子仮説 11．量子論（２）：波動方程式 12．量子論（３）：原子構造 13．物性論（１）：共有結合 14．物性論（２）：イオン結合 15．物性論（３）：金属結合			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60169001
科目名	樹木医学	単位数	2
科目名（英語表記）	Woody Plant Health		
担当者名	本位田　有恒	旧科目名称	
授業概要	全国各地の巨樹、古木等は緑豊かで、快適な環境をつくる貴重な資源であり、地域の人々から「緑の文化財」として長い間親しまれ、また、ふるさとのシンボルとして、保護・保存が行われている。しかし、これらの樹木の中には、病害虫や環境悪化などにより、樹勢の著しく衰えたものも認められ、適切な保護対策が緊急の課題となっている。(引用：財団法人日本緑化センター「樹木医とは」より) これら樹木における樹勢回復や保護、保存などを行う樹木医に関する知識について学ぶ。		
教材（教科書）	堀大才・岩谷美苗「図解　樹木の診断と手当て」農文協　1,944 円		
教材（参考資料）	財団法人日本緑化センター「最新・樹木医の手引き」改訂４版(Ｈ２６発刊予定)　８，５００円＋消費税 もしくは、なし、各講義でプリントを配布する。		
教育方法	ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	平常点(５０％)学習に対する興味と取り組み状況、レポート(５０％)により評価する。		
到達目標	樹木医に関する知識と技術を理解し、樹木医補としての自覚をもつ。		
授業時間外学習	教材(テキスト)を講義開始までに、読んで予習をしておくこと。 講義開催日毎の最終講義において、復習のレポートを提出すること。 なお身近な樹木についても、日々関心を持って見ること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
遅刻や私語は厳禁。各講義で小テストを行う可能性あり。			
授業スケジュール			
①樹木医概論その１ ②樹木医概論その２ ③樹木の保護と保存 ④樹木の文化 ⑤都市における樹木(公園、街路) ⑥診断の方法と手順 ⑦病害の診断と防除 ⑧腐朽病害基礎 ⑨虫害の診断と防除 ⑩樹木の危険度診断(街路樹) ⑪樹木の剪定技術 ⑫樹木の外科的対策 ⑬樹木の移植法 ⑭植栽基盤 ⑮土壌改良と発根促進			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J60172001
科目名	森林立地・土壌学	単位数	2
科目名（英語表記）	Forest Stand and Soil Science		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	本講義では、以下の 4 点を目的とする。①森林の成立に関与する土壌・気象・地形等の立地環境因子とその相互作用に焦点をあて、これらの因子が森林の種組成・構造・遷移などの諸特性にどのような影響を与えているかを理解する。②樹木－土壌－大気－水はひとつにつながった生態系であり、相互に影響を及ぼしながら物質のやりとりをしていることを理解し、物質循環における森林生態系の機能や役割について理解する。③人為の影響を受けた二次林の成り立ちや特徴を学びながら、持続可能な森林管理のあり方を検討する能力を涵養する。④熱帯林を取り巻く立地環境と熱帯の林業の特徴についても学び、温帯と熱帯おける立地環境の違いと樹木の生理生態的特性を踏まえながら、各々の地域の森林の造成・保全上の問題点を解決する方法を理解する。		
教材（教科書）	資料を配付する。		
教材（参考資料）	「森のスケッチ」　中静 透 著　（東海大学出版会　2004 年） 「森林生態学」　岩坪 五郎 編　（文永堂出版　2003 年） 「最新土壌学」　九馬 一剛 編　（朝倉書店　1997 年）		
教育方法	・パワーポイントを用いた講義法 ・小テスト形式の課題演習		
評価方法	小テスト等による平常点（40 点）と、期末試験（60 点）により評価する。		
到達目標	・森林の物質循環や遷移と撹乱、樹木の生活史戦略などの基本的な知識を習得する。 ・人と森との関わり方の変遷や問題点を理解する。 ・森林生態系や森林資源利用に関する多角的視点を習得する。		
授業時間外学習	講義のレジメを事前に京学なびにアップロードしておくので、各自で打ち出して予習をしておくこと。 また、毎回の講義で、前回講義の復習のための小テスト（ノート持込み可）を行うので、しっかりと復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教員と受講者の対話を重視した講義を行いたいので、皆さんの積極的な発言を期待します。

授業スケジュール

1　森林立地とは？
2　立地環境と森林土壌
3　森林の組成と環境要因
4　地形が生み出す植生の多様性
5　森林土壌と植生のつながりⅠ：森林の炭素循環
6　森林土壌と植生のつながりⅡ：森林の養分循環
7　森林生態系における分解者の役割
8　森林の遷移と攪乱
9　樹木の生活史戦略
10　熱帯の林業Ⅰ：択伐林業
11　熱帯の林業Ⅱ：タウンヤ林業
12　森林の分断化と孤立化
13　植生復元：土壌シードバンクの機能
14　二次林の成り立ちと土地利用の履歴
15　持続的な森林資源利用に向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60173001
科目名	樹木医学実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Course in Woody Plant Health		
担当者名	本位田　有恒	旧科目名称	
授業概要	全国各地の巨樹、古木等は緑豊かで、快適な環境をつくる貴重な資源であり、地域の人々から「緑の文化財」として長い間親しまれ、また、ふるさとのシンボルとして、保護・保存が行われている。しかし、これらの樹木の中には、病害虫や環境悪化などにより、樹勢の著しく衰えたものも認められ、適切な保護対策が緊急の課題となっている。(引用：財団法人日本緑化センター「樹木医とは」より) これら樹木における樹勢回復や保護、保存などを行う樹木医に関する技術について学ぶ。		
教材（教科書）	堀大才・岩谷美苗「図解　樹木の診断と手当て」農文協　1,944 円		
教材（参考資料）	財団法人日本緑化センター「最新・樹木医の手引き」改訂４版(Ｈ２６発刊予定)　８，５００円＋消費税		
教育方法	プリントやビデオ、パワーポイントを使う。		
評価方法	平常点(５０％)学習に対する興味と取り組み状況、レポート(５０％)により評価する。		
到達目標	樹木医に関する知識と技術を理解し、樹木医補としての自覚をもつ。		
授業時間外学習	樹木医学で配布した教材(プリント)を実習開始までに、読んで予習をしておくこと。 講義開催日毎の最終講義において、復習のレポートを提出すること。 なお身近な樹木についても、日々関心を持って見ること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
遅刻や私語は厳禁。			
授業スケジュール			
①樹木の病虫害観察実習Ⅰ ②樹木の病虫害観察実習Ⅱ ③樹木の病虫害観察実習Ⅲ ④樹木の腐朽病害観察実習Ⅰ ⑤樹木の腐朽病害観察実習Ⅱ ⑥周辺環境調査 ⑦樹木の地上部調査Ⅰ ⑧樹木の地上部調査Ⅱ ⑨樹木の地下部調査 ⑩危険度診断 ⑪剪定実習 ⑫剪定実習 ⑬剪定実習 ⑭土壌改良実習 ⑮土壌改良実習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J60184001
科目名	食品・栄養科学演習 …春第三期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	食品・栄養科学実験の各課題に対して、その実験の背景、必要な試薬の濃度計算や調製法、実験機器の使用法、測定法の原理等の基礎知識を学ぶ。		
教材（教科書）	教科書は指定しない。 演習書をプリントにして配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて紹介する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と演習書を用いた演習を実施する。		
評価方法	平常点（30%）：演習や結果発表会への取り組み，出席状況など，レポート（30%），試験（40%）。		
到達目標	実験の背景を理解する。正確な実験を遂行するための基礎知識を習得する。結果発表会はチーム（4 人）が協力し合い、プレゼンテーションを意識した資料の作成・発表ができる。		
授業時間外学習	必ず実験前までにプリントを読み、内容を理解する。また、実験の実施のポイントを整理しておく（フローチャートを作る）。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この演習は食品・栄養科学実験の内容説明も兼ねている。この演習に出席しないものは食品・栄養科学実験の履修を認めない。

授業スケジュール

１．食品・栄養科学実験オリエンテーション（食品実験のための心得など）
２～５．濃度計算
６．食品からのタンパク質分離精製法
７．タンパク質の定量法
８．脂肪のケン化と GC 分析による脂肪酸定量法
９．原子吸光によるカルシウム定量法
１０．麹酵素の精製と力価測定法
１１．食品の微生物検査法
１２．実験動物の取扱方
１３．アントシアニンの吸着樹脂による単離・精製法
１４～１５．結果発表会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J60185001
科目名	応用微生物学演習 …秋第一期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	応用微生物学実験に伴う実験の背景となる学問内容の講義を聴講し，関連した演習問題を解く。		
教材（教科書）	特定の教科書は指定しない		
教材（参考資料）	Laboratory Experiments in Microbiology. 8th ed. T.R. Johnson and C. L. Case (2007) Pearson Benjamin Cummings 農芸化学実験書 第 2 巻、第 3 巻 京都大学農学部農芸化学教室編（1965）産業図書 生物工学実験書 日本生物工学会編（2002）培風館 微生物学実験法 杉山純多 他編（1999）講談社 微生物実験マニュアル 協和発酵東京研究所編（1986）講談社		
教育方法	テキストやパワーポイントを使った講義法で行う。		
評価方法	応用微生物学実験と共通		
到達目標	基礎的な項目について繰り返し操作することで、「技術」をしっかりと習得する。 講義で学んだ「知識」を復習し、実際に実物を目の前にしながら検証する。 実験ノートの書き方を学ぶ。		
授業時間外学習	「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」を受講しておくこと。 「応用微生物学 A」、「応用微生物学 B」を受講すると、より理解が深まる。各講義項目に関する学術論文を予め調査することで理解を深めておくことが望ましい。 また、応用微生物学実験とリンクして進行するので実験法との関連を把握しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

全回の出席を要求する。遅刻・早退をしないこと。科学実験に対する態度、実験室でのマナーを修得すること。これらをいずれも「実験態度」として評価の対象とする。

授業スケジュール

1） 培地の調製
2） 微生物の染色
3） 微生物の増殖
4） 微生物の代謝１
5） 微生物の代謝２
6） 微生物の代謝３
7） 有用微生物のスクリーニング１
8） 有用微生物のスクリーニング２
9） 有用微生物のスクリーニング３
１０） 微生物による物質生産１
１１） 微生物による物質生産２
１２） 微生物による物質生産３
１３） 発酵・醸造１
１４） 発酵・醸造２
１５） 発酵・醸造３
実際にはそれぞれの課題を並行して実施する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	−	−	−

年度	2018	授業コード	J60186001
科目名	植物バイオ演習 …秋第二期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
授業概要	植物の生長解析や細胞工学の基礎となる、① 植物の細胞・組織培養、 ② 光合成活性、 ③ 窒素代謝などを取りあげて、その背景を理解するとともに、実験法や解析法などについての演習を行う。		
教材（教科書）	植物バイオ実験書。適宜配布するプリント。		
教材（参考資料）	植物バイオ実験書に紹介。		
教育方法	パワーポイントを活用した講義法。		
評価方法	演習解答などの平常点（50%）および小試験（50%）から評価する。		
到達目標	植物を材料に、バイオサイエンス分野の実験法や解析法を理解をする。		
授業時間外学習	植物バイオ実験と共通のテキストを配布するので、当日までに植物バイオの実験書および配布資料に目を通し、掲載の実験法、解析法について事前に理解を深めておく。当日までに植物バイオの実験書および配布資料に目を通し、実験ノートに実験プロトコールを転記しておく。実験ノートに実験データを整理すること。実験ノートに考察を整理すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ルール
無断欠席しない。実験室を離れるときは、許可を得ること。実験を安全に行うために、服装に留意し、教員や実験助手の説明・講義や指示を守ること。。

植物生理学、植物生化学、植物細胞工学、分子生物学などを復習し、理解を深めておくこと。

授業スケジュール

1. 植物の組織培養実験法および解析法（1）
2. 植物の組織培養実験法および解析法（2）
3. 植物の組織培養実験法および解析法（3）
4. 植物の組織培養実験法および解析法（4）
5. 植物の組織培養実験法および解析法（5）
6. 光合成実験法および解析法（1）
7. 光合成実験法および解析法（2）
8. 光合成実験法および解析法（3）
9. 光合成実験法および解析法（4）
10. 光合成実験法および解析法（5）
11. 植物栄養代謝実験法および解析法（1）
12. 植物栄養代謝実験法および解析法（2）
13. 植物栄養代謝実験法および解析法（3）
14. 植物栄養代謝実験法および解析法（4）
15. 植物栄養代謝実験法および解析法（5）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J6018700A
科目名	有機化学実験 …春第一期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	有機合成化学実験を中心に、最も重要である化学物質を取扱うための知識と技術および合成化学実験で用いる器具や機器についての正しい使用法を習得する。更に、有機機器分析実験を通して、最新の分析技術、生物試験を通して生物への反応の特徴を習得する。実験結果のまとめ方や報告書の作成についても習熟する。実験を安全に行うために、危険物の取扱方法等の教育訓練も行う。		
教材（教科書）	配布資料（生物有機化学研究室編・実験指示書　有機化学実験） 安全の手引き（京都学園大学バイオ環境学部編） 関数電卓		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教員並びに実験補助者の指導の下、実験をおこなう。		
評価方法	実験レポートの成績(70%)、出席状況・受講態度(30%)等を考慮に入れ総合的に評価する。		
到達目標	実験の目的と内容、手順を理解することと、実験操作の習熟と実験結果の整理、解釈、考察が出来ることを目標とする。		
授業時間外学習	指示書を熟読して、器具、薬品等の取扱いを含め、実験手順を整理しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
有機化学演習での解説や実験開始前に指示書に従い説明する実験内容を十分に理解すること。演習および実験説明に遅刻した学生には安全対策の観点から実験の履修を認めない。			
授業スケジュール			
1）　オリエンテーション、安全講習、ガラス細工 2）　酸化反応による甘味料サッカリンの合成　1 3）　酸化反応による甘味料サッカリンの合成　2 4）　酸化反応による甘味料サッカリンの合成　3、甘味試験 5）　（±）－1－フェニルエチルアミンの光学分割　1 6）　（±）－1－フェニルエチルアミンの光学分割　2 7）　（±）－1－フェニルエチルアミンの光学分割　3 8）　（±）－1－フェニルエチルアミンの光学分割　4 9）　置換反応による植物生長調節剤2，4－Dの合成　1 10）　置換反応による植物生長調節剤2，4－Dの合成　2 11）　置換反応による植物生長調節剤2，4－Dの合成　3、植物試験 12）　Ｗｉｔｔｉｇ反応によるＥ-およびＺ-スチルベンの合成　1 13）　Ｗｉｔｔｉｇ反応によるＥ-およびＺ-スチルベンの合成　2 14）　Ｗｉｔｔｉｇ反応によるＥ-およびＺ-スチルベンの合成　3、機器分析 15）　Ｗｉｔｔｉｇ反応によるＥ-およびＺ-スチルベンの合成　4、機器分析			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J6018900A
科目名	食品・栄養科学実験 …春第三期	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Food Science		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	食品・栄養科学実験を通じて、食品成分、食品の機能性、動物の扱い、食品における微生物管理など食品分野で重要かつ基礎的な実験技術を学ぶ。		
教材（教科書）	実験指導書をプリントにして配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて紹介する。		
教育方法	実験指導書の内容に従い，実験に取り組む		
評価方法	平常点（80%）：実験ノートおよびチェックシートの記入，出席状況，実験への取り組みなど。 試験（20%）。		
到達目標	実験技術、実験内容を理解する。実験結果の解析を行なうことができる。チーム 4 人が意志の疎通をはかり、協力し合って実験をスムースに進めることができる。結果発表会はプレゼンテーションを意識した資料の作成・発表ができる。		
授業時間外学習	必ず実験前までにプリントを読み、内容を理解する。また、実験の実施のポイントを整理しておく（フローチャートを作る）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
実験の心得に従うこと。遅刻厳禁（遅刻者は記録し、ペナルティを与える）。			
授業スケジュール			
１～８．食品成分の分離（牛乳からカゼインの分離）とアミノ酸、タンパク質の定性・定量実験（呈色反応）、脂肪のケン化と GC 分析による定量およびカルシウムの定量（原子吸光分析）。 ９～１６．麹の酵素（アミラーゼ）力価を測定。 １７～２１．食品の微生物検査。 ２２～２７．高脂肪食ラットの血清脂質および肝臓脂質の測定。 ２８～３０．アントシアニンの吸着樹脂による単離・精製。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J6019100A
科目名	応用微生物学実験 …秋第一期	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Applied Microbiology		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	2 回生秋学期の「基礎バイオサイエンス実験」での微生物学実習に引き続き、一般微生物学の基礎的な技法について学ぶ。さらに、それらの技法を使って応用微生物学に関する実験を行う。		
教材（教科書）	特定の教科書は指定しない。		
教材（参考資料）	Laboratory Experiments in Microbiology. 8th ed. T.R. Johnson and C. L. Case (2007) Pearson Benjamin Cummings 農芸化学実験書 第 2 巻、第 3 巻 京都大学農学部農芸化学教室編（1965）産業図書 生物工学実験書 日本生物工学会編（2002）培風館 微生物学実験法 杉山純多 他編（1999）講談社 微生物実験マニュアル 協和発酵東京研究所編（1986）講談社		
教育方法	テキストに従った実験を実施する。		
評価方法	・実験態度、実験台の整理整頓（20%） ・実験ノートへの適切な記述（40%） ・ワークブックの問題への解答（40%） 「ノートチェック」として実習中にワークブック、実験ノートを 3 回評価し、その評点の合計を元に総合的に評価する。		
到達目標	基礎的な項目について繰り返し操作することで、「技術」をしっかりと習得する。 講義で学んだ「知識」を復習し、実際に実物を目の前にしながら操作する。 実験ノートの書き方を学ぶ。		
授業時間外学習	「微生物学Ⅰ」、「微生物学Ⅱ」を受講しておくこと。 「応用微生物学 A」、「応用微生物学 B」を受講すると、より理解が深まる。応用微生物学演習とリンクして進行するので、予め実験法の原理を理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

全回の出席を要求する。遅刻・早退をしないこと。科学実験に対する態度、実験室でのマナーを修得すること。これらをいずれも「実験態度」として評価の対象とする。

授業スケジュール

1） 培地の調製
2） 微生物の染色
3） 微生物の増殖
4） 微生物の代謝 1
5） 微生物の代謝 2
6） 微生物の代謝 3
7） 有用微生物のスクリーニング 1
8） 有用微生物のスクリーニング 2
9） 有用微生物のスクリーニング 3
１０） 微生物による物質生産 1
１１） 微生物による物質生産 2
１２） 微生物による物質生産 3
１３） 発酵・醸造 1
１４） 発酵・醸造 2
１５） 発酵・醸造 3
実際にはそれぞれの課題を並行して実施する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	J6019200A
科目名	植物バイオ実験 …秋第二期	単位数	2
科目名（英語表記）	Experimental Course in Plant Science		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
授業概要	植物の生長解析や細胞工学の基礎となるいくつかのテーマを取りあげ、その背景を理解しつつ実験技術とその解析法を修得することを目的とする。 第 1 に、植物細胞工学の基礎となる植物組織・細胞培養を取りあげ、無菌操作・無菌培養などの基礎技術の修得や植物ホルモンとの関連などについて理解する。 第 2 に、光合成を取りあげ、細胞分画の基礎、光合成活性測定とその解析法などを修得する。 第 3 に、窒素栄養代謝を取りあげ、その生化学的実験技術や解析法、成分分析法などについて修得する。		
教材（教科書）	植物バイオ実験書。適宜配布するプリント。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	パワーポイントを活用した講義法。		
評価方法	実験レポートで評価する。		
到達目標	植物の基本的細胞機能の解析に必要な実験法・実験技術を取得し、実験データを適切に解釈し、表現できること。		
授業時間外学習	実験テキストについて、当日までに研究背景、目的、実験手順の要点を実験ノートにまとめておくこと。実験終了時には、実験データを整理し、データの解釈を行い、実験ノートにまとめること。事前学習で不十分な点を、実験テキストと一緒に配布済の参考資料などで、補足し、レポート作成、発表の準備に繋げること。また、「安全の手引き」の内容は常に確認しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ルール

無断欠席しない。実験室を離れるときは、許可を得ること。実験を安全に行うために、服装に留意し、教員や実験助手の説明・講義や指示を守ること。。

植物生理学、植物生化学、植物細胞工学、分子生物学などを復習し、理解を深めておくこと。

授業スケジュール

1. 植物の組織培養実験法および解析法（1）
2. 植物の組織培養実験法および解析法（2）
3. 植物の組織培養実験法および解析法（3）
4. 植物の組織培養実験法および解析法（4）
5. 植物の組織培養実験法および解析法（5）
6. 光合成実験法および解析法（1）
7. 光合成実験法および解析法（2）
8. 光合成実験法および解析法（3）
9. 光合成実験法および解析法（4）
10. 光合成実験法および解析法（5）
11. 植物栄養代謝実験法および解析法（1）
12. 植物栄養代謝実験法および解析法（2）
13. 植物栄養代謝実験法および解析法（3）
14. 植物栄養代謝実験法および解析法（4）
15. 植物栄養代謝実験法および解析法（5）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★	−	★	−	★★

年度	2018	授業コード	J6019300A
科目名	分子生物学実験 …春第二期	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	バイオサイエンス分野の基本的な実験である生化学実験や遺伝子化学実験をおこなう．生体物質であるタンパク質の基本的な実験と酵素反応を解析する実験，および遺伝子である DNA の扱いと塩基配列解析実験と組み換え遺伝子の発現実験を通じて，種々の実験機器を扱う基本的な技術基盤を理解し，操作も習得し，基本技法の原理の理解を深め，タンパク質の性状，機能などの理解と DNA の性状，遺伝子の調節機能などを理解する．		
教材（教科書）	特定の教科書は指定しない． 実験指導書はプリントにして，開講時に配布する． 実験レポートの課題や発表会の課題は，実験進行に合わせて，案内する．		
教材（参考資料）	実験の理解を深める参考図書などは，実験実習時間内に案内するほか，バイオ環境館・図書室内に推薦参考図書を指定し，活用の利便性も図っている．		
教育方法	毎回の実験開始前にパワーポイントやビデオ教材などを用いて説明し、質問を受けた後に実験を行う。		
評価方法	必修の演習であり，全回出席しなければならない． 成績の評価は，以下に示す内容を考慮し，総合的に評価する． ・演習課題の達成度(70%) ・演習中の評価・実験ノートやレポートの課題の評価(15%) ・実験課題の発表会の発表(15%)		
到達目標	以下の 5 項目を重点的な達成目標とする． ・演習課題の理解・解決の達成 ・実験に必要な試薬濃度などの計算演習の習得と実験結果の整理法の把握 ・実験機器の操作手順と注意事項の把握 ・実験成果のプレゼン・スキルの習得 ・研究グループ内のコミュニケーションによる意思疎通の徹底		
授業時間外学習	配布された実験手順書を事前に読み，実験手順の概要などを実験ノートに整理して，実験当日の手順の操作や時間経過の計画をまとめること． さらに手順書に書かれている内容や課題を十分理解できない場合は，事前に下調べをしておくこと． なお、事前準備の後でも，疑問や不明なことがあれば，必ず実験開始前の質問タイムを利用して，質問内容を整理して教員に質問すること．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
バイオサイエンス分野で必要な専門実験実習について正しい基本を習得するものである．比較的長時間集中しなければ実験の進行が滞るので，過密なスケジュールにならないように，各自のタイムマネージメント（実験期間の体調自己管理も大切）も大切である． 実験レポート・課題演習・実験結果報告会も含めて，グループ内でメンバー間の円滑なコミュニケーションを図り，自己のスキルを磨いてほしい． 専門実験で身につけたスキルは，卒業研究や就活にも必要な基本的な能力を高めるものであることを確信して下さい．			
授業スケジュール			
1-2.　実験概要の全体説明と実験試薬などの準備、緩衝溶液の作成や濃度計算と滅菌方法			

3-4.　実験試料の取扱い・抽出操作・分離・分画の操作
5-6.　タンパク質の抽出と可溶化とタンパク質の定量
7-8.　タンパク質の分離，分画の基本操作
9-10.　タンパク質の分離，タンパク質のゲル濾過クロマトグラフィーによる分離
11-12.　タンパク質の分離，タンパク質のイオン交換クロマトグラフィーによる分離
13-14.　タンパク質の SDS-PAGE
15-16.　コンピテント細胞の作製と形質転換
17-18.　プラスミド DNA の抽出と調製と精製
19-20.　遺伝子断片の増幅とサブクローニング
21-22.　PCR の理解と活用
23-24.　組換えタンパク質の発現誘導と可溶化精製
25-26.　発現タンパク質の機能解析と純度検定
27-28.　実験成果の整理とグループ内検討
29-30.　実験結果の評価と相互に検討課題の発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	J60194001
科目名	地球科学演習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	地球科学は自然科学，特に物理学・化学などの分野を基礎として自然体系を構成する総合科学である。したがって，自然の総合的体系の精確な理解のためにはまず最初に物理・化学的概念とその手法の修得が必要となる。この演習では自然科学の体系の中で地球科学の基礎となる太陽放射，超高層，大気，気象，海洋などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税）		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	１．自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力を修得する。 ２．目的に応じた適切なデータ解析力を修得する。 ３．結果について考察する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学・演習，物理学・演習，地球科学を履修することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．太陽放射（１）：核融合 ２．太陽放射（２）：黒体放射 ３．太陽放射（３）：太陽定数 ４．超高層（１）：磁気圏 ５．超高層（２）：熱圏 ６．超高層（３）：中間圏 ７．大気（１）：成層圏 ８．大気（２）：対流圏 ９．大気（３）：大循環 10．気象（１）：気象現象 11．気象（２）：天気図 12．気象（３）：季節変化 13．海洋（１）：海水 14．海洋（２）：潮汐 15．海洋（３）：海流			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60195001
科目名	健康食品学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	高齢化社会を迎え，健康食品の効果，安全性，医薬品との関係など，健康食品をめぐる問題は多く，摂取の仕方によっては，人の健康に深刻な影響を与える。本講義では，食品学および栄養学などの基礎にたって，健康食品がもつ問題を多角的に分析し，正しい健康食品のあり方，適用法について理解する。また健康食品を中心とした食のリスクコミュニケーターとしての役割について考察する。なお，この科目は健康食品管理士認定試験の受験資格に必須であり，この講義中に認定試験のための事前準備も実施する。		
教材（教科書）	「新版 健康食品学」および「新版 問題解説集」一般社団法人日本食品安全協会　5,142 円/セット 上記教材は一般の書店で取り扱っていないため、下記のホームページを参考に、各自で購入するか、担当教員に相談して購入すること。特に健康食品管理士認定試験の受験を予定しているものは必ず購入すること。 http://www.ffcci.jp/publication/index1_2.html		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	パワーポイントやプリントを用いながら，講義法で行う。		
評価方法	小テスト(40%)，レポート(30%)，授業態度等の平常点(30%)を総合的に評価する。		
到達目標	１．健康食品管理士の資格取得を目標とする。 ２．健康食品について現状を正確に把握し，科学的知見に基づいて判断できる食のリスクコミュニケーターの素養も身につける。		
授業時間外学習	講義終了時に，次回の範囲を指定するので，テキストを熟読しておくこと。その範囲内の問題解説集も読んでおくこと。毎回の授業で行った小テストの復習を行うこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

健康食品管理士認定試験に合格することを目指して欲しい。そのためには，講義には必ず出席し，予習，復習を積極的に行い，疑問点があれば積極的に聞くようにすること。また，健康食品学で学んだ用語について，自分の言葉で表現できる能力を身につけること。

授業スケジュール

1. ガイダンス
2. 食のリスクコミュニケーターの役割
3. 健康食品総論（１）
4　健康食品総論（２）
5. 医薬品と健康食品の相互作用
6. 疾患と病態解析
7. 健康食品の関係法規
8. 中間試験
9. 健康食品各論（１）
10. 健康食品各論（２）
11. 健康食品をめぐる問題点
12. 食品の安全性
13. 食品の表示
14. 健康食品の品質管理
15. 健康食品学の講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J60196031
科目名	科学英語基礎Ⅰ -s1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「科学英語基礎Ⅰ」は、高校英語から科学英語への橋渡しの時期であるから、高校までの英語力を基礎に、自然科学論文を中心によく使われる英語表現、専門用語及び関連する文法について学習することにより、科学に関する英文の読解力．表現力を養うことを目標とする。		
教材（教科書）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考資料）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教育方法	パワーポイントや CD などを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	試験（80%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
授業スケジュール			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2.〜7.　名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学修し、文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Were have all the forest gone?」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 8.　中間テストをする。 9.〜15.　動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習し、 文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Dust in the wind」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	J60196032
科目名	科学英語基礎Ⅰ -G	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
授業概要	生化学をはじめとして学術研究を行う者にとって英語研究論文を読んで理解することは必須である。特に、バイオサイエンスを学ぶ際には、生化学をはじめ、医学・農学・薬学に関する英語研究論文を読解、あるいは作成するための基礎力を育成するため、今までの日常英語表現しか学んでいない学生にとって科学英語を学ぶことは必要不可欠である。従って、この講義においては基礎的な科学英語に取り組み、聞き取や表現方法について学習する。		
教材（教科書）	基礎科学英語「1 A」第 3 版 2013　イメックスジャパン(株)		
教材（参考資料）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典　改訂第 3 版（羊土社)、英和辞書		
教育方法	・教科書に従い講義を進めるが、英語での読み合わせと和訳を行い内容について理解を深める。 ・別添の CD で発音等、指導する。 ・また、発表する部分では教科書の内容を補完するような資料を準備する。		
評価方法	中間試験(30%)、期末試験(50%)、宿題(20%)		
到達目標	科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるよう基礎学力をつける。最終的に原著論文を通読できる英語理解力を身につける。		
授業時間外学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず読み込んでおき理解しておくこと。 ・セクションごとに課題を設定するので復習し覚えておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・必ず予習をしてくること。
・使用する教科書は、単に英語を学ぶだけでは無く、生物学から、化学、物理学についても英語を学ぶために書かれており、広い知識が要求される。従って、英語だけでは無く基礎的な知識の整理も行う。
・最終的には、学術論文を読解する能力だけでなく、実際に書く能力も身につけられるように努力し、忍耐力を持ってあきらめずに理解できるまで自学自習の意思を持って受講する。
・受講生の学習環境を阻害するような私語、食事は禁止する

授業スケジュール

1. ガイダンス（受講の心構えと勉強法）
2、3. 科学英語と一般英語の違い
4、5. 単位、数値、分数、小数点、時期、期間、日付など
6、7. 計上、大きさ、寸法など
8. 中間試験
9、10. 数学的な表現、公式、変数、公式の作成表現
11、12. 周期表、化学物質の化学分子式と名称の基礎
13、14、15. 実験用具、器具の名称と使用法など

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J60196033
科目名	科学英語基礎Ⅰ -s2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
授業概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「科学英語基礎Ⅰ」は、高校英語から科学英語への橋渡しの時期であるから、高校までの英語力を基礎に、自然科学論文を中心によく使われる英語表現、専門用語及び関連する文法について学習することにより、科学に関する英文の読解力．表現力を養うことを目標とする。		
教材（教科書）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考資料）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教育方法	パワーポイントや CD などを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	試験（80%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
授業スケジュール			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2.〜7.　名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学修し、文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Were have all the forest gone?」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 8.　中間テストをする。 9.〜15.　動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習し、 文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Dust in the wind」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	J60196034
科目名	科学英語基礎Ⅰ -k1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
授業スケジュール			
１．英文・和文基礎演習 ２．可算名詞・不可算名詞演習 ３．自動詞・他動詞・人称代名詞演習 ４．第１文型・第３文型演習 ５．形容詞演習 ６．第２文型演習 ７．第４文型・第５文型演習 ８．総合演習（１）：英文・和文基礎～第４文型・第５文型 ９．副詞演習 10．形容詞・副詞の比較級・最上級演習 11．前置詞演習 12．助動詞演習 13．動詞の時制演習 14．受動態演習 15．総合演習（２）：副詞～受動態			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	J60196035
科目名	科学英語基礎Ⅰ -k2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
授業スケジュール			
１．英文・和文基礎演習 ２．可算名詞・不可算名詞演習 ３．自動詞・他動詞・人称代名詞演習 ４．第１文型・第３文型演習 ５．形容詞演習 ６．第２文型演習 ７．第４文型・第５文型演習 ８．総合演習（１）：英文・和文基礎～第４文型・第５文型 ９．副詞演習 10．形容詞・副詞の比較級・最上級演習 11．前置詞演習 12．助動詞演習 13．動詞の時制演習 14．受動態演習 15．総合演習（２）：副詞～受動態			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	J60196036
科目名	科学英語基礎Ⅰ -s(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「科学英語基礎Ⅰ」は、高校英語から科学英語への橋渡しの時期であるから、高校までの英語力を基礎に、自然科学論文を中心によく使われる英語表現、専門用語及び関連する文法について学習することにより、科学に関する英文の読解力．表現力を養うことを目標とする。		
教材（教科書）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考資料）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教育方法	パワーポイントや CD などを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	試験（80%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
授業スケジュール			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2.〜7.　名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学修し、文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の 「Were have all the forest gone?」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 8.　中間テストをする。 9.〜15.　動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習し、 文章構成の理解を深めながら、「The Earth and Our Health」の「Dust in the wind」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	J60196037
科目名	科学英語基礎Ⅰ -k(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
授業スケジュール			
１．英文・和文基礎演習 ２．可算名詞・不可算名詞演習 ３．自動詞・他動詞・人称代名詞演習 ４．第１文型・第３文型演習 ５．形容詞演習 ６．第２文型演習 ７．第４文型・第５文型演習 ８．総合演習（１）：英文・和文基礎～第４文型・第５文型 ９．副詞演習 10．形容詞・副詞の比較級・最上級演習 11．前置詞演習 12．助動詞演習 13．動詞の時制演習 14．受動態演習 15．総合演習（２）：副詞～受動態			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	J60197031
科目名	科学英語基礎Ⅱ -s1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	「科学英語基礎Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語基礎Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（教科書）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考資料）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教育方法	パワーポイントや CD などを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	試験（80%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
授業スケジュール			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2.〜8.　動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習するとともに、「The Earth and Our Health」の 「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 9.　　中間テストをする。 10.〜15.「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と 「Stress and illness」の講読を通して、 科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	J60197032
科目名	科学英語基礎Ⅱ -G	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
授業概要	生化学をはじめとして学術研究を行う者にとって英語研究論文を読んで理解することは必須である。特に、バイオサイエンスを学ぶ際には、生化学をはじめ、医学・農学・薬学に関する英語研究論文を読解、あるいは作成するための基礎力を育成するため、今までの日常英語表現しか学んでいない学生にとって科学英語を学ぶことは必要不可欠である。従って、この講義においては基礎的な科学英語に取り組み、聞き取や表現方法について学習する。		
教材（教科書）	基礎科学英語「１A」第３版 2013　イメックスジャパン(株)		
教材（参考資料）	ライフサイエンス必須英和・和英辞典　改訂第３版（羊土社)、英和辞書		
教育方法	・教科書に従い講義を進めるが、英語での読み合わせと和訳を行い内容について理解を深める。 ・別添の CD で発音等、指導する。 ・また、発表する部分では教科書の内容を補完するような資料を準備する。		
評価方法	中間試験(30%)、期末試験(50%)、宿題(20%)		
到達目標	科学英文や科学的専門用語に慣れ、さらに高度な英文の専門書や論文を講読し、内容を理解できるよう基礎学力をつける。最終的に原著論文を通読できる英語理解力を身につける。		
授業時間外学習	・講義前には指定された範囲の英文を必ず読み込んでおき理解しておくこと。 ・セクションごとに課題を設定するので復習し覚えておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・必ず予習をしてくること。
・使用する教科書は、単に英語を学ぶだけでは無く、生物学から、化学、物理学についても英語を学ぶために書かれており、広い知識が要求される。従って、英語だけでは無く基礎的な知識の整理も行う。
・最終的には、学術論文を読解する能力だけでなく、実際に書く能力も身につけられるように努力し、忍耐力を持ってあきらめずに理解できるまで自学自習の意思を持って受講する。
・受講生の学習環境を阻害するような私語、食事は禁止する

授業スケジュール

1. ガイダンス（受講の心構えと勉強法）
2、3. 科学英語と一般英語の違い
4、5. 単位、数値、分数、小数点、時期、期間、日付など
6、7. 計上、大きさ、寸法など
8. 中間試験
9、10. 数学的な表現、公式、変数、公式の作成表現
11、12. 周期表、化学物質の化学分子式と名称の基礎
13、14、15. 実験用具、器具の名称と使用法など

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J60197033
科目名	科学英語基礎Ⅱ -s2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
授業概要	「科学英語基礎Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語基礎Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（教科書）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考資料）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教育方法	パワーポイントや CD などを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	試験（80%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
授業スケジュール			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2.〜8.　動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習するとともに、「The Earth and Our Health」の 「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 9.　　中間テストをする。 10.〜15.「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と 「Stress and illness」の講読を通して、 科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	J60197034
科目名	科学英語基礎Ⅱ -k1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語　Ⅰ・科学英語基礎　Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

授業スケジュール

1．基本英語演習
2．疑問詞・特殊疑問文演習
3．一般・選択・付加疑問文演習
4．命令文・特殊な文演習
5．否定文演習
6．動名詞・不定詞演習
7．分詞・不定詞基本演習
8．総合演習（1）：基本英語～分詞・不定詞基本
9．品詞・句・節演習
10．目的語をとる分詞句演習
11．目的語をとる不定詞句演習
12．使役動詞と原型不定詞演習
13．知覚動詞演習
14．等位接続詞演習
15．総合演習（2）：品詞・句・節～等位接続詞

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	J60197035
科目名	科学英語基礎Ⅱ -k2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語　Ⅰ・科学英語基礎　Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

授業スケジュール

1．基本英語演習
2．疑問詞・特殊疑問文演習
3．一般・選択・付加疑問文演習
4．命令文・特殊な文演習
5．否定文演習
6．動名詞・不定詞演習
7．分詞・不定詞基本演習
8．総合演習（1）：基本英語～分詞・不定詞基本
9．品詞・句・節演習
10．目的語をとる分詞句演習
11．目的語をとる不定詞句演習
12．使役動詞と原型不定詞演習
13．知覚動詞演習
14．等位接続詞演習
15．総合演習（2）：品詞・句・節～等位接続詞

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	J60197036
科目名	科学英語基礎Ⅱ -s(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	「科学英語基礎Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「科学英語基礎Ⅱ」では、自然科学分野で多用される専門用語の理解を深めながら、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、科学に関する英文の読解力をつける。		
教材（教科書）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。		
教材（参考資料）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教育方法	パワーポイントや CD などを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	試験（80%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
授業スケジュール			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2.〜8.　動詞、不定詞、動名詞、分詞などについて学習するとともに、「The Earth and Our Health」の 「How sleep help learning」と「Walking your way to a better health」の講読を通して、科学英語の読解力を高める。 9.　　中間テストをする。 10.〜15.「The Earth and Our Health」の「An unhealthy choice: smoking」と 「Stress and illness」の講読を通して、 科学英語の読解力を高める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	J60197037
科目名	科学英語基礎Ⅱ -k(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語　Ⅰ・科学英語基礎　Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに演習する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
授業スケジュール			
１．基本英語演習 ２．疑問詞・特殊疑問文演習 ３．一般・選択・付加疑問文演習 ４．命令文・特殊な文演習 ５．否定文演習 ６．動名詞・不定詞演習 ７．分詞・不定詞基本演習 ８．総合演習（１）：基本英語～分詞・不定詞基本 ９．品詞・句・節演習 10．目的語をとる分詞句演習 11．目的語をとる不定詞句演習 12．使役動詞と原型不定詞演習 13．知覚動詞演習 14．等位接続詞演習 15．総合演習（２）：品詞・句・節～等位接続詞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	J6019800A
科目名	ランドスケープエコロジー実習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	ランドスケープエコロジーの理論を応用しながら、GIS で空間分析を行い、課題解決のための主題図を作成する。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	ArcGIS for Desktop 逆引きガイド（ESRI ジャパン） ArcGIS ワークブック		
教育方法	演習や課題を通して実践的な分析能力を修得する。		
評価方法	課題レポート（100%）により評価する。		
到達目標	基本的な GIS 操作技術を身につけ、意図した主題図をつくることができる。		
授業時間外学習	講義では GIS だけでなく、Excel 等による表計算など基本的な IT スキルが必要となるため、事前に身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
GIS はあくまでも道具であるため、 ランドスケープエコロジーなど生態学に関する基本的な知識があって活かせることを念頭に各講義を復習しておくこと。			
授業スケジュール			
1.GIS の基本操作 2.GIS の基本操作 3.GIS の基本操作 4.空間解析の練習 5.空間解析の練習 6.空間解析の練習 7.課題設定 8.データ作成 9.データ作成 10.分析 11.分析 12.課題レポート作成 13.課題レポート作成 14.課題レポート発表 15.課題レポート発表 注）進行状況等により適宜変更することがある。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	−	★	★

年度	2018	授業コード	J60199001
科目名	ランドスケープデザイン	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	阿野　晃秀	旧科目名称	
授業概要	ランドスケープ＝地域の景観は「人と自然の共同作品」である。地球上の多様で美しい都市・農村景観は、自然の作用と人間の作用が絶妙なバランスと保つことで形づくられてきた。景観を注意深く観察することで、自然の論理とそれに対応してきた人間の社会・文化の論理（なぜ今の様な景観が生まれたのか）を読み解くことができる。また一方で、審美的な関心のために土地を改変する唯一の生物が人であるとも言われており、ランドスケープの形成には、論理的・機能的な側面に加えて、「美」を扱う応用芸術的側面もある。 地球環境危機に対して人間社会が自然共生型社会への転換を迫られている今日、自然の論理に逆らうことなく賢く対応する土地利用（プランニング・デザイン・マネジメント）が強く求められている。この講義では、庭園・公園・緑地・広場・まちづくりなどに対する具体的な提案によって、社会の抱える多様な課題を総合的・同時的に解決へと導き、美しく豊かな景観を形成することを目指す「ランドスケープ・アーキテクチャー」の世界を紹介する。		
教材（教科書）	森本幸裕 編著 『景観の生態史観 -撹乱が再生する豊かな大地-』 京都通信社 2,100 円		
教材（参考資料）	日本造園学会 HP {http://www.jila-zouen.org} 日本景観生態学会公式ブログ {http://jale.sblo.jp} 森本幸裕・白幡洋三郎 編著 『環境デザイン学：ランドスケープの保全と創造』 朝倉書店 5,200 円 佐々木葉二ら著 『ランドスケープの近代』 鹿島出版会 2,800 円 武田史郎ら著 『テキスト ランドスケープデザインの歴史』 学芸出版社 3,200 円 グリーンインフラ研究会 編 『決定版！ グリーンインフラ』 日経 BP 社 3,200 円		
教育方法	パワーポイントを活用しながら講義法により行う。		
評価方法	小テスト・ミニレポート（40%） 期末課題レポート(60%)		
到達目標	身近な公園・庭園から、街、国土まで多様なスケールの景観の成り立ちや設計意図を読み取ることができるようになる。加えて、景観の抱える課題に対して多様な解決策（デザイン）のイメージを抱けるようになる。		
授業時間外学習	日常生活や旅行先で公園、庭園、広場、緑地を訪れたり、街歩きや山歩きなどを楽しみ、多くの景観を体験して下さい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
「ランドスケープデザイン実習」の受講を考えている学生は受講を推奨。 造園、緑化などランドスケープ関係への進学・就学、および、ランドスケープデザイン研究室への分属を考えている学生は受講を推奨。			
授業スケジュール			
１．導入：ランドスケープデザインとは？ ２．歴史１：庭から公園へ（世界編） ３．歴史２：庭から公園へ（日本編） ４．歴史３：ランドスケープデザイン・プランニングの近代 ５．エコロジーとランドスケーププランニング・デザイン・マネジメント１： 国立公園・ハルプリン・イアンマクハーグなど ６．エコロジーとランドスケーププランニング・デザイン・マネジメント２：生物多様性の緑化デザイン ７． インクルーシブデザイン：こどものあそび環境・ユニバーサルデザイン ８．コミュニティデザイン ９．アートとランドスケープ １０．風景・文化としてのランドスケープ １１．まちづくりと地球環境問題 １２．まちづくりと景観			

１３．まちづくりとにぎわい １４．グリーンインフラストラクチャー１：G.I.とは・雨庭など １５．グリーンインフラストラクチャー２：これからの期待と課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	J60200001
科目名	物理化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Chemistry		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	物理化学は物質科学の分野の中で，理論を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，物質科学の精確な理解のためにはまず最初に物理化学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では物理化学の体系の中で物質科学の基礎となる量子，熱現象，反応速度などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	築山　光一　他　編　『ベーシックマスター　物理化学』　オーム社（４，３００円＋税）		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税）		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	テスト（１００％）		
到達目標	１．物理化学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力を修得する。 ２．目的に応じた適切なデータ解析力を修得する。 ３．結果について考察する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学・演習，物理学・演習・実験，地球科学・演習・実験，環境物理学・演習・実験，環境地球科学・演習・実験を履修することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．量子論（１）：量子力学 ２．量子論（２）：水素原子 ３．量子論（３）：水素分子 ４．量子論（４）：化学結合 ５．量子論（５）：分子構造 ６．化学熱力学（１）：熱力学法則 ７．化学熱力学（２）：化学ポテンシャル ８．化学熱力学（３）：化学平衡 ９．化学熱力学（４）：溶液 10．化学熱力学（５）：微視系 11．速度論（１）：気体分子運動論 12．速度論（２）：速度式 13．速度論（３）：反応機構 14．速度論（４）：固体表面 15．速度論（５）：微視系			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J6020100A
科目名	実践プロジェクトB -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	地域の農業経営者や食品企業などが抱える現実に存在する問題や仮想の問題、あるいはまだ顕在化していないがいずれ問題となると思われる事柄について、問題を深く理解したうえで解決策を考える。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	数名からなるグループを形成し、バイオサイエンスに関わる課題を自ら発見・設定し、グループ内、グループ間、グループ外とのコミュニケーションをとりながら、調査・研究活動を主体的に実施し、活動の成果をとりまとめ、発表する。その中で、現実社会の様々な問題を理解し「対案を提起する力」を「コミュニケーション力」とともに実践的に養う。		
評価方法	グループ発表の成果(70%)に、個々の学生に課すレポート(30%)を加味して評価する。		
到達目標	課題を発見し、問題点を絞り込み、主体的に調査・研究、必要に応じて実験を行い、調査研究結果を取りまとめ、発表する基礎力を養う。		
授業時間外学習	バイオサイエンス分野だけでなく、社会一般の出来事や問題について日常的に考える習慣を養っておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学生各自が自発的主体的に取り組むことが不可欠である。

授業スケジュール

1. ガイダンス
2. モデルケースでの問題解決プロセスの習得１　グループ作り
3. モデルケースでの問題解決プロセスの習得２　課題の解決プロセスの策定
4. モデルケースでの問題解決プロセスの習得３　情報の活用
5. モデルケースでの問題解決プロセスの習得４　内容のまとめ方
6. プロジェクト課題の提案と討議
7. プロジェクト課題についての絞り込み
8. 調査・研究・情報交換
9. 調査・研究・情報交換
10. 中間発表会(1)
11. 中間発表会(2)
12. 追加調査・研究・情報交換
13. 追加調査・研究・情報交換
14. 発表会(1)
15. 発表会(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	J6020100B
科目名	実践プロジェクトB -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	自然環境や公園緑地関連行政、NPO、教育研究機関、およびこれら多様なセクターの協議会と連絡をとり、生物多様性とその恵みの保全および再生と普及啓発活動に協働参画する。成果はグループごとに取りまとめて発表する。		
教材（教科書）	特になし。テーマに応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	特になし。テーマに応じて資料を配布する。		
教育方法	グループワークにより協同して課題をまとめる力を身につける。		
評価方法	グループワーク、学外者との協働状況、活動の内容とともに、個人の意欲、創造性、協調性、誠実さ、実行力などを総合評価する。		
到達目標	グループワークを通して自然環境や公園緑地の課題の一端を理解し、実効性のある対応が企画できるようになる。		
授業時間外学習	社会的に注目されている環境問題などに関心を持ち、新聞記事などを通じて理解を深めておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教員や協働する学外者とともに、グループ内でも、報告、連絡、相談、を密に行い、問題意識と情報の共有を図ってください。			
授業スケジュール			
１：オリエンテーション ２－５：現場研修 ６－９：企画検討 １０－１３：実施） １４－１５：まとめと発表 ＊進行状況および選択するプロジェクトによって、相談の上、予定を変更することもある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J6020100C
科目名	実践プロジェクトB -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	地域や企業等が抱える現実に存在する問題点や仮想の問題点に対し、その解決をどのように目指すのかを考える。あるいはまだ顕在化していないがいずれ問題となると思われる点の抽出を行う。具体的には、実地調査や資料調査、その解析、ディスカッションを行い、問題解決の力を実践的に身に付ける。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	各自、チームに分けてグループワークを行う。1 回目のグループワークは「龍尾祭に出店する」というテーマで出店内容、店名、事業計画、意義などを議論して発表する。うまくいけば出店も可能。2 回目は各自がテーマを決めて、調査や研究あるいはものづくりなどを実施、その意義も含めて発表する。学部全体でポスター発表を実施する。		
評価方法	授業への取り組む姿勢 80% 成果発表 20%		
到達目標	1．正しい情報を集めることができる。 2．情報をもとにして、課題取組の計画を立てることができる。 3．チームで協力して物事に取り組むことができる。 4．チームで取り組みの内容をまとめることができる。		
授業時間外学習	日常生活の中から課題を見つける。グループ内で決められた仕事を次の時間までに完成させる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
グループのメンバーとしての責任を持って積極的に参加し、協力する。			
授業スケジュール			
1ガイダンス 2モデルケースでの問題解決プロセスの習得1　グループ作り 3モデルケースでの問題解決プロセスの習得2　課題の解決プロセスの策定 4モデルケースでの問題解決プロセスの習得3　情報の活用 5モデルケースでの問題解決プロセスの習得4　内容のまとめ方 6課題決定 7情報収集 8計画立案 9調査1 10調査2 11調査3 12内容のまとめ 13発表原稿作成 14発表会1 15発表会2			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	−	−	★	−

年度	2018	授業コード	J6020101B
科目名	実践プロジェクトB -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	自分の身の回りの環境を見つめ、調査を行って問題点を抽出し、解決策を考え、その内容をとりまとめて口頭およびポスターで発表する。この授業を通じて、課題発見・解決力、論理的思考力、批判的思考力を養う。また、調査・発表・討議を行うことで、コミュニケーション能力を高める。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	環境に係わる問題を自分で見つけだして調査した結果を授業で発表し、他の学生と討議して、さらに調査を行うことで、問題点を的確に把握したうえで、解決策を考える。そして、解決策について授業で発表し、他の学生と討議して、よりよい策に仕上げていく。問題点と解決策をポスターにまとめ、その内容を提示して、全員で討議する。		
評価方法	取材内容（50%）、発表（50%）		
到達目標	1．身近なところでの生活上の問題点を発見することができる。 2．問題点の解決方法を論理的に考えることができる。 3．自分の考えを的確に人に伝えることができる。		
授業時間外学習	書籍やインターネットで環境問題を調べ、また問題が発生している現地へ行って調べることで問題点を把握し、そして解決策を考える。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
川、海、湖などや、上下水道など、水に関するニュースを日ごろから読んでおくこと。複数の学生で１つのテーマに取り組む場合は、全体で意見を出し合ってまとめる。一部の人だけの作業にならないように、役割分担を明確にし、誰がどの部分にかかわったかわかるようにすること。			
授業スケジュール			
１．授業の概要説明 ２―４．新聞記事を題材にして、内容の要約と、内容の紹介を１人ずつ行い、調査と発表の基礎技術を学ぶ ５．ポスター発表のテーマを決める。 6-7．調査を行い、問題点を把握し、解決策を考える。 ８．問題点と解決策を文書にまとめて発表する。 ９．追加の調査を行う。 １０．ポスターの原案を作って発表し討議する。 １１．ポスターの修正や追加の調査を行う。 １２．ポスター修正案を発表し、完成に近づける。 １３．ポスターを完成させる。 １４．ポスター発表の練習をし、説明技術を向上させる。 １５．多くの学生や教員を前にポスター発表をする。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	J6020102B
科目名	実践プロジェクトB -k3	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	大学近辺でのボランティア活動を中心としたフィールドワークに参加し、参加体験をレポートを提出し、最後に総合的なグループディスカッションを経て、B1 パネルとして結果を取りまとめる		
教材（教科書）	必要に応じて地図や冊子を配布する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	数名のグループに分け、各グループでテーマを持ったフィールドワークを実施し、その成果をグループ内でのディスカッションとパネル作成によってまとめる		
評価方法	ここのフィールドワークのレポートと最後の総合討論など、積極的な参加の程度を判定、評価する		
到達目標	実際に現場を歩いて、現場から問題点や特徴抽出ができる、また、気づいたことや意見をグループの中で発言ができる		
授業時間外学習	ある程度の山道で距離のある区間を歩けるように準備を整えておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

実際のフィールドワークではリュックサック、靴、帽子など、山歩き、街歩きなどの道具を準備しておくこと

授業スケジュール

フィールドワークに参加し、現場での体験を元に
課題をすくいとり、グループディスカッションにより課題解決の方法や
地域の魅力発信の方法などについて学ぶ

昨年の 2017 フィールワークは
綾部市古屋集落でのボランティア活動を対象として
以下のように 3 回に分けて実施した

6 月　トチノキの実からトチモチ作り
7 月　トチノキの鹿よけネットの補修
7 月　トチノキの生育調査（毎木調査）

今年度も古屋での活動を計画しているが、詳細に関しては講義の最初に説明する

講義の順序は以下のとおり

1. 講義の概要説明
2. フィールドワークの選定
3. グループ分けと地域概要把握
4. 地域概要の発表
5. 調査計画の作成
6. 調査計画の発表
7. フィールドワークの実施
8. フィールどワークの実施
9. フィールドワークのまとめ
10. フィールドワークのまとめの発表
11. 追加資料の収集整理
12. パネルの作成準備
13. パネルの作成
14. パネルの講評
15. 全体のフィードバック

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J602010BB
科目名	実践プロジェクトB -k	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	自然環境や公園緑地関連行政、NPO、教育研究機関、およびこれら多様なセクターの協議会と連絡をとり、生物多様性とその恵みの保全および再生と普及啓発活動に協働参画する。成果はグループごとに取りまとめて発表する。		
教材（教科書）	特になし。テーマに応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	特になし。テーマに応じて資料を配布する。		
教育方法	グループワークにより協同して課題をまとめる力を身につける。		
評価方法	グループワーク、学外者との協働状況、活動の内容とともに、個人の意欲、創造性、協調性、誠実さ、実行力などを総合評価する。		
到達目標	グループワークを通して自然環境や公園緑地の課題の一端を理解し、実効性のある対応が企画できるようになる。		
授業時間外学習	社会的に注目されている環境問題などに関心を持ち、新聞記事などを通じて理解を深めておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教員や協働する学外者とともに、グループ内でも、報告、連絡、相談、を密に行い、問題意識と情報の共有を図ってください。			
授業スケジュール			
１：オリエンテーション ２－５：現場研修 ６－９：企画検討 １０－１３：実施） １４－１５：まとめと発表 ＊進行状況および選択するプロジェクトによって、相談の上、予定を変更することもある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J6020200A
科目名	実践プロジェクトC	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience C		
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
授業概要	地域おこしに関わる自治体や NPO,企業との連携を実践的に行うことを目的とする。内容については、原則として、企業や地元からの依頼を受けたものや実践プロジェクト B で自ら考案したものを発展させる。それぞれの目的のために少人数のグループを作り、自ら考え行動することによって、自己表現力や協調性、行動力、課題解決能力を養う。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義法の他に、ワークショップ、ブレインストーミング、フィールドワークなどを組み合わせて実施する。		
評価方法	チームへの参加程度（積極的に参加しているか：50%)、3 回以上の時間外の参加（30%)、発表会の準備と参加（20%）		
到達目標	1　行政や地域の研究所、企業との共同で、物づくりの企画や試行ができる。 2　あるいは、地域づくりのための問題点や課題を指摘することができる。		
授業時間外学習	ターゲットに対する技術調査、実験・実習法の理解、技術習得などをはかる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

チーム活動であるために、積極的な参加が第一優先。チームで完成させる思いを持って欲しい。

授業スケジュール

第 1 回： 計画づくり
第 2 回： 計画づくり
第 3 回： 計画づくり
第 4 回： 実習・実験・フィールド調査
第 5 回：実習・実験・フィールド調査
第 6 回：実習・実験・フィールド調査
第 7 回： 総括（打ち合わせ）
第 8 回：実習・実験・フィールド調査
第 9 回：実習・実験・フィールド調査
第 10 回：総括（打ち合わせ）
第 11 回：実習・実験・フィールド調査
第 12 回：実習・実験・フィールド調査
第 13 回：発表準備（まとめ）
第 14 回：発表準備（まとめ）
第 15 回：課題発表会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	J6020300A
科目名	実践プロジェクトD	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience D		
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
授業概要	地域おこしを目的とし、地域の食資源等を見直したり、あるいは新たに探索をして、創意工夫による新商品・サービスづくりを目標とする。あるいは、実践プロジェクト B や C の成果物について、地域おこしの視点でブラシュアップする活動を行う。 そのため、地元企業や自治体、NPO などと連携することにより、地域振興に関係する問題点や課題への認識を深め、それらを踏まえた成果物を作る。主体的な活動を基本として、チーム力を生かした課題解決能力、他組織との折衝力や調整能力を養う。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義法の他に、ワークショップ、ブレインストーミング、フィールドワークなどを組み合わせて実施する。		
評価方法	チームへの参加程度（積極的に参加しているか：50%）、3 回以上の時間外の参加（30%）、発表会の準備と参加（20%）		
到達目標	①学外の組織である自治体や自治会、NPO などと連携するため、折衝や調整ができる。 ②それらの組織や人材と地域おこしに関して、問題点や解決のための課題を提起できる。 ③それらの組織と連携して、現場の課題に応じた商品やサービスの企画・開発能力を身につける。		
授業時間外学習	ターゲットに対する技術調査、実験・実習法の理解、技術習得とともに、地域おこしの問題点把握の努力をする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
チーム活動であるために、積極的な参加が第一優先。チームで完成させる思いを持って欲しい。また、学外組織との連携を精力的に進めてほしい。			
授業スケジュール			
第 1 回： 計画づくり 第 2 回： 計画づくり 第 3 回： 計画づくり 第 4 回： 実習・実験・フィールド調査 第 5 回：実習・実験・フィールド調査 第 6 回：実習・実験・フィールド調査 第 7 回： 総括（打ち合わせ） 第 8 回：実習・実験・フィールド調査 第 9 回：実習・実験・フィールド調査 第 10 回：総括（打ち合わせ） 第 11 回：実習・実験・フィールド調査 第 12 回：実習・実験・フィールド調査 第 13 回：発表準備（まとめ） 第 14 回：発表準備（まとめ） 第 15 回：課題発表会			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	J6020400A
科目名	実践プロジェクトE	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience E		
担当者名	安達　修二	旧科目名称	
授業概要	食品開発や製造について，地域や社会が抱える具体的または仮想的な問題について，それらをどのように解決するかを考える．そのために，関連する資料の収集と解析，論点の整理について学び，解決法を議論する．それに基づいて解決策をまとめ，実践的な問題解決力を培う．		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	課題に取り組む姿勢 70%，成果発表 20%，報告書 10%		
到達目標	1．情報を収集し，整理する力を身に付ける． 2．課題を解決するための方策を立案できる． 3．グループで協調して進めることができる． 4．調査と議論に基づき，解決策を論理的にまとめることができる．		
授業時間外学習	新聞，テレビ，インターネットなどを通じて，食品に関連する話題に関心をもつ．グループで分担した項目は期限までに責任をもって成し遂げる．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
グループで問題の解決にあたるので，それぞれが分担した項目は責任をもってやり遂げる．また，グループ内の議論に積極的に参加し，アイデアを出し合う．			
授業スケジュール			
第 1 回　ガイダンス 第 2 回　例示した課題の説明とグループ編成 第 3 回　例示課題に対する取組み方の議論 第 4 回　例示課題に関連する情報の取得法 第 5 回　例示課題について取得した情報の整理 第 6 回　例示課題の解決策の提案 第 7 回　課題の提案とその説明 第 8 回　提案課題に関する情報収集 1 第 9 回　提案課題に関する情報収集 2 第 10 回　提案課題を解決するための計画 第 11 回　提案課題の解決に必要な調査 1 第 12 回　提案課題の解決に必要な調査 2 第 13 回　解決策のまとめ 第 14 回　成果発表会 1 第 15 回　成果発表会 2			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	−	★	−

年度	2018	授業コード	J6020500A
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ -s	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	「実践プロジェクト A」および「実践プロジェクト B」で得た、さまざまな経験や体験を踏まえ、数名からなるグループを形成し、バイオサイエンス関連産業に関連する課題を発見し、グループ内、グループ間、特に関連企業とのコミュニケーションを発展させながら、調査・研究活動を主体的に実施し、活動の成果をとりまとめ、発表会でスライドを用いて発表するとともに、ポスターまたはパンフレットとして発表する。そのような活動を通じ、人に伝える力、文章作成力、自己表現力を高める。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	2 名から数名のグループで、課題の設定、調査、実験、成果のとりまとめを自主的に行う。学生は、必要に応じて教員の指導や協力を求めることができる。		
評価方法	グループ発表の成果(30%)に、個々の学生に課すレポート(70%)を加味して評価する。		
到達目標	具体的な事象から、課題を発見し、主体的に調査・研究・実験を実施し、調査研究結果を取りまとめ、発表する基礎力を発展させる。		
授業時間外学習	実践プロジェクトで取り上げた課題だけでなく、社会一般の出来事や問題について日常的に考える習慣を身に着ける。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学生各自が自発的主体的に取り組むことが不可欠である。			
授業スケジュール			
1. ガイダンス 2. 課題発見　(学園大提携企業*からの問題提起) 3. プロジェクト課題の提案と討議 4. プロジェクト課題についての絞り込み 5. 調査・研究・情報交換 6. 調査・研究・情報交換 7. 調査・研究・情報交換 8. 中間発表会(1) 9. 追加調査・研究・情報交換 10. 追加調査・研究・情報交換 11. 追加調査・研究・情報交換 12. 追加調査・研究・情報交換 13. 追加調査・研究・情報交換 14. 追加調査・研究・情報交換 15. ポスター発表会(学部全体) 　中間発表会や発表会には、問題提起された提携企業関係者を招く			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	−	★	−

年度	2018	授業コード	J6020500B
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ -k1	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	実践プロジェクト B -k1 に引き続き、自然環境や公園緑地関連行政、NPO、教育研究機関、およびこれら多様なセクターの協議会と連絡をとり、生物多様性とその恵みの保全および再生と普及啓発活動に協働参画する。成果はグループごとに取りまとめて発表する。		
教材（教科書）	特に無し。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	特になし。テーマに応じて資料を配布する。		
教育方法	グループワークにより協同して課題をまとめる力を身につける。		
評価方法	グループワーク、学外者との協働状況、活動の内容とともに、個人の意欲、創造性、協調性、誠実さ、実行力などを総合評価する。		
到達目標	グループワークを通して自然環境や公園緑地の課題の一端を理解し、実効性のある対応が企画できるようになる。		
授業時間外学習	社会的に注目されている環境問題などに関心を持ち、新聞記事などを通じて理解を深めておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教員や協働する学外者とともに、グループ内でも、報告、連絡、相談、を密に行い、問題意識と情報の共有を図ってください。			
授業スケジュール			
１：オリエンテーション@教室 ２－５：現場研修 ６－９：企画検討 １０－１３：実施 １４－１５：まとめと発表@教室 ＊進行状況および選択するプロジェクトによって、相談の上、予定を変更することもある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J6020500C
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ -f	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	実践プロジェクトＡおよびＢで得た様々な体験、経験を踏まえて、自分の強みを理解する。また、さらに深く課題に取り組み、その成果をより洗練された報告書にするとともに、口頭で体験を伝える。これらの実践により、人に伝える力、文章作成力、自己表現力を高める。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	実践プロジェクトＢと同様に、グループに分かれて、各チームがテーマを決めて（実践プロジェクトＢの継続テーマも可)、調査や研究あるいはものづくりなどを実施、その意義も含めて発表する。半年間を通じてそのテーマを実施する。学部全体でポスター発表を実施する。		
評価方法	授業へ取り組む姿勢 50%　成果の発表およびその準備への貢献 50%		
到達目標	１．収集した情報から適切な結論が導ける。 ２．状況を考えながら、課題取組の計画の修正ができる。 ３．取り組みについて、人前で話すことができる。 ４．成果を発表することができる。 ５．成果を文章でまとめることができる。		
授業時間外学習	実践プロジェクトＢの結果を受けて、あらたな課題を見つける。次回の授業での作業内容を事前に考えておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
グループの一員として責任ある取り組みをする。 積極的に活動する。			
授業スケジュール			
1.　課題決定 2.　情報収集 3.　計画立案 4.　調査１ 5.　調査２ 6.　内容のまとめ１ 7.　中間報告会１ 8.　中間報告会２ 9.　計画の見直し 10.調査３ 11.調査４ 12.内容のまとめ２ 13.発表原稿作成 14.発表会１ 15.発表会２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	★	★	－

年度	2018	授業コード	J6020501B
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ -k2	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	実践プロジェクトＢで得た知識や体験を踏まえて、同じテーマについてその内容を深めるために、もしくは新たなテーマを立てて、調査を行い、解決策を考えて、その成果をとりまとめて、口頭ポスターで発表する。これらの実践により、人に伝える力、文章作成力、自己表現力を高める。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	環境に係わる問題を調査した結果を授業で発表し、他の学生と討議して、さらに調査を行うことで、問題点を的確に把握したうえで、解決策を考える。そして、解決策について授業で発表し、他の学生と討議して、よりよい策に仕上げていく。問題点と解決策をポスターにまとめ、その内容を提示して、全員で討議する。		
評価方法	調査内容（50%）、発表（50%）		
到達目標	１．身近なところでの生活上の問題点を発見することができる。 ２．問題点の解決方法を論理的に考えることができる。 ３．自分の考えを的確に人に伝えることができる。		
授業時間外学習	実践プロジェクト Ｂ で習ったことを十分に復習しておく。書籍やインターネットを通じて環境問題を調べ、また問題が発生している現地へ行って調べることで問題点を把握し、そして解決策を考える。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
複数の学生で１つのテーマに取り組む場合は、全体で意見を出し合ってまとめる。一部の人だけの作業にならないように、役割分担を明確にする。			
授業スケジュール			
１．授業の概要説明 ２―４．新聞記事を題材にして、内容の要約と、内容の紹介を１人ずつ行い、調査と発表の基礎技術を学ぶ。 ５．ポスター発表のテーマを決める。 ６-７．調査を行い、問題点を把握し、解決策を考える。 ８．問題点と解決策を文書にまとめて発表する。 ９．追加の調査を行う。 １０．ポスターの原案を作って発表し討議する。 １１．ポスターの修正や追加の調査を行う。 １２．ポスター修正案を発表し、完成に近づける。 １３．ポスターを完成させる。 １４．ポスター発表の練習をし、説明技術を向上させる。 １５．多くの学生や教員を前にポスター発表をする。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J6020502B
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ -k3	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	亀岡、京都の周辺で地域の自然、歴史、文化、風土を学ぶことができるフィールドワークを実施し、それぞれのレポートを提出し、最後に総合的なディスカッションで取りまとめる		
教材（教科書）	必要に応じて地図や冊子を配布する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	数名のグループに分け、各グループでテーマを持ったフィールドワークを実施し、その成果をグループ内でのディスカッションとパネル作成によってまとめる		
評価方法	ここのフィールドワークのレポートと最後の総合討論など、積極的な参加の程度を判定、評価する		
到達目標	実際に現場を歩いて、現場から問題点や特徴抽出ができる、また、気づいたことや意見をグループの中で発言できる		
授業時間外学習	ある程度の山道で距離のある区間を歩けるように準備を整えておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

リュックサック、靴、帽子など、山歩き、街歩きなどの道具を準備しておくこと

授業スケジュール

地域が抱える課題解決や魅力発見に向けたフィールドワークをグループごとに実施し、
学生目線でのグループディスカッションを行い、発表用パネル（B1 大）を作成する
2017 年度に実施した地域は以下の 4 地域であり、2018 年度に関しては講義の最初に
説明を行う。

1.鉄道廃線跡歩きの魅力を探る　愛宕山への愛宕鉄道（京都市）
2.近代化を支えた煉瓦工場跡を探る　ホフマン輪窯（近江八幡市）
3.保津川の船頭の集落を探る　亀岡の保津・山本集落（亀岡市）
4.京都の今昔写真ストーリーマップ（京都市）

講義の順序は以下のとおり
1. 講義の概要説明
2. フィールドワークの選定
3. グループ分けと地域概要把握
4. 地域概要の発表
5. 調査計画の作成
6. 調査計画の発表
7. フィールドワークの実施
8. フィールどワークの実施
9. フィールドワークのまとめ
10. フィールドワークのまとめの発表
11. 追加資料の収集整理
12. パネルの作成準備
13. パネルの作成
14. パネルの講評
15. 全体のフィードバック

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J602050BB
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ -k	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	実践プロジェクト B -k1 に引き続き、自然環境や公園緑地関連行政、NPO、教育研究機関、およびこれら多様なセクターの協議会と連絡をとり、生物多様性とその恵みの保全および再生と普及啓発活動に協働参画する。成果はグループごとに取りまとめて発表する。		
教材（教科書）	特に無し。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	特になし。テーマに応じて資料を配布する。		
教育方法	グループワークにより協同して課題をまとめる力を身につける。		
評価方法	グループワーク、学外者との協働状況、活動の内容とともに、個人の意欲、創造性、協調性、誠実さ、実行力などを総合評価する。		
到達目標	グループワークを通して自然環境や公園緑地の課題の一端を理解し、実効性のある対応が企画できるようになる。		
授業時間外学習	社会的に注目されている環境問題などに関心を持ち、新聞記事などを通じて理解を深めておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教員や協働する学外者とともに、グループ内でも、報告、連絡、相談、を密に行い、問題意識と情報の共有を図ってください。			
授業スケジュール			
１：オリエンテーション@教室 ２－５：現場研修 ６－９：企画検討 １０－１３：実施 １４－１５：まとめと発表@教室 ＊進行状況および選択するプロジェクトによって、相談の上、予定を変更することもある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J6020600A
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ -skf	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。自己分析・自己ＰＲの作成や面接対策等をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	講義による基礎知識の修得とあわせ実践練習により実力を養う。		
評価方法	指示する課題への取り組み状況(100%)。		
到達目標	・自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・自分のこれからを考え、その実現に向けて今すべき事を整理しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・各時間の課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・スケジュール管理をきちんとすること。

授業スケジュール

■講義
1．ウォーミングアップ１
2．ウォーミングアップ２
3．自己分析１
4．自己分析２
5．履歴書１
6．履歴書２
7．企業分析１
8．企業分析２
9．面接対策１
１０．面接対策２

■実践練習
1．ワークショップ
2．ワークショップ
3．面接対策
4．グループディスカッション（基礎）
5．グループディスカッション（応用）

講義と実践練習を適宜組み合わせながら進める。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	★	★	－

年度	2018	授業コード	J60207001
科目名	食文化論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	三吉　章雄	旧科目名称	
授業概要	南北に長く、地形の変化に富み、温暖湿潤気候である我が国では、豊かな森やそこで育まれた清らかな水が人々の生活を支えてきた。日々の生活や生業の積み重ねが食文化を生んだ。しかし、森や水、地域の食文化の価値は、ありふれたものとして軽視されてきた。さらに、戦後の急速な経済発展は、自然環境の破壊を促進した。 本講座では、我が国の和食文化を教材にして、森と人々が共存してきた知恵を理解すると共に、地域の自然環境や一次産業との相互関連について基礎的な理解を深める。さらにグローバル化する現代食文化と生活習慣病との関係を背景に、世界でも評価が高まる和食文化の価値について生物学的視点から考察する。		
教材（教科書）	農林水産省偏　和食；日本人の伝統的な食文化　標準テキスト www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/culture/attach/pdf/index-15.pdf		
教材（参考資料）	石毛直道『日本の食文化史』岩波書店 伏木亨『美味しさを科学する』筑摩書房 佐藤洋一郎『食の人類史』中公新書 大平万里『代謝が分かれば身体が分かる』光文社新書 奥田昌子『欧米人とはこんなに違った日本人の体質』講談社ブルーバックス		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）。授業中に課すレポート（70%）		
到達目標	現代社会における食生活の現状と生活習慣病との関係、和食文化の意義と森林環境保全の重要性について科学的観点から具体的に説明できる。		
授業時間外学習	各回の講義前に以下に掲げる項目について調べておくこと。 第 1 回　文化の定義、連環と連関のちがい 第 2 回　自然の定義、水源涵養の意味 第 3 回　動的平衡の意味、生命の定義 第 4 回　知恵と知識の違い 第 5 回　五味の種類、旨みの種類と発見者 第 6 回　タンパク質・脂肪・炭水化物の構造 第 7 回　森林土壌と耕地土壌の違い 第 8 回　飢饉の原因 第 9 回　一神教の種類とその関係 第 10 回　流通、グローバル経済、侵略的外来生物 第 11 回　生活習慣病の種類、体質、コホート分析 第 12 回　美味しさの要素、錯覚・錯視 第 13 回　おばんざい 第 14 回　年中行事、はれ、け 第 15 回　持続的社会、健康（WHO の定義）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。
2．トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい（体調が悪い場合は申し出ること）。
3．授業終了後は椅子を元に戻し、忘れ物がないか確認してから退出すること。
4．授業内容に関する疑問は、その場での質問が望ましい。質問内容によっては加点あり。
5．やむを得ず欠席した場合は翌週に理由を申し出れば、課題レポート提出で加点あり。
6．重要ポイントの記録や小テスト、各回の課題レポートをノートにまとめ、第 15 回目に提出すること。

授業スケジュール

第 1 回　「食文化論」の概説　　連環する森・里・海を活かした食文化

第 2 回	和食文化の基盤となる自然環境	森が涵養する水は食文化の源流
第 3 回	森と食に共通する動的平衡	生と死の同居が創る生命
第 4 回	和食文化の歴史	美食は権力の象徴、豊食は庶民の生きる知恵
第 5 回	日本人の味覚と嗜好	だしの旨みと家庭教育
第 6 回	栄養バランスの日本的特質	獣肉と魚肉
第 7 回	森林土壌と食生活に共通する課題	窒素や脂肪の飽和状態
第 8 回	農が産み出す飢餓・飢饉	農業 vs 森林
第 9 回	食のタブーと美食	集団を護るタブーと個人を魅了する美食の同居
第 10 回	食材流通の進化と課題	グローバル経済と侵略的外来生物の共通点
第 11 回	現代食文化と生活習慣病	日本人の体質に合った食文化
第 12 回	食文化を彩る要素	美味しさの秘密と錯覚の活用
第 13 回	京の食文化	京都の地理的特徴とおばんざいの役割
第 14 回	年中行事と食文化	「はれ」と「け」の復活と豊かな生き方
第 15 回	持続的社会の構築と食文化	心・身体・社会ーすべての健康を満たす食文化の条件

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J60208001
科目名	作物史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	作物は野生植物に改良が加えられて作られたものである．現在存在する作物に至る改良の過程を追いながら，自然と人間が作り出す作物の歴史と作物の多様性について学ぶ．また，伝播の過程や人間の利用形態の変遷とともに姿を変えてきた作物のいくつかを事例を通して，その歴史のみならず，今後の新たな作物誕生の可能性を考察する．		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	「栽培植物の自然史」　山口裕文･島本義也　編著　（北海道大学図書刊行会） 「品種改良の世界史　作物編」　鵜飼保雄・大澤良　編著　（悠書館）		
教育方法	板書中心に授業を行い，必要な事項は PowerPoint で表示する．データなどの資料を必要に応じて配付する．		
評価方法	授業の終わりに数回課す小レポート（50%）と 2 回の課題レポート（50%）で評価する．		
到達目標	1．農業の起源について説明できる． 2．作物育種の具体的なやり方の基礎について説明できる． 3．当たり前のようにして食べている穀物・野菜や果実の起源はどこにあったのか，どのような手法を用いて今の形になったかを説明できる．		
授業時間外学習	授業の終わりに課すミニレポートのテーマは，その日の授業で最も大切な項目であるとともに，次回の授業を理解するのに必要な事項である．従って，特にその点について復習をしてから次の授業に臨んでほしい．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

植物はヒトにとって有用になるようにその形態を変えたり，品質を変える非常に大きな潜在能力を持っている．この授業では具体的に色々な作物を取り上げてその変化について論じるので，これらの作物に関する基礎知識を興味を持ってあらかじめ得ておくようにしてほしい．

授業スケジュール

1．農耕の起源と植物改良の始まり
2．栽培植物の種と品種
3．栽培植物の起源地
4．栽培植物における自己認識システム（1）自家不和合性
5．栽培植物における自己認識システム（2）雄性不稔
6．１代雑種育種法
7．突然変異育種法 ／【 課題レポート作成①】
8．イネの起源　その１
9．イネの起源　その２
１０．コムギの起源　その１
１１．コムギの起源　その２
１２．トウモロコシとソバの起源
１３．アブラナ科野菜の起源
１４．トマト起源・ジャガイモの起源
１５．カボチャの起源／【課題レポート作成②】

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60209001
科目名	亀岡学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	古い歴史と独特な気候風土が融合した亀岡市およびその周辺地域には、農畜産業と農産物の加工の高い保有技術で京文化を支え、同時に亀岡固有の文化を育ててきた。この亀岡を地元と捉え、農商工産業や人口推移をデータとして把握、亀岡の歴史的、文化的、地質学的な背景を踏まえ、亀岡の短所・長所を理解する。同様も方法で各自の故郷の短所・長所を分析できるようにする。また、地域おこしの成功例や地元に根差ざす企業活動の紹介、起業の考え方などを理解して、各自に地元を見つめ直す一助とする。		
教材（教科書）	なし。適宜プリントを配布。		
教材（参考資料）	なし。		
教育方法	各講義はパワーポイントや印刷の資料などを用いる。自分の町の長所や短所は各自照査してそれを発表する。		
評価方法	レポート 5 回以上（50%）、調査課題提出（20%）、講義への積極的参加（20%）、受講態度など(10%)。		
到達目標	亀岡の食、農、歴史、文化を知ることによって、また農業、食産業や販売流通の経営者の講義、地域おこしの実践例の講義を受けることによって、亀岡で、また日本の各地域で地域おこしや農業経営、食産業の起業の考え方を知ることによって、地方創生の重要性を理解することができる。また自分が将来農業や食産業で起業する、あるいは地域おこしのリーダーや参画者になる気概を持つ。		
授業時間外学習	亀岡を市の HP などであらかじめ調査し、少なくとも 1 箇所は実地調査する。地方（自分の故郷の町でもよい）での地域おこしの例を調べる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

指定席とする。
私語、居眠り、スマホは厳禁。
自分が将来農業や食産業で起業する、あるいは地域おこしのリーダーや参画者になるつもりでしっかり受講する。

授業スケジュール

1. はじめに （亀岡学の意義）
2. 亀岡の農商工業の現状
3. 亀岡の歴史や民俗
4. 亀岡の農業環境（地質）
5. 亀岡の町の再生
6. 自分の町の長所と短所　（レポート発表）
7. 京野菜
8. 農業経営について（農業経営者に聴く）
9. 食産業経営について（食関連経営者に聴く）
10. 流通について（流通関係者に聴く）
11. 地域おこし実例 1
12. 地域おこし実例 2
13. 地域おこし実例 3
14. 日本での地域活性化活動
15. 調査課題発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J60210001
科目名	統計処理論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
授業概要	農業・食品業界における日常業務から得られる数値データの取り扱いに関して、Excel を用いた実践的な統計処理手法について学習する。		
教材（教科書）	配布資料		
教材（参考資料）	『身近な事例で学ぶ　やさしい統計学』 石村 光資朗 著 （オーム社） 『今すぐ使えるかんたん Excel 2016』　技術評論社編集部、AYURA 著　（技術評論社）		
教育方法	講義法とパソコン実習を組み合わせて行う。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	1.　統計処理の有用性を理解し、ビジネスの現場で実践的に活用できる力を身につける。 2.　食品開発者に求められる食品分析結果の統計処理技術を身に付ける。		
授業時間外学習	1.　Excel を使って授業を進めていくので、Excel の基本操作が出来ていることが望ましいが、授業の中でも適宜指導する。これまで受講した Excel の授業を復習しておくこと。 2.　日頃から、食品の機能性や安全性に関わるトピックに興味を持っておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1.　積み重ねの授業なので、全回出席すること。 2.　講義中に理解できなかったことは、図書館やインターネットなどで調べるなどして次回までに補っておくこと。			
授業スケジュール			
1.　オリエンテーション 2.　1 変数のグラフ 3.　1 変数の統計量 4.　2 変数のグラフ 5.　2 変数の統計量 6.　回帰分析 7.　データの要約 8.　離散確率分布 9.　連続確率分布 10.　母集団に対する統計的推定 11.　母集団に対する統計的検定（母平均） 12.　母集団に対する統計的検定（母比率） 13.　母集団に対する統計的検定（2 つの母集団の比較） 14.　数値積分法 15.　最適化分析			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	−	★

年度	2018	授業コード	J60211001
科目名	食農概論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	人間はその生存のためのエネルギーや栄養素の多くを栽培植物から得ている．植物の栽培－農業－は食の基本であり，農業を理解することはここの生存に深くかかわることである．また，食の生産と環境問題は切り離すことができないものである．さらに，安全でかつ健康に資する食の供給が要請されている．先人の農業への思いを渉猟しつつ，時代とともに変わりゆく食と農を撮ります環境について学び，考察する．		
教材（教科書）	特に定めない		
教材（参考資料）	必要に応じてプリントを配布する．		
教育方法	－		
評価方法	２回の課題レポート （各 40%）と小レポート （20%）で評価する．		
到達目標	1．我が国における農業の実態を理解し，食料生産にどのように関与しているのを説明できる． 2．食の生産と環境問題を理解するために，生産に係わるエネルギー収支について説明できる． 3．生産された食料の加工についても理解して説明できる． 4．これらの知識を基に，これからの食料生産について考察できる能力を持つ．		
授業時間外学習	講義内容は順を追って展開していくので，必ず復習をしてから次の授業に臨むこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
農と食についてはマスコミでも取り上げられることが多い．日頃からそのような問題に興味を持ち、自分なりの意見を持つようにしてほしい．			
授業スケジュール			
１．農業と食料生産の概要 ２．日本の農業と食料生産 ３．農業生産物の流通 ４．食料生産におけるエネルギー効率（1）畜産・作物 ５．食料生産におけるエネルギー効率（2）果樹･野菜 ６．とりまとめ～農業生産の基本についてのレポート作成 ７．農産物の加工（1）野菜と果実の取り扱いと保存 ８．農産物の加工（2）保存食品（ジャム、砂糖漬け、梅干し） ９．農産物の加工（3）漬物 10．農産物の加工（4）発酵食品（酒以外） 11．農産物の加工（5）酒類 12．とりまとめ～農産物加工に関するレポート作成 13．食の安全と農業生産 14．これからの食料生産（1）消費者の動向 15．これからの食料生産（2）新しい技術の導入　～食料生産の今後について考えるレポートの作成～			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60212001
科目名	食農基礎実験	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	食農分野の研究に不可欠な実験を遂行する技術を体得することを目的としている。生物実験や化学実験の基礎である、スケッチ技術、顕微鏡の取り扱い方、培養操作、一般ガラス器具類の取り扱い方、pH メーターや分光光度計などの汎用機器の取り扱い方およびデータ処理法を身に付ける。		
教材（教科書）	オリエンテーションで配布する実験書		
教材（参考資料）	飯田隆ら　編　『イラストで見る化学実験の基礎知識』　丸善　3000 円＋税 羽柴輝良・金浜耕基　編　『新農学実験マニュアル』　ソフトサイエンス社　6000 円＋税		
教育方法	全体を A，B2 班に分け、それぞれ異なる実験室を使用する。前半後半で実験室を移動する。各実験は内容により、2〜4 人の班に分かれて行う。 毎回実験終了後、実験ノートのチェックを受けてから終了となる。		
評価方法	実験ノート・レポート 60%　筆記テスト 30%　実技テスト 10%		
到達目標	実験のレポートを正しく書くことができる。 光学顕微鏡あるいは実体顕微鏡を使って組織を観察することができる。 微生物培養に必要な操作ができる。 定量容器の性質を理解し、検量線法を含む定量分析ができる。 統計用語を理解し、パソコンソフトなどを使ってデータの解析ができる。		
授業時間外学習	最初の授業時に購入した実験ノートに、事前に次回の実験について予習し、手順を書いておく。 ２回レポートが課されるので、実験ノートに書いた結果を見ながら期日までにレポートを仕上げる。 小テストは、実験書の基礎編や各実験項目の基礎的なところから出題するので、日ごろから復習をしておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．実験は協働で行うので他人任せにせずに、必ず参加する。
２．実験中は動きやすい服装をし、白衣を着用する。
３．基本的な操作を学ぶので、実験後も復習をしてすべて覚えるつもりで取り組む。

授業スケジュール

１．オリエンテーション（注意に関する説明など）
２．定量容器の使い方
A コース
３．実体顕微鏡観察　植物器官の観察と種子成分の検出
４．光学顕微鏡観察　植物組織、細胞の観察
５．統計解析１　作物の生育および収量調査方法
６．統計解析２　平均，分散，標準偏差，ヒストグラムの作成
７．定量分析 A Microsoft Excel を用いた検量線
８．グラフ作成法 パスタの吸水速度測定
B コース
９．微生物実験１ 滅菌・殺菌・消毒の方法の説明　培地の作製（試薬の秤量）
１０．微生物実験２ 無菌操作の説明・植菌
１１．微生物実験３ 微生物の観察（肉眼・顕微鏡）
１２．定性分析 濃度調製と pH 測定
１３．定量分析 B１ 滴定法　酸度の測定
１４．定量分析 B２ 希釈法、グラフによる検量線（紫外線吸収による硝酸態窒素の測定）
１５．筆記テスト・実技テスト
班によってはＢコース、Ａコースの順に行う。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	J60213001
科目名	作物栽培学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	栽培学は「農」の基本である．農作物の栽培に必要な基礎的な問題点を，作物の発育特性を中心に学ぶ．栽培の出発点である発芽の生理的変化を理解し，育苗技術の基礎を学ぶ．圃場での栽培における栽植密度の重要性についても知る．実際栽培における土壌管理と施肥技術は最も重要であることを理解して，肥料設計の基礎的知識を習得する．この講義の内容は３回生配当の「農業生産学」を履修に当たって必要な知識となる．		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	「栽培学 ―環境と持続的農業―」　森田茂紀 ・大門弘幸 編／阿部淳 編著　（朝倉書店） 「栽培学大要」江原　薫　著　（養賢堂）		
教育方法	板書中心に授業を行い，必要な事項は PowerPoint で表示する．データなどの資料を必要に応じて配付する．		
評価方法	数回授業の終わりに課すミニレポートによる平常点（30%），２回の課題レポート(70%)で評価する．		
到達目標	1．農業生産に関わる主要な栽培技術について説明できる． 2．栽培に当たっての土壌管理の基礎について説明できる． 3．栽培に当たっての施肥管理の基礎について説明できる．		
授業時間外学習	授業終了時にその日の講義に関するミニレポートを課す．次回の授業に必要な内容に関するテーマを設定するので，それを復習の目標点とすること．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
栽培については１回生時の作物栽培実習や京野菜栽培加工実習で実際に体験してきた．この授業ではその経験を基礎知識として持っていることを前提とするので，よく思い出してほしい．さらに，栽培に関する書物にも興味を持ってほしい．			
授業スケジュール			
１．作物生産の食糧供給における役割と実態 ２．作物栽培と栽培管理（1）播種と発芽生理 ３．作物栽培と栽培管理（2）播種技術 ４．作物栽培と栽培管理（3）育苗技術 ５．作物栽培と栽培管理（4）接木技術 ６．栽植密度と収量 ７．土壌管理（1）土壌の構造 ８．土壌管理（2）保水性 と排水性／【 課題レポート作成①】 ９．土壌管理（3）作物の吸水 １０．土壌管理（4）化学性 １１．土壌管理（5）耕起・マルチ・中耕 １２．施肥管理（1）施肥の歴史と原理 １３．施肥管理（2）肥料の種類　その１ １４．施肥管理（3）肥料の種類　その２ １５．肥料設計の実際とレポート作成②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J60214001
科目名	農業生産学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	２回生配当の作物栽培学においては作物の成育に関わる基礎的な知識を学んだ．本講義においてはまず食料生産としての農業生産を生産技術・生産性から考えてみる．全体像を理解した後，作物を花卉，果樹，穀類，野菜に分けて，それぞれの作物栽培の特徴・概要を講じる．また，各作物については執拗な品目について栽培技術の内容にもふれ，栽培に当たってより具体的なイメージを持てるようにする．		
教材（教科書）	特に定めない		
教材（参考資料）	「栽培学 ―環境と持続的農業―」　森田茂紀 ・大門弘幸 編／阿部淳 編著　（朝倉書店） 「栽培学大要」江原　薫　著　（養賢堂）		
教育方法	板書中心に授業を行い，必要な事項は PowerPoint で表示する．データなどの資料を必要に応じて配付する．		
評価方法	小レポートによる平常点の評価（30%），2 回の課題レポート(70%)		
到達目標	農業生産に関わる作物として多種多様な植物が用いられている．それらの栽培に当たって多くの技術が開発されている．これらの技術がどのように利用され，安心安全な食料生産を可能にし，人の生活を豊かにしているかについて理解する．		
授業時間外学習	授業終了時に講義に関する小レポートを数回課す．この賞レポートでは次回の授業に必要な内容に関するテーマを設定するので，それを復習の目標点とすること．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
栽培については１回生時の作物栽培実習や京野菜栽培加工実習で実際に体験してきた．さらに，２回生時の作物栽培学で栽培の基礎的部分を学んだ．この授業ではその経験と基礎知識を持っていることを前提とするので，よく思い出してほしい．さらに，栽培に関する書物にも興味を持ってほしい．			
授業スケジュール			
１．　農業生産の概観～人口問題と食糧生産 ２．　花卉生産 ３．　果樹生産（1）～概要と特徴 ４．　果樹生産（2）～日本における生産の動向 ５．　果樹生産（3）～栽培技術（挿し木繁殖・せん定） ６．　果樹生産（4）～リンゴとウンシュウミカン生産の実際 ７．　穀類の生産　　【課題レポート①】 ８．　水稲の生産（1）特徴と日本における生産 ９．　水稲の生産（2）栽培技術 １０．　コムギの栽培 １１．　野菜生産の特徴と概要 １２．　果菜類の栽培（1）トマト・ナス １３．　果菜類の栽培（2）ウリ類 １４．　根菜類の栽培　ダイコン・カブ １５．　葉茎菜の栽培　【課題レポート②】			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J60215001
科目名	遺伝育種学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
授業概要	農作物の生産力向上や高品質化には，作物の遺伝的改良が大きな役割を果たしており，その成果である優良品種の知識と育種技術の理解が不可欠である．そこで，作物育種の基礎となる遺伝学について，メンデル遺伝学から分子遺伝学について解説する．また，作物の起源，品種改良の歴史，育種の基礎原理と主要な農作物の育種法とその成果，最新の育種技術について解説する．		
教材（教科書）	西尾剛・吉村淳(編)（2012） 植物育種学　第４版，文永堂出版．4,800 円＋税 また，適時講義内容の電子ファイルを配布する．		
教材（参考資料）	サダヴァ D.他（著）　（2010）　カラー図解　アメリカ版大学生物学の教科書（1～3 巻），講談社． 福井希一・佐藤和広・向井康比己(著)　（2013）　植物の遺伝と育種 第２版，朝倉書店． 蓬原雄三（編著）(1993) 育種とバイオサイエンス　養賢堂．		
教育方法	パワーポイント等を用いて講義法で行う．予習や復習が出来るように，講義内容は事前にファイル閲覧できるようにする．		
評価方法	講義中の演習問題・小テストなどによる平常点（50%）及び定期試験の成績（50%）で評価する．		
到達目標	・農作物品種の遺伝的特性を理解するため，その基礎となるメンデル遺伝学や分子遺伝学の知識を習得する． ・農作物の起源，品種改良の歴史，農業における品種の意義や役割について学び，実際の育種技術や農作物品種の選定や利用技術を習得する． ・育種やバイオテクノロジーの最新技術とその問題点を学び，農業や食品産業において品種を有効利用する能力を養う．		
授業時間外学習	授業の進行に合わせて，教科書を予習をしておくこと．また，講義内容は事前にファイルで配布するので，予習をしておくこと．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

適時小テストや演習問題を行うので，講義内容を復習しておくこと．

授業スケジュール

１．オリエンテーション，細胞生物学，植物の生殖と遺伝
２．メンデルの遺伝法則，遺伝子型の分離，遺伝子の相互作用
３．細胞遺伝学，染色体と連鎖地図
４．分子遺伝学ー遺伝暗号と転写・翻訳，形質発現とその調節
５．分子遺伝学ーＤＮＡの複製，遺伝子の構造とゲノム
６．突然変異，集団遺伝学
７．作物の起源と伝播，品種改良の歴史
８．遺伝資源，生殖様式と育種法
９．自殖性作物の育種１（遺伝子型の分離，純系分離など）
１０．自殖性作物の育種２（交雑育種，戻し交雑育種など）
１１．他殖性作物の育種，雑種強勢を利用した育種
１２．ハイブリッド品種，栄養繁殖作物の育種，突然変異育種
１３．選抜技術と育種の効率化，品種の登録と普及
１４．ＤＮＡマーカーを利用した育種，量的形質の育種
１５．遺伝子組み換え，組織・細胞培養などによる育種

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60216001
科目名	作物保護学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
授業概要	病害虫や雑草などの生物的ストレスは，農業生産の大きな阻害要因であり，その防除のためには病害虫や雑草の生態や作物との相互関係を理解する必要がある．そこで，病害虫防除の基礎となる植物病原菌，害虫や雑草の種類や生態について解説し，各論として作物，野菜などの主要な病害虫に対する抵抗性と化学的・耕種的防除技術を紹介する．また，雑草の管理技術，温度，水や栄養塩類の過不足などの非生物的環境ストレスに対する農作物の耐性と環境ストレスを受けない栽培技術についても解説する．		
教材（教科書）	大串龍一（著）（2000）病害虫・雑草防除の基礎（農学基礎セミナー）農山漁村文化協会　1,543 円 また，適時講義内容の電子ファイルを配布する．		
教材（参考資料）	白石友紀他（著）（2014）新植物病理学概論，養賢堂. 日本雑草学会（編集）（2011）ちょっと知りたい雑草学，日本雑草学会 小山重郎（著）（2013）昆虫と害虫（害虫防除の歴史と社会），築地書館		
教育方法	パワーポイント等を用いて講義法で行う．予習や復習が出来るように，講義内容は事前にファイル閲覧できるようにする．		
評価方法	講義中の小テスト・レポートなどによる平常点（50%）及び定期試験の成績（50%）で評価する．		
到達目標	・病害虫や雑草防除の基礎となる，病害虫と雑草の生態や作物との相互関係を解析する力を身につける． ・農作物の生産安定と品質維持に不可欠な，病害虫に対する抵抗性や化学的・耕種的防除技術，雑草の種類と防除技術を習得する． ・環境ストレスに対する農作物の耐性と環境ストレスを受けない栽培技術を習得する．		
授業時間外学習	授業の進行に合わせて，教科書を予習をしておくこと．また，講義内容は事前にファイルで配布するので，予習をしておくこと．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

適時小テストやレポート提出を行うので，講義内容を復習しておくこと．

授業スケジュール

1．オリエンテーション，病害虫による被害とその防除の歴史
2．ウイルス病や細菌病の種類と特徴
3．菌類病の種類と特徴
4．線虫病，生理病の種類と特徴
5．植物病原菌の病原性と作物の抵抗性
6．植物病の伝染と診断
7．病害の防除と農薬
8．害虫の種類とその被害
9．作物の害虫とその防除
１０．野菜・果樹などの害虫とその防除
１１．雑草の種類とその被害
１２．雑草の化学的防除、除草剤
１３．雑草の耕種的防除と雑草管理
１４．非生物的ストレスに対する農作物の耐性と栽培技術
１５．農作物の安全性の確保と環境保全型農業１５．農作物の安全性の確保と環境保全型農業

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60217001
科目名	植物生理生態学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
授業概要	植物を理解するのに必要な構造と機能を分子、細胞、個体のレベルで理解し、植物研究を行うための基礎力をつけることを目標とする。具体的には、植物や細胞の構造と機能、エネルギー確保の仕組み、環境ストレス（水・重力・光・有害物質、病原微生物など）への対処、植物ホルモンや植物の栄養などについて理解する。またアレロパシーや植物と微生物の共生などについても理解する。講義にはプリント資料を配布し、講義 3 回終了ごとに小テストを実施し、理解度を確認する。		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	「植物生理学」　三村 徹郎・鶴見 誠二編著　化学同人 「植物の生態」－生理機能を中心に－　寺嶋一郎著　裳華房		
教育方法	講義法及び質問法		
評価方法	受講態度(飲食や携帯電話使用、私語など不適切な態度をとらない)10% 小テストの理解度判定 30%、定期試験 60%		
到達目標	①植物の形態形成や物質代謝の特徴、植物間や微生物との競争、共生関係について記述できる。 ②上記の情報に基づき植物の生存戦略を説明できる。		
授業時間外学習	毎回の講義後にプリントとノートで復習し、不明な点は提示した参考書などで該当する部分を読んで、理解を確かなものにしておく		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
農作物生産においては、作物の特性を踏まえて、栽培技術が形作られてきた。本講義では、植物の特性や活動をその生命戦略ととらえ、それを支える現象とその機構について学んでほしい			
授業スケジュール			
1　植物の起源と特徴 2　光合成の仕組み　　～生命を動かす原動力～ 3　物質の合成　　～炭素と窒素がどこへ行く～ 4　エネルギー生産の戦略　～エネルギー変換のコストパーフォーマンス～ 5　物質の輸送　～膜を超えて養水分を輸送～ 6　窒素の吸収と同化　～アンモニウムイオンからタンパク質へ～ 7　細胞分裂と細胞成長　～大きくなるとは、どういうことか～ 8　体内の連絡調整機能（その１）　～植物ホルモンの戦略　（オーキシン、ジベレリン、エチレン）　～ 9　体内の連絡調整機能（その２）　～植物ホルモンの戦略（その他の植物ホルモン）～ 10　光形態形成　～植物の光の感じ方～ 11　栄養成長と生殖成長　～植物成長の分岐点～ 12　環境への適応　～植物は動物より我慢強い 13　植物と微生物との関わり　～軍拡競争か共生社会か～ 14　植物の運動と防御　～何層もの防御システム～ 15　植物の生存戦略			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60218001
科目名	農地管理論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
授業概要	農業生産力の向上と農業の持続的発展には，作物と農業環境との相互関係，特に農地環境が作物生産に及ぼす影響を理解する必要がある．そこで，作物の栽培に適した気象条件，土壌及び作物栄養，物質循環，用排水や栽培管理などの知識と技術を概説し，優良農地の維持・管理に必要な農地改良，圃場整備や土壌改良の施策や手法を紹介する．また，日本および世界の様々な農業様式と環境問題や食料問題の解決に向けた取組を解説する．		
教材（教科書）	パワーポイント説明資料のプリントを配布する．		
教材（参考資料）	西尾道徳・松本重男・ 守山弘(著) (2003) 環境と農業（農学基礎セミナー)，農山漁村文化協会． 塩沢昌・山路永司・吉田修一郎(編) (2008) 農地環境工学　第 2 版，文永堂出版株式会社． 三枝正彦・木村眞人（編）(2005) 土壌サイエンス入門，文英堂出版株式会社． 久馬一剛 (2005) 土とはなんだろうか？，京都大学学術出版会． 土壌診断と対策　ー生理障害、土壌病虫害、コスト低減等対策ー　(平成 25 年)，一般財団法人　日本土壌協会．		
教育方法	パワーポイント等を用いて講義法で行う．予習や復習が出来るように，講義内容は事前にプリント配布する．		
評価方法	授業中のレポート・小テストなど（50%）及び定期試験の成績（50%）で評価する．		
到達目標	・気象，土壌，物質循環及び作物栽培などの基礎知識を習得する． ・優良な農地の維持・管理に加え，地域及び農業環境の保全を図るため，栽培技術，圃場整備や土壌改良の技術を身につける． ・日本および世界の様々な農業様式と環境問題や食料問題の解決に向けた取組を学び，今後の農地管理に関する知識・技術を習得する．		
授業時間外学習	授業の進行に合わせて，講義内容は事前にプリント配布するので，予習をしておくこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
適時小テストやレポート提出を行うので，講義内容を復習しておくこと．			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション、農業と農耕地の歴史 ２．気象区分と世界の農業様式，農地管理 ３．土壌環境と農作物生産性 ４．有機物と肥料の役割 ５．水田、畑地、樹園地、草地の土壌管理 ６．水田の用排水，栽培管理の特徴と圃場整備 ７．畑地・草地の用排水，栽培管理の特徴と圃場整備 ８．農地の保全と防災、土壌侵食とその対策 ９．農地の物質循環，水資源と農業水利 １０．農地の多面的機能と耕作放棄地問題 １１．農業における測量の役割，農地整備・設計と施策 １２．地球環境と農地管理 １３．園芸分野における農地管理 １４．施設園芸分野における農地管理 １５．施設園芸分野における環境管理			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60219001
科目名	バイオマス利用学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	環境への関心の高まりと共にバイオマスの資源としての価値が再評価されてきている。これからの農業を考えるうえで、バイオマスの利用は不可欠である。この講義では、バイオマスを利用するために必要なバイオマスの特徴や変換方法を理解することを目的としている。農業への利用という点を重視し、主に生物学的変換の代表的な例である堆肥化の過程を文章で説明できるようにする。特に現在亀岡で行われているカーボンマイナスプロジェクトの全容を理解し、問題点や課題を認識し、バイオマス利用全般の問題点を考える。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	アルバート・ハワード著　『農業聖典』　日本有機農業研究会 藤田賢二著　『コンポスト化技術』　技報堂出版		
教育方法	講義法で行う。原則板書を行う。単元によりパワーポイントで説明する場合もある。対話型講義を重視する。亀岡の堆肥化センターを見学する。		
評価方法	講義内に課す小レポートと施設見学のレポート（60%）、定期テスト（40% ）		
到達目標	バイオマスがどのようなものか、なぜ注目されているのかを説明できる。 バイオマスの生物化学的変換技術（特に堆肥化）を微生物活動の観点から説明できる。 現在行われているバイオマス利用の問題点を整理し、新しい提案ができる。		
授業時間外学習	毎回講義ののちに講義内容をまとめる。提出を求めることもある。 講義終了時に課題を課されたときは、資料を探して読み、レポートを作成する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
バイオマスの利用に関する新聞記事やニュースなどを探して読み、自分が特に関心を持つバイオマス利用を見つける。 施設見学の際は、事前にその施設について調べるなどし、質問を考えておく。			
授業スケジュール			
1.　バイオマスとは何か、環境問題とバイオマス 2.　里山のバイオマスの特徴（気候・分布・材料特性） 3.　バイオマス利用の５F、廃棄物の３R 4.　バイオマスの変換方法１　熱化学的変換 5.　バイオマスの変換方法２　生物学的変換 6.　微生物・酵素の働き 7.　農業におけるバイオマス利用 8.　堆肥化１　堆肥化の原料と生成過程 9.　堆肥化２　製品化と施用効果 10.　堆肥化３　完熟堆肥 11.　バイオマスの農業利用の事例１　生ごみ堆肥化 12.　亀岡市土づくりセンターの見学 13.　バイオマスの農業利用の事例２　亀岡カーボンマイナスプロジェクトの原理 14.　バイオマスの農業利用の事例３　亀岡カーボンマイナスプロジェクトの今後 15.　バイオマス利用の問題点と今後			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60220001
科目名	アグリビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	髙橋　太一郎	旧科目名称	
授業概要	農業は人間が生きていくために必要不可欠な「食糧」を生み出す産業です。そのため、生産者が継続的に農業を営むことは我々の生活に重要なことです。継続的に農業を営む手段として、栽培面積の大きい農業経営体の出現、一般企業の農業参入、農業者が食品加工や農産物の販売まで行う 6 次産業化の取り組みなど、様々な農業経営が見られるようになりました。この講義では、食糧の継続的な供給という視点から農業を捉える力を養うために、生産者がどのような意思決定を行っているのかを知り、農業経営の理論や考え方を理解できるようになることを目的としています。		
教材（教科書）	教科書は使用しません。毎回講義レジュメを配布します。		
教材（参考資料）	[ISBN]9784818819887?『現代農業のマネジメント―農業経営学のフロンティア』?(木村?伸男,?日本経済評論社?:?2008)		
教育方法	－		
評価方法	講義の最終回終了後に行うテスト(100%)		
到達目標	１．農業経営に関する専門用語を説明できるようになる。 ２．近年の農業の動向について農業経営の観点から説明できるようになる。 ３．生産者へ農業経営に関するアドバイスを行えるようになる。		
授業時間外学習	１．参考文献に挙げた文献を講義開始までに読破する。 ２．農林水産省のホームページに掲載されている農業の優良事例集を読破し、成功要因をまとめる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．履修が望ましい他の関連科目は経営学入門、日本の農業、地域食農論です。
２．遅刻や私語を厳禁とします。
３．講師から意見や質問を受講生に投げかける場合があります。積極的な発言を期待します。

授業スケジュール

１．アグリビジネス論（現在の農業における現状と課題について）
２．経営戦略（中長期の進むべき方向性の考え方について）
３．競争戦略（競争の回避について）
４．市場戦略（売れる商品のマーケットについて）
５．プロダクトライフサイクル（商品の寿命とマーケットリサーチについて）
６．製品戦略（商品開発について）
７．価格戦略（価格設定について）
８．流通戦略（販売方法の選択について）
９．販売促進（営業活動について）
１０．損益計算書（1 年間の活動結果の読み取り方について）
１１．原価計算（商品 1 個当たりの利益の計算方法について）
１２．利益管理（利益を出すための管理について）
１３．損益分岐点分析（目標とする販売額の決め方について）
１４．人的資源管理（人材の管理について）
１５．多角化戦略（6 次産業化の取り組みについて）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J60221001
科目名	地域再生論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	寺川　政司	旧科目名称	
授業概要	わが国の都市や町の成り立ちを振り返りながら現在のまちが抱える多様な問題について学び、都市のマイノリティに関わる居住問題と実践事例をもとに市民参画型のまちづくりと今後の専門家のあり方について考察する。とくに、亀岡市内のフィールドワークを通じて、現在のまちづくりの手法を学びながら、現代的なテーマ型まちづくりの課題と展望を考察する。		
教材（教科書）	プリントを配布		
教材（参考資料）	「これからの住まいとまち―住む力をいかす地域生活空間の創造」朝倉書店 「現代集合住宅のリ・デザイン―事例で読む[ひと・時間・空間]の計画」彰国社 内田雄造編著「まちづくりとコミュニティワーク」解放出版社 寺川政司監修「北芝まんだら物語」		
教育方法	資料を授業時に配布する。		
評価方法	授業時提出のレポート　20% 授業に対する熱意　30% フィールドワーク等への参画と成果　50%		
到達目標	・日本のまちの成り立ち、制度を学びながら、歴史的経緯から現在をとらえる感覚を学ぶ。 ・多様なテーマで実践されているまちづくりのダイナミズム、面白さ、課題等について理解する。 ・大学が位置する亀岡市のまちづくりを体感するとともに、今後の自分自身とまちとの積極的な関わり方を意識する。		
授業時間外学習	・様々なメディア（新聞・冊子・ＴＶ・Ｗｅｂ・現場　等）を用いて、「テーマ型まちづくり」に関する情報を得ておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
フィールドワーク等への参画と授業に対する意欲を重視します。			
授業スケジュール			
1. まちづくり概論 2. わが国の都市とまちの変遷 3. 住宅政策の変遷とまちづくり 4. 共同住宅団地の変遷＜軍艦アパート＞ 5. 戦前長屋地域の再生　＜関西の戦前長屋と空堀地区の挑戦＞ 6. まちの再生と多様な住まい＜コーポラティブ住宅・コレクティブ住宅＞ 7. マイノリティコミュニティにおける地域再生とまちづくり 8.~14　亀岡市フィールドワーク・ワークショップ 15.コミュニティマネジメントとコレクティブタウン （市民主体のまちづくりと専門家）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J60222001
科目名	地域資源循環論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	地域の資源は相互に関連性をもちつつ循環して存在している。代表的な例である里山では農業、森林林業、畜産、水文分野の相互に密接な関連のもとに成り立つ総合的な系がみられる。本論では里山で培われた資源循環の重要性を学び、資源問題について考察する。また、各自でテーマを考え、必要な文献を検索し、主張をまとめてレポートに仕上げる。この作業を通じて、課題発見力や論理的思考力、文章表現力を身に付けることを目的としている。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	養父志乃夫著　里地里山文化論（上下）農山漁村文化協会 小宮山宏他著　サステイナビリティ学（1～5）東京大学出版		
教育方法	対話型重視の講義法と、受講者によるレポートのとりまとめ常用を発表を取り混ぜて行う。この講義では、受講者が各自でテーマを考え、必要な文献を検索し、主張をまとめてレポートに仕上げる。		
評価方法	中間レポート 15%、口頭発表 25%（他者の発表についてのコメントを含む)、最終レポート 50% 授業中の発表を中心とした参加度など 10%		
到達目標	里山が果たしてきた役割を述べることができる。 里山資源利用を提案できる。 話したい内容をパワーポイントにまとめ要領よく発表することができる。 ウェブを利用して文献を検索することができる。 論文を読み込み、自分の意見を論理的に文章にすることができる。		
授業時間外学習	講義と並行して最終レポートの作成について準備することが必要である。まず、地域資源のなかで何をテーマにするのかを決定し、講義内で説明する論文検索を用いて、複数の論文を探して読む。さらに、その中から自分の主張をまとめ、中間レポートとして内容のアウトラインを提出する。次に、中間レポートよりもさらに絞り込んだ内容をパワーポイントで作成、口頭発表の準備を行う。その場で出た質問や意見を勘案し、最終レポートを仕上げる。したがって、計画的にレポート作成を進めなければならない。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．講義内での積極的は発言を期待する。
2．日ごろから、資源やエネルギー問題についてのニュースなどがあれば目を通して、時事を知るようにすることが望ましい。

授業スケジュール

1. 里山資源・地域資源とは何か？
2. エネルギー革命
3. 文献検索の方法
4. 地域資源利用の変遷　里山と一次産業の関わり
5. 地域資源利用の現状と課題
6. 材料利用とエネルギー利用
7. バイオマス産業都市構想
8. バイオマス利用の海外事例
9. 地域資源に関する発表 1
10. 地域資源に関する発表 2
11. 地域資源に関する発表 3
12. 地域資源に関する発表 4
13. 地域資源に関する発表 5
14. エネルギーと資源
15. エネルギーの質

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J60223001
科目名	地域食農論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐藤　隆徳	旧科目名称	
授業概要	全国ブランドとなっている京野菜の産地である京都市をはじめとする京都府内の中で、亀岡市周辺地域を中心に京野菜などの農産物の特徴と、さまざまな加工技術の組み合わせの特殊性について紹介する。さらに京野菜が成立した時代背景や歴史を学ぶとともに、現代における京野菜を中心とした食品の嗜好について言及し、今後の新しい農産物を中心とした新品種作出および６次産業化について学ぶ。さらに全国の事例をあげて方向性を理解する。これらを通じて、地域の特産物等を利用し、地域の活性化を図るための方策を学ぶ。		
教材（教科書）	なし。講義に合わせてプリントを配布する。		
教材（参考資料）	高嶋四郎（編著）（2003）歳時記「京の伝統野菜と旬野菜」、トンボ出版　2,160 円 青葉高（著）（1981）野菜、法政大学出版 3,780 円 青葉高（著）（2013）日本の野菜文化史事典、八坂書房　5,184 円 関満博・古川一郎（編）（2008）「B 級グルメ」の地域ブランド戦略、新評論　2,916 円		
教育方法	パワーポイント等を活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	定期試験の成績　（50%）、調査レポートおよび発表等　（40%）、授業中の積極的な発言等　（10%）		
到達目標	１．わが国における農産物とそれらを利用した加工食品について、地域を生かした農産物の生産およびそれらの加工を伝統的な京野菜を通じて説明できるようになる。 ２．亀岡市を含む京都府内の農産物生産と加工品の事例や全国における成功事例から、地域おこしの基本的な考え方や方策を学び、特色ある農産物や生産加工品などについて提案できるようになる。		
授業時間外学習	「野菜」を中心に授業を進めるので、教材（参考資料）に示した、あるいは講義中に紹介する日本の野菜に関する専門書を１冊は読むとともに、各種新聞や雑誌においても関連記事には目を通す。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

現在、地域の抱える農業や食料・食品に関する問題点は何なのか、常に意識をしながら授業に臨んでほしい。また、適時小テストやレポート提出を行うので、授業内容をノートや配布プリントに整理しておくこと。

授業スケジュール

第１回　：　オリエンテーション、地域食農論とは？
第２回　：　わが国の野菜生産の現状
第３回　：　わが国の野菜消費の動向１ 果菜類
第４回　：　わが国の野菜消費の動向２ 葉根菜類
第５回　：　独自に発展してきた地方野菜
第６回　：　京野菜の種類と特殊性
第７回　：　京野菜の生産地亀岡市の野菜生産の現状と特性としての気候・環境
第８回　：　亀岡市の野菜生産者から見た特性
第９回　：　新しい嚆好を反映した新京野菜の作出
第10回　：　曙好を活かす食品加工企業概要）
第11回　：　亀岡市における６次産業の事例
第12回　：　全国における農産加工の成功事例
第13回　：　世界に向けた農産物や農産加工品の事例
第14回　：　地域おこしと農産物および農産加工食品
第15回　：　調査課題発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J60224001
科目名	食品加工学 I	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
授業概要	加工食品は、農林畜水産物を原料に、物理的単位操作（加熱・殺菌・蒸留・抽出・混捏・乳化・乾燥 等）と化学的・生物的処理操作（発酵, 酵素反応 等）を組み合わせた種々のプロセスを組み合わせて作られる。本講義では、実際の加工食品を例に挙げながら食品の特性と加工原理を理解し、安全な食料供給の仕組みを学ぶ。		
教材（教科書）	『学ぼう！食品の科学と技術 －食品をつくる基礎知識－』　四日洋和、安達修二、古田武　著　（MARS）		
教材（参考資料）	『食品を造る基礎科学 食品工学入門』　安達修二、古田武　著　（カルチュレード）		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	1.　授業時間内に行う小テストによる各項目の理解度（20%） 2.　定期試験による総合的な問題を解く能力（中間試験 40%、期末試験 40%）		
到達目標	1.　食品製造業者で求められる実践的な食品加工の知識と技術が習得できる。 2.　食品の特性と加工方法及び貯蔵の原理が理解できる。 3.　食品の品質と生産性の向上を図る能力が身に付く。		
授業時間外学習	1.　日頃から、身近な加工食品の原材料や作り方、保存方法などに関心を持っておくこと。 2.　講義中に理解できなかったことは、その週のうちに書籍やインターネットで調べものをするなどして、次回の講義までに理解しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1.　化学を履修しておくことが望ましい。 2.　受け身ではなく、積極的な姿勢で授業に臨むこと。			
授業スケジュール			
1. 食品の役割と食品加工の目的 2. 食品加工の原理と方法①　（物理的な方法による加工） 3. 食品加工の原理と方法②　（化学的な方法による加工） 4. 食品加工の原理と方法③　（発酵食品の加工） 5. 食品保存の原理①　（温度操作・水分制御・pH の調節による保存） 6. 食品保存の原理②　（殺菌・食品添加物による保存） 7. 食品の特性と加工 8. 食品の変質と貯蔵 9. 食品機械について 10. 小麦粉加工食品とその製造工程 11. 乳製品とその製造工程 12. 油脂類・甘味料・調味料・香辛料 13. 衛生管理と生産管理 14. 食品の規格と表示 15. 新しい食品加工技術			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J60225001
科目名	食品加工学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	安達　修二	旧科目名称	
授業概要	食品加工学Ⅰの内容をふまえ，農水畜産加工品などについて，具体的品目を製造する際の原料や加工法およびその基礎となる理論を学ぶ．また，加工のみに留まらず，その前後の製品の企画や販売に関する事項についても触れ，加工食品を開発するための基礎的な知識を総合的に習得できるようにする．		
教材（教科書）	食品工学入門－食品を造る基礎科学－（カルチュレード，ISBN 978-4-905179-07-8）		
教材（参考資料）	学ぼう!食品の科学と技術－食品をつくる基礎知識－（mars，ISBN 978-4-9909903-0-5） 食品工学（朝倉書店，ISBN 978-4-254-43114-8）		
教育方法	講義形式で進める．適宜まとめを配布し，小テストで習熟度を問う．		
評価方法	平常点（小テストを含む）30%，定期試験 70%		
到達目標	１．食品の各種加工法とその原理を理解する． ２．基本的な用語を覚え，その意味を理解する． ３．物質やエネルギーの収支が計算できるようになる． ４．フローチャートを描いて考えることができる．		
授業時間外学習	講義終了時に次回の範囲を伝えるので，予習し，キーワードを覚えてくること．項目の区切りごとに小テストを行う．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学習した内容を手書きでノートにまとめる．それを復習し，理解を深める．項目の区切りごとに適宜小テストを行うので，そのような心づもりで講義に臨むこと．			
授業スケジュール			
第１回　食品の特性とその加工 第２回　すべての基礎①－単位－ 第３回　すべての基礎②－収支計算－ 第４回　すべての基礎③－グラフで表す－ 第５回　牛乳の殺菌①－D 値，z 値－ 第６回　牛乳の殺菌②－高温短時間殺菌－ 第７回　牛乳の殺菌③－熱交換器－ 第８回　冷凍食品－冷凍と解凍－ 第９回　基礎事項と熱の移動に関するまとめ 第 10 回　インスタントコーヒー①－抽出－ 第 11 回　インスタントコーヒー②－濃縮－ 第 12 回　インスタントコーヒー③－噴霧乾燥－ 第 13 回　乾麺①－空気の性質－ 第 14 回　乾麺②－含水率－ 第 15 回　乾麺③－乾燥特性曲線－			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2018	授業コード	J60226001
科目名	食品物性学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	安達　修二	旧科目名称	
授業概要	食品や食品素材の硬さや粘弾性などの力学特性に関する理論や測定法の原理を理解し，嗜好性や加工特性に及ぼす影響や咀嚼・嚥下などとの関係を学ぶ．また，材料や加工法の選択と力学特性を制御する方法に言及し，嗜好性に優れた食品を開発するための基礎的な事項を学習する．		
教材（教科書）	食品工学入門－食品を造る基礎科学－（カルチュレード，ISBN 978-4-905179-07-8） 学ぼう!食品の科学と技術－食品をつくる基礎知識－（mars，ISBN 978-4-9909903-0-5）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義形式で進める．適宜まとめを配布し，小テストで習熟度を問う．		
評価方法	平常点（小テストを含む）30%，定期試験 70%		
到達目標	１．食感や嗜好性に関与する因子を説明できる． ２．基本的な用語を覚え，その意味を説明できる． ３．食感や嗜好性を測定し，評価する方法を理解できる．		
授業時間外学習	講義終了時に次回の範囲を伝えるので，予習し，キーワードを覚えてくること．項目の区切りごとに小テストを行う．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学習した内容を手書きでノートにまとめる．それを復習し，理解を深める．項目の区切りごとに適宜小テストを行うので，そのような心づもりで講義に臨むこと．			
授業スケジュール			
第１回　ガイダンス，なぜ食品の物性を学ぶのか？ 第２回　食品の色 第３回　食品の匂い 第４回　食品の味 第５回　水の役割 第６回　ガラス転移 第７回　食品のおいしさに関与する因子のまとめ 第８回　エマルション１（食品における例） 第９回　エマルション２（安定性） 第 10 回　乳化剤 第 11 回　レオロジー（食品科学における意義） 第 12 回　レオロジー（弾性） 第 13 回　レオロジー（流動特性） 第 14 回　レオロジー（粘弾性） 第 15 回　テクスチャ（加工による向上，食味の表現）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2018	授業コード	J60227001
科目名	食品分析化学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
授業概要	本講義では、食品分析に関わる各種法規制・表示法・公定分析法ならびに試料調製、一般成分分析・分光測色法を利用した分析法、酵素反応・免疫反応を応用した分析法、クロマトグラフィーについて概説する。		
教材（教科書）	配布資料		
教材（参考資料）	『図解入門 よくわかる最新分析化学の基本と仕組み』 津村ゆかり 著 （秀和システム）		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	1. 授業時間内に行う小テストによる各項目の理解度（20%） 2. 定期試験による総合的な問題を解く能力（中間試験 40%、期末試験 40%）		
到達目標	1. 食品製造業者で求められる食品成分の化学的特性が理解できる。 2. 食品分析に求められる実践的な食品分析知識が修得できる。 3. 分析データの内容を正しく評価でき、専門的な考察ができる。		
授業時間外学習	1. 食品業界の最近の動向に興味・関心を持っておくこと。 2. 参考文献の該当箇所を予習し、理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 化学を履修しておくことが望ましい。
2. 受け身ではなく、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. 品質保証
3. データ処理
4. 試料採取
5. 分析試薬（濃度計算、有効数字）
6. 分析試薬（酸と塩基、錯形成反応、緩衝液、酸化還元）
7. 分析試薬（極性、分配）
8. 中間試験と解説
9. 試料の前処理（分解・溶解、沈殿・再結晶と分離）
10. 試料の前処理（液液抽出、固相抽出）
11. 試料の前処理（濃縮、蒸留・気化、その他）
12. 定量分析（呈色試験と官能試験、重量分析、滴定）
13. 分子分光分析（スペクトロメトリー、紫外・可視分光法）
14. 分子分光分析（蛍光と化学発光分光、赤外分光、近赤外分光）
15. クロマトグラフィー（薄層クロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィー）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J60228001
科目名	発酵醸造学 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	微生物を使って製造される各種の食品・飲料・調味料について概説する。京都、亀岡の発酵・醸造関連企業で働いておられる方々にもご登壇頂き、製造方法や企業活動そのものについてお話し頂く。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	発酵食品学　小泉武夫 編著（2012）講談社 参考図書（手に取りやすいもののみ挙げた）： うま味の誕生　―発酵食品物語―　柳田友道　岩波書店 食と日本人の知恵　小泉武夫　岩波書店 発酵食品礼讃　小泉武夫　文藝春秋 ワインづくりの思想　銘醸地神話を超えて　麻井宇介　中央公論新社 ワインの科学　「私のワイン」のさがし方　清水健一　講談社 日本酒の科学　水・米・麹の伝統の技　和田美代子　講談社 日本の酒　坂口謹一郎　岩波文庫 純米酒を極める　上原浩　光文社新書 極上の酒を生む土と人　大地を醸す　山同敦子　講談社＋α 文庫 ビールの科学　麦とホップが生み出すおいしさの秘密　渡淳二　講談社 ビールの教科書　青井博幸　講談社 ウイスキーの科学　古賀邦正　講談社 世界のスピリッツ焼酎　関根 彰　技報堂出版 醤油手帖　杉村啓　河出書房新社 一日一杯の味噌汁が身体を守る　車浮代　日経プレミアシリーズ 漬物入門　宮尾茂雄　日本食糧新聞社 パンの文化史　舟田詠子　講談社学術文庫 なぜ日本のフランスパンは世界一になったのか　阿古真理　NHK 出版新書		
教育方法	企業の方にお話し頂く際のディスカッション（質疑応答）によって、理解を深めることを企図している。		
評価方法	・講義開始時に行う、発酵・醸造学の基本的な事項に関する「確認テスト」（20%） ・定期試験（論述式）（80%）		
到達目標	1）発酵・醸造学の基本的な事項を知識として身につける。 2）日本では様々な発酵・醸造を用いた製品が発達していることを理解する。 3）日常生活の中で発酵・醸造を用いた製品に関心を持てるようになる。		
授業時間外学習	上記参考文献のうち参考図書としてあるものを一冊は読んで、発酵醸造についてあらかじめ何らかのイメージをつかんでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「確認テスト」の内容は理解し、覚えること。
発酵醸造学についてさらに理解を深めるため、「発酵醸造学 B」とあわせて受講することを勧める。

授業スケジュール

第 1 回 発酵・醸造学とは何か：その微生物学・生化学・化学
第 2 回 酒類総論（醸造酒）
第 3 回 酒類各論：ワイン　丹波ワイン様
第 4 回 酒類各論：ビール　一乗寺ブリュワリー様
第 5 回 酒類各論：清酒
第 6 回 酒類総論（蒸留酒）
第 7 回 酒類各論：酒販　谷垣裕二郎（リカーランドひかみや）様

第 8 回 発酵調味料総論
第 9 回 発酵調味料各論：醤油　難波醤油醸造様
第 10 回 発酵調味料各論：味噌　片山商店様
第 11 回 発酵調味料各論：食酢　飯尾醸造様
第 12 回 発酵食品総論
第 13 回 発酵食品各論：漬物
第 14 回 発酵食品各論：なっとう　ユーアンドミー様
第 15 回 発酵食品各論：パン　天然酵母パングリム様
外部講師の方は年によって交代で担当して頂きます。都合により内容・順番は変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60229001
科目名	発酵醸造学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
授業概要	特定の発酵醸造物を詳論することを通じて、発酵醸造学をより深く理解することを目指す。具体的には、発酵醸造学研究室で京都丹波～亀岡の地域性を活かした製品の開発に取り組んでいるビールについて、その歴史・文化的側面や原材料に求められる性質、醸造法とその実際について論じる。発酵・醸造産業は酒類を中心としてその土地の文化と影響を与え合い、農業とも深いつながりを持つ。特定の醸造物を詳述することで、そうした醸造という営為の全体を概観する。ビールについては発酵醸造学 A でも触れるが、B では特に「食品加工学実習」の「製麦・ビール製造・官能評価実習」と連動して、醸造の理論的な側面についての議論を深める。		
教材（教科書）	適宜プリントを配布する		
教材（参考資料）	ビールについて： ビール醸造技術　宮地秀夫（1999）食品産業新聞社 ビールの基本技術　ビール酒造組合国際技術委員会（BCOJ）（2002）（財）日本醸造協会 Technology Brewing & Malting 5th ed. W. Kunze (2014) VLB Berlin 参考図書（手に取りやすいもののみ挙げた）： ビールの科学　麦とホップが生み出すおいしさの秘密　渡　淳二　講談社 ビールの教科書　青井　博幸　講談社 ベルギービールという芸術　田村　功　光文社新書 ビール職人、美味いビールを語る　山田一巳 古瀬和谷　光文社新書 ビールを極める　中谷和夫　双葉新書 ビール最終戦争　永井隆　日経ビジネス人文庫		
教育方法	基本的には旧来の座学型の講義スタイルを取るが、「食品加工学実習」と連動して進める。 机上での演習、ディスカッションなど、より能動的なスタイルの導入を模索していく。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	1）発酵・醸造学について一層深く理解する手段として、ビールについての様々な事項を知識として身につける。 2）食品加工学実習の「製麦・ビール製造・官能評価実習」を、ここで論じる実技や理論的な背景を理解した上で取り組めるようになる。 3）発酵醸造が単なる飲食物の生産方法に留まらず、「産業」や「文化」といった幅広い領域で社会にインパクトを与えていることを理解する。		
授業時間外学習	上記参考文献のうち参考図書としてあるものを一冊は読んで、それぞれの醸造物についてあらかじめ何らかのイメージをつかんでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
スーパーやコンビニに並んだ製品やそのポップ、テレビやウェブの CM、新聞記事など、「ビール」を”窓口”として普段の生活の中で社会の動きに関心を深めてもらいたい。 「食品加工学実習」を併せて受講すると、「製麦・ビール製造・官能評価実習」において本講義の内容を実際に経験することができる。			
授業スケジュール			
第 1 回　製麦工程の実際 第 2 回　仕込工程の実際 第 3 回　煮沸工程の実際 第 4 回　発酵・熟成工程の実際 第 5 回　官能評価 第 6 回　大麦			

第 7 回　製麦工程の原理 第 8 回　仕込工程の原理 第 9 回　ホップ 第 10 回　酵母 第 11 回　発酵工程の原理 第 12 回　水と副原料 第 13 回　ビアスタイル 第 14 回　ビールの歴史 第 15 回　ビールの現代史

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★★	−	★	★

年度	2018	授業コード	J60230001
科目名	作物学実験	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
授業概要	農業生産および農業環境分野から複数のテーマをとりあげ、実験を通して作物とその生産環境の特性把握や解析の基礎である，作物の栽培法、植物組織・染色体などの観察法、作物生産の解析法や、物質代謝に関わる酵素反応や含有成分の検出と定量法を学び、これら調査データの処理法を体得する。併せて、様々な作物の栽培研究最前線を学ぶため公設試験研究機関の圃場視察を行う。		
教材（教科書）	教材（テキスト） オリエンテーションで配布する実験書		
教材（参考資料）	星川清親（編）「植物生産学概論」(1993)，文永堂出版株式会社　4,000 円＋税 羽柴輝良・金浜耕基（編）「新農学実験マニュアル改訂第 3 版」(2002)，ソフトサイエンス社　6,000 円＋税 東京大学大学院農学生命科学研究科（編）「実験農芸化学」(2013),朝倉書店　,6,200+税		
教育方法	講義法や質問法		
評価方法	受講態度 10%(予習している。。携帯の電源を切る。飲食をしない。) 実験ノート 70%、レポートあるいは小テスト２0%		
到達目標	①実験ノートやレポートを正しく書くことができる. ②作物（実験植物）を実験目的に沿って栽培・管理することができる. ③遺伝分離の解析，作物成分や物質生産力の定量分析ができる.		
授業時間外学習	事前に次回の実験について予習をしておく。操作が必要なものなどは実験ノートに手順を簡単にまとめておく.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

基本的な操作を学ぶので、実験後も復習をしてすべて覚えるような心持で取り組んでほしい.

授業スケジュール

１．オリエンテーション（注意に関する説明など）
２．実験材料としての作物の栽培方法
３．作物の花器、減数分裂、花粉形成の観察
４．遺伝分離の観察と適合性の検定
５．作物の生育調査と加工
６．作物の有機成分測定
７．作物の無機成分測定
８．作物の生育環境の測定と分析
９．土壌酸度の矯正と交換性陽イオンの定量
１０．植物病原菌の分離，同定，培養
１１．作物個体および群落の成長解析１
１２．作物個体および群落の成長解析２
１３．公設試験研究機関の作物ほ場視察
１４．陽イオン交換容量の測定
１５．作物に共生する有用微生物の特性とその観察

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J60231001
科目名	食品分析化学実験	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	安達　修二	旧科目名称	
授業概要	食品分析化学の知識を踏まえて，食品が備えるべき機能や栄養などに関与する成分の分析法や物性の測定法を実践的に学ぶ．成分の濃度や物性値を定量的に測定する方法の原理と解析法を習得する．		
教材（教科書）	第１回のオリエンテーションで配布する実験書		
教材（参考資料）	図解入門 よくわかる最新分析化学の基礎と仕組み（秀和システム，ISBN 978-4-7980-4650-1 C3043）		
教育方法	毎回，実験を行い，その結果と考察をレポートとして提出する．		
評価方法	実験ノート 50%，レポート 50%		
到達目標	１．実験技術を習得し，内容を理解できること． ２．共同実験者とよく連携し，実験を円滑に進められること． ３．実験の結果をまとめて，レポートが正しく書けること．		
授業時間外学習	実験前に必ず実験書を読み，内容を理解する．また，実験操作をフローチャートとして整理する．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

実験を安全に行うために，実験書の内容をよく理解しておくこと．共同実験者に迷惑がかかるので，遅刻は厳禁．

授業スケジュール

第１回　オリエンテーション（実験の進め方と注意事項）
第２回　体積計の検定と水溶液の希釈
第３回　温度計の検定と非定常伝熱
第４回　溶質の比容と水溶液の凝固点降下
第５回　水分と水分活性
第６回　水の硬度と飲料の pH
第７回　糖の定量
第８回　タンパク質の定量
第９回　塩分と灰分の定量
第 10 回　香料の分析
第 11 回　野菜の色素
第 12 回　抗酸化能
第 13 回　粉体の嵩密度と安息角
第 14 回　乳化剤水溶液の表面張力と接触角
第 15 回　固形食品の応力－歪曲線と水溶液の粘度

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J60232001
科目名	食品加工学実習	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	3 回生春学期の「食品衛生学実験」が「生産された」食品の衛生管理についての化学的、微生物学的な分析技法を扱ったのに対し、ここでは地域にゆかりのあるさまざまな食品を「生産する」ための基礎的な技法と、その化学的、微生物学的な側面について学ぶ。		
教材（教科書）	食品加工学と実習・実験　谷口亜樹子（2016）光生館 実験室で行えるようアレンジした方法について、別途プリントを配布する。 「製麦・ビール製造・官能評価実習」については上記の教科書は使わず、プリントを配布する。		
教材（参考資料）	酒造教本　東京国税局鑑定指導室 編（1999）（財）日本醸造協会 HOMEBREWING BOOK　アドバンスドブルーイング（2016）マイナビ		
教育方法	実際に「手を動かす」ことを通じて、食品加工の基礎技法を実践的に習得する。 グループで一つのものを造ることを通じて、他人と協力して物事にあたる協調性の涵養を図る。		
評価方法	・実習レポートの提出（100%）		
到達目標	様々な食品を作ってみることを通じて、食品加工の技術を概観する。 講義で学んだ「知識」を復習し、実際に実物を目の前にしながら理解する。 ノート・レポートの書き方を学ぶ。		
授業時間外学習	・それぞれの実習が始まる前にテキストに線を引くなどしながら熟読すること。 ・必ず事前にその日に行う実習のノートを書き、ノートを見ながら実験すること。 ・対象とする食品について、参考文献を用いて詳細を調べておくとなおよい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

全回の出席を要求する。遅刻・早退をしないこと。科学実験に対する態度、実験室でのマナーを修得すること。これらをいずれも「実験態度」として評価の対象とする。

授業スケジュール

1） オリエンテーション（安達先生）
2） 乳の加工：アイスクリーム
3） 油脂の加工：マヨネーズ
4） 穀類の加工：豆腐と豆乳
5） 穀類の加工：うどん
6） 製麦・ビール製造・官能評価実習：食品開発センターの使い方・糖化工程（篠田先生）
7） 製麦・ビール製造・官能評価実習：煮沸工程～ピッチング
8） 製麦・ビール製造・官能評価実習：滓引き・製麦・発芽勢
9） 製麦・ビール製造・官能評価実習：瓶詰め・大麦・麦芽の評価
１０） 製麦・ビール製造・官能評価実習：官能評価
１１） オリエンテーション（井口先生）
１２） 乳の加工：バター
１３） 乳の加工：ヨーグルト
１４） 果実の加工：ジャム
１５） 穀類の加工：だんご

履修者全体を 3 グループに分け、3 人の教員の実習を各グループで順番に受講します。
都合により内容・順番は変更することがあります。
最終回終了後、実習ビールの官能評価を行います。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★★	★	−	−	★

年度	2018	授業コード	J60233001
科目名	食品衛生学実験	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	2 回生秋学期の「食農基礎実験」での化学、微生物学実験の内容を踏まえつつ、食品の「安全性」「有益性」「健全性」を担保しようとする食品衛生学の化学的および微生物学的な技法について、その基礎を学ぶ。		
教材（教科書）	改訂　食品衛生学実験　細貝祐太郎 監修（2012）恒星社厚生閣 実験室で行えるようアレンジした方法について、別途プリントを配布する。		
教材（参考資料）	図解　食品衛生学実験　第 3 版　一戸正勝他（2012）講談社 農芸化学実験書 第 2 巻、第 3 巻 京都大学農学部農芸化学教室編（1965）産業図書		
教育方法	実際に「手を動かす」ことを通じて、食品衛生の基礎技法を実践的に習得する。 グループで一つの実験を遂行することを通じて、他人と協力して物事にあたる協調性の涵養を図る。		
評価方法	・実験ノートの適切な記述（40%） ・実験レポートの提出（40%） ・実験態度、実験台の整理整頓（20%） 「ノートチェック」として実習中に実験ノートを 3 回評価し、実験レポートの内容と併せて総合的に評価する。		
到達目標	「微生物学」「食品衛生学」などの講義で学んだ「知識」を復習し、実際に実物を目の前にしながら理解する。 実験ノート・レポートの書き方を学ぶ。		
授業時間外学習	・それぞれの実習が始まる前にテキストに線を引くなどしながら熟読すること。 ・必ず事前にその日に行う実験のノートを作成し、ノートを見ながら実験すること。 ・「食品衛生学」の教科書などを用い、該当箇所を復習しておくとよい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

全回の出席を要求する。遅刻・早退をしないこと。科学実験に対する態度、実験室でのマナーを修得すること。これらをいずれも「実験態度」として評価の対象とする。

授業スケジュール

1） 食品衛生微生物学実験：食品中の生菌数測定法（1）
2） 食品衛生微生物学実験：食品中の生菌数測定法（2）
3） 食品衛生微生物学実験：食品製造環境の細菌検査・空中落下菌の測定（1）
4） 食品衛生微生物学実験：食品製造環境の細菌検査・空中落下菌の測定（2）
5） 食品衛生微生物学実験：大腸菌群・大腸菌の検査（1－1）
6） 食品衛生微生物学実験：大腸菌群・大腸菌の検査（1－2）
7） 食品衛生微生物学実験：大腸菌群・大腸菌の検査（2－1）
8） 食品衛生微生物学実験：大腸菌群・大腸菌の検査（2－2）
9） 食品衛生化学実験：着色料の検査
10） 食品衛生化学実験：保存料の検査
11） 食品衛生化学実験：酸化防止剤の検査
12） 食品衛生化学実験：発色剤・漂白剤の検査
13） 食品衛生化学実験：揮発性塩基窒素試験
14） 食品衛生化学実験：ヒスタミンの検出
15） 食品衛生化学実験：農薬の検出
実際には各課題を並行して実施する。
都合により内容・順番は変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J60301001
科目名	バイオ環境インターンシップＡ	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境に関連する企業や行政機関でインターンシップをすることで、バイオサイエンスや環境の技術を応用研究している研究所等で行われている業務を実体験を通して感ずる。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	参加したプログラムの時間数や内容により、終了後本学に提出されたレポートやインターンシップの受け入れ先からの評価書を基に、担当教員が審査の上、「バイオ環境インターンシップＡ」として単位認定する。		
到達目標	・大学での学びについて意欲を喚起させる。 ・自らの研究テーマをより確実なものとすることを目指す。 ・高い職業観を育成すること。		
授業時間外学習	準備のために必要な説明会を開催する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
時間厳守で望むこと。受け入れ先のルールを守り、行動の規律を遵守すること。誠実に参加することを求めます。			
授業スケジュール			
以下の順序で行う ・説明会を開催し、受け入れ先の紹介、各受講生の希望聴取などを行う。 ・各受講生の受け入れ先を決定。 ・インターンシップの実施 ・報告書の提出 ・適当な時期に、発表会を開催し、各受講生が体験等を発表する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	J60302001
科目名	バイオ環境インターンシップB	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境に関連する企業や行政機関でインターンシップをすることで、バイオサイエンスや環境の技術を応用研究している研究所等で行われている業務を実体験を通して感ずる。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	参加したプログラムの時間数や内容により、終了後本学に提出されたレポートやインターンシップの受け入れ先からの評価書を基に、担当教員が審査の上、「バイオ環境インターンシップ B」として単位認定する。		
到達目標	・大学での学びについて意欲を喚起させる。 ・自らの研究テーマをより確実なものとすることを目指す。 ・高い職業観を育成すること。		
授業時間外学習	準備のために必要な説明会を開催する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
時間厳守で望むこと。受け入れ先のルールを守り、行動の規律を遵守すること。誠実に参加することを求めます。			
授業スケジュール			
以下の順序で行う ・説明会を開催し、受け入れ先の紹介、各受講生の希望聴取などを行う。 ・各受講生の受け入れ先を決定。 ・インターンシップの実施 ・報告書の提出 ・適当な時期に、発表会を開催し、各受講生が体験等を発表する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2018	授業コード	J60303001
科目名	物理学（2018 生から）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	櫻間　晴子	旧科目名称	
授業概要	我々の生活は物理学を活用した様々な技術によって支えられている。本講義では、力学から原子物理学を含めた広い物理学分野を取り扱う。それらに関連する身近な事例を通して、物理学の基本的な概念や法則を理解することが目的である。		
教材（教科書）	木下 紀正 他 『物理学の基礎（身近なアプローチ)』		
教材（参考資料）	山田泰一 他 『基礎物理』		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	以下の項目に基づいて評価する。 ・授業内小テスト（40%） ・期末試験（60%）		
到達目標	（1）身近な生活や技術に対する物理学を活用した事例を通して、物理学の基礎的知識を習得することができる。 （2）我々を取り巻く様々な事象について物理学的な観点から捉える態度を身につけることができる。		
授業時間外学習	該当する部分の教科書を読んでおく。講義後は、練習問題を解き、講義内容の理解と定着に努めること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1）受講生の学習環境を阻害するような態度（私語や食事等）は禁止する。 2）トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい（体調が悪い場合は申し出ること)。			
授業スケジュール			
第 1 回：…物理学について 第 2 回：…光の科学（1）：光の進み方とレンズの働き 第 3 回：…光の科学（2）光の屈折、干渉 第 4 回：…波と音（1）：波の種類と正弦波 第 5 回：…波と音（2）：音波（速さ、音の三要素、ドップラー効果） 第 6 回：…運動と力（1）：運動の表し方 第 7 回：…運動と力（2）：ニュートン力学 第 8 回：…運動と力（3）：運動量とエネルギー 第 9 回：…熱とエネルギー（1）：熱と温度、仕事 第 10 回：…熱とエネルギー（2）：熱力学の法則とその意味 第 11 回：…電気と磁気（1）：静電気と電流 第 12 回：…電気と磁気（2）：電磁誘導 第 13 回：…物質の構造 第 14 回：…核エネルギー（1）：原子核の構造と分裂反応 第 15 回：…核エネルギー（2）：放射線 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J60304001
科目名	地球科学（2018 生から）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	三上　禎次	旧科目名称	
授業概要	地球表層で起こる気象現象や地球と絡んだ宇宙空間，地球を構成しているものについて学習する．その上で．地球のシステムが自然の道理の中で出来上がっている素晴らしいものであることを学習する．この講義では地球で見られる自然現象の基礎的理論を学習し，自然現象の地球科学的観点を獲得する．ディスカッションなどから，身近に起こった出来事なども議論し，地球科学的現象が身近なものであることなどを認識する．惑星地球というマクロな世界から構成鉱物のミクロな世界までを紹介する．		
教材（教科書）	ニューステージ　新地学図表　浜島書店　ISBN:978-4-8343-4012-9　C7344　　￥790＋税		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントとプリントを用いて講義方式で行う。1〜2 回分、グループディスカッションを設ける。各回 DVD などの映像教材を使う。状況に応じて講義の順番の変更の可能性あり。		
評価方法	平常点（授業中に課すレポート）50%、試験 50％		
到達目標	地球科学の基礎を学び、さまざまな地球科学的自然現象や地球の姿についてわかるようになる。		
授業時間外学習	シラバスに記された各回内容を資料集などに目を通し、関連する時事の話題などに常に関心を高めておくこと。また天文分野に関しては不定期に天体観望などを行う可能性があるので、機会を利用できる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
私語厳禁。大幅な遅刻や代筆、他の受講生の迷惑になる行為、その他著しく授業態度の悪い場合は大幅な減点対象となる。 プリント以外にも話す内容などメモやノートをとるように努める。			
授業スケジュール			
１．　地球表層で起こる気象現象１　－大気と気候－ ２．　地球表層で起こる気象現象２　－雲と天気図・気象現象－ ３．　近年の気象現象について　ディスカッション ４．　太陽系の地球　太陽系での地球の成り立ちや他の惑星との違い ５．　地球と宇宙　恒星系と銀河 ６．　地球の構造　－地球の測り方と地球内部の構造－ ７．　火山とマグマ　火山の種類や噴火の形態、マグマの性質 ８．　火成岩と造岩鉱物　火成岩岩石の分類や構成している鉱物 ９．　鉱物の世界 １０．堆積構造と堆積環境　堆積構造の種類と出来方、そこからわかる堆積環境 １１．堆積岩の分類と産状　堆積岩に関する基礎 １２．化石の意義　化石からわかる進化とその見方、意義 １３．.変成作用と変成岩　変成作用とそれらの分類 １４．ジオパークについて　日本のジオパーク、世界のジオパーク １５．総合討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J60305001
科目名	地球科学実験 -s(春前半)(2018 生から)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	三上　禎次	旧科目名称	
授業概要	地球科学を基本にした自然科学の見方を野外実習や現物を取り扱うことで実践し、自然を理解する。地球の作り出す素晴らしい自然を、実際に見て、触れて、自然の法則やすばらしさを実感する。人間の持つ五感を自然の中で最大限生かし、アナログ的な自然の見方や、論理に基づいた計測、観察、作図等を行い、パソコンを用いたデジタル的なデータ処理なども行う。天候に関わる内容も含まれることから、授業は比較的天候の良い春学期前半に予定している。		
教材（教科書）	テキストは使用しない。各回プリントを配布する。		
教材（参考資料）	ニューステージ　新地学図表　浜島書店　ISBN:978-4-8343-4012-9　C7344　￥790＋税		
教育方法	各回テーマに応じた実践を行う。天候や状況に応じて順番を入れ替える可能性あり。		
評価方法	各回の内容をレポートや演習の提出課題を総合して評価。		
到達目標	大地の変動や地球環境が実践を通じて理解できるようになる。		
授業時間外学習	シラバスに記された各回内容を資料集などに目を通し、関連する時事の話題などに常に関心を高めておくこと。また天文分野に関しては不定期に天体観望などを行う可能性があるので、機会を利用できる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全回出席のこと。受講態度が悪い場合は大幅減点対象となる。 野外に出る場合は、危険が伴う場合があるので、行動などは指示に従う。 野外に適した軽登山（スニーカーや運動しやすいズボン）の服装を用意しておくこと。			
授業スケジュール			
1．　地形図の読み方 2．　太陽と星空の観察 3．　野外実習　1（近隣の身近な岩石・地層） 4．　野外実習　2（大地の歴史を感じる見聞）または地質図の作成 5．　岩石・鉱物の肉眼観察 6．　化石の観察 7．　礫の分類・計測と統計データ処理 8．　天気図の作成、総合討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J60306001
科目名	地球科学演習（2018 生から）	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	三上　禎次	旧科目名称	
授業概要	地球表層で起こっている地殻変動や、海洋および陸水域での諸現象、地形発達、火山活動、動植物の地球表層での進化の歴史、身近な気象現象と気候変動、地のめぐみ、地震、人間と石の文化など、多彩な内容で行なう。また防災的内容も含んでいるため、地球科学分野の重要性を認識することを目標とする。講義と演習・実践を交えながら行う。演習は計算問題や作図など地質や地形と絡んだ空間的把握を目指し、実際の岩石や鉱物を触れて、文化地質学的実践も行う。講義中心の回は重要語句などを穴埋めなどで演習する。演習の一部として一部野外実習を取り入れる可能性あり。		
教材（教科書）	ニューステージ　新地学図表　浜島書店　ISBN:978-4-8343-4012-9　C7344　￥790＋税		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントとプリント、板書を用いて講義・演習を行う。DVD 教材も用いる。週末等に野外実習を行う可能性がある。内容に応じて作図や計算問題などの演習問題を取り入れる。状況に応じて各回内容の順番を入れ替える場合がある。		
評価方法	平常点（授業中に課すレポートや演習問題）50%、試験またはそれに代わるレポート試験 50%		
到達目標	受講生は、これまで意識していなかった身近な岩石や鉱物、動植物の進化などの面白さに気付くようになる。 この授業では地球科学が生活の中で根差す重要性に気付くことを目標とし、講義・演習や実習を通じて地球科学分野の多角的な見方で認識できるようになる。		
授業時間外学習	シラバスに記された各回内容を資料集など目を通し、関連する時事の話題などに常に関心を高めておくこと。また天文分野に関しては不定期に天体観望などを行う可能性があるので、機会を利用できる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

私語厳禁。大幅な遅刻や代筆、他の受講生の迷惑になる行為、その他著しく授業態度が悪い場合は大幅な減点対象となる。プリント等配布するが、その他でもできる限りメモやノートをとる。
プリント以外にも話す内容などメモやノートをとるように努める。

授業スケジュール

1．　イントロダクション　地球表層の気候と文化
2．　プレートテクトニクスと日本列島　地球の構造と地殻変動、付加体と日本列島の形成
3．　海洋　海洋循環・海洋の役割諸現象・海洋の歴史
4．　陸水域の科学　湖・河川・平野の発達
5．　火山１　火山のでき方・火山の噴出物・日本の火山・世界の火山
6．　火山２　火山災害
7．　地のめぐみ　資源（温泉・石油・石炭・鉱床）
8．　植物　植物の進化史と役割
9．　動物　動物の進化史と世界の動物分布
１０．地震・津波１　地震のメカニズムと地震災害
１１．地震・津波２　津波災害、地震防災の意識
１２．石とくらし　生活の中の岩石・鉱物
１３．気候変動と地球環境　地球の気候変化、環境問題
１４．野外地質学
１５．総合討論　各回のまとめ等

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J72026A01
科目名	【院】理論経済学演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Theoretical Economics A		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	本講義では、英語で書かれた動学マクロ経済学の教科書を用いて、Modern Macroeconomics の基礎となる Real Business Cycle (RBC) モデルについて学びます。		
教材（教科書）	なし。必要があれば適宜プリントを配布します。		
教材（参考資料）	McCandless, George. (2008). The ABCs of RBCs: An Introduction to Dynamic Macroeconomic Models, Harvard University Press.		
教育方法	授業は、スライドと板書を用いた講義と学生の発表を中心に進められます。		
評価方法	平常点評価 (100%): 課題の提出、授業への参加度により評価します。		
到達目標	1. 経済学の専門用語・基礎概念に関する英語表現を理解できる 2. 英語で書かれたマクロ経済学の論文を独力で読めるようになるための基礎ができる		
授業時間外学習	事前学習： 毎回教科書の該当箇所を読み、式の導出を行ってくること（60 分から 120 分程度） 事後学習： 講義スライド・板書の内容を復習・理解すること（30 分程度）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

初歩的な微分を用いるので、受講希望者は予めこれらの知識を習得しておくことが望ましい。

授業スケジュール

1: Introduction/ The Basic Solow Model (1)
2: The Basic Solow Model (2)
3: The Basic Solow Model (3)
4: The Basic Solow Model (4)
5: The Basic Solow Model (5)
6: The Basic Solow Model (6)
7: The Basic Solow Model (7)
8: Infinitely Lived Agents (1)
9: Infinitely Lived Agents (2)
10: Infinitely Lived Agents (3)
11: Infinitely Lived Agents (4)
12: Infinitely Lived Agents (5)
13: Infinitely Lived Agents (6)
14: Infinitely Lived Agents (7)
15: Infinitely Lived Agents (8)
※登録する受講生の人数や理解度に応じて、進度やトピックは変更になる場合があります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J72026B01
科目名	【院】理論経済学演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Theoretical Economics B		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	本講義では、「理論経済学演習 A」に引き続き、英語で書かれた動学マクロ経済学の教科書を用いて、Modern Macroeconomics の基礎となる Real Business Cycle (RBC) モデルについて学びます。		
教材（教科書）	なし。必要があれば適宜プリントを配布します。		
教材（参考資料）	McCandless, George. (2008). The ABCs of RBCs: An Introduction to Dynamic Macroeconomic Models, Harvard University Press.		
教育方法	授業は、スライドと板書を用いた講義と学生の発表を中心に進められます。		
評価方法	平常点評価 (100%): 課題の提出、授業への参加度により評価します。		
到達目標	1. 経済学の専門用語・基礎概念に関する英語表現を理解できる 2. 英語で書かれたマクロ経済学の論文を独力で読めるようになるための基礎ができる		
授業時間外学習	事前学習： 毎回教科書の該当箇所を読み、式の導出を行ってくること（60 分から 120 分程度） 事後学習： 講義スライド・板書の内容を復習・理解すること（30 分程度）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

初歩的な微分を用いるので、受講希望者は予めこれらの知識を習得しておくことが望ましい。

授業スケジュール

1: Introduction/ Recursive Deterministic Models (1)
2: Recursive Deterministic Models (2)
3: Recursive Deterministic Models (3)
4: Recursive Deterministic Models (4)
5: Recursive Deterministic Models (5)
6: Recursive Deterministic Models (6)
7: Recursive Deterministic Models (7)
8: Recursive Stochastic Models (1)
9: Recursive Stochastic Models (2)
10: Recursive Stochastic Models (3)
11: Recursive Stochastic Models (4)
12: Recursive Stochastic Models (5)
13: Recursive Stochastic Models (6)
14: Recursive Stochastic Models (7)
15: Recursive Stochastic Models (8)
※登録する受講生の人数や理解度に応じて、進度やトピックは変更になる場合があります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J72057001
科目名	【院】計量経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Methods of Econometrics		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	統計分析には多くのアプローチが考えられるが、この講義では基礎的な「計量モデル分析」を中心とした講義を行う。 モデルの対象はマクロ経済、企業経営、都市経営、等様々考えられる。モデルに含まれる要素間の関係を構造方程式の体系として表現する基礎的訓練と、構造パラメータの推定をいかに行うか種々考察する。安定したモデル構造を 推定し、これを通じて各種シュミレーション分析をする。ただし、いきなり高度なモデルを扱うより、初学者を意識したレ ベルから始める。 パラメータの推定と評価に必要となる統計知識を授業の各所で必要に応じ講義する。ただし、確率論は最小限の知 識にとどめ、実際的な統計分析に重点を置く。この分析にはアメリカでは標準的なツールとなっている EViews を利用 する。		
教材（教科書）	毎回、データならびに分析方法を EXCEL、EViews で配布。		
教材（参考資料）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教育方法	（1）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （2）原データを EXCEL で加工して、EViews という分析ソフトに移す。 （3）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（1）から（3）を、テーマごとに繰り返す。 EXCEL や EViews の操作方法をまず最初に覚え、次にデータ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	発表内容による(100%)		
到達目標	計量経済学の入門知識を習得し、具体的な問題に対して、基本的な計量分析ができるようになる。		
授業時間外学習	適宜参考文献や資料調査を指示するので、授業時間外で準備しておくこと。 これ以外に適宜レポート等の宿題を課すのでその準備をすること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
基礎的知識だけでなく、実証分析への関心を高めて欲しい			
授業スケジュール			
1 単回帰モデル 2 単回帰の実際 3 重回帰 4 分散の不均一性 5 分散の不均一性その２ 6 系列相関 7 ＤＷとその実際 8 トレンドとモデルの工夫 9 多重共線性 １０ 多重共線性の例と工夫 １１ ダミー変数の扱い １２ ダミー変数の扱いその２ １３ 同時方程式モデル １４ 同時方程式の簡単な例 １５ 同時方程式の例			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J72058001
科目名	【院】経済統計学	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Statistics		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	経済統計学では、ＳＮＡ統計を中心に、各種統計の内容理解を前提に、これの実証分析への応用を主な課題とする。すなわち、統計データの数量的分析手法については、単一方程式による各種回帰分析手法、及び、同時方程式体系の解法を系統的に解説する。また、既に実用化されているいくつかの計量モデルの分析を通じて、計量モデルの構造や作成のプロセスを理解させると共に、自ら簡単なモデル作成とシミュレーション分析を行えるような訓練を行う。		
教材（教科書）	毎回、データと分析方法を EXCEL にて配布。		
教材（参考資料）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教育方法	（1）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （2）原データを EXCEL で加工して、EViews という分析ソフトに移す。 （3）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（1）から（3）を、テーマごとに繰り返す。 EXCEL や EViews の操作方法をまず最初に覚え、次にデータ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	発表内容による(100%)		
到達目標	経済データを背景の理論に関連づけて理解できる。		
授業時間外学習	適宜参考文献や資料調査を指示するので、授業時間外で準備しておくこと。 これ以外に適宜レポート等の宿題を課すのでその準備をすること		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

特にありませんが、日経データなどはいつも利用できるようにしてもらいます。

授業スケジュール

1　時系列データの処理
2　トレンドと季節調整
3　指数
4　物価指数の実際
5　労働力
6　賃金と労働市場
7　労働市場の動向
8　労働時間と生産性
9　賃金と失業
１０　家計－所得と貯蓄・消費
１１　家計調査
１２　消費構造
１３　消費構造と国際比較
１４　景気変動
１５　景気変動と経済政策

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J72059001
科目名	【院】時系列データ分析	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Analysis		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	マクロ金融システムの時系列データを分析する。マネー、GDP、短期・長期の金利、物価などの経済指標の時系列データの特性を統計学の観点から分析する。定常、非定常、トレンド、AIC、VAR モデルなどの基礎概念を修得する。		
教材（教科書）	必要に応じて資料配布		
教材（参考資料）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、２００９		
教育方法	（1）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （2）原データを EXCEL で加工して、EViews という分析ソフトに移す。 （3）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（1）から（3）を、テーマごとに繰り返す。 EXCEL や EViews の操作方法をまず最初に覚え、次にデータ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	毎回の小課題(50%)と 2 回のレポート(50%)を評価		
到達目標	経済時系列を統計学的に分析できること。		
授業時間外学習	統計分析に必要な数学やコンピュータの知識は分析ソフトを使いながら慣れればよいので、はじめから高いレベルを要求しないが、経済現象の理解は必須である。ミクロ経済学、マクロ経済学、金融論などの基礎知識をもとに、インフレ、デフレ、金融政策、財政政策などを理解していることが望ましい。 事前学習：マクロ経済学、金融論などの基本を理解しておくこと。 事後学習：参考文献「EViews による計量経済分析入門」を、春学期の終わりまでに読み終えておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

統計学やパソコンは使っているうちにだんだん慣れてくる。はじめは難しく感じるかもしれないが、苦手意識から拒絶反応を持たないようにしてほしい。

授業スケジュール

1.データの取得と加工・修正
　日次、週次、月次、四半期、などのデータ特性と季節調整の概念
2.同上
　散布図、回帰直線、トレンドの検出
3.定常・非定常の検定
　　経済・金融データの多くが非定常変数であるので、単位根検定の方法を知る。
4.　同上
　日本のデータを分析
5.同上
　ヨーロッパ・アメリカのデータを分析
6.パラメータ推定の方法
　最小自乗法、ｔ－値、
7.同上
　最尤法、GMM 法
8.AIC の考え方
　データ・フィッティングの基礎となる AIC 評価規範の考え方
9.同上
　各種の具体例
10.金融分析

Marshall の k、マネー、GDP、金利の相互関係
11.同上
貨幣需要関数
12.VAR モデルの考え方
相互依存する変数の時間遅れを伴う相関の強さ
13.同上
成長率モデルとレベル変数の扱い
14.VEC モデルの考え方
非定常変数の長期均衡関係と、定常な成長率モデルとの関係
15.同上
長期均衡の観点から見た貨幣需要関数

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J72060001
科目名	【院】時系列モデル	単位数	2
科目名（英語表記）	Time Series Models		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	マネー、GDP、短期・長期の金利、物価などから時系列マクロ金融モデルを作成し、モデルを用いた経済現象の分析を行う。金融問題として扱われるデフレ、流動性の罠、金融不安の定量分析、貨幣需要関数の安定性などを考察する。		
教材（教科書）	必要に応じて資料配布		
教材（参考資料）	Hamilton,J.D.　"Time Series Analysis"		
教育方法	（1）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （2）原データを EXCEL で加工して、EViews という分析ソフトに移す。 （3）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（1）から（3）を、テーマごとに繰り返す。 EXCEL や EViews の操作方法をまず最初に覚え、次にデータ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	毎回の課題(50%)と 2 回のレポート(50%)		
到達目標	マクロの時系列モデルを、各国のデータで作成できるようになる。		
授業時間外学習	経済現象の理解が不可欠である。ミクロ、マクロ、金融論などを基本知識として、インフレ、デフレなどの現象を理解しておくこと。 事前学習：マクロ経済学、金融論などの基本を理解しておくこと。 事後学習：参考文献「Time Series Analysis」において、授業で学んだ箇所と対応する章を読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

経済データ専用の分析ソフトを使うので、操作方法などよりも、何を分析し、その分析結果が経済学的に何を意味しているのかという理解がもっとも大事である。長い道のりではあるが、がんばってほしい。

授業スケジュール

1.VAR モデル作成
　Vector Auto Regressive モデルの作成方法を学ぶ。
2.同上
　遅れ次数、変数の増減（取捨選択）などの確認
3.インパルス応答
　VAR モデルにおけるインパルス応答とその解釈
4.同上
　成長率とレベル変数におけるインパルス応答の意味
5.VEC モデル作成
　Vector Error Correction モデルの作成方法を学ぶ。
6.同上
　共和分と、非定常変数間の長期均衡関係
7.同上
　VEC モデルにおけるインパルス応答
8.不均一分散モデル（GARCH モデル）の作成
　GARCH モデルの成り立ちとその意味
9.TARCH モデル、EGARCH モデルの作成
　各種の不均一分散モデルの比較検討
10.投資リスクと金融資産のリスク管理
　株式収益率のボラティリティ変動モデル（ARCH モデル）

11.同上
　株式収益率のボラティリティ変動モデル（確率ボラティティモデル）
12.不均一分散モデルの応用
　金融不安の導出（日銀 DI による資金繰り判断と貸出金利）
13.共和分手法による金融問題の解析
　流動性の罠
14.同上
　貨幣需要関数
15.同上
　長短金利が貨幣需要関数に及ぼす影響

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J72062001
科目名	【院】金融経済論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Economics		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	まず、金融システムの概要を理解し、株式、債券市場の分析を通じて、株価決定の理論、債券利回りの構造など、資産運用において欠くことのできない、ファイナンスの知識を教授する。　具体的には、受講者の基礎知識、関心度に基づき、テキストを選定するが、できれば、本年度は英書をテキストとしたい。出席が重視されので、休まないようにしてほしい。		
教材（教科書）	Frederic Mishkin, The Economics of money, Banking and Financial Markets, Addison Wesley、2008 また、適宜資料を配布する。		
教材（参考資料）	Laurence Ball, Moeny, Banking, and Financial Markets, Worth Publishers, 2009		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業参加の熱意(宿題の完成度 40%、講義内での発言 20%、報告内容 40%)		
到達目標	ファイナンスの基本知識の習得につとめることで、経済および景気に関する日々生ずる現実の問題に自分なり考えが持てるようなる。また、将来金融機関に就職する場合の基本的知識を習得することができる。		
授業時間外学習	毎回次の講義の資料提供をおこなうので、しっかり事前の予習をすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

欠席は講義の進行を妨げ、他の受講者の迷惑になるので、よほどの事以外、認めない。日々の経済状況を新聞、テレビニュースで把握しておくこと。

授業スケジュール

1．金融の仕組み
2．銀行とその役割
3．証券会社とその役割
4．保険会社とその役割
5．経済情報の見方
6．　短期金融市場
7．　長期金融市場
8．　株式市場
9．　外国為替市場
10．証券投資のリスクとリターン
11．　金利の期間構造
12．　オプションとディリバティブ
13.　金融規制
14.　金融危機
15.　ライフプランと資産運用

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J72066001
科目名	【院】公共経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
授業概要	公共経済学の主たる判断基準のひとつは「社会的厚生」に置かれる。そして、この社会的厚生の定義は、基本的には社会の構成員の効用の集計として設定される。したがって、個人の効用を規定し影響を与える諸要因と効用との関係を明確に理解することが公共経済学の分析にとっての第一歩となる。本講義では、個人の生涯設計に関連する各ステージにおける主体的選択問題を、ミクロ経済学の制約付き最適化問題および費用＝便益分析を用いて理解する。		
教材（教科書）	特に指定しない。講義資料を配布する。		
教材（参考資料）	有賀裕二『ミクロ経済学入門』新世社 小崎・牧野・吉田『キャリアと労働の経済学』日本評論社 仁科一彦・倉澤資成『ポートフォリオ理論－基礎と応用』中央経済社 根岸康夫『現代ポートフォリオ理論講義』金融財政事情研究会		
教育方法	前半は講義形式、後半は演習形式で進める。		
評価方法	授業内報告 50%　レポート 50%		
到達目標	社会的厚生を規定する個人の効用の性質について理解する。その上で、個人の主体的選択問題とその応用としての各種の公共政策の導入・変更が個人の効用に与える影響について理解すると同時に、市場および社会的厚生への影響を確認する。		
授業時間外学習	（1）ミクロ経済学の基礎理論を復習しておく。特に、制約付き最適化問題および社会的厚生についての理解は不可欠である。 （2）報告用資料は、報告の前週までに配布できるよう準備する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（1）丁寧な理解を心がけ、曖昧な点は質問し、確実な理解に到達するまで取り組む。
（2）理論分析の前提条件の妥当性、およびその変更・修正がもたらす結論への影響について考える。
（3）現実社会を前提に、経済理論が提示する結論の有効性とその限界について考える。

授業スケジュール

1．効用の性質：基数的効用と序数的効用、各種の効用関数の特徴
2．ライフサイクル理論の基本：貯蓄の決定、利子率の変化の貯蓄への影響
3．ライフサイクル理論の応用：不労所得の変化の貯蓄への影響、ダクラス＝有沢の法則
4．労働供給の経済学１：余暇と労働の選択、ベドニック賃金関数、ワークライフ・バランス
5．労働供給の経済学２：公的年金の労働供給への影響、退職促進効果
6．キャリアの経済学１：人的資本理論、シグナリング理論
7．キャリアの経済学２：サーチ理論、昇進のトーナメント理論
8．貯蓄の経済学１：モダン・ポートフォリオ理論、２ファンド分離定理
9．貯蓄の経済学２：資本資産価格モデル、裁定価格付け理論
１０．リスクの経済学：期待効用理論、リスク選好、標準偏差と期待収益の選択
１１．保険の経済学１：モラルハザード、情報の非対象性、レモンの原理
１２．結婚の経済学：ベッカー・モデル、ヴェイス・モデル、最適停止問題
１３．出生の経済学：ライベンシュタイン・モデル、ベッカー・モデル、イースタリン・モデル
１４．社会保障の経済学１：公的年金、私的年金
１５．社会保障の経済学２：失業保険、労災保険、医療保険、介護保険

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J72068001
科目名	【院】経済社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Sociology		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	本講義では、まず近代という時代がいかなる歴史的背景の下に誕生し、そしてどのような特質を持つのかを概観する。次に、そこへ登場する社会構想である自由主義の特徴と限界について考察し、近代のもう一つの体制構想である社会主義についても検討を行う。また、近代民主主義の理念とその変質にも目を向ける。 さらに、戦後西側諸国で指導像とされた福祉国家について、その理想と現実とはどのようなものであったかを考察した上で、近代の転換の方位と新たな社会の原理について展望する。		
教材（教科書）	必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	野尻武敏『第三の道』晃洋書房 野尻武敏『転換期の政治経済倫理序説』ミネルヴァ書房		
教育方法	予め資料を配布するので、受講者は毎回事前に熟読し、授業の中でその内容等について報告を行ってもらう。その上で、科目担当者はその範囲についての説明を行う。少人数の授業になると思われるので、できるだけ双方向の授業とする。		
評価方法	授業内（平常）の課題（小レポート等）(50%)、期末レポート（50%)。		
到達目標	近代社会の特質と近代の体制構想、および経済社会体制の転換の方向について自らの視点で述べることができること。		
授業時間外学習	予め指示する文献等を熟読し、指定する範囲をレジュメにまとめて毎回の授業時に提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

上記のように受講者には授業の中でテキスト等の文献の内容について報告を行ってもらうことがあるので、十分な準備（予習）の上で授業に臨むことが求められる。

授業スケジュール

1．近代の誕生
2．近代の特性
3．自由主義社会思想
4．自由資本主義の展開
5．体制混合化
6．自由市場経済の諸機能
7．新自由主義の思潮
8．社会主義の新展開
9．近代民主主義社会
10．利益団体と多元社会化
11．福祉国家の形成と挫折
12．高齢化の進行
13．少子化問題
14．近代の原理と社会保障の困難
15．福祉社会の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2018	授業コード	J72073001
科目名	【院】経済政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Policy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	東西冷戦の終結後に急速に進んだグローバル化の動きが反転するとともに、国内では少子高齢化、さらには人口減少社会への移行に加え潜在成長力の低下傾向を受け、福祉国家体制も反転し始めたといってよい．そこでまず、多元社会化の動きに注目しながら政策主体を巡る議論を整理したのち、マクロ経済政策の基本的な事項の理解に努めとともに、政策形成過程の問題を取り上げる．先進国に共通する問題の一つが、中間組織の役割とその位置づけであり、先進国の直面する経済社会問題を解決する秩序構想として「三重秩序」を紹介する．		
教材（教科書）	使用しない		
教材（参考資料）	野尻武敏 『第三の道―経済社会体制の方位』 晃洋書房　1997 年		
教育方法	学生の報告と講義資料に基づく講義を中心に行う．		
評価方法	課題報告(50%)と学期末レポート（50%）		
到達目標	経済政策論基礎理論、特に政策形成過程の問題点を説明することができる．		
授業時間外学習	配付資料に目を通し，関連する経済動向と政策的対応について，新聞報道や雑誌記事等を通じて事前に確認する．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
経済社会のメガトレンドを理解し，課題発見力と問題解決能力を向上させる			
授業スケジュール			
１．日本経済の現況と課題 ２．日本経済の現況と課題 ３．経済社会の多元化と政策主体の多様化 ４．成長政策 ５．分配政策 ６．経済安定化政策 ７．経済安定化政策 ８．経済安定化政策 ９．経済安定化政策 １０．経済安定化政策 １１．政策形成過程 １２．政策形成の担い手 １３．政策形成のパラダイム １４．協調的政策形成 １５．経済社会の三重秩序論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J72074001
科目名	【院】比較経済政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Comparative Analysis of Economic Policy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	共通する政策課題でも，その対応策は多様である．それぞれの国の歴史的・社会的・経済的な背景が異なるからである．とはいえ，諸外国の政策的取組が参考にならないことはないし，政策にも流行がある．例えば，先進各国で今日広く強調されているのが積極的労働市場政策であり，ワーク・ライフ・バランスである．そのことを通じて労働市場での人間の主権回復が目指されているといってもよい．我が国の政策課題を EU の経済社会政策を中心に比較検討する．		
教材（教科書）	使用しない		
教材（参考資料）	永合位行 『福祉国家体制の危機と経済倫理学の再興』 勁草書房 2016 年		
教育方法	学生の報告を中心に進める		
評価方法	課題報告(50%)と学期末レポート(50%)		
到達目標	EU の政策実践と我が国のそれを比較検討し，日本の政策課題と政策提言を説明することができる		
授業時間外学習	欧州統合の拡大と深化が進む中，EU の政策は創意工夫に富んでいる．新聞や雑誌記事等を通じて，欧州委員会の取組を事前に確認する．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
政策課題をできるだけ具体的に絞り込み，EU と日本のそれぞれの政策的対応を注視しよう．			
授業スケジュール			
１．我が国の経済社会の変容と政策課題 ２．我が国の経済社会の変容と政策課題 ３．我が国の経済社会の変容と政策課題 ４．欧州社会モデル ５．欧州統合の拡大 ６．欧州統合の拡大 ７．欧州統合の深化 ８．欧州統合の深化 ９．欧州統合の深化 １０．リスボン戦略の展開 １１．欧州雇用政策の展開 １２．欧州雇用政策の展開 １３．フレキシキュリティ政策 １４．欧州 2020 １５．福祉国家からワークフェアー国家へ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J72075001
科目名	【院】公共政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Policy		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
授業概要	「公共性」とは何か、さらに公共の利益をどのような概念で捉え、それを測定可能な具体的指標として何に注目すべきであるのか。これらの問題は、価値判断を伴う規範的アプローチによって捉えていくしかない。すなわち、公共性の問題は公共の哲学から独立には論じ得ない。また、公共の利益の実現およびその拡大を図る役割の一部は政府が担うが、その政府は不完全であり、政府が公共の利益を損なう場合も生じうる。民主主義社会における政府の意思決定メカニズムに内在する欠陥について、経済学的視点から分析する「公共選択論」についても学ぶ。		
教材（教科書）	（１）Muller,D.C., Public Choice Ⅱ，Cambridge University Press. （２）宮本憲一『公共政策のすすめ：現代的公共性とは何か』有斐閣。		
教材（参考資料）	（１）ミューラー,D.C.,『ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ・公共選択の展望』Ⅰ－Ⅲ　関谷・大岩訳　多賀出版。 （２）新藤宗幸『概説日本の公共政策』東京大学出版会。		
教育方法	前半は講義形式、後半は演習形式で進める。		
評価方法	授業内報告 50%　レポート課題 50%		
到達目標	公共性とは何か、公共の利益を実現すべき政府の意思決定における欠陥は何か、現代の日本および国際社会が目指す公共の利益とその政策手段は何かについて、効率性を主な判断基準として理解する。		
授業時間外学習	（１）ミクロ経済学の基礎を復習しておく。 （２）配布資料の指定箇所を予習しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
（１）「公共経済学」と続けての受講が望ましい。 （２）現代日本の公共政策に関する具体的な課題について、日頃から関心を持って能動的に情報に接する。			
授業スケジュール			
第１回：公共性の概念と哲学　（１） 第２回：公共性の概念と哲学（２） 第３回：現代経済学における政府の機能 第４回：公共選択論（１）政府の誕生、リヴァイアサン、共有地の悲劇 第５回：公共選択論（２）投票のルール、投票のパラドックスと中位投票者モデル 第６回：公共選択論（３）選挙制度、政治家の行動 第７回：公共選択論（４）官僚機構、利益集団 第８回：公共政策（１）年金・医療・介護 第９回：公共政策（２）労働政策 第１０回：公共政策（３）社会資本整備 第１１回：公共政策（４）公債管理政策 第１２回：国際公共政策（１）国際公共財とは何か 第１３回：国際公共政策（２）地球環境政策 第１４回：国際公共政策（３）途上国の開発援助 第１５回：国際公共政策（４）安全保障			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J72076001
科目名	【院】社会政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Policy		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	本講義では、まず社会政策実践およびドイツ語圏における社会政策論の展開を概観することを通じて、社会保障の原理的・思想的基盤について考察を行う。 次に、今日の社会保障制度の中から医療・年金・介護に関する各分野を取り上げ、それらの方法、目的および意義を考察するとともに、少子高齢社会においてそれらが直面する課題について検討を行うことにより、わが国の社会保険制度への理解を深めることを目指す。		
教材（教科書）	必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて指示する。		
教育方法	予め資料を配布するので、受講者は毎回事前に熟読し、授業の中でその内容等について報告を行ってもらう。その上で、科目担当者はその範囲についての説明を行う。少人数の授業になると思われるので、できるだけ双方向の授業とする。		
評価方法	授業内（平常）の課題（小レポート等）(50%)、期末レポート（50%)。		
到達目標	社会保険の各制度について説明できるとともに、社会保障の意義について自らの視点で述べることができること。		
授業時間外学習	予め指示する文献等を熟読し、指定する範囲をレジュメにまとめて毎回の授業時に提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・受講者には指示する文献の内容について授業の中で報告を行ってもらうことがあるので、十分な準備（予習）の上で授業に臨むことが求められる。
・学部在学中に「社会政策論」（または「社会保障論」等の社会保障をテーマにした科目）を受講し単位取得済みであることが望ましい。

授業スケジュール

1. 社会保障の制度と定型
2. 社会政策から社会保障へ
3. 社会政策の構造機能
4. 社会保障と補完性原則
5. 社会保険の概要
6. 医療保険の概念と制度体系
7. 健康保険
8. 国民健康保険
9. 公的年金制度の体系と意義
10. 国民年金
11. 厚生年金
12. 公的年金制度と高齢化
13. 介護と社会保険
14. 介護保険の基礎知識
15. 介護保険制度の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2018	授業コード	J72079001
科目名	【院】金融政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Monetary Policy		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	金融政策の具体的手法について学び、マクロ経済の動向、金融政策と景気変動、マネーストックと実体経済の関係についての理解を深める。本年度はいま注目されている、アベノミクスについて学び、日本経済の長期デフレと金融政策の関係を中心に講義するが、これまで世界で起きたさまざまな金融危機についても学ぶ。講義は出席を重視するので、休まないでほしい。		
教材（教科書）	Frederic Mishkin, The Economics of money, Banking and Financial Markets, Addison Wesley、 2008		
教材（参考資料）	P.Howels and K. Bain, The Economics of Money, Banking and Finance, Second. Ed. Prentice Hall, 2002. L. Jonung, J. Kiander, and P. Varita, The Great Financial Crisis in Finland and Sweden, Edward Elger, 2009.		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業参加の熱意(宿題の完成度 40%、講義内での発言 20%、報告内容 40%)		
到達目標	金融政策全般の知識を習得することで、金融危機などの現実問題に自分なりの意見を持てるようになる。		
授業時間外学習	毎回つぎの時間の講義資料を提供するので、事前に予習をよくしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日々新聞の経済記事をよく読み、経済の現状を把握していること。宿題を多くだすので、その提出を怠らないこと。			
授業スケジュール			
１．　金融政策とは何か ２．　日本銀行の金融調節 ３．　高度成長と金融① ４．　高度成長と金融② ５．　バブル経済と金融① ６．　バブル経済と金融② ７．　金融自由化と金融危機① ８．　金融自由化と金融危機② ９．　アメリカの S&L 金融危機 １０．　メキシコの金融危機 １１．　北欧の金融危機① １２．　北欧の金融危機② １３．　東アジア金融危機 １４．　サブプライムローンと金融危機 １５．　1930 年代の世界大恐慌			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J72090001
科目名	【院】技術戦略論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
授業概要	21 世紀の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。21 世紀におけるわが国の企業には、いまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。それら産業競争力の強化の一つの手段として、企業の技術経営における「技術戦略」は重要な位置付けであると考えられる。本講義では「技術戦略」についての知識を習得し企業の技術経営の事例等を学習していく。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義で適時指示する。		
教育方法	パワーポイントあるいは板書を活用しながら講義法でおこなう		
評価方法	レポート(60%)+平常点(40%)		
到達目標	技術経営に関する知識の習得。		
授業時間外学習	技術経営、技術戦略の興味ある事例を予習しておくことが望ましい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1)　講義には積極的な質疑応答を心がけるんど能動的な姿勢で出席すること。
2）講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める。

授業スケジュール

1　　技術戦略論とは
2　　市場ニーズに基づいた技術経営の必要性
3　　技術と競争優位
4　　技術戦略と事業化
5　　価値連鎖と技術戦略
6　　術戦略決定のプロセス
7　　キーテクノロジーの抽出
8　　将来的技術変化の分析
9　　自社技術の評価・技術取得に関する優先順位の決定
10　競争優位の源泉としての技術戦略
11　優れた資産と特徴的な能力
12　戦略的連携
13　不確定性の中での意思決定
14　4 つの代替オプション
15　技術投資の意思決定

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J72091A01
科目名	【院】技術移転論演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
授業概要	２１世紀の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。21 世紀におけるわが国の企業にはいまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。その実現の手段として大学等の「知」を活用した国の産業競争力の強化という観点から産学官連携における技術移転は重要な位置付けであると考えられている。 　本演習にて「業界別のニーズ事例調査」、「大学発ベンチャーの事例調査」などの「技術移転」についての事例を調査演習をおこなう。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	演習時に適宜指示		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる		
評価方法	レポート(60%)＋授業内小テスト等による平常点(40%)		
到達目標	技術移転に関する知識の習得。		
授業時間外学習	技術移転、産学官連携活動の興味ある事例を予習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１）講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること ２）講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める			
授業スケジュール			
1　演習の内容と進め方 2　業界別のニーズ事例調査演習(1) 3　業界別のニーズ事例調査演習(2) 4　業界別のニーズ事例調査演習(3) 5　大学発ベンチャーの事例調査演習(1) 6　大学発ベンチャーの事例調査演習(2) 7　大学発ベンチャーの事例調査演習(3) 8　日本の技術移転の事例調査演習(1) 9　日本の技術移転の事例調査演習(2) 10　日本の技術移転の事例調査演習(3) 11　日本の技術移転の事例調査演習(4) 12　演習レポート作成(1) 13　演習レポート作成(2) 14　演習レポート作成(3) 15　演習レポート発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J72091B01
科目名	【院】技術移転論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
授業概要	現代の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。21 世紀におけるわが国の企業にはいまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。その実現の手段として大学等の「知」を活用した国の産業競争力の強化という観点から産学官連携における技術移転は重要な位置付けであると考えられている。 本演習にて「地域資源」についての事例を調査研究し、地域資源に関する産学官連携事例、地域との連携事例等に関し演習していく。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	演習時に適宜指示		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる		
評価方法	レポート(60%)＋授業内小テスト等による平常点(40%)		
到達目標	技術移転に関する知識の習得。		
授業時間外学習	技術移転、産学官連携活動の興味ある事例を予習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1）講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること
2）講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める

授業スケジュール

1　演習の内藤と進め方
2　地域資源について事例調査演習(1)
3　地域資源について事例調査演習(2)
4　地域資源について事例調査演習(3)
5　地域資源について事例調査演習(4)
6　地域と大学の連携事例調査演習(1)
7　地域と大学の連携事例調査演習(2)
8　地域と大学の連携事例調査演習(3)
9　地域社会への技術移転の事例調査演習(1)
10 地域社会への技術移転の事例調査演習(2)
11 地域社会への技術移転の事例調査演習(3)
12 演習レポート作成(1)
13 演習レポート作成(2)
14 演習レポート作成(3)
15 演習レポート発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J72122A01
科目名	【院】金融経済論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Finanial Economics A		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	演習では、受講者と相談の上、研究タイトルを決め、それに従って論文指導を実施する。ただし、金融危機に関するものでなくてはならない。1 年目は論文の基礎として、1985 年のプラザ合意以降、わが国でどのようにバブルが発生し、その後日本経済が長期のデフレ不況に陥っていったかを研究する。また、それと関連して、1930 年代に生じたアメリカ大恐慌についても研究をする。		
教材（教科書）	田中隆之『現代日本経済：バブルとポストバブルの奇跡』日本評論社		
教材（参考資料）	若田部　『危機の経済政策』　日本評論社 小川一夫　『失われた 10 年の真実』　東洋経済新報社 藤井真理子　『金融革新と市場危機』　日本経済新聞社 伊藤隆敏他　『ポスト平成不況の日本経済』　日本経済新聞社 村松・奥野　『平成バブルの研究上,下』　東洋経済新報社 浜田・原田　『長期不況の理論と実証』　東洋経済新報社 深尾　『マクロ経済と産業構造』　慶応大学出版会 池尾　『不良債権と金融危機』　慶応大学出版会 吉川　『バブル・デフレ期の日本経済と金融政策』　慶応大学出版会 星・カシャップ　『日本金融システム進化論』　日本経済新聞社		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業参加の熱意(宿題の完成度 40%、ゼミでの発言 20%、報告内容 40%)		
到達目標	金融危機についての基本的理解ができる。		
授業時間外学習	毎時間与えられるアドバイスに従い、次回の講義までに論文の修正をすること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
論文作成に専念すること。			
授業スケジュール			
論文完成を目指して、その準備をおこなう。 1.日本のマクロ経済構造 2.日米経済摩擦の展開とプラザ合意 3.政策協調と財政金融政策 4.円高の役割 5.金融自由化のインパクト 6.金融監視と規律の欠如 7.バブルと金融機関行動 8.バブルと資産価格高騰とそのメカニズム 9.バブルと実体経済 10.バブルの崩壊過程 11.その理念 12.経済主体の行動 13.不良債権問題の発生と展開 14.金融機関の破綻処理 15.量的金融緩和政策とその効果について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J72122B01
科目名	【院】金融経済論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Finanial Economics B		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	演習Ａに準ずる。　演習では、受講者と相談の上、研究タイトルを決め、それに従って論文指導を実施する。ただし、金融危機に関するものでなくてはならない。1 年目は論文の基礎として、1985 年のプラザ合意以降、わが国でどのようにバブルが発生し、その後日本経済が長期のデフレ不況に陥っていったかを研究する。また、それと関連して、1930 年代に生じたアメリカ大恐慌について研究をする。		
教材（教科書）	ミルトン・フリ-ドマンとアンナ・シュウォーツ『大収縮 1929-1933』日経ＢＰクラシックス		
教材（参考資料）	Ben Bernanke, Essays on the Great Depression, Prenceton University, 2000. Edward Chancellor,　Devil Take the Hindmost:: A History of Financial Speculation（山岡訳『バブルの歴史』日経ＢＰ社） Ｆ. Allen, Only Yesterday--A Informal History of the Nineteen Twenties, New York, Harper and Brothers. Peter Temin, Did Monetry forces Cause the Great Depression ?, W.Norton, 1976. Peter Temin, Lessons From the Great Depresion, Cambridge, 1989. C. Kindleberger, Maniacs, Panics and Crashes, Basic books Inc., NY.1989. ﾊﾞｰｶｰ『大恐慌を見た経済学者 11 人はどう生きたか』中央経済社		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業参加の熱意(宿題の完成度 40%、ゼミでの発言 20%、報告内容 40%)		
到達目標	金融危機について自分の意見を語ることができる。		
授業時間外学習	毎日かなり多くの資料、文献を読むことが要求される。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
金融危機の解明に情熱が持てること。英語の文献を読む機会が多いので、英語の読解力があること。			
授業スケジュール			
論文完成を目指して、その準備をおこなう。 １．　１９２０年代のアメリカ ２．　金本位制の問題 ３．　金融仮説とフリードマン① ４．　金融仮説とフリードマン② ５．　バーナンキの貸付仮説① ６．　バーナンキの貸付仮説② ７．　B.ストロングの死と金融政策 ８．　金融政策指標と大恐慌 ９．　真正手形ドクトリン １０．　ケインズと大恐慌 １１．　ルーズベルトの金融改革① １２．　ルーズベルトの金融改革② １３．　37 年の出口問題 １４．　第二次世界大戦は恐慌を終了させたか。 １５．　来年度の研究方針			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J72154A01
科目名	【院】租税論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Tax Policy A		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
授業概要	本演習では租税論および租税法の基礎的・体系的理解を深めることを目的とする。わが国の税制は国税だけでも法人税、所得税、相続税、消費税等々その範囲が膨大でその全体を理解するのは容易ではない。それぞれの税目を概観しながら、わが国税制の現状と問題点を考察する。		
教材（教科書）	随時レジュメや参考資料を配布する。		
教材（参考資料）	『図説日本の税制（最新版）』　財経詳報社 金子宏著『租税法（最新版）』　弘文堂		
教育方法	参考文献の購読を中心とし、受講生とのディスカッション形式で行う。		
評価方法	授業内報告（50%）　課題レポート（50%）		
到達目標	わが国の税制を体系的に理解し、現状と問題点を把握する。		
授業時間外学習	税制に関する基礎的な文献や、重要判例を関心をもって読むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業中の活発な議論を期待する。			
授業スケジュール			
１．わが国の税制の概要 ２．租税制度の変遷（１） ３．租税制度の変遷（２） ４．租税制度の変遷（３） ５．租税制度の現状（所得税１） ６．租税制度の現状（所得税２） ７．租税制度の現状（法人税１） ８．租税制度の現状（法人税２） ９．租税制度の現状（法人税３） 10.租税制度の現状（法人税４） 11.租税制度の現状（消費税１） 12.租税制度の現状（消費税２） 13.租税制度の現状（消費税３） 14.国際課税制度 15.最近の税制改正			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J72154C01
科目名	【院】租税論演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Tax policy C		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
授業概要	租税論に関する受講者各自の研究テーマに基づき、個別論点を掘り下げ、修士論文にまとめ完成させることを目的とする。論文とレポートとの違いは問題意識の有無にある。常に社会・経済の動きを注視し、高い問題意識を持って、現行税制の現状と問題点を洞察し、あるべき税制の姿まで踏み込んだ論文作成が望まれる。		
教材（教科書）	テキストの使用はありません。		
教材（参考資料）	受講生の研究テーマに応じて適宜指示する。		
教育方法	受講生の選択した論文テーマの報告を受け、ディスカションを行う。		
評価方法	授業内報告（50%）　課題レポート（50%）		
到達目標	現行税制の問題点を掘り下げ、あるべき税制の姿を探求し、修士論文を完成する。		
授業時間外学習	研究テーマに関する広範な文献、租税判例、資料を読破する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

社会変化を見据え、高い問題意識を持って研究テーマを探求すること。

授業スケジュール

1. 研究テーマと研究計画の検討（1）
2. 研究テーマと研究計画の検討（2）
3. 研究テーマと研究計画の検討（3）
4. 研究テーマに関する先行研究の報告と議論（1）
5. 研究テーマに関する先行研究の報告と議論（2）
6. 研究テーマに関する先行研究の報告と議論（3）
7. 修士論文の進捗状況の報告と議論（1）
8. 修士論文の進捗状況の報告と議論（2）
9. 修士論文の進捗状況の報告と議論（3）
10. 修士論文の各章の報告と議論（1）
11. 修士論文の各章の報告と議論（2）
12. 修士論文の各章の報告と議論（3）
13. 修士論文の章構成の報告と議論（1）
14. 修士論文の章構成の報告と議論（2）
15. 夏季休暇中の研究計画の確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J72154D01
科目名	【院】租税論演習D	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Tax policy D		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
授業概要	租税論に関する受講者各自の研究テーマに基づき、個別論点を掘り下げ、修士論文にまとめ完成させることを目標とする。社会・経済の動きを注視し、高い問題意識を持って、現行税制の現状と問題点を洞察し、あるべき税制の姿まで踏み込んだ論文作成が望まれる。		
教材（教科書）	テキストの使用はありません。		
教材（参考資料）	受講生の研究テーマに応じて適宜指示する。		
教育方法	受講生の選択した論文テーマの報告を受け、ディスカッションを行う。		
評価方法	授業内報告（30%）　修士論文の内容（70%）		
到達目標	わが国の現行税制の問題点を掘り下げ、あるべき税制の姿を探求する修士論文を完成する。		
授業時間外学習	研究テーマに関する広範な文献、租税判例、資料を読破する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

修士論文作成にあたっては、数多くの文献等にあたり、先行研究を読み込むことが必要なことはいうまでもないが、研究テーマを広げすぎると論文としてまとまらない。極力テーマを絞込み、掘り下げることが肝要である。また、思考とともに、常に手を動かし文章化作業を進めていくことが重要である。

授業スケジュール

1. 夏季休暇中の修士論文進捗状況の報告
2. 修士論文の全体構想の報告と議論（1）
3. 修士論文の全体構想の報告と議論（2）
4. 修士論文の全体構想の報告と議論（3）
5. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（1）
6. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（2）
7. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（3）
8. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（4）
9. 修士論文の各章ごとの草稿の報告と議論（5）
10. 修士論文全体の草稿の報告と議論（1）
11. 修士論文全体の草稿の報告と議論（2）
12. 修士論文全体の草稿の報告と議論（3）
13. 修士論文全体の草稿の報告と議論（4）
14. 修士論文全体の草稿の報告と議論（5）
15. 参考文献目録等を含めた修士論文の最終検討

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J72155B01
科目名	【院】租税論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Tax Policy B		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
授業概要	本演習では、租税論演習Ａで学んだ知識のうえに立ち、受講者の関心のある税目につき、より掘り下げた個別問題を研究する。基本書や研究論文等の講読や、判例研究を地道に行うことを第一歩として、その上で高い問題意識を持って、個別論点の検討を行うことによって、修士論文にふさわしいテーマを見出す。		
教材（教科書）	随時レジュメや参考資料を配布する。		
教材（参考資料）	三木義一ほか編著『租税判例分析ファイル１（所得税編）』　税務経理協会 三木義一ほか編著『租税判例分析ファイル２（法人税編）』　税務経理協会 三木義一ほか編著『租税判例分析ファイル３（相続税・消費税編）』　税務経理協会		
教育方法	参考文献の購読を中心に、受講生とのディスカッション形式で行う。		
評価方法	授業内報告（50%）　課題レポート（50%）		
到達目標	わが国の税制を体系的に理解し、現状と問題点を把握する。		
授業時間外学習	税制に関する基礎的な文献や、重要判例などを関心をもって読むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業中の活発な議論を期待する。			
授業スケジュール			
１．所得税の現状と問題点（１） ２．所得税の現状と問題点（２） ３．所得税の現状と問題点（３） ４．法人税の現状と問題点（１） ５．法人税の現状と問題点（２） ６．法人税の現状と問題点（３） ７．法人税の現状と問題点（４） ８．法人税の現状と問題点（５） ９．法人税の現状と問題点（６） 10.消費税の現状と問題点（１） 11.消費税の現状と問題点（２） 12.消費税の現状と問題点（３） 13.資産税の現状と問題点（１） １４.資産税の現状と問題点（２） １５.資産税の現状と問題点（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J72159001
科目名	【院】マクロ経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	本講義では、標準的なマクロ経済学の理論とその応用を扱います。まず一国の経済活動水準はどのように測定されているか復習したのちに、主に長期における経済活動の決定要因について考察します。		
教材（教科書）	マンキュー・G (2017)『マンキュー マクロ経済 I 入門編 第 4 版』（足立英之、地主敏樹、中谷武、柳川隆 訳）東洋経済新報社		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介する予定です。		
教育方法	授業は、スライドと板書を用いた講義と学生の発表を中心に進められます。		
評価方法	平常点評価 (50%): 課題の提出、授業への参加度により評価します。 レポート (50%): 主に教科書の章末問題の中から、レポート試験の課題を提示します。		
到達目標	1. マクロ経済学の専門用語・基礎概念を英語表現とともに理解できる 2. マクロ経済の理論を応用して現実の問題を考察できる		
授業時間外学習	事前学習： 毎回教科書の該当箇所を読み、式があればその導出を行ってくること（60 分程度） 事後学習： 講義スライド・板書の内容を復習・理解すること（30 分程度）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業では数学（初歩的な微分など）を用いる予定なので、受講希望者は予めこれらの知識を習得しておくことが望ましい。

授業スケジュール

1: 科学としてのマクロ経済学 (1)
2: 科学としてのマクロ経済学 (2)
3: マクロ経済学のデータ (1)
4: マクロ経済学のデータ (2)
5: 国民所得 (1)
6: 国民所得 (2)
7: 国民所得 (3)
8: 貨幣システム (1)
9: 貨幣システム (2)
10: 貨幣システム (3)
11: インフレーション (1)
12: インフレーション (2)
13: 開放経済 (1)
14: 開放経済 (2)
15: 開放経済 (3)
※登録する受講生の人数や理解度に応じて、進度やトピックは変更になる場合があります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J72160001
科目名	【院】マクロ経済分析	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomic Analysis		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	本講義では、大学院設置科目「マクロ経済学」に引き続き、標準的なマクロ経済学の理論とその応用を扱います。「マクロ経済分析」では、主に短期における経済活動の決定要因について考察します。		
教材（教科書）	マンキュー・G (2017)『マンキュー マクロ経済 I 入門編 第 4 版』（足立英之、地主敏樹、中谷武、柳川隆 訳）東洋経済新報社		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介する予定です。		
教育方法	授業は、スライドと板書を用いた講義と学生の発表を中心に進められます。		
評価方法	平常点評価 (50%): 課題の提出、授業への参加度により評価します。 レポート (50%): 主に教科書の章末問題の中から、レポート試験の課題を提示します。		
到達目標	1. マクロ経済学の専門用語・基礎概念を英語表現とともに理解できる 2. マクロ経済の理論を応用して現実の問題を考察できる		
授業時間外学習	事前学習： 毎回教科書の該当箇所を読み、式があればその導出を行ってくること（60 分程度） 事後学習： 講義スライド・板書の内容を復習・理解すること（30 分程度）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業では数学（初歩的な微分など）を用いる予定なので、受講希望者は予めこれらの知識を習得しておくことが望ましい。

授業スケジュール

1: 景気変動へのイントロダクション (1)
2: 景気変動へのイントロダクション (2)
3: 総需要１：ＩＳ－ＬＭモデルの構築 (1)
4: 総需要１：ＩＳ－ＬＭモデルの構築 (2)
5: 総需要１：ＩＳ－ＬＭモデルの構築 (3)
6: 総需要２：ＩＳ－ＬＭモデルの応用 (1)
7: 総需要２：ＩＳ－ＬＭモデルの応用 (2)
8: 総需要２：ＩＳ－ＬＭモデルの応用 (3)
9: 開放経済再訪：マンデル＝フレミング・モデルと為替相場制度 (1)
10: 開放経済再訪：マンデル＝フレミング・モデルと為替相場制度 (2)
11: 開放経済再訪：マンデル＝フレミング・モデルと為替相場制度 (3)
12: 開放経済再訪：マンデル＝フレミング・モデルと為替相場制度 (4)
13: 総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ (1)
14: 総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ (2)
15: 総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ (3)
※登録する受講生の人数や理解度に応じて、進度やトピックは変更になる場合があります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J72161001
科目名	【院】情報科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Science		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
授業概要	現在のネットワーク社会の安全を守る基本的な技術として暗号があります。この講義では暗号の理論的な基礎であ る初等整数論の話を表計算ソフト Excel を使って学びます。それを踏まえて公開鍵暗号方式の仕組みと安全性を考 察します。また、実際のネットワーク環境での利用方法を実習します。		
教材（教科書）	靍浩二著「Excel で学ぶ暗号技術入門」オーム社 2808 円　　授業時間外学習使用する。		
教材（参考資料）	講義中に適宜指示する。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	平常点すなわち授業姿勢(40%)と、授業内レポートとレポート(60%)で評価します。		
到達目標	暗号技術について、実社会での意味と、具体的技術的な内容を把握することで，その重要性と限界を説明できるようになること。		
授業時間外学習	現代社会におけるセキュリティ技術やネットワークにおける脅威・事件を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持つようにしてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学の計算を厭わないことと、コンピュータの操作が一通り出来ることです。懇切丁寧なテキストを採用していますので毎回予習して おいてください。			
授業スケジュール			
講義の順序は 1. 暗号入門 2. 初等整数論 1 3. 初等整数論 2 4. 初等整数論 3 5. 暗号技術(1)共通鍵暗号 6. 暗号技術(2)公開鍵暗号 7. 暗号技術(3)ハッシュ関数とデジタル署名 8. 暗号攻撃方法 9. 情報セキュリティ技術(1)電子認証技術 10. 情報セキュリティ技術(2)SSL 11. 情報セキュリティ技術(3)SSH 12. 情報セキュリティ技術(4)IPSec 13. ネットワーク社会と暗号 14. 量子暗号 15. 暗号技術の課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J72162001
科目名	【院】経済学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economics		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
授業概要	アダム・スミスに始まるイギリス古典派経済学を中心に学習する。「現代経済学」の源流はスミスの『国富論』（1776 年）に求められ、このスミスからリカードウとマルサスをへて、Ｊ．Ｓ．ミルにいたる系譜をイギリス古典派経済学と呼んでいる。 　この講義では、イギリス古典派経済学の系譜をスミスからミル、そしてマルクスまでたどり、イギリス古典派経済学の理論展開とその継承関係について学ぶことにしたい。		
教材（教科書）	1. 馬渡尚憲『経済学史』（有斐閣）1997 年 2. 各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	1. 日本経済新聞社編『経済学４１の巨人－古典から現代まで』（日本経済新聞社)2014 年 2. 授業中に適宜指示する。		
教育方法	毎回配布する講義資料に基づき講義方式で授業を行う。		
評価方法	平常点（50%）受講態度等＋レポート（50%）		
到達目標	1. 現代経済学の理解に決定的な意味を持つ、イギリス古典派経済学の学説史的な流れを修得する。 2. 経済学史研究を通じて、現代経済学が直面している諸問題をより一層深く理解することができる。 3. 今日の経済問題について、経済学説史的な観点から新たな知見を得ることを目標とする。		
授業時間外学習	教科書を予習してくることは当然のこととして、教科書に出てくるスミス、マルサス、リカードウ、Ｊ．Ｓ．ミル、マルクスといった人物の経済学上の古典については、翻訳でもよいので、直接原典にあたって学習する習慣を身につけてもらいたい。 第 1 回　教科書 1-9 頁 第 2 回　教科書 11-21 頁 第 3 回　教科書 22-29 頁 第 4 回　教科書 30-44 頁 第 5 回　教科書 46-63 頁 第 6 回　教科書 64-73 頁 第 7 回　教科書 74-82 頁 第 8 回　教科書該当頁なし 第 9 回　教科書 87-100 頁 第 10 回　教科書 100-109 頁 第 11 回　教科書 110-117 頁 第 12 回　教科書 130-141 頁 第 13 回　教科書 141-151 頁 第 14 回　教科書 256-270 頁 第 15 回　教科書 274-288 頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義でとりあげるイギリス古典経済学の著作であれば翻訳でもいいので、少なくとも 1 冊は通読するすることも求めたい。			
授業スケジュール			
1. 経済学史の課題と方法 2. イギリス重商主義 3. ジェイムズ・ステュアート 4. 初期自由主義 5. フランス重農主義 6. アダム・スミスの経済学(1) 7. アダム・スミスの経済学(2)			

8. マルサスの『人口論』
9. リカードウの経済学(1)
10. リカードウの経済学(2)
11. マルサスの経済学
12. J. S. ミルの経済学(1)
13. J. S. ミルの経済学(2)
14. マルクスの経済学―『資本論』
15. マルクス経済学の展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J72163001
科目名	【院】近代経済学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Modern Economics		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
授業概要	1870 年代は古典派経済学が解体し、それを契機としてマルクス経済学と近代経済学が成立した時代である。限界革命をもって始まった近代経済学は、1930 年代にケインズ経済学が登場することよって危機の時代を乗り切り、さらに今日の新古典派経済学は、「環境」「教育」「医療」「政治」といった社会のあらゆる分野にまで考察領域を拡大し、進化を続けている。現代に至るまでの、こうした近代経済学の成立と発展の歴史を学ぶことが、本講義の課題である。		
教材（教科書）	馬渡尚憲『経済学史』（有斐閣）1997 年		
教材（参考資料）	菱山泉『近代経済学の歴史―マーシャルからケインズまで』（講談社学術文庫：1997 年） 馬渡尚憲『経済学史』（有斐閣：1997 年）		
教育方法	講義資料やプリントを配布し、講義形式で授業を行う。		
評価方法	平常点（50%）受講態度等＋レポート（50%）		
到達目標	1. 現代経済学の源流となった「限界理論革命」の歴史的意義が学べる。 2. 20 世紀を代表する経済学者である「ケインズ革命」の理論史的意義について理解できる。 3. 時代的制約を免れえない経済学の科学としての問題性を解明するとともに、現代社会の諸問題を解決しうる新しい経済学とはどうあるべきかについて、自分なりの理解を持つことができる。		
授業時間外学習	教科書を予習してくることは当然のこととして、教科書に出てくるジェヴォンズを始めとする限界革命を実現したトリオ、さらに 20 世紀に活躍したケインズ、シュンペーター、 ハイエクなどの古典については、翻訳でも構わないので、直接原典にあたって学習する習慣を身につけてもらいたい。 第 1 回目　教科書該当頁なし 第 2 回目　教科書 172-189 頁 第 3 回目　教科書 207-215 頁 第 4 回目　教科書 189-207 頁 第 5 回目　教科書 313-329 頁 第 6 回目　教科書 307-312 頁 第 7 回目　教科書 297-301 頁 第 8 回目　教科書 349-355 頁 第 9 回目　教科書 355-363 頁 第 10 回目　教科書 363-366 頁 第 11 回目　教科書該当頁なし 第 12 回目　教科書 366-375 頁 第 13 回目　教科書 375-381 頁 第 14 回目　教科書 381-396 頁 第 15 回目　教科書該当頁なし		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業や参考文献に出てくる経済学の古典的文献のなかで、とくに翻訳があるものについては、可能なかぎり原典に直接あたることを求める。			
授業スケジュール			
1.「限界革命」と近代経済学の成立 2. ジェヴォンズ 3. メンガー 4. ワルラス 5. ケンブリッジ学派――マーシャルとピグー 6. シュンペーターの経済学			

7. ヴェブレンと制度派経済学
8. ケインズ革命(1)
9. ケインズ革命(2)
10. ケインズ革命(3)
11. 新古典派的総合――サミュエルソン
12. 新古典派経済学の諸潮流(1)
13. 新古典派経済学の諸潮流(2)
14. 新古典派経済学の諸潮流(3)
15. 新古典派経済学批判の新潮流

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J72164001
科目名	【院】社会経済史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Social Economy		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	重商主義国家間の競争の中からイギリスが抜け出して覇権を確立し、産業革命（工業化）が起きるまでの過程を辿ります。		
教材（教科書）	なし。教科書は使用しません。		
教材（参考資料）	1．ウォーラーステイン（2013）『近代世界システムⅡ』名古屋大学出版会。 2．ウォーラーステイン（2013）『近代世界システムⅢ』名古屋大学出版会。		
教育方法	学生による発表に基づいて質疑応答形式で授業を進めます。		
評価方法	授業内発表（100%）		
到達目標	イギリスの興隆から産業革命に至るまでの経済史に関する先行研究を整理し、研究史を鳥瞰する。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する参考文献のページを読んで授業の各回で取り上げる内容を予め要約し、レジュメとして持参すること（各回の学習推定時間は3時間）。 第1回　『近代世界システムⅡ』92―134頁。 第2回　『近代世界システムⅡ』160―196頁。 第3回　『近代世界システムⅡ』222―232頁。 第4回　『近代世界システムⅡ』232―234頁。 第5回　『近代世界システムⅡ』306―339頁。 第6回　『近代世界システムⅢ』1―15頁。 第7回　『近代世界システムⅢ』15―19頁。 第8回　『近代世界システムⅢ』19―22頁。 第9回　『近代世界システムⅢ』22―37頁。 第10回　『近代世界システムⅢ』70―74頁。 第11回　『近代世界システムⅢ』78―98頁。 第12回　『近代世界システムⅢ』110―118頁。 第13回　『近代世界システムⅢ』156―186頁。204―207頁。 第14回　『近代世界システムⅢ』188―201頁。 第15回　『近代世界システムⅢ』232―250頁。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

参考文献に書かれている内容をよく理解するためには参考文献を繰り返し読む必要がある。参考文献を5回、10回、15回と読み込むことを望む。

授業スケジュール

1．　イギリスの挑戦
2．　世界経済の下降局面
3．　スペインの没落
4．　プロト工業化
5．　英仏の抗争
6．　イギリス産業革命
7．　産業革命における技術変革
8．　産業革命の実像
9．　フランス革命
10．　領主反動と囲い込み
11．　英仏格差の起源

12. イギリスの覇権
13. 大西洋の三角貿易
14. アジアの三角貿易
15. 七年戦争

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J72165001
科目名	【院】西洋経済史	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic History of Western Countries		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	大航海時代の始まりから重商主義の時代に至るまでの経済史を概観します。ポルトガル・スペイン・オランダ・イギリス等の主権国家が成立し、経済の覇権を巡って競争を繰り広げた様子を辿ります。		
教材（教科書）	なし。教科書は使用しません。		
教材（参考資料）	1．ウォーラーステイン（2013）『近代世界システムⅠ』名古屋大学出版会。 2．ウォーラーステイン（2013）『近代世界システムⅡ』名古屋大学出版会。		
教育方法	学生による発表に基づいて質疑応答形式で授業を進めます。		
評価方法	授業内発表（100%）		
到達目標	大航海時代から重商主義の時代に至るまでの経済史に関する先行研究を整理し、研究史を鳥瞰する。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する参考文献のページを読んで授業の各回で取り上げる内容を予め要約し、レジュメとして持参すること（各回の学習推定時間は3時間）。 第1回　『近代世界システムⅠ』14―40頁。 第2回　『近代世界システムⅠ』40―51頁。 第3回　『近代世界システムⅠ』76―88頁。 第4回　『近代世界システムⅠ』90―108頁。 第5回　『近代世界システムⅠ』108―119頁。 第6回　『近代世界システムⅠ』152―164頁。 第7回　『近代世界システムⅠ』164―168頁。 第8回　『近代世界システムⅠ』190―208頁。 第9回　『近代世界システムⅠ』208―220頁。 第10回　『近代世界システムⅠ』264―287頁。 第11回　『近代世界システムⅠ』287―292頁。 第12回　『近代世界システムⅠ』298―320頁。 第13回　『近代世界システムⅠ』371―383頁。 第14回　『近代世界システムⅡ』1―35頁。 第15回　『近代世界システムⅡ』44―73頁。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

参考文献に書かれている内容をよく理解するためには参考文献を繰り返し読む必要がある。参考文献を5回、10回、15回と読み込むことを望む。

授業スケジュール

1．　ヨーロッパの対外進出
2．　引きこもる中国
3．　価格革命
4．　中核・半周辺・周辺
5．　労働者と企業家
6．　絶対王政
7．　宗教と経済
8．　スペインの台頭
9．　オランダの台頭
10．　ジェントリとヨーマン
11．　ピューリタン革命

12.　全般的危機への対応
13.　ポルトガルのアジア進出
14.　17 世紀の危機
15.　オランダの覇権

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J72168001
科目名	【院】交通経済論	単位数	2
科目名（英語表記）	Transportation Economics		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
授業概要	交通に限らずさまざまな社会経済活動に対する規制のありかたを主としてミクロ経済学と市場の失敗に基づいて議論する論文を書く履修者について、その論文作成を指導します。 テーマは受講者の興味に応じて相談のうえきめます。		
教材（教科書）	大学院の授業であり、かつ演習授業なので、教科書は使いません。		
教材（参考資料）	受講者の発表テーマが決まり次第、適宜指示しますが、学生自身が探してくることが基本です。		
教育方法	毎回、履修者の発表を求め、それに対してコメントし、議論します。		
評価方法	半期に１本、修士論文の１章になり得る程度の論文を書くことを求め、基本的にはその内容によって判断します(100%)。 無論、礼儀作法、執筆意欲など常識的な項目はここに記すまでもありませんが、当然、それが備わっていない学生は論文提出を認めません。		
到達目標	修士論文を書くための補助作業になり得ること。具体的には修士論文の１章となり得る論文を書くこと。		
授業時間外学習	毎回の発表の準備。言わずもがなですが。論文の進展に応じて当然、次回の発表内容を指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

テーマについては相談に応じますが、ミクロ経済学と公共経済学に関する基本的知識（市場の失敗の理解）を有していることと、学術的な修士論文を書く意欲が求められます。

授業スケジュール

1．研究テーマについての相談
2．履修者による発表とコメント、議論
3．履修者による発表とコメント、議論
4．履修者による発表とコメント、議論
5．履修者による発表とコメント、議論
6．履修者による発表とコメント、議論
7．履修者による発表とコメント、議論
8．履修者による発表とコメント、議論
9．履修者による発表とコメント、議論
10．履修者による発表とコメント、議論
11．履修者による発表とコメント、議論
12．履修者による発表とコメント、議論
13．履修者による発表とコメント、議論
14．履修者による発表とコメント、議論
15．履修者による発表とコメント、議論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J72169001
科目名	【院】租税論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Policy		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
授業概要	本講義では租税論の重要問題について理解を深めることを目的とする。租税は経済や国民生活に直結する極めて重要なものであり、その正しい理解は不可欠である。とくに将来税理士等の職業会計人を目指す者にとっては、租税の理論的、体系的な理解は必須である。公平・中立・簡素の租税原則、租税の転嫁と帰着などの基本問題の十分な理解のうえに立って、今後のあるべき税制の姿を議論して行きたい。		
教材（教科書）	井堀利宏著『要説：日本の財政・税制（4 訂版)』　税務経理協会 林　正寿著『租税論』　有斐閣		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	参考文献の購読を中心とするが、ディスカッション形式で行う。		
評価方法	授業中の報告や議論内容（50%）、レポート（50%）		
到達目標	わが国の租税体系を理解し、所得税、法人税、消費税などの主要税目のしくみや問題点を理解する。		
授業時間外学習	税制に関する入門書（『図解　日本の税制（最新版)』財務詳報社など）を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業中の活発な議論を期待する。			
授業スケジュール			
1.　租税の意義 2.　租税の経済理論 3.　租税原則 4.　租税の種類、わが国の租税体系 5.　所得税の概要 6.　所得税の課税標準 7.　法人税の概要 8.　法人税の課税標準 9.　法人税の課税所得の計算原理（１） 10.　法人税の課税所得の計算原理（２） 11.　消費税の概要 12.　消費税の課題 13.　国際課税 14.　組織再編税制 15.　税務執行と租税回避			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J72170001
科目名	【院】租税制度論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Taxation System		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
授業概要	本講義では、主に租税制度の変遷過程を学ぶことを通じて、わが国における租税制度の重要問題についての理解を深めることを目的とする。経済活動のグローバル化の進展に対応して、所得課税においては近年の税制改革は税率引き下げ、課税ベース拡大の方向にある。一方で、消費税の導入、税率引き上げ等で消費課税のウェイトが高まっている。現在わが国では税収入が一般会計歳出の 50％を下回り、巨額の国債残高をかかえ財政危機に陥っている中にあって、今後のあるべき税制について議論していきたい。資産課税においては、従前から現行の相続税の課税方式の見直しが議論されている。また、基礎控除の引下げで課税対象者が倍増する状況となっている。これらについても事業承継問題と関連させながら検討する。		
教材（教科書）	山本守之著『租税法の基礎理論』　税務経理協会		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	参考文献の購読を中心とするが、ディスカッション形式で行う。		
評価方法	授業中の報告や議論内容（50%）、レポート（50%）		
到達目標	わが国の租税制度の変遷を理解し、今後のあるべき税制の姿を探求することを目的とする。		
授業時間外学習	税制に関する入門書（とくに相続税関係）を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業中の活発な議論を期待する。			
授業スケジュール			
１．租税の意義 ２．租税理論の変遷 ３．租税制度の沿革（１） ４．租税制度の沿革（２） ５．シャウプ勧告による税制 ６．第１次税制改革（昭和６１年） ７．第２次税制改革（平成６年） ８．第３次税制改革（平成１０年） ９．連結納税制度 10.財政再建 11.資産課税の変遷 12.相続税の概要 13.財産評価の概要 14.事業承継税制 15.今後の税制改革			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J72171A01
科目名	【院】計量経済学演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Econometrics A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	日本経済の計量モデルや国際モデルなどできるだけ多くの現実のモデルを例題として、その構造を理論面、実証面から解析する。また、それに基づいて、実際に自分で類似のモデルを構築してみる。それらの作業を通じて、モデルビルダーとしての力量を高める。		
教材（教科書）	EXCEL と EViews によって、毎回のデータと分析方法の資料を配布。		
教材（参考資料）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教育方法	（1）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （2）原データを EXCEL で加工して、EViews という分析ソフトに移す。 （3）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（1）から（3）を、テーマごとに繰り返す。 EXCEL や EViews の操作方法をまず最初に覚え、次にデータ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	発表内容による(100%)		
到達目標	計量経済モデルに対する理解と、具体的な問題に対して、基本的な計量分析ができるようになる。		
授業時間外学習	統計学の入門テキスト、EViews の解説書を読んでおくこと。 適宜課題を与えるので、それを詳細に調べてくること		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

特に無い

授業スケジュール

受講者と共にモデリングに取り組む
第１回　ガイダンス
第２回　回帰分析入門(EViews 入門)
第３回　EViews その２
第４回　EViews その３
第５回　重回帰分析
第６回　重回帰分析その２
第７回　重回帰分析とその解釈
第８回　社会データを用いた事例分析
第９回　事例分析その２
第１０回　論文様式の発表とチェック
第１１回　論文様式の発表とチェック
第１２回　重回帰分析の応用
第１３回　応用その２
第１４回　分析の発表
第１５回　分析の発表と討議

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J72171B01
科目名	【院】計量経済学演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Econometrics B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	日本経済の計量モデルや国際モデルなどできるだけ多くの現実のモデルを例題として、その構造を理論面、実証面から解析する。また、それに基づいて、実際に自分で類似のモデルを構築してみる。それらの作業を通じて、モデルビルダーとしての力量を高める。		
教材（教科書）	毎回、EXCEL と EViews により、データと分析方法を配布。		
教材（参考資料）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教育方法	（１）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （２）原データを EXCEL で加工して、EViews という分析ソフトに移す。 （３）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（１）から（３）を、テーマごとに繰り返す。 EXCEL や EViews の操作方法をまず最初に覚え、次にデータ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	修士論文を完成させる(100%)		
到達目標	計量経済モデルに対する理解と実践		
授業時間外学習	統計学の入門テキスト、EViews の解説書を読んでおくこと。 適宜課題を与えるので、それを詳細に調べてくること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
特に無い			
授業スケジュール			
受講者と共にモデリングに取り組む 第１回　ガイダンス 第２回　回帰分析応用(EViews 応用) 第３回　EViews 応用その２ 第４回　EViews 応用その３ 第５回　重回帰分析応用と解釈 第６回　重回帰分析応用と解釈その２ 第７回　重回帰分析応用と解釈その３ 第８回　社会データを用いた事例分析 第９回　事例分析その２ 第１０回　修士論文ー分析の討議１ 第１１回　修士論文ー分析の討議２ 第１２回　修士論文ー分析の討議３ 第１３回　修士論文まとめその１ 第１４回　修士論文まとめその２ 第１５回　修士論文まとめその３			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J72172A01
科目名	【院】時系列解析演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Time Series Analysis A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	経済時系列データの解析手順を修得する。		
教材（教科書）	EXCEL と EViews により、データと解析方法を毎回配布。		
教材（参考資料）	縄田和満、「EViews による計量経済分析入門」、朝倉書店、２００９		
教育方法	（１）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （２）原データを EXCEL で加工して、EViews という分析ソフトに移す。 （３）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（１）から（３）を、テーマごとに繰り返す。 EXCEL や EViews の操作方法をまず最初に覚え、次にデータ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	4 回のレポートを評価(大きなテーマごと、各 25%)		
到達目標	経済時系列データの解析手順を修得する。VAR モデルが理解できる。		
授業時間外学習	数学やコンピュータの理解は慣れてくれば出来る。経済学の基礎勉強が欠かせない。 事前学習：金融論、マクロ経済学を理解しておくこと。 事後学習：参考文献を１年次演習終了までに読み終えておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

経済学の基礎をよく勉強しておいてほしい。

授業スケジュール

1.VAR モデルの作成
2.通常の VAR と VEC（誤差修正型の VAR）
3.構造 VAR
4.同上
5.日本のマクロデータへの応用
6.マクロの金融モデル
7.金融緩和の効果測定
8.同上
9.ヨーロッパのマクロデータへの応用
10.マクロの金融モデル
11.金融緩和の効果測定
12.マイナス金利の影響
13.株式データへの応用
14.同上
15.同上

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J72172B01
科目名	【院】時系列解析演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Time Series Analysis B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	VEC モデルの理解と作成方法の習得。単なる VAR よりも、VEC モデルの有用性が言われている。また、構造型の VAR の必要性も主張されている。各種モデルの違いを明らかにし、マクロ金融システムに応用して、量的金融緩和の有効性の分析に用いることにする。		
教材（教科書）	必要に応じて資料配布		
教材（参考資料）	Hamilton,J.D., "Time Series Analysis"		
教育方法	（1）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （2）原データを EXCEL で加工して、EViews という分析ソフトに移す。 （3）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（1）から（3）を、テーマごとに繰り返す。 EXCEL や EViews の操作方法をまず最初に覚え、次にデータ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	修士論文を完成させる（100%）		
到達目標	VEC モデルの作成		
授業時間外学習	経済学の勉強 事前学習：縄田和満「EViews による計量経済学分析入門」を読んでおくこと。 事後学習：Hamilton の"Time Series Analysis"の該当箇所（指示する）を読んで理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

数学は気にせず、経済学的な意味合いを理解することが重要。

授業スケジュール

1.VEC モデルの作成
2.同上
3.同上
4.日本のマクロデータへの応用
5.同上
6.同上
7.ヨーロッパのマクロデータへの応用
8.同上
9.同上
10.株式データへの応用
11.同上
12.同上
13.不況時のマクロマネー系（金融不安要因の導入）
14.同上
15.同上

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2018	授業コード	J72173A01
科目名	【院】経済学史演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Economic Thought A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
授業概要	「経済学の父」とよばれるアダム・スミスが 1776 年に刊行した『国富論』は、理論・歴史・政策・国家財政の諸領域を包含する、壮大な経済学体系であり、全部で 5 編からなっている。本演習 A では第 1・第 2 編の経済理論をとりあげ、その理論内容を現在の経済理論と比較しながら検討する。		
教材（教科書）	アダム・スミス『国富論』（水田洋監訳、岩波文庫・全 4 分冊）[第 1・第 2 分冊]		
教材（参考資料）	授業前・授業中に適宜指示する。		
教育方法	1. 院生は、テキストの当該頁のレジュメを事前に作成して演習に出席し、その内容について口頭報告をおこなう。 2. 指導教員は、院生の口頭報告に対して適切なコメントを加え、それにかかわる参考資料・参考文献を適宜指示する。 3. 指導教員は、院生との徹底的な議論をつうじて、院生の理解力を高め、院生が自分自身の独自の見解を形成できるように務める。		
評価方法	平常点（50%）受講態度等＋学期末レポート（50%）		
到達目標	1．古典文献の読解力を身に付けることができる。 2. 演習を通じて、外国文献・日本語文献にかんする様々な情報収集力を向上させることができる。 3. 演習を通じて、修士論文作成に必要な基本的な学習能力と学習方法の修得を到達目標とする。		
授業時間外学習	院生は、テキストと指示された参考う文献をしっかり予習して授業に臨むこと。また報告を指示された院生はについては、指定された当該範囲のレジュメを準備して演習に参加すること。 第 1 回　教科書(1)19-22 頁 第 2 回　教科書(1)23-36 頁 第 3 回　教科書(1)37-50 頁 第 4 回　教科書(1)51-62 頁 第 5 回　教科書(1)63-67 頁 第 6 回　教科書(1)67-90 頁 第 7 回　教科書(1)91-102 頁 第 8 回　教科書(1)103-117 頁 第 9 回　教科書(1)118-156 頁 第 10 回　教科書(1)157-175 頁 第 11 回　教科書(1)252-282 頁 第 12 回　教科書(2)15-31 頁 第 13 回　教科書(2)32-43 頁 第 14 回　教科書(2)109-142 頁 第 15 回　教科書(2)157-182 頁		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

テキストは、水田洋監訳『国富論』（岩波文庫）を使用するが、院生はつねに『国富論』の英語原典に直接あたる習慣を身につけるように求める。

授業スケジュール

1. 『国富論』体系について
2. 分業論(1)
3. 分業論(2)
4. 貨幣論
5. 価値論(1)
6. 価値論(2)

7. 価格と市場理論(1)
8. 価格と市場理論(2)
9. 賃金論
10. 利潤論
11. 地代論
12. 資本の理論(1)
13. 資本の理論(2)
14. 資本蓄積論
15. 資本投下順位論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J72173B01
科目名	【院】経済学史演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Economic Thought B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
授業概要	『国富論』は、理論・歴史・政策・国家財政の諸領域を包括する、全５篇からなる壮大な経済学の体系である。演習Ａでは、『国富論』第１編・第２編で論じられる経済理論を分析したが、演習Ｂでは、第５編の国家財政論をとりあげ、経費論・収入論・公債論の順序で集中的に検討する。経済的自由主義の立場からスミスは、国家の市場経済への介入をできる限り制限することを求めるが、しかし政府の機能を否定するどころか、現代においてもきわめて示唆に富む、きわめて現実的な政治論を展開していることを理解してもらうことを、本講義の課題とする。		
教材（教科書）	アダム・スミス『国富論』（水田洋監訳、岩波文庫・全４分冊）[第４分冊]		
教材（参考資料）	授業前に適宜指示する。		
教育方法	資料を適宜プリントして配布する。 １．院生は、テキストの当該箇所のレジュメを事前に作成して演習に出席し、その内容ついて口頭報告を行う。 2. 指導教員は、院生の口頭報告に対して適切なコメントを加え、それに関連する参考資料・参考文献を適宜指示する。 3. 指導教員は、院生との徹底した議論を通じて院生の理解力の向上に努め、院生が自分自身の独自の見解を形成できるように努める。		
評価方法	平常点（50%）受講態度等＋レポート（50%）		
到達目標	１．古典文献の読解力を身につけることができる。 2. 演習を通じて、外国語文献・日本語文献に関する様々な情報収集力を向上させることができる。 3. 修士論文の作成に必要な基本的な学習能力と学習方法の鍛錬修得することを、演習Ｂの到達目標とする。		
授業時間外学習	受講生は、テキストとともに指示された参考文献をしっかり予習してゼミに臨むこと。また報告を指名された受講生は、テキストの当該箇所のレジュメを作成して出席すること。 第 1 回目　教科書(3)339-341 頁,(4)117-132 頁 第 2 回目　教科書(3)343-373 頁 第 3 回目　教科書(3)373-395 頁 第 4 回目　教科書(3)395-456 頁 第 5 回目　教科書(4)13-60 頁 第 6 回目　教科書(4)60-113 頁 第 7 回目　教科書(4)132-160 頁 第 8 回目　教科書(4)160-195 頁 第 9 回目　教科書(4)182-231 頁 第 10 回目　教科書(4)232-265 頁 第 11 回目　教科書(4)257-285 頁 第 12 回目　教科書(4)286-312 頁 第 13 回目　教科書(4)312-338 頁 第 14 回目　教科書(4)338-359 頁 第 15 回目　教科書該当頁なし		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
テキストについては、水田洋監訳『国富論』（岩波文庫）を使用するが、受講生には、つねに『国富論』の原文にあたって学習する習慣を身につけるように求める。			
授業スケジュール			
1. スミスの国家財政論について			

2. 経費論と政府の役割(1)
3. 経費論と政府の役割(2)
4. 経費論と政府の役割(3)
5. 経費論と政府の役割(4)
6. 経費論と政府の役割(5)
7. 租税論(1)
8. 租税論(2)
9. 租税論(3)
10. 租税論(4)
11. 租税論(5)
12. 公債論(1)
13. 公債論(2)
14. 公債論(3)
15. スミス国家財政論の総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J72174A01
科目名	【院】社会経済史演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Social Economy A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	経済史の研究においては、先行研究を整理し頭に入れておくことは必須の作業ですから、通説の内容を理解し整理することが、この演習の目的です。具体的には製糸技術の変遷や生糸輸出の動向などを取り上げます。		
教材（教科書）	なし。教科書は使用しません。		
教材（参考資料）	石井寛治（1972）『日本蚕糸業史分析』東京大学出版会。 清川雪彦（2009）『近代製糸技術とアジア』名古屋大学出版会。 玉川寛治（2002）『製糸工女と富国強兵の時代』新日本出版社。		
教育方法	学生による発表に基づいて質疑応答形式で授業を進めます。		
評価方法	授業内発表（100%）		
到達目標	1　通説の整理が経済史研究の出発点となることを理解する。 2　通説の論理構成を把握する。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する参考文献のページを読んで授業の各回で取り上げる内容を予め要約し、レジュメとして持参すること（各回の学習推定時間は 3 時間）。 第 1 回　清川（2009）57－75 頁。 第 2 回　玉川（2002）27－46 頁。 第 3 回　玉川（2002）64－80 頁。 第 4 回　清川（2009）98－107 頁。 第 5 回　清川（2009）223－229 頁。 第 6 回　清川（2009）229－234 頁。 第 7 回　清川（2009）234－242 頁。 第 8 回　石井（1972）19－24 頁。 第 9 回　石井（1972）27－34 頁。 第 10 回　石井（1972）40－51 頁。 第 11 回　石井（1972）62－72 頁。 第 12 回　石井（1972）83－90 頁。 第 13 回　石井（1972）243－257 頁。 第 14 回　石井（1972）291－307 頁。玉川（2002）82－109 頁。 第 15 回　石井（1972）397－438 頁。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学習上の助言 参考文献に書かれている内容をよく理解するためには繰り返し読む必要がある。参考文献を 5 回、10 回、15 回と読み込んでほしい。。			
授業スケジュール			
1．蚕の起源と伝播 2．蚕糸技術の概要 3．座繰製糸と器械製糸 4．養蚕業の発達 5．生糸輸出の日中比較 6．広東式器械製糸技術			

7．上海式器械製糸技術
8．生糸世界市場
9．主要生糸生産国の比較
10．海外における日本産生糸の用途
11．日本の生糸生産者の２類型
12．転換期としての 1910 年代
13．製糸労働者の状態
14．等級賃金制
15．養蚕農民の状態

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J72174B01
科目名	【院】社会経済史演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on History of Social Economy B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	日本・中国・イタリア・フランスの蚕糸業が、ヨーロッパ市場とアメリカ市場で繰り広げた国際競争の過程を辿ります。具体的には、欧米の市場における日本産生糸の用途や銀塊相場下落の効果等に関する通説に再検討を加えます。		
教材（教科書）	なし。教科書は使用しません。		
教材（参考資料）	『京都学園大学経済学部論集』 『人間文化研究』［京都学園大学］		
教育方法	学生による発表に基づいて質疑応答形式で授業を進めます。		
評価方法	授業内発表（100%）		
到達目標	蚕糸業に関する先行研究を整理し、研究史を鳥瞰する。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する参考文献のページを読んで授業の各回で取り上げる内容を予め要約し、レジュメとして持参すること（各回の学習推定時間は３時間）。 第１回　『人間文化研究』第 38 号、127―160 頁。 第２回　『人間文化研究』第 40 号［2018 年３月刊行予定］。 第３回　『京都学園大学経済学部論集』第 17 巻第１号、1―39 頁。 第４回　『京都学園大学経済学部論集』第 23 巻第１号、1―32 頁。 第５回　『京都学園大学経済学部論集』第 20 巻第２号、1―31 頁。 第６回　『人間文化研究』第 37 号、55―89 頁。 第７回　『京都学園大学経済学部論集』第 23 巻第２号、1―34 頁。 第８回　『京都学園大学経済学部論集』第 24 巻第１号、1―34 頁。 第９回　『京都学園大学経済学部論集』第１巻第３号、41―59 頁。 第 10 回　『京都学園大学経済学部論集』第 20 巻第１号、25―42 頁。 第 11 回　『京都学園大学経済学部論集』第 19 巻第１号、1―44 頁。 第 12 回　『京都学園大学経済学部論集』第 22 巻第１号、1―36 頁。 第 13 回　『京都学園大学経済学部論集』第 22 巻第２号、1―28 頁。 第 14 回　『京都学園大学経済学部論集』第 21 巻第１号、25―91 頁。 第 15 回　『社会経済史学』第 81 巻第２号、25―45 頁。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

参考文献に書かれている内容をよく理解するためには繰り返し読む必要がある。参考文献を 5 回、10 回、15 回と読み込んでほしい。。

授業スケジュール

1．　幕末・明治初期の生糸輸出とヨーロッパ市場
2．　絹工業におけるアメリカ的生産方式
3．　座繰製糸と器械製糸
4．　綛の標準化
5．　製糸結社の意義
6．　製糸結社の起源
7．　繰返し（winding）の難易に基づくすみ分けの成立
8．　蚕品種に基づくすみ分けの成立
9．　上一式生産方式の意義
10．　生糸の格付と商標

11. 行動経済学から見た生糸生産者の 2 類型
12. 銀塊相場の下落と生糸輸出
13. 生糸生産費の国際比較
14. 絹織物の流行の変化と生糸の使い分け
15. 絹織物の経糸を巡る論争

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J72175A01
科目名	【院】経済政策論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Economic Policy A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	演習では、受講者と相談の上、修士論文のテーマを決め、それに沿って論文指導をする． 先ずは、修士論文のテーマを絞り込むため、周辺領域を含めた文献を収集し、問題点を洗い直すとともに、公表されている統計データで問題の所在を確認する．その後、修士論文に関係する基本文献を選び、丁寧に読み込んでいく．そのさい、経済社会の制度的な側面や我が国の動向を踏まえつつ、最新の動向にも注意を払いながら、修士論文の構想の概要を纏める．		
教材（教科書）	使用しない		
教材（参考資料）	鈴木純 『経済システムの多元性と組織』 勁草書房　2014 年		
教育方法	−		
評価方法	課題報告(50%)と学期末レポート（50%）		
到達目標	経済政策論基礎理論に基づいて修論のテーマを説明できる．		
授業時間外学習	配付資料に目を通し，関連する経済動向と政策的対応について，新聞報道や雑誌記事等を通じて事前に確認する．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
経済社会のメガトレンドを理解し，課題発見力と問題解決能力を向上させる			
授業スケジュール			
１．日本経済の現況と課題 ２．日本経済の現況と課題 ３．経済社会の多元化と政策主体の多様化 ４．成長政策 ５．分配政策 ６．経済安定化政策 ７．経済安定化政策 ８．経済安定化政策 ９．経済安定化政策 １０．経済安定化政策 １１．政策形成過程 １２．政策形成の担い手 １３．政策形成のパラダイム １４．協調的政策形成 １５．経済社会の三重秩序論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J72175B01
科目名	【院】経済政策論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Economic Policy B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	演習Ａと同様、受講者と相談の上、修士論文のテーマを決め、それに沿って論文指導をする．演習Ａで整理した修士論文のテーマに関連する問題点や経済社会の実態を公表されている統計データに基づいて理解を深める．そのさい、経済社会の制度的な側面や我が国の動向を踏まえつつ、最新の動向にも注意を払うそのことを通じて、修士論文の章・節などの構成を比較検討し、修士論文の全体構想を固める．		
教材（教科書）	使用しない		
教材（参考資料）	須藤時仁・野村容康 『日本経済の構造変化』 岩波書店　2014 年		
教育方法	学生の報告を中心に講義を交えて進める		
評価方法	課題報告(50%)と学期末レポート(50%)		
到達目標	先行研究を踏まえ、修士論文の骨子を説明することができる		
授業時間外学習	関連文献の収集と研究		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
経済社会のメガトレンドを理解し，課題発見力と問題解決能力を向上させよう．			
授業スケジュール			
１　基本文献の講読① ２　基本文献の講読② ３　基本文献の講読③ ４　基本文献の講読④ ５　基本文献の講読⑤ ６　基本文献の講読⑥ ７　基本文献の講読⑦ ８　基本文献の講読⑧ ９　論文の概要と章節構成の作成① １０　論文の概要と章節構成の作成② １１　論文の概要と章節構成の作成③ １２　論文の概要と章節構成の作成④ １３　論文の概要と章節構成の作成⑤ １４　論文の概要と章節構成の作成⑥ １５　論文の概要と章節構成の作成⑦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J72176A01
科目名	【院】公共経済学演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Public Economics A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
授業概要	公共経済学の理論研究の基礎を固めながら、現実の政策課題への応用分析例を概観していく。		
教材（教科書）	井堀利宏『公共経済の理論』有斐閣		
教材（参考資料）	IHORI, H., Public Finance in an Overlapping Generations Economy, Macmillan 1996.		
教育方法	（1）テキストの指定箇所に関する受講者の報告とそれに基づく議論を中心とした演習形式で進める。 （2）受講者のテーマに応じ、修士論文の参考文献となる資料を集め、その読み込みを行う。		
評価方法	授業内報告 50%　　レポート課題 50%		
到達目標	公共経済学の応用研究について概観し、経済学の技術および手法の使用について基礎を固める。		
授業時間外学習	（1）テキストの指定箇所を読み、ノートを作成する。 （2）関連資料を集めて整理し、それに基づく報告資料を作成する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
（1）修士論文への活用を意識し、日頃から雑誌や新聞、ネットでの情報収集を心がける。 （2）理解を優先し、妥協無く正確に納得できる水準まで丁寧に取り組む。			
授業スケジュール			
第１回：講義の概要とテキストの紹介 第２回：市場機構と公的介入 第３回：自然独占産業と公的規制 第４回：最適課税の理論 第５回：公共財の理論 第６回：公共選択の理論 第７回：政党と官僚の経済分析 第８回：公債の負担 第９回：公債発行と財政運営 第１０回：高齢化と年金改革 第１１回：政府支出政策のマクロ効果 第１２回：公共投資 第１３回：開放経済での公共政策 第１４回：国と地方の分担システム 第１５回：現代日本の公共経済学的課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J72176B01
科目名	【院】公共経済学演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Public Economics B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
授業概要	公共経済学の理論研究の基礎を固めながら、現実の政策課題への応用分析例を概観していく。		
教材（教科書）	Presson & Tabellini, Political Economics, MIT Press.		
教材（参考資料）	（１）Presson & Tabellini, Monetary and Fiscal Policy, MIT Press. （２）クリスタル＆ペナンリー著・黒川監訳『経済政策の公共選択分析』　勁草書房		
教育方法	受講者の報告とそれに基づく議論を中心とした演習形式で進める。		
評価方法	授業内報告 50%　　課題レポート 50%		
到達目標	政策の決定と実施に関係する政治過程に焦点を当てた経済分析を学ぶ。		
授業時間外学習	（１）テキストの指定した箇所を読み、ノートを作成する。 （２）理論および英語で理解が曖昧な箇所を事前に明確にしておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
（１）英文のテキストを利用するが、受講者の英語力に応じて進度は調整する。経済学で使用される英語は「慣れ」で克服できるので、辛抱強く取り組んで欲しい。 （２）全ての情報、学習を修士論文作成に結び付ける意識で取り組んで欲しい。			
授業スケジュール			
第１回：講義の概要とテキストの紹介 第２回：General Introduction 第３回：Preference and Institutions 第４回：Electoral Competition 第５回：Agency 第６回：Partisan Politicians 第７回：General-Interest Politics 第８回：Special-Interest Politics(1) 第９回：Special-Interest Politics(2) 第１０回：Electoral Rules and Electoral Competition 第１１回：Institutions and Accountability 第１２回：Political Regimes 第１３回：Dynamic Policy Problems 第１４回：Public Debt 第１５回：Intergenerational Transfers through Social Security Programs			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J72178A01
科目名	【院】地域交通論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Regional Transportation A		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
授業概要	主として地域交通に関する規制のありかたをミクロ経済学と市場の失敗に基づいて議論する論文を書く履修者について、その論文作成を指導します。 テーマは受講者の興味に応じて相談のうえきめます。		
教材（教科書）	大学院の授業であり、かつ演習授業なので、教科書は使いません。		
教材（参考資料）	受講者の発表テーマが決まり次第、考えた場合は適宜指示しますが、学生自身が探してくることが基本です。		
教育方法	毎回、履修者の発表を求め、それに対してコメントし、議論します。		
評価方法	半期に１本、修士論文の１章になり得る程度の論文を書くことを求め、基本的にはその内容によって判断します(100%)。 なお、無論、礼儀作法、執筆意欲など常識的な項目はここに記すまでもありませんが、当然、それが備わっていない学生は論文提出を認めません。		
到達目標	修士論文を書くための補助作業になり得ること。具体的には修士論文の１章となり得る論文を書くこと。		
授業時間外学習	毎回の発表の準備。言わずもがなですが。論文の進展に応じて当然、次回の発表内容を指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「交通経済論」を履修済みであることが条件となります。

授業スケジュール

1．研究テーマについての相談
2．履修者による発表とコメント、議論
3．履修者による発表とコメント、議論
4．履修者による発表とコメント、議論
5．履修者による発表とコメント、議論
6．履修者による発表とコメント、議論
7．履修者による発表とコメント、議論
8．履修者による発表とコメント、議論
9．履修者による発表とコメント、議論
10．履修者による発表とコメント、議論
11．履修者による発表とコメント、議論
12．履修者による発表とコメント、議論
13．履修者による発表とコメント、議論
14．履修者による発表とコメント、議論
15．履修者による発表とコメント、議論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J72178B01
科目名	【院】地域交通論演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Regional Transportation B		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
授業概要	地域交通論演習 A の継続です。主として地域交通に関する規制のありかたをミクロ経済学と市場の失敗に基づいて議論する論文を書く履修者について、その論文作成を指導します。 テーマは受講者の興味に応じて相談のうえきめます。		
教材（教科書）	大学院の授業であり、かつ演習授業なので、教科書は使いません。		
教材（参考資料）	受講者の発表テーマが決まり次第、考えた場合は適宜指示しますが、学生自身が探してくることが基本です。		
教育方法	毎回、履修者の発表を求め、それに対してコメントし、議論します。		
評価方法	半期に１本、修士論文の１章になり得る程度の論文を書くことを求め、基本的にはその内容によって判断します(100%)。 なお、無論、礼儀作法、執筆意欲など常識的な項目はここに記すまでもありませんが、当然、それが備わっていない学生は論文提出を認めません。		
到達目標	修士論文を書くための補助作業になり得ること。具体的には修士論文の１章となり得る論文を書くこと。		
授業時間外学習	毎回の発表の準備。言わずもがなですが。論文の進展に応じて当然、次回の発表内容を指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「交通経済論」を履修済みであることが条件となります。

授業スケジュール

1．研究テーマについての相談
2．履修者による発表とコメント、議論
3．履修者による発表とコメント、議論
4．履修者による発表とコメント、議論
5．履修者による発表とコメント、議論
6．履修者による発表とコメント、議論
7．履修者による発表とコメント、議論
8．履修者による発表とコメント、議論
9．履修者による発表とコメント、議論
10．履修者による発表とコメント、議論
11．履修者による発表とコメント、議論
12．履修者による発表とコメント、議論
13．履修者による発表とコメント、議論
14．履修者による発表とコメント、議論
15．履修者による発表とコメント、議論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J72189001
科目名	【院】ミクロ経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics		
担当者名	川﨑　雄二郎	旧科目名称	
授業概要	本講義では、数理モデルによる消費者による消費・企業による生産の分析手法やゲーム理論の考えを用いながら、厚生経済学の基本定理や情報の経済学について学んでいく。		
教材（教科書）	神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社　3,456 円　ISBN-13: 978-4535557567		
教材（参考資料）	ハル＝ヴァリアン原著・佐藤隆三翻訳（2015）『入門ミクロ経済学 原著第 9 版（日本語訳版）』勁草書房 4,320 円　ISBN-13: 978-4326951321 武隈慎一（2016）『新版 ミクロ経済学』新世社　3,218 円　ISBN-13: 978-4883842391 Hal R. Varian（1992）『Microeconomics Analysis』W W Norton & Co Inc 7,733 円　ISBN-13: 978-0393957358 他、講義中に適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	レポート（30%）と試験（70%）により評価する。		
到達目標	ミクロ経済学やゲーム理論の概念や分析方法を身につけ、発展的な分野に応用することができる。		
授業時間外学習	毎回の講義は、それまでの講義内容を十分に理解しているものとして進められる。各講義を受けたその都度に復習し（『あとでまとめて復習』では遅い）、分からないことがあれば必ず質問すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＜受講のルール＞
1．講義中の私語は、他の受講者の迷惑となるため厳禁とする。私語がひどい場合は注意をし、改善されない場合は退出を求める。
2．先にも述べたとおり、分からないことがあれば必ず質問すること。

授業スケジュール

1．基本概念と分析手法
2．消費者の行動①：効用最大化と需要曲線
3．消費者の行動②：双対性、需要の法則
4．企業の行動①：利潤最大化と供給曲線
5．企業の行動②：短期と長期の生産計画
6．市場の効率性①：均衡の調整過程
7．市場の効率性②：余剰分析、間接税、公平性
8．経済厚生①：エッジワースボックス
9．経済厚生②：パレート効率性
10．経済厚生③：厚生経済学の基本定理
11．ゲーム理論①：ナッシュ均衡
12．ゲーム理論②：部分ゲーム完全均衡
13．不確実性①：リスク選好
14．不確実性②：モラルハザード
15．不確実性③：逆選択

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J72190001
科目名	【院】ミクロ経済分析	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomic Analysis		
担当者名	川﨑　雄二郎	旧科目名称	
授業概要	本講義では、経済分析のツールとして広く用いられるゲーム理論の基礎と、それを用いた具体的な分析の手法について学んでいく。具体的には、非協力ゲームと協力ゲームの両方を取り扱い、さまざまなゲーム的状況の枠組みに対する均衡の概念とそれらを応用した研究手法について学習する。		
教材（教科書）	岡田章『ゲーム理論・入門（新版)』有斐閣　2,052 円　ISBN-13: 978-4641220287		
教材（参考資料）	講義中に適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	レポート（30%）と試験（70%）により評価する。		
到達目標	ゲーム理論の概念や分析方法を身につけ、発展的な分野に応用することができる。		
授業時間外学習	毎回の講義は、それまでの講義内容を十分に理解しているものとして進められる。各講義を受けたその都度に復習し（『あとでまとめて復習』では遅い)、分からないことがあれば必ず質問すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＜受講のルール＞
1．講義中の私語は、他の受講者の迷惑となるため厳禁とする。私語がひどい場合は注意をし、改善されない場合は退出を求める。
2．先にも述べたとおり、分からないことがあれば必ず質問すること。

授業スケジュール

1．イントロ：ゲーム理論とは
2．戦略形ゲーム①：支配戦略
3．戦略形ゲーム②：ナッシュ均衡
4．戦略形ゲーム③：混合戦略
5．展開形ゲーム①：先読み、バックワードインダクション
6．展開形ゲーム②：情報集合
7．展開形ゲーム③：部分ゲーム完全均衡
8．繰り返しゲーム①：有限回繰り返しゲーム
9．繰り返しゲーム②：無限回繰り返しゲーム
１０．不完備情報ゲーム①：ゲームの「要素」が分からない状況
１１．不完備情報ゲーム②：期待利得
１２．不完備情報ゲーム③：ベイジアンナッシュ均衡
１３．提携形ゲーム①：特性関数
１４．提携形ゲーム②：コア配分
１５．提携形ゲーム③：シャプレー値

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J72191001
科目名	【院】国際金融論	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	国際金融論は、国家間の金融取引に焦点を当て、そこで無視することができない為替レートについて学習する学問である。本講義では、受講生が為替レートがどのようなアプローチに基づいて決まるかについて理解できるようになることを目的とする。加えて、為替レートの変動に伴い実体経済がどのような影響を受けるかも重要な点であるため、為替レートと実体経済の間の関係についても理解できるようになることを目的とする。さらに、これらの点を高度な数学的なモデルの視点から理解できるようになることも目的とする。		
教材（教科書）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（参考資料）	【教科書】 橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣 藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 河合正弘(1994)『国際金融論』　東京大学出版会 藤田誠一・小川英治(2006)『国際金融理論』　有斐閣 Mark(2001), “International Macroeconomics and Finance: Theory and Econometric Methods” Wiley-Blackwell Sarno and Taylor(2003), “The economics of exchange rates”　Cambridge University Press Obstfeld and Rogoff(1996), “Foundations of international Macroeconomics”　The MIT Press		
教育方法	（必要に応じて講義法の授業形式も行う予定であるが）授業は教材・資料の輪読を中心に進める予定である。		
評価方法	基本的に、授業中の報告（60%）とレポート（40%）の成績によって評価する。		
到達目標	1. 学部上級から大学院中級レベルの内容を理解できるようになる。 2. 修士論文を書きあげるための知識や数学的技術を身につけることができる。		
授業時間外学習	学部初級レベルの国際金融、また大学院の国際金融を学ぶ上で必要なマクロ経済学、金融論の知識を授業外で整理しておくこと。また、事前に指示した教材・資料の予習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 履修が望ましい他の関連科目：マクロ経済学・国際経済学。
2. 遅刻や私語は厳禁とする。
3. トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい。
4. 数学的な内容の授業を行う。しかし、徐々に慣れてくるので、途中で投げ出さず頑張ってもらいたい。

授業スケジュール

第 1 回：為替レートの基礎概念
第 2 回：国際収支の基礎概念
第 3 回：為替レートの決定理論 1
第 4 回：為替レートの決定理論 2
第 5 回：為替レートの決定理論 3
第 6 回：為替レートの決定理論 4
第 7 回：為替レートの決定理論 5
第 8 回：為替レートの決定理論 6
第 9 回：開放経済における政策効果 1
第 10 回：開放経済における政策効果 2
第 11 回：開放経済における政策効果 3
第 12 回：開放経済における政策効果 4
第 13 回：開放経済における政策効果 5
第 14 回：開放経済における政策効果 6

第 15 回：開放経済における政策効果 7

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J72192001
科目名	【院】国際経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し、主にグローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学という学問である。本講義では、グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て、受講生が貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかが理解できるようになることを目的とする。加えて、グローバル化した経済で経済政策（財政政策・金融政策）の効果がどう波及するかも重要なトピックである。そのため、New Open Economy Macroeconomics のフレームワークからそれらの効果を理解できるようになることも目的とする。		
教材（教科書）	必要に応じて適宜指示する。		
教材（参考資料）	【教科書】 石川城太・菊地徹・椋寛(2007)『国際経済学をつかむ』　有斐閣 大川昌幸(2006)『コアテキスト・国際経済学』　新世社 藤田誠一・小川英治(2006)『国際金融理論』　有斐閣 Obstfeld and Rogoff(1996), “Foundations of International Macroeconomics”, The MIT Press 【資料】 授業に関連した学術雑誌掲載論文		
教育方法	（必要に応じて講義法の授業形式も行う予定であるが）授業は教材・資料の輪読を中心に進める予定である。		
評価方法	基本的に、授業中の報告（60%）とレポート（40%）の成績によって評価する。		
到達目標	1. 学部上級から大学院中級レベルの内容を理解できるようになる。 2. 修士論文を書きあげるための知識や数学的技術を身につけることができる。		
授業時間外学習	学部初級レベルの国際経済学、また国際経済学を学ぶ上で必要なミクロ経済学、マクロ経済学を授業外で整理しておくこと。また、事前に指示した教材・資料の予習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 履修が望ましい他の関連科目：ミクロ経済学・マクロ経済学・国際金融論。
2. 遅刻や私語は厳禁とする。
3. トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい。
4. 数学的な内容の授業を行う。しかし、徐々に慣れてくるので、途中で投げ出さず頑張ってもらいたい。

授業スケジュール

第１回：リカード・モデル１
第２回：リカード・モデル２
第３回：ヘクシャー・オーリンモデル１
第４回：ヘクシャー・オーリンモデル２
第５回：ヘクシャー・オーリンモデル３
第６回：ヘクシャー・オーリンモデル４
第７回：マンデル・フレミングモデル１
第８回：マンデル・フレミングモデル２
第９回：マンデル・フレミングモデル３
第１０回：マンデル・フレミングモデル４
第１１回：New Open Economy Macroeconomics　1
第１２回：New Open Economy Macroeconomics　2
第１３回：New Open Economy Macroeconomics　3
第１４回：New Open Economy Macroeconomics　4
第１５回：New Open Economy Macroeconomics　5

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J72193001
科目名	【院】財政学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	財政と経済の関連の実態と経済学の基本定理の意義を把握することを踏まえて、政府の役割を捉えなおし、どの市場に、どのような方法で、どの程度まで介入すべきかを、政府予算の実態と制度、さらにほ背景となる理論に基づいて、講義する。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	A.B.Atokinson and J.E.Stiglitz(1980) Lectures on Public Economics, McGRAW-HILL, Book Company(UK) Limited. 本間正明監修・神谷和也・山田雅俊編著(2005)『公共経済学』東洋経済新報社。		
教育方法	講義用レジメを配布しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業中提示する３回の課題に対するレポート（60%）、最終課題に関する小論文（40%）で評価する。、		
到達目標	日本の財政の現状、2018 年度予算の経済効果を理論的に説明できる。		
授業時間外学習	予習としては、次回授業のテーマについて、関連する予算を調べておく。 復習としては、配布資料の裏面の課題について、次週までに、調べてくる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
毎週、講義関連事項をインターネットなどで調べておくこと。
受講ルール
ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎知識を学習していることが望ましい。
学習上の助言
財務省、予算関連省庁のホームページで、予算の詳細を調べておくこと。

授業スケジュール

第１回　マクロ経済と財政
　マクロ経済の動向と財政支出・財政赤字の推移を振り返りながら、政府と市場のかかわりを考える。
第２回　厚生経済学の第一基本定理からみた政府の役割
　定理の内容の理解を深め、そこから導かれる政府の役割と実際の政府の市場介入政策の関係を考える。
第３回　厚生経済学の第二基本定理からみた政府の役割
　定理の内容の理解を深め、そこから導かれる政府の役割と実際の政府の市場介入政策の関係を考える。
第４回　予算制度と実際の予算
　2018 年度歳入・歳出予算の規模と内訳を解説しながら、予算制度を考える。
第５回　社会保障制度と実際の予算
　社会保障制度およびその予算の規模・内訳を解説しながら、現状の課題を考える。
第６回　年金制度と実際の予算
　年金制度およびその予算規模・内訳を解説しながら、現状の課題を考える。
第７回　医療・介護制度と実際の予算
　医療・介護制度およびその予算規模・内訳を解説しながら、現状の課題を考える。
第８回　公共投資に対する実際の予算
　公共投資をの予算規模・内訳を解説しながら、公共財の理論を踏まえて現状の課題を考える。
第９回　教育関係に対する実際の予算
　教育関係の予算規模・内訳を解説しながら、メリット財理論、教育投資理論を踏まえて現状の課題を考える。
第１０回　個人所得課税制度の役割と課題
　国と地方の個人所得課税制度の解説を踏まえながら、その影響を経済モデルを踏まえて捉え、現状の課題を考える。
第１１回　法人課税制度の役割と課題
　国と地方の法人課税制度の解説を踏まえながら、その影響を経済モデルを踏まえて捉え、現状の課題を考える。
第１２回　消費税制度の役割と課題

消費税制度の解説を踏まえながら、その影響を経済モデルを踏まえて捉え、現状の課題を考える。

第１３回　公債発行と財政赤字

財政赤字の実態を踏まえながら、公債発行や残高増加の影響を経済モデル踏まえて捉え、現状の課題を考える。

第１４回　政府の財務状況

政府の財務諸表の実態を解説しながら、財政赤字を財務状況から検討し、現状の課題を考える。

第１５回　財政とニューパブリック・マネジメント

ニューパブリック・マネジメントりろんを紹介し、今後の財政制度の在り方を考える。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J72194001
科目名	【院】財政政策論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Policy		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	政府予算として具現化される個々の財政政策がどの市場に、どのような方法で、どの程度まで介入しているかを実態としてとらえ、その影響・効果が理論的に期待されるものとどの程度まで一致しているかを政策効果分析として解説し、こうした個々の財政政策の評価を踏まえ、政策の今後の在り方をも講義する。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	A.B.Atokinson and J.E.Stiglitz(1980) Lectures on Public Economics, McGRAW-HILL, Book Company(UK) Limited. 本間正明監修・神谷和也・山田雅俊編著(2005)『公共経済学』東洋経済新報社。		
教育方法	講義用レジメを配布しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業中提示する３回の課題に対するレポート（60%）、最終課題に関する小論文（40%）で評価する。、		
到達目標	個々の財政政策の現状を理解し、その経済効果を説明できる。		
授業時間外学習	予習としては、次回授業のテーマについて、関連する予算を調べておく。 復習としては、配布資料の裏面の課題について、次週までに、調べてくる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
毎週、講義関連事項をインターネットなどで調べておくこと。
受講ルール
ミクロ経済学、マクロ経済学、財政論の基礎知識を学習していることが望ましい。
学習上の助言
財務省、をはじめとする中央省庁のホームページで、予算支出を伴う個々の政策の詳細を調べておくこと。

授業スケジュール

第１回　経済政策としての財政政策
　経済政策の基本的な考え方を解説しながら、財政政策とは何かを考える。
第２回　政府の役割からみた財政政策
　歳出と歳入の側面からみた政府の市場介入政策としての財政政策の実態を考える。
第３回　財政支出政策の有効性：その１
　ケインズ理論と IS-LM 分析からみた財政政策の効果を解説し、政策の歴史的側面からみた有効性を考える。
第４回　財政支出政策の有効性：その２
　合理的期待仮説からみた財政政策の効果を解説し、現代の財政支出をどう評価するかを考える。
第５回　社会保障政策とその効果
　社会保障政策の規模・内訳を解説しながら、その影響・効果を考える。
第６回　年金政策とその効果
　年金政策の予算規模・内訳を解説しながら、その影響・効果を考える。
第７回　医療・介護政策とその効果
　医療・介護政策の予算規模・内訳を解説しながら、その影響・効果を考える。
第８回　公共投資政策とその効果
　公共投資政策の予算規模・内訳を解説しながら、その影響・効果を考える。
第９回　教育政策とその効果
　教育政策の予算規模・内訳を解説しながら、その影響・効果を考える。
第１０回　個人所得課税政策とその効果
　国と地方の個人所得課税政策を解説しながら、その影響・効果を考える。
第１１回　法人課税政策とその効果
　国と地方の法人課税政策を解説しながら、その影響・効果を考える。
第１２回　消費税政策とその効果

消費税政策を解説しながら、その影響・効果を考える。

第１３回　公債発行政策とその効果

公債発行政策や公債残高管理政策を解説しながら、その影響・効果を考える。

第１４回　増税政策とその効果

増税政策の手段と影響・効果を解説しながら、有効な増税手段を考える。

第１５回　規制政策とその効果

安全規制と経済的規制を解説し、その影響・効果を考えええる。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J72195001
科目名	【院】パーソナルファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）	Personal Finance		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
授業概要	ライフプランニング・リタイヤメントプランニングに関して、個人が誕生→結婚→住宅取得→退職→老後の生活というライフ・デザインの理論と応用を講義する。具体的にはＦＰの上級資格であるＣＦＰ資格審査試験・ＣＦＰ認定者の「パーソナルファイナンス」分野を意識し、そこで要求されている知識を習得し、応用できる水準を目指す。なお、提案書の作成も併せて行い、実際の応用も確認する。受講するにあたってはすべての項目において税金に関連するため、AFP レベルの知識の他、所得税等の知識を有していることが望ましい。また、AFP 資格取得を目指す者は、提案書の審査の観点から、春学期の【院】リスクの経済学、秋学期の【院】不動産運用設計と本講義「パーソナル・ファイナンス」の受講を必須とする。		
教材（教科書）	講義の中で指示を行なう。		
教材（参考資料）	貝塚啓明『パーソナルファイナンス』日本ＦＰ協会 宮口定雄『税務ハンドブック　平成 30 年度版』パーソナル社		
教育方法	次回に行う箇所を指示し、担当者を振り分け、その発表についてディスカッションを行う。		
評価方法	レポート（５０%）・講義の中での発表(５０%)		
到達目標	ライフ・デザインの理論、それに伴う税金等の知識を学習して、ＦＰとしてアドバイスをすることができる。		
授業時間外学習	春学期に履修をする「リスクの経済学」で学ぶ税金・社会保障の問題を基に「不動産運用設計」「パーソナルファイナンス」で学ぶ知識を加えて、本講義においてはレポート(提案書)の作成を行う。受講者は順番に指示する内容についての発表を行うこととなるが、発表者以外の者は必ずその内容を事前に調べ、質問事項の準備をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ＡＦＰ資格の取得を考えている場合には必ず本講義と春学期の「リスクの経済学」と秋学期の「不動産運用設計」を併せて受講すること。

授業スケジュール

１．　パーソナルファイナンスの基礎知識
２．　FP とコンプライアンス
３．　教育資金設計
４．　住宅資金設計
５．　社会保険の基礎知識
６．　医療保険制度
７．　労働保険制度
８．　独立起業と資金計画
９．　リタイヤメントプランニングの全体像と提案書の作成について
１０．公的年金制度(１)
１１．公的年金制度(２)
１２．退職後の医療・介護保険制度
１３．企業年金・退職金の基礎知識
１４．提案書の作成(１)
１５．提案書の作成(２)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J72196001
科目名	【院】リスクの経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Economics on Risk Management		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
授業概要	社会保障は、個人が生活を営むうえで直面するリスクを社会的にプールする仕組みである。今日、社会保障費の増大により増税は避けられないのが現状である。しかしながら現役世代と高齢世代との世代間格差を考えると、消費税の税率を上げ社会保障の原資とするのか、あるいは他の税金で賄うのかには一考の余地がある。本講義では個人生活に及ぼす影響を考慮しながら、社会保障制度を充実させるための税制についての学習する。		
教材（教科書）	土居史朗『日本の税をどう見直すのか』 日本経済新聞社 井堀利宏『消費増税は、なぜ経済学的に正しいのか 』ダイヤモンド社 日本ＦＰ協会『タックスプランニング』		
教材（参考資料）	伊多波良雄『現代社会の財政学』　晃洋書房 三木義一『日本の税金』　岩波新書		
教育方法	次回に行う箇所を指示し、担当者を振り分け、その発表についてディスカッションを行う。		
評価方法	レポート(５０％)・講義の中での発表(５０％)		
到達目標	社会保障と税制改革についての根拠のある意見を述べることができる。		
授業時間外学習	世代間格差と税制との問題について、新聞報道等で如何に論じられているかを掌握をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ＡＦＰ資格の取得を考えている場合には必ず本講義と秋学期の「パーソナルファイナンス」「不動産運用設計」を併せて受講すること。			
授業スケジュール			
１　財政悪化の現状 ２　日本の税制 ３　社会保障財源の負担 ４　租税原則と税の役割 ５　消費税導入の歴史的背景 ６　消費税の仕組み ７　消費税をめぐる課題① ８　消費税をめぐる課題② ９　社会保障制度と税① １０ 社会保障制度と税② １１ 所得課税と社会保険料 １２ 介護保険制度と消費税 １３ 個人所得課税 １４ 税額控除の妥当性 １５ 個人生活に及ぼす影響			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J72197001
科目名	【院】リスク・マネジメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Risk Management		
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
授業概要	企業経営に関わるリスクを中心に個人の関わるリスク、その防衛策・対処方法について講義する．財務リスクにも言及し、保険でカバーすることができるリスクについて、回避・移転等する方法を指導する。具体的には FP の上級資格である CFP 資格審査試験・CFP 認定者の「リスクと保険」分野を意識し，そこで要求されている知識を習得し、応用できる水準を目指す．受講するにあたっては多岐にわたり税金に関連するため、AFP レベルの知識の他、所得税・法人税等の知識を有していることが望ましい。AFP の資格取得には、春学期に【院】リスクの経済学で基本を習得したうえで秋学期の【院】パーソナルファイナンスを受講して提案書提出が必須となる。		
教材（教科書）	講義の中で指示を行う。		
教材（参考資料）	宇野典明『リスクマネジメント』日本ＦＰ協会 ?1944 円 宮口定雄『税務ハンドブック平成 29 年度版』パーソナル社 1950 円		
教育方法	受講者は順番に指示する内容についての発表を行う。		
評価方法	レポート（５０%）・講義の中での発表(５０%)		
到達目標	企業経営におけるリスクの抽出、対処方法など本質的なことを理解することができる。		
授業時間外学習	春学期に履修をする「リスクの経済学」で学ぶ税金・社会保障の問題を基に「リスク・マネジメント」「パーソナルファイナンス」で学ぶ知識を加えてレポート(提案書)の作成を行う。受講者は順番に指示する内容についての発表を行うこととなるが、発表者以外の者は必ずその内容を事前に調べ、質問事項の準備をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で講義に出席して、疑問点をその講義内に解決できるようする。そのためには予習をきっちりとしてくること。

授業スケジュール

１．　危機管理とリスクマネジメント
２．　企業のリスクマネジメント
３．　リスクファイナンスの活用
４．　財務リスク
５．　個人生活におけるリスク
６．　損害保険業界の動向
７．　損害保険の仕組み(１)
８．　損害保険の仕組み(２)
９．　損害保険の税務
１０．法人のリスクマネジメントと保険設計
１１．個人のリスクマネジメントと保険設計
１２．法人生命保険契約の税務(１)
１３．法人生命保険契約の税務(２)
１４．保険業法
１５．保険約款・手続きについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J72200A01
科目名	【院】社会政策論演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	修士論文作成のための準備の第一歩として、社会政策および関連分野から各受講者が選択したテーマについて、受講者に文献の要約報告を行ってもらう。		
教材（教科書）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
教材（参考資料）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
教育方法	受講者は指示する文献について要約報告を行い、担当教員はそれについてコメントを行う。報告者以外は報告内容について質問等を行い、報告者と議論を行う。		
評価方法	平常点（報告内容等）(50%)、レポート（50％）		
到達目標	修士論文作成に向けて研究の方向性を明らかにすること。		
授業時間外学習	参考文献を収集して熟読し、報告用のレジュメを毎回作成しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
十分な準備の上で授業に臨むこと。			
授業スケジュール			
１．ガイダンス　―受講者の関心の確認と授業の方針の説明― ２．基礎的・概論的文献の購読① ３．基礎的・概論的文献の購読② ４．基礎的・概論的文献の購読③ ５．基礎的・概論的文献の購読④ ６．研究テーマの絞り込みと方向性の確認 ７．研究テーマに関する現状の確認① ８．研究テーマに関する現状の確認② ９．研究テーマに関する現状の確認③ １０．研究テーマに関する現状の確認④ １１．研究テーマに関する政策的課題の確認① １２．研究テーマに関する政策的課題の確認② １３．研究テーマに関する政策的課題の確認③ １４．研究テーマに関する政策的課題の確認④ １５．論点の整理と今後の研究の方向についての検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J72200B01
科目名	【院】社会政策論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	修士論文作成に向けて、「社会政策論演習Ａ」で得た知識を元にさらに理解を深め、テーマの絞り込みを行う。そのために、受講者に文献の要約報告等を行ってもらう。		
教材（教科書）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
教材（参考資料）	受講者の関心と必要に沿って適宜指示する。		
教育方法	受講者は指示する文献について要約報告を行い、担当教員はそれについてコメントを行う。報告者以外は報告内容について質問等を行い、報告者と議論を行う。		
評価方法	平常点（報告内容等）(50%)、レポート（50％）		
到達目標	修士論文のテーマ決定し、研究の方向を明確にすること。		
授業時間外学習	参考文献を収集して熟読し、報告用のレジュメを毎回作成しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
十分な準備の上で授業に臨むこと。			
授業スケジュール			
１．研究の進捗状況の確認 ２．政策的課題の要因分析① ３．政策的課題の要因分析② ４．政策的課題の要因分析③ ５、政策的課題の要因分析④ ６．政策的課題の要因分析⑤ ７．政策的課題の要因についての考察① ８．政策的課題の要因についての考察② ９．政策的課題の要因についての考察③ １０．政策的課題の要因についての考察④ １１．政策的課題の要因についての考察⑤ １２．修士論文のテーマの検討① １３．修士論文のテーマの検討② １４．修士論文の構成の検討① １５．修士論文の構成の検討②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J73020A01
科目名	【院】会計学演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Accounting A		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	本演習は、A～Dという 4 つの部分から構成し、2 年間かけて、会計学の領域から各自関心のあるテーマを選び、それについて修士論文を作成することを目的としている そのために、修士論文の作成方法を学び、自らテーマを選定した上、資料を収集し、会計学の基本文献や先行研究についてレビュー、整理を行い、必要に応じてインタビューや、ケーススタディ、データ分析等を実施し、最終的に論文を仕上げる。 まず、演習 A では論文の作成方法を習得し、基礎文献や先行研究をレビューし、輪番で発表する。その中で各自の興味ある分野、テーマを選定していく。		
教材（教科書）	中田信正（2013）　『財務会計・法人税法論文の書き方・考え方―論文作法と文献調査-（改訂版）』同文舘出版 2,160 円 他は講義中指定		
教材（参考資料）	適宜指定する		
教育方法	学生は事前に指定された教科書、先行研究、または各自で調べた資料等について熟読したうえ、レポートを作成し授業中は輪番で発表を行う。発表について教員は質問やコメントを行い、重要なポイントを説明する。学生間のコメントやディスカッションも積極的に行う。		
評価方法	レポート作成、発表、ディスカッションの参加度 40%、報告の質 60%		
到達目標	修士論文を作成するためのテーマを自主的に選定し、資料収集、レビュー、発表を自らで行えるようになる。		
授業時間外学習	事前に読む教材、資料あるいは発表テーマを指定される場合、レポートを作成する。輪番の担当者は発表できるように準備する。 テーマ・問題意識を各自で発表する場合、事前のテーマ選定、資料収集も各自で行い、レビューした上、発表資料を作成する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
問題意識を明確に、自主的な学習を意欲的に取り組んでください。			
授業スケジュール			
第 1 回 論文を作成する意義と要件 第 2 回 論文の書き方 第 3 回 文献の調べ方 第 4 回 会計基準の調べ方 第 5 回 文献の引用・表示方法 第 6 回　会計の定義と分類に関する検討 第 7 回　会計の目的・機能に関する検討 第 8 回　会計の前提に関する検討 第 9 回　会計における認識と測定の原則に関する検討			

第 10 回　会計プロフェッションと監査の意義に関する検討
第 11 回　財務会計の諸概念に関する検討
第 12 回　会計基準を巡る問題に関する検討
第 13 回　各自の興味あるテーマ、問題意識について報告とディスカッション
第 14 回　各自の興味あるテーマ、問題意識について報告とディスカッション
第 15 回　演習Ａのまとめと演習Ｂに向けての課題設定

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J73020B01
科目名	【院】会計学演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Accounting B		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	本演習は、Ａ～Ｄという 4 つの部分から構成し、2 年間かけて、会計学の領域から各自関心のあるテーマを選び、それについて修士論文を作成することを目的としている そのために、修士論文の作成方法を学び、自らテーマを選定した上、資料を収集し、会計学の基本文献や先行研究についてレビュー、整理を行い、必要に応じてインタビューや、ケーススタディ、データ分析等を実施し、最終的に論文を仕上げる。 演習Ｂでは各自に興味のある分野、テーマをさらに絞り、資料を自主的に収集しながら、研究発表を重ねる。その中で、論文のテーマと構成を固めておく。		
教材（教科書）	講義中適宜指定する。		
教材（参考資料）	適宜指定する		
教育方法	学生は事前に指定された教科書、先行研究、または各自で調べた資料等について熟読したうえ、レポートを作成し授業中は輪番で発表を行う。発表について教員は質問やコメントを行い、重要なポイントを説明する。学生間のコメントやディスカッションも積極的に行う。		
評価方法	レポート作成、発表、ディスカッションの参加度 40％、報告の質 60％		
到達目標	修士論文を作成するためのテーマを自主的に選定し、資料収集、レビュー、発表をできるようになる。		
授業時間外学習	輪番で発表するので、必ず事前に自らのテーマに応じて資料収集、レビューをし、発表資料を作成する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
問題意識を明確に、自主的な学習を意欲的に取り組んでください。			
授業スケジュール			
第１回　本講義の目的と進行方法説明、各自のテーマ確認 第２回　各自選定した論題の報告とディスカッション 第３回　論題に関する主要な論点の報告とディスカッション 第４回　論題に関する主要な論点の報告とディスカッション 第５回　論文構成に関する報告とディスカッション 第６回　論文構成に関する報告とディスカッション 第７回　各自のテーマに関する基本文献の精読とディスカッション 第８回　各自のテーマに関する基本文献の精読とディスカッション 第９回　各自のテーマに関する基本文献の精読とディスカッション 第 10 回　先行研究のレビューとディスカッション 第 11 回　先行研究のレビューとディスカッション 第 12 回　先行研究のレビューとディスカッション 第 13 回　論文構成に関する報告とディスカッション 第 14 回　論文構成に関する報告とディスカッション 第 15 回　論文テーマと構成の確認、演習Ｃに向けての課題確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J73024A01
科目名	【院】会計学研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Accounting Research A		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	本講義では、会計学を専攻している大学院生、将来的に税理士等の資格を取得し、専門職として活躍することをめざしている大学院生を対象に、資格試験を合格するために必要な会計学の基礎知識を深く理解し、身に付けることを目的としている。また、、授業中に教科書・資料を輪読・発表することを通じて、研究論文を作成するための能力を身に付けるように講義を行う。		
教材（教科書）	講義中指定する。		
教材（参考資料）	神戸大学会計学研究室（２０１６）『会計学基礎論(第五版補訂版)』 同文館出版		
教育方法	学生は事前に指定された教科書、先行研究、または各自で調べた資料等について熟読したうえ、レポートを作成し授業中は輪番で発表を行う。発表について教員は質問やコメントを行い、重要なポイントを説明する。学生間のコメントやディスカッションも積極的に行う。		
評価方法	レポート作成、発表、ディスカッションの参加度 40%、報告の質 60%		
到達目標	会計学に関するテーマについて、問題意識を持ちながら、資料収集を自主的に行い、レポートを作成、発表できるようになる。		
授業時間外学習	事前に読む教材、資料あるいは発表テーマを指定するので、それにしたがって毎回レポートを作成する。担当者は発表も準備する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
財務会計に関する基礎知識を有することを前提に受講し、問題意識を明確に、自主的な学習を意欲的に取り組んでください。			
授業スケジュール			
第１回　本講義の目的と進行説明 第２回　会計の意義と役割 第３回　会計の基礎 第４回　簿記の仕組み 第５回　商品売買の会計 第６回　資産の会計① 第７回　資産の会計② 第８回　負債・資本の会計① 第９回　負債・資本の会計② 第１０回　原価の計算① 第１１回　原価の計算② 第１２回　財務諸表の公開 第１３回　財務諸表の利用 第１４回　マネジメントへの役立ち 第１５回　本講義のまとめと質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J73024B01
科目名	【院】会計学研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Accounting Research B		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	本講義では、会計学を専攻している大学院生、将来的に税理士等の資格を取得し、専門職として活躍することをめざしている大学院生を対象に、資格試験を合格するために必要な会計学の基礎知識を深く理解し、身に付けることを目的としている。また、授業中に教科書・資料を輪読・発表することを通じて、研究論文を作成するための能力を身に付けるように講義を行う。		
教材（教科書）	講義中指定する。		
教材（参考資料）	桜井久勝『財務会計講義』（最新版）　中央経済社 友岡 賛『会計学原理』（2012）税務経理協会 古賀智敏『価値創造の会計学』（2000）税務経理協会		
教育方法	学生は事前に指定された教科書、先行研究、または各自で調べた資料等について熟読したうえ、レポートを作成し授業中は輪番で発表を行う。発表について教員は質問やコメントを行い、重要なポイントを説明する。学生間のコメントやディスカッションも積極的に行う。		
評価方法	レポート作成、発表、ディスカッションの参加度 40％、報告の質 60％		
到達目標	会計学に関するテーマについて、問題意識を持ちながら、資料収集を自主的に行い、レポートを作成、発表できるようになる。		
授業時間外学習	事前に読む教材、資料あるいは発表テーマを指定するので、それにしたがって毎回レポートを作成する。担当者は発表も準備する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
財務会計に関する基礎知識を有することを前提に受講し、問題意識を明確に、自主的な学習を意欲的に取り組んでください。			
授業スケジュール			
第 1 回　本講義の目的と進行方法ガイダンス、発表者を決める。財務会計の目的と課題 第 2 回　経済基盤の変化と会計理論の変革 第 3 回　利益測定アプローチの 2 類型 第 4 回　利益概念と包括利益会計 第 5 回　資産概念の特質と変容 第 6 回　時価会計の生成基盤 第 7 回　金融商品と公正価値会計の基礎 第 8 回　金融商品と公正価値会計の展開 第 9 回　現在価値会計の基礎理論 第 10 回　有価証券の会計の基礎 第 11 回　有価証券の会計の展開 第 12 回　投資不動産の会計 第 13 回　資産再評価の会計 第 14 回　有形固定資産と原価償却の会計 第 15 回　無形資産の会計の基礎			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J73024C01
科目名	【院】会計学研究Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Accounting Research C		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	今までの研究に基づき、各受講生は自らの興味ある会計学の分野からテーマを選び、自主テーマ選定とそれに関する研究発表を行う。会計学知識をさらに蓄積すると同時に、研究能力を高め、研究論文の作成できるようになる。		
教材（教科書）	講義中指定する		
教材（参考資料）	桜井久勝『財務会計講義』（最新版）　中央経済社 友岡 賛『会計学原理』（2012）税務経理協会 古賀智敏『価値創造の会計学』（2000）税務経理協会		
教育方法	学生は事前に指定された教科書、先行研究、または各自で調べた資料等について熟読したうえ、レポートを作成し授業中は輪番で発表を行う。発表について教員は質問やコメントを行い、重要なポイントを説明する。学生間のコメントやディスカッションも積極的に行う。		
評価方法	レポート作成、発表、ディスカッションの参加度 40％、報告の質 60％		
到達目標	会計学の視点から問題を取り組め、資料を自ら収集・レビューし、問題点を整理できる。		
授業時間外学習	事前に自主的に選定した専門テーマについて資料を自主的に収集し、レビューした上レポートを作成し、授業中は輪番で発表を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

会計学研究ＡとＢの受講を前提に、問題意識を明確に、自主的な学習を意欲的に取り組んでください。

授業スケジュール

第 1 回　本講義の目的と進行方法説明、のれんの会計
第 2 回　負債概念の定義と認識
第 3 回　年金債務の会計
第 4 回　資本概念の定義と認識
第 5 回　収益の認識
第 6 回　対応概念の再認識
第 7 回　研究開発費の会計
第 8 回　外貨換算の会計
第 9 回　企業結合の会計
第 10 回　連結会計
第 11 回　情報開示の拡充化と包括的財務報告
第 12 回　知的資産と知的資産経営報告書の展開
第 13 回　企業の社会的責任とＣＳＲ報告
第 14 回　統合経営と統合レポーティング
第 15 回　復習と今後の研究テーマの確認

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J73024D01
科目名	【院】会計学研究Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Accounting Research D		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	今までの研究に基づき、各受講生は自らの興味ある会計学の分野からテーマを選び、自主テーマ選定とそれに関する研究発表を行う。会計学知識をさらに蓄積すると同時に、研究能力を高め、研究論文を作成できるようになる。		
教材（教科書）	学生と相談する上決定する。		
教材（参考資料）	伊藤邦雄・桜井久勝(2013)[『会計情報の有用性』中央経済社		
教育方法	学生は事前に指定された教科書、先行研究、または各自で調べた資料等について熟読したうえ、レポートを作成し授業中は輪番で発表を行う。発表について教員は質問やコメントを行い、重要なポイントを説明する。学生間のコメントやディスカッションも積極的に行う。		
評価方法	レポート作成、発表、ディスカッションの参加度 40%、報告の質 60%		
到達目標	会計学の視点から問題を取組め、テーマを自ら選定でき、研究論文を作成できる。		
授業時間外学習	事前に自主的に選定した専門テーマについて資料を自主的に収集し、レビューした上レポートを作成し、授業中は輪番で発表を行う。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
原則会計学研究Ａ～Ｃを履修したことを前提にする。問題意識を明確にし、自主的な学習を意欲的に取り組んでください。			
授業スケジュール			
第１回　本講義の目的と進行方法説明 第２回　資本市場研究の課題と展望 - 利益情報の有用性 - 第３回　市場の効率性とマイクロストラクチャー 第４回　会計政策の情報効果 第５回　投資リスクの評価と予測 第６回　拡大された会計情報の有用性 第７回　利益調整の動機と手法 - 第８回　会計方針の選択 第９回　資金調達・コーポレートガバナンスと会計情報 第１０回 評価モデルと会計情報 - 第１１回　業績予想と資本市場 第１２回　研究開発会計と企業価値 第１３回　企業結合と無形資産 第１４回　実証的会計研究と会計制度設計 第１５回　全体のまとめと質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J73036A01
科目名	【院】管理会計論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Accounting Research A		
担当者名	島　吉伸	旧科目名称	
授業概要	この講義では、経営管理上の意思決定問題に対して、会計情報がどのように利用されるのかについて学びます。会計情報は企業の様々な意思決定の場面で利用されます。例えば、経営戦略や計画・投資の決定、製品価格の決定、セールス・ミックスの決定、アウトソーシングの決定などがあります。管理会計は、実務の中で広く実践されており、今日の環境変化に対する実務の革新や研究者の新たな知見を加えながら、その内容を豊かにしてきています。この講義では、最新の管理会計実務の全体像を理解することを目的とし、まず、意思決定会計における管理会計の基本的概念や諸技法について学習します。その上で、最新の管理会計実務を紹介したいと思います。		
教材（教科書）	上埜　進他著　「管理会計の基礎 第４版」　税務経理協会		
教材（参考資料）	加登豊編著　「インサイト管理会計」　中央経済社		
教育方法	各トピックスの最初に内容を解説する。その後、課題を提示し、学生によるプレゼンテーションとディスカッションにより講義を進める。		
評価方法	プレゼンテーション 40%　レポート課題 40%　ディスカションへの貢献 20%		
到達目標	伝統的な管理会計の分析手法を用いて意思決定することができる。		
授業時間外学習	毎講義終了時に指示する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
意思決定における会計的分析視点を養うために、学習した内容の演習問題を解いておくこと。			
授業スケジュール			
第１回　　イントロダクション　意思決定と会計の役割 第２回　　財務諸表の読み方（１） 第３回　　財務諸表の読み方（２） 第４回　　原価計算の基礎 第５回　　経営戦略と経営計画の策定（１） 第６回　　経営戦略と経営計画の策定（２） 第７回　　短期利益計画と CVP 分析（１） 第８回　　短期利益計画と CVP 分析（２） 第９回　　意思決定のための関連収益・関連原価の分析（１） 第 10 回　　意思決定のための関連収益・関連原価の分析（２） 第 11 回　　意思決定のための関連収益・関連原価の分析（３） 第 12 回　　設備投資の意思決定（１） 第 13 回　　設備投資の意思決定?（２） 第 14 回　　設備投資の意思決定?（３） 第 15 回　　講義全体のまとめ 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J73036B01
科目名	【院】管理会計論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Accounting Research B		
担当者名	島　吉伸	旧科目名称	
授業概要	この講義では、経営管理に役立つ会計情報の利用方法について学びます。特に、経営管理者の多様な意思決定や分権化された組織活動が、全社的にどのように調整・統合されるのか、組織活動の成果がどのように測定され、評価されるのかについて学びます。 管理会計は、実務の中で広く実践されており、今日の環境変化に対する実務の革新や研究者の新たな知見を加えながら、その内容を豊かにしてきています。この講義では、最新の管理会計実務の全体像を理解することを目的とし、まず、管理会計の基本的概念や諸技法について学習します。その上で、最新の管理会計実務を紹介したいと思います。		
教材（教科書）	上埜　進他著　「管理会計の基礎　第４版」　税務経理協会		
教材（参考資料）	加登豊編　「インサイト管理会計」　中央経済社		
教育方法	各トピックスの最初に内容を解説する。その後、課題を提示し、学生によるプレゼンテーションとディスカッションにより講義を進める。		
評価方法	プレゼンテーション 40%　レポート課題 40%　ディスカッションへの貢献 20%		
到達目標	伝統的な管理会計の業績管理手法と、今日の企業で実践されている最新の管理会計手法について理解し、議論することができる。		
授業時間外学習	毎講義終了時に指示する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義前に、教科書をじっくり読んで疑問点を明らかにしておくこと。			
授業スケジュール			
第１回　　イントロダクション　企業経営と業績管理 第２回　　予算管理（１） 第３回　　予算管理（２） 第４回　　分権制組織の会計管理（１） 第５回　　分権制組織の会計管理（２） 第６回　　分権制組織の会計管理（３） 第７回　　原価管理（１） 第８回　　原価管理（２） 第９回　　ABC・ABM（１） 第 10 回　　ABC・ABM（２） 第 11 回　　戦略的コストマネジメント（１） 第 12 回　　戦略的コストマネジメント（２） 第 13 回　　戦略的コストマネジメント（３） 第 14 回　　価値創出経営 第 15 回　　講義全体のまとめ 定期試験			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J73069A01
科目名	【院】経営史演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Management History A		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
授業概要	ケーススタディは経営史研究の生命である。したがって、演習ＡＢにおいては、研究テーマを決定し、その基礎となる質と量を備えた一次史料の発掘・収集とその整理に努め、これを順次報告しなければならない。基本的史料の発掘・収集は、夏季・春季の長期休暇に集中的に行う必要がある。同時に、研究テーマに不可欠の文献・論文をリストアップ・探索・収集し、問題意識の深化に努めねばならない。		
教材（教科書）	受講者と相談の上で決める。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	演習の形式で進める。		
評価方法	文献研究の進捗度（70%）、史料収集（30%）		
到達目標	経営史の基礎的知識を習得し、企業・経営発展研究への視座を獲得する。		
授業時間外学習	修士論文の完成に向け最大限の努力を傾注しなければならない。 毎回各自の作業・文献研究の進捗状況を報告し、報告レジュメの作成を求める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

２年間は短い。演習においては、このわずかな時間のうちに文献研究と史料収集を通じて修士論文の完成に努めねばならない。

授業スケジュール

1.本演習についての概説
2.修士論文作成に関する基礎的説明
3.本学図書館利用に関する説明（所蔵文献・情報検索法の説明）
4.研究テーマの選定に関する指導
5.研究テーマの選定に関する報告
6.研究課題に関する文献研究(1)
7.研究課題に関する文献研究(2)
8.研究テーマに関する問題点の整理
9.基本文献の研究報告(1)
10.基本文献の研究報告(2)
11.基本文献の研究報告(3)
12.論文構成に関する指導(1)
13.論文構成に関する指導(2)
14.関係史料への一次的接近のための情報収集(1)
15.関係史料への一次的接近のための情報収集(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J73069B01
科目名	【院】経営史演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Management History B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
授業概要	ケーススタディは経営史研究の生命である。したがって、演習ＡＢにおいては、研究テーマを決定し、その基礎となる質と量を備えた一次史料の発掘・収集とその整理に努め、これを順次報告しなければならない。基本的史料の発掘・収集は、夏季・春季の長期休暇に集中的に行う必要がある。同時に、研究テーマに不可欠の文献・論文をリストアップ・探索・収集し、問題意識の深化に努めねばならない。		
教材（教科書）	受講者と相談の上で決める。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	演習の形式で進める。		
評価方法	終了レポート（100％）		
到達目標	経営史の基礎的知識を習得し、企業・経営発展研究への視座を獲得する。		
授業時間外学習	修士論文の完成に向け最大限の努力を傾注しなければならない。 毎回各自の作業・文献研究の進捗状況を報告し、報告レジュメの作成を求める。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
２年間は短い。演習においては、このわずかな時間のうちに文献研究と史料収集を通じて修士論文の完成に努めねばならない。			
授業スケジュール			
16.収集史料を基にした研究報告(1) 17.収集史料を基にした研究報告(2) 18.収集史料を基にした研究報告(3) 19.先行研究の整理(1) 20.先行研究の整理(2) 21.研究テーマに関する問題点の整理(1) 22.研究テーマに関する問題点の整理(2) 23.基本文献の研究報告(1) 24.基本文献の研究報告(2) 27.追加的史料の情報収集(1) 28.追加的史料の情報収集(2) 29.追加的史料の情報収集(3) 30.追加的史料の情報収集(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J73105A01
科目名	【院】情報管理論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Management A		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 学生は本講義によって情報管理の重要性について理解し、情報管理について実際にどのような行動をとるべきかを自ら考えることができるようになる。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは京学なび に公開する。		
教材（教科書）	情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	レポート(40%)、受講・発表など授業での取り組み(60%)で評価する。		
到達目標	経営情報システム及び企業経営における情報の適切な利活用とと管理について説明できる。		
授業時間外学習	経営学及び経営情報の基本部分はキッチリおさえていて欲しい。 ビジネス・キャリア試験レベルまでの事前学習をすすめて欲しい。 各回の授業内容に該当する教科書のページを事前に読んで、専門用語の確認などを含めて事前学習をしておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。 １．MS-Office の操作を練習しておく ２．Powerpoint か、Impress の操作を練習しておく ３．Powerpoint か、Impress の操作を練習しておく ４．教科書 pp2-pp21 ５．教科書 pp22-pp30 ６．教科書 pp31-pp34 ７．教科書 pp36-pp44 8. 教科書 pp36-pp44 9. 教科書 pp36-pp44 10. 教科書 pp36-pp44 11. 教科書 pp36-pp44 12. 教科書 pp36-pp44 13. 教科書 pp45-pp63 14. 教科書 pp64-pp67 15. 教科書 pp2-pp67		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。

授業スケジュール

授業は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

１．受講ガイダンス

ワードプロセッシング演習
スプレッドシート演習
Gmail、One Drive、Thinkfree、Evernote、Twitter、Dropbox アカウント取得
2．プレゼンテーション基礎演習
3．プレゼンテーション応用演習
4．情報化技術の理解
5．経営戦略の理解
6．情報化戦略の立案
7．情報の収集 1
8．情報の収集 2
9．情報の整理 1
10．情報の整理 2
11．情報の加工
12．情報の表現
13．パソコンソフトの活用
14．関連法規の理解
15．理論的側面の課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J73105B01
科目名	【院】情報管理論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Management B		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは京学なび に公開する。		
教材（教科書）	情報管理研究会『情報管理実務』産能大学出版部		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	レポート(40%)、受講・発表など授業での取り組み(60%)で評価する。		
到達目標	経営情報システム及び企業経営における情報の適切な利活用と管理について説明できる。		
授業時間外学習	経営学及び経営情報の基本部分はキッチリおさえていて欲しい。 ビジネス・キャリア試験レベルまでの事前学習をすすめて欲しい。 各回の授業内容に該当する教科書や配付資料のページを事前に読んで、専門用語の確認などを含めて事前学習をしておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。 1. MS-Office の操作を練習しておく 2. アイデアプロセッサの配付資料を確認し、練習しておく 3. アイデアプロセッサの配付資料を確認し、練習しておく 4. アイデアプロセッサの配付資料を確認し、練習しておく 5. アイデアプロセッサの配付資料を確認し、練習しておく 6. 教科書 pp70-pp73 7. 教科書 pp74-pp78 8. 教科書 pp79-pp88 9. 教科書 pp90-pp94 10. 教科書 pp95-pp109 11. 教科書 pp110-pp112 12. 教科書 pp114-pp122 13. 教科書 pp123-pp132 14. 教科書 pp134-pp137 15. 教科書 pp70-pp137		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。

授業スケジュール

授業は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1．受講ガイダンス
2. アイデアプロセシング演習基礎 1
3. アイデアプロセシング演習基礎 2

4. アイデアプロセシング演習応用 1
5. アイデアプロセシング演習応用 2
6. 情報システムの種類
7. IT ソリューションの調達方法
8. IT ソリューションの活用
9. システム化計画の立案
10. システム要求の分析と要件定義
11. システム開発におけるその他の業務
12. システムの運用
13. 情報セキュリティ
14. 情報システム導入の失敗の原因
15. システム面からの課題と展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J73110A01
科目名	【院】情報処理研究 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Processing A		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
授業概要	AI が急速に発展して来ました。特に企業の持つ AI システムが一般に開放され、ビジネスの分野においても AI システムが活用されるようになって来ました。このような変化はデジタルトランスフォーメーション（デジタルへの変革）と呼ばれています。 この授業は、デジタルへの変革に対応できる能力を養うため、クラウドや AI の技術を理解し、ビジネスにおける AI の利用方法を修得することを目的としている。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示、配布する。		
教育方法	配布資料を用いてゼミ形式で行う。資料に基づいて、調査した内容を報告する。また、パソコン（各自のノート PC）を用いて調査した内容や AI システムに関する実習を行う。		
評価方法	報告等による平常点(50%)。レポート(50%)		
到達目標	１．ビジネスにおける AI の利用方法を理解している。 ２．AI システムを利用するための処理技法を理解している。		
授業時間外学習	授業内容に関する項目を調査し、まとめる。まとめた内容は、それぞれの回で報告する。 第１回　AI、ディープラーニング 第２回　リアル店舗経営とコグニティブ 第３回　コールセンターとコグニティブ 第４回　MS、Cognitive Service 第５回　Cognitive Service 、API 第６回　Face API 第７回　プログラム１を編集し、内容を確認する 第８回　プログラム２を編集し、内容を確認する 第９回　Speech API 第 10 回　プログラム３を編集し、内容を確認する 第 11 回　プログラム４を編集し、内容を確認する 第 12 回　まとめレポート：全体構想をまとめる 第 13 回　各部の内容をまとめる 第 14 回　追加・修正箇所をまとめる 第 15 回　追加・修正箇所をまとめる		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業内でプログラムの作成、レポートの作成を行うので、ノートパソコンを持参すること。			
授業スケジュール			
1　イントロダクション 2　事例研究(１) 3　事例研究(２) 4　AI システム(１)　利用登録 5　AI システム(２)　API 6　AI システム(３)　画像認識 7　AI システム(４)　画像認識 8　AI システム(５)　画像認識 9　AI システム(６)　音声認識 10　AI システム(７)　音声認識 11　AI システム(８)　応用方法			

12　レポートの作成(１)　全体構想
13　レポートの作成(２)　各部の作成
14　レポートの作成(３)　添削
15　レポートの作成(４)　添削

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J73110B01
科目名	【院】情報処理研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Processing B		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
授業概要	現在ビットコインに代表されるような仮想通貨が注目されている。この仮想通貨の取引に利用されている技術がブロックチェーン（分散型台帳技術）である。ブロックチェーンの技術は、信頼性と安全性が高く、様々なビジネスに応用されるようになって来た。そして、さらなる利用拡大が期待される。 この授業は、今後のブロックチェーン利用に対応できるように、ブロックチェーン技術を理解し、ブロックチェーンを実際に運用する技術を修得することを目的としている。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示、配布する。		
教育方法	配布資料を用いてゼミ形式で行う。資料に基づいて、調査した内容を報告する。また、パソコン（各自のノート PC）を用いて調査した内容やブロックチェーンに関する実習を行う。		
評価方法	報告等による平常点(50%)。レポート(50%)		
到達目標	１．ブロックチェーン技術を理解している。 ２．ブロックチェーンの運用方法を理解している。		
授業時間外学習	授業内容に関する項目を調査し、まとめる。まとめた内容は、それぞれの回で報告する。 第１回　仮想通貨とブロックチェーン 第２回　仮想通貨の種類とブロックチェーン 第３回　仮想通貨以外の利用例 第４回　Go Ethereum について 第５回　Go Ethereum の利用 第６回　ノード、監視機能 第７回　コントラクト、トークン 第８回　PoW(Proof of Work)、ハッシュ値 第９回　ハッシュ値の生成 第 10 回　ハッシュ値の確認 第 11 回　ブロックチェーン、ビジネスへの利用 第 12 回　まとめレポート：全体構想をまとめる 第 13 回　各部の内容をまとめる 第 14 回　追加・修正箇所をまとめる 第 15 回　追加・修正箇所をまとめる		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業内でプログラムの作成、レポートの作成を行うので、ノートパソコンを持参すること。			
授業スケジュール			
1　イントロダクション 2　事例研究(１) 3　事例研究(２) 4　ブロックチェーン(１)　利用準備 5　ブロックチェーン(２)　利用開始と確認 6　ブロックチェーン(３)　監視機能 7　ブロックチェーン(４)　コントラクト 8　ブロックチェーン(５)　ハッシュ値 9　ブロックチェーン(６)　PoW１ 10　ブロックチェーン(７)　PoW２ 11　ブロックチェーン(８)　応用方法			

12　レポートの作成(１)　全体構想
13　レポートの作成(２)　各部の作成
14　レポートの作成(３)　添削
15　レポートの作成(４)　添削

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J73115A02
科目名	【院】人的資源管理論研究 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management A		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	本講義では、人的資源管理論における基本知識を整理（・復習）するとともに、人的資源管理に関する最新研究を学習する。 人的資源管理論は多種多様な学問領域に支えられて成り立っている学問であるため、受講者の学問的背景や学術的興味は多岐にわたることも考えられる。個別トピックに関しては受講者個々人の要望に応える形で進めていきたい。そのため、講義の順序やポイントに関しては若干の変更もありうる。 なお、人材の採用、人材育成、報酬管理や業績管理などの人的資源管理論の要諦をなすトピックについては必須学習項目とした上で人的資源管理論に関する基礎知識の習得を行う。また、受講者の興味関心によっては、人的資源管理における男女格差（昇進格差など）やワーク・ライフ・バランスなどの今日的なトピックも取り上げる。		
教材（教科書）	佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣アルマ、2007 年		
教材（参考資料）	Peter Boxall, John Purcell and Patrick M. Wright （Eds), The Oxford Handbook of Human Resource Management, Oxford University Press; USA, 2008 年 スティーブン・ロビンス著（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント―入門から実践へ』ダイヤモンド社、2009 年		
教育方法	講義と討議（ディスカッション）をメインに授業を進める。		
評価方法	講義への積極的参加（50%）、小課題の評価（20%）、発表及びレポート評価（30%）		
到達目標	人的資源管理に関する知識を整理するとともに、人的資源管理論における主要理論や論点について理解し、それらの知識を駆使して議論を展開できる。 事例分析やデータ読み取りに関する知識・スキルを身に着けて、人的資源管理の最新事象の説明ができる。		
授業時間外学習	Word 及び PowerPoint の基礎的な使用方法を習得しておくこと。 英文資料を扱うことがある。その際はきちんと予習を行うこと。 統計的分析を行った学術論文を扱うこともありうるので、それらに関する知識を持っていることが望ましい（ただし、受講開始時に必須というわけではない）。 第１２回目以降は学術論文を読み、それらの内容について報告してもらうので、しっかりと準備すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的な姿勢で講義に取り組んでもらいたい（様々なトピックに関する議論を行いたいと考えている）。
質問などが生じた場合、そのまま放置せずに、講義中や講義直後に解決を試みてほしい。
授業中の私語は厳禁とする。私語によって他者に迷惑をかける場合は、退出を求める。

授業スケジュール

1. オリエンテーション、イントロダクション（人的資源管理論の基本）
2. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理①：人的資源管理の概要①
3. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理②：人的資源管理の概要②
4. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理③：採用①
5. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理④：採用②
6. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理⑤：配置・人材育成①
7. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理⑥：配置・人材育成②
8. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理⑦：報酬管理①
9. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理⑧：報酬管理②
10. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理⑨：業績管理①
11. 人的資源管理論に関する基礎知識の整理⑩：業績管理②
12. 個別トピックに関する議論①：論文内容に関する報告①、ディスカッション
13. 個別トピックに関する議論②：論文内容に関する報告②、ディスカッション
14. 個別トピックに関する議論③：論文内容に関する報告③、ディスカッション

15. 個別トピックに関する議論④：論文内容に関する報告④、ディスカッション
※受講者の関心・要望を取り入れて、適宜、学習内容・順序を変更することもありうる。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J73115B02
科目名	【院】人的資源管理論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management B		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	本講義では人的資源管理に関する最新の知見を学習することを主眼に置く。人的資源管理を考える上で必須となる学術的業績（論文のみならず報告書なども含む）を読み解き、人的資源管理の（過去・）現在及び未来を考え議論する場として本講義を機能させることを念頭に置き、講義を進める。 人的資源管理論は多種多様な学問領域に支えられて成り立っている学問であるため、受講者の学問的背景や学術的興味は多岐にわたることも考えられる。そのため、個別トピックに関しては受講者個々人の要望に応える形で進めていきたい。また、人的資源管理論において重要なトピックとなる労働者の心理的側面にも焦点をあて、組織行動論に関するトピック（モチベーションやコミットメントなど）についても取り上げる。		
教材（教科書）	特になし。適宜指示します。		
教材（参考資料）	Peter Boxall, John Purcell and Patrick M. Wright （Eds), The Oxford Handbook of Human Resource Management, Oxford University Press; USA, 2008 年 スティーブン・ロビンス著（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント―入門から実践へ』ダイヤモンド社、2009 年		
教育方法	学生の発表をメインとしつつ、必要に応じて講義形式を取る。		
評価方法	講義への積極的参加（50%）、小課題の評価（20%）、発表及びレポート評価（30%）		
到達目標	人的資源管理論における主要理論や論点についての理解をさらに深めて、それらを駆使して議論を展開できる。 事例分析やデータ読み取りに関する知識・スキルを身に着けて、事象について論理的な説明ができる。		
授業時間外学習	Word 及び PowerPoint の基礎的な使用方法を習得しておくこと。 英文資料を扱うことがある。その際はきちんと予習を行うこと。 統計的分析を行った学術論文を扱うこともありうるので、それらに関する知識を持っていることが望ましい（ただし、受講開始時に必須というわけではない）。 第 9 回目以降は学術論文を読み、それらの内容について報告してもらうので、しっかりと準備すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的な姿勢で講義に取り組んでもらいたい（様々なトピックに関する議論を行いたいと考えている）。
質問などが生じた場合、そのまま放置せずに、講義中や講義直後に解決を試みてほしい。
授業中の私語は厳禁とする。私語によって他者に迷惑をかける場合は、退出を求める。
人的資源管理論研究 A、B は連続して受講することを前提として進めるため、連続して受講することを望む。

授業スケジュール

1. オリエンテーション、イントロダクション（組織行動論の基本）
2. 人的資源管理論及び組織行動論に関する基礎知識の整理①：モチベーション①
3. 人的資源管理論及び組織行動論に関する基礎知識の整理②：モチベーション②
4. 人的資源管理論及び組織行動論に関する基礎知識の整理③：モチベーション③
5. 人的資源管理論及び組織行動論に関する基礎知識の整理④：コミットメント①
6. 人的資源管理論及び組織行動論に関する基礎知識の整理⑤：コミットメント②
7. 人的資源管理論及び組織行動論に関する近年における議論①：ワーク・エンゲージメント
8. 人的資源管理論及び組織行動論に関する近年における議論②：働き方改革と人的資源管理
9. 個別トピックに関する議論①：論文内容に関する報告①、ディスカッション
10. 個別トピックに関する議論②：論文内容に関する報告②、ディスカッション
11. 個別トピックに関する議論③：論文内容に関する報告③、ディスカッション
12. 個別トピックに関する議論④：論文内容に関する報告④、ディスカッション
13. 個別トピックに関する議論⑤：論文内容に関する報告⑤、ディスカッション
14. 個別トピックに関する議論⑥：論文内容に関する報告⑥、ディスカッション

15. 個別トピックに関する議論⑦：論文内容に関する報告⑦、ディスカッション
※受講者の関心・要望を取り入れて、適宜、学習内容・順序を変更することもありうる。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J73129A01
科目名	【院】中小企業経営論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Small Business Management A		
担当者名	谷村　真理	旧科目名称	
授業概要	戦後日本の中小企業は、高度成長、バブル期を経て、現在失われた 20 年と揶揄される時代を迎えているが、中小企業はその独自性を活かし、自助努力により活力を持って日本経済を支えている存在である。歴史的にみても、事業所数ベースで約 99％の割合を占める中小企業が、日本経済の発展成長に果たした役割は多大なものがあるといえる。 このため本講義では、中小企業経営論の研究に当たり、戦後の中小企業の歩みについてその実態の理解を進めるとともに、国の中小企業政策面からの考察も行い、中小企業経営に国の政策面から何が求められ、それに対して、中小企業がどのように対応したか、そして現状における課題およびそれをどのように解決していくのかについて、考察を行う。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	必要に応じて紹介する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布する。 また、適宜事例を紹介し、ディスカッションを行う。		
評価方法	取組姿勢 50％、レポート 50％		
到達目標	日本における中小企業の戦後の軌跡、現状と課題を、中小企業論の観点を踏まえ研究することを通してそれらを的確に説明することができる。 実際の中小企業経営に資する能力を身に着けるとともに、起業はもとより、あらゆる組織の一員としても活用できる知識及びスキルを習得することができる。		
授業時間外学習	日常から中小企業に対する興味を持つとともに現状や動向についての情報収集に努める。 一般出版物やネット情報ののみならず、公的機関等が発行する中小企業関連冊子の取得にも注力されたい。 次回までにしておくことを、毎回の終了時に指摘する（推定授業時間外学習 30 分以上）。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

双方向の講義となるため、中小企業への関心を持ち、主体的に参加されたい。

授業スケジュール

１．はじめに（本講義の概要）
２．戦後中小企業の軌跡①　～戦後復興期
３．戦後中小企業の軌跡②　～高度成長期
４．戦後中小企業の軌跡③　～バブル期から現在
５．中小企業基本法と中小企業経営①　～改正前基本法
６．中小企業基本法と中小企業経営②　～改正後基本法
７．中小企業基本法と中小企業経営③　～近年の関連法改正
８．中小企業白書にみる中小企業経営の現状と課題①
９．中小企業白書にみる中小企業経営の現状と課題②
１０．中小企業白書にみる中小企業経営の現状と課題③
１１．中小企業政策と中小企業経営①
１２．中小企業政策と中小企業経営②
１３．中小企業政策と中小企業経営③
１４．これからの中小企業経営①
１５．これからの中小企業経営②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J73129B01
科目名	【院】中小企業経営論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Small Business Management B		
担当者名	谷村　真理	旧科目名称	
授業概要	中小企業経営は、中小がゆえの特色と独自性をもって行われてきた。しかしながら総じてその経営は、大企業経営と比較して、生産性が低い、賃金が低い、設備が前近代的である、家計と企業が未分離で経営実体が把握できない、など様々な問題を抱えてきた。さらにライフサイクル面からの考察を加えれば、スタートアップ期、発展成長期、安定期、事業承継期、衰退期それぞれのステージにおいて求められるマネジメントの手法は、おのずと差異が生じる。 以上から、中小企業の特色を踏まえ、各ステージにおける中小企業経営のあり方について、考察を進めたい。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	必要に応じて紹介する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布する。 また、適宜事例を紹介し、ディスカッションを行う。		
評価方法	取組姿勢 50%、レポート 50%		
到達目標	中小企業のステージごとの様々な経営のあり方を研究することを通してそれらを的確に説明することができる。 実際の中小企業経営に資する能力を身に着けるとともに、起業はもとより、あらゆる組織の一員としても活用できる知識及びスキルを習得することができる。		
授業時間外学習	日常から中小企業に対する興味を持つとともに現状や動向についての情報収集に努める。 一般出版物やネット情報ののみならず､公的機関等が発行する中小企業関連冊子の取得にも注力されたい。 次回までにしておくことを、毎回の終了時に指摘する（推定授業時間外学習 30 分以上)。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
双方向の講義となるため、中小企業への関心を持ち、主体的に参加されたい。			
授業スケジュール			
１．はじめに（本講義の概要） ２．中小企業経営の特性 ３．スタートアップ（起業）時における中小企業経営①　～ビジネスチャンスの発見 ４．スタートアップ（起業）時における中小企業経営②　～経営資源の調達 ５．スタートアップ（起業）時における中小企業経営③　～ビジネスモデルの構築 ６．発展・成長期における中小企業経営①　～内部統制 ７．発展・成長期における中小企業経営②　～生産性向上 ８．発展・成長期における中小企業経営③　～事業連携 ９．安定期における中小企業経営①　～CSR（企業の社会的責任） １０．安定期における中小企業経営②　～知的資産経営 １１．安定期における中小企業経営③　～海外展開 １２．安定期における中小企業経営④　～経営革新 １３．事業承継期における中小企業経営 １４．衰退期における中小企業経営 １５．中小企業経営の将来展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J73141A02
科目名	【院】経営管理論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Management Research A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	組織の存続と崩壊の要因は何であろうか。その一つの要因は経営管理であり、その善し悪しである。本講義は、理論・学説および実例を通して企業はいかなる課題に直面し、それをどのように解決しようとしているのかに接近する。経営課題ならびにその解決へのアプローチは極めて多様だが、それゆえに、本授業を通して、受講者が経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的そして多面的に捉え、経営の仕組みを経営諸資源と関連付けて説明できるように指導していきたい。		
教材（教科書）	適時、指示する。		
教材（参考資料）	角野信夫 『アメリカ経営組織論〔増補版〕』文眞堂,1998 年。 Stuart Crainer, 『The Management Century: A Critical Review of 20th Century Thought and Practice』, Jossey-Bass, 2000.（嶋口充輝,編・監訳, 岸本義之,黒岩　健一郎,訳『マネジメントの世紀 :1901～2000』東洋経済新報社,2000 年。） 藤澤武史, 伊田昌弘,編著『新多国籍企業経営管理論』文眞堂,2015 年。 上野恭裕, 馬場大治,編著『経営管理論』中央経済社,2016 年。 秋山 義継『新経営管理論』創成社,2017 年。		
教育方法	講義法と学生による発表を中心にして進める。		
評価方法	発表内容・取組姿勢　100％		
到達目標	次の修得を目指す。 ＊受講者は、企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて説明することができる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊受講者は多面的な視点で事象を分析することができる。		
授業時間外学習	毎回、授業の終わり際に、次回までにどこまでを読み、どのようにまとめるべきかを指示する。　（各回の推定授業時間外学習は 60 分以上。） 第 1 回目　配布資料「企業の形態と株式会社」を読み、重要な点をまとめる。 第 2 回目　配布資料「財務諸表の見方」を読み、重要な点をまとめる。 第 3 回目　配布資料「コーポレート・ガバナンス」を読み、重要な点をまとめる。 第 4 回目　配布資料「各国のコーポレート・ガバナンス」を読み、重要な点をまとめる。 第 5 回目　配布資料「アライアンス、持ち株会社について」を読み、重要な点をまとめる。 第 6 回目　配布資料「組織の形態」を読み、重要な点をまとめる。 第 7 回目　配布資料「日本企業における人事管理」を読み、重要な点をまとめる。 第 8 回目　配布資料「労使関係、労働基準法」を読み、重要な点をまとめる。 第 9 回目　配布資料「日本の社会保障制度」を読み、重要な点をまとめる。 第 10 回目　配布資料「多角化戦略」を読み、重要な点をまとめる。 第 11 回目　配布資料「集中と選択」を読み、重要な点をまとめる。 第 12 回目　配布資料「マーケティング」を読み、重要な点をまとめる。 第 13 回目　配布資料「流通と物流」を読み、重要な点をまとめる。 第 14 回目　配布資料「ＩＣＴの影響」を読み、重要な点をまとめる。 第 15 回目　修士論文のテーマと研究計画書を書く。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊遅刻・無断欠席を厳禁とする。			
授業スケジュール			
1. 企業の形態と株式会社とは。上場と非上場について。 2. 大企業と中小企業の相違。他国籍企業とは。 3. 財務諸表の見方。金融機関の役割について。			

4.　株主総会、取締役会、監査役会の法律上の関係・・・日本企業における特徴を中心にして・・・。
5. コーポレート・ガバナンス・・・アメリカにおける特徴、ドイツにおける特徴を中心にして・・・。
6. アライアンス。M&A。持ち株会社について。
7. 組織と個人、ライン組織、ライン・アンド・スタッフ組織、事業部制組織、マトリックス組織、クラウドソーシング、動態的組織、等。
8. 人事管理、昇給、昇格、昇進、採用、配置、考課、等について・・・日本企業における特徴を中心にして・・・。
9. 労使関係。労働組合。労働基準法。
10.失業。離職。日本の社会保障制度。
11.多角化戦略。プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント。GE グリッド。
12.集中と選択。アウトソーシングと人材派遣、等。
13.マーケティングの概念。マーケティングミックス。市場調査。広告効果について、等。
14.流通、物流の仕組みについて。
15.ＩＣＴの影響： TQM、BPR、EC、Pos システム、CIM、SCM、中抜き現象？について、等。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J73141B02
科目名	【院】経営管理論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Management Research B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	組織の存続と崩壊の要因は何であろうか。その一つの要因は経営管理であり、その善し悪しである。本講義は、理論・学説および実例を通して企業はいかなる課題に直面し、それをどのように解決しようとしているのかに接近する。経営課題ならびにその解決へのアプローチは極めて多様だが、それゆえに、本授業を通して、受講者が経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的そして多面的に捉え、経営の仕組みを経営諸資源と関連付けて説明できるように指導していきたい。		
教材（教科書）	適時、指示する。		
教材（参考資料）	角野信夫 『アメリカ経営組織論〔増補版〕』文眞堂,1998 年。 Stuart Crainer, 『The Management Century: A Critical Review of 20th Century Thought and Practice』, Jossey-Bass, 2000.（嶋口充輝,編・監訳, 岸本義之,黒岩　健一郎,訳『マネジメントの世紀 :1901～2000』東洋経済新報社,2000 年。） 藤澤武史, 伊田昌弘,編著『新多国籍企業経営管理論』文眞堂,2015 年。 上野恭裕, 馬場大治,編著『経営管理論』中央経済社,2016 年。 秋山 義継『新経営管理論』創成社,2017 年。		
教育方法	講義法と学生による発表を中心にして進める。		
評価方法	発表内容・取組姿勢　100％		
到達目標	次の修得を目指す。 ＊受講者は、企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて説明することができる。 ＊経営理論に基づき現実の企業の活動を論理的に捉えることができる。 ＊受講者は多面的な視点で事象を分析することができる。		
授業時間外学習	毎回、授業の終わり際に、次回までにどこまでを読み、どのようにまとめるべきかを指示する。　（各回の推定授業時間外学習は 60 分以上。） 第 1 回目　配布資料「内部請負制とその崩壊理由」を読み、重要な点をまとめる。 第 2 回目　配布資料「伝統的管理論」を読み、重要な点をまとめる。 第 3 回目　配布資料「ホーソン実験」を読み、重要な点をまとめる。 第 4 回目　配布資料「人間関係論」を読み、重要な点をまとめる。 第 5 回目　配布資料「近代管理論」を読み、重要な点をまとめる。 第 6 回目　配布資料「意思決定とは」を読み、重要な点をまとめる。 第 7 回目　配布資料「ドイツ経営経済学」を読み、重要な点をまとめる。 第 8 回目　配布資料「行動科学」を読み、重要な点をまとめる。 第 9 回目　配布資料「過程説のモチベーション理論」を読み、重要な点をまとめる。 第 10 回目　配布資料「コンティンジェンシーとコンフィギュレーション」を読み、重要な点をまとめる。 第 11 回目　配布資料「日本的経営の日本的の意味」を各自調べ、まとめる。 第 12 回目　配布資料「金融資本主義」を読み、重要な点をまとめる。 第 13 回目　配布資料「戦略の定義」を読み、重要な点をまとめる。 第 14 回目　配布資料「資源ベースの戦略論」を読み、重要な点をまとめる。 第 15 回目　修士論文の進捗を書く。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊遅刻・無断欠席を厳禁とする。			
授業スケジュール			
1.内部請負制とその崩壊理由、分業、等。 2.体系的管理運動、伝統的管理論、管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。 （以上、テイラー、フォード、ファヨール、クーンツ、労働組合、等を中心にして）			

3.人間関係論、ホーソン実験、非公式組織、アノミー、等。
4.非公式組織、アノミー、等。
（以上、メイヨー、レスリスバーガー、等を中心にして）
5.近代管理論、協働システム、誘因一貢献理論、システム論、意思決定、認知的限界、満足化原理、等。
6.意思決定、認知的限界、満足化原理、等。
（以上、バーナード、サイモン、マーチ、サイアート、オルセン、等を中心にして）
7.ドイツ経営経済学、方法論争、私経済学、規範的経営経済学、技術論的経営経済学、経営共同決定法、意思決定、等。
（以上、ワイヤーマン、シェーニッツ、ブレンターノ、シュマーレンバッハ、グーデンベルグ、ニックリッシュ、フィッシャー、等を中心にして）
8.行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、職務充実、X・Y 理論、2 要因理論、目標による管理、職務再設計、期待理論、等。
9.職務再設計、期待理論、等。
（以上、マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等を中心にして）
10.条件適合理論、オープン・システム、等。
11.条件適合理論の限界、不確実性、等。
（以上、ウッドワード、バーンズ、ストーカー、ローレンス、ローシュ、ガルブレイス、等を中心にして）
12.日本的経営の日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、護送船団方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊、等。
13.ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、モジュール生産、等。
（以上については、日本的経営の日本的の意味についての受講者による報告をベースに授業を行なう）
14.戦略論、戦略の定義、ポジショニングの戦略論、等。
15.資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。
（以上、チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ、BCG、ポーター、ハメル、プラハラード、等を中心にして）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J73146A01
科目名	【院】財務諸表論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statements Research A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究 A では、従来の日本の会計制度の根底にある理論と、国際会計基準の理論的な背景を対比しつつ、財務会計の総論的な問題を取り扱う。財務諸表論研究 B では、個別の会計処理において問題となる理論的背景を比較しつつ、日本の会計基準と国際会計基準の相違について考察する。		
教材（教科書）	受講生と相談の上決定する		
教材（参考資料）	必要に応じて随時指示する		
教育方法	その回担当の学生が準備してきたレジュメに従って報告と討論を行います。		
評価方法	日常の受講姿勢(40%)およびレポート(60%)		
到達目標	税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。		
授業時間外学習	報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくること。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。			
授業スケジュール			
1. ガイダンス：講義の目的と視点 2. 企業経営における会計の基本的な機能 3. 会計の本質と概念フレームワーク 4. 日本の会計制度 5. 会計の国際化とコンバージェンス 6. 財務会計のシステムと複式簿記 7. 会計公準と会計原則 8. 一般原則 9. 損益計算書原則 10. 貸借対照表原則 11. 貸借対照表の様式と見方 12. 損益計算書の様式と見方 13. キャッシュ･フロー計算書の様式と見方 14. その他のディスクロージャー 15. 総括と残された課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J73146B01
科目名	【院】財務諸表論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statements Research B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究 A では、従来の日本の会計制度の根底にある理論と、国際会計基準の理論的な背景を対比しつつ、財務会計の総論的な問題を取り扱う。財務諸表論研究 B では、個別の会計処理において問題となる理論的背景を比較しつつ、日本の会計基準と国際会計基準の相違について考察する。		
教材（教科書）	受講生と相談の上決定する		
教材（参考資料）	必要に応じて随時指示する		
教育方法	担当の学生が用意してきたレジュメに従って報告と討論を行います。		
評価方法	講義への参加および報告などの平常点 50%、最終レポート 50%		
到達目標	税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。		
授業時間外学習	報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくること。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。			
授業スケジュール			
1. 資産の会計 1：金融商品 2. 資産の会計 2：棚卸商品 3. 資産の会計 3：有形固定資産 4. 資産の会計 4：無形固定資産 5. 資産の会計 5：減損 6. 負債の会計 1：引当金 7. 負債の会計 2：退職給付 8. 負債の会計 3：資産除去債務 9. 純資産の会計 10. 収益の認識と測定 11. 費用の認識と測定 12. 企業集団と連結会計 13. 企業結合の会計 14. 税効果会計 15. 総括：改めて会計とは何か			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J73146C01
科目名	【院】財務諸表論研究Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statements Research C		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究Ｃでは、国際会計基準の概念フレームワークを中心に扱いながら、会計基準の根底にある理論的な基礎を学んで行く。		
教材（教科書）	受講生と相談の上決定する		
教材（参考資料）	齊藤静樹『詳解　討議資料・財務会計の概念フレームワーク』中央経済社		
教育方法	担当の学生が準備してきたレジュメに従って報告と討論を行います。		
評価方法	日常の受講姿勢(40%)およびレポート(60%)		
到達目標	税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。		
授業時間外学習	報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくること。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。			
授業スケジュール			
1. ガイダンス：講義の目的と視点 2. 会計と環境 3. 国際会計基準設定の経緯 4. 国際会計基準と日本基準 5. 会計基準の国際的調和の動向 6. 会計の本質と概念フレームワーク 7. 概念フレームワークの役割 8. 財務報告の目的 9. 会計情報の質的特性(1) 10. 会計情報の質的特性(2) 11. 財務諸表の構成要素(1) 12. 財務諸表の構成要素(2) 13. 財務報告の表示プロジェクト 14. 国際会計基準をめぐる最新の動向 15. 総括と残された課題			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J73146D01
科目名	【院】財務諸表論研究Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statements Research D		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	財務諸表論は、企業が投資家等の利害関係者に対する報告書として作成する貸借対照表・損益計算書などの財務諸表の根底にある理論と、具体的な作成方法・手続を学ぶ学問である。 周知のとおり、現在日本の会計は、国際会計基準とのコンバージェンスという大きな課題に直面しており、従来の会計基準、会計規則、会計処理は大きく変貌しようとしている過渡期にある。財務諸表論研究Ｄでは、個別の会計処理を規定する会計基準を順次検討し、コンバージェンスを進める際の課題となる日本の会計基準と国際会計基準の差異についても考察する。		
教材（教科書）	受講生と相談の上決定する		
教材（参考資料）	必要に応じて随時指示する		
教育方法	担当の学生が準備してきたレジュメに従って報告と討論を行います。		
評価方法	講義への参加および報告などの平常点 50%、最終レポート 50%		
到達目標	税理士試験の「財務諸表論」で出題される問題に対応できるレベルの実力を身につける。 財務会計の機能、意義、必要性について説明できる。 国際会計基準の日本への導入が持つ意義と課題について説明できる。		
授業時間外学習	報告者だけでなく他の受講生も教科書の指定ページを熟読してくること。 講義で取り上げられる予定のテーマに関するニュース記事等を検索してくること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
報告者だけでなく、他の出席者も報告内容についてきちんと予習し、積極的に議論に参加すること。 やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡すること。			
授業スケジュール			
1. 資産の会計 1：金融商品(1) 2. 資産の会計 2：金融商品(2) 3. 資産の会計 3：棚卸商品 4. 資産の会計 4：有形固定資産(1) 5. 資産の会計 5：有形固定資産(2) 6. 資産の会計 6：無形資産 7. 資産の会計 7：リース 8. 負債の会計 1：退職給付 9. 負債の会計 2：資産除去債務 10. 負債の会計 3：引当金 11. 収益 12. ストック・オプション 13. 企業結合の会計(1) 14. 企業結合の会計(2) 15. 総括：コンバージェンスをめぐる諸問題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J73148A01
科目名	【院】経営管理論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Management Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	修士論文の完成に向けて指導を行う。毎週、進捗状況の確認が行われる。　修士論文の作成を通して、受講者は人や組織が直面する問題を発見することができ、解決策を提案できる。		
教材（教科書）	適時、指示する。		
教材（参考資料）	適時、指示する。		
教育方法	受講者が修士論文の進捗を発表する形で行なわれる。		
評価方法	毎週の発表：修士論文の内容と進捗　100％		
到達目標	＊受講者は、社会の一員として、現実の問題に対して解決策を提案でき、社会改善力を有することができる。 ＊受講者は、企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について説明できる。		
授業時間外学習	修士論文作成に必要な文献の読解は当然ながら、下記も行う（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで数十時間以上に及ぶ)。 第 1 回目…配布資料）修士論文の書き方について、盗作・剽窃の厳禁、を読む。 第 2 回目…配布資料）データ収集と分析の仕方を読む。 第 3 回目…修士論文のテーマを決定し、そのあらすじ・概要を書く。 第 4 回目…修士論文のテーマ・概要を修正する。 第 5 回目…修士論文のテーマ・概要を再修正する。 第 6 回目…修士論文の作成に必要な資料・文献・データを明記する。 第 7 回目…教員から指示された文献の収集を行なう。図書館に無い文献を教員に伝達する。脚注機能を習得する。 第 8 回目…章立て・論文構成の素案を書く。 第 9 回目…章立て・論文構成の素案を修正する。 第 10 回目…章立て・論文構成の素案を再修正する。 第 11 回目…構成・章立てに沿って各章の概要を書く。 第 12 回目…構成・章立てに沿って各章の概要を修正する。 第 13 回目…構成・章立てに沿って各章の概要を再修正する。 第 14 回目…先行研究の整理を行なう。 第 15 回目…夏期休校中にすべきことを作成する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＊遅刻・無断欠席を厳禁とする。

授業スケジュール

1. 修士論文完成までのスケジュールについて(教員からの指導）。
2. 修士論文の書き方について。盗作・剽窃の厳禁、についての指導。(教員からの指導)。
3. 修士論文のテーマ設定の仕方について。文献検索の仕方の再教習。(教員からの指導)
4. 院生による)修士論文のテーマ・概要報告。教員からの文献指示。
5. 院生による)修正された修士論文のテーマ・概要報告。
6. 院生による)読解中の文献の内容報告。先行研究の報告。
7. 院生による)修士論文の作成に必要な資料・文献・データの報告。教員からの追加指示。
8. 院生による)読解中の文献の内容報告。先行研究の報告。中間報告会について（教員からの説明)。
9. 院生による)修士論文の構成・章立て報告。先行研究の報告。
10. 院生による)修正された構成・章立て報告。先行研究の報告。
11. 院生による）先行研究の報告。
12. 院生による）先行研究の報告。

13. 院生による）各章の概要の報告。 14. 院生による）修正された各章の概要の報告。 15. 院生による)夏期休校中にすべきことの報告。教員からの追加指示。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J73148B01
科目名	【院】経営管理論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Management Seminar B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	修士論文の完成に向けて指導を行う。毎週、進捗状況の確認が行われる。　修士論文の作成を通して、受講者は人や組織が直面する問題を発見することができ、解決策を提案できる。		
教材（教科書）	適時、指示する。		
教材（参考資料）	適時、指示する。		
教育方法	受講者が修士論文の進捗を発表する形で行なわれる。		
評価方法	毎週の発表：修士論文の内容と進捗　100％		
到達目標	＊受講者は、社会の一員として、現実の問題に対して解決策を提案でき、社会改善力を有することができる。 ＊受講者は、企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について説明できる。		
授業時間外学習	修士論文作成に必要な文献の読解は当然ながら、下記も行う（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで数十時間以上に及ぶ)。 第 1 回目…先行研究の整理を行なう。修士論文の構成・章立ての吟味。 第 2 回目…修士論文の第 1 章を書く。 第 3 回目…修士論文の第 1 章を修正する。 第 4 回目…修士論文の第 1 章を再修正する。 第 5 回目…修士論文の第 1 章の注釈と参考文献を書く、または修正する。 第 6 回目…修士論文の構成・章立ての吟味。 第 7 回目…必要な資料・文献・データの再検討。 第 8 回目…中間報告会への参加。 第 9 回目…修士論文の第 2 章を書く。 第 10 回目…修士論文の第 2 章を修正する。 第 11 回目…修士論文の第 2 章を再修正する。 第 12 回目…修士論文の第 2 章の注釈と参考文献を書く、または修正する。 第 13 回目…修士論文の構成・章立ての吟味。各章の内容調整。 第 14 回目…第 1 章と第 2 章の内容調整。 第 15 回目…春期休校中にすべきことを作成する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊遅刻・無断欠席を厳禁とする。			
授業スケジュール			
1. 院生による)夏期休校中の進捗報告。修士論文の構成・章立てと各章の概要報告。 2. 院生による）先行研究の報告。 3. 院生による)修士論文の第 1 章の報告。 4. 院生による)修正された第 1 章の報告。 5. 院生による）再修正された第 1 章の報告。 6. 院生による)先行研究の報告。 7. 院生による)修士論文の作成に必要な資料・文献・データの報告。教員からの追加指示。 8. 院生による）修士論文の構成・章立てと各章の概要報告。 9. 院生による)先行研究の報告。 10. 院生による）修士論文の第 2 章の報告。 11. 院生による）修正された第 2 章の報告。 12. 院生による）再修正された第 2 章の報告。 13. 院生による）先行研究の報告。			

14. 院生による）先行研究の報告。 15. 院生による）春期休校中にすべきことの報告。教員からの追加指示。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J73151A01
科目名	【院】財務諸表論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Financial Statements A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	本演習は、A,B,C,D4 つの演習が 1 セットであり、2 年間かけて最終的に財務会計領域の中から、各自が特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。まず最初のセメスターでは、論文テーマの選択を見据えながら、会計の基礎的概念を理解することを中心に研究の基礎を固めていきたい。		
教材（教科書）	開講後、受講者と相談しながら決定する		
教材（参考資料）	斎藤静樹編著『詳解　討議資料　財務会計の概念フレームワーク』第 2 版　中央経済社		
教育方法	学生が準備してきたレジュメに従って報告と討論を行います。		
評価方法	講義への参加姿勢 40%、課題の報告内容 60%		
到達目標	(1) 概念フレームワークに基づいた会計の基礎概念を説明できること (2) 会計上の諸問題に対して適切な課題設定ができること (3) 論文の意義と書き方を理解すること		
授業時間外学習	ほぼ毎回次回への課題を用意するので報告レジュメにまとめてくること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
問題意識をもって課題に取り組み、受講すること			
授業スケジュール			
1.オリエンテーション 2.修士論文の方向性に関する指導(1) 3.修士論文の方向性に関する指導(2) 4.図書館を中心とする資料検索の方法に関する指導 5.会計上の諸概念の検討(1) 6.会計上の諸概念の検討(2) 7.会計上の諸概念の検討(3) 8.会計上の諸概念の検討(4) 9.会計基準を巡る諸問題の検討(1) 10.会計基準を巡る諸問題の検討(2) 11.会計基準を巡る諸問題の検討(3) 12.会計基準を巡る諸問題の検討(4) 13.会計基準を巡る諸問題の検討(5) 14.会計基準を巡る諸問題の検討(6) 15.演習 B に向けての課題設定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J73151B01
科目名	【院】財務諸表論演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Financial Statements B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	本演習は、A,B,C,D4 つの演習が 1 セットであり、2 年間かけて最終的に財務会計領域の中から、各自特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。演習 B では、テーマもしくは題材を決定し、先行研究をリファーしながら本人の方向性を決定していくことにする。このセメスターのうちに、ある程度論文のフローチャートが完成することが望ましい。		
教材（教科書）	開講後、受講生と相談しながら決定する。		
教材（参考資料）	斎藤静樹編著　『詳解　討議資料　財務会計の概念フレームワーク』第 2 版　中央経済社		
教育方法	学生が準備してきたレジュメに従って報告と討論を行います。		
評価方法	講義への参加姿勢 40%、課題の報告内容 60%		
到達目標	(1) 概念フレームワークに基づいた会計の基礎概念を説明できること (2) 会計上の諸問題に対して適切な課題設定ができること (3) 論文の意義と書き方を理解すること		
授業時間外学習	ほぼ毎回次回への課題を与えるので報告レジュメにまとめてくること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
問題意識を持って課題に取り組み受講すること			
授業スケジュール			
1.論題の設定に関する報告と指導(1) 2.論題の設定に関する報告と指導(2) 3.論題に関する論点整理(1) 4.論題に関する論点整理(2) 5.論文構成に関する報告と指導(1) 6.論文構成に関する報告と指導(2) 7.テーマに沿った基本文献の精読(1) 8.テーマに沿った基本文献の精読(2) 9.テーマに沿った基本文献の精読(3) 10.先行研究の調査と報告(1) 11.先行研究の調査と報告(2) 12.先行研究の調査と報告(3) 13.論文構成に関する報告と指導(3) 14.論文構成に関する報告と指導(4) 15.演習 C に向けての課題整理			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J73151C01
科目名	【院】財務諸表論演習 C	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Financial Statements C		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	本演習は、A,B,C,D4 つの演習が 1 セットであり、2 年間かけて最終的に財務会計領域の中から、各自特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。演習 C では、履修生各自が設定したテーマに基づいて、論文のフローチャートを完成し、論文の骨格づくりをめざす。		
教材（教科書）	開講後、受講生と相談しながら決定する。		
教材（参考資料）	各自のテーマに沿って指示する。		
教育方法	学生が準備してきたレジュメに従って報告と討論を行います。		
評価方法	講義への参加姿勢 40%、課題の報告内容 60%		
到達目標	(1) 概念フレームワークに基づいた会計の基礎概念を説明できること (2) 会計上の諸問題に対して適切な課題設定ができること (3) 論文の意義と書き方を理解すること		
授業時間外学習	ほぼ毎回次回への課題を与えるので報告レジュメにまとめてくること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
問題意識を持って課題に取り組み受講すること			
授業スケジュール			
1.論題の設定に関する報告と指導(1) 2.論題の設定に関する報告と指導(2) 3.論題に関する論点整理(1) 4.論題に関する論点整理(2) 5.論文構成に関する報告と指導(1) 6.論文構成に関する報告と指導(2) 7.テーマに沿った基本文献の精読(1) 8.テーマに沿った基本文献の精読(2) 9.テーマに沿った基本文献の精読(3) 10.先行研究の調査と報告(1) 11.先行研究の調査と報告(2) 12.先行研究の調査と報告(3) 13.論文構成に関する報告と指導(3) 14.論文構成に関する報告と指導(4) 15.演習 D に向けての課題整理			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J73151D01
科目名	【院】財務諸表論演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Financial Statements D		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	本演習は、A,B,C,D4 つの演習が 1 セットであり、2 年間かけて最終的に財務会計領域の中から、各自特定のテーマを選択し、修士論文にまとめることを目標としている。一つの課題に対して、基本文献や先行研究の精読、ケーススタディ等を通して研究論文としてふさわしい修士論文を完成することが要求される。演習 D は、1 月中旬に予定されている修士論文提出に向けての最終段階であり、自分で設定したテーマに対して論理的に解明し、結論づけることが求められる。10 月末に予定されている中間報告会での報告も義務付けられる。		
教材（教科書）	開講後、受講生と相談しながら決定する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生が準備してきたレジュメに従って報告と討論を行います。		
評価方法	修士論文中間報告 30%　最終提出論文 70%		
到達目標	自分自身で設定したテーマに対して、50000 字以上の修士論文にまとめること。 その論文の意義、解題のアプローチ、結論について説明できること。		
授業時間外学習	ほぼ毎回次回への課題を与えるので報告レジュメにまとめてくること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
問題意識を持って課題に取り組み受講すること			
授業スケジュール			
1.論文内容の報告と指導(1) 2.論文内容の報告と指導(2) 3.論文内容の報告と指導(3) 4.論文内容の報告と指導(4) 5.中間報告に向けての準備指導 6.中間報告の予行演習 7.中間報告における指摘内容の確認 8.論文内容の報告と指導(5) 9.論文内容の報告と指導(6) 10.論文内容の報告と指導(7) 11.論文内容の報告と指導(8) 12.論文内容の調査と報告(9) 13.提出論文の最終確認 14.口頭試問に向けての指導(1) 15.口頭試問に向けての指導(2)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J73157A01
科目名	【院】アジア情報研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Situation Analysis in Asia A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	インドを中心とする南アジア圏の歴史・宗教・文化を 学びつつ、今後様々な形で世界経済に大きな影響を与えるであろうこの地域の将来を総合的に展望する。 学生は、インドを中心とする南アジア圏の歴史・宗教・文化について理解し、概要を説明できるようになる。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	ホワイトボード、スライド、パワーポイントを用いて、各学生が主体となるグループワークによって学習する。		
評価方法	授業内小テスト（５０%）、レポート（５０%）		
到達目標	インドを中心とする南アジア圏の歴史と文化について学び、 現在の政治・経済の背景にある問題について理解し、学生がこれらの概要を説明できるようにする。		
授業時間外学習	英語の新聞やインターネット上の英語のページなどを通じて、日本以外の国々の情報も得るようにこころがけること。毎回授業終了時に次回の内容と次回までに予習・復習すべき点を指示する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

履修登録の前に、担当者（山下）に必ず相談に来ること。
受講者による自主的な報告やディスカッションを中心として授業を進めるので、 特に南アジア圏の文化や現状に関心のある受講者の参加を期待する。

授業スケジュール

１．授業ガイダンス
２．インドの歴史１
３．学生による報告・ディスカッション
４．インドの歴史２
５．学生による報告・ディスカッション
６．インドの文化１
７．学生による報告・ディスカッション
８．インドの文化２
９．学生による報告・ディスカッション
１０．インドの宗教１
１１．学生による報告・ディスカッション
１２．インドの宗教２
１３．学生による報告・ディスカッション
１４．南アジアと東アジアについて
１５．今後の学習の展望について
（なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J73157B01
科目名	【院】アジア情報研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Situation Analysis in Asia B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	インドを中心とする南アジア圏の歴史・宗教・文化を 学びつつ、今後様々な形で世界経済に大きな影響を与えるであろうこの地域の将来を総合的に展望し、学生が概説できるようにする。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	ホワイトボード、スライド、パワーポイントなどを活用しながら、各学生が主体となるグループワークによって学習する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０%）、レポート（５０%）。		
到達目標	インドを中心とする南アジア圏の歴史と文化について学び、 現在の政治・経済の背景にある問題について理解する。		
授業時間外学習	英語の新聞やインターネット上の英語のページなどを通じて、日本以外の国々の情報も得るようにこころがけること。　毎回授業終了時に次回の内容と次回までに予習・復習すべき点を指示する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
履修登録の前に、担当者（山下）に必ず相談に来ること。 受講者による自主的な報告やディスカッションを中心として授業を進めるので、 特に南アジア圏の文化や現状に関心のある受講者の参加を期待する。			
授業スケジュール			
１．授業ガイダンス ２．インドの政治１ ３．学生による報告・ディスカッション ４．インドの政治２ ５．学生による報告・ディスカッション ６．インドの経済１ ７．学生による報告・ディスカッション ８．インドの経済２ ９．学生による報告・ディスカッション １０．インドの企業１ １１．学生による報告・ディスカッション １２．インドの企業２ １３．学生による報告・ディスカッション １４．インドの将来について １５．今後の学習の展望について （なお場合によっては講義の順番や内容を一部変更することもある。）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J73158A01
科目名	【院】経営史研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management History A		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
授業概要	人間社会は変化して留まるところを知らないが、刻々と変化を遂げる表層の下に、容易に変化することのない基層を見いだすことが出来る。歴史学は、変化の様相を探索し、変化の動力を見い出し、変化の極点として現代を把え、変化の向こうの核に接近しようとする。経営史学は、技術や市場の変化のなかで、企業家がどのように事業機会を見出し、どのように組織・経営を革新したかを追求するもの、と言うことも出来よう。		
教材（教科書）	受講者と相談の上で決める。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義と演習を合わさった形式で進める。		
評価方法	毎回の報告・レジュメ（100%）		
到達目標	経営史の研究状況を把握し、長期的・歴史的観点からの分析手法を理解する。		
授業時間外学習	輪読形式であるので、全員テキストの次回部分に目を通し、報告者はレジメを作成する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

経営史的研究を通じて、各自の研究にどう生かせるかを考えること。

授業スケジュール

Ⅰ
1.日本経営史の課題、
2.江戸時代の経済発展、
3.江戸時代の商家経営、
4.江戸期商家の経営システム、
5.商家の経営管理システム
Ⅱ
6.明治前・中期の日本経済、
7.近代的経営組織の形成、
8.近代的経営管理の形成、
9.明治国家と企業
Ⅱ
10.日露戦後から昭和初年に至る日本経済、
11.大企業時代の到来、
12.新興産業の勃興と産業開拓活動、
13.企業活動の国際化、
14.経営管理の進展、
15.現代的課題と展望
＊受講者の顔触れにより、講義の順序や重点を変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J73158B01
科目名	【院】経営史研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management History B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
授業概要	人間社会は変化して留まるところを知らないが、刻々と変化を遂げる表層の下に、容易に変化することのない基層を見いだすことが出来る。歴史学は、変化の様相を探索し、変化の動力を見い出し、変化の極点として現代を把え、変化の向こうの核に接近しようとする。経営史学は、技術や市場の変化のなかで、企業家がどのように事業機会を見出し、どのように組織・経営を革新したかを追求するもの、と言うことも出来よう。		
教材（教科書）	受講者と相談の上で決める。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義と演習の合わさった形式で進める。		
評価方法	毎回の報告・レジュメ（100%）		
到達目標	経営史の研究状況を把握し、長期的・歴史的観点からの分析手法を理解する。		
授業時間外学習	輪読形式であるので、全員テキストの次回部分に目を通し、報告者はレジュメを作成する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

経営史的研究を通じて、各自の研究にどう生かせるかを考えること。

授業スケジュール

Ⅲ
1.日本経営史の課題、
2.戦前から戦後へ--経済政策の展開と経営環境の変化、
3.大企業体制の変遷、
4.労使関係の変化、
5.技術開発の推進、
6.経営管理の展開
Ⅳ
7.高度成長とその後の日本経済の変転、
8.成長を実現したメカニズム--中間組織の成長促進機能、
9.日本的経営と協調的労使関係、
10.資本家企業の急成長、
11.中小企業の役割と第三次産業の動向、
12.技術革新と技術開発、
13.多品種少量生産体制の構築、
14.日本的経営の光と影、
15.現代的課題と展望
＊受講者の顔触れにより講義の順序や重点を変更することがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J73159A01
科目名	【院】経営組織論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Organization Theory A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	私たちは、企業、大学、政府、自治体、ボランティア団体など、さまざまな組織と関係している。このような組織は現代社会の最も重要な構成要素といえる。この講義では受講生が、組織の基本的な理論を発展的に学ぶことによって、企業をはじめとする組織が成立・機能する仕組みを理解できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	授業中に適宜指示する。		
教材（参考資料）	1. 田尾雅夫・佐々木利廣・若林直樹『はじめて経営学を学ぶ』㈱ナカニシヤ出版 2. 桑田耕太郎・田尾雅夫『組織論』有斐閣アルマ。 3. 安達房子『ＩＣＴを活用した組織変革』晃洋書房。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。 報告者はレジュメを作成し、講義時に報告する。それを踏まえて、意見を交換する。		
評価方法	毎回の発表内容（70%）および取り組み姿勢（30%）により評価する。		
到達目標	経営組織論の代表的な学説を体系的に説明できる。 経営組織が成立・機能する仕組みを説明できる。		
授業時間外学習	各回の学習推定時間は 45 分。 第 1 回　バーナード理論に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 2 回　バーナード理論に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 3 回　サイモン理論に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 4 回　サイモン理論に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 5 回　参考文献 1 の 50‐58 頁を読み、要点をまとめる 第 6 回　参考文献 1 の 58‐65 頁を読み、要点をまとめる 第 7 回　参考文献 1 の 67‐73 頁をを読み、要点をまとめる 第 8 回　参考文献 1 の 73‐78 頁を読み、要点をまとめる 第 9 回　日本的経営に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 10 回　日本的経営に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 11 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 12 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 13 回　各自の作成したレジュメの発表用原稿を作成 第 14 回　他の受講生の発表に対するコメントをまとめる 第 15 回　配布レジュメを読み、要点をまとめる		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学部時代に経営学の基本的な部分を学習し、経営組織論や経営管理論の単位を修得していることが望ましい。 講義への積極的な参加を期待する。

授業スケジュール

1　ガイダンス（授業の進め方や目的の説明）
2　経営組織の基礎理論（バーナード理論①）
3　経営組織の基礎理論（バーナード理論②）
4　経営組織の基礎理論（サイモン理論①）
5　経営組織の基礎理論（サイモン理論②）
6　経営組織論の展開①
7　経営組織論の展開②
8　組織構造と組織文化①
9　組織構造と組織文化②
10　日本的経営組織の特質①

11　日本的経営組織の特質②
12　事例調査
13　事例調査の分析
14　事例調査の分析の報告
15　経営組織論の展望

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。できるだけ最新の話題を取り上げていきたいと考えている。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J73159B01
科目名	【院】経営組織論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Organization Theory B		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	私たちは、企業、大学、政府、自治体、ボランティア団体など、さまざまな組織と関係している。このような組織は現代社会の最も重要な構成要素といえる。この講義では受講生が、経営組織論研究Ａで学んだ組織の基本的な理論を踏まえて、組織がどのような変化を遂げているのか、どのような課題があるのかを理解できるようになることを目的とする。とくに、経営組織のあり方に大きな影響を与えているコンピュータ・ネットワークに焦点をあて、空間的・時間的に離れた人々の協働について考察する。		
教材（教科書）	授業中に適宜指示する。		
教材（参考資料）	1.桑田耕太郎・田尾雅『組織論』有斐閣アルマ。 2.安達房子『ＩＣＴを活用した組織変革』晃洋書房。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。 報告者はレジュメを作成し、講義時に報告する。それを踏まえて、意見を交換する。		
評価方法	毎回の発表内容（70%）および取り組み姿勢（30%）により評価する。		
到達目標	経営組織論の代表的な学説を体系的に説明できる。 経営組織論を応用して、実際の組織現象を説明できる。		
授業時間外学習	第１回　組織と環境に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第２回　個人と組織の関係に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第３回　モチベーション理論に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第４回　モチベーション理論に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第５回　リーダーシップ論に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第６回　リーダーシップ論に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第７回　コンピュータ・ネットワークと経営組織に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第８回　コンピュータ・ネットワークと経営組織に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第９回　参考文献２の126-141頁を読み、要点をまとめる 第10回　参考文献２の141‐157頁を読み、要点をまとめる 第11回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第12回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第13回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第14回　各自の作成したレジュメの発表用原稿を作成する 第15回　他の受講生の報告に対するコメントを作成する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学部時代に経営学の基本的な部分を学習し、経営組織論や経営管理論の単位を修得していることが望ましい。講義への積極的な参加を期待する。

授業スケジュール

1　ガイダンス（授業の進め方、目的の説明）
2　組織と環境
3　個人と組織の関係
4　モチベーション理論①
5　モチベーション理論②
6　リーダーシップ理論①
7　リーダーシップ理論②
8　コンピュータ・ネットワークと経営組織①
9　コンピュータ・ネットワークと経営組織②
10　コンピュータ・ネットワークを活用した経営組織の事例①
11　コンピュータ・ネットワークを活用した経営組織の事例②

12　事例調査
13　事例調査の分析
14　事例調査の分析の報告
15　経営組織の課題

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。できるだけ最新の話題を取り上げていきたいと考えている。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J73160A01
科目名	【院】マーケティング論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Marketing A		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	大量生産された商品をいかに効率的に売りさばくかという効率化の科学として始まったマーケティングは、８０年代以降、顧客を発見しさらには顧客を創造する満足化の科学へと姿を変貌させています。　フィリップ・コトラーによって提唱された戦略的マーケティングの意義を探求しながら、手法としての STP 戦略の考え方を深めます。 　STP 戦略を実施する過程において、ＩＴ技術の進展とともにミクロにターゲティング設定をする可能性が出てきており、今後、これがマーケティングの理論にどのような景況を与えるのかを探求します。		
教材（教科書）	フィリップ・コトラー『コトラーの戦略的マーケティング―いかに市場を創造し、攻略し、支配するか』ダイヤモンド社　¥2,376		
教材（参考資料）	フィリップ・コトラー＋ケビン・レーン・ケラー 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 第 12 版』 恩藏直人監訳　月谷真紀訳 ¥9,180		
教育方法	（１）学生の研究テーマ設定の手助けになるよう、一通りのマーケティングの最前線の課題を確認するミニ講義を行います （２）そのテーマに関連するミニレポート発表を受け付け、ディスカッションを通して研究課題の焦点を絞り深めていきます		
評価方法	（１）講義に対する理解度とディスカッションの積極性（70%） （２）各回に出す課題に対する予習・復習の成果となる提出物（30%）		
到達目標	現状に解決策を与えることのできる攻めのマーケティングを身に着け、企業や社会の課題に対して提言を考え企画を立てることができること		
授業時間外学習	・日本経済新聞、ワールドビジネスサテライトなどからトピックスを常に拾い上げて授業中のディスカッションに対応できるようにすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教科書についてはどのページでも授業内で引用しながらディスカッションできるように、第 4 回が始まる前までによく読むこと。

授業スケジュール

〇各回で以下のようなミニ講義を実施しテーマ設定を行います。これに関連して、ゼミ生の側からのミニレポート発表を受けることでディスカッションを行います。

1. 戦略的マーケティングの時代とは何か
2. ８０年代以降のマーケティング課題
3. ブランドの飽きとブランドのエイジング
4. 商品のコモディティ化
5. 商品開発の重要性
6. デモグラフィック特性によるセグメンテーション
7. 世代論によるセグメンテーション
8. ライフスタイルによるセグメンテーション
9. ターゲティング
10. ターゲティングへのアクセス可能性
11. ポジショニング
12. STP は現在でも有効か
13. 顧客の維持と育成
14. マーケティングマネジメント(管理)へのつながり
15. 戦略の見立てから友好の見立てへ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J73160B01
科目名	【院】マーケティング論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Marketing B		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	春学期の戦略研究の次に、ブランド研究を行います。 ブランドは 90 年代に一世を風靡しましたが、現在では話題の中心ではなくなりました。とはいえ、ブランドの重要性はなくなったわけではなく、通常化しただけだというとらえ方もあります。 ブランドの本質を再検討しながら、インターネット時代のブランドのあり方について知見を深めます。 ゼミ生の研究領域の幅を広げる要素を多く取り入れていきます。		
教材（教科書）	ケビン・レーン・ケラー『エッセンシャル戦略的ブランド・マネジメント第 4 版』 東急エージェンシー　恩藏直人翻訳　¥4,320		
教材（参考資料）	（1）学生の研究テーマ設定の手助けになるよう、一通りのマーケティングの最前線の課題を確認するミニ講義を行います （2）そのテーマに関連するミニレポート発表を受け付け、ディスカッションを通して研究課題の焦点を絞り深めていきます		
教育方法	1）学生の研究テーマ設定の手助けになるよう、一通りのマーケティングの最前線の課題を確認するミニ講義を行います （2）そのテーマに関連するミニレポート発表を受け付け、ディスカッションを通して研究課題の焦点を絞り深めていきます		
評価方法	（1）講義に対する理解度とディスカッションの積極性（70%） （2）各回に出す課題に対する予習・復習の成果となる提出物（30%）		
到達目標	ブランド論に関して正確な知識を持ち、すべての商品、企業、組織をブランド化するための基礎的な知識とスキルを発揮できること		
授業時間外学習	各回に支持されている教科書のページを事前に読んで参加してください。 第 1 回　第 1 章　p31-37 第 2 回　第 2 章　p41-55 第 3 回　第 3 章　p81-114 第 4 回　第 3 章　p81-114 第 5 回　第 4 章　p117-149 第 6 回　第 4 章　p117-149 第 7 回　第 6 章　p153-189 第 8 回　第 7 章　p195-241 第 9 回　第 8 章　p245-273 第 10 回　第 10 章　p377-422 第 11 回　第 9 章　p323-363 第 12 回　第 11 章　p427-450 第 13 回　第 11 章　p427-450 第 14 回　資料配布 第 15 回　資料配布		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・日本経済新聞、ワールドビジネスサテライトなどからトピックスを常に拾い上げて授業中のディスカッションに対応できるようにすること。			
授業スケジュール			
○以下の順番で学生の関心領域を広げるためのミニ講義を行います。これに関連するミニレポート発表を毎回求めます。その両者に基づいてディスカッションをすることで基本的には授業が構成されていきます。 1.　ブランドとは何か 2.　ブランド・エクイティ論			

3. ブランドのバリューチェーン 4. ブランド・レゾナンス 5. ブランド・ビルディングの要素 6. ブランド・ビルディングの現実的な方法論 7. ブランド戦略 8. ブランド・コミュニケーション 9. ブランド・エクイティの活用 10. ブランド拡張戦略 11. ブランドのコントロール 12. ブランド・マネジメントの現実的な方法論 1 13. ブランド・マネジメントのの現実的な方法論 2 14. ブランドの功罪 15. 嫌ブランドの流れへの対応について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J73161A01
科目名	【院】マーケティング論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Studies A on Marketing		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	流通の現場はマーケティングにおいて最もホットな領域であり、ネットでの販売の日常化によって現在大きなターニングポイントに差し掛かっている。 バーチャル店舗とリアル店舗の融合を志向するオムニチャネルへの挑戦など、今後も新たな手法が出てくることが期待される。 流通の現場の研究を通して、消費とマーケティングの動向を見通し、短期的な予測ができるようになることを目的とした講座である。		
教材（教科書）	日経ビジネスの最新号を教科書として定める		
教材（参考資料）	・流通関連の団体・協会が発表する月次資料 ・日本経済新聞などに掲載される決算発表に関する記事		
教育方法	（１）各回のテーマを中心に、その時々の流通に関するトピックスを取り上げ、その現象の持つ意味合いやインパクトの大きさになどついて、報告を受けた後に討議する （２）有益だと思われるトピックスやデータを持ち寄り、情報共有する中で、個々の消費現象を立体的にとらえていく。		
評価方法	（１）各授業におけるレジュメによる発表の水準（50%） （２）15 回の講義の後に提出してもらうレポート（50%）		
到達目標	（１）マーケティングの最も川下である流通と消費者との接点について、リアルタイムの動向を述べることができる （２）消費動向について、短期的な見通しを述べることができる		
授業時間外学習	事前に配布する資料に目を通し、論点をまとめたレジュメを作成し、授業で報告してもらいます。 配布する資料は、以下のようなものを想定しています。 第 2 回　日本百貨店協会の発表資料 第 3-4 回　日本チェーンストア協会の発表資料 第 5 回　日本ショッピングセンター協会の発表資料 第 6 回　セブン＆アイホールディングズの挑戦に課する資料 以上の資料は月報ごとに配布し授業時の検討資料とします。 また、流通関連企業の四半期ごとの決算発表資料などもリアルタイムで入手し、検討対象資料とします。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

●授業をよりよく理解するためには、日本経済新聞、日経ビジネス（雑誌）、テレビ東京系列のワールドビジネスサテライト（月-金 23:00～）にできる限り接し、リアルタイムの事例について記事を収集・整理してください。

授業スケジュール

1. 流通業界研究について
2. 百貨店業界
3. スーパーマーケット業界
4. コンビニ業界
5. ショッピングモール業界
6. オムニチャネル戦略
7. 販売促進政策
8. マーケティング・コミュニケーション
9. PR コミュニケーション
10. （ケーススタディ１）無印良品（良品計画）
11. （ケーススタディ２）ユニクロとゾゾタウン
12. （ケーススタディ３）楽天とアマゾン

13.	節約志向対応
14.	プレミアム戦略
15.	ソーシャルマーケティング

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J73161B01
科目名	【院】マーケティング論研究B	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Studies B on Marketing		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	90 年代以降のブランド論の創始者であるデヴィッド・アーカーのブランド・エクイティ論をベースにしたブランド論の研究です。 　ブランドは一時ほど話題の中心にはありませんが、選べないほど多様化した商品状況や、ネットによる商品購入が増え、またグローバル展開が展開する中、ブランドの価値が再確認される時代が来るはずです。 　実際、企業の中では売り上げが過去最高を挙げる企業と赤字が拡大している企業に二極化し、評判の良いブランドはますます競争力を高めています。 　いくつかのケーススタディを通して、ブランドの価値を改めて見直し、90 年代のブランド・エクイティ論をさらに進化させるブランド論の開発を目指します。		
教材（教科書）	デヴィッド・アーカー『ブランド論---無形の差別化を作る 20 の基本原則』ダイヤモンド社　阿久津聡訳　¥2,592		
教材（参考資料）	ケビン・レーン・ケラー『エッセンシャル戦略的ブランド・マネジメント第 4 版』東急エージェンシー　恩藏直人訳　¥4,320 ・松井忠三『無印良品は、仕組みが 9 割 仕事はシンプルにやりなさい』角川書店　¥1,512 ・ハワード・シュルツ、ドリー・ジョーンズヤング『スターバックス成功物語 』小幡照雄訳　¥1,944 ・月泉博『ユニクロ 世界一をつかむ経営』日経ビジネス人文庫　¥886 ・熊本県庁チームくまモン『くまモンの秘密 地方公務員集団が起こしたサプライズ』幻冬舎新書）　¥886		
教育方法	・第二回以降、教員からのオリエン的な講義（20 分程度）に加えて 15 分程度で発表できるレジュメを作成して授業で披露してもらいます。 ・期末にレポートを作成し、提出してもらいます。		
評価方法	（1）各回の課題について、発言や発表時の理解・把握の水準（50%） （2）期末のレポートの水準（50%）		
到達目標	・学術的なブランド論（およびブランド・エクイティ論）について理解し、経営者に語れるようになること ・ブランドのつくり方について、実務家として手法を知り、実施へのアドバイスができるようになること		
授業時間外学習	・教科書の他、以下の書籍についても熟読して授業に臨んでください 第 5-6 回　松井忠三『無印良品は、仕組みが 9 割 仕事はシンプルにやりなさい』角川書店　¥1,512 第 7-8 回　ハワード･シュルツ､ドリー･ジョーンズヤング『スターバックス成功物語 』小幡照雄訳　¥1,944 第 9-10 回　月泉博『ユニクロ 世界一をつかむ経営』日経ビジネス人文庫　¥886 第 11-12 回　熊本県庁チームくまモン『くまモンの秘密 地方公務員集団が起こしたサプライズ』幻冬舎新書）　¥886		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・第 2 回以降、毎回、テーマに関するレジュメを作成し 15 分程度の発表をしてもらいますので、教科書的な知識だけでなく、日本経済新聞、ワールドビジネスサテライトなどからトピックスを常に拾い上げて対応すること

授業スケジュール

1. ブランドとは何か
2. ブランド・エクイティ論
3. ブランドのバリューチェーン

サウスウエスト航空、ヘルシア緑茶の事例を元にして、矛盾する経営課題を乗り越え成功するブランド。

4. ブランド・レゾナンス
5. 無印良品 1
6. 無印良品 2
7. スターバックス 1
8. スターバックス 2

9. ユニクロ１
10. ユニクロ２
11. くまモン１
12. くまモン２
13. ブランド・コミュニケーション
14. ブランドビルディング方法
15. ブランドの未来

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J73165A01
科目名	【院】経営戦略論研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	代表的な経営戦略策定手法を紹介し、それをケーススタディで実際に活用することで、修得する。 受講生が経営戦略策定手法を使えるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	適宜プリントを配付する。		
教材（参考資料）	実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介する。		
教育方法	演習主体で行う。 与えられたテーマに沿って各自で Excel を使って分析し、発表する。		
評価方法	取組姿勢（50%）。成果物（50%）。		
到達目標	受講生が代表的な経営戦略策定手法を使えるようになることを目的とする。		
授業時間外学習	ゼミの時間は議論と発表が中心となるので、議論のための事前準備、発表のための資料作成を事前に十分行っておくこと。具体的には、説明資料を事前に配布するのでそれを読んで理解しておくことと、ケーススタディについては事前に作業を行っておくこと。（各回の学習推定時間は 60 分）		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ゼミのメンバー間での意見交換が重要ですので、他のメンバーの発表はしっかり聞き、必ず質問・意見を述べること。			
授業スケジュール			
1. オリエンテーション 2. 財務分析 3. 〃 ケーススタディ 4. SWOT 分析 5. 〃 ケーススタディ 6. PPM 7. 〃 ケーススタディ 8. 競争戦略 9. 〃 ケーススタディ 10. 成長戦略 11. 〃 ケーススタディ 12. BPR 13. 〃 ケーススタディ 14. 戦略マップ 15. 〃 ケーススタディ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J73165B01
科目名	【院】経営戦略論研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	企業の経営戦略についてのケーススタディを行う。 各自企業を１社を選んで、文献、雑誌記事、新聞記事、企業のホームページなどを基に、その企業の経営戦略について調査・分析・考察を行う。それを Excel と PowerPoint を使って発表し、全体で討議を行う。 経営戦略論研究Ａで学んだ経営戦略策定手法も駆使する。 受講者が企業の経営戦略を公開資料を使って調査・分析し、発表できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	適宜プリントを配付する。		
教材（参考資料）	実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介する。		
教育方法	演習主体で行う。 与えられたテーマに沿って各自で Excel を使って分析し、発表する。		
評価方法	取組姿勢（50%）。成果物（50%）。		
到達目標	受講者が企業の経営戦略を公開資料を使って調査・分析し、発表できるようになることを目的とする。		
授業時間外学習	ゼミの時間は議論と発表が中心となるので、議論のための事前準備、発表のための資料作成を事前に十分行っておくこと。具体的には、説明資料を事前に配布するのでそれを読んで理解しておくことと、ケーススタディについては事前に作業を行っておくこと。（各回の学習推定時間は 60 分）		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ゼミのメンバー間での意見交換が重要ですので、他のメンバーの発表はしっかり聞き、必ず質問・意見を述べること。			
授業スケジュール			
1. 研究対象企業の選択 2. 関連文献、資料の調査① 3. 関連文献、資料の調査② 4. 研究概要の発表、討議① 5. 研究概要の発表、討議② 6. 分析、発表資料作成① 7. 分析、発表資料作成② 8. 中間発表、討議① 9. 中間発表、討議② 10. 追加調査・分析、発表資料作成① 11. 追加調査・分析、発表資料作成② 12. 発表、討議① 13. 発表、討議② 14. 発表、討議③ 15. 発表、討議④			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J73166A01
科目名	【院】経営戦略論演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	経営戦略に関する文献を何冊か読みながら、修士論文のテーマ探しを行う。 経営戦略論演習Ａ～Ｄを通じて、受講者が修士論文を完成させることを目的とする。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	研究テーマに応じて、参考文献を適宜紹介する。		
教育方法	演習主体で行う。 教員は学生個別に進捗状況を把握しながら、適宜アドバイスを行う。基本的には学生が主体で、資料調査、分析、論文作成を行う。		
評価方法	取組姿勢（50%）。成果物（50%）。		
到達目標	経営戦略論演習Ａ～Ｄを通じて、受講者が修士論文を完成させることを目的とする。		
授業時間外学習	ゼミの時間は議論と発表が中心となるので、議論のための事前準備、発表のための資料作成を事前に十分行っておくこと。具体的には、研究テーマに関する先行研究の収集・分析・整理、それに基づく考察を行う。（各回の学習推定時間は 60 分）		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ゼミのメンバー間での意見交換が重要ですので、他のメンバーの発表はしっかり聞き、必ず質問・意見を述べること。			
授業スケジュール			
1．オリエンテーション 2～14．文献、資料の調査と発表、適宜個別指導 15．まとめと秋学期への準備			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J73166B01
科目名	【院】経営戦略論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	春学期の成果に基づき、修士論文のテーマを仮決定し、それに関する文献や資料の調査を行う。 経営戦略論演習Ａ～Ｄを通じて、受講者が修士論文を完成させることを目的とする。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	研究テーマに応じて、参考文献を適宜紹介する。		
教育方法	演習主体で行う。 教員は学生個別に進捗状況を把握しながら、適宜アドバイスを行う。基本的には学生が主体で、資料調査、分析、論文作成を行う。		
評価方法	取組姿勢（50%）。成果物（50%）。		
到達目標	経営戦略論演習Ａ～Ｄを通じて、受講者が修士論文を完成させることを目的とする。		
授業時間外学習	ゼミの時間は議論と発表が中心となるので、議論のための事前準備、発表のための資料作成を事前に十分行っておくこと。具体的には、研究テーマに関する先行研究の収集・分析・整理、それに基づく考察を行う。（各回の学習推定時間は 60 分）		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ゼミのメンバー間での意見交換が重要ですので、他のメンバーの発表はしっかり聞き、必ず質問・意見を述べること。			
授業スケジュール			
1．修士論文テーマ仮決定 2～14．テーマに関連する文献、資料の調査と発表、適宜個別指導（テーマは必要に応じて適宜見直し） 15．修士論文テーマ決定			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J73166C01
科目名	【院】経営戦略論演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	修士論文の執筆を行う。 経営戦略論演習Ａ～Ｄを通じて、受講者が修士論文を完成させることを目的とする。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	研究テーマに応じて、参考文献を適宜紹介する。		
教育方法	演習主体で行う。 教員は学生個別に進捗状況を把握しながら、適宜アドバイスを行う。基本的には学生が主体で、資料調査、分析、論文作成を行う。		
評価方法	取組姿勢（50%）。成果物（50%）。		
到達目標	経営戦略論演習Ａ～Ｄを通じて、受講者が修士論文を完成させることを目的とする。		
授業時間外学習	ゼミの時間は議論と発表が中心となるので、議論に耐え得るよう計画に沿って論文執筆を行っておくこと。 （各回の学習推定時間は 60 分）		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ゼミのメンバー間での意見交換が重要ですので、他のメンバーの発表はしっかり聞き、必ず質問・意見を述べること。			
授業スケジュール			
1．修士論文テーマおよび研究計画発表 2～15．計画に沿って執筆した論文の発表、議論、個別指導			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J73166D01
科目名	【院】経営戦略論演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	修士論文の執筆を行う。 経営戦略論演習Ａ～Ｄを通じて、受講者が修士論文を完成させることを目的とする。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	研究テーマに応じて、参考文献を適宜紹介する。		
教育方法	演習主体で行う。 教員は学生個別に進捗状況を把握しながら、適宜アドバイスを行う。基本的には学生が主体で、資料調査、分析、論文作成を行う。		
評価方法	取組姿勢（50%）。成果物（50%）。		
到達目標	経営戦略論演習Ａ～Ｄを通じて、受講者が修士論文を完成させることを目的とする。		
授業時間外学習	ゼミの時間は議論と発表が中心となるので、議論に耐え得るよう計画に沿って論文執筆を行っておくこと。 （各回の学習推定時間は 60 分）		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ゼミのメンバー間での意見交換が重要ですので、他のメンバーの発表はしっかり聞き、必ず質問・意見を述べること。			
授業スケジュール			
1～14．計画に沿って執筆した論文の発表、議論、個別指導 15．修士論文完成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J73200A01
科目名	【院】情報管理論演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	情報管理に関する文献を何冊か読みながら、修士論文のテーマ探しを行う。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	適宜紹介します		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業への参加度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	修士論文のテーマ選定に向けての準備ができる。		
授業時間外学習	毎回課題を与え、それについての発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。			
授業スケジュール			
1．オリエンテーション 2～14．文献、資料の調査と発表（テーマ等適宜指導） 15．まとめと秋学期への準備			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J73200B01
科目名	【院】情報管理論演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	春学期の成果に基づき、修士論文のテーマを仮決定し、それに関する文献や資料の調査を行う。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介します		
教育方法	適宜プリントを配付します		
評価方法	授業への参加度（50%）、発表内容（50%）		
到達目標	修士論文のテーマを決定し、資料収集、データ分析の準備ができる。		
授業時間外学習	毎回課題を与え、それについての発表と討議を中心に授業を進めますので、十分な準備をして授業に臨んでください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業時間外に十分な準備時間を確保するようにしてください。			
授業スケジュール			
1．修士論文テーマ仮決定 2～14．テーマに関連する文献、資料の調査と発表（テーマは必要に応じて適宜見直し） 15．修士論文テーマ決定			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J74001A01
科目名	【院】労働法 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Labor Law A		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	【院】労働法 I
授業概要	本講義では、労働法上の重要なテーマを取り上げ検討していく。労働法の領域のうち個別的労働関係法を中心に、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な問題、就業規則の不利益変更、わが国の解雇法制、時間外労働に対する規制、配転・出向、および、セクシュアル・ハラスメントなどの問題につき、判例や論文等を素材に受講者全員で考察していく。 各テーマを受講生に割り当てたうえ発表・報告してもらう。報告者以外の受講生にもそのテーマについての予習を前提に授業を進めていく。特に報告者は相当の時間と労力を注ぎ込む覚悟が必要である。熱意のある受講生を希望する。		
教材（教科書）	教科書（テキスト）は特に指定しない。		
教材（参考資料）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税		
教育方法	テーマ毎に院生が報告するゼミ方式で行なう。		
評価方法	講義時の報告およびレポート（70%）と期末の面接試験（30%）とで行なう。		
到達目標	1)労働法上の重要テーマを通じて、労働法の基礎知識をはじめ、労働法の考え方を説明できるようになる。 2)労働法の判例の読解力を身につけ、当該判例を説明できるようになる。		
授業時間外学習	授業で取り上げる各テーマについて、菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税を事前に必ず読んで，毎回ゼミ冒頭に口頭で報告すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1)憲法および民法などの関連する基本的な法律科目を履修済みであること。
2)最新版六法は必ず持参すること。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。
3)講義で取り上げる各テーマについて法的な問題点を探し、それに関して自分で調べ、考えて授業に臨むこと。報告の際は相当時間をかけて取り組む姿勢を求める。

授業スケジュール

第 1 回　講義の進め方・その他諸注意　－－最近の労働法上の問題点について
第 2 回　労働条件の不利益変更　その 1
第 3 回　労働条件の不利益変更　その 2
第 4 回　労働条件の不利益変更　その 3
第 5 回　解雇制約法理について　その 1
第 6 回　解雇制約法理について　その 2
第 7 回　解雇制約法理について　その 3
第 8 回　時間外労働の問題について　その 1
第 9 回　時間外労働の問題について　その 2
第 10 回　配転・出向問題について　その 1
第 11 回　配転・出向問題について　その 2
第 12 回　配転・出向問題について　その 3
第 13 回　セクシュアル・ハラスメント問題について　その 1
第 14 回　セクシュアル・ハラスメント問題について　その 2
第 15 回　パワー・ハラスメント問題について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J74001B01
科目名	【院】労働法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Labor Law B		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	【院】労働法Ⅱ
授業概要	本講義では、労働法上の重要なテーマを取り上げ検討していく。労働法の領域のうち個別的労働関係法および集団的労働関係法を中心に、テーマについては受講生とも相談しながら決めていく。基本的には労働法Ａを受講・履修していることが望ましい。 重要な裁判例や論文等を素材に、各テーマにつき受講生に割り当て、発表・報告したうえで、受講者全員で考察していく。報告者以外の受講生にもそのテーマにつき十分な予習を要求する。学問に対して熱意ある受講生を希望する。		
教材（教科書）	最新版六法		
教材（参考資料）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税		
教育方法	テーマ毎に院生が報告するゼミ方式で行なう。		
評価方法	講義時における積極的な姿勢・発言内容（60％）、報告内容および期末のレポート（40％）をもとに行なう。		
到達目標	1)労働法上の重要テーマを通じて、各争点における学説や裁判例における見解を法理論的に分析できるようになる。 2)当該論点につき各自の意見を理由を示して明確に提示できるようになる。		
授業時間外学習	授業で取り上げる各テーマについて菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税を前に必ず読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1)憲法および民法などの関連する基本的な法律科目を履修済みであること。
2)最新版六法は必ず持参すること。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。
3)講義で取り上げる各テーマについて法的な問題点を探し、それに関して自分で調べ、考えて授業に臨むこと。報告の際は相当時間をかけて取り組む姿勢を求める。

授業スケジュール

本講義で取り扱うテーマについては、受講生とも相談しながら決定するので、講義の順序に沿った形では記載できないが、参考までに取り扱う可能性のあるテーマを下記に掲げておく（各テーマにつき授業回数としては 3 回程度である）。

第 1 回　労働条件の個別化に伴う問題について その 1
第 2 回　労働条件の個別化に伴う問題について その 2
第 3 回　労働条件の個別化に伴う問題について　その 3
第 4 回　雇用形態の多様化に伴う新たな問題について　その 1
第 5 回　雇用形態の多様化に伴う新たな問題について　その 2
第 6 回　雇用形態の多様化に伴う新たな問題について　その 3
第 7 回　労働法の規制緩和について　その 1
第 8 回　労働法の規制緩和について　その 2
第 9 回　雇用の平等に関連する問題について　その 1
第 10 回　雇用の平等に関連する問題について　その 2
第 11 回　雇用の平等に関連する問題について　その 3
第 12 回　職場におけるプライバシー問題について　その 1
第 13 回　職場におけるプライバシー問題について　その 2
第 14 回　労働組合法制の再検討について　その 1
第 15 回　労働組合法制の再検討について　その 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J74047001
科目名	【院】企業取引法	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporate Dealings Law		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	企業取引の総則に該当する商法総則について、個別判例を素材にして、双方向的授業として検討を行う。受講者には重要テーマについて報告してもらい、それへの質問・討論という形で進めていく。受講者は基本図書を十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。		
教材（教科書）	弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法＜第２版補訂版＞』（有斐閣、2014 年） 2,160 円 江頭憲治郎=山下友信『商法（総則・商行為）判例百選[第 5 版]』（有斐閣、2008 年） 2,592 円		
教材（参考資料）	花水征一・三浦哲男・土屋弘三『企業取引法の実務＜補訂版＞』（商事法務・2011 年） 3,200 円 ＊個別具体的な文献は、講義時にその都度紹介する。		
教育方法	受講者に事前に重要判例を割り当て、その報告を参加者全員で質疑応答をしながら議論を進めるという双方向の授業を行う。この中で教員は条文の解釈や、報告レジュメの作成内容につき支援を与えることにより、論述能力が向上するよう指導する。		
評価方法	報告内容・議論への参加度（70%）。期末レポート（30%）。期末レポートは、基本的な判例法理を理解し、自力で調査し、妥当な見解を導けるか否かを問う。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．商法の規定と基本的な判例法理について理解でき、それを説明できるようになる。 ２．商法分野の応用的な問題について、自力で条文・判例・各種文献を調査して妥当な見解を導くことができるようになる。 ３．商法分野の応用的な問題について、自力で導いた見解を整理して論述することができるようになる。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する教科書（弥永・2014 年）のページと商法判例百選の該当 No.判例を読了し、通説・判例の見解を整理してくること（各回の学習推定時間は 90 分）。 第 1 回　教科書 1-5 頁。判例百選 No.1, 2。 第 2 回　教科書 17-22 頁。判例百選 No.3, 4。 第 3 回　教科書 23-24 頁。判例百選 No.5,6。 第 4 回　教科書 25-32 頁。判例百選 No.9,10。 第 5 回　教科書 33-38 頁。判例百選 No.12,13。 第 6 回　教科書 39-46 頁。判例百選 No.15,16。 第 7 回　教科書 47-54 頁。判例百選 No.18,19。 第 8 回　教科書 55-60 頁。判例百選 No.22,23。 第 9 回　教科書 61-66 頁。判例百選 No.25,26。 第 10 回　教科書 67-80 頁。判例百選 No.27,28。 第 11 回　教科書 81-84 頁。判例百選 No.31,32。 第 12 回　教科書 9-16 頁。判例百選 No.34,35。 第 13 回　教科書 85-104。判例百選 No.37,38。 第 14 回　教科書 105-110 頁。判例百選 No.50,51。 第 15 回　教科書 122-128 頁。判例百選 No.85,86。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

民法総則を履修済であること。

授業スケジュール

1. 商法の法源
2. 商人
3. 商業登記①
4. 商業登記②
5. 商号①
6. 商号②
7. 営業譲渡①

8. 営業譲渡②
9. 商業帳簿
10. 商業使用人
11. 代理商
12. 商行為の意義
13. 商行為の特色
14. 商事売買
15. 問屋営業

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	−

年度	2018	授業コード	J74061001
科目名	【院】租税法総論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Introduction		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
授業概要	租税法理論の基本的部分に当たる、租税の意義、租税法の基本原則、解釈と適用、課税要件(総論及び基礎的な各論)に関する事項を中心に研究を行う。 学生は、この講義において、実定法である租税法がいかなる原理に基づいて構築され、その解釈はどうあるべきかを考えるための、ベースとなる知識や考え方を整理し深めることができる。 授業は、基礎的な事項についての講義を行った後、重要判例について演習形式で行い、受講生からの報告に基づき、議論･検討をする中で、問題点を明らかにし理解を深める。 なお、演習の事例は予定であり、変更の場合がある。		
教材（教科書）	金子宏『租税法(第 23 版)』(弘文堂)		
教材（参考資料）	別冊ジュリスト『租税判例百選(第 6 版)』 その他は講義中に指示する。		
教育方法	講義内容に沿ったレジュメを、毎回 6~10 枚程度配布する。このレジュメに沿って、講義及び討議を行う。 事例演習では、受講生による報告とそれに基づく討議を行う。		
評価方法	報告内容 30%、レポート 30%及び平常点 40%(授業への積極的な参加の程度等による) 具体的な評価基準は、初回の講義時に説明する。		
到達目標	1　租税法の基本原則と憲法との関係を理解し、問題点を把握する。 2　租税法の具体的な適用に当たっての問題点を理解し、その解釈はどうあるべきかを理論的に説明できることを目標とする。		
授業時間外学習	租税実体法(法人税、所得税等)の基礎的な理解を深めておくこと。 各回の授業につき、以下の学習をしておくこと。(各回の学習時間は、概ね 60 分程度) 第 1 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおし、登場する判例について百選等で概要把握しておくこと。 第 2 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおし、登場する判例について百選等で概要把握しておくこと。 第 3 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおし、登場する判例について百選等で概要把握しておくこと。 第 4 回　百選第 1 事例(仮)の内容を把握し、判例の問題点を検討しておくこと。 第 5 回　百選第 2 事例(仮)の内容を把握し、判例の問題点を検討しておくこと。 第 6 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおし、登場する判例について百選等で概要把握しておくこと。第 7 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおし、登場する判例について百選等で概要把握しておくこと。第 8 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおし、登場する判例について百選等で概要把握しておくこと。第 9 回　百選第 14 事例(仮)の内容を把握し、判例の問題点を検討しておくこと。 第 10 回　百選第 17 事例(仮)の内容を把握し、判例の問題点を検討しておくこと。 第 11 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおし、登場する判例について百選等で概要把握しておくこと。第 12 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおしておくこと 第 13 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおしておくこと 第 14 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおしておくこと 第 15 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおしておくこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
憲法、民法、会社法、行政法の履修が望ましい。 税法が記載された六法、法規集を持参する。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい。			
授業スケジュール			
1.　租税と租税法　税制の概要 2.　租税法の基本原則　租税法律主義と租税公平主義 1			

3. 租税法の基本原則　租税法律主義と租税公平主義 2
4. 事例演習　大島訴訟 最高裁昭 60.3.27
5. 事例演習　旭川市国民健康保険条例事件 最高裁平 18.3.1 他
6. 租税法の法源と効力　租税法の法源と効力
7. 租税法の解釈と適用　租税法と私法
8. 租税法の解釈と適用　租税回避
9. 事例演習　武富士事件　最高裁平 23.2.18 他
10. 事例演習　相互売買事件　東京高裁平 11.6.21
11. 課税要件総論　課税要件、要件事実論
12. 課税要件各論　個人所得課税の基礎(所得税の仕組みと概要)
13. 課税要件各論　法人所得課税の基礎(法人税の仕組みと概要)
14. 課税要件各論　消費税及び国際課税の基礎
15. タックス・プランニングの基礎

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	★

年度	2018	授業コード	J74062001
科目名	【院】所得税法	単位数	2
科目名（英語表記）	Income Tax Law		
担当者名	橋本　清治	旧科目名称	
授業概要	受講者に各テーマを分担していただき、各回、報告していただきます。 その後、全員でその報告に係る問題点について検討を加えます。 本講義は、教科書の「所得税」の部分を学習し、その事項の判例等の検討を 行います。また、税務事例や税理士実務について触れていく予定です。		
教材（教科書）	金子宏『租税法（最新版）』弘文堂		
教材（参考資料）	『租税判例百選』有斐閣、『租税判例六法』、最近の税務訴訟（大蔵財務協会） 谷口勢津夫『税法基本講義』弘文堂 佐藤英明『スタンダード所得税法』弘文堂 植松守雄『注解所得税法』大蔵財務協会 酒井克彦『所得税法の論点研究』財経詳報社 酒井克彦『裁判例からみる所得税法』大蔵財務協会		
教育方法	発表者のレジュメに基づくグループワークと講義法の組み合わせで行う。		
評価方法	報告内容、毎回の議論への参加度合（50%）、レポート（レジュメ）（50%）		
到達目標	所得税法の基本を理解する。 所得税に係る判例を検討できる。		
授業時間外学習	木山泰『弁護士が教える分かりやすい「所得税法」の授業』（光文社）を 講義開始時までに読んでできてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

税務六法等の法規集持参またはＷｅｂによる法令利用

授業スケジュール

１．所得税・所得の意義
２．所得税の類型・課税単位
３．納税義務者・課税標準と税額算出
４．各種所得の意義と範囲（利子・配当・不動産）
５．各種所得の意義と範囲（事業・給与）
６．各種所得の意義と範囲（退職・山林・雑）
７．各種所得の意義と範囲（譲渡・一時）
８．収入金額
９．収入金額
１０．必要経費
１１．必要経費
１２．税額計算等
１３．事例研究
１４．事例研究
１５．事例研究

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J74062101
科目名	【院】不動産運用設計	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
授業概要	ファイナンシャルプランニングを行う場合、不動産購入は、一時的支出としては最も大きな金額を要することになり重要事項となる。取得時には不動産所得税、印紙税等が必要で、反面、住宅ローン控除受けられるメリットもある。そして、不動産を保有するためには固定資産税、都市計画税がかり、売却時に保有期間に準じた譲渡所得税がかかる。講義では不動産の所得→保有→売却の順に従い、贈与税・相続税も含めて横断的に学習を行う。また、本講義は「タックスプランニング」の不動産版と理解してもらいたい。また、AFP 認定を受ける権利を得ることができる「CFP?認定教育プログラム」であるため、「提案書課題の作成」を意識しながら、タックスプランニングの不動産に関わる事象に絞り講義を行うこととする。AFP 資格の取得を目指す院生は、春学期の「リスクの経済学」、秋学期の「パーソナル・ファイナンス」の講義を受講することが必須となる。		
教材（教科書）	講義の中で指示を行なう。		
教材（参考資料）	『不動産運用設計』日本ＦＰ協会 『タックスプランニング』日本ＦＰ協会 宮口定雄『税務ハンドブック平成 30 年度版』パーソナル社		
教育方法	次回に行う箇所を指示し、担当者を振り分け、その発表についてディスカッションを行う。		
評価方法	レポート（５０％）・講義の中での発表(５０％)		
到達目標	不動産に関わる税金を理解したうえで、不動産運用設計のコンサルティング・助言を行うことができる。		
授業時間外学習	受講者は順番に指示する内容についての発表を行うこととなるが、発表者以外の者は必ずその内容を事前に調べ、質問事項の準備をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ＡＦＰ資格の取得を考えている場合には必ず本講義と春学期の「リスクの経済学」、秋学期の「パーソナルファイナンス」を併せて受講すること。			
授業スケジュール			
1 印紙税と登録免許税 2 不動産所得税と消費税 3 住宅借入等特別控除 4 固定資産税の概要 5 固定資産税の特例 6 都市計画税の概要 7 住宅用地に対する課税標準の特例 8 不動産の貸付に等に係る税金 9 譲渡所得に対する特別控除① 10　譲渡所得に対する特別控除② 11 譲渡所得に対する特別控除③ 12 相続時精算課税制度 13 相続税に係る不動産の評価(土地) 14 相続税に係る不動産の評価(家屋) 15 納税方法の概要			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J74063001
科目名	【院】法人税法	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Tax Law		
担当者名	橋本　清治	旧科目名称	
授業概要	受講者に各テーマを分担していただき、各回、報告していただきます。 その後、全員でその報告に係る問題点について検討を加えます。 本講義は、教科書の「法人税」の部分を学習し、その事項の判例等の検討を 行います。また、税務事例や税理士実務について触れていく予定です。		
教材（教科書）	金子　宏『租税法』		
教材（参考資料）	租税判例百選（有斐閣）、租税判例六法（有斐閣）、最近の税務訴訟（大蔵財務協会） 谷口勢津夫『税法基本講座』弘文堂 成道秀雄『税務会計ー法人税の理論と応用』第一法規 酒井克彦『裁判例からみる法人税法』大蔵財務協会		
教育方法	発表者のレジュメに基づくグループワークと講義法の組み合わせで行う。		
評価方法	報告内容、毎回の議論への参加度合い（５０％）、レポート（レジュメ）（５０％）		
到達目標	法人税法の基本を理解する。 法人税に係る判例を検討できる。		
授業時間外学習	税大講本（法人税）を開講時までに目をとをしておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
税務六法等の法規集を持参またはＷｅｂによる法令利用			
授業スケジュール			
１．法人税の意義・性質等 ２．納税義務者と課税所得の範囲 ３．法人所得計算の総説（法人税法２２条） ４．益金の額の計算 ５．益金の額の計算 ６．益金の額の計算 ７．損金の額の計算 ８．損金の額の計算 ９．損金の額の計算 １０．法人税額の計算 １１．同族会社と所得課税 １２．租税回避行為 １３．事例研究 １４．事例研究 １５．事例研究			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J74068A01
科目名	【院】租税法演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Seminar A		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
授業概要	受講者が、租税法の基本原理を理解し、主要税目の基本的仕組みや理論を習得できるよう、講義及び受講者による報告を行う。 修士論文の作成に向けて、テーマの選択及び問題点探究のための個別指導を行う。		
教材（教科書）	特に定めない。		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	受講生の報告に基づき、討議形式により行う。		
評価方法	報告(判例研究・課題研究)内容及びその理解・質疑応答の状況等　60% 授業に対する取組みの状況(テーマに対する理解度・質疑応答等の内容等)　40%		
到達目標	租税法の基本原理、主要税目の仕組みや理論、及びそれらの問題点について、理解することを目標とする。 研究テーマの選択、及びテーマに合わせた知識の蓄積と問題点の把握を目標とする。		
授業時間外学習	各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

税法の理解のために必須となる、簿記・会計学の基礎的知識を習得すること。
数多くの論文を読むこと。

授業スケジュール

1 ガイダンス 税法の学び方について 個人面談
2 研究計画について 今後の研究計画に関しての「研究・指導スケジュール」の説明、研究計画書の作成について
3 判例研究の方法等 論文の読み方、判例研究の方法、基本書・参考文献等について
4 基本文献講読 講義形式による基本文献の講読 ①
5 基本文献講読 講義形式による基本文献の講読 ②
6 修士論文テーマ報告会 院生(２回生)による修士論文のテーマ報告とそれに対する質疑応答を行う。
7 基本文献講読①　基本書(未定)を指定し、その章ごとに、院生の報告とそれに対する議論を行う。
8 基本文献講読②
9 基本文献講読③
10 基本文献講読④
11 基本文献講読⑤
12 基本文献講読⑥
13 基本文献講読⑦
14 判例研究① 基本的な判例を指定し、院生による判例研究の報告と、それに対する議論を行う。
15 判例研究②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	–	–

年度	2018	授業コード	J74068B01
科目名	【院】租税法演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Seminar B		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
授業概要	修士論文の作成に向けて、テーマの選択及び問題点探究のための個別指導を行う。 併せて、税目横断的な事例研究、タックス・プランニング事例の検討等により、実務における税務問題に対しても理論的に解明し対応できる能力を養う。		
教材（教科書）	特に定めない。		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	受講生の報告に基づき、討議形式により行う。		
評価方法	報告(判例研究・課題研究)内容及びその理解・質疑応答の状況等　60％ 授業に対する取組みの状況(テーマに対する理解度・質疑応答等の内容等)　40％		
到達目標	各院生の選択するテーマに合わせた、知識の蓄積と問題点の把握を目標とする。 実務上の税務問題に対する理論的な解明のための能力の涵養を図る。		
授業時間外学習	各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

数多くの論文を読むこと。

授業スケジュール

1　研究計画について 研究計画について、その方向性と今後の研究方法に関して(個人面談等)
2　基本文献講読① 基本書(未定)を指定し、その章ごとに、院生の報告とそれに対する議論を行う。
3　基本文献講読②
4　基本文献講読③
5　基本文献講読④
6　　修士論文中間報告会 院生(２回生)による修士論文の中間報告とそれに対する質疑応答を行う。
7　研究報告(判例研究等)① 各院生が、自分の研究テーマ(又は興味のある分野)に関する判例研究等の報告を行い、それを基にして議論を行う。
8　研究報告(判例研究等)②
9　研究報告(判例研究等)③
10　研究報告(判例研究等)④
11　研究報告(判例研究等)⑤
12　研究報告(判例研究等)⑥
13　研究報告(判例研究等)⑦
14　事例研究① 実務的な事例(実務で発生しやすい、税目横断的な税務問題)を設定し、その問題に対する対応方法や解決策を検討する(院生による報告と議論による。)。
15　事例研究②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J74068C01
科目名	【院】租税法演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Seminar C		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
授業概要	各院生の選択するテーマに合わせ、修士論文の完成に向けて、個別指導を行う。		
教材（教科書）	特に定めない。		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	受講生の報告に基づき、討議形式により行う。		
評価方法	報告(判例研究・課題研究)内容及びその理解・質疑応答の状況等　60% 授業に対する取組みの状況(テーマに対する理解度・質疑応答等の内容等)　40%		
到達目標	各院生の選択するテーマに合わせた、問題点の理論的な解明を目標とする。		
授業時間外学習	各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自らのテーマにとらわれず、税法、税実務に対する幅広い興味を持ち続けること。			
授業スケジュール			
1　研究計画について　「研究計画の概要」に基づいて、今後の研究方法に関しての検討(個人面談等) 2　研究報告①　各院生が、自分の研究テーマに即して、研究の進捗度合に応じて研究報告(論文の各論等)を行い、それを基にして議論を行う。 3　研究報告② 4　研究報告③ 5　研究報告④ 6　修士論文テーマ報告会　修士論文のテーマ報告とそれに対する質疑応答を行う。 7　研究報告⑤ 8　研究報告⑥ 9　研究報告⑦ 10　研究報告⑧ 11　研究報告⑨ 12　研究報告⑩ 13　研究報告⑪ 14　研究報告⑫ 15　研究報告⑬			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2018	授業コード	J74068D01
科目名	【院】租税法演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law Seminar D		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
授業概要	各院生の選択するテーマに合わせ、修士論文の完成に向けて、個別指導を行う。		
教材（教科書）	特に定めない。		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	受講生の報告に基づき、討議形式により行う。		
評価方法	報告(判例研究・課題研究)内容及びその理解・質疑応答の状況等　60% 授業に対する取組みの状況(テーマに対する理解度・質疑応答等の内容等)　40%		
到達目標	各院生の選択するテーマに合わせた、問題点の理論的な解明を目標とする。		
授業時間外学習	各院生の選択するテーマに合わせ、適宜指示する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自らのテーマにとらわれず、税法、税実務に対する幅広い興味を持ち続けること。			
授業スケジュール			
1　研究計画について 今後の研究方法に関しての検討(個人面談等) 2　研究報告① 各院生が、自分の研究テーマに即して、研究の進捗度合に応じて研究報告(論文の各論等)を行い、それを基にして議論を行う。 3　研究報告② 4　研究報告③ 5　研究報告④ 6　修士論文中間報告会 修士論文の中間報告とそれに対する質疑応答を行う。 7　研究報告① 各院生が、修士論文に沿った研究報告を行い、それを基にして議論を行う。 8　研究報告② 9　研究報告③ 10　研究報告④ 11　研究報告⑤ 12　研究報告⑥ 13　研究報告⑦ 14　研究報告⑧ 15　研究報告⑨			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2018	授業コード	J74075001
科目名	【院】有価証券法	単位数	2
科目名（英語表記）	Negotiable Instruments Law		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	手形法について、個別判例な素材にして、双方向的授業として検討を行う。受講者には重要テーマについて報告してもらい、それへの質問・討論という形で進めていく。受講者は基本書を十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。また、手形法は、企業の道具として考案されたという経緯から、強度の論理一貫性に彩られた極めて技術的な法制度であり、理解のポイントは、「民法の原則をいかに修正（あるいは維持）するか」という点にある。このため民法（とくに総則）についても十分復習しておいてもらいたい。		
教材（教科書）	早川徹『基本講義 手形・小切手法』（新世社・2007 年） 2,808 円 『別冊ジュリスト 222 号・手形小切手判例百選[第 7 版]』（有斐閣・2014 年） 2,376 円		
教材（参考資料）	根田正樹・大久保拓也『支払決済の法としくみ』（学陽書房・2012 年） 3,240 円 ＊個別具体的な文献は、講義時にその都度紹介する。		
教育方法	受講者に事前に重要判例を割り当て、その報告を参加者全員で質疑応答をしながら議論を進めるという双方向の授業を行う。この中で教員は条文の解釈や、報告レジュメの作成内容につき支援を与えることにより、論述能力が向上するよう指導する。		
評価方法	報告内容・議論への参加度（70%）。期末レポート（30%）。期末レポートは、基本的な判例法理を理解し、自力で調査し、妥当な見解を導けるか否かを問う。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．手形法・小切手法の規定と基本的な判例法理について理解でき、それを説明できるようになる。 ２．手形法・小切手法分野の応用的な問題について、自力で条文・判例・各種文献を調査して妥当な見解を導くことができるようになる。 ３．手形法・小切手法分野の応用的な問題について、自力で導いた見解を整理して論述することができるようになる。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する教科書（早川・2007 年）のページと手形小切手判例百選の該当 No.判例を読了し、通説・判例の見解を整理してくること（各回の学習推定時間は 90 分）。 第 1 回　教科書 1-9 頁。 第 2 回　教科書 10-22 頁。 第 3 回　教科書 23-36 頁。 第 4 回　教科書 37-48 頁。判例百選 No.46。 第 5 回　教科書 49-57 頁。判例百選 No.1,2,8。 第 6 回　教科書 58-68 頁。判例百選 No.9,59,88。 第 7 回　教科書 69-74 頁。判例百選 No.4,15,37。 第 8 回　教科書 75-90 頁。判例百選 No.11,17,18。 第 9 回　教科書 91-107 頁。判例百選 No.20,38,39。 第 10 回　教科書 108-123 頁。判例百選 No.40,42,44。 第 11 回　教科書 124-139 頁。判例百選 No.50,53,54。 第 12 回　教科書 140-159 頁。判例百選 No.26,28,32。 第 13 回　教科書 177-191。判例百選 No.67,72,76。 第 14 回　教科書 192-196 頁。 第 15 回　教科書 197-201 頁。判例百選 No.65,66。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

民法総則を履修済であること。

授業スケジュール

１．手形・小切手の意義・法的構造
２．手形・小切手の経済的機能と銀行取引
３．有価証券
４．手形行為の意義と特性

５．手形行為の成立要件
６．手形行為の有効要件
７．他人による手形行為
８．無権代理と偽造
９．振出
１０．白地手形・手形の変造
１１．裏書
１２．善意の手形取得者の保護
１３．手形の支払
１４．遡及
１５．手形保証

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J74076A01
科目名	【院】英語文献研究Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Document Research A		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
授業概要	この授業は、下記の英語で書かれた国際法の標準的な教科書の第１章「国際社会の主要な法的特徴」(3-21頁）を講読し、法律英語を学びながら、国際社会や国際法の基本的性質について理解を深めることを目的とする。テキストの著者である A.Cassese 教授は世界を代表する国際法学者の１人であり、旧ユーゴスラヴィア国際刑事裁判所所長なども務めた。		
教材（教科書）	Antonio Cassese, International Law, 2nd ed. (Oxford University Press, 2005) ．初回の講義で、該当章のコピーを配布する。		
教材（参考資料）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第３版］』（東信堂、２０１６年） 杉原高嶺『国際法学講義［第２版］』（有斐閣、２０１３年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 薬師寺公夫ほか編『ベーシック条約集』（東信堂） 岩沢雄司編集代表『国際条約集』（有斐閣） 位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する。		
教育方法	受講生は担当部分の訳文を事前に作成して提出し、参加者がそれをチェックしながらテキストの内容を理解し検討する。		
評価方法	発言状況、予習状況など(70%)、翻訳のレポート（30%)。 詳細は初回の授業で説明する。		
到達目標	１．国際社会や国際法の独自の基本的性質について説明できるようになる。 ２．法律英語になじみ、基本的な専門用語を使えるようになる。 ３．翻訳を通じて、日本語で法的な文章を書くことができるようになる。		
授業時間外学習	・講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、教科書を事前に必ず講読してくること。 ・割り当てられた翻訳の担当範囲は事前に必ず訳してくること。 １．シラバス ２．「1.1 はじめに」、「1.2 国際法主体の性質」 ３．「1.2 国際法主体の性質」 ４．「1.3 中央当局の欠如および法的『機能』の分権化」 ５．「1.3 中央当局の欠如および法的『機能』の分権化」 ６．「1.4 集団的責任」 ７．「1.4 集団的責任」 ８．「1.5 多くの国際法規則が国内法に移される必要性」 ９．「1.6 国家の行動の自由の範囲」 １０．「1.6 国家の行動の自由の範囲」 １１．「1.6 国家の行動の自由の範囲」 １２．「1.7 実効性の最も重要な役割」		

	１３．「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」 １４．「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」 １５．「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．途中で投げ出さずに、忍耐強く取り組むこと。
２．無断欠席はしないこと。

授業スケジュール

１．履修ガイダンス
２．「1.1 はじめに」、「1.2 国際法主体の性質」
３．「1.2 国際法主体の性質」
４．「1.3 中央当局の欠如および法的『機能』の分権化」
５．「1.3 中央当局の欠如および法的『機能』の分権化」
６．「1.4 集団的責任」
７．「1.4 集団的責任」
８．「1.5 多くの国際法規則が国内法に移される必要性」
９．「1.6 国家の行動の自由の範囲」
１０．「1.6 国家の行動の自由の範囲」
１１．「1.6 国家の行動の自由の範囲」
１２．「1.7 実効性の最も重要な役割」
１３．「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」
１４．「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」
１５．「1.8 伝統的な個別的傾向と共同体的な権利義務の生成」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J74076B01
科目名	【院】英語文献研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	English Document Research B		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
授業概要	この授業は、自由権規約委員会(*)が日本政府の第６回定期報告書を審査し、２０１４年７月に採択した総括所見（Concluding Observations）を講読することを通じて、国際人権法に照らして日本の人権問題について検討を行うことを目的とする。具体的には、男女平等、死刑廃止等の刑事法関連問題、在日コリアンやアイヌなどの少数者の権利などを扱う。 授業では、国際法だけでなく、憲法、刑事法、家族法、労働法、社会保障法などの専門用語についても英語で学ぶことができるはずである。 ＊国際人権規約の自由権規約に基づいて設置された条約機関で、締約国による規約の履行を監視する。		
教材（教科書）	国際人権規約の自由権規約委員会が日本政府による第６回国家報告書を審査して 2014 年に採択した総括所見（Concluding Observations, UN Doc., CCPR/C/JPN/CO/6, 23 July 2014）。初回の講義でテキストのコピーを配布する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	テキストの割り当てられた範囲を受講生が翻訳し、その正確性を担当教員がチェックし、テキストの内容について全員で討論する。		
評価方法	発言状況、予習状況など（70%）、翻訳のレポート（30%）。 詳細は初回の授業で説明する。		
到達目標	１．法律英語になじみ、基本的な専門用語を使えるようになる。 ２．国際人権保障の意義や仕組みについて説明できるようになる。 ３．国際人権法から見て、日本にはどのような人権問題が存在するのか把握し、国際基準に照らして考えることができるようになる。		
授業時間外学習	・講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、テキストを事前に必ず熟読してくること。 ・割り当てられた翻訳の担当範囲は事前に必ず和訳してくること。 １．シラバス ２．国際人権保障についての講義 ３．「序論」、「肯定的側面」（男女共同参画社会第３次基本計画の策定など） ４．「主要な懸念事項および勧告」（人権条約の国内実施など） ５．「主要な懸念事項および勧告」（男女差別） ６．「主要な懸念事項および勧告」（ヘイトスピーチに関わる問題） ７．「主要な懸念事項および勧告」（死刑に関わる問題） ８．「主要な懸念事項および勧告」（「従軍慰安婦」問題） ９．「主要な懸念事項および勧告」（代用監獄に関わる問題など） １０．「主要な懸念事項および勧告」（庇護申請者の扱いなど） １１．「主要な懸念事項および勧告」（「公共の福祉」に基づく人権の制限など） １２．「主要な懸念事項および勧告」（特定秘密保護法に関わる問題など） １３．「主要な懸念事項および勧告」（福島原発事故に関わる問題など） １４．「主要な懸念事項および勧告」（アイヌや沖縄・琉球人の人権、フォローアップ手続など） １５．国際基準から見た日本の人権問題		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．日本の人権問題に関心をもち、積極的な参加を希望する。 ２．途中で投げ出さずに、忍耐強く取り組むこと。 ３．無断欠席はしないこと。			
授業スケジュール			

１．履修ガイダンス ２．国際人権保障についての講義 ３．「序論」、「肯定的側面」（男女共同参画社会第３次基本計画の策定など） ４．「主要な懸念事項および勧告」（人権条約の国内実施など） ５．「主要な懸念事項および勧告」（男女差別） ６．「主要な懸念事項および勧告」（ヘイトスピーチに関わる問題） ７．「主要な懸念事項および勧告」（死刑に関わる問題） ８．「主要な懸念事項および勧告」（「従軍慰安婦」問題） ９．「主要な懸念事項および勧告」（代用監獄に関わる問題など） １０．「主要な懸念事項および勧告」（庇護申請者の扱いなど） １１．「主要な懸念事項および勧告」（「公共の福祉」に基づく人権の制限など） １２．「主要な懸念事項および勧告」（特定秘密保護法に関わる問題など） １３．「主要な懸念事項および勧告」（福島原発事故に関わる問題など） １４．「主要な懸念事項および勧告」（アイヌや沖縄・琉球人の人権、フォローアップ手続など） １５．国際基準から見た日本の人権問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J74080A01
科目名	【院】刑法Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law A		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
授業概要	刑法総論の代表的な基本書、概説書、研究書及び重要論文を読み進めることにより、刑法総論の各領域についてより深く理解し、各重要論点の検討を通じて、学説・判例の成立の経緯、学説等が背景とする理論状況、対立状況を理解し、各争点の問題解決のための思考方法を身につけられることを目標とする。 また、修士論文作成に向けたアドバイスを適宜行う。 時間割に指定された時間帯にとらわれず、受講生と相談の上、演習日時を柔軟に設定する。		
教材（教科書）	受講生と相談の上決定する。 なお、刑事法専攻の院生が参加する場合には、外国語（独または英）の文献講読を別途行う。		
教材（参考資料）	必要に応じて紹介する。		
教育方法	各回のテーマにつき、報告担当者にレポートを作成、報告してもらい、それに基づき、受講生全員で、各テーマの問題について討論する。 非刑事法専攻者多数の場合は、ひとつ前の講義回において、教員が、講義法でテーマの概要を指定基本書・概説書をもとにレクチャーする予定である。		
評価方法	演習への取り組み姿勢、発表内容により評価する。		
到達目標	受講生が、学部で学んだ刑法学の基礎をより確実なものとし、刑法総論の重要問題について、学説を踏まえて自らの見解を示すことができることを目標とする。		
授業時間外学習	使用する基本書・概説書については、第１回目で受講生と相談して決めるが、 以下の授業スケジュールに沿って、該当箇所の予習・復習のため指定された基本書・概説書の該当箇所を読むこと。 また、指定された基本書・概説書に引用されている文献も調べ、読むことが必要である。 （各回の推定学習時間は１時間） １．第２回の予習 ２．刑法学の歴史・あゆみ ３．罪刑法定主義の沿革 ４．刑罰論 ５．刑法の適用範囲をめぐる諸問題 ６．実行行為性をめぐる諸問題 ７．因果関係をめぐる諸問題 ８．事実の錯誤をめぐる諸問題 ９．構成要件的過失をめぐる諸問題 １０．緊急行為をめぐる諸問題 １１．被害者の同意をめぐる諸問題 １２．違法性の錯誤をめぐる諸問題 １３．期待可能性をめぐる諸問題 １４．未遂犯をめぐる諸問題 １５．中止未遂をめぐる諸問題		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講にあたっては予習等大きな負担がかかるが、成果は大きいので頑張ってほしい。			
授業スケジュール			
おおむね以下のテーマを候補とするが、受講生の関心に応じて柔軟に対応する。 １．開講にあたって ２．刑法学の歴史・あゆみ ３．罪刑法定主義の沿革 ４．刑罰論			

５．刑法の適用範囲をめぐる諸問題
６．実行行為性をめぐる諸問題
７．因果関係をめぐる諸問題
８．事実の錯誤をめぐる諸問題
９．構成要件的過失をめぐる諸問題
１０．緊急行為をめぐる諸問題
１１．被害者の同意をめぐる諸問題
１２．違法性の錯誤をめぐる諸問題
１３．期待可能性をめぐる諸問題
１４．未遂犯をめぐる諸問題
１５．中止未遂をめぐる諸問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J74080B01
科目名	【院】刑法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law B		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
授業概要	刑法Ａに引き続き、刑法総論の代表的な基本書、概説書、研究書及び重要論文を読み進めることにより、刑法総論の各領域についてより深く理解し、各重要論点の検討を通じて、学説・判例の成立の経緯、学説等が背景とする理論状況、対立状況を理解し、各争点の問題解決のための思考方法を身につけられることを目標とする。 また、修士論文作成に向けたアドバイスを適宜行う。 時間割に指定された時間帯にとらわれず、受講生と相談の上、演習日時を柔軟に設定する。		
教材（教科書）	受講生と相談の上決定する。 なお、刑事法専攻の院生が参加する場合には、外国語（独または英）の文献講読を別途行う。		
教材（参考資料）	必要に応じて紹介する。		
教育方法	各回のテーマにつき、報告担当者にレポートを作成、報告してもらい、それに基づき、受講生全員で、各テーマの問題について討論する。 非刑事法専攻者多数の場合は、ひとつ前の講義回において、教員が、講義法でテーマの概要を指定基本書・概説書をもとにレクチャーする予定である。		
評価方法	演習への取り組み姿勢、発表内容により評価する。		
到達目標	受講生が、学部で学んだ刑法学の基礎をより確実なものとし、刑法総論の重要問題について、学説を踏まえて自らの見解を示すことができることを目標とする。		
授業時間外学習	使用する基本書・概説書については、第１回目で受講生と相談して決めるが、 以下の授業スケジュールに沿って、該当箇所の予習・復習のため指定された基本書・概説書の該当箇所を読むこと。 また、指定された基本書・概説書に引用されている文献も調べ、読むことが必要である。 （各回の推定学習時間は１時間） １．第２回の予習 ２．間接正犯をめぐる諸問題 ３．正犯と共犯をめぐる諸問題 ４．実行共同正犯をめぐる諸問題 ５．共謀共同正犯をめぐる諸問題 ６．承継的共同正犯をめぐる諸問題 ７．過失の共同正犯をめぐる諸問題 ８．狭義の共犯をめぐる諸問題 ９．共犯の離脱をめぐる諸問題 １０．共犯の錯誤をめぐる諸問題 １１．共同正犯と正当防衛をめぐる諸問題 １２．身分犯の共犯をめぐる諸問題 １３．包括一罪をめぐる諸問題 １４．観念的競合をめぐる諸問題 １５．かすがい現象をめぐる諸問題		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講にあたっては予習等大きな負担がかかるが、成果は大きいので頑張ってほしい。

授業スケジュール

おおむね以下のテーマを候補とするが、受講生の関心に応じて柔軟に対応する。

１．開講にあたって

２．間接正犯をめぐる諸問題

3．正犯と共犯をめぐる諸問題 4．実行共同正犯をめぐる諸問題 5．共謀共同正犯をめぐる諸問題 6．承継的共同正犯をめぐる諸問題 7．過失の共同正犯をめぐる諸問題 8．狭義の共犯をめぐる諸問題 9．共犯の離脱をめぐる諸問題 １０．共犯の錯誤をめぐる諸問題 １１．共同正犯と正当防衛をめぐる諸問題 １２．身分犯の共犯をめぐる諸問題 １３．包括一罪をめぐる諸問題 １４．観念的競合をめぐる諸問題 １５．かすがい現象をめぐる諸問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J74094A01
科目名	【院】会社法 A（コーポレート・ファイナンス）	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law (Corporate Finance)		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	会社法 A では、会社法の本質、エージェンシー問題、債権者保護、投資家保護などを扱う。テキストを素材に、主要各国（フランス・ドイツ・日本・英国・米国）の会社法について、各法域にわたって共有される要素や問題点を、比較法的・機能的に取り上げる。受講者に関連各章を報告してもらい、それへの質問・討論という形で双方向的授業として検討を行う。受講者は、テキストを十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。		
教材（教科書）	R Kraakman, et al., The Anatomy of Corporate Law, (Third Edition, Oxford University Press, 2017)		
教材（参考資料）	RR Kraakman 他『会社法の解剖学』(LexisNexis, 2004 年) ＊個別具体的な文献は、講義時にその都度紹介する。		
教育方法	受講者に事前にテキストの該当部分を割り当て、その報告を参加者全員で質疑応答をしながら議論を進めるという双方向の授業を行う。この中で日本法と外国法の概念の相違などにつき検討することにより、議論を深めていく。		
評価方法	報告内容・議論への参加度（70%）。期末レポート（30%）。期末レポートは、テキストの内容を理解した上で、自力で調査し、妥当な見解を導けたか否かを問う。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．会社法における重要論点が何かを比較法的・機能的観点から把握し、会社法と経済や経営との相互作用を説明できるようになる。 ２．エージェンシー・コストを削減するための法的戦略について説明できるようになる。 ３．債権者保護のための規制戦略を理解し、その保護の各国の相違について比較法的に説明できるようになる。 ４．投資家保護の目的を理解し、その保護の各国の相違について比較法的に説明できるようになる。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する教科書（R Kraakman, et al., 2017）のページを精読した上、教科書の脚注の文献の 1 つを選び、それによって関連事項を調査し、自らの見解を整理してくること。(各回の学習推定時間は 90 分)。 第 1 回　教科書 1-4 頁 第 2 回　教科書 5-14 頁 第 3 回　教科書 15-16 頁 第 4 回　教科書 17-21 頁 第 5 回　教科書 22-28 頁 第 6 回　教科書 29-30 頁 第 7 回　教科書 31-37 頁 第 8 回　教科書 38 頁 第 9 回　教科書 39-48 頁 第 10 回　教科書 109-118 頁 第 11 回　教科書 119-126 頁 第 12 回　教科書 127-142 頁 第 13 回　教科書 243-257 頁 第 14 回　教科書 258-263 頁 第 15 回　教科書 264-266 頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．履修が望ましい他の関連科目：会社法 B（コーポレート・ガバナンス） ２．新聞・ニュースや雑誌論文などを通じ、経済状況や経営環境と会社法との関連の把握に努めてもらいたい。			
授業スケジュール			

1.Introduction
2.What is Corporation?
3.Sources of Corporate Law
4.Law versus Contract in Corporate Affairs
5.What is the Goal of Corporate Law
6.Three Agency Problems
7.Legal Strategies for Reducing Agency Costs
8.Disclosure
9.Compliance and Enforcement
10.Transaction with Creditors
11.Solvent Firms
12.Ownership Regimes and Creditor Protection
13.Securities Regulation and Legal Strategies
14.Securities Law Enforcement
15.Convergence and Persistence in Securities Regulation

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2018	授業コード	J74094B01
科目名	【院】会社法Ｂ（コーポレート・ガバナンス）	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law (Cooperate Governance)		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	会社法Ｂでは、基本的なガバナンス構造、関連当事者取引、支配権取引などを扱う。テキストを素材に、主要各国（フランス・ドイツ・日本・英国・米国）の会社法について、各法域にわたって共有される要素や問題点を、比較法的・機能的に取り上げる。受講者に関連各章を報告してもらい、それへの質問・討論という形で双方向的授業として検討を行う。受講者は、テキストを十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。		
教材（教科書）	R Kraakman, et al., The Anatomy of Corporate Law, (Third Edition, Oxford University Press, 2017)		
教材（参考資料）	RR Kraakman 他『会社法の解剖学』(LexisNexis, 2004 年) ＊個別具体的な文献は、講義時にその都度紹介する。		
教育方法	受講者に事前にテキストの該当部分を割り当て、その報告を参加者全員で質疑応答をしながら議論を進めるという双方向の授業を行う。この中で日本法と外国法の概念の相違などにつき検討することにより、議論を深めていく。		
評価方法	報告内容・議論への参加度（70%）。期末レポート（30%）。期末レポートは、テキストの内容を理解した上で、自力で調査し、妥当な見解を導けたか否かを問う。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．会社法における重要論点が何かを比較法的・機能的観点から把握し、会社法と経済や経営との相互作用を説明できるようになる。 ２．基本的なガバナンス構造・類型について説明できるようになる。 ３．経営者による利益相反取引を理解し、その規制の各国の相違について比較法的に説明できるようになる。 ４．組織再編について理解し、その規制の各国の相違について比較法的に説明できるようになる。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する教科書（R Kraakman, et al., 2017）のページを精読した上、教科書の脚注の文献の 1 つを選び、それによって関連事項を調査し、自らの見解を整理してくること。(各回の学習推定時間は 90 分)。 第 1 回　教科書 1-4 頁 第 2 回　教科書 49-50 頁 第 3 回　教科書 51-61 頁 第 4 回　教科書 62-67 頁 第 5 回　教科書 79-88 頁 第 6 回　教科書 89-91 頁 第 7 回　教科書 147-165 頁 第 8 回　教科書 185-195 頁 第 9 回　教科書 196-204 頁 第 10 回　教科書 205-210 頁 第 11 回　教科書 211-223 頁 第 12 回　教科書 224-230 頁 第 13 回　教科書 231-235 頁 第 14 回　教科書 236-242 頁 第 15 回　教科書 267-272 頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．履修が望ましい他の関連科目：会社法Ａ（コーポレート・ファイナンス） ２．新聞・ニュースや雑誌論文などを通じ、経済状況や経営環境と会社法との関連の把握に努めてもらいたい。			
授業スケジュール			

1.Introduction
2.Delegated Management and Corporate Boards
3.Appointment and Decision Rifgts
4.Agent Incentives
5.Protecting Minority Shareholders
6.Protecting Employees
7.Legal Strategies for Related-Party Transactions
8.Mergers and Divisions
9.Reincorporation and Conversion
10.Regulatory Problems in Contorol Transactions
11.Agency Problems in Contorol Transactions
12.Coordination Problems among Target Shareholders
13.Specific Issues upon Acquisition from a Contorolling Shareholder
14.Explaining Differences in the Regulation of Control Transaction
15.Beyond the Anatomy

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J74097001
科目名	【院】租税手続法	単位数	2
科目名（英語表記）	Taxes Procedure Law		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
授業概要	租税の確定から徴収に至る租税手続について、重要な論点を中心に理解を深める。 授業は、基礎的な事項についての講義を行った後、重要判例について演習形式で行い、受講生からの報告に基づき、議論･検討をする。 学生は、この講義において、租税手続法固有の論点及びこれらと租税実体法・課税実務との関係に係る論点を整理し、理解を深めることができる。 演習の事例は予定であり、変更の場合がある。 なお本年は、併せて、租税実体法中の基幹税目の一つである相続税及び贈与税について、事業承継の観点から学習する。		
教材（教科書）	金子宏『租税法(第 23 版)』(弘文堂)		
教材（参考資料）	別冊ジュリスト『租税判例百選(第 6 版)』 その他は講義中に指示する。		
教育方法	講義内容に沿ったレジュメを、毎回 6~10 枚程度配布する。このレジュメに沿って、講義及び討議を行う。 事例演習では、受講生による報告とそれに基づく討議を行う。		
評価方法	報告内容 30%、レポート 30%及び平常点 40%(授業への積極的な参加の程度等による) 具体的な評価基準は、初回の講義時に説明する。		
到達目標	租税実体法との関係において、租税手続に係る重要な論点を理解し、説明できることを目標とする。		
授業時間外学習	租税実体法(法人税、所得税等)の基礎的な理解を深めておくこと。 各回の授業につき、以下の学習をしておくこと。(各回の学習時間は、概ね 60 分程度) 第 1 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおし、登場する判例について百選等で概要把握しておくこと。 第 2 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおし、登場する判例について百選等で概要把握しておくこと。 第 3 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおし、登場する判例について百選等で概要把握しておくこと。 第 4 回　百選第 104 事例(仮)の内容を把握し、判例の問題点を検討しておくこと。 第 5 回　百選第 110 事例(仮)の内容を把握し、判例の問題点を検討しておくこと。 第 6 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおし、登場する判例について百選等で概要把握しておくこと。第 7 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおし、登場する判例について百選等で概要把握しておくこと。第 8 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおし、登場する判例について百選等で概要把握しておくこと。第 9 回　百選第 113 事例(仮)の内容を把握し、判例の問題点を検討しておくこと。 第 10 回　百選第 12 事例(仮)の内容を把握し、判例の問題点を検討しておくこと。 第 11 回　事例(仮)の内容を把握し、判例の問題点を検討しておくこと。 第 12 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおしておくこと 第 13 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおしておくこと 第 14 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおしておくこと 第 15 回　事前配布レジュメ(6~10 枚程度)に目をとおしておくこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
租税実体法についての基礎的な知識があること。憲法、民法、会社法、行政法の履修が望ましい。 税法が記載された六法、法規集を持参する。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい。			
授業スケジュール			
1. 導入租税手続法の意義、租税行政組織 2. 租税確定手続申告納税方式(申告、更正の請求、更正・決定) 3. 租税確定手続申告納税方式(推計課税)、賦課課税方式、除斥期間、質問検査権			

4. 事例演習更正の請求の可否最高裁平 21.7.10
5. 事例演習推計課税 東京高裁平 6.3.30 質問検査権 最高裁昭 48.7.10
6. 租税徴収手続納付と徴収
7. 租税徴収手続源泉徴収
8. 租税徴収手続滞納処分
9. 事例演習源泉徴収最高裁昭 45.12.24 平 4.2.18
10. 事例演習租税徴収法における私法の適用最高裁昭 62.1.20
11. 事例演習一括システムと国税徴収最高裁平 15.12.19
12. 相続の概要及び相続・事業承継の考え方
13. 相続税の仕組みと計算
14. 贈与税、財産評価
15. 事業承継の考え方

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	★

年度	2018	授業コード	J74102C01
科目名	【院】憲法Ｃ（ヨーロッパ人権論）	単位数	2
科目名（英語表記）	Constitutional Law C (Human Rights in Eu rope)		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
授業概要	この授業では、「ヨーロッパ公序の憲法的文書」とも称されるヨーロッパ人権条約について学び、ヨーロッパ人権裁判所の判例を検討する。この条約は 1950 年に採択され、現在の締約国数は 47 カ国に及び、トルコやロシアも含まれる。人権裁判所などの実施機関の半世紀を超える実行を通じて、条約はヨーロッパ諸国における人権保障に対して大きな影響を与えてきた。人権裁判所の代表的な判例を検討することで、第二次大戦後から今日までのヨーロッパでの人権保障の発展における条約の意義についてともに考えてみたい。		
教材（教科書）	戸波江二ほか編『ヨーロッパ人権裁判所の判例』（信山社、２００８年）		
教材（参考資料）	【邦文による概説書】 フレデリック・スュードゥル（著）・建石真公子（訳）『ヨーロッパ人権条約』（有信堂、１９９７年） 阿部浩己ほか『テキストブック国際人権法［第３版］』（日本評論社、２００９年） 【条約集】 薬師寺公夫ほか編『ベーシック条約集』（東信堂） 岩沢雄司編集代表『国際条約集』（有斐閣） その他の専門書等については適宜紹介する。		
教育方法	受講生が関心のある判例を選択して、判旨を報告し、全員で検討する。		
評価方法	発言状況、予習状況など（50%）、報告（30%）、レポート（20%）。 詳細は初回の授業で説明する。		
到達目標	１．ヨーロッパ人権条約による人権保障の意義と仕組みについて説明できるようになる。 ２．判決の事案や判旨などを適切に紹介したレジュメを作成し、効率的に報告できるようになる。 ３．判決の意義や問題点について自ら考えることができるようになる。		
授業時間外学習	受講生は次回の授業で取り上げる判例の要旨を読んでくること。 １．シラバス ２．事前に配布する資料 ３．授業で取り上げるヨーロッパ人権裁判所の判例 ４．授業で取り上げるヨーロッパ人権裁判所の判例 ５．授業で取り上げるヨーロッパ人権裁判所の判例 ６．授業で取り上げるヨーロッパ人権裁判所の判例 ７．授業で取り上げるヨーロッパ人権裁判所の判例 ８．授業で取り上げるヨーロッパ人権裁判所の判例 ９．授業で取り上げるヨーロッパ人権裁判所の判例 １０．授業で取り上げるヨーロッパ人権裁判所の判例 １１．授業で取り上げるヨーロッパ人権裁判所の判例 １２．授業で取り上げるヨーロッパ人権裁判所の判例 １３．授業で取り上げるヨーロッパ人権裁判所の判例 １４．授業で取り上げるヨーロッパ人権裁判所の判例 １５．事前に配布する資料		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．世界の人権問題に関心をもち、積極的な参加を希望する。 ２．無断欠席はしないこと。			

授業スケジュール
1．受講ガイダンス 2．ヨーロッパ人権条約の概説（担当教員による講義） 3．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 4．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 5．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 6．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 7．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 8．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 9．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 １０．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 １１．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 １２．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 １３．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 １４．ヨーロッパ人権裁判所の判例報告と検討 １５．ヨーロッパ人権条約による人権保障の意義の検討

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J74103A01
科目名	【院】刑事訴訟法 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure A		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
授業概要	刑事手続の各段階で生じる法解釈上の重要な問題を取り上げて検討する。検討の内容は、問題について包括的に研究した諸文献による理論研究、重要判例の判例研究である。また、必要に応じて、少年事件といった各種の手続や刑事手続をめぐる最近の法改正なども検討の対象とする。 ゼミの進め方は、受講者が報告者となって、毎回、指定されたテーマについて報告するというものである。 授業を通して、受講生は、刑事訴訟法に関する知識を身につけることが出来るだけでなく、事例に関する法的問題点について説明できるようになる。		
教材（教科書）	古江頼隆『事例演習刑事訴訟法』（2011、有斐閣） 井上正仁、大澤裕、川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第 10 版、2017）		
教材（参考資料）	授業の中で必要に応じてそのつど紹介する。		
教育方法	発表者を決め、基本的に、発表者の報告をもとにして、ディスカッションしながら授業を行う。		
評価方法	授業の取組状況、報告の内容および報告をふまえて作成されたレポートが主な評価の材料である。		
到達目標	特定のテーマについて体系的に検討することができる。		
授業時間外学習	講義で取り扱う部分に関連したテキストの箇所を必ず読んでくること。また、関連する判例については、評釈は基本すべて印刷して読んでくること。毎回の推定授業時間外学習は、２時間におよぶ。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学部において刑法および刑事訴訟法の両分野を良好な成績で学修していなければ、授業の内容を理解することは不可能である。これに十分留意したうえで受講すること。

授業スケジュール

1　報告内容の提示、レジュメの作り方と報告者決定
2　任意捜査と強制捜査
3　職務質問・所持品検査
4　任意取調べ
5　身柄拘束の諸問題（1）
6　身柄拘束の諸問題（2）
7　身柄拘束の諸問題（3）
8　令状による捜索・差押え（1）
9　令状による捜索・差押え（2）
10　逮捕に伴う無令状捜索・差押え（1）
11　逮捕に伴う無令状捜索・差押え（2）
12　おとり捜査
13　接見交通
14　被疑者取調べ
15　被疑者の権利

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	−

年度	2018	授業コード	J74103B01
科目名	【院】刑事訴訟法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure B		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
授業概要	刑事手続の各段階で生じる法解釈上の重要な問題を取り上げて検討する。検討の内容は、問題について包括的に研究した諸文献による理論研究、重要判例の判例研究である。また、必要に応じて、少年事件といった各種の手続や刑事手続をめぐる最近の法改正なども検討の対象とする。 ゼミの進め方は、受講者が報告者となって、毎回、指定されたテーマについて報告するというものである。 授業を通して、受講生は、刑事訴訟法に関する知識を身につけることが出来るだけでなく、事例に関する法的問題点について説明できるようになる。		
教材（教科書）	古江頼隆『事例演習刑事訴訟法』（2011、有斐閣） 井上正仁、大澤裕、川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第 10 版、2017）		
教材（参考資料）	授業の中で必要に応じてそのつど紹介する。		
教育方法	発表者を決め、基本的に、発表者の報告をもとにして、ディスカッションしながら授業を行う。		
評価方法	授業の取組状況、報告の内容および報告をふまえて作成されたレポートが主な評価の材料である。		
到達目標	特定のテーマについて体系的に検討することができる。		
授業時間外学習	講義で取り扱う部分に関連したテキストの箇所を必ず読んでくること。また、関連する判例については、評釈は基本すべて印刷して読んでくること。毎回の推定授業時間外学習は、２時間におよぶ。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学部において刑法および刑事訴訟法の両分野を良好な成績で学修していなければ、授業の内容を理解することは不可能である。これに十分留意したうえで受講すること。			
授業スケジュール			
１　報告内容の提示、レジュメの作り方と報告者決定 ２　訴因の特定 ３　訴因変更の要否 ４　訴因変更の可否 ５　科学的証拠 ６　法律上の推定 ７　類似事実証拠排除法則 ８　自白の証拠能力（１） ９　自白の証拠能力（２） １０　公訴の提起（３） １１　伝聞法則（１） １２　伝聞法則（２） １３　伝聞法則（３） １４　違法収集証拠排除法則（１） １５　違法収集証拠排除法則（２）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J74104001
科目名	【院】行政作用法	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Action Law		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
授業概要	行政法総論の部分のうち、基本原理、行政組織、行政作用法を扱う。行政法の入門的な部分と組織、行政作用の性質と類型を学ぶことができる。		
教材（教科書）	特に使用しない。		
教材（参考資料）	講義の際、紹介する。		
教育方法	講義レジュメにしたがって講義する。講義でとりあげる関連判例を担当して、報告してもらう。		
評価方法	授業内での報告、レポート等による平常点(100%)		
到達目標	行政法の基本原理を習得し、組織法、作用法の全体像の理解を深める。 将来、実務家になった場合の基礎を学ぶことができる。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、該当部項目を読み、基本用語、法令、判例をチェックすること。 講義に合わせて以下の項目について学習する。 1　行政法とは何か 2　法律による行政の原理 3　行政組織の基本原理と国と地方の行政組織 4　行政立法の種類 5　行政行為とは何か 6　行政裁量の統制について 7　行政行為の効力の発生と停止 8　行政行為に瑕疵があった場合 9　行政計画の種類と法的統制 10　行政契約・行政指導とは 11　行政上の義務の強制方法 12　緊急に強制する場合。過去の違反と罰 13　行政手続法の仕組み 14　情報公開の仕組み 15　個人情報保護の仕組み		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

行政法の学説に関する基礎知識と基本判例を習得することを目標にするので、参考文献の熟読と判例百選などを使った予習、復習が必要である。

授業スケジュール

1．　行政と法
2．　行政活動の規制原理
3．　行政組織
4．　行政立法
5．　行政行為－概念・種類
6．　行政行為－裁量
7．　行政行為－効力・瑕疵
8．　行政行為－取消しと撤回・附款
9．　行政計画
10．　行政契約・行政指導
11．　行政上の強制執行
12．　行政上の即時強制・行政罰

１３．　行政手続法
１４．　情報公開
１５．　個人情報保護

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J74105001
科目名	【院】行政救済法	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Remedies Law		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
授業概要	行政法総論は、行政組織法、作用法、救済法の３つの柱で構成される。本講義では、行政救済法の部分を扱う。国民が国や地方公共団体の行為の結果、損害か損失を被った場合、どのような方法があるかを学ぶことができる。		
教材（教科書）	特に使用しない。		
教材（参考資料）	講義の際に紹介する。		
教育方法	毎回、講義レジュメにしたがって講義する。関連判例を担当して、報告してもらう。		
評価方法	授業内での判例報告やレポート等による平常点（１００％）		
到達目標	国民の権利・利益が行政過程において侵害された場合の救済手段の内容を理解し、それら救済手段の果たす役割についての認識を深める。		
授業時間外学習	次回の講義の項目と関連判例を予習すること。 1　行政法の全体像 2　行政上の不服申立てー種類・要件 3　行政上の不服申立てー審理・裁決・効力・教示 4　行政事件訴訟とは 5　処分性 6　原告適格 7　被告適格、その他の要件 8　取消訴訟の進行 9　取消訴訟以外の行政訴訟 10　国家賠償制度とは 11　１条責任 12　２条責任 13　損失補償とは 14　補償の基準・内容・方法 15　行政救済法の課題		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

行政作用法も履修することが望ましい。

授業スケジュール

１．　オリエンテーションー行政法の学び方、行政救済法の体系
２．　行政不服申立て①
３．　行政不服申立て②
４．　行政事件訴訟の概観、種類
５．　取消訴訟の訴訟要件①
６．　取消訴訟の訴訟要件②
７．　取消訴訟の訴訟要件③
８．　取消訴訟の審理、判決、教示
９．　取消訴訟以外の訴訟類型
１０．国家賠償制度
１１．国家賠償法１条
１２．国家賠償法２条
１３．損失補償制度①
１４．損失補償制度②

１５．行政救済法の改正動向

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J74106001
科目名	【院】家族法	単位数	2
科目名（英語表記）	Family Law		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
授業概要	民法の家族法分野について受講者が主体となり判例研究を行いつつ、家族法に関する基本的な知識を習得する。具体的な進め方については受講者と相談のうえ決める予定である。		
教材（教科書）	講義資料を適宜配布する。		
教材（参考資料）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） 民法判例百選 3（有斐閣、2015 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教育方法	－		
評価方法	参加状況（50%）、研究への取り組み状況（50%）による。やむを得ず欠席する場合にはメール等により事前に連絡することを要する。		
到達目標	１．家族法の主要論点に関する判例・学説を理解する。 ２．研究成果を報告し、他者の考えを聞いたうえで自身の考えを深めることができる。		
授業時間外学習	各回の報告担当者については、関連する判例・文献を収集し、精読したうえで、レジュメ等にまとめ、担当回に口頭で報告できるよう十分に準備をしておく（最低でも 3 週間程度を準備期間に費やすこと）。担当者以外の者も、各回で扱う判例およびこれに関連する基本的文献を読んでおき、問題の所在を把握しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

家族法を履修したことがない者については、家族法の教科書・概説書を 1 冊通読しておくことが望ましい。

授業スケジュール

各自が関心のあるテーマについて報告と質疑応答を行う。テーマの選択にあたっては受講者の意向を尊重するが、テーマの例としては以下のようなものがある。

１．　婚姻外の男女関係の解消
２．　近親婚と遺族年金受給権
３．　夫婦同氏制度の合憲性
４．　不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権
５．　有責配偶者の離婚請求
６．　財産分与と慰謝料請求権との関係
７．　推定の及ばない子
８．　親子関係不存在確認請求と権利濫用
９．　代理出産と母子関係
１０．子の命名権
１１．面会交流権
１２．成年に達した子に対する扶養義務
１３．熟慮期間の起算点
１４．生命保険金請求権の相続財産性
１５．高齢者の遺言能力

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J74107A01
科目名	【院】経済法Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Law A		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
授業概要	市場経済が期待される機能を適切に発揮するには、市場における企業間の「公正かつ自由な競争」が前提となる。そのために、独占禁止法が、市場における競争を制限するカルテルなどを禁止している。競争に悪影響を及ぼす行為には様々なものがあるが、カルテルがその典型である。 本講義では、カルテルの様々な形態を理解し、なぜカルテルが行われるのか、カルテルを規制するにはどのようにすればよいのか、カルテルが独占禁止法違反かどうかを判断する際に必要な、基本概念について学ぶ。		
教材（教科書）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法　（第４版)』（有斐閣、2014 年） ・その他、講義レジュメ及び資料を配布する。		
教材（参考資料）	主な参考文献 ・金井貴嗣・泉水文雄・武田邦宣編　『経済法判例・審決百選[第２版]』（ジュリスト増刊)(有斐閣、2017 年） ・鈴木孝之・河谷清文　『事例で学ぶ　独占禁止法』 ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』（有斐閣、2010 年） ・根岸哲・舟田正之『独占禁止法概説[第５版]』（有斐閣、2015 年） *その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	講義法で行う。各回の講義の冒頭に、その回の目標の確認と、前回の授業内容について、受講生の理解を確認し、必要に応じて補足説明を行う。		
評価方法	平常点（発言、授業内レポートなど）４０％ 学期末レポート６０％		
到達目標	カルテルの形態や仕組みについて理解し、独占禁止法の観点から分析できるようになる。		
授業時間外学習	以下を読んで、授業で指示された課題に取り組む。 （各回の学習推定時間は３０分～２時間） 第１回　　教科書２１～２２頁 第２回　教科書２２～２７頁 第３回　教科書８９～９４頁 第４回　教科書９４頁と配布資料 第５回　教科書９５～９６、３８～４１、５２～６１頁 第６回　教科書９６～１０５頁と配布資料 第７回　教科書１０６～１１０頁と配布資料 第８回　教科書１１１～１２３頁 第９回　教科書１２７～１３１頁と配布資料 第１０回　教科書２８７～２９４、３４３～３４２頁 第１１回　教科書２９５～２９９頁と配布資料 第１２回　教科書２９９～３０２頁と配布資料 第１３回　教科書３０、１３１～１３８頁 第１４回　教科書３０～３１頁と配布資料 第１５回　配布資料		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			

企業活動一般への関心と基礎知識を持っていること。 授業以外の予復習に十分な時間を確保すること。
授業スケジュール
1　 オリエンテーション・独占禁止法の目的 2　 独占禁止法の全体像 3　カルテルの仕組みと形態 4　入札談合 5　カルテル規制の全体像 6　カルテルの当事者（社会保険庁シール談合事件） 7　意思の連絡（東芝ケミカル事件） 8　競争の実質的制限 9　行政指導とカルテル（石油カルテル事件） １０　事業者団体（１）（大阪バス協会事件） １１　事業者団体（２）（観音寺市医師会事件） １２　事業者団体（３）（デジコン電子事件） １３　エンフォースメント（１）（排除措置命令・課徴金納付命令） １４　エンフォースメント（２）（損害賠償請求・刑事罰） １５　カルテル規制の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J74107B01
科目名	【院】経済法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Law B		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
授業概要	グローバル経済においては、企業結合が活発に行われている。経済活動のルールを定める独占禁止法は、「公正かつ自由な競争」を維持・促進するため、カルテルなど、市場における競争に悪影響を及ぼす行為を禁止するだけでなく、市場構造に影響を与える企業結合も規制している。しかし、企業結合規制の場合、企業結合が競争を促進する可能性と競争を制限する可能生徒を慎重に判断する必要がある。 本講義では、企業結合の目的及び態様を理解したうえで、独占禁止法の企業結合規制について検討する。		
教材（教科書）	受講生の独占禁止法の学習歴等に応じて、最初の授業で決定する。		
教材（参考資料）	主な参考文献 ・金井貴嗣・泉水文雄・武田邦宣編 『経済法判例・審決百選[第２版]』（ジュリスト増刊)(有斐閣、2017年） ・鈴木孝之・河谷清文　『事例で学ぶ　独占禁止法』 ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』（有斐閣、2010 年） ・根岸哲・舟田正之『独占禁止法概説[第５版]』（有斐閣、2015 年） ・公正取引委員会「企業結合審査に関する独占禁止法の運用指針」 *その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	毎回レジュメ等を配布する。		
評価方法	平常点（発言、授業内レポートなど）４０％ 学期末レポート６０％		
到達目標	企業結合が市場における競争に及ぼす影響を理解し、独占禁止法の視点から、企業結合を分析できるようになる。		
授業時間外学習	第１回　教科書１～２２頁を読んでくること。 それ以外の回については、授業終了時に配布する資料と教科書の指示された箇所を読んでおくこと。 授業では、予習復習をしていることを前提に、受講者に質疑を行う。 （各回の学習推定時間　１時間３０分）		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
企業活動全般への関心と基礎知識を持っていること。 授業以外の予復習に十分な時間を確保すること。			
授業スケジュール			
１　オリエンテーション　　独占禁止法の目的 ２　独占禁止法の全体像 ３　企業結合の態様と目的 ４　企業結合規制の構造 ５　市場画定（１） ６　市場画定（２） ７　東宝・スバル事件 ８　競争制限効果の判定（１） ９　競争制限効果の判定（２） １０　企業結合事例（阪急・阪神） １１　企業結合事例（新日本製鉄・住友金属工業 １２　企業結合事例（Westinghouse・原子燃料工業） １３　企業結合規制の手続き			

１４　一般集中規制

１５　企業結合規制の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J74108A01
科目名	【院】国際法Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law A		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
授業概要	この授業は、下記の国際法の標準的な教科書を精読し、国際法の基本的性質や機能を理解することを主な目的とする。可能であれば他の教科書との比較検討も行いたい。		
教材（教科書）	杉原高嶺ほか『現代国際法講義［第５版］』（有斐閣、２０１２年）		
教材（参考資料）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第３版］』（東信堂、２０１６年） 杉原高嶺『国際法学講義［第２版］』（有斐閣、２０１３年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 薬師寺公夫ほか編『ベーシック条約集』（東信堂） 岩沢雄司編集代表『国際条約集』（有斐閣） 位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する。		
教育方法	受講生は、担当教員から出された論点を中心に担当部分のレジュメを作成し、報告を行う。そして、受講生の報告を踏まえて、全員で内容を検討する。		
評価方法	発言状況、予習状況など（70%）、レポート（30%）。 詳細は初回の授業で説明する。		
到達目標	１．国際社会や国際法の独自の基本的性質について説明できるようになる。 ２．国際法の基本的な専門用語を使えるようになる。 ３．詳細なレジュメを作成し、効率的に報告することができるようになる。		
授業時間外学習	講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、教科書を事前に必ず熟読してくること。 １．シラバス ２．「第１章　国際法の基本構造」 ３．「第２章　国家の成立と変動」 ４．「第３章　国家の基本的権利義務と管轄権」 ５．「第４章　国家領域」 ６．「第５章　海洋法」 ７．「第６章　国際化地域と空域の利用」 ８．「第７章　国際関係における国家機関」 ９．「第８章　国際法における個人」 １０．「第９章　国際機構」 １１．「第１０章　条約法」 １２．「第１１章　国家責任」 １３．「第１２章　環境の国際的保護」 １４．「第１３章　紛争の平和的解決」 １５．「第１４章　武力行使の規制」		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
1．積極的な参加を希望する。 2．無断欠席はしないこと。
授業スケジュール
1．履修ガイダンス 2．「第１章　国際法の基本構造」 3．「第２章　国家の成立と変動」 4．「第３章　国家の基本的権利義務と管轄権」 5．「第４章　国家領域」 6．「第５章　海洋法」 7．「第６章　国際化地域と空域の利用」 8．「第７章　国際関係における国家機関」 9．「第８章　国際法における個人」 １０．「第９章　国際機構」 １１．「第１０章　条約法」 １２．「第１１章　国家責任」 １３．「第１２章　環境の国際的保護」 １４．「第１３章　紛争の平和的解決」 １５．「第１４章　武力行使の規制」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J74108B01
科目名	【院】国際法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law B		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
授業概要	この授業では、国際法の各分野の代表的な判例検討を通じて、国際法が実際の紛争においてどのように適用され、どのように機能しているかを検討する。国際法の判例検討を通じて、国内裁判は異なる国際裁判の仕組みや国際法の役割について学ぶことが目的となる。		
教材（教科書）	小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト２０４号、２０１１年）		
教材（参考資料）	【教科書】 杉原高嶺『国際法学講義［第２版］』（有斐閣、２０１３年） 杉原高嶺ほか編『現代国際法講義［第５版］』（有斐閣、２０１２年） 浅田正彦編『国際法［第３版］』（東信堂、２０１６年） 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 薬師寺公夫ほか編『ベーシック条約集』（東信堂） 岩沢雄司編集代表『国際条約集』（有斐閣） 位田隆一・最上敏樹『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 松井芳郎編『ハンディ条約集』（東信堂、２００９年） 【判例集】 杉原高嶺・酒井啓亘編『国際法基本判例５０［第２版］』（三省堂、２０１４年） 松井芳郎編『判例国際法〔第２版〕』（東信堂、２００６年） ＊その他のものについては講義で適宜紹介する		
教育方法	受講生は、担当判例について適切に紹介したレジュメを作成し、報告を行う。受講生の報告を踏まえ、判決の意義や問題点などについて全員で検討する。		
評価方法	発言状況、予習状況など（70%）、レポート（30%）。 詳細は初回の授業で説明する。		
到達目標	１．判決の事案や判旨などを適切に紹介したレジュメを作成し、効率的な報告ができるようになる。 ２．判決の意義や問題点について自ら考えることができるようになる。 ３．国内裁判とは異なる国際裁判の特徴について説明できるようになる。		
授業時間外学習	講義が終了する際に次回の講義内容と予習範囲を指定するので、予習判例は事前に必ず熟読してくること。 １．シラバス ２．国際法における国家 ３．国家管轄権（１） ４．国家管轄権（２） ５．国家領域（１） ６．国家領域（２） ７．国際機構 ８．国際法における個人（１） ９．国際法における個人（２） １０．国際法における個人（３） １１．条約 １２．平和と安全の維持（１） １３．平和と安全の維持（２）		

	１４．国際経済活動 １５．環境の国際的保護

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
１．積極的に参加すること。 ２．無断欠席はしないこと。
授業スケジュール
１．履修ガイダンス ２．国際法における国家 ３．国家管轄権（１） ４．国家管轄権（２） ５．国家領域（１） ６．国家領域（２） ７．国際機構 ８．国際法における個人（１） ９．国際法における個人（２） １０．国際法における個人（３） １１．条約 １２．平和と安全の維持（１） １３．平和と安全の維持（２） １４．国際経済活動 １５．環境の国際的保護

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J74109A01
科目名	【院】独語文献研究A	単位数	2
科目名（英語表記）	German Document Research A		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	わが国の民法は、ドイツ民法から大きな影響を受けており、ドイツ民法を学ぶことは、わが国の民法を学ぶ上でも有用である。比較的読みやすい Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読み、ドイツ語能力を向上させ、また民法の基礎的知識を身につけることを目的とする。		
教材（教科書）	必要なものは配布する。		
教材（参考資料）	山田晟『ドイツ法律用語辞典』（大学書林） ベルンド・ゲッツェ『独和法律用語辞典』（成文堂） 中島 悠爾、朝倉 巧、平尾 浩三『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）		
教育方法	受講生が順番に翻訳したものを発表することにより進める。		
評価方法	講義における取組み具合（真剣度、翻訳の精度）により評価する（100%）。		
到達目標	・ドイツ語を楽しんで読むことができる。 ・英語ばかりが重視される世の中でドイツ語の重要性も理解できる。 ・ドイツ民法の内容についての知識を得る。 ・基本的用語（意思表示分野）の翻訳ができる。		
授業時間外学習	・下記部分を事前に翻訳する。 (1) "§4 Vertrag, Willenserklaerung und Rechtsgeschaeft"中の "Faelle"及び"I. Vertrag 1. Bedeutung " (2) 同 "2. Vertragsfreiheit" (3) 同 "3. Begriff" (4) 同 "II. Willenserklaerung 1. Begriff" (5) 同上 (6) 同上 (7) 同上 (8) 同 "2. Arten" (9) 同 "3. Abgrenzung" (10) 同 "III. Rechtsgeschaeft 1. Begriff" (11) 同 "2. Arten" (12) "§5 Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte, kausale und abstrakte Geschaefte" 中の"Faelle" (13) 同 "I. Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte 1. Verpflichtungsgeschaefte" (14) 同 ”2. Verfuegungsgeschaefte” (15) これまで訳したものをすべて見直し、全体を理解する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・民法総則の知識があることが望ましい。 ・担当部分については、責任を持って訳出してくること。 ・自らの担当部分は翻訳をプリントして持参すること。			
授業スケジュール			
Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読む。 受講者のドイツ語能力に大きく作用されるため、進度は不明であるが、第2章法律行為から読み進めることにする。			

各回 1 頁程度進めるのが理想である。それを前提にすれば、各回の内容は以下の通りである。

(1) ガイダンス・担当順の確定等
(2) "§4 Vertrag, Willenserklaerung und Rechtsgeschaeft"中の
"Faelle"及び"I. Vertrag 1. Bedeutung "
(3) 同 "2. Vertragsfreiheit"
(4) 同 "3. Begriff"
(5) 同 "II. Willenserklaerung 1. Begriff"
(6) 同上
(7) 同上
(8) 同上
(9) 同 "2. Arten"
(10) 同 "3. Abgrenzung"
(11) 同 "III. Rechtsgeschaeft 1. Begriff"
(12) 同 "2. Arten"
(13) "§5 Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte, kausale und abstrakte Geschaefte" 中の"Faelle"
(14) 同 "I. Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte 1. Verpflichtungsgeschaefte"
(15) 同 ”2. Verfuegungsgeschaefte”

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	−

年度	2018	授業コード	J74109B01
科目名	【院】独語文献研究B	単位数	2
科目名（英語表記）	German Document Research B		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	わが国の民法は、ドイツ民法から大きな影響を受けており、ドイツ民法を学ぶことは、わが国の民法を学ぶ上でも有用である。独語文献研究 A に引き続き Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読み、ドイツ語能力を向上させ、また民法の基礎的知識をさらに身につけることを目的とする。		
教材（教科書）	必要なものは配布する。		
教材（参考資料）	山田晟『ドイツ法律用語辞典』（大学書林） ベルンド・ゲッツェ『独和法律用語辞典』（成文堂） 中島 悠爾、朝倉 巧、平尾 浩三『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）		
教育方法	受講生が順番に翻訳したものを発表することにより進める。		
評価方法	講義における取組み具合（真剣度、翻訳の精度）により評価する（100%）。		
到達目標	・ドイツ語を楽しんで読むことができる。 ・英語ばかりが重視される世の中でドイツ語の重要性も理解できる。 ・ドイツ民法の内容についての知識を得る。 ・基本的用語（法律行為分野）の翻訳ができるようになる。		
授業時間外学習	・全員下記部分について自ら翻訳する。 (1)"§5 Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte, kausale und abstrakte Geschaefte"中の "I. Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte 3. Unterschiede" (2)　同　”II. Kausale und abstrakte Geschaefte　1. Einfuehrung” (3)　同　"2. Kausale Geschaefte" (4)　同　"3. Abstrakte Geschaefte" (5)　同　"III. Abstraktionsgrundsatz　1. Bedeutung" (6)　同　"2. Auswirkungen" (7)　同　"3. Gesezgeberischer Grund" (8)　同　"4. Nachteile des Abstraktionsprinyips" (9)　同上 (10)"§6 Die Auslegung des Rechtsgeschaefts"　Faelle (11) 同　"I. Einfache Auslegung　1. Ziel, Weg und Bedeutung" (12)　同上 (13) 同　"2. Auslegungsmethode" (14)　同上 (15)これまで訳したものをすべて見直し、全体を理解する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・民法総則の知識があることが望ましい。
・担当部分については、責任を持って訳出してくること。
・自らの担当部分は翻訳をプリントして持参すること。

授業スケジュール

Brox/Walker, Allgemeiner Teil des BGB を読む。

本講義では「独語文献研究 A」の続きを読むことにする。当然受講者の習得具合にあわせるが、できる限り各回 1 頁ずつ読み進めることを目標とする。それを前提として各回の内容は主に次の通りである。

(1) ガイダンス／報告順の決定等
(2)"§5 Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte, kausale und abstrakte Geschaefte"中の

"I. Verpflichtungs- und Verfuegungsgeschaefte 3. Unterschiede"
(3) 同 "II. Kausale und abstrakte Geschaefte 1. Einfuehrung"
(4) 同 "2. Kausale Geschaefte"
(5) 同 "3. Abstrakte Geschaefte"
(6) 同 "III. Abstraktionsgrundsatz 1. Bedeutung"
(7) 同 "2. Auswirkungen"
(8) 同 "3. Gesezgeberischer Grund"
(9) 同 "4. Nachteile des Abstraktionsprinyips"
(10) 同上
(11)"§6 Die Auslegung des Rechtsgeschaefts" Faelle
(12) 同 "I. Einfache Auslegung 1. Ziel, Weg und Bedeutung"
(13) 同上
(14) 同 "2. Auslegungsmethode"
(15) 同上

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	−

年度	2018	授業コード	J74111001
科目名	【院】担保物権法	単位数	2
科目名（英語表記）	Collateral Right Method		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	・債権を担保するために設定される物権（担保物権）についての講義である。基本的には、市民および企業が資金調達する際に一般に用いられる抵当権および譲渡担保についての知識を得ることを目的とする。		
教材（教科書）	田高寛貴、白石大、鳥山泰志『担保物権法』（日本評論社）		
教材（参考資料）	●入門書 ・渡邊博己編『ユーリカ民法 2 物権・担保物権』（法律文化社）【18 年 4 月刊行予定】 ●基本書 道垣内弘人『担保物権法』（有斐閣） 平野裕之『担保物権法』（日本評論社） 松岡久和『担保物権法』（日本評論社）		
教育方法	通常受講者は、法学未修者であることから、基本的には教科書の輪読と記述内容に対する質疑を行う形で進めることとする。ただし、各自一度は、関連判例の報告を求める。		
評価方法	発言状況や理解度確認の成績による平常点（20%）と、個別報告の内容（80%）によって評価する。		
到達目標	・抵当権の基本を説明できる。 ・譲渡担保の必要性を説明できる。		
授業時間外学習	教科書・参考文献欄に掲げた文献の 1 冊を選び、各回のテーマにつき、事前に内容を一読しておくこと。 1. 担保物権法序説 2. 抵当権 1…抵当権の意義 3. 抵当権 2…抵当権の設定と効力の及ぶ範囲 4. 抵当権 3…抵当権侵害 5. 抵当権 4…物上代位 6. 抵当権 5…優先弁済権の実現 7. 抵当権 6…利用権との関係 8. 抵当権 7…第三取得者との関係 9. 非典型担保序説 10. 譲渡担保 1…法的構成…効力の及ぶ範囲等 11. 譲渡担保 2…対外的効力 12. 所有権留保 13. 債権担保…債権譲渡担保・代理受領・振込指定 14. 質権 15. 法定担保…先取特権、留置権		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
主体的に参加し、報告する場合には責任を持って行うこと。
授業スケジュール
1. 担保物権法序説 2. 抵当権 1…抵当権の意義 3. 抵当権 2…抵当権の設定と効力の及ぶ範囲 4. 抵当権 3…抵当権侵害 5. 抵当権 4…物上代位 6. 抵当権 5…優先弁済権の実現 7. 抵当権 6…利用権との関係 8. 抵当権 7…第三取得者との関係 9. 非典型担保序説

10. 譲渡担保１…法的構成…効力の及ぶ範囲等
11. 譲渡担保２…対外的効力
12. 所有権留保
13. 債権担保…債権譲渡担保・代理受領・振込指定
14. 質権
15. 法定担保…先取特権、留置権

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J74112001
科目名	【院】債権総論	単位数	2
科目名（英語表記）	Claim Introduction		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	民法典の第 3 編「債権」中、第 1 章「総則」の内容を取り上げる。ここで民法は、発生した債権とは、どのような内容のもので、どのような効力があり、どのようにして消滅していくのか、また、当事者が複数である場合や発生した債権を譲渡する場合はどうなるのかを規律している。どうしても内容が抽象的であるが、起業において重要な資金調達手段として用いられる債権譲渡や、銀行で融資を受ける場合には用いられる保証も本講義の対象である。金を払えと言う場合、言われる場合に関する法律関係を理解できるようになるのが目的である。 ※この分野は近時大きく改正され、2020 年 4 月 1 日より施行予定である。そこで、現行法とは異なる部分もあるが、新法の内容で講義する。		
教材（教科書）	・池田 真朗『スタートライン債権法 第 6 版』（日本評論社） ・『デイリー六法』（三省堂）または『ポケット六法』（有斐閣）のいずれか ※講義に必携。もちろん予習復習に用いる。		
教材（参考資料）	●分からない言葉があるとき ・中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007） ●教科書と読み比べるとき ・池田 真朗『スタートライン債権法 第 6 版』（日本評論社） ・平野 裕之『コア・テキスト 民法〈4〉債権総論（ライブラリ民法コア・テキスト)』（新世社） ●基本書 ・平野 裕之『債権総論』（日本評論社） ●辞書的存在 ・潮見 佳男『新債権総論 1(法律学の森)』（信山社） ・潮見 佳男『新債権総論 2(法律学の森)』（信山社）		
教育方法	・法学未修者が大判であるために原則として、スライドを用いて講義する。重要語句を中心に空欄を作成したスライド（レジュメ）を受講生に配布する。 ・上述の講義をベースにしながらも、講義内容に関連する判例の報告を 1 度は行ってもらう。		
評価方法	発言状況や理解度確認の成績による平常点（20%）と、個別報告の内容（80%）によって評価する。		
到達目標	・発生した債権の消滅事由を説明することができる。 ・債務不履行に基づく損害賠償について理解する。 ・世の中で利用される保証制度について理解する。 ・債権譲渡の仕組みを理解し、説明できる。 ・債権の対外的効力について理解する。 ・特定のテーマについて体系的・論理的に検討することができる。		
授業時間外学習	教科書・参考文献欄に掲げた文献の 1 冊を選び、各回のテーマにつき、事前に内容を一読しておくこと。 第 1 回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類 1（特定物債権） 第 2 回　債権の目的と種類 2（特定物債権種類債権～利率・利息制限・選択債権） 第 3 回　債権の消滅 1（消滅の意義・弁済） 第 4 回　債権の消滅 2（代物弁済、供託、相殺） 第 5 回　当事者の交替 1（債権譲渡） 第 6 回　当事者の交替 2（債権譲渡 2、債務引受） 第 7 回　債務不履行 1（債務の本旨に従わざる履行、債務者の帰責事由） 第 8 回　債務不履行 2（履行の強制、416 条の理解)、損害賠償、受領遅滞		

	第 9 回　多数当事者の債権関係 1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務） 第 10 回　多数当事者の債権関係 2（連帯債務） 第 11 回　多数当事者の債権関係 3（連帯債務 2） 第 12 回　多数当事者の債権関係 4（保証債務） 第 13 回　多数当事者の債権関係 5（連帯保証債務、共同保証、根保証） 第 14 回　債権の対外的効力 1（債権者代位権） 第 15 回　債権の対外的効力 2（詐害行為取消権）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

主体的に参加し、報告する場合には責任を持って行うこと。

授業スケジュール

第 1 回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類 1（特定物債権）
第 2 回　債権の目的と種類 2（特定物債権種類債権～利率・利息制限・選択債権）
第 3 回　債権の消滅 1（消滅の意義・弁済）
第 4 回　債権の消滅 2（代物弁済、供託、相殺）
第 5 回　当事者の交替 1（債権譲渡）
第 6 回　当事者の交替 2（債権譲渡 2、債務引受）
第 7 回　債務不履行 1（債務の本旨に従わざる履行、債務者の帰責事由）
第 8 回　債務不履行 2（履行の強制、416 条の理解）、損害賠償、受領遅滞
第 9 回　多数当事者の債権関係 1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務）
第 10 回　多数当事者の債権関係 2（連帯債務）
第 11 回　多数当事者の債権関係 3（連帯債務 2）
第 12 回　多数当事者の債権関係 4（保証債務）
第 13 回　多数当事者の債権関係 5（連帯保証債務、共同保証、根保証）
第 14 回　債権の対外的効力 1（債権者代位権）
第 15 回　債権の対外的効力 2（詐害行為取消権）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	−

年度	2018	授業コード	J74113001
科目名	【院】契約法	単位数	2
科目名（英語表記）	Contract Method		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	重要判例を素材にして、関連判例や学説のほか、実務動向も視野に入れ、種々の角度から議論をして、各論点の理解を深めていく。 これによって、院生は、契約法の主要な論点について、実践的な知識を身につけることができる。 ロースクールにおける講義方法をイメージしながら、個別判例を素材にして、双方向的に検討を進める。		
教材（教科書）	民法判例百選Ⅱ債権［第７版］		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	受講者のレポートに基づき、教員と受講者の間で議論しながら進めていく。		
評価方法	個別報告（50%）・レポート（50%）によって評価する。		
到達目標	院生は、民法の中の「契約法」分野における主要な制度について、判例に基づいて説明することができる。また、紛争当事者の立場から、具体的問題について議論することができる。		
授業時間外学習	１　最三小判平成９年７月１日民集 51 巻６号 2452 頁(民法判例百選Ⅱ債権（第７版）[以下、『百選』という。]45 事件)を読み、X らの主張、Y 社らの主張のいずれが認められるか、検討しなさい。 ２　最三小判昭和 36 年 11 月 21 日民集 15 巻 10 号 2507 頁(百選 46 事件)を読み、X の請求は認められるか、検討しなさい。 ３　最三小判平成８年 11 月 12 日民集 50 巻 10 号 2673 頁(百選 47 事件)を読み、X らの請求は認められるか、検討しなさい。 ４　最大判昭和 40 年 11 月 24 日民集 19 巻８号 2019 頁(百選 49 事件)を読み、X の請求は認められるか、検討しなさい。 ５　最二小判昭和 51 年２月 13 日民集 30 巻１号１頁(百選 50 事件)を読み、事案の内容を整理し、X の主張は認められるか、検討しなさい。 ６　最二小判昭和 36 年 12 月 15 日民集 15 巻 11 号 2852 頁(百選 53 事件)を読み、X の請求は認められるか、検討しなさい。 ７　最三小判平成３年４月２日民集 45 巻４号 349 頁(百選 54 事件)を読み、X の請求は認められるか、検討しなさい。 ８　最二小判平成 18 年１月 13 日民集 60 巻１号１頁(百選 57 事件)を読み、X 社の請求は認められるか、検討しなさい。 ９　最一小判昭和 58 年１月 20 日民集 37 巻１号１頁正当事由と建物賃借人の事情(百選 59 事件)を読み、X らの請求は認められるか、検討しなさい。 １０　最二小判平成８年 10 月 14 日民集 50 巻９号 2431 頁(百選 60 事件)を読み、原審判断について検討しなさい。 １１　最二小判昭和 53 年 12 月 22 日民集 32 巻９号 1768 頁(百選ｵｱ事件)を読み、X の請求は認められるか、検討しなさい。 １２　最三小判平成 15 年 10 月 21 日民集 57 巻９号 1213 頁(百選 66 事件)を読み、X 会社・Y 会社のいずれの請求が認められるか、検討しなさい。 １３　最三小判平成５年 10 月 19 日民集 47 巻８号 5061 頁(百選 67 事件)を読み、X の請求は認められるか、検討しなさい。 １４　最二小判平成８年４月 26 日民集 50 巻５号 1267 頁(百選 72 事件)を読み、本件預金債権 558 万 3030 円について、訴外 C の預金債権が有効に成立しているものといえるか、検討しなさい。 １５　最二小判平成 15 年２月 21 日民集 57 巻２号 95 頁(百選 73 事件)を読み、X の請求は認められるか、検討しなさい		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
・授業では、個別判例を素材にして、双方向的に検討を進めることとするので、予習を十分しておく。 ・契約法の教科書・概説書等まで触れる時間はないので、別途目を通しておく。
授業スケジュール
1　事情変更の原則の要件 2　付随的債務の不履行と解除 3　複数契約上の債務不履行と契約解除 4　手付と履行の着手 5　民法 561 条による解除と買主の使用利益の返還義務 6　不特定物の売買と瑕疵担保 7　敷地利用権付建物の売買と瑕疵担保 8　制限超過利息を任意に支払った場合と貸金業法 43 条 9　正当事由と建物賃借人の事情 10　信頼関係破壊の法理 11　土地賃貸借の移転と敷金の承継 12　サブリースと賃貸料減額請求 13　請負契約における所有権の帰属 14　誤振込金の返還請求と預金債権 15　預金債権の帰属

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	−

年度	2018	授業コード	J74114001
科目名	【院】不法行為法	単位数	2
科目名（英語表記）	Tort Law		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	院生は、重要判例を素材にして、関連判例や学説のほか、実務動向も視野に入れ、種々の角度から議論をして、各論点の理解を深めていく。 ロースクールにおける講義方法をイメージしながら、個別判例を素材にして、双方向的に検討を進める。		
教材（教科書）	民法判例百選Ⅱ債権［第７版］		
教材（参考資料）	・潮見佳男「基本講義 債権各論〈2〉不法行為法[]第２版増補版」（新世社・ライブラリ法学基本講義、2016年）		
教育方法	受講者のレポートに基づき、教員と受講者の間で議論しながら進めていく。		
評価方法	個別報告（50%）・レポート（50%）		
到達目標	・院生は、不法行為法の制度・目的、または基本概念について判例に基づいて説明することができる。 ・院生は、紛争当事者の立場から、具体的問題について議論することができる。		
授業時間外学習	１　最一小判平成 18 年 3 月 30 日民集 60 巻 3 号 948 頁(民法判例百選Ⅱ債権（第７版）[以下、『百選』という。]86 事件)を読み、本件訴訟の訴訟物および請求原因事実を明示しつつ、X らの請求の可否を検討しなさい。 ２　最三小判平成 9 年 9 月 9 日民集 51 巻 8 号 3804 頁(百選 87 事件)を読み、X の請求は認められるか、検討しなさい。 ３　大判大正 5 年 12 月 22 日民録 22 輯 2474 頁(百選 80 事件)を読み、Y 社の主張は認められるか、検討しなさい。 ４　最二小判昭和 50 年 10 月 24 日民集 29 巻 9 号 1417 頁(百選 84 事件)を読み、X らの請求は認められるか、検討しなさい。 ５　最二小判昭和 49 年 3 月 22 日民集 28 巻 2 号 347 頁(百選 89 事件)を読み、X の請求は認められるか、検討しなさい。 ６　最一小判昭和 42 年 11 月 2 日民集 21 巻 9 号 2278 頁(百選 90 事件)を読み、X の請求は認められるか、検討しなさい。 ７　大阪地判平成 7 年 7 月 5 日判時 1538 号 17 頁(百選 92 事件)を読み、他の公害事件と比較して、本判決の特徴を検討しなさい。 ＊〔①〕四日市公害訴訟（津地四日市支判昭和 47 年 7 月 24 日判時 672 号 30 頁・判タ 280 号 100 頁)、〔②〕国道 43 号線訴訟（最（2 小）判平成 7 年 7 月 7 日〔1〕平成 4 年（オ）第 1503 号……民集 49 巻 7 号 1870 頁・〔2〕第 1504 号……2599 頁。〔③〕千葉川鉄公害訴訟（千葉地判昭和 63 年 11 月 17 日判時臨増平成元年 8 月 5 日号 161 頁・判タ 689 号 40 頁）など ８　最二小判昭和 63 年 7 月 1 日民集 42 巻 6 号 451 頁(百選 93 事件)を読み、X の請求は認められるか、検討しなさい。 ９　最二小判昭和 62 年 1 月 19 日民集 41 巻 1 号 1 頁(百選 98 事件)を読み、X らの請求は認められるか、検討しなさい。 １０　最三小判平成 9 年 5 月 27 日民集 51 巻 5 号 2024 頁(百選 88 事件)を読み、X の請求は認められるか、検討しなさい。 １１　最大判昭和 39 年 6 月 24 日民集 18 巻 5 号 854 頁(百選 100 事件)を読み、X らの請求は認められるか、検討しなさい。 １２　最三小判平成 8 年 10 月 29 日民集 50 巻 9 号 2474 頁(百選 101 事件)を読み、X の請求は認められるか、検討しなさい。 １３　最二小判昭和 48 年 11 月 16 日民集 27 巻 10 号 1374 頁(百選 103 事件)を読み、X の請求は認められるか、検討しなさい。 １４　最三小判平成 16 年 4 月 27 日民集 58 巻 4 号 1032 頁(百選 104 事件)を読み、X らの請求は認めら		

	れるか、検討しなさい。 １５　最二小判平成 7 年 7 月 7 日民集 49 巻 7 号 2599 頁(百選 105 事件)を読み、X らの請求は認められるか、検討しなさい。

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・授業では、個別判例を素材にして、双方向的に検討を進めることとするので、予習を十分しておく。
・不法行為法の教科書・概説書等まで触れる時間はないので、別途目を通しておく。

授業スケジュール

1　景観利益
2　意見ないし論評の表明と名誉毀損
3　過失の意義
4　因果関係の立証
5　未成年者と監督義務者の責任
6　取引先の外観信頼
7　共同不法行為の要件
8　共同不法行為と使用者責任の競合と求償
9　年少女子の逸失利益と家事労働分の加算
１０　名誉毀損による損害
１１　過失相殺の要件
１２　過失相殺と身体的特徴の斟酌
１３　民法 724 条の消滅時効の起算点
１４　民法 724 条後段の除斥期間の起算点
１５　差止請求

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	–	–

年度	2018	授業コード	J74115001
科目名	【院】法情報処理	単位数	2
科目名（英語表記）	Law Information Processing		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
授業概要	法学部出身者ではない者が、法学の修士論文を作成するに際し必要となるスキルの習得を目指す。 具体的には、法律の基礎知識を確認するとともに論文の構成や引用方法を身につける必要がある。 そして、法的思考に慣れるために、民事分野及び刑事分野の判例を一つずつとりあげ、課題に沿って、内容の理解だけでなく、判例の一般的な論理構造を確認していく。その中で、実際に、判例や論文を検索する作業を行う。そして、論文の構成を理解した上で、レポートの作成を行う。		
教材（教科書）	京都学園大学法学会編『法学の扉[第３版]』（成文堂、2008 年） 初回の授業で配布する。 その他、プリントを配布する。		
教材（参考資料）	・道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に[第２版]』（弘文堂、2017 年） ・吉田利弘『元法制局キャリアが教える法律を読む技術・学ぶ技術[改訂版第３版]』(ダイヤモンド社、2016 年) その他は授業で適宜紹介する。		
教育方法	演習方式で行う。すなわち、グループワーク、報告が中心となる。		
評価方法	平常点（課題・報告・発言）５０％ レポート５０％		
到達目標	必要な法律分野の資料(判例・論文など）を収集できるようになる。 論文の構成を理解し、その構成に沿ったレポートを作成することができる。 判例の構成と判例評釈の一般的な手法を理解し、解読することができる。		
授業時間外学習	各講義の最後に指示する次の講義のための準備学習に取り組むこと。 （各回の学習推定時間は２時間） 第１回　参考文献１を読んで、重要な箇所に下線を引いてくる。 第２～４回　指示された教科書の課題 第５回　報告の準備 第６～１１回　指示された教科書の課題 第１２～１５回　レポート作成及び報告準備		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

十分な予習復習、レポート執筆のための時間の確保すること。
大学院生としての自覚。

授業スケジュール

第１部　導入
1　オリエンテーション
2　マクドナルド事件（１）
3　マクドナルド事件（２）
4　マクドナルド事件（３）
5　報告
第２部　判例を読む
6　刑事：安楽死（１）(東海大学付属病院事件)
7　刑事：安楽死（２）
8　刑事：安楽死（３）
9　民事：有責配偶者からの離婚請求（１）

１０　民事：有責配偶者からの離婚請求（２）
１１　民事：有責配偶者からの離婚請求（３）
第３部　レポート・報告
１２　レポート作成
１３　レポート作成・報告（１）
１４　レポート作成・報告（２）
１５　報告（３）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J75007A01
科目名	【院】コミュニケーション社会学特論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Sociology of Communi cation A		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
授業概要	コミュニケーションは社会の重要な構成要素であり、どんな社会現象もコミュニケーションなしには成立しない。講義では、社会をコミュニケーションという視点から分析するのに必要な理論を紹介し、これを適用しながら現代社会の理解に努める。 「コミュニケーション社会学特論 A」では、社会を理解する手段としてのコードの理論を理解し、その活用を試みる。G.H.ミードからエスノメソドロジーまでのアメリカ社会学のある潮流の源泉には C.S.パースの記号論がある。その影響は、社会学にとどまらず、多方面の文化研究や哲学的思考に影響を与えており、この点はソシュールの記号学についても同様である。講義では、これらの理論の基本的な考え方、社会学的思考とのかかわりについて論じる。		
教材（教科書）	なし。プリント教材を講義中に配付する（京学なびにも掲?する）。ビデオ教材を使?する。		
教材（参考資料）	各回のプリント教材の末尾に記載する。		
教育方法	可能であれば、教材をスクリーンに表?しながら講義形式で?なう。 毎回、講義に即したディスカッションのテーマを提示する。講義を聞いた後、テーマに従ってディスカッションを行なう。		
評価方法	ディスカッション参加の積極性などの平常点（50%）、レポート（50%）。		
到達目標	現代社会のコミュニケーション状況のうち、1 つのテーマについて社会学的に分析できる。 自らの研究対象の一部を講義で解説した諸理論を使って分析できる。		
授業時間外学習	各回の 3?前までに、京学なびにプリント教材を掲?するので、よく読んでおくこと。 マスメディア、SNS、直接的な体験を通して接した出来事、自らの研究テーマと、講義の内容との関連をふだんから考えておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義形式の授業ではあるが、受講生は毎回ディスカッションに参加しなければならない。積極的に参加すること。また、講義と並行して、自分の研究テーマを明確にする作業を進めること。			
授業スケジュール			
1. 講義概要、予備知識 2. コミュニケーションとコード 3. 記号論 4. 記号学(1) 5. 記号学(2) 6. メタ言語と対象言語 7. ダブルバインド 8. デノテーションとコノテーション(1) 9. デノテーションとコノテーション(2) 10. 語りと示し 11. ラベリング 12. 二元論(1) 13. 二元論(2) 14. 物語 15. 全体の復習と総合的な議論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J75011001
科目名	【院】コミュニティ・アプローチ特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Community Approach		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	臨床心理学の目的は対象とする人の援助であることを考えると、その人が面接室の心理臨床家の前にいる時間はほんのわずかであるので、それ以外の時間における援助についても思いを致すことになる。また、面接室での面接もそのことの影響を受けたり、援助全体をより広い視野で組み立て直す必要が出てきたりする。さらに、予防的観点から一般住民に働きかけるべき内容も臨床家は自らの内にもつことになり、社会のあり方についてもより深く考えるようになる。そのようなより広い視野をもち、その人や住民の生活する地域全体、いろんな専門家や非専門家に対してもアプローチしていこうとするのがコミュニティ心理学である。言い換えれば、ソーシャル・ワークの一部も含み込んだ臨床心理学であり、臨床実践を行っていくうえでの必要不可欠なアプローチである。本授業は公認心理師受験に必要な科目(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)である。担当者が長く現場で経験した児童福祉臨床業務における家族関係、集団やコミュニティに関するアプローチの実際を知ることから、受講者はそのような社会的視点の重要さを確認できる。		
教材（教科書）	とくに指定しない。必要に応じてプリント類を配布する。		
教材（参考資料）	植村・高畠・原・久田編著「よくわかるコミュニティ心理学」ミネルヴァ書房　2,592 円		
教育方法	授業資料にそって講義する。また、演習的部分も含まれる。		
評価方法	受講態度による平常点（５０％）。授業内の課題への取り組みについての評価点（５０％）。		
到達目標	対人援助についてより広い視野で検討し、実践に移すことのできるようなセンスを身につける。		
授業時間外学習	家族、集団、コミュニティに関する心理学の文献に目を通しておくのが望ましい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

対人援助に関する社会的取り組みは多く、よく報道もされているので、日頃から関心をもち情報収集に努めてほしい。

授業スケジュール

１．児童相談所でのコミュニティ・アプローチ
２．家族関係のアセスメント
３．家族関係への介入などの理論と方法
４．集団や組織への心理学的援助
５．学問分野としてのコミュニティ心理学(臨床心理学的地域援助)
６．家庭・地域・学校関連の事例①
７．同②
８．同③
９．医療・保健・福祉関連の事例①
１０．同②
１１．同③
１２．その他の事例
１３．地域の社会資源研究①
１４．同②
１５．同③

※上記の内容や順序については変更される場合がある。
コミュニティ・アプローチに関する見学や実習の機会がタイミングよくあれば、それに替える回もあり得る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75015A01
科目名	【院】ジェンダー社会学特論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Sociology of Gender A		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
授業概要	女と男の関係は、長い間、社会のなかで問われることのなく、自明視されてきた社会的側面の一つである。1970 年代以降、社会学において、男性・女性という身体的カテゴリーに囚われない、様々な社会関係や意味の研究が行われてきた。そ こには、「人間」という性別中立（性別不問）の分析では、女性だけでなく男性の経験も正確に捉えることはできないという認識がある。本講義では、女と男の関係がどのようにつくられ、個人や集団の経験に影響しているかを理解するために、主に日本とアメリカの基礎的な文献を読み、社会学や隣接分野で行われているこの種の議論を理解し、批判的思考力を養う。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する		
教材（参考資料）	授業中に指示する		
教育方法	講義および発表とディスカッション		
評価方法	平常点（出席と発表など）40%、期末レポート 60%		
到達目標	ジェンダー概念と社会的差異の構築を理解する		
授業時間外学習	議論に参加できるように指定文献を読んで出席すること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
履修が望ましい他の科目：ジェンダー論 ジェンダーをめぐる国内外の最新ニュースなど、常識や偏見にとらわれないで考えてみよう。			
授業スケジュール			
1. イントロダクション 2. 〜　4　差異の構築 5.〜 6. 「女はつくられる」 7.〜8．ジェンダー・スタディーズ、 9.「男もつくられる」 10.　セクシュアリティの構築 11　　本質主義と構築主義を越えて 12. 〜 14.　ジェンダー研究の系譜 15.　　ジェンダー研究の現在			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J75037A01
科目名	【院】マルチメディア特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Multi-media Society A		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
授業概要	人間を拡張すると同時に人間を社会的に枠づける役割を果たす「メディア（media)」に関しての基礎的な文献購読を基に、メディアと社会の関係を歴史的に省察し、今日のメディアと社会の関係について考えていく。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	プリント、映像教材他。		
評価方法	総合的に評価。		
到達目標	メディアと社会を自分の視点で考える。		
授業時間外学習	自分のまわりにあるさまざまなメディアについて、真摯に対峙する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主体的に参加することを望む。			
授業スケジュール			
基礎文献購読／個人発表。 01　オリエンテーション 02　文献講読 01 03　文献講読 02 04　文献講読 03 05　文献講読 04 06　文献講読 05 07　文献講読 06 08　文献講読 07 09　文献講読 08 10　文献講読 09 11　文献講読 10 12　文献講読 11 13　文献講読 12 14　個人発表 01 15　個人発表 02			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J75051A01
科目名	【院】広告広報特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Advertising and Publ ic Relations A		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
授業概要	企業や組織のマーケティング、広告活動、広告産業の実際などについての文献を講読し、またさまざまな広告キャンペーンやクリエイターの作品の分析などにもとづき、PR 活動や戦略的なコミュニケーション活動、そこでのクリエイティブ（広告表現）の展開について考察を行う。		
教材（教科書）	受講生の関心などもふまえ、講義中に指示する。		
教材（参考資料）	講義中に適宜紹介する。		
教育方法	いくつかの候補のなかから受講生の関心に沿った文献資料を選び、講読・発表を中心に進める。テーマに沿った映像や活字資料を適宜用意する。		
評価方法	平常点（40%）：授業での発表 試験：期末レポート（６０%）		
到達目標	組織のコミュニケーション活動、PR 活動、広告展開について、理論や実際をリアルに学習した上で、その必要性と問題性を認識し、送り手・受け手の双方の立場からの洞察を行えるようになること。		
授業時間外学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）日常生活で接するさまざまな広告表現について、オーディエンス（市民・消費者）、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
広告や広報は、どのような個人や組織も自らの活動への支持を形成し、その成就を果たすために不可欠な発想や行動である。どんな進路を考える者も幅広い視野でこのテーマをとらえ、参加してほしい。			
授業スケジュール			
＜講義予定＞ 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：テキスト講読・発表（1） 第 3 回：テキスト講読・発表（2） 第 4 回：テキスト講読・発表（3） 第 5 回：テキスト講読・発表（4） 第 6 回：テキスト講読・発表（5） 第 7 回：テキスト講読・発表（6） 第 8 回：テキスト講読・発表（7） 第 9 回：テキスト講読・発表（8） 第 10 回：テキスト講読・発表（9） 第 11 回：テキスト講読・発表（10） 第 12 回：テキスト講読・発表（11） 第 13 回：テキスト講読・発表（12） 第 14 回：テキスト講読・発表（13） 第 15 回：ふりかえり			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	–	–	★★	–

年度	2018	授業コード	J75059A01
科目名	【院】社会学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar in Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	【院】社会学研究演習 I
授業概要	「社会学研究演習」A・B・C・D を通じて、社会学の諸理論を研究し、それを基にして修士論文を執筆する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	授業時に指示する。		
教育方法	受講者のテーマに沿った研究内容の報告を受け、それについて全員で議論する。議論の結果、深まった内容を文章にまとめる。		
評価方法	研究発表（60%）とレポート・論文（40%）に依る。		
到達目標	修士論文を執筆する。		
授業時間外学習	1. 自分の研究テーマについて 400 字程度でまとめておく。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、ゼミの見通しを付けておくこと） 2. 配付資料 No.1「家族の歴史」 3. 配付資料 No.2「現代の家族」 4. 配付資料 No.3「地域社会・大都市」 5. 修士論文中間発表準備 1 6. 配付資料 No.4「教育」 7. 配付資料 No.5「学校教育」 8. 配付資料 No.6「日本の企業」 9. 配付資料 No.7「日本の企業の変化」 10. 修士論文中間発表準備 2 11. 配付資料 No.8「資本主義社会」 12. 配付資料 No.9「国家と政治」 13. 配付資料 No.10「国家と基本的人権」 14. 配付資料 No.11「メディアの特質」 15. 修士論文中間発表準備 3		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
積極的に研究に取り組むことを望む。			
授業スケジュール			
１．ガイダンス ２．家族の歴史 ３．現代の家族 ４．地域社会・大都市 ５．修士論文中間発表 1 ６．教育 ７．学校教育 ８．日本の企業 ９．日本の企業の変化 １０．修士論文中間発表 2 １１．資本主義社会 １２．国家と政治 １３．国家と基本的人権 １４．メディアの特質 １５．修士論文中間発表 3			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J75059B01
科目名	【院】社会学研究演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar in Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	【院】社会学研究演習 II
授業概要	「社会学研究演習」A・B・C・D を通じて、社会学の諸理論を研究し、それを基にして修士論文を執筆する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	授業時に指示する。		
教育方法	受講者のテーマに沿った研究内容の報告を受け、それについて全員で議論する。議論の結果、深まった内容を文章にまとめる。		
評価方法	研究発表（60%）とレポート・論文（40%）に依る。		
到達目標	修士論文を執筆する。		
授業時間外学習	1. 自分の研究テーマについて 1200 字程度でまとめておく。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、ゼミの見通しを付けておくこと） 2. 配付資料 No.1「社会の高齢化」 3. 配付資料 No.2「現代の高齢社会」 4. 配付資料 No.3「社会の情報化」 5. 修士論文中間発表準備 4 6. 配付資料 No.4「国際化と外国人」 7. 配付資料 No.5「日本社会の外国人」 8. 配付資料 No.6「社会の近代化」 9. 配付資料 No.7「近代化の負の側面」 10. 修士論文中間発表準備 5 11. 配付資料 No.8「現代社会の宗教」 12. 配付資料 No.9「社会の文明化」 13. 配付資料 No.10「弁明が社会に当てる影響」 14. 配付資料 No.11「学問と社会の関係」 １5. 修士論文中間発表準備 6		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
積極的に研究に取り組むことを望む。			
授業スケジュール			
１．ガイダンス ２．社会の高齢化 ３．現代の高齢社会 ４．社会の情報化 ５．修士論文中間発表 4 ６．国際化と外国人 ７．日本社会の外国人 ８．社会の近代化 ９．近代化の負の側面 １０．修士論文中間発表 5 １１．現代社会の宗教 １２．社会の文明化 １３．文明が社会に与える影響 １４．学問と社会の関係 １５．修士論文中間発表 6			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J75068B01
科目名	【院】社会心理学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Social Psychology B		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	【院】社会心理学特論Ⅰ
授業概要	Facebook や Twitter などのソーシャルネットワークは、今後の社会においてより重要な機能を果たすと考えられる。本講では、このソーシャルネットワークが社会及び対人関係におよぼす影響について検討する。関連する知識として、ネットワークの科学、ゲーミニフィケーション、集合知ついても触れる。受講生には実際にいくつかの SNS を使用していただいて、ディスカッションを深めたい。		
教材（教科書）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	平常点（40%）と、発表(30%)と最終レポート(30%)により評価する。		
到達目標	文献を読みこなして論考する力を養う。		
授業時間外学習	これまでに培った英語力を持続させておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業を中断させてもかまいませんので、積極的に疑問点や思いついたことを述べてください。			
授業スケジュール			
1～2. 集団極化現象 3～4. 集団の情報処理システム 5～6. 世論変動と普及過程 7～8. 社会的アイデンティティ 9~10. リーダーシップと集団間コンフリクト 12~13. インターネットと集合知 14～15. 討論と発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75071001
科目名	【院】障害児心理学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychology for Disab ility Children		
担当者名	清水　里美	旧科目名称	
授業概要	障害のある子ども、または障害の疑われる子どもの心理特性について、発達心理学および臨床心理学の立場から考察し,教育制度と関連づける。とりわけ、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習障害などいわゆる発達障害を中心に、さまざまな適応上の問題を抱える子どもの知的側面や情緒的側面に関する心理アセスメントおよび心理治療、発達支援について概説する。また、保護者支援における留意点や保育・学校現場に対するコンサルテーションのあり方についても、具体的な事例をまじえながら解説し、心理支援に関する幅広い理解を促す。		
教材（教科書）	とくに指定しない。各講義で印刷資料を配布する。		
教材（参考資料）	中瀬惇他編著『新版Ｋ式発達検査反応実例集』ナカニシヤ出版、生澤雅夫他編著『新版Ｋ式発達検査法』ナカニシヤ出版、ジェルソー他著、清水里美訳『カウンセリング心理学』ブレーン出版、佐藤泰正著『障害児の心理』学芸図書株式会社、柘植雅義・井上雅彦編著『発達障害の子を育てる家族への支援』金子書房、 その他授業中に適宜紹介する。		
教育方法	各回の授業内容に関連する視聴覚教材を活用する。また、予習として学生に授業に関連するテーマでの課題を与え、パワーポイントでの発表を求める。		
評価方法	平常点（２0%）授業内での発表、質問への応答など積極的な参加態度等による。授業中の課題（30%）　期末レポート（５0%）		
到達目標	発達心理学および臨床心理学の立場から障害のある子どもの心理特性や支援を考えるうえで必要とされる観点を理解し、福祉分野や教育分野における心理専門職としての実践力を身につけることを目標とする。		
授業時間外学習	障害児問題に関する世の中の動きを常に意識し、新聞などの記事およびテレビ番組などにも関心をもっておくこと。 各講義の中で、次の講義のための準備学習を適宜指示する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

障害児心理学について、広く関心をもって授業に臨んでほしい。
講義の中で、意見交換をしたり、体験したりする時間を設けるので、積極的な参加を望む。

授業スケジュール

1.子どもの発達過程：胎児期からの子どもの発達の様子を映像も用いながら解説する。
２．発達のアセスメント：乳幼児期から学童期にかけて発見される発達の問題とそのアセスメントの方法について解説する。
３．知的障害と肢体不自由：知的障害児と肢体不自由児の障害特性および心理アセスメントにおける留意点について概説する。
４．視覚・聴覚障害と言語障害：視覚・聴覚障害児と言語障害児の障害特性および心理アセスメントにおける留意点について概説する。
５．情緒障害と病弱・虚弱：情緒障害児と病弱・虚弱児の障害特性および心理アセスメントについて概説する。
６．発達障害その１：発達障害概念の変遷および最新の脳科学研究における知見について概説する。
７．発達障害その２：発達障害特性の最新のアセスメント方法と支援について概説する。
８．保護者への支援：障害のある子どもの保護者の心理と支援の実際について概説する。
９．障害児へのソーシャルサポートと特別支援教育：さまざまなソーシャルサポートや特別支援教育の現状について概説する。
１０．幼稚園保育園における支援：具体的な事例をもとに、幼稚園における支援の実際について概説する。
１１．小学校における支援：具体的な事例をもとに、小学校における支援の実際について概説する。
１２．中学校における支援：具体的な事例をもとに、中学校における支援の実際について概説する。
１３．高校・大学における支援：具体的な事例をもとに、高校・大学における支援の実際について概説する。
１４．就労支援：障害のある人への就労支援のあり方について概説する。
１５．展望と課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	–	★★	–

年度	2018	授業コード	J75078A01
科目名	【院】心理学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Psychology A		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
授業概要	社会心理学における発展的課題に各自で取り組む。社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索できるようになる。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	必要な教材は適宜授業中に配布する。		
教育方法	−		
評価方法	平常点（40%)と、発表(20%)、提出物(40%)により評価する。		
到達目標	実験計画的な思考と複雑系システムである人間社会を理解する視点を備えることが目的となる。		
授業時間外学習	学部時代の研究結果および、指示された文献を発表の日までに読んでレジュメを作成しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

簡単なところからでよいので、英語と IT 関連技術にリテラシーを持っておいてください

授業スケジュール

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　授業で使うアプリ・ツールの使い方
第 3 回　図書館ツアー　文献の探し方
第 4 回　卒業論文の発表
第 5 回　実験計画法　質問紙
第 6 回　実験計画法　観察と構造化面接
第 7 回　実験計画法　実験室実験
第 8 回　心理学倫理規定について
第 9 回　倫理規定委員会提出書類について
第 10 回　文献リスト・レジュメ作成方法
第 11 回　文献探索
第 12 回　文献発表
第 13 回　修論研究計画修正
第 14 回　修論計画プレゼンテーション
第 15 回　振り返り、夏休みの課題確認

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J75078B01
科目名	【院】心理学研究演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Psychology B		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
授業概要	社会心理学における発展的課題に各自で取り組む。社会神経科学の応用と実践を行う予定。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索できるようになる。		
教材（教科書）	必要な教材は適宜授業中に配布する。		
教材（参考資料）	必要な教材は適宜授業中に配布する。		
教育方法	各自の PC に必要なソフトを指示する。Google 共有ドライブを利用する予定		
評価方法	平常点（40%)と、発表(20%)、提出物(40%)により評価する。		
到達目標	将来に向けて必要なスキルと思考力を備えること		
授業時間外学習	実験に必要なスキルは、授業中にも指導しますが、できるだけ自己学習も継続させてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

英語と IT 関連技術にリテラシーを持っておいてください
各自、ノート PC の購入を勧める。必要に応じて大学に持参して貰う

授業スケジュール

第 1 回　予備実験データ収集について
第 2 回　予備実験データ分析　1
第 3 回　予備実験データ分析　2
第 4 回　予備実験結果報告
第 5 回　本実験計画見直し
第 6 回　本実験計画プレゼンテーション
第 7 回　本実験データ収集について
第 8 回　データスクリーニングの方法
第 9 回　データ解析の方法　1
第 10 回　データ解析の方法　2
第 11 回　実験結果プレゼンテーション＆ディスカッション　1
第 12 回　実験結果プレゼンテーション＆ディスカッション　3
第 13 回　ディスカッションに基づく追加実験・分析の計画
第 14 回　追加実験計画発表
第 15 回　振り返り、春休みの課題確認

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J75078C01
科目名	【院】心理学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Psychology C		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
授業概要	社会心理学における発展的課題に各自で取り組む。将来のために、少しずつ英語の文献を輪読し、データ解析、アクセス解析の実習をおこなう予定。社会心理学研究者に対して研究計画と結果をプレゼンテーションできるようになる。		
教材（教科書）	授業中に適宜指示する		
教材（参考資料）	必要な教材は適宜授業中に配布する。		
教育方法	各自の PC に必要なソフトを指示する。Google 共有ドライブを利用する予定		
評価方法	平常点（40%)と、Edomodo 書き込み内容(60%)を評価する。 発表は対面で行い、発表要旨を Edomodo にアップする。		
到達目標	将来に向けて必要なスキルと思考力を備えること		
授業時間外学習	実験に必要なスキルは、授業中にも指導しますが、できるだけ自己学習も継続させてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
簡単なところからでよいので、英語と IT 関連技術にリテラシーを持っておいてください			
授業スケジュール			
第 1 回　本実験・追加実験結果の検討 第 2 回　追加分析計画・実施 第 3 回　研究結果プレゼンテーション　1 第 4 回　研究結果プレゼンテーション　2 第 5 回　学会発表について 第 6 回　学会発表投稿原稿作成 第 7 回　学会投稿原稿発表 第 8 回　学会発表ポスター作成の方法 第 9 回　学会発表練習 第 10 回　中間報告会 第 11 回　データ分析・解釈の見直し・修正 第 12 回　修正結果プレゼンテーション 第 13 回　追加分析・修論執筆計画 第 14 回　追加文献探索 第 15 回　振り返り、夏休みの課題確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J75078D01
科目名	【院】心理学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Psychology D		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
授業概要	ここまでの研究結果を修士論文としてまとめ、発表を行う。社会心理学研究者に対して研究計画と結果をプレゼンテーションできるようになる。		
教材（教科書）	必要な文献・教材は授業中に適宜指示する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	修士論文発表により評価する		
到達目標	自己の研究結果を考察し、過去の研究に対して新しい知見を提示する		
授業時間外学習	論文執筆		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
授業スケジュール			
第１回　修論執筆計画確認・修正 第２回　追加文献発表 第３回　追加分析計画 第４回　文献リスト作成・提出 第５回　修論の書き方　序論 第６回　修論の書き方　方法と結果 第７回　修論の書き方　図表と資料 第８回　修論の書き方　考察と文献リスト 第９回　修論アウトラインの作成・提出 第１０回　修論ドラフトの作成・提出 第１１回　中間報告会２ 第１２回　ディスカッションおよび修正 第１３回　投稿論文の書き方・執筆要項 第１４回　英語投稿論文の書き方・執筆要項 第１５回　振り返り・フィードバック			

人間力（６つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75086001
科目名	【院】心理学研究法特論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychology Research Method A		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
授業概要	心理学研究のデザインについて，実験法や調査法等のデータ収集方法，独立変数と従属変数の設定，因果関係の検証可能性，などの視点から整理し理解する。また，そうした研究を進めるために必要な，各種の統計手法を学習する。 受講者各自のこれまでに行ってきた研究や現在進めている研究（学部卒業研究や修士研究など），興味を持っている研究などを可能な限り具体例として取り上げながら，実際の研究場面でのデザイン設定のポイント，適切な統計分析手法の選択と，データ解析結果の解釈の仕方，などを学習する。		
教材（教科書）	特定の教科書は使用しない。各自がこれまで統計学の学習に使用してきた教科書等を参照するとともに，必要に応じて他の文献を参照してほしい。 また，題材とする心理学論文は受講者と相談の上で授業の中で指定する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	演習形式で授業を進める。各回担当の受講生の発表を元に，他の受講生との討論と，講師からのコメントおよび解説を行う。		
評価方法	授業への出席および討論への参加状況等の平常点(50%)，および発表(50%)によって評価する。		
到達目標	心理学の研究計画を立てるために必要な基本概念を理解し，それによって研究計画を整理できる。 公刊されている研究論文で報告された結果を正しく読み取り，分析の適切性を評価することができる。 量的研究を行うための統計的方法の基礎を修得した上で，各自の修士研究に必要になると予定されるデータ解析の手法を自ら選択し，実際に用いて分析ができる。		
授業時間外学習	実際の研究論文を題材として授業を進めるので，各回の授業の材料となる論文に目を通してから授業に出席すること。さらに，発表担当の学生は十分な発表の準備をして授業に望むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

各自がこれまでに行った研究や現在興味をもっている先行研究などの具体例を積極的に提供し，主体的に学習を行うこと。
統計学の初歩的な内容について理解していることを前提として授業を進める。学部段階で統計学の学習をしていない者は，この授業と平行して統計学の入門的な内容を自習をすること。

授業スケジュール

1. 心理学研究法にかかわる基本的事項の整理
2. 推測統計の原理と必要性(1)
3. 推測統計の原理と必要性(2)
4. 実験操作を用いた研究デザインとその分析方法(1)
5. 実験操作を用いた研究デザインとその分析方法(2)
6. 相関研究とその分析方法(1)
7. 相関研究とその分析方法(2)
8. カテゴリカルデータの分析方法(1)
9. カテゴリカルデータの分析方法(2)
10. 測定の信頼性と妥当性(1)
11. 測定の信頼性と妥当性(2)
12. 探索的因子分析と関連手法(1)
13. 探索的因子分析と関連手法(2)
14 .その他の多変量解析(1)
15. その他の多変量解析(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J75087A01
科目名	【院】心理療法特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychotherapy A		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	【院】心理療法特論Ⅰ
授業概要	システム論的家族療法に関して、まず担当者のスタンスや経験、家族療法の基礎的事項について知る。次には模擬面接場面のビデオ視聴や文献購読、実習等によって間接的ではあっても家族療法の実際に触れることができる。実習は家族合同面接の実施、家族の特徴の見立て、自分の家族に関するもの等である。 家族療法は、とくに児童臨床の場合、子どもと子どもが育つ場の育成を考えるときに有用な視点であり方法である。またシステム論的家族療法の視点は、家族員間だけでなくセラピストとクライエントの関係等のシステムにも目を配らせてくれるので、他の療法を行なう場合にも役に立ち、さらに家族だけでなく、その上位システム（様々な社会的集団等）を扱う場合にも力を貸してくれるので、コミュニティ・アプローチの際にも有用である。		
教材（教科書）	川畑　隆著「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法－よりよい展開へのヒント」 明石書店　2,376 円　※初回の授業で割引販売するので事前購入する必要はない。また、必要に応じてプリント類を配布する。		
教材（参考資料）	川畑隆編著「子ども・家族支援に役立つアセスメントの技とコツ～よりよい臨床のための４つの視点、８つの流儀」 明石書店 宮井研治編著「子ども・家族支援に役立つ面接の技とコツ～＜仕掛ける・さぐる・引き出す・支える・紡ぐ＞児童福祉臨床」 明石書店 団士郎著「対人援助職のための家族理解入門～家族の構造理論を活かす」 中央法規 早樫一男編著「対人援助職のためのジェノグラム入門～家族理解と相談援助に役立つツールの活かし方」 中央法規 亀口憲治編著「心理療法プリマーズ 家族療法」 ミネルヴァ書房 中釜洋子著「家族のための心理援助」 金剛出版 その他については、授業で随時紹介する。		
教育方法	授業資料や映像にそって講義する。また、実習等を行う。		
評価方法	受講態度などの平常点（５０％）、授業内の課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	家族とのジョイニング（親しくなるための働きかけ）や、一定の家族アセスメントを可能とする家族合同初回面接を初級レベルで行なえるようになる。		
授業時間外学習	教科書や紹介する参考書を読み込む。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
実際の臨床場面に役立つ内容なので、より熱心に取り組んでほしい。			
授業スケジュール			
１．　担当者と家族療法 ２．　家族療法の基礎 ３．　ビデオ視聴や文献講読① ４．　同② ５．　同③ ６．　同④ ７．　同⑤ ８．　同⑥ ９．　同⑦ １０．　同⑧ １１．　実習① １２．　同② １３．　同③			

１４．　同④
１５．　同⑤
（上記の内容や順序については変更があり得る）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75087B01
科目名	【院】心理療法特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychotherapy B		
担当者名	根本　眞弓	旧科目名称	
授業概要	心の悩みや精神病理を抱えたクライエントを対象に心理療法やプレイセラピーの臨床実践を行う際の基礎理論となるフロイトの精神分析理論や、パーソナリティ理解に役立つ早期乳幼児期の情緒発達理論（ウィニコット、マーラー、スターンなど）について学び，実践力を涵養することができる。さらに神経症や精神病などの精神病理を抱えた人の心的世界や，治療的アプローチに援用できる対象関係論理論（クライン、ビオンなど）について理解を深めることができる。 また、事例を通して理論と臨床実践の融合を図り、実際の心理臨床活動に役立つ視点を獲得することができる。		
教材（教科書）	対象関係論を学ぶ　松木邦裕著　岩崎学術出版 保育に生かす心理臨床　馬場禮子・青木紀久代編　ミネルヴァ書房 私説対象関係論的心理療法入門　松木邦裕　金剛出版		
教材（参考資料）	図説　臨床精神分析学　前田重治　誠信書房 集中講義・精神分析（上・下）　藤山直樹　岩崎学術出版 精神分析的人格理論の基礎　馬場禮子　岩崎学術出版		
教育方法	「対象関係論を学ぶ」松木邦裕著　岩崎学術出版,「保育に生かす心理臨床」馬場禮子・青木紀久代編　ミネルヴァ書房,「私説対象関係論的心理療法入門」松木邦裕　金剛出版のテキストについて，レジュメの作成，発表，ディスカッションを行う。さらにビデオやパワーポイントによる解説を通して，乳幼児の情緒発達について学びを深める。		
評価方法	事前学習課題，文献まとめ，発表，ディスカッションへの参加度，受講態度　(70%) 最後の授業に課すレポート課題の評価　(30%)		
到達目標	臨床実践を行う際の基礎となる精神分析理論（対象関係論)、パーソナリティ構造や精神病理への理解を深めるとともに、実践的臨床感覚を身につけることができる。		
授業時間外学習	課題①　「保育に生かす心理臨床」馬場禮子・青木紀久代編　ミネルヴァ書房ｐ１－５６を、分担してレジュメを作成すること。各章Ａ４、１枚程度。(2)～(4)の授業で発表する。 課題②　「対象関係論を学ぶ」松木邦裕著　岩崎学術出版の、第Ｉ部、ｐ３～５４を分担してレジュメを作成すること。各項 A4、1 枚程度。(8)（9）の授業で発表する。 課題③　「私説対象関係論的心理療法入門」松木邦裕　金剛出版　Ｐ９～１０６を分担してレジュメを作成すること。各章Ｂ４、１枚程度。(11)～(13)の授業で発表する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

主体的に学ぶ姿勢をもって出席し、自分の考えや感じたことをできるだけ言語化するようにしてください。

授業スケジュール

1，導入・精神分析とは
2，乳幼児のこころ（愛着の発達・関わりの発達）
3，乳幼児のこころ（身体と心の結びつき・分離－個体化の発達）
4，乳幼児のこころ（自我と自己の初期発達－ウィニコット・スターン）
5，乳幼児の情緒発達について包括する。

6，フロイトの精神分析理論（構造論・防衛機制）
7，フロイトの代表事例（アンナ・0、ハンス、ねずみ男など）
8，対象関係論（内的世界）
9，対象関係論（妄想分裂ポジション・抑うつポジション）
10，力動的精神療法について概括する。

11，対象関係論的心理療法の実際（分析空間の創り方・治療対象の「見立て」とその進め方）
12，対象関係論的心理療法の実際（治療契約と治療者の身の置き方・耳の傾け方）

13，対象関係論的心理療法の実際（口のはさみ方）
14，対象関係論的心理療法の実際（事例から学ぶ）
15，理論を臨床実践に生かすための総括を行う。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J75087C01
科目名	【院】心理療法特論C	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychotherapy C		
担当者名	片山　知子	旧科目名称	
授業概要	この授業では、遊戯療法を中心としたイメージを用いた心理療法の講義と実習を行う。遊戯療法などのイメージを用いた心理療法は、ノンバーバルコミュニケーションが重要な役割をする心理療法のエッセンスを含んでいると思われる。そこで、①遊戯療法を中心としたイメージを介した心理療法の理論、②体験実習、③事例研究、④ディスカッションの４点から授業を行う。まず実習で体験し、その体験をもとに理論や事例研究を理解し、ディスカッションができるように授業をすすめる。遊戯療法未経験の方にはその関係性やそこで生じる体験を、そして経験者には遊戯療法の理解を深めてその後の心理面接へとすすんでもらいたい。受講者の心理学の経験に違いがあると思われますが、授業のディスカッションや実習を通して自己理解の一助となればよいと考えています。		
教材（教科書）	適宜資料を紹介，配布。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示紹介。また遊戯療法に関して基本的な著書に目を通しておいてください。 参考文献：弘中正美著　『遊戯療法と子どもの世界』金剛出版　その他の本でもかまいません。		
教育方法	スライドや写真など、教材は準備、指示します。		
評価方法	授業中の取り組みと積極的な発言（50%）。授業中に行う事例研への準備およびプレゼンテーション（20%） 授業後のレポート（30%）。		
到達目標	遊戯療法の理論だけではなく、体験実習や事例検討のディスカッションによって、遊戯療法に必要な基礎知識を習得し、自分で考える力を養うことを目的とします。		
授業時間外学習	★第一回の授業前に，自分で１つ遊戯療法の事例を選び（事例研究にして下さい）、コピーして、最初の授業に必ず持参して下さい。持参した事例研究は、選択した理由や概要をプレゼンテーションしてもらいます。事前に自分の選択した研究を読んで準備してください。また既述のように、遊戯療法に関する本で事前学習して下さい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ディスカッションや実習へ積極的に参加してください。実習での体験を大切にし、それをもとに事例研究の検討に望んで下さい。授業中は自分の意見や疑問を自由に発言し、皆で討論できる授業を皆さんとつくってゆきたいと思います。また、事例研究を選択し発表してもらいますが、自分が発表するときは、必ず参加してください。どうしても無理な場合は、事前にほかの参加者と交代するか、教員に連絡してください。連絡や相談ができるかどうかも社会的には大切な力だと思います。

授業スケジュール

1. 講義１　オリエンテーション・遊戯療法の基礎
2. 講義２　様々な子供たちとの遊戯療法（情緒障害・発達障害・被虐待児童など）
3. 講義３　大人のイメージ療法
4. 実習１　箱庭療法の実習と理論１
5. 実習２　箱庭療法の実習と理論２
6. 実習３　コラージュの実習と理論
7. 実習４　スクイグルの実習と理論
8. 実習５　グループ体験
9. 実習６　実習のまとめ
10. 事例検討１　事例研究におけるグループディスカッション１
11. 事例検討２　事例研究におけるグループディスカッション２
12. 事例検討３　事例研究におけるグループディスカッション３
13. 事例検討４　事例研究におけるグループディスカッション４
14. 事例検討５　事例研究におけるグループディスカッション５
15. 講義４　総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J75094001
科目名	【院】人間文化基礎特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Introduction to Humanities and Social Sciences		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
授業概要	人文学と社会科学を交差させることによって、歴史、文化、社会システム、心の相互関連を理解し、受講生各自の研究テーマをその中に位置づける複眼的視野の形成を狙う。心理・社会情報・歴史文化を専門とする 3 教員より、各分野の基礎概念と方法論を学びながら、各自の研究テーマを深化させる。各担当教員よりそれぞれのレポート課題を課す予定。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	教材はそれぞれの教員が授業時間中に指示する。		
教育方法	異なる専攻の学生が共通して関心をもてるテーマを立て、前提講義や資料・映像の閲読・鑑賞と、学生によるディスカッションを行う。また必要な文献講読と発表の演習も行う。		
評価方法	平常点（授業での課題・発表：50%）、レポート（50%） なお、レポートは 3 分野それぞれについて提出。		
到達目標	1．受講生の研究テーマ・問題関心を、幅広い視野から位置づけなおす。 2．修士論文執筆に必要な方法的基礎を知る。		
授業時間外学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。 やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
授業スケジュール			
第 1 回　コミュニケーションとは何か？（君塚） 第 2 回　コミュニケーションとメディア（君塚） 第 3 回　コミュニケーションと社会――社会が「現実」をつくる（君塚） 第 4 回　社会と研究――研究者の立ち位置（君塚） 第 5 回　コミュニケーションと調査・研究――まとめ・ふりかえり（君塚） 第 6 回　いじめ　～　学校、会社、ムラ（伊原） 第 7 回　発達障害　～　異端者と社会（伊原） 第 8 回　子ども　～　子どもの発見と虐待（伊原） 第 9 回　高齢者　～　姨捨、看取り（伊原） 第 10 回　倫理＝人の道とは　～　生命倫理、不倫（伊原） 第 11 回　文献講読 1（乳原） 第 12 回　文献講読 2（乳原） 第 13 回　文献講読 3（乳原） 第 14 回　文献講読 4（乳原） 第 15 回　文献講読 5（乳原）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J75094A01
科目名	【院】会社法 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	会社法 A では、会社法の本質、エージェンシー問題、債権者保護、投資家保護などを扱う。テキストを素材に、主要各国（フランス・ドイツ・日本・英国・米国）の会社法について、各法域にわたって共有される要素や問題点を、比較法的・機能的に取り上げる。受講者に関連各章を報告してもらい、それへの質問・討論という形で双方向的授業として検討を行う。受講者は、テキストを十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。		
教材（教科書）	R Kraakman, et al., The Anatomy of Corporate Law, (Third Edition, Oxford University Press, 2017)		
教材（参考資料）	RR Kraakman 他『会社法の解剖学』(LexisNexis, 2004 年) ＊個別具体的な文献は、講義時にその都度紹介する。		
教育方法	受講者に事前にテキストの該当部分を割り当て、その報告を参加者全員で質疑応答をしながら議論を進めるという双方向の授業を行う。この中で日本法と外国法の概念の相違などにつき検討することにより、議論を深めていく。		
評価方法	報告内容・議論への参加度（70%）。期末レポート（30%）。期末レポートは、テキストの内容を理解した上で、自力で調査し、妥当な見解を導けたか否かを問う。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	1．会社法における重要論点が何かを比較法的・機能的観点から把握し、会社法と経済や経営との相互作用を説明できるようになる。 2．エージェンシー・コストを削減するための法的戦略について説明できるようになる。 3．債権者保護のための規制戦略を理解し、その保護の各国の相違について比較法的に説明できるようになる。 4．投資家保護の目的を理解し、その保護の各国の相違について比較法的に説明できるようになる。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する教科書（R Kraakman, et al., 2017）のページを精読した上、教科書の脚注の文献の 1 つを選び、それによって関連事項を調査し、自らの見解を整理してくること。(各回の学習推定時間は 90 分)。 第 1 回　教科書 1-4 頁 第 2 回　教科書 5-14 頁 第 3 回　教科書 15-16 頁 第 4 回　教科書 17-21 頁 第 5 回　教科書 22-28 頁 第 6 回　教科書 29-30 頁 第 7 回　教科書 31-37 頁 第 8 回　教科書 38 頁 第 9 回　教科書 39-48 頁 第 10 回　教科書 109-118 頁 第 11 回　教科書 119-126 頁 第 12 回　教科書 127-142 頁 第 13 回　教科書 243-257 頁 第 14 回　教科書 258-263 頁 第 15 回　教科書 264-266 頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．履修が望ましい他の関連科目：会社法 B（コーポレート・ガバナンス） 2．新聞・ニュースや雑誌論文などを通じ、経済状況や経営環境と会社法との関連の把握に努めてもらいたい。			
授業スケジュール			
1.Introduction			

2.What is Corporation?
3.Sources of Corporate Law
4.Law versus Contract in Corporate Affairs
5.What is the Goal of Corporate Law
6.Three Agency Problems
7.Legal Strategies for Reducing Agency Costs
8.Disclosure
9.Compliance and Enforcement
10.Transaction with Creditors
11.Solvent Firms
12.Ownership Regimes and Creditor Protection
13.Securities Regulation and Legal Strategies
14.Securities Law Enforcement
15.Convergence and Persistence in Securities Regulation

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2018	授業コード	J75094B01
科目名	【院】会社法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	会社法Ｂでは、基本的なガバナンス構造、関連当事者取引、支配権取引などを扱う。テキストを素材に、主要各国（フランス・ドイツ・日本・英国・米国）の会社法について、各法域にわたって共有される要素や問題点を、比較法的・機能的に取り上げる。受講者に関連各章を報告してもらい、それへの質問・討論という形で双方向的授業として検討を行う。受講者は、テキストを十分に読み込み、検討に参加することが望まれる。		
教材（教科書）	R Kraakman, et al., The Anatomy of Corporate Law, (Third Edition, Oxford University Press, 2017)		
教材（参考資料）	RR Kraakman 他『会社法の解剖学』(LexisNexis, 2004 年) ＊個別具体的な文献は、講義時にその都度紹介する。		
教育方法	受講者に事前にテキストの該当部分を割り当て、その報告を参加者全員で質疑応答をしながら議論を進めるという双方向の授業を行う。この中で日本法と外国法の概念の相違などにつき検討することにより、議論を深めていく。		
評価方法	報告内容・議論への参加度（70%）。期末レポート（30%）。期末レポートは、テキストの内容を理解した上で、自力で調査し、妥当な見解を導けたか否かを問う。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．会社法における重要論点が何かを比較法的・機能的観点から把握し、会社法と経済や経営との相互作用を説明できるようになる。 ２．基本的なガバナンス構造・類型について説明できるようになる。 ３．経営者による利益相反取引を理解し、その規制の各国の相違について比較法的に説明できるようになる。 ４．組織再編について理解し、その規制の各国の相違について比較法的に説明できるようになる。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する教科書（R Kraakman, et al., 2017）のページを精読した上、教科書の脚注の文献の 1 つを選び、それによって関連事項を調査し、自らの見解を整理してくること。(各回の学習推定時間は 90 分)。 第 1 回　教科書 1-4 頁 第 2 回　教科書 49-50 頁 第 3 回　教科書 51-61 頁 第 4 回　教科書 62-67 頁 第 5 回　教科書 79-88 頁 第 6 回　教科書 89-91 頁 第 7 回　教科書 147-165 頁 第 8 回　教科書 185-195 頁 第 9 回　教科書 196-204 頁 第 10 回　教科書 205-210 頁 第 11 回　教科書 211-223 頁 第 12 回　教科書 224-230 頁 第 13 回　教科書 231-235 頁 第 14 回　教科書 236-242 頁 第 15 回　教科書 267-272 頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．履修が望ましい他の関連科目：会社法Ａ（コーポレート・ファイナンス） ２．新聞・ニュースや雑誌論文などを通じ、経済状況や経営環境と会社法との関連の把握に努めてもらいたい。			
授業スケジュール			
1.Introduction			

2.Delegated Management and Corporate Boards
3.Appointment and Decision Rifgts
4.Agent Incentives
5.Protecting Minority Shareholders
6.Protecting Employees
7.Legal Strategies for Related-Party Transactions
8.Mergers and Divisions
9.Reincorporation and Conversion
10.Regulatory Problems in Contorol Transactions
11.Agency Problems in Contorol Transactions
12.Coordination Problems among Target Shareholders
13.Specific Issues upon Acquisition from a Contorolling Shareholder
14.Explaining Differences in the Regulation of Control Transaction
15.Beyond the Anatomy

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	–

年度	2018	授業コード	J75095001
科目名	【院】経済法	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
授業概要	市場経済が期待される機能を適切に発揮するには、市場における企業間の「公正かつ自由な競争」が前提となる。そのために、独占禁止法が、市場における競争を制限するカルテルなどを禁止している。競争に悪影響を及ぼす行為には様々なものがあるが、カルテルがその典型である。 本講義では、カルテルの様々な形態を理解し、なぜカルテルが行われるのか、カルテルを規制するにはどのようにすればよいのか、カルテルが独占禁止法違反かどうかを判断する際に必要な、基本概念について学ぶ。		
教材（教科書）	・川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法　（第４版)』（有斐閣、2014 年） ・その他、講義レジュメ及び資料を配布する。		
教材（参考資料）	主な参考文献 ・金井貴嗣・泉水文雄・武田邦宣編　『経済法判例・審決百選[第２版]』（ジュリスト増刊)(有斐閣、2017 年） ・鈴木孝之・河谷清文　『事例で学ぶ　独占禁止法』(有斐閣、2017 年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法』（有斐閣、2010 年） ・根岸哲・舟田正之『独占禁止法概説[第５版]』（有斐閣、2015 年） *その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	講義法で行う。各回の講義の冒頭に、その回の目標の確認と、前回の授業内容について、受講生の理解を確認し、必要に応じて補足説明を行う。		
評価方法	平常点（発言、授業内レポートなど）４０％ 学期末レポート６０％		
到達目標	カルテルの形態や仕組みについて理解し、独占禁止法の観点から分析できるようになる。		
授業時間外学習	以下を読んで、授業で指示された課題に取り組む。 （各回の学習推定時間は３０分～２時間） 第１回　　教科書２１～２２頁 第２回　教科書２２～２７頁 第３回　教科書８９～９４頁 第４回　教科書９４頁と配布資料 第５回　教科書９５～９６、３８～４１、５２～６１頁 第６回　教科書９６～１０５頁と配布資料 第７回　教科書１０６～１１０頁と配布資料 第８回　教科書１１１～１２３頁 第９回　教科書１２７～１３１頁と配布資料 第１０回　教科書２８７～２９４、３４３～３４２頁 第１１回　教科書２９５～２９９頁と配布資料 第１２回　教科書２９９～３０２頁と配布資料 第１３回　教科書３０、１３１～１３８頁 第１４回　教科書３０～３１頁と配布資料 第１５回　配布資料		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			

企業活動一般への関心と基礎知識を持っていること。 授業以外の予復習に十分な時間を確保すること。
授業スケジュール
1　 オリエンテーション・独占禁止法の目的 2　 独占禁止法の全体像 3　カルテルの仕組みと形態 4　入札談合 5　カルテル規制の全体像 6　カルテルの当事者（社会保険庁シール談合事件） 7　意思の連絡（東芝ケミカル事件） 8　競争の実質的制限 9　行政指導とカルテル（石油カルテル事件） １０　事業者団体（１）（大阪バス協会事件） １１　事業者団体（２）（観音寺市医師会事件） １２　事業者団体（３）（デジコン電子事件） １３　エンフォースメント（１）（排除措置命令・課徴金納付命令） １４　エンフォースメント（２）（損害賠償請求・刑事罰） １５　カルテル規制の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J75097A01
科目名	【院】政治社会学特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Political Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
授業概要	天皇制は天皇を中心に語られるが、その歴史の中で皇后が果たした役割も意味をもっていたはずである。皇后という存在について体系的に考察した文献を読むことによって、その点について考察を加える。そのことによって、新しい天皇像と皇后像を得ることができると思われる。		
教材（教科書）	原武史、『皇后考』（講談社学術文庫）		
教材（参考資料）	講義時に紹介する。		
教育方法	教科書を輪読し、内容について議論する。		
評価方法	発表（80%）と期末レポート（20%）によって評価する。		
到達目標	近代の日本史、特に天皇制の歴史を確認し、その中で皇后が果たした役割について理解を深める。		
授業時間外学習	各回の教科書の内容を前もって読んでおくこと。 第 1 回　教科書第 1 章 第 2 回　教科書第 2 章 第 3 回　教科書第 3 章 第 4 回　教科書第 4 章 第 5 回　教科書第 5 章 第 6 回　教科書第 6 章 第 7 回　教科書第 7 章 第 8 回　教科書第 8 章 第 9 回　教科書第 9 章 第 10 回　教科書第 10 章 第 11 回　教科書第 11 章 第 12 回　教科書第 12 章 第 13 回　教科書第 13 章 第 14 回　教科書第 14 章 第 15 回　教科書第 15 章		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的に参加してほしい。
自分自身の本来の研究分野に対して、別の学問分野がどのような関係をもちうるかについて考えてほしい。

授業スケジュール

1. 第 1 章　序ーある詔書をめぐって
2. 第 2 章　神功皇后と神武天皇（1）
3. 第 3 章　神功皇后と神武天皇（2）
4. 第 4 章　皇后美子、神功皇后、日蓮宗（1）
5. 第 5 章　皇后美子、神功皇后、日蓮宗（2）
6. 第 6 章　皇太子妃節子の孤独（1）
7. 第 7 章　皇太子妃節子の孤独（2）
8. 第 8 章　団欒と大病と（1）
9. 第 9 章　団欒と大病と（2）
10. 第 10 章　天皇嘉仁の発病
11. 第 11 章　もうひとつの大礼
12. 第 12 章　皇太子裕仁の訪欧と英国王室
13. 第 13 章　九州へ（1）

14. 第 14 章　九州へ（2）
15. 第 15 章　関東大震災

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J75102001
科目名	【院】精神医学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Psychiatric Medicine		
担当者名	佐々木　徹	旧科目名称	
授業概要	今日、心理カウンセリングを訪れるクライアントの病態は多彩であり、彼らの訴えや問題もまた多岐にわたる。その中で個々の訴えや症状に目を奪われることなく彼らの状態像を正しく見極め、適切に評価してゆくことが心理臨床にも期待されるだろう。さらに、医学的検査・治療が必要となる状況や可能性に対しても、常に目が開かれていなければならない。 したがって、本特論では上記二つの事柄について基本的な理解を身につけ、またそれらの理解に基づいて個別のケースを多面的に捉えられるように講義が進められる。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	講義は配布資料、PowerPoint、視聴覚機器（VTR）などを用いて進められる。		
評価方法	ディスカッションならびにプレゼンテーション（60%）。　レポート（40%）。		
到達目標	疾病や障害についての理解を深め、そこにおいて得られた知見を心理臨床の現場へとつなげる。 また、適宜実習やボディワークを行い、より実践的なスキルを身につける。		
授業時間外学習	前回の講義を振り返り、まとめて把握しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
心理臨床の個々のケースを念頭において、講義がより実践的に活用されるよう期待する。			
授業スケジュール			
01.　こころとはなにか 02.　日常生活の中に見出されるこころとからだ 03.　こころとからだの関係 04.　こころとからだの失調状態としての疾病 05.　「全体」と「部分」という視点 06.　いのちの諸相 動物的ということ 07.　いのちの諸相 植物的ということ 08.　精神 mind と心情 soul 09.　からだについて 病理的次元 10.　からだについて 文化社会的表現 11.　からだについて 間身体的あり方 12.　行為と環境 13.　生態学的観点 14.　からだへのアプローチの方法について からだをなぞること 15.　からだへのアプローチの方法について　からだをゆるめること			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★★	–

年度	2018	授業コード	J75102101
科目名	【院】感情心理学特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
授業概要	感情の果たす役割やその制御についての理解を深めることを目的として，講義ならびに演習を行う。講義では，感情心理学の各研究領域について概説する。そのうえで，感情に関する実証的研究を読解し，各研究についての発表と議論を行う。議論の中で，実証的研究を理解するうえで必要となる研究法や分析手法に関する解説を行う。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	なし		
評価方法	授業中に取り組む課題（50%）と，研究に関する報告（50%）を総合して評価する。		
到達目標	感情心理学に関する実証的研究についての学術論文を独力で読解し，理解する。 感情心理学に関する実証的研究について，論理的に考察できる。		
授業時間外学習	学術論文の読解・発表・議論が主となる回がある。授業に先立って，それらの準備を怠らないこと。特に発表担当者は，十分な発表の準備をして授業に望むことを求める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

全 15 回の演習に遅刻・欠席なく参加することが望ましい。やむを得ず欠席する場合は，事前に担当教員に連絡すること。また，事前に心理統計学の授業を履修済みであることが望ましい。

授業スケジュール

1. 感情心理学とは
2. 感情心理学の研究領域①
3. 感情心理学の研究領域②
4. 実証的研究と研究法①
5. 実証的研究と研究法②
6. 実証的研究に関する発表・議論①
7. 実証的研究に関する発表・議論②
8. 実証的研究に関する発表・議論③
9. 実証的研究に関する発表・議論④
10. 講評
11. 実証的研究に関する発表・議論⑤
12. 実証的研究に関する発表・議論⑥
13. 実証的研究に関する発表・議論⑦
14 . 実証的研究に関する発表・議論⑧
15. 講評・改めて，感情心理学とは

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J75115B01
科目名	【院】都市文化史特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in History of Urban Cul ture B		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
授業概要	都市そのものが既知のものであるとは見なさない。例えば都市伝説というようなコトバに使われている「都市」は、これまでの都市論の範疇からは大きく外れている。1988 年に敢えて世間話という学術用語を捨てて都市伝説という用語を世に問うた民俗学者大月隆寛はこう述べている。 「フォークロアを見つめる眼にとって最も近い距離で問題になってくるのは、限られた地理的空間としての都市でもなく、具体的な人間関係の複合体としての都市でもなく、まして記号の集積としての都市でもない。都市として設定される大きさそのものを何らかのことばによって(中略)操作可能なものとしてあらかじめ囲い込もうとするところから始めるのではなく、そのような『とほうもないもの』がそれぞれの生きている場にとってどのような効果を与えるものかについて考えるための補助線として、僕たちの民俗学は初めて『都市』を設定し得るはずだ。」(『消えるヒッチハイカー』解説) 必要に応じて民俗学、文化人類学などの成果も活用しながら文化史の立場から都市を見渡していく。		
教材（教科書）	Ikumi Kaminishi "Explaining Pictures ; Buddhist Propaganda and Etoki Storytelling in Japan" University of Hawai'i Press, ISBN 978-0-8248-2697-0 必要箇所をコピーで渡す		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	テクスト"Explaining Pictures: Buddhist Propaganda and Etoki Storytelling in Japan"を担当頁を決めて、順次読んでいく。英語ではあるが、内容は「絵解き」にまつわる日本社会史、文化史である。おそらくこれまであまり聞いたことも、見たこともないことがらについての記述なので、しっかりと周辺情報を調べておかないと、理解できないことだらけ、ということになる。これまでの英文和訳のつもりで訳すと、「それ」や「これ」はいったい何を指しているのか、厳しく問われることになるので、何が扱われているのか、常に注意しておかなければならない。		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	自立的な研究活動を行うための方法を学んでいく。		
授業時間外学習	英語文献の読解は担当の部分ばかりでなく、おおよその意味を参加者は理解しておく必要がある。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
「絵解き」は美術史的なテーマであるが、著者 Ikumi, Kaminishi によれば、仏教の普及、大衆化に大きな役割を果たしており、その広がりは、宗教史や社会史にも及んでいるスケールの大きな研究である。各自持っている研究テーマについて、このテクストから学んだ方法を活用してもらいたい。			
授業スケジュール			
(1)イントロダクション (2)英文による文献読解～（8) (9)文化的背景を学ぶ～(15)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J75124A01
科目名	【院】日本言語文化研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Language A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	【院】日本言語文化研究演習 I
授業概要	研究テーマとして個々人が考えている内容を発表してもらい、その中で、中心に論ずるべき事柄を絞っていく。論文の作成は、その論題が確定した時点でひとつの山を越えたことになる。学修者は「何を研究したらよいのか」「何をどのように調べればよいのか」について十分に時間をとって考える。テーマが確定後は、先行研究について綿密な調査を行い、積極的な資料の収集を行った上で、中間発表に臨む。以後、修士論文へ繋げていく。		
教材（教科書）	授業中に指示する。		
教材（参考資料）	個々の院生に対し、その研究テーマに則した参考書を紹介する。		
教育方法	国語学・日本語学上、重要な論文を輪読する。		
評価方法	授業中の発表（５０点）と期末レポート（５０点）とで総合的に評価する。		
到達目標	個々の院生が研究テーマを見つけ、それを修士論文に結実できる態勢を整える。		
授業時間外学習	卒業論文の推敲をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講資格　なし 学習上の助言　院生としての自覚を持った、主体的な態度で授業に臨んで欲しい。			
授業スケジュール			
1　半年間の授業の概要説明 2　卒業論文の要約発表 3　卒業論文の要約発表 4　卒業論文の要約発表 5　各自の研究項目に関する発表 6　発表 7　発表 8　発表 9　合評会 10　発表 11　発表 12　発表 13　発表 14　発表 15　発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J75124B01
科目名	【院】日本言語文化研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Language B		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	【院】日本言語文化研究演習Ⅰ
授業概要	研究テーマとして個々人が考えている内容を発表してもらい、その中で、中心に論ずるべき事柄を絞っていく。論文の作成は、その論題が確定した時点でひとつの山を越えたことになる。学修者は「何を研究したらよいのか」「何をどのように調べればよいのか」について十分に時間をとって考える。テーマが確定後は、先行研究について綿密な調査を行い、積極的な資料の収集を行った上で、中間発表に臨む。以後、修士論文へ繋げていく。		
教材（教科書）	授業中に指示する。		
教材（参考資料）	個々の院生に対し、その研究テーマに則した参考書を紹介する。		
教育方法	国語学・日本語学上、重要な論文を輪読する。		
評価方法	授業中の発表（５０点）と期末レポート（５０点）とで総合的に評価する。		
到達目標	個々の院生が研究テーマを見つけ、それを修士論文に結実できる態勢を整える。		
授業時間外学習	卒業論文の推敲をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講資格　なし 学習上の助言　院生としての自覚を持った、主体的な態度で授業に臨んで欲しい。			
授業スケジュール			
1　半年間の授業の概要説明 2　卒業論文の要約発表 3　卒業論文の要約発表 4　卒業論文の要約発表 5　各自の研究項目に関する発表 6　発表 7　発表 8　発表 9　合評会 10　発表 11　発表 12　発表 13　発表 14　発表 15　発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J75131A01
科目名	【院】日本言語文化特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Japanese Language A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	中世の日本語資料を読む。 大学院の場合、各院生ごとに研究テーマは決まっているが、求められる研究姿勢は同じである。中世の日本語資料をたたき台にして、研究に必要な能力を養っていく。取り扱う時代が中世であっても、その前後の時代、また現代の事象も常々念頭に置いておかねばならない。該博な知識が得られるような授業にしたいと思っている。		
教材（教科書）	『土佐日記』　変体仮名を読む。		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	発表形式。		
評価方法	予習の度合い等、ならびに授業内発表のみ。100%		
到達目標	原書に親しみ理解できる。		
授業時間外学習	変体仮名の読み方を練習すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講条件　なし 受講ルール　私語厳禁 学習上の助言　しっかりと予習をしてほしい。			
授業スケジュール			
１　中世資料の概要 ２　中世資料の講読 ３　同上 ４　同上 ５　同上 ６　同上 ７　同上 ８　同上 ９　同上 １０　同上 １１　同上 １２　同上 １３　同上 １４　同上 １５　同上			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J75134A01
科目名	【院】日本古典文学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	紫式部と源氏物語を中心に、受講者の研究テーマを考慮して修士論文作成に向けた演習を行う、		
教材（教科書）	プリントを用意する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	毎回の発表内容で評価する。		
到達目標	紫式部の人生と源氏物語の関係について知見を深め、修士論文の作成への見通しをつけること。		
授業時間外学習	授業外の時間で源氏物語を古文で読了すること。期間は４月より３月までかけてよい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
修士論文の作成につながるよう、計画的に履修すること。 そのためには受講者と教員が相談し、授業計画や方法を 柔軟に考えてゆく。			
授業スケジュール			
第一回　講義の進め方 第二回～第一五回　受講者の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75134A02
科目名	【院】日本古典文学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature A		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	江戸後期の上田秋成の読本『春雨物語』を題材とする。 雨月物語の姉妹編であるが、江戸時代に刊行されることはなかった。 怪奇小説として高い評価を得ている。 各自のテーマにそって問題点を採り上げ、自分で調べてきて、時間中に報告してもらう。		
教材（教科書）	春雨物語・書初機嫌海（新潮社）		
教材（参考資料）	その都度適宜紹介する		
教育方法	講義と発表を交互に行いつつ進めていく。		
評価方法	授業中の発言、質問、１０％　レポート９０％		
到達目標	江戸時代の様々の風俗、歴史や先行文学作品の影響 など、調べる方法を身に付けること		
授業時間外学習	春雨物語の現代語訳を読んでおくと良い		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業中、積極的に発言すること
受講生の要望やレベルに沿った内容にしたいと考えている。

授業スケジュール

1　春雨物語の概説
2　発表　血かたびら（取り上げる話は授業中に相談）
3　同じ
4　同じ
5　発表　　一つ目の神
6　同じ
7　同じ
8　発表　宮木が塚
9　同じ
１０　同じ
１１　先行作品との比較
１２　関係論文
１３　諸本の話
１４　雨月物語との比較
１５　現在の研究の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J75139B01
科目名	【院】日本古典文学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature B		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	紫式部と源氏物語を中心に、受講者の研究テーマを考慮して修士論文作成に向けた演習を行う、		
教材（教科書）	プリントを用意する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	毎回の発表内容によって評価する。		
到達目標	紫式部の人生および源氏物語について考察を深め、修士論文作成の見通しをつけること。		
授業時間外学習	授業外の時間で源氏物語を古文で読了すること。期間は４月より３月までかけてよい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
修士論文の作成につながるよう、計画的に履修すること。 そのためには受講者と教員が相談し、授業計画や方法を 柔軟に考えてゆく。			
授業スケジュール			
第一回　講義の進め方 第二回～第一五回　受講者の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75139B02
科目名	【院】日本古典文学研究演習Ｂ【町家】	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Classic Lit erature B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	受講生各自のテーマに沿った内容の論文を取りあげることとする。		
教材（教科書）	プリントして配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて紹介する。		
教育方法	重要な論文を全員で読む。 毎回担当者を決めて、各自が選んだ論文を皆で読み、解説をしてもらう。		
評価方法	授業中の質問や、意見１０％　発表９０％		
到達目標	修士論文を執筆する科学的態度、 資料の正しい読解と客観的処理 などが身に付くこと		
授業時間外学習	各自のテーマに即した先行研究に目を通しておくこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自分で自分のテーマに沿って研究を進めつつ、 教員や院生同士を相手に、発表してみて まわりの意見を採り入れること			
授業スケジュール			
１～５　各自の先行研究を自分でどういう意味があると考えているか紹介する ６～８　その分野の必読の先行研究を読解する。 ９，１０　自分で調べて報告する。 １１～１５　お互いに批評する。批評を生かして再度、報告する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J75151A01
科目名	【院】日本古典文学特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Japanese classic lit erature A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	意外に知られていない『枕草子』について、その成立の背景と創作の意図、作品の特徴について、知見を深める。		
教材（教科書）	山本淳子『枕草子のたくらみ』朝日新聞出版　1500 円		
教材（参考資料）	授業時に提示する。		
教育方法	−		
評価方法	期末レポートで評価する。		
到達目標	『枕草子』の内容を知り、そこに見える平安文化および思想について考える。		
授業時間外学習	授業は教員から受講者への質問形式で行うので、テキストを熟読して授業に臨むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教員からの質問への回答が授業の基本となるので、積極的に発言してほしい。			
授業スケジュール			
1　授業の進め方 2~15 テキストに従い、枕草子の各章段を読解する			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J75157D01
科目名	【院】日本古典文学特論Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Japanese classic lit erature D		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	江戸時代の前期には、庶民の間で謡と俳諧がおおいに流行しました。 謡と茶道、俳諧は近世の町人の文化に欠かせないもので お互い深く関わり合っています。 俳諧の中でも談林俳諧はわかりやすい内容で、謡曲との関連性が知られています。 また、俳諧の手引き書でもある 『俳諧類船集』は連想語の宝庫ですが、それを片手に、 西鶴の俳諧作品『西鶴大矢数』を読み解いてみます。		
教材（教科書）	プリントを配布する。		
教材（参考資料）	前田金五郎著『西鶴大矢数注釈』第一巻～第五巻および　索引篇		
教育方法	最初に、作品についての講義を行い、共通の認識を持つ。 毎回、担当部分を決めて、予習し、レジュメを用意し発表してもらう。 発表後、質疑応答を行い、調べが足りない部分については 再度調べてきてもらう。		
評価方法	授業内の担当部分の発表。		
到達目標	江戸時代の文化の諸相を知る。俳諧の面白さを理解する。		
授業時間外学習	基礎的な知識を復習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

留学生は活字で、日本人学生はくずし字で『俳諧類船集』を読んで予習すること。
発表を担当すること。

授業スケジュール

1　俳諧
2　謡曲
3　俳諧と謡曲
4　『西鶴大矢数』
5　語彙１
6　語彙２
7　語彙３
8　発表１
9　発表２
10　発表３
11　語彙と作品
12　付け合
13　付け合
14　付け合
15　俳諧と能の社会的影響力

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★	★

年度	2018	授業コード	J75166A01
科目名	【院】日本歴史文化特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Japanese Culture His tory A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	本講義では、最先端の歴史学の成果を学ぶことを主眼とする授業です。講師による講師自身の最新の研究の紹介と、受講者による最先端の歴史学の論文を読み解いた発表の二本柱により進めていきます。論文を批判的に読み解きながら、最先端の学問成果を学びながら、自らの修士論文作成の刺激としてください。修士課程のみなさんとは研究者として対等の立場で対峙して、議論を交わしていけたらと思います。		
教材（教科書）	論文のコピーをその都度、配布します。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講師による講義と、受講生による発表を交えながら進める授業です。		
評価方法	平常点　　50%　授業への取り組み方 レポート　50%　レポート内容については、講義内で指示します。		
到達目標	・論文を批判的に読み解けるようになること ・最新の歴史学の動向を押さえること		
授業時間外学習	受講生による発表の際は、毎回１本の論文を選んで発表をしてもらいます。担当となった受講者は、論文の要約を行った上で、論文に対する疑問点や、論文から考察した点をまとめた発表をしてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

一本の論文の背後には、連々とした研究史の流れがあり、膨大な史料の正確な読解の蓄積が存在しています。つまり一本の論文を正確に読み取るには、何十本もの文献を読み解き、史料を正確に読み解く力が必要になります。担当者は論文の注にあがっている文献は全て読むくらいの熱意で発表に取り組んでみて下さい。

授業スケジュール

1　ガイダンス
2　講師「疱瘡神誤り証文と小浜の豪商組屋六郎左衛門」
3　学生の発表１・２
4　学生の発表３・４
5　講師「七夕の広がり」
6　学生の発表５・６
7　学生の発表７・８
8　講師「まじない文化のひろがり」
9　学生の発表９・10
10　学生の発表 11・12
11　講師「仁徳聖帝故事の広がり」
12　学生の発表 13・14
13　学生の発表 15・16
14　講師「おっぱいの歴史」
15　講師「この世界の片隅からみる歴史」
※内容は受講生の数、関心により変化します。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J75184B01
科目名	【院】発達心理学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Developmental Psycho logy B		
担当者名	柴田　長生	旧科目名称	
授業概要	「人における発達」という現象に即して臨床実践を展開し、また臨床実践を展開する際に、人を「発達する存在」として捉え、発達心理学の知見から臨床実践を俯瞰することで、時宜にかない個々の必要に応じた臨床行為を行うことができるようになる。そのため本講では、様々な障害を有する子どもの症例検討を通して、上に述べた事柄への発達心理学的接近を試みる。児童臨床の中で扱われる「発達的視点」の多様性と重要性を、臨床事例にあわせて徹底的に検討することにより、心理臨床における発達的な視点を身につけることをめざす。		
教材（教科書）	特に使用しない。資料をその都度配布する。		
教材（参考資料）	麻生武・浜田寿美男編「よくわかる臨床発達心理学（第４版）」（ミネルヴァ書房）、浜田寿美男・山口俊郎著「子どもの生活世界のはじまり」（ミネルヴァ書房）、H.ワロン著・浜田寿美男訳「身体・自我・社会」（ミネルヴァ書房）、浜田寿美男編著「「私」というもののなりたち」（ミネルヴァ書房）、浜田寿美男著「ピアジェとワロン：個的発想と類的発想」（ミネルヴァ書房）		
教育方法	毎回読み切りとなる、事例紹介の資料を配付し、それに関連するスライドなどを見ながら、各回のテーマについて、受講者とのディスカッション方式で授業を進める。		
評価方法	受講への積極性（50%）、終了時のレポート（50%）		
到達目標	1　児童臨床における、「発達的観点」の重要性を深く認識できる 2　発達を「からだ」「こころ」「社会」の３つの観点から捉えることができる 3　臨床において、発達的観点をどのように織り込むのかについて、事例から検討する視点・方法を身につける 4　発達理論と臨床との接点について、自らの臨床実践の中で考え続ける		
授業時間外学習	何らかの発達理論に関心を持ち、体系的に事前学習しておくことが望ましい。また、発達をアセスメントするということの具体的理解として、「新版 K 式発達検査」に関する何らかの学習や実習を行っていることが望ましい。更に、障害児に関する基礎知識を学んでいることが望ましい。 また、各回終了後は、配布資料を必ず反芻するように読み返し、自分なりの「発達観・臨床観」と照合するように自分の中に落とし込んでおくこと（批判的になってもかまわない）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講師がこれまでの児童臨床で扱った事例の理解と検討が授業の中心です。長年考え続けてきた「発達と臨床」に関するエポックを出来るだけリアルに伝えるつもりです。資料はすでに発表した印刷物なのですが、ベースは実例ですから、そこから真摯に学び、事例の取り扱いには十分留意してください（守秘義務を課します）。授業では、各事例に関する問いかけを多く行いますので、積極的に考え，積極的に発言することを求めます。			
授業スケジュール			
1 序論　発達臨床とはなにか　「事象を発達的に捉える」ということ 2 発達を「みる」　（生後１年間の乳児ＶＴＲ観察から） 3 事例検討１　「からだ」ということと発達　（発達における「非同期」の問題） 4 事例検討２　睡眠リズムと成熟　（サーカディアンリズムの成立要件） 5 事例検討３　ベーシックに個体を支える身体要件である「体温」 6 事例検討４　重度自閉症児の「言葉？」の獲得例　（自閉症の発達的検討） 7 事例検討５　高機能自閉症と思われる子どもの特異発達１　（治療教育再考１） 8 事例検討６　高機能自閉症と思われる子どもの特異発達２　（治療教育再考２） 9 事例検討７　自分の障害に気づき始めた子ども　（障害を引き受けるということ） 10 事例検討８　障害受容と自我形成　（思春期の障害児の事例から） 11 事例検討９　障害受容と家族システム１　（システム論の立場から１） 12 事例検討１０　障害受容と家族システム２　（システム論の立場から２） 13 事例検討１１　からだ・こころ・社会１　（事例検討のためのワロン心理学概説）			

14 事例検討１１　からだ・こころ・社会２　（特異な身体・情動基板を有する最重度障害児の事例を、ワロン理論から考える）
15 まとめ　臨床を発達的に取り扱うことの意義と意味

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J75196B01
科目名	【院】文化人類学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Cultural Geography B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	人類学的なセンスを持つために、あるいは修士論文を作成するために、必要な文献をよむ。論文は、日本語と英語のものを取り上げる予定。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点　50％ 発表と提出物　50％		
到達目標	文化人類学の基礎的な文献を理解する。 短期のフィールドワークの行うことができる。		
授業時間外学習	指示された文献は予習をしてくること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
必要な論文を探しだし、読解する能力を身につける。			
授業スケジュール			
1.取り上げる論文を選択する。 2.論文を輪読する。 3.論文を輪読する。 4.論文を輪読する。 5.論文を輪読する。 6.論文を輪読する。 7.論文を輪読する。 8.論文を輪読する。 9.論文を輪読する。 10.論文を輪読する。 11.論文を輪読する。 12.論文を輪読する。 13.論文を輪読する。 14.輪読の成果をまとめて発表する。 15.輪読の成果をまとめて発表する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J75199A01
科目名	【院】文化地理研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Cultural Geography A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	文化地理学では、あるゆる文化は、土地に根ざしていると考えている。しがたって、文化地理学の研究テーマは、簡単にいえば、人と土地そして文化との相互関係を探ることだと考えてよい。文化地理学には、そのような関係を分析する、様々な方法論や考え方がある。まずはそういった点を基本的な文献を解読することで学ぶ。		
教材（教科書）	演習生と相談の上決定		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	受講生のレジュメ		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）論文の提出（２０％）		
到達目標	文化地理学の基礎的文献を理解することを目標とする。		
授業時間外学習	出来るだけ多くの学術論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自身のテーマと文化地理学の関係を念頭に置くこと。			
授業スケジュール			
講義の順序とポイント １　演習生のテーマ設定と基本文献の選定 ２～１４　演習生の発表、討論 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J75199B01
科目名	【院】文化地理研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Cultural Geography B		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	文化地理学では、あるゆる文化は、土地に根ざしていると考えている。しがたって、文化地理学の研究テーマは、簡単にいえば、人と土地そして文化との相互関係を探ることだと考えてよい。文化地理学には、そのような関係を分析する、様々な方法論や考え方がある。演習ＢではＡで発表した内容と自身のフィールドワークの成果との関係を発表。		
教材（教科書）	演習生と相談の上、決定		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	受講生のレジュメとパワーポイント		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）論文の提出（２０％）		
到達目標	文化地理学の理論・方法論と自身のテーマの合致点を探り理解すること。		
授業時間外学習	フィールドワークをしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自身のテーマと文化地理学の関係を説明出来るようにしておくこと。			
授業スケジュール			
１　演習生のテーマ設定とフィールドの報告 ２～１４　演習生の発表、討論 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J75199C01
科目名	【院】文化地理研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Cultural Geography C		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	文化地理学は様々な人文・社会科学系の理論や方法論の成果と共に発展してきた。したがって広く人文・社会科学系にも目を配っておく必要がある。そのためには欧米で発表されている最新の成果に注目しなければならない。その上で演習生のフィールドの成果にどのように最新の成果が応用できるかを考えていく。		
教材（教科書）	演習生と相談の上決定		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	受講生のレジュメとパワーポイント		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）発表（６０％）論文の提出（２０％）		
到達目標	文化地理学の理論・方法論を自身のテーマに応用して修士論文の基礎を構築。		
授業時間外学習	修士論文の研究計画書と構成を作成しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
広く人文・社会科学系の理論・方法論も視野に入れること。			
授業スケジュール			
１　演習生のフィールドと採用する理論・方法論の報告 ２～１４　演習生の発表、討論 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★★

年度	2018	授業コード	J75199D01
科目名	【院】文化地理研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Cultural Geography D		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	ここまで行ってきた研究成果のまとめに入る。演習生はそれぞれの修士論文の途中経過を発表する。１１月に開催される歴史民俗学専攻の卒業論文・修士論文の中間発表では、最終的な成果を発表してもらう。		
教材（教科書）	演習生と相談の上決定		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	受講生のレジュメとパワーポイント		
評価方法	発表（５０％）論文の提出（５０％）		
到達目標	修士論文の作成。		
授業時間外学習	修士論文の下書きを作成しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
修士論文の進展状況の報告を常に求める。			
授業スケジュール			
１　演習生の修士論文の進捗状況の報告 ２～１４　演習生の発表、討論 １５　全体討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★★

年度	2018	授業コード	J75206A01
科目名	【院】文化地理特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Cultural Geography A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	まず、近年の文化地理学の動向を見る。その上で、私たちの心と景観の交流のあり方を探る。文化地理学には数多くの研究テーマと方法がある。その中でも、「心のなかの景観」は視覚以外の感覚での環境知覚に注目している。私たちは、景観は目で見るものと考えがちであるが、そうではない。人間は、聴覚・嗅覚・味覚・触覚をも使って、環境からの情報を知覚しているのである。そのような景観を「見えない景観」と呼ぶこともできるだろう。またそのような景観は、私たちの心と深く関わっているとも言える。本講義では、このような「心のなかの景観」研究の視点から、私たち人間の環境知覚を探っていく。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	佐々木高弘著『民話の地理学』古今書院、2003 年。		
教育方法	適宜配布		
評価方法	講義内での発言 40%、学期末レポート 60%		
到達目標	民話を通じて地理学と心理学の接点を見いだし、具体的事例に則して理解してもらうことを到達目標とする。		
授業時間外学習	参考文献を事前に読み、講義中の議論に参加できる準備をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教科書、参考書、配付資料を熟読してレジュメを作成すること。			
授業スケジュール			
1　心と景観の交流 2　文化地理学のテーマと研究方法 3　近年の動向 4　環境知覚研究の意義 5　人文主義地理学とは 6　心のなかの景観研究 7　昔話の象徴性 8　ユング派の昔話研究 9　民俗学の昔話研究 １０　文化人類学の昔話研究 １１　昔話と心のなかの景観：事例１ １２　事例２ １３　事例３ 14　事例４ 15　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J75212B01
科目名	【院】理論社会学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Theoretical Sociolog y B		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
授業概要	なぜ理論社会学を学ぶべきなのか。 人間が社会的動物だからである。人間は二人以上集まれば必ず社会をつくる（一人だけのときもおそらく社会は存在するだろう）。「社会」とは、大は国際社会・国家から小は家族・友人関係まで、すべて社会であり、人間はいつでもこうした大小の集団=社会をせっせとつくり、その盛衰とともに生きていく。出生、結婚、死といった最も私的にみえることすらも実は社会的なルールや社会的な状況に大きく規定されながら行われる。19 世紀の終りごろから発展しはじめた社会学はそうした「社会」（とくに近代的な社会）というものの力の大きさを発見していった。そして、社会のなかで生起する様々な現象のなかに法則や傾向を見出しながら、隣接領域の成果も取り込んで、理論として発展してきた。 この授業では、こうして発展してきた理論社会学を学んでいく。具体的に学ぶ内容と方法は、履修者の知識水準と修学の方針をふまえて話合いのうえで決めるが、履修者が確定していない現段階ではつぎのような内容を想定している。様々な社会にかかわる諸理論のなかでもとくに、社会のなかで人々の価値観や欲望や希望のありようが形成され変化していく社会的・心理的なダイナミクスについての諸理論に焦点をあてて学びながら、身近な社会的・人間的現象（とくに映画や漫画などのポピュラーな物語）をとりあげて、その学説・理論を応用して分析をしてみる。そのような学習と分析の作業を繰り返していくことで、諸理論と諸現象についての洞察と理解を深める。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜プリントを配り、また参考文献を適宜紹介していく。		
教育方法	学生の必要や要望に合わせながら、対話形式で授業をすすめていく。		
評価方法	授業での発表をはじめとする授業での取り組みを総合的に評価（100%）		
到達目標	社会学の諸理論を理解し分析に適切に使えるようになること。		
授業時間外学習	授業での発表をはじめとして授業内での取り組みができるように準備する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講者の学習状況や取り組んでいる課題、あるいは要望に応じて授業の内容と方法を修正します。社会学の理論だけではなく、必要に応じて、心理学的な研究をはじめ人文系の学問の様々な理論も紹介します。			
授業スケジュール			
第 1 回　　はじめに（学習方針の決定） 第 2 、 3 回　社会学的な理論の学習、その 1 第 4 、 5 回　社会的現象の分析、その 1 第 6 、 7 回　社会学的な理論の学習、その 2 第 8 、 9 回　社会的現象の分析、その 2 第 10、11 回　社会学的な理論の学習、その 3 第 12、13、14 回　社会的現象の分析、その 3 第 15 回　　全体のふりかえり			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J75218A01
科目名	【院】臨床心理学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology A		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	文献の購読、発表を通して研究テーマを縛り込み修士論文作成の準備を行う。各自の研究内容に即して、研究の目的、その研究領域における位置づけ、意義を明らかにし研究内容の幅が拡げられるように指導をする。また研究指導とともに心理臨床の実践的指導も行う。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	研究発表、討論。		
評価方法	評価方法 発表、討論への参加などを総合的に評価する。		
到達目標	心理臨床の基礎的な理解。修士研究の方向性を見極める。		
授業時間外学習	次回発表の内容と関わる文献を読んで授業に望むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究に対して積極的・能動的に取り組むこと。心理臨床に携わることに関しての自覚を持つこと。			
授業スケジュール			
1　文献講読・発表・討論　臨床心理学の基本的な文献を読む 2　文献購読・発表・討論　（以下院生各自の興味関心に即した文献を選び、発表してもらい、討論を行う） 3　文献講読・発表・討論 4　文献講読・発表・討論 5　文献講読・発表・討論 6　文献講読・発表・討論 7　研究発表・討論（以下修士論文作成を念頭に置き、研究の進展に即して発表してもらい、討論を行う） 8　研究発表・討論 9　研究発表・討論 10 研究発表・討論 11 研究発表・討論 12 研究発表・討論 13 研究発表・討論 14 研究発表・討論 １５　研究発表・討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J75218A02
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology A		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
授業概要	修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込むことができ、その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめることができる。こうした各自の取り組みの中で、臨床心理学のより専門的な探求を推し進めることができる。 特に臨床心理学研究演習Ａ・Ｂでは、修士論文の作成に向けて、各自が研究テーマを絞り込み、そのテーマに即して先行研究を展望し、発表を行う。		
教材（教科書）	特に教材は使用しない。		
教材（参考資料）	適宜、資料は配布する。		
教育方法	演習形式で行うが、各自の発表内容について全員参加で議論を行う。		
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（３０％）。		
到達目標	・臨床心理学の理論や研究方法の理解を深める.ことができる。 ・各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備を行うことができる。		
授業時間外学習	各演習の最後に次の演習の課題を指定するので、準備学習をしておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。

授業スケジュール

1　オリエンテーション
2　学部卒業研究の振り返り①
3　学部卒業研究の振り返り②
4　学部卒業研究の振り返り③
5　学部卒業研究の振り返り④
6　合同演習①
7　自由研究発表①
8　自由研究発表②
9　合同演習②
１０　自由研究発表③
１１　合同演習③
１２　先行研究の総括の発表①
１３　先行研究の総括の発表②
１４　先行研究の総括の発表③
１５　先行研究の総括の発表④

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75218A03
科目名	【院】臨床心理学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology A		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	その都度、紹介する。		
教育方法	院生から提出された材料について共同で検討する。		
評価方法	受講態度などの平常点（５０％）、授業内の課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自の研究テーマが十分に検討され、絞られる。		
授業時間外学習	自らの研究テーマに関する学習を地道に行なうこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
最初の授業で企画された内容にしたがって、各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。			
授業スケジュール			
1.研究演習の企画及び諸研究論文の検討について 2.諸研究論文の検討① 3.同② 4.同③ 5.同④ 6.同⑤ 7.研究演習① 8.同② 9.同③ 10.同④ 11.同⑤ 12.同⑥ 13.同⑦ 14.同⑧ 15.同⑨			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J75218B01
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology B		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	文献の購読、発表を通して研究テーマを縛り込み修士論文作成の準備を行う。各自の研究内容に即して、研究の目的、その研究領域における位置づけ、意義を明らかにし研究内容の幅が拡げられるように指導をする。また研究指導とともに心理臨床の実践的指導も行う。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	修士論文作成に向けて発表、討論を行う。		
評価方法	発表、討論への参加などを総合的に評価する。		
到達目標	修士研究の方向性を定める。 心理臨床の実践の理解を深める。		
授業時間外学習	次回の発表に関する文献を積極的に読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主体的・積極的に研究を広め、深めること。			
授業スケジュール			
1　研究発表・討論／文献紹介 2　研究発表・討論／文献紹介 3　研究発表・討論／文献紹介 4　研究発表・討論／文献紹介 5　研究発表・討論／文献紹介 6　研究発表・討論／文献紹介 7　研究発表・討論／文献紹介 8　研究発表・討論／文献紹介 9　研究発表・討論／文献紹介 10 研究発表・討論／文献紹介 11　研究発表・討論／文献紹介 12　研究発表・討論／文献紹介 13　研究発表・討論／文献紹介 14　研究発表・討論／文献紹介 15 研究発表・討論／文献紹介			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J75218B02
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology B		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
授業概要	修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込むことができ、その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめることができる。こうした各自の取り組みの中で、臨床心理学のより専門的な探求を推し進めることができる。 特に臨床心理学研究演習Ａ・Ｂでは、修士論文の作成に向けて、各自が研究テーマを絞り込み、そのテーマに即して先行研究を展望し、発表を行う。		
教材（教科書）	特に教材は使用しない。		
教材（参考資料）	適宜、資料は配布する。		
教育方法	演習形式で行うが、発表内容については全員参加で議論を行う。		
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（３０％）。		
到達目標	・臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めることができる。 ・各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備を行うことができる。		
授業時間外学習	各演習の最後に次の演習の課題を指定するので、準備学習をしておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。

授業スケジュール

1　オリエンテーション
2　自由研究発表①
3　自由研究発表②
4　自由研究発表③
5　自由研究発表④
6　合同演習①
7　自由研究発表⑤
8　自由研究発表⑥
9　合同演習②
１０　自由研究発表⑦
１１　合同演習③
１２　先行研究の総括の発表①
１３　先行研究の総括の発表②
１４　先行研究の総括の発表③
１５　先行研究の総括の発表④

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75218B03
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Clinical Psychology B		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	その都度、紹介する。		
教育方法	院生から提出された材料について共同で検討する。		
評価方法	受講態度などの平常点（５０％）、授業内の課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自の研究テーマが十分に検討され、絞られる。		
授業時間外学習	自らの研究テーマに関する学習を地道に行なうこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。			
授業スケジュール			
1.研究演習① 2.同② 3.同③ 4.同④ 5.同⑤ 6.同⑥ 7.修士論文の計画に関して① 8.同② 9.同③ 10.同④ 11.同⑤ 12.同⑥ 13.同⑦ 14.同⑧ 15.同⑨			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J75221C01
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology C		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	各自の研究テーマに即して修士論文作成を行う。また、心理臨床の実践の理解を深める。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	発表内容、討論への参加状況などを総合的に評価する。		
到達目標	修士論文作成の計画を立て、実施。心理臨床の基本的な理解を身につけて実践力を習得すること。		
授業時間外学習	次回の発表に関わる文献を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
積極的、計画的に研究を進めること。			
授業スケジュール			
【院】臨床心理学研究演習Ａと同時開講であるため、受講生の実情に併せて発表内容を調整する。修論中間発表を２回行う（他の教員の演習と合同で実施）。時期は受講生の人数などの状況に合わせて設定する。 1　修士論文の先行研究に関する発表・討論 2　修士論文の先行研究に関する発表・討論 3　修士論文の先行研究に関する発表・討論 4　修士論文の先行研究に関する発表・討論 5　修士論文の計画発表・討論 6　修士論文の計画発表・討論 7　修士論文の計画発表・討論 8　修士論文の計画発表・討論 9　文献講読・討論 10　文献講読・討論 11　文献講読・討論 12　修士論文計画指導 13　修士論文計画指導 14　修士論文計画指導 15　修士論文計画指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J75221C02
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology C		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
授業概要	修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込むことができ、その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめることができる。こうした各自の取り組みの中で、臨床心理学のより専門的な探求を推し進め、修士論文を完成できることを目指す。 特に臨床心理学研究演習Ｃ・Ｄでは、各自の研究テーマに即して、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文に仕上げる。また、研究の進行に合わせて、中間発表を行う。		
教材（教科書）	特に教材は使用しない。		
教材（参考資料）	適宜、資料は配布する。		
教育方法	研究テーマの決定や研究計画の立案を指導する。中間発表を行い、全員参加で議論する。		
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（３０％）。		
到達目標	臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めるとともに、各自が取り組もうとしているテーマに即して、修士論文の準備や作成を行うことができる。		
授業時間外学習	各演習の最後に次の演習の課題を指定するので、準備学習をしておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。

授業スケジュール

1　オリエンテーション
2　研究計画の発表①
3　研究計画の発表②
4　研究計画の発表③
5　研究計画の発表④
6　合同演習①
7　修士論文作成中間発表①
8　修士論文作成中間発表②
9　合同演習②
１０　修士論文作成中間発表③
１１　合同演習③
１２　修士論文作成中間発表④
１３　修士論文作成中間発表⑤
１４　修士論文作成中間発表⑥
１５　修士論文作成中間発表⑦

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J75221C03
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｃ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology C		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	その都度、紹介する。		
教育方法	院生から提出された材料について共同で検討する。		
評価方法	受講態度などの平常点（５０％）、授業内の課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自の研究テーマについての検討と並行して、修士論文の執筆に向けた作業と執筆が進行する。		
授業時間外学習	自らの研究テーマに関する学習と、修士論文執筆に向けた取り組みを着実に行なうこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。			
授業スケジュール			
1.修士論文のための研究実施に関して① 2.同② 3.同③ 4.同④ 5.同⑤ 6.同⑥ 7.同⑦ 8.同⑧ 9.同⑨ 10.同⑩ 11.同⑪ 12.同⑫ 13.同⑬ 14.同⑭ 15.同⑮			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J75221D01
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology D		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	修士論文の作成を行う。また心理臨床の実践の理解を深める。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	修士論文作成に向けて発表、討論を行う。		
評価方法	発表、討論への参加状況などを総合的に評価する。		
到達目標	修士論文の完成。心理臨床の基本的な理解を身につけて実践力を習得。		
授業時間外学習	次回の発表に関する文献を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
積極的・計画的に研究を進めること。			
授業スケジュール			
【院】臨床心理学研究演習Ｂと同時開講であるため、受講生の実情に併せて発表内容を調整する。修論中間発表を２回行う（他の教員の演習と合同で実施）。時期は受講生の人数などの状況に合わせて設定する。 1　修士研究の進捗状況発表 2　修士研究の進捗状況発表 3　修士研究の進捗状況発表 4　文献講読 5　文献講読 6　文献講読 7　修士論文中間発表 8　修士論文中間発表 9　修士論文中間発表 10　修士論文作成指導 11　修士論文作成指導 12　修士論文作成指導 13　修士論文作成指導 14　修士論文作成指導 15 修士論文内容発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	−

年度	2018	授業コード	J75221D02
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology D		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	
授業概要	修士論文の作成を視野に入れて、各自が関心をもち重点的に取り組もうとする研究テーマを絞り込むことができ、その研究テーマに即して、先行研究を展望し、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文にまとめることができる。こうした各自の取り組みの中で、臨床心理学のより専門的な探求を推し進め、修士論文を完成できることを目指す。 特に臨床心理学研究演習Ｃ・Ｄでは、各自の研究テーマに即して、研究計画を組み立て、データ収集を行い、論文に仕上げる。また、研究の進行に合わせて、中間発表を行う。		
教材（教科書）	特に教材は使用しない。		
教材（参考資料）	適宜、資料は配布する。		
教育方法	修士論文作成に際して、中間発表による議論や具体的な添削指導などを行う。		
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、発表（３０％）、議論への参加（３０％）。		
到達目標	・臨床心理学の理論や研究方法の理解を深めることができる ・各自が取り組むテーマに即して、修士論文を作成することができる。		
授業時間外学習	各演習の最後に次の演習の課題を指定するので、準備学習をしておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

演習での発表や議論に積極的・主体的な参加を望む。

授業スケジュール

1　オリエンテーション
2　修士論文作成個別指導①
3　修士論文作成個別指導②
4　修士論文作成個別指導③
5　修士論文作成個別指導④
6　合同演習①
7　修士論文作成個別指導⑤
8　修士論文作成個別指導⑥
9　合同演習②
１０　修士論文作成個別指導⑦
１１　合同演習③
１２　修士論文作成個別指導⑧
１３　修士論文作成個別指導⑨
１４　修士論文作成個別指導⑩
１５　修士論文作成個別指導⑪

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75221D03
科目名	【院】臨床心理学研究演習Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate seminar on clinical psychology D		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	各自の研究テーマにそくした文献講読、討議ほかを行なう。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	その都度、紹介する。		
教育方法	院生から提出された材料について共同で検討する。		
評価方法	受講態度などの平常点（５０％）、授業内の課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	各自の研究テーマについての検討と並行して、修士論文の執筆に向けた作業と執筆が進行し、論文が完成する。		
授業時間外学習	自らの研究テーマに関する学習と、修士論文執筆に向けた取り組みを着実に行なうこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各回の検討資料の準備をぬかりなくお願いしたい。			
授業スケジュール			
1.修士論文の執筆に関して① 2.同② 3.同③ 4.同④ 5.同⑤ 6.同⑥ 7.同⑦ 8.同⑧ 9.同⑨ 10.同⑩ 11.同⑪ 12.同⑫ 13.大学院での研究を今後にどう活かすか① 14.同② 15.同③			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J75225001
科目名	【院】臨床心理学研究法特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Clinical Psychology Method		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	臨床心理学の研究法を習得する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	授業中に配布する。		
教育方法	講義と発表。		
評価方法	平常点・発表及びレポートを総合的に評価する。		
到達目標	臨床心理学の様々な研究法を習得し、修士研究作成に生かす。		
授業時間外学習	次回の授業までに読んでくる資料を配布するので、読んでから出席すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

修士研究を念頭において能動的に取り組むこと。

授業スケジュール

1　　臨床の知とは
2　　心理臨床における研究
3　　心理臨床における研究
4　　心理臨床における研究
5　　心理臨床における研究
6　　心理臨床学の論文を読む・発表
7　　心理臨床学の論文を読む・発表
8　　心理臨床学の論文を読む・発表
9　　心理臨床学の論文を読む・発表
１０　心理臨床学の論文を読む・発表
１１　心理臨床における事例研究
１２　事例研究の論文を読む
１３　事例研究の論文を読む
１４　事例研究の論文を読む
１５　事例研究の論文を読む

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J75226A01
科目名	【院】臨床心理学特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Clinical Psychology A		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	【院】臨床心理学特論Ⅰ
授業概要	本特論では、まず前半に、臨床心理学の学問体系や臨床心理士を養成する大学院教育について概観し、その上で、臨床心理学に関わる各学派（精神分析学派、ユング派、ロジャース派、行動療法学派など）の鍵となる概念を比較検討することによって、臨床心理学の総合的な観点を習得することを目指す。さらに、各学派の人格理論、精神病理論、治療論などの理解を深める。また、そうした理解が単に知的な理解に留まることなく、心理臨床実践に活かされるものになることを目指す。後半は、精神分析理論や対象関係論の立場から転移や逆転移などの概念を用いて、クライエントと治療者の関係性に着目する形で、見立てや面接経過の理解が深まることを目標とする。 講義と演習形式を併用するが、必要に応じて実習も取り入れて、授業を進める予定である。		
教材（教科書）	大塚義孝編　「臨床心理学原論」　誠信書房 東山紘久編　「臨床心理面接学」　誠信書房 丸田俊彦著　「サイコセラピー練習帳」　岩崎学術出版社		
教材（参考資料）	文献購読を中心とした授業になるが、発表者の発表内容について全員参加の議論を行う。		
教育方法	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、レポート（３０％）、発表（３０％）。		
到達目標	心理臨床を実践していく上で必要とされる臨床心理学の理論や技法を習得できるようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。授業で聴講した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
演習形式での発表や議論には積極的・主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
１　オリエンテーション ２　臨床心理学の理念と方法 ３　臨床心理学の歴史 ４　臨床心理士の養成 ５　臨床心理学の倫理問題 ６　心理アセスメントの実際問題 ７　精神分析的アプローチ ８　クライエント中心療法的アプローチ ９　認知行動療法的アプローチ １０　診断面接 １１　治療契約と治療同盟 １２　転移と逆転移 １３　ワーキングスルー（徹底操作） １４　対象関係論的アプローチ １５　臨床実習やスーパーヴィジョンの心構え			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75226B01
科目名	【院】臨床心理学特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Clinical Psychology B		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	【院】臨床心理学特論Ⅱ
授業概要	心理臨床を実践するためには、理論および技法を単に知識として勉強するだけではなく、自らの具体的な経験と関連付けながら身につけることが必要不可欠である。 本講義においては、臨床心理学特論 A で学んだことを前提に、より詳細に各学派の理論や技法について学習すると同時に、実際の心理臨床において、如何にそれを応用していくかを学ぶ。		
教材（教科書）	北山修著「精神分析理論と臨床」　誠信書房		
教材（参考資料）	主として扱う文献に関連した図書を、適宜指示する。		
教育方法	受講生による発表が中心となる。		
評価方法	授業での発表、レポートなどを総合して評価する。		
到達目標	心理臨床を実践していく上で必要不可欠な理論および技法を、実践に役立つ形で身につける。		
授業時間外学習	1 臨床心理学に関する基礎的な理論について、復習しておくこと。 2 毎時間発表となるので、担当箇所について次回までにレジュメを作成すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講のルール 発表担当者は原則として欠席しないこと。やむを得ず欠席の場合は、事前にレジュメを教員まで送付すること。			
授業スケジュール			
1.精神分析の理論 2.対象関係論の展望 3～4.フロイトの症例「ドラ」から学ぶ 5～6 フロイトと鼠男について 7.言葉と夢の関係 8～9 神経症 10～11.「性格的困難」のための覚書 12～13.思春期の危機 14.精神療法の実際 15.まとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J75232A01
科目名	【院】臨床心理基礎実習 A	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Basic A		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	【院】臨床心理基礎実習 I
授業概要	カウンセリング・心理療法の基本構造を知識として理解することと並行して、ロール・プレイによる応答練習を丁寧に行ない、相手の感情の動きを実際に擬似体験し、その気持ちを言語化・意識化する訓練を実施する。また箱庭制作なども経験し、自らの心の動きを感じる。 同時に、グループ・ディスカッションなどを通して自己理解を深めるとともに、実習先での対応についても検討する。 実習の十分な効果を得るため、授業時間を適宜変更し、集中して実施することもある。		
教材（教科書）	必要に応じて講義途中で指定する場合がある。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	相談室での臨床業務に馴染むため、見学等も含めた授業形式となる。ロールプレイの実施・相互によるコメント・討論などを含む。		
評価方法	受講態度、発表、およびレポートなどを総合して評価する。		
到達目標	受講生自身の自己理解を深めながら、臨床事例を担当するための基本的な態度や方法を身につける。		
授業時間外学習	臨床心理学の基礎理論について復習すること。また毎週実習課題を指示するので、翌週までに実施すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
臨床家になるために、自分の能力をブラッシュアップするための努力と工夫を、自主的に行なってほしい。			
授業スケジュール			
（流れによって以下の計画に変更があり得る） 1 オリエンテーション 2〜3 面接の流れについて 4〜7 応答練習 8〜10 箱庭制作 11〜13 箱庭制作の振り返り・検討 14〜15 実習先での訓練について			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J75232B01
科目名	【院】臨床心理基礎実習Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Basic B		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	【院】臨床心理基礎実習Ⅱ
授業概要	実習先での臨床訓練が中心となるが、学内では、心理職をめざそうとする自分に目を向けるため、ロールプレイなどを実施し、自らの心理的な構えや課題について検討する。 同時に、グループ・ディスカッションや様々な体験学習を通して自己理解を深める。 十分な効果を得るために、授業時間を変更し、集中的な検討会を実施することがある。		
教材（教科書）	必要に応じて講義途中で指定する場合がある。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	実習先では、それぞれの場における心理臨床のあり方について、経験を通して学習する。 学内においては、ロールプレイ・箱庭制作などを実施し、それに対するグループディスカッションを行う。		
評価方法	平常点、発表、およびレポートなどを総合して評価する。		
到達目標	実践の現場での経験を通して、受講生自身の自己理解を深めながら、臨床事例を担当するための基本的な態度や方法を身につける。		
授業時間外学習	臨床心理基礎実習Ａで学習した内容について振り返りを実施し、自らの課題について考察しておくこと。次回までの課題については、講義の最後に指示する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講のルール 実習先には遅刻・欠席なく出席すること。学内での発表者は、原則として欠席しないこと。やむを得ず欠席する場合は、事前にレジュメを教員まで送付すること。 自分の能力をブラッシュアップするための努力と工夫を、自主的に行なってほしい。			
授業スケジュール			
（流れによって以下の計画に変更があり得る） 1　春学期のふりかえり 2～4　臨床心理職をめざそうとする自分 5～7　マイクロ・カウンセリング 8～11　対応のバリエーション（ロール・プレイ） 12～14　実習先での経験について 15　心理臨床とは			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J75236A01
科目名	【院】臨床心理査定演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Practicum on psychological Assessment A		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	【院】臨床心理査定演習Ⅰ
授業概要	子どもの臨床においてだけではないのだが、指導的、治療的アプローチを行なう前提として、子どもの状態の査定、仮説の構成を行なうことが必要である。査定の道具としての検査の実施においては、発達指数（ＤＱ）や知能指数（ＩＱ）を算出すればすむものでは決してない。具体的データから子どもの目からは世の中がどう見え、耳からはどう聞こえているのかを、その子の身になって思い浮かべられるようになりたい。そのためにも、検査者と被検査者との関係のなかでの子どもの行動を観察して読む作業が要る。そして、それらの検査者のなかでのみたての統合をとおして次の援助に移すことができる。 この授業では、現場の児童臨床で不可欠な新版Ｋ式発達検査 2001 を実施し役立てることができるようになるための基礎を、演習をとおして得る。また、ＷＩＳＣその他の知能・発達検査の概要についても概要を把握する。さらに、ロールシャッハ・テストは、おとなだけでなく子どもにとっても有力な検査なので、学習を進めるための基礎(検査の成り立ちやスコアリング)を習得する。なお、本授業は公認心理師受験に必要な科目である。心理的アセスメントの総論についても最初に述べるが、新版Ｋ式発達検査 2001 の演習をとおしてその総論も身につくはずである。		
教材（教科書）	高石浩一・大島剛・川畑隆共編「心理学実習 応用編１ 知能・発達検査実習～新版Ｋ式を中心に」 培風館 ※初回の授業で割引販売するので事前購入する必要はない。 また、必要に応じてプリント類を配布する。		
教材（参考資料）	川畑隆編著「子ども・家族支援に役立つアセスメントの技とコツ～よりよい臨床のための４つの視点、８つの流儀」 明石書店 大島剛・川畑隆・伏見真里子ほか著「発達相談と新版式発達検査～子ども・家族支援に役立つ知恵と工夫～」 明石書店 新版Ｋ式発達検査 2001、ＷＩＳＣ－Ⅲの実施マニュアル、片口法によるロールシャッハ・テスト関連図書など…　　備品図書を利用するので購入する必要はない。 川畑隆・菅野道英・大島剛ほか著「発達相談と援助～新版Ｋ式発達検査 2001 を用いた心理臨床～」 ミネルヴァ書房		
教育方法	演習、実習をメインとする。		
評価方法	受講態度などの平常点（５０％）、授業内の課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	実習した検査を実際に用いることができるようになる、あるいはその基礎が得られる。		
授業時間外学習	演習時間内にできることには限りがあるので、時間外にも自主的に学習を行なってもらいたい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教科書をよく読み、演習時間外においても実際に検査用具を手にし、検査の施行法を身につけていってほしい。			
授業スケジュール			
１．心理的アセスメントの意義 ２．心理的アセスメントに関する理論と方法 ３．心理に関する相談、助言、指導等とアセスメント ４．発達・発達障害・発達検査・発達診断・発達援助・家族援助などについて ５．Ｋ式発達検査の概要と試行法① ６．同② ７．Ｋ式発達検査の結果の整理法 ８．Ｋ式発達検査の読み取りの基本① ９．同② １０．同③			

１１．同④
１２．検査等にもとづいた子どもの保護者等への助言とその後について
１３．その他の知能・発達検査
１４．質問紙法①
１５．同②
※上記の順序等については変更があり得る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75236B01
科目名	【院】臨床心理査定演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Practicum on psychological Assessment B		
担当者名	久保　克彦	旧科目名称	【院】臨床心理査定演習Ⅱ
授業概要	心理臨床の現場で必要とされる心理アセスメント技術を習得できることを目指す。特に、投影法、質問紙法、作業法などのパーソナリティ検査を用いて、様々な事例の分析を行い、同時に、技術面のことのみにとどまらず、臨床現場で出会う様々な問題についても考察できるようになることを目指す。		
教材（教科書）	教科書は特に使用しない。		
教材（参考資料）	臨床現場で施行された心理検査データを用いて、分析訓練を行う。		
教育方法	適宜、プリントなどを配布する。		
評価方法	平常点（４０％）出席状況等による、レポート（３０％）、発表（３０％）。		
到達目標	心理臨床場面で必要とされる心理アセスメント技術を習得できる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の課題を指定するので、予習しておくこと。次回の発表者は、発表内容のレジメを準備しておくこと。実習した内容は、必ずその日のうちに復習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

演習での発表や議論には積極的・主体的な参加を望む。

授業スケジュール

１　オリエンテーション
２　心理アセスメントと精神医学的診断
３　ウェクスラー式知能検査による事例分析
４　内田－クレペリン作業検査による事例分析
５　ＭＭＰＩ による事例分析
６　ロールシャッハテストによる事例分析　Ａ
７　ロールシャッハテストによる事例分析　Ｂ
８　ロールシャッハテストによる事例分析　Ｃ
９　ロールシャッハテストによる事例分析　Ｄ
１０　ロールシャッハテストによる事例分析　Ｅ
１１　ロールシャッハテストによる事例分析　Ｆ
１２　ＴＡＴ による事例分析
１３　Ｐ－Ｆスタディ による事例分析　Ａ
１４　Ｐ－Ｆスタディ による事例分析　Ｂ
１５　Ｐ－Ｆスタディ による事例分析　Ｃ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J75242A01
科目名	【院】臨床心理実習Ａ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Advance d A		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	本実習は、基本的には学内で行うケースカンファレンスと学外実習期間での実習からなる。さらに授業においては心理教育相談室のインテークカンファランス及びスタッフミーティングも含まれる。　臨床心理学コースのみ受講可。M1、M2、研修員全員に参加の義務がある。単位認定は M2 の時のみ。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	河合隼雄著　心理療法序説　岩波書店		
教育方法	事例発表、インテーク報告、スタッフミーティングの内容に基づき、コメント、解説、討論を行う。		
評価方法	発表及び平常点（討論への参加など）を基にして総合的に評価。		
到達目標	事例の検討を通して心理臨床の実践力を養う。 事例の発表の仕方を学ぶ。		
授業時間外学習	参考文献及び心理臨床学についての文献（その都度授業内で紹介）を読む。発表の事例や自分の担当する事例についての文献を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎回の出席を義務とする。
守秘義務の徹底。

授業スケジュール

Ⅰ　カンファレンスなど
1　オリエンテーション　発表の順番など実習の進め方を決定。インテークカンファレンス。スタッフミーティング。
2　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
4　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
5　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
6　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
7　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
10　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
１１　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
12　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
13　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
14　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
15　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

通常授業の行われない時期にもカンファレンス・ミーティングを行うので注意すること。

Ⅱ　学外及び学内実習
学外実習の時期などについては先方との話し合いの上で決定される。
学外及び本学心理教育相談室において、各機関の担当者のもとで実習を行う。
なお、この授業に参加する院生は各人が個人的にスーパーヴィジョンを受けていることが必要である。
実習に先立ってガイダンスを行うので、実習の目的、進め方、実習中の留意事項などについて十分に理解すること。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75242B01
科目名	【院】臨床心理実習Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Advance d B		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	本実習は、基本的には学内で行うケースカンファレンスと学外実習期間での実習からなる。さらに授業においては心理教育相談室のインテークカンファランス及びスタッフミーティングも含まれる。　臨床心理学コースのみ受講可。M1、M2、研修員全員に参加の義務がある。単位認定は M2 の時のみ。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	河合隼雄著　心理療法序説　岩波書店		
教育方法	事例発表、インテーク報告、スタッフミーティングの内容に基づき、コメント、解説、討論を行う。		
評価方法	発表及び平常点（討論への参加など）を基にして総合的に評価。		
到達目標	事例の検討を通して心理臨床の実践力を養う。 事例の発表の仕方を学ぶ。		
授業時間外学習	参考文献及び心理臨床学についての文献（その都度授業内で紹介）を読む。発表の事例や自分の担当する事例についての文献を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎回の出席を義務とする。
守秘義務の徹底。

授業スケジュール

Ⅰ　カンファレンスなど
1　オリエンテーション　発表の順番など実習の進め方を決定。インテークカンファレンス。スタッフミーティング。
2　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
4　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
5　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
6　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
7　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
10　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
１１　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
12　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
13　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
14　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
15　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

[授業の行われない時期にも下記の予定でカンファレンス・ミーティングを行う]
1 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
2 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

Ⅱ　学外及び学内実習
学外実習の時期などについては先方との話し合いの上で決定される。
学外及び本学心理教育相談室において、各機関の担当者のもとで実習を行う。
なお、この授業に参加する院生は各人が個人的にスーパーヴィジョンを受けていることが必要である。
実習に先立ってガイダンスを行うので、実習の目的、進め方、実習中の留意事項などについて十分に理解すること。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75242B02
科目名	【院】臨床心理実習Ｂ	単位数	1
科目名（英語表記）	Practicum on Clinical Psychology Advance d B		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	本実習は、基本的には学内で行うケースカンファレンスと学外実習期間での実習からなる。さらに授業においては心理教育相談室のインテークカンファランス及びスタッフミーティングも含まれる。　臨床心理学コースのみ受講可。M1、M2、研修員全員に参加の義務がある。単位認定は M2 の時のみ。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	河合隼雄著　心理療法序説　岩波書店		
教育方法	事例発表、インテーク報告、スタッフミーティングの内容に基づき、コメント、解説、討論を行う。		
評価方法	発表及び平常点（討論への参加など）を基にして総合的に評価。		
到達目標	事例の検討を通して心理臨床の実践力を養う。 事例の発表の仕方を学ぶ。		
授業時間外学習	参考文献及び心理臨床学についての文献（その都度授業内で紹介）を読む。発表の事例や自分の担当する事例についての文献を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎回の出席を義務とする。
守秘義務の徹底。

授業スケジュール

Ⅰ　カンファレンスなど
1　オリエンテーション　発表の順番など実習の進め方を決定。インテークカンファレンス。スタッフミーティング。
2　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
4　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
5　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
6　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
7　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
8　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
9　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
10　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
１１　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
12　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
13　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
14　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
15　ケースカンファレンス　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

[授業の行われない時期にも下記の予定でカンファレンス・ミーティングを行う]
1 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
2 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング
3 月　インテークカンファレンス　スタッフミーティング

Ⅱ　学外及び学内実習
学外実習の時期などについては先方との話し合いの上で決定される。
学外及び本学心理教育相談室において、各機関の担当者のもとで実習を行う。
なお、この授業に参加する院生は各人が個人的にスーパーヴィジョンを受けていることが必要である。
実習に先立ってガイダンスを行うので、実習の目的、進め方、実習中の留意事項などについて十分に理解すること。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75246A01
科目名	【院】臨床心理面接特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Methods of Clinical Interview A		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	【院】臨床心理面接特論Ⅰ
授業概要	力動論に基づく心理療法の理論と実践について知識をみにつける。また、力動的心理療法以外でも、心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法が選択・調整できるように、様々な理論とともに、事例を研究する。		
教材（教科書）	特になし　適宜指示する		
教材（参考資料）	Ａ・ストー　　心理面接の教科書　創元社 ユング派心理療法　河合俊雄編　ミネルヴァ書房		
教育方法	少人数なので、ゼミ形式で行う。		
評価方法	授業への積極的な参加、課題の提出などにより評価する。		
到達目標	面接の基本について理解を深めること。		
授業時間外学習	臨床の事例に接したり,単元ごとに授業に関連する文献を提示するので、読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的に参加して下さい.

授業スケジュール

１、　心理療法の進め方
２、　初回面接で気をつけること・守秘義務・プライバシーへの配慮
３、　心理療法の進展
４、　心理療法の技法、関係性
５、　力動論による理解
６、　力動論・フロイト
７、　力動論・ユング
８、　発達障害について
９　、発達障害・非定型発達・グレーゾーンの発達論
１０、事例から学ぶ　プレイセラピー　子ども
１１、事例から学ぶ　思春期・青年期
１２、事例から学ぶ　地域における心理支援の事例　保健所
１３、事例から学ぶ　地域における心理支援の事例　療育・保育園との連携など
１４、精神科・病院での心理支援
１５、現代の心理療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75246B01
科目名	【院】臨床心理面接特論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Studies in Methods of Clinical Interview B		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	【院】臨床心理面接特論Ⅱ
授業概要	心理療法における理論と技法について　習得する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義及び発表。		
評価方法	発表及び平常点		
到達目標	心理臨床の多様な実践力を養う		
授業時間外学習	参考文献（適宜講義内で挙げる物だけではなく自分自身で関連文献を探すこと）などを積極的に読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

事例を扱うので守秘義務を徹底すること。

授業スケジュール

1　オリエンテーション
2　事例研究（1）
3　事例研究（2）
4　事例研究（3）
5　事例研究（4）
6　事例研究（5）
7　心理療法の理論と実践　描画（1）
8　心理療法の理論と実践　描画（2）
9　心理療法の理論と実践　箱庭（1）
10 心理療法の理論と実践　箱庭（2）
11 心理療法の理論と実践　箱庭（3）
12 心理療法の理論と実践　箱庭（4）
13　言葉とイメージ（1）
14　言葉とイメージ（2）
15 言葉とイメージ（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	－

年度	2018	授業コード	J75251A01
科目名	【院】日本歴史文化研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Culture His tory A		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	鎌倉後期の朝廷研究は近年、急速な進展をみせた。そこで鎌倉後期の藤原兼仲の日記である『勘仲記』の輪読と、各人の研究発表を織り交ぜながら進める。史料読解では、国立歴史民俗博物館が所蔵する写本の写真版と『増補史料大成　勘仲記』の翻刻とを対照させながら読み進める。それぞれの記事の歴史的背景を考察しながら、厳密な読解につとめたい。この演習を通して、問題の所在についての認識を深めるとともに、漢文史料の読解能力や史料操作の方法を鍛える。		
教材（教科書）	史料のコピーを配布する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	報告や討論など平常の授業での貢献度（60%）、レポート（40%）		
到達目標	・貴族の日記史料の正確な読解力と分析力をつける。 ・日本史学の課題と研究方法を理解し、論文執筆の実力を涵養する。		
授業時間外学習	担当する史料については事前に割り振っておくので、十分な準備が必要である。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・輪読では何をどのようにして調べるかを、あらかじめ指示するので、それに従って徹底した調査が望まれる。 ・レポートの内容については、講義内で指示する。			
授業スケジュール			
1　ガイダンス 2　『勘仲記』写本について 3　龍粛論文の講読 4　『勘仲記』建治元年条の輪読（藤原兼平の摂政就任） 5　『勘仲記』建治元年条の輪読（兼平と立坊） 6　『勘仲記』建治元年条の輪読（五節雑事） 7　市沢哲研論文の講読 8　五味文彦論文の講読 9　『勘仲記』建治元年条の輪読（三方吉書） 10　『勘仲記』建治元年条の輪読（熙仁立親王） 11　『勘仲記』建治元年条の輪読（法成寺造営） 12　『勘仲記』建治元年条の輪読（立坊節会） 13　『勘仲記』建治元年条の輪読（新摂政拝賀） 14　『勘仲記』建治元年条の輪読（摂政兼平と亀山上皇） 15　『勘仲記』建治元年条の輪読（東宮坊官除目）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75251B01
科目名	【院】日本歴史文化研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Graduate Seminar on Japanese Culture His tory B		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	鎌倉幕府の正史である『吾妻鏡』の輪読と、論文講読を交えながら授業を進める。輪読ではそれぞれの記事の史的背景を考察しながら、漢文史料の厳密な読解を進め史料操作の方法を鍛える。論文講読では、問題の所在についての認識を深めるとともに、日本史学の課題を理解する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	報告や討論など平常の授業での貢献度（50%）、レポート（50%）		
到達目標	・漢文史料の正確な読解力と分析力をつける。 ・日本史学の課題と研究方法を理解し、論文執筆の実力を涵養する。		
授業時間外学習	・担当する史料については事前に割り振っておくので、きちんとした準備が必要である。 ・論文講読では、報告者は当該論文の他に関係論文を１本以上読んだ上で、当該論文の論旨を的確にまとめ、論文の長所と問題点・疑問点を指摘したレジュメを全員に配付する。報告者以外の授業参加者は全員ノートをとりながら論文を読んでくる。授業の最初に、当該論文の要旨および論文の長所と疑問点を記したノートのコピー１部を提出する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・輪読では何をどのようにして調べるかは、あらかじめ指示しておくので、きちんと調べてくることが必要である。
・レポートの内容については、講義内で指示する。

授業スケジュール

1　ガイダンス
2　『吾妻鏡』写本についての先行研究
3　『吾妻鏡』の輪読（以仁王の挙兵）
4　『吾妻鏡』の輪読（三善康信と頼朝）
5　川合康論文の講読
6　『吾妻鏡』の輪読（源頼朝の挙兵）
7　『吾妻鏡』の輪読（佐々木一族）
8　『吾妻鏡』の輪読（頼朝と観音信仰）
9　『吾妻鏡』の輪読（石橋山合戦）
10　大山喬平論文の講読
11　『吾妻鏡』の輪読（箱根山）
12　『吾妻鏡』の輪読（三浦義明討死）
13　『吾妻鏡』の輪読（安房への逃避行）
14　『吾妻鏡』の輪読（上総介広常）
15　石井進論文の講読

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75253A01
科目名	【院】環境社会特論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
授業概要	環境経済学の分野における諸問題及び分析手法を学ぶために，多くの主題を幅広く概観する．前半は，外部効果の問題や，外部効果の存在する市場の機能を改善するための方法について学ぶ．後半は，環境の改善によって得られる利益の評価の問題を考察し，特に非市場財の価値評価の方法における問題を紹介する．講義では特に以下の点に重点を置いて進めていく． １）環境計画や環境経済学の歴史・発展過程を簡潔に概観すること． ２）環境汚染を引き起こす社会制度や経済的理由を理解し，汚染を制御するためのメカニズムについて学ぶこと． ３）環境資産や環境の損失を価値評価するための経済理論や方法について理解すること． ４）環境政策における不確実性の影響や持続的環境管理の可能性について考察すること．		
教材（教科書）	James R. Kahn 1998. The Economic Approach to Environmental and Natural Resources, Dryden Press, 2nd Ed. （ジェームズ・R. カーン著・内藤 登世一訳［1998］『環境と資源への経済学的アプローチ』 未出版）		
教材（参考資料）	① David W. Pearce and R. Kerry Turner. [1990] Economics of Natural Resources and Environment., Johns Hopkins Press. ② A. Myrick Freeman, III. [1993] The Measurement of Environmental and Resource Values: Theory and Methods, Resources for the Future Inc., 2nd Ed.		
教育方法	1．毎回の授業は演習形式で，教科書の内容をできるだけわかりやすく解説していく． 2．学んだ環境経済学の諸原理を応用して，我々を取り巻く国内問題や国際問題についても考察していく．そのために、新聞や雑誌等の資料も配布する．		
評価方法	授業内ディスカッション（50%）・期末レポート（50%）		
到達目標	1．環境汚染を引き起こす社会制度や経済的理由を理解できるようになる． 2．汚染を制御するためのメカニズムについて理解できるようになる．		
授業時間外学習	授業の前に，毎回の内容について，教科書を読んで準備すること．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義の前に参考書を読んで準備し，講義に出席して内容を理解すること．教科書リーディングの資料は最初の授業で配布する．			
授業スケジュール			
1. 序論・歴史 2. 環境管理及び環境経済学の進化発展 3. 環境政策から生じる便益や費用についての分析 4. 厚生変化の測定についての基本的概念 5. 外部効果・財産所有権 6. 環境政策・政策手段 － 概観 7. 環境税・環境基準・排出権取引制度 8. 環境政策から生じる便益や費用の配分			

9. 間接的便益評価・非使用価値
10. 価値評価のための仮説的手法
11. 生産要素投入としての環境の質
12. 財産価値・レクリェーションからの便益
13. 環境管理における不確実性の役割
14. 持続的環境管理
15. 総括・環境経済学の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	★★

年度	2018	授業コード	J75254A01
科目名	【院】文化人類学研究演習Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	文化人類学は、これまで様々な社会をフィールドワークし、それを分析する方法論を積み上げてきた。 本演習では、これらの基本的な文献を学ぶとともに、その方法論を生かして、フィールドワークを行う。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点　50％ フィールドワーク　25％ レポート・民俗誌提出　25％		
到達目標	文化人類学の基礎的な文献を理解する。 短期のフィールドワークの行うことができる。		
授業時間外学習	指示された文献は予習をしてくること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
フィールドワーク地を見つけるために、日頃から各地を歩いておくこと。			
授業スケジュール			
1.基本文献の選定 2.文献の講読 3.文献の講読 4.文献の講読 5.文献の講読 6.文献の講読 7.フィールドワークの計画と実施 8.フィールドワークの計画と実施 9.フィールドワークの実施 10.フィールドワークの実施 11.文献の講読と民俗誌の作成 12.文献の講読と民俗誌の作成 13.文献の講読と民俗誌の作成 14.文献の講読と民俗誌の作成 15.成果の口頭発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J75254B01
科目名	【院】文化人類学研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	文化人類学は、これまで様々な社会をフィールドワークし、それを分析する方法論を積み上げてきた。本演習では、これらの基本的な文献を学ぶとともに、その方法論を生かして、フィールドワークを行い、民俗誌を完成させる。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点　50％ フィールドワーク　25％ レポート・民俗誌提出　25％		
到達目標	文化人類学の文献を理解する。 中期のフィールドワークの行うことができる		
授業時間外学習	前週に課された課題は完成させてくること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
フィールドワーク地を見つけるために、日頃から各地を歩いておくこと			
授業スケジュール			
1.基本文献の選定 2.文献の講読 3.文献の講読 4.文献の講読 5.文献の講読 6.文献の講読 7.フィールドワークの計画と実施 8.フィールドワークの計画と実施 9.フィールドワークの実施 10.フィールドワークの実施 11.文献の講読と民俗誌の作成 12.文献の講読と民俗誌の作成 13.文献の講読と民俗誌の作成 14.文献の講読と民俗誌の作成 15.成果の口頭発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J75255A01
科目名	【院】コミュニケーション社会学研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
授業概要	私たちはどんなコミュニケーションを?なっているのか、現代社会はどんなコミュニケーションを?なう社会なのかという視点から、現代社会を考える。 1 回生の春学期は、まず入学時に提出した研究計画書をベースに、自らの研究計画を発表する。次に受講生の研究計画に基づいた参考資料を講読する。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	各?の研究テーマに応じて、授業中に指?する。		
教育方法	学?の発表とディスカッションにより?なう。受講?の数によって発表時間、回数は異なるが、基本的に 3 回の発表を予定している。他の受講?の発表の際は積極的に質問・意?を出してもらう。講読した学術論文のうち 1 編は、書評としてレポートにまとめて提出する。		
評価方法	ディスカッション（30%）、発表（40%）、レポート（30%）。		
到達目標	・研究計画について、社会学の専門的知識をふまえた上で、説得力を持って説明することができる。 ・研究テーマに即した適切な方法を選択することができる。 ・研究テーマに即した先行研究について、批判的に理解しながら内容を適切に論じることができる。		
授業時間外学習	報告の準備をする。紙媒体のレジュメは必須とする。必要に応じて、他のメディアも準備する。講読した学術論文のうち 1 編を書評としてレポートにまとめて提出する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
発表、講読、文献調査を含め、修士論文の準備を他のすべてのスケジュールよりも優先させること。			
授業スケジュール			

《ガイダンス》
1. 大学院での研究の進め方、研究例の解説、授業内容の説明、発表の順番の決定

《研究計画の発表》
2. 発表 1 回目（担当者 1 人）発表内容：研究計画　講読する論文 2 編の決定
3. 発表 1 回目（担当者 1 人）発表内容：研究計画　講読する論文 2 編の決定
4. 発表 1 回目（担当者 1 人）発表内容：研究計画　講読する論文 2 編の決定
5. 発表 1 回目（担当者 1 人）発表内容：研究計画　講読する論文 2 編の決定

《学術論文の講読》
6. 書評レポートの書き方と実例紹介
7. 発表 2 回目（担当者 1 人）発表内容：学術論文の講読
8. 発表 2 回目（担当者 1 人）発表内容：学術論文の講読
9. 発表 2 回目（担当者 1 人）発表内容：学術論文の講読
10. 発表 2 回目（担当者 1 人）発表内容：学術論文の講読
11. 発表 3 回目（担当者 1 人）発表内容：学術論文の講読
12. 発表 3 回目（担当者 1 人）発表内容：学術論文の講読
13. 発表 3 回目（担当者 1 人）発表内容：学術論文の講読
14. 発表 3 回目（担当者 1 人）発表内容：学術論文の講読

《次のセメスターのための準備》
15. このセメスターのふりかえり、次のセメスターまでに準備すべきこと、次のセメスターの予定

※上記の計画は受講?4?を想定した計画である。受講? の数により、発表者数・発表時間は増減する可能性がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J75255B01
科目名	【院】コミュニケーション社会学研究演習 B	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
授業概要	私たちはどんなコミュニケーションを?なっているのか、現代社会はどんなコミュニケーションを?なう社会なのかという視点から、現代社会を考える。 1 回?の秋学期は、春学期に引き続き、受講生自らの研究計画に基づいた参考資料を講読する。最後にこれまでの研究計画を改訂し、新たな研究計画書を作成して発表する。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	各?の研究テーマに応じて、授業中に指?する。		
教育方法	学?の発表とディスカッションにより?なう。受講?の数によって発表時間、回数は異なるが、基本的に 3 回の発表を予定している。他の受講?の発表の際は積極的に質問・意?を出してもらう。		
評価方法	ディスカッション（40%）、発表（60%）。		
到達目標	・研究の進展および、教員や他の受講生からの助言に従って、自らの研究を適切にブラシュアップすることができる。		
授業時間外学習	報告の準備をする。紙媒体のレジュメは必須とする。必要に応じて、他のメディアも準備する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
発表、講読、?献調査を含め、修?論?の準備を他のすべてのスケジュールよりも優先させること。			
授業スケジュール			

《ガイダンス》
1. 前セメスターの書評レポートの講評、発表の順番の決定、講読する論文の確認

《学術論文の講読》
2. 発表 1 回?（担当者 1?）発表内容?学術論?の講読
3. 発表 1 回?（担当者 1?）発表内容?学術論?の講読
4. 発表 1 回?（担当者 1?）発表内容?学術論?の講読
5. 発表 1 回?（担当者 1?）発表内容?学術論?の講読
6. 発表 2 回?（担当者 1?）発表内容?学術論?の講読
7. 発表 2 回?（担当者 1?）発表内容?学術論?の講読
8. 発表 2 回?（担当者 1?）発表内容?学術論?の講読
9. 発表 2 回?（担当者 1?）発表内容?学術論?の講読
10. 発表 3 回?（担当者 1?）発表内容?学術論?の講読
11. 発表 3 回?（担当者 1?）発表内容?学術論?の講読
12. 発表 3 回?（担当者 1?）発表内容?学術論?の講読
13. 発表 3 回?（担当者 1?）発表内容?学術論?の講読

《研究計画の更新》
14. 発表 4 回?（担当者 2?）発表内容?新しい研究計画
15. 発表 4 回?（担当者 2?）発表内容?新しい研究計画

※上記の計画は受講生 4 人を想定した計画である。受講生の数により、発表者数・発表時間は増減する可能性がある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J75256A01
科目名	【院】広告広報研究演習 A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
授業概要	広告広報、消費財マーケティング、地域広報、表現文化などをテーマとする修士論文の執筆、作品の研究・制作を行う。		
教材（教科書）	受講生の関心をふまえ、講義中に指示する。		
教材（参考資料）	同上		
教育方法	受講生が論文のテーマを立て、自らの関心に沿って文献講読や資料収集を行い、その発表と検討を中心に進める。		
評価方法	出席、および修士論文の構成、論文のための調査、草稿執筆などの進捗を総合的に評価する。		
到達目標	広告広報、消費財マーケティング、地域広報、表現文化などの研究に必要な理論や方法を十分に修得する。広告論・メディア論・マーケティング論などの理論や、消費者調査、広告などの作品分析、広告キャンペーンなどの事例研究、広告産業やクリエイターの研究などの方法について学び、修士論文のテーマに最適なアプローチができるよう努める。		
授業時間外学習	到達目標に掲げたさまざまな理論や方法について、自主的に理解を深めること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

広告広報の研究は、実践の成就に資する政策科学であると同時に、メディアや社会・文化の分析・批評でもある。自らの研究の目的と立ち位置について十分にきわめてほしい。

授業スケジュール

<講義予定>
第 1 回:オリエンテーション
第 2 回:修士論文のテーマとすすめ方の相談(1)
第 3 回:修士論文のテーマとすすめ方の相談(2)
第 4 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 5 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 6 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 7 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 8 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 9 回:修士論文の発表・指導
第 10 回:修士論文の発表・指導
第 11 回:修士論文の発表・指導
第 12 回:修士論文の発表・指導
第 13 回:修士論文の発表・指導
第 14 回:修士論文の発表・指導
第 15 回:ふりかえり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J75256B01
科目名	【院】広告広報研究演習Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
授業概要	広告広報、消費財マーケティング、地域広報、表現文化などをテーマとする修士論文の執筆、作品の研究・制作を行う。		
教材（教科書）	受講生の関心をふまえ、講義中に指示する。		
教材（参考資料）	同上		
教育方法	受講生が論文のテーマを立て、自らの関心に沿って文献講読や資料収集を行い、その発表と検討を中心に進める。		
評価方法	出席、および修士論文の構成、論文のための調査、最終稿を総合的に評価する。		
到達目標	広告広報、消費財マーケティング、地域広報、表現文化などの研究に必要な理論や方法を十分に修得する。広告論・メディア論・マーケティング論などの理論や、消費者調査、広告などの作品分析、広告キャンペーンなどの事例研究、広告産業やクリエイターの研究などの方法について学び、修士論文のテーマに最適なアプローチができるようにする。		
授業時間外学習	到達目標に掲げたさまざまな理論や方法について、自主的に理解を深めること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

広告広報の研究は、実践の成就に資する政策科学であると同時に、メディアや社会・文化の分析・批評でもある。自らの研究の目的と立ち位置について十分にきわめてほしい。

授業スケジュール

<講義予定>
第 1 回:オリエンテーション
第 2 回:修士論文のテーマとすすめ方の相談(1)
第 3 回:修士論文のテーマとすすめ方の相談(2)
第 4 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 5 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 6 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 7 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 8 回:修士論文の進捗報告・ディスカッション
第 9 回:修士論文の発表・指導
第 10 回:修士論文の発表・指導
第 11 回:修士論文の発表・指導
第 12 回:修士論文の発表・指導
第 13 回:修士論文の発表・指導
第 14 回:修士論文の発表・指導
第 15 回:ふりかえり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J75257A01
科目名	【院】英語言語学特論A	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	This course is designed as an introduction to the various concepts and theories of linguistics, using the English language as a model.		
教材（教科書）	First steps in English Linguistics (2nd. Edition), Kuroshio Publishing		
教材（参考資料）	None specified.		
教育方法	Classes will follow the textbook/workbook, with in-class discussion and debate. Preview, review and homework assignments will be given. Students are advised to bring an English/Japanese dictionary and a notebook for new terminology.		
評価方法	In-class exercises: 30%, reports/presentations: 70%		
到達目標	By the completion of this course, students will have a basic working knowledge of the key areas of linguistics as they pertain to the English language. They will be able to use this knowledge to linguistically analyze other languages.		
授業時間外学習	Students wishing to undertake this course of study are advised to familiarize themselves with basic academic English.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

All students are expected to attend all scheduled classes and take responsibility for their own learning. This means students are prepared to critically engage with the topics presented, and conduct thorough preview and review of the course material. It is also advised that all students bring a quality English-Japanese dictionary.

授業スケジュール

1. Introduction to the Course
2. Why Study English Linguistics?
3. How English Has Changed over the Centuries
4. How Words Are Made：Morphology
5. How Words Mean： Semantics I
6. How English Phrases Are Formed： Syntax I
7. How English Sentences Are Formed： Syntax II
8. How Sentences Mean： Semantics II
9. How to Communicate with Other People： Pragmatics
10. The Sounds of English： Phonetics and Phonology
11. Regional Varieties of English： Sociolinguistics I
12. English in Society： Sociolinguistics II
13. How English Is Acquired： Psycholinguistics
14. How English as a Second／Foreign Language Is Acquired：Applied Linguistics
15. Overview of Course/ Presentations

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J75259001
科目名	【院】計量心理学特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
授業概要	心理学研究で使用されることの多い，計量的な方法について学習する。扱う手法は，量的な心理学研究を行う上で有用であるとともに，臨床場面で心理尺度を利用するための基礎知識としても重要である。 標準得点の役割，テスト理論（古典的テスト理論，項目反応理論），代表的な多変量解析の手法を中心に学習する。		
教材（教科書）	特定の教科書は使用しない。各自がこれまで統計学の学習に使用してきた教科書等を参照するとともに，必要に応じて他の文献を参照してほしい。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業の題材となる文献の内容についての受講生の発表，各回のテーマとなる分析手法についての講義と，それに対する演習によって授業を進める。		
評価方法	授業への出席および討論への参加状況等の平常点(50%)，および発表(50%)によって評価する。		
到達目標	心理尺度の得点の表現として利用されることの多い標準得点の原理と解釈の仕方を学ぶ。 テスト理論の基本を理解し，自らの研究でその利用ができるようになる。 多変量解析の主要な手法について，その目的を理解し，論文等に書かれた分析結果を適切に読み取れるようになる。また，自らの研究で必要になった時に，それを使いこなすための基礎力を獲得する。		
授業時間外学習	各回の授業内容は，次回以降の内容の理解の基礎となるので，毎回の授業の復習を十分に行うこと。 授業の例題となる文献を授業内で指定するので，それに目を通した上で次の授業に出席すること。また，発表担当者は授業での報告について十分な準備をして授業に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

統計学の初歩的な内容について理解していることを前提として授業を進める。学部段階で統計学の学習をしていない者は，この授業と平行して統計学の入門的な内容を自習をすること。

授業スケジュール

1. 平均，分散，標準偏差，相関
2. 標準得点と正規分布
3. 信頼性(1) 古典的テスト理論の基本モデルと信頼性の概念
4. 信頼性(2) 信頼性の評価方法
5. 測定誤差の評価(1) 統計的検定と区間推定の考え方
6. 測定誤差の評価(2) 誤差の大きさの評価，得点間の差の評価
7. 妥当性
8. 多変量解析(1) 相関と回帰
9. 多変量解析(2) 確認的因子分析と探索的因子分析
10. 多変量解析(3) 構造方程式モデリング(1)
11. 多変量解析(4) 構造方程式モデリング(2)
12. 項目反応理論(1)
13. 項目反応理論(2)
14. 項目反応理論(3)
15. 尺度の等化，リンキング，適応型テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J75259101
科目名	【院】司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	河合　弘靖	旧科目名称	
授業概要	第Ⅰ部は司法・犯罪（非行）分野に関する理論（司法・犯罪分野に関する基礎理論，犯罪・非行の個別的要因や社会的要因等），第Ⅱ部は犯罪・非行の心理臨床と支援の展開（犯罪者・非行少年の処遇システムやアセスメント，犯罪・非行の治療教育等）について講義形式を中心にした授業を行う。また，司法・犯罪（非行）分野に関する理論，現代日本における犯罪・非行の現状や犯罪・非行に対処するための社会的制度等について理解することによって犯罪者や非行少年を支援し更生させるための基本的な知識や方法等を取得することを目的とする。なお，非行や犯罪に関わる業務に携わるのは主に国家公務員，地方公務員であり，各職場や職種について授業の中で紹介する。 『この科目は，2018 年度入学生以降については公認心理師対応科目となり，開講年度に科目名とシラバスが改訂される。なお，詳細については，別途，公開する。』		
教材（教科書）	なし，各回の授業でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	藤岡淳子（編）『犯罪・心理の心理学』有斐閣ブックス　2,400 円 越智啓太（著）『ケースで学ぶ犯罪心理学』北大路書房　1,900 円 越智啓太・桐生正幸（編著）『テキスト司法・犯罪心理学』　5,800 円		
教育方法	講義形式を中心に授業を進め，授業内容によってはグループ・ディスカッション，ロールプレイング等を組み合わせて授業を実施する。また，適宜，事例検討を行いながら実践的な授業を実施したいと考えている。		
評価方法	レポート 10 回（50%），定期試験（50%）。		
到達目標	1．司法・犯罪分野に関する理論について理解し説明できる。 2．犯罪・非行に対処するための社会的制度等について説明できる。 3．犯罪の加害者や被害者への支援の在り方や，犯罪や非行の防止対策について提示できる。		
授業時間外学習	1．授業内容を整理しノートにまとめておく。それが次の授業の内容のスムーズな理解につながり，定期試験にも役立つ。 2．授業後に提示する課題についてレポートを作成する。 3．犯罪や非行に関する事象や社会の動き，論評は様々に報道されている。授業で学習した事柄を思い浮かべながら，自分なりに報道内容等についてどういうことが起きている可能性があるのか，検討し説明できるようにする。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．現代では犯罪・非行に関する事象や社会の動き，論表は様々に報道されている。それらに興味・関心を持ち，将来の資格取得（臨床心理士，公認心理師等）や，職業との関連を考えている学生に受講してほしい。
2．犯罪・非行臨床の現場での臨床経験や事例等を踏まえながら授業を進めていきたいと考えているので，質問や意見等があったら積極的に発言してほしい。

授業スケジュール

第Ⅰ部　司法・犯罪（非行）分野に関する理論
第１回　司法・犯罪（非行）分野に関する基礎理論　コラム①「窃盗」　レポート１
第２回　犯罪・非行の個別的要因①パーソナリティ障害（１）　コラム②「殺人」
第３回　犯罪・非行の個別的要因①パーソナリティ障害（２）　コラム③「強盗・恐喝」　レポート２
第４回　犯罪・非行の個別的要因②発達障害（１）　コラム④「性犯罪」
第５回　犯罪・非行の個別的要因②発達障害（２）　コラム⑤「放火」　レポート３
第６回　非行と家族関係，及び家事事件　コラム⑥「ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）」　レポート４
第７回　犯罪・非行と学校・職場・地域　コラム⑦「ストーキング」　レポート５
第８回　犯罪捜査　１．犯罪者プロファイリング，２．ポリグラフ検査，３．目撃証言　コラム⑧「詐欺」　レポート６
第Ⅱ部　犯罪・非行の心理臨床と支援の展開

第 9 回　犯罪・非行の心理臨床の基礎　コラム⑨「サイバー犯罪」　レポート 7 第 10 回　犯罪者・非行少年の処遇システム（1）　コラム⑩「交通犯罪」 第 11 回　犯罪者・非行少年の処遇システム（2）　コラム⑪「薬物犯罪」　レポート 8 第 12 回　犯罪者・非行少年のアセスメント（1）　コラム⑫「女性犯罪」 第 13 回　犯罪者・非行少年のアセスメント（2）　コラム⑬「高齢者犯罪」　レポート 9 第 14 回　犯罪・非行の治療教育　コラム⑭「マスメディアと犯罪」　レポート 10 第 15 回　犯罪被害者の精神的被害,　コラム⑮「被害者相談」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J75259201
科目名	【院】産業・労働分野に関する理論と支援の展開	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
授業概要	組織心理学は、主に３つの領域に分かれる。人事・組織行動・消費者行動である。産業心理学とは、主に製造業や交通事業者等における安全管理とヒューマンインターフェースに関わる分野である。それぞれについて、概略を講義する。実践としては主に、ストレス対処行動と集団アクティビティの実施に関するものを実施する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	事業場内メンタルヘルス推進担当者必携　中央労働災害防止協会		
教育方法	講義に実習を交える。実習用教材は適宜配付する		
評価方法	授業内の発表（４０％）、最終レポート（６０％）により評価する		
到達目標	メンタルヘルスケアチェックの制度化に伴い、産業労働場面においても心理職は必要とされている。ただし、現状としては社労士または社内担当者によりスクーリングが行われ、面接は医師に限られている。そこで組織におけるメンタルヘルス制度を理解し、人事研修などで実施されている多様な手法を理解することを目的に授業を行う。事業所内・あるいは外部スタッフとしてチームで働けることを目標とする。		
授業時間外学習	読むべき教材を指示するので、担当箇所を読んで理解してくること。レジュメを作る必要はないが、発表を求める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講人数が限られるため、実際に集団アクティビティを経験することは難しい。
必要に応じて、他の実習系授業への参加・観察を求める場合がある。

授業スケジュール

１．　産業・労働心理学概論
２．　消費者心理学
３．　安全管理とヒューマンインターフェース

４．　職場内うつの実情
５．　ストレスチェック制度
６．　神経心理学とストレス対処
７．　人事・労務管理
８．　リーダーシップ
９．　人事研修としての集団アクティビティ

１０．集団アクティビティ　１　　アイスブレーキング

１１．集団アクティビティ　２　　自己理解

１２．集団アクティビティ　３　　集団による問題解決

１３．.集団アクティビティ　４　　集団内コミュニケーション

１４．集団アクティビティ　５　　組織内コミュニケーション

１５．コーチング

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J75259301
科目名	【院】心の健康教育に関する理論と実践	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大家　聡樹	旧科目名称	
授業概要	心の健康教育は、心の側面から健康の維持・向上を目指していくという日本国民としての基本的な生活態度を養っていく上で非常に重要なテーマです。これは、あなた方の学生時代の生活にも当てはまりますし、これから社会へ出て就労した際の社会人としての生活にも当てはまります。また、親として次世代を養っていく上での家庭生活の中でも重要になってきます。授業の中では、心の健康とは何かを考えていく上で、重要なテーマをいくつか取り上げ、心の健康とは何かを考え、その背景にある理論とそれに基づいた実践の両方を学べる授業を行っていきたいと考えています。この講義を通じて、こころの健康教育がなぜ必要なのかという理由、心の健康とは何かということ、そしてどのように心の健康教育がなされるのか、という具体的な心の健康をえるための技法やこころの健康教育についての実際について学ぶことができます。		
教材（教科書）	授業内で、適宜紹介する。		
教材（参考資料）	授業内で、適宜紹介する。		
教育方法	必要なプリント、資料を配布・提示し使用する。		
評価方法	授業への参加度（50%）と学期末のレポート（50%）を課題とする。		
到達目標	心の健康教育の理論と実践とを広く知り、その重要性を実感を持って理解すること。そのことによって、自分自身の心の健康の回復・維持・向上を自覚的に行えるようにすると同時に、他者に対する心の健康教育を種々の社会的役割の中で実践することができるように知識を身につけていくこと。		
授業時間外学習	授業のための資料がある場合は、事前に配布、若しく指定した資料に目を通しておくこと。また、自身の生活行動に関して、心の健康についての課題を課することがあるので、その際には授業までに課題を行うこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
心の健康教育が実生活においてどのような重要性を持っているのかを実感して、考えながら受講してほしいと思っています。			
授業スケジュール			
①オリエンテーション ②心の健康と不健康ー精神や心を病むということ－ ③心の健康教育の法的な必要性 ④うつ病について－うつ病とは？ー ⑤うつ病について－治療法について－ ⑥他の精神疾患について ⑦身体疾患と心の健康との関連について ⑧ストレスについて ⑨心の健康を促進する心理教育について　ストレスマネジメントについて ⑩心の健康を促進する心理教育について　傾聴とアサーションについて ⑪心の健康を促進する心理教育について　認知行動療法について ⑫学校教育の観点から ⑬災害支援の観点から ⑭産業衛生の観点から ⑮まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J76001A01
科目名	【院】生物有機化学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioorganic Chemistry I		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	科学的発見や新規技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのためには、文献や関連原著論文に対する十分な読解力を要する。現在はその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須の用件である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、様々な研究に接し、客観的な評価力を養うことを目的とする。		
教材（教科書）	解説資料プリントおよび化学生態学、天然物化学に関する原著論文（各回ごとに受講生に配布する）。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生は、原著論文の内容を把握し、発表する。		
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	化学生態学および天然物化学に関連する文献の読解力を強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。		
授業時間外学習	予め配布された文献や資料の概要を把握しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントやプリントを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。			
授業スケジュール			
１．担当教員による各種文献の探索方法、入手方法についての解説 ２．担当教員による文献の読解法についての解説 ３．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献１） ４．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献２） ５．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献３） ６．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献４） ７．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献５） ８．受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献１） ９．受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献２） １０．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献１） １１．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献２） １２．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献３） １３．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献４） １４．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献５） １５．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献６）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J76001B01
科目名	【院】生物有機化学特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioorganic Chemistry Ⅱ		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	科学的発見や新規技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのためには、様々な文献や関連原著論文に対する高度な読解力を要する。原著論文には一定の記述様式があり、これに精通することが、論文の内容を理解する上で必須の要件となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、研究に対する客観的な批判力を身につけることを目的とする。		
教材（教科書）	解説資料プリントおよび化学生態学、天然物化学に関する原著論文（各回ごとに受講生に配布する）。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教員の指導の下、自主的な文献探索と読解を行う。		
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・原書論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	生物有機化学特別演習Ⅰで修得した内容を基盤として、化学生態学、天然物化学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。		
授業時間外学習	配布される文献や資料の概要を把握しておく。発表に際しては計画的に準備をして、発表のスキルを向上させるよう努力する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントやプリントを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

授業スケジュール

１．担当教員による生物有機化学特別演習Ⅰの習熟度評価
２．担当教員による文献の収集・整理についての解説
３．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献１）
４．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献２）
５．受講生の発表と質疑（機器分析に関する文献３）
６．受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献１）
７．受講生の発表と質疑（天然物材料の採取、処理および微量天然物の取扱いに関する文献２）
８．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献１）
９．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献２）
１０．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献３）
１１．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献４）
１２．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献５）
１３．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献６）
１４．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献７）
１５．受講生の発表と質疑（ダニ、昆虫類の化学生態学に関する文献８）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76001C01
科目名	【院】生物有機化学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioorganic Chemistry Ⅲ		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	具体的な学術論文を材料に、研究手法や研究成果を批判的に読み理解を深める。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する。 ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること。		
授業時間外学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
授業スケジュール			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（1） 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（1） 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（1） 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（2） 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（2） 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　（2） 7.　研究手法の統合的な整理　（1） 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（3） 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（3） 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（3） 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　（4） 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　（4） 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　（4） 14. 研究手法の統合的な整理　（2） 15. 研究手法の統合的な整理　（3）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J76001D01
科目名	【院】生物有機化学特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioorganic Chemistry IV		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	国際誌の投稿規定や原稿スタイルを読解し、自身の研究成果を論文原稿としてまとめてみる。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる能力を養成する。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。

授業スケジュール

1. 国際的な学術論文の投稿規定（1）
2. 国際的な学術論文の投稿規定（2）
3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1）
4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2）
5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1）
6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2）
7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3）
8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1）
9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2）
10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3）
11.研究成果のプロモーション（1）
12.研究成果のプロモーション（2）
13.研究者のキャリアアップ
14.研究のマネージメント
15.バイオ環境特別演習のまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76002008
科目名	【院】生物有機化学特別研究（2018-2019）	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Bioorganic Chemistry		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	よりよいバイオ環境を目指して、化学生態学に焦点を当て、コナダニ類や昆虫類を材料として研究を行なう。受講生に担当させる具体的な研究テーマは秘密情報であり、また当教室の状況や当該分野の外部情報によって変化する。研究分野の概要としては、新規ダニ種のフェロモンの同定、フェロモンの作用機構、昆虫の産卵・摂食阻害物質の探索、昆虫を誘引する花香成分など、植物と昆虫の相互座用、昆虫-植物-寄生蜂間のいわゆる”３者関係”の化学生態学があげられる。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	担当するテーマの関連論文、Web での検索情報		
教育方法	教員の指導の下、自主的に調査・観察・実験を実施する。		
評価方法	修士論文および口頭発表（８０％）で主に評価し、日常の研究態度、教室運営への協力度（２０％）を合わせて総合的に評価する。		
到達目標	修士論文の完成とともに生物有機化学分野で何らかの新しい知見を得る。研究成果を学会発表、論文投稿などで公表する。		
授業時間外学習	研究を推進するに当たり、文献を的確に収集し、関連情報を把握する。その情報を元に具体的な目標設定や実験計画を立案する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
原著論文や関連速報論文の読解が研究の初期には特に重要であり、科学英語の理解力を向上させる。また、その分野での新しい発見には新しい視点や広い視野、そして深い洞察が必須であり、これらを獲得するためにどうすれば良いかを常に考えて行動して欲しい。			
授業スケジュール			
１．テーマの企画 ２．テーマに関する文献情報の収集、内容の理解 ３．実験計画の立案 ４．実験、考察、実験計画の変更、再実験、考察の繰り返し ５．論文の作成 ６．研究発表 上記の 1.～4.項目を順番に、あるいは適宜組み合わせて繰り返す。論文の作成が可能なものについては論文作成して学会などで発表する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J76003A01
科目名	【院】分子生物学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Molecular Biology I		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	生命科学研究に関連する文献の探索と理解力を強化するとともに，研究課題の発見力を身につける． 今日の生命科学の飛躍的な発展は，多様な生物の遺伝子情報の蓄積と多くの先端技術が基盤となっている．生命科学研究には膨大な専門用語の習熟と関連文献の読解力と理解力を必要としている．本演習では，各受講者の研究課題に即した関連分野の文献検索と主要な研究論文の読解力と手技手法を身につけ，研究課題関連領域の最新の全容を把握する．		
教材（教科書）	毎回，必要に応じた教材資料を配布する．		
教材（参考資料）	Molecular Biology of The Cell (Sixth Edition) by Bruce Alberts, Alexander Johnson, Jurian Lewis, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う．		
評価方法	評価方法 論文発表者と討論参加者それぞれについて，以下の評価をおこなう． ・文献概要の理解度（10%） ・研究分野の背景理解と研究目的の理解度（20%） ・研究手法の原理と手技手法の理解度（20%） ・研究成果の理解度（20%） ・研究の課題点の発見力と価値評価力（10%） ・質疑・討論の貢献度（20%）		
到達目標	発表論文の概要の理解・研究分野の背景と目的を理解・研究手法の原理と手技手法の理解・課題点の発見と評価・キーワードの理解と要約作成ができることを目標にする．		
授業時間外学習	事前に配布された資料を把握しておくこと．遅刻厳禁．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義ごとに受講者１名を順次割り当てる．当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで文献を選び，精読し，発表準備の指導も受け，発表資料を作成し，その内容を発表する．その他の受講者は，質疑に積極的に参加する．また，紹介された論文のキーワードを選び出し，説明文を作成する．			
授業スケジュール			
1.　担当教員より研究領域の総説と文献検索、課題文献の読み方について 2.　担当教員より課題文献のデータの読み方と関連データの検索法について 3.　受講者の発表と質疑（遺伝子発現制御に関する基本的な文献１） 4.　受講者の発表と質疑（遺伝子発現制御に関する基本的な文献２） 5.　受講者の発表と質疑（遺伝子発現制御に関する基本的な文献３） 6.　受講者の発表と質疑（遺伝子発現制御に関する基本的な文献４） 7.　受講者の発表と質疑（発現タンパク質の機能に関する基本的な文献１） 8.　受講者の発表と質疑（発現タンパク質の機能に関する基本的な文献２） 9.　受講者の発表と質疑（発現タンパク質の機能に関する基本的な文献３）			

10. 受講者の発表と質疑（発現タンパク質の機能に関する基本的な文献４）
11. 受講者の発表と質疑（高等動物細胞の機能に関する基本的な文献１）
12. 受講者の発表と質疑（高等動物細胞の機能に関する基本的な文献２）
13. 受講者の発表と質疑（高等動物細胞の機能に関する基本的な文献３）
14. 受講者の発表と質疑（高等動物細胞の機能に関する基本的な文献４）
15. 分子生物学特別演習Ⅰの総括と課題の整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J76003B01
科目名	【院】分子生物学特別演習II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Molecular Biology II		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	分子生物学特別演習Ｉで修得した内容を基盤に，生命科学研究の原著論文の読解力を身につける． 最新の生命科学研究の知見の習得には，先端技術の理解力と多様な専門文献や原著論文に対する読解力と膨大な生命科学情報データバンクの調査能力を必要としている。本演習では，各受講者の研究課題に即した関連分野の文献解析と関連データ検索とデータ解析処理の演習を通じて，主要な原著論文を読む力を養う．		
教材（教科書）	毎回，必要に応じた教材資料を配布する． 最新の学術論文に対して，デジタル機器を使って，アクセス可能なものを選択する．		
教材（参考資料）	Molecular Biology of The Cell (Sixth Edition) by Bruce Alberts, Alexander Johnson, Jurian Lewis, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter		
教育方法	アクティブラーニング形成で行う．		
評価方法	論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう． ・文献概要の理解度（10%） ・研究分野の背景理解と研究目的の理解度（20%） ・研究手法の原理と手技手法の理解度（20%） ・研究成果の理解度（20%） ・研究の課題点の発見力と価値評価力（10%） ・質疑・討論の貢献度（20%）		
到達目標	発表論文の概要の理解・研究分野の背景と目的を理解・研究手法の原理と手技手法の理解・課題点の発見と評価・キーワードの理解と要約作成ができることを目標にする．		
授業時間外学習	事前に配布された資料を把握しておくこと．遅刻厳禁．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義ごとに受講者１名を順次割り当てる．当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで文献を選び，精読し，発表準備の指導も受け，発表資料を作成し，その内容を発表する．その他の受講者は，質疑に積極的に参加する．また，紹介された論文のキーワードを選び出し，説明文を作成する．

授業スケジュール

1. 担当教員による分子生物学特別演習Ｉの習熟度の評価と本演習の課題目標について
2. 担当教員による課題設定と目標についての具体例の紹介
3. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献１）
4. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献２）
5. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献３）
6. 受講者の発表と質疑（遺伝子の相互作用による発現調節に関する文献４）
7. 受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献１）

8.　受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献２）
9.　受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献３）
10. 受講者の発表と質疑（タンパク質の相互作用による機能発現に関する文献４）
11. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献１）
12. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献２）
13. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献３）
14. 受講者の発表と質疑（細胞間の相互作用による機能調節に関する文献４）
15. 分子生物学特別演習 II の総括と課題の整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	J76003C01
科目名	【院】分子生物学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Molecular Biology III		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	分子生物学特別演習Ⅱまでに習熟した内容を基盤として，生命科学研究の原著論文の読解力をさらに身につけ，科学的課題が解決できるようにする． 最新の生命科学研究遂行には多様な関連研究成果の探索¥と理解に基づいて，新たな研究課題の設定と研究課題の妥当な解決方法の計画と手技手法のスキルを習熟する． 分子生物学特別演習Ⅰ・Ⅱまでの習得内容を基盤として，主要関連論文が読解できるようにする．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	適宜、紹介する．		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う．		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること．		
授業時間外学習	事前に配布された論文を読んでおくこと．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義ごとに受講者１名を順次割り当てる．当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで文献と複数の関連文献を選び，精読し，発表準備の指導も受け，発表資料を作成し，その抄読内容を整理して発表する．その他の受講者は、質疑に積極的に参加する．

授業スケジュール

1. 担当教員による分子生物学特別演習Ⅱの習熟度の評価と本演習の課題目標について
2. 担当教員による国際的な主要な原著論文と関連分野の論述動向と内容について
3. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文１）
4. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文２）
5. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文３）
6. 著名な論文の発表と構成内容の討論（遺伝子機能分野に関する論文４）
7. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文１）
8. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文２）
9. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文３）
10. 著名な論文の発表と構成内容の討論（タンパク質複合体の機能分野に関する論文４）
11. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文１）
12. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文２）
13. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文３）
14. 著名な論文の発表と構成内容の討論（細胞の高次機能分野に関する論文４）
15. 分子生物学特別演習Ⅲの総括と課題の整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76003D01
科目名	【院】分子生物学特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Molecular Biology IV		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	分子生物学特別演習Ⅲまでに習熟した内容を基盤として、具体的な科学的課題の解決に必要な企画力と研究力を身につける。 膨大な研究成果が発表される生命科学研究分野では、研究成果を公表する場合には常に最新の成果の理解と有効性を判断し、学問領域の最新の現状を把握する必要がある。本演習では、各受講者の研究課題に関連した研究領域の客観的な最新の現状認識力とともに、生命科学領域の学術誌への論文投稿のための研究背景説明や研究成果の解析、整理、表現の検討と論述展開や引用文献の扱いなどスキルを身につける。		
教材（教科書）	受講者自身が関連分野の原著論文や総説のリストを作成し配布する。		
教材（参考資料）	その都度、紹介する。		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う.		
評価方法	論文発表者と討論参加者それぞれについて、以下の評価をおこなう。 ・課題に対する関連文献選択の適正度（10%） ・研究分野の背景理解と研究目的の価値評価力（20%） ・研究の手技手法の理解度と新規性の評価力（20%） ・研究結果の理解度と解析評価力（20%） ・新規課題の提案企画力と論述力（10%） ・質疑・討論の貢献度（20%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解すること.		
授業時間外学習	事前に配布された資料で予習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義ごとに受講者１名を順次割り当てる。当該受講者は事前に担当教員の指導のもとで関連分野の文献を複数選び、精読し、発表準備の指導も受け、発表資料を論述形式でレジメを作成し、その内容を発表する。生命科学領域に関わる論文作成のスキルを養成する。その他の受講者も、論文作成のスキル習得に参加する。

授業スケジュール

1. 担当教員による分子生物学特別演習Ⅲの習熟度の評価と本演習の課題目標について
2. 担当教員による国際的な主要論文の論述形式と整理ポイントについて
3. 著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文１）
4. 著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文２）
5. 著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文３）
6. 著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文４）
7. 著名な論文の発表と論文構成の討論（研究課題分野に関する論文５）
8. 担当教員による論文構成と論述形式とデータ整理と DataBank 登録について
9. 担当教員による論文投稿規定と論文作成のスキルについて
10. 受講者の研究課題の背景整理とデータ整理について（１）
11. 受講者の研究課題の背景整理とデータ整理について（２）
12. 受講生作成の研究論文発表に対しての討論（１）
13. 受講生作成の研究論文発表に対しての討論（２）
14. 受講生作成の研究論文発表についての評価と問題点の指摘
15. 受講生作成の研究論文発表についての改善案の検討と討議

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76004008
科目名	【院】分子生物学特別研究（2018-2019）	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Molecular Biology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	生体や細胞内外の環境変化に対し機能維持に遺伝子やその産物がどのような制御機構を用いているのかを (1) ゲノムの構造レベル (2) 細胞の分化・発生の時空間レベル (3) 情報の伝達レベル (4) シグナル分子レベル (5) 多分子の複合体レベルでの機能解析に取り組む研究課題を選択し， 課題の把握と理解に努め，必要な手技技法にも熟達し，研究に励み，妥当な結論から研究成果の学問上の意義や社会的な活用法にも考察して修士論文としてまとめ上げる。		
教材（教科書）	研究課題に応じ，研究の進展に伴い，個別に教材や文献を提供する。		
教材（参考資料）	必要に応じて，Databank などの資料を指示する.		
教育方法	−		
評価方法	修士論文の研究課題の把握と理解（20%), 実験計画の策定（20%), 実験の遂行と結果（20%） およびその評価（20%), 他者からの評価を議論できる能力（10%), 発表表現能力（10%)などを 総合的に評価する.		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする.		
授業時間外学習	事前準備については，指導教員が個々に必要に応じた最適な指導をする.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

社会が求めている人材を各自イメージしながら，グリーンバイオ技術者や研究者に必要なスキルと知識を身につけること.
目標とする研究テーマに真剣に意欲的に忍耐強く立ち向かって取り組むこと.
研究室構成員の一員として，院生は研究活動の遂行と維持にリーダー的な立場で行動すること.
研究科内で実施される大学院生専門情報交換会へ積極的に参加し，特別研究のスキル上達に研鑽すること.

授業スケジュール

(1 年次)
1-3.　研究課題の把握と研究分野の背景の調査
4-6.　研究計画の策定と研究方法の検討
7-9.　ゲノムレベルでの研究課題の検討
10-13. 細胞レベルでの研究課題の検討
14-17. 修飾分子レベルでの研究課題の検討
18-21. 生体高分子複合体・細胞内オルガネラ等での検討
22-30. 予備実験の実施と結果の検討

(2 年次)
31-34. 実験計画の吟味と改善
35-40. 実験の実施と再現性及び信頼性の確立

41-50. 発展的な実験の実施と結果の検討
51-54. 関連分野の実験成果と比較し，新規性の確認と検討
55-58. 成果の整理と検討及び発表形式の検討
59-60. 発表形式の検討と確認

尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある．

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76005A01
科目名	【院】微生物機能開発学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Microbial Biotechnology I		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通していなくてはならず、そのためには様々な文献に対する高度な読解力が必要になる。現在はその多くが英文で書かれており、専門用語に習熟することも必須である。本演習では、各受講生の特別研究のテーマについて文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成することを目的とする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	1）応用微生物学　谷 吉樹 著（1992）コロナ社 2）応用微生物学 第2版　清水 昌、堀之内末治 編（2008）文永堂出版 3）遺伝子から見た応用微生物学　熊谷英彦 他 編（2008）朝倉書店 4）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.　Madigan, M.T. et al.（2010） Pearson　Education		
教育方法	微生物学に関する文献（総説・原著論文）（適宜配布する／自ら収集する）を使って議論をする。		
評価方法	文献の選択と演習について、 次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	微生物機能開発学に関連する文献の読解力を強化し、科学的な問題解決力を養成する。		
授業時間外学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。

授業スケジュール

1） 担当教員による文献の読み方についての講述（1）
2） 担当教員による文献の読み方についての講述（2）
3） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献1）
4） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献2）
5） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献3）
6） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献4）
7） 受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献5）
8） 受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献1）
9） 受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献2）
10） 受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献3）
11） 受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献1）
12） 受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献2）
13） 受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献3）
14） 受講生の発表と質疑（微生物代謝に関する文献1）
15） 受講生の発表と質疑（微生物代謝に関する文献2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J76005B01
科目名	【院】微生物機能開発学特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Microbial Biotechnology II		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通していなくてはならず、そのためには様々な文献に対する高度な読解力が必要になる。原著論文には一定の記述様式があり、そのことに精通することが論文の内容を理解する上で必須の要件である。本演習では、各受講生の特別研究のテーマについて文献の探索および読解の能力を養うとともに、研究に対する客観的な批判力を醸成することを目的とする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教育方法	微生物学に関する文献（総説・原著論文）（適宜配布する／自ら収集する）を使って，議論する。		
評価方法	文献の選択と演習について、 次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	微生物機能開発学特別演習 I で修得した内容を基盤として、微生物機能開発学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を身につける。		
授業時間外学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義時間ごとに受講生 1 名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してプレゼンテーションソフト等でその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。

授業スケジュール

1） 担当教員による微生物機能開発学特別演習 I の習熟度評価
2） 担当教員による文献の収集・整理法についての講述
3） 受講生の発表と質疑（微生物分子細胞生物学に関する原著論文 1）
4） 受講生の発表と質疑（微生物分子細胞生物学に関する原著論文 2）
5） 受講生の発表と質疑（微生物分子細胞生物学に関する原著論文 3）
6） 受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文 1）
7） 受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文 2）
8） 受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文 3）
9） 受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文 4）
10） 受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 1）
11） 受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 2）
12） 受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 3）
13） 受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 4）
14） 受講生の発表と質疑（微生物機能開発に関する原著論文 5）
15） 総合討論

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J76005C01
科目名	【院】微生物機能開発学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Microbial Biotechnology Ⅲ		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのためには、微生物機能開発学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状と問題点を、第三者が理解できるようにまとめ上げる能力を養成する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	1）応用微生物学　第2版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教育方法	微生物学に関する文献・原著論文を受講生がまとめた資料（各回ごとに配布する）を使って議論する。		
評価方法	文献・原著論文の選択と演習について、次の点で評価する。 ・問題設定の適性度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	微生物機能開発学特別演習ⅠおよびⅡで修得した文献・原著論文の読解力を基盤として、各問題の現状認識と技術の将来予測をするための能力を身につける。		
授業時間外学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義時間ごとに受講生1名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。さらに発表のための資料を作成し、その内容を紹介する。その他の受講生は総説の学術的内容に関する質疑に積極的に参加する。

授業スケジュール

1） 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述（1）
2） 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述（2）
3） 受講生の発表と質疑（1）
4） 受講生の発表と質疑（2）
5） 受講生の発表と質疑（3）
6） 受講生の発表と質疑（4）
7） 受講生の発表と質疑（5）
8） 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（1）
9） 受講生の発表と質疑（6）
10） 受講生の発表と質疑（7）
11） 受講生の発表と質疑（8）
12） 受講生の発表と質疑（9）
13） 受講生の発表と質疑（10）
14） 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（2）
15） 総合討論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J76005D01
科目名	【院】微生物機能開発学特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Microbial Biotechnology IV		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのために、微生物機能開発学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状を認識する能力と、微生物機能開発学領域における論文作成のためのスキルを養成する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	1）応用微生物学　第2版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教育方法	受講生が作成したレジュメなどを使って議論する。		
評価方法	選択した各文献・原著論文と執筆した論文について、次の点で評価する。 ・問題設定の適性度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）		
到達目標	英文誌に投稿可能な様式で論文を執筆する力を身につける。		
授業時間外学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
前半は微生物機能開発学特別演習Ⅲと同様に進める。後半は受講生各自で作成した論文をもとに、質疑応答を行う。			
授業スケジュール			
1）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述 2）　受講生の発表と質疑（1） 3）　受講生の発表と質疑（2） 4）　受講生の発表と質疑（3） 5）　受講生の発表と質疑（4） 6）　受講生の発表と質疑（5） 7）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘 8）　担当教員による論文作成のスキルの解説 9）　受講生が作成した論文に対する質疑（1） 10）　受講生が作成した論文に対する質疑（2） 11）　受講生が作成した論文に対する質疑（3） 12）　受講生が作成した論文に対する質疑（4） 13）　受講生が作成した論文に対する質疑（5） 14）　担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘 15）　総合討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J76006008
科目名	【院】微生物機能開発学特別研究 (2018-2019)	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Microbial Biotechnology		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	微生物機能開発学領域における学術研究を通して、応用微生物学分野の専門知識と技術を高いレベルで修得する。環境と調和した物質生産、未利用資源の有効利用、発酵・醸造における微生物の役割と有用微生物の探索といった問題に関して、目的とする機能を最高レベルで保持する菌株を探索し、（1）当該機能の微生物学的・生化学的意義の解明、（2）遺伝子レベルでの機能解明、（3）遺伝子工学的手法による機能増強、（4）物質生産の場合はその生物工学的諸条件の確立、といった過程を通じた機能開発を行う。これらの研究の成果を修士論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教育方法	先行研究に関する文献（原著論文・総説）などを使って討議する。		
評価方法	学術研究と修士論文について、 次の点で評価する。 ・研究への取り組み（50%） ・修士論文の論理性（25%） ・修士論文の学問的到達度（25%）		
到達目標	1）応用微生物学分野の専門知識と技術の高いレベルでの修得。 2）応用微生物学分野の学問的意義のある修士論文（英文）の完成。		
授業時間外学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・微生物機能の開発をテーマとした学術研究に受講者一人一人が取り組む。 ・担当教員の助言に従って研究を展開し、その成果を修士論文としてまとめる。 ・学術研究への 2 年間の徹底的な没頭を求める。			
授業スケジュール			
担当教員が個別的な研究指導を随時行う。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76007A01
科目名	【院】食品機能学特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Food Science I		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	学位論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（教科書）	特定の教科書は指定しない。 受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教育方法	ゼミ形式で実施する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	学位論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することが目標である．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
授業スケジュール			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76007B01
科目名	【院】食品機能学特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Food Science Ⅱ		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	食品科学で修得した内容を基盤として、食品科学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。 　各受講生の研究テーマに関連した原著論文の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する批判力を醸成することを目的とする。		
教材（教科書）	特定の教科書は指定しない。 食品科学に関する原著論文（各回ごとに配布する）。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	ゼミ形式で実施する。		
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。 ・原書論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	英語原著論文の内容をさらに迅速に理解し、その論文の成果や問題点を科学的・技術的観点から把握できる。また、その論文の結果から新しい仮説や予測ができる。さらに明確で的確なプレゼンテーションができる。		
授業時間外学習	常日頃、発表すべき論文を入手しておき、読んでおく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

授業スケジュール

１．担当教員による食品科学特別演習Ⅰの習熟度評価。
２．担当教員より文献の収集・整理について講述する（１）。
３．担当教員より文献の収集・整理について講述する（２）。
４．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文１）
５．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文２）
６．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文３）
７．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文１）
８．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文２）
９．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文３）
１０．受講生の発表と質疑（食品成分生理学に関する原著論文１）
１１．受講生の発表と質疑（食品成分生理学に関する原著論文２）
１２．受講生の発表と質疑（食品成分生理学に関する原著論文３）
１３．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文１）
１４．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文２）
１５．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文３）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76007C01
科目名	【院】食品機能学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Food Science Ⅲ		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	食品機能・健康科学演習ⅠおよびⅡで修得した文献・原著論文の読解力を基盤として、研究テーマに関する文献・原著論文からその分野の問題の現状認識と技術の将来予測を議論し、それらの能力を養成する。		
教材（教科書）	特定の教科書は指定しない。 取りまとめられた文献・原著論文をまとめた冊子（各回ごとに配布）。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	ゼミ形式で実施する。		
評価方法	・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得する。		
授業時間外学習	受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講生に複数時間の講義時間を割り当てる。受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料も作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

授業スケジュール

1．文献・原著論文の収集・整理法の講述
2．受講生の発表と質疑（1）
3．受講生の発表と質疑（2）
4．受講生の発表と質疑（3）
5．受講生の発表と質疑（4）
6．受講生の発表と質疑（5）
7．受講生の発表と質疑（6）
8．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（1）
9．受講生の発表と質疑（7）
10．受講生の発表と質疑（8）
11．受講生の発表と質疑（9）
12．受講生の発表と質疑（10）
13．受講生の発表と質疑（11）
14．受講生の発表と質疑（12）
15．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	★	−

年度	2018	授業コード	J76007D01
科目名	【院】食品機能学特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Food Science IV		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	食品機能・健康科学演習Ⅲと同様に、各問題の現状認識と技術の将来を予測するための能力を養成するとともに、論文作成の能力を養成する。。		
教材（教科書）	特定の教科書は指定しない。 受講生が作成したレジュメなど。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	ゼミ形式で実施する。		
評価方法	・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）		
到達目標	受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得するとともに論文作成のスキルを習得する。		
授業時間外学習	受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成するとともに、論文作成のためのデータを整理する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

前半は食品機能・健康科学演習Ⅲと同様に進める。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに、質疑応答を行う。

授業スケジュール

1．受講生の発表と質疑（1）
2．受講生の発表と質疑（2）
3．受講生の発表と質疑（3）
4．受講生の発表と質疑（4）
5．受講生の発表と質疑（5）
6．受講生の発表と質疑（6）
7．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘
8．論文作成のスキルを解説
9．受講生が作成した論文に対する質疑（1）
10．受講生が作成した論文に対する質疑（2）
11．受講生が作成した論文に対する質疑（3）
12．受講生が作成した論文に対する質疑（4）
13．受講生が作成した論文に対する質疑（5）
14．受講生が作成した論文に対する質疑（6）
15．受講生の作成論文の評価と問題点の指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	★	−

年度	2018	授業コード	J76008008
科目名	【院】食品機能学特別研究（2018-2019）	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Food Science		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	野菜・作物の機能性成分の化学および生理機能に関する研究を行い、食品科学の分野で新しい知見を得る。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教員の指導の下，自主的に研究の調査，立案，実行，取りまとめを行う。		
評価方法	修士論文および口頭発表で評価する。		
到達目標	修士論文の完成とともに食品科学分野で何らかの新しい知見を得る。場合によっては、学会などで発表する機会を持つ。		
授業時間外学習	研究を推進するにあたって、関連文献を収集する。それらを読んで、目標設定や実験計画を立案する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
原著論文の読み込みは必須であり、科学英語の読解力を向上させる。常に何をすべきかを考えて生活する（考動する）ことを心掛ける。			
授業スケジュール			
1．テーマの企画・設定 2．テーマに関する文献情報や web 情報の取得、理解 3．実験計画の立案 4．テーマの取り組み 5．修士論文の作成 6．研究の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	−	★★

年度	2018	授業コード	J76009A01
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Plant Biotechnology I		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要があり、さまざまな原著論文や参考資料に対する高度な読解力が必要となる。またその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、積極的に討論に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成する事を目的とする。このため、各受講生がまとめた研究テーマに関する資料を、パワーポイント等を用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（教科書）	特定の教科書は指定しない。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	受講生が担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。		
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（1）文献選択の適正度（20%）、（2）研究目的の理解度（20%）、（3）研究手法の理解度（20%）、（4）科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%）、（5）質疑への参加度（20%）		
到達目標	植物バイオテクノロジー分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
授業時間外学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行っておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義時間ごとに受講生 1 名を割り当てる。当該受講生は、発表のための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。			
授業スケジュール			
1. 担当教員より文献の読み方について講述する（1） 2. 担当教員より文献の読み方について講述する（2） 3. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 4. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 5. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 6. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 7. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 8. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 9. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 10. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 11. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 12. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 13. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 14. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 15. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76009B01
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Plant Biotechnology II		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要があり、さまざまな原著論文や参考資料に対する高度な読解力が必要となる。またその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、積極的に討論に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成する事を目的とする。このため、各受講生がまとめた研究テーマに関する資料を、パワーポイント等を用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（教科書）	特定の教科書は指定しない。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	受講生が担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。		
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（1）文献選択の適正度（20%）、（2）研究目的の理解度（20%）、（3）研究手法の理解度（20%）、（4）科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%）、（5）質疑への参加度（20%）		
到達目標	植物バイオテクノロジー分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
授業時間外学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行っておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義時間ごとに受講生 1 名を割り当てる。当該受講生は、発表のための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。			
授業スケジュール			
1. 植物バイオテクノロジー特別演習 I の習熟度評価 2. 文献の検索、収集、整理などに講述し、パソコンを用いての検索演習を行う 3. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 4. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 5. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 6. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 7. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 8. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 9. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 10. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 11. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 12. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 13. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 14. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献） 15. 受講生の発表と質疑（植物バイオテクノロジーに関する文献）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76009C01
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Plant Biotechnology Ⅲ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、植物バイオテクノロジー特別演習 I および II で修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関する現状認識と問題点を第三者に理解できるようにまとめ上げ、パワーポイントなどを用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（教科書）	特定の教科書は指定しない。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	受講生が担当教員の助言に従って文献を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。		
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（1）問題設定の適正度（30%)、（2）文献・原著論文選択の適正度（20%)、（3）科学的・技術的寒天からの現状の把握度（30%)、（4）質疑への参加度（20%）		
到達目標	植物バイオテクノロジー分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うため、原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力、取りまとめて発表する能力などを修得し、あわせ問題点解決に活用する能力も修得する。		
授業時間外学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行うこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義時間ごとに受講生 1 名を割り当てる。当該受講生は、発表のための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

授業スケジュール

1. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する（1）
2. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する（2）
3. 受講生の発表と質疑（1）
4. 受講生の発表と質疑（2）
5. 受講生の発表と質疑（3）
6. 受講生の発表と質疑（4）
7. 受講生の発表と質疑（5）
8. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（1）
9. 受講生の発表と質疑（6）
10. 受講生の発表と質疑（7）
11. 受講生の発表と質疑（8）
12. 受講生の発表と質疑（9）
13. 受講生の発表と質疑（１０）
14. 受講生の発表と質疑（１１）
15. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76009D01
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Plant Biotechnology IV		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、植物バイオテクノロジー特別演習 I および II で修得するさ文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の研究テーマに関する現状認識と問題点を第三者に理解できるようにまとめ上げる。　またパワーポイントなどを用いて発表し、参加者間で議論する。		
教材（教科書）	特定の教科書は指定しない。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	前半では、当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに発表資料を作成して発表する。		
評価方法	選択した各文献について次の点で評価する。（1）問題設定の適正度（30%)、（2）文献・原著論文選択の適正度（20%)、（3）論文作成および発表能力（50%）		
到達目標	ある分野の技術開発や特定の課題についての研究を行うための原著論文や総説などの資料の検索、それら資料の高度な読解力と取りまとめて発表する能力などを修得する。		
授業時間外学習	原著論文や総説を定期的に検索し、研究テーマに関連した資料の収集、読解、取りまとめを常に行うこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義時間ごとに受講生 1 名を割り当てる。当該受講生は、発表のための準備を常に行っておくこと。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

授業スケジュール

1. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する。
2. 受講生の発表と質疑（1）
3. 受講生の発表と質疑（2）
4. 受講生の発表と質疑（3）
5. 受講生の発表と質疑（4）
6. 受講生の発表と質疑（5）
7. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘
8. 担当教員による論文作成のスキルを解説する。
9. 受講生が作成して論文に対する質疑（1）
10. 受講生が作成して論文に対する質疑（2）
11. 受講生が作成して論文に対する質疑（3）
12. 受講生が作成して論文に対する質疑（4）
13. 受講生が作成して論文に対する質疑（5）
14. 受講生が作成して論文に対する質疑（6）
15. 担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76010008
科目名	【院】植物バイオテクノロジー特別研究（2018-2019）	単位数	8
科目名（英語表記）	Research in Plant Biotechnology		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	研究テーマの設定、研究テーマの背景認識、実験計画の設定、実験の実施、実験結果の解析・取りまとめ、考察、論文作成などについて必要な能力、すなわち研究を自立的に実施できる能力を涵養する。		
教材（教科書）	適宜、原著論文、実験マニュアル、機器取扱い書などを掲示する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	修士論文研究の進展と関連させながら、研究テーマの設定、研究テーマの背景や意義の認識の深化、実験計画の設定や実験方法の検討、実験の実施、結果の解析・取りまとめ、考察、取りまとめ資料の作成・論文作成について議論あるいは指導する。		
評価方法	研究立案、実施、取りまとめ、発表・論文作成などの能力の修得状況から評価する。		
到達目標	自立して技術開発あるいは研究を行える能力の修得を目標とする。		
授業時間外学習	日常的に関連した原著論文や参考資料を読解するとともに、他の研究発表などを聞くこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
①日常的に関連した原著論文や参考資料を読解するとともに、他者の研究発表などを聞き、自分の研究課題実施に役立てること。 ②幅広く科学的思考能力の向上に努めること。			
授業スケジュール			
1．研究テーマの企画 2．研究テーマに関する文献情報の取得とその内容の理解 3．実験計画の立案 4．研究への取り組み 5．論文の作成 6．研究発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J76021A01
科目名	【院】科学英語演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Scientific English I		
担当者名	Jacoba Akazawa	旧科目名称	
授業概要	This is an academic oral presentation skills course conducted entirely in English. The development of group discussion and academic oral presentation skills will be emphasized.		
教材（教科書）	No text book is assigned. Prints and relevant materials to be provided by the teacher.		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	Students will be evaluated on the following criteria: 1/ Discussion leadership skills 20% 2/ Discussion participant skills 20% 3/ Oral Presentation skills 50% 4/ Review Quizzes 10%		
到達目標	On completion of this intensive course, students will feel confident to conduct academic discussions and make formal oral presentations in English.		
授業時間外学習	Although there is no textbook, students will be expected to bring and maintain an A4 size file for the prints and notes that will be given in each lesson. Homework will be assigned as preparation for the following day's classes. It is essential that students do the homework as a prerequisite to attending the class. Students will be expected to conduct individual research to prepare for their presentation.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
Very active class participation and complete attendance is required to pass this class.			
授業スケジュール			
1/ Introduction to the course and introduction to academic discussion 2/ General discussion skills development 3/ Audience analysis 4/ Question formation 1 5/ Question formation 2 6/ Developing listening skills 7/ Oral summary skill development 8/ Small group discussion presentation 9/ Presentation skills development 1 10/ Presentation skills development 2 11/ Presentation skills development 3 12/ Presentation Practice and Peer Feedback session 13/ Presentations 1 14/ Presentations 2 15/ Presentation Review and Feedback			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	−

年度	2018	授業コード	J76021B01
科目名	【院】科学英語演習II	単位数	2
科目名（英語表記）	Practical Course in Scientific English I I		
担当者名	Edsall, Dominic Guy	旧科目名称	
授業概要	英語での科学論文の文章構成や編集方法、アブストラクトの書き方、また適切な語彙や文法の使い方をライティングの練習を通して学ぶ。		
教材（教科書）	グラスマン - ディール,ヒラリー 『理系研究者のためのアカデミック ライティング(Science research writing for non-native speakers of English)』東京図書（Imperial College Press）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	評価は以下のようにして行う 授業中に行う演習（30%）ライティングの課題の遂行能力と正確さ(50%) 授業へ参加と授業中の態度（20%）		
到達目標	学術雑誌や学会で出版できるレベルで英語論文を書くために必要な基本的なスキルを習得すること。そのための基礎的なスキルを習得するため、授業では、英語論文の要旨を完成させることを目標とする。		
授業時間外学習	論文全体を書くのに時間がないため、授業で使用するための日本語の要約を作成しておくことが望ましい。できればパソコンを持参してください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講生は、英語で論文研究の要点を説明したりすることを求められる。

授業スケジュール

1．Introduction to the course & basics of paragraph writing
2．What makes scientific writing in English difficult?: The passive voice
3．The structure of scientific articles: Part 1
4．The structure of scientific articles: Part 2
5．Review: The structure of scientific articles
6．Introduction to methodology section
7．How to use prefixes, roots and sufffixes in scientific writing
8．How to summarize
9．Review: The methodology section
10．Introduction to the results section
11．How to write an abstract in English (1)
12．How to write an abstract in English (2)
13．Review: The results section
14．Introduction to the structure of scientific articles: The discussion and conclusion
15．Using citations and references

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J76033001
科目名	【院】環境デザイン最先端技術特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Techniques in Bioenvi ronmental Design		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	人とともに多様な生き物が共生できる環境を実現する技術として、最新の様々な情報を提供する。提供された情報への理解を深め、自分の研究の遂行に役立てるために、受講生がさまざまな角度から情報を検討して討議する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義の内容を書いたプリントを予め配布する。講義方式で行うだけでなく、現地見学なども行う。		
評価方法	レポート（８０%）、授業中の討議内容と受講態度（２０%）		
到達目標	人とともに多様な生き物が共生できる環境を実現するための技術を学び、それを応用する力が身に付く。		
授業時間外学習	講義に使用するプリントをあらかじめ配布するので、読んで理解してから授業を受けること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
疑問に思う点があれば、積極的に質問をすること			
授業スケジュール			
1. ガイダンス 2. 最先端技術の紹介と討議（1） 3. 最先端技術の紹介と討議（2） 4. 最先端技術の紹介と討議（3） 5. 最先端技術の紹介と討議（4） 6. 最先端技術の紹介と討議（5） 7. 最先端技術の紹介と討議（6） 8. これまでに紹介された技術全体についての討議（1） 9. 最先端技術の紹介と討議（7） 10. 最先端技術の紹介と討議（8） 11. 最先端技術の紹介と討議（9） 12. 最先端技術の紹介と討議（１０） 13. 最先端技術の紹介と討議（１１） 14. 最先端技術の紹介と討議（１２） 15. これまでに紹介された技術全体についての討議　（2）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J76036001
科目名	【院】環境倫理学特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Environmental Ethics		
担当者名	神崎　宣次	旧科目名称	
授業概要	環境倫理学は、環境問題を自然や生態系の観点ではなく、それらと関わりを持つ人間とその生活の観点からも検討する学問です。本講義では、1）環境倫理学の歴史的な展開について概説した上で、2）現在における環境倫理学の課題を明らかにするとともに、3）日本での環境倫理学の方向性について論じます。		
教材（教科書）	近畿化学協会 化学教育教育研究会 編著『環境倫理入門 地球環境と科学技術の未来を考えるために』（化学同人、2012 年）、2200 円		
教材（参考資料）	鬼頭秀一『自然保護を問いなおす―環境倫理とネットワーク』（筑摩書房、1996 年）、798 円 宮内泰介編『なぜ環境保全はうまくいかないのか―現場から考える「順応的ガバナンス」の可能性』（ 新泉社、2013 年）、2520 円		
教育方法	配布資料やスライドを使いながらの講義を基本とする。		
評価方法	評価は各授業日の最後に内容理解度を確認するための小テストを行い、それで評価する。評価に対する比率は、初日二日目が各 30%、最終日が 40%とする。		
到達目標	環境倫理学の意義と可能性と必要性について理解し、倫理学的な思考を身につけることを目標とする。		
授業時間外学習	積極的に講義に参加し、次の項目について事前にテキストを見ておく。日頃から新聞などを通して、環境関連の出来事に注目していく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に積極的に参加する、つまり、まじめに出席するとともに、疑問点などについては、積極的に質問するようにしてほしい。			
授業スケジュール			
1. イントロダクション 2-3. 保全主義について 4-5. 環境危機の時代の思想 6-7. 歴史的観点からの環境倫理学の位置付けと評価 8-10. 持続可能性、生物多様性、予防、順応的管理等の概念についての検討 11-12. 資源管理等の事例の検討 13-14. その他の環境関連領域との連携のあり方 15. まとめ（講義全般に関する総合的な講評）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	－	★

年度	2018	授業コード	J76037001
科目名	【院】環境行政法特論	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Course in Environmental Adminis trative Law		
担当者名	吉田　佳督	旧科目名称	【院】環境行政法特論
授業概要	環境行政法の基本となる「環境」の公益性について、環境経済学的なアプローチも紹介しつつ検討を行う。また、国内における各政策分野の環境行政の特徴を検討する。さらに具体的な環境基準値の設定根拠について、無作用量（NOEL）や　最大無毒性量(NOAEL)を基に一日摂取許容量(ADI)や耐容一日摂取量(TDI)を定め、種々の吸収経路による推定暴露量を基に基準値の制定がなされていることを学ぶことにより、環境行政法の現代社会における幅広い役割について理解できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	第 1 回目の授業時間中に、全 15 回分の講義レジュメ・資料を配布する。		
教材（参考資料）	1）松下和夫著『環境政策学のすすめ』丸善株式会社 2）北村喜宣著『自治体環境行政法（第 6 版)』第一法規		
教育方法	－		
評価方法	期末レポート(60%)と講義中の小レポート(40%)による評価を原則とする。		
到達目標	環境行政法の基礎的な概念を具体的に説明できる。 環境問題への環境行政法による対応について，事例を基にそのあり方を具体的に説明できる。 国と地方自治体の環境法制の違いと特色の概略について具体的に説明できる。 環境基準値の設定根拠を具体的に説明できる。		
授業時間外学習	受講にあたり、環境行政に関するメディア報道について 2〜3 の事例を予め調べておくこと。また、1 回目の講義中に全 15 回の講義資料を配布するので、各授業の受講前までに、その講義内容を簡潔にまとめておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
環境問題への対策を講じるうえでの環境行政法の役割や課題について、各講義で提出を求める小レポート等を通じて、各自の見解を積極的に示してください。			
授業スケジュール			
1. 環境法制の歴史と意義 2. 環境法制の概要 3. 持続可能社会の構築の課題 4. 持続可能社会の構築に向けた制度的対応 5. 公害から環境へⅠ－その背景を探る－ 6. 公害から環境へⅡ－具体的施策への考察－ 7. 環境から持続可能性へⅠ－その背景を探る－ 8. 環境から持続可能性へⅡ－具体的施策への考察－ 9. 環境行政法のカテゴリー 10. 環境行政法の社会的機能 11. 国際的な環境問題Ⅰ－国際環境法の視点から－ 12. 国際的な環境問題Ⅱ－ストックホルム条約（POPs 条約）を具体事例とした考察－ 13. 環境行政法とリスクコミュニケーション 14. 環境行政法と環境基準値の設定根拠 15. 環境行政法と技術			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J76038001
科目名	【院】インターンシップ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	関連企業および研究機関で、生産及び開発研究を体験し、大学の研究室で学んだことが実社会でどのように生かされているかを知る。		
教材（教科書）	インターンシップ先に応じて、適切で必要なものがあれば紹介する。 基本的な研究マナーを把握できるように、テキストを事前に進める。		
教材（参考資料）	参考図書として、以下のものを事前に読むことを薦める。 『アット・ザ・ベンチ』　バイオ研究完全指南　Kathy　Barker　中村敏一監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル　（ISBN　4-89592-258-8）		
教育方法	−		
評価方法	以下の評価をおこなう。 ・インターンシップのための事前学習　　(20%) ・インターンシップ先での評価　　(60%) ・インターンシップ参加後の自主学習と自己評価　(20%)		
到達目標	社会人として必要な専門的な技能を身につけ、自己の目標設定を把握できること。		
授業時間外学習	社会的な話題や業界の現状を事前に研究しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
多様なインターンシップ先で職場の規律を遵守できること。			
授業スケジュール			
1-2.　事前準備学習 3-12.　インターンシップ先に応じて、相互に事前打ち合わせを元にして、種々のプログラムを提案する。 13.　インターンシップの報告発表会 14.　業界研究と職業研究と科学リテラシー 15.　自己の人生設計とスキル			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	★★	−	−	−

年度	2018	授業コード	J76039001
科目名	【院】食農最先端技術特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	食農分野研究にあたり、最新の技術等を各専門分野を通して理解する。農業分野では施設栽培技術および緑茶栽培技術、食品分野では、食品の加工技術や加工における機能の付与について、また、農産物や食品の含有成分を定量するためやその成分を同定するための機器分析手法とその実際の使用法について会得する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	機器分析の手引き（化学同人）		
教育方法	各項目に関連する資料をプリント等で提供し、それに基づいて授業をする。機器分析に関しては実際に使用する。		
評価方法	各種レポートと発表（60 点） 討論などの講義への参加（40%）		
到達目標	各分野の技術情報を理解し、各自の研究分野に関わる項目はさらに深く調べ、理解し、実践し、各自に必要な研究に生かす。		
授業時間外学習	予め、講義項目は調べておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
レポート・発表等を課すので、情報収集は必ずしておくこと。			
授業スケジュール			
１．施設栽培の歴史と概要 ２．施設内の環境制御技術 ３．太陽光利用型植物工場 ４．閉鎖型植物工場 ５．チャの栽培法と茶の製造法 ６．日本茶のイノベーションの歴史と嗜好性の変化 ７．茶の被覆栽培とその化学的な特徴 ８．日本茶の化学成分とおいしい淹れ方の理論 ９．油脂の特性 １０．油脂の加工と機能 １１．穀物素材の特性 １２．穀物素材の加工と機能 １３．食品成分分析法１ １４．食品成分分析法２ １５．食品成分の分析の実際			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76041A01
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。現代的な課題や受講生各自の興味にあわせて具体的な内容を定める。 特別演習Ⅰではランドスケーププランニングを取り扱う。		
教材（教科書）	森本幸裕編著『 景観の生態史観：攪乱が再生する豊かな大地』京都通信社		
教材（参考資料）	雑誌「ビオ・シティ」「ランドスケープ・デザイン」 ・日本景観生態学会誌 ・ランドスケープ研究 ・日本緑化工学会誌 ・保全生態学研究 ・応用生態工学		
教育方法	ゼミ形式で調査結果の分析方法やとりまとめ方法を修得する		
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	論理的な思考能力を向上させ、論文の書き方を修得する。		
授業時間外学習	「景観の生態史観：攪乱が再生する豊かな大地（森本編）」の興味をもったところから読み進め、１ヶ月以内に読破すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
文献をしっかり読んで下さい。			
授業スケジュール			
特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～Ⅳを以下の順で行う。 Ⅰ エコロジー II プランニング III デザイン IV マネジメント １）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）（１～４回） ２）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討（５～６回） ３）調査研究：（各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする）（７～１２回） ４）各自の活動の取りまとめとプレゼンテーション（１３～１５回） 課題設定については、各自の興味と実践的なプロジェクト、各種条件を勘案するプロセスも演習の重要な要素とする			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76041B01
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別演習II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。現代的な課題や受講生各自の興味にあわせて具体的な内容を定める。 特別演習 II ではランドスケープ・デザインを取り扱う。		
教材（教科書）	森本幸裕編著『 景観の生態史観：攪乱が再生する豊かな大地』京都通信社		
教材（参考資料）	雑誌「ビオ・シティ」「ランドスケープ・デザイン」 ・日本景観生態学会誌 ・ランドスケープ研究 ・日本緑化工学会誌 ・保全生態学研究 ・応用生態工学		
教育方法	ゼミ形式で調査結果の分析方法やとりまとめ方法を修得する。		
評価方法	総合的に行う。		
到達目標	論理的な思考能力を向上させ、論文の書き方を修得する。		
授業時間外学習	よいと思ったランドスケープについて写真やスケッチで記録をとるのを習慣にしてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
しっかり勉学して下さい。			
授業スケジュール			
特別研究と連動し、特別演習 I ～iv を以下の順で行う。 I エコロジー II プランニング III デザイン iv マネジメント １）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）（１～４回） ２）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討（５～６回） ３）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする)（７～１２回） ４）各自の活動の取りまとめとプレゼンテーション（１３～１５回） 課題設定については、各自の興味と実践的なプロジェクト、各種条件を勘案するプロセスも演習の重要な要素とする。 具体的にはエコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76041C01
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。		
教材（教科書）	森本幸裕編著『 景観の生態史観：攪乱が再生する豊かな大地』京都通信社		
教材（参考資料）	雑誌「ビオ・シティ」「ランドスケープ・デザイン」 ・日本景観生態学会誌 ・ランドスケープ研究 ・日本緑化工学会誌 ・保全生態学研究 ・応用生態工学		
教育方法	ゼミ形式で調査結果の分析方法やとりまとめ方法を修得する		
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	論理的な思考能力を向上させ、論文の書き方を修得する。		
授業時間外学習	日本景観生態学会誌、日本造園学会・ランドスケープ研究など関連学会誌やビオシティなど関連雑誌バックナンバーの目次と特集記事などに目を通し、特に最近の傾向を把握しておいてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主体的に学ぶ姿勢を身につける。			
授業スケジュール			
特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～Ⅳを以下の順で行う。 Ⅰ エコロジー Ⅱ プランニング Ⅲ デザイン Ⅳ マネジメント １）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む） ２）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討 ３）調査研究：（各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする） ４）とりまとめ 課題については、各自の興味と能力を第一に尊重する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76041D01
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまなテーマを設定し、演習を行う。現代的な課題や受講生各自の興味にあわせて具体的な内容を定める。 特別演習 IV ではランドスケープマネジメントを取り扱う。		
教材（教科書）	森本幸裕編著『 景観の生態史観：攪乱が再生する豊かな大地』京都通信社		
教材（参考資料）	雑誌「ビオ・シティ」「ランドスケープ・デザイン」 ・日本景観生態学会誌 ・ランドスケープ研究 ・日本緑化工学会誌 ・保全生態学研究 ・応用生態工学		
教育方法	ゼミ形式で調査結果の分析方法やとりまとめ方法を修得する		
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	論理的な思考能力を向上させ、論文の書き方を習得する。		
授業時間外学習	日本景観生態学会誌、日本造園学会・ランドスケープ研究など関連学会誌やビオシティなど関連雑誌バックナンバーの目次と特集記事などに目を通し、特に最近の傾向を把握しておいてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
調べものなどは受講生相互に助け合ってください。			
授業スケジュール			
特別研究と連動し、特別演習Ｉ～iv を以下の順で行う。 Ｉ エコロジー II プランニング III デザイン iv マネジメント １）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む）（１～４回） ２）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討（５～６回） ３）調査研究：(各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする）（７～１２回） ４）各自の活動の取りまとめとプレゼンテーション（１３～１５回） 課題設定については、各自の興味と実践的なプロジェクト、各種条件を勘案するプロセスも演習の重要な要素とする。 具体的にはエコロジカル・ネットワーク、レイン・ガーデン、都市の生物多様性とその保全、樹木医・自然再生士の技術サポートなどを検討中である。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76042008
科目名	【院】ランドスケープデザイン特別研究（2018-2019）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	ランドスケープのプランニングとデザイン、マネジメントに関するさまざまな課題の発見、問題設定、研究計画策定、実施、取りまとめを指導する。		
教材（教科書）	テーマに応じて指定する。		
教材（参考資料）	雑誌「ビオ・シティ」「ランドスケープ・デザイン」 日本景観生態学会誌 日本造園学会誌「ランドスケープ研究」		
教育方法	ゼミ形式で調査結果の分析方法やとりまとめ方法を修得する。		
評価方法	総合的に判断する。		
到達目標	論理的な思考能力を向上させ、論文の書き方を修得する。		
授業時間外学習	日本景観生態学会誌、日本造園学会・ランドスケープ研究など関連学会誌やビオシティなど関連雑誌バックナンバーの目次と特集記事などに目を通し、特に探求したいテーマについて考えておいてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
しっかり研究に励んで下さい。			
授業スケジュール			
特別研究と連動し、特別演習Ⅰ～Ⅳを以下の順で行う。 Ⅰエコロジー Ⅱ プランニング Ⅲ デザイン Ⅳ マネジメント １）課題発見：さまざまな課題の提示（現地研修を含む） ２）問題設定：各自のテーマと、何をどこまで明らかにするかの検討 ３）調査研究：（各自の活動はできるかぎり、全員でサポートする） ４）論文作成：データ等の分析ととりまとめ 課題については、各自の興味と能力を第一に尊重する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76043A01
科目名	【院】水環境特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	水環境保全技術の最新情報を得るためには、国内外の情報を読み解くことが必要である。そこで、適当なキーワードを選んで、水環境保全技術に関する学術論文を検索し、得られた学術論文を読んで理解する技術を習得する。最初は国内で発行されている日本語の原著論文を受講生が検索し、その中から適当な原著論文を選んで読み、内容を理解した上で、その内容を他の受講生に紹介する。原著論文を読むことで、原著論文のスタイルに慣れるとともに、原著論文をどのように読み解くのかを習得する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義法で行う。		
評価方法	受講生の発表内容（６０％）、質疑応答内容（４０％）		
到達目標	１．自分の研究に関する国内の情報を収集する方法を習得する。 ２．得られた文字情報を読解する力がつく。		
授業時間外学習	選んだ論文を事前に十分に読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
論文の内容について、理解できない部分を教員にくり返し質問して、理解に努めること			
授業スケジュール			
1. 原著論文とは何か、研究とは何かの基本的な事項を講義する。 2. イネターネットなどを使用して文献検索を行って、適当な原著論文を選ぶ。 3. 学術論文を読むに当たって必要な基本的な点を講義する。 4. 受講生による発表と質疑応答（１） 5. 受講生による発表と質疑応答（２） 6. 受講生による発表と質疑応答（３） 7. 受講生による発表と質疑応答（４） 8. 受講生による発表と質疑応答（５） 9. 受講生による発表に対する総合的な講評（１） 10. 受講生による発表と質疑応答（６） 11. 受講生による発表と質疑応答（７） 12. 受講生による発表と質疑応答（８） 13. 受講生による発表と質疑応答（９） 14. 受講生による発表と質疑応答（１０） 15. 受講生による発表に対する総合的な講評（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76043B01
科目名	【院】水環境特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	水環境保全技術の最新情報を得るｔためには、国内からの情報だけでなく、海外からの情報も読んで理解することが必要である。そこで、まず、英語の原著論文を受講生が検索し、その中から適切なものを選んで読み、内容を理解した上で、その内容を他の受講生に紹介する。英文の原著論文を読むことで、独特のスタイルや、専門的な英単語に慣れるようにする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	受講生が論文紹介を行い、みんなで討議しながら、その内容の理解を深める。		
評価方法	受講生の発表内容（６０％）、質疑応答内容（４０％）		
到達目標	１．英語の文献を読むための基本的な技術が身につく。 ２．論理的な思考力が向上する。		
授業時間外学習	選んだ英語の論文を事前に読んで、理解に努めること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
英文を翻訳しただけでは、理解したことにはならず、その内容を把握することが論文を理解するということであり、わからないところは、教員に質問して理解に努めること。			
授業スケジュール			
1. 文献検索を行って、適当な英文の原著論文を選ぶ 2. 英文の原著論文を読むに当たっての基本を講義する 3. 学術論文を読むに当たって必要な基本的な点を講義する。 4. 受講生による発表と質疑応答（１） 5. 受講生による発表と質疑応答（２） 6. 受講生による発表と質疑応答（３） 7. 受講生による発表と質疑応答（４） 8. 受講生による発表と質疑応答（５） 9. 受講生による発表に対する総合的な講評（１） 10. 受講生による発表と質疑応答（６） 11. 受講生による発表と質疑応答（７） 12. 受講生による発表と質疑応答（８） 13. 受講生による発表と質疑応答（９） 14. 受講生による発表と質疑応答（１０） 15. 受講生による発表に対する総合的な講評（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76043C01
科目名	【院】水環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。この能力を身に付けるために、多くの原著論文を読んで、その内容を読み解く。また、研究に必要な方法論を総説や原著論文の記述から習得する。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	受講者が読んだ論文の内容を紹介し、理解できていない部分について、教員が解説を加えて、内容の正確な把握をする。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	1．自分の研究に関する文献をを読解する力がつく。 2．最新の研究方法を知る。		
授業時間外学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
授業スケジュール			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(1) 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(1) 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(1) 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(2) 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(2) 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(2) 7.　研究手法の統合的な整理　(1) 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(3) 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(3) 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(3) 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(4) 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(4) 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(4) 14. 研究手法の統合的な整理　(2) 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76043D01
科目名	【院】水環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	各受講生が、自分の研究の内容を論文に書く能力をつけるために、論文の書き方を習得する。また、研究とはどのように行われるものなのかを理解する。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	講義法で行う。また、受講生が自分の研究をとりまとめて発表し、その内容をみんなで討議する。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	1．自分の研究について、論理的に内容を構成して表現する能力が身につく。 2．自分が行った研究を学術論文として完成させる能力がつく。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J76044008
科目名	【院】水環境特別研究（2018-2019）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げるという目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，修士論文を完成させるために必須の事項を習得する。 　受講生は教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，修士論文としてまとめる.		
教材（教科書）	特に設定しないが，必要に応じて紹介する.		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	未知の事柄を解明するための調査や実験を行い、その結果をまとめて論文にする。調査や実験の計画・方法と、実施した結果について、その都度、教員と相談しながら、研究を遂行する。		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	１．研究テーマについて多角的な視点で考えられるようになる。 ２．研究内容に論理的に把握して、その内容を口頭および文章で表現できるようになる。 ３．バイオ環境に関する研究を自分で企画できるようになる。		
授業時間外学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
授業スケジュール			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と新たな課題の発掘 36-50.　研究データの収集 51-55.　研究成果の総合評価 56-60.　研究成果のとりまとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J76045A01
科目名	【院】都市自然化特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	修士論文の研究課題を選定し、研究領域を理解するに必要な基礎力を養成する。各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで、これを理解する能力を養う。		
教材（教科書）	研究課題に即した国際学術文献を選定する		
教材（参考資料）	必要に応じて、各自に紹介する		
教育方法	研究分野、研究テーマに関連する文献を収集整理し、その理解を深めていくなかで自らが研究のヒントとなる事項を掴んでいく		
評価方法	・研究課題選定に係わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	修士論文作成に必要なレベルの研究課題の選定と研究領域を理解する		
授業時間外学習	都市環境の中で水や緑に関する情報はメディアに取り上げられることが多いので、注意して情報を収集しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

社会とのつながりを軸に持てるよう視野を広く持ち、専門について知見を深めていってほしい。

授業スケジュール

1. 研究課題の選定
2. 文献検索法
3. 文献整理術
4. 関連分野の学術論文の理解と整理（1）
5. 研究計画と研究方法論　(1)
6. 研究手法の理解と検討　(1)
7. 関連分野の学術論文の理解と整理（2）
8. 研究計画と研究方法論　(2)
9. 研究手法の理解と検討　(2)
10. 関連分野の学術論文の理解と整理（3）
11. 研究計画と研究方法論　(3)
12. 研究手法の理解と検討　(3)
13. 関連分野の学術論文の理解と整理（4）
14. 研究計画と研究方法論　(4)
15. 研究手法の理解と検討　(4)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J76045B01
科目名	【院】都市自然化特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	都市及びそれを含む流域全体における水と環境分野を中心とした解析・評価手法について学ぶ。特に GIS とリモートセンシングに係る比較的高度な手法を用いることで、水系解析、土地利用分類、動植物の生息空間評価、流域診断などの基本的な手法を習得する。使用するソフトウエアは ArcGIS、TNTmips など比較的この分野で幅広く使用されているものを対象とする。都市・地域・流域などの空間的広がりのある範囲において GIS とリモートセンシングを縦横に利活用できる技術を身につけることを目的とする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	図解 Ar c GIS　GIS 実践に向けてのステップアップ（川崎昭如他）古今書院 自然環境解析のためのリモートセンシング・GIS ハンドブック（長澤良太他）古今書院		
教育方法	－		
評価方法	流域解析（30%）、指標解析（30%）、生物生息空間評価（40%）		
到達目標	都市・地域空間の解析ツールとしての GIS 技術の習得		
授業時間外学習	都市地域空間の解析すべき内容について各自で整理しておいてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自然環境解析に用いる情報解析技術については社会でよく取り上げられるので注意して情報を収集してください。			
授業スケジュール			
1 . ArcGIS の基本操作 2 .ArcGIS と GoogleEarth 3 .ArcGIS の ToolBox の使い方 4 .ArcGIS のエクステンションの使い方（Spatial Analyst） 5 .ArcGIS のエクステンションの使い方(3D Analyst) 6 .ArcGIS のエクステンションの使い方(その他のエクステンション） 7 .ArcGIS のエクステンション（バランスツールボックスの使い方） 8 .ArcGIS による流域解析 1 9 .ArcGIS による流域解析 2 10 .ArcGIS による指標解析 1 11 .ArcGIS による指標解析 2 12 .ArcGIS による指標解析 3 13 .ArcGIS による生物生息空間評価 1 14 .ArcGIS による生物生息空間評価 2 15 .ArcGIS による生物生息空間評価 3			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76045C01
科目名	【院】都市自然化特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	地形の高低差に着眼してフィールドワークにより、地域の歴史、文化を探る方法論について学ぶ。地形や地質の形成は理学の分野であり、歴史や文化は人文社会系であり、文理連携よる手法により展開する。この手法は、NHK のテレビ番組「ブラタモリ」で広く社会に行き渡り、新しい視点による地域理解を提供してくれることが特徴となっている。本講義では、実際にテレビ番組を見ることなど、文理連携のイメージを最初に形成し、実際のフィールドワークを重ねることで学ぶ		
教材（教科書）	プリントを配布する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	研究分野、研究テーマに関連する文献を収集整理し、その理解を深めていくなかで研究のヒントとなる事項を把握する		
評価方法	・講義への積極的な参加（30%） ・フィールドワークのレポート(40%) ・総合討論での発表水準（30%）		
到達目標	地形の高低差から隠された地域の歴史や文化などの痕跡を知る手法を理解する		
授業時間外学習	事前にビデオや PDF 書籍などに目をとおして、各地の地域理解をしておくこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
フィールドワークでの歩くことが基本となるので、リュック、靴、防止等、自由に動ける準備をしておくこと			
授業スケジュール			
1.　地形の高低差から歴史を学ぶ 2-5　亀岡、京都など近辺でのフィールドワークその 1 6-9　亀岡、京都など近辺でのフィールドワークその 2 9--12　亀岡、京都など近辺でのフィールドワークその 3 13.-15　総合討論			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J76045D01
科目名	【院】都市自然化特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	都市空間における新しい環境指標及び生物指標の開発を行う。既存の環境指標及び生物指標についての整理したのち、都市空間において今後必要とされる新しい指標について考察を加える。複数の新しい指標の概念を明らかにし、これらの指標を用いて実際に複数の都市を対象とした空間評価を行う。新しい指標としては、水循環、持続可能性、エコロジカルフットプリント、地産地消、ヒートアイランド、幸せの指標など、これからの新しい都市の在り方を検討する上で重要と考えられる概念を掘り下げることとする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	環境指標　その考え方と作成手法（内藤正明他）学陽書房 環境指標の展開（内藤正明他）学陽書房 エコロジカルフットプリント（和田喜彦監訳）合同出版		
教育方法	環境指標を実際に構築し、GIS などのツールにて可視化する		
評価方法	既存の指標のレビュー（30%）、新しい指標の概念（30%）、都市環境の評価（40%）		
到達目標	新しい環境指標及び生物指標の構築ができる		
授業時間外学習	2 箇所以上都市で起きている特徴的なエコロジカルな活動を探し、その情報を収集し現地確認をしてショートレポートを作成しておいてください		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
参考図書の 1，2 について読み込んでおいてください。			
授業スケジュール			
1 .環境指標と生物指標について（イントロダクション） 2 .既存の環境指標・生物指標の整理 1 3 .既存の環境指標・生物指標の整理 2 4 .既存の環境指標・生物指標の整理 3 5 .新しい環境指標の概念づくり 1 6 .新しい環境指標の概念づくり 2 7 .新しい環境指標の概念づくり 3 8 .新しい環境指標の概念づくり 4 9 .新しい環境指標の概念づくり 5 10 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 1 11 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 2 12 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 3 13 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 4 14 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 5 15 .新しい環境指標に基づいた都市環境の評価 6			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76046008
科目名	【院】都市自然化特別研究（2018-2019）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	都市自然化研究室での修士論文作成のために必要となる研究スキルを磨くことと、研究テーマの絞り込みのための文献調査を中心に行う。人数も限定されることから学部までの大勢の講義形式ではなく、学生と教員とで適宜定期的にとれる時間をみて行うこととする。研究スキルとしては、論文の書き方、英語論文の読み方、現場での調査手法の取得、GIS やリモセンデータの使い方、空間的な解析手法などについて学生が主体として行い、教員が適宜アドバイスを取る形とする。研究テーマの絞り込みに関しては、幅広い文献を継続的に読むことと、現地での調査を繰り返すことによって進めていくものとする。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員それぞれ研究課題に即した学術文献を選定する		
教材（参考資料）	必要に応じて、紹介する		
教育方法	学生と教員とで適宜定期的にとれる時間を設定して、対面方式で実施する		
評価方法	・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解し幅広い学識やスキルが身につく		
授業時間外学習	これまでの研究・学習を整理しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
幅広い情報収集と進化させる研究を進展させるよう努めてください。			
授業スケジュール			
研究の進展に基づいて適宜指導する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J76047A01
科目名	【院】環境教育特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	生物の行動、生態を通じて、自然現象を理解する基本的な理論、手法などを豊富な研究例から学び、フィールドサイエンスとしての行動学、生態学の研究を遂行する基礎的な素養を修得する。		
教材（教科書）	An Introduction to Behavioural Ecology. NB Davis, JR Krebs & SA West. Wiley-Backwell		
教材（参考資料）	適宜、資料を配布、紹介する。		
教育方法	教科書に沿って講義・演習を行う。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	生物の行動や生態について、観測事実を論理的に理解する視点を涵養する。 目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について議論する能力の修得する。		
授業時間外学習	教科書を精読した上で、講義に臨むこと。また、日常から、自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学一般、生物一般を自学自習することが望ましい。			
授業スケジュール			
１）動物の行動と自然淘汰 ２）動物の行動研究における仮説検証 ３）捕食者と被捕食者 ４）資源競争 ５）群れ ６）性淘汰、精子競争 ７）子の保護 ８）利益の対立 ９）配偶システム １０）性配分 １１）社会的行動 １２）協力 １３）利他行動 １４）社会性昆虫 １５）コミュニケーションと信号			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76047B01
科目名	【院】環境教育特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	物質の合成，解析，分析，評価の基礎を理論と実験の両面から研究する。この演習では，結晶合成装置，Ｘ線解析装置，Ｘ線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を，理論的な面からの系統的な取り扱いについて議論する。		
教材（教科書）	宇野　良清　他　訳　『キッテル　固体物理学入門』　丸善（7，０００円＋税）		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　理論・応用　量子力学演習』　共立出版（4，２００円＋税）		
教育方法	教科書・参考資料に沿って講義・演習を行う。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	固体物理学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力を修得する。 目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について議論する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

数学一般，物理学一般，量子物理学，固体物理学を自学自習することが望ましい。

授業スケジュール

1．結晶構造総論（1）：結晶格子
2．結晶構造総論（2）：結晶系
3．結晶構造総論（3）：結晶群
4．Ｘ線回折総論（1）：電磁波
5．Ｘ線回折総論（2）：実格子
6．Ｘ線回折総論（3）：逆格子
7．結晶解析総論（1）：ラウエ写真
8．結晶解析総論（2）：ディフラクトメーター
9．結晶解析総論（3）：フーリエ解析
10．分子結合総論（1）：単原子分子
11．分子結合総論（2）：共有結合
12．分子結合総論（3）：２原子分子
13．結晶結合総論（1）：イオン結合
14．結晶結合総論（2）：共有結合
15．結晶結合総論（3）：金属結合

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76047C01
科目名	【院】環境教育特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	生物の行動、生態を通じて、自然現象を理解する基本的な理論、手法などを豊富な研究例から学び、フィールドサイエンスとしての行動学、生態学の研究を遂行する基礎的な素養を修得する。		
教材（教科書）	生態学、堀道雄監訳、京都大学出版会		
教材（参考資料）	適宜、資料を配布、紹介する。		
教育方法	教科書に沿って講義・演習を行う。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	生物の行動や生態について、観測事実を論理的に理解する視点を涵養する。 目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について議論する能力を修得する。		
授業時間外学習	教科書を精読した上で、講義に臨むこと。また、日常から、自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学一般、生物一般を自学自習することが望ましい			
授業スケジュール			
１）環境の中の生物 ２）環境条件と資源 ３）生活史 ４）種内競争 ５）種間競争 ６）捕食 ７）分解者・デトリタス食者 ８）寄生・病気 ９）共生 １０）個体数・個体群動態 １１）群集生態学 １２）種間相互作用 １３）食物網 １４）種の豊富さ １５）応用生態学			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76047D01
科目名	【院】環境教育特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	物質の合成，解析，分析，評価の基礎を理論と実験の両面から研究する。この演習では，結晶合成装置，Ｘ線解析装置，Ｘ線分析装置などを利用した無機系物質に関する研究の基礎を，理論的な面からの系統的な取り扱いについて議論する。		
教材（教科書）	宇野　良清　他　訳　『キッテル　固体物理学入門』　丸善（７，０００円＋税）		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（３，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（２，５００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（２，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　理論・応用　量子力学演習』　共立出版（４，２００円＋税）		
教育方法	教科書・参考資料に沿って講義・演習を行う		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	固体物理学の基本的原理にもとづいた理論の具体的な構成力を修得する。 目的に応じた適切なデータ解析力およびそれらの結果について議論する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

数学一般，物理学一般，量子物理学，固体物理学を自学自習することが望ましい。

授業スケジュール

1．エネルギーバンド総論（1）：イオン結晶
2．エネルギーバンド総論（2）：共有結晶
3．エネルギーバンド総論（3）：金属結晶
4．共有結晶総論（1）：エネルギーギャップ
5．共有結晶総論（2）：絶縁体
6．共有結晶総論（3）：誘電体
7．金属結晶総論（1）：フェルミエネルギー
8．金属結晶総論（2）：フェルミ面
9．金属結晶総論（3）：自由電子
10．半導体総論（1）：半金属
11．半導体総論（2）：バンドギャップ
12．半導体総論（3）：伝導帯
13．光学物性総論（1）：屈折率
14．光学物性総論（2）：反射率
15．光学物性総論（3）：吸収スペクトル

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76048008
科目名	【院】環境教育特別研究（2018-2019）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	人と多様な生きものが共生できる環境（バイオ環境）の実現のためには、この課題の本質を見極め、自分自身の問題として捉え、自分が実現可能な身近な課題から取り組んでいくことが重要です。このプロセスに関わる基礎研究、問題解決に向けた取り組み、啓発活動など、環境教育に必要な要素を俯瞰しつつ、問題の本質的理解に取り組みます。		
教材（教科書）	適宜紹介する。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	各自の研究課題に関する研究を行い、関する論文紹介・研究テーマに関する研究発表などをゼミ形式でおこなう。		
評価方法	研究に対する取り組み、研究成果などを総合的して判断する。		
到達目標	各自の研究課題に対して適宜目標を設定する。		
授業時間外学習	必要に応じて指示する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各自の設定した課題に従って得られた観測事実に基づき、その本質を捉えて論理的に思考する訓練を積んでください。			
授業スケジュール			
1）研究課題の設定 2）研究課題の解決に向けた調査・研究計画策定 3）研究課題の解決に向けた調査・研究の実施 4）とりまとめ 研究課題は、環境教育に関連する環境に関する基礎調査、環境問題を解決するための取り組み、環境問題に関する啓発活動など、各自の関心に従って、設定する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76049A01
科目名	【院】里山環境特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	里山の環境について、生理・生態的側面も含めて、いくつかの文献を精読・理解して、研究の背景、研究方法、結果と考察などについて報告する。さらに、その内容についての議論を行い、研究論文の評価能力を涵養することを目的とする。また、課題を課し、それについて検討し発表する。		
教材（教科書）	適宜資料を配付する。		
教材（参考資料）	講義の中で紹介する。		
教育方法	・ゼミ形式のディスカッション ・野外調査		
評価方法	論文などの読解力（５０％）、フィールドでの観察力と考察力（２０％）、発表内容の構想力（３０％）で評価する。		
到達目標	・里山の生態系と生業のかかわりを理解する。 ・学術論文を論理的に読解する能力を身につける。		
授業時間外学習	日頃から里山保全や環境についての論文に目を通しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
植物を見る眼を十分に養うことを望む。			
授業スケジュール			
1）概要と意図説明 2）文献輪読〔１〕（学生の発表と質疑） 3）文献輪読〔２〕（学生の発表と質疑） 4）文献輪読〔３〕（学生の発表と質疑） 5）〔１〕、〔２〕、〔３〕のまとめの討論および補則解説 6）文献輪読〔４〕（学生の発表と質疑） 7）文献輪読〔５〕（学生の発表と質疑） 8）文献輪読〔６〕（学生の発表と質疑） 9）〔４〕、〔５〕、〔６〕のまとめの討論および補則解説 10）フィールドでの実習討論〔１〕 11）フィールドでの実習討論〔２〕 12）課題についての発表〔１〕 13）課題についての発表〔２〕 14）課題についての発表〔３〕 15）各課題の総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76049B01
科目名	【院】里山環境特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	里山や農・森林環境に関係する文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用するための能力を涵養することを目的とする。		
教材（教科書）	教員と相談して選んだ英語文献を使用。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	・ゼミ形式のディスカッション ・野外調査		
評価方法	英語文献の選択の適切さ（２０％)、内容の理解度（７０％)、発表の取りまとめや表現の適切さ（１０％）の割合で評価する。		
到達目標	・里山の生態系と生業のかかわりを理解する。 ・学術論文を論理的に読解する能力を身につける。		
授業時間外学習	英語文献に関連した日本語の本を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
生産を基本とした環境デザインの構築を理解した新しい考え方を展開してほしい。			
授業スケジュール			
1）概要と意図説明 2）英語の基礎的な論文を読解する（1） 3）英語の基礎的な論文を読解する（2） 4）英語の基礎的な論文を読解する（3） 5）英語の基礎的な論文を読解する（4） 6）英語の基礎的な論文を読解する（5） 7）（1） ～ （5） の内容などについての討論 8）フィールドでの実証・実体験（1） 9）英語の基礎的な論文を読解する（6） 10）英語の基礎的な論文を読解する（7） 11）英語の基礎的な論文を読解する（8） 12）英語の基礎的な論文を読解する（9） 13）（6）～（9）の内容などについての討論 14）フィールドでの実証・実体験（2） 15）フィールドでの各人の実証内容発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76049C01
科目名	【院】里山環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	里山や農・森林環境に関する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として整理して問題点解決に活用するための能力を涵養することを目的とする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	教員と相談して選んだ英文文献		
教育方法	・ゼミ形式のディスカッション ・野外調査		
評価方法	英語文献の選択の適切さ（２０%）．内容の理解度（７０%）．発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する。		
到達目標	・里山の生態系と生業のかかわりを理解する。 ・学術論文を論理的に読解する能力を身につける。 ・研究発表に必要なプレゼンテーション能力を身につける。		
授業時間外学習	日々興味のある論文に目を通しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
関連論文を事前によく読んでおくこと。			
授業スケジュール			
1）概要と意図説明 2）英語論文を読解する（1） 3）英語論文を読解する（2） 4）英語論文を読解する（3） 5)英語論文を読解する（4） 6）英語論文を読解する（5） 7）（1）～（5）内容をもとに討論 8）フィールドでの実証・実体験（1） 9）英語論文を読解する（6） 10）英語論文を読解する（7） 11)英語論文を読解する（8） 12)英語論文を読解する（9） 13）（6）～（9）の内容をもとに討論 14）フィールドでの実証・実体験（2） 15）フィールドでの各人の実証内容発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J76049D01
科目名	【院】里山環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	これまでに学んだ里山環境デザイン特別演習を基本として、各受講生の研究テーマに関連した課題に関する現状認識の能力に加えて、農・森林環境デザインに関わる論文作成のためのスキルを養成することを目的とする。		
教材（教科書）	教員と相談して選んだ英語論文の文献		
教材（参考資料）	その都度与える。		
教育方法	・ゼミ形式のディスカッション ・野外調査		
評価方法	第６回までにつて、英語文献の選択の適切さ（１０%)、内容の理解度（４０%)、発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する。第７回以降は、作成論文の内容の適切さ（３０%)、発表方法（１０%）で評価する。		
到達目標	・里山の生態系と生業のかかわりを理解する。 ・学術論文を論理的に読解する能力を身につける。 ・研究発表に必要なプレゼンテーション能力を身につける。 ・里山環境に関する論文の書き方を修得する。		
授業時間外学習	本演習に関する和文の論文をできるだけ多く読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自然の観察を日々行っておくこと。

授業スケジュール

1）担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する。
2）関連英語論文を解読し、発表と質疑（１）
3）関連英語論文を解読し、発表と質疑（２）
4）関連英語論文を解読し、発表と質疑（３）
5）関連英語論文を解読し、発表と質疑（４）
6）関連英語論文を解読し、発表と質疑（５）
7）担当教員による発表内容の評価と問題点の指摘
8）担当教員による論文作成のスキルを解説する。
9）受講生が作成した論文に対する質疑（１）
10）受講生が作成した論文に対する質疑
11）受講生が作成した論文に対する質疑
12）受講生が作成した論文に対する質疑
13）受講生が作成した論文に対する質疑
14）各人の論文内容の概要発表。
15）担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J76050008
科目名	【院】里山環境特別研究（2018-2019）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	人とともに多様な生き物が共生できる持続可能な社会をつくり上げるために必要なｔ知識・技術の修得に関わる高度な研究課題に挑み，修士論文を完成させるために必須の講義． 各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，修士論文としてまとめることを目的とする．		
教材（教科書）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する．		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	・野外調査 ・ゼミ形式のディスカッション		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得することを目標にする．		
授業時間外学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること．

授業スケジュール

1. 研究課題の把握と研究分野の背景の調査（1）
2. 研究課題の把握と研究分野の背景の調査（2）
3. 研究課題の把握と研究分野の背景の調査（3）
4. 研究課題の把握と研究分野の背景の調査（4）
5. 研究課題の把握と研究分野の背景の調査（5）
6. 研究計画の策定と研究方法の検討(1)
7. 研究計画の策定と研究方法の検討(2)
8. 研究計画の策定と研究方法の検討(3)
9. 研究計画の策定と研究方法の検討(4)
10. 研究計画の策定と研究方法の検討(5)
11. 研究課題に必要な研究方法の比較検証(1)
12. 研究課題に必要な研究方法の比較検証(2)
13. 研究課題に必要な研究方法の比較検証(3)
14. 研究課題に必要な研究方法の比較検証(4)
15. 研究課題に必要な研究方法の比較検証(5)
16. 研究データ収集法の検討(1)
17. 研究データ収集法の検討(2)
18. 研究データ収集法の検討(3)
19. 研究データ収集法の検討(4)
20. 研究データ収集法の検討(5)

21. 研究成果の解析(1)
22. 研究成果の解析(2)
23. 研究成果の解析(3)
24. 研究成果の解析(4)
25. 研究成果の解析(5)
26. 研究成果の評価と新規課題の検討(1)
27. 研究成果の評価と新規課題の検討(2)
28. 研究成果の評価と新規課題の検討(3)
29. 研究成果の評価と新規課題の検討(4)
30. 研究成果の評価と新規課題の検討(5)
31. 研究課題の新規性の追求と実施・開発(1)
32. 研究課題の新規性の追求と実施・開発(2)
33. 研究課題の新規性の追求と実施・開発(3)
34. 研究課題の新規性の追求と実施・開発(4)
35. 研究課題の新規性の追求と実施・開発(5)
36. 研究成果の公開手法の検討(1)
37. 研究成果の公開手法の検討(2)
38. 研究成果の公開手法の検討(3)
39. 研究成果の公開手法の検討(4)
40. 研究成果の公開手法の検討(5)
41. テクニカルライティングの検証(1)
42. テクニカルライティングの検証(2)
43. テクニカルライティングの検証(3)
44. テクニカルライティングの検証(4)
45. テクニカルライティングの検証(5)
46. 関連分野の研究内容の整理と吟味(1)
47. 関連分野の研究内容の整理と吟味(2)
48. 関連分野の研究内容の整理と吟味(3)
49. 関連分野の研究内容の整理と吟味(4)
50. 関連分野の研究内容の整理と吟味(5)
51. 研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討(1)
52. 研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討(2)
53. 研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討(3)
54. 研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討(4)
55. 研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討(5)
56. 研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握(1)
57. 研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握(2)
58. 研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握(3)
59. 研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握(4)
60. 研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握(5)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J76051A01
科目名	【院】農業生産学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	生産と環境について，生理・生態的側面も含めて，いくつかの文献を精読・理解して研究の背景，研究方法，結果と考察などについて報告する．さらに，その内容についての議論を行い研究論文の評価能力を涵養する．また，課題を課しそれについて検討し発表する．		
教材（教科書）	適宜資料を配付する．		
教材（参考資料）	講義の中で紹介する．		
教育方法	基本的な文献資料を配付する．		
評価方法	論文などの読解力（５０％），フィールドや実験室での観察力と考察力（２０％），発表内容の構想力（３０％）で評価する．		
到達目標	1．食料生産技術の主要な部分について説明できる． 2．各自の修士論文テーマに関連した科学論文をできるだけ早く読破できる．		
授業時間外学習	日頃から食料生産についての論文に目を通しておく．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
常日頃から植物を見る目を養うよう心がけること．			
授業スケジュール			
1）概要と意図説明 2）文献輪読〔１〕（学生の発表と質疑） 3）文献輪読〔２〕（学生の発表と質疑） 4）文献輪読〔３〕（学生の発表と質疑） 5）〔１〕、〔２〕、〔３〕のまとめの討論および補則解説 6）文献輪読〔４〕（学生の発表と質疑） 7）文献輪読〔５〕（学生の発表と質疑） 8）文献輪読〔６〕（学生の発表と質疑） 9）〔４〕、〔５〕、〔６〕のまとめの討論および補則解説 10）フィールドでの実習討論〔１〕 11）フィールドでの実習討論〔２〕 12）課題についての発表〔１〕 13）課題についての発表〔２〕 14）課題についての発表〔３〕 15）各課題の総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76051B01
科目名	【院】農業生産学特別演習II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	農業生産に関係する文献・原著論文等を的確に収集し，整理してまとまった情報として理解し，これを問題点解決に活用するための能力を涵養する.		
教材（教科書）	教員と相談して選んだ英語文献を使用。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	英語文献の選択の適切さ（２０%），内容の理解度（７０%），発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する.		
到達目標	英語文献を適切にの読解することができる.		
授業時間外学習	英語文献に関連した日本語の本を読んでおくこと.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
文献から得られる新しい知見を元にして，農業生産に関わる新しい考え方を展開してほしい.			
授業スケジュール			
1）概要と意図説明 2）英語の基礎的な論文を読解する（1） 3）英語の基礎的な論文を読解する（2） 4）英語の基礎的な論文を読解する（3） 5）英語の基礎的な論文を読解する（4） 6）英語の基礎的な論文を読解する（5） 7）（1） ～ （5） の内容などについての討論 8）圃場･実験室での実証・実体験（1） 9）英語の基礎的な論文を読解する（6） 10）英語の基礎的な論文を読解する（7） 11）英語の基礎的な論文を読解する（8） 12）英語の基礎的な論文を読解する（9） 13）（6）～（9）の内容などについての討論 14）圃場･実験室での実証・実体験（2） 15）圃場･実験室での各人の実証内容発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J76051C01
科目名	【院】農業生産学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	農業生産と環境に関する文献・原著論文の読解力に加えて，関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し，整理してまとまった情報として整理して問題点解決に活用するための能力を涵養する.		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	教員と相談して選んだ英文文献.		
教育方法	特になし		
評価方法	英語文献の選択の適切さ（２０%）．内容の理解度（７０%）．発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する.		
到達目標	1．論文の読み方と発表のスキルを修得して応用できる. 2．英語論文を読むことができる. 3．関連論文を適切に検索し，入手することができる.		
授業時間外学習	関連論文を事前によく読んでおくこと.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
関連論文を事前によく読んでおくこと.			
授業スケジュール			
1）概要と意図説明 2）英語論文を読解する（1） 3）英語論文を読解する（2） 4）英語論文を読解する（3） 5)英語論文を読解する（4） 6）英語論文を読解する（5） 7）（1）～（5）内容をもとに討論 8）圃場･実験室での実証・実体験（1） 9）英語論文を読解する（6） 10）英語論文を読解する（7） 11)英語論文を読解する（8） 12)英語論文を読解する（9） 13）（6）～（9）の内容をもとに討論 14）圃場･実験室での実証・実体験（2） 15）圃場･実験室での各人の実証内容発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76051D01
科目名	【院】農業生産学特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	これまでに学んだ農業生産学特別演習を基本として，各受講生の研究テーマに関連した課題に関する現状認識の能力に加えて，農業生産に関わる論文作成のためのスキルを養成する.		
教材（教科書）	教員と相談して選んだ英語論文の文献.		
教材（参考資料）	その都度配布する.		
教育方法	特になし		
評価方法	第６回までにつては英語文献の選択の適切さ（１０%），内容の理解度（４０%），発表の取りまとめや表現の適切さ（１０%）の割合で評価する. 第７回以降は作成論文の内容の適切さ（３０%），発表方法（１０%）で評価する.		
到達目標	1. 農業生産に関する論文の読破することができる. 2. 農業生産に関する論文を書くことができる.		
授業時間外学習	本演習に関する和文の論文をできるだけ多く読んでおくこと.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自然における植物の観察を日々行っておくこと.

授業スケジュール

1) 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する.
2) 関連英語論文を解読し，発表と質疑（１）
3) 関連英語論文を解読し，発表と質疑（２）
4) 関連英語論文を解読し，発表と質疑（３）
5) 関連英語論文を解読し，発表と質疑（４）
6) 関連英語論文を解読し，発表と質疑（５）
7) 担当教員による発表内容の評価と問題点の指摘
8) 担当教員による論文作成のスキルを解説する.
9) 受講生が作成した論文に対する質疑（１）
10) 受講生が作成した論文に対する質疑
11) 受講生が作成した論文に対する質疑
12) 受講生が作成した論文に対する質疑
13) 受講生が作成した論文に対する質疑
14) 各人の論文内容の概要発表。
15) 担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J76052008
科目名	【院】農業生産学特別研究（2018-2019）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	研究論文の構成力・書き方について論述し，論文を作成する.		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	適宜資料を配付し，教材などを指示する.		
教育方法	基本的な文献・資料を配付する.		
評価方法	論文の完成度（70%）と発表力（30%）について評価する.		
到達目標	1. 論文の完成. 2. 学会での発表.		
授業時間外学習	これまでの学習課題のまとめ.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
常に新しい発見があるように努める.			
授業スケジュール			
1）はじめに 2）論文作成に向けての課題についての検討 3）論文作成に向けての課題についての検討 4）論文の構成について 5）論文の構成について 6）研究論文作成に向けての実験・実習 7）研究論文作成に向けての実験・実習 8）研究論文作成に向けての実験・実習 9）研究論文作成に向けての実験・実習 10）研究論文作成に向けての実験・実習 11）研究論文作成に向けての実験・実習 12）研究論文作成に向けての実験・実習 13）研究論文作成に向けての実験・実習 14）論文のまとめについての検討 15）完成論文についての検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76053A01
科目名	【院】農地環境特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	技術開発や研究を行うためには､従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。さまざまな原著論文や参考資料の多くは英文で書かれており、専門用語を習熟し、高度な読解力が必要となる。本演習では、研究者の倫理や研究に関する倫理を学び、研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うことを目的とする。		
教材（教科書）	発表者が配布するレジュメ		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	講義時間ごとにあからじめ１名の発表者を決めておく。受講生が担当教員の助言に従って選んだ学術論文の内容について発表する。発表はパワーポイントを用いて行う。発表ののちに、その内容について参加者間で議論する。		
評価方法	文献選択の適正度（20%)、研究目的の理解度（20%)、研究手法の理解度（20%)、科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%)、質疑への参加度（20%）		
到達目標	研究者や研究に対する倫理について理解し、事例について解説ができる。 原著論文や総説の検索ができる。 英文で書かれた原著論文や総説などの資料を読解できる。 調べた内容をわかりやすく発表できる。		
授業時間外学習	原著論文や総説を定期的に検索する。 発表の数週間前には、発表する論文を決定する。 その論文を読み進みながら、参考文献などをさらに読み、人に説明できるようにする。 わかりやすく説明するための、資料を作る。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 発表者は担当教員の助言に従って文献を選ぶが、主体は自分自身であることを認識する。
2. 発表者以外の受講生は、質疑応答に必ず参加する。

授業スケジュール

1. 研究者の倫理や研究に対する倫理について
2. 文献の読み方（１）
3. 文献の読み方（２）
4. 受講生の発表と質疑（１）
5. 受講生の発表と質疑（２）
6. 受講生の発表と質疑（３）
7. 受講生の発表と質疑（４）
8. 受講生の発表と質疑（５）
9. 受講生の発表と質疑（６）
10. 受講生の発表と質疑（７）
11. 受講生の発表と質疑（８）
12. 受講生の発表と質疑（９）
13. 受講生の発表と質疑（１０）
14. 受講生の発表と質疑（１１）
15. 担当教員による演習に関する意見発表と改善点の提案

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J76053B01
科目名	【院】農地環境特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。農地環境特別演習Ⅰで習得した読解力に加えて、批判的に論文を理解することが必要である。本演習では、各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うこととともに、積極的に討論に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を身に付けることを目的とする。		
教材（教科書）	受講生が作成したレジュメ		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義時間ごとにあからじめ１名の発表者を決めておく。受講生が担当教員の助言に従って選んだ学術論文の内容について発表する。発表はパワーポイントを用いて行う。発表ののちに、その内容について参加者間で議論する。		
評価方法	文献選択の適正度（20%）、研究目的の理解度（20%）、研究手法の理解度（20%）、科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%）、質疑への参加度（20%）		
到達目標	英語で書かれた原著論文や総説などの資料について、関連する論文を理解し、発表することができる。 他者の発表に対して、自分の意見をまとめて表現することができる。 農地環境分野の研究や技術の現況の一端を文章でまとめ、問題点を指摘することができる。		
授業時間外学習	原著論文や総説を定期的に検索する。 発表の数週間前には、発表する論文を決定する。 その論文を読み進みながら、参考文献などをさらに読み、人に説明できるようにする。 わかりやすく説明するための、資料を作る。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 発表者は担当教員の助言に従って文献を選ぶが、主体は自分自身であることを認識する。
2. 発表者以外の受講生は、質疑応答に必ず参加する。

授業スケジュール

1. 農地環境分野の特別演習Ⅰの習熟度評価
2. 文献の検索、収集、整理法および演習
3. 受講生の発表と質疑（１）
4. 受講生の発表と質疑（２）
5. 受講生の発表と質疑（３）
6. 受講生の発表と質疑（４）
7. 受講生の発表と質疑（５）
8. 受講生の発表と質疑（６）
9. 受講生の発表と質疑（７）
10. 受講生の発表と質疑（８）
11. 受講生の発表と質疑（９）
12. 受講生の発表と質疑（１０）
13. 受講生の発表と質疑（１１）
14. 受講生の発表と質疑（１２）
15. 担当教員による演習に関する意見発表と改善点の提案

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76053C01
科目名	【院】農地環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、農地環境特別演習Ⅱで修得した客観的評価力をさらに深めることが必要である。本演習では、各受講生は選択した論文を読み込み、そのテーマについての現状認識と問題点をまとめ発表できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	受講者が作成したレジュメ		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義時間ごとにあからじめ発表者を決めておく。受講生が担当教員の助言に従って選んだ学術論文の内容および内容についての客観的評価、問題点も併せて指摘する。パワーポイントを作成し発表する。その後参加者間で発表者の意見について議論する。		
評価方法	文献選択の適正度（20%）、研究目的の理解度（20%）、研究手法の理解度（20%）、科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%）、質疑への参加度（20%）		
到達目標	原著論文について、関連する複数の論文を検索することができる。 原書論文を様々な観点から吟味し批判的に読解することができる。		
授業時間外学習	原著論文や総説を定期的に検索する。 発表の数週間前には、発表する論文を決定する。 その論文を読み進みながら、参考文献などをさらに読み、人に説明できるようにする。 わかりやすく説明するための、資料を作る。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1. 発表者は担当教員の助言に従って文献を選ぶが、主体は自分自身であることを認識する。 2. 発表者以外の受講生は、質疑応答に必ず参加する。			
授業スケジュール			
1. 文献・原著論文等の収集・整理法（１）　関連する論文の整理法 2. 文献・原著論文等の収集・整理法（２）　パソコンの活用 3. 受講生の発表と質疑（１） 4. 受講生の発表と質疑（２） 5. 受講生の発表と質疑（３） 6. 受講生の発表と質疑（４） 7. 受講生の発表と質疑（５） 8. 担当教員による発表内容の評価と問題点の指摘（１） 9. 受講生の発表と質疑（６） 10. 受講生の発表と質疑（７） 11. 受講生の発表と質疑（８） 12. 受講生の発表と質疑（９） 13. 受講生の発表と質疑（１０） 14. 受講生の発表と質疑（１１） 15. 担当教員による発表内容の評価と問題点の指摘（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76053D01
科目名	【院】農地環境特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	技術開発や研究を行うためには、従来の技術や研究とその基礎となる学問領域に精通している必要がある。そのために、農地環境特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで修得した読解力、客観的評価力、情報収集力、それらをまとめ上げる統合力が必要である。本演習では、修士論文作成を念頭に各受講生の研究テーマに関する現状認識と問題点を第三者に理解できるようにまとめ上げることを目的とする。		
教材（教科書）	受講生が作成したレジュメ		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義時間ごとにあからじめ発表者１名を決めておく。前半では、当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに発表資料を作成して発表し、参加者を含めて質疑応答を行う。		
評価方法	問題設定の適正度（30%）、文献・原著論文選択の適正度（20%）、論文作成および発表能力（50%）		
到達目標	複数の資料の内容を読解し一つにまとめて発表できる。 自分の研究と他者の研究を関連付けることができる。		
授業時間外学習	原著論文や総説を定期的に検索する。 発表の数週間前には、発表する論文を決定する。 その論文を読み進みながら、参考文献などをさらに読み、人に説明できるようにする。 わかりやすく説明するための、資料を作る。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 発表者は担当教員の助言に従って文献を選ぶが、主体は自分自身であることを認識する。
2. 発表者以外の受講生は、質疑応答に必ず参加する。

授業スケジュール

1. 担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法を講述する。
2. 受講生の発表と質疑（１）
3. 受講生の発表と質疑（２）
4. 受講生の発表と質疑（３）
5. 受講生の発表と質疑（４）
6. 受講生の発表と質疑（５）
7. 担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘
8. 論文作成法の解説（１）基本骨格の形成
9. 論文作成法の解説（２）考察と批判
10. 受講生が作成した論文に対する質疑（１）
11. 受講生が作成した論文に対する質疑（２）
12. 受講生が作成した論文に対する質疑（３）
13. 受講生が作成した論文に対する質疑（４）
14. 受講生が作成した論文に対する質疑（５）
15. 担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76054008
科目名	【院】農地環境特別研究（2018-2019）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	研究を自立的に実施できる能力を涵養することを目的としている。具体的には、研究テーマの設定、研究背景認識、実験計画の設定、実験の実施、実験結果の解析・取りまとめ、考察、論文作成、発表に必要な能力を鍛錬する。		
教材（教科書）	適宜、原著論文、実験マニュアル、機器取扱い書などを提示する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	受講者自身が定めた研究テーマに対して、実験計画を作成、実験の遂行、データ解析、研究計画の見直しを行う。これらの PDCA サイクルを指導教員の助言を参考にして主体的に進める。		
評価方法	研究立案（30%）、研究実施（15%）、結果の解析（30%）、発表・論文作成（25%）、		
到達目標	自立して技術開発あるいは研究を行える能力の習得を目標とする。		
授業時間外学習	日常的に関連した原著論文や参考資料を読解するとともに、他の研究発表などを聞くこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 日常的に関連した原著論文や参考資料を読解する。
2. 他者の研究発表などを聞き、自分の研究課題実施に役立てること。
3. 実験、データ解析技術の向上に努める。
4. 幅広く科学的思考能力の向上に努める。

授業スケジュール

１．はじめに
２－６．文献検索と修士論文のテーマ決定
７－１０．調査および実験計画立案
１１－１５．実験調査の実施
１６．進捗状況報告と計画の見直し
１７－２９．実験調査の実施
３０．中間報告の取りまとめおよび計画の見直し
３１－４４．実験調査の実施
４５．進捗状況報告
４６－５２．実験調査の実施
５３－５５．データの取りまとめ
５６－５８．修士論文作成
５９－６０．口頭発表準備

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76055A01
科目名	【院】発酵醸造学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	科学研究・技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要があり、それには、様々な文献や原著論文に対する高度な読解力が必要になる。現在はその多くが英文で書かれており、専門用語の習熟も必須の要件である。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する客観的な評価力を醸成することを目的とする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	1）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 2）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教育方法	いわゆる Journal Club 形式で行う。論文の読解と最新情報の共有を通じて、理解力を総合的に養う。		
評価方法	文献の選択と演習について、 次の点で評価する。 ・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	発酵醸造学に関連する文献の読解力を強化し、科学的な問題解決力を養成する。		
授業時間外学習	発酵醸造学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。			
授業スケジュール			
1）　担当教員による文献の読み方についての講述（1） 2）　担当教員による文献の読み方についての講述（2） 3）　受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献1） 4）　受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献2） 5）　受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献3） 6）　受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献4） 7）　受講生の発表と質疑（微生物生理学に関する文献5） 8）　受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献1） 9）　受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献2） 10）　受講生の発表と質疑（微生物遺伝学に関する文献3） 11）　受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献1） 12）　受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献2） 13）　受講生の発表と質疑（微生物酵素学に関する文献3） 14）　受講生の発表と質疑（微生物代謝に関する文献1） 15）　受講生の発表と質疑（微生物代謝に関する文献2）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76055B01
科目名	【院】発酵醸造学特別演習Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	科学研究・技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要があり、それには、様々な文献や原著論文に対する高度な読解力が必要になる。原著論文には一定の記述様式があり、そのことに精通することが、論文の内容を理解する上で必須の要件となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連した原著論文の探索および読解の能力を養うとともに、研究に対する客観的な批判力を醸成することを目的とする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	１）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 ２）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教育方法	いわゆる Journal Club 形式で行う。論文の読解と最新情報の共有を通じて、理解力を総合的に養う。		
評価方法	文献・原著論文の選択と演習について、次の点で評価する。 ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献・原著論文の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	発酵醸造学特別演習Ⅰで修得した内容を基盤として、発酵醸造学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を身につける。		
授業時間外学習	発酵醸造学について、常に理解を深めるよう努める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、資料を作成してその内容を紹介する。その他の受講生は文献の学術的内容に関する討論に積極的に参加する。

授業スケジュール

１）　担当教員による発酵醸造学特別演習Ⅰの習熟度評価
２）　担当教員による文献の収集・整理についての講述
３）　受講生の発表と質疑（微生物分子細胞学に関する原著論文１）
４）　受講生の発表と質疑（微生物分子細胞学に関する原著論文２）
５）　受講生の発表と質疑（微生物分子細胞学に関する原著論文３）
６）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文１）
７）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文２）
８）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文３）
９）　受講生の発表と質疑（微生物による物質生産に関する原著論文４）
１０）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文１）
１１）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文２）
１２）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文３）
１３）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文４）
１４）　受講生の発表と質疑（発酵醸造に関する原著論文５）
１５）　まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76055C01
科目名	【院】発酵醸造学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	科学研究・技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのために、発酵醸造学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状と問題点を、第三者が理解できるようにまとめ上げる能力を養成する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	1）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 2）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教育方法	論文の読解と最新情報の共有を通じて、理解力を総合的に養うと共に、特定の分野を俯瞰的に把握する能力を涵養する。		
評価方法	文献・原著論文の選択と演習について、次の点で評価する。 ・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	発酵醸造学特別演習ⅠおよびⅡで修得した文献・原著論文の読解力を基盤として、各問題の現状認識と技術の将来予測をするための能力を身につける。		
授業時間外学習	発酵醸造学について、常に理解を深めるよう努める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。さらに発表のための資料を作成し、その内容を紹介する。その他の受講生は総説の学術的内容に関する質疑に積極的に参加する。

授業スケジュール

1）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述（1）
2）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述（2）
3）　受講生の発表と質疑（1）
4）　受講生の発表と質疑（2）
5）　受講生の発表と質疑（3）
6）　受講生の発表と質疑（4）
7）　受講生の発表と質疑（5）
8）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（1）
9）　受講生の発表と質疑（6）
１０）　受講生の発表と質疑（7）
１１）　受講生の発表と質疑（8）
１２）　受講生の発表と質疑（9）
１３）　受講生の発表と質疑（１０）
１４）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（2）
１５）　まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J76055D01
科目名	【院】発酵醸造学特別演習Ⅳ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	科学研究・技術開発を行うためには、従来の技術とその基盤となる学問領域に精通している必要がある。そのために、発酵醸造学特別演習ⅠおよびⅡで修得する文献・原著論文の読解力に加えて、関連する分野の文献・原著論文等を的確に収集し、整理してまとまった情報として理解し、これを問題点解決に活用する能力が必要となる。本演習では、各受講生の特別研究のテーマに関連する研究の現状を認識する能力と、発酵醸造学領域における論文作成のためのスキルを養成する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	1）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 2）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教育方法	論文の読解と最新情報の共有を通じて、理解力を総合的に養うと共に、特定の分野を俯瞰的に把握する能力を涵養する。後半では自らの論文をその中に位置づけて、その学問的な意義を正しく把握させる。		
評価方法	選択した各文献・原著論文と執筆した論文について、次の点で評価する。 ・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）		
到達目標	査読誌に投稿可能な様式で論文を執筆する力を身につける。		
授業時間外学習	発酵醸造学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
前半は発酵醸造学特別演習Ⅲと同様に進める。後半は受講生が作成した論文をもとに、質疑応答を行う。			
授業スケジュール			
1）　担当教員による文献・原著論文等の収集・整理法の講述 2）　受講生の発表と質疑（1） 3）　受講生の発表と質疑（2） 4）　受講生の発表と質疑（3） 5）　受講生の発表と質疑（4） 6）　受講生の発表と質疑（5） 7）　担当教員による受講生の発表内容の評価と問題点の指摘 8）　担当教員による論文作成のスキルの解説 9）　受講生が作成した論文に対する質疑（1） 10）　受講生が作成した論文に対する質疑（2） 11）　受講生が作成した論文に対する質疑（3） 12）　受講生が作成した論文に対する質疑（4） 13）　受講生が作成した論文に対する質疑（5） 14）　担当教員による受講生の作成論文の評価と問題点の指摘 15）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J76056008
科目名	【院】発酵醸造学特別研究（2018-2019）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	発酵醸造学領域における学術研究を通して、その専門知識と技術を高いレベルで修得する。発酵醸造物の生産プロセスの開発と改善、そこで微生物の果たす役割の解明、発酵醸造物の付加価値向上に資する科学的知見の集積といった課題に関して研究開発を行い、その成果を修士論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	1）醸造・発酵食品の事典（2004）　吉沢 淑・他(編)　朝倉書店 2）Brock Biology of Microorganisms 14th ed.（2014）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education 3）先行研究に関する文献（原著論文・総説）など		
教育方法	・発酵醸造の技術開発をテーマとした学術研究に受講者一人一人が取り組む。 ・担当教員の助言に従って研究を展開し、その成果を修士論文としてまとめる。		
評価方法	学術研究と修士論文について、 次の点で評価する。 ・研究への取り組み（50%） ・修士論文の論理性（25%） ・修士論文の学問的到達度（25%）		
到達目標	1）発酵醸造学分野の専門知識と技術の高いレベルでの修得。 2）発酵醸造分野の学問的意義のある修士論文の完成。		
授業時間外学習	「発酵醸造学会誌」などの関連学会誌を精読する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・発酵醸造をテーマとした学術研究への 2 年間の徹底的な没頭を求める。

授業スケジュール

1 研究課題の検討（1）
2 研究課題の検討（2）
3 研究課題の検討（3）
4 研究課題の検討（4）
5 研究課題についての調査（1）
6 研究課題についての調査（2）
7 研究課題についての調査（3）
8 研究課題についての調査（4）
9 研究課題の設定（1）
10 研究課題の設定（2）
11 実験計画（1）
12 実験（1）
13 実験結果の検討（1）
14 実験計画（2）
15 実験（2）
16 実験結果の検討（2）
17 実験計画（3）
18 実験（3）
19 実験結果の検討（3）
20 実験計画（4）
21 実験（4）
22 実験結果の検討（4）
23 実験計画（5）

24 実験（5）
25 実験結果の検討（5）
26 実験計画（6）
27 実験（6）
28 実験結果の検討（6）
29 実験計画（7）
30 実験（7）
31 実験結果の検討（7）
32 実験計画（8）
33 実験（8）
34 実験結果の検討（8）
35 実験計画（9）
36 実験（9）
37 実験結果の検討（9）
38 実験計画（１０）
39 実験（１０）
40 実験結果の検討（１０）
41 実験計画（１１）
42 実験（１１）
43 実験結果の検討（１１）
44 実験計画（１２）
45 実験（１２）
46 実験結果の検討（１２）
47 実験計画（１３）
48 実験（１３）
49 実験結果の検討（１３）
50 実験計画（１４）
51 実験（１４）
52 実験結果の検討（１４）
53 論文の構成の検討（1）
54 論文の構成の検討（2）
55 論文の作成（1）
56 論文の作成（2）
57 論文の作成（3）
58 論文の作成（4）
59 完成論文についての検討（1）
60 完成論文についての検討（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J76057A01
科目名	【院】食品加工学特別演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	食品科学および食品加工学に関連する文献の読解力を強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。 　各受講生の研究テーマに関連した文献の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する批判力を醸成することを目的とする。		
教材（教科書）	食品科学あるいは食品加工学に関する文献（各回ごとに配布する）。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	・文献選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	英語原著論文の内容を迅速に理解し、その論文の成果や問題点を科学的・技術的観点から把握できる。明確で的確なプレゼンテーションができる。		
授業時間外学習	常日頃、発表すべき論文を入手しておき、読んでおく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。			
授業スケジュール			
１．担当教員より文献の検索法について講述する。 ２．担当教員より文献の読み方について講述する（１）。 ３．担当教員より文献の読み方について講述する（２）。 ４．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する文献１） ５．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する文献２） ６．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する文献３） ７．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する文献１） ８．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する文献２） ９．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する文献３） １０．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する文献１） １１．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する文献２） １２．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する文献３） １３．受講生の発表と質疑（食品物性評価に関する文献１） １４．受講生の発表と質疑（食品物性評価に関する文献２） １５．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する文献１）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76057B01
科目名	【院】食品加工学特別演習II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	食品科学および食品加工学で修得した内容を基盤として、食品科学および食品加工学に関連する原著論文の読解力をさらに強化するとともに、科学的問題解決力を養成する。 　各受講生の研究テーマに関連した原著論文の探索および読解の能力を養うとともに、提供された文献の課題についての討論に積極的に参加することによって、研究に対する批判力を醸成することを目的とする。		
教材（教科書）	食品科学あるいは食品加工学に関する原著論文（各回ごとに配布する）。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	・原書論文選択の適正度（20%） ・研究目的の理解度（20%） ・研究手法の理解度（20%） ・科学的・技術的観点からの当該文献の価値判断（20%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	英語原著論文の内容をさらに迅速に理解し、その論文の成果や問題点を科学的・技術的観点から把握できる。また、その論文の結果から新しい仮説や予測ができる。さらに明確で的確なプレゼンテーションができる。		
授業時間外学習	常日頃、発表すべき論文を入手しておき、読んでおく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義時間ごとに受講生１名を割り当てる。当該受講生は担当教員の助言に従って文献を選び、発表のための資料を作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。

授業スケジュール

１．担当教員による食品加工学特別演習Ｉの習熟度評価。
２．担当教員より文献の収集・整理について講述する（１）。
３．担当教員より文献の収集・整理について講述する（２）。
４．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文１）
５．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文２）
６．受講生の発表と質疑（低分子食品成分分析法、解析に関する原著論文３）
７．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文１）
８．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文２）
９．受講生の発表と質疑（高分子食品成分分析法、解析に関する原著論文３）
１０．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する原著論文１）
１１．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する原著論文２）
１２．受講生の発表と質疑（食品加工学に関する原著論文３）
１３．受講生の発表と質疑（食品の物性に関する原著論文１）
１４．受講生の発表と質疑（食品の物性に関する原著論文２）
１５．受講生の発表と質疑（食品成分のバイオ変換に関する原著論文）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76057C01
科目名	【院】食品加工学特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	食品加工学特別演習ⅠおよびⅡで修得した文献・原著論文の読解力を基盤として、研究テーマに関する文献・原著論文からその分野の問題の現状認識と技術の将来予測を議論し、それらの能力を養成する。		
教材（教科書）	取りまとめられた文献・原著論文をまとめた冊子（各回ごとに配布）。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。各自の実験結果を論文の流れで作成し、発表する。		
評価方法	・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・科学的・技術的観点からの現状の把握度（30%） ・質疑への参加度（20%）		
到達目標	受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得する。		
授業時間外学習	受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生に複数時間の講義時間を割り当てる。受講生は担当教員の助言に従って課題を選び、それに関連する文献・原著論文を収集し、総説を作成する。発表のための資料も作成し、パワーポイントなどを用いてその内容を発表する。その他の受講生は、質疑に積極的に参加する。			
授業スケジュール			
１．文献・原著論文の収集・整理法の講述 ２．受講生の発表と質疑（１） ３．受講生の発表と質疑（２） ４．受講生の発表と質疑（３） ５．受講生の発表と質疑（４） ６．受講生の発表と質疑（５） ７．受講生の発表と質疑（６） ８．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（１） ９．受講生の発表と質疑（７） １０．受講生の発表と質疑（８） １１．受講生の発表と質疑（９） １２．受講生の発表と質疑（１０） １３．受講生の発表と質疑（１１） １４．受講生の発表と質疑（１２） １５．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76057D01
科目名	【院】食品加工学特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	食品加工学特別演習Ⅲと同様に、各問題の現状認識と技術の将来を予測するための能力を養成するとともに、論文作成の能力を養成する。		
教材（教科書）	受講生が作成したレジュメなど。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	・問題設定の適正度（30%） ・文献・原著論文選択の適正度（20%） ・論文作成能力（50%）		
到達目標	受講生は取りまとめられた文献・原著論文から総説を作成し、当該分野の現状認識と将来予測をするための能力を習得するとともに論文作成のスキルを習得する。		
授業時間外学習	受講生は関連する文献・原著論文を収集し、発表のための資料を作成するとともに、論文作成のためのデータを整理する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

前半は食品加工学特別演習Ⅲと同様に進める。後半は、受講生各自で作成した論文をもとに、質疑応答を行う。

授業スケジュール

１．受講生の発表と質疑（１）
２．受講生の発表と質疑（２）
３．受講生の発表と質疑（３）
４．受講生の発表と質疑（４）
５．受講生の発表と質疑（５）
６．受講生の発表と質疑（６）
７．受講生の発表内容の評価と問題点の指摘
８．論文作成のスキルを解説
９．受講生が作成した論文に対する質疑（１）
１０．受講生が作成した論文に対する質疑（２）
１１．受講生が作成した論文に対する質疑（３）
１２．受講生が作成した論文に対する質疑（４）
１３．受講生が作成した論文に対する質疑（５）
１４．受講生が作成した論文に対する質疑（６）
１５．受講生の作成論文の評価と問題点の指摘

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76058008
科目名	【院】食品加工学特別研究（2018-2019）	単位数	8
科目名（英語表記）			
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	野菜・作物の食品加工および加工物の応用あるいは食品加工に伴う食品成分の化学的変化や食品の物性に関する研究を行い、食品科学の分野で新しい知見を得る。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	修士論文(90%)および口頭発表(10%)で評価する。		
到達目標	修士論文の完成とともに食品科学分野で何らかの新しい知見を得る。場合によっては、学会などで発表する機会を持つ。		
授業時間外学習	研究を推進するにあたって、関連文献を収集する。それらを読んで、目標設定や実験計画を立案する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
原著論文の読み込みは必須であり、科学英語の読解力を向上させる。常に何をすべきかを考えて生活する（考動する）ことを心掛ける。			
授業スケジュール			
1．テーマの企画・設定 2．テーマに関する文献情報や web 情報の取得、理解 3．実験計画の立案 4．テーマの取り組み 5．修士論文の作成 6．研究の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J76059001
科目名	【院】分子生命科学特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	本講義では、化学生態学および天然物化学分野と分子生物学分野から講義を行う。化学生態学分野からは、昆虫類を対象とした最近の研究の進歩を紹介する。具体的には、近年著しく進歩した機器分析手法の解説やそれらの進歩により可能となった少量の材料による実験法、それに伴う微量天然物の取扱い手法について、生物有機化学研究室に蓄積されたダニ類のフェロモン、ガ類や甲虫類のフェロモンや行動科学の研究成果を中心にした知見を事例に紹介する。分子生物学分野からは、最新の生命科学の発見を理解できる素養を身につけるため、まず、細胞の内外からの多様なシグナル伝達因子とその作用経路について、聴いて学び、読んで学び、さらに説明するという実践的なスタイルで理解度を深め、疾患関連タンパク質の機能解析やプロテオーム解析を理解し、創薬や細胞イメージング・ダイナミクス研究の現状と展望についての理解を深める。これによって現行技術を理解し、それを基にして関連分野の技術革新のための素養を身につけることを目的とする。		
教材（教科書）	各項目に関連する資料をパワーポイントやプリントなどで提供する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	生命科学分野の最新知見に自発的にアプローチし、自身の課題と関連付け、批判的に咀嚼する習慣を身に着ける。		
評価方法	各項目に対してレポート提出を課し、次の 3 項目の理解度および習熟度で評価する。 ・化学生態学および分子生物学の応用と社会的基盤（30%） ・各知見・手法・技術の有機化学および分子生物学的基盤（40%） ・関連課題の調査と整理（30%）		
到達目標	生物有機化学および分子生物学の観点から生命科学全体について、とりわけ最新の知見を中心に種々の現象を理解し、有機化学的および分子生物学的基盤に基づき、説明できる学問基盤を身につける。		
授業時間外学習	事前に配布する参考文献や資料の概要を把握しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
上記の評価基準に照らして、各項目のレポートを作成し、期限までに提出すること。			
授業スケジュール			
1. コガネムシ類のフェロモンと機能 2. カミキリムシフェロモンと植物との関わり 3. ガ類の性フェロモンとその利用 4. 土壌動物のフェロモンの化学 5. 土壌動物のフェロモンの有機合成 6. 土壌動物のフェロモンの生合成 7. 生理活性物質の構造と物性 8. 生理活性物質の標的タンパク質に対する作用 9. 標的タンパク質の同定 10. 疾患関連タンパク質の機能解析：神経変性疾患、がんなどに関連するタンパク質 11. プロテオーム解析の基本とその応用 12. 細胞内シグナル伝達因子を標的とした機能性食品開発 13. 細胞内のタンパク質代謝 14. 細胞内のタンパク質代謝に関する演題発表 15. ユビキチン・プロテアソーム系とオートファジーについての演題発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J76060001
科目名	【院】生物機能開発特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	生物機能を用いる産業技術は、伝統的な食品製造技術を基盤として発展し、過去 100 年の間に化学工業、環境改善技術、医薬品製造などへとその領域を拡大してきた。今後は低炭素社会を支える中心的技術に発展すると考えられているが、この分野の日本の技術レベルは世界の最先端にあり、人類社会への貢献が強く期待される。本講義では、伝統的な醸造工業の技術基盤、化成品製造における微生物酵素の活用、抗生物質等の医薬品製造、汚染環境の改善技術等の事柄を，担当するそれぞれの先生の専門分野について具体例を示しながら解説する。それらの講義を基にして技術革新のための素養を身につけることを目的とする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	1）応用微生物学　第 2 版（2008）清水 昌、堀之内末治 編　文永堂出版 2）遺伝子から見た応用微生物学（2008）熊谷英彦 他 編　朝倉書店 3）Brock Biology of Microorganisms 13th ed.（2010）Madigan, M.T. et al. Pearson　Education		
教育方法	パワーポイントを活用しながら講義法で行う。		
評価方法	各項目に対してレポートを課し、以下の 3 点の理解度および習熟度に基づいて評価する。 ・微生物産業の社会的基盤（30%） ・各技術の基盤となる微生物学および生化学的学問基盤（40%） ・各技術開発要素解析（30%）		
到達目標	微生物を用いる食品製造、物質生産、環境改善、医薬品製造等に関する技術開発の学問基盤に習熟する。		
授業時間外学習	微生物学・応用微生物学について、常に理解を深めるよう努める。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
上記の評価基準に照らして各項目のレポートを作成し、期限までに提出する。			
授業スケジュール			
1）　序論 2）　伝統的な醸造工業の技術基盤（酒類１） 3）　伝統的な醸造工業の技術基盤（酒類２） 4）　伝統的な醸造工業の技術基盤（食酢、その他） 5）　化成品製造における微生物酵素の活用（微生物酵素の特徴） 6）　化成品製造における微生物酵素の活用（キラル化合物１） 7）　化成品製造における微生物酵素の活用（キラル化合物２） 8）　抗生物質等の医薬品製造（抗生物質１） 9）　抗生物質等の医薬品製造（抗生物質２） １０）　抗生物質等の医薬品製造（代謝阻害剤１） １１）　抗生物質等の医薬品製造（代謝阻害剤２） １２）　環境改善技術（廃水処理技術の微生物基盤） １３）　環境改善技術（微生物を用いる環境改善技術） １４）　環境改善技術（酵素を用いる環境改善技術） １５）　エネルギー生産と微生物			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J76061001
科目名	【院】環境再生特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	地球環境問題の深刻化を背景とした様々な環境課題への対応のありかたについて講義する。個々の現場や個別の技術のみならず、全体像の把握や新たな提案とその無理のない進め方、つまり環境に関する科学、技術、デザイン、マネジメントの観点から環境再生のありかたについて５人の専門家が担当するオムニバス講義である。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	森本幸裕編著『 景観の生態史観：攪乱が再生する豊かな大地』京都通信社 金川貴博著『ありがとう、微生物たち』東洋書店		
教育方法	ゼミ形式で個々の能力に応じた知識を修得する。		
評価方法	出席状況等に配慮しつつ、５つのテーマごとに評価し、総合する。		
到達目標	時間的かつ空間的に階層的なランドスケープという見方を身につける。 微生物集団の力を環境の浄化に有効に利用するための基本的な考え方を身に付ける。 環境情報の地図化という手法を理解する。 水圏における環境問題に関してグローバル・ローカルな視野を身につける。		
授業時間外学習	関連分野、情報処理に関する基礎的能力の向上にこころがけてください。 また、環境問題とその対応に関するマスコミ報道などにはこまめに目を通すとともに、これからの対応のありかたを自分で考える習慣を身につけてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自分の専門とする領域にとらわれずに、さまざまな手法や課題に取り組んでください。			
授業スケジュール			
1.環境情報を集める（丹羽） 2.環境情報を分析・評価し地図化する①（丹羽） 3.環境情報を分析・評価し地図化する②（丹羽） 4.微生物集団を利用した環境関連技術（１）（金川） 5.微生物集団を利用した環境関連技術（２）（金川） 6.DNA に着目した微生物集団解析方法（金川） 7.微生物集団の有効利用方法（金川） 8.私たちが暮らす日本列島はどのようにデザインされたのか（原） 9.私たちに身近な河川はどのようにデザインされたのか（原） 10.私たちに身近な森林はどのようにデザインされたのか（原） 11.私たちが暮らす都市はどのようにデザインされたのか（原） 12.水圏における環境課題（高澤） 13.日本沿岸域における取り組み（高澤） 14.極域における取り組み（高澤） 15.河川における取り組み（高澤）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J76062001
科目名	【院】生物・環境特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	環境について議論するための礎となる地球科学と生態学の両方の視点からバイオ環境の実現へのアプローチを探る。		
教材（教科書）	適宜、資料を配布、紹介する。		
教材（参考資料）	適宜、資料を配布、紹介する。		
教育方法	資料に沿って講義・演習を行う。		
評価方法	講義中の演習課題、レポートなどを勘案して評価する。		
到達目標	研究課題となる環境問題に直面した時に、地球科学的な発想と生態学的な発想の二つの視点から、事象を理解することを修得する。		
授業時間外学習	配布資料などを精読した上で、講義に臨むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学一般、物理一般、地球科学一般、生物学一般を自学自習することが望ましい			
授業スケジュール			
１）地球科学からのアプローチ１：地球史 ２）地球科学からのアプローチ２：岩石圏 ３）地球科学からのアプローチ３：水圏 ４）地球科学からのアプローチ４：大気圏 ５）地球科学からのアプローチ５：地球磁気圏 ６）生態学からのアプローチ１：生物多様性保全 ７）生態学からのアプローチ２：農地の生態系 ８）生態学からのアプローチ３：マングローブの生態系 ９）生態学からのアプローチ４：人の活動と生物多様性 １０）生態学からのアプローチ５：地域環境保全と地域の発展 １１）人と自然の共生からのアプローチ１：里山の生態系の現状と課題 １２）人と自然の共生からのアプローチ２：里山の暮らしの現状と課題 １３）人と自然の共生からのアプローチ３：放棄薪炭林の植生遷移と生物多様性 １４）人と自然の共生からのアプローチ４：里山の伝統的生業と生態系保全 １５）人と自然の共生からのアプローチ５：持続的な里山管理へのアプローチ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76063001
科目名	【院】食資源特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	人間が生きていくのに不可欠な物が食資源である．本講義においては植物由来の食資源を中心に，生産に関わる様々な土壌条件，環境要因，社会的要因について講じる．また，より優良な食資源を得るための園芸作物の育種についても述べる．さらに，食資源としての動物を含めた野生生物の利用についても講じる．		
教材（教科書）	プリントで授業時に配布する．		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	5 人の担当教員がそれぞれ課すレポートによって評価する．		
到達目標	食資源のあり方について，多面的に考えることができ，論議することができる．		
授業時間外学習	本講義は，今まで学んできた里山，土壌，栽培，育種などに関する基礎的知識の発展型として位置づけている．これらの知識をあらかじめ整理して講義に臨んでほしい．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日常生活においても食のあり方について考えていてほしい．マスコミでも報道される機会が多いテーマなので，常に関心を持っていてもらいたい．

授業スケジュール

1．食資源の成立（大城）
2．野菜を中心とした食資源の現状（大城）
3．野菜を中心とした食資源の今後（大城）
4．普通作物の特性とその利用 (1) イネ （河田）
5．普通作物の特性とその利用 (2) コムギとオオムギ （河田）
6．普通作物の特性とその利用 (3) ダイズとトウモロコシ （河田）
7．農地土壌の特性（藤井孝）
8．土壌改良資材（藤井孝）
9．民間の土壌改良資材（藤井孝）
10．里山資源の特徴（藤井康）
11．農業とバイオマス（藤井康）
12．農地土壌の在り方（藤井康）
13．野生植物の利用（佐藤）
14．野生植物から栽培植物へ（佐藤）
15．栽培植物と環境要因（佐藤）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J76064001
科目名	【院】食品開発特論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	21 世紀の先進国社会において人々が食品に求める価値は、従来の「栄養」「安全」「美味しさ」にとどまらず、「健康の増進」「環境への配慮」「安心」「物語性」などといった、より高度かつ抽象的なものへと拡大している。そうした社会における食品の開発は、栄養学、食品衛生学、食品加工学といった伝統的な食品科学だけでなく、より幅広い視点からの検討を必要とする。 本講義では、本学で開発しようとする具体的な食品ないし醸造物について、市場調査から研究開発、生産、販売までの各プロセスを構築あるいは改善することを題材として、さまざまな専門家とともに講義やディスカッションを展開する。そのなかで、そうした高い付加価値を持つ食品を生み出すために必要な視点と考え方を体得することを目的とする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	１）On Food and Cooking: The Science and Lore of the Kitchen（2004）Harold McGee（著） Scribner ２）The Complete Meadmaker K. Schramm (2003) Brewers Publications		
教育方法	専門洋書の読解と、それを起点とした文献調査によってレポートをまとめることを通じて、当該分野についての理解の深化を促す。		
評価方法	適宜レポートを課し、以下の 3 点の理解度および考察量を評価する。 ・食品開発の社会的側面（30%） ・食品開発の学問的・技術的側面（40%） ・ディスカッションへの寄与（30%）		
到達目標	実際の食品・醸造物の開発を通じて、食品開発に必要な諸要素を理解しながら、それに貢献できる総合的な力を身につける。		
授業時間外学習	食品加工学や発酵醸造学といった食品開発の学問基盤に習熟するほか、社会の出来事や風潮といった時代性への感度を高めておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
上記の評価基準に照らしてレポートを作成し、期限までに提出する。			
授業スケジュール			
１） 序論 ２） 機能性食品の開発事例 ３） 加工食品の実際 ４） 最新の粉末化技術 ５） 食品加工と調理の科学１ ６） 食品加工と調理の科学２ ７） 食品加工と調理の科学３ ８） 村おこしのための農産物加工の事例 ９） 地域産醸造物の開発：歴史と文化１ １０） 地域産醸造物の開発：歴史と文化２ １１） 地域産醸造物の開発：原材料１ １２） 地域産醸造物の開発：原材料２ １３） 地域産醸造物の開発：醸造法１ １４） 地域産醸造物の開発：醸造法２ １５） 地域産醸造物の開発：醸造			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J76D01AAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することができる．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
授業スケジュール			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01ABB
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することができる．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
授業スケジュール			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01ACC
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することができる．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
授業スケジュール			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01ADD
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することができる．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
授業スケジュール			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01AEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
授業概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することができる．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
授業スケジュール			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01AFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することができる．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
授業スケジュール			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01AGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することができる．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
授業スケジュール			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01AHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することができる．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
授業スケジュール			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01AII
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することができる．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
授業スケジュール			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01AJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することができる．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
授業スケジュール			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01AKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することができる．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
授業スケジュール			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01ALL
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することができる．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
授業スケジュール			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01AMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することができる．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
授業スケジュール			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01ANN
科目名	【院】バイオ環境特別演習 I	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science I		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	博士論文の研究課題を選定し，研究領域を理解するために必要な基礎力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した総説を読んで，これを理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，各自に紹介する．		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・研究課題選定に関わる文献調査と整理（30%） ・研究課題遂行のための全体計画案の完成度（40%） ・研究課題に必要な研究手法の理解度（30%）		
到達目標	博士論文作成に必要なレベルの研究課題を選定することと研究領域を理解することができる．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前準備をおこなうこと．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
視野を広く保ち，意欲的に課題に取り組むこと．			
授業スケジュール			
1.　研究課題の選定 2.　文献検索法 3.　文献整理術 4.　関連分野の学術論文の理解と整理（1） 5.　研究計画と研究方法論　(1) 6.　研究手法の理解と検討　(1) 7.　関連分野の学術論文の理解と整理（2） 8.　研究計画と研究方法論　(2) 9.　研究手法の理解と検討　(2) 10.　関連分野の学術論文の理解と整理（3） 11.　研究計画と研究方法論　(3) 12.　研究手法の理解と検討　(3) 13.　関連分野の学術論文の理解と整理（4） 14.　研究計画と研究方法論　(4) 15.　研究手法の理解と検討　(4)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01BAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，紹介する．		
教育方法	－		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につける．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
授業スケジュール			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01BHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，紹介する．		
教育方法	−		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につける．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
授業スケジュール			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01BII
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，紹介する．		
教育方法	−		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につける．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
授業スケジュール			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01BJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，紹介する．		
教育方法	−		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につける．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
授業スケジュール			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01BKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，紹介する．		
教育方法	－		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につける．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
授業スケジュール			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01BLL
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，紹介する．		
教育方法	－		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につける．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
授業スケジュール			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01BMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，紹介する．		
教育方法	−		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につける．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
授業スケジュール			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01BNN
科目名	【院】バイオ環境特別演習II	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science II		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体構成案を理解し，周辺科学技術にも視野を拡げ，幅広い研究が展開できる学識と能力を養成する． 　各受講生に，バイオ環境に関わる各専門分野について，最新の研究成果の詳細を示すことで，研究のための方法論を習得させる．最新の研究成果は，国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので，その詳細を知るには，学術論文を読みこなす能力が必要である．本演習では，各受講生の研究テーマに関連した原著論文を検索させ，得られた論文の中から適切なものを複数選び，それらを読んで理解する能力を養う．		
教材（教科書）	受講生と研究指導教員がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する．		
教材（参考資料）	必要に応じて，紹介する．		
教育方法	－		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する． ・最新の国際的な学術文献の理解度（30%） ・関連研究分野の応用研究法の理解度（40%） ・研究成果の新規性に関する理解度と評価力（30%）		
到達目標	研究課題の構成案を理解することと幅広い学識やスキルを身につける．		
授業時間外学習	研究指導教員の指導に従って，事前学習をする．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究課題と関連のある新規な研究手法を理解し，絶えず関連分野の学術文献に注目すること．			
授業スケジュール			
1.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(1) 2.　研究手法の理解とその評価　(1) 3.　研究結果の記述様式とその評価　(1) 4.　研究背景と新規課題の発見　(1) 5.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(1) 6.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(2) 7.　研究手法の理解とその評価　(2) 8.　研究結果の記述様式とその評価　(2) 9.　研究背景と新規課題の発見　(2) 10.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(2) 11.　国際的な学術雑誌から専門分野の最新の学術論文の選択　(3) 12.　研究手法の理解とその評価　(3) 13.　研究結果の記述様式とその評価　(3) 14.　研究背景と新規課題の発見　(3) 15.　関連研究領域の総合的な総説の理解　(3)		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01CAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解し、応用できる。		
授業時間外学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
授業スケジュール			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(1) 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(1) 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(1) 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(2) 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(2) 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(2) 7.　研究手法の統合的な整理　(1) 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(3) 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(3) 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(3) 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(4) 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(4) 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(4) 14. 研究手法の統合的な整理　(2) 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01CBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解し、応用できる。		
授業時間外学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
授業スケジュール			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(1) 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(1) 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(1) 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(2) 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(2) 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(2) 7.　研究手法の統合的な整理　(1) 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(3) 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(3) 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(3) 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(4) 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(4) 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(4) 14. 研究手法の統合的な整理　(2) 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01CCC
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解し、応用できる。		
授業時間外学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
授業スケジュール			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(1) 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(1) 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(1) 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(2) 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(2) 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(2) 7.　研究手法の統合的な整理　(1) 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(3) 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(3) 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(3) 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(4) 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(4) 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(4) 14. 研究手法の統合的な整理　(2) 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01CDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解し、応用できる。		
授業時間外学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
授業スケジュール			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(1) 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(1) 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(1) 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(2) 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(2) 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(2) 7.　研究手法の統合的な整理　(1) 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(3) 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(3) 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(3) 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(4) 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(4) 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(4) 14. 研究手法の統合的な整理　(2) 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01CEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解し、応用できる。		
授業時間外学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
授業スケジュール			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(1) 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(1) 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(1) 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(2) 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(2) 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(2) 7.　研究手法の統合的な整理　(1) 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(3) 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(3) 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(3) 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(4) 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(4) 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(4) 14. 研究手法の統合的な整理　(2) 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01CFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解し、応用できる。		
授業時間外学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
授業スケジュール			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(1) 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(1) 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(1) 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(2) 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(2) 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(2) 7.　研究手法の統合的な整理　(1) 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(3) 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(3) 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(3) 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(4) 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(4) 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(4) 14. 研究手法の統合的な整理　(2) 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01CGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解し、応用できる。		
授業時間外学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
授業スケジュール			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(1) 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(1) 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(1) 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(2) 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(2) 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(2) 7.　研究手法の統合的な整理　(1) 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(3) 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(3) 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(3) 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(4) 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(4) 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(4) 14. 研究手法の統合的な整理　(2) 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01CHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解し、応用できる。		
授業時間外学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
授業スケジュール			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(1) 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(1) 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(1) 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(2) 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(2) 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(2) 7.　研究手法の統合的な整理　(1) 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(3) 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(3) 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(3) 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(4) 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(4) 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(4) 14. 研究手法の統合的な整理　(2) 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01CII
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解し、応用できる。		
授業時間外学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
授業スケジュール			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(1) 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(1) 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(1) 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(2) 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(2) 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(2) 7.　研究手法の統合的な整理　(1) 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(3) 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(3) 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(3) 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(4) 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(4) 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(4) 14. 研究手法の統合的な整理　(2) 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01CJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解し、応用できる。		
授業時間外学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
授業スケジュール			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(1) 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(1) 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(1) 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(2) 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(2) 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(2) 7.　研究手法の統合的な整理　(1) 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(3) 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(3) 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(3) 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(4) 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(4) 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(4) 14. 研究手法の統合的な整理　(2) 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01CKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解し、応用できる。		
授業時間外学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
授業スケジュール			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(1) 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(1) 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(1) 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(2) 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(2) 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(2) 7.　研究手法の統合的な整理　(1) 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(3) 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(3) 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(3) 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(4) 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(4) 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(4) 14. 研究手法の統合的な整理　(2) 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01CLL
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解し、応用できる。		
授業時間外学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
授業スケジュール			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(1) 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(1) 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(1) 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(2) 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(2) 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(2) 7.　研究手法の統合的な整理　(1) 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(3) 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(3) 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(3) 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(4) 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(4) 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(4) 14. 研究手法の統合的な整理　(2) 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01CMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解し、応用できる。		
授業時間外学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
授業スケジュール			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(1) 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(1) 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(1) 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(2) 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(2) 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(2) 7.　研究手法の統合的な整理　(1) 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(3) 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(3) 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(3) 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(4) 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(4) 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(4) 14. 研究手法の統合的な整理　(2) 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J76D01CNN
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science Ⅲ		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	研究課題の全体的構成案に基づく研究活動の課題を整理し、関連専門分野や周辺科学技術にも視野を拡げ、種々の研究手法を理解できる学識と能力を養成する。 　各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させる。最新の研究成果は、国内外の研究者が学術論文として雑誌に発表するので、その詳細を知るには、学術論文を読みこなす能力が必要である。そのためには、多くの原著論文を読んで、これを理解する能力を養うとともに、研究のための方法論を総説や原著論文の記述から習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、紹介する。		
教育方法	各自が文献を読み、中味を発表する。		
評価方法	以下の項目について総合的に評価する. ・学術論文の理解度と客観的な批判力（40%） ・学術論文の構成と論理性の解析力（30%） ・学術論文の技術的な観点からの価値判断力（30%）		
到達目標	最新の生命科学研究に必要な研究方法論をしっかり理解し、応用できる。		
授業時間外学習	事前に配布された論文を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文の論理性を把握し、用いられている研究手法の習得をめざす。			
授業スケジュール			
1.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(1) 2.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(1) 3.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(1) 4.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(2) 5.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(2) 6.　多様な手法の比較とその研究成果の評価　(2) 7.　研究手法の統合的な整理　(1) 8.　学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(3) 9.　学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(3) 10. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(3) 11. 学術論文の理解と最新の研究手法の理解　(4) 12. 学術論文で使われている研究手法の比較と評価　(4) 13. 多様な手法の比較とその研究成果の評価　(4) 14. 研究手法の統合的な整理　(2) 15. バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01DAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する準備をする。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01DBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する準備をする。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01DCC
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する準備をする。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01DDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する準備をする。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01DEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する準備をする。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01DFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する準備をする。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01DGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する準備をする。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01DHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する準備をする。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01DII
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する準備をする。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01DJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する準備をする。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01DKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する準備をする。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01DLL
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する準備をする。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01DMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する準備をする。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01DNN
科目名	【院】バイオ環境特別演習IV	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science IV		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅲで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する準備をする。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01EAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する。		
評価方法	・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
授業スケジュール			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01EBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する。		
評価方法	・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
授業スケジュール			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01ECC
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する。		
評価方法	・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
授業スケジュール			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01EDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する。		
評価方法	・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
授業スケジュール			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01EEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
授業概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する。		
評価方法	・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
授業スケジュール			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01EFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する。		
評価方法	・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
授業スケジュール			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01EGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する。		
評価方法	・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
授業スケジュール			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01EHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する。		
評価方法	・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
授業スケジュール			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01EII
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する。		
評価方法	・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
授業スケジュール			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01EJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する。		
評価方法	・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
授業スケジュール			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01EKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する。		
評価方法	・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
授業スケジュール			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01ELL
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する。		
評価方法	・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
授業スケジュール			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01EMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する。		
評価方法	・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
授業スケジュール			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01ENN
科目名	【院】バイオ環境特別演習Ⅴ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science V		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	各受講生に、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を示すことで、研究のための方法論を習得させるとともに、科学的論拠に従った問題の解決法を習得させる。そのために、これまでに読んだ原著論文の著者が、未解決の問題にどのように取り組んで解決へと導いたのかを考察させ、その問題解決の過程が妥当であったのかどうかを判断する能力を養う。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	科学論文として投稿する。		
評価方法	・高度な学術論文の論理構造の理解　（25%） ・問題の解決方法の発見　（25%） ・成果の妥当性と判断力　（25%） ・研究成果の発表方法　（25%）		
到達目標	研究課題の研究活動の成果を整理し、未解決の課題を解決する方法論を選択できる幅広い研究能力を養成する。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学術論文に用いられている問題解決法の理解力と批判力を養成する。			
授業スケジュール			
1. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（1） 2. 問題解決手法の評価（1） 3. 未解決の課題の解決法の発見と選択（1） 4. 学術論文に使われている問題解決手法の理解（2） 5. 問題解決手法の評価（2） 6. 未解決の課題の解決法の発見と選択（2） 7. 受講生の研究成果の把握 8. 受講生の研究成果の評価 9. 受講生の研究成果の発表方法 10.受講生の研究成果の記述法 11.受講生の研究成果の課題整理 12.受講生の研究成果にもとづく今後の展開方法 13.研究課題領域の検証 14.研究課題の社会性と国際性 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01FAA
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	学位論文の執筆を開始する。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★	★★	★	–

年度	2018	授業コード	J76D01FBB
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	学位論文の執筆を開始する。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01FCC
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	学位論文の執筆を開始する。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01FDD
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	学位論文の執筆を開始する。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01FEE
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
授業概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	学位論文の執筆を開始する。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01FFF
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	学位論文の執筆を開始する。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★	★★	★	–

年度	2018	授業コード	J76D01FGG
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	学位論文の執筆を開始する。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01FHH
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	学位論文の執筆を開始する。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01FII
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	学位論文の執筆を開始する。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01FJJ
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	学位論文の執筆を開始する。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01FKK
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	学位論文の執筆を開始する。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。

授業スケジュール

1. 国際的な学術論文の投稿規定（1）
2. 国際的な学術論文の投稿規定（2）
3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1）
4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2）
5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1）
6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2）
7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3）
8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1）
9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2）
10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3）
11.研究成果のプロモーション（1）
12.研究成果のプロモーション（2）
13.研究者のキャリアアップ
14.研究のマネージメント
15.バイオ環境特別演習のまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J76D01FLL
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	学位論文の執筆を開始する。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★	★★	★	–

年度	2018	授業コード	J76D01FMM
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	学位論文の執筆を開始する。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★	★★	★	–

年度	2018	授業コード	J76D01FNN
科目名	【院】バイオ環境特別演習VI	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar in Bioenvironmental Science VI		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	演習Ⅰ～Ⅴで行ってきたことを総まとめにし、各受講生が、バイオ環境に関わる各専門分野について、最新の研究成果の詳細を知り、未解決の問題を科学的論拠に従って解くための方法を習得させる。		
教材（教科書）	受講生と研究指導教官がそれぞれ研究課題に即した国際学術文献を選定する。		
教材（参考資料）	適宜、関連分野の総説を紹介する。		
教育方法	学位論文の執筆を開始する。		
評価方法	以下の項目を総合的に評価する。 ・研究成果の解析力　（25%） ・研究成果の表現力　（25%） ・研究成果の評価力　（25%） ・研究成果の統合力　（25%）		
到達目標	研究課題の解決法を理解し、論理的な構成を構築できる表現能力を養成し、高度な研究を学術論文として完成できる。		
授業時間外学習	事前に論文や関連総説を読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生の研究成果をまとめる能力を養成することを課題にしているから、国際的な学術論文を多く読み、その構成から多くを学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. 国際的な学術論文の投稿規定（1） 2. 国際的な学術論文の投稿規定（2） 3. 標準的な論文投稿スタイルの習得（1） 4. 標準的な論文投稿スタイルの習得（2） 5. 専門分野特有の研究成果の表現方法（1） 6. 専門分野特有の研究成果の表現方法（2） 7. 専門分野特有の研究成果の表現方法（3） 8. 専門分野特有の研究成果の発表方法（1） 9. 専門分野特有の研究成果の発表方法（2） 10.専門分野特有の研究成果の発表方法（3） 11.研究成果のプロモーション（1） 12.研究成果のプロモーション（2） 13.研究者のキャリアアップ 14.研究のマネージメント 15.バイオ環境特別演習のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	★	★★	★	–

年度	2018	授業コード	J76D020A8
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2018-2020）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させる。. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考資料）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
教育方法	教員と絶えず議論しながら研究を進める。最新の文献は絶えずフォローする。		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得し、実践できる。		
授業時間外学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
授業スケジュール			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J76D020B8
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2018-2020）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させる。. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考資料）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
教育方法	教員と絶えず議論しながら研究を進める。最新の文献は絶えずフォローする。		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得し、実践できる。		
授業時間外学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
授業スケジュール			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J76D020C8
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2018-2020）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させる。. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考資料）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
教育方法	教員と絶えず議論しながら研究を進める。最新の文献は絶えずフォローする。		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得し、実践できる。		
授業時間外学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
授業スケジュール			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J76D020D8
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2018-2020）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させる。. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考資料）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
教育方法	教員と絶えず議論しながら研究を進める。最新の文献は絶えずフォローする。		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得し、実践できる。		
授業時間外学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
授業スケジュール			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J76D020E8
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2018-2020）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
授業概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させる。. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考資料）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
教育方法	教員と絶えず議論しながら研究を進める。最新の文献は絶えずフォローする。		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得し、実践できる。		
授業時間外学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
授業スケジュール			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J76D020F8
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2018-2020）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させる。. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考資料）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
教育方法	教員と絶えず議論しながら研究を進める。最新の文献は絶えずフォローする。		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得し、実践できる。		
授業時間外学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
授業スケジュール			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J76D020G8
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2018-2020）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させる。. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考資料）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
教育方法	教員と絶えず議論しながら研究を進める。最新の文献は絶えずフォローする。		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得し、実践できる。		
授業時間外学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
授業スケジュール			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J76D020H8
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2018-2020）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させる。. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考資料）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
教育方法	教員と絶えず議論しながら研究を進める。最新の文献は絶えずフォローする。		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得し、実践できる。		
授業時間外学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
授業スケジュール			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J76D020I8
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2018-2020）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させる。. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考資料）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
教育方法	教員と絶えず議論しながら研究を進める。最新の文献は絶えずフォローする。		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得し、実践できる。		
授業時間外学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
授業スケジュール			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J76D020J8
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2018-2020）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させる。. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考資料）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
教育方法	教員と絶えず議論しながら研究を進める。最新の文献は絶えずフォローする。		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得し、実践できる。		
授業時間外学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
授業スケジュール			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J76D020K8
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2018-2020）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させる。. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考資料）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
教育方法	教員と絶えず議論しながら研究を進める。最新の文献は絶えずフォローする。		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得し、実践できる。		
授業時間外学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
授業スケジュール			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J76D020L8
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2018-2020）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させる。. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考資料）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
教育方法	教員と絶えず議論しながら研究を進める。最新の文献は絶えずフォローする。		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得し、実践できる。		
授業時間外学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
授業スケジュール			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J76D020M8
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2018-2020）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させる。. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考資料）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
教育方法	教員と絶えず議論しながら研究を進める。最新の文献は絶えずフォローする。		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得し、実践できる。		
授業時間外学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
授業スケジュール			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J76D020N8
科目名	【院】バイオ環境特別研究（2018-2020）	単位数	12
科目名（英語表記）	Research in Bioenvironmental Science		
担当者名	深見　治一	旧科目名称	
授業概要	”人とともに多様な生き物が共生できる環境”を作り上げる目標に必要な技術基盤や持続可能な設計などに関するより高度な研究課題に挑み，博士論文を完成させる。. 　各受講生が担当教員との相談をくり返し行いながら，研究テーマを設定し，文献調査などを行って，その分野の現状を把握したあと，実験や調査を行い，その研究の成果を原著論文としてまとめ，論文誌編集部へ投稿する．編集部とのやり取りを経て，その原著論文が学術雑誌に掲載されるようにする．最後に，これまでの研究の内容を，博士論文としてまとめる。		
教材（教科書）	特に設定しないが，必要に応じて指導教員から紹介する.		
教材（参考資料）	最新着の学術論文掲載の学術雑誌など図書館の蔵書.		
教育方法	教員と絶えず議論しながら研究を進める。最新の文献は絶えずフォローする。		
評価方法	研究課題の把握と新規性（20%), 実験計画の策定と独創性（20%), 研究遂行と研究成果（20%） 研究成果の自己評価（20%), 他者からの意見や評価を議論できる能力（10%), 成果の発表表現能力（10%） などを総合的に評価する		
到達目標	研究課題について多角的な視点で検討できる能力を習得し，バイオ環境の研究に十分な技能を習得し、実践できる。		
授業時間外学習	日々，研究現場で遭遇する研究課題の問題解決法を反復学習し，スキルの上達に心がけること.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主研究指導教員や副研究指導教員らと緊密な情報交換をおこなうこと．また，大学院生専門情報交換会にも必ず出席して，特別研究の遂行に努めること.			
授業スケジュール			
(1 年次) 1-5.　　研究課題の把握と研究分野の背景の調査 6-10.　研究計画の策定と研究方法の検討 11-15.　研究課題に必要な研究方法の比較検証 16-20.　研究データ収集法の検討 21-25.　研究成果の解析 26-30.　研究成果の評価と新規課題の検討 (2 年次) 31-35.　研究課題の再評価と研究技法の吟味 36-50.　研究課題の新規性の追求と実施・開発 51-55.　研究課題の社会的意義と解析評価 56-60.　研究成果の公開手法の検討 (3 年次) 61-65.　テクニカルライティングの検証 66-70.　投稿論文のスタイルと議論の構築 71-80.　関連分野の研究内容の整理と吟味 81-85.　研究成果公開のためのプレンゼンテーションの検討 86-90.　研究の新規性・専門性・独創性のアピールと社会貢献度の把握 尚，各受講生レベルで講義時間や順序を変える必要がある場合には，両者の話し合いの上，重点項目を変更する場合もある.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J80000101
科目名	日本経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放った．そして昨年(2017 年)11 月に発足した第 4 次安倍内閣は、「人づくり革命」と「生産性革命」を車の両輪として、経済の好循環の実現に向けて取り組むことになった． この間、財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる予定であったが、「世界経済のリスク」を考慮して見送られた．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（教科書）	特に使用しない		
教材（参考資料）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版 伊藤元重(2015)『日本経済を「見通す」力』（光文社新書 758），光文社 盛山和夫(2015)『社会保障が経済を強くする』（光文社新書 740），光文社		
教育方法	講義資料にもとづいて講義する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題をデータに基づいて説明することができる		
授業時間外学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける．			
授業スケジュール			
1．序　章　日本経済の現況(1) 2．序　章　日本経済の現況(2) 2．第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長 3．第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉 4．第 3 章　プラザ合意と円高不況 5．第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（1） 6．第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（2） 7．第 5 章　金融システムの動揺（1） 8．第 5 章　金融システムの動揺（2） 9．第 6 章　財政赤字の急増（1） 10．第 6 章　財政赤字の急増（2） 11．第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1） 12．第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2） 13．第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）			

14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J80000102
科目名	日本経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放った．しかし、我が国経済の現状は「失われた 20 年」に生じた様々な問題を解決できたというのにはほど遠い． 　財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる予定であったが、「世界経済のリスク」を考慮して見送られた．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 　講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（教科書）	使用しない		
教材（参考資料）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版 伊藤元重(2015)『日本経済を「見通す」力』（光文社新書 758），光文社 盛山和夫(2015)『社会保障が経済を強くする』(光文社新書 740)，光文社		
教育方法	講義用レジュメを配付しながら、講義法で行う。		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題について説明できる。		
授業時間外学習	毎回提示された課題について、インターネットなどで調べ、講義用レジメの裏面に内容を記述し、次回の授業時に提出。また、予習としては、次回の講義用レジメも配布するので、空欄箇所について、インターネットなどで調べておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
インターネット、新聞、経済雑誌などで、講義（配布するレジメ）と関連する記事、項目を講義前後で必ず調べておくこと。
受講ルール
私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し、退出を求める。
学習上の助言
自分のいろいろな選択行動を振り返ることが、経済を考えることにつながります。今週一週間に買ったもの、なぜそれを選んだのか、から考えてみよう。

授業スケジュール

1. 序　章　日本経済の現況(1)
2. 序　章　日本経済の現況(2)
2. 第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長
3. 第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉
4. 第 3 章　プラザ合意と円高不況
5. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（1）
6. 第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（2）
7. 第 5 章　金融システムの動揺（1）

8. 第 5 章　金融システムの動揺（2）
9. 第 6 章　財政赤字の急増（1）
10. 第 6 章　財政赤字の急増（2）
11. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1）
12. 第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2）
13. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）
14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J80000201
科目名	経営学総論	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Business Administration		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
授業概要	経営学は主として企業を対象とした社会科学であり、企業をマネジメントする上で生じるさまざまな課題を解決するのに必要とされる知識を修得する学問である。 本講義では、経営学を学ぶ上で不可欠な企業の基礎的な特徴や考え方を理解することによって、「経営学とはどのようなことを研究するのか」「どのように応用することができるのか」などの関心を喚起し、より深い学びへと誘うことを目的としている。		
教材（教科書）	基本的に教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。 毎回、プリントやレジュメをを配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて指示する。		
教育方法	講義形式で授業を行う。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで 1 度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. 経営学の主な対象である企業の特徴を理解し、説明することができる。 2. 経営学のとはどういう学問かを理解し、説明することができる。 3. 今後、経営学を深めていき、それを応用することができるようになるための基礎的な知識を修得する。		
授業時間外学習	1. 次の講義内容について図書館等で予め調べ、それに関する文献を探してその部分を熟読しておく。 2. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 3. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 4. 日常から経営学に関連する時事問題に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
2．講義への積極的な参加を望む。
3．板書が多いので、日ごろから文字を書く練習をしておくこと。

授業スケジュール

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

第 1 回　オリエンテーション（講義の概要）
第 2 回　経営学で学ぶこと
第 3 回　経営学の生成と発展
第 4 回　企業の特徴
第 5 回　企業の分類
第 6 回　株式会社の特徴と仕組み①株式会社の仕組み
第 7 回　株式会社の特徴と仕組み②所有と経営の分離
第 8 回　前半のまとめと理解度の確認
第 9 回　企業の目標
第 10 回　コーポレートガバナンス①欧米企業におけるコーポレートガバナンス
第 11 回　コーポレートガバナンス②日本企業におけるコーポレートガバナンス
第 12 回　企業の社会的責任
第 13 回　日本的経営論
第 14 回　経営学における個人と組織の考え方
第 15 回　まとめと理解度の確認（期末試験を予定）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J80000301
科目名	ビジネスデータの見方	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	経済の動き、企業を取り巻く環境を理解するためには、現実のデータ（経済統計、企業統計など）から現状を見る必要があります。経済の主要なデータ、たとえば、国全体の経済の動きは SNA というシステムにまとめられています。GDP など経済の基本中の基本となっている用語を理解するとともに、その動きがどうなっているか、他のどのような要因と関連しているかなど、主にデータ面から理解を深めます。 　また、企業活動から見たデータもビジネスをとらえるために重要です。事業所や、売り上げ、利益など経済だけにとどまらないデータを紹介し、理解を深めます。		
教材（教科書）	資料はプリントを配布します。授業の進捗に合わせて、内容を変更することがあります。		
教材（参考資料）	経済財政白書（2017 年）		
教育方法	パワーポイントによる講義法。 パワーポイントの資料は毎回配布。同時に同じ資料を「京学なび」に掲示。		
評価方法	何回か授業内テストをします。その成績が 20%。（毎回必ず出席しなければ得点できません） 期末試験が残りの 80%です。		
到達目標	マクロ経済の基本用語とその現実の動きを理解する 経済の要素間の関連（理論的バックグラウンド）を理解する。 企業関連データの実際を知る。		
授業時間外学習	マクロ経済学を勉強することが望ましい。 時々、宿題を出すので、授業外の時間にそれをまとめ、次回の授業で提出する。 予習復習、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
①授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、入退室などマナー違反は許さない ②実際に手を動かして文章を作ったり、計算したりする			
授業スケジュール			
１　講義の全体構成 ２　付加価値とＧＤＰ ３　ＧＤＰと需要項目 ４　１人あたりＧＤＰ、日本は豊かな国か ５　経済成長と需要の寄与度 ６　景気変動と景気動向 ７　物価指数 ８　物価指数の実際 ９　人口 、労働人口、失業 １０　マネー １１　為替と貿易 １２　産業構造、事業所 １３　利益の構造 １４　企業の世界展開 １５　ブラック企業			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J80000302
科目名	ビジネスデータの見方	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	経済の動き、企業を取り巻く環境を理解するためには、現実のデータ（経済統計、企業統計など）から現状を見る必要があります。経済の主要なデータ、たとえば、国全体の経済の動きは SNA というシステムにまとめられています。GDP など経済の基本中の基本となっている用語を理解するとともに、その動きがどうなっているか、他のどのような要因と関連しているかなど、主にデータ面から理解を深めます。 　また、企業活動から見たデータもビジネスをとらえるために重要です。事業所や、売り上げ、利益など経済だけにとどまらないデータを紹介し、理解を深めます。		
教材（教科書）	資料はプリントを配布します。授業の進捗に合わせて、内容を変更することがあります。		
教材（参考資料）	経済財政白書（2017 年）		
教育方法	パワーポイントによる講義法。 パワーポイントの資料は毎回配布。同時に同じ資料を「京学なび」に掲示。		
評価方法	何回か授業内テストをします。その成績が 20%。（毎回必ず出席しなければ得点できません） 期末試験が残りの 80%です。		
到達目標	マクロ経済の基本用語とその現実の動きを理解する 経済の要素間の関連（理論的バックグラウンド）を理解する。 企業関連データの実際を知る。		
授業時間外学習	マクロ経済学を勉強することが望ましい。 時々、宿題を出すので、授業外の時間にそれをまとめ、次回の授業で提出する。 予習復習、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
①授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、入退室などマナー違反は許さない ②実際に手を動かして文章を作ったり、計算したりする			
授業スケジュール			
１　講義の全体構成 ２　付加価値とＧＤＰ ３　ＧＤＰと需要項目 ４　１人あたりＧＤＰ、日本は豊かな国か ５　経済成長と需要の寄与度 ６　景気変動と景気動向 ７　物価指数 ８　物価指数の実際 ９　人口 、労働人口、失業 １０　マネー １１　為替と貿易 １２　産業構造、事業所 １３　利益の構造 １４　企業の世界展開 １５　ブラック企業			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J80000401
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
授業概要	簿記とは、企業の経営活動の結果を帳簿に記録する手法であり、技術です。簿記の原理を知り、財務諸表から企業の財政状態や経営成績を読み取る能力は、現在の企業人に強く求められる必須の教養であるといってもよいでしょう。 日本商工会議所が主催する日商簿記検定試験は、簿記検定試験の中でも最も規模が大きく、知名度の高い検定試験であり、一般的には３級の資格から履歴書にも書ける資格であると言われています。 この授業では、初めて簿記を学ぶ人を対象に日商簿記検定試験３級合格レベルの知識を身に付けるとともに、練習問題を取り入れることでその技術を高めることを目指します。		
教材（教科書）	『合格テキスト　日商簿記３級　Ｖｅｒ．９．０』（ＴＡＣ出版）		
教材（参考資料）	必要に応じて指示します。		
教育方法	テキスト・授業内プリントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業内提出物等による平常点（５０％）、授業内小テスト等による平常点（５０％）		
到達目標	学生が、各勘定科目の内容について説明でき、商店の財務諸表の作成ができることを目指します。		
授業時間外学習	次の授業までに前回の授業内容の復習と練習問題の解答を心掛けてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
この授業は複式簿記の基礎的な知識と技術の習得を目的としています。授業には積極的に出席し、簿記に対する関心を深め、しっかりとした知識と技術を身に付けるよう心掛けてください。			
授業スケジュール			
１．　簿記って何！簿記の目的と種類 ２．　簿記の５つの要素 ３．　損益計算書 ４．　貸借対照表 ５．　仕訳①と練習問題 ６．　仕訳②と練習問題 ７．　仕訳③と練習問題 ８．　仕訳④と練習問題 ９．　決算処理①と練習問題 １０．決算処理②と練習問題 １１．主要簿と補助簿 １２．試算表と練習問題 １３．精算表と練習問題 １４．簿記一巡の手続き １５．日商簿記検定試験３級実践演習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J80000402
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	(1) 簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 (2) この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 (3) 簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 (4) この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 (5) この講義は、次のステップの「簿記原理」（日商簿記検定 3 級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。		
教材（教科書）	渡部　裕亘　『ファーストステップ　簿記を学ぶ 第 2 版』 中央経済社		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義と演習を織り交ぜて進めます。		
評価方法	原則として、 小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。		
到達目標	日商簿記初級レベルの勘定科目に基づいて (1)　貸借対照表と損益計算書が作成できる。 (2)　基本的な取引の仕訳と転記ができる。 (3)　個人商店における決算処理ができる。 (4)　仕訳から財務諸表の作成に至るまでの過程を説明できる。		
授業時間外学習	(1) 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 (2) 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

(1) 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング･アップを行ってください。この講義を理解せずに、「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。
(2) 科目の性格上、1 回休むだけで理解が困難になります。出席するだけでは不十分であり、毎回その回の内容をしっかり理解してください。

授業スケジュール

この講義は、原則、次の順序で展開します。

1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的･種類
2. 資産･負債･純資産（資本）と貸借対照表
3. 収益･費用と損益計算書
4. 取引と取引要素の結合関係
5. 取引と勘定記入
6. 仕訳① [資産･負債･純資産（資本)]
7. 仕訳② [収益・費用]
8. 仕訳と転記
9. 仕訳帳と総勘定元帳
10. 試算表の原理
11. 6 桁精算表
12. 決算手続き

13. 貸借対照表と損益計算書の作成 14. 決算演習 15. 簿記一巡の取引に関するプリント演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J80000403
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	秋口　達也	旧科目名称	
授業概要	(1) 簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 (2) この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 (3) 簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 (4) この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 (5) この講義は、次のステップの「簿記原理」（日商簿記検定 3 級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。		
教材（教科書）	渡部　裕亘　『ファーストステップ　簿記を学ぶ 第 2 版』 中央経済社		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義と演習を織り交ぜて進めます。		
評価方法	原則として、 小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。		
到達目標	日商簿記初級レベルの勘定科目に基づいて (1)　貸借対照表と損益計算書が作成できる。 (2)　基本的な取引の仕訳と転記ができる。 (3)　個人商店における決算処理ができる。 (4)　仕訳から財務諸表の作成に至るまでの過程を説明できる。		
授業時間外学習	(1) 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 (2) 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

(1) 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング･アップを行ってください。この講義を理解せずに、「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。
(2) 科目の性格上、1 回休むだけで理解が困難になります。出席するだけでは不十分であり、毎回その回の内容をしっかり理解してください。

授業スケジュール

この講義は、原則、次の順序で展開します。

1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的･種類
2. 資産･負債･純資産（資本）と貸借対照表
3. 収益･費用と損益計算書
4. 取引と取引要素の結合関係
5. 取引と勘定記入
6. 仕訳① [資産･負債･純資産（資本)]
7. 仕訳② [収益・費用]
8. 仕訳と転記
9. 仕訳帳と総勘定元帳
10. 試算表の原理
11. 6 桁精算表
12. 決算手続き

13. 貸借対照表と損益計算書の作成 14. 決算演習 15. 簿記一巡の取引に関するプリント演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J80000404
科目名	入門簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Bookkeeping		
担当者名	川端　千暁	旧科目名称	
授業概要	(1) 簿記（ぼき）とは「帳簿（ちょうぼ）記入」を省略した表現です。企業組織の成績表とも言える「財務諸表（ざいむしょひょう)」を作成する方法です。 (2) この講義では、簿記を初めて学習する学生向けに、「簿記一巡の手続き」について、丁寧に解説すると共に、記帳（きちょう）方法を身につけます。 (3) 簿記の学習には積み重ねの努力が不可欠です。それには、ワークブックなどを活用した問題演習が効果的です。この講義では、下記のテキストを活用して説明した上で、「問題演習」を行います。 (4) この講義では、簿記の企業経営上の意義を再確認したり、適宜プリント問題を課すなど、簿記技法の習得に努めます。 (5) この講義は、次のステップの「簿記原理」（日商簿記検定 3 級程度）の内容を理解し、習得するための「準備」として、簿記の基礎的な仕組みを学びます。		
教材（教科書）	渡部　裕亘　『ファーストステップ　簿記を学ぶ 第 2 版』 中央経済社		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義と演習を織り交ぜて進めます。		
評価方法	原則として、 小テスト(20%)、課題提出等を含む講義への取り組み姿勢(30%)、定期試験(50%)に基づき、総合評価を行います。		
到達目標	日商簿記初級レベルの勘定科目に基づいて (1)　貸借対照表と損益計算書が作成できる。 (2)　基本的な取引の仕訳と転記ができる。 (3)　個人商店における決算処理ができる。 (4)　仕訳から財務諸表の作成に至るまでの過程を説明できる。		
授業時間外学習	(1) 講義で指示された教科書のページに、事前に目を通しておいてください。 (2) 講義で指示された課題に回答して、次回の講義で提出してください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

(1) 簿記の初学者（これまで簿記を習ったことがない人）は、この講義でウォーミング･アップを行ってください。この講義を理解せずに、「簿記原理」を受けることは多大な困難が伴います。
(2) 科目の性格上、1 回休むだけで理解が困難になります。出席するだけでは不十分であり、毎回その回の内容をしっかり理解してください。

授業スケジュール

この講義は、原則、次の順序で展開します。

1. 講義展開のガイダンスと簿記の意味・目的･種類
2. 資産･負債･純資産（資本）と貸借対照表
3. 収益･費用と損益計算書
4. 取引と取引要素の結合関係
5. 取引と勘定記入
6. 仕訳① [資産･負債･純資産（資本)]
7. 仕訳② [収益・費用]
8. 仕訳と転記
9. 仕訳帳と総勘定元帳
10. 試算表の原理
11. 6 桁精算表
12. 決算手続き

13. 貸借対照表と損益計算書の作成 14. 決算演習 15. 簿記一巡の取引に関するプリント演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J80000501
科目名	ビジネスのための数学入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
授業概要	この講義では、高校で既習の 1 次関数・2 次関数からはじめて、微分・偏微分や行列などより高度な抽象的な内容（B で取り上げる）に発展させていく。ただ、従来の数学のように定理・証明の積み重ねではなく、定理の直感的な意味の把握とその実践としての問題演習を中心に進めていく予定である。		
教材（教科書）	なし，各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	講義中に適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら，講義法で授業は進められる。		
評価方法	授業レポート（56%），その理解度を確認する演習・試験（44%），この 2 つの項目を総合して評価する。		
到達目標	経済学や経営学を学ぶのに必要な数学の基礎学力をつけること。 特に数列の計算・関数のグラフ・微分の計算と応用などの能力を獲得することで，具体的な事例について定量的な説明ができるようになること。		
授業時間外学習	高校の数学の教科書や図書館の参考書などで復習すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

数学的な記号や法則は，本だけで自習するのは困難であるので，毎回受講すること。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，その演習として簡単な問題を課し提出してもらう予定である。
高校数学の復習から始めるので事前に高校教科書の該当箇所に目を通しておいてください。

授業スケジュール

1. 整式の計算・方程式・不等式
2. 数と集合
3. 集合と命題
４．２次関数・２次不等式・２次不等式・
5. 数列
6. 数列の極限
7. 関数
8. 集合・関数・方程式・不等式・数列について総合演習
9. 指数関数
10.対数関数
11. 関数の極限と微分
12. 微分の公式
13. 微分の計算
14. 微分の応用
15. 指数・対数関数・関数の極限・微分法について総合演習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★

年度	2018	授業コード	J80000601
科目名	民事法入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Civil Law		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	民法の総則、債権などの財産法についての入門的な講義を行います。民法は、私たちが市民社会・企業社会の中で生きていくための不可欠のルールですので、確実に自分のものにする必要があります。 講義では、市民社会や企業社会で起こっている具体的な事例を素材にして、参加者同士が円滑に利害調整を図るためには、どのように問題解決を図っていくか、これを考えていくことにしたいと思います。これらの作業を通して、学生は、「民法」というルールの役割と課題を習得することができます。 なお、「民法」は、2017 年 6 月に改正法が公布され、2020 年 4 月から施行されます。学生が社会人として活躍するに際しての実際的知識を身につけるという観点から、改正法に基づいて講義をすることとします。		
教材（教科書）	●野村豊弘「民事法入門[第 7 版]」（有斐閣アルマ、2017）		
教材（参考資料）	●道垣内弘人「リーガルベイシス民法入門[第 2 版]」（日本経済新聞社、2017） ●「ポケット六法」などの小型六法		
教育方法	教科書および配布レジュメに従い、パワーポイントを活用しながら、講義法で行うことを基本とする。		
評価方法	・定期試験（７０％） ・小テストおよび授業課題（３０％） 授業課題は、各回の講義に関連する「問題」を京学ナビ・課題管理に提示するので、この解答を京学ナビから提出する。		
到達目標	(1) 学生は、民法の財産法ルールがどのような内容か、概要を把握する。 (2) 学生は、市民社会･企業社会で起こっている紛争事例において、その解決のために、財産法ルールがどのように適用されているかを考えることができるようになる。		
授業時間外学習	授業は、テキストに沿って行う。授業前に、授業で取り上げるテーマについて、授業で何が話題になるかをつかんだ上で出席する。 第 1 回目…テキスト第 1 章を読み、重要な点をマークすること。 第 2 回目…テキスト第 2 章を読み、重要な点をマークすること。 第 3 回目…テキスト第 3 章を読み、重要な点をマークすること。 第 4 回目…テキスト第 4 章 1 を読み、重要な点をマークすること。 第 5 回目…テキスト第 4 章 2 を読み、重要な点をマークすること。 第 6 回目…京学ナビ掲示登録から配布する小テスト問題の解答 第 7 回目…テキスト第 5 章 1 を読み、重要な点をマークすること。 第 8 回目…テキスト第 5 章 2 ・ 3 を読み、重要な点をマークすること。 第 9 回目…テキスト第 6 章を読み、重要な点をマークすること。 第 10 回目…テキスト第 7 章を読み、重要な点をマークすること。 第 11 回目…京学ナビ掲示登録から配布する小テスト問題の解答 第 12 回目…テキスト第 9 章を読み、重要な点をマークすること。 第 13 回目…テキスト第 9 章を読み、重要な点をマークすること。 第 14 回目…テキスト第 11 章 1 ・ 2 を読み、重要な点をマークすること。 第 15 回目…テキスト第 11 章 4 ・ 5 を読み、重要な点をマークすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
小テストは四択問題・記述問題とするが、テスト時間はとくに設けない。京学ナビで問題を掲示するので、各自で解答に取り組んでもらい、解答用紙を提出してもらうこととする。 授業課題は、授業終了時に簡単な質問を提示するので、これを京学ナビ・課題管理に入力していただく。その記入内容によって講義がしっかり聴けているかを評価するので、授業内容については確実に理解するようにしていただきたい。
授業スケジュール
1　民事法 民事法の意義 民事法の構造 法源 2　民法と民法典 民法の意義（一般法としての民法と特別法としての商法） 民法の構造 民法の歴史 平成２８年民法（債権法）改正の意義 3　権利と義務 意義 物権と債権 権利の濫用 4　法律行為(1) 意思表示・契約・法律行為 公序良俗 意思表示の瑕疵 無効と取消し 5　法律行為(2) 権利能力 意思能力・行為能力 6　課題演習（小テスト）と解説 7　代理(1) 代理制度の意義 代理権 代理人 代理行為 8　代理(2) 無権代理 表見代理 9　時効 時効制度 取得時効・消滅時効 債権法改正のポイント 10　契約 契約の成立 契約の効果 契約の履行（債務の履行） 契約の不履行（債務不履行） 11　課題演習（小テスト）と解説 12　不法行為(1) 不法行為制度の意義と機能 不法行為の要件

13　不法行為(2)
　　不法行為責任の内容
　　特殊的不法行為
14　債務の弁済(1)
　　物的担保と人的担保
　　債務の弁済
15　債務の弁済(2)
　　銀行送金
　　クレジットカード

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	−	★

年度	2018	授業コード	J80000701
科目名	刑事法入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Criminal Law		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
授業概要	「刑法」、「刑事訴訟法」など刑事にかかわる法律を分野を「刑事法」と呼ぶ。刑事法の内容は、犯罪と刑罰を規定する実体法および実体法の内容を実現させるのに必要な手続法の解釈論、また刑罰論、犯罪者処遇、犯罪原因の解明、および被害者救済などの政策論と多岐にわたる。この講義では、刑事法のうち特に実体法である刑法を中心としてどのようなことが刑事法では問題になるかを具体例を挙げて示すことにより、刑事法への関心を高め、刑事の事例につき、自身の力で犯罪の成否を考えることのできることを目標とする。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	予習・復習のために購入すべき文献として、以下の文献を紹介する。 ・佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版)』（有斐閣・２０１３年） 上記文献のほかにより深く理解するための助けとして、以下の文献を紹介する。 ・佐久間修『刑法総論』（成文堂・２００９年） 判例教材として以下の文献を紹介する。 ・十河太朗=豊田兼彦=松尾誠紀=森永真綱共著『刑法総論判例 50！』（有斐閣・２０１６年） ・山口厚=佐伯仁志編「刑法判例百選Ⅰ総論（第７版)』（有斐閣・２０１４年） ・井田良＝城下裕二編『刑法総論判例インデックス』（商事法務・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅰ総論』（信山社・２０１０年）		
教育方法	毎回配布するレジュメをもとに、講義法で行う。 また、知識の定着度を確認するため、最低３回は小テストを行う予定である。		
評価方法	期末試験（７０％）と適宜実施する小テスト（３０％）によって評価する。		
到達目標	刑法の全体像をできるだけ具体的に把握するとともに、刑法総論に重要な論点を理解し、簡単な事例については自ら判断して問題解決できるようになることを目標とする。		
授業時間外学習	刑事法に関心をもつために、日々報道される犯罪報道、特に新聞記事を毎日読むこと。 また、各回の教科書の該当ページを復習として読み、次回の準備として、教科書該当箇所のケースを読み、どのような事例において問題となるか把握しておくこと。(推定学習時間 30 分～45 分) 第１回　２３頁～４３頁 第２回　４５頁～５４頁、６３頁～７１頁 第３回　５４頁～６３頁 第４回　９７頁～１１５頁 第５回　１１７頁～１３７頁 第６回　１３９頁～１４８頁 第７回　１５６頁～１８０頁 第８回　１４８頁～１５６頁 第９回　１８１頁～１９６頁 第１０回　１９７頁～２１３頁 第１１回　７３頁～９５頁 第１２回　２１５頁～２１８頁、２２３頁～２２８頁 第１３回　２２３頁～２３０頁 第１４回　２３５頁、２３６頁、２１８頁～２２０頁 第１５回　２３０頁～２３４頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			

・法律についての基礎知識を有していると理解が進むため、法学を受講していることが望ましい。
・他の受講生の学習を妨げるような私語・食事は厳禁である。
・毎日流れる犯罪に関するニュースに触れて、自分なりに考える姿勢を身につけて欲しい。
・講義や復習の際に出てきた条文は必ず六法で参照する癖をつけて欲しい。一度だけでなく、何度も見ることが重要である。

授業スケジュール

１．刑事法とは何か　－刑法、刑事手続法、刑事学
２．構成要件該当性（１）実行行為
３．構成要件該当性（２）因果関係
４．構成要件該当性（３）構成要件的故意と事実の錯誤
５．構成要件該当性（４）構成要件的過失
６．違法性（１）違法性の基本問題
７．違法性（２）正当行為と緊急行為
８．違法性（３）被害者の同意
９．有責性（１）責任の本質、責任能力
１０．有責性（２）違法性の意識、期待可能性
１１．有責性（３）過失責任
　　修正された構成要件－未遂犯と中止未遂
１２．修正された構成要件－共犯論（１）正犯と共犯・共同正犯論１
１３．修正された構成要件－共犯論（２）共同正犯論２
１４．修正された構成要件－共犯論（３）共同正犯論３・狭義の共犯１
１５．修正された構成要件－共犯論（４）狭義の共犯２

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J80000801
科目名	ビジネス法入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Business Law		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
授業概要	ビジネスを行うには、ビジネスに関係の深い法律を理解し、それらの法律に違反しないだけでなく、法律が用意している制度とその仕組みを上手く活用することが求められます。例えば、会社を作ってビジネスをするには、どのような種類の会社があるのか、ビジネスに必要な資金の集め方にはどのような種類があるのか、もしもビジネスに失敗して会社をたたむ場合にはどのような方法があるのか、といったことが重要です。これら全てに法律が関係してきます。具体的には、特に「民法」「商法」「会社法」「金融商品取引法」など、様々な法律が関係します。この講義では、これらの法律の中から、契約の基本、代理の仕組み、株式会社の仕組み、お金や商品の流れ、企業の資金調達や組織など、特に重要な基本的な制度とその仕組みについて学びます。この講義を通じて、ビジネスに関するニュースがより理解できるようになり、ビジネスパーソンに必要な法的な基本知識を習得することを目指します。		
教材（教科書）	なし。 毎回、講義レジュメを配布する。		
教材（参考資料）	山田剛志・萬澤陽子『入門企業法』（弘文堂、2012 年） その他については、適宜授業で紹介する。		
教育方法	講義法で授業を行う。毎回、講義の冒頭で、その回に理解すべきポイントと、授業内レポートのテーマを説明する。受講生は、レポートのテーマを意識しながら、授業に取り組み、授業の最後に授業内レポートを作成する。優秀な授業内レポートは、次回の講義で紹介する。授業内レポートで全体的な理解度を把握し、必要に応じた復習及び補足説明を行う。		
評価方法	平常点（授業内レポート等）　20% 課題レポート　20% 期末試験　60% 評価方法の詳細については、初回の講義で説明する。		
到達目標	以下の企業に関する基本的な仕組みについて理解し、説明できるようになる。 ・ビジネスで多用される代理の仕組みについて説明できるようになる。 ・株式について説明できるようになる。 ・株式会社の基本的な仕組みについて説明できるようになる。 ・主要な決済の仕組みについて説明できるようになる。 ・その他、企業の組織・責任・失敗に関する重要なキーワードの意味を説明することができる。		
授業時間外学習	毎回の授業の後、その回のポイントについて自筆ノートを作成する。この自筆ノートに限り、期末試験に持ち込むことができる。この他、課題レポートについて、計画的に準備することが求められる。（各回の学習推定時間は 1 時間）		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1　普段から経済や企業関係のニュースに関心を持って、新聞を読んだり、ニュースを見る。 2　「将来ビジネスをするなら、この知識がどのように役立つか」と想像しながら受講する。 3　お互いに気持ちよく受講できるように、受講マナーを守り、良好な学習環境となるよう協力する。 （受講マナーについては、初回の講義で確認する。）			

授業スケジュール
1．オリエンテーション・契約の基本 2．会社の種類 3．株式会社の基本 4．商品の流通１ 5．商品の流通２・金の流れと決済　1 6．金の流れと決済　2 7．企業の組織１ 8．企業の組織２ 9．企業のグループ １０．企業の資金 １１．投資と利殖 １２．企業の失敗 １３．企業と責任１ １４．企業と責任２ １５．最近の事件と解説

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J80000901
科目名	京都のビジネス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	京都は伝統と進取の気質に富むまちであり、観光などのサービス産業だけでなく、中小・中堅企業を中心にした「ものづくり産業」が地域経済を支えている。本講義「京都のビジネス」は、地域金融、観光、情報、医療、ものづくりなどの各分野で京都経済界を担う経営者などをゲストスピーカーとして招き、京都経済の特徴と魅力を論じる。これにより、企業を見る眼を養うとともに、ビジネスシーンへの理解を深め、各専門分野における学修への動機づけを与える。		
教材（教科書）	特に指定しない。毎回講義レジュメ・資料を配布する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	事前に「京学なび」にアップロードした講義レジュメに沿って、講義法で行う。講義では、該当する業界の歴史・特徴を明確にした上で、個別企業の経営戦略などの具体例が示される。受講者は毎回 A４版１枚のレポートの提出が求められ、次回以降の授業で評価されたレポートは受講者に返却される。		
評価方法	授業中に毎回課すレポート（100%）。レポートは授業の要点とともに、受講者の今後の行動・学習に結びつく「気づき」の記載を求める。		
到達目標	１．各業界のビジネスシーンを理解し、各業界の特徴が説明できるようになる。 ２．企業が、さまざまな状況の中で、どのような問題をどのように解決しようとしたかを理解し、それに係わり自らの気付きがどのようなものであるか説明することができる。 ３．企業が、さまざまな状況の中で、どのような人材を求めているのかということを理解し、それに係わり自らの気付きがどのようなものであるか説明することができる。		
授業時間外学習	各回の授業のレジュメ・資料を「京学なび」に事前にアップロードするので、それを読了し、該当企業のホームページなどで業界・企業の下調べをしたうえ講義にのぞむこと（各回の学習推定時間は 45 分）。 第１回　レジュメ（京都のビジネス概観その１） 第２回　レジュメ（京都のビジネス概観その２） 第３回　レジュメ（京都の精密金属加工業界） 第４回　レジュメ（京都の分析機器製造業界） 第５回　レジュメ（京都の電子機器部品製造業界） 第６回　レジュメ（京料理業界） 第７回　レジュメ（京都の旅館業界） 第８回　レジュメ（西陣織業界） 第９回　レジュメ（友禅染業界） 第 10 回　レジュメ（京都の清酒製造業界） 第 11 回　レジュメ（京都の和菓子製造業界） 第 12 回　レジュメ（京都の漬物製造業界） 第 13 回　レジュメ（京都の造形物微細加工業界） 第 14 回　レジュメ（京都の電気自動車製造業界） 第 15 回　レジュメ（京都のバイオ医療系薬品製造業界）		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各業界の動向について、新聞などのニュースソースから自分なり調査し、考えてみよう。			
授業スケジュール			
１．京都のビジネス概観その１ ２．京都のビジネス概観その２ ３．京都の精密金属加工業界 ４．京都の分析機器製造業界 ５．京都の電子機器部品製造業界			

6．京料理業界
7．京都の旅館業界
8．西陣織業界
9．友禅染業界
10.京都の清酒製造業界
11.京都の和菓子製造業界
12.京都の漬物製造業界
13.京都の造形物微細加工業界
14.京都の電気自動車製造業界
15.京都のバイオ医療系薬品製造業界

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J80001001
科目名	株式投資入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	日根野　健	旧科目名称	
授業概要	株式投資は、様々な学問のエッセンスを活用する、まさに実践の場、学際的領域です。 ファイナンス論で学ぶ企業価値評価。 財務諸表論で学ぶ財務諸表の読み方。 マクロ経済学で学ぶ経済に対する見通し。 ミクロ経済学で学ぶ市場の仕組み。 経営学で学ぶバリューチェーンや 5force 分析。 これらの学問が株式投資という実践にどのように活用されるかを知ることで、それぞれの学問の意義を学習していきます。企業を事例として取り上げながら、様々な企業が存在することを知ることにもつながります。 この授業では、各学問の知見を株式投資にいかに実践するかにとどまらず、学生が就職する企業を選ぶ際のポイントを学ぶことにもつながります。 就職は、学生がどの企業に自らの大切な時間を投資するか？という投資意思決定だといえます。自らの就職先を選ぶ際にも、この授業で学んだ内容が役立つはずです。		
教材（教科書）	各講義でプリントを配付する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	レポート（50%）、授業内小テスト等による平常点（50%） (1) レポートの内容は、企業分析レポートの作成とする。 (2) 授業内小テスト等は、授業の理解度を確認するための問題を中心に出題する。		
到達目標	学生が、企業を「財務・業績」「企業価値」「業種・業界」など多面的に、理解・分析できる。		
授業時間外学習	毎授業の最初に、前回の授業内容に関する復習プリントと解説を実施します。 そのため、前回の授業内容のポイントの復習を、毎回の授業の準備学習として行ってください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
「株式投資」と「就職活動における企業選び」には、いずれも「投資」という共通点があります。株式投資は「お金の投資」であり、就職は「あなたの時間の投資」です。 企業を理解・分析する眼を養い、結果として、就職活動にも活きる授業内容にしたいと思いますので、積極的に参加してください。			
授業スケジュール			
【ガイダンス】 1.はじめに　株式会社ができてから上場するまで 株式会社が起業してから上場するまでの流れを見ていきます。 それによって、株式会社とは何か、上場するとはどういうことかを理解します。 【基本】 2.株式会社の仕組み 株式会社は株主総会、取締役会、監査役といった機関から成り立っています。			

取締役や監査役がどのように選任されるのか、また株主総会にはどのような役割があるのかについて、取り上げます。

3.株式投資の基礎知識 1
個人投資家がよく利用する Yahoo! Finance を中心に、提供されている情報の意味を読み取れるように、基本的な知識を説明します。

4.株式投資の基礎知識 2
Yahoo! Finance が提供する情報の中でも決算情報の読み取り方を理解します。

【株主価値評価】
5.株主価値評価 1　～上場会社の企業価値を評価する～
企業価値、株主価値、負債価値の概念を理解します。

6.株式学習ゲーム
株式学習ゲームを通して、実際の取引のルールを学びます。

7.株主価値評価 2　～FCF とは？～
実際の企業について、株主価値を算定し、現在の株価が割安か、適正か、割高か、を判断する練習をします。
DCF 法（ディスカウント・キャッシュ・フロー法)、特にエクイティ DCF 法により、株主価値を算定します。
特に FCF（フリー・キャッシュ・フロー)、WACC（ワック）について、実際の企業を例に算定します。
ソフトバンク、ファーストリテイリング等、実在の企業について中期経営計画等をもとに、DCF 法による株主価値を算定する演習を行います。

8.株主価値評価 3　～財産価値評価～
実際の企業の財務諸表を読み解き、財務内容の特徴を理解します。(製造業、サービス業、銀行業、保険業)
特に、非事業性資産とはなにか、について理解し、実際の財務諸表から非事業性資産を特定し、金額を算定できるようにします。

9.株主価値評価 4　～ケーススタディ～
実際の企業について、株主価値の計算演習を行います。

【業界分析】
10.業界分析 1　～マトリックス、プロダクトライフサイクル、景気循環～
マーケットを、「ディフェンシブ、景気循環」×「成長、成熟、衰退」の 6 つに分類して理解します。
ディフェンシブ、景気循環、成長、成熟、衰退の意味を説明するとともに、実際のマーケットがどこに分類されるかを考えます。

11.業界分析 2　～業種一覧、業種見取図～
上場企業は 33 の業種に分類されています。
どのような分類があり、どのような企業が各業種に分類されているかを確認します。
特に、サービス業等のディフェンシブな業種・業界を取り上げます。

12.業界分析 3　～業界ごとの特徴～
特に製造業等の景気循環の影響を受ける業種・業界を取り上げます。
業界の特性を反映した株主価値評価方法を取り上げます。

13.業界分析 4　～業界ごとの株主価値～
業界ごとの特徴を踏まえた株主価値の算定方法を考えていきます。

【法令・ルール】

14.インサイダー取引等

株式市場のルール（インサイダー取引等）を取り上げます。

株式投資において絶対にやってはいけないことについて学びます。

【情報リテラシー】

15.日本経済新聞を使った情報収集

投資信託、生命保険、社会保障などに関連する情報を収集するためにはどうすればよいか？

日本経済新聞を使った情報収集方法を紹介します。

また、情報を読み取るために必要なリテラシーについても取り上げます。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J80100101
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	本学が京都市内に立地しているメリットを活かして京都の伝統工芸品の一つである京友禅について学びます。京友禅とは友禅染という技法を用いて白地の織物を後染めしたもので、、着物や浴衣として出荷されます。授業では京友禅の制作体験に参加したり京友禅の工房を訪問して聞き取り調査をおこなったりします。京友禅の美にふれて、その価値を知ってもらえればと思っています。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考資料）	１．木村孝（2002）『染め織りめぐり』JTB。 ２．京友禅史編纂特別委員会（1992）『京の友禅史』染織と生活社。 ３．滝沢静江（2007）『着物の織りと染めがわかる事典』日本実業出版社。		
教育方法	講義法と学生による発表を中心に授業を進めます。		
評価方法	学外における調査研究（50%）、授業内レポート（50%）		
到達目標	１．日本の歴史の中で育まれてきた織物の美しさを知る。 ２．京友禅業界が直面している問題について、自分なりに解決策を提案する。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する参考文献のページを読んでおくこと（各回の学習推定時間は 45 分間）。 第 1 回　滝沢（2007）54―118 頁。 第 2 回　滝沢（2007）54―118 頁。 第 3 回　木村（2002）12―17 頁。80―82 頁。 第 4 回　京友禅史編纂特別委員会（1992）205―210 頁。 第 5 回　みやこメッセのホームページ。 第 6 回　京友禅史編纂特別委員会（1992）211―213 頁。 第 7 回　訪問先のホームページ。 第 8 回　訪問先のホームページ。 第 9 回　京友禅共同組合連合会のホームページ。 第 10 回　訪問先のホームページ。 第 11 回　訪問先のホームページ。 第 12 回　京都市のホームページで「京都市の伝統産業」の項目 第 13 回　京友禅共同組合連合会のホームページ。 第 14 回　京友禅共同組合連合会のホームページ。 第 15 回　これまでに得た資料の整理		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール
企業を訪問する際には、マナーに十分注意してほしい。

授業スケジュール

１．着物の基礎知識①
２．着物の基礎知識②
３．京友禅・加賀友禅・東京友禅
４．型友禅の技法
５．型友禅の制作体験
６．手描友禅の技法
７．質問票の作成
８．企業訪問

9．京友禅の現状
10.　質問票の作成
11.　企業訪問
12. 京友禅と他の伝統工芸品との比較
13.　京友禅の振興策
14.　京友禅の振興策
15.　成果報告会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J80100103
科目名	実践プロジェクトA 【航空】	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
授業概要	この実践プロジェクトは「航空観光プログラム」の一部として実施します。 実践プロジェクトの授業としては、航空観光分野に限らず、広くサービス業等における経営面と政策面の両方の議論をします。経営面としては、既存大手企業と新規参入の競争の実態、競争戦略の特徴について、また、政策面については、安全や福祉の名のもとに既得権の擁護が図られている実態を調べ、真に弱者のためになる公共政策のありかたについて議論します。		
教材（教科書）	教科書はここでは指定しません。この授業は演習なので、教材を自分で探すところから勉強が始まります。また、テーマは諸君の自由ですので、テーマが決まったら、教材の探し方についてお話します。さらに、テーマ次第でその都度、必要な文献を示唆します。		
教材（参考資料）	教科書の項を参照してください。		
教育方法	参加者は原則グループでテーマを決めて、実践プロジェクト A、B を通じて１年間かけてレポートを書くことを求められます。実践プロジェクトＡではＰＰＴによるプレゼン中心の発表を、Ｂでは、それを論文の形にすることに重点をおきます。 フィールドワークについてはサービス業の代表である航空空港関連の現場を見学したり、インターンシップやセミナーの成果を発表するプランを考えています。		
評価方法	1)発表内容、2)この授業の活動全体（勉強以外のイベントへの参加運営など）への貢献の程度などにより判断します。ウエイトは一定ではありません。特定項目が非常に優れていればそれだけで 100%の評価をする場合もあります。 一方、基本的な常識、意欲がかけている場合は、１）や２）が 100 点でも 0 点とすることもあります。		
到達目標	j 実践プロジェクト A、B を通じて、経済学を用いた政策議論の基本的な構造を理解すること。PPT によるプレゼンの基本要領を身に付けること。		
授業時間外学習	毎回ある自身の発表の準備（レジュメ作成、PPT 作成）、他の学生の発表のコメントの準備。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「航空観光プログラム」の選考方法や選考日程、履修条件については、すでに説明会で示したとおりです。単位にならない課外授業としての受講もできますが、その場合も航空観光プログラムへの登録が必要です。

この授業では、教室での発表と論文作成のみならず、セミナーやインターンシップなど様々なイベントへの参加など多岐にわたる活動を実施します。それをこなす能力と意欲と財力が求められます。PC は必ず用意すること。がんばってついてきてくれれば必ず成長できます。

授業スケジュール

第１回　本演習の目的と視点の説明
第２回　プレゼンテーションの基礎講義
第３回　論文の書き方基礎講義
第４回　市場の失敗概要講義
第５回　市場の失敗概要講義
第６回　グループプレゼン１回目
第７回　１回目プレゼンに対する問題点指摘
第８回　見学会事前プレゼン：見学対象についての情報収集と発表（全員）
第９回　見学内容についての講義
第 10 回　見学会（教員参加）
第 11 回　見学内容の整理発表プレゼン（全員）

第 12 回　グループプレゼン 2 回目（1 人 30 分 x2 名、議論 30 分）
第 13 回　グループプレゼン 3 回目
第 14 回　グループプレゼン 4 回目
第 15 回　プレゼン問題点総合指摘

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J80100104
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
授業概要	テーマ：「経済団体の情報を活用し、ユニークな地元企業を調査する」 京都には、京都の地場企業を束ねる「京都経営者協会」「京都商工会議所」「京都工業会」「京都中小企業家同友会」などの経済団体がある。こうした各種経済団体の企業情報を収集し、地元京都のユニークな企業について実地調査することが、この実践プロジェクト（A・B）の課題である。 実践プロジェクトA（春学期）では、受講生はまず調査チームをつくり、経済団体からの紹介情報を参考にして、訪問先企業を決定する。各調査チームは、訪問予定先の企業情報を十分に分析し、調査項目を取りまとめた「実地調査計画書」を作成したのち、夏休み期間を利用して、選定した企業を実際に訪問し、事前にまとめた調査項目についてリサーチする。 実践プロジェクトB（秋学期）では、夏休みに実施した実地調査を「調査報告書」として取りまとめる作業を行う。また訪問先企業から課題が出された場合には、その課題にも取り組み、「提案書」を作成する。「調査報告書」および「提案書」が完成した段階で、各調査チームは訪問先企業を招いてプレゼンテーションを行うものとする。		
教材（教科書）	テキストは使用しないが、必要な資料は適宜配布する。		
教材（参考資料）	・日本経済新聞社（編集）『京都の躍進企業―「ベンチャーの都」の 103 社』（日本経済新聞社：2002 年） ・徳賀芳弘（監修）『京都企業の分析』（中央経済社：2011 年）		
教育方法	夏休み期間に実施する企業への実地調査に必要な準備を、一歩ずつ段階を経て行う。そのために必要な関係資料は適宜配布し、必要とされる情報はその都度提供する。 1．大学および現地において、企業の方との接触をる機会があるので、挨拶や敬語表現、メールや電話の掛け方といったビジネスマナーの基本を学ぶ。 2．企業への実地調査を有効なものするためには、その前段階における徹底した企業研究が必要であるが、企業研究の基本について指導する。 3．企業研究と実施調査の成果は、秋学期に報告書としてまとめ、企業の方を招いてプレゼンテーションを行う。報告書の作成とプレゼンテーションの仕方についても指導する。		
評価方法	平常点（15 %）受講態度等＋「活動計画書」（10%）＋「実地調査計画書」（50%）＋個人評価（25%）		
到達目標	1.　グループワークで協調性とコミュニケーション能力を高めることができる。 2.　企業の人と直接接触する体験を通じて社会的マナーを身につけることができる。 3.　企業と業務内容を実際に調査するなかで、近い将来、自分の就職活動に役立つ情報を得ることができる。 4.　報告書の作成やプレゼンテーションのスキルを身につけることができる。		
授業時間外学習	チームビルディングを終えたら、「活動計画書」で決定されたチーム・メンバーとしての各自の役割を誠実に遂行すること。そのためには常にチーム内での連絡を密にし、次週までに実行しなければならない各自の課題を、自宅学習においてしっかりと果たして、授業に臨むことが必要である。 第 1 回目～第 3 回目　チームビルディング（メンバー、キャップ、訪問先企業の決定） 第 4 回目～第 5 回目　調査チーム：「活動計画書」の作成 第 6 回目～第 7 回目　実践プロジェクト活動マニュアルの配布 第 8 回目～第 10 回目　企業研究 第 11 回目～第 13 回目　「実地調査計画書」の作成 第 14 回目～第 15 回目　訪問作企業との連絡・調整		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1.　経済団体や企業の方と接触する機会が多いので、挨拶・言葉づかい・衣服・態度など、本学学生に求められる基本マナーについて常日頃から十分に注意すること。 2.　調査グループ内での意思疎通をしっかり図り、キャップのリーダーシップのもとチームメンバー同士が積極的に協力するこ			

と。
3.　各調査グループは指導教員との連絡を密にするとともに、メンバー個人の身勝手な行動は厳に慎むこと。

授業スケジュール

1.　オリエンテーション
2.　京都の企業について（経済団体関係者）
3.　調査チーム・ビルディング（メンバー、キャップ、訪問先企業の選定）
4. 調査チーム：「活動計画書」の作成
5.　（同上）
6.　実践プロジェクト活動マニュアル
7.　（同上）
8. 企業研究
9.　（同上）
10.　（同上）
11.「実地調査計画書」の作成
12.　（同上）
13.　（同上）
14.　訪問先企業との調整（確認連絡・事前訪問）
15.　（同上）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★★	★	−

年度	2018	授業コード	J80100105
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
授業概要	地方自治体の組織や、公務員の業務を知ることにより、将来、公務員を希望する人への導入的な講義を目指す。 東日本大震災、熊本地震、九州北部豪雨が続いている。近年の災害の特徴を調べ、災害対策の課題と自治体の役割を検討する。過去の災害の特徴と課題を研究し、京都府、京都市の災害対策（地震・水害）を学ぶ。		
教材（教科書）	特に使用しない。		
教材（参考資料）	講義に際に参考文献、参考になるウェブサイトを紹介する。		
教育方法	最初は講義形式ですすめるが、基礎的な知識を習得した以降は、班ごと、個人ごとにテーマに関するデータなどを調べてもらい報告してもらう。		
評価方法	授業内の取り組み（70%） 最終プレゼン（30%）		
到達目標	過去の災害を学ぶことにより、これから起こる可能性のある災害対策に基本を学ぶ。 その中で、将来公務員に就職した際に役立つ情報収集、解決方法の基礎を学ぶ。		
授業時間外学習	過去の災害関連の情報・データをネット上で検索して調べる。 1　災害対策とは 2　これまでの災害の歴史 3　阪神・淡路大震災の概要 4　東北大震災の概要 5　熊本地震の概要 6　その他の台風被害など 7　防災担当の方に質問する項目を考える 8　班分け 9　発表の準備 10　〃 11　〃 12　〃 13　〃 14　〃 15　〃		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
できれば、将来公務員になることを希望している学生を求める。			
授業スケジュール			
1　オリエンテーション 2　これまでの災害の歴史と教訓 3　阪神・淡路大震災 4　東北大震災 5　熊本地震 6　台風・水害・火災 7　区役所の防災担当に聞く 8　班分け 9　班ごとの発表 １０　〃 １１　〃			

１２　　〃 １３　　〃 １４　報告会 １５　報告会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J80100106
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	経済社会の動向を分析するときには、マクロ・メゾ・ミクロの観点からの総合的な分析が不可欠である．「日本創成会議」人口減少問題検討分科会が 2014 年 5 月に、2040 年までに 1800 の市町村のうちのおよそ半数 896 市町村を「消滅可能性都市」として特定したことから、「地方創生」がアベノミックスの重点施策として取り上げられることとなった． これまでにも政府は 1988 年から 1989 年にかけて「ふるさと創生事業」を展開するなど地域活性化に向けて取り組んできた．これまでの取組と現在の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」あるいはその一環として各市町村が策定を進める「地方版総合戦略」の社会的背景の違いを理解するとともに、「ものづくり」に焦点を当ててその比較検討を行う．A では各市町村を対象に聞き取り調査を実施する．		
教材（教科書）	特に使用しない		
教材（参考資料）	その都度指示する		
教育方法	学生の報告を中心に進める		
評価方法	課題レポート(100%)		
到達目標	地方創生の問題をデータに基づいて説明することができる		
授業時間外学習	配付資料の事前学習		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
対象とした地域社会の動向に関する情報を幅広く収集すること			
授業スケジュール			
1．概要の説明 2．グループ分けと問題意識の共有 3．地方創生戦略の背景と内容理解(資料収集を含む) 4．地方創生戦略の背景と内容理解(資料収集を含む) 5．地方創生戦略の背景と内容理解(資料収集を含む) 6．地方創生戦略の背景と内容理解(資料収集を含む) 7．A 市の地方版総合戦略に関する資料収集と内容理解 8．A 市の地方版総合戦略に関する資料収集と内容理解 9．A 市の地方版総合戦略に関する資料収集と内容理解 10．A 市の地方版総合戦略に関する質問項目の精査 11．A 市の地方版総合戦略に関する質問項目の精査 12．A 市の地方版総合戦略に関する A 市への質問項目の送付 13．A 市の地方版総合戦略に関する資料収集と内容理解（補足） 14．A 市へのインタビュー 15．A 市へのインタビュー結果のまとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	−	★	−

年度	2018	授業コード	J80100107
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	多数の資金提供者から小口資金を資金需要者に提供するクラウドファンディングが世界的に広がりをみせている。本講義では、クラウドファンディングの地域再生における役割を学習する。 実践プロジェクトAでは、クラウドファンディングの定義、類型ごとの特徴などの基礎知識を文献で学習したうえで、既存の資金調達方法との差異について考察する。また、３～４人のグループに分けて、クラウドファンディングに関する各国の規制について調査する。加えて、フィールドワークとして、地域金融機関（京都銀行、京都信用金庫）等を訪問し、各社の地域産業振興への支援の取り組み状況と課題についてヒアリングを行う。グループの発表をもとに、毎回全員でディスカッションを行う。		
教材（教科書）	なし（その都度配布する）。		
教材（参考資料）	授業中に適旦指示する。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	演習への参加状況・レポート（５０％）、発表内容及び成果物評価（５０％）		
到達目標	自主的に選定したテーマに関して、文献調査等の情報収集、データ分析を行うことができる。さらに、選択したテーマついて、多角的な考察に基づいて独自の意見をまとめる。		
授業時間外学習	Wordでの資料・調査報告書の作成、エクセルでデータ分析・図表作成、Powerpointで報告発表資料の作成が必要なため、事前にこれらの基礎的な使用方法を学習すること。 事前に参考文献を熟読したうえで文献調査を整理し、報告資料を作成すること。グループに分けて「次回まで調査研究すべき課題と資料作成」が指示された場合、しっかりと準備すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

チームワークで各自の積極的な取り組みを求める。また、履修生は必ず毎日勉強・読書・文献調査・資料作成・報告準備を進めてもらいたい。

授業スケジュール

１．オリエンテーション：(本講義のテーマ・目的・進め方、課題設定)
２．基礎学習①：クラウドファンディングの定義、類型ごとの特徴などの基礎知識、文献調査の方法、主要参考文献・書籍の紹介
３．基礎学習②：クラウドファンディングと既存の資金調達方法との差異について考察する。各自の文献調査・参考文献・書籍の輪読後の報告
４．基礎学習③：クラウドファンディングと既存の資金調達方法との差異について考察する。各自の文献調査・参考文献・書籍の輪読後の報告
５．グループワーク①：日本のクラウドファンディングの事例分析と討論
６．グループワーク②：米国のクラウドファンディングの事例分析と討論
７．グループワーク③：欧州・英国のクラウドファンディングの事例分析と討論
８．(グループ課題の再設定）中間発表、グループ間での討論と課題再設定
９．グループワーク④：我が国と諸外国の事例研究と討論、今後の各国の規制のあり方を考察する。
１０．グループワーク⑤：我が国と諸外国の事例研究と討論、今後の各国の規制のあり方を考察する。
１１．地域金融機関へのヒアリングと討論①
１２．地域金融機関へのヒアリングと討論②
１３．発表、グループ間での討論（これまでのグループワーク、最新の一次情報のヒアリングと討論を基に、クラウドファンディングの地域再生への応用可能性について検討する）
１４．研究調査報告書の作成

１５．研究調査報告書の最終報告会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J80100108
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	1990 年代後半以降、日本はゼロ金利水準に突入し、もはや銀行の預金では、資金運用手段として不適切な状況になっている。そのため、この実践プロジェクト（A・B）では、人々がどのような資産で運用することに関心があるかをアンケートを通じて調査することを目的とする。実践プロジェクト A では、受講生が、まず、金融資産（株や外貨預金、投資信託等）に関する知識を深め、その知識に基づいてアンケート作成に着手することを目的とする。		
教材（教科書）	なし、プリントを適宜配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて授業中に指示する。		
教育方法	前半は、配布するプリントに沿って、基本的に講義法で行う。教員は講義する内容をホワイトボードに書いてポイントを明確にし、学生はそれをノートに写しながら受講する。後半は、前半の講義をもとに受講生自らアンケートを作成する。講義内容に沿った望ましいアンケートになるように、教員は適宜指導する。		
評価方法	平常点（授業への参加度合い等）50%、授業内課題 50%。		
到達目標	1. 資産運用を行う際のマクロ的条件を理解することができる。 2. 金融資産の特徴について理解することができる。 3. アンケートを作成することができる。		
授業時間外学習	授業中に配布するプリントを精読し、理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. Word の基本的な操作を確認しておくこと。
2. 遅刻や私語を厳禁とする。また、チームでのプロジェクトであるため積極的に取り組み、休まず自分の責任を果たすこと。
3. トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい。

授業スケジュール

1. ガイダンス: 概要の説明
2. 事前学習（1): 資産運用のマクロ的条件について（金利・為替レート等）
3. 事前学習（2): 資産運用のマクロ的条件に影響を与える要因について（物価）
4. 事前学習（3): 資産運用のマクロ的条件に影響を与える要因について（GDP・貿易収支）
5. 事前学習（4): 金融商品について（国内預金）
6. 事前学習（5): 金融商品について（国内株式）
7. 事前学習（6): 金融商品について（国内債券）
8. 事前学習（7): 金融商品について（金）
9. 事前学習（8): 金融商品について（外貨預金）
10. 事前学習（9): 金融商品について（外国株式）
11. 事前学習（10): 金融商品について（外国債券）
12. 事前学習（11): 金融商品について（投資信託）
13. 事前学習（12): 金融商品について（投資信託）
14. 中間学習（1): フィールドワークのための課題設定・アンケート作り
15. 中間学習（2): フィールドワークのための課題設定・アンケート作り

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J80100110
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
授業概要	消費者は、なぜ買ってから後悔するような物を買ってしまうのだろうか？販売する側は、人間の心理のどのような特徴を利用しているのだろうか。実践プロジェクトAでは、主に悪徳商法などで利用される手口を理解するために、社会心理学の理論を学びます。そして、消費者を騙す手口が、具体的にこれらの心理学をどのように活用しているかを分析し、騙されないためには、どうすればいいかを考えます。 　そのうえで、被害の実態を知り、解決策を考える手がかりとして、大学生を対象としたアンケートを作成します。この講義を通じて、消費者が騙される仕組みを理解し、騙されにくい消費者になることを目指します。		
教材（教科書）	ロバート・B・チャルディーニ『影響力の武器（第3版）』（誠信書房、2015年） その他、プリントを配布する。		
教材（参考資料）	西田公昭『騙しの手口』（PHP新書、2009年） 国民生活センター監修『悪徳商法のすごい手口』（徳間書店、2009年）		
教育方法	グループワーク、班ごと報告を中心に授業を進める。		
評価方法	平常点（課題・グループワークへの取り組み）40% 報告 30% レポート 30% 評価方法の詳細は、初回の講義で説明する。		
到達目標	・返報性、希少性、権威、コミットメントと一貫性、好意、社会的証明について、具体例を使って説明することができるようになる。 ・比較的平易な悪徳商法の事例につき、上記のキーワードを使って、その手口を説明できるようになる。 ・報告の準備を班のメンバーで「協力」して「計画的」に進めることができる。		
授業時間外学習	各回、以下のように指示される課題に取り組む。 （各回の学習推定時間　1～2時間） 第1回　シラバスを読む 第2回　プレゼンの準備 第3回　課題 第4回　課題（返報性） 第5回　報告の準備 第6回　報告の準備 第7回　課題（希少性）・報告の準備 第8回　課題（権威）・報告の準備 第9回　課題（コミットメントと一貫性）・報告の準備 第10回　課題（好意）・報告の準備 第11回　課題（社会的証明） 第12回　課題（悪徳商法の手口） 第13回　レポート作成の準備 第14回　アンケート作成に関する作業 第15回　アンケート作成に関する作業		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			

・協力してグループワークに取り組むこと
・自分の文章や報告をより良くする努力を粘り強く行うこと
・学んだことを良い目的に使うこと

授業スケジュール

第１部　導入
1　オリエンテーション
2　プレゼンの練習・返報性（1）
3　文章作成の練習・返報性（2）
4　ゲストスピーカー（消費者問題の実際について）

第２部　悪用される社会心理学
5　報告準備
6　報告（1）　希少性
7　報告（2）　権威
8　報告（3）　コミットメントと一貫性
9　報告（4）　好意
１０　報告（5）　社会的証明

第３部　悪徳商法の手口・アンケート作成
１１　悪徳商法の手口の検討（1）
１２　悪徳商法の手口の検討（2）
１３　レポート作成
１４　アンケート作成（1）
１５　アンケート作成（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J80100111
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
授業概要	（テーマ）防犯、防災、犯罪被害者支援のボランティアを通じて、いま必要なことは何かを考える。 　まちの安心安全のために、警察や消防が日々活躍しているが、実は、その裏で、防犯、防災、そして犯罪被害者支援などについては、一般のボランティアの人が、同じようにまちの安心安全や被害者のために寄り添い尽力してくれている。この授業では、防犯、防災、犯罪被害者支援について、警察や消防でどのような施策がなされているか知るために、裁判所や警察本部、防災センターなどに見学に行くだけでなく、白書等を通じて、現在の状況を調べる。また、警察官や消防官、ボランティアの方はどのような活動をしているのか、現場の方々に、ヒアリング調査に行く。この授業を通して、受講生は、最終的にプレゼンテーションするために、防災、防犯、犯罪被害者支援の基礎知識を理解し、グループで意見を出しながら報告できるようになる。 実践プロジェクトAでは、裁判所見学、警察署見学、現在の犯罪、防災、犯罪被害者の状況等について調べ報告する。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	犯罪白書　警察白書　消防白書、犯罪被害者白書など、授業内で適宜紹介する。		
教育方法	講義法とグループワーク、フィールドワークを組み合わせて行う。		
評価方法	裁判所見学報告内容　３０％ 警察署見学　レポート　１０％ 報告　６０％		
到達目標	1　裁判所見学を通じて、わが国の刑事裁判制度について説明できるようになる。 2　警察署見学を通じて、京都府警がどのような活動をしているか説明できるようになる。 3　わが国の犯罪、防災、犯罪被害者の現状をデータをもとに分析し、説明できるようになる。		
授業時間外学習	第１回　この授業で取り組む内容について把握してくること。最近起こった事件、災害等について聞くので、答えられるようニュースを調べてくること。 第２回　第１回で報告内容を提示するので、犯罪白書等を閲覧し、どの報告テーマを選ぶかどうか調べてくること。また、テーマが決まったら、その資料を収集し読んで要点をまとめておくこと。 第３回　日本の裁判制度について聞くので事前に調べてくること。授業後は、裁判所見学に行くための注意点についてメモを作成しておくこと。 第４回　各班で話し合い、プレゼン資料のひな型を作成しておくこと。 第５回　報告の前に、教員がプレゼン資料をチェックするので、作成しておくこと。また、報告のための原稿も、各自作成しておくこと。指摘されたところは、報告時までに修正しておくこと。 第６回　報告で質問されて答えられなかったところ、不足していると気がついたところを補充しておくこと。 第７回　報告で質問されて答えられなかったところ、不足していると気がついたところを補充しておくこと。 第８回　警察署見学（京都府警本部）に行くにあたり、事前に、どのような質問をするか考えてくること。また、見学後は、見学して気がついた点、初めて知ったことなど、メモを作成し、見学のレポートを作成すること。 第９回 この報告時までに各自、裁判所見学に授業外で行き、事件概要、審理過程、感想等をレポートにまとめておくこと。また、授業後は報告して足りなかった点をメモし、修正しておくこと。 第10回　報告の前に、教員がプレゼン資料をチェックするので、作成しておくこと。また、報告のための原稿も、各自作成しておくこと。指摘されたところは、報告時までに修正しておくこと。 第 11 回　報告で質問されて答えられなかったところ、不足していると気がついたところを補充しておくこと。 第１２回　報告で質問されて答えられなかったところ、不足していると気がついたところを補充しておく		

	こと。 第 13回　報告の前に、教員がプレゼン資料をチェックするので、作成しておくこと。また、報告のための原稿も、各自作成しておくこと。指摘されたところは、報告時までに修正しておくこと。 第 14回　報告で質問されて答えられなかったところ、不足していると気がついたところを補充しておくこと。 第 15回　報告で質問されて答えられなかったところ、不足していると気がついたところを補充しておくこと。

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

このゼミでは、担当者を決め、調査・報告・討論等を主に行っていくので、積極性のある受講生が望まれる。できれば、法学、刑事法入門等の講義を受講していることが望ましい。遅刻は無断欠席は厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。無断欠席をした場合、面談の結果によっては、単位認定を不可とする。

授業スケジュール

1　ガイダンス自己紹介、報告内容の提示
2　班分け、報告内容決定
3　裁判所見学について（見学の仕方）
4　プレゼン資料の作り方、資料収集について
5　プレゼン資料作成
6　現在の犯罪状況についての報告①（犯罪白書のデータをもとに）
7　現在の犯罪状況についての報告②（犯罪白書のデータをもとに）
8　警察署見学（京都府警本部）
9　裁判所見学報告会
10　プレゼン資料作成
11　現在の火災・災害の状況についての報告①（消防白書、防災白書のデータをもとに）
12　現在の火災・災害の状況についての報告②（消防白書、防災白書のデータをもとに）
13　プレゼン資料作成
14　現在の犯罪被害者の状況についての報告①（犯罪被害者白書のデータをもとに）
15　現在の犯罪被害者の状況についての報告②（犯罪被害者白書のデータをもとに）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J80100121
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	本演習は、京學堂の活動の一環として、京學堂における新規事業の企画を行う。 具体的には、京學堂に関するお客様の声の調査、近隣商業施設の調査等を行い、それらを踏まえて、新規事業のアイデア検討、事業化計画作成を行う。 この演習によって、受講生が新規事業の事業化計画書を作成できることを目的とする。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	演習主体で行う。 教員から提示された課題をグループで検討し、パワーポイントを使って発表する。 また、必要に応じて商業施設等の見学を行う。		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	受講生は事業化計画作成の手順を説明できる。 実際に事業化計画書を作成できる。		
授業時間外学習	毎回の授業終了後、グループ内で次回までの宿題と担当を決め、次回までに各自で調査や資料作成を行う。リサーチの場合はリサーチ結果のまとめと次回リサーチに向けてのリサーチ先の情報収集、アイデア検討の場合はアイデアを考えて資料にまとめる、事業計画書作成の場合は事業計画書案の作成などを行う。(各回の学習推定時間は 60 分)		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

グループ作業に積極的に参加することと、担当となった宿題を必ずやってくること。

授業スケジュール

1.「オリエンテーション」：リサーチから事業化計画作成に向けての手順を説明する
2.「リサーチ①」：リサーチ案を討議し、リサーチのグループ分けを行う
3.「リサーチ②」：グループごとに、リサーチ案に沿って実査を行う
4.「リサーチ③」：グループごとに、リサーチ案に沿って実査を行う
5.「発表」：グループごとにリサーチの成果を報告しあい、新規事業のアイデアを検討する
6.「新規事業のアイデア検討①」：希望するアイデアごとにグループ分けを行い、新規事業のアイデアを具体的に検討する
7.「新規事業のアイデア検討②」：引き続き新規事業のアイデアを具体的に検討する
8.「発表」：グループ間で検討したアイデアを報告しあう
9.「事業化計画作成①」：事業化計画を作成する
10.「事業化計画作成②」：事業化計画を作成する
11.「事業化計画作成③」：事業化計画を作成する
12.「発表」：グループ間で検討した事業化計画を報告しあう
13.「事業化計画作成④」：他グループの意見も参考に事業化計画を修正する
14.「事業化計画作成④」：引き続き事業化計画を修正する
15.「成果報告会」：すべての成果をまとめ、グループ間で報告しあう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J80100122
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	一言でいうと「売り場から見る社会のトレンドと変化」を研究するゼミです。 ビッグデータで管理されている現代の商業施設（お店）の店頭は、敏感に消費者のニーズに対応しているので、消費者の心を映す鏡です。商業施設の最終進化系としてのショッピングモールの研究を通して、消費者のニーズがどのように変化してきたのかを知り、さらに、逆に現在の売り場の様子から現在の消費者のニーズやトレンドを読み解く実践経験をします。 ショッピングモールがどこに作られ、どのような店舗が入り、どのような人々をターゲットにしているかを、文献の研究と現場の視察との両輪で理解することによって、これからの将来、豊かな生活を送るために何が必要なのかについて見通しを得ることができます。		
教材（教科書）	速水健郎『都市と消費とディズニーの夢　ショッピングモーライゼーションの時代』		
教材（参考資料）	斉藤徹『ショッピングモールの社会史』彩流社		
教育方法	（1）各回でのテーマについて講師から概要を説明します （2）教科書について分担を決めて、内容の整理とそこから抽出された議論すべきテーマについて発表してもらいます。 （3）発表と議論は学生が中心となって主体的に行います。毎回、発表者のほかに進行役のコーディネーターを置きます。 （4）テーマと議論のまとまったところで、実際のショッピングモールを視察します。 （5）本に書かれていることと実際のショッピングモールを比較しながら、ショッピングモールの課題と今後の消費の課題を整理して、全体のレポートにまとめます。		
評価方法	（1）授業での発表の正確さ、丁寧さ、議論の進め方が評価の 80%になります。 （2）視察時の観察力、視察したことをレポートに整理してまとめる力を評価の 20%にします。		
到達目標	（1）本を読み、内容を理解し、他人にわかりやすく発表することができるようになること （2）消費と商業施設の成り立ちについての基礎的な知識を持ち、商業施設の売り場を通して、日本の課題に気づけるようになること。 （3）現実を視察した情報を抽象的なレベルに課題として整理しレポートにまとめるという基本作業ができるようになること		
授業時間外学習	・テキストとして指定した書籍を毎回必ず熟読すること。 ・単に読むだけではなく、意味を理解し、質問事項やディスカッションしたい話題を考えた上で授業に臨むこと ・発表の分担者だけでなく、全員がその回で指定されているページを読んで十分に理解しておくこと。 第 6 回　p22-42 第 7 回　p42-59 第 8 回　p60-83 第 9 回　p84-106 第 10 回　p107-154 第 11 回　p155-174		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・授業に出席するにあたって、テキストを熟読していない、準備をしていないということに対しては厳しく対応します。授業の準備のためにそれなりの時間が日常的に必要になることを覚悟してください。 ・日本経済新聞、日経ビジネス（雑誌）、ワールドビジネスサテライト（テレビ）をできる範囲でカバーして触れておくこと。特に重要なものは授業中に参考資料として配ったり番組を見せたりしますが、基本的にはそれを教材として議論しますので、対応できるだけの基礎力を普段からつけておいてください。			

・授業中のスマホの使用、堂々とした居眠りに対しては授業に参加していないとみなし、評価上は欠席相当とし、場合によっては教室からの退場を命じます。

授業スケジュール

1　商業施設の進化
　商業施設（お店）の基本的な形態と発展について、基本的なことを説明します
2　時代のトレンドと消費者の変化
　商業施設の変化・進化は、常に新しいターゲット層の登場と関係しています。新しいターゲット層の登場と新しい
　　商業施設の誕生の二つの視点で見ることを説明します
3　ショッピングモール視察①
　とりあえず、現場を見に行きます。イオンモール京都桂川を想定しています。
　　視察にあたっては観察するポイントを予め出しますので、それに沿って必要な視察をしてもらいます
4　視察の成果のまとめ（作業）
　視察の成果を集約し、いくつかの仮説を導きます
5　本の読み方とレジュメの書き方
　テキストの輪読のための基本的なオリエンテーションです。本の読み方とレジュメの書き方、発表のしかたについ
　　て説明します
＜『都市と消費とディズニーの夢』の発表＞
6　第１章　競争原理と都市
7　第２章　ショッピングモールの思想
8　第３章　ショッピングモールの歴史
9
10　第４章　都心・観光・ショッピングモーライゼーション①
11　第４章　都心・観光・ショッピングモーライゼーション②
12　ショッピングモール視察②
13　ショッピングモールの課題のまとめ（作業）
14　未来へのショッピングモールへの提言（作業）
15　成果の発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J80100124
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	本演習は、スポーツビジネスについてフィールドワークを行う。 プロスポーツビジネスの業界研究と経営情報システムを学ぶことにより、スポーツビジネスにおける情報システムの関わりついて知識を深める。 スポーツ業界の基礎的知識とそこで利用される情報システムを学び、実際にフィールドワークで経験し、現状と課題をグループでまとめ、最終的にはレポートとプレゼンテーションにより報告する。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	演習への積極的参加（70%）、発表成果物（30%）		
到達目標	研究するためのリサーチ手順に基づいてデータ収集し、データ分析が実行できる。		
授業時間外学習	Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ステークホルダのニーズや欲求に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 1. シラバスを確認してくる 2. スポーツビジネスの事例①に関する資料を読み、要点をまとめる 3. スポーツビジネスの事例②に関する資料を読み、要点をまとめる 4. スポーツビジネスの事例③に関する資料を読み、要点をまとめる 5. 2-4 回の資料から自分の関心を持った分野について、他の資料を探してくる 6. グループでメッセージングサービスを利用できる環境を作る 7. メッセージングサービスを利用してリサーチテーマを確定してくる 8. プレゼンテーションソフトで発表スライドを作成してくる 9. 現場での基礎知識や基礎テクニックに関する資料を読み、要点をまとめる 10. フィールドワークに関する資料を読み、調査する内容を確認してくる 11. フィールドワークに関する資料を読み、調査する内容を確認してくる 12. プレゼンテーションソフトで発表スライドを作成してくる 13. プレゼンテーションソフトで発表スライドを作成してくる 14. プレゼンテーションソフトで発表スライドを作成してくる 15. プレゼンテーションソフトで発表スライドを作成してくる		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的に参加すること

授業スケジュール

1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例①
3. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例②
4. 業界基礎学習　：スポーツビジネスの事例③
5. グループ化：リサーチと成果報告を行うグループを決定する
6. リサーチ①：グループ内でリサーチテーマを検討する
7. リサーチ②：リサーチテーマに沿って仮説を立てる
8. 発表：グループで検討したテーマと仮説を発表する
9. フィールドワーク事前指導：現場での基礎知識や基礎テクニックを学ぶ

10. フィールドワーク：スポーツビジネスの現場を体験する
11. フィールドワーク：スポーツビジネスの現場を体験する
12. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる
13. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる
14. 成果報告会：グループのプレゼンテーションによる報告
15. 成果報告会：グループのプレゼンテーションによる報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J80100125
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	ビジネス・プランニング・コンテストに向けてビジネスプランの策定を行う。まずは本学で開催されるビジネス・プランニング・コンテストへの応募を主たる目標とし、＊本学亀岡や太秦キャンパス内の施設や拠点などを活用して（あるいは新たに設けて）実行するプラン、＊本学太秦キャンパスの京學堂を活用したプラン、＊キャンパス外での活動を中心としたプラン、など多様な観点から独創性あふれるプランの策定を目指す。 　この目標の達成に向けて近隣や他大学での調査、または企業の現場での学習に重きを置いている。 　コンテストでの結果はともあれ、この授業を通して受講者は革新やイノベーションの重要性を説明できるようになるとともに、企画書作成の方法や計画の立て方を理解できるようになる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	事前に配布した資料に沿って、Word, Excel, PowerPoint を使いながら、講義法とグループワークとプレゼンテーションを併用する。受講者は、Word, Excel, PowerPoint,を使ってビジネスプランを作成していく。		
評価方法	ビジネスプラン策定に向けての取組姿勢 60%、プランの内容 40%。		
到達目標	受講者は革新やイノベーションの重要性を説明することができる。 受講者はビジネスアイディアを適切にプラン化できる。		
授業時間外学習	毎回、下記の通り、次回までに行うべきことを指示する（各回の推定授業時間外学習は 30 分以上）。 第 1 回目 Word, Excel, PowerPoint の操作を確認しておく。 第 2 回目 配布資料（ビジネスの楽しさとは、および過去のプラン：学外でのプラン編を読む。） 第 3 回目 配布資料（過去のプラン：学内編・京學堂でのプラン編を読む。） 第 4 回目 配布資料（市場調査---その目的---の箇所を読み、重要な点をまとめる。） 第 5 回目 配布資料（市場調査の箇所を読み、重要な点をまとめる。） 第 6 回目 配布資料（現地調査の仕方を読み、重要な点をまとめる。） 第 7 回目 配布資料（学内ショップの現地調査結果をまとめる。） 第 8 回目 配布資料（校外での調査の仕方を読み、重要な点をまとめる。） 第 9 回目 配布資料（校外調査を報告書にまとめる。） 第 10 回目 配布資料（アィディアとプランの違いを読み、重要な点をまとめる。） 第 11 回目 配布資料（プランの立て方を読み、重要な点をまとめる。） 第 12 回目 配布資料（売上高、営業利益、経常利益、を読み、重要な点をまとめる。） 第 13 回目 配布資料（仕入れ方法、広報の仕方、を読み、重要な点をまとめる。） 第 14 回目 配布資料（ビジネス・プランニング・コンテストの募集要項を読み、重要な点をまとめる。） 第 15 回目　ビジネスプランを作成する。夏期休校中にすべきことを読む。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ニーズ調査や企業内実習などが行われることもある(交通費等受講者負担)。
＊ビジネス・プランニング・コンテストに関心を有する者の受講が望ましい。
＊学外での活動を含むことから全員そのための保険に加入していただく。

授業スケジュール

1. はじめに（本プロジェクトの概要)、Word, Excel, PowerPoint の操作確認。
2. ビジネスプランを策定する上での基礎学習（企画書作成の機会は結構多い)。
3. まずはアイディアからはじめよう（これまでのコンテストから学ぼう)。
4. まずはアイディアからはじめよう（身近なお店を想定しよう)。
5. 調査の仕方について（なにをどのように調査するかについて、市場調査とは？)。

6. 調査の仕方について（なにをどのように調査するかについて、現地調査について)。
7. 近隣での現地調査（：学内ショップの調査)。
8. 近隣での現地調査（：学外実習)。
9. ビジネスプランを策定する上での基礎。ビジネスアイディアをまとめよう。
10. まずはアイディアからはじめよう（損益の基礎を学ぼう)。
11. アイディアとプランの違いを理解しよう。
12. ビジネスプランの策定（まずはコンセプトを固めよう)。
13. ビジネスプランの策定（損益予測や売上予測をしっかりと行おう)。
14. ビジネスプランの策定（プランの問題点を多くの人から聴こう)。
15. ビジネスプランの策定。今期の反省と来期の活動について。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J80100127
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	実際の企業が利益を獲得する様子をマネジメント･ゲーム（MG）によって仮想体験すると同時に利益計算の仕組みを学ぶ。MG は製造業をモデルとしたシミュレーション･ゲームであり、受講者は各自が社長としてゲームに参加し、モノの製造･販売を通してより多くの利益を獲得することをめざすと同時に、予測し得ないような事態にいかに対応するかが求められる。1 会計期間終了ごとに、簡易的な原価計算図表を用いて利益計算と財務諸表を作成し、自分の意思決定の結果、会社の経営成績と財政状態がどのように財務諸表に表現されるのかを学ぶ。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	1 期のゲーム時間は約 50 分です。ゲーム終了後、棚卸処理と原価計算を行います。		
評価方法	講義への取組姿勢(60%)。レポートおよび発表(40%)。		
到達目標	①　メーカーの利益獲得プロセスを説明できる。 ②　企業活動がいかに財務諸表に反映されるか説明できる。 ③　損益分岐点について説明できる。		
授業時間外学習	毎回、授業の最後に次回の内容を紹介し、準備すべきことを指示する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講者は必ず大きめの電卓を用意しておくこと。
通常の講義に加えて、土曜日に 1 回、集中講義を実施する予定である。

授業スケジュール

1 マネジメント･ゲーム(MG)とは何か
2 ルール説明と資金繰り表の記帳法
3 原価計算と財務諸表の作成方法
4 実践練習(1)：ゲーム編
5 実践練習(2)：原価計算編
6 MG 第 1 期：ゲーム
7 MG 第 1 期：原価計算
8 MG 第 2 期：ゲーム
9 MG 第 2 期：原価計算
10 損益分岐点と直接原価計算による利益計算のしくみ
11 経営方針と利益計画の立案
12 MG 第 3 期：ゲーム
13 MG 第 3 期：原価計算
14 メーカー訪問：ゲームと現実の差異を確認する
15 総括：ゲームを通して何を学んだか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J80100128
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
授業概要	わが国の会社企業についてケーススタディを行う。企業研究の基礎的手法を習得して経営学についての理解を深める。 まず会社史についての基礎的知識を習得し、本学亀岡図書館に所蔵する多数の会社史を利用して、会社の創業－発展－成熟の過程をレポートにまとめる。続いて、外国資本に次々買収されている電機業、EV 化の嵐が吹き荒れる自動車業などいくつかの業界を選び、グループワークにより業界企業調査を実施する。		
教材（教科書）	プリント教材を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて指示する。		
教育方法	先ず概要を講義し、その後個人研究とそれに続いて共同研究で進める。		
評価方法	積極的な参加(50%)、発表成果物(50%)。		
到達目標	調査の具体的計画を立て、グループ研究・討議に参加する。		
授業時間外学習	各自最終報告に向けて全力を注いでもらいたい。 具体的には、各自の研究の進捗状況を報告し、会社研究では各自で研究報告を行い、そして業界研究ではグループでまとめて研究報告を行う。発表時にはレジュメ又はパワーポイントの作成を求める。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各時間ごとの課題を着実に完了し、共同研究では全体構想について議論し、その後分担研究、そして討議と執筆を重ねて全体研究の完成に努める。			
授業スケジュール			
1　オリエンテーション：目標と進め方、評価の方法を説明する。 2　会社史の解説。その刊行状況。 3　企業研究の手法と事例紹介。 4　会社史研究の基礎的作業① 5　会社史研究の基礎的作業② 6　会社史研究① 7　会社史研究② 8　会社史研究の報告① 9　会社史研究の報告② 10　会社史から見る業界研究 11　業界研究① 12　業界研究② 13　研究成果の報告① 14　研究成果の報告② 15　研究成果の報告③			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100130
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	本演習は、ビジネス・プランを作成することを目標にし、事業計画の立て方と、それを効果的に伝える方法を学ぶ。 受講生は、ビジネス・プランニング・コンテストにプランを提出するために、①事業計画の立て方を学ぶ、②グループごとにプランを作成する、③グループの成果をプレゼンテーションすることにより効果的な伝え方を学ぶことができる。		
教材（教科書）	適宜指示する。		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	グループワークを中心に行う。		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）。		
到達目標	企画書の作成ができる。 プレゼンテーション能力を高めることができる。		
授業時間外学習	各回の学習推定時間は 45 分。 第 1 回　ビジネスプランの作成方法に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 2 回　ビジネスプランの作成方法に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 3 回　ビジネスプランの作成方法に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 4 回　ビジネスプランの作成方法に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 5 回　ビジネスプランの作成方法に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 6 回　決定したビジネス・プランンに関する資料を読み、要点をまとめる 第 7 回　決定したビジネス・プランンに関する資料を読み、要点をまとめる 第 8 回　決定したビジネス・プランンに関する資料を読み、要点をまとめる 第 9 回　決定したビジネス・プランンに関する資料を読み、要点をまとめる 第 10 回　ビジネス・プランの発表用資料を作成する 第 11 回　ビジネス・プランの発表用資料を作成する 第 12 回　ビジネス・プランの質問に対する回答を作成する 第 13 回　ビジネス・プランの質問に対する回答を作成する 第 14 回　決定したビジネス・プランンに関する資料を読み、要点をまとめる 第 15 回　他のグループのビジネス・プランの報告に対するコメントを作成する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.受講生は経営企画者になりきり、いかにしてビジネスで成果を上げるのかを真剣に考えること。
2.グループで成果をパワーポイントにまとめるため、パソコン作業に習熟すること。

授業スケジュール

1. オリエンテーション（授業の目標と進め方）
2. ビジネス・プラン作成の基礎（ビジネス・プランの基礎を学ぶ）
3. グループ化（調査と成果報告を行うグループを決定する）
4. テーマ決定①（グループ内でテーマにするビジネスを討議する）
5. テーマ決定②（グループ内でテーマにするビジネスを決定する）
6. リサーチ①（決定したテーマに沿ったリサーチ案を討議する）
7. リサーチ②（リサーチ案に沿って実査を行う）
8. ビジネス・プラン作成①（ビジネス・プランを作成する）
9. ビジネス・プラン作成②（ビジネス・プランを作成する）
10. リハーサル（グループ間でまとめた成果を報告しあう）
11. 質問事項の確認（各グループに対する質問をグループ内で整理する）

12. 質問事項の対応策の検討（質問についてグループ内で討議する）
13. 質問事項に対する回答（質問に対する回答をする）
14. ビジネス・プラン作成③（ビジネス・プランを手直しする）
15. 成果報告会（すべての成果をまとめ、グループ間で報告しあう）

授業の進度に応じて順序が入れ替わったり、変更したりすることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	J80100131
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
授業概要	本演習は、スポーツビジネスについてフィールドワークを行う。プロスポーツビジネスの業界研究と経営学を学ぶことにより、スポーツビジネスについて知識を深める。 スポーツビジネス業界の基礎的知識を身につけ、実際にフィールドワークで経験し、現状と課題をグループでまとめ、最終的にはレポートとプレゼンテーションにより報告する。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①研究するためのリサーチ手順など、基礎知識を養える。 ②グループによる事前準備から報告までの中で、コミュニケーション力を養える。		
授業時間外学習	毎回の講義終了時に、次回の範囲や課題を指定するので、予習・復習しておくこと。また、Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
演習への積極的参加する。日頃からスポーツビジネスに興味を持ちアンテナを張る。			
授業スケジュール			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2. 業界基礎学習 ：スポーツビジネスの事例① 3. 業界基礎学習 ：スポーツビジネスの事例② 4. 業界基礎学習 ：スポーツビジネスの事例③ 5. グループ化：リサーチと成果報告を行うグループを決定する 6. リサーチ①：グループ内でリサーチテーマを検討する 7. リサーチ②：リサーチテーマに沿って仮説を立てる 8. 発表：グループで検討したテーマと仮説を発表する 9. フィールドワーク事前指導：現場での基礎知識や基礎テクニックを学ぶ 10. フィールドワーク：スポーツビジネスの現場を体験する 11. フィールドワーク：スポーツビジネスの現場を体験する 12. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる 13. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる 14. 成果報告会：グループのプレゼンテーションに報告 15. 成果報告会：グループのプレゼンテーションに報告			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	–	★	–	–

年度	2018	授業コード	J80100132
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
授業概要	本講義は「京都の景観と法」をテーマとする。多くの人が訪れる京都の魅力のひとつはその景観にあり、歴史的な景観は京都観光の売りとなっている。そして、京都の景観は様々な法令によって形成され、維持され、変化する。本講義では、文献調査と実踏調査（街歩き）を通じて、法という観点から京都の景観を読み解くことができるようになることを目指す。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	担当教員作成の資料を配布する。		
評価方法	講義参加状況（50%）、調査結果の報告（50%）		
到達目標	1．法という観点から京都の景観を読み解くことができる。 2．京都の法と景観というテーマに関して資料を収集し、これを活用することができる。 3．調査結果を口頭および書面で簡潔に報告することができる。		
授業時間外学習	本講義の授業時間外学習は、講義内容を踏まえて放課後や休日などに実際に京都市内を歩くことが中心となる。 1．講義内容を踏まえて京都の景観を観察・分析する。 2．景観をカメラで撮影し、インターネット上の共有フォルダに投稿する。 3．調査結果を担当回の講義で報告するためにまとめる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講義の参加者は、講義外の時間に積極的に京都の街を歩くことを求められる。歩くことが好きな人、京都の街並みに関心がある人、美味しいお店を探すのが好きな人、知らない場所を知りたい人の参加を歓迎する。

京都市内を歩くことが課題となるので、遠方から通学している者については交通費の負担を想定しておくこと。また、実踏調査において参加者がそれぞれ撮った写真（画像）をインターネット上で共有するので、カメラ付きスマートフォンなどを使えることが望ましい。

授業スケジュール

1．オリエンテーション（自己紹介、グループ分け、今後の説明）
2．景観権について　国立マンション訴訟を読む（1）
3．景観権について　国立マンション訴訟を読む（2）
4．京都の景観問題（京都ホテル論争、芸術橋、京都駅、双ヶ岡マンション訴訟、下鴨神社マンション建設問題）（1）
5．京都の景観問題（2）
6．京都の景観問題（3）
7．京都市の景観政策（1）　文献調査
8．京都市の景観政策（2）　文献調査
9．京都市の景観政策（3）　実踏調査
10．京都の超合法建築（1）　文献調査
11．京都の超合法建築（2）　実踏調査
12．京都の景観を歩く（1）
13．京都の景観を歩く（2）
14．京都の景観を歩く（3）
15．調査結果の報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J80100133
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	
授業概要	This class has been designed as pre course before Seminar, and focus on Service Management . Would use Case Method and Immersion Experience Program (IXP, Field Study) of HBS (Harvard Business School). More focus on Field Study. To set a goal to present Student's field study (including hearing, analysis, proposal) of any service business which Student themselves select, at the end of courses. Through the whole sessions, Students would be expected to achieve fundamental of management, logical thinking, presentation skills, self management. 当講座は 2 回生へのゼミ形式を取り、特にサービスマネジメントに焦点を当てる。HBS のケースメソッド、IXP プログラムの手法を導入。学生が自ら選んだサービス産業でのフィールドスタディを重視し、そこで観察し分析したものを最終プレゼンテーションする。その過程で経営の基礎、論理的思考、プレゼンテーションスキル、自己マネジメントを受講者は習得することができる。		
教材（教科書）	Handout and Case should be distributed at the each session, upon Students' best interest (Past examples, Starbucks, Apple, Google, Ritz Carlton, Seven Eleven, Yoshinoya etc.) 使用ケースは毎回講義前に提示する。		
教材（参考資料）	Competitive Strategy as a Narrative Story/ストーリーとしての競争戦略（楠木建、東洋経済新報社）ISBN978-4-492-55270-6, and others should be suggested at the each session.		
教育方法	Never to excuse your life, Never to be late, Never to cheat/short cut. All students should be communicated by faculty, one by one. HBS のケースメソッド、IXP のプログラムの手法に依拠して授業は進められ、学生のプレゼンテーションと頻繁な教員とのコミュニケーションを通じて授業は行われる。言い訳を言わない、今からでも遅くない、ごまかさない。 全ての受講生は教官により認識されコミュニケーションが取られる。		
評価方法	50% Class contribution, 35% Final Presentation, 15% Quiz at the each session		
到達目標	学生は経営、戦略策定の基礎を説明できるようになるとともに、コミュニケーション、論理的思考、マナー、基礎的語学、会計知識を身につけることができる。		
授業時間外学習	Quick quiz should be distributed at the each session and Students should submit before the next session. Expected to spend 20-30 minutes each and send by e-mail. 毎回次回の Quiz が提示されるので、学生は次回講義の期限までにメールで提出することとなる（想定毎回 20-30 分活用）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
Be Humble, Be Hungry, Be Innovative			
授業スケジュール			
1．Orientation, What is field study? Introduction of this course and goal setting / オリエンテーション、フィールドスタディの説明、目標設定 2．What is IPX / IPX の説明 3．On Services, What is the best, worst services / サービスの定義 4．Selection of Field Study / フィールドスタディー先の選択、論点整理 5．On Service and Hospitality / Best practice at service and hospitality サービス、ホスピタリティでのケース 6 . On Financials / Fundamental of financials 財務、会計に関しての基礎 7．Midterm Review, Presentation practice / 中間レビュー、中間プレゼンテーション			

８．Case Starbucks / ケース　スターバックス

９．Case Seven Eleven / ケース セブンイレブン

１０．On Innovation, Game Changer, Best practice at innovation / 変革とは？

１１．On Logical thinking, Issue Tree / 論点整理とは、Issue Tree とは？

１２．Open Issue Tree examination 1 / Issue Tree 分析 1

１３．Open Issue Tree examination 2 / Issue Tree 分析 2

１４．Presentation 1 / 発表 1
１５．Presentation 2 / 発表 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J80100135
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	企業の経営を支える資源の一つが「ヒト（＝人材)」である。ヒトのマネジメントは企業活動において極めて重要な行為であり、企業の持続的成長において欠かせないものである。人材マネジメントに関わる制度・ルールのみならず、「働く人がいかに動機づけられるか」「働く人の心理的状態が仕事にどのような影響を与えるのか」などの実践的な視野・知識を身に着けることも重要である。 そこで、本演習では、資料やデータを通して、企業が行う人材マネジメントに関する情報（成功例、先進的な事例、など）を収集し、人材マネジメントに関する基礎知識習得や実践例の観察を行う。また、個人での成果創出のみならず、グループでの成果創出や発表なども行う。		
教材（教科書）	特に指定しない。適宜指示します。		
教材（参考資料）	スティーブン.P.ロビンス（著）・髙木晴夫（訳）『【新版】組織行動のマネジメント―入門から実践へ』ダイヤモンド社、2009 年 今野浩一郎『人事管理入門』（日経文庫)、2008 年		
教育方法	授業は講義とグループワーク、学生（個人）による発表によって構成される。		
評価方法	演習への積極的参加（50%)、小課題の評価（20%)、発表及びレポート評価（30%） ・欠席は減点します（出席は当然ですので加点しません)。特に、無断欠席や報告放棄は“大幅な”減点とします。 ・グループワークでのタダ乗りやディスカッションでの無発言・居眠りも減点対象です。 ・成果物の締切は厳守すること。 ・講義時間中のスマホ操作や過度な居眠りは“大幅な”減点対象とします。		
到達目標	・自分たちの手で、書籍・雑誌、新聞やデータベースから必要な情報・資料を収集できる。 ・自ら疑問を設定して、その疑問への解答を導き出す。		
授業時間外学習	・Word 及び PowerPoint の基礎的な使用方法を習得しておくこと。 ・「次回までに行うべきこと」が指示された場合は、しっかりと準備すること。 ・個人リサーチやグループワークが授業時間内で終わらなかった場合は、授業時間外にそれらに取り組み、締切や報告日を厳守すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・グループワークをはじめ授業に積極的に参加すること。
・実践プロジェクト A、B は連続して受講することを前提として進めるため、連続して受講することを望む。
・レポート（Word）や報告スライド（PowerPoint）などの資料を保存する媒体として USB を各自用意すること（4GB 程度で問題ありません)。

授業スケジュール

第 1 回　オリエンテーション:　本授業の説明（授業の目的・進め方）
第 2 回　基礎学習①:情報収集方法に関する基礎知識①
第 3 回　基礎学習②:情報収集方法に関する基礎知識②、レポート及びパワーポイント作成について①
第 4 回　基礎学習③:レポート及びパワーポイント作成について②
第 5 回　テーマ設定:企業の人材マネジメントについて情報・事例を集める
第 6 回　リサーチ①:企業の人材マネジメントについて情報・事例を集める、その事例に関するディスカッション
第 7 回　リサーチ②:企業の人材マネジメントについて情報・事例を集める、その事例に関するディスカッション

第 8 回　発表①:パワーポイントを使用した報告
第 9 回　グループワーク①：グループワークの企画、企業の人材マネジメントについて情報・事例を集める
第 10 回 グループワーク②:企業の人材マネジメントについて事例を集める、その事例に関するディスカッション
第 11 回 グループワーク③:企業の人材マネジメントについて事例を集める、その事例に関するディスカッション
第 12 回 発表②:パワーポイントを使用した報告、グループ間でのディスカッション
第 13 回 リサーチ③: 企業の人材マネジメントについて情報・事例を集める
第 14 回 リサーチ④: 企業の人材マネジメントについて情報・事例を集める、その事例に関するディスカッション
第 15 回 発表③:文書を使用した報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J80100136
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	本演習は、コンテストに応募することを目指し、ビジネス・プランの作成方法を習得することを目的としている。 まずビジネス・プランの作成方法に関するテキストを一緒に読み、ビジネス・プランを作成する基礎を習得する。 各自の興味あるビジネスの種を日常生活の中で探してもらい、それについて習った方法で検討する。必要に応じて、社会調査を行い、ビジネスの実現可能性をさらに検証する。 ディスカッションと実地調査を繰り返し行いながら、コンテストに目指してビジネス・プランを作成する。		
教材（教科書）	『プロ直伝! 成功する事業計画書のつくり方（マンガでわかる! ビジネスの教科書シリーズ)』		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	事前に与えられた資料を予習したうえ、レポートを作成し、講義中ディスカッションを通じて理解を深める。適宜質問とコメントを行い、重要なポイントを説明する。		
評価方法	事前準備、議論、調査等授業への積極的な参加（60%)、成果物の質（40%）		
到達目標	１．与えられた資料をまとめてレポートを作成できる。 ２．ディスカッションに参加し、自分の意見を言え、他人の意見を理解し、グループとして結論を出せる。		
授業時間外学習	※Word, Excel, PowerPoint, インターネットの利用方法を事前に勉強しておく。 ※指示された課題に基づき、期限内に予習とレポートを完成する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

※学外の活動も予定しているので、通常授業時間外の参加や、保険の加入、交通費が必要な場合もあります。
※ビジネスプランニングコンテストに関心のある方の受講が望ましい。
※授業に積極的に参加し、主体的な勉強を通じて多様な能力を身に付けてください。

授業スケジュール

1. オリエンテーション（本プロジェクトの概要を説明し、次回の勉強内容や、それまでの課題を指示する）
2. 教科書・参考書に基づいてビジネス・プランの基礎を学習し、ディスカッション、質疑応答
3. 教科書・参考書に基づいてビジネス・プランの基礎を学習し、ディスカッション、質疑応答
4. 教科書・参考書に基づいてビジネス・プランの基礎を学習し、ディスカッション、質疑応答
5. 教科書・参考書に基づいてビジネス・プランの基礎を学習し、ディスカッション、質疑応答
6. 各自のビジネス・アイディアについて事前に作成したレポートに基づき、発表、ディスカッション
7. 各自のビジネス・アイディアについて事前に作成したレポートに基づき、発表、ディスカッション
8. 絞ったテーマについて社会調査を行う。
9. 調査結果について発表、ディスカッション
10. 必要に応じて発表、ディスカッション or 実地調査
11. 必要に応じて発表、ディスカッション or 実地調査
12. 必要に応じて発表、ディスカッション or 実地調査
13. ビジネス・プラン作成
14. ビジネス・プラン作成
15. 発表・ディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	–	–	★★	–	★

年度	2018	授業コード	J80100137
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	川﨑　雄二郎	旧科目名称	
授業概要	１つの財・サービスにスポットを当て、その市場における消費者と企業（産業）と規制を行う政府の関わりあいを調査し、価格や取引量、資源配分の効率性・公平性などをはじめとする市場の実態とその決定要因について学ぶ。この期間では、チームに分かれて題材とする財・サービスを選定し、市場の事前調査と夏休みに実施するヒアリング調査の準備を行う。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	伊藤元重（2003）『ミクロ経済学 第２版』日本評論社　3,240 円　ISBN-13: 978-4535552616 柳川隆・町野和夫・吉野一郎（2015）『ミクロ経済学・入門―ビジネスと政策を読みとく 新版』有斐閣　2,268 円　ISBN-13: 978-4641220478		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	報告の内容（30%）、報告準備のプロセス（30%）、授業における発言・積極性（40%）などを評価基準とする。		
到達目標	１．市場の調査を通して理論と現実のつながりを体感し、経済学を現実の例に応用する意識と力を身につける。 ２．グループワーク、ヒヤリング調査、報告発表を通して、行動力やコミュニケーション能力を身につける。		
授業時間外学習	授業時間にある程度の時間は確保するが、①市場に関する調査・データ収集、②報告発表の準備（レジュメ作成など）、③ヒヤリング調査の準備（ヒヤリング先の選定、質問内容の整理など）といった作業は、授業時間外にも自主的に行ってもらいたい。講義のスケジュールに遅れることがないよう、ゆとりをもって作業にあたってほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義の遂行上、協調性をもって講義やグループに貢献する意欲を持っていることが最低条件である。
またこの講義では、「読む・書く力」、「聞く・話す力」を磨くことも重点の一つととらえ、グループワーク、ヒヤリング調査、報告発表などといった機会を設けている。これらの活動内容に対してやる気がない、あるいは「読む・書く力」、「聞く・話す力」を身につけるつもりがない学生は、この講義に向かない。

授業スケジュール

１．ガイダンス：グループ決め、講義の進め方
２．需要・供給・規制についての基礎知識①
３．需要・供給・規制についての基礎知識②
４．テーマの選定①
５．テーマの選定②
６．市場に関する情報・データ収集①
７．市場に関する情報・データ収集②
８．市場に関する情報・データ収集③
９．経過・問題設定の報告発表①
１０．経過・問題設定の報告発表②
１１．ヒヤリング調査の準備①
１２．ヒヤリング調査の準備②
１３．ヒヤリング調査の準備③
１４．ヒヤリング調査プランの確認①
１５．ヒヤリング調査プランの確認②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2018	授業コード	J80100138
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	本プロジェクトでは、キャリア実践としてのケーススタディ、フィールドワーク、ビジネスコンテスト、実験ショップ、地域連携事業等から具体的なテーマを設定し、体験学習を行う。具体的には、京都近郊の非営利事業あるいはコミュニティビジネス関係事業者と連携し、キャリア実践を試みる。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	必要な文献等は適宜支持する。		
教育方法	必要に応じて資料等を配布しながら、講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	フィールドワークを通じて得た学習成果の発表（50%）とレポート（50%）		
到達目標	コミュニケーション力の向上を図るとともに、フィールドワーク先の事業内容についても一定の理解ができる。		
授業時間外学習	フィールドワーク先の情報を予め収集しておくこと。また、必要に応じて指定した参考文献は学期中に読破すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
分からないことはすぐに確認すること。			
授業スケジュール			
第１回　総合説明 第２回：事前学習（学内でのオリエンテーション、課題設定等）→フィールドワーク①の実施 第３回：事前学習（学内でのオリエンテーション、課題設定等）→フィールドワーク①の実施 第４回：事前学習（学内でのオリエンテーション、課題設定等）→フィールドワーク①の実施 第５回：事前学習（学内でのオリエンテーション、課題設定等）→フィールドワーク①の実施 第６回：事前学習（学内でのオリエンテーション、課題設定等）→フィールドワーク①の実施 第７回：中間学習（フィールドワーク①の結果の整理、課題再設定等）→フィールドワーク②の実施 第８回：中間学習（フィールドワーク①の結果の整理、課題再設定等）→フィールドワーク②の実施 第９回：中間学習（フィールドワーク①の結果の整理、課題再設定等）→フィールドワーク②の実施 第１０回：中間学習（フィールドワーク①の結果の整理、課題再設定等）→フィールドワーク②の実施 第１１回：中間学習（フィールドワーク①の結果の整理、課題再設定等）→フィールドワーク②の実施 第１２回：事後学習（フィールドワーク結果の集約、整理等） 第１３回：事後学習（フィールドワーク結果の集約、整理等） 第１４回：事後学習（フィールドワーク結果の集約、整理等） 第１５回：事後学習（フィールドワーク結果の集約、整理等）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	J80100139
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	移民は現在、アメリカや EU 諸国において社会問題化しており、急速に少子高齢化が進んでいる日本においても重要な政策課題の一つである。この実践プロジェクトでは、人々が移民に対してどのような関心や懸念を持っているかについてアンケートを通じて調査することを目的とし、実践プロジェクト A では事前学習として、移民が及ぼす経済的、政治的、文化的影響などについて過去の研究成果に基づいて整理・考察する。つぎに中間学習として、事前学習の結果をもとにアンケートを作成する。		
教材（教科書）	なし。必要があれば適宜プリントを配布します。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介する予定です。		
教育方法	講義とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	平常点評価（50%） 授業内課題（50%）		
到達目標	１．移民がもたらす様々な影響について理解できる ２．アンケート調査を設計・実施する力を身につけることができる		
授業時間外学習	プリントを配布した場合には、指定箇所を事前に精読しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．移民問題に関心を持ち、新聞やインターネット記事に普段から目を通しておくこと
２．後半科目「実践プロジェクト B」と連続して履修することが望ましい
３．Excel と Word が基本的に使える程度のコンピュータのスキルが前提となります

授業スケジュール

1. ガイダンス
2. 事前学習(1)：世界各国の移民のデータ
3. 事前学習(2)：労働市場への影響
4. 事前学習(3)：同上
5. 事前学習(4)：財政への影響
6. 事前学習(5)：同上
7. 事前学習(6)：犯罪への影響
8. 事前学習(7)：その他の影響
9. 事前学習(8)：各国の移民政策の現状
10. 事前学習(9)：同上
11. 中間学習(1)：アンケート調査目的
12. 中間学習(2)：アンケート調査対象の選定
13. 中間学習(3)：アンケート調査方法と期間
14. 中間学習(4)：アンケート項目の選定
15. 中間学習(5)：同上

※登録する受講生の人数や理解度に応じて、進度やトピックは変更になる場合があります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★★

年度	2018	授業コード	J80100140
科目名	実践プロジェクト A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	池田　晃彦	旧科目名称	
授業概要	かつて、日本の金融機関はさまざまな規制の下にあったが、規制緩和・国際化および IT 化を背景に大きく変化してきた。一方で、日本の金融取引には、なお海外と比較して変化の遅い側面もある。そこで、実践プロジェクト A では、近年の金融の新しい仕組みについて知ることを目的とし、銀行等への聞き取り調査を行うことを予定している。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	・日本経済新聞社編『金融入門　第 2 版』日経文庫、2016 年。 ・柏木亮二『フィンテック』日経文庫、2016 年。 ・その他適宜指定する。		
教育方法	講義法、学生の発表、およびグループワークを組み合わせて授業を行う。		
評価方法	平常点（議論・調査への積極性）50%、授業内課題 50%		
到達目標	・近年の金融の新たな仕組みと、マクロ経済に対する影響について議論することができる。 ・日本の金融面での変化の特性について理解し、聞き取り調査・アンケート調査の方法について議論することができる。		
授業時間外学習	・配布資料および授業中に紹介する参考文献の該当箇所を精読する。 ・各自の担当部分について、調査および発表準備を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

無断欠席や遅刻を厳禁する。

授業スケジュール

1.ガイダンス
2. 事前学習 1 ：基本的な金融の仕組みについて
3. 事前学習 2 ：基本的な金融の仕組みについて
4. 事前学習 3 ：基本的な金融の仕組みについて
5. 事前学習 4 ：基本的な金融の仕組みについて
6. 事前学習 5 ：聞き取り調査の準備
7. 調査 1 ：聞き取り調査 1
8. 中間学習 1 ：聞き取り調査結果の集約・整理・報告
9. 中間学習 2 ：近年の新たな金融の仕組みについて
10. 中間学習 3 ：近年の新たな金融の仕組みについて
11. 中間学習 4 ：近年の新たな金融の仕組みについて
12. 中間学習 5 ：聞き取り調査の準備
13. 調査 2 ：聞き取り調査 2
14. 事後学習：聞き取り調査結果の集約・整理・報告
15. 事後学習：秋学期に向けた方向づけ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J80100151
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	この授業では、歴史都市京都において展開したさまざまな時代の歴史に関係する実際の現場を訪れ、歴史を体感します。その際、たんに現地を訪れるだけではなく、古文書や絵巻物など、通常ではみられないような史料も観覧します。また受講生にはそれぞれの担当箇所に関して、事前に下調べをして、数回の発表を経て、レジュメを作成して、現地で発表をしてもらいます。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	『京都市の地名』（日本歴史地名大系 27、平凡社） 『京都府 上・下巻』（角川日本地名大辞典 26‐〔1・2〕」（角川書店） 『慶長昭和京都地図集成 1611（慶長 16）年～1940(昭和 15)年』（柏書房） 『京都・山城寺院神社大事典』（平凡社） 『新修京都叢書』全 25 巻（臨川書店） 『新撰京都叢書』全 12 巻（臨川書店）		
教育方法	学生による発表、及び、実際の現地見学を行う授業です。		
評価方法	現地での発表・作成したレジュメ（80%） 授業への参加度（20%）		
到達目標	京都の歴史文化への知識を身につけること。 京都の歴史文化の調べ方、関係図書について熟知すること。		
授業時間外学習	各自、２、３週間に１回、担当が回ってくる発表の準備を入念にして、レジュメを作成してください。発表内容は以下の通りです。 １回目：担当箇所の地名辞典、国史大辞典の基本情報、基本文献の発表 ２回目：担当箇所の文献調査の発表 ３回目：担当箇所の史料に関する発表 ４回目：現地での発表 ５回目：最終調査報告		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この授業は、教員が引率する観光旅行ではありません。みなさん自身が見学先について、事前調査を行い、深い知識を身につけ、それを他の人に説明することが求められます。また現地で実際に歴史の現場をみることで、初めてわかることもあると思います。また現地には土曜に訪れることもあるので、ガイダンスで発表する予定を確認の上、各自、スケジュール調整をしてください。

授業スケジュール

１回目　　ガイダンス
２回目　　全班１回目の報告
３回目　　壬生班・下鴨班の報告（２回目）
４回目　　二条班・京都御所班の報告（２回目）
５回目　　壬生班・下鴨班の報告（３回目）
６・７回目　　壬生巡見
８・９回目　　下鴨神社巡見
10 回目　　二条班・京都御所班の報告（３回目）
11・12 回目　二条城の巡見
13・14 回目　京都御所の巡見
15 回目　　巡見結果の報告
※巡見箇所は、変更する可能性もある

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100152
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	本授業は、実践プロジェクト（民俗学）を通じてフィールドワークの技法について学ぶとともに、民俗事象について理解を深めようとするものです。 したがって実践プロジェクト（民俗学）の授業は、民俗学のフィールドワークを中心に行うことになります。フィールドワークは民俗学という学問の根幹にあるもので、民俗学を学ぶ者が宝物のように大切にしているものです。単なる現地見学ではありません。 フィールドワークの前には、その準備として講義形式の授業があります。概ね一回のフィールドワークにつき一回の講義が行われます。 実践プロジェクト（民俗学）の授業は、佐々木、堀田、手塚の三人の教員が共同で担当します。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	フィールドワークおよび資料整理への貢献度、成果発表会の成果などを総合的に評価する。		
到達目標	フィールドワークを計画、実施し、その資料を整理した上で、研究成果を発表できるようになること。		
授業時間外学習	フィールドワークに行く前に教員は準備課題を出します。課された課題は済ませた状態で、フィールドワークに臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

フィールドワークに関係する授業ですので、原則、全回出席を求めます。　フィールドワークは学外に出ますので、半日もしくは一日がかりとなります。また交通費などがかかります。

授業スケジュール

春学期に計画しているフィールドワークは以下の通りです。フィールドワークですので、天候や相手先の都合などにより、計画を変更することがあります。

フィールドワーク１　城下町としての亀岡
フィールドワーク２　都をつくった川・保津川
フィールドワーク３　土地と伝説（亀岡市）
フィールドワーク４　土地と伝説（京都市郊外）
フィールドワーク５　年中行事（京都市内）
夏合宿（京都府外）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J80100153
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	祇園祭の成り立ちを研究し、スタッフとして参加する体験をして、京都の祭りの特性を考察する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	適宜、授業で提示する。		
教育方法	－		
評価方法	参加型の授業なので、毎回の内容への積極的参加度によって評価する。		
到達目標	京都の伝統的な祭りに対する京都人の思いを理解するとともに、その積極的な担い手として、祭りにおける役割をきちんと務めること		
授業時間外学習	特になし		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業は原則として、水曜日１時間目に行う。キャンパス移動や二時間続きの内容があるため、２時間目の授業登録はしないことが望ましい。
また、学外の地域の方と交流する機会があるので、京都学園大学生としての自覚を持ち、模範となるように行動すること。

授業スケジュール

講義内容と実施場所は、下記のとおりである。
京都太秦キャンパス以外の場所で行うことがあるので、注意すること。
また、二時間続きの授業を行うことがあるので、注意すること。
＊６以降の内容は、祇園祭地元の町の都合により、日程が変わることがある。

1 授業の概要　　京都太秦キャンパス
2 祇園祭の歴史　京町家
3 祇園祭の地域挨拶と見学　京町家
4 ポスターセッション１　京町家
5.6 しつらえ替え　夏　（二時間続き） 京町家
7 ポスターセッション２　京町家
8 祇園祭　地元の方レクチャー 京町家
9.10 祇園祭　ちまきづくり　　（二時間続き）京町家
11 ポスターセッション３　京町家
12.13　祇園祭　小学生にちまき作り方指導　二時間 京町家
14 祇園祭　浴衣着付け　京町家
・祇園祭　売店販売または会所掃除　（各自の担当時間に行う）
・ 祇園祭　巡行等見学　　（各自が任意で行う）
15 春学期の体験の振り返り（発表）京町家

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J80100154
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
授業概要	この実践プロジェクトでは、２つの観点から、京都の近代の歴史を考察する。 ・京都の近代化遺産 日本の近代化遺産か?ユネスコの世界遺産に認定されたこともあり、最近注目を集めている。て?は、京都て?はと?のような近代化 遺産か?あるのた?ろうか。この実践フ?ロシ?ェクトて?は、京都の近代化遺産について調へ?、それをフィールト?ワークして、日本の 近代化にと?のような貢献をしたのかを明らかにしたい。そして、そもそも近代化とは何を意味するのか、近代とはと?のような 時代なのかを考えたい。 ・京都の映像文化 Google 等て? “kyoto” て?検索をすれは?、日本文化を象徴する膨大な量の画像を見つけることか?て?きる。YouTube 等て?検索しても京都を舞台にした古い日本映画か?英語の字幕て?世界中て?共有されていることを確認て?きる。注目すへ?きは 1897 年四条河原町の元・立誠小学校て?最初の試写か?おこなわれ「日本映画」か?はし?まった。そして、昭和初期には「日本のハリウット?」と呼は?れる映画産業の中心地となって繁栄することになった。京都は日本の映像文化を語る際に欠くことのて?きない都市なのて?ある。この実践フ?ロシ?ェクトて?は、京都の文化を、映像というカタチに実際に変換することによって、改めて重層的に考えてみる。具体的には、「京都の近代化遺産」のフィールト?ワークにおいて、iPod touch 等て?撮影した写真／動画て?、写真集／ショー トムーヒ?ーの制作を行うことを試みる。		
教材（教科書）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	フィールドワークの報告レポート等で総合的に評価する。		
到達目標	京都の近代化遺産／映像文化を実践的に考察する。		
授業時間外学習	配布するレジュメ等に記載している文献等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主体的に参加することを望む。			
授業スケジュール			
01　オリエンテーション 02　京都の近代化遺産（１） 03　京都の近代化遺産（２） 04　京都の近代化遺産（３） 05　京都の近代化遺産（４） 06　京都の近代化遺産（５） 07　京都の近代化遺産（６） 08　京都の近代化遺産（７） 09　京都の映像文化（１） 10　京都の映像文化（２） 11　京都の映像文化（３） 12　京都の映像文化（４） 13　京都の映像文化（５） 14　京都の映像文化（６）			

15　京都の映像文化（７）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100155
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	担当教員は丸田とリッチモンド。春は主として丸田が指導する。 京都は言わずと知れた国際観光都市であり、3 年連続で「魅力のある街世界一」に選ばれた。したがって、その観光地に関する案内書は無数にある。その中で、江戸時代の『都名所図会』や『京童』に取り上げられている名所に注目し、現在の状況と比較考証する。		
教材（教科書）	適宜紹介する。		
教材（参考資料）	学生諸君に探してもらう。		
教育方法	発表形式と野外活動形式。		
評価方法	授業内発表とレポートを総合的に評価する。100%		
到達目標	過去の観光案内書を読み解き、現在との比較考証ができる。		
授業時間外学習	次回訪れる観光地の下調べをネット、書籍等によって行うこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講条件　なし 受講ルール　観光地ではマナーを守り、観光客の手本となる。 学習上の助言　これこそフィールドワークの真髄であると思う。楽しみながら、学んで頂きたい。			
授業スケジュール			
１．概要説明 ２．新観光地研究 ３．新観光地の探索 ４．同上 ５．同上 ６．同上 ７．同上 ８．反省会 ９．新観光地研究 １０．同上 １１．新観光地の探索 １２．同上 １３．同上 １４．同上 １５．同上			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100201
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	本学が京都市内に立地しているメリットを活かして京都の伝統産業の一つである西陣織について学びます。西陣織とは京都市内の約 3 キロ四方で生産されている先染めの絹織物で、着物・帯・ネクタイなどの製品として出荷されます。授業では西陣織を織っている方にインタビューしたり帯を扱っている問屋を訪問して聞き取り調査をおこなったりします。西陣織の美にふれて、その価値を知ってもらえればと思っています。また西陣織は京町家の中で生産されてきたので、西陣織と京町家の間の関係について学びます。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考資料）	1．小笠原小枝（1998）『染と織の鑑賞基礎知識』至文堂。 2．片方信也（2007）『西陣―織のまち・京町家』つむぎ出版。 3．切畑健／松尾弘子（1986）『西陣織』岩波書店。 4．山本茂（2003）『京町家づくり　千年の知恵』祥伝社。 5．山本良介（2006）『京町家の遺伝子』学芸出版社。		
教育方法	講義法と学生による発表を中心に授業を進めます。		
評価方法	学外における調査研究（50%）、授業内レポート（50%）		
到達目標	1．日本の歴史の中で育まれてきた織物の美しさを知る。 2．西陣織業界が直面している問題について、自分なりに解決策を提案する。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する参考文献のページを読んでおくこと（各回の学習推定時間は 45 分間）。 第 1 回　切畑／松尾（1986）76―80 頁。 第 2 回　小笠原（1998）47―60 頁。83―125 頁。 第 3 回　切畑／松尾（1986）52―63 頁。 第 4 回　切畑／松尾（1986）64―70 頁。 第 5 回　切畑／松尾（1986）71―75 頁。 第 6 回　西陣織会館のホームページ 第 7 回　西陣織会館のホームページ 第 8 回　訪問先のホームページ。 第 9 回　訪問先のホームページ。 第 10 回　訪問先のホームページ。 第 11 回　訪問先のホームページ。訪問先のホームページ。 第 12 回　山本茂（2003）80―117 頁。山本良介（2006）50―125 頁。 第 13 回　片方（2007）86―161 頁。 第 14 回　西陣織会館のホームページ 第 15 回　これまでに得た資料の整理		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講のルール 企業を訪問する際には、マナーに十分注意してほしい。			
授業スケジュール			
1．西陣の沿革 2．織布の原理 3．西陣織の工程 4．空引機とジャカード織機 5．西陣織の職人 6．手織り実演の見学			

7．西陣織の現状
8．質問票の作成
9．企業訪問
10．質問票の作成
11．企業訪問
12．京町家の特徴
13．京町屋と西陣織の関係
14．西陣織の振興策
15．成果報告会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J80100203
科目名	実践プロジェクトB 【航空】	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
授業概要	この実践プロジェクトは「航空観光プログラム」の一部として実施します。 実践プロジェクトAの延長活動として、航空観光分野に限らず、広くサービス業等における経営面と政策面の両方の議論をします。経営面としては、既存大手企業と新規参入の競争の実態、競争戦略の特徴について、また、政策面については、安全や福祉の名のもとに既得権の擁護が図られている実態を調べ、真に弱者のためになる公共政策のありかたについて議論します。		
教材（教科書）	教科書はここでは指定しません。この授業は演習なので、教材を自分で探すところから勉強が始まります。また、テーマは諸君の自由ですので、テーマが決まったら、教材の探し方についてお話します。さらに、テーマ次第でその都度、必要な文献を示唆します。		
教材（参考資料）	教科書の項を参照してください。		
教育方法	参加者は原則グループでテーマを決めて、実践プロジェクト A、B を通じて1年間かけてレポートを書くことを求められます。実践プロジェクトAではＰＰＴによるプレゼン中心の発表を、Bでは、それを論文の形にすることに重点をおきます。 フィールドワークについてはサービス業の代表である航空空港関連の現場を見学したり、インターンシップやセミナーの成果を発表するプランを考えています。　　実践プロジェクト A に同じです。		
評価方法	1)発表内容、2)この授業の活動全体（勉強以外のイベントへの参加運営など）への貢献の程度などにより判断します。ウエイトは一定ではありません。特定項目が非常に優れていればそれだけで 100%の評価をする場合もあります。 一方、基本的な常識、意欲がかけている場合は、１）や２）が 100 点でも 0 点とすることもあります。		
到達目標	実践プロジェクト A,B を通じて、 経済学を用いた政策議論の基本的な構造を理解すること。PPT によるプレゼンの基本要領を身に付けること。。		
授業時間外学習	毎回ある自身の発表の準備（レジュメ作成、PPT 作成）、他の学生の発表のコメントの準備。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「航空観光プログラム」の選考方法や選考日程、履修条件については、すでに説明会で示したとおりです。単位にならない課外授業としての受講もできますが、その場合も航空観光プログラムへの登録が必要です。

この授業では、教室での発表と論文作成のみならず、セミナーやインターンシップなど様々なイベントへの参加など多岐にわたる活動を実施します。それをこなす能力と意欲と財力が求められます。PC は必ず用意すること。がんばってついてきてくれれば必ず成長できます。

授業スケジュール

第 1 回　論文の書き方基礎再講義
第 2 回　論文発表 1 回目
第 3 回　論文発表 2 回目
第 4 回　論文発表 3 回目
第 5 回　インターンシップ事前準備プレゼン
第 6 回　インターンシップ事前準備プレゼン
第 7 回　インターンシップ関連見学会（教員参加）
第 8 回　インターンシップ事後プレゼン
第 9 回　インターンシップ事後プレゼン
第 10 回　論文発表 4 回目
第 11 回　論文発表 5 回目

第 12 回　論文発表 6 回目
第 13 回　論文発表 7 回目
第 14 回　論文発表 8 回目
第 15 回　論文発表最終回

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J80100204
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
授業概要	（テーマ）「経済団体の情報を活用し、ユニークな地元企業を調査する」 京都には、京都の地場企業を束ねる「京都商工会議所」「京都経営者協会」「京都工業会」「京都中小企業家同友会」など経済団体がある。こうした京都の各種経済団体の企業情報を収集し、地元京都のユニークな企業について実地調査することが、この実践プロジェクトの課題である。 実践プロジェクトB（秋学期）では、夏休み期間中に訪問した企業リサーチをもとに、「実地調査報告書」のとりまとめを行う。また、訪問先企業から課題が出された場合には、その課題にも取り組み、「提案書」を作成する。各チームの「報告書」と「提案書」が完成した段階で、訪問先企業を招いてプレゼンテーションを行う。		
教材（教科書）	テキストは使用しないが、必要な資料は適時配布する。		
教材（参考資料）	・日本経済新聞社（編集）『京都の躍進企業―「ベンチャーの都」の 103 社』（日本経済新聞社：2002 年） ・徳賀芳弘（監修）『京都企業の分析』（中央経済社：2011 年）		
教育方法	関係資料は適宜配布し、必要とされる情報はその都度提供される。		
評価方法	平常点（15%）受講態度等＋「実地調査報告書」（40%）＋プレゼンテーション（30%）＋個人評価（15%）		
到達目標	1．グループワークでの協調性とコミュニケーション能力を高めることができる。 2．企業の人と直接接触する体験を通じて社会的マナーを身につけることができる。 3．企業や仕事内容を実際に調査するなかで、近い将来の自分の就職活動に役立つ情報を得ることができる。 4．報告書の作成やプレゼンテーションのスキルを身につけることができる。		
授業時間外学習	「活動計画書」で決められたチーム・メンバーとしての自分の役割を誠実に遂行すること。そのため常にチーム内の連絡を密にし、次週までに実行しなければ各自の課題を、自宅学習においてしっかりとこなした上で、授業に臨むことが必要である。 第 1 回目～第 6 回目　「実地調査報告書」の作成 第 7 回目　中間報告 第 8 回目～第 9 回目　「提案書」の作成 第 10 回目～第 11 回目　プレゼンテーション資料の作成 第 12 回目－第 14 回目　最終報告会 第 15 回目　審査結果報告と反省会		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.　経済団体や企業の方と接触する機会が多いので、日頃から、挨拶・言葉づかい・衣服・態度など、本学学生に求められる基本マナーに注意すること。
2.　調査グループ内での意思疎通をしっかり図り、キャップのリーダーシップのもとチームメンバー同士が積極的に協力すること。
3.　各調査グループは教員との連絡を密にするとともに、メンバー個人の身勝手な行動は厳に慎むこと。

授業スケジュール

1. 実地調査結果の確認（進捗状況、再調査）
2. （同上）
3. 「実施調査報告書」の作成
4. （同上）
5. （同上）
6. （同上）
7. 中間報告
8. 「提案書」作成の検討会

9.「提案書」の作成
10. プレゼンテェーション資料の作成
11.（同上）
12. 最終報告会（経済団体、企業関係者来校）
13.（同上）
14.（同上）
15. 最終評価（調査チーム別： 面談、振り返り）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100205
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
授業概要	地方自治体の組織や、公務員の業務を知ることにより、将来、公務員を希望する人への導入的な講義を目指す。 東日本大震災、熊本地震、九州北部豪雨が続いている。近年の災害の特徴を調べ、災害対策の課題と自治体の役割を検討する。過去の災害の特徴と課題を研究し、京都府、京都市の災害対策（地震・水害）を学ぶ。		
教材（教科書）	特に使わない。		
教材（参考資料）	講義に際に参考文献、参考になるウェブサイトを紹介する。		
教育方法	最初は講義形式ですすめるが、基礎的な知識を習得した以降は、班ごと、個人ごとにテーマに関するデータなどを調べてもらい報告してもらう。		
評価方法	授業内の取り組み（70%） 最終プレゼン（30%）		
到達目標	過去の災害を学ぶことにより、これから起こる可能性のある災害対策に基本を学ぶ。 その中で、将来公務員に就職した際に役立つ情報収集、解決方法の基礎を学ぶ。		
授業時間外学習	京都市や関連するホームページを参考に自主的に情報収集すること。指導する教員が指示する課題を確実に準備すること。 1　実践プロジェクトAの復習 2　災害対策と自治体の役割 3　班分け 4　各班の計画 5　班ごとの発表 6　〃 7　〃 8　〃 9　〃 10　報告会に向けて 11　〃 12　〃 13　〃 14　〃 15　〃		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

できれば、将来公務員になることを希望している学生を求める。

授業スケジュール

1　オリエンテーション
2　災害対策と自治体の役割
3　班分けと研究計画
4　具体的な政策課題に応じて班毎に研究する
5　避難所設置、必要な物品の調達と配送、医療支援
6　仮説住宅の建設から災害復興住宅
7　街の再建
8　各班ごとの発表
9　〃
10　〃

１１　　〃 １２　　〃 １３　　報告会 １４　　報告会 １５　　全体のまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J80100206
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	経済社会の動向を分析するときには、マクロ・メゾ・ミクロの観点からの総合的な分析が不可欠である．「日本創成会議」人口減少問題検討分科会が 2014 年 5 月に、2040 年までに 1800 の市町村のうちのおよそ半数 896 市町村を「消滅可能性都市」として特定したことから、「地方創生」がアベノミックスの重点施策として取り上げられることとなった． 実践プロ A で取り上げた「地方版総合戦略」に関連する地域における民間企業や団体を対象にした聞き取り調査を実施する．		
教材（教科書）	特に使用しない		
教材（参考資料）	その都度指示する		
教育方法	学生の報告を中心に進める		
評価方法	課題レポート(100%)		
到達目標	地方創世に関する具体的なテーマについて提言できる		
授業時間外学習	配付資料の事前学習		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
対象とした地域社会の動向に関する情報を幅広く収集すること			
授業スケジュール			

経済社会の動向を分析するときには、マクロ・メゾ・ミクロの観点からの総合的な分析が不可欠である．現在「日本創成会議」人口減少問題検討分科会が 2014 年 5 月に、2040 年までに 1800 の市町村のうちのおよそ半数 896 市町村を「消滅可能性都市」として特定したことから、「地方創生」がアベノミックスの重点施策として取り上げられることとなった．実践プロ B では、実践プロ A で取り上げた「地方版総合戦略」に関連する地域における民間企業や団体を対象にしたインタビューを実施する．

1．A 市の地方創生戦略の特徴（A 市へのインタビューと他の市町村の比較を通じて）
2．A 市の地方創生戦略の特徴（A 市へのインタビューと他の市町村の比較を通じて）
3．A 市の地方創生戦略の特徴（A 市へのインタビューと他の市町村の比較を通じて）
4．A 市の地方創生戦略の特徴（A 市へのインタビューと他の市町村の比較を通じて）
5．A 市の民間団体と民間企業への質問項目の精査
6．A 市の民間団体と民間企業への質問項目の精査
7．A 市の民間団体と民間企業への質問項目の精査
8．A 市の民間団体と民間企業への質問項目送付
9．A 市の民間団体と民間企業へのインタビューの実施
10．A 市の民間団体と民間企業へのインタビューの実施
11．A 市の民間団体と民間企業の回答のまとめ
12．プレゼン資料の作成
13．プレゼン資料の作成
14．プレゼン資料の作成
15．プレゼン

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	−	★	−

年度	2018	授業コード	J80100207
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	多数の資金提供者から小口資金を資金需要者に提供するクラウドファンディングが世界的に広がりをみせている。本講義では、クラウドファンディングの地域再生における役割を学習する。 実践プロジェクトBでは、グループに分かれてわが国と諸外国のケーススタディの情報収集を行うとともに、フィールドワークとしてグループごとにミュージックセキュリティーズや、京都府庁 NPO パートナーシップセンター、都市及び（公財）京都市景観・まちづくりセンター・京町家まちづくりクラウドファンディング支援事業へのヒアリングを行う。それぞれの事例について今後の課題を具体的に抽出し、クラウドファンディングの地域再生への応用可能性について検討する。グループの発表をもとに、毎回全員でディスカッションを行う。		
教材（教科書）	なし（その都度配布する）。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	演習への参加状況・レポート（５０％）、発表内容及び成果物評価（５０％）。		
到達目標	自主的に選定したテーマに関して、ヒアリングなどにより一次情報を収集し、その内容を報告書にまとめる。さらに、グループでのディスカッションを通じて課題を発見し、その解決策を考案できる。		
授業時間外学習	Word での資料・調査報告書の作成、エクセルでデータ分析・図表作成、Powerpoint で報告発表資料の作成が必要なため、事前にこれらの基礎的な使用方法を学習すること。 事前に参考文献を熟読したうえで文献調査を整理し、報告資料を作成すること。グループに分けて「次回まで調査研究すべき課題と資料作成」が指示された場合、しっかりと準備すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

チームワークで各自の積極的な取り組みを求める。特に、フィールドワークとして金融機関、官公庁、会社訪問へのヒアリングでは、質疑討論に積極的に参加し、ヒアリング調査の報告をまとめる。また、履修生は必ず毎日勉強・読書・文献調査・資料作成・報告準備を進めてもらいたい。

授業スケジュール

１．オリエンテーション：(本講義のテーマ・目的・進め方、課題設定)
２．グループの課題設定、事例研究の調査企画・調査対象企業に関する討論
３．調査対象企業の事前調査、調査企画書の作成・報告と討論①
４．調査対象企業の事前調査、調査企画書の作成・報告と討論②
５．調査対象企業の調査企画書の問題意識、調査目的と意義の発表
６．調査対象企業のヒアリングリスト作成、調査企画書のブラッシュアップ、アポイントメントを取る
７．調査対象企業の情報収集のまとめ、インタビュー質問作成と討論、企業訪問前の心得
８．クラウドファンディング企業へのヒアリング
９．官公庁へのヒアリング
１０．金融機関へのヒアリング
１１．企業ヒアリング内容の整理と調査報告書の作成（各事例について今後の課題を具体的に抽出し、クラウドファンディングの地域再生への応用可能性について検討）
１２．調査報告会、グループ間で討論
１３．調査成果の総括と討論、調査報告書の作成
１４．調査報告書のまとめ
１５．調査報告書に関する最終報告会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J80100208
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	1990 年代後半以降、日本はゼロ金利水準に突入し、もはや銀行の預金では、資金運用手段として不適切な状況になっている。そのため、この実践プロジェクト（A・B）では、人々がどのような資産で運用することに関心があるかをアンケートを通じて調査することを目的とする。実践プロジェクト B では、受講生が実践プロジェクト A で着手したアンケートを完成させ、アンケートの実施・アンケートの分析・分析結果の報告の 3 つを行うことを目的とする。		
教材（教科書）	なし、プリントを適宜配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて授業中に指示する。		
教育方法	1. アンケートの作成は講義内容に沿った望ましいアンケートになるように適宜指導する。 2. 調査結果の分析・発表も経済学的視点から分析・発表できるように適宜指導する。		
評価方法	平常点（授業への参加度合い等）50%、授業内課題 50%。		
到達目標	1. アンケートを作成することができるようになる。 2. アンケートを実施することができるようになる。 3. 調査結果を分析することができるようになる。 4. 調査結果を発表することができるようになる。		
授業時間外学習	関連するアンケートをインターネット上等で見つけ、独自性のあるアンケートを作る意識をもっておくこと。また、分析モデルに関しても授業中に検討するのではなく、事前に考えておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. Word・Excel・PowerPoint の基本的な操作方法を確認しておくこと。
2. 遅刻や私語を厳禁とする。また、チームでのプロジェクトであるため積極的に取り組み、休まず自分の責任を果たすこと。
3. トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい。

授業スケジュール

1. 中間学習（3）: フィールドワークのための課題設定・アンケート作り
2. 中間学習（4）: フィールドワークのための課題設定・アンケート作り
3. 中間学習（5）: フィールドワークのための課題設定・アンケート作り
4. 中間学習（6）: フィールドワークのための課題設定・アンケート作り
5. 中間学習（7）: アンケート調査
6. 中間学習（8）: アンケート調査
7. 中間学習（9）: アンケート調査
8. 中間学習（10）: アンケート調査
9. 中間学習（11）: アンケート調査
10. 事後学習（1）: 調査結果の整理・分析
11. 事後学習（2）: 調査結果の整理・分析
12. 事後学習（3）: 調査結果の整理・分析
13. 事後学習（4）: 調査結果の整理・分析
14. 事後学習（5）: 調査結果の整理・分析
15. 最終報告会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J80100210
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
授業概要	実践プロジェクトAでは、消費者を騙すために悪用される社会心理学の理論を学び、アンケートを作成しました。実践プロジェクトBでは、アンケートを実施し、現状分析します。そして、消費者を守るためにどのような法律や制度があるのか、それをどのように活用すればよいかを学びます。班ごとにテーマを分担して調べ、報告します。最終的に、調べます。そして、最終的に、そもそも騙されにくい消費者、および、騙されたときの対処法を身に付けた消費者になることを目指します。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	・ロバート・B・チャルディーニ『影響力の武器（第3版）』（誠信書房、2015年） ・西田公昭『騙しの手口』（PHP新書、2009年） ・国民生活センター監修『悪徳商法のすごい手口』（徳間書店、2009年） その他のものは、授業で適宜紹介する。		
教育方法	第1～5回については、講義法とグループワークを中心とする 第6回以降については、グループワークと班ごとの報告を中心とする。		
評価方法	・平常点（グループワークへの取り組み、課題）５０％ ・報告　５０％ ・評価方法の詳細は、最初の講義で説明する。		
到達目標	・悪徳商法などから消費者を守るための法制度について、説明することができる。 ・悪徳商法により不本意な取引をしてしまったときの対処法を説明することができる。 ・実践プロジェクトAでの報告の反省を生かして、準備方法や報告方法を改善することができる。		
授業時間外学習	毎回の授業で指示する課題に取り組むこと。特に第6～12回以降においては、班ごとに連絡を密にとり、担当するテーマについて、協力して調査・分析し、報告の準備を行う。そのほか、計画的にレポートを作成する。 （各回の学習推定時間は1時間）		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・協力して、グループワークに協力して取り組むこと ・自分の文章や報告をより良くする努力を粘り強く行うこと ・自分や身の回りの人のために学んだこと活用すること			
授業スケジュール			
第1部　基本 1　オリエンテーション 2　契約の基本(1)			

3　消費者を守る法制度（1）
4　消費者を守る法制度（2）
5　消費者を守る法制度（3）

第2部　調査・分析・報告の準備
6～10　班ごとに担当するテーマ（アンケートの結果分析・手口の分析・予防策・法制度など）について
調査・分析・報告の準備を行う。進行の目安は以下の通り。
6　調査・分析
7　調査・分析
8　調査・分析
9　報告の準備
10　報告の準備

第3部　集大成としてのアウトプット
11　報告リハーサル
12　報告本番
13　レポート作成
14　レポート作成
15　合同成果報告会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J80100211
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
授業概要	（テーマ）防犯、防災、犯罪被害者支援のボランティアを通じて、いま必要なことは何かを考える。 　まちの安心安全のために、警察や消防が日々活躍しているが、実は、その裏で、防犯、防災、そして犯罪被害者支援などについては、一般のボランティアの人が、同じようにまちの安心安全や被害者のために寄り添い尽力してくれている。この授業では、防犯、防災、犯罪被害者支援について、警察や消防でどのような施策がなされているか知るために、裁判所や警察本部、防災センターなどに見学に行くだけでなく、白書等を通じて、現在の状況を調べる。また、警察官や消防官、ボランティアの方はどのような活動をしているのか、現場の方々に、ヒアリング調査に行く。この授業を通して、受講生は、最終的にプレゼンテーションするために、防災、防犯、犯罪被害者支援の基礎知識を理解し、グループで意見を出しながら報告できるようになる。 実践プロジェクトBでは、防災センター見学、警察、消防署、消防団、防犯ボランティア、犯罪被害者支援センターなどにヒアリング調査に行き、それぞれの現状について理解し、それぞれで必要なことを学生目線で提案する。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	犯罪白書　警察白書　消防白書、犯罪被害者白書など、授業内で適宜紹介する。		
教育方法	講義法とグループワーク、フィールドワークを組み合わせて行う。		
評価方法	ヒアリング調査への取り組み姿勢（事前報告も含めて）　４０％ 防災センター見学　レポート　１０％ 合同成果報告会の報告　５０％		
到達目標	１　防犯ボランティア、消防団、犯罪被害者支援ボランティアの現状について説明できるようになる。 ２　防災センター見学を通して、京都市の防災の取り組みについて、説明できるようになる、 ３　ヒアリング調査を通して、事前準備、アポイトメントの取り方などを身につける。 ４　それぞれのボランティアの具体的な状況を理解した上で、何が必要か、学生目線で提案できるようになる。		
授業時間外学習	第１回　夏休み中に行った防災センターの内容をメモして、報告レポートを作成しておくこと。授業後は、指摘されたところを修正しておくこと。 第２回　第１回で報告内容を提示するので、資料を閲覧し、どの報告テーマを選ぶかどうか調べてくること。 第３回　班で、報告テーマについて話し合いをしてくること。また、テーマが決まったら、その資料を収集し読んで要点をまとめておくこと。 第４回　各班で話し合い、資料のひな型を作成しておくこと。報告の前に、教員がプレゼン資料をチェックするので、指摘されたところは、報告時までに修正しておくこと。 第５回　報告で質問されて答えられなかったところ、不足していると気がついたところを補充しておくこと。 第６回　報告で質問されて答えられなかったところ、不足していると気がついたところを補充しておくこと。 第７回　報告で質問されて答えられなかったところ、不足していると気がついたところを補充しておくこと。 第８回　事前に、電話の仕方、アポイトメントの取り方について調べてくること。 第９回 それぞれの報告に必要なヒアリング先にアポをとっておくこと。また、質問することは、必ずメモをしていき、話を聞いたら、その内容のメモを作成しておくこと。今後の報告に必要となる。 第10回　それぞれの報告に必要なヒアリング先にアポをとっておくこと。また、質問することは、必ずメモをしていき、話を聞いたら、その内容のメモを作成しておくこと。今後の報告に必要となる。 第11回　それぞれの報告に必要なヒアリング先にアポをとっておくこと。また、質問することは、必ずメ		

	モをしていき、話を聞いたら、その内容のメモを作成しておくこと。今後の報告に必要となる。 第 12回　ヒアリング調査に行った内容をまとめ、報告資料を作る。毎回教員が進捗状況を確認し、修正点を言うので、直してくること。 第 13回　ヒアリング調査に行った内容をまとめ、報告資料を作る。毎回教員が進捗状況を確認し、修正点を言うので、直してくること。また、合同成果報告会に向けて 第14回　リハーサルで指摘されたところを修正してくること。 第15回　報告の仕方も重要となるので、声の出し方等も含めて練習してくること。

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

このゼミでは、担当者を決め、調査・報告・討論等を主に行っていくので、積極性のある受講生が望まれる。できれば、法学、刑事法入門等の講義を受講していることが望ましい。遅刻は無断欠席は厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。無断欠席をした場合、面談の結果によっては、単位認定を不可とする。

授業スケジュール

1　夏休み中に防災センターに見学に行き、その報告会
2　秋学期の報告内容の説明（防犯ボランティア、消防団、犯罪被害者支援ボランティアについて）と班分け
3　報告内容の決定と資料の作り方
4　資料作成（レジュメ形式）
5　防犯ボランティアについて自分たちで調べたことを報告（事前報告）
6　消防団について自分たちで調べたことを報告（事前報告）
7　犯罪被害者支援ボランティアについて自分たちで調べたことを報告（事前報告）
8　アポイントメントの取り方、質問メモのチェック
9　それぞれ関連するヒアリング調査に行き資料を作成①（警察、消防署、防犯ボランティア、消防団、犯罪被害者支援センターなど）
10　（同上）
11　（同上）
12　実践プロジェク合同成果報告会のための資料を作成
13　（同上）
14　実践プロジェク合同成果報告会リハーサル
15　実践プロジェク合同成果報告会（予定）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J80100220
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	
授業概要	This class has been designed as pre course before Seminar, and focus on Service Management (If Students duplicate mostly with A, will change the topics). Would use Case Method and Immersion Experience Program (IXP, Field Study) of HBS (Harvard Business School).　More focus on Field Study. To set a goal to present Student's field study (including hearing, analysis, proposal) of any service business which Student themselves select, at the end of courses. Through the whole sessions, Students would be expected to achieve fundamental of management, logical thinking, presentation skills, self management. 当講座は 2 回生へのゼミ形式を取り、特にサービスマネジメントに焦点を当てる　（もし A と受講生が重複多い場合はトピックを変える）。HBS のケースメソッド、IXP プログラムの手法を導入。学生が自ら選んだサービス産業でのフィールドスタディを重視し、そこで観察し分析したものを最終プレゼンテーションする。その過程で経営の基礎、論理的思考、プレゼンテーションスキル、自己マネジメントを習得することができる。		
教材（教科書）	Handout and Case should be distributed at the each session, upon Students' best interest (Past examples, Starbucks, Apple, Google, Ritz Carlton, Seven Eleven, Yoshinoya etc.)　使用ケースは毎回講義前に提示する。		
教材（参考資料）	Competitive Strategy as a Narrative Story/ストーリーとしての競争戦略（楠木建、東洋経済新報社）ISBN978-4-492-55270-6, and others should be suggested at the each session.		
教育方法	Never to excuse your life, Never to be late, Never to cheat/short cut.　All students should be communicated by faculty, one by one. HBS のケースメソッド、IXP のプログラムの手法に依拠して授業は進められ、学生のプレゼンテーションと頻繁な教員とのコミュニケーションを通じて授業は行われる。言い訳を言わない、今からでも遅くない、ごまかさない。 全ての受講生は教官により認識されコミュニケーションが取られる。		
評価方法	50% Class contribution, 35% Final Presentation, 15% Quiz at the each session		
到達目標	学生は経営、戦略策定の基礎を説明できるようになるとともに、コミュニケーション、論理的思考、マナー、基礎的語学、会計知識を身につけることができる。		
授業時間外学習	Quick quiz should be distributed at the each session and Students should submit before the next session. Expected to spend 20-30 minutes each and send by e-mail. 毎回次回の Quiz が提示されるので、学生は次回講義の期限までにメールで提出することとなる（想定毎回 20-30 分活用）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
Be Humble, Be Hungry, Be Innovative			
授業スケジュール			
1．Orientation, What is field study? Introduction of this course and goal setting / オリエンテーション、フィールドスタディの説明、目標設定 2．What is IPX / IPX の説明 3．On Services, What is the best, worst services / サービスの定義 4．Selection of Field Study / フィールドスタディー先の選択、論点整理 5．On Service and Hospitality / Best practice at service and hospitality サービス、ホスピタリティでのケース 6 . On Financials / Fundamental of financials 財務、会計に関しての基礎			

7．Midterm Review, Presentation practice /　中間レビュー、中間プレゼンテーション

8．Case Starbucks / ケース　スターバックス

9．Case Seven Eleven / ケース セブンイレブン

１０．On Innovation, Game Changer, Best practice at innovation / 変革とは？

１１．On Logical thinking, Issue Tree / 論点整理とは、Issue Tree とは？

１２．Open Issue Tree examination 1 / Issue Tree 分析 1

１３．Open Issue Tree examination 2 / Issue Tree 分析 2

１４．Presentation 1 / 発表 1
１５．Presentation 2 / 発表 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J80100221
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	本演習は、京學堂の活動の一環として、京學堂における新規事業の企画を行う。 具体的には、京學堂に関するお客様の声の調査、近隣商業施設の調査等を行い、それらを踏まえて、新規事業のアイデア検討、事業化計画作成を行う。 この演習によって、受講生が新規事業の事業化計画書を作成できることを目的とする。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	演習主体で行う。 教員から提示された課題をグループで検討し、パワーポイントを使って発表する。 また、必要に応じて商業施設等の見学を行う。		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	受講生は事業化計画作成の手順を説明できる。 実際に事業化計画書を作成できる。		
授業時間外学習	毎回の授業終了後、グループ内で次回までの宿題と担当を決め、次回までに各自で調査や資料作成を行う。リサーチの場合はリサーチ結果のまとめと次回リサーチに向けてのリサーチ先の情報収集、アイデア検討の場合はアイデアを考えて資料にまとめる、事業計画書作成の場合は事業計画書案の作成などを行う。(各回の学習推定時間は 60 分)		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
グループ作業に積極的に参加することと、担当となった宿題を必ずやってくること。 実践プロジェクトA、Bは連続して受講することを前提に授業を進めますので、連続して受講することを望みます。			
授業スケジュール			
1.「オリエンテーション」：リサーチから事業化計画作成に向けての手順を説明する 2.「リサーチ①」：リサーチ案を討議し、リサーチのグループ分けを行う 3.「リサーチ②」：グループごとに、リサーチ案に沿って実査を行う 4.「リサーチ③」：グループごとに、リサーチ案に沿って実査を行う 5.「発表」：グループごとにリサーチの成果を報告しあい、新規事業のアイデアを検討する 6.「新規事業のアイデア検討①」：希望するアイデアごとにグループ分けを行い、新規事業のアイデアを具体的に検討する 7.「新規事業のアイデア検討②」：引き続き新規事業のアイデアを具体的に検討する 8.「発表」：グループ間で検討したアイデアを報告しあう 9.「事業化計画作成①」：事業化計画を作成する 10.「事業化計画作成②」：事業化計画を作成する 11.「事業化計画作成③」：事業化計画を作成する 12.「発表」：グループ間で検討した事業化計画を報告しあう 13.「事業化計画作成④」：他グループの意見も参考に事業化計画を修正する 14.「事業化計画作成④」：引き続き事業化計画を修正する 15.「成果報告会」：すべての成果をまとめ、グループ間で報告しあう			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J80100222
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	春学期のショッピングモールに続き、百貨店に焦点を当てて研究します。 ９０年代初めをピークとして百貨店業界は売り上げの激減と低成長を続けています。百貨店は既に過去の業態となってしまったのか、あるいは復活への道があるのでしょうか。 １９世紀末に世界で最初の百貨店と言われるボン・マルシェが開店します。この業態を作ったブシコー夫妻の才覚とアイデアを追いながら、百貨店が消費者に提供している普遍的な価値と、ネット時代の現代に合わなくなっている価値を見分けながら、百貨店の未来の姿を考えていきます。 学生としてはなじみがある人が少ない百貨店ですが、昨年銀座にオープンしたギンザ SIX など、都市のあり方に組み込まれながら展開されている最新の流通業態としての百貨店を知ることになります。 自身の日常的な消費だけでなく、大人の消費、ハレの日の消費など、経済を支える重要なプレーヤーへ視野が拡がり、売り場を見ることが楽しくなります。		
教材（教科書）	鹿島茂『デパートを発明した夫婦』講談社現代新書　¥821		
教材（参考資料）	日本百貨店協会の毎月の統計などの資料を適宜配布します。		
教育方法	（1）基礎知識にとして知っておかねばならないことはミニ講義の形で解説します。 （2）教科書の分担を決めて、担当者は内容を整理した形で発表してもらいます。 （3）発表者以外にコーディネーターを決めて、学生主体で議論を進めてもらいます。 （4）まとめと発表・議論の内容の評価を講師が最後に行います。 （5）内容が一段落した時点で、実際に百貨店を視察に行きます。 （6）視察するポイントを議論した上で視察し、まとめ方もみんなで検討します。 （7）全員の意見を集約して、未来の百貨店のための提言を行います。 （8）第 3 回の授業でビブリオバトルを取り入れます。ここで発表に関する基礎的なスキルを学べるはずです。		
評価方法	（1）担当に当たった際の発表の質とまとめ方の丁寧さ（30%） （2）普段からのディスカッションへの貢献度（30%） （3）視察の成果とレポートへの貢献度（30%）		
到達目標	（1）本を読み、内容を理解し、他人にわかりやすく発表することができるようになること （2）自身は普段から行くことが少ない売り場かもしれませんが、社会全般の消費を知り、自身の「買い物行動」から「一般人の消費行動」という抽象的な思考ができるようになること。 （3）現実を視察した情報を抽象的なレベルに課題として整理しレポートにまとめるという基本作業ができるようになること		
授業時間外学習	１．教科書の輪読は、この講座のテーマを理解するのに重要であるだけでなく、アクティブな知的活動に不可欠なスキルです。 ２．担当で当たった部分だけでなく、毎回該当の部分を必ず熟読し、ディスカッションのための論点を 2 つ以上提示できるよう、準備してきてください。 該当するページは、第 4 回以降 12 回までで、以下のページにあたります。 4.　百貨店登場以前の焦点（第一章 p1-31） 5.　現金仕入れ（第一章 p32-60） 6.　スペクタクル空間の創造（第二章 p61-84） 7.　ターゲット戦略（第二章 p85-98） 8.　顧客の消費教育（第三章 p99-135） 9.　社員への消費教育（第三章 p136-157） 10.　組織（第四章 p159-184） 11.　福利厚生（第四章 p185-212） 12.　利益循環システム（第五章 p213-235） 13 回以降はオリジナルの資料を配布します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
・第 4 回以降は担当を決めて発表してもらい、全体でディスカッションを行いますが、全員が該当箇所をよく読んでディスカッションのポイントを持ち寄る形で授業に臨んでください。 ・発表者は文献の中に出てくるわからないことは調べて、みんなにわかるようにして発表してください。
授業スケジュール
1.　日本の百貨店業界について 2.　第 1 回視察 3.　本の読み方、レジュメのまとめ方、発表のしかた ＜輪読『デパートを発明した夫婦』＞ 4.　百貨店登場以前の焦点（第一章 p1-31） 5.　現金仕入れ（第一章 p32-60） 6.　スペクタクル空間の創造（第二章 p61-84） 7.　ターゲット戦略（第二章 p85-98） 8.　顧客の消費教育（第三章 p99-135） 9.　社員への消費教育（第三章 p136-157） 10.　組織（第四章 p159-184） 11.　福利厚生（第四章 p185-212） 12.　利益循環システム（第五章 p213-235） 13.　第 2 回視察 14.　視察結果のまとめ 15.　日本の百貨店の課題のまとめレポートの作成

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	J80100224
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	本演習は、スポーツビジネスについてフィールドワークを行う。 プロスポーツビジネスの業界研究と経営情報システムを学ぶことにより、スポーツビジネスにおける情報システムの関わりついて知識を深める。 スポーツ業界の基礎的知識とそこで利用される情報システムを学び、実際にフィールドワークで経験し、現状と課題をグループでまとめ、最終的にはレポートとプレゼンテーションにより報告する。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	演習への積極的参加（70%）、発表成果物（30%）		
到達目標	研究するためのリサーチ手順に基づいてデータ収集し、データ分析が実行できる。		
授業時間外学習	Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。 ステークホルダのニーズや欲求に対して迅速に対応するため、必要とする情報収集に日常から努める。 1. シラバスを確認してくる 2. スポーツビジネスの事例①に関する資料を読み、要点をまとめる 3. スポーツビジネスの事例②に関する資料を読み、要点をまとめる 4. スポーツビジネスの事例③に関する資料を読み、要点をまとめる 5. 2-4 回の資料から自分の関心を持った分野について、他の資料を探してくる 6. グループでメッセージングサービスを利用できる環境を作る 7. メッセージングサービスを利用してリサーチテーマを確定してくる 8. プレゼンテーションソフトで発表スライドを作成してくる 9. 現場での基礎知識や基礎テクニックに関する資料を読み、要点をまとめる 10. フィールドワークに関する資料を読み、調査する内容を確認してくる 11. フィールドワークに関する資料を読み、調査する内容を確認してくる 12. プレゼンテーションソフトで発表スライドを作成してくる 13. プレゼンテーションソフトで発表スライドを作成してくる 14. プレゼンテーションソフトで発表スライドを作成してくる 15. プレゼンテーションソフトで発表スライドを作成してくる		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的に参加すること

授業スケジュール

1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2. 業界基礎学習 ：スポーツビジネスにおける情報システムの事例①
3. 業界基礎学習 ：スポーツビジネスにおける情報システムの事例②
4. 業界基礎学習 ：スポーツビジネスにおける情報システムの事例③
5. グループ化：リサーチと成果報告を行うグループを決定する
6. リサーチ①：グループ内でリサーチテーマを検討する
7. リサーチ②：リサーチテーマに沿って仮説を立てる
8. 発表：グループで検討したテーマと仮説を発表する
9. フィールドワーク事前指導：現場、情報システムの基礎知識を学ぶ
10. フィールドワーク：現場と利用している情報システムを体験する

11. フィールドワーク：現場と利用している情報システムを体験する
12. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる
13. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる
14. 成果報告会：グループのプレゼンテーションによる報告
15. 成果報告会：グループのプレゼンテーションによる報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100225
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	ビジネス・プランニング・コンテストに向けてビジネスプランの策定を行う。まずは本学で開催されるビジネス・プランニング・コンテストへの応募を主たる目標とし、＊本学亀岡や太秦キャンパス内の施設や拠点などを活用して（あるいは新たに設けて）実行するプラン、＊本学太秦キャンパスの京學堂を活用したプラン、＊キャンパス外での活動を中心としたプラン、など多様な観点から独創性あふれるプランの策定を目指す。 　この目標の達成に向けて近隣や他大学での調査、または企業の現場での学習に重きを置いている。 　コンテストでの結果はともあれ、この授業を通して受講者は革新やイノベーションの重要性を説明できるようになるとともに、企画書作成の方法や計画の立て方を理解できるようになる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	事前に配布した資料に沿って、Word, Excel, PowerPoint を使いながら、講義法とグループワークとプレゼンテーションを併用する。受講者は、Word, Excel, PowerPoint,を使ってビジネスプランを作成していく。		
評価方法	ビジネスプラン策定に向けての取組姿勢 60%、プランの内容 40%。		
到達目標	受講者は革新やイノベーションの重要性を説明することができる。 受講者はビジネスアイディアを適切にプラン化できる。		
授業時間外学習	毎回、下記の通り、次回までに行うべきことを指示する（各回の推定授業時間外学習は 30 分以上）。 第 1 回目 Word, Excel, PowerPoint の操作を確認しておく。 第 2 回目 配布資料（ビジネスプランの作成の仕方を読み、重要な点をまとめる）。ビジネスアイディアをまとめる。 第 3 回目 ビジネス・プランニング・コンテストの募集要項を読み、重要な点をまとめる。ビジネスプランを作成する。 第 4 回目 アィディアとプランの違いを理解しながらビジネスプランを作成する。 第 5 回目 ビジネスプランを作成する。友人に見せ、評価を求める。 第 6 回目 ビジネスプランを完成し、応募する。 第 7 回目 配布資料（プレゼンの仕方を読み、重要な点をまとめる。） 第 8 回目 プレゼンの練習を行う。 第 9 回目 ビジネス・プランニング・コンテストへの参加報告書をまとめる。 第 10 回目 ビジネスプランの修正を行う。 第 11 回目 配布資料（エントリーシートとは何かを読む） 第 12 回目 配布資料（大学時代に打ち込んだことの例文集を読み、重要な点をまとめる。） 第 13 回目 配布資料（自己 PR の例文集を読む、重要な点をまとめる。） 第 14 回目 ビジネス・プランニング・コンテストへの参加経験を使って自己 PR または大学時代に打ち込んだことを書く。 第 15 回目 上記の修正を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外において、ニーズ調査や企業内実習などが行われることもある(交通費等受講者負担)。
＊ビジネス・プランニング・コンテストに関心を有する者の受講が望ましい。
＊学外での活動を含むことから全員そのための保険に加入していただく。

授業スケジュール

1. はじめに（本プロジェクトの概要）。Word, Excel, PowerPoint の操作確認。
2. ビジネスプランを策定する上での基礎学習。
3. まずはアイディアからはじめよう。

4.　5W1H や損益を意識しつつ、アィディアからプランに仕立てよう。
5. ビジネスプランを作成しよう。
6. ビジネスプランを完成させよう。
7. コンテストを意識しよう。売りが何かを吟味しよう。
8. プレゼンの仕方を考えよう。
9. コンテストへの参加。
10. コンテストの結果を自分なりに分析しよう。
11. コンテストの参加経験をどのように生かすか？
12. DVD『就職活動のすべて…文章でどうプレゼンするか?…』を視聴して考えよう。
13. 大学時代に打ち込んだことを作成してみよう。書いたものを友人に見てもらおう。
14. 自己 PR を作成してみよう。書いたものを友人に見てもらおう。
15. 修正と提出。来期について。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100227
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	実際の企業が利益を獲得する様子をマネジメント･ゲーム（MG）によって仮想体験すると同時に利益計算の仕組みを学ぶ。実践プロジェクトBではゲームのルールの難易度を上げて、より現実に近い設定にする。原価計算や財務諸表の作成過程は実践プロジェクトAと同様である。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	1期のゲーム時間は約50分です。その後、棚卸と原価計算を行います。		
評価方法	講義への取組姿勢(60%)。レポートおよび発表(40%)。		
到達目標	①　メーカーの利益獲得プロセスを説明できる。 ②　企業活動がいかに財務諸表に反映されるか説明できる。 ③　損益分岐点について説明できる。		
授業時間外学習	毎回、授業の最後に次回の内容を紹介し、準備すべきことを指示する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講者は必ず大きめの電卓を用意しておくこと。
通常の講義に加えて、土曜日に1回、集中講義を実施する予定である。

授業スケジュール

1 入門編と上級編のルールの違い
2 原価計算と財務諸表の作成方法
3 事業計画の立案
4 実践練習(1)：ゲーム編
5 実践練習(2)：原価計算編
6 MG 上級編第1期：ゲーム
7 MG 上級編第1期：原価計算
8 MG 上級編第2期：ゲーム
9 MG 上級編第2期：原価計算
10 損益分岐点と直接原価計算による利益計算のしくみ
11 経営方針と利益計画の立案
12 MG 上級編第3期：ゲーム
13 MG 上級編第3期：原価計算
14 仮想株主総会
15 総括：ゲームを通して何を学んだか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J80100228
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
授業概要	わが国の会社企業についてケーススタディを行う。企業研究の基礎的手法を習得して経営学についての理解を深める。 まず会社史についての基礎的知識を習得し、本学亀岡図書館に所蔵する多数の会社史を利用して、会社の創業－発展－成熟の過程をレポートにまとめる。続いて、外国資本に次々買収されている電機業、EV 化の嵐が吹き荒れる自動車業などいくつかの業界を選び、グループワークにより業界企業調査を実施する。		
教材（教科書）	プリント教材を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて指示する。		
教育方法	先ず概要を講義し、その後個人研究とそれに続いて共同研究で進める。		
評価方法	積極的な参加(50%)、発表成果物(50%)。		
到達目標	調査の具体的計画を立て、グループ研究・討議に参加する。		
授業時間外学習	各自最終報告に向けて全力を注いでもらいたい。 具体的には、各自の研究の進捗状況を報告し、会社研究では各自で研究報告を行い、そして業界研究ではグループでまとめて研究報告を行う。発表時にはレジュメ又はパワーポイントの作成を求める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

各時間ごとの課題を着実に完了し、共同研究では全体構想について議論し、その後分担研究、そして討議と執筆を重ねて全体研究の完成に努める。

授業スケジュール

1　オリエンテーション：目標と進め方、評価の方法を説明する。
2　会社史の解説。その刊行状況。
3　企業研究の手法と事例紹介。
4　会社史研究の基礎的作業①
5　会社史研究の基礎的作業②
6　会社史研究①
7　会社史研究②
8　会社史研究の報告①
9　会社史研究の報告②
10　会社史から見る業界研究
11　業界研究①
12　業界研究②
13　研究成果の報告①
14　研究成果の報告②
15　研究成果の報告③

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100230
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	本演習は、ビジネス・プランを作成することを目標にし、事業計画の立て方と、それを効果的に伝える方法を学ぶ。 受講生は、ビジネス・プランニング・コンテストにプランを提出するために、①事業計画の立て方を学ぶ、②グループごとにプランを作成する、③グループの成果をプレゼンテーションすることにより効果的な伝え方を学ぶことができる。		
教材（教科書）	適宜指示する。		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	グループワークを中心に行う。		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）。		
到達目標	企画書の作成ができる。 プレゼンテーション能力を高めることができる。		
授業時間外学習	各回の学習推定時間は 45 分。 第 1 回　ビジネスプランの作成方法に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 2 回　ビジネスプランの作成方法に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 3 回　ビジネスプランの作成方法に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 4 回　ビジネスプランの作成方法に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 5 回　ビジネスプランの作成方法に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 6 回　決定したビジネス・プランンに関する資料を読み、要点をまとめる 第 7 回　決定したビジネス・プランンに関する資料を読み、要点をまとめる 第 8 回　決定したビジネス・プランンに関する資料を読み、要点をまとめる 第 9 回　決定したビジネス・プランンに関する資料を読み、要点をまとめる 第 10 回　ビジネス・プランの発表用資料を作成する 第 11 回　ビジネス・プランの発表用資料を作成する 第 12 回　ビジネス・プランの質問に対する回答を作成する 第 13 回　ビジネス・プランの質問に対する回答を作成する 第 14 回　決定したビジネス・プランンに関する資料を読み、要点をまとめる 第 15 回　他のグループのビジネス・プランの報告に対するコメントを作成する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.受講生は経営企画者になりきり、いかにしてビジネスで成果を上げるのかを真剣に考えること。
2.グループで成果をパワーポイントにまとめるため、パソコン作業に習熟すること。

授業スケジュール

1. オリエンテーション（授業の目標と進め方）
2. ビジネス・プラン作成の基礎（ビジネス・プランの基礎を学ぶ）
3. グループ化（調査と成果報告を行うグループを決定する）
4. テーマ決定①（グループ内でテーマにするビジネスを討議する）
5. テーマ決定②（グループ内でテーマにするビジネスを決定する）
6. リサーチ①（決定したテーマに沿ったリサーチ案を討議する）
7. リサーチ②（リサーチ案に沿って実査を行う）
8. ビジネス・プラン作成①（ビジネス・プランを作成する）
9. ビジネス・プラン作成②（ビジネス・プランを作成する）
10. リハーサル（グループ間でまとめた成果を報告しあう）
11. 質問事項の確認（各グループに対する質問をグループ内で整理する）

12. 質問事項の対応策の検討（質問についてグループ内で討議する）
13. 質問事項に対する回答（質問に対する回答をする）
14. ビジネス・プラン作成③（ビジネス・プランを手直しする）
15. 成果報告会（すべての成果をまとめ、グループ間で報告しあう）

授業の進度に応じて順序が入れ替わったり、変更したりすることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	J80100231
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
授業概要	本演習は、スポーツビジネスについてフィールドワークを行う。プロスポーツビジネスの業界研究と経営学を学ぶことにより、スポーツビジネスについて知識を深める。 スポーツビジネス業界の基礎的知識を身につけ、実際にフィールドワークで経験し、現状と課題をグループでまとめ、最終的にはレポートとプレゼンテーションにより報告する。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、発表成果物（50%）		
到達目標	①研究するためのリサーチ手順など、基礎知識を養える。 ②グループによる事前準備から報告までの中で、コミュニケーション力を養える。		
授業時間外学習	毎回の講義終了時に、次回の範囲や課題を指定するので、予習・復習しておくこと。また、Word, Excel, PowerPoint がある程度使えるようにしておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
演習への積極的参加する。日頃からスポーツビジネスに興味を持ちアンテナを張る。			
授業スケジュール			
1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する 2. 業界基礎学習 ：スポーツビジネスの事例① 3. 業界基礎学習 ：スポーツビジネスの事例② 4. 業界基礎学習 ：スポーツビジネスの事例③ 5. グループ化：リサーチと成果報告を行うグループを決定する 6. リサーチ①：グループ内でリサーチテーマを検討する 7. リサーチ②：リサーチテーマに沿って仮説を立てる 8. 発表：グループで検討したテーマと仮説を発表する 9. フィールドワーク事前指導：現場での基礎知識や基礎テクニックを学ぶ 10. フィールドワーク：スポーツビジネスの現場を体験する 11. フィールドワーク：スポーツビジネスの現場を体験する 12. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる 13. レポート・プレゼンの準備：フィールドワークの実体験をまとめる 14. 成果報告会：グループのプレゼンテーションに報告 15. 成果報告会：グループのプレゼンテーションに報告			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J80100234
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	この授業では、「会社研究」と「株式投資」をやってもらうことにします。 「会社研究」は、数多くある会社の中から、情報を集め、自分なりに分析して、選択するというプロセスです。就活では、どの会社に「自分の人生」を託するかを決めるために、欠かせない取組になります。株式投資では、「自分のお金」を託することができる会社かどうか、これを決めることがポイントです。 会社とは何か、活き活きと捉えていきたいと思います。そのために何をどう調べていけばよいか、いろんな角度から考えていきます。そして、考えるだけではなく、その成果を、「株式投資」という場面で使っていきたいと思います。東京証券取引者が提供している『株式学習ゲーム』に参加します。３～４人のチームに分かれ、仮想所持金（1,000 万円）をもとに、東京証券取引所市場第一部の銘柄のうち 300 銘柄を中心に、どの銘柄を売買するのか議論しながら、実際の株価（終値）に基づいて株式の模擬売買を行います。 こうして、学生は、「会社研究」を学び、そして、その成果を就活にも活かすことができるようになります。		
教材（教科書）	『大学生のための証券市場と株式会社の基礎知識』（東京証券取引所提供教材）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	①　テキストの理解のため、東京証券取引所提供のビデオ教材等を視聴する。 なお、ビデオに取り上げられていない箇所は、担当者が講義する。 ②　①に基づき、株式投資を前提に、各企業のウェブサイトを見て企業研究を行う。 ③　②の内容をゼミ内で発表し、出席者間で意見交換を行いながら、企業の見方を学ぶ。		
評価方法	会社(基本情報)の研究報告・会社(活動)の研究報告のプレゼンテーション　50％ プレゼンテーションを聞いて、これに対する質問・意見など発言回数　10％ レポート　40％		
到達目標	・学生は、「会社研究」の方法を習得する。 ・学生は、この成果により、「株式投資」「インターンシップ」にチャレンジする。		
授業時間外学習	期間を通して、３～４回以上、次の作業を行う。 ・投資対象の会社を選定する。 ・投資対象として選定した会社について、会社四季報・会社のウェブサイトのＩＲ情報に基づき　会社(基本情報)、会社(活動)を調べる。 ・調べた内容を、発表を前提に読み込み、情報を整理する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
会社(基本情報)の研究、会社(活動)の研究は、教室では行わない。各チームで行い、教室ではその成果を発表する場とする。教室外での学習が他の科目よりも多くなることには覚悟しておいてほしい。			
授業スケジュール			
1.基本ガイダンス、チーム編成 2.株式の仕組みや機能をしる(実践ガイダンス(1)) 3.会社(基本情報)の研究報告(1) 4.　同　(2) 5.　同　(3) 6.　同　(4)			

7. 同 (5)
8.日経新聞から会社の動きを知る(実践ガイダンス(2))
9.会社(活動)の研究報告(1)
10. 同 (2)
11. 同 (3)
12. 同 (4)
13. 同 (5)
14.株式投資・成果報告
15.まとめ 明らかにされたこと
表彰式(投資成果が上がったチームの表彰)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J80100235
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	企業の経営を支える資源の一つが「ヒト（＝人材)」である。ヒトのマネジメントは企業活動において極めて重要な行為であり、企業の持続的成長において欠かせないものである。人材マネジメントに関わる制度・ルールのみならず、「働く人がいかに動機づけられるか」「働く人の心理的状態が仕事にどのような影響を与えるのか」などの実践的な視野・知識を身に着けることも重要である。 そこで、本演習では、資料やデータを通して、企業が行う人材マネジメントに関する情報（成功例、先進的な事例、など）を収集し、人材マネジメントに関する基礎知識習得や実践例の観察を行う。また、個人での成果創出のみならず、グループでの成果創出や発表なども行う。		
教材（教科書）	特に指定しない。適宜指示します。		
教材（参考資料）	スティーブン.P.ロビンス（著)・髙木晴夫（訳)『【新版】組織行動のマネジメント―入門から実践へ』ダイヤモンド社、2009 年 今野浩一郎『人事管理入門』（日経文庫)、2008 年		
教育方法	本授業は、講義、グループワークと学生（個人）の発表によって構成される。		
評価方法	演習への積極的参加（50%)、小課題の評価（20%)、発表及びレポート評価（30%） ・欠席は減点します（出席は当然ですので加点しません)。特に、無断欠席や報告放棄は“大幅な”減点とします。 ・グループワークでのタダ乗りやディスカッションでの無発言・居眠りも減点対象です。 ・成果物の締切は厳守すること。 ・講義時間中のスマホ操作や過度な居眠りは“大幅な”減点対象とします。		
到達目標	・自分たちの手で、書籍・雑誌、新聞やデータベースから必要な情報・資料を収集できる。 ・自ら疑問を設定して、その疑問への解答を導き出す。		
授業時間外学習	・Word 及び PowerPoint の基礎的な使用方法を習得しておくこと。 ・「次回までに行うべきこと」が指示された場合は、しっかりと準備すること。 ・個人リサーチやグループワークが授業時間内で終わらなかった場合は、授業時間外にそれらに取り組み、締切や報告日を厳守すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・グループワークをはじめ授業に積極的に参加すること。
・レポート（Word）や報告スライド（PowerPoint）などの資料を保存する媒体として USB を各自用意すること（4GB 程度で問題ありません)。

授業スケジュール

第 1 回　オリエンテーション:　本授業の説明（授業の目的・進め方）
第 2 回　リサーチ①:　企業の人材マネジメントについて情報・事例を集める、その事例に関するディスカッション
第 3 回　リサーチ②:　企業の人材マネジメントについて情報・事例を集める、その事例に関するディスカッション
第 4 回　リサーチ③:　企業の人材マネジメントについて情報・事例を集める、その事例に関するディスカッション
第 5 回　発表①:パワーポイントを使用した報告
第 6 回　発表②:パワーポイントを使用した報告
第 7 回　発表③:パワーポイントを使用した報告
第 8 回　グループワーク①：グループワークの企画、企業の人材マネジメントについて情報・事例を集める
第 9 回　グループワーク②:企業の人材マネジメントについて事例を集める、その事例に関するディスカッション
第 10 回 グループワーク③:企業の人材マネジメントについて事例を集める、その事例に関するディスカッション
第 11 回 発表④:パワーポイントを使用した報告、グループ間でのディスカッション
第 12 回 リサーチ④: 企業の人材マネジメントについて情報・事例を集める
第 13 回 リサーチ⑤: 企業の人材マネジメントについて情報・事例を集める

第 14 回 発表⑤:文書を使用した報告 第 15 回 発表⑥:文書を使用した報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J80100236
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	本演習は、A に引き続きコンテストに応募することを目指し、ビジネス・プランの作成方法を習得し、論理的思考力をさらに伸ばすことを目的としている。 まずビジネス・プランの作成方法に関するテキストを一緒に読み、ビジネス・プランを作成する基礎を習得する。 各自の興味あるビジネスの種を日常生活の中で探してもらい、それについて習った方法で検討する。必要に応じて、社会調査を行い、ビジネスの実現可能性をさらに検証する。 ディスカッションと実地調査を繰り返し行いながら、コンテストに目指してビジネス・プランを作成する。		
教材（教科書）	『マンガでやさしくわかる事業計画書』		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	事前に与えられた資料を予習したうえ、レポートを作成し、講義中ディスカッションを通じて理解を深める。適宜質問とコメントを行い、重要なポイントを説明する。		
評価方法	演習への積極的参加（60%）、発表等成果物の質（40%）		
到達目標	ディスカッション能力、資料作成能力、プレゼンテーション能力を高め、論理的物事を考える能力を養い、最終的にビジネスプランを作成できるようになる。		
授業時間外学習	※Word, Excel, PowerPoint, インターネットの利用方法を事前に勉強しておく。 ※指示された課題に基づき、期限内に予習とレポートを完成する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

※学外の活動も予定しているので、通常授業時間外の参加や、保険の加入、交通費が必要な場合もあります。
※ビジネスプランニングコンテストに関心のある方の受講が望ましい。
※授業に積極的に参加し、主体的な勉強を通じて多様な能力を身に付けてください。

授業スケジュール

1. オリエンテーション（本プロジェクトの概要を説明し、次回の勉強内容や、それまでの課題を指示する）
2. 教科書・参考書に基づいてビジネス・プランの基礎を学習し、ディスカッション、質疑応答
3. 教科書・参考書に基づいてビジネス・プランの基礎を学習し、ディスカッション、質疑応答
4. 教科書・参考書に基づいてビジネス・プランの基礎を学習し、ディスカッション、質疑応答
5. 教科書・参考書に基づいてビジネス・プランの基礎を学習し、ディスカッション、質疑応答
6. 各自のビジネス・アイディアについて事前作成したレポートに基づき、発表、ディスカッション
7. 各自のビジネス・アイディアについて事前作成したレポートに基づき、発表、ディスカッション
8. 絞ったテーマについて社会調査を行う。
9. 調査結果について発表、ディスカッション
10. 必要に応じて発表、ディスカッション or 実地調査
11. 必要に応じて発表、ディスカッション or 実地調査
12. 必要に応じて発表、ディスカッション or 実地調査
13. ビジネス・プラン作成
14. ビジネス・プラン作成
15. 発表・ディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J80100237
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	川﨑　雄二郎	旧科目名称	
授業概要	１つの財・サービスにスポットを当て、その市場における消費者と企業（産業）と規制を行う政府の関わりあいを調査し、価格や取引量、資源配分の効率性・公平性などをはじめとする市場の実態とその決定要因について学ぶ。この期間では、春学期から夏休みにかけて実施した調査の内容をまとめ、プレゼンテーションを行う。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	伊藤元重（2003）『ミクロ経済学 第２版』日本評論社　3,240 円　ISBN-13: 978-4535552616 柳川隆・町野和夫・吉野一郎（2015）『ミクロ経済学・入門―ビジネスと政策を読みとく 新版』有斐閣　2,268 円　ISBN-13: 978-4641220478		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	報告の内容（30%）、報告準備のプロセス（30%）、授業における発言・積極性（40%）などを評価基準とする。		
到達目標	１．市場の調査を通して理論と現実のつながりを体感し、経済学を現実の例に応用する意識と力を身につける。 ２．グループワーク、プレゼンによる報告発表を通して、協働する能力や論理的に思考し説明する能力を身につける。		
授業時間外学習	授業時間にある程度の時間は確保するが、①調査内容の整理、②報告発表の準備（レジュメ、プレゼン資料作成など）といった作業は、授業時間外にも自主的に行ってもらいたい。講義のスケジュールに遅れることがないよう、ゆとりをもって作業にあたってほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義の遂行上、協調性をもって講義やグループに貢献する意欲を持っていることが最低条件である。 またこの講義では、「読む・書く力」、「聞く・話す力」を磨くことも重点の一つととらえ、グループワーク、報告発表などといった機会を設けている。これらの活動内容に対してやる気がない、あるいは「読む・書く力」、「聞く・話す力」を身につけるつもりがない学生は、この講義に向かない。			
授業スケジュール			
１．ガイダンス：講義の進め方 ２．ヒヤリング調査内容の報告① ３．ヒヤリング調査内容の報告② ４．調査内容の整理① ５．調査内容の整理② ６．調査内容の整理③ ７．報告発表のプラン説明① ８．報告発表のプラン説明② ９．報告発表の準備① １０．報告発表の準備② １１．報告発表の準備③ １２．調査内容の報告発表① １３．調査内容の報告発表② １４．調査内容の報告発表③ １５．最終報告会（実践プロジェクト B の他クラスとの合同報告会）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	−	−	−	★

年度	2018	授業コード	J80100238
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	本プロジェクトでは、キャリア実践としてのケーススタディ、フィールドワーク、ビジネスコンテスト、実験ショップ、地域連携事業等から具体的なテーマを設定し、体験学習を行う。具体的には、京都近郊の非営利事業あるいはコミュニティビジネス関係事業者と連携し、キャリア実践を試み、研究成果をまとめる。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	必要な文献等は適宜支持する。		
教育方法	必要に応じて資料等を配布しながら、講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	フィールドワークを通じて得た学習成果の発表（50%）とレポート（50%）		
到達目標	論理的思考力の向上を図るとともに、フィールドワーク先の業務内容・財務関係についても一定の理解ができる。		
授業時間外学習	フィールドワーク先の情報を予め収集しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

分からないことはすぐに確認すること。

授業スケジュール

第１回　総合説明
第２回：事前学習（学内でのオリエンテーション、課題設定等）→フィールドワーク③の実施
第３回：事前学習（学内でのオリエンテーション、課題設定等）→フィールドワーク③の実施
第４回：事前学習（学内でのオリエンテーション、課題設定等）→フィールドワーク③の実施
第５回：事前学習（学内でのオリエンテーション、課題設定等）→フィールドワーク③の実施
第６回：中間学習（フィールドワーク③の結果の整理、課題再設定等）→フィールドワーク④の実施
第７回：中間学習（フィールドワーク③の結果の整理、課題再設定等）→フィールドワーク④の実施
第８回：中間学習（フィールドワーク③の結果の整理、課題再設定等）→フィールドワーク④の実施
第９回：中間学習（フィールドワーク③の結果の整理、課題再設定等）→フィールドワーク④の実施
第１０回：中間学習（フィールドワーク③の結果の整理、課題再設定等）→フィールドワーク④の実施
第１１回：中間学習（フィールドワーク③の結果の整理、課題再設定等）→フィールドワーク④の実施
第１２回：事後学習（フィールドワーク結果の集約、整理等）
第１３回：事後学習（フィールドワーク結果の集約、整理等）
第１４回：事後学習（フィールドワーク結果の集約、整理等）
第１５回　最終報告会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J80100239
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	移民は現在、アメリカや EU 諸国において社会問題化しており、急速に少子高齢化が進んでいる日本においても重要な政策課題の一つである。この実践プロジェクトでは、人々が移民に対してどのような関心や懸念を持っているかについてアンケートを通じて調査することを目的とする。実践プロジェクト B では、実践プロジェクト A に引き続きアンケートを作成したのちに調査を実施し、最終報告会に向けて結果の集約・整理および分析を行う。		
教材（教科書）	なし。必要があれば適宜プリントを配布します。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	平常点評価（50%） 授業内課題（50%）		
到達目標	1．移民がもたらす様々な影響について理解できる 2．アンケート調査を設計・実施し、その結果を分析する力を身につけることができる		
授業時間外学習	プリントを配布した場合には、指定箇所を事前に精読しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．移民問題に関心を持ち、新聞やインターネット記事に普段から目を通しておくこと。
2．前半科目「実践プロジェクト A」と連続して履修することが望ましい。
3．Excel と Word が基本的に使える程度のコンピュータのスキルが前提となります。

授業スケジュール

1. ガイダンス
2. 中間学習(8)：アンケートの作成
3. 中間学習(9)：同上
4. 中間学習(10)：アンケート調査
5. 中間学習(11)：同上
6. 中間学習(12)：同上
7. 中間学習(13)：同上
8. 中間学習(14)：同上
9. 中間学習(15)：同上
10. 事後学習(1)：アンケート結果の集約・整理
11. 事後学習(2)：アンケート結果の分析
12. 事後学習(3)：同上
13. 事後学習(4)：報告書の作成
14. 事後学習(5)：同上
15. 最終報告会

※登録する受講生の人数や理解度に応じて、進度やトピックは変更になる場合があります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★★

年度	2018	授業コード	J80100240
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	池田　晃彦	旧科目名称	
授業概要	かつて、日本の金融機関はさまざまな規制の下にあったが、規制緩和・国際化およびIT化を背景に大きく変化してきた。一方で、日本の金融取引にはなお海外と比較して変化の遅い側面もある。そこで、実践プロジェクトBでは、春学期の学習や聞き取り調査をふまえ、金融サービス利用者である家計に対するアンケート調査を行い、日本の金融取引の変化の可能性について探求する。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	・?本経済新聞社編『?融?? 第2版』?経?庫、2016年。 ・柏木亮二『フィンテック』日経文庫、2016年。 ・その他適宜指定する。		
教育方法	講義法、学生の発表、およびグループワークを組み合わせて授業を行う。		
評価方法	平常点（議論・調査への積極性）50%、授業内課題 50%		
到達目標	・近年の金融の新たな仕組みと、マクロ経済に対する影響について議論することができる。 ・日本の金融面での変化の特性について理解し、聞き取り調査・アンケート調査の方法について議論することができる。		
授業時間外学習	・配布資料および授業中に紹介する参考文献の該当箇所を精読する。 ・各?の担当部分について、調査および発表準備を?う。 ・統計学・計量経済学に関する学習を並行して行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

無断欠席や遅刻を厳禁する。

授業スケジュール

1. 事前学習１：ガイダンスおよび春学期の結果の再検討
2. 事前学習２：調査内容の検討
3. 事前学習３：調査内容の検討
4. 事前学習４：調査内容の検討
5. 事前学習５：調査内容の検討
6. 中間学習１：分析手法の学習
7. 中間学習２：分析手法の学習
8. 中間学習３：調査準備（質問票等の作成）
9. 中間学習４：調査準備（質問票等の作成）
10. 中間学習５：調査準備（質問票等の作成）

アンケート調査の実施

11. 事後学習：調査結果の集約・整理・報告
12. 事後学習：調査結果の集約・整理・報告
13. 事後学習：調査結果の集約・整理・報告
14. 事後学習：調査結果の集約・整理・報告
15. 最終報告会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J80100251
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	この授業では、歴史都市京都において展開したさまざまな時代の歴史に関係する実際の現場を訪れ、歴史を体感します。その際、たんに現地を訪れるだけではなく、古文書や絵巻物など、通常ではみられないような史料も観覧します。また受講生にはそれぞれの担当箇所に関して、事前に下調べをして、数回の発表を経て、レジュメを作成して、現地で発表をしてもらいます。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	『京都市の地名』（日本歴史地名大系 27、平凡社） 『京都府 上・下巻』（角川日本地名大辞典 26‐〔1・2〕」（角川書店） 『慶長昭和京都地図集成 1611（慶長 16）年～1940(昭和 15)年』（柏書房） 『京都・山城寺院神社大事典』（平凡社） 『新修京都叢書』全 25 巻（臨川書店） 『新撰京都叢書』全 12 巻（臨川書店）		
教育方法	学生による発表、及び、実際の現地見学を行う授業です。		
評価方法	現地での発表・作成したレジュメ（80%） 授業への参加度（20%）		
到達目標	京都の歴史文化への知識を身につけること。 京都の歴史文化の調べ方、関係図書について熟知すること。		
授業時間外学習	各自、２、３週間に１回、担当が回ってくる発表の準備を入念にして、レジュメを作成してください。発表内容は以下の通りです。 １回目：担当箇所の地名辞典、国史大辞典の基本情報、基本文献の発表 ２回目：担当箇所の文献調査の発表 ３回目：担当箇所の史料に関する発表 ４回目：現地での発表 ５回目：最終調査報告		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この授業は、教員が引率する観光旅行ではありません。みなさん自身が見学先について、事前調査を行い、深い知識を身につけ、それを他の人に説明することが求められます。また現地で実際に歴史の現場をみることで、初めてわかることもあると思います。また現地には土曜に訪れることもあるので、ガイダンスで発表する予定を確認の上、各自、スケジュール調整をしてください。

授業スケジュール

１回目　　ガイダンス
２回目　　全班１回目の報告
３回目　　嵐山班・東山班の報告（２回目）
４回目　　北野天満宮班・京都大学総合博物館班の報告（２回目）
５回目　　嵐山班・東山班の報告（３回目）
６・７回目　嵐山巡見
８・９回目　東山巡見
10 回目　　北野天満宮班・京都大学総合博物館班の報告（３回目）
11・12 回目　北野天満宮の巡見
13・14 回目　京都大学総合博物館の巡見
15 回目　　巡見結果の報告
※巡見箇所は、変更する可能性もある

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100252
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	本授業は、実践プロジェクト（民俗学）を通じてフィールドワークの技法について学ぶとともに、民俗事象について理解を深めようとするものです。 したがって実践プロジェクト（民俗学）の授業は、民俗学のフィールドワークを中心に行うことになります。フィールドワークは民俗学という学問の根幹にあるもので、民俗学を学ぶ者が宝物のように大切にしているものです。単なる現地見学ではありません。 フィールドワークの前には、その準備として講義形式の授業があります。概ね一回のフィールドワークにつき一回の講義が行われます。 実践プロジェクト（民俗学）の授業は、佐々木、堀田、手塚の三人の教員が共同で担当します。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	フィールドワークおよび資料整理への貢献度、成果発表会の成果などを総合的に評価する。		
到達目標	フィールドワークを計画、実施し、その資料を整理した上で、研究成果を発表できるようになること。		
授業時間外学習	フィールドワークに行く前に教員は準備課題を出します。課された課題は済ませた状態で、フィールドワークに臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

フィールドワークに関係する授業ですので、原則、全回出席を求めます。　フィールドワークは学外に出ますので、半日もしくは一日がかりとなります。また交通費などがかかります。

授業スケジュール

秋学期に計画しているフィールドワークは以下の通りです。フィールドワークですので、天候や相手先の都合などにより、計画を変更することがあります。

夏合宿
フィールドワーク１　　筏復活プロジェクト（いかだにのってみよう）
フィールドワーク２　祭礼調査（亀岡市）
フィールドワーク３　筏復活プロジェクト（伝統的筏の復活）
フィールドワーク４　祭礼調査（奈良市、京都府相楽郡）
フィールドワーク５　テーマを持ってフィールドワークをする（京都市、京都府）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J80100253
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	祇園祭の成り立ちや京都の暮らし、京町家について研究し体験することを通じて、京都の文化の特性を考察する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	適宜、授業で提示する。		
教育方法	−		
評価方法	参加型の授業なので、毎回の内容への積極的参加度によって評価する。		
到達目標	京都の伝統的な祭りや京町家での暮らしについて理解し、京都文化について考察すること		
授業時間外学習	特になし		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業は原則として、水曜日１時間目に行う。キャンパス移動や二時間続きの内容があるため、2 時間目の授業登録はしないことが望ましい。
また、学外の地域の方等と交流する機会があるので、京都学園大学生としての自覚を持ち、模範となるように行動すること。

授業スケジュール

講義内容と実施場所は、下記のとおりである。
京都太秦キャンパス以外の場所で行うことがあるので、注意すること。
また、二時間続きの授業をおこなうことがあるので、注意すること。
なお、日程は訪問先の都合等により変更となることがある。

1 授業の概要 京都太秦キャンパス
2.3 しつらえ替え　秋　二時間続き 京町家
4 京町家ご近所見学　京町家
5 京町家ご近所のポスターセッション　京町家
6.7 茶道資料館　（二時間続き） フィールドワーク
8 茶道のポスターセッション　京町家
9.10　六角堂と華道博物館見学、いけばな体験（二時間続き） フィールドワーク
11 華道のポスターセッション 京町家
12 京料理のポスターセッション 京町家
13.14 京料理の学習と試食（二時間続き） 京町家
15　秋学期の振り返り（発表）京町家

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	−	★	−

年度	2018	授業コード	J80100254
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
授業概要	この実践プロジェクトでは、２つの観点から、京都の近代の歴史を考察する。 ・京都の近代化遺産 日本の近代化遺産か?ユネスコの世界遺産に認定されたこともあり、最近注目を集めている。て?は、京都て?はと?のような近代化 遺産か?あるのた?ろうか。この実践フ?ロシ?ェクトて?は、京都の近代化遺産について調へ?、それをフィールト?ワークして、日本の 近代化にと?のような貢献をしたのかを明らかにしたい。そして、そもそも近代化とは何を意味するのか、近代とはと?のような 時代なのかを考えたい。 ・京都の映像文化 Google 等て? “kyoto” て?検索をすれは?、日本文化を象徴する膨大な量の画像を見つけることか?て?きる。YouTube 等て?検索しても京都を舞台にした古い日本映画か?英語の字幕て?世界中て?共有されていることを確認て?きる。注目すへ?きは 1897 年四条河原町の元・立誠小学校て?最初の試写か?おこなわれ「日本映画」か?はし?まった。そして、昭和初期には「日本のハリウット?」と呼は?れる映画産業の中心地となって繁栄することになった。京都は日本の映像文化を語る際に欠くことのて?きない都市なのて?ある。この実践フ?ロシ?ェクトて?は、京都の文化を、映像というカタチに実際に変換することによって、改めて重層的に考えてみる。具体的には、「京都の近代化遺産」のフィールト?ワークにおいて、iPod touch 等て?撮影した写真／動画て?、写真集／ショー トムーヒ?ーの制作を行うことを試みる。		
教材（教科書）	必要に応じてプリント等を配布する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	フィールドワークの報告レポート等で総合的に評価する。		
到達目標	京都の近代化遺産／映像文化を実践的に考察する。		
授業時間外学習	配布するレジュメ等に記載している文献等を、次回以降の予習として、授業後に自分の関心に応じて復習する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主体的に参加することを望む。			
授業スケジュール			
01　オリエンテーション 02　京都の近代化遺産（１） 03　京都の近代化遺産（２） 04　京都の近代化遺産（３） 05　京都の近代化遺産（４） 06　京都の近代化遺産（５） 07　京都の近代化遺産（６） 08　京都の近代化遺産（７） 09　京都の映像文化（１） 10　京都の映像文化（２） 11　京都の映像文化（３） 12　京都の映像文化（４） 13　京都の映像文化（５） 14　京都の映像文化（６）			

15　京都の映像文化（７）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J80100255
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	担当教員は丸田とリッチモンド。秋は主としてリッチモンドが指導する。 京都は言わずと知れた国際観光都市であり、3 年連続で「魅力のある街世界一」に選ばれた。特に外国人の観光客には伏見稲荷をはじめ人気スポットが多い。そうした観光地がなぜ人気なのか、外国人の視線に立って考察する。 「事前調査」→「現地調査」→「観光案内作成」→「観光案内英語版作成」 秋学期は、「観光案内英語版作成」までを行う予定である。		
教材（教科書）	適宜紹介する。		
教材（参考資料）	学生諸君に探してもらう。		
教育方法	講義ならびに野外活動形式。		
評価方法	授業内発表とレポートを総合的に判断する。100%		
到達目標	新しい京都の観光地を外国人にも紹介できるようになる。		
授業時間外学習	京都に関する観光案内に目を通しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講条件　なし 受講ルール　マナーを守り、観光客の模範となるような観光態度を身につける。 学習上の助言　これこそフィールドワークの真髄であると思う。楽しみながら学んでいただきたい。			
授業スケジュール			
１．概要説明 ２．新観光地研究 ３．新観光地の探索 ４．同上 ５．同上 ６．同上 ７．同上 ８．反省会 ９．新観光地研究 １０．同上 １１．新観光地の探索 １２．同上 １３．同上 １４．同上 １５．同上			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100301
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	本講座の目的は，3 回生諸君がこれから始まる就職活動に向けて，少しずつ着実にその準備を進めていくための道筋を示し，かつサポートを行うことにある．具体的には，「自己分析」と「自己 PR 文」という 2 つの課題の達成を目標とする． 前半では，これまでの学生時代の自分や，大学での活動や学びを振り返り，その上で自分の長所や特性についての分析を行う．さらに，分析によって明らかになった点を整理することによって，「自己分析シート」を完成させていく．後半では，前半の自己分析に基づいて自分のウリを明確にし，自分という商品を売り込むための「自己 PR 文」を完成させていく．この「自己 PR 文」は，今後の就職活動において基礎となる重要なもので，企業に提出するエントリーシートや実際の面接の場で活用されるものである． さらに，この講座は，本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる．15 回のうち数回の講座では，マイナビの外部講師による内定獲得ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）．また，完成させた「自己分析シート」や「自己 PR 文」は，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく． なお，民間企業への就職を希望しない学生（進学や公務員志望）にとっても，これらの課題を達成させることで文章作成力や自己表現力が育成され，今後のそれぞれの進路でも役立つことになる．		
教材（教科書）	CAREER HANDBOOK （京都学園大学キャリアサポートセンター）		
教材（参考資料）	『2018 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社		
教育方法	1. 毎回の授業は演習形式で，課題についての書き込み式のシート（あるいはファイル）を配布して，各自が課題を完成させていく． 2. 完成させた課題は、担当教員に提出し、文章についての添削をうける．また、内容についてのアドバイスを受ける場合もある． 3. 完成した課題については、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく．		
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （2） 「自己分析シート」の完成と提出 （3） 「自己 PR 文」2 本の完成と提出 （4） キャリサポでの個人面談 （5） 「内定獲得ガイダンス」①・②の受講		
到達目標	1. 自己分析によって，自分の特性，強み，ウリを明らかにすること． 2. 自分のウリを企業にアピールするための自己 PR ができるようになること． 3. 企業へのエントリーシート作成のための材料を準備すること．		
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回・第 2 回　　教科書 1-9 頁（推定時間 30 分） 第 3 回　　教科書該当頁なし 第 4 回 ～ 第 10 回　教科書 10-17 頁（推定時間 30 分） 第 11 回・第 12 回　教科書 18-21 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　　教科書該当頁なし		

	第 14 回・第 15 回　　教科書 18-21（推定時間 30 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 課題を達成させるため，授業中は集中して取り組み，提出締め切りを守ること．
2. 授業中に課題を達成できなかった場合には，宿題として次回までに達成させること．
3. キャリサポでの個人面談は，できるだけ早く予約をとること．
4. 「内定獲得ガイダンス」を欠席した場合には，キャリサポで，ガイダンスをビデオに撮った DVD を観て，内容についてのレポート（用紙あり）を教員に提出すること．

授業スケジュール

1. スタートガイダンス，「就職登録票」の作成
2. 「就職登録票」の完成と提出
3. 内定獲得ガイダンス①　（マイナビの外部講師による）
4. 「自分探しシート」の作成　（過去の自分を振り返る）
5. 「自分史シート」の作成　（自分の歴史を整理する）
6. 「自分のウリシート」の作成　（自分のセールスポイントを整理する）
7. 「自己分析シート」の作成（1）
8. 「自己分析シート」の作成（2）
9. 「自己分析シート」の作成（3）
10. 「自己分析シート」の完成と提出
11. 「自己 PR 文」の作成（1）
12. 「自己 PR 文」の作成（2）
13. 内定獲得ガイダンス②　（マイナビの外部講師による）
14. 「自己 PR 文」の作成（3）
15. 「自己 PR 文」の完成と提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100302
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
授業概要	本講座の目的は，3 回生諸君がこれから始まる就職活動に向けて，少しずつ着実にその準備を進めていくための道筋を示し，かつサポートを行うことにある．具体的には，「自己分析」と「自己 PR 文」という 2 つの課題の達成を目標とする． 前半では，これまでの学生時代の自分や，大学での活動や学びを振り返り，その上で自分の長所や特性についての分析を行う．さらに，分析によって明らかになった点を整理することによって，「自己分析シート」を完成させていく．後半では，前半の自己分析に基づいて自分のウリを明確にし，自分という商品を売り込むための「自己 PR 文」を完成させていく．この「自己 PR 文」は，今後の就職活動において基礎となる重要なもので，企業に提出するエントリーシートや実際の面接の場で活用されるものである． さらに，この講座は，本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる．15 回のうち数回の講座では，マイナビの外部講師による内定獲得ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）．また，完成させた「自己分析シート」や「自己 PR 文」は，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく． なお，民間企業への就職を希望しない学生（進学や公務員志望）にとっても，これらの課題を達成させることで文章作成力や自己表現力が育成され，今後のそれぞれの進路でも役立つことになる．		
教材（教科書）	CAREER HANDBOOK （京都学園大学キャリアサポートセンター）		
教材（参考資料）	『2018 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社		
教育方法	1. 毎回の授業は演習形式で，課題についての書き込み式のシート（あるいはファイル）を配布して，各自が課題を完成させていく． 2. 完成させた課題は、担当教員に提出し、文章についての添削をうける．また、内容についてのアドバイスを受ける場合もある． 3. 完成した課題については、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく．		
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （2） 「自己分析シート」の完成と提出 （3） 「自己 PR 文」2 本の完成と提出 （4） キャリサポでの個人面談 （5） 「内定獲得ガイダンス」①・②の受講		
到達目標	1. 自己分析によって，自分の特性，強み，ウリを明らかにすること． 2. 自分のウリを企業にアピールするための自己 PR ができるようになること． 3. 企業へのエントリーシート作成のための材料を準備すること．		
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回・第 2 回　　教科書 1-9 頁（推定時間 30 分） 第 3 回　　教科書該当頁なし 第 4 回 ～ 第 10 回　　教科書 10-17 頁（推定時間 30 分） 第 11 回・第 12 回　　教科書 18-21 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　　教科書該当頁なし		

	第 14 回・第 15 回　　教科書 18-21（推定時間 30 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 課題を達成させるため，授業中は集中して取り組み，提出締め切りを守ること．
2. 授業中に課題を達成できなかった場合には，宿題として次回までに達成させること．
3. キャリサポでの個人面談は，できるだけ早く予約をとること．
4. 「内定獲得ガイダンス」を欠席した場合には，キャリサポで，ガイダンスをビデオに撮った DVD を観て，内容についてのレポート（用紙あり）を教員に提出すること．

授業スケジュール

1. スタートガイダンス，「就職登録票」の作成
2. 「就職登録票」の完成と提出
3. 内定獲得ガイダンス①　（マイナビの外部講師による）
4. 「自分探しシート」の作成　（過去の自分を振り返る）
5. 「自分史シート」の作成　（自分の歴史を整理する）
6. 「自分のウリシート」の作成　（自分のセールスポイントを整理する）
7. 「自己分析シート」の作成（1）
8. 「自己分析シート」の作成（2）
9. 「自己分析シート」の作成（3）
10. 「自己分析シート」の完成と提出
11. 「自己 PR 文」の作成（1）
12. 「自己 PR 文」の作成（2）
13. 内定獲得ガイダンス②　（マイナビの外部講師による）
14. 「自己 PR 文」の作成（3）
15. 「自己 PR 文」の完成と提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100303
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	本講座の目的は，3 回生諸君がこれから始まる就職活動に向けて，少しずつ着実にその準備を進めていくための道筋を示し，かつサポートを行うことにある．具体的には，「自己分析」と「自己 PR 文」という 2 つの課題の達成を目標とする． 前半では，これまでの学生時代の自分や，大学での活動や学びを振り返り，その上で自分の長所や特性についての分析を行う．さらに，分析によって明らかになった点を整理することによって，「自己分析シート」を完成させていく．後半では，前半の自己分析に基づいて自分のウリを明確にし，自分という商品を売り込むための「自己 PR 文」を完成させていく．この「自己 PR 文」は，今後の就職活動において基礎となる重要なもので，企業に提出するエントリーシートや実際の面接の場で活用されるものである． さらに，この講座は，本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる．15 回のうち数回の講座では，マイナビの外部講師による内定獲得ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）．また，完成させた「自己分析シート」や「自己 PR 文」は，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく． なお，民間企業への就職を希望しない学生（進学や公務員志望）にとっても，これらの課題を達成させることで文章作成力や自己表現力が育成され，今後のそれぞれの進路でも役立つことになる．		
教材（教科書）	CAREER HANDBOOK （京都学園大学キャリアサポートセンター）		
教材（参考資料）	『2018 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社		
教育方法	1. 毎回の授業は演習形式で，課題についての書き込み式のシート（あるいはファイル）を配布して，各自が課題を完成させていく． 2. 完成させた課題は、担当教員に提出し、文章についての添削をうける．また、内容についてのアドバイスを受ける場合もある． 3. 完成した課題については、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく．		
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （2） 「自己分析シート」の完成と提出 （3） 「自己 PR 文」2 本の完成と提出 （4） キャリサポでの個人面談 （5） 「内定獲得ガイダンス」①・②の受講		
到達目標	1. 自己分析によって，自分の特性，強み，ウリを明らかにすること． 2. 自分のウリを企業にアピールするための自己 PR ができるようになること． 3. 企業へのエントリーシート作成のための材料を準備すること．		
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回・第 2 回　　教科書 1-9 頁（推定時間 30 分） 第 3 回　　教科書該当頁なし 第 4 回 ～ 第 10 回　教科書 10-17 頁（推定時間 30 分） 第 11 回・第 12 回　教科書 18-21 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　　教科書該当頁なし		

	第 14 回・第 15 回　　教科書 18-21（推定時間 30 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 課題を達成させるため，授業中は集中して取り組み，提出締め切りを守ること．
2. 授業中に課題を達成できなかった場合には，宿題として次回までに達成させること．
3. キャリサポでの個人面談は，できるだけ早く予約をとること．
4. 「内定獲得ガイダンス」を欠席した場合には，キャリサポで，ガイダンスをビデオに撮った DVD を観て，内容についてのレポート（用紙あり）を教員に提出すること．

授業スケジュール

1. スタートガイダンス，「就職登録票」の作成
2. 「就職登録票」の完成と提出
3. 内定獲得ガイダンス①　（マイナビの外部講師による）
4. 「自分探しシート」の作成　（過去の自分を振り返る）
5. 「自分史シート」の作成　（自分の歴史を整理する）
6. 「自分のウリシート」の作成　（自分のセールスポイントを整理する）
7. 「自己分析シート」の作成（1）
8. 「自己分析シート」の作成（2）
9. 「自己分析シート」の作成（3）
10. 「自己分析シート」の完成と提出
11. 「自己 PR 文」の作成（1）
12. 「自己 PR 文」の作成（2）
13. 内定獲得ガイダンス②　（マイナビの外部講師による）
14. 「自己 PR 文」の作成（3）
15. 「自己 PR 文」の完成と提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100304
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
授業概要	本講座の目的は，3 回生諸君がこれから始まる就職活動に向けて，少しずつ着実にその準備を進めていくための道筋を示し，かつサポートを行うことにある．具体的には，「自己分析」と「自己 PR 文」という 2 つの課題の達成を目標とする． 前半では，これまでの学生時代の自分や，大学での活動や学びを振り返り，その上で自分の長所や特性についての分析を行う．さらに，分析によって明らかになった点を整理することによって，「自己分析シート」を完成させていく．後半では，前半の自己分析に基づいて自分のウリを明確にし，自分という商品を売り込むための「自己 PR 文」を完成させていく．この「自己 PR 文」は，今後の就職活動において基礎となる重要なもので，企業に提出するエントリーシートや実際の面接の場で活用されるものである． さらに，この講座は，本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる．15 回のうち数回の講座では，マイナビの外部講師による内定獲得ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）．また，完成させた「自己分析シート」や「自己 PR 文」は，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく． なお，民間企業への就職を希望しない学生（進学や公務員志望）にとっても，これらの課題を達成させることで文章作成力や自己表現力が育成され，今後のそれぞれの進路でも役立つことになる．		
教材（教科書）	CAREER HANDBOOK （京都学園大学キャリアサポートセンター）		
教材（参考資料）	『2018 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社		
教育方法	1. 毎回の授業は演習形式で，課題についての書き込み式のシート（あるいはファイル）を配布して，各自が課題を完成させていく． 2. 完成させた課題は、担当教員に提出し、文章についての添削をうける．また、内容についてのアドバイスを受ける場合もある． 3. 完成した課題については、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく．		
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （2） 「自己分析シート」の完成と提出 （3） 「自己 PR 文」2 本の完成と提出 （4） キャリサポでの個人面談 （5） 「内定獲得ガイダンス」①・②の受講		
到達目標	1. 自己分析によって，自分の特性，強み，ウリを明らかにすること． 2. 自分のウリを企業にアピールするための自己 PR ができるようになること． 3. 企業へのエントリーシート作成のための材料を準備すること．		
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回・第 2 回　　教科書 1-9 頁（推定時間 30 分） 第 3 回　　教科書該当頁なし 第 4 回 ～ 第 10 回　　教科書 10-17 頁（推定時間 30 分） 第 11 回・第 12 回　　教科書 18-21 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　　教科書該当頁なし		

	第 14 回・第 15 回　　教科書 18-21（推定時間 30 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 課題を達成させるため，授業中は集中して取り組み，提出締め切りを守ること．
2. 授業中に課題を達成できなかった場合には，宿題として次回までに達成させること．
3. キャリサポでの個人面談は，できるだけ早く予約をとること．
4. 「内定獲得ガイダンス」を欠席した場合には，キャリサポで，ガイダンスをビデオに撮った DVD を観て，内容についてのレポート（用紙あり）を教員に提出すること．

授業スケジュール

1. スタートガイダンス，「就職登録票」の作成
2. 「就職登録票」の完成と提出
3. 内定獲得ガイダンス①　（マイナビの外部講師による）
4. 「自分探しシート」の作成　（過去の自分を振り返る）
5. 「自分史シート」の作成　（自分の歴史を整理する）
6. 「自分のウリシート」の作成　（自分のセールスポイントを整理する）
7. 「自己分析シート」の作成（1）
8. 「自己分析シート」の作成（2）
9. 「自己分析シート」の作成（3）
10. 「自己分析シート」の完成と提出
11. 「自己 PR 文」の作成（1）
12. 「自己 PR 文」の作成（2）
13. 内定獲得ガイダンス②　（マイナビの外部講師による）
14. 「自己 PR 文」の作成（3）
15. 「自己 PR 文」の完成と提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100305
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
授業概要	本講座の目的は，3 回生諸君がこれから始まる就職活動に向けて，少しずつ着実にその準備を進めていくための道筋を示し，かつサポートを行うことにある．具体的には，「自己分析」と「自己 PR 文」という 2 つの課題の達成を目標とする． 前半では，これまでの学生時代の自分や，大学での活動や学びを振り返り，その上で自分の長所や特性についての分析を行う．さらに，分析によって明らかになった点を整理することによって，「自己分析シート」を完成させていく．後半では，前半の自己分析に基づいて自分のウリを明確にし，自分という商品を売り込むための「自己 PR 文」を完成させていく．この「自己 PR 文」は，今後の就職活動において基礎となる重要なもので，企業に提出するエントリーシートや実際の面接の場で活用されるものである． さらに，この講座は，本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる．15 回のうち数回の講座では，マイナビの外部講師による内定獲得ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）．また，完成させた「自己分析シート」や「自己 PR 文」は，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく． なお，民間企業への就職を希望しない学生（進学や公務員志望）にとっても，これらの課題を達成させることで文章作成力や自己表現力が育成され，今後のそれぞれの進路でも役立つことになる．		
教材（教科書）	CAREER HANDBOOK （京都学園大学キャリアサポートセンター）		
教材（参考資料）	『2018 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社		
教育方法	1. 毎回の授業は演習形式で，課題についての書き込み式のシート（あるいはファイル）を配布して，各自が課題を完成させていく． 2. 完成させた課題は、担当教員に提出し、文章についての添削をうける．また、内容についてのアドバイスを受ける場合もある． 3. 完成した課題については、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく．		
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （2） 「自己分析シート」の完成と提出 （3） 「自己 PR 文」2 本の完成と提出 （4） キャリサポでの個人面談 （5） 「内定獲得ガイダンス」①・②の受講		
到達目標	1. 自己分析によって，自分の特性，強み，ウリを明らかにすること． 2. 自分のウリを企業にアピールするための自己 PR ができるようになること． 3. 企業へのエントリーシート作成のための材料を準備すること．		
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回・第 2 回　　教科書 1-9 頁（推定時間 30 分） 第 3 回　　教科書該当頁なし 第 4 回 ～ 第 10 回　　教科書 10-17 頁（推定時間 30 分） 第 11 回・第 12 回　　教科書 18-21 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　　教科書該当頁なし		

	第 14 回・第 15 回　　教科書 18-21（推定時間 30 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 課題を達成させるため，授業中は集中して取り組み，提出締め切りを守ること．
2. 授業中に課題を達成できなかった場合には，宿題として次回までに達成させること．
3. キャリサポでの個人面談は，できるだけ早く予約をとること．
4. 「内定獲得ガイダンス」を欠席した場合には，キャリサポで，ガイダンスをビデオに撮った DVD を観て，内容についてのレポート（用紙あり）を教員に提出すること．

授業スケジュール

1. スタートガイダンス，「就職登録票」の作成
2. 「就職登録票」の完成と提出
3. 内定獲得ガイダンス①　（マイナビの外部講師による）
4. 「自分探しシート」の作成　（過去の自分を振り返る）
5. 「自分史シート」の作成　（自分の歴史を整理する）
6. 「自分のウリシート」の作成　（自分のセールスポイントを整理する）
7. 「自己分析シート」の作成（1）
8. 「自己分析シート」の作成（2）
9. 「自己分析シート」の作成（3）
10. 「自己分析シート」の完成と提出
11. 「自己 PR 文」の作成（1）
12. 「自己 PR 文」の作成（2）
13. 内定獲得ガイダンス②　（マイナビの外部講師による）
14. 「自己 PR 文」の作成（3）
15. 「自己 PR 文」の完成と提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100306
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
授業概要	本講座の目的は，3 回生諸君がこれから始まる就職活動に向けて，少しずつ着実にその準備を進めていくための道筋を示し，かつサポートを行うことにある．具体的には，「自己分析」と「自己 PR 文」という 2 つの課題の達成を目標とする． 前半では，これまでの学生時代の自分や，大学での活動や学びを振り返り，その上で自分の長所や特性についての分析を行う．さらに，分析によって明らかになった点を整理することによって，「自己分析シート」を完成させていく．後半では，前半の自己分析に基づいて自分のウリを明確にし，自分という商品を売り込むための「自己 PR 文」を完成させていく．この「自己 PR 文」は，今後の就職活動において基礎となる重要なもので，企業に提出するエントリーシートや実際の面接の場で活用されるものである． さらに，この講座は，本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる．15 回のうち数回の講座では，マイナビの外部講師による内定獲得ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）．また，完成させた「自己分析シート」や「自己 PR 文」は，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく． なお，民間企業への就職を希望しない学生（進学や公務員志望）にとっても，これらの課題を達成させることで文章作成力や自己表現力が育成され，今後のそれぞれの進路でも役立つことになる．		
教材（教科書）	CAREER HANDBOOK （京都学園大学キャリアサポートセンター）		
教材（参考資料）	『2018 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社		
教育方法	1. 毎回の授業は演習形式で，課題についての書き込み式のシート（あるいはファイル）を配布して，各自が課題を完成させていく． 2. 完成させた課題は、担当教員に提出し、文章についての添削をうける．また、内容についてのアドバイスを受ける場合もある． 3. 完成した課題については、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく．		
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （2） 「自己分析シート」の完成と提出 （3） 「自己 PR 文」2 本の完成と提出 （4） キャリサポでの個人面談 （5） 「内定獲得ガイダンス」①・②の受講		
到達目標	1. 自己分析によって，自分の特性，強み，ウリを明らかにすること． 2. 自分のウリを企業にアピールするための自己 PR ができるようになること． 3. 企業へのエントリーシート作成のための材料を準備すること．		
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回・第 2 回　　教科書 1-9 頁（推定時間 30 分） 第 3 回　　教科書該当頁なし 第 4 回 ～ 第 10 回　　教科書 10-17 頁（推定時間 30 分） 第 11 回・第 12 回　　教科書 18-21 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　　教科書該当頁なし		

	第 14 回・第 15 回　　教科書 18-21（推定時間 30 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 課題を達成させるため，授業中は集中して取り組み，提出締め切りを守ること．
2. 授業中に課題を達成できなかった場合には，宿題として次回までに達成させること．
3. キャリサポでの個人面談は，できるだけ早く予約をとること．
4. 「内定獲得ガイダンス」を欠席した場合には，キャリサポで，ガイダンスをビデオに撮った DVD を観て，内容についてのレポート（用紙あり）を教員に提出すること．

授業スケジュール

1. スタートガイダンス，「就職登録票」の作成
2. 「就職登録票」の完成と提出
3. 内定獲得ガイダンス①　（マイナビの外部講師による）
4. 「自分探しシート」の作成　（過去の自分を振り返る）
5. 「自分史シート」の作成　（自分の歴史を整理する）
6. 「自分のウリシート」の作成　（自分のセールスポイントを整理する）
7. 「自己分析シート」の作成（1）
8. 「自己分析シート」の作成（2）
9. 「自己分析シート」の作成（3）
10. 「自己分析シート」の完成と提出
11. 「自己 PR 文」の作成（1）
12. 「自己 PR 文」の作成（2）
13. 内定獲得ガイダンス②　（マイナビの外部講師による）
14. 「自己 PR 文」の作成（3）
15. 「自己 PR 文」の完成と提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100307
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
授業概要	本講座の目的は，3 回生諸君がこれから始まる就職活動に向けて，少しずつ着実にその準備を進めていくための道筋を示し，かつサポートを行うことにある．具体的には，「自己分析」と「自己 PR 文」という 2 つの課題の達成を目標とする． 前半では，これまでの学生時代の自分や，大学での活動や学びを振り返り，その上で自分の長所や特性についての分析を行う．さらに，分析によって明らかになった点を整理することによって，「自己分析シート」を完成させていく．後半では，前半の自己分析に基づいて自分のウリを明確にし，自分という商品を売り込むための「自己 PR 文」を完成させていく．この「自己 PR 文」は，今後の就職活動において基礎となる重要なもので，企業に提出するエントリーシートや実際の面接の場で活用されるものである． さらに，この講座は，本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる．15 回のうち数回の講座では，マイナビの外部講師による内定獲得ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）．また，完成させた「自己分析シート」や「自己 PR 文」は，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく． なお，民間企業への就職を希望しない学生（進学や公務員志望）にとっても，これらの課題を達成させることで文章作成力や自己表現力が育成され，今後のそれぞれの進路でも役立つことになる．		
教材（教科書）	CAREER HANDBOOK （京都学園大学キャリアサポートセンター）		
教材（参考資料）	『2018 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社		
教育方法	1. 毎回の授業は演習形式で，課題についての書き込み式のシート（あるいはファイル）を配布して，各自が課題を完成させていく． 2. 完成させた課題は、担当教員に提出し、文章についての添削をうける．また、内容についてのアドバイスを受ける場合もある． 3. 完成した課題については、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく．		
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （2） 「自己分析シート」の完成と提出 （3） 「自己 PR 文」2 本の完成と提出 （4） キャリサポでの個人面談 （5） 「内定獲得ガイダンス」①・②の受講		
到達目標	1. 自己分析によって，自分の特性，強み，ウリを明らかにすること． 2. 自分のウリを企業にアピールするための自己 PR ができるようになること． 3. 企業へのエントリーシート作成のための材料を準備すること．		
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回・第 2 回　　教科書 1-9 頁（推定時間 30 分） 第 3 回　　教科書該当頁なし 第 4 回 ～ 第 10 回　教科書 10-17 頁（推定時間 30 分） 第 11 回・第 12 回　教科書 18-21 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　　教科書該当頁なし		

	第 14 回・第 15 回　　教科書 18-21（推定時間 30 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 課題を達成させるため，授業中は集中して取り組み，提出締め切りを守ること．
2. 授業中に課題を達成できなかった場合には，宿題として次回までに達成させること．
3. キャリサポでの個人面談は，できるだけ早く予約をとること．
4. 「内定獲得ガイダンス」を欠席した場合には，キャリサポで，ガイダンスをビデオに撮った DVD を観て，内容についてのレポート（用紙あり）を教員に提出すること．

授業スケジュール

1. スタートガイダンス，「就職登録票」の作成
2. 「就職登録票」の完成と提出
3. 内定獲得ガイダンス①　（マイナビの外部講師による）
4. 「自分探しシート」の作成　（過去の自分を振り返る）
5. 「自分史シート」の作成　（自分の歴史を整理する）
6. 「自分のウリシート」の作成　（自分のセールスポイントを整理する）
7. 「自己分析シート」の作成（1）
8. 「自己分析シート」の作成（2）
9. 「自己分析シート」の作成（3）
10. 「自己分析シート」の完成と提出
11. 「自己 PR 文」の作成（1）
12. 「自己 PR 文」の作成（2）
13. 内定獲得ガイダンス②　（マイナビの外部講師による）
14. 「自己 PR 文」の作成（3）
15. 「自己 PR 文」の完成と提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100308
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
授業概要	本講座の目的は，3 回生諸君がこれから始まる就職活動に向けて，少しずつ着実にその準備を進めていくための道筋を示し，かつサポートを行うことにある．具体的には，「自己分析」と「自己 PR 文」という 2 つの課題の達成を目標とする． 前半では，これまでの学生時代の自分や，大学での活動や学びを振り返り，その上で自分の長所や特性についての分析を行う．さらに，分析によって明らかになった点を整理することによって，「自己分析シート」を完成させていく．後半では，前半の自己分析に基づいて自分のウリを明確にし，自分という商品を売り込むための「自己 PR 文」を完成させていく．この「自己 PR 文」は，今後の就職活動において基礎となる重要なもので，企業に提出するエントリーシートや実際の面接の場で活用されるものである． さらに，この講座は，本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる．15 回のうち数回の講座では，マイナビの外部講師による内定獲得ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）．また，完成させた「自己分析シート」や「自己 PR 文」は，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく． なお，民間企業への就職を希望しない学生（進学や公務員志望）にとっても，これらの課題を達成させることで文章作成力や自己表現力が育成され，今後のそれぞれの進路でも役立つことになる．		
教材（教科書）	CAREER HANDBOOK （京都学園大学キャリアサポートセンター）		
教材（参考資料）	『2018 年度版・就職四季報』 東洋経済新報社		
教育方法	1. 毎回の授業は演習形式で，課題についての書き込み式のシート（あるいはファイル）を配布して，各自が課題を完成させていく． 2. 完成させた課題は、担当教員に提出し、文章についての添削をうける．また、内容についてのアドバイスを受ける場合もある． 3. 完成した課題については、キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け、さらに完成度を上げていく．		
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1） 就職（進路）登録票の完成とキャリサポへの提出 （2） 「自己分析シート」の完成と提出 （3） 「自己 PR 文」2 本の完成と提出 （4） キャリサポでの個人面談 （5） 「内定獲得ガイダンス」①・②の受講		
到達目標	1. 自己分析によって，自分の特性，強み，ウリを明らかにすること． 2. 自分のウリを企業にアピールするための自己 PR ができるようになること． 3. 企業へのエントリーシート作成のための材料を準備すること．		
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回・第 2 回　　教科書 1-9 頁（推定時間 30 分） 第 3 回　　教科書該当頁なし 第 4 回 ～ 第 10 回　教科書 10-17 頁（推定時間 30 分） 第 11 回・第 12 回　教科書 18-21 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　　教科書該当頁なし		

	第 14 回・第 15 回　　教科書 18-21（推定時間 30 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 課題を達成させるため，授業中は集中して取り組み，提出締め切りを守ること．
2. 授業中に課題を達成できなかった場合には，宿題として次回までに達成させること．
3. キャリサポでの個人面談は，できるだけ早く予約をとること．
4. 「内定獲得ガイダンス」を欠席した場合には，キャリサポで，ガイダンスをビデオに撮った DVD を観て，内容についてのレポート（用紙あり）を教員に提出すること．

授業スケジュール

1. スタートガイダンス，「就職登録票」の作成
2. 「就職登録票」の完成と提出
3. 内定獲得ガイダンス①　（マイナビの外部講師による）
4. 「自分探しシート」の作成　（過去の自分を振り返る）
5. 「自分史シート」の作成　（自分の歴史を整理する）
6. 「自分のウリシート」の作成　（自分のセールスポイントを整理する）
7. 「自己分析シート」の作成（1）
8. 「自己分析シート」の作成（2）
9. 「自己分析シート」の作成（3）
10. 「自己分析シート」の完成と提出
11. 「自己 PR 文」の作成（1）
12. 「自己 PR 文」の作成（2）
13. 内定獲得ガイダンス②　（マイナビの外部講師による）
14. 「自己 PR 文」の作成（3）
15. 「自己 PR 文」の完成と提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100311
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	川﨑　雄二郎	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100312
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100313
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100314
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100315
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100316
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100317
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100318
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100320
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100321
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100322
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100323
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100324
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	池田　晃彦	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100325
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100326
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100327
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100328
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100330
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100331
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100332
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100333
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100334
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100335
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100336
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100337
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100338
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ 【航空】	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills A		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
授業概要	これまでの学修の成果をふまえて、進学および就職活動の準備をおこなう。民間企業への就職希望者は、自己分析・自己ＰＲの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等をおこなう。進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成をおこなう。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自分探し」、「自分史」、「自分のウリ」、「自己分析」といった各種のシートを配布し、受講生はそれらに記入する形で自分の適性や強みなどを確認していく。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、その理解をより深め、進路選択や目標設定へとつなげてもらう。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「進路就職登録票」のキャリアサポートセンターへの提出、「自己分析シート」の完成・提出「内定獲得ガイダンス」各回の受講を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、「進路就職登録票」下書き他
2．「進路就職登録票」記入、面接予約画面の確認他
3．「自分探し」シートを書く①
4．「自分探し」シートを書く②
5．内定獲得ガイダンス①の復習
6．「自分史」シートを書く
7．「自分のウリ」シートを書く
8．「自己分析」シートを書く①
9．「自己分析」シートを書く②
10．「自己分析」シートを書く③
11．内定獲得ガイダンス②の復習
12．ＳＰＩ対策講座①
13．ＳＰＩ対策講座②
14．各シートの見直しと自己ＰＲのポイント整理
15．今学期のまとめと夏季休暇・来学期に向けての課題確認
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100401
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	本講座は，春学期の「キャリアサポート実践講座 A」の受講を踏まえて，民間企業の就職を希望する学生のみを対象とする．講座の目的は，これから始まる就職活動で必要となる企業への提出物を準備することと，業界，業種，企業を研究することによって，自分の進むべき業種や企業を絞り込んでいくことである．具体的には，仕事や企業研究によって「企業研究シート」を完成させる中で就職先の業種や企業を絞り，それらの企業に提出する「履歴書」と「エントリーシート」を完成させることを目標とする． 前半では，まず「履歴書」を完成させ，次に業界，業種，企業，仕事についての研究を行う．研究結果は，「企業研究シート」にまとめていく．その作業の中で，実践講座 A で分析した自分の特性を考慮しながら，自分に合った業種や企業を絞り込んでいく．後半では，絞り込んだ企業に提出するための「エントリーシート」を完成させる．完成した「履歴書」や「エントリーシート」は，実際に絞り込んだ企業に提出するものである． なお，この講座は，本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる．15 回のうち 4 回の講座では，マイナビの外部講師による内定獲得ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）．また，完成させた「履歴書」や「エントリーシート」は，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく．		
教材（教科書）	CAREER HANDBOOK （京都学園大学キャリアサポートセンター）		
教材（参考資料）	『2017 年度版・就職四季報』　東洋経済新報社		
教育方法	1．毎回の授業は演習形式で，課題についての書き込み式のシート（あるいはファイル）を配布して，各自が課題を完成させていく． 2．完成させた課題は，担当教員に提出し，文章についての添削をうける．また，内容についてのアドバイスを受ける場合もある． 3．完成した課題については，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく．		
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1）「履歴書」の完成と提出 （2）「就職実践模試」の受験 （3）「エントリーシート」の完成と提出 （4）キャリサポでの個人面談 （5）「内定獲得ガイダンス」③・④・⑤の受講		
到達目標	1．企業に提出する「履歴書」を完成させること． 2．企業研究によって，自分の進むべき業種や企業を絞り込むこと． 3．企業研究によって，各企業の特徴を整理して把握すること． 3．企業に提出する「エントリーシート」を完成させること．		
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回　　教科書 18-21 頁（推定時間 30 分） 第 2 回　　教科書 64-65 頁（推定時間 15 分） 第 3 回・第 4 回　　教科書 22-29 頁（推定時間 30 分）		

	第 5 回 ～ 第 7 回　　教科書 30-51 頁（推定時間 90 分） 第 8 回 ～ 第 11 回　教科書 52-63 頁（推定時間 90 分） 第 12 回　　教科書 66-73 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　　教科書 52-63 頁（推定時間 90 分） 第 14 回　　教科書該当頁なし 第 15 回　　教科書 74-85 頁（推定時間 45 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 課題を達成させるため，授業中は集中して取り組み，提出締め切りを守ること．
2. 授業中に課題を達成できなかった場合には，宿題として次回までに達成させること．
3. キャリサポでの個人面談は，できるだけ早く予約をとること．
4. 「内定獲得ガイダンス」を欠席した場合には，キャリサポで，ガイダンスをビデオに撮った DVD を観て，内容についてのレポート（用紙あり）を教員に提出すること．

授業スケジュール

1. スタートガイダンス，「自己 PR 文」の確認
2. 内定獲得ガイダンス③　（マイナビの外部講師による）
3. 「履歴書」の作成
4. 「履歴書」の完成と提出
5. 「企業研究シート」の作成（1）
6. 「企業研究シート」の作成（2）
7. 「企業研究シート」の完成（3）
8. 「エントリーシート」の作成（1）
9. 内定獲得ガイダンス④　（マイナビの外部講師による）
10. 「エントリーシート」の作成（2）
11. 「エントリーシート」の作成（3）
12. 内定獲得ガイダンス⑤　（マイナビの外部講師による）
13. 「エントリーシート」の完成と提出
14. 内定獲得ガイダンス⑥　（マイナビの外部講師による）
15. 総復習・総整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100402
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
授業概要	本講座は，春学期の「キャリアサポート実践講座 A」の受講を踏まえて，民間企業の就職を希望する学生のみを対象とする．講座の目的は，これから始まる就職活動で必要となる企業への提出物を準備することと，業界，業種，企業を研究することによって，自分の進むべき業種や企業を絞り込んでいくことである．具体的には，仕事や企業研究によって「企業研究シート」を完成させる中で就職先の業種や企業を絞り，それらの企業に提出する「履歴書」と「エントリーシート」を完成させることを目標とする． 前半では，まず「履歴書」を完成させ，次に業界，業種，企業，仕事についての研究を行う．研究結果は，「企業研究シート」にまとめていく．その作業の中で，実践講座 A で分析した自分の特性を考慮しながら，自分に合った業種や企業を絞り込んでいく．後半では，絞り込んだ企業に提出するための「エントリーシート」を完成させる．完成した「履歴書」や「エントリーシート」は，実際に絞り込んだ企業に提出するものである． なお，この講座は，本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる．15 回のうち 4 回の講座では，マイナビの外部講師による内定獲得ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）．また，完成させた「履歴書」や「エントリーシート」は，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく．		
教材（教科書）	CAREER HANDBOOK （京都学園大学キャリアサポートセンター）		
教材（参考資料）	『2017 年度版・就職四季報』　東洋経済新報社		
教育方法	1．毎回の授業は演習形式で，課題についての書き込み式のシート（あるいはファイル）を配布して，各自が課題を完成させていく． 2．完成させた課題は，担当教員に提出し，文章についての添削をうける．また，内容についてのアドバイスを受ける場合もある． 3．完成した課題については，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく．		
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1）「履歴書」の完成と提出 （2）「就職実践模試」の受験 （3）「エントリーシート」の完成と提出 （4）キャリサポでの個人面談 （5）「内定獲得ガイダンス」③・④・⑤の受講		
到達目標	1．企業に提出する「履歴書」を完成させること． 2．企業研究によって，自分の進むべき業種や企業を絞り込むこと． 3．企業研究によって，各企業の特徴を整理して把握すること． 3．企業に提出する「エントリーシート」を完成させること．		
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回　　教科書 18-21 頁（推定時間 30 分） 第 2 回　　教科書 64-65 頁（推定時間 15 分） 第 3 回・第 4 回　　教科書 22-29 頁（推定時間 30 分）		

	第 5 回 ～ 第 7 回　　教科書 30-51 頁（推定時間 90 分） 第 8 回 ～ 第 11 回　教科書 52-63 頁（推定時間 90 分） 第 12 回　　教科書 66-73 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　　教科書 52-63 頁（推定時間 90 分） 第 14 回　　教科書該当頁なし 第 15 回　　教科書 74-85 頁（推定時間 45 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 課題を達成させるため，授業中は集中して取り組み，提出締め切りを守ること．
2. 授業中に課題を達成できなかった場合には，宿題として次回までに達成させること．
3. キャリサポでの個人面談は，できるだけ早く予約をとること．
4. 「内定獲得ガイダンス」を欠席した場合には，キャリサポで，ガイダンスをビデオに撮った DVD を観て，内容についてのレポート（用紙あり）を教員に提出すること．

授業スケジュール

1. スタートガイダンス，「自己 PR 文」の確認
2. 内定獲得ガイダンス③　（マイナビの外部講師による）
3. 「履歴書」の作成
4. 「履歴書」の完成と提出
5. 「企業研究シート」の作成（1）
6. 「企業研究シート」の作成（2）
7. 「企業研究シート」の完成（3）
8. 「エントリーシート」の作成（1）
9. 内定獲得ガイダンス④　（マイナビの外部講師による）
10. 「エントリーシート」の作成（2）
11. 「エントリーシート」の作成（3）
12. 内定獲得ガイダンス⑤　（マイナビの外部講師による）
13. 「エントリーシート」の完成と提出
14. 内定獲得ガイダンス⑥　（マイナビの外部講師による）
15. 総復習・総整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100404
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
授業概要	本講座は，春学期の「キャリアサポート実践講座 A」の受講を踏まえて，民間企業の就職を希望する学生のみを対象とする．講座の目的は，これから始まる就職活動で必要となる企業への提出物を準備することと，業界，業種，企業を研究することによって，自分の進むべき業種や企業を絞り込んでいくことである．具体的には，仕事や企業研究によって「企業研究シート」を完成させる中で就職先の業種や企業を絞り，それらの企業に提出する「履歴書」と「エントリーシート」を完成させることを目標とする． 前半では，まず「履歴書」を完成させ，次に業界，業種，企業，仕事についての研究を行う．研究結果は，「企業研究シート」にまとめていく．その作業の中で，実践講座 A で分析した自分の特性を考慮しながら，自分に合った業種や企業を絞り込んでいく．後半では，絞り込んだ企業に提出するための「エントリーシート」を完成させる．完成した「履歴書」や「エントリーシート」は，実際に絞り込んだ企業に提出するものである． なお，この講座は，本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる．15 回のうち 4 回の講座では，マイナビの外部講師による内定獲得ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）．また，完成させた「履歴書」や「エントリーシート」は，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく．		
教材（教科書）	CAREER HANDBOOK （京都学園大学キャリアサポートセンター）		
教材（参考資料）	『2017 年度版・就職四季報』　東洋経済新報社		
教育方法	1．毎回の授業は演習形式で，課題についての書き込み式のシート（あるいはファイル）を配布して，各自が課題を完成させていく． 2．完成させた課題は，担当教員に提出し，文章についての添削をうける．また，内容についてのアドバイスを受ける場合もある． 3．完成した課題については，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく．		
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1）「履歴書」の完成と提出 （2）「就職実践模試」の受験 （3）「エントリーシート」の完成と提出 （4）キャリサポでの個人面談 （5）「内定獲得ガイダンス」③・④・⑤の受講		
到達目標	1．企業に提出する「履歴書」を完成させること． 2．企業研究によって，自分の進むべき業種や企業を絞り込むこと． 3．企業研究によって，各企業の特徴を整理して把握すること． 3．企業に提出する「エントリーシート」を完成させること．		
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回　　教科書 18-21 頁（推定時間 30 分） 第 2 回　　教科書 64-65 頁（推定時間 15 分） 第 3 回・第 4 回　　教科書 22-29 頁（推定時間 30 分）		

	第 5 回 ～ 第 7 回　　教科書 30-51 頁（推定時間 90 分） 第 8 回 ～ 第 11 回　教科書 52-63 頁（推定時間 90 分） 第 12 回　　教科書 66-73 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　　教科書 52-63 頁（推定時間 90 分） 第 14 回　　教科書該当頁なし 第 15 回　　教科書 74-85 頁（推定時間 45 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 課題を達成させるため，授業中は集中して取り組み，提出締め切りを守ること．
2. 授業中に課題を達成できなかった場合には，宿題として次回までに達成させること．
3. キャリサポでの個人面談は，できるだけ早く予約をとること．
4. 「内定獲得ガイダンス」を欠席した場合には，キャリサポで，ガイダンスをビデオに撮った DVD を観て，内容についてのレポート（用紙あり）を教員に提出すること．

授業スケジュール

1. スタートガイダンス，「自己 PR 文」の確認
2. 内定獲得ガイダンス③　（マイナビの外部講師による）
3. 「履歴書」の作成
4. 「履歴書」の完成と提出
5. 「企業研究シート」の作成（1）
6. 「企業研究シート」の作成（2）
7. 「企業研究シート」の完成（3）
8. 「エントリーシート」の作成（1）
9. 内定獲得ガイダンス④　（マイナビの外部講師による）
10. 「エントリーシート」の作成（2）
11. 「エントリーシート」の作成（3）
12. 内定獲得ガイダンス⑤　（マイナビの外部講師による）
13. 「エントリーシート」の完成と提出
14. 内定獲得ガイダンス⑥　（マイナビの外部講師による）
15. 総復習・総整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100405
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
授業概要	本講座は，春学期の「キャリアサポート実践講座 A」の受講を踏まえて，民間企業の就職を希望する学生のみを対象とする．講座の目的は，これから始まる就職活動で必要となる企業への提出物を準備することと，業界，業種，企業を研究することによって，自分の進むべき業種や企業を絞り込んでいくことである．具体的には，仕事や企業研究によって「企業研究シート」を完成させる中で就職先の業種や企業を絞り，それらの企業に提出する「履歴書」と「エントリーシート」を完成させることを目標とする． 前半では，まず「履歴書」を完成させ，次に業界，業種，企業，仕事についての研究を行う．研究結果は，「企業研究シート」にまとめていく．その作業の中で，実践講座 A で分析した自分の特性を考慮しながら，自分に合った業種や企業を絞り込んでいく．後半では，絞り込んだ企業に提出するための「エントリーシート」を完成させる．完成した「履歴書」や「エントリーシート」は，実際に絞り込んだ企業に提出するものである． なお，この講座は，本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる．15 回のうち 4 回の講座では，マイナビの外部講師による内定獲得ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）．また，完成させた「履歴書」や「エントリーシート」は，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく．		
教材（教科書）	CAREER HANDBOOK （京都学園大学キャリアサポートセンター）		
教材（参考資料）	『2017 年度版・就職四季報』　東洋経済新報社		
教育方法	1．毎回の授業は演習形式で，課題についての書き込み式のシート（あるいはファイル）を配布して，各自が課題を完成させていく． 2．完成させた課題は，担当教員に提出し，文章についての添削をうける．また，内容についてのアドバイスを受ける場合もある． 3．完成した課題については，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく．		
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1）「履歴書」の完成と提出 （2）「就職実践模試」の受験 （3）「エントリーシート」の完成と提出 （4）キャリサポでの個人面談 （5）「内定獲得ガイダンス」③・④・⑤の受講		
到達目標	1．企業に提出する「履歴書」を完成させること． 2．企業研究によって，自分の進むべき業種や企業を絞り込むこと． 3．企業研究によって，各企業の特徴を整理して把握すること． 3．企業に提出する「エントリーシート」を完成させること．		
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回　　教科書 18-21 頁（推定時間 30 分） 第 2 回　　教科書 64-65 頁（推定時間 15 分） 第 3 回・第 4 回　　教科書 22-29 頁（推定時間 30 分）		

	第 5 回 ～ 第 7 回　　教科書 30-51 頁（推定時間 90 分） 第 8 回 ～ 第 11 回　教科書 52-63 頁（推定時間 90 分） 第 12 回　　教科書 66-73 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　　教科書 52-63 頁（推定時間 90 分） 第 14 回　　教科書該当頁なし 第 15 回　　教科書 74-85 頁（推定時間 45 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 課題を達成させるため，授業中は集中して取り組み，提出締め切りを守ること．
2. 授業中に課題を達成できなかった場合には，宿題として次回までに達成させること．
3. キャリサポでの個人面談は，できるだけ早く予約をとること．
4. 「内定獲得ガイダンス」を欠席した場合には，キャリサポで，ガイダンスをビデオに撮った DVD を観て，内容についてのレポート（用紙あり）を教員に提出すること．

授業スケジュール

1. スタートガイダンス，「自己 PR 文」の確認
2. 内定獲得ガイダンス③　（マイナビの外部講師による）
3. 「履歴書」の作成
4. 「履歴書」の完成と提出
5. 「企業研究シート」の作成（1）
6. 「企業研究シート」の作成（2）
7. 「企業研究シート」の完成（3）
8. 「エントリーシート」の作成（1）
9. 内定獲得ガイダンス④　（マイナビの外部講師による）
10. 「エントリーシート」の作成（2）
11. 「エントリーシート」の作成（3）
12. 内定獲得ガイダンス⑤　（マイナビの外部講師による）
13. 「エントリーシート」の完成と提出
14. 内定獲得ガイダンス⑥　（マイナビの外部講師による）
15. 総復習・総整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100406
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
授業概要	本講座は，春学期の「キャリアサポート実践講座 A」の受講を踏まえて，民間企業の就職を希望する学生のみを対象とする．講座の目的は，これから始まる就職活動で必要となる企業への提出物を準備することと，業界，業種，企業を研究することによって，自分の進むべき業種や企業を絞り込んでいくことである．具体的には，仕事や企業研究によって「企業研究シート」を完成させる中で就職先の業種や企業を絞り，それらの企業に提出する「履歴書」と「エントリーシート」を完成させることを目標とする． 前半では，まず「履歴書」を完成させ，次に業界，業種，企業，仕事についての研究を行う．研究結果は，「企業研究シート」にまとめていく．その作業の中で，実践講座 A で分析した自分の特性を考慮しながら，自分に合った業種や企業を絞り込んでいく．後半では，絞り込んだ企業に提出するための「エントリーシート」を完成させる．完成した「履歴書」や「エントリーシート」は，実際に絞り込んだ企業に提出するものである． なお，この講座は，本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる．15 回のうち 4 回の講座では，マイナビの外部講師による内定獲得ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）．また，完成させた「履歴書」や「エントリーシート」は，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく．		
教材（教科書）	CAREER HANDBOOK （京都学園大学キャリアサポートセンター）		
教材（参考資料）	『2017 年度版・就職四季報』　東洋経済新報社		
教育方法	1．毎回の授業は演習形式で，課題についての書き込み式のシート（あるいはファイル）を配布して，各自が課題を完成させていく． 2．完成させた課題は，担当教員に提出し，文章についての添削をうける．また，内容についてのアドバイスを受ける場合もある． 3．完成した課題については，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく．		
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1）「履歴書」の完成と提出 （2）「就職実践模試」の受験 （3）「エントリーシート」の完成と提出 （4）キャリサポでの個人面談 （5）「内定獲得ガイダンス」③・④・⑤の受講		
到達目標	1．企業に提出する「履歴書」を完成させること． 2．企業研究によって，自分の進むべき業種や企業を絞り込むこと． 3．企業研究によって，各企業の特徴を整理して把握すること． 3．企業に提出する「エントリーシート」を完成させること．		
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回　　教科書 18-21 頁（推定時間 30 分） 第 2 回　　教科書 64-65 頁（推定時間 15 分） 第 3 回・第 4 回　　教科書 22-29 頁（推定時間 30 分）		

	第 5 回 ～ 第 7 回　　教科書 30-51 頁（推定時間 90 分） 第 8 回 ～ 第 11 回　教科書 52-63 頁（推定時間 90 分） 第 12 回　　教科書 66-73 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　　教科書 52-63 頁（推定時間 90 分） 第 14 回　　教科書該当頁なし 第 15 回　　教科書 74-85 頁（推定時間 45 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 課題を達成させるため，授業中は集中して取り組み，提出締め切りを守ること．
2. 授業中に課題を達成できなかった場合には，宿題として次回までに達成させること．
3. キャリサポでの個人面談は，できるだけ早く予約をとること．
4. 「内定獲得ガイダンス」を欠席した場合には，キャリサポで，ガイダンスをビデオに撮った DVD を観て，内容についてのレポート（用紙あり）を教員に提出すること．

授業スケジュール

1. スタートガイダンス，「自己 PR 文」の確認
2. 内定獲得ガイダンス③　（マイナビの外部講師による）
3. 「履歴書」の作成
4. 「履歴書」の完成と提出
5. 「企業研究シート」の作成（1）
6. 「企業研究シート」の作成（2）
7. 「企業研究シート」の完成（3）
8. 「エントリーシート」の作成（1）
9. 内定獲得ガイダンス④　（マイナビの外部講師による）
10. 「エントリーシート」の作成（2）
11. 「エントリーシート」の作成（3）
12. 内定獲得ガイダンス⑤　（マイナビの外部講師による）
13. 「エントリーシート」の完成と提出
14. 内定獲得ガイダンス⑥　（マイナビの外部講師による）
15. 総復習・総整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100407
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
授業概要	本講座は，春学期の「キャリアサポート実践講座 A」の受講を踏まえて，民間企業の就職を希望する学生のみを対象とする．講座の目的は，これから始まる就職活動で必要となる企業への提出物を準備することと，業界，業種，企業を研究することによって，自分の進むべき業種や企業を絞り込んでいくことである．具体的には，仕事や企業研究によって「企業研究シート」を完成させる中で就職先の業種や企業を絞り，それらの企業に提出する「履歴書」と「エントリーシート」を完成させることを目標とする． 前半では，まず「履歴書」を完成させ，次に業界，業種，企業，仕事についての研究を行う．研究結果は，「企業研究シート」にまとめていく．その作業の中で，実践講座 A で分析した自分の特性を考慮しながら，自分に合った業種や企業を絞り込んでいく．後半では，絞り込んだ企業に提出するための「エントリーシート」を完成させる．完成した「履歴書」や「エントリーシート」は，実際に絞り込んだ企業に提出するものである． なお，この講座は，本学のキャリアサポートセンターと連携して進められる．15 回のうち 4 回の講座では，マイナビの外部講師による内定獲得ガイダンスを予定している（専門家による詳細な説明）．また，完成させた「履歴書」や「エントリーシート」は，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく．		
教材（教科書）	CAREER HANDBOOK （京都学園大学キャリアサポートセンター）		
教材（参考資料）	『2017 年度版・就職四季報』　東洋経済新報社		
教育方法	1．毎回の授業は演習形式で，課題についての書き込み式のシート（あるいはファイル）を配布して，各自が課題を完成させていく． 2．完成させた課題は，担当教員に提出し，文章についての添削をうける．また，内容についてのアドバイスを受ける場合もある． 3．完成した課題については，キャリアサポートセンターで個人面談を行って専門的なアドバイスを受け，さらに完成度を上げていく．		
評価方法	出席状況及び以下の単位認定条件によって評価する ＜単位認定の必要条件＞ （1）「履歴書」の完成と提出 （2）「就職実践模試」の受験 （3）「エントリーシート」の完成と提出 （4）キャリサポでの個人面談 （5）「内定獲得ガイダンス」③・④・⑤の受講		
到達目標	1．企業に提出する「履歴書」を完成させること． 2．企業研究によって，自分の進むべき業種や企業を絞り込むこと． 3．企業研究によって，各企業の特徴を整理して把握すること． 3．企業に提出する「エントリーシート」を完成させること．		
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回　　教科書 18-21 頁（推定時間 30 分） 第 2 回　　教科書 64-65 頁（推定時間 15 分） 第 3 回・第 4 回　　教科書 22-29 頁（推定時間 30 分）		

	第 5 回 ～ 第 7 回　　教科書 30-51 頁（推定時間 90 分） 第 8 回 ～ 第 11 回　教科書 52-63 頁（推定時間 90 分） 第 12 回　　教科書 66-73 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　　教科書 52-63 頁（推定時間 90 分） 第 14 回　　教科書該当頁なし 第 15 回　　教科書 74-85 頁（推定時間 45 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 課題を達成させるため，授業中は集中して取り組み，提出締め切りを守ること．
2. 授業中に課題を達成できなかった場合には，宿題として次回までに達成させること．
3. キャリサポでの個人面談は，できるだけ早く予約をとること．
4. 「内定獲得ガイダンス」を欠席した場合には，キャリサポで，ガイダンスをビデオに撮った DVD を観て，内容についてのレポート（用紙あり）を教員に提出すること．

授業スケジュール

1. スタートガイダンス，「自己 PR 文」の確認
2. 内定獲得ガイダンス③　（マイナビの外部講師による）
3. 「履歴書」の作成
4. 「履歴書」の完成と提出
5. 「企業研究シート」の作成（1）
6. 「企業研究シート」の作成（2）
7. 「企業研究シート」の完成（3）
8. 「エントリーシート」の作成（1）
9. 内定獲得ガイダンス④　（マイナビの外部講師による）
10. 「エントリーシート」の作成（2）
11. 「エントリーシート」の作成（3）
12. 内定獲得ガイダンス⑤　（マイナビの外部講師による）
13. 「エントリーシート」の完成と提出
14. 内定獲得ガイダンス⑥　（マイナビの外部講師による）
15. 総復習・総整理

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	★	－

年度	2018	授業コード	J80100411
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	川﨑　雄二郎	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自己ＰＲ文」、「練習用エントリーシート」といった各種のシートを配布するので、受講生はそれらに記入することで、就職活動に向けた実践的な準備作業を行う。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、進路選択や目標設定をより明確にしていく。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、練習用「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．練習用「エントリーシート」を書く①
10．練習用「エントリーシート」を書く②
11．練習用「エントリーシート」を書く③
12．練習用「エントリーシート」を書く④
13．練習用「エントリーシート」について話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100412
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自己ＰＲ文」、「練習用エントリーシート」といった各種のシートを配布するので、受講生はそれらに記入することで、就職活動に向けた実践的な準備作業を行う。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、進路選択や目標設定をより明確にしていく。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、練習用「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．練習用「エントリーシート」を書く①
10．練習用「エントリーシート」を書く②
11．練習用「エントリーシート」を書く③
12．練習用「エントリーシート」を書く④
13．練習用「エントリーシート」について話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100413
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自己ＰＲ文」、「練習用エントリーシート」といった各種のシートを配布するので、受講生はそれらに記入することで、就職活動に向けた実践的な準備作業を行う。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、進路選択や目標設定をより明確にしていく。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、練習用「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．練習用「エントリーシート」を書く①
10．練習用「エントリーシート」を書く②
11．練習用「エントリーシート」を書く③
12．練習用「エントリーシート」を書く④
13．練習用「エントリーシート」について話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100414
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自己ＰＲ文」、「練習用エントリーシート」といった各種のシートを配布するので、受講生はそれらに記入することで、就職活動に向けた実践的な準備作業を行う。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、進路選択や目標設定をより明確にしていく。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、練習用「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．練習用「エントリーシート」を書く①
10．練習用「エントリーシート」を書く②
11．練習用「エントリーシート」を書く③
12．練習用「エントリーシート」を書く④
13．練習用「エントリーシート」について話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100415
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自己ＰＲ文」、「練習用エントリーシート」といった各種のシートを配布するので、受講生はそれらに記入することで、就職活動に向けた実践的な準備作業を行う。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、進路選択や目標設定をより明確にしていく。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、練習用「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．練習用「エントリーシート」を書く①
10．練習用「エントリーシート」を書く②
11．練習用「エントリーシート」を書く③
12．練習用「エントリーシート」を書く④
13．練習用「エントリーシート」について話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100416
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自己ＰＲ文」、「練習用エントリーシート」といった各種のシートを配布するので、受講生はそれらに記入することで、就職活動に向けた実践的な準備作業を行う。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、進路選択や目標設定をより明確にしていく。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、練習用「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．練習用「エントリーシート」を書く①
10．練習用「エントリーシート」を書く②
11．練習用「エントリーシート」を書く③
12．練習用「エントリーシート」を書く④
13．練習用「エントリーシート」について話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100417
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自己ＰＲ文」、「練習用エントリーシート」といった各種のシートを配布するので、受講生はそれらに記入することで、就職活動に向けた実践的な準備作業を行う。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、進路選択や目標設定をより明確にしていく。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、練習用「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．練習用「エントリーシート」を書く①
10．練習用「エントリーシート」を書く②
11．練習用「エントリーシート」を書く③
12．練習用「エントリーシート」を書く④
13．練習用「エントリーシート」について話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100418
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自己ＰＲ文」、「練習用エントリーシート」といった各種のシートを配布するので、受講生はそれらに記入することで、就職活動に向けた実践的な準備作業を行う。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、進路選択や目標設定をより明確にしていく。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、練習用「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．練習用「エントリーシート」を書く①
10．練習用「エントリーシート」を書く②
11．練習用「エントリーシート」を書く③
12．練習用「エントリーシート」を書く④
13．練習用「エントリーシート」について話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100420
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自己ＰＲ文」、「練習用エントリーシート」といった各種のシートを配布するので、受講生はそれらに記入することで、就職活動に向けた実践的な準備作業を行う。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、進路選択や目標設定をより明確にしていく。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、練習用「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．練習用「エントリーシート」を書く①
10．練習用「エントリーシート」を書く②
11．練習用「エントリーシート」を書く③
12．練習用「エントリーシート」を書く④
13．練習用「エントリーシート」について話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100421
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自己ＰＲ文」、「練習用エントリーシート」といった各種のシートを配布するので、受講生はそれらに記入することで、就職活動に向けた実践的な準備作業を行う。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、進路選択や目標設定をより明確にしていく。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、練習用「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．練習用「エントリーシート」を書く①
10．練習用「エントリーシート」を書く②
11．練習用「エントリーシート」を書く③
12．練習用「エントリーシート」を書く④
13．練習用「エントリーシート」について話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100422
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自己ＰＲ文」、「練習用エントリーシート」といった各種のシートを配布するので、受講生はそれらに記入することで、就職活動に向けた実践的な準備作業を行う。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、進路選択や目標設定をより明確にしていく。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、練習用「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．練習用「エントリーシート」を書く①
10．練習用「エントリーシート」を書く②
11．練習用「エントリーシート」を書く③
12．練習用「エントリーシート」を書く④
13．練習用「エントリーシート」について話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100423
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自己ＰＲ文」、「練習用エントリーシート」といった各種のシートを配布するので、受講生はそれらに記入することで、就職活動に向けた実践的な準備作業を行う。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、進路選択や目標設定をより明確にしていく。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、練習用「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．練習用「エントリーシート」を書く①
10．練習用「エントリーシート」を書く②
11．練習用「エントリーシート」を書く③
12．練習用「エントリーシート」を書く④
13．練習用「エントリーシート」について話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100424
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	池田　晃彦	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自己ＰＲ文」、「練習用エントリーシート」といった各種のシートを配布するので、受講生はそれらに記入することで、就職活動に向けた実践的な準備作業を行う。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、進路選択や目標設定をより明確にしていく。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、練習用「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．練習用「エントリーシート」を書く①
10．練習用「エントリーシート」を書く②
11．練習用「エントリーシート」を書く③
12．練習用「エントリーシート」を書く④
13．練習用「エントリーシート」について話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100425
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2018	授業コード	J80100426
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2018	授業コード	J80100427
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2018	授業コード	J80100428
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2018	授業コード	J80100431
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2018	授業コード	J80100432
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2018	授業コード	J80100433
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2018	授業コード	J80100434
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2018	授業コード	J80100435
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2018	授業コード	J80100436
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2018	授業コード	J80100438
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ 【航空】	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	「自己ＰＲ文」、「練習用エントリーシート」といった各種のシートを配布するので、受講生はそれらに記入することで、就職活動に向けた実践的な準備作業を行う。これらは基本的に個人指導が中心になるが、内容を自ら口頭で発表したり、他の受講生の発表を傾聴することにより、進路選択や目標設定をより明確にしていく。		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、練習用「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化することができる。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移すことができる。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．練習用「エントリーシート」を書く①
10．練習用「エントリーシート」を書く②
11．練習用「エントリーシート」を書く③
12．練習用「エントリーシート」を書く④
13．練習用「エントリーシート」について話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100439
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2018	授業コード	J80100440
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Job Search Skills B		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	
授業概要	「キャリアサポート実践講座Ａ」の受講をふまえて、民間企業への就職希望者を対象とした講座として、面接、グループディスカッション対策、企業研究等を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『キャリアハンドブック』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布する		
評価方法	授業内課題への取り組みの積極性(100%)。 ただし、「自己ＰＲ文」の完成・提出、「エントリーシート」の完成・提出、「内定獲得ガイダンス」各回の受講、「全国一斉 WEB 模擬テスト」の受験を単位認定の必須要件とする。これらのスケジュール、詳細は、初回授業時に指示する。		
到達目標	・　文字通り自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・　自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けていますべき事をを整理しておく。 ・　キャリアサポートセンター主催の各種行事に出席すること。 ・　市販の問題集やインターネット上のサイトを利用して、SPI の問題に数多く触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを逃すことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

1．ガイダンス、自己ＰＲのポイント整理
2．「自己ＰＲ文」を書く①
3．「自己ＰＲ文」を書く②
4．口頭で自己ＰＲをする
5．内定獲得ガイダンス③の復習
6．企業研究①
7．企業研究②
8．面接対策セミナー
9．エントリーシートを書く①
10．エントリーシートを書く②
11．エントリーシートを書く③
12．エントリーシートを書く④
13．エントリーシートについて話す
14．就職活動に向けての実践練習①
15．就職活動に向けての実践練習②
※順序等は変更される場合があり、各回の内容の詳細は授業初回に説明する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2018	授業コード	J80100501
科目名	社会コミュニケーション基礎演習(実践プロジェクトC)	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
授業概要	社会や人々のコミュニケーションを研究するための基礎的なトレーニングを行なう。専門的な研究の存在意義を体験的に理解することを主眼とする。 この科目には3つのクラスがあり、このクラス（岡本裕介担当）は社会調査入門という位置づけである。テーマは「聞き出す仕事、調べる仕事」で、学術的な調査に従事している人以外にも社会には人から「聞き出す」仕事をしている人は多い。実際にそのような仕事に従事している複数の社会人（ジャーナリスト、企業・団体の調査担当者など）に会い、そのような仕事のコツや意義、体験談などを話してもらう。最後に、そこで得たノウハウを生かし、社会人を対象とした独自の簡単なインタビュー調査を行なう予定である。		
教材（教科書）	なし。プリント教材を講義中に配付する（京学なびにも掲示する）。		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	インタビューの準備、実査、結果集約からなる。 準備：提示された資料を整理し、質問項目を作成する。 実査：準備した質問項目に基づいて、受講生がインタビューを行なう。 結果集約：インタビューの記録を分担して集約し、ディスカッションを行なう。		
評価方法	インタビューの準備・実施・結果集約の貢献度（70%）、報告書（30%）		
到達目標	非指示的インタビュー調査の質問項目を作成することができる。 非指示的インタビューに際して、何を考え、どのようなコミュニケーションをすべきかを説明することができる。 調査によって得られた質的データをわかりやすく整理することができる。		
授業時間外学習	各回の 3 日前までに、京学なびにプリント教材を掲示するので、よく読んでおくこと。 インタビューを実施したらその日のうちにメモを読んで整理しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
積極的に参加してほしい。			
授業スケジュール			
《ガイダンス》 1. この科目のねらい、スケジュール、インタビュー対象者の簡単なプロフィール、実査時のマナーなどの解説 2. インタビュー調査概説(1)――インタビュー調査とは 3. インタビュー調査概説(2)――聞き出すことの難しさ 《聞き出す仕事、調べる仕事》 4. 対象者 1　事前調査 5. 講義とインタビュー 6. 内容の集約 7. 対象者 2　事前調査 8. 講義とインタビュー 9. 内容の集約 《独自インタビュー》 10. 問題設定、事前調査 11. 聞き取り項目等の準備 12. 実査 13. 聞き取り内容の整理			

14. 報告書作成 15. プレゼンテーション、ディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100502
科目名	社会コミュニケーション基礎演習(実践プロジェクトC)	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
授業概要	「社会コミュニケーション基礎演習」では、社会のなりたちや動き、人々のコミュニケーションを研究するための基礎的なトレーニングを行ないます。フィールドワークの準備と実施や、プレゼンテーションなどをおこないます。 この科目には３つのクラスがあり、このクラス（小川賢治担当）では、京都市内の寺社に出向いて、「京都の観光」というテーマについて、観光客にインタビューします。 　なお、フィールドワークは土曜日に実施し、演習に振り替えます。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	演習時に指示します。		
教育方法	2、3 回、観光地へインタビュー調査に出かける。その準備として、授業時間内には、担当教員からインタビュー技術などについて説明し、受講者には、調査対象となる寺社についての報告を求める。		
評価方法	フィールドワークの準備と実施(（50%)、プレゼンテーション（30%)、討論（20%）		
到達目標	簡単なインタビュー技術を学び、実際にインタビューをおこなう。 プレゼンテーションをおこなう力を身につける。 京都の歴史についての知識を得る。、 社会学の考え方の基礎を知る。		
授業時間外学習	1. 京都について知っていることを 200 字程度でまとめておく。 2. 観光地･京都のお寺について調べる 3. 観光地・京都の神社について調べる 4. 三条通に関する資料を読んでおく。 5. 三条通フィールドワークの計画を立てる。 6. 三条通フィールドワーク結果をまとめる。 7. インタビュー技術に関する資料を読んでおく。 8. 資料「「創られた伝統」について」を読んでおく。 8. 平安神宮に関する資料を読んでおく。 9. 平安神宮フィールドワークの計画を立てる。 10. 平安神宮フィールドワーク結果をまとめる。 11. 資料「「文化の階級性」について」を読んでおく。 12. 南禅寺に関する資料を読んでおく。 13. 南禅寺フィールドワークの計画を立てる。 14. 南禅寺フィールドワーク結果をまとめる。 15. 3 回のフィールドワークの比較をしておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
科目の趣旨から考えて、積極的に参加してほしい。 観光客へのインタビューでは気後れせずに取り組んでほしい。 教室内でのプレゼンテーションでは、回数を重ねるごとに上達していってほしい。			
授業スケジュール			
1. 導入。この演習の目的や考え方について 2. 観光地･京都のお寺について発表 3. 観光地・京都の神社について発表 4. 三条通フィールドワークの準備 5. 三条通フィールドワークの実施 6. 三条通フィールドワーク結果の発表			

7. インタビュー技術
8.「創られた伝統」について
8. 平安神宮フィールドワークの準備
9. 平安神宮フィールドワークの実施
10. 平安神宮フィールドワーク結果の発表
11.「文化の階級性」について
12. 南禅寺フィールドワークの準備
13. 南禅寺フィールドワークの実施
14. 南禅寺フィールドワーク結果の発表
15. 3 回のフィールドワークの比較

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80100503
科目名	社会コミュニケーション基礎演習(実践プロジェクトC)	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
授業概要	「社会コミュニケーション基礎演習」では、社会のなりたちや動き、人々のコミュニケーションを研究するための基礎的なトレーニングを行ないます。フィールドワークの準備と実施や、プレゼンテーションなどをおこないます。 この科目には３つのクラスがあり、このクラス（君塚洋一担当）は、以下のテーマで行います。 私たちにとって「まち」とは目で見ることのできる地域・社会・世間です。身近な地域で人のために働く人たちは、自分の仕事を通してどのように「まち」を支えているか、それを成功させるためにどのような独自の発想や発信を行っているか。受講生全員が亀岡や京都の仕事のプロの方々を訪れ、インタビュー調査とまち歩きを通じてそれらを探っていきます。 この演習では、少人数のグループに分かれて、3〜4 人のプロの方を順々に訪問し、インタビューやディスカッションを行って、その成果をレポートにまとめます。最終レポートを全員の前でプレゼンテーションして成果や反省点をみんなでふりかえります。社会調査のスキルを身につける実習となることもねらいとしています。 あわせて、それぞれの仕事についてのインタビューにより、プロの方々のキャリア設計や人生観、成功体験などを通じて、受講生が自分自身の進路やキャリアを考えるヒントともなればと考えます。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	演習時に指示します。		
教育方法	受講生全員がそれぞれの役割や作業をもちつつ参加する。文献やインターネットを通じたインタビュー対象者についての基礎学習、対象者の事前訪問、インタビューの質問設計、インタビューの運営準備、当日の進行、議事録とレポートの作成とその発表、活動のふりかえりなどを行う。		
評価方法	毎回の演習への出席とフィールドワークへの参加：40%、グループワークとディスカッション：20%、レポート：40%		
到達目標	（1）社会や地域の目に見える一断面＝まちに入り込み、人々の人生・生活・仕事の「現場＝フィールド」を体験する。 （2）社会調査の手法の一つとして、インタビュー調査（定性調査）の方法を実践を通じて身につける。 （3）個人の進路のあり方、まちづくり（コミュニティの活性化）について自分自身・チームで構想する。		
授業時間外学習	フィールドワークの地域やインタビューの対象者について事前に調べレジュメにまとめる。インタビューの実施にあたって質問項目を設計し、すすめ方をイメージする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
科目の趣旨から、毎回の演習への出席とフィールドワーク（学外が中心となる）への参加は必須です。フィールドワークにはまとまった時間が必要なため、土曜日に 2〜3 回、授業時間内に 1〜2 回をあてるので、前向きに日程の調整を行うようにしてください。チームごとに担当するインタビューの相手とは事前に現地で打ち合わせを行い、当日に備えます。学外の相手、他のゼミ生との積極的なコミュニケーションと共同作業を行っていく意欲をもつ人に適した演習です。課題が比較的多くなりますが、調査設計やレポーティング、ディスカッションや発表など、3 回生以降の「専門ゼミ」で必要な基礎能力を鍛えることをめざします。			
授業スケジュール			
第 01 回：オリエンテーション＆作業分担決定 第 02 回：第 1 回フィールドワークの準備 第 03 回：第 1 回フィールドワーク 第 04 回：第 1 回フィールドワークのレポート発表 第 05 回：第 2 回フィールドワークの準備 第 06 回：第 2 回フィールドワーク 第 07 回：第 2 回フィールドワークのレポート発表			

第 08 回：第 3 回フィールドワークの準備 第 09 回：第 3 回フィールドワーク 第 10 回：第 3 回フィールドワークのレポート発表 第 11 回：第 4 回フィールドワークの準備 第 12 回：第 4 回フィールドワーク 第 13 回：第 4 回フィールドワークのレポート発表 第 14 回：最終レポートの指導 第 15 回：最終プレゼンテーションとふりかえり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J80110102
科目名	ＡＩＰ入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Internship (Introduction)		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	学生が京都の企業に企業留学し，学修へのモチベーションを高めるとともに，卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（アドバンスト・インターンシップ・プログラム；ＡＩＰ）の「最初」に位置付けられる科目である。 ①ビジネスマナー等のビジネススキルの実習を行うほか、②なぜ、インターンシップに取り組むのかを考え、実習に向けた目標の設定をグループワーク形式で行い、実習メンバー間の目的意識を共有することを通じて、学生が、実習経験を最大限活かせるような「態度」を身につけることをねらいとする。		
教材（教科書）	プリント資料の配付		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	必要最低限の情報は講義で伝達することとし、グループワークを通してその定着を図る。 また、インターンシップの目標については、クラス内で、プレゼンテーションを行うこととし、相互批判を通じてブラッシュアップを図っていく。		
評価方法	事前授業の取組態度(20％) 具体的には、発言等々の授業への参加状況を総合的に評価する 実習前の「事前レポート」(80％)		
到達目標	学生は、以下の事項を習得ないし行うことができるようにする。 １．企業で働く上で、必要となる基礎的マナーを身につける ２．企業で働く上でのルールや注意しなければならない点について理解する。 ３．実習に取り組む上で個人的な目標設定を行う。 ４．インターンシップそのものの重要性について理解する。		
授業時間外学習	第 1 回目…2016/06/16 日経夕刊「好印象を与える自己紹介のポイント」により、自己紹介の準備をする。 第 2 回目～第 3 回目…「インターンシップ」について、最近のニュース報道を調べる。 第 4 回目～第 6 回目…著名経営者の体験談等の雑誌記事を紹介するので、これを読み、また、「京の企業Ｉ」のゲストスピーカーの話しを聞き、「社会で活躍できる人材とは」について、各自の考えをまとめる。(最低 5 時間以上の時間をかけて熟慮) 第 7 回目～第 11 回目…職場での基礎的なマナーとルール、困ったときの対処法について、実習期間中を想定しながら具体的に考えてみる。(最低 5 時間以上の時間をかけて熟慮) 第 12 回目～第 15 回目…「実習に向けた目標設定」を行い、レポートにまとめる。授業時間中に発表、メンバー間で相互批判を行い、これに基づきレポートを修正する。(最低 5 時間以上の時間をかけて熟慮)		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ＡＩＰのための事前授業であるので、実習参加が認められていることが前提である。これからのインターシップ実習を想定しながら、意欲的に取り組みが重要である。

授業は、教員･学生間双方向で行う。あらゆる局面において、自分の意見を持ち、活発な意見交換をお願いする。

授業スケジュール

1　参加メンバーの相互理解
2　「インターンシップ」というものの理解
3　インターンシップの危機管理
4　大学の学びとインターンシップ①
5　大学の学びとインターンシップ②
6　大学の学びとインターンシップ③

7　ビジネスのルールを知る①
8　ビジネスのルールを知る②
9　ビジネスのルールを知る③
１０メンタルヘルス①
１１メンタルヘルス②
１２実習に向けた目標設定①
１３実習に向けた目標設定②
１４実習に向けた目標設定③
１５実習に向けた目標設定④

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	J80110201
科目名	京の企業Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Small and Medium Enterprises in Kyoto Ⅰ		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	本科目は企業で「働く」という事に対する理解を深めると同時に，京都の企業に対する興味関心を深め，自分なりの「働く」ことに対する意味を探求する科目である．組織の中で働くとはどういうことか，そして与えられた役割を果たすとはどういうことかについて考え，職業社会への参入に向けた準備を行う．なお，本科目はアドバンスト・インターンシップ・プログラムに参加するための必須科目（事前学修科目）である．		
教材（教科書）	特になし．必要に応じて適宜指示する．		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する．		
教育方法	学生の報告中心に講義を交えて進める		
評価方法	授業中に指示する課題への取組(50%)，レポート課題(50%)		
到達目標	企業で働くことに対する意義を説明することができる 京都の企業の魅力を説明することができる 「働く」ことに対する自分なりの意味づけを説明することができる		
授業時間外学習	授業内で提示した課題に関する事前調査が必須となるので，授業開始時までに必ず指示した内容について調べ，内容を整理しておくこと．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本科目はインターンシップ生として職業社会に参入するための準備的意味合いを持つ科目である．したがって，普段の行動についても社会人と同様の水準で評価する．理由なき遅刻，欠席の厳禁はもちろんのこと，提出物についても必ず期日を守ること．また，本科目を受講しなければ企業実務への参加をすることができないので，真摯な態度での受講が求められる．

授業スケジュール

1.ガイダンス＆職業の意義とは何か？
2.先輩から学ぶインターンシップ
3.「社会的役割を果たす」とは？
4.「労働力」と「給料」
5.「天職とは？」
6.日本の雇用と働く仕組み
7.京都の企業を知る①
8.京都の企業を知る②
9.京都の企業を知る③
10.職務を理解する①
11.職務を理解する②
12.職務を理解する③
13.「社会的役割」としての仕事①
14.「社会的役割」としての仕事②
15.「社会的役割」としての仕事③

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J80110301
科目名	京の企業II	単位数	2
科目名（英語表記）	Small and Medium Enterprises in Kyoto II		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	本科目はインターンシップを通じた実務経験の振り返りを通じて,「働く」ことの意味について再構築する科目である．インターンシップでの実務経験と対比しながら「働く」ということについて考えると同時に，社会で必要となる「学び」の形とは何かについて考える．なお，本科目はアドバンスト・インターンシップ・プログラムを修了するための必須科目（事後学修科目）である．		
教材（教科書）	特になし．必要に応じて資料を配付する．		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する．		
教育方法	学生の報告を中心に講義を交えて進める		
評価方法	授業中に提示する課題への取組(50%)とレポート課題(50%)		
到達目標	「働く」ことについて，実務経験を踏まえてその意味を説明することができる 社会で必要となる「学び」の形を説明することができる インターンシップでの経験を体系化してまとめ、説明することができる		
授業時間外学習	実務経験を通じて感じたり気づいた事柄を具体化していく作業を授業内で実施するので，自分の考えや感じたことや気づきをあらかじめメモや文章などにしてまとめておく．また，授業内で資料作成等を指示するので，期日までに必ず完成させること．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

普段の行動についても社会人と同様の水準で評価する．理由なき遅刻，無断欠席は厳禁．提出物についても必ず期日を守ること．

授業スケジュール

1.実務経験を考える
2.組織社会化①
3.組織社会化②
4.職業の意義・再考
5.企業で働くことの意味①
6.企業で働くことの意味②
7.学校から職業への移行①
8.学校から職業への移行②
9.京の企業で働く①
10.京の企業で働く②
11.京の企業で働く③
12.社会に繋がる学び①
13.社会に繋がる学び②
14.社会に繋がる学び③
15.社会に繋がる学び④

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J80110401
科目名	企業実務A	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Internship A		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
授業概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を理解し，組織に適応するプロセスについて学びます。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	実習を通じて学習内容の理解を深めるとともに，グループワーク，個別面談を通じて学習内容の定着を図る。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：40% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：45% 面談指導，情報共有会での報告等：15%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を深く理解し説明することができる (2)：組織に適応し，実務を円滑に遂行することができる		
授業時間外学習	実務前に自らが取り組む予定である業務がどのようなものであるかについて調べ，具体的なイメージを固めておくこと。合わせて，実務に取り組むにあたり必要となる事柄について準備を進めた上で実務に臨むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。 また，本科目の受講にあたっては「京の企業1」「AIP入門」を受講しておくこと。			
授業スケジュール			
企業での実務（週4日）と面談指導（週1回）のペースで4週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月1回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J80110402
科目名	企業実務A	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Internship A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を理解し，組織に適応するプロセスについて学びます。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	実習を通じて学習内容の理解を深めるとともに，グループワーク，個別面談を通じて学習内容の定着を図る。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：40% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：45% 面談指導，情報共有会での報告等：15%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を深く理解し説明することができる (2)：組織に適応し，実務を円滑に遂行することができる		
授業時間外学習	実務前に自らが取り組む予定である業務がどのようなものであるかについて調べ，具体的なイメージを固めておくこと。合わせて，実務に取り組むにあたり必要となる事柄について準備を進めた上で実務に臨むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。 また，本科目の受講にあたっては「京の企業1」「AIP入門」を受講しておくこと。			
授業スケジュール			
企業での実務（週4日）と面談指導（週1回）のペースで4週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月1回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J80110403
科目名	企業実務A	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Internship A		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を理解し，組織に適応するプロセスについて学びます。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	実習を通じて学習内容の理解を深めるとともに，グループワーク，個別面談を通じて学習内容の定着を図る。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：40% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：45% 面談指導，情報共有会での報告等：15%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を深く理解し説明することができる (2)：組織に適応し，実務を円滑に遂行することができる		
授業時間外学習	実務前に自らが取り組む予定である業務がどのようなものであるかについて調べ，具体的なイメージを固めておくこと。合わせて，実務に取り組むにあたり必要となる事柄について準備を進めた上で実務に臨むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。 また，本科目の受講にあたっては「京の企業1」「AIP入門」を受講しておくこと。			
授業スケジュール			
企業での実務（週4日）と面談指導（週1回）のペースで4週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月1回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J80110404
科目名	企業実務A	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Internship A		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を理解し，組織に適応するプロセスについて学びます。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	実習を通じて学習内容の理解を深めるとともに，グループワーク，個別面談を通じて学習内容の定着を図る。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：40% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：45% 面談指導，情報共有会での報告等：15%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を深く理解し説明することができる (2)：組織に適応し，実務を円滑に遂行することができる		
授業時間外学習	実務前に自らが取り組む予定である業務がどのようなものであるかについて調べ，具体的なイメージを固めておくこと。合わせて，実務に取り組むにあたり必要となる事柄について準備を進めた上で実務に臨むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。 また，本科目の受講にあたっては「京の企業1」「AIP入門」を受講しておくこと。			
授業スケジュール			
企業での実務（週4日）と面談指導（週1回）のペースで4週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月1回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J80110501
科目名	企業実務B	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Internship B		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
授業概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	実習を通じて学習内容の理解を深めるとともに，グループワーク，個別面談を通じて学習内容の定着を図る。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：40% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：45% 面談指導，情報共有会での報告等：15%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：組織に適応し，与えられた職務・役割を通じて貢献していくことができる (3)：社会で必要な「学び」についてのヒントを得ることができる		
授業時間外学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。
(2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。
また，本科目の受講にあたっては「京の企業 1」「AIP 入門」を受講しておくこと。

授業スケジュール

企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 4 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。
月 1 回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J80110502
科目名	企業実務B	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Internship B		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	実習を通じて学習内容の理解を深めるとともに，グループワーク，個別面談を通じて学習内容の定着を図る。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：40% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：45% 面談指導，情報共有会での報告等：15%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：組織に適応し，与えられた職務・役割を通じて貢献していくことができる (3)：社会で必要な「学び」についてのヒントを得ることができる		
授業時間外学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。
(2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。
また，本科目の受講にあたっては「京の企業 1」「AIP 入門」を受講しておくこと。

授業スケジュール

企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 4 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。
月 1 回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J80110503
科目名	企業実務B	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Internship B		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	実習を通じて学習内容の理解を深めるとともに，グループワーク，個別面談を通じて学習内容の定着を図る。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：40% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：45% 面談指導，情報共有会での報告等：15%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：組織に適応し，与えられた職務・役割を通じて貢献していくことができる (3)：社会で必要な「学び」についてのヒントを得ることができる		
授業時間外学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。
(2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。
また，本科目の受講にあたっては「京の企業 1」「AIP 入門」を受講しておくこと。

授業スケジュール

企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 4 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。
月 1 回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J80110504
科目名	企業実務B	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Internship B		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	実習を通じて学習内容の理解を深めるとともに，グループワーク，個別面談を通じて学習内容の定着を図る。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：40% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：45% 面談指導，情報共有会での報告等：15%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：組織に適応し，与えられた職務・役割を通じて貢献していくことができる (3)：社会で必要な「学び」についてのヒントを得ることができる		
授業時間外学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。
(2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。
また，本科目の受講にあたっては「京の企業 1」「AIP 入門」を受講しておくこと。

授業スケジュール

企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 4 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。
月 1 回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J80110601
科目名	企業実務C	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Internship C		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
授業概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	実習を通じて学習内容の理解を深めるとともに，グループワーク，個別面談を通じて学習内容の定着を図る。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：35% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：50% 面談指導，情報共有会での報告等：25%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：社会で必要となる「学び」の本質について理解することができる		
授業時間外学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。 また，本科目の受講にあたっては「京の企業 1」「AIP 入門」を受講しておくこと。			
授業スケジュール			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 4 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月 1 回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J80110602
科目名	企業実務C	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Internship C		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	実習を通じて学習内容の理解を深めるとともに，グループワーク，個別面談を通じて学習内容の定着を図る。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：35% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：50% 面談指導，情報共有会での報告等：25%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：社会で必要となる「学び」の本質について理解することができる		
授業時間外学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。 また，本科目の受講にあたっては「京の企業 1」「AIP 入門」を受講しておくこと。			
授業スケジュール			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 4 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月 1 回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J80110603
科目名	企業実務C	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Internship C		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	実習を通じて学習内容の理解を深めるとともに，グループワーク，個別面談を通じて学習内容の定着を図る。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：35% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：50% 面談指導，情報共有会での報告等：25%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：社会で必要となる「学び」の本質について理解することができる		
授業時間外学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。 また，本科目の受講にあたっては「京の企業 1」「AIP 入門」を受講しておくこと。			
授業スケジュール			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 4 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月 1 回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J80110604
科目名	企業実務C	単位数	4
科目名（英語表記）	Advanced Internship C		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	実習を通じて学習内容の理解を深めるとともに，グループワーク，個別面談を通じて学習内容の定着を図る。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：35% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：50% 面談指導，情報共有会での報告等：25%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：社会で必要となる「学び」の本質について理解することができる		
授業時間外学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。 また，本科目の受講にあたっては「京の企業 1」「AIP 入門」を受講しておくこと。			
授業スケジュール			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 4 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月 1 回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J80110701
科目名	企業実務D	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Internship D		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
授業概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	実習を通じて学習内容の理解を深めるとともに，グループワーク，個別面談を通じて学習内容の定着を図る。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：35% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：50% 面談指導，情報共有会での報告等：25%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：社会で必要となる「学び」の本質について理解することができる		
授業時間外学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。 また，本科目の受講にあたっては「京の企業 1」「AIP 入門」を受講しておくこと。			
授業スケジュール			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 2 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月 1 回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J80110702
科目名	企業実務D	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Internship D		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	実習を通じて学習内容の理解を深めるとともに，グループワーク，個別面談を通じて学習内容の定着を図る。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：35% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：50% 面談指導，情報共有会での報告等：25%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：社会で必要となる「学び」の本質について理解することができる		
授業時間外学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。 また，本科目の受講にあたっては「京の企業 1」「AIP 入門」を受講しておくこと。			
授業スケジュール			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 2 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月 1 回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J80110703
科目名	企業実務D	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Internship D		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	実習を通じて学習内容の理解を深めるとともに，グループワーク，個別面談を通じて学習内容の定着を図る。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：35% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：50% 面談指導，情報共有会での報告等：25%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：社会で必要となる「学び」の本質について理解することができる		
授業時間外学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。 また，本科目の受講にあたっては「京の企業 1」「AIP 入門」を受講しておくこと。			
授業スケジュール			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 2 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月 1 回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J80110704
科目名	企業実務D	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Internship D		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	本科目は企業での実務を通じて「働く」ことの実態について身を持って経験し，深く理解するための科目です。与えられた職務・役割を遂行するなかで，組織の中で貢献することの重要性について学びます。合わせて，社会で必要な「学び」とは何かについて学んでいきます。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	実習を通じて学習内容の理解を深めるとともに，グループワーク，個別面談を通じて学習内容の定着を図る。		
評価方法	社会人としての基本的な態度・行動：35% 与えられた職務・役割の理解，職場への適応：50% 面談指導，情報共有会での報告等：25%		
到達目標	(1)：実務において与えられた役割を遂行していくことができる (2)：社会で必要となる「学び」の本質について理解することができる		
授業時間外学習	自らが取り組んでいる業務・役割の意味を理解し，業務上必要な事柄について勉強した上で実務に臨むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1)：職業社会の一員としてふさわしい態度，行動を取ること。 (2)：与えられた役割，職務に責任を持ち，遂行できるようにすること。 また，本科目の受講にあたっては「京の企業 1」「AIP 入門」を受講しておくこと。			
授業スケジュール			
企業での実務（週 4 日）と面談指導（週 1 回）のペースで 2 週間実施する。面談指導の際には業務日報を持参してくること。業務日報は日々の実務終了時に記入し，実務指導者にチェックして頂いたものを持参すること。 月 1 回実施予定である情報共有会についても積極的参加を求める。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J80110801
科目名	現代アジア事情 A	単位数	4
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia A		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
授業概要	この科目は、アジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」では、本学の提携大学である南通大学における中国語語学研修を通じて、中国の文化や歴史に触れることを目的とします。中国語入門レベルの文法、リスニング、語彙、スピーキングの基礎を習得することを目指します。研修後に予定されている中国の日系企業などで行われるインターンシップにおいて、日常会話や職場内での基本的なコミュニケーションがとれるようになることを狙いとしています。		
教材（教科書）	授業内で配布します。		
教材（参考資料）	授業で指示します。		
教育方法	−		
評価方法	本学での中国語の事前学習状況、南通大学での授業への参加・学習の状況、およびレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国語および中国語文化、社会,経済事情に対する初歩的な知識を身に着け、中国の現代社会において最低限必要なコミュニケ―ションをとるための語学力の基礎を習得します。		
授業時間外学習	各講義の前に復習、予習時間の時間を設け、授業で学んだ単語とフレーズを必ず声に出して読んだ上、暗記するようにしてください。また、授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

授業スケジュール

1. オリエンテーション、中国語による自己紹介、あいさつの方法
　　授業内容の説明
2. 発音(1)　四声と母音
3. 発音(2)　母音の後半と子音
4. 発音(3)　鼻母音、名前の中国語読み・挨拶の言葉
5. 発音の復習、中国語文化(1)
6. 中国語文法：指示代名詞など
7. 中国語文法、発音の復習、中国経済事情（1）
8. 会話演習（1), 中国語文化(2), 太極拳（１）
9. 中国語文法：場所代名詞、副詞など、中国語文化（3)
10.会話演習（2), 中国語文法：代名詞、副詞の復習、中国経済事情（2)
11. 中国語文法：　疑問詞、不定の表現、太極拳(2)
12.会話演習（3), 中国語文法：　方位詞、数量詞と存在の表現、中国経済事情(3)
13. 中国語文法：比較、動詞の可能形、発音復習、太極拳(3)
14. 会話演習(4)
15. 会話演習(5), 中国語文化（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J80110802
科目名	現代アジア事情 A	単位数	4
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia A		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
授業概要	この科目は、アジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」では、本学の提携大学である南通大学における中国語語学研修を通じて、中国の文化や歴史に触れることを目的とします。中国語入門レベルの文法、リスニング、語彙、スピーキングの基礎を習得することを目指します。研修後に予定されている中国の日系企業などで行われるインターンシップにおいて、日常会話や職場内での基本的なコミュニケーションがとれるようになることを狙いとしています。		
教材（教科書）	授業内で配布します。		
教材（参考資料）	授業で指示します。		
教育方法	−		
評価方法	本学での中国語の事前学習状況、南通大学での授業への参加・学習の状況、およびレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国語および中国語文化、社会,経済事情に対する初歩的な知識を身に着け、中国の現代社会において最低限必要なコミュニケ―ションをとるための語学力の基礎を習得します。		
授業時間外学習	各講義の前に復習、予習時間の時間を設け、授業で学んだ単語とフレーズを必ず声に出して読んだ上、暗記するようにしてください。また、授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

授業スケジュール

1. オリエンテーション、中国語による自己紹介、あいさつの方法
　　授業内容の説明
2. 発音(1)　四声と母音
3. 発音(2)　母音の後半と子音
4. 発音(3)　鼻母音、名前の中国語読み・挨拶の言葉
5. 発音の復習、中国語文化(1)
6. 中国語文法：指示代名詞など
7. 中国語文法、発音の復習、中国経済事情（1）
8. 会話演習（1), 中国語文化(2), 太極拳（１）
9. 中国語文法：場所代名詞、副詞など、中国語文化（3)
10. 会話演習（2), 中国語文法：代名詞、副詞の復習、中国経済事情（2)
11. 中国語文法：　疑問詞、不定の表現、太極拳(2)
12. 会話演習（3), 中国語文法：　方位詞、数量詞と存在の表現、中国経済事情(3)
13. 中国語文法：比較、動詞の可能形、発音復習、太極拳(3)
14. 会話演習(4)
15. 会話演習(5), 中国語文化（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J80110803
科目名	現代アジア事情 A	単位数	4
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	この科目は、アジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」では、本学の提携大学である南通大学における中国語語学研修を通じて、中国の文化や歴史に触れることを目的とします。中国語入門レベルの文法、リスニング、語彙、スピーキングの基礎を習得することを目指します。研修後に予定されている中国の日系企業などで行われるインターンシップにおいて、日常会話や職場内での基本的なコミュニケーションがとれるようになることを狙いとしています。		
教材（教科書）	授業内で配布します。		
教材（参考資料）	授業で指示します。		
教育方法	−		
評価方法	本学での中国語の事前学習状況、南通大学での授業への参加・学習の状況、およびレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国語および中国語文化、社会,経済事情に対する初歩的な知識を身に着け、中国の現代社会において最低限必要なコミュニケ―ションをとるための語学力の基礎を習得します。		
授業時間外学習	各講義の前に復習、予習時間の時間を設け、授業で学んだ単語とフレーズを必ず声に出して読んだ上、暗記するようにしてください。また、授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

授業スケジュール

1. オリエンテーション、中国語による自己紹介、あいさつの方法
　　授業内容の説明
2. 発音(1)　四声と母音
3. 発音(2)　母音の後半と子音
4. 発音(3)　鼻母音、名前の中国語読み・挨拶の言葉
5. 発音の復習、中国語文化(1)
6. 中国語文法：指示代名詞など
7. 中国語文法、発音の復習、中国経済事情（1）
8. 会話演習（1), 中国語文化(2), 太極拳（１）
9. 中国語文法：場所代名詞、副詞など、中国語文化（3)
10. 会話演習（2), 中国語文法：代名詞、副詞の復習、中国経済事情（2)
11. 中国語文法：　疑問詞、不定の表現、太極拳(2)
12. 会話演習（3), 中国語文法：　方位詞、数量詞と存在の表現、中国経済事情(3)
13. 中国語文法：比較、動詞の可能形、発音復習、太極拳(3)
14. 会話演習(4)
15. 会話演習(5), 中国語文化（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J80110901
科目名	現代アジア事情 B	単位数	4
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia B		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
授業概要	この科目は、本学がアジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」に引き続き、さらなる語学の修得を目指しつつ、中国の文化や歴史、現在の社会、経済事情、法律などを把握することを目的とします。研修後に予定されている、中国の日系企業などで行われるインターンシップにおいて、中国における文化や習慣、マナー、経済事情や社会について理解し、企業実習を行うにあたって、スムーズにコミュニケーションがとれる力をつけることを目標とします。		
教材（教科書）	授業内で配布します。		
教材（参考資料）	授業で指示します。		
教育方法	－		
評価方法	授業への参加・発表の状況、課題の提出状況、および研修終了後のレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国文化と経済、社会、法律の事情に対する理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身に着け、中国の現代社会に必要なコミュニケ―ションをとるための語学力の基礎を習得します。		
授業時間外学習	毎回の授業前に必ず復習・予習の時間を設け、授業で学んだ単語とフレ－ズは必ず声に出して練習した上、暗記するようにしてください。授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

授業スケジュール

1.　オリエンテーション、授業に関する説明、中国語文化(1)
2.　読解(1)，中国語文化（2）
3.　会話演習(1)、中国 j 経済事情（1）
4. .会話演習と作文（1)、中国語文化（3）
5.　読解(2)，太極拳(1)
6.　会話演習(2)、中国経済事情(2)
7.　会話演習と作文（2)
8.　読解(3)，太極拳（2）
9. 会話演習(3)，中国経済事情（3）
10. 会話演習と作文（3)
11. 読解(4)、中国語文化（4)
12. 会話演習(4)，太極拳（3）
13. 会話演習と作文（4)
14. 会話と作文の復習、中国経済事情(4)
15. 中国文化(5)，会話演習復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80110902
科目名	現代アジア事情 B	単位数	4
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia B		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
授業概要	この科目は、本学がアジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」に引き続き、さらなる語学の修得を目指しつつ、中国の文化や歴史、現在の社会、経済事情、法律などを把握することを目的とします。研修後に予定されている、中国の日系企業などで行われるインターンシップにおいて、中国における文化や習慣、マナー、経済事情や社会について理解し、企業実習を行うにあたって、スムーズにコミュニケーションがとれる力をつけることを目標とします。		
教材（教科書）	授業内で配布します。		
教材（参考資料）	授業で指示します。		
教育方法	－		
評価方法	授業への参加・発表の状況、課題の提出状況、および研修終了後のレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国文化と経済、社会、法律の事情に対する理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身に着け、中国の現代社会に必要なコミュニケ―ションをとるための語学力の基礎を習得します。		
授業時間外学習	毎回の授業前に必ず復習・予習の時間を設け、授業で学んだ単語とフレ－ズは必ず声に出して練習した上、暗記するようにしてください。授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

授業スケジュール

1.　オリエンテーション、授業に関する説明、中国語文化(1)
2.　読解(1)，中国語文化（2）
3.　会話演習(1)、中国 j 経済事情（1）
4. .会話演習と作文（1)、中国語文化（3）
5.　読解(2)，太極拳(1)
6.　会話演習(2)、中国経済事情(2)
7.　会話演習と作文（2）
8.　読解(3)，太極拳（2）
9. 会話演習(3)，中国経済事情（3）
10. 会話演習と作文（3）
11. 読解(4)、中国語文化（4）
12. 会話演習(4)，太極拳（3）
13. 会話演習と作文（4）
14. 会話と作文の復習、中国経済事情(4)
15. 中国文化(5)，会話演習復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80110903
科目名	現代アジア事情 B	単位数	4
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	この科目は、本学がアジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」に引き続き、さらなる語学の修得を目指しつつ、中国の文化や歴史、現在の社会、経済事情、法律などを把握することを目的とします。研修後に予定されている、中国の日系企業などで行われるインターンシップにおいて、中国における文化や習慣、マナー、経済事情や社会について理解し、企業実習を行うにあたって、スムーズにコミュニケーションがとれる力をつけることを目標とします。		
教材（教科書）	授業内で配布します。		
教材（参考資料）	授業で指示します。		
教育方法	－		
評価方法	授業への参加・発表の状況、課題の提出状況、および研修終了後のレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国文化と経済、社会、法律の事情に対する理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身に着け、中国の現代社会に必要なコミュニケ―ションをとるための語学力の基礎を習得します。		
授業時間外学習	毎回の授業前に必ず復習・予習の時間を設け、授業で学んだ単語とフレ－ズは必ず声に出して練習した上、暗記するようにしてください。授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

授業スケジュール

1.　オリエンテーション、授業に関する説明、中国語文化(1)
2.　読解(1)，中国語文化（2）
3.　会話演習(1)、中国 j 経済事情（1）
4. .会話演習と作文（1)、中国語文化（3）
5.　読解(2)，太極拳(1)
6.　会話演習(2)、中国経済事情(2)
7.　会話演習と作文（2)
8.　読解(3)，太極拳（2）
9. 会話演習(3)，中国経済事情（3）
10. 会話演習と作文（3)
11. 読解(4)、中国語文化（4)
12. 会話演習(4)，太極拳（3）
13. 会話演習と作文（4)
14. 会話と作文の復習、中国経済事情(4)
15. 中国文化(5)，会話演習復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J80111001
科目名	現代アジア事情C	単位数	2
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia C		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
授業概要	この科目は、本学がアジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」、「現代アジア事情 B」に引き続き、「現代アジア事情 C」では、中国語という言語の学習を通じて、中国の文化や歴史、現在の中国の社会、歴史、経済事情、中国の法律などを理解することを目的とします。中国語の初級レベルの文法、リスニング、スピーキングの訓練をさらに強化します。研修後予定されている中国の日系企業などでのインターンシップにおいて、基本的なコミュニケーションができる程度の中国語の基礎力、ビジネスマナーをを身につけることを狙いとします。		
教材（教科書）	授業内で配布します。		
教材（参考資料）	授業で指示します。		
教育方法	−		
評価方法	授業への参加・発表の状況、課題の提出状況、および研修終了後のレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国文化と経済事情に対する理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身に着け、中国の現代社会に必要なコミュニケ―ションをとるための語学力の基礎を習得します。また、研修終了後に予定されている企業でのインターンシップに必要なマナー、中国の経済事情、社会についての基礎知識を身につけます。		
授業時間外学習	毎回の授業前に必ず復習・予習の時間を設け、授業で学んだ単語とフレーズは必ず声に出して練習した上、暗記するようにしてください。授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

授業スケジュール

1. 授業に関する説明
2. 中国語文法(1)，中国の文化と社会'(1)
3. 会話演習(1)，中国経済事情(1)
4. 会話演習と作文（2)，太極拳（1）
5. 中国語文法（2)，　中国の文化と社会(2)
6. 会話演習(2)，中国経済事情（2）
7. 会話演習と作文（1)、太極拳（2）
8. 中国語文法（3)，中国の文化と社会(3)
9. 会話演習(3)、中国経済事情（3）
10. 会話演習と作文（3)、太極拳（3）
11. 中国語文法（4)，中国の文化と社会(4)
12. 会話演習(4)、中国経済事情（4）
13. 会話演習と作文（4)、太極拳（4）
14. 会話と作文の復習、中国の文化と社会(5)
15. 会話演習復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J80111002
科目名	現代アジア事情C	単位数	2
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia C		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
授業概要	この科目は、本学がアジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」、「現代アジア事情 B」に引き続き、「現代アジア事情 C」では、中国語という言語の学習を通じて、中国の文化や歴史、現在の中国の社会、歴史、経済事情、中国の法律などを理解することを目的とします。中国語の初級レベルの文法、リスニング、スピーキングの訓練をさらに強化します。研修後予定されている中国の日系企業などでのインターンシップにおいて、基本的なコミュニケーションができる程度の中国語の基礎力、ビジネスマナーをを身につけることを狙いとします。		
教材（教科書）	授業内で配布します。		
教材（参考資料）	授業で指示します。		
教育方法	−		
評価方法	授業への参加・発表の状況、課題の提出状況、および研修終了後のレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国文化と経済事情に対する理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身に着け、中国の現代社会に必要なコミュニケ―ションをとるための語学力の基礎を習得します。また、研修終了後に予定されている企業でのインターンシップに必要なマナー、中国の経済事情、社会についての基礎知識を身につけます。		
授業時間外学習	毎回の授業前に必ず復習・予習の時間を設け、授業で学んだ単語とフレーズは必ず声に出して練習した上、暗記するようにしてください。授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

授業スケジュール

1. 授業に関する説明
2. 中国語文法(1)，中国の文化と社会'(1)
3. 会話演習(1)，中国経済事情(1)
4. 会話演習と作文（2)，太極拳（1）
5. 中国語文法（2)，　中国の文化と社会(2)
6. 会話演習(2)，中国経済事情（2）
7. 会話演習と作文（1)、太極拳（2）
8. 中国語文法（3)，中国の文化と社会(3)
9. 会話演習(3)、中国経済事情（3）
10. 会話演習と作文（3)、太極拳（3）
11. 中国語文法（4)，中国の文化と社会(4)
12. 会話演習(4)、中国経済事情（4）
13. 会話演習と作文（4)、太極拳（4）
14. 会話と作文の復習、中国の文化と社会(5)
15. 会話演習復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J80111003
科目名	現代アジア事情C	単位数	2
科目名（英語表記）	State and Economy in Asia C		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	この科目は、本学がアジアを中心とした海外で実施する授業科目です。「現代アジア事情 A」、「現代アジア事情 B」に引き続き、「現代アジア事情 C」では、中国語という言語の学習を通じて、中国の文化や歴史、現在の中国の社会、歴史、経済事情、中国の法律などを理解することを目的とします。中国語の初級レベルの文法、リスニング、スピーキングの訓練をさらに強化します。研修後予定されている中国の日系企業などでのインターンシップにおいて、基本的なコミュニケーションができる程度の中国語の基礎力、ビジネスマナーをを身につけることを狙いとします。		
教材（教科書）	授業内で配布します。		
教材（参考資料）	授業で指示します。		
教育方法	−		
評価方法	授業への参加・発表の状況、課題の提出状況、および研修終了後のレポートにより総合的に評価します。		
到達目標	中国文化と経済事情に対する理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身に着け、中国の現代社会に必要なコミュニケーションをとるための語学力の基礎を習得します。また、研修終了後に予定されている企業でのインターンシップに必要なマナー、中国の経済事情、社会についての基礎知識を身につけます。		
授業時間外学習	毎回の授業前に必ず復習・予習の時間を設け、授業で学んだ単語とフレーズは必ず声に出して練習した上、暗記するようにしてください。授業で行われる小テスト、口答試験、および定期レポートの準備をしてください。常に中国及び中国語に関する資料や情報に注目し、興味と関心を持つことを習慣化することが重要です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 各授業の前に必ず予習、復習を行ってください。
2. 遅刻、欠席はしないようにしてください。
3. 本学を代表する学生として提携大学での語学研修に派遣されているという自覚を持ち、現地での授業に臨んでください。
4. 常に中国の文化、社会情勢、中国語という言語に興味と関心を持ち、資料や情報の収集に努めてください。

授業スケジュール

1. 授業に関する説明
2. 中国語文法(1)，中国の文化と社会'(1)
3. 会話演習(1)，中国経済事情(1)
4. 会話演習と作文（2)，太極拳（1）
5. 中国語文法（2)，　中国の文化と社会(2)
6. 会話演習(2)，中国経済事情（2）
7. 会話演習と作文（1)、太極拳（2）
8. 中国語文法（3)，中国の文化と社会(3)
9. 会話演習(3)、中国経済事情（3）
10. 会話演習と作文（3)、太極拳（3）
11. 中国語文法（4)，中国の文化と社会(4)
12. 会話演習(4)、中国経済事情（4）
13. 会話演習と作文（4)、太極拳（4）
14. 会話と作文の復習、中国の文化と社会(5)
15. 会話演習復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J80111101
科目名	海外企業実務Ａ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad A		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、期間最初の１ヶ月目に履修する科目である。1 ヶ月目は、実務経験を通じて感じた職業社会と大学生活の違い（ギャップ）について考え、整理していくことを目標とする。また、海外で仕事をするにあたって、必要とされる文化や習慣を考え、整理していくことを目標とする。そして、海外企業実務の当初設定した目標を再度確認し、残りの実習にあたっての課題を明確にする。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考資料）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教育方法	・中国事情に関する講義やグループディスカッションを中心とする事前学習を行う。 ・実習で与えられる課題に取り組むことを通じて学習内容の理解を深める。 ・受入企業に対する日報や大学への週報を通じて、受入企業の担当者及び本学教員が指導を行う。 ・実習全体での学びについてレポートの作成や成果報告会を通じて、言語化して整理する。		
評価方法	企業で課される仕事への取り組み方（日報・週報・企業からの評価）５０％ 課題図書のレポートと実習に関するレポート　５０％		
到達目標	・実務経験を通じて感じた職業社会と大学生活の違いについて考え、言語化することができる。 ・海外で仕事をするにあたって、必要とされる文化や習慣を考え、言語化することができる。 ・１か月の実習を振り返り、残りの実習にあたっての課題を明確にすることができる。		
授業時間外学習	学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。誠実な参加を求めます。			
授業スケジュール			
・中国事情に関する事前学習 ・企業での実務（週５日） ・帰国後の成果報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J80111102
科目名	海外企業実務Ａ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad A		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、期間最初の１ヶ月目に履修する科目である。1 ヶ月目は、実務経験を通じて感じた職業社会と大学生活の違い（ギャップ）について考え、整理していくことを目標とする。また、海外で仕事をするにあたって、必要とされる文化や習慣を考え、整理していくことを目標とする。そして、海外企業実務の当初設定した目標を再度確認し、残りの実習にあたっての課題を明確にする。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考資料）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教育方法	・中国事情に関する講義やグループディスカッションを中心とする事前学習を行う。 ・実習で与えられる課題に取り組むことを通じて学習内容の理解を深める。 ・受入企業に対する日報や大学への週報を通じて、受入企業の担当者及び本学教員が指導を行う。 ・実習全体での学びについてレポートの作成や成果報告会を通じて、言語化して整理する。		
評価方法	企業で課される仕事への取り組み方（日報・週報・企業からの評価）５０％ 課題図書のレポートと実習に関するレポート　５０％		
到達目標	・実務経験を通じて感じた職業社会と大学生活の違いについて考え、言語化することができる。 ・海外で仕事をするにあたって、必要とされる文化や習慣を考え、言語化することができる。 ・１か月の実習を振り返り、残りの実習にあたっての課題を明確にすることができる。		
授業時間外学習	学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。誠実な参加を求めます。			
授業スケジュール			
・中国事情に関する事前学習 ・企業での実務（週５日） ・帰国後の成果報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J80111103
科目名	海外企業実務Ａ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad A		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
授業概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、期間最初の１ヶ月目に履修する科目である。1 ヶ月目は、実務経験を通じて感じた職業社会と大学生活の違い（ギャップ）について考え、整理していくことを目標とする。また、海外で仕事をするにあたって、必要とされる文化や習慣を考え、整理していくことを目標とする。そして、海外企業実務の当初設定した目標を再度確認し、残りの実習にあたっての課題を明確にする。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考資料）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教育方法	・中国事情に関する講義やグループディスカッションを中心とする事前学習を行う。 ・実習で与えられる課題に取り組むことを通じて学習内容の理解を深める。 ・受入企業に対する日報や大学への週報を通じて、受入企業の担当者及び本学教員が指導を行う。 ・実習全体での学びについてレポートの作成や成果報告会を通じて、言語化して整理する。		
評価方法	企業で課される仕事への取り組み方（日報・週報・企業からの評価）５０％ 課題図書のレポートと実習に関するレポート　５０％		
到達目標	・実務経験を通じて感じた職業社会と大学生活の違いについて考え、言語化することができる。 ・海外で仕事をするにあたって、必要とされる文化や習慣を考え、言語化することができる。 ・１か月の実習を振り返り、残りの実習にあたっての課題を明確にすることができる。		
授業時間外学習	学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁です。誠実な参加を求めます。			
授業スケジュール			
・中国事情に関する事前学習 ・企業での実務（週５日） ・帰国後の成果報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J80111201
科目名	海外企業実務Ｂ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad B		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、2ヶ月目に履修する科目である。2 ヶ月目は、実務経験における自分の業務が職場の中でどう役立っているのか、また、仕事全体を俯瞰し、仕事全体から見た自分の業務の位置づけ・重要性について考え、整理していくことを目標とする。加えて、海外で仕事をするにあたって、必要とされる知識や能力を考え、整理していくことを目標とする。また、2 か月の実習を振り返り、残りの実習にあたっての課題を明確にする。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考資料）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る。		
教育方法	・日本での事前学習（中国に関する学習・ディスカッション） ・中国事情に関する講義やグループディスカッションを中心とする事前学習を行う。 ・実習で与えられる課題に取り組むことを通じて学習内容の理解を深める。 ・受入企業に対する日報や大学への週報を通じて、受入企業の担当者及び本学教員が指導を行う。 ・実習全体での学びについてレポートの作成や成果報告会を通じて、言語化して整理する。		
評価方法	・企業で課される仕事への取り組み方（日報・週報・企業からの評価）５０％ ・実習に関するレポート　　５０％		
到達目標	・受け入れ企業の仕事全体から見た自分の業務の位置づけ・重要性について考え、整理して言語化できる。 ・海外で仕事をするにあたって、必要とされる知識や能力を考え、整理して言語化できる。 ・２か月の実習を振り返り、残りの実習に当たっての課題を明確にすることができる。		
授業時間外学習	本科目は海外企業実務Ａを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁。誠実な参加を求めます。			
授業スケジュール			
・中国事情に関する事前学習 ・企業での実務（週５日） ・帰国後の成果報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J80111202
科目名	海外企業実務Ｂ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad B		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
授業概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、2ヶ月目に履修する科目である。2 ヶ月目は、実務経験における自分の業務が職場の中でどう役立っているのか、また、仕事全体を俯瞰し、仕事全体から見た自分の業務の位置づけ・重要性について考え、整理していくことを目標とする。加えて、海外で仕事をするにあたって、必要とされる知識や能力を考え、整理していくことを目標とする。また、2 か月の実習を振り返り、残りの実習にあたっての課題を明確にする。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考資料）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る。		
教育方法	・日本での事前学習（中国に関する学習・ディスカッション） ・中国事情に関する講義やグループディスカッションを中心とする事前学習を行う。 ・実習で与えられる課題に取り組むことを通じて学習内容の理解を深める。 ・受入企業に対する日報や大学への週報を通じて、受入企業の担当者及び本学教員が指導を行う。 ・実習全体での学びについてレポートの作成や成果報告会を通じて、言語化して整理する。		
評価方法	・企業で課される仕事への取り組み方（日報・週報・企業からの評価）５０％ ・実習に関するレポート　　５０％		
到達目標	・受け入れ企業の仕事全体から見た自分の業務の位置づけ・重要性について考え、整理して言語化できる。 ・海外で仕事をするにあたって、必要とされる知識や能力を考え、整理して言語化できる。 ・２か月の実習を振り返り、残りの実習に当たっての課題を明確にすることができる。		
授業時間外学習	本科目は海外企業実務Ａを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁。誠実な参加を求めます。			
授業スケジュール			
・中国事情に関する事前学習 ・企業での実務（週５日） ・帰国後の成果報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J80111203
科目名	海外企業実務Ｂ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad B		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、2ヶ月目に履修する科目である。2 ヶ月目は、実務経験における自分の業務が職場の中でどう役立っているのか、また、仕事全体を俯瞰し、仕事全体から見た自分の業務の位置づけ・重要性について考え、整理していくことを目標とする。加えて、海外で仕事をするにあたって、必要とされる知識や能力を考え、整理していくことを目標とする。また、2 か月の実習を振り返り、残りの実習にあたっての課題を明確にする。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考資料）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る。		
教育方法	・日本での事前学習（中国に関する学習・ディスカッション） ・中国事情に関する講義やグループディスカッションを中心とする事前学習を行う。 ・実習で与えられる課題に取り組むことを通じて学習内容の理解を深める。 ・受入企業に対する日報や大学への週報を通じて、受入企業の担当者及び本学教員が指導を行う。 ・実習全体での学びについてレポートの作成や成果報告会を通じて、言語化して整理する。		
評価方法	・企業で課される仕事への取り組み方（日報・週報・企業からの評価）５０％ ・実習に関するレポート　　５０％		
到達目標	・受け入れ企業の仕事全体から見た自分の業務の位置づけ・重要性について考え、整理して言語化できる。 ・海外で仕事をするにあたって、必要とされる知識や能力を考え、整理して言語化できる。 ・２か月の実習を振り返り、残りの実習に当たっての課題を明確にすることができる。		
授業時間外学習	本科目は海外企業実務Ａを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁。誠実な参加を求めます。			
授業スケジュール			
・中国事情に関する事前学習 ・企業での実務（週５日） ・帰国後の成果報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J80111301
科目名	海外企業実務Ｃ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad C		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、3ヶ月目に履修する科目です。3ヶ月目は、海外での実務経験の中で気になった出来事や職務内容が、大学での学問領域では、どのような現象として解説されているのかを考え、整理していくことを目標とする。また、海外での実務経験を通じた変化を確認し、今後の大学生活でできること、改めて学びたいと思うことを考え、整理する。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考資料）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教育方法	・中国事情に関する講義やグループディスカッションを中心とする事前学習を行う。 ・実習で与えられる課題に取り組むことを通じて学習内容の理解を深める。 ・受入企業に対する日報や大学への週報を通じて、受入企業の担当者及び本学教員が指導を行う。 ・実習全体での学びについてレポートの作成や成果報告会を通じて、言語化して整理する。		
評価方法	・企業で課される仕事への取り組み方（日報・週報・企業からの評価）５０％ ・実習に関するレポート・成果報告会　５０％		
到達目標	・実務経験を通じて気になった出来事や職務内容と、大学での学びの関係について考え、整理することができる。 ・海外での実務経験を通じた自分の変化を確認し、今後の大学生活の課題について明確にすることができる。		
授業時間外学習	本科目は海外企業実務Ｂを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁。誠実な参加を求めます。			
授業スケジュール			
・中国事情に関する事前学習 ・企業での実務（週５日） ・帰国後の成果報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J80111302
科目名	海外企業実務Ｃ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad C		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、3ヶ月目に履修する科目です。3ヶ月目は、海外での実務経験の中で気になった出来事や職務内容が、大学での学問領域では、どのような現象として解説されているのかを考え、整理していくことを目標とする。また、海外での実務経験を通じた変化を確認し、今後の大学生活でできること、改めて学びたいと思うことを考え、整理する。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考資料）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教育方法	・中国事情に関する講義やグループディスカッションを中心とする事前学習を行う。 ・実習で与えられる課題に取り組むことを通じて学習内容の理解を深める。 ・受入企業に対する日報や大学への週報を通じて、受入企業の担当者及び本学教員が指導を行う。 ・実習全体での学びについてレポートの作成や成果報告会を通じて、言語化して整理する。		
評価方法	・企業で課される仕事への取り組み方（日報・週報・企業からの評価）５０％ ・実習に関するレポート・成果報告会　５０％		
到達目標	・実務経験を通じて気になった出来事や職務内容と、大学での学びの関係について考え、整理することができる。 ・海外での実務経験を通じた自分の変化を確認し、今後の大学生活の課題について明確にすることができる。		
授業時間外学習	本科目は海外企業実務Ｂを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁。誠実な参加を求めます。			
授業スケジュール			
・中国事情に関する事前学習 ・企業での実務（週５日） ・帰国後の成果報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J80111303
科目名	海外企業実務Ｃ	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship Abroad C		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
授業概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として、3ヶ月目に履修する科目です。3ヶ月目は、海外での実務経験の中で気になった出来事や職務内容が、大学での学問領域では、どのような現象として解説されているのかを考え、整理していくことを目標とする。また、海外での実務経験を通じた変化を確認し、今後の大学生活でできること、改めて学びたいと思うことを考え、整理する。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考資料）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教育方法	・中国事情に関する講義やグループディスカッションを中心とする事前学習を行う。 ・実習で与えられる課題に取り組むことを通じて学習内容の理解を深める。 ・受入企業に対する日報や大学への週報を通じて、受入企業の担当者及び本学教員が指導を行う。 ・実習全体での学びについてレポートの作成や成果報告会を通じて、言語化して整理する。		
評価方法	・企業で課される仕事への取り組み方（日報・週報・企業からの評価）５０％ ・実習に関するレポート・成果報告会　５０％		
到達目標	・実務経験を通じて気になった出来事や職務内容と、大学での学びの関係について考え、整理することができる。 ・海外での実務経験を通じた自分の変化を確認し、今後の大学生活の課題について明確にすることができる。		
授業時間外学習	本科目は海外企業実務Ｂを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁。誠実な参加を求めます。			
授業スケジュール			
・中国事情に関する事前学習 ・企業での実務（週５日） ・帰国後の成果報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J80111401
科目名	海外企業実務Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship Abroad D		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として履修する。3ヶ月目の実習期間が2週間の場合に履修する科目である。海外での実務経験の中で気になった出来事や職務内容が、大学での学問領域では、どのような現象として解説されているのかを考え、整理していくことを目標とする。また、海外での実務経験を通じた変化を確認し、今後の大学生活でできること、改めて学びたいと思うことを考え、整理する。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考資料）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教育方法	・日本での事前学習（中国に関する学習・ディスカッション） ・中国事情に関する講義やグループディスカッションを中心とする事前学習を行う。 ・実習で与えられる課題に取り組むことを通じて学習内容の理解を深める。 ・受入企業に対する日報や大学への週報を通じて、受入企業の担当者及び本学教員が指導を行う。 ・実習全体での学びについてレポートの作成や成果報告会を通じて、言語化して整理する。		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価する。 評価方法の詳細は、事前授業において説明する。		
到達目標	・実務経験を通じて気になった出来事や職務内容と、大学での学びの関係について考え、整理することができる。 ・海外での実務経験を通じた自分の変化を確認し、今後の大学生活の課題について明確にすることができる。		
授業時間外学習	本科目は海外企業実務Ｂを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁。誠実な参加を求めます。			
授業スケジュール			
・中国事情に関する事前学習 ・企業での実務（週５日） ・帰国後の成果報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J80111402
科目名	海外企業実務Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship Abroad D		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として履修する。3ヶ月目の実習期間が2週間の場合に履修する科目である。海外での実務経験の中で気になった出来事や職務内容が、大学での学問領域では、どのような現象として解説されているのかを考え、整理していくことを目標とする。また、海外での実務経験を通じた変化を確認し、今後の大学生活でできること、改めて学びたいと思うことを考え、整理する。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考資料）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教育方法	・日本での事前学習（中国に関する学習・ディスカッション） ・中国事情に関する講義やグループディスカッションを中心とする事前学習を行う。 ・実習で与えられる課題に取り組むことを通じて学習内容の理解を深める。 ・受入企業に対する日報や大学への週報を通じて、受入企業の担当者及び本学教員が指導を行う。 ・実習全体での学びについてレポートの作成や成果報告会を通じて、言語化して整理する。		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価する。 評価方法の詳細は、事前授業において説明する。		
到達目標	・実務経験を通じて気になった出来事や職務内容と、大学での学びの関係について考え、整理することができる。 ・海外での実務経験を通じた自分の変化を確認し、今後の大学生活の課題について明確にすることができる。		
授業時間外学習	本科目は海外企業実務Ｂを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁。誠実な参加を求めます。			
授業スケジュール			
・中国事情に関する事前学習 ・企業での実務（週５日） ・帰国後の成果報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J80111403
科目名	海外企業実務Ｄ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship Abroad D		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
授業概要	海外の企業に企業留学し、学修へのモチベーションを高めるとともに、卒業後の進路を自らの手で拓くための教育プログラム（グローバル・インターンシップ・プログラム；ＧＩＰ）として履修する。3ヶ月目の実習期間が2週間の場合に履修する科目である。海外での実務経験の中で気になった出来事や職務内容が、大学での学問領域では、どのような現象として解説されているのかを考え、整理していくことを目標とする。また、海外での実務経験を通じた変化を確認し、今後の大学生活でできること、改めて学びたいと思うことを考え、整理する。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない		
教材（参考資料）	各企業の業務にかかわる文献を読むことはあり得る		
教育方法	・日本での事前学習（中国に関する学習・ディスカッション） ・中国事情に関する講義やグループディスカッションを中心とする事前学習を行う。 ・実習で与えられる課題に取り組むことを通じて学習内容の理解を深める。 ・受入企業に対する日報や大学への週報を通じて、受入企業の担当者及び本学教員が指導を行う。 ・実習全体での学びについてレポートの作成や成果報告会を通じて、言語化して整理する。		
評価方法	企業で課される仕事への取組み方と報告書に基づいて評価する。 評価方法の詳細は、事前授業において説明する。		
到達目標	・実務経験を通じて気になった出来事や職務内容と、大学での学びの関係について考え、整理することができる。 ・海外での実務経験を通じた自分の変化を確認し、今後の大学生活の課題について明確にすることができる。		
授業時間外学習	本科目は海外企業実務Ｂを履修していることが前提です。学習内容は就業する企業によって異なりますが、翌日、翌週に行う仕事に備えることが準備学習になります。例えば、毎日の外国為替レートの動きや資源・エネルギーの現物・先物価格の動きをチェックすることなどです。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
組織の一員として企業実務に携わることになるため，受け入れ先のルールを守り，行動の規律を遵守すること。遅刻厳禁。誠実な参加を求めます。			
授業スケジュール			
・中国事情に関する事前学習 ・企業での実務（週５日） ・帰国後の成果報告会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J80112101
科目名	警察・消防特別研究	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Police Officer and Fir e Fighter Examinations		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
授業概要	警察官、消防官の仕事はどのようなものか、警察官、消防官になるためにはどのような準備が必要かを明らかにし、警察官、消防官になるための準備を助けることを内容とする。 警察官、消防官採用試験の教養試験は一般知識と一般知能からなる。本講義では一般知能のうち判断推理と数的推理の実力を向上させ、この分野の基本問題から初歩的な応用問題については解答できるようになることを目標とする。 この分野を苦手とする人が多いようであるが、一度要領をつかむと、確実に得点がとれるようになるので、努力のしがいがあると思われる。講義は、問題のパターンごとに解き方を示して、いくつかの例題を解いてみるという形で進行する予定である。 なお、刑務官採用試験などもほぼ同様の出題傾向であるから、これらを志望する人にとっても役立つだろう。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	講義内で紹介する。		
教育方法	毎回配布するプリントの問題の解法を解説し、それに基づいて、受講生に実際に問題を解答してもらう。 講義内では、適宜小テスト、中間テスト、後半テストを行い、受講生の知識の定着具合の確認も行う。		
評価方法	授業内テスト 70%、期末テスト 30%		
到達目標	警察や消防の仕事に理解を深めるとともに、採用試験に臨む心構えをつくり、学生の採用試験の筆記試験(択一式)の基礎的な問題を解答できるようになることを目標とする。		
授業時間外学習	各回の内容に合わせた練習問題のプリントを配布するため、次回までに復習として取り組むこと。 また、講義中に紹介した問題集を使って、各回の内容を予習・復習すること。 （各回の学習推定時間は６０分） また、５回の小テスト、中間テスト、後半テストとして単元の区切りごとに授業内テストを課すので、練習問題等を使って復習をしっかりやっておくことが必要である。 １　実践問題に挑戦する ２　命題 ３　集合・うそつき ４　暗号・試合 ５　対応・位置・順序 ６　方位・図形 ７　整数の性質 ８　方程式 ９　割合、比、濃度算、損益算 １０　速度算、時計算、年齢算、仕事算 １１　順列・組合せ １２　確率 １３　平面図形 １４　立体図形 １５　警察官・消防官になるためには		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・本講義は３回生以下の学生のバックアップを目的としている。就職活動で出席できそうにない４回生の登録は歓迎しない。 ・問題解答の力をつけるために、講義中は教員から指定された問題、力のある学生はさらに練習問題を解答してもらう。講義時間内に問題解答に注力できない学生は歓迎しない。 ・警察、消防、公務員試験受験を考えている学生は、自身の将来にかかわることを自覚して受講してほしい。			

授業スケジュール
1　実践問題に挑戦する 2　命題 3　集合・うそつき 4　暗号・試合 5　対応・位置・順序 6　方位・図形 7　整数の性質 8　方程式 9　割合、比、濃度算、損益算 １０　速度算、時計算、年齢算、仕事算 １１　順列・組合せ １２　確率 １３　平面図形 １４　立体図形 １５　警察官・消防官になるためには

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	－	－	★

年度	2018	授業コード	J80112201
科目名	公務員特別研究 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Civil Servant Examinat ions A		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
授業概要	わが国の公務員制度、仕事の内容、公務員試験の概要を学んだうえで、公務員試験準備のための学習をおこなう。試験の範囲のうち、憲法、行政法、地方自治法の基礎的な知識の習得と過去問演習をおこなう。		
教材（教科書）	特に使用しない。		
教材（参考資料）	講義の際に紹介する。		
教育方法	毎回、最初に講義をして、公務員の過去問を解く。その解説をしながら知識を確実にする。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（70%）　講義内での課題に対する評価（30%）		
到達目標	憲法、行政法、地方自治法の講義を受けて、過去問を解くことにより、公務員試験試験に合格するための基礎力を養成する。		
授業時間外学習	講義終了時に、毎回、公務員試験の過去問を解く。 次回の範囲を指定するので、講義の際に紹介する参考書の該当頁を読んでおくこと。 1　公務員の種類 2　公務員試験とは 3　憲法の概念 4　憲法 13 条と 14 条 5　憲法 19 条、20 条、21 条 6　憲法 22 条・29 条、憲法 25 条～28 条、憲法 31 条以下 7　国の統治機構の仕組み 8　行政法とは何か、基本原理 9　行政組織の基礎知識 10　行政作用の種類と性質 11　義務の強制方法と過去の違反に対する制裁 12　行政処分に対する争訟 13　国や地方公共団体に対する金銭賠償・補償 14　地方自治の仕組み 15　執行機関と議決機関		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

公務員試験と行政書士試験の合格をめざす科目なので、はっきり目的意識をもった学生の受講をのぞむ。憲法の復習は適宜行っていくが、できれば憲法をすでに履修したか、履修中であることが望ましい。

授業スケジュール

1．　わが国の公務員制度
2．　公務員試験とは
3．　憲法とは
4．　包括的人権と法の下の平等
5．　思想・良心・信教の自由　・表現の自由
6．　経済的自由・生存権・人身の自由
7．　国会・内閣・裁判所
8．　行政法の基本原理
9．　行政組織
10．行政作用の種類
11．行政の義務履行確保、行政罰
12．行政救済法①（行政上の不服申立て・行政訴訟）
13．行政救済法②（国家賠償・損失補償）
14．地方自治法①

１５．地方自治法②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J80112301
科目名	公務員特別研究Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Special Study for Civil Servant Examinat ions B		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
授業概要	公務員志望者を対象に、試験科目のひとつである民法の講義と過去問演習を行い、公務員試験等の合格に必要な民法の基礎知識を習得する。受講者はあらかじめ各回で指定された単元（例えば「代理」）を各自のテキストで予習しておき、講義は公務員試験等において頻繁に出題される分野または独習では理解が困難な部分に絞って行い、これらを踏まえて過去問演習を繰り返す。		
教材（教科書）	受講者が公務員試験・資格試験等のために市販されている「民法」の教科書（テキスト）を用意する。公務員試験の課外講座を受講している者は課外講座のものを用いる。必要な場合に限りレジュメを配布する。		
教材（参考資料）	池田真朗『スタートライン民法総則〔第 2 版〕』（日本評論社、2012 年） 池田真朗『スタートライン債権法〔第 7 版〕』（日本評論社、2017 年） その他、授業中に適宜指示する。		
教育方法	過去問の解答と解説が中心となる。受講者の予習が必須であり、公務員試験等において頻繁に出題される分野または独習では理解が困難な分野に限って講義を行う。		
評価方法	過去問をベースとした実践的な内容の試験（選択式問題）の結果による。出席状況は一切考慮しない。		
到達目標	公務員試験等の合格に必要な民法の基礎知識を習得する。		
授業時間外学習	授業時間外学習は、各回で指定された単元を授業開始時までに各自のテキストで予習することが中心となる。これを前提として過去問演習が行われる。各回終了後は、授業で扱った過去問を解説を踏まえて復習し、知識を定着させる。例えば、第 4 回の授業までに各自のテキストの「代理」の部分を読んでおき、授業中の解説と質疑応答を受け授業終了後に復習し、同時に第 5 回の「時効」の予習を進める。この繰り返しを通じて受験勉強の態勢を日々の生活のなかに確立することが重要である。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本科目は公務員試験を受験する明確な意思がある者を対象としている。単位の数合わせや時間割の都合で本科目を登録することはくれぐれも遠慮願いたい。受講者には自主的に受験勉強に取り組むことが求められる。漫然と出席するだけでは本科目の単位取得すら困難であることを明言しておく。民法関連科目を履修済み、または並行して履修することが望ましい。

授業スケジュール

1．　オリエンテーションとアンケート
2．　権利の主体
3．　正常でない意思表示
4．　代理
5．　時効
6．　物権変動と登記（1）
7．　物権変動と登記（2）
8．　債務不履行
9．　債権者代位権・債権者取消権
10．保証・連帯債務・連帯保証
11．弁済・相殺
12．契約の効力
13．契約の解除
14．売買・担保責任
15．横断的問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★

年度	2018	授業コード	J81000101
科目名	マクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	池田　晃彦	旧科目名称	
授業概要	マクロ経済学は、国や地域全体の経済活動を分析する学問であり、景気、経済成長、失業、経済政策など、日々の経済ニュースで扱われるさまざまなトピックと関連しています。この講義ではこういった問題を扱うための基礎的な概念と分析道具を身に着けることを目的とし、マクロ経済の状態を示す国民経済計算と、短期の景気循環および財政政策の効果に関する理論モデルを学びます。		
教材（教科書）	平口良司・稲葉大『マクロ経済学　入門の「一歩前」から応用まで』有斐閣ストゥディア、2017 年。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントまたは板書を利用して、講義法で行う。		
評価方法	中間試験 50%、期末試験 50%		
到達目標	・国民経済計算の諸概念と国民所得の決まり方について説明できる。 ・経済政策の効果に関して議論することができる。 ・グラフなど経済学の基本的なツールを使うことができる。		
授業時間外学習	・毎回の授業の最初に前回授業の内容を確認しますので、復習をした上で臨むこと。 ・中学校・高等学校での数学の基礎的な部分を見直しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・テキストは授業に毎回持参すること。 ・日々のニュースに出てくるマクロ経済に関する話題に関心を持つようにすること。			
授業スケジュール			
第 1 回　マクロ経済学とは何か 第 2 回　日本のマクロ経済 第 3 回　GDP 第 4 回　GDP の三面等価 第 5 回　物価 第 6 回　インフレとデフレ 第 7 回　マクロ経済学で用いる数学 第 8 回　振り返り学習 第 9 回　ケインズ理論の概要 第 10 回　消費 第 11 回　投資 第 12 回　均衡国民所得の決定（45 度線モデル） 第 13 回　乗数理論 第 14 回　財政政策の効果 第 15 回　財政政策に関する論争			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J81000102
科目名	マクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	池田　晃彦	旧科目名称	
授業概要	マクロ経済学は、国や地域全体の経済活動を分析する学問であり、景気、経済成長、失業、経済政策など、日々の経済ニュースで扱われるさまざまなトピックと関連しています。この講義ではこういった問題を扱うための基礎的な概念と分析道具を身に着けることを目的とし、マクロ経済の状態を示す国民経済計算と、短期の景気循環および財政政策の効果に関する理論モデルを学びます。		
教材（教科書）	平口良司・稲葉大『マクロ経済学　入門の「一歩前」から応用まで』有斐閣ストゥディア、2017 年。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントまたは板書を利用して、講義法で行う。		
評価方法	中間試験 50%、期末試験 50%		
到達目標	・国民経済計算の諸概念と国民所得の決まり方について説明できる。 ・経済政策の効果に関して議論することができる。 ・グラフなど経済学の基本的なツールを使うことができる。		
授業時間外学習	・毎回の授業の最初に前回授業の内容を確認しますので、復習をした上で臨むこと。 ・中学校・高等学校での数学の基礎的な部分を見直しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・テキストは授業に毎回持参すること。 ・日々のニュースに出てくるマクロ経済に関する話題に関心を持つようにすること。			
授業スケジュール			
第 1 回　マクロ経済学とは何か 第 2 回　日本のマクロ経済 第 3 回　GDP 第 4 回　GDP の三面等価 第 5 回　物価 第 6 回　インフレとデフレ 第 7 回　マクロ経済学で用いる数学 第 8 回　振り返り学習 第 9 回　ケインズ理論の概要 第 10 回　消費 第 11 回　投資 第 12 回　均衡国民所得の決定（45 度線モデル） 第 13 回　乗数理論 第 14 回　財政政策の効果 第 15 回　財政政策に関する論争			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J81000103
科目名	マクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	本講義は、初めてマクロ経済学を体系的に学ぶ学生を対象として、マクロ経済学の基本的な考え方や分析の枠組みについて学びます。まず一国全体の経済活動の水準がどのように測定されているか学習したのちに、金融、貨幣、財政について順に学びます。授業の後半では、「マクロ経済学の基本モデル」として、前半で学んだ GDP や物価といった経済変数の値が、どのような要因によって決定されるのかについて考察します。		
教材（教科書）	平口良司、稲葉大(2015)『マクロ経済学 入門の「一歩前」から応用まで』有斐閣ストゥディア		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介する予定です。		
教育方法	授業は、講義スライドと板書を用いて進めます。		
評価方法	平常点評価（30%）: 課題の提出、授業への参加度により評価します。 期末試験（70%）		
到達目標	１．マクロ経済学に関する専門用語・基礎概念について説明できる ２．マクロ経済に関連する幅広い知識を身に着け、ニュース、新聞報道等ついて説明できる		
授業時間外学習	事前学習： 教科書の該当箇所を読んでおくこと（30 分程度） 事後学習： 講義スライドの内容を復習・理解すること（30 分程度）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

グラフや数式の展開などは実際に手を動かして理解を深めてください。

授業スケジュール

1. イントロダクション
2. マクロ経済学を観察するⅠ：GDP
3. マクロ経済学を観察するⅡ：物価・失業率　(1)
4. マクロ経済学を観察するⅡ：物価・失業率　(2)
5. マクロ経済を支える金融市場（1）
6. マクロ経済を支える金融市場（2）
7. 貨幣の機能と中央銀行の役割（1）
8. 貨幣の機能と中央銀行の役割（2）
9. 財政の仕組みと機能　(1)
10. 財政の仕組みと機能（2）
11. 国内総生産と金利の決まり方（1）
12. 国内総生産と金利の決まり方（2）
13. 総需要・総供給と物価の決まり方（1）
14. 総需要・総供給と物価の決まり方（2）
15. 総需要・総供給と物価の決まり方（3）

※登録する受講生の人数や理解度に応じて、進度やトピックは変更になる場合があります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J81000202
科目名	ミクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川﨑　雄二郎	旧科目名称	ミクロ経済学基礎
授業概要	市場のメカニズムとその長所・短所を理解することはミクロ経済学を学ぶ上での第一歩であるといえる。そこで、市場取引に関わる家計と企業双方がどのような行動原理によって消費と生産を行っているかに付いて学んだ上で、市場における価格や取引がどのように調整されるか、さらには市場を通して社会全体の利益（厚生）や財の配分はどうなるかについて理解する。		
教材（教科書）	伊藤元重（2003）『ミクロ経済学 第２版』日本評論社　3,240 円　ISBN-13: 978-4535552616		
教材（参考資料）	講義中に適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	レポート（30%）と試験（70%）により評価する。		
到達目標	１．消費者と生産者の行動原理や市場のメカニズムなどの概念や分析方法を身につけ、発展的な分野に応用することができる。 ２．講義で学んだ概念や分析方法をもとに現実の市場の動向を分析することができる。		
授業時間外学習	毎回の講義は、それまでの講義内容を十分に理解しているものとして進められる。各講義を受けたその都度に復習し（『あとでまとめて復習』では遅い）、分からないことがあれば必ず質問すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＜受講のルール＞
１．講義中の私語は、他の受講者の迷惑となるため厳禁とする。私語がひどい場合は注意をし、改善されない場合は退出を求める。
２．先にも述べたとおり、分からないことがあれば必ず質問すること。

授業スケジュール

１．経済とは？ミクロ経済学とは？
２．経済学の基礎概念：費用便益分析・限界分析
３．消費者の行動：効用と予算制約
４．所得・価格との消費の関わり
５．需要曲線
６．需要の価格弾力性
７．企業の行動：利潤と生産費用
８．利潤最大化：生産量ルール
９．平均総費用と平均可変費用
１０．損益分岐点と操業停止点
１１．（短期の）供給曲線
１２．長期の生産計画・供給曲線
１３．市場の価格調整メカニズム
１４．余剰分析
１５．効率的な資源配分

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J81000203
科目名	ミクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川﨑　雄二郎	旧科目名称	ミクロ経済学基礎
授業概要	市場のメカニズムとその長所・短所を理解することはミクロ経済学を学ぶ上での第一歩であるといえる。そこで、市場取引に関わる家計と企業双方がどのような行動原理によって消費と生産を行っているかに付いて学んだ上で、市場における価格や取引がどのように調整されるか、さらには市場を通して社会全体の利益（厚生）や財の配分はどうなるかについて理解する。		
教材（教科書）	伊藤元重（2003）『ミクロ経済学 第２版』日本評論社　3,240 円　ISBN-13: 978-4535552616		
教材（参考資料）	講義中に適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	レポート（30%）と試験（70%）により評価する。		
到達目標	１．消費者と生産者の行動原理や市場のメカニズムなどの概念や分析方法を身につけ、発展的な分野に応用することができる。 ２．講義で学んだ概念や分析方法をもとに現実の市場の動向を分析することができる。		
授業時間外学習	毎回の講義は、それまでの講義内容を十分に理解しているものとして進められる。各講義を受けたその都度に復習し（『あとでまとめて復習』では遅い）、分からないことがあれば必ず質問すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＜受講のルール＞
１．講義中の私語は、他の受講者の迷惑となるため厳禁とする。私語がひどい場合は注意をし、改善されない場合は退出を求める。
２．先にも述べたとおり、分からないことがあれば必ず質問すること。

授業スケジュール

１．経済とは？ミクロ経済学とは？
２．経済学の基礎概念：費用便益分析・限界分析
３．消費者の行動：効用と予算制約
４．所得・価格との消費の関わり
５．需要曲線
６．需要の価格弾力性
７．企業の行動：利潤と生産費用
８．利潤最大化：生産量ルール
９．平均総費用と平均可変費用
１０．損益分岐点と操業停止点
１１．（短期の）供給曲線
１２．長期の生産計画・供給曲線
１３．市場の価格調整メカニズム
１４．余剰分析
１５．効率的な資源配分

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J81000204
科目名	ミクロ経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川﨑　雄二郎	旧科目名称	ミクロ経済学基礎
授業概要	市場のメカニズムとその長所・短所を理解することはミクロ経済学を学ぶ上での第一歩であるといえる。そこで、市場取引に関わる家計と企業双方がどのような行動原理によって消費と生産を行っているかに付いて学んだ上で、市場における価格や取引がどのように調整されるか、さらには市場を通して社会全体の利益（厚生）や財の配分はどうなるかについて理解する。		
教材（教科書）	伊藤元重（2003）『ミクロ経済学 第２版』日本評論社　3,240 円　ISBN-13: 978-4535552616		
教材（参考資料）	講義中に適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	レポート（30%）と試験（70%）により評価する。		
到達目標	１．消費者と生産者の行動原理や市場のメカニズムなどの概念や分析方法を身につけ、発展的な分野に応用することができる。 ２．講義で学んだ概念や分析方法をもとに現実の市場の動向を分析することができる。		
授業時間外学習	毎回の講義は、それまでの講義内容を十分に理解しているものとして進められる。各講義を受けたその都度に復習し（『あとでまとめて復習』では遅い）、分からないことがあれば必ず質問すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＜受講のルール＞
１．講義中の私語は、他の受講者の迷惑となるため厳禁とする。私語がひどい場合は注意をし、改善されない場合は退出を求める。
２．先にも述べたとおり、分からないことがあれば必ず質問すること。

授業スケジュール

１．経済とは？ミクロ経済学とは？
２．経済学の基礎概念：費用便益分析・限界分析
３．消費者の行動：効用と予算制約
４．所得・価格との消費の関わり
５．需要曲線
６．需要の価格弾力性
７．企業の行動：利潤と生産費用
８．利潤最大化：生産量ルール
９．平均総費用と平均可変費用
１０．損益分岐点と操業停止点
１１．（短期の）供給曲線
１２．長期の生産計画・供給曲線
１３．市場の価格調整メカニズム
１４．余剰分析
１５．効率的な資源配分

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J81000301
科目名	国際経済入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し、グローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学という学問である。国際経済入門では、グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て、基礎的な貿易モデル、例えば、部分均衡分析や２財の貿易モデルを用いて貿易のパターンや貿易の利益がどうなるかを説明する。加えて、近年、FTA などの経済連携の枠組みを通じた関税の撤廃が議論されているが、関税の賦課や撤廃の効果についても説明する。		
教材（教科書）	なし、講義でプリントを配付する。		
教材（参考資料）	・澤田康幸（2003 年）『基礎コース　国際経済学』 新世社 ・大川昌幸（2007 年）『コアテキスト・国際経済学』 新世社 ・石川城太・菊地徹・椋寛（2007 年）『国際経済学をつかむ』 有斐閣 （その他） ・井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治（2000 年）『基礎　国際経済学』 中央経済社 ・若杉隆平（2001 年）『現代経済学入門　国際経済学』 岩波書店		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	基本的に、授業内小テスト等による平常点（60%）、レポート(40%)の成績によって評価する。		
到達目標	国際経済学の初歩的な理論モデルを学習し、まず、それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする。また、貿易政策が貿易に与える効果についても学習し、理解することを目標とする。		
授業時間外学習	１年生時に開講されるミクロ経済入門の内容を復習してのぞむこと。また、各回の終わりに宿題としてレポートを課すので、授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
遅刻や私語を厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。			
授業スケジュール			
１．イントロダクション ２．部分均衡分析に基づいた貿易モデル：需要曲線と消費者余剰 ３．部分均衡分析に基づいた貿易モデル：供給曲線と生産者余剰 ４．部分均衡分析に基づいた貿易モデル：自給自足経済での市場均衡 ５．部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益（１） ６．部分均衡分析に基づいた貿易モデル：貿易の自由化と貿易利益（２） ７．２財の貿易モデル：消費者行動の理論（１） ８．２財の貿易モデル：消費者行動の理論（２） ９．２財の貿易モデル：自給自足経済の均衡 １０．２財の貿易モデル：自由貿易均衡（１） １１．２財の貿易モデル：自由貿易均衡（２） １２．貿易政策の理論：関税の効果（１） １３．貿易政策の理論：関税の効果（２） １４．貿易政策の理論：生産補助金の効果 １５．貿易政策の理論：消費税の効果			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J81000401
科目名	経済政策入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面している．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きい．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類される．こうした個別具体的な政策を理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論の理解が不可欠となる． 　本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げる．		
教材（教科書）	特に使用しない		
教材（参考資料）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』高菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教育方法	講義資料に基づいて講義を行う		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	我が国の経済政策の課題をデータに基づいて説明することができる		
授業時間外学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
授業スケジュール			
1.　経済政策論の誕生と学問的性格 2.　日本経済の現況と政策課題（1） 3.　日本経済の現況と政策課題（2） 4.　日本経済の現況と政策課題（3） 5.　市場社会の変容と三重秩序（1） 6.　市場社会の変容と三重秩序（2） 7.　市場社会の変容と三重秩序（3） 8.　市場社会の変容と三重秩序（4） 9. 国家の変質と福祉国家の誕生（1） 10. 国家の変質と福祉国家の誕生（2） 11. 国家の変質と福祉国家の誕生（3） 12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（1） 13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（2） 14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（3） 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J81000402
科目名	経済政策入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面している．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きい．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類される．こうした個別具体的な政策を理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論の理解が不可欠となる． 本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げる．		
教材（教科書）	特に使用しない		
教材（参考資料）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教育方法	講義資料に基づいて講義する		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	我が国の経済政策の課題をデータに基づいて説明することができる		
授業時間外学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
授業スケジュール			
1.　経済政策論の誕生と学問的性格 2.　日本経済の現況と政策課題（１） 3.　日本経済の現況と政策課題（２） 4.　日本経済の現況と政策課題（３） 5.　市場社会の変容と三重秩序（１） 6.　市場社会の変容と三重秩序（２） 7.　市場社会の変容と三重秩序（３） 8.　市場社会の変容と三重秩序（４） 9. 国家の変質と福祉国家の誕生（１） 10. 国家の変質と福祉国家の誕生（２） 11. 国家の変質と福祉国家の誕生（３） 12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（１） 13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（２） 14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（３） 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J81000403
科目名	経済政策入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	日本の経済社会は現在，様々な困難に直面している．こうした困難を克服するための経済政策の果たす役割は，きわめて大きい．しかし，経済政策と一言で言っても，財政政策，金融政策，産業政策，労働市場政策，社会保障政策等，実にさまざまな政策に分類される．こうした個別具体的な政策を理解するためには，いずれの政策にも共通する経済政策論の基礎理論の理解が不可欠となる． 　本講義では，こうした一般的な経済政策論について，具体的には，経済政策論の歴史，経済政策の主体，政策形成過程などのテーマを取り上げる．		
教材（教科書）	特に使用しない		
教材（参考資料）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教育方法	講義資料に基づいて講義する		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	我が国の経済政策の課題をデータに基づいて説明することができる		
授業時間外学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．			
授業スケジュール			
1.　経済政策論の誕生と学問的性格 2.　日本経済の現況と政策課題（１） 3.　日本経済の現況と政策課題（２） 4.　日本経済の現況と政策課題（３） 5.　市場社会の変容と三重秩序（１） 6.　市場社会の変容と三重秩序（２） 7.　市場社会の変容と三重秩序（３） 8.　市場社会の変容と三重秩序（４） 9. 国家の変質と福祉国家の誕生（１） 10. 国家の変質と福祉国家の誕生（２） 11. 国家の変質と福祉国家の誕生（３） 12. 経済政策の形成プロセスと利益団体（１） 13. 経済政策の形成プロセスと利益団体（２） 14. 経済政策の形成プロセスと利益団体（３） 15. 国家主権超克の動き			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J81000501
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	本講義では、政府の役割を明らかにしつつ、財政とはなにかについて理解を深めることを目的として、税制および予算制度を家計や企業の経済活動との関係を現実のデータを踏まえて解説する。特に、企業活動とのかかわりでは、主にマクロ経済学の視点から解説し、家計活動という我々の日々の生活とのかかわりでは、ミクロ経済学の視点から解説する。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	橋本徹・山本栄一・林宜嗣・中井英雄・高林喜久生『基本財政学』有斐閣		
教育方法	講義用レジメを配布しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業中の課題（30%）、３回のレポート（30%）、試験（40%）で評価する。		
到達目標	税制や予算制度などの財政制度がさまざまな経済活動にどのようにか変わっているかについて説明できる。		
授業時間外学習	授業で毎回提示された課題について、インターネットなどで調べ、講義用レジメの裏面に内容を記述し、次回の授業時に提出。また、予習としては、次回の講義用レジメも配布するので、空欄箇所について、インターネットなどで調べておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
インターネット、新聞、経済雑誌などで、講義（配布するレジメ）と関連する記事・項目を講義前後で必ず調べておくこと。
受講ルール
私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し、退出を求める。
学習上の助言
財務省のホームページで、2018 年度予算について、概要、トピック、社会保障関連や教育関連の解説を調べておくことが、授業の理解、レポート作成に役立ちます。

授業スケジュール

第１回　講義の概要説明
第２回　政府の役割：その１　所得分配の公正化
第３回　政府の役割：その２　資源配分の効率化
第４回　資源の有効利用としての予算：その１　雇用
第５回　資源の有効利用としての予算：その２　公共投資
第６回　資源の有効利用としての予算：その３　教育
第７回　資源の有効利用としての予算：その４　国防・司法・公衆衛生
第８回　資源の有効利用としての予算：その５　中小企業
第９回　資源の有効利用としての予算：その６　医療・介護
第１０回　再分配としての予算：その１　所得税・相続税贈与税
第１１回　再分配としての予算：その２　年金
第１２回　再分配としての予算：その３　生活保護
第１３回　財源調達としての予算：その１　法人税
第１４回　財源調達としての予算：その２　消費税
第１５回　財源調達としての予算：その３　公債　＆　総まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J81000502
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	本講義では、政府の役割を明らかにしつつ、財政とはなにかについて理解を深めることを目的として、税制および予算制度を家計や企業の経済活動との関係を現実のデータを踏まえて解説する。特に、企業活動とのかかわりでは、主にマクロ経済学の視点から解説し、家計活動という我々の日々の生活とのかかわりでは、ミクロ経済学の視点から解説する。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	橋本徹・山本栄一・林宜嗣・中井英雄・高林喜久生『基本財政学』有斐閣		
教育方法	講義用レジメを配布しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業中の課題（30%）、３回のレポート（30%）、試験（40%）で評価する。		
到達目標	税制や予算制度などの財政制度がさまざまな経済活動にどのようにか変わっているかについて説明できる。		
授業時間外学習	授業で毎回提示された課題について、インターネットなどで調べ、講義用レジメの裏面に内容を記述し、次回の授業時に提出。また、予習としては、次回の講義用レジメも配布するので、空欄箇所について、インターネットなどで調べておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
インターネット、新聞、経済雑誌などで、講義（配布するレジメ）と関連する記事・項目を講義前後で必ず調べておくこと。
受講ルール
私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し、退出を求める。
学習上の助言
財務省のホームページで、2018 年度予算について、概要、トピック、社会保障関連や教育関連の解説を調べておくことが、授業の理解、レポート作成に役立ちます。

授業スケジュール

第１回　講義の概要説明
第２回　政府の役割：その１　所得分配の公正化
第３回　政府の役割：その２　資源配分の効率化
第４回　資源の有効利用としての予算：その１　雇用
第５回　資源の有効利用としての予算：その２　公共投資
第６回　資源の有効利用としての予算：その３　教育
第７回　資源の有効利用としての予算：その４　国防・司法・公衆衛生
第８回　資源の有効利用としての予算：その５　中小企業
第９回　資源の有効利用としての予算：その６　医療・介護
第１０回　再分配としての予算：その１　所得税・相続税贈与税
第１１回　再分配としての予算：その２　年金
第１２回　再分配としての予算：その３　生活保護
第１３回　財源調達としての予算：その１　法人税
第１４回　財源調達としての予算：その２　消費税
第１５回　財源調達としての予算：その３　公債　＆　総まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J81000503
科目名	財政入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Finance		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	本講義では、政府の役割を明らかにしつつ、財政とはなにかについて理解を深めることを目的として、税制および予算制度を家計や企業の経済活動との関係を現実のデータを踏まえて解説する。特に、企業活動とのかかわりでは、主にマクロ経済学の視点から解説し、家計活動という我々の日々の生活とのかかわりでは、ミクロ経済学の視点から解説する。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	橋本徹・山本栄一・林宜嗣・中井英雄・高林喜久生『基本財政学』有斐閣		
教育方法	講義用レジメを配布しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業中の課題（30%）、３回のレポート（30%）、試験（40%）で評価する。		
到達目標	税制や予算制度などの財政制度がさまざまな経済活動にどのようにか変わっているかについて説明できる。		
授業時間外学習	授業で毎回提示された課題について、インターネットなどで調べ、講義用レジメの裏面に内容を記述し、次回の授業時に提出。また、予習としては、次回の講義用レジメも配布するので、空欄箇所について、インターネットなどで調べておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
インターネット、新聞、経済雑誌などで、講義（配布するレジメ）と関連する記事・項目を講義前後で必ず調べておくこと。
受講ルール
私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し、退出を求める。
学習上の助言
財務省のホームページで、2018 年度予算について、概要、トピック、社会保障関連や教育関連の解説を調べておくことが、授業の理解、レポート作成に役立ちます。

授業スケジュール

第１回　講義の概要説明
第２回　政府の役割：その１　所得分配の公正化
第３回　政府の役割：その２　資源配分の効率化
第４回　資源の有効利用としての予算：その１　雇用
第５回　資源の有効利用としての予算：その２　公共投資
第６回　資源の有効利用としての予算：その３　教育
第７回　資源の有効利用としての予算：その４　国防・司法・公衆衛生
第８回　資源の有効利用としての予算：その５　中小企業
第９回　資源の有効利用としての予算：その６　医療・介護
第１０回　再分配としての予算：その１　所得税・相続税贈与税
第１１回　再分配としての予算：その２　年金
第１２回　再分配としての予算：その３　生活保護
第１３回　財源調達としての予算：その１　法人税
第１４回　財源調達としての予算：その２　消費税
第１５回　財源調達としての予算：その３　公債　＆　総まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J81000601
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	資産運用の基本について学ぶ。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説します。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義します。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。		
教材（教科書）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 春学期に於いては、実務経験を有する外部講師との共同講義となる。		
評価方法	期末試験 60%、平常点：小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得することができる。 ファイナンシャルプランナー（FP）になるための基礎知識を得ることができる。		
授業時間外学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。
・当然のことながら、スマートフォンを見るなど不適切な学生が発見されれば、ただちに退室してもらいます。

・毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、
　講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。
・受講マナーを欠いていると判断した場合には、ただちに退場してもらいます。もちろん単位も認めません。

授業スケジュール

１．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて

２．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み

３．　マネープランの必要性と金融商品

４．　債券の基礎知識
５．　債券投資の実際
６．　株式投資の魅力とリスク
７．　株価の変動要因
８．　決算書の見方
９．　主な投資指標の見方
１０．　株式投資の判断
１１．　投資信託をの基礎知識
１２．　投資信託を選ぶポイント
１３．　資産運用の概要
１４．　資産運用はどうあるべきか

１５．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J81000602
科目名	金融入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Finance		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	資産運用の基本について学ぶ。単に銀行預金をするのではなくて、株式、債券投資をする場合、どのようなことに留意すべきかという点を基本にしながら、日本経済全体における株式市場、債券市場の役割について平易に解説します。そして、最後に生涯の資産形成において、金融資産をいかに運用するのがよいのか、について講義します。この講義は学生諸君が将来、企業また家庭において、資産計画を立てる場合の重要な基礎知識を提供します。ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。		
教材（教科書）	パンフレットおよび講義レジメを毎回配布する。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 春学期に於いては、実務経験を有する外部講師との共同講義となる。		
評価方法	期末試験 60%、平常点：小テスト等を含む 40%		
到達目標	資産形成および生涯設計の基礎知識を修得することができる。 ファイナンシャルプランナー（FP）になるための基礎知識を得ることができる。		
授業時間外学習	まず復習を心がけること。そこでの疑問点は次の講義時に尋ねること。また、新聞などの経済記事を読むこと。講義まえには、その日の株価、為替レートを事前にチェックしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・ファイナンシャルプランナーを目指す人はこの講義を受講することが望ましい。
・当然のことながら、スマートフォンを見るなど不適切な学生が発見されれば、ただちに退室してもらいます。

・毎回講義終了前に 5-10 分間の質問タイムを設けますので、積極的に質問をしてください。言うまでもなく、
　講義時の勝手な出入りおよび飲食は厳禁です。
・受講マナーを欠いていると判断した場合には、ただちに退場してもらいます。もちろん単位も認めません。

授業スケジュール

１．　講義の目的およびファイナンシャルプランナについて

２．　経済の動き、証券市場の基本的仕組み

３．　マネープランの必要性と金融商品

４．　債券の基礎知識
５．　債券投資の実際
６．　株式投資の魅力とリスク
７．　株価の変動要因
８．　決算書の見方
９．　主な投資指標の見方
１０．　株式投資の判断
１１．　投資信託をの基礎知識
１２．　投資信託を選ぶポイント
１３．　資産運用の概要
１４．　資産運用はどうあるべきか

１５．　この講義で学んだことをいかに自分の人生にいかすか。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J81001101
科目名	経済史入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	人類の誕生から大航海時代に至るまでの経済の歴史を概観します。具体的には、マルコ＝ポーロは実在の人物だったのか、コロンブスはなぜインドを目指したのか、映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」で有名になったカリブ海の海賊が登場した背景は何か、といった問題を取り上げます。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考資料）	酒井伸雄（2011）『文明を変えた植物たち　コロンブスが遺した種子』NHK 出版。 ユヴァル・ノア・ハラリ（2016）『サピエンス全史　上』河出書房新社。 宮崎正勝（2011）『風が変えた世界史』原書房。 宮崎正勝（2013）『世界史の読み方』角川学芸出版。		
教育方法	主に講義法によって授業を進めつつ、学生による発表も適時交えることを予定しています。		
評価方法	授業内レポートと授業外レポートの合計（80 %）、授業内発表（20%）		
到達目標	１．様々な意味で日本とは異なる世界があったことを知り、思考の幅を広げる。 ２．大航海時代に至るまでの歴史の大きな流れを理解する。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する参考文献のページを読んでおくこと（各回の学習推定時間は 45 分間）。 第 1 回　ハラリ（2016）14－33 頁。 第 2 回　ハラリ（2016）59－85 頁。 第 3 回　ハラリ（2016）104－127 頁。 第 4 回　キャメロン／ニール(2013)59―74 頁。 第 5 回　宮崎（2013）80―88 頁。 第 6 回　宮崎（2011）160―169 頁。 第 7 回　宮崎（2013）88―92 頁。 第 8 回　宮崎（2013）105―107 頁。 第 9 回　宮崎（2013）108―109 頁。 第 10 回　宮崎（2013）117―121 頁。 第 11 回　宮崎（2011）193―201 頁。 第 12 回　宮崎（2013）126―131 頁。 第 13 回　酒井（2011）17－258 頁。 第 14 回　宮崎（2011）210―212 頁。 第 15 回　宮崎（2011）201―209 頁。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「経済史入門」は経済の歴史について考える科目ですから、歴史に関心のある学生が受講することを期待しています。

授業スケジュール

１．　ヒトはいかにして誕生したのか（人類の誕生）
２．　狩猟採集民の暮らしは悲惨だったのか（狩猟採集の社会経済史）
３．　農耕が始まって暮らしは楽になったのか（農耕の起源）
４．　食料生産が人口増加に追いついたのはなぜか（三圃制からハーバー＝ボッシュ法まで）
５．　モンゴル帝国は世界に何を残したのか（東西交渉史）
６．　マルコ＝ポーロは実在の人物だったのか（黄金の国ジパング伝説）
７．　火薬を発明したのはだれか(火薬・鉄砲・大砲の歴史)
８．　なぜイタリアでルネサンスが起きたのか(イタリアの東方貿易)
９．　スペインはいつ成立したのか（レコンキスタ）

10. エンリケ航海王子が開いたものは何か（東インド航路の開拓）
11. コロンブスはなぜ航海に出たのか（大航海時代の始まり）
12. サッカー選手メッシの先祖はどこから来たか（移民の歴史）
13. コロンブスの交換とは何か（アメリカ大陸から来た栽培植物）
14. カリブ海で海賊が出没したのはなぜか（銀の歴史）
15. 「南蛮人」が日本に漂着したのはなぜか（ガレオン貿易）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J81001201
科目名	社会政策入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	本科目では、まず雇用・労働、福祉・介護、年金といった分野において政府が対応を求められてきた代表的な「社会問題」を取り上げ、それらを引き起こしている要因について考える。その上で、それらの問題を解決するために実際にどのような手段が講じられているか、またその際にどのような課題に直面しているかについて説明する。 こうして、政府による社会問題解決に向けた政策、すなわち社会政策の実例を考察することを通じて、社会政策の意義と必要性、および今日的課題についての理解を促す。		
教材（教科書）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考資料）	社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規		
教育方法	毎回資料を配布する。資料には空欄を設けてあり、講義中にそこに入る適切な語句を指示する。学生は資料にそれを書き込むとともに、講義内容についてノートをとり、資料の内容を補足する。		
評価方法	授業内課題（45%）、　学期末試験（55%）		
到達目標	社会政策という政策分野の概要とそれに関する今日の社会問題について理解し、自らの視点からそれに対する意見を述べることができること。		
授業時間外学習	・社会保障関係をはじめ、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。 ・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。 ・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。			
授業スケジュール			
１．授業の進め方と概要：社会政策とは ２．少子化と人口減少：少子社会の現状と課題 ３．高齢化の進行：高齢社会の現状と将来 ４．労働と雇用①：労働時間をめぐる課題 ５．労働と雇用②：若年者の雇用問題 ６．貧困と格差①：生活保護制度 ７．貧困と格差②：格差社会の現状 ８．高齢者介護問題①：介護をめぐる状況 ９．高齢者介護問題②：介護保険制度 １０．医療問題①：国民皆保険制度 １１．医療問題②：医療保障の危機 １２．年金問題①：国民皆年金制度 １３．年金問題②：年金の危機 １４．社会保障の給付と負担：社会保障給付費の増加 １５．少子高齢社会：政策的対応のあり方			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J81001302
科目名	白書で学ぶ現代日本	単位数	2
科目名（英語表記）	Lectures on Contemporary Japan in White Paper		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
授業概要	（1）本講義は政府機関が発表している様々な白書および報告書を、実際にその作成に携わった政府関係者より説明して頂き、現代の日本社会の様々な側面を系統立てて理解することを目的とする。経済問題だけでなく、新聞やＴＶ等で取り上げられる様々な現代日本の社会問題の本質を理解したいと考える者にとっては必ず有益な講義内容となるであろう。 （2）毎年、政府が発表する膨大な報告書類の中でも「白書」は、より正式な政府の見解として各方面から注目されている。この白書には、①法律に基いて国会に提出される白書、②閣議に報告または配布される白書、③その他の白書、の３つのタイプがある。いずれも政府の見解には違いないが、閣議了解を必要とする白書は内閣の統一見解としての性格を有するため、原案作成を担当する各省庁は他の関係省庁との協議を必要とする。本講義では、各省庁間の現場で展開される協議・調整についても一定の解説が期待できる。 （3）白書の基本的な構成は、①現状分析、②これまでの政策の効果と今後の政策課題、③特集、というケースが多い。特に、③特集では、その時々に社会的関心の高いテーマに焦点が当てられ、そのテーマへの系統だった理解には有益な内容となっている。		
教材（教科書）	毎回の講義で解説資料等を配布する。		
教材（参考資料）	（1）白書の要約版等を予習資料として京学なび上で配布する。 （2）白書の本文や概要は、各省庁 HP 上で閲覧・ダウンロード可能である。是非とも活用されたい。		
教育方法	（1）毎回、講義形式で白書の解説を聴く。 （2）毎回、指定の受講レポートを解説内容に基づいて作成し、提出してもらう。 （3）毎回、質疑応答の時間を設ける。		
評価方法	（1）毎回の受講レポート 60% （2）中間試験および授業内発表 40%		
到達目標	（1）現在日本が直面する個々の政策課題の概要について正確に理解し、その説明ができる。 （2）自分の専門領域と直接・間接に関連する政策課題について情報を整理し、卒業研究に役立てることができる。 （3）解説内容を正確に理解することができる「聞き取り力」、相手からの情報に対して自分が有する情報と理解を関連付けて発展的方向に議論を導くことができる「質問力」を高める。		
授業時間外学習	（1）講義で取り上げる白書の概要をまとめた資料を京学なび上に用意するので、予習教材として目を通しておく。 （2）自分の関心ある領域については、省庁 HP 上にある白書関連サイトを閲覧し、概要を把握すると同時に疑問点を明確にしてから講義に臨む。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．就職活動に向けた準備の一環と位置付けて取り組む。 2．卒業論文のテーマ選択を意識して受講する。 3．私語や途中退席など、問題のある受講態度には厳しく対応する。			
授業スケジュール			
1．講義の順序 第 1 回：講義の概要の説明、「白書」の歴史と目的 第 2 回：白書解説 1 第 3 回：白書解説 2 第 4 回：白書解説 3 第 5 回：白書解説 4 第 6 回：白書解説 5 第 7 回：白書解説 6			

第 8 回：前半の白書の要点整理とその確認テスト
第 9 回：白書解説 7
第 10 回：白書解説 8
第 11 回：白書解説 9
第 12 回：白書解説 10
第 13 回：白書解説 11
第 14 回：白書解説 12
第 15 回：後半の白書の要点整理と試験／レポート課題

２．昨年 2017 年度の本講義で取り上げた白書は以下の通りである。
① 経済財政白書（内閣府）　② 労働経済白書（厚生労働省）　③ 消防白書（消防庁）　④ 情報通信白書（総務省）
⑤ 国土交通白書（国土交通省）　⑥ 食料・農業・農村白書（農林水産省）　⑦ 防衛白書（防衛省）
⑧ 外交青書（外務省）　⑨ 観光白書（観光庁）　⑩ 犯罪白書（法務省）　⑪ 京都市・地域創生計画（京都市）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J81001303
科目名	白書で学ぶ現代日本	単位数	2
科目名（英語表記）	Lectures on Contemporary Japan in White Paper		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
授業概要	（1）本講義は政府機関が発表している様々な白書および報告書を、実際にその作成に携わった政府関係者より説明して頂き、現代の日本社会の様々な側面を系統立てて理解することを目的とする。経済問題だけでなく、新聞やＴＶ等で取り上げられる様々な現代日本の社会問題の本質を理解したいと考える者にとっては必ず有益な講義内容となるであろう。 （2）毎年、政府が発表する膨大な報告書類の中でも「白書」は、より正式な政府の見解として各方面から注目されている。この白書には、①法律に基いて国会に提出される白書、②閣議に報告または配布される白書、③その他の白書、の３つのタイプがある。いずれも政府の見解には違いないが、閣議了解を必要とする白書は内閣の統一見解としての性格を有するため、原案作成を担当する各省庁は他の関係省庁との協議を必要とする。本講義では、各省庁間の現場で展開される協議・調整についても一定の解説が期待できる。 （3）白書の基本的な構成は、①現状分析、②これまでの政策の効果と今後の政策課題、③特集、というケースが多い。特に、③特集では、その時々に社会的関心の高いテーマに焦点が当てられ、そのテーマへの系統だった理解には有益な内容となっている。		
教材（教科書）	毎回の講義で解説資料等を配布する。		
教材（参考資料）	（1）白書の要約版等を予習資料として京学なび上で配布する。 （2）各白書の本文や概要は、省庁 HP 上で閲覧・ダウンロード可能であり、活用されたい。		
教育方法	（1）毎回、講義形式で白書の解説を聴く。 （2）毎回、指定の受講レポートを解説内容に基づいて作成し、提出してもらう。 （3）毎回、質疑応答の時間を設ける。		
評価方法	（1）毎回の受講レポート 60% （2）中間試験および授業内発表 40%		
到達目標	（1）現在日本が直面する個々の政策課題の概要について正確に理解し、その説明ができる。 （2）自分の専門領域と直接・間接に関連する政策課題について情報を整理し、卒業研究に役立てることができる。 （3）解説内容を正確に理解することができる「聞き取り力」、相手からの情報に対して自分が有する情報と理解を関連付けて発展的方向に議論を導くことができる「質問力」を高める。		
授業時間外学習	（1）講義で取り上げる白書の概要をまとめた資料を京学なび上に用意するので、予習教材として目を通しておく。 （2）自分の関心ある領域については、省庁 HP 上にある白書関連サイトを閲覧し、概要を把握すると同時に疑問点を明確にしてから講義に臨む。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．就職活動に向けた準備の一環と位置付けて取り組む。 2．卒業論文のテーマ選択を意識して受講する。 3．私語や途中退席など、問題のある受講態度には厳しく対応する。			
授業スケジュール			
1．講義の順序 第 1 回：講義の概要の説明、「白書」の歴史と目的 第 2 回：白書解説 1 第 3 回：白書解説 2 第 4 回：白書解説 3 第 5 回：白書解説 4 第 6 回：白書解説 5 第 7 回：白書解説 6			

第 8 回：前半の白書の要点整理とその確認テスト
第 9 回：白書解説 7
第 10 回：白書解説 8
第 11 回：白書解説 9
第 12 回：白書解説 10
第 13 回：白書解説 11
第 14 回：白書解説 12
第 15 回：後半の白書の要点整理と試験／レポート課題

２．昨年 2017 年度の本講義で取り上げた白書は以下の通りである。
① 経済財政白書（内閣府）　② 労働経済白書（厚生労働省）　③ 消防白書（消防庁）　④ 情報通信白書（総務省）
⑤ 国土交通白書（国土交通省）　⑥ 食料・農業・農村白書（農林水産省）　⑦ 防衛白書（防衛省）
⑧ 外交青書（外務省）　⑨ 観光白書（観光庁）　⑩ 犯罪白書（法務省）　⑪ 京都市・地域創生計画（京都市）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J82010101
科目名	経済思想史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	新英語表記 History of Economic Thought
授業概要	経済学は、封建制の解体期に生まれてきた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するための学問である。封建制がいち早く解体したイギリスでは、早くも 16 世紀の絶対王政の時代に近代社会を経済学的に把握しようとする試みが、主として当時の商人や政策担当者によって開始された。こうした「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』(1776 年）によってその原型が完成され、その後今日に至まで 200 年以上の歴史をへて発展してきた。 　経済思想史では、近代国家の成立とともに始まる経済学の歴史を、第 1 部「資本主義成立期の経済学」（重商主義と重農主義）と第 2 部「古典派経済学の成立と解体」（スミスからＪ・Ｓ・ミルまで）にわけて学習する。		
教材（教科書）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）3,200 円 授業において、また授業時間外の学習（予習・復習）においても使用する。 その他、毎回講義資料を配布する。		
教材（参考資料）	日本経済新聞社編『経済学４ １の巨人－古典から現代まで』（日本経済新聞社、2014 年） その他の参考資料については、授業中に適宜紹介する。		
教育方法	１．パワーポイントを利用しながら。講義形式で授業を行う。毎回の講義資料は、講義日にプリントとして配布するとともに、「京学なび」の「授業資料」として事前（1 週間間前）にアップする。受講生は教科書の当該箇所と講義資料について予め目を通しておくこと。 2．また、前回配布する講義資料の最後に「確認問題」（課題）を出題している。受講生には、次の講義日までに自宅で回答を準備することで前回講義内容の「復習」を行い、理解の定着に努めるとともに、次回の講義で自主的に発表することを求める。		
評価方法	確認問題の発表・受講態度（30%）＋レポート試験（70%）		
到達目標	1．近代において経済学が成立してくる歴史的背景が説明できる。 2．アダム・スミスが『国富論』(1776)を出版する以前に、どのような経済学が近代ヨーロッパにおいて存在してい　たのかを理解することができる。 3．アダム・スミスに始まるイギリス古典経済学の展開を説明することができる。		
授業時間外学習	「講義スケジュール」に即して、あらかじめ指定された教科書の当該頁と講義資料をしっかり予習してから授業に出席すること。 第 1 回　教科書当該頁なし 第 2 回　教科書 8-10 頁 第 3 回　教科書 10-13 頁 第 4 回　教科書 14-17 頁 第 5 回　教科書 20-23 頁 第 6 回　教科書 22-26 頁 第 7 回　　同上 第 8 回　教科書 48-51 頁 第 9 回　教科書 52-54 頁 第 10 回　教科書 54-57 頁 第 11 回　教科書 57-59 頁 第 12 回　教科書 82-85 頁 第 13 回　教科書 72-75 頁 第 14 回　教科書 85-90 頁 第 15 回　教科書 100-113 頁		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
講義途中で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問することを望む。また、教員から受講生に授業内容に関連して質問するばあいがあるので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの問いかけに対する積極的な応答については、いずれも平常点の加点対象とする。
授業スケジュール
1. 経済思想史の課題 2. 重商主義の定義 3. 重商主義の経済政策論 4. 重商主義の経済学説 5. 重農主義成立の歴史的背景 6. ケネー『経済表』の分析(1) 7. ケネー『経済表』の分析(2) 8. アダム・スミスの生涯と著作 9.『国富論』解説(1) 10.『国富論』解説(2) 11.『国富論』解説(3) 12. マルサス人口論 13. リカードウの経済学(1) 14. リカードウの経済学(2) 15. Ｊ・Ｓ・ミルと現代

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82010201
科目名	経済史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	コーヒーや綿(コットン)といった物産を通じて歴史について考えることが、この科目の目的です。コーヒーを世界で最初に飲んだのは、どのような人たちだったのでしょうか。コーヒーが広く世界で飲まれるようになると熱帯や亜熱帯の地域には大きな変化が起きましたが、それはどのようなものだったのでしょうか。また綿(コットン)が広まったことも大きな変化をもたらし、今日見るような世界が形成されていきました。なぜコーヒーや綿(コットン)が世界史を変えたのか、その理由について考えます。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考資料）	小澤卓也（2010）『コーヒーのグローバル・ヒストリー』ミネルヴァ書房。 キャメロン／ニール(2013)『概説　世界経済史　Ⅰ』東洋経済新報社。 ポメランツ（2015）『大分岐』名古屋大学出版会。 宮崎正勝（2013）『世界史の読み方』角川学芸出版。 UCC コーヒー博物館（2016）『図説　コーヒー』河出書房新社。 金七紀男(2014)『図説　ブラジルの歴史』河出書房新社。		
教育方法	主に講義法によって授業を進めつつ、学生による発表も適時交えることを予定しています。		
評価方法	定期試験（約 66%）・授業外レポート（約 17%）・授業内発表（約 17%）の合計（100%）		
到達目標	１．様々な意味で日本とは異なる世界があったことを知り、思考の幅を広げる。 ２．コーヒーやコットンのような物産の歴史を通じて今日の世界ができた経緯を理解する。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する参考文献のページを読んでおくこと（各回の学習推定時間は 45 分間）。 第 1 回　小澤（2010）8―55 頁。 第 2 回　UCC コーヒー博物館（2016）8―11 頁。 第 3 回　UCC コーヒー博物館（2016）11―15 頁。 第 4 回　UCC コーヒー博物館（2016）20―21 頁。 第 5 回　UCC コーヒー博物館（2016）22―29 頁。 第 6 回　金七（2014）8―17 頁。 第 7 回　UCC コーヒー博物館（2016）16―19 頁。 第 8 回　金七（2014）38―55 頁。 第 9 回　金七（2014）56―77 頁。 第 10 回　宮崎（2013）149―150 頁。 第 11 回　宮崎（2013）151―155 頁。 第 12 回　キャメロン／ニール(2013)244―246 頁。 第 13 回　キャメロン／ニール(2013)239―244 頁。 第 14 回　キャメロン／ニール(2013)238―239 頁。 第 15 回　ポメランツ（2015）272 頁―305 頁。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
「経済史」は経済の歴史について考える科目ですから、歴史に関心のある学生が受講することを期待しています。			
授業スケジュール			
１．　コーヒーの原料は何か（コーヒーの生産と流通） ２．　世界で最初にコーヒーを飲んだのはだれか（コーヒーの起源）			

3. ウィンナーコーヒーはどのようにして生まれたか（コーヒーの普及）
4. どのような器にコーヒーやココアを入れて飲んだのか（磁器の歴史）
5. イギリスでは主に茶を、アメリカでは主にコーヒーを飲むのはなぜか(ボストン茶会事件をめぐって)
6. ブラジルでは何語が話されているか（トルデシリャス条約をめぐって）
7. ブラジルがコーヒー生産国になったきっかけは何か（アラビカ種の伝播）
8. ナポレオンの登場はブラジルをどう変えたか（ブラジル独立までの経緯）
9. ブラジルでコーヒー生産が増えたのはなぜか（粗放農業とテラ・ローシャ）
10. コーヒーや紅茶に入れる砂糖は世界をどのように変えたか（奴隷貿易の歴史）
11. 綿（コットン）の流行は何をもたらしたか（インド更紗をめぐって）
12. 産業革命はなぜイギリスで起きたのか（工業化の始点）
13. 産業革命期に紅茶と砂糖の消費が伸びたのはなぜか（プロト工業化論と労働の社会経済史）
14. 地球の温暖化が始まったのはいつか（石炭利用技術の革新）
15. ヨーロッパが優位に立つようになったのはなぜか（大分岐）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82010301
科目名	経済学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Economic Thought		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	新英語表記 History of Economics
授業概要	経済学は、封建制の解体期に生まれた近代資本制とよばれる「市場経済システム」を分析するためにつくられた学問である。「近代の科学」としての経済学は、アダム・スミスの『国富論』（1776 年）によってその原型が完成されたが、本講義では、スミスに始まるイギリス古典派経済学以後の経済学の発展史を学習するために、近代経済学の成立事情について理解し、「ケインズ革命」を経て今日に至るまでの現代経済学の歴史を学ぶことができる。		
教材（教科書）	田中敏弘編著『経済学史』（八千代出版）3,200 円 授業において、また授業時間外の学習（予習・復習）でも使用する。 その他毎時間、講義資料を配布する。		
教材（参考資料）	日本経済新聞社編『経済学４１の巨人』（日本経済新聞社、2014 年） その他の参考資料については、授業で適宜紹介する。		
教育方法	１．パワーポイントを利用し、講義形式で授業を行う。毎回の講義資料は、講義日にプリントとしてて配布するとともに、「京学なび」の「授業資料」として事前（1 週間前）にアップする。受講生は教科書の当該箇所と講義資料にあらかじめ目を通しておくこと。 2．また、毎回配布する講義資料の最後に「確認問題」（課題）を出題している。受講生には、次の講義日までに回答を準備することで前回講義の「復習」を行い、講義内容の理解の定着に務めるとともに、次回の講義でその成果について自主的に発表することを求める。		
評価方法	課題の発表・受講態度（平常点 30%）＋レポート試験（70%）		
到達目標	1.　現代経済学の出発点となった 1870 年代の「限界革命」理論の成立事情について理解することができる。 2．1930 年代の「ケインズ革命」の画期的意義がなにかを説明することができる。 3. 現代経済学の流れを正しく理解することによって、今日の経済問題の解明について新たな知見を得ること　ができる。		
授業時間外学習	講義のスケジュール」に即して、あらかじめ指定された教科書の当該頁と講義資料をしっかり予習してから授業に出席すること。 第 1 回　教科書当該頁なし 第 2 回　教科書 172-177 頁 第 3 回　教科書当該頁なし 第 4 回　教科書 177-186 頁 第 5 回　教科書 208-221 頁 第 6 回　教科書 226-233 頁, 244-259 頁 第 7 回　教科書 288-303 頁 第 8 回　教科書 306-315 頁 第 9 回　教科書 144-149 頁 第 10 回　教科書 318-323 頁 第 11 回　教科書 323-330 頁 第 12 回　教科書 330-336 頁 第 13 回　教科書 344-349 頁 第 14 回　教科書当該頁なし 第 15 回　教科書当該頁なし		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			

授業で「わからない」ことや「疑問に思ったこと」がある場合には、授業中に質問すること。また、こちらからも授業内容に関連して質問するので、そのときには受講生の積極的な発言を期待している。授業内容に関する受講生からの質問や、教員からの質問に対する積極的な応答については、いずれも平常点の加点対象とする。
授業スケジュール
1. 経済学史の課題――古典派経済学から近代経済学へ 2. マルクスと現代(1) 3. マルクスと現代(2) 4. マルクスと現代(3) 5. 近代経済学の成立(1) 6. 近代経済学の成立(2) 7. イギリス・ケンブリッジ学派の経済学（マーシャルとピグー） 8. シュンペーターの経済学 9. ヴェブレンの制度主義経済学 10. ケインズ革命(1) 11. ケインズ革命(2) 12. ケインズ革命(3) 13. ケインズ以降の現代経済学の展開(1) 14. ケインズ以降の現代経済学の展開(2) 15. 現代経済学の新潮流

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82010401
科目名	国際経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economics		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	近年のグローバル化している経済状況を理解し、グローバル化が経済にどのような効果をもつかを学習するのが国際経済学という学問である。まず、グローバル化の一つの要因である貿易に焦点を当て、国際経済入門で講義した初歩的な貿易モデルを念頭に置きながら、応用的な貿易モデルを用いて貿易のパターンや貿易の利益を説明する。また、別のグローバル化の要因であるヒトやカネの国際移動が経済に与える影響についても説明する。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配付する。		
教材（参考資料）	・澤田康幸（2003 年）『基礎コース　国際経済学』 新世社 ・大川昌幸（2007 年）『コアテキスト・国際経済学』 新世社 ・石川城太・菊地徹・椋寛（2007 年）『国際経済学をつかむ』 有斐閣 （その他） ・井川一宏・林原正之・佐竹正夫・青木浩治（2000 年）『基礎　国際経済学』 中央経済社 ・若杉隆平（2001 年）『現代経済学入門　国際経済学』 岩波書店		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	基本的に、授業内小テスト等による平常点（60%）、レポート（40%）の成績によって評価する。		
到達目標	国際経済学の主要な理論モデルを学習し、まず、それらのモデルから貿易の効果や貿易パターンについて理解することを目標とする。また、生産要素移動の経済に与える効果についても学習し、理解することを目標とする。		
授業時間外学習	ミクロ経済学と国際経済入門の授業を履修しておくことが望ましい。それゆえ、できればそれらの科目を受講したうえでのぞむこと。また、各回の終わりに宿題としてレポートを課すので、授業外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

遅刻や私語を厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。

授業スケジュール

１．イントロダクション
２．リカード・モデル：絶対優位と比較優位
３．リカード・モデル：生産可能性フロンティア
４．リカード・モデル：相対価格と貿易パターン
５．リカード・モデル：世界市場での相対価格の決定
６．リカード・モデル：自由貿易均衡と貿易利益
７．ヘクシャー＝オリーン・モデル：リガード・モデルとヘクシャー＝オリーン・モデル
８．ヘクシャー＝オリーン・モデル：固定係数モデル
９．ヘクシャー＝オリーン・モデル：リプチンスキー定理
１０．ヘクシャー＝オリーン・モデル：ヘクシャー＝オリーン定理
１１．ヘクシャー＝オリーン・モデル：ストルパー＝サミュエルソン定理
１２．ヘクシャー＝オリーン・モデル：要素価格均等化定理
１３．生産要素の国際移動：国際間の資本移動とは
１４．生産要素の国際移動：リカード・モデルにおける労働移動の効果
１５．生産要素の国際移動：２生産要素モデルでの資本移動の効果

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J82010501
科目名	金融論	単位数	2
科目名（英語表記）	Money and Banking		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	金融の基礎について講義をする。貨幣の役割、中央銀行の役割、民間金融機関の役割を中心に、金融を学ぶことは何故必要かが分かってもらえる講義にする。短期金融市場、株式市場、債券市場、為替市場についても説明し、ファイナンシャルプランナーを目指す人、金融機関就職を希望する人はもちろんのこと、今後社会に出た時に必要な基礎教養を身に付けたい人にも十分役立つ講義にする。金融政策を中心に扱う金融政策論も併せて受講してほしい。		
教材（教科書）	第１回目の講義時に紹介する。 また、適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	講義の進展に応じて紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：講義参加意欲、小テスト 20%		
到達目標	ファイナンスについての基本的知識を身につけることができる。		
授業時間外学習	講義前に新聞やニュースでその日の経済の動きを事前に把握しておくこと。 少なくともその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。 また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
「金融政策論」は併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい。			
授業スケジュール			
1.貨幣とは何か 2.銀行の役割 3.中央銀行の役割 4.金融政策の方法 5.信用創造について 6.金融政策はどのように経済に影響するのか 7.短期金融市場の役割 8.債券についてⅠ 9.債券についてⅡ 10 株式についてⅠ 11 株式についてⅡ 12.為替レートについてⅠ 13..為替レートについてⅡ 14.物価の決定理論Ⅰ 15.物価の決定理論Ⅱ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82010601
科目名	国際金融論	単位数	2
科目名（英語表記）	International Finance		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	国際金融論は、国家間の金融取引に焦点を当て、そこで無視することができない為替レートについて学習する学問である。本講義では、まず、国際金融取引の現状を説明したうえで、受講生がそこで必要となる為替レートがどのようなアプローチに基づいて決まるかについて理解できるようになることを目的とする。加えて、為替レートが変動することに伴い実体経済がどのような影響を受けるかも重要な点であるため、為替レートと実体経済の間の関係についても理解できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	なし、講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	【教科書】 高木信二(1992)『入門　国際金融』　日本評論社 藤井英次(2006)『コアテキスト・国際金融』　新世社 橋本優子・小川英治・熊本方雄(2007)『国際金融論をつかむ』　有斐閣 藤原秀夫・小川英治・地主敏樹(2001)『国際金融』 有斐閣アルマ 小川英治(2002)『国際金融入門』　日本経済新聞社 宮尾龍蔵(2005)『コアテキスト・マクロ経済学』　新世社		
教育方法	事前に配布した講義レジュメ・資料に沿って、基本的に講義法で行う。教員は講義する内容をホワイトボードに書いてポイントを明確にし、学生はそれをノートに写しながら受講する。講義内容が理解できているかどうかを判断するために小テストを課す。		
評価方法	基本的に、授業内小テスト等による平常点（60%）、レポート（40%）の成績によって評価する。		
到達目標	1. 為替レートがどのように決まるか理解できるようになる。 2. 為替変動がマクロ経済に与える影響について説明できるようになる。		
授業時間外学習	講義で配布するプリントを予め読んで予習しておくこと。また、各回の終わりに宿題としてレポートを極力課すので、授業時間外でレポートを作成し期日までに必ず提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 金融論とマクロ経済学の授業を履修してのぞむことが望ましい。
2. 遅刻や私語は厳禁とする。
3. トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい。
4. 授業内容に関する理論モデルから得られる結果は高い現実妥当性をもつものも少なからず存在する。モデル分析から得られる結果を現実経済に当てはめて考えてみよう。

授業スケジュール

1．イントロダクション
2．国際金融取引の基礎：グローバル化するモノ・おカネの動き
3．国際金融取引の基礎：開放経済における国民所得勘定
4．国際金融取引の基礎：国際資本移動が生じる理由
5．外国為替の基礎：為替レートの見方，名目為替レートと実質為替レート
6．為替レートと貿易収支の調整：円高・円安と貿易収支
7．為替レートと貿易収支の調整：マーシャル・ラーナー条件，Ｊカーブ効果
8．為替レートの決定：購買力平価，金利平価
9．為替レート決定理論：伸縮価格マネタリーモデル
10．為替レート決定理論：硬直価格マネタリーモデル
11．為替レート決定理論：為替リスク，リスク・プレミアム
12．為替レート決定理論：ポートフォリオ・バランス・モデル
13．為替介入の方法と効果：介入の仕組みと効果経路
14．開放経済における政策効果：固定相場制における財政金融政策
15．開放経済における政策効果：変動相場制における財政金融政策

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J82010701
科目名	マクロ経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Macroeconomics		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	本講義では、「マクロ経済入門」を前提とし、一国の経済全体の活動である「マクロ経済」の仕組みに関して、基礎的な概念・理論について学びます。まず一国の経済活動水準はどのように測定されているか復習したのちに、経済がどのように成長していくのか、また、消費や投資といった GDP の構成要素がどのように決定されるのかについて経済モデルを用いて分析します。授業の後半では、所得分配や少子高齢化といった日本経済の重要問題を理解していきます。講義は、最新のデータや図表および簡単な数式、数値例を用いてできるだけわかりやすく行う予定です。		
教材（教科書）	柴田章久、宇南山卓（2013）『マクロ経済学の第一歩』有斐閣ストゥディア		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介する予定です。		
教育方法	授業は、講義スライドと板書を用いて進めます。		
評価方法	平常点評価（30%）: 課題の提出、授業への参加度により評価します。 期末試験（70%）		
到達目標	1．マクロ経済学の基礎理論につい説明できる 2．日本経済の重要課題について理解できる		
授業時間外学習	事前学習： 教科書の該当箇所を読んでおくこと（30 分程度） 事後学習： 講義スライドの内容を復習・理解すること（30 分程度）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「マクロ経済入門」を履修済みであること
経済分析のために使う数学は「マクロ経済入門」よりやや高度になります。
「マクロ経済入門」と同様に、数式の展開やグラフの描画などは実際に手を動かして理解を深めてください。

授業スケジュール

1. イントロダクション：マクロ経済学とは何か？
2. GDP とは何か？
3. 経済成長と技術の役割（1）
4. 経済成長と技術の役割（2）
5. 消費の決定（1）
6. 消費の決定（2）
7. 投資の決定（1）
8. 投資の決定（2）
9. 労働市場と失業（1）
10. 労働市場と失業（2）
11. 所得分配と格差（1）
12. 所得分配と格差（2）
13. 再分配政策（1）
14. 再分配政策（2）
15.少子高齢化と財政
※登録する受講生の人数や理解度に応じて、進度やトピックは変更になる場合があります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J82010801
科目名	ミクロ経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Microeconomics		
担当者名	川﨑　雄二郎	旧科目名称	ミクロ経済学 A
授業概要	完全競争市場においては効率的な資源配分が達成されるが、「完全な競争」が成り立たない場合は資源配分が効率的になるとは限らない。そこで本講義では、数理モデルによる消費者による消費・企業による生産の分析手法やゲーム理論の考えを用いながら「市場の失敗」が起こるケース（独占・寡占、外部性、情報の不確実性など）について学んでいく。		
教材（教科書）	神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社　3,456 円　ISBN-13: 978-4535557567		
教材（参考資料）	ハル＝ヴァリアン原著・佐藤隆三翻訳（2015）『入門ミクロ経済学 原著第 9 版（日本語訳版）』勁草書房　4,320 円　ISBN-13: 978-4326951321 武隈慎一（2016）『新版 ミクロ経済学』新世社　3,218 円　ISBN-13: 978-4883842391 他、講義中に適宜紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	レポート（30%）と試験（70%）により評価する。		
到達目標	ミクロ経済学やゲーム理論の概念や分析方法を身につけ、発展的な分野に応用することができる。		
授業時間外学習	毎回の講義は、それまでの講義内容を十分に理解しているものとして進められる。各講義を受けたその都度に復習し（『あとでまとめて復習』では遅い）、分からないことがあれば必ず質問すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＜受講の前提＞
「ミクロ経済入門」を受講し内容を十分に理解していることが前提である。よく覚えていない場合は事前に復習しておくこと。
＜受講のルール＞
1．講義中の私語は、他の受講者の迷惑となるため厳禁とする。私語がひどい場合は注意をし、改善されない場合は退出を求める。
2．先にも述べたとおり、分からないことがあれば必ず質問すること。

授業スケジュール

1．イントロ：消費者と企業の合理的行動、市場の効率性
2．消費者の行動①：効用最大化と需要曲線
3．消費者の行動②：双対性、需要の法則
4．企業の行動①：利潤最大化と供給曲線
5．企業の行動②：短期と長期の生産計画
6．需要と供給についてのまとめ
7．市場の効率性：余剰分析、間接税、厚生経済学の基本定理
8．ゲーム理論①：ナッシュ均衡
9．ゲーム理論②：部分ゲーム完全均衡
10．独占：市場支配力
11．寡占①：数量競争
12．寡占②：価格競争
13．外部性：外部経済・不経済、ピグー税
14．不確実性①：リスク選好
15．不確実性②：モラルハザードと逆選択

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2018	授業コード	J82010901
科目名	経済統計学	単位数	2
科目名（英語表記）	Economic Statistics		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	経済の諸現象を量的に把握したものが経済統計である。統計調査やその利用・分析を重点的に展開する。 とくに分析に必要となる「データのまとめ方」や「統計利用の実際」を重視するが、統計分析の初歩も当然必要となる。 SNA 統計や、物価、労働、金融、為替、外国貿易等様々な統計データを用いて、その処理方法や数量的分析の基礎を学習する。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って表や図、数値指標にまとめて分析する。 分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方などもチェックし、細かく修正してもらう。 これを何回も題材を変えながら繰り返す。		
教材（教科書）	毎回、EXCEL で、データと分析方法を配布。		
教材（参考資料）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教育方法	（1）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （2）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（1）から（2）を、テーマごとに繰り返し、データ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料を適当な段階で提出してもらう。全 5 回を考えている。その「できぐあい」によって評価する(100%)。 期末テストは実施しない。		
到達目標	Excel を使いこなし、統計的処理の基礎を固める 高い水準のレポートが書けるようにする		
授業時間外学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでは全く不十分なので、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 授業外の時間にその勉強をすること、次回の授業でそれを確かめること、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ノートを必ず作り書き込むこと。これは特に重要である。 積極的に参加することが必要で、授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすることが必要。 授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、途中退室は厳禁である。			
授業スケジュール			
以下のように講義を進めるが、取り扱う内容は上記のように各種関連統計を随時利用する。 1　講義の全体構成 2　表を作る 3　グラフの作成と大小関係 4　円グラフと比率 5　折れ線グラフと時間の推移 6　棒グラフとその性質			

7　2 軸を使った複合グラフの分析
8　ヒストグラムと分布
9　データのばらつき
１０　散布図と 2 変数の関係
１１　不平等、格差を測る
１２　経済成長を測る
１３　世界の豊かさ
１４　相関係数の話
１５　回帰分析の話

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J82011001
科目名	計量経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Econometrics		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	経済・社会データを数量的に分析するための統計手法の学習、データ分析の実際を学ぶ。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って分析する。 とくに最小 2 乗法や検定（t 検定）を理解することが重要である。また、実際の分析には重回帰分析や、要因分析、これらを駆使したデータマイニングの課題を解いていくことが重要である。 こういった分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方などもチェックし、細かく修正してもらう。 （なぜ注意されるのか、どう修正すれば社会的要求水準になるのか考えてもらう） これを何回も題材を変えながら繰り返す。		
教材（教科書）	毎回、EXCEL で、データと分析方法を配布。		
教材（参考資料）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教育方法	（1）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （2）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（1）から（2）を、テーマごとに繰り返し、データ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料を適当な段階で提出してもらう。その「できぐあい」によって評価する(100%)。 期末テストは実施しない。		
到達目標	Excel を使いこなす 回帰分析など分析手法を身につける 高い水準のレポートが書けるようにする		
授業時間外学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでは全く不十分なので、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 授業外の時間にその勉強をすること、次回の授業でそれを確かめること、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ノートを必ず作り書き込むことが重要である。 積極的に参加することが必要で、授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすること。 授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、途中退席は厳禁である。			
授業スケジュール			
1　講義の全体構成 2　平均と分散 3　平均と分散の実例 4　課題（1）の分析 5～7　課題（1）の修正と完成 8　回帰分析その 1 9　回帰分析その 2 10　より進んだ回帰分析			

１１　回帰分析と評価
１２　回帰分析と評価その２
１３　回帰分析と評価その３
１４　課題（２）の分析
１５　課題（２）の修正と完成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J82011101
科目名	時系列解析	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	時系列データ分析
授業概要	月次や四半期などの経済データはその時々の経済ショックを受けながら変動する。また、GDP やマネー、金利、物価などはお互いに影響しながら動いていく。それらの間にどのような関係が成り立つかを分析する。さまざまな分析手法を用いるが、特に、この講義では、最小二乗法を中心に、定常、非定常の検定を学ぶ。EViews という分析ソフトを使用。EViews という経済分析ソフトを使って、経済データのいろいろな分析、推計、モデル作成などを行う。		
教材（教科書）	毎回、「京学なび」にて、必要な資料を EXCEL で、使用データを EViews のファイルで配布。		
教材（参考資料）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教育方法	（1）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （2）原データを EXCEL で加工して、EViews という分析ソフトに移す。 （3）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（1）から（3）を、テーマごとに繰り返す。 EXCEL や EViews の操作方法をまず最初に覚え、次にデータ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	毎回の課題提出（30%）と 2 回程度のレポート提出（20%）、定期試験（50%）		
到達目標	（1）最小二乗法による推定ができるようになり、推定結果が解釈できる。 （2）経済データが定常か非定常かを単位根検定できる。 （3）系列相関の有無（毎回の経済ショックが過去の影響を引きずっているか）。		
授業時間外学習	EViews というソフトはクリックするだけで結果を出してくれる。計算手法そのものの理解は、統計学や数学、コンピュータのプログラムなど膨大な知識を要求するので、気にしなくてもよい。大事なことは、何を分析しているのか、分析結果の経済学的な意味合いである。経済学の基礎知識として、ミクロ、マクロ、金融論、計量経済学などを履修済、あるいは、履修中であることが望ましい。 予習：毎回の資料を「京学なび」で事前配布するので、読んでおくこと。 復習：毎回の資料（課題）の最後に、次週までに解いておくべき課題（発展問題）を示しておくので、その課題を解いて、次の授業までに「京学なび」の課題提出欄に提出しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学やコンピュータへの拒否反応を持たないようにしてほしい。これらははじめは難しそうでも、使っていれば慣れてくる。 経済学的な意味合いがもっとも大事である。経済の基礎勉強に励んでほしい。			
授業スケジュール			
（1）データ取得と加工、EViews の基本操作とグラフ表示 （2）季節調整、平均化、smoothing、記述統計 （3）最小二乗法による推定――回帰直線 （4）最小二乗法による推定――重回帰 （5）最小二乗法による推定――ダミー変数導入による賃金の推定（男女、年齢、経験の影響） （6）自己相関、相互相関 （7） 時系列データにおける相関関数（時間遅れの影響） （8）レベル変数（非定常）と階差変数（定常） （9）系列相関の考え方 （１０）単位根検定（定常、非定常）――トレンドの検定、ERS 検定、KPSS 検定 （１１）単位根検定――日本のデータ （１２） 単位根検定――ヨーロッパのデータ、アメリカのデータ			

（１３）レベル変数間の推定
（１４）階差変数（成長率）間の推定
（１５）レベル推定と階差推定の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82011201
科目名	技術移転論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
授業概要	２１世紀の厳しい国際競争に勝利するためには、独自の研究成果から絶えざるイノベーションを創出していかなくてはならない。２０世紀におけるわが国の企業における技術経営戦略の一つであった「追いつき、追い越せ」のキャッチアップ時代とは異なり、いまや我々の前に進むべき用意された道はなく自ら目標を定め創意と工夫で道なきところに道を切り開いていくことが重要である。その実現の手段として大学等の「知」を活用した国の産業競争力の強化という観点から産学官連携における技術移転は２１世紀における重要な位置付けであると考えられている。 　本講義では「技術移転」についての基礎知識を習得し、産学官連携や企業の技術経営の事例、地域との連携事例を学習していく。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	「産学官連携推進の知恵」、文部科学省産学官連携企画編集員会 「産学官連携の新たな展開に向けて」、文部科学省研究振興局		
教育方法	パワーポイントあるいは板書を活用しながら講義法でおこなう		
評価方法	「授業中の小テスト」(20%)＋「レポート＋試験」(50%）＋授業内小テスト等による平常点(30%)		
到達目標	技術移転に関する基本的な知識の習得。		
授業時間外学習	技術移転、産学官連携活動の興味ある事例を事前学習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１）　講義には積極的な質疑応答を心がけるなど能動的な姿勢で出席すること
２）　講義中の私語が過ぎれば他の受講生への迷惑を勘案し退場を求める

授業スケジュール

1.　　講義の内容と進め方
2.　　技術移転とは？　産学官連携とは？
3.　　産学官連携支援体制づくり
4.　大学の「知」の発掘・発信と産業界のニーズ把握
5.　マッチング
6.　共同研究契約と知的財産権
7.　イノベーションを誘発する仕組み
8.　大学発ベンチャーの育成と支援
9.　産学官の連携事例（その１）
10.　産学官の連携事例（その２）
11.　産学官の連携事例（その３）
12.　地域と大学の連携事例（その１）
13.　地域と大学の連携事例（その２）
14.　地域と大学の連携事例（その３）
15.　これからの連携と技術移転

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J82011301
科目名	環境経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Economics		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
授業概要	世界銀行によると，2016 年には世界の約 40 の国や 20 以上の都市や州で，地球温暖化を抑制するための環境政策に，「炭素税」や「排出量取引」といった「経済的政策（経済的インセンティブに基づく政策）」が導入されています．日本においても，炭素税（地球温暖化対策税と呼ばれる）が，2012 年 10 月 1 日から導入されました．また，排出量取引については，日本政府としては導入していないものの，東京都は 2010 年から，また埼玉県は 2011 年から，独自に実施しています． 従来の環境政策といえば，政府による「規制政策（環境基準で規制する政策）」が主流でした．しかし，最近では炭素税や排出量取引といった経済的政策が，地球温暖化問題に対する優れた環境政策として世界的に認められるようになってきました．それはなぜなのでしょうか？ 答えは，経済的政策には規制政策に内在するいくつかの短所を克服する，優れた長所があるからなのです． 本授業の目的は，地球温暖化を抑制する環境政策として世界的に評価が高まっている，経済的政策について理解することにあります．特に，なぜ従来の規制政策よりも経済的政策の方が優れているのかについて理解することを目標とします．そうした理解によって，最も有効な政策を選択するための知識や論理的思考力を修得し，地球温暖化問題に貢献できるリーダーシップを身につけることができます．（学生諸君には，将来社会の中で是非ともリーダーシップを発揮していただきたい．） 授業の前半は，政策の優劣を比較するために必要な分析道具として，経済学の基礎を確認します．また，その応用としての環境経済学の理論や分析手法なども修得していきます．後半は，前半で学んだ分析道具を使用して従来の規制政策の短所を明らかにした上で，それを補う経済的政策の長所について理解を深めていきます． さらに，経済的政策のしくみや長所を理解した後には，学生諸君が企業者となって教室で実際に排出許可証の売買取引の体験を行い，排出量取引のしくみや長所についてさらに理解を深めます．なお，毎回の授業のはじめには，新聞や雑誌記事などの資料を配布し，地球温暖化問題への世界や日本の取組の最前線の状況についても認識を深めていきます．		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	① バリー・C・フィールド著・秋田次郎他訳『環境経済学入門』日本評論社（1997 年）． ② ウィリアム・ノードハウス著・藤崎香里訳『気候カジノ ― 経済学から見た地球温暖化問題の最適解』日経 BP 社（2013 年）． ③ N. グレゴリー・マンキュー著（足立英之他訳）『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』（第 3 版）東洋経済新報社（2013 年）． （参考書は図書館に各 3 冊を設置していますので，閲覧できます．）		
教育方法	1. 毎回の授業は講義形式で，書き込み式の授業ノートを配布して，できるだけわかりやすく解説していく． 2. 授業では新聞や雑誌記事などの資料を配布し，地球温暖化問題への世界や日本の取組の最前線の状況についても認識を深めていく． 3. 授業内小テストは 15 週のうち任意で数回行い，授業内に学んだ内容を正しく理解しているかどうかを確かめる．		
評価方法	1. 授業内小テスト（25%） 2. 中間試験（take home）（25%） （中間試験は持ち帰り試験（take home）の形式で行う．試験問題は 7 回目の授業終了時に配布し，8 回目の授業開始時に回収する．なお、9 回目の授業で解説する．） 3. 期末試験（50%）		

	（期末試験は，経済的政策のしくみや長所について，図を用いて正しく説明できるかどうかを評価する.）
到達目標	1. 環境経済学のアイデアを使ってベストな環境政策について議論ができるようになる. 2. 規制政策や経済的政策のしくみや短所について説明できるようになる. 3. なぜ従来の規制政策よりも経済的政策の方が優れているのかを説明できるようになる. 4. 排出量取引制度が市場を通してどのように機能するのかを説明できるようになる. 5. 地球温暖化に対する現在の世界や日本の取り組みについて説明できるようになる.
授業時間外学習	＜参考書リーディング＞ 第 1 回 参考書① 21-22 頁（推定時間 15 分）・ 参考書③ 4-20 頁（推定時間 30 分） 第 2 回 参考書① 47-57 頁（推定時間 30 分）・ 参考書③ 100-111，205-211 頁（推定時間 30 分） 第 3 回 参考書① 57-68 頁（推定時間 30 分）・ 参考書③ 111-120，375-383 頁（推定時間 30 分） 第 4 回 参考書① 71-77 頁（推定時間 15 分）・ 参考書③ 211-225 頁（推定時間 30 分） 第 5 回 参考書① 77-82 頁（推定時間 15 分）・ 参考書③ 284-300 頁（推定時間 30 分） 第 6 回 参考書① 93-105 頁（推定時間 30 分） 第 7 回 参考書① 105-114 頁（推定時間 30 分） 第 8 回 参考書① 237-241 頁（推定時間 10 分）・ 中間試験（take home）（推定時間 90 分） 第 9 回 参考書① 241-252 頁（推定時間 30 分） 第 10 回 参考書① 259-266 頁（推定時間 30 分）・ 参考書② 276-291 頁（推定時間 20 分） 第 11 回 参考書① 266-271，276-278 頁（推定時間 30 分）・ 参考書② 292-305 頁（推定時間 20 分） 第 12 回 参考書① 293-300，304-306 頁（推定時間 30 分）・ 参考書② 306-322 頁（推定時間 20 分） 第 13 回 環境省 HP「国内排出量取引制度について」（推定時間 30 分） http://www.env.go.jp/earth/ondanka/det/capandtrade/about1003.pdf 第 14 回 参考書② 300-305 頁（推定時間 20 分）・ 参考書③ 297-299 頁（推定時間 10 分） 第 15 回 授業ノートの総復習 1-50 頁（推定時間 60 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 事前に，初級レベルの経済学の授業を履修していることが望ましい.
2. 経済学や環境経済学では，はじめて遭遇する概念や用語を理解するのは難しい．したがって、講義の前に参考書を読んで準備することで授業内容を理解しやすくすること.
3. 毎回の授業で配布する書き込み式の授業ノートは、自筆のもののみ期末試験で持ち込みを許可するので，毎回の授業に出席して授業ノートに書き込んで整理すること.

授業スケジュール

1. 地球温暖化を抑制する経済的政策と世界情勢

＜道具としての経済学や環境経済学の概念＞

2. 分析道具Ⅰ（支払意思・便益）
3. 分析道具Ⅱ（費用・技術・限界費用均等化原理）
4. 分析道具Ⅲ（経済効率性・衡平性・市場）
5. 分析道具Ⅳ（外部性・市場の失敗）
6. 分析道具Ⅴ（汚染被害・削減費用）
7. 分析道具Ⅵ（効率的な排出水準）

＜中間試験配布（take home）＞

＜効果的な環境政策としての経済的政策＞

8. 規制政策Ⅰ（規制政策のしくみ）
9. 規制政策Ⅱ（規制政策の短所）・ ＜中間試験解説＞

10. 経済的政策Ⅰ（炭素税制度のしくみ）
11. 経済的政策Ⅱ（炭素税制度の長所）
12. 経済的政策Ⅲ（排出量取引制度のしくみ・長所）
13. 排出量取引の実践（体験学習）
14. 経済的政策の分析（炭素税と排出量取引の比較）
15. 授業ノートの総復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J82011401
科目名	経済法	単位数	2
科目名（英語表記）	Competition Law		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	経済法
授業概要	スポーツ選手は、ライバルと競い合うことで成長し、またルールを守って正々堂々と勝負することが求められ、反則は許されません。これと同じように、市場における企業も、ライバル企業がいるからこそ、より良い商品・サービスを工夫し、少しでも安く提供しようと切磋琢磨します。そして、ライバルに勝つためには、市場経済におけるルール、すなわち「公正かつ自由な競争」について定めた「独占禁止法」を守る必要があります。市場経済は、経済発展の点で非常に効果的なシステムですが、市場経済がうまく機能するための大前提が、市場において企業が自由に公正な競争を行うことです。 　この授業では、市場経済をうまく機能させるために不可欠な「競争」を守る「独占禁止法」の基本的な仕組みについて、実際の事件を通して、具体的なイメージができるように、学びます。それを通じて、企業の様々な活動について、独占禁止法の観点から検討できるようになることを目指します。		
教材（教科書）	川濵昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子『ベーシック経済法　（第 4 版)』（有斐閣、2014 年） その他に、毎回講義レジュメを配布する。		
教材（参考資料）	主な参考文献 ・金井貴嗣・泉水文雄・武田邦宣編　『経済法判例・審決百選[第 2 版]』（ジュリスト増刊)(有斐閣、2017 年） ・鈴木孝之・河谷清文『事例で学ぶ　独占禁止法』（有斐閣、2017 年） ・泉水文雄・土佐和夫・宮井雅明・林秀弥『経済法[第 2 版]』（有斐閣、2015 年） ・根岸哲・舟田正之『独占禁止法概説[第 5 版]』（有斐閣、2015 年） 以下は、公正取引委員会の HP により入手可能。 ・公正取引委員会「企業結合審査に関する独占禁止法の運用指針」 ・公正取引委員会「流通・取引慣行に関する独占禁止法の指針」 *その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	講義法で授業を行う。毎回、講義の冒頭で、その回に理解すべきポイントと、授業内レポートのテーマを説明する。受講生は、レポートのテーマを意識しながら、授業に取り組み、授業の最後に授業内レポートを作成する。優秀な授業内レポートは、次の回の講義で紹介する。授業内レポートで全体的な理解度を確認し、次の回に復習及び補足説明を行う。		
評価方法	平常点（授業内レポート）　３０％ 期末テスト　７０％ 評価方法の詳細は、初回の講義で説明する。		
到達目標	・入札談合について、どのようなものであり、なぜ悪いのかを説明できるようになる。 ・平易な事例について、カルテル(不当な取引制限）に該当するかどうか判断できるようになる。 ・平易な事例について、私的独占に該当するかどうか判断できるようになる。 ・不公正な取引方法について、代表的な事例を一つ挙げて説明できる。 ・独占禁止法違反に対するエンフォースメントについて説明できるようになる。		
授業時間外学習	第１回　教科書１～１９頁を読んでくる。 第２回～１５回　前回の授業で指示された教科書の該当箇所を読み、レジュメと教科書を活用して復習し、ポイントをまとめた自筆ノートを作成する。この自筆ノートに限り、期末試験に持ち込むことができる。 （各回の学習推定時間は１時間）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

企業活動に関するニュースを意識して視聴すること
お互いに気持ちよく受講できるように、講義マナーを守り、良好な学習環境に協力すること
（講義マナーについては、最初の講義で確認します。）

授業スケジュール

第１部　導入
１．市場経済と競争
２．独占禁止法の目的と全体像
３．入札談合

第２部　独占禁止法の主な内容
４．独禁法のキーワードと企業結合規制（１）
５．独禁法のキーワードと企業結合規制（２）
６．不当な取引制限（１）（東芝ケミカル事件）
７．不当な取引制限（２）（多摩談合事件）
８．不当な取引制限（３）（デジコン電子事件）
９．私的独占（１）（東洋製缶事件・雪印・北海道バター事件）
１０．私的独占（２）（JASRAC 事件・NTT 東日本事件）
１１．私的独占（３）（日本医療食協会事件・パラマウントベット事件）
１２．不公正な取引方法（１）（ヤマト運輸事件・マイクロソフト事件）
１３．不公正な取引方法（２）（ハーゲンダッツ事件・ローソン事件）

第３部　エンフォースメントと応用問題
１４．エンフォースメント
１５．独占禁止法の応用問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J82011501
科目名	国際法	単位数	2
科目名（英語表記）	International Law		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
授業概要	国際法は基本的に世界での国と国の間の関係について定めた法であり、私たちの日常生活とは関わりがないと感じるかもしれない。しかし、国際法が扱う問題（平和、貿易、環境など）は実際私たちの生活と深く関わり、個人や企業はグローバル化のもとで頻繁に国境を越え、国際問題を解決するために国際法はますます重要となっている。われわれは国際法を通じて世界とつながっているのである。この授業では、社会人として現代の世界を法の視点から捉える力を養うために、受講生が国際社会にどのようなルールがあるのかを知り、国際法の考え方やはたらきについて理解できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	山形英郎編『国際法入門～逆から学ぶ～』（法律文化社、２０１４年）2916 円 授業時間外学習で主に使用する。 その他に、毎回講義レジュメ・資料を配布する。		
教材（参考資料）	【教科書】 浅田正彦編『国際法［第３版］』（東信堂、２０１６年） 杉原高嶺ほか『現代国際法講義〔第５版〕』（有斐閣、２０１２年） 徳川信治・西村智朗編『テキストブック法と国際社会』（法律文化社、２０１２年）　＊入門書 松井芳郎『国際法から世界を見る〔第３版〕』（東信堂、２０１１年）　＊入門書 小寺彰ほか編『講義国際法〔第２版〕』（有斐閣、２０１０年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 【判例集】 小寺彰ほか編『国際法判例百選〔第２版〕』（別冊ジュリスト 204 号、２０１１年） 【ウェブサイト】 外務省 HP　{http://www.mofa.go.jp/mofaj/} 国際連合広報センターHP　{http://www.unic.or.jp/} ＊その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	事前に配布した講義レジュメ・資料に沿って、基本的に講義法で行う。講義では、教員が冒頭で具体例を提示しながらポイント・目標を明確にし、学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講する。授業中に、記入するキーワードや基本的な知識を問う質問を行い、正解ができた受講生にはポイントを与える。授業の最後に、講義内容についての確認テストを行い、次回の授業の休憩時に返却する。また、第 10 回では、DVD を視聴する。		
評価方法	授業の最後に毎回行う小テスト（用語穴埋めやコメント　40%）、期末試験（記述問題　60%）。その他に、任意提出のレポートで加点する（10%）。期末試験は、出題問題の理解力や論理的な説明力を問う。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．国際社会が国内社会とどのように異なり、現代国際法がどのような特徴を持つのか説明できるようになる。 ２．国家が主権を中心にして基本的にどのような権利持ち、どのような義務を負うのか説明できるようになる。 ３．平和や環境のような世界全体の問題について、国際機構を中心にしてどのような国際協力の仕組みが設けられているのか説明できるようになる。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する教科書のページと講義レジュメ・資料に目を通し、レジュメの空欄に記入するキーワードを考えてくること（各回の学習推定時間は 45 分）。 第１回　シラバス、教科書 1-12 頁 第２回　第１回および第２回のレジュメ・資料、教科書 1-12 頁 第３回　第２回および第３回のレジュメ・資料、教科書 287-300 頁		

	第 4 回　第 4 回のレジュメ・資料、教科書 12-16 頁 第 5 回　第 5 回のレジュメ・資料、教科書 45-48, 55-60, 76-89 頁 第 6 回　第 6 回のレジュメ・資料、教科書 61-63,71-75,90-99 頁 第 7 回　第 7 回のレジュメ・資料、教科書 106-115,119-122,126-128 頁 第 8 回　第 8 回のレジュメ・資料、教科書 133-136,142-143,145-157 頁 第 9 回　第 9 回のレジュメ・資料、教科書 136-143,158-167 頁 第 10 回　第 10 回のレジュメ・資料 第 11 回　第 11 回のレジュメ・資料、教科書 13-17, 28-35 頁 第 12 回　第 12 回のレジュメ・資料、教科書 17-24,38-43 頁 第 13 回　第 13 回のレジュメ・資料、教科書 203-215 頁 第 14 回　第 14 回のレジュメ・資料、教科書 244-256 頁 第 15 回　第 15 回のレジュメ・資料、教科書 257-271 頁

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．履修が望ましい他の関連科目：法学、国際関係論（国際関係論入門でも可）
2．受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。
3．トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい（体調が悪い場合は申し出ること）。
4．授業内容に関わる国際問題は日本内外で頻発している。メディアでの国際ニュースに目を通し、法的に考えてみよう。

授業スケジュール

導入
1．国際社会の性質と国際法（1）－国際法はどのような法か（冒頭に履修ガイダンス）
2．国際社会の性質と国際法（2）－伝統的国際法から現代国際法へ
3．国際法の主体
第2部　国際法における国家と地球の空間秩序
4．国際法主体としての国家（1）－国家の成立と変動
5．国際法主体としての国家（2）－国家の基本的権利義務
6．国際法主体としての国家（3）－国家機関
7．国家領域と国際化地域
8．海洋法（1）－現代海洋秩序の構造
9．海洋法（2）－船舶の通航権、海域の境界画定など
第2部　国際社会における相互依存と国際協力
10．国際社会の組織化と国際機構（国連の活動に関するＤＶＤ鑑賞も行う）
11．平和と安全の維持（1）－武力行使の禁止と国連の集団安全保障体制
12．平和と安全の維持（2）－自衛権、国連の平和維持活動、軍縮
13．国際人権保障
14．経済的国際協力
15．地球環境の保全

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J82011601
科目名	国際経済法	単位数	2
科目名（英語表記）	International Economic Law		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
授業概要	日本は世界でも有数の貿易大国であり、また今日のグローバル化社会において多くの日本企業が国境を越えたビジネスを展開している。このことから、日本の法令や政策、さらには私たちの日常生活も国際経済と密接に関わっている。また、貿易や海外投資に関する紛争が国際法に依拠して司法的に解決される事例が急増しており、国際経済法の知識や考え方の習得はますます重要になっている。この授業では、国際的な経済活動を法の視点から捉える力を養うために、受講生が国際貿易・海外投資・国際金融にどのようなルールがあるのかを知り、国際経済法の考え方やはたらきについて理解できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	教科書は指定しない。講義レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考資料）	【教科書】 中川淳司ほか『国際経済法［第２版］』（有斐閣、２０１２年） 小室程夫『新版　国際経済法』（東信堂、２００７年） 滝川敏明『WTO 法［第２版］』（三省堂、２０１０年） 中川淳司『WTO－貿易自由化を超えて』（岩波新書、２０１３年） 【判例集】 松下満雄ほか編『ケースブック WTO 法』（有斐閣、２００９年） 【条約集】 位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第２版〕』（三省堂、２０１５年） 小寺彰・中川淳司編『基本経済条約集［第２版］』（有斐閣、２０１４年） 【ウェブサイト】 経済産業省 HP　{http://www.meti.go.jp/} 外務省 HP　{http://www.meti.go.jp/} ジェトロ HP　{https://www.jetro.go.jp/}		
教育方法	事前に配布した講義レジュメ・資料に沿って、基本的に講義法で行う。講義では、教員が冒頭で具体例を提示しながらポイント・目標を明確にし、学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講する。授業中に、記入するキーワードや基本的な知識を問う質問を行い、正解ができた受講生にはポイントを与える。授業の最後に、講義内容についての確認テストを行い、次回の授業の休憩時に返却する。また第 7 回では、DVD を視聴する。		
評価方法	授業の最後に毎回行う小テスト（用語穴埋めやコメント　40%）、期末試験（記述問題　60%）。その他に、任意提出のレポートで加点する（10%）。期末試験は、出題問題の理解力や論理的な説明力を問う。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．国際経済法が私たちの日常生活とどのように関わっているのか具体的に説明できるようになる。 ２．WTO 体制を中心にした国際貿易の法的枠組みについて具体的に説明できるようになる。 ３．海外投資や国際金融に関する法的枠組みについて具体的に説明できるようになる。		
授業時間外学習	事前に配布するレジュメ・資料を読み、レジュメの空所に記入するキーワードを考えてくること（各回の学修推定時間は 45 分） 第１回　シラバス 第２回　第２回のレジュメ・資料 第３回　第３回のレジュメ・資料		

	第 4 回　第 4 回のレジュメ・資料 第 5 回　第 5 回のレジュメ・資料 第 6 回　第 6 回のレジュメ・資料 第 7 回　第 7 回のレジュメ・資料 第 8 回　第 8 回のレジュメ・資料 第 9 回　第 9 回のレジュメ・資料 第 10 回　第 10 回のレジュメ・資料 第 11 回　第 11 回のレジュメ・資料 第 12 回　第 12 回のレジュメ・資料 第 13 回　第 13 回のレジュメ・資料 第 14 回　第 14 回のレジュメ・資料 第 15 回　第 15 回のレジュメ・資料

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．履修が望ましい他の関連科目：国際法、国際経済学（国際経済入門でも可）
2．受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。
3．トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい（体調が悪い場合は申し出ること）。
4．授業内容に関わる国際経済問題は日本内外で頻発している。メディアでの国際ニュースに目を通し、法的に考えてみよう。

授業スケジュール

導入
1．受講ガイダンス、国際経済秩序と国際法
第１部　国際貿易と国際法
2．貿易に関する国際法の展開
3．GATT の成立と展開
4．WTO 体制の成立と概要
5．WTO の紛争解決手続
6．WTO におけるサービス貿易
7．WTO における知的財産権（ＤＶＤ鑑賞も行う）
8．WTO における農業貿易
9．WTO と地域経済統合
１０．WTO と途上国
１１．WTO と非貿易的価値
第２部　海外投資および国際金融と国際法
１２．海外投資に関する国際法の展開
１３．投資紛争解決
１４．国際金融に関する国際法の展開
１５．ＩＭＦ・世界銀行の組織構造と活動

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2018	授業コード	J82011701
科目名	経済政策論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	我が国は人口減少社会に移行する中，経済社会のあり方が問われている．高度経済成長の成果を踏まえ，「日本型福祉国家」の建設を目指してきたが，経済的・社会的環境の変化により，福祉国家政策は行き詰まり，いまや政策体系が根本的に見直されなければならない．欧州諸国でも「福祉国家の危機」が，1980年以降急速に政治問題化し，欧州委員会を中心に「持続可能な社会保障制度の再構築」が模索されている． 本講義では，マクロ経済政策の基本的な事項の理解に努めるとともに，人口減少社会における持続可能な社会保障制度のあり方について考える．		
教材（教科書）	特に使用しない		
教材（参考資料）	足立正樹編著『福祉国家の転換と福祉社会』髙菅出版 野尻武敏『第三の道』晃洋書房		
教育方法	講義資料に基づいて講義する		
評価方法	小テスト・レポート（30%）および定期試験（70%）		
到達目標	人口減少社会における我が国の経済政策の課題を説明することができる		
授業時間外学習	配付する講義資料で予習するとともに，小テストに備えノートを整理し，復習すること．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

経済社会のメガトレンドを理解すべく，経済社会の動向に関心を持つこと．

授業スケジュール

1. 社会体制と政策思想
2.福祉国家の 2 類型
3.新しい社会問題
4.福祉国家の基本構想
5.成長と分配の総合政策（１）
6.成長と分配の総合政策（２）
7.成長と分配の総合政策（３）
8.成長と分配の総合政策（４）
9.成長と分配の総合政策（５）
10.雇用と経済安定化政策（１）
11.雇用と経済安定化政策（２）
12.雇用と経済安定化政策（３）
13.移行的労働市場論
14.フレキシキュリティ政策
15.社会的包摂のための政策

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J82011801
科目名	金融政策論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	金融政策および金融システムについて講義する。具体的には日本銀行やアメリカの中央銀行、連邦準備銀行は日々どのように金融政策を実施し、危機が生じたときにどのように政策対応するのか、また金融システムを健全に維持するためにはどのような規制が必要であるかを中心に講義する。とくに本年度は、大恐慌、北欧の金融危機、リーマンショック、日本のバブル、長期デフレといった具体的事例を中心に金融政策の役割について講義する。できるだけ平易な解説になるように努めたい。		
教材（教科書）	最初の講義時に紹介する。 また、適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	講義の進展に応じて参考文献を紹介する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	中間試験 20%、期末試験 60%、平常点：講義参加意欲、および小テスト 20%		
到達目標	金融政策、金融危機に関する、新聞記事などが十分理解できるようになる。 また、経済政策、とくに金融政策に関して自分なりの意見が述べられるようになる。		
授業時間外学習	ノートを整理すること。新聞の経済記事をよく読んでおくこと。講義の前に必ずその日の株価、為替レートのチェックをしておくこと。また、毎回講義の最後に次回の講義内容をアナウンスし、資料配布および参考文献の紹介をおこなうので、次回までに良く学習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「金融論」を併せて受講してほしい。講義前にはその日の株価（日経平均）および円レートをチェックしておくことが望ましい。

授業スケジュール

1 金融危機と金融政策（概説）
2 伝統的金融政策と非伝統的金融政策
3 日銀の伝統的金融調節
4 連邦準備の伝統的金融政策
5 デフレと金融政策
6 金融政策の評価
　テーラルール、NAIRU、オーカンの法則
7 大恐慌（29 年の株価大暴落と連銀の政策対応）
　金本位制、債務デフレ、クレディットビュー、マネービュー
8 日本のバブル：1980 年代後半の金融政策と政治
9　日本の長期デフレ不況：1990 年代
10　アベノミクス登場の背景と意義
11 アメリカの住宅バブルと金融政策
12 リーマンショックと金融政策
　too big to fail 政策、モラルハザード、影の金融システム、スティグマ
13　2000 年代の金融政策、日米比較
14 北欧の金融システムと金融危機
　公的資金の役割、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー
15 金融規制のあり方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82011901
科目名	社会政策論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	本科目では、社会政策実践の歴史について、その源流から今日までを振り返り、それらがいかなる事情と目的の下に展開されてきたかを説明する。さらに、その間に社会政策の対象や概念がどのように変化してきたかに着目することを通じて、社会政策の意義と必要性、そしてその体系について理解を深める。また、少子高齢化や人口減少など、わが国が直面している社会構造の変化を念頭に置きつつ、今日の社会政策に期待される役割とそこに生じている課題について検討を行う。		
教材（教科書）	必要に応じて授業中に資料を配布する。		
教材（参考資料）	足立正樹・井上久子（編著）『社会保障の光と陰』高菅出版 社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』中央法規出版		
教育方法	毎回資料を配布する。資料には空欄を設けてあり、講義中にそこに入る適切な語句を指示する。学生は資料にそれを書き込むとともに、講義内容についてノートをとり、資料の内容を補足する。		
評価方法	授業内課題（45％）、学期末試験（55％）		
到達目標	社会保障の目的と必要性の根拠を多面的に理解するとともに、今後の社会保障のあり方について自らの視点で考察し、説明できる。		
授業時間外学習	・社会保障関係はもちろんのこと、広く経済社会の動向に関心を持ち、各メディアからの情報に日ごろから注意を払うこと。 ・各回に配布される資料を次回までに熟読し、資料の空欄部分（重要単語等）を授業までに出来る限り埋めておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・「社会政策入門」を受講済みであることが望ましい。
・初回の授業で、授業の進め方や評価方法について説明するので、必ず初回から出席すること。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として試験結果に関わりなく単位を認定しない。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

授業スケジュール

１．授業の進め方と講義の概要：国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度①
３．社会保障の概念と制度②
４．社会保障の体系と二定型
５．わが国における社会保障の概念
６．社会保障の必要性：超歴史的視点から①
７．社会保障の必要性：超歴史的視点から②
８．社会保障の必要性：歴史的視点から①
９．社会保障の必要性：歴史的視点から②
１０．社会保障の必要性：歴史的視点から③
１１．社会保障の源流
１２．社会保障の登場と発展
１３．福祉国家の光と陰①　福祉国家の発展
１４．福祉国家の光と陰②　福祉国家の危機
１５．わが国における社会保障の歴史的展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J82012001
科目名	国際関係論	単位数	2
科目名（英語表記）	International Accounting		
担当者名	中村　友一	旧科目名称	
授業概要	この講義では、現代の国際社会を特徴づける紛争形態の変化、グローバル化の進展、非国家主体の役割の拡大、地球環境問題の深刻化などの変化が、国際関係にもたらした影響を説明する。現代の国際関係における諸問題はきわめて複雑化・多元化し、一面的な認識で把握することは難しい。本講義において現実の国際関係を理解する多様なアプローチを習得することを通じ、受講生が、現代の国際システムの特徴を正しく理解すること、現代の国際関係における諸問題への対応を各自で見いだすスキルを身につけることを目標としている。		
教材（教科書）	毎回レジュメを配布する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	写真や映像を利用しながら講義法で行う。		
評価方法	(1) 学期末レポート（70%）：内容の論理性・正確性を評価する。 (2) 受講態度（30%）：講義の際の発言・コメントの内容と積極性を評価する。		
到達目標	(1) 国際関係で発生するさまざまな事象を理解するアプローチを身に付ける。 (2) 現代の国際社会が取り組むべき課題を把握し、望まれる対応を各自考察することができる。		
授業時間外学習	(1) リアルタイムの国際関係の動向に注目し、新聞やテレビニュースなどに意識を向けておくこと。 (2) 授業後にレジュメやノートを見返して、扱われたテーマを整理しておくこと。 (3) 関心を持ったテーマについては、各自文献にあたって知識を深めてゆくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義中の私語は厳禁とする。講義の妨げとなる場合には退出を命じることがある。			
授業スケジュール			
1．　国際関係論への招待 2．　導入のための事例 3．　国際関係のイメージ 4．　国際関係の主体 5．　国際システムと世界システム 6．　冷戦と冷戦後 7．　グローバル化とは何か 8．　「帝国」としての米国 9．　東アジアの国際関係 10.　地域主義と地域統合 11.　非国家行為体の活動 12.　ナショナリズムの諸相 13.　南北問題と国際協力 14.　地球的問題群 15.　未来について考える			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J82012101
科目名	公共経済学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	公共経済学
授業概要	本講義では政府の経済的役割について検討する。独占や外部効果、あるいは公共財供給など「市場の失敗」と呼ばれる、市場機構が効率的な資源配分に失敗するいくつかケースについて、政府が果たすべき役割を社会的厚生という観点から分析を行う。また、政府活動の結果として生じる財政赤字や所得再分配についても経済学的な視点から検討を加える。		
教材（教科書）	教科書は特に指定しない。独自の講義資料を配布する。		
教材（参考資料）	（1）井堀利宏『基礎コース・公共経済学』新世社 （2）土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社 （3）スティグリッツ『公共経済学（上)』東洋経済新報社		
教育方法	配布資料に基づき講義形式で進める。 必要に応じて確認テストを実施する。		
評価方法	中間・期末試験 60%　平常点 20%　レポート点 20%		
到達目標	（1）資源配分の効率性とは何か、またその経済学的な判断基準を理解する。 （2）「市場の失敗」において生じる資源配分の非効率性を理解する。 （3）「政府の失敗」が生じるメカニズムについて理解する。 （4） 学んだ理論について現実の経済問題への応用可能性とその限界を理解する。		
授業時間外学習	（1）配布資料の指定箇所について事前に目を通し、問題意識や理解が不明瞭な点を明確にした上で講義に臨む。 （2）経済学の理論に基づく分析については、丁寧な確認と理解を心がけると同時に、その前提条件や演繹プロセスに対して批判的視点を持って学習する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（1）「ミクロ経済学入門」の単位修得を受講条件とする。
（2）途中入退室、私語は原則、禁止とし、違反者には厳しく対応する。
（3）学習としては、記憶ではなく理解を求める。

授業スケジュール

1．公共経済学とはどのような学問か ：公共経済学の分析対象、公共経済学成立の歴史的背景、政府膨張のメカニズム
2．公共経済学における政府の役割 ：政府の範囲、資源配分機能、所得再配分機能、安定化機能
3．所得分配の公平性：所得再分配と公正、補償原理、功利主義、ロールズ基準
4．資源配分の効率性（1）：パレート最適、ｴｯｼﾞﾜｰｽﾎﾞｯｸｽ・ﾀﾞｲｱｸﾞﾗﾑ、効用可能性曲線
5．資源配分の効率性（2）：完全競争市場均衡、消費者余剰、生産者余剰
6．資源配分の効率性（3）：政府の市場介入と死荷重１、価格規制、数量規制
7．資源配分の効率性（4）：政府の市場介入と死荷重２、参入規制、課税
8．市場の失敗（1）：独占、費用逓減産業
9．市場の失敗（2）：外部効果、外部経済、外部不経済
10．市場の失敗（3）：外部効果の内部化、ピグー税、コースの定理
11．市場の失敗（4）：公共財の定義、公共財の最適供給、リンダール均衡
12．政府の失敗（1）：財政赤字、基礎的財政収支、ソブリン・リスク、クラウディング・アウト
13．政府の失敗（2）：公債、リカードの中立性命題、公債の世代間負担問題
14．現代日本における公共経済学的課題（1）：震災復興における政府の役割
15．現代日本における公共経済学的課題（2）：税と社会保障の改革

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82012102
科目名	公共経済学 【航空】	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Economics		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
授業概要	この授業は、「航空観光プログラム」の一部として実施します。「航空観光プログラム」の選考方法や選考日程、履修条件については、すでに説明会で示したとおりです。この授業を単位にならない課外授業として受講することもできますが、その場合も航空観光プログラムに参加していなければ受講できません。 この講義では、航空市場を事例に、社会的・経済的問題とそれに対する政府の規制や慣習に関する課題を経済学の手法で検討します。 あらゆる社会・経済活動は多かれ少なかれ規制を受けていますが、これは「公共性」、すなわち「市場の失敗・欠落」の議論によって説明することができます。「航空政策」においても、まず、この市場の失敗・欠落要因に基づいて航空政策の基本を検討し、そのうえで、具体的な政策のありかたを論じます。 本講義では、学生のみなさんの理解に資するため、必要に応じて航空会社の経営の問題についても言及しますが、本来の目的は、社会全体の視点から航空政策のありかたを論じる点にあります。		
教材（教科書）	中条潮著『航空幻想』（中央経済社）第２版		
教材（参考資料）	授業内容によって無数にあるので、学生は、その都度、自分で探すことを求められます。これも学習において大事な点です。担当教員は必要に応じてお手伝いをします。		
教育方法	京学ナビに up した資料および中条潮著『航空幻想』（中央経済社）第２版のうち、前もって担当者が指示した所定の箇所の要約を学生は授業で発表し、それに基づいて全員で議論し、必要に応じて担当教員がコメントします。		
評価方法	履修者による発表の準備状況、発表内容、発言内容などで 100%評価します。		
到達目標	市場メカニズムの機能と市場の失敗を航空市場に則して理解し、経済の基本原理が航空市場でも同様にあてはまることを理解すること。		
授業時間外学習	毎回発表してもらうため、そのためのレジュメの用意が必要です。 航空市場の基礎的な知識は自分で学習してください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この授業は、「航空観光プログラム」の特別授業ですので、同プログラム参加者以外は履修できません。「航空観光プログラム」の選考方法や選考日程、履修条件については、すでに説明会で示したとおりです。この授業を単位にならない課外授業として受講することもできますが、その場合も「航空観光プログラム」に参加していなければ受講できません。

この授業は、航空の特殊な事情を学ぶのではなく、公共政策一般に必要な考え方の基本を航空市場を例に学ぶのであるということを理解して受講してください。航空市場についての基本的な知識は、自分で勉強してください。

授業スケジュール

1. Ⅰ．航空の全体像概観と本講義の視点
2. Ⅱ．市場の失敗と航空の公共性（１）
3. 同（２）
4. 同（３）
5. Ⅲ．航空機の発展にみる政策課題の変遷
6. Ⅳ．航空自由化の経緯と理由
7. Ⅴ．航空輸送事業の経営課題からみる政策課題
   １．LCC の攻勢
8. ２．日本における LCC の発展可能性

9.　3．既存大手航空会社の反撃～LC の経営戦略～
10.　4．日本航空の破綻と航空の公共性
11. VI. 空港経営と空港政策の課題
　　1．空港整備運営に関する誤解
12.　2．空港民営化の課題
13.　3．ハブ競争・ハブ空港の課題
14.　4．発着枠配分のありかた
15. 終わりに：スカイマークが飛び立つまで

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82012201
科目名	財政学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Finance		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	本講義では、経済理論から政府の役割を導出し、政府はなにをすべきかを明らかにし、それを踏まえて財政とはなにかについての理解を深めることを基本的な目的とする。具体的には、政府の歳出と歳入の背後にある個々の政策についての理論を踏まえて、政策の効果および影響を評価する方法等を具体的事例を用いて解説し、今後の政府の政策のあり方を考える力を培うことを主目標とする。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	橋本徹・山本栄一・林宜嗣・中井英雄・高林喜久生『基本財政学』有斐閣		
教育方法	講義用レジメを配布しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業中の課題（30%）、３回のレポート（30%）、試験（40%）で評価する。		
到達目標	政府の役割という観点から個々の財政政策を位置づけつつ、その背後にある理論を踏まえながら個々の政策の効果および影響について説明できる。		
授業時間外学習	授業で毎回提示された課題について、インターネットなどで調べ、講義用レジメの裏面に内容を記述し、次回の授業時に提出。また、予習としては、次回の講義用レジメも配布するので、空欄箇所について、インターネットなどで調べておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
インターネット、新聞、経済雑誌などで、講義（配布するレジメ）と関連する記事・項目を講義前後で必ず調べておくこと。
受講ルール
市議は厳禁とする。市議が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し、退出を求める。
学習上の助言
財務省、厚生労働省、総務省など、中央省庁のホームページで、2018 年度の主要政策予算について、調べておくことが授業の理解、レポート作成に役立ちます。

授業スケジュール

第１回　講義の概要説明
第２回　政府の役割：厚生経済学の第一基本定理
第３回　政府の役割：厚生経済学の第二基本定理
第４回　夜警国家論と政府
第５回　ケインズ経済学と政府
第６回　IS-LM 分析と政府
第７回　サプライサイド経済学と政府
第８回　合理的期待学説と政府
第９回　中央銀行と政府
第１０回　再分配政策としての所得税
第１１回　再分配政策としての社会保障
第１２回　資源配分政策としての公共投資
第１３回　資源配分政策としての規制政策
第１４回　資源配分政策としての金融政策
第１５回　資源配分政策としての財務政策　＆　総まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J82012301
科目名	地方財政論	単位数	2
科目名（英語表記）	Local Public Finance		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	本講義では、地域の社会経済における地方政府の役割およびそのあり方について理解を深めることを基本的な目的とする。具体的には、地方政府の歳出と歳入の背後にある個々の政策についての理論を踏まえて、政策の効果および影響を評価する方法等を具体的事例を用いて解説し、今後の地方政府の政策のあり方を考える力を培うことを主目標とする。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	齋藤慎・林宜嗣・中井英雄・齋藤慎・堀場勇夫・戸谷裕之『新しい地方財政論』有斐閣		
教育方法	講義用レジメを配布しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業中の課題（30%）、３回のレポート（30%）、試験（40%）で評価する。		
到達目標	地方政府の役割という観点から個々の政策を位置づけつつ、その背後にある理論を踏まえながら個々の政策の効果および影響について説明できる。		
授業時間外学習	授業で提示された課題について、インターネットなどで調べ、講義用レジメの裏面に内容を記述し、次回の授業時に提出。また、予習としては、次回の講義用レジメも配布するので、空欄箇所について、インターネットなどで調べておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
インターネット、新聞、経済雑誌などで、講義（配布するレジメ）と関連する記事・項目を講義前後で必ず調べておくこと。
受講ルール
私語は厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し、退出を求める。
学習上の助言
京都府、京都市のホームページで、2018 年度予算について、概要、トピック、民生費や教育費の関連項目の解説を調べておくことが、授業の理解、レポート作成に役立ちます。

授業スケジュール

第１回　講義の概要説明
第２回　地方政府の役割
第３回　国と地方の役割分担
第４回　都道府県とは
第５回　政令指定都市、中核都市、市町村とは
第６回　地方財政概観
第７回　地方税
第８回　地方交付税・地方譲与税
第９回　地方債
第１０回　民生費
第１１回　教育費
第１２回　土木費
第１３回　衛生費・警察費・消防費
第１４回　ニューパブリック・マネジメント
第１５回　総まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82012401
科目名	社会保障論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social　Security		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	本講義では、社会保障の給付の負担と受益による分類、すなわち公的扶助、社会保険、社会扶助という三分類に沿って、それぞれの役割と方法について明らかにする。また、現代社会における社会保障の必要性についても多面的に考察する。さらに、社会保障の中でも今日特に重要な位置を占めている領域、つまり所得保障、医療保障、介護保障等の具体的制度と現状について詳説するとともに、今日の少子高齢化の進行とも関連付けながら、それぞれが抱える課題について検討する。		
教材（教科書）	授業中に資料を配布する。		
教材（参考資料）	社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』（中央法規出版） 足立正樹、井上久子（編）『社会保障の光と陰』（高菅出版）		
教育方法	毎回資料を配布する。資料には空欄を設けてあり、講義中にそこに入る適切な語句を指示する。学生は資料にそれを書き込むとともに、講義内容についてノートをとり、資料の内容を補足する。		
評価方法	授業内課題（45%）、期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の理念および制度について理解し、その今日的課題について自身の視座から考察し、意見を述べることができる。		
授業時間外学習	日ごろから各メディアで報じられる社会保障関係の情報に注意を払うこと。 配布する教材を予め熟読し、参考文献などを利用して空欄部分（重要単語等）を埋めておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・「社会政策入門」を受講済みであることが望ましい。
・授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
・出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として単位を認定しない。特別な理由により途中退室する場合には、担当者に報告し指示を受けること。レポートの代筆など、その他の不正行為に対しても、上記同様に厳正に対処するので、絶対にしないこと。
・資料配布は原則として授業中にのみ行う。

授業スケジュール

１．国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度
３．少子・高齢化の進行
４．医療保障の概念と方法
５．医療保険制度の概要
６．医療保険制度の現状と課題
７．高齢者介護をめぐる状況
８．介護保険制度の概要
９．介護保険制度の現状と課題
１０．所得保障の諸制度
１１．年金制度の概要
１２．年金制度の現状と課題
１３．社会保障の必要性
１４．社会保障の誕生と歴史的展開
１５．福祉国家の発展と危機

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82012501
科目名	行政法	単位数	2
科目名（英語表記）	Administrative Law		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
授業概要	行政法の全体像を学ぶ入門科目である。具体的には、行政法序論、行政組織法、行政作用法、行政救済法の概略を学ぶ。		
教材（教科書）	特に使用しない。		
教材（参考資料）	講義の際に紹介する。		
教育方法	講義レジュメにしたがって講義する。毎回、テーマに対応した公務員試験の過去問を解いてもらい、知識を確実なものにする。		
評価方法	定期試験（80%）、授業内レポート等による平常点（20%）		
到達目標	法学を専門にしていない学生のみなさんを対象に行政法の全体像を簡潔に理解してもらうことと、行政書士試験や公務員試験をめざす人たちの入門講義になることをめざす。		
授業時間外学習	法学を専門に学んでいない人なので、必ず教科書の該当箇所を予習するとともに、講義で配布するレジュメを使って各テーマの復習を必ずすること。 講義終了時に次回の範囲を指定するので、該当部項目を読み、基本用語、法令、判例をチェックすること。 講義に合わせて以下の項目について学習する。 1　行政法とは何か 2　法律による行政の原理 3　行政組織の基本原理と国と地方の行政組織 4　行政立法の種類 5　行政行為とは何か 6　行政裁量の統制について 7　行政行為の効力の発生と停止 8　行政行為に瑕疵があった場合 9　行政計画の種類と法的統制 10　行政契約・行政指導とは 11　行政上の義務の強制方法 12　緊急に強制する場合。過去の違反と罰 13　行政手続法の仕組み 14　情報公開の仕組み 15　個人情報保護の仕組み		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に出席し、毎回の予習、復習をしなければ到底この科目は理解できない。また、行政法に関する時事的な話題を紹介するので、参考にしてほしい。			
授業スケジュール			
1．行政法とは何か 2．行政法の基本原理 3．行政組織 4．行政立法 5．行政行為－概念・種類 6．行政行為－裁量 7．行政行為－効力・瑕疵 8．行政行為－取消しと撤回、附款 9．行政計画 10．行政契約・行政指導 11．行政上の強制執行			

１２．行政上の即時強制
１３．行政手続法
１４．情報公開
１５．個人情報保護

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J82012601
科目名	労働法	単位数	2
科目名（英語表記）	Labour Law		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
授業概要	労働法の領域には、個別的労働関係法と集団的労働関係法という２つの主要な領域がある。いずれの分野も重要であるが、近年における労働立法の動向（パートタイム労働法および育児・介護休業法、労働契約法の成立、並びに、労働基準法および男女雇用機会均等法等の改正など）や、労働法を初めて学ぶ人にとっての必要性等から、本講義は「個人としての労働者」に焦点をあてて前者に比重を置きながら展開する。 まず、労働基準法および労働契約法を中心に、採用内定、労働契約の内容、賃金・退職金、労働時間法制、および解雇など、労働契約の成立から終了に至るまでの過程で生じる様々な法律問題および集団的労働関係法のうち労働法を理解するために必要な基礎的事項を検討する。		
教材（教科書）	水町勇一郎『労働法〔第７版〕』（有斐閣、2018 年）3400 円＋税 村中孝史ほか編「労働判例百選〔第９版〕」（有斐閣、2016 年）2400 円＋税		
教材（参考資料）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税		
教育方法	テーマ毎にレジュメを配布する（原則１回のみ）・教科書・百選・最新版六法に沿って、講義法で行なう。このほかに、対話的なやり取りに対し優れた解答した場合は、所定の用紙と提出した場合に加点する。		
評価方法	出席を前提に、毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70％）、および、レポート等（30％）で評価する予定である。		
到達目標	1)個別的労働法および集団的労働法の基本的な事項における専門用語・および定義が説明できるようになる。 2)個別的労働法および集団的労働法の基本的な事項における判例理論を説明できるようになる。 3)個別的労働法および集団的労働法の基本的な事項における論点を説明できるようになる。		
授業時間外学習	1)講義終了時に、次回の講義内容キーワードを明示するので、テキストの事項索引を利用して次回までに通読しておくこと。 2)各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1)イヤ・フォーンをはずすこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
2)スマートフォンなどの電子機器は、電源を切って机上におくこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
3)私語および食事は，厳禁とする。
4)トイレは原則として講義前にすませること(体調が悪い場合は申し出ること)。
5)教科書および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。
6)法学又は民事法入門などの基本的な法律科目を履修済みであること。
7)期末のレポートは、指定された方法によって期日までに提出すること。教員への直接の提出および遅延は、認められない。

授業スケジュール

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第１回　講義の進め方・その他諸注意
第２回　労働法の概観（歴史・労働法とは）
第３回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第４回　労働契約と権利・義務
第５回　就業規則
第６回　労働協約
第７回　募集・採用内定

第 8 回　男女雇用平等
第 9 回　解雇・労働契約の終了
第 10 回　賃金・退職金
第 11 回　労働時間
第 12 回　労働組合の結成
第 13 回　労働組合の運営
第 14 回　団体交渉
第 15 回　最近の労働法をめぐる諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J82012701
科目名	社会保障法	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Security Law		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
授業概要	伝統的な市民法では、老齢・障がい・貧困などは個人の責任で対処すべきものとされていた。憲法に規定される生存権（25 条）を、労働法とは異なり、私的契約関係を媒介とせずに、直接的に実現しようとする法分野が社会保障法である。 それには大きく（１）社会保険（医療・介護・労災・雇用・年金)、（２）社会福祉（老人・児童・障がい者)、（３）生活扶助の法が含まれる。このように、その範囲はきわめて広く多様である。		
教材（教科書）	西村健一郎『社会保障法入門〔第 3 版〕』（有斐閣、2017 年）2100 円＋税 岩村正彦編「社会保障判例百選〔第 5 版〕」（有斐閣、2016 年）2500 円＋税		
教材（参考資料）	小西國友『社会保障法』（有斐閣、2001 年）3200 円＋税 西村健一郎『社会保障法』（有斐閣、2003 年）3500 円＋税		
教育方法	教科書および判例百選に沿って、基本的に講義法で行なう。対話的なやり取りに対し、優れた解答には加点する。		
評価方法	期末レポート（70%）および冒頭のペーパー(15%)・授業内小テスト(15%）で評価する。		
到達目標	1)社会保障法全体像の基本的な枠組みを説明できるようになる。 2)社会保障法の各論点を理解することができるようになる。		
授業時間外学習	1)講義終了時に、次回の講義内容キーワードを明示するので、教科書の事項索引を利用して次回までに通読しておくこと。 2)各講義の冒頭に上記内容について、ペーパーを記入してもらう。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1)イヤ・フォーンをはずすこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
2)スマートフォンなどの電子機器は、電源を切って机上におくこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
3)私語および食事は，厳禁とする。
4)トイレは原則として講義前にすませること(体調が悪い場合は申し出ること)。
5)教科書および百選並びに最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で社会保障法に関連する問題に大いに関心を持つこと。
6)法学又は民事法入門などの基本的な法律科目を履修済みであること。
7)期末のレポートは、指定された方法によって期日までに提出すること。教員への直接の提出および遅延は、認められない.。

授業スケジュール

第１回　講義の進め方・その他諸注意
第２回　社会保障法とは　社会保障法の体系
第３回　医療保険法（１）　健康保険法
第４回　医療保険法（２）　国民健康保険法
第５回　年金保険法（１）　国民年金法
第６回　年金保険法（２）　厚生年金保険法
第７回　介護保険法
第８回　授業内小テスト
第９回　労災保険法
第 10 回　雇用保険法
第 11 回　児童手当　児童福祉　母子福祉　障がい者福祉
第 12 回　高齢者福祉　生活保護法
第 13 回　社会保障法総論　社会保障法の共通事項　憲法と条約
第 14 回　社会保障法総論　権利救済

第 15 回　最近の社会保障法をめぐる諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J82012801
科目名	刑法	単位数	2
科目名（英語表記）	Criminal Law		
担当者名	梅宮　弘典	旧科目名称	
授業概要	刑法各論では、殺人罪、窃盗罪、放火罪等、個別の犯罪における固有の保護法益と成立要件を明らかにし、解釈論上の問題点を検討する。総論が、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件の検討という点で、体系的かつ抽象的であるのに対して、各論は、個別の犯罪成立要件の検討という点で、断片的かつ具体的である。総論の方がパズル的で面白いという側面があるが、各論は私たちの身近にある問題と直結しているので、より理解しやすい。 本講義では、刑法典に記載された犯罪のうち特に重要な犯罪を取り上げ、個別の犯罪の成立要件とその問題点を理解し、個々の事例における犯罪の成否について自身で考えることができるようになること目的とする。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	予習・復習のために購入すべき文献として、以下の文献を紹介する。 ・佐久間修＝橋本正博＝上嶌一高『刑法基本講義　総論・各論（第２版）』（有斐閣・２０１３年） 上記文献のほかにより詳しく勉強したい学生には、以下の文献を紹介する。 ・佐久間修著『刑法各論［第２版］』（成文堂・２０１２年） また判例教材として、以下の文献を紹介する。 ・十河太朗=豊田兼彦=松尾誠記=森永真綱『刑法各論判例 50！ 』（有斐閣・２０１７年） ・山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅱ各論〔第７版〕』（有斐閣・２０１４年） ・大谷實編『判例講義刑法Ⅱ各論（第２版）』（悠々社・２０１１年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅱ各論』（信山社・２０１２年）		
教育方法	毎回配布するレジュメをもとに、講義法で行う。 また、知識の定着度を確認するため、最低３回は小テストを行う予定である。		
評価方法	期末試験（７０％）と、適宜実施する小テスト（３０％）によって評価する。		
到達目標	・判例・学説がどのような論争のもとに発展してきたかを把握してもらい、そのことから、刑法各論での基本的な思考の仕方を身に着けることができるようになる。 ・以上から、個々の犯罪の保護法益と成立要件について理解し、個々の事例における犯罪の成否について自身で考えられるようになる。		
授業時間外学習	刑事法に関心をもつために、日々報道される犯罪報道、特に新聞記事を毎日読むこと。 また、各回の教科書の該当ページを復習として読み、次回の準備として、教科書該当箇所のケースを読み、どのような事例において問題となるか把握しておくこと。（推定学習時間 30 分～45 分） 第１回　２７１頁～２７７頁 第２回　２７７頁～２８２頁 第３回　２８９頁～２９９頁 第４回　２９９頁～３０１頁、２８３頁～２８７頁頁 第５回　３０３頁～３１７頁 第６回　３０９頁～３２６頁 第７回　３２６頁～３３９頁 第８回　３４２頁～３４９頁 第９回　３４９頁～３６１頁 第１０回　３７３頁～３８５頁、３８９頁～４０５頁 第１１回　３８５頁～３８８頁、４０７頁～４１５頁 第１２回　４１５頁～４２２頁、３６９頁～３７２頁 第１３回　４２３頁～４３３頁		

	第１４回　４３３頁～４３６頁 第１５回　４９９頁～５０９頁

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・刑法で学ぶ刑法各論は個別の犯罪の成立要件について勉強するが、それはすべての犯罪の成立要件を前提としたものである。そのため、刑事法入門を受講済みであることが望ましい。
・他の受講生の学習を妨げるような私語・食事は厳禁である。
・刑法各論の分野では、具体的な、個別の犯罪を取り扱うことから、身近に感じやすく、テレビ、新聞などのメディアでも事件としてよく見かける。このことから、講義で得た知識で、ニュースなどで取り扱われている事件にはどの犯罪が成立するか、しないか、自分なりに考える姿勢を身につけて欲しい。

授業スケジュール

１．刑法各論の考察対象、保護法益論と刑法の解釈
第Ⅰ部　個人的法益に対する罪
２．殺人の罪
３．傷害の罪、過失傷害の罪、堕胎の罪
４．遺棄の罪
５．脅迫の罪、逮捕・監禁の罪、略取・誘拐及び人身売買の罪１
６．略取・誘拐及び人身売買の罪２、住居を侵す罪
７．名誉に対する罪、秘密を冒す罪、信用・業務に対する罪
８．財産犯総論
９．窃盗の罪
１０．強盗の罪、詐欺の罪
１１．恐喝の罪、横領の罪
１２．背任の罪、毀棄隠匿の罪
第Ⅱ部　社会的法益に対する罪
１３．放火の罪１
１４．放火の罪２
第Ⅲ部　国家的法益に対する罪
１５．公務の執行を妨害する罪、司法の作用に対する罪、汚職の罪

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J82012901
科目名	刑事訴訟法	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Criminal Procedure		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	刑事訴訟法
授業概要	日々ニュースでは、たくさんの犯罪発生や犯人逮捕、刑事裁判の結果などが報道されている。また、テレビの刑事ドラマをみていると、事件が発生し、それを刑事が捜査し、だんだんと真相に迫っていき、最終的に犯人が逮捕される。ドラマは、そこで終わってしまう。 しかし、実際、事件の捜査はいつから始まり、捜査するうえでのルールとしてはどのようなものが存在しているのか知っているだろうか。さらに、逮捕された犯人は、その後どのような手続を経て、裁判にかけられるのか、意外とそれについては知られていない。このような犯罪の発生から、裁判までの刑事手続を定めた法律の代表格が「刑事訴訟法」である。この授業を通して、受講生は、犯罪が発生した場合、どのような手続によって、捜査や裁判が行われていくかという刑事訴訟法の知識を知ること、わが国における刑事手続制度をより理解できるようになる。		
教材（教科書）	毎回レジュメ、資料を配布する。		
教材（参考資料）	井上正仁、大澤裕、川出敏裕編『刑事訴訟法判例百選』（有斐閣、第 10 版、2017） 渡辺咲子『刑事訴訟法講義』（信山社、第 7 版、2014）		
教育方法	事前に配布したレジュメ・資料に沿って、基本的に講義法で行う。冒頭に、事例問題を提示し、レジュメのキーワードの穴埋めおよびクエスチョンの解答について、学生は記入しながら、受講する。授業の最後に、次回に取り上げる事例を紹介し、その場で、解答を予想させる。そのうえで、次回までに事例の解答を再度考えてくるように指示し、次回の授業冒頭で、それぞれの解答について解説する。また、第６回、第 11 回、第１２回では、パワーポイントを使用し、表や図を示しながら解説する。第８回には DVD（警察２４時）を視聴する。		
評価方法	授業の中で実施する小テスト（用語穴埋め、４０％）、期末試験（記述問題、６０％）によって成績を評価する。　評価方法の詳細は初回の授業で説明する。		
到達目標	刑事手続の全体の流れや捜査に関して説明できるようになる。日本の刑事裁判制度について理解し、その特徴を説明できるようになる。		
授業時間外学習	第１回　　初回授業で、最近の事件や刑事裁判について聞くので、その内容を調べてくること。 第２回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第３回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第４回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第５回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第６回　　小テスト（穴埋め、○×）を実施するので、第１回から第４回までの内容を復習してくること。 第７回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第８回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第９回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてく		

	ること。 第１０回　小テスト（穴埋め、○×）を実施するので、第５回から第８回までの内容を復習してくること。 第１１回　　レジュメに第１回の復習についての穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第１２回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、刑事裁判制度について学習するので、授業までにみた、刑事裁判のニュースについて調べてくること。授業時に学生に問う。 第１３回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第１４回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。 第１５回　　レジュメに前回のおさらいの穴埋め問題があるので、埋めてくること。また、次回取り上げる事例問題も提示するので、次回のレジュメおよび資料に目を通して、それに関する設問の答えを考えてくること。
受講条件・受講のルール・学習上の助言など	
刑事訴訟法はその流れ全体を理解する必要があるので、学期末試験や小テストのためにも、毎回授業に出席し、真剣に授業に取り組むことを望む。	
授業スケジュール	
１　　刑事訴訟法とは ２　　強制捜査 ３　　任意捜査 ４　　捜査の端緒 ５　　逮捕・勾留 ６　　小テスト①と解説 ７　　検証・捜索・差押え① ８　　捜索・差押え② ９　　被疑者の身体に関する検査 １０　小テスト②と解説 １１　起訴状 １２　刑事裁判の基本、訴因変更 １３　違法収集証拠排除法則 １４　自白 １５　伝聞	

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J82013001
科目名	刑事政策	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
授業概要	毎日ニュースをながめていると、殺人、交通事故、少年非行、犯罪被害者など、日々世の中では犯罪が起こり、それに伴い、日本における刑事事件に関する政策がさまざまに変わってきている。特に、２０００年以降は、刑事立法の改正が進み、新たな法律、新たな制度など刑事司法が動いている時代である。そのような状況において、改めて「人はなぜ犯罪を犯すのか」、「どうすれば犯罪が発生しない社会がつくれるのか」、「そのための対策としてはどのようなものがあるのか」、「犯罪を犯した人は、どのように処遇されているのか」、「犯罪の被害者はどのような立場に置かれているのだろうか」ということについて理解する必要がある。これらのことを考察するのがこの講義で扱う「犯罪学」、「刑事政策」、「被害者学」である。刑事政策の分野は、自分とはほど遠い世界に感じるかもしれないが、一般常識として、今後知っておかなければならないものも多い。この講義を通して、受講生は、わが国の犯罪情勢や刑事司法制度に加えて、近年改正がなされた犯罪被害者、ストーカー犯罪、児童虐待、少年犯罪、交通犯罪関連など、広く、刑事政策に関する知識を身につけることで、日々のニュースに対しての関心を高め、より深く刑事政策全般に関する時事問題について読み解くことが出来るようになる。		
教材（教科書）	毎回レジュメ・資料を配布する。		
教材（参考資料）	大谷實『新版刑事政策講義』（弘文堂、2009）。 法務省　犯罪白書 HP（{http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html}） その他は授業の中で必要に応じて紹介する。		
教育方法	事前に配布したレジュメ・資料に沿って、基本的に講義法で行う。授業では、レジュメにあるキーワードの穴埋めおよびクエスチョンの解答について、学生は記入しながら、受講する。授業の最後に、当日取り上げたテーマに対する課題と、次回取り上げるテーマに関する感想文等を用紙に書かせる。次の授業の冒頭にそれらの解答について尋ねる。毎回ではないが、パワーポイントを使用し、写真、表や図を示しながら解説することもある。第１０回（予定が前後する可能性がある）は、犯罪被害者の方に来ていただき、犯罪被害者の心情についてご講演いただく予定である。また、第１４回では、薬物犯罪についての DVD（警察２４時）を見る。		
評価方法	学期末の論述式試験の結果（８０％）、そのほか、授業の中で行う感想文等（２０％）によって成績を評価する。		
到達目標	刑事司法制度の現状を正しく理解し、日々の刑事政策に関するニュースを理解して見ることができるようになり、各種の犯罪対策の現状と問題点を説明することができるようになる。		
授業時間外学習	第１回　　初回授業で、最近の刑事政策に関するニュースについて聞くので、その内容を調べてくること。 第２回　　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第１回授業最後に第２回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第３回　　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第２回授業最後に第３回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第４回　　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第３回授業最後に第４回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第５回　　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第４回授業最後に第５回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第６回　　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第５回授業最後に第６回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第７回　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて		

	考えてくること。また、第６回授業最後に第７回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第８回　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第７回授業最後に第８回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第９回　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第８回授業最後に第９回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第１０回　犯罪被害者の方への講演の予定（予定が前後することがある）なので、犯罪被害者への現状等を調べたうえで、質問を考えてくること。 第１１回　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第９回授業最後に第１１回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第１２回　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第１１回授業最後に第１２回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第１３回　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第１２回授業最後に第１３回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第１４回　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第１３回授業最後に第１４回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。 第１５回　講義時に、次回のレジュメを配布するので、事前に読んで、その穴埋めやクエスチョンについて考えてくること。また、第１４回授業最後に第１５回のテーマに関連する課題を出すので、各自調べたり考えたりしてくること。授業時に受講生に問う。
受講条件・受講のルール・学習上の助言など	
理由のない欠席・遅刻、そして私語は厳禁とする。日々刑事政策に関するニュースに目を通し、考えてもらいたい。	
授業スケジュール	
１　犯罪学、刑事政策とは ２　犯罪情勢 ３　犯罪の原因①（生物学的、心理学的、社会学的アプローチ） ４　犯罪の原因②（新しい犯罪学、環境犯罪学など） ５　犯罪化と非犯罪化 ６　刑罰制度 ７　犯罪者の施設内処遇 ８　犯罪者の社会内処遇 ９　犯罪者処遇の新しい動き １０　犯罪被害者の方の講演 １１　少年非行対策 １２　犯罪被害者対策 １３　交通犯罪 １４　薬物犯罪 １５　精神障害者の犯罪	

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J82013101
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	岡本　久嗣	旧科目名称	
授業概要	本講義はＦＰの基礎である不動産運用設計、金融商品設計、保険、リタイヤメントプランニングの基礎を学習する。また、春学期の「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ資格の認定講義となっているため、本講義の位置づけはそれらの科目と同様にＦＰ資格取得を目指す講義としたい。		
教材（教科書）	『3 級 FP テキストⅠ・Ⅱ　2018～2019 年度版』（6 月上旬発刊予定）　FPK 研修センター		
教材（参考資料）	『ファイナンシャル・プランニング入門　第 3 版』(日本 FP 協会)および、「FP 基礎」学習時のテキストとして、『FP 総論』（日本 FP 協会）、宮口定雄『税務ハンドブック　平成 30 年度版』　コントロール社		
教育方法	各回ともに要点を板書でまとめ、解説し、その後問題演習を配布プリント（こちらで準備）にて行い、解説していくスタイルにより授業を進めていく。		
評価方法	レポートの提出を義務づける。そのレポートの内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答等(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	難易度を高く設定はしないが、FP としての基本を理解し、AFP 資格審査試験取得チャレンジに向けた知識の習得、そしてＦＰ３級程度の問題を解くことができるようになることを目標とする。		
授業時間外学習	日常行う小テストは必ず直前の講義の内容に沿って出題をするので、しっかりと復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
春学期の「ファイナンシャルプランニングⅠ」「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャルプランニングⅡ」はＡＦＰ認定の講座になっているのでＦＰ資格の取得を目指す学生は全科目を受講すること。(ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱ・Ⅲと金融入門の合計 4 科目)			
授業スケジュール			
1　ファイナンシャル・プランニングを学ぶ意味 2　FP の社会的役割 3 社会的責任とコンプライアンス 4 不動産の見方 5 不動産の動向と分析 6 金融・経済の知識 7 最近の金融動向 8 利回り計算と割引現在価値 9 株式と債券 10 投資信託 11 金融派生商品 12 生命保険 13 損害保険 14 リタイヤメントプラントと年金問題 15 ファイナンシャルプランニングⅡに向けて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82013201
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅡ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
授業概要	本講義ではタックスプランニングを基軸とする。 日本の税制の仕組みと各税目を理解したうえで、「ライフサイクル(人間の一生)」の中で税金とどのように向き合うことになるのかを学ぶ講義である。なお、税金以外の住宅取得、金融商品売買、退職等を含むその他のライフイベントの内容については春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」の中で学習をする。		
教材（教科書）	3 級 FP テキスト第 2 分冊：タックスプランニング、不動産、相続・事業承継(FPK 研修センター) 三木義一　『日本の税金』　岩波新書		
教材（参考資料）	国税庁 パンフレット「暮らしの税情報」（平成 30 年度版）		
教育方法	ＦＰ分野に関連する所得税を中心に講義を行う。		
評価方法	レポート(提案書)の提出を義務づける。その提案書の内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	社会人になるということは『納税者』になること。税を学びながら、自分の将来設計をより具体的に描くことができる。		
授業時間外学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、学んだ箇所を復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャル・プランニングⅡ」「ファイナンシャル・プランニングⅢ」４科目を併せて受講することが AFP 認定修了の要件となっているので、就職活動の際、履歴書に「ＡＦＰ研修認定修了」と記載ができるように目指す学生は、４科目を同時に履修すること。			
授業スケジュール			
1？　　租税法律主義と税法体系 2　　？?申告納税方式と賦課課税方式 3？？？?利子所得 4？？？?不動産所得 5？？？?給与所得 6？？？?山林所得 7？？？?一時所得 8？？？?非課税所得 9？？？?相続税 10？？？ 贈与税 11？？？ 金融商品売買に関わる税金 12？？？ 不動産に関わる税金① 13？？？ 不動産に関わる税金② 14？？？ 公的年金等の税金 15？？？ 実例の考察			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J82013301
科目名	ファイナンシャル・プランニングⅢ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　陽一	旧科目名称	
授業概要	本講義ではタックスプランニングを基軸とする。 日本の税制の仕組みと各税目を理解したうえで、「ライフサイクル(人間の一生)」の中で税金とどのように向き合うことになるのかを学ぶ講義である。なお、税金以外の住宅取得、金融商品売買、退職等を含むその他のライフイベントの内容については春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」の中で学習をする。		
教材（教科書）	3 級 FP テキスト第 2 分冊：タックスプランニング、不動産、相続・事業承継(FPK 研修センター) 三木義一　『日本の税金』　岩波新書		
教材（参考資料）	国税庁 パンフレット「暮らしの税情報」（平成 30 年度版）		
教育方法	ＦＰ分野に関連する所得税を中心に講義を行う。		
評価方法	レポート(提案書)の提出を義務づける。その提案書の内容(５０%)と講義内で行う小テストの解答(５０%)の割合で評価とする。		
到達目標	社会人になるということは『納税者』になること。税を学びながら、自分の将来設計をより具体的に描くことができる。		
授業時間外学習	日常行う小テストは必ず前回の講義の内容に沿って出題をするので、学んだ箇所を復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
春学期の「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「金融入門」と秋学期の「ファイナンシャル・プランニングⅡ」「ファイナンシャル・プランニングⅢ」４科目を併せて受講することが AFP 認定修了の要件となっているので、就職活動の際、履歴書に「ＡＦＰ研修認定修了」と記載ができるように目指す学生は、４科目を同時に履修すること。			
授業スケジュール			
1　直接税と間接税 2　所得税の概要と仕組み 3　配当所得 4　事業所得 5　退職所得 6　譲渡所得 7　雑所得 8　相続税① 9　相続税② 10　贈与税 11　金融商品売買に関わる税金 12　不動産に関わる税金 13　公的年金等の税金① 14　公的年金等の税金② 15　実例の考察			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★★	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J82013401
科目名	ファイナンスの数理	単位数	2
科目名（英語表記）	Mathematics of Finance		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	本講義では、投資理論として「どのようなポートフォリオを構築すればよいのか」について代表的な考えを述べる。 具体的には、PC 上で稼働する表計算ソフトとして幅広く利用されている Excel を活用しながら、証券投資分析手法を寛容に学んでいく。証券投資理論に関しては、株式投資分析、債券投資分析、先物とオプションについて、講義を行うつもりである。特に、先物とオプションに関しては、離散時間型の簡単な 2 項モデルを紹介し、このモデルを基に、裁定取引の考え方およびオプション価格(プレミアム)の決定方法を学ぶ。また、ファイナンスの基礎知識が全くないことを前提に、PC を使いながら出来るだけ平易に解説するつもりである。		
教材（教科書）	必要に応じてプリント配布を行う。		
教材（参考資料）	・ 藤林/岡村/矢野（2009）『Excel で学ぶファイナンス：証券投資分析』 第 3 版, 金融財政事情研究会. ・ 藤田康範（2013）『金融・経済のための統計学入門』 日本実業出版社. ・ 野口 悠紀雄（2000）『金融工学、こんなに面白い』文春新書.		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 また、レポート課題を Excel で解く。		
評価方法	・ 平常点(30%)；複数回のレポート等による。 ・ 定期試験(70%)。		
到達目標	ファイナンスの基本理論を EXCEL などの演習を通じて理解できる 。		
授業時間外学習	・ 証券投資に必要な経済指標やイベントをチェックしてから講義に臨むこと。 ・ 複数回の講義内容を復習を兼ねたレポートを課す。 ① 個別証券のリスクとリターンを比べる。 ② 2 つの証券の共分散および相関係数を調べる。 ③ 2 つの証券を用いたポートフォリオを構築する。 ④ 3～4 つの証券からなるポートフォリオのリスクとリターンを計算する。 ⑤ 最適ポートフォリオを計算する。 ⑥ シングル・ファクター・モデルの観点から、リスクとリターンを計算する。 ⑦ マルチ・ファクター・モデルの観点から、リスクとリターンを計算する。 ⑧ CAPM を計算する。 ⑨ 債券価格と利回りを計算する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・ 統計学の正規分布等の基礎知識を有していることが望ましいが、とくになくても問題はない。
・ レポート課題を Excel で解くが、これも初めから指導する。
・ ファイナンス関連科目を多く履修していることが望ましい。

授業スケジュール

1．ポートフォリオのリターンとリスク
2．同上
3．マーケット・モデル
4．同上
5．資本資産価格モデル（CAPM）
6．同上
7．債券の価格と利回り
8．同上
9．イールドカーブの特性
10．債券のリスク（価格変動リスク、信用リスク）とポートフォリオ
11．同上

１２．先物の理論価格とヘッジ １３．オプションの概要 １４．同上 １５．まとめ： 演習の復習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82013501
科目名	デリバティブ論基礎	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	坂本　勝	旧科目名称	
授業概要	資産運用の必要性が強調される時代において、金融商品が多様化している。 伝統的な金融商品はもちろん、今日においては、金融派生商品を利用した商品が数多く販売されている。 金融派生商品（デリバティブ）の内容を理解せずに、投資行動を起こすことは、 人生をリスクにさらしていると同義である。 この講義では、代表的なデリバティブである、先物・オプション・スワップの各取引形態を、 その背景や機能について理解し、その利点とリスクについて入門的解説を行う。 先物価格の決定方法やオプションプレミアム(価格の決定）を、 実例に置き換えて、数式や複雑な数学を使うことなく、図式を中心に 直感的に理解できるように工夫して解説を行う。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義中に適宜指示する		
教育方法	各講義回テーマに沿い、基本的に講義法にて行う。 講義では教員がテーマを示し、図式や計算方法・過程を記述する。 毎回の講義内容の確認として、次回講義冒頭に確認テストを行う。 また確認テストでは、流れ・モメンタムを自身で理解できるように デリバティブの対象となる「株価」「金利」「為替」「商品」の代表指数に関する質問項目を設ける。 確認テストは毎回返却する。見返しにより相場の流れ及び 各デリバティブ知識の確認と各種指数によるデリバティブの変動を理解できるように努める。		
評価方法	授業冒頭に行なう確認テスト（40%）　レポート課題（20%）　定期テスト（40%） 期末試験は各講義回の理解度を確認できる内容とする。 評価方法の詳細は初回講義にて説明する。		
到達目標	先物取引、オプション取引、スワップ取引、それぞれの意味と内容を理解し、 金融の世界で、どのように活用されているかを把握し、基本的な説明ができる。		
授業時間外学習	日本経済新聞のマーケット総合欄を日々確認すること。 短期金融・債券・株式・コモディティの各代表指数の数値を記録しておくのが望ましい。 特に各種指標に影響を与えるような、政治・経済に関するイベントや社会・経済ニュースに関心を持ち、 その出来事によって、相場がどのように動くのか（上昇するのか下落するのか）を予測し、 またその数値を記録すること。 当然、予測に対しての結果は、後日検証すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1、後期科目に連動するため、一貫しての履修可能者が望ましい。 2、履修動機は問わないが、成績は公表している評価方法により厳密に判定する。 3、他受講者に影響を与える、私語は厳禁。注意はするがやめない場合は、退出させ欠席として取扱う。 経済状況を知る上で、新聞は必読。 日々の習慣にないのであれば、必ず読むように心がけてください。			
授業スケジュール			

1.デリバティブの概念
2.デリバティブ市場の規模
3.デリバティブの歴史
4.金融市場の知識 1（金融市場取引、相対取引）
5.金融市場の知識 2（株式と株価指数、金利と債券、外国為替市場と商品市場）
6.先物取引の基礎 1（先渡取引と先物取引、価格決定のメカニズム）
7.先物取引の基礎 2（先物価格と現物価格、為替予約）
8.先物取引の基礎 3（レバレッジ、決済方法、裁定取引）
9.オプション取引の基礎 1（オプションとは、保険や手付金など）
10.オプション取引の基礎 2（オプション価格の決定、コールとプット）
11.オプション取引の基礎 3（リスクと行使期間、レバレッジ）
12.スワップ取引の基礎 1（キャッシュフロー）
13.スワップ取引の基礎 2（金利スワップの仕組み）
14.スワップ取引の基礎 3（通貨スワップの仕組み）
15.デリバティブを利用して（天候や物価デリバティブ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82013601
科目名	デリバティブ論応用	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	坂本　勝	旧科目名称	
授業概要	デリバティブ市場の発達によって、従来の金融機関の区別や役割が大きく変化している。 その変化に伴い、個別の金融機関・各国家ごとの金融規制では対応できない事例も表面化している。 デリバティブの有効性を理解し、適切に利用・活用するためにはどのような対応が必要なのかを、 確認および検討する講義となる。 新しい時代に対応した金融行政、金融規制はどのようなものが適切なのかを 既存のデリバティブ商品を参考にしながら、講義する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義内にて適宜指示する		
教育方法	各講義回テーマに沿い、基本的に講義法にて行う。 講義では教員がテーマを示し、図式や計算方法・過程を記述する。 毎回の講義内容の確認として、次回講義冒頭に確認テストを行う。 また確認テストでは、流れ・モメンタムを自身で理解できるように デリバティブの対象となる「株価」「金利」「為替」「商品」の代表指数に関する質問項目を設ける。 確認テストは毎回返却する。見返しにより相場の流れ及び 各デリバティブ知識の確認と各種指数によるデリバティブの変動を理解できるように努める。		
評価方法	授業冒頭に行なう確認テスト（40%）　レポート課題（20%）　定期テスト（40%） 期末試験は各講義回の理解度を確認できる内容とする。 評価方法の詳細は初回講義にて説明する。		
到達目標	今日の世界経済において、デリバティブがどのように活用され、また役割を果たしているかを理解し、 今後の情勢に合わせ、どのように各デリバティブを利用し ポジションを自分で組めるまでとする。		
授業時間外学習	日本経済新聞のマーケット総合欄を日々確認すること。 短期金融・債券・株式・コモディティの各代表指数の数値を記録しておく。 特に各種指標に影響を与えるような、政治・経済に関するイベントや社会・経済ニュースに関心を持ち、 その出来事によって、相場がどのように動くのか（上昇するのか下落するのか）を予測すること。 その予測は、メモとして残しておくこと。 当然、予測に対しての結果は、後日検証 可能であれば、各自それぞれのデリバティブを利用し シュミレーションポジションを短期タームにて設定、後日ポジション解消時の成果確認の作業を求める。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
前期「デリバティブ論基礎」の内容を踏まえての講義となるので、基本的知識がなければかなり負担のかかる講義となります。 1、前期科目に連動するため、一貫しての履修可能者が望ましい。 2、履修動機は問わないが、成績は公表している評価方法により厳密に判定する。 3、他受講者に影響を与える、私語は厳禁。注意はするがやめない場合は、退出させ欠席として取扱う。			

経済状況を知る上で、新聞は必読。
日々の習慣にないのであれば、必ず読むように心がけてください。

授業スケジュール

1.デリバティブ商品とは
2.デリバティブを利用しているケーススタディ
3.サブプライム危機とデリバティブの関係
4.デリバティブを活用したヘッジ
5.株式信用取引、為替証拠金取引とデリバティブ
6.先物取引の実際（国債と債券先物、株式と株価指数先物）
7.オプションによるヘッジと利用（株式を中心に）
8.スワップの利用（金利スワップと為替スワップ）
9.コモディティデリバティブと応用
10.デリバティブを使った金融商品 1（EB.DC.満期選択などの仕組債）
11.デリバティブを使った金融商品 2（カバードワラントを使って）
12.伝統的金融商品と金融派生商品
13.リスク対応にデリバティブをどのように活用するか
14.デリバティブによる商品組成
15.今後のデリバティブ展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J82013701
科目名	証券市場論	単位数	2
科目名（英語表記）	Securities Trading		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	
授業概要	This course is designed for all students/attendants to understand the system of capital market and security market, and deeply recognize the fundamentals of “what is Money?” from the theory to the practical manor. Expected all students/attendants to bring a skill of mathematics with “passion to learn” to the classroom. Also setting stock picking and will run hypothetical stock portfolio through the whole sessions, the all attendants will be examined on their performance and depth of analysis. Class should be handled in English. Expected to achieve CMA Level 1, (CFA level 1, Market Analysis (SHOKEN BUNSEKI). 当講座は、学生が証券市場、金融市場の仕組みを学び、証券アナリスト１次レベル：証券市場の知識を得ることとする。 講義は英語で行われる。		
教材（教科書）	CMA Level 1, Market Analysis (SHOKEN BUNSEKI), ISBN978-4-8132-6526-9		
教材（参考資料）	Will be delivered at each session.		
教育方法	Analysis of stock market at the each session, which will be analyzed at every session.		
評価方法	50 % Class Contribution 35% Presentation / Portfolio at the last session 15% Quiz at each session		
到達目標	Students to be expected to achieve CMA (CFA in Japan) at Security Analysis (SHOKEN BUNSEKI)		
授業時間外学習	Fundamental Mathematics (including differential and integral) should be set prior to this session. This class will be driven in English.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

Be Passionate
Be Hungry

授業スケジュール

To prepare to be able to explain your Bio.

Session 1 Orientation
Session 2 On Market
Session 3　On Money
Session 4　On Stock
Session 5　On Bond, FX, Commodity
Session 6　On Portofolio
Session 7　On Stock Picking
Session 8　Portfolio Setting
Session 9　On Capital Market
Session 10　On Fund Raising / IPO
Session 11　On Venture Capital
Session 12　On Valuation
Session 13　On Corporate Analysis 1
Session 14　On Corporate Analysis 2
Session 15　Presentation

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J82013801
科目名	金融商品取引法	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Instruments and Exchange Law		
担当者名	村田　淑子	旧科目名称	
授業概要	たとえある企業が優秀な人材に恵まれ、優れた技術を持っていたとしても、資金を必要なタイミングで必要な量だけ調達できなければ、ビジネスで成功することはできません。企業がビジネスに必要な資金を調達するには、いくつかの方法がありますが、最も重要な方法が株式による資金調達です。 しかし、投資家が安心して株式を買うためには、様々なルールが整っていることが必要です。金融商品取引法の目的は、そのようなルールを整え、投資家が安心して株式等に投資し、企業がスムーズに資金調達をし、円滑な企業活動を行い、ひいては経済が発達することです。 　この講義では、企業、投資家、社会の３つの視点から、金融商品取引法の基本的な仕組みと役割を理解できるようになることを目的としています		
教材（教科書）	黒沼悦郎『金融商品取引法 （第６版)』（日経文庫、2015 年） その他に、毎回講義レジュメを配布する。		
教材（参考資料）	近藤光男ほか『基礎から学べる金融商品取引法入門（第３版)』（弘文堂、2015 年） その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	講義法で授業を行う。毎回、講義の冒頭で、その回の理解すべきポイントと、授業内レポートのテーマを説明する。受講生は、レポートのテーマを意識しながら授業に取り組み、授業の最後に授業内レポートを作成する。優秀な授業内レポートは、次回の講義で紹介する。授業内レポートで全体的な理解度を把握し、次回に復習及び補足説明を行う。		
評価方法	平常点（授業内レポート） 30% 期末テスト　70％ 評価方法の詳細は、初回の講義で説明する。		
到達目標	・金融商品取引法の目的と全体像について説明できるようになる。 ・ディスクロージャーについて、発行開示と継続開示の共通点と違いを踏まえて、説明できるようになる。 ・インサイダー取引規制について、その目的と内容を説明できるようになる。 ・適合性原則について説明できるようになる。 ・金融商品取引法のエンフォースメントについて、説明できるようになる。		
授業時間外学習	予習として以下の教科書の箇所を読み、復習として、レジュメと教科書を活用して、各回のポイントについて自筆ノートを作成する。この自筆ノートに限り、期末テストに持ち込むことができる。 　各回の推定学習時間　３０分～１時間 第１回　教科書　該当箇所無し。 第２回　教科書　　ｐ２０－２３ 第３回　教科書　ｐ２３－３６ 第４回　教科書　　ｐ３６－５５ 第５回　教科書　ｐ５８－６８ 第６回　教科書　　ｐ６９－７７、８５－８６ 第７回　教科書　ｐ８８－１１７ 第８回　教科書　　ｐ１２０－１３７ 第９回　教科書　ｐ４１－４４ 第１０回　教科書　　ｐ１４０－１５７ 第１１回　教科書　ｐ１６０－１７０ 第１２回　教科書　　ｐ１７１－１８４ 第１３回　教科書　ｐ１８６－２０６		

	第１４回　教科書　ｐ２４４－２５８ 第１５回　教科書　ｐ２０８－２４１

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・企業に関するニュースに関心を持ち、新聞を読んだり、ニュース番組を視聴する。
・お互いに気持ちよく授業を受け勉強に集中できるように、受講マナーを守る。
　（受講マナーについては、最初の授業で確認する。）

授業スケジュール

1　企業の資金調達と株式
2　資本市場の仕組みと役割
3　金融商品取引法の内容と目的
4　資本市場の取引対象とプレーヤー
5　有価証券の発行①（発行開示）
6　有価証券の発行②（不実の発行開示）
7　上場会社のディスクロージャー
8　公開買い付けの規制
9　市場における有価証券の売買・デリバティブ取引①（デリバティブ取引）
１０　市場における有価証券の売買・デリバティブ取引②（上場・売買取引・市場）
１１　市場における不公正な取引の規制①（インサイダー取引）
１２　市場における不公正な取引の規制②（相場操縦）
１３　有価証券の売買・デリバティブの勧誘
１４　金融商品取引法のエンフォースメント
１５　金融商品取引法の課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J82013901
科目名	税法	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Law		
担当者名	村井　淳一	旧科目名称	
授業概要	受講生が、租税法の体系と基本原理を理解したうえで、主要な税目（所得税、法人税等）についての課税要件を習得できるように、基礎的知識を中心に講義を進める。内容は、租税法総論及び租税実体法を中心とする。 できる限り、実務上の問題や現実の租税事件等にも言及し、また、税に関連する最近のニュースや話題を解説するなど、税実務の現状や税制についての興味がもてるような内容とする。 学生は、社会と税との関わりの重要性を知り、基本的な税の仕組みを把握することができる。		
教材（教科書）	清永敬次『税法(新装版)』(ミネルヴァ書房)　3,360 円　(改訂の可能性あり)		
教材（参考資料）	岡村忠生ほか『租税法』(有斐閣アルマ)2,100 円 その他は、初回の講義時に説明する。　また、授業中に適宜指示する。		
教育方法	授業では、テキストの他に毎回補助レジュメ(5~8 枚程度)を配布し、講義形式で行う。 授業開始 15 分程度、最近の新聞記事等における税・財政関係のトピックを解説する。 授業では、最初に『疑問点』(このテーマで何を学ぶか)を数点提示し、これをテーマに沿って解説することで疑問点の解決を図り、発展的な内容について『さらに疑問』を提示(及び検討)する。		
評価方法	定期テスト　70% レポート・復習テスト　25% 平常点(講義への取組み、講義内容への質問や理解の状況等)　5%		
到達目標	1　税が自分の生活と如何に関わり合いをもつ問題であるかを理解する。 2　税法の基本原則と憲法との関係を理解する。 3　主要税目についての基本的な仕組や理論を理解し、そこでの問題や税と社会との関わりが説明できることを目標とする。		
授業時間外学習	日常生活をはじめ、さまざまな経済活動には「税」が密接に関連していることを意識し、普段から、マスコミ報道等の税に関する情報には、関心を持っておくこと。 授業中に配布したプリントの重要項目については、テキスト、参考文献で確認(復習)しておくこと。復習のための小テストを複数回実施する。 講義初回に詳細な授業計画(各回のテキストの該当ページを記載したもの)を配布するので、次回履修予定部分(以下のとおり)のテキスト該当ページを予習しておくこと。(各回の学習時間　45 分程度) 第 1 回　なし 第 2 回　テキスト 1 編 1 章 1 節、2 章 2 節 第 3 回　テキスト 1 編 3 章 1 節、2 節 第 4 回　テキスト 1 編 4 章 2 節、3 節 第 5 回　テキスト 2 編 3 章 1 節一 第 6 回　テキスト 2 編 3 章 1 節一～三 第 7 回　テキスト 2 編 3 章 1 節四(1)(2) 第 8 回　テキスト 2 編 3 章 1 節四(3) 第 9 回　テキスト 2 編 3 章 1 節四(4)(5) 第 10 回　テキスト 2 編 3 章 1 節四(6)、五 第 11 回　テキスト 2 編 3 章 2 節一 第 12 回　テキスト 2 編 3 章 2 節二三四(1)(2) 第 13 回　テキスト 2 編 3 章 2 節四(3) 第 14 回　テキスト 2 編 3 章 2 節五 第 15 回　テキスト 2 編 3 章 2 節五、六		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
税法が記載された六法、法規集を持参することが望ましい。またはｗｅｂ上から税法条文をダウンロードして持参してもよい(初			

回の講義時に指示する)。
授業スケジュール
1. ガイダンス　導入、租税と税法 2. 総論１　租税の意義と根拠 3. 総論２　租税法律主義・租税平等主義 4. 総論３　租税法の解釈と適用 5. 所得税１　所得税の概要、納税義務者 6. 所得税２　所得概念、帰属 7. 所得税３　所得税の計算の仕組み、課税標準 8. 所得税４　収入金額 9. 所得税５　必要経費 10. 所得税６　所得控除、税率、確定申告、確定申告書作成演習 11. 法人税１　法人税の概要 12. 法人税２　納税義務者、課税所得 13. 法人税３　益金及び損金の原則 14. 法人税４　益金及び損金の別段の定め(その 1) 15. 法人税５　益金及び損金の別段の定め(その 2)、税額計算

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J82014001
科目名	税務会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Tax Accounting		
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
授業概要	法人税法は、課税所得の計算原理を税法だけで完結的、網羅的に規定することはせず、その相当部分を適正な企業の会計慣行に委ねている。すなわち、税法の課税所得計算原理は独立に存在しているのではなく、公正な会計慣行をベースとして、税法固有の目的を実現するために必要な調整を加えているのである。したがって、「税務会計」を理解するには会計学と法人税法の両方の知識が不可欠となる。税法は強行法規であり、とくにわが国の法人税法は確定決算主義をとっているため、税法の諸規定は企業会計の実務に強い影響を与えている。 講義では、法人の課税所得算定の基礎となる企業会計の基準、会社法の計算規定などを説明しながら、法人税法及び租税特別措置法における法人税の規定及びこれらに係る政令、省令、通達による法人の所得計算の算定プロセスについて、基本的事項に絞って平易に説明する。課税所得の調整計算や法人税申告書の記載方法にも時間を割く。		
教材（教科書）	小池敏範『実務家養成シリーズ　わかりやすい法人税』（税務研究会出版局）		
教材（参考資料）	渡辺淑夫『法人税法　平成 29 年版』（中央経済社） その他講義でその都度紹介する。		
教育方法	配布レジュメ及び板書を活用し、講義法で行う。		
評価方法	授業中の取組姿勢（30%）、授業中の小テスト（30%）、期末試験（40%）		
到達目標	法人税の課税所得計算のしくみを理解し、法人税申告書（とくに別表 4、別表 5）を作成することができる。		
授業時間外学習	授業終了時に、次回のレジュメを配布するとともに、テキストの次回範囲をしているので、予習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「税務会計論」という学問領域は,会計学及び租税法の基礎知識がない受講生には理解が困難です。そのため、会計学（特に簿記論、財務諸表論）及び租税法（特に法人税）の科目を履修済みの学生の登録を希望します。

授業スケジュール

1. 法人の区分と課税の範囲、法人税の体系
2. 課税所得の計算構造
3. 損益の期間帰属、受取配当等
4. 外貨建取引、減価償却資産、繰延資産
5. 給与、寄附金、交際費、その他の損金
6. 引当金・準備金制度、圧縮記帳制度
7. 税額の計算
8. 税効果会計（1）
9. 税効果会計（2）
10. 新会計基準と法人税（1）
11. 新会計基準と法人税（2）
12. 新会計基準と法人税（3）
13 中小企業の会計
14. グループ法人税制
15. 法人税申告書

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	−	★★

年度	2018	授業コード	J82014101
科目名	税務会計論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	堀村　不器雄	旧科目名称	
授業概要	法人税法は、課税所得の計算原理を税法だけで完結的、網羅的に規定することはせず、その相当部分を適正な企業の会計慣行に委ねている。すなわち、税法の課税所得計算原理は独立に存在しているのではなく、公正な会計慣行をベースとして、税法固有の目的を実現するために必要な調整を加えているのである。したがって、「税務会計」を理解するには会計学と法人税法の両方の知識が不可欠となる。税法は強行法規であり、とくにわが国の法人税法は確定決算主義をとっているため、税法の諸規定は企業会計の実務に強い影響を与えている。 講義では、法人の課税所得算定の基礎となる企業会計の基準、会社法の計算規定などを説明しながら、法人税法及び租税特別措置法における法人税の規定及びこれらに係る政令、省令、通達による法人の所得計算の算定プロセスについて、基本的事項に絞って平易に説明する。課税所得の調整計算や法人税申告書の記載方法にも時間を割く。		
教材（教科書）	小池敏範『実務家養成シリーズ　わかりやすい法人税』（税務研究会出版局）		
教材（参考資料）	渡辺淑夫『法人税法　平成 29 年版』（中央経済社） その他講義でその都度紹介する。		
教育方法	配布レジュメ及び板書を活用し、講義法で行う。		
評価方法	授業中の取組姿勢（30%）、授業中の小テスト（30%）、期末試験（40%）		
到達目標	法人税の課税所得計算のしくみを理解し、法人税申告書（とくに別表 4、別表 5）を作成することができる。		
授業時間外学習	授業終了時に、次回のレジュメを配布するとともに、テキストの次回範囲を指定するので、予習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
「税務会計論」という学問領域は、会計学及び租税法の基礎知識がない受講生には理解が困難です。そのため、会計学（特に簿記論、財務諸表論）及び租税法（特に法人税）の科目を履修済みの学生の登録を希望します。			
授業スケジュール			
1.　法人の区分と課税の範囲、法人税の体系 2.　課税所得の計算構造 3.　損益の期間帰属、受取配当等 4.　外貨建取引、減価償却資産、繰延資産 5.　給与、寄附金、交際費、その他の損金 6.　引当金・準備金制度、圧縮記帳制度 7.　税額の計算 8.　税効果会計（1） 9.　税効果会計（2） 10.　新会計基準と法人税（1） 11.　新会計基準と法人税（2） 12.　新会計基準と法人税（3） 13　中小企業の会計 14.　グループ法人税制 15.　法人税申告書			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J82020101
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	初めに、パソコンを使ったビジネスゲームをチームごとに分かれて行い、企業経営の一端を体験しながら、ゼミの雰囲気にも慣れてもらいます。 その後、企業や業界を選んで、その企業や業界の現状および経営戦略を調査・分析します。文献、新聞記事、雑誌記事、企業のホームページなどを調べて、それを Excel で分析し、 PowerPoint でプレゼン資料にまとめ、発表してもらいます。これらの作業を通じて、受講生に実際に企業の実務で役立つスキルを身につけてもらうと同時に、就活での業界研究や企業研究にも役立ててもらうことを目的とします。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介します。		
教育方法	演習主体で行う。 各自で調査テーマを設定し、それに関する資料調査を行い、パワーポイントにまとめて発表する。		
評価方法	受講姿勢やグループワークでの貢献度など（50%）。レポートおよび発表（50%）。		
到達目標	文献、新聞、雑誌、インターネット等から必要な資料を収集し、企業の経営戦略を分析しみんなに説明することができる。		
授業時間外学習	ゼミの時間は議論と発表が中心となるので、議論のための事前準備、発表のための資料作成を事前に十分行っておくこと。具体的には、企業のホームページや企業に関する文献・新聞・雑誌記事の収集・分析・整理、それに基づく考察を行う。（各回の学習推定時間は 60 分）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ゼミのメンバー間での意見交換が重要ですので、他のメンバーの発表はしっかり聞き、必ず質問・意見を述べること。

授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. ビジネスゲームの概要説明、試行
3. ビジネスゲーム実施、結果分析
4. ビジネスゲームについてのまとめ
5. 業界・企業の選択、参考文献の紹介
6. 参考文献の要点整理
7. 参考文献の要点整理
8. 中間発表、ディスカッション
9. 中間発表、ディスカッション
10. 情報収集と分析
11. 情報収集と分析
12. プレゼンテーション資料作成
13. プレゼンテーション資料作成
14. 発表、ディスカッション
15. 発表、ディスカッション

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J82020102
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	各自関心のある企業または業界を選び、経営分析をすすめていく。適宜、研究の途中経過をプレゼンテーションしてもらう予定である。 演習終了時にレポートを課す。		
教材（教科書）	適宜、指示する。		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	担当の学生が準備してきたレジュメに従って報告と討論を行います。		
評価方法	平常の講義への取り組み姿勢(40%)と最終レポート(60%)		
到達目標	会計情報から企業の財政状態、経営成績、資金状況を説明できる。 企業の業績や財務状態に影響を及ぼす外部要因、内部要因について説明できる。		
授業時間外学習	各自に報告テーマを課すので、パワーポイント等によるプレゼン資料の準備をしてくること。報告に当たっていないものは、各自次回の内容について、指示されたテキストを読んでくること。 問題意識を持って新聞記事等のニュースに注意を向けること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的に議論に参加すること。
毎回きちんと出席すること。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は必ず連絡すること。これは社会人としての常識であり、ゼミ生には、大人として、社会人としての自覚ある行動を身につけていただきたい。

授業スケジュール

1. 演習計画のガイダンス
2. ゼミ・レポートの書き方
3. 研究テーマの報告と決定(1)
4. 研究テーマの報告と決定(2)
5. 図書館での資料検索
6. 財務データの入手方法
7. 貸借対照表の見方
8. 損益計算書の見方
9. キャッシュ・フロー計算書の見方
10. クロスセクション分析と時系列分析
11. 財務分析の手法(1)　収益性分析
12. 財務分析の手法(2)　安全性分析
13. 財務分析の手法(3)　成長性分析
14. 財務分析結果の報告(1)
15. 財務分析結果の報告(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020103
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	インターネットに代表される広域ネットワークの普及はわれわれの生活まで変革を迫っている。 高度情報化がすすむつれ、企業にもこれまで以上に迅速な対応を迫られている。 ちょっとした判断の遅れが取り返しのつかないことになる中で、情報システムの高度化とそれへの適応がますます重要なものになってきている。 反面、広域ネットワークの普及によって企業秘密の漏えい、不正なネットワークへの侵入、ネットワークを取り巻く倫理の欠如などの問題が噴出している。 授業概要、ゼミスケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。 その他の特記事項　時間外での相当量の学習、調査を要する。		
教材（教科書）	適宜指示する。		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	受講・発表など授業での取り組み 60%、演習課題及びレポート 40%で評価する。		
到達目標	経営における情報システムと情報管理の動向や問題点を説明できる。		
授業時間外学習	授業外でのワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションの活発な利用で、コンピュータのビジネス利用のための　基礎素養向上のための文字入力トレーニング(学期末に 400 字/10 分)、表作成、文書作成練習を常にしておくこと。 各回の授業内容に該当する教科書や配付資料のページを事前に読んで、専門用語の確認などを含めて事前学習をしておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。 1.シラバスを読んでくる 2.「経営学への招待」を参考にレポートの書き方の復習しておく 3.「経営学入門」のテキストで、経営学の基礎知識の復習をしてくる 4.外部アカウントの取得の配布資料を確認する 5.セキュリティアップデートとアプリケーション環境の更新の配布資料を確認する 6.ホームページの作成の配布資料を確認し、要点整理する 7.ホームページの作成の配布資料を確認し、要点整理する 8.ホームページの作成の配布資料を確認し、要点整理する 9.ホームページの作成の配布資料を確認し、要点整理する 10.プログラミングの配布資料を確認し、要点整理する 11.プログラミングの配布資料を確認し、要点整理する 12.プログラミングの配布資料を確認し、要点整理する 13.プログラミングの配布資料を確認し、要点整理する 14.各自の作成したレジュメの発表用原稿を作成する 15.ゼミ生全員の発表に対するコメントをまとめる		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
経営、及び情報というものに興味を持ち、自らの積極的な参加を期待する。
授業スケジュール
専門ゼミの内容から、関心のあるテーマを選び、個人研究報告または共同研究報告をすすめていく。

1.はじめに
2.レポートの書き方の復習
3.経営学の基礎知識の復習
4.外部アカウントの取得
5.セキュリティアップデートとアプリケーション環境の更新
　　WAMP の構築
6.ホームページの作成(1)
7.ホームページの作成(2)
8.ホームページの作成(3)
9.ホームページの作成(4)
10.プログラミング(1)
11.プログラミング(2)
12.プログラミング(3)
13.プログラミング(4)
14.レジュメの作成
15.報告発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020104
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	今日のビジネスでは、インターネットに代表される情報ネットワークが重要なツールとして活用されている。そこで本講義では、受講生がインターネットを活用したビジネスを学ぶために必要な知識を理解できるようになることを目的とする。 　まず、経営学の基礎的な用語を学ぶ。その後、各自の興味のあるテーマを調べてレジュメを作成し、報告する。また、表計算ソフトを使いデータを加工、処理する知識も身につける。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	周佐喜和他著『経営学１　企業の本質』実教出版。 その他、授業中に適宜指示する。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	授業内小テストと毎回のコメントシートによる平常点（６０％）。授業中に課すレポート（４０％）。		
到達目標	1.インターネットビジネスを学ぶために必要な経営学の知識を理解できるようになる。 2.表計算ソフトを使いデータを加工・処理することができるようになる。		
授業時間外学習	各回の学習推定時間は 45 分。 第１回　配布レジュメ「レポートの書き方」を読み、要点をまとめる 第２回　配布レジュメ「レポートの書き方」を読み、要点をまとめる 第３回　配布レジュメ「レポートの書き方」を読み、要点をまとめる 第４回　授業時に配布した関数とグラフの課題を作成する 第５回　授業時に配布したデータベース機能の課題を作成する 第６回　授業時に配布した表計算ソフトの応用課題を作成する 第７回　授業時に配布した表計算ソフトの応用課題を作成する 第８回　『経営学１　企業の本質』112‐121 頁を読み、要点をまとめる 第９回　『経営学１　企業の本質』136‐147 頁を読み、要点をまとめる 第 10 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 11 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 12 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 13 回　各自の作成したレジュメの発表用原稿を作成する 第 14 回　各自の作成したレジュメの発表用原稿を作成する 第 15 回　ゼミ生全員の報告に対するコメントを作成する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.出席を重視する。欠席・遅刻をしないこと。
2.企業経営の動向を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持つようにすること。

授業スケジュール

1　オリエンテーション
2　レポートの書き方の復習①
3　レポートの書き方の復習②
4　ワープロソフト、プレゼンテーションソフトの使い方の復習
5　表計算ソフトの使い方（関数、グラフの作成）
6　表計算ソフトの使い方（データベース機能など）
7　表計算ソフトの使い方（応用）
8　経営学の知識①（共通教材の輪読）
9　経営学の知識②（共通教材の輪読）
10　経営学の知識③（興味のあるテーマを選択）
11　経営学の知識④（情報収集）

12　経営学の知識⑤（レジュメの作成）
13　経営学の知識⑥（レジュメの作成）
14　経営学の知識⑦（発表）
15　専門ゼミ A を通して学んだことの展望

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020105
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
授業概要	家族法の判例を素材に、ゼミ生が主体となり共同研究および個別研究を行う。家族法に関する基本的な知識と学習方法を習得したうえで自律的に研究を進め、4 回生秋学期に卒業研究を完成させることを目標とする。具体的な進め方についてはゼミ生と相談のうえ決める予定である。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） 民法判例百選 3（有斐閣、2015 年） その他、ゼミ中に適宜指示する。		
教育方法	担当教員作成の資料を配布する。		
評価方法	ゼミへの参加状況（50%）、課題への取り組み（50%）による。やむを得ず欠席する場合にはメール等により事前に連絡することを要する。評価方法（ゼミ参加に当たっての注意事項）については初回のゼミで詳細に説明する。		
到達目標	１．民法の家族法分野について基本的な知識と学習方法を習得する。 ２．学習成果を報告し、他人の考えを聞いたうえで自身の考えを深めることができる。		
授業時間外学習	各回の報告担当者については、関連する判例・文献を収集し、精読したうえで、レジュメ等にまとめ、担当回に口頭で報告できるよう十分に準備をしておく（最低でも 3 週間程度を準備期間に費やすこと）。担当者以外の者も、各回で扱う判例およびこれに関連する基本的文献を読んでおき、問題の所在を把握しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

専門科目の家族法を履修済みであることが望ましい。未履修の者は、家族法の教科書・概説書を 1 冊通読しておくこと。単位取得や時間割の都合ではなく、家族法に関心がある者のみ登録することを求める。

授業スケジュール

各自が関心のあるテーマについて報告と質疑応答を行う。テーマの選択にあたってはゼミ生の意向を尊重するが、テーマの例としては以下のようなものがある。

１．　婚姻外の男女関係の解消
２．　近親婚と遺族年金受給権
３．　夫婦相互の日常家事代理権
４．　不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権
５．　有責配偶者の離婚請求
６．　財産分与と慰謝料請求権との関係
７．　推定の及ばない子
８．　親子関係不存在確認請求と権利濫用
９．　代理出産と母子関係
１０．子の命名権
１１．面会交流権
１２．成年に達した子に対する扶養義務
１３．熟慮期間の起算点
１４．生命保険金請求権の相続財産性
１５．高齢者の遺言能力

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020106
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	
授業概要	This seminar would use Case Method and Immersion Experience Program (IXP, Field Study) of HBS (Harvard Business School). The final goal setting is 1) All Student can contribute case study discussion using HBS Case, 2) To summarize all activities at final bachelor paper. Aside of these curriculum, also setting NHK KISOEIGO and Accounting Level 3 drill would be programmed. HBS のケースメソッド、IXP プログラムに依拠して講義は行われ、1)最終的には全員が HBS のケースディスカッションが出来るようになる。またそれを通じて、 2）その集大成としての卒論策定を行うことができる。尚、同時に基礎訓練として NHK 基礎英語 1,2,3、日商簿記 3 級のドリルも必要に応じて行う。		
教材（教科書）	Competitive Strategy as a Narrative Story/ストーリーとしての競争戦略（楠木建、東洋経済新報社）ISBN978-4-492-55270-6, and others should be suggested at the each session. Handout and Case should be distributed at the each session, upon Students' best interest (Past examples, Nike, Starbucks, Apple, Google, NBA, MLB, Ritz Carlton, Seven Eleven, Yoshinoya etc.)　NHK KISOEIGO（基礎英語)1,2,3、Accounting Level 3（日商簿記 3 級）使用ケースは毎回講義前に提示する。		
教材（参考資料）	Should be suggested at each session. 講義毎紹介する。		
教育方法	Never to excuse your life, Never to be late, Never to cheat/short cut.　All students should be committed by faculty, one by one. HBS のケースメソッド、IXP プログラムの手法に依拠して授業は行われる。最終的には、学生によるディスカッションを中心として授業は行われる。言い訳を言わない、今からでも遅くない、ごまかさない。 全ての受講生は教官により認識されコミュニケーションが取られる。		
評価方法	50% Class contribution, 35% Bachelor Paper, 15% IXP		
到達目標	All Students are expected to achieve logical thinking, discussion/debating method, self management, with fundamental language and accounting skill. 学生は、基礎的学力、会計知識を取得しながら、論理的思考、ディスカッション、ディベート能力、自己マネジメントを用いることができる。		
授業時間外学習	Quick quiz should be distributed at the each session and Students should submit before the next session. Expected to spend 20-30 minutes each and send by e-mail. 毎回次回の Quiz が提示されるので、学生は次回講義の期限までにメールで提出することとなる（想定毎回 20-30 分活用)。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
Be Humble, Be Hungry, Be Innovative			
授業スケジュール			
1．Orientation / オリエンテーション 2．Introduction at Self-Intersubjectivity, Schedule Setting / 他己紹介、各人スケジュール設定 3．Life Story / 自己分析　Resume 作成 4．Chapter 1, Strategy is "Story", and Case / 参考書 1 章とケース 5．Chapter 2, Fundamental of Competitive Strategy, and Case / 参考書 2 章とケース 6．Chapter 3, Photo to Video, and Case　/ 参考書 3 章とケース 7．Chapter 4, Begin with Concept, and Case / 参考書 4 章とケース 8．Chapter 5, To build-in "Killer-pass", and Case / 参考書 5 章とケース			

9．Chapter 6, To read-through Strategic Story, and Case / 参考書 6 章とケース

１０．Chapter 7, Key 10 rule of Strategic Story, and Case / 参考書 7 章とケース

１１．IXP Orientation / IXP オリエンテーション

１２．Group Setting for IXP / IXP 実施へのグルーピング

１３．Target Setting for Bachelor paper / 卒論オリエンテーション

１４．Target Setting Presentation 1 / ターゲットティングプレゼンテーション 1

１５．Target Setting Presentation 2 / ターゲットセッティングプレゼンテーション 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J82020107
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	一言でいうと「100年ライフ時代の社会と人生の未来デザイン」の講義です。 日本の総人口の減少、少子高齢化、世代間格差など現代の日本社会の変化は私たちのライフスタイルにどのような影響をもたらすのか。日本で進行しつつある社会の地殻変動を知り、これから起こることについて深い知識を持ち、社会人としても消費者としても社会変化に対応できる人になるためのスキルを身に着けます。 テキストとして指定したのは、これから寿命がますます伸びて100歳まで生きるようになるという予測の中、働き方、家族、仲間との関係をどのようにデザインすればよいかについて書かれた話題の本です。この書籍に加えて、その時々の重要なトピックスや話題を雑誌の資料やビデオなどを通して立体的に理解できるようにします。 毎回、ディスカッションを行い、授業の最後に授業に対する小レポートを数百字でまとめることにより、コミュニケーション力と記述力を養います。 これからの社会がどう変化するのか、自分の人生プランをどう立てればよいのかに興味がある人が包括的な知識を得ることができる講義です。		
教材（教科書）	リンダ・グラットン他『ライフ・シフト　～100年時代の人生戦略』東洋経済新報社		
教材（参考資料）	河合雅司『未来の年表』講談社現代新書		
教育方法	（1）基礎知識にとして知っておかねばならないことはミニ講義の形で解説します。 （2）教科書の分担を決めて、担当者は内容を整理した形で発表してもらいます。 （3）発表者以外にコーディネーターを決めて、学生主体で議論を進めてもらいます。 （4）まとめと発表・議論の内容の評価を講師が最後に行います。		
評価方法	（1）出席を重視しますが評価の点数には加えません（欠席は減点になります） （2）発表の質とまとめの丁寧さ（50%） （3）毎回のディスカッションでの授業への貢献（50%）		
到達目標	・基本的な日本の課題についての知識を持つこと ・基本的な社会統計の数字（特に長期時系列データ）を読めるようになること ・社会のしくみや自分の人生のデザインができるようになること		
授業時間外学習	・教科書に指定した文献の各回に該当する箇所を毎回全員が必ず熟読すること。 ・単に読むだけではなく、意味を理解し、わからないことは調べた上で授業に臨むこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・授業に出席するにあたって、テキストを熟読していない、準備をしていないということに対しては厳しく対応します。授業の準備のためにそれなりの時間が日常的に必要になることを覚悟してください。
・日本経済新聞、日経ビジネス（雑誌）、ワールドビジネスサテライト（テレビ）をできる範囲でカバーして触れておくこと。特に重要なものは授業中に参考資料として配ったり番組を見せたりしますが、基本的にはそれを教材として議論しますので、対応できるだけの基礎力を普段からつけておいてください。
・授業中のスマホの使用、堂々とした居眠りに対しては授業に参加していないとみなし、評価上は欠席相当とし、場合によっては教室からの退出を命じます。

授業スケジュール

＜基礎力編＞

1　日本の課題と社会の未来についての基礎知識
　日本の人口動態から見る日本の課題、社会を捉えるのにどのようなデータを見ればよいか、長期時系列データの読み方の基本
　的な解説をします

2　社会の変化
　これから起こると予測されている社会の変化について知り、どのような対応が可能かを議論します

3　本の読み方とレジュメの書き方
　課題書籍の輪読に際し、本の読み方とレジュメの書き方、発表について説明します。次回から、章ごとに担当を決めて発表と
　ディスカッションを行います

＜輪読編＞
4　『ライフ・シフト』第１章　長い生涯
　担当者からのレジュメの発表とディスカッションが中心になります。
　また、各回ごとに関連する日本の課題を提起しますので、それについてもディスカッションを行います
5　第２章　過去の資金計画
6　第３章　雇用の未来
7　第４章　見えない「資産」
8　第５章　新しいシナリオ
9　第６章　新しいステージ
10　第７章　新しいお金の考え方
11　第８章　新しい時間の使い方
12　第９章　未来の人間関係
13　終章　　変革への課題
14　未来社会へのディスカッション　30 年後の企業と働き方
　以上の輪読をふまえて、30 年後の社会について、企業がどうなっているか、またその企業での働き方がどう変化しているかにつ
　いて、自分なりのビジョンを提示し合います。
15　「未来への提言」というテーマでのレポート作成
　「自分たちの未来」として、30 年後の社会と自分の生き方についてレポートにまとめて提出してもらいます。
　（レポートは評価対象）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020108
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	就職活動予定者を対象とするこのゼミにおいては、まずは HRM(Human Resources Management)に関する事例を輪読し、採用、動機づけ、解雇、などがいかにして企業で行われているかを理解する。また、就職して 3 人に 1 人が辞めるという大卒の離職率、内訳で 40%近くにいたる（25～29 歳の）大卒・大学院卒フリーター、重くのしかかる奨学金の返済（手取り給与での自立不可）、週 60 時間にせまる長時間労働、などの若年労働者の現状についてゼミで討議するとともに、若年労働市場の現状と課題についてレポート作成に着手する。ゆえに、本ゼミを通して受講者は、卒業論文の作成に必要な知識だけでなく、天職・ライフワークを探求でき、学んだ知識を就職活動や社会において活用できる。		
教材（教科書）	なし。資料を適時配布する。		
教材（参考資料）	東洋経済新報社（編集）『就職四季報(総合版)』，『就職四季報(優良・中堅企業版)』		
教育方法	事前に配布した資料・レジュメに沿って、Word, Excel, PowerPoint を使いながら、講義法とグループワークを併用する。学生は、Word, Excel, PowerPoint,を使って、若年労働市場の現状と課題についてレポートを作成していく。		
評価方法	課題・宿題・小テスト（30%）、受講・発表・取組姿勢（70%）で評価する。		
到達目標	＊受講者は企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。 ＊受講者は企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性を説明できる。 ＊受講者は自身の卒業の進路を明確に表明することができる。		
授業時間外学習	初回の授業においてこれから使う資料について説明を行う。 どの資料を次回使用するかを毎回指示する。宿題や小テストなどを通してゼミで習ったことの確認を行う場合もあるので、授業で使用した資料を必ず熟読しておくこと（各回の推定授業時間外学習は 30 分以上）。 第 1 回目…Word, Excel, PowerPoint の操作を確認しておく。 第 2 回目…株とは何か、株式会社とは何か、を読み、要約する。 第 3 回目…配布資料の総合職と一般職の相違、営業とそれ以外の職能との相違についてを読み、要約する。 第 4 回目…配布資料の大企業と中小企業の相違について、を読み、要約する。 第 5 回目…配布資料の新規学卒就職者の求人倍率、を読み、要約する。 第 6 回目…配布資料の初任給について、を読み、要約する。 第 7 回目…配布資料の 30 歳平均年収について、を読み、要約する。 第 8 回目…配布資料の新規学卒就職者の 3 年以内の離職率を、読み、要約する。 第 9 回目…配布資料の転勤の状況を読み、要約する。 第 10 回目…配布資料の有給休暇について、を読み、要約する。 第 11 回目…配布資料の法定労働時間と法定時間外労働について、を読み、要約する。 第 12 回目…配布資料の法定休日と法定外休日について、を読み、要約する。 第 13 回目…若年労働市場の現状と課題のレポートテーマから自身の作成テーマを考え、決定する。 第 14 回目…若年労働市場の現状と課題のレポートテーマに必要な資料・データ・文献を考え、収集する。 第 15 回目…レポートテーマに沿って書く。夏期休校中の宿題について。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＊就職活動予定者を対象としているのでゼミ選択の際には注意すること。
＊人的資源管理論の単位を取得している方が望ましい。
＊パソコンを使うことが多いので、そのつもりで履修すること。ワードやエクセル等のソフトを活用できる方が望ましい。

授業スケジュール

1. パソコンにおける各種設定、ゼミの進行について、各種ビジネスソフトの教習。
2. 若年労働市場の現状（概説）を読む。配布資料の見方を理解する。
3. 株式会社とは何か、上場・未上場の違いは何かを把握する。

4. 総合職と一般職の相違、営業とそれ以外の職能の相違について理解する。
5. 全国の新卒採用状況、志望者数ランキングにおける企業の特徴とその真実を明らかにする。
6. 企業規模・年齢・業界別の所得を把握する。
7. 初任給で決めるな――就職四季報や各種データを用いてその後を見てみよう――。
8. 額面と手取りを理解する。
9. 離職率、有給休暇消化率、等を調査する。
10. 転勤について考えよう。関西から出たくないと、ときには京都から出たくないと言う方…。
11. 労働条件について。ブラック企業とは？を考える。
12. 法定労働時間、法定時間外労働、を理解する。
13. 法定休日、法定外休日、を理解する。
14. 若年労働市場の現状と課題について具体的なレポートテーマを発表する。
15. 秋学期について。夏期休校中の宿題について。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J82020111
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
授業概要	ゼミ担当教員があらかじめいくつかの基本テーマを設定し、その枠内でゼミ生一人ひとりが自分で取り組んでみたいテーマを自由に選び、同じ関心をもつゼミ生とグループを組んで研究を自主的に進める方式でゼミを行います。各グループでテーマが確定したら、各グループ内で代表（キャップ）と、テキストや資料を選び、研究計画を立てて、研究とレポート作成を進めます。 　昨年のゼミのテーマを参考のために示せば、「ブラック企業」、「進化する情報社会」、「貧困大国アメリカ」、「不動産投資」でしたが、過去には「ケインズ研究」、「消費税」、「就活研究」、「地方創生」、「アップル、 グーグル、マイクロソフト」、「財政問題」（年金）、「アベノミクス研究」、「国際金融」、「地球環境（温暖化）問題」、「自動車産業」（ハイブリッド、電気自動車）など、さまざまなテーマに取り組んできました。		
教材（教科書）	1 回目のゼミにおいて、各テーマごとの文献リストを提示します。文献リストには、比較的入手しやすい最近の新書や文庫を示しています。最終的には、担当教員のアドバイスを参考にしながら、各グループの判断でテキストを選びます。		
教材（参考資料）	各テーマごとに参考文献を配布する。それ以外のものについては、授業中に適宜指示する。		
教育方法	専門ゼミを通じて、ゼミ生一人ひとりが自主的な学習習慣を身につけられるように指導する。また、グループ研究において重要なチームワーク（協調性）とメンバー各自の自己責任能力の涵養にも努める。以上の点に配慮しつつ、グループ研究が円滑に進むように適宜アドバイスをおこなう。		
評価方法	平常点（15%）受講態度等＋グループ研究報告（中間 25%＋最終 50%）＋個人評価（10%）		
到達目標	１．ゼミ活動を通して自主的な学習スタイルを身につけることができる。 2．グループ研究に必要なチームワーク（協調性）と自己責任能力を高めることができる。 3. 自分のチームの研究テーマはもちろんのこと、他チームの研究テーマについても同時に学ぶことができる。		
授業時間外学習	1．日頃から社会問題に広く関心をもち、自分が研究したいと思うテーマに関する資料を収集する。 2．ゼミの研究テーマについては、自宅でも自主的に学習する時間を充分に確保する。 3. 研究グループ内でのミーティングをしっかり行い、各自が個人で果たすべき役割を着実に誠意をもって実行する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各グループには、責任者としてキャップをおきます。キャップがしっかり内部調整しなければ、あるいは逆にグループメンバーがキャップに積極的に協力する姿勢で取り組まなければ、所定の期日に研究報告ができなかったり、レポート作成も未完成のままになるグループがでてきます。そうしたグループについては、運営方法の改善を指導し、どうしても改善が望めない場合には、グループの再編や解散を命じます。			
授業スケジュール			
1．専門ゼミ A のガイダンス ３．研究グループおよび研究テーマとテキストの決定 ３．教員による模擬研究報告 4．研究計画の策定と提出 5．研究報告(1) 6．研究報告(2) 7．研究報告(3) 8．研究報告の批評(1) 9．研究報告(4) 10．研究報告(5) 11．研究報告(6) 12．研究報告の批評(2) 13．研究報告(7)			

14. 研究報告(8)
15. 研究報告の批評(3)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	★	－	★	－

年度	2018	授業コード	J82020112
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	社団や法人といった概念に基づいて株式会社の基本的特徴を整理します。次いで、株式会社の中から取締役会非設置会社と監査役会設置会社を取り上げ、その仕組みについて解説します。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考資料）	1．近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子（2014）『基礎から学べる会社法』第 3 版、弘文堂。 2．中東正文・白井正和・北川徹・福島洋尚（2015）『会社法』有斐閣。 3．浜辺陽一郎（2015）『平成 26 年改正対応　図解　新会社法のしくみ』第 3 版、東洋経済新報社。		
教育方法	講義法と学生による発表を中心に授業を進めます。		
評価方法	レポート（50%）、授業内試験（50%）		
到達目標	1．株式会社の基本的特徴を理解する。 2．中小企業に取締役会非設置会社が多い理由を理解する。 3．監査役会設置会社におけるモニタリングの仕組みについて理解する。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する参考文献のページを読んでおくこと（各回の学習推定時間は 45 分間）。 第 1 回　近藤・志谷・石田・釜田（2014）1 － 9 頁。 第 2 回　近藤・志谷・石田・釜田（2014）9 －11 頁。 第 3 回　近藤・志谷・石田・釜田（2014）11－13 頁。 第 4 回　浜辺（2015）40－41 頁。 第 5 回　浜辺（2015）42－43 頁。 第 6 回　浜辺（2015）36－39 頁。 第 7 回　浜辺（2015）44－45 頁。 第 8 回　中東・白井・北川・福島（2015)27－30 頁。 第 9 回　中東・白井・北川・福島（2015)30－37 頁。 第 10 回　中東・白井・北川・福島（2015)37－50 頁。 第 11 回　中東・白井・北川・福島（2015)50－60 頁。 第 12 回　中東・白井・北川・福島（2015)61－71 頁。 第 13 回　中東・白井・北川・福島（2015)71－92 頁。 第 14 回　中東・白井・北川・福島（2015)93－98 頁。 第 15 回　中東・白井・北川・福島（2015)98－108 頁。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．経済関係のニュースに関心をもつこと。
2．太秦キャンパスの図書室には経済関係の雑誌が数種類備え付けられているので、それらに目を通すこと。

授業スケジュール

1．企業形態の選択
2．株式会社の社団性と営利性
3．株式会社の法人性
4．公開会社と非公開会社
5．大会社と中小会社
6．会社の機関
7．取締役会非設置会社
8．監査役会設置会社①株主総会の権限
9．監査役会設置会社②株主総会の招集、株主提案権
10．監査役会設置会社③株主の議決権、株主総会の決議

11. 監査役会設置会社④株主総会決議の瑕疵
12. 監査役会設置会社⑤取締役、取締役会
13. 監査役会設置会社⑥代表取締役、取締役の義務
14. 監査役会設置会社⑦取締役の報酬
15. 監査役会設置会社⑧監査役・監査役会・会計監査人

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020113
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	経済データのなかで、マクロマネー系を扱う。特に、量的金融緩和期におけるマネーの動きと金融緩和の有効性を分析する。日本における量的金融緩和を分析する。基本は、経済指標（GDP、物価、政策変数（マネー）、長期金利、為替、株価）などの相関の強さを調べることにある。ただし、各変数は時間とともに変動しているので、時間遅れを伴った変数間の相関を調べなければならない。		
教材（教科書）	毎回、EXCEL と EViews によって、データと分析方法を配布。		
教材（参考資料）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教育方法	（1）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （2）原データを EXCEL で加工して、EViews という分析ソフトに移す。 （3）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（1）から（3）を、テーマごとに繰り返す。 EXCEL や EViews の操作方法をまず最初に覚え、次にデータ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	平常点（80%）、レポート（20%）		
到達目標	金融システムが理解できる。EVIEWS を操作し、基本的なデータ分析ができる。		
授業時間外学習	金融論、ミクロ、マクロなどの基礎知識を勉強しておくこと。 予習：マクロ経済学、金融論、金融政策を事前に履修（または同時に履修登録）して内容を理解しておくこと。 復習：春学期の終了までに、参考文献の半分までを読み終えておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席が非常に大事。数理的な部分をすこしずつ理解できるように進めていくので、休んでしまうとついて来れなくなる。			
授業スケジュール			
1．EXCEL の計算方法その 1 2．EXCEL の計算方法その 2 3．EXCEL の計算方法その 3 4．EXCEL の計算方法その 4 5．EViews の使い方その 1 6．EViews の使い方その 2 7．EViews の使い方その 3 8．データ分析（回帰分析） 9．データ分析（定常・非定常） １０．データ分析（推定） １１．データ分析（系列相関） １２．マクロシステムの推定その 1 １３．マクロシステムの推定その 2 １４．マクロシステムの推定その 3 １５．まとめ(基本的な推定方法のサーベイ)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020114
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
授業概要	本講義では、マクロ経済学とミクロ経済学の基礎理論を復習し、それに基づき現代の日本経済および世界経済が抱える諸問題に対する理解を深める。それぞれ経済問題の本質を踏まえ、それが及ぼす経済的影響とそのメカニズムを確認し、解決に有効な経済政策の在り方を検討する。		
教材（教科書）	特に指定しない。毎回の授業で講義用の資料を配布する。		
教材（参考資料）	酒井・寺本・村上・吉田　『経済政策入門』第２版　成文堂 高橋洋一『図解ピケティ入門』　あさ出版 ｼﾞｮｾﾌ・Ｅ・ｽﾃｨｸﾞﾘｯﾂ『世界に分断と対立をま撒き散らす経済の罠』徳間書店		
教育方法	（１）前半は配布資料を解説する講義形式で進め、受講ノートの取り方についても指導する。 （２）後半は学生の報告資料に基づく演習形式で進め、全員が議論へ参加する。		
評価方法	期末試験 100％		
到達目標	（１）マクロ経済学とミクロ経済学の基礎理論を理解する。 （２）日本経済の諸問題の本質とその影響が生じるメカニズムを理解する。 （３）世界経済の諸問題の本質とその影響が生じるメカニズムを理解する。		
授業時間外学習	（１）国民経済統計から指定した経済データを調べ、その図表を作成する。 （２）政府の経済政策の種類とその効果を調べる。 （３）指定された経済の時事問題を調べる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（１）欠席３回で成績評価の対象から除外する。
（２）前半の内容は経済学の基本中の基本である。記憶も理解も徹底されたし。
（３）後半は就職活動や社会人生活への準備となる取り組みであるので、意識的・積極的に参加されたし。

授業スケジュール

講義の流れは以下の通りである。毎回、経済学の基礎理論の解説をする。また、日本地図や世界地図を頭に入れながら、地域や国ごとの関連する統計データや経済問題についても解説する。

第１回：ゼミの運営とルール、自己紹介の作法
第２回：国民所得とは何か、ＧＤＰとＧＮＰの違い、経済成長率と失業率の関係
第３回：有効需要の原理、総需要
第４回：消費関数、投資関数、政府支出の内訳
第５回：経常収支と為替レート
第６回：公共支出と減税の経済効果、金融政策の経済効果
第７回：税と社会保障の一体改革、世界の財政赤字問題、ソブリン・リスク
第８回：アベノミクス
第９回：財・サービス市場、労働市場、資本市場の関係
第 10 回：消費理論の基礎、効用最大化（消費、余暇、貯蓄の決定要因）
第 11 回：３つの弾力性
第 12 回：生産理論の基礎、生産関数と費用関数の関係、利潤最大化（生産量と価格の決定）
第 13 回：市場の調整メカニズム、余剰、外部効果
第 14 回：経済のグローバル化、日本と世界の所得（賃金）格差の問題
第 15 回：企業の経済学、財務諸表の基礎、商品企画とマーケティングの基礎

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J82020115
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	「日本学生経済ゼミナール大会（以下インター大会）」あるいは「日経 STOCK リーグ(以下 STOCK リーグ)」への出場に向けて、ゼミを行います。どちらに参加するかは、ゼミ生の興味関心を尊重しながら、相談して決定します。参加大会の決定後、ゼミ学生を 2 チームに分割し、各チームで情報を収集しながら、論文作成をする。 「インター大会」は、全国の経済学部・経営学部・商学部の学生を対象とした学術大会です。インター大会の討論部門では、2 チームあるいは 3 チームにより一つの共通テーマに沿って議論し、研究を発展させることを目的としています。 「STOCK リーグ」とは、日本経済新聞社が主催する中・高・大学生を対象としたコンテスト形式の株式投資学習プログラムです。STOCK リーグの流れは、「学習ガイドブックなどの教材を活用した経済・株式投資学習」と「投資テーマ決定・ポートフォリオ構築・レポート作成」に大別されます。		
教材（教科書）	特になし。 適宜、論文を指定する。		
教材（参考資料）	「量的・質的金融緩和の総括的検証」および「マイナス金利政策」に関する参考文献： ・ 岩田一政・日本経済研究センター（編集）[2014]『量的・質的金融緩和 政策の効果とリスクを検証する』、 日本経済新聞出版社. ・ 岩田一政・左三川郁子・日本経済研究センター（編著）［2016］ 『マイナス金利政策』、 日本経済新聞出版社. ・ 左三川郁子ほか［2015］ 「異次元緩和の限界と出口に向けた課題」、 日本経済研究センター『金融研究報告』. ・ 日本経済研究センター（編集）［2016］ 『激論 マイナス金利政策』、日本経済新聞出版社. ファイナンスに関する参考文献： ・ 藤林宏ほか［2009］ 『EXCEL で学ぶファイナンス〈2〉証券投資分析』、金融財政事情研究会. ・ 渡部敏明 ［2000］ 『ボラティリティ変動モデル（シリーズ 現代金融工学）』、朝倉書店.		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	平常点(60%); 演習内の発表内容等による。ゼミ参加熱意(40%)		
到達目標	収集した資料に基づいて意見を述べ、論文を作成する能力を身につけることができる。		
授業時間外学習	インターゼミナールおよび STOCK リーグは、論文の提出期限が決まっています。各グループは、そのスケジュールに合わせて論文を作成することになります。各グループ内で論文を分担して作成すると思いますが、各自の担当作業が授業内で完了しないこともあるでしょう。その場合、各自、自宅に持ち帰って論文を作成し、提出期限に間に合わせるようにしていただきます。また、授業内では、進捗状況を報告してもらいますので、発表にあたっているグループは協力して、しっかりとレジュメ作成をしてもらいます。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
本ゼミは、「インター大会」あるいは「STOCK リーグ」への参加を目指しています。 両大会に参加するには論文の作成が必要となり、ゼミ活動では論文作成のための地道なグループワークへの参加が求められます。また、「インター大会」では他大学と議論することから、「STOCK リーグ」では投資テーマの決定の際に、積極的な発言が求められます。基本的なことですが、無断欠席、遅刻を厳禁です。			
授業スケジュール			
［講義概要］ ・両大会への参加にに向けて、夏休み中に論文作成に取り組む。 ・9～12 月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。 ・インター大会のテーマは、金融および経済政策に関する諸問題から選ぶ。			

・STOCK リーグのテーマは、長期的視点で投資テーマを設定する。

１．　グループ分けおよびテーマの設定
２．　テーマの設定および参考文献の紹介
３．　グループ１の報告①
４．　グループ１の報告②
５．　グループ２の報告①
６．　グループ２の報告②
７．　グループ３の報告①
８．　グループ３の報告②
９．　グループ４の報告①
１０．　グループ４の報告②
１１．　レポートの書き方指導
１２．　レポート作成①
１３．　レポート作成②
１４．　レポート作成③
１５．　レポート作成④

*「インター大会」あるいは「STOCK リーグ」のスケジュールに応じて、
上記の講義日程を変更します。

［参考１］　インター大会のＨＰ;
http://www.inter-seminar.com/
［参考２］　ＳＴＯＣＫリーグＨＰ
http://manabow.com/sl/index.html
https://stockleague.nikkei.co.jp/login/index.aspx

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J82020117
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
授業概要	企業組織では、スポーツ組織と共有できるチームマネジメント論が存在する。現在、企業では高度成長期に日本で意識付けられた、ソーシャルキャピタルの精神が見直されて来ている。スポーツ組織でも、仲間同士での協調行動により、信頼関係を築き効率性向上を図るため、コーチングやリーダーシップなどのチームマネジメント力が必要となる。当ゼミナールでは、実在の企業による組織マネジメントを参考に、スポーツのチームマネジメントを通して、企業の理解を深め組織マネジメントの知識を学ぶ。		
教材（教科書）	適宜指示する。		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	平常点（受講態度など）７０％、レポート３０％により評価する。		
到達目標	企業組織とスポーツ組織の共通するマネジメントを理解して整理し、身近な社会組織の中で実践する知識と行動力を身に付ける。		
授業時間外学習	毎回の講義終了時に、次回の範囲や課題を指定するので、予習・復習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業には積極的に参加し、受講者全員で進めて行ける心構えを持つこと。

授業スケジュール

１．　オリエンテーション
２．　経営学部で学ぶための基礎
３．　グループワークとプレゼンテーションの方法
４．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究①
５．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究②
６．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究③
７．　レポートの書き方
８．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究④
９．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究⑤
１０．企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究⑥
１１．レポート作成
１２．レポート作成
１３．レポート発表
１４．レポート発表
１５授業内容の振り返り（ディスカッション方式）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J82020119
科目名	専門ゼミA 【航空】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
授業概要	このゼミは、「航空観光プログラム」の一部として実施します 専門ゼミの演習としては、航空観光分野に限らず、広くサービス業等における経営面と政策面の両方の論文を書き、議論をすることに重点をおきます。産業・ビジネスにおける社会的経済的な様々な問題について、それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し、それらの社会経済問題の解決・改善方法（政策）を、社会全体の利益の視点から議論します。 私が別の大学で担当してきた研究会の論文テーマ例は、LCC への優遇措置の問題点、航空自由化、観光立国の問題点、教育自由化、医療保険の民営化、農業保護の撤廃、自然保護、ゴミ処理、刑罰の経済学的考察、芸術保護、性表現、プロ野球のドラフト制度等々、多岐にわたっています。		
教材（教科書）	教科書はここでは指定しません。この授業は演習なので、教材を自分で探すところから勉強が始まります。また、テーマは諸君の自由ですので、テーマが決まったら、教材の探し方についてお話します。さらに、テーマ次第でその都度、必要な文献を示唆します。		
教材（参考資料）	教科書の項に同じ。		
教育方法	ゼミの時間は前もって準備してきたレジュメにそっての発表と、それについてのディスカッションを主とします。3 年生時にはグループによる論文執筆、4 年生時には個人で卒業論文を書く作業が中心となります。全員が航空観光プログラム生として、この専門ゼミ以外に、所定の講義 2 科目と、キャリアサポート実践講座、セミナーやインターンシップに参加することができます。		
評価方法	1)発表内容、2)この授業の活動全体（勉強以外のイベントへの参加運営など）への貢献の程度などにより判断します。ウエイトは一定ではありません。特定項目が非常に優れていればそれだけで 100%の評価をする場合もあります。 一方、基本的な常識、意欲がかけている場合は、１）や２）が 100 点でも 0 点とすることもあります。		
到達目標	共同論文作成の基本要領を身に付けること。		
授業時間外学習	毎回ある自身の発表の準備（レジュメ作成、PPT 作成）、他の学生の発表のコメントの準備。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「航空観光プログラム」の選考方法や選考日程、履修条件については、すでに説明会で示したとおりです。単位にならない課外授業としての受講もできますが、その場合も航空観光プログラムへの登録が必要です。

この授業では、教室での発表と論文作成のみならず、セミナーやインターンシップなど様々なイベントへの参加など多岐にわたる活動を実施します。それをこなす能力と意欲と財力が求められます。PC は必ず用意すること。がんばってついてきてくれれば必ず成長できます。

授業スケジュール

1．自己紹介
2．入ゼミ課題の発表
3．入ゼミ課題の発表
4．入ゼミ課題の発表
5．ミクロ経済学の復習
6．ミクロ経済学の復習
7．ミクロ経済学の復習
8．ミクロ経済学の復習
9．市場の失敗理論の基礎学習

10. 市場の失敗理論の基礎学習
11. 共同論文のテーマ決め議論
12. 共同論文のテーマ決め議論
13. 共同論文のテーマ決め議論
14. セミナー、インターシップの事前準備発表
15. セミナー、インターシップの事前準備発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020120
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	・開講は経営学科であるが、われわれは日々法律に囲まれて生活しているために、経営学科の学生が法律を学ぶことにも十分意義がある。この演習では、取引の基本となるような事柄を取り上げて、まずは、法律用語になれること、法律用語辞典を使うことを通じて、財産法の大まかな知識を備えることを目的とする。 ・ゼミ生の報告を中心に演習を進めるが、報告者以外の参加者は、報告者に対して質問することにより理解を深める。他人の前で質問するためには、考えながら話を聞く必要がある。みんなの前で発言できるようにすることも、もう一つの目標である。		
教材（教科書）	・『デイリー六法』（三省堂）または『ポケット六法』（有斐閣）のいずれか ※演習に必携。もちろん予習復習に用いる。		
教材（参考資料）	・潮見佳男・中田邦博・松岡久和編『18 歳からはじめる民法』（法律文化社） ・中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）		
教育方法	・ゼミ生を 5 班程度に分けて、班ごとに報告することとする。 ・ゼミ用に参考文献を 1 冊購入するので、担当班はそれを読んだ上で、レジュメを作成すること。 ・報告者は、PC を使ってあらかじめ A3 用紙 2 枚程度までのレジュメを作成する。 ・発表が内容について、次回冒頭に小テストを行い、受講者の理解度を図る。		
評価方法	・報告に用いたレジュメを報告後、誤字脱字をはじめ、表現等が分りにくかった点調べきれていなかった点を追加・修正し、レポート（4,000 字）を作成して提出すること。 ・１５回出席することを前提として（やむを得ない場合を除く）、報告関連（レジュメ・報告態度・内容、レポート）35%、質疑・議論への参加 35%、小テスト 30%。		
到達目標	・民法の入門書を読んで理解できる。 ・レジュメを作成できる。 ・みんなに分りやすく説明できる。 ・みんなの前で質問できる。		
授業時間外学習	・報告者は事前に報告内容をレジュメにした上で、研究室に報告に来ること。―もちろん修正を求める。 ・復習に際しては、法律用語等の意味を、参考書を用いて調べておくこと。― 調べられているかは、ゼミの際に確認する。 ・宿題は次の通り。 １．　今期の目標を考え、京学なびに登録する。六法を引けるように、家で練習する。 ２．自分の発表用にワードで最低限必要な項目を記録したテンプレートを作成する。 ３．「バイクで人身事故を起こしたら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。 ４．「インターネット上で中傷されたら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。 ５．「買った自動車が故障していたら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。 ６．「スーパーで食品を買ったら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。 ７．「英会話教室に通ったら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。 ８．「ゼミ論文に向けて―テーマ探し。帰宅後もどんなテーマがよいか考えてみる。 ９．「ゼミ論文に向けて―テーマ探し２。帰宅後もどんなテーマがよいか考えてみる。 １０．「インターネット通販で靴を買ったら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。 １１．「友人に貸した自転車を取り戻したい」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向		

	けて、報告内容を復習する。 １２.「入学するときにお金を借りたら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。ゼミ論文論点報告に向け、何が法律上問題なのかを理解しておく。 １３.「自分のクレジットカードを作ったら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。ゼミ論文論点報告に向け、何が法律上問題なのかを理解しておく。 １４.「アパートを借りたら」のレジュメと自分で取ったメモを確認し次回の小テストに向けて、報告内容を復習する。ゼミ論文論点報告に向け、何が法律上問題なのかを理解しておく。 １５．夏休みの宿題をやり始める。 ●夏休みの宿題 ・文章の縮約（15 回に配布する） ・ゼミ論文の執筆（収集した記事を読んで、どんな問題があるのかを理解し『はじめに』を書く。その上で、目次を作成する。）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・受講しておいて欲しい科目：法学、民事法入門、民法総則、債権法、契約・不法行為法など。
・平行して受講して欲しい科目：物権法、消費者法
・遅刻のないようにすること。欠席は、事前に連絡すること（病欠も含む）。
・演習中の入退室を禁じる。
・その他、履修要項の「第１部　履修の心得」参照。

授業スケジュール

１．イントロダクション（自己紹介、班分け、発表順序の決定）
２．内容の読み合わせとゼミでの報告の仕方、法律文の読み方（『法学の扉』2-1）
３．バイクで人身事故を起こしたら
４．インターネット上で中傷されたら
５．買った自動車が故障していたら
６．スーパーで食品を買ったら
７．英会話教室に通ったら
８．ゼミ論文に向けて―テーマ探し
９．ゼミ論文に向けて―テーマ探し２
１０．インターネット通販で靴を買ったら
１１．友人に貸した自転車を取り戻したい
１２．入学するときにお金を借りたら
１３．自分のクレジットカードを作ったら
１４．アパートを借りたら
１５．ゼミ論文論点報告。夏休みの宿題発表とそのやり方の実践。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020121
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	日本史の諸問題につき論文講読演習を行う。古代から近現代にいたるさまざまな論文をとりあげて、報告・討論を行う。事前に報告担当者を当てておくので、報告者は論文を熟読して、その要約と論評をメモしたレジュメを作成して報告する。報告者以外の者も、論文の論評メモを提出し、それをもとに議論を進める。日本史学への基礎知識を広め深めるとともに、学術論文というものの内容や形式に習熟することで、卒業論文への一歩とする。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	学生の発表主体の授業		
評価方法	発表（60%） 討論（40%）		
到達目標	・日本の古代から近現代史についての最新の学説を理解する。 ・論文の読解能力を鍛えるとともに、調べる力、発表する力を養う。		
授業時間外学習	・毎回、事前に配布された論文を全員が読んでくる。 ・発表者は、レジュメを用意する。レジュメには以下の内容は最低限載せる必要がある。 ・発表の日付、発表者の名前、授業名 ・発表論文の書誌事項 ・著者の略歴 ・全体の要約 ・難しい語句や人物・場所などについて、辞書や専門書を読んで調べる。 ・発表者以外は前日までに、教員に論文の感想をメールで提出する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・報告者は分からない用語、むずかしい言葉などを積極的に調べたうえで、論文をまとめたい。
・論文を読んで、よく分からない箇所があれば、そこが非常に重要だ。分からないのは、読み手に原因がある場合と、書き手に原因がある場合があるが、執筆論文の問題点がそこから浮上することがよくある。恥ずかしがらずに、分からないところは「分からない」と率直に言えるようになろう。すべては、そこから始まる。

授業スケジュール

1.歴史学と論文読解
2.先輩の論文を読む
3.女性史の論文を読む
4.文化史の論文を読む
5.宗教史の論文を読む
6.戦国史の論文を読む
7.幕末史の論文を読む
8.民衆思想史の論文を読む
9,古代中世史像についての論文を読む
10.奈良時代についての論文を読む
11.平安時代についての論文を読む
12.鎌倉時代についての論文を読む
13.室町時代についての論文を読む
14.中世女性史についての論文を読む
15.戦国時代についての論文を読む

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020122
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	日本史の諸問題につき論文講読演習を行う。古代から近現代にいたる主要な論文をとりあげて、報告・討論を行う。事前に報告担当者を当てておくので、報告者は論文を熟読して、その要約と論評をメモしたレジュメを作成して報告する。報告者以外の者も、論文の論評メモを提出し、それをもとに議論を進める。日本史学への基礎知識を広め深めるとともに、学術論文というものの内容や形式に習熟する。		
教材（教科書）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	プリントを適宜配付する。		
評価方法	課題に対する発表（40%）および授業での発言や貢献度（60%）		
到達目標	・日本の古代から近現代史についての最新の学説を理解する。 ・論文の読解能力を鍛えるとともに、調べる力、発表する力を養う。		
授業時間外学習	・事前に配布された論文を、十分に読み込んでおく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・報告者は分からない用語、むずかしい言葉などを積極的に調べたうえで、論文をレジュメにまとめる。
・報告者以外の者は、論文の論評メモを事前にメールで送付する。
・論文を読んで、よく分からない箇所があれば、そこが非常に重要だ。分からないのは、読み手に原因がある場合と、書き手に原因がある場合があるが、執筆論文の問題点がそこから浮上することがよくある。恥ずかしがらずに、分からないところは「分からない」と率直に言えるようになろう。すべては、そこから始まる。

授業スケジュール

1.歴史学と論文読解
2.古代中世史像についての論文を読む
3.奈良時代についての論文を読む
4.平安時代についての論文を読む
5.鎌倉時代についての論文を読む
6.室町時代についての論文を読む
7.中世女性史についての論文を読む
8.戦国時代についての論文を読む
9. 先輩の論文を読む
10.戦国史の論文を読む
11.文化史の論文を読む
12.宗教史の論文を読む
13.女性史の論文を読む
14.幕末史の論文を読む
15.民衆思想史の論文を読む

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020123
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
授業概要	３回生の春学期に開講される民俗学コース専門ゼミAは、３つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全３回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、歴史民俗学を構成する各分野の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門演習の変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	自分が追求しようとしているテーマに沿った専門的な論文を探して来て、まずは先行研究としてレジュメにまとめ、パワーポイントも作成し、それによって全体にプレゼンテーションを行う。それに対して形式の不備の指摘や、テーマ設定や方法についての質問、アドヴァイス等がなされる。 発表者はそれを単に聞くだけでなく、必ず訂正等をメモし、その次の発表に備えなくてはならない。		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
授業時間外学習	演習前の研究計画書の作成と提出。テーマ設定のための読書、フィールドワークと討論の心構えと準備。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
民俗学、文化人類学、口承文芸論、質的調査法、歴史地理学など、基礎的な関連科目を受講しておくこと。 先行研究の論文を探す時は、どのような調査を行ってその結論に達したのか、具体的にわかりやすい論文を見つけること。具体的な調査法が読みとれれば、自らが調査する時に役立つことになる。そのためには、できるだけ多くの論文に目を通さなければならない。			
授業スケジュール			
1　スケジュールの発表 ２～14　歴史民俗学専攻３回生の発表と討論、 15　卒業研究の文献調査とフィールドワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020124
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	歴史文化学科の京都文化学コースの 3 回生ゼミである。 年代的には江戸時代を中心に、戦国期から明治までを扱う。文化の諸相、政治経済、から芸術文化、工芸美術、芸能までを扱う。 A では、京都関係の地図や資料、参考書を紹介するが、 どのように利用したらよいか、読みながら授業を進めていく。		
教材（教科書）	プリントを配布する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	毎回担当者を決めて発表してもらう 基本的に１回を２名で担当する。		
評価方法	担当箇所の読解や発表、質問などを評価する。		
到達目標	江戸時代の資料が読み解けるようになること。 自分が生きている時代以外の、歴史上の社会のありようを洞察することができるようになること。 合理的なものの考え方ができるようになること。		
授業時間外学習	なるべく多くの歴史に関する本を読んでおくこと。 京都の地図を見て大体の地名を知っていること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
テーマをきちんと調べてくること。 大きな声で発表すること。			
授業スケジュール			
1　京都市史　新修京都叢書から 2　聚楽第と二条城 3　江戸初期の京都 4　後水尾上皇 5　京都の美術や工芸 6　近世京都の文芸 7　近世京都の絵画史 8　遊郭の変遷 9　大石内蔵助と一力茶屋 １０　本居宣長と京都 11　安政の大獄 １１　新撰組の歴史 １２　禁門の変 １３　薩長同盟 １４　幕末の京都地図 １５　維新と豪商			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020125
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	大学で最も重要な３回生の演習である。 授業で取り扱う内容はふたつある。ひとつは「語学」。江戸時代初期の安原貞室『かたこと』を扱う。この書は、京都の市井のことばに焦点を当て、乱れたことばを指摘して、それを正すことを目的として書かれた画期的な書物である。ことばの規範や方言研究にも役立つものである。 ふたつめは「秦氏の研究」である。これは主として歴史に興味のある人を対象としている。本学が根拠知とする太秦にゆかりの秦氏について深く研究する。 学生は、いずれかのテーマを選択し、それについて学期中に一度は発表してもらう。発表ができなかった者についてはレポートの提出をもってそれに代える。		
教材（教科書）	適宜紹介する。 また、指定図書にも配置する予定である。		
教材（参考資料）	白木進『かたこと』（笠間選書） 井上満郎『秦河勝』（吉川弘文館）		
教育方法	発表形式。		
評価方法	発表した者は発表の内容、発表しなかった者はレポートで判定する。１００％		
到達目標	しっかりしたプレゼンテーションができ、それに向けての予備調査ができる。		
授業時間外学習	授業終了時に進捗状況を確認しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講条件　なし 受講のルール　私語厳禁 学習上の助言　こつこつと手足を使って調査すること。			
授業スケジュール			
１．概要の説明 ２．既存研究の解説 ３．発表 ４．同上 ５．同上 ６．同上 ７．同上 ８．同上 ９．同上 １０．同上 １１．同上 １２．同上 １３．同上 １４．同上 １５．同上			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020126
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	３回生の春学期に開講される民俗学コースの専門ゼミAは、３つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全３回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、民俗を研究対象とする様々な学問の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門演習の変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	適宜紹介		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
授業時間外学習	研究計画書の作成と提出。テーマ設定のために指定された学術論文を読んで、まとめておくこと。発表に関するフィールドワークと他のゼミ生の発表に対する討論の心構えと準備。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と積極的な討論を望む。			
授業スケジュール			
１　スケジュールの発表 ２～14　歴史民俗学専攻３回生の発表と討論、 15　卒業研究の文献調査とフィールドワーク			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	J82020127
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	卒業研究を作成するための力をつける。卒業研究のテーマの決め方・論文の書き方などを指導する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	担当外の授業での質問・発言・議論等（40%） 担当時の発表（60&）		
到達目標	卒業研究に向けて、各自の扱う作品・テーマを絞り込む。		
授業時間外学習	関心のある分野について情報検索の方法や主要参考文献などを調べておくこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。			
授業スケジュール			
講義日程は、受講生の数により柔軟に対応する。 1 卒業研究について 2　資料の集め方 1 3　資料の集め方 2 4　論文の書き方　仮説検証型 5　論文の書き方　調査報告型 6～14　卒業研究の実際（過去の例・他大学の卒業論文・参考論文などを読む） 　　この間に個々の卒業研究テーマ聞き取り・発表 15　今後の計画作成			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J82020128
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	3回生の春学期に開講される民俗学コースの専門ゼミAは、3つのゼミの全体演習とし、全担当教員、全3回生が参加する前で、受講生各自が卒業研究のテーマ設定、あるいは採用する方法論を発表し、その適切性について討論します。その上で、民俗学を構成する各分野の方法論やテーマ設定のあり方等を学び、適切な卒業論文への問題設定の立て方を学びます。したがって発表後に専門ゼミの所属変更、あるいは方法論やテーマの変更を求めることがあります。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
授業時間外学習	演習前の研究計画書の作成と提出。テーマ設定のための読書、フィールドワークと討論の心構えと準備。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と積極的な討論を望む。			
授業スケジュール			
1.スケジュールの発表 2.民俗学コース3回生の発表と討論 3.民俗学コース3回生の発表と討論 4.民俗学コース3回生の発表と討論 5.民俗学コース3回生の発表と討論 6.民俗学コース3回生の発表と討論 7.民俗学コース3回生の発表と討論 8.民俗学コース3回生の発表と討論 9.民俗学コース3回生の発表と討論 10.民俗学コース3回生の発表と討論 11.民俗学コース3回生の発表と討論 12.民俗学コース3回生の発表と討論 13.民俗学コース3回生の発表と討論 14.卒業研究の文献調査とフィールドワーク 15.卒業研究の中間発表会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020129
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	「専門ゼミ D」で提出を求める卒業論文の作成に向けたゼミである。２回生までに得た国際金融と国際経済の知識と関心をもとに、受講生が自らテーマを選定し、資料作成や報告を行う。また、報告に対して受講生主体で討論を行う。資料作成や報告、討論を行うことを通じて、各受講生が予定する卒業論文の全体像を構想することができるようになることを目的とする。また、特に討論を行うことを通じて、卒業論文の全体構想だけでなく、主体的学びができるようになることも目的とする。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	適宜指定する。		
教育方法	学生が選定したテーマについて妥当か指摘し、資料作成のポイントを指導する。また、報告や討論の仕方についても随時指導する。		
評価方法	報告態度：３０％、討論への参加：３０％、課題への取り組み：４０％。		
到達目標	1. 自分で資料を収集できるようになる。 2. 収集した資料をもとに意見を述べることができ、論文を作成する能力を身につけることができるようになる。 3. 討論を通じて主体的学びができるようになる。		
授業時間外学習	資料作成や報告で指摘されたことは、次のゼミの時間までに修正しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 国際金融論、国際経済入門、国際経済学を事前に履修（または同時登録）して内容を理解しておくことが望ましい。
2. 遅刻や私語は厳禁とする。
3. トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい。
4. 資料の収集・作成も行うが、報告主体でゼミ運営を行うので、報告義務をきちんと履行することを求める。履行しない場合、厳正な対処を行うので注意すること。

授業スケジュール

1. ガイダンス
2. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成①
3. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成②
4. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成③
5. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成④
6. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成⑤
7. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成⑥
8. 報告と討論①
9. 報告と討論②
10. 報告と討論③
11. 報告と討論④
12. 報告と討論⑤
13. 報告と討論⑥
14. 報告と討論⑦
15. 報告と討論⑧

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J82020130
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	日本では今、少子・高齢化が急速に進むとともに人口が減少しており、それによって、社会保障（年金、医療、介護など）をはじめとする様々な分野で深刻な問題が発生している。 そこで、この「専門ゼミA」では、上記のテーマについての基礎知識の修得に努めてもらうとともに、「読み」、「書き」、「話す」力を磨くことに重点を置く。 なお、授業の時間の一部を使って、時事問題についての解説やそれに関する討論を行うことがある。		
教材（教科書）	各自の選択したテーマに応じて収集すること。		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに応じて収集すること。		
教育方法	毎回数名の担当者を決めて、レジュメを使ったテキストの要約報告（発表）を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。担当教員は、それらについて解説や助言を行う。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	現代の経済・社会問題に対して自らの視点から意見を述べられること。		
授業時間外学習	新聞・テレビ等で報道される様々な経済・社会問題に日ごろから注意を払うこと。 スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。 参考文献を熟読し、レジュメにまとめておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の３分の１以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。
・毎回必ず１回以上発言（質問等）をすること。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。
・「社会政策入門」の単位を未取得の場合は、今学期履修すること。

授業スケジュール

1.イントロダクション：ゼミの内容・方針・進め方について
2.各自の学習テーマの決定
3.各自の学習テーマの概要・主要参考文献についての報告(1)
4.各自の学習テーマの概要・主要参考文献についての報告(2)
5.各自の学習テーマに関する報告(1-1)
6.各自の学習テーマに関する報告(1-2)
7.各自の学習テーマに関する報告(1-3)
8.各自の学習テーマに関する報告(2-1)
9.各自の学習テーマに関する報告(2-2)
10.各自の学習テーマに関する報告(2-3)
11.各自の学習テーマに関する報告(3-1)
12.各自の学習テーマに関する報告(3-2)
13.各自の学習テーマに関する報告(3-3)
14.各自の学習テーマに関する報告(3-4)
15.今学期のまとめと来学期に向けて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020131
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
授業概要	私たちはどんなコミュニケーションを行なっているのか、現代社会はどんなコミュニケーションを行なう社会なのかという視点から、現代社会を考える。 3 回生の春学期は、手始めに簡単な調査を行なう。1.大学生はどんなメディアを利用しているか、2.大学生はポピュラー文化に対してどんな接し方をしているかを調べることなどをテーマとし、そこから、私たちがどんな社会に住んでいるかを考える。発表と簡単なレポートの提出を予定している。		
教材（教科書）	なし。プリント教材を講義中に配付する（京学なびにも掲?する）。		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	配付した資料に基づき、共同作業を通して調査を行なう。調査結果をまとめ、発表とディスカッションを行なう。		
評価方法	調査、分析等の平常点（70%）、発表原稿、ポスター等の成果物（30%）		
到達目標	指定された方法にしたがって調査票調査が行なえる。 指定された方法にしたがってドキュメント分析が行なえる。		
授業時間外学習	各回の 3 日前までに、京学なびにプリント教材を掲載するので、よく読んでおくこと。 調査票調査の実査は各自時間外に行なう。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

演習への積極的な参加を求める。 2 回生のときに「社会調査法 I」「II」の単位を取得していない場合は、年度内に履修すること。「コミュニケーション社会学」を履修すること。

授業スケジュール

《ガイダンス》
1. この科目のねらい、スケジュール、調査倫理等の概説

《量的調査によるメディア利用調査》
2. 調査票調査概説
3. 質問文を考える
4. 調査票作成、実査方法の解説
5. エディティング・コーディング
6. 集計と考察
7. 発表原稿の作成
8. 発表とディスカッション

《質的調査によるポピュラー文化接触調査》
9. ドキュメント分析調査概説
10. 調査の枠組みを考える
11. カードの作成
12. 考察
13. ポスター製作(1)
14. ポスター制作(2)

《ガイダンス》
15. ふりかえり、専門演習 B までの準備

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★★	−	★	−	★

年度	2018	授業コード	J82020132
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
授業概要	市民が「こころ」のよりどころとできるようなまち、地域の資源、芸術文化や生活財とはどのようなものだろうか。市民がそれらをもてるようになるために有効な具体的課題の設定から、その解決までを一貫して実施していく。社会調査をふまえた提言や施策の立案、広報などのコミュニケーション活動を実地に行う。京都や亀岡の地域や特定の事業体との連携を行うなど、教室と学外双方での活動をめざす。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	・J.W.ヤング、今井茂雄訳『アイデアのつくり方』、竹内均解説、CCC メディアハウス、1988 年 ・石井淳蔵『ブランド――価値の創造』、岩波新書、1999 年 ・『デザインで地域を元気にする――プロジェクトと仕掛人たち』、パイインターナショナル、2015 年 ・岡檀『生き心地のよい町――この自殺率の低さには理由（わけ）がある』、講談社、2013 年 ・伊藤香織・紫牟田伸子監修、読売広告社都市生活研究局『シビック・プライド』、宣伝会議、2008 年		
教育方法	各受講生の関心に沿ったテーマを立て、個別発表を進めるとともに、ゼミ生全員で共通のテーマについて発表・ディスカッションを行う。適宜プリントや映像資料を活用する。		
評価方法	毎回の演習への出席とプロジェクトへの参加：60%、プロジェクトの成果物やレポート：40%		
到達目標	1）地域の人びとや学外の専門家・活動者と出会い、インタビューやさまざまな共同作業を通じて課題解決のプロジェクトを企画・立案したり、その運営や成果達成を自分たちの手で行えるようにする。 2）社会学やメディア論、地域づくり事例など必要な文献を読み、上記のプロジェクトへの参加を通じて、4 回生で執筆する卒業研究のテーマを各自が立てる。		
授業時間外学習	地域づくりや特産物の開発、広報活動、ブランド開発などの実施事例について文献やホームページなどで積極的に情報収集しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ゼミ生全員がプロジェクトに参加し、学内外での活動を行うため、授業の出席だけではなく、調査の設計や実施、施策や広報物づくりなど、わりあい多くの共同作業が発生する。ゼミ生とのコミュニケーションをいとわず、課外の時間もあてられる学生の受講を希望する。友人がこの演習を選ぶからではなく、テーマに対して自分自身の問題意識を持てる人に来てほしい。

授業スケジュール

第 01 回：オリエンテーション
第 02 回：プロジェクトの実施に必要な基礎知識の学習（1）
第 03 回：プロジェクトの実施に必要な基礎知識の学習（2）
第 04 回：学外連携先との顔合わせ
第 05 回：プロジェクトの課題設定と分担の決定
第 06 回：インタビュー、アンケートなどの調査設計（1）
第 07 回：インタビュー、アンケートなどの調査設計（2）
第 08 回：調査の実施（1）
第 09 回：調査の実施（2）
第 10 回：調査結果の集計・まとめ（1）
第 11 回：調査結果の集計・まとめ（2）
第 12 回：調査結果の分析
第 13 回：調査結果の分析にもとづく施策や広報活動の仮説づくり
第 14 回：仮説にもとづくプロジェクトの実施計画づくり
第 15 回：春学期のふりかえり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	−	−	★	−

年度	2018	授業コード	J82020133
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
授業概要	現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究の成果を発表する。それに関して全員で議論をおこない、理解を深める。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースについても研究する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	授業時に指示する。		
教育方法	受講者のテーマに沿った研究内容の報告を受け、それについて全員で議論する。議論の結果、深まった内容を文章にまとめる。		
評価方法	平常点と、発表とレポートによる。		
到達目標	ゼミの共通テーマを理解する。 自分の研究テーマを決める。		
授業時間外学習	1. 自分の社会学的な関心について 200 字程度でまとめておく。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、ゼミの見通しを付けておくこと） 2. 配付資料 No.1「家族の歴史」 3. 配付資料 No.2「現代の家族」 4. 配付資料 No.3「地域社会・大都市」 5. 配付資料 No.4「地域社会・地方都市」 6. 配付資料 No.5「教育」 7. 配付資料 No.6「学校教育」 8. 配付資料 No.7「日本の企業」 9. 配付資料 No.8「日本の企業の変化」 10. 配付資料 No.9「労働と社会」 11. 配付資料 No.10「資本主義社会」 12. 配付資料 No.11「国家と政治」 13. 配付資料 No.12「国家と基本的人権」 14. 配付資料 No.13「メディアの特質」 15. 配付資料 No.14「現代のメディア」		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的に参加してほしい。

授業スケジュール

１．ガイダンス
２．家族の歴史
３．現代の家族
４．地域社会・大都市
５．地域社会・地方都市
６．教育
７．学校教育
８．日本の企業
９．日本の企業の変化
１０．労働と社会
１１．資本主義社会
１２．国家と政治
１３．国家と基本的人権
１４．メディアの特質

１５．現代のメディア

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020137
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	本専門ゼミA～Dは学生が会計学の視点から物事を考え、問題の発見、解決能力を身に付け、最終的にはレポート、報告書の作成を目的としている。 そのためには、まず、専門ゼミAでは、指定した教科書、資料の輪読・発表を通じて、レポートや論文の作成方法を身に着け、会計学の理論的な基礎を復習する。 専門ゼミBでは、学生が自らの興味ある会計学の領域において、各自で教科書、参考資料の該当箇所を精読し、レポートを作成した上発表を行い、卒業論文のテーマを探す。 専門ゼミCでは、学生が各自の関心ある社会現象について、資料を収集し、調査研究を行い、会計学の視点から、問題を指摘し、解決策を試みる。 専門ゼミDでは、専門ゼミCの成果に基づき、報告書か、卒業論文を作成する。		
教材（教科書）	授業中に適宜指示する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する		
教育方法	事前に指定した教科書の該当箇所や参考資料を熟読し、各自にレポートを作成してもらいます。毎回担当者を指定し、授業中発表してもらいます。質問やコメントをすることで、学生の理解度をチェックし、必要な箇所について重要なポイントを説明します。		
評価方法	ゼミへの積極的参加（60%）、発表成果物の質（40%）		
到達目標	レポートや論文の作成方法を身に着け、会計学の視点でレポートを作成できる。		
授業時間外学習	※発表者のみならず、発表しない人も事前に該当箇所を予習し、ディスカッションの準備をしてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

※会計学入門、簿記原理等の関連授業を事前に履修してください。
※授業に積極的に参加し、主体的な勉強を通じて課題の発見能力と解決能力を身に付けてください。

授業スケジュール

11.　オリエンテーション：ゼミの概要、勉強方法の説明、テキストの指示
2.　レポート・論文の特徴
3.　資料収集、テーマを探す方法
4.　レポート・論文の文体、用語＋Word の使用法
5.　レポート作成練習①
6.　レポート・論文の構成＋Word の使用法
7.　レポート作成練習②
8.　図表の利用＋Word、Excel の使用法
9.　レポート作成練習③
10.　発表の仕方＋PPT の使用法
11.　ディスカッションの方法と練習
12.　会計基礎知識の復習①　会計の仕組み
13.　会計基礎知識の復習②　発生主義会計の原理
14.　会計基礎知識の復習③　財務諸表の読み方

１５．　専門ゼミＡの内容の復習、今後の学習計画の提示

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J82020138
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	本演習では、企業の人的資源管理論に関する知識を身に着けること、組織行動論の基礎知識を身に着けること、様々なデータを通じて我が国の雇用政策についての知識を身に着けることを目指します。例えば、「企業はどのような仕組み・ルールで労働者を管理しているのか」（人的資源管理論）や「労働者はいかにして動機づけられるのか」（組織行動論）、「日本の就活の特徴、海外との違いは何なのか」（雇用政策）などに関する知識を身に着けてもらいます。 専門ゼミ B 以降は、個々人（あるいはグループ）が興味を持つトピックについてリサーチを行ってもらいますので、そのための基礎知識・技法を身に着けることを念頭に置きます。 また、テキストや配布資料について個人あるいはグループで内容要約・プレゼンテーションを行うことで、統計をはじめとする各種資料･事例を読み取る基礎力やコミュニケーション能力を身に着けてもらいます。		
教材（教科書）	守島基博著　『人材の複雑方程式』日本経済新聞出版社、2010 年 その他は適宜指示し、配布します。		
教材（参考資料）	スティーブン.P.ロビンス（著）・髙木晴夫（訳）『【新版】組織行動のマネジメント―入門から実践へ』ダイヤモンド社、2009 年 今野浩一郎『人事管理入門』（日経文庫） その他のものについては、適宜指示します。		
教育方法	学生の発表を主にしつつ、適宜講義形式での授業を行う。		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、小課題の評価（20%）、発表及びレポート評価（30%） ・欠席しないこと。欠席は減点します（出席は当然ですので加点しません）。特に、無断欠席や報告放棄は“大幅な”減点とします。 ・成果物の締切は厳守すること。締切を過ぎたものは一切受け付けません。 ・グループワークにおけるタダ乗りやディスカッションでの無発言・居眠りも減点対象です。		
到達目標	・人材マネジメントや組織行動論に関する知識を身に着けるとともに、その知識をもとに自身の視点から説明できる。 ・事例を分析することやデータの読み取りができる。		
授業時間外学習	・Word 及び PowerPoint の基礎的な使用方法を習得しておくこと。 ・「次回までに行うべきこと」が指示された場合は、しっかりと準備すること。課題は所定の期日までに提出すること。個人リサーチやグループワークが授業時間内で終わらなかった場合は、授業時間外にそれらに取り組むこと。また、発表担当時は責任をもって発表を行うこと。 ・テキストは必ず購入し、一人 1 冊持つこと（自宅などでの報告準備などもあると思いますので、友人同士のシェアはお勧めしません）。 ・教員からの諸々の連絡は、基本的に、電子メールによって行います。大学メールアドレスをこまめにチェックするようにして下さい。 ・「経営組織論」「人的資源管理論」が履修済み（履修予定）であると望ましい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・ゼミ活動に積極的に参加すること。
・モノ・コトの内容を論理的に理解するように努力すること。
・「経営組織論」「人的資源管理論」が履修済みである（あるいは並行して履修される）と理解が進むと思います。
・「企業の事例を調べる」「各種統計データを読み取る」の 2 点がゼミ活動におけるキー活動となります。それらに対して苦手意識がない、あるいは苦手意識を克服しようと思えること。
・レポート（Word）や報告スライド（PowerPoint）などの資料を保存する媒体として USB を各自用意すること（4GB 程度で問題ありません）。

授業スケジュール
1.オリエンテーション：本授業の説明（授業の目的・進め方）、グループ分け、グループ別の担当決定 2.グループワーク①：担当箇所についての発表、ディスカッション 3.グループワーク②：担当箇所についての発表、ディスカッション 4.グループワーク③：担当箇所についての発表、ディスカッション 5.グループワーク④：担当箇所についての発表、ディスカッション 6.グループワーク⑤：担当箇所についての発表、ディスカッション 7.グループワーク⑥：担当箇所についての発表、ディスカッション 8.人材マネジメントにおける課題や論点の整理① 9.個人報告①：発表、ディスカッション 10.個人報告②：発表、ディスカッション 11.個人報告③：発表、ディスカッション 12.個人報告④：発表、ディスカッション 13.個人報告⑤：発表、ディスカッション 14.個人報告の総括 15.人材マネジメントにおける課題や論点の整理②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020141
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
授業概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索できるようになる。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生の春学期は主に文献探索を行い、秋学期で各自の研究計画をたてて社会心理学上級実験で実験・調査を実施し、その研究成果を発展させて４回生の専門ゼミＣ・Ｄで卒業研究を行うことになる。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	極端化する社会　有馬著　北大路書房 参考文献は無料で配布する		
教育方法	Edmodo を通じて教材配布と課題提出を行う		
評価方法	平常点（40%)と、発表(20%)、提出物(40%)により評価する。		
到達目標	文献を読みこなした上で、新たな観点から研究を企画する力を養うことを目的とする。		
授業時間外学習	社会心理学Ⅰ・Ⅱ、集団心理学を履修のこと 授業終了後、読むべき文献を指示するので、発表の日までにレジュメを作成しておくこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
授業スケジュール			
第１回　オリエンテーション 第２回　授業で使うアプリ・ツールの使い方 第３回　図書館ツアー　文献の探し方 第４回　社会心理学重要から興味のあるトピックス選択 第５回　社会心理学重要研究まとめ 第６回　社会心理学重要研究発表１ 第７回　社会心理学重要研究発表２ 第８回　文献探索の方法 第９回　文献リストの作り方 第10回　レジュメの作成 第11回　文献発表　1 第12回　文献発表　2 第13回　文献発表　3 第14回　文献発表　4 第15回　振り返り、夏休みの課題確認			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020142
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	臨床心理学はその専門家になる人にだけでなく、広く対人援助を志したい人、職業生活や日常生活での対人関係をより豊かなものにしていきたい人にとって、役に立つ学である。そしてその学の実践は「自分」が行なっていくのであり、そのためにはよく勉強し、その学を一定以上身につけなければならない。この演習によって、とくに発達臨床心理学領域における基本的知識が定着したり、それらに関連する社会的に重要なテーマについての認識が拡がる。扱われるテーマについては臨床心理学と直接の関連は薄いように思われるものも含まれるかもしれないが、世の中のことはすべて人間にかかわっている以上、心理学の対象である。また、対人援助系のボランティア等の募集が当ゼミにはよく届けられる。そのような社会的活動の機会を自分のために積極的に活かすことができる。この科目は 2018 年度以降の入学生については公認心理師対応科目となり、開講年度に科目名とシラバスが改定される。なお、公認心理師対応科目の詳細については、別途、公開する予定である。		
教材（教科書）	使用しない。必要に応じてプリント類を配布する。		
教材（参考資料）	授業で紹介する。		
教育方法	学生と教員がやりとりしながら進める。		
評価方法	受講態度などの平常点（５０％）、授業内課題への取り組みの評価点（５０％）。		
到達目標	どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての自己評価が少しでも上がる。		
授業時間外学習	前回行なった内容について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。また、とくに「人間模様」に関する事柄にかんして、読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

春学期に開講する「発達臨床心理学」「福祉心理学」を必ず受講してほしい。提供されたテーマに対して積極的に取り組んでほしい。受け身だけでは身につくものも身につかない。

授業スケジュール

1.オリエンテーション、個別面談(修学・進路等)
2.知り合うセッション
3.各自によるプレゼンテーション(A グループ)
4.同(B グループ)
5.テーマディスカッション(子ども関係他の時事問題)
6.同(家族関係他の時事問題)
7.日本語ワーク(一般教養)
8.体験学習(コミュニケーション)
9.英語ワーク(日常英単語)
10.日本語ワーク(対人マナー)
11.体験学習(対人マナー)
12.英語ワーク(日常英文)
13.テーマディスカッション(発達障害関係他の時事問題)
14.同(児童虐待関係他の時事問題)
15.個別面談(進路・卒業研究)
※以上については、内容や順序の変更があり得る。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J82020143
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	臨床心理学、深層心理学の文献購読及び発表を通して、文献を精読してまとめて発表する方法を身につけるとともに、臨床心理学、深層心理学の基礎的な知識を習得する。特に専門ゼミAでは、『子どもの宇宙』で取り上げられている児童文学を通して、人間の深い理解を試みる。登録者の人数にもよるが、心理療法についての文献以外にも物語、神話、昔話、小説、映画（アニメも含む）なども取り上げながら、人間の理解を深める。		
教材（教科書）	河合隼雄著　子どもの宇宙　岩波新書		
教材（参考資料）	河合隼雄著　ユング心理学入門　培風館 他にも必要に応じて随時紹介をする。		
教育方法	テキストの内容を担当を決めて発表、それを元に全員で討論を行う。		
評価方法	平常点：討論への参加状況など（50%） 発表及びその内容をまとめたレポート　（50%）		
到達目標	到達目標 専門ゼミA、Bを通して 1）興味・関心ある文献を選び、精読し、内容をまとめて発表できるようにする。 2）口頭で発表した内容をレポートとしてまとめる。 上記1）2）を通して研究の方法の基礎を身に付ける。 自分の考えを人に伝えたり、人の意見に耳を傾け、討論ができるようにする。		
授業時間外学習	討論に積極的に参加できるように、次の発表内容に関する文献には目を通す。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

読書重視のゼミである。
教材としては『子どもの宇宙』で取り扱われている児童文学と臨床事例が中心となるが、内容的には心理臨床に対しての基本的な姿勢、見方について学ぶため、その覚悟を持って受講すること。

授業スケジュール

注）履修者の人数によって内容は変わりうる。
1　オリエンテーション：演習の運営方法について話し合いの上決定。各人の興味や関心について、発表の順番決定など。
2　『子どもの宇宙』　第1章　子どもと家族　発表および討論
3　家族とは？
4　『子どもの宇宙』　第2章　子どもと秘密　発表および討論
5　秘密を持つことの心理学的意味
6　『子どもの宇宙』　第3章　子どもと動物　発表および討論
7　動物のもつ象徴的意味・心理学的意味
8　『子どもの宇宙』　第4章　子どもと時空　発表および討論
9　心理臨床学的視点から見た時間と空間
10　『子どもの宇宙』　第5章　子どもと老人　発表および討論
11 子どもと老人の関わりをテーマにした児童文学を読む
12　『子どもの宇宙』　第6章　子どもと死　発表および討論
13　児童文学とビデオを通して、「死」について考える
14　『子どもの宇宙』　第7章　子どもと異性　発表および討論
15　『子どもの宇宙』全7章全てを通しての討論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020144
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
授業概要	各自のテーマにそって文献を探し、発表する。聞く方は、必ず発表者に対して感想や意見を言うことを通して、さらに自分の考えを深めるようにする。		
教材（教科書）	特になし　適宜指示する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	ゼミ形式で行う。		
評価方法	授業への積極的な参加、責任のある態度、学ぼうとする姿勢		
到達目標	各自の興味のあるテーマをさらに深めること。他者に自分の意見をつたえられること。		
授業時間外学習	日ごろから、心理療法に関する文献などに注意し、積極的に自分で読んでみること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ゼミ生が中心になって学んでいく授業です。積極的に参加して下さい。

授業スケジュール

1,オリエンテーション
2,個別面談・文献購読　ユング
3,個別面談・文献購読　精神分析
4 子どものセラピー・事例
5 大人のセラピー・事例
6 思春期のセラピー・事例
7 青年期のセラピー・事例
8 各自のテーマに沿って発表
9 各自のテーマに沿って発表,
10 各自のテーマに沿って発表
11 各自のテーマに沿って発表
12 各自のテーマに沿って発表
13 各自のテーマに沿って発表
14 各自のテーマに沿って発表
15 各自のテーマに沿って発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020145
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
授業概要	1 臨床心理学に関する基礎的な知識を身につけ、論文が読めるようになる。 2 卒業研究を視野に入れ、論文の形式やテーマの設定方法、心理学的研究法の応用の仕方、先行研究の調査方法などを理解する。 　上記の課題達成のため、臨床心理学・精神医学の文献購読を実施し、論文を読みこなしてまとめられるようにする。		
教材（教科書）	市橋秀雄　『心の地図　こころの障害を理解する　上・下』星和書店		
教材（参考資料）	必要な図書は、授業中に適宜指示する。		
教育方法	受講生がテキストを分担して発表する。臨床心理学的体験を希望する場合は、適宜実施する。		
評価方法	授業中の発表(50%)　レポート(50%)		
到達目標	臨床心理学に関する基礎的な知識や技法を身につけると共に、自分の興味関心を研究へと結びつける枠組みを作り上げる。		
授業時間外学習	毎時間、次回の発表範囲が決定されるので、その内容をレジュメとしてまとめる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講条件 　臨床心理学Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること。 学習上の助言 　自分の興味に応じて、教科書の内容に留まらず、積極的にさまざまな文献を読むことが望ましい。			
授業スケジュール			
1. 専門ゼミ A の運営方針について－－オリエンテーション 2. 就職ガイダンス 3～7. こころの地図　上巻講読・発表　乳幼児期～児童期 8. 学習と進路について 9～11. こころの地図　上巻講読・発表　青年期　1 12. 学習と進路について 13～14. こころの地図　上巻講読・発表　青年期　2 15. 総合的検討			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020146
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
授業概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。取り上げるテーマは受講生からの希望を勘案して決定するが，次のようなものが考えられる。 (1)人間の思考の特性とそのモデル (2)認知の中での記憶の役割 3 回生春学期では，演習を進めるための基本的知識を身につけるとともに，専門分野の論文を読み解く基礎力を身につける。そのために，認知心理学の基本的な枠組みや，取り上げうるトピックに関する基本的な文献の購読を行う。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	各回の担当の学生の発表と，それに対する討論を中心に，演習形式で授業を進める。		
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と期末レポート(30%)によって評価する。		
到達目標	心理学論文を，批判的に読解することができる。 心理学論文の内容を理解し，演習で他の受講生が理解できるように報告することができる。 演習で他の受講生の発表を理解し，討論に参加することができる。		
授業時間外学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。その他の学生も，テーマとなる文献等を事前に読んだうえで授業に出席すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。			
授業スケジュール			
1. 受講生各自の興味の確認とテーマ設定 2. 心理学論文の種類と収集方法 3. 心理学論文の読み方(1) 4. 心理学論文の読み方(2) 5. 心理学論文の読み方(2) 6. 発表の準備方法 7. 研究発表をする(1) 8. 研究発表をする(2) 9. 論文を批判的に読む(1) 10. 論文を批判的に読む(2) 11. 論文を批判的に読む(3) 12. 文献購読と発表・討論(1) 13. 文献購読と発表・討論(2) 14. 文献購読と発表・討論(3) 15. 学期の学習内容の整理			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020147
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
授業概要	本演習では，「感情」と「制御」を主たるテーマとして，それらに対する実証的なアプローチに関する基礎的な知識の獲得を目指す。受講者は，感情あるいは制御に関する学術論文の中から，自らが興味深いと感じたものを選択し，それを精読したうえで，パワーポイントを用いて発表を行う。他の受講者は，発表内容に関するディスカッションペーパーを作成し，議論を行う。 3 回生の春学期は，感情あるいは制御に関する学術論文の読解・内容の発表を通して，卒業研究に向けた基礎的な知識と，論理的思考やプレゼンテーションなどのスキルを獲得する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	杉山 崇・丹藤 克也・越智 啓太（編著）　記憶心理学と臨床心理学のコラボレーション　北大路書房 丹野義彦・坂本真士　自分のこころからよむ臨床心理学入門　東京大学出版会		
教育方法	－		
評価方法	演習発表（50%）と，議論への参加の程度・内容（50%）を評価する。		
到達目標	学術論文の内容を理解することができる。 読解した文献の内容をまとめ，発表することができる。 他者の発表を聴き，発表内容を理解し，疑問点について質問できる。		
授業時間外学習	発表担当者は，自分の発表に向けて計画的に準備し，発表にのぞんでもらいたい。また，発表を聴く立場にある学生は，事前に資料を読み，発表内容についての疑問点をまとめておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「感情」と「制御」について，データに基づいた卒業研究（実験・調査）を行うことを目指す学生の受講を望む。また，全 15 回の演習に遅刻・欠席なく参加することを前提とする。やむを得ず欠席する場合は，事前に担当教員に連絡すること。事前に心理統計学の授業を履修済みであることが望ましい。
演習では受講者に意見を求める機会を設ける。また，ディスカッションや発表を課す場合がある。各課題への積極的な参加を求める。

授業スケジュール

1. オリエンテーション 1 (授業概要の説明，興味のある研究テーマの説明，発表担当回の決定)
2. オリエンテーション 2 (発表方法・論文の検索方法の確認，論文検索の演習)
3. 全体での論文購読演習・ディスカッション①―序論・方法―
4. 全体での論文購読演習・ディスカッション②―結果・考察―
5. 全体での論文購読演習・ディスカッション③―まとめ方・プレゼンテ―ション法―
6. 論文購読①―グループ①－
7. 論文購読②―グループ②－
8. 論文購読③―グループ③－
9. 論文購読④―グループ④－
10. 論文購読⑤―グループ①－
11. 論文購読⑥―グループ②－
12. 論文購読⑦―グループ③－
13. 論文購読⑧―グループ④－
14. 総括・秋学期の発表順の決定
15. 個別面談（興味のある研究テーマについての確認など）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020148
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	川﨑　雄二郎	旧科目名称	
授業概要	ゼミでは現実社会における現象・問題をテーマとして取り上げ、ゲーム理論やその他の経済理論の見地からその原因、構造、解決法などについて議論する。この期間はゲーム理論やメカニズムデザインに関するテキストの輪読を報告形式で行うほか、必要であれば数学の知識も適宜学んでいく。		
教材（教科書）	岡田章（2014）『ゲーム理論・入門』有斐閣　2,052 円　ISBN-13: 978-4641220287 坂井豊貴（2010）『マーケットデザイン入門―オークションとマッチングの経済学』ミネルヴァ書房　3,240 円　ISBN-13: 978-4623059119		
教材（参考資料）	講義中に適宜紹介する。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	報告の内容（30%）、報告準備のプロセス（30%）、授業における発言・積極性（40%）などを評価基準とする。		
到達目標	ゲーム理論やメカニズムデザインを深く学び、それらを用いて現実の社会における問題・現象を分析する力を身につける。		
授業時間外学習	各自割り当てられたテキストの内容を深く理解した上で、レジュメを作成したり発表の流れを確認したりなど発表の準備を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

輪読を実施することから、協調性をもってゼミやグループに貢献する意欲を持っていることが最低条件である。
またゼミでは、「読む・書く力」、「聞く・話す力」を磨くことも重点の一つととらえ、輪読での要点報告、グループでの研究報告発表、個人での卒業論文執筆などといった機会を設けている。これらの活動内容に対してやる気がない、あるいは「読む・書く力」、「聞く・話す力」を身につけるつもりがない学生は、このゼミに向かない。
数学や経済学、ゲーム理論などの知識は十分にあるのが望ましいが、知識がなくとも3回生のゼミを通してきちんと身につける意思と覚悟があればよい。

授業スケジュール

1．ガイダンス：ゼミの進め方
2．ゲーム理論とは？
3．選択と意思決定、戦略ゲーム
4．ナッシュ均衡点、利害の対立と協力
5．ダイナミックなゲーム、繰り返しゲーム
6．不確実な相手とのゲーム、交渉ゲーム
7．グループ形成と利得配分、進化ゲーム
8．ゲーム理論のまとめ
9．単一財オークション、期待収入
10．複数財オークション、予算バランス
11．財と財の交換、腎臓マッチングとペア交換
12．一対一マッチング、一対多マッチング
13．公立学校マッチング
14．オークション理論とマッチング理論のまとめ
15．グループ研究の準備

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J82020149
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	各自が選択したテーマでの卒業論文作成に向けた研究計画の立案、研究テーマ関連分野の基礎学習を中心に関連資料の収集・分析、ゼミ生全員による研究成果の発表と議論を行っていく。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	各年版『経済財政白書』内閣府		
教育方法	必要に応じて、資料を配布しながら、講義法と学生の発表を中心に授業は進める。。		
評価方法	ゼミでの議論への参加（30%）、発表内容（30%）、最終レポートの達成度（40%）で評価する。		
到達目標	各自が研究テーマを設定し、今後の研究計画を作成する。		
授業時間外学習	各自の研究テーマに関連した情報を常に収集し、発表の準備をしておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎週、目標をもって、研究を進めてほしい。
また、自分のテーマのことだけでなく、ゼミの他のメンバーの研究テーマにも関心をもって、お互いの議論できるように努力してほしい。

授業スケジュール

第１回　ゼミの概要説明
第２回　研究テーマの解説：その１　小さな政府
第３回　研究テーマの解説：その２　非営利組織
第４回　研究テーマの解説：その３　コミュニティビジネス
第５回　研究テーマの選択：その１　全体討論
第６回　研究テーマの選択：その２　全体討論
第７回　研究テーマ別発表①：研究テーマを個々人で発表（研究動機などについて）
第８回　研究テーマ別発表①：研究テーマを個々人で発表（研究動機などについて）
第９回　研究テーマ別発表①：研究テーマを個々人で発表（研究動機などについて）
第１０回　研究テーマ別発表①：研究テーマを個々人で発表（研究動機などについて）
第１１回　研究テーマ別発表②：調査研究の進捗報告
第１２回　研究テーマ別発表②：調査研究の進捗報告
第１３回　研究テーマ別発表②：調査研究の進捗報告
第１４回　研究テーマ別発表②：調査研究の進捗報告
第１５回　全体発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020150
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	近年の情報通信技術（ICT）の発達を背景として、シェアリングエコノミー、プラットフォームビジネス、フィンテックなどさまざまな新たなビジネスモデルが登場しているほか、産業の構造も大きく変わりつつある。 本ゼミでは、情報通信技術で変わるビジネスの仕組みについて学び、卒業論文の完成に向けてゼミを行う。ゼミ生は各自の関心・問題意識を持つ研究テーマを選び、文献調査、資料・レポートの作成や報告と論文執筆を目的とする。また、ゼミでの報告はゼミ生主体で討論を行う。 春学期では、前半で情報の経済学と金融、ビジネスエコノミクス、デジタルエコノミー、フィンテックの基礎理論を学ぶ。後半では毎回報告者を決め、各自の研究テーマ・文献調査・事例把握と研究報告や討論を行う。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	報告態度３０％、討論への参加３０％、課題への取り組み４０％。		
到達目標	自主的な研究テーマに関する文献調査、情報収集、データの分析を行い、それを基に資料を作成し、ゼミで報告・討論できる。特定のテーマについて自分の問題意識と独自の意見を述べることができる。		
授業時間外学習	マクロ・ミクロ経済学、金融入門、国際経済入門、国際経済学を事前に履修（または同時登録）し、経済学理論、金融システムの枠組みの内容を理解すること。 新聞・テレビ等で報道された様々な経済・金融問題に日々関心を持つこと。 事前に参考文献を熟読したうえで文献調査を整理し、ゼミの報告資料を作成すること。そこで指摘された内容について、次回のゼミの時間までに調べて修正し、どのように修正したかを教員に説明すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ゼミ生一人一人の、主体的・積極的な取り組みを求める。また、ゼミ生は必ず毎日勉強・読書・ゼミの報告準備・論文作成を進めてもらいたい。ゼミでは積極的な研究報告と討論の参加を求める。毎回必ず１回以上の発言（質疑等）を求める。
受講のルールは、無断欠席、遅刻、私語を厳禁とする。授業回数の３分の１以上に欠席・遅刻した場合には単位を認めないので、十分注意してください。

授業スケジュール

１．イントロダクション：本ゼミのテーマ・目的・内容・進め方
２．各自の問題意識・関心を討論したうえで、研究テーマの決定、文献調査の方法・主要参考文献・書籍の紹介
３．各自の研究テーマに基づき、情報収集・資料作成、テキスト輪読・報告①
４．各自の研究テーマに基づき、情報収集・資料作成、テキスト輪読・報告②
５．各自の研究テーマに基づき、情報収集・資料作成、テキスト輪読・報告③
６．各自の研究テーマに基づき、情報収集・資料作成、テキスト輪読・報告④
７．各自の研究テーマに基づき、情報収集・資料作成、テキスト輪読・報告⑤
８．各自の研究テーマに基づき、情報収集・資料作成、テキスト輪読・報告⑥
９．各自の研究テーマに関する資料の収集・作成・事例把握の報告と討論①
１０．各自の研究テーマに関する資料の収集・作成・事例把握の報告と討論②
１１．各自の研究テーマに関する資料の収集・作成・事例把握の報告と討論③
１２．各自の研究テーマに関する資料の収集・作成・事例把握の報告と討論④
１３．各自の研究テーマに関する資料の収集・作成・事例把握の報告と討論⑤

１４．各自の研究テーマに関する資料の収集・作成・事例把握の報告と討論⑥ １５．総括と来学期に向けての課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	J82020151
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	日本経済や国際経済に関わる問題を、経済学とくにマクロ経済学の理論を応用しながら考えていきます。このゼミでは、最終的には一人ひとりが各自のテーマに沿って研究し、その研究成果を卒論という形に仕上げることを目標としますが、専門ゼミ A ではその準備として、マクロ経済学の教科書を輪読していきます。また、学生の興味に応じて、統計分析ソフト等を用いたデータ分析も行うことも予定しています。		
教材（教科書）	初回の授業時に指示します。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介する予定です。		
教育方法	講義と学生の発表を中心に授業は進められます。 随時、英字新聞を含む新聞記事や雑誌なども講読する予定です。		
評価方法	発表点評価（50%）担当箇所を発表する際の、内容・方法を評価します。 平常点評価（50%）ゼミへの出席状況、他の発表者への発言や態度などを総合的に評価します。		
到達目標	１．マクロ経済学に関する専門用語・基礎概念を理解できる ２．学んだ理論的な枠組みを用いて、経済問題を考えることができる		
授業時間外学習	「マクロ経済学」を履修済みであることが望ましい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ゼミの大半は、教科書や資料の指定された箇所を輪読する形で行われます。
発表者以外も、対象箇所を事前に精読してくることが必須となります。

授業スケジュール

1. 講義のガイダンス
2. レジュメの作成方法
3. 講読文献の決定
4. テキストの輪読（1）
5. テキストの輪読（2）
6. テキストの輪読（3）
7. テキストの輪読（4）
8. テキストの輪読（5）
9. テキストの輪読（6）
10. テキストの輪読（7）
11. テキストの輪読（8）
12. テキストの輪読（9）
13. テキストの輪読（10）
14. 各自興味のあるテーマについて発表
15. 春学期のまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020152
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar A		
担当者名	池田　晃彦	旧科目名称	
授業概要	卒業論文執筆に向け、マクロ経済学・国際金融論の基礎的な文献の講読を行う。豊富な事例に触れた上で、基礎的な理論について学習する。事例編の主なテーマとしてはリーマンショック、ユーロ危機、新興国の景気変動等を検討しているが、受講生の興味に応じて決定する予定である。受講生による発表と討論を中心として進める予定である。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	・岩本武和『国際経済学　国際金融編』ミネルヴァ書房、2012 年。 ・ポール・クルーグマン、モーリス・オブストフェルド、マーク・J・メリッツ『クルーグマン国際経済学理論と政策　原書第 10 版　下：金融編』丸善出版、2017 年。 ・カーメン・M・ラインハート、ケネス・S・ロゴフ『国家は破綻する―金融危機の 800 年』日経 BP 社、2011 年。 ・その他適宜指定する。		
教育方法	学生の発表と講義法を中心に授業は進められる。		
評価方法	平常点（質問・討論への参加状況）60%、報告内容 40%		
到達目標	マクロ経済学・国際金融論に関する基礎理論を用いて、現実の諸問題について議論することができる。		
授業時間外学習	マクロ経済学に関する基礎的な科目を事前にまたは並行して履修すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・プレゼンテーションの練習も行うため、PowerPoint などの発表用のソフトを準備してください。
・英語による文献の講読にも意欲的な学生を求めます。

授業スケジュール

1. ガイダンス・利用文献の決定
2. 報告と討論　事例編(1)
3. 報告と討論　事例編(2)
4. 報告と討論　事例編(3)
5. 報告と討論　事例編(4)
6. 報告と討論　事例編(5)
7. 報告と討論　事例編(6)
8. 報告と討論　理論編(1)
9. 報告と討論　理論編(2)
10. 報告と討論　理論編(3)
11. 報告と討論　理論編(4)
12. 報告と討論　理論編(5)
13. 報告と討論　理論編(6)
14. 報告と討論　理論編(7)
15. まとめと来学期に向けての指導

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	−	★	−

年度	2018	授業コード	J82020201
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミAに引き続き、企業や業界を選んで、その企業や業界の現状および経営戦略を調査・分析します。文献、新聞記事、雑誌記事、企業のホームページなどを調べて、それをExcelで分析し、PowerPointでプレゼン資料にまとめ、発表してもらいます。これらの作業を通じて、受講生に実際に企業の実務で役立つスキルを身につけてもらうと同時に、就活での業界研究や企業研究にも役立ててもらうことを目的とします。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介します。		
教育方法	演習主体で行う。 各自で調査テーマを設定し、それに関する資料調査を行い、パワーポイントにまとめて発表する。		
評価方法	受講姿勢やグループワークでの貢献度など（50%）。レポートおよび発表（50%）。		
到達目標	文献、新聞、雑誌、インターネット等から必要な資料を収集し、企業の経営戦略を分析しみんなに説明することができる。		
授業時間外学習	ゼミの時間は議論と発表が中心となるので、議論のための事前準備、発表のための資料作成を事前に十分行っておくこと。具体的には、企業のホームページや企業に関する文献・新聞・雑誌記事の収集・分析・整理、それに基づく考察を行う。（各回の学習推定時間は60分）		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ゼミのメンバー間での意見交換が重要ですので、他のメンバーの発表はしっかり聞き、必ず質問・意見を述べること。			
授業スケジュール			
1.　専門ゼミAでの成果と課題の確認 2.　企業の選択、参考文献の紹介 3.　参考文献の要点整理 4.　参考文献の要点整理 5.　中間発表、ディスカッション 6.　中間発表、ディスカッション 7.　情報収集と分析 8.　情報収集と分析 9.　中間発表、ディスカッション 10.　中間発表、ディスカッション 11.　追加調査 12.　追加調査 13.　発表、ディスカッション 14.　発表、ディスカッション 15.　専門ゼミBのまとめと専門ゼミCへの課題提示			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J82020202
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミAに引き続き、各自が選択した企業または業界について、発展的な経営分析をすすめていく。 適宜、経過報告をプレゼンテーションしてもらう予定である。 演習終了時にレポートを課す		
教材（教科書）	適宜、指示する。		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	担当の学生が準備してきたレジュメに従って報告と討論を行います。		
評価方法	平常の講義への取り組み姿勢(40%)と最終レポート(60%)		
到達目標	会計情報から企業の財政状態、経営成績、資金状況を説明できる。 企業の業績や財務状態に影響を及ぼす外部要因、内部要因について説明できる。		
授業時間外学習	各自に報告テーマを課すので、パワーポイント等によるプレゼン資料の準備をしてくること。報告に当たっていないものは、各自次回の内容について、指示されたテキストを読んでくること。 問題意識を持って新聞記事等のニュースに注意を向けること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的に議論に参加すること。
毎回きちんと出席すること。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は必ず連絡すること。これは社会人としての常識であり、ゼミ生には、大人として、社会人としての自覚ある行動を身につけていただきたい。

授業スケジュール

1. 企業経営と会計
2. 日本の会計制度の概要
3. 業種による財務データの違い
4. 会計情報の開示制度
5. 有価証券報告書の見方
6. 企業集団と連結会計
7. セグメント情報
8. 企業の戦略と会計
9. 企業の抱えるリスク
10. 株価と財務データ
11. 配当と株価
12.業績見通しと株価
13.総合評価の方法
14.最終報告(1)
15.最終報告(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020203
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	インターネットに代表される広域ネットワークの普及はわれわれの生活まで変革を迫っている。 高度情報化がすすむつれ、企業にもこれまで以上に迅速な対応を迫られている。 ちょっとした判断の遅れが取り返しのつかないことになる中で、情報システムの高度化とそれへの適応がますます重要なものになってきている。 反面、広域ネットワークの普及によって企業秘密の漏えい、不正なネットワークへの侵入、ネットワークを取り巻く倫理の欠如などの問題が噴出している。 授業概要、ゼミスケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。 その他の特記事項　時間外での相当量の学習、調査を要する。		
教材（教科書）	適宜指示する。		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	受講・発表など授業での取り組み 60%、演習課題及びレポート 40%で評価する。		
到達目標	情報システムの一例としてコンテンツ管理システム(CMS)を構築することができる。		
授業時間外学習	授業外でのワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションの活発な利用で、コンピュータのビジネス利用のための基礎素養向上のための文字入力トレーニング(学年末に 450 字/10 分)、表作成、文書作成練習を常にしておくこと。 各回の授業内容に該当する教科書や配付資料のページを事前に読んで、専門用語の確認などを含めて事前学習をしておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。 1.MS-Office の操作を練習しておく 2.「経営戦略論入門」のテキストで、経営学の基礎知識の復習をしてくる 3.MS-Office の操作を練習しておく 4.情報システムの構築演習の配布資料を確認し、要点整理する 5.情報システムの構築演習の配布資料を確認し、要点整理する 6.情報システムの構築演習の配布資料を確認し、要点整理する 7.情報システムの構築演習の配布資料を確認し、要点整理する 8.情報システムの構築演習の配布資料を確認し、要点整理する 9.MS-Office の操作を練習しておく 10.各自の情報管理テーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 11.各自の情報管理のテーマでレジュメの発表用原稿を作成する 12.各自の情報管理のテーマでレジュメの発表用原稿を作成する 13.各自の情報管理のテーマでレジュメの発表用原稿を作成する 14.各自の情報管理のテーマでレジュメの発表用原稿を作成する 15.ゼミ生全員の発表に対するコメントをまとめる		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
経営、及び情報というものに興味を持ち、自らの積極的な参加を期待する。 演習にあたって、8GB 以上の USB メモリとノート PC または Windows タブレット+キーボードを準備しておく。			
授業スケジュール			

情報管理手法をパソコンに展開し、情報システムの構築を行う。
そして、その成果を個人研究報告または共同研究報告してもらう。
1.はじめに、セキュリティアップデート
2.経営学の基礎知識の復習
3.セキュリティアップデートとアプリケーション環境の更新
4.情報システムの構築演習(1)
5.情報システムの構築演習(2)
6.情報システムの構築演習(3)
7.情報システムの構築演習(4)
8.情報システムの構築演習(5)
9.セキュリティアップデートとアプリケーション環境の更新
10.各自の情報管理テーマ（設定）
11.各自の情報管理のテーマ（レジュメの作成）
12.各自の情報管理のテーマ（レジュメの作成）
13.各自の情報管理のテーマ（発表）
14.各自の情報管理のテーマ（発表）
15.学年末発表会
授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020204
科目名	専門ゼミＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミＢでは、専門ゼミＡに引き続いて、受講生がインターネットを活用したビジネスを学ぶために必要な知識を理解できるようになることを目的とする。 具体的には、まず、専門ゼミＡで作成したレジュメを報告し、意見交換をする。それを踏まえて、追加資料の収集、レジュメの加筆などを行っていく。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	授業内小テストと毎回のコメントシートによる平常点（６０％）。授業中に課すレポート（４０％）。		
到達目標	1.インターネットビジネスを学ぶために必要な経営学の知識を理解できるようになる。 2.表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを使い、データを加工・処理・表現できるようになる。		
授業時間外学習	各回の学習推定時間は 45 分。 第１回　経営学の基礎知識に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第２回　経営学の基礎知識に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第３回　経営学の基礎知識に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第４回　経営学の基礎知識に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第５回　第５回の報告者のテーマに関する要点をまとめる 第６回　第６回の報告者のテーマに関する要点をまとめる 第７回　第７回の報告者のテーマに関する要点をまとめる 第８回　第８回の報告者のテーマに関する要点をまとめる 第９回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 10 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 11 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 12 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 13 回　各自の作成したレジュメの発表用原稿を作成する 第 14 回　各自の作成したレジュメの発表用原稿を作成する 第 15 回　ゼミ生全員の報告に対してコメントを作成する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.出席を重視する。欠席・遅刻をしないこと。
2.企業経営の動向を常に意識し、新聞等のメディアに日々関心を持つようにしておくこと。

授業スケジュール

1　オリエンテーション
2　経営学の知識の復習①
3　経営学の知識の復習②
4　経営学の知識の復習③
5　各自の作成したレジュメの報告の準備
6　各自の作成したレジュメの報告と意見交換①
7　各自の作成したレジュメの報告と意見交換②
8　各自の作成したレジュメの報告と意見交換③
9　追加資料の収集①
10　追加資料の収集②
11　レジュメの修正・加筆①
12　レジュメの修正・加筆②

13　完成レジュメの報告①
14　完成レジュメの報告②
15　専門ゼミ B を通して学んだことの展望

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	★	－

年度	2018	授業コード	J82020205
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
授業概要	家族法の判例を素材に、ゼミ生が主体となり共同研究および個別研究を行う。家族法に関する基本的な知識と学習方法を習得したうえで自律的に研究を進め、4 回生秋学期に卒業研究を完成させることを目標とする。具体的な進め方についてはゼミ生と相談のうえ決める予定である。専門ゼミ B では中間的成果として、3,000 字程度の判例研究（判例批評）を執筆する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） 民法判例百選 3（有斐閣、2015 年） その他、ゼミ中に適宜指示する。		
教育方法	−		
評価方法	ゼミへの参加状況（50%）、判例研究の内容（50%）による。やむを得ず欠席する場合にはメール等により事前に連絡することを要する。評価方法（ゼミ参加に当たっての注意事項）については初回のゼミで詳細に説明する。		
到達目標	１．民法の家族法分野について自律的に研究を進めることができる。 ２．研究成果を報告し、他人の考えを聞いたうえで自身の考えを深めることができる。 ３．3,000 字程度の判例研究を執筆する。		
授業時間外学習	各回の報告担当者については、関連する判例・文献を収集し、精読したうえで、レジュメ等にまとめ、担当回に口頭で報告できるよう十分に準備をしておく（最低でも 3 週間程度を準備期間に費やすこと）。担当者以外の者も、各回で扱う判例およびこれに関連する基本的文献を読んでおき、問題の所在を把握しておく。判例研究の執筆に関しては、下書きを作成し、担当教員の添削を受ける。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

専門科目の家族法を履修済みであることが望ましい。未履修の者は、家族法の教科書・概説書を 1 冊通読しておくこと。単位取得や時間割の都合ではなく、家族法に関心がある者のみ登録することを求める。

授業スケジュール

各自が関心のあるテーマについて報告と質疑応答を行う。テーマの選択にあたってはゼミ生の意向を尊重するが、テーマの例としては以下のようなものがある。

１．　婚姻外の男女関係の解消
２．　近親婚と遺族年金受給権
３．　夫婦相互の日常家事代理権
４．　不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権
５．　有責配偶者の離婚請求
６．　財産分与と慰謝料請求権との関係
７．　推定の及ばない子
８．　親子関係不存在確認請求と権利濫用
９．　代理出産と母子関係
１０．子の命名権
１１．面会交流権
１２．成年に達した子に対する扶養義務
１３．熟慮期間の起算点
１４．生命保険金請求権の相続財産性
１５．高齢者の遺言能力

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020206
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	
授業概要	The same method with Seminar A: To use Case Method and Immersion Experience Program (IXP, Field Study) of HBS (Harvard Business School). The final goal setting is 1) All Student can contribute case study discussion using HBS Case, 2) To summarize all activities at final bachelor paper. Aside of these curriculum, also setting NHK KISOEIGO and Accounting Level 3 drill would be programmed. After IXP in Summer holiday, The disussiuon should be focusd for the detailed case discussion. 専門ゼミ A に続き、HBS のケースメソッド、IXP プログラムに依拠して授業は行われ、1)最終的には全員が HBS のケースディスカッションが出来るようになる。またそれを通じて、2）その集大成としての卒論策定を行うことができる。尚、同時に基礎訓練として NHK 基礎英語 1,2,3、日商簿記 3 級のドリルも必要に応じて行う。 夏休みの IXP に続き、議論をさらに深いケースディスカッションに深める。		
教材（教科書）	Competitive Strategy as a Narrative Story/ストーリーとしての競争戦略（楠木建、東洋経済新報社）ISBN978-4-492-55270-6, and others should be suggested at the each session. Handout and Case should be distributed at the each session, upon Students' best interest (Past examples, Nike, Starbucks, Apple, Google, NBA, MLB, Ritz Carlton, Seven Eleven, Yoshinoya etc.)　NHK KISOEIGO（基礎英語)1,2,3、Accounting Level 3（日商簿記 3 級）使用ケースは毎回講義前に提示する。		
教材（参考資料）	Should be suggested at each session. 講義毎紹介する。		
教育方法	Never to excuse your life, Never to be late, Never to cheat/short cut.　All students should be committed by faculty, one by one. HBS のケースメソッド、IXP プログラムの手法に依拠して授業は行われる。最終的には、学生によるディスカッションを中心として授業は行われる。言い訳を言わない、今からでも遅くない、ごまかさない。 全ての受講生は教官により認識されコミュニケーションが取られる。		
評価方法	50% Class contribution, 35% Bachelor Paper, 15% IXP		
到達目標	All Students are expected to achieve logical thinking, discussion/debating method, self management, with fundamental language and accounting skill. 学生は、基礎的学力、会計知識を取得しながら、論理的思考、ディスカッション、ディベート能力、自己マネジメントを用いることができる。		
授業時間外学習	Quick quiz should be distributed at the each session and Students should submit before the next session. Expected to spend 20-30 minutes each and send by e-mail. 毎回次回の Quiz が提示されるので、学生は次回講義の期限までにメールで提出することとなる（想定毎回 20-30 分活用)。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
Be Humble, Be Hungry, Be Innovative			
授業スケジュール			
1．Wrap-up at of Summer 1 / IXP の検証、夏休みの Life Story プレゼンテーション 1 2．Wrap-up of Summer 2 / IXP の検証、夏休みの Life Story プレゼンテーション 2 3．Self-scheduling of This Course / 今期の個人スケジュール設定、プレゼンテーション 4．Case Sturbucks 1 / ケース　スターバックス 1 5．Case Sturbucks 2 / ケース　スターバックス　2 6．Case Service Industry / ケース　サービスインダストリー			

7．Midterm Summary / 中間報告
8．Case Apple 1 / ケース　アップル 1
9．Case Apple 2 / ケース　アップル 2
１０．Case IT Industry / ケース　IT インダストリー

１１．IXP Field Study / フィールドスタディー

１２．Indivisual Interview Recuriting / 就職オリエンテーション

１３．Preparation for Bachelor paper / 卒論オリエンテーション

１４．Target Setting Presentation 1 / ターゲットティングプレゼンテーション 1

１５．Target Setting Presentation 2 / ターゲットセッティングプレゼンテーション 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J82020207
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	今話題のITやAIは我々をどこに連れて行ってくれるのでしょうか。また、我々は技術の進歩に翻弄されるのではなく、主体的に使いこなしていけるのでしょうか。AIは天使か悪魔か、あるいはシンギュラリティ（技術が人間を超える限界点）は人類に何をもたらすかはホットな話題になっています。 1995年のインターネット元年から、今のところ人はIT技術に翻弄されているように見えます。それは、ITが広がることやその速度ををを誰もコントロールできないからで、情報の拡散は脳の作用と似ていることも指摘されています。 これからのITはどのようになるのか、未来を予測する文献を元に、刺激的な未来を主体的に歩くために必要な基礎知識と思考力を身に着け、また就活の面談などでも未来志向の回答ができるようになります。		
教材（教科書）	ケヴィン・ケリー『〈インターネット〉の次に来るもの 未来を決める12の法則』NHK出版　服部桂（著、翻訳）¥2,160		
教材（参考資料）	適宜タイムリーな資料を提供します。		
教育方法	（1）基礎知識にとして知っておかねばならないことはミニ講義の形で解説します。 （2）教科書の分担を決めて、担当者は内容を整理した形で発表してもらいます。 （3）発表者以外にコーディネーターを決めて、学生主体で議論を進めてもらいます。 （4）まとめと発表・議論の内容の評価を講師が最後に行います。		
評価方法	（1）出席を重視しますが評価の点数には加えません（欠席は減点になります） （2）発表の質とまとめの丁寧さ（50%） （3）毎回のディスカッションでの授業への貢献（50%）		
到達目標	（1）課題文献の読みと理解、まとめ方と発表の基礎的なスキルを身に着けること （2）大量の文章からポイントを見つけ出してトピック化するスキルを身に着けること。 （3）現在進行中のIT技術の進化についての基礎知識と今後の社会の方向性について概要を理解し、他人に語れるようになること。		
授業時間外学習	・テキストに指定した書籍を毎回全員が必ず熟読してください。(該当ページは以下を参照のこと) 第3回　1.Becoming (p15-40) 第4回　4.Cognifying (p41-82) 第5回　5.Flowing (p83-112) 第6回　6.Screening (p113-144) 第7回　7.Accessing (p145-178) 第8回　8.Sharing (p179-218) 第9回　9.Filtering (p219-254) 第10回　10.Remixing (p255-278) 第11回　11.Interacting (p279-314) 第12回　12.Tracking (p315-354) 第13回　13.Questioning (p355-382) 第14回　14.Beginning (p383-391)		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・教科書は必ず購入すること ・書く授業に該当する部分は単に読むだけではなく、意味を理解し、わからないことは調べ、他の人に説明できるようにした上た上で授業に臨んでください。			
授業スケジュール			
1.　いま、IT時代に訪れている現実（オリエンテーション的講義1） 2.　職が失われ、社会が変わる（オリエンテーション的講義2）			

＜『インターネットの次に来るものは何か』の輪読＞

3. Becoming（プロセスの世界が継続し、終わることのないアップグレードの社会になる）
4. Cognifying（機器の認知化。機器をネットワーク化した AI を接続するだけで機器の性能が飛躍的に高まる）
5. Flowing（商品は情報としてコピーされ、ストリーミングとしてリアルタイムでネットの上を流れていく）
6. Screening（生活のすべてにわたってスクリーンからの情報が主となり、そこから我々は実体を創造する）
7. Accessing（物を持っている人よりも、持っている人にアクセスするノウハウを持つ人が優位に立つ）
8. Sharing（シェアによって新しい経済の形が始まっている）
9. Filtering（膨大に増える情報に対する道案内の必要性）
10. Remixing（既存の素材を再利用・編集して新しい価値を生み出す）
11. Interacting（デバイスを通した経験が感覚の全体をより包み込む高度な技術になる）
12. Tracking（自分の健康状態や気分を常時センサーが測定し記録することで新しい自己感覚が生まれる）
13. Questioning（ネットに質問しつつ動きながら方向を定めていくのが新しい創造性）
14. Beginning（世界がネットでつながった大きな生命体が生まれつつあり、大きな何かの始まりに現在はある）
15. 本当に現れる未来（全ての章を範囲としたディスカッション）

これらの流れの中で、本当に実現していく未来はどれか。説得力のある意見を元に、ありうる未来の合意形成を行います。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	J82020208
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	就職活動予定者を対象とするこのゼミにおいては、まずは HRM(Human Resources Management)に関する事例を輪読し、採用、動機づけ、解雇、などがいかにして企業で行われているかを理解する。また、就職して 3 人に 1 人が辞めるという大卒の離職率、内訳で 40%近くにいたる（25～29 歳の）大卒・大学院卒フリーター、重くのしかかる奨学金の返済（手取り給与での自立不可）、週 60 時間にせまる長時間労働、などの若年労働者の現状についてゼミで討議するとともに、若年労働市場の現状と課題でレポート作成に着手する。ゆえに、本ゼミを通して、受講者は天職・ライフワークを探求でき、学んだ知識を就職活動や社会において活用できる。		
教材（教科書）	なし。資料を適時配布する。		
教材（参考資料）	東洋経済新報社（編集）『就職四季報(総合版)』，『就職四季報(優良・中堅企業版)』		
教育方法	事前に配布した資料・レジュメに沿って、Word, Excel, PowerPoint を使いながら、講義法とグループワークを併用する。学生は、Word, Excel, PowerPoint,を使って、若年労働市場の現状と課題についてレポートを作成していく。		
評価方法	課題・宿題・小テスト（30%)、受講・発表・取組姿勢（70%）で評価する。		
到達目標	＊受講者は企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。 ＊受講者は企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性を説明できる。 ＊受講者は自身の卒業の進路を明確に表明することができる。		
授業時間外学習	初回の授業においてこれから使う資料について説明を行う。 どの資料を次回使用するかを毎回指示する。宿題や小テストなどを通してゼミで習ったことの確認を行う場合もあるので、授業で使用した資料を必ず熟読しておくこと（各回の推定授業時間外学習は 30 分以上)。 第 1 回目…若年労働市場の現状と課題についてのレポートを作成する。Word, Excel, PowerPoint の操作を確認しておく。 第 2 回目…配布資料）人事考課とは、成果給とは、を読み、要約する。 第 3 回目…配布資料）日本企業のチーム・コンセプト、を読み、要約する。 第 4 回目…配布資料）学歴と所得、を読み、要約する。 第 5 回目…配布資料）アメリカ企業の採用・昇進、を読み、要約する。 第 6 回目…配布資料）外資系企業とは何か、を読み、要約する。 第 7 回目…配布資料）日本の社会保険制度、を読み、要約する。 第 8 回目…配布資料）無業と失業の相違とその現状、を読み、要約する。 第 9 回目…若年労働市場の現状と課題についてのレポートを完成させる。 第 10 回目…若年労働市場の現状と課題についてのレポートを修正する。 第 11 回目…配布資料）職務満足度と顧客満足度の関係、を読み、要約する。 第 12 回目…配布資料）モチベーションとは何か、を読み、要約する。 第 13 回目…配布資料）金融資本主義について、を読み、要約する。 第 14 回目…配布資料）知識社会について、を読み、要約する。 第 15 回目…配布資料）卒業論文について、次学期に向けてを読む。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊就職活動予定者を対象としているのでゼミ選択の際には注意すること。 ＊人的資源管理論の単位を取得している方が望ましい。 ＊パソコンを使うことが多いので、そのつもりで履修すること。ワードやエクセル等のソフトを活用できる方が望ましい。			
授業スケジュール			
1.パソコンにおける各種設定、ゼミの進行について、各種ビジネスソフトの教習。レポートテーマ：若年労働市場の現状と課題			

についての進捗確認。
2.人事考課とは何かを理解する。
3.成果給、賞与、ならびに昇給・昇格・昇進の相違や仕組みを理解する。
4.チーム・コンセプトとは何かを多様な観点から明らかにする。
5.シグナル論あるいは人的資本論をベースに、学歴を考察する。
6.アメリカ企業の採用・昇進と日本企業のそれとの相違を理解する。
7.外資系企業とは、多国籍企業とは、を理解する。
8.日本の社会保険制度を理解する。
9.無業と失業の相違を理解し、その率を年齢別、国別に比較する。
10.若年労働市場の現状と課題についてのレポートを報告する。前半。
11.若年労働市場の現状と課題についてのレポートを報告する。後半。
12.春学期で説明した労働条件の復習を行う。
13.職務満足度、顧客満足度、モチベーション、を理解する。
14.知識社会、金融資本主義、未来の労働について、を理解する。
15.卒業論文について。就職試験や就職活動について。来期のゼミについて。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020211
科目名	専門ゼミＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミＡと同じ運営方式でゼミをおこないます。各研究グループは、基本的に春学期のテーマを引き継ぎ、その内容をより深く、継続的に研究します。各グループの代表（キャップ）が中心となって、秋学期の研究計画を立てて、研究報告やレポート作成をおこないます。		
教材（教科書）	初回のゼミにおいて、各テーマごとの追加的な文献リストを提示します。文献リストには、比較的入手しやすい最近の新書や文庫を示していますが、最終的には、担当教員のアドバイスを参考にして、各グループの判断でテキストを選ぶものとします。		
教材（参考資料）	各グループのテーマに応じて、適宜参考文献を提示する。		
教育方法	専門ゼミを通じて、ゼミ生一人ひとりが自主的な学習習慣を身につけられるように指導する。また、グループ研究において重要なチームワーク（協調性）とメンバー各自の自己責任能力の涵養にも努める。以上の点に配慮しつつ、グループ研究が円滑に進むように適宜アドバイスをおこなう。		
評価方法	平常点（15%）受講態度等＋グループ研究報告（中間 25%＋最終 50%）＋個人評価（10%）		
到達目標	1．ゼミ活動を通じて学生が自主的な学習スタイルを身につけることができる。 2．グループ研究に必要なチームワーク（協調性）と自己責任能力を高めることができる。 3．自分のチームの研究テーマはもちろんのこと、他チームの研究テーマについても同時に学ぶことができる。		
授業時間外学習	1．　日頃から社会・経済問題に広く関心をもち、自分が研究したいと思うてえーまに関する資料を収集する。 2．　ゼミの研究テーマについては、自宅でも自主的に学習する時間を十分に確保する。 3．　研究グループ内でのミーティングをしっかり行い、各自が個人で果たすべき役割を着実に誠意をもって実行する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各グループには、責任者としてキャップをおく。キャップがしっかりと内部調整をしなかったり、あるいは逆にグループメンバーがキャップに積極的に協力する姿勢で取り組まないと、研究報告書が未完成になったり、所定の期日に研究報告ができなかったりする。結果を達成できなかったグループについては、運営方法の改善を指導したり、どうしても改善が望めない場合には、セメスターの途中でもグループの再編や解散を行う。			
授業スケジュール			
1．専門ゼミＢのガイダンス 2．研究グループと研究テーマ＆テキスト等の決定 3．教員による模擬研究報告 4．研究計画書の作成と提出 5．研究報告書の報告・説明 6．個別研究報告(1) 7．個別研究報告(2) 8．個別研究報告(3) 9．研究報告の批評(1) 10．グループ中間報告 11．個別研究報告 12．個別研究報告 13．研究報告の批評(2) 14．グループ研究報告 15．研究報告の総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J82020212
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	前半では指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社のしくみについて学びます。次いで受講生各自に会社を一つ選んでもらい、その会社の企業統治が有効に機能しているかについて事例研究を行ってもらいます。後半では株式会社の設立について学びます。具体的には、株式会社を作るのに必要な手続きや書類の整え方などについて解説します。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考資料）	児玉博（2017）『テヘランから来た男　西田厚聰と東芝壊滅』小学館。 近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子（2014）『基礎から学べる会社法』第 3 版、弘文堂。 中東正文・白井正和・北川徹・福島洋尚（2015）『会社法』有斐閣。 浜辺陽一郎（2015）『平成 26 年改正対応　図解　新会社法のしくみ』第 3 版、東洋経済新報社。 森本滋（2014）『会社法・商行為法手形法講義』第 4 版、成文堂。 『アカデミック・ライティング』（1 回生時に配布済み）。		
教育方法	講義法と学生による発表を中心に授業を進めます。		
評価方法	レポート（50%）、授業内試験（50%）		
到達目標	株式会社の企業統治が有効に機能するためには何が必要なのかを理解する。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する参考文献のページを読んでおくこと（各回の学習推定時間は 45 分間）。 第 1 回　中東・白井・北川・福島（2015）109－111 頁。 第 2 回　中東・白井・北川・福島（2015）111－113 頁。 第 3 回　日本経済新聞、2018 年 1 月 10 日～1 月 13 日、「検証　東芝危機」。 第 4 回　児玉（2017）180－216 頁。 第 5 回　児玉（2017）218－262 頁。 第 6 回　児玉（2017）264－300 頁。 第 7 回　中東・白井・北川・福島（2015）114―117 頁。 第 8 回　『アカデミック・ライティング』 第 9 回　各自が選択した事例に関する資料 第 10 回　各自が選択した事例に関する資料 第 11 回　各自が選択した事例に関する資料 第 12 回　森本（2014）225―228 頁。 第 13 回　森本（2014）228―233 頁。 第 14 回　森本（2014）233―237 頁。 第 15 回　森本（2014）239―244 頁。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．経済関係のニュースに関心をもつこと。
2．太秦キャンパスの図書室には経済関係の雑誌が数種類備え付けられているので、それらに目を通すこと。

授業スケジュール

1．指名委員会等設置会社①導入の背景と特徴
2．指名委員会等設置会社②3 委員会と執行役・代表執行役
3．指名委員会等設置会社の企業統治は機能しているか
4．指名委員会等設置会社の企業統治は機能しているか
5．指名委員会等設置会社の企業統治は機能しているか

6．指名委員会等設置会社の企業統治は機能しているか
7．監査等委員会設置会社
8．事例研究
9．事例研究
10．事例研究
11．事例研究
12．株式会社の設立①定款の記載事項
13．株式会社の設立②発起設立と募集設立
14．株式会社の設立③発起人と設立中の会社
15．株式会社の設立④変態設立手続き

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020213
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	経済データのなかで、マクロマネー系を扱う。特に、量的金融緩和期におけるマネーの動きと金融緩和の有効性を分析する。日本においては、2001 年から 2006 年までの第 1 期の量的金融緩和と、2012 年末からのアベノミクスを第 2 期の量的質的金融緩和の 2 通りがある。各々の特徴を調べ、相互に比較して、金融緩和の影響と有効性を分析することにする。		
教材（教科書）	必要に応じて資料配布		
教材（参考資料）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教育方法	（1）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （2）原データを EXCEL で加工して、EViews という分析ソフトに移す。 （3）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（1）から（3）を、テーマごとに繰り返す。 EXCEL や EViews の操作方法をまず最初に覚え、次にデータ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	平常点（80%）、レポート（20%）		
到達目標	マネー、GDP、金利の関係を明らかにする		
授業時間外学習	経済学の基礎知識を確かなものにしておく. 予習：マクロ経済学、金融論、金融政策を事前に履修（または同時に履修登録）して内容を理解しておくこと。 復習：秋学期の終了までに、参考文献を読み終えておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
休まずに出席すること			
授業スケジュール			
1.日銀の景況判断 DI 2.好況、不況時のマネー 3.precautionary demand の変動と推定 4.同上 5.同上 6.貨幣需要関数（transaction demand）の推定 7.同上 8.同上 8.マネーと GDP と金利の関係 9.同上 10.同上 11.デフレの特徴 12.同上 13.インフレの特徴 14.同上 15.まとめ(各種推定方法の応用のサーベイ)			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020214
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
授業概要	現代日本の主要な政策課題の一つである「地方創生」について研究し、論文を作成する。		
教材（教科書）	適宜、案内・配布する。		
教材（参考資料）	（1）内閣府（2017）「地方創生事例集」 （2）山下祐介・金井利之（2015）『地方創生の正体－なぜ地域政策は失敗するのか』 （3）木下斉（2016）『地方創生大全』		
教育方法	（1）前半は、地方創生あるいは地域再生に関する配布資料に基づく講義形式で進める。 （2）後半は、各自の研究テーマに関する報告とそれへの質疑応答を中心に進める。		
評価方法	授業内発表＋レポート 50%　期末課題 50%		
到達目標	（1）研究論文作成に向けて、「地方創生」が必要とされる社会経済的背景、安倍政権の地方創生政策の骨子、代表的な自治体による取り組み事例について理解する。 （2） 研究対象とす地方自治体を一つ取り上げ、その地方創生のための具体的な取り組みから一つの政策領域に絞込みを行う。 （3）研究論文を作成し発表する。		
授業時間外学習	（1）地方創生に関連する新聞や雑誌、あるいはネットの記事に目を通す。 （2）重要な記事は、研究資料として印刷・保管し収集・蓄積を進める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（1）「大学で研究したことは何か」と問われて、地方創生とその内容について一定の説明ができる程度まで勉強する。
（2）「知識・理解」を深めると同時に、説明力を磨く。
（3）課題解決や目標達成のための提案書を作成するための基本的スキルを身に付ける。

授業スケジュール

第 1 回：地方創生とは何か：地方創生の社会経済的背景、安倍政権の政策概要
題 2 回：地方創生の取り組み事例研究 1
第 3 回：地方創生の取り組み事例研究 2
第 4 回：地方創生の取り組み事例研究 3
第 5 回：地方自治体と地方創生の取り組みの選択 1
第 6 回：地方自治体と地方創生の取り組みの選択 2
第 7 回：研究論文の書き方の基本ルールの確認およびテンプレート作成
第 8 回：関連資料の収集と整理
第 9 回：研究論文のタイトルと章立ての報告
第 10 回：研究論文の中間報告 1
第 11 回：研究論文の中間報告 2
第 12 回：研究論文の中間報告 3
第 13 回：研究論文の最終報告 1
第 14 回：研究論文の最終報告 2
第 15 回：研究論文の最終報告 3

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020215
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	◆ゼミの基本方針について 春学期に続き、「日本学生経済ゼミナール大会（以下インター大会）」あるいは「日経 STOCK リーグ(以下 STOCK リーグ)」への出場に向けて、ゼミを行います。どちらに参加するかは、ゼミ生の興味関心を尊重しながら、相談して決定します。参加大会の決定後、ゼミ学生を 2 チームに分割し、各チームで情報を収集しながら、論文作成をする。 「インター大会」は、全国の経済学部・経営学部・商学部の学生を対象とした学術大会です。インター大会の討論部門では、2 チームあるいは 3 チームにより一つの共通テーマに沿って議論し、研究を発展させることを目的としています。 「STOCK リーグ」とは、日本経済新聞社が主催する中・高・大学生を対象としたコンテスト形式の株式投資学習プログラムです。STOCK リーグの流れは、「学習ガイドブックなどの教材を活用した経済・株式投資学習」と「投資テーマ決定・ポートフォリオ構築・レポート作成」に大別されます。		
教材（教科書）	特になし。 適宜、論文を指定する。		
教材（参考資料）	「量的・質的金融緩和の総括的検証」および「マイナス金利政策」に関する参考文献： ・ 岩田一政・日本経済研究センター（編集）[2014]『量的・質的金融緩和 政策の効果とリスクを検証する』、 日本経済新聞出版社. ・ 岩田一政・左三川郁子・日本経済研究センター（編著）［2016］ 『マイナス金利政策』、 日本経済新聞出版社. ・ 左三川郁子ほか［2015］ 「異次元緩和の限界と出口に向けた課題」、 日本経済研究センター『金融研究報告』. ・ 日本経済研究センター（編集）［2016］ 『激論 マイナス金利政策』、日本経済新聞出版社. ファイナンスに関する参考文献： ・ 藤林宏ほか［2009］ 『EXCEL で学ぶファイナンス〈2〉証券投資分析』、金融財政事情研究会. ・ 渡部敏明 ［2000］ 『ボラティリティ変動モデル（シリーズ 現代金融工学）』、朝倉書店.		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	平常点(60%); 演習内の発表内容等による。ゼミ参加熱意(40%)		
到達目標	収集した資料に基づいて意見を述べ、論文を作成する能力を身に着けることができる。		
授業時間外学習	インターゼミナールおよび STOCK リーグは、論文の提出期限が決まっています。各グループは、そのスケジュールに合わせて論文を作成することになります。各グループ内で論文を分担して作成すると思いますが、各自の担当作業が授業内で完了しないこともあるでしょう。その場合、各自、自宅に持ち帰って論文を作成し、提出期限に間に合わせるようにしていただきます。また、授業内では、進捗状況を報告してもらいますので、発表にあたっているグループは協力して、しっかりとレジュメ作成をしてもらいます。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
本ゼミは、「インター大会」あるいは「STOCK リーグ」への参加を目指しています。 両大会に参加するには論文の作成が必要となり、ゼミ活動では論文作成のための地道なグループワークへの参加が求められます。また、「インター大会」では他大学と議論することから、「STOCK リーグ」では投資テーマの決定の際に、積極的な発言が求められます。基本的なことですが、無断欠席、遅刻を厳禁です。			
授業スケジュール			
［講義概要］ ・両大会への参加にに向けて、夏休み中に論文作成に取り組む。 ・9～12 月はゼミ内でディスカッションして理解を深める。			

・インター大会のテーマは、金融および経済政策に関する諸問題から選ぶ。
・STOCK リーグのテーマは、長期的視点で投資テーマを設定する。

１～８．各グループの進捗状況の報告
９.「インター参加：インター参加の注意と説明」 or 「STOCK リーグ参加：各グループの進捗状況の報告」
１０～１１． 「インター参加：反省会」 or 「STOCK リーグ参加：各グループの進捗状況の報告」
１２～１４． 「インター大会：ゼミ論文まとめ」 or 「STOCK リーグ：論文最終段階」
１５． 来年度にむけて諸注意

*「インター大会」あるいは「STOCK リーグ」のスケジュールに応じて、
上記の講義日程を変更します。

［参考１］ インター大会のＨＰ;
http://www.inter-seminar.com/
［参考２］ ＳＴＯＣＫリーグＨＰ
http://manabow.com/sl/index.html
https://stockleague.nikkei.co.jp/login/index.aspx

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★★	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J82020217
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
授業概要	企業組織では、スポーツ組織と共有できるチームマネジメント論が存在する。現在、企業では高度成長期に日本で意識付けられた、ソーシャルキャピタルの精神が見直されて来ている。スポーツ組織でも、仲間同士での協調行動により、信頼関係を築き効率性向上を図るため、コーチングやリーダーシップなどのチームマネジメント力が必要となる。当ゼミナールでは、実在の企業による組織マネジメントを参考に、スポーツのチームマネジメントを通して、企業の理解を深め組織マネジメントの知識を学ぶ。		
教材（教科書）	適宜指示する。		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	平常点（受講態度など）７０％、レポート３０％により評価する。		
到達目標	企業組織とスポーツ組織の共通するマネジメントを理解して整理し、身近な社会組織の中で実践する知識と行動力を身に付ける。		
授業時間外学習	毎回の講義終了時に、次回の範囲や課題を指定するので、予習・復習しておくこと。また、企業経営やスポーツ経営のニュース（テレビ・新聞・ネットなど）に関心を持ち、自分なりの考えを持つように心がける。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業には積極的に参加し、受講者全員で進めて行ける心構えを持つこと。			
授業スケジュール			
１．　オリエンテーション ２．　専門ゼミナールＡの復習 ３．　グループワークとプレゼンテーションの方法 ４．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究① ５．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究② ６．　企業とスポーツ関連のマネジメント事例研究③ ７．　レポートの書き方 ８．レポートの書き方 ９．　レポートの題材決め １０．レポート資料調査 １１．レポート作成 １２．レポート作成 １３．レポート発表 １４．レポート発表 １５．授業内容の振り返り（ディスカッション方式）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	★	★	－

年度	2018	授業コード	J82020219
科目名	専門ゼミB 【航空】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
授業概要	このゼミは、「航空観光プログラム」の一部として実施します。 専門ゼミ A の延長活動として、航空観光分野に限らず、広くサービス業等における経営面と政策面の両方の論文を書き、議論をすることに重点をおきます。産業・ビジネスにおける社会的経済的な様々な問題について、それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し、それらの社会経済問題の解決・改善方法（政策）を、社会全体の利益の視点から議論します。		
教材（教科書）	教科書はここでは指定しません。この授業は演習なので、教材を自分で探すところから勉強が始まります。また、テーマは諸君の自由ですので、テーマが決まったら、教材の探し方についてお話します。さらに、テーマ次第でその都度、必要な文献を示唆します。		
教材（参考資料）	教科書の項と同じです。		
教育方法	ゼミの時間は前もって準備してきたレジュメにそっての発表と、それについてのディスカッションを主とします。3 年生時にはグループによる論文執筆、4 年生時には個人で卒業論文を書く作業が中心となります。全員が航空観光プログラム生として、この専門ゼミ以外に、所定の講義 2 科目と、キャリアサポート実践講座、セミナーやインターンシップに参加することができます。		
評価方法	1)発表内容、2)この授業の活動全体（勉強以外のイベントへの参加運営など）への貢献の程度などにより判断します。ウエイトは一定ではありません。特定項目が非常に優れていればそれだけで 100%の評価をする場合もあります。 一方、基本的な常識、意欲がかけている場合は、１）や２）が 100 点でも 0 点とすることもあります。		
到達目標	共同論文作成の基本要領を身に付けること。		
授業時間外学習	毎回ある自身の発表の準備（レジュメ作成、PPT 作成)、他の学生の発表のコメントの準備。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「航空観光プログラム」の選考方法や選考日程、履修条件については、すでに説明会で示したとおりです。単位にならない課外授業としての受講もできますが、その場合も航空観光プログラムへの登録が必要です。

この授業では、教室での発表と論文作成のみならず、セミナーやインターンシップなど様々なイベントへの参加など多岐にわたる活動を実施します。それをこなす能力と意欲と財力が求められます。PC は必ず用意すること。がんばってついてきてくれれば必ず成長できます。

授業スケジュール

1．セミナー、インターシップの事後発表
2．セミナー、インターシップの事後発表
3．共同論文の内容について議論
4．共同論文の内容について議論
5．共同論文の内容について議論
6．共同論文の内容について議論
7．共同論文の内容について議論
8．共同論文の内容について議論
9．共同論文の内容について議論
10．他大学との共同報告会の準備
11．他大学との共同報告会の準備
12．他大学との共同報告会の準備
13．共同論文の最終発表
14．卒業論文のテーマ発表

15. 卒業論文のテーマ発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	−	★★

年度	2018	授業コード	J82020220
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	・開講は経営学科であるが、われわれは日々法律に囲まれて生活しているために、経営学科の学生が法律を学ぶことにも十分意義がある。この演習では、民法総則及び物権法に関わる判例を扱い、まずは、民法も制度の基本並びに当該判例の扱う問題点およびその解決方法を理解できるようにすることを目的とする。 ・ゼミ生の報告を中心に演習を進めるが、報告者以外の参加者は、報告者に対して質問することにより理解を深める。他人の前で質問するためには、考えながら話を聞く必要がある。みんなの前で発言できるようにすることも、もう一つの目標である。		
教材（教科書）	必要なものは配布する。		
教材（参考資料）	・『民法判例百選１（総則・物権）〔第７版〕』別冊ジュリスト 223 号 ・『民法判例百選２（債権）〔第７版〕』別冊ジュリスト 224 号 ・『民法判例百選３（親族・相続）〔第７版〕』別冊ジュリスト 225 号 ・その他、これまでに受講した民法科目で使用した教科書。 ・中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）		
教育方法	・ゼミ生を５班程度に分けて、班ごとに報告することとする。 ・ゼミ用に参考文献を１冊購入するので、担当班はそれを読んだ上で、レジュメを作成すること。 ・報告者は、PC を使ってあらかじめ A3 用紙２枚程度までのレジュメを作成する。 ・発表が内容について、次回冒頭に小テストを行い、受講者の理解度を図る。		
評価方法	・報告に用いたレジュメを報告後、誤字脱字をはじめ、表現等が分りにくかった点調べきれていなかった点を追加・修正して提出すること。 ・１５回出席することを前提として、報告関連（レジュメ・報告態度・内容）20%、質疑・議論への参加 35%、小テスト 30%、ゼミ論文 15%。		
到達目標	・民法の判例を調べることができる。 ・判例研究のレジュメを作成できる。 ・みんなに分りやすく説明できる。 ・みんなの前でわかりやすく質問できる。 ・法律論文を書くための知識を身につける。		
授業時間外学習	・報告者は事前に報告内容をレジュメにした上で、研究室に報告に来ること。もちろん修正を求める。 ・復習に際しては、法律用語等の意味を、参考書を用いて調べておくこと。調べられているかは、ゼミの際に確認する。 ・全員に関連資料をあらかじめ配布するので、下記に従い事前に一読してから挑むこと。その他の課題も併記する。 １．作るべきレジュメの形式の確認。テンプレートを作成しておく。今季の目標を決め、京学なびに入力する。「はじめに」と目次の発表に向け、仕上げておく。 ２．発表者は、文章の修正や、目次の修正をし、必要な判例も探し始める。未発表者は、他人に対する指摘を自らに置換えて、修正を試みる。 ３．発表者は、文章の修正や、目次の修正をし、必要な判例も探し始める。 ４．担当判例について収集した資料の整理、読み始めること。 ５．担当判例を一読し、用語の意味などを調べておく。 ６．賃貸人の修繕義務不履行と賃借人の損害回避減少措置のレジュメを次回報告に向け読み返す。 ７．レジュメおよび資料を読み返し判例の考え方を理解するよう努める。 ８．将来発生する債権の譲渡のレジュメを次回報告に向け読み返す。 ９．レジュメおよび資料を読み返し判例の考え方を理解するよう努める。 １０．面会交流の間接強制のレジュメを次回報告に向け読み返す。 １１．レジュメおよび資料を読み返し判例の考え方を理解するよう努める。		

	１２．夫と通じた者に対する妻の慰謝料請求権のレジュメを次回報告に向け読み返す。 １３．レジュメおよび資料を読み返し判例の考え方を理解するよう努める。 １４．民法 915 条 1 項の「自己のために相続の開始があったことを知った時」の意義のレジュメを次回報告に向け読み返す。 １５．レジュメおよび資料を読み返し判例の考え方を理解するよう努める。

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・受講しておいて欲しい科目：法学、民事法入門、民法総則、家族法、債権法、契約・不法行為法、物権法。
・平行して受講して欲しい科目：消費者法
・遅刻のないようにすること。欠席は、事前に連絡すること（病欠も含む）。
・演習中の入退室を禁じる。
・その他、履修要項の「第 1 部　履修の心得」参照。

授業スケジュール

１．報告班の確定、作るべきレジュメの形式の確認。各班 5 分程度で報告する問題を紹介する。
２．書き上げた「はじめに」と目次の発表
３．書き上げた「はじめに」と目次の発表
４．判例検索の方法および関連文献の検索方法の確認および実践並びに資料収集
５．裁判例および判例の構造と読むべきところの確認と実践。
６．賃貸人の修繕義務不履行と賃借人の損害回避減少措置（最判平 21・1・19 判時 2032 号 45 頁）（百選２　6 事件）
　事件に関する事実の概要
　民法の制度の確認
７．同上
　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
８．将来発生する債権の譲渡（最判平 11・1・29 判時 1666 号 54 頁）（百選２　28 事件）
　事件に関する事実の概要
　民法の制度の確認
９．同上
　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
１０．面会交流の間接強制（百選３　20 事件）
　事件に関する事実の概要
　民法の制度の確認
１１．同上
　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
１２．夫と通じた者に対する妻の慰謝料請求権（最判平 8・3・26 判時 1563 号 72 頁）（百選３　10 事件）
　事件に関する事実の概要
　民法の制度の確認
１３．同上
　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認
１４．民法 915 条 1 項の「自己のために相続の開始があったことを知った時」の意義（最判昭 59・4・27 判時 1116 号 29 頁）（百選３　75 事件）
　事件に関する事実の概要
　民法の制度の確認
１５．同上
　事実の概要の再確認、事件の論点と議論の確認

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020221
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	各種講義や資料講読など、２回生までに基礎的な学習をしてきたみなさんは、卒業論文にむけての次の段階として、自らが興味を抱いたテーマについて、専門的な研究を開始することになります。そこで必要とされてくるのが、それぞれのテーマに関して、先行研究をしらべ、研究の素材となる史料の所在を知ることです。この演習では、それを段階に応じて各人が報告や発表を行い、他の受講生もまじえた質疑応答を行います。さらに担当教員のコメントと指導を受けることで、研究を深めていきます。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	学生による発表中心の授業です。		
評価方法	授業中の質問・発言など　20% 発表内容　80%		
到達目標	・卒論のテーマ設定を行うこと ・そのテーマに関する先行研究の読み込みを深めること ・そのテーマに関する史料をみつけること。		
授業時間外学習	とにかく自らの発表の準備にできる限りの時間を割いてください。発表内容について、何を聞かれても答えることができるような入念な準備をお願いします。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各自の興味に沿った研究テーマの設定と確立に努力して欲しい。真摯な姿勢での受講を望みます。			
授業スケジュール			
1　　ガイダンスと発表順番の設定 2　　４回生の卒業論文中間報告会を聴講する ３～６　発表その１ テーマ：論文を深く読み込もう！ 発表内容：論文を１本決めて、内容の要約と自分の感想 ７～10　発表その２ テーマ：論文をもっと深く読み込む！ 発表内容：前回の論文の注記載論文のなかから、もっとも 興味をもった論文を一つとりあげる。発表内容は前回と同じ。 11～13　発表その３ テーマ：史料を読んでみる！ 発表内容：これまで読んできた論文で使われていた史料のなかから １～数点選んで、その概要と、実際に自分で読んでみてわかった ことを発表する 14～15　発表その４ テーマ：回顧と展望 発表内容　後期の取り組みのまとめとそれを踏まえて春休みにやる ことを発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020222
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	・個人、もしくはチームで自由に研究テーマを決めて行う自由ゼミである。研究テーマは日本に関することであれば、時代・分野を問わない。対外関係・国際交流や比較史でも構わない。 ・それぞれの研究テーマが決まると、①そのテーマについて論じた研究論文のリストを作成する、②関連する資料を調べる、③重要な論文を選んで、それをまとめ、自分の意見を付け加えて発表する。 ・この授業を通して、調べる力、まとめる力、考える力、発表する力を養って、卒業論文の作成へとつなげたい。 ・自分の研究の進行状況について、3000 字のレポートを提出する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	発表（40%）レポート(40%)、質疑(20%)		
到達目標	収集した論文・資料をもとに、そのテーマについての研究状況を的確にまとめて自分の意見を述べる力を養成する。		
授業時間外学習	自分が選んだ研究テーマについて、しっかりと準備を進めて授業に臨んでほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・自由に研究テーマを決めることができるというのは、反面また苦しいものでもある。できるだけ自分の力で研究を進めたいが、行き詰まったなら遠慮なく相談にきてほしい。 ・仲間の発表については、参加者の積極的な質疑応答を期待したい。			
授業スケジュール			
1.ガイダンス 2.研究テーマの決定準備 3.研究テーマの決定 4.先行研究のリスト作成と資料状況の報告 5.先行研究のリスト作成と資料状況の報告 6.先行研究のリスト作成と資料状況の報告 7.研究発表 8.研究発表 9.研究発表 10.研究発表 11.研究発表 12.研究発表 13.研究発表 14.研究発表 15.研究報告の総括			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020223
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
授業概要	民俗学資料講読など、2 回生まで基礎的な学習をしてきた学生諸君が、その中から興味を抱いたテーマに関して、専門的な研究を開始させることになる。提出した研究計画書をまず検討し、それに沿って、テーマをめぐる資料、論文を探し出し、これまでの研究史を知るという順序になることだろう。段階に応じて各人が報告や発表を行い、質疑応答を経て担当教員のコメントと指導を受ける。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	自分が追求しようとしているテーマに沿った専門的な論文を探して来て、まずは先行研究としてレジュメにまとめ、パワーポイントも作成し、それによって全体にプレゼンテーションを行う。それに対して形式の不備の指摘や、テーマ設定や方法についての質問、アドヴァイス等がなされる。 　発表者はそれを単に聞くだけでなく、必ず訂正等をメモし、その次の発表に備えなくてはならない。		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	最初は思いつきにすぎなかった研究テーマをどれだけ客観的なものに仕立てられるか。それが卒業研究の成果につながっていく。		
授業時間外学習	論文や図書の収集、解読。フィールドワーク。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

民俗学、文化人類学、口承文芸論、質的調査法、歴史地理学など、基礎的な関連科目を受講しておくこと。
　先行研究の論文を探す時は、どのような調査を行ってその結論に達したのか、具体的にわかりやすい論文を見つけること。具体的な調査法が読みとれれば、自らが調査する時に役立つことになる。そのためには、できるだけ多くの論文に目を通さなければならない。そして調査対象が定まって来たら、調査計画を立てて、フィールドワークに赴くことになる。

授業スケジュール

（1）研究テーマの再プレゼンテーション
（2）同上
（3）同上
（4）同上
（5）同上
（6）研究テーマに関する研究史発表
（7）同上
（8）同上
（9）同上
（10）同上
（11）研究計画書の検討
（12）同上
（13）同上
（14）文献目録作成について
（15）卒業研究に向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020224
科目名	専門ゼミＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	卒業論文作成に向けて、研究論文を後追い調査し、引用文献などを調べてみる作業を行う。対象となるべき論文は、学生本人の興味に沿うものとする。 論文の内容を理解して、授業時間内で要約発表してもらう。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	担当者と担当日を決めて発表を行う。 ２名が１回を担当する。		
評価方法	時間内の用意してきたレジュメと発表の仕方など。		
到達目標	基本的な学術論文が読んで理解できること 聞いている人の理解度を見ながら発表できること		
授業時間外学習	自分が興味を持つ分野の学術論文を見つけて読んでくること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ほかの人の発表をよく聞いてつねに質問を考えること。 担当が当たっている場合は間に合うように準備をすること。			
授業スケジュール			
１　学術論文の例 ２　選び方 ３　たとえばの例 ４～１４　発表 １５　来学期にむけて勉強しておくことについて			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J82020225
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	大学で最も重要な３回生の演習である。 授業で取り扱う内容はふたつある。ひとつは「語学」。江戸時代初期の安原貞室『かたこと』を扱う。この書は、京都の市井のことばに焦点を当て、乱れたことばを指摘して、それを正すことを目的として書かれた画期的な書物である。ことばの規範や方言研究にも役立つものである。 ふたつめは「秦氏の研究」である。これは主として歴史に興味のある人を対象としている。本学が根拠知とする太秦にゆかりの秦氏について深く研究する。 学生は、いずれかのテーマを選択し、それについて学期中に一度は発表してもらう。発表ができなかった者についてはレポートの提出をもってそれに代える。		
教材（教科書）	適宜紹介する。 また、指定図書にも配置する予定である。		
教材（参考資料）	白木進『かたこと』（笠間選書） 井上満郎『秦河勝』（吉川弘文館）		
教育方法	発表形式。		
評価方法	平常点（出席率）と発表した者は発表の内容、発表しなかった者はレポートの総合で判定する。１００％		
到達目標	しっかりしたプレゼンテーションができ、それに向けての予備調査ができる。		
授業時間外学習	授業終了時に進捗状況を確認しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講条件　なし 受講のルール　私語厳禁 学習上の助言　こつこつと手足を使って調査すること。			
授業スケジュール			
１．概要の説明 ２．既存研究の解説 ３．発表 ４．同上 ５．同上 ６．同上 ７．同上 ８．同上 ９．同上 １０．同上 １１．同上 １２．同上 １３．同上 １４．同上 １５．同上			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020226
科目名	専門ゼミＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	本演習では、民俗の空間的側面に焦点を当てるため、民俗の人文・歴史地理学的研究を特に重視します。 人文・歴史地理学は、文化の空間的側面を研究する学問です。あらゆる文化は、人間と環境との相互関係から生まれます。したがって、あらゆる文化が空間的特性を持つことになります。このように、人文・歴史地理学は様々な文化を研究対象にすることができます。 受講生は、どのような民俗に関するテーマを持って本演習に臨んでもかまいません。従来の受講生の多くは、神話、伝説、昔話、都市伝説、妖怪、地域、映画、食文化、祭り、異文化などをテーマとしてきました。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。そのことを踏まえて、最終的にはレポート作成、あるはフィールドワークを行い、４回生での卒論の準備とします。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	適宜紹介		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
授業時間外学習	研究テーマに則した学術論文、学術書を読んで、レジュメを作成しておくこと。発表に関するフィールドワークと、他のゼミ生の発表に対する討論の心構えと準備。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論を望む。			
授業スケジュール			
１　スケジュール ２　テーマの発表、資料検索、文献目録、図書館 ３～１５　ゼミ生の発表と討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J82020227
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	卒業研究を作成するための力をつける。卒業研究のテーマの決め方・論文の書き方などを指導する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	担当外の授業での質問・発言・議論等（40%） 担当時の発表（60&）		
到達目標	卒業研究に向けて、各自の扱う作品・テーマを絞り込む。		
授業時間外学習	論文の書き方、情報検索の方法について復習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。			
授業スケジュール			
講義日程は、受講生の数により柔軟に対応する。 1 卒業研究について　3回生秋学期にすべきこと 2　資料の集め方　先行研究論文等 3　資料の使い方　尊卑分脈・公卿補任・JK 語彙検索システム等 4　資料の収集と読解およびその発表 5〜14　同 15　今後の計画作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J82020228
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	手塚　恵子	旧科目名称	
授業概要	この演習は ①人類学･民俗学的手法で地域研究を行うことを目標においています。自分の生まれ育った文化とは違う形を持つ文化を、観察したり分析したりするには、天与の才能の他に知識や技術が必要です。このクラスではその知識や技術の習得に努めます。 参与観察の方法、インタビューの方法、資料の整理の仕方、旅行の技術、民族誌の書き方などなど。お手本になるのは、昔と現在の人類学者や民俗学者の著作です。 ②口承文芸を研究したいと考えている学生さんも歓迎です。口承文芸研究も異文化研究と同様なトレーニングが必要です。そのほかに口承文芸に関する教養やテキスト分析の知識も必要になるでしょう。 演習は、受講生の発表を中心とし、発表者以外の受講生は、その発表に対する質問、疑問を提示し、その上で討論を行います。そのことを踏まえて、最終的にはレポート作成、あるはフィールドワークを行い、４回生での卒論の準備とします。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	発表（60%）討論（40%）		
到達目標	プレゼンテーションの技術を学び、討論して問題を共有し、発表内容を向上させることを目標とする。		
授業時間外学習	テーマを設定し、方法論を見いだすために、多くの文献を読むこと。フィールドワークの計画し、それを実施すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
資料調査あるいはフィールドワークに基づく発表と討論を望む。			
授業スケジュール			
１.発表スケジュールの調整 ２.テーマの探し方、資料検索、文献目録、図書館の活用法 ３～１４．　担当者の発表と討論 １５.卒業研究の中間発表会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J82020229
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	「専門ゼミA」に引き続き、「専門ゼミD」で提出を求める卒業論文の作成に向けたゼミである。2回生までに得た国際金融と国際経済の知識と関心をもとに、受講生が自らテーマを選定し、資料作成や報告を行う。また、報告に対して受講生主体で討論を行う。資料作成や報告、討論を行うことを通じて、各受講生が予定する卒業論文の全体像を構想することができるようになることを目的とする。また、特に討論を行うことを通じて、卒業論文の全体構想だけでなく、主体的学びができるようになることも目的とする。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	適宜指定する。		
教育方法	学生が選定したテーマについて妥当か指摘し、資料作成のポイントを指導する。また、報告や討論の仕方についても随時指導する。		
評価方法	報告態度：３０％、討論への参加：３０％、課題への取り組み：４０％。		
到達目標	1. 自分で資料を収集できるようになる。 2. 収集した資料をもとに意見を述べることができ、論文を作成する能力を身につけることができるようになる。 3. 討論を通じて主体的学びができるようになる。		
授業時間外学習	資料作成や報告で指摘されたことは、次のゼミの時間までに修正しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 国際金融論、国際経済入門、国際経済学を事前に履修（または同時登録）して内容を理解しておくことが望ましい。
2. 遅刻や私語は厳禁とする。
3. トイレは原則として授業前に済ませるか休憩時に行くことが望ましい。
4. 資料の収集・作成も行うが、報告主体でゼミ運営を行うので、報告義務をきちんと履行することを求める。履行しない場合、厳正な対処を行うので注意すること。

授業スケジュール

1. ガイダンス
2. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成①
3. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成②
4. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成③
5. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成④
6. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成⑤
7. 各自が選定したテーマに基づき，資料の収集・作成⑥
8. 報告と討論①
9. 報告と討論②
10. 報告と討論③
11. 報告と討論④
12. 報告と討論⑤
13. 報告と討論⑥
14. 報告と討論⑦
15. 報告と討論⑧

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020230
科目名	専門ゼミＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	「専門ゼミＡ」までに得た知識や技術をもとに、自分の関心に沿って課題（テーマ）を設定し、それについて文献収集を行い、その文献について内容の要約報告を行ってもらう、その上で、各自の設定したテーマに沿った期末レポート（ゼミ論文）の完成を目指す。 なお、授業の時間の一部を使って、時事問題についての解説やそれに関する討論を行うことがある。		
教材（教科書）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（参考資料）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教育方法	毎回数名の担当者を決めて、レジュメを使った参考文献の要約報告（発表）を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。担当教員は、それらについて解説や助言を行う。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	現代の経済社会問題に対して自ら視点から意見を述べられること。		
授業時間外学習	新聞・テレビ等で報道される様々な経済・社会問題に日ごろから注意を払うこと。 スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。 参考文献を熟読し、レジュメにまとめておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の３分の１以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。
・毎回必ず１回以上発言（質問等）をすること。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないこと。
・メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡すること。

授業スケジュール

1.イントロダクション
2.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-1)
3.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-2)
4.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-3)
5.ゼミ論文作成に向けての中間報告(1-4)
6.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-1)
7.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-2)
8.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-3)
9.ゼミ論文作成に向けての中間報告(2-4)
10.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-1)
11.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-2)
12.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-3)
13.ゼミ論文作成に向けての中間報告(3-4)
14.ゼミ論文についての最終報告(1)
15.ゼミ論文についての最終報告(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020231
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
授業概要	私たちはどんなコミュニケーションを行なっているのか、現代社会はどんなコミュニケーションを行なう社会なのかという視点から、現代社会を考える。 3回生の秋学期は、まず文献講読をしてコミュニケーション社会学にどんなテーマがあるかを理解する。次に自分の研究テーマを考え、それにはどんな先行文献があるかを調べて研究計画を発表する。		
教材（教科書）	なし。プリント教材を講義中に配付する（京学なびにも掲載する）。		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	文献の講読は、学生の発表とディスカッションにより行なう。研究計画の発表の際も、これに対してディスカッションを行なう。受講生の数によって発表時間、回数は異なるが、基本的に3回の発表を予定している。他の受講生の発表の際は積極的に質問・意見を出してもらう。また他の受講生の発表の際の司会も交代で担当する。		
評価方法	発表、ディスカッション等の平常点（70%）、レポート（30%）		
到達目標	・与えられたテーマに関して先行研究を見つけ出すことができる。 ・学術論文を正確に、かつ、批判的に読み解くことができる。 ・わかりやすく適切なレジュメを作成することができる。 ・他者の発表を聞いて理解した上で、疑問点を指摘することができる ・研究計画を立てることができる。		
授業時間外学習	文献講読、および研究計画発表の準備をする。文献講読のレジュメをもとに、文献紹介レポートを執筆する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

演習への積極的な参加を求める。

授業スケジュール

《ガイダンス》
1. この科目のねらい、スケジュール、発表1回目の文献の指定、発表順序の決定

《文献をとおした研究》
2. 文献検索実習
3. 文献紹介レポートの書き方、発表2回目の文献の決定
4. 発表1回目（担当者2人）発表内容：指定した文献の講読
5. 発表1回目（担当者2人）発表内容：指定した文献の講読
6. 発表1回目（担当者2人）発表内容：指定した文献の講読
7. 発表1回目（担当者2人）発表内容：指定した文献の講読
8. 発表2回目（担当者2人）発表内容：受講者が選んだ文献の講読
9. 発表2回目（担当者2人）発表内容：受講者が選んだ文献の講読
10. 発表2回目（担当者2人）発表内容：受講者が選んだ文献の講読
11. 発表2回目（担当者2人）発表内容：受講者が選んだ文献の講読

《研究計画を立てる》
12. 研究計画とは
13. コミュニケーション社会学の様々な研究について
14. 発表3回目（担当者4人）発表内容：研究計画の発表
15. 発表3回目（担当者4人）発表内容：研究計画の発表

※上記の計画は受講生8名を想定した計画である。受講生の数により、発表者数・発表時間は増減する可能性がある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J82020232
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
授業概要	市民が「こころ」のよりどころとできるようなまち、地域の資源、芸術文化や生活財とはどのようなものだろうか。市民がそれらをもてるようになるために有効な具体的課題の設定から、その解決までを一貫して実施していく。社会調査をふまえた提言や施策の立案、広報などのコミュニケーション活動を実地に行う。京都や亀岡の地域や特定の事業体との連携を行うなど、教室と学外双方での活動をめざす。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	・J.W.ヤング、今井茂雄訳『アイデアのつくり方』、竹内均解説、CCC メディアハウス、1988 年 ・石井淳蔵『ブランド――価値の創造』、岩波新書、1999 年 ・『デザインで地域を元気にする――プロジェクトと仕掛人たち』、パイインターナショナル、2015 年 ・岡檀『生き心地のよい町――この自殺率の低さには理由（わけ）がある』、講談社、2013 年 ・伊藤香織・紫牟田伸子監修、読売広告社都市生活研究局『シビック・プライド』、宣伝会議、2008 年		
教育方法	各受講生の関心に沿ったテーマを立て、個別発表を進めるとともに、ゼミ生全員で共通のテーマについて発表・ディスカッションを行う。適宜プリントや映像資料を活用する。		
評価方法	毎回の演習への出席とプロジェクトへの参加：60%、プロジェクトの成果物やレポート：40%		
到達目標	1）地域の人びとや学外の専門家・活動者と出会い、インタビューやさまざまな共同作業を通じて課題解決のプロジェクトを企画・立案したり、その運営や成果達成を自分たちの手で行えるようにする。 2）社会学やメディア論、地域づくり事例など必要な文献を読み、上記のプロジェクトへの参加を通じて、4 回生で執筆する卒業研究のテーマを各自が立てる。		
授業時間外学習	地域づくりや特産物の開発、広報活動、ブランド開発などの実施事例について文献やホームページなどで積極的に情報収集しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ゼミ生全員がプロジェクトに参加し、学内外での活動を行うため、授業の出席だけではなく、調査の設計や実施、施策や広報物づくりなど、わりあい多くの共同作業が発生する。ゼミ生とのコミュニケーションをいとわず、課外の時間もあてられる学生の受講を希望する。友人がこの演習を選ぶからではなく、テーマに対して自分自身の問題意識を持てる人に来てほしい。

授業スケジュール

第 01 回：オリエンテーション
第 02 回：プロジェクトの実施プランの検討（1）
第 03 回：プロジェクトの実施プランの検討（2）
第 04 回：学外連携先との調整
第 05 回：プロジェクトの実施（1）
第 06 回：プロジェクトの実施（2）
第 07 回：プロジェクトの実施（3）
第 08 回：経過報告と軌道修正
第 09 回：プロジェクトの実施（4）
第 10 回：プロジェクトの実施（5）
第 11 回：プロジェクトの実施（6）
第 12 回：卒業研究テーマの検討（1）
第 13 回：卒業研究テーマの検討（2）
第 14 回：卒業研究テーマの決定（3）
第 15 回：秋学期のふりかえり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	−	−	★	−

年度	2018	授業コード	J82020233
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
授業概要	現代日本社会の諸問題という共通テーマに関係のある研究テーマを各人が自分の関心に従って決め、それに沿って進めた研究の成果を発表する。それに関して全員で議論をおこない、理解を深める。 なお、毎回、時間の一部を用いて、その時々の政治や経済のニュースについても研究する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	授業時に指示する。		
教育方法	受講者のテーマに沿った研究内容の報告を受け、それについて全員で議論する。議論の結果、深まった内容を文章にまとめる。		
評価方法	平常点と、発表･レポートによる。		
到達目標	自らの研究テーマを見つける。		
授業時間外学習	1．自分の研究テーマについて 200 字程度でまとめておく。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、授業の見通しを付けておくこと） 2．配付資料 No.1「社会の高齢化」 3．配付資料 No.2「現代の高齢社会」 4．配付資料 No.3「社会の情報化」 5．配付資料 No.4「現代の情報社会」 6．配付資料 No.5「国際化と外国人」 7．配付資料 No.6「日本社会の外国人」 8．配付資料 No.7「社会の近代化」 9．配付資料 No.8「近代化の負の側面」 10．配付資料 No.9「宗教と社会」 11．配付資料 No.10「現代社会の宗教」 12．配付資料 No.11「社会の文明化」 13．配付資料 No.12「弁明が社会に当てる影響」 14．自分のテーマについてレポート作成 15．作成したレポートを発表		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的に参加してほしい。

授業スケジュール

１．ガイダンス
２．社会の高齢化
３．現代の高齢社会
４．社会の情報化
５．現代の情報社会
６．国際化と外国人
７．日本社会の外国人
８．社会の近代化
９．近代化の負の側面
１０．宗教と社会
１１．現代社会の宗教
１２．社会の文明化
１３．文明が社会に与える影響

１４．レポートの書き方 １５．レポートの発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020235
科目名	専門ゼミＢ 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
授業概要	春学期の文献研究を踏まえて各自課題を選び、夏季休暇中に研究を進め、秋学期には各自の研究成果を報告し、専門ゼミＢ終了レポートをまとめてもらう。		
教材（教科書）	適宜指示する。		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	演習の形式で進める。		
評価方法	報告・レポート（100％）		
到達目標	歴史の連続と断絶を理解し、自分の立脚点を歴史のなかに位置づけることができる。		
授業時間外学習	輪番報告の形式で進め、報告者にはレジュメの作成を課す。従って、順次各自の課題図書を読み進め、速やかにレジュメ又はパワ＾ポイントを作成すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席は義務である。ただ出席するだけでなく、毎回必ず発言するなど、積極的に参加すること。			
授業スケジュール			
秋学期：夏季休暇中に進めた各自の研究を逐次報告してもらう。 16～20.各自の研究報告第一回（１）～(5) 21～25.各自の研究報告第二回（１）～(5) 26～30.各自の研究報告第三回（１）～(5)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020237
科目名	専門ゼミＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	本専門ゼミＡ～Ｄは学生が会計学の視点から物事を考え、問題の発見、解決能力を身に付け、最終的にはレポート、報告書の作成を目的としている。 そのためには、まず、専門ゼミＡでは、指定した教科書、資料の輪読・発表を通じて、レポートや論文の作成方法を身に着け、会計学の理論的な基礎を復習する。 専門ゼミＢでは、学生が自らの興味ある会計学の領域において、各自で教科書、参考資料の該当箇所を精読し、レポートを作成した上発表を行い、卒業論文のテーマを探す。 専門ゼミＣでは、学生が各自の関心ある社会現象について、資料を収集し、調査研究を行い、会計学の視点から、問題を指摘し、解決策を試みる。 専門ゼミＤでは、専門ゼミＣの成果に基づき、報告書か、卒業論文を作成する。		
教材（教科書）	授業中に適宜指示する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	事前に指定した教科書の該当箇所や参考資料を熟読し、各自にレポートを作成してもらいます。毎回担当者を指定し、授業中発表してもらいます。質問やコメントをすることで、学生の理解度をチェックし、必要な箇所について重要なポイントを説明します。		
評価方法	ゼミへの積極的参加（60%）、発表等成果物の質（40%）		
到達目標	論理的思考力を高め、会計学の視点で物事を説明できる。		
授業時間外学習	※簿記等の会計関連の授業を事前に履修してください。 ※発表者のみならず、発表しない人も事前に該当箇所を予習し、議論の準備をしてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
※授業に積極的に参加し、主体的な勉強を通じて課題の発見能力と解決能力を身に付けてください。			
授業スケジュール			
1. オリエンテーション（本ゼミの概要を説明し、テキストの指示、ゼミの具体的な進め方、勉強方法等の説明） 2. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッション。 3. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッション。 4. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッション。 5. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッション。 6. 会計の基礎教科書を輪読し、ディスカッション。 7.各自の関心あるテーマを発表し、ディスカッション。 8. 各自の関心あるテーマを発表し、ディスカッション。 9.各自の関心あるテーマについて基礎文献をレビューする。 10. 各自の関心あるテーマについて基礎文献をレビューする。 11. 各自の関心あるテーマについて基礎文献をレビューする。 12. 各自の関心あるテーマについて先行研究を探し、レビューする。 13. 各自の関心あるテーマについて先行研究を探し、レビューする。 14. 各自の関心あるテーマについて先行研究を探し、レビューする。 15. 専門ゼミＢのまとめ、質疑応答			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020238
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミ A で学習・議論した内容を踏まえて、個々人（あるいはグループ）が興味を持つトピックについてリサーチを行ってもらいます。そのリサーチに向けての基礎知識・技法を身に着けることを念頭に置きます。 それらに加えて、資料に基づいて、内容要約・プレゼンテーションを行うことで、統計をはじめとする各種資料・事例を読み取る基礎力やコミュニケーション能力を身に着けてもらいます。		
教材（教科書）	特になし。適宜指示します。		
教材（参考資料）	特になし。適宜指示します。		
教育方法	学生の発表を中心にしつつ、適宜講義法も取り入れた授業とする。		
評価方法	演習への積極的参加（50%）、小課題の評価（20%）、発表及びレポート評価（30%） ・欠席は減点します（出席は当然ですので加点しません）。特に、無断欠席や報告放棄は“大幅な”減点とします。 ・成果物の締切は厳守すること。締切を過ぎたものは一切受け付けません。内容（質）も重視します。 ・講義時間中の過度なスマホ操作や居眠りは“大幅な”減点対象とします。		
到達目標	・人材マネジメントや組織行動論に関する知識を身に着けるとともに、その知識をもとに自身の視点から考える。 ・事例分析を行うことやデータを読み取ることができる。		
授業時間外学習	・Word 及び PowerPoint の基礎的な使用方法を習得しておくこと。 ・「次回までに行うべきこと」が指示された場合は、しっかりと準備すること。課題は所定の期日までに提出すること。個人リサーチやグループワークが授業時間内で終わらなかった場合は、授業時間外にそれらに取り組むこと。また、発表担当時は責任をもって発表を行うこと。 ・教員からの諸々の連絡は、基本的に、電子メールによって行います。大学メールアドレスをこまめにチェックするようにして下さい。 ・「経営組織論」「人的資源管理論」が履修済み（あるいは並行して履修中、履修予定）であると好ましいです。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・ゼミ活動に積極的に参加すること。
・モノ・コトの内容を論理的に理解するように努力すること。
・「経営組織論」「人的資源管理論」が履修済みである（あるいは並行して履修される）と理解が進むと思います。
・「企業の事例を調べる」「各種統計データを読み取る」の 2 点がゼミ活動におけるキー活動となります。それらに対して苦手意識がない、あるいは苦手意識を克服しようと思えること。
・レポート（Word）や報告スライド（PowerPoint）などの資料を保存する媒体として USB を各自用意すること（4GB 程度で問題ありません：春学期に使用した USB を使用して下さい）。

授業スケジュール

1.オリエンテーション：本授業の説明（授業の目的・進め方）、グループ分け、グループ別の担当決定
2.グループワーク①：担当箇所についての発表、ディスカッション
3.グループワーク②：担当箇所についての発表、ディスカッション
4.グループワーク③：担当箇所についての発表、ディスカッション
5.グループワーク④：担当箇所についての発表、ディスカッション
6.グループワーク⑤：担当箇所についての発表、ディスカッション
7.グループワーク⑥：担当箇所についての発表、ディスカッション
8.人材マネジメントにおける課題や論点の整理①
9.個人報告①：発表、ディスカッション
10.個人報告②：発表、ディスカッション

11.個人報告③：発表、ディスカッション
12.個人報告④：発表、ディスカッション
13.個人報告⑤：発表、ディスカッション
14.個人報告の総括
15.人材マネジメントにおける課題や論点の整理②
※受講者の興味関心によって、上記予定は変更することもありうる。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020239
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミAの文献研究を踏まえて各自課題を選び、夏季休暇中に研究を進め、秋学期には各自の研究成果を報告し、専門ゼミB終了レポートをまとめてもらう。		
教材（教科書）	適宜指示する。		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	演習の形式で進める。		
評価方法	報告・レポート（100%）		
到達目標	歴史の連続と断絶を理解し、自分の立脚点を歴史のなかに位置づけることができる。		
授業時間外学習	輪番報告の形式で進め、報告者にはレジュメの作成を課す。従って、順次各自の課題図書を読み進め、速やかにレジュメ又はパワ＾ポイントを作成すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席は義務である。ただ出席するだけでなく、毎回必ず発言するなど、積極的に参加すること。			
授業スケジュール			
秋学期：夏季休暇中に進めた各自の研究を逐次報告してもらう。 1～5.各自の研究報告第一回（1）～(5) 6～10.各自の研究報告第二回（1）～(5) 11～15.各自の研究報告第三回（1）～(5)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020241
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	有馬　淑子	旧科目名称	
授業概要	社会心理学の研究を各自で行う。社会心理学の考察を深めると同時に、社会という曖昧な要因を含めた人間行動を科学的に探索できるようになる。研究方法は実験または調査、文献レビュー作成による。 ３回生の春学期は主に文献探索を行い、秋学期で各自の研究計画をたてる。心理学上級実験で実験・調査を実施し、その研究成果を発展させて４回生の専門ゼミＣ・Ｄで卒業研究を行うことになる。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する		
教育方法	Edmodo を通じて教材配布と課題提出を行う		
評価方法	平常点（40%)と、発表(20%)、提出物(40%)により評価する。		
到達目標	実験を実施するためには、文献と実験計画の知識をベースとした予測力、独自の研究を行う企画構想力、実験準備やデータ解析に関わる技術が必要です。上級実験と併せてこれらの力を養うことを目標とします。		
授業時間外学習	社会心理学Ⅰ・Ⅱ、心理学上級実験を履修のこと 授業終了後、読むべき文献を指示するので、発表の日までにレジュメを作成しておくこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席重視のため、遅刻、欠席のないように。やむをえず欠席する場合は、事前に担当者にメールで知らせてください。			
授業スケジュール			
第１回　実験計画法 第２回　ディスカッション　仮説を考えよう　1 第３回　ディスカッション　仮説を考えよう　2 第４回　ディスカッション　仮説を考えよう　3 第５回　ディスカッション　方法を考えよう　1 第６回　ディスカッション　方法を考えよう　2 第７回　ディスカッション　方法を考えよう　3 第８回　プレゼンテーションの方法 第９回　プレゼンテーションの作成 第10回　プレゼンテーション＆ディスカッション　1 第11回　プレゼンテーション＆ディスカッション　2 第12回　プレゼンテーション＆ディスカッション　3 第13回　ディスカッションに基づくプレゼンテーションの修正 第14回　研究計画書を書いてみる 第15回　振り返り、春休みの課題確認			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020242
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	臨床心理学はその専門家になる人にだけでなく、広く対人援助を志したい人、職業生活や日常生活での対人関係をより豊かなものにしていきたい人にとって、役に立つ学である。そしてその学の実践は「自分」が行なっていくのであり、そのためにはよく勉強し、その学を一定以上身につけなければならない。この演習では、とくに発達臨床心理学領域における基本的知識がより定着し、それらに関連する社会的に重要なテーマについての認識が拡がる。近隣の社会福祉施設の見学実習等を希望する学生の相談にはのる。また、対人援助系のボランティア等の募集が当ゼミにはよく届けられるので、そのような社会的活動の機会を自分のために積極的に活かすことができる。		
教材（教科書）	使用しない。必要に応じてプリント類を配布する。		
教材（参考資料）	授業で紹介する。		
教育方法	学生と教員が相互にやりとりして進め、映像等も用いることがある。		
評価方法	受講態度などの平常点（５０%）、授業内の課題への取り組みの評価点（５０%）。		
到達目標	どのような側面でもよいので、自分自身の力量についての自己評価が少しでも上がる。		
授業時間外学習	前回行なった内容について、得られたことや感じたことについてノートをとっておくこと。また、とくに「人間模様」に関する事柄にかんして、読んでみたい本を読む、テレビや新聞、インターネットなどを通して社会的情報に触れるなどのことを、積極的に行なってほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
秋学期開講の「心理アセスメント」を受講してほしい。提供されたテーマに対して積極的に取り組むこと。受け身だけでは身につくものも身につかない。			
授業スケジュール			
本授業については、その前コマの「臨床心理学実習」と 2 コマ連続で同一テーマを扱うので、 「臨床心理学実習」のシラバスと同一の内容になっている。 １．オリエンテーション、福祉現場を知る ２．「発達臨床心理学」の重要事項の確認(人間発達・障害) ３．映像による発達の理解 ４．「発達臨床心理学」の重要事項の確認(家族・その他の発達上にあらわれる課題) ５．映像による家族の理解 ６．「司法・矯正・福祉心理学」の重要事項の確認(児童福祉臨床・児童虐待) ７．映像による児童虐待の理解 ８．「司法・矯正・福祉心理学」の重要事項の確認(社会的養護・その他の福祉的課題) ９．映像による幸福についての理解 １０．臨床的ワーク(コミュニケーション) １１．臨床的ワーク(想像力・理解・解釈) １２．臨床的ワーク(家族・システム)　１３． 映像による人間心理の理解 １４．臨床的ワーク(コラボレーション) １５．臨床的ワーク(心理検査・心理療法周辺) ※以上については、内容や順序の変更があり得る。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	J82020243
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	山　愛美	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミ C・D における卒業研究を視野に入れ、自分の関心ある研究テーマを模索し、関連する研究の文献を探して、読みこなし、発表をする。発表の際には、討論を積極的に行い、幅広い専門的知識を習得する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	各自がテーマを決め研究発表を行い、全員で討論。 一部講義形式も含む。		
評価方法	平常点:討論への参加状況など(50%) 発表及びその内容をまとめたレポート　(50%)		
到達目標	各自関心ある研究テーマを絞る。 専門ゼミ A でも挙げているが、文献を読みこなしその内容を、自分の言葉を用いて人に説明をする、 さらに自分の考えをまとめて発表したり、討論したりする能力を身につける。		
授業時間外学習	研究発表の際には討論に参加できるように次回の発表の関連文献を読んで準備をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的に論文を読み、読書を進めること。　文学・芸術・アニメ文化などにも親しみ研究対象の選択肢として考えること。
読書を重視するので、その自覚を持って登録すること。

授業スケジュール

1　オリエンテーション
2　文献を読む（心理臨床、物語、文学、神話、ユング心理学に関わるもの)。
3　文献を読む
4　文献発表・討論
5　文献発表・討論
6　描画法検討　バウムテスト及び風景構成法
7　言語連想検査
8　表現療法の理解を深める
9　表現療法の理解を深める
10　文献購読
11　文献購読
12　文献購読
13　箱庭検討会
14　研究発表
15　研究発表
具体的な運営方法については登録者の人数によっても異なるので、相談のうえ決定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	J82020244
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
授業概要	【講義の概要】 基礎的な文献を読み、発表する。発表者以外は、きちんとそれに対して意見が言えるように練習します。 芸術療法、箱庭療法など、基礎文献のテーマによっては実習を取り入れます。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	授業への積極的な参加、発表だけではなく、自分の考えを人にも伝えられること。		
到達目標	心理療法の様々な理論を学ぶ中で、疑問をもち、考え、自分について理解を深めること。		
授業時間外学習	心理療法の基本的な文献など、自分で読むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ゼミ生が中心になって学んでいく授業です。責任をもってしっかり参加して下さい。自分の感じたことを言葉にして、人に伝えようとする姿勢を求めます。			
授業スケジュール			
【講義の順序とポイント】 1、オリエンテーション ２、図書館で文献を探す練習 ３、基礎文献　箱庭療法 ４、箱庭実習 ５、基礎文献　風景構成法、バウムテスト ６、風景構成法、バウムテスト実習 ７、基礎文献　コラージュ ８、コラージュ実習 ９、基礎文献　心理療法 １０、心理療法ビデオ １１、基礎文献、言語連想 １２、言語連想分析、 １３、基礎文献　夢分析 １４、基礎文献　遊戯療法 １５、箱庭ビデオなど			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020245
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
授業概要	臨床心理学に関する基礎的な知識を身につけ、論文が読めるようになる。 2 卒業研究を視野に入れ、論文の形式やテーマの設定方法、心理学的研究法の応用の仕方、先行研究の調査方法などを理解する。 　上記の課題達成のため、臨床心理学・精神医学の文献購読を実施し、論文を読みこなしてまとめられるようにする。		
教材（教科書）	市橋秀雄　『心の地図　こころの障害を理解する　上・下』星和書店		
教材（参考資料）	必要な図書は、授業中に適宜指示する。		
教育方法	受講生がテキストを分担して発表する。臨床心理学的体験を希望する場合は、適宜実施する。		
評価方法	授業中の発表(50%)　レポート(50%)		
到達目標	臨床心理学に関する基礎的な知識や技法を身につけると共に、自分の興味関心を研究へと結びつける枠組みを作り上げる。		
授業時間外学習	専門ゼミ A の内容を、再度よく理解しておくこと。 各講義ごとに、次週のための課題を提示する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講条件 　臨床心理学Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること。 学習上の助言 　自分の興味に応じて、教科書の内容に留まらず、積極的にさまざまな文献を読むことが望ましい。			
授業スケジュール			
1. 春学期のまとめ 2〜5.　　こころの地図　下巻講読・発表　人格障害 6〜9.　　こころの地図　下巻講読・発表　躁うつ病 10〜13.　こころの地図　下巻講読・発表　統合失調症 14. 病院見学 15. 総合的検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020246
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	行廣　隆次	旧科目名称	
授業概要	人間の思考や記憶といった知的機能の働きについて，認知心理学的な視点から考えていく。取り上げるテーマは受講生からの希望を勘案して決定するが，次のようなものが考えられる。 (1)人間の思考の特性とそのモデル (2)認知の中での記憶の役割 3 回生秋学期では，受講生自らの興味をもとに，関連する研究文献を収集し，その購読と発表を行うことを中心とする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	各回の担当の学生の発表と，それに対する討論を中心に，演習形式で授業を進める。		
評価方法	演習での発表や討論への参加等の日常点(70%)と期末レポート(30%)によって評価する。		
到達目標	心理学論文を批判的に読解することができる。 文献検索等によって，自らの関心に関連した文献を検索することができる。 卒業研究に向け，研究テーマを決定する。		
授業時間外学習	各回の演習の準備を十分行った上で参加すること。各回の発表担当の学生は，十分な発表準備を行うこと。その他の学生も，テーマとなる文献等に目を通して授業に出席すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

演習は参加学生の発表と討論を中心に進めるので，積極的な参加を希望する。
心理学上級実験を併せて履修すること。

授業スケジュール

1. 研究のためのスキルとは
2. 文献検索の方法
3. 学習・研究に役立つ種々のツール
4. 文献購読および発表
5. 文献購読および発表
6. 文献購読および発表
7. 文献購読および発表
8. 文献購読および発表
9. 文献購読および発表
10. 文献購読および発表
11. 文献購読および発表
12. 文献購読および発表
13. 卒業研究にむけた研究計画の検討
14. 卒業研究にむけた研究計画の検討
15. 3 回生での学習の整理と，卒業研究に向けた方針の確認

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020247
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
授業概要	本演習では，「感情」と「制御」を主たるテーマとして，それらに対する実証的なアプローチに関する基礎的な知識の獲得を目指す。受講者は，感情あるいは制御に関する学術論文の中から，自らが興味深いと感じたものを選択し，それを精読したうえで，パワーポイントを用いて発表を行う。他の受講者は，発表内容に関するディスカッションペーパーを作成し，議論を行う。 3 回生の秋学期は，日本語で書かれた学術論文，あるいは英語の学術論文の中から，受講者自身が論文を選び，発表を行う。また，各発表の後にディスカッションを行い，受講者全員で発表内容についての理解を深める。さらに，演習後半では，自分自身の卒業研究の計画について発表を行う。 これらの演習を通して，科学論文の読解スキルと心理学研究に関する基礎的な知識，および，プレゼンテーションスキルを獲得する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	関口貴裕・森田泰介・雨宮有里（編著）ふと浮かぶ記憶と思考の心理学：無意図的な心的活動の基礎と臨床　北大路書房 丹野義彦（2001）エビデンス臨床心理学 ―認知行動療法の最前線― 日本評論社		
教育方法	－		
評価方法	演習発表（50%）と，議論への参加の程度・内容（50%）を評価する。		
到達目標	学術論文の内容を理解することができる。 読解した文献の内容をまとめ，発表することができる。 他者の発表を聴き，発表内容を理解し，疑問点について質問できる。		
授業時間外学習	発表担当者は，自分の発表に向けて計画的に準備し，発表にのぞんでもらいたい。また，発表を聴く立場にある学生は，事前に資料を読み，発表内容についての疑問点をまとめておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「感情」と「制御」について，データに基づいた卒業研究（実験・調査）を行うことを目指す学生の受講を望む。また，全 15 回の演習に遅刻・欠席なく参加することを前提とする。やむを得ず欠席する場合は，事前に担当教員に連絡すること。事前に心理統計学の授業を履修済みであることが望ましい。
演習では受講者に意見を求める機会を設ける。また，ディスカッションや発表を課す場合がある。各課題への積極的な参加を求める。

授業スケジュール

1. オリエンテーション(授業概要の説明，発表担当回の決定)
2. 論文購読①ーグループ①・②―
3. 論文購読②ーグループ③・④―
4. 講評・修正点の確認
5. 論文購読③ーグループ①・②―
6. 論文購読④ーグループ③・④―
7. 論文購読⑥ーグループ①・②―
8. 論文購読⑦ーグループ③・④―
9. 講評・個別面談
10. 研究テーマの決定
11. 研究計画についての個別相談
12. 卒業研究の構想発表ーグループ①・②―
13. 卒業研究の構想について③ーグループ③・④―
14. 個別面談（研究テーマの詳細についての確認など）
15. 総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020248
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	川﨑　雄二郎	旧科目名称	
授業概要	ゼミでは現実社会における現象・問題をテーマとして取り上げ、ゲーム理論やその他の経済理論の見地からその原因、構造、解決法などについて議論する。この期間はミクロ経済学に関するテキストの輪読とグループ研究を並行して行う。輪読ではレジュメを用いて報告発表を、グループ研究では PowerPoint の資料にまとめて成果発表をしてもらう。		
教材（教科書）	神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社　3,456 円　ISBN-13: 978-4535557567		
教材（参考資料）	講義中に適宜紹介する。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	報告の内容（30%）、報告準備のプロセス（30%）、授業における発言・積極性（40%）などを評価基準とする。		
到達目標	１．ミクロ経済学を深く学び、それらを用いて現実の社会における問題・現象を分析する力を身につける。 ２．グループ研究を通して、問題を発見し解決する力、グループという協力体制で目標を達成する力、プレゼンなどのコミュニケーション力を身につける。		
授業時間外学習	各自割り当てられたテキストの内容を深く理解した上で、レジュメを作成したり発表の流れを確認したりなど発表の準備を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

輪読やグループ研究を実施することから、協調性をもってゼミやグループに貢献する意欲を持っていることが最低条件である。
またゼミでは、「読む・書く力」、「聞く・話す力」を磨くことも重点の一つととらえ、輪読での要点報告、グループでの研究報告発表、個人での卒業論文執筆などといった機会を設けている。これらの活動内容に対してやる気がない、あるいは「読む・書く力」、「聞く・話す力」を身につけるつもりがない学生は、このゼミに向かない。
数学や経済学、ゲーム理論などの知識は十分にあるのが望ましいが、知識がなくともゼミを通してきちんと身につける意思と覚悟があればよい。

授業スケジュール

１．ガイダンス：ゼミの進め方、PowerPoint の使い方
２．テーマ選定①
３．テーマ選定②
４．輪読・打ち合わせ
５．輪読・打ち合わせ
６．中間発表①
７．中間発表②
８．中間発表③
９．輪読・打ち合わせ
１０．輪読・打ち合わせ
１１．輪読・打ち合わせ
１２．発表準備①
１３．発表準備②
１４．グループ発表①
１５．グループ発表②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J82020249
科目名	専門ゼミＢ	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	跡田　直澄	旧科目名称	
授業概要	各自が「専門ゼミ A」で選択したテーマでの卒業論文作成に向けた研究計画に従い、研究成果を発展させ、研究テーマ関連分野の学習をより深めるための関連資料の収集・分析し、ゼミ生全員による研究成果の発表と議論を行い、卒業論文の構成を考える。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	各年版『経済財政白書』内閣府		
教育方法	必要に応じて、資料を配布しながら、講義法と学生の発表を中心に授業は進める。		
評価方法	ゼミでの議論への参加（30%）、発表内容（30%）、最終レポートの達成度（40%）で評価する。		
到達目標	研究計画に従った当該年次の目標を達成する。具体的には、卒業論文の構成の作成。		
授業時間外学習	各自の研究テーマに関連した情報を常に収集し、発表の準備をしておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎週、目標をもって、研究を進めてほしい。
また、自分のテーマのことだけでなく、ゼミの他のメンバーの研究テーマにも関心をもって、お互いの議論できるように努力してほしい。

授業スケジュール

第１回　今年度のゼミの概要説明
第２回　研究テーマ別発表①：研究計画と調査研究の現状報告
第３回　研究テーマ別発表①：研究計画と調査研究の現状報告
第４回　研究テーマ別発表①：研究計画と調査研究の現状報告
第５回　研究テーマ別発表①：研究計画と調査研究の現状報告
第６回　研究テーマ別発表①：研究計画と調査研究の現状報告
第７回　研究テーマ別発表②：卒業論文の構成案と現状報告
第８回　研究テーマ別発表②：卒業論文の構成案と現状報告
第９回　研究テーマ別発表②：卒業論文の構成案と現状報告
第１０回　研究テーマ別発表②：卒業論文の構成案と現状報告
第１１回　研究テーマ別発表②：卒業論文の構成案と現状報告
第１２回　研究テーマ別発表③：研究成果の全体像の報告
第１３回　研究テーマ別発表③：研究成果の全体像の報告
第１４回　研究テーマ別発表③：研究成果の全体像の報告
第１５回　全体発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020250
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	近年の情報通信技術（ICT）の発達を背景として、シェアリングエコノミー、プラットフォームビジネス、フィンテックなどさまざまな新たなビジネスモデルが登場しているほか、産業の構造も大きく変わりつつある。 本ゼミでは、情報通信技術で変わるビジネスの仕組みについて学び、卒業論文の完成に向けてゼミを行う。ゼミ生は各自の関心・問題意識を持つ研究テーマを選び、文献調査、資料・レポートの作成や報告と論文執筆を目的とする。また、ゼミでの報告はゼミ生主体で討論を行う。 秋学期では、各自の研究テーマと文献調査に基づき、論文の研究背景・構成と研究意義（暫定的な結論）を論理的に考察するとともに、課題抽出、および研究報告・討論と卒業論文の作成を行う。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	報告内容３０％、討論への参加３０％、課題への取り組み４０％。		
到達目標	自主的に研究テーマに関する文献調査、情報収集、データの分析を行い、それを基に資料を作成し、ゼミで報告・討論できる。特定のテーマについて自分の問題意識と独自の意見に基づき、論文を作成する。		
授業時間外学習	マクロ・ミクロ経済学、金融入門、国際経済入門、国際経済学を事前に履修（または同時登録）し、経済学理論、金融システムの枠組みの内容を理解すること。 新聞・テレビ等で報道された様々な経済・金融問題に日々関心を持つこと。 事前に参考文献を熟読したうえで文献調査を整理し、ゼミの報告資料を作成すること。そこで指摘された内容について、次回のゼミの時間までに調べて修正し、どのように修正したかを教員に説明すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ゼミ生一人一人の、主体的・積極的な取り組みを求める。また、ゼミ生は必ず毎日勉強・読書・ゼミの報告準備・論文作成を進めてもらいたい。ゼミでは積極的な研究報告と討論の参加を求める。毎回必ず１回以上の発言（質疑等）を求める。
受講のルールは、無断欠席、遅刻、私語を厳禁とする。授業回数の３分の１以上に欠席・遅刻した場合には単位を認めないので、十分注意してください。

授業スケジュール

１．イントロダクション
２．卒業論文作成に向けて理論的な考察と課題抽出の中間報告（１－１）と討論
３．卒業論文作成に向けて理論的な考察と課題抽出の中間報告（１－２）と討論
４．卒業論文作成に向けて理論的な考察と課題抽出の中間報告（１－３）と討論
５．卒業論文作成に向けて理論的な考察と課題抽出の中間報告（１－４）と討論
６．卒業論文作成に向けて理論的な考察と課題抽出の中間報告（２－１）と討論
７．卒業論文作成に向けて理論的な考察と課題抽出の中間報告（２－２）と討論
８．卒業論文作成に向けて理論的な考察と課題抽出の中間報告（２－３）と討論
９．卒業論文作成に向けて理論的な考察と課題抽出の中間報告（２－４）と討論
１０．卒業論文作成に向けて理論的な考察と課題抽出の中間報告（３－１）と討論
１１．卒業論文作成に向けて理論的な考察と課題抽出の中間報告（３－２）と討論
１２．卒業論文作成に向けて理論的な考察と課題抽出の中間報告（３－３）と討論
１３．卒業論文作成に向けて理論的な考察と課題抽出の中間報告（３－４）と討論
１４．卒業論文の最終報告と討論
１５．卒業論文の最終報告と討論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J82020251
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	日本経済や国際経済に関わる問題を、経済学とくにマクロ経済学の理論を応用しながら考えていきます。このゼミでは、最終的には一人ひとりが各自のテーマに沿って研究し、その研究成果を卒論という形に仕上げることを目標としますが、専門ゼミ B ではグループごとにマクロ経済に関するテーマを設定し、文献の調査やプレゼンテーション用の資料の作成等を行っていきます。また、学生の興味に応じて、統計分析ソフト等を用いたデータ分析も行うことも予定しています。		
教材（教科書）	初回の授業時に指示します。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介する予定です。		
教育方法	講義と学生の発表を中心に授業は進められます。 随時、英字新聞を含む新聞記事や雑誌なども講読する予定です。		
評価方法	発表点評価（50%）担当箇所を発表する際の、内容・方法を評価します。 平常点評価（50%）ゼミへの出席状況、他の発表者への発言や態度などを総合的に評価します。		
到達目標	１．マクロ経済学に関する専門用語・基礎概念を理解できる ２．学んだ理論的な枠組みを用いて、経済問題を考えることができる		
授業時間外学習	「マクロ経済学」を履修済みであることが望ましい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ゼミの大半は、教科書や資料の指定された箇所を輪読する形で行われます。 発表者以外も、対象箇所を事前に精読してくることが必須となります。			
授業スケジュール			
1. 講義のガイダンス 2. グループ調査(1):　グループごとにテーマを設定する 3. グループ調査(2):　文献の調査を行う 4. グループ調査(3): 同上 5. グループ調査(4): 同上 6. グループ調査(5): 同上 7. グループ調査(6): 同上 8. グループ調査(7): プレゼンテーション用の資料の作成 9. グループ調査(8): 同上 10. グループ調査(9): 同上 11. グループ調査(10): 同上 12. プレゼンテーション（1) 13. プレゼンテーション（2) 14. 各自興味のあるテーマについて発表 15. 秋学期のまとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020252
科目名	専門ゼミ B	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar B		
担当者名	池田　晃彦	旧科目名称	
授業概要	春学期の基礎知識をふまえて、各自のテーマの設定と発表・討論を行う。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	・岩本武和『国際経済学　国際金融編』ミネルヴァ書房、2012 年。 ・ポール・クルーグマン、モーリス・オブストフェルド、マーク・J・メリッツ『クルーグマン国際経済学理論と政策　原書第 10 版　下：金融編』丸善出版、2017 年。 ・その他適宜指定する。		
教育方法	学?の発表と講義法を中?に授業は進められる。		
評価方法	平常点（質問・討論への参加状況）60%、報告内容等 40%		
到達目標	自らテーマを設定して関連資料を収集し、意見を述べることができる。		
授業時間外学習	マクロ経済学に関する基礎的な科目を事前にまたは並行して履修する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・プレゼンテーションの練習も行うため、PowerPoint などの発表用ソフトを準備してください。
・英語による文献の講読にも意欲的な学生を求めます。

授業スケジュール

1. ガイダンス
2. 各自のテーマ設定
3. 各自のテーマおよび資料収集に関する報告
4. 報告と討論(1)
5. 報告と討論(2)
6. 報告と討論(3)
7. 報告と討論(4)
8. 報告と討論(5)
9. 報告と討論(6)
10. 報告と討論(7)
11. 報告と討論(8)
12. 報告と討論(9)
13. 報告と討論(10)
14. 論文執筆に向けての指導(1)
15. 論文執筆に向けての指導(2)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J82020301
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミA，Bで学んだことをさらに深く研究し、卒業研究としてまとめます。 受講生が卒業論文を完成させることを目的とします。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介します。		
教育方法	演習主体で行う。 教員は学生個別に進捗状況を把握しながら、適宜アドバイスを行う。基本的には学生が主体で、資料調査、分析、論文作成を行う。		
評価方法	取組姿勢（50%）。成果物（50%）。		
到達目標	卒業論文を完成することができる。		
授業時間外学習	ゼミの時間は議論と発表が中心となるので、議論のための事前準備、発表のための資料作成を事前に十分行っておくこと。具体的には、企業のホームページや企業に関する文献・新聞・雑誌記事の収集・分析・整理、それに基づく考察を行う。（各回の学習推定時間は 60 分）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ゼミのメンバー間での意見交換が重要ですので、他のメンバーの発表はしっかり聞き、必ず質問・意見を述べること。

授業スケジュール

1. 研究の進め方、論文のまとめ方について説明
2. 研究テーマ案の発表
3. 関連文献、資料の調査
4. 関連文献、資料の調査
5. 研究計画の作成
6. 研究計画の作成
7. 研究テーマ、研究計画の発表、意見交換
8. 研究テーマ、研究計画の発表、意見交換
9. 研究テーマ、研究計画の決定
10. 研究論文作成
11. 研究論文作成
12. 研究論文作成
13. 途中経過発表、意見交換
14. 途中経過発表、意見交換
15. 研究論文作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J82020302
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	卒業研究指導		
教材（教科書）	研究テーマに合わせて個別に指導します		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	担当の学生が準備してきたレジュメに従って報告と討論を行います。		
評価方法	中間報告(20%)、最終報告(20%)、最終レポート(60%)		
到達目標	自分自身で設定した研究対象について、問題の所在がどこにあるか説明できる。 そのテーマに対して、どのような手法で解き明かそうとしているのか説明できる。		
授業時間外学習	各自の研究テーマに沿った課題を与えるので、他の参加者にも理解してもらえるようなプレゼン資料の準備をしてくること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
遅刻・欠席にあたっては事前に連絡すること。			
授業スケジュール			
1. 各自の今後の研究方向の決定 2. 卒業研究の書き方の指導(1) 3. 卒業研究の書き方の指導(2) 4. 卒業研究の書き方の指導(3) 5. 関連書籍･データの収集(1) 6. 関連書籍･データの収集(2) 7. 関連書籍・データの収集(3) 8. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(1) 9. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(2) 10. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(3) 11. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(4) 12. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(5) 13. 中間報告(1) 14. 中間報告(2) 15. 中間報告(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020303
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	インターネットに代表される広域ネットワークの普及はわれわれの生活まで変革を迫っている。 高度情報化がすすむつれ、企業にもこれまで以上に迅速な対応を迫られている。 ちょっとした判断の遅れが取り返しのつかないことになる中で、情報システムの高度化とそれへの適応がますます重要なものになってきている。 反面、広域ネットワークの普及によって企業秘密の漏えい、不正なネットワークへの侵入、ネットワークを取り巻く倫理の欠如などの問題が噴出している。 授業概要、ゼミスケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。(但し、予告なしにアドレスが変更されることがある。) その他の特記事項　時間外での相当量の学習、調査を要する。		
教材（教科書）	適宜指示する。		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	受講・発表など授業での取り組み 40%、演習課題及びレポート 60%で評価する。		
到達目標	経営における情報システムと情報管理の動向や問題点を整理し、今後の展望を明らかにする。そして各自のテーマを選択し、知の充実を図りつつ卒業論文を作成できる。		
授業時間外学習	授業外でのワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションの活発な利用で、コンピュータのビジネス利用のための基礎素養向上のための文字入力トレーニング(学年末に 500 字/10 分)、表作成、文書作成練習を常にしておくこと。 各回の授業内容に該当する教科書や配付資料のページを事前に読んで、専門用語の確認などを含めて事前学習をしておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。 第 1 回　経営学の基礎知識に関する資料を読み、要点をまとめる 第 2 回　経営学の基礎知識に関する資料を読み、要点をまとめる 第 3 回　経営学の基礎知識に関する資料を読み、要点をまとめる 第 4 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 5 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 6 回　各自の作成したレジュメの中間発表用原稿を作成する 第 7 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 8 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 9 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 10 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 11 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 12 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 13 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 14 回　各自の作成したレジュメの発表用原稿を作成する 第 15 回　ゼミ生全員の発表に対するコメントをまとめる		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
経営、及び情報というものに興味を持ち、自らの積極的な参加を期待する。			

授業スケジュール
新しい IT 技術の経営分野への適用可能性について、調査、比較、検証し、個人研究による卒業論文にまとめていく形態の指導を行っていく。 1.今後、重要になってくる新たな情報システム、新たな情報管理の手法を実験的に構築する。 2.実験構築した内容の評価を行う。 1　　はじめに ２～３　経営学の基礎・応用知識の復習 ４～５　テーマの設定 6　　中間報告 7～14　資料収集、システム構築、レジュメの作成、報告、検証、討論を重ねる 15　　学期末発表会 授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J82020304
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミ A・B で学んだことをもとに、論文のテーマを決める。各自の設定したテーマごとにレジュメの作成、報告というかたちですすめ、卒業論文の作成につなげていく。 本講義では、受講生が論文を作成するための知識を習得するとともに、経営学の応用的な知識を理解できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	各自の研究テーマに合わせて適宜指示する。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	授業内小テストと毎回のコメントシートによる平常点（３０％）。授業中に課すレポート（７０％）。		
到達目標	論文を作成するための知識（テーマ設定、情報収集・整理、構成力、文章力等）の習得を目標とする。 経営学の応用的な知識を理解することを目標とする。 経営学に基づく卒業論文を作成することができる。		
授業時間外学習	各回の学習推定時間は 45 分。 第 1 回　経営学の基礎知識に関する資料を読み、要点をまとめる 第 2 回　経営学の基礎知識に関する資料を読み、要点をまとめる 第 3 回　経営学の基礎知識に関する資料を読み、要点をまとめる 第 4 回　経営学の基礎知識に関する資料を読み、要点をまとめる 第 5 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 6 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 7 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 8 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 9 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 10 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 11 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 12 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 13 回　各自の作成したレジュメの発表用原稿を作成する 第 14 回　各自の作成したレジュメの発表用原稿を作成する 第 15 回　ゼミ生全員の発表に対するコメントをまとめる		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で論文作成をするよう心がけること。

授業スケジュール

1　春学期オリエンテーション
2　経営学の知識の復習①
3　経営学の知識の復習②
4　経営学の知識の復習③
5　論文テーマの設定①
6　論文テーマの設定②
7　論文テーマの設定③
8　資料収集①
9　資料収集②
10　論文構成の作成①
11　論文構成の作成②
12　論文構成の作成③

13　論文構成の発表①
14　論文構成の発表②
15　専門ゼミ C を通して学んだことの展望

授業の進度に応じて順序が入れ替わったり、変更したりすることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020305
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミCにおいては、専門ゼミBで選んだ課題について、研究報告を積み重ね、卒業論文にまで研究を深めてもらう。		
教材（教科書）	全員に統一したテキストはない。		
教材（参考資料）	各自の研究テーマに必要な参考文献については個々に指示する。		
教育方法	演習の形式で進める。		
評価方法	卒業レポート（100%）		
到達目標	卒業研究（論文）を完成する。 歴史の連続と断絶を理解し、自分の立脚点を歴史のなかに位置づけることができる。		
授業時間外学習	各自の卒業研究の完成に向かって全力を注いでもらいたい。 具体的には、毎週各自の研究の進捗状況を報告し、参加者の人数により変わるが、二〜三週間に一度順次研究報告を求める。従って、各自各回研究報告のために準備し、発表時にはレジュメ又はパワーポイントを作成すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席は義務である。ただ出席するだけではなく、毎回必ず発言するなど、積極的に参加すること。			
授業スケジュール			
春学期： 1〜4.専門ゼミB終了レポートの確認と今後の研究方向の指導 5〜9.第一回研究報告、 10〜14.第二回研究報告、 15.夏季休業中の研究に関する指導			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020306
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミＡＢで学んだこと、感じた問題意識を基に、卒業研究のテーマを見つける。 テーマに関する情報収集や整理、分析を通じ、問題意識を明確化するとともに、論文としてまとめる構成力・文章力も育成する。また、ゼミ内で、お互いのテーマや進捗状況だけでなく、卒業後に進む企業についての情報交換等も行い、理解を深めることができるようになる。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	進行状況に応じ、適宜資料を紹介、提供する。		
教育方法	個人指導を基本とし、グループワークを取り入れるかたちで進める。		
評価方法	授業内発表（50%）、レポート等提出物（50%）		
到達目標	経営学部生として学んだ 4 年間のまとめとして、自らテーマを定めて情報収集や分析を行い、研究成果としてまとめる力を獲得することができるようになる。		
授業時間外学習	専門ゼミ AB を通じて設定したテーマについて、卒業研究としてまとめられるよう資料収集と整理を行い、毎月第 1 週の授業時に提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

大学で学んだことの集大成としての卒業研究に取り組むことは、社会人になってからのキャリアに向けての自分自身への大きなプレゼント。就職活動と並行しながら積極的にチャレンジすること。

授業スケジュール

1. ゼミの目的と方法
2. 論文の書き方①
3. 〃　②
4. 研究テーマの見つけ方
5. テーマの洗い出し
6. テーマ周辺情報収集
7. 〃
8. 関連書籍・データの収集
9. 〃
10. 整理・分析
11. 〃
12. テーマの決定
13. 〃
14. 意見交換会
15. 報告会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020307
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	2000 年以降「幸福に関する研究」が経済学、心理学、社会学、マーケティングなど、分野を超えて、また世界的にブームになっています。 経済成長だけでは生きる目標になりえないと感じている人が世界的に増えていることがその背景にあると考えられます。 この講座では、主に 2000 年以降の幸福研究が何を課題として議論してきたのか、また、その結果として現状では何が得られ、何が課題として残されているのかを説明します。 幸福というテーマは、それぞれの学生にとっても「自分ごと」として捉えやすいと思いますので、授業の解説は理解し納得するためのものではなく議論の種をいくつも含むものにしますので、　講義を聞いたのちのディスカッションに重点を置きます。 自由な発想力と意見構築力を鍛えることができるゼミです。 また、就活においても、大学で学んだこととして「幸福論」を挙げられるテーマとなることも目指しています。		
教材（教科書）	キャロル・グラハム『幸福の経済学―人々を豊かにするものは何か』多田洋介訳　日本経済出版社 ¥2,160		
教材（参考資料）	山田昌弘＋電通チームハピネス『幸福の方程式　　新しい消費のカタチを探る』ディスカヴァー・トゥエンティ・ワン　¥1,000＋税		
教育方法	初回以降、毎回の講義の終わりに次回の講義テーマの概略を話します。また、次回の講義資料を京学ナビに掲載します。それを見て、担当に指名されたゼミ生は次回の授業のためのディスカッションテーマを提供し、意義のあるディスカッションを実施します。 （1）パワーポイントによる講義（授業の前半） （2）講義テーマ領域に関するゼミ生からの問題提起（輪番制） （3）ディスカッション		
評価方法	（1）輪番担当時のディスカッションのテーマ設定と議論の誘導のスキル（60%） （2）通常時の授業やディスカッションへの貢献（40%）		
到達目標	1．幸福研究に関して一通りの専門家として就活の面接などで話ができるようになること 2．幸福研究の知見を今後のキャリア形成やライフスタイルに活用していく指針を持てること		
授業時間外学習	（1）次週に予定されているレジュメを読み、ディスカッションのポイントを 2 つ以上見つけてくること （2）教科書の関連するページや関連する Web サイトを検索し、概要を理解しておくこと 第 2 回　教科書　第 2 章　p67-78 第 3 回　教科書　第 3 章　p107-133 第 4 回　教科書　第 1 章　p19-55 第 5 回　教科書　第 4 章　p135-168 第 6 回　参考文献　p89-109 第 7 回　参考文献　p138-194 第 8 回以降は参考資料を事前に配布します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」について評価します。「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加）、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。

●（就活に関係するなど特別な場合を除き）スマートフォンの電源は授業の始まり時に切ってもらいます。電源を切れない事情がある場合は授業の初めに講師に申し出てください。

授業スケジュール

1.　　幸福研究の現在
ヒルティ、ラッセル、アランの哲学的な幸福論ではなく、イースタリン・パラドクスとカーネマンの心理学以降の幸福論に焦点を当て、いまブームになっている幸福論では何が議論されているのかを知ります。
2.　　幸福の２つの源流
アリストテレスの「エウダイモニア」を追求する幸福論と、ベンサムの現在の快楽を増やしていく幸福論の二大潮流を中心に、多くの議論が集約されることを説明します。
3.　　イースタリン・パラドクス
経済が成長しても人々の幸福感が増えないのはなぜか。経済学が解決しようとして行動経済学を生み出した魅力的な問題提起について議論します。
4.　　グラハムの主観的幸福感のパラドクス
幸福度の国際比較を研究しているキャロル・グラハムが提起する幸福のパラドクスで、所得の低い人の幸福感は高く所得の高い成功者の幸福感が低いのはなぜかを、推測しながらみんなで議論します。
5.　　幸福の多面的把握
自分の実感からスタートして幸福を定義してみます。他の人の定義と合わせていくと幸福感がいかに様々な側面を持ち、定義が困難であるかを実感します。
6.　　幸福感と時間
幸福は今の幸福感だけではなく、人生を通しての幸福も考慮しなければなりません。が、それだけでなく、時間の使い方や時間の充実感も幸福に関係します。幸福と時間との関係についてみんなで議論します。
7.　　幸福感と他人の存在
幸福は自分一人では実感しにくくなっています。幸福において比較対象になったり、承認を与える存在となったり、他人の存在の必要性についてみんなで議論します。
8.　　幸福の測定データの現状
幸福に関する主要なデータについて、そのデータが実感に合っているのか、何を語っているのかをみんなで議論します。
9.　　幸福度指数作成の各政府の取り組み１
ブータンをはじめとして、幸福度指数を作成している政府や自治体の事例を紹介します。
10.　　幸福度指数作成の各政府の取り組み２
日本政府が作成した幸福度指標を見て、納得できる点や課題を話し合います。
11.　　新しい幸福度指数をつくる１
過去のさまざまな問題を一通り知ったうえで、理想的な幸福度指数をみんなで議論しながら作成してみます。
12.　　新しい幸福度指標をつくる２
調査企画案を作ったり、さらにブラッシュアップしていきます。
13.　　京都の幸福度指数
京都経済同友会の依頼で袖川がかつて作成した幸福度指数のシステムについて説明します。
14.　　社会を良くするためのアイデア（ナッジ）
幸福研究の実践として、社会を良くするためのデザインであるナッジについて事例を説明し、新たなナッジデザインのアイデアを出し合います。
15.　　幸福研究の問題点と課題
政府が幸福を定義する危うさや幸福研究の限界について話し合い、今後幸福研究はどのように発展すべきかを考えます。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J82020308
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	特定の労働問題について、その生起理由と対策を卒業論文に書き著す。卒業論文の作成を通して、受講者は人や組織が直面する問題を発見することができ、解決策を提案できる。		
教材（教科書）	なし。資料を適時配布する。		
教材（参考資料）	石井 一成『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社。 東洋経済新報社（編集）『就職四季報(総合版)』，『就職四季報(優良・中堅企業版)』。		
教育方法	各自の卒業論文の完成を目指して、講義法、グループワーク、発表、個別指導を併用する。学生は、Word, Excel, PowerPoint,を使って、卒業論文を作成する。		
評価方法	卒業論文の内容（70%)、受講・発表・取組姿勢（30%）で評価する。		
到達目標	＊受講者は、社会の一員として、現実の問題に対して解決策を提案でき、社会改善力を有することができる。 ＊受講者は、企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について説明できる。		
授業時間外学習	卒業論文作成に必要な文献の読解は当然ながら、下記も行う（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 第 1 回目…配布資料）卒業論文の書き方について、を読む。 第 2 回目…卒業論文のテーマを決定し、そのあらすじ・概要を書く。 第 3 回目…卒業論文のテーマを修正する。 第 4 回目…配布資料）データ収集と分析の仕方を読む。 第 5 回目…教員から指示された文献の収集を行なう。 第 6 回目…文献の収集を行なう。図書館に無い文献を教員に伝達する。 第 7 回目…脚注機能を習得する。章立て・論文構成の素案を練る。 第 8 回目…章立て・論文構成の素案を修正する。 第 9 回目…章立て・論文構成の素案を再修正する。 第 10 回目…序論を書く。 第 11 回目…序論を修正する。第 1 章を書く。 第 12 回目…第 1 章を修正する。 第 13 回目…第 1 章を再修正する。 第 14 回目…構成・章立て・序論・各論の微調整を行う。 第 15 回目…夏期休校中にすべきことを作成する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＊就職活動予定者を対象としているのでゼミ選択の際には注意すること。
＊パソコンを使うことが多いので、そのつもりで履修すること。ワードやエクセル等のソフトを活用できる方が望ましい。

授業スケジュール

各人が卒業論文の途中経過を報告するのがメインである。その中で下記に取り組む。
1. 各種ビジネスソフトの再教習。盗作・剽窃の厳禁、についての指導。
2. 卒業論文のテーマ・その概要を、指導教員を含む他者から確認してもらう。
3. 資料・データ・文献の検索・収集方法についての再教習。
4. 修正された卒業論文のテーマ・その概要を、指導教員を含む他者から再度確認してもらう。
5. 卒業論文のテーマに沿った資料・データ・文献のリストを作成する。
6. 卒業論文のテーマに必要な資料・データ・文献のリストを、再度、指導教員を含む他者から確認してもらう。
7. 章立て・論文構成の素案を練る。
8. 章立て・論文構成の素案を、指導教員を含む他者から確認してもらう。
9. 修正された章立て・論文構成を、指導教員を含む他者から再度確認してもらう。
10. 序論を、指導教員を含む他者から確認してもらう。

11. 修正された序論を、指導教員を含む他者から再確認してもらう。
12. 第 1 章を、指導教員を含む他者から確認してもらう。
13. 修正された第 1 章を、指導教員を含む他者から再度確認してもらう。
14. 構成・章立て・序論・各論の内容調整を行う。
15. 夏期休校中のすべきことを指導教員に伝達する。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020309
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミCでは、スポーツ経営を題材としたテーマによる研究を「テーマ決定」、「情報収集」、「レポート作成」、「発表」という段階で進めて行く。研究を進めるなかで、経営学を学ぶと共に論文作成に取り組む。		
教材（教科書）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	平常点（受講態度など）５０％　レポート２５％　　発表２５％により評価する。		
到達目標	研究テーマについての情報収集能力を高め、研究成果を他者に伝えるための構成・文章力を身に付け、論文を作成することができる。		
授業時間外学習	毎回の講義終了時に、次回の範囲や課題を指定するので、予習・復習しておくこと。また、気になる情報はPC・携帯・情報誌などを利用し、調べる癖を付け、調べた内容をノートなどに残す。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

常日頃から、経営やスポーツの情報にアンテナを張り、気になる情報を収集して下さい。

授業スケジュール

１．オリエンテーション
２．レポートの書き方の復習
３．レポートの書き方の復習
４．研究テーマの決定
５．研究テーマの決定
６．研究テーマの情報収集
７．研究テーマの情報収集
８．研究テーマの情報収集
９．研究レポート作成
１０．研究レポート作成
１１．研究レポート作成
１２．研究レポート作成
１３．研究発表
１４．研究発表
１５．授業内容の振り返り（ディスカッション方式）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020310
科目名	専門ゼミＣ【航空観光プログラム課外講座】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミＣとＤでは、専門ゼミＡとＢで学んだ基礎をもとに、各自で卒業論文を執筆することが主要課題となります。また、観光航空プログラムの後輩の指導も重要な task となります。		
教材（教科書）	教科書はここでは指定しません。この授業は演習なので、教材を自分で探すところから勉強が始まります。また、テーマは諸君の自由ですので、テーマが決まったら、教材の探し方についてお話します。さらに、テーマ次第でその都度、必要な文献を示唆します。		
教材（参考資料）	教科書の項に同じ。		
教育方法	ゼミの時間は前もって準備してきたレジュメにそっての発表と、それについてのディスカッションを主とします。3 年生時にはグループによる論文執筆、4 年生時には個人で卒業論文を書く作業が中心となります。全員が航空観光プログラム生として、この専門ゼミ以外に、所定の講義２科目と、キャリアサポート実践講座、セミナーやインターンシップに参加することができます。		
評価方法	1)後輩に対する指導力、2)授業における発表、発言、3)運営への積極的な貢献の程度等、特定の項目が際立っていれば、それだけで 100%の評価をします。課外授業なので点数はつけません。		
到達目標	自分で課題を設定できる人間となること。後輩の課題設定に助言できるようになること。		
授業時間外学習	毎回ある自身の発表の準備（レジュメ作成、PPT 作成)、他の学生の発表のコメントの準備。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
最後の１年、がんばろう。			
授業スケジュール			
１．卒業論文のテーマ検討 ２．卒業論文のテーマ検討 ３．卒業論文第１回発表（30 分 x 2 人） ４．卒業論文第１回発表 ５．見学会の準備 ６．卒業論文第１回発表 ７．卒業論文第１回発表 ８．セミナーの準備 ９．卒業論文第２回発表 10．卒業論文第２回発表 11．卒業論文第２回発表 12．卒業論文第２回発表 13．セミナーの準備 14．３回生論文指導 15．３回生論文指導			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020311
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミD（秋学期）で卒論を書くためには、書物をじっくり読む読解力が必要となる。専門ゼミCでは、最近出版され話題のた書物をとりあげ、「本の読み方」のノウハウを指導する。授業の進め方としては、共通のテキストを選んで、それをゼミで輪読し、ポイントとなる問題について議論しながら読解力、理解力、コミュニケーション能力の向上を目指す。		
教材（教科書）	未定		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	内定に至るまでゼミ生の就職活動に対して具体的なアドバイスを行うとともに、専門ゼミD（秋学期）の単位要件である卒論執筆に必要に様々なノウハウについて指導する。とくに専門ゼミCでは、文献の読解力の向上を図るため、話題となっている書物を出席者全員で輪読することにしたい。		
評価方法	平常点（30%）受講態度等＋レポート（70%）		
到達目標	1．卒業論文を書くため必要な文献読解力を鍛錬できる。 2．輪読は、ゼミ生がにとって自分の意見を述べたり討議したりする機会ともなるので、論理的なコミュニケーション能力が高まる。 3．書物を読むことで、秋学期の卒論のテーマについての絞り込みが可能となる。		
授業時間外学習	テキストを指定されたところまで事前に読んでくること。読めない漢字や、意味の分からない専門用語については、辞典やインターネット検索等によって、かならず調べるという習慣を身につけること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
就職活動等でどうしても授業に出席できない事情がある場合を除き、無断でゼミを休まないこと。やむを得ず欠席しなければならない場合は、事前にメールで連絡するなど、担当教員とのコンタクトをつねに密にすることを望む。			
授業スケジュール			
1．ゼミ 7 のガイダンス 2．読書の仕方：専門書の読み方 3．輪読(1) 4．輪読(2) 5．輪読(3) 6．討論会(1) 7．輪読(4) 8．輪読(5) 9．輪読(6) 10．討論会(2) 11．輪読(7) 12．輪読(8) 13．輪読(9) 14．討論会(3) 15．卒論の準備について			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020312
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	株式をめぐる主要な論点を整理します。具体的には、株式にはどのような種類があるのか、株式の発行に必要な手続きは何か、企業が株主に報いるのはどのような手段があるか、といったことについて学びます。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考資料）	森本滋（2014）『会社法・商行為法手形法講義』第 4 版、成文堂。		
教育方法	講義法と学生による発表を中心に授業を進めます。		
評価方法	レポート（50%）、授業内試験（50%）		
到達目標	株式の定義・意義・種類等について正確に理解する。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する参考文献のページを読んでおくこと（各回の学習推定時間は 45 分間）。 第 1 回　森本（2014）180―187 頁。 第 2 回　森本（2014）187―192 頁。 第 3 回　森本（2014）192―198 頁。 第 4 回　森本（2014）198―204 頁。 第 5 回　森本（2014）205―208 頁。 第 6 回　森本（2014）208―214 頁 第 7 回　森本（2014）214―216 頁。 第 8 回　森本（2014）216―218 頁。 第 9 回　森本（2014）218―224 頁。 第 10 回　森本（2014）246―259 頁。 第 11 回　森本（2014）259―263 頁。 第 12 回　森本（2014）263―270 頁。 第 13 回　森本（2014）270―272 頁。 第 14 回　森本（2014）272―277 頁。 第 15 回　森本（2014）292―298 頁。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．経済関係のニュースに関心をもつこと。
2．太秦キャンパスの図書室には経済関係の雑誌が数種類備え付けられているので、それらに目を通すこと。

授業スケジュール

1．　株式の定義
2．　株式譲渡
3．　株主名簿
4．　株式の譲渡制限
5．　募集株式の発行
6．　公募ないし一般募集による発行
7．　株主割当による発行
8．　第三者割当による発行
9．　違法・不公正発行に対する措置
10．　株式の種類
11．　新株予約権
12．　社債
13．　新株予約権付社債

14. 事業譲渡
15. 株式の分割と交換

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020313
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	マクロマネー系の特性を調べる。マネーを precautionary demand や transaction demand に分解して、中央銀行の金融政策がどの程度、有効に働くかを考える。特に、金融緩和期において、量的な金融緩和の効果があったかどうかを、日本、アメリカ、ヨーロッパの各ケースごとに調べる。		
教材（教科書）	毎回、EXCEL と EViews により、データと分析方法を配布。		
教材（参考資料）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教育方法	（1）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （2）原データを EXCEL で加工して、EViews という分析ソフトに移す。 （3）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（1）から（3）を、テーマごとに繰り返す。 EXCEL や EViews の操作方法をまず最初に覚え、次にデータ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	平常点（毎回の授業の取り組み姿勢）100％		
到達目標	（1）時系列データの統計処理を行う。 （2）各種の推定や検定の計算手法を身に着ける。 （3）卒業論文の骨格を作る。		
授業時間外学習	3 回生時の金融システムの理解		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席すること			
授業スケジュール			
1.インフレ時のマネー変動 2.同上 3.同上 4.同上 5.デフレ時のマネー変動 6.同上 7.同上 8.同上 9.マネー、GDP、金利、準備金（中央銀行）の関係 10.同上 11.同上 12.同上 13.流動性の罠の検証 14.同上 15.同上			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020314
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
授業概要	共通テーマを「AI の発達と利用」とし、それがもたらす社会経済的影響を各自の関心領域に絞り込んで研究論文を作成する。		
教材（教科書）	適宜、案内・配布する。		
教材（参考資料）	（1）東洋経済編集部「ビジネスパーソンのための人工知能・超入門」 （2）AI ビジネス研究会・福林一平『60 分で分る！AI ビジネス最前線』 （3）小林雅一『AI の衝撃 人工知能は人類の敵か』		
教育方法	（1）前半は AI に関する基本情報について、配布資料に基づく講義形式で解説する。 （2）後半は、各自の報告とそれへの質疑応答を中心とした演習形式で進める。		
評価方法	授業内発表 50％　研究論文 50％		
到達目標	（1）研究論文作成に向けてテーマ選択の準備となるよう、AI の現状と将来および現代の日本企業の導入・活用状況を理解する。 （2） 研究対象とする業界と AI 技術を絞込み、その進展がもたらす社会経済的影響について研究し論文にまとめる。		
授業時間外学習	（1）AI に関連する新聞や雑誌、あるいはネット上のニュース記事に日頃から目を通す。 （2）重要な記事は、研究資料として印刷・保管し収集・蓄積を進める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（1）「AI とは何か」と問われて、一般の人に向けた説明ができる程度まで勉強する。
（2）「AI の影響」を予想する作業を通じて、将来を見通す力を磨くことを意識して取り組む。
（3）AI と自分の希望進路・業界と関連付けたテーマ・領域で研究する。

授業スケジュール

第 1 回：基礎資料の配布、大枠としての研究テーマの説明
第 2 回：AI 関連資料の解説 1
第 3 回：AI 関連資料の解説 2
第 4 回：AI 関連資料の解説 3
第 5 回：研究資料の収集とテーマ選択 1
第 6 回：研究資料の収集とテーマ選択 2
第 7 回：研究資料の収集とテーマ選択 3
第 8 回：研究論文作成の基本ルールの確認とテンプレート作成
第 9 回：研究論文の章立ておよび分析概要の報告 1
第 10 回：研究論文の章立ておよび分析概要の報告 2
第 11 回：研究論文の中間報告 1
第 12 回：研究論文の中間報告 2
第 13 回：研究論文の中間報告 3
第 14 回：研究論文の中間報告 4
第 15 回：研究論文の初校提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020317
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	各自テーマを設定し、卒業論文に向けての準備学習を行う。テーマは必ず現代経済が抱える諸問題を扱うこと。授業構成は、「卒論に向けての研究計画作成」「関連資料の収集」「卒論作成に向けての中間報告」の期間に大別できます。「研究計画作成」では、① 研究テーマ、② 研究目的、③ 研究方法、④ 卒論執筆のスケジュール、⑤ 参考文献のリストを研究計画書に記載して報告してもらいます。また、「中間報告」では、各自の論文の進行状況を報告してもらいます。報告者以外の者は、ただ報告を聞くだけでなく、報告者の報告に疑問があれば質問をしてください。		
教材（教科書）	特になし。 専門ゼミ B のときに作成した論文 スタートアップゼミのときに配布したテキスト『アカデミック・ライティング』		
教材（参考資料）	各自のテーマに応じて収集した書籍等		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	平常点(60%); 演習内の発表内容等による。 ゼミ参加熱意(40%)		
到達目標	卒業論文の準備のために、テーマの選定、文献調査の方法や論文の書き方を学ぶことができる。		
授業時間外学習	各自のテーマに応じた資料等を事前に読み、ゼミ時に発表・報告をしっかりできるようにしておくこと。 スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、文章作成の参考にすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

就活等でどうしてもゼミを休まないといけない場合があるだろう。そのような時以外は、無断欠席を禁止する。
休む場合は、事前に担当教員に連絡を入れること。また、逐次、就活の状況を担当教員に報告すること。

大学生活の最大の課題は、卒論と就活です。わずか 1 年間で卒論を作成し、就職先も決定しなければなりません。
このため、余裕のあるスケジュールを組んで、就活と卒論の両立を図ってください。社会に出れば、プロジェクトの同時進行は当たり前ですからね。

授業スケジュール

1. ガイダンスおよび各自の選択した研究テーマについての報告
2. 卒論に向けての研究計画作成①
3. 卒論に向けての研究計画作成②
4. 関連資料の収集①
5. 関連資料の収集②
6. 関連資料の収集③
7. 卒論作成に向けての中間報告①
8. 卒論作成に向けての中間報告②
9. 卒論作成に向けての中間報告③
10. 卒論作成に向けての中間報告④
11. 卒論作成に向けての中間報告⑤
12. 卒論作成に向けての中間報告⑥
13. 卒論作成に向けての中間報告⑦
14. 卒論作成に向けての中間報告⑧
15. 卒論の素案提出

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020318
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	本ゼミのテーマは、「人口減少社会における経済政策―特に働き方改革を中心にして―」です。 我が国は、2011 年から人口が継続して減少する人口減少社会に突入し、人口構成が経済社会にプラスの影響をもたらす人口ボーナス期から、労働力人口の減少など人口構成が経済社会の発展の重荷になる人口オーナス期に移行しました。これとともに、私たちの暮らしを支えてきた制度や仕組みが機能不全に陥りつつあります。 そのような中、安倍内閣は「一億総活躍社会」の政策プランを掲げ、働き方改革に取り組み始めました。そこでは、非正規雇用者の待遇改善を目指した「同一労働・同一賃金」、正規雇用者の長時間残業の禁止を含む労働時間の見直し、子育て支援の拡充を通じての女性就業率の引き上げなどが当面の政策課題として取り上げられています。 春学期は、基本文献の理解を深めつつ、卒業論文の作成に向けての中間報告を中心に進めていきます。		
教材（教科書）	特に使用しない		
教材（参考資料）	吉川洋(2016)『人口と日本経済―長寿、イノベーション、経済成長』中公新書		
教育方法	学生の報告を中心に進める		
評価方法	授業内報告(30%)、授業参加度(30%)、およびレポート(40%)		
到達目標	関連テーマの現状と政策の展開について、データに基づいて説明することができる		
授業時間外学習	新聞・雑誌記事・政府のホームページで政策的取組を確認すること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
知的好奇心を膨らまし、向上心を持って勉強すること			
授業スケジュール			
1　人口減少社会の基本文献の講読① 2　人口減少社会の基本文献の講読② 3　人口減少社会の基本文献の講読③ 4　人口減少社会の基本文献の講読④ 5　人口減少社会の基本文献の講読⑤ 6　人口減少社会の基本文献の講読⑥ 7　人口減少社会の基本文献の講読⑦ 8　働きかた改革の基本文献の講読① 9　働きかた改革の基本文献の講読② １０　働きかた改革の基本文献の講読③ １１　働きかた改革の基本文献の講読④ １２　働きかた改革の基本文献の講読⑤ １３　働きかた改革の基本文献の講読⑥ １４　働きかた改革の基本文献の講読⑦ １５　働きかた改革の基本文献の講読⑧			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J82020319
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
授業概要	情報社会への変革においてコンピュータが身近のものとなり、いろいろなイノベーションを引き起こしている。この急速なIT技術の進歩による社会環境の変化はまだ進化中であり、いまなお「新しい技術戦略」をもって多くの新しい製品が暮らしの中に次から次へと創発されている。その結果、今日では社会科学系、自然科学系を問わずどのような分野の仕事であろうともコンピュータ等の情報機器と共存した生活を営んでいる。現在のユビキタス社会での「新しい技術戦略」はさらなる「新しいビジネスモデル」を生み出す重要なものである。 　ゼミでは、「情報社会における技術戦略」に焦点を当て、次のようなテーマについて卒業論文の素案作りの学習を行っていく。①「情報社会における技術戦略論」,②「イノベーションと技術戦略」,③「情報社会における第二創業」④「地域資源とイノベーション」		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	「日本経済新聞」およびその他関連資料から抜粋し適時配布する		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる		
評価方法	「調査報告」(20%)+「中間進捗報告」(20%)+「卒業論文」素案(30%)+平常点(30%)		
到達目標	1)　卒業論文テーマに関する専門知識の習得 2)　調査研究計画に基づいた「卒業論文」の素案完成		
授業時間外学習	卒業論文テーマの関連知識を深く学習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1)　自分自身で問題意識をもって「卒業論文」の調査研究活動をおこなう。
2)　なにごとも積極的に情熱をもって明るく行動する。
3)　ゼミメンバーとして協調性をもつこと。
4)　ゼミを欠席しない（欠席の時は事前に理由を通知すること）

授業スケジュール

1.　ゼミの内容と進め方
2.　「卒業論文」完成までの「研究計画」の確認
3.　「卒業論文」のテーマ確認・決定
4.　「卒業論文」素案作成
5.　「卒業論文」素案作成
6.　「卒業論文」素案作成
7.　素案中間進捗報告(1)
8.　「卒業論文」素案作成
9.　「卒業論文」素案作成
10.「卒業論文」素案作成
11.素案中間進捗報告(2)
12.「卒業論文」素案修正
13.「卒業論文」素案修正
14.「卒業論文」素案修正
15.「卒業論文」素案・発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020320
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミBまでに得た知識をもとに、各自で研究テーマを設定し、卒業論文の作成に向けた準備を行う。そのために、各自の選択したテーマ（文献）について、毎回数名の報告担当者を決め、その要約報告を行ってもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。 なお、時間の一部を就職活動に関する情報交換や指導に充てる場合がある。		
教材（教科書）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（参考資料）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教育方法	学生は各自の選択したテーマについて文献を収集し、その内容の要約報告を行う。担当教員はそれについてコメントを行い、徐々に卒業論文の骨格が出来上がるよう助言・指導する。また、必要に応じてさらに必要な文献等を指示する。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けた十分な知識を得ること。		
授業時間外学習	・各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けて必要な文献・資料を収集し、熟読の上、報告時に配布するためのレジュメを作成すること。 ・スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の３分の１以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。ただし、就職試験等による欠席を事前に申し出た場合にはその限りではないので、担当者に連絡し指示を受けること。
・毎回必ず１回以上発言（質問等）をすること。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないようにし、メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡するとともに、「京学なび」へ再登録すること。

授業スケジュール

1.各自の選択した研究テーマについての報告と確認
2.卒業論文作成に向けての研究計画報告(1)
3.卒業論文作成に向けての研究計画報告(2)
4.卒業論文作成に向けての研究計画報告(3)
5.卒業論文作成に向けての研究計画報告(4)
6.卒業論文作成に向けての中間報告(1-1)
7.卒業論文作成に向けての中間報告(1-2)
8.卒業論文作成に向けての中間報告(1-3)
9.卒業論文作成に向けての中間報告(1-4)
10.卒業論文作成に向けての中間報告(2-1)
11.卒業論文作成に向けての中間報告(2-2)
12.卒業論文作成に向けての中間報告(2-3)
13.卒業論文作成に向けての中間報告(2-4)
14.今学期のまとめ(1)：今学期の学習・研究の成果の確認
15.今学期のまとめ(2)：来学期に向けての課題の整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020321
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	法的知識を身につけるとともに、ゼミ論文の完成に向け、それに必要な能力を身につけることが目的である。		
教材（教科書）	必要なものは配布する。		
教材（参考資料）	坂東俊矢・細川幸一『１８歳から考える消費者と法』（法律文化社）		
教育方法	・基本的にはゼミ生による発表により進めていきたいが、就職活動中であることに鑑み、教員が話題を提供することもある。 ・一応報告予定者と予定日を決定するので、報告者が各自レジュメを作成し、報告する方法で進める。		
評価方法	・発表できた者は、発表内容および態度並びにレポートを 40%で評価する。 ・どうしても発表できなかった者は、発表予定であったレジュメおよび授業外での口頭試問の結果を 40%で評価する。 ・ゼミ論文の完成に向け執筆したものを 30% ・出席し、議論した内容および態度を 30%		
到達目標	・スケジュール管理がしっかりできるようになる。 ・欠席連絡、遅刻連絡がしっかりできるようになる。 ・法律文献を抵抗なく読めるようになる。 ・法律用語を用いた文章がある程度書けるようになる。		
授業時間外学習	・ゼミＤで最終提出を求めるゼミ論文の執筆を密かに進める。 ・予定がいろいろできてくる頃であり、自宅での学習は困難を極める可能性があるが、次の復習をすることを求める。 １．執筆したゼミＢ論文を再読しておく。今季の目標を設定し京学なびに登録すること。 ２．講評を受け、必要部分の修正並びに執筆を継続する。 ３．講評を受け、必要部分の修正並びに執筆を継続する。 ４．講評を受け、必要部分の修正並びに執筆を継続する。 ５．「私たちの生きている社会はどんな社会か？」のレジュメを再読し、要点をまとめる。 ６．「生きていくためにしなければならないことを考える」のレジュメを再読し、要点をまとめる。 ７．「競争とは何か」のレジュメを再読し、要点をまとめる。 ８．「消費者の権利を考える」のレジュメを再読し、要点をまとめる。 ９．「消費者契約法の考える公正な契約とは？」のレジュメを再読し、要点をまとめる。 １０．「安心してサービスの提供を受けるには？」のレジュメを再読し、要点をまとめる。 １１．「ＩＴ社会で変わる通信販売を考える」のレジュメを再読し、要点をまとめる。 １２．「もうけ話にはたいてい裏がある？」のレジュメを再読し、要点をまとめる。 １３．「便利だけど危ないクレジットを知る」のレジュメを再読し、要点をまとめる。 １４．「製品の欠陥被害から消費者を守るために」のレジュメを再読し、要点をまとめる。 １５．「食の安全のために消費者は何ができるのか」のレジュメを再読し、要点をまとめる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・このゼミが開講される時期は、通常就職活動のまっただ中であり、どうしても遅刻ないし欠席せざるを得ないことがしばしば生じるが、必ず連絡を≫事前に≪すること。事前連絡の無い場合には、いずれも無断欠席として扱う。
・就職活動の状況は、逐次報告すること。
・勉学をおろそかにしないこと。

授業スケジュール

卒業前に論文を書いてもらうことが最終目標であり、そのために必要な文献を購読することも可能であるが、それはゼミ生が確定し、そのゼミ生が何を勉強したいと考えるかに依存する。シラバス作成の必要上、また、就職活動中で、報告者が欠席をせざ

るを得ない事情も生じることを踏まえ、次のような内容を予定しておく。

１．ゼミ論文を書くにあたっての注意事項、文献の引用方法とその実践。
２．各自の作成したゼミＢ論文の発表および議論並びに講評
３．各自の作成したゼミＢ論文の発表および議論並びに講評
４．各自の作成したゼミＢ論文の発表および議論並びに講評
５．私たちの生きている社会はどんな社会か？
６．生きていくためにしなければならないことを考える
７．競争とは何か
８．消費者の権利を考える
９．消費者契約法の考える公正な契約とは？
１０．安心してサービスの提供を受けるには？
１１．ＩＴ社会で変わる通信販売を考える
１２．もうけ話にはたいてい裏がある？
１３．便利だけど危ないクレジットを知る
１４．製品の欠陥被害から消費者を守るために
１５．食の安全のために消費者は何ができるのか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020322
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	本専門ゼミＡ～Ｄは学生が会計学の視点から物事を考え、問題の発見、解決能力を身に付け、最終的にはレポート、報告書の作成を目的としている。 そのためには、まず、専門ゼミＡでは、指定した教科書、資料の輪読・発表を通じて、レポートや論文の作成方法を身に着け、会計学の理論的な基礎を復習する。 専門ゼミＢでは、学生が自らの興味ある会計学の領域において、各自で教科書、参考資料の該当箇所を精読し、レポートを作成した上発表を行い、卒業論文のテーマを探す。 専門ゼミＣでは、学生が各自の関心ある社会現象について、資料を収集し、調査研究を行い、会計学の視点から、問題を指摘し、解決策を試みる。 専門ゼミＤでは、専門ゼミＣの成果に基づき、報告書か、卒業論文を作成する。		
教材（教科書）	授業中に適宜指示する。		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	事前に指定した教科書の該当箇所や参考資料を熟読し、各自にレポートを作成してもらいます。毎回担当者を指定し、授業中発表してもらいます。質問やコメントをすることで、学生の理解度をチェックし、必要な箇所について重要なポイントを説明します。		
評価方法	ゼミへの積極的参加（60%）、発表成果物（40%）		
到達目標	論理的思考力を高め、会計学の視点で物事を分析し、卒業論文のテーマ選びや、先行研究の整理、レビューすることができる。		
授業時間外学習	※簿記等の会計関連の授業を事前に履修してください。 ※発表者のみならず、発表しない人も事前に該当箇所を予習し、議論の準備をしてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
※授業に積極的に参加し、主体的な勉強を通じて課題の発見能力と解決能力を身に付けてください。			
授業スケジュール			
1　本ゼミの概要を説明し、テキストの指示、ゼミの具体的な進め方、勉強方法等の説明） 2　関心ある論文テーマと問題点の発表とディスカッション① 3　関心ある論文テーマと問題点の発表とディスカッション② 4　テーマに関する基礎知識の再確認① 5　テーマに関する基礎知識の再確認② 6　テーマに関する基礎知識の再確認③ 7　論文テーマの再確認 8　関連資料の収集① 9　関連資料の収集② 10　論文構成の作成① 11　論文構成の作成②			

12　論文構成の作成③
13　論文構成の発表①
14　論文構成の発表②
15　本ゼミのまとめ、専門ゼミＤに向かっての課題確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020323
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミA・Bで学習したことを基に、卒業研究のテーマについての学習・調査を進める。 情報収集・分析能力の向上を図るとともに、卒業研究を取りまとめて卒業論文を作成するために必要な能力（例えば、文章力）を伸ばす。 本ゼミの受講は就職活動と並行して進むことから、就職活動において調べた企業情報などについての情報交換を行い、卒業研究にも活かす。		
教材（教科書）	特になし。 個々人の興味・関心に合わせて随時指示する。		
教材（参考資料）	特になし。 個々人の興味・関心に合わせて随時指示する。		
教育方法	学生の発表とディスカッションを中心に授業は進められる。		
評価方法	報告（50%）、ディスカッションへの参加等（20%）、卒業論文作成に向けたレポート（30%）		
到達目標	自身で研究テーマを設定して、それらに関する資料・データを収集・分析できる。 それらを研究成果として論文にまとめることができる。		
授業時間外学習	自身の報告の際は、レジュメ又はパワーポイントを作成して、事前に担当教員に提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・卒業研究を進めることは大学生活における集大成への道のりの一つであることを意識してゼミに挑んで下さい。
・聴講者（＝報告者以外の者）は他者の報告を真摯に聞くこと。
・また、就職活動に関する情報交換・学習の場として活用して下さい。
・卒業論文（Word）・報告スライド（PowerPoint）などの資料を保存する媒体として USB を各自用意すること（4GB 程度で問題ありません）。
・無断欠席が 4 回を超える場合、報告を放棄した場合は、履修意思（意志）がないとみなします（※就活・大会出場などでの欠席は前以て伝えること）。

授業スケジュール

第 1 回　オリエンテーション（今後の進め方について）
第 2 回　報告・ディスカッション
第 3 回　報告・ディスカッション
第 4 回　報告・ディスカッション
第 5 回　報告・ディスカッション
第 6 回　報告・ディスカッション
第 7 回　報告・ディスカッション
第 8 回　報告・ディスカッション
第 9 回　中間とりまとめ
第 10 回 報告・ディスカッション
第 11 回 報告・ディスカッション
第 12 回 報告・ディスカッション
第 13 回 報告・ディスカッション
第 14 回 報告・ディスカッション
第 15 回 専門ゼミ C のまとめ・専門ゼミ D についての計画を立てる

随時、論文・レポート執筆を進めるので、それらの進行を報告する。
授業の進度に応じて順序が入れ替わったり、変更したりすることがあります。
就職活動に関する情報交換・学習の場として活用して下さい。
無断欠席が 4 回を超える場合、報告を放棄した場合は、履修意思（意志）がないとみなす。※就活・大会出場などでの欠席は前

以て伝えること。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020325
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar C		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミA・Bで学習したことを基に、卒業研究のテーマについての学習・調査を進める。 情報収集・分析能力の向上を図るとともに、卒業研究を取りまとめて卒業論文を作成するために必要な能力（例えば、文章力）を伸ばす。 本ゼミの受講は就職活動と並行して進むことから、就職活動において調べた企業情報などについての情報交換を行い、卒業研究にも活かす。		
教材（教科書）	特になし。 個々人の興味・関心に合わせて随時指示する。		
教材（参考資料）	特になし。 個々人の興味・関心に合わせて随時指示する。		
教育方法	学生の発表とディスカッションを中心に授業は進められる。		
評価方法	報告（50%）、ディスカッションへの参加等（20%）、卒業論文作成に向けたレポート（30%）		
到達目標	自身で研究テーマを設定して、それらに関する資料・データを収集・分析できる。 それらを研究成果として論文にまとめることができる。		
授業時間外学習	自身の報告の際は、レジュメ又はパワーポイントを作成して、事前に担当教員に提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・卒業研究を進めることは大学生活における集大成への道のりの一つであることを意識してゼミに挑んで下さい。
・聴講者（＝報告者以外の者）は他者の報告を真摯に聞くこと。
・また、就職活動に関する情報交換・学習の場として活用して下さい。
・卒業論文（Word）・報告スライド（PowerPoint）などの資料を保存する媒体として USB を各自用意すること（4GB 程度で問題ありません）。
・無断欠席が 4 回を超える場合、報告を放棄した場合は、履修意思（意志）がないとみなします（※就活・大会出場などでの欠席は前以て伝えること）。

授業スケジュール

第 1 回　オリエンテーション（今後の進め方について）
第 2 回　報告・ディスカッション
第 3 回　報告・ディスカッション
第 4 回　報告・ディスカッション
第 5 回　報告・ディスカッション
第 6 回　報告・ディスカッション
第 7 回　報告・ディスカッション
第 8 回　報告・ディスカッション
第 9 回　中間とりまとめ
第 10 回 報告・ディスカッション
第 11 回 報告・ディスカッション
第 12 回 報告・ディスカッション
第 13 回 報告・ディスカッション
第 14 回 報告・ディスカッション
第 15 回 専門ゼミ C のまとめ・専門ゼミ D についての計画を立てる

随時、論文・レポート執筆を進めるので、それらの進行を報告する。
授業の進度に応じて順序が入れ替わったり、変更したりすることがあります。
就職活動に関する情報交換・学習の場として活用して下さい。
無断欠席が 4 回を超える場合、報告を放棄した場合は、履修意思（意志）がないとみなす。※就活・大会出場などでの欠席は前

以て伝えること。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020401
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミA，Bで学んだことをさらに深く研究し、卒業研究としてまとめます。 受講生が卒業論文を完成させることを目的とします。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	実際に分析する企業に応じて、参考文献を適宜紹介します。		
教育方法	演習主体で行う。 教員は学生個別に進捗状況を把握しながら、適宜アドバイスを行う。基本的には学生が主体で、資料調査、分析、論文作成を行う。		
評価方法	取組姿勢（50%）。成果物（50%）。		
到達目標	卒業論文を完成することができる。		
授業時間外学習	ゼミの時間は議論と発表が中心となるので、議論のための事前準備、発表のための資料作成を事前に十分行っておくこと。具体的には、企業のホームページや企業に関する文献・新聞・雑誌記事の収集・分析・整理、それに基づく考察を行う。（各回の学習推定時間は 60 分）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ゼミのメンバー間での意見交換が重要ですので、他のメンバーの発表はしっかり聞き、必ず質問・意見を述べること。

授業スケジュール

1. 研究論文作成、個別指導
2. 研究論文作成、個別指導
3. 途中経過発表、意見交換
4. 途中経過発表、意見交換
5. 研究論文作成、個別指導
6. 研究論文作成、個別指導
7. 研究論文作成、個別指導
8. 途中経過発表、意見交換
9. 途中経過発表、意見交換
10. 研究論文作成、個別指導
11. 研究論文作成、個別指導
12. 研究論文作成、個別指導
13. 研究論文完成
14. 研究発表
15. 研究発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J82020402
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	卒業研究指導		
教材（教科書）	研究テーマに合わせて個別に指導します		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	担当の学生が準備してきたレジュメに従って報告と討論を行います。		
評価方法	中間報告(20%)、最終報告(20%)、最終レポート(60%)		
到達目標	自分自身で設定したテーマに対して、8000 字程度の論文にまとめる。 その問題点、解題のためのアプローチ、結論について説明できる。		
授業時間外学習	各自の研究テーマに沿った課題を与えるので、他の参加者にも理解してもらえるようなプレゼン資料の準備をしてくること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

遅刻・欠席にあたっては事前に連絡すること。

授業スケジュール

1. 卒業研究の方向性の確認(1)
2. 卒業研究の方向性の確認(2)
3. 卒業研究の方向性の確認(3)
4. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(1)
5. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(2)
6. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(3)
7. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(4)
8. 受講生ごとのテーマに沿った議論と考察(5)
9. 論文形式の再確認
10. 受講生ごとの問題点とその確認(1)
11. 受講生ごとの問題点とその確認(2)
12. 受講生ごとの問題点とその確認(3)
13. 受講生ごとの問題点とその確認(4)
14. 最終報告(1)
15. 最終報告(2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020403
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	インターネットに代表される広域ネットワークの普及はわれわれの生活まで変革を迫っている。 高度情報化がすすむつれ、企業にもこれまで以上に迅速な対応を迫られている。 ちょっとした判断の遅れが取り返しのつかないことになる中で、情報システムの高度化とそれへの適応がますます重要なものになってきている。 反面、広域ネットワークの普及によって企業秘密の漏えい、不正なネットワークへの侵入、ネットワークを取り巻く倫理の欠如などの問題が噴出している。 授業概要、ゼミスケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。(但し、予告なしにアドレスが変更されることがある。) その他の特記事項　時間外での相当量の学習、調査を要する。		
教材（教科書）	適宜指示する。		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	受講・発表など授業での取り組み 40%、演習課題及びレポート 60%で評価する。		
到達目標	経営における情報システムと情報管理の動向や問題点を整理し、各自のテーマを選択し、知の充実を図りつつ卒業論文を作成できる。		
授業時間外学習	授業外でのワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーションの活発な利用で、コンピュータのビジネス利用のための基礎素養向上のための文字入力トレーニング(学年末に 500 字/10 分)、表作成、文書作成練習を常にしておくこと。 各回の授業内容に該当する教科書や配付資料のページを事前に読んで、専門用語の確認などを含めて事前学習をしておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。 1.MS-Office の操作を練習しておく 2.春学期の提出課題を見直す 3.論文の書き方の配布資料を確認し、要点整理する 4.論文の書き方の配布資料を確認し、要点整理する 5.論文の書き方の配布資料を確認し、要点整理する 6.各自のテーマに基づいて論文の作成 7.各自のテーマに基づいて論文の作成 8.各自のテーマに基づいて論文の作成 9.各自のテーマに基づいて論文の作成 10.各自のテーマに基づいて論文の作成 11.各自のテーマに基づいて論文の作成 12.各自のテーマに基づいて論文の作成 13.論文の発表練習をする 14.論文の発表練習をする 15.ゼミ生全員の発表に対するコメントをまとめる		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
経営、及び情報というものに興味を持ち、自らの積極的な参加を期待する。			
授業スケジュール			

新しい IT 技術の経営分野への適用可能性について、調査、比較、検証し、個人研究による卒業論文にまとめていく形態の指導を行っていく。

1.今後、重要になってくる新たな情報システム、新たな情報管理の手法を実験的に構築する。

2.実験構築した内容の評価を行う。

1　　はじめに、セキュリティアップデート
2　　春学期の復習
3～5　論文の書き方
6～12　卒業論文(卒業制作)の作成
13-14　論文発表
15　　学年末発表会

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J82020404
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミ A・B で学んだことをもとに、論文のテーマを決める。各自の設定したテーマごとにレジュメの作成、報告というかたちですすめ、卒業論文の作成につなげていく。 本講義では、受講生が論文を作成するための知識を習得するとともに、経営学の応用的な知識を理解できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	各自の研究テーマに合わせて適宜指示する。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	授業内小テストと毎回のコメントシートによる平常点（３０％）。授業中に課すレポート（７０％）。		
到達目標	1.論文を作成するための知識（テーマ設定、情報収集・整理、構成力、文章力等）を習得できるようになる。 2.経営学の応用的な知識を理解できるようになる。 3.経営学に基づく卒業論文を作成することができる。		
授業時間外学習	各回の学習推定時間は 45 分。 第 1 回　論文の書き方に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 2 回　論文の書き方に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 3 回　論文の書き方に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 4 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 5 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 6 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 7 回　各自の作成したレジュメの発表用原稿を作成する 第 8 回　各自の作成したレジュメの発表用原稿を作成する 第 9 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 10 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 11 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 12 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 13 回　各自の作成したレジュメの発表用原稿を作成する 第 14 回　各自のテーマに基づいて収集した資料を読み、要点をまとめる 第 15 回　他のゼミ生の報告に対するコメントを作成する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で論文作成をするよう心がけること。

授業スケジュール

1　秋学期オリエンテーション
2　論文の書き方①
3　論文の書き方②
4　中間報告に向けた準備①（資料収集、論文の作成）
5　中間報告に向けた準備②（資料収集、論文の作成）
6　中間報告に向けた準備③（論文の作成）
7　中間報告に向けた準備④（論文の作成）
8　中間報告①
9　中間報告②
10　論文の作成①
11　論文の作成②

12　論文の作成③
13　論文の作成④
14　最終報告
15　専門ゼミ D を通して学んだことの展望

授業の進度に応じて順序が入れ替わったり、変更したりすることがある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	－	－	－

年度	2018	授業コード	J82020405
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミC続いて、専門ゼミBで選んだ課題について、研究報告を積み重ね、卒 業論文にまで研究を深めてもらう。		
教材（教科書）	全員に統一したテキストはない。		
教材（参考資料）	各自の研究テーマに必要な参考文献については個々に指示する。		
教育方法	演習の形式で進める。		
評価方法	卒業レポート（100%）		
到達目標	卒業研究（論文）を完成する。 歴史の連続と断絶を理解し、自分の立脚点を歴史のなかに位置づけることができる。		
授業時間外学習	各自の卒業研究の完成に向かって全力を注いでもらいたい。 具体的には、毎週各自の研究の進捗状況を報告し、参加者の人数により変わるが、二〜三週間に一度順次研究報告を求める。従って、各自各回研究報告のために準備し、発表時にはレジュメ又はパワーポイントを作成すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席は義務である。ただ出席するだけではなく、毎回必ず発言するなど、積極的に参加すること。			
授業スケジュール			
秋学期： 1〜5.夏季休業中の研究報告、 6〜10.卒業論文の構想検討、 11〜15.論文の最終検討			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020406
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
授業概要	卒業研究のテーマに沿って収集した情報を整理し、分析・考察を基に問題意識を明確化するとともに、論文としてまとめることができるようにする。また、ゼミ内で、お互いのテーマや進捗状況についての報告を通じて、4 年間の集大成となるよう、作業を進める。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	進行状況に応じ、適宜資料を紹介、提供する。		
教育方法	個人指導を基本とし、グループワークを取り入れるかたちで進める。		
評価方法	授業内発表（50%）、レポート等提出物（50%）		
到達目標	経営学部生として学んだ 4 年間のまとめとして、自らテーマを定めて情報収集や分析を行い、研究成果としてまとめ、論文として書くことができるようになる。		
授業時間外学習	専門ゼミ ABC を通じて設定したテーマについて、卒業研究としてまとめられるよう資料収集と整理を行い、 毎月第 1 週の授業時に提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

大学で学んだことの集大成としての卒業研究に取り組むことは、社会人になってからのキャリアに向けての自分自身への大きなプレゼント。就職活動と並行しながら積極的にチャレンジすること。

授業スケジュール

1. 構成
2. 補足情報収集
3. 卒業研究作成
4. 〃
5. 〃
6. 〃
7. 中間報告会
8. 卒業研究作成
9. 〃
10. 〃
11. 手直し作業
12. 手直し作業
13. 提出
14. 論集用原稿手直し
15. 〃

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020407
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	企業と社会で働くにあたって、働くことの現実を経営の視点から学ぶゼミです。 　働くことがなぜ厳しくならざるを得ないのか、自分の好きなことをして生きていけるのか、企業に頼らずに生きていくことはどれほど厳しいのか、などを企業経営の実態から学び、自分の働き方についてデザインできるようになることを目指します。 　実際の仕事の現場は、理不尽なことや不条理、論理矛盾に満ちています。それに不平を唱えて現実が悪いと批判するだけの人材にならず、それを受け入れた上でどのように改善を提案できる人材になるかを学ぶことができます。 　世の中で出世するのは能力よりは人間力であることが多く、就職が決まった後に社会で成功するための第一歩を踏み間違えないために役立つ講座です。		
教材（教科書）	柳井正『経営者になるためのノート』2015 年　PHP　￥1,204		
教材（参考資料）	河合太介、高橋克徳、永田稔、渡部幹『不機嫌な職場~なぜ社員同士で協力できないのか』講談社現代新書 ¥778		
教育方法	・教科書のテキストは分量が多くないのですが、密度の濃い文章なので、そこからどのようなビジネス・インサイトが導き出せるか、課題を発見する能力を磨きます。 ・少量のテキスト→課題抽出（アジェンダ設定）→討議→結論に収束するプロセスを毎回グループディスカッションによってそのプロセスを経験します。		
評価方法	毎回の発言の積極性（50%） 議論をリードしてまとめていく力（50%）		
到達目標	（1）ビジネスの現場ですぐに役立つビジネス思考で物事を考えることができる （2）社会で働く上での心構えができる （3）会社内での会議での自分の役割を意識して将来発言することができる		
授業時間外学習	教科書の各回の該当箇所を特によく読んで授業に臨むこと。 1．企業を理解する p10-22 2．プロの仕事とは　p72-91 3．利益か使命か p147-160 4．目標を共有する p116-128 5．企業はなぜ成長しなければならないか p26-31, p42-47 6．顧客志向 p36-41, p48-61, p66-71 7．成果へのこだわり p96-99 8．生き残るためのイノベーション p32-35 9．経営がはらむ矛盾 p91-95 10. 仕事の鬼とどのように働くか（独自資料の配布） 11. ブラック企業とは何か（独自資料の配布） 12. WLB（ワーク・ライフ・バランス） 13. 多様性を認める（人種、LGBT）p129-133 14. 組織が機能するための条件 p104-115 15. 社会課題のビジネス化 p144-146		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・教科書は必ず購入すること ・書く授業に該当する部分は単に読むだけではなく、意味を理解し、わからないことは調べ、他の人に説明できるようにした上た上で授業に臨んでください			
授業スケジュール			
1．企業を理解する p10-22			

2．プロの仕事とは　p72-91
3．利益か使命か p147-160
4．目標を共有する p116-128
5．企業はなぜ成長しなければならないか p26-31, p42-47
6．顧客志向 p36-41, p48-61, p66-71
7．成果へのこだわり p96-99
8．生き残るためのイノベーション p32-35
9．経営がはらむ矛盾 p91-95
10. 仕事の鬼とどのように働くか
11. ブラック企業とは何か
12. WLB（ワーク・ライフ・バランス）
13. 多様性を認める（人種、LGBT）p129-133
14. 組織が機能するための条件 p104-115
15. 社会課題のビジネス化 p144-146

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	J82020408
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	特定の労働問題について、その生起理由と対策を卒業論文に書き著す。卒業論文の作成を通して、受講者は人や組織が直面する問題を発見することができ、解決策を提案できる。		
教材（教科書）	資料・文献を適時指示する。		
教材（参考資料）	石井 一成『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社。 東洋経済新報社（編集）『就職四季報(総合版)』，『就職四季報(優良・中堅企業版)』。		
教育方法	各自の卒業論文の完成を目指して、講義法、グループワーク、発表、個別指導を併用する。学生は、Word, Excel, PowerPoint,を使って、卒業論文を作成する。		
評価方法	卒業論文の内容（70%)、受講・発表・取組姿勢（30%）で評価する。		
到達目標	＊受講者は、社会の一員として、現実の問題に対して解決策を提案でき、社会改善力を有することができる。 ＊受講者は、企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について説明できる。		
授業時間外学習	卒業論文作成に必要な文献の読解は当然ながら、下記も行う（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 第 1 回目…卒業論文の作成に必要な資料・データ・文献を吟味・追加する。第 2 章を書く。 第 2 回目…第 2 章を修正する。 第 3 回目…第 2 章を再修正する。第 3 章を書く。 第 4 回目…第 3 章を修正する。 第 5 回目…第 3 章を再修正する。 第 6 回目…章立て・論文構成を吟味する。序論・各論の内容調整を行う。 第 7 回目…第 4 章を書く。 第 8 回目…第 4 章を修正する。 第 9 回目…第 4 章を再修正する。 第 10 回目…結論を書く 第 11 回目…結論を修正する。 第 12 回目…結論を再修正する。目次を作成する。 第 13 回目…序論・各論・結論の微調整を行う。 第 14 回目…図表やレイアウトの調整を行なう。 第 15 回目…注釈、参考文献のリストの抜けや誤字脱字が無いかを再度チェックする。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＊就職活動予定者を対象としているのでゼミ選択の際には注意すること。
＊パソコンを使うことが多いので、そのつもりで履修すること。ワードやエクセル等のソフトを活用できる方が望ましい。

授業スケジュール

各人が卒業論文の途中経過を報告するのがメインである。その中で下記に取り組む。

1. 夏期休校中の進捗報告。卒業論文の作成に必要な資料・データ・文献を指導教員とともに吟味する。
2. 第 2 章を、指導教員を含む他者から確認してもらう。
3. 修正された第 2 章を、指導教員を含む他者から再度確認してもらう。
4. 第 3 章を、指導教員を含む他者から確認してもらう。
5. 修正された第 3 章を、指導教員を含む他者から再度確認してもらう。
6. 章立て・論文構成を吟味する。序論・各論の内容調整を行う。
7. 大学卒業後の進路報告。
8. 第 4 章を、指導教員を含む他者から確認してもらう。
9. 修正された第 4 章を、指導教員を含む他者から再度確認してもらう。
10. 章立て・論文構成を吟味する。序論・各論の内容調整を行う。

11. 結論を、指導教員を含む他者から確認してもらう。
12. 修正された結論を、指導教員を含む他者から再度確認してもらう。
13. 章立て・論文構成の微調整を行う。
14. 序論・本論・結論・注釈において誤字脱字が無いかを、指導教員を含む他者から確認してもらう。
15. 参考文献のリストの抜けや誤字脱字が無いかを、指導教員を含む他者から確認してもらう。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020409
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミ D では、専門ゼミ C で学んだ知識を活かし、スポーツ経営を題材としたテーマによる研を「テーマ決定」、「情報収集」、「レポート作成」、「発表」という段階で進めて行く。研究を進めるなかで、経営学を学ぶと共に論文作成に取り組む。		
教材（教科書）	適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	平常点（受講態度など）５０％　レポート２５％　　発表２５％により評価する。		
到達目標	研究テーマについての情報収集能力を高め、研究成果を他者に伝えるための構成・文章力を身に付け、論文を作成することができる。		
授業時間外学習	毎回の講義終了時に、次回の範囲や課題を指定するので、予習・復習しておくこと。また、気になる情報は PC・携帯・情報誌などを利用し、調べる癖を付け、調べた内容をノートなどに残す。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
常日頃から、経営やスポーツの情報にアンテナを張り、気になる情報を収集して下さい。			
授業スケジュール			
1．オリエンテーション 2.前期研究発表の分析 3. 前期研究発表の分析 4. 研究事例の考察 5. 研究事例の考察・後期論文テーマの決定 6. 後期論文テーマの決定 7. 論文の情報収集 8. 論文の情報収集 9. 論文の情報収集 10. 論文作成 11. 論文作成 12. 論文作成 13. 論文発表 14. 論文発表 15 授業内容の振り返り（ディスカッション方式）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020410
科目名	専門ゼミＤ【航空観光プログラム課外講座】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミＣの続きです。 　専門ゼミＣとＤでは、専門ゼミＡとＢで学んだ基礎をもとに、各自で卒業論文を執筆することが主要課題となります。また、観光航空プログラムの後輩の指導も重要な task となります。		
教材（教科書）	教科書はここでは指定しません。この授業は演習なので、教材を自分で探すところから勉強が始まります。また、テーマは諸君の自由ですので、テーマが決まったら、教材の探し方についてお話します。さらに、テーマ次第でその都度、必要な文献を示唆します。		
教材（参考資料）	教科書の項に同じ。		
教育方法	ゼミの時間は前もって準備してきたレジュメにそっての発表と、それについてのディスカッションを主とします。3 年生時にはグループによる論文執筆、4 年生時には個人で卒業論文を書く作業が中心となります。全員が航空観光プログラム生として、この専門ゼミ以外に、所定の講義２科目と、キャリアサポート実践講座、セミナーやインターンシップに参加することができます。		
評価方法	1)後輩に対する指導力、2)授業における発表、発言、3)運営への積極的な貢献の程度ｔ等、特定の項目が際立っていれば、それだけで 100%の評価をします。　課外授業なので点数はつけません。		
到達目標	自分の言葉で自分の意見を主張できる人間となること。		
授業時間外学習	自身が発表する場合は発表の準備、他の学生の発表の場合はコメントの準備。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
最後まであきらめずに。ともかく、卒業論文を提出すること。			
授業スケジュール			
1. インターンシップ指導 2. インターンシップ指導 3. 卒業論文第 3 回発表（30 分 x 2 人） 4. 卒業論文第 3 回発表 5. 卒業論文第 3 回発表 6. 卒業論文第 3 回発表 7. 龍尾祭発表支援 8. セミナーの準備 9. 3 回生論文指導 10. 3 回生論文指導 11. 卒業論文最終発表 12. 卒業論文最終発表 13. 卒業論文最終発表 14. 卒業論文最終発表 15. 卒業論文講評			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	−	★★

年度	2018	授業コード	J82020411
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミDでは卒論指導をおこなう。卒論の準備、卒論の書き方から完成までを、その基本から徹底指導する。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	卒論執筆の準備から、卒論の執筆・完成までの過程を段階ごとに分けてきめ細かく指導する。 第 1 回目　シラバスの説明 第 2 回目～第 4 回目　卒論作成の基本ルールを学ぶ。 第 5 回目～第 8 回目　卒論のテーマ決定と「概要報告」（400 字程度）の作成・提出 第 9 回目～第 12 回目　卒論の「中間報告」（2000 字程度） 第 13 回目～第 15 回目　卒論の下書きを提出し、教員のチェックを受けて完成させる。		
評価方法	平常点（30%）受講態度等＋卒論の提出（70%）		
到達目標	大学生として評価されるレベルまで卒論のブラシュアップを求め、優れた卒業論文を完成させることを目標とする。		
授業時間外学習	卒論作成の第１段階は、論文の構想と、文献資料の収集および分析の作業であるが、これらの第１段階の作業におよそ３ヶ月程度は必要である。また文章化をおこなう第２段階についても、追加資料の収集や分析が必ず必要となるので、最低３ヶ月程度の時間的余裕を見ておかなければならない。　したがって、卒論提出希望者はできるだけ早期に着手することが望ましい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
卒論のテーマについては、過去のゼミ研究で取り上げたテーマから選ぶことが望ましい。また、日ごろからできるだけ多くの書物を読むように心がけてもらいたい。卒論であれ、レポートであれ、ポイントとなるのは文章表現力であるが、その能力は読書を通じてのみ養われるからである。			
授業スケジュール			
1. ゼミ８（卒論）のシラバス説明 2. 卒論の書き方(1) 3. 卒論の書き方(2) 4. 卒論の書き方(3) 5. 概要報告(1) 6. 概要報告(2) 7. 概要報告(3) 8. 概要報告(4) 9. 中間報告(1) 10. 中間報告(2) 11. 中間報告(3) 12. 中間報告(4) 13. 卒論最終チェック(1) 14. 卒論最終チェック(2) 15. 卒論最終チェック(3)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020412
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	各自が設定したテーマに沿って卒業論文を作成してもらいます。		
教材（教科書）	なし。教科書は使用しません。		
教材（参考資料）	『アカデミック・ライティング』（１回生時に配布済み）。		
教育方法	講義法と学生による発表を中心に授業を進めます。		
評価方法	卒業論文（100％）		
到達目標	一定の水準に達したと認められるような卒業論文を完成させる。		
授業時間外学習	卒業論文について各自が選んだテーマに関する資料を読んでおくこと（各回の学習推定時間は１時間）。 第１回　『アカデミック・ライティング』の全般にわたって目を通す。 第２回　各自が選んだテーマに関する資料を読む。 第３回　各自が選んだテーマに関する資料を読む。 第４回　各自が選んだテーマに関する資料を読む。 第５回　各自が選んだテーマに関する資料を読む。 第６回　各自が選んだテーマに関する資料を読む。 第７回　各自が選んだテーマに関する資料を読む。 第８回　各自が選んだテーマに関する資料を読む。 第９回　各自が選んだテーマに関する資料を読む。 第 10 回　各自が選んだテーマに関する資料を読む。 第 11 回　各自が選んだテーマに関する資料を読む。 第 12 回　各自が選んだテーマに関する資料を読む。 第 13 回　各自が選んだテーマに関する資料を読む。 第 14 回　各自が選んだテーマに関する資料を読む。 第 15 回　各自が選んだテーマに関する資料を読む。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．経済関係のニュースに関心をもつこと。
２．太秦キャンパスの図書室には経済関係の雑誌が数種類備え付けられているので、それらに目を通すこと。

授業スケジュール

１．卒業論文の書き方の説明
２．卒業論文の作成
３．卒業論文の作成
４．卒業論文の作成
５．卒業論文の作成
６．卒業論文の作成
７．卒業論文の作成
８．卒業論文の作成
９．卒業論文の作成
10．卒業論文の作成
11．卒業論文の作成
12．卒業論文の作成
13．卒業論文の作成
14．卒業論文発表会

15. 卒業論文発表会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020413
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	デフレ時、インフレ時におけるマクロマネー系の特性を調べる。量的金融緩和は 2001 年から 2006 年の日本の量的金融緩和を最初として、その後、リーマンショックによる金融不安を契機に、USA、EU が大々的に量的緩和を行い、2012 年末より、日本もアベノミクスという名前の量的質的金融緩和を実行している。USA では金融緩和を終了した。EU と日本ではいまだに継続中である。各々の金融緩和の効果を検証する。		
教材（教科書）	毎回、EXCEL と EViews により、データと分析方法を配布。		
教材（参考資料）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教育方法	（1）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （2）原データを EXCEL で加工して、EViews という分析ソフトに移す。 （3）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（1）から（3）を、テーマごとに繰り返す。 EXCEL や EViews の操作方法をまず最初に覚え、次にデータ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	平常点（毎回の授業の取り組み姿勢）30%と卒業論文の出来具合 70%		
到達目標	卒業論文の完成		
授業時間外学習	金融システムの理解		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席して卒業論文を完成させる。			
授業スケジュール			
1.日本、アメリカ、ヨーロッパ各地域の特性研究 2.インフレ時のモデル 3.モデル推計 4.インパルス応答 5.共和分検証 6.デフレ時のモデル 7.モデル推計 8.準備金の特性検証 9.インパルス応答 10.全期間を通したモデル 11.モデル推計 12.インパルス応答 13.共和分検証 14.各地域の特徴と相違点 15.卒論発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020414
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
授業概要	（1）2回の中間報告を経て、卒業研究論文の完成を目指す。 （2）1回目の報告では、テーマの現状と背景に関する基本理解の説明、収集した資料の系統立てた整理と解説を求める。 （3）2回目の報告では、論文全体の概要とポイントの説明を求める。 （4）卒業論文は、中間と最終の2回の校正を経たもののみ受理する。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	各自のテーマに応じて、適宜、案内する。		
教育方法	毎回3～5名の報告者が、卒業研究について報告資料を用意し発表する。		
評価方法	中間報告 40%　　卒業研究論文 60%		
到達目標	卒業研究論文の完成		
授業時間外学習	（1）資料収集と系統立てた資料の整理、およびそれらの読み込みを行う。 （2）各段階で、指定された期日までに、報告資料と原稿の両方を作成する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

論文作成にはテーマの選択･設定だけでも、その予備段階で情報・資料の収集と整理が必要となる。また、「調べる、理解する、分析・批判する、書く、発表する」という一連の論文作成作業は、今後の社会生活等において役立つ重要な「技術」である。こうした論文作成のための一連の段階的な作業を通じて、大学生活の集大成としての卒業研究論文を完成させることはもちろん、情報を集め理解・整理し利用するための技能を更に高めることに意識的に取り組んで欲しい。

授業スケジュール

第 1 回：卒業研究論文の作成方法について
第 2 回：テーマ選択 1：関心領域の絞込みと資料収集 1
第 3 回：テーマ選択 1：関心領域の絞込みと資料収集 2
第 4 回：テーマ選択 2：分析視点の絞込みと資料収集 1
第 5 回：テーマ選択 2：分析視点の絞込みと資料収集 2
第 6 回：卒業研究論文の章立て作成と中間報告 1
第 7 回：卒業研究論文の章立て作成と中間報告 2
第 8 回：卒業研究論文の本文作成と中間報告 1
第 9 回：卒業研究論文の本文作成と中間報告 2
第 10 回：卒業研究論文の本文作成と中間報告 3
第 11 回：初校提出と中間報告
第 12 回：卒業研究論文第 2 校の作成と報告 1
第 13 回：卒業研究論文第 2 校の作成と報告 2
第 14 回：卒業研究論文第 2 校の作成と報告 3
第 15 回：卒業研究論文の概要発表と提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020415
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミ C に続き、各自が設定した研究テーマに基づき、卒業論文を仕上げていってもらう。テーマは必ず現代経済が抱える諸問題を扱うこと。毎回の講義では、２～３名が報告者となり、論文の進捗状況を報告してもらう。報告者以外の者は、ただ報告を聞くだけでなく、報告者の報告に疑問があれば質問をしてください。卒業論文では文字数を１万字以上書き、必要とあれば図表も作成してもらいます(図表の文字は、文字数に含まず)。このような長文を作成した経験はないでしょう。作成するのに大変時間を要しますから、効率よく学習し、12 月末をめどに完成するように頑張ってください。		
教材（教科書）	特になし。 専門ゼミ B のときに作成したゼミ論文。 スタートアップゼミのときに配布したテキスト『アカデミック・ライティング』。		
教材（参考資料）	各自のテーマに応じて収集した書籍等		
教育方法	学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	卒業論文の内容《100％》		
到達目標	各自が設定した論文テーマに基づいて、卒業論文を完成させる。		
授業時間外学習	大学で学んだことの集大成として作成されるのが、卒業論文です。 論文を書くための予備段階として、資料の収集及び整理、そしてその資料の理解という作業があります。これらは、授業内では完了しません。そこで、授業外学習として行ってもらう必要があります。 授業では、論文の素案の報告、進捗状況の報告をしてもらいます。 追加資料の収集および分析は、授業外学習としてこなしてもらいます。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

大学で学んだことの集大成として、論文作成に臨んでもらいたい。

論文を書くための予備段階でも、資料の収集及び整理、そしてその資料の理解という作業があり、これらを熟すためには最低２-３か月かかってしまう。

また、論文の素案を書きつつも、追加資料の収集、そして分析も伴ってくる。論文を作成するには、多大な時間と労力を要することを認識しておかなければならない。このため、大学の講義時間内だけで、論文を完成させようとは、思わないでほしい。

秋学期ともなると就職活動は一段落し、比較的、論文作成に時間を割くことができるようになっているだろう。このため、ゼミ生諸君には、じっくりと自宅学習をし、論文完成を目指していただきたい。出来れば、論文作成の着手時期は、夏休みに入るころが良い。

卒業論文の体を成していないものは、勿論、認めるわけにはいきません。
何度も書き直しを指示しますので、覚悟しておいてください。

また、卒論提出期限は１月半ば頃ではあるが、12 月半ばまでにゼミ担当者に提出すること。その後、何度も修正を指示します。期限ぎりぎりにゼミ担当者に持って来ても、卒業論文として認めません。

授業スケジュール

1. 夏休み中の卒論進捗状況の報告
2. 一次進捗状況の報告①（以下毎時間２―３名が報告者となる）
3. 一次進捗状況の報告②
4. 一次進捗状況の報告③

5. 一次進捗状況の報告④
6. 一次進捗状況の報告⑤
7. 二次進捗状況の報告①
8. 二次進捗状況の報告②
9. 二次進捗状況の報告③
10. 二次進捗状況の報告④
11. 二次進捗状況の報告⑤
12. 卒論の最終報告①
13. 卒論の最終報告②
14. 卒論の最終報告③
15. 総括：卒論の提出と発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020418
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	本ゼミのテーマは、「人口減少社会における経済政策―特に働き方改革を中心にして―」です. 我が国は、2011 年から人口が継続して減少する人口減少社会に突入し、人口構成が経済社会にプラスの影響をもたらす人口ボーナス期から、労働力人口の減少など人口構成が経済社会の発展の重荷になる人口オーナス期に移行しました。これとともに、私たちの暮らしを支えてきた制度や仕組みが機能不全に陥りつつあります。 そのような中、安倍内閣は「一億総活躍社会」の政策プランを掲げ、働き方改革に取り組み始めました。そこでは、非正規雇用者の待遇改善を目指した「同一労働・同一賃金」、正規雇用者の長時間残業の禁止を含む労働時間の見直し、子育て支援の拡充を通じての女性就業率の引き上げなどが当面の政策課題として取り上げられています。 これらは私たちの生活スタイルそのものの変更を迫るものです。秋学期はワーク・ライフ・バランス先進国の多い欧州諸国の事例にも学びつつ、卒業論文を仕上げていきます。		
教材（教科書）	特に使用しない		
教材（参考資料）	リーディングリストの配付予定		
教育方法	学生の報告を中心に講義を交えて進める		
評価方法	授業内報告(30%)、授業参加度(30%)、およびレポート(40%)		
到達目標	関連テーマの現状と政策の展開について、データに基づいて説明することができる		
授業時間外学習	新聞・雑誌記事・政府のホームページで政策的取組を確認すること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
知的好奇心を膨らませ、向上心を持って勉強すること			
授業スケジュール			
1　ワークライフバランスの基本文献の講読① 2　ワークライフバランスの基本文献の講読② 3　ワークライフバランスの基本文献の講読③ 4　ワークライフバランスの基本文献の講読④ 5　ワークライフバランスの基本文献の講読⑤ 6　ワークライフバランスの基本文献の講読⑥ 7　ワークライフバランスの基本文献の講読⑦ 8　ワークライフバランスの基本文献の講読⑧ 9　ワークライフバランスの基本文献の講読⑨ １０　ワークライフバランスの基本文献の講読⑩ １１　働きかた改革の論点整理① １２　働きかた改革の論点整理② １３　働きかた改革の論点整理③			

１４　働きかた改革の論点整理④ １５　働きかた改革の論点整理⑤

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J82020419
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
授業概要	情報社会への変革においてコンピュータが身近のものとなり、いろいろなイノベーションを引き起こしている。この急速なIT技術の進歩による社会環境の変化はまだ進化中であり、いまなお「新しい技術戦略」をもって多くの新しい製品が暮らしの中に次から次へと創発されている。その結果、今日では社会科学系、自然科学系を問わずどのような分野の仕事であろうともコンピュータ等の情報機器と共存した生活を営んでいる。現在のユビキタス社会での「新しい技術戦略」はさらなる「新しいビジネスモデル」を生み出す重要なものである。 　ゼミでは、「情報社会における技術戦略」に焦点を当て、次のようなテーマについて卒業論文完成までの学習を行っていく。①「情報社会における技術戦略論」,②「イノベーションと技術戦略」,③「情報社会における第二創業」、④「地域資源とイノベーション」		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	「日本経済新聞」およびその他関連資料から抜粋し適時配布する		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる		
評価方法	「中間報告」(50%)+平常点(50%)		
到達目標	卒業論文の完成		
授業時間外学習	「卒業論文」素案の内容を再確認しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1)　自分自身で問題意識をもって「卒業論文」完成に向け活動をおこなう。
2)　なにごとも積極的に情熱をもって明るく行動する。
3)　ゼミメンバーとして協調性をもつこと。
4)　ゼミを欠席しない（欠席の時は事前に理由を通知すること）

授業スケジュール

1.　ゼミの内容と進め方
2.　「卒業論文」完成までの「研究計画」の確認
3.　「卒業論文」作成
4.　「卒業論文」作成
5.　「卒業論文」作成
6.　「卒業論文」作成
7.　中間進捗報告(1)
8.　「卒業論文」作成
9.　「卒業論文」作成
10.「卒業論文」作成
11.中間進捗報告(2)
12.「卒業論文」修正
13.「卒業論文」修正
14.「卒業論文」修正
15.「卒業論文」発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★

年度	2018	授業コード	J82020420
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミCに引き続き、各自の設定したテーマに基づいて研究を行い、大学生活の総仕上げとして卒業論文を完成させる。 授業では、毎回数名に卒業論文の概要および研究の進捗状況を報告してもらう。また、報告者以外のゼミ生には報告内容について報告者に質問等を行うことが、そして報告者にはそれに答えることが義務付けられる。 このようにして互いに助言し刺激しあうことで、各ゼミ生の卒業論文がより高い水準に達することを目指す。		
教材（教科書）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教材（参考資料）	各自のテーマに応じて収集すること。		
教育方法	学生は夏季休業中に卒業論文の大まかな構成を考えておき、授業ではそれについての中間報告を行う。担当教員はそれに対するコメントを行い、卒業論文の完成に向けた個別指導を行う。		
評価方法	平常点（質問、討論への参加状況等）（60%）、報告内容等（40%）		
到達目標	各自の設定したテーマについて、卒業論文を完成させること。		
授業時間外学習	・各自の設定したテーマについて、卒業論文作成に向けて必要な文献・資料を収集し、熟読すること。 ・各自の卒業論文の概要を、中間報告時に配布するためのレジュメにまとめること。 ・スタートアップゼミのテキスト『アカデミック・ライティング』を読み返し、参考にすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・無断欠席、遅刻を厳禁する。やむを得ず欠席する場合には、必ず担当者に連絡すること。
・授業回数の３分の１以上に欠席または遅刻した場合には単位を認定しないので、十分注意すること。ただし、就職試験等による欠席を事前に申し出た場合にはその限りではないので、担当者に連絡し指示を受けること。
・毎回必ず１回以上発言（質問等）をすること。発言のない場合には、欠席とみなすなど、減点対象となる場合がある。
・ゼミに関する連絡にはメールを頻繁に使用するので、確認と返信を怠らないようにし、メールアドレスを変更した際は、速やかに担当者に連絡するとともに、「京学なび」へ再登録すること。
・卒業論文の完成・合格は単位認定要件である。

授業スケジュール

1.夏季休業中の学習・研究の進捗状況についての報告
2.卒業論文の概要報告(1-1)
3.卒業論文の概要報告(1-2)
4.卒業論文の概要報告(1-3)
5.卒業論文の概要報告(1-4)
6.卒業論文の概要報告(1-5)
7.卒業論文の概要報告(2-1)
8.卒業論文の概要報告(2-2)
9.卒業論文の概要報告(2-3)
10.卒業論文の概要報告(2-4)
11.卒業論文の概要報告(2-5)
12.卒業論文の最終報告(1)
13.卒業論文の最終報告(2)
14.卒業論文の最終報告(3)
15.卒業論文の最終確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020421
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	この演習は、最終的に 2 年間行ってきた法律の勉強を集大成させることを目的とする。 各自の選択したテーマに関する法的知識を充実させること、長文を書くことを目的とする。		
教材（教科書）	各自が収集した、各自の扱う法律問題に関する文献。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	・ゼミ生がゼミD論文の執筆に向け、検討していることをレジュメを用いて発表する方法を採る。 ・就職活動継続中の者が多い場合には、担当者が適宜話題を提供し、議論ないし作業を行う。		
評価方法	・最終提出された論文を 70%、受講態度（発表、質疑）30%で評価する。		
到達目標	・法律論文がある程度書けるようになること。 ・質疑応答がしっかりできるようになること。 ・自身の扱う法律問題を他人に説明できるようになること。		
授業時間外学習	・各自がゼミD論文の提出に向け鋭意執筆すること。 １．ゼミC論文の発表、討議、講評を受け、発表者は、各自の論文を修正すること。今季の目標を決め、京学なびに登録する。 ２．ゼミC論文の発表、討議、講評を受け、発表者は、各自の論文を修正すること。 ３．ゼミC論文の発表、討議、講評を受け、発表者は、各自の論文を修正すること。 ４．ゼミD論文の提出に向けた最終的な技術指導。再度自身の論文を見直すこと。 ５．ゼミD論文完成に向けた報告で指摘されていたことが、自身にあてはまらないか確認し修正する。継続的に文献の収集、読解に努める。 ６．ゼミD論文完成に向けた報告で指摘されていたことが、自身にあてはまらないか確認し修正する。継続的に文献の収集、読解に努める。 ７．ゼミD論文完成に向けた報告で指摘されていたことが、自身にあてはまらないか確認し修正する。継続的に文献の収集、読解に努める。 ８．ゼミD論文完成に向けた報告で指摘されていたことが、自身にあてはまらないか確認し修正する。継続的に文献の収集、読解に努める。 ９．ゼミD論文完成に向けた報告で指摘されていたことが、自身にあてはまらないか確認し修正する。完成に努める。 １０．ゼミD論文完成に向けた報告で指摘されていたことが、自身にあてはまらないか確認し修正する。完成に努める。 １１．ゼミD論文完成に向けた報告で指摘されていたことが、自身にあてはまらないか確認し修正する。完成に努める。 １２．ゼミD論文完成に向けた報告で指摘されていたことが、自身にあてはまらないか確認し修正する。完成に努める。 １３．ゼミD論文完成に向けた報告で指摘されていたことが、自身にあてはまらないか確認し修正する。完成に努める。 １４．ゼミD論文完成に向けた報告で指摘されていたことが、自身にあてはまらないか確認し修正する。完成に努める。 １５．ゼミD論文完成に向けた報告で指摘されていたことが、自身にあてはまらないか確認し修正する。完成に努める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
・ゼミ論文の最終提出に向け、精力的に勉学に励むこと。 ・常にベストを心がけること。 ・毎週必ず少しずつ進めること。

・卒業単位があるから、論文は出さない、とは言わないこと。
授業スケジュール
1．ゼミC論文の発表、討議、講評。 2．ゼミC論文の発表、討議、講評。 3．ゼミC論文の発表、討議、講評。 4．ゼミD論文の提出に向けた最終的な技術指導。 5．ゼミD論文完成に向けた報告 6．ゼミD論文完成に向けた報告 7．ゼミD論文完成に向けた報告 8．ゼミD論文完成に向けた報告 9．ゼミD論文完成に向けた報告 １０．ゼミD論文完成に向けた報告 １１．ゼミD論文完成に向けた報告 １２．ゼミD論文完成に向けた報告 １３．ゼミD論文完成に向けた報告 １４．ゼミD論文完成に向けた報告 １５．ゼミD論文完成に向けた報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J82020422
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	本専門ゼミＡ～Ｄは学生が会計学の視点から物事を考え、問題の発見、解決能力を身に付け、最終的にはレポート、報告書の作成を目的としている。 そのためには、まず、専門ゼミＡでは、指定した教科書、資料の輪読・発表を通じて、レポートや論文の作成方法を身に着け、会計学の理論的な基礎を復習する。 専門ゼミＢでは、学生が自らの興味ある会計学の領域において、各自で教科書、参考資料の該当箇所を精読し、レポートを作成した上発表を行い、卒業論文のテーマを探す。 専門ゼミＣでは、学生が各自の関心ある社会現象について、資料を収集し、調査研究を行い、会計学の視点から、問題を指摘し、解決策を試みる。 専門ゼミＤでは、専門ゼミＣの成果に基づき、報告書か、卒業論文を作成する。		
教材（教科書）	授業中に適宜指示する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	各自の作成した論文を毎回に発表してもらい、質問とコメントを通じて、理解度を深め、論文作成するためのポイントを必要に応じて解説する。		
評価方法	ゼミへの積極的参加（60%）、発表等成果物の質（40%）		
到達目標	論理的思考力を高め、会計学の視点で物事を分析し、それを通して卒業論文を作成することができる。		
授業時間外学習	※簿記等の会計関連の授業を事前に履修してください。 ※発表者のみならず、発表しない人も事前に該当箇所を予習し、議論の準備をしてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
※授業に積極的に参加し、主体的な勉強を通じて課題の発見能力と解決能力を身に付けてください。			
授業スケジュール			
1. 本ゼミの概要、テキストの指示、ゼミの具体的な進め方、勉強方法等の説明 2　論文テーマ、主要な論点と構成の発表① 3　論文テーマ、主要な論点と構成の発表② 4　中間報告に向けた資料収集、下書きの作成① 5　中間報告に向けた資料収集、下書きの作成② 6　中間報告に向けた下書きの作成① 7　中間報告に向けた下書きの作成② 8　中間報告① 9　中間報告② 10　論文下書きの作成①			

11　論文下書きの作成②
12　論文下書きの作成③
13　論文下書きの作成④
14　論文発表
15　専門ゼミＤを通して学んだことをまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020423
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミA・B・Cで学習したことを基に、卒業研究のテーマについての学習・調査を進める。 情報収集・分析能力の向上を図るとともに、卒業研究を取りまとめて卒業論文を完成させる。 本ゼミの受講は就職活動と並行して進むことから、就職活動において調べた企業情報などについての情報交換を行い、卒業研究にも活かす。		
教材（教科書）	特になし。 個々人の興味・関心に合わせて随時指示する。		
教材（参考資料）	特になし。 個々人の興味・関心に合わせて随時指示する。		
教育方法	学生の発表、ディスカッションを中心に授業を進める。		
評価方法	報告（15%）、ディスカッションへの参加等（15%）、卒業論文（70%）		
到達目標	自身で研究テーマを設定して、それらに関する資料・データを収集することができる。 それらを研究成果として論文にまとめることができる。		
授業時間外学習	自身の報告の際は、レジュメ又はパワーポイントを作成して、事前に担当教員に提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・卒業研究を進めることは大学生活における集大成への道のりの一つであることを意識してゼミに挑んで下さい。
・聴講者（＝報告者以外の者）は他者の報告を真摯に聞くこと。
・また、就職活動に関する情報交換・学習の場として活用して下さい。
・卒業論文（Word）・報告スライド（PowerPoint）などの資料を保存する媒体としてUSBを各自用意すること（4GB程度で問題ありません）。
・無断欠席が4回を超える場合、報告を放棄した場合は、履修意思（意志）がないとみなします（※就活・大会出場などでの欠席は前以て伝えること）。

授業スケジュール

第1回　オリエンテーション
第2回　報告・ディスカッション
第3回　報告・ディスカッション
第4回　報告・ディスカッション
第5回　報告・ディスカッション
第6回　報告・ディスカッション
第7回　報告・ディスカッション
第8回　報告・ディスカッション
第9回　卒業論文作成の進捗状況とりまとめ
第10回 報告・ディスカッション
第11回 報告・ディスカッション
第12回 報告・ディスカッション
第13回 報告・ディスカッション
第14回 卒業論文内容の報告
第15回 卒業論文内容の報告

随時、論文・レポート執筆を進めるので、それらの進行を報告する。
授業の進度に応じて順序が入れ替わったり、変更したりすることがあります。
就職活動に関する情報交換・学習の場として活用して下さい。
無断欠席が4回を超える場合、報告を放棄した場合は、履修意思（意志）がないとみなす。※就活・大会出場などでの欠席は前以て伝えること。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020425
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar D		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミA・B・Cで学習したことを基に、卒業研究のテーマについての学習・調査を進める。 情報収集・分析能力の向上を図るとともに、卒業研究を取りまとめて卒業論文を完成させる。 本ゼミの受講は就職活動と並行して進むことから、就職活動において調べた企業情報などについての情報交換を行い、卒業研究にも活かす。		
教材（教科書）	特になし。 個々人の興味・関心に合わせて随時指示する。		
教材（参考資料）	特になし。 個々人の興味・関心に合わせて随時指示する。		
教育方法	学生の発表、ディスカッションを中心に授業を進める。		
評価方法	報告（15%）、ディスカッションへの参加等（15%）、卒業論文（70%）		
到達目標	自身で研究テーマを設定して、それらに関する資料・データを収集することができる。 それらを研究成果として論文にまとめることができる。		
授業時間外学習	自身の報告の際は、レジュメ又はパワーポイントを作成して、事前に担当教員に提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・卒業研究を進めることは大学生活における集大成への道のりの一つであることを意識してゼミに挑んで下さい。
・聴講者（＝報告者以外の者）は他者の報告を真摯に聞くこと。
・また、就職活動に関する情報交換・学習の場として活用して下さい。
・卒業論文（Word）・報告スライド（PowerPoint）などの資料を保存する媒体としてUSBを各自用意すること（4GB程度で問題ありません）。
・無断欠席が4回を超える場合、報告を放棄した場合は、履修意思（意志）がないとみなします（※就活・大会出場などでの欠席は前以て伝えること）。

授業スケジュール

第1回　オリエンテーション
第2回　報告・ディスカッション
第3回　報告・ディスカッション
第4回　報告・ディスカッション
第5回　報告・ディスカッション
第6回　報告・ディスカッション
第7回　報告・ディスカッション
第8回　報告・ディスカッション
第9回　卒業論文作成の進捗状況とりまとめ
第10回 報告・ディスカッション
第11回 報告・ディスカッション
第12回 報告・ディスカッション
第13回 報告・ディスカッション
第14回 卒業論文内容の報告
第15回 卒業論文内容の報告

随時、論文・レポート執筆を進めるので、それらの進行を報告する。
授業の進度に応じて順序が入れ替わったり、変更したりすることがあります。
就職活動に関する情報交換・学習の場として活用して下さい。
無断欠席が4回を超える場合、報告を放棄した場合は、履修意思（意志）がないとみなす。※就活・大会出場などでの欠席は前以て伝えること。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020501
科目名	現代社会と法	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	グローバルなビジネス環境で必要不可欠な「英文契約書」の基本ポイントを中心に学ぶ。「英文契約書」は、文学作品など表現手法が多様なものと比べると、頻出語や形式がある程度決まっているため、これらに慣れながら読み解くコツをつかんでいく。主に、英文契約特有の慣用表現、一般条項、売買基本契約について学ぶ。英和・和英（電子）辞書必携。		
教材（教科書）	寺村淳『はじめての英文契約書の読み方』（アルク、2016 年）　1,944 円。 その他に、適宜資料を配布する。		
教材（参考資料）	植田淳『国際ビジネスのための英米法入門〔第 3 版〕：英米法と国際取引法のエッセンス 50 講』（法律文化社、2017 年）　3,132 円 R Powell, S Hotta, FA Marikkar『英語で学ぶ日本の法、世界の法（Law in Japan, Law in the World）』（朝日出版社、2012 年）　1,900 円		
教育方法	教科書を中心に、配布した資料も用いた教員による講義法と、教科書・参考文献に関する受講者による報告を組み合わせて行う。法学の知識は前提としないため、法学全般、英米法の基礎的知識については、教員による講義法による。受講者による報告・期末レポートは、英文和訳が中心となる。		
評価方法	毎回授業内で実施する小テスト（英文契約書に係わる英文和訳、和文英訳　40%）、授業内の報告及び発言内容（40%）、期末レポート（20%）。		
到達目標	１．英文契約書を正確に読むための基本ポイントを具体的に述べることができるようになる。 ２．基本的な英文契約書の例文については、辞書を用いることによって内容を理解し、また和訳することができるようになる。 ３．英文契約書特有の慣用表現を用い、基本例文については、辞書を用いることによって日本文を見て英文に書き換えることができるようになる。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する教科書のページを読了し、不明な英単語・語句については調べてくること（各回の学習推定時間は 45 分）。 第 1 回　教科書 12-21 頁 第 2 回　教科書 24-32 頁 第 3 回　教科書 34-45 頁 第 4 回　教科書 46-56 頁 第 5 回　教科書 58-63 頁 第 6 回　教科書 64-75 頁 第 7 回　教科書 76-85 頁 第 8 回　教科書 86-91 頁 第 9 回　教科書 92-95 頁 第 10 回　教科書 96-103 頁 第 11 回　教科書 104-112 頁 第 12 回　教科書 114-117 頁 第 13 回　教科書 118-125 頁 第 14 回　教科書 126-133 頁 第 15 回　教科書 134-144 頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
英文契約書の１つ１つのパラグラフについて、テキストの日本語訳、語句注釈、構文を理解しながら英文に取り組むので、英語力のレベルは問わない。しかし、常に英語力の向上を図る努力が前提となる。契約などの英米法を含む法律的な考え方については、そのつど担当教員が解説するので、法学科目の履修や法学の素養は前提としない。			
授業スケジュール			
１．英文契約書を作成する必要性とその構造			

2．英文契約の「英文」を正確に読むための基本的なポイント
3．契約特有の慣用表現①
4．契約特有の慣用表現②
5．一般条項①（前文）
6．一般条項②（定義条項 Definitions）
7．一般条項③（契約解除 Termination）
8．一般条項④（表明および保障 Representations and Warranties）
9．一般条項⑤（秘密保持 Confidentiality）
10.一般条項⑥（譲渡禁止、通知 No Assignment, Notice）
11.一般条項⑦（紛争解決 Dispute Resolution）
12.売買基本契約①（定義 Definitions）
13.売買基本契約②（売買 Sales and Purchase of the Products）
14.売買基本契約③（出荷 Shipment）
15.売買基本契約④（価格および支払い Price and Payment）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J82020502
科目名	現代社会と法	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
授業概要	このゼミでは、経済学・経営学の隣接分野である法律学について、ビジネスをする上での現代社会との関わりを考慮しつつ、さまざまな角度から総合的に学習する。受講生は、リーガルマインド修得のために、実践的な法を学ぶとともに、幅広い知見と総合的な判断力を養う。具体的には、法学・民法・刑法における基礎的な概念・制度の趣旨を把握し、以下の特定のテーマについて検討し、タイムリーな論点を取り上げて考察を行なう。		
教材（教科書）	教科書は使用しないが、最新版六法を必携のこと。		
教材（参考資料）	京都学園大学法学会編『法学の扉〔第 3 版〕』（成文堂、2008 年）1500 円＋税 京都学園大学法学会編「法学の扉〔2013 年ポケット版〕」		
教育方法	配布資料・最新版六法に沿って、報告し議論するゼミ方式で行なう。		
評価方法	ゼミ内での発言内容および冒頭に執筆するペーパー（50%）並びに報告（50%）とで評価する。		
到達目標	1)ビジネスに関係の深い法学・民法・刑法における基本的な専門用語が説明できるようになる。 2)複数の立場から、物事をみるバランス感覚を身につける。 3)自分の意見を根拠を示して説明できるようになる。		
授業時間外学習	次回の項目について、事前配布された資料を読み込んでくること。次回ゼミの冒頭にペーパーを記入してもらう。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1)イヤ・フォーンをはずすこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
2)スマートフォンなどの電子機器は、電源を切って机上におくこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
3)私語および食事は，厳禁とする。
4)トイレは原則として講義前にすませること(体調が悪い場合は申し出ること)。
5)ゼミ終了時に次回の資料を配布するので、次回までに読んでおくこと。
6)ゼミ中には積極的な発言態度で臨む等、意欲ある学生を希望する。遅刻および無断欠席は厳禁とする。

授業スケジュール

以下の内容で進める予定であるが、ゼミ生と相談して内容を多少組み替える場合がある。

第 1 回　演習の進め方・その他諸注意・報告の仕方の説明
第 2 回　レポートの書き方(実践編)
第 3 回　法律の役割
第 4 回　裁判制度と裁判員制度
第 5 回　報告(第 1 回)その 1
第 6 回　報告(第 1 回)その 2
第 7 回　民法の基本(損害賠償)
第 8 回　エレベーターの取り換え費用
第 9 回　職場環境を害するセクシュアル・ハラスメント(福岡セクハラ事件)
第 10 回 職場におけるパワー・ハラスメント(川崎水道局〔いじめ〕自殺事件)
第 11 回 刑法の基本(罪刑法定主義)
第 12 回 東海大学付属病院(安楽死)事件
第 13 回 京都府学連事件(犯罪現場の写真撮影の違法性)
第 14 回　報告(第 2 回)その 1
第 15 回　報告(第 2 回)その 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J82020503
科目名	現代社会と法	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	大学生の約４割が利用している日本学生支援機構の奨学金が実はローンであること、また、携帯電話の端末代金の分割払いもクレジットであることはご存じでしょうか。ローンやクレジットは私たちの身近なところで、私たちの学生生活やくらしを豊かにしたり、利便性を提供するため、重要な役割を果たしています。 反面、奨学金の返還や端末代金の支払いを延滞すればどうなるでしょうか。最近、奨学金の返還が滞った利用者や親などに残額の一括返還を求める訴訟の激増が話題になっています。また、携帯端末代金の支払いの遅れた事実がクレジットの指定信用情報機関に登録(ブラックリスト入り」ともいわれています。)され、住宅や自動車のローンなどの審査が通りづらくてなってしまうことも聞かれます。 このゼミでは、このローンやクレジットについて、なぜ利用されるのか、その仕組みはどうなっているのかということから調べていきたいと思います。 以上を通して、学生は、ローンやクレジットの利便性を一定程度評価するなかで、そこから発生する病理現象とこれに対応する法制度の動向を知り、法が社会の中で果たしている役割などを考えることができるようにしていきたいと思います。		
教材（教科書）	全国銀行協会等の啓発用パンフレットを適宜使用する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	「ローン」「クレジット」「保証」を扱ったビデオ等を見て、意見交換し、教員のアドバイスを得ながら問題点を探求する。 自分自身でテーマについて調べた内容を発表し、出席者からのコメントを求める。		
評価方法	・平常点(40%) 発表の内容・方法、出席・発言の状況により評価する。 ・レポート(60%)		
到達目標	・学生は、社会問題を社会の仕組みから理解する。 ・学生は、Ｗｅｂを活用してリサーチし、その結果をプレゼンテーションする技術を習得する。 ・学生は、口頭で説明し、それを聞いて質問し、さらに議論を進めていき、問題解決を図っていくという共同作業のノウハウを習得する。		
授業時間外学習	第１回目…ローン・クレジット関する周辺情報をＷｅｂ等で見ておく。 第２回目…配布プリント第２章を読み、重要な点をマークすること。 第３回目…配布プリント第３章を読み、重要な点をマークすること。 第４回目…配布プリント第４章を読み、重要な点をマークすること。 第５回目…配布プリント第５章を読み、重要な点をマークすること。 第６回目…配布プリント第６章を読み、重要な点をマークすること。 第７回目…配布プリント第７章を読み、重要な点をマークすること。 第８回目…配布プリント第８章を読み、重要な点をマークすること。 第９回目…配布プリント第９章を読み、重要な点をマークすること。 第１０回目…配布プリント第１０章を読み、重要な点をマークすること。 第１１回目…配布プリント第１１章を読み、重要な点をマークすること。 第１２回目…配布プリント第１２章を読み、重要な点をマークすること。 第１３回目…配布プリント第１３章を読み、重要な点をマークすること。 第１４回目…配布プリント第１４章を読み、重要な点をマークすること。 第１５回目…配布プリント第１５章を読み、重要な点をマークすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「民事法入門」「ビジネス法入門」等を履修していることが望ましい。
未知のことでも、設定されたテーマに関する情報を積極的に収集し、知識を増やしていくという態度で臨む。
各回の授業では、ただ黙って座っているだけというのはやめてほしい。かりに当日のテーマについての勉強が不十分であっても、報告者から必要な情報を聞き取り、発言するようにしてほしい。自分ではつまらないことと思っても、そうして発言することが自分自身のためになるし、また、他のゼミメンバーにも役に立つことがある。

授業スケジュール

1．はじめに－－何が問題になるのか
　全体の構成、進め方
2．ローン・クレジットの利便性－－なぜ利用されるのかを知る
　各種カードと支払方法の多様化、ローンカードとクレジットカード
3．ローン・クレジットの契約と信用－－どのようにすれば利用できるのか知る
　契約者の信用と担保・保証の役割、個人信用情報
4．ローンとクレジットの仕組み－－契約の内容を調べ、理解する
　契約の仕組み・金利計算・返済方法
5．わが国の上限金利規制
6．利息制限法とグレーゾーン金利
7．ローンとクレジットによる多重債務者の救済
　民事再生・破産
8．貧困問題
9．割賦販売法による規制
　支払能力調査義務と過剰与信の禁止
10．抗弁の対抗と既払い金の返還
　クーリングオフ、過剰販売解除権、個別クレジット契約の取消し
11．保証被害の実情
　商工ローン保証
　奨学金の保証
　賃貸借契約の保証
12．保証に関する規制
　民法の個人保証人保護
13．個人保証人被害救済
14．家賃債務保証業者による被害救済
15．まとめ－－被害にあわないために

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J82020504
科目名	現代社会と法	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
授業概要	災害対策と法を基本テーマにする。阪神淡路大震災以降、台風、豪雨災害が毎年起こっている。南海トラフを震源とする地震も予想されている。 災害がおこる前の予報や準備、災害当初の連絡体制から避難所の設置、仮設住宅、災害復興住宅などの問題は多くの課題を残している。 災害をめぐる国や自治体、地元町内会の役割など総合的に学ぶ。		
教材（教科書）	特に使用しない。		
教材（参考資料）	講義の際に最低限必要な文献や、参考になるウェブサイトを紹介する。		
教育方法	最初に、最低限必要な基礎知識は講義するが、あとは、担当したテーマにしたがって調べてもらって報告してもらう。		
評価方法	授業内の取り組み（70%） 最終プレゼン（30%）		
到達目標	災害対策と法について基本的な知識を習得することと、将来、公務員になる場合にどのようなことができるのかを予測して対応できる力をつけることを目指す。		
授業時間外学習	この講義が扱うテーマにつては全く事前の知識がないと思う。したがって、講義の際に参考になるウェブサイトを紹介するので必ず事前に学習するとともに、それができているかは報告に際に判明する。 1　災害とは何か 2　災害の歴史 3　災害対策の課題 4　災害対策の法体系 5　課題の設定と班分け 6　各班の発表 7　〃 8　〃 9　〃 10　〃 11　〃 12　〃 13　最終プレゼン 14　〃 15　〃		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

何事も好奇心を持って課題を徹底的に調べることが得意な人を望む。

授業スケジュール

1　　オリエンテーション
2　　災害をめぐる歴史
3　　災害対策の課題
4　　災害対策と法
5　　災害対策と自治体
6　　マスコミ・鉄道事業者・携帯電話会社
7　　班分け
8　　各班の発表
9　　〃
１０　〃
１１　〃

１２　〃 １３　最終プレゼン １４　〃 １５　〃

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J82020505
科目名	現代社会と法	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Contemporary Legal Issues		
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
授業概要	この授業では、日本の国際問題や世界の時事問題を取り上げ、国際法の視点から検討を行う。国際法の視点から捉え直さないと正確に理解できない現象もあるはずだし、新たな発見や見方ができる問題もあるのではないだろうか。授業で扱う問題は、日本が開国して国際社会に本格的に参入するようになった幕末から現在まで約 170 年間で起きたものである。また、取り上げる分野は、国際法の主体、戦争と平和、領域、または海洋法といった伝統的なものから人権や環境のような現代的なものまで多岐にわたる。この授業では、日本を取り巻く世界を法の視点から捉える力を養うために、受講生が国際社会にどのようなルールがあるのかを知り、国際法の考え方やはたらきについて理解できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	教科書は使用しない。レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考資料）	森川幸一ほか編『国際法で世界がわかる－ニュースを読み解く３２講』（岩波書店、２０１７年） その他のものについては、テーマごとに適宜紹介する。		
教育方法	各回の授業では,前半で担当教員が各テーマについて講義を行い、後半で受講生が与えられた課題について報告を行い、質疑応答を行う。報告者は、報告テーマについて担当教員と事前に相談しながら準備を行う。		
評価方法	毎回課すコメント執筆または小テスト（40%）、報告（30%）および学期末レポート（30%）。小テストでは授業で学んだ基本的な知識を問う。レポートは、授業で報告したテーマについて、担当教員が示した論点に従って作成する（1,500 字以上）。		
到達目標	１．日本の国際問題や世界の時事問題を国際法の視点から具体的に説明できるようになる。 ２．国際法の問題について、自ら調査してレジュメにまとめ、筋道を立てて報告できるようになる。 ３．国際法の問題について調査したことを論理的に整理し、一定の分量のレポートを作成することができる。		
授業時間外学習	事前に配布するレジュメ・資料を読んでくること。 第 1 回　シラバス 第 2 回　第 2 回のレジュメ・資料 第 3 回　第 3 回のレジュメ・資料 第 4 回　第 4 回のレジュメ・資料 第 5 回　第 5 回のレジュメ・資料 第 6 回　第 6 回のレジュメ・資料 第 7 回　第 7 回のレジュメ・資料 第 8 回　第 8 回のレジュメ・資料 第 9 回　第 9 回のレジュメ・資料 第 10 回　第 10 回のレジュメ・資料 第 11 回　第 11 回のレジュメ・資料 第 12 回　第 12 回のレジュメ・資料 第 13 回　第 13 回のレジュメ・資料 第 14 回　第 14 回のレジュメ・資料 第 15 回　第 15 回のレジュメ・資料		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．履修が望ましい科目：日本国憲法、国際関係論入門（国際関係論でも可） ２．積極的な授業参加を期待する。 ３．報告を行う際に無断欠席はしてはいけない。			
授業スケジュール			
１．国際社会はどのような社会か？－国際社会の性質と国際法（冒頭に履修ガイダンス）			

２．明治政府はなぜ欧米諸国の真似をしたのか？－伝統的国際法の特徴
３．日本の政治家が靖国神社に参拝すると中国や韓国はなぜ批判するのか？－戦争の違法化と戦争責任
４．イスラーム国は国家か？－国際法における国家
５．外国人が他国で犯罪を犯したら、どの国で裁かれるのか？－国家管轄権
６．海外でトラブルにあったらどうしたらよいか？－外交使節の役割
７．日本は極東の小国なのか？－国家領域
８．領海や排他的経済水域とはどのような海なのか？－海洋の基本秩序
９．日本はなぜ周辺諸国と領土問題で激しく対立するのか？－日本の領土問題
１０．北朝鮮によるミサイル発射にどのように対処したらよいのか？－世界平和の維持
１１．自衛隊が国連の平和維持活動（PKO）に参加しても憲法に違反しないのか？－国連の集団安全保障体制と平和憲法
１２．日本にはなぜ米軍基地があるのか？－自衛権
１３．外国人や異なる文化を持つ人たちと仲良く生活するにはどうしたらよいのか？－多文化共生
１４．日本が環太平洋パートナーシップ（TPP）に入ることは得なのか？－自由貿易と国際協力
１５．地球の温暖化を防ぐにはどうしたらよいのか？－地球環境の保全

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J85000104
科目名	チャレンジショップ入門Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。		

授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルを習得する。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを習得する。 4　特色をお客様に説明できるようにするために、すべての商品について価格や原材料などを覚える。 5　仕入れ契約や条件を理解する。 6　発注の仕方を覚え、実行する。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を理解し、その方法を習得する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成を習得する。 10　在庫管理とその記録の仕方を理解し、記録する。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　 売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　 売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J85000105
科目名	チャレンジショップ入門Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルを習得する。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを習得する。 4　特色をお客様に説明できるようにするために、すべての商品について価格や原材料などを覚える。 5　仕入れ契約や条件を理解する。 6　発注の仕方を覚え、実行する。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を理解し、その方法を習得する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成を習得する。 10　在庫管理とその記録の仕方を理解し、記録する。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　 売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　 売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J85000106
科目名	チャレンジショップ入門Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルを習得する。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを習得する。 4　特色をお客様に説明できるようにするために、すべての商品について価格や原材料などを覚える。 5　仕入れ契約や条件を理解する。 6　発注の仕方を覚え、実行する。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を理解し、その方法を習得する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成を習得する。 10　在庫管理とその記録の仕方を理解し、記録する。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　 売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　 売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J85000204
科目名	チャレンジショップ入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。		

授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルを習得する。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを習得する。 4　特色をお客様に説明できるようにするために、すべての商品について価格や原材料などを覚える。 5　仕入れ契約や条件を理解する。 6　発注の仕方を覚え、実行する。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を理解し、その方法を習得する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成を習得する。 10　在庫管理とその記録の仕方を理解し、記録する。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　今期の反省と来期の活動について。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J85000205
科目名	チャレンジショップ入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルを習得する。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを習得する。 4　特色をお客様に説明できるようにするために、すべての商品について価格や原材料などを覚える。 5　仕入れ契約や条件を理解する。 6　発注の仕方を覚え、実行する。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を理解し、その方法を習得する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成を習得する。 10　在庫管理とその記録の仕方を理解し、記録する。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　今期の反省と来期の活動について。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J85000301
科目名	会計学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Accounting		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	会計はビジネスの言語とも言われ、その企業が属する業界、業種、規模を問わず、そして会計の専門部署に限らず必要とされる知識です。それはつまり、経営学科すべての学生にとって今後経営学を学んで行くうえで会計の用語や基本的な考え方をきちんと理解しておくことが必須であることを意味しています。ビジネス社会において最低限必要とされる会計の基本的な考え方と用語を正しく理解すると同時に、発展的な経営学・会計学の諸科目を履修する上での基礎を身につけること、そしてアカウンティング・マインドを身につけることが本講義の目的です。		
教材（教科書）	指定しない		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	レジュメに沿った講義形式で行います。学生が受け身にならないよう、ケーススタディ等では意見を発表する機会を設けます。		
評価方法	授業内レポート(30%)、授業内小テスト数回(70%)		
到達目標	会計が企業経営において果たす役割を説明できる。 主要な財務諸表(貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書)について、その意義と内容を説明できる 。		
授業時間外学習	毎回の講義レジュメの最後に、次回への準備学習は指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講生は積極的に講義に参加すること

授業スケジュール

1. ガイダンス：会計を学ぶ意義
2. 会計が果たす役割
3. 簿記と会計の関係
4. 会計の基礎概念(1)：資産、負債、資本
5. 会計の基礎概念(2)：収益、費用、純利益、期間損益計算
6. 会計の基礎概念(3)：発生主義
7. 売上高と利益の関係
8. 貸借対照表の構成と内容
9. 損益計算書の構成と内容
10. キャッシュ・フロー計算書の構成と内容
11. 企業経営の国際化と会計の国際化
12. 企業経営に役立つ会計：管理会計
13. 原価計算の基本的な仕組み
14. 損益分岐点
15. 総括：改めて会計を学ぶ意義

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J85000401
科目名	商学	単位数	2
科目名（英語表記）	Business and Commerce		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	商学はビジネスの基本となる知識を習得するための講義です。 経営学とマーケティングが中心となりますが、財務諸表や企業のファイナンス（お金の調達）についても基本的なことを学びます。 この講義を受けることによって、当たり前に存在しているように見える企業が、大企業であれ中小の企業であれ、日々、時間に追われながら業務をこなし、時代の変化に対応していかなければならないことが深く理解できるようになります。 社会に出るとなぜ厳しいのか、働くためにはなぜがんばらなければならないのかがわかります。社会や企業で生き抜いていくためには、この講義や他の講義で学ぶ知識がなぜ必要である理由もわかるでしょう。 今後の就活のエントリーシートの記入や面接の際に、何を書き何を言うべきかを今から準備するために必要な知識が得られる講義です。		
教材（教科書）	【購入必須です】柳井正『経営者になるためのノート』2015 年　PHP　￥1,204		
教材（参考資料）	適宜、リアルタイムに掲載される記事などの資料を配布します。		
教育方法	（1）教科書を中心に進めます。本文を読みながら、出てきた言葉から商学のテーマを引き出して講義します。 →従って、教科書は毎回携帯し、ボロボロになるまで書き込んで使ってもらいます。 （2）商学のテーマについてはパワーポイントで講義します。 （3）企業経営、ファイナンスに関する経済番組の映像を視聴する時間も取り入れてリアルに理解できるようにします		
評価方法	（1）レポート課題を出します（70%） （2）授業における参加と貢献の度合いを評価します（30%）		
到達目標	（1）ビジネスがなぜ厳しいのかを心から理解して話すことができるようになる （2）経営学、マーケティング、ファイナンス、財務諸表について、一通りの理解をし、次のステップに進めるだけの基礎力を身に着けることができる		
授業時間外学習	各回の予習として、以下に指定する箇所を読んで授業に臨んでください。 第 3 回　第 1 項　p10-13 第 4 回　第 2 項　p14-22 第 5 回　p48-56 第 6 回　p10-14 第 7 回　p10-14 第 8 回　p32-35, p81-85 第 9 回　p36-41, p66-71 第 10 回　　p86-99 第 11 回　p26-31, p42-47 第 12 回　p104--115 第 13 回　p72-80 第 14 回　p116-128 第 15 回　p144-164		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」について評価します。 ●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加）、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。 ●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、 2 回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。			

●私語は厳しく注意します。場合によっては座席を変更します。
●（就活に関係するなど特別な場合を除き）スマートフォンの電源は授業の始まり時に切ってもらいます。電源を切れない場合は授業の初めに講師まで申し出てください。
●授業をよりよく理解するためには、日本経済新聞、日経ビジネス（雑誌）、テレビ東京系列のワールドビジネスサテライト（月-金 23:00～）にできる限り接しておくことをお勧めします。

授業スケジュール

【第 1 回　オリエンテーション】
商学とは何か。ひとつの入り口としてユニクロや G.U.を展開するファーストリテイリングがどのような業態であり消費者がメリットを受けることができるかを知り、商業について興味を持つことができる。
【第 2 回　企業とは何か】
企業はあたりまえにあるものではなく、経営者の意図と資本家の資金を元にビジネスを展開することから始まる。株式会社の成り立ち、成長の必要性、企業のミッションなどについて理解することで、企業のダイナミックな存在について知ることができる。
【第 3 回　ビジネスとは何か】
商人と評論家と慈善家はそれぞれ狙いをもって社会と関わり、自らの達成感を得ながら社会を良くしようとしている。それぞれどのような役割を持ち、とりわけ商人はどのような人でなければならないか、新たな認識を持つことができる。
【第 4 回　商品やサービスを提供する企業】
ビジネスの川上にある企業について、どのように利益を挙げているのかを理解する。売上だけでなく、コストや時間制約も含めて、どのように売上を高め利益を作るのかをいくつかの業界について理解する。
【第 5 回　流通業】
メーカーと消費者をつなぐ役割を持つ流通業の役割と利益について考える。コンビニ、スーパー、百貨店、ショッピングモールについてそれぞれのビジネス上の特徴をふまえて、流通の果たす役割を理解する。
【第 6 回　消費者】
消費者とはどのような人々なのか。セグメンテーションによってどのように消費者像（ターゲット）が作られるのかの実際を知ることで、消費者であった自分が実は企業にコントロールされていたことを知り、驚くことになる。
【第 7 回　イノベーション】
企業は漫然と同じことを繰り返すことはなく、日々存続をかけて変革に取り組んでいる。その結果がイノベーションとなる。イノベーションによって商品が改良されて競争力を発揮し、新商品が生まれて新たな利益を生む。なぜ、社会が厳しいのか、その根本の姿を見ることができる。
【第 8 回　組織と人材】
イノベーションを生むための組織はどうあるべきか。経営者層のリーダーシップや社員のモチベーションを高めて企業の競争力を生み出すための組織と人材を知ることで、これから就職するにあたって何を学ぶべきかを自覚できるようになる。
【第 9 回　顧客志向】
企業が最も重視するのは顧客志向である。企業がマーケティングを取り入れているのも顧客の満足を高め企業のファンを作るためである。企業がどれほど顧客を重視し、そのためにどのような対応をしているのかを知ることで、なぜ優れた企業が利益を挙げ続けられるかを知ることができる。
【第 10 回　売上と利益】
利益はどのように生まれるのか。売上を増やす方法とコストを削減する方法がある。
さらに大きな利益を挙げるためには、企業は借入を行って事業を拡大することが必要なこともある。また、最近問題になっている企業の内部留保はどのように活用すべきなのか。
決算書の基本的な読み方を学ぶといかに企業が借金をしているかに驚き、企業会計の実態を知ることになる。
【第 11 回　成長論】
企業は成長しなければならない。それはなぜなのか。成長するためにはどうすればよいのか。アンゾフやボストンコンサルティングの PPM を基礎知識として、成長の必要性を学んだうえで、最近の企業の在り方や官庁、NPO の役割についても成長論の視点から思考実験を行う。
【第 12 回　組織論】
企業の仕事の多くは組織で行う。個人プレーと組織の仕事はどのように異なるのか。チーム作業に欠かせない「信頼」はどうすれば生まれるのか、多様性を認めると組織の力がなぜ強くなるのかを学び、自身の人間関係の強化に結び付けてほしい。
【第 13 回　働き方革命】
組織の中で自己実現することは可能か。内発的な動機付けによって仕事を行う「クリエイティブクラス」を一つのモデルとして

知り、これからの就活で活用してもらう。
その一方で、仕事に全身全霊を傾けるモーレツな経営者の考え方と、そうしなければ生き残れない企業の現実を知り、自分なりの働き方のイメージを形成できるようになる。
【第 14 回　ビジョナリー・カンパニー】
企業にとって最終的に重要なのは利益である。しかし、長期的に利益を最大化するためには、利益を少なくしてでも売上を高めて業界内のシェアを高める戦略が有効な時代もあった。しかし、利益以上に企業のミッションの達成を重視する企業が、最終的には高い利益を挙げているという見方もある。ミッションと売り上げと利益をめぐる企業経営の考え方を学び、今の時代にはどの考え方が最もフィットするかを具体的な企業を通じて議論する。
【第 15 回　マイケル・ポーターの CSV】
これからの企業のミッションは何になるか。また、これからの消費者は何を買うのか。その二つのベクトルの焦点にあるのが「社会の課題を解決するビジネス」であり、マイケル・ポーター教授が CSV として提示したものである。今のビジネスが流れている大きな方向を理解し、本筋に沿った人生のキャリアデザインができるようになる。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J85000502
科目名	事業構想概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Design		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	
授業概要	Entrepreneurship is a key concept for any business spirit, but not a title. No text required, but all students are expected to experience the reality of entrepreneurship with Case Study Method (Harvard Business School) during this courses. Every year set a reference book and discuss the essence of entrepreneurship during this courses. Set a goal to present students' own start-up / turnaround business plan at the end . Logical thinking and presentation skill are also required to accomplish during this courses. 起業家精神は事業構想の基礎であり、魂：資格ではない。試験は行わないが、受講生はこの講義を通じてケースメソッド(HBS)の中にその真髄を学んでいただくことになる。毎年参考書を設定するが、それに加え、何が本質かを議論する。最後に自ら起業したい、または改革したい企業の事業計画を策定しプレゼンテーションを行う。よって受講生は本講義を通じて論理的思考、プレゼンテーション能力を講義の中で培うものことができる。		
教材（教科書）	Shoe Dog, A Memoir by the creator of Nike (by Phil Night, Simon Schuster, ISBN 978-1-4711-4670-1) または日本語訳本　東洋経済新報社　ISBN978-4-492-04617-3 Handout and Case should be distributed at the each session, upon Students' best interest (Past examples, Nike, Starbucks, Apple, Google, NBA, MLB, Ritz Carlton, Seven Eleven, Yoshinoya etc.) 受講生の興味ある産業、分野を考慮し、毎回提示する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	Never to excuse your life, Never to be late, Never to cheat/short cut. All students should be communicated by faculty, one by one. 授業は講義法と学生によるプレゼンテーションを中心に行われる。言い訳を言わない、今からでも遅くない、ごまかさない。 全ての受講生は教官により認識されコミュニケーションが取られる。		
評価方法	50% Class contribution, 35% Last presentation, 15% Quiz at the each session		
到達目標	学生は起業家精神とは？を説明できるようになるとともに、コミュニケーション、論理的思考、マナー、基礎的語学、会計知識を身につけることができる。		
授業時間外学習	Quick quiz should be distributed at the each session and Students should submit before the next session. Expected to spend 20-30 minutes each and send by e-mail. 毎回次回の Quiz が提示されるので、学生は次回講義の期限までにメールで提出することとなる（想定毎回 20-30 分活用）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
Stay Hungry, Stay Foolish (Steve Jobs)			
授業スケジュール			
1．Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting オリエンテーション、事業計画の説明、目標設定 2．Chapter 1962, 1963 / 参考書　1962, 1963 年 3．Chapter 1964, 1965, 1966, 1967, 1968 / 参考書　1964, 1965, 1966, 1967, 1968 年 4．Chapter 1969, 1970, 1971, 1972, 1973, 1974 / 参考書　1969, 1970, 1971, 1972, 1973, 1974 年 5．Chapter 1975, 1976, 1977, 1978, 1979 /　参考書　1975, 1976, 1977, 1978, 1979 年 6．Chapter 1980, Night / 参考書　1980 年、夜			

7．Midterm Review, Goal Setting / 中間レビュー、事業選択

8．On Financials/ Fundamental of financials 財務、会計に関しての基礎

9．On Innovation / Best practice at innovation イノベーションのベストプラクティス

１０．On Venture Capital　ベンチャーキャピタルに関して

１１．What is Silicon Valley シリコンバレーとは？

１２．On Presentation　プレゼンテーションとは？

１３．Case, Most requested company 受講者から一番リクエストあった企業

１４．Presentation of Business Plan 1 事業計画発表 1

１５．Presentation of Business Plan 2 事業計画発表 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J85000601
科目名	女性企業家講座	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	ビジネスの第一線で活躍する女性企業家を講師としてお迎えし、今の仕事につくまでの体験やキャリア形成等についての講義を行っていただく講座である。本講義では受講生が、どのようにして起業したのか、どのようにしてトップになったのか、管理職の仕事とは何か等を聞くこと通じて、自らのキャリアをデザインし、就職力を向上させることができるようになることを目的とする。 各講義では、質問時間を設けるので、多くの質問ができるようにすること。 ※女子学生だけでなく、男子学生も受講可能。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	講義法を中心として行う。		
評価方法	各回の講義内容についてのレポート（55%）、各回の受講態度および講師への質問（45%）。 レポートでは各講義内容の理解力を問う。		
到達目標	1. 経営の現場の知識を学び、新しいものの見方を身につけることができる。 2. 自分らしいキャリアをデザインするための知識を習得することができる。 3. 聞き取り力、質問力など、就職活動で役立つスキルを習得することができる。		
授業時間外学習	各回の学習推定時間は 60 分。 第 1 回　女性を取り巻く環境に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 2 回　第 3 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 3 回　第 4 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 4 回　第 5 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 5 回　第 3〜第 5 回の講師が配布した資料を読み、要点をまとめる 第 6 回　第 7 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 7 回　第 8 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 8 回　第 7 回・第 8 回の講師が配布した資料を読み、要点をまとめる 第 9 回　第 10 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 10 回　第 11 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 11 回　第 10 回・第 11 回の講師が配布した資料を読み、要点をまとめる 第 12 回　第 13 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 13 回　第 14 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 14 回　第 13 回・第 14 回の講師が配布した資料を読み、要点をまとめる 第 15 回　すべての講師の講演に対する要点と感想をまとめる		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.外部から講師を迎えることもあり、受講態度については通常以上に十分気を遣うこと。講義中の私語、飲食および無用な出入り、スマートフォンの操作は厳禁。注意をしても改善しない者には単位を授与しないことがある。
ルールに納得できない者は履修しないこと。
2. メモ用紙を持参し、質問したいことなどをメモすること。

授業スケジュール

1.　ガイダンス
2.　女性企業家を取り巻く環境①
3.　女性企業家を取り巻く環境②
4.　(5/8)　　望月　美佐緒 氏　「~動けば変わる　動けば分かる~　企業の中で新たな事業を生み出すために…」
　　（株式会社ルネサンス　常務執行役員、 ヘルスケア・新業態　新規事業担当補佐、新規事業推進部　部長）
5.　(5/15)　未定

6.　要点整理と確認テスト
7.　（5 /29）　未定
8.　（6/5）　　未定
9.　要点整理と確認テスト
10.（6/19）　未定
11.（6/26）　　未定
12.　要点整理と確認テスト
13.（7/10）　未定
14.（7/17）　未定
15. 女性企業家講座を通して学んだことの展望

講師の都合などにより変更になる可能性がある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J85000701
科目名	経営戦略論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、受講生が経営戦略の基本と実践力が身につくことを目的とします。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になることを目指します。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考資料）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行います。 毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。それによって授業内容の理解度を確認します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	受講者は経済新聞や経済雑誌の経営戦略に関する記事を読んで、内容を説明できる。		
授業時間外学習	講義資料を 1 週間前までに京学なびに掲載するので、事前に読んで内容を理解しておくこと。(各回の学習推定時間は 45 分) 1 経営戦略とは 2 トレードオフ 3 コンビニ 4 ポイントカード 5 事例研究：餃子の王将 6 差別価格 7 消費の外部性 8 ビジネスモデル 9 参入障壁 10 デファクトスタンダード 11 株式会社 12 M&A 13 企業価値 14 日本型経営 15 事例研究：スティーブジョブズ		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
授業スケジュール			
1 経営戦略とは 2 トレードオフ 3 コンビニ 4 ポイントカード 5 事例研究：餃子の王将 6 差別価格			

7 消費の外部性
8 ビジネスモデル
9 参入障壁
10 デファクトスタンダード
11 株式会社
12 M&A
13 企業価値
14 日本型経営
15 事例研究：スティーブジョブズ
常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J85000801
科目名	経営情報システム論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	企業は・継続・発展するものとするならば、企業の経営課題は変化する内外の情勢を的確に把握し、経営をどのように舵取りしていくか・又経営諸資源の活用をどのように展開していくかが、非常に重要な役割をもつことになる。企業を人体にたとえれば、情報は人体の諸機関を動かす信号であり、コンピュータや通信ネットワークは脳や神経に相当することとなる。現代では、経営活動が情報をフルに活用して、積極的に経営活動を推進しなければきびしい企業競争に生き残れない。 本講義では、企業モデルでの経営機能と情報の関係を説明し、情報技術の進歩によって情報の扱い方、処理方法、システム化などが・どのように時代と共に変遷してきたかを歴史的過程を辿って講述する。更に現代から将来への展望に関する考察も試みる。 学生は本講義によって、企業経営と経営情報システムとの関係を理解し、今後の環境変化に対応した情報システムの変化を考察できるようになる。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なびに公開する。		
教材（教科書）	遠山暁／村田潔『経営情報論 新版補訂（有斐閣アルマ)』有斐閣		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	電子黒板を利用しながら講義法で授業は進められる。		
評価方法	2/3 以上の受講を単位認定要件とし、単位認定要件を満たした上で、 授業内提出物及び小テスト(35%)、 レポート(30%)、 定期試験(35%) で評価する。		
到達目標	企業経営にとって経営情報システムの重要性を科学的な観点から説明できる。		
授業時間外学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 各回の授業内容に該当する教科書のページを事前に読んで、専門用語の確認などを含めて事前学習をしておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。 01:教科書該当ページなし 02:教科書 pp1-pp28 03:教科書 pp29-pp54 04:教科書 pp55-pp78 05:教科書 pp1-pp78 06:教科書 pp79-pp108 07:教科書 pp109-pp136 08:教科書 pp137-pp164 09:教科書 pp165-pp186 10:教科書 pp79-pp186 11:教科書 pp187-pp212 12:教科書 pp213-pp240 13:教科書 pp241-pp260 14:教科書 pp261-pp286 15:教科書 pp287-pp318		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業に毎回出席すること。講義を聞くだけでなく、必ずノートやメモをとること。遅刻・早退・私語は厳禁。			
授業スケジュール			

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1． 受講ガイダンス
2. 経営情報論の基礎
3. 経営情報論の基礎理論
4. 経営情報システムの変遷
5. 反転学習(理解度確認)
6. 情報通信技術の進展
7. 経営情報システムの設計・開発
8. 経営情報システムの管理
9. 情報通信技術とビジネス・プロセス革新
10. 反転学習(理解度確認)
11. ネット・ビジネス
12. 情報通信技術と組織変革
13. 情報通信技術と組織コミュニケーション
14. 情報通信技術と社会
15. まとめと今後の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J85000901
科目名	民法総則	単位数	2
科目名（英語表記）	General Principles of Civil Law		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
授業概要	民法全体に共通するルールである民法第１編「総則」の内容をおおむね条文配列の順序で学習する。条文の意味内容と関連する判例・学説について理解し、民法総則の基本的・標準的な知識を習得する。		
教材（教科書）	各回の授業でレジュメを配布する。		
教材（参考資料）	池田真朗『スタートライン民法総論〔第２版〕』（日本評論社、2011 年） その他、講義中に適宜指示する。		
教育方法	配布したレジュメおよび資料に沿って講義形式で行う。授業中に教員が補足したことや強調した点をレジュメに記入しながら受講する。内容的な区切りごとに練習問題を解くことで基本的な知識の定着を図る。		
評価方法	期末試験の成績による。小テストの結果や授業への参加状況等を補充的に考慮する。評価方法の詳細については初回の授業で説明する。なお、授業中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	１．民法総則の主要な条文・制度について基礎的な知識を習得する。 ２．民法総則の主要論点に関する判例・学説を理解する。 ３．民法全体を体系的に理解するための基礎を形成する。		
授業時間外学習	受講者のほとんどが法律学を体系的に学習していないことから、授業時間外学習は復習が中心となる。 １．授業時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、授業で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 ２．授業中に配布した練習問題を次回の授業開始時までに解いておく。 ３．授業内容の理解をより深めるため、授業中に指示した判例・文献を読む。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

民法総則は民法以外の法分野においても思考方法や制度の基礎となっており、最重要科目のひとつですが、内容が極めて抽象的であるため、難解、退屈といった印象を受ける受講者も多いと思います。最初のうちは我慢も必要です。粘り強く学習を進めてゆきましょう。また、民法は全体として密接に関連しているので、公務員試験や資格試験等で民法を学習する必要のある受講者は、契約・不法行為法、債権法、物権法など他の民法科目を併せて履修することを強く勧めます。

授業スケジュール

１．　受講にあたっての注意／民法とは／民法の法体系における位置／民法の構造
２．　権利の主体（１）　権利能力／意思能力
３．　権利の主体（２）　行為能力／未成年者／成年後見制度
４．　法律行為、不完全な意思表示（１）　心裡留保／虚偽表示
５．　不完全な意思表示（２）　錯誤
６．　不完全な意思表示（３）　詐欺／強迫
７．　無効と取消し
８．　代理（１）　代理権
９．　代理（２）　無権代理
１０．代理（３）　表見代理
１１．時効（１）　時効の意義・存在理由／取得時効
１２．時効（２）　消滅時効／時効の中断・停止
１３．時効（３）　時効の効力／時効と除斥期間
１４．法律行為の効力が否定される場合のまとめ
１５．実社会における民法総則

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J85001001
科目名	契約・不法行為法	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
授業概要	民法第 3 編のうち、債権発生原因である契約および不法行為を中心に学習する。順序としては、契約一般に共通するルール（契約総則）をみた後に、各種の契約の中でもとくに重要なもの（売買・賃貸借など）を扱い、最後に不法行為法を概観する。条文の意味内容と関連する判例・学説について理解し、契約および不法行為に関する基本的・標準的な知識を習得する。		
教材（教科書）	各回の授業でレジュメを配布する。		
教材（参考資料）	池田真朗『スタートライン債権法〔第 6 版〕』（日本評論社、2017 年） その他、授業中に適宜指示する。		
教育方法	配布したレジュメおよび資料に沿って講義形式で行う。授業中に教員が補足したことや強調した点をレジュメに記入しながら受講する。内容的な区切りごとに練習問題を解くことで基本的な知識の定着を図る。講義にあたっては具体的な事例を適宜紹介して理解を助けるように努める。		
評価方法	期末試験の成績による。小テストの結果や授業への参加状況等を補充的に考慮する。評価方法の詳細については初回の授業で説明する。なお、授業中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	1．契約および不法行為に関する主要な条文・制度について基礎的な知識を習得する。 2．主要論点に関する判例・学説を理解する。 3．具体的な事例に条文を当てはめ、解決することができる。		
授業時間外学習	受講者のほとんどが法律学を体系的に学習していないことから、授業時間外学習は復習が中心となる。 1．授業時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、授業で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 2．授業中に配布した練習問題を次回の授業開始時までに解いておく。 3．授業内容の理解をより深めるため、授業中に指示した判例・文献を読む。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

民法は全体として密接に関連しているので、公務員試験や資格試験等で民法を学習する必要のある受講者は、民法総則、物権法、債権法など他の民法科目を併せて履修することを強く勧めます。

授業スケジュール

1．　受講にあたっての注意／契約・不法行為法序説
2．　契約の成立
3．　契約の効力（1）同時履行の抗弁権
4．　契約の効力（2）危険負担
5．　契約の解除
6．　契約総則の復習（練習問題）
7．　売買（1）
8．　売買（2）売主の担保責任
9．　贈与
10．賃貸借（1）
11．賃貸借（2）
12．不動産賃貸借と借地借家法
13．その他の典型契約
14．不法行為（1）
15．不法行為（2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J86010101
科目名	経営組織論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Organization Theory		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	経営とは経営組織内の資源を活用することによってはじめて成立する。本講義では、経営の基盤となる組織についての理論、組織内におけるヒトの活用において重要になる理論についての基礎的知識を学習する。具体的には、組織設計・組織編成、組織と個人の関係、リーダーシップ、組織とジェンダーや組織的公正などの組織を考える上で欠かせない知識を習得する。また、近年の経営組織において重要なトピックとなっているダイバーシティ・マネジメントやストレス（メンタルヘルス）などについての基礎的知識についても学習する。		
教材（教科書）	特になし。教員作成の資料を配布します。		
教材（参考資料）	適宜指示します。		
教育方法	講義法で授業を進められる。適宜確認テストなどを行う。		
評価方法	授業内小テストなど（25%）、定期テスト（75%）		
到達目標	経営組織及び組織内でのマネジメントを考えるために必要となる基礎知識を身に着けて、経営組織や組織行動に関する事象について説明できる。		
授業時間外学習	毎回授業の前々日までに、「京学なび」内に授業レジュメをアップロードするので、穴埋め部分以外に目を通しておくこと。 毎回、講義後の復習を忘れずに行うこと。 不明点や質問がある場合、次回の講義までに質問できるようにまとめておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的な姿勢で講義に取り組んでもらいたい。
質問などが生じた場合、そのまま放置せずに、オフィスアワーなどを積極的に活用してもらいたい。
授業中の私語は厳禁とする。私語によって他者に迷惑をかける場合は、退出を求める。

授業スケジュール

第 1 回　オリエンテーション、イントロダクション：組織とは何か
第 2 回　企業組織の基本①：組織を取り巻く環境と組織、組織設計の方法
第 3 回　企業組織の基本②：機能別組織、事業部組織、マトリックス型組織、及びそれらのメリット・デメリット
第 4 回　組織と個人の統合①：変化する組織像・個人像①
第 5 回　組織と個人の統合②：変化する組織像・個人像②、マネジメントの変化と経営組織
第 6 回　ワーク・グループ①：ワーク・グループとは何か、ワーク・グループの理論①
第 7 回　ワーク・グループ②：ワーク・グループの理論②、少数派・多数派の形成と問題
第 8 回　組織とジェンダー：ジェンダーと組織の関係
第 9 回　ダイバーシティ・マネジメント：ダイバーシティ・マネジメントとは何か、ダイバーシティ・マネジメントの基本・実際
第 10 回 リーダーシップ①：リーダーシップとは何か
第 11 回 リーダーシップ②：リーダーシップの理論①
第 12 回 リーダーシップ③：リーダーシップの理論②
第 13 回 組織ストレス①：組織ストレスとは何か
第 14 回 組織ストレス②：組織ストレスの課題、メンタルヘルス
第 15 回 組織的公正：組織における公正、組織的公正の実際

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2018	授業コード	J86010201
科目名	経営戦略論	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Strategy		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	経営戦略は実践の学問です。この授業では、身近な話題やニュースに良く出てくるホットな話題を材料に、受講生が経営戦略の基本と実践力が身につくことを目的とします。新聞や雑誌の記事、ビデオ等も交えながら、分かりやすく講義するつもりです。 経営戦略の基本を理解する　→　企業の経営戦略に関するニュースの内容が良く理解できる　→　新聞の経済欄や企業欄を読むことが楽しくなる　→　経営戦略の知識や実践力が深まる という好循環になることを目指します。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配付します。		
教材（参考資料）	１．石井淳蔵他著『経営戦略論』有斐閣 ２．伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 ３．東北大学経営学グループ著『ケースに学ぶ経営学　新版』有斐閣 参考文献は事前に購入する必要はありません。講義内容をさらに詳しく調べたい場合に参考にしてください。図書館にも指定図書として用意しています。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行います。 毎回授業の最後に 10 分程度で授業内レポートを書いてもらいます。それによって授業内容の理解度を確認します。		
評価方法	授業内レポート（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	受講者は経済新聞や経済雑誌の経営戦略に関する記事を読んで、内容を説明できる。		
授業時間外学習	講義資料を 1 週間前までに京学なびに掲載するので、事前に読んで内容を理解しておくこと。(各回の学習推定時間は 45 分) 1 成長マトリックス 2 多角化戦略 3 選択と集中 4 垂直統合と水平分業 5 ブランド戦略 6 ブランド戦略 2 7 PB（プライベートブランド） 8 事例研究：アシックス 9 PPM 10 イノベーションのジレンマ 11 サンクコスト 12 事例研究：デジカメ 13 ブルーオーシャン戦略 14 組織と戦略 15 経営者とは		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
私語や途中入退出は他の受講生の迷惑になりますので、慎んでください。			
授業スケジュール			
1 成長マトリックス 2 多角化戦略 3 選択と集中 4 垂直統合と水平分業 5 ブランド戦略 6 ブランド戦略 2			

7 PB（プライベートブランド）
8 事例研究：アシックス
9 PPM
10 イノベーションのジレンマ
11 サンクコスト
12 事例研究：デジカメ
13 ブルーオーシャン戦略
14 組織と戦略
15 経営者とは
常に最新の経営戦略の話題を取り上げていきますので、内容は変更になることもあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J86010301
科目名	日本経営史	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Business History		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
授業概要	江戸時代より昭和戦後時代に至る企業経営の近代化過程について概説する。 江戸時代商家経営の特質を指摘し、明治時代の会社制度の導入定着と実業家層の成長を講義する。 20 世紀に入って大企業社会の成長と日本型企業経営の発展について講義する。		
教材（教科書）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考資料）	次の書籍を薦める。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎･岡部桂史･平野恭平『１からの経営史』中央経済社 宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実『日本経営史』新版、有斐閣 宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』有斐閣 必要な文献は配付資料に記載し、そのほかに講義の中でその都度紹介する。		
教育方法	パワーポイントを利用し講義の形で進め、適宜意見聴取を行い、小レポートの作成を求める。		
評価方法	定期試験（100％）		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、現代の問題を長期的・歴史的な視点から説明することができる。		
授業時間外学習	講義のテーマは次ぎの通りであり、これに付き予習しておくこと。各回これに関連した小レポート実施する。 ２講.創業者と相続、３講・合名会社、４講・行商と店舗商業、５講・合本主義、６講・資産家と企業家と経営者、７講・在来経営と会社、８講・財閥、９講・専門経営者と経営者企業、10 講・大企業、11 講・「現金正札販売」、12 講・日本的経営、13 講・新経営者、14 講・トヨタ生産方式、15 講・スーパーとコンビニ		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をとること。
日本の経済・経営発展に対する興味をもつことを勧め、歴史の連続と断絶を問いかけたい。

授業スケジュール

１講.日本経営史の課題
２講.豪商の企業者活動(上方商人・三井家)
３講.三井家大元方の成立
４講.近江商人の経営発展
５講.明治時代の企業家と渋沢栄一
６講.会社制度の導入と発展
７講.豪商の家業改革と家政改革
８講.財閥の形成過程
９講.大企業時代の到来
10 講.第一次大戦期、都市型産業の発展
11 講.都市化と国内商業
12 講.日本的労務関係の形成
13 講.財閥解体と「財界追放」
14 講.自動車産業の発展と日本的生産システム
15 講.大規模流通企業の生成と展開

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J86010401
科目名	マーケティング論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	本講義は、マーケティングという言葉を初めて聞く人を想定して、マーケティングとはどのようなものでそれが社会でどのように役立っているのか、から始めます。 具体的には、①マーケティングの概念および基礎理論②現在の市場でのマーケティング課題③マーケティングの時代対応と進化、について事例を紹介しながら授業を組み立てていきます。 マーケティングは商品を売るためのビジネススキルであるだけでなく、社会の課題を解決したり、社会をより良くするための社会のデザインを提供するための武器にもなることを理解してもらいます。さらには、自分のポジショニングを確立して仲間やアルバイト先での存在意義を主張したり、自分をブランド化して就活に役立てられるなど、人生におけるあらゆる企画を考える基礎体力を身に着けることができます。		
教材（教科書）	和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略（第 5 版）』有斐閣アルマ　2,160 円		
教材（参考資料）	適宜指示します。		
教育方法	（1）講義が中心になります （2）座席表に従って着席してもらいますので、授業中にいくつもの質問を投げかけて答えてもらいます。授業に貢献する回答ができれば評価に加点します。 （3）人数にもよりますが、指名する形でディスカッションも取り入れていきます。		
評価方法	（1）期末にレポート提出を求めます。このレポートは評価の 70%を占めます。 インターネットからのコピー＆ペイストでは対応できないよう毎年工夫していますのでので、授業を理解していなければ回答できない課題になっています。 （2）授業時の発言の積極性・貢献 （評価の 15%を占めます） （3）授業の進展を確認するために 3 回程度小レポートの提出を求めます（評価の 15%を占めます）		
到達目標	（1）初めての人も、マーケティングという科目について興味を持ち、マーケティングとは何かについて述べ、マーケティングの社会的な役割を話すことができる （2）社会をマーケティングの視点で見ることができ、企画する頭を持つことができる		
授業時間外学習	事前に授業のパワーポイントを京学ナビに掲載しますので、各自でそれを見た上で、何を学びたいかを明確にしてから授業に臨んでください。 授業資料には教科書に対応していない部分もありますが、以下の回では対応していますので、併せて事前に読んできてください。 第 2 回　序章　p1-20 第 3 回　第 3 章　p58-78 第 4 回　第 3 章　p58-78 第 5 回　　― 第 6 回　第 5 章　p104-128 第 7 回　第 8 章　p173-196 第 8 回　第 9 章　p197-217 第 9 回　第 7 章　p152-172 +第 11 章　p239-245 第 10 回　第 10 章　p240-244 第 11 回　第 10 章　p218-239 第 12 回　第 6 章　p129-151+第 12 章　p265-290 第 13 回　　― 第 14 回　　― 第 15 回　第 15 章 p337-356		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
●授業は出席するだけでは評価には反映されません。発言や小レポートによる「参加と貢献」について評価します。			

●「参加と貢献」とは、授業の進行に積極的に入り込み（参加)、授業をよりアクティブなものにするような質問や発言を行うこと（貢献）を意味し、期末の点数として評価します。
●授業中に発言を求めるために名前を知る必要がありますので、２回目以降に座席表を配布し決められた場所に着席してもらいます。
●私語は厳しく注意します。場合によっては座席を変更します。
●（就活に関係するなど特別な場合を除き）スマートフォンの電源は授業の始まり時に切ってもらいます。電源を切れない場合は授業の初めに講師まで申し出てください。

授業スケジュール

1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法の説明、マーケティングとは何か
2. マーケティングの機能と役割
3. ターゲット研究（世代論）
4. ライフスタイルによるセグメンテーション
5. ポジショニング
6. 消費者行動論
7.「４Ｐ理論１」：製品政策
8.「４Ｐ理論２」：価格政策
9.「４Ｐ理論３」：流通対応
10.「４Ｐ理論４」：販売促進
11. マーケティング・コミュニケーション
12. 競争戦略（８０年代）
13. ブランド論（９０年代）
14. 経験経済：モノ消費からコト消費へ（２０００年代）
15. ビッグデータと関係性のマーケティング（２０１０年代）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J86010501
科目名	経営学史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Management Theories		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	学説の流れを学ぶことを通して、いかなる経営課題に対して先人はどのように取り組んだかを理解する。経営学は課題解決に必要とされる知識を様々な学問領域から借用しており、経営課題によって、その課題の解決に向けて採択されるアプローチは異なってくる。よって、この講義においては、受講者は多面的な視点と論理的な思考を有することができる。		
教材（教科書）	なし。プリントを適時配布する。		
教材（参考資料）	なし。プリントを適時配布する。		
教育方法	事前に配布した講義資料・レジュメに沿って、プロジェクタ（Word, Excel, PowerPoint,等）を使いながら、基本的に講義法で行なう。講義では、教員が冒頭で学習目標・ポイントを述べる。学生は、配布した講義資料・レジュメに、書き込みながら受講する。毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示する。　ＤＶＤを使用する場合は、視聴後、講義時間内に感想や気づきを書くことになる。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。 課題・宿題（問題集）については講義内で手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		
到達目標	＊経営理論に基づき組織・管理の変遷を説明することができる。 ＊受講者は企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。 ＊受講者は多面的な視点で事象を分析することができる。		
授業時間外学習	毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントのどこまでを読んでおくべきかを指示する（各回の推定授業時間外学習は 30 分以上）。 第 1 回目　配布プリントにおける＜はじめに＞。 第 2 回目　配布プリントにおける第 1 章。 第 3 回目　配布プリントにおける第 2 章。 第 4 回目　配布プリントにおける第 3 章。 第 5 回目　中間課題を解き、提出すること。 第 6 回目　配布プリントにおける第 4 章。 第 7 回目　配布プリントにおける第 5 章。 第 8 回名　配布プリントにおける第 6 章。 第 9 回目　配布プリントにおける第 7 章。 第 10 回目　配布プリントにおける第 8 章。 第 11 回目　配布プリントにおける第 9 章。 第 12 回目　配布プリントにおける第 10 章。 第 13 回目　配布プリントにおける第 11 章。 第 14 回目　期末課題を解き、提出すること。 第 15 回目　配布プリントにおける第 12 章。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＊経営学総論の単位を取得している方が望ましい。
＊遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。
＊配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。

授業スケジュール

1. 経営学史を学ぶ目的。内部請負制とその崩壊理由。問：肉体労働と頭脳労働が分離されたのはなぜだろか？　マニュアルってなんだろうか？（1)。登場人物：テイラー、フォード、ファヨール、クーンツ、等。体系的管理運動、動作・時間研究、職能的組織、

2. 問：肉体労働と頭脳労働が分離されたのはなぜだろか。マニュアルってなんだろうか？（2)。キーワード：管理過程学派、管理論のジャングル戦、等。
3. 問：感情は働きぶりにどのような影響をもたらすだろうか？　帰属欲求の充足が主たる組織参加理由か？（1)。　登場人物：メイヨー、レスリスバーガー、等。キーワード：ホーソン実験、人間関係論、アノミー、非公式組織、等。
4. 問：感情は働きぶりにどのような影響をもたらすだろうか？　帰属欲求の充足が主たる組織参加理由か？（2)。キーワード：制度学派との論争。調査方法、ニューディール政策、ワーグナー法、産業別労働組合の動向。
5. 問：合理性とは？　組織とは？　人間は蟻か？（1)。　登場人物：バーナード、サイモン、マーチ、サイアート、オルセン、等。
キーワード---近代管理論、システム論、協働システム、誘因ー貢献理論、道徳準則、等。　中間課題 について。
6. 問：合理性とは？　組織とは？　人間は蟻か？（2)。　キーワード：意思決定、認知的限界、満足化原理、人工知能、等。
7. 問：経済学、商学、経営学の相違は何か？　労働者にとっての成果とは？　費用とは？（1)。　登場人物：ワイヤーマン、シェーニッツ、ブレンターノ、シュマーレンバッハ、グーデンベルグ、ニックリッシュ、フィッシャー、等。キーワード：方法論争、私経済学、規範的経営経済学、技術論的経営経済学。
8. 問：経済学、商学、経営学の相違は何か？　労働者にとっての成果とは？　費用とは？（2)。キーワード：精神、経営共同決定法、費用曲線（Ｓ字型か直線か)、等。
9. 問：モチベーションって何だろうか？（1)　登場人物：マズロー、マグレガー、ハーズバーグ、アージリス、ハックマン、オルダム、ローラー、等。キーワード：行動科学、組織行動論、欲求階層説、職務満足、X・Y 理論、目標による管理、
10. 問：モチベーションって何だろうか？（2)　キーワード：2 要因理論、職務充実、期待理論、職務再設計、等。
11. 問：環境変化が組織にどのような影響を及ぼすのだろうか？ 変化に適応するだけが存続の条件か？　(1)。登場人物：ウッドワード、バーンズ、ストーカー、ローレンス、ローシュ、等。キーワード：条件適合理論、オープン・システム、不確実性、等。
12. 問：環境変化が組織にどのような影響を及ぼすのだろうか？ 変化に適応するだけが存続の条件か？　(2)。キーワード：コンフィギュレーションの見解、戦略論への展開、他国のキャッチアップ、等。
13. 問：日本的経営の「日本的」とは何だろうか？（1)　キーワード：日本的経営、日本的の意味、職能給、遅い昇進、企業内組合、チーム・コンセプト、護送船団方式、ジャスト・イン・タイム、カンバン方式、リーン生産方式、セル生産方式、等。期末課題について。
14. 問：日本的経営の「日本的」とは何だろうか？（2)　キーワード：護送船団方式、プラザ合意、バブル経済とその崩壊。崩壊後の対応、等。
15. 問：戦略とは何だろか？　イノベーションとは何だろうか？。登場人物：チャンドラー、アンゾフ、ミンツバーグ、BCG、ポーター、ハメル、プラハラード、等。キーワード：戦略論、戦略の定義、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ポジショニングの戦略論、資源ベースの戦略論、コア・コンピタンス、等。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J86010601
科目名	生産管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Production Management		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	「生産管理」無くして効率的な生産活動は望めない。品質・時間・原価・調達に関わる活動、代表的な生産形態・生産方式、生産管理を取り巻く環境、等について学習する。研究開発、マーケティング、営業・販売といった他機能との連携も欠かせないことから本講義では、生産管理を幅広い視点から捉え、またモノづくりに少しでも関心を抱けるような方向で講義を行なう。ゆえに本講義を通して、オペレーション、コスト、品質、スピード、それらに関連する計画などの現実の対応を理解できるだけでなく、ものづくりへの関心をも高めることができる。		
教材（教科書）	なし。プリントを適時配布する。		
教材（参考資料）	藤本隆宏『生産マネジメント入門Ⅰ』日本経済新聞出版社,2001 年。 藤本隆宏『生産マネジメント入門Ⅱ』日本経済新聞出版社,2001 年。 泉英明『わかりやすい生産管理』日刊工業新聞社,2015 年。 田島悟『生産管理の基本が面白いほど分かる本』KADOKAWA,2017 年。		
教育方法	事前に配布した講義資料・レジュメに沿って、プロジェクタ（Word, Excel, PowerPoint,等）を使いながら、基本的に講義法で行なう。講義では、教員が冒頭で学習目標・ポイントを述べる。学生は、配布した講義資料・レジュメに、書き込みながら受講する。毎講義の終わり時間には次の講義のために配布プリントの何ページまでを読んでおくべきかを指示する。ＤＶＤを使用する場合は、視聴後、講義時間内に感想や気づきを書くことになる。		
評価方法	中間課題・宿題（45%）と期末課題・宿題（45%）、 および講義内小テストや感想文、等により評価する（10%）。 課題・宿題（問題集）については講義内で手渡す。それを所定の期間内に解き、提出しなければならない。締切や提出先などの注意事項については講義内で指示する。		
到達目標	＊受講者は生産の全体像を理解でき、生産工程を支えるメカニズムを説明できる。 ＊受講者は多面的な視点でものづくりを分析することができる。		
授業時間外学習	第 1 回目　配付プリント「多様な指標でチェックされことを理解しよう」を読み,重要な点をまとめる。 第 2 回目　配付プリント「生産性って何だろう？ 原価って何だろう？」を読み,重要な点をまとめる。 第 3 回目　配付プリント「日々カイゼンが基本。カイゼンを知ろう(1)」を読み,重要な点をまとめる。 第 4 回目　配付プリント「日々カイゼンが基本。カイゼンを知ろう(2)」を読み,重要な点をまとめる。 第 5 回目　配付プリント「近代的なモノづくりはいつ頃からはじまったか？」を読み,重要な点をまとめる。 第 6 回目　配付プリント「生産方式と生産形態を理解しよう(1)」を読み,重要な点をまとめる。 第 7 回目　配付プリント「生産方式と生産形態を理解しよう(2)」を読み,重要な点をまとめる。 第 8 回目　配付プリント「計画の重要性とその仕方を知ろう(1)」を読み,重要な点をまとめる。 第 9 回目　配付プリント「計画の重要性とその仕方を知ろう(2)」を読み,重要な点をまとめる。 第 10 回目 配付プリント「計画の重要性とその仕方を知ろう(3)」を読み,重要な点をまとめる。 第 11 回目 配付プリント「注文して何時間・何日間、待てますか？」を読み,重要な点をまとめる。 第 12 回目 配付プリント「どのように働いているのかを知ろう」を読み,重要な点をまとめる。 第 13 回目 配付プリント「ISO とは何だろう？」を読み,重要な点をまとめる。 第 14 回目 配付プリント「製品だけではない、工程においても革新はあり得るか？」を読み,重要な点をまとめる。 第 15 回目 配付プリント「供給業者や販売業者との関係は？」を読み,重要な点をまとめる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊経営学総論の単位を取得している方が望ましい。 ＊遅刻・途中退出・私語を厳禁とする。 ＊配布プリントが多いので、ファイリングが必要である。			

授業スケジュール
1．多様な指標でチェックされことを理解しよう。キーワード） Productivity（生産性）または Products（品種）、Quality（品質）、Cost（原価）、Delivery（数量および納期）、Safety（安全）、Morale（意欲）、Environment または Ecology（環境性）。 2．生産性って何だろう？　原価って何だろう？　　キーワード）労働生産性、設備生産性、原材料生産性、エネルギー生産性、売上原価、製造原価、標準原価計算と実際原価計算、等。 3．日々カイゼンが基本。カイゼンを知ろう（1)。　キーワード）問題と課題, ECRS, 三現主義, 5 ゲン主義, 5W1H と 5 W2H, PDCA サイクル、等。中間課題について。 4．日々カイゼンが基本。カイゼンを知ろう（2)。　キーワード）アメリカでの評価 Kaizen、QC(Quality control)、TQC (Total Quality control)、TQM(Total Quality Management)、等。 5．近代的なものづくりはいつ頃からはじまったか？　キーワード）内部請負制とその崩壊理由。体系的管理運動、科学的管理法、動作・時間研究、現業と計画の分離、大量生産、テイラー、フォード、等。 6．生産方式と生産形態を理解しよう（1)。　キーワード）見込生産、受注生産、デカップリングポイント、多種少量生産、少種多量生産、Just in Time、リーン生産方式、等。 7．生産方式と生産形態を理解しよう（2)。　キーワード）個別生産・ロット生産・連続生産、等。 8．計画の重要性とその仕方を知ろう（1)。　キーワード）日程計画、PERT（Program Evaluation and Review Technique）, 等。 9．計画の重要性とその仕方を知ろう（2)。　キーワード）生産計画、線形計画法(Linear Programming),等。 10.　計画の重要性とその仕方を知ろう（3)。　キーワード）MRP（Material Requirements Planning:資材所要量計画), APS（Advanced Planning and Scheduling:先進的計画スケジューリング）,等。 11.　注文して何時間・何日、待てますか？。　　キーワード）リードタイム(Lead　Time)、SCM (Supply Chain Management) , 等。期末課題について。 12.　どのように働いているのかを知ろう。働く人の Safety（安全）と Morale（意欲）は？　　キーワード）多能工と単能工、多工程もち作業、多台もち作業、ストレスによる管理,等。 13.　ISO とは何だろう？　　キーワード）ISO9000、ISO14000 s、国際標準化機構との関係、等。 14.　製品だけではない、工程においても革新はあり得るか？　　キーワード）　ライフサイクル、プロセス・イノベーション、プロダクト・イノベーション、Utterback-Abernathy model、等。 15.　供給業者や販売業者との関係は？　キーワード）　CIM（Computer Integrated Manufacturing：コンピュータ統合生産)、下請け、系列（keiretu)、一次サプライヤー、二次サプライヤー、三次サプライヤー、グローバルな生産管理?　人件費が安いから海外に工場に？、ディーラー、代理店、等。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J86010701
科目名	人的資源管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Human Resources Management		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	経営学とは、ヒト・モノ・カネ・情報をいかにマネジメントするか（するべきか）を追求する学問である。また、ヒトの集まりである組織をいかにマネジメントするか（するべきか）についても追及する学問である。 人的資源管理論では、経営学において最も重要な資源であるとも言われる「ヒト（＝人的資源）」に焦点を当てて、組織の中で「ヒトがいかにマネジメントされているのか」「企業はいかにヒトをマネジメントしているのか」を学習する。		
教材（教科書）	特になし。 資料を配布する。		
教材（参考資料）	佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣アルマ、2007 年 スティーブン・ロビンス著（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント―入門から実践へ』ダイヤモンド社、2009 年 佐藤博樹・藤村博之・八代充史『マテリアル　人事労務管理』有斐閣、2006 年 これら以外の参考図書は必要に応じて適宜指示する。		
教育方法	講義法で授業は進められる。適宜確認テスト（小テスト）を実施する。		
評価方法	小レポート（不定期）など（10%）、期末試験（90%）		
到達目標	ヒトのマネジメント、そしてヒトの集まりである組織のマネジメントを学び、将来的に役立つヒト・組織の管理に関する知識を身につけて、ヒト・組織の管理について説明できる。		
授業時間外学習	毎回授業の前々日までに、「京学なび」内に授業レジュメをアップロードするので、穴埋め部分以外に目を通しておくこと。 毎回、講義後の復習を忘れずに行うこと。 不明点や質問がある場合、次回の講義までに質問できるようにまとめておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的な姿勢で講義に取り組んでもらいたい。
質問などが生じた場合、そのまま放置せずに、オフィスアワーなどを積極的に活用してもらいたい。
授業中の私語は厳禁とする。私語によって他者に迷惑をかける場合は、退出を求める。

授業スケジュール

第 1 回　オリエンテーション、人的資源管理の概要①：　本講義の概要・進め方などについて、人的資源管理とは何か①
第 2 回　人的資源管理の概要②：　人的資源管理とは何か②
第 3 回　人的資源管理の特徴：　人事部の役割、人的資源管理の歴史
第 4 回　雇用管理①：　人的資源の採用・配置
第 5 回　雇用管理②：　雇用調整、定年制
第 6 回　人事制度①：　職能資格制度・人事考課制度①
第 7 回　人事制度②：　職能資格制度・人事考課制度②
第 8 回　能力開発①：　能力開発の考え方、教育訓練マネジメント①
第 9 回　能力開発②：　教育訓練マネジメント②、OJT と Off-JT
第 10 回 労働時間管理：　労働時間制度、働き方改革
第 11 回 賃金管理：　賃金管理、個別賃金、年功賃金と日本型雇用慣行
第 12 回 昇進管理①：　職能資格と選抜・昇進
第 13 回 昇進管理②：　ポジティブアクション、配置・異動
第 14 回 労働組合：　労働組合の機能、労使関係
第 15 回 福利厚生・退職給付：　付加給付管理、福利厚生・退職給付管理、戦略としての福利厚生

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J86010801
科目名	広告広報論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Advertising and Public Relat		
担当者名	君塚　洋一	旧科目名称	
授業概要	企業や行政、団体や NPO、個人など、社会におけるさまざまな主体は、社会運営や市場競争、経済循環、環境変化への適応のため、何らかの統率的なパブリック・コミュニケーションを行っていくことが求められる。現代におけるその最も制度化された形態が広告であり、広報であるといえよう。 具体的なコマーシャルやキャンペーン、企業や行政、NPO の広報活動の事例を素材としつつ、広告および広報の活動や計画のプロセス、産業的背景、消費社会におけるその役割などについて考えながら、これからの社会におけるコミュニケーション・デザインのあり方を自分なりに展望できるようにしていく。 毎回、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意する。また、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞する機会を設ける。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	天野祐吉編『あたらしい教科書 6　広告』プチグラパブリッシング、2006 年 岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』新版、有斐閣、2008 年 藤江俊彦『現代の広報』同友館、1995 年		
教育方法	毎回、プリントなど、可能な限りテーマにかかわる具体的な教材を用意し、近年の代表的なテレビ・コマーシャルなどの映像素材を鑑賞するなど、具体的な題材をもとに講義をすすめる。		
評価方法	平常点（40%）：授業内レポート（２回程度)、定期テスト（６０%）		
到達目標	日常生活でふれるさまざまな広告・広報について、消費者としてだけでなく、企業や行政など発信主体の立場から、マーケティングやコミュニケーション戦略の一環としてとらえられるようにする。		
授業時間外学習	１）テレビやインターネット、交通機関など、生活の中でさまざまな広告表現にふれ、広告表現のねらいや効果について考える習慣をつけておくこと。 ２）日常生活で接するさまざまな広告表現について、オーディエンス（市民・消費者)、送り手・作り手（広告主、広告会社）の双方の立場からとらえる発想の転換を行えるように心がけること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
CM や広告を眺めることに労力はいらないが、送り手の立場に立ち、その目標設定や戦略の立案、表現の方法や要素の考案を行うことはそれなりに苦労のいることである。授業ではその双方の立場に立ち、さまざまな広告表現を読み解き、批評し、ビジネスの主体の立場を想定しつつ自ら構想する努力が求められよう。			
授業スケジュール			
第 1 回　開講にあたって 第 2 回　広告広報とは何か？　マス・コミュニケーションのさまざまな発信主体 第 3 回　広告の定義／その類似概念（宣伝／広告／PR／パブリシティ） 第 4 回　宣伝（プロパガンダ）と広告 第 5 回　宣伝とメディア・リテラシー／授業内レポート 第 6 回　宣伝・広報の媒体（１）：人にふれるもの、すべてがメディアになる 第 7 回　宣伝・広報の媒体（２）：放送メディア／印刷メディア 第 8 回　宣伝・広報の媒体（３）：インターネットほか 第 9 回　ブランド商品の誕生と広告 第 10 回　市場情報システムとしての広告：市場情報のコストは誰が負担するか？ 第 11 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（１）コカ・コーラ CM 等 第 12 回　広告の表現と手法：広告は何を語っているか？（２）ビール類 CM 等 第 13 回　広告広報のキャンペーンはこんなふうに展開される：日清食品・カップヌードル CM 等 第 14 回　広告広報の課題／授業内レポート 第 15 回　今後の展望			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J86010901
科目名	国際経営論	単位数	2
科目名（英語表記）	International Management		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	
授業概要	This curse focus on competitive strategy and how Japan can compete in this global competition. Using Case Method (Harvard Business School) and appropriate reference book (presented at each session), and Students to expect to analyze the competitive strategy of Japanese industries and how each student survive in this market. Logical thinking and presentation skill should be accomplished during this course. No test is requested, Expected to summarize their own analysis at the final presentation. 当講座は日本を取り巻く競争社会においてどのように日本経済、日本産業が生き残る競争戦略を策定するかを議論する。その中で学生諸氏がいかに生き抜くかを分析し、最終プレゼンを策定するものとする。HBSのケースメソッドを活用、試験は行わないが学生は講義を通じて論理的思考、並びにプレゼンテーション能力も養うことができる。		
教材（教科書）	Handout and Case should be distributed at the each session, upon topic at each session (How Japan Compete? Sony, Apple, Google etc.)　毎回の講義の内容に即し、毎回提示する。		
教材（参考資料）	Strategy Rules (By David B.Yoffie and Michael A. Cusumano, Harper ISBN 978-0-06-237-395-3)		
教育方法	Never to excuse your life, Never to be late, Never to cheat/short cut.　All students should be communicated by faculty, one by one. 授業は講義法と学生によるプレゼンテーションを中心に行われる。言い訳を言わない、今からでも遅くない、ごまかさない。 全ての受講生は教官により認識されコミュニケーションが取られる。		
評価方法	50% Class contribution, 35% Last presentation, 15% Quiz at the each session		
到達目標	学生は自己マネジメントのための戦略は？を説明できるようになるとともに、コミュニケーション、論理的思考、マナー、基礎的語学、会計知識を身につけることをができる。		
授業時間外学習	Quick quiz should be distributed at the each session and Students should submit before the next session. Expected to spend 20-30 minutes each and send by e-mail. 毎回次回の Quiz が提示されるので、学生は次回講義の期限までにメールで提出することとなる（想定毎回 20-30 分活用）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
Be Humble, Be Hungry, Be Innovative			
授業スケジュール			
1．Orientation, Goal Setting / オリエンテーション、目標設定 2．On Global Economics / 現状世界経済分析 3．On Global Politics / 現状地政学分析 4．History of Heisei / 平成年代で何が起こったか？ 5．Case Sony / ケース　ソニー 6．Case Seibu, Tokyu / ケース　コクド、東急グループ 7．Case Silicon Valley / ケース　シリコンバレー 8．Midterm Review / 中間報告 9．How Japan Compete? / マイケルポーターの提言分析 １０．Issue Tree Analysis 1 / イッシューツリー分析 1			

１１. Issue Tree Analysis 2 / イッシューツリー分析 2

１２．On Presentation　プレゼンテーションとは？

１３．Case, Most requested topics 受講者から一番リクエストあったトピック

１４．Final Presentation 1 最終発表 1
１５．Final Presentation 2 最終発表 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	–	–	★	–	★★

年度	2018	授業コード	J86011101
科目名	商法	単位数	2
科目名（英語表記）	Commercial Law		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	本講義では、商法分野のうち、「商法総則・商行為法」を中心に講義し、商法上の制度や商取引の仕組みについて基本的な知識を修得する。商法総則とほぼ同内容を会社について規定する「会社法総則」についても適宜触れる。民法上の契約は、商人でない者同士の取引を想定するのに対し、本講義の取り扱う商法総則・商行為は、商人間の取引および商人と消費者の取引が想定される。これらをモデル・ケースを提示しつつ講義し、法的なものの見方を養成する。なお、国際的観点から配布資料における主要条文は日本語とともに英語訳でも提示される。		
教材（教科書）	弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法＜第 2 版補訂版＞』（有斐閣、2014 年） 2,160 円。 六法（『ポケット六法』（有斐閣）など）を必ず持参すること。 その他に、毎回講義レジュメ・資料を配布する。		
教材（参考資料）	江頭憲治郎=山下友信『商法（総則・商行為）判例百選[第 5 版]』（有斐閣、2008 年） 2,592 円		
教育方法	事前に「京学なび」にアップロードした講義レジュメに沿って、講義法で行う。講義では、教員が冒頭で基本例題を提示しながらポイントを明確にし、学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講する。授業中には基本的な知識・考察を問う質問を行うこととし、正解ができた受講者、適切に考慮した見解を発言した受講者にはポイントを与える。授業の最後には、講義内容に関する確認テストを行い、次回の授業で解説を行う。		
評価方法	授業の最後に行う小テスト（正誤問題やコメント　40%）、期末試験（正誤問題と記述問題　60%）。期末試験は、出題問題の理解力や論理的な説明力を問う。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	1．社会において商法がどのように役立っているか、具体的に説明できる。 2．商人と商行為の定義・内容を具体的に説明することができる。 3．民法が適用された場合と商法が適用された場合の相違を説明することができる。 4．商行為各論に出てくる各種営業につき、基本的事項を説明できる。 5．商法に関する基本的な説明問題・事例問題を文章で説明できる。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する教科書のページと講義レジュメに目を通し、レジュメの空欄に記入するキーワードを考えてくること（各回の学習推定時間は 45 分）。 第 1 回　教科書 1-5 頁 第 2 回　教科書 17-22 頁 第 3 回　教科書 33-46 頁 第 4 回　教科書 61-66 頁 第 5 回　教科書 67-80 頁 第 6 回　教科書 81-84 頁 第 7 回　教科書 23-32 頁 第 8 回　教科書 11-16 頁 第 9 回　教科書 85-104 頁 第 10 回　教科書 105-110 頁 第 11 回　教科書 177-180 第 12 回　教科書 119-122 頁 第 13 回　教科書 122-128 頁 第 14 回　教科書 135-152 頁 第 15 回　教科書 153-161 頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
履修が望ましい他の関連科目：民法総則			
授業スケジュール			

1．イントロダクション（Introduction）
2．商人（Merchants）
3．商号（Trade names）
4．商業帳簿（Commercial Books）
5．商業使用人（Employees of Merchants）
6．代理商（Commercial Agents）
7．商業登記（Commercial Registration）
8．商行為（Commercial Transactions）
9．商行為の代理（Agency for Commercial Transactions）
10.売買（Sale）
11.交互計算（Current Account）
12.仲立営業（Brokerage Business）
13.問屋営業（Commission Agency Business）
14.運送営業（Transportation Business）
15.倉庫営業（Warehouse Business）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J86011201
科目名	物権法	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Real Estates		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	民法典の第 2 編物権の内容を扱う。前半の中心は所有権である。ある物の所有権を取得したところ、自分以外にも所有権を取得したと主張する者が居る場合にどう解決するか、といった問題を扱う。所有権を持たない者は居ないから、非常に重要である。後半は、担保物権の中から抵当権を中心に扱う。金融機関に勤めればしばしば扱うであろうし、事業をする中で金融機関から融資を受ける場合にも設定しなければならないであろうから、知っていてそんはない。この講義では、以上のように、当然知っておくべきことを説明できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	・渡邊博己編『ユーリカ民法 2 物権・担保物権』（法律文化社） ※主として講義の予習復習に用いる。 ・『デイリー六法』（三省堂）または『ポケット六法』（有斐閣）のいずれか ※講義に必携。もちろん予習復習に用いる。例年テストの際の持込みも認めている。		
教材（参考資料）	中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007）978-4589030276 潮見 佳男、道垣内 弘人編 『民法判例百選 1 総則・物権 第 7 版 』（別冊ジュリスト No.223） その他は授業中に適宜指示する。		
教育方法	スライドを用いて講義する。重要語句を中心に空欄を作成したスライドを受講生に配布する。講義の最後には、同日扱った内容についての確認を行う。この確認は、受講生の受講意識を高め、講義の内容をもう一度受講生自ら整理することを目的としている。		
評価方法	各講義の最後に行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	債権に対して物権がどのような特徴を持つのかを理解する。 不動産物権変動の対抗要件を理解し、対抗問題に関する知識を習得する。 動産物権変動の対抗要件を理解し、即時取得制度を説明できる。 抵当権に関する基礎的知識を習得する。 譲渡担保の必要性と大まかな仕組みを理解する。		
授業時間外学習	・各講義の該当箇所について、講義の前後に必ず一度は教科書を読んで、知識と して身につけること。 1. 第 1 章 1「物権の意義」 2. 第 8 章 1「所有権の意義」および 2「所有権の内容」 3. 第 1 章 2「物権の効力」 4. 第 8 章 3「所有権の取得」 5. 第 8 章 4「共有」および 5「建物の区分所有」 6. 第 7 章 1「占有の成立」 7. 第 7 章 2「占有の効力」 8. 第 2 章「物権変動総論」、第 3 章 2「不動産登記」および第 4 章 1「不動産物権変動の意思主義と対抗要件主義の関係」 9. 第 4 章 2「取消しと登記」および 3「解除と登記」 10. 第 4 章 4「相続と登記」および 5「取得時効と登記」 11. 第 5 章「177 条の第三者の範囲」 12. 第 6 章「動産物権変動」 13. 第 10 章「担保物権法序論」および第 13 章 1「抵当権の成立とその効力」 14. 第 13 章 3「抵当不動産の使用収益をめぐる利害調整」 15. 第 14 章「非典型担保」		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・履修が望ましい他の関連科目：法学、民事法入門、民法総則			

・講義中の出入りは周りの迷惑になる。トイレは休み時間中に済ませること。その他は、履修要綱にある受講の心得を参照。
・六法は必ず持参すること。

授業スケジュール

おおよその目安であるが、次の通りに進める。

1. ガイダンス
2. 所有権の内容 ― 所有権絶対の原則
3. 所有権に基づく請求権 ― 請求権の意義・根拠・性質・要件・効果
4. 所有権の原始取得 ― 付合・混和・加工；無主物・遺失物
5. 共同所有 ― 意義・発生・内容・消滅・準共有・建物の区分所有
6. 占有 1 ― 占有の保護・占有と本権
7. 占有 2 ― 不適法占有者と所有者間の法律関係
8. 物権変動 1 ― 物権変動とは・不動産物権変動・対抗問題
9. 物権変動 2 ― 登記を要する物権変動 1
10. 物権変動 3 ― 登記を要する物権変動 2
11. 物権変動 4 ― 177 条の第三者
12. 物権変動 5 ― 動産物権変動の対抗要件・即時取得
13. 担保物権 1 ― 債権者平等の原則・担保物権の種類と性質・抵当権 1（設定・効力の及ぶ範囲）
14. 担保物権 2 ― 抵当権 2（物上代位、法定地上権、抵当不動産の第三取得者と賃借人）
15. 担保物権 3 ― 根抵当権、譲渡担保、所有権留保、代理受領・振込指定

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J86011301
科目名	会社法Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law A		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	会社は商品やサービスを提供し、雇用の場を創出し、貯蓄の機会を提供するなど、私達の生活を支えている。本講義は、この現代社会に不可欠な存在である会社に関する法規制について講義する。また、その時々において現実に問題となっている会社に関するトピックスも取り上げ解説を行う。「会社法Ａ」では、企業・会社の諸形態、株式会社の設立、資金調達(コーポレート・ファイナンス)の一場面としての株式・社債に関する規制や、計算に関する規定、会社の清算などの範囲を扱う。なお、国際的観点から、配布資料における説明文や条文は原則として日本語と同内容のものが英語でも提示され、また、アメリカ会社法との比較がなされる場合がある。		
教材（教科書）	神田秀樹『会社法』（弘文堂)、最新版を用いる。六法（『ポケット六法』（有斐閣）など）を必ず持参すること。 その他に、毎回講義レジュメ・資料を配布する。		
教材（参考資料）	『別冊ジュリスト No.229 会社法判例百選　第３版』（有斐閣、2016 年） 2,592 円		
教育方法	事前に「京学なび」にアップロードした講義レジュメに沿って、講義法で行う。講義では、教員が冒頭で基本例題を提示しながらポイントを明確にし、学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講する。授業中には基本的な知識・考察を問う質問を行うこととし、正解ができた受講者、適切に考慮した見解を発言した受講者にはポイントを与える。授業の最後には、公認会計士試験「企業法」分野を念頭におきながら、講義内容に関する確認テストを行い、次回の授業で解説を行う。		
評価方法	授業の最後に行う小テスト（正誤問題やコメント　40%)、期末試験（正誤問題と記述問題　60%)。期末試験は、出題問題の理解力や論理的な説明力を問う。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．株式会社の特徴とその社会的意義について説明できるようになる。 ２．株式会社を設立する手続きについて具体的に説明できるようになる。 ３．株主の基本的権利について、少数株主権を含め、説明できるようになる。 ４．株式発行と利益配当に係わる会社法の規制の意義について説明できるようになる。 ５．株式会社の清算手続きについて具体的に説明できるようになる。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する教科書のページ（以下のページ数は 19 版による）と講義レジュメに目を通し、レジュメの空欄に記入するキーワードを考えてくること（各回の学習推定時間は 45 分)。 第 1 回　教科書 1-12 頁 第 2 回　教科書 42-64 頁 第 3 回　教科書 318-323 頁 第 4 回　教科書 13-19 頁 第 5 回　教科書 20-25 頁 第 6 回　教科書 65-74 頁 第 7 回　教科書 75-91 頁 第 8 回　教科書 92-116 頁 第 9 回　教科書 135-144 頁 第 10 回　教科書 144-164 頁 第 11 回　教科書 280-296 頁 第 12 回　教科書 303-312 頁 第 13 回　教科書 297-302 頁 第 14 回　教科書 316-317 頁 第 15 回　教科書 313-315 頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．履修が望ましい他の関連科目：会社法Ｂ、金融商品取引法 ２．新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済・経営との関係を考えてみよう。			

授業スケジュール
1. イントロダクション（Introduction） 2. 株式会社の設立（Incorporation of Joint Stock Corporation） 3. 合同会社の設立（Incorporation of Limited Liability Company） 4. 株式会社の継続的要件（On-going Requirements of Joint Stock Corporation） 5. 公開会社（Public Corporation） 6. 株主有限責任（Shareholders' Limited Liability） 7. 種類株主（Class Shares） 8. 少数株主権（Minority Shareholders' Rights） 9. 株式発行（Issuance of Shares） 10. 自己株式の取得（Share Repurchase） 11. 決算（Settlement of Accounts） 12. 利益配当（Dividends） 13. 資本金の額の減少（Reduction in Stated Capital） 14. 清算（Liquidation） 15. 破綻処理手続（Insolvency Proceedings）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	–	★★

年度	2018	授業コード	J86011401
科目名	会社法Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Corporation Law B		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	会社は商品やサービスを提供し、雇用の場を創出し、貯蓄の機会を提供するなど、私達の生活を支えている。本講義は、この現代社会に不可欠な存在である会社に関する法規制について講義する。また、その時々において現実に問題となっている会社に関するトピックスも取り上げ解説を行う。「会社法Ｂ」では、株主総会・取締役・取締役会・代表取締役・監査役会・会計監査人など、会社の機関（コーポレート・ガバナンス）と会社の組織再編について、大規模株式会社を念頭に、基本的な枠組みを講義する。なお、国際的観点から、配布資料における説明文や条文は原則として日本語と同内容のものが英語でも提示され、また、アメリカ会社法との比較がなされる場合がある。		
教材（教科書）	神田秀樹『会社法』（弘文堂）、最新版を用いる。六法（『ポケット六法』（有斐閣）など）を必ず持参すること。 その他に、毎回講義レジュメ・資料を配布する。		
教材（参考資料）	『別冊ジュリスト No.229 会社法判例百選　第３版』（有斐閣、2016 年） 2,592 円		
教育方法	事前に「京学なび」にアップロードした講義レジュメに沿って、講義法で行う。講義では、教員が冒頭で基本例題を提示しながらポイントを明確にし、学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講する。授業中には基本的な知識・考察を問う質問を行うこととし、正解ができた受講者、適切に考慮した見解を発言した受講者にはポイントを与える。授業の最後には、公認会計士試験「企業法」分野を念頭におきながら、講義内容に関する確認テストを行い、次回の授業で解説を行う。		
評価方法	授業の最後に行う小テスト（正誤問題やコメント　40%）、期末試験（正誤問題と記述問題　60%）。期末試験は、出題問題の理解力や論理的な説明力を問う。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	１．会社法上認められる会社の機関について説明できるようになる。 ２．株主総会の権限と株主の議決権行使について、具体的に説明できるようになる。 ３．取締役の基本的義務と責任、競業取引や利益相反取引の規制について説明できるようになる。 ４．代表取締役の権限について、具体的に説明できるようになる。 ５．監査役と会計監査役の職務と権限について具体的に説明できるようになる。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する教科書のページ（以下のページ数は 19 版による）と講義レジュメに目を通し、レジュメの空欄に記入するキーワードを考えてくること（各回の学習推定時間は 45 分）。 第 1 回　教科書 177-184 頁 第 2 回　教科書 185-188 頁 第 3 回　教科書 189-193 頁 第 4 回　教科書 194-203 頁 第 5 回　教科書 204-213 頁 第 6 回　教科書 227-237 頁 第 7 回　教科書 214-221 頁 第 8 回　教科書 222-226 頁 第 9 回　教科書 241-245 頁 第 10 回　教科書 246-247 頁 第 11 回　教科書 251-255 頁 第 12 回　教科書 257-268 頁 第 13 回　教科書 269-279 頁 第 14 回　教科書 342-351 頁 第 15 回　教科書 352-374 頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．履修が望ましい他の関連科目：会社法Ａ、金融商品取引法 ２．新聞・ニュース等の社会経済記事に目を向け、会社法と経済・経営との関係を考えてみよう。			

授業スケジュール
１．株式会社の役員・会議体（Officers and Decision-Making Meetings of Joint Stock Corporation）
２．株主総会の権限（Powers of Shareholders' Meeting）
３．株主総会の開催（Convocation of Shareholders' Meetings）
４．株主総会の決議要件（Resolution Requirements for Shareholders' Meetings）
５．取締役（Directors）
６．取締役の義務（Duties of Directors）
７．取締役会（Board of Directors）
８．代表取締役（Representative Director）
９．監査役会（Board of Statutory Auditors）
１０．会計監査人（Accounting Auditor）
１１．指名委員会等設置会社（Corporation with Committes）
１２．役員等の責任（Directors' Liabilities）
１３．責任追及訴訟（Shareholder Derivative Suits）
１４．合併手続（Steps for Merger）
１５．買収防衛策（Defensive Measures in Hostile Takeover）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J86011501
科目名	債権法	単位数	2
科目名（英語表記）	Law of Obligations		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	民法典の第 3 編「債権」中、第 1 章「総則」の内容を取り上げる。ここで民法は、発生した債権とは、どのような内容のもので、どのような効力があり、どのようにして消滅していくのか、また、当事者が複数である場合や発生した債権を譲渡する場合はどうなるのかを規律している。どうしても内容が抽象的であるが、起業において重要な資金調達手段として用いられる債権譲渡や、銀行で融資を受ける場合には用いられる保証も本講義の対象である。金を払えと言う場合、言われる場合に関する法律関係を理解できるようになるのが目的である。 ※この分野は近時大きく改正され、2020 年 4 月 1 日より施行予定である。そこで、現行法とは異なる部分もあるが、新法の内容で講義する。		
教材（教科書）	・池田 真朗『スタートライン債権法 第 6 版』（日本評論社） ・『デイリー六法』（三省堂）または『ポケット六法』（有斐閣）のいずれか ※講義に必携。もちろん予習復習に用いる。例年テストの際の持込みも認めている。		
教材（参考資料）	●分からない言葉があるとき ・中田 邦博、高嶌 英弘『新・キーワード民法―民法基本用語辞典』（法律文化社、2007） ●教科書と読み比べるとき ・平野 裕之『コア・テキスト 民法〈4〉債権総論（ライブラリ民法コア・テキスト)』（新世社） ●基本書 ・平野 裕之『債権総論』（日本評論社） ●辞書的存在 ・潮見 佳男『新債権総論 1(法律学の森)』（信山社） ・潮見 佳男『新債権総論 2(法律学の森)』（信山社）		
教育方法	スライドを用いて講義する。重要語句を中心に空欄を作成したスライド（レジュメ）を受講生に配布する。講義の最後には、同日扱った内容についての確認を行う。この確認は、受講生の受講意識を高め、講義の内容をもう一度受講生自ら整理することを目的としている。		
評価方法	各講義の最後に行う理解度確認の評価（30%）と期末試験の評価（70%）に従う。		
到達目標	・発生した債権がいかなる事由により消滅するかを理解する。 ・債務不履行があった場合の、損害賠償について理解する。 ・世の中で利用される保証制度について理解する。 ・債権譲渡についての基本を理解する。 ・債権の対外的効力について理解する。		
授業時間外学習	・不明な法律用語は、参考文献に掲げた用語辞典で意味を調べ、レジュメ等にメモしておくこと。 ・講義の前後に教科書の、次の内容に該当する部分に目を通すこと。 第 1 回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類 1（特定物債権） 第 2 回　債権の目的と種類 2（特定物債権種類債権～利率・利息制限・選択債権） 第 3 回　債権の消滅 1（消滅の意義・弁済） 第 4 回　債権の消滅 2（代物弁済、供託、相殺） 第 5 回　当事者の交替 1（債権譲渡） 第 6 回　当事者の交替 2（債権譲渡 2、債務引受） 第 7 回　債務不履行 1（債務の本旨に従わざる履行、債務者の帰責事由） 第 8 回　債務不履行 2（履行の強制、416 条の理解)、損害賠償、受領遅滞 第 9 回　多数当事者の債権関係 1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務） 第 10 回　多数当事者の債権関係 2（連帯債務）		

	第 11 回　多数当事者の債権関係 3（連帯債務 2） 第 12 回　多数当事者の債権関係 4（保証債務） 第 13 回　多数当事者の債権関係 5（連帯保証債務、共同保証、根保証） 第 14 回　債権の対外的効力 1（債権者代位権） 第 15 回　債権の対外的効力 2（詐害行為取消権）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・事前に受講しておいて欲しい科目：法学、民事法入門、民法総則
・講義中の入退室は遠慮願いたい。
・その他履修要綱「第一部　履修の心得」参照。

授業スケジュール

第 1 回　債権総論を学ぶにあたって; 債権の目的と種類 1（特定物債権）
第 2 回　債権の目的と種類 2（特定物債権種類債権～利率・利息制限・選択債権）
第 3 回　債権の消滅 1（消滅の意義・弁済）
第 4 回　債権の消滅 2（代物弁済、供託、相殺）
第 5 回　当事者の交替 1（債権譲渡）
第 6 回　当事者の交替 2（債権譲渡 2、債務引受）
第 7 回　債務不履行 1（債務の本旨に従わざる履行、債務者の帰責事由）
第 8 回　債務不履行 2（履行の強制、416 条の理解）、損害賠償、受領遅滞
第 9 回　多数当事者の債権関係 1（分割債権・分割債務、不可分債権、不可分債務）
第 10 回　多数当事者の債権関係 2（連帯債務）
第 11 回　多数当事者の債権関係 3（連帯債務 2）
第 12 回　多数当事者の債権関係 4（保証債務）
第 13 回　多数当事者の債権関係 5（連帯保証債務、共同保証、根保証）
第 14 回　債権の対外的効力 1（債権者代位権）
第 15 回　債権の対外的効力 2（詐害行為取消権）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J86011601
科目名	消費者法	単位数	2
科目名（英語表記）	Consumer Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	世の中ではさまざまな消費者問題が起こっている。まずは、どのような被害があるのか。それに対して法律はどのような対処を行ってきたのか。現在どのような問題が指摘されているのか。そういったことについて触れていきたい。消費者法というのは、非常に捉えにくい分野であると思われるので、適宜裁判例等を取り上げ、具体例を示しながら講義する予定である。人は皆消費者の側面を持つ。また、社会人として消費者に対する商品販売等を業とする学生もいるであろう。われわれの日常生活に欠かせない法的知識を習得することが目的である。		
教材（教科書）	・『デイリー六法』（三省堂）または『ポケット六法』（有斐閣）のいずれか ※講義に必携。もちろん予習復習に用いる。例年テストの際の持込みも認めている。		
教材（参考資料）	中田邦博、鹿野菜穂子『基本講義消費者法』（日本評論社） 日本弁護士連合会編『消費者法講義』（日本評論社） 坂東 俊矢、細川 幸一『18 歳から考える消費者と法 』（法律文化社） 長尾治助・中田邦博・鹿野菜穂子『レクチャー消費者法』（法律文化社）		
教育方法	レジュメを配布し講義する。重要語句等を空欄にしておき、受講生が講義を聴きながら補充する方式を採る。講義の最後には、同日扱った内容についての確認を行う。この確認は、受講生の受講意識を高め、講義の内容をもう一度受講生自ら整理することを目的としている。		
評価方法	各講義の最後に行う理解度の確認（30%）と学期末試験（70%）を総合して評価する。		
到達目標	・消費者とはどのような存在かを理解する。 ・消費者問題がなぜ起るのかを理解する。 ・訪問販売（キャッチセールスを含む）で不本意な契約をした場合にいかに対応するかを理解する。 ・通信販売で不本意な契約をした場合にいかに対応するかを理解する。 ・マルチ商法とはどのようなものかを理解する。 ・クレジット契約がどのような構造化を分った上で、同契約のクーリング・オフがどのような仕組みかを理解する。		
授業時間外学習	・日々新聞やテレビにおいて報道される消費者問題を常に意識しておくこと。 Evernote 等のシステムを使って、スクラップしていくのも良い。 ・レジュメ中の不明な法律用語を調べておくこと。 ・参考文献に掲げた書籍をひもとき、講義と関連する部分に目を通すこと（復習）。 ・各回、事前に次の点について参考資料に目を通しておくと良い（予習）。 1. なぜ消費者問題が起こるのか。 2. 消費者・消費者団体・事業者・事業者団体とは何か。 3. 製品の種類ごとにこれまでどのような問題が起こり、何が問題だったのか。 4. 契約法の一般原則を確認すること。消費者契約では、なぜ、どのような修正が必要か。 5. 同上 6. 約款とは何か、なぜ必要か、どんな問題があるか。 7. 消費者契約法はなぜ定められたのか。どのようなことが定められているか。民法とどう違うのか。 8. 同上 9. 事業者は、どのような場面で、どのような責任を負うか。 10. 特定商取引法とはどんな法律か。訪問販売とは、どのような販売方法か。どのような問題があるか。 11. 訪問販売で締結した契約のクーリング・オフはなぜ必要か。どのようなルールになっているか。 12. マルチ商法とはどのような商法か。なぜ問題か。どのような措置が取られているか。 13. 通信販売で締結した契約の返品権とはどのような権利か。クーリング・オフとどう違うのか。どのような広告規制がされているか。 14. 個別信用購入あっせんとはどのような取引か。クーリング・オフはどのような仕組みになっているか。		

	15. 抗弁の対抗とは何か。

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・事前に履修しておいて欲しい科目：法学、民法総則、物権法、債権総論
※上記科目は平行していても履修することが望ましい。
・六法を必ず持参すること。

授業スケジュール

1. 消費者法の原理
2. 消費者・消費者団体・事業者・事業者団体
3. 製品の種類ごとにみる安全確保の現状と課題
4. 消費者契約と民事法１
　　契約法の一般原則と消費者契約
　　民法の契約ルールとその限界１
5. 消費者契約と民事法２
　　民法の契約ルールとその限界２
6. 消費者契約と民事法３
　　約款による取引
7. 消費者契約と民事法４
　　消費者契約法の内容１
8. 消費者契約と民事法５
　　消費者契約法の内容２
9. 消費者契約と民事法６
　　事業者の責任
10. 特定商取引法１
　　特定商取引法とは何か
　　訪問販売１
11. 特定商取引法２
　　訪問販売２―クーリング・オフ
12. 特定商取引法３
　　マルチ商法―マルチ商法はなぜ問題か。どのような措置が取られているか。
13. 特定商取引法４
　　通信販売―クーリング・オフに代わる返品権、広告規制
14. 割賦販売法１
　　個別信用購入あっせんとクーリングオフ
15. 割賦販売法２
　　個別信用購入あっせんと抗弁の対抗

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J86011701
科目名	簿記原理	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Bookkeeping		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	企業の経営活動の記録は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として企業の成績表ともいえる決算書(財務諸表）が作成される。現在の会計事務はほとんどコンピュータ処理されているが、取引情報をインプットする場合には、人間の手と頭によらざるを得ない。その際には、「複式簿記」の技法と理論に関する理解が求められることになる。 このような観点から、本講義では、「簿記の基本的原理の習得」をテーマとする。具体的には、日本商工会議所主催の簿記検定試験３級の内容に関する基礎的知識と記帳技法の効率的な習得を図ることに目的が置かれ、前段階科目としての 「入門簿記」をベースとし、本講義の次のステップとなる科目「商業簿記」と合わせて日商簿記３級合格レベルまでの知識を身に付ける。		
教材（教科書）	（１）渡部裕亘・片山　覚・北村敬子　編著 『検定 簿記講義・３級商業簿記』 （中央経済社） （２）渡部裕亘・片山　覚・北村敬子　編著 『検定 簿記ワークブック・３級商業簿記』 （中央経済社） （「商業簿記」まで使えるので、２冊とも購入してください）		
教材（参考資料）	必要に応じて、講義中に指示する。		
教育方法	講義中は日商簿記３級レベルの内容を説明し、問題練習を行い、解説する。		
評価方法	小テスト 20%　定期試験 80%		
到達目標	教科書の前半の知識点を把握し、それらに関連する日商簿記３級の試験問題を解ける。		
授業時間外学習	（１）毎回の講義終了時に告知される次回内容について、関係するテキスト個所の予習を事前に行っておくことを要望する。 （２）このような準備学習によって、問題意識が目覚め、学習意識が高揚することが、簿記学習の効率化を促すことは確かである。是非、実行して頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（１）本講義では、上記テキストを活用して、複式簿記の基礎についての理論面および実践面双方の実力が身に付くように努めたい。それゆえ、毎回、必ず上記２冊のテキストを持参して、積極的に講義に臨むことを期待する。
（２）毎回講義時に配布する私製アンケート「Minutes paper」に、講義内容の理解度や満足度、そして疑問・質問事項を明記できるように、講義に対しては能動的・積極的に臨むようにしてください。

授業スケジュール

１．講義のガイダンス、簿記の意義と基礎
２．貸借対照表と損益計算書
３．勘定、取引の意味と種類
４．取引の８要素と結合関係、仕訳と転記
５．帳簿の種類、記入
６．仕訳帳から総勘定元帳への転記
７．決算の意義と手続き、試算表の作成
８．帳簿の締切と財務諸表の作成
９．決算手続きと精算表
１０．現金、現金過不足
１１．当座預金と当座借越、小口現金
１２．３分法のあらまし、諸掛・値引・返品
１３．仕入帳と売上帳、商品有高帳
１４．売掛金と買掛金、売掛金元帳と買掛金元帳
１５．売掛金明細表と買掛金明細表、前払金・前受金

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J86011801
科目名	商業簿記	単位数	2
科目名（英語表記）	Bookkeeping for a Commercial Firm		
担当者名	付　馨	旧科目名称	
授業概要	企業の経営活動の記録は「複式簿記」の技法により行われ、その結果として企業の成績表ともいえる決算書(財務諸表）が作成される。現在の会計事務はほとんどコンピュータ処理されているが、取引情報をインプットする場合には、人間の手と頭によらざるを得ない。その際には、「複式簿記」の技法と理論に関する理解が求められることになる。 このような観点から、本講義では、「簿記の基本的原理の習得」をテーマとする。具体的には、日本商工会議所主催の簿記検定試験３級の内容に関する基礎的知識と記帳技法の効率的な習得を図ることに目的が置かれ、前段階科目としての 「入門簿記」と「簿記原理」と合わせて日商簿記３級合格レベルまでの知識を身に付ける。		
教材（教科書）	（１）渡部裕亘・片山　覚・北村敬子　編著 『検定 簿記講義・３級商業簿記』 （中央経済社） （２）渡部裕亘・片山　覚・北村敬子　編著 『検定 簿記ワークブック・３級商業簿記』 （中央経済社）		
教材（参考資料）	適宜指定する。		
教育方法	講義中は日商簿記３級レベルの内容を説明し、問題練習を行い、解説する。		
評価方法	小テスト 20％　期末試験 80％		
到達目標	教科書の後半の知識点を把握し、それらに関連する日商簿記３級の試験問題を解ける。		
授業時間外学習	講義後指定した資料に基づき必ず自主練習をすること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
重ねる練習が必要ですので、意欲的に行動してください。			
授業スケジュール			
１．貸付金・借入金、未収入金・未払金 ２．立替金・預り金、仮払金・仮受金、商品券・他店商品券 ３．手形の振出し・受入れ、手形代金の取立て・支払い、手形の裏書譲渡と割引 ４．受取手形記入帳と支払手形記入帳 ５．有価証券の取得と売却、利息と配当金 ６．有形固定資産の取得と売却 ７．減価償却 ８．貸倒れと貸倒損失 ９．資本金と引出金、費用とならない税金 １０．収益と費用、収益及び費用の見越し・繰延べ １１．消耗品費の処理 １２．仕訳帳と伝票、３伝票制、伝票から帳簿への記入 １３．伝票の集計 １４．決算と決算手続き １５．財務諸表の作成			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J86011901
科目名	商業簿記ワークショップ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川端　千暁	旧科目名称	
授業概要	(1) 講義の目的: 簿記は、ビジネス社会における「共通言語」といわれています。したがって、その習得は将来のビジネス・パーソンとしての基礎知識習得のため、有意義でしょう。本講義の目的は、中小企業経営及び会計主任者相当の(商業)簿記の知識を身につけることです。 (2) 講義の概要: 具体的には、日商簿記検定 2 級の商業簿記に関する学習内容を問題演習形式で行います。		
教材（教科書）	(1) TAC 簿記検定講座（2017）『合格テキスト 日商簿記 2 級 商業簿記 Ver.11.0（よくわかる簿記シリーズ)』, TAC 出版。 (2) TAC 簿記検定講座（2017）『合格トレーニング 日商簿記 2 級 商業簿記 Ver.11.0（よくわかる簿記シリーズ)』, TAC 出版。		
教材（参考資料）	講義時に指示します。また、講義資料は web に掲載します。		
教育方法	テキストの練習問題を用いて各論点のポイントのみを復習し、次にワークブックの復習問題を解いていただきます。また、授業の最初には前回の授業内容に関する小テストを行います。この授業は「簿記原理」及び「商業簿記」の履修を前提としているため、教員による詳細な解説（いわゆる講義）は、原則として行いません。		
評価方法	(1) 試験の成績と平常点に基づき、総合的に評価します。 (2) 試験の成績は、小テスト（復習問題）の成績（30%程度）と定期試験（70%程度）の総合成績によって決定します。なお、小テストは出席状況を確認するものではありません。 (3) 平常点は、授業中の発言や貢献度によって決定します。		
到達目標	授業終了段階で日商簿記検定 2 級レベルの商業簿記の問題を解ける。		
授業時間外学習	その週の授業までに、各自でテキストの内容を熟読してください。授業後は、学習した内容に関して、指定した箇所を必ず復習してください。また、余裕があれば指定した箇所以外の問題も解いてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

(1) 本講義では、簿記検定 3 級程度の知識を前提とした講義になるため、そのような知識がなければ講義の理解は困難です。履修者にあたっては、「簿記原理」及び「商業簿記」を履修済か日商簿記検定試験 3 級を取得済であることを強く推奨します。また、講義前の予習及び講義後の復習は必須です。
(2) 電卓、テキスト、ワークブックを(初回の授業を含めて)毎講義に必ず持参してください。
(3) 予習と復習は必ず行ってください。また、学習の効率を高めるため、受講者同士のグループで復習することが望まれます。
(4) 最初の授業で「簿記一巡の手続」に関する小テストを行います。これは、履修前の受講者の理解を確認するため行うため、成績評価の対象ではありません。ただし、この小テストを受けなければ、原則として単位を認めません。

授業スケジュール

第 1 部 商業簿記の基礎
1．オリエンテーション/ 簿記一巡の手続き【テーマ 00】
2．損益計算書と貸借対照表【テーマ 01】/ 商品売買【テーマ 02】
3．現金及び預金【テーマ 03】/ 債権債務【テーマ 04】
4．有価証券【テーマ 05】
5．有形固定資産【テーマ 06 及び 07】
6．リース取引【テーマ 08】/これまでの復習(受講者の苦手論点の整理)
第 2 部 個別論点
7．無形固定資産と研究開発費【テーマ 09】
8．引当金【テーマ 10】及び税金【テーマ 12】
9．外貨換算会計【テーマ 11】
１０．株式の発行【テーマ 13】/ 剰余金の配当と処分【テーマ 14】
１１．決算手続【テーマ 15】/これまでの復習(受講者の苦手論点の整理)
第 3 部 総合論点

１２．本支店会計【テーマ 19】/ 合併と事業譲渡【テーマ【テーマ 20】】 １３．連結会計【テーマ 21 及び 22】 １４．連結会計【テーマ 23】 １５．総復習(重要論点の整理)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J86012001
科目名	工業簿記ワークショップ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川端　千暁	旧科目名称	
授業概要	(1) 講義の目的: 簿記は、ビジネス社会における「共通言語」といわれています。したがって、その習得は将来のビジネス・パーソンとしての基礎知識習得のため、有意義でしょう。本講義の目的は、中小企業経営及び会計主任者相当の(工業)簿記の知識を身につけることです。 (2) 講義の概要: 具体的には、日商簿記検定 2 級の工業簿記に関する学習内容を問題演習形式で行います。		
教材（教科書）	(1) TAC 簿記検定講座（2015）『合格トレーニング 日商簿記 2 級 工業簿記 Ver.8.0 (よくわかる簿記シリーズ)』, TAC 出版。 （2） TAC 簿記検定講座（2015）『合格テキスト 日商簿記 2 級 工業簿記 Ver.8.0 (よくわかる簿記シリーズ）』, TAC 出版。		
教材（参考資料）	講義時に指示します。また、講義資料は web に掲載します。		
教育方法	テキストの練習問題を用いて各論点のポイントのみを復習し、次にワークブックの復習問題を解いていただきます。また、授業の最初には前回の授業内容に関する小テストを行います。この授業は「簿記原理」及び「工業簿記」の履修を前提としているため、教員による詳細な解説（いわゆる講義）は、原則として行いません。		
評価方法	(1) 試験の成績と平常点に基づき、総合的に評価します。 (2) 試験の成績は、小テスト（復習問題）の成績（30%程度）と定期試験（70%程度）の総合成績によって決定します。なお、小テストは出席状況を確認するものではありません。 (3) 平常点は、授業中の発言や貢献度によって決定します。		
到達目標	授業終了段階で日商簿記検定 2 級レベルの工業簿記の問題を解ける。		
授業時間外学習	その週の授業までに、各自でテキストの内容を熟読してください。授業後は、学習した内容に関して、指定した箇所を必ず復習してください。また、余裕があれば指定した箇所以外の問題も解いてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

(1) 本講義では、簿記検定 3 級程度の知識を前提とした講義になるため、そのような知識がなければ講義の理解は困難です。履修者にあたっては、「簿記原理」及び「工業簿記」を履修済か日商簿記検定試験 3 級を取得済であることを強く推奨します。また、講義前の予習及び講義後の復習は必須です。
(2) 電卓、テキスト、ワークブックを(初回の授業を含めて)毎講義に必ず持参してください。
(3) 予習と復習は必ず行ってください。また、学習の効率を高めるため、受講者同士のグループで復習することが望まれます。
(4) 最初の授業で「工業簿記の基礎/工業簿記の勘定連絡」に関する小テストを行います。これは、履修前の受講者の理解を確認するため行うため、成績評価の対象ではありません。ただし、この小テストを受けなければ、原則として単位を認めません。

授業スケジュール

第 1 部 費目別計算と個別原価計算
１．オリエンテーション/ 工業簿記の基礎【テーマ 01】/ 工業簿記の勘定連絡【テーマ 02】
２．材料費【テーマ 03-04】
３．労務費/ 経費【テーマ 05-07】
４．個別原価計算【テーマ 08-09】
５．部門別個別原価計算【テーマ 10-11】
６．これまでの復習(受講者の苦手論点の整理)
第 2 部 総合原価計算
７．総合原価計算（1）【テーマ 12-13】
８．総合原価計算（2）【テーマ 14】
９．組別総合原価計算/ 等級別総合原価計算【テーマ 16】
１０．これまでの復習(受講者の苦手論点の整理)
第 3 部 原価管理と原価計算
１１．標準原価計算（1）【テーマ 18】

１２．標準原価計算（2）【テーマ 19】 １３．直接原価計算（1）【テーマ 20】 １４．直接原価計算（2）【テーマ 21】 １５．総復習(重要論点の整理)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J86012101
科目名	財務諸表論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Accounting		
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	現在ほど、企業経営における会計の役割と影響が注目されている時代はない。さまざまな利害関係者と関わりながら活動している企業は、ある時点の財政状態と一定期間の経営成績を財務諸表にまとめ、報告することが要請されている。本講義は、財務諸表の作成が要請される背景や作成原理、表示方法を理解することを目標にする。 企業を取り巻く経済環境の変化に伴う会計の最新の潮流を紹介しながら、種々の企業活動がどのように会計情報に反映されているか紹介していく。		
教材（教科書）	片山覚他著　『入門会計学』　実教出版		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	レジュメを活用した講義形式です。学生が受け身にならないよう、時々自分の意見を発表する機会を設けます。		
評価方法	授業内レポート(40 点)、授業内テスト(60 点)		
到達目標	財務会計の意義と機能について説明できる。 会計情報の開示制度を説明できる。 財務諸表の意義･特徴を説明できる。 会計が企業経営に与える影響について説明できる。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の内容を明示するので、教科書の指定された部分を熟読しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
簿記原理を履修済みか、日商簿記３級の合格者であることが望ましい。 受講生は積極的に講義に参加すること			
授業スケジュール			
1.会計を学ぶ意義 2.会計と企業経営の関わり 3.財務会計のシステムと複式簿記 4.日本の会計制度 5.会計情報のディスクロージャー 6.会計の国際化 7.中間小テスト 8.財務諸表の体系 9.貸借対照表の内容 10.損益計算書の内容 11.キャッシュ･フロー計算書の内容 12.その他のディスクロージャー 13.企業集団と連結会計(1) 14.企業集団と連結会計(2) 15.総括：改めて会計とは何か			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J86012201
科目名	管理会計論	単位数	2
科目名（英語表記）	Management Accounting		
担当者名	河合　伸	旧科目名称	
授業概要	管理会計は，企業経営に必要な財務的数値（お金の単位の数字）・非財務的数値（お金以外の単位で計る数字）を利用して，経営者・経営管理者の意思決定を支援するための情報を提供するシステムです。言葉を換えれば，管理会計は企業が戦略を実施するための会計です。 この講義では，管理会計で用いられる具体的な技法を紹介し，計算の演習を交えて理解を深めます。同時に，それらの技法が経営の実務の中でどのように役立つのかを考えていきます。		
教材（教科書）	谷武幸（2013）『エッセンシャル管理会計：第 3 版』中央経済社。		
教材（参考資料）	加登豊・梶原武久（2017）『管理会計入門：第 2 版』日本経済新聞社。 浅田孝幸・頼誠・鈴木研一・中川優・佐々木郁子（2017）『管理会計・入門：第 4 版』有斐閣。 櫻井通晴（2015）『管理会計：第 6 版』同文館出版。		
教育方法	PowerPoint のスライドを用いて講義を行います。当該資料をハンドアウトとします。 授業の冒頭に前回の復習にあたる小テストを行います。		
評価方法	定期試験（70%），小テストの得点の合計（30%）		
到達目標	・管理会計の意義と基礎的概念を説明することができる。 ・管理会計が実務でどのように利用され，役立っているのかを説明することができる。 ・管理会計の主要な技法について説明することができる。		
授業時間外学習	・シラバスを参考に，次回の授業で取り上げる内容について教科書を一読しておくこと。 ・教科書とハンドアウトを用いて復習をし，小テストに備えること		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・学習の過程で計算問題に取り組む機会があります。指示に従って授業に電卓を持参してください。
・簿記の基礎知識を持っていることが望ましいですが，必須ではありません。前提知識のない学生も受講できます。
・管理会計は経営管理と密接に関連しています。経営学関連の他の授業で学ぶ内容と関連づけて理解するように努めてください。
・原価計算論（工業簿記）と併修すればより理解が深まるでしょう。

授業スケジュール

1．ガイダンスとイントロダクション：管理会計の意義
2．管理会計の基礎概念：原価の概念，計画の種類
3．意思決定アプローチ：マネジメントコントロールにおける意思決定とは
4．業績管理アプローチ：業績管理のシステム，責任センター
5．原価管理(1)：原価管理の PDCA サイクル，直接費と間接費
6．原価管理(2)：今日的な原価管理への期待
　長期経営計画：意義とプロセス
7．設備投資計画(1)：設備投資計画，経済性の評価
8．設備投資計画(2)：資本コスト
　利益計画(1)：利益管理，CVP 関係①
9．利益計画(2)： CVP 関係②
　予算管理(1)：意義，プロセス，運用
10．予算管理(2)：予算差異分析
　事業部の業績管理(1)：責任センターと事業部制組織

１１．事業部の業績管理(2)：プロフィットセンター，インベストメントセンター，コストセンター １２．ABC/ABM：伝統的原価計算の限界，ABC の計算構造，ABM とプロセスの視点 １３．バランスト・スコアカード：4 つの視点，戦略マップ １４．原価企画：製品開発の基礎，源流管理，3 つの視座 １５．(1)アメーバ経営：MPC，アメーバ経営の全体像 (2)品質コストのマネジメント：PAF アプローチ，TQC/TQM

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J86012301
科目名	財務管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Management		
担当者名	秋口　達也	旧科目名称	
授業概要	本講義では、①財務管理の基本理念と財務諸表の基本的な見方、分析方法について　②資本調達から運用、資金の管理までの流れ　③企業の成り立ちと多様な資金調達方法、株式市場、企業再編について　④株式投資に必要な分析方法、企業価値について取り扱う。本講義では、財務管理にかかわる基礎的な考え方や理論を理解してもらうために、多様な教材を用いる。本講義は講義中に多様な分析について演習を行うことで理解を深めてもらう。		
教材（教科書）	なし。独自の資料を使います。		
教材（参考資料）	財務管理の基礎知識（白桃書房）		
教育方法	講義法で授業は進められる。		
評価方法	講義内の演習に基づく評価（70%）。テスト（30%）		
到達目標	財務管理論にかかわる基本的な考え方と理論を理解し説明できる。企業経営に財務管理がどのような意味を持つのか理解し説明できる。		
授業時間外学習	講義終了時に今回・次回の範囲で質問をするので、資料等を調べ自分なりの回答を準備しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
遅刻や私語は厳禁とする。講義内で電卓を使うことがあるので準備しておくこと。　数学の基本的な知識、簿記・会計について基本的な知識があることが望ましい。			
授業スケジュール			
１．財務管理の基礎概念 ２．財務管理と会計 ３．貸借対照表 ４．損益計算書 ５．その他の計算書（キャッシュ・フロー計算書・原価計算） ６．財務分析 ７．利益管理 ８．資本調達管理 ９．資本運用管理 １０．資金管理 １１．企業・会社とは何か １２．資本調達の多様化と株式市場 １３．株式投資分析 １４．企業価値の算定方法 １５．総括-財務管理と企業評価			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J86012401
科目名	経営分析論	単位数	2
科目名（英語表記）	Financial Statement Analysis		
担当者名	川端　千暁	旧科目名称	
授業概要	(1) 講義の目的: 近年、財務諸表を理解できる能力(会計リテラシー)の重要性が高まっています。企業活動がグローバル化、複雑化、多様化する中で、ビジネス・パーソンとしての自社や取引先などの経営実態を正しくタイムリーに把握することが必要不可欠になってきたからである。本講義の目的は、企業の経営方針や事業戦略を理解するため、財務諸表を分析する力を身につけることです。 (2) 講義の概要: 具体的には、ビジネス会計検定 2 級に関する学習内容を講義形式で行います。		
教材（教科書）	大阪商工会議所(2014)『ビジネス会計検定試験公式テキスト 2 級』，中央経済社。		
教材（参考資料）	桜井久勝(2017)『財務諸表分析(第 7 版)』，中央経済社。 大阪商工会議所(2014)『ビジネス会計検定試験公式テキスト 3 級』，中央経済社。		
教育方法	パワー・ポイントによる講義の後、復習問題を解いていただきます。また、授業後、授業内容に関する小テストまたはレポート課題を課します。		
評価方法	小テストまたは受講者による課題レポート等の平常点		
到達目標	授業終了段階でビジネス会計検定 2 級レベルの問題を解ける。		
授業時間外学習	その週の授業までに、各自で指定したテキストの箇所を熟読してください。授業後は、学習した内容に関して、小テストまたは受講者による課題レポートを課します。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1) 電卓、テキストを(初回の授業を含めて)毎講義に必ず持参してください。 (2) 予習と復習は必ず行ってください。また、学習の効率を高めるため、受講者同士のグループで復習することが望まれます。			
授業スケジュール			
１．企業会計の意義と制度 ２．財務諸表 ３．貸借対照表 ４．損益計算書 ５．連結包括利益計算書 ６．株主資本等変動計算書 ７．連結キャッシュ・フロー計算書 ８．付属明細書と注記 ９．基本分析 １０．安全性分析 １１．収益性分析 １２．キャッシュ・フローの分析 １３．不確実性の分析 １４．１株当たり分析 １５．生産性分析			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J86012501
科目名	原価計算論	単位数	2
科目名（英語表記）	Cost Accounting		
担当者名	小山　真実	旧科目名称	
授業概要	本講義では、原価とは何か、原価はどのように計算するのか、経営活動において原価情報がいかに役立つのか、に関して講義を行います。とりわけ、日商簿記 2 級工業簿記の試験範囲内における、製品原価計算の具体的手法が、講義の中心的な内容です。本講義では、ただ計算問題を解けるようになるだけでなく、そのように計算を行う意味を理解することを目標としています。 製品原価に限らない一般的な原価計算や、組織内において原価情報がいかに活用されるのか、などに関心のある学生は、管理会計論を併せて受講することを勧めます。本講義においても上記内容に触れますが、管理会計論ではより詳しい解説が得られると思います。		
教材（教科書）	滝澤ななみ, (2017), 「みんなが欲しかった簿記の教科書　日商 2 級　工業簿記　第 4 版」, TAC 出版.		
教材（参考資料）	滝澤ななみ, (2017), 「みんなが欲しかった簿記の問題集　日商 2 級　工業簿記　第 6 版」, TAC 出版. 谷武幸, (2012), 「エッセンシャル原価計算」, 中央経済社.		
教育方法	本講義ではまず、スライドを用いて教員が講義を行います。 次に、その日の講義内容に対応した演習問題を各自で解く時間を設け、その後解説します。		
評価方法	平常点（10%）、小テスト（30%）、中間試験（30%）、期末試験（30%） ・小テストは不定期に行います。 ・中間試験は、第 8 回ごろに行うことを予定しています。 出題範囲は、それまでの講義内容です。 ・期末試験は、講義全体の内容を出題範囲とします。		
到達目標	・原価計算の目的および意義について理解している。 ・原価計算の手続きを理解し、実際に計算することができる。 ・原価計算の手続きを理解し、なぜそのような手続きが必要とされるのか説明できる。		
授業時間外学習	講義の内容は積み上げであるので、途中で分からなくなると、以降の内容を理解することが難しくなります。問題演習に取り組むなどして、特に復習に力を入れてください。 なお、必ずしもテキストおよび参考文献として指定している文献でなくとも、日商簿記 2 級工業簿記に関するテキストや問題集であれば、本講義の準備学習に活用できると思います。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義において問題演習を行うため、電卓を持参してください。
また、必須ではありませんが、日商簿記 3 級の内容を理解していると講義の理解がより深まると思います。

授業スケジュール

1. イントロダクション（講義の概要・簿記の基礎知識）
2. 原価計算の基礎知識
3. 原価計算の役立ち
4. 材料費（1）
5. 材料費（2）
6. 労務費
7. 経費
8. 個別原価計算と総合原価計算の概要
9. 単純個別原価計算
10. 部門別個別原価計算
11. 単純総合原価計算
12. 工程別総合原価計算・組別総合原価計算・等級別総合原価計算
13. 総合原価計算（仕損・減損の処理、材料の追加投入）
14. 標準原価計算（1）
15. 標準原価計算（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J86012601
科目名	アントレプレナー論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Entrepreneurship		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
授業概要	急速に変動する社会におけるアントレプレナー（起業家）の現状と課題を知り、新しく事業を起こすために必要な考え方やノウハウとスキル、そのステップを理解する。 単に自ら事業を起こすだけでなく、企業内においても企業内起業や新規事業立ち上げができるアントレプレナーシップ（起業家精神）が求められている。その社会的背景と現状、起業の意義、そして起業するためには何をしなければならないのか、どのような課題設定をし、問題解決しなければならないのかを、起業の段階ごとに事例とともに学ぶことができる。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	『事業構想と経営』梅木晃、井形浩治、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2004 年） 『ベンチャー型新規開業事業の新動向』梅木晃、井形浩治、村上義昭、堀池敏男、大石友子著（嵯峨野書院、2007 年） 『起業学入門』高橋徳行著（経済産業調査会）		
教育方法	講義法で授業は進められる。 授業は講義法に主に基づくが、配布資料及びＤＶＤ教材も活用し、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	各回授業の最後に行う小レポート（50%）・授業内テスト（50%） テストでは授業の理解度の確認問題や課題を考え論理的に記述する。		
到達目標	１．アントレプレナーの現状と課題を説明できるようになる。 ２．新しく事業を起こすことの社会的意味を説明できるようになる。 ３．そのために必要な考え方とステップを説明できるようになる。 ４．アントレプレナーシップ（起業家精神）を説明できるようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に課題を指定するので、それに関わる情報をインターネットや新聞等で読んでおくこと。 １．２．　アントレプレナーの意味を調べる ３．４．　興味のある国内の経営者の経歴を調べる ５．６．　興味のある海外の経営者の経歴を調べる ７．８．　起業するために必要な要素をピックアップする ９．１０．　次回の授業テーマに沿ったキーワードをピックアップする １１．１２．　次回の授業テーマに沿ったキーワードをピックアップする １３．１４　次回の授業テーマに沿ったキーワードをピックアップする １５．　全体を通して復習しておく		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。 積極的に授業参加をしてもらいたい。 やむを得ない遅刻・欠席の場合は、必ず事前または事後に報告すること。			
授業スケジュール			
1.　アントレプレナーの定義と役割 2.　産業構造の変化とアントレプレナー 3.　労働市場から見た起業の意味 4.　新規開業調査に見る起業の実態 5.　さまざまな支援体制 6.　海外のアントレプレナー 7.　アメリカのアントレプレナー 8.　起業のステップ 9.　ケーススタディ　事業機会の認識			

10.	〃	経営資源の調達
11.	〃	資金調達
12.	〃	組織の作り方
13.	〃	人材確保と育成
14.	〃	創業時のマーケティング
15.	起業に関わる動向と課題	

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J86012701
科目名	京都商人論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Kyoto Merchants		
担当者名	植田　知子	旧科目名称	
授業概要	今、京都の老舗は国内外から高い評価を得ている。評価の内容は、卓越した技術で作られた高品質の商品、細やかで心のこもった応対、品格ある店のたたずまいなど多岐にわたるが、こうした評価は、リンゴの木に例えるなら見事に実ったリンゴの果実に相当するものである。しかし重要なのは、大地から養分を吸い上げて枝葉に送り、木の幹を支える「根」の部分である。京都の老舗が高い評価を受けるのも、この「根」の部分がしっかりしているからに他ならない。これから家業経営に携わる者、起業を志す者にとって、京都商人の「根」の部分から学ぶべきことは少なくない。この授業では、まず、京都における商いの歴史や商家の仕組み・制度・経営姿勢などについて説明し、次に、京都の伝統産業製品を取り上げて、商品が生まれた歴史的背景、製造工程、商品の特性、工夫やこだわりなどについて解説する。また、それぞれの業界の現状や課題についてもみていく。		
教材（教科書）	教科書は使用しない。毎回講義プリントを配布する。		
教材（参考資料）	参考文献は、各回の講義プリントに記載する。また、写真・図・地図・図表・グラフなどの資料類は、パワーポイントで授業中に示すが、特に必要と思われるものは講義プリントにも載せる。		
教育方法	授業は、毎回、配布する講義プリントに従って講義法でおこなう。講義では、講義プリントを読み進めながら、パワーポイントで写真・図・地図・グラフなどを示して学生の理解を助ける。また、講義プリントの内容で重要と思われる部分は、パワーポイントで要点を整理・説明するので、学生は講義プリントに書き込み、またはマーカーなどでチェックしながら受講する。		
評価方法	毎回、授業のはじめ１０分間におこなう「復習の小テスト」（３０％）、授業中に課す小レポート（１０％）、定期試験（６０％）		
到達目標	①京都商人の商家経営の歴史と、その特徴について説明できるようになる。 ②京都の伝統産業製品が、どのように作られ、どのような特色があり、商人たちがこれまでにどのような工夫や改善をしてきたかが説明できるようになる。 ③京都の伝統産業の現状が理解でき、今後解決すべき課題に目が向けられるようになる。		
授業時間外学習	毎回、授業のはじめに、前回の授業内容に関する「復習の小テスト」をするので、復習しておくこと。（各回の学習推定時間は約３０分）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①歴史に関連する内容が多いので、中学・高校の教科書レベルの内容は理解できるようにしておくこと。
②受講生の授業環境を阻害する私語や飲食は禁止する。
③体調が悪い場合は、事前に申し出ること。
④毎回、授業終了前の約１０分間を「質問タイム」とするので、疑問点やよく理解できなかったところがあれば質問すること。

授業スケジュール

１、はじめに－京都の商いの歴史－
２、商家の仕組み・制度・商いの姿勢
３、京都の伝統産業について；現状と課題
４、京都の伝統産業　　文化①　日本人と「きもの」
５、京都の伝統産業　　食品①　茶
６、京都の伝統産業　　食品②　京料理
７、京都の伝統産業　　工芸①　京扇子・京うちわ
８、京都の伝統産業　　醸造①　みそ
９、京都の伝統産業　　醸造②　清酒
１０、京都の伝統産業　工芸②　薫香
１１、京都の伝統産業　食品③　京漬物
１２、京都の伝統産業　文化②　旅と楽しみ
１３、京都の伝統産業　食品④　京菓子

１４、京都の伝統産業　工芸③　京焼・清水焼
１５、伝統産業を新たな分野へ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J86012801
科目名	インターネットビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Internet Business		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	今日のビジネスはインターネットの利用を抜きに成り立たないほど、インターネットは企業にとって重要なツールになっている。そのなかで、インターネットを活用して新しいビジネスモデルの構築に成功した企業は、企業間での競争優位を獲得している。 本講義では受講生が、ビジネスでインターネットがどのように利用・活用されているのかをさまざまな事例にもとづいて理解できるようになるとともに、インターネットを利用したビジネスの成功要因や問題点についても考察できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	中村忠之著『ネットビジネス進化論　第 2 版』中央経済社、2015 年 安達房子著『ＩＣＴを活用した組織変革』晃洋書房、2016 年 総務省『情報通信白書 平成 29 年版』日経印刷株式会社、2017 年（インターネットでダウンロード可能） 経済産業省『平成 28 年度　我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備（電子商取引に関する市場調査)』、2017 年（インターネットでダウンロード可能） ※その他、授業中に適宜指示する。		
教育方法	基本的に講義法で行う。ビデオ教材やパワーポイントも活用する。		
評価方法	平常点 45％（授業中に課す小テストおよび感想文)。期末試験（55％)。		
到達目標	1.インターネットの普及とともに企業のビジネスモデルがどのように進化したのかを説明できる。 2.企業がインターネットを使ってビジネスを行う上で、何が重要な要因になっているのかを説明できる。		
授業時間外学習	各回の学習推定時間は 45 分。 第 1 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 2 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 3 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 4 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 5 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 6 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 7 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 8 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 9 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 10 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 11 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 12 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 13 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 14 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる 第 15 回　授業時に配布したレジュメに掲載している新聞記事を読み要点をまとめる		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.私語や遅刻は厳禁。私語が過ぎれば退出を求める。問題のある受講態度に対しては減点等、厳しく対処する。
2.新聞等のメディアを活用し、インターネットを利用したビジネスの動向に関心を持つようにしておくこと。

授業スケジュール

1　ガイダンス（授業の進め方、目的の説明等、インターネットビジネスとは）
2　消費者向けネットビジネスの特徴（ヤフーの事例）
3　競争優位を巡る争い（アマゾンの事例）
4　消費者向けネットビジネスの動向（シェアリングエコノミーとは）
5　ネットビジネスを支える仕組み（クラウドコンピューティングとは）
6　IoT とビジネス

7　人工知能とビジネス
8　前半のまとめ、小テストの予定
9　ソーシャルメディアとビジネス
10　インターネット広告
11　ネットショップにおける検索戦略（グーグルの事例）
12　FinTech（フィンテック）とは
13　ネットビジネスを利用する上で注意すること（セキュリティ、著作権などの法律）
14　インターネットによる働き方の変革（テレワーク、クラウドソーシングとは）
15　インターネットビジネスの展望

授業の進度に応じて順序は入れ替わったり、変更したりすることがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J86012901
科目名	企業家史	単位数	2
科目名（英語表記）	Great Entrepreneurs		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
授業概要	明治より昭和戦後まで、都市型産業の成長、大量生産体制の構築を先導した企業家を取り 上げる。可能であれば、いま少し取り上げる企業家を増やしたいと考えている。		
教材（教科書）	なし。毎回資料を配付する。		
教材（参考資料）	次の書籍を推薦する。（いずれも本学図書館に所蔵） 宮本又郎『企業家たちの挑戦』中央公論新社 宇田川・生島編『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣 講義の中でその都度紹介し、必要な文献は配付資料に記載する。		
教育方法	パワーポイントを利用し講義の形で進め、適宜意見聴取を行い、小レポートの作成を求める。		
評価方法	試験（100%）		
到達目標	経営学・経営史の基礎的知識を習得し、企業家の行動原理を説明することができる。		
授業時間外学習	講義テーマは次の通りであり、これに付き予習しておくこと。各回これに関連したレポートを実施する。 １講・企業家、２講・工業化の基盤、３講・「顧客創造」、４講・市場創造、５講・事業継承、６講・都市化と電力化、７講・大量生産の経営理念、８講・専門経営者、９講・化学肥料と化学繊維、10 講・企業家精神、11 講・差別化投資、12 講・事業戦略、13 講・流通革新、14 講・POS		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

おしゃべりは止め、携帯電話の電源を切るなど、教室にふさわしい行動をすること。
日本経済の発展を導いた企業家の考察を通して、その革新性と普遍性について問いかけたい。

授業スケジュール

1 講.企業家史の課題、企業家・企業者と革新
2 講.工業化期の建設業の革新(大林芳五郎)
3 講.電気鉄道網の形成(小林一三)
4 講.国産ウィスキーの製造と洋酒文化の普及(鳥居信治郎・竹鶴政孝)
5 講.在来産業・酒造業の革新(大倉恒吉)
6 講.家庭電器産業の興隆(松下幸之助)
7 講.大量生産時代の経営理念(松下幸之助)
8 講.電気機械国産化の道のり(小平浪平)
9 講.重化学工業の成長(野口 遵)
10 講.自動車国産化への挑戦(豊田喜一郎・鮎川義介)
11 講.本田宗一郎･藤沢武夫と「世界のホンダ」
12 講.井深 大･盛田昭夫とソニー
13 講.流通のイノベーション(中内功)
14 講.大規模小売業の進化(鈴木敏文)
15 講.大量生産時代と大量消費時代の担い手

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J86013001
科目名	中小企業経営論	単位数	2
科目名（英語表記）	Small Business Management		
担当者名	谷村　真理	旧科目名称	
授業概要	かつて経営学の父、P.F.ドラッガーは「経営とは成果を生むための活動」と定義した。企業は、経営理念を掲げ、組織を編成し、商品と価格を決定し、流通を確保し、プロモーションを行う。また、生産効率や流通量を上げるために様々な取組みを行う。しかしながら中小企業においては、経営資源が乏しいことから、あらゆる制約の中での意思決定や工夫が求められる。 本講義では、中小企業経営のあり方を、3 大経営資源（ヒト・モノ・カネ）の観点から紐解き、現状や課題、解決のための方法論について考察を行う。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	必要に応じて紹介する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布する。 また、適宜事例を紹介し、ディスカッションを行う。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	中小企業経営における「基本と原則」および「実践」を的確に説明することができる。 社会においても組織の歯車のひとつに堕することなく、成果を生み出すチームの一員として貢献できる知識および思考プロセスの習得することができる。		
授業時間外学習	日頃から中小企業や身近な商店に関心を持つとともに、それらに関連する諸情報の入手にあらゆるメディアの活用を心がける。 次回までにしておくことを、毎回の終了時に指摘する（推定授業時間外学習 30 分以上）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
中小企業経営への興味を持ち、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。			
授業スケジュール			
１．はじめに（本講義の概要） ２．企業と個人事業 ３．経営理念 ４．中小企業の経営戦略 ５．中小企業の人材マネジメント① ６．中小企業の人材マネジメント② ７．中小企業の組織マネジメント ８．中小企業のマーケティング① ９．中小企業のマーケティング② １０．中小企業の財務マネジメント① １１．中小企業の財務マネジメント① １２．中小企業の事業連携 １３．中小企業の国際化 １４．中小企業の危機管理 １５．中小企業の将来展望			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J86013101
科目名	リーダーシップ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Leadership		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
授業概要	組織とは，なんらかの目的のために形成されるものであるが，現代社会においては，このような組織がさまざまな形で存在している。そのような組織が目的を達成するためには，その組織の構成員の諸活動を目的達成の方向にむかって１つにまとめなければならないが，そのような働きかけの１つとして重要な役割を果たすものがリーダーシップである。 企業を取り巻く環境が非常に複雑で動態的な今日，このリーダーシップ研究の重要性はますます高くなっている。そこで本講義では，リーダーシップに関する基礎理論の学習を中心に行うことによって，リーダーシップの本質について検討してみたいと考えている。本講義を通して，将来，学生諸子が企業組織に参加したときに，主体的に行動し，活躍するための基礎力が養われれば幸いである。		
教材（教科書）	基本的に教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。 毎回、プリントやレジュメをを配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて指示する。		
教育方法	講義形式で授業を行う。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで 1 度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. リーダーシップとはどのようなものかということについて、簡単な説明をすることができる。 2. リーダーシップ論の歴史的な変遷を理解する。 3. 代表的なリーダーシップ論を簡単に説明することができる。		
授業時間外学習	1. 次の講義内容（シラバスに掲載しているとおりであるが、講義終了時にも指示する。）について図書館等で予め調べ、それに関する文献を探してその部分を熟読しておく。たとえば第 3 回目の講義がはじまるまでに、「リーダーシップの特性論」について図書館で文献をさがし、その内容が書かれている部分を熟読しておく。 2. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 3. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 4. 日常においてリーダーシップに関する現象に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
２．講義への積極的な参加を望む。
３．板書が多いので、日ごろから文字を書く練習をしておくこと。

授業スケジュール

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

1. オリエンテーション
2. 組織におけるマネジメントとリーダーシップ
3. リーダーシップの特性論
4. リーダーシップの行動論① －ミシガン・オハイオ研究－
5. リーダーシップの行動論② －マネジリアル・グリッド－
6. リーダーシップの行動論③ －PM 理論－
7. 個人の動機とリーダーシップ
8. 前半のまとめと理解度の確認　（小テストを予定）

9. リーダーシップの条件適合理論① - リーダー行動の連続線モデル、コンティンジェンシー・モデル -
10. リーダーシップの条件適合理論② - 目標経路理論 -
11. リーダーシップの条件適合理論③ - 3 次元リーダー効果性モデル -
12. リーダーシップ論のその後の動向① - リーダーシップ研究センターの状況対応リーダーシップ -
13. リーダーシップ論のその後の動向② - EQ リーダーシップ、サーバント・リーダーシップ、変革のリーダーシップなど－
14. リーダーシップ論のその後の動向③ - リーダーシップとフォロワーシップ－
15. リーダーシップ論の講義を通して学んだこと

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J86013201
科目名	スポーツビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Business Theory		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
授業概要	本講義は、市場と組織という経営学の基本概念を用いながらスポーツビジネスを解説する。より具体的には、①スポーツビジネスと呼ばれる業界の構造および②スポーツというサービスの流通の仕方を解説する。その主たる問いは、①スポーツビジネスと呼ばれる業界とは何なのかであり、②なぜそのような業界構造が生まれたのかである。 　現実のスポーツビジネスはきわめて複雑である。それは、商品化された身体技能の流通に関わるからである。この複雑な問題を解きほぐすためには、自分の頭で考えることが必要となる。受講者は本講義を通してスポーツビジネスの基本を理解することができる。		
教材（教科書）	武井寿他『現代マーケティング論　第 2 版』実教出版, 2018. （1,900 円）		
教材（参考資料）	菊幸一・齋藤健司・真山達志・横山勝彦［編］『スポーツ政策論』成文堂 2011　3,500 円		
教育方法	本講義は主として板書形式をとる。		
評価方法	講義内小試験（40%）、講義内中試験（20%）、講義内大試験（40%）		
到達目標	受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 1. スポーツビジネスとは何かを説明することができる。 2. 現実のスポーツ界で生じる問題を市場と組織という視点で説明することができる。		
授業時間外学習	第 1 回から第 9 回：教科書の第 1 章と第 21 章を熟読しておくこと。講義内ではこの範囲に関連する小試験を課す。 第 10 回から第 15 回：教科書の第 22 章を熟読しておくこと。講義内ではこの範囲に関連する小試験を課す。 各回の推定授業時間外学習は 30 分以上となる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義初回に細かなルールを説明する。
教科書は、講義内で説明する図表集として、また試験の問題としても使用されるので準備しておくこと。

授業スケジュール

1．「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2．「分析視座」：簡単なゲームから、スポーツビジネスの分析視座を解説する
3．「説明するということ」：社会科学の立場からスポーツを説明する方法を解説する
4．「市場 1」：スポーツの勝敗と販売市場を解説する
5．「市場 2」：スポーツ選手と労働市場を解説する
6．「市場 3」：スポーツの市場における利益率を解説する
7．「組織 1」：強化部と事業部の分業を解説する
8．「組織 2」：試合というサービスの性質を解説する
9．「組織 3」：リーグという市場構造を解説する
10．「中間総括」：これまでの講義を振り返り、ポイントをまとめる
11．「スポーツマネジメント論入門」：スポーツマネジメント論が答える問いを解説する
12．「スポーツマーケティング論入門」：スポーツマーケティング論が答える問いを解説する
13．「スポーツビジネス論の今後」：最新の研究成果および業界事情を解説する
14．「スポーツビジネス論の最新動向」：これまでの講義を総括し、最新の業界動向を解説する
15．「講義の限界と今後の課題」：講義内容の実社会への展開を議論する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J86013301
科目名	事業承継論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	長谷川　佐喜男	旧科目名称	
授業概要	人材・資金・情報の豊富な大企業とは違い、日本の中小企業の持つ経営課題は幅広く、深刻なものが多い。その中でも『事業承継』は、企業存続と技術伝承という両面から重要な課題と言えます。 平成 18 年度税制改正では、10 年間の特例として大幅な事業承継税制の改正が行われます。税制面の優遇やそれぞれのスキームを利用した現実問題についても触れて、中小企業経営者を取り巻く事業承継の諸問題について、学生と共に議論を深めていきたいと考えています。事業承継の背景に迫り、財産承継だけではなく、経営の承継、特に経営理念・人材及び後継者教育、技術の承継等について、現状の問題点や課題を認識し、その対処法について事例を通じて学んで頂きたいと考えます。		
教材（教科書）	『事業承継成功のシナリオ』総合経営グループ　監修 長谷川佐喜男、著者 西川吉典、著者 長谷川 真也 出版 中央経済社		
教材（参考資料）	毎回、レジュメを作成配布		
教育方法	各講義で概要を説明した後に、学生とのフリーディスカッションを交えて、授業内容の理解度を図りたい		
評価方法	確認テスト 30 点　　期末レポート 70 点　受講姿勢		
到達目標	1．　事業承継の問題点を探り、それぞれの課題を理解する。 2．　財務の承継について、税制面など具体的なスキームを理解し、説明出来るようにする。 3．　円滑な事業承継を行うには何が必要か、各人が説明出来るようにする。		
授業時間外学習	講義での配布資料は、復習してくること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
事業承継には、決まった答えがあるわけではないので、経営者になった積もりで、積極的に意見を発表して欲しい。			
授業スケジュール			
1．事業承継の意味 2．事業承継における重要な問題点 3．親族内承継 4．第三者における承継（従業員・M＆A） 5．経営の承継 6．経営承継円滑法 7．事業承継税制の重要なポイント 8．資産の承継（相続との関係） 9．相続の基礎知識 10．相続税の計算方法 11．事業承継ガイドライン 12．後継者教育 13．理念・技術の承継 14．老舗の事業承継 15．事業承継計画			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J86013401
科目名	ベンチャービジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Venture Business Management		
担当者名	谷村　真理	旧科目名称	
授業概要	ベンチャービジネスについては、数次にわたるブーム（流行）の都度、盛んに論じられてきた。しかし、今日の経営を取り巻く環境変化を考えると、その変化への対応にはイノベーションの概念にかかる理解が不可分であり、ビジネスには、常にイノベーションを根幹としたベンチャービジネスの側面があると捉えることもできる。その意味において、本講義ではベンチャービジネスの「流行」の側面を考察するに留まらず「不易」の側面から本質への接近も行いたい。このため、ベンチャービジネスの根底にあるイノベーションの概念およびベンチャービジネスを担う企業家（起業家）の精神面（アントレプレナーシップ）・理念・戦略・組織等を中心に実践的な側面も併せ講義を行う。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	井形浩治、梅木晃編『事業構想と経営』（嵯峨野書院、2004 年） P.F.ドラッガー著、上田惇夫訳『イノベーションと企業家精神』（ダイヤモンド社、2007）		
教育方法	必要に応じて資料を配布する。 また、適宜事例を紹介し、ディスカッションを行う。		
評価方法	受講態度 20%、レポート 30%、定期試験 50%		
到達目標	ベンチャービジネスについての「基本と原則」および「実践」を的確に説明することができる。 社会においてもその知識および思考プロセスを活用することができる。		
授業時間外学習	日頃からベンチャービジネスに関心を持つとともに、それらに関連する諸情報の入手にあらゆるメディアの活用を心がける。 次回までにしておくことを、毎回の終了時に指摘する（推定授業時間外学習 30 分以上）。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ベンチャービジネスへの興味を持ち、真摯な姿勢で受講に取り組むこと。

授業スケジュール

1．はじめに（本講義の概要）
2．ベンチャービジネス（以下 VB という）の定義
3．VB の変遷の歴史
4．VB の根幹にあるイノベーション・企業家（起業家）精神について①
5．VB の根幹にあるイノベーション・企業家（起業家）精神について②
6．VB の根幹にあるイノベーション・企業家（起業家）精神について③
7．VB の企業理念
8．VB の組織と戦略
9．VB とリーダーシップ
１０．VB における資本政策と資金調達
１１．VB 創造の実際（VB のデザインからプランニングへ）
１２．VB の事業機会の認識（ビジネスチャンスの発見）
１３．VB の経営資源の調達（ベンチャー支援策の活用）
１４．VB の成功と失敗
１５．VB の将来展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J86013501
科目名	女性経営者論	単位数	2
科目名（英語表記）	Women Own's Businesses		
担当者名	大石　友子	旧科目名称	
授業概要	近年、新規開業率が低下している中、女性が経営する企業は増加し、従来の男性経営者とは違った発想や支店を持つ女性経営者の活躍が注目されている。女性経営者の増加の背景、社会的役割、その経営の特徴を知り、企業経営の多様性を理解する。 女性経営者の特徴として、①生活に密着した視点、属性にとらわれない豊かな人脈、③地域や教育機関等との連携、④ＩＴ化や国際化によるビジネスチャンスの獲得、等が挙げられる。それぞれの事例を基に学ぶことによって、新しい視点や経営について理解できる。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	毎回レジュメプリントと資料を配布する。		
教育方法	講義法で授業は進められる。 授業は講義法に主に基づくが、配布資料及びＤＶＤ教材も活用し、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	各回授業の最後に行う小レポート（50%）・授業内テスト（50%） テストでは授業の理解度の確認問題や課題を考え論理的に記述する。		
到達目標	１．女性経営者の増加の背景とその経営の特徴を説明できるようになる。 ２．企業経営に必要な幅広い視点を持つ重要性を説明できるようになる。 ３．属性にとらわれない人材活用の意味と効果について説明できるようになる。 ４．女性経営者の果たす社会的意義について説明できるようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に課題を指定するので、それに関わる情報をインターネットや新聞等で読んでおくこと。 １．２．　女性経営者についてのイメージを書きだす ３．４．　身近な働く女性について男性との違いを考えておく ５．６．　次回の授業テーマに沿ったキーワードをピックアップする ７．８．　次回の授業テーマに沿ったキーワードをピックアップする ９．１０．　次回の授業テーマに沿ったキーワードをピックアップする １１．１２　次回の授業テーマに沿ったキーワードをピックアップする １３．１４　興味のある海外の女性経営者の経歴を調べる １５．　全体を通して復習しておく		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

他の受講者の迷惑になるような私語や行動は厳禁とする。
積極的に授業に参加してもらいたい。
女子学生だけでなく、男子学生の受講を期待する。

授業スケジュール

1 .女性経営者の社会的役割と現状
2. 女性経営者増加の背景と女性の働き方
3. 女性経営者の競争優位性
4. 新規開業者に見る女性経営者の特徴と課題
5. ケーススタディ　事業機会の認識
6. 〃　起業プロセス
7. 〃　資金調達
8. 〃　マーケティング
9. 〃　人材活用

10. 女性が中心となるＮＰＯ
11. ＳＯＨＯと在宅ワーク
12. アメリカの女性経営者
13. ヨーロッパの女性経営者
14. アジアの女性経営者
15. 女性経営者に関わる課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J86013601
科目名	コーチング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Theory of Sport Coaching		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
授業概要	スポーツコーチングは、運動学、スポーツ社会学、心理学、運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ医学、栄養学などの科学や歴史、経験に裏づけられた技術指導に加え、選手との信頼関係を確立するためのコミュニケーションスキルや環境を整備するためのマネジメントスキルなど様々な要素が必要とされる。 そこで、コーチング論ではサッカーを中心に、指導者及び選手からの観点を理解し、すべてのスポーツに共通するメンタル、テクニック、フィジカルの知識を学び、トレーニングに活用する能力を身につける。		
教材（教科書）	プリントを配布する。		
教材（参考資料）	授業内で専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	平常点５０％（授業態度含む）、確認テスト 50％		
到達目標	さまざまな世代にスポーツを指導するための基礎を学び、実際にコーチングできる。		
授業時間外学習	毎回の講義終了時に、次回の範囲や課題を指定するので、予習・復習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
指導を志す学生として、遅刻・早退は認めません。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション ２．コーチングとは ３．コーチングとスポーツ界の歴史 ４．競技スポーツと生涯スポーツのコーチング ５．各年代の発育発達によるコーチング 6.指導者の役割 7. トレーニングの原理・原則 8. トレーニング処方 9. 動機づけとその工夫 10. コーチング事例 11. コミュニケーションスキル 12. リスクマネジメント 13. コーチング事例 １４．理想のコーチ像 １５．コーチングの講義を通して学んだこと			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J86013701
科目名	スポーツチームマネジメント論	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
授業概要	講義では、スポーツチームマネジメントの基礎的な考え方と共に、スポーツチームマネジメントに必要な知識と技術について学ぶ。また、プロスポーツ組織のマネジメントとアマチュア組織のマネジメントの差異を考察し、「人財」「資材」「財源」を生み出すチーム運営について学ぶ。		
教材（教科書）	適宜プリント配布する。		
教材（参考資料）	授業内で専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	平常点（参加態度等）５０％　レポート２５％　発表２５％		
到達目標	スポーツチームマネジメントを題材に、社会組織でも応用できる基礎を学び実践できる。		
授業時間外学習	講義で学んだ内容を復習し、次回の講義予習を毎回指示する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業に積極的に参加し、遅刻等しないこと。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション、 ２．スポーツチームマネジメントとは ３．学生スポーツをめぐる社会的背景 ４．プロスポーツをめぐる社会的背景 ５．スポーツ組織のマネジメント概要 ６．クラブマネジメント ７．総合型地域スポーツクラブ ８．中間まとめ ９．チームマネジメント １０．チームマネジメント １１．チームビルディング １２．チームビルディング １３．チームビルディング １４．チームビルディング １５．スポーツチームマネジメントの講義を通して学んだこと			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J86013801
科目名	家族法	単位数	2
科目名（英語表記）	Family Law		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	民法Ⅶ（家族法）
授業概要	一般に「家族法」と呼ばれる民法第 4 編および第 5 編の内容をおおむね条文配列に沿って学習する。家族法の現行規定を正確に理解した上で、その問題点や解決の方向を考える。具体的な事例を適宜紹介して理解を助けるとともに、「財産法」の諸制度との関係を意識しつつ、民法の全体像の理解を深めることができるように努める。		
教材（教科書）	各回の授業でレジュメを配布する。		
教材（参考資料）	小川富之ほか編『ロードマップ民法 5-親族・相続』（一学舎、2015 年） 二宮周平『家族法〔第 4 版〕』（新世社、2013 年） 民法判例百選 3（有斐閣、2015 年） その他、授業中に適宜指示する。		
教育方法	配布したレジュメおよび資料に沿って講義形式で行う。授業中に教員が補足したことや強調した点をレジュメに記入しながら受講する。内容的な区切りごとに練習問題を解くことで基本的な知識の定着を図る。とりわけ、相続分野については、具体的事例に即した練習問題を繰り返すことで段階的に知識を積み上げることができるようにする。		
評価方法	期末試験の成績による。小テストの結果や授業への参加状況等を補充的に考慮する。評価方法の詳細については初回の授業で説明する。なお、授業中の私語については厳しく減点対象とするので注意されたい。		
到達目標	1．家族法の主要な条文・制度について基礎的な知識を習得する。 2．家族法の主要論点に関する判例・学説を理解する。 3．現行家族法の問題を把握し、その解決の方向を考えることができる。		
授業時間外学習	受講者のほとんどが法律学を体系的に学習していないことから、授業時間外学習は復習が中心となる。 1．授業時間の制約上、内容の取捨選択をせざるを得ないため、授業で詳しくとりあげられなかった部分について自習をする。 2．授業中に配布した練習問題を次回の授業開始時までに解いておく。 3．授業内容の理解をより深めるため、授業中に指示した判例・文献を読む。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
家族に関しては個人的な経験や常識から判断しがちですが、多様な考え方や家族があることに留意しつつ受講してください。民法は全体として密接に関連しているので、民法総則、契約・不法行為法など他の民法科目を併せて履修することを強く勧めます。			
授業スケジュール			
1．　受講にあたっての注意／家族法序説 2．　離婚の成立 3．　離婚の効果（1）子に関する効果 4．　離婚の効果（2）財産に関する効果 5．　親子（1）嫡出推定・嫡出否認制度（1） 6．　親子（2）嫡出推定・嫡出否認制度（2） 7．　親子（3）認知／現代的な問題 8．　相続法序説 9．　相続人／法定相続分 10．相続資格の剥奪／相続の選択 11．相続財産 12．具体的相続分（1）特別受益・寄与分 13．具体的相続分（2）計算問題 14．遺産分割 15．遺言			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J86013902
科目名	チャレンジショップA	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J86013903
科目名	チャレンジショップA	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J86013904
科目名	チャレンジショップA	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J86013905
科目名	チャレンジショップA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。		

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J86014003
科目名	チャレンジショップB	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J86014004
科目名	チャレンジショップB	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。		

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J86014005
科目名	チャレンジショップB	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J86014006
科目名	チャレンジショップB	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	藤川　義雄	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。		

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J86014102
科目名	チャレンジショップC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J86014103
科目名	チャレンジショップC	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J86014202
科目名	チャレンジショップD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。		

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J86014203
科目名	チャレンジショップD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J86014204
科目名	チャレンジショップD	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西　政治	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J86014401
科目名	スポーツ指導者論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Sports Leader		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
授業概要	スポーツ行動は、本質的には社会特性を持つ現象であり、それ故、単純な自然現象だけでなく、文化的、社会的な側面を持つ。このような人間の営みとしてのスポーツの重要性を学習し、併せて社会生活にどのような意味をもたらすかを考えていく。学校や社会において、また行政においても、スポーツの振興は重要な課題であり、その基盤となるスポーツ指導者の育成と資質の向上、活動環境の整備が行われつつある。本授業では、スポーツの指導について、その目的、方法、計画、安全対策等を学習する。		
教材（教科書）	「健康運動実践指導者用テキスト」　（健康・体力づくり事業財団）		
教材（参考資料）	レクリエーション支援の基礎　(財)日本レクリエーション協会 2008		
教育方法	講義法で授業は進められる。		
評価方法	課題解決レポートの評価を 30%、学習態度、テストなどを 70%とする。		
到達目標	スポーツ指導について、正しい知識と効果的な指導法を理解し、スポーツ需要の質的変容について説明できる。		
授業時間外学習	スポーツ指導者になるためには、スポーツを幅広く学ぶことが大事である。スポーツの歴史やルール、指導者の自伝など、本をできるだけ読んでください。毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと.。 １回目：　配布プリントを読み、重要な点をマークすること。 ２回目：　配布プリントを読み、問に答えておくこと。 ３回目：　指導者の心構え・視点について、問に答えておくこと。 ４回目：　課題　トレーニングの原理・原則について、レポート提出。 ５回目：　課題　スキャモンの発育発達曲線について、レポート提出。 ６回目：　ゴールデンエイジの特性について説明出来るように準備すること。 ７回目：　スポーツ指導方法について、問いに答えておくこと。 ８回目：　スポーツ指導方法について、問いに答えておくこと。 ９回目：　課題　トレーニング計画書を立案し、レポート提出。 １０回目：　中高年の運動計画について、問に答えておくこと。 １１回目：　安全確保のための指針について、説明できるように準備すること。 １２回目：　５大栄養素の役割について、レポート提出。 １３回目：　モチベーションを高める方法について、説明できるように準備すること・ １４回目：　刑法第２０４条及び２０９条について調べる。 １５回目：　スポーツ支援者の役割について、説明できるように準備すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

健康運動実践指導者の活動範囲及び少子高齢社会に対応した新たな役割は、より高度なレベルの実技能力と、多様な対象に対する指導スキルの知識を修得することである。望ましいスポーツ指導者やリーダーを目指し、真剣に学ぶこと。

授業スケジュール

1	はじめに、文化としてのスポーツ・レクリエーション
2	指導者の役割①－人を支える「支援者」にとってのスポーツ・レクリエーション－
3	指導者の役割②－スポーツ・レクリエーション支援の考え方－
4	トレーニング論①
5	トレーニング論②
6	成長・発育のスキルの発達
7	スポーツ指導の方法と運動の学習理論
8	スポーツ指導の方法と運動の学習理論

9	指導計画のたて方
１０	性，年齢に応じたスポーツ指導計画
１１	スポーツ・レクリエーション活動と安全管理
１２	スポーツと栄養
１３	スポーツと心理的な要因
１４	スポーツと法
１５	スポーツ・レクリエーション支援者の資格と期待される役割

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J86014601
科目名	情報管理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Information Management		
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	情報管理は、経営体の目標をよりよく達成するために必要な情報の収集、整理・加工、記憶、検索、提供のすべての過程を効果的に管理することが本質と規定すると、情報管理は経営体の有効な運用には不可欠なものである。 また、効果的な情報管理を構築するには、情報システムの適切な開発と運用が重要である。 本講義では、まず、情報管理の基礎的知識について論じる。次に、情報管理のためのコンピュータに関する基礎知識を論じる。最後に情報の高度利用と情報管理について事例を交えて論じていく。 学生は本講義によって情報管理の重要性について理解し、情報管理について実際にどのような行動をとるべきかを自ら考えることができるようになる。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（教科書）	『情報管理学』　　深井裕二(著)　コロナ社		
教材（参考資料）	適宜指示する。		
教育方法	電子黒板を利用しながら講義法で授業は進められる。		
評価方法	授業内提出物及び小テストほか(35%)、レポート(30%)、定期試験(35%)で評価する。		
到達目標	今日の企業における情報管理の重要性について理解し、説明できるようになる　。		
授業時間外学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 各回の授業内容に該当する教科書のページを事前に読んで、専門用語の確認などを含めて事前学習をしておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。 01:教科書該当ページなし 02:教科書 pp1-pp11 03:教科書 pp12-pp29 04:教科書 pp30-pp57 05:教科書 pp1-pp57 06:教科書 pp58-pp75 07:教科書 pp76-pp94 08:教科書 pp95-pp102 09:教科書 pp103-pp118 10:教科書 pp58-pp118 11:教科書 pp119-pp131 12:教科書 pp132-pp139 13:教科書 pp140-pp153 14:教科書 pp154-pp172 15:教科書 pp173-pp185		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

経営、情報に関する諸科目をより多く受講しておいていただきたい。

授業スケジュール

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

1. 受講ガイダンス
2. インターネット社会と情報管理
3. 情報収集

4. コンピュータ技術
5. 反転学習(理解度確認)
6. インターネット技術
7. インターネットの活用
8. 情報倫理と関連法規 1
9. 情報倫理と関連法規 2
10. 反転学習(理解度確認)
11. 情報セキュリティ 1
12. 情報セキュリティ 2
13. 企業と情報システム
14. データの運用と管理
15. システム開発とプログラミング

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J90001001
科目名	海外研修	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
授業概要	外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考資料）	研修先で指定される可能性もある。		
教育方法			
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
授業時間外学習	翌日の研修の内容を事前学習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
授業スケジュール			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★		★	★★		

年度	2018	授業コード	J90003001
科目名	サービス・ラーニング	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	この科目は、社会の一員である個人を認識し、社会と個人、組織と個人等を考えながら社会貢献活動を行い、大学の学修等で身につけるべき課題を明確にすることを目的とする。約１週間程度の活動を通して、協働力や適応力、行動力を身につける。また、事前学修で、実習の目的の明確化、目標設定を行うとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。評価は、活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
教材（教科書）	必要に応じて配布。		
教材（参考資料）	必要に応じて配布。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせる（毎回、必ずグループワークが入る）。		
評価方法	活動日誌(10%)、活動先の評価(20%)、レポート(70%)によって評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、自らの身につけるべき課題を意識する。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる。		
授業時間外学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

[実習先の選定－１]：実習先を自ら探すことも本授業の課題の一つである。探し方も授業の中で教える。太秦キャンパスの受講者は、毎年５月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明するので、原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―２]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、１週間の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての 1 週間である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

授業スケジュール

１．社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
２．地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
３．実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
４．ビジネスマナーI
５．ビジネスマナーII

実習１週間
（8 時間＋日報 1 時間）/日*5 日＝45 時間

６．事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
７．事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ）、ワークショップ
８．事後学習 III－レポート作成
９．事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J90003002
科目名	サービス・ラーニング	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	この科目は、社会の一員である個人を認識し、社会と個人、組織と個人等を考えながら社会貢献活動を行い、大学の学修等で身につけるべき課題を明確にすることを目的とする。約１週間程度の活動を通して、協働力や適応力、行動力を身につける。また、事前学修で、実習の目的の明確化、目標設定を行うとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。評価は、活動日誌、活動先の評価、レポートを総合して評価する。		
教材（教科書）	必要に応じて配布。		
教材（参考資料）	必要に応じて配布。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせる（毎回、必ずグループワークが入る）。		
評価方法	活動日誌(10%)、活動先の評価(20%)、レポート(70%)によって評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、自らの身につけるべき課題を意識する。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる。		
授業時間外学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

[実習先の選定－１]：実習先を自ら探すことも本授業の課題の一つである。探し方も授業の中で教える。太秦キャンパスの受講者は、毎年５月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明するので、原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―２]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、１週間の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての 1 週間である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

授業スケジュール

１．社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
２．地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
３．実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
４．ビジネスマナーI
５．ビジネスマナーII

実習１週間
（8 時間＋日報１時間）/日*5 日＝45 時間

６．事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
７．事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ）、ワークショップ
８．事後学習 III－レポート作成
９．事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J90004001
科目名	健康医療学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	General Health and Medicine		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
授業概要	我が国の急速な高齢化に伴い、脳血管疾患、認知症、運動器疾患による要介護状態も増加している。そのため、健康管理、疾病予防、健康で自立した生活の健康寿命を伸ばすための介護予防が重要となっている。さらに、心疾患、糖尿病などの生活習慣病は慢性経過をたどり、医療費の高騰を招いている。本講義ではこれらを踏まえ、健康管理、生活習慣病の予防、運動機能の維持・向上を目指した介護予防、ならびに運動管理に必要なメディカルチェックなどの知識を解説し、医事法規にも触れる。		
教材（教科書）	配布プリントを中心に解説する。		
教材（参考資料）	『健康運動指導士養成講習会テキスト』（健康・体力づくり事業財団）		
教育方法	配布プリントならびにスライドを用いた講義である。		
評価方法	ミニテストなど（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．健康の概念、日本の現在の主要な健康問題を認識する。 ２．生活習慣病とその予防、介護予防の概要を理解する。 ３．健康の維持・増進、疾病予防のための運動を安全に行うのに必要な知識を修得する。		
授業時間外学習	毎回の講義を復習し、医学医療用語を修得する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
新聞などを読み、現代の医療問題の認識を深めておく。			
授業スケジュール			
１．健康の概念 ２．現代社会の健康問題（少子高齢化時代、健康生活づくり） ３．生活習慣病（メタボリックシンドローム、生活習慣） ４．生活習慣病予防（身体活動・運動の疫学研究、特定健診・保健指導） ５．疾病構造の変化と国民医療費 ６．わが国の高齢社会の現状 ７．加齢による機能低下と高齢者の総合機能評価 ８．介護予防 ９．健診項目（血液・尿検査） １０．健診項目（生理機能検査） １１．運動の事前メディカルチェック １２．安静時心電図の読み方 １３．医療総論（医の倫理） １４．医療総論（医事法制） １５．医療総論（医療制度）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J90004002
科目名	健康医療学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	General Health and Medicine		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
授業概要	我が国の急速な高齢化に伴い、脳血管疾患、認知症、運動器疾患による要介護状態も増加している。そのため、健康管理、疾病予防、健康で自立した生活の健康寿命を伸ばすための介護予防が重要となっている。さらに、心疾患、糖尿病などの生活習慣病は慢性経過をたどり、医療費の高騰を招いている。本講義ではこれらを踏まえ、健康管理、生活習慣病の予防、運動機能の維持・向上を目指した介護予防、ならびに運動管理に必要なメディカルチェックなどの知識を解説し、医事法規にも触れる。		
教材（教科書）	配布プリントを中心に解説する。		
教材（参考資料）	『健康運動指導士養成講習会テキスト』（健康・体力づくり事業財団）		
教育方法	配布プリントならびにスライドを用いた講義である。		
評価方法	ミニテストなど（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．健康の概念、日本の現在の主要な健康問題を認識する。 ２．生活習慣病とその予防、介護予防の概要を理解する。 ３．健康の維持・増進、疾病予防のための運動を安全に行うのに必要な知識を修得する。		
授業時間外学習	毎回の講義を復習し、医学医療用語を修得する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

新聞などを読み、現代の医療問題の認識を深めておく。

授業スケジュール

１．健康の概念
２．現代社会の健康問題（少子高齢化時代、健康生活づくり）
３．生活習慣病（メタボリックシンドローム、生活習慣）
４．生活習慣病予防（身体活動・運動の疫学研究、特定健診・保健指導）
５．疾病構造の変化と国民医療費
６．わが国の高齢社会の現状
７．加齢による機能低下と高齢者の総合機能評価
８．介護予防
９．健診項目（血液・尿検査）
１０．健診項目（生理機能検査）
１１．運動の事前メディカルチェック
１２．安静時心電図の読み方
１３．医療総論（医の倫理）
１４．医療総論（医事法制）
１５．医療総論（医療制度）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J90005001
科目名	解剖生理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology A		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
授業概要	ヒトのからだの仕組みやはたらきを理解するために、人体の正常な構造と機能を学ぶ。解剖学は構造を、生理学は機能を主に取り扱う学問である。細胞が集まって組織となり、組織が器官を構成する。種々の器官が共同して働き、外界とのやり取りが可能となる機構が人体にあり、動物性機能系と呼ばれる。本講義では、この動物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には細胞・組織・器官の成り立ち、運動器である骨格・筋肉系、神経系、感覚系などの構造と働きを学ぶ。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　第 9 版』（医学書院）　坂井健雄･岡田隆夫　著　4,104 円		
教材（参考資料）	『トートラ　人体の構造と機能』　（丸善出版）　Gerard J, Totora/Bryan Derrickson　10,000 円		
教育方法	パワーポイントを活用して、教科書の内容を講義形式で説明する。パワーポイントの内容は講義資料として配布する。必要に応じて、国家試験問題などを取り上げて、重要なポイントを指摘する。		
評価方法	定期試験（100%）。その他に、任意の課題レポートの提出で加点する（10%）。		
到達目標	1．　身体の構造について理解する。 2．　人体の構成要素の機能と相互作用について理解する。 3．　身体の構造と機能を関連付けて理解する。		
授業時間外学習	1．　予習としてシラバス（講義スケジュール）に記された項目に該当する教科書を事前に読んで、講義に臨むこと。 2．　教科書を読んで、わからない専門用語があれば、各自で調べて理解しておくこと。 3．　教科書に読んで、疑問に感じたり、理解できないところを明確にしておくことで、効果的に講義を聴くことができる。 4．　講義終了後に、配布資料を見直し、自分で理解しやすいノートを作成して十分に復習すること。また、事前に疑問に感じたり、理解できなかった問題点が解決できているを確認しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
2.　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
3.　トイレは原則として授業前あるいは休憩時間に行くことが望ましい（体調が悪い時には申し出ること）。

授業スケジュール

1．　人体の基本構造と自律神経
2．　消化管の構造と機能: 咀嚼から胃での消化
3．　消化管の構造と機能: 腸での消化と吸収
4．　消化管の構造と機能: 膵臓・肝臓・胆嚢
5．　呼吸器の構造と換気
6．　ガス交換とガスの運搬
7．　呼吸運動の調節
8．　血液の組性と血液凝固系
9．　心臓の構造と拍出機能
10．　心周期
11．　末梢循環系の構造と機能
12．　血液の循環調節
13．　尿の生成
14．　体液調節と酸塩基平衡（1）
15．　体液調節と酸塩基平衡（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90005002
科目名	解剖生理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology A		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
授業概要	ヒトのからだの仕組みやはたらきを理解するために、人体の正常な構造と機能を学ぶ。解剖学は構造を、生理学は機能を主に取り扱う学問である。細胞が集まって組織となり、組織が器官を構成する。種々の器官が共同して働き、外界とのやり取りが可能となる機構が人体にあり、動物性機能系と呼ばれる。本講義では、この動物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には細胞・組織・器官の成り立ち、運動器である骨格・筋肉系、神経系、感覚系などの構造と働きを学ぶ。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　第 9 版』（医学書院）　坂井健雄･岡田隆夫　著　4,104 円		
教材（参考資料）	『トートラ　人体の構造と機能』　（丸善出版）　Gerard J, Totora/Bryan Derrickson　10,000 円		
教育方法	パワーポイントを活用して、教科書の内容を講義形式で説明する。パワーポイントの内容は講義資料として配布する。必要に応じて、国家試験問題などを取り上げて、重要なポイントを指摘する。		
評価方法	定期試験（100%）。その他に、任意の課題レポートの提出で加点する（10%）。		
到達目標	1．　身体の構造について理解する。 2．　人体の構成要素の機能と相互作用について理解する。 3．　身体の構造と機能を関連付けて理解する。		
授業時間外学習	1．　予習としてシラバス（講義スケジュール）に記された項目に該当する教科書を事前に読んで、講義に臨むこと。 2．　教科書を読んで、わからない専門用語があれば、各自で調べて理解しておくこと。 3．　教科書に読んで、疑問に感じたり、理解できないところを明確にしておくことで、効果的に講義を聴くことができる。 4．　講義終了後に、配布資料を見直し、自分で理解しやすいノートを作成して十分に復習すること。また、事前に疑問に感じたり、理解できなかった問題点が解決できているを確認しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
2.　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
3.　トイレは原則として授業前あるいは休憩時間に行くことが望ましい（体調が悪い時には申し出ること）。

授業スケジュール

1．　人体の基本構造と自律神経
2．　消化管の構造と機能: 咀嚼から胃での消化
3．　消化管の構造と機能: 腸での消化と吸収
4．　消化管の構造と機能: 膵臓・肝臓・胆嚢
5．　呼吸器の構造と換気
6．　ガス交換とガスの運搬
7．　呼吸運動の調節
8．　血液の組性と血液凝固系
9．　心臓の構造と拍出機能
10．　心周期
11．　末梢循環系の構造と機能
12．　血液の循環調節
13．　尿の生成
14．　体液調節と酸塩基平衡（1）
15．　体液調節と酸塩基平衡（2）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90005003
科目名	解剖生理学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology A		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
授業概要	ヒトのからだの仕組みや働きを理解するために、人体の正常な構造と機能を学ぶ。解剖学は構造を、生理学は機能を主に取り扱う学問である。細胞が集まって組織となり、組織が器官を構成する。種々の器官が共同して働き、外界とのやり取りが可能となる機構が人体にあり、動物性機能系と呼ばれる。本講義では、この動物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には細胞・組織・器官の成り立ち、運動器である骨格・筋肉系、神経系、感覚系などの構造と働きを学ぶ。		
教材（教科書）	『入門人体解剖学』（南江堂） 藤田恒夫 著 5,400 円		
教材（参考資料）	『プロメテウス解剖学アトラス－解剖学総論／運動器系』（医学書院） 坂井建雄・松村譲兒 監訳 12,960 円		
教育方法	教科書の輪読、配布プリントならびにスライドを用いた講義である。		
評価方法	ミニテストなど（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	細胞・組織・器官の成り立ち、人体における動物性機能系（骨格・筋肉系、神経系、感覚系）の働きを説明できる。		
授業時間外学習	生物学（高等学校）の復習，毎回の講義内容の復習		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
人体解剖学用語の修得に努める。			
授業スケジュール			
１．細胞から個体１（生物体の基本的構成要素である細胞の構造） ２．細胞から個体２（組織・器官） ３．細胞から個体３（個体の形成） ４．筋の収縮１（骨格筋の構造、筋収縮） ５．筋の収縮２（収縮様式、筋電図） ６．骨格と関節（人体を構成する骨格・関節の構造） ７．頭頸部（頭頸部と脊柱、胸鎖乳突筋、僧帽筋、肩峰・肩甲棘） ８．脊柱と胸郭 （脊柱、肋骨、肋間筋群、腰椎の構造） ９．上肢（肩関節、肘関節、上腕、前腕、手関節） １０．骨盤と下肢 （骨盤、大腿骨頭、股関節、膝関節、足関節） １１．神経系１（神経細胞、中枢神経系（脊髄、脳幹、小脳）） １２．神経系２（中枢神経系（間脳、大脳）、脳室、脳脊髄液） １３．神経系３（末梢神経系（脊髄神経、脳神経）） １４．神経系４（下行伝導路、上行伝導路） １５．感覚系（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、痛覚）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90006001
科目名	解剖生理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology B		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
授業概要	人体において営まれる生命現象は動物性機能系と植物性機能系の２つに大別される。生命の基本単位は細胞であり、生命維持にとって細胞周囲の体液組成や量を安定に保つことは必要不可欠である。この働きをする機能系、言い換えると内部環境の恒常性を保つ機能系が植物性機能と呼ばれる。本講義では、この植物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には血液、循環、呼吸、腎臓・体液、消化・吸収、代謝、内分泌、生殖、体温、免疫などである。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　第９版』（医学書院）　坂井健雄･岡田隆夫　著　4,104円		
教材（参考資料）	『トートラ　人体の構造と機能』　（丸善出版）　Gerard J, Totora/Bryan Derrickson　10,000 円		
教育方法	パワーポイントを活用して、教科書の内容を講義形式で説明する。パワーポイントの内容は講義資料として配布する。必要に応じて、国家試験問題などを取り上げて、重要なポイントを指摘する。		
評価方法	定期試験（100%）。その他に、任意の課題レポートの提出で加点する（10%）。		
到達目標	１．身体の構造について理解する。 ２．人体の構成要素の機能と相互作用について理解する。 ３．身体の構造と機能を関連付けて理解する。		
授業時間外学習	１．　予習としてシラバス（講義スケジュール）に記された項目に該当する教科書を事前に読んで、講義に臨むこと。 ２．　教科書を読んで、わからない専門用語があれば、各自で調べて理解しておくこと。 ３．　教科書に読んで、疑問に感じたり、理解できないところを明確にしておくことで、効果的に講義を聴くことができる。 ４．　講義終了後に、配布資料を見直し、自分で理解しやすいノートを作成して十分に復習すること。また、事前に疑問に感じたり、理解できなかった問題点が解決できているを確認しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
2.　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
3.　トイレは原則として授業前あるいは休憩時間に行くことが望ましい（体調が悪い時には申し出ること）。

授業スケジュール

１．　自律神経系
２．　視床下部と下垂体
３．　ホルモンによる調節（１）
４．　ホルモンによる調節（２）
５．　骨格と骨格筋
６．　上肢の骨格と筋
７．　下肢の骨格と筋
８．　筋の収縮
９．　神経系の構造と機能
１０．　脊髄と脳
１１．　脊髄・脳神経と脳の高次機能
１２．　感覚器
１３．　生体防御と体温調節（１）
１４．　生体防御と体温調節（２）
１５．　生殖と発生

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90006002
科目名	解剖生理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology B		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
授業概要	人体において営まれる生命現象は動物性機能系と植物性機能系の２つに大別される。生命の基本単位は細胞であり、生命維持にとって細胞周囲の体液組成や量を安定に保つことは必要不可欠である。この働きをする機能系、言い換えると内部環境の恒常性を保つ機能系が植物性機能と呼ばれる。本講義では、この植物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には血液、循環、呼吸、腎臓・体液、消化・吸収、代謝、内分泌、生殖、体温、免疫などである。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　第９版』（医学書院）　坂井健雄･岡田隆夫　著　4,104円		
教材（参考資料）	『トートラ　人体の構造と機能』　（丸善出版）　Gerard J, Totora/Bryan Derrickson　10,000 円		
教育方法	パワーポイントを活用して、教科書の内容を講義形式で説明する。パワーポイントの内容は講義資料として配布する。必要に応じて、国家試験問題などを取り上げて、重要なポイントを指摘する。		
評価方法	定期試験（100%）。その他に、任意の課題レポートの提出で加点する（10%）。		
到達目標	１．身体の構造について理解する。 ２．人体の構成要素の機能と相互作用について理解する。 ３．身体の構造と機能を関連付けて理解する。		
授業時間外学習	１．　予習としてシラバス（講義スケジュール）に記された項目に該当する教科書を事前に読んで、講義に臨むこと。 ２．　教科書を読んで、わからない専門用語があれば、各自で調べて理解しておくこと。 ３．　教科書に読んで、疑問に感じたり、理解できないところを明確にしておくことで、効果的に講義を聴くことができる。 ４．　講義終了後に、配布資料を見直し、自分で理解しやすいノートを作成して十分に復習すること。また、事前に疑問に感じたり、理解できなかった問題点が解決できているを確認しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
2.　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
3.　トイレは原則として授業前あるいは休憩時間に行くことが望ましい（体調が悪い時には申し出ること）。

授業スケジュール

１．　自律神経系
２．　視床下部と下垂体
３．　ホルモンによる調節（１）
４．　ホルモンによる調節（２）
５．　骨格と骨格筋
６．　上肢の骨格と筋
７．　下肢の骨格と筋
８．　筋の収縮
９．　神経系の構造と機能
１０．　脊髄と脳
１１．　脊髄・脳神経と脳の高次機能
１２．　感覚器
１３．　生体防御と体温調節（１）
１４．　生体防御と体温調節（２）
１５．　生殖と発生

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90006003
科目名	解剖生理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Anatomy and Physiology B		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
授業概要	人体において営まれる生命現象は動物性機能系と植物性機能系の２つに大別される。生命の基本単位は細胞であり、生命維持にとって細胞周囲の体液組成や量を安定に保つことは必要不可欠である。この働きをする機能系、言い換えると内部環境の恒常性を保つ機能系が植物性機能と呼ばれる。本講義では、この植物性機能系の構造と機能を取り扱う。具体的には血液、循環、呼吸、腎臓・体液、消化・吸収、代謝、内分泌、生殖、体温、免疫などである。		
教材（教科書）	配付プリントを使用する。		
教材（参考資料）	『標準生理学』（医学書院）　小澤瀞司・福田康一郎 総編集 12,960 円		
教育方法	配布プリントならびにスライドを用いた講義である。		
評価方法	ミニテストなど（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	人体における植物性機能系（血液、循環、呼吸、腎臓・体液、消化・吸収、代謝、内分泌、生殖、体温、免疫系）の働きが説明できる。		
授業時間外学習	生物学（高等学校）の復習、毎回の講義内容の復習		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
人体生理学ならびに医学用語の修得に努める。			
授業スケジュール			
１．人体の植物性機能（内部環境の恒常性、ホメオスターシス） ２．血液１（血液組成、血液型） ３．血液２（止血、血液凝固） ４．呼吸１（内呼吸、血液ガス） ５．呼吸２（外呼吸、呼吸器系の構造、呼吸運動、換気） ６．循環１（心臓の構造、心収縮、心周期、心拍出） ７．循環２（刺激伝導系、活動電位、心電図） ８．循環３（脈管系、脈波、血圧、血流） ９．消化吸収（消化器系の構造と機能、消化管運動、分泌、吸収） １０．栄養代謝（栄養素、エネルギー代謝） １１．腎機能と体液調節１（老廃物の排泄、腎臓の構造と機能） １２．腎機能と体液調節２（体液量調節、酸塩基平衡） １３．内分泌１（生体の内部環境の調節系） １４．内分泌２（生殖、性の分化、成長と老化） １５．生体防御（病原性生物等による感染を防ぐ免疫系、体温調節系）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90007001
科目名	生化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biochemistry		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
授業概要	生化学は、すべての生物に見られる構造、機能、化学反応を分子レベルで理解し、生物における共通の基本原理を学ぶ学問である。本講義では、多様な生命現象を物理化学的視点から理解するために、生命を構成する生体高分子としてのタンパク質、脂質、核酸、糖質の構造と機能、エネルギー代謝としての異化・同化、生命の根源を司る自己複製メカニズム、自己と非自己を識別し、細胞外環境変化を細胞内へ伝達する膜系と膜系を介する物質輸送とシグナル伝達についての基礎知識を十分に理解し、修得する。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門基礎分野　生化学　第１３版』　（医学書院）　三輪一智、中恵一　2,200 円		
教材（参考資料）	『イラストレイテッド生化学　原書６版』　（丸善出版）　Richard A. Harvey, Denise R. Ferrier　7,800 円		
教育方法	パワーポイントを活用して、教科書の内容を講義形式で説明する。パワーポイントの内容は講義資料として配布する。		
評価方法	中間テスト（50%）、定期試験（50%）		
到達目標	１．　生物を構成する生体成分について分子レベルで理解する。 ２．　生体の機能制御を担う酵素と触媒作用について理解する。 ３．　生体エネルギー産生と代謝の仕組みについて理解する。 ４．　遺伝情報とその発現メカニズムについて理解する。		
授業時間外学習	１．　予習としてシラバス（講義スケジュール）に記された項目に該当する教科書を事前に読んで、講義に臨むこと。 ２．　教科書を読んで、わからない専門用語があれば、各自で調べて理解しておくこと。 ３．　教科書に読んで、疑問に感じたり、理解できないところを明確にしておくことで、効果的に講義を聴くことができる。 ４．　講義終了後に、配布資料を見直し、自分で理解しやすいノートを作成して十分に復習すること。また、事前に疑問に感じたり、理解できなかった問題点が解決できているを確認しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
２．　中間テストを実施するので、よく復習してから試験に臨むこと。
３．　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
４．　トイレは原則として授業前あるいは休憩時間に行くことが望ましい（体調が悪い時には申し出ること）。

授業スケジュール

１．　生化学の基礎
２．　膜タンパク質と受容体シグナル
３．　糖類・脂質・タンパク質（１）
４．　糖類・脂質・タンパク質（２）
５．　核酸・水・無機質
６．　血液と尿
７．　ホルモンと生理活性物質
８．　代謝・酵素
９．　ビタミン・補酵素
１０．　糖代謝
１１．　脂質代謝
１２．　タンパク質代謝
１３．　遺伝情報（１）
１４．　遺伝情報（２）
１５．　核酸代謝と代謝異常

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90008001
科目名	衛生学	単位数	1
科目名（英語表記）	Hygienics		
担当者名	竹内　正人	旧科目名称	
授業概要	衛生学は自然的・社会的環境要因と健康との関連を考究し、疾病の予防・早期発見および健康の保持推進に役立てようとする学問である。種々の自然的・社会的要因を認識し、生活の場などで衛生学的な問題意識を持ち、科学的解決を目指す力を獲得することを目標とする。自然要因である、水、公害問題、食品、栄養、感染症などと、社会要因である、学校保健、産業保健、生活習慣病に関する内容を中心に、社会と健康への影響について学修する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	『国民衛生の動向』（厚生統計協会） 『衛生行政大綱』（財団法人 日本公衆衛生協会） 『衛生法規の要点』（財団法人 日本公衆衛生協会） 『学校保健の世界』（杏林書院） 『学校医・学校保健ハンドブック』（光文堂）		
教育方法	講義による。		
評価方法	1．受講態度（10%） 2．授業内小テスト（10%） 3．レポート課題（30%） 4．定期試験（50%）		
到達目標	衛生学は自然的・社会的環境要因と健康との関連を考究し、疾病の予防・早期発見および健康の保持増進に役立てようとする学問である。種々の自然的・社会的環境要因を認識し、生活の場などで衛生学的な問題意識を持ち、科学的解決を目指す力を獲得することを目標とする。		
授業時間外学習	「京学なび」を利用して講義資料を配布するので、講義開始までに読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
新聞、TV、インターネット等のメディアに取り上げられる、健康、水、公害問題、食品、栄養、感染症、学校保健、産業保健、生活習慣病などの記事を興味を持って視聴・熟読し、それらの背景や関連事項についての資料を検索してよく理解し、自分なりの考え方を持つこと。			
授業スケジュール			
1．入門（衛生学序論、歴史、研究方法）　：4/12(木) 2．環境（物理・化学的条件、室内環境衛生学、公害、地球温暖化）　：4/19(木) 3．食品衛生（食中毒）　：4/26(木) 4．感染症対策（感染症法、予防対策、疾病予防と予防接種）　：5/10(木) 5．学校保健（健診、伝染病）　：5/17(木) 6．産業保健（労働衛生法、職業病、労働災害、検診）　：5/24(木) 7．生活習慣病（メタボリックシンドローム、健診）　：5/31(木) 8．保健統計　：6/7(木)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J90009002
科目名	公衆衛生学	単位数	2
科目名（英語表記）	Public Health		
担当者名	竹内　正人	旧科目名称	
授業概要	公衆衛生の基本となる知識、関係法規等の理解とともに、日本における公衆衛生の現状について学修する。また、喫煙や飲酒などの嗜好品摂取、生活習慣、メタボリックシンドローム対策等、公衆衛生の分野において問題となっているトピックについて、そのアプローチ等についても実例を挙げて教授する。健康を守るためには、医療だけでなく、個人の生活、ならびに地域・社会の環境等様々な方面からのアプローチが必要であることを学ぶ。		
教材（教科書）	『シンプル公衆衛生学』（南江堂）2592 円（税込み）		
教材（参考資料）	『国民衛生の動向』（厚生労働統計協会）2500 円（税込み）		
教育方法	講義による。		
評価方法	定期試験により評価する		
到達目標	個人だけでなく集団としての健康増進、疾病予防を考えるという公衆衛生的な考え方を身につける。 1．日本における保健体制、健康政策を理解する。 2．保健・医療・福祉の連携の必要性と現状、及びその問題点について理解する。 3．疫学的な考え方や衛生統計を理解し、地域保健等にどのように役立てるかを知る。 4．実践活動としての健康教育、ヘルスプロモーション等について理解する。		
授業時間外学習	授業前にテキストを読んでおくことが望ましい。また、新聞等で社会情勢をみておくことも必要である。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

遠慮せずに理解できないこと等について質問すること。
授業中に質問できなかった場合は、メール等で質問することが必要である。

授業スケジュール

1. 健康の概念と公衆衛生
2. 環境衛生
3. 食品衛生
4. 感染症対策
5. 学校保健
6. 労働衛生
7. 成人・老人保健
8. 健康データ、衛生統計と疫学
9. 国際保健・危機管理
10. 公衆衛生行政と関連衛生法規
11. 医療保健制度と介護、社会保障
12. 健康教育、ヘルスプロモーションと行動変容
13. 母子保健
14. 精神保健
15. 地域保健

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J90010001
科目名	栄養学	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Nutrition		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	栄養とは、生物が食物を摂取することによって、生命および健康の維持、発育・成長などの生命活動に必要な物質、すなわち栄養素を体内に取り込み、利用する営みである。本講義では、栄養素の種類とそれらの構造および生理機能、消化・吸収、エネルギー代謝などの基本的概念を正しく理解することを目的とする。さらに、健康の保持・増進、疾病予防と回復促進、体づくりのために必要な栄養と食生活など、実践的な栄養学についても理解を深める。		
教材（教科書）	特に定めない		
教材（参考資料）	『ポケットアトラス栄養学』（ガイアブックス） ハンス・コンラート・ビーザルスキ 著 2,808 円 『基礎栄養学（健康・栄養科学シリーズ）改訂第 4 版』（南江堂） 奥恒行、柴田克己 編 3,024 円		
教育方法	パワーポイントやプリントを用いながら，講義法で行う。 京学なびによりスライドのデータを提供する。		
評価方法	定期テスト（50%）、授業内小テスト（30%）、レポート（20%）		
到達目標	栄養の基礎知識について正しく説明できる。 栄養に関する知識を基に健康づくり・体づくりなどを正しく実践することができる。		
授業時間外学習	毎回、京学なびにて予習・復習レポートを提供する。 レポートによる授業の予復習に留まらず、関連分野についても発展的に調べておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義には毎回出席すると共に、毎回提供する課題についても意欲的に取り組んでほしい。 日頃から新聞等のメディアを意識し、自分自身が摂取している食事や食品成分に関心を持っておくこと。			
授業スケジュール			
1．はじめに　-栄養学とは- 2．栄養成分の消化吸収 3．糖質の機能と代謝 4．アミノ酸とタンパク質の機能と代謝 5．脂質の機能と代謝 6．エネルギー代謝 7．ビタミン、ミネラルおよび水の生理作用 8．疾病予防や健康づくり・体づくりのための食生活			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J90011001
科目名	病理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Pathology		
担当者名	渡邊　信	旧科目名称	
授業概要	ヒトにおける疾病の成り立ちについて学ぶ。病理学は、疾病の成立機序、病態形成過程を解明する学問である。本講義では、生命活動が異常をきたした状態に対する理解を深める。具体的には、異常状態の形態学的特徴である病変として、感染に対して組織に生じる炎症、循環障害、腫瘍などを取り上げ、さらに個体側要因である先天異常、代謝異常、免疫異常について学ぶ。症状に対する病態生理、疾病に対する医療についても言及する。また、健康スポーツ学科学生については、身体内部における変化に関する基本的な用語などを学ぶ。このことはスポーツ医学を学ぶ中にも関連し、また基礎医学を学ぶことからも関連する内容が多くあるために教科書をもとに講義内容をノートすること。		
教材（教科書）	「病理学ノート」を購入していただきます。教科書販売時に購入してください。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教材の項目に沿って講義を進めます。板書が多いので、ノートに書きとる内容が多くなります。講義に集中して受講してください。		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	皆さんが専門とする現場ではここで学んだ疾患を２度３度と学ぶ機会が多い。その折りにこの「病理学ノート」を思い出してもう一度復習、さらには詳しく勉強して戴きたい。ここで勉強したことを全て記憶し続けることは不可能であり、自分が幾度となく遭遇する疾患をしっかりと理解する基礎として戴きたい。		
授業時間外学習	これからの学生は講義を聞く準備をどうやってするかが問われています。この「病理学ノート」に書いてある言葉をキーワードにして、予習をし、講義中の集中力を高めて戴きたい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義は密度が濃く、講義中の集中力を高めないと理解できないことがあります。講義の邪魔になる行為（遅刻、私語など）は厳重に謹んで戴きたい。間違っても、「病理学ノート」に記載してあることだけで十分だと考えないで戴きたい。			
授業スケジュール			
１．退行性病変 ２．代謝障害１ ３．代謝障害２ ４．代謝障害３ ５．循環障害１ ６．循環障害２ ７．循環障害３ ８．奇形 ９．進行性病変 10．炎症総論１ 11．炎症総論２ 12．免疫総論１ 13．免疫総論２ 14．腫瘍総論１ 15．腫瘍総論２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J90011002
科目名	病理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Pathology		
担当者名	渡邊　信	旧科目名称	
授業概要	ヒトにおける疾病の成り立ちについて学ぶ。病理学は、疾病の成立機序、病態形成過程を解明する学問である。本講義では、生命活動が異常をきたした状態に対する理解を深める。具体的には、異常状態の形態学的特徴である病変として、感染に対して組織に生じる炎症、循環障害、腫瘍などを取り上げ、さらに個体側要因である先天異常、代謝異常、免疫異常について学ぶ。症状に対する病態生理、疾病に対する医療についても言及する。また、健康スポーツ学科学生については、身体内部における変化に関する基本的な用語などを学ぶ。このことはスポーツ医学を学ぶ中にも関連し、また基礎医学を学ぶことからも関連する内容が多くあるために教科書をもとに講義内容をノートすること。		
教材（教科書）	「病理学ノート」を購入していただきます。教科書販売時に購入してください。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教材の項目に沿って講義を進めます。板書が多いので、ノートに書きとる内容が多くなります。講義に集中して受講してください。		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	皆さんが専門とする現場ではここで学んだ疾患を２度３度と学ぶ機会が多い。その折りにこの「病理学ノート」を思い出してもう一度復習、さらには詳しく勉強して戴きたい。ここで勉強したことを全て記憶し続けることは不可能であり、自分が幾度となく遭遇する疾患をしっかりと理解する基礎として戴きたい。		
授業時間外学習	これからの学生は講義を聞く準備をどうやってするかが問われています。この「病理学ノート」に書いてある言葉をキーワードにして、予習をし、講義中の集中力を高めて戴きたい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義は密度が濃く、講義中の集中力を高めないと理解できないことがあります。講義の邪魔になる行為（遅刻、私語など）は厳重に謹んで戴きたい。間違っても、「病理学ノート」に記載してあることだけで十分だと考えないで戴きたい。			
授業スケジュール			
１．退行性病変 ２．代謝障害１ ３．代謝障害２ ４．代謝障害３ ５．循環障害１ ６．循環障害２ ７．循環障害３ ８．奇形 ９．進行性病変 10．炎症総論１ 11．炎症総論２ 12．免疫総論１ 13．免疫総論２ 14．腫瘍総論１ 15．腫瘍総論２			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J90012001
科目名	内科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Internal Medicine		
担当者名	古倉　聡	旧科目名称	
授業概要	ここ半世紀、日本を含む先進国では、その疾病・死亡構造は感染症から生活習慣病へと大きく変貌してきた。がん、脳血管障害、心臓病、糖尿病などの代謝疾患、アレルギー性疾患などの生活習慣病は、個々人の誕生から現在に至る数十年間にわたる環境履歴により形成されたライフスタイルと遺伝素因が複雑に交絡しあい、加齢による効果と相まって発症する。しかもその発症率は 40~50 歳代から大きく増加することから、我が国のように少子高齢化が急激に進行する社会では、大きな健康脅威となっている。本講義では、このような生活習慣病増加の制御を中心に講義を行う。		
教材（教科書）	看護のための臨床病態顎　改訂　３版　南山堂		
教材（参考資料）	講義中に配布する資料		
教育方法	配布資料とほぼ同様のスライドにて講義を進めるが、特に重要なところは、講義中に口頭で説明するので、その内容を資料に書き込んで、復習する事。また、基本的に講義は、教材の内容に従って進める為、予習としては、教材を少なくとも１度は熟読し、自分なりに理解しておくと。講義内容がスムーズに理解できる。		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	内科の疾患、目の疾患、皮膚の疾患について、「解剖と生理」、「症候」、「検査と治療」の一般的な知識を講義する。 学生は、講義の前に予習をしておかないとまず講義は理解できないと考えて授業に望んでほしい。そのかわり、授業で理解した事は、慢性期疾病病態学や、臨地実習には大いに役立つ事を約束する。 各臓器疾患の「解剖と生理」、「症候」、「検査と治療」を完璧に学修する。		
授業時間外学習	シラバスを確認して、講義の前に教科書を用いて、しっかりと予習をする事。これが出来ていないとまず講義は理解できない。逆に、予習がしっかりできていると講義内容は、講義中に頭に刻み込まれると考える。 教材による予習が必須である。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
徹底した予習を期待する。講義中は、私語を慎み、退屈なら静かに入眠して他人の邪魔にならない様にしてほしい。ただし、入眠していた時間は、自分にとって大きな損失になる事を自覚してほしい。また、講義で口頭で説明したことで、配布資料に記載の無いものは、ノートをとるようにしてほしい。（これが重要です）本講義を通じて、内科学の基礎を徹底的に叩き込む予定である。			
授業スケジュール			
１）呼吸器 ２）循環器 ３）消化器 ４）肝臓・胆・膵臓 ５）代謝栄養 ６）内分泌 ７）腎・泌尿器 ８）脳・神経 ９）膠原病・アレルギー １０）感染症 １１）眼 １２）皮膚 １３）消化管治療の実際 １４）癌治療 １５）復習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★★

年度	2018	授業コード	J90013001
科目名	小児科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Pediatrics		
担当者名	全　有耳	旧科目名称	
授業概要	子どもは、出生から身体の成長と発達を経て大人になる。小児科学は、出生から思春期までの、身体の構造と機能の異常を扱う診療科目である。本講義では、新生児と幼児期・学童期の成長と発達、出生時や赤ちゃんの観察と神経心理学的評価、運動・言語・適応行動の発達の指標を学ぶ。また、小児の健康障害として先天異常（ダウン症等）、脳性麻痺、呼吸・循環器疾患、感染症等、各種疾患の原因および経過と症状、治療について解説をする。		
教材（教科書）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	『小児科学・発達障害学第２版』（医学書院）　宮尾益知　編　3,780 円		
教育方法	パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内の小テスト等(30%)、授業中に課すレポート(70%)		
到達目標	出生から成人に至るまでの身体および精神の成長と発達を正常及び異常である疾患の両面から理解することができる。		
授業時間外学習	8 つの単元について授業内に小テストを行うので復習すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
能動的な姿勢で講義に出席するように心がけてもらいたい。			
授業スケジュール			
１．小児の発達と成長　：（富田）11/13(火)① ２．胎児医学と出生前医学、周産期医学　：（久保）11/20(火)① ３．脳性麻痺と運動器疾患　：（太田）11/27(火)① ４．てんかんと痙攣性疾患　：（阪上）12/4(火)① ５．中枢神経の奇形、変性疾患、脳腫瘍など　：（河辺）12/11(火)① ６．感染症　：（一瀬）12/18(火)① ７．発達障害の診断と障害特性　：（全）1/8(火)① ８．その他[循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、内分泌・代謝疾患、膠原病・アレルギー疾患、血液疾患、泌尿生殖器疾患、精　　神疾患（心身症を含む）　：（宮垣）1/15(火)①			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J90014001
科目名	精神医学	単位数	1
科目名（英語表記）	Psychiatry		
担当者名	西川　隆	旧科目名称	
授業概要	精神医学は、精神の異常あるいは病的な状態の理解と治療を行なう診療科目である。本講義では、意識・思考形式・思考内容・欲動・気分・感情・自我意識などの精神症候に関する基本的概念と、小児・思春期・成人・高齢者の精神心理的特徴、パーソナリティ（人格）、精神評価、診断分類（ＩＣＤ、ＤＳＭ）、ならびに主要な精神疾患（統合失調症、気分障害、不安障害、物質関連障害、てんかん、摂食障害、睡眠障害）の特徴と治療、薬剤の副作用、メンタルヘルスについて概説する。		
教材（教科書）	『精神医学 マイテキスト 改訂 2 版』 （金芳堂） 武田雅俊 監　4,104 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	パワーポイントを活用し、適宜プリントを配布し、講義形式で行う。		
評価方法	定期試験（100％）		
到達目標	１．基本的な精神症状の概念を理解し、用語を正しく使用できる。 ２．精神疾患の分類体系を理解し、その概要を説明できる。 ３．代表的な精神疾患の特徴と病態、治療方針が理解できる。		
授業時間外学習	講義終了時に次回に講義する教科書の範囲を指定するので、熟読しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
医学・医療を学ぶにふさわしい厳粛な姿勢・態度で授業の場に臨んでいただきたい。			
授業スケジュール			
1. はじめに（精神医学・医療の重要性、精神医学の方法的特性） 2. 精神症候学（意識障害・幻覚・妄想・躁状態・うつ状態・自我意識障害） 3. 精神疾患各論①　統合失調症 4. 精神疾患各論②　気分障害（うつ病、双極性障害） 5. 精神疾患各論③　神経症性障害（不安障害、解離性障害、身体化障害） 6. 精神疾患各論④　小児・思春期精神障害（自閉症スペクトラム、てんかん、摂食障害、パーソナリティ障害） 7. 精神疾患各論⑤　器質性精神障害その他（物質関連性障害、認知症、睡眠障害） 8. 精神科治療総論（薬物療法、精神療法、身体療法）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90015001
科目名	リハビリテーション概論	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Rehabilitation		
担当者名	奥田　良樹	旧科目名称	
授業概要	リハビリテーションは、外傷および疾病により生じた機能障害、能力低下、社会的不利に対して、訓練や指導、社会的支援により、障害の回復と自立を促し、全人的な社会復帰を目指す取り組みである。本講義では、リハビリテーションの理念と歴史について、医療的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、教育的リハビリテーション、現代の日本の医療および福祉とリハビリテーションの現状を取り上げ、その課題について解説をする。		
教材（教科書）	『リハビリテーション総論　ＰＴ・ＯＴ・ＳＴ・ナースを目指す人のための要点整理と用語解説　改訂第２版』　（診断と治療社）　椿原彰夫　著　3,888 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義内容のスライドを用いて、講義形式で行う。		
評価方法	1．講義と臨床実習では必ず出席をとる。適時実施される小テスト、レポートを評価に加味する。 ２．系統講義終了時の定期試験を行う。追再試験も同様とする。 ３．総合成績評価		
到達目標	１．リハビリテーションの概念を理解する。 ２．運動器障害、脳血管障害、内部障害、摂食嚥下障害のリハビリテーションについての基礎知識を理解する。 ３．リハビリテーションチーム医療の重要性について理解する。 ４．最新のリハビリテーション医療について理解する。		
授業時間外学習	講義内容のスライドと教科書内の該当する部位を復習しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
能動的な姿勢で講義に出席するように心がけてもらいたい 各講義後に確認の小テストを実施する			
授業スケジュール			
１．リハビリテーション概論１ ２．リハビリテーション概論２ ３．リハシステム ４．障害評価１ ５．障害評価２ ６．理学療法 ７．作業療法 ８．義肢装具療法			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90016001
科目名	リハビリテーション医学	単位数	2
科目名（英語表記）	Rehabilitation Medicine		
担当者名	共通使用	旧科目名称	
授業概要	リハビリテーション医学は、疾病の医学的治療によって回復できない、身体および精神の能力低下や社会的不利に対して、専門的な訓練と指導により、社会復帰と参加を促進する取り組みである。本講義では、リハビリテーションの評価と治療の枠組み、チーム・アプローチと各職種の役割（医師、看護師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、メディカルソーシャルワーカー、運動指導士他)、リハビリテーションでの基本的な評価と治療 の方法を解説する。また理学療法士、作業療法士、義肢装具士に講義に来ていただいて、実務について理解を深める。		
教材（教科書）	『リハビリテーション総論 ＰＴ・ＯＴ・ＳＴ・ナースを目指す人のための要点整理と用語解説 改訂第 2 版』 （診断と治療社） 椿原彰夫 著 3,888 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	1. 講義と臨床実習では必ず出席をとる。適時実施される小テスト、レポートを評価に加味する。 ２．系統講義終了時の定期試験を行う。追再試験も同様とする。 ３．総合成績評価		
到達目標	1. リハビリテーションに関与する各疾患について理解を深める。 2. 運動器リハビリテーションについては特に知識を得る。 3. リハビリテーション関連職種（理学療法士、作業療法士）の業務内容について理解を深める。		
授業時間外学習	講義内容のスライドと教科書内の該当する部位を復習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義中は私語は行わない。
質問事項があれば適宜これを受ける。
各講義後に確認の小テストを実施する。
リハビリテーションについて興味を抱いていただきたい。

授業スケジュール

1. 運動器リハビリテーション（1） （奥田）：4/12(木)
2. 作業療法の実際 作業療法士にて(1) （八田）：4/19(木)
3.関節リウマチ （八田）：4/26(木)
4. 理学療法の実際 理学療法士にて （八田）：5/10(木)
5.作業療法の実際 作業療法士にて(2) （八田）：5/17(木)
6. 切断・神経筋疾患 （八田）：5/24(木)
7. 高次脳機能障害 （奥田）：5/31(木)
8. 発達障害・CP （八田）：6/7(木)
9. 骨粗鬆症 （八田）：6/14(木)
10. 作業療法の実際 作業療法士にて(3) （八田）：6/21(木)
11.脊髄損傷 （内座）：6/28(木)
12. 運動器リハビリテーション（２） （八田）：7/5（木）
13. 関節疾患・アスリハ・障碍者スポーツ （八田）：7/12(木)
14. 慢性疼痛・生活習慣病 （内座）：7/19(木)
15. 講義内容まとめ （八田）：7/26(木)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期 待	−	−	★	−	★	★

年度	2018	授業コード	J90017001
科目名	音声学	単位数	2
科目名（英語表記）	Phonetics		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
授業概要	ヒトが話すことは、社会生活を送るうえで欠かせない。話すことは、言語という信号を話し手が発信することであり、聞き手が受信をすることで音声コミュニケーションは成立する。音声学は、ヒトの話し言葉（音声言語）の科学であり、音声言語の生成と知覚についての学問である。音声言語の特徴を理解することで、日常や仕事での良好なやりとりのための条件を知ることができる。本講義では、ヒト音声の基本的事項（分節と変動）と日本語音声の特徴（母音と子音、超分節）を提示する。ヒトの身体がどのように音声信号を生み出すのか、ヒトはどのようにして連続的な音信号から言葉を解読するのか、代表的な実験を紹介しながら、科学的な疑問と解決の筋道を提示する。		
教材（教科書）	『聞くと話すの脳科学』　（　コロナ社）　廣谷定夫編著　3780 円		
教材（参考資料）	『実践音声学入門』　（大修館）　ジョン・キャットフォード　著　2,916 円 『基礎から学ぶ 音声学講義』　（研究社）　加藤重広・安藤智子　著　2,916 円 『新ことばの科学入門（医学書院)』　廣瀬肇　訳　6，696 円		
教育方法	適宜、資料を配布し、講義形式で行う。		
評価方法	定期試験（100％）		
到達目標	１．音声学の基本的事項（母音と子音、言語音の生成と知覚）を理解する。 ２．ヒト音声の理解のために行われてきた諸実験（方法、結果、考察）を知る。 ３．日常の音声言語コミュニケーションの現象を説明できる。		
授業時間外学習	講義の内容を復習する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回の講義で示される内容（背景、疑問と実験、用語等の解説、現象の説明）を整理しておくこと。			
授業スケジュール			

（1）音声学 phonetics の世界

1．　音声学の領域と応用、音声学者　　シネマ：「マイフェアレディ」（前半）
2．　音素と音声、異音、音声記号 IPA　　シネマ：「マイフェアレディ」（後半）
3．　音声生成の仕組み：　呼吸・発声、共鳴、構音　　神経系・運動・声道空気力学
4．　言語音（母音と子音）の生成と知覚　　音声信号を見る、「分節の問題」と逆転音声

（2）音声生成と知覚の諸実験

5．　母音の生成　　音声の音響理論、声道モデル、音響分析、Fant の研究
6．　子音の出し分けと識別　　調音点が異なる子音の音響情報の違い　　Stevens らの実験
7．　音環境（前後の音）の影響　　パラトグラムでの観察、構音（運動）の変動　Daniloff の実験
8．　連続音声の理解　　知覚修復　　Warren の実験、視聴覚情報の統合　McGurk 効果
9．　選択的注意と適応行動　　Cocktail Party 効果、騒音下での声＝　Lombard 効果

（3）日常の音声言語コミュニケーションの諸現象

１０．　音声（言語）の発達　　子音　Eimas の実験　、母音　Kuhl の実験 、子音の獲得（順序性）
１１．　話しことばの速さ　　News キャスター、最大能力との関係、話芸　『志の輔落語』
１２．　言い誤りの起源　　スピーチエラーの種別、　早口言葉、　いいまつがい（糸井重里）
１３．　言語特有の分節・超分節特徴　　2Ｌ学習（特殊音素と抑揚)、外国人の日本語発話、世界言語
１４．　音声情報からの話者認識　　犯罪捜査での利用、話者の年齢当て、老人音声の特徴
１５．　音声の自動認識　　機械・ソフトウエアによる音声認識、日本語辞書

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★★	−	★	★

年度	2018	授業コード	J90018001
科目名	高次脳科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Higher Brain Mechanism		
担当者名	西川　隆	旧科目名称	
授業概要	大脳は、ヒトが複雑な社会を発展させ、その環境に適応した生活を営む過程で進化してきた器官であり、思考、言語、記憶、認知、行為などの高次の機能を司っている。脳の活動と働きは、ｆＭＲＩ 等の画像診断法や検査課題により、近年飛躍的に理解が進んでいる。本講義では、脳神経系の階層的な構造と機能分化に関する基本的知識を解説し、大脳半球の機能的特異性、言語・記憶や認知・行為の実現と異常、未知の課題について論じる。		
教材（教科書）	『脳血管障害と神経心理学 第 2 版』 （医学書院） 平山惠造・田川皓一 編 12,960 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	パワーポイントを活用し、適宜プリントを配布し、講義形式で行う。		
評価方法	定期試験（100％）		
到達目標	１．大脳の解剖生理学的概説が理解できる。 ２．高次脳機能障害の原因病巣と症状、診察方法が理解できる。		
授業時間外学習	講義の内容について、事前にテキストを読んで予習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
医学・医療を学ぶにふさわしい厳粛な姿勢・態度で授業の場に臨んでいただきたい。			
授業スケジュール			
１．はじめに、神経系の進化・発達概説 ２．大脳の解剖生理学的概説（4 つの頭葉の機能分化、大脳の階層構造、主要な機能系） ３．病因からみた神経心理学（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血と高次脳機能） ４．病変部位別の高次脳機能障害の症状①　前頭葉 ５．病変部位別の高次脳機能障害の症状②　頭頂葉 ６．病変部位別の高次脳機能障害の症状③　後頭葉 ７．病変部位別の高次脳機能障害の症状④　側頭葉 ８．画像診断			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90019001
科目名	臨床心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Psychology		
担当者名	山添　正	旧科目名称	
授業概要	臨床心理学は、病気や障害を経験した、また、している人に働きかけることを焦点化した心理的な処遇に関する学問である。 つまり心の健康について、人間の一生を通しての人間の心理的な健康の促進や、適応スキルの向上、そして人格の成長をなどについての心理学的理論と実践方法を学ぶ。 本講義では、様々な現代日本人が抱えている心理的病気や不適応上の問題に関するアセスメント方法治療方法、そして予防方法についてのさまざまな理論と実践について学ぶ。		
教材（教科書）	『臨床心理学のすべてが分かる本』　（ナツメ社）　松原達哉　編著　１６００円		
教材（参考資料）	菅　佐和子編著　２００４年　「医療現場に生かす　臨床心理学」　朱鷺書房　１６００円		
教育方法	毎回、教科書のテーマン関連する DVD の視聴をする事で、教科書の理解を助ける。		
評価方法	授業の最後に毎回行う作文６０％、レポート４０％。評価方法については、勉強方法と関連しているので授業の始めに説明します。臨床心理学の勉強は客観的に進める方法と主観的に進める二つの方法があります。本講義は、後者の方法をとっていますので、勉強法の理解が大切になります。		
到達目標	現代日本人が抱えている心理的病気や不適応上の問題に関するアセスメント方法、治療方法、そして予防方法につ基礎的な知識を学習し、自分の生活に当てはめて其の理解を深める。		

授業時間外学習

回数	２０１８年	章のタイトル	内容	ページ
1	4 月 12 日	はじめに	なぜ臨床心理を学ぶのか	P8－１７
2	4 月 19 日	臨床心理学の理解	臨床心理学の定義と歴史	P１８－２９
3	4 月 26 日	臨床心理学の基礎知識	力動論フロイトとユング	P　３０－４９
4	5 月 10 日	心理的な諸問題１	神経症・精神障害	P５４－５７
5	5 月 17 日	心理的な諸問題２	パニック障害	P５８－６１
6	5 月 24 日	心理的な諸問題３	統合失調症	P７８－８７
7	5 月 31 日	心理アセスメント１	知能検査	P１０８－１１３
8	6 月 7 日	心理アセスメント２	性格検査	P１１４－１２１
9	6 月 14 日	心理アセスメント３	その他の心理検査	P１２２－１２４
10	6 月 21 日	心理療法の諸技法１	体験・関係的アプローチ	p１４４－１４５
11	6 月 28 日	心理療法の諸技法２	認知・行動的アプローチ	p１５２－１５３
12	7 月 5 日	心理療法の諸技法３	家族システム的アプローチ	p１８４－１８５
13	7 月 12 日	コミュニティ援助	セルフヘルプ	P１８２－１８３
14	7 月 19 日	臨床心理学の実践	倫理	P２４６－２４８
15	7 月 26 日	おわりに		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学んだ臨床心理学的知識を自分の生活の中に生かす事を本講義の目標としていますから、単に受け身の学習でなく、主体的な学習態度が大切です。そのために、授業の最後に毎回実施する作文を書くために、授業中、または DVD 視聴中に感じたり、考えた事をメモする癖を付けてください。

授業スケジュール

回数	２０１８年	章のタイトル	内容
1	4 月 12 日	はじめに	なぜ臨床心理を学ぶのか
2	4 月 19 日	臨床心理学の理解	臨床心理学の定義と歴史
3	4 月 26 日	臨床心理学の基礎知識	力動論フロイトとユング

4	5 月 10 日	心理的な諸問題 1　神経症・精神障害
5	5 月 17 日	心理的な諸問題 2　依存症・適応障害
6	5 月 24 日	心理的な諸問題 3　トラウマ・発達障害
7	5 月 31 日	心理アセスメント 1 知能検査
8	6 月 7 日	心理アセスメント 2 性格検査
9	6 月 14 日	心理アセスメント 3 その他の心理検査
10	6 月 21 日	心理療法の諸技法 1 体験・関係的アプローチ
11	6 月 28 日	心理療法の諸技法 2 認知・行動的アプローチ
12	7 月 5 日	心理療法の諸技法 3 家族システム的アプローチ
13	7 月 12 日	コミュニティ援助　セルフヘルプ
14	7 月 19 日	臨床心理学の実践　倫理
15	7 月 26 日	おわりに

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	−

年度	2018	授業コード	J90020001
科目名	発達心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Developmental Psychology		
担当者名	吉田　絵美	旧科目名称	
授業概要	発達心理学は、人の心の発達的変化を研究する心理学の一分野であり、その内容には受胎から死まで人の一生の道筋が含まれる。発達は、自分自身や身近な人々に常に起こっている事柄でもある。本講義では、受講者自身の身近な問題と関連させながら、人間の心理や行動がどのように発達するかということと、発達が人間の社会生活とどのように結びついているかについての理解を深める。人間の発達の可塑性の大きさを実感し、自身の過去・現在・未来の生き方を発達的な視点から捉える姿勢を養うことを目標とする。		
教材（教科書）	『よくわかる発達心理学　第 2 版』（ミネルヴァ書房）　無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）　2,700 円		
教材（参考資料）	『図で理解する発達 新しい発達心理学への招待』（福村出版）　川島一夫（編）　2,484 円 『キーワードコレクション 発達心理学　改訂版』（新曜社）　子安増生・二宮克美（編）　2,592 円		
教育方法	講義形式で行う。		
評価方法	定期試験（50%），授業内小テスト（50%）		
到達目標	1. 人間の発達に関する基礎的な考え方を理解し説明できる 2. 人間の誕生から死に至るまでの発達の過程を理解し説明できる 3. 各々の発達段階（乳児期，幼児期，児童期，青年期，成人期，老年期）にある連続性を説明できる		
授業時間外学習	1.教材（テキスト）を講義の前後に読み、ノートをつくること。 2.講義終了後に次回実施の小テストの予告をするので、指定範囲の復習をし備えること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
上記の到達目標が達成できるよう努めてもらいたい。また、新聞やニュース（特に子ども関係のトピックス）に目を通す習慣をつけ、講義で紹介された知識と現実社会とのリンクをより強固なものにすること。			
授業スケジュール			
1.　発達心理学とは何か 2.　発達の規定要因：発達の持つ性質、発達における遺伝と環境の問題 3.　発達段階と発達課題：初期経験の重要性、発達段階と発達課題の考え方 4.　新生児期・乳児期(1)：乳児の認知能力の発達、視覚の発達、行動の特徴 5.　新生児期・乳児期(2)：人見知り、乳児の気質、愛着の形成と親子関係 6.　幼児期(1)：乳児期～幼児期のことばの発達過程 7.　幼児期(2)：乳児期～幼児期の自我・自己の発達、第一反抗期 8.　幼児期(3)：認知・思考の発達、ピアジェの認知発達論、幼児期の思考の特徴 9.　幼児期(4)：遊びの発達と心の理論 10.　児童期(1)：児童期の仲間関係の発達、集団成員間の人間関係 11.　児童期(2)：「読み書き計算」の能力の発達、道徳性の発達 12.　思春期・青年期(1)：思春期・青年期の認知の発達 13.　思春期・青年期(2)：自我同一性と社会性の発達 14.　成人期・老年期(1)：　成人期、老年期の特徴、家庭生活と職業生活 15.　成人期・老年期(2)：成人期・老年期の知的機能、死への準備			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90021001
科目名	学習・認知心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning and Cognitive Psychology		
担当者名	竹島　康博	旧科目名称	
授業概要	人は，学習によって知識やスキルを身につけ，環境に適応している。本講義では，人間がどのように外的環境を捉えているのか，それに基づいてどのように新しい行動や知識を獲得していくのか，という問題が扱われている。本講義では，感覚・知覚，学習，記憶，思考といった学習・認知心理学の主要なトピックについて取り上げ，人間の認知システムの仕組みおよび特性について理解を深める。人間および日常生活について，認知心理学的な視点から理解を深めることを目標とする。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	『認知心理学』箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原茂 著 有斐閣 3400 円 『認知と感情の心理学』高橋雅延 著 岩波書店 2600 円 『行動の基礎 改訂版』小野浩一 著 培風館 2600 円		
教育方法	スライドを使用した講義を基本とし，適宜簡単な実験などの実習を実施する。		
評価方法	平常点（50%）出席状況，授業態度による評価。定期試験（50%）。		
到達目標	1. 認知心理学的研究方法（考え方）を理解する。 2. 人間の認知機能についての仮説，理論を理解する思考力を身につける。 3. 人間の認知機能について見につけた知識や考え方を日常に活かす。		
授業時間外学習	適宜，一回前の授業の終わりに指示する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
上記 3 つの到達目標を達成できるよう努めてもらいたい。なお，授業計画は予定である。受講状況等に応じてある程度変更する可能性がある。			
授業スケジュール			
1. 授業のガイダンス・心理学の歴史とその研究方法 2. 感覚・知覚（1）：視覚のしくみと特徴 3. 感覚・知覚（2）：高次な視覚認知 4. 感覚・知覚（3）：多感覚処理 5. 認知（1）：視覚パターンと顔の認知 6. 認知（2）：感性認知 7. 記憶（1）：記憶のしくみと性質 8. 記憶（2）：日常における記憶 9. 注意：注意のしくみ 10. 感情：感情の生起過程 11. 学習（4）：動機づけと情動 12. 学習（1）：レスポンデント行動 13. 学習（2）：オペラント行動 I 14. 学習（3）：オペラント行動 II 15. 思考：思考・問題解決			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	★★

年度	2018	授業コード	J90022001
科目名	カウンセリング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Methods in Counceling		
担当者名	山添　正	旧科目名称	
授業概要	カウンセリングは、クライエントとカウンセラーの相互作用を通して、クライエントが本来持っている成長力を回復し、自己実現を援助することである。 そのために、まずカウンセリングの過程が、クライエントとカウンセラーの出会いから始まり、治療的関係が形成され、その作業がどのように進むかを学習する。 受講学生がクライエントという自分の話を聞いてもらうクライエントの立場で訓練を実施し、其の事を通して傾聴してもらう側からの意義を理解し、またカウンセラーの立場での訓練を受ける事で、傾聴する側としてのカウンセラーの役割の理解、また人をケアするという人としてのあり方と倫理そしてさまざまな理論のテクニックの理解を深める。		
教材（教科書）	『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術と理論』（金子書房）　ジェラルド・コーレイ　著		
教材（参考資料）	松井紀和　　２００１年　「カウンセリングを学ぶ人のための　心理療法の基礎と実際」 NPO カウンセリング教育サポートセンター		
教育方法	『コーレイ教授の統合的カウンセリングの技術　　理論と実践』　（DVD 版）　ジェラルド・コーレイ		
評価方法	授業の最後に毎回行う作文内容（変化と気づき）６０％、レポート４０％。評価方法のポイントは、他の学問と少し異なります。カウンセリングの勉強は客観的知識の増加よりも、自分の行動変化と自分や相手に対する気づきに重点を置いています。		
到達目標	相手の話を傾聴する（カウンセラー）体験と話をして聞いてもらう（クライエント）体験という実際の経験（ロールプレイ）を通して、人と向き合う力、そして人の話を聞く力、そして自分の気持ちを話す力をつけることを目標としている。授業は毎回異なる相手とペアになり、たくさんの同級生とペアで聞く・話すという機会を設けます。		
授業時間外学習	1　9 月 25 日　はじめ　ｐ３－２２ 2　10 月 2 日　治療関係　ｐ２３－３９ 3　10 月 9 日　目的　ｐ４０－５２ 4　10 月 16 日　多様性 ｐ５３－６８ 5　10 月 23 日　抵抗　ｐ６９－８７ 6　10 月 30 日　認知　ｐ８８－１０２ 7　11 月 6 日　感情　ｐ１０３－１１７ 8　11 月 13 日　行動　ｐ１１８－１３２ 9　11 月 20 日　統合　ｐ１３３－１５２ 10　11 月 27 日　転移　ｐ１５３－１５９ 11　12 月 4 日　逆転移 ｐ１６０－１６９ 12　12 月 11 日　過去と現在　ｐ１７０－１８１ 13　12 月 18 日　決断と行動変化　ｐ１８２－１９３ 14　1 月 8 日　評価と終結　ｐ１９４－２０４ 15　1 月 15 日　まとめ		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回異なるペアとロールプレイをやります。全く未知の人と、向き合って話す事は日常的には事が起こった時以外、あまりないのですが、其のため緊張もあると思いますが、恥ずかしがらず、出来るだけ相手の目を見つめ、分からないときは、質問したり、話す時には感情を込めて話せるように努力してください。			
授業スケジュール			
1　09 月 25 日　カウンセリングのはじめ 2　10 月 02 日　治療関係 3　10 月 09 日　治療奥的の確立 4　10 月 16 日　多様性の理解と対応			

5	10 月 23 日	抵抗の理解と対処
6	10 月 30 日	カウンセリングにおける認知焦点化
7	11 月 06 日	カウンセリングにおける　感情焦点化
8	11 月 13 日	カウンセリングにおける行動焦点化
9	11 月 20 日	統合的視点
10	11 月 27 日	転移
11	12 月 04 日	逆転移
12	12 月 11 日	過去が現在に与える影響
13	12 月 18 日	決断と行動変化への作業
14	01 月 08 日	評価と終結
15	01 月 15 日	まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	–	–	–	–

年度	2018	授業コード	J90023001
科目名	社会保障論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Security		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	本講義では、社会保障の給付の負担と受益による分類、すなわち公的扶助、社会保険、社会扶助という三分類に沿って、それぞれの役割と方法について明らかにする。また、現代社会における社会保障の必要性についても多面的に考察する。さらに、社会保障の中でも今日特に重要な位置を占めている領域、つまり所得保障、医療保障、介護保障等の具体的制度と現状について詳説するとともに、今日の少子高齢化の進行とも関連付けながら、それぞれが抱える課題について検討する。		
教材（教科書）	授業中に資料を配布する。		
教材（参考資料）	社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』（中央法規出版） 足立正樹、井上久子（編）『社会保障の光と陰』（高菅出版）		
教育方法	毎回資料を配布する。資料には空欄を設けてあり、講義中にそこに入る適切な語句を指示する。学生は資料にそれを書き込むとともに、講義内容についてノートをとり、資料の内容を補足する。		
評価方法	授業内課題（45%）、期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の理念および制度について理解し、その今日的課題について考察するための視座を得ること。		
授業時間外学習	日ごろから各メディアで報じられる社会保障関係の情報に注意を払うこと。 配布する教材を予め熟読し、参考文献などを利用して空欄部分（重要単語等）を埋めておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
２．出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として単位を認定しない。特別な理由により途中退室する場合には、担当者に報告し指示を受けること。レポートの代筆など、その他の不正行為に対しても、上記同様に厳正に対処するので、絶対にしないこと。
３．資料配布は原則として授業中にのみ行う。

授業スケジュール

１．国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度
３．少子・高齢化の進行
４．医療保障の概念と方法
５．医療保険制度の概要
６．医療保険制度の現状と課題
７．高齢者介護をめぐる状況
８．介護保険制度の概要
９．介護保険制度の現状と課題
１０．所得保障の諸制度
１１．年金制度の概要
１２．年金制度の現状と課題
１３．社会保障の必要性
１４．社会保障の誕生と歴史的展開
１５．福祉国家の発展と危機

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90023002
科目名	社会保障論	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Security		
担当者名	平田　謙輔	旧科目名称	
授業概要	本講義では、社会保障の給付の負担と受益による分類、すなわち公的扶助、社会保険、社会扶助という三分類に沿って、それぞれの役割と方法について明らかにする。また、現代社会における社会保障の必要性についても多面的に考察する。さらに、社会保障の中でも今日特に重要な位置を占めている領域、つまり所得保障、医療保障、介護保障等の具体的制度と現状について詳説するとともに、今日の少子高齢化の進行とも関連付けながら、それぞれが抱える課題について検討する。		
教材（教科書）	授業中に資料を配布する。		
教材（参考資料）	社会保障入門編集委員会（編）『社会保障入門』（中央法規出版） 足立正樹、井上久子（編）『社会保障の光と陰』（高菅出版）		
教育方法	毎回資料を配布する。資料には空欄を設けてあり、講義中にそこに入る適切な語句を指示する。学生は資料にそれを書き込むとともに、講義内容についてノートをとり、資料の内容を補足する。		
評価方法	授業内課題（45%）、期末試験（55%）		
到達目標	社会保障の理念および制度について理解し、その今日的課題について考察するための視座を得ること。		
授業時間外学習	日ごろから各メディアで報じられる社会保障関係の情報に注意を払うこと。 配布する教材を予め熟読し、参考文献などを利用して空欄部分（重要単語等）を埋めておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．授業の妨げとなるので、私語、遅刻、途中退出、飲食はしないこと。
２．出欠管理システムの不正使用（学生証読取後の無断退室等）を厳禁し、不正使用者には原則として単位を認定しない。特別な理由により途中退室する場合には、担当者に報告し指示を受けること。レポートの代筆など、その他の不正行為に対しても、上記同様に厳正に対処するので、絶対にしないこと。
３．資料配布は原則として授業中にのみ行う。

授業スケジュール

１．国民生活と社会保障
２．社会保障の概念と制度
３．少子・高齢化の進行
４．医療保障の概念と方法
５．医療保険制度の概要
６．医療保険制度の現状と課題
７．高齢者介護をめぐる状況
８．介護保険制度の概要
９．介護保険制度の現状と課題
１０．所得保障の諸制度
１１．年金制度の概要
１２．年金制度の現状と課題
１３．社会保障の必要性
１４．社会保障の誕生と歴史的展開
１５．福祉国家の発展と危機

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90024001
科目名	保健医療情報学	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Medical Informatics		
担当者名	斎藤　真	旧科目名称	
授業概要	統計処理方法を理解し、健康の維持・増進、疾病予防への応用を目的として、保健衛生等の統計・検定・データの処理の実際を学ぶ。特に健康医療学部では、人々の健康に関連した指標、健康被害の予防から、出生・人口・死亡等を数値的に見る能力を養う。医療情報の活用方法を養った後、コンピューターソフトを体験的に活用することを通して、統計的処理法の基礎的知識を修得する。保健師教育では、健康診断や健康教育活動等の集計法や、数値の読み取りができる能力を養う。		
教材（教科書）	『やさしい保健統計学 改訂第 5 版』縣俊彦著（南江堂）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	レポート課題提出(20%)、試験(4 回、80%)		
到達目標	地域保健活動における統計学の知識・技術の活用ができる。統計解析ソフト SPSS(IBM)を用いて保健医療統計の練習課題を解くことができる。		
授業時間外学習	高等学校で履修した数学Ⅰ（データの分析)、数学 B（確率分布と統計的な推測）および春学期に履修した統計学を理解しておくこと。講義はコンピュータによる演習を含むため、パソコンおよび表計算ソフトウェア(Excel)の操作ができることを前提とする。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義は専用のノートを準備し、必要なことはノートをとること。講義後に復習を行い、疑問点を明らかにすること。講義の中で試験を 4 回実施するので、全てに出席すること。

授業スケジュール

1．保健医療統計学とは
2．記述統計（分布、代表値、ばらつき）
3．推測統計（推定と検定）
4．保健医療統計、記述統計、推測統計のまとめと試験①
5．SPSS の使い方（記述統計、クロス表）
6．正規性の検定（パラメトリックとノンパラメトリック）
7．t 検定（一標本、二標本対応なし、二標本対応あり）
8．分散分析（一元配置対応あり、一元配置対応なし）
9．パラメトリック検定のまとめと試験②
10．ノンパラメトリック検定（二標本対応なし、二標本対応あり）
11．カイ二乗検定（カイ二乗、2×2 分割表、残差分析）
12．ノンパラメトリック検定のまとめと試験③
13．相関と回帰（相関係数の有意性）
14．順位相関、偏相関
15．相関と回帰のまとめと試験④

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J90024002
科目名	保健医療情報学	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Medical Informatics		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
授業概要	統計処理方法を理解し、健康の維持・増進、疾病予防への応用を目的として、保健衛生等の統計・検定・データの処理の実際を学ぶ。特に健康医療学部では、人々の健康に関連した指標、健康被害の予防から、出生・人口・死亡等を数値的に見る能力を養う。医療情報の活用方法を養った後、コンピュータソフトを体験的に活用することを通して、統計的処理法の基礎的知識を修得する。保健師教育では、健康診断や健康教育活動等の集計法や、数値の読み取りができる能力を養う。		
教材（教科書）	『統計学の図鑑（まなびのずかん)』(技術評論社)　涌井良幸・涌井貞美 著 2,678 円		
教材（参考資料）	『いまさら誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ　1　まずは統計アレルギーを克服しよう！』(アトムス)　浅井隆　著　3,024 円 『いまさら誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ　2　結果の解釈ができるようになろう！』(アトムス)　浅井隆著　3,024 円 『いまさら誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ　3　研究の質を評価できるようになろう！』(アトムス)　浅井隆著　3,024 円 『「医療統計」わかりません！！』(東京図書)　五十嵐中・佐條麻里　著　3,024 円 『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』(北大路書房)　吉田寿夫　著　2,700 円		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業内課題（50%），各回演習内容（50%）		
到達目標	1. 基本的な統計学の知識を身につける。 2. 健康・医療・スポーツに関する統計資料を読んだときに，それが何を意味しているのか理解できる力を身につける 3. 健康・医療・スポーツに関する実験・調査データを自ら統計的に処理できる力を身につける		
授業時間外学習	1. 中学・高校で学んだ基本的な数学の知識を復習し，身につけておくこと（平均，平方根，分数，グラフ表現等)。 2. 毎回の授業の復習(演習データを用いて実際に処理する)を確実にすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. この授業では主に統計学を扱う。統計学とは，集団の傾向や性質を数量的に明らかにする学問である。算数・数学が苦手な者も，「楽しく」しかし「真剣に」取り組むこと。
2. 授業内での問題演習（課題）には「あせらず・あわてず・あきらめず」取り組むこと。
3. 授業中は授業中にしかできないこと（授業内容の理解）に努めること。
4. 毎回の授業内容が連続しており，復習しながらの積み重ね学習が重要であるため，欠席・遅刻・早退のないようにすること。
5. 授業内容に対する質問はその場で教員に直接して，理解を不十分なまま放置することがないようにすること。

授業スケジュール

1.　オリエンテーション：健康・医療・スポーツにおける統計学の役割
2.　データの整理：度数分布表・ヒストグラムの作成，相対度数の算出
3.　代表値と散布度：平均値，中央値，分散，標準偏差
4.　クロス集計：質的変数どうしの関連
5.　相関(1)：散布図，相関係数
6.　相関(2)：相関関係と因果関係，疑似相関
7.　統計的検定(1)：統計的検定の考え方，カイ 2 乗検定
8.　統計的検定(2)：平均値に関する検定（t 検定，分散分析）
9.　健康指標：死亡率，罹患率，有病率
10. 人口に関する統計：人口生態統計と人口動態統計
11 .保健統計資料の読み取り(1)：患者調査，国民生活基礎調査

12. 保健統計資料の読み取り(2)：学校保健統計調査，国民栄養基礎調査
13. アンケート調査の方法(1)：調査実施上の注意，調査方法の種類
14. アンケート調査の方法(2)：調査票の設計
15. まとめと考察：社会における保健医療情報の役割

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J90024003
科目名	保健医療情報学	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Medical Informatics		
担当者名	斎藤　真	旧科目名称	
授業概要	統計処理方法を理解し、健康の維持・増進、疾病予防への応用を目的として、保健衛生等の統計・検定・データの処理の実際を学ぶ。特に健康医療学部では、人々の健康に関連した指標、健康被害の予防から、出生・人口・死亡等を数値的に見る能力を養う。医療情報の活用方法を養った後、コンピューターソフトを体験的に活用することを通して、統計的処理法の基礎的知識を修得する。保健師教育では、健康診断や健康教育活動等の集計法や、数値の読み取りができる能力を養う。		
教材（教科書）	『やさしい保健統計学 改訂第 5 版』縣俊彦著（南江堂）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	レポート課題提出(20%)、試験(4 回、80%)		
到達目標	地域保健活動における統計学の知識・技術の活用ができる。統計解析ソフト SPSS(IBM)を用いて保健医療統計の練習課題を解くことができる。		
授業時間外学習	高等学校で履修した数学Ⅰ（データの分析)、数学 B（確率分布と統計的な推測）および春学期に履修した統計学を理解しておくこと。講義はコンピュータによる演習を含むため、パソコンおよび表計算ソフトウェア(Excel)の操作ができることを前提とする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義は専用のノートを準備し、必要なことはノートをとること。講義後に復習を行い、疑問点を明らかにすること。講義の中で試験を 4 回実施するので、全てに出席すること。			
授業スケジュール			
１．保健医療統計学とは ２．記述統計（分布、代表値、ばらつき） ３．推測統計（推定と検定） ４．保健医療統計、記述統計、推測統計のまとめと試験① ５．SPSS の使い方（記述統計、クロス表） ６．正規性の検定（パラメトリックとノンパラメトリック） ７．t 検定（一標本、二標本対応なし、二標本対応あり） ８．分散分析（一元配置対応あり、一元配置対応なし） ９．パラメトリック検定のまとめと試験② １０．ノンパラメトリック検定（二標本対応なし、二標本対応あり） １１．カイ二乗検定（カイ二乗、2×2 分割表、残差分析） １２．ノンパラメトリック検定のまとめと試験③ １３．相関と回帰（相関係数の有意性） １４．順位相関、偏相関 １５．相関と回帰のまとめと試験④			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J90025001
科目名	バイオメカニクス	単位数	2
科目名（英語表記）	Biomechanics		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
授業概要	地球上における人体の運動動作は物理的な作用を受ける。筋肉によって生み出された力は関節を介して骨に伝達され、重力に抗した様々な運動動作が生み出される。本講義では骨格筋の働きの仕組みから、骨の構造、巧みな関節の働きを学び、骨格筋の起始と停止を知ることで発揮される協調的な動きを理解する。これらの学びを基に、身近な運動動作を例題にして、人間の身体構造とその動きの素晴らしさを認識するとともに、身体運動発現のメカニズムを運動学および運動力学の両面から理解する。この講義は、学科関連系科目として設定されており、看護学科教員が、看護現場でのバイオメカニクス的な問題についても触れる。		
教材（教科書）	『スポーツバイオメカニクス』（化学同人） はじめて学ぶ　健康・スポーツ科学シリーズ４　宮西智久著 毎回の授業時に使うスライドは京学ナビからダウンロードの上、各自で印刷して授業に臨むこと。その他、表在筋肉・主な骨格・関節の起始・停止、働きなどについて著した資料を配布する場合がある。		
教材（参考資料）	解剖生理で用いたテキスト。『目で見る動きの解剖学』（大修館書店） ロルフ・ヴィルヘード 著 2,592 円、適時、講義内容に適した資料を紹介する。		
教育方法	この授業の前に基礎となる運動生理学、解剖生理学、などの知識が授業を進めるうえで重要になる。したがってバイオメカニクスに即した内容だけではなく、必要に応じて運動生理学や解剖学などを復習とバイオメカニクスに関連させて展開していく。そのために教科書だけではなく補足資料を印刷して配布するので保存しておくこと。またこの授業で学んだ知識は 2 年次での実験実習でも実践して行うので、そのことについても授業内で触れて関連性について記憶しておくこと。授業は教科書を主体にして進めるので準備すること。またスライドにて教科書の記載部分の図表などを映すが配布資料としては準備しない。場合によっては補足資料で配布資料は準備する。筋骨格やそれらの働きも重要であるので、配布資料で説明する。		
評価方法	定期試験（70%）、小テスト（30%）、		
到達目標	人体の骨格や筋肉の名称、関節の働きについての理解を深める。日常生活における例えば歩行やランニングにおける骨格筋の働きや、外部に発揮した力の変化を観察して、これらのメカニズムが説明できる。		
授業時間外学習	前期開講の「健康医療学概論」や、「解剖生理学」が基礎的な講義となるので、十分理解して本講義の受講に備えること。各回の授業終わりに次回の講義内容について説明するので、テキストに目を通して、不明な点などについて確認しておく。あるいは質問の準備とすること。講義の後はあらかじめ不明に思った個所や、専門用語について覚えるように工夫すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

物理学における力学が関係するが、理解しやすいように努める。スライドを中心に授業が進むが、ノートに書き留めること。必要な部分についてノートすることを指示するが、関心のある部分についてもしっかりノートすること。

授業スケジュール

1．スポーツバイオメカニクスの基礎１
　バイオメカニクスとは？、人の運動と”てこ”の関係、筋の付着部と関節軸との距離、筋肉って？、関節運動動作の定義
2．スポーツバイオメカニクスの基礎２
　骨格筋の収縮様式、筋電図って？、筋放電と力、運動単位、単収縮と強縮、骨格筋線維のタイプ
3．スポーツバイオメカニクスの基礎３
　骨格筋線維の種類と特徴、運動強度と運動単位の動員様式（サイズの原理）、筋の長さと張力との関係、筋の起始と停止
4．スポーツバイオメカニクスの基礎４
　見かけの力と真の力、骨の役割、骨のリモデリング、骨の構造と機能、関節の種類と構造、運動と力学の基礎、国際単位
5．スポーツバイオメカニクスの基礎５
　力の合成と分解、内力と外力、運動量と力積、運動の力学的エネルギー、関節トルクと関節パワー
6．スポーツバイオメカニクスの基礎６
　身体重心とは？、身体と重心および重心線、身体重心を求める方法、

7．スポーツバイオメカニクスの応用
良い動きのバイオメカニクス的原則：反動動作と振込動作、緩衝動作、歩行運動における効率、経済性と有効性
8．力学的エネルギーの基礎知識と動態
9．関節・運動器の機能（実際の身体動作と関連させて）
跳ぶということのバイオメカニクス（反動動作、ドロップジャンプホッピングなど）
１０．脳の構造と運動を支配する脳
脳動静脈、体性感覚野、１次運動野、神経のコントロール（動きのコントロールと反射による動作の調整）
１１．スポーツバイオメカニクスの実際１
陸上での運動・動作、歩行・走行運動のバイオメカニクス
１２．スポーツバイオメカニクスの実際２
水泳・水中運動のバイオメカニクス
１３．スポーツバイオメカニクスの実際３
跳躍運動・投球運動のバイオメカニクス
１４．スポーツ医学とバイオメカニクスによる貢献
１５．スポーツバイオメカニクス分析結果データーから理解できる事
A/D変換って？、力積、筋電図積分値

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90026001
科目名	エイジングと運動	単位数	2
科目名（英語表記）	Ageing and Exercise		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
授業概要	高齢者は、心身ともに健康で、いわゆるエイジレスな生活をしたいと願っている。しかし、ヒトは加齢とともに心身の機能低下を避けることはできない。本科目では、加齢に伴って生じる、形態、身体機能（体力・運動能力、呼吸循環機能、神経・筋機能、言語聴覚機能)、および心理面や生活機能の変化を正しく把握し、できる限りそれらの機能低下を防ぐための基礎理論を学修する。あわせて、超高齢社会の進行で増加する虚弱高齢者にも対応できるよう、介護予防の考え方や介護予防のための各種プログラムについても学修する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	東京大学高齢社会総合研究機構編著『東大がつくった高齢社会の教科』東京大学出版会、1800 円 鈴木隆雄著『超高齢社会の基礎知識』講談社現代新書、740 円		
教育方法	授業の中心は、パワーポイントとプリントを使用する講義形式で行う。また、高齢化や高齢者の健康問題では、視聴覚教材のを用いた最新情報の提供も行う。		
評価方法	ミニテスト（20%)、レポート（10%)、定期試験（70%）		
到達目標	加齢に伴って生じる、形態や身体機能、心理面・生活面での機能の変化とそれらの機能低下を防ぐための基礎理論を理解し、フレイルや要介護をできるだけ先延ばしする（介護予防）ための知識を身につける。		
授業時間外学習	授業の内容（レジュメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業 1 週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義には毎回出席し、意欲的に取り組んで欲しい。
毎回、授業の初めに、前回の内容についてのミニテスト（5 分以内でできる問題）を行うので、そのためにしっかり復習して欲しい。これは定期試験で役立つはず。
身近な高齢者に対して、健康面や生活面への気遣いができるようになって欲しい。

授業スケジュール

1.エイジングと運動を学ぶにあたって、基本的事項その①（ライフサイクルとエイジング）
2.エイジングと運動を学ぶにあたって、基本的事項その②（暦年齢と生物学的年齢、高齢化と寿命に関する各種指標）
3.生理的老化と病的老化（老化のメカニズム）
4.加齢に伴う身体的変化（生理機能の変化・高齢期の疾病）
5.加齢に伴う心理・精神的変化（認知・行動障害とそれへの対応）
6.高齢者の QOL（生き方・老い方）
7.高齢者の体力・運動能力（その 1）
8.高齢者の体力・運動能力（その 2）
9.口腔機能の加齢変化
10.高齢者の体力と生活機能・ADL・ロコモ
11.フレイルとサルコペニア
12.センテナリアンの生活からアンチエイジングについて考える
13.老化制御と運動
14.老化制御と栄養
15.まとめ（活力ある長寿超高齢社会に貢献する）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90027001
科目名	薬理学	単位数	1
科目名（英語表記）	Pharmacology		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	薬物治療における薬物動態と作用機序、薬剤の種類と投与方法、薬効に影響する因子、主な医薬品に関する基礎的知識を身につける。具体的には抗感染症薬、抗がん薬、免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、末梢神経系作用薬、中枢神経系作用薬、心臓・血管作用薬、呼吸器系作用薬、消化器系作用薬、ホルモン・生殖器系作用薬、皮膚科用薬、眼科用薬など種々の疾患における薬物治療の概要を理解するとともに、投与方法や副作用とその対策、医薬品の取り扱いに関する留意点を理解する。		
教材（教科書）	系統看護学講座　専門基礎分野 『薬理学：疾病のなりたちと回復の促進③』　吉岡充弘、泉剛、井関健　医学書院　2,300 円＋税		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	講義内容を印刷した資料を渡しそれについてパワーポイントで解説する。最後に演習問題を解くことによって知識を深める。		
評価方法	定期試験の成績により評価する。		
到達目標	疾病の病態と治療方針を学び、種々の医薬品の作用機序と使い方、副作用・相互作用を知ることにより、看護に必要な基礎知識を習得することを目標とする。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書 p.**から p.**まで）を指定するので、予習しておくこと。 また各回の講義終了後に確認問題を解くことにより復習をすること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
分からないことがあれば、講義中でも終了後でも構わないので、積極的に質問して欲しい。			
授業スケジュール			
1．薬理学総論（薬理学とは何か、薬が作用するしくみ、薬物動態、薬効の個人差） 2．抗感染症薬（抗生物質、抗結核薬、抗ウイルス薬など） 3．抗がん薬、免疫治療薬 4．抗アレルギー薬、抗炎症薬 5．末梢神経系作用薬（筋弛緩薬、局所麻酔薬など） 6．中枢神経系作用薬（全身麻酔薬、抗不安薬、パーキンソン治療薬など） 7．心臓・血管作用薬（高血圧、心不全、狭心症の治療薬など） 8．呼吸器系作用薬、消化器系作用薬、生殖器・泌尿器系系作用薬			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J90028001
科目名	疫学	単位数	2
科目名（英語表記）	Epidemiology		
担当者名	斎藤　真	旧科目名称	
授業概要	人間集団の健康問題を解決することを目指す公衆衛生において、必要な疫学の原理および基礎的方法について理解する。具体的には、疫学の目的と方法、人間の健康問題に疫学がどのように応用できるのかを理解する。また、罹病や死亡が公衆衛生においてどのように測定され、それらのデータがどのように活用されるかを知る。そして保健統計資料に基づき、疫学で用いられる健康指標、疫学調査法を集団の健康状態の把握や分析に活用する知識を修得する。		
教材（教科書）	初めて学ぶやさしい疫学　～疫学への招待～　（田中平三/秋葉澄伯）　（南江堂） 国民衛生の動向（厚生統計協会編）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	期末試験（70%）、小テスト（30%）		
到達目標	保健活動の意義と方法について理解し、説明することができる。 疫学の基礎的な理論と方法を活用し、看護ケアの質を高めることができる。 保健師の課程を履修する者は、将来保健師として地域保健活動へ応用することができる。 国民衛生の動向など、医療保健統計にるいて説明することができる。		
授業時間外学習	事前に統計学や保健医療情報学を履修することが望ましい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①専用のノートを用意し、教員の話す内容とともに板書を行うこと。
②小テスト 2 回行うので、必ず出席し、受験すること。
③専門用語が多く、計算問題もあるので、内容をよく整理して理解できるように各自が復習に努めること。

授業スケジュール

１．疫学とは
２．疫学で用いられる指標①
３．疫学で用いられる指標②
４．疫学調査の母集団と標本
５．小テスト①
６．スクリーニング
７．疫学の研究手法（記述疫学）
８．疫学の研究方法（分析疫学①）
９．疫学の研究方法（分析疫学②）
１０．因果関係、交絡因子、バイアス等
１１．小テスト②
１２．疫学で用いる統計的手法
１３．疫学の応用（臨床研究、倫理）
１４．　人口静態（出生、死亡統計、母子保健）
１５．まとめ（演習問題の解説）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90029001
科目名	看護学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Nursing		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
授業概要	看護とは何かを歴史的側面から概観し、看護の語源、起源、定義および看護の概念・目的を学修する。そこから看護の専門性について考察する。また、看護の対象者である人間の健康やそのライフサイクルを踏まえた健康問題、人間のニードを理解するとともに、看護の提供者の活動領域とその内容、看護の倫理、看護管理、幅広く展開する看護活動についても理解する。さらに、看護の変遷を通して、看護理論について学修し、看護学の展望を概観する。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　看護学概論』　（医学書院）　茂野香かおる　2,400 円 『看護の基本となるもの』　（日本看護協会出版社）　ヴァージニア・ヘンダーソン、湯槙ます　1,000 円 『対訳　看護覚え書』　（うぶすな書院）　フローレンス・ナイチンゲール、小林章夫　2,600 円		
教材（参考資料）	『看護理論集』　（日本看護協会出版会）　ジュリア・Ｂ・ジョージ 、南裕子　3,900 円		
教育方法	ビデオ教材、パワーポイントを活用する。		
評価方法	レポートと発表（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．看護とは何かを歴史的側面から捉え、看護の語源、起源、定義、看護の概念を述べることができる。 ２．看護の対象者である人間の健康やライフサイクルをふまえた健康問題、人間のニードを理解する。 ３．看護の提供者の活動、看護の倫理、看護管理について理解する。 ４．看護の変遷を通して、看護理論について動向や理論的側面を理解する。 ５．看護活動の広がりと展望を理解する。		
授業時間外学習	１．指定されたテーマに応じたレポートと発表を行えるよう準備する。 ２．「看護覚え書」についてのレポートを要約して提出する。 ３．人間のニードを理解し、自分のニードについて述べることができるよう準備する。 ４．「看護体験実習」に向けての看護の原点や環境の重要性を理解できるよう準備する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護学概論の学修は、自ら文献を読み、まとめ、自らの考えを私見として述べることが求められる。自分の看護に対する考えをまとめ、発表したり意見交換ができるようにする。

授業スケジュール

１．看護学ガイダンス： 看護とは何か、看護の概念、看護の定義
２．人間と健康、健康の概念、健康関連行動、家族とライフサイクル
３．看護の提供者
４．看護の倫理的活動
５．看護の変遷：古代、中世、日本の近世
６．看護の変遷：世界の近代
７．看護の変遷：ナイチンゲール「看護覚え書」にみる看護
８．看護の変遷： アメリカの看護史
９．看護の変遷：日本の近代、現代
１０．現代看護理論家達の業績（１）ニード論：ヘンダーソン
１１．現代看護理論家達の業績（２）相互作用論：ペプロウ
１２．現代看護理論家達の業績（３）システム論：オレム、ロイ
１３．看護の提供のしくみ
１４．看護管理、医療安全
１５．看護の活動の広がりと展望

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90030001
科目名	成長発達Ⅰ（小児の健康と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health Care Ⅰ: Pediatric Health　Nursing		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
授業概要	「子どもとその家族への看護と役割」を基本テーマに、子どもの看護についてイメージできることを目指す。小児看護の歴史的背景と展望、子どもの権利と擁護、子どもの成長発達の特徴とライフステージにおける小児期の意義と重要性、子どもと環境との関係、家族発達の基礎理論を学び、小児看護の理念・位置づけ・役割について理解する。子どもの権利と擁護についてはグループワークを中心に、成長発達の特徴についてはワークシートの作成を基本に理解を深める。		
教材（教科書）	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学　1　小児看護学概論・小児臨床看護総論』　（医学書院）　奈良間美保　2,800 円 『看護のための人間発達学』　（医学書院）　舟島なをみ　3,000 円		
教材（参考資料）	『親と子の心のカルテ』　（新興医学出版社）　前川喜平、井原成男　2,000 円		
教育方法	1．DVD 教材やパワーポイントを活用する。 2．適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	1．子どもの成長・発達に伴う身体的・心理的・社会的特徴を述べることができる。 2．小児看護に必要な成長発達理論について理解することができる。 3．子どもを取り巻く環境について理解することができる。 4．子どもの権利・擁護について考えることができる。 5．小児看護の理念・位置づけ・役割について理解できる。		
授業時間外学習	1．子どもの成長発達に関する基礎知識の獲得に向け、講義予定を示したシナリオを配布するので、シナリオに示されたテキストの講義予定範囲を読んで、授業参加すること。 2．子どもの食事の理解に向けて、市販の離乳食用食品・こども用おやつなどについて調べておくこと。 3．ワークシートの作成を予定しているため、ワークシートの完成のための資料収集をして授業参加すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
子どもの成長・発達と養育支援に関わる看護の役割について講義する。 子どもと子どもの看護についてイメージできるように DVD や写真を使用するが、街中などの生活の場で見かける子どもや親子の様子を観察するよう心がけてほしい。また、 子どもに関する新聞記事等のニュースについても関心を持って情報を得てほしい。			
授業スケジュール			
1．ガイダンス　小児看護の概念と理念・歴史と展望 2．小児看護における倫理と子どもの権利尊重について 3．子どもの成長・発達の概要 4．新生児期における養育と看護 5．乳幼児期における養育と看護 6．学童期・思春期における養育と看護 7．子どもと家族を取り巻く環境・社会と看護の役割 8．子どもの健康問題と看護の機能・役割			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J90031001
科目名	成長発達Ⅱ（成人の健康と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health Care Ⅱ: Adult Health Nursing		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
授業概要	成人期は人のライフサイクルの中で身体的、精神的に安定し、社会・経済的に大きな役割を背負っている世代といわれている。成人看護学は、人間、環境、健康、看護を思考の枠組みとした看護理論を応用し、生活をしてゆく人を主体に考えてゆくことにある。看護者は時代の変化に関係なく行われるヒューマンケアリングと時代の変化とともに変化する健康問題に対するケアリングの両方の役割を持っていることを学ぶ。主な内容は、成人看護の概念、成人保健の動向、成人各期の特徴と健康問題、成人期の健康障害と看護、成人看護に必要な看護理論である。		
教材（教科書）	成人看護学『成人看護概論　改定第二版』南江堂　2400 円		
教材（参考資料）	『成人看護学』　（医学書院）　黒田裕子　5,800 円 『国民衛生の動向』　（厚生統計協会）　2,315 円		
教育方法	・成人期の成長発達野特徴成人保健、成人期で使われる看護理論を講義する。 ・教科書、配布する資料に基づき講義する。 ・感想意見の記入：学生の学習の振り返りができるよう授業終了時に配布する『感想』の用紙に意見や感想を記入する		
評価方法	定期試験（80%）、課題レポート（20%）		
到達目標	1．成人の身体的・心理的・社会的特徴を理解できている。 2．現代における成人に生じやすい健康上の問題や成人看護の特性を理解している。 3．成人期の対象論について理解している。 4．成人看護学の構成を理解している。		
授業時間外学習	1．成人の発達課題について整理しておく。 2．ライフサイクルにおける、成人の位置づけと意義について整理しておく。 3．国民衛生の動向とテキストを参考にして、成人各期の特徴と健康問題について整理をしておく。 4．成人で活用できる看護理論を概観しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．事前に、テキストを読んでおき、疑問点や理解できない箇所を授業中に解決できるよう、積極的参加を求める。
2．日々、人々の健康に関して関心を持ち、新聞記事等で挙げられた健康問題などを読む習慣をつけることを要望する。
3．テキストの中での参考文献は可能なかぎり授業終了後、読んでおくこと。

授業スケジュール

1．成人期にある人の理解
2．生活と健康（成人の生活からとらえる健康・健康を守りはぐくむシステム）
3．成人への看護アプローチの基本
4．健康生活をはぐくむ看護
5．生活ストレスと看護
6．生活行動がもたらす健康問題とその予防
7．健康生活の急激な破綻から回復を促す看護と障害を持ちながらの生活とリハビリテーションについて
8．慢性的な揺らぎの再調整を促す看護から人生最後の時を支える看護について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90032001
科目名	成長発達Ⅲ（高齢者の健康と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health CareⅢ: Geriatric Health Nursing		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
授業概要	ライフサイクルからみた高齢者の身体的・心理的・社会的な変化および発達課題を学習することにより、高齢者の多様性や持てる能力について理解する。加えて、介護保険法や成年後見人制度などの社会制度や、高齢者虐待や身体拘束・身体抑制などの社会問題、介護家族の課題、健康長寿などを学習することにより超高齢社会にある我が国の高齢者を取り巻く課題について理解し、老年看護学が果たす役割と機能について学修する。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』（医学書院）北川公子　2,600 円		
教材（参考資料）	『国民衛生の動向』（厚生労働統計協会）　2315 円		
教育方法	パワーポイントによる講義、小テスト、DVD ビデオ教材視聴		
評価方法	「確認課題」20％　　定期試験 80％		
到達目標	1．ライフサイクルにおける高齢者の身体的・心理的・社会的な変化について理解できる。 2．高齢者の尊厳とはなにかについて考えることができる。 3．高齢者の発達課題について理解できる。 4．超高齢社会となった我が国の現状と課題について考えることができる。 5．高齢者を取り巻く医療、保健、福祉について理解できる。 6．高齢者看護が果たす役割と今後の課題について考えることができる。		
授業時間外学習	受講前に教科書の該当範囲を一読しておく		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

予習（教科書の一読）を徹底すること。
授業では、毎回『確認の課題』を配布します。終了時必ず提出してください。

授業スケジュール

1．超高齢社会における看護の役割
2．高齢者の発達と生活
3．高齢社会の保健、医療、福祉
4．高齢期の生理的変化
5．老年看護に関する理論
6．健康段階に応じた看護
7．高齢者とその家族への支援
8．高齢社会の倫理的課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90033001
科目名	成長発達Ⅳ（女性の生涯発達と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health CareⅣ: Maternal Health Nursing		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
授業概要	女性のライフステージ各期の特徴と健康問題、女性を取り巻く環境について理解する。女性とその家族の特性を身体的・心理的・社会的側面から捉え、その成長発達と健康生活を支援するための看護の役割を理解する。性と生殖、リプロダクティブ・ヘルス／ライツの考え方や母子保健事業、母子に関する保健・医療・福祉の動向及び今日的課題を学び、母性看護の役割を学ぶ。さらに、女性と子どもの人権について考え、それを擁護する看護職者の責務についても考察する。		
教材（教科書）	《系統看護学講座　専門分野Ⅱ》　『母性看護学[１]　母性看護学概論』　（医学書院）　森恵美　2,400円		
教材（参考資料）	『新体系看護学全書　母性看護学①母性看護学概論/ウイメンズヘルスと看護』　（メジカルフレンド社）新道幸恵　3,000 円		
教育方法	パワーポイントを活用する。必要時、資料の配布を行なう。		
評価方法	定期試験（80%）、提出レポート（20%）で評価する。		
到達目標	１．母性看護学の理解に必要な基本的知識を習得し、母性看護の役割を理解する。 ２．母子保健に関連する法律、施策、事業の概要を理解する。 ３．女性のライフサイクル各期の特徴と健康問題について理解する。 ４．リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する健康問題と、性と生殖における倫理的問題について学ぶ。		
授業時間外学習	「看護学概論」で学んだ概念を母性看護学の視点で考える科目なので、基本的知識を復習しておくことが必要です。また、「解剖生理学 B」の知識も必要なので復習しておくことが必要です。そして、テキストを開いて、目次を見て気になるところを読んでおくと、講義がわかりやすいと思います。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

少子高齢化社会の中で、次の世代を担う母子の健康への支援は重要な社会的課題となっています。具体的には、出生数の減少、子育て不安、子どもの虐待、地域における子育て機能の脆弱化などが指摘されています。女性や家族が安心して子どもを生み育てることができる環境づくりは、現代に必要とされています。そのため、少子化による影響や子育て支援、産科医療を取り巻く問題など、最近のニュースやマスコミで取り上げられる話題にも関心を持ってほしいと思います。母性看護学を学ぶことで、母子とその家族への看護だけでなく、自分自身の今後のパートナーとの関係やライフスタイルを考える機会となることを期待します。

授業スケジュール

１．＜項目＞母性看護学の基礎となる概念（１）　　：4/10　（火）③
　＜内容＞Ⅰ．母性看護とは
　　母性看護の対象と実践においての理念
　　Ⅱ．セクシュアリティ・ジェンダー
２．＜項目＞母性看護学の基礎となる概念（2）　　：4/11　（水）②
　＜内容＞ Ⅲ．母性のライフサイクルと発達課題
　　家族の発達と看護
　　Ⅳ．母性・父性の発達と親役割
　　母子をめぐる心理社会的問題とニーズ（子育て不安・児童虐待と看護）
３．＜項目＞母性看護の変遷と現状および関連の深い法律　　：4/17　（火）③
　＜内容＞母性看護の変遷と現状
　　１．日本の母子保健統計の動向
　　２．母性看護に関する法律
４．＜項目＞ライフサイクル各期の特徴と健康問題（１）　　：4/18　（水）②
　＜内容＞Ⅰ．思春期の健康と看護
　　１．性周期
　　２．思春期の健康問題（月経困難症・受胎調節法・人工妊娠中絶）

5．＜項目＞ライフサイクル各期の特徴と健康問題（2）　　：　4/24　（火）③
　＜内容＞Ⅱ．成熟期の健康と看護
　　子宮筋腫・子宮内膜症と看護
　Ⅲ．更年期の健康と看護
　　更年期障害
　Ⅳ．老年期の健康と看護
6．＜項目＞　リプロダクティブ・ヘルスケア(1)　　：4/25　　（水）②
　＜内容＞　リプロダクティブ・ヘルス／ライツ
　　1．リプロダクティブ・ヘルス／ライツとは
　　2．性感染症とその予防
　　3．人工妊娠中絶と看護
　　4．喫煙女性の健康と看護
7．＜項目＞リプロダクティブ・ヘルスケア(2)　　：5/8　　（火）③
　＜内容＞　　5．性暴力・ＤＶ(ドメステック・バイオレンス)を受けた女性への看護
　　6．ＨＩＶ感染の女性への看護
　　7．在日外国人と母性看護
8．＜項目＞母性看護と倫理　　：5/9　（水）②
　＜内容＞母性看護と倫理
　　1．親になることの意味（不妊症と看護）
　　2．人間の性と生殖における倫理的課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J90034001
科目名	成長発達Ⅴ（心の健康と看護）	単位数	1
科目名（英語表記）	Life Cycle Health Care Ⅴ: Psychiatric Nursing		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
授業概要	精神性的発達論・精神力動論・ライフサイクル理論における発達課題と病理について理解する。精神性的発達論・精神力動理論においては、自我機能、防衛機制、心的装置、パーソナリティの発達における病理を、ライフサイクル理論においては、生まれてから死に至るまでの一生のプロセス（人生周期）における危機、発達課題と病理を理解し、『人間』と『環境』の看護のパラダイムから、人間の生涯の発達成長を理解することができる。また、学修者自身の過去－現在－未来における自己洞察の一助とする。		
教材（教科書）	『精神看護学』　萱山真美　野田文隆 編（著）改訂第 2 版　南江堂版　2015		
教材（参考資料）	1　看護科学学会学術用語検討委員会編(2011)：看護学を構成する重要な用語集　2011 2　バーバラ・M. ニューマン , フィリップ・R. ニューマン ：新版 生涯発達心理学　川島書店　1988 3　Edwin R.ワレス：力動精神医学の理論と実際　医学書店　1999 4　ジョイス・ トラベルビー：人間対人間の看護 医学書店　1974		
教育方法	1　オリジナルの事前資料を１コマ目に配布するので、事前に熟読しておくこと。 2　視聴覚教材を効果的に活かし、現象を観察し、名前（概念）をつけ、それぞれの意味と特性を説明し、他の現象（概念）との関係（下位概念＜上位概念）が提示する。主たる概念は以下の通り。 ①　精神－性的発達論（フロイト）＜　パーソナリティの発達 ②　無意識・前意識・意識　＜　フロイトの局所論　＜　心的装置 ③　エス・自我・超自我　＜　心的装置　＜　フロイトの構造論 ④　８つの危機＜　ライフサイクル　＜　パーソナリティの発達 ⑤　不安、恐怖、悲嘆		
評価方法	授業内テスト（40%）、レポート（10%）、定期試験（50%）		
到達目標	1．精神性的発達論・精神力動論の概要と臨床への応用について理解できる。 2．ライフサイクル理論における発達課題について具体的に挙げることができる。 3．発達過程の規則性と各発達課題における病理を理解できる。 4．これらの理論を学ぶことにより、学習者自身の過去－現在－未来における自己洞察の一助となる。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の講義』内容とそれに相当するテキスの範囲を示すので、熟読しておく。 レポート課題は講義中に内容を示すので、指定期日まで提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1　授業中は携帯・スマホを使用しない。また、電源を切っておく。
2　私語を謹み、質問、不明瞭な点があれば、出席表に記載する。
3　出席表の問いに応え、その提出をもって、出席とする。
4　出席表は回収し、返却は致しません。ノート・メモなどして、何を書いたか思い起こしてください。
5　教員の指示を注意深く聞き、指定された問いのみ記載すること。
6　質問・意見などがあれば、出席表の余白に書いてください。質問については、後日、書面にてお答えします。

授業スケジュール

1．精神性的発達論
2．無意識と精神的諸力　心的装置（イド・超自我・自我）

3．パーソナリティ論、葛藤、性格．防衛機制
4．ライフサイクル理論の概要
5．乳幼児期、児童期の発達課題と病理
6．青年期の発達課題と病理
7．成人期の発達課題と病理
8．成熟期の発達課題と病理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90035001
科目名	日常生活基盤と看護	単位数	2
科目名（英語表記）	Fundamental Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
授業概要	看護活動の基本となる看護技術の中で日常生活援助技術を取り上げ、対象となる人の基本的ニーズを充足するための看護援助の基本的な方法およびその原理を学ぶ。看護実践に共通の基盤となる対象の安全性、安楽性、自立性、倫理性を考慮しつつ、既習の形態機能・生理学的知識に基づき、科学的根拠を用いた考え方を身につける。具体的には、活動・休息の援助、療養環境や清潔を整えるための援助、排泄を整えるための援助に関わる技術の習得を目指す。		
教材（教科書）	『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円 『新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ』　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円		
教材（参考資料）	『ﾅｰｼﾝｸﾞ・ｸﾞﾗﾌｨｶ基礎看護学③基礎看護技術』　（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕　3,600 円		
教育方法	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。プリントを配布する。		
評価方法	1．試験（90%）<筆記試験（60%）および実技試験（30%）> 2．演習記録の提出状況及び内容（10%）		
到達目標	1．看護技術の概念と意義が理解できる。 2．日常生活活動の概念及び支援する意義が理解できる。 3．エビデンスに基づいた安全、安楽な看護技術を提供するための基本原理を理解できる。 4．看護の対象となる人々の生活環境を整えるための基本的技術を身につけることができる。 5．ｱｾｽﾒﾝﾄに基づき、対象者に適した看護技術の提供について検討できる。		
授業時間外学習	既習科目「看護学概論」で学んだ看護の定義や理論、健康の概念を十分理解しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．シラバスを確認し、講義・演習に関連したテキスト及び参考文献にて事前学習を行った上で講義に参加すること。
2．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。
3．レポート等は、必ず期限を守って提出すること。

授業スケジュール

1．看護技術の意義と構造（講義）
2．看護に共通する基本技術（1）コミュニケーション（講義）
3．看護に共通する基本技術（2）生活環境の調整（講義１）
4．看護に共通する基本技術（2）生活環境の調整（講義２）
5．看護に共通する基本技術（2）ベッドメーキング（演習１）
6．看護に共通する基本技術（2）ベッドメーキング（演習２）
7．看護に共通する基本技術（3）観察（バイタルサイン測定）と記録（講義１）
8．看護に共通する基本技術（3）観察（バイタルサイン測定）と記録（講義２）
9．看護に共通する基本技術（3）バイタルサイン測定（演習１）
１０．看護に共通する基本技術（3）バイタルサイン測定（演習２）
１１．看護に共通する基本技術（4）姿勢と体位（講義１）
１２．看護に共通する基本技術（4）姿勢と体位（講義２）
１３．看護に共通する基本技術（4）体位変換（演習１）
１４．看護に共通する基本技術（4）体位変換（演習２）
１５．看護に共通する基本技術（4）移動と移送（演習１）
１６．看護に共通する基本技術（4）移動と移送（演習２）
１７．日常生活の援助技術（5）清潔の援助（講義１）
１８．日常生活の援助技術（5）清潔の援助（講義２）
１９．日常生活の援助技術（5）寝衣交換（演習１）
２０．日常生活の援助技術（5）寝衣交換（演習２）

２１．日常生活の援助技術（６）全身清拭（演習１）
２２．日常生活の援助技術（６）全身清拭（演習２）
２３．日常生活の援助技術（７）洗髪（演習１）
２４．日常生活の援助技術（７）洗髪（演習２）
２５．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義１）
２６．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義２）
２７．日常生活の援助技術（６）排泄介助（演習１）
２８．日常生活の援助技術（６）排泄介助（演習２）
２９．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義３）
３０．看護技術の対象への適用について（講義）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J90035002
科目名	日常生活基盤と看護	単位数	2
科目名（英語表記）	Fundamental Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
授業概要	看護活動の基本となる看護技術の中で日常生活援助技術を取り上げ、対象となる人の基本的ニーズを充足するための看護援助の基本的な方法およびその原理を学ぶ。看護実践に共通の基盤となる対象の安全性、安楽性、自立性、倫理性を考慮しつつ、既習の形態機能・生理学的知識に基づき、科学的根拠を用いた考え方を身につける。具体的には、活動・休息の援助、療養環境や清潔を整えるための援助、排泄を整えるための援助に関わる技術の習得を目指す。		
教材（教科書）	『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円 『新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ』　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円		
教材（参考資料）	『ﾅｰｼﾝｸﾞ・ｸﾞﾗﾌｨｶ基礎看護学③基礎看護技術』　（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕　3,600 円		
教育方法	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。プリントを配布する。		
評価方法	1．試験（90%）<筆記試験（60%）および実技試験（30%）> 2．演習記録の提出状況及び内容（10%）		
到達目標	1．看護技術の概念と意義が理解できる。 2．日常生活活動の概念及び支援する意義が理解できる。 3．エビデンスに基づいた安全、安楽な看護技術を提供するための基本原理を理解できる。 4．看護の対象となる人々の生活環境を整えるための基本的技術を身につけることができる。 5．ｱｾｽﾒﾝﾄに基づき、対象者に適した看護技術の提供について検討できる。		
授業時間外学習	既習科目「看護学概論」で学んだ看護の定義や理論、健康の概念を十分理解しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．シラバスを確認し、講義・演習に関連したテキスト及び参考文献にて事前学習を行った上で講義に参加すること。
2．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。
3．レポート等は、必ず期限を守って提出すること。

授業スケジュール

1．看護技術の意義と構造（講義）
2．看護に共通する基本技術（1）コミュニケーション（講義）
3．看護に共通する基本技術（2）生活環境の調整（講義１）
4．看護に共通する基本技術（2）生活環境の調整（講義２）
5．看護に共通する基本技術（2）ベッドメーキング（演習１）
6．看護に共通する基本技術（2）ベッドメーキング（演習２）
7．看護に共通する基本技術（3）観察（バイタルサイン測定）と記録（講義１）
8．看護に共通する基本技術（3）観察（バイタルサイン測定）と記録（講義２）
9．看護に共通する基本技術（3）バイタルサイン測定（演習１）
１０．看護に共通する基本技術（3）バイタルサイン測定（演習２）
１１．看護に共通する基本技術（4）姿勢と体位（講義１）
１２．看護に共通する基本技術（4）姿勢と体位（講義２）
１３．看護に共通する基本技術（4）体位変換（演習１）
１４．看護に共通する基本技術（4）体位変換（演習２）
１５．看護に共通する基本技術（4）移動と移送（演習１）
１６．看護に共通する基本技術（4）移動と移送（演習２）
１７．日常生活の援助技術（5）清潔の援助（講義１）
１８．日常生活の援助技術（5）清潔の援助（講義２）
１９．日常生活の援助技術（5）寝衣交換（演習１）
２０．日常生活の援助技術（5）寝衣交換（演習２）

２１．日常生活の援助技術（６）全身清拭（演習１）
２２．日常生活の援助技術（６）全身清拭（演習２）
２３．日常生活の援助技術（７）洗髪（演習１）
２４．日常生活の援助技術（７）洗髪（演習２）
２５．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義１）
２６．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義２）
２７．日常生活の援助技術（６）排泄介助（演習１）
２８．日常生活の援助技術（６）排泄介助（演習２）
２９．日常生活の援助技術（６）排泄の援助（講義３）
３０．看護技術の対象への適用について（講義）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J90036001
科目名	公衆衛生看護学概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Public Health Nursing		
担当者名	畑下　博世	旧科目名称	
授業概要	公衆衛生看護活動の歴史的変遷を知った上で、公衆衛生看護と地域社会との関連を考え、公衆衛生看護活動の必要性と役割を理解する。地域で生活する人々の健康課題や、健康問題の解決に向けたヘルスケアシステムについて学び、システムが円滑に機能するための看護職の役割について学修する。また、公衆衛生看護活動の対象や活動の場所といった、個人、家族、集団、地域の特徴を知り、対象に応じた基本的な看護展開について学修する。		
教材（教科書）	『標準保健師講座１　公衆衛生看護学概論』　（医学書院）　3,240 円		
教材（参考資料）	『国民衛生の動向』　（厚生労働統計協会）　2,500 円		
教育方法	授業で適宜提示する。		
評価方法	中間筆記試験（50%）、最終筆記試験（50%）		
到達目標	１．公衆衛生看護の活動領域と対象の特徴について説明できる。 ２．生活者である対象への健康支援の意義について説明できる。 ３．保健活動における法律や施策の重要性について説明できる。 ４．健康の保持増進に向けた公衆衛生看護の役割について考えることができる。 ５．国際社会における保健の意義と看護の役割について考えることができる。 ６．保健活動に必要な最新の情報を調べ、自身の見解を述べることができる。		
授業時間外学習	既修の「公衆衛生学」「社会保障論」の内容をよく復習しておくように。また、本科目は保健師課程のための学修というだけでなく、看護師として公衆衛生活動にいかに参画するかを考える科目であるので、「看護学概論」で学んだ看護の定義、看護の役割をもとに、自身の意見をのべられるよう準備しておくように。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ライフサイクルを通して健康増進や予防対策が実施され、社会情勢などの変化に応じて、その内容も変化する。いつも環境、看護、健康増進、予防を意識しながら他の講義や本講義に臨むように。

授業スケジュール

１．公衆衛生と公衆衛生看護の役割や機能
２．公衆衛生看護の歴史（その１国内）
３．公衆衛生看護の歴史（その２国外）
４．公衆衛生看護活動の場（保健所・市町村保健センター）とその特性
５．プライマリーヘルスケア
６．ヘルスプロモーション
７．公衆衛生看護活動と地域
８．公衆衛生看護活動と関連法規
９．公衆衛生看護と母子保健活動
１０．公衆衛生看護と成人・高齢者保健活動
１１．公衆衛生看護と多文化共生
１２．障がい者対策
１３．精神保健対策
１４．感染症対策
１５．歯科保健対策・健康危機管理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90037001
科目名	看護体験実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Fundamental Nursing: Clinical Practice Ⅰ		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
授業概要	早朝体験実習として看護が行われる場に赴き、施設の構造と機能、理念を知り、その中で看護専門職者がどのような役割と機能を持つか理解する機会とする。また、看護活動の実際を体験的に学ぶことを通して、看護の役割と機能を考察する。さらに、看護の対象となる人やその人をめぐる環境について考え、療養を受ける人の生活や思いへの理解を深める。これに加え、看護の実践者として必要な基本的態度を身につけるとともに、看護を学ぶ動機づけを図る。		
教材（教科書）	『系統看護学講座 看護学概論』　（医学書院）2015　茂野香：かおる他著 『看護の基本となるもの』　（日本看護協会出版社）2015　ヴァージニア・ヘンダーソン著 、湯槙ます訳 『対訳 看護覚え書』　（うぶすな書院）2015　フローレンス・ナイチンゲール著、小林章夫他訳 『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ』　（メヂカルフレンド社）　深井喜代子編集		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	なし		
評価方法	実習態度(40%)。 実習前レポート(10%) 実習後の記録とレポート提出と内容の評価(50%)。		
到達目標	1）施設の構造と機能、理念を学び、その中で看護専門職者がどのように機能しているかを知る。 2）看護活動の実際を体験し、看護の役割と機能を知る。 3）看護の対象者の療養環境を見学し、療養を受ける人の生活や思いについて知る。 4）臨地実習場面で看護学生として適切な行動がとれ、主体的に学習することができる。		
授業時間外学習	実習のオリエンテーション内容をよく理解しておく 健康状態を整えておく 実習の自己目標や事前学習をまとめて提出する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1）実習に対する態度として健康状態に注意を払い、感染予防行動をとる。
2）遅刻や欠席につて実習施設に必ず連絡し、対応する。
3）臨地実習では、対象者への安全な行動、秘守義務行動をとる。
4）実習出席日数は単位認定するには 80%であるため、欠席しないように自己管理する。
5）臨地実習場面では看護学生として礼節を重んじた行動をとる。
6）臨地実習では積極的な行動をとり、能動的に学習する。

授業スケジュール

【事前学習】（学内）
1．実習オリエンテーション
2．実習での課題を明確化し自己目標を立てる
3．実習中の注意事項を理解する

【実習期間のスケジュール】
1日目（学内）：臨地実習実施にあたってのオリエンテーション
2日目（臨地）：施設オリエンテーション（病院の概要・理念・構造、看護部の理念と組織）
　　病棟オリエンテーション（病棟の特徴・構造、看護体制、日課）
3日目（臨地）：対象者をとりまく環境の観察と看護活動への同行
4日目（臨地）：対象者とのコミュニケーションの体験、看護活動への同行
5日目（学内）：臨地での学びについてのグループ討議、合同カンファレンス、レポート作成

【事後学習】（学内）

1．実習で見学・体験した内容についてグループで討論する 2．実習で見学・体験した内容についてレポートをまとめる 3．実習における自己評価

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	J90038001
科目名	高齢者生活体験実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Gerontological Health Care Nursing: Clinical Practice		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
授業概要	健康な高齢者や健康障害を持ちながらも地域で暮らす高齢者とのコミュニケーションや触れ合いを通して、食事や入浴、さらに一日の過ごし方など生活の場における高齢者の生活の有り様や家族・社会とのつながりなどを知り、高齢者の多様性と個別性を具体的に理解し、地域で高齢者のために活動する多職種の役割について学修する。さらに、高齢者の人生の歩みを知り、その歩みが今の高齢者にどのように影響しているか、そしてその高齢者にとって幸せとは何か、どのような支援をするべきかなどについて思考する能力を身につける。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』（医学書院）北川公子　2,600 円		
教材（参考資料）	『認知症ケアガイドブック』（照林社）公益社団法人日本看護協会　2,500 円		
教育方法	−		
評価方法	学習内容・実習態度・記録物内容・カンファレンスでの参加姿勢・発表内容を評価表に沿って評価する		
到達目標	1．　高齢者施設の理念、機能、特徴を学び、多職種の共働について考えることができる 2．　高齢者への日常生活援助の実際を見学し、支援について考えることができる。 3．　高齢者の心身の加齢に配慮したコミュニケーションを工夫することができる。 4．　高齢者の生活の場における看護師の役割について考えることができる。 5．　高齢者の多様性と個別性を理解し、高齢者にとっての幸せについて考えることができる。		
授業時間外学習	1．　『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』（医学書院）P346～369 2．　高齢者施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、ケアハウス）の特徴について 3．　高齢者のコミュニケーションの特徴や障害について 4．　高齢者への生活援助（移動、食事、清潔、排泄、更衣）について 5．　高齢者の身体的加齢変化について		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
笑顔でのあいさつを心掛けましょう。あまり緊張せず、高齢者の方たちとゆっくり、楽しいひと時を過ごしてください。			
授業スケジュール			
1．　実習１日目：学内オリエンテーション＜実習目的・目標の確認、実習スケジュールの説明、実習記録の書き方、カンファレンスの持ち方、欠席やその他アクシデント発生時の注意＞ 2．　実習２日目：施設実習＜施設オリエンテーション、施設見学、高齢者とのコミュニケーション・交流、カンファレンス、ミーティング、記録＞ 3．　実習３～４日目：施設実習＜看護師・介護士の生活援助見学、高齢者とのコミュニケーション・交流、カンファレンス、記録 4．　実習５日目：学内最終日＜グループ討議、成果発表会、レポート・記録物提出＞		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2018	授業コード	J90039001
科目名	小児発達支援実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Child Developmental Nursing: Clinical Practice		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
授業概要	健康な乳幼児の身体的成長および精神発達の特徴と生活について学び、各発達段階における子どもの日常生活を構成する要素の特徴について、周囲のあらゆる環境側面から考察する。また、乳幼児保育の現場に参加し、その実際を経験し、子どもとの相互関係を通して、健康な乳幼児の身体的成長および精神発達と保育機能（保育の重要性及び役割）との関連と、大人としての子どもへのかかわり方を考える機会とする。グループ単位で保育施設にて 1 週間の実習を行う。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論・小児臨床看護総論』　（医学書院）　奈良間美保　2,800 円		
教材（参考資料）	『看護のための人間発達学』　（医学書院）　舟島なをみ　3,000 円 『0 歳～6 歳　子どもの発達と保育の本』　（学習研究社）　河原紀子　1,700 円 『新保育学』　（南山堂）　岡野雅子　1,900 円		
教育方法	京都府内における保育施設で実習を行う。 実習は各保育施設ごとにグループを組み、前半グループが 9 月 3 日～9 月 7 日、後半グループが 9 月 10 日～9 月 14 日で実施する。実習期間を通して各保育施設の同一クラスを担当し、保育士と共に成長発達段階に応じた子どもの生活の支援を体験する。実習最終日に各小グループ(保育施設）ごとに学びの共有を行うとともに、子どもの成長発達への養育的関わりの重要性を各グループワークでの学びを他の保育施設での実習グループへの発表とディスカッションを通して共有する。		
評価方法	4 / 5 以上の出席を原則とし、実習内容・態度・記録をもとに実習評価表に基づき総合的に評価する。 課題レポートを含む実習目標に対する到達度（80%）、実習参加態度（20%）		
到達目標	1．保育現場に参加し、健康な子どもの成長発達と保育機能との関連を説明できる。 2．子どもの日常生活を構成する要素の特徴を説明できる。 3．子どもへの有効なコミュニケーションを模索し、がむしゃらに子どもと楽しむことができる。 4．子どもにとっての遊びの重要性を理解し、遊びが生活の中心であることを記述できる。 5．子どもとの相互関係の中で、人間や生活に対しての好奇心、感受性を高まりを記述できる。		
授業時間外学習	成長発達Ⅰ（小児の健康と看護）での講義内容を基本に、実習で必要となる以下の項目について調べて、レポート用紙にまとめておくこと。 1．小児の成長発達過程表（食事・排泄・更衣・遊び・情緒・認知の発達）の作成 2．子どもの成長発達評価方法（日本語版デンバー式発達判定法）について 3．遊びの発達（0 歳から 5 歳まで)応じた遊びの種類と玩具について 4．乳幼児の身体計測方法（身長・体重）について 5．乳幼児期（0 歳～5 歳）の特徴、集団保育の意味について、参考文献を熟読して得た学びについて		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・小児発達支援実習は、保育施設での実習である。実習前には、小児感染症に対する感染予防に向けて、必要に応じて抗体検査や予防接種等の実施をしておくこと。
・子どもとの遊びや生活支援では体力が求められるため、健康管理に十分注意し、体調を整えて実習に参加すること。常日頃から、規則正しい生活を行い、生活をコントロールし、体力・精神力を鍛えておくこと。また実習中の RECOVER の方法に留意すること。
・子ども達と一緒に行動するので、動きやすく、汚れてもよい、洗濯のきく服装を準備すること。保育施設での着替えを用意しておくこと。
・保育施設での実習は教員が複数施設を担当するため、教員の指導は、巡回時での指導となる。十分な事前学習を行い、担当保育士との連絡・報告・相談を積極的に行ない、実習すること。

授業スケジュール

1．　実習 1 日目：実習オリエンテーション（各実習保育施設）

2． 実習２～４日目：各グループごとに「保育園」で、遊びや設定保育への参加を通して子どもと関わり、 コミュニケーションをとるとともに、子ども同士の関わりを観察する。また、乳幼児の生活場面の観察と日常生活の世話を実践するとともに、乳幼児の反応や保育士の関わりを観察する。 ※日々の実習記録を記載する中で、学習内容の整理をする。 ３．実習５日目：カンファレンス（学内） 受け持ちクラスの基本的な発育（身体、情緒、社会性の発達など）の特徴、目の当たりにした子どもの能力のすばらしさ、保育の重要性と保育者の資質との関係などを自由に発表、ディスカッションし、理解を深め、実習記録に記す。 ※実習中の自分と子どもの関わりの具体的場面を振り返り、「子どもへのかかわり方」を考察し実習記録に記す。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J90040001
科目名	疾病病態学と看護Ⅰ（成人慢性期疾患）	単位数	2
科目名（英語表記）	Pathophysiology Ⅰ: Chronic Nursing		
担当者名	古倉　聡	旧科目名称	
授業概要	成人期に見られる代表的疾患の成り立ちと、疫学、成因、病態・おもな症状、検査、診断、治療、予後について学修するとともに、学修した疾患の概要を踏まえた上で、患者の治療・回復過程において、日常生活がどのように障害されるかを考え、必要な看護援助の基礎について学修する。本講義では、呼吸器系疾患、循環器系疾患、血液・造血器系疾患、糖尿病・代謝性疾患、腎・泌尿器系疾患のうち、内科的治療を必要とする代表的疾患と看護について学修する。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　成人看護学[1]』　（医学書院）　小松浩子　2,300 円 『系統看護学講座　成人看護学[2]』　（医学書院）　浅野浩一郎　2,400 円 『系統看護学講座　成人看護学[3]』　（医学書院）　吉田俊子　2,400 円 『系統看護学講座　成人看護学[4]』　（医学書院）　飯野京子　1,600 円 『系統看護学講座　成人看護学[5]』　（医学書院）　松田明子　2,700 円 『系統看護学講座　成人看護学[6]』　（医学書院）　黒江ゆり子　2,100 円 『系統看護学講座　成人看護学[8]』　（医学書院）　大東貴志　2,300 円		
教材（参考資料）	スライド、配布資料		
教育方法	本科目は、疾患毎に、講義する教員が異なる。其々の分野のスペシャリストによる講義となる。そのため、講義内容も専門性が高くなるので、予習をしておかないと講義についていけないので、しっかり予習をすること。また、シラバスに掲げている講義内容は、学ぶべき範囲が広範囲に及ぶので、重要な疾患を中心に講義をする事となる。 本科目では、講義内容を忘れないうちに復習をしっかりして知識を理解し、頭脳に叩き込んでほしい。		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	主な内科的疾患の病態と治療を理解してほしい。たとえば、ある疾患は、このようなメカニズムで発症し、従ってこのような治療法が必要で、看護としては、どういう点に特に注意したら良いのか、等を、各疾患ごとに理解する事。		
授業時間外学習	講義前に教材の該当箇所をしっかりと読み、理解をして講義に望んでほしい。また、講義後、その日のうちに少なくとも１度は、復習をして、講義内容を頭脳に叩き込む事。 十分な予習が無いと授業内容が理解できないと考えてください。また、その日のうちに一度は復習し、頭脳に叩き込んでください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
別科目の内科学、および本科目をしっかり理解しておけば、実習時には、非常に役に立つものである事を十分に理解してほしい。また、看護師になってからも、役に立つ事を確約する。			
授業スケジュール			
１．呼吸器感染症　（金子）：4/17（火）① ２．喘息・COPD　（山田）：4/24（火）① ３．肺癌　（内野）：5/11（金）⑤ ４．消化管疾患　（古倉）：5/8（火）① ５．肝臓・胆道・膵臓疾患　（古倉）：5/15（火）① ６．血液疾患の症状、検査について　（黒田）：5/22（火）① ７．白血病、紫斑病、DIC その他の血液疾患　（黒田）：5/29（火）① ８．高血圧・虚血性心疾患　（白山）：5/30（水）① ９．心不全・不整脈　（白山）：6/6（水）① １０．代謝疾患　（浅野）：6/13（水）⑤ １１．甲状腺・副甲状腺疾患　（浅野）：6/20（水）⑤			

１２．泌尿器疾患の症状と検査　（本郷）：7/4（水）①
１３．泌尿器癌の診断と治療　（本郷）：7/11（水）①
１４．慢性疾患の特徴と看護　（前川）：7/17（火）①
１５．セルフケア・自己管理支援と社会的支援の獲得への援助　（前川）：7/24（火）①

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★★

年度	2018	授業コード	J90041001
科目名	疾病病態学と看護Ⅱ（成人急性期疾患）	単位数	2
科目名（英語表記）	Pathophysiology Ⅱ: Critical Nursing		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
授業概要	本講義では、成人期にみられる主な外科的治療を必要とする疾患の成り立ちと、疫学、成因、病態、おもな症状、検査、治療、予後を理解すると共に、治療・回復過程において必要な看護技術の基礎を学修する。具体的には疾患や外科的治療が患者の日常生活にどのような障がいをもたらすのかを考えた上で、手術による生体侵襲のメカニズムと術前・術中・術後管理とショック、手術が必要な消化器系疾患、循環器系疾患、内分泌系疾患について学修する。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　成人看護学「５」消化器』　（医学書院）　松田明子　2,700 円 『系統看護学講座　成人看護学「３」循環器』　（医学書院）　吉田俊子　2,400 円 『系統看護学講座　成人看護学「６」内分泌・代謝』　（医学書院）　黒江ゆり子　2,100 円 『系統看護学講座　成人看護学「９」女性生殖器』　（医学書院）　池田正　2,300 円 『新体系 看護学全書　経過別成人看護学「周術期看護」』（：メヂカルフレンド社）編集：明石恵子　嶌田理佳 3800 円		
教材（参考資料）	適時提示する		
教育方法	講義形式で行う。		
評価方法	定期試験（90% ）、レポート（10%）		
到達目標	１．手術療法が患者に与える影響を理解できる。 ２．手術適応となる代表的な疾病と適応手術について理解する。 ３．術前、術中、術後看護の特徴を理解する。 ４．回復過程での早期離床の重要性を理解する。		
授業時間外学習	事前に解剖生理学を復習し、テキストを予習しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

テキストは複数あるので、予習をしながら、テキストの確認をして臨んでほしい。
授業は、スライドとプリントで進行するので、テキストプリントを参考に復習しておくこと

授業スケジュール

１．消化管手術（開腹手術と内視鏡手術）が生体に与える影響と回復過程　（塩崎）：5/9（水）①
２．手術侵襲に伴うに対する生体反応と回復過程　　（天谷）：5/9（水）③
３．麻酔の基礎知識と全身管理　　（天谷）：5/9（水）④
４．麻酔の基礎知識と全身管理　　（天谷）：5/23（水）③
５．術後合併症の予防　（天谷）：5/23（水）④
６．胃切除の術前術後管理　（塩崎）：5/16（水）①
7．肝切除の術前術後管理　（塩崎）：5/23（水）①
８．大腸手術の術前術後管理　　（塩崎）：5/30（水）③
９．開心手術の適応となる主な疾患の原因・誘因、開心手術が生体に与える影響や回復過程　（池本）：6/20（水）①
１０．開心術後の合併症予防　（池本）：6/27（水）①
１１．乳がん手術における術前・術後管理　　（阪口）：6/8（金）②
１２．乳がん手術における手術術式・再建術式の適応について　（阪口）：6/29（金）②
１３．手術期看護の考え方　　（山田）：7/6（水）②
１４．周手術期にある人の特徴と理解　（山田）：7/13（水）②
１５．周手術期にあるへの看護援助　（山田）：7/20（水）②

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90042001
科目名	疾病病態学と看護Ⅲ（老年期疾患）	単位数	2
科目名（英語表記）	Pathophysiology Ⅲ: Geriatric Nursing		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
授業概要	加齢に伴う身体的、精神的社会的機能の変化や、老年期における疾病の経過や特徴について理解する。さらにパーキンソン病や骨粗鬆症・骨折、認知症について学修する。これらの代表的な疾患の成り立ちと病態・主な症状、検査、治療を理解するとともに、高齢者の治療・回復過程と日常生活の関係を考え、看護援助の基礎について理解する。具体的には、神経系疾患、運動器系疾患、感覚器系疾患について学修する。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論』（医学書院）　佐々木英忠　2,200 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	それぞれの担当講師から紹介		
評価方法	それぞれの担当講師の出題による定期テスト（100 点満点）で評価。講義回数割合で配点する。		
到達目標	１．　基本的な身体的・精神的・社会的機能の加齢変化について理解できる ２．　高齢期の神経系疾患、運動器系疾患、感覚器系疾患の特徴的な病態生理、診断・治療方法が理解できる。 ３．　高齢期に多発する神経系疾患、運動器系疾患、感覚器系疾患のそれぞれの治療・回復期における看護援助のあり方について理解できる。		
授業時間外学習	受講前に教科書の該当ページを一読しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

高齢期に特徴的な病態生理について関心を持って積極的に学習してください。

授業スケジュール

高齢期の身体的・精神的特徴と加齢変化、高齢期に特徴的な疾患の発生機序、病態、検査、診断、治療

１．　＜パーキンソン氏病＞　（吉田）：10/31(水)④
２．　＜パーキンソン氏病＞　（吉田）：10/31(水)⑤
３．　＜脳卒中、骨粗鬆症、骨折＞　（笠井）：10/3(水)④
４．　＜脳卒中、骨粗鬆症、骨折＞　（笠井）：10/3(水)⑤
５．　＜認知症＞　（水田）：9/26(水)④
６．　＜認知症＞　（水田）：9/26(水)⑤
７．　＜転倒、骨折、合併症＞　（井上）：10/17(水)④
８．　＜転倒、骨折、合併症＞　（井上）：10/17(水)⑤
９．　＜転倒、骨折、合併症＞　（井上）：10/24(水)④
１０．　＜白内障、緑内障、視覚障害＞　（米田）：10/30(火)⑤
１１．　＜老人性難聴と加齢による嚥下障害＞　（久）：11/14(水)①
１２．　＜もの忘れ、片麻痺、誤嚥、転倒、寝たきり、視覚・聴覚障害＞　（中野）：11/21(水)①
１３．　＜もの忘れ、片麻痺、誤嚥、転倒、寝たきり、視覚・聴覚障害＞　（中野）：11/28(水)①
１４．　＜もの忘れ、片麻痺、誤嚥、転倒、寝たきり、視覚・聴覚障害＞　（中野）：12/5(水)①
１５．　＜もの忘れ、片麻痺、誤嚥、転倒、寝たきり、視覚・聴覚障害＞　（中野）：12/12(水)①

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90043001
科目名	疾病病態学と看護Ⅳ（小児・母性）	単位数	2
科目名（英語表記）	Pathophysiology Ⅳ: Pediatric and Maternal Nursing		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
授業概要	本講義では、妊娠・分娩・産褥期の正常と異常、出生前診断や不妊治療について学修する。そして、代表的な女性生殖器疾患の成り立ちと成因、病態、主な症状、検査、治療、予後を理解するとともに、治療・回復過程における看護援助の基礎についても理解する。また、新生児期の異常、小児期における代表的な疾患の成り立ちと成因、病態、主な症状、検査、治療、予後を理解するとともに、治療・回復過程における看護援助の基礎についても理解する。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（１）　母性看護学概論』　（医学書院）　森恵美　2,400円 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（２）　母性看護学各論』　（医学書院）　森恵美　3,000円 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学（１）　小児看護学概論・小児臨床看護総論』　（医学書院）　奈良間美保　2,800 円 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学（２）　小児看護学各論』　（医学書院）　奈良間美保　3,300円 『子どもの病気の地図帳』　（講談社）　鴨下重彦、柳沢正義　4,000 円		
教材（参考資料）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　女性生殖器』　（医学書院）　末岡浩　2,300 円		
教育方法	－		
評価方法	定期試験（100％）で評価する。		
到達目標	１．妊娠期、分娩期、産褥期の異常、合併症、不妊の治療について理解できる。 ２．生殖器系の不正出血、子宮内膜症、性感染症など代表的疾患の成因、発生機序、予防、病態、症候、診断、治療について理解できる。 ３．女性生殖器疾患と不妊治療における治療・回復過程における看護援助の基礎について理解する。 ４．新生児・小児の異常と小児に起こりやすい疾患に関する十分な知識とその看護について身につける。		
授業時間外学習	この科目は、解剖生理学の知識を基本に講義をすすめるため、講義単元に関わる身体の構造と機能、とくに小児および母性の身体的特徴を復習して、講義にのぞむこと。講義受講前には、テキストを熟読しておくこと。「成長発達Ⅰ（小児の発達と看護）」「成長発達Ⅳ（女性の生涯発達と看護）」「母性看護学援助論」「小児看護学援助論」の授業も関連が深いので、受講前に復習しておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

今日の産科医療を取り巻く問題や新聞記事などにも関心をもって見聞すると、学習により興味がもてるので、積極的な学習を期待します。私語を厳禁とする。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。

授業スケジュール

１．妊娠の成立と異常（多胎妊娠、子宮外妊娠）と出生前診断　（田中）：10/4(木)⑤
２．不妊症と不妊治療　（田中）：10/11(木)⑤
３．妊娠の異常（流産、早産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病）　（田中）：10/18(木)⑤
４．妊娠の異常（感染症、前置胎盤、常位胎盤早期剥離）　（田中）：10/25(木)⑤
５．分娩の異常（胎児機能不全、帝王切開術、吸引分娩術）　（田中）：11/1(木)⑤
６．生殖器系の不正出血、子宮内膜症、性感染症　（田中）：11/8(木)⑤
７．女性生殖器系疾患患者の看護について　（杉山）：11/7（水）③
８．不妊治療を受ける患者の看護　（杉山）：11/28（水）③
９．小児科学総論・血液・腫瘍　（石丸）：9/21(金)②
１０．感染症・呼吸器（松尾）：9/28(金)②
１１．アレルギー・腎臓・ワクチン　（上原）：10/5(金)②
１２．先天異常・代謝・内分泌　（松尾）：10/12(金)②
１３．循環器・神経・消化器　（松尾）：10/19(金)②

１４．発達障害と看護　（今西）：10/31(水)③ １５．子どもの虐待と看護　（今西）：11/2(金)②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90044001
科目名	ヘルスアセスメント	単位数	1
科目名（英語表記）	Health Assessment		
担当者名	江頭　典江	旧科目名称	
授業概要	看護を科学的に実践するために不可欠なヘルスアセスメントについて理解し、必要な技術を修得する。看護師が行う身体診察の特性をふまえて、看護におけるヘルスアセスメントの意義を確認し、看護実践における情報収集と観察の方法、留意点について学ぶ。また、身体面の系統的な観察だけでなく、それに付随した心理・社会面の観察の重要性を学び、看護理論を援用して看護の対象の健康問題を導く情報分析のための思考を養うことをねらいとする。呼吸器系、循環器系、消化器系、神経系についての健康歴の聴取と診断技法を講義と演習を交えて学び、それに加えて事例を用いて看護の対象を総合的にアセスメントする演習を行う。		
教材（教科書）	『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅰ』　(ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社)　深井喜代子 『フィジカルアセスメントガイドブック－目と手と耳でここまでわかる』　(医学書院)　山内豊明		
教材（参考資料）	解剖生理学 A、B のテキスト 大久保暢子　編：日常生活行動からみるヘルスアセスメント　日本看護協会出版会.		
教育方法	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。 プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（90%）：筆記試験（60%）および実技試験（30%）、学習記録の提出状況（10%）		
到達目標	看護におけるヘルスアセスメントの意義を理解できる。基本的な観察・診査手技を修得できる。身体情報を人体の構造と機能に基づきアセスメントできる。		
授業時間外学習	既修科目「解剖生理学 A、B」で学ぶ人体の構造と機能、「日常生活基盤と看護」で学ぶ看護技術の特徴を十分復習し、理解しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行った上で講義に参加してください。
2．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、修得度を向上させてください。

授業スケジュール

1．看護におけるヘルスアセスメントの意義・健康歴の聴取（講義）
2．看護に活かすフィジカルアセスメント（1）：全身・頭部の聴取と診察技法（講義）
3．全身・頭部の聴取と診察技法（演習）
4．看護に活かすフィジカルアセスメント（2）：呼吸器系（講義）
5．呼吸音聴取と呼吸のアセスメント（演習）
6．看護に活かすフィジカルアセスメント（3）：循環器系（講義）
7．心音聴取と循環のアセスメント（演習）
8．看護に活かすフィジカルアセスメント（4）：消化器系（講義）
9．消化器系聴取と栄養のアセスメント（演習）
10．看護に活かすフィジカルアセスメント（5）：神経・運動器系（講義）
11．神経・運動のアセスメント（演習）
12．総合演習（1）：問診・視診（演習）
13．総合演習（2）：身体各部の聴診・触診・打診（演習）
14．総合演習（3）：情報の分析（演習）
15．看護過程につながるヘルスアセスメント（講義）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90044002
科目名	ヘルスアセスメント	単位数	1
科目名（英語表記）	Health Assessment		
担当者名	江頭　典江	旧科目名称	
授業概要	看護を科学的に実践するために不可欠なヘルスアセスメントについて理解し、必要な技術を修得する。看護師が行う身体診察の特性をふまえて、看護におけるヘルスアセスメントの意義を確認し、看護実践における情報収集と観察の方法、留意点について学ぶ。また、身体面の系統的な観察だけでなく、それに付随した心理・社会面の観察の重要性を学び、看護理論を援用して看護の対象の健康問題を導く情報分析のための思考を養うことをねらいとする。呼吸器系、循環器系、消化器系、神経系についての健康歴の聴取と診断技法を講義と演習を交えて学び、それに加えて事例を用いて看護の対象を総合的にアセスメントする演習を行う。		
教材（教科書）	『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅰ』　（ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子 『フィジカルアセスメントガイドブック－目と手と耳でここまでわかる』　（医学書院）　山内豊明		
教材（参考資料）	解剖生理学 A、B のテキスト 大久保暢子　編：日常生活行動からみるヘルスアセスメント　日本看護協会出版会.		
教育方法	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。 プリントを配布する。		
評価方法	定期試験（90%）：筆記試験（60%）および実技試験（30%）、学習記録の提出状況（10%）		
到達目標	看護におけるヘルスアセスメントの意義を理解できる。基本的な観察・診査手技を修得できる。身体情報を人体の構造と機能に基づきアセスメントできる。		
授業時間外学習	既修科目「解剖生理学 A、B」で学ぶ人体の構造と機能、「日常生活基盤と看護」で学ぶ看護技術の特徴を十分復習し、理解しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行った上で講義に参加してください。
2．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、修得度を向上させてください。

授業スケジュール

1．看護におけるヘルスアセスメントの意義・健康歴の聴取（講義）
2．看護に活かすフィジカルアセスメント（1）：全身・頭部の聴取と診察技法（講義）
3．全身・頭部の聴取と診察技法（演習）
4．看護に活かすフィジカルアセスメント（2）：呼吸器系（講義）
5．呼吸音聴取と呼吸のアセスメント（演習）
6．看護に活かすフィジカルアセスメント（3）：循環器系（講義）
7．心音聴取と循環のアセスメント（演習）
8．看護に活かすフィジカルアセスメント（4）：消化器系（講義）
9．消化器系聴取と栄養のアセスメント（演習）
10．看護に活かすフィジカルアセスメント（5）：神経・運動器系（講義）
11．神経・運動のアセスメント（演習）
12．総合演習（1）：問診・視診（演習）
13．総合演習（2）：身体各部の聴診・触診・打診（演習）
14．総合演習（3）：情報の分析（演習）
15．看護過程につながるヘルスアセスメント（講義）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90045001
科目名	看護過程	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Process		
担当者名	江頭　典江	旧科目名称	
授業概要	看護の目的を果たすために現象を的確に捉え、健康問題ならびに看護独自の問題を抽出し、その解決にあたる組織的な実践プロセスを修得する。ここでは既習の看護の定義と看護理論を対象に実践するため、系統的な現象の分析と問題解決に必要な思考を養う。さらに看護の科学性を支える看護過程の歴史的背景、看護診断、その限界についても理解する。具体的には事例を取り上げ、その健康段階および発達段階の情報を取扱いながら思考プロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践』　（ヌーヴェルヒロカワ）秋葉公子		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	パワーポイントを活用する。 プリントを配布する。		
評価方法	課題提出（100%）		
到達目標	１．問題解決思考に基づいた看護過程の基本を修得できる。 ２．看護の理論的枠組みと看護過程の連携を理解できる。		
授業時間外学習	既習科目「看護学概論」で学んだ看護の定義や看護の理論を再学習しておく。また、「日常生活基盤と看護」で学んだ看護技術を具体的に患者に適用することをふまえて、看護技術の特性について復習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行った上で講義に参加してください。
２．講義の進行に基づいて適宜課題を出しますので、主体的に学習し、必ず提出して学びを積み上げるようにしてください。

授業スケジュール

１．看護過程とは（講義）
２．問題解決思考とは（講義）
３．看護過程の構成要素（看護の視点）（講義）
４．看護過程の構成要素（１）：アセスメント（１）（講義）
５．看護過程の構成要素（１）：アセスメント（２）（演習）
６．看護過程の構成要素（１）：アセスメント（３）（演習）
７．看護過程の構成要素：全体像と関連図（１）（講義）
８．看護過程の構成要素：全体像と関連図（２）（演習）
９．看護過程の構成要素：問題点抽出（１）（講義）
１０．看護過程の構成要素：問題点抽出（２）（演習）
１１．看護過程の構成要素：計画（１）（講義）
１２．看護過程の構成要素：計画（２）（演習）
１３．看護過程の構成要素：実施、評価（講義）
１４．看護診断とは（講義）
１５．事例展開のまとめ（講義）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90046001
科目名	看護感染管理技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Infection Control Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
授業概要	「日常生活基盤と看護」に引き続き、対象となる人の療養生活を支援する上で必要となる看護技術を取り上げ、基本的な方法およびその原理を学ぶ。本講義では、感染の成立・発症の機序を理解することを通して感染防止の基本を学修する。また、看護技術として用いられている感染防止技術や感染管理活動について学び、感染看護の基礎的能力を修得する。具体的には、感染防護技術、滅菌物・汚染物の取扱い、導尿の技術に関する基礎的知識・技術を教授する。		
教材（教科書）	『新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ』（メジカルフレンド社）深井喜代子 『新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ』（メジカルフレンド社）深井喜代子		
教材（参考資料）	『ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術』　（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕、金　壽子		
教育方法	講義→事前学習（レポート提出）→演習（メンバー間での討議）→振り返り（レポート提出）という流れによって、学生の自主的な発問・討議・解決・課題発見を目指す。自己のからだを駆使し体現する方法によって、アクティブ・ラーニングの形式をとる。		
評価方法	１．定期試験（90%）：筆記試験（60%）および実技試験（30%） ２．演習記録の提出状況および内容（10%）		
到達目標	１．感染の概要および感染予防の意義を理解できる。 ２．無菌操作の基本原理に則った基本的技術を身につけることができる。 ３．感染予防における看護師の責務と役割、および感染症発生時の対応の基本的知識を理解できる。		
授業時間外学習	既修科目「解剖生理学 A」「解剖生理学 B」「病理学」で学んだ知識を十分学習し、理解しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行ったうえで、講義に参加してください。
２．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させてください。

授業スケジュール

１．感染の成立と感染予防概論（講義）
２．感染症の現状と対策（講義）
３．微生物総論、細菌やウイルスの種類と特徴（1）（講義）
４．微生物総論、細菌やウイルスの種類と特徴（2）（講義）
５．感染予防法と看護、院内感染防止活動と看護職（1）（講義）
６．生体防御機構（1）（講義）
７．生体防御機構（2）（講義）
８．感染予防法と看護、院内感染防止活動と看護職（2）（講義）
９．アレルギー・自己免疫・臓器移植・感染症法（講義）
１０．援助技術の実際：感染防護テクニック（衛生的手洗い、ガウン・手袋・マスク・ゴーグルの着脱）（演習）
１１．援助技術の実際：感染防護テクニック（衛生的手洗い、ガウン・手袋・マスク・ゴーグルの着脱）（演習）
１２．援助技術の実際：無菌操作（滅菌手袋の着脱、滅菌包装材、消毒綿球、廃棄物の取り扱い）（演習）
１３．援助技術の実際：無菌操作（滅菌手袋の着脱、滅菌包装材、消毒綿球、廃棄物の取り扱い）（演習）
１４．援助技術の実際：導尿（演習）
１５．援助技術の実際：導尿（演習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J90046002
科目名	看護感染管理技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Infection Control Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
授業概要	「日常生活基盤と看護」に引き続き、対象となる人の療養生活を支援する上で必要となる看護技術を取り上げ、基本的な方法およびその原理を学ぶ。本講義では、感染の成立・発症の機序を理解することを通して感染防止の基本を学修する。また、看護技術として用いられている感染防止技術や感染管理活動について学び、感染看護の基礎的能力を修得する。具体的には、感染防護技術、滅菌物・汚染物の取扱い、導尿の技術に関する基礎的知識・技術を教授する。		
教材（教科書）	『新体系看護学全書　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ』（メジカルフレンド社）深井喜代子 『新体系看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ』（メジカルフレンド社）深井喜代子		
教材（参考資料）	『ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術』　（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕、金　壽子		
教育方法	講義→事前学習（レポート提出）→演習（メンバー間での討議）→振り返り（レポート提出）という流れによって、学生の自主的な発問・討議・解決・課題発見を目指す。自己のからだを駆使し体現する方法によって、アクティブ・ラーニングの形式をとる。		
評価方法	１．定期試験（90%）：筆記試験（60%）および実技試験（30%） ２．演習記録の提出状況および内容（10%）		
到達目標	１．感染の概要および感染予防の意義を理解できる。 ２．無菌操作の基本原理に則った基本的技術を身につけることができる。 ３．感染予防における看護師の責務と役割、および感染症発生時の対応の基本的知識を理解できる。		
授業時間外学習	既修科目「解剖生理学 A」「解剖生理学 B」「病理学」で学んだ知識を十分学習し、理解しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行ったうえで、講義に参加してください。
２．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させてください。

授業スケジュール

１．感染の成立と感染予防概論（講義）
２．感染症の現状と対策（講義）
３．微生物総論、細菌やウイルスの種類と特徴（1）（講義）
４．微生物総論、細菌やウイルスの種類と特徴（2）（講義）
５．感染予防法と看護、院内感染防止活動と看護職（1）（講義）
６．生体防御機構（1）（講義）
７．生体防御機構（2）（講義）
８．感染予防法と看護、院内感染防止活動と看護職（2）（講義）
９．アレルギー・自己免疫・臓器移植・感染症法（講義）
１０．援助技術の実際：感染防護テクニック（衛生的手洗い、ガウン・手袋・マスク・ゴーグルの着脱）（演習）
１１．援助技術の実際：感染防護テクニック（衛生的手洗い、ガウン・手袋・マスク・ゴーグルの着脱）（演習）
１２．援助技術の実際：無菌操作（滅菌手袋の着脱、滅菌包装材、消毒綿球、廃棄物の取り扱い）（演習）
１３．援助技術の実際：無菌操作（滅菌手袋の着脱、滅菌包装材、消毒綿球、廃棄物の取り扱い）（演習）
１４．援助技術の実際：導尿（演習）
１５．援助技術の実際：導尿（演習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J90047001
科目名	看護栄養管理技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Dietetic Management Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	那須　潤子	旧科目名称	
授業概要	人間にとっての食事・栄養摂取の意義としくみ（各種栄養素の種類と生体内でのはたらき、エネルギー代謝、消化・吸収の生理的メカニズム）について学び、健康の維持・増進及び疾病回復・悪化予防のために必要な栄養管理に関する基本的知識を学ぶ。また、看護を必要とする人々の健康レベル及び食事行動の自立度に合わせた食事・栄養摂取のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法について学ぶ。		
教材（教科書）	『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円 『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能（3）　栄養学　（第 12 版)』　（医学書院）　小野章史他　1,900 円		
教材（参考資料）	『ﾅｰｼﾝｸﾞ・ｸﾞﾗﾌｨｶ基礎看護学③基礎看護技術』　（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕　3,600 円		
教育方法	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。プリントを配布する。		
評価方法	1．定期試験（90%） 2．課題レポート及び演習記録の提出状況と内容（10%）		
到達目標	1．人間にとっての食事・栄養摂取の意義について理解できる。 2．各種栄養素の種類及び生体内での働き、また消化・吸収の生理的メカニズムについて理解できる。 3．食事・栄養摂取のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法が理解できる。 4．対象のｱｾｽﾒﾝﾄに基づき、健康のレベル及び食事行動の自立度に合わせた援助方法について理解できる。		
授業時間外学習	既習科目「解剖・生理学」「日常生活基盤と看護」で学んだ知識を復習し、十分理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献にて事前学習を行った上で講義に参加すること。
2．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。
3．レポート等は、必ず期限を守って提出すること。

授業スケジュール

1．食事と栄養摂取の意義（講義）
2．食欲と消化・吸収に関する生理的メカニズム（講義）
3．栄養素の種類と生体内での働き（講義）
4．栄養素と食事摂取基準（講義）
5．エネルギー代謝と栄養状態の評価（講義）
6．病態別食事療法（講義）
7．食事と栄養摂取に関する看護における基礎知識（1）栄養素とエネルギー代謝（講義）
8．食事と栄養摂取に関する看護における基礎知識（2）摂食・嚥下機能と消化・吸収機能（講義）
9．栄養状態のｱｾｽﾒﾝﾄの方法（講義）
10．食事・栄養摂取に関する援助（演習）
11．経口栄養の援助（演習）
12．経口栄養の援助（演習）
13．経管栄養の援助（講義）
14．経管栄養の援助（演習）
15．経管栄養の援助（演習）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	★	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J90047002
科目名	看護栄養管理技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Dietetic Management Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	那須　潤子	旧科目名称	
授業概要	人間にとっての食事・栄養摂取の意義としくみ（各種栄養素の種類と生体内でのはたらき、エネルギー代謝、消化・吸収の生理的メカニズム）について学び、健康の維持・増進及び疾病回復・悪化予防のために必要な栄養管理に関する基本的知識を学ぶ。また、看護を必要とする人々の健康レベル及び食事行動の自立度に合わせた食事・栄養摂取のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法について学ぶ。		
教材（教科書）	『新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）　深井喜代子　3,100 円 『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能（3）　栄養学　（第 12 版)』　（医学書院）　小野章史他　1,900 円		
教材（参考資料）	『ﾅｰｼﾝｸﾞ・ｸﾞﾗﾌｨｶ基礎看護学③基礎看護技術』　（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕　3,600 円		
教育方法	パワーポイントを活用し、必要時オリジナル画像を用いる。プリントを配布する。		
評価方法	1．定期試験（90%） 2．課題レポート及び演習記録の提出状況と内容（10%）		
到達目標	1．人間にとっての食事・栄養摂取の意義について理解できる。 2．各種栄養素の種類及び生体内での働き、また消化・吸収の生理的メカニズムについて理解できる。 3．食事・栄養摂取のニーズを充足するための基礎的知識と援助方法が理解できる。 4．対象のｱｾｽﾒﾝﾄに基づき、健康のレベル及び食事行動の自立度に合わせた援助方法について理解できる。		
授業時間外学習	既習科目「解剖・生理学」「日常生活基盤と看護」で学んだ知識を復習し、十分理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献にて事前学習を行った上で講義に参加すること。
2．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。
3．レポート等は、必ず期限を守って提出すること。

授業スケジュール

1．食事と栄養摂取の意義（講義）
2．食欲と消化・吸収に関する生理的メカニズム（講義）
3．栄養素の種類と生体内での働き（講義）
4．栄養素と食事摂取基準（講義）
5．エネルギー代謝と栄養状態の評価（講義）
6．病態別食事療法（講義）
7．食事と栄養摂取に関する看護における基礎知識（1）栄養素とエネルギー代謝（講義）
8．食事と栄養摂取に関する看護における基礎知識（2）摂食・嚥下機能と消化・吸収機能（講義）
9．栄養状態のｱｾｽﾒﾝﾄの方法（講義）
10．食事・栄養摂取に関する援助（演習）
11．経口栄養の援助（演習）
12．経口栄養の援助（演習）
13．経管栄養の援助（講義）
14．経管栄養の援助（演習）
15．経管栄養の援助（演習）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	★	★★	−	−

年度	2018	授業コード	J90048001
科目名	看護治療支援技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Treatment: Skills Laboratory		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
授業概要	本講義では、医薬品の薬理作用や体内動態、副作用などを理解することをとおした薬物治療、および臨床検査の基本を学修する。また、服薬、注射、点滴などによる薬物投与技術、および生体検査・検体検査などの臨床検査について学び、薬物療法および臨床検査に関する看護の基礎的能力を修得する。具体的には、経口および直腸内与薬法、各種注射法、輸液療法、誤薬防止のための方法、静脈血採血の技術に関する基礎的知識・技術を教授する。		
教材（教科書）	『新体系看護学全書　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（メジカルフレンド社）　深井喜代子 『新体系看護学全書　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ』　（メジカルフレンド社）　深井喜代子		
教材（参考資料）	『ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術』　（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕、金　壽子		
教育方法	講義→事前学習（レポート提出）→演習（メンバー間での討議）→振り返り（レポート提出）という流れによって、学生の自主的な発問・討議・解決・課題発見を目指す。自己のからだを駆使し体現する方法によって、アクティブ・ラーニングの形式をとる。		
評価方法	1．定期試験（90%）：筆記試験（60%）および実技試験（30%） 2．演習記録の提出状況および内容（10%）		
到達目標	1．医薬品の薬理作用や体内動態など、薬物療法の意義を理解できる。 2．看護の対象となる人々に、安全で適切な薬物療法を行うための基本的技術を身につけることができる。 3．薬物療法に関わる安全管理について述べることができる。 4．診断・検査を受ける人々への看護として、生体検査および検体検査に伴う援助を理解できる。		
授業時間外学習	既習科目「解剖生理学 A」「解剖生理学 B」「薬理学」で学んだ知識を十分学習し、理解しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行ったうえで、講義に参加すること。
2．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。

授業スケジュール

1．薬物治療の概要、薬理作用と薬物動態（講義）
2．薬剤の種類と与薬方法、薬効に影響する因子（講義）
3．主な医薬品概論（講義）
4．与薬への援助を必要とする対象の看護と看護技術（1）（講義）
5．臨床検査とは（1）（講義）
6．臨床検査とは（2）（講義）
7．与薬への援助を必要とする対象の看護と看護技術（2）（講義）
8．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（1）（演習）
9．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（2）（演習）
10．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（3）演習）
11．援助技術の実際：静脈内注射、点滴静脈内注射（輸血含む）（1）（演習）
12．援助技術の実際：静脈内注射、点滴静脈内注射（輸血含む）（2）（演習）
13．.診断・検査を受ける対象の看護（穿刺含む）（講義）
14．援助技術の実際：採血（1）（演習）
15．援助技術の実際：採血（2）（演習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J90048002
科目名	看護治療支援技術論	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Treatment: Skills Laboratory		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
授業概要	本講義では、医薬品の薬理作用や体内動態、副作用などを理解することをとおした薬物治療、および臨床検査の基本を学修する。また、服薬、注射、点滴などによる薬物投与技術、および生体検査・検体検査などの臨床検査について学び、薬物療法および臨床検査に関する看護の基礎的能力を修得する。具体的には、経口および直腸内与薬法、各種注射法、輸液療法、誤薬防止のための方法、静脈血採血の技術に関する基礎的知識・技術を教授する。		
教材（教科書）	『新体系看護学全書　基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』　（メジカルフレンド社）　深井喜代子 『新体系看護学全書　基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ』　（メジカルフレンド社）　深井喜代子		
教材（参考資料）	『ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術』　（メディカ出版）　志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕、金　壽子		
教育方法	講義→事前学習（レポート提出）→演習（メンバー間での討議）→振り返り（レポート提出）という流れによって、学生の自主的な発問・討議・解決・課題発見を目指す。自己のからだを駆使し体現する方法によって、アクティブ・ラーニングの形式をとる。		
評価方法	1．定期試験（90%）：筆記試験（60%）および実技試験（30%） 2．演習記録の提出状況および内容（10%）		
到達目標	1．医薬品の薬理作用や体内動態など、薬物療法の意義を理解できる。 2．看護の対象となる人々に、安全で適切な薬物療法を行うための基本的技術を身につけることができる。 3．薬物療法に関わる安全管理について述べることができる。 4．診断・検査を受ける人々への看護として、生体検査および検体検査に伴う援助を理解できる。		
授業時間外学習	既習科目「解剖生理学 A」「解剖生理学 B」「薬理学」で学んだ知識を十分学習し、理解しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．シラバスに基づき、講義・演習に関連したテキストおよび参考文献の事前学習を行ったうえで、講義に参加すること。
2．講義・演習の終わった技術については自主的に復習し、習得度を向上させること。

授業スケジュール

1．薬物治療の概要、薬理作用と薬物動態（講義）
2．薬剤の種類と与薬方法、薬効に影響する因子（講義）
3．主な医薬品概論（講義）
4．与薬への援助を必要とする対象の看護と看護技術（1）（講義）
5．臨床検査とは（1）（講義）
6．臨床検査とは（2）（講義）
7．与薬への援助を必要とする対象の看護と看護技術（2）（講義）
8．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（1）（演習）
9．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（2）（演習）
10．援助技術の実際：筋肉内注射、皮内・皮下注射（3）演習）
11．援助技術の実際：静脈内注射、点滴静脈内注射（輸血含む）（1）（演習）
12．援助技術の実際：静脈内注射、点滴静脈内注射（輸血含む）（2）（演習）
13．.診断・検査を受ける対象の看護（穿刺含む）（講義）
14．援助技術の実際：採血（1）（演習）
15．援助技術の実際：採血（2）（演習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J90049001
科目名	実践基礎看護学実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Fundamental Nursing: Clinical Practice Ⅱ		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
授業概要	臨地において、療養の場で生活する看護の対象者のニードを把握し、必要な看護援助を検討および実践する過程を学ぶ。既修の看護過程の思考プロセスを適用することで、臨床の現象を看護の視点でアセスメントする。そして、看護の対象者の持つ課題を解決するために必要な看護計画を立案し、計画に基づいた援助を安全・安楽に留意して実施、その結果を評価する。それに加え、看護専門職者としてふさわしい態度について考え、実践することを目指す。		
教材（教科書）	『新体系看護学全書 11 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ』（メヂカルフレンド社）深井喜代子他編 『新体系看護学全書 12 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ』（メヂカルフレンド社）深井喜代子他編 『看護の基本となるもの』（日本看護協会出版社）ヴァージニア・ヘンダーソン著　湯槙ます訳 『対訳　看護覚え書』（うぶすな書院）フローレンス・ナイチンゲール著　小林章夫他訳 『フィジカルアセスメントガイドブック－目と手と耳でここまでわかる』　（医学書院）　山内豊明 『看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践』（ヌーヴェルヒロカワ） 秋葉公子,江﨑フサ子,玉木ミヨ子,村中陽子		
教材（参考資料）	『コミュニケーションと共に学ぶ基礎看護技術』（メディカルレビュー社）　大津廣子編		
教育方法	ナーシングスキル		
評価方法	実習態度(30%) 実習前レポート(10%) 実習後の記録とレポート提出と内容の評価(60%)		
到達目標	1）対象者の基本的ニードの充足に着目して情報を収集し、アセスメントできる。 2）対象者が持つ看護上の問題を抽出することができる。 3）取り上げた看護問題を解決するための目標設定と看護計画を立案できる。 4）対象者への援助を安全・安楽に実施し、その結果を評価できる。 5）対象者と良好な関係を築くことができる。 6）看護チームにおいて自己の果たすべき役割を理解し、行動することができる。		
授業時間外学習	既修の「看護学概論」、「日常生活基盤と看護」、「ヘルスアセスメント」、「看護過程」、「看護感染管理技術論」、「看護栄養管理技術論」、「看護治療支援技術論」の知識・技術について復習しておく。また、「解剖生理学 A、B」、「疾病病態学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」、「成長発達Ⅱ、Ⅲ」での学習内容を活用できるように準備しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1）健康状態に注意を払い、感染予防行動をとる。
2）遅刻や欠席について実習施設へ必ず連絡し、対応する。
3）臨地実習では、対象者への安全な行動、秘守義務行動をとる。
4）単位認定には 80%以上の出席が必要であるため、欠席しないように健康生活管理を行う。
5）臨地実習場面では看護学生として礼節ある行動をとる。
6）臨地実習では積極的な行動をとり、主体的に学習する。

授業スケジュール

【事前学習】（学内）
1．実習オリエンテーションを受ける。
2．実習での自己の課題の明確化し目標を立てる。
3．実習中の注意事項を理解する。

【実習期間のスケジュール】
1日目（臨地）：　臨地実習地でのオリエンテーション
施設オリエンテーション（施設の概要・理念・構造・組織）
病棟オリエンテーション（病棟の特徴・構造、看護体制、日課）

対象者の決定、情報収集

2～3日目（臨地）：対象者のケアへの参加と情報収集・分析

対象者の観察とコミュニケーションを実践し、対象者のニーズを理解し、日常生活援助に参加する。

4日目（学内）：　収集した情報のアセスメント、問題抽出、計画立案

5日目（臨地）：　対象者のケアへの参加と情報収集・分析、立案した計画の見直し、不足な情報収集を行い、

病棟カンファレンスを行い指導者から助言を受ける。

6～9日目（臨地）：立案した計画の見直し、実施、評価を行う。

計画した援助を安全・安楽に実施することができる。

実施した援助の目標到達について、対象者の反応をふまえて評価することができる。

病棟カンファレンスを行い指導者から助言を受ける。

10日目（学内）：　合同カンファレンス、実習のまとめ

【事後学習】

1．臨地実習で日々の観察・実践した内容についてグループで討論するとともに助言を受ける。

2．受持ち患者のニードを解釈し看護の必要性を見いだす看護過程についてまとめる。

3．実習における自己評価を行い、レポートを作成する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	J90050001
科目名	看護倫理	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Ethics		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
授業概要	看護者は看護を実践する際に倫理的な問題の判断と意思決定が求められる。そこで倫理的問題を解決するための知識として、看護の倫理原則、看護者の倫理綱領を理解し、それをもとに倫理問的題について思考し行動できるよう、必要な倫理観を養う。具体的には学生がこれまでに経験した臨地実習場面から事例を得、そこから倫理的問題を抽出し、看護者がとるべき倫理的行動を検討する。また、人を対象とする看護研究の倫理についても考察する。		
教材（教科書）	『看護倫理』（医学書院）　宮坂道夫　1800 円		
教材（参考資料）	『看護倫理』（医学書院）吉田みつ子　2200 円 『ケアを深める看護倫理の事例検討』（日本看護協会出版会）2200 円 『事例でまなぶケアの倫理』（メディカ出版）2200 円		
教育方法	講義資料、課題物の提供、パワーポイントを活用する。		
評価方法	定期試験（50%）、課題の提出状況（50%）		
到達目標	1．倫理的な問題の判断と意思決定を理解できる。 2．看護の倫理原則、看護者の倫理綱領を理解することできる。 3．臨地実習場面から事例を得、そこから倫理的問題を抽出できる。 4．看護者がとるべき倫理的行動を思考し、必要な倫理観を養う。 5．自己の臨地実習を通しての倫理観について事項をまとめることができる。		
授業時間外学習	3・4 年生で学んだ実習を通じて看護倫理における疑問、課題を明らかにするための自己の思考をまとめておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．3・4 年生で学んだ実習を通じて看護倫理における疑問、課題を明らかにするための自己の思考をまとめておく。 2．グループワークを通して、自主的に復習し、自己の倫理的思考を深めまとめることができる。			
授業スケジュール			
1．看護倫理と生命倫理(西田) 2．性と生殖、死の生命倫理(西田) 3．先端医療と生命倫理（今西） 4．看護倫理と専門職の倫理(西田) 5．論理的問題のアプローチ(西田) 6．事例分析の方法(西田) 7．グループワーク 8．自己の倫理観についてまとめ、発表する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90051001
科目名	慢性期療養支援演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Chronic Health Care Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	前川　直美	旧科目名称	
授業概要	慢性期看護の基盤となる概念を理解するとともに、慢性疾患に伴う健康問題により、自己管理や生活の再構築が必要な患者やその家族に対する援助について学修する。具体的には、自身が病気を受け入れ、症状マネジメントやセルフケア能力を獲得できるためのケア方法について学修する。演習はチーム基盤型学習により、予習-確認 - グループによる課題の取組の形式で、慢性期にある患者・家族に対して看護過程を展開する。演習授業として、糖尿病患者の教育指導の一環として、血糖測定やインスリン注射の指導について実施する。		
教材（教科書）	『新体系 看護学全書 経過別成人看護学③ 慢性期看護』（メヂカルフレンド社）　黒江ゆり子 2,800 円 講義レジュメ・資料を配布する。		
教材（参考資料）	『ナーシング・グラフィカ成人看護学③セルフマネジメント』（メディカ出版） 安酸史子 3,000 円 『写真でわかる実習で使える看護技術アドバンス』（インターメディカ） 吉田みつ子 本庄恵子 4,800 円 疾病病態学と看護Ⅰ（成人慢性期疾患）で使用した『系統看護学講座 成人看護学①②③④⑤⑥⑧』（医学書院）		
教育方法	レジュメ・資料に沿って、パワーポイントを活用しながら講義法で行う。看護技術についてはグループ演習とする。看護援助がイメージしやすいように、適宜 DVD 教材を視聴する。		
評価方法	1．定期試験（70%） 2．課題レポート、小テストおよび演習記録の提出状況と内容（30%）		
到達目標	1. 慢性期・終末期にある対象と家族の特徴について説明できる。 2. 慢性期看護に必要な代表的理論を用いて看護を展開できる。 3. 慢性期にある対象の病態を理解した上で、健康問題とそれに伴う反応の特徴が説明できる。 4. 慢性期・終末期にある対象及び家族の心理・社会的問題を踏まえた看護が立案できる。		
授業時間外学習	1．疾病病態学と看護Ⅰで学修した内容を復習しておくこと 2．グループディスカッションを行うため、グループワークの方法について復習しておくこと。 3．授業終了時に、次回の範囲を指定するので、教科書を熟読して講義に臨むこと。 4．前回の授業内容に関わる小テストを行うので、復習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．受講生の学習環境を妨げるような私語は厳禁とする。
2．グループワークでは、各自の積極性と協調性が重要になるため、活発なディスカッションを期待する。

授業スケジュール

1. 授業ガイダンス、慢性期の概念および慢性状態を引き起こす疾患や治療の特徴
2. 慢性期にある人々の特徴
3. 慢性期にある人々への看護援助
4. 慢性期看護における看護過程
5. 慢性の呼吸機能障害をもつ人と家族への看護
6. 慢性閉塞性呼吸障害をもつ人と家族への看護の展開 1
7. 慢性閉塞性呼吸障害をもつ人と家族への看護の展開 2
8. 慢性の循環機能障害をもつ人と家族への看護
9. 慢性心不全状態にある人と家族への看護の展開 1
10. 慢性心不全状態にある人と家族への看護の展開 2
11. 身体の防衛機能障害をもつ人と家族への看護 1
12. 身体の防衛機能障害をもつ人と家族への看護 2
13. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護
14. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（肝炎・肝硬変）1
15. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（肝炎・肝硬変）2
16. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（糖尿病）1

17. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（糖尿病）2
18. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（糖尿病）3
19. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（糖尿病）4
20. 内部環境調節障害をもつ人と家族への看護
21. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（腎不全）1
22. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（腎不全）2
23. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護
24. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護の展開（脳梗塞）1
25. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護の展開（脳梗塞）2
26. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護
27. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護の展開（ALS）1
28. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護の展開（ALS）2
29. 運動機能に障害をもつ人と家族への看護
30. リハビリテーションの特徴と看護

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J90051002
科目名	慢性期療養支援演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Chronic Health Care Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	前川　直美	旧科目名称	
授業概要	慢性期看護の基盤となる概念を理解するとともに、慢性疾患に伴う健康問題により、自己管理や生活の再構築が必要な患者やその家族に対する援助について学修する。具体的には、自身が病気を受け入れ、症状マネジメントやセルフケア能力を獲得できるためのケア方法について学修する。演習はチーム基盤型学習により、予習-確認 - グループによる課題の取組の形式で、慢性期にある患者・家族に対して看護過程を展開する。演習授業として、糖尿病患者の教育指導の一環として、血糖測定やインスリン注射の指導について実施する。		
教材（教科書）	『新体系 看護学全書 経過別成人看護学③ 慢性期看護』（メヂカルフレンド社）　黒江ゆり子 2,800 円 講義レジュメ・資料を配布する。		
教材（参考資料）	『ナーシング・グラフィカ成人看護学③セルフマネジメント』（メディカ出版） 安酸史子 3,000 円 『写真でわかる実習で使える看護技術アドバンス』（インターメディカ） 吉田みつ子 本庄恵子 4,800 円 疾病病態学と看護Ⅰ（成人慢性期疾患）で使用した『系統看護学講座 成人看護学①②③④⑤⑥⑧』（医学書院）		
教育方法	レジュメ・資料に沿って、パワーポイントを活用しながら講義法で行う。看護技術についてはグループ演習とする。看護援助がイメージしやすいように、適宜 DVD 教材を視聴する。		
評価方法	1．定期試験（70%） 2．課題レポート、小テストおよび演習記録の提出状況と内容（30%）		
到達目標	1. 慢性期・終末期にある対象と家族の特徴について説明できる。 2. 慢性期看護に必要な代表的理論を用いて看護を展開できる。 3. 慢性期にある対象の病態を理解した上で、健康問題とそれに伴う反応の特徴が説明できる。 4. 慢性期・終末期にある対象及び家族の心理・社会的問題を踏まえた看護が立案できる。		
授業時間外学習	1．疾病病態学と看護Ⅰで学修した内容を復習しておくこと 2．グループディスカッションを行うため、グループワークの方法について復習しておくこと。 3．授業終了時に、次回の範囲を指定するので、教科書を熟読して講義に臨むこと。 4．前回の授業内容に関わる小テストを行うので、復習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．受講生の学習環境を妨げるような私語は厳禁とする。
2．グループワークでは、各自の積極性と協調性が重要になるため、活発なディスカッションを期待する。

授業スケジュール

1. 授業ガイダンス、慢性期の概念および慢性状態を引き起こす疾患や治療の特徴
2. 慢性期にある人々の特徴
3. 慢性期にある人々への看護援助
4. 慢性期看護における看護過程
5. 慢性の呼吸機能障害をもつ人と家族への看護
6. 慢性閉塞性呼吸障害をもつ人と家族への看護の展開 1
7. 慢性閉塞性呼吸障害をもつ人と家族への看護の展開 2
8. 慢性の循環機能障害をもつ人と家族への看護
9. 慢性心不全状態にある人と家族への看護の展開 1
10. 慢性心不全状態にある人と家族への看護の展開 2
11. 身体の防衛機能障害をもつ人と家族への看護 1
12. 身体の防衛機能障害をもつ人と家族への看護 2
13. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護
14. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（肝炎・肝硬変）1
15. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（肝炎・肝硬変）2
16. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（糖尿病）1

17. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（糖尿病）2
18. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（糖尿病）3
19. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（糖尿病）4
20. 内部環境調節障害をもつ人と家族への看護
21. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（腎不全）1
22. 栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護の展開（腎不全）2
23. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護
24. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護の展開（脳梗塞）1
25. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護の展開（脳梗塞）2
26. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護
27. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護の展開（ALS）1
28. 慢性の脳・神経系機能障害をもつ人と家族への看護の展開（ALS）2
29. 運動機能に障害をもつ人と家族への看護
30. リハビリテーションの特徴と看護

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J90052001
科目名	急性期療養支援演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Critical Health Care Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
授業概要	急性期にある人々への看護の基盤となる概念を理解する。急性期にある患者の看護は考える猶予のないことが多いために、看護者が常に身に着ける必要知識を網羅し、看護師として必要な臨床能力を習得できるように基本となる観察・アセスメント能力を養う。演習では、代表的な身体障害を挙げ、紙面上の看護介入を学ぶ。主な内容は急性期の概念、患者の特徴、急性期・周手術期にある患者の病態・症状の把握、患者・家族への援助である。演習内容としては、心電図モニター装着や、クリティカルな患者の観察モニタリング、周術期看護においては創傷管理、ＤＶＴ防止、ドレーン管理、呼吸管理を演習する。		
教材（教科書）	経過別成人看護学①『急性期看護：クリティカルケア』メヂカルフレンド社　2,800 円 成人看護学『成人看護技術第 2 版』南江堂　3,240 円 経過別成人看護学②『周手術看護』メヂカルフレンド社　3,800 円		
教材（参考資料）	関連科目参考書随時紹介する。		
教育方法	・講義形式とグループワーク戸を織り交ぜて行う。 ・技術演習はデモンストレーションののち個人が実際に援助技術を実施する。 ・看護過程の展開はグループワークで討議をしながら、看護問題の抽出、看護計画を立てる		
評価方法	定期試験(80%)、看護過程演習(10%)、演習参加・レポート(10%)		
到達目標	１．急性期・周手術期にある成人患者および家族に疾病や生涯、手術他の生体侵襲を受けたことによっておこる身体的・心理的・社会的反応を理解している。 ２．急性期・周手術期における成人患者および家族が受けた生体侵襲からの回復を促進するために必要な知識と技術を習得している。		
授業時間外学習	解剖生理学 A,解剖生理学 B、疾病病態と看護Ⅱ、成人看護総論、等で学習した内容を復習し、理解の不足している箇所を補って授業に臨む。 事前にテキストの該当部分を熟読しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で講義・演習を受講するよう心がけてもらいたい。。

授業スケジュール

1.　ガイダンス　急性期にある人の看護、急性期看護の考え方・急性期にある人の特徴と理解
２．急性期にある人々への看護援助に必要な概念、急性期の看護活動
３．救急看護の場で用いられる看護技術演習－ＢＬＳ・ＡＥＤ①
４．救急看護の場で用いられる看護技術演習－ＢＬＳ・ＡＥＤ②
５．急性期の循環機能障害のある患者の看護
６．急性期の脳神経機能障害のある患者の看護
７．急性期の生体防御機能障害・感染症のある患者の看護
８．急性期の運動機能障害のある患者の看護
９．急性期看護・救急看護の中で用いられる技術の講義：喀痰吸引　酸素吸入　気管挿管　モニター　輸液ポンプ
１０．急性期看護・救急看護の中で用いられる技術の演習：喀痰吸引　酸素吸入　気管挿管　モニター　輸液ポンプ①
１１．急性期看護・救急看護の中で用いられる技術の演習：喀痰吸引　酸素吸入　気管挿管　モニター　輸液ポンプ②
１２．周手術期看護の考え方
１３．周術期にある人の特徴と理解①
１４．周術期にある人の特徴と理解②
１５．周術期にある人への看護援助①
１６．周術期にある人への看護援助②
１７．術前の看護
１８．術中の看護
１９．術後の看護

２０．周術期看護に必要な技術（講義・演習）
２１．創傷ケア・ドレーン管理　持続吸引
２２．開腹術を受ける人の看護
２３．内視鏡下手術を受ける人の看護
２４．開胸術を受ける人の看護
２５．運動器系の手術を受ける人の看護
２６．周術期看護　看護過程の展開演習（紙上患者症例による）①
２７．周術期看護　看護過程の展開演習（紙上患者症例による）②
２８．周術期看護　看護過程の展開演習（紙上患者症例による）③
２９．周術期看護　看護過程の展開演習（紙上患者症例による）④
３０．周術期看護　看護過程の展開演習（紙上患者症例による）⑤

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90052002
科目名	急性期療養支援演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Critical Health Care Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
授業概要	急性期にある人々への看護の基盤となる概念を理解する。急性期にある患者の看護は考える猶予のないことが多いために、看護者が常に身に着ける必要知識を網羅し、看護師として必要な臨床能力を習得できるように基本となる観察・アセスメント能力を養う。演習では、代表的な身体障害を挙げ、紙面上の看護介入を学ぶ。主な内容は急性期の概念、患者の特徴、急性期・周手術期にある患者の病態・症状の把握、患者・家族への援助である。演習内容としては、心電図モニター装着や、クリティカルな患者の観察モニタリング、周術期看護においては創傷管理、ＤＶＴ防止、ドレーン管理、呼吸管理を演習する。		
教材（教科書）	経過別成人看護学①『急性期看護：クリティカルケア』メヂカルフレンド社　2,800 円 成人看護学『成人看護技術第 2 版』南江堂　3,240 円 経過別成人看護学②『周手術看護』メヂカルフレンド社　3,800 円		
教材（参考資料）	関連科目参考書随時紹介する。		
教育方法	・講義形式とグループワーク戸を織り交ぜて行う。 ・技術演習はデモンストレーションののち個人が実際に援助技術を実施する。 ・看護過程の展開はグループワークで討議をしながら、看護問題の抽出、看護計画を立てる		
評価方法	定期試験(80%)、看護過程演習(10%)、演習参加・レポート(10%)		
到達目標	１．急性期・周手術期にある成人患者および家族に疾病や生涯、手術他の生体侵襲を受けたことによっておこる身体的・心理的・社会的反応を理解している。 ２．急性期・周手術期における成人患者および家族が受けた生体侵襲からの回復を促進するために必要な知識と技術を習得している。		
授業時間外学習	解剖生理学 A,解剖生理学 B、疾病病態と看護Ⅱ、成人看護総論、等で学習した内容を復習し、理解の不足している箇所を補って授業に臨む。 事前にテキストの該当部分を熟読しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で講義・演習を受講するよう心がけてもらいたい。。

授業スケジュール

1.　ガイダンス　急性期にある人の看護、急性期看護の考え方・急性期にある人の特徴と理解
２．急性期にある人々への看護援助に必要な概念、急性期の看護活動
３．救急看護の場で用いられる看護技術演習－ＢＬＳ・ＡＥＤ①
４．救急看護の場で用いられる看護技術演習－ＢＬＳ・ＡＥＤ②
５．急性期の循環機能障害のある患者の看護
６．急性期の脳神経機能障害のある患者の看護
７．急性期の生体防御機能障害・感染症のある患者の看護
８．急性期の運動機能障害のある患者の看護
９．急性期看護・救急看護の中で用いられる技術の講義：喀痰吸引　酸素吸入　気管挿管　モニター　輸液ポンプ
１０．急性期看護・救急看護の中で用いられる技術の演習：喀痰吸引　酸素吸入　気管挿管　モニター　輸液ポンプ①
１１．急性期看護・救急看護の中で用いられる技術の演習：喀痰吸引　酸素吸入　気管挿管　モニター　輸液ポンプ②
１２．周手術期看護の考え方
１３．周術期にある人の特徴と理解①
１４．周術期にある人の特徴と理解②
１５．周術期にある人への看護援助①
１６．周術期にある人への看護援助②
１７．術前の看護
１８．術中の看護
１９．術後の看護

２０．周術期看護に必要な技術（講義・演習）
２１．創傷ケア・ドレーン管理　持続吸引
２２．開腹術を受ける人の看護
２３．内視鏡下手術を受ける人の看護
２４．開胸術を受ける人の看護
２５．運動器系の手術を受ける人の看護
２６．周術期看護　看護過程の展開演習（紙上患者症例による）①
２７．周術期看護　看護過程の展開演習（紙上患者症例による）②
２８．周術期看護　看護過程の展開演習（紙上患者症例による）③
２９．周術期看護　看護過程の展開演習（紙上患者症例による）④
３０．周術期看護　看護過程の展開演習（紙上患者症例による）⑤

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90053001
科目名	家族看護	単位数	1
科目名（英語表記）	Family Nursing		
担当者名	畑下　博世	旧科目名称	
授業概要	家族を１つのケアの対象として援助する家族看護では、家族一人ひとりの生活の質の向上を目指すことを学修する。家族自らが健康問題を解決し、健康的な家族生活を送ることができるように介入する。具体的には、家族看護の歴史や家族の概念、家族と文化・社会的背景等を学修し、家族の構造的アプローチをはじめ、家族アセスメント、家族ストレス理論などの諸理論を基に、家族の看護過程を事例をもとに展開し、家族看護に必要な支援方法を学修する。		
教材（教科書）	『家族看護学　１９の臨床場面と８つの実践例から考える』　（南江堂）　山崎あけみ　2,300 円		
教材（参考資料）	『家族看護学理論と実践　第４版』　（日本看護協会出版会）　鈴木和子、渡辺裕子　3,200 円		
教育方法	授業で適宜掲示する。		
評価方法	演習課題（４０％）、筆記試験（６０％）		
到達目標	１．看護における家族の捉え方について理解することができる。 ２．地域の人々と家族、地域における個人と家族の支援について説明することができる。 ３．家族アセスメントの基礎となる理論について説明することができる。 ４．家族を単位とした看護過程について理解できる。		
授業時間外学習	これまでに経験した「看護体験実習」「高齢者生活体験実習」「小児発達支援実習」の場面から、家族について考えをまとめておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義内容に関連した文献、新聞記事、報道等に関心を持ち、自ら学びを深める努力をするように。			
授業スケジュール			
１．家族とは（形態と機能） ２．看護における家族の捉え方 ３．家族アセスメントの基礎となる理論① ４．家族アセスメントの基礎となる理論② ５．家族看護学における看護過程（事例演習：母子） ６．家族看護学における看護過程（事例演習：成人） ７．家族看護学における看護過程（事例演習：高齢者） ８．家族看護学における看護過程（事例演習：精神）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90054001
科目名	がん看護	単位数	2
科目名（英語表記）	Cancer Nursing		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
授業概要	近年日本の死因の第一位はがん疾患であることが続いている。時代の変遷とともにがん疾患の究明や治療法が進歩し、がんは生活習慣病とまで言われるようになり、また、長期がん生存者が増加している。その中でがん看護は、がんとその治療に関する直接的な症状への対応が中心であったが、最近では脱毛などの症状、再発・転移の不安、家族支援、経済的問題を含めた精神的サポート、がん予防なども求められている。ここではがん疾患の医学的知識やがん看護における援助を学修する。		
教材（教科書）	『がん看護学』　（ヌーベルヒロカワ）　大西和子、飯野京子　3000 円		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	事前に配布したレジメや、スライドに沿って講義形式で行う。		
評価方法	定期試験（90 %）、レポート（10%）		
到達目標	様々ながん治療を受ける患者の身体的、精神的援助および、ターミナル期における援助の在り方を、全人的視野で考えることができる。		
授業時間外学習	シラバスを概観し、授業の前に予習復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
グループワークも取り入れる講義も考えているので、能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。			
授業スケジュール			
１．進行癌の内科的治療総論（抗がん剤治療を軸とした集学的治療）　（古倉）：10/3(水)① ２．胃癌・大腸癌の内科的治療　（古倉）：10/10(水)① ３．癌の免疫療法　（古倉）：10/17(水)① ４．がん治療薬の臨床試験　（古倉）：10/24(水)① ５．がん患者の緩和療法とこころのケア　（古倉）：11/7(水)① ６．がん看護学の概念　（山田）：9/26(水)① ７．がん看護に活用される理論・モデル　（山田）：10/4(木)① ８．補完代替え療法　（山田）：10/5(金)④ ９．がんの治療と看護の概論　（山田）：10/12(金)④ １０．　がん患者の特徴的な症状マネージメント　（山田）：10/19(金)④ １１．緩和ケア・ターミナルケア・グリーフケアにいたる概論　（山田）：10/19(金)⑤ １２．がん化学療法を受ける患者の看護の実際　（越智）：11/9(金)⑤ １３．放射線療法をうける患者の看護の実際　（芦田）：11/16(金)④ １４．緩和ケアの実際（緩和ケアチーム・緩和ケア病棟・チーム医療について実際を学ぶ。）　（関川）：11/23(金)④ １５．総括：苦痛緩和、特に、がん疼痛のマネジメントについて学ぶ／治療期から緩和ケアを受け、緩和ケア病棟で亡くなった患者の事例をがん看護に特化せず、医療の中の看護師の役割について考える機会を持つ。　（関川）：11/23(金)⑤			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90055001
科目名	医療機器論	単位数	1
科目名（英語表記）	Medical Instrumentation		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
授業概要	医療現場には様々な医療機器が導入され、看護師は日々医療機器を用いて対象の看護にあたっている。機器類を正確に用いることで、患者の安全が確保され、患者に必要なケアや医師の指示に基づいた治療が実践できる。看護師は日常的に使う機器類の基本的な機能を理解し安全にしようできなければならない。本講義では電気の基本的な知識をはじめ、生体情報モニターや輸液ポンプ、人工呼吸器など機器類の概要や機械の誤操作に伴う事故防止について学修する。		
教材（教科書）	ＪＪＮスペシャル 「ナースのための ME 機器マニュアル　」小野哲章・渡辺敏　監修　　医学書院		
教材（参考資料）	その都度提示する		
教育方法	1.講義形式でおこなう。 2.グループに分かれて、機器の実際の取り扱いを学ぶ		
評価方法	レポート 10%、試験 90%		
到達目標	１．基本的な医療機器の取り扱いが理解できる。 ２．医療機器を装着した患者の対応が理解できる。		
授業時間外学習	事前に授業範囲を提示するのでテキストを読んでおくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
臨床で取り扱う医療機器の基本的な考え方を修得することを期待する			
授業スケジュール			
１．医療機器と安全　（市木）：6/8（金）① ２．心電図・モニターについて　（市木）：6/15（金）① ３．輸液ポンプ・シリンジポンプ　（市木）：6/22（金）① ４．医療ガス、酸素ボンベ　（市木）：6/29（金）① ５．人工呼吸器について　（市木）：7/6（金）① ６．医療機器を装着されている患者の援助　（山田）：7/13（金）① ７．人工呼吸器装着患者に対しての対応　（山田）：7/20（金）① ８．人工呼吸器装着患者に対しての対応　（山田）：7/27（金）①			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★

年度	2018	授業コード	J90056001
科目名	急性期療養支援実習	単位数	3
科目名（英語表記）	Critical Health Care Nursing: Clinical Practice		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
授業概要	急性期の実習においては、一人の周手術期における患者を対象に術前・術中・術後の回復過程において、看護の実践を展開するための実習をする。内容として、３週間の実習期間の中で、受け持ち患者の実習を行う。治療の目的である手術がどのように行われたか、予想していた術後の看護問題との比較をし、術後の看護問題の重要度が理解できる。コミュニケーションやカルテからの術前の情報収集から、良好な回復過程が送れるように身体的、精神的な視点から看護を展開する。また退院に向けて、入院中より患者教育の実践を行い、退院後の生活に適応できるように援助の方法を学ぶ。		
教材（教科書）	池松裕子　他編　『急性期看護』　NOUVELLE　HIROKAWA 山崎博彰　編集　『救急看護論』　NOUVELLE　HIROKAWA 雄西　僭恵美他編『周手術期看護論』　NOUVELLE　HIROKAWA		
教材（参考資料）	必要時参考文献を紹介		
教育方法	臨床で受け持ち患者を持ちナースとともに看護過程を展開する		
評価方法	実習目標に対する到達度（実習記録物を含む）60％ 実習カンファレンスにおける態度 40％		
到達目標	1)　患者の病態や治療?処?が患者の心理的?身体的?社会的側面に及ぼす影?を総合的に理解できる 2)　麻酔?手術を受けることが身体に及ぼす影響が理解できる。 3)　周手術期における患者の健康問題に焦点をあて、看睡過程を展開することができる。 4)　患者の状態の変化に応じた回復や適応を促進するため援助方法が理解できる。		
授業時間外学習	急性期および周手術期にある成人の身体?心理?社会的側面の特?等について復習する。 麻酔?手術を受ける患者の生理的変化を復習し、まとめておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1)学外施設での学習になるため実習にふさわしい態度や身だしなみを整えることが必要であるこ とを認識してほしい。
2) 受け持ち患者が決定すれば速やかに術式に合わせた看斑計画を立案できるようにする。
3〉3 週間の実習で、自分自身の体調管理には特に留意すること。

授業スケジュール

実習 1 日目（学内）
　急性期実習を実施するにあたってのオリエンテーション
　実習目的?目標?方法?記録用紙?実習の心描えと態度
実習 2 日目（臨地〉
　施設オリエンテーション、病棟オリエンテーション（病棟の特徴?描造、看睡体制、日課）?手術室オリエンテーション
実習 3〜5 日目（臨地）
　手術見学、手術前後の援助への参加
実習 6〜9 日目（臨地〉
　受け持ち患者へのケアの参加と惜報の収集?看睡計画立案?実施
実習 10 日目（学内）
情報分析内容と看護問題の検討
実習 11〜14 日目（臨地）　　*
　修正した計画の実施、退院に向けての患者教育計画の実施
実習 15 日目（学内）

学習内容のまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★★	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J90057001
科目名	セルフケア支援実習	単位数	3
科目名（英語表記）	Chronical Health Care Nursing: Clinical Practice		
担当者名	前川　直美	旧科目名称	
授業概要	成人期以降の慢性的な健康障害および終末期にある対象を受け持ち、看護過程を展開し、対象とその家族の健康課題を明らかにして、対象に必要な看護を見出し実践する。具体的には、セルフマネジメントの必要な対象に対して、対象と協働し自身が健康障害と生活習慣との関係性を理解するように働きかける。さらに症状および治療に対して、実現可能なセルフマネジメントを考え、健康生活の維持・増進ができるよう支援する。また終末期にある対象のセルフケアを支えるための援助についてアセスメントし、対象のQOL の向上に向けた看護実践能力を養う。		
教材（教科書）	『成人看護学　慢性期看護　病気とともに生活する人を支える　改訂第 2 版』　（南江堂） 鈴木久美、野澤明子、森一恵　3,300 円		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	−		
評価方法	4/5 以上の出席を原則とし、実習内容・実習態度・実習記録・カンファレンスやその内容から評価表に沿って行う。 実習目標に対する到達度（90%）、実習態度（10%）		
到達目標	1. 慢性的な疾患をもつ対象者とその家族について、身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解できる。 2. 生活との折り合いをつけながら、病気とともに生きるためのセルフケア支援を考えることができる。 3. 慢性期看護に必要な知識を活用して看護過程を展開し、個別性を重視した看護実践ができる。 4. 看護専門職者としてのあり方や看護観を深め、自己の学びと課題を明確にすることができる。 5. 倫理的配慮ができる。		
授業時間外学習	解剖・生理、病態・疾患をはじめ、看護論、演習等既習の知識・技術を用いて実習を行うため、復習して実習に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

健康管理に十分留意し、欠席のないようにすること。

授業スケジュール

セルフケア支援実習要項参照

1. 実習 1 日目（学内）
   臨地実習を受けるにあたってのオリエンテーション
   実習の目的・目標・方法・記録用紙の確認、実習の心構えと態度
2. 実習 2 日目（臨地）
   施設オリエンテーション（施設の概要・理念・構造・組織）
   病棟オリエンテーション（病棟の特徴・構造、看護体制、スケジュール）
3. 実習 3〜5 日目（臨地）
   受け持ち患者のケアへ参加、情報収集
4. 実習 6〜7 日目（臨地）
   受け持ち患者のケアへ参加、情報収集
   情報のアセスメントおよび看護問題の抽出
5. 実習 8 日目（学内）
   アセスメント内容の修正と看護問題の確認
6. 実習 9〜10 日目（臨地）
   受け持ち患者のケアへの参加、看護問題に基づいた解決目標・計画立案
7. 実習 11〜14 日目（臨地）
   看護計画に沿った援助の実施、評価
8. 実習 15 日目（学内）
   学習内容のまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J90058001
科目名	高齢者看護学援助論	単位数	2
科目名（英語表記）	Geriatric Nursing: Theory		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
授業概要	高齢者は、疾病や加齢により心身の諸機能の低下や障害が出現するため生活を支える看護が必要となる。そのため、日常生活援助である食事、排泄、清潔、移動、更衣などの基礎知識とその援助技術について論理的に学修する。さらに、高齢者特有の脱水、摂食・嚥下困難、生活不活発性や、今後増加が予想される認知症などの病態へのアセスメント・看護実践について学ぶ。加えて、老年看護の特徴のひとつである穏やかな死を迎えるための高齢者とその家族への看護についても学ぶ。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』（医学書院）北川公子　2,600 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	パワーポイントによる講義、小テスト、DVD ビデオ教材視聴		
評価方法	『確認課題』合計点（20%）定期試験（80%）		
到達目標	1．　高齢者の加齢による生活機能の低下・変調を正しく理解できる。 2．　老年期に特徴的な疾患のアセスメントのための基礎知識を正しく身につける。 3．　回復が望めない重篤な疾患や終末期ケアにおける介護家族への支援を理解できる 4．　生活の場で療養する高齢者への包括的・継続的支援を理解できる。 5．　高齢者特有の医療事故、リスクマネジメントを正しく理解できる。		
授業時間外学習	受講前に教科書の該当ページを一読しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

高齢期に特徴的な疾患における身体症状やアセスメントについて日頃より高い関心を持ち、文献を十分に活用しつつ積極的に学んで下さい。

授業スケジュール

1．　身体の加齢変化とアセスメント①＜フィジカルアセスメント、皮膚・視聴覚・感覚器のアセスメント＞
2．　身体の加齢変化とアセスメント②＜循環器系、消化吸収系、ホルモン系、泌尿・生殖器系、運動系＞
3．　身体症状へのアセスメント＜発熱、疼痛、掻痒、脱水、嘔吐、浮腫、倦怠感＞
4．　日常生活動作、食生活へのアセスメント＜生活機能、基本動作、環境、転倒、廃用症候群、摂食・嚥下機能＞
5．　排泄、身体清潔へのアセスメント＜排泄リズム、排泄障害、清潔の意義、清潔セルフケア、皮膚障害＞
6．　生活リズム、コミュニケーションへのアセスメント＜睡眠と覚醒、コミュニケーション障害＞
7．　回復期を支える看護①＜検査・治療、栄養ケア・栄養マネジメント＞
8．　回復期を支える看護②＜放射線療法、化学療法、手術療法＞
9．　疾患を持つ高齢者への看護①＜脳卒中、心不全＞
10．　疾患を持つ高齢者への看護②＜パーキンソン病、肺炎、ノロウィルス感染症＞
11．　疾患を持つ高齢者への看護③＜骨粗鬆症、骨折、褥瘡＞
12．　認知機能障害への看護＜うつ、せん妄、認知症＞
13．　終末期の看護＜ターミナルケア、緩和ケア、エンドオブライフケア、家族へのケア＞
14．　生活・療養の場での看護＜介護予防、ケアマネジメント、保健医療福祉施設、リハビリテーション、家族看護＞
15．　高齢者のリスクマネジメント＜医療事故、リスクマネジメント、救命救急＞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90059001
科目名	高齢者看護学援助論演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Gerontological Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
授業概要	『成長発達Ⅲ（高齢者の健康と看護）』で学修した知識と技術の統合を目指した高齢者疑似体験や麻痺のある高齢者への食事介助、口腔ケアなどを演習することにより看護技術能力を修得する。脳梗塞後遺症に罹患した高齢者や、認知症に罹患している高齢者などのペーパーペーシェントを用いてアセスメント（情報収集、分析、解釈）、看護診断（看護問題の明確化）、看護計画・実施、評価、修正、実施…という一連の看護過程の思考方法を修得し、ケアプランの立案ができる能力を身につける。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』（医学書院）北川公子　2,600 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	パワーポイントによる授業、グループワーク、DVD ビデオ教材視聴		
評価方法	授業課題（30％）　各演習の記録物・実践への評価（70％）		
到達目標	1．高齢者の病態生理について理解できる。 2．高齢者の個別性を踏まえたうえで全体像を把握できる。 3．高齢者特有の症状についてアセスメントし、個別ケアについて考えられる。 4．高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開について考えられる 5．高齢者の援助に必要な看護技術を習得する 6．老年看護学に関する既習内容を統合し援助を考えることができる		
授業時間外学習	1）各授業項目・内容の表を配布します。該当する項目を教科書で予め読んでおく。 2）関連する DVD ビデオ教材などを見ておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1） 技術項目は安全に留意し、注意深く行うように心がける.
2） 積極的に授業参加し、常にグループダイナミクスの向上に努める。
3） 理解できないときは質問し、疑問を残さない。

授業スケジュール

1．アクティビティ（グループワーク）
2．アクティビティ（グループ発表）
3．高齢者疑似体験、移動・移乗の援助方法について（演習）
4．マウスケア（演習）
5．アセスメントツールと看護過程の展開について
6．看護過程の展開方法（事例１を用いた演習方法の説明①）
7．看護過程の展開方法（事例１を用いた演習方法の説明②）
8．看護過程の展開方法（事例１を用いた演習方法の説明③）
9．看護過程の展開方法（事例２を用いた学生と教員によるディスカッションと展開①）
１０．看護過程の展開方法（事例２を用いた学生と教員によるディスカッションと展開②）
１１．看護過程の展開方法（事例２を用いた学生と教員によるディスカッションと展開③）
１２．看護過程の展開方法（事例３を用いたグループワークと展開①）
１３．看護過程の展開方法（事例３を用いたグループワークと展開②）
１４．看護過程の展開方法（事例３を用いたグループワークと展開③）
１５．グループワークの発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J90059002
科目名	高齢者看護学援助論演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Gerontological Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
授業概要	『成長発達Ⅲ（高齢者の健康と看護）』で学修した知識と技術の統合を目指した高齢者疑似体験や麻痺のある高齢者への食事介助、口腔ケアなどを演習することにより看護技術能力を修得する。脳梗塞後遺症に罹患した高齢者や、認知症に罹患している高齢者などのペーパーペーシェントを用いてアセスメント（情報収集、分析、解釈）、看護診断（看護問題の明確化）、看護計画・実施、評価、修正、実施…という一連の看護過程の思考方法を修得し、ケアプランの立案ができる能力を身につける。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』（医学書院）北川公子　2,600 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	パワーポイントによる授業、グループワーク、DVD ビデオ教材視聴		
評価方法	授業課題（30％）　各演習の記録物・実践への評価（70％）		
到達目標	1．高齢者の病態生理について理解できる。 2．高齢者の個別性を踏まえたうえで全体像を把握できる。 3．高齢者特有の症状についてアセスメントし、個別ケアについて考えられる。 4．高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開について考えられる 5．高齢者の援助に必要な看護技術を習得する 6．老年看護学に関する既習内容を統合し援助を考えることができる		
授業時間外学習	1）各授業項目・内容の表を配布します。該当する項目を教科書で予め読んでおく。 2）関連する DVD ビデオ教材などを見ておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1） 技術項目は安全に留意し、注意深く行うように心がける.
2） 積極的に授業参加し、常にグループダイナミクスの向上に努める。
3） 理解できないときは質問し、疑問を残さない。

授業スケジュール

1．アクティビティ（グループワーク）
2．アクティビティ（グループ発表）
3．高齢者疑似体験、移動・移乗の援助方法について（演習）
4．マウスケア（演習）
5．アセスメントツールと看護過程の展開について
6．看護過程の展開方法（事例１を用いた演習方法の説明①）
7．看護過程の展開方法（事例１を用いた演習方法の説明②）
8．看護過程の展開方法（事例１を用いた演習方法の説明③）
9．看護過程の展開方法（事例２を用いた学生と教員によるディスカッションと展開①）
１０．看護過程の展開方法（事例２を用いた学生と教員によるディスカッションと展開②）
１１．看護過程の展開方法（事例２を用いた学生と教員によるディスカッションと展開③）
１２．看護過程の展開方法（事例３を用いたグループワークと展開①）
１３．看護過程の展開方法（事例３を用いたグループワークと展開②）
１４．看護過程の展開方法（事例３を用いたグループワークと展開③）
１５．グループワークの発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J90060001
科目名	高齢者看護学実習	単位数	3
科目名（英語表記）	Gerontological Nursing: Clinical Practice		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
授業概要	健康障害を持つ高齢者を全人的に捉え、健康問題だけでなく QOL や ADL・残存機能の維持向上等の側面から、看護上の問題を把握し、対象者のその人らしさを尊重し、個別性をふまえたケアプランを立案し看護過程の展開能力を修得する。加えて、高齢者の身体的・心理的な状態に適応した看護技術の実践能力を身につける。さらに高齢者看護（継続ケを含む）を実践する上で必要な他職種との連携や保健・医療・福祉制度の利用などについて具体的に学ぶ。		
教材（教科書）	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学』（医学書院）北川公子　2,600 円 『老年看護　病態・疾患論』（医学書院）　佐々木英忠		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	１．実習評価（実践への取り組み・実習記録）８０％、事前学習１０％、出席状況１０％により総合評価する ２．実習評価は、実習施設の指導者および指導教員の評価、学生の自己評価、記録物の提出により決定する ３．出席が所定の日数に満たない場合には評価を受けることができない場合がある。		
到達目標	１．健康問題を抱える老年期の人の特性を理解し、個別性に応じた看護援助を展開する。 ２．老年期の人が生き生きと暮らせるための援助について、計画、実施、評価する基礎的能力を養う。 ３．老年期の人に尊敬の念を持って関わり、倫理的配慮ができる。 ４．関係職種・機関との連携・調整について学び、看護職の役割について考察できる ５．老年期の人とその家族への援助を提供する看護専門職者としての態度を養う。		
授業時間外学習	１．老年期の生理的特徴と老年症候群（脱水、浮腫、せん妄、抑うつ、腰背痛、転倒・骨折、排尿障害、便秘、嚥下障害、失語、認知症、褥瘡、白内障、老人性難聴 etc.） ２．バイタル測定、聴診法（肺音、腸音、心音）、血圧、動脈血酸素飽和度、ADL 機能評価 ３．患者の安全・安楽・事故防止（輸液療法、歩行・車椅子移動、バルンカテーテルなどチューブ挿入、水分出納バランスと点滴の滴下数チェック） ４．主な疾患（心不全、肺炎、肺癌、白血病、脳出血、脳梗塞、パーキンソン病、多発性硬化症、硬膜下血腫）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

臨床実習は、看護実践の場で患者の皆様に貴重な体験の場を提供して頂き、看護の先輩の方々から貴重な教えを授かります。お礼の言葉「ありがとうございます」を述べましょう。

授業スケジュール

１日目（学内）： 臨地実習実施に当たってのオリエンテーション（実習目的・目標・方法・記録用紙の確認、実習の心得と態度）
２日目（臨地）： 病棟オリエンテーション（病棟の特徴・構造、看護体制、日課）、受け持ち対象者の決定、情報収集、受け持ち対象者へのケアの見学と情報収集
３～５日目（臨地）： 受け持ち対象者のケアへの参加と情報収集・分析・問題抽出
６日目（学内）： 看護計画立案
７～１１日目（臨地）： 看護計画カンファレンス、実施・評価、テーマカンファレンス
１１～１４日目（臨地）： 看護計画修正、実施・評価、サマリーによる最終カンファレンス
１５日目（学内）： 実習のまとめ、全体カンファレンス、レポート作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J90061001
科目名	精神看護学援助論	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychiatric Nursing: Theory		
担当者名	矢山　壮	旧科目名称	
授業概要	「健康」のパラダイムから、心の健康障害を本来の心の機能の逸脱と捉え、主たる精神疾患（器質性精神障害、神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、パーソナリティ障害、気分障害、てんかん、摂食障害、依存症）症状と看護を展開するための理論と、実践的な治療的コミュニケーション技術を習得する。また、精神力動理論から、精神機能・社会機能・家族機能をアセスメントし、実現可能な、最善のケアを提供するための看護介入とその根拠を理解する。		
教材（教科書）	『精神看護学』（南江堂）￥3240		
教材（参考資料）	授業の中で適宜紹介していきます。		
教育方法	教科書や配布資料（PDF データなど）に沿って講義を進める。適宜講義内容に応じた国家試験問題を解答・解説をおこなう		
評価方法	定期試験（80%）、レポート（10%）、平常点（10%）		
到達目標	１．精神疾患患者の治療と看護が理解できる ２．精神の健康問題をもつ対象者を理解するための技術や考え方について、知識を得て、自ら考えることができる。 ３．事例をもとに、対象者の理解を深め、援助について自ら考えることができる。		
授業時間外学習	講義前に教科書の講義内容を予習する。講義後は配布資料や講義中に指示した教科書の内容を復習する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．学んだ理論や知識を自らの体験と照らし合わせて考えてみましょう。
２．遅刻や私語を厳禁とします。私語があまりに多いようなら、他の学生に迷惑となるため退出してもらいます。
３．教員の指示がない限り、スマートフォン・携帯電話を使用してはいけません。
４．スケジュールや授業内容は変更する場合があります。その場合は、授業中あるいは京学なびにて連絡します。
５．「成長発達Ⅴ」や「精神医学」の講義内容を含め復習すると学びが深まります。

授業スケジュール

１．統合失調症と関連疾患の概要　（矢山）
２．統合失調症と関連疾患の治療　（矢山）
３．統合失調症と関連疾患の看護　（矢山）
４．気分障害（うつ病）　（矢山）
５．気分障害（躁うつ病）（矢山）
６．パニック症､強迫症　（松井）
７．PTSD、身体症状症､解離性障がい　（松井）
８．摂食障がい、アルコール依存症　（松井）
９．薬物依存症､アディクション　（松井）
１０．境界性パーソナリティ障がい、LGBT（性的マイノリティ）　（松井）
１１．アスペルガー症候群、ADHD　（松井）
１２．パニック症､強迫症ほか（国試対策）　（松井）
１３．器質性精神障害（アルツハイマー型認知症）　（矢山）
１４．器質性精神障害（脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症）　（矢山）
１５．統合失調症と関連疾患ほか（国試対策）（矢山）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J90062001
科目名	精神看護学援助論演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Psychiatric Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
授業概要	『環境』のパラダイムから、我が国の精神保健福祉政策・関連法規の変遷と現状を踏まえ、精神障碍者の権利擁護における看護活動について理解することができる。また、社会復帰・社会参加の基本と働きかけ地域での自立の場と援助活動について理解する。また、対人関係の看護論（トラベルビー）の視点から「患者」という人間は存在しないことを前提とし、「人間対人間の看護」「人間体験としての苦難」「苦難」の現れ・過程・消滅、「希望」、「対人関係のプロセス」について理解できる。		
教材（教科書）	『精神看護学Ⅰ』『精神看護学Ⅱ』野田文隆　萱間真美　編著　改訂第2版　南江堂　2015		
教材（参考資料）	・日本精神科看護技術協会監修（2011）：対人関係／グループアプローチ／家族関係，p102，精神看護出版. ・山本勝則・藤井博英編集（2008）：根拠がわかる精神看護技術，p344-352，メヂカルフレンド社. ・川野雅資編著（1997）：患者－看護師関係とロールプレイング，日本看護協会出版会，p47. ・髙良　聖（2013）：サイコドラマの技法－基礎・理論・実践－，p14-25，岩崎学術出版社		
教育方法	「対人関係のプロセス 」「人間」「患者」「病気」という主たる概念、苦難と病気に対する反応（非難・当惑・切望・防衛機制）を理解した上で、グループ演習（ロールプレイ）を行う。統合失調症の急性期事例を用い、経過、予後を含めた、下記の例示から場面設定を選び、シナリオを作成する。ロールプレイを通して、概念レベルではなく、体験的な学習ともに精神科看護のコミュニケーション技術を習得する。なお、場面設定としては、以下の場面を挙げている。 場面1：実習前の不安・怖さと関心 場面2：初対面トラベルビーの「はじめての出会い」 場面3：患者さんの退院の希望への対応 場面4：行動制限と施設外への誘導 場面：ゲームを通して対象への接近 場面6：拒否されたときの心情・教員との振り返り 場面7：実習カンファレンス：症状を踏まえた対応 場面8：患者のニーズへの対応 場面9 ：実習最終日：援助のターミネーション（終結）		
評価方法	講義毎の提出物・課題（20%）・演習レポート(30%）・定期試験（50%）		
到達目標	1.我が国の精神保健福祉政策・関連法規の変遷と現状を踏まえ、精神障碍者の権利擁護における看護活動について理解する。2.心の健康を促進し、健康障害の予防・回復、リハビリテーションの場と援助活動について理解する。3.対人関係の看護論（トラベルビー）の視点から、「人間対人間の看護」「人間体験としての苦難」「苦難」の現れ、プロセス、その消滅、「希望」、「対人関係のプロセス」について理解できる。		
授業時間外学習	事前資料を配布し、課題、事前学習内容を把握しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
記録・提出物は独力で記載する。グループ演習においては課せられた役割を果たす。			
授業スケジュール			
1.我が国の精神保健福祉政策・関連法規の変遷：精神保健福祉法、障害者自立支援法、心神喪失者等医療観察法・児童虐待防止法 2.精神保健福祉の現状と課題：社会的入院、入院の長期化、身体合併症			

3.精神科リハビリテーションの主概念
4.医療機関におけるリハビリテーション（作業療法・認知行動療法・社会生活技能訓練）
5.包括的リハビリテーション、ＡＣＴ
6.精神障碍者の権利擁護（アドボカシー)、トラベルビーの看護の役割：「病人の擁護者、仲裁者、調停者」
7.トラベルビーの「看護の本質」：対人関係のプロセス
8.トラベルビーの「人間」「患者」という概念
9.トラベルビーの「病気」の概念：病気に関する文化的信念、精神病に関する信念、診断基準
10.苦難と病気に対する反応（非難・当惑・切望・防衛機制）
6-10 は、統合失調症の事例をもとに、ロールプレイの演習を行う。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	J90062002
科目名	精神看護学援助論演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Psychiatric Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
授業概要	『環境』のパラダイムから、我が国の精神保健福祉政策・関連法規の変遷と現状を踏まえ、精神障碍者の権利擁護における看護活動について理解することができる。また、社会復帰・社会参加の基本と働きかけ地域での自立の場と援助活動について理解する。また、対人関係の看護論（トラベルビー）の視点から「患者」という人間は存在しないことを前提とし、「人間対人間の看護」「人間体験としての苦難」「苦難」の現れ・過程・消滅、「希望」、「対人関係のプロセス」について理解できる。		
教材（教科書）	『精神看護学Ⅰ』『精神看護学Ⅱ』野田文隆　萱間真美　編著　改訂第2版　南江堂　2015		
教材（参考資料）	・日本精神科看護技術協会監修（2011）：対人関係／グループアプローチ／家族関係，p102，精神看護出版. ・山本勝則・藤井博英編集（2008）：根拠がわかる精神看護技術，p344-352，メヂカルフレンド社. ・川野雅資編著（1997）：患者－看護師関係とロールプレイング，日本看護協会出版会，p47. ・髙良　聖（2013）：サイコドラマの技法－基礎・理論・実践－，p14-25，岩崎学術出版社		
教育方法	「対人関係のプロセス 」「人間」「患者」「病気」という主たる概念、苦難と病気に対する反応（非難・当惑・切望・防衛機制）を理解した上で、グループ演習（ロールプレイ）を行う。統合失調症の急性期事例を用い、経過、予後を含めた、下記の例示から場面設定を選び、シナリオを作成する。ロールプレイを通して、概念レベルではなく、体験的な学習ともに精神科看護のコミュニケーション技術を習得する。なお、場面設定としては、以下の場面を挙げている。 場面1：実習前の不安・怖さと関心 場面2：初対面トラベルビーの「はじめての出会い」 場面3：患者さんの退院の希望への対応 場面4：行動制限と施設外への誘導 場面：ゲームを通して対象への接近 場面6：拒否されたときの心情・教員との振り返り 場面7：実習カンファレンス：症状を踏まえた対応 場面8：患者のニーズへの対応 場面9 ：実習最終日：援助のターミネーション（終結）		
評価方法	講義毎の提出物・課題（20%）・演習レポート(30%）・定期試験（50%）		
到達目標	1.我が国の精神保健福祉政策・関連法規の変遷と現状を踏まえ、精神障碍者の権利擁護における看護活動について理解する。2.心の健康を促進し、健康障害の予防・回復、リハビリテーションの場と援助活動について理解する。3.対人関係の看護論（トラベルビー）の視点から、「人間対人間の看護」「人間体験としての苦難」「苦難」の現れ、プロセス、その消滅、「希望」、「対人関係のプロセス」について理解できる。		
授業時間外学習	事前資料を配布し、課題、事前学習内容を把握しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
記録・提出物は独力で記載する。グループ演習においては課せられた役割を果たす。			
授業スケジュール			
1.我が国の精神保健福祉政策・関連法規の変遷：精神保健福祉法、障害者自立支援法、心神喪失者等医療観察法・児童虐待防止法 2.精神保健福祉の現状と課題：社会的入院、入院の長期化、身体合併症			

3.精神科リハビリテーションの主概念
4.医療機関におけるリハビリテーション（作業療法・認知行動療法・社会生活技能訓練）
5.包括的リハビリテーション、ＡＣＴ
6.精神障碍者の権利擁護（アドボカシー)、トラベルビーの看護の役割：「病人の擁護者、仲裁者、調停者」
7.トラベルビーの「看護の本質」：対人関係のプロセス
8.トラベルビーの「人間」「患者」という概念
9.トラベルビーの「病気」の概念：病気に関する文化的信念、精神病に関する信念、診断基準
10.苦難と病気に対する反応（非難・当惑・切望・防衛機制）
6-10 は、統合失調症の事例をもとに、ロールプレイの演習を行う。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	J90063001
科目名	精神看護学実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychiatric Nursing: Clinical Practice		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
授業概要	精神科病院の治療構造の必要性・特殊性を踏まえ、生活の場・治療の場における生きづらさを学ぶ。また、精神障害をもつ人を、生物学的視点、心理学的視点、社会的な視点から理解し、それに基づく看護計画を立案できる。障害をセルフケア能力における個性あるいは限界と捉え、対象者が求める安寧とセルフケアの向上に向けた、個別的な援助を学ぶ。さらに、治療的コミュニケーション・援助を通して、対象理解に留まらず、援助者である学生自身の振り返りができ、自己洞察を深めることを目標とする。		
教材（教科書）	萱山真美・野田文隆編（著）「精神看護学」II　改訂第 2 版　南江堂　2015		
教材（参考資料）	・Edwin R.ワレス：力動精神医学の理論と実際　医学書店　1999 ・ジョイス・ トラベルビー：人間対人間の看護 医学書店　1974		
教育方法	事前学習 ①　統合失調症(慢性期）の事例から、所定の記録様式を用いて、看護問題の特定、「生きづらさ」の記述をしておく。 ②　精神病水準の主たる疾患の ICD-10 における診断基準の概要を把握しておく。 ③　精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に基づく入院形態を把握しておく。 ④　プロセスレコードの目的、記載方法、それに関連して Orlamd、Wiedenbach の看護過程の定義を理解しておく。		
評価方法	事前学習(10%)、看護実践（80%)、レポート（10%）とする。		
到達目標	1.『環境』としての精神科病院の治療構造の必要性・特殊性を踏まえ、生活の場・治療の場における「生きづらさ」を理解できる。2.生物学的、心理学的、社会的な視点から対象を理解し、それに基づく看護行動ができる。3.障がいを、能力における限界、個性と捉え、対象者が求める安寧に向けた、個別的な援助ができる。4.看護実践を通して、もう 1 つの対象である学生自身の振り返りができ、自己洞察を深めることができる。		
授業時間外学習	精神看護学実習要項、オリエンテーション資料の熟読、事前学習の提出		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

事前学習、実習に相応しい外観・態度・服装・言葉使いなどの「心」の準備と外観・行動へ反映。

授業スケジュール

1.実習 1 日目：学内オリエンテーション

2.実習 2 日目：病院・病棟オリエンテーション、患者紹介、　情報収集とコミュニケーション。ファーストコンタクトをプロセスレコードに記入。対象への接近の様子を基本データに整理し、解釈をする。

3.実習 3 日～5 日目：患者への接近・援助から、「対象理解」を深め、「生きづらさ」と看護問題の把握する。「対象理解」とは下記を内容をしめす。

① 力動精神医学の視点から患者の症状・行動の理解
② 疾患による特異的な症状、治療による有害事象、差別、スティグマ（偏見）からの苦痛への理解
③ 1 対 1 の対人関係で起こっている「対象－援助者間の現象」への理解
④ 援助者自身（看護学生）の認知（知覚－感情－記憶－思考）への理解（リフレクション）
何に目を取られ、見失うのか、また、どのような感情を抱き、思考し、行動するという援助者自身の認知機能の傾向を理解する。

4.実習 6～9 日目：「生きづらさ」を踏まえ、日常生活の援助しつつ、人間対人間の関係への展開をしてゆく。対象との関係の変化においてはプロセスレコードに記入し、リフレクションする。

5.実習 10 日：学内　精神看護学実習レポートの作成と記録の提出、物品の返却

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J90064001
科目名	小児看護学援助論	単位数	2
科目名（英語表記）	Pediatric Nursing: Theory		
担当者名	高尾　憲司	旧科目名称	
授業概要	「小児期の成長発達と健康問題」をテーマに、子どもの発達、健康、生活を総合的に捉え、“子どもを育てるために社会が子どもの健康をどのように守ろうとしているのか“や“小児期に起こりやすい健康問題”についての理解を目指す。また、子どもの発達、健康、生活の総合理解から、さまざまな健康レベルにある子どもの生活と養護に関するシミュレーションを行い、子どもとその家族を主体とした看護援助方法・技術について学生自らが主体的に修得することを目指す。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論・小児臨床看護総論』　（医学書院）　奈良間美保　2,800 円 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学②　小児臨床看護各論』　（医学書院）　奈良間美保　3,300 円		
教材（参考資料）	『子どもの病気の地図帳』　（講談社）　鴨下重彦、柳沢正義　4,000 円 『看護のための人間発達学』　（医学書院）　舟島なをみ　3,000 円		
教育方法	DVD 教材やパワーポイントを活用して授業を構成する。基本的には、講義毎に配布する資料に沿って講義形式で実施する。講義では、教員が示す授業テーマとキーワードについて具体的事例を多用し、解説するので、学生は、資料やテキストに記入を行う。各講義の最終に、キーワードについての知識を説明を求める課題を提示するので、解答を提出する。解答結果について、次回の授業で正解を述べる。		
評価方法	定期試験（100%） ※全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下となる。3 分の 2 以上の出席があった場合においても定期試験で 60 点に満たない場合は不合格となる。		
到達目標	1．子どもの看護に必要な概念（子どもの権利、ストレス・コーピング、プレパレーションなど）について説明できる。 2．健康障害を持つ子どもとその家族の特徴を理解し、子どもと家族への看護援助について述べることができる。 3．子どもに起こりやすい健康問題とその援助について、子どもの発達、健康、生活や社会政策を含めて述べることができる。 4．子どもの最善の利益について説明することができる。		
授業時間外学習	「成長発達Ⅰ（小児の健康と看護)」で学んだ内容が基礎となるため、成長発達１（小児健康と看護）で配布した資料等について復習・整理し、いつでも見直せるよう準備しておくこと。また、講義予定と目標・テーマを示したシナリオを初回授業時に配布するので、シナリオに示された講義予定範囲につて、テキスト部分を熟読して講義にのぞむこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・すべての単元が「小児の健康回復を支える援助」の講義の基礎となる内容であると同時に、講義内容が連続的であることから、講義は休まない事。
・健康障害を持つ子どもへの看護の検討、実施に向けて、応用が行えるよう、授業内で紹介する文献を読み、学びをまとめる学修をすること。
・小児の解剖・生理、小児に特徴的な疾患に関する関連文献から積極的に知識をまとめ、修得し、講義にのぞむこと。
・私語は厳禁とする。

授業スケジュール

1．健康障害を持つ子どもと家族の看護１：子どもとその家族の病気・障害に対する理解と反応
2．健康障害を持つ子どもと家族の看護２：子どもとその家族の病気や障害の治療や健康管理に関する看護
3．小児の状況（環境）に特徴づけられる看護１：入院による子どもと家族への影響
4．小児の状況（環境）に特徴づけられる看護２：外来・在宅における子どもと家族への看護
5．急性期にある子どもと家族の看護
6．周手術期にある子どもと家族への看護

7．慢性期にある子どもと家族への看護
8．終末期にある子どもと家族への看護
9．ハイリスク新生児とそのケア１：ハイリスク新生児と保育器について
１０．ハイリスク新生児とそのケア２：保育器内におけるハイリスク新生児のケア
１１．小児におこりやすい事故・外傷とその看護
１２．症状を示す子どもと家族への看護１：痛み・呼吸困難
１３．症状を示す子どもと家族への看護２：発熱・脱水
１４．症状を示す子どもと家族への看護３：下痢・嘔吐・けいれん
１５．子どもの健やかな成長・発達を支えるために

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90065001
科目名	小児看護学援助論演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Pediatric Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
授業概要	第１テーマを「健康障害を持つ小児のアセスメントと看護介入」とし、病気や入院が子どもに及ぼす影響、健康障害をもつ子どもの健康評価を中心に、小児のアセスメント概念を学ぶ。さらに看護過程の展開を通し、さまざまな健康レベルにある子どもとその家族に対する看護の特徴と看護実践に必要な知識・態度・技術の修得をめざす。第２テーマを「小児の健やかな成長発達と健康障害への支援」とし、疾病や事故に伴う現象の理解、フィジカルアセスメントのシミュレーションから、子どもの看護に必要な分析能力の修得をめざす。		
教材（教科書）	奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①「小児看護学概論・小児臨床看護総論」　医学書院　3,024 円 奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学②「小児臨床看護各論」　医学書院　3,564 円 東京大学医学部附属病院 看護部監修　ナーシングスキル日本版　ELSEVIER		
教材（参考資料）	山元恵子監修　写真でわかる小児看護技術 改訂第３版（写真でわかるシリーズ）　2,700 円 鴨下重彦・柳沢正義監修　「子ども病気の地図帳」　講談社　4,320 円 舟島なをみ著　看護のための人間発達学　　医学書院　3,240 円 浅野みどり編集　根拠と事故防止からみた小児看護技術　医学書院　4,320 円 石黒彩子編集　発達段階からみた看護過程＋病態関連図　4,104 円		
教育方法	１．DVD 教材やパワーポイントを活用する。 ２．適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（７０％）　演習への取り組み度（３０％）		
到達目標	１．小児特有の疾患を理解し、子どもの健康障害のレベル及び子どもと家族の置かれている状況についてアセスメントできる。 ２．健康障害のある子どもと家族への必要な看護援助について述べることができる。 ３．子どもの健康障害・発達段階に応じた看護技術を選択し、述べることができる。		
授業時間外学習	「成長発達Ⅰ（小児の健康と看護)」「小児の健康障害と看護」で学んだ内容が基礎となるため、復習しておくこと。また、演習内容を教科書と照合し、概要を把握しておくこと。小児看護技術においては入念に学習すること。看護過程については、対象疾患について詳細に調べておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

すべての単元がグループワークであるため、受講は全出席を基本とする。小児看護技術は、グループワーク、プレゼンテーションとロールプレイを組み合わせて学内技術実習を行なう。　特に小児看護技術に関する項目は積み上げ内容になっているため、各項目の小児看護技術を確実に習得することが必要である。学生個々に技術練習を行うとともに、教員のチェックを受け正確に技術を身につけるよう努めること。看護過程については、ペーパーペイシェントでの展開を実施する。

授業スケジュール

１．　ガイダンス
２．　移動・移送・環境（安全）の調整・更衣・おむつ交換
３．　バイタルサインの測定・身体計測
４．　清拭（部分浴を含む）
５．　与薬（内服・坐薬・輸液）の援助
６．　診察の介助技術
７．　処置・検査の援助　１（採血・輸液）
８．　処置・検査の援助　２（腰椎穿刺・骨髄穿刺）
９．　看護過程：事例紹介・グループワーク
１０．ペーパーペイシェントのアセスメントの作成
１１．ペーパーペイシェントの関連図の作成
１２．ペーパーペイシェントの看護問題の明確化及び看護計画の立案

１３．ペーパーペイシェントの看護計画の立案 １４．各グループの学習成果発表 １５．各グループの学習成果発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90065002
科目名	小児看護学援助論演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Pediatric Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
授業概要	第１テーマを「健康障害を持つ小児のアセスメントと看護介入」とし、病気や入院が子どもに及ぼす影響、健康障害をもつ子どもの健康評価を中心に、小児のアセスメント概念を学ぶ。さらに看護過程の展開を通し、さまざまな健康レベルにある子どもとその家族に対する看護の特徴と看護実践に必要な知識・態度・技術の修得をめざす。第２テーマを「小児の健やかな成長発達と健康障害への支援」とし、疾病や事故に伴う現象の理解、フィジカルアセスメントのシミュレーションから、子どもの看護に必要な分析能力の修得をめざす。		
教材（教科書）	奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①「小児看護学概論・小児臨床看護総論」　医学書院　3,024 円 奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学②「小児臨床看護各論」　医学書院　3,564 円 東京大学医学部附属病院 看護部監修　ナーシングスキル日本版　ELSEVIER		
教材（参考資料）	山元恵子監修　写真でわかる小児看護技術 改訂第３版（写真でわかるシリーズ）　2,700 円 鴨下重彦・柳沢正義監修　「子ども病気の地図帳」　講談社　4,320 円 舟島なをみ著　看護のための人間発達学　　医学書院　3,240 円 浅野みどり編集　根拠と事故防止からみた小児看護技術　医学書院　4,320 円 石黒彩子編集　発達段階からみた看護過程＋病態関連図　4,104 円		
教育方法	１．DVD 教材やパワーポイントを活用する。 ２．適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（７０％）　演習への取り組み度（３０％）		
到達目標	１．小児特有の疾患を理解し、子どもの健康障害のレベル及び子どもと家族の置かれている状況についてアセスメントできる。 ２．健康障害のある子どもと家族への必要な看護援助について述べることができる。 ３．子どもの健康障害・発達段階に応じた看護技術を選択し、述べることができる。		
授業時間外学習	「成長発達Ⅰ（小児の健康と看護)」「小児の健康障害と看護」で学んだ内容が基礎となるため、復習しておくこと。また、演習内容を教科書と照合し、概要を把握しておくこと。小児看護技術においては入念に学習すること。看護過程については、対象疾患について詳細に調べておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

すべての単元がグループワークであるため、受講は全出席を基本とする。小児看護技術は、グループワーク、プレゼンテーションとロールプレイを組み合わせて学内技術実習を行なう。　特に小児看護技術に関する項目は積み上げ内容になっているため、各項目の小児看護技術を確実に習得することが必要である。学生個々に技術練習を行うとともに、教員のチェックを受け正確に技術を身につけるよう努めること。看護過程については、ペーパーペイシェントでの展開を実施する。

授業スケジュール

１．　ガイダンス
２．　移動・移送・環境（安全）の調整・更衣・おむつ交換
３．　バイタルサインの測定・身体計測
４．　清拭（部分浴を含む）
５．　与薬（内服・坐薬・輸液）の援助
６．　診察の介助技術
７．　処置・検査の援助　１（採血・輸液）
８．　処置・検査の援助　２（腰椎穿刺・骨髄穿刺）
９．　看護過程：事例紹介・グループワーク
１０．ペーパーペイシェントのアセスメントの作成
１１．ペーパーペイシェントの関連図の作成
１２．ペーパーペイシェントの看護問題の明確化及び看護計画の立案

１３．ペーパーペイシェントの看護計画の立案 １４．各グループの学習成果発表 １５．各グループの学習成果発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90066001
科目名	障がい児看護演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Care of Disabled Child Population		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
授業概要	発達に障がいのある子どもと家族への看護実践のために、子どもとその家族への社会的支援の在り方と具体的看護援助の方法について学ぶ。さらに、発達に障がいを持ちながら社会で生活する子どもとその家族の小児看護へのニーズを理解するために、小児の養育支援に関わる福祉施設の見学実習を行う。見学をとおし、保健医療・福祉・教育との関連、社会における子どもへのサポートシステムの動向や、発達の障がいに応じた子どものサポートシステムおける看護の役割・活動について学ぶ。		
教材（教科書）	倉田慶子他編集　「ケアの基本がわかる重症心身障害児の看護」　ヘルス出版 4104 円		
教材（参考資料）	写真でわかる重症心身障害児(者)のケア: 人としての尊厳を守る療育の実践のために（写真でわかるシリーズ） インターメディカ出版　4104 円 舟島なをみ著　「看護のための人間発達学」　医学書院　3240 円 奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野 II　小児看護学①「小児看護学概論・小児臨床看護総論」医学書院　3024 円 奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野 II　小児看護学②「小児看護学各論」医学書院 3240 円 白石正久著　「発達の扉上・下」かもがわ出版　各 2080 円		
教育方法	各グループごとに 1 週間の集中講義形式で 10 月～12 月の期間に、演習と施設見学を実施する。 演習は、１グループ 5 ～ 6 名程度のグループに分かれて実施する。 学内では、障がい児者への基本的看護についての講義の後、技術提供の方法についてモデル人形を用いて学修する。技術演習は、各グループ内で学生が各演習技術項目における主担当を決定し、各担当学生が主体的に演習技術項目について学習し、教員の指導の下、資料作成と技術実施方法について、デモンストレーション形式で発表する。発表内を基に各グループで技術演習をロールプレイ学修していく。 ロールプレイした技術演習項目については各自レポートを作成する。 施設見学においては、障がい児者への実際のコミュニケーションスキルや看護技術の提供方法について看護場面を見学する。見学内容については学内でグループワークを行い、学びの共有を行い、各自レポートにまとめる。		
評価方法	レポート（70%）　演習への取り組み度(30%)		
到達目標	１．障がいの概念について説明できる。 ２．障がいを持つ子どもとその家族の特徴について説明できる。 ３．障がいを持つ子どもとその家族の障害の受容過程について説明できる。 ４．障がいを持つ子どもとその家族の日常生活や健康管理上に必要な基本的看護について説明できる。 ５．障がいを持つ子どもとその家族を支援するための多職種連携の必要性について説明できる		
授業時間外学習	１．参考文献（「重症心身障がい児（者）のケア」アドバンス）や関連文献を読み、ポジショニング、経管栄養、吸引、バイタルサインの測定、移動・移送の介助についての技術方法に関する資料収集しておく。 ２．「障がい児者の尊厳」について NHK バリバラ等の視聴や参考文献（発達の扉）の熟読を行い、自己の考えを 800 字程度のレポートにまとめておく。 ３．初回授業時に、「授業の予定と課題」のプリントを配布するので、授業の技術レポートなど講義日程と内容を合わせて確認し、課題提出をすること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・障がいの種類と程度について理解し、様々な障害を持つ子どもたちが、成長発達できるための支援として看護者の果たすべき役割を問い続けながら、施設見学や講義・演習にのぞむこと。 ・障がいを持つ子どもやその家族へ接するにあたり、倫理的側面から取るべき行動や態度について、よく考えて施設見学や授業にのぞむこと。権利主張や意思主張が明確に行えない人々の思いを良く汲み取り、現在の自分に出来ることは何かを常に問う姿勢をもつこと。 ・施設見学では、抵抗力の弱い障がい児者の方々への感染予防を図るため、自己の健康管理を十分に行うこと。		

・数か所の施設への見学では、施設により見学開始時間や終了時間が異なるので、事前に集合時間や場所など確認する。

授業スケジュール

1.オリエンテーション、障がいとは、尊厳を守るケアについて
2.障がいを持つ子どもの発達の特徴について
3.障害を持つ子どもと家族の特徴について、家族の受容過程と看護援助
4.障がいを持つ子どもへの養育と看護援助
5.障害を持つ子どもとのコミュニケーション
6.障がいを持つ子どもの日常生活の援助
7.障がいを持つ子どもの日常生活の援助の実際①バイタルサイン測定と一般状態の観察
8.障がいを持つ子どもの日常生活の援助の実際②栄養ケア（経管栄養）について
９.障がいを持つ子どもの日常生活の援助の実際③身体の動かし方（移動・移送）について
１０.障がいを持つ子どもの日常生活の援助の実際④ポジショニングについて
１１．障がいを持つ子どもの日常生活の援助の実際⑤呼吸ケア（吸引）について
※７～１１回の内容については学内演習及び施設見学で学修する。
１２．グループワーク：１２～１５回
テーマを課題より選択し、グループディスカッションし、まとめる。
テーマ：①障がいを持つ子どもの生活を広げるためのケアについて
②障がいを持つ子どもとその家族への援助について
③医療的ケアが必要な子どもの在宅ケアと看護師の役割について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	J90067001
科目名	小児看護学実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Pediatric Nursing: Clinical Practice		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
授業概要	子どもの発達の特性を踏まえ、臨床現場のダイナミクスを体験しながら、対象（健康障害のある子どもおよびその家族）の健康上の問題を総合的に捉え、対象に適した看護実践について学ぶ。そのために健康障害のある子どもの看護に対し学んだ知識・技術・態度を用いて対象に適した看護実践を体験する。さらに、対象とのかかわりの中で、対象を尊重した看護についての理解を深め、現代社会におけるこどもの健やかな成長と疾病の予防・回復において必要な看護の役割を学ぶ。グループに分かれて病院施設で 1 週間の実習を行う。		
教材（教科書）	奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野 II　小児看護学①「小児看護学概論・小児臨床看護総論」医学書院　3,024 円 奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野 II　小児看護学②「小児臨床看護各論」　医学書院　3,564 円		
教材（参考資料）	山元恵子 監修　写真でわかる小児看護技術 改訂第 2 版（写真でわかるシリーズ）　2,700 円 鴨下重彦・柳沢正義監修　「子ども病気の地図帳」　講談社　4,320 円 舟島なをみ著　看護のための人間発達学　　医学書院　3,240 円		
教育方法	・小児入院病床のある病院施設、数か所で各グループに分かれて実習を行う。 ・グループ人数は 3〜5 名で、10 月〜2 月にかけて 1 週間の実習を行う。 ・小児入院患者を学生が受け持ち、プライマリーナーシングを展開し、小児看護過程を実施する。 ・プライマリーナーシングを通して、健康障害を持つ子どもの特性とコミュニケーションスキルを看護師の指導のもと実践する。 ・入院患者の状況により、小児科外来施設でも実習を行うことがある。		
評価方法	4 / 5 以上の出席を原則とし、実習内容・態度・記録をもとに、総合的に評価する。 レポート課題を含む実習目標に対する到達度（80%）、実習態度（20%）		
到達目標	1．対象の子どもの疾患・発達・生活面を中心に全体像を把握し，子ども及び家族のニーズのアセスメントを行い，看護の必要性を明記できる． 2．対象の子どもとその家族の病気体験を理解し、対象に応じた具体的看護援助を明記できる。 3．対象の子ども及びその家族と，適切な人間関係を展開し、看護実践を実施できる 4．自己の関わりを振り返り、看護者としての姿勢や小児看護観・こども観の高まりを記録に記載できる．		
授業時間外学習	成長発達 I（小児の健康と看護）、小児看護学援助論、小児看護学援助論演習の講義内容を基本に、実習で必要となる知識・技術に関する以下の項目について復習し、ノートにまとめておくこと。 ①小児の成長発達過程（身体・運動・情緒・認知）とアセスメント方法（種類と使用方法） ②乳幼児期の子どものバイタルサインの測定・身体計測・日常生活の世話（更衣・食事・排せつのケア方法）について ③発達段階に応じた遊びの種類と玩具の選択 ④病気・入院が子ども・家族に与える影響と子どもの反応 ⑤検査・処置を受ける子どもの看護方法 ⑥小児看護過程 ⑦プレパレーションの定義と実施例について		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・実習施設により、実習開始時間、終了時間が異なることがあるので事前に確認すること。
・小児看護実習では、子どもに付き添う家族への看護、配慮も必要となる。対象に応じたコミュニケーション方法（話し方や説明方法の違い）等、看護師の言動をよく観察し修得に心掛けること。
・小児看護学実習は、これまで学んだ知識、技術の統合と応用である。病態や治療、医療処置のスムーズな遂行方法の理解と、子どもやその家族の心情、身体状況を理解し、よりよい看護援助の実践ができるよう心がけてほしい。また、対象者の特性を踏まえ、健康管理に十分留意し、体調を整えて実習にのぞむこと。

授業スケジュール
【事前学習】 ・事前課題学習冊子の実施（事前に配布する） 【実習】 1日目：実習オリエンテーション(病棟オリエンテーションと受け持ち患児の決定) 2～4日目：・各グループごとに病棟で、健康問題を抱え入院中の子どもを1～2名受け持ち、主体的にその子どもと家族への看護援助を指導者とともに実践する。 ・受け持ち患児とその家族への適切な看護実践のために、必要に応じて、病態カンファレンスや病棟ナースとのカンファレンス等を行う。 ・ 病棟実習最終日には最終病棟カンファレンスを行い、学修内容を共有する。 実習5日目：学内合同カンファレンス 【事後】※1日を通して日々の実習記録を行う中で、学修内容の整理をする。 ※学びのまとめレポートを記録することで、自己の小児看護に対する看護観を深め、明記できる。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J90068001
科目名	母性看護学援助論	単位数	2
科目名（英語表記）	Maternal Health Nursing: Theory		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
授業概要	女性のライフサイクルの中の周産期（妊娠・分娩・産褥期および新生児期）は、正常な経過をたどっていても、心身の異常や危機を生じやすい。妊婦の健康管理、安全な分娩、産後の健康管理、新生児の管理等、母子とその家族の身体的・心理的・社会的側面の特徴を理解し、より健康な日常生活に向けての支援を実践するための知識と看護について理解する。また、女性の健康と生命倫理、ウェルネスの視点からの看護支援についても学ぶ。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（２）　母性看護学各論』　（医学書院）　森恵美　3,000 円		
教材（参考資料）	『新体系看護学全書　母性看護学②母子の健康と看護』　（メジカルフレンド社）　新道幸恵　4,600 円		
教育方法	ビデオ教材やパワーポイントを活用して行う。また、必要時資料の配布を行う。		
評価方法	定期試験（80%）、提出レポートおよび講義への参加態度（20%）で評価する。		
到達目標	１．妊娠・分娩・産褥期の正常な経過と、妊産婦、褥婦の身体的・心理社会的特徴を理解し、健康状態のアセスメントとその看護について理解する。 ２．新生児の身体的・心理社会的特徴を理解し、健康状態のアセスメントとその看護について理解する。 ３．周産期の正常な経過から逸脱した対象への看護について理解する。 ４．ウェルネスの看護の視点と母子とその家族を含む看護支援について学ぶ。		
授業時間外学習	「解剖生理学 B」「成長発達Ⅳ（女性の生涯発達と看護）」を復習しておく必要があります。 今日の産科医療を取り巻く問題や新聞記事などにも関心をもって見聞すると、学習により興味がもてると思います。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

母性看護は女性の一生にわたって、母性の健康を回復・保持・増進することにあります。その中で、妊娠・出産・育児は女性やその家族にとって人生で重要な出来事です。近年の産科医療は、さまざまな問題を、かかえています。医師不足の問題、出産できる施設の減少の問題があります。また、出産年齢が幅広くなり、それに伴いリスクを抱えながら出産するケースも増えています。育児不安やマタニティブルーの問題などもあり、対象者個人だけではなく、夫・家族も含めて支援していく必要があります。この科目では、妊娠・分娩・産褥期・新生児に関する知識と対象者が安全・快適・満足できる看護について学びます。この科目は、母性看護実習に直結します。学習内容が多様で、かつ短時間で進行しますので、積極的に予習・復習をして授業に臨むことを期待します。

授業スケジュール

１．妊娠経過のアセスメント（胎児の発育と発達）　　：5/22（火）③
２．妊娠経過のアセスメント（母体の変化とフィジカルアセスメント）　　：5/23（水）②
３．妊婦と胎児の健康の保持・増進のためにセルフケア能力を高める援助　　：5/29（火）③
４．妊娠期の生理的・心理的ニーズや日常生活の理解と看護　　：5/30（水）②
５．分娩経過と胎児の健康状態のアセスメント　　：6/5（火）③
６．分娩期のフィジカルアセスメントと看護　　：6/6（水）②
７．出産が安全、安楽、主体的で満足な体験となるための看護　　：6/12（火）③
８．産褥期のアセスメント（退行性変化）と看護　　：6/13（水）②
９．産褥期のアセスメント（進行性変化：母乳育児支援）と看護　　：6/20（水）②
１０．褥婦と家族への看護　　：　6/27（水）②
１１．新生児の生理的変化と胎外適応のアセスメントと看護　　：7/4（水）②
１２．ハイリスク妊産褥婦の看護　　：7/10（火）③
１３．新生児の胎外適応（日齢をふまえた新生児の観察）のアセスメントと看護　　：7/11（水）②
１４．新生児のセルフケアを補い、成長・発達を促す看護　　：7/17（火）③
１５．ハイリスク新生児の看護　　：7/18（水）②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90069001
科目名	母性看護学援助論演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Maternal Health Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
授業概要	既修科目である「母性看護学援助論」での学修内容をふまえ、妊産婦、褥婦および新生児とその家族に対して、より健康的な生活に向けた看護を実践するために必要な、観察やアセスメント、看護技術を修得することを目的とする。母子の事例を用いた看護過程の演習を通して、対象の個別性に配慮した看護援助の計画立案について学ぶ。そして、対象とする母子に、母性看護の特性をふまえた援助を行うための看護実践能力を、演習によって養う。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（２）　母性看護学各論』　（医学書院）　森恵美　3,000 円		
教材（参考資料）	『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程』（医歯薬出版㈱）　太田操　編　　2200 円 『ナーシンググラフィカ　母性看護技術』（メディカ出版）　横尾京子他　編集　　2600 円 『新体系看護学全書　母性看護学②母子の健康と看護』　（メジカルフレンド社）　新道幸恵　4,600 円		
教育方法	ビデオ教材やモデル人形、妊婦疑似体験モデル、模型などを活用して行う。また、モデル人形を用いた演習や沐浴の実施等で看護技術の習得を図る。		
評価方法	課題の達成度（30%）、実技試験（30%）、筆記試験（40％）で、評価する。		
到達目標	１）母子の事例を用いて、アセスメントを行い、必要な援助を考察し、看護計画を立案することができる。 ２）妊産婦、褥婦および新生児の特性を考慮した看護援助に関する基本的知識と周産期に必要な看護技術を修得することができる。		
授業時間外学習	周産期に関連する講義科目の知識および基礎看護技術で学んだ看護技術が、この科目を履修する上で大切です。これまで学んだ知識と技術を復習して演習に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

周産期の母子に看護ケアを提供する上で必要な技術と、思考プロセスを学びます。何故そのケアが必要なのかを考えながら、技術の習得に臨んでください。この科目は、臨地実習に直結する科目であり、演習項目は実習で実施する内容です。事例演習で学ぶウェルネスのアセスメントは、母子が、成長発達プロセスを順調に進むために、健康行動の段階的な達成をするための看護援助を行う上で必要なものです。

　欠席をすることで、技術の修得ができない場合は、実習での学びに大きく影響するため、健康管理に留意し、積極的な学修参加を期待します。

授業スケジュール

１．　＜項目＞　オリエンテーション　　：5/28③
　　事例演習
　＜内容＞　褥婦と新生児の事例を用いて情報の解釈・分析を行う。ウエルネスの看護の視点を学ぶ。(1)
２．３．＜項目＞　妊婦、産婦、胎児の健康状態をアセスメントするための看護技術
　＜内容＞　レオポルド触診法、胎児心音聴取、腹囲・子宮底測定
　　NST の装着、妊婦体験
　　分娩期の呼吸法と産痛緩和法
４．　＜項目＞　事例演習
　＜内容＞　褥婦と新生児の事例を用いて情報の解釈・分析を行う。ウエルネスの看護の視点を学ぶ。(2)
５．６．＜項目＞　褥婦の健康状態をアセスメントするための看護技術
　＜内容＞　退行性変化の観察と支援（子宮底の位置、硬度、高さの観察、悪露の観察）
　　進行性変化の観察と母乳栄養への援助技術（乳房・乳頭の観察、マッサージ）
　　産褥体操
７．　＜項目＞　事例演習
　＜内容＞　褥婦と新生児の事例を用いて情報の解釈・分析を行う。ウエルネスの看護の視点を学ぶ。(3)
８．　＜項目＞　事例演習
　＜内容＞　褥婦と新生児の事例の情報の解釈・分析から全体像を記載して、看護上の問題（ウェルネスの状態）を明

らかにする。

9．10. ＜項目＞　新生児への看護技術

＜内容＞　新生児の抱き方、寝かせ方、寝衣交換、哺乳瓶での補足法、排気の仕方
新生児の清潔（清拭および沐浴)、沐浴の練習

11．12. ＜項目＞　新生児への看護技術

＜内容＞　新生児の観察、諸計測（身長、体重、胸囲、頭囲など）
沐浴の練習

13.　＜項目＞　事例演習

＜内容＞　褥婦と新生児の看護上の問題（ウェルネスの状態）から母子とその家族に必要な援助についての看護計画を立案する。(1)

14.　＜項目＞　事例演習

＜内容＞　褥婦と新生児の看護上の問題（ウェルネスの状態）から母子とその家族に必要な援助についての看護計画を立案する。(2)

15.　＜項目＞　事例演習・まとめ

＜内容＞　事例のまとめと、グループ学習の成果を発表し、共有する。

Ａ・Ｂのクラス分け、スケジュールについては別紙で説明する。

6/4①②③④、6/11①②③④、6/18①②③④、6/25①②③④、7/2①②③④、7/9①②③④、7/16①②③④。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J90069002
科目名	母性看護学援助論演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Maternal Health Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
授業概要	既修科目である「母性看護学援助論」での学修内容をふまえ、妊産婦、褥婦および新生児とその家族に対して、より健康的な生活に向けた看護を実践するために必要な、観察やアセスメント、看護技術を修得することを目的とする。母子の事例を用いた看護過程の演習を通して、対象の個別性に配慮した看護援助の計画立案について学ぶ。そして、対象とする母子に、母性看護の特性をふまえた援助を行うための看護実践能力を、演習によって養う。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（２）　母性看護学各論』　（医学書院）　森恵美　3,000 円		
教材（参考資料）	『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程』（医歯薬出版㈱）　太田操　編　　2200 円 『ナーシンググラフィカ　母性看護技術』（メディカ出版）　横尾京子他　編集　　2600 円 『新体系看護学全書　母性看護学②母子の健康と看護』　（メジカルフレンド社）　新道幸恵　4,600 円		
教育方法	ビデオ教材やモデル人形、妊婦疑似体験モデル、模型などを活用して行う。また、モデル人形を用いた演習や沐浴の実施等で看護技術の習得を図る。		
評価方法	課題の達成度（30%）、実技試験（30%）、筆記試験（40％）で、評価する。		
到達目標	１）母子の事例を用いて、アセスメントを行い、必要な援助を考察し、看護計画を立案することができる。 ２）妊産婦、褥婦および新生児の特性を考慮した看護援助に関する基本的知識と周産期に必要な看護技術を修得することができる。		
授業時間外学習	周産期に関連する講義科目の知識および基礎看護技術で学んだ看護技術が、この科目を履修する上で大切です。これまで学んだ知識と技術を復習して演習に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

周産期の母子に看護ケアを提供する上で必要な技術と、思考プロセスを学びます。何故そのケアが必要なのかを考えながら、技術の習得に臨んでください。この科目は、臨地実習に直結する科目であり、演習項目は実習で実施する内容です。事例演習で学ぶウェルネスのアセスメントは、母子が、成長発達プロセスを順調に進むために、健康行動の段階的な達成をするための看護援助を行う上で必要なものです。

　欠席をすることで、技術の修得ができない場合は、実習での学びに大きく影響するため、健康管理に留意し、積極的な学修参加を期待します。

授業スケジュール

１．　＜項目＞　オリエンテーション　　：5/28③
　　事例演習
　＜内容＞　褥婦と新生児の事例を用いて情報の解釈・分析を行う。ウエルネスの看護の視点を学ぶ。(1)
２．３．＜項目＞　妊婦、産婦、胎児の健康状態をアセスメントするための看護技術
　＜内容＞　レオポルド触診法、胎児心音聴取、腹囲・子宮底測定
　　NST の装着、妊婦体験
　　分娩期の呼吸法と産痛緩和法
４．　＜項目＞　事例演習
　＜内容＞　褥婦と新生児の事例を用いて情報の解釈・分析を行う。ウエルネスの看護の視点を学ぶ。(2)
５．６．＜項目＞　褥婦の健康状態をアセスメントするための看護技術
　＜内容＞　退行性変化の観察と支援（子宮底の位置、硬度、高さの観察、悪露の観察）
　　進行性変化の観察と母乳栄養への援助技術（乳房・乳頭の観察、マッサージ）
　　産褥体操
７．　＜項目＞　事例演習
　＜内容＞　褥婦と新生児の事例を用いて情報の解釈・分析を行う。ウエルネスの看護の視点を学ぶ。(3)
８．　＜項目＞　事例演習
　＜内容＞　褥婦と新生児の事例の情報の解釈・分析から全体像を記載して、看護上の問題（ウェルネスの状態）を明

らかにする。

9．10. ＜項目＞　新生児への看護技術

＜内容＞　新生児の抱き方、寝かせ方、寝衣交換、哺乳瓶での補足法、排気の仕方
新生児の清潔（清拭および沐浴)、沐浴の練習

11．12. ＜項目＞　新生児への看護技術

＜内容＞　新生児の観察、諸計測（身長、体重、胸囲、頭囲など）
沐浴の練習

13.　＜項目＞　事例演習

＜内容＞　褥婦と新生児の看護上の問題（ウェルネスの状態）から母子とその家族に必要な援助についての看護計画を立案する。(1)

14.　＜項目＞　事例演習

＜内容＞　褥婦と新生児の看護上の問題（ウェルネスの状態）から母子とその家族に必要な援助についての看護計画を立案する。(2)

15.　＜項目＞　事例演習・まとめ

＜内容＞　事例のまとめと、グループ学習の成果を発表し、共有する。

Ａ・Ｂのクラス分け、スケジュールについては別紙で説明する。

6/4①②③④、6/11①②③④、6/18①②③④、6/25①②③④、7/2①②③④、7/9①②③④、7/16①②③④。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J90070001
科目名	母性看護学実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Maternal Health Nursing: Clinical Practice		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
授業概要	母性看護実習では、妊娠・分娩・産褥期および新生児期にある対象者の生理的変化や、心身の適応過程ならびに健康ニーズを知り、母子とその家族を統合的に理解して、対象者に必要とされる看護を実践する能力を養う。さらに母親と同様に親になる過程にあるパートナーやその家族にも目を向け、看護者としての関わりを考える。そして、母子とその家族を支える社会システムの活用と支援について対象者のケアを通して考察する。		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　『母性看護学[１]　母性看護学概論』　（医学書院）　森恵美　2,400 円 『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学（２）　母性看護学各論』　（医学書院）　森恵美　3,000 円		
教材（参考資料）	『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程』（医歯薬出版㈱）　太田操　編　　2200 円 『ナーシンググラフィカ　母性看護技術』（メディカ出版）　横尾京子他　編集　　2600 円 『新体系看護学全書　母性看護学②母子の健康と看護』　（メジカルフレンド社）　新道幸恵　4,600 円		
教育方法	－		
評価方法	実習目標の到達度、実習に取り組む態度について、評価表に基づき評価します（100%）。		
到達目標	１．妊婦、産婦、褥婦および新生児の生理的変化や心身の適応過程と健康ニーズを理解する。 ２．妊婦、産婦、褥婦および新生児とその家族に必要なケアプランを立案し、実践、評価する能力を養う。 ３．母子の関係から母子相互作用（父子相互作用）について理解する。 ４．母子とその家族を支える社会システムについて考える。 ５．生命の尊厳、個々の人権を尊重し、看護者としての責任感と倫理観を養う。		
授業時間外学習	周産期に関連する講義科目の知識および基礎看護技術、母性看護学援助論演習で学んだ看護技術が、この科目を履修する上で大切です。これまで学んだ知識と技術を復習して演習に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

臨地実習を通して、これまでの講義・演習で得られた知識と技術を統合します。積極的に実習に臨み、多くのことを学んでください。
実習では、出産後間もない褥婦とともに、家族にとって大切な新生児を対象に看護を実践していきます。基本的な知識や技術を身につけて実習に臨むことが重要です。「女性の健康と看護」、「周産期を支える看護」で使用した資料を復習・活用し、基本的な知識の復習と技術練習を十分にしてから実習に臨んでください。

授業スケジュール

1 日目（学内）　：臨地実習実施にあたってのオリエンテーション
　　実習目的・目標・方法・記録用紙の確認、実習の心構えと態度、
　　実習での看護技術の確認
2 日目（臨地）　：施設オリエンテーション（施設の概要・理念・構造・組織）
　　病棟オリエンテーション（病棟の特徴・構造、看護体制、日課）
　　受け持ち対象者の決定、情報収集
　　受け持ち対象者のケアへの参加と情報収集
3～9 日目（臨地）：受け持ち対象者に付き添い、臨地実習指導者とともに、産婦に必要な援助を実施
　　受け持ち褥婦と新生児への援助、外来での妊婦健康診査の見学、保健指導の見学、母親学級の見学
10 日目（学内）　：全体カンファレンス、まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	－	★	－

年度	2018	授業コード	J90071001
科目名	チーム医療論	単位数	1
科目名（英語表記）	Multidisciplinary Health Care		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
授業概要	現代医療では、医療を受ける個人のニーズが多様化するとともに、医療の質が問われる時代にある。対象一人ひとりに最良の医療を提供するためには、医療を担う側が目標と情報を共有し、他の医療専門職の役割を理解した上で、専門職としての役割を自覚し役割を遂行しなければならない。本講義では、他職種の専門性を理解した上で、学生それぞれが自分の専門性を認識し、専門職種間のコミュニケーションや情報の共有を円滑にするための方法について、事例を用いて学修する。		
教材（教科書）	授業時に適宜必要に応じてプリントを配布する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜提示する。		
教育方法	本講義は講義と演習で行う。講義は各教員が配布した資料に沿って授業を行う。演習では各学科混合のグループを編成しグループワークを行う。また授業では講義・グループワークの内容によって適宜課題レポートを課すことがある。欠席が多いと授業内で実施する課題の提出が出来なくなるので注意すること。		
評価方法	授業内課題（40%）、最終レポート課題（60%）		
到達目標	１．医療等健康を支援する専門職の役割について興味関心を持ち、知識を広めることができる。 ２．グループワークを通してコミュニケーション能力を高めるとともに、メンバーへ積極的に働きかけることができる。 ３．チーム医療の必要性を理解できる。		
授業時間外学習	授業は各教員が作成した資料に基づいて行い、課題は授業の内容から出題される。各授業の内容を復習することで課題レポートの作成が可能になる。各授業終了後授業内容を整理し，自身の考えを記しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・本講義は学生数が多いことから不要な私語を慎むこと。
・授業内課題を課すため、授業を欠席すると課題の評価点が下がる場合がある。

授業スケジュール

１．チーム医療論（医学）１（古倉）
２．チーム医療と組織マネジメント１（滝沢）
３．チーム医療としてアスレチックトレーナー，コメディカルスタッフとの関わり方１（井口）
４．チーム医療論　（医学）グループワーク（古倉）
５．チーム医療としてアスレチックトレーナー，コメディカルスタッフとの関わり方グループワーク（井口）
６．チーム医療とコミュニケーション障害１（吉村）
７．チーム医療と組織マネジメントグループワーク（滝沢）
８．チーム医療とコミュニケーション障害グループワーク（吉村）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J90071002
科目名	チーム医療論	単位数	1
科目名（英語表記）	Multidisciplinary Health Care		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
授業概要	現代医療では、医療を受ける個人のニーズが多様化するとともに、医療の質が問われる時代にある。対象一人ひとりに最良の医療を提供するためには、医療を担う側が目標と情報を共有し、他の医療専門職の役割を理解した上で、専門職としての役割を自覚し役割を遂行しなければならない。本講義では、他職種の専門性を理解した上で、学生それぞれが自分の専門性を認識し、専門職種間のコミュニケーションや情報の共有を円滑にするための方法について、事例を用いて学修する。		
教材（教科書）	授業時に適宜必要に応じてプリントを配布する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜提示する。		
教育方法	本講義は講義と演習で行う。講義は各教員が配布した資料に沿って授業を行う。演習では各学科混合のグループを編成しグループワークを行う。また授業では講義・グループワークの内容によって適宜課題レポートを課すことがある。欠席が多いと授業内で実施する課題の提出が出来なくなるので注意すること。		
評価方法	授業内課題（40%）、最終レポート課題（60%）		
到達目標	1．医療等健康を支援する専門職の役割について興味関心を持ち、知識を広めることができる。 2．グループワークを通してコミュニケーション能力を高めるとともに、メンバーへ積極的に働きかけることができる。 3．チーム医療の必要性を理解できる。		
授業時間外学習	授業は各教員が作成した資料に基づいて行い、課題は授業の内容から出題される。各授業の内容を復習することで課題レポートの作成が可能になる。各授業終了後授業内容を整理し，自身の考えを記しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・本講義は学生数が多いことから不要な私語を慎むこと。
・授業内課題を課すため、授業を欠席すると課題の評価点が下がる場合がある。

授業スケジュール

1．チーム医療論（医学）1（古倉）
2．チーム医療と組織マネジメント1（滝沢）
3．チーム医療としてアスレチックトレーナー，コメディカルスタッフとの関わり方1（井口）
4．チーム医療論　（医学）グループワーク（古倉）
5．チーム医療としてアスレチックトレーナー，コメディカルスタッフとの関わり方グループワーク（井口）
6．チーム医療とコミュニケーション障害1（吉村）
7．チーム医療と組織マネジメントグループワーク（滝沢）
8．チーム医療とコミュニケーション障害グループワーク（吉村）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J90072001
科目名	健康医療リスクマネジメント	単位数	1
科目名（英語表記）	Medical Safety and Risk Management		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
授業概要	医療やスポーツといった活動での心身面に視点をあて、リスクを低減するためのマネジメントの基礎知識を学ぶ。医療事故やスポーツ事故の発生メカニズムについて実際の事例をもとに理解する。さらに、リスクマネジメントの理論やプロセス（把握・分析・評価）を学び、リスクを回避すすための組織としての系統的な取り組みについて考える。また、事故を起こした場合の対応の在り方、事故がもたらす法的責任や経済的損失についても学ぶ。		
教材（教科書）	必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて授業内で提示する。		
教育方法	本授業は 3 名の教員が講義と演習型式で行う。講義では各教員が配布した資料を基に授業を行う。演習では，3 学科合同のグループを編成しグループワークを行う。		
評価方法	課題レポート（100%）		
到達目標	1．リスクマネジメントの基礎的知識が理解できる。 2．グループワークを通して事故のメカニズムやリスク回避について、積極的に意見を交わすことができる。 3．リスクマネジメントに関して自身の考えを述べることができる。		
授業時間外学習	授業は各教員が作成した資料に基づいて行い、課題は授業の内容から出題される。各授業の内容を復習することで課題レポートの作成が可能になる。授業内容を基に自身の考えを整理しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・グループワークでは、メンバーの話をよく聴き自身の考えも積極的に述べる。
・授業ではただ講義を聴くのではなく、教員から授業内容に沿って学生個々の意見をもとめることがあるため積極的な参加が必要である。
・受講生が多いことから、必要以外の私語は慎む。

授業スケジュール

1 回：リスクマネジメントとは（滝沢）
2 回：コミュニケーションエラーによる医療事故と対策（苅安）
3 回：頭頸部外傷のメカニズムと予防（柳田）
4 回：医療事故発生のメカニズム（滝沢）
5 回：事例グループワーク（苅安）
6 回：事例グループワーク（柳田）
7 回：事例グループワーク（滝沢）
8 回：まとめグループワーク（苅安）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J90072002
科目名	健康医療リスクマネジメント	単位数	1
科目名（英語表記）	Medical Safety and Risk Management		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
授業概要	医療やスポーツといった活動での心身面に視点をあて、リスクを低減するためのマネジメントの基礎知識を学ぶ。医療事故やスポーツ事故の発生メカニズムについて実際の事例をもとに理解する。さらに、リスクマネジメントの理論やプロセス（把握・分析・評価）を学び、リスクを回避すすための組織としての系統的な取り組みについて考える。また、事故を起こした場合の対応の在り方、事故がもたらす法的責任や経済的損失についても学ぶ。		
教材（教科書）	必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて授業内で提示する。		
教育方法	本授業は 3 名の教員が講義と演習型式で行う。講義では各教員が配布した資料を基に授業を行う。演習では，3 学科合同のグループを編成しグループワークを行う。		
評価方法	課題レポート（100%）		
到達目標	1．リスクマネジメントの基礎的知識が理解できる。 2．グループワークを通して事故のメカニズムやリスク回避について、積極的に意見を交わすことができる。 3．リスクマネジメントに関して自身の考えを述べることができる。		
授業時間外学習	授業は各教員が作成した資料に基づいて行い、課題は授業の内容から出題される。各授業の内容を復習することで課題レポートの作成が可能になる。授業内容を基に自身の考えを整理しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・グループワークでは、メンバーの話をよく聴き自身の考えも積極的に述べる。 ・授業ではただ講義を聴くのではなく、教員から授業内容に沿って学生個々の意見をもとめることがあるため積極的な参加が必要である。 ・受講生が多いことから、必要以外の私語は慎む。			
授業スケジュール			
1 回：リスクマネジメントとは（滝沢） 2 回：コミュニケーションエラーによる医療事故と対策（苅安） 3 回：頭頸部外傷のメカニズムと予防（柳田） 4 回：医療事故発生のメカニズム（滝沢） 5 回：事例グループワーク（苅安） 6 回：事例グループワーク（柳田） 7 回：事例グループワーク（滝沢） 8 回：まとめグループワーク（苅安）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J90073001
科目名	看護研究	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
授業概要	「看護研究」では、看護研究の意義、研究の必要性、研究を行う上での論理的問題と配慮、文献検索、質的・量的研究のプロセス、研究計画書の作成について学修する。特に文献検索においては、文献を丁寧にクリティークすることで、研究のテーマを絞り込むことができるように学修する。また、今までの講義や演習、ボランティア活動、実習等を通して、各自が学修課題を探究し、研究テーマに沿って、研究の背景、目的、研究方法を吟味する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子　2,808 円		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子　3,024 円 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹　2,400 円		
教育方法	講義資料、課題物の提供、パワーポイントを活用する。		
評価方法	定期試験（50%）、課題の提出状況（50%）		
到達目標	1．看護研究の意義を理解できる。 2．文献を丁寧にクリティークすることできる。 3．研究デザインや研究プロセスを修学できる。 4．研究のテーマを絞り込むことができる。 5．各自の研究テーマに沿って研究背景、研究目的、研究方法を述べることができる。		
授業時間外学習	1 年、2 年生で学んだ講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思考をまとめておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．1 年、2 年生で学んだ専門科目の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思考をまとめておく。 2．講義・演習の課題については、自主的に復習し、提出することができる。			
授業スケジュール			
1．看護研究の意義、研究の必要性、研究デザイン、文献検索 2．文献検索と研究デザインと研究方法 3．研究の倫理的問題と配慮 4．事例・実験研究の方法 5．量的研究の方法 6．質的研究の方法 7．研究計画書の作成 8．看護研究のまとめ方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074001
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	滝澤　寛子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10.　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15.　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074002
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10．研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12．研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14．研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15．　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074004
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	江頭　典江	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10.　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15.　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074005
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	河田　志帆	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10.　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15.　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074006
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	古倉　聡	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10.　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15.　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074007
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	嶌田　理佳	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10.　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15.　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074008
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	杉島　優子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10.　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15.　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074009
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10.　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15.　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074010
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10.　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15.　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074011
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10.　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15.　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074012
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	夏山　洋子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10．研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12．研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14．研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15．　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074013
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10.　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15.　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074014
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	前川　直美	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10．研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12．研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14．研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15．　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074015
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	松井　達也	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10．研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12．研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14．研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15．　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074016
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	光井　朱美	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10.　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15.　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074017
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	村田　友紀子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10.　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15.　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074018
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10.　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15.　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074019
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	矢山　壮	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10．研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12．研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14．研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15．　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074020
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10.　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15.　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074021
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	渡部　洋子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10.　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15.　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074022
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10.　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15.　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90074023
科目名	看護研究演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅰ		
担当者名	高尾　憲司	旧科目名称	
授業概要	本演習では、前提となる科目「看護研究」で学んだ看護研究方法及び既習の諸学を通して得た知識、さらに臨地実習での経験を用いて、自己の問題意識を研究テーマとして発展させ、看護専門識者に必要とされる研究能力と科学的探究心を養う。具体的には、自己の課題に基づいて文献検索や研究計画書の作成を行う。学生が選択したテーマに関連が深い専門教員が学生を受け持ち、ゼミナールの形態でグループごとに学修し、研究計画書の意義と作成のプロセスを学修する。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究課題に応じた研究計画書を作成する。		
評価方法	研究への取り組み状況（20%）、研究計画（80%）		
到達目標	1．これまでの学修を振り返り、自己の研究課題を見いだすことができる。 2．文献を丁寧にクリティークすることができる。 3．研究テーマを絞り込むことができるように学修する。 4．研究デザインを選定し研究計画ができる。 5．研究計画書を作成することができる。		
授業時間外学習	1．３年生で学んだ看護研究の講義や演習、実習を通じて看護における疑問、課題、科学的根拠を明らかにするための自己の思想をまとめておく。 2．自分が関心のある看護上の疑問や課題から、看護研究演習Ⅱで実際に取り組むことができる研究課題へと絞り込み、研究課題に応じた研究計画を作成していくために必要な知識や情報に不足があるときは、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1・2．　看護研究の意義、研究の必要性を検討し、自己の研究課題を考えることができる
3・4．　看護研究の意義、研究の必要性、研究デザインについて検討するための文献検索の準備ができる
5・6．　研究課題について文献検索をすることができる
7・8．　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
9・10.　研究課題について文献を丁寧にクリティークすることができる
11･12. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
13･14. 研究課題に応じた研究計画書の案を検討できる
15.　　研究課題に応じた研究計画書ができる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075001
科目名	看護研究演習 II	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar II		
担当者名	滝澤　寛子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。 2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。 3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。			
授業スケジュール			
1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 9 ・10.　考察をまとめて草稿を提出できる 11・12. 研究課題について発表の準備を行う 13・14. 研究課題を発表する 15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075002
科目名	看護研究演習 II	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar II		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる
11･12. 研究課題について発表の準備を行う
13・14. 研究課題を発表する
15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075003
科目名	看護研究演習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅱ		
担当者名	上野　千代子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる
11･12. 研究課題について発表の準備を行う
13・14. 研究課題を発表する
15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075004
科目名	看護研究演習 II	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar II		
担当者名	江頭　典江	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる
11･12. 研究課題について発表の準備を行う
13・14. 研究課題を発表する
15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075005
科目名	看護研究演習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅱ		
担当者名	河田　志帆	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる
11･12. 研究課題について発表の準備を行う
13・14. 研究課題を発表する
15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075006
科目名	看護研究演習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅱ		
担当者名	古倉　聡	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
9 ・10.　考察をまとめて草稿を提出できる
11・12. 研究課題について発表の準備を行う
13・14. 研究課題を発表する
15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075007
科目名	看護研究演習 II	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar II		
担当者名	嶌田　理佳	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。 2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。 3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。			
授業スケジュール			
1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる 11･12. 研究課題について発表の準備を行う 13・14. 研究課題を発表する 15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075008
科目名	看護研究演習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅱ		
担当者名	杉島　優子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。 2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。 3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。			
授業スケジュール			
1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる 11･12. 研究課題について発表の準備を行う 13・14. 研究課題を発表する 15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075009
科目名	看護研究演習 II	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar II		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる
11･12. 研究課題について発表の準備を行う
13・14. 研究課題を発表する
15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075010
科目名	看護研究演習 II	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar II		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる
11･12. 研究課題について発表の準備を行う
13・14. 研究課題を発表する
15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075011
科目名	看護研究演習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅱ		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。 2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。 3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。			
授業スケジュール			
1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる 11･12. 研究課題について発表の準備を行う 13・14. 研究課題を発表する 15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075012
科目名	看護研究演習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅱ		
担当者名	夏山　洋子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。 2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。 3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。			
授業スケジュール			
1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる 11･12. 研究課題について発表の準備を行う 13・14. 研究課題を発表する 15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075013
科目名	看護研究演習 II	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar II		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。 2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。 3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。			
授業スケジュール			
1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる 11･12. 研究課題について発表の準備を行う 13・14. 研究課題を発表する 15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075014
科目名	看護研究演習 II	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar II		
担当者名	前川　直美	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる
11･12. 研究課題について発表の準備を行う
13・14. 研究課題を発表する
15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075015
科目名	看護研究演習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅱ		
担当者名	松井　達也	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる
11･12. 研究課題について発表の準備を行う
13・14. 研究課題を発表する
15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075016
科目名	看護研究演習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅱ		
担当者名	光井　朱美	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。 2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。 3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。			
授業スケジュール			
1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる 11･12. 研究課題について発表の準備を行う 13・14. 研究課題を発表する 15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075017
科目名	看護研究演習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅱ		
担当者名	村田　友紀子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる
11･12. 研究課題について発表の準備を行う
13・14. 研究課題を発表する
15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075018
科目名	看護研究演習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅱ		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。 2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。 3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。			
授業スケジュール			
1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる 11･12. 研究課題について発表の準備を行う 13・14. 研究課題を発表する 15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075019
科目名	看護研究演習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅱ		
担当者名	矢山　壮	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる
11･12. 研究課題について発表の準備を行う
13・14. 研究課題を発表する
15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075020
科目名	看護研究演習 II	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar II		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる
11･12. 研究課題について発表の準備を行う
13・14. 研究課題を発表する
15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075021
科目名	看護研究演習 II	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar II		
担当者名	渡部　洋子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。 2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。 3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。			
授業スケジュール			
1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 9 ・10.　考察をまとめて草稿を提出できる 11・12. 研究課題について発表の準備を行う 13・14. 研究課題を発表する 15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075022
科目名	看護研究演習Ⅱ	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar Ⅱ		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。
2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。
3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。

授業スケジュール

1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する
5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる
9 ･10.　考察をまとめて草稿を提出できる
11･12. 研究課題について発表の準備を行う
13・14. 研究課題を発表する
15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90075023
科目名	看護研究演習 II	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Research Seminar II		
担当者名	高尾　憲司	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「看護研究演習Ⅰ」で作成した研究計画書を踏まえ、自己の研究課題に基づいて研究を展開することで研究方法を学修する。学生は研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け実施することで看護の視点から改善と課題解決に取り組むことができる基礎的研究能力の育成を目的とする。具体的には、自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察する。研究の成果を論文としてまとめ作成する。また、ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表し、共有化を図る。		
教材（教科書）	『看護研究　Step by Step』（医学書院）　黒田裕子		
教材（参考資料）	『看護における研究』（日本看護協会出版会）井上幸子他編 『かんたん看護研究』　（南江堂）　桂敏樹他編		
教育方法	研究領域・テーマにより少人数にわかれてゼミ形式で行う。 学生は、ゼミメンバーおよび担当教員とのディスカッション等を通じて、考察を深め、研究成果をまとめる。さらに、研究成果を発表し共有しあう。		
評価方法	計画の実施と成果物の作成（80%）、研究成果の発表(20%)		
到達目標	1．研究課題に基づいてゼミ形式で担当教員から指導を受け課題解決に取り組むことができる。 2．自己の研究テーマに適した研究手法を用いてデータ収集、分析、結果を考察できる。 3．研究の成果を論文としてまとめ作成できる。 4．ゼミナール内のグループメンバーで研究成果を発表できる。 5．研究成果を共有できる。		
授業時間外学習	1．自分の研究計画に基づき、データの収集・分析をすすめる。 2．データの収集から分析をしたり、分析結果を考察し論文としてまとめていくために必要な知識や情報に不足がある時は、自己学修して準備をしておく。 3．課題は指定の期日までに完成させて提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．ゼミメンバーや担当教員の力を活用して主体的に学習し、課題に取り組むこと。 2．ゼミメンバーや担当教員とは、報告・連絡・相談をしあい、課題を進めること。 3．この学習過程を通じて、自己の看護観を高めたり看護実践上の課題に気が付き、看護専門職として自らが成長する機会になることを期待している。			
授業スケジュール			
1 ・ 2.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 3 ・ 4.　看護研究の研究計画に基づいて実施する 5 ・ 6.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 7 ・ 8.　研究計画に基づいて実施した結果をまとめる 9 ・10.　考察をまとめて草稿を提出できる 11・12. 研究課題について発表の準備を行う 13・14. 研究課題を発表する 15.　　要領に基づいて論文にまとめて提出できる			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90076001
科目名	看護マネジメント論	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Management		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
授業概要	対象に相応しい質の高い看護を提供するための組織的マネジメントについて学修する。マネジメントに必要な理論を知った上で、具体的には看護を取り巻く制度や法律に関する知識、組織を運営するために必要な看護組織の在り方、組織を円滑に機能させるためのマネジメントプロセスについて学修する。さらに看護サービス提供の仕組みや、人材マネジメント、施設・物品の管理、日常の看護業務マネジメント等について、グループで学修する。		
教材（教科書）	看護管理看護の統合と実践①　医学書院　2500 円		
教材（参考資料）	授業で適宜紹介する。		
教育方法	1．講義形式で行う。 2．講義の合間で個人ワークを行い，自身の考えを整理できるようにする。 3．テーマに応じて短時間でグループワークを行うことがある。		
評価方法	定期試験（８０%）、授業中に提出するミニレポート（２０%）		
到達目標	1．マネジメントプロセスとマネジメントサイクルについて概要を自分の言葉で説明できる。 2．看護における安全対策について討論できる。 3．看護師の日常業務におけるマネジメントについて説明できる。 4．看護サービス提供の仕組みについて具体的に説明できる。 5．看護における人・物・金・情報のマネジメントについて説明できる。 6．看護を取り巻く制度のポイントを説明できる。		
授業時間外学習	1 回目　マネジメントプロセスとサイクルについて学修しておく。 2 回目　チーム医療について、2 年生で学修した教材を基に復習しておく。 3 回目　看護サービス提供の仕組みについて、統合実習での学びを復習しておく。 4 回目　情報管理の在り方について予習しておく。 5 回目 チーム医療論で学修したリーダーシップについて復習しておく。 6 回目 教科書 210～212 を予習しておく。 7 回目 教科書１５５～１５８を予習しておく。 8 回目 リスクマネジメントで学修した医療安全について復習しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
2 回生で学修したチーム医療論とリスクマネジメントの資料を見直しておくこと。 看護統合実習で学修した看護管理について想起できるよう，実習記録を見直して置く。			
授業スケジュール			
1．看護とマネジメント 2．看護ケアとマネジメント 3．看護サービスとマネジメント 1 4．看護サービスとマネジメント 2 5．マネジメントに必要な知識と技術 6．看護職とキャリア 7．看護を取り巻く諸制度 8．看護における医療安全			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90077001
科目名	国際看護論	単位数	1
科目名（英語表記）	International Nursing		
担当者名	髙嶋　愛里	旧科目名称	
授業概要	グローバル化が進む中、日本国内の医療現場においても、在住外国人患者の増加、外国人看護候補生の受け入れなど、国際看護の活動の場は国外のみならず、国内でも広がりつつある。本講義では、グローバルヘルスの現状と課題、国際機関の役割や国際保健政策、国際看護活動をはじめ、国内における外国人看護候補生の受け入れ、外国人患者への看護について学ぶと共に、異なる背景をもつ看護師との協働、異なる文化や習慣を持つ患者のケアを行っていくために必要な双方向のコミュニケーションスキルなどの異文化間能力を身につけ、国際力豊かな看護師として成長するための基礎を養う。		
教材（教科書）	新体系　看護学全書　看護の実践と統合　3　国際看護学　メジカルフレンド社		
教材（参考資料）	・これからの国際看護学　国境を越えた看護実践のために　ピラールプレス ・厚生労働省 HP http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000056944.html http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000056789.html ・法務省 HP http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html		
教育方法	講義とグループワークを組み合わせて展開する		
評価方法	毎授業中内に課するレポート等による平常点(50%)　最終テスト(50%)		
到達目標	国際保健・国際看護学の概念を理解し、国際看護活動における看護職の役割や国内外での国際看護活動をするための基礎的な方法を理解することができる。		
授業時間外学習	授業中に提示される資料を持参すること。 ※初日の講義の時に国際看護(災害は除く)に関する記事や資料を各自 2 種類、紙媒体(プリントアウト)で持参してください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
グループワークを中心に行います。授業中に提示される資料を紙媒体で持参するようにしてください。			
授業スケジュール			
1.国際保健学とは　講義 2.世界の医療・保健の現状　ワーク 3.国際保健に関する活動　講義 4.海外での活動の実際　講義・ワーク 5.異文化看護　ワーク 6.異文化看護　ワーク発表　国際保健での視点 7.在日外国人の医療保健の現状　講義 8.外国人患者への看護援助　講義・ワーク			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	−	★	−

年度	2018	授業コード	J90078001
科目名	看護教育論	単位数	1
科目名（英語表記）	Nursing Education		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
授業概要	看護師養成教育および看護学教育における歴史的変遷と看護教育制度を知ることを通して、看護学教育における現状と今後の課題について学ぶ。また、これから社会へ出る看護専門職として自己を振り返り、生涯にわたって学び続けることの意義について探求する。看護実践において必要な教育活動の基盤となる教授＝学修課程や、看護基礎教育と継続教育・卒後教育との関係性、およびキャリア開発の必要性を理解し、看護実践能の形成とは何かについて考察する。		
教材（教科書）	看護教育学　（南江堂）グレッグ美鈴　池西悦子　2300 円		
教材（参考資料）	看護のための教育学　（医学書院）　中井俊樹　2200 円 看護学教育評価の基礎と実際（医学書院）田島桂子　3024 円 看護教育のためのパフォーマンス評価（医学書院）糸賀 暢子　元田 貴子　2916 円		
教育方法	講義資料、パワーポイントを活用する。		
評価方法	定期試験（50%）、課題の提出状況（50%）		
到達目標	1．看護歴史と看護教育制度について理解できる。 2．看護学教育における現状と今後の課題について理解できる。 3．教育活動の基盤となる教授＝学修課程について理解できる。 4．看護教育の方法と評価について理解できる。 5．看護基礎教育と継続教育・卒後教育との関係性について理解することができる。 6．看護専門職として生涯にわたって継続教育することの意義について理解できる。		
授業時間外学習	1 年学んだ看護学概論を復習しておく。実習を通じて看護における疑問、課題、キャリア開発について自己の思考をまとめておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．1 年学んだ看護学概論を復習しておく。実習を通じて看護における疑問、課題、キャリア開発について自己の思考をまとめておく。
2．臨地実習で出会った専門職としての看護師を役割を通して今後の自己のキャリア開発についてまとめておく。

授業スケジュール

1．看護歴史の変遷と看護教育制度について

2．看護学教育における現状と今後の課題
3．教育活動の基盤となる教授＝学修課程について

4．看護教育の方法と評価
5．看護基礎教育と継続教育・卒後教育との関係性について

6．看護専門職として生涯にわたって継続教育することの意義について

7．グループディスカッション：看護教育の特徴と今後の課題

8．自己のキャリア開発について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90079001
科目名	災害看護論	単位数	1
科目名（英語表記）	Disaster Nursing		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
授業概要	災害発生による災害時、要援護者の特性を理解し、基礎的知識を学修することで、災害看護を実践できる基礎的能力を身につける。災害時の救護活動は、救護チームとして様々な医療従事者と協働し円滑な活動が求められる。本講義では、職種間連携や災害救護チームの役割について理解する。災害は、発生直後の急性期・亜急性期、慢性期・復興期、静穏期のように時間の経過とともに被災者が必要とする支援も変化する。そのため時間経過に応じた援助の必要性を学修する。		
教材（教科書）	酒井　明子・菊池　志津子編集『災害看護』改訂 2 版南江堂		
教材（参考資料）	必要時参考文献を紹介		
教育方法	・DVD や教科書を使って講義形式で行う ・テーマに沿ってグループワークをすることもある。		
評価方法	レポート 50％　試験 50％		
到達目標	1..国内および国外で発生する大災害の現状と今日的課題について説明できる。 2.災害看護の歴史的発展を理解する。 3 災害の概念、災害時の健康障害について理解する。 4.災害時における、人々の生命や健康および生活を支えるために必要な看護の基本について説明できる。 5 トリアージの基本的知識と方法について説明できる。 6.自己防災および地域防災の重要性とその実際について説明できる。		
授業時間外学習	日常から災害に関しての情報を集めておくこと。 近年の我が国の災害に対しての、情報について学習しておくこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業予定に合わせてテキストを予習しとくこと、この授業を受けて、防災の意識を高められることを要望する。			
授業スケジュール			
オリエンテーション：災害発生の現状と今日的課題・災害看護の歴史的発展　講義 2 災害の定義・災害看護 3 災害と健康障害 4 赤十字における災害救援活動と看護の役割　講義　勝見 5 災害サイクルに準じた看護の特性 6 災害種類別看護の特性 7 トリアージの原則と方法　講義・シミュレーション 8 防災対策の基本（自助・共助・公助）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90080001
科目名	先端医療論	単位数	1
科目名（英語表記）	Advanced Medicine		
担当者名	古倉　聡	旧科目名称	
授業概要	わが国では、再生医療、細胞培養、バイオメデイカル、トランスレーショナルリサーチ、医薬品の開発及び臨床研究、医療・医療機器開発、医療ファンドによる企業化研究、医療関連の人材育成、生命倫理の研究など、先端医療に関して様々な研究や取り組みが近年盛んに行われている。本講義では、日々発展を遂げる先進的医療の現状を学習するとともに、先進医療に伴う倫理的側面を理解し、生命の尊厳と健康について考察する。具体的には、移植再生医療、iPS 細胞、遺伝子診断と治療と倫理的側面について学修する。さらに、最新の画像診断技術の進歩による診断方法について知るとともに、粒子線治療などの先進医療についても学修し、治療の選択肢が拡大されていることを理解する。同時に、先進医療の保健適応外の治療費の現実を知る。		
教材（教科書）	配布資料のみ		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	本科目の名前の通り、現時点での先端医療を紹介する、受講者が、臨床の現場に出たときに、本講義内容を思い出し、現実の医療の現場での理解に役立ててほしい。また、シラバスで示した事を講義内容として予定しているが、最新の医療情報が入手できた場合は、その事も講義内容とする。興味を持って、講義を聴いてほしい。臨床現場に出れば、必ず役に立つとともに、医療人として身につけておいてほしい内容を講義する。		
評価方法	最終講義から１ヶ月以内を期限として、レポートの提出を必須とする。レポートの内容で評価する。		
到達目標	現在期待されている先端医療を理解する		
授業時間外学習	必要なし		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義をしっかりと聞いて、その講義時間内に知り得た新しい知識は全て理解し、記憶する事。必ず、医療人となってから、有益な知識を提供する。確約する。			
授業スケジュール			
1.　重粒子線治療 2.　再生医療 3.　遺伝子診断と治療 4.　がんの免疫療法 5.　内視鏡手術ロボット「ダビンチ」 6.　RET-CT の乳がんの早期発見への応用 7.　癌化を抑制するサーチュイン遺伝子 8.　がん幹細胞の役割とその根治療法、レポートの課題についての説明			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★★

年度	2018	授業コード	J90081001
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
授業概要	今までの学修成果として、既修の知識・技術を基に、教員のサポートを得ながら下級生の指導にあたる。具体的には基礎・成人・老年・小児・母性等の演習科目に参加する。グループに分かれて１つの演習事項に対して予習した後、演習計画を立案し後輩へ指導を行い、評価する。後輩への補佐的指導を通して既修の知識・技術の確認と課題発見を行う。また自らの教育的姿勢に関する振り返りを行い、卒業後の実践活動における同輩・先輩との関係形成のスキルを養う。		
教材（教科書）	各領域が指定するテキストを用いる。		
教材（参考資料）	各領域の指定するテキストを用いる。		
教育方法	－		
評価方法	指導計画内容（30%）、実践のあり方（30%）、事後の振り返りレポート（40%）で総合的に評価します。		
到達目標	①参加する領域の演習の目的・目標を理解できる。 ②自分が行う演習での指導計画をグループメンバーと調整しながら立案することができる。 ③演習計画に基づき、後輩への指導が実践できる。 ④グループでの学び合いに必要な学習スキルや対人関係スキルを学ぶ。 ⑤後輩に対する指導のありかたを振り返り、知識や技術など今後の自己の課題を明らかにする。		
授業時間外学習	これまでの学修の成果を後輩への指導を行うことで確認する科目です。既習の科目での学び（自らの知識・技術）を復習して、この科目の履修に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護師として働く際には、対象者に健康教育や指導を実施するため、即座に具体的な指導計画を立案・実施するスキルが必要になります。この科目を履修することで、指導能力を養うことにつながると考えます。3 年次の各領域の演習、実習での実践を糧として、後輩の演習指導を行ってください。また、グループメンバーとの協同学習を活かして、メンバーとの調整や効果的な指導の方法についても学んでください。そして、この科目を履修することで、指導するためのスキルを学ぶとともに、その難しさを理解して、今後の自分自身の学習課題を見出す機会となることを期待します。

授業スケジュール

1.　"オリエンテーション
ガイダンス、グループ分け
各領域の教員のガイダンス"

2.　"領域での演習スケジュールを確認し、グループ毎に参加する演習・目標を決定する
演習についての自己学習を行う"

3.　演習に参加し、後輩の状況を知り、演習への指導につなげる

4.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

5.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

6.　それぞれの立案した計画をグループで検討し、それぞれの役割分担を決める

7.　演習での指導計画についての指導を演習担当教員から受ける

8.　演習に向けてのそれぞれの指導計画を最終的に立案する

9.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(1 グループ) 2 グループの学生は 1 グループの学生を参観する。

１０.　１グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１１.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(2 グループ) 1 グループの学生は 2 グループの学生を参観する。

１２.　２グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１３.　事後の振り返りレポートの作成
１４.　事後の振り返りレポートの作成
１５.　領域ごとに学生の学びの発表会を行う（カンファレンス）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90081002
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
授業概要	今までの学修成果として、既修の知識・技術を基に、教員のサポートを得ながら下級生の指導にあたる。具体的には基礎・成人・老年・小児・母性等の演習科目に参加する。グループに分かれて１つの演習事項に対して予習した後、演習計画を立案し後輩へ指導を行い、評価する。後輩への補佐的指導を通して既修の知識・技術の確認と課題発見を行う。また自らの教育的姿勢に関する振り返りを行い、卒業後の実践活動における同輩・先輩との関係形成のスキルを養う。		
教材（教科書）	各領域が指定するテキストを用いる。		
教材（参考資料）	各領域の指定するテキストを用いる。		
教育方法	－		
評価方法	指導計画内容（30%）、実践のあり方（30%）、事後の振り返りレポート（40%）で総合的に評価します。		
到達目標	①参加する領域の演習の目的・目標を理解できる。 ②自分が行う演習での指導計画をグループメンバーと調整しながら立案することができる。 ③演習計画に基づき、後輩への指導が実践できる。 ④グループでの学び合いに必要な学習スキルや対人関係スキルを学ぶ。 ⑤後輩に対する指導のありかたを振り返り、知識や技術など今後の自己の課題を明らかにする。		
授業時間外学習	これまでの学修の成果を後輩への指導を行うことで確認する科目です。既習の科目での学び（自らの知識・技術）を復習して、この科目の履修に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護師として働く際には、対象者に健康教育や指導を実施するため、即座に具体的な指導計画を立案・実施するスキルが必要になります。この科目を履修することで、指導能力を養うことにつながると考えます。3 年次の各領域の演習、実習での実践を糧として、後輩の演習指導を行ってください。また、グループメンバーとの協同学習を活かして、メンバーとの調整や効果的な指導の方法についても学んでください。そして、この科目を履修することで、指導するためのスキルを学ぶとともに、その難しさを理解して、今後の自分自身の学習課題を見出す機会となることを期待します。

授業スケジュール

1.　"オリエンテーション
ガイダンス、グループ分け
各領域の教員のガイダンス"

2.　"領域での演習スケジュールを確認し、グループ毎に参加する演習・目標を決定する
演習についての自己学習を行う"

3.　演習に参加し、後輩の状況を知り、演習への指導につなげる

4.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

5.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

6.　それぞれの立案した計画をグループで検討し、それぞれの役割分担を決める

7.　演習での指導計画についての指導を演習担当教員から受ける

8.　演習に向けてのそれぞれの指導計画を最終的に立案する

9.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(1 グループ) 2 グループの学生は 1 グループの学生を参観する。

１０.　１グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１１.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(2 グループ) 1 グループの学生は 2 グループの学生を参観する。

１２.　２グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１３.　事後の振り返りレポートの作成
１４.　事後の振り返りレポートの作成
１５.　領域ごとに学生の学びの発表会を行う（カンファレンス）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90081003
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
授業概要	今までの学修成果として、既修の知識・技術を基に、教員のサポートを得ながら下級生の指導にあたる。具体的には基礎・成人・老年・小児・母性等の演習科目に参加する。グループに分かれて１つの演習事項に対して予習した後、演習計画を立案し後輩へ指導を行い、評価する。後輩への補佐的指導を通して既修の知識・技術の確認と課題発見を行う。また自らの教育的姿勢に関する振り返りを行い、卒業後の実践活動における同輩・先輩との関係形成のスキルを養う。		
教材（教科書）	各領域が指定するテキストを用いる。		
教材（参考資料）	各領域の指定するテキストを用いる。		
教育方法	－		
評価方法	指導計画内容（30%）、実践のあり方（30%）、事後の振り返りレポート（40%）で総合的に評価します。		
到達目標	①参加する領域の演習の目的・目標を理解できる。 ②自分が行う演習での指導計画をグループメンバーと調整しながら立案することができる。 ③演習計画に基づき、後輩への指導が実践できる。 ④グループでの学び合いに必要な学習スキルや対人関係スキルを学ぶ。 ⑤後輩に対する指導のありかたを振り返り、知識や技術など今後の自己の課題を明らかにする。		
授業時間外学習	これまでの学修の成果を後輩への指導を行うことで確認する科目です。既習の科目での学び（自らの知識・技術）を復習して、この科目の履修に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護師として働く際には、対象者に健康教育や指導を実施するため、即座に具体的な指導計画を立案・実施するスキルが必要になります。この科目を履修することで、指導能力を養うことにつながると考えます。3 年次の各領域の演習、実習での実践を糧として、後輩の演習指導を行ってください。また、グループメンバーとの協同学習を活かして、メンバーとの調整や効果的な指導の方法についても学んでください。そして、この科目を履修することで、指導するためのスキルを学ぶとともに、その難しさを理解して、今後の自分自身の学習課題を見出す機会となることを期待します。

授業スケジュール

1.　"オリエンテーション
ガイダンス、グループ分け
各領域の教員のガイダンス"

2.　"領域での演習スケジュールを確認し、グループ毎に参加する演習・目標を決定する
演習についての自己学習を行う"

3.　演習に参加し、後輩の状況を知り、演習への指導につなげる

4.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

5.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

6.　それぞれの立案した計画をグループで検討し、それぞれの役割分担を決める

7.　演習での指導計画についての指導を演習担当教員から受ける

8.　演習に向けてのそれぞれの指導計画を最終的に立案する

9.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(1 グループ) 2 グループの学生は 1 グループの学生を参観する。

１０.　１グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１１.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(2 グループ) 1 グループの学生は 2 グループの学生を参観する。

１２.　２グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１３.　事後の振り返りレポートの作成
１４.　事後の振り返りレポートの作成
１５.　領域ごとに学生の学びの発表会を行う（カンファレンス）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90081004
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
授業概要	今までの学修成果として、既修の知識・技術を基に、教員のサポートを得ながら下級生の指導にあたる。具体的には基礎・成人・老年・小児・母性等の演習科目に参加する。グループに分かれて１つの演習事項に対して予習した後、演習計画を立案し後輩へ指導を行い、評価する。後輩への補佐的指導を通して既修の知識・技術の確認と課題発見を行う。また自らの教育的姿勢に関する振り返りを行い、卒業後の実践活動における同輩・先輩との関係形成のスキルを養う。		
教材（教科書）	各領域が指定するテキストを用いる。		
教材（参考資料）	各領域の指定するテキストを用いる。		
教育方法	－		
評価方法	指導計画内容（30%）、実践のあり方（30%）、事後の振り返りレポート（40%）で総合的に評価します。		
到達目標	①参加する領域の演習の目的・目標を理解できる。 ②自分が行う演習での指導計画をグループメンバーと調整しながら立案することができる。 ③演習計画に基づき、後輩への指導が実践できる。 ④グループでの学び合いに必要な学習スキルや対人関係スキルを学ぶ。 ⑤後輩に対する指導のありかたを振り返り、知識や技術など今後の自己の課題を明らかにする。		
授業時間外学習	これまでの学修の成果を後輩への指導を行うことで確認する科目です。既習の科目での学び（自らの知識・技術）を復習して、この科目の履修に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護師として働く際には、対象者に健康教育や指導を実施するため、即座に具体的な指導計画を立案・実施するスキルが必要になります。この科目を履修することで、指導能力を養うことにつながると考えます。3 年次の各領域の演習、実習での実践を糧として、後輩の演習指導を行ってください。また、グループメンバーとの協同学習を活かして、メンバーとの調整や効果的な指導の方法についても学んでください。そして、この科目を履修することで、指導するためのスキルを学ぶとともに、その難しさを理解して、今後の自分自身の学習課題を見出す機会となることを期待します。

授業スケジュール

1.　"オリエンテーション
ガイダンス、グループ分け
各領域の教員のガイダンス"

2.　"領域での演習スケジュールを確認し、グループ毎に参加する演習・目標を決定する
演習についての自己学習を行う"

3.　演習に参加し、後輩の状況を知り、演習への指導につなげる

4.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

5.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

6.　それぞれの立案した計画をグループで検討し、それぞれの役割分担を決める

7.　演習での指導計画についての指導を演習担当教員から受ける

8.　演習に向けてのそれぞれの指導計画を最終的に立案する

9.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(1 グループ) 2 グループの学生は 1 グループの学生を参観する。

１０.　１グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１１.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(2 グループ) 1 グループの学生は 2 グループの学生を参観する。

１２.　２グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１３.　事後の振り返りレポートの作成
１４.　事後の振り返りレポートの作成
１５.　領域ごとに学生の学びの発表会を行う（カンファレンス）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90081005
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
授業概要	今までの学修成果として、既修の知識・技術を基に、教員のサポートを得ながら下級生の指導にあたる。具体的には基礎・成人・老年・小児・母性等の演習科目に参加する。グループに分かれて１つの演習事項に対して予習した後、演習計画を立案し後輩へ指導を行い、評価する。後輩への補佐的指導を通して既修の知識・技術の確認と課題発見を行う。また自らの教育的姿勢に関する振り返りを行い、卒業後の実践活動における同輩・先輩との関係形成のスキルを養う。		
教材（教科書）	各領域が指定するテキストを用いる。		
教材（参考資料）	各領域の指定するテキストを用いる。		
教育方法	－		
評価方法	指導計画内容（30%）、実践のあり方（30%）、事後の振り返りレポート（40%）で総合的に評価します。		
到達目標	①参加する領域の演習の目的・目標を理解できる。 ②自分が行う演習での指導計画をグループメンバーと調整しながら立案することができる。 ③演習計画に基づき、後輩への指導が実践できる。 ④グループでの学び合いに必要な学習スキルや対人関係スキルを学ぶ。 ⑤後輩に対する指導のありかたを振り返り、知識や技術など今後の自己の課題を明らかにする。		
授業時間外学習	これまでの学修の成果を後輩への指導を行うことで確認する科目です。既習の科目での学び（自らの知識・技術）を復習して、この科目の履修に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護師として働く際には、対象者に健康教育や指導を実施するため、即座に具体的な指導計画を立案・実施するスキルが必要になります。この科目を履修することで、指導能力を養うことにつながると考えます。3 年次の各領域の演習、実習での実践を糧として、後輩の演習指導を行ってください。また、グループメンバーとの協同学習を活かして、メンバーとの調整や効果的な指導の方法についても学んでください。そして、この科目を履修することで、指導するためのスキルを学ぶとともに、その難しさを理解して、今後の自分自身の学習課題を見出す機会となることを期待します。

授業スケジュール

1.　"オリエンテーション
ガイダンス、グループ分け
各領域の教員のガイダンス"

2.　"領域での演習スケジュールを確認し、グループ毎に参加する演習・目標を決定する
演習についての自己学習を行う"

3.　演習に参加し、後輩の状況を知り、演習への指導につなげる

4.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

5.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

6.　それぞれの立案した計画をグループで検討し、それぞれの役割分担を決める

7.　演習での指導計画についての指導を演習担当教員から受ける

8.　演習に向けてのそれぞれの指導計画を最終的に立案する

9.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(1 グループ) 2 グループの学生は 1 グループの学生を参観する。

１０.　１グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１１.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(2 グループ) 1 グループの学生は 2 グループの学生を参観する。

１２.　２グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１３.　事後の振り返りレポートの作成
１４.　事後の振り返りレポートの作成
１５.　領域ごとに学生の学びの発表会を行う（カンファレンス）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90081006
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
授業概要	今までの学修成果として、既修の知識・技術を基に、教員のサポートを得ながら下級生の指導にあたる。具体的には基礎・成人・老年・小児・母性等の演習科目に参加する。グループに分かれて１つの演習事項に対して予習した後、演習計画を立案し後輩へ指導を行い、評価する。後輩への補佐的指導を通して既修の知識・技術の確認と課題発見を行う。また自らの教育的姿勢に関する振り返りを行い、卒業後の実践活動における同輩・先輩との関係形成のスキルを養う。		
教材（教科書）	各領域が指定するテキストを用いる。		
教材（参考資料）	各領域の指定するテキストを用いる。		
教育方法	－		
評価方法	指導計画内容（30%）、実践のあり方（30%）、事後の振り返りレポート（40%）で総合的に評価します。		
到達目標	①参加する領域の演習の目的・目標を理解できる。 ②自分が行う演習での指導計画をグループメンバーと調整しながら立案することができる。 ③演習計画に基づき、後輩への指導が実践できる。 ④グループでの学び合いに必要な学習スキルや対人関係スキルを学ぶ。 ⑤後輩に対する指導のありかたを振り返り、知識や技術など今後の自己の課題を明らかにする。		
授業時間外学習	これまでの学修の成果を後輩への指導を行うことで確認する科目です。既習の科目での学び（自らの知識・技術）を復習して、この科目の履修に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護師として働く際には、対象者に健康教育や指導を実施するため、即座に具体的な指導計画を立案・実施するスキルが必要になります。この科目を履修することで、指導能力を養うことにつながると考えます。3 年次の各領域の演習、実習での実践を糧として、後輩の演習指導を行ってください。また、グループメンバーとの協同学習を活かして、メンバーとの調整や効果的な指導の方法についても学んでください。そして、この科目を履修することで、指導するためのスキルを学ぶとともに、その難しさを理解して、今後の自分自身の学習課題を見出す機会となることを期待します。

授業スケジュール

1.　"オリエンテーション
ガイダンス、グループ分け
各領域の教員のガイダンス"

2.　"領域での演習スケジュールを確認し、グループ毎に参加する演習・目標を決定する
演習についての自己学習を行う"

3.　演習に参加し、後輩の状況を知り、演習への指導につなげる

4.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

5.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

6.　それぞれの立案した計画をグループで検討し、それぞれの役割分担を決める

7.　演習での指導計画についての指導を演習担当教員から受ける

8.　演習に向けてのそれぞれの指導計画を最終的に立案する

9.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(1 グループ) 2 グループの学生は 1 グループの学生を参観する。

１０.　１グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１１.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(2 グループ) 1 グループの学生は 2 グループの学生を参観する。

１２.　２グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１３.　事後の振り返りレポートの作成
１４.　事後の振り返りレポートの作成
１５.　領域ごとに学生の学びの発表会を行う（カンファレンス）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90081007
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
授業概要	今までの学修成果として、既修の知識・技術を基に、教員のサポートを得ながら下級生の指導にあたる。具体的には基礎・成人・老年・小児・母性等の演習科目に参加する。グループに分かれて１つの演習事項に対して予習した後、演習計画を立案し後輩へ指導を行い、評価する。後輩への補佐的指導を通して既修の知識・技術の確認と課題発見を行う。また自らの教育的姿勢に関する振り返りを行い、卒業後の実践活動における同輩・先輩との関係形成のスキルを養う。		
教材（教科書）	各領域が指定するテキストを用いる。		
教材（参考資料）	各領域の指定するテキストを用いる。		
教育方法	－		
評価方法	指導計画内容（30%）、実践のあり方（30%）、事後の振り返りレポート（40%）で総合的に評価します。		
到達目標	①参加する領域の演習の目的・目標を理解できる。 ②自分が行う演習での指導計画をグループメンバーと調整しながら立案することができる。 ③演習計画に基づき、後輩への指導が実践できる。 ④グループでの学び合いに必要な学習スキルや対人関係スキルを学ぶ。 ⑤後輩に対する指導のありかたを振り返り、知識や技術など今後の自己の課題を明らかにする。		
授業時間外学習	これまでの学修の成果を後輩への指導を行うことで確認する科目です。既習の科目での学び（自らの知識・技術）を復習して、この科目の履修に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護師として働く際には、対象者に健康教育や指導を実施するため、即座に具体的な指導計画を立案・実施するスキルが必要になります。この科目を履修することで、指導能力を養うことにつながると考えます。3 年次の各領域の演習、実習での実践を糧として、後輩の演習指導を行ってください。また、グループメンバーとの協同学習を活かして、メンバーとの調整や効果的な指導の方法についても学んでください。そして、この科目を履修することで、指導するためのスキルを学ぶとともに、その難しさを理解して、今後の自分自身の学習課題を見出す機会となることを期待します。

授業スケジュール

1.　"オリエンテーション
ガイダンス、グループ分け
各領域の教員のガイダンス"

2.　"領域での演習スケジュールを確認し、グループ毎に参加する演習・目標を決定する
演習についての自己学習を行う"

3.　演習に参加し、後輩の状況を知り、演習への指導につなげる

4.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

5.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

6.　それぞれの立案した計画をグループで検討し、それぞれの役割分担を決める

7.　演習での指導計画についての指導を演習担当教員から受ける

8.　演習に向けてのそれぞれの指導計画を最終的に立案する

9.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(1 グループ) 2 グループの学生は 1 グループの学生を参観する。

１０.　１グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１１.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(2 グループ) 1 グループの学生は 2 グループの学生を参観する。

１２.　２グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１３.　事後の振り返りレポートの作成
１４.　事後の振り返りレポートの作成
１５.　領域ごとに学生の学びの発表会を行う（カンファレンス）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90081008
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	矢山　壮	旧科目名称	
授業概要	今までの学修成果として、既修の知識・技術を基に、教員のサポートを得ながら下級生の指導にあたる。具体的には基礎・成人・老年・小児・母性等の演習科目に参加する。グループに分かれて１つの演習事項に対して予習した後、演習計画を立案し後輩へ指導を行い、評価する。後輩への補佐的指導を通して既修の知識・技術の確認と課題発見を行う。また自らの教育的姿勢に関する振り返りを行い、卒業後の実践活動における同輩・先輩との関係形成のスキルを養う。		
教材（教科書）	各領域が指定するテキストを用いる。		
教材（参考資料）	各領域の指定するテキストを用いる。		
教育方法	－		
評価方法	指導計画内容（30%）、実践のあり方（30%）、事後の振り返りレポート（40%）で総合的に評価します。		
到達目標	①参加する領域の演習の目的・目標を理解できる。 ②自分が行う演習での指導計画をグループメンバーと調整しながら立案することができる。 ③演習計画に基づき、後輩への指導が実践できる。 ④グループでの学び合いに必要な学習スキルや対人関係スキルを学ぶ。 ⑤後輩に対する指導のありかたを振り返り、知識や技術など今後の自己の課題を明らかにする。		
授業時間外学習	これまでの学修の成果を後輩への指導を行うことで確認する科目です。既習の科目での学び（自らの知識・技術）を復習して、この科目の履修に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護師として働く際には、対象者に健康教育や指導を実施するため、即座に具体的な指導計画を立案・実施するスキルが必要になります。この科目を履修することで、指導能力を養うことにつながると考えます。3 年次の各領域の演習、実習での実践を糧として、後輩の演習指導を行ってください。また、グループメンバーとの協同学習を活かして、メンバーとの調整や効果的な指導の方法についても学んでください。そして、この科目を履修することで、指導するためのスキルを学ぶとともに、その難しさを理解して、今後の自分自身の学習課題を見出す機会となることを期待します。

授業スケジュール

1.　"オリエンテーション
ガイダンス、グループ分け
各領域の教員のガイダンス"

2.　"領域での演習スケジュールを確認し、グループ毎に参加する演習・目標を決定する
演習についての自己学習を行う"

3.　演習に参加し、後輩の状況を知り、演習への指導につなげる

4.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

5.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

6.　それぞれの立案した計画をグループで検討し、それぞれの役割分担を決める

7.　演習での指導計画についての指導を演習担当教員から受ける

8.　演習に向けてのそれぞれの指導計画を最終的に立案する

9.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(1 グループ) 2 グループの学生は 1 グループの学生を参観する。

１０.　１グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１１.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(2 グループ) 1 グループの学生は 2 グループの学生を参観する。

１２.　２グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１３.　事後の振り返りレポートの作成
１４.　事後の振り返りレポートの作成
１５.　領域ごとに学生の学びの発表会を行う（カンファレンス）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90081009
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	村田　友紀子	旧科目名称	
授業概要	今までの学修成果として、既修の知識・技術を基に、教員のサポートを得ながら下級生の指導にあたる。具体的には基礎・成人・老年・小児・母性等の演習科目に参加する。グループに分かれて１つの演習事項に対して予習した後、演習計画を立案し後輩へ指導を行い、評価する。後輩への補佐的指導を通して既修の知識・技術の確認と課題発見を行う。また自らの教育的姿勢に関する振り返りを行い、卒業後の実践活動における同輩・先輩との関係形成のスキルを養う。		
教材（教科書）	各領域が指定するテキストを用いる。		
教材（参考資料）	各領域の指定するテキストを用いる。		
教育方法	－		
評価方法	指導計画内容（30%）、実践のあり方（30%）、事後の振り返りレポート（40%）で総合的に評価します。		
到達目標	①参加する領域の演習の目的・目標を理解できる。 ②自分が行う演習での指導計画をグループメンバーと調整しながら立案することができる。 ③演習計画に基づき、後輩への指導が実践できる。 ④グループでの学び合いに必要な学習スキルや対人関係スキルを学ぶ。 ⑤後輩に対する指導のありかたを振り返り、知識や技術など今後の自己の課題を明らかにする。		
授業時間外学習	これまでの学修の成果を後輩への指導を行うことで確認する科目です。既習の科目での学び（自らの知識・技術）を復習して、この科目の履修に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護師として働く際には、対象者に健康教育や指導を実施するため、即座に具体的な指導計画を立案・実施するスキルが必要になります。この科目を履修することで、指導能力を養うことにつながると考えます。3 年次の各領域の演習、実習での実践を糧として、後輩の演習指導を行ってください。また、グループメンバーとの協同学習を活かして、メンバーとの調整や効果的な指導の方法についても学んでください。そして、この科目を履修することで、指導するためのスキルを学ぶとともに、その難しさを理解して、今後の自分自身の学習課題を見出す機会となることを期待します。

授業スケジュール

1.　"オリエンテーション
ガイダンス、グループ分け
各領域の教員のガイダンス"

2.　"領域での演習スケジュールを確認し、グループ毎に参加する演習・目標を決定する
演習についての自己学習を行う"

3.　演習に参加し、後輩の状況を知り、演習への指導につなげる

4.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

5.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

6.　それぞれの立案した計画をグループで検討し、それぞれの役割分担を決める

7.　演習での指導計画についての指導を演習担当教員から受ける

8.　演習に向けてのそれぞれの指導計画を最終的に立案する

9.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(1 グループ) 2 グループの学生は 1 グループの学生を参観する。

１０.　１グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１１.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(2 グループ) 1 グループの学生は 2 グループの学生を参観する。

１２.　２グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１３.　事後の振り返りレポートの作成
１４.　事後の振り返りレポートの作成
１５.　領域ごとに学生の学びの発表会を行う（カンファレンス）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90081010
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	夏山　洋子	旧科目名称	
授業概要	今までの学修成果として、既修の知識・技術を基に、教員のサポートを得ながら下級生の指導にあたる。具体的には基礎・成人・老年・小児・母性等の演習科目に参加する。グループに分かれて１つの演習事項に対して予習した後、演習計画を立案し後輩へ指導を行い、評価する。後輩への補佐的指導を通して既修の知識・技術の確認と課題発見を行う。また自らの教育的姿勢に関する振り返りを行い、卒業後の実践活動における同輩・先輩との関係形成のスキルを養う。		
教材（教科書）	各領域が指定するテキストを用いる。		
教材（参考資料）	各領域の指定するテキストを用いる。		
教育方法	－		
評価方法	指導計画内容（30%）、実践のあり方（30%）、事後の振り返りレポート（40%）で総合的に評価します。		
到達目標	①参加する領域の演習の目的・目標を理解できる。 ②自分が行う演習での指導計画をグループメンバーと調整しながら立案することができる。 ③演習計画に基づき、後輩への指導が実践できる。 ④グループでの学び合いに必要な学習スキルや対人関係スキルを学ぶ。 ⑤後輩に対する指導のありかたを振り返り、知識や技術など今後の自己の課題を明らかにする。		
授業時間外学習	これまでの学修の成果を後輩への指導を行うことで確認する科目です。既習の科目での学び（自らの知識・技術）を復習して、この科目の履修に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護師として働く際には、対象者に健康教育や指導を実施するため、即座に具体的な指導計画を立案・実施するスキルが必要になります。この科目を履修することで、指導能力を養うことにつながると考えます。3 年次の各領域の演習、実習での実践を糧として、後輩の演習指導を行ってください。また、グループメンバーとの協同学習を活かして、メンバーとの調整や効果的な指導の方法についても学んでください。そして、この科目を履修することで、指導するためのスキルを学ぶとともに、その難しさを理解して、今後の自分自身の学習課題を見出す機会となることを期待します。

授業スケジュール

1.　"オリエンテーション
ガイダンス、グループ分け
各領域の教員のガイダンス"

2.　"領域での演習スケジュールを確認し、グループ毎に参加する演習・目標を決定する
演習についての自己学習を行う"

3.　演習に参加し、後輩の状況を知り、演習への指導につなげる

4.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

5.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

6.　それぞれの立案した計画をグループで検討し、それぞれの役割分担を決める

7.　演習での指導計画についての指導を演習担当教員から受ける

8.　演習に向けてのそれぞれの指導計画を最終的に立案する

9.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(1 グループ) 2 グループの学生は 1 グループの学生を参観する。

１０.　１グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１１.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(2 グループ) 1 グループの学生は 2 グループの学生を参観する。

１２.　２グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１３.　事後の振り返りレポートの作成
１４.　事後の振り返りレポートの作成
１５.　領域ごとに学生の学びの発表会を行う（カンファレンス）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90081011
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	松井　達也	旧科目名称	
授業概要	今までの学修成果として、既修の知識・技術を基に、教員のサポートを得ながら下級生の指導にあたる。具体的には基礎・成人・老年・小児・母性等の演習科目に参加する。グループに分かれて１つの演習事項に対して予習した後、演習計画を立案し後輩へ指導を行い、評価する。後輩への補佐的指導を通して既修の知識・技術の確認と課題発見を行う。また自らの教育的姿勢に関する振り返りを行い、卒業後の実践活動における同輩・先輩との関係形成のスキルを養う。		
教材（教科書）	各領域が指定するテキストを用いる。		
教材（参考資料）	各領域の指定するテキストを用いる。		
教育方法	－		
評価方法	指導計画内容（30%）、実践のあり方（30%）、事後の振り返りレポート（40%）で総合的に評価します。		
到達目標	①参加する領域の演習の目的・目標を理解できる。 ②自分が行う演習での指導計画をグループメンバーと調整しながら立案することができる。 ③演習計画に基づき、後輩への指導が実践できる。 ④グループでの学び合いに必要な学習スキルや対人関係スキルを学ぶ。 ⑤後輩に対する指導のありかたを振り返り、知識や技術など今後の自己の課題を明らかにする。		
授業時間外学習	これまでの学修の成果を後輩への指導を行うことで確認する科目です。既習の科目での学び（自らの知識・技術）を復習して、この科目の履修に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護師として働く際には、対象者に健康教育や指導を実施するため、即座に具体的な指導計画を立案・実施するスキルが必要になります。この科目を履修することで、指導能力を養うことにつながると考えます。3 年次の各領域の演習、実習での実践を糧として、後輩の演習指導を行ってください。また、グループメンバーとの協同学習を活かして、メンバーとの調整や効果的な指導の方法についても学んでください。そして、この科目を履修することで、指導するためのスキルを学ぶとともに、その難しさを理解して、今後の自分自身の学習課題を見出す機会となることを期待します。

授業スケジュール

1.　"オリエンテーション
ガイダンス、グループ分け
各領域の教員のガイダンス"

2.　"領域での演習スケジュールを確認し、グループ毎に参加する演習・目標を決定する
演習についての自己学習を行う"

3.　演習に参加し、後輩の状況を知り、演習への指導につなげる

4.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

5.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

6.　それぞれの立案した計画をグループで検討し、それぞれの役割分担を決める

7.　演習での指導計画についての指導を演習担当教員から受ける

8.　演習に向けてのそれぞれの指導計画を最終的に立案する

9.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(1 グループ) 2 グループの学生は 1 グループの学生を参観する。

１０.　１グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１１.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(2 グループ) 1 グループの学生は 2 グループの学生を参観する。

１２.　２グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１３.　事後の振り返りレポートの作成
１４.　事後の振り返りレポートの作成
１５.　領域ごとに学生の学びの発表会を行う（カンファレンス）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90081012
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	高尾　憲司	旧科目名称	
授業概要	今までの学修成果として、既修の知識・技術を基に、教員のサポートを得ながら下級生の指導にあたる。具体的には基礎・成人・老年・小児・母性等の演習科目に参加する。グループに分かれて１つの演習事項に対して予習した後、演習計画を立案し後輩へ指導を行い、評価する。後輩への補佐的指導を通して既修の知識・技術の確認と課題発見を行う。また自らの教育的姿勢に関する振り返りを行い、卒業後の実践活動における同輩・先輩との関係形成のスキルを養う。		
教材（教科書）	各領域が指定するテキストを用いる。		
教材（参考資料）	各領域の指定するテキストを用いる。		
教育方法	－		
評価方法	指導計画内容（30%）、実践のあり方（30%）、事後の振り返りレポート（40%）で総合的に評価します。		
到達目標	①参加する領域の演習の目的・目標を理解できる。 ②自分が行う演習での指導計画をグループメンバーと調整しながら立案することができる。 ③演習計画に基づき、後輩への指導が実践できる。 ④グループでの学び合いに必要な学習スキルや対人関係スキルを学ぶ。 ⑤後輩に対する指導のありかたを振り返り、知識や技術など今後の自己の課題を明らかにする。		
授業時間外学習	これまでの学修の成果を後輩への指導を行うことで確認する科目です。既習の科目での学び（自らの知識・技術）を復習して、この科目の履修に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護師として働く際には、対象者に健康教育や指導を実施するため、即座に具体的な指導計画を立案・実施するスキルが必要になります。この科目を履修することで、指導能力を養うことにつながると考えます。3 年次の各領域の演習、実習での実践を糧として、後輩の演習指導を行ってください。また、グループメンバーとの協同学習を活かして、メンバーとの調整や効果的な指導の方法についても学んでください。そして、この科目を履修することで、指導するためのスキルを学ぶとともに、その難しさを理解して、今後の自分自身の学習課題を見出す機会となることを期待します。

授業スケジュール

1.　"オリエンテーション
ガイダンス、グループ分け
各領域の教員のガイダンス"

2.　"領域での演習スケジュールを確認し、グループ毎に参加する演習・目標を決定する
演習についての自己学習を行う"

3.　演習に参加し、後輩の状況を知り、演習への指導につなげる

4.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

5.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

6.　それぞれの立案した計画をグループで検討し、それぞれの役割分担を決める

7.　演習での指導計画についての指導を演習担当教員から受ける

8.　演習に向けてのそれぞれの指導計画を最終的に立案する

9.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(1 グループ) 2 グループの学生は 1 グループの学生を参観する。

１０.　１グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１１.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(2 グループ) 1 グループの学生は 2 グループの学生を参観する。

１２.　２グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１３.　事後の振り返りレポートの作成
１４.　事後の振り返りレポートの作成
１５.　領域ごとに学生の学びの発表会を行う（カンファレンス）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90081013
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	江頭　典江	旧科目名称	
授業概要	今までの学修成果として、既修の知識・技術を基に、教員のサポートを得ながら下級生の指導にあたる。具体的には基礎・成人・老年・小児・母性等の演習科目に参加する。グループに分かれて１つの演習事項に対して予習した後、演習計画を立案し後輩へ指導を行い、評価する。後輩への補佐的指導を通して既修の知識・技術の確認と課題発見を行う。また自らの教育的姿勢に関する振り返りを行い、卒業後の実践活動における同輩・先輩との関係形成のスキルを養う。		
教材（教科書）	各領域が指定するテキストを用いる。		
教材（参考資料）	各領域の指定するテキストを用いる。		
教育方法	－		
評価方法	指導計画内容（30%）、実践のあり方（30%）、事後の振り返りレポート（40%）で総合的に評価します。		
到達目標	①参加する領域の演習の目的・目標を理解できる。 ②自分が行う演習での指導計画をグループメンバーと調整しながら立案することができる。 ③演習計画に基づき、後輩への指導が実践できる。 ④グループでの学び合いに必要な学習スキルや対人関係スキルを学ぶ。 ⑤後輩に対する指導のありかたを振り返り、知識や技術など今後の自己の課題を明らかにする。		
授業時間外学習	これまでの学修の成果を後輩への指導を行うことで確認する科目です。既習の科目での学び（自らの知識・技術）を復習して、この科目の履修に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護師として働く際には、対象者に健康教育や指導を実施するため、即座に具体的な指導計画を立案・実施するスキルが必要になります。この科目を履修することで、指導能力を養うことにつながると考えます。3 年次の各領域の演習、実習での実践を糧として、後輩の演習指導を行ってください。また、グループメンバーとの協同学習を活かして、メンバーとの調整や効果的な指導の方法についても学んでください。そして、この科目を履修することで、指導するためのスキルを学ぶとともに、その難しさを理解して、今後の自分自身の学習課題を見出す機会となることを期待します。

授業スケジュール

1.　"オリエンテーション
ガイダンス、グループ分け
各領域の教員のガイダンス"

2.　"領域での演習スケジュールを確認し、グループ毎に参加する演習・目標を決定する
演習についての自己学習を行う"

3.　演習に参加し、後輩の状況を知り、演習への指導につなげる

4.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

5.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

6.　それぞれの立案した計画をグループで検討し、それぞれの役割分担を決める

7.　演習での指導計画についての指導を演習担当教員から受ける

8.　演習に向けてのそれぞれの指導計画を最終的に立案する

9.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(1 グループ) 2 グループの学生は 1 グループの学生を参観する。

１０.　１グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１１.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(2 グループ) 1 グループの学生は 2 グループの学生を参観する。

１２.　２グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１３.　事後の振り返りレポートの作成
１４.　事後の振り返りレポートの作成
１５.　領域ごとに学生の学びの発表会を行う（カンファレンス）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90081014
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	杉島　優子	旧科目名称	
授業概要	今までの学修成果として、既修の知識・技術を基に、教員のサポートを得ながら下級生の指導にあたる。具体的には基礎・成人・老年・小児・母性等の演習科目に参加する。グループに分かれて１つの演習事項に対して予習した後、演習計画を立案し後輩へ指導を行い、評価する。後輩への補佐的指導を通して既修の知識・技術の確認と課題発見を行う。また自らの教育的姿勢に関する振り返りを行い、卒業後の実践活動における同輩・先輩との関係形成のスキルを養う。		
教材（教科書）	各領域が指定するテキストを用いる。		
教材（参考資料）	各領域の指定するテキストを用いる。		
教育方法	－		
評価方法	指導計画内容（30%）、実践のあり方（30%）、事後の振り返りレポート（40%）で総合的に評価します。		
到達目標	①参加する領域の演習の目的・目標を理解できる。 ②自分が行う演習での指導計画をグループメンバーと調整しながら立案することができる。 ③演習計画に基づき、後輩への指導が実践できる。 ④グループでの学び合いに必要な学習スキルや対人関係スキルを学ぶ。 ⑤後輩に対する指導のありかたを振り返り、知識や技術など今後の自己の課題を明らかにする。		
授業時間外学習	これまでの学修の成果を後輩への指導を行うことで確認する科目です。既習の科目での学び（自らの知識・技術）を復習して、この科目の履修に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護師として働く際には、対象者に健康教育や指導を実施するため、即座に具体的な指導計画を立案・実施するスキルが必要になります。この科目を履修することで、指導能力を養うことにつながると考えます。3 年次の各領域の演習、実習での実践を糧として、後輩の演習指導を行ってください。また、グループメンバーとの協同学習を活かして、メンバーとの調整や効果的な指導の方法についても学んでください。そして、この科目を履修することで、指導するためのスキルを学ぶとともに、その難しさを理解して、今後の自分自身の学習課題を見出す機会となることを期待します。

授業スケジュール

1.　"オリエンテーション
ガイダンス、グループ分け
各領域の教員のガイダンス"

2.　"領域での演習スケジュールを確認し、グループ毎に参加する演習・目標を決定する
演習についての自己学習を行う"

3.　演習に参加し、後輩の状況を知り、演習への指導につなげる

4.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

5.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

6.　それぞれの立案した計画をグループで検討し、それぞれの役割分担を決める

7.　演習での指導計画についての指導を演習担当教員から受ける

8.　演習に向けてのそれぞれの指導計画を最終的に立案する

9.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(1 グループ) 2 グループの学生は 1 グループの学生を参観する。

１０.　１グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１１.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(2 グループ) 1 グループの学生は 2 グループの学生を参観する。

１２.　２グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１３.　事後の振り返りレポートの作成
１４.　事後の振り返りレポートの作成
１５.　領域ごとに学生の学びの発表会を行う（カンファレンス）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90081015
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	共通使用	旧科目名称	
授業概要	今までの学修成果として、既修の知識・技術を基に、教員のサポートを得ながら下級生の指導にあたる。具体的には基礎・成人・老年・小児・母性等の演習科目に参加する。グループに分かれて１つの演習事項に対して予習した後、演習計画を立案し後輩へ指導を行い、評価する。後輩への補佐的指導を通して既修の知識・技術の確認と課題発見を行う。また自らの教育的姿勢に関する振り返りを行い、卒業後の実践活動における同輩・先輩との関係形成のスキルを養う。		
教材（教科書）	各領域が指定するテキストを用いる。		
教材（参考資料）	各領域の指定するテキストを用いる。		
教育方法	－		
評価方法	指導計画内容（30%）、実践のあり方（30%）、事後の振り返りレポート（40%）で総合的に評価します。		
到達目標	①参加する領域の演習の目的・目標を理解できる。 ②自分が行う演習での指導計画をグループメンバーと調整しながら立案することができる。 ③演習計画に基づき、後輩への指導が実践できる。 ④グループでの学び合いに必要な学習スキルや対人関係スキルを学ぶ。 ⑤後輩に対する指導のありかたを振り返り、知識や技術など今後の自己の課題を明らかにする。		
授業時間外学習	これまでの学修の成果を後輩への指導を行うことで確認する科目です。既習の科目での学び（自らの知識・技術）を復習して、この科目の履修に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護師として働く際には、対象者に健康教育や指導を実施するため、即座に具体的な指導計画を立案・実施するスキルが必要になります。この科目を履修することで、指導能力を養うことにつながると考えます。3 年次の各領域の演習、実習での実践を糧として、後輩の演習指導を行ってください。また、グループメンバーとの協同学習を活かして、メンバーとの調整や効果的な指導の方法についても学んでください。そして、この科目を履修することで、指導するためのスキルを学ぶとともに、その難しさを理解して、今後の自分自身の学習課題を見出す機会となることを期待します。

授業スケジュール

1. "オリエンテーション
ガイダンス、グループ分け
各領域の教員のガイダンス"
2. "領域での演習スケジュールを確認し、グループ毎に参加する演習・目標を決定する
演習についての自己学習を行う"
3. 演習に参加し、後輩の状況を知り、演習への指導につなげる
4. 演習に向けての指導計画を個人で立案する
5. 演習に向けての指導計画を個人で立案する
6. それぞれの立案した計画をグループで検討し、それぞれの役割分担を決める
7. 演習での指導計画についての指導を演習担当教員から受ける
8. 演習に向けてのそれぞれの指導計画を最終的に立案する

9.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(1 グループ) 2 グループの学生は 1 グループの学生を参観する。

１０.　１グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１１.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(2 グループ) 1 グループの学生は 2 グループの学生を参観する。

１２.　２グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１３.　事後の振り返りレポートの作成
１４.　事後の振り返りレポートの作成
１５.　領域ごとに学生の学びの発表会を行う（カンファレンス）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90081016
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	鈴木　ひとみ	旧科目名称	
授業概要	今までの学修成果として、既修の知識・技術を基に、教員のサポートを得ながら下級生の指導にあたる。具体的には基礎・成人・老年・小児・母性等の演習科目に参加する。グループに分かれて１つの演習事項に対して予習した後、演習計画を立案し後輩へ指導を行い、評価する。後輩への補佐的指導を通して既修の知識・技術の確認と課題発見を行う。また自らの教育的姿勢に関する振り返りを行い、卒業後の実践活動における同輩・先輩との関係形成のスキルを養う。		
教材（教科書）	各領域が指定するテキストを用いる。		
教材（参考資料）	各領域の指定するテキストを用いる。		
教育方法	－		
評価方法	指導計画内容（30%）、実践のあり方（30%）、事後の振り返りレポート（40%）で総合的に評価します。		
到達目標	①参加する領域の演習の目的・目標を理解できる。 ②自分が行う演習での指導計画をグループメンバーと調整しながら立案することができる。 ③演習計画に基づき、後輩への指導が実践できる。 ④グループでの学び合いに必要な学習スキルや対人関係スキルを学ぶ。 ⑤後輩に対する指導のありかたを振り返り、知識や技術など今後の自己の課題を明らかにする。		
授業時間外学習	これまでの学修の成果を後輩への指導を行うことで確認する科目です。既習の科目での学び（自らの知識・技術）を復習して、この科目の履修に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護師として働く際には、対象者に健康教育や指導を実施するため、即座に具体的な指導計画を立案・実施するスキルが必要になります。この科目を履修することで、指導能力を養うことにつながると考えます。3 年次の各領域の演習、実習での実践を糧として、後輩の演習指導を行ってください。また、グループメンバーとの協同学習を活かして、メンバーとの調整や効果的な指導の方法についても学んでください。そして、この科目を履修することで、指導するためのスキルを学ぶとともに、その難しさを理解して、今後の自分自身の学習課題を見出す機会となることを期待します。

授業スケジュール

1.　"オリエンテーション
ガイダンス、グループ分け
各領域の教員のガイダンス"

2.　"領域での演習スケジュールを確認し、グループ毎に参加する演習・目標を決定する
演習についての自己学習を行う"

3.　演習に参加し、後輩の状況を知り、演習への指導につなげる

4.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

5.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

6.　それぞれの立案した計画をグループで検討し、それぞれの役割分担を決める

7.　演習での指導計画についての指導を演習担当教員から受ける

8.　演習に向けてのそれぞれの指導計画を最終的に立案する

9.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(1 グループ) 2 グループの学生は 1 グループの学生を参観する。

１０.　１グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１１.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(2 グループ) 1 グループの学生は 2 グループの学生を参観する。

１２.　２グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１３.　事後の振り返りレポートの作成
１４.　事後の振り返りレポートの作成
１５.　領域ごとに学生の学びの発表会を行う（カンファレンス）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90081017
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
授業概要	今までの学修成果として、既修の知識・技術を基に、教員のサポートを得ながら下級生の指導にあたる。具体的には基礎・成人・老年・小児・母性等の演習科目に参加する。グループに分かれて１つの演習事項に対して予習した後、演習計画を立案し後輩へ指導を行い、評価する。後輩への補佐的指導を通して既修の知識・技術の確認と課題発見を行う。また自らの教育的姿勢に関する振り返りを行い、卒業後の実践活動における同輩・先輩との関係形成のスキルを養う。		
教材（教科書）	各領域が指定するテキストを用いる。		
教材（参考資料）	各領域の指定するテキストを用いる。		
教育方法	－		
評価方法	指導計画内容（30%）、実践のあり方（30%）、事後の振り返りレポート（40%）で総合的に評価します。		
到達目標	①参加する領域の演習の目的・目標を理解できる。 ②自分が行う演習での指導計画をグループメンバーと調整しながら立案することができる。 ③演習計画に基づき、後輩への指導が実践できる。 ④グループでの学び合いに必要な学習スキルや対人関係スキルを学ぶ。 ⑤後輩に対する指導のありかたを振り返り、知識や技術など今後の自己の課題を明らかにする。		
授業時間外学習	これまでの学修の成果を後輩への指導を行うことで確認する科目です。既習の科目での学び（自らの知識・技術）を復習して、この科目の履修に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

看護師として働く際には、対象者に健康教育や指導を実施するため、即座に具体的な指導計画を立案・実施するスキルが必要になります。この科目を履修することで、指導能力を養うことにつながると考えます。3 年次の各領域の演習、実習での実践を糧として、後輩の演習指導を行ってください。また、グループメンバーとの協同学習を活かして、メンバーとの調整や効果的な指導の方法についても学んでください。そして、この科目を履修することで、指導するためのスキルを学ぶとともに、その難しさを理解して、今後の自分自身の学習課題を見出す機会となることを期待します。

授業スケジュール

1.　"オリエンテーション
ガイダンス、グループ分け
各領域の教員のガイダンス"

2.　"領域での演習スケジュールを確認し、グループ毎に参加する演習・目標を決定する
演習についての自己学習を行う"

3.　演習に参加し、後輩の状況を知り、演習への指導につなげる

4.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

5.　演習に向けての指導計画を個人で立案する

6.　それぞれの立案した計画をグループで検討し、それぞれの役割分担を決める

7.　演習での指導計画についての指導を演習担当教員から受ける

8.　演習に向けてのそれぞれの指導計画を最終的に立案する

9.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(1 グループ) 2 グループの学生は 1 グループの学生を参観する。

１０.　１グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１１.　演習に参加し、後輩の指導を指導計画に基づき行う。(2 グループ) 1 グループの学生は 2 グループの学生を参観する。

１２.　２グループの反省会を行い、教員からの指導を受ける（後輩からの意見ももらう）

１３.　事後の振り返りレポートの作成
１４.　事後の振り返りレポートの作成
１５.　領域ごとに学生の学びの発表会を行う（カンファレンス）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90082001
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
授業概要	4 年間で学修した看護学および関連科目の総合的理解を目的とした講座である。実践で求められる基礎的な知識や技術を用いた応用力及び判断力の強化を図る。具体的には、人体の構造と理解、疾患の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度、看護専門科目を、学生同士が教員をチューターとして活用し統合的に学修する。これらを相互的に指導し合う演習形式で行うことによって、卒業後も継続する主体的学習や他者との協働作業のスキルを養う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	各自の学習課題をもとにグループをつくり、グループメンバーとの協同学習を通じて各自の学習課題を克服する科目である。協同学習では、グループメンバーの相互協力関係だけでなく、各グループメンバーの責任も重要である。各自が自己の学習課題を克服できるよう自己学習を行いグループワークに参加することが前提となる。		
評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）		
到達目標	1 これまでの自己の学びを振り返り、自己の学習課題を明確にできる 2 自己の学習課題について、これまでの学びに不足している学習内容を補い、他者に説明する準備ができる 3 グループメンバーと協働して、各自の学習課題についてまとめた成果をプレゼンテーションできる 4 他のグループとのディスカッションを通じて学習内容を深めることができる 5 これらのプロセスを通じて、主体的に学習する力と、他者と協働するスキルを高める		
授業時間外学習	・自己の学習課題を明確にできるよう、これまでの自己の学びを振り返っておくこと。 ・自己の学習課題について、必要な知識や情報を収集し、他者が理解できるように説明することができるよう、不足する学習内容を補う準備をして授業に参加すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・普段から社会情勢の変化等に関心を持ち、新聞・テレビ・インターネット等で情報を収集し、理解が不足する点は自ら調べ、主体的に学習する姿勢をもつこと。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加すること。
・自分の学習課題を克服できるようにグループやクラスメンバーとの協同学習の場を積極的に活用すること。

授業スケジュール

1.オリエンテーション：学習の進め方、プレゼンテーションの方法について
2.個人およびグループワーク①：各自の学習課題を明確にし、発表に向けた学習計画を立てる
3.個人およびグループワーク②：学習計画に基づき、必要な知識等を調べて、まとめる
4.個人およびグループワーク③：グループメンバーの力も借りて、さらに不足する知識等を補い、まとめる
5.個人およびグループワーク④：調べてまとめたことを他者に理解してもらえるように説明する準備をする個人およびグループ
6.個人およびグループワーク⑤：グループメンバーからフィードバックを受けて、発表内容を推敲する
7.プレゼンテーション演習①　9回に分けて、各自の学習課題についてまとめた成果を順にプレゼンテーションする
8.プレゼンテーション演習②　＊発表は、同じグループメンバーが協働して運営する
9.プレゼンテーション演習③　＊発表内容について、他のグループのメンバーや教員とディスカッションし深める
10.プレゼンテーション演習④
11. プレゼンテーション演習⑤
12. プレゼンテーション演習⑥
13. プレゼンテーション演習⑦
14. プレゼンテーション演習⑧
15. プレゼンテーション演習⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90082002
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
授業概要	4 年間で学修した看護学および関連科目の総合的理解を目的とした講座である。実践で求められる基礎的な知識や技術を用いた応用力及び判断力の強化を図る。具体的には、人体の構造と理解、疾患の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度、看護専門科目を、学生同士が教員をチューターとして活用し統合的に学修する。これらを相互的に指導し合う演習形式で行うことによって、卒業後も継続する主体的学習や他者との協働作業のスキルを養う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	各自の学習課題をもとにグループをつくり、グループメンバーとの協同学習を通じて各自の学習課題を克服する科目である。協同学習では、グループメンバーの相互協力関係だけでなく、各グループメンバーの責任も重要である。各自が自己の学習課題を克服できるよう自己学習を行いグループワークに参加することが前提となる。		
評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）		
到達目標	1 これまでの自己の学びを振り返り、自己の学習課題を明確にできる 2 自己の学習課題について、これまでの学びに不足している学習内容を補い、他者に説明する準備ができる 3 グループメンバーと協働して、各自の学習課題についてまとめた成果をプレゼンテーションできる 4 他のグループとのディスカッションを通じて学習内容を深めることができる 5 これらのプロセスを通じて、主体的に学習する力と、他者と協働するスキルを高める		
授業時間外学習	・自己の学習課題を明確にできるよう、これまでの自己の学びを振り返っておくこと。 ・自己の学習課題について、必要な知識や情報を収集し、他者が理解できるように説明することができるよう、不足する学習内容を補う準備をして授業に参加すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・普段から社会情勢の変化等に関心を持ち、新聞・テレビ・インターネット等で情報を収集し、理解が不足する点は自ら調べ、主体的に学習する姿勢をもつこと。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加すること。
・自分の学習課題を克服できるようにグループやクラスメンバーとの協同学習の場を積極的に活用すること。

授業スケジュール

1.オリエンテーション：学習の進め方、プレゼンテーションの方法について
2.個人およびグループワーク①：各自の学習課題を明確にし、発表に向けた学習計画を立てる
3.個人およびグループワーク②：学習計画に基づき、必要な知識等を調べて、まとめる
4.個人およびグループワーク③：グループメンバーの力も借りて、さらに不足する知識等を補い、まとめる
5.個人およびグループワーク④：調べてまとめたことを他者に理解してもらえるように説明する準備をする個人およびグループ
6.個人およびグループワーク⑤：グループメンバーからフィードバックを受けて、発表内容を推敲する
7.プレゼンテーション演習①　　9回に分けて、各自の学習課題についてまとめた成果を順にプレゼンテーションする
8.プレゼンテーション演習②　　＊発表は、同じグループメンバーが協働して運営する
9.プレゼンテーション演習③　　＊発表内容について、他のグループのメンバーや教員とディスカッションし深める
10.プレゼンテーション演習④
11. プレゼンテーション演習⑤
12. プレゼンテーション演習⑥
13. プレゼンテーション演習⑦
14. プレゼンテーション演習⑧
15. プレゼンテーション演習⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90082003
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	渡部　洋子	旧科目名称	
授業概要	4 年間で学修した看護学および関連科目の総合的理解を目的とした講座である。実践で求められる基礎的な知識や技術を用いた応用力及び判断力の強化を図る。具体的には、人体の構造と理解、疾患の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度、看護専門科目を、学生同士が教員をチューターとして活用し統合的に学修する。これらを相互的に指導し合う演習形式で行うことによって、卒業後も継続する主体的学習や他者との協働作業のスキルを養う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	各自の学習課題をもとにグループをつくり、グループメンバーとの協同学習を通じて各自の学習課題を克服する科目である。協同学習では、グループメンバーの相互協力関係だけでなく、各グループメンバーの責任も重要である。各自が自己の学習課題を克服できるよう自己学習を行いグループワークに参加することが前提となる。		
評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）		
到達目標	1 これまでの自己の学びを振り返り、自己の学習課題を明確にできる 2 自己の学習課題について、これまでの学びに不足している学習内容を補い、他者に説明する準備ができる 3 グループメンバーと協働して、各自の学習課題についてまとめた成果をプレゼンテーションできる 4 他のグループとのディスカッションを通じて学習内容を深めることができる 5 これらのプロセスを通じて、主体的に学習する力と、他者と協働するスキルを高める		
授業時間外学習	・自己の学習課題を明確にできるよう、これまでの自己の学びを振り返っておくこと。 ・自己の学習課題について、必要な知識や情報を収集し、他者が理解できるように説明することができるよう、不足する学習内容を補う準備をして授業に参加すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・普段から社会情勢の変化等に関心を持ち、新聞・テレビ・インターネット等で情報を収集し、理解が不足する点は自ら調べ、主体的に学習する姿勢をもつこと。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加すること。
・自分の学習課題を克服できるようにグループやクラスメンバーとの協同学習の場を積極的に活用すること。

授業スケジュール

1.オリエンテーション：学習の進め方、プレゼンテーションの方法について
2.個人およびグループワーク①：各自の学習課題を明確にし、発表に向けた学習計画を立てる
3.個人およびグループワーク②：学習計画に基づき、必要な知識等を調べて、まとめる
4.個人およびグループワーク③：グループメンバーの力も借りて、さらに不足する知識等を補い、まとめる
5.個人およびグループワーク④：調べてまとめたことを他者に理解してもらえるように説明する準備をする個人およびグループ
6.個人およびグループワーク⑤：グループメンバーからフィードバックを受けて、発表内容を推敲する
7.プレゼンテーション演習①　　9回に分けて、各自の学習課題についてまとめた成果を順にプレゼンテーションする
8.プレゼンテーション演習②　　＊発表は、同じグループメンバーが協働して運営する
9.プレゼンテーション演習③　　＊発表内容について、他のグループのメンバーや教員とディスカッションし深める
10.プレゼンテーション演習④
11. プレゼンテーション演習⑤
12. プレゼンテーション演習⑥
13. プレゼンテーション演習⑦
14. プレゼンテーション演習⑧
15. プレゼンテーション演習⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90082004
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
授業概要	4 年間で学修した看護学および関連科目の総合的理解を目的とした講座である。実践で求められる基礎的な知識や技術を用いた応用力及び判断力の強化を図る。具体的には、人体の構造と理解、疾患の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度、看護専門科目を、学生同士が教員をチューターとして活用し統合的に学修する。これらを相互的に指導し合う演習形式で行うことによって、卒業後も継続する主体的学習や他者との協働作業のスキルを養う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	各自の学習課題をもとにグループをつくり、グループメンバーとの協同学習を通じて各自の学習課題を克服する科目である。協同学習では、グループメンバーの相互協力関係だけでなく、各グループメンバーの責任も重要である。各自が自己の学習課題を克服できるよう自己学習を行いグループワークに参加することが前提となる。		
評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）		
到達目標	1 これまでの自己の学びを振り返り、自己の学習課題を明確にできる 2 自己の学習課題について、これまでの学びに不足している学習内容を補い、他者に説明する準備ができる 3 グループメンバーと協働して、各自の学習課題についてまとめた成果をプレゼンテーションできる 4 他のグループとのディスカッションを通じて学習内容を深めることができる 5 これらのプロセスを通じて、主体的に学習する力と、他者と協働するスキルを高める		
授業時間外学習	・自己の学習課題を明確にできるよう、これまでの自己の学びを振り返っておくこと。 ・自己の学習課題について、必要な知識や情報を収集し、他者が理解できるように説明することができるよう、不足する学習内容を補う準備をして授業に参加すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・普段から社会情勢の変化等に関心を持ち、新聞・テレビ・インターネット等で情報を収集し、理解が不足する点は自ら調べ、主体的に学習する姿勢をもつこと。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加すること。
・自分の学習課題を克服できるようにグループやクラスメンバーとの協同学習の場を積極的に活用すること。

授業スケジュール

1.オリエンテーション：学習の進め方、プレゼンテーションの方法について
2.個人およびグループワーク①：各自の学習課題を明確にし、発表に向けた学習計画を立てる
3.個人およびグループワーク②：学習計画に基づき、必要な知識等を調べて、まとめる
4.個人およびグループワーク③：グループメンバーの力も借りて、さらに不足する知識等を補い、まとめる
5.個人およびグループワーク④：調べてまとめたことを他者に理解してもらえるように説明する準備をする個人およびグループ
6.個人およびグループワーク⑤：グループメンバーからフィードバックを受けて、発表内容を推敲する
7.プレゼンテーション演習①　9回に分けて、各自の学習課題についてまとめた成果を順にプレゼンテーションする
8.プレゼンテーション演習②　＊発表は、同じグループメンバーが協働して運営する
9.プレゼンテーション演習③　＊発表内容について、他のグループのメンバーや教員とディスカッションし深める
10.プレゼンテーション演習④
11. プレゼンテーション演習⑤
12. プレゼンテーション演習⑥
13. プレゼンテーション演習⑦
14. プレゼンテーション演習⑧
15. プレゼンテーション演習⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90082005
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
授業概要	4 年間で学修した看護学および関連科目の総合的理解を目的とした講座である。実践で求められる基礎的な知識や技術を用いた応用力及び判断力の強化を図る。具体的には、人体の構造と理解、疾患の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度、看護専門科目を、学生同士が教員をチューターとして活用し統合的に学修する。これらを相互的に指導し合う演習形式で行うことによって、卒業後も継続する主体的学習や他者との協働作業のスキルを養う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	各自の学習課題をもとにグループをつくり、グループメンバーとの協同学習を通じて各自の学習課題を克服する科目である。協同学習では、グループメンバーの相互協力関係だけでなく、各グループメンバーの責任も重要である。各自が自己の学習課題を克服できるよう自己学習を行いグループワークに参加することが前提となる。		
評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）		
到達目標	1 これまでの自己の学びを振り返り、自己の学習課題を明確にできる 2 自己の学習課題について、これまでの学びに不足している学習内容を補い、他者に説明する準備ができる 3 グループメンバーと協働して、各自の学習課題についてまとめた成果をプレゼンテーションできる 4 他のグループとのディスカッションを通じて学習内容を深めることができる 5 これらのプロセスを通じて、主体的に学習する力と、他者と協働するスキルを高める		
授業時間外学習	・自己の学習課題を明確にできるよう、これまでの自己の学びを振り返っておくこと。 ・自己の学習課題について、必要な知識や情報を収集し、他者が理解できるように説明することができるよう、不足する学習内容を補う準備をして授業に参加すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・普段から社会情勢の変化等に関心を持ち、新聞・テレビ・インターネット等で情報を収集し、理解が不足する点は自ら調べ、主体的に学習する姿勢をもつこと。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加すること。
・自分の学習課題を克服できるようにグループやクラスメンバーとの協同学習の場を積極的に活用すること。

授業スケジュール

1.オリエンテーション：学習の進め方、プレゼンテーションの方法について
2.個人およびグループワーク①：各自の学習課題を明確にし、発表に向けた学習計画を立てる
3.個人およびグループワーク②：学習計画に基づき、必要な知識等を調べて、まとめる
4.個人およびグループワーク③：グループメンバーの力も借りて、さらに不足する知識等を補い、まとめる
5.個人およびグループワーク④：調べてまとめたことを他者に理解してもらえるように説明する準備をする個人およびグループ
6.個人およびグループワーク⑤：グループメンバーからフィードバックを受けて、発表内容を推敲する
7.プレゼンテーション演習①　　9回に分けて、各自の学習課題についてまとめた成果を順にプレゼンテーションする
8.プレゼンテーション演習②　　＊発表は、同じグループメンバーが協働して運営する
9.プレゼンテーション演習③　　＊発表内容について、他のグループのメンバーや教員とディスカッションし深める
10.プレゼンテーション演習④
11. プレゼンテーション演習⑤
12. プレゼンテーション演習⑥
13. プレゼンテーション演習⑦
14. プレゼンテーション演習⑧
15. プレゼンテーション演習⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90082006
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
授業概要	4 年間で学修した看護学および関連科目の総合的理解を目的とした講座である。実践で求められる基礎的な知識や技術を用いた応用力及び判断力の強化を図る。具体的には、人体の構造と理解、疾患の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度、看護専門科目を、学生同士が教員をチューターとして活用し統合的に学修する。これらを相互的に指導し合う演習形式で行うことによって、卒業後も継続する主体的学習や他者との協働作業のスキルを養う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	各自の学習課題をもとにグループをつくり、グループメンバーとの協同学習を通じて各自の学習課題を克服する科目である。協同学習では、グループメンバーの相互協力関係だけでなく、各グループメンバーの責任も重要である。各自が自己の学習課題を克服できるよう自己学習を行いグループワークに参加することが前提となる。		
評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）		
到達目標	1 これまでの自己の学びを振り返り、自己の学習課題を明確にできる 2 自己の学習課題について、これまでの学びに不足している学習内容を補い、他者に説明する準備ができる 3 グループメンバーと協働して、各自の学習課題についてまとめた成果をプレゼンテーションできる 4 他のグループとのディスカッションを通じて学習内容を深めることができる 5 これらのプロセスを通じて、主体的に学習する力と、他者と協働するスキルを高める		
授業時間外学習	・自己の学習課題を明確にできるよう、これまでの自己の学びを振り返っておくこと。 ・自己の学習課題について、必要な知識や情報を収集し、他者が理解できるように説明することができるよう、不足する学習内容を補う準備をして授業に参加すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・普段から社会情勢の変化等に関心を持ち、新聞・テレビ・インターネット等で情報を収集し、理解が不足する点は自ら調べ、主体的に学習する姿勢をもつこと。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加すること。
・自分の学習課題を克服できるようにグループやクラスメンバーとの協同学習の場を積極的に活用すること。

授業スケジュール

1.オリエンテーション：学習の進め方、プレゼンテーションの方法について
2.個人およびグループワーク①：各自の学習課題を明確にし、発表に向けた学習計画を立てる
3.個人およびグループワーク②：学習計画に基づき、必要な知識等を調べて、まとめる
4.個人およびグループワーク③：グループメンバーの力も借りて、さらに不足する知識等を補い、まとめる
5.個人およびグループワーク④：調べてまとめたことを他者に理解してもらえるように説明する準備をする個人およびグループ
6.個人およびグループワーク⑤：グループメンバーからフィードバックを受けて、発表内容を推敲する
7.プレゼンテーション演習①　　9回に分けて、各自の学習課題についてまとめた成果を順にプレゼンテーションする
8.プレゼンテーション演習②　　＊発表は、同じグループメンバーが協働して運営する
9.プレゼンテーション演習③　　＊発表内容について、他のグループのメンバーや教員とディスカッションし深める
10.プレゼンテーション演習④
11. プレゼンテーション演習⑤
12. プレゼンテーション演習⑥
13. プレゼンテーション演習⑦
14. プレゼンテーション演習⑧
15. プレゼンテーション演習⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90082007
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
授業概要	4 年間で学修した看護学および関連科目の総合的理解を目的とした講座である。実践で求められる基礎的な知識や技術を用いた応用力及び判断力の強化を図る。具体的には、人体の構造と理解、疾患の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度、看護専門科目を、学生同士が教員をチューターとして活用し統合的に学修する。これらを相互的に指導し合う演習形式で行うことによって、卒業後も継続する主体的学習や他者との協働作業のスキルを養う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	各自の学習課題をもとにグループをつくり、グループメンバーとの協同学習を通じて各自の学習課題を克服する科目である。協同学習では、グループメンバーの相互協力関係だけでなく、各グループメンバーの責任も重要である。各自が自己の学習課題を克服できるよう自己学習を行いグループワークに参加することが前提となる。		
評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）		
到達目標	1 これまでの自己の学びを振り返り、自己の学習課題を明確にできる 2 自己の学習課題について、これまでの学びに不足している学習内容を補い、他者に説明する準備ができる 3 グループメンバーと協働して、各自の学習課題についてまとめた成果をプレゼンテーションできる 4 他のグループとのディスカッションを通じて学習内容を深めることができる 5 これらのプロセスを通じて、主体的に学習する力と、他者と協働するスキルを高める		
授業時間外学習	・自己の学習課題を明確にできるよう、これまでの自己の学びを振り返っておくこと。 ・自己の学習課題について、必要な知識や情報を収集し、他者が理解できるように説明することができるよう、不足する学習内容を補う準備をして授業に参加すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・普段から社会情勢の変化等に関心を持ち、新聞・テレビ・インターネット等で情報を収集し、理解が不足する点は自ら調べ、主体的に学習する姿勢をもつこと。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加すること。
・自分の学習課題を克服できるようにグループやクラスメンバーとの協同学習の場を積極的に活用すること。

授業スケジュール

1.オリエンテーション：学習の進め方、プレゼンテーションの方法について
2.個人およびグループワーク①：各自の学習課題を明確にし、発表に向けた学習計画を立てる
3.個人およびグループワーク②：学習計画に基づき、必要な知識等を調べて、まとめる
4.個人およびグループワーク③：グループメンバーの力も借りて、さらに不足する知識等を補い、まとめる
5.個人およびグループワーク④：調べてまとめたことを他者に理解してもらえるように説明する準備をする個人およびグループ
6.個人およびグループワーク⑤：グループメンバーからフィードバックを受けて、発表内容を推敲する
7.プレゼンテーション演習①　　9回に分けて、各自の学習課題についてまとめた成果を順にプレゼンテーションする
8.プレゼンテーション演習②　　＊発表は、同じグループメンバーが協働して運営する
9.プレゼンテーション演習③　　＊発表内容について、他のグループのメンバーや教員とディスカッションし深める
10.プレゼンテーション演習④
11. プレゼンテーション演習⑤
12. プレゼンテーション演習⑥
13. プレゼンテーション演習⑦
14. プレゼンテーション演習⑧
15. プレゼンテーション演習⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90082008
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	滝澤　寛子	旧科目名称	
授業概要	4 年間で学修した看護学および関連科目の総合的理解を目的とした講座である。実践で求められる基礎的な知識や技術を用いた応用力及び判断力の強化を図る。具体的には、人体の構造と理解、疾患の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度、看護専門科目を、学生同士が教員をチューターとして活用し統合的に学修する。これらを相互的に指導し合う演習形式で行うことによって、卒業後も継続する主体的学習や他者との協働作業のスキルを養う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	各自の学習課題をもとにグループをつくり、グループメンバーとの協同学習を通じて各自の学習課題を克服する科目である。協同学習では、グループメンバーの相互協力関係だけでなく、各グループメンバーの責任も重要である。各自が自己の学習課題を克服できるよう自己学習を行いグループワークに参加することが前提となる。		
評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）		
到達目標	1 これまでの自己の学びを振り返り、自己の学習課題を明確にできる 2 自己の学習課題について、これまでの学びに不足している学習内容を補い、他者に説明する準備ができる 3 グループメンバーと協働して、各自の学習課題についてまとめた成果をプレゼンテーションできる 4 他のグループとのディスカッションを通じて学習内容を深めることができる 5 これらのプロセスを通じて、主体的に学習する力と、他者と協働するスキルを高める		
授業時間外学習	・自己の学習課題を明確にできるよう、これまでの自己の学びを振り返っておくこと。 ・自己の学習課題について、必要な知識や情報を収集し、他者が理解できるように説明することができるよう、不足する学習内容を補う準備をして授業に参加すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・普段から社会情勢の変化等に関心を持ち、新聞・テレビ・インターネット等で情報を収集し、理解が不足する点は自ら調べ、主体的に学習する姿勢をもつこと。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加すること。
・自分の学習課題を克服できるようにグループやクラスメンバーとの協同学習の場を積極的に活用すること。

授業スケジュール

1.オリエンテーション：学習の進め方、プレゼンテーションの方法について
2.個人およびグループワーク①：各自の学習課題を明確にし、発表に向けた学習計画を立てる
3.個人およびグループワーク②：学習計画に基づき、必要な知識等を調べて、まとめる
4.個人およびグループワーク③：グループメンバーの力も借りて、さらに不足する知識等を補い、まとめる
5.個人およびグループワーク④：調べてまとめたことを他者に理解してもらえるように説明する準備をする個人およびグループ
6.個人およびグループワーク⑤：グループメンバーからフィードバックを受けて、発表内容を推敲する
7.プレゼンテーション演習①　　9回に分けて、各自の学習課題についてまとめた成果を順にプレゼンテーションする
8.プレゼンテーション演習②　　＊発表は、同じグループメンバーが協働して運営する
9.プレゼンテーション演習③　　＊発表内容について、他のグループのメンバーや教員とディスカッションし深める
10.プレゼンテーション演習④
11. プレゼンテーション演習⑤
12. プレゼンテーション演習⑥
13. プレゼンテーション演習⑦
14. プレゼンテーション演習⑧
15. プレゼンテーション演習⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90082009
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	矢山　壮	旧科目名称	
授業概要	4 年間で学修した看護学および関連科目の総合的理解を目的とした講座である。実践で求められる基礎的な知識や技術を用いた応用力及び判断力の強化を図る。具体的には、人体の構造と理解、疾患の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度、看護専門科目を、学生同士が教員をチューターとして活用し統合的に学修する。これらを相互的に指導し合う演習形式で行うことによって、卒業後も継続する主体的学習や他者との協働作業のスキルを養う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	各自の学習課題をもとにグループをつくり、グループメンバーとの協同学習を通じて各自の学習課題を克服する科目である。協同学習では、グループメンバーの相互協力関係だけでなく、各グループメンバーの責任も重要である。各自が自己の学習課題を克服できるよう自己学習を行いグループワークに参加することが前提となる。		
評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）		
到達目標	1 これまでの自己の学びを振り返り、自己の学習課題を明確にできる 2 自己の学習課題について、これまでの学びに不足している学習内容を補い、他者に説明する準備ができる 3 グループメンバーと協働して、各自の学習課題についてまとめた成果をプレゼンテーションできる 4 他のグループとのディスカッションを通じて学習内容を深めることができる 5 これらのプロセスを通じて、主体的に学習する力と、他者と協働するスキルを高める		
授業時間外学習	・自己の学習課題を明確にできるよう、これまでの自己の学びを振り返っておくこと。 ・自己の学習課題について、必要な知識や情報を収集し、他者が理解できるように説明することができるよう、不足する学習内容を補う準備をして授業に参加すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・普段から社会情勢の変化等に関心を持ち、新聞・テレビ・インターネット等で情報を収集し、理解が不足する点は自ら調べ、主体的に学習する姿勢をもつこと。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加すること。
・自分の学習課題を克服できるようにグループやクラスメンバーとの協同学習の場を積極的に活用すること。

授業スケジュール

1.オリエンテーション：学習の進め方、プレゼンテーションの方法について
2.個人およびグループワーク①：各自の学習課題を明確にし、発表に向けた学習計画を立てる
3.個人およびグループワーク②：学習計画に基づき、必要な知識等を調べて、まとめる
4.個人およびグループワーク③：グループメンバーの力も借りて、さらに不足する知識等を補い、まとめる
5.個人およびグループワーク④：調べてまとめたことを他者に理解してもらえるように説明する準備をする個人およびグループ
6.個人およびグループワーク⑤：グループメンバーからフィードバックを受けて、発表内容を推敲する
7.プレゼンテーション演習①　9回に分けて、各自の学習課題についてまとめた成果を順にプレゼンテーションする
8.プレゼンテーション演習②　＊発表は、同じグループメンバーが協働して運営する
9.プレゼンテーション演習③　＊発表内容について、他のグループのメンバーや教員とディスカッションし深める
10.プレゼンテーション演習④
11. プレゼンテーション演習⑤
12. プレゼンテーション演習⑥
13. プレゼンテーション演習⑦
14. プレゼンテーション演習⑧
15. プレゼンテーション演習⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90082010
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	光井　朱美	旧科目名称	
授業概要	4 年間で学修した看護学および関連科目の総合的理解を目的とした講座である。実践で求められる基礎的な知識や技術を用いた応用力及び判断力の強化を図る。具体的には、人体の構造と理解、疾患の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度、看護専門科目を、学生同士が教員をチューターとして活用し統合的に学修する。これらを相互的に指導し合う演習形式で行うことによって、卒業後も継続する主体的学習や他者との協働作業のスキルを養う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	各自の学習課題をもとにグループをつくり、グループメンバーとの協同学習を通じて各自の学習課題を克服する科目である。協同学習では、グループメンバーの相互協力関係だけでなく、各グループメンバーの責任も重要である。各自が自己の学習課題を克服できるよう自己学習を行いグループワークに参加することが前提となる。		
評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）		
到達目標	1 これまでの自己の学びを振り返り、自己の学習課題を明確にできる 2 自己の学習課題について、これまでの学びに不足している学習内容を補い、他者に説明する準備ができる 3 グループメンバーと協働して、各自の学習課題についてまとめた成果をプレゼンテーションできる 4 他のグループとのディスカッションを通じて学習内容を深めることができる 5 これらのプロセスを通じて、主体的に学習する力と、他者と協働するスキルを高める		
授業時間外学習	・自己の学習課題を明確にできるよう、これまでの自己の学びを振り返っておくこと。 ・自己の学習課題について、必要な知識や情報を収集し、他者が理解できるように説明することができるよう、不足する学習内容を補う準備をして授業に参加すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・普段から社会情勢の変化等に関心を持ち、新聞・テレビ・インターネット等で情報を収集し、理解が不足する点は自ら調べ、主体的に学習する姿勢をもつこと。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加すること。
・自分の学習課題を克服できるようにグループやクラスメンバーとの協同学習の場を積極的に活用すること。

授業スケジュール

1.オリエンテーション：学習の進め方、プレゼンテーションの方法について
2.個人およびグループワーク①：各自の学習課題を明確にし、発表に向けた学習計画を立てる
3.個人およびグループワーク②：学習計画に基づき、必要な知識等を調べて、まとめる
4.個人およびグループワーク③：グループメンバーの力も借りて、さらに不足する知識等を補い、まとめる
5.個人およびグループワーク④：調べてまとめたことを他者に理解してもらえるように説明する準備をする個人およびグループ
6.個人およびグループワーク⑤：グループメンバーからフィードバックを受けて、発表内容を推敲する
7.プレゼンテーション演習①　　9回に分けて、各自の学習課題についてまとめた成果を順にプレゼンテーションする
8.プレゼンテーション演習②　　＊発表は、同じグループメンバーが協働して運営する
9.プレゼンテーション演習③　　＊発表内容について、他のグループのメンバーや教員とディスカッションし深める
10.プレゼンテーション演習④
11. プレゼンテーション演習⑤
12. プレゼンテーション演習⑥
13. プレゼンテーション演習⑦
14. プレゼンテーション演習⑧
15. プレゼンテーション演習⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90082011
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	河田　志帆	旧科目名称	
授業概要	4 年間で学修した看護学および関連科目の総合的理解を目的とした講座である。実践で求められる基礎的な知識や技術を用いた応用力及び判断力の強化を図る。具体的には、人体の構造と理解、疾患の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度、看護専門科目を、学生同士が教員をチューターとして活用し統合的に学修する。これらを相互的に指導し合う演習形式で行うことによって、卒業後も継続する主体的学習や他者との協働作業のスキルを養う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	各自の学習課題をもとにグループをつくり、グループメンバーとの協同学習を通じて各自の学習課題を克服する科目である。協同学習では、グループメンバーの相互協力関係だけでなく、各グループメンバーの責任も重要である。各自が自己の学習課題を克服できるよう自己学習を行いグループワークに参加することが前提となる。		
評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）		
到達目標	1 これまでの自己の学びを振り返り、自己の学習課題を明確にできる 2 自己の学習課題について、これまでの学びに不足している学習内容を補い、他者に説明する準備ができる 3 グループメンバーと協働して、各自の学習課題についてまとめた成果をプレゼンテーションできる 4 他のグループとのディスカッションを通じて学習内容を深めることができる 5 これらのプロセスを通じて、主体的に学習する力と、他者と協働するスキルを高める		
授業時間外学習	・自己の学習課題を明確にできるよう、これまでの自己の学びを振り返っておくこと。 ・自己の学習課題について、必要な知識や情報を収集し、他者が理解できるように説明することができるよう、不足する学習内容を補う準備をして授業に参加すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・普段から社会情勢の変化等に関心を持ち、新聞・テレビ・インターネット等で情報を収集し、理解が不足する点は自ら調べ、主体的に学習する姿勢をもつこと。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加すること。
・自分の学習課題を克服できるようにグループやクラスメンバーとの協同学習の場を積極的に活用すること。

授業スケジュール

1.オリエンテーション：学習の進め方、プレゼンテーションの方法について
2.個人およびグループワーク①：各自の学習課題を明確にし、発表に向けた学習計画を立てる
3.個人およびグループワーク②：学習計画に基づき、必要な知識等を調べて、まとめる
4.個人およびグループワーク③：グループメンバーの力も借りて、さらに不足する知識等を補い、まとめる
5.個人およびグループワーク④：調べてまとめたことを他者に理解してもらえるように説明する準備をする個人およびグループ
6.個人およびグループワーク⑤：グループメンバーからフィードバックを受けて、発表内容を推敲する
7.プレゼンテーション演習①　9回に分けて、各自の学習課題についてまとめた成果を順にプレゼンテーションする
8.プレゼンテーション演習②　＊発表は、同じグループメンバーが協働して運営する
9.プレゼンテーション演習③　＊発表内容について、他のグループのメンバーや教員とディスカッションし深める
10.プレゼンテーション演習④
11. プレゼンテーション演習⑤
12. プレゼンテーション演習⑥
13. プレゼンテーション演習⑦
14. プレゼンテーション演習⑧
15. プレゼンテーション演習⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90082012
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	江頭　典江	旧科目名称	
授業概要	4 年間で学修した看護学および関連科目の総合的理解を目的とした講座である。実践で求められる基礎的な知識や技術を用いた応用力及び判断力の強化を図る。具体的には、人体の構造と理解、疾患の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度、看護専門科目を、学生同士が教員をチューターとして活用し統合的に学修する。これらを相互的に指導し合う演習形式で行うことによって、卒業後も継続する主体的学習や他者との協働作業のスキルを養う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	各自の学習課題をもとにグループをつくり、グループメンバーとの協同学習を通じて各自の学習課題を克服する科目である。協同学習では、グループメンバーの相互協力関係だけでなく、各グループメンバーの責任も重要である。各自が自己の学習課題を克服できるよう自己学習を行いグループワークに参加することが前提となる。		
評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）		
到達目標	1 これまでの自己の学びを振り返り、自己の学習課題を明確にできる 2 自己の学習課題について、これまでの学びに不足している学習内容を補い、他者に説明する準備ができる 3 グループメンバーと協働して、各自の学習課題についてまとめた成果をプレゼンテーションできる 4 他のグループとのディスカッションを通じて学習内容を深めることができる 5 これらのプロセスを通じて、主体的に学習する力と、他者と協働するスキルを高める		
授業時間外学習	・自己の学習課題を明確にできるよう、これまでの自己の学びを振り返っておくこと。 ・自己の学習課題について、必要な知識や情報を収集し、他者が理解できるように説明することができるよう、不足する学習内容を補う準備をして授業に参加すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・普段から社会情勢の変化等に関心を持ち、新聞・テレビ・インターネット等で情報を収集し、理解が不足する点は自ら調べ、主体的に学習する姿勢をもつこと。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加すること。
・自分の学習課題を克服できるようにグループやクラスメンバーとの協同学習の場を積極的に活用すること。

授業スケジュール

1.オリエンテーション：学習の進め方、プレゼンテーションの方法について
2.個人およびグループワーク①：各自の学習課題を明確にし、発表に向けた学習計画を立てる
3.個人およびグループワーク②：学習計画に基づき、必要な知識等を調べて、まとめる
4.個人およびグループワーク③：グループメンバーの力も借りて、さらに不足する知識等を補い、まとめる
5.個人およびグループワーク④：調べてまとめたことを他者に理解してもらえるように説明する準備をする個人およびグループ
6.個人およびグループワーク⑤：グループメンバーからフィードバックを受けて、発表内容を推敲する
7.プレゼンテーション演習①　　9回に分けて、各自の学習課題についてまとめた成果を順にプレゼンテーションする
8.プレゼンテーション演習②　　＊発表は、同じグループメンバーが協働して運営する
9.プレゼンテーション演習③　　＊発表内容について、他のグループのメンバーや教員とディスカッションし深める
10.プレゼンテーション演習④
11. プレゼンテーション演習⑤
12. プレゼンテーション演習⑥
13. プレゼンテーション演習⑦
14. プレゼンテーション演習⑧
15. プレゼンテーション演習⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90082013
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	上野　千代子	旧科目名称	
授業概要	4 年間で学修した看護学および関連科目の総合的理解を目的とした講座である。実践で求められる基礎的な知識や技術を用いた応用力及び判断力の強化を図る。具体的には、人体の構造と理解、疾患の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度、看護専門科目を、学生同士が教員をチューターとして活用し統合的に学修する。これらを相互的に指導し合う演習形式で行うことによって、卒業後も継続する主体的学習や他者との協働作業のスキルを養う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	各自の学習課題をもとにグループをつくり、グループメンバーとの協同学習を通じて各自の学習課題を克服する科目である。協同学習では、グループメンバーの相互協力関係だけでなく、各グループメンバーの責任も重要である。各自が自己の学習課題を克服できるよう自己学習を行いグループワークに参加することが前提となる。		
評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）		
到達目標	1 これまでの自己の学びを振り返り、自己の学習課題を明確にできる 2 自己の学習課題について、これまでの学びに不足している学習内容を補い、他者に説明する準備ができる 3 グループメンバーと協働して、各自の学習課題についてまとめた成果をプレゼンテーションできる 4 他のグループとのディスカッションを通じて学習内容を深めることができる 5 これらのプロセスを通じて、主体的に学習する力と、他者と協働するスキルを高める		
授業時間外学習	・自己の学習課題を明確にできるよう、これまでの自己の学びを振り返っておくこと。 ・自己の学習課題について、必要な知識や情報を収集し、他者が理解できるように説明することができるよう、不足する学習内容を補う準備をして授業に参加すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・普段から社会情勢の変化等に関心を持ち、新聞・テレビ・インターネット等で情報を収集し、理解が不足する点は自ら調べ、主体的に学習する姿勢をもつこと。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加すること。
・自分の学習課題を克服できるようにグループやクラスメンバーとの協同学習の場を積極的に活用すること。

授業スケジュール

1.オリエンテーション：学習の進め方、プレゼンテーションの方法について
2.個人およびグループワーク①：各自の学習課題を明確にし、発表に向けた学習計画を立てる
3.個人およびグループワーク②：学習計画に基づき、必要な知識等を調べて、まとめる
4.個人およびグループワーク③：グループメンバーの力も借りて、さらに不足する知識等を補い、まとめる
5.個人およびグループワーク④：調べてまとめたことを他者に理解してもらえるように説明する準備をする個人およびグループ
6.個人およびグループワーク⑤：グループメンバーからフィードバックを受けて、発表内容を推敲する
7.プレゼンテーション演習①　　9回に分けて、各自の学習課題についてまとめた成果を順にプレゼンテーションする
8.プレゼンテーション演習②　　＊発表は、同じグループメンバーが協働して運営する
9.プレゼンテーション演習③　　＊発表内容について、他のグループのメンバーや教員とディスカッションし深める
10.プレゼンテーション演習④
11. プレゼンテーション演習⑤
12. プレゼンテーション演習⑥
13. プレゼンテーション演習⑦
14. プレゼンテーション演習⑧
15. プレゼンテーション演習⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90082014
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	嶌田　理佳	旧科目名称	
授業概要	4 年間で学修した看護学および関連科目の総合的理解を目的とした講座である。実践で求められる基礎的な知識や技術を用いた応用力及び判断力の強化を図る。具体的には、人体の構造と理解、疾患の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度、看護専門科目を、学生同士が教員をチューターとして活用し統合的に学修する。これらを相互的に指導し合う演習形式で行うことによって、卒業後も継続する主体的学習や他者との協働作業のスキルを養う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	各自の学習課題をもとにグループをつくり、グループメンバーとの協同学習を通じて各自の学習課題を克服する科目である。協同学習では、グループメンバーの相互協力関係だけでなく、各グループメンバーの責任も重要である。各自が自己の学習課題を克服できるよう自己学習を行いグループワークに参加することが前提となる。		
評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）		
到達目標	1 これまでの自己の学びを振り返り、自己の学習課題を明確にできる 2 自己の学習課題について、これまでの学びに不足している学習内容を補い、他者に説明する準備ができる 3 グループメンバーと協働して、各自の学習課題についてまとめた成果をプレゼンテーションできる 4 他のグループとのディスカッションを通じて学習内容を深めることができる 5 これらのプロセスを通じて、主体的に学習する力と、他者と協働するスキルを高める		
授業時間外学習	・自己の学習課題を明確にできるよう、これまでの自己の学びを振り返っておくこと。 ・自己の学習課題について、必要な知識や情報を収集し、他者が理解できるように説明することができるよう、不足する学習内容を補う準備をして授業に参加すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・普段から社会情勢の変化等に関心を持ち、新聞・テレビ・インターネット等で情報を収集し、理解が不足する点は自ら調べ、主体的に学習する姿勢をもつこと。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加すること。
・自分の学習課題を克服できるようにグループやクラスメンバーとの協同学習の場を積極的に活用すること。

授業スケジュール

1.オリエンテーション：学習の進め方、プレゼンテーションの方法について
2.個人およびグループワーク①：各自の学習課題を明確にし、発表に向けた学習計画を立てる
3.個人およびグループワーク②：学習計画に基づき、必要な知識等を調べて、まとめる
4.個人およびグループワーク③：グループメンバーの力も借りて、さらに不足する知識等を補い、まとめる
5.個人およびグループワーク④：調べてまとめたことを他者に理解してもらえるように説明する準備をする個人およびグループ
6.個人およびグループワーク⑤：グループメンバーからフィードバックを受けて、発表内容を推敲する
7.プレゼンテーション演習①　　9回に分けて、各自の学習課題についてまとめた成果を順にプレゼンテーションする
8.プレゼンテーション演習②　　＊発表は、同じグループメンバーが協働して運営する
9.プレゼンテーション演習③　　＊発表内容について、他のグループのメンバーや教員とディスカッションし深める
10.プレゼンテーション演習④
11. プレゼンテーション演習⑤
12. プレゼンテーション演習⑥
13. プレゼンテーション演習⑦
14. プレゼンテーション演習⑧
15. プレゼンテーション演習⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90082015
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	共通使用	旧科目名称	
授業概要	4 年間で学修した看護学および関連科目の総合的理解を目的とした講座である。実践で求められる基礎的な知識や技術を用いた応用力及び判断力の強化を図る。具体的には、人体の構造と理解、疾患の成り立ちと回復の促進、健康支援と社会保障制度、看護専門科目を、学生同士が教員をチューターとして活用し統合的に学修する。これらを相互的に指導し合う演習形式で行うことによって、卒業後も継続する主体的学習や他者との協働作業のスキルを養う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	各自の学習課題をもとにグループをつくり、グループメンバーとの協同学習を通じて各自の学習課題を克服する科目である。協同学習では、グループメンバーの相互協力関係だけでなく、各グループメンバーの責任も重要である。各自が自己の学習課題を克服できるよう自己学習を行いグループワークに参加することが前提となる。		
評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）		
到達目標	1 これまでの自己の学びを振り返り、自己の学習課題を明確にできる 2 自己の学習課題について、これまでの学びに不足している学習内容を補い、他者に説明する準備ができる 3 グループメンバーと協働して、各自の学習課題についてまとめた成果をプレゼンテーションできる 4 他のグループとのディスカッションを通じて学習内容を深めることができる 5 これらのプロセスを通じて、主体的に学習する力と、他者と協働するスキルを高める		
授業時間外学習	・自己の学習課題を明確にできるよう、これまでの自己の学びを振り返っておくこと。 ・自己の学習課題について、必要な知識や情報を収集し、他者が理解できるように説明することができるよう、不足する学習内容を補う準備をして授業に参加すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・普段から社会情勢の変化等に関心を持ち、新聞・テレビ・インターネット等で情報を収集し、理解が不足する点は自ら調べ、主体的に学習する姿勢をもつこと。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加すること。
・自分の学習課題を克服できるようにグループやクラスメンバーとの協同学習の場を積極的に活用すること。

授業スケジュール

1.オリエンテーション：学習の進め方、プレゼンテーションの方法について
2.個人およびグループワーク①：各自の学習課題を明確にし、発表に向けた学習計画を立てる
3.個人およびグループワーク②：学習計画に基づき、必要な知識等を調べて、まとめる
4.個人およびグループワーク③：グループメンバーの力も借りて、さらに不足する知識等を補い、まとめる
5.個人およびグループワーク④：調べてまとめたことを他者に理解してもらえるように説明する準備をする個人およびグループ
6.個人およびグループワーク⑤：グループメンバーからフィードバックを受けて、発表内容を推敲する
7.プレゼンテーション演習①　9回に分けて、各自の学習課題についてまとめた成果を順にプレゼンテーションする
8.プレゼンテーション演習②　＊発表は、同じグループメンバーが協働して運営する
9.プレゼンテーション演習③　＊発表内容について、他のグループのメンバーや教員とディスカッションし深める
10.プレゼンテーション演習④
11. プレゼンテーション演習⑤
12. プレゼンテーション演習⑥
13. プレゼンテーション演習⑦
14. プレゼンテーション演習⑧
15. プレゼンテーション演習⑨

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90083001
科目名	看護統合実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Practice: Integration		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
授業概要	各看護専門領域の臨地実習での学びを活かし、将来看護専門職者として医療現場で必要とされる看護実践能力と自己教育力を育むための総合的学習の場とする。学生自身が自己の学修課題を明確にしたうえで実習領域を選択し、学習課題を解決できるよう主体的に学修する態度を養う。看護実践能力の向上と自身の看護観を深めるために、ケアチームに参加し複数の対象者へのケアに携わるとともに、組織の中でより良いケアが行われるためのシステムについて理解を深める。		
教材（教科書）	各領域の援助論等で使用した教材。		
教材（参考資料）	実習施設ごとに教員が提示する。		
教育方法	基礎、成人、老年、小児、母性、精神、在宅の各領域に分かれて実習を行う。 実習は前半グループがが 7 月 23 日～8 月 3 日、後半グループが 9 月 17 日～9 月 28 日で実施する。 実習の前半は看護チームの一員としてケアに参加する。後半は看護管理やチーム医療連携の視点から看護を体験する。		
評価方法	事前学習課題、実習に必要な知識、技術、態度・意欲、事後学修レポートによって評価する。		
到達目標	1．チームの一員として複数の患者を受け持ち、看護を実践することができる。 2．チームのリーダーとしての役割について概要を説明できる。 3．多職種連携場面やカンファレンスの参加を通してチーム医療について学修し，自身の考えをまとめることができる。 4．病棟の特性からみた看護体制とその特徴について述べることができる。 5．事前学習を十分に行い、積極的に実習場面に参加できる。		
授業時間外学習	実習を行う施設の看護状況を事前に調べ、施設の特徴を知り必要な知識や技術を学修しておく。 また、事前学習課題として看護提供システム、看護マネジメント、チーム医療・チーム連携に関して学修しておく。更に看護統合実習における自身の目標を提出する。 事後学習では、自身が立てた目標の到達状況を評価する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・実習施設によって実習開始時間、終了時間が異なるので事前に確認す。
・看護統合実習は看護学最後の実習である。領域別実習と異なり看護教員が実習に毎回同行するのではなく、随時巡回し指導に当たる。実習中は必要な事前学習を十分行い、各自が責任をもってケアに当たり、担当看護師に連絡・報告・相談し積極的に実習を行う。

授業スケジュール

【事前学習】
・実習での自己の課題を明確にし自己目標を立てる
・看護管理に必要な看護チーム，看護マネジメントについて調べる。
【実習】
1 日目：学内オリエンテーション
2 日目：病棟オリエンテーション、看護師システムの確認
3 日目：チームのメンバーとして日々の看護実践を観察し実施する
4～5 日目：複数患者を受け持ち看護を実践する
6～7 日目：病棟管理の見学と理解
8～9 日目：専門看護師、認定看護師、他職種の役割の理解
10 日目：合同カンファレンス
【事後学習】
・学びを共有する

・自己の看護観を深める

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90083002
科目名	看護統合実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Practice: Integration		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
授業概要	各看護専門領域の臨地実習での学びを活かし、将来看護専門職者として医療現場で必要とされる看護実践能力と自己教育力を育むための総合的学習の場とする。学生自身が自己の学修課題を明確にしたうえで実習領域を選択し、学習課題を解決できるよう主体的に学修する態度を養う。看護実践能力の向上と自身の看護観を深めるために、ケアチームに参加し複数の対象者へのケアに携わるとともに、組織の中でより良いケアが行われるためのシステムについて理解を深める。		
教材（教科書）	各領域の援助論等で使用した教材。		
教材（参考資料）	実習施設ごとに教員が提示する。		
教育方法	基礎、成人、老年、小児、母性、精神、在宅の各領域に分かれて実習を行う。 実習は前半グループがが 7 月 23 日～8 月 3 日、後半グループが 9 月 17 日～9 月 28 日で実施する。 実習の前半は看護チームの一員としてケアに参加する。後半は看護管理やチーム医療連携の視点から看護を体験する。		
評価方法	事前学習課題、実習に必要な知識、技術、態度・意欲、事後学修レポートによって評価する。		
到達目標	1．チームの一員として複数の患者を受け持ち、看護を実践することができる。 2．チームのリーダーとしての役割について概要を説明できる。 3．多職種連携場面やカンファレンスの参加を通してチーム医療について学修し，自身の考えをまとめることができる。 4．病棟の特性からみた看護体制とその特徴について述べることができる。 5．事前学習を十分に行い、積極的に実習場面に参加できる。		
授業時間外学習	実習を行う施設の看護状況を事前に調べ、施設の特徴を知り必要な知識や技術を学修しておく。 また、事前学習課題として看護提供システム、看護マネジメント、チーム医療・チーム連携に関して学修しておく。更に看護統合実習における自身の目標を提出する。 事後学習では、自身が立てた目標の到達状況を評価する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・実習施設によって実習開始時間、終了時間が異なるので事前に確認す。
・看護統合実習は看護学最後の実習である。領域別実習と異なり看護教員が実習に毎回同行するのではなく、随時巡回し指導に当たる。実習中は必要な事前学習を十分行い、各自が責任をもってケアに当たり、担当看護師に連絡・報告・相談し積極的に実習を行う。

授業スケジュール

【事前学習】
・実習での自己の課題を明確にし自己目標を立てる
・看護管理に必要な看護チーム，看護マネジメントについて調べる。
【実習】
1 日目：学内オリエンテーション
2 日目：病棟オリエンテーション、看護師システムの確認
3 日目：チームのメンバーとして日々の看護実践を観察し実施する
4～5 日目：複数患者を受け持ち看護を実践する
6～7 日目：病棟管理の見学と理解
8～9 日目：専門看護師、認定看護師、他職種の役割の理解
10 日目：合同カンファレンス
【事後学習】
・学びを共有する

・自己の看護観を深める

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90083003
科目名	看護統合実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Practice: Integration		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
授業概要	各看護専門領域の臨地実習での学びを活かし、将来看護専門職者として医療現場で必要とされる看護実践能力と自己教育力を育むための総合的学習の場とする。学生自身が自己の学修課題を明確にしたうえで実習領域を選択し、学習課題を解決できるよう主体的に学修する態度を養う。看護実践能力の向上と自身の看護観を深めるために、ケアチームに参加し複数の対象者へのケアに携わるとともに、組織の中でより良いケアが行われるためのシステムについて理解を深める。		
教材（教科書）	各領域の援助論等で使用した教材。		
教材（参考資料）	実習施設ごとに教員が提示する。		
教育方法	基礎、成人、老年、小児、母性、精神、在宅の各領域に分かれて実習を行う。 実習は前半グループがが 7 月 23 日～8 月 3 日、後半グループが 9 月 17 日～9 月 28 日で実施する。 実習の前半は看護チームの一員としてケアに参加する。後半は看護管理やチーム医療連携の視点から看護を体験する。		
評価方法	事前学習課題、実習に必要な知識、技術、態度・意欲、事後学修レポートによって評価する。		
到達目標	1．チームの一員として複数の患者を受け持ち、看護を実践することができる。 2．チームのリーダーとしての役割について概要を説明できる。 3．多職種連携場面やカンファレンスの参加を通してチーム医療について学修し，自身の考えをまとめることができる。 4．病棟の特性からみた看護体制とその特徴について述べることができる。 5．事前学習を十分に行い、積極的に実習場面に参加できる。		
授業時間外学習	実習を行う施設の看護状況を事前に調べ、施設の特徴を知り必要な知識や技術を学修しておく。 また、事前学習課題として看護提供システム、看護マネジメント、チーム医療・チーム連携に関して学修しておく。更に看護統合実習における自身の目標を提出する。 事後学習では、自身が立てた目標の到達状況を評価する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・実習施設によって実習開始時間、終了時間が異なるので事前に確認す。
・看護統合実習は看護学最後の実習である。領域別実習と異なり看護教員が実習に毎回同行するのではなく、随時巡回し指導に当たる。実習中は必要な事前学習を十分行い、各自が責任をもってケアに当たり、担当看護師に連絡・報告・相談し積極的に実習を行う。

授業スケジュール

【事前学習】
・実習での自己の課題を明確にし自己目標を立てる
・看護管理に必要な看護チーム，看護マネジメントについて調べる。
【実習】
1 日目：学内オリエンテーション
2 日目：病棟オリエンテーション、看護師システムの確認
3 日目：チームのメンバーとして日々の看護実践を観察し実施する
4～5 日目：複数患者を受け持ち看護を実践する
6～7 日目：病棟管理の見学と理解
8～9 日目：専門看護師、認定看護師、他職種の役割の理解
10 日目：合同カンファレンス
【事後学習】
・学びを共有する

・自己の看護観を深める

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90083004
科目名	看護統合実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Practice: Integration		
担当者名	中野　雅子	旧科目名称	
授業概要	各看護専門領域の臨地実習での学びを活かし、将来看護専門職者として医療現場で必要とされる看護実践能力と自己教育力を育むための総合的学習の場とする。学生自身が自己の学修課題を明確にしたうえで実習領域を選択し、学習課題を解決できるよう主体的に学修する態度を養う。看護実践能力の向上と自身の看護観を深めるために、ケアチームに参加し複数の対象者へのケアに携わるとともに、組織の中でより良いケアが行われるためのシステムについて理解を深める。		
教材（教科書）	各領域の援助論等で使用した教材。		
教材（参考資料）	実習施設ごとに教員が提示する。		
教育方法	基礎、成人、老年、小児、母性、精神、在宅の各領域に分かれて実習を行う。 実習は前半グループがが 7 月 23 日～8 月 3 日、後半グループが 9 月 17 日～9 月 28 日で実施する。 実習の前半は看護チームの一員としてケアに参加する。後半は看護管理やチーム医療連携の視点から看護を体験する。		
評価方法	事前学習課題、実習に必要な知識、技術、態度・意欲、事後学修レポートによって評価する。		
到達目標	1．チームの一員として複数の患者を受け持ち、看護を実践することができる。 2．チームのリーダーとしての役割について概要を説明できる。 3．多職種連携場面やカンファレンスの参加を通してチーム医療について学修し，自身の考えをまとめることができる。 4．病棟の特性からみた看護体制とその特徴について述べることができる。 5．事前学習を十分に行い、積極的に実習場面に参加できる。		
授業時間外学習	実習を行う施設の看護状況を事前に調べ、施設の特徴を知り必要な知識や技術を学修しておく。 また、事前学習課題として看護提供システム、看護マネジメント、チーム医療・チーム連携に関して学修しておく。更に看護統合実習における自身の目標を提出する。 事後学習では、自身が立てた目標の到達状況を評価する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・実習施設によって実習開始時間、終了時間が異なるので事前に確認す。
・看護統合実習は看護学最後の実習である。領域別実習と異なり看護教員が実習に毎回同行するのではなく、随時巡回し指導に当たる。実習中は必要な事前学習を十分行い、各自が責任をもってケアに当たり、担当看護師に連絡・報告・相談し積極的に実習を行う。

授業スケジュール

【事前学習】
・実習での自己の課題を明確にし自己目標を立てる
・看護管理に必要な看護チーム，看護マネジメントについて調べる。
【実習】
1 日目：学内オリエンテーション
2 日目：病棟オリエンテーション、看護師システムの確認
3 日目：チームのメンバーとして日々の看護実践を観察し実施する
4～5 日目：複数患者を受け持ち看護を実践する
6～7 日目：病棟管理の見学と理解
8～9 日目：専門看護師、認定看護師、他職種の役割の理解
10 日目：合同カンファレンス
【事後学習】
・学びを共有する

・自己の看護観を深める

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90083005
科目名	看護統合実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Practice: Integration		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
授業概要	各看護専門領域の臨地実習での学びを活かし、将来看護専門職者として医療現場で必要とされる看護実践能力と自己教育力を育むための総合的学習の場とする。学生自身が自己の学修課題を明確にしたうえで実習領域を選択し、学習課題を解決できるよう主体的に学修する態度を養う。看護実践能力の向上と自身の看護観を深めるために、ケアチームに参加し複数の対象者へのケアに携わるとともに、組織の中でより良いケアが行われるためのシステムについて理解を深める。		
教材（教科書）	各領域の援助論等で使用した教材。		
教材（参考資料）	実習施設ごとに教員が提示する。		
教育方法	基礎、成人、老年、小児、母性、精神、在宅の各領域に分かれて実習を行う。 実習は前半グループがが 7 月 23 日～8 月 3 日、後半グループが 9 月 17 日～9 月 28 日で実施する。 実習の前半は看護チームの一員としてケアに参加する。後半は看護管理やチーム医療連携の視点から看護を体験する。		
評価方法	事前学習課題、実習に必要な知識、技術、態度・意欲、事後学修レポートによって評価する。		
到達目標	1．チームの一員として複数の患者を受け持ち、看護を実践することができる。 2．チームのリーダーとしての役割について概要を説明できる。 3．多職種連携場面やカンファレンスの参加を通してチーム医療について学修し，自身の考えをまとめることができる。 4．病棟の特性からみた看護体制とその特徴について述べることができる。 5．事前学習を十分に行い、積極的に実習場面に参加できる。		
授業時間外学習	実習を行う施設の看護状況を事前に調べ、施設の特徴を知り必要な知識や技術を学修しておく。 また、事前学習課題として看護提供システム、看護マネジメント、チーム医療・チーム連携に関して学修しておく。更に看護統合実習における自身の目標を提出する。 事後学習では、自身が立てた目標の到達状況を評価する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・実習施設によって実習開始時間、終了時間が異なるので事前に確認す。
・看護統合実習は看護学最後の実習である。領域別実習と異なり看護教員が実習に毎回同行するのではなく、随時巡回し指導に当たる。実習中は必要な事前学習を十分行い、各自が責任をもってケアに当たり、担当看護師に連絡・報告・相談し積極的に実習を行う。

授業スケジュール

【事前学習】
・実習での自己の課題を明確にし自己目標を立てる
・看護管理に必要な看護チーム，看護マネジメントについて調べる。
【実習】
1 日目：学内オリエンテーション
2 日目：病棟オリエンテーション、看護師システムの確認
3 日目：チームのメンバーとして日々の看護実践を観察し実施する
4～5 日目：複数患者を受け持ち看護を実践する
6～7 日目：病棟管理の見学と理解
8～9 日目：専門看護師、認定看護師、他職種の役割の理解
10 日目：合同カンファレンス
【事後学習】
・学びを共有する

・自己の看護観を深める

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90083006
科目名	看護統合実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Practice: Integration		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
授業概要	各看護専門領域の臨地実習での学びを活かし、将来看護専門職者として医療現場で必要とされる看護実践能力と自己教育力を育むための総合的学習の場とする。学生自身が自己の学修課題を明確にしたうえで実習領域を選択し、学習課題を解決できるよう主体的に学修する態度を養う。看護実践能力の向上と自身の看護観を深めるために、ケアチームに参加し複数の対象者へのケアに携わるとともに、組織の中でより良いケアが行われるためのシステムについて理解を深める。		
教材（教科書）	各領域の援助論等で使用した教材。		
教材（参考資料）	実習施設ごとに教員が提示する。		
教育方法	基礎、成人、老年、小児、母性、精神、在宅の各領域に分かれて実習を行う。 実習は前半グループがが 7 月 23 日～8 月 3 日、後半グループが 9 月 17 日～9 月 28 日で実施する。 実習の前半は看護チームの一員としてケアに参加する。後半は看護管理やチーム医療連携の視点から看護を体験する。		
評価方法	事前学習課題、実習に必要な知識、技術、態度・意欲、事後学修レポートによって評価する。		
到達目標	1．チームの一員として複数の患者を受け持ち、看護を実践することができる。 2．チームのリーダーとしての役割について概要を説明できる。 3．多職種連携場面やカンファレンスの参加を通してチーム医療について学修し，自身の考えをまとめることができる。 4．病棟の特性からみた看護体制とその特徴について述べることができる。 5．事前学習を十分に行い、積極的に実習場面に参加できる。		
授業時間外学習	実習を行う施設の看護状況を事前に調べ、施設の特徴を知り必要な知識や技術を学修しておく。 また、事前学習課題として看護提供システム、看護マネジメント、チーム医療・チーム連携に関して学修しておく。更に看護統合実習における自身の目標を提出する。 事後学習では、自身が立てた目標の到達状況を評価する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・実習施設によって実習開始時間、終了時間が異なるので事前に確認す。
・看護統合実習は看護学最後の実習である。領域別実習と異なり看護教員が実習に毎回同行するのではなく、随時巡回し指導に当たる。実習中は必要な事前学習を十分行い、各自が責任をもってケアに当たり、担当看護師に連絡・報告・相談し積極的に実習を行う。

授業スケジュール

【事前学習】
・実習での自己の課題を明確にし自己目標を立てる
・看護管理に必要な看護チーム，看護マネジメントについて調べる。
【実習】
1 日目：学内オリエンテーション
2 日目：病棟オリエンテーション、看護師システムの確認
3 日目：チームのメンバーとして日々の看護実践を観察し実施する
4～5 日目：複数患者を受け持ち看護を実践する
6～7 日目：病棟管理の見学と理解
8～9 日目：専門看護師、認定看護師、他職種の役割の理解
10 日目：合同カンファレンス
【事後学習】
・学びを共有する

・自己の看護観を深める

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90083007
科目名	看護統合実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Clinical Practice: Integration		
担当者名	渡部　洋子	旧科目名称	
授業概要	各看護専門領域の臨地実習での学びを活かし、将来看護専門職者として医療現場で必要とされる看護実践能力と自己教育力を育むための総合的学習の場とする。学生自身が自己の学修課題を明確にしたうえで実習領域を選択し、学習課題を解決できるよう主体的に学修する態度を養う。看護実践能力の向上と自身の看護観を深めるために、ケアチームに参加し複数の対象者へのケアに携わるとともに、組織の中でより良いケアが行われるためのシステムについて理解を深める。		
教材（教科書）	各領域の援助論等で使用した教材。		
教材（参考資料）	実習施設ごとに教員が提示する。		
教育方法	基礎、成人、老年、小児、母性、精神、在宅の各領域に分かれて実習を行う。 実習は前半グループがが 7 月 23 日～8 月 3 日、後半グループが 9 月 17 日～9 月 28 日で実施する。 実習の前半は看護チームの一員としてケアに参加する。後半は看護管理やチーム医療連携の視点から看護を体験する。		
評価方法	事前学習課題、実習に必要な知識、技術、態度・意欲、事後学修レポートによって評価する。		
到達目標	1．チームの一員として複数の患者を受け持ち、看護を実践することができる。 2．チームのリーダーとしての役割について概要を説明できる。 3．多職種連携場面やカンファレンスの参加を通してチーム医療について学修し，自身の考えをまとめることができる。 4．病棟の特性からみた看護体制とその特徴について述べることができる。 5．事前学習を十分に行い、積極的に実習場面に参加できる。		
授業時間外学習	実習を行う施設の看護状況を事前に調べ、施設の特徴を知り必要な知識や技術を学修しておく。 また、事前学習課題として看護提供システム、看護マネジメント、チーム医療・チーム連携に関して学修しておく。更に看護統合実習における自身の目標を提出する。 事後学習では、自身が立てた目標の到達状況を評価する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・実習施設によって実習開始時間、終了時間が異なるので事前に確認す。
・看護統合実習は看護学最後の実習である。領域別実習と異なり看護教員が実習に毎回同行するのではなく、随時巡回し指導に当たる。実習中は必要な事前学習を十分行い、各自が責任をもってケアに当たり、担当看護師に連絡・報告・相談し積極的に実習を行う。

授業スケジュール

【事前学習】
・実習での自己の課題を明確にし自己目標を立てる
・看護管理に必要な看護チーム，看護マネジメントについて調べる。
【実習】
1 日目：学内オリエンテーション
2 日目：病棟オリエンテーション、看護師システムの確認
3 日目：チームのメンバーとして日々の看護実践を観察し実施する
4～5 日目：複数患者を受け持ち看護を実践する
6～7 日目：病棟管理の見学と理解
8～9 日目：専門看護師、認定看護師、他職種の役割の理解
10 日目：合同カンファレンス
【事後学習】
・学びを共有する

・自己の看護観を深める

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90084001
科目名	在宅看護概論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Visiting Nursing		
担当者名	渡部　洋子	旧科目名称	
授業概要	高齢化社会等の社会的背景を踏まえて、在宅看護が必要とされている現状と、在宅看護の目的を理解する。また、在宅看護が提供される場と、対象の年齢・疾患・療養状態などの特性を理解し、在宅療養者とその家族の生活を支える看護師の役割や訪問看護ステーションの機能について学修する。さらに在宅看護の仕組みについてケアマネジメントの概念や昨日をはじめ訪問看護制度、地域包括ケアシステム等の介護保険制度を中心に学修する。		
教材（教科書）	「在宅看護論」(医歯薬出版)木下由美子		
教材（参考資料）	「国民衛生の動向」(厚生統計協会) 平成２９年度「看護白書」看護協会出版会		
教育方法	1.事前学習をふまえた授業の展開：オリエンテーションで提示する事前課題について、自己学習を行っていることを前提に授業をすすめる。重要なポイントを確認しながら理解を深めること。 2.基本的に講義形式で授業を進める。		
評価方法	定期試験（70%）、課題レポート（30%）		
到達目標	1.在宅看護の目的と概念を理解する。 2.在宅看護に対する社会のニーズを理解する。 3.地域で療養する人の持つ多様な特性を理解する。 4.在宅看護を支える法制度とケアマネジメントを理解する。 5.地域療養する人を支える社会資源と多職種連携の必要性を理解する。 6.在宅看護の課題と展望を考察する。		
授業時間外学習	授業計画第１回～第３回＜事前Ｉ学習＞在宅看護を取り巻く背景と看護の変遷について資料を収集する。 ＜事後学習＞各自テーマを決めて文献検索を行った結果を整理する。 第４回～第９回＜事前学習＞在宅看護にかかわる法制度、ケアマネジメントに関する資料を収集する。 ＜課題レポート＞在宅介護を支える法制度とケアマネジメント＞を作成し提出する。 第10回～15回＜事前学習＞在宅看護の課題と展望に関する資料を収集する。 ＜事後学習＞「在宅看護の課題と展望」に関する考察をする。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・社会的ニーズの提起、関連する諸制度の改正があるので主体的に調べること。
・授業進度に合わせて参考書を紹介するので予習することを薦める。

授業スケジュール

1.現代社会と在宅看護論
2.在宅看護の目的と概念
3.在宅看護の対象者
4.在宅看護における家族の機能・役割・形態について
5.在宅看護に関連する保健医療福祉施策①
6.在宅看護に関連する保健医療福祉施策②
7.在宅で療養する人を支える社会資源
8.ケアマネジメントの概略
9.ケアマネジメントの実際
10.在宅で療養する人を支える多職種との連携、療養者の環境・生活について
11.訪問看護ステーションの成り立ち
12.訪問看護ステーションの事業運営
13.在宅看護に関連する法的・倫理的問題
14.日本の在宅看護の歴史、諸外国における在宅看護の現状
15.在宅看護の課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90085001
科目名	在宅看護援助論	単位数	1
科目名（英語表記）	Visiting Nursing: Theory		
担当者名	渡部　洋子	旧科目名称	
授業概要	本講義では、新生児から高齢者までを対象に、自宅などで療養生活を送る対象や家族に対して、生活の質を高めるために必要な看護について学修する。具体的には、在宅看護対象者の特徴を理解し、事例を基に対象の身体的、精神心理的、社会的側面や療養環境についてアセスメントし、在宅における健康問題について学ぶ。また、在宅看護の制度や保健・医療・福祉システム等も活用し、在宅療養者と家族の生活基盤を整える援助について学修する。		
教材（教科書）	「在宅看護論」（医歯薬出版）木下由美子		
教材（参考資料）	「家族看護学」（日本看護協会出版会）鈴木和子，渡辺裕子 「ＮＡＮＤＡ－Ｉ看護診断」（医学書院）		
教育方法	1.事前学習をふまえた授業の展開：授業進度の中で提示する課題について、自己学習を行っていることを前提に授業をすすめる。重要なポイントを確認しながら理解を深めること。 2 在宅療養者を支える看護技術、看護過程展開を講義と演習を通して学ぶ。		
評価方法	定期試験（70%）、課題レポート（30%）		
到達目標	1. 在宅療養をおこなっている対象とその家族の特徴を理解する 2.家族を理解するための諸理論の基礎を理解する 3.家族看護過程を理解する 4.在宅療養者にみられる主な症状・状態の特徴とケアについて理解する 5.在宅看護過程展開の特徴を理解する		
授業時間外学習	授業計画第 1 回～第 3 回＜事前学習＞看護過程のプロセスについて予習しておく。 ＜事後学習＞在宅看護で使用するアセスメントについて整理する。 第 4 回～第 7 回＜事前学習＞家族アセスメントの内容について予習しておく。 ＜事後学習＞家族アセスメント展開事例をまとめる。 第 8 回～15 回＜事前学習＞医療処置のある事例のアセスメントについて予習しておく。 ＜事後学習＞医療・処置のある事例をもとに看護過程の展開をする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業の進度にあわせてテキストや紹介する参考書の内容について予習することを薦める。			
授業スケジュール			
1.在宅看護における看護過程の特徴① 2.在宅看護における看護過程の特徴② 3.在宅看護における看護過程の特徴③ 4.家族を対象とした看護過程の全体像と特徴、家族アセスメント 5.在宅看護における看護過程の展開① 6.在宅看護における看護過程の展開② 7.在宅看護における看護過程の展開③ 8.在宅療養者の対象別看護①脳血管障害 9.在宅療養者の対象別看護②難病 10.在宅療養者の対象別看護③終末期 11.在宅療養者の対象別看護④認知症 12.事例による看護過程展開① 13.事例による看護過程展開② 14.在宅ケアの評価 15.在宅看護における記録			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90086001
科目名	在宅看護援助論演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Visiting Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	渡部　洋子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、在宅療養者・家族に対して行う看護の基本的な技術について学び、在宅看護実践活動の基盤を学習する。療養者・家族とのコミュニケーションや、基本的なマナーをはじめ、在宅での日常生活援助の方法や医療処置を受けながら療養する人々に対する看護の方法について教授する。具体的には福祉用具の取り扱い、医療処置・管理、食事介助など家族に対して指導を行うために必要な、基本的知識、技術を修得する。さらに訪問面接技術や対象の症状に応じた看護支援について学修する。		
教材（教科書）	「在宅看護論」（医歯薬出版）木下由美子		
教材（参考資料）	「根拠がわかる在宅看護技術」（メヂカルフレンド）岡崎美智子、庄野逸子		
教育方法	講義・演習・グループワークを通して、在宅看護活動について理解を深める。		
評価方法	定期試験（40%）、実技試験（30%）、課題レポート（30%）で評価する。		
到達目標	1.家庭訪問時の面接技術について理解する。 2.在宅で実施される看護技術について理解する。 3.在宅における医療処置・管理について理解する。 4.療養者の安全と安楽に配慮した日常生活援助や看護技術の家族指導について理解する。		
授業時間外学習	授業計画第 1 回～第 5 回＜事前学習＞看護ケアに必要なコミュニケーションツールについて資料を収集する。 ＜事後学習＞指導技術についてグループ毎に事例検討を行った結果を整理する。 第 6 回～第 13 回＜事前学習＞在宅看護にかかわる社会資源について資料を収集する。 ＜事後学習＞在宅介護を支える法制度と社会資源について事例検討し考察する。 第 14 回～24 回＜事前学習＞在宅で行う医療･処置管理にどのように実施されているのか資料を収集する。 ＜事後学習＞事例検討をもとに医療処置・管理に対する指導計画書を作成する。 第 25 回～30 回＜事前学習＞訪問面接に必要なマナーと看護活動のプロセスについて整理する。 ＜事後学習＞初回訪問面接演習を振り返り、自身のコミュニケーションの傾向と指導･技術に必要な知識･技術について考察する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・在宅の住宅事情，在宅看護を支える社会資源について主体的に調べること。
・授業の進度にあわせてテキストや紹介する参考書の内容を予習することを薦める。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加する。

授業スケジュール

1.家庭訪問時の面接技術
2.在宅看護に必要な指導技術：リーダーシップ理論
3.在宅看護に必要な指導技術：リーダーシップ理論と実際
4.在宅看護に必要な指導技術（演習）
5.在宅看護に必要な指導技術（演習）
6.在宅における日常生活援助の特徴
7.在宅における日常生活援助①住まいと環境、移動、リハビリテーション
8.在宅における日常生活援助②食事、排泄、清潔、衣服
9.在宅における日常生活援助（演習①）食事、排泄援助
10.在宅における日常生活援助（演習②）移動

11.在宅における日常生活援助（演習③）清潔
12.在宅における日常生活援助（演習④）事例展開①
13.在宅における日常生活援助（演習⑤）事例展開②
14.医療処置管理のある療養者への支援・教育
15.在宅における医療処置・管理①褥創管理とスキンケア
16.在宅における医療処置・管理：体圧測定と褥創予防（演習）
17.在宅における医療処置・管理：褥創管理とスキンケア（演習）
18.在宅における医療処置・管理②在宅経管栄養法、中心静脈栄養法
19.在宅における医療処置・管理③膀胱留置カテーテル、服薬管理
20.在宅における医療処置・管理④在宅酸素療法、人工呼吸器療法、吸引
21.在宅における医療処置・管理：経管栄養法（演習）
22.在宅における継続看護と診療報酬
23.在宅での終末期ケア（グリーフケア含む）、緊急時対応
24.在宅における医療処置・管理の課題
25.訪問面接：演習①
26.訪問面接：演習②
27.訪問面接：演習③
28.訪問面接：演習④
29.訪問面接：演習まとめ
30.在宅療養を支える援助の課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	J90086002
科目名	在宅看護援助論演習	単位数	2
科目名（英語表記）	Visiting Nursing: Skills Laboratory		
担当者名	渡部　洋子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、在宅療養者・家族に対して行う看護の基本的な技術について学び、在宅看護実践活動の基盤を学習する。療養者・家族とのコミュニケーションや、基本的なマナーをはじめ、在宅での日常生活援助の方法や医療処置を受けながら療養する人々に対する看護の方法について教授する。具体的には福祉用具の取り扱い、医療処置・管理、食事介助など家族に対して指導を行うために必要な、基本的知識、技術を修得する。さらに訪問面接技術や対象の症状に応じた看護支援について学修する。		
教材（教科書）	「在宅看護論」（医歯薬出版）木下由美子		
教材（参考資料）	「根拠がわかる在宅看護技術」（メヂカルフレンド）岡崎美智子、庄野逸子		
教育方法	講義・演習・グループワークを通して、在宅看護活動について理解を深める。		
評価方法	定期試験（40%）、実技試験（30%）、課題レポート（30%）で評価する。		
到達目標	1.家庭訪問時の面接技術について理解する。 2.在宅で実施される看護技術について理解する。 3.在宅における医療処置・管理について理解する。 4.療養者の安全と安楽に配慮した日常生活援助や看護技術の家族指導について理解する。		
授業時間外学習	授業計画第 1 回～第 5 回＜事前学習＞看護ケアに必要なコミュニケーションツールについて資料を収集する。 ＜事後学習＞指導技術についてグループ毎に事例検討を行った結果を整理する。 第 6 回～第 13 回＜事前学習＞在宅看護にかかわる社会資源について資料を収集する。 ＜事後学習＞在宅介護を支える法制度と社会資源について事例検討し考察する。 第 14 回～24 回＜事前学習＞在宅で行う医療･処置管理にどのように実施されているのか資料を収集する。 ＜事後学習＞事例検討をもとに医療処置・管理に対する指導計画書を作成する。 第 25 回～30 回＜事前学習＞訪問面接に必要なマナーと看護活動のプロセスについて整理する。 ＜事後学習＞初回訪問面接演習を振り返り、自身のコミュニケーションの傾向と指導･技術に必要な知識･技術について考察する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・在宅の住宅事情，在宅看護を支える社会資源について主体的に調べること。
・授業の進度にあわせてテキストや紹介する参考書の内容を予習することを薦める。
・グループワークでは主体的なリーダーシップやメンバーシップが求められる。有効なグループダイナミックスを発揮し、学習を進めることができるよう自己の役割を考えながら参加する。

授業スケジュール

1.家庭訪問時の面接技術
2.在宅看護に必要な指導技術：リーダーシップ理論
3.在宅看護に必要な指導技術：リーダーシップ理論と実際
4.在宅看護に必要な指導技術（演習）
5.在宅看護に必要な指導技術（演習）
6.在宅における日常生活援助の特徴
7.在宅における日常生活援助①住まいと環境、移動、リハビリテーション
8.在宅における日常生活援助②食事、排泄、清潔、衣服
9.在宅における日常生活援助（演習①）食事、排泄援助
10.在宅における日常生活援助（演習②）移動

11.在宅における日常生活援助（演習③）清潔
12.在宅における日常生活援助（演習④）事例展開①
13.在宅における日常生活援助（演習⑤）事例展開②
14.医療処置管理のある療養者への支援・教育
15.在宅における医療処置・管理①褥創管理とスキンケア
16.在宅における医療処置・管理：体圧測定と褥創予防（演習）
17.在宅における医療処置・管理：褥創管理とスキンケア（演習）
18.在宅における医療処置・管理②在宅経管栄養法、中心静脈栄養法
19.在宅における医療処置・管理③膀胱留置カテーテル、服薬管理
20.在宅における医療処置・管理④在宅酸素療法、人工呼吸器療法、吸引
21.在宅における医療処置・管理：経管栄養法（演習）
22.在宅における継続看護と診療報酬
23.在宅での終末期ケア（グリーフケア含む）、緊急時対応
24.在宅における医療処置・管理の課題
25.訪問面接：演習①
26.訪問面接：演習②
27.訪問面接：演習③
28.訪問面接：演習④
29.訪問面接：演習まとめ
30.在宅療養を支える援助の課題と展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	J90087001
科目名	在宅看護学実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Visiting Nursing: Clinical Practice		
担当者名	渡部　洋子	旧科目名称	
授業概要	在宅看護を必要とする場と対象の特性、在宅療養者とその家族の生活を支える看護師の役割について、訪問看護師と行動を共にし、様々な体験を通して学習する。現代の社会および保険・医療・福祉の背景の知識を踏まえて、訪問看護ステーションの機能について理解を深める。さらに在宅看護師と療養者や家族との関係性や役割について学修すると共に、訪問看護の体験を通して、在宅療養者や家族の生活について現状を知り、在宅療養の課題について考察する。		
教材（教科書）	適宜、掲示する。		
教材（参考資料）	国民衛生の動向・厚生の指標　2016/2017		
教育方法	臨地の実習施設は、訪問看護ステーションである。訪問看護ステーションでは、訪問看護師との同行、受け持ち療養者への看護過程の展開を行う。		
評価方法	出席状況、実習目的・目標、実習内容に対する達成状況、実習記録、最終レポートにより総合的に評価する。		
到達目標	1.訪問看護活動を通して，在宅療養者及び要介護高齢者とその家族への理解を深めるとともに生活の場に応じた看護技術を提供することができる. 2.施設の目的・機能が理解でき，関係機関との連携や協働の意味を考察できる. 3.対象者に必要な社会資源およびケアマネジメントの必要性が理解できる.		
授業時間外学習	事前学習：実習目標の作成および自己学習課題があるので、在宅看護学の講義を復習しておく。詳細は 4 月中旬に行われるオリエンテーションで説明する。 臨地実習：実習先において、訪問看護師と同行訪問と受け持ち療養者の看護過程展開、地域の社会資源と在宅ケアチームの一員としての看護活動について学びを深める。 実習終了後にカンファレンスや学内報告会にて、実習中における学びの共有をはかる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1. 実習オリエンテーションを欠席した場合、実習前の課題が期限内に提出されない場合、原則として実習をすることはできないので留意すること。 2. 教員は巡回指導となるので、各施設の指導者の指導を受けながら進めること。 3. 緊急に連絡をとる必要が生じることがあるため、連絡先について担当教員に最新の連絡先を届けておくこと。4 月実習オリエンテーションで確認する。			
授業スケジュール			
実習は、4 年次の 5 月～7 月までの期間に行う。 オリエンテーションは別途行う。 詳細は、実習要項・オリエンテーション等にて通知する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	★	－

年度	2018	授業コード	J90088001
科目名	学校保健	単位数	2
科目名（英語表記）	School Health		
担当者名	平松　恵子	旧科目名称	
授業概要	学校保健の目的、機能及び内容を知り、学校現場における保健管理、保健教育、組織運営や児童・生徒の身体と心の健康問題を取り上げ、学校保健の重要性について理解するとともに、基礎的な知識を身につける。 障がい児も含めたすべての児童・生徒にとって健康のあり方とはどのようなものか、それを実現するために学校はどのようなことを行わなければならないかを検討し、養護教諭の役割を理解する。さらに、児童・生徒の健康の保持増進のために、あるべき学校保健とは何かを考える。		
教材（教科書）	教科書として使用する 門田新一郎・大津一義　著　「最新　学校保健」　大学教育出版 代金　2400 円+税		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	月刊切抜き速報「健康りてらしい」を活用する。 他にも適宜プリントを配布する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（３０％） 授業中に課すレポート（７０％）		
到達目標	児童・生徒が健康で安全な生活を通して、自己実現を図っていくための学校保健活動について理解することを目標とする。		
授業時間外学習	講義終了時に次の範囲（教科書のページ）を指定するので予習しておくこと。同じく講義終了時にレポートを指定するので、次回の講義開始時に提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション　学校保健の概要と学校保健行政 ２．学校保健の構造とヘルスプロモーティングスクールの推進 ３．児童・生徒の発育発達と健康状態 ４．保健教育の教育課程における位置・特性と保健学習 ５．保健指導と性・エイズ教育 ６．学校における保健管理の意義と健康状態の評価 ７．健康障害の管理 ８．健康増進のための保健活動 ９．学校環境衛生 10．学校安全管理 11．学校保健活動の展開と学校保健計画 12．学校保健関係職員の職務内容 13．保健室の機能と運営 14．学校保健と地域保健との関係 15．学校保健実習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J90089001
科目名	産業保健	単位数	1
科目名（英語表記）	Occupational Health Nursing		
担当者名	垰田　和史	旧科目名称	
授業概要	業務に起因する健康障害の予防、健康と労働の調和を図り、健康および労働能力の保持増進を図るための産業保健活動について理解する。産業保健の歴史と関連法規を学び、労働者の健康をめぐる課題を検討し、労働衛生管理体制や職業性疾病に対する理解を深め、個人および集団に向け、職業性疾病の予防に向けた対応と指導、労働安全衛生マネジメントシステムや企業へのアプローチについて学修する。また、疾病を持ちながら就労する労働者への支援についても考察する。		
教材（教科書）	『最新公衆衛生看護学　第２版　各論２』　（日本看護協会出版会）　宮﨑美砂子、北山三津子、春山早苗、田村須賀子　3,600 円		
教材（参考資料）	『新版　保健師業務要覧　第３版』　（日本看護協会出版会）　井伊久美子、荒木田美香子　4,200 円		
教育方法	パワーポイント等を活用し、適宜プリントを配布する。		
評価方法	レポート（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１．産業保健の目的を理解し、産業保健に必要な概念や産業保健の重要性について理解する。 ２．産業保健における医療従事者の役割および職務について理解する。 ３．産業保健の推進体制と推進活動に係る基本的な知識を習得する。 ４．産業保健の動向と現状を理解し、産業構造から労働者の健康課題について検討する。 ５．疾病や障害を持ちながら就労する労働者への支援について考察する。		
授業時間外学習	働く人々に多い病気や疾患については、１年生後期科目「成長発達Ⅱ（成人の健康と看護）」でも触れている。労働災害につながる職業病などは日常的にニュース報道でも見る機会が多いので、事前に調べておくように。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
社会を取り巻く情勢についても各自で見識を深め、授業への積極的な参加を望む。また、必ず自分の考えを持って授業参加をすること。そこには、保健師としてだけでなく、看護師としてもいかに臨むかという視点の両方を持つように。			
授業スケジュール			
１．産業保健の理念と背景（歴史・概念・関連法規）　（垰田）：11/28(水)④ ２．労働衛生の実態（産業構造・健康をめぐる現状）　（垰田）：11/28(水)⑤ ３．労働の場における健康阻害の要因と健康障害①　（垰田）：12/5(水)④ ４．労働の場における健康阻害の要因と健康障害②　（垰田）：12/5(水)⑤ ５．産業保健における医療従事者の役割①（労働管理体制）　（垰田）：12/12(水)④ ６．産業保健における医療従事者の役割②（作業管理・健康管理・作業環境管理と総括管理、労働衛生教育）　（垰田）：12/12(水)⑤ ７．障害を負いながら就労する労働者への支援　（垰田）：12/19(水)④ ８．がんを患いながら就労する労働者への支援　（古倉）：1/9(水)④			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90090001
科目名	公衆衛生看護管理論	単位数	1
科目名（英語表記）	Management of Public Health Nursing		
担当者名	滝澤　寛子	旧科目名称	
授業概要	地域で生活する個人、集団や地域の特性を踏まえ、保健所や市町村における公衆衛生看護活動について学修し、保健師の役割を理解する。具体的には、保健医療行政の仕組みや行政における公衆衛生看護管理の目的と機能、情報管理、人事管理、保健事業の予算管理、組織運営、災害や感染などの危機的状況における保健師の役割について学修する。また、保健師教育制度の変遷と教育課程について学び、保健師の継続教育や専門性について理解を深める。		
教材（教科書）	『最新公衆衛生看護学　総論』　（日本看護協会出版会）　宮崎美砂子他編 『最新公衆衛生看護学　第２版　各論２』　（日本看護協会出版会）　宮崎美砂子他編 ※主に授業時間外学習で使用する。		
教材（参考資料）	『最新保健学講座５　地域看護管理論』　（メジカルフレンド社）　平野かよ子　編集 『保健師業務要覧　第３版』（日本看護協会出版会）		
教育方法	パワーポイント等、独自に作成したものを使用して講義を行う。 講義は、一方的に知識を提供するだけでなく、模擬事例等を活用し、「自分はどのように考えるか」を考えてもらい、仲間と共有したり、実際にやってみることを取り入れ、学修を深めていく。 単元ごとに、学修内容の確認および復習の目的で小テストを行う。		
評価方法	定期試験（１００％）		
到達目標	１）　行政看護領域における看護管理活動について、保健師の実践活動の過程と管理機能を理解する。 ２）　保健師の専門性として管理的な活動があることを理解する。 ３）　行政看護領域において求められる能力と管理機能について理解する。 ４）　保健医療行政における看護職者のとるべきリーダーシップ、メンバーシップについて考察する。		
授業時間外学習	１．既修の「公衆衛生学」、「社会保障論」、「公衆衛生看護学概論」、「看護学概論」を振り返り、内容を整理しておくこと。また、第７回、第８回で学ぶ具体例において、看護職者のとるべきリーダーシップおよびメンバーシップについて自身の意見をまとめられるよう、準備しておく。 ２．学習目標を達成する上で欠かせない学習課題をオリエンテーションで提示する。所定の日時までに完成させて提出すること。 ３．各回の授業内容に該当する教科書のページに目を通して予習しておくこと。範囲についてはオリエンテーション時に説明する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．これまで学んできた、対象にケアを提供するための理論やスキルとは異なり、公衆衛生看護を遂行するためのシステムを学ぶ科目である。広い視野で全体像を把握すること。
２．学習課題は計画的に取り組むこと。

授業スケジュール

１．公衆衛生看護管理の目的と機能
２．保健所および行政で行われる公衆衛生看護活動（１）
３．保健所および行政で行われる公衆衛生看護活動（２）
４．現任保健師教育の目的と方法
５．行政保健師に求められる能力と管理機能（１）
６．行政保健師に求められる能力と管理機能（２）
７．行政保健師に求められる能力と管理機能：具体例１　障害児支援体制
８．行政保健師に求められる能力と管理機能：具体例２　児童虐待支援体制

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90091001
科目名	公衆衛生看護活動論	単位数	2
科目名（英語表記）	Care Service of Public Health Nursing		
担当者名	河田　志帆	旧科目名称	
授業概要	地域看護活動の中でも特徴的な集団や地域社会を対象とした看護活動を行うための基礎的能力として、地域住民の心身の健康の保持増進を目的とした看護活動について学修する。発達段階、健康段階に応じた個人、家族、集団、組織の健康状態の把握のため、母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動、精神保健活動、難病・障がい者（児）保健活動、感染症の保健活動等の看護活動について理解する。また、地域の健康活動に必要な職種間連携や健康支援に必要な制度や社会資源についても学修する。さらに保健活動に必要な技術として、家庭訪問・健康相談・健康教育・住民グループ支援等の展開方法について演習する。		
教材（教科書）	『最新公衆衛生看護学　第２版　各論１』　（日本看護協会出版会）　宮﨑美砂子他編 『最新公衆衛生看護学　第２版　各論２』　（日本看護協会出版会）　宮﨑美砂子他編 『保健師業務要覧　第３版』　（日本看護協会出版会）		
教材（参考資料）	『最新保健学講座５　地域看護管理論』　（メジカルフレンド社）　平野かよ子編集 『最新保健学講座３　公衆衛生看護活動論①』　（メジカルフレンド社）　金川克子編集 『最新保健学講座４　公衆衛生看護活動論②』　（メジカルフレンド社）　金川克子編集 『最新保健学講座２　公衆衛生看護支援技術』　（メジカルフレンド社）　村嶋幸代編集 『国民衛生の動向』　（厚生統計協会） 『ＱＢ保健師　国家試験問題解説』（MEDIC MEDIA） 『ＲＢ保健師　国家試験のためのレビューブック』（MEDIC MEDIA）		
教育方法	・授業内で配布する資料およびパワーポイント等を使用して講義を行う ・各単元で、予習及び復習を目的とした小テストを行う ・講義は、一方的に知識を提供するだけでなく提供した模擬事例についてグループワーク等を取り入れ学修を深めていく		
評価方法	課題レポート（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	1. 発達段階、健康段階の特性に応じた保健活動とその動向・施策、制度が理解できる 2. 各対象が持つ健康課題の特性を理解し、支援技術の展開方法が理解できる 3. 教育指導技術の具体的な展開を実践し、評価できる		
授業時間外学習	1. １年生後期に学んだ「公衆衛生看護学概論」の内容について、十分復習して授業に臨むこと 2. 既習の専門科目について十分復習して授業に臨むこと 3. 教育指導の具体的な展開を行うので、指導技術について学修しておくこと 4. オリエンテーション時に提示する授業予定を参考に、教科書等の該当範囲に目を通すこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 地域看護活動の対象は、あらゆる健康段階、発達段階で、私たちと同じ生活の場で暮らす人々である。普段から時事問題やニュース等にも関心を持ち、人々の生活への理解を深めるようにすること。
2. 予習復習をして臨むこと
3. 個人課題は、計画的に取り組むこと
4. グループ課題は、グループメンバーと協力し合い計画的に取り組むこと

授業スケジュール

1. ガイダンス、母子保健活動①：母子保健の理念、母子保健福祉施策の動向、健全母性育成支援
2. 母子保健活動②：乳幼児の発育・発達・子育て支援
3. 母子保健活動③：子育てのリスクを持つ親子への支援
4. 成人保健活動①：成人保健の理念、成人保健施策の動向と健康課題の特徴
5. 成人保健活動②：健康づくり・生活習慣病予防活動
6. 高齢者保健活動①：高齢者保健の理念、高齢者保健施策の動向と課題
7. 高齢者保健活動②：介護予防活動
8. 精神保健活動①：精神保健の理念、精神保健福祉施策の動向と課題

9. 精神保健活動②：精神障害をもつ人の支援活動・心の健康づくり
10. 難病保健活動①：難病保健の理念、難病対策の動向と課題・難病患者および家族支援
11. 障害者（児）保健活動①：障害者（児）保健の理念、保健福祉施策の動向と課題・障害児支援
12. 感染症保健活動①：感染症保健の理念、感染症対策の動向と課題
13. 感染症保健活動②：感染症対策（主に結核）における保健活動
14. 家庭訪問、健康教育の実際①
15. 家庭訪問、健康教育の演習②、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J90092001
科目名	公衆衛生看護活動展開論	単位数	2
科目名（英語表記）	Implementation in Public Health Nursing		
担当者名	滝澤　寛子	旧科目名称	
授業概要	地域看護活動を展開するために必要な方法論について学ぶ。特定の地域・集団に対する健康維持を図るために、地域に顕在化・潜在化している健康課題について、地域診断プロセスに則って地域の生活環境や生活実態、健康状態に関する情報を収集・分析し、地域住民の健康問題を明らかにする。さらに健康問題の改善に向けて必要な計画・実践・評価について理解する。地区診断のための情報収集、地区踏査、情報の整理、アセスメント、健康課題の明確化、活動計画の策定について演習を行う。		
教材（教科書）	『最新保健学講座５　公衆衛生看護管理論』（メジカルフレンド）　平野かよ子編集 『地域看護学アセスメントガイド　アセスメント　計画　評価のすすめかた』（医歯薬出版）　佐伯和子編集 ※主に授業時間外学習で使用する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。 講義ではパワーポイントおよび適宜資料を配布する。 いままでの学修内容の確認および復習の目的で小テストを行う。		
評価方法	演習での課題提出（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	1）地域看護診断の方法や理論、必要性が理解できる 2）地域診断に必要な情報の収集、分析について理解できる 3）地域特性と地域のニーズが理解できる 4）地域診断から住民の健康問題を検討できる 5）地域看護計画の立案・評価について理解できる		
授業時間外学習	１．１年生後期で学んだ「公衆衛生看護学概論」と２年生後期「公衆衛生看護活動論」「公衆衛生看護管理論」の内容について、十分復習して授業に臨むこと。 ２．本科目での学修をすすめながら、自己学習ノートを進化させていくこと。 ３．各授業の終了時には、グループメンバーとグループ課題の進捗状況と次回の進め方を確認しあい、次回までに必要な準備・取り組みを行っておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．講義及びグループワークによる演習により授業を展開するため、積極的な態度で臨むこと。
２．グループメンバーとは、密に連絡・相談をしあい、グループ課題のすすめ方等について共通理解を図ること。
３．グループワークの目的と各メンバーの役割を共通理解し、各自が役割を果たすとともに、メンバー間で助け合って目標を達成するプロセスを大切にすること。
４．グループメンバーと協力し合い、個人およびグループ課題が遂行できるように時間を管理すること。
５．受講条件：2016 年入学生であり２年次までに履修すべき保健師国家試験受験資格に必要な科目の単位をすべて修得していること。

授業スケジュール

1 -　2.　地域看護診断とは
3 -　4.　地域看護診断のモデル
5 -　6.　情報収集と分析の方法
7 -　8.　地区視診（地区踏査）
9 -10.　情報収集と分析①　（地域の基本構造：人々の特性　人口統計学的データ）
11-12.　情報収集と分析②　（地域の基本構造：人々の特性　労働および文化と人々）
13-14.　情報収集と分析③　（地域の基本構造：環境特性　物理的環境　交通と安全）
15-16.　情報収集と分析④　（地域の基本構造：環境特性　政治　経済　教育）
17-18.　報収集と分析⑤　（地域の基本構造：環境特性　コミュニケーション　レクリエーション）
19-20.　情報収集と分析⑥　（地域の基本構造：環境特性　保健医療と社会福祉）

21-22. 地域看護診断①
23-24. 地域看護診断② （健康課題の検討）
25-26. 地域看護計画①立案および評価
27-28. 地域看護過程の発表
29-30. 地域看護過程の発表およびまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90093001
科目名	保健医療福祉行政論	単位数	2
科目名（英語表記）	Law and Medical Services		
担当者名	光井　朱美	旧科目名称	
授業概要	既習の科目である社会保障論で学んだ公的扶助、社会保険、社会扶助のそれぞれの役割と方法、また所得保障、医療保障、介護保障等の具体的制度と現状などの知識を基に、保健医療福祉行政および財政のしくみ、地域の健康課題の解決に必要な保健医療福祉サービスや政策を理解する。そして地方公共団体の保健医療福祉行政施策の計画策定、実行、評価について学び、公衆衛生行政の各分野における保健師の役割や、地域での保健師の活動の実際を学習する。		
教材（教科書）	『標準保健師講座・別巻１　保健医療福祉行政論』（医学書院） 『国民衛生の動向』(厚生労働統計会) 適宜、プリントを配布する。		
教材（参考資料）	『標準看護師講座・社会保障制度と生活者の健康』 『公衆衛生看護学』（中央法規）		
教育方法	・講義法と DVD 視聴やグループワーク等を組み合わせて行う。 ・講義ではパワーポイントおよび適宜資料を配布する。		
評価方法	定期試験(80%)、レポート(20%)		
到達目標	一人ひとり異なった住民のニーズを把握し、他職種と連携・協働して健康・生活問題を解決できる能力を養う。 １）保健医療福祉行政の概要が理解できる。 ２）住民に保健医療福祉の説明ができる。 ３）関係者や関係機関との連携・協働する意義を説明できる。 ４）住民のニーズを行政施策に反映させていくという思考がもてる。		
授業時間外学習	すでに学習している公衆衛生学および社会保障論（所得保障、医療保障、介護保障)を復習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

団塊の世代が 75 歳を迎える、いわゆる「2025 年問題」に備えて、保健医療福祉制度・政策の検討がさまざまな分野で精力的に進められているため、。その動向について、日頃から関心を持ち情報の収集に努めておくこと。また、人々の健康生活を守り、より高めて行くためには、保健・医療・福祉の３つの分野が重なり合いながら密接な連携が必要であるため、既習での各分野に関する復習を行っておくこと。授業の中で適宜小テストを行うため、自らが学習の到達状況を確認し学習を進めていくこと。また、授業では受受け身の姿勢ではなく、自分の考え、思いをグループワーク等で表出し学習を深めていくこと。

授業スケジュール

1　保健医療福祉行政と保健師の役割
2　社会保障制度の概要（基本的枠組みと考え方）
3　所得保障の仕組み（年金制度、公的扶助、社会扶助）
4　医療保障の仕組み（健康保険制度、診療報酬制度、医療扶助）
5　医療制度の現状と課題（医療法、医療供給体制）
6　介護保険制度の現状と課題
7　地域における保健医療福祉の連携・協働（成年後見制度、地域包括支援センター、地域包括ケア）
8　保健医療福祉に関する国際機関と諸外国の仕組み概観
9　演習: グループワーク
10　演習: 発表
11　児童および高齢者の虐待およびドメスティック・バイオレンスに関する法律と行政の取り組み
12　保健師活動の実践例：児童相談所での業務内容や虐待防止活動、障害児のくらしと就学支援
13　保健師活動の実践例：高齢者の介護予防と介護者への支援体制
14　保健師活動の実践例：精神疾患患者の地域生活支援、在日外国人の健康を守る支援
15　保健師活動の実践例：自殺予防対策

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J90094001
科目名	産業保健・学校保健実習	単位数	2
科目名（英語表記）	Occupational and School Health Nursing: Practice		
担当者名	滝澤　寛子	旧科目名称	
授業概要	産業保健実習として、産業現場における労働衛生管理の実際について学び、産業保健活動における保健師・看護師の役割を理解する。また、産業現場における健康問題の実際を知り、健全な職業生活を支えるために必要な看護職者の職務を学ぶ。さらに学校保健実習として、養護教諭や保健室の役割・機能について理解する。児童生徒らと交流し、既習科目「学校保健」で得た知識の意味するところを再確認し、学校における健康問題と保健活動の実際を学び、児童・生徒・教職員への健康支援のあり方について考える。		
教材（教科書）	『最新公衆衛生看護学　第２版　各論２』　（日本看護協会出版会）　宮﨑美砂子他編 門田新一郎・大津一義　著　「最新　学校保健」　大学教育出版 ※主に授業時間外学習で使用する。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	学生自らが看護を学ぶものとして、実践活動の場に身を置き、目の前に起きている現象や自身の経験に、これまでに学修してきた知識・技術を適応し、産業保健・学校保健として意味づけしなおすことを通じて、公衆衛生看護専門職に求められる知識・技術・態度を統合し身につけていく実習科目である。目の前に起きている現象だけでなく、その背景や今までの経過を把握して、理解を深め意味づけしなおすことが必要である。実習メンバーや実習指導者・教員の力を活用して主体的に学習することが不可欠である。		
評価方法	４／５以上の出席を原則とし、実習内容・実習態度・実習記録・レポートをもとに評価する。 実習目標に対する到達度（70%）、実習態度（30%）		
到達目標	【産業保健実習】 １．産業現場における労働衛生管理の実際について学び、産業保健活動における看護職の役割を理解する。 ２．健全な職業生活を支えるために必要な産業看護職の役割について考察する。 【学校保健実習】 １．養護教諭や保健室の役割・機能について理解する。 ２．児童生徒らと交流し、学校における健康問題と保健活動の実際を学ぶ。 ３．児童・生徒・教職員への健康支援のあり方について考える。		
授業時間外学習	１．これまでに学修してきた全ての知識・技術が求められる。十分に復習し、自己学習ノートを進化させておく。 ２．実習目標を達成する上で欠かせない事前学習課題をオリエンテーションで提示する。所定の日時までに完成させて提出すること。 ３．実習要項を熟読し、実習で何をどのように学ぶのか、そのために何が必要かを考え、実習で不足することのないように準備をしておくこと。 ４．日々、実習した経験を振返り、実習目標に照らし合わせて意味づけをしなおすこと。さらに、理解が不足する部分については、実習スケジュールのどこで学修できそうか検討しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．受講条件：2015 年入学生であり３年次までに履修すべき保健師国家試験受験資格に必要な科目の単位をすべて修得していること。 ２．社会における基本的マナーをはじめ、看護実習生として求められる態度・行動を十分に理解し、行動すること。 ３．事前学習および事前準備を十分に行い、実習メンバーや実習指導者・教員の力を活用して主体的に学習すること。 ４．実習メンバーと協力し合い、実習や各事業の開始時間５分前には準備を終えて臨めるように時間を管理すること。			
授業スケジュール			
【産業保健実習】 1 日目（学内）：オリエンテーション、産業保健の既習内容の確認 2 日目（臨地）：施設オリエンテーション 3～4 日目（臨地）：健康相談、健康診断、健康管理室の事業等への参加 5 日目（学内）：学習内容のまとめ			

【学校保健実習】
1 日目（学内）：オリエンテーション、学校保健の既習内容の確認
2 日目（臨地）：施設オリエンテーション
3～4 日目（臨地）：養護教諭の活動への参加（健診介助、健康記録の整理、教職員の健康管理、保健だより作成等）
5 日目（学内）：学習内容のまとめ
※詳細は、実習要項等で確認すること。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90095001
科目名	公衆衛生看護活動展開実習	単位数	3
科目名（英語表記）	Public Health Nursing: Practice		
担当者名	滝澤　寛子	旧科目名称	
授業概要	地域の環境及び地域住民の生活について把握し、健康づくりに関する地域活動や、制度、資源に関して理解を深める。また保健所、市町村で展開される保健活動に参加し、地域に住む個人、家族、特定集団、コミュニティの健康レベルの向上、健康問題の予防及び解決のための保健師の役割を学ぶ。具体的には、実習該当地区の既存の資料分析及び地区踏査によって見出した健康課題に対する保健活動の計画・実施・評価の実際を学ぶ。		
教材（教科書）	『最新公衆衛生看護学　総論』　（日本看護協会出版会）　宮崎美砂子他編 『最新公衆衛生看護学　第２版　各論１』　（日本看護協会出版会）　宮﨑美砂子他編 『最新公衆衛生看護学　第２版　各論２』　（日本看護協会出版会）　宮﨑美砂子他編 『保健師業務要覧　第３版』　（日本看護協会出版会）　井伊久美子他編 『最新保健学講座５　公衆衛生看護管理論』（メジカルフレンド）　平野かよ子編 『地域看護学アセスメントガイド　アセスメント　計画　評価のすすめかた』(医歯薬出版)　佐伯和子編 『標準保健師講座　別巻１　保健医療福祉行政論』　（医学書院）　藤内修二他著 ※なお、以上は、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護活動論、公衆衛生看護活動展開論、保健医療福祉行政論　履修時に使用していた教科書であり、主に授業時間外学習で使用する。		
教材（参考資料）	『国民衛生の動向』　（厚生統計協会）　ほか、適宜紹介する。		
教育方法	学生自らが看護を学ぶものとして、実践活動の場に身を置き、目の前に起きている現象や自身の経験に、これまでに学修してきた知識・技術を適応し、公衆衛生看護として意味づけしなおすことを通じて、公衆衛生看護専門職に求められる知識・技術・態度を統合し身につけていく実習科目である。目の前に起きている現象だけでなく、その背景や今までの経過を把握して、理解を深め意味づけしなおすことが必要である。実習メンバーや実習指導者・教員の力を活用して主体的に学習することが不可欠である。		
評価方法	４／５以上の出席を原則とし、実習内容・実習態度・実習記録・レポートをもとに評価する。 実習目標に対する到達度（70%）、実習態度（30%）		
到達目標	１．地域の環境及び地域住民の生活について把握し、健康づくりに関する地域活動や、制度、資源に関して理解を深める。 ２．保健所、市町村で展開される保健活動に参加し、地域に住む個人、家族、特定集団、コミュニティの健康レベルの向上、健康問題の予防及び解決のための保健師の役割を学ぶ。		
授業時間外学習	１．これまでに学修してきた全ての知識・技術が求められる。十分に復習し、自己学習ノートを進化させておく。 ２．実習目標を達成する上で欠かせない事前学習課題をオリエンテーションで提示する。所定の日時までに完成させて提出すること。 ３．実習要項を熟読し、実習で何をどのように学ぶのか、そのために何が必要かを考え、実習で不足することのないように準備をしておくこと。 ４．日々、実習した経験を振返り、実習目標に照らし合わせて意味づけをしなおすこと。さらに、理解が不足する部分については、実習スケジュールのどこで学修できそうか検討しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．受講条件：2015 年入学生であり３年次までに履修すべき保健師国家試験受験資格に必要な科目の単位をすべて修得していること。 ２．社会における基本的マナーをはじめ、看護実習生として求められる態度・行動を十分に理解し、行動すること。 ３．事前学習および事前準備を十分に行い、実習メンバーや実習指導者・教員の力を活用して主体的に学習すること。 ４．実習メンバーと協力し合い、実習や各事業の開始時間５分前には準備を終えて臨めるように時間を管理すること。			
授業スケジュール			
1 日目（学内）：オリエンテーション、実習当該地区の資料及び情報の整理、家庭訪問計画作成 2～4 日目（臨地）：事業及び家庭訪問への参加、地区踏査			

5 日目（臨地）：地区診断内容の検討 6～7 日目（臨地）：事業及び家庭訪問への参加、地区踏査 8 日目（学内）：地区診断内容の検討 9～12 日目（臨地）：事業及び家庭訪問への参加、地区踏査 13 日目（学内）：地区診断内容の検討 14 日目（臨地）：地区診断および家庭訪問についてのカンファレンス 15 日目（学内）：学習内容のまとめ ※詳細は、実習要項等で確認すること。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90096001
科目名	臨床神経学	単位数	1
科目名（英語表記）	Clinical Neurology		
担当者名	近藤　正樹	旧科目名称	
授業概要	神経は、身体の感覚と運動、内臓の働き、感情と思考・言語といった身体のすべての機能を司っている。臨床神経学では、総論として、病歴の解釈、神経学的評価、画像診断法（CT、MRI、脳血流 SPECT）、生理検査（脳波、筋電図等）から神経疾患の診断学を学ぶ。また、各論として、認知症や脳血管障害、神経免疫疾患、末梢神経・筋疾患、神経変性疾患、神経感染症等での疾患の特徴、診断法、治療について解説をする。		
教材（教科書）	なし（毎回の講義でプリントを配布する）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	プリント、スライドを用いて、講義形式で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による課題ないし授業中に課すレポート。		
到達目標	神経筋疾患の病理と症候、診断法と治療についてその概要を理解する。		
授業時間外学習	講義開始時ないし終了時に、その回ないし次回の講義資料を配布するので読んでおくこと。また、授業の最初ないし最後に授業内容に係る復習の小テストをするので勉強しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
遅刻や私語は厳禁とする。遅刻の場合はその理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。講義内容の撮影，録画，録音は禁止する。			
授業スケジュール			
1. 神経診断学総論　（近藤）：12/12(水)④ 2. 認知症　（近藤）：12/12(水)⑤ 3. 脳血管障害①　（森井）：12/19(水)④ 4. 脳血管障害②　（森井）：12/19(水)⑤ 5. 神経免疫疾患　（吉田）：1/9(水)④ 6. 末梢神経・筋疾患　（吉田）：1/9(水)⑤ 7. 神経変性疾患（PD,SCD,ALS）　（能登）：1/16(水)④ 8. 神経感染症　（能登）：1/16(水)⑤			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90097001
科目名	形成外科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Plastic Surgery		
担当者名	久　育男	旧科目名称	
授業概要	形成外科は外傷、腫瘍切除あるいは先天性に生じた組織欠損を外科手技でもって再建し、患者 QOL の向上を目的としている。具体的には顔面外傷（顔面骨骨折および軟部組織損傷)、手足の外傷、がん切除後の頭頸部再建、乳房再建、熱傷およびその後の瘢痕拘縮等を取り扱う。言語聴覚士との関連ではがん切除後の頭頸部再建および口唇口蓋裂、小耳症などが重要となる。特に、発生頻度の高い（日本では 500 人に 1 人）口唇口蓋裂の治療においては、構音、聴覚、咬合、外観など集学的治療が必要であり、また、頭頸部ガン切除後の再建においても言語聴覚士が果たす役割は極めて大きい。チーム医療における形成外科医と言語聴覚士の関連が理解できるように計画している。		
教材（教科書）	『標準形成外科学　第 6 版』　(医学書院)　平林慎一・鈴木茂彦 編　6,090 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	理解を深めるために「解剖生理学」のテキストが必要。講義形式で行う。		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	形成外科の基本的手術手技を理解し、その応用として頭頸部ガン切除後の再建、口唇口蓋裂や小耳症など先天異常の治療を理解し、言語聴覚士がチーム医療の一員として参画できる。		
授業時間外学習	授業に先立ち、局所解剖、生理について学習しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
チーム医療の一員としてプロフェッショナルを目指してください。			
授業スケジュール			
1.創傷治癒　：11/13(火)⑤ 2.口唇裂の治療　：11/20(火)⑤ 3.口蓋裂の治療　：11/27(火)⑤ 4.顔面外傷　：12/4(火)⑤ 5.上顎の再建　：12/11(火)⑤ 6.下顎の再建　：12/18(火)⑤ 7.舌の再建　：1/8(火)⑤ 8.食道の再建　：1/15(火)⑤			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	J90098001
科目名	耳鼻咽喉科学	単位数	1
科目名（英語表記）	Otolaryngology		
担当者名	久　育男	旧科目名称	
授業概要	耳鼻咽喉科臨床で遭遇する病態は多様で、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、構音、発声、嚥下などの重要な機能に関係する。なかでも生命維持に必要な呼吸、嚥下機能、社会生活を営むうえで必要な聴覚、音声言語機能については、言語聴覚士として確実に把握しておくべきものである。また、対象疾患が男性、女性とも全年齢層におよび、広い知識と経験に基づいた専門性が要求される分野でもある。可能な限り症状や疾患を中心とした講義とし、随時、解剖学、生理学や病理学の復習を並行して行い、より理解を深めることができるように計画している。		
教材（教科書）	『新耳鼻咽喉科学　改訂 11 版』（南山堂）　切替一郎 著　17,280 円		
教材（参考資料）	『言語聴覚士のための基礎知識　耳鼻咽喉科学　第 2 版』（医学書院）　鳥山稔・田内光 編　4,104 円		
教育方法	色鉛筆（各自で用意して持参すること）が必要。講義形式で行う。		
評価方法	定期試験（１００％）		
到達目標	耳鼻咽喉科における代表的疾患の診断と治療について理解できる。		
授業時間外学習	授業に先立ち、それぞれ必要な解剖・生理について再確認する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受け身の態度ではなく、積極的に知識の吸収を目指すこと。			
授業スケジュール			
１．耳の解剖と生理 ２．外耳・中耳疾患 ３．内耳疾患 ４．鼻・副鼻腔の解剖と生理 ５．鼻・副鼻腔疾患 ６．口腔咽頭疾患 ７．頭頸部腫瘍 ８．顔面神経疾患			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90099001
科目名	歯科・口腔外科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Dentistry and Oral Surgery		
担当者名	雨宮　傑	旧科目名称	
授業概要	歯科・口腔外科は、口腔内の構造物（歯、口蓋、舌、口腔底）の形態や機能の修復を行なう診療科目である。本講義では、歯と口腔の発達と加齢、咀嚼の仕組み、唾液腺と唾液分泌、歯周病と全身疾患の関連性、口腔の観察方法、奇形や変形、外傷や炎症、腫瘍、感染症等に伴う歯や口腔の異常、歯と口腔の治療（口唇口蓋裂の手術を含む）、補装具（義歯、口蓋床など）、歯と口腔のケア、について解説をする。歯科・口腔外科での嚥下や発語の問題について、症例を示し、歯科治療や装具、手術の適応と効果について、説明をする。		
教材（教科書）	『言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学－器質性構音障害 第 2 版』 （医歯薬出版） 道健一編 4,536 円		
教材（参考資料）	『口の中がわかる　ビジュアル歯科口腔科学読本』（クインテッセンス出版） 全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議監修 5,940 円		
教育方法	パワーポイントによるスライドを用いた講義を実施し、適宜、プリント（ハンドアウト等）を配布する。また、口腔ケア相互実習では各自歯ブラシを持参のこと。		
評価方法	定期試験、出席状況等から総合的に評価する。		
到達目標	歯・口腔・顎・顔面の形態と構造・機能、発生と発育を理解する。 口腔の診察法、口腔ケア方法、主要な口腔疾患とその治療について知る。		
授業時間外学習	テキストの該当部分をあらかじめ読んでおく（予習）。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義スライドでは、図や症例写真などを用いて分かりやすく解説する予定である。講義で話した内容は、配布プリントなどに書き込む等行い、分かりにくかった点は講師に質問して欲しい。また、講義後にテキストと配布プリントを読み返し、復習を行うこと。

授業スケジュール

1．歯科概論　　：（金村）9/27(木)⑤
2．歯・口腔・顎・顔面の形態と構造、発生と発育（その１）　：（雨宮）10/4(木)⑤
3．歯・口腔・顎・顔面の形態と構造、発生と発育（その２）　：（雨宮）10/11(木)⑤
4．歯・口腔・顎・顔面の機能　：（雨宮）10/18(木)⑤
5．口腔の診察法　：（雨宮）11/1(木)⑤
6．歯と歯周組織の疾患とその処置　：（雨宮）11/8(木)⑤
7．口腔ケア　：（雨宮）11/15(木)⑤
8．口腔ケア相互実習（歯科医師と歯科衛生士の役割）　：（足立）11/22(木)⑤
9．顔面・顎・顔面の疾患（その１）　：（山本）11/29(木)⑤
10．顔面・顎・顔面の疾患（その２）　：（山本）12/6(木)⑤
11．摂食嚥下障害の評価・診断・治療（その１）　：（山本）12/13(木)⑤
12．咀嚼障害の評価・診断・治療（その１）　：（雨宮）12/20(木)⑤
13．咀嚼障害の評価・診断・治療（その２）　：（雨宮）1/10(木)⑤
14．顔面・顎・顔面の疾患（その３）　：（雨宮）1/17(木)⑤
15．摂食嚥下障害の評価・診断・治療（その２）　：（雨宮）1/22(火)⑤

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	J90100001
科目名	心理測定法	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychological Testings		
担当者名	吉田　絵美	旧科目名称	
授業概要	心理学では、目に見えない「心」のあり方や働きを捉えるために様々な測定法が考え出され用いられてきた。ゆえに、心理測定を理解することは、心理学研究の基礎をなすものである。本講義では、心理測定をすることの意味についての理解を深め、精神物理的測定法、尺度構成法、調査法、検査法、実験法など、心理測定における代表的な研究手法の基礎的な方法論と研究法を修得する。これらの手法を適切に適用する能力を養い、必要なデータを自分で採取し分析できるようになることを目標とする。		
教材（教科書）	『心理測定法への招待　測定からみた心理学入門』（サイエンス社）　市川伸一　著　2,700 円		
教材（参考資料）	『心理学研究法ー心をみつめる科学のまなざし』（有斐閣アルマ）　高野陽太郎・岡　隆　編　2,100 円		
教育方法	講義形式で行う。		
評価方法	授業内小テストによる評価（５０％）、定期試験（５０％）		
到達目標	1. ヒト行動の測定の意味とその方法について理解を深め、他者に説明できる。 2. 授業で学んだ測定法を適切に使うことができる。		
授業時間外学習	1.教材（テキスト）を講義の前後に読み、ノートをつくること。 2.講義終了後に適宜次回実施の小テストの予告をするので、指定範囲の復習をし備えること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
上記の到達目標が達成できるよう努めてもらいたい。また、社会に数多ある”当たり前”について日頃から目を向け、その構造を考えていって欲しい。			
授業スケジュール			
１．心理測定とは ２．見えかたを測る ３．測定法の性質 ４．心理統計①：4 つの尺度の性質 ５．心理統計②：要因と水準 ６．心理統計③：計画法の組み方 ７．心理統計④：パラメトリック検定 ８．心理統計⑤：ノンパラメトリック検定（t 検定） ９．錯視に関する実験とデータ解析の実際 １０．質問紙法による測定 １１．描画法によるパーソナリティ測定 １２．検査法による発達の測定 １３．記憶の測定 １４．社会心理学における測定 １５．授業まとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90101001
科目名	言語学	単位数	2
科目名（英語表記）	Linguistics		
担当者名	脇坂　美和子	旧科目名称	
授業概要	言語は、ヒトの思考や認知を支え、コミュニケーションの道具として、社会生活に欠かせない。言語学は、言葉の意味（語彙）、文の組み立て（文法）、言葉の使用（運用）、音の選択と配列（音韻）について、世界言語での普遍性と個別性を探求する学問である。本講義では、日本語を題材として、意味論、統語論、語用論、音韻論について解説をする。言語の獲得、第二学国語の学習、方言、言い誤り現象、言語の変遷について、言語学者の視点で説明を加える。世界言語を俯瞰して、特徴的な言語側面を持つ言語を取り上げ、説明をする。		
教材（教科書）	授業時に講義資料を配布する		
教材（参考資料）	授業時に関連図書を紹介する		
教育方法	講義形式で行う。		
評価方法	定期試験　７０％ 授業時の課題・小レポート　３０％		
到達目標	１．　人間言語についての客観的な観察力と知識を身につける。 ２．　自分の母語、母方言や、学習中の外国語について言語学的な分析を行う力をつける。		
授業時間外学習	授業中に説明する新しい概念などについては毎回復習すること。わからない点がある場合は、どこがわからないのかを質問できるようにすること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業で学んだことを応用して日本語や英語などの身近な言語について実際に観察と分析をしてもらう。なんとなく使っている言語使用をわかりやすくに説明できるようにするため、論理学やレポートの書き方など関連分野についても紹介する入門書などを読むことを求める。			
授業スケジュール			
１．　言語学とその対象：　科学的な観察対象としての言語 ２．　音韻とは何か ３．　借用語と方言アクセント ４．　言語はどこまで分割できるか ５．　世界の言語の形態と機能 ６．　単語を並べるだけで文にはならないのはなぜか ７．　日本語と世界の言語の構造 ８．　意味を捉える試み ９．　認知科学と言語の意味 １０．　メタファーとメトニミー １１．　ことばの文脈と語用論 １２．　言語を記述するとはどういうことか １３．　消滅の危機に瀕した言語と方言 １４．　世界の言語の類型 １５．　エスノグラフィーとコミュニケーション			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90102001
科目名	言語心理学	単位数	1
科目名（英語表記）	Psycholinguistics		
担当者名	脇坂　美和子	旧科目名称	
授業概要	言語心理学は、言語の獲得、運用、理解と表出の背景にある心理学的・神経生物学的な要因を取り扱う学問である。本講義では、言語発達の基盤となる認知の発達、言語獲得の過程での語や文の処理や組み立ての正用と誤用、諸家の仮説と実験、言語獲得の正常と異常について、解説をする。言語獲得においてどんな学習がなされ、学習を支えるのにどんな経験が必要なのか、言語獲得における臨界期（適切な学習時期）はあるのか、言語獲得を阻害する認知心理学的障害はどんなものか、考えてみる。		
教材（教科書）	『ことばとこころ - 入門　心理言語学』（みみずく舎）　村杉恵子　著 2,376 円		
教材（参考資料）	『脳にいどむ言語学』（岩波書店）　荻原裕子　著		
教育方法	講義形式で行う。		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	1．　言語心理学の基本的な概念を習得し説明できる。 2．　身近な言語使用の中に見られる心の働きについて、基本的な分析を行うことができる。		
授業時間外学習	事前に教科書を読み、専門用語などについてわからないところや不明な点がないか予習すること。授業中に説明された概念については、他人に説明できるように復習すること。日常の言語使用を扱うので、ふだんの生活の中で学習した概念をどのように使って言語使用を分析できるのか観察を行うこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
一般的な言語学や心理学の基礎知識があれば理解が深まるので、広く関連分野について学ぶ姿勢を求める。			
授業スケジュール			
1．　言語使用とこころの働きについて 2．　人間言語の特性と普遍文法について 3．　間違いにもパターンがあることとその体系について 4．　人間はどうやって言語を習得するのか 5．　言語障碍のメカニズム 6．　言語を理解する仕組み 7．　言語変化の観察からわかること 8．　基本概念のまとめと身近な言語使用の分析			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90103001
科目名	音声学演習	単位数	1
科目名（英語表記）	Laboratory in Phonetics		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
授業概要	ヒト音声の基本的事項や日本語音声の特徴について、音声の加工や合成、発音時の口や舌の観察を通して、理解を深める。音声（信号）の分節と変動の問題、母音や子音の生成と知覚を学び、音声の収録と聴き取り、国際音声記号を使っての音声の記述、異常音声の表記を行なう。音の異常を理解するために、口腔調音器官の形態・運動と音声との関係について、理解を深める課題を学生に提供する。音声学演習ラボとして、音声信号の特徴（分節と変動）、音声の逆転、発音時の口の構えと舌の動き、聞き間違いの背景、発音の誤りとその原因などを行う。		
教材（教科書）	『音声学を学ぶ人のための Praat 入門』（ひつじ書房）　北原真冬ほか著　2592 円		
教材（参考資料）	『やさしい日本語指導 5 ：音韻／音声（改訂版)』　（凡人社）　国際日本語研修協会 編　1,296 円 『国際音声記号ガイドブック』　（大修館）　国際音声学会 編　4,644 円 『基礎から学ぶ 音声学講義』　（研究社）加藤重広・安藤智子 著 2,916 円 『日本語音声学入門』　（三省堂）　斎藤純男 著　2,160 円 『日本語音声学のしくみ』（ 研究社）　町田健 編　2,160 円		
教育方法	音声表記のドリル、音響分析等の資料を適時配布し、講義形式と演習を組み合わせて行う。		
評価方法	中間試験 20%、定期試験 80%		
到達目標	1．言語音の特徴と生成・知覚の基本を理解する。 2．音声記号を適宜用いて発話を表記できる。 3．知覚的分析の活用と限界を知る。 4．音響分析で音声言語の観察ができる。		
授業時間外学習	教科書・参考書の該当部分をよく読む。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎週のホームワークを必ず行うこと。

授業スケジュール

1．音声言語（連続音声）の特徴、音素と異音
2．母音と子音の特徴、拍（モーラ）と特殊音素
3．国際音声記号（IPA)、音声表記
4．日本語モーラの音声表記：その 1
5．日本語モーラの音声表記：その 2
6．語や文の音声表記
7．連続音声（発話）の表記：特殊記号
8．中間試験（音声表記)、音響音声学、知覚的分析と音響分析
9．音響分析の基本
10．音声波形を見る　　実験 ①：音声信号の特徴、音声の逆転
11．周波数解析、スペクトルとスペクトログラム
12．スペクトルとスペクトログラムを見る　　実験②：スペクトログラムで見る言語音の違い
13．母音と子音の音響特徴
14．異常音声の音響分析：その 1
15．異常音声の音響分析：その 2

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	J90104001
科目名	音響学	単位数	2
科目名（英語表記）	Acoustics		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
授業概要	音声の生成と知覚の理解に不可欠な音の物理的性質を最初に学んだうえで、音声波が調音動作によってどのように生成されるかを学び、個々の音韻の弁別的特徴、音響学的特徴および、それらをもとに構成される文の韻律的特徴の理解を図る。高校で物理を履修していない、あるいは数学が不得意な学生がいることを考慮して、極力数式を用いず、実音声や音声サンプルの試聴、供覧、音声分析ソフトを用いての実習を多用して、経験的に理解の促進を図る。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	『ゼロからはじめる音響学』 （講談社） 青木直史 著 2,808 円 『言語聴覚士のための音響学』 （医歯薬出版） 今泉敏 著 4,104 円		
教育方法	講義内容のプリントを配布し、講義はスライドを用いて行う。サウンドレベルメータや音声分析ソフトを用いた実習により理解の促進を図る。		
評価方法	小テスト・レポート（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	1. 音声や聴覚関連の専門科目を理解するうえで必要な音響学の知識を習得する。 2. 言語聴覚士として臨床に携わるうえで必要となる音響学の用語・考え方を理解する。		
授業時間外学習	講義プリント等で、それまでの講義内容を復習しておくことが望ましい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体調を整えて授業に臨み、授業の内容を講義時間内に理解してしまうことに集中してほしい。それを促すために小テストを頻回に行う。。			
授業スケジュール			
01 音の性質１：波の基本的性質 02 音の性質２：干渉、定常波、共鳴、回折、屈折 03 音の強さの尺度１：音圧、音の強さ、対数尺度 04 音の強さの尺度２：種々のレベル表示、サウンドレベルメータ 05 サウンドレベルメータによる音圧測定 06 音のスペクトル 07 デジタル音響分析 08 音響音声学１：母音の生成 09 音響音声学２：母音とホルマント 、鼻音とアンチフォルマント 10 音響音声学３：母音の音響分析 11 音響音声学４：子音とフォルマント遷移 12 音響音声学５：子音の音響分析 13 音響音声学６：調音結合、音声の韻律的特徴 14 音響音声学７：調音結合、音声の韻律的特徴の音響分析 15 音響音声学８：音響分析の応用			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	J90105001
科目名	聴覚心理学	単位数	1
科目名（英語表記）	Psychoacoustics		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
授業概要	聴覚心理学の基本事項のうち、言語聴覚療法の実務に必要となる基本的な用語、概念、測定法等について学修する。具体的には、音響学での学修内容を確認したうえで、音の強さ、周波数、スペクトルなどの物理的性質が、それを聞いた時のラウドネス、ピッチ、音色等の感覚とどのように対応するかを、健聴耳と種々の難聴耳を対比させて学修する。サンプル音の試聴や聴取実験を多く取り入れ、物理現象としての音と聴覚の関係について体験的に理解を促す。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	『言語聴覚士の音響学入門』 （海文堂） 吉田友敬 著 2,808 円 『聴覚と音響心理』 （コロナ社） 境久雄 編著 4,968 円		
教育方法	講義内容のプリントを配布し、講義はスライドを用いて行う。サンプル音の試聴や聴取実験を多く取り入れて理解の促進を図る。		
評価方法	小テスト（30%），定期試験（70%）		
到達目標	1. 主に聴覚系の専門科目を理解するうえで必要な聴覚心理学の知識を習得する。 2. 言語聴覚士として臨床に携わるうえで必要となる聴覚心理学の用語・考え方を理解する。		
授業時間外学習	講義プリント等で、それまでの講義の内容を復習しておくことが望ましい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体調を整えて授業に臨み、講義内容を授業時間内に理解してしまうことに集中してほしい。それを促すためにも小テストを頻回に行う。			
授業スケジュール			
1. 聴覚心理学とは 2. 耳の感度 3. 聴野とラウドネスレベル 4. ラウドネスの尺度構成 5. ピッチ，音色 6. マスキング 7. 音の弁別，聴覚疲労，短音の知覚 8. 両耳聴，音のパターンと対象の知覚			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90106001
科目名	言語発達学	単位数	2
科目名（英語表記）	Language Development		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
授業概要	言語（ことば）は、ヒトが生まれて成長する過程での脳神経系の発達、十分な感覚入力と言語環境の下で、獲得され成熟する。本講義では、ことばが出現するために必要な基礎的能力が発達する乳幼児から、会話でのやりとりが発達する幼児期、さらにコミュニケーション能力や文字を活用する児童期までのことばの発達について概説する。また、ことばの発達に大きく関わる社会性の発達、認知発達等についても学び、それぞれの領域で苦手さを持つ子どもについても触れる。		
教材（教科書）	『よくわかる言語発達　改訂新版』（ミネルヴァ書房）　岩立志津夫・小椋たみ子　編　2,592 円		
教材（参考資料）	『乳幼児期のことばの発達とその遅れ』（ミネルヴァ書房）小椋たみ子・小山正・水野久美　著　2,600 円		
教育方法	教科書にそった内容のパワーポイントとビデオ教材を用いて講義を進める。		
評価方法	定期試験(50%)、小テスト(30%)、授業内提出物およびレポート(20%)		
到達目標	１．乳幼児期から学童期までのことばの定型発達について理解する。 ２．ことばの発達と関連した領域である運動・認知・知能・社会性の発達について理解する。 ３．定型発達の理解を基礎として、言語発達障害を理解する視点を持つことができる。		
授業時間外学習	第 1 回　教科書 3,10-13 第 2 回　教科書 26-29 第 3 回　教科書 32-35 第 4 回　教科書 40 第 5 回　教科書 36-37 第 6 回　教科書 38-39 第 7 回　教科書 40－45 第 8 回　教科書 50-53 第 9 回　教科書 54-57 第 10 回　教科書 60-63 第 11 回　教科書 64-67,102 第 12 回　教科書 154-157 第 13 回　教科書 116-119 第 14 回　配布資料 第 15 回　教科書 128-133		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業で学んだ知識を基に、幼稚園見学を通して定型発達児の行動観察を行いレポート課題とする。
日常の中で子どもに関わる情報収集に努めてほしい。

授業スケジュール

１．言語発達学の概論：言語発達理論
２．前言語期の発達：表情・感情・視線・動作とコミュニケーション
３．前言語期の発達：象徴機能の発達
４．前言語期の発達：相互作用とアタッチメントの発達
５．前言語期の発達：口腔運動の発達と構音の発達①
６．幼児期の発達：口腔運動の発達と構音の発達②
７．幼児期の発達：語彙の発達
８．幼児期の発達：文の発達①（助詞）
９．幼児期の発達：文の発達②（構文）
１０．幼児期の発達：生活言語と学習言語
１１．幼児期・児童期の発達：学習言語（読み書き能力）の発達

１２．　幼児期・児童期の発達：ことばの働きと社会性の発達
１３．　幼児期・児童期の発達：認知・知能の発達
１４．　児童期の発達：児童期以降の発達
１５．　年齢による言語発達のポイント

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★	－

年度	2018	授業コード	J90107001
科目名	言語聴覚障害学概論Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Speech, Language, and Hearing Disorders Ⅰ		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
授業概要	言語聴覚障害の全体像を理解するためには、ヒトのコミュニケーションの基本を理解し、多様な障害のラベルと特徴を知ることが、初学者にとって大切である。本講義では、コミュニケーションの基本的事項を提供し、言語聴覚障害（発声発語障害：音声障害、構音障害、吃音、言語障害：失語症、言語発達障害、聴覚障害）の基本情報（定義、疫学、特徴、生活上の困難）について示し、症例の音声や画像を解説する。うまく話せなかったら、ことばが理解できなかったら、聞こえなかったら、どうなるのか、体験する機会も学生に与える。		
教材（教科書）	『図解 やさしくわかる 言語聴覚障害』 （ナツメ社） 小嶋知幸 著　2,160 円 『言語聴覚療法－臨床マニュアル（第 3 版)』 （協同医書） 平野哲雄 他 編　7,344 円 『顔面麻痺』 （幻冬社文庫） ビートたけし 著　494 円 『恍惚の人』 （新潮文庫） 有吉佐和子 著　724 円 『人間であること』 （岩波新書） 時実利彦 著　842 円		
教材（参考資料）	『言葉の誕生を科学する』 （河出文庫） 小川洋子・岡ノ谷一夫 著　691 円 『想像するちから』 （岩波書店）松沢哲郎 著　2160 円 『言葉と脳と心～失語症とはなにか』 （講談社現代新書） 山鳥重 著　799 円 『驚異の小器官・耳の科学』 （講談社ブルーバックス） 杉浦彩子 著　929 円 『声のなんでも小事典』 （講談社ブルーバックス） 和田美代子 著　950 円 『マンウオッチング』 （小学館文庫） デズモンド・モリス 著　926 円 『復活の朝―札幌発リハビリテーション物語』 （集英社文庫）		
教育方法	講義内容に関する資料を適宜配布し、講義形式で行う。		
評価方法	定期試験８０％　体験報告１0%（発表と 8 コマ漫画）　書評１０％		
到達目標	１．言語聴覚障害の定義、疫学、特徴、個人の生活・社会的困難、を知る。 ２．言語聴覚障害を、大脳（処理)、聴覚（入力)、構音（出力）などのモデルで説明できる。 3.言語聴覚障害者の体験により、その影響を感じることができる。		
授業時間外学習	毎週：教科書や参考書の該当箇所をあらかじめ読んでおく。　友人や家族に、新たに学んだことを整理して相手がわかる言葉で説明する。日常生活で遭遇した人々をよく観察して、その特徴を言葉で表現することを日々すること。 発表：１）設定（演じる障害と場面)、２）やりとりの実演、３）当事者として感じたこと、４）相手の対応と周囲の人たち、について５分以内で発表する。リハーサルをした上で臨むこと。実施の前には、何をどう演じるのか、詳細な計画書を作ること。 書評：指定された２冊の本より、ひとつを選び、本の紹介をする。感じた点については、エピソードを引用する。「人間であること」の内容も踏まえ、感じた点を考察する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
コミュニケーション（障がい）がどう生活に影響するかを考えてみる。 学習する内容に興味関心を持ち、関連するニュースや新聞記事に目を通すこと。			
授業スケジュール			
１．ことば、コミュ二ケーションとその問題　　オーディオ・ビデオ：「志の輔らくご」 ２．言語とその基盤 ３．言語聴覚障害のラベルと背景　　シネマ：「野生児」（３回に分けて） 4.きこえの異常（小児の難聴） 5.きこえの異常（成人の難聴） 6.ことばの異常（1）言語発達障害 ５．ことばの異常（2）失語　　シネマ：「英国王のスピーチ」（３回に分けて） ６．発話の異常（１）吃音			

８．発話の異常（２）音声障害
９．発話の異常（３）構音障害、語音症
１０．発話の異常（４）構音障害、　器質性
１１．発話の異常（５）dysarthria　　シネマ：「レナードの朝」（３回に分けて）
１２．　頭部外傷に伴う諸問題
１３．認知症に伴う諸問題
１４.体験報告（発表１回目）
１５．体験報告（発表２回目）、Review

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J90108001
科目名	言語聴覚障害学概論II	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Speech, Language, and Hearing Disorders II		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
授業概要	「言語聴覚障害学概論Ｉ」で学んだことを踏まえ、言語聴覚障害を有する人たちの能力と生活について、専門的な立場でどう対処すべきか、問題形式で講義を進める。具体的には、症例自身の困難さについて、どのように評価を進めれば良いのかを、言語聴覚障害自体の問題と、症例の心理的な問題とを、学生に考えさせる。あわせて、症例を取り囲む人達（家族や友人など）の思いを学生に気づかせ、それに対する取り組みについても提示する。		
教材（教科書）	『ことばの障害と相談室』　（エスコアール）　能登谷晶子　編　９７２円 『聴こえの障害と金沢方式』　能登谷晶子　編　1,７２８円 これ以外に講義中にプリント配布予定		
教材（参考資料）	『はじめての言語障害学』（協同医書出版）　伊藤元信 『言語聴覚障害学概論』（医学書院）藤田郁代 編　5,４００円		
教育方法	神経系、大脳構造、高次脳機能障害などの DVD を用いて、講義形式で行う。		
評価方法	小テスト２回(２０％ｘ２回　計４０％)、定期テスト(６０％)		
到達目標	1) 学生は言語聴覚障害が人間にとってどのような問題をもたらすのかを述べることができる。 2)学生は言語聴覚障害を有する人たちの気持ちを理解し、説明できる。 3)学生は言語聴覚障害を有する人達の家族の思いも推測できる。 4)学生は障害を持つ人たちに向き合うという事の意味を列挙できる。		
授業時間外学習	様々な言語聴覚障害者の記録や手記を読むようにしてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

もし、自分自身が言語聴覚障害を有する人であったり、またそのような障害を持つ子供を授かったりした場合に、何をどう考えて行動するかを考えて欲しい。

授業スケジュール

１．言語聴覚障害に対する基本的知識ー障害者数、障害が生じる場所などを理解する。
２．言語聴覚士が働く場所について国内外の情報を知る。
３．発声発語系ー音声障害、吃音児・者の問題点に気づき、どうして生じるのかを考える。
４．発声発語系ー構音障害（小児、成人）の問題点に気づき、どうして生じるのかを考える。
５．言語障害系ー失語症がどうして生じるのかを考え、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
６．言語障害系ー失語以外の高次脳機能障害を持つ人の障害に気付き、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
７．職業倫理、言語聴覚士法について説明する。
８．言語障害系ー発達障害を伴う言語習得の問題を持つ児やその保護者の問題に気付かせる。
９．言語障害系ー知的障害に伴う言語習得の遅れの児・者の障害に気付き、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１０．聴覚障害系ー先天性の聴覚障害児の問題点に気付き、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１１．聴覚障害系ー幼児期から小学生で生じた後天的聴覚障害に対する問題に気付き、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１２．聴覚障害系ー若年層で生じた聴覚障害に対する問題に気付き、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１３．聴覚障害系ー熟年層で生じた聴覚障害に対する問題に気付き、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１４．聴覚障害系ー高齢になって生じた聴覚障害に対する問題に気付き、合わせて周囲の人の気持ちに気づかせる。
１５．発声発語系、言語障害系、聴覚障害系の各障害によって生じる言語聴覚障害を持つ人の特徴とその周囲の人の思いを整理する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90109001
科目名	プロフェッショナル・セミナー	単位数	2
科目名（英語表記）	Professional Seminar		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
授業概要	本講義では、臨床家や言語聴覚・摂食嚥下に関連する基礎的な研究を行っている者が、自らの仕事や関心のあるテーマについて話題を提供する。臨床現場の実際の様子や経験から得たこと、とくに患者さんの観察から研究のヒントを得て、それを具体化し、論文等にまとめることができた過程などで得られた気づきや洞察についての話題を提供することにより、学生に知的好奇心を持たせることができると同時に、職業意識を高めることを目的とする。		
教材（教科書）	授業担当の教員の資料がある場合は、授業前に配布予定。		
教材（参考資料）	『言語聴覚士　りすく管理ハンドブック』（ヒューマンプレス）　山本徹・清水宗平　編　4,536 円		
教育方法	講義形式で行う。		
評価方法	レポート 2 回　50% x 2 回		
到達目標	1. 学生は言語聴覚士の先輩たちが働く職場を 3 つ以上挙げることができる。 2.学生は言語聴覚障害関連職種を具体的に 3 つ以上述べることができる。 3.学生は各職場で言語聴覚士たちが生きがいを感じるところは、どんな点かを 3 つ挙げることができる。 4.学生は言語聴覚士という国家資格制度ができてきた経緯を説明できる。		
授業時間外学習	言語聴覚士が働く職場で出会う患者さんたちの種類について学んでおく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業の前に、言語聴覚士が働いている現場の見学や言語聴覚士法を読んで欲しい。			
授業スケジュール			
1.この講義の目的や目指すところについてオリエンテーション［能登谷） 2.「耳鼻咽喉科医とメデイカルスタッフの連携」（久） 3.「セラピストの進歩」［苅安） 4.「ＳＴ現場からの報告」（能登谷　外部講師） 5.「言語聴覚士法の制定までの歩み」（能登谷　外部講師） 6.「子どもから成人までを診れるＳＴ」（能登谷） 7.「アメリカのＳＴ教育と現場」（能登谷　外部講師） 8.「災害時のＳＴの仕事とは」（能登谷　外部講師） 9.「県士会の活動の果たす役割」（能登谷　外部講師） 10.「言語聴覚士をめざす君へ」（外山） 11.「耳鳴りの性質と苦痛度について」（松平） 12.「発達期における言語聴覚士へのニーズと臨床の実際」（橋本） 13.「低年齢児の指導から ST と子どもの関わり,保護者支援を考える」（弓削） 14.「臨床、研究における認知神経心理学的視点」（吉村） 15.「プロフェッショナルとは？」（能登谷）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J90110001
科目名	失語・高次脳機能障害学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Aphasia and Higher Brain Dysfunction Ⅰ		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
授業概要	高次脳機能障害の中で、失語症は成人のコミュニケーション障害の代表で、脳卒中等による原因で生じる言語の障害である。本講義では、失語症の基本的な障害である「話す・聞く・読む・書く」の各領域についての失語症に特異的に見られる基本的な事項を脳の解剖的部位とともに学ぶ。さらに、失語症の各タイプの特徴について代表的な症例を挙げて解説する。演習では、失語症者の観察、評価法について学ぶ。さらに、失語以外の高次脳機能障害についての基本的な知識を得る。		
教材（教科書）	『失語症学 第 2 版（標準言語聴覚障害学)』 （医学書院） 藤田郁代 監修 5,800 円 『標準失語症検査マニュアル 改訂第 2 版』 （新興医学出版） 日本高次脳機能障害学会 編集 7,560 円 『標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学第 2 版』(医学書院） 藤田郁代・阿部晶子編 4,800 円		
教材（参考資料）	『脳血管障害と神経心理学 第 2 版』 （医学書院） 平山惠造・田川皓一 編 12,960 円 『言語聴覚療法臨床マニュアル 改訂第 3 版』 （協同医書出版） 平野哲雄 編 7,344 円		
教育方法	パワーポイント、ビデオ教材、標準失語症検査（SLTA）などを適時用いて、講義と演習を行う。		
評価方法	定期試験（60%)、小テスト 2 回（40%）		
到達目標	1．学生は失語症の概念を理解し、他の言語聴覚障害との違いについて説明できる。 2．学生は失語症の評価と診断のプロセスを理解できる。 3．学生は失語症の各タイプの特徴を理解し、解剖学的部位（責任病巣）との関連性を理解できる。 4．学生は失語症者に対する初回面接と情報収集ができる。 5．学生は標準失語症検査（SLTA）の各課題を適切に実施し、結果のまとめと解釈ができる。		
授業時間外学習	1．教科書の予習と復習。 2．解剖生理学、音声学、言語学などの基礎科目の理解。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．これまでに学修した医学的、音声・言語学的な知識に基づき、各障害の理解を深めてください。新規の用語や事柄は、テキストで意味を調べながら理解するようにしましょう。
2．失語・高次脳機能障害学Ⅰで基礎づくりをし、来年度の失語・高次脳機能障害学Ⅱ（評価と診断）につなげるような気持ちをもって、積極的に講義に参加してください。

授業スケジュール

1．失語症の定義・歴史・原因疾患と大脳機能局在（講義：能登谷）
2．標準失語症検査（SLTA)（講義：能登谷）
3．聴覚的理解障害（講義：吉村）
4．聴覚的理解障害の評価（演習：外山）
5．発話の障害（講義：吉村）
6．発話の障害の評価（演習：外山）
7．読みの障害（講義：吉村）
8．読みの障害の評価（演習：外山）
9．書きの障害（講義：吉村）
10．書きの障害の評価（演習：外山）
11．文法と談話の障害（講義：吉村）
12．失語症の分類（講義：能登谷）
13．運動性失語（講義：吉村）
14．運動性失語の言語症状（演習：外山）
15．感覚性失語（講義：吉村）
16．感覚性失語の言語症状（演習：外山）
17．超皮質性失語（講義：吉村）
18．超皮質性失語の言語症状（演習：外山）

１９．伝導・健忘失語（講義：吉村）
２０．伝導・健忘失語の言語症状（演習：外山）
２１．その他の失語症（講義：吉村）
２２．失語症者の初回面接と情報収集（演習：外山）
２３．脳卒中患者のバイタルサインと緊急時の対応（講義：滝沢）
２４．失行の概念と分類（講義：能登谷）
２５．遂行機能障害・前頭葉機能障害の概念と分類（講義：能登谷）
２６．失認の概念と分類（講義：能登谷）
２７．注意障害の概念と分類（講義：能登谷）
２８．記憶障害の分類・病巣と症状（講義：能登谷）
２９．右脳損傷によるコミュニケーション障害（講義：能登谷）
３０．認知症の定義・分類・周辺症状（講義：能登谷）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J90111001
科目名	失語・高次脳機能障害学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Aphasia and Higher Brain Dysfunction Ⅱ		
担当者名	吉村　貴子	旧科目名称	
授業概要	「失語・高次脳機能障害Ⅰ」において修得した知識を踏まえ、失語症ならびに失語以外の高次脳機能障害について、臨床場面でよく用いられる代表的な評価・診断の方法を概説する。さらに、失語症ならびに他の高次脳機能障害の評価として多用される標準化された検査バッテリーについて演習をする。演習では、検査法の実施手順を指導するとともに、失語症検査の適切な実施、結果の整理と解釈、鑑別診断、問題点の抽出について解説する。		
教材（教科書）	『高次脳機能障害マエストロシリーズ③リハビリテーション評価』　（医歯薬出版）　鈴木孝治 他 編 2,600 円 『標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第 2 版』　（医学書院）　藤田郁代 他　編　5,184 円 『標準言語聴覚障害学 失語症学 第 2 版』　（医学書院）　藤田郁代 他 編 5,400 円 『言語聴覚療法臨床マニュアル改訂第 3 版』　（協同医書出版）　平野哲雄 他 編　7,344 円		
教材（参考資料）	『脳血管障害と神経心理学 第 2 版』（医学書院）　平山惠造・田川皓一 編 12,960 円		
教育方法	講義内容に関する資料を適宜配布、授業は講義および演習形式とする。		
評価方法	定期試験（60%）、小テスト（40%）		
到達目標	１．ＳＬＴＡ（標準失語症検査）の確実な実施に基づき、検査結果をを整理・分析し、問題点の抽出できる。 ２．失認・失行、遂行機能障害・前頭葉機能障害、記憶障害、認知症など、失語以外の高次脳機能障害の症状に対応した代表的な評価・診断方法を説明できる。 ３．失語以外の高次脳機能障害の検査を円滑に実施し、検査結果を統合し、サマリーを書くことができる。		
授業時間外学習	１．失語・高次脳機能障害学Ⅰ、解剖生理学、音声学、言語学等をしっかり振り返っておく。 ２．日々の予習と復習を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．これまで修得したさまざまな知識を基に、各情報を結びつけるように努めましょう。
２．わからない用語があれば、辞書やテキストで調べるようにしましょう。
３．さまざまな事柄に興味関心を抱き、自ら考えることに慣れ親しむようにしましょう。

授業スケジュール

１．　評価・診断の原則：国際生活機能分類(ICF)と失語・高次脳機能障害（講義：能登谷）
２．　失語・高次脳機能障害の評価：情報収集と鑑別診断（講義：能登谷）
３．　標準失語症検査（SLTA）の手順①（講義：吉村）
４．　標準失語症検査（SLTA）の手順②（講義：吉村）
５．　SLTA の結果の解釈と問題点の抽出①（講義：吉村）
６．　SLTA の結果の解釈と問題点の抽出②（講義：吉村）
７．　SLTA の結果の解釈と問題点の抽出③（講義：吉村）
８．　SLTA の実施①（演習：外山）
９．　SLTA の実施②（演習：外山）
１０．　失認・失行の評価（講義：能登谷）
１１．　標準高次動作性検査（SPTA）の手順と結果の解釈（講義：吉村）
１２．　SPTA の実施手順と演習（演習：外山）
１３．　標準高次視知覚検査（VPTA）と行動性無視検査日本版（BIT）の手順と結果の解釈
（講義：吉村）
１４．　VPTA、BIT の実施（演習：外山）
１５．　記憶障害と前頭葉機能障害における評価（講義：能登谷）
１６．　各種記憶障害の検査の実施（演習：外山）

１７．　日本版ウェクスラー記憶検査改訂版（WMS-R)、リバーミード行動記憶検査（RBMT)、その他の記憶検査の手順と結果の解釈（講義：吉村） １８．　WMS-R と RBMT の実施（演習：外山） １９．　遂行機能障害症候群の行動評価（BADS）の説明と結果の解釈、その他記憶・前頭葉機能の各種検査（講義：吉村） ２０．　BADS の実施（演習：外山） ２１．　認知症の評価（講義：能登谷） ２２．　認知症の各種検査の手順（講義：吉村） ２３．　ウェクスラー成人知能検査第 3 版（WAIS-Ⅲ）の説明と結果の解釈（講義：吉村） ２４．　WAIS-Ⅲの実施（演習：外山） ２５．　スクリーニング検査と掘り下げ検査（講義：吉村） ２６．　スクリーニング検査の実施（演習：外山） ２７．　検査結果の統合とサマリーの書き方（演習：吉村） ２８．　失語・高次脳機能障害リハビリテーションの原則（講義：吉村） ２９．　各病期の失語・高次脳機能障害リハビリテーション①：急性期（講義：吉村） ３０．　各病期の失語・高次脳機能障害リハビリテーション②：回復期・生活期（講義：外山）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J90112001
科目名	失語・高次脳機能障害学Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Aphasia and Higher Brain Dysfunction Ⅲ		
担当者名	外山　稔	旧科目名称	
授業概要	「失語・高次脳機能障害学Ⅰ」と「失語・高次脳機能障害学Ⅱ」で学んだ知識と技術を基に、失語症例と高次脳機能障害例へのリハビリテーション的アプローチを中心に学ぶ。講義では代表的なリハビリテーション法を概説した後、実際の患者を大学に招き、基本的な評価、掘り下げテストを行い、障害の全体像を把握し、訓練プログラムを立案する過程を修得する。その後、これらの全過程をレポートとしてまとめる技術を学ぶ。演習では、個別コミュニケーション療法以外の技術も提供する。		
教材（教科書）	『標準言語聴覚障害学 失語症学 第2版』 （医学書院） 藤田郁代 他 編 5,400円 『標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第2版』 （医学書院） 藤田郁代 他　編　5,184円 『失語症Q＆A 検査結果のみかたとリハビリテーション』 （新興医学出版） 種村純 編　4,320円 『言語聴覚療法マニュアル 第3版』 （協同医書出版） 平野哲雄 他 編　7,344円		
教材（参考資料）	『脳血管障害と神経心理学 第2版』（医学書院） 平山惠造・田川皓一 編 12,960円 『CD-ROMでレッスン脳画像の読み方 第2版』（医歯薬出版）石原健司　著 4,968円		
教育方法	講義内容に関する資料を配布する。		
評価方法	定期試験（60%）、小テスト（20%）、レポート（20%）		
到達目標	1. 各種評価・検査結果の解釈からリハビリテーションアプローチまでの一連の流れを実践できるようになる。 2. 症例報告のレポート（初回評価～リハビリテーション過程）を作成できるようになる。		
授業時間外学習	次回講義までの準備学習は、その都度伝達する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

失語・高次脳機能障害学Ⅰ、失語・高次脳機能障害学Ⅱで習得した知識・技術を復習し、各種評価・検査の目的と方法・手順を理解しておくこと。

授業スケジュール

1. 失語・高次脳機能障害リハビリテーションの理論と技法①：機能の側面（講義：能登谷）
2. 失語・高次脳機能障害リハビリテーションの理論と技法②：活動・参加の側面（講義：外山）
3. 訓練立案の実際①：計画の立て方（講義：吉村）
4. 訓練立案の実際②：国際生活機能分類（ICF）に基づく支援（講義：外山）
5. 訓練立案の実際③：訓練形態（講義：能登谷）
6. 訓練立案の実際④：社会復帰と障害受容（講義：能登谷）
7. 症例の評価と訓練①（演習：能登谷）
8. 症例の評価と訓練②（演習：能登谷）
9. 評価結果の整理と訓練プログラムの立案（講義：吉村）
10. 訓練経過の整理（講義：吉村）
11. 症例の評価と訓練③（演習：外山）
12. 症例の評価と訓練④（演習：外山）
13. 訓練経過の報告と発表（演習：外山）
14. 症例レポートの作成①（講義：能登谷）
15. 症例レポートの作成②（講義：能登谷）
16. 重度失語症例や言語障害合併例への対応（講義：吉村）
17. 失語・高次脳機能障害と画像診断（講義：能登谷）
18. 各障害への訓練・指導①：失語症の急性期（演習：吉村）
19. 各障害への訓練・指導②：失語症の急性期（演習：外山）
20. 各障害への訓練・指導③：失語症の回復期の語彙訓練（演習：外山）
21. 各障害への訓練・指導④：失語症の回復期の構文訓練（演習：外山）
22. 各障害への訓練・指導⑤：失語症の回復期の実用コミュニケーション訓練（演習：外山）

23. 各障害への訓練・指導⑥：失語症の集団訓練（演習：能登谷）
24. 各障害への訓練・指導⑦：失行（演習：吉村）
25. 各障害への訓練・指導⑧：視覚性失認，聴覚性失認（演習：能登谷）
26. 各障害への訓練・指導⑨：半側空間失認（演習：吉村）
27. 各障害への訓練・指導⑩：記憶障害（演習：外山）
28. 各障害への訓練・指導⑪：遂行機能障害（演習：吉村）
29. 各障害への訓練・指導⑫：認知症（演習：吉村）
30. 各障害への訓練・指導⑬：認知症（演習：吉村）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	J90113001
科目名	言語発達障害学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Child Language Disorders Ⅰ		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
授業概要	言語発達障害とは、さまざまな要因で話しことば（音声言語）の理解や表現、文字（書字）言語の理解や表現が、同一年齢集団の平均的な発達水準から有意に遅れている状態である。言語発達障害を呈する障害には知的障害、特異的言語発達障害、聴覚障害に伴うもの、自閉症や学習障害など発達障害、脳性麻痺に伴うもの、後天性障害に伴うものなど多岐にわたる。本講義では、健常発達（身体・運動・認知・ことば・社会性等）をふまえて、言語発達遅滞児に対する必要な知識を学ぶ。		
教材（教科書）	『言語発達障害学　第2版　（標準言語聴覚障害学)』　（医学書院）　藤田郁代　監修　5,000円 『言語発達遅滞検査マニュアル』　（エスコアール）　佐竹恒夫　他　著　4,500円		
教材（参考資料）	『言語聴覚療法臨床マニュアル　改訂第3版』(協同医書出版)　平野哲雄　他　編　7,344円 『21番目のやさしさに―ダウン症のわたしから』(かもがわ出版)　岩本綾　著　1,728円 『わが子は発達障害ー心に響く33編の子育て物語』(ミネルヴァ書房)　内山登紀夫　他　篇　2,000円 『自閉症の僕が跳びはねる理由』(角川文庫)　東田直樹　著　605円 『発達障害の僕が輝ける場所をみつけられた理由』(KADOKAWA)　栗原類　著　1,200円		
教育方法	パワーポインとビデオ教材を用いて講義をすすめる。各種検査の演習ではグループ形式で進める。		
評価方法	定期試験（50%）、小テスト（30%）、授業内発表、提出物とレポート（20%）		
到達目標	1.言語発達障害とその要因と症状について説明できる。 2.発達・知能・言語検査等の各検査の特徴を理解できる。 3.演習をとおして各検査が正しく実施できる。		
授業時間外学習	授業終了時に、次回の範囲に応じた用語調べの課題を出す。自主学習ノートにまとめて毎回提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

発達の時期にともなって表面化するさまざまな言語発達障害の特徴を理解する上で、複数の検査を演習します。演習では積極的に参加し、検査実施が正確にできるよう努めて下さい。

授業スケジュール

1．健常児の身体・運動・認知・社会性・言語の発達　（講義：橋本）
2．健常児の身体・運動・認知・社会性・言語の発達評価　（講義：橋本）
3．言語発達障害の原因とタイプ　（講義：橋本）
4．知的障害（脳性麻痺、重度心身障害、ダウン症　（講義：橋本）
5．知的障害とその評価　（演習：橋本）
6．社会性の障害（自閉症スペクトラム障害）　（講義：橋本）
7．社会性の障害とその評価　（演習：橋本）
8．聴覚障害とその評価　（講義：益田）　(12/15)
9．特異的言語発達障害・LD・ADHD・後天性言語障害の評価　（講義：益田）　(12/15)
10．発声発語の障害（運動性構音障害、機能性構音障害）　（講義：橋本）
11．発声発語の障害とその評価　（演習：橋本）
12．発達検査（新版K式、KIDS、遠城寺式、津守・稲毛式）　（講義：橋本）
13．発達検査（新版K式）の実施と解釈　（演習：弓削）
14．発達検査（KIDS、遠城寺式、津守・稲毛式）の実施と解釈　（演習：弓削）
15．知能検査（ビネー、WISC、WPPSI、K-ABC、Kohs）　（講義：橋本）
16．知能検査（WISC、WPPSI）の実施と解釈　（演習：橋本）
17．知能検査（ビネー、K-ABC、Kohs）の実施と解釈　（演習：弓削）
18．言語発達検査（PVT、S-S法、ITPA、LCスケール、読書力検査）　（講義：橋本）
19．言語発達検査（PVT、ITPA）の実施と解釈　（演習：弓削）
20．言語発達検査（S-S法）の実施　（講義：橋本）
21．言語発達検査（S-S法）の解釈　（講義：橋本）

２２．　言語発達検査（LC スケール）の実施と解釈　　（演習：弓削）
２３．　言語発達検査（読書力検査）の実施と解釈　（演習：弓削）
２４．　認知・発達検査（フロスティッグ、ベントン、ベンダーゲシュタルト）　（講義：橋本）
２５．　認知・発達検査（フロスティッグ）の実施と解釈　（演習：弓削）
２６．　認知・発達検査（ベントン、ベンダーゲシュタルト）の実施と解釈　（演習：弓削）
２７．　コミュニケーション行動評価（S-S 法、質問応答検査）　（講義：橋本）
２８．　コミュニケーション行動評価（S-S 法）の実施　（演習：弓削）
２９．　コミュニケーション行動評価（S-S 法）の解釈　（演習：橋本）
３０．　コミュニケーション行動評価（質問応答検査）の実施と解釈　（演習：弓削）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90114001
科目名	言語発達障害学Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Child Language Disorders Ⅱ		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
授業概要	「言語発達障害学Ⅰ」で学んだ知識を踏まえて、言語発達障害の原因別での評価方法について学ぶ。指導・訓練については、子どもの発達段階、障害特性の評価から、訓練プログラムの立案を行うことになる。訓練に至るまでの過程を理解し、環境調整も加えて、子どもの全体像を把握する。ビデオ分析や演習を通して、評価と訓練・指導を学修するとともに、検査の記録、検査結果や評価のまとめ、訓練記録、報告書など、臨床において必要な文書の書き方について学ぶ。		
教材（教科書）	『言語発達障害学第２版（標準言語聴覚障害学)』（医学書院）　藤田郁代　監修　5,000 円 『言語聴覚士のための言語発達遅滞訓練ガイダンス』（医学書院）　佐竹恒夫　他　編　3,700 円 『言語発達遅滞訓練マニュアル＜1＞』（エスコアール）　佐竹恒夫　他　著　2,500 円 『言語発達遅滞訓練マニュアル＜2＞』（エスコアール）　佐竹恒夫　他　著　3,800 円		
教材（参考資料）	『言語聴覚療法臨床マニュアル　改訂第３版』（協同医書出版）　平野哲雄　他　編　7,344 円		
教育方法	教科書にそった内容のパワーポイントで授業をすすめる。ビデオ教材も活用する。		
評価方法	定期試験（５０％)、実技の習熟度（３０％)、課題（２０％）		
到達目標	１．言語発達障害の原因別に評価に必要な情報収集ができる。 ２．発達段階や障害特性に応じた評価方法の選択ができる。 ３．評価・検査結果の解釈ができる。 ４．１～３に基づいた具体的な訓練プログラムの立案ができる。 ５．発達段階や障害特性に応じた指導方法の特徴を理解できる。		
授業時間外学習	授業終了時に次回の内容に関する調べ学習の課題を出すので、自己学習帳にまとめること。演習で充分修得ができなかった検査は次回までに正しくできるようにしてくること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

種々の検査について、授業時間以外にも自主的に演習を繰り返して身に付けて下さい。

授業スケジュール

１．言語発達障害児での情報収集と評価　（講義：橋本）
２．発達段階別の指導訓練①前言語期　（講義：橋本）
３．発達段階別の指導訓練②語彙獲得期　（講義：橋本）
４．発達段階別の指導訓練③幼児期　（講義：橋本）
５．発達段階別の指導訓練④学童期　（講義：橋本）
６．障害特性別の指導と訓練：知的障害児の評価と訓練　（講義：橋本）
７．知的障害児の指導方法論（マカトン法）　（講義：橋本）
８．知的障害児の評価　（演習：弓削）
９．知的障害児の訓練プログラムの立案　（演習：弓削）
１０．知的障害児の幼児期の指導と訓練　（演習：弓削）
１１．知的障害児の学童期の指導と訓練　（演習：弓削）
１２．障害特性別の指導と訓練：発達障害児の評価と訓練　（講義：橋本）
１３．発達障害児の指導方法論(TEACCH)　（講義：橋本）
１４．発達障害児の評価　（演習：弓削）
１５．発達障害児の訓練プログラムの立案　（演習：弓削）
１６．発達障害児の幼児期の指導と訓練　（演習：弓削）
１７．発達障害児の学童期の指導と訓練　（演習：橋本）
１８．特異的言語発達障害・後天性言語障害児の評価と訓練　（講義：橋本）
１９．特異的言語発達障害・後天性言語障害児の評価　（演習：橋本）
２０．特異的言語発達障害・後天性言語障害児の訓練プログラムの立案　（演習：弓削）
２１．特異的言語発達障害・後天性言語障害児の幼児期の指導と訓練　（演習：弓削）

２２．特異的言語発達障害・後天性言語障害児の学童期の指導と訓練　（演習：弓削）
２３．S-S 法をもとにした指導方法　（講義：足立）
２４．S-S 法をもとにした発達段階別評価　（演習：足立）
２５．S-S 法をもとにした発達段階別訓練プログラムの立案　（演習：足立）
２６．S-S 法をもとにした発達障害別指導と訓練　（演習：足立）
２７．S-S 法をもとにした障害特性別評価　（演習：足立）
２８．S-S 法をもとにした障害特性別訓練プログラムの立案　（演習：足立）
２９．S-S 法をもとにした障害特性別指導と訓練　（演習：橋本）
３０．語用論的アプローチをもとにした指導方法　（講義：橋本）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90115001
科目名	言語発達障害学Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Child Language Disorders Ⅲ		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
授業概要	「言語発達障害学Ⅱ」で学んだ様々な検査の用い方について、言語発達障害の疾患や発達段階別の事例検討による演習を通して理解を図る。指導・訓練については、発達段階、障害特性、個別的な特性に即した支援について実践的な演習を通して深める。個別の言語訓練プログラムの立案・実践についての演習では、経過表、訓練記録、報告書等をまとめることで、より実践に近い演習を行う。幼児期からの家庭療育指導や学童期以降の言語指導や関係機関との連携についても学ぶ。子どもを取り巻く環境や保護者支援についても総合的な演習を進める。		
教材（教科書）	『言語聴覚士のための言語発達遅滞訓練ガイダンス』（医学書院）　佐竹恒夫　他　著　3,700 円 『言語発達遅滞訓練マニュアル＜1＞』（エスコアール）　佐竹恒夫　他　著　2,500 円 『言語発達遅滞訓練マニュアル＜２＞』（エスコアール）　佐竹恒夫　他　著　3,800 円		
教材（参考資料）	『言語聴覚療法臨床マニュアル　改訂第３版』（協同医書出版）　平野哲雄　他　編　7,344 円		
教育方法	パワーポイントを用いて講義をすすめる。検査等の演習ではグループ形式をとる。		
評価方法	定期試験(50%)、実技の習熟度(30%)、授業内提出物およびレポート(20%)		
到達目標	１．検査や行動観察も含めた評価から、働きかけの目標や重点を理解し、個別の言語訓練プログラムの立案・実践までができる。 ２．事例検討では言語検査結果との関連性や事例の発達段階や障害特性、個別的な特性に合わせた報告書の作成ができる。 ３．訓練経過表、訓練記録、報告書等の作成が丁寧かつ正確にできる。 ４．家庭療育指導や関係機関との連携に必要な情報提供書等の作成ができる。		
授業時間外学習	授業終了時に次回の課題を伝えるので、材料やアイデアを複数考えてくること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

丁寧で正確な記録、報告書の作成に努めて下さい。

授業スケジュール

１．言語発達障害児や家族に対する直接的および間接的な援助　（講義：橋本）
２．初回面接：情報の収集　（演習：橋本）
３．初回面接：検査の選択　（演習：弓削）
４．身体・運動・認知・社会性の評価　（演習：橋本）
５．発達段階別言語評価　（演習：橋本）
６．障害特性別に評価　（演習：橋本）
７．個別的な特性の評価　（演習：弓削）
８．評価のまとめ　（講義：橋本）
９．評価のまとめの実施　（演習：弓削）
１０．訓練プログラムの立案　（講義：橋本）
１１．訓練プログラムの立案の実施　（演習：弓削）
１２．訓練プログラムの実施①　（演習：橋本）
１３．訓練プログラムの実施②　（演習：弓削）
１４．訓練の記録と経過表の作成　（講義：橋本）
１５．訓練の記録と経過表の作成の実施　（演習：弓削）
１６．報告書の作成　（演習：弓削）
１７．情報提供書の作成　（演習：弓削）
１８．学童期以降の長期観察経過　（演習：橋本）
１９．家庭療育上の指導　（講義：橋本）
２０．家庭療育上の指導の実施　（演習：橋本）
２１．保護者への支援と子どもを取り巻く環境　（講義：橋本）

２２．個別療育指導　（講義：足立）
２３．個別療育指導①情報の収集と検査の選択　（演習：足立）
２４．個別療育指導②評価　（演習：足立）
２５．個別療育指導③評価のまとめ　（演習：足立）
２６．個別療育指導④訓練プログラムの立案　（演習：足立）
２７．個別療育指導⑤訓練　（演習：足立）
２８．個別療育指導⑥家庭療育上の指導　（演習：橋本）
２９．集団療育指導　（講義：橋本）
３０．集団訓練プログラム　（演習：橋本）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90116001
科目名	重複障害学	単位数	1
科目名（英語表記）	Multiple Handicap		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
授業概要	小児の重複障害として、脳性麻痺、重度重複障害について理解を深める。脳性麻痺は脳損傷に由来する症候群であり、知的発達障害、視覚障害、聴覚障害、てんかん、視覚や聴覚の認知発達障害、情緒面や行動面の発達障害など二重三重の障害を合併していることがある。重複した障害をもつ子どもたちのことばの発達の特徴を理解し、コミュニケーション発達支援に必要な知識について学ぶ。また、ライフステージに沿った支援や家族支援について学ぶ。		
教材（教科書）	『言語発達障害学第２版（標準言語聴覚障害学)』　（医学書院）　藤田郁代　監修　5,000 円		
教材（参考資料）	『アドバンスシリーズ/コミュニケーション障害の臨床３脳性麻痺』　（協同医書）　日本聴能言語士協会講習会実行委員会編集　3,500 円		
教育方法	パワーポイントとビデオ教材を用いて講義を進める。検査の演習ではグループ形式をとる。		
評価方法	定期試験(50%)、小テスト３回実施(10%×３回)、授業内提出物とレポート(20%)		
到達目標	１．重複障害児の言語コミュニケーション障害の特徴を理解できる。 ２．重複障害児の認知、行動、情緒面の発達をライフステージから捉えることができる。 ３．プレスピーチ、摂食・嚥下訓練、拡大・代替コミュニケーション(AAC)といった訓練や支援方法をとおして重複障害児の障害特性を知る。		
授業時間外学習	授業終了時に、次回の範囲（教科書 p.**から p.***まで）を指定するので、予習しておくこと。調べ学習の用語を自主学習ノートにまとめてくること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
重要なポイントは授業中に重ねて解説するので、説明できるように自主学習に努めてください。			
授業スケジュール			
1.言語発達障害としての脳性麻痺　（講義：橋本） 2.脳性麻痺の重症度、タイプ、発達段階　（講義：橋本） 3.脳性麻痺の言語聴覚障害の特徴と評価法　（講義:橋本） 4.脳性麻痺の言語聴覚障害の評価①姿勢・呼吸　（演習：橋本） 5.脳性麻痺の言語聴覚障害の評価②聴覚　（演習：橋本） 6.脳性麻痺の言語聴覚障害の評価③発声・構音　（演習：弓削） 7.脳性麻痺の言語聴覚障害の評価④摂食・嚥下　（演習：弓削） 8.脳性麻痺の言語聴覚障害の評価⑤言語発達　（演習：弓削） 9.脳性麻痺の摂食・嚥下障害に対する指導・訓練　（講義：橋本） 10.脳性麻痺の摂食・嚥下指導・訓練の実施　（演習：弓削） 11.脳性麻痺の認知・行動・情緒面の発達とコミュニケーション支援　（講義：橋本） 12.拡大・代替コミュニケーション（AAC）　（講義：橋本） 13.拡大・代替コミュニケーション（AAC)の道具と使用　（演習：弓削） 14.盲聾との重複障害による認知・行動・情緒面の特徴　（講義：橋本） 15.多職種の連携と情報提供　（講義：橋本）		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90117001
科目名	音声障害学	単位数	2
科目名（英語表記）	Voice Disorders		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
授業概要	音声障害は声の異常であり、喉頭の病変だけでなく呼吸の制限や精神的要因が背景にあることもある。発声の基本をもとに、声の異常を考えることが、病態を理解し適切な治療を考えるうえで大切である。本講義では、ヒトの声の異常とその起源の多様性を示し、基本的な評価と治療の解説をする。演習では、声の評価（聴取印象：声の大きさや高さ、ふるえ、嗄声など、生理検査：内視鏡や空気力学的計測)、喉頭の外科的治療、音声治療、無喉頭音声とリハビリテーションについて、症例の画像を提示して解説する。		
教材（教科書）	『改訂音声障害』 （建帛社） 苅安誠・城本修 編 3,348 円 『新耳鼻咽喉科学 改訂１１版』 （南山堂） 切替一郎 著 17，280 円		
教材（参考資料）	『声のなんでも小事典』 （講談社ブルーバックス） 和田美代子 著 950 円 『新図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科講座：口腔・咽頭・喉頭・気管・食道』 （メディカルビュー社） 山下敏夫 編 19,440 円		
教育方法	補足資料は講義・演習で配布し、講義形式で行う。		
評価方法	定期試験（80%） 演習レポート（20%）		
到達目標	1.発声の仕組みを説明することができる。 2.声の異常の背景にある病態を理解する。 3.声の評価を実践することができる。 4.発声の訓練と指導の要点を知る。		
授業時間外学習	教科書の該当部分を読んでおく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

声の異常とそのリハビリテーションについて興味関心を持ってほしい。
ノートを５冊用意する：
１）講義演習のメモ
２）声の評価
３）発声の仕組み
４）口腔咽頭喉頭の解剖生理と神経支配
５）音声障害の原因と特徴

授業スケジュール

1 音声コミュニケーションの特徴と社会生活での声の重要性 （講義：苅安）
2 ライフスパンでの声の異常とその起源の多様性 （演習：苅安）

3 声の評価 （講義：苅安）
4 声質の聴取印象 （演習：苅安）

5 声の高さや大きさとその安定性の聴取印象 （演習：苅安）
6 声の音響分析 （演習：苅安）

7 口腔咽頭の解剖 （講義：久）
8 喉頭の生理 （講義：久）

9 喉頭の神経支配、発声の仕組み （講義：久）
10 口腔・咽頭・喉頭（演習：久）

11 喉頭の内視鏡検査 （演習：久）
12 喉頭のストロボスコピー（演習：久）

13 音声障害をきたす重要な疾患の診断と治療：奇形・炎症　（講義：久）
14 音声障害をきたす重要な疾患の診断と治療：非腫瘍性腫瘤病変　（講義：久）

15 音声障害をきたす重要な疾患の診断と治療：喉頭麻痺　（講義：久）
16 音声障害をきたす重要な疾患の診断と治療：喉頭癌　（講義：久）

17 喉頭微細手術の実際　（講義：久）
18 気管切開術と気管カニューレの管理（講義：久）

19 無喉頭での音声再獲得手術　（講義：久）
20 無喉頭患者の管理　（演習：久）

21 発声と声道の空気力学　（講義：苅安）
22 呼気流量と声門下圧の計測　（演習：苅安）

23 音声治療の方法　（講義：苅安）
24 音声治療の手技（演習：苅安）

25 変声障害への音声治療　（講義：苅安）
26 喉頭病変への音声治療　（講義：苅安）

27 過緊張発声への音声治療（講義：苅安）
28 姿勢の評価と整え方　（演習：柳田）

29. 痙攣性発声障害の治療　（講義：苅安）
30 無喉頭での代用音声のリハビリテーション　（演習：苅安）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90118001
科目名	構音障害学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Speech Disorders Ⅰ		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
授業概要	構音障害は、正確に音声を作ることができない状態で、神経系の異常、構造上の問題、発音器官の誤った操作が背景にある。本講義では、発声発語の基本的事項（神経と筋活動、運動と声道空気力学）を提示し、発声発語の評価方法を提供する。神経病理と運動異常の理解をはかり、運動性構音障害を診る際の基本的方法と考え方、治療の方法について、代表的な症例をあげながら、解説をする。演習では、発声発語の評価、発声発語器官の観察、病態生理の理解、治療方法の選択と実施方法について学ぶ機会を提供する。		
教材（教科書）	『神経原性発声発語障害 dysarthria』　（医歯薬出版）　苅安 誠　著　7,200 円＋税 『みるトレ神経疾患』　（医学書院）　岩崎 靖　著　3,800＋税 『言語聴覚法ー臨床マニュアル第３版・第６部』　（協同医書出版社）　平野哲雄　他　編　7,344 円		
教材（参考資料）	『運動性構音障害：基礎・鑑別診断・マネージメント』　（医歯薬出版）　Duffy　著　９０００円＋税 『発話障害へのアプローチ、第３章成人の構音障害』　（インテルナ出版）　廣瀬肇（監修）　４９００円＋税 『臨床神経内科学、改訂６版』　（南山堂）　平山恵造（監修）　１５０００円＋税		
教育方法	必要な資料を提供し、講義形式で行う。		
評価方法	定期試験（80%）　神経疾患レポート（10%）　実技試験（10%）		
到達目標	1　構音障害の分類と特徴について理解をする。 2　構音の評価について基本的方法を身につける。 3　発声発語の解剖生理と神経学的基盤を知る。 4　dysarthria の神経病理と音声特徴を理解する。 5　dysarthria 患者に対する評価とリハビリテーションを学ぶ。		
授業時間外学習	講義演習に該当する教科書や参考文献等を前後に読む。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ノートを５冊用意する。２冊目以降は宿題。
１冊目：講義・演習でのノートテイキング。
２冊目：構音の構えと運動、神経・筋など。
３冊目：構音の評価。
４冊目：dysarthria の定義とその特徴など。
５冊目：dyarthria をきたす脳神経疾患と状態。

授業スケジュール

０１　発声発語の生理　（講義：苅安）
０２　発声発語への神経系の関与　（講義：苅安）
０３　音声言語コミュニケーションの特徴と発話困難　（講義：苅安）
０４　標準的な問診と発話の聴取印象　（講義：苅安）
０５　音声課題と音声特徴　（講義：苅安）
０６　音声課題の実施と音声特徴の記述：声　（演習：弓削）
０７　音声課題の実施と音声特徴の記述：共鳴　（演習：弓削）
０８　音声課題の実施と音声特徴の記述：構音と韻律　（演習：弓削）
０９　口腔顔面の観察　（講義：苅安）
１０　口腔顔面の観察の実施　（演習：弓削）
１１　最大能力試験　（講義：苅安）
１２　最大能力試験の実施　（演習：弓削）
１３　発話明瞭度の評価　（講義：苅安）
１４　発話明瞭度の評価の実際　（演習：弓削）
１５　運動性構音障害の臨床特徴と疫学　（講義：苅安）

１６	神経病理と運動異常の関連性　（講義：苅安）
１７	代表的な疾患と運動・音声所見①　（講義：苅安）
１８	代表的な疾患と運動・音声所見②　（講義：苅安）
１９	鑑別診断　（講義：苅安）
２０	神経疾患の経過と予後　（講義：苅安）
２１	運動性構音障害を診る際の基本的方法と考え方　（講義：苅安）
２２	運動性構音障害のマネージメントの原則　（講義：苅安）
２３	治療の基本と代表的な方法　（講義：苅安）
２４	訓練の目標と課題の設定　（講義：苅安）
２５	訓練の組み立て　（演習：弓削）
２６	訓練課題の作成　（演習：弓削）
２７	症例検討：主訴・音声所見と病態生理　（演習：苅安）
２８	症例検討：治療方法の選択　（演習：弓削）
２９	症例検討：訓練とその経過　（演習：弓削）
３０	症例検討：現実的な問題と対策　（演習：苅安）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★★	－	－	★

年度	2018	授業コード	J90119001
科目名	構音障害学II	単位数	1
科目名（英語表記）	Speech Disorders II		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
授業概要	構音障害は、運動性構音障害、器質性構音障害、機能性構音障害に大別される。「構音障害学Ｉ」を踏まえ、本講義では、先天性の奇形（口唇口蓋裂など）、腫瘍とその切除（口腔中咽頭がん、主に舌がん）に伴う器質性構音障害を扱う。構造上の異常を修復するための外科的方法と歯科補綴治療、構音の評価、構音訓練の基本的な方法を解説する。演習では、訓練材料と具体的手技、形態異常の記録法等を学ぶ機会を学生に提供する。		
教材（教科書）	『臨床歯科学・口腔外科学 第２版』　（医歯薬出版）　道健一　他　著　4,536 円　（前年後期に購入済み）		
教材（参考資料）	『新よくわかる顎口腔機能』（医歯薬出版）　日本顎口腔機能学会（編）　8640 円 『口腔・中咽頭がんのリハビリテーション』（医歯薬出版）　溝尻源太郎・熊倉勇美著　５１８４円 『言語治療ハンドブック』（医歯薬出版）　伊藤元信他（編）　６９１２円		
教育方法	適宜、資料を配布し、講義形式で行う。		
評価方法	定期試験（１００％）		
到達目標	１．　器質性構音障害の原因と特徴を知る。 ２.口腔の機能とその異常を理解する。 ３．口腔の観察方法を知り実践できる。 ４.構音の評価について理解をして実践ができる。 ５.奇形（口唇口蓋裂）や口腔・中咽頭癌の問題とリハビリテーションを知る。 ６.器質性の構音障害の指導の原則と方法を理解する。		
授業時間外学習	口腔器官の解剖をイラスト化して名称と位置を調べておく。 該当する講義・演習内容について、あらかじめ教科書・参考書を読んでおく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

臨床例を想定して、原因の理解、評価方法の選択、指導・訓練の実践を考えて講義・演習に臨むこと。

授業スケジュール

０１　構音障害の類型と臨床特徴　（講義：苅安）
０２　器質性構音障害の原因（代表的な疾患や状態）と発声発語の特徴　（講義：苅安）
０３　器質性構音障害での特別な評価　（講義：苅安）
０４　構音の聞き取り判定と記録①　（演習：弓削）
０５　構音の聞き取り判定と記録②　（演習：弓削）
０６　空気力学的計測の実施　（演習：弓削）
０７　口腔構音運動の観察：パラトグラフィー　（演習：弓削）
08　構音訓練：基本的な訓練と指導の方法　（講義：苅安）
09　構音訓練のプログラム作成と実施　（演習：弓削）

集中講義（４月１３日、１４日）
10　器質性構音障害の原因（奇形と腫瘍）とその診断・治療　（講義：小野）
11 口腔顔面の観察　（演習：小野）
12　口腔器官の変化に伴う構音と嚥下の問題　（講義：小野）
13　外科的方法と歯科補綴的治療（口蓋補助床ＰＡＰ等）　（講義：小野）
14　舌運動の観察　（演習：小野）
15　補綴的治療の前後での構音と舌の運動の変化　（講義：小野）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★★	★	−	★

年度	2018	授業コード	J90120001
科目名	構音障害学Ⅲ	単位数	1
科目名（英語表記）	Speech Disorders Ⅲ		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
授業概要	子どもは母国語の発音を学習し、就学前にはすべての言語音をマスターする。ただし、学習過程での不具合により、発音を修得できずに異常を呈する状態を、機能性の構音障害と呼ぶ。聴こえの異常や言葉の発達の遅れによっても発音ができないことがあるので、鑑別診断が重要である。本講義では、「構音障害学Ⅰ」と「構音障害学Ⅱ」を踏まえ、機能性の構音障害の特徴、構音の検査方法と評価、口腔顔面の観察方法、構音の訓練と指導の方法について、基本的情報を提供する。演習では、構音の評価、訓練での材料と手続きについて、学ぶ機会を提供する。		
教材（教科書）	『構音障害の臨床』　（金原出版）　阿部雅子　著　2,592 円		
教材（参考資料）	『言語聴覚療法ー臨床マニュアル第３版』　（協同医書）　7,344 円		
教育方法	講義形式と演習を適時、組み合わせて行う。		
評価方法	定期試験（６０％）　　レポート２本（４０％）		
到達目標	１．機能性構音障害の原因や要因を知る ２．構音の検査と誤りの分析ができる ３．構音訓練の基本的方法を理解する		
授業時間外学習	予習と復習をしておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
正常な母音や子音の生成の仕組み（神経・筋肉、構えと運動、呼気流と圧、音響特徴）についてノートを作り理解をはかること。構音の評価と進め方、標的音別の構音の誘導については、練習をくり返し行っておくこと。			
授業スケジュール			
０１　構音の発達についてのユニバーサルと日本語音声の特性　（講義：苅安） ０２　機能性の構音障害の考えられる原因と特徴　　（講義：苅安） ０３　構音の検査方法と評価の基本　　（講義：苅安） ０４　幼児・学童に対しての口腔顔面の観察の方法とそのポイント　（講義：苅安） ０５　機能性構音障害の症例での誤り音の判定①　　（演習：弓削） ０６　機能性構音障害の症例での誤り音の判定②　　（演習：弓削） ０７　構音の訓練と指導の標準的な方法（非言語性の操作、聞き取り弁別など）　　（講義：苅安） ０８　構音訓練での目標音の誘導の方法①　　（演習：弓削） ０９　構音訓練での目標音の誘導の方法②　　（演習：弓削） １０　構音訓練での目標音の誘導の方法③　　（演習：弓削） １１　音の誤りについての訓練・指導プラン作り①　　（演習：弓削） １２　音の誤りについての訓練・指導プラン作り②　　（演習：弓削） １３　症例問題①　　（演習：弓削） １４　症例問題②　　（演習：弓削） １５　症例問題③　　（演習：弓削）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	J90121001
科目名	嚥下障害学	単位数	2
科目名（英語表記）	Dysphagia		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
授業概要	嚥下困難（障害）は病状であり、多様な原因によって起こる。高齢化により嚥下困難の訴えは多く、脳卒中、先天的障害、がん、頸椎症などは、ほとんどの診療科と共同して評価診断、治療が行なわれる。講義では、嚥下のしくみ、摂食と嚥下、嚥下の評価、嚥下障害の分類と治療、手術、嚥下訓練の基本的情報を提供する。演習では、嚥下の評価（スクリーニング、内視鏡的観察と病態説明、嚥下造影検査での所見と病態説明)、嚥下訓練の手技を取り上げる。		
教材（教科書）	『嚥下障害の臨床、第２版』　（医歯薬出版）　日本嚥下障害臨床研究会編　6,400 円＋税		
教材（参考資料）	『新耳鼻咽喉科学 改訂第１１版』　（南山堂）　切替一郎　著　17,280 円 『耳鼻咽喉科・頭頸部外科研修ノート　改訂第２版』　（診断と治療社）　久育男　他　著　8,100 円		
教育方法	適宜、資料を配布し、講義形式と演習を組み合わせて行う。		
評価方法	筆記試験（７０％）　　レポート（３０％）		
到達目標	1　嚥下の仕組みを理解する。 2　嚥下困難の原因と要因を知る。 3　嚥下障害の診断と治療の概要を理解する。 4　嚥下機能評価のスキルを身につける。 5　嚥下リハビリテーションの基本を知る。		
授業時間外学習	予習と復習をする。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ノートを５冊用意する：
１）講義演習のメモ
２）嚥下の解剖生理（イラスト描き）
３）嚥下の評価
４）嚥下困難の病態生理
５）嚥下の治療・リハビリテーション

授業スケジュール

０１　嚥下困難とその問題：合併症（肺炎、脱水、低栄養）　　（講義：苅安）
０２　嚥下のしくみ：　嚥下器官の構え動きと食塊の移送　　（講義：苅安）

０３　嚥下のしくみ：　造影画像、模型、モデル　　（演習：苅安）
０４　嚥下のしくみ：　グループで説明　　（演習：苅安）

05 嚥下困難の背景　　（講義：苅安）
06 嚥下関連の評価：病歴・情報と身体観察　　（講義：苅安）

07 嚥下のスクリーニング　　（講義：外山）
08　スクリーニング・テストの実際　　（演習：外山）

09　嚥下造影検査：実施要領と代表的所見　　（演習：苅安）
10　嚥下造影の所見と病態説明①　　（演習：苅安）

11　嚥下造影の所見と病態説明②　　（演習：外山）
12　嚥下リハビリテーションの全体像　　（講義：苅安）

13　嚥下訓練の基本的方法　　（講義：外山）

14　嚥下訓練での姿勢調整　（演習：外山）

15　嚥下訓練の手技　（演習：外山）
16　誤嚥に対しての対応：吸引実際　（演習：山田）

17　症例検討：評価と治療の課題①　（演習：外山）
18　症例検討：評価と治療の課題②　（演習：外山）

19　嚥下のしくみ、　嚥下障害の原因と分類　（講義：久）
20　嚥下障害の診断手順　（講義：久）

21 嚥下内視鏡の実際　（演習：久）
22　内視鏡画像の観察記録　（演習：久）

23　内視鏡による嚥下の観察記録　（演習：外山）
24 人工的栄養水分補給の選択と課題　（演習：苅安）

25 嚥下障害の治療：チームアプローチ　（講義：久）
26　嚥下障害の治療：外科的治療　（講義：久）

27 高齢者の嚥下障害への対応　（講義：久）
28 嚥下障害と在宅医療　（講義：久）

29　嚥下障害診療における Q&A その１　（演習：久）
30　嚥下障害診療における Q&A その２　（演習：久）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90122001
科目名	吃音学	単位数	1
科目名（英語表記）	Stuttering		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
授業概要	吃音は、特有の非流暢な発話（くり返し、引き伸ばし、ブロック）とともに、身体随伴症状（むがき、手足の動きなど）や心理的反応（工夫、予期や回避など）を呈する言語障害である。原因はいまだに不確かではあるが、基本的な評価と治療法については示されている。本講義では、吃音の症候論（疫学と主要症状、原因と要因)、特徴（言語面と他の側面)、発話の評価、治療方法について、基本的な情報を提供する。演習では、発話の分析と治療の手技について、学生が学ぶ機会を与える。		
教材（教科書）	『発話障害へのアプローチ』　（インテルナ出版）　廣瀬肇　監修　5,292 円		
教材（参考資料）	『言語聴覚療法ー臨床マニュアル（第３版)』　（協同医書）　7,344 円		
教育方法	講義形式と適時、演習を行う。		
評価方法	レポート（50%）　小テスト（50%）		
到達目標	1　吃音の起源と現象を理解する。 2　吃音の疑いのある小児・成人の評価を行うことができる。 3　適切な助言、指導、訓練を提案することができる。		
授業時間外学習	教科書をあらかじめ読んで授業に臨むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業、演習課題を通じて、基本的事項の理解と臨床スキルの修得を心がける。			
授業スケジュール			
１．吃音の定義と疫学　（苅安） ２．臨床特徴と原因論　（苅安） ３．発話の評価と吃音の鑑別診断　（苅安） ４．発話の分析と訓練の手技　（苅安） ５．治療の方法と有効性　（苅安） ６．小児と成人の吃音症例での評価と訓練経過　（苅安） ７．吃音を演じての気持ち　（苅安） ８・ 発話の分析　（苅安） ９．吃音の症状面の特徴　（川合） １０．吃音の心理面・態度面の特徴　（川合） １１．吃音に関する理論　（川合） １２．吃音の診断・評価　（川合） １３．発話症状面・発話症状面以外の評価　（川合） １４．吃音の臨床（概論）　（川合） １５．多面的・包括的アプローチ　（川合）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90123001
科目名	聴覚検査学	単位数	2
科目名（英語表記）	Diagnostic Audiology		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
授業概要	聴覚検査のおもな目的は聴覚障害の性質・程度の把握と難聴疾患の鑑別診断にある。各種聴覚機能検査法について、目的、原理、結果の判定法について体系的に学修し、その直後に実習を行う。聴覚障害の評価・診断に必要な聴覚検査法を目的、症例に応じて選択、実施でき、結果の判定が行えるようになることを目標とする。特に重要な純音聴力検査、語音聴力検査、乳幼児聴力検査については、少人数でのグループ実習により実技の習熟を図る。		
教材（教科書）	『聴覚検査の実際　（改訂 4 版)』　（南山堂）　日本聴覚医学会 編 3672 円		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	講義内容のプリントを配布し、講義はスライドを用いて行う。講義の次の回でその内容の実習を行い理解の促進を図る。		
評価方法	小テストと提出物（40%），定期試験（60%）		
到達目標	1. 各種聴覚機能検査法とその診断的意義について体系的に理解し、演習を通して実技に習熟する。 2. 聴覚障害の評価に必要な聴覚検査法を症例に応じて選択でき、結果の判定が行える。		
授業時間外学習	講義プリント等で、できるだけ前回の講義の内容を復習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

体調を整えて授業に臨み、授業内容を時間内に理解してしまうことに集中してほしい。それを促すために、小テストを頻回に行う。

授業スケジュール

01. 聴覚伝導路の解剖・生理（講義）
02. オージオメータ，オージオグラム（講義）
03. 純音気導・骨導聴力検査法（講義）
04. 聴力検査におけるマスキング法（講義）
05. 純音聴力検査（演習１）
06. 純音聴力検査（演習２）
07. マスキング法（演習 1）
08. マスキング法（演習２）
09. 語音聴力検査法１（講義）
10. 語音聴力検査法２（講義）
11 .語音聴力検査（演習１）
12. 語音聴力検査（演習２）
13. 聴力検査実技評価（演習１）
14. 聴力検査実技評価（演習２）
15. 閾値上聴力検査（講義）
16. インピーダンス・オージオメトリー（講義）
17. 誘発反応聴力検査（講義）
18. 耳音響放射、機能性難聴の検査（講義）
19. 閾値上聴力検査（演習１）
20. 閾値上聴力検査（演習２）
21. インピーダンス・オージオメトリー（演習１）
22. インピーダンス・オージオメトリー（演習２）
23. 誘発反応聴力検査（演習１）
24. 誘発反応聴力検査（演習２）
25. 耳音響放射の検査（演習）
26. 機能性難聴の検査（演習）

27. 聴覚障害の基準・選別聴力検査（講義）
28. 耳鳴とその検査・カウンセリング（講義）
29. 鼓膜の観察（演習）
30. 各種聴覚検査による難聴の診断（演習）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90124001
科目名	補聴器・人工内耳	単位数	2
科目名（英語表記）	Hearing Aids and Cochlear Implant		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
授業概要	聴覚のリハビリテーションは適切な補聴が前提となる。これに必要な補聴器・人工内耳の適合の基礎知識と実技を修得する。人工内耳を含めた種々の補聴機器について、その原理・構造と特性測定、フィッティング調整、適合判定、補聴補助機器の使用等について学び、実習を行う。実際の難聴症例について、補聴機器の適応の有無を判定し、患者の多様性に合わせて、種々の補聴機器のバリエーションの中から最適なものを選択して特性を測定し、基本調整を行ったうえで、適合状態を正確に評価できるようになることを目標とする。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	『聴覚障害学（第２版)』　（医学書院）　中村公枝　他 編 5616 円		
教育方法	講義内容のプリントを配布し、講義はスライドを用いて行う。講義の次の回でその内容の実習を行い理解の促進を図る。		
評価方法	小テストと提出物（40%)、定期試験（60%）		
到達目標	難聴者の個々の聴覚障害の性質と日常生活のニードに合わせて、適切な補装具を選択し、適合することができる。		
授業時間外学習	前回の講義の内容を復習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

体調を整えて授業に臨み、授業内容を講義時間内に理解してしまうことに集中してほしい。それを促すために、小テストを頻回に行う。

授業スケジュール

０１　補聴器の種類と構造　（講義）
０２　補聴器の音響特性とその測定　（講義）
０３　カップリングシステム、イヤモールド用耳型の採取　（講義）
０４　イヤモールド用耳型の採取の実施　（演習）
０５　補聴器の特性検査の実施①2G×AM,PM　（演習）
０６　補聴器の特性検査の実施②　2G×AM,PM　（演習）
０７　成人の補聴器フィッティング　（講義）
０８　補聴器適合検査（指針 2010）　（講義）
０９　補聴器の調整①　2G×AM,PM　（演習）
１０　補聴器の調整②　2G×AM,PM　（演習）
１１　種々のデジタル信号処理機能を持つ補聴器　（講義）
１２　デジタル補聴器フィッティングの実際（演習）
１３　人工内耳①　原理と特徴　（講義）
１４　人工内耳②　適応と評価　（講義）
１５　装用効果の評価①　音場較正と挿入イヤホンの較正　3G-AM,AM（演習）
１６　装用効果の評価②　音場較正と挿入イヤホンの較正　3G-AM,AM（演習）
１７　装用効果の評価③音場検査１　3G×AM,PM（演習）
１８　装用効果の評価④音場検査２　3G×AM,PM（演習）
１９　室内音響と音声聴取（雨天→２５と入替）　４G　（講義・演習）
２０　補聴器装用の実際１　４G（演習）
２１　補聴器装用の実際２　患者２名、２G（演習）
２２　補聴器装用の実際３　患者２名、２G（演習）
２３　補聴器装用の実際４　患者２名、２G（演習）
２４　補聴器装用の実際５　患者２名、２G（演習）

２５	装用効果の評価⑤実耳測定　　2G-AM, PM（演習）
２６	装用効果の評価⑥実耳測定　　2G-AM, PM（演習）
２７	人工内耳③　最近の進歩（講義）
２８	人工中耳、骨導埋め込み補聴器、聴性脳幹インプラント（講義）
２９	補聴補助機器、小児の補聴器適合（講義）
３０	補聴の社会的側面　　、補聴にかかわる諸問題　　（講義）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90125001
科目名	小児聴覚障害学	単位数	2
科目名（英語表記）	Aural Rehabilitation in Children		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
授業概要	小児期に生じる聴覚障害は、その障害の発症時期によって言葉の獲得に大きな影響を与える。さらに言葉だけでなく、人と人とのコミュニケーションの基盤となる対人関係や社会性などにも大きく影響するといわれている。本講義では、小児期特有の問題（聴覚障害の原因、難聴の程度による問題、聴覚障害を生じた年齢による影響、小児期に生じやすい耳鼻咽喉科の疾患など）を概説し、補聴器や人工内耳などの補装具の成り立ちや使用法、またそれらを用いての言語習得法についても提示する。演習では、発達によって異なる聴力検査法を学生に提示し、実施法を修得させる。		
教材（教科書）	『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第２版』 （医学書院） 中村公枝 他 編 5,616 円		
教材（参考資料）	『言語聴覚療法臨床マニュアル改訂３版』 （協同医書出版） 平野哲雄 他 編 6,800 円		
教育方法	音域が異なる楽器（鈴、ラッパ、太鼓、トライアングルなど)、デモ用の補聴器や人工内耳機器、患者さんのＤＶＤなどを適時用いて、講義と演習を行なう。		
評価方法	小テスト２回実施(20%x２回、計４０%)、定期テスト(６０%)		
到達目標	1）学生は乳幼児期に生じる難聴の原因等について述べることができる。 2）学生は発達年齢に応じた聴力検査の選択及び実施ができる。 3）学生は必要な補装具（補聴器や人工内耳）についての部位の名称や機能を述べることができる。 4)学生は聴覚障害児の障害特性を理解し、検査の実施ができる。 5)学生は聴覚障害児を抱える保護者の気持ち、聴覚障害児自身の気持ちを考えることができる。		
授業時間外学習	１）聴こえが悪いとどんな事が困るかを考えてみる。 ２）世の中の様々な音を知り、その大きさや高さを考える。 ３）補聴器や人工内耳を装用している聴覚障害児・者に対して自分は何ができるかを考える。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１）準備学習欄にも記載したが、世の中には様々な音があることに気付き、その大きさや高さについても興味を持ってほしい。
２）授業に先立って、障害児を抱える親御さんの手記などを読んで欲しい。
３）聴覚障害を持つ人にどんなサポートができるかを考えて欲しい。

授業スケジュール

1.小児期特有のきこえの問題と新生児スクリーニング （講義：能登谷）
2.小児期特有の聴覚の問題と発症年齢（講義：能登谷）
3.小児聴覚障害のコミュニケーション手段（講義：能登谷）
4.乳幼児期の聴力検査：BOA と COR（講義：能登谷）
5.乳幼児期の聴力検査：BOA の実施（演習：橋本）
6.乳幼児期の聴力検査：COR の実施（演習：橋本）
7.幼児期の聴力検査：peep show test と数遊び（講義：能登谷）
8.幼児期の聴力検査：peep show test の実施 （演習：橋本）
9.幼児期の聴力検査：数遊びの実施（演習：橋本）
10.小児聴覚障害における補装具と福祉制度（講義：橋本）
11.幼児期に使用する補聴器のしくみと調整法（講義：能登谷）
12.補聴器装用時の調整の実施（演習：橋本）
13.人工内耳のしくみとマッピング法（講義：能登谷）
14.人工内耳のマッピングの実施（演習：橋本）
15.人工内耳装用時の聞こえとことばの評価の実施（演習：能登谷）
16.補装具を装用した時の聴力検査（講義：橋本）
17.補装具を装用した時の聴力検査の実施（演習：橋本）
18.乳幼児期から幼児期の発達検査の実施（演習：能登谷）
19.幼児後半から就学以降の言語検査（WISC）（講義：橋本）

20.幼児後半から就学以降の言語検査（WISC）の実施(演習：橋本）
21.幼児後半から就学以降の言語検査（PVT-R, 読書力検査）(講義：橋本）
22.幼児後半から就学以降の言語検査（PVT-R）の実施（演習：橋本）
23.幼児後半から就学以降の言語検査（読書力検査）の実施（演習：橋本）
24.聴覚障害例の検査評価と軽度例の指導立案 （講義：能登谷）
25.軽度例の指導立案の実施（演習：能登谷）
26.聴覚障害例の検査評価と中度例の指導立案（講義：能登谷）
27.中度例の指導立案の実施（演習：能登谷）
28.聴覚障害例の検査評価と重度例の指導立案 （講義：能登谷）
29.重度例の指導立案の実施（演習：橋本）
30.聴覚障害者の長期経過観察（講義：能登谷）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	–	–	–	★★	–

年度	2018	授業コード	J90126001
科目名	成人聴覚障害学	単位数	1
科目名（英語表記）	Aural Rehabilitation in Adults		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
授業概要	成人の聴覚障害では先天性聴覚障害、中途失聴の場合、老人性難聴、盲聾、知的障害と難聴などの重複障害について学ぶ。先天性聴覚障害では手話、指文字、口話などのコミュニケーション手段による違いを理解する。中途失聴の場合には、失聴した年齢による問題の差とその対応についても概説する。盲聾においては、障害発生の順序により対応がことなることについて学ぶ。また、補装具として補聴器や人工内耳の装用指導などを演習も含めて講義する。		
教材（教科書）	『聴覚障害学（標準言語聴覚障害学）第２版』　（医学書院）　藤田郁代　監修　5,200 円		
教材（参考資料）	手記 『音から隔てられて一難聴者の声』　（岩波新書）入谷仙介、林瓢介　編　778 円 『あなたの声が聴きたい』　（文理閣）　藤田保、西原泰子　編　2,052 円 『冬芽を想う一難聴者とその支援者による体験談集』　（全日本難聴者・中途失聴者団体連合）　1,296 円 解説書 『中途失聴者と難聴者の世界』　（一橋出版）　山口利勝　著　2,468 円		
教育方法	教科書にもとづきパワーポイントで授業を進める。教科書の内容以外で必要な資料は配布する。		
評価方法	定期試験(60%)、授業内小テスト等による平常点(30%)、レポート(10%)		
到達目標	１．疾患別に聴覚障害の特徴を理解できる。 ２．先天性聴覚障害のコミュニケーションの種類や中途失聴に伴うコミュニケーションと心理的な問題を知る。 ３．成人聴覚障害のコミュニケーション支援と援助について理解する。 ４．補聴器や人工内耳装用後の指導について学習する。 ５．先天性聴覚障害の成人期のリハビリテーションについて理解する。 ６．重複障害例のコミュニケーションの問題と指導について学習する。		
授業時間外学習	指定された次回の範囲（教科書 p.**から教科書 P.***まで）や配布資料を読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義内容は演習をとおして理解を深めます。時間中に講義をしっかり理解するように努めて下さい。

授業スケジュール

１．疾患別にみた成人聴覚障害の特徴　（講義：松平）
２．成人聴覚障害の症例　（演習：松平）
３．先天性聴覚障害のコミュニケーションの種類　（講義：能登谷）
４．中途失聴者のコミュニケーションと心理　（講義：能登谷）
５．難聴疑似体験　（演習：能登谷）
６．難聴疑似体験の考察　（演習：能登谷）
７．心理面の評価法　（講義：能登谷）
８．コミュニケーションの支援と援助①　（講義：能登谷）
９．コミュニケーションの支援と援助②　（講義：能登谷）
１０．補聴器・人工内耳装用後の指導　（演習：能登谷）
１１．成人の先天性聴覚障害者のリハビリテーション　（講義：橋本）
１２．重複障害者のコミュニケーション指導　（講義：橋本）
１３．盲聾の疑似体験　（演習：橋本）
１４．盲聾や知的障害の合併例　（演習：橋本）
１５．視覚・聴覚二重障害のリハビリテーション　（講義：橋本）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J90127001
科目名	音声言語医学	単位数	1
科目名（英語表記）	Medical Speech-Language Pathology		
担当者名	益田　慎	旧科目名称	
授業概要	音声言語障害の診察では、医師は言語聴覚や摂食嚥下の専門家である言語聴覚士と連携して評価・診断と治療方針を示す。本講では、音声言語障害や嚥下障害と密接にかかわる耳鼻咽喉科医師や神経内科医師が、音声言語障害の診断の過程と治療の意思決定について、基本的な事項を解説する。実際の診療場面で経験した臨床例を題材に、診断・評価、治療と経過での、言語聴覚士の関わりについても説明する。現状では、言語聴覚障害や摂食嚥下障害に精通している医師は数少なく、専門的な医師と一般の医師での、障害のとらえ方と臨床的な対応についても学ぶ機会となる。		
教材（教科書）	講義形式で行なう。		
教材（参考資料）	音声言語障害学、聴覚障害学、言語発達学などの教科書。		
教育方法	事前に資料を配布し、講義形式とする。		
評価方法	レポート　50% プレゼンテーションとディスカッショッン　50%		
到達目標	1　症例の情報を整理してプレゼンテーションができる。 2　症例の病態を考えて合理的な仮説の説明ができる。 3　病態をさらに理解するために医師に検査などを提案できる。 4　成人と小児の音声言語障害の鑑別点を踏まえて、症例での病態を説明できる。 5　症例に対してのリハビリテーション、言語聴覚療法（セラピー）の視点を持つことができる。		
授業時間外学習	事前に提示される症例の主訴、病歴、初診時所見の概略をもとに、学生はグループに分かれ、それぞれ担当症例について、課題を予習し、授業当日 1 講目に行うプレゼンテーションを用意すること。それぞれの症例において、病態の説明、鑑別の必要性、医科の介入とリハビリテーション、言語聴覚療法を立案するために必要な医学的検査を医師に提言、結果をどのように解釈するのかを考案しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

事前に提供される情報の保守管理をすること。
症例のプレゼンテーション、ディスカッションの準備をグループ、個別で進めておくこと。

授業スケジュール

西澤：発声障害、構音障害、嚥下障害、聴覚障害の領域から症例を提示し、医師と言語聴覚士が協同で、評価、診断、医科的治療方針の決定と、リハビリテーション方針の策定を行うために必要な手順を演習形式で学ぶ。
1 講目：予習課題のプレゼンテーション。グループごとに、担当症例の概要を提示し、病名、病態の診断に至るために必要な手順を発表する（1 グループ 15 分程度)。鑑別が必要な病態が複数ある場合にはそれぞれの病態についての説明を行う。発表ごとに、クラス全体からの質疑応答を行う。
2 講目：発声障害、構音障害の鑑別診断と評価（講義）
3 講目：嚥下障害、聴覚障害の鑑別診断と評価（講義）
4 講目：医科的介入とリハビリテーションに関するディスカッションならびにレポート作成
以上を通じて、音声言語聴覚障害における専門医と言語聴覚士のかかわり方、協働を学ぶ。

益田：　事前に症例のビデオとデータを学生に配布（個人情報保護に関する誓約書が必要)。それぞれの症例において、言語聴覚療法を立案するために必要な医学的検査を医者に要求し、結果をどのように解釈するのかを考案する。各時限の冒頭に益田から症例呈示を行い、学生のプレゼンテーション（10 分、スライド 5 枚まで)、学生による質疑応答（5 分)、最後に益田から補足説明がある。(9/29)
5 講目；構音障碍児数例。発音の状態をどのように評価し、結果から追加検査をどのように組み立てるか、その解釈をどのようにしてアプローチにつなげるかを考察。
6 講目：自閉症とされていた難聴児。難聴児のコミュニケーションと自閉症のコミュニケーションの共通点と相違点を中心に学習。
7 講目：聴覚情報処理障害児。聴覚の構成要素とその障害、それぞれの障害が言語発達に及ぼす影響について神経心理学的な考

察（言語病理学的な考案）ができることを目指す。
８講目：２タイプの発達性協調運動障害児。診断名は同一にも関わらず、まったく病態が違う言語発達障害の代表として発達性協調運動障害を取り上げる。どのように切り分けるのか、どこに視点をもつのか、について学習。アプローチにつなげる考案ができることを目指す。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90128001
科目名	聴覚医学	単位数	1
科目名（英語表記）	Medical Audiology		
担当者名	久　育男	旧科目名称	
授業概要	聴覚は良好な音声コミュニケーションを獲得し維持するための必須の機能であり、難聴は生活の質を大きく低下させる。難聴者を支援する言語聴覚士は、聴覚検査、聴覚リハビリテーション、難聴の臨床像および難聴者を取り巻く社会環境に関する幅広い知識と技能が求められる。聴覚医学の講義では、聴覚及び聴覚疾患の基礎知識から、聴覚検査や補聴器・人工内耳の調整における最新の方法、さらに難聴診療に難する社会医学的背景まで広く取り上げ、難聴者を包括的に支援できる知識を身につけられるよう計画している。		
教材（教科書）	『新耳鼻咽喉科学　改訂 11 版』　（南山堂）　切替一郎 著　 17,280 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義形式で行う。		
評価方法	定期試験（１００％）		
到達目標	耳疾患および聴覚障害の検査、診断、治療、リハビリテーション法について理解する。		
授業時間外学習	講義に先立ち、聴覚器の解剖と生理について再確認する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
難聴者支援を包括的に理解し主導できる立場を目指してください。			
授業スケジュール			
１．聴覚系の構造と機能 ２．聴覚検査法とその解釈 ３．外耳・中耳疾患の診断と治療 ４．内耳疾患・顔面神経麻痺の診断と治療 ５．補聴器と人工聴覚器 ６．小児聴覚障害への対応 ７．めまい・耳鳴の診断と治療 ８．難聴者のコミュニケーション支援と社会福祉制度			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J90129001
科目名	臨床実習Ⅰ（見学実習）	単位数	1
科目名（英語表記）	Clinical Practice Ⅰ		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
授業概要	「臨床実習Ⅰ」は、志望する職業への理解をはかり、専門科目の基礎科目と展開科目で学んだ内容を実践する場である。対象者の情報と身体・行動の観察を行い、疾患による言語聴覚や摂食嚥下への影響（病態）を考え、病歴（障害歴）を適切な表現を用いて記述することを学生が学ぶ機会を、臨床実習施設の実習指導者の協力を得て提供する。課題は、対象者の情報の収集、対象者の身体・行動の観察と記録、疾患による言語聴覚や摂食嚥下への影響（病態）の検討、病歴（障害歴）の記述、対象者の疾患や状態に応じたケアなどの実践とする。		
教材（教科書）	『言語聴覚法ー臨床マニュアル第３版』（協同医書出版社） 平野哲雄　他　編　7,344 円		
教材（参考資料）	『自信がもてる!リハビリテーション臨床実習』（医歯薬出版株式会社） 川上途行　他　編　4,968 円		
教育方法	毎回、講義内容に関する資料を配布する。配布した資料に沿って基本的には講義形式で行う。授業中に学習したキーワードや基本的な知識の定着を図るために、毎回レポートの作成・提出を課題とする。		
評価方法	事前指導への取り組みとレポート　30% 実習指導者による実習評価　40% 事後指導と実習報告会への取り組み　30%		
到達目標	1. 見学者として適切な行動を取ることができる。 2. 適切な表現と用語を用いて記録することができる。 3. 対象者（患者）の病歴・障害歴をまとめて報告することができる。		
授業時間外学習	履修した科目、特に医学基礎（解剖生理学)、臨床・専門科目の内容を復習しておく。 挨拶・敬語・立ち居振る舞いを意識し、将来の医療人として、誠実な態度を常に心がける。 毎日新聞を読むなど、社会の出来事に関心を持ち、知識・話題を広げ、自身のコミュニケーション力を常に高める努力をする。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

事前指導は実習に必要な情報の提供、書類の作成など重要な内容であるので、必ず出席すること。
臨床実習にあたっては、臨床の場にふさわしい行動をとること。また学ぶ意欲を示し、臨床スキルの習得に真摯に取り組むこと。
実習報告会は全員が順番に行うので、必ず出席すること。

授業スケジュール

事前学習
1．実習生としてのマナー・態度・役割の理解、見学準備と情報の収集
2．基本的な専門的知識の整理と習得
3．障害別・小児成人別の症例において観察ならびに記録の練習

見学実習(1 週間)
1．臨床実習施設のオリエンテーション、1 日の流れの理解
2．評価・訓練場面の見学と記録
3．臨床観察メモ・観察ノート・自己学習帳の記載と提出
4．対象者の病歴・障害歴のまとめと提出

事後指導
1．臨床経験メモ・観察ノート・自己学習帳の整理と提出
2．対象者の病歴・障害歴の作成
3．実習報告会の準備と報告
4．今後の課題の確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	J90130001
科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）	単位数	4
科目名（英語表記）	Clinical Practice Ⅱ		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
授業概要	「臨床実習Ⅱ」は専門科目の基礎科目と展開科目で学んだ内容を、臨床の場で実践する場である。対象者の情報と身体・行動の観察に加えて、適切な検査を選び行い、評価（病歴、言語聴覚や摂食嚥下の問題と解決策、見通し）と鑑別診断（言語聴覚障害）の報告を文書と口頭で行う機会を、臨床実習施設の臨床実習指導者の協力を得て、学生に提供する。課題は、対象者の情報の収集、身体・行動の観察、病歴（障害歴）の記述、検査の実施と所見記述、言語聴覚や摂食嚥下の問題の理解、解決策（選択肢）と見通し（予後）の提示、評価の報告とする。		
教材（教科書）	『言語聴覚法ー臨床マニュアル第３版』　（協同医書出版社）　平野哲雄　他　編　7,344 円 『言語聴覚士のための臨床実習テキスト（成人編)』　（建帛社）　深浦順一　他　編 3,674 円		
教材（参考資料）	『自信がもてる!リハビリテーション臨床実習』（医歯薬出版株式会社）川上途行　他　編 4,968 円 『言語聴覚士のための臨床実習テキスト（小児編)』（建帛社）深浦順一　他　編 3,024 円		
教育方法	専門科目の講義レジメ・ノートや、事前学習時に講義内容に関する資料を利用する。講義形式と実技修得のための演習を行う。		
評価方法	事前指導への取り組みとレポート　　20% 実習指導者による実習評価　　50% 事後指導と実習報告会への取り組み　30%		
到達目標	1.　適切な表現と専門用語を用いて記録することができる。 2.　患者の症状や状態に適した検査を選択し、実施することができる。 3.　検査結果をまとめ、評価を考察し、まとめることができる。		
授業時間外学習	履修しった専門科目（展開科目）の内容を復習し、諸検査の手順・評価方法・解釈について習熟しておくこと。 設定された事前学習の時間以外も、自主的に諸検査の手順などの復習に励むこと。 常に社会の出来事に興味・関心を持ち、知識・話題を広げ、他者とのコミュニケーション力の向上に努める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

事前指導は実習に必要な情報の提供、書類の作成など重要な内容であるので、必ず出席すること。
臨床実習にあたっては、臨床の場にふさわしい行動をとること。また学ぶ意欲を示し、臨床スキルの習得に真摯に取り組むこと。
事後指導は実習報告会の予演会を含み、また実習報告会は全員が順番に行うので、必ず出席すること。

授業スケジュール

事前学習
1．言語聴覚、摂食嚥下に関する基本的な諸検査が実施でき、正確な評価と解釈の記述
2．障害別・小児成人別の症例において観察ならびに記録の練習

評価実習（4 週間）
1．臨床実習施設のオリエンテーション、４週間の流れの理解
2．評価・訓練場面の見学と記録
3．臨床観察メモ・観察ノート・自己学習帳の記載と提出
4．必要に応じスクリーニング検査および対象者に適切な諸検査の実施
5．評価報告書の作成と提出

事後指導
1．臨床経験メモ・観察ノート・自己学習帳の整理と提出
2．対象者の評価報告書を完成、提出
3．実習報告会の準備と報告

４．今後の課題の確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2018	授業コード	J90131001
科目名	臨床実習Ⅲ（総合実習）	単位数	8
科目名（英語表記）	Clinical Practice Ⅲ		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
授業概要	「臨床実習Ⅲ」は専門科目の基礎科目と展開科目で学んだ内容を、臨床の場で実践する場である。対象者の情報と身体・行動の観察に加えて、適切な検査を選び、実施し、評価と鑑別診断（言語聴覚障害）を行い、訓練・指導を考案して、対象者に合わせて実践する機会を、臨床実習施設の臨床実習指導者の協力を得て、学生に提供する。課題は、対象者の情報の収集、身体・行動の観察、検査の実施、評価と鑑別診断、言語聴覚、摂食嚥下の問題の理解、解決策（選択肢）の提案、訓練（目標、課題）の考案と実施、対象者の疾患や状態に応じたケアなどの実践とする。		
教材（教科書）	『言語聴覚法ー臨床マニュアル第３版』　（協同医書出版社）　平野哲雄　他　編　7,344 円 『言語聴覚士のための臨床実習テキスト（成人編)』　（建帛社）　深浦順一　他　編　3,674 円		
教材（参考資料）	『自信がもてる!リハビリテーション臨床実習』（医歯薬出版株式会社）川上途行　他　編　4,968 円 『言語聴覚士のための臨床実習テキスト（小児編)』（建帛社）深浦順一　他　編　3,024 円		
教育方法	専門科目の講義資料・ノート、また事前指導で講義内容に関する資料を配布する。講義形式と演習とを適時実施する。		
評価方法	事前指導への取り組みとレポート　　10% 実習指導者による実習評価　　60% 事後指導と実習報告会への取り組み　30%		
到達目標	１．適切な表現と専門用語を用いて記録することができる。 ２．患者の症状や状態に適した検査を選択し、実施することができる。 ３．検査結果をまとめ、評価を考察し、まとめることができる。 ４．評価内容を基に、訓練計画を立案することができる。 ５．訓練計画に基づき訓練を実施することができる。 ６．再評価を行い、結果に応じた訓練計画の再立案ができる。		
授業時間外学習	履修しった専門科目（展開科目）の内容を復習し、諸検査の手順・評価方法・解釈、訓練計画の立案について習熟しておくこと。 テキストをよく読み、症例報告書をまとめる際のポイントを押さえておくこと。 長期の臨床実習を前に、自身の健康管理や必要物品の整理など準備を怠らないこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

事前指導は実習に必要な情報の提供、書類の作成など重要な内容であるので、必ず出席すること。
臨床実習にあたっては、臨床の場にふさわしい行動をとること。また学ぶ意欲を示し、臨床スキルの習得に真摯に取り組むこと。
事後指導は実習報告会の予演会を含み、また実習報告会は全員が順番に行うので、必ず出席すること。

授業スケジュール

事前学習
１．言語聴覚、摂食嚥下に関する基本的な諸検査が実施でき、正確な評価と解釈の記述
２．評価内容に応じた訓練計画の立案

総合実習（8 週間）
１．臨床実習施設のオリエンテーション、８週間の流れの理解

２．評価・訓練場面の見学と記録
３．臨床観察メモ・観察ノート・自己学習帳の記載と提出
４．必要に応じスクリーニング検査および対象者に適切な諸検査を実施し、訓練計画の立案
５．訓練計画に沿って、訓練を実施する。
６．再評価を実施し、必要に応じて再訓練計画を立案
７．症例報告書の作成と提出

事後指導

1．臨床経験メモ・観察ノート・自己学習帳の整理と提出

2．対象者の症例報告書を完成、提出

3．実習報告会の準備と報告

4．今後の課題の確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2018	授業コード	J90132001
科目名	言語聴覚障害学研究法	単位数	1
科目名（英語表記）	Research Methods in Speech, Language, and Hearing Sciences and Disorders		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
授業概要	どの分野でもそうであるが、言語聴覚障害の臨床においても日常起こる様々な問題や疑問は全て解決されている訳ではない。この場合、臨床家は自ら、科学的アプローチと頭脳を駆使して、問題を解決する必要がある。この方法、すなわち、(研究) 課題の見つけ方、文献の検索方法、種々の研究法や計画 (デザイン)、測定法、得られた結果（データ）の整理と分析法（統計的処理を含む)、結果のまとめ方、発表の方法等、研究の進め方の基本を学ぶ。		
教材（教科書）	『言語障害の研究入門』 （協同医書出版） 伊藤元信 著　3240 円		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	講義内容のプリントを配布し、講義はスライドを用いて行う。		
評価方法	小テスト（50%)、レポート・発表（50%）		
到達目標	言語聴覚士として臨床上の問題が生じた場合、科学的な方法に基づいて問題の解決を行うことが必要となることを理解し、その方法の概要を理解し習得することを目標とする。		
授業時間外学習	講義プリント等で、前回までの授業内容を復習しておくことが望ましい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業の内容を授業時間内に理解してしまうことに集中してほしい。そのために、日ごろ睡眠時間を十分に取り体調を整えて授業に臨んでほしい。			
授業スケジュール			
０１　研究とは何か・研究の進め方 ０２　データと測定・研究の種類 ０３　データの整理と分析１ ０４　データの整理と分析２ ０５　データの整理と分析３ ０６　研究のまとめと発表 ０７　研究を行う際の倫理的配慮 ０８　研究の実例			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90133001
科目名	言語聴覚療法学総合演習Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Reviews of Speech, Language, and Hearing Sciences and Disorders Ⅰ		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
授業概要	言語聴覚療法学の知識を整理し、臨床の基盤となる事項を修得することを到達目標とする。これまでに学んだ専門科目の内容を主として問題・解答の形式で理解を促す。本演習では、上記の範囲の事項の総合試験を行い、その結果に基づき未修得の事項を分析し、学生個々に学修計画の指導を行い、学修を開始させる。修得レベル別のグループに教員を配置し、個別に学修計画を立て、学修を開始するのを観察し、必要な指導、助言を行う。具体的には、これまでの各教科の成績や自分の性格や生活習慣の特徴を考慮して、以後の勉強の計画を立てさせる。個々の学生が立てた計画の内容について指導・助言を行い、必要に応じて修正させる。計画に沿って勉強を開始させ、実施状況を個別に観察する。個々の学生の勉強の仕方の特徴を把握し、問題点につき指導助言を行う。		
教材（教科書）	『言語聴覚士テキスト（第3版)』　（医歯薬出版）　廣瀬肇　監修 4,320 円		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	その時間に割り当てられた専門および専門基礎分野の要点を確認し、問題演習を行う。		
評価方法	定期試験は実施しない。科目内テストで評価する（100％）。		
到達目標	これまでに学んだ専門科目の内容に関する問題（多肢選択式）について正しく解答できる。		
授業時間外学習	予め配布する専門科目の内容に関する問題を1問ずつ解き、そのために必要で未習得であった事項を以下の参考資料で確認し、自分の知識として定着を図る。 ・既修教科の講義資料（ノート、教科書、配布プリントなど） ・『2018 年版、言語聴覚士国家試験－過去問題3年間の解答と解説』　（大揚社）　言語聴覚士国家試験対策委員会編		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業ごとに担当教員が変わり、授業時間が変更されることがある。事前に案内するので注意する。 講義の時点で、講義の対象となる分野の一部については既に自分なりのまとめを作っているはずなので、講義内容を理解した上でこれを修正し、他の部分についてもまとめを作る。			
授業スケジュール			
1．学修計画の立案 2．専門基礎分野のまとめ（1）医学総論 3．専門基礎分野のまとめ（2）病理学 4．専門基礎分野のまとめ（3）内科学 5．専門基礎分野のまとめ（4）精神医学 6．専門基礎分野のまとめ（5）言語発達学 7．専門基礎分野のまとめ（6）リハビリテーション医学 8．専門基礎分野のまとめ（7）臨床心理学1） 9．専門基礎分野のまとめ（8）臨床心理学2） 10．専門基礎分野のまとめ（9）発達心理学1） 11．専門基礎分野のまとめ（10）発達心理学2） 12．専門基礎分野のまとめ（11）音響学 13．専門基礎分野のまとめ（12）聴覚心理学 14．専門基礎分野のまとめ（13）音声学1） 15．専門基礎分野のまとめ（14）音声学2）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	J90134001
科目名	言語聴覚療法学総合演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Reviews of Speech, Language, and Hearing Sciences and Disorders II		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
授業概要	言語聴覚療法学の知識を整理し、臨床の基盤となる力を身につけることを到達目標とする。これまでに学んだ専門科目の内容を主として問題・解答の形式で理解を促す。本演習では、「言語聴覚療法学総合演習Ⅰ」による学修の成果を確認したうえで、基本的事項について、必要に応じて講義・演習等を実施して全科目が偏りなく身につくようにすると同時に、学生の学力を個別に分析し、疑問点や勉強の仕方についてアドバイスを行う。		
教材（教科書）	『言語聴覚士テキスト（第３版)』　（医歯薬出版）　廣瀬肇　監修　4320 円		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	その時間に割り当てられた専門および専門基礎分野の要点を確認し、問題演習を行う。		
評価方法	定期試験は実施しない。科目内テストで判定する（100％）。		
到達目標	これまでに学んだ専門科目の内容に関する問題（多肢選択式）について正しく解答できる。		
授業時間外学習	予め配布する専門科目の内容に関する問題を１問ずつ解き、そのために必要で未習得であった事項を以下の参考資料で確認し、自分の知識として定着を図る。 ・既修教科の講義資料（ノート、教科書、配布プリントなど） ・『2018 年版、言語聴覚士国家試験－過去問題３年間の解答と解説』　（大揚社）　言語聴覚士国家試験対策委員会編		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業ごとに担当教員が変わり、授業時間が変更されることがある。事前に案内するので注意する。
講義の時点で、講義の対象となる分野の一部については既に自分なりのまとめを作っているはずなので、講義内容を理解した上でこれを修正し、他の部分についてもまとめを作る。

授業スケジュール

1．学力の分析と学習方針の確認・修正
2．専門基礎分野のまとめ(15)小児科学
3．専門基礎分野のまとめ(16) 耳鼻咽喉科学
4．専門基礎分野のまとめ(17) 臨床神経学
5．専門基礎分野のまとめ(18) 解剖生理学 1)
6．専門基礎分野のまとめ(19) 解剖生理学 2)
7．専門基礎分野のまとめ(20) 呼吸器・発声発語系 1)
8．専門基礎分野のまとめ(21) 呼吸器・発声発語系 2)
9．専門基礎分野のまとめ(22) 聴覚系 1)
10．専門基礎分野のまとめ(23) 形成外科学
11．専門基礎分野のまとめ(24) 聴覚系 2)
12．専門基礎分野のまとめ(25) 臨床歯科医学
13．専門基礎分野のまとめ(26) 学習認知心理学 1)
14．専門基礎分野のまとめ(27) 学習認知心理学 2)
15．専門基礎分野のまとめ(28) 神経系
16．専門基礎分野のまとめ(29) 心理測定法
17．専門基礎分野のまとめ(30) 言語学 1)
18．専門基礎分野のまとめ(31) 言語学 2)
19．専門基礎分野のまとめ(32) 社会福祉、関連法規 1)
20．専門基礎分野のまとめ(33) 社会福祉、関連法規 2)
21．専門基礎分野のまとめ(34)　リハビリテーション概論
22．専門分野のまとめ(1) 言語聴覚療法学総論 1)

23. 専門分野のまとめ(2) 言語聴覚療法学総論 2)
24. 専門分野のまとめ(3) 失語 1)
25. 専門分野のまとめ(4) 失語 2)
26. 専門分野のまとめ(5) 失語 3)
27. 専門分野のまとめ(6) 失語 4)
28. 専門分野のまとめ(7) 失語 5)
29. 専門分野のまとめ(8) 高次脳機能障害 1)
30. 専門分野のまとめ(9) 高次脳機能障害 2)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	J90135001
科目名	言語聴覚療法学総合演習Ⅲ	単位数	2
科目名（英語表記）	Reviews of Speech, Language, and Hearing Sciences and Disorders Ⅲ		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
授業概要	言語聴覚療法学の知識を整理し、臨床の基盤となる力を身につけることを到達目標とする。これまでに学んだ専門科目の内容を主として問題・解答の形式で理解を促す。本演習では、「言語聴覚療法学総合演習Ⅰ」、「言語聴覚療法学総合演習Ⅱ」による学修の成果を確認したうえで、発展的事項について、必要に応じて講義・演習等を実施して全科目が偏りなく身につくようにすると同時に、学生の学力を個別に分析し、疑問点や勉強の仕方についてアドバイスを行う。また、全国統一模擬試験を受験し、全国レベルでの学力を分析し、個別に不十分な分野の再学修・確認を行う。		
教材（教科書）	『言語聴覚士テキスト（第３版)』　（医歯薬出版）　廣瀬肇　監修　4,320 円		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	その時間に割り当てられた専門および専門基礎分野の要点を確認し、問題演習を行う。		
評価方法	定期試験は実施しない。科目内テストで判定する（100％）。		
到達目標	これまでに学んだ専門科目の内容に関する問題（多肢選択式）について正しく解答できる。		
授業時間外学習	予め配布する専門科目の内容に関する問題を１問ずつ解き、そのために必要で未習得であった事項を以下の参考資料で確認し、自分の知識として定着を図る。 ・既修教科の講義資料（ノート、教科書、配布プリントなど） ・『2018 年版、言語聴覚士国家試験－過去問題３年間の解答と解説』　（大揚社）　言語聴覚士国家試験対策委員会編		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業ごとに担当教員が変わり、授業時間が変更されることがある。事前に案内するので注意する。
講義の時点で、講義の対象となる分野の一部については既に自分なりのまとめを作っているはずなので、講義内容を理解した上でこれを修正し、他の部分についてもまとめを作る。

授業スケジュール

1．学力の分析と学習方針の確認・修正
2．専門分野のまとめ(21) 構音障害 1)
3．専門分野のまとめ(22) 構音障害 2)
4．専門分野のまとめ(23) 構音障害 3)
5．専門分野のまとめ(24) 構音障害 4)
6．専門分野のまとめ(25) 構音障害 5)
7．専門分野のまとめ(26) 構音障害 6)
8．専門分野のまとめ(27) 嚥下障害 1)
9．専門分野のまとめ(28) 嚥下障害 2)
10．専門分野のまとめ(29)　嚥下障害 3)
11．専門分野のまとめ(10) 言語発達障害学 1)
12．専門分野のまとめ(11) 言語発達障害学 2)
13．専門分野のまとめ(12) 言語発達障害学 3)
14．専門分野のまとめ(13) 言語発達障害学 4)
15．専門分野のまとめ(14) 言語発達障害学 5)
16．専門分野のまとめ(15) 言語発達障害学 6)
17．専門分野のまとめ(16) 言語発達障害学 7)
18．専門分野のまとめ(17) 音声障害学 1)
19．専門分野のまとめ(18) 音声障害学 2)
20．専門分野のまとめ（19）吃音 1)
21．専門分野のまとめ（20）吃音 2)

22. 専門分野のまとめ(30) 小児聴覚障害学 1)
23. 専門分野のまとめ(31) 小児聴覚障害学 2)
24. 専門分野のまとめ(32) 小児聴覚障害学 3)
25. 専門分野のまとめ(33) 成人聴覚障害学 1)
26. 専門分野のまとめ(34) 成人聴覚障害学 2)
27. 専門分野のまとめ(35) 成人聴覚障害学 3)
28. 専門分野のまとめ(36) 補聴器・人工内耳
29. 専門分野のまとめ(37) 視覚・聴覚二重障害
30. 理解が不十分であった分野の再学習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	−	−	★

年度	2018	授業コード	J90136001
科目名	卒業研究Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Undergraduate Thesis Ⅰ		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
授業概要	「卒業研究Ⅰ」では、言語聴覚療法の各領域について、これまでに身につけた知識をもとに、研究テーマを学生自身が考え、そのテーマに沿って研究を計画し、データ収集や調査を実施する。その過程で、統計解析や文献検索技術を修得し、先行研究を熟読することで、学問領域の奥行きを感じさせる。教員は、個別の学生と、研究テーマ、実験や調査の方法、データの収集と記録、結果の分析の計画についてのやり取りを行い、適宜指導を行う。		
教材（教科書）	『図解表現のルール』　（かんき出版）　ドナ・M・ウオ　ン著　　1,728 円		
教材（参考資料）	『理科系の作文技術』　（中公新書）　木下是雄著　700 円＋税		
教育方法	統計学などの教科書や研究テーマに関連する論文を読み、講義と討論を行う。		
評価方法	文献リビュー（５０％）、研究計画書（５０％）		
到達目標	1　研究テーマに関連する文献を集めることができる。 2　文献を読み、整理して、まとめることができる。 3　研究方法（対象、装置、材料、分析など）を提案できる。 4　測定の妥当性と信頼性について説明ができる。 5　パイロットスタディを実行して問題点と対応を見出すことができる。 6　研究計画書を作ることができる。		
授業時間外学習	指導教員の指導に従い文献を集め、読む。 先行研究の方法論について、整理をする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究テーマとして取り組みたい課題を５つ用意して、指導教員との話し合いに臨む。 文献の検索、精読、整理に十分な時間を取る。			
授業スケジュール			
1　研究テーマの検討 2　グループ討論　1 3　文献の検索と収集、整理 4　グループ討論　2 5　仮説とその検証 6　グループ討論　3 7　研究方法の検討 8　グロープ討論　4 9　パイロットスタディでの課題と対応 １０　グループ討論　5 １１　研究計画書の作成 １２　グループ討論　6 １３　研究実施の段取り １４　グループ討論　7 １５　研究計画書の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J90136002
科目名	卒業研究Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Undergraduate Thesis Ⅰ		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
授業概要	「卒業研究Ⅰ」では、言語聴覚療法の各領域について、これまでに身につけた知識をもとに、研究テーマを学生自身が考え、そのテーマに沿って研究を計画し、データ収集や調査を実施する。その過程で、統計解析や文献検索技術を修得し、先行研究を熟読することで、学問領域の奥行きを感じさせる。教員は、個別の学生と、研究テーマ、実験や調査の方法、データの収集と記録、結果の分析の計画についてのやり取りを行い、適宜指導を行う。		
教材（教科書）	『図解表現のルール』　（かんき出版）　ドナ・M・ウオ　ン著　　1,728 円		
教材（参考資料）	『理科系の作文技術』　（中公新書）　木下是雄著　700 円＋税		
教育方法	統計学などの教科書や研究テーマに関連する論文を読み、講義と討論を行う。		
評価方法	文献リビュー（５０％）、研究計画書（５０％）		
到達目標	1　研究テーマに関連する文献を集めることができる。 2　文献を読み、整理して、まとめることができる。 3　研究方法（対象、装置、材料、分析など）を提案できる。 4　測定の妥当性と信頼性について説明ができる。 5　パイロットスタディを実行して問題点と対応を見出すことができる。 6　研究計画書を作ることができる。		
授業時間外学習	指導教員の指導に従い文献を集め、読む。 先行研究の方法論について、整理をする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究テーマとして取り組みたい課題を５つ用意して、指導教員との話し合いに臨む。 文献の検索、精読、整理に十分な時間を取る。			
授業スケジュール			
1　研究テーマの検討 2　グループ討論　1 3　文献の検索と収集、整理 4　グループ討論　2 5　仮説とその検証 6　グループ討論　3 7　研究方法の検討 8　グロープ討論　4 9　パイロットスタディでの課題と対応 １０　グループ討論　5 １１　研究計画書の作成 １２　グループ討論　6 １３　研究実施の段取り １４　グループ討論　7 １５　研究計画書の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J90136003
科目名	卒業研究Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Undergraduate Thesis Ⅰ		
担当者名	久　育男	旧科目名称	
授業概要	「卒業研究Ⅰ」では、言語聴覚療法の各領域について、これまでに身につけた知識をもとに、研究テーマを学生自身が考え、そのテーマに沿って研究を計画し、データ収集や調査を実施する。その過程で、統計解析や文献検索技術を修得し、先行研究を熟読することで、学問領域の奥行きを感じさせる。教員は、個別の学生と、研究テーマ、実験や調査の方法、データの収集と記録、結果の分析の計画についてのやり取りを行い、適宜指導を行う。		
教材（教科書）	『図解表現のルール』　（かんき出版）　ドナ・M・ウオ　ン著　　1,728 円		
教材（参考資料）	『理科系の作文技術』　（中公新書）　木下是雄著　700 円＋税		
教育方法	統計学などの教科書や研究テーマに関連する論文を読み、講義と討論を行う。		
評価方法	文献リビュー（５０％）、研究計画書（５０％）		
到達目標	1　研究テーマに関連する文献を集めることができる。 2　文献を読み、整理して、まとめることができる。 3　研究方法（対象、装置、材料、分析など）を提案できる。 4　測定の妥当性と信頼性について説明ができる。 5　パイロットスタディを実行して問題点と対応を見出すことができる。 6　研究計画書を作ることができる。		
授業時間外学習	指導教員の指導に従い文献を集め、読む。 先行研究の方法論について、整理をする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究テーマとして取り組みたい課題を５つ用意して、指導教員との話し合いに臨む。 文献の検索、精読、整理に十分な時間を取る。			
授業スケジュール			
1　研究テーマの検討 2　グループ討論　1 3　文献の検索と収集、整理 4　グループ討論　2 5　仮説とその検証 6　グループ討論　3 7　研究方法の検討 8　グロープ討論　4 9　パイロットスタディでの課題と対応 １０　グループ討論　5 １１　研究計画書の作成 １２　グループ討論　6 １３　研究実施の段取り １４　グループ討論　7 １５　研究計画書の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J90136004
科目名	卒業研究Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Undergraduate Thesis Ⅰ		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
授業概要	「卒業研究Ⅰ」では、言語聴覚療法の各領域について、これまでに身につけた知識をもとに、研究テーマを学生自身が考え、そのテーマに沿って研究を計画し、データ収集や調査を実施する。その過程で、統計解析や文献検索技術を修得し、先行研究を熟読することで、学問領域の奥行きを感じさせる。教員は、個別の学生と、研究テーマ、実験や調査の方法、データの収集と記録、結果の分析の計画についてのやり取りを行い、適宜指導を行う。		
教材（教科書）	『図解表現のルール』　（かんき出版）　ドナ・M・ウオ　ン著　　1,728 円		
教材（参考資料）	『理科系の作文技術』　（中公新書）　木下是雄著　700 円＋税		
教育方法	統計学などの教科書や研究テーマに関連する論文を読み、講義と討論を行う。		
評価方法	文献リビュー（５０％）、研究計画書（５０％）		
到達目標	1　研究テーマに関連する文献を集めることができる。 2　文献を読み、整理して、まとめることができる。 3　研究方法（対象、装置、材料、分析など）を提案できる。 4　測定の妥当性と信頼性について説明ができる。 5　パイロットスタディを実行して問題点と対応を見出すことができる。 6　研究計画書を作ることができる。		
授業時間外学習	指導教員の指導に従い文献を集め、読む。 先行研究の方法論について、整理をする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究テーマとして取り組みたい課題を５つ用意して、指導教員との話し合いに臨む。 文献の検索、精読、整理に十分な時間を取る。			
授業スケジュール			
1　研究テーマの検討 2　グループ討論　1 3　文献の検索と収集、整理 4　グループ討論　2 5　仮説とその検証 6　グループ討論　3 7　研究方法の検討 8　グロープ討論　4 9　パイロットスタディでの課題と対応 １０　グループ討論　5 １１　研究計画書の作成 １２　グループ討論　6 １３　研究実施の段取り １４　グループ討論　7 １５　研究計画書の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J90136005
科目名	卒業研究Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Undergraduate Thesis Ⅰ		
担当者名	外山　稔	旧科目名称	
授業概要	「卒業研究Ⅰ」では、言語聴覚療法の各領域について、これまでに身につけた知識をもとに、研究テーマを学生自身が考え、そのテーマに沿って研究を計画し、データ収集や調査を実施する。その過程で、統計解析や文献検索技術を修得し、先行研究を熟読することで、学問領域の奥行きを感じさせる。教員は、個別の学生と、研究テーマ、実験や調査の方法、データの収集と記録、結果の分析の計画についてのやり取りを行い、適宜指導を行う。		
教材（教科書）	『図解表現のルール』　（かんき出版）　ドナ・M・ウオ　ン著　　1,728 円		
教材（参考資料）	『理科系の作文技術』　（中公新書）　木下是雄著　700 円＋税		
教育方法	統計学などの教科書や研究テーマに関連する論文を読み、講義と討論を行う。		
評価方法	文献リビュー（５０％）、研究計画書（５０％）		
到達目標	1　研究テーマに関連する文献を集めることができる。 2　文献を読み、整理して、まとめることができる。 3　研究方法（対象、装置、材料、分析など）を提案できる。 4　測定の妥当性と信頼性について説明ができる。 5　パイロットスタディを実行して問題点と対応を見出すことができる。 6　研究計画書を作ることができる。		
授業時間外学習	指導教員の指導に従い文献を集め、読む。 先行研究の方法論について、整理をする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研究テーマとして取り組みたい課題を５つ用意して、指導教員との話し合いに臨む。 文献の検索、精読、整理に十分な時間を取る。			
授業スケジュール			
1　研究テーマの検討 2　グループ討論　1 3　文献の検索と収集、整理 4　グループ討論　2 5　仮説とその検証 6　グループ討論　3 7　研究方法の検討 8　グロープ討論　4 9　パイロットスタディでの課題と対応 １０　グループ討論　5 １１　研究計画書の作成 １２　グループ討論　6 １３　研究実施の段取り １４　グループ討論　7 １５　研究計画書の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J90137001
科目名	卒業研究II	単位数	1
科目名（英語表記）	Undergraduate Thesis II		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
授業概要	「卒業研究II」では、「卒業研究Ｉ」に引き続いて、収集したデータや調査結果を統計解析して、解釈を行う。また、関連文献の検索技術を駆使して、先行研究を熟読することで、学問領域の奥行きを感じさせる。最終的に研究論文としてまとめる。教員は、個別の学生と、データの収集と記録、結果の分析、についてのやり取りを行い、適宜指導を行う。論文の執筆にあたり、全体の構成や文献、図表の作成など、個別に指導を行う。卒業研究の発表会を、小グループあるいは全体で行う。		
教材（教科書）	卒業研究II と同じ		
教材（参考資料）	卒業研究Ｉと同じ		
教育方法	適時、講義、演習、討論を行う。		
評価方法	研究の実施（５０％）、論文の作成と発表（５０％）		
到達目標	1　研究計画に従いデータ収集を行うことができる。 2　データの分析を適切にできる。 3　研究論文を様式に従い作成できる。 4　研究内容を的確に説明できる。		
授業時間外学習	研究データの収集の準備を進める。 研究データを適切に保管する。 データの分析を行う。 統計解析を行う。 論文を作成する。 発表の準備をする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教員のアドバイスを受けて研究を遂行する。 研究データの保管は厳重に行う。 LAB ノートに日時と内容を記録する。			
授業スケジュール			
1　　研究データの収集 2　　グループ討論　1 3　　データの分析 4　　グループ討論　2 5　　妥当性と信頼性の検証 6　　グループ討論　3 7　　統計処理と図式化 8　　グループ討論　4 9　　論文の構成 １０　グループ討論　5 １１　研究論文の校閲と修正１ １２　グループ討論　6 １３　研究論文の校閲と修正２ １４　グループ討論　7 １５　研究内容の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J90137002
科目名	卒業研究II	単位数	1
科目名（英語表記）	Undergraduate Thesis II		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
授業概要	「卒業研究II」では、「卒業研究Ｉ」に引き続いて、収集したデータや調査結果を統計解析して、解釈を行う。また、関連文献の検索技術を駆使して、先行研究を熟読することで、学問領域の奥行きを感じさせる。最終的に研究論文としてまとめる。教員は、個別の学生と、データの収集と記録、結果の分析、についてのやり取りを行い、適宜指導を行う。論文の執筆にあたり、全体の構成や文献、図表の作成など、個別に指導を行う。卒業研究の発表会を、小グループあるいは全体で行う。		
教材（教科書）	卒業研究IIと同じ		
教材（参考資料）	卒業研究Iと同じ		
教育方法	適時、講義、演習、討論を行う。		
評価方法	研究の実施（５０％）、論文の作成と発表（５０％）		
到達目標	1　研究計画に従いデータ収集を行うことができる。 2　データの分析を適切にできる。 3　研究論文を様式に従い作成できる。 4　研究内容を的確に説明できる。		
授業時間外学習	研究データの収集の準備を進める。 研究データを適切に保管する。 データの分析を行う。 統計解析を行う。 論文を作成する。 発表の準備をする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教員のアドバイスを受けて研究を遂行する。 研究データの保管は厳重に行う。 LABノートに日時と内容を記録する。			
授業スケジュール			
1　研究データの収集 2　グループ討論　1 3　データの分析 4　グループ討論　2 5　妥当性と信頼性の検証 6　グループ討論　3 7　統計処理と図式化 8　グループ討論　4 9　論文の構成 １０　グループ討論　5 １１　研究論文の校閲と修正１ １２　グループ討論　6 １３　研究論文の校閲と修正２ １４　グループ討論　7 １５　研究内容の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J90137003
科目名	卒業研究II	単位数	1
科目名（英語表記）	Undergraduate Thesis II		
担当者名	久　育男	旧科目名称	
授業概要	「卒業研究II」では、「卒業研究Ｉ」に引き続いて、収集したデータや調査結果を統計解析して、解釈を行う。また、関連文献の検索技術を駆使して、先行研究を熟読することで、学問領域の奥行きを感じさせる。最終的に研究論文としてまとめる。教員は、個別の学生と、データの収集と記録、結果の分析、についてのやり取りを行い、適宜指導を行う。論文の執筆にあたり、全体の構成や文献、図表の作成など、個別に指導を行う。卒業研究の発表会を、小グループあるいは全体で行う。		
教材（教科書）	卒業研究IIと同じ		
教材（参考資料）	卒業研究Iと同じ		
教育方法	適時、講義、演習、討論を行う。		
評価方法	研究の実施（５０％）、論文の作成と発表（５０％）		
到達目標	1　研究計画に従いデータ収集を行うことができる。 2　データの分析を適切にできる。 3　研究論文を様式に従い作成できる。 4　研究内容を的確に説明できる。		
授業時間外学習	研究データの収集の準備を進める。 研究データを適切に保管する。 データの分析を行う。 統計解析を行う。 論文を作成する。 発表の準備をする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教員のアドバイスを受けて研究を遂行する。 研究データの保管は厳重に行う。 LABノートに日時と内容を記録する。			
授業スケジュール			
1　研究データの収集 2　グループ討論　1 3　データの分析 4　グループ討論　2 5　妥当性と信頼性の検証 6　グループ討論　3 7　統計処理と図式化 8　グループ討論　4 9　論文の構成 １０　グループ討論　5 １１　研究論文の校閲と修正１ １２　グループ討論　6 １３　研究論文の校閲と修正２ １４　グループ討論　7 １５　研究内容の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J90137004
科目名	卒業研究II	単位数	1
科目名（英語表記）	Undergraduate Thesis II		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
授業概要	「卒業研究II」では、「卒業研究Ｉ」に引き続いて、収集したデータや調査結果を統計解析して、解釈を行う。また、関連文献の検索技術を駆使して、先行研究を熟読することで、学問領域の奥行きを感じさせる。最終的に研究論文としてまとめる。教員は、個別の学生と、データの収集と記録、結果の分析、についてのやり取りを行い、適宜指導を行う。論文の執筆にあたり、全体の構成や文献、図表の作成など、個別に指導を行う。卒業研究の発表会を、小グループあるいは全体で行う。		
教材（教科書）	卒業研究IIと同じ		
教材（参考資料）	卒業研究Iと同じ		
教育方法	適時、講義、演習、討論を行う。		
評価方法	研究の実施（５０％）、論文の作成と発表（５０％）		
到達目標	1　研究計画に従いデータ収集を行うことができる。 2　データの分析を適切にできる。 3　研究論文を様式に従い作成できる。 4　研究内容を的確に説明できる。		
授業時間外学習	研究データの収集の準備を進める。 研究データを適切に保管する。 データの分析を行う。 統計解析を行う。 論文を作成する。 発表の準備をする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教員のアドバイスを受けて研究を遂行する。 研究データの保管は厳重に行う。 LABノートに日時と内容を記録する。			
授業スケジュール			
1　研究データの収集 2　グループ討論　1 3　データの分析 4　グループ討論　2 5　妥当性と信頼性の検証 6　グループ討論　3 7　統計処理と図式化 8　グループ討論　4 9　論文の構成 １０　グループ討論　5 １１　研究論文の校閲と修正１ １２　グループ討論　6 １３　研究論文の校閲と修正２ １４　グループ討論　7 １５　研究内容の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J90137005
科目名	卒業研究II	単位数	1
科目名（英語表記）	Undergraduate Thesis II		
担当者名	外山　稔	旧科目名称	
授業概要	「卒業研究II」では、「卒業研究Ⅰ」に引き続いて、収集したデータや調査結果を統計解析して、解釈を行う。また、関連文献の検索技術を駆使して、先行研究を熟読することで、学問領域の奥行きを感じさせる。最終的に研究論文としてまとめる。教員は、個別の学生と、データの収集と記録、結果の分析、についてのやり取りを行い、適宜指導を行う。論文の執筆にあたり、全体の構成や文献、図表の作成など、個別に指導を行う。卒業研究の発表会を、小グループあるいは全体で行う。		
教材（教科書）	卒業研究IIと同じ		
教材（参考資料）	卒業研究Iと同じ		
教育方法	適時、講義、演習、討論を行う。		
評価方法	研究の実施（５０％）、論文の作成と発表（５０％）		
到達目標	1　研究計画に従いデータ収集を行うことができる。 2　データの分析を適切にできる。 3　研究論文を様式に従い作成できる。 4　研究内容を的確に説明できる。		
授業時間外学習	研究データの収集の準備を進める。 研究データを適切に保管する。 データの分析を行う。 統計解析を行う。 論文を作成する。 発表の準備をする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教員のアドバイスを受けて研究を遂行する。 研究データの保管は厳重に行う。 LABノートに日時と内容を記録する。			
授業スケジュール			
1　研究データの収集 2　グループ討論　1 3　データの分析 4　グループ討論　2 5　妥当性と信頼性の検証 6　グループ討論　3 7　統計処理と図式化 8　グループ討論　4 9　論文の構成 １０　グループ討論　5 １１　研究論文の校閲と修正１ １２　グループ討論　6 １３　研究論文の校閲と修正２ １４　グループ討論　7 １５　研究内容の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J90138001
科目名	文献講読Ⅰ	単位数	1
科目名（英語表記）	Readings in Speech, Language, and Hearing Ⅰ		
担当者名	吉村　貴子	旧科目名称	
授業概要	文献購読では，言語聴覚障害学に関する研究報告を講読し，自ら研究を行うための知識を深め，その方法を理解し，修得することを目指す。「文献購読Ⅰ」では，言語聴覚障害学に関する研究報告を自ら選定し，音声・言語コミュニケーションならびに摂食・嚥下障害に関する研究的視点の持ち方やアプローチ方法の特徴を学修する。具体的には，興味あるテーマを見出し，それに関する文献を探し集め，精読し，討議することを目標とする。		
教材（教科書）	『医療系研究論文の読み方・まとめ方――論文の PECO から正しい統計的判断まで』（東京図書）　対馬栄輝　著　3,240 円		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	適宜、文献等資料を配布し、講義による授業やゼミ演習における発表や討議などを行う。		
評価方法	発表及び小レポート 50%，期末レポート 50%		
到達目標	①文献（原則、英語文献）の収集および読解に必要な基本的な方法を説明できる。 ②言語聴覚障害学の英語論文で用いられる基礎的用語を理解できる。 ③実際の言語聴覚障害学に関する論文を読むことができ，内容について説明できる。 ④文献購読の必要性および重要性を説明でき，日々の活動において研究的視点をもつことができる。		
授業時間外学習	文献を読み，理解し，他者と共有するため，授業時間外の予習やレポート作成が必須の作業である。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

必要な論文を検索する技術や，論文に出てくる用語，統計解析の方法や内容，そしてそれらを理解して発表を通じて他者と共有する方法を修得することは，自身の将来に役に立つものである。予習や復習しながら，授業に積極的に参加すること。

授業スケジュール

1．文献を読むとはどういうことか
2．論文の構成について
3．読みたい文献を探すにはどうすればいいか，実際に文献を探す
4．自分の興味のある文献を選ぶ
5．発表の一例「高次脳機能障害領域および関連領域、あるいは小児発達障害領域および関連領域」
6．グループディスカッションと*小レポート
7．発表 1：選んだ文献の要点、考察を発表する
8．グループディスカッションと*小レポート
9．発表 2：選んだ文献の要点、考察を発表する
10．グループディスカッションと*小レポート
11．発表 3：選んだ文献の要点、考察を発表する
12．グループディスカッションと*小レポート
13．発表 4：選んだ文献の要点、考察を発表する
14．グループディスカッションと*小レポート
15．論文作成と研究倫理，*期末レポート

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90139001
科目名	文献講読II	単位数	1
科目名（英語表記）	Readings in Speech, Language, and Hearing II		
担当者名	吉村　貴子	旧科目名称	
授業概要	文献講読では、言語聴覚障害学に関する研究報告を講読し、自ら研究を行うための知識を深め、その方法を理解し、修得することを目指す。「文献講読II」では「文献講読Ⅰ」で修得した内容に基づき、疑問点や問題点を抽出する方法や、その解決に向けて調査を実施し、得た結果を他者と共有して知見を深めるという一連の研究の流れを修得する。さらに、自身で研究を実施できるように、興味の持ち方、研究の新規性や必要性等研究の意義についても確認する。		
教材（教科書）	『もの忘れの脳科学』　（講談社ブルーバックス　2014 年）　苧阪　満里子 著　800 円＋税		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	適宜、文献等資料を配布し、講義による授業やゼミ演習における発表や討議などを行う。		
評価方法	期末レポート 50%、発表および小レポート 50%		
到達目標	①　　文献講読Ⅰで学修した内容を深めるため、必要とする文献（主に英語文献）を収集し講読を進める ことで、先行研究について知識を深めることができる。 ②　　講読した関連文献から、論理的に自分の考えをもつことができる。 ③　　他者の考えを正確に理解することで、新たな問題を発見する意義について学修する。		
授業時間外学習	準備学習として毎回課題を提示するので、必ず取り組むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
興味のあるテーマに関連した文献を正確に読み進めまとめることで、自分の考えを論理的に説明できるようになってほしい。			
授業スケジュール			
1.　研究論文の読み進め方とサマリーの作成 2.　文献講読Ⅰの関連文献の収集① 3.　研究デザインとバイアスのまとめ 4.　評価・測定のまとめ 5.　考察と関連文献の収集② 6.　発表１　選んだ文献・考察を発表する 7.　グループディスカッションと*小レポート 8.　発表２　選んだ文献・考察を発表する 9.　グループディスカッションと*小レポート 10.　発表３　選んだ文献・考察を発表する 11.　グループディスカッションと*小レポート 12.　発表４　選んだ文献・考察を発表する 13.　グループディスカッションと*小レポート 14.　発表５　選んだ文献・考察を発表する 15.　グループディスカッション５　（*期末レポート）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90139002
科目名	文献講読II	単位数	1
科目名（英語表記）	Readings in Speech, Language, and Hearing II		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
授業概要	文献講読では、言語聴覚障害学に関する研究報告を講読し、自ら研究を行うための知識を深め、その方法を理解し、修得することを目指す。「文献講読II」では「文献講読Ｉ」で修得した内容に基づき、疑問点や問題点を抽出する方法や、その解決に向けて調査を実施し、得た結果を他者と共有して知見を深めるという一連の研究の流れを修得する。さらに、自身で研究を実施できるように、興味の持ち方、研究の新規性や必要性等研究の意義についても確認する。		
教材（教科書）	『0 歳児がことばを獲得するとき―行動学からのアプローチ』(中公新書　1993 年)　正高 信男　著 660 円＋税		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	適宜、文献等資料を配布し、講義による授業やゼミ演習における発表や討議などを行う。		
評価方法	期末レポート 50%、発表および小レポート 50%		
到達目標	①　　文献講読Ｉで学修した内容を深めるため、必要とする文献（主に英語文献）を収集し講読を進める ことで、先行研究について知識を深めることができる。 ②　　講読した関連文献から、論理的に自分の考えをもつことができる。 ③　　他者の考えを正確に理解することで、新たな問題を発見する意義について学修する。		
授業時間外学習	準備学習として毎回課題を提示するので、必ず取り組むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
興味のあるテーマに関連した文献を正確に読み進めまとめることで、自分の考えを論理的に説明できるようになってほしい。			
授業スケジュール			
1.　研究論文の読み進め方とサマリーの作成 2.　文献講読Ｉの関連文献の収集① 3.　研究デザインとバイアスのまとめ 4.　評価・測定のまとめ 5.　考察と関連文献の収集② 6.　発表１　選んだ文献・考察を発表する 7.　グループディスカッションと*小レポート 8.　発表２　選んだ文献・考察を発表する 9.　グループディスカッションと*小レポート 10.　発表３　選んだ文献・考察を発表する 11.　グループディスカッションと*小レポート 12.　発表４　選んだ文献・考察を発表する 13.　グループディスカッションと*小レポート 14.　発表５　選んだ文献・考察を発表する 15.　グループディスカッション５　（*期末レポート）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90140001
科目名	健康スポーツ総論	単位数	2
科目名（英語表記）	General Health and Sports		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
授業概要	本学科は、体育・スポーツに特化した教育ではなく、医学的な知識を交えた広い知識で人間を考える人材育成を特徴としている。そこで本講義では、看護学や言語聴覚学を主体とした内容に興味関心を抱き、そのうえで健康スポーツ学科での予防医学を主軸とした学修の重要性について学ぶ。それらを通して、健康スポーツ学科の専門科目（支持科目、基礎科目、展開科目、演習科目）および、4 年間の学修について解説し、自身がどういった学修の姿勢を持つべきかを考える。		
教材（教科書）	適時、講義内容に沿った資料を配布する。		
教材（参考資料）	講義内容に適した図書や新聞記事などを紹介する。また、それらを教材の一部として活用するので印刷配布する場合がある。		
教育方法	入学直後の講義であり、学生として大学の授業に備える約束事や授業を受ける姿勢などを確認し、正しく整っていない部分においては正すような指導を繰り返しおこなう。大学の講義は 90 分であるがこの時間をどうやって集中して受講できるのかについて話し合う。また講義においては配布資料が多く渡されるが、それらの整理方法や管理方法などをアドバイスする。レポート作成の方法や提出時の約束について。期末試験に関してもどのような準備をすべきなのか、そのためには毎回の授業にどのようにやっていくべきなのかについて。さらには要項を基に教務上の約束を確認し自分にとって不利益を被らない手立てをしておく指導も行う。これらが毎回の講義で積み上げて、大学での生活に慣れる手立てを行っていく。本来の講義内容は講義の順序通りであって、読書の習慣、そしてその感想文を作成する。文章を読んでその長文をまとめる方法を学び、実際に講義の中で行う。長文の内容としては学科で学ぶ専門的な内容ばかりではなく、社会の出来事について記したたとえば新聞記事なども活用して文字に慣れる練習も行う。		
評価方法	定期試験（60%）、レポート（40%）		
到達目標	健康医療学部の設置理念を理解し、なおかつ健康スポーツ学科の教育理念を理解して、4 年後を目指した自らの目標とその過程を設計して、社会に役立つ人材となれるように基礎的なスキルを身につけて、幅広く物事を見据える力をつける。		
授業時間外学習	保健医療や、医学、あるいは政治経済など多岐にわたるジャンルの新聞記事や雑誌に関心を寄せて、興味を持った記事などをコピーする。不明な用語などについて先ず図書館にて調べる。ネットを活用するのは最後の手段とすること。これらを授業の中で発表する時間を持つので各自準備してストックしておく。活発な意見交換を希望する。講義後においては他者の興味ある発表に関して、自分なりに調べて、ノートしてファイルし提出レポートに加える。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

新聞を読む習慣を身につけて、今おこっているさまざまな社会問題に関して、興味関心を持ってほしい。

授業スケジュール

1．この講義について概略の説明。
　大学における講義の受け方について。ノートをとることの意義。話の聞き方（受講の仕方）。
2．健康医療学部を設置した意義
3．健康スポーツ学とはなにか？
4．健康医療学部における 3 学科相互の関連性と連携から考える健康スポーツ学
5．保健体育教員養成の必要性
6．健康運動指導士の役割と必要性について
7．新聞記事を読んで、要約する
8．新聞記事を読んで要約したものを他者に説明する
9．研究論文を読んでみる（研究論文の構成）
10．健康スポーツ学科教員の専門性紹介
11．スポーツ科学者から見た健康医療学部と健康スポーツ学科

１２．数組のグループに分かれて、あるテーマについてデイスカッションを行い、内容をまとめて提出する（1 回目）
１３．数組に分かれて、あるテーマについてグループデイスカッションする。内容をまとめて提出する（2 回目）
１４．各グループでのまとめを発表して全体で討論する
１５．各グループでのまとめを発表して全体で意見を交わす

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90141001
科目名	発達段階と健康	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Promotion at Different Development Stages		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
授業概要	一人ひとりの健康生活を実現するためには、生涯を通した「健康づくり」が必要である。我が国の健康づくり施策においても、人生の各段階の健康課題や健康観等に応じた対応が求められている。本講義では人の生涯を「幼・少年期」「青・壮年期」「中・高年期」の３段階に分け、各発達段階の特徴と健康課題を理解するとともに、各発達段階において重要な健康観や健康行動を確立する健康づくり支援とその具体的な方策（ライフステージ別の保健活動を含む）について学修する。		
教材（教科書）	適宜資料を配付する。		
教材（参考資料）	『からだの発達と加齢の科学』　（大修館書店、2012）　髙石昌弘 監修 3,024 円 『事典　発育・成熟・運動』　（大修館書店、1995）　ロバートM．マリーナ、クロード・ブシャール 著 7,560 円		
教育方法	主に講義で授業を進める。スライドや資料などの教材を用いて理解を促しながら講義を進め、時には、受講生同士のディスカッションやレポート、小テストなどで理解を深めるようにする。		
評価方法	課題レポート（30%）、試験（70%）		
到達目標	ライフステージにおける人々の心理、社会、身体的特徴と健康課題について知り、対象の健康行動に結びつく支援の在り方について考えることができる。		
授業時間外学習	次時の内容を指示するので、授業までに予習をすること。 毎時、復習をすると同時に考察を深めること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

既習事項を基に、知識をさらに深めようとする姿勢、態度を求める。受講にあたっては、漠然と講義を受ける態度ではなく、学生自身が考え意見交換をするなど、積極的な姿勢や発言を期待する。

授業スケジュール

１．発育発達の概観
２．胎児期、乳児期の発育発達
３．幼児期、児童期における発育発達
４．幼少年期の体力特性と遊び・身体運動と健康づくり
５．現代社会における幼少年期の健康課題と具体的方策
６．青年期から壮年期にかけての心理、社会的発達
７．青年期から壮年期にかけての心理、社会的発達課題
８．青年期から壮年期にかけての身体的発達
９．青年期から壮年期にかけての身体的発達課題
１０．青年期から壮年期にかけての健康支援活動
１１．働き盛りの健康課題、特に生活習慣病を中心に
１２．更年期・向老期の特徴と健康課題
１３．体力・身体機能の加齢変化
１４．介護予防・フレイル
１５．老化研究から学ぶ生涯を通じた健康づくりとは

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90142001
科目名	救急・応急処置	単位数	2
科目名（英語表記）	First Aid and Emergency Treatments		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
授業概要	運動・身体活動の際に必要な救急・応急処置の基礎理論と実践的な知識を学ぶ。全身性障害に対する救急蘇生法の概要、局所外傷に対する応急処置、さらに人工呼吸や胸骨圧迫、自動体外式除細動器(AED)の使用方法などの一次救命処置やその科学的根拠を説明する。また本講義では、理論だけではなく RICE 処置、バンテージやテーピングの巻き方、松葉杖を用いた歩行方法、負傷者を安全に担架に乗せる方法などスポーツ現場で役立つ実践的な技術、知識も修得する予定である。		
教材（教科書）	『救急蘇生法の指針 市民用・解説編 2010』（へるす出版） 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会 監修 1,404 円 『救急蘇生法の指針 市民用 2010』（へるす出版） 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会 監修 432 円		
教材（参考資料）	『新版 トレーナーズ・バイブル』(医道の日本社、2007） William E.Prentice、Daniel D.Arnheim 著 7,128 円		
教育方法	パワーポイントと配布資料を用いた講義法と実技を組み合わせて行う。		
評価方法	期末テスト（60%）、 実技テスト（40%）		
到達目標	健康スポーツ指導者にとって必要な救急・応急処置の理論を理解し、実践的な技術・知識を習得することを目標とする。		
授業時間外学習	講義に参加する前に前回の学修内容を確認しておくことが望ましい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

実際の人命救助や応急処置において本講義で修得したことが活かせることを希望する。

授業スケジュール

１．健康スポーツ指導者にとって重要な救急・応急処置の考え方（井口）
２．外科的救急・応急処置を行うにあたっての守るべき一般事項（太田）
３．全身性障害についての外科的処置（井口）
４．局所外傷について応急処置(RICE)とする安静・冷却・圧迫・挙上の外科的処置（井口）
５．部位別スポーツ障害とその救急・応急処置（頭部・頸部・腰部）（太田）
６．部位別スポーツ障害とその救急・応急処置（肩・上肢・手）（太田）
７．部位別スポーツ障害とその救急・応急処置（下肢・足部）（太田）
８．救急蘇生法理論（呼吸器系、換気、ガス交換の異常、1 次と 2 次救命処置、救命の輪、心配蘇生法）（井口）
９．ＡＥＤ（半自動除細動器）の原理と使い方（井口）
１０．外傷の種類別（捻挫。骨折、打撲、腱断裂、脱臼、創傷、肉離れ）のテーピングの外科的処置とリハビリ（井口）
１１．応用救急処置１（血法、窒息、熱傷）（井口）
１２．応用救急処置２（落雷、感電、凍傷、低体温）（井口）
１３．応用救急処置３（腹痛・胃腸障害時の処置）（井口）
１４．救急処置実践１（包帯、三角巾の使用方法実習）（井口）
１５．救急処置実践２（心肺蘇生法と AED、レサシアンを使って実習及び実技テスト（太田）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	−	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J90143001
科目名	健康スポーツトレーニング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Training for Health and Sports		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
授業概要	本講義では、各トレーニングおよびエクササイズに対する身体の反応について学修することを主な目的とする。トレーニングはその目的によって無酸素系、有酸素系トレーニングなどのように選択する方法が異なる。その理由は、各トレーニングによって起こる様々な適応（トレーニング効果）が、神経系、内分泌系などでそれぞれ異なるためである。本講義では、これらの適応に着目しながら年齢、性別などに応じて選択できるトレーニング方法について幅広く学修する。		
教材（教科書）	『ストレングストレーニング&コンディショニング ―NSCA 決定版（第 4 版)』(ブックハウス・エイチディ） Thomas R.Baechle、Roger W.Earle 著、金久博昭、 岡田純一 監修 12,960 円		
教材（参考資料）	必要な資料があれば、適宜配布する。		
教育方法	パワーポイントや配布資料を用いながら、講義法で行う。		
評価方法	小テスト（毎講義初めに行う）(20%)、 中間テスト（30%)、 期末テスト（30%)、 レポート（20%）		
到達目標	各トレーニングの効果を理解し、目的に応じたトレーニングを様々な要求に応じながら安全なプログラムを作成できる能力を育成する。		
授業時間外学習	各講義後、必ず復習し理解を深め次回の講義へ臨むことを期待する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日本体育協会公認スポーツ指導者、健康運動指導士、健康運動実践指導者、GFI、CSCS 資格取得希望者の必修科目である。明確な目的意識で資格取得に目指す事。

授業スケジュール

1．トレーニング総論
　体力概念、身体の適応能と運動・休養・栄養生活の確立（全面性について)、全身と局所運動の生理学的運動量（エネルギー仕事量と総仕事量)、トレーニングの原則（全面性・反復・個別・意識性・過負荷・負荷漸増)、トレーニングの可逆性、ウォームアップとクーリングダウンの目的方法
2．トレーニング各論 1（トレーニング条件と反応・トレーニング強度）
　トレーニングの目標設定と運動効果の特異性反応、効果発現の主要因としての運動強度、運動持続時間の調和、週当たりの頻度と生活時間の対応、効果表出の目標時間（一般的 12 週間)、総運動量、物理的運動強度の指標、生理的運動強度の指標、自覚的運動強度の指標、心拍反応と運動強度
3．トレーニング各論 2（筋力と筋量増強のトレーニング条件とその効果）
　静的筋力トレーニングの負荷条件と作業効果、動的筋力トレーニングの負荷条件と作業効果、等速性筋力トレーニングの負荷条件、伸張性筋力トレーニングと筋量増加、トレーニング負荷と筋繊維肥大・線維数の増加、トレーニングによる筋原線維分裂と筋肥大、トレーニングによる神経支配の改善
4．トレーニング各論 3（筋パワー・筋持久力トレーニングの条件とその効果）
　筋パワートレーニングと筋持久力トレーニングの目標と負荷条件の差、筋パワートレーニングの理論的負荷条件、筋パワートレーニングの負荷強度と収縮強度の作業効率、筋パワー向上の負荷条件と筋線維タイプの反応、筋持久力トレーニングの負荷条件と作業効果、筋持久力向上と筋毛細血管床・ミトコンドリアの容量の反応
5．トレーニング各論 4（全身運動によるエアロビックトレーニング）
　運動種目からみたエアロビックとアネロビック運動、各種エアロビック運動強度の共通指標、軽中強度・長時間トレーニングの負荷条件と作業効果（耐久時間と距離の改善)、ウォーキング・ジョギング速度と消費カロリーの関係、エアロビックトレーニングの生理的効果
6．障害者の運動能力の特徴とトレーニング
　身体障害者に対する運動指導の基本的あり方、身体障害者の健康運動トレーニング、身体障害者の筋機能・調整能トレーニング様式、身体運動の心理的効果
7．青少年の発育発達とトレーニング
　身長・体重発育と成長期の特徴、発育と生活の影響、暦年齢と生物学的年齢、運動能力の発達の特徴、急速発育期の機能と至適トレーニング刺激（スピード・筋力・持久力）

８．女性の身体的の特徴

胸囲／腰囲、体脂肪率と除脂肪体重、筋機能の性差の特徴（上体と下体の筋量と筋力)、酸素運搬系性差の特徴（呼吸・循環機能と血液組成)、体力・運動能力の性差の特徴、女性のエアロビックトレーニングの負荷とその効果

９．加齢に伴う体力の自然減退とトレーニング

加齢に伴う身体活動の低下と体力低下、体力・運動能力のピーク年齢と加齢に伴う自然減退、加齢に伴う機能低下の特徴（形態及び機能の変化)、加齢に伴う最高心拍数の低下（２２０－年齢)、エアロビックトレーニングの生理的効果、生活行動変容と筋力・菌パワーの低下（階段昇降能力の低下)、筋活動の減少と廃用性筋萎縮、運動様式の変化と筋活動部位の不活発化、筋活動期の減少と筋線維タイプの変化、立位機能と生活歩行の為の筋機能トレーニング、高齢者の為の筋機能トレーニングの負荷条件

１０．フィットネスプログラムの実際１（フィットネスプログラムの基本的方法）

１１．フィットネスプログラムの実際２（子ども・女性のフィットネスプログラム）

１２．フィットネスプログラムの実際３（青年期のフィットネスプログラム）

１３．フィットネスプログラムの実際４（壮年・高齢者のフィットネスプログラム）

１４．フィットネスプログラムの実際５（障害者のフィットネスプログラム）

１５．総復習（特に運動効果とフィットネスプログラムについて）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90144001
科目名	健康スポーツトレーニング実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Physical Training for Health and Sports		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
授業概要	本講義の目的は、一般的なトレーニングプログラムで用いられる基本的なエクササイズテクニックを実習を通して修得することである。実習は動的、静的ストレッチングや有酸素運動を含んだ適切なウォーミングアップ方法からスクワット、ベンチプレス、クリーンなどの基本的なレジスタンストレーニングテクニックの修得を目指す。さらにフィットネスレベルや性別、年齢に応じたフィットネスプログラムを様々なマシーンや機器を使って実習を行う。		
教材（教科書）	なし（各講義パワーポイントで資料を作成するので各自ダウンロードする）。		
教材（参考資料）	『ストレングストレーニング&コンディショニング ―NSCA 決定版（第 3 版）』（ブックハウス・エイチディ） Thomas R.Baechle、Roger W.Earle 著、金久博昭、 岡田純一 監修 12,960 円		
教育方法	パワーポイントや配布資料を活用した講義法とトレーニング機器を用いた実技の組み合わせで行う。		
評価方法	実技テスト（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	１．スクワット、ベンチプレス、クリーンなどの基本的なレジスタンストレーニングを安全に遂行できる能力を修得することを目標とする。 ２．補助者としてレジスタンストレーニングを補助する際に必要な知識、技術を身に付け、実施者を安全にサポートできる能力を修得することを目標とする。 ３．年齢、性別を考慮し、安全で効果的なフィットネスプログラムを作成できる能力を修得することを目標とする。		
授業時間外学習	原則授業 1 週間前までに必要な文献、資料を配布するので、授業までに各自予習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講義は実習の中でレジスタンストレーニングなどを行うので、普段から各自身体を動かし、基礎体力の向上を図っておくことが望ましい。
実習時は運動しやすい服装で参加すること。

授業スケジュール

１．健康生活及び競技スポーツでの各種運動・トレーニングの重要性と意義と実習概要
２．ストレッチングと柔軟体操の実際
　レッスン導入「柔軟体操」の実習、アライメントのチェック方法、「スタティックストレッチングとバリスティックストレッチング」、基本的ストレッチング運動座位、立位、臥位ストレッチング、2 人組によるストレッチングの実習、PNF ストレッチングの解説、レッスンのまとめと「指導上の注意」
３．ウォーミングアップとクーリングダウン
　ウォーミングアップとクーリングダウンの意義について理解させる（基本的運動実習）（レッスンのまとめ「指導上の注意」）
４．静的レジスタンストレーニング
　レッスン導入「静的筋力トレーニングによる抵抗運動」の説明、肢位別自体重エクササイズ、タオル・壁・柱の固定物利用の抵抗運動、パートナーによる抵抗運動と筋力発揮、レッスンのまとめ「指導上の注意」
５．動的レジスタンストレーニング
　レッスン導入「動的筋力トレーニング法」の説明と方法別比較、チューブやバンドを使用したトレーニング、ダンベル・バーベルの扱いと床および支持台についての注意事項、10RM の重量の決め方の実習、身体部位別動的筋力トレーニング運動の実習、マシントレーニングの説明、トレーニング頻度、回数とトレーニング部位と身体部位の組合せの説明、レッスンのまとめ「指導上の注意」、各種動的レジスタンストレーニング補助のテクニック
６．子どものフィットネスプログラム（種々器具を活用）
７．壮年のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
８．高齢者のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
９．女性のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
１０．障害者のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
１１．個別フリーウエイトトレーニング１（上半身系のトレーニングの実際）

１２．個別フリーウエイトトレーニング２（下半身のトレーニングの実際）
１３．個別フリーウエイトトレーニング３（全身挙上系のトレーニングの実際）
１４．個別マシーントレーニング１（上半身系のトレーニングの実際）
１５．個別マシーントレーニング２（下半身のトレーニング／小筋群部位系のトレーニングの実際）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J90144002
科目名	健康スポーツトレーニング実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Physical Training for Health and Sports		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
授業概要	本講義の目的は、一般的なトレーニングプログラムで用いられる基本的なエクササイズテクニックを実習を通して修得することである。実習は動的、静的ストレッチングや有酸素運動を含んだ適切なウォーミングアップ方法からスクワット、ベンチプレス、クリーンなどの基本的なレジスタンストレーニングテクニックの修得を目指す。さらにフィットネスレベルや性別、年齢に応じたフィットネスプログラムを様々なマシーンや機器を使って実習を行う。		
教材（教科書）	なし（各講義パワーポイントで資料を作成するので各自ダウンロードする）。		
教材（参考資料）	『ストレングストレーニング&コンディショニング ―NSCA 決定版（第 3 版）』（ブックハウス・エイチディ） Thomas R.Baechle、Roger W.Earle 著、金久博昭、 岡田純一 監修 12,960 円		
教育方法	パワーポイントや配布資料を活用した講義法とトレーニング機器を用いた実技の組み合わせで行う。		
評価方法	実技テスト（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	１．スクワット、ベンチプレス、クリーンなどの基本的なレジスタンストレーニングを安全に遂行できる能力を修得することを目標とする。 ２．補助者としてレジスタンストレーニングを補助する際に必要な知識、技術を身に付け、実施者を安全にサポートできる能力を修得することを目標とする。 ３．年齢、性別を考慮し、安全で効果的なフィットネスプログラムを作成できる能力を修得することを目標とする。		
授業時間外学習	原則授業 1 週間前までに必要な文献、資料を配布するので、授業までに各自予習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講義は実習の中でレジスタンストレーニングなどを行うので、普段から各自身体を動かし、基礎体力の向上を図っておくことが望ましい。
実習時は運動しやすい服装で参加すること。

授業スケジュール

１．健康生活及び競技スポーツでの各種運動・トレーニングの重要性と意義と実習概要
２．ストレッチングと柔軟体操の実際
　レッスン導入「柔軟体操」の実習、アライメントのチェック方法、「スタティックストレッチングとバリスティックストレッチング」、基本的ストレッチング運動座位、立位、臥位ストレッチング、2 人組によるストレッチングの実習、PNF ストレッチングの解説、レッスンのまとめと「指導上の注意」
３．ウォーミングアップとクーリングダウン
　ウォーミングアップとクーリングダウンの意義について理解させる（基本的運動実習）（レッスンのまとめ「指導上の注意」）
４．静的レジスタンストレーニング
　レッスン導入「静的筋力トレーニングによる抵抗運動」の説明、肢位別自体重エクササイズ、タオル・壁・柱の固定物利用の抵抗運動、パートナーによる抵抗運動と筋力発揮、レッスンのまとめ「指導上の注意」
５．動的レジスタンストレーニング
　レッスン導入「動的筋力トレーニング法」の説明と方法別比較、チューブやバンドを使用したトレーニング、ダンベル・バーベルの扱いと床および支持台についての注意事項、10RM の重量の決め方の実習、身体部位別動的筋力トレーニング運動の実習、マシントレーニングの説明、トレーニング頻度、回数とトレーニング部位と身体部位の組合せの説明、レッスンのまとめ「指導上の注意」、各種動的レジスタンストレーニング補助のテクニック
６．子どものフィットネスプログラム（種々器具を活用）
７．壮年のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
８．高齢者のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
９．女性のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
１０．障害者のフィットネスプログラム（種々器具を活用）
１１．個別フリーウエイトトレーニング１（上半身系のトレーニングの実際）

１２．個別フリーウエイトトレーニング２（下半身のトレーニングの実際）
１３．個別フリーウエイトトレーニング３（全身挙上系のトレーニングの実際）
１４．個別マシーントレーニング１（上半身系のトレーニングの実際）
１５．個別マシーントレーニング２（下半身のトレーニング／小筋群部位系のトレーニングの実際）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J90145001
科目名	スポーツ原理	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy of Sports and Physical Education		
担当者名	柴田　俊和	旧科目名称	
授業概要	体育とは何か、スポーツとは何であるか、を考えるうえで必要な原理･原則について理解を深め、スポーツそのものが持つ価値や社会において果たすことのできる役割等について、自らの言葉で語ることができる力を養うことを目標とする。体育･スポーツの概念を明らかにするとともに、身体活動を通して行われる教育としての体育に焦点を当てることはもとより、我が国における体育･スポーツへの政治的・経済的な取り組みやスポーツが社会に及ぼす影響など、社会生活との関わりの中でスポーツ活動を考えることができる力を養う。		
教材（教科書）	特に指定しないが、必要に応じて資料を配付する。		
教材（参考資料）	『教養としての体育原理』（大修館書店）　友添秀則・岡出美則 編著。		
教育方法	新聞記事や各機関で公表されている資料等を適宜紹介・配布する.。		
評価方法	毎回の小レポート（各 4 点満点の 60 点）と最終レポート（40 点）の合計で評価する。		
到達目標	体育とは何か、スポーツとは何であるかを考える上で必要な原理･原則について理解を深め、スポーツそのものが持つ価値や社会において果たすことのできる役割について、自らの言葉で語ることができる力を養う ことを目標とする。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回講義の予習課題や資料を配付することがあるので、必ず次回までに読んでおくこと。 また、授業の最初に、前回の講義内容に関する復習小テストを行うことがあるので、復習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
今までの経験やなんとなく知っていることだけで提示された課題を解決しようとするのではなく、常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力で課題解決できるようになって欲しい。			
授業スケジュール			
１．なぜ、スポーツ原理（体育原理）を学ぶのか ２．スポーツと体育は何が違うのか ３．体育の理念はどのように変わってきたのか ４．体育･スポーツと人間関係 ５．スポーツとフェアプレイ、スポーツマンシップ ６．体育･スポーツと身体形成 ７．子どもの発達に欠かせない体育･スポーツの役割 ８．スポーツと競争 ９．スポーツと技術学習・技能獲得 １０．スポーツ・フォア・オール １１．スポーツと勝利至上主義 １２．スポーツとメディア １３．スポーツとジェンダー １４．障害者にとってのスポーツ １５．オリンピズム、オリンピック・ムーブメントとは何か			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J90146001
科目名	健康医学（内科）	単位数	2
科目名（英語表記）	Medical Health: Internal medicine		
担当者名	田中　祐貴	旧科目名称	
授業概要	健康を維持増進する為の運動やスポーツ活動については年齢や性別、あるいは障害の有無にかかわらず習慣的に実施することで、様々な疾患を予防したり、心身の健康維持に効果的と考えられる。しかしながら運動実施においては表裏一体となる。内科系の急性障害、慢性障害について学修する。 また、運動障害に関する予防医学的な観点から、例えば熱中症予防、メディカルチェックの必要性などについても学修する。さらには、近年問題となっているドーピングや薬物依存症についても学修し、健康を主眼とした運動・スポーツのあり方について内科的な側面から総合的に学修する。		
教材（教科書）	スライド・配布資料		
教材（参考資料）	スライド・配布資料		
教育方法	講義形式にて解説講義		
評価方法	定期試験（100%）		
到達目標	健康を維持する為の必要な事柄を内科学と結びつけて理解する。		
授業時間外学習	内科系疾患の特徴を知り、その予防の運動効果やスポーツ時の内科的疾患予防に関心を持ち、新聞、ネット記事に注視し、情報収集の上、受講準備の事（予習的準備）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義中の私語・飲食・無断入退室は厳禁。必要に応じて必ず教員への報告・連絡・相談の事。復習による前週講義事項は覚えておく事。			
授業スケジュール			
1. 健康の定義とライフステージ期の運動の役割 2. 生活習慣病の理解と予防・対策 3. 糖尿病の理解（合併症含む）と運動の役割 4. 高血圧症の理解と運動の役割 5. 脂質異常症・高尿酸血症の理解と運動の役割 6. 熱中症の理解とスポーツ・運動時の予防と対策 7. スポーツ貧血の理解とその予防と対策 8. 運動性誘発喘息の理解とその予防と対策 9. オーバートレーニング症候群 10. スポーツ・運動習慣性骨粗鬆症の理解とその予防と対策 11. 女性スポーツ選手（愛好家）の月経異常・障害の理解と予防と対策 12. 持久系スポーツ実践によるスポーツ心臓の理解 13. スポーツ内科疾患トピックス 1 （ガス貯留腹痛・スポーツ栄養失調・ストレス性胃腸障害） 14. スポーツ内科疾患トピックス 2 （慢性脱水症状・電解質異常・うつ病・摂食障害） 15. スポーツドーピングの理解と検査及び禁止薬物			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J90147001
科目名	健康医学（外科）	単位数	2
科目名（英語表記）	Medical Health: Surgery		
担当者名	常岡　秀行	旧科目名称	
授業概要	健康を維持増進するための運動(スポーツ活動)については、年齢や性別、あるいは障害の有無にかかわらず習慣的に実施することで、様々な疾患を予防し、心身の健康維持に効果的と考えられる。本講義では、運動実施に伴う外科系の問題の中でも整形外科領域における急性障害、慢性障害について学修する。比較的好発する傷害の解説とその予防方法、治療中からの運動 再開に向けたリハビリテーションの必要性について学修する。さらに健康寿命の短縮につながるロコモティブシンドロームについても理解を深める。		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	教材（参考文献）：授業中に適宜指示する。		
教育方法	適宜プリントを配布する。		
評価方法	毎回の授業後に実施する小テスト等の平常点（50%）と定期試験（50%）の結果で評価する。		
到達目標	①健康の維持、増進に不可欠な運動（スポーツ）の重要性を科学的な観点から理解することを目標とする。 ②運動やスポーツ活動の際に頻発する傷害（けが、故障）の発生メカニズムや予防対策について理解を深める。		
授業時間外学習	毎回の講義終了後に実施する小テストの正解を、当日配布のプリントやノートを参照して確認しておくこと。授業内容の復習になり、次回授業内容の理解を深めることにもつながる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
①遅刻や私語は厳禁。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出させる。 ②評価方法にも記載の通り、毎回の授業後に小テストを実施する。			
授業スケジュール			
１．健康医学概論：ヒトの身体の基本的な構造と機能について ２．運動不足の弊害：代表的な生活習慣病と、その発病メカニズムについて ３．運動（スポーツ活動）の効果について ４．ヒトの身体の運動器　①骨の構造と機能 ５．　〃　②関節の構造と機能 ６．　〃　③筋肉について、筋力増進のメカニズム ７．　〃　④神経の分類と機能 ８．ロコモティブシンドロームとは：健康寿命を伸ばすために ９．スポーツ外傷（けが）　①足首の捻挫 １０．　〃　②膝の外傷 １１．　〃　③応急処置と予防対策 １２．スポーツ障害（故障）　①肘の障害 １３．　〃　②膝の障害 １４．　〃　③腰痛の主な発生誘因と予防対策 １５．スポーツ外傷、障害のリハビリテーション：早期の競技復帰に向けて			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90148001
科目名	生活習慣病	単位数	2
科目名（英語表記）	Life Style-related Diseases		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
授業概要	生活習慣病と、その予防や治療のための医学的基礎知識について、スライド・動画・印刷物を使用した講義を通じて学修する。学生自身の健康に役立てるとともに将来の有能な健康運動・疾病予防の指導者育成を目指す。生活習慣病について全般的な講義を行い、メタボリックシンドローム、肥満、高血圧、脂質異常、糖尿病、心臓病、脳疾患，認知症、運動器疾患などについて基本的な知識を学修する。さらにこれらの病気を予防するためにはどうすれば良いかについて、及び、食事療法、スポーツ・運動療法などの基礎的知識について学修する。		
教材（教科書）	事前に用意した PDF と、当日のスライドを使用して講義を勧めます。 重要な点についてはショートテストで確認します。 一般教養も提示する予定です。		
教材（参考資料）	『新・健康スポーツの科学』(晃洋書房) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 『スポーツ医学研修ハンドブック(基礎科目・応用科目)』　(文光堂)		
教育方法	事前に用意した PDF と、当日のスライドを使用して講義を進めます。 重要な点についてはショートテストで確認します。 一般教養も提示する予定です。 ビデオ「いきいき健康ライフシリーズ」を観てもらいます。		
評価方法	課題レポートの評価を 30%、授業内小テストなどを 70%とする。		
到達目標	生活習慣病の基礎知識を理解し生活習慣病予防のために、どのように生活習慣を改善すればよいかを、検討する。 自身の日常生活における運動習慣を検討できるようにする。		
授業時間外学習	厚生労働省ホームページにある生活習慣病のコラムを読む事。 日本医師会ホームページにある生活習慣病のコラムを通読すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。
生活習慣病の予防は学生自身の今後の人生や、家族の人生に大きな影響があることを理解してほしい。
出席の代返は禁止です。
講義中の私語は禁止です。
小テストはスクリーンを使用しますので、なるべく前に座ってください。
筆記用具は毎回、持参してください。

授業スケジュール

1．メタボリックシンドローム
2．メタボリックシンドロームに関連した内科的救急スポーツ障害
3．メタボリックシンドロームに関連した内科的慢性スポーツ障害
4．健康運動
5．肥満、肥満症 1
6．肥満、肥満症 2
7．高血圧
8．脂質異常症
9．　耐糖尿異常、糖尿病
10．虚血性疾患とリハビリテーション

１１ .ロコモティブシンドローム
１２. 運動器退行性疾患
１３. 呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患、運動誘発性喘息)
１４. がん(悪性新生物)
１５. 軽度認知障害、認知症

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90149001
科目名	健康科学	単位数	2
科目名（英語表記）	Health Science		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
授業概要	生活習慣に起因する様々な疾患に対処すべく、かつては成人病対策として取り組みがなされてきたが、その後生活習慣病として国民の身近な意識としてきた経緯がある。我が国の健康問題は時代とともに変化しており、人々の生活周辺を見渡した、広い視点でとらえる必要がでてきている。この授業では我が国において推移してきた成人病対策から生活習慣病対策など、多方面から見渡した健康問題の現状を俯瞰し、国民ひとりひとりを対象にしたさまざまな問題を考える。さらに健康行動に着目して、心理面、あるいは行動科学の観点からとらえた改善のための介入方法などを学修する。		
教材（教科書）	適宜資料を配布する。		
教材（参考資料）	適宜資料を配布する。		
教育方法	－		
評価方法	定期試験（60%）、授業中に実施する課題（20%）、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換（20%）		
到達目標	1. 予防医学を扱う健康スポーツの専門家として国民の健康問題を古い時代からの経緯を眺めながら考察し、我が国の人口問題や環境問題など、将来の見通しを行いながら、我々がなせる課題を考えることができるようになる。 2. ストレス、身体活動（運動を含む）、食行動、喫煙などの健康行動の特徴について理解し、行動コントロールのために用いられている行動変容理論・モデルおよび技法の適用方法を理解する。		
授業時間外学習	自分自身の健康状態や運動習慣に意識を向け、健康行動の習慣を持つためにはどのような要素が必要か日常生活の中で考える訓練をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学んだ内容から、自分自身や他者の生活に反映させることができる健康行動プランを作成する能力を構築できるよう努めること。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション ２．健康とは何か？ ３．国内外の健康問題と対策 ４．生活習慣病の予防と対策 ５．身体活動・運動の介入アプローチ ６．メンタルヘルス問題の予防とストレス・マネジメント 7. 運動とメンタルヘルス ８．行動変容理論・モデルおよび技法の概要 ９．身体活動・運動行動における継続阻害要員への対処 １０．広報アプローチによる行動変容介入 １１．通信媒体を用いた介入プログラム １２．喫煙と健康問題、健康増進施策、健康増進法 １３．　高齢化社会と健康 １４．健康行動カウンセリング １５．まとめ（本講義で学んだことを振り返り日常生活でどのように活用するかについて考える）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J90150001
科目名	応用生理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Physiology		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
授業概要	応用生理学は「解剖・生理学」のアドバンスドコースとして位置づけている。応用生理学では、「解剖・生理学」で学んだ多くの知識を概念としてさらに統合して学修し、人体の生命維持するシステムとして、個体・臓器・組織・細胞・分子レベルで十分に理解することを目標とする。また、系統講義とは異なる視点から、ユニークな講義テーマを選択し、集中的・総合的に学修することにより、ヘルスサイエンスやスポーツサイエンスを目指す学生のためのアプライドな生理学を修得することができるプログラムである.		
教材（教科書）	『系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　第 9 版』　（医学書院）　坂井健雄　岡田隆夫　3,800 円		
教材（参考資料）	トートラ著　人体の構造と機能第 4 版　丸善　￥10,800		
教育方法	パワーポイントを活用して、教科書の内容を講義形式で説明する。パワーポイントの内容は講義資料として配布する。		
評価方法	小テスト(50%)、　定期テスト(50%)		
到達目標	1.　生理学の基礎知識を十分に理解し、各臓器の機能などを簡潔に説明できる. 2.　生理学の知識・概念を健康維持やスポーツ科学へ応用可能な知識・概念として修得できる. 3.　疾患の原因を理解し、その改善について考察することができる.		
授業時間外学習	1.　予習としてシラバス（講義の順序とポイント）に記された教科書の単元を事前に読んで、講義に臨むこと。 2.　講義終了後に、配布資料を見直し、自分で理解しやすいノートを作成する。 3.　小テストや定期試験の練習問題を配布するので、講義内容の理解に活用する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
2.　小テストを実施するので、配布された練習問題を用いてよく復習してから試験に臨むこと。
3.　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
4.　講義の最後に質問の時間を設けるが、講義中に挙手して質問しても構わない。

授業スケジュール

1.　生理学の基礎：細胞の概要、膜輸送、シグナル伝達、神経細胞とその結合
2.　血液：　血液?造血器系臓器の機能と構造、血液凝固?線溶系の機構
3.　免疫系：リンパ系の機能と構造、免疫担当細胞、体液性免疫、細胞性免疫、免疫反応の特徴
4.　内分泌：体内のホルモン調節
5.　循環器系：心臓の機能と構造、心臓の刺激伝達、血管系の機能と構造
6.　呼吸器系：肺?気管支の機能と構造、呼吸のメカニズム、肺および組織におけるガス交換、呼吸調節
7.　消化器系：胃、小腸、大腸の機能と構造、消化液の分泌、化学的消化、吸収
8.　栄養と代謝：代謝とエネルギー、代謝経路、熱とエネルギーバランス、栄養素
9.　血糖値の調節：血糖値調節ホルモン、グルコース代謝、食後の血糖値調節、糖尿病
10.　腎：腎臓?膀胱機能と構造、尿の生成機構、尿量の調節機構
11.　体液量の調節：体液量と体液浸透圧の調節、脱水・出血・浮腫などの水バランス障害、血圧調節
12.　酸塩基平衡：酸塩基平衡の物理化学、酸塩基平衡の障害と代償作用
13.　運動制御システム：筋肉、運動制御システム、反射活動と反射弓、小脳と基底核
14.　運動生理学：運動中の循環、呼吸、代謝の調節
15.　臨床生理学：心不全、高血圧、腎不全、肝不全

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J90151001
科目名	応用生化学	単位数	2
科目名（英語表記）	Advanced Biochemistry		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
授業概要	生化学は、すべての生物に見られる構造、機能、化学反応を分子レベルで理解し、生物における共通の基本原理を学ぶ学問である。本講義では、多様な生命現象を物理化学的視点から理解するために、生命を構成する生体高分子としてのタンパク質、脂質、核酸、糖質の構造と機能、エネルギー代謝としての異化・同化、生命の根源を司る自己複製メカニズム、自己と非自己を識別し、細胞外環境変化を細胞内へ伝達する膜系と膜系を介する物質輸送とシグナル伝達についての基礎知識を十分に理解し、修得する。		
教材（教科書）	『系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 第１３版』（医学書院） 三輪一智・中恵一 著 2,376 円		
教材（参考資料）	『イラストレイテッド生化学 原書６版』（丸善出版） Richard A. Harvey, Denise R. Ferrier 著 8,424 円 『ストライヤー生化学 第７版』（東京化学同人） JM. Berg, JL. Tymoczko, L. Stryer 著 15,012 円		
教育方法	パワーポイントを活用して、教科書の内容を講義形式で説明する。パワーポイントの内容は講義資料として配布する。		
評価方法	定期試験（100％）		
到達目標	１．生物を構成する生体成分について分子レベルで理解する ２．生体の機能制御を担う酵素と触媒作用について理解する ３．生体のエネルギー産生と代謝の仕組みについて理解する ４．遺伝情報とその発現メカニズムについて理解する		
授業時間外学習	１．　予習としてシラバス（講義スケジュール）に記された項目に該当する教科書を事前に読んで、講義に臨むこと。 ２．　教科書を読んで、わからない専門用語があれば、各自で調べて理解しておくこと。 ３．　教科書に読んで、疑問に感じたり、理解できないところを明確にしておくことで、効果的に講義を聴くことができる。 ４．　講義終了後に、配布資料を見直し、自分で理解しやすいノートを作成して十分に復習すること。また、事前に疑問に感じたり、理解できなかった問題点が解決できているを確認しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．　能動的な姿勢で講義に出席するように心がけ、予習・復習をするようにしてほしい。
2.　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
3.　トイレは原則として授業前あるいは休憩時間に行くことが望ましい（体調が悪い時には申し出ること）。
4.　受講に関しては、生化学を履修していることが望ましい。

授業スケジュール

１．　生体膜と膜タンパク質
２．　受動輸送と能動輸送
３．　ポンプと膜電位
４．　細胞容積
５．　刺激受容と細胞内シグナル（１）
６．　刺激受容と細胞内シグナル（２）
７．　リン酸化と脱リン酸化
８．　酵素と反応論
９．　糖の構造と糖代謝
１０．　糖質と糖鎖生物学
１１．　脂質代謝
１２．　タンパク質代謝
１３．　代謝異常
１４．　遺伝子と遺伝情報　（１）
１５．　遺伝子と遺伝情報　（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90152001
科目名	健康と疫学	単位数	2
科目名（英語表記）	Epidemiology of Health and Exercise		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
授業概要	人を対象に健康および疾患との関係を明らかにしようとする疫学研究の手法は、身体活動（運動）が健康維持に有用であることのエビデンスを提供している。健康の実態を定量的に評価し、健康を阻害する要因あるいは健康増進に関係する要因を明らかにし、問題解決のための具体的な対策を立案・実践し、その効果を評価する新しい学問領域である疫学的な視点と手法を理解する。本講義では、健康医療学部の特性を生かし、言語聴覚学科教員の指導により言語聴覚系の疾病構造やその測定指標についても言及する。		
教材（教科書）	必要に応じて随時資料を配布		
教材（参考資料）	楽しい疫学　中村好一　医学書院 健康と運動の疫学入門　熊谷秋三　医学出版 はじめて学ぶやさしい疫学　日本疫学会監修		
教育方法	ヘルスプロモーションのエビデンスデータの多くが疫学研究による成果であり、それらのデータの示す意義や、疫学的な研究手法について、活動量計を用いてデータ収集から分析、発表までを実践的に学ぶ		
評価方法	・全授業回数の３分の２以上を出席をしていることが最終成績評価の条件とする ・授業内課題（５０%） ・レポート課題(５０%)		
到達目標	・健康・運動の疫学的アプローチの方法を説明できる。 ・ヘルスプロモーションの考え方を説明できる。 ・疫学の基礎となる統計手法を用いて、自らの運動行動を分析し考察できる。		
授業時間外学習	・授業内に出された課題は次の授業までにやり遂げる		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業内での課題に積極的に取り組むことを求めます。			
授業スケジュール			
１．健康と疫学の基礎①健康の概念と健康課題 ２．健康と疫学の基礎②疫学とは～疫学の歴史と定義 ３．健康と疫学の基礎③疫学と健康に関する指標～保健統計のいろいろ			

4．健康と疫学の基礎④運動疫学の定義と指標
5．健康と疫学の基礎⑤運動と健康事象との関連
6．健康支援の理論①健康に影響を及ぼす要因
7．健康支援の理論②エビデンスに基づく健康支援その１(中高年者の健康支援)
8．健康支援の理論③エビデンスに基づく健康支援その２（高齢者の健康支援）
9．健康支援の実際：
10. 疫学研究の方法
11. 疫学的アプローチの実際：演習①疫学的手法の健康・運動・スポーツ分野における応用
12. 疫学的アプローチの実際：演習②研究計画の検討
13. 疫学的アプローチの実際：演習③課題への取組
14. 疫学的アプローチの実際：演習④課題への取組
15. 疫学的アプローチの実際：課題発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90153001
科目名	健康とストレス	単位数	2
科目名（英語表記）	Health and Stress		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
授業概要	心理的、身体的、社会的側面から健康とストレスとの関係性を考え、ストレッサー、ストレスコーピングの種類、さらには対人コミュニケーションについての知識を学ぶことを目的とする。また、ストレッサーとストレス反応についての専門的知識を習得するとともに、客観的指標（心理的反応・生理的反応）によってどのように評価し、実際にストレスコーピングによる効果を検証する方法を学ぶ。実生活でストレスに対処し心身の健康を維持できるような知識と経験を得ることを目指す。		
教材（教科書）	適宜資料を配布する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	定期試験（50%）、授業中に実施する課題（30%）、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換（20%）		
到達目標	ストレッサーとストレス反応についての専門的知識を習得するとともに、客観的指標（心理的反応・生理的反応）を用いて評価する方法を習得する。また、自分自身や他者へストレスコーピング方法を学び、実際に日常生活に取り入れることを促せるようにする。		
授業時間外学習	自分自身のストレスや健康状態に意識を向け、ストレス低減にはどのような行動や思考が必要か日常生活の中で考える訓練をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業時に示す課題に対し積極的に取組む姿勢(発言・行動)を期待します。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション ２．ストレスとは? ３．ストレスによる心理的反応 ４．ストレスによる生理的反応 ５．ストレスの評価・測定１ ６．ストレスの評価・測定２ 7. ストレスと疾患 ８．ストレス・コーピング ９．ストレスとパーソナリティ １０．ストレスと行動 １１．仕事とストレス １２．ライフイベントとストレス １３．ストレスマネジメント１ １４．ストレスマネジメント２ １５．　まとめ（本講義で学んだことを振り返り日常生活でどのように活用するかについて考える）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90154001
科目名	メディカル画像解析	単位数	2
科目名（英語表記）	Medical Image Analysis		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
授業概要	医療画像は短時間で人間の健康状態を把握するのに最適の手段です。 最近は医師だけでなく、看護師、理学療法士の公的試験にも医療画像が良く出題されます。 トレーニング関係においても医療機関との連携やパーソナルトレーニングにかかわる際には理解できるほうが、その質が向上すると考えています。 今回は画像診断の基本とX線、CT、MRIを中心とした画像について説明したいと思います。		
教材（教科書）	とくにありません。		
教材（参考資料）	とくにありません。		
教育方法	スライドを使用して、病気についての解説と具体的な医療画像を提示します。 小テカトなどを使用して、画像を認識して、社会に出た時に役立つ知識を提供します。		
評価方法	小テスト(100%)		
到達目標	1)放射線の基礎を理解できること 2)画像診断の基礎を理解できること 3)代表的な病気の画像を判断できること		
授業時間外学習	国立がん研究センターのホームページを見て自習してください。 いきいき健康ライフ／滋賀県立成人病センターのホームページを見て自習してください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

出席の代返は禁止です。
講義中の私語は禁止です。
小テストはスクリーンを使用しますので、なるべく前に座ってください。
筆記用具は毎回、持参してください。

授業スケジュール

1　放射線一般Ⅰ
2　放射線一般Ⅱ
3　頭部の画像診断学Ⅰ
4　頭部の画像診断学Ⅱ
5　胸部の画像診断学
6　腹部の画像診断学
7　脊柱・脊髄の画像診断学Ⅰ
8　脊柱・脊髄の画像診断学Ⅱ
9　四肢の画像診断学Ⅰ
10　四肢の画像診断学Ⅱ
11　スポーツ障害の基本
12　スポーツ障害の画像診断Ⅰ頭部・脊椎外傷
13　スポーツ障害の画像診断Ⅱ肩関節・上枝の損傷
14　スポーツ障害の画像診断Ⅲ骨盤・大腿の損傷
15　スポーツ障害の画像診断Ⅳ下肢の損傷

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90155001
科目名	健康スポーツ心理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Psychology of Health and Sports		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
授業概要	我々の生活においてスポーツや身体運動の実践はさまざまな心理的および生理的恩恵をもたらし、ストレス解消や健康の維持増進など多岐に渡る。本講義では、日常生活での身体活動から競技スポーツに至るまで、身体を動かすことがメンタルヘルスに及ぼす影響、生活習慣病の予防にどのように貢献するのかをいくつかの健康心理学・スポーツ心理学的テーマと関連させて学習する。また、スポーツ指導者が必要とするメンタルマネジメントやストレスアセスメントなどについても理解を深め，日常生活および競技スポーツ場面で活用できる知識を得ることを目標とする。		
教材（教科書）	適宜資料を配布する。		
教材（参考資料）	『健康スポーツの心理学』　竹中晃二編　大修館書店		
教育方法	−		
評価方法	定期試験（60%）、授業中に実施する課題（20%）、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換（20%）		
到達目標	運動・スポーツを心理的側面から捉え、健康づくりの運動における行動変容と競技スポーツにおける心理的スキルをさまざまな場面で応用できるようにする。		
授業時間外学習	毎回の講義で指示する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退・私語は原則禁止。5 分前には着席すること。授業時に示す課題に対し積極的に取組む姿勢(発言・行動)を期待します。

授業スケジュール

1．スポーツと心の基礎１
　<スポーツ活動・運動による気分・自己概念・パーソナリティー形成への長期・短期的効果>
2．スポーツと心の基礎２
　<スポーツ活動・運動による人間形成、パーソナリティーとの特徴、情動との関係>
3．スポーツ指導における動機付け
　<運動意欲、運動意欲満足度向上の方法、「やる気」を高めるトレーニング原理・原則>
4．スポーツコーチングの心理
　<示範、効果的な言葉かけ、トレーニングと心理、トレーニング方法と心理、カウンセリング>
5．メンタルマネジメント
　<基本的な考え方とメンタルトレーニング［リラクゼーション含］、試合にむけての準備、プレッシャーやあがり、スランプ>
6．スポーツ指導者（体育教師含む）のメンタルマネジメント
　<リーダーシップのタイプとスキル、指導者としてのメンタルマネジメントの留意点>
7. 心の健康論
　<メンタルヘルス、メンタルヘルスにおける媒介要因、発達段階に応じて共通するメンタルヘルスの問題>
8．健康づくり運動とカウンセリング１
　<健康運動実践に伴う心理的要因の変化、健康運動達成欲求の多様性、生活習慣病と将来の健康の不安>
9．健康づくり運動とカウンセリング２
　<運動の心理的効果及び効果強化目的の認知的方略、健康運動実践のカウンセリング及び相談指導の技法>
１０．健康運動実践におけるストレスアセスメントと対処法１
　<ストレス概念・定義と生物学的及び社会学的因子とストレス関連疾患、ストレス反応の生物学的測定、ストレスの対処法>
１１．健康運動実践におけるストレスアセスメントと対処法２
　<カウンセリングと相談指導、カウンセリングと欲求運動の示唆と指導・技法、禁煙指導の具体例紹介と運動指導との関わり>
１２．運動行動変容の理論

１３．運動行動変容の実際と効果 １４．運動との関わりを深める働きかけ方と指導方法、運動指導における心理学的視点を取り入れた指導実践 １５．運動学習効果を高める集団のあり方への指導方法、身体と心を通しての「生きる」力を育む運動学習の効果的指導方法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90156001
科目名	スポーツ運動学	単位数	2
科目名（英語表記）	Kinematics of Sports		
担当者名	髙松　靖	旧科目名称	
授業概要	スポーツ指導者や体育の教員を目指すものは、自分が運動をどのようにして出来るようになるのか、どのようにして他者の運動を出来るようにするのかを理解する必要がある。「頭では解っていてもそうは動けない」場面や「運動のことを身体の原理など全く知らないのに素晴らしい動きをする」人に出会うとき、「運動を身体で理解する」ということの重要性を痛感する。スポーツ運動を身体で感じ、理解し、伝える力は運動指導に関わるものとして必須となってくる能力である。本講義では、このような認識と能力について学ぶ。		
教材（教科書）	特に使用しないが、必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	『教師のための運動学』（大修館書店）：金子明友監修。 『スポーツ運動学』　『身体知の形成、上・下』　『身体知の構造』（明和出版）：金子明友著。		
教育方法	パワーポイントを使用し、講義形式で講義を進める。		
評価方法	毎授業の小レポート(各 4 点満点の 60 点）と最終レポート(40 点）の合計で評価する。		
到達目標	スポーツ運動における自然科学的分析と人間学的分析の意味や役割の違いを理解できるようになる。保健体育の教員やスポーツ指導者を目指すうえで欠かすことのできない運動学的な考え方が出来るようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の講義の資料を配布したり、課題を提示するので、次回までに準備しておくこと。また、毎回授業の最初に、前回の授業内容に関する復習質問を行うので、答えられるように復習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自分自身のこれまでの運動経験（スポーツや運動遊び）を思い出しながら、授業に臨んでもらいたい。

授業スケジュール

1．運動学で扱う「運動」とは
2．自然科学的運動分析と人間学的運動分析の違いについて
3．動感身体知とは
4．運動発生について①（どのようにして運動が出来るようになるか）
5．運動発生について②(コツとカンの理解について)
6．運動の習熟位相について
7．運動の指導について①(どのようにして他者に運動を伝えるか)
8．運動の指導について②(他者の運動に共感できるか)
9．運動の指導について③（道しるべの重要性）
10．運動の構造について①(運動を見抜くということ)
11．運動の構造について②（動きの価値と独創性について）
12．運動の構造について③（運動を支える経験について）
13．運動指導者を目指すために必要なこと①(最適化を志向する領域について)
14．運動指導者を目指すために必要なこと②(最高化を志向する領域について)
15．運動指導の全体像

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90157001
科目名	健康スポーツ指導方法論	単位数	2
科目名（英語表記）	Instructional Method for Health and Sports		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
授業概要	健康・スポーツの指導者の役割（指導者としての心構え・視点、倫理など）、健康スポーツの参加者の増加やスポーツの裾野を広げるという意味でのトップアスリートの発掘・育成・強化の重要性とその方法、指導計画のたて方、健康・スポーツ活動と安全管理、具体的指導方法（個別指導と集団指導、指導効果の評価、情報活用法など）、指導能力を高める方法（コミュニケーションスキル）などの指導者に必要な知識とスキルについて学修する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	『日本体育協会公認スポーツ指導者テキスト』 日本体育協会 『健康運動指導士テキスト』　健康体力づくり事業財団 『健康運動実践指導者テキスト』　健康体力づくり事業財団		
教育方法	適宜プリントを配付する。パワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内小テスト・レポートの評価（50%）、定期試験（50%）		
到達目標	健康・スポーツの指導者の役割、指導計画のたて方、健康・スポーツ活動と安全管理、具体的指導方法について理解し、説明できるようにする。また、指導者として必要な基本的なコミュニケーションができるようになることを目標とする。		
授業時間外学習	図書館等で参考文献を用いるなどして、予習しておくこと。 授業終了時に課題を指定された場合は、指定期日までに提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
予習、復習をしっかり行い、積極的な態度で講義に出席するよう要望する。			
授業スケジュール			
１．　健康・スポーツの指導者の役割１（スポーツ指導者とは、スポーツ指導者としての倫理など） ２．　健康・スポーツの指導者の役割２（指導者の心構え・視点など） ３．　健康・スポーツの指導者の役割３（アスリートの発掘・育成・強化の重要性など） ４．　健康・スポーツの指導者の役割４（アスリートの発掘・育成・強化の重要性など） ５．　健康・スポーツの指導法１（トレーニングの原則など） ６．　健康・スポーツの指導法２（運動プログラム作成の基礎１） ７．　健康・スポーツの指導法３（運動プログラム作成の基礎２） ８．　健康・スポーツの指導法４（有酸素性運動とその効果） ９．　健康・スポーツの指導法５（レジスタンス運動、健康づくり運動など） １０．　健康・スポーツ指導の実際１（体力測定の活用法１） １１．　健康・スポーツ指導の実際２（体力測定の活用法２） １２．　健康・スポーツ指導の実際３（運動プログラム作成の実際１） １３．　健康・スポーツ指導の実際４（運動プログラム作成の実際２） １４．　健康・スポーツ指導の実際５（運動プログラム作成の実際３） １５．　健康・スポーツ活動と安全管理			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90158001
科目名	スポーツ栄養学	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Nutrition		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
授業概要	本講義では、競技力向上を目的にしたスポーツ選手の栄養摂取や食事管理の基本を学修する。具体的には、身体活動量とエネルギー必要量、身体組成、体づくり・スタミナづくりの食事法、水分補給法、サプリメント摂取法、トレーニングの目的に応じた食事法等について、最新の生理学的・生化学的・体力科学的知見を踏まえて学修する。ここでの学修内容は、アスリートやスポーツ愛好家に適用できるのは当然ながら、健康づくりの基盤になるものである。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	『スポーツ栄養学』（市村出版）　樋口満編著 『市民からアスリートまでのスポーツ栄養学』（八千代出版）　岡村浩嗣編著		
教育方法	授業の中心は、パワーポイントとプリントを使用する講義形式で行う。1 日のエネルギー出納や体組成では、演習形式の内容も含む。		
評価方法	ミニテスト（20%）、レポート（10%）、定期試験（70%）		
到達目標	スポーツに必要な体づくりや骨づくり、あるいはスポーツ能力に影響するスタミナや疲労回復のための栄養・食事の在り方についてその理論を理解し、実際のスポーツや生活に生かせる知識を身につける。		
授業時間外学習	授業のテキスト（レジメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業 1 週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日頃から、自分の食生活に関心を持つこと。
講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。
講義で得た知識を用いて健康増進や競技力向上を目指した食事を実践してほしい。
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認めません。
毎回、授業の初めに、前回の内容についてのミニテスト（5 分以内でできる問題）を行うので、そのためにしっかり復習して欲しい。これは定期試験で役立つはず。

授業スケジュール

１．はじめに 1(スポーツと栄養、健康と栄養、三大栄養素、エネルギー供給課程)
２．はじめに 2(競技のタイプ、トレーニング期分けと栄養計画、アスリートの栄養摂取と食生活)
３．身体組成の評価と健康（各種身体組成評価方法、競技生活と身体組成、健康と身体組成）
４．身体づくりと栄養（筋肉づくりとたんぱく質栄養、トレーニングと栄養の同期、ホルモンの働き）
５．エネルギー代謝と身体活動量（基礎代謝量、身体活動レベル、エネルギー必要量、身体活動量の評価）
６．ウエイトコントロール（減量と増量、効果的な体重管理、生活習慣病と体重・身体組成管理、体重のリバウンド）
７．スタミナづくりと栄養（効果的な成分と方法：グリコーゲン・ローディング、ビタミン（補酵素作用と抗酸化作用)、果糖）
８．運動と水分補給（熱中症対策）
９．骨づくりと骨粗鬆症の予防および貧血予防（骨づくりに効果的な成分・方法と骨形成、運動性貧血、貧血予防と持久力）
１０．サプリメント（サプリメント、保健機能食品、特定保健食品、エルゴジェニックエイド）
１１．競技力向上の栄養計画（コンディショニングと試合前・試合後の食事）
１２．一日の活動量と食事摂取状況の評価と食事計画（アセスメント１）（食事・活動量調査の実践，現状把握）
１３．一日の活動量と食事摂取状況の評価と食事計画（アセスメント２）（エネルギーバランス，身体活動レベル）
１４．Aging（成長・発育・加齢）に伴う身体の変化と運動と栄養（痩せおよび肥満の健康障害、その機序、メタボリックシンドロームとの関連）
１５．まとめ：健康づくりに必要な効果的なトレーニングと食生活（食事摂取基準との関連で）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J90159001
科目名	運動生理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Exercise Physiology		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
授業概要	呼吸循環器系、筋・骨格系、脳・神経系、内分泌系、免疫能などの身体諸機能の基本的構造と機能について学び、一過性の運動がこれらの身体諸機能に及ぼす影響、長期的な運動トレーニングがこれらの身体諸機能に及ぼす効果について学修する。また、暑熱環境・寒冷環境などの環境温が身体諸機能に与える影響、低酸素環境や水中環境が身体諸機能に与える影響など、運動と環境について、さらには、運動と健康、発育発達と加齢による身体諸機能の変化についての基礎知識についても学ぶ。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	『健康運動実践指導者テキスト』　健康体力づくり事業財団 『健康運動指導士テキスト』　健康体力づくり事業財団 『日本体育協会公認スポーツ指導者テキスト』　日本体育協会		
教育方法	適宜プリントを配付する。パワーポイントを活用する。		
評価方法	確認テスト（50%）(毎回授業の最後に、その日の学修内容の確認テストを実施)、定期試験（50%）		
到達目標	身体諸機能の基本的構造と機能、一過性の運動が身体諸機能に及ぼす影響、長期的な運動トレーニングが身体諸機能に及ぼす効果、暑熱環境・寒冷環境、低酸素環境・水中環境などが身体諸機能に与える影響、および運動と環境の関係、運動と健康、発育発達と加齢による身体諸機能の変化について理解し、説明できるようにする。		
授業時間外学習	授業終了時に課題を指定するので、指定期日までに提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

予習、復習をしっかり行い、積極的な態度で講義に出席するよう要望する。

授業スケジュール

1．身体諸機能と運動（呼吸・循環器系、脳・神経系、骨格筋系、内分泌系、免疫系の機能と運動の関係）
2．呼吸器系と運動（呼吸器の構造と機能、運動時の換気動態、最大酸素摂取量、呼吸機能に及ぼす長期的運動効果）
3．循環器系のしくみと調節（心臓の構造と心筋の収縮、脈管系の分類と各機能、運動時の循環器系の調節のしくみなど）
4．循環器系と運動（運動時の血流調節・動脈血圧調節のしくみ、長期的運動による心機能・血管機能の変化など）
5．脳・神経系と運動１（脳・神経系の構成、自律神経系の構成と調節機能、反射のしくみと運動制御の階層構造など）
6．脳・神経系と運動２（随意運動と不随意運動、運動・動作の上達のメカニズム、長期的運動伴う脳・神経系機能の変化）
7．骨格筋系と運動１（骨格筋の構造と収縮のしくみ、筋活動の様式と力学的特性、筋収縮のためのエネルギー供給機構）
8．骨格筋系と運動２（筋力・筋パワーの決定要因、筋力トレーニング・有酸素性トレーニングに伴う筋機能向上のしくみ）
9．内分泌系と運動（ホルモンの定義・作用、運動によるホルモンの反応、長期的運動に伴うホルモン分泌変化など）
１０．運動と免疫能（免疫系の概要、体力と感染リスクの関連、長期的運動による免疫能の変化など）
１１．環境と運動１（環境温と運動時における体温調節機構、熱中症発症のしくみと予防対策、暑熱・寒冷馴化など）
１２．環境と運動２（低酸素環境[高地]・水中環境が身体諸機能に与える影響、水中運動およびトレーニングの効果）
１３．成長期における体力・基本的動作のスキルの発達（有酸素性体力・無酸素性体力・基本的運動スキルの発達）
１４．成人以降の加齢に伴う体力・運動能力、有酸素性体力の低下
１５．体力に及ぼす先天的要因（遺伝）と後天的要因（運動実践の効果）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90160001
科目名	運動発育発達論	単位数	2
科目名（英語表記）	Exercise and Human Development		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
授業概要	健全な成長のためには、発達期それぞれの時期の心身の特徴について理解するとともに、時期に応じた適切な身体活動を展開することが求められる。子どもの発育発達期の運動プログラムの作成や指導を行ううえで重要となる発育発達過程における心身の特徴と運動器系の特徴、スポーツや運動の影響、傷害や疾病とその処置法、安全で合理的な指導等について学修する。幼少年期におけるあそびや自然体験、スポーツ活動、運動習慣の重要性や、将来の生活への影響を理解し、各発育期における運動実施の重要性とその実践について学修する。		
教材（教科書）	適宜、資料を配布する。		
教材（参考資料）	授業内で紹介する。		
教育方法	主に講義で授業を進める。スライドや資料などの教材を用いて理解を促しながら講義を進め、時には、受講生同士のディスカッションやレポート、小テストなどで理解を深めるようにする。		
評価方法	授業への積極的参加度（３０％）、レポート（３０％）、定期試験（４０％）		
到達目標	ライフステージにおける各時期の発育発達や運動機能の特徴を理解したうえで、健全な成長のために各発達期に適切な身体活動やトレーニングについて考えることができる。また、ジュニア期のスポーツや体力の二極化などに対して問題意識をもち、関心を高める。		
授業時間外学習	次時の授業内容に関心を持ち、関連する事柄について自分で書籍や Web で調べるなど、予習をしてくること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

既習事項を基に、知識をさらに深めようとする姿勢、態度を求める。受講にあたっては、漠然と講義を受ける態度ではなく、主体的に考え意見交換をするなど、積極的な姿勢や発言を期待する。ジュニア期のスポーツや運動の話題に関心をもち、新聞などから情報を得るよう心掛け、現代の子どもを取り巻く環境やその問題点について、自分の考えを持てるようにすること。授業中は、自分から授業内容について考えるようにし、積極的に学ぶ姿勢と態度で授業に臨むこと。

授業スケジュール

１．ジュニア期のスポーツ指導の心得（発育発達期の身体的及び心理的特徴）
２．ジュニア期のスポーツ活動を通しての教育的効果と社会性の育成
３．ジュニア期の発育発達過程におけるステージ分け
４．ジュニア期の発育発達課程における身体的特徴（身体の発育発達の原則）
５．ジュニア期の発育発達過程における心理的特徴（身体の発育発達の原則：精神的発達［知的障害の発育発達含む］）
６．ジュニア期のスポーツや自然体験など様々な体験が発育発達期の心身に及ぼす影響
７．発育発達期の運動器系の特徴
８．発育発達期のスポーツ傷害疾病の特徴
９．発育発達期の内科的疾患
１０．ジュニア期の一貫指導の考え方
１１．ジュニア期初期（5，６歳～１２歳）におけるトレーニング
１２．ジュニア期中期（１３歳以降）以後のトレーニング
１３．ジュニア期発展期（１５歳～１６歳頃以後）のトレーニング
１４．ジュニア期の発育発達に応じたトレーニング（早熟・晩熟などを考慮したトレーニング）
１５．ジュニア期の性差に応じたトレーニング

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J90161001
科目名	スポーツ社会学	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Sports		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
授業概要	豊かな健康スポーツライフに存在する社会学的意義と価値について概説する。健康活動とスポーツ活動に関わる社会的現象の実態とその現象の起こるメカニズム（因果関係）を解説する。健康およびスポーツ活動の行為、行動、さらには家族、コミュニティ、集団、組織および社会構造や社会変動に関わる文化としての事象（過去・現在・未来）について概念講義する。健康スポーツ社会学は人間社会での健康とスポーツライフに存在する文化としてスポーツ観・スポーツ行動様式・スポーツ物的事物価値からの生涯学習の基本概念とする。		
教材（教科書）	『よくわかるスポーツ文化論』（ミネルヴァ書房）　井上俊・菊　幸一編著		
教材（参考資料）	『スポーツ社会学講義』（大修館書店）　森川貞夫、佐伯聰夫 編著 『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（公益財団法人　日本体育協会編集発行）		
教育方法	教科書を活用しながらの講義形式。		
評価方法	レポート課題テスト（90%）、ミニレポート（10%）		
到達目標	1）健康とスポーツの歴史と文化的意義を理解 2）障がい者・子供・高齢者とスポーツの関係について理解 3）健康スポーツの社会学的諸問題に関して理解 4）健康スポーツの法に関する諸問題の理解		
授業時間外学習	指定教科書の予習を事前に熟読して、事前にテーマに添って関連情報を入手しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

指定教科書を購入準備。着席は前方から学籍番号順に着座をお願いします。
教科書、筆記具以外の机上提示は認めませんので理解下さい。

授業スケジュール

1．文化としてのスポーツ１（スポーツの歴史とスポーツ概念）
2．文化としてのスポーツ２（文化としてのスポーツの位置づけやその意義の在り方と重要性、スポーツ文化としてのスポーツ観・スポーツ規範の重要性）
3．社会の中のスポーツ（スポーツの社会的価値、社会におけるスポーツの関わりの重要性）
4．我が国の健康及びスポーツプロモーション（日本の健康増進法及び各種スポーツ振興法についての内容理解）
5．スポーツと法（スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任）
6．スポーツと人権（モラルと人権尊重[事例による体罰及暴言・ハラスメント防止策]）
7．トップアスリートを取り巻く諸問題１（トップアスリートへの科学的サポート）
8．トップアスリートを取り巻く諸問題２（海外遠征の諸問題とその対応）
9．トップアスリートを取り巻く諸問題３（国際競技力向上の為の環境）
１０．トップアスリートを取り巻く諸問題４（情報戦略）
１１．トップアスリートを取り巻く諸問題５（競技者を取り巻く新しい環境と適切な対応）
１２．健康スポーツ文化１（高齢化社会における健康スポーツ文化の価値と意義）
１３．健康スポーツ文化２（生涯スポーツとしての健康スポーツ文化の価値と意義）
１４．健康スポーツ文化３（福祉スポーツとしての健康スポーツ文化の価値と意義）
１５．ボランティア精神と活動の基本的姿勢（アダプテッドスポーツ活動支援の事例）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J90162001
科目名	健康スポーツマネジメント	単位数	2
科目名（英語表記）	Management of Sports and Exercise		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
授業概要	社会における健康並びにスポーツ実践領域におけるマネジメントシステム・事象について講義する。学校・地域・企業・プロスポーツにおいて健康活動とスポーツ活動に関わる「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」に関してのマネジメントの仕組みと仕掛けの方法とそれらの事例事象・事例システムを交えながら説明・解説する。社会の健康並びにスポーツ実践活動がもたらす健康スポーツライフのマネジメント機能が日本・アジアを含めたグローバル社会に与える価値とその意義（未来創造）について総括的な講義とする。		
教材（教科書）	『図とイラストで学ぶ新しいスポーツマネジメント』(大修館書店)　山下秋二、中西純司、松岡宏高編著		
教材（参考資料）	『最新公認スポーツ指導者テキスト　公益財団法人 日本体育協会編集発刊 学校体育経営ハンドブック―体育の実務と運営』(大修館書店)　宇土正彦編著		
教育方法	教科書を活用しながらの講義形式。		
評価方法	レポート課題テスト（90%）、ミニレポート（10%）		
到達目標	健康スポーツマネジメントの様々な基礎的概念を理解し、そこに存在する具体的事象から健康スポーツマネジメントの本質を学ぶ事を目標とする。加えて、中・高保健体育教職実務となる学校体育経営の管理システム、組織、運営。計画等についても学修し、理解する事を目標とする。		
授業時間外学習	毎日の新聞熟読に努め、社会事象や社会事象の変革を把握して準備学習する事を勧める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講は社会における健康スポーツに関わるビジネスや組織に関わるマネジメントの仕組みや仕掛けについて学び、それらの各種事象事例からの健康スポーツマネジメントの実態を理解する。加えて、教職必修科目でもある。保健体育教員としての学校体育経営のノウハウも学習する。これらの事を踏まえて、健康スポーツマネジメント職志望並びに日体協指導者資格・保体教免資格取得希望者は目的意識を持って受講して頂きたい。

授業スケジュール

1．マネジメントの概念
2．健康スポーツとマネジメント
3．健康スポーツビジネスのマネジメント
4．健康スポーツマーケティングのマネジメント
5．健康スポーツオペレーションのマネジメント
6．スポーツ経営戦略（スポーツ企業とスポーツチームの事例から）
7．アスリートビジネスマネジメント（トッププロアスリートのサポート事例から）
8．スポーツブランドマネジメント（トップスポーツブランドの事例から）
9．健康スポーツ組織の運営、事業計画・事業評価
10．地域スポーツクラブの機能と役割
11．広域スポーツセンターの機能と役割
12．地域におけるスポーツ振興方策と行政とのかかわり
13．我が国のスポーツ振興施策
14．学校体育の経営組織と運営
15．学校体育の活動計画（課外・特別）と運営・管理（財務・施設）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J90163001
科目名	健康スポーツビジネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Business		
担当者名	田島　良輝	旧科目名称	
授業概要	スポーツを商品または経済活動の対象と捉え、スポーツビジネスの実践を社会した上で、主にマーケティングという切り口からスポーツ産業の全体像を学びます。 　スポーツ活動には大きく“する”スポーツと“みる”スポーツという 2 つのかかわり方がありますが、本講義では前者のかかわりとして①国際スポーツイベントのマーケティング ②プロスポーツビジネス 後者のかかわりとして③スポーツクラブのマーケティング④スポーツとまちづくり論などの事例を取り上げます。		
教材（教科書）	使用しない。		
教材（参考資料）	原田宗彦ほか『スポーツ産業論 第 6 版』、杏林書院、2015、2700 円 平田竹男『スポーツビジネス最強の教科書 第 2 版』、東洋経済新報社、2017、4320 円		
教育方法	テーマごとに「数回の講義＋ワークショップ」をワンセットにした授業を行う。数回の講義では主にパワーポイントを用いた講義法で行い、ワークショップはテーマに沿った課題に対して、グループで話し合い、問題把握や問題解決に取り組む。		
評価方法	講義内レポート 15%、レポート 15%、定期試験 70%		
到達目標	①マーケティングに関する基礎理論を説明することができる。 ②マーケティング理論を活用して、スポーツイベント、プロスポーツの集客やスポーツクラブのプロダクトづくりを評価・考察できる。		
授業時間外学習	テーマごとに「数回の講義＋ワークショップ」をワンセットにした授業を行う。授業中に配布・提示した資料や文献を読み、ワークショップに向けた準備を行うこと。 ■ワークショップ①に向けた準備（主に第 4 回～6 回に該当） ・日本のプロ野球とＪリーグの仕組みについて、その違いを調べる。 ・ダゾーンに関する新聞や雑誌、インターネット情報を集め、読んでおく。 ・授業内で議論したプロリークの制度設計に関するレポートをまとめる。 ■ワークショップ②に向けた準備 （主に第 7 回～9 回に該当） ・（可能であれば、プロスポーツ等のスポーツ観戦を行う） ・書籍やインターネット等で横浜 DeNA ベイスターズの集客戦略を探し、読み、まとめる。 ・講義内レポート プロスポーツクラブの集客戦略をまとめる。 ■ワークショップ③に向けた準備（主に第 10 回～13 回に該当） ・授業中に配布する資料「特集 1 億総スポーツ社会構想で始まる健康ビジネス」を読む。 ・「簡易版 スポーツ教室の事業計画」を作成する。 ・「簡易版 スポーツ教室の事業計画」を評価する。 ※上記以外の回の授業時間外学習については、予習＆復習資料を配布する予定である。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・教室内脱帽、授業中の居眠りは禁止。
・「競技」以外のスポーツのかかわりや“支えるスポーツ”について考えるきっかけになることを期待する。

授業スケジュール

1. スポーツ産業の現状と課題、授業の進め方
2. 国際スポーツイベントのマーケティング①マーケティングの仕組み
3. 国際スポーツイベントのマーケティング②スポンサーシップ
4. プロスポーツリーグの制度設計
5. プロスポーツリーグの制度設計（ワークショップ①）
6. プロスポーツリーグの新しい展開
7. プロスポーツクラブの経営戦略
8. プロスポーツクラブの集客戦略

9. プロスポーツクラブのマーケティング（ワークショップ②）
10. フィットネスクラブとスポーツ健康産業
11. 地域スポーツクラブとまちづくり
12. するスポーツのプロダクトづくり（ワークショップ③）
13. スポーツツーリズムとまちづくり
14. スポーツ用品産業の経営戦略
15. スポーツビジネスの業界構造と最新事情

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90164001
科目名	健康スポーツマーケティング論	単位数	2
科目名（英語表記）	Sports Marketing		
担当者名	涌田　龍治	旧科目名称	
授業概要	本講義は、販売と消費というマーケティング論の基本概念を用いてスポーツマーケティングを解説する。より具体的には、①スポーツマーケティングという概念および②マーケティング論を通じて見たスポーツを解説する。その主たる問いは、①なぜスポーツ界にはマーケティング論が必要となったのかであり、②マーケティング論からスポーツを見れば何が説明できるのかである。 現実のスポーツとマーケティングはきわめて複雑に絡み合っている。この複雑な問題を解きほぐすためには、自分の頭で考えることが必要となる。受講者は本講義を通して健康スポーツマーケティングの基本概念を理解することができる。		
教材（教科書）	武井寿他『現代マーケティング論　第 2 版』実教出版, 2018. （1,900 円）		
教材（参考資料）	適宜プリントを配布する。		
教育方法	本講義は主として板書形式をとる。		
評価方法	講義内小試験（40%）、講義内中試験（20%）、講義内大試験（40%）		
到達目標	受講生は次のようなスキルを獲得するはずである。 1. スポーツマーケティングとは何かを説明することができる。 2. 現実のスポーツ界で生じる問題をマーケティング論の視点で説明することができる。		
授業時間外学習	講義終了時に、教科書における次回の講義範囲を示す。指示のあった範囲を次回までに熟読しておくこと。なお、講義内では前回の講義範囲に関連する小試験を課す。復習をしておくこと。各回の推定授業時間外学習は 30 分以上となる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義初回に細かなルールを説明する。
教科書は、講義内で説明する図表集として、また試験の問題としても使用されるので準備しておくこと。

授業スケジュール

1.「オリエンテーション」：授業の目標と進め方、成績評価の方法を解説する
2.「スポーツマーケティングの前提」：スポーツの市場を解説する
3.「スポーツマーケティングの対象」：本講義で学ぶべき対象を解説する
4.「チケット販売と四つの特徴」：プロスポーツチームの製品対応を解説する
5.「中間総括」：これまでの講義内容を復習する
6.「スポーツ市場における流通対応」：チームの行った閉鎖的流通チャネルを解説する
7.「クロスセリング 1」：テレビ放映の抑制効果と促進効果を解説する
8.「クロスセリング 2」：テレビ放映権の高騰現象を解説する
9.「クロスセリング 3」：ライセンス契約とは何かを解説する
10.「クロスセリング 4」：ロイヤルティとライセンス契約の関係を解説する
11.「クロスセリング 5」：スポンサーシップとは何かを解説する
12.「クロスセリング 6」：スポンサーシップの効果をもたらす原因を解説する
13.「興奮の探求」：閉鎖的流通チャネルがなぜ成功要因となったのかを討議する
14.「スポーツマーケティングの最新成果」：これまでの講義を総括し、最新の研究成果を解説する
15.「講義の限界」：講義の限界を示し、今後の展望を解説する

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	J90165001
科目名	地域スポーツ経営論Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management of Sports in Community A		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
授業概要	地域における健康およびスポーツ活動目的の総合型スポーツクラブ経営の基礎的理論について講義する。地域のスポーツクラブ事業の社会的背景と理念、地域スポーツクラブの定義、目指す地域スポーツクラブ像と指導者像、地域スポーツクラブの現状（組織、行政との関わり、スポーツ少年団、各種団体の取組み）、クラブマネージャーの役割（求められる能力）について解説する。地域における健康およびスポーツクラブ経営に特化した実践的マネジメントの基礎理論学修とする。		
教材（教科書）	『公認アシスタントマネージャー養成テキスト』（公益財団法人　日本体育協会発行）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教科書を活用しながらの講義形式。		
評価方法	レポート課題テスト（９０％）、ミニレポート（１０％）		
到達目標	地域スポーツクラブを取り巻く環境の理解、目指すべき事業のミッション理解、ミッションとビジョンの理解、設立・運営形態の理解、具体的イメージの確認と認識、クラブマネジャー像の理解、クラブマネージャーが果たすべき役割の理解、クラブマネージャーに求められる諸能力の認識と理解とする。		
授業時間外学習	現在展開中の京都府内・大阪府内・滋賀県内の総合型地域スポーツクラブの概要と実態を公開情報されている範囲でインターネットから情報収集して把握しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①モラルある受講態度を要望
②健康・スポーツの総合型スポーツクラブの運営の基礎的マネジメントを学ぶ意識で受講要望。
③日本体育協会公認指導者「アシスタントマネジャー」資格必修科目である認識で受講されたし。

授業スケジュール

１．地域スポーツクラブとは（事業の背景と理念）
２．地域スポーツクラブの現状１（地域スポーツクラブを取り巻く環境の変化）
３．地域スポーツクラブの現状２（スポーツ基本法とスポーツ基本計画）
４．地域スポーツクラブの現状３（総合型地域スポーツクラブを取り巻く環境）
５．地域スポーツクラブの現状４（総合型地域スポーツクラブ・マネジメントの仕組み）
６．クラブマネージャーの役割１（クラブマネージャー・アシスタントマネージャーとは、位置づけ、求められる能力）
７．クラブマネージャーの役割２（求められる能力：ロジカルシンキング）
８．クラブマネージャーの役割３（求められる能力：コミュニケーション）
９．クラブマネージャーの役割４（求められる能力：マーケティング）
１０．クラブマネージャーの役割５（求められる能力：経営戦略）
１１．クラブマネージャーの役割６（求められる能力：人・組織のマネジメント能力）
１２．クラブマネージャーの役割７（求められる能力：施設の管理と運営）
１３．クラブマネージャーの役割８（求められる能力：ホスピタリティ）
１４．クラブマネージャーの役割９（求められる能力：スポーツクラブの安全管理＜リスクマネジメント＞）
１５．クラブマネージャーの役割１０（求められる能力：財務）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J90166001
科目名	地域スポーツ経営論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Management of Sports in Community B		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
授業概要	地域における健康およびスポーツ活動目的の総合型スポーツクラブ経営の発展的理論について講義する。実際のクラブのつくり方に関してはクラブ設立・自主運営・法人格の取得方法について、クラブの運営に関してはクラブに必要なスタッフ・活動拠点の確保・クラブ運営資金・活動プログラム・クラブハウスについての実践的マネジメント方法を解説する。加えて、クラブのつくり方とクラブの運営方法の事例的ケーススタディについても学修し、具体的クラブ設立に関わる企画立案までの授業展開とする。		
教材（教科書）	『公認アシスタントマネージャー養成テキスト』（公益財団法人　日本体育協会発刊）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教科書を活用しながらの講義形式。		
評価方法	レポート課題テスト（90%）・ミニレポート（10%）		
到達目標	実際のスポーツクラブのクラブ設立、運営、経営面の一連内容を理解、企画力・問題解決能力・当事者意識を高める事を目標とする。また、スポーツクラブのつくりかたと運営の事例研究より自己のオリジナリティの創設運営企を創り出す事を目標とする。		
授業時間外学習	近隣の地域スポーツクラブの実態の把握（Web 情報収集及び見学）をし、訪問した上で各種情報収集済みの上、受講する事が望ましい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日本体育協会公認指導者資格・アシスタントマネージャー必修科目である事を理解し、単位取得と同時に受験資格が発する事を認識。
卒業年度末（2 月）に本資格取得受験し、合格者は晴れて資格付与される事を認識される事、但し、地域経営論 A、B セット履修で受験資格に該当するという理解の事。

授業スケジュール

１．クラブのつくりかた（クラブの創設）
２．クラブのつくりかたケーススタディ１（地方小規模型クラブ事例）
３，クラブのつくりかたケーススタディ２（都市部中規模型クラブ事例）
４．クラブのつくりかたケーススタディ３（欧州型ドイツクラブ事例）
５．クラブの運営１（自主運営に必要な条件）
６．クラブの運営２（顧客とスタッフの定義）
７．クラブの運営３（ＮＰＯ法人格の取得手続）
８．クラブの運営４（活動拠点の確保）
９．クラブの運営５（財源の確保）
１０．クラブの運営６（事業計画書＜ビジネスプラン＞の作成）
１１．クラブの運営７（事業計画書＜ビジネスプラン＞の評価）
１２．クラブの運営ケーススタディ１（地方小規模型クラブ事例）
１３．クラブの運営ケーススタディ２（都市部中規模型クラブ事例）
１４．クラブの運営ケーススタディ３（欧州型ドイツクラブ事例）
１５．日本と欧州型ドイツクラブのつくりかたと運営の特徴の違いについて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J90167001
科目名	セーフティプロモーション論	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Safty Promotion		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
授業概要	セーフティプロモーションとは、「住民が平穏に暮らせるようにするため、事故や暴力およびその結果としての障害や死亡を、部門や職種の垣根を越えた協働による科学的に評価可能な介入により予防しようとする取り組み」であり、セーフコミュニティは、それを推進するコミュニティのことである。本講義では、セーフティプロモーションにおける基本的課題と対策について基礎理論を学修する。そして、WHO セーフコミュニティ協働センターからわが国初のセーフコミュニティの認証を受けた亀岡市に出向き、セーフコミュニティの運営やその効果について学修する。		
教材（教科書）	セーフティプロモーション、晃洋書房、2017 年 6 月発行（ゲラ刷りが出た段階で、印刷して配布する）		
教材（参考資料）	随時		
教育方法	テキストのゲラができあがれば、それを印刷して資料として配付する。授業はその内容に沿って行う。また、日本初のセーフコミュニティの認証を受け、今年度、再々認証を予定している亀岡市の外傷予防について、調べて発表する。		
評価方法	レポート（30 点）、試験（70 点）		
到達目標	事故やけがは偶然に起こるのではなく予防できるというセーフティプロモーションの理念を理解し、エビデンスに基づく、事故、暴力、犯罪、自殺などの実態とその対策と効果について理解する。		
授業時間外学習	毎回、前の授業の内容について、ミニテストを行う。また、授業の最後には、次回の内容を示すので、テキストで前もってその内容を調べる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業のテキスト（レジメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業 1 週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。

授業スケジュール

1. はじめに、安心安全とは
2. 安全・安心をマネージメントする科学－ injury prevention と safety promotion －
3. 様々な領域におけるセーフティプロモーション（子どもの事故予防）
4. 様々な領域におけるセーフティプロモーション（高齢者の事故予防）
5. 様々な領域におけるセーフティプロモーション（スポーツ外傷の予防）
6. 様々な領域におけるセーフティプロモーション（交通事故予防）
7. 様々な領域におけるセーフティプロモーション（自然災害における被災）
8. 様々な領域におけるセーフティプロモーション（子どもへの犯罪の予防、児童虐待の予防）
9. 様々な領域におけるセーフティプロモーション（DV・性暴力・ストーカーの予防（または被害回避））
10. 様々な領域におけるセーフティプロモーション（自殺の予防）
11. 様々な領域におけるセーフティプロモーション（職場における安全・安心、過労死の予防）
12. safe community －その歴史と基本的な考え方及び我が国における活動（1）
13. safe community －その歴史と基本的な考え方及び我が国における活動（2）
14. セーフティプロモーションスクール－その歴史と基本的な考え方及び実際の活動
15. まとめ、持続可能で効果的なセーフティプロモーション活動発展のカギは？

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	J90168001
科目名	健康スポーツ組織経営論	単位数	2
科目名（英語表記）	Management for Sport and Exercise Organization		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
授業概要	健康およびスポーツ活動に関わる組織の概念と組織集団およびそこに帰属する個人との関係について概説する。組織定義、組織観、組織集団の協同、組織デザイン、組織コミットメント、チームワーク、チームビルディング、組織ストレス、組織文化、組織としての学修、組織変革、非営利型組織経営、組織の社会的責任等の理論的概念について解説する。加えて、健康およびスポーツ活動組織の事例からも効果的組織経営とその課題から実践的組織経営についても講義する。		
教材（教科書）	適時資料配付		
教材（参考資料）	『スポーツに学ぶチームマネジメント』（ダイヤモンド社） 金井 壽宏 、柏　英樹、家田武文著 『経営組織―経営学入門シリーズ 』(日経文庫） 金井 壽宏著 『組織デザイン』(日経文庫） 沼上　幹著 『コーチングマネジメント』(ディスカヴァー２１） 伊藤　　守著		
教育方法	教科書を活用しながらの講義形式。		
評価方法	レポート試験（総括提出課題）７０％・授業内レポート３０％		
到達目標	１）組織経営の基礎概念理解 ２）健康スポーツ組織のリーダーシップの概要理解 ３）健康スポーツ組織の意思決定・知識創造 SECI モデル・リスクマネジメントの理解 ４）健康スポーツ組織の育成と運営理解 ５）健康スポーツ組織のマネジメントとマーケティング・事業プロモーションの理解		
授業時間外学習	教育機関・自治体・民間等の健康スポーツ組織に関心を持ち、インターネットや新聞記事等で事前情報を収集し、各々の組織経営の実践事例やトピックスを把握しておく事を勧める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講義は日本体育協会スポーツ指導員資格取得必修科目であります。また、健康及びスポーツ指導者に任された組織経営を従事していく上での効果的実践のノウハウを理論武装する為の専門科目です。目的意識を持って受講されたし。

1．健康・スポーツ組織の運営について企業・スポーツチームのモデルを調べで動向を知っておく事。

2．受講態度（飲食、途中退席、スマホ確認、私語）は厳しく対処するので理解の事。

授業スケジュール

1．　組織経営とは何か

2．　健康スポーツ組織のリーダーシップの概要

3．　タイプ別健康スポーツ組織のリーダーシップ

4．　変革の健康スポーツ組織のリーダーシップ、健康スポーツ組織リーダーの仕事・役割・コミュニケーション力

5．　チームメンバーの支援と組織成果及び育成コーチング

6．　健康スポーツ組織のチームワークの構築と成果達成

7．　健康スポーツ組織のリーダーシップを発揮できるリーダー

8．　健康スポーツチームの組織づくり（地域・学校・企業・職場）

9．　健康スポーツ組織リーダーシップとスポーツチームビルディングの事例研究

１０．健康スポーツ組織リーダーの意思決定

１１．健康スポーツ組織における知識創造 SECI モデルの概念とその活用

１２．健康スポーツ組織経営のリスクマネジメント

１３．健康スポーツ組織の育成と運営（総合型地域スポーツクラブの育成と運営）　Ⅱ-4-①

１４．　健康スポーツ組織のマネジメント及び事業マーケティング（スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティング）Ⅱ-4-②

１５．健康スポーツ組織の事業プロモーション（スポーツ事業のプロモーション）　Ⅱ-4-③

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90169001
科目名	専門外書講読	単位数	2
科目名（英語表記）	Scientific Reading in English		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
授業概要	大リーグや欧州サッカーチームでの日本人選手の活躍をはじめ、オリンピック・パラリンピックの東京開催は我が国におけるスポーツ界の国際化やスポーツを通じた国際交流を盛んにし、多大な影響をもたらす可能性がある。したがってスポーツの様々な場面において英語を駆使したコミュニケーション能力がますます求められてくる。スポーツに使える英語のフレーズ、スポーツ特有の英語、さらにトレーニング関連で用いられる基礎的な英語を学ぶとともに英語で書かれた雑誌や学術論文などを教材として諸外国のスポーツ事情を学び、国際感覚溢れる『スポーツ人』の養成を本講義のねらいとする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	Spotlight on Sports15 Sports Topics for Learning Basic English （金星堂）		
教育方法	パワーポイントや視聴覚教材を用い、講義法やグループを組み合わせて行う。		
評価方法	期末レポート(60%)、授業内小テスト・課題(40%)		
到達目標	1,英語を通じて諸外国のスポーツ事情や関連した文化を理解できるようになる。 2,英語を母国語として使用している国で頻繁に見られる文章表現や口語表現を理解できるようになる。 3,英語を通じて積極的にコミュニケーションを図る能力を身につける。		
授業時間外学習	予習が必要な場合は適宜アナウンスをする予定である。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義で学ぶ英語だけでなく、インターネットラジオや英文の記事などを積極的に利用し、生きた英語に触れて欲しい。			
授業スケジュール			
１．　スポーツ関連トピック 1 The long wait 聖地が待ちわびた勝利（井口）			
２．　スポーツ関連トピック 2 Olympic volunteers 世界が東京にやってくる（井口）			
３．　スポーツ関連トピック 3 Male Sports? Female Sports? 男女の垣根を越えて（井口）			
４．　スポーツ関連トピック 4 Competition スポーツだけにあらず、競争の原理（井口）			
５．　スポーツ関連トピック 5 A Glamorous Life? けがと背中合わせの栄光（井口）			
６．　スポーツ関連トピック 6 Energy Drinks スポーツドリンクで勝利をつかめ（井口）			
７．　スポーツ関連トピック 7 Helping Your Opponent 勝者の定義（井口）			
８．　スポーツ関連トピック 8 Ghost Goals 幻のゴールと白熱する議論（井口）			
９．　スポーツ関連トピック 9 Rituals and Superstitions ゲンを担いでもう 1 勝！（三宅）			
１０．　スポーツ関連トピック 10 The Cutting Edge 剣の最先端に歴史を見よ（三宅）			
１１．　スポーツ関連トピック 11 Match-Fixing 賭け事と八百長問題（三宅）			
１２．　スポーツ関連トピック 12 Heroes Inspire Heroes 名声を活かして（三宅）			
１３．　スポーツ関連トピック 13 Peach Baskets 冬に生まれた人気屋内競技（三宅）			

１４．　スポーツ関連トピック 14 Mandela’s Miracle 南アフリカを変えたスポーツの力（三宅）

１５．　スポーツ関連トピック 15 An Unusual Combination イランで野球外交（三宅）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	–	★	–	★	–

年度	2018	授業コード	J90170001
科目名	身体運動科学実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Science of Physical Kinematics		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
授業概要	身体運動にかかわる事象は、内部環境からの面と外部環境からの両側面のアプローチが考えられる。内部環境に関しては運動生理学的な知見から観察評価する。また、外部環境に関しては人間工学に基づくバイオメカニクスを用いたアプローチがあり、いずれも身体運動を詳細に観察するのに必要不可欠な内容である。そこで本実習では、①バイオメカニクスの様々な測定方法を体験し、人間が行う巧みな身体運動動作を考える実習、②有酸素的エネルギー供給と無酸素的エネルギー供給を測定し評価する実習、③運動強度と心拍数や主観的運動強度との関係などから健康・体力の向上のための運動方法を考える実習を行い、これらの実習結果をまとめてレポートなどで発表し意見交換を行う。 　授業は 3 名の教員（柳田、平川、谷口）で 3 つのグループに分かれて各テーマに沿って 4 回行う。4 回の実習が終わるとその都度レポートを作成（5 回目）して提出する。		
教材（教科書）	授業時に印刷物を配布して活用する。		
教材（参考資料）	解剖生理学やバイオメカニクスなどで用いたテキストを活用するので、指示したときに準備すること。		
教育方法	この授業は 3 名の教員によって受講するためにローテーションを行う。1 回でも休んだ場合は実習の流れをつかめなくなる。授業の欠席はしないように。もし欠席があった場合はその授業内容について情報をえておくこと。実験実習の授業であるので、できればノートパソコンを用意したい。実験で得たデータを確保しておき自宅や休み時間に整理する。またレポートに反映できるようにすれば提出に要する時間の節約にもつながる。本実習は卒業研究にも関連するので不明な点は教員に質問するなど整理すること。毎回の授業では課題となるレポートの提出が求められる。毎時間で提出となる場合や、すべての実習が終了して後に提出する場合もあるので、説明をよく聞いておく。提出を忘れた場合は評価はできないので心得ておくこと。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	身体運動実験に関係する各種の機器によるデータ取得の原理を学び、そこから身体運動に潜む事象に関心を持つ。パソコンを操作することからデータの扱いに慣れ、事象を図表などで表現するスキルを養う。		
授業時間外学習	解剖生理学による身体の筋骨格を復習する。また、バイオメカニクスや運動生理学で学んだ様々な内容を活用する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
実験に際しては安全を最優先にすること。電気を用いることが多く、感電や、火傷などの事故を防ぐように授業場を整理整頓することに努める。仲間との連携を確かなものにして安全確保に注意する。実験の授業であるので汗をかいたり、電極を体に貼付したりするので運動時と同じ服装で参加し、屋内運動靴を持参する必要があるので注意すること。			
授業スケジュール			
１．ガイダンス（授業計画についての説明。グループ分け。成績評価についての説明。実験に際しての安全について。授業に必要なＰＣや電卓などの物品を確認する。） ２．バイオメカニクス 1、「身体重心位置が持つ意味とは？」、「作図法による自身の分節重量、分節重心位置を算出する」柳田 ３．バイオメカニクス 2、「作図法を用いて身体重心位置を求める」柳田 ４．バイオメカニクス 3、「重量負荷時の筋電図を計測して、筋放電量と筋出力の関係をみる」（柳田）、 ５．バイオメカニクス 3、「異なる重量負荷による筋電図積分値を測定して、重量負荷と筋発揮の関係性を考える」（柳田） ６．レポート作成 ７．運動生理学 1、「身体エネルギー供給メカニズムと運動パフォーマンス」（平川） ８．運動生理学 2、「有酸素的エネルギー供給：最大酸素摂取量」（平川） ９・運動生理学 3、「有酸素的エネルギー供給：無酸素的作業閾値」（平川） １０．運動生理学 4、「有酸素的エネルギー供給：最大無酸素パワーと血中乳酸」（平川） １１．レポート作成			

１２．体力科学 1、「運動強度と血圧・心拍数・主観的運動強度」（谷口）
１３．体力科学 2、「筋力発揮の神経機構ー両側性機能低下」（谷口）
１４．体力科学 3、「ウオーミングアップと柔軟性」（谷口）
１５．体力科学 4、「姿勢と血圧」（谷口）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90171001
科目名	体力測定評価論	単位数	2
科目名（英語表記）	Assessment of Body Composition and Pysical Ability		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
授業概要	本講義では運動や競技レベルに合わせた適切な体力評価法の選択から実施方法、さらにそれらの測定結果を受けて適切なエクササイズ処方ができる能力を習得することを目的とする。体力測定評価であるフィットネステストをトレーニング前後に実施することは、トレーニングやリハビリ効果を定量化する上で非常に重要である。本講義では目的に沿ったテストの選択から結果の解釈、結果を基にした短期的・長期的トレーニングやリハビリプログラムの作成能力を習得することを目的とする。		
教材（教科書）	必要に応じて適宜資料を配布する。		
教材（参考資料）	『健康運動指導士養成講習会テキスト 上』 （健康・体力づくり事業財団 ） 『公認スポーツ指導者養成テキスト』(日本体育協会) 『障害者スポーツ指導教本』(ぎょうせい) 『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版（第 3 版)』 (ブックハウス・エイチディ)		
教育方法	パワーポイントや配布資料を用いながら、講義法で行う。		
評価方法	小テスト授業内レポート（50%)、期末試験（50%）		
到達目標	運動や競技レベルに合わせた適切な体力評価法の選択から実施方法、さらにそれらの測定結果を受けて適切なエクササイズ処方ができる能力を習得すること。		
授業時間外学習	前回の学修事項を確認したうえで、講義に参加することを望む。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

皆さんの身近なトレーニングやダイエットなどと密接に関連した内容ですので、興味を持って積極的な授業参加を期待します。

授業スケジュール

１：健康体力測定評価の概要１（健康体力の定義、測定の意義・目的・評価データ活用方法）

２：健康体力測定評価の概要２（体力実状を把握し、測定方法の評価の考え方について）

３：健康体力測定評価の実際１（適切な体力測定の条件［妥当性、信頼性、客観性、経済性、安全性、興味性]）

４：健康体力測定評価の実際２（測定１：体力と運動能力の関係：エネルギー発生機序からの体力テスト、運動成績からみた運動能力テスト）
５：健康体力測定評価の実際３（測定２：身体組成、年齢に伴う体力水準の変化体力・運動能力の性差、健康関連の新体力テスト［全年齢共通］の成り立ち）
６：健康体力測定評価の実際４（測定３：局所筋力の測定、相対負荷法［最大筋力当たりの負荷]、局所筋持久力の測定、局所筋パワー［繰り返し最大持ち上げ回数:RM］の測定及び評価法）

７：健康体力測定評価の実際５（測定４：大筋群の筋力・筋パワー測定［脚伸展力・両腕挙上力］及び評価方法）

８：健康体力測定評価の実際６（測定５：全身運動の持久能測定［エルゴメータテスト等］及び評価方法）

９：健康体力測定評価の実際７（測定６：柔軟性・敏捷性・平衡性テスト及び処理分析とその評価法）

１０：健康体力測定評価の実際７（分析と活用：データー処理、分析、応用の仕方）

１１：健康体力測定評価の実際８（テストデーターを用いての活用方法の理解と検討１：中高年・高齢者データ）

１２：健康体力測定評価の実際９（テストデーターを用いての活用方法の理解と検討２：各競技種目特性別データ）

１３：健康体力測定評価の実際１０（テストデーターを用いての活用方法の理解と検討３：術後機能回復データ）

１４：中高年・高齢者の健康体力［運動機能と生活体力］とその測定評価の特徴と方法

１５：障害者の健康体力測定評価とその測定評価の特徴と方法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90172001
科目名	体力測定評価実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Assessment of Body Composition and Pysical Ability		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
授業概要	発育発達や加齢現象に伴い体力は変化する。この変化によっては健康を害するケースもあり、体力を正しく測定し評価することは健康維持の支援にとって重要である。 本実習では、 ①形態測定や身体組成などの測定と計測に際しての意義・留意点 ②健康体力評価のためのテスト作成の基本的な考え方やバッテリーテストの組み方およびその評価方法 ③文部科学省新体力テストの測定項目の意味、正しい測定方法とその評価 ④虚弱者を対象とした各種体力測定法とその意義について学修する 学修し得られたデータは IT 機器を活用してさまざまな角度から評価し、全国的な平均値などと比較検討を行う。		
教材（教科書）	「体力テストの方法と活用: 体力テスト判定員用」、日本体育協会編集（絶版）を基に作成した配布資料		
教材（参考資料）	『臨床評価指標入門』、内山　靖、小林　武、潮見泰蔵：編集、協同医書出版社		
教育方法	この授業では体力測定のみならず形態測定、身体組成測定などを含めた総合的な測定評価実習である。そのために 4 名の教員が担当する分野別に学生は移動して受講することとなり、総合的なスキルをやしない、授業の最後には一般市民を対象にした測定会において実践的な体験をする。また、測定のみならず統計的な処理方法を学び、その結果を受講者に対して正確、かつ的確な運動処方までを言語で伝えることを評価の対象とする。		
評価方法	4 名の担当教員による各分野ごとにレポートを提出し、レポート評価をする。体力測定を実践したり、測定結果を集計する作業など、授業への参加態度を評価する。授業の最後には授業全体のまとめを行い、パワーポイントを用いて発表する機会を設け、評価する。以上の全体的な評価を総合して最終的な評価とする。		
到達目標	文部科学省の体力テストを含めて様々な測定評価技法について正しく身につける。結果をコンピュータによって統計的に分析し発表できる能力を高める。		
授業時間外学習	「測定」ということに関して最も重要な点は測定機器の使用方法に熟知し、正確性を重視する。またそれを基に被験者に対して正確な測定を要求することで、はじめて正しい結果と運動処方が可能となる。したがって、授業外では機器のマニュアルを熟知し、他の学生の測定状況を見学して、被験者に接するスキルを自ら身に着けることが重要となる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各種測定機器の扱いには十分注意してほしい。機器とはいえ消耗品であり、大切に扱う心構えも重要である。毎回の授業には機器の扱いについての説明、測定方法、そしてなによりも安全確保について教授するので遅刻は許されない。受講開始時から実践している自分の姿をイメージして、実践の場において対象者からの万全の信頼を得られるように自身で成長することを教員は期待する。			
授業スケジュール			
1、体力測定評価実習の意義・心得（柳田・木村・平川・谷口） 2、形態測定（体育館教室・剣道場） 3、身体組成測定（体育館教室・剣道場） 4、高齢者の体力測定（1） 5、高齢者の体力測定（2） 6、介護予防に関する体力測定・評価（1） 7、介護予防に関する体力測定（2） 8、新体力テスト（20～64 歳）の測定評価（1） 9、新体力テスト（20～64 歳）の測定評価（2） １０、新体力テスト（65～79 歳）の測定評価（1） １１、新体力テスト（65～79 歳）の測定評価（2）			

１２、スポーツ統計と測定評価
１３、運動行動変容：個別コンサルテーションの実際
１４、中高年のフィールド実習（１）　（京都太秦Ｃみらいホール）
１５、中高年のフィールド実習（２）　（京都太秦Ｃみらいホール）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	-	-

年度	2018	授業コード	J90173001
科目名	健康運動療法論	単位数	2
科目名（英語表記）	Exercise Therapy for Health		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
授業概要	運動・スポーツは、健康・体力の維持、病気の予防、病気となった時の治療方法の手段のひとつとして重要な位置を占めている。本講義では、安全で効果的な健康運動療法プログラム作成をする際に必要となるメディカルチェック（血液検査、心電図、その他)、体力・運動能力の評価（体組成、有酸素および無酸素能力など)、運動プログラムの組み方（運動の強度・時間・頻度・種類・期間など）について学修する。また、生活習慣病に対する運動プログラム作成に際して必要となる医学的(服薬を含む)・運動生理学的基礎知識についても学修する。 （オムニバス方式／全 15 回）		
教材（教科書）	特に指定はなし。 授業において適時資料を配布する。		
教材（参考資料）	特に指定はなし。 授業において適時資料を配布する。		
教育方法	・授業はビデオやパワーポイントを使用して講義を進める。 ・講義の資料は、事前に講義回数ごとに「講義資料」として京がくなび上に掲載するので、ダウンロードし、授業時・予習・復習に活用すること。 ・また、講義の初めに資料を配布するので、パワーポイントと併用して受講するとともに、予習・復習にも活用すること。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%)、レポート（20%)、定期テスト（50%）		
到達目標	運動療法（処方）作成の順序、安静時メディカルチェックや心電図の基本的事項、体力・運動能力の測定・評価法を理解し、各健康・体力水準の人たちに対して、安全で効果的な運動プログラムを作成できる能力の修得を到達目標とする。		
授業時間外学習	・　一般知識として国立循環器病センターホームページの循環器病情報サービスを参照してください。(坂崎) ・　2 年次までに学んだ学部・学科の自然科学系科目の授業内容を復習し、身体活動時の筋および呼吸循環機能の適応について再度理解しておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　質問は随時受け付けます。熱心な聴講を希望します。
・　2 年次までに受講した科目のうち、運動生理学・運動処方論に関するテキストを持参すれば、理解が深まるかと思います。
・　授業中の私語は、真面目に受講している学生に迷惑です。また、教員の授業の質的保障・進行を妨げます。人の学びの邪魔をすることは、誰にも許されません。私語をしない、許可なく携帯を使用しない、寝ないという学びの基本姿勢を順守してください。学生の基本です。

授業スケジュール

1．　運動プログラムの管理（運動と健康診断の見方・考え方）　（坂崎）
2．　運動のためのメディカルチェックの重要性　（坂崎）
3．　心電図の基礎と記録法　（坂崎）
4．　運動負荷検査の実際１　（坂崎）
5．　運動負荷検査の実際２　（坂崎）
6．　服薬者の運動プログラム作成上の注意　（坂崎）
7．　運動療法における健診結果の総合的評価　（坂崎）

8．　現代社会における身体活動の重要性　（平川）
9．　動作の成り立ちと運度プログラム作成の基本的考え方　（平川）

１０．身体活動能力の評価１　体格・体組成の評価　　（平川）
１１．身体活動能力の評価２　有酸素能力の評価　　（平川）
１２．身体活動能力の評価３　無酸素能力の評価　　（平川）
１３．身体活動能力の評価４　調整能力の評価　　（平川）
１４．身体活動能力の評価５　身体活動量の評価　　（平川）
１５．運動処方作成の実際（包括的プログラム作成について）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J90174001
科目名	健康運動療法実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Exercise Therapy for Health		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
授業概要	運動療法（処方）は、健康の維持、生活習慣病の予防、病気となった時の治療方法として重要な手段となっている。本実習は健康医学知識の基、運動指導ができる運動処方作成能力を修得し、さらに指導スキルを修得するための実習をする。具体的にはメディカルチェック(血液検査、尿検査、血圧測定、心電図、眼底検査)の判定、運動負荷試験の見方・考え方、精密検査の基礎知識、体力・運動能力の測定・評価を修得する。また、運動禁止の条件、病気の方の具体的な運動プログラム、服薬中の判断などについても学修する。　（オムニバス方式／１５回）		
教材（教科書）	特に指定はなし。 授業において適時資料を配布する。		
教材（参考資料）	特に指定はなし。 授業において適時資料を配布する。		
教育方法	・授業は運動負荷実習とビデオやパワーポイントを使用して講義を進める。 ・講義の資料は、事前に講義回数ごとに「講義資料」として京がくなび上に掲載するので、ダウンロードし、授業時・予習・復習に活用すること。 ・また、講義の初めに資料を配布するので、パワーポイントと併用して受講するとともに、予習・復習にも活用すること。 ・自転車エルゴメーター・トレッドミルを用いて心拍数・酸素摂取量・血圧等の生理的パラメータを測定する運動負荷試験を実習するので、健康運動療法論で学んだ内容を必ず予習・復習すること。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（50%）、レポート（50%）		
到達目標	運動不足・生活習慣病における包括的運動療法（処方）プログラムを安全かつ効果的に作成する上で必要な、測定テクニックの理論と実践能力を修得し、運動プログラムが作成できるようになることを目標とする。		
授業時間外学習	・　２年次までに学修した各生活習慣病について、再度しっかり理解しておくこと。また有酸素運動等の各種運動の意味・効果・実施上の留意点復習しておくこと。 ・　体力測定の実習を行うので、前日はしっかり休養をとり疲労を回復して、授業に臨むようにしてください。特に授業が１限ですので、安全と信頼性のあるデータ取得のためにも、朝食も摂り、覚醒状態で臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　熱心な聴講を希望します。質問は歓迎です。。
・　2 年次までに受講した科目のうち、運動生理学・運動処方論に関するテキストを持参すれば、理解が深まるかと思います。
・　授業中の私語は、真面目に受講している学生に迷惑です。また、教員の授業の質的保障・進行を妨げます。人の学びの邪魔をすることは、誰にも許されません。私語をしない、許可なく携帯を使用しない、寝ないという学びの基本姿勢を順守してください。学生の基本です。
・　平川が担当の授業では、体力・運動能力測定実習が入りますので、しっかりと動ける運動服、体育館および外用のシューズ、タオルを持参してください。

授業スケジュール

１．　生活習慣病に対する適切な運動療法（処方）の実際　（坂崎）
２．　運動負荷検査実習　（1-1）運動負荷検査の実例１（トレッドミル）　（坂崎）
３．　運動負荷検査実習　（1-2）運動負荷検査の実例１（トレッドミル）　（坂崎）
４．　運動負荷検査実習　（2-1）運動負荷検査の実例２（自転車エルゴメーター）　（坂崎）
５．　運動負荷検査実習　（2-2）運動負荷検査の実例２（自転車エルゴメーター）　（坂崎）
６．　生活習慣病に対する適切な運動療法プログラム作成実習：高血圧と糖・脂質異常症　（坂崎）

7．　生活習慣病に対する適切な運動療法プログラム作成実習：ロコモティブシンドロームと運動器退行性疾患　（坂崎）
8．　生活習慣病に対する適切な運動療法プログラム作成実習：過体重(肥満)・肥満症　（坂崎）

9．　有酸素的能力の測定実習　①（最大）酸素摂取量の測定・推定　（平川）
１０．有酸素的能力の測定実習　②無酸素的作業閾値の測定　（平川）
１１．有酸素的能力の測定実習　③身体活動量の測定　（平川）
１２．無酸素的能力の測定実習　①力－速度－パワー関係、最大無酸素パワーの測定　（平川）
１３．無酸素的能力の測定実習　②筋の%MVC－反復回数関係の測定　（平川）
１４．調整能力の測定実習　①バランス能力、敏捷性、柔軟性、姿勢評価　（平川）
１５．子ども・低体力者・高齢者に対する適運動処方について：ケーススタディ　（平川）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2018	授業コード	J90175001
科目名	健康フィットネス論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health Fitness		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
授業概要	一般的な健康志向から本格的アスリートまでそれぞれトレーニングの目的は異なる。本講義では、まず運動不足による弊害や海外のフィットネス事情について学修する。さらに健康管理を目的としたエクササイズ、効果的なウォーミングアップやクールダウン、リカバリーなどに触れ、さらに年齢、性差などに着目したフィットネスエクササイズを紹介する。また、スポーツ相談というチームや個人の要望を聞くインプットからプログラムデザインというアウトプットへの一連の流れも学修する。		
教材（教科書）	必要に応じて適宜配布する		
教材（参考資料）	『健康運動指導士養成講習会テキスト 上』 （健康・体力づくり事業財団 ） 『公認スポーツ指導者養成テキスト』(日本体育協会) 『障害者スポーツ指導教本』(ぎょうせい) 『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版』（第 3 版） (ブックハウス・エイチディ)		
教育方法	パワーポイントや配布資料を活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	小テスト授業内レポート（50%）、期末試験（50%）で評価する。		
到達目標	健康・フィットネスに関する現状を理解し、対象者の状況に合わせた運動処方を作成できる能力の育成を図る。		
授業時間外学習	前回の学修事項を確認したうえで、講義に参加することを望む。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
対象者の健康状況など様々な情報を参考にし、適切なエクササイズプログラムを作成するため、普段から何らかの運動を習慣づけていることが望ましい。			
授業スケジュール			
１．日本人と寿命（死因）と運動不足病とは（運動不足病の定義、起因、生活習慣病概要）【谷口】 ２．フィットネス概要（意味、日米事情、青少年と健康、生涯体育）【井口】 ３．フィットネスエクササイズと健康管理１（フィットネス・エクササイズと体調：チェックとの意義と方法）【井口】 ４．フィットネスエクササイズと健康管理２（フィットネス・エクササイズと体調：疲労回復）【井口】 ５．フィットネスエクササイズと安全１（安全面配慮のウォーミングアップ）【井口】 ６．フィットネスエクササイズと安全２（安全面配慮のクーリングダウン）【井口】 ７．中高年者とスポーツ１（中高年者の健康の定義と身体活動ガイドライン［WHO］、加齢の形態・体力・運動機能変化、身体活動不活発の心身への影響、健康スポーツ活動の心身への影響）【井口】 ８．中高年とスポーツ２（健康スポーツ実践のプログラムデザイン上の留意点、健康スポーツ実践プログラム作成の基礎、健康運動プログラムの条件、基本プログラム立案）【井口】 ９．中高年とスポーツ３（個人・集団・性別・地域での実施方法・医学的側面からのアドバイス）【井口】 １０．女性とスポーツ１（女性の身体的特徴とそれらとの運動・トレーニングにおける留意点と影響）【谷口】 １１．女性とスポーツ２（女性のトレーナービリティーとそれを考慮［意見交換含む］したスポーツプログラム）【谷口】 １２．スポーツ相談の意義１（性別、年齢別、目的別の健康スポーツ実践への相談の方法と重要性）【井口】 １３．スポーツ相談の意義２（体力別、経験別の健康スポーツ実践への相談の方法と重要性）【井口】 １４．スポーツ相談の実際（女性相談の内容に応じた対処、相談の内容に応じた運動実践助言）【谷口】 １５．スポーツ相談の実際（中高年・高齢者の内容に応じた対処、相談の内容に応じた運動実践助言）【谷口】			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J90176001
科目名	健康フィットネス実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Health Fitness		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
授業概要	運動を通して、自身や対象者の身体や心の状態に気づき、体の調子を整える方法を理解する。対象に合わせた種々の運動プログラムの体験と楽しく体を動かす実技を行い、運動プログラムの組み合わせを理解する。具体的に体ほぐしの運動や柔軟性を高める為の運動、ストレッチングの方法、対象に応じた運動プログラムの方法、エアロビックダンスの方法を紹介する。これらの実技を通して、様々な運動の方法を身につけるとともに、基本的な運動の組み合わせや、対象に応じた実技指導が出来るようになることを目標とする。		
教材（教科書）	随時、必要資料として配布する		
教材（参考資料）	『健康運動指導士養成講習会テキスト（下)』　（健康体力づくり事業財団） 『健康運動実践指導者養成用テキスト』　（健康体力づくり事業財団） 『GFI　グループエクササイズフィットネスインストラクタ」』テキスト（日本フィットネス協会） 『GFI　エアロビックダンスエクササイズ指導理論』テキスト（日本フィットネス協会） 『GFI　ストレッチングエクササイズ指導理論』テキスト（日本フィットネス協会） 『GFI　レジスタンスエクササイズ指導理論』テキスト（日本フィットネス協会）		
教育方法	健康づくりのための運動指導の方法を指導実習を通して学ぶ		
評価方法	・最終試験を受験するには授業回数の 4 分 3 以上出席していること ・対象者に応じたエクササイズのプログラミングと実技テスト（50%） ・エアロビックダンス・コンディショニングエクササイズの実技テスト（50%）		
到達目標	①ウォームアップとクールダウンの目的と意義を説明でき、指導原則に従って指導することができる。②高齢者や低体力者等の対象に応じた基本的な運動の実践方法を説明し、見本を示すことができる。		
授業時間外学習	・受講に際して、健康フィットネス論の単位を修得していること ・健康づくり指導者になるために必要な知識と技術の習得に意欲的であること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・受講に際し、服装はトレーニングウェア、靴は自身の体育館シューズを必ず着用すること ・GFI、健康運動実践指導者資格取得に必要な科目となる。			

授業スケジュール

1．ガイダンス：エクササイズの指導と安全（体調チェックの意義）（三宅）

2．ウォーミングアップとクーリングダウンの実際（三宅）

3．ストレッチング運動プログラムの実際（三宅）

4．レジスタンス運動の実際（三宅）

5．自立高齢者の運動プログラムの実際（三宅）

6．虚弱高齢者（低体力者）の運動プログラムの実際（三宅）

7．対象に応じた運動プログラムのデザイン(プログラム作成と指導法)（三宅）

8．対象に応じた運動プログラムの指導（プログラムの指導方法）（三宅）

9．エアロビックダンス：ウォーミングアップとクーリングダウン（谷口）

１０．エアロビックダンス：メインエクササイズ１（基本のステップ）（谷口）

１１．エアロビックダンス：メインエクササイズ２（プログラムの作成法）（谷口）

１２．エアロビックダンス：メインエクササイズ３（プログラムの作成・指導法）（谷口）

１３．エアロビックダンス：メインエクササイズ４（プログラムの指導方法）（谷口）

１４．エアロビックダンス：コンディショニングエクササイズ（自体重でのレジスタンストレーニング）（谷口）

１５．エアロビックダンス：コンディショニングエクササイズ（バランス・コーディネーショントレーニング）（谷口）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J90177001
科目名	健康運動レクリエーション論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Physical Recreation and Leisure		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
授業概要	健康で生き生きとした暮らしを続けることが国民的課題となっている。このような課題に応える上で、レクリエーション活動は健康の維持・増進はもちろんのこと、生活への意欲や社会との関わり、仲間づくりを支援する上で有効な活動である。楽しさや心地よさの体験が、生きる意欲を高め、健康的な生活に向かう行動変容を促進するレクリエーション支援の基本的な考え方とレクリエーションの本質を理解するとともに、レクリエーション支援の方法を学ぶ。		
教材（教科書）	ビデオ教材やパワーポイントを活用し適宜プリントを配付する。		
教材（参考資料）	『これからのレジャー・レクリエーション（弓箭書院)』 『現代人とレジャー・レクリエーション』(不昧堂出版） 『福祉レクリェーションシリーズⅠ　福祉レクリエーション総論（中央法規)』 『レジャー・スタディーズ』(世界思想社）		
教育方法	各自でレクリエーション情報を調べたり、グループでレクリエーション事業を企画し、クラス内で発表するなど、アクティブラーニングにより学びを深めていく。		
評価方法	授業内の演習課題(40%)　定期試験(60%)		
到達目標	1.レクリエーション活動とレクリエーションの本質な意味を説明できる。 2.レクリエーション活動がもたらすベネフィットを述べることができる。 3. 医療・保健・福祉分野におけるレクリエーション支援の考え方、支援プロセスを説明できる。 4. レクリエーション事業の企画ができるようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の講義概要（テキストのページなど）を指定するので予習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
課題への取り組みや授業中での発言において、積極的な態度を期待します。			
授業スケジュール			
1.　イントロダクション「レクリエーションって何」 2.　レクリエーションの基礎的理解①～レジャー・レクリエーションの語源と定義 3.　レクリエーションの基礎的理解②～レクリエーションとレクリエーション活動の区別 4.　．レクリエーションの基礎的理解③～レクリエーション活動のベネフィット：楽しみの感情がもたらすもの 5.　レクリエーションの基礎的理解④～医療・保健・福祉領域におけるレクリエーション活動の意義			

6．　　レクリエーション支援の実際①～健康づくりとレクリエーション（地域での取り組み）

7．　　レクリエーション支援の実際②～高齢者とレクリエーション（施設での取り組み）

8．　　レクリエーション支援の実際③～アメリカのレクリエーションサービス（公園レクリエーション、セラピューティックレクリエーション）

9．　　レクリエーション支援の方法①～医療・保健・福祉領域におけるレクリエーション援助の目的と方法

１０．レクリエーション支援の方法②～レクリエーション支援の考え方

１１．レクリエーション支援の方法③～コミュニケーションとレクリエーション

１２．レクリエーション支援の実際④～コミュニケーションワークの実際

１３．レクリエーション支援の方法④～レジャー・レクリエーション情報の収集

１４．レクリエーション支援の方法と実際～レジャー・レクリエーションと社会課題

１５．まとめ：地域・保健・福祉領域におけるレクリエーションサービスの展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	J90178001
科目名	健康運動レクリエーション実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Physical Recreation and Leisure Sports		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
授業概要	レクリエーションの指導において重要なことは、単にレクリエーション活動種目を指導することだけではなく、レクリエーション活動への参加を通じて、参加者同士の交流を促進し、健康で心豊かな生活を送る行動変容に結びつく支援を行うことにある。本実習では、まず学生自身がレクリエーション活動を体験するとともに、支援者にとって必要な基礎的な支援方法を学修し、参加者相互の交流に基づいた楽しさを伝達・指導する指導技術を修得する。		
教材（教科書）	随時、必要資料として配布する		
教材（参考資料）	ニュースポーツベスト７　日本レクリエーション協会 インドアスポーツベスト７　日本レクリエーション協会 ミニスポーツベスト７　日本レクリエーション協会		
教育方法	多様なニュースポーツを体験を通じて学び、その後自ら指導計画を立て、指導展開を行う指導実習を通して実践的に学ぶ		
評価方法	・最終試験を受験するには授業回数の４分３以上出席していること ・対象者に応じたレクリエーションプログラムの指導実技テスト（60%） ・対象者に応じたレクリエーションプログラムの計画作成（40%）		
到達目標	①レクリエーション指導の基礎的知識・技術を身につけている ②レクリエーションプログラムを計画し指導できる		
授業時間外学習	・生涯スポーツ・レクリエーション指導者になるために必要な知識と技術の習得に意欲的であること		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・受講に際し、服装はトレーニングウェア、靴は自身の体育館シューズを必ず着用すること ・レクリエーション指導者資格取得に必要な科目となる。			
授業スケジュール			
"1．　オリエンテーション：グループ分け、レクリエーション活動の指導上の注意 2．　コミュニケーションワーク・ダンスの実際①（吉中） 3．　コミュニケーションワーク・ダンスの実際②（吉中） 4．　コミュニケーションワーク・ダンスの実際③（吉中） 5．　コミュニケーションワーク・ダンスの実際④（吉中） 6．　コミュニケーションワーク・ダンスの実際⑤（吉中）			

7．　ニュースポーツの実際①（三宅）
8．　ニュースポーツの実際②（三宅）
9．　ニュースポーツの実際③（三宅）
１０．　ニュースポーツの実際④（三宅）
１１．　ニュースポーツの実際⑤（三宅）
１２．　レクリエーション指導の実際①プログラム計画（三宅・吉中）
１３．　レクリエーション指導の実際②プログラム作成（三宅・吉中）
１４．　指導実習①指導の展開（三宅・吉中）
１５．　指導実習②指導の展開（三宅・吉中）"

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J90179001
科目名	障がい者スポーツ論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Adapted Sports		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
授業概要	障害の概要を理解するとともに、障害に応じた健康スポーツ指導の留意点について学修する。特別支援教育に対応できるような、インクルーシブ体育のあり方を考察する。スポーツ基本法やスポーツ基本計画を踏まえて、すべての人がスポーツに参加できるよう、障害の種類や程度に応じた配慮を理論と実践を通して学ぶ。また、パラリンピック、障がい者スポーツ大会等についてその実情を知るとともに、障がい者スポーツの現状を理解し、ゲストスピーカーを招いて意義、理念、歴史、福祉、健康・体力など、障がい者スポーツの基礎的内容を学ぶ。		
教材（教科書）	『イラストアダプテッド・スポーツ概論』（東京教学社、2017 年）植木章三		
教材（参考資料）	『障害者スポーツ指導教本』（ぎょうせい、2009 年）　（財）日本障害者スポーツ協会編 『障害者とスポーツ』（岩波新書、2004 年）　高橋明		
教育方法	主に講義で授業を進める。スライドや資料などの教材を用いて理解を促しながら講義を進め、時には、受講生同士のディスカッションやレポート、小テストなどで理解を深めるようにする。		
評価方法	レポート(４０%) 、定期試験(６０%)		
到達目標	１）障がい者スポーツについての概要を理解し基本的な知識を身につける。 ２）障がい者スポーツの理念，種目，ルール，歴史，組織等について理解する。 ３）障がい者に対して運動やスポーツの指導を行なうための基礎的な知識や留意点を理解する。		
授業時間外学習	次時の内容を指示するので、授業までに予習をすること。毎時、復習をすると同時に考察を深めること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

障がい者の気持ちや生活を思う気持ちを持って誠実に学ぼうとし、既習事項を基に、知識をさらに深めようとする能動的な姿勢、態度を求める。受講にあたっては、漠然と講義を受ける態度ではなく，学生自身が考え意見交換をするなど、積極的な姿勢や発言を期待する。

授業スケジュール

１．障がい者スポーツの意義と理念及び歴史
２．障がいの理解とスポーツ（障がい者スポーツの種類の概要、障がい者スポーツの参加の効果、現状と課題）
３．障がい者福祉施策と障害者スポーツ１（障害者福祉施策の体系）
４．障がい者福祉施策と障害者スポーツ２（今後の動向と障害者スポーツとの関連）
５．障がい者のスポーツ指導における留意点１（身体障害①）
６．障がい者のスポーツ指導における留意点２（身体障害②事例研究）
７．障がい者のスポーツ指導における留意点３（知的障害①）
８．障がい者のスポーツ指導における留意点４（知的障害②事例研究）
９．障がい者のスポーツ指導における留意点５（精神障害①）
１０．日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導者制度（ゲストスピーカー）
１１．全国障害者スポーツ大会の概要
１２．障がい者の生活と活動量
１３．障がい者の運動・スポーツへの参加と健常者の意識・啓発
１４．障がい者の運動プログラム作成の留意点
１５．障がい者の運動プログラム作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J90180001
科目名	障がい者スポーツレクリエーション実習	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Adapted Sports		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
授業概要	障害のある人が行うスポーツやレクリエーションに関する知識と技能を、体験を通して学修する。車椅子バスケットをしている肢体不自由者をゲストスピーカーに招いて、体験談を聞いて、その心身や生活の変化、現状を知るとともに、車椅子バスケットを通してふれあいを体験する。障がい者が親しみやすいレクリエーションや、健常者との交流を意図したスポーツやレクリエーションの活動内容を考え、その効果について体験的に学修する。		
教材（教科書）	『障害者スポーツ指導教本』(ぎょうせい) (財)日本障害者スポーツ協会編		
教材（参考資料）	『平成 25 年度版 全国障害者スポーツ大会競技規則集（解説付)』((財)日本障害者スポーツ協会) (財)日本障害者スポーツ協会		
教育方法	主に実習を通して授業を展開する。必要に応じて資料を用いて理解を促しながら授業を進め、時には、受講生同士のディスカッションやレポートなどで理解を深めるようにする。		
評価方法	授業への積極的参加度（４０%)、レポート（３０%)、実技の習得度（３０%）		
到達目標	１）障がい者スポーツを体験し、障がいに応じた工夫について理解する。 ２）障がい者に対して、スポーツやリクリエーション活動を行うための基礎的な知識を身に付ける。		
授業時間外学習	予習の内容を配付資料及びテキストで指示するので、授業までに読み、各障がいにおけるスポーツとレクリエーション活動を行う上での工夫についてまとめておくこと。 単元の区切りごとにレポートを課す。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。
遅刻や私語を厳禁とする。欠席・遅刻の場合、その理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案し退出を求める。
実技・実習は、主に体育館で行う。運動にふさわしい服装（スポーツウェア、体育館ジューズ）を着用し、事前に各自でストレッチなど準備をしておくこと。また、安全に活動できるよう、お互いに細心の配慮をすること。

授業スケジュール

１．　障がいの種別とスポーツ
２．　特徴およびスポーツ・レクリエーションの体験とその工夫１（視覚障がい者）
３．　特徴およびスポーツ・レクリエーションの体験とその工夫２（知的障がい者）
４．　特徴およびスポーツ・レクリエーションの体験とその工夫３（発達障がい者）
５．　特徴およびスポーツ・レクリエーションの体験とその工夫４（肢体不自由者）（障がい者とのふれあい体験）
６．　特徴およびスポーツ・レクリエーションの体験とその工夫５（重症心身障がい者）
７．　インクルーシブ体育・スポーツについて
８．　障がいに配慮した運動プログラム
９．　障がいに配慮したスポーツ、レクリエーション活動の計画
１０．　スポーツ・レクリエーション指導の実際１（知的障がい者）
１１．　スポーツ・レクリエーション指導の実際２（発達障がい者）
１２．　スポーツ・レクリエーション指導の実際３（肢体不自由者）
１３．　インクルーシブ体育・スポーツの実際
１４．　各障がいにおける指導の工夫について
１５．　障がい者スポーツの実際と課題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★★	－	★	★	－

年度	2018	授業コード	J90181001
科目名	ストレングスコンディショニング実習 A	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Strength and Conditioning A		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
授業概要	本実習では、まず施設運営を機器の選定/配置などからスタッフ構成、安全管理などまで幅広く学修する。さらに、課題としてトレーニングルームや体育会クラブにおいて現場実習を行い、定期的に発表およびディスカッションを行う。また、アスリートのニーズ分析を通してレジスタンストレーニング、パワー、プライオメトリック、スピード/アジリティ、有酸素能力を計測するパフォーマンステストを学修する。パフォーマンスと密接に関連している可動域や動的/静的バランス能力の測定方法なども実技を通して修得する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	『ストレングストレーニング&コンディショニング ― NSCA 決定版（第 3 版)』		
教育方法	パワーポイントや配布資料を活用した講義法とトレーニング機器を用いた実技の組み合わせで行う。		
評価方法	実技テスト(40%)、 レポート(40%)、*発表(20%) *ストレングス&コンディショニングルームを見学し、学んだことを基に発表を行う。		
到達目標	施設の管理運営能力からパフォーマンステストの実施、記録、それらを解釈する能力を育成する		
授業時間外学習	『運動生理学』『バイオメカニクス』等の教科書を簡単に復習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
現場実習が含まれるので、時間厳守や服装等に気をつけてください。また各自積極的な授業参加を望みます。			
授業スケジュール			
1, 実習についてのイントロダクション 2,フリーウェイト機器の使用方法について説明 3,トレーニングマシンの使用方法についての説明 4,トレーニングルーム実習 1(S&C ルームの機器選定から配置について） 5,トレーニングルーム実習 2（S&C ルームの適切な人数配置や記録の管理など運営方法について） 6,トレーニングルーム実習 3　（S&C ルームの Emergency Action Plan について） 7,トレーニングルーム実習 4（S&C ルームの予算編成について） 8,中間発表　（実習に学んだことを中心に発表する） 9,トレーニングルーム実習 5（現場でのトレーニング指導：フリーウェイトを用いたトレーニング） 10,トレーニングルーム実習 6（現場でのトレーニング指導：マシンを用いたトレーニング） 11,トレーニングルーム実習 7（現場でのトレーニング指導：有酸素系マシンを用いたトレーニング） 12,トレーニングルーム実習 8（パフォーマンステストの実施方法：1RM の測定方法） 13,トレーニングルーム実習 9（身体組成、関節可動域などの測定方法） 14,トレーニングルーム実習１0（アスレチックリハビリテーションの実際） 15, 発表(実習で得たことをまとめる）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J90182001
科目名	ストレングスコンディショニング実習 B	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Strength and Conditioning B		
担当者名	中島　健太郎	旧科目名称	
授業概要	本実習は、現場見学が主な目的だったストレングスコンディショニング実習 A から発展し、より実践的な実習を目的としている。具体的な課題としては、まず無酸素系、有酸素系パフォーマンステスト結果の適切な解釈方法を身につける。さらにそれらパフォーマンステストの結果に基づき、超回復などの短期的視点、またはインシーズンやオフシーズンを考慮した長期的視点からトレーニング計画を立てる能力を育成する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	『NSCA 決定版　ストレングストレーニング＆コンディショニング 第 4 版』ブックハウス・エイチディ 河森直紀著『ピーキングのためのテーパリング－狙った試合で最高のパフォーマンスを発揮するために－』ナップ また、必要な場合は資料を適宜配布する。		
教育方法	－		
評価方法	実技テスト(40%)、 レポート(40%)、＊発表(20%) *ストレングス&コンディショニングルームを見学し、学んだことを基に発表を行う		
到達目標	各種エクササイズの適切なテクニックおよび知識を身につけ、ピリオダイゼーションを考慮したトレーニングプログラムの作成能力を習得する。		
授業時間外学習	Web サイト AthleteBody.jp（{https://athletebody.jp/}）に掲載されている記事の中から、本実習に関わるものを読む。該当記事は、サイト内検索で「ピリオダイゼーション」と検索すれば探すことができる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

現場実習が含まれるので、時間厳守や服装等に気をつけてください。また各自積極的な授業参加を望みます。

授業スケジュール

1, 実習についてのイントロダクション
2, スポーツ競技に合わせたパフォーマンステストの選択と測定方法を学ぶ
3,無酸素系パフォーマンステストの測定結果の解釈について
4, 有酸素系パフォーマンステストの測定結果の解釈について
5, トレーニングルーム実習 1(現場で実際に無酸素系パフォーマンステストを測定[パワーリフティング中心])
6, トレーニングルーム実習 2 (現場で実際に無酸素系パフォーマンステストを測定[オリンピックリフティング中心])
7, トレーニングルーム実習 3 (現場で実際に有酸素系パフォーマンステストを測定[VO2max, Conconi test など])
8, 中間発表　（実習に学んだことを中心に発表する）
9,トレーニングルーム実習 4(現場で実際に無酸素系トレーニングの短期的なプログラムを作成する[パワーリフティング中心])
10, トレーニングルーム実習 5(現場で実際に無酸素系トレーニングの短期的なプログラムを作成する[オリンピックリフティン中心])
11, トレーニングルーム実習 6(現場で実際に有酸素系トレーニングの短期的なプログラムを作成する)"
12, トレーニングルーム実習 7（ピリオダイゼーションに基づいた長期的な無酸素系トレーニングプログラムを作成する[パワーリフティング中心])
13,トレーニングルーム実習 8（ピリオダイゼーションに基づいた長期的な無酸素系トレーニングプログラムを作成する[オリンピックリフティング中心])
14, トレーニングルーム実習 9（ピリオダイゼーションに基づいた長期的な無酸素系トレーニングプログラムを作成する）
15, 発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	J90183001
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
授業概要	健康スポーツ科学コースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実地見学、フィールドワークなどを中心とした各コースの体験型学修を通して、目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	様々な健康スポーツに関わることを調査するとともに、実際の測定現場などにも参加する体験型学習法で行う。		
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 １．　個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%)、レポート(30%) ２．　全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	１．　ルールを守って、インターネットや文献検索を活用して必要な資料を収集することができる。 ２．　グループワークにおいて、目的を意識して建設的な話し合いができ、活動に積極的に参加できる。 ３．　健康スポーツのスペシャリスト、指導者を目指す学生として、ふさわしい態度、姿勢、マナーを体得している。 ４．　活動の中で、必要な課題を見つけ、レポート作成及びプレゼンテーションができる。		
授業時間外学習	日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

実施見学など、その場にふさわしい身なり、服装、態度、姿勢で授業に臨むこと。

授業スケジュール

１．健康スポーツ科学コースの学修内容
２．専門領域の資格について調べる
３．専門領域の職業について調べる
４．スポーツ大会の運営（１）
５．スポーツ大会の運営（２）
６．中高齢者体力測定の事前学習（１）
７．中高齢者体力測定の事前学習（２）
８．中高齢者体力測定の体験学習（１）
９．中高齢者体力測定の体験学習（２）
１０．中高齢者体力測定の事後学習（１）
１１．中高齢者体力測定の事後学習（２）
１２．運動指導現場観察実習事前学習
１３．運動指導現場観察実習体験学習（１）
１４．運動指導現場観察実習体験学習（２）
１５．運動指導現場観察実習事後学習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J90183002
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
授業概要	教育・科学・マネジメントコースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実地見学、フィールドワークなどを中心とした各コースの体験型学修を通して、目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義・フィールドワーク・事例リサーチ・プレゼンテーション形式		
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 １．個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%)、レポート(30%) ２．全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	１．ルールを守って、インターネットや文献検索を活用して必要な資料を収集することができる。 ２．グループワークにおいて、目的を意識して建設的な話し合いができ、活動に積極的に参加できる。 ３．健康スポーツのスペシャリスト、指導者を目指す学生として、ふさわしい態度、姿勢、マナーを体得している。 ４．活動の中で、必要な課題を見つけ、レポート作成及びプレゼンテーションができる。		
授業時間外学習	日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
観察実習見学においてはその場にふさわしい身なり、服装、姿勢等の礼節態度で臨むこと。			
授業スケジュール			
１．コースガイダンスと SPI ２．健康・スポーツマネジメント系の専門職や資格について知る（１）【サービス職】 ３．健康・スポーツマネジメント系の専門職や資格について知る（２）【マネジメント職】 ４．スポーツ大会の運営（１）【イベント企画：プログラム実行内容・役割分担】 ５．スポーツ大会の運営（２）【イベント企画：実行進行・事前備品準備確認等】 ６．健康・スポーツマネジメント実践現場の理解について【サービス職の実践理解】 ７．健康・スポーツマネジメント実践現場の理解について【マネジメント職の実践理解】 ８．健康・スポーツマネジメント実践観察実習（１） ９．健康・スポーツマネジメント実践観察実習（２） １１．健康・スポーツマネジメント実践観察実習（３） １２．健康・スポーツマネジメント実践観察実習（４） １３．健康・スポーツマネジメント実践観察実習（５） １４．健康・スポーツマネジメント実践総括（１）【ディスカッション】 １５．健康・スポーツマネジメント実践総括（２）【プレゼンテーション】			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90183003
科目名	実践プロジェクトA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience A		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
授業概要	教育・科学・マネジメントコースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実地見学、フィールドワークなどを中心とした各コースの体験型学修を通して、目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教育現場の授業参観や現職教員の講義を通して学びながら、課題に向けた実践を中心として授業を進める。		
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 １．個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%)、レポート(30%) ２．全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	１．ルールを守って、インターネットや文献検索を活用して必要な資料を収集することができる。 ２．グループワークにおいて、目的を意識して建設的な話し合いができ、活動に積極的に参加できる。 ３．健康スポーツのスペシャリスト、指導者を目指す学生として、ふさわしい態度、姿勢、マナーを体得している。 ４．活動の中で、必要な課題を見つけ、レポート作成及びプレゼンテーションができる。		
授業時間外学習	日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業参観など、その場にふさわしい身なり、服装、態度、姿勢で授業に臨むこと。

授業スケジュール

健康・スポーツ 教育コース 授業の順序とポイント

１．コースガイダンスと SPI
２．授業参観事前指導：保健体育科教育の授業観察の視点と観察記録の取り方について考える。
３．授業参観事前指導：教育現場への訪問、授業参観の心構えや留意点について考え、共有する。
４．教員に求められる資質について
５．学級経営について
６．教育現場観察実習：高等学校の授業参観（１）
７．教育現場観察実習：高等学校の授業参観（２）
８．授業参観事後指導：教育現場観察実習で気づいたことや疑問点を報告し論議する。
９．授業参観事後指導：参観授業について、レポートにまとめる。
１０．教育現場観察実習：小学校の授業参観（１）
１１．教育現場観察実習：小学校の授業参観（２）
１２．授業参観事後指導：教育現場観察実習で気づいたことや疑問点を報告し論議する。
１３．授業参観事後指導：参観授業について、レポートにまとめる。
１４．教育現場観察実習の事後学習
１５．教職という職業観や身に付けるべき資質についての意見交換会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J90184001
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
授業概要	健康スポーツ科学コースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実践プロジェクトAでの学びをもとにさらに各コースの具体的な体験を通してより深く学修する。実地見学、フィールドワークなどを中心とした各コースの体験型学修を通して、目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	様々な健康スポーツに関わることを調査するとともに、実際の測定現場などにも参加する体験型学習法で行う。		
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 １．　個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%）、レポート(30%) ２．　全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	１．　ルールを守って、インターネットや文献検索を活用して必要な資料を収集することができる。 ２．　グループワークにおいて、目的を意識して建設的な話し合いができ、活動に積極的に参加できる。 ３．　健康スポーツのスペシャリスト、指導者を目指す学生として、ふさわしい態度、姿勢、マナーを体得している。 ４．　活動の中で、必要な課題を見つけ、レポート作成及びプレゼンテーションができる。		
授業時間外学習	日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
実施見学など、その場にふさわしい身なり、服装、態度、姿勢で授業に臨むこと。			
授業スケジュール			
１．健康スポーツ科学コースの学修内容 ２．健康運動指導の理論（１） ３．健康運動指導実技実習（１） ４．健康運動指導の理論（２） ５．健康運動指導実技実習（２） ６．健康運動指導の理論（３） ７．健康運動指導実技実習（３） ８．健康運動指導の理論（４） ９．健康運動指導実技実習（４） １０．健康運動指導の理論（５） １１．健康運動指導実技実習（５） １２．運動指導現場観察実習事前学習 １３．運動指導現場観察実習体験学習（１） １４．運動指導現場観察実習体験学習（２） １５．運動指導現場観察実習事後学習			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J90184002
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
授業概要	教育・科学・マネジメントコースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実践プロジェクトAでの学びをもとにさらに各コースの具体的な体験を通してより深く学修する。目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義・フィールドワーク・事例リサーチ・プレゼンテーション形式		
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 １．個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%)、レポート(30%) ２．全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	１．ルール遵守で、インターネットや文献検索を活用し、資資収集する。 ２．グループワークで、目的意識で建設的な議論ができ、活動に積極的参加。 ３．健康スポーツの専門指導者を目指す学生として、知的な態度、姿勢、マナーを体得。 ４．活動の中で、必要な課題発見によるレポート作成及びプレゼンができる。 ５．目指す専門領域の職業について理解し、自分の目標を持つ。		
授業時間外学習	日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。特に普段から国内外健康・スポーツ関連の自治体、団体、企業等のマネジメント情報を積極的に把握しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
知的思考できる受講態度で臨むこと。			
授業スケジュール			
健康・スポーツマネジメントコース講義の順序とポイント １．健康・スポーツマネジメントコースの学修内容 ２．マネジメントの仕組みと仕掛けの理解 ３．健康医療戦略とスポーツ立国戦略からのマーケティング（健康延伸とスポーツ活力の期待） ４．スポーツイベントの企画と行動実践（健康スポーツ学科生共催） ５．スポーツマネジメントの実践理解１（健康ビジネス産業事例） ６．スポーツマネジメントの実践理解２（スポーツ製造・物販業事例） ７．スポーツマネジメントの実践理解３（スポーツイベント・組織運営事例） ８．スポーツマネジメントの実践理解４（スポーツ公共事業事例[地域活性]） ９．スポーツマネジメントの知識創造計画１（健康ビジネス産業モデル：ﾚﾎﾟｰﾄ） １０．スポーツマネジメントの知識創造計画２（スポーツ製造・販売業モデル：ﾚﾎﾟｰﾄ） １１．スポーツマネジメントの知識創造計画３（スポーツイベント・組織運営モデル：ﾚﾎﾟｰﾄ） １２．スポーツマネジメントの知識創造計画４（スポーツ公共事業モデル[地域活性]：ﾚﾎﾟｰﾄ） １３．スポーツマネジメント実践プレゼンテーション１（サービス業） １４．スポーツマネジメント実践プレゼンテーション２（物販流通業） １５．スポーツマネジメント実践プレゼンテーション３（イベント事業・人材育成事業）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J90184003
科目名	実践プロジェクトB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Field Experience B		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
授業概要	教育・科学・マネジメントコースの専門性に応じたテーマ設定を行い、学修を深めていくゼミ形式の授業である。実践プロジェクトAの学修の内容をより深める。実地見学、フィールドワークなどを中心とした各コースの体験型学修を通して、目指す専門領域の職業について理解を深めるとともに、コミュニケーション力、協働力、適応力、理解力、課題発見力、行動力、活用力、表現力などを身につけることを目的とする。		
教材（教科書）	適宜資料を配布する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教育現場の授業参観や現職教員の講義を通して学びながら、課題に向けた実践を中心として授業を進める。		
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 1．　個別テーマによる評価：プレゼンテーション（20%）、レポート(30%) 2．　全体テーマによる評価：ディスカッション(30%)、レポート(20%)		
到達目標	1．ルールを守って、インターネットや文献検索を活用して必要な資料を収集することができる。 2．グループワークにおいて、目的を意識して建設的な話し合いができ、活動に積極的に参加できる。 3．健康スポーツのスペシャリスト、指導者を目指す学生として、ふさわしい態度、姿勢、マナーを体得している。 4．活動の中で、必要な課題を見つけ自分の目標をもち、レポート作成及びプレゼンテーションができる。		
授業時間外学習	保健体育科教育法の学修内容を理解しておくこと。日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教員や指導者を目指す学生として、人間力や教員として求められる資質について考え、自らその力や資質を向上するよう努力すること。学校現場を訪問する機会が多いので、教育現場にふさわしい身なり（服装、頭髪、爪など）はもちろん、態度、姿勢、言動がとれること。

授業スケジュール

1．健康・スポーツ教育コースの学修内容について
2．SPI 模擬試験
3．各種学校の特徴と保健体育科教育の授業観察の視点と観察記録の取り方、留意点。
4．教育現場観察実習：中学校の授業参観（1）
5．教育現場観察実習：中学校の授業参観（2）
6．教育現場観察実習：特別支援学校の授業参観（1）
7．教育現場観察実習：特別支援学校の授業参観（2）
8．授業参観での気付きとまとめ（ディスカッション）
9．スポーツサイエンスプログラムの企画
10．スポーツサイエンスプログラムの各コースの立案
11．スポーツサイエンスプログラムの準備
12．スポーツサイエンスプログラムの運営
13．実践プロジェクトの総括（ポスター作り）（1）
14．実践プロジェクトの総括（ポスター作り）（2）
15．実践プロジェクト総括（ディスカッション）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J90185001
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
授業概要	本講座では、進学および就職活動の準備を行う。健康・スポーツビジネスの専門職として、所持する各種資格に沿った業務内容を確認しながら、自己分析を行い、自己ＰＲの作成と発表について指導を受け、模擬的な形式での練習を行う。また、公務員希望者は、模擬試験、面接対策等を行う。進学希望者は、進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成、口頭試問のための原稿作成とプレゼンテーションの練習を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	講義・リサーチ・プレゼンテーション形式。		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	①自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ②自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けて今すべき事を整理しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

１．スタートガイダンス：パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き
２．就職登録票の完成と京学なびの使用方法の確認
３．自分探し：過去の自分を振り返る
４．自分史１：自分の歴史を整理する
５．自分史２：自分の歴史を整理する
６．自分のウリ：自分のセールス・ポイントを整理する
７．自己分析シート下書き
８．自己分析シート清書
９．自己分析シートの完成と提出
１０．就職サイトの活用方法
１１．自己ＰＲ文（１）の作成
１２．自己ＰＲ文（１）の完成
１３．自己ＰＲ文（２）の作成
１４．自己ＰＲ文（２）の完成
１５．自己 PR 文の口頭発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J90185002
科目名	キャリアサポート実践講座 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
授業概要	本講座では、進学および就職活動の準備を行う。健康・スポーツビジネスの専門職として、所持する各種資格に沿った業務内容を確認しながら、自己分析を行い、自己ＰＲの作成と発表について指導を受け、模擬的な形式での練習を行う。また、公務員希望者は、模擬試験、面接対策等を行う。進学希望者は、進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成、口頭試問のための原稿作成とプレゼンテーションの練習を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布して授業を行う。		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	①自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ②自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けて今すべき事を整理しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を逃すとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

１．スタートガイダンス：パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き
２．就職登録票の完成と京学なびの使用方法の確認
３．自分探し：過去の自分を振り返る
４．自分史１：自分の歴史を整理する
５．自分史２：自分の歴史を整理する
６．自分のウリ：自分のセールス・ポイントを整理する
７．自己分析シート下書き
８．自己分析シート清書
９．自己分析シートの完成と提出
１０．就職サイトの活用方法
１１．自己ＰＲ文（１）の作成
１２．自己ＰＲ文（１）の完成
１３．自己ＰＲ文（２）の作成
１４．自己ＰＲ文（２）の完成
１５．自己 PR 文の口頭発表

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J90185003
科目名	キャリアサポート実践講座Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project A		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
授業概要	本講座では、進学および就職活動の準備を行う。健康・スポーツビジネスの専門職として、所持する各種資格に沿った業務内容を確認しながら、自己分析を行い、自己ＰＲの作成と発表について指導を受け、模擬的な形式での練習を行う。また、公務員希望者は、模擬試験、面接対策等を行う。進学希望者は、進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成、口頭試問のための原稿作成とプレゼンテーションの練習を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	・キャリアサポートセンターからの情報・配布資料を必ず事前に確認すること。 ・講義・講演内容に応じて必要な資料を配布して授業を行うので、事前・事後予習・復習に使用すること。		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	①自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ②自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けて今すべき事を整理しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

１．スタートガイダンス：パーソナルシートの作成、就職登録票の下書き
２．就職登録票の完成と京学なびの使用方法の確認
３．自分探し：過去の自分を振り返る
４．自分史１：自分の歴史を整理する
５．自分史２：自分の歴史を整理する
６．自分のウリ：自分のセールス・ポイントを整理する
７．自己分析シート下書き
８．自己分析シート清書
９．自己分析シートの完成と提出
１０．就職サイトの活用方法
１１．自己ＰＲ文（１）の作成
１２．自己ＰＲ文（１）の完成
１３．自己ＰＲ文（２）の作成
１４．自己ＰＲ文（２）の完成
１５．自己 PR 文の口頭発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	J90186001
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
授業概要	本講座では、健康・スポーツビジネスの専門職として、面接、グループディスカッションの対策、企業選択等を実践する。所持する各種資格に沿った企業先を確認しながら、自己分析を行い、自己ＰＲの作成と発表について指導し、模擬練習をする。また、公務員希望者は、模擬試験、面接対策等を行う。進学希望者は、進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成、口頭試問のための原稿作成とプレゼンテーションの練習を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	講義・リサーチ・プレゼンテーション形式。		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けて今すべき事をを整理しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。 ・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。 ・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。			
授業スケジュール			
１．自己 PR の口頭発表 ２．業界研究 ３．仕事研究・企業研究（1）：シートの作成 ４．仕事研究・企業研究（2）：シートの作成 ５．仕事研究・企業研究（3）：シートの作成 ６．仕事研究・企業研究（4）：シートの完成 ７．就職活動の実例：経験者の話しを聞く ８．履歴書を書く ９．エントリーシートを書く（1） １０．エントリーシートを書く（2） １１．エントリーシートを書く（3） １２．エントリーシートを書く（4） １３．実践練習：エントリーシートの内容を話す １４．実践練習：面接の要領・グループ面接 １５．就職活動の心得・合同企業説明会に向けて			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J90186002
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
授業概要	本講座では、健康・スポーツビジネスの専門職として、面接、グループディスカッションの対策、企業選択等を実践する。所持する各種資格に沿った企業先を確認しながら、自己分析を行い、自己ＰＲの作成と発表について指導し、模擬練習をする。また、公務員希望者は、模擬試験、面接対策等を行う。進学希望者は、進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成、口頭試問のための原稿作成とプレゼンテーションの練習を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	必要に応じて資料を配布して授業を行う。		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けて今すべき事をを整理しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を逃すとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

１．自己 PR の口頭発表
２．業界研究
３．仕事研究・企業研究（1）：シートの作成
４．仕事研究・企業研究（2）：シートの作成
５．仕事研究・企業研究（3）：シートの作成
６．仕事研究・企業研究（4）：シートの完成
７．就職活動の実例：経験者の話しを聞く
８．履歴書を書く
９．エントリーシートを書く（1）
１０．エントリーシートを書く（2）
１１．エントリーシートを書く（3）
１２．エントリーシートを書く（4）
１３．実践練習：エントリーシートの内容を話す
１４．実践練習：面接の要領・グループ面接
１５．就職活動の心得・合同企業説明会に向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J90186003
科目名	キャリアサポート実践講座Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Education Project B		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
授業概要	本講座では、健康・スポーツビジネスの専門職として、面接、グループディスカッションの対策、企業選択等を実践する。所持する各種資格に沿った企業先を確認しながら、自己分析を行い、自己ＰＲの作成と発表について指導し、模擬練習をする。また、公務員希望者は、模擬試験、面接対策等を行う。進学希望者は、進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成、口頭試問のための原稿作成とプレゼンテーションの練習を行う。		
教材（教科書）	授業中に配布するプリント教材 キャリアサポートセンター『就職ガイド』		
教材（参考資料）	『就職四季報』東洋経済新報社 『絶対内定』ダイヤモンド社 その他、必要に応じて指示する。		
教育方法	・キャリアサポートセンターからの情報・配布資料を必ず事前に確認すること。 ・講義・講演内容に応じて必要な資料を配布して授業を行うので、事前・事後予習・復習に使用すること。		
評価方法	指示する課題（各種シート等）への取り組み状況(100%)。ただし、指示する行事への参加等の単位認定要件を別途設ける。		
到達目標	・自らの「キャリア」について考え、自分の「夢」を明確化する。 ・自分の「夢」と「現在の自分」との距離をどのような手段で埋めるのかについて考え、それを行動に移す。		
授業時間外学習	・　自分のこれまでを丁寧に振り返り、特徴的な経験を整理しておく。 ・　自分のこれからを考え、その実現に向けて今すべき事をを整理しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・　就職活動は、時期を失うとチャンスを失うことを肝に銘じること。
・　各時間ごとの課題を着実に完了し、以後、熟考・推敲を辛抱強く繰り返すこと。
・　スケジュール管理きちんとすること。そのために、手帳を利用し常に携帯すること。

授業スケジュール

１．自己 PR の口頭発表
２．業界研究
３．仕事研究・企業研究（1）：シートの作成
４．仕事研究・企業研究（2）：シートの作成
５．仕事研究・企業研究（3）：シートの作成
６．仕事研究・企業研究（4）：シートの完成
７．就職活動の実例：経験者の話しを聞く
８．履歴書を書く
９．エントリーシートを書く（1）
１０．エントリーシートを書く（2）
１１．エントリーシートを書く（3）
１２．エントリーシートを書く（4）
１３．実践練習：エントリーシートの内容を話す
１４．実践練習：面接の要領・グループ面接
１５．就職活動の心得・合同企業説明会に向けて

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2018	授業コード	J90187001
科目名	水泳	単位数	1
科目名（英語表記）	Swimming		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
授業概要	本演習では、①基本４泳法の泳力向上と指導方法の修得、②カヌー・ヨット・スキンダイビング等海洋スポーツの基礎技術の修得、③野外活動の実践と安全で効果的な管理運営の理論と実践能力の修得を通して、水泳系運動プログラムの基礎的実践能力と初心者指導法の修得、および野外活動・自然体験活動指導におけるリーダーシップの育成と管理運営の理論的理解について学ぶ。人と人、人と自然の触れ合う機会が減少している現在、子どもたちの健全で健やかなこころとからだの発達に欠かせない身体活動と集団生活について、リーダーとして運営できる能力と資質を獲得する。本授業は、プールと海での集中授業として実施する。		
教材（教科書）	実習全体の要綱を配布する。また、講義・実習内容に応じて、適時資料を配布する。		
教材（参考資料）	『水泳の指導法がわかる本』（小学館）　不破央 著 『ＤＶＤ完全レッスン！水泳４泳法』（日本文芸社）　奥野景介 著 『海洋スポーツ指導者ハンドブック』（西文社） 『健康運度指導士養成講習会テキスト　上・下』（健康・体力づくり財団）		
教育方法	・水着やスイミングキャップ、サンダル、タオルなど水泳系運動実習に必要な物は各自で準備すること。 ・その他、プログラム実習に必要な用具・備品は大学で用意する。		
評価方法	実技評価（50%）、水泳・海洋・野外活動の学びに関するレポート（30%）、受講平常点（20%）		
到達目標	平泳ぎ・クロールを中心とする基本４泳法の泳力と指導能力、遠泳と海洋スポーツプログラムの実践力、および野外活動で集団の一員として活動できる社会性とコミュニケーション能力を持ち合わせ、指導者としての資質を高めることを目標とする。		
授業時間外学習	・プールと海での実習なので、基本的には泳げることが望ましいので、プール等で事前に練習してほしい。 ・事前に練習しておくこと。水泳は体力的にもハードな上、水上・水中という特殊環境での運動なので、安全について十分な意識を持つとともに、身体能力を高めておくことが望ましい。 ・水泳・水中運動における危険要因をしっかり理解するように、テキスト・ウェブ上で事前に予習しておくこと。 ・何よりも健康・体調の自己管理をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本授業は、合宿を含む期間の長い集中授業であるとともに、日常生活から自然・社会環境が変わる中での実習である。また受講生が多く、安全への配慮と集団生活における社会性が求められる。しっかりとした自己管理能力を持ち、体調を整え、自己中心でなく利他的視点を持って言動を考えるとともに、この経験を通して社会性とコミュニケーション能力を獲得できるよう臨んでほしい。

授業スケジュール

1.　講義１：水泳系運動の運動学的・生理学的特長
2.　講義２：野外・自然活動プログラムの組織マネジメントとリスクマネジメント
3.　講義３：水泳運動の安全と救急法
4.　プール実習１：実習全体のガイダンス：泳力別グループ編成、4 泳法指導、200m 泳
5.　プール実習２：クロール、平泳ぎの基本練習、400m 泳
6.　プール実習３：背泳ぎ、バタフライ泳法の基本練習、600m 泳
7.　プール実習４：潜水、立ち泳ぎ指導、800m 泳、水中ウオーキング指導
8.　プール実習５：シュノーケリングの基本練習、1000m 泳
9.　プール実習６：泳力検査、水中ウオーキングの指導
10.　海実習１：カヤック操法指導、小遠泳、講義「ヨットと風の理論」

１１．　海実習２：大遠泳 １２．　海実習３：ヨット操船指導 １３．　海実習４：カヌー操船指導、磯実習、キャンプファイアー １４．　海実習５：カッター操船指導とツーリング １５．　総括：レポートの作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J90188001
科目名	体つくり運動	単位数	1
科目名（英語表記）	General Gymnastics		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
授業概要	体つくり運動では、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識させ、学校の教育活動や実生活で生かすことができ、生涯にわたって運動を継続できるよう、「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動（遊び）」「体力を高める運動」について、その意義や体の構造との関連、運動の原則などの知識を獲得し、それらの知識の活用や応用にまで発展させる。		
教材（教科書）	必要に応じて適宜配布する		
教材（参考資料）	『学校体育実技指導資料第７集「体つくり運動」（改訂版）』（文部科学省） 『中学校学習指導要領開設保健体育編』（文部科学省） 『高等学校学習指導要領開設保健体育編』（文部科学省）		
教育方法	3 名の教員によるオムニバス形式で、様々な運動遊び、レジスタンストレーニングによる体力づくり運動、調整力を養うコーディネーショントレーニングを実践的に学び、さらにその指導法をグループ学習を通して体験する。		
評価方法	・実技試験（90%） ・授業態度（10%）		
到達目標	「体つくり運動」の学習内容である「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動・遊び」「体力を高める運動」に関して、その意義と運動方法を理解する。次にそれらを応用し「体つくり運動」の指導展開ができるようになる。		
授業時間外学習	遊びから体力を高める運動まで、身体の使った運動の多様性について理解しておくことが望ましい。教員の資格取得を目指す人は必修となる科目である。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本授業を受講するにあたっての注意事項

・授業回数の５分の４以上が出席規定となる。出席用件を満たさなければ実技試験を受験できません。

・服装はトレーニングウェア、靴は自身の体育館シューズを必ず着用すること。忘れた場合は授業を受講できません。

・本授業は遊びから体力を高める運動まで多種多様な身体の動きを学ぶため、自ら考え、仲間と協力し、工夫する積極的な姿勢を望む。

授業スケジュール

１．オリエンテーション・グループ分け
２．多様な動きをつくる運動（遊び）１（バランスや筋力を使う遊びや運動）（三宅）
３．多様な動きをつくる運動（遊び）２（仲間やグループで協力・協働する遊びや運動）（三宅）
４．多様な動きをつくる運動（遊び）３（用具を使った遊びや運動）（三宅）
５．多様な動きをつくる運動（遊び）４（伝承あそびによる運動）（三宅）
６．体ほぐしの運動１（心と体への気づき）（満石）
７．体ほぐしの運動２（体の調子を整える運動）（満石）
８．体ほぐしの運動３（リズムに合わせて動く）（満石）

９．体力を高める運動１（バランス力を高める運動）（谷口） １０．体力を高める運動２（筋力を高める運動）（谷口） １１．体力を高める運動３（巧みな動きを高める運動）（谷口） １２．体力を高める運動４（柔軟性を高める運動）（谷口） １３．実技課題の提示（谷口、三宅、満石） １４．実技テスト（谷口、三宅、満石） １５．実技テスト（谷口、三宅、満石）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J90188002
科目名	体つくり運動	単位数	1
科目名（英語表記）	General Gymnastics		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
授業概要	体つくり運動では、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識させ、学校の教育活動や実生活で生かすことができ、生涯にわたって運動を継続できるよう、「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動（遊び）」「体力を高める運動」について、その意義や体の構造との関連、運動の原則などの知識を獲得し、それらの知識の活用や応用にまで発展させる。		
教材（教科書）	必要に応じて適宜配布する		
教材（参考資料）	『学校体育実技指導資料第７集「体つくり運動」（改訂版）』（文部科学省） 『中学校学習指導要領開設保健体育編』（文部科学省） 『高等学校学習指導要領開設保健体育編』（文部科学省）		
教育方法	3 名の教員によるオムニバス形式で、様々な運動遊び、レジスタンストレーニングによる体力づくり運動、調整力を養うコーディネーショントレーニングを実践的に学び、さらにその指導法をグループ学習を通して体験する。		
評価方法	・実技試験（90%） ・授業態度（10%）		
到達目標	「体つくり運動」の学習内容である「体ほぐしの運動」「多様な動きをつくる運動・遊び」「体力を高める運動」に関して、その意義と運動方法を理解する。次にそれらを応用し「体つくり運動」の指導展開ができるようになる。		
授業時間外学習	遊びから体力を高める運動まで、身体の使った運動の多様性について理解しておくことが望ましい。教員の資格取得を目指す人は必修となる科目である。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本授業を受講するにあたっての注意事項

・授業回数の 5 分の 4 以上が出席規定となる。出席用件を満たさなければ実技試験を受験できません。

・服装はトレーニングウェア、靴は自身の体育館シューズを必ず着用すること。忘れた場合は授業を受講できません。

・本授業は遊びから体力を高める運動まで多種多様な身体の動きを学ぶため、自ら考え、仲間と協力し、工夫する積極的な姿勢を望む。

授業スケジュール

1．オリエンテーション・グループ分け
2．多様な動きをつくる運動（遊び）1（バランスや筋力を使う遊びや運動）（三宅）
3．多様な動きをつくる運動（遊び）2（仲間やグループで協力・協働する遊びや運動）（三宅）
4．多様な動きをつくる運動（遊び）3（用具を使った遊びや運動）（三宅）
5．多様な動きをつくる運動（遊び）4（伝承あそびによる運動）（三宅）
6．体ほぐしの運動 1（心と体への気づき）（満石）
7．体ほぐしの運動 2（体の調子を整える運動）（満石）
8．体ほぐしの運動 3（リズムに合わせて動く）（満石）

９．体力を高める運動１（バランス力を高める運動）（谷口） １０．体力を高める運動２（筋力を高める運動）（谷口） １１．体力を高める運動３（巧みな動きを高める運動）（谷口） １２．体力を高める運動４（柔軟性を高める運動）（谷口） １３．実技課題の提示（谷口、三宅、満石） １４．実技テスト（谷口、三宅、満石） １５．実技テスト（谷口、三宅、満石）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	J90189001
科目名	陸上競技	単位数	1
科目名（英語表記）	Track and Field		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
授業概要	健康スポーツ指導者・保健体育教職者・健康運動実践指導者・障がい者スポーツ指導員向けの教授方法について実践的に学修する。生涯に亘っての健康生活実践と体育教育に必要な歩く・走る・跳ぶ・投げるの基本動作とその指導方法について修得させる。分習法から全習法へと連結した技能修得と教授方法を修得させる。各専門的指導者にとって陸上運動の個々の指導留意点や指導時の指摘や模範動作の意識ポイントについても各々動作事例を示しながら実践展開する。陸上運動の個別指導とグループ指導のノウハウについても教授し、指導実践環境を想定した授業展開を図り、指導計画案づくりから模擬授業迄の実践的授業展開とする。		
教材（教科書）	『陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技［初級編］』（大修館書店）　日本陸連 編　2,052 円		
教材（参考資料）	『陸上競技指導教本アンダー16・19 レベルアップの陸上競技［上級編］』（大修館書店）　日本陸連 編　2,052 円		
教育方法	対話型実技及び講義形式。		
評価方法	１．歩・走・跳・投運動の基礎的技術の習得評価（実技評価７０％） ２．陸上運動指導計画及び指導案作成評価（レポート２０％） ３．受講時の積極的態度・自立的行動評価（授業態度１０％）		
到達目標	１．健常者及び障がい者向けの歩・走・跳・投の基礎技術と指導方法を体得する。 ２．健康ウォーキング・ジョギングの実際と運動処方の基本を理解する。 ３．陸上運動指導上の安全管理の実践的理解をする。 ４．陸上運動指導の対象別指導計画及び指導案の作成		
授業時間外学習	受講に際して陸上競技のルールと陸上運動の特性を事前準備学習を要する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講に際し、服装はトレーニングウエア、靴はジョギングシューズを着用し、受講の事。

授業スケジュール

１．健康ウォーキングの実際と指導方法

ウォーキング実践

ａ）他人にとらわれず、各人の好みの速さで歩き、個人差があらわれることを確かめさせる。

ｂ）性・年齢・体力の違いによって歩行速度が異なることを理解させる。

ｃ）歩行の基本的な姿勢、歩幅と歩数と速さの関係を理解させる。

ｄ）３分間以上同一の速さで歩き、終了直後約１０秒以内に心拍数を数えさせる方法を修得。

ｅ）５速度（楽な速さ、やや速く、もう少し速く、あるいは隣の人と話ができるが速いスピードとその前後の速さ）の実習を行い、ウォーキングの速さと心拍数の関係を理解させる。

ｆ）異なった速さの歩行間には完全休息を置き、ウォーキング運動の特徴・効果を理解させる。

ｇ）ウォーキングと安全に関する留意点を理解させる。

ｈ）頸、肩、腰、膝、足に負担の少ない基本的なウォーキングフォームを習得させる。

２．健康ジョギングの実際と指導方法

・関節負担の少ない基本的走フォームを修得。

・異種速度ジョギングを 3 分行い、終了後 10 秒心拍計測し、指導。

・異種速度でのジョギングにおいて様々な条件による生体反応の個人差を実践的に修得。

・個人に適した作成プログラムを実践し、消費カロリーの推定を実践学習する。

３．全習法的に班別ウォーキング１５分歩行を実施し、班別指導の歩型動作、ペース配分、脈拍チェック評価の指導の仕方を学習する。

4.全習法的に班別ジョギング１５分歩行を実施し、班別指導の歩型動作、ペース配分、脈拍チェック評価の指導の仕方を学習す

る。
5．短距離走の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・障がい者スポーツ種目として視覚障がい者 50m走の実践も含む
6．短距離走の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
・障がい者スポーツ種目として視覚障がい者 50m走の実践も含む
7．ハードル走の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
8．ハードル走の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
9．走り幅跳びの基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・走り幅跳びの指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
１０．走り高跳びの基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・走り高飛びの指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
１１．投擲競技の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・円盤投げ
・ 砲丸投げ（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
・ ジャベリックスロー（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
１２．投擲競技の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
・円盤投げ
・砲丸投げ（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
・ジャベリックスロー（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
１３．陸上競技の競技規則の理解と安全管理
１４．障がい者の為の陸上競技の競技規則と選手団コーチの知識・技能の理解
１５．学校教育指導（中・高）における陸上運動の指導計画立案と指導案作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2018	授業コード	J90189002
科目名	陸上競技	単位数	1
科目名（英語表記）	Track and Field		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
授業概要	健康スポーツ指導者・保健体育教職者・健康運動実践指導者・障がい者スポーツ指導員向けの教授方法について実践的に学修する。生涯に亘っての健康生活実践と体育教育に必要な歩く・走る・跳ぶ・投げるの基本動作とその指導方法について修得させる。分習法から全習法へと連結した技能修得と教授方法を修得させる。各専門的指導者にとって陸上運動の個々の指導留意点や指導時の指摘や模範動作の意識ポイントについても各々動作事例を示しながら実践展開する。陸上運動の個別指導とグループ指導のノウハウについても教授し、指導実践環境を想定した授業展開を図り、指導計画案づくりから模擬授業迄の実践的授業展開とする。		
教材（教科書）	『陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技［初級編］』（大修館書店）　日本陸連 編　2,052 円		
教材（参考資料）	『陸上競技指導教本アンダー16・19 レベルアップの陸上競技［上級編］』（大修館書店）　日本陸連 編　2,052 円		
教育方法	対話型実技及び講義形式。		
評価方法	１．歩・走・跳・投運動の基礎的技術の習得評価（実技評価７０％） ２．陸上運動指導計画及び指導案作成評価（レポート２０％） ３．受講時の積極的態度・自立的行動評価（授業態度１０％）		
到達目標	１．健常者及び障がい者向けの歩・走・跳・投の基礎技術と指導方法を体得する。 ２．健康ウォーキング・ジョギングの実際と運動処方の基本を理解する。 ３．陸上運動指導上の安全管理の実践的理解をする。 ４．陸上運動指導の対象別指導計画及び指導案の作成		
授業時間外学習	受講に際して陸上競技のルールと陸上運動の特性を事前準備学習を要する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講に際し、服装はトレーニングウエア、靴はジョギングシューズを着用し、受講の事。

授業スケジュール

１．健康ウォーキングの実際と指導方法

ウォーキング実践

ａ）他人にとらわれず、各人の好みの速さで歩き、個人差があらわれることを確かめさせる。

ｂ）性・年齢・体力の違いによって歩行速度が異なることを理解させる。

ｃ）歩行の基本的な姿勢、歩幅と歩数と速さの関係を理解させる。

ｄ）３分間以上同一の速さで歩き、終了直後約１０秒以内に心拍数を数えさせる方法を修得。

ｅ）５速度（楽な速さ、やや速く、もう少し速く、あるいは隣の人と話ができるが速いスピードとその前後の速さ）の実習を行い、ウォーキングの速さと心拍数の関係を理解させる。

ｆ）異なった速さの歩行間には完全休息を置き、ウォーキング運動の特徴・効果を理解させる。

ｇ）ウォーキングと安全に関する留意点を理解させる。

ｈ）頸、肩、腰、膝、足に負担の少ない基本的なウォーキングフォームを習得させる。

２．健康ジョギングの実際と指導方法

・関節負担の少ない基本的走フォームを修得。

・異種速度ジョギングを 3 分行い、終了後 10 秒心拍計測し、指導。

・異種速度でのジョギングにおいて様々な条件による生体反応の個人差を実践的に修得。

・個人に適した作成プログラムを実践し、消費カロリーの推定を実践学習する。

３．全習法的に班別ウォーキング１５分歩行を実施し、班別指導の歩型動作、ペース配分、脈拍チェック評価の指導の仕方を学習する。

4.全習法的に班別ジョギング１５分歩行を実施し、班別指導の歩型動作、ペース配分、脈拍チェック評価の指導の仕方を学習す

る。
5．短距離走の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・障がい者スポーツ種目として視覚障がい者 50m走の実践も含む
6．短距離走の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
・障がい者スポーツ種目として視覚障がい者 50m走の実践も含む
7．ハードル走の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
8．ハードル走の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
9．走り幅跳びの基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・走り幅跳びの指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
１０．走り高跳びの基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・走り高飛びの指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
１１．投擲競技の基礎技術（各種ドリルの分習方法から一連の全習方法で基本フォーム習得）
・円盤投げ
・ 砲丸投げ（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
・ ジャベリックスロー（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
１２．投擲競技の指導方法（基本フォームの修正チェックからの完成フォームの指導）
・円盤投げ
・砲丸投げ（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
・ジャベリックスロー（障がい者スポーツ種目としての実践も含む）
１３．陸上競技の競技規則の理解と安全管理
１４．障がい者の為の陸上競技の競技規則と選手団コーチの知識・技能の理解
１５．学校教育指導（中・高）における陸上運動の指導計画立案と指導案作成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2018	授業コード	J90190001
科目名	ダンス	単位数	1
科目名（英語表記）	Dance		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
授業概要	芸術の１つであるダンスは、音楽を通し各自の感性を身体表現に結びつけることを基本としている。現在、多種多様なダンスがあげられるが、本授業では、個人の感情や考えを身体運動によって表現する創作ダンス、各国・各地に伝わる民族舞踊であるフォークダンス、有酸素運動の１つであるエアロビックダンスについて、特性、効果を理解し、楽しく安全に運動できるようになることを目的とし、学習を進めます。 　学生はこの実技を受講することで、さまざまなスタイルのダンススキルを獲得することができる。また、創作ダンスでは仲間と協力しオリジナルなダンスを作り上げて発表することでダンスの魅力を実体験できる。 　対面指導の練習によってキューイングスキルを獲得することができる。		
教材（教科書）	必要時にプリントを配布する。		
教材（参考資料）	小澤治夫　　『最新　フィットネス基礎理論』（社）日本エアロビックフィットネス協会 沢井史穂ら　『新・エアロビックダンスエクササイズの実技指導』（社）日本エアロビックフィットネス協会		
教育方法	授業は主に講義法に基づくが、グループワークをまじえた創作やダンスの振返りを通して、お互いに学び、教えあう環境づくりをし、効率的に進めていく。 　また、学生はこの実技を受講することで、さまざまなスタイルのダンススキルを獲得することができる。また、創作ダンスでは仲間と協力しオリジナルなダンスを作り上げて発表することでダンスの魅力を実体験できる。 　ﾌｫｰｸﾀﾞﾝｽや導入ダンスを対面指導する練習によってキューイングスキルを獲得することができる。		
評価方法	創作過程への参加度　50%、ダンスの発表　30%、学習内容の理解度やレポート　20%。		
到達目標	学生はダンスを指導するために必要な知識を習得するとともに実技能力を高めることができる。また、指導法を学び、実技指導能力を高めることができる。レポートの作成によってダンスの幅広さ、魅力などを知り、今後の指導やスキルアップの継続につなげることができる。		
授業時間外学習	平成 24 年度より全面実施となった学習指導要領において、ダンスが必修化された。多くの学校で実践されている「現代的なリズムのダンス」、特にヒップホップダンスなども体験しよう。表現力やコミュニケーションの能力を高めるために、「踊る」「創る」「観る」という活動を行うダンスの教育的役割は大きい。まずはダンスとは何かを予習しておくこと。ダンスの特性，　踊りの由来と表現の仕方，　関連して高まる体力などを理解し，　課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるように積極的に取り組むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ダンスの授業は実技の前に講義を行うため、筆記用具を持参のこと。

授業スケジュール

１．舞踊（ダンス）の特性（ビデオ鑑賞）
２．ダンスの導入とリズム系ダンス(1)体ほぐしのいろいろ
３　エアロビックダンス初級
４　エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導）
５　エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導）
６　中高年者のためのリズミックダンス
７．いろいろなテーマからの即興表現(1)音楽から
８．いろいろなテーマからの即興表現(2)ものから
９．いろいろなテーマからの即興表現(3)コンタクト・インプロビゼーション

１０．発表とまとめ １１．イメージから動きの発見(1) １２．イメージから動きの発見(2) １３．発表とまとめ １４．フォークダンスと指導法 １５．レクリエーションダンスと指導法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2018	授業コード	J90190002
科目名	ダンス	単位数	1
科目名（英語表記）	Dance		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
授業概要	芸術の１つであるダンスは、音楽を通し各自の感性を身体表現に結びつけることを基本としている。現在、多種多様なダンスがあげられるが、本授業では、個人の感情や考えを身体運動によって表現する創作ダンス、各国・各地に伝わる民族舞踊であるフォークダンス、有酸素運動の１つであるエアロビックダンスについて、特性、効果を理解し、楽しく安全に運動できるようになることを目的とし、学習を進めます。 　学生はこの実技を受講することで、さまざまなスタイルのダンススキルを獲得することができる。また、創作ダンスでは仲間と協力しオリジナルなダンスを作り上げて発表することでダンスの魅力を実体験できる。 　対面指導の練習によってキューイングスキルを獲得することができる。		
教材（教科書）	必要時にプリントを配布する。		
教材（参考資料）	小澤治夫　　『最新　フィットネス基礎理論』（社）日本エアロビックフィットネス協会 沢井史穂ら　『新・エアロビックダンスエクササイズの実技指導』（社）日本エアロビックフィットネス協会		
教育方法	授業は主に講義法に基づくが、グループワークをまじえた創作やダンスの振返りを通して、お互いに学び、教えあう環境づくりをし、効率的に進めていく。 　また、学生はこの実技を受講することで、さまざまなスタイルのダンススキルを獲得することができる。また、創作ダンスでは仲間と協力しオリジナルなダンスを作り上げて発表することでダンスの魅力を実体験できる。 　ﾌｫｰｸﾀﾞﾝｽや導入ダンスを対面指導する練習によってキューイングスキルを獲得することができる。		
評価方法	創作過程への参加度　50%、ダンスの発表　30%、学習内容の理解度やレポート　20%。		
到達目標	学生はダンスを指導するために必要な知識を習得するとともに実技能力を高めることができる。また、指導法を学び、実技指導能力を高めることができる。レポートの作成によってダンスの幅広さ、魅力などを知り、今後の指導やスキルアップの継続につなげることができる。		
授業時間外学習	平成 24 年度より全面実施となった学習指導要領において、ダンスが必修化された。多くの学校で実践されている「現代的なリズムのダンス」、特にヒップホップダンスなども体験しよう。表現力やコミュニケーションの能力を高めるために、「踊る」「創る」「観る」という活動を行うダンスの教育的役割は大きい。まずはダンスとは何かを予習しておくこと。ダンスの特性，踊りの由来と表現の仕方，関連して高まる体力などを理解し，課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるように積極的に取り組むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ダンスの授業は実技の前に講義を行うため、筆記用具を持参のこと。

授業スケジュール

１．舞踊（ダンス）の特性（ビデオ鑑賞）
２．ダンスの導入とリズム系ダンス(1)体ほぐしのいろいろ
３　エアロビックダンス初級
４　エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導）
５　エアロビックダンス中級（運動量を上げるための指導）
６　中高年者のためのリズミックダンス
７．いろいろなテーマからの即興表現(1)音楽から
８．いろいろなテーマからの即興表現(2)ものから
９．いろいろなテーマからの即興表現(3)コンタクト・インプロビゼーション

１０．発表とまとめ １１．イメージから動きの発見(1) １２．イメージから動きの発見(2) １３．発表とまとめ １４．フォークダンスと指導法 １５．レクリエーションダンスと指導法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	★	－

年度	2018	授業コード	J90191001
科目名	器械運動	単位数	1
科目名（英語表記）	Gymnastics		
担当者名	髙松　靖	旧科目名称	
授業概要	本講義では、中学校や高等学校の授業で実際に指導されている内容の器械運動のマット運動、とび箱運動、鉄棒運動を自身の身体を通して体験し、技能を習得する事によって、技の構造やつまずき、さらには安全に実施するための配慮等を学ぶことを目標とする。さらに、様々な指導法や幇助法、学修の場の工夫や授業展開の方法を実際に体験しながら学習することで、指導者としての実践的力量を高めることを目指すものである。		
教材（教科書）	特に使用しないが、必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	『教師のための器械運動指導法シリーズ』（マット運動、とび箱・平均台運動・鉄棒運動）（大修館書店）：金子明友著。 『中学校・高等学校学習指導要領解説』（器械運動領野）：文部科学省		
教育方法	実際に身体を動かしながら体験活動を通して学習する。実技実習方式で行う。		
評価方法	毎授業の小レポート(各 3 点満点の 45 点）と実技技能テスト(55 点)の合計で評価する。		
到達目標	学校体育で行われているマット運動やとび箱運動、鉄棒運動の代表的な技が出来るようになる。器械運動の指導法や技の幇助法を身につけることが出来る。自己の運動や幇助している相手の動感を捉えたり、言葉や図でその動感を表現し、伝えることができる。		
授業時間外学習	これまでに体験してきた器械運動の授業で、色々な技がどうやった順序で出来るようになったのか、また、なぜ出来なかったのかを思い出してください。さらには出来る技についても「私はこんな感じで動いてる」を思い出しながら他者に伝えられるような表現を学習しておいてください。これらは運動指導や本授業での教え合いに必要な能力につながります。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

スポーツ運動には「怖い」と感じることによって上手く身体を動かせないことが多くあります。この授業では、器械運動の技を通して、「怖い」に対し、どのように克服していくのかを学び、運動学習というものを深く考えられる場になると思います。できなかった運動が出来るようになった喜びを味わえる場になると思いますので、苦手な人も得意な人も教え合いながら学習を進めてください。また、本授業は、実技実習形式になりますので、腕時計などの装飾品は外し、長髪は紙を縛って運動の妨げにならないように準備してください。

授業スケジュール

１．マット運動　逆位について(倒立とそのバリエーション)
２．マット運動　前転とその発展技の練習方法について
３．マット運動　後転とその発展技の練習方法について
４．マット運動　側方倒立回転と前方倒立回転跳びの練習方法について
５．マット運動　技の組み合わせと巧技系の運動の練習方法について
６．マット運動　実技技能テスト
７．とび箱運動　きり返し系の技の練習方法とバリエーションについて
８．とび箱運動　回転系の技の練習方法とバリエーションについて
９．とび箱運動　実技技能テスト
１０．鉄棒運動　鉄棒に親しむこと(鉄棒遊びのバリエーション)
１１．鉄棒運動　下り技の練習方法とバリエーションについて
１２．鉄棒運動　支持回転技の練習方法とバリエーションについて①（後方支持回転）
１３．鉄棒運動　支持回転技の練習方法とバリエーションについて②（前方支持回転）
１４．鉄棒運動　上がり技の練習方法とバリエーションについて
１５．鉄棒運動　実技技能テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★	−	★	★★	−

年度	2018	授業コード	J90192001
科目名	武道	単位数	1
科目名（英語表記）	Martial Arts		
担当者名	林　弘典	旧科目名称	
授業概要	柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習に由って、身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を体得する事である。そうして、是に由って己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である（嘉納治五郎師範遺訓)。 本授業では、柔道の楽しさを理解する。また、中学校や高校の授業で柔道を教える者に絶対不可欠な知識や技術を習得する。具体的には、柔道の概要、礼法、受け身、投げ技（立ち技)、固め技（抑み込み技、絞め技、関節技）を学習し、乱取りと試合を実践する。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	必要な人は、担当者に相談してください。		
教育方法	必要な人は、担当者に相談してください。		
評価方法	授業内の発表（30%)、レポート（30%)、技能チェック（40%）によって評価します。発表、レポートの内容は、柔道の概要です。技能チェックの内容は、礼法（立礼、座礼)、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）です。		
到達目標	１．柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）を暗唱できる。 ２．礼法（立礼、座礼）ができる。 ３．受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）ができる。		
授業時間外学習	講義の順序とポイントにある学習内容を図書館やインターネットで調べてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．安全・指導上、国際柔道連盟の規定に合った「ゼッケンを付き」の柔道衣を購入してください。
２．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は必ず外して参加してください。
３．長髪の者は、ゴムで束ねて参加してください（ピンは使用しないでください)。
４．柔道衣の下は、男子は着用せず、女子はＴシャツ等ボタンのない衣類を着用してください。
５．感染症の防止のため、使用した柔道衣は必ず持ち帰って洗濯し、貸し借りはしないでください。
６．体調管理に十分に留意してください（特に授業前日は十分な栄養と睡眠をとり、当日は朝食を摂ってください)。
７．怪我防止のために、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
８．貴重品は自己管理してください。
※本単位の修得者で昇段を希望する者は、初段に推薦することが可能です。

授業スケジュール

１．オリエンテーション、柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓)、スポーツと武道の違い
２．柔道衣の着方、礼の意味、礼法（立礼、座礼）
３．後ろ受け身、横受け身、前受け身（その場、低い位置、高い位置、他力）
４．前回り受け身（立ち上がらない)、抑え込み技の定義、横四方固め
５．前回り受け身（立ち上がる)、上四方固め
６．袈裟固め、組み方、八方の崩し
７．絞め技の定義、裸絞め（2 種類)、膝車
８．送り襟絞め（2 種類)、支え釣り込み足
９．片羽絞め、出足払い、燕返し
１０．昇段の説明会、柔道の概要の暗唱チェック
１１．三角絞、大外落とし
１２．関節技の定義、腕緘、大内刈り
１３．腕挫十字固め、体落とし
１４．審判法、試合
１５．技能チェック、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	J90192002
科目名	武道	単位数	1
科目名（英語表記）	Martial Arts		
担当者名	林　弘典	旧科目名称	
授業概要	柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習に由って、身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を体得する事である。そうして、是に由って己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である（嘉納治五郎師範遺訓)。 本授業では、柔道の楽しさを理解する。また、中学校や高校の授業で柔道を教える者に絶対不可欠な知識や技術を習得する。具体的には、柔道の概要、礼法、受け身、投げ技（立ち技)、固め技（抑み込み技、絞め技、関節技）を学習し、乱取りと試合を実践する。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	必要な人は、担当者に相談してください。		
教育方法	必要な人は、担当者に相談してください。		
評価方法	授業内の発表（30%)、レポート（30%)、技能チェック（40%）によって評価します。発表、レポートの内容は、柔道の概要です。技能チェックの内容は、礼法（立礼、座礼)、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）です。		
到達目標	１．柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）を暗唱できる。 ２．礼法（立礼、座礼）ができる。 ３．受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）ができる。		
授業時間外学習	講義の順序とポイントにある学習内容を図書館やインターネットで調べてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．安全・指導上、国際柔道連盟の規定に合った「ゼッケンを付き」の柔道衣を購入してください。
２．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は必ず外して参加してください。
３．長髪の者は、ゴムで束ねて参加してください（ピンは使用しないでください)。
４．柔道衣の下は、男子は着用せず、女子はＴシャツ等ボタンのない衣類を着用してください。
５．感染症の防止のため、使用した柔道衣は必ず持ち帰って洗濯し、貸し借りはしないでください。
６．体調管理に十分に留意してください（特に授業前日は十分な栄養と睡眠をとり、当日は朝食を摂ってください)。
７．怪我防止のために、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
８．貴重品は自己管理してください。
※本単位の修得者で昇段を希望する者は、初段に推薦することが可能です。

授業スケジュール

１．オリエンテーション、柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓)、スポーツと武道の違い
２．柔道衣の着方、礼の意味、礼法（立礼、座礼）
３．後ろ受け身、横受け身、前受け身（その場、低い位置、高い位置、他力）
４．前回り受け身（立ち上がらない)、抑え込み技の定義、横四方固め
５．前回り受け身（立ち上がる)、上四方固め
６．袈裟固め、組み方、八方の崩し
７．絞め技の定義、裸絞め（2 種類)、膝車
８．送り襟絞め（2 種類)、支え釣り込み足
９．片羽絞め、出足払い、燕返し
１０．昇段の説明会、柔道の概要の暗唱チェック
１１．三角絞、大外落とし
１２．関節技の定義、腕緘、大内刈り
１３．腕挫十字固め、体落とし
１４．審判法、試合
１５．技能チェック、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	J90193001
科目名	ゴール型球技	単位数	1
科目名（英語表記）	Goal Sports		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
授業概要	保健体育学習指導要領に基づく「ゴール型球技」の特性と基礎的知識および技術、指導方法について学ぶ。ゴール型球技のひとつであるバスケットボールを取り上げ、その運動技能の特性を実践的に理解するとともに、エンドボールやポートボールなどのバスケットボール型ゲームのリードアップゲームの体験を通じて指導展開を理解する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	・ＪＢＡ公式テキスト Vol.3 スキルトレーニングディフェンス＆オフェンス基礎編 ・バスケットボール競技規則(ルールブック)		
教育方法	主に実習を通して授業を展開する。必要に応じて資料を用いて理解を促しながら授業を進め、時には、受講生同士のディスカッションやレポートなどで理解を深めるようにする。		
評価方法	・指導計画の作成（３０％）　・指導展開に関する評価（３０％）　・実技テスト（４０％）		
到達目標	本授業における到達目標は、次のとおりである。 ①ドリブル、パス、シュートのバスケットボールの基礎的技術の修得。 ②バスケットボールの指導展開を理解し、指導案を作成し指導展開ができる。 ③バスケットボールのゲーム運営ができる。		
授業時間外学習	次時の授業内容について、各自で動きやルールを予習して授業に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・バスケットボールをするにふさわしい服装（スポーツウェア、体育館シューズ）を着用し、授業開始時刻には各自でストレッチ等ウォームアップを済ませて、体育館アリーナに集合すること。
・自分から積極的に考えて学ぶ姿勢で授業に臨むこと。(私語は認めない)
・欠席・遅刻・早退の場合、その理由を求める。
・接触プレーによるけがの防止について理解し各自配慮して授業に来ること。
・長髪の者は、ゴムで束ねること（ピンは接触プレーの際けがを誘発するため厳禁とする)。
・爪を短くしておくこと。
・安全に活動できるよう、お互いに細心の注意を払って行動すること。
・指示に従わない言動があった場合は、他者への迷惑を勘案し退出を求める。

授業スケジュール

第 1 回：ゴール型球技の特性と基本動作
第 2 回：バスケットボールの基本動作の練習（パス・ドリブル・シュート）
第 3 回：バスケットボールの基本動作とルール（ランニングシュート）
第 4 回：ゴール型ゲームのリードアップスポーツ①エンドボール
第 5 回：ゴール型ゲームのリードアップスポーツ②ポートボール
第 6 回：バスケットボールの基礎技術①オフェンスの方法
第 7 回：バスケットボールの基礎技術②ディフェンスの方法
第 8 回：バスケットボールの応用技術①ハーフコートでのミニゲーム
第 9 回：バスケットボールの応用技術②ゲームと審判
第 10 回：バスケットボールの応用技術③ゲーム展開の基礎
第 11 回：バスケットボールの応用技術④ゲーム展開の方法
第 12 回：バスケットボール型ゲームの指導演習①指導計画の作成
第 13 回：バスケットボール型ゲームの指導演習②指導展開の実際
第 14 回：バスケットボール型ゲームの指導演習③指導展開の確認
第 15 回：バスケットボール型ゲームの指導展開の評価とまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90193002
科目名	ゴール型球技	単位数	1
科目名（英語表記）	Goal Sports		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
授業概要	保健体育学習指導要領に基づく「ゴール型球技」の特性と基礎的知識および技術、指導方法について学ぶ。ゴール型球技のひとつであるバスケットボールを取り上げ、その運動技能の特性を実践的に理解するとともに、エンドボールやポートボールなどのバスケットボール型ゲームのリードアップゲームの体験を通じて指導展開を理解する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	・ＪＢＡ公式テキスト Vol.3 スキルトレーニングディフェンス＆オフェンス基礎編 ・バスケットボール競技規則(ルールブック)		
教育方法	主に実習を通して授業を展開する。必要に応じて資料を用いて理解を促しながら授業を進め、時には、受講生同士のディスカッションやレポートなどで理解を深めるようにする。		
評価方法	・指導計画の作成（３０％）　・指導展開に関する評価（３０％）　・実技テスト（４０％）		
到達目標	本授業における到達目標は、次のとおりである。 ①ドリブル、パス、シュートのバスケットボールの基礎的技術の修得。 ②バスケットボールの指導展開を理解し、指導案を作成し指導展開ができる。 ③バスケットボールのゲーム運営ができる。		
授業時間外学習	次時の授業内容について、各自で動きやルールを予習して授業に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・バスケットボールをするにふさわしい服装（スポーツウェア、体育館シューズ）を着用し、授業開始時刻には各自でストレッチ等ウォームアップを済ませて、体育館アリーナに集合すること。
・自分から積極的に考えて学ぶ姿勢で授業に臨むこと。(私語は認めない)
・欠席・遅刻・早退の場合、その理由を求める。
・接触プレーによるけがの防止について理解し各自配慮して授業に来ること。
・長髪の者は、ゴムで束ねること（ピンは接触プレーの際けがを誘発するため厳禁とする)。
・爪を短くしておくこと。
・安全に活動できるよう、お互いに細心の注意を払って行動すること。
・指示に従わない言動があった場合は、他者への迷惑を勘案し退出を求める。

授業スケジュール

第 1 回：ゴール型球技の特性と基本動作
第 2 回：バスケットボールの基本動作の練習（パス・ドリブル・シュート）
第 3 回：バスケットボールの基本動作とルール（ランニングシュート）
第 4 回：ゴール型ゲームのリードアップスポーツ①エンドボール
第 5 回：ゴール型ゲームのリードアップスポーツ②ポートボール
第 6 回：バスケットボールの基礎技術①オフェンスの方法
第 7 回：バスケットボールの基礎技術②ディフェンスの方法
第 8 回：バスケットボールの応用技術①ハーフコートでのミニゲーム
第 9 回：バスケットボールの応用技術②ゲームと審判
第 10 回：バスケットボールの応用技術③ゲーム展開の基礎
第 11 回：バスケットボールの応用技術④ゲーム展開の方法
第 12 回：バスケットボール型ゲームの指導演習①指導計画の作成
第 13 回：バスケットボール型ゲームの指導演習②指導展開の実際
第 14 回：バスケットボール型ゲームの指導演習③指導展開の確認
第 15 回：バスケットボール型ゲームの指導展開の評価とまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	J90194001
科目名	ベースボール型球技	単位数	1
科目名（英語表記）	Baseball & Softball		
担当者名	西村　真由子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「ベースボール型球技」の特性と基礎的知識および技術、指導方法を修得する。ベースボール型球技のひとつであるソフトボールを取り上げ、攻守を交代して攻防を楽しむ球技の特性について学修する。特に、安全で効果的なボール運動の実践能力を育成するとともに、基本的な技能やゲーム展開ができるようになる指導方法、および指導に必要なデモンストレーション能力と基本的なルールへの理解を深める。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	実技テスト（70%）、平常授業態度（30%）		
到達目標	ベースボール型スポーツ（おもにソフトボール）の特性を理解し、投げる、捕る、打つの基本技術やルールの知識を習得するとともに、学校体育に必修ため、現場での授業展開手段の知識を得る		
授業時間外学習	中学校学習指導要領解説（保健体育編）球技　ベースボール型の箇所を事前学習のこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・服装は健康スポーツ学科ユニフォームを着用
・スパイクシューズは禁止
・事故防止のため装飾品などは不可
・爪は短くしておきましょう

授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. キャッチボールの基礎技術１（投球・捕球）
3. キャッチボールの基礎技術２（クイックスロー等）
4. キャッチボールの基礎技術及び応用
5. ゴロ・フライ捕球の基礎技術（捕球を中心に）
6. 投手投球の基礎技術１（ウインドミル投法　ブラッシングを中心に）
7. 投手投球の基礎技術２（ウインドミル投法　腕の回旋を中心に）
8. 投手投球の基礎技術３（正しいセットポジション）
9. バッティングの基礎技術１（スイング・トスバッティング）
10. バッティングの基礎技術２（ハーフバッティング・フリーバッティング）
11. 実技テスト
12. ゲームの実践１（ティーボールを使って）
13. ゲームの実践２（ウィンドミル投法を用いて）
14. ゲームの実践３（リーグ戦①）
15. ゲームの実践４（リーグ戦②）及びまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	J90194002
科目名	ベースボール型球技	単位数	1
科目名（英語表記）	Baseball & Softball		
担当者名	木田　京子	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「ベースボール型球技」の特性と基礎的知識および技術、指導方法を修得する。ベースボール型球技のひとつであるソフトボールを取り上げ、攻守を交代して攻防を楽しむ球技の特性について学修する。特に、安全で効果的なボール運動の実践能力を育成するとともに、基本的な技能やゲーム展開ができるようになる指導方法、および指導に必要なデモンストレーション能力と基本的なルールへの理解を深める。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	実技テスト（70%）、平常授業態度（30%）		
到達目標	ベースボール型スポーツ（おもにソフトボール）の特性を理解し、投げる、捕る、打つの基本技術やルールの知識を習得するとともに、学校体育に必修ため、現場での授業展開手段の知識を得る		
授業時間外学習	中学校学習指導要領解説（保健体育編）球技　ベースボール型の箇所を事前学習のこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・服装は健康スポーツ学科ユニフォームを着用
・スパイクシューズは禁止
・事故防止のため装飾品などは不可
・爪は短くしておきましょう

授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. キャッチボールの基礎技術１（投球・捕球）
3. キャッチボールの基礎技術２（クイックスロー等）
4. キャッチボールの基礎技術及び応用
5. ゴロ・フライ捕球の基礎技術（捕球を中心に）
6. 投手投球の基礎技術１（ウインドミル投法　ブラッシングを中心に）
7. 投手投球の基礎技術２（ウインドミル投法　腕の回旋を中心に）
8. 投手投球の基礎技術３（正しいセットポジション）
9. バッティングの基礎技術１（スイング・トスバッティング）
10.バッティングの基礎技術２（ハーフバッティング・フリーバッティング）
11.実技テスト
12.ゲームの実践１（ティーボールを使って）
13.ゲームの実践２（ウィンドミル投法を用いて）
14.ゲームの実践３（リーグ戦①）
15.ゲームの実践４（リーグ戦②）及びまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	J90195001
科目名	ネット型球技	単位数	1
科目名（英語表記）	Net Sports		
担当者名	木内　真弘	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「ネット型球技」の特性と基礎的知識および技術、指導方法を修得する。ネット型球技のひとつである硬式テニスを取り上げ、基本技術からダブルスのゲームまでを学ぶ。基本的なラケット操作を学び、それらの技能を統合したゲーム展開を意識したパターン練習へ移行する。ダブルスのゲームにおいては、ゲームに際してのエチケットを学びながらゲーム展開におけるフォーメーションも合わせて学ぶ。		
教材（教科書）	授業でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	事前に配布した資料にそって、授業を行う。実技授業では、教員が具体例を提示しながらポイント・目標を明確にする。学生は、事前に配布されている内容を予習してくる。基礎指導が、終了後に実技テストを行う。テニスの実技レベルに合わせたグループ学習にはいる。各グループで到達目標に向けて力を合わせて行く。		
評価方法	実技点６０％ レポート点１０％ 適応力点３０％		
到達目標	・テニスの知識を深め、基礎的な技術を習得する事ができるようになる。 ・自己の状況に応じた体力の向上を図る事ができるようになる。 ・ルールや審判法の基礎がわかるようになる。 ・ゲームが、できるようになる。		
授業時間外学習	１、グリップ、インパクト確認、ボディーコントロール、ボールコントロールについて関心を高めてくる。 ２、ウォームアップとクールダウンの重要性について関心を高めてくる。 ３、テニスコートの種類とテニスシューズについて関心を高めてくる。 ４、テニスボールについて関心を高めてくる。 ５、テニスコートの名称について関心を高めてくる。 ６、ゲームの進め方、ルール、審判員資格について関心を高めてくる。 ７、４ゲームについて関心を高めてくる。 ８、４ゲーム先取について関心を高めてくる。 ９、１セットマッチについて関心を高めてくる。 １０、タイブレークについて関心を高めてくる。 １１、テニス４大大会&ATP World Tour Finals について関心を高めてくる。 １２、テニスツアーの仕組と大会レベルについて関心を高めてくる。 １３、ダブルス戦術、戦略について関心を高めてくる。 １４、テニスの歴史について関心を高めてくる。 15、生涯スポーツについて関心を高めてくる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
テニスコートは、砂入り人工芝コートです。テニスシューズを準備すること。 雨天時は、体育館、教室を使用してテニスに関係する授業を行う。 体育館シューズを準備する事。 教員への連絡方法は、授業時間前後の時間又は昼休みに教員控室にくること。			
授業スケジュール			
１、レベルチェック ２、テニスの特性、及び授業計画のガイダンス ３、ラケッティング、グリップ、インパクト確認、ボディーコントロール ４、ボールコントロール、ストローク、ミニテニス、簡易ゲーム			

5、実技テスト、サーブ、ラリー練習、ボレー
6、ゲーム導入、ルール説明、
7、ダブルスゲーム（レベル別チーム編成）
8、ダブルスゲーム(雁行陣指導)
9、ダブルスゲーム（4ゲーム指導）
10、ダブルスゲーム（4ゲーム先取指導）
11、ダブルスゲーム（1セットマッチ指導）
12、ダブルスゲーム（フォーメーション指導）
13、ダブルスゲーム（タイブレーク指導）
14、ダブルスゲーム（1セットマッチタイブレーク指導）
15、まとめ（到達目標の達成確認)、レポート提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	–	–	–

年度	2018	授業コード	J90195002
科目名	ネット型球技	単位数	1
科目名（英語表記）	Net Sports		
担当者名	木内　真弘	旧科目名称	
授業概要	本演習では、「ネット型球技」の特性と基礎的知識および技術、指導方法を修得する。ネット型球技のひとつである硬式テニスを取り上げ、基本技術からダブルスのゲームまでを学ぶ。基本的なラケット操作を学び、それらの技能を統合したゲーム展開を意識したパターン練習へ移行する。ダブルスのゲームにおいては、ゲームに際してのエチケットを学びながらゲーム展開におけるフォーメーションも合わせて学ぶ。		
教材（教科書）	授業でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	事前に配布した資料にそって、授業を行う。実技授業では、教員が具体例を提示しながらポイント・目標を明確にする。学生は、事前に配布されている内容を予習してくる。基礎指導が、終了後に実技テストを行う。テニスの実技レベルに合わせたグループ学習にはいる。各グループで到達目標に向けて力を合わせて行く。		
評価方法	実技点６０％ レポート点１０％ 適応力点３０％		
到達目標	・テニスの知識を深め、基礎的な技術を習得する事ができるようになる。 ・自己の状況に応じた体力の向上を図る事ができるようになる。 ・ルールや審判法の基礎がわかるようになる。 ・ゲームが、できるようになる。		
授業時間外学習	１、グリップ、インパクト確認、ボディーコントロール、ボールコントロールについて関心を高めてくる。 ２、ウォームアップとクールダウンの重要性について関心を高めてくる。 ３、テニスコートの種類とテニスシューズについて関心を高めてくる。 ４、テニスボールについて関心を高めてくる。 ５、テニスコートの名称について関心を高めてくる。 ６、ゲームの進め方、ルール、審判員資格について関心を高めてくる。 ７、４ゲームについて関心を高めてくる。 ８、４ゲーム先取について関心を高めてくる。 ９、１セットマッチについて関心を高めてくる。 １０、タイブレークについて関心を高めてくる。 １１、テニス４大大会&ATP World Tour Finals について関心を高めてくる。 １２、テニスツアーの仕組と大会レベルについて関心を高めてくる。 １３、ダブルス戦術、戦略について関心を高めてくる。 １４、テニスの歴史について関心を高めてくる。 15、生涯スポーツについて関心を高めてくる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
テニスコートは、砂入り人工芝コートです。テニスシューズを準備すること。 雨天時は、体育館、教室を使用してテニスに関係する授業を行う。 体育館シューズを準備する事。 教員への連絡方法は、授業時間前後の時間又は昼休みに教員控室にくること。			
授業スケジュール			
１、レベルチェック ２、テニスの特性、及び授業計画のガイダンス ３、ラケッティング、グリップ、インパクト確認、ボディーコントロール ４、ボールコントロール、ストローク、ミニテニス、簡易ゲーム			

5、実技テスト、サーブ、ラリー練習、ボレー
6、ゲーム導入、ルール説明、
7、ダブルスゲーム（レベル別チーム編成）
8、ダブルスゲーム(雁行陣指導)
9、ダブルスゲーム（4ゲーム指導）
10、ダブルスゲーム（4ゲーム先取指導）
11、ダブルスゲーム（1セットマッチ指導）
12、ダブルスゲーム（フォーメーション指導）
13、ダブルスゲーム（タイブレーク指導）
14、ダブルスゲーム（1セットマッチタイブレーク指導）
15、まとめ（到達目標の達成確認)、レポート提出

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	–	–	–

年度	2018	授業コード	J90196001
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
授業概要	人体生理機能と運動のテーマについての専門書を輪読する。グループで協同学修を行い、その学修成果をプレゼンテーションソフトを活用してグループ内で発表する。専門用語の修得のみならず、研究課題の発見を心がける。安全な実験法、試薬・器具・機器の取扱い、データ処理法、データベース探索・文献検索の実施法などをまとめ、ワードプロセッサーで記載する。さらにデータ番号の記載などの研究方法・実験ノート記載法、論文作成方法を主体的に学び、グループ内で発表してレポートにまとめる。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	スライドを用いた講義法ならびにグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題についてゼミで発表を行い総合的に評価する。		
到達目標	1．　人体生理機能と運動のテーマについて、専門用語を用いて簡潔にまとめ、説明できるようになる。 2．　基本となる安全な実験法、試薬・器具・機器の取り扱い、データ処理法、文献検索、論文作成方法を自主的に学び身につける。		
授業時間外学習	実験研究方法、データ処理方法、ならびに論文作成方法の記載してある書籍を探索しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

周りの人たちとコミュニケーションを図る。自分の考えを述べ、他者の話しを聞き、ディスカッションを行う。ディスカッションに参加する積極的な姿勢が望ましい。

授業スケジュール

1．はじめに：本ゼミについて説明する。
2．人体生理機能と運動のテーマについての専門書を紹介する。
3．専門書を輪読する。
4．専門書の輪読を継続するとともに、グループで協同学修を行い、専門用語を修得する。
5．専門書の輪読継続とともに、データ処理法をまとめる。
6．安全な実験法、試薬・器具・機器の取扱い、データ番号の記載などの研究方法・実験ノート記載法をまとめる。
7．安全な実験法、試薬・器具・機器の取扱い、データ番号の記載などの研究方法・実験ノート記載法をまとめる。
8．グループの協同学修の成果をプレゼンテーションソフトを活用してグループ内で発表する。
9．グループの協同学修の成果をプレゼンテーションソフトを活用してグループ内で発表する。
10．　データベース探索・文献検索の実施法などをまとめる。
11．　データベース探索・文献検索の実施法などをまとめる。
12．　論文作成方法を主体的に学び、レポートにまとめる。
13．　論文作成方法を主体的に学び、レポートにまとめる。
14．　成果発表：まとめた情報の発表。
15．　成果発表：まとめた情報の発表。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J90196002
科目名	専門ゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
授業概要	健康を目的とした身体運動活動ではあっても、その目的として高い技能レベルを目指したりした場合に、健康を害する事態に陥ることがみられる。すなわちスポーツ障害（傷害）としてあらわれる。従来より、こういった傷害（障害）は回避できない、仕方がないこととしてきたケースも多くみられるが、スポーツ科学の発展に伴い、これらの事故の多くは私たちの知恵と努力で回避できてきている。すなわち、accident ではなく、injury として扱い、その原因と対応によって防ぐことが可能であることが認識されつつある。例として柔道の頭頸部外傷による死亡事故は減少をみている。この授業では、こういった現状を知るために、さまざまな情報として文献や記事に接して話し合い、さまざまなスポーツ事故を回避するための知恵を考える。		
教材（教科書）	必要に応じて著書などを紹介し、必要に応じて資料を配布する。		
教材（参考資料）	適時紹介する。		
教育方法	参考になる研究雑誌を研究室に備えているので、興味関心のある論文をコピーして輪読する。当番に当たった時には論文の内容をわかりやすく説明する。わかない内容があれば教員に質問したり、各自で調べておいて輪読会で全員が納得できるまで説明や調べる作業を行う。期末時には輪読した研究論文を見直して、関連のある部分について整理して、専門ゼミＢにつなげる。		
評価方法	レポート 100%		
到達目標	健康スポーツ学科の学生としての知識をきちんと身に着ける。専門ゼミ B への準備期間としての十分な学修態度や学修習慣を身に着ける。		
授業時間外学習	健康、スポーツ、医療、といった関連する世の中の状況に興味関心を持つ。特に興味・関心をもった事案については記事を記録するなど、今後の資料としておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

5 つの約束
1,ゼミ室では入室の際など”あいさつ”は社会の常識
2,欠席する場合は 1 週間前までに知らせて許可を得る
3,5 分前には着席する
4,発表などの分担は、その責任を果たす
5,課題は期限までに提出

授業スケジュール

１、ガイダンス
２、リーダーシップについて考える
３、スポーツ場面におけるリーダーシップとは
４、社会におけるリーダーシップとは
５、リーダーシップの持論を見出そう
６、研究って何をするの？
７、企業研究所見学
８、見学会の振り返り
９、卒業研究を仕上げる意義について
１０、研究の本質：「健康スポーツ科学」における研究とは？
１１、「健康スポーツ科学」におけるバイオメカニクスとは？
１２、身近な目立った人の話を聞く
１３、ここまでの授業の振り返り
１４、将来の働き手としての自分をイメージして考えを述べる
１５、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90196011
科目名	専門ゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity A		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
授業概要	運動およびスポーツがもたらす効果を心理学の観点から学習する。特に健康スポーツ心理学（スポーツ心理学、健康心理学、健康科学分野）の代表的な理論および研究手法における知識を理解する。理論および研究手法については、国内で公開されている情報に留まらず、海外の情報からも情報を獲得する。個々が興味・関心を持つスポーツ健康心理学の情報を手に入れることに留まらず、情報収集の方法も同時に学ぶことを目指す。さらに、様々な理論・研究手法を用いて行われた調査および実験における分析・解析方法を参考にし、統計手法の学習も行う。		
教材（教科書）	適宜資料を配布する。		
教材（参考資料）	適宜資料を配布する。		
教育方法	−		
評価方法	授業中に実施する課題（50%）、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換（50%）		
到達目標	運動・スポーツを心理的側面から捉え、さまざまな書籍および論文から知識を得ると同時に、自ら研究計画を立案し、データ収集および処理ができるようになる。		
授業時間外学習	日常生活の中で運動およびスポーツがもたらす心理的および生理的効果について考える機会を多く持つと同時に、疑問に思ったことを記録しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自ら疑問に思ったことを追求するとともに、一つひとつの実験・レポート・発表・討論に意欲的に取り組むよう努めること。			
授業スケジュール			
1.オリエンテーション、今後の予定と課題 2心理指標の評価方法と生理的指標を用いた測定 3．論文検索方法と実験計画の作り方 4.受講者が研究論文を紹介（実施したい実験に関する背景および内容の説明）と実験計画の作成1 5.実験計画の確認、実験開始1 6．実験結果の整理・統計処理1 7.　レポートの書き方について解説 8．受講者が研究論文を紹介（実施したい実験に関する背景および内容の説明）と実験計画の作成2 9．実験計画の確認、実験開始2 １０．実験結果の整理・統計処理2 １１．受講者が研究論文を紹介（実施したい実験に関する背景および内容の説明）と実験計画の作成3 １２．実験計画の確認、実験開始3 １３．実験結果の整理・統計処理3 １４．プレゼンテーション方法 １５．プレゼンテーションと討論			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J90197001
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
授業概要	運動と生理機能についての簡単なグループ実験を実施する。例えば血圧と筋収縮、息止め時間と無酸素運動など、運動と人体機能の関連についての研究課題を定める。その実験計画を作成、グループ討論を経て、実験を実施する。その際に安全性に配慮するとともに、実験ノートの記載を実施し、研究結果についてグループ討論し、研究の問題点の把握と重要性を認識する。表計算ソフト、統計処理ソフト、画像作成ソフト、プレゼンテーションソフトなどの活用をはかり、関連する文献を検索、調査する。コミュニケーション力、協働力、創造力等を身につける。		
教材（教科書）	とくに指定しない。		
教材（参考資料）	とくに指定しない。		
教育方法	スライドを用いた講義法ならびにグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題に対しての参加度（50%）、発表（50%）		
到達目標	1．　研究課題について、文献などを活用しグループで討議できる。 2．　プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 3．　研究結果をレポートにまとめる。		
授業時間外学習	「専門ゼミA」で修得した資料、討議、発表、レポート作成の基本スキルの復習をしておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1．運動と人体機能の関連についての研究課題を定める。簡単なグループ実験、例えば血圧と筋収縮、息止め時間と無酸素運動などを定める。 2．その実験計画を作成、グループ討論する。 3．その際に安全性に配慮する。 4．実験を実施する。 5．実験実施中、実験ノートの記載内容を確認する。 6．研究結果についてグループ討論する。 7．研究の問題点の把握と重要性を認識する。 8．表計算ソフト、統計処理ソフト、画像作成ソフト、プレゼンテーションソフトなどの活用をはかる。 9．表計算ソフト、統計処理ソフト、画像作成ソフト、プレゼンテーションソフトなどの活用をはかる。 10．関連文献を検索、調査する。コミュニケーション力、協働力、創造力等を身につける。 11．関連文献を検索、調査する。コミュニケーション力、協働力、創造力等を身につける。 12．研究報告をとりまとめ、レポートを作成する。 13．研究報告をとりまとめ、レポートを作成する。 14．研究結果の発表会 15．研究結果の発表会		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90197002
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
授業概要	健康を目的とした身体運動活動ではあっても、その目的として高い技能レベルを目指したりした場合に、健康を害する事態に陥ることがみられる。すなわちスポーツ障害（傷害）としてあらわれる。従来より、こういった傷害（障害）は回避できない、仕方がないこととしてきたケースも多くみられるが、スポーツ科学の発展に伴い、これらの事故の多くは私たちの知恵と努力で回避できてきている。すなわち、accident ではなく、injury として扱い、その原因と対応によって防ぐことが可能であることが認識されつつある。例として柔道の頭頸部外傷による死亡事故は減少をみている。この授業では、こういった現状を知るために、さまざまな情報として文献や記事に接して話し合い、さまざまなスポーツ事故を回避するための知恵を考える。		
教材（教科書）	とくに定めていない。		
教材（参考資料）	適時紹介する。		
教育方法	専門ゼミAで検索した研究論文を増やすためにさらに検索を繰り返し、興味関心のある部分について着目して整理し、不明な内容については各自で調べたり、専門書を紐解いて発表会に準備する。発表会では担当学生以外からの質問に理解できる内容で準備しておく。２～３篇の論文はまとめて発表会を行う。これを繰り返すことで各自が興味関心を持つ無いように絞られるので、教員からの支援を受けて各自の研究テーマへと進めていく。		
評価方法	レポート 100%		
到達目標	専門的な雑誌など、根気よく読みこなすスキルと真摯な態度をみにつける。		
授業時間外学習	ゼミ内での取り組みに関して、社会で起こっている事例に興味関心を持つ。さらにそれらに関して検索するなど奥深く知見を求める習慣をもつ。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

5 つの約束
1、ゼミ室では入室の際など”あいさつ”は社会の常識
2、欠席する場合は 1 週間前までに知らせて許可を得る
3、5 分前には着座する
4、発表などの分担は、その責任を果たす
5、課題は期限までに提出

授業スケジュール

1、ガイダンス
２、科学研究論文に触れる。（論文ネットワーク検索方法の実際）
３、科学研究論文に触れる。（選択した論文をゼミ内で紹介）
４、事業を計画実践する。（会計担当、仕入れ担当、什器担当など）
５、事業実践後の反省。（各役割による報告と反省）
６、科学研究論文に触れる。（論文１点をまとめる）
７、科学研究論文に触れる。（論文内容紹介）
８、科学研究論文に触れる。（論文１点をまとめる）
９、科学研究論文に触れる。（論文内容紹介）
１０、科学研究論文に触れる。（論文１点をまとめる）
１１、科学研究論文に触れる。（論文内容紹介）
１２、取り上げた論文の関連性発表
１３、取り上げた論文の関連性発表
１４、統計概念の必要性と理解
１５、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90197003
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
授業概要	この専門ゼミでは、4 年時の卒業論文作成を最終ゴールにする。テーマとしては、健康・運動（身体活動）・栄養・体力・エイジング等をキーワードにした課題を考えている。 専門ゼミ B では、専門ゼミ A の学修を基に、より理論的な思考ができるようになることを目指す。卒論にしたいと思う自らのテーマを定めて、文献を探して、テーマにそってレポートに仕上げる。さらにレポートを発表し、互いに質疑応答したり、知識を交換したりして討議を行う。このような輪読会を展開しながら、論文から読み取れる論理の一貫性について理解する。他人の発表に対しては、必ず自分の視点に基づく意見を発表できるようにする。専門ゼミ A に引き続き、実際の調査や測定会、あるいは介入研究の現場における実習を行う。この実習は、卒業研究の実践的方法論を学修するだけではなく、将来、現場で使える運動プログラム作成などのテクニックを身につけることにもつながる。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	自分で調べて発表したり、現場に出かけて調査・測定に参加するなど、自らが動いて学修をすすめる演習授業。		
評価方法	毎回の小レポート（40%）、課題レポート（60%）		
到達目標	1）研究テーマに沿った文献検索ができる。 2）レポート発表では、互いに意見交換したり、知識の共有ができる。 3）他人の発表に対して必ず意見を発表できる 4）機会があれば、実際の研究に参加する。 上記を繰り返すことで、研究と論文との関連、理論の一貫性について理解する。 卒論研究テーマと研究計画の検討に繋げる。		
授業時間外学習	興味ある領域の文献を常にいくつか持っていること、そして、発表の前には必ず文献を読み込んでまとめること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義には毎回出席し、意欲的に取り組んで欲しい。
研究を難しく考えないで、“なんでやろう”の気持ちが大事。
身近なところで”なんでやろう”を探して欲しい。
よい論文をいっぱい読もう！
研究者の研究に積極的に参加し、研究現場の体験を積もう！
いつでも必ず自分の意見を発表しよう。

授業スケジュール

1. イントロダクション：専門ゼミ B について
2. 興味あるテーマ
3. 輪読会（文献検索・まとめ・発表・討議）
4. 輪読会（文献検索・まとめ・発表・討議）
5. 輪読会（文献検索・まとめ・発表・討議）
6. 輪読会（文献検索・まとめ・発表・討議）
7. 輪読会（文献検索・まとめ・発表・討議）
8. 介入研究見学の事前学習
9. 介入研究の見学
10. 介入研究の見学の反省・まとめ

11. 卒論テーマと研究方法の検討
12. 卒論テーマと研究方法の検討
13. 卒論テーマと研究方法の検討
14. 卒論の研究計画の発表
15. 卒論の研究計画の発表、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J90197004
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミBでは、専門ゼミAで進めた研究課題をより詳細・具体的深める作業を進めることにより、調べる・まとめる・課題を発見する・発表する・論議をするという、さらに質の高いアカデミックスキルを修得できる。同時に教員採用に関する一般および専門試験模試を継続することにより、就活対策としての知識も学ぶことが出来る。また、ゼミ生との仲・論議も深まることにより、コミュニケーション能力も高まるとともに社会性・協調性も獲得できる。そして、卒業研究の具体的なテーマ・内容も決まり、４年次の専門ゼミC・Dにつなげることが出来る。		
教材（教科書）	特に指定はない。 授業において適時紹介するとともに、資料を配布する。		
教材（参考資料）	特に指定はない。 授業において適時紹介するとともに、資料として配布する。		
教育方法	ゼミ生が輪番で発表することを原則とする。 パワーポイントの活用と資料配布による発表とグループディスカッションを組み合わせて授業を行う。		
評価方法	授業における発表レポート（50%）、プレゼンテーション能力（30%）、受講平常点（20%）		
到達目標	健康・体力・トレーニング・コンディショニングに係わる知識を学ぶとともに、現代的課題に関してゼミ生と論議できるようになり、自らの研究課題を分かりやすく説明できる。		
授業時間外学習	・発表を担当する学生は、１週間前に発表内容の資料を作成し、教員・ゼミ生に配布する。 ・ゼミ生は配布された資料を事前に読解し、ゼミ発表時の質問内容をまとめておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件

・専門ゼミAを履修していることが受講条件となる。

受講のルール

・遅刻や私語・寝ることは厳禁とする。授業中携帯の使用も厳禁とする。これらのことが順守できなければ、他者への迷惑を勘案し退室を求めることがある。

学習上の助言

・自ら進んで学ぶ姿勢が最も重要である。
・ゼミでの発表等を担当する場合、しっかりと準備し、自信を持って発表する。
・ゼミ生はお互い助け・支え合い、何事も積極的に協力し合う。
・人前で話し行動することを積極的に心掛けなければならない。
・ゼミ活動は全出席を目標とする。

授業スケジュール

ゼミ生の人数を 10 名（１回に２～３名）程度として計画する。

１．　ゼミガイダンス：運営方針の説明、ゼミ生の役割、
２．　解説①：「Performance related physical fitness と Health related physical fitness の視点」
３．　解説②：「過負荷・回復・適応（超過回復）・進歩（漸増）・特異性・ディトレーニングオーバートレーニング・個々の反応性について」
４．　第１回調査・研究課題発表と論議　①
５．　第１回調査・研究課題発表と論議　②
６．　第１回調査・研究課題発表と論議　③
７．　アカデミックスキルに関するポイントおよび実践についての解説と一般教養対策　①

8．　第２回調査・研究課題発表と論議　①
9．　第２回調査・研究課題発表と論議　②
10.　第２回調査・研究課題発表と論議　③
11.　アカデミックスキルに関するポイントおよび実践についての解説と一般教養対策　②
12.　第３回調査・研究課題発表と論議　①
13.　第３回調査・研究課題発表と論議　②
14.　第３回調査・研究課題発表と論議　③
15.　専門ゼミＢの総括と専門ゼミＣに向けての課題解説と一般教養対策　③

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90197005
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
授業概要	一般の人々に健康・体力づくりや生活習慣病の予防のためには運動が大切であることを伝え、安全で効果的な正しいトレーニング方法を指導していくことは健康スポーツの専門家としての重要な使命のひとつであり、わたしたちが大きく社会貢献できる可能性のある分野である。 本演習では、健康体力科学に関する文献資料を収集して発表することによって理論をより深く学び、各自が興味のあるテーマについて研究計画を立案・遂行し、卒業研究論文としてまとめ、研究成果を発表する。これと並行して、一般人を対象とした体力測定の企画・運営に参加したり、一般人を対象とした健康づくりのための運動指導法（理論・実技）について学修し、GFI、健康運動実践指導者、健康運動指導士の資格取得を目指す。 将来、スポーツクラブやフィットネスジムで活動するインストラクターやトレーナー、健康増進施設や医療機関併設の運動施設等での一般人を対象とした健康体力づくりの運動指導者を目指している人向けの実践的内容を含む。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	必要に応じて資料を配布して授業を行う。グループワークや実習を含む。		
評価方法	ゼミの活動への取り組み（参加態度、発表・発言、等）、レポートの総合評価		
到達目標	一般人を対象とした体力測定の企画・運営に参加したり、一般人を対象とした健康づくりのための運動指導ができる。		
授業時間外学習	分担して発表を行うので、自分の担当部分をしっかり予習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
目的意識を持って、ゼミの活動に積極的に取り組むこと。			
授業スケジュール			
１．ゼミの概要説明と今後の計画について ２．健康（理論・実技）運動指導法１ ３．健康（理論・実技）運動指導法２ ４．健康（理論・実技）運動指導法３ ５．健康（理論・実技）運動指導法４ ６．健康（理論・実技）運動指導法５ ７．健康（理論・実技）運動指導法６ ８．健康（理論・実技）運動指導法７ ９．健康（理論・実技）運動指導法８ １０．健康（理論・実技）運動指導法９ １１．健康（理論・実技）運動指導法１０ １２．健康（理論・実技）運動指導法１１ １３．健康（理論・実技）運動指導法１２ １４．健康（理論・実技）運動指導法１３ １５．健康（理論・実技）運動指導法１４			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J90197006
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
授業概要	健康・スポーツビジネスの実践における健康フィットネス企業、スポーツ製造・物販企業、スポーツ指導関連企業、プロスポーツビジネス企業、スポーツイベント関連企業、体力重視専門職等の事例を調査し、それらの概要及び実態、人材活用について精査したものから、自己の興味ある健康・スポーツビジネス領域の独自のオリジナルビジネスのアイデア・試作モデルを提案し、個人発表する。		
教材（教科書）	随時資料配付		
教材（参考資料）	図とイラストで学ぶ新しいスポーツマネジメント　山下秋二ら編著（大修館書店）		
教育方法	講義・リサーチ・フィールドワーク・プレゼン等の形式。		
評価方法	出席、毎回の進捗状況報告と調査発表での総合評価。		
到達目標	健康・スポーツビジネスの企業実態及び人材活用を知り、オリジナル企画、試作提案できる様に企画考察力を付ける。		
授業時間外学習	①スポーツマネジメントに関する情報収集（ネット記事、新聞記事、専門誌、専門書籍等）に努める ②スポーツマネジメントの関連書籍を積極的に読破する ①、②の準備の上、積極的に実践活動を行い、個人でも日々のフィールドワークでマネジメント事象の情報収集に努める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①自己都合による遅刻・無断欠席は厳禁
②積極的な提案、行動力、問題解決思考を要望
③ゼミ員間の協調性にも意識努力する事を要望
①②③の姿勢の元、ゼミ室や大学図書館での積極的な知的活動に従事されたし。

授業スケジュール

1.　健康・スポーツビジネスの応用考察１－A（健康フィットネス企業モデル試作１）
2.　健康・スポーツビジネスの応用考察１－B（健康フィットネス企業モデル試作２）
3.　健康・スポーツビジネスの応用考察２－A（スポーツ製造・物販企業モデル試作１）
4.　健康・スポーツビジネスの応用考察２－B（スポーツ製造・物販企業モデル試作２）
5.　健康・スポーツビジネスの応用考察３－A（スポーツ指導関連企業モデル試作１）
6.　健康・スポーツビジネスの応用考察３－B（スポーツ指導関連企業モデル試作２）
7.　健康・スポーツビジネスの応用考察４－A（プロスポーツビジネス企業モデル試作１）
8.　健康・スポーツビジネスの応用考察４－B（プロスポーツビジネス企業モデル試作２）
9.　健康・スポーツビジネスの応用考察５－A（スポーツイベント関連企業モデル試作１）
10.健康・スポーツビジネスの応用考察５－B（スポーツイベント関連企業モデル試作２）
11.健康・スポーツビジネスの応用考察６－A（体力重視専門職モデル試作１）
12.健康・スポーツビジネスの応用考察６－B（体力重視専門職モデル試作２）
13.プレゼンテーション１（個人提案発表）
14.プレゼンテーション２（個人提案発表）
15.プレゼンテーション３（個人提案発表）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J90197007
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
授業概要	深刻化している高齢化社会では、積極的な健康寿命の延伸に向けた取組みが進められている。健康スポーツ関連分野でも、「生活習慣病・運動器症候群・認知症などの健康寿命の阻害因子に対する運動の有効性」の普及活動と「安全で効果的な運動指導の確立」が求められるが、これらには科学的な証拠や根拠を示す必要があり、健康やスポーツに関連する分野で活躍する人材は、科学的な知識・理解力・思考力が必須であると考えられる. 「専門ゼミ B」では、「健康寿命とその阻害因子」に関して個々に決定した領域の文献を調べて輪読会と討論会を行い、１年間の成果をゼミ内で発表する。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	研究テーマ関連文献を適宜紹介したり、自ら検索する。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	文献発表、レポート、授業態度・発表会での発表内容を総合的に評価する。		
到達目標	１．　研究テーマの背景となる「健康寿命の阻害因子」について簡潔に説明できるようになる。 ２．　文献検索のスキルを身につけ、必要な文献を探すことができるようになる。 ３．　科学論文を読んで、その概要を理解できるようになる。		
授業時間外学習	１．　これまで履修した理系科目（特に、解剖生理学、生活習慣病）を復習しておく。 ２．　最近の健康に関連した新聞・雑誌記事を見つけてチェックしておく。 3.　ゼミでの研究内容は、一定の区切りごとにレポート提出を課すので、 指摘期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．　能動的な態度で臨み、主体的に課題に取り組む。
２．　何事にも興味を持ち、目標を達成する努力をする。
3.　ゼミでの研究内容は、一定の区切りごとにレポート提出を課すので、毎回のディスカッションの内容などの
記録をしっかりと取ること。
4.　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
5.　ゼミ内容に関わる健康長寿・生活習慣病関連の報道・新聞記事などに目を通すよう心がける。

授業スケジュール

１．　各自の研究テーマの探索（１）
２．　各自の研究テーマの探索（２）
３．　各自の研究テーマの探索（３）
４．　各自の研究テーマに関連する論文の検索（１）
５．　各自の研究テーマに関連する論文の検索（２）
６．　検索した論文の読解（１）
７．　検索した論文の読解（２）
８．　関連論文の輪読会（１）
９．　関連論文の輪読会（２）
１０．　関連論文の輪読会（３）
１１．　関連論文の輪読会（４）
１２．　各自の研究テーマの中間報告準備（１）
１３．　各自の研究テーマの中間報告準備（２）
１４．　ゼミ内中間報告会（１）
１５．　ゼミ内中間報告会（２）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90197008
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
授業概要	「専門ゼミA」で得た知見を基に、実践を通じて得た疑問、課題を研究に結び付けていくとともに、疫学的な見方・考え方をより深く理解していく。本ゼミでは各自で課題を発見し、課題に応じて資料を収集し検討する実践力を身につける。さらにグループ討議を行いながら自らの考えを発表し合い、お互いに意見を出し合い、自らの考えをまとめる力を身につける。		
教材（教科書）	必要に応じて適宜配布する		
教材（参考資料）	・考える技術・書く技術　山﨑康司, ダイヤモンド社 ・健康・スポーツ科学のための研究方法　出村眞一, 杏林書院 ・保健医療福祉の研究ナビ　福田吉治監修　金原出版株式会社		
教育方法	・SPSS による統計解析入門（小田利勝, プレアデス出版）アンケートデータの分析（菅民郎, 現代数学社）も参考にしながら、分析方法を実践的に学ぶ		
評価方法	・授業回数の３分の２以上出席していること ・授業内課題（60%） ・課題への取組み(40%)		
到達目標	・学生自らの経験や現在行っている活動から、問題を見出し、研究テーマを設定する。		
授業時間外学習	・研究課題を考えること ・関連資料を読むこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講に際し自ら考え、仲間と協力し、工夫する積極的な姿勢を望みます。　そのために人の話を聞き、意見を述べるようにしましょう。そして課題に関連する領域で話を聞きに行き、そこで感じたこと、気づいたことを整理していきます。			
授業スケジュール			
1．研究の方法について ２．研究の方法について ３．研究テーマの検討 ４．文献検索の方法 ５．先行研究の収集			

6．文献抄読
7．文献抄読
8．文献抄読
9．文献抄読
10．文献抄読
11．研究計画の作成
12．研究計画の作成
13．研究計画の作成
14．研究計画発表
15．研究計画発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	J90197009
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
授業概要	子どもの発育発達過程における身体活動・体力・生活習慣や健康等、あるいは障がい者のスポーツや身体活動等に関わる興味関心のあるテーマについて、研究を計画し進める。研究計画においては、関連する先行文献を読解し理解したうえで、学生が主体的に研究を遂行できるよう、学生の工夫を取り入れるようにして進める。結果の整理方法や統計的な意味について理解するとともに、その成果や考えをゼミ内で報告し合い論議を重ねて、さらに考察を深め、考えを言葉で理解させる力を育成する。		
教材（教科書）	適宜紹介する。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	受講生が必要とする資料を提示しながら、必要に応じて実際に調査や実験を行い、全体および個別に指導を進める。		
評価方法	授業中に実施する課題への積極的姿勢･態度(50%)、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換(50%)		
到達目標	子どもや障がい者と運動やスポーツに関して、さまざまな書籍や論文から知識を得るとともに、自分の関心のあるテーマを見つけ研究計画を立案し、データ収集ができるとともに処理の方法を知る。		
授業時間外学習	発表担当の場合は、自信をもって発表や質疑応答ができるように、発表内容について熟知ししっかりと理解するまで、事前に準備をしてくること。 発表担当時、90 分間質の高い論議ができなかった場合は、次週に再度発表できるように準備しなければならない。　詳細は授業において指示するが、常に努力を惜しまない姿勢で臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自ら疑問に思ったことを追求するとともに、一つひとつの体験・観察・実験・レポート・発表・討論等に意欲的に取り組むよう努めること。
お互いのテーマや内容に関心をもち、協力し合って研究や実験を進めること。
障害者スポーツ、発育発達、自分の研究テーマ等に関する情報を常に収集（ネット記事、新聞記事、専門誌、専門書籍等）するように努めること。

ゼミの活動方針として
- ・何事にも関心をもち、自ら進んで学ぶ姿勢でいること。
- ・ゼミでの発表等を担当する場合、しっかりと準備し、自信を持って発表する。
- ・ゼミ生はお互い助け・支え合い、何事も積極的に協力し合う。
- ・今以上に身もこころも元気で、明るく溌剌と人に接することができなければならない。
- ・積極的に人前で話し行動するよう心掛けなければならない。

授業スケジュール

1. オリエンテーション、今後の予定と課題
2. 子どもや障がい者に関する研究と方法の実際
3. 論文検索方法と実験計画の作り方
4. 自分の興味のある論文の検索
5. 受講者が実施したい研究に関する背景および内容の説明
6. 研究計画の作成１（調査の主な内容、対象者や測定方法について）
7. 研究計画の作成２（測定の実施時期や測定方法の詳細について）
8. レポート、論文の書き方について解説
9. プレゼンテーションによる研究計画の発表
10. 自分の調査研究に関連する研究論文の検索
11. 自分の調査研究に関連する研究論文の要約
12. 卒業研究の実施計画の作成
13. 卒業論文テーマおよび調査内容の検討

14. 調査の計画および調査用紙の作成や必要物品の準備
15. 予備調査の計画及び準備

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J90197010
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
授業概要	「専門ゼミA」で興味を持ったテーマを主に関連する文献やディスカッションなどを通してより深く掘り下げる作業を行う。また定期的に発表等を行いプレゼンテーションの方法も合わせて学んでいく。		
教材（教科書）	特に必要ないが、必要な場合は適宜配布する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	実験や発表、調査など基本的に体験型学習法で行う。		
評価方法	レポートなどの提出物から発表など授業に取り組む姿勢から総合的に評価する。欠席は総合評価から減点される。		
到達目標	専門的なテーマについてより深い知識、洞察力を身につけディスカッションできる能力を習得する。		
授業時間外学習	1,2 年次で学んだ基本的な科目を復習しておいてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
専門ゼミは自ら興味のあるテーマを探し、研究していくのが大きな目的です。積極的な授業参加を望みます。			
授業スケジュール			
1,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 1（班ごと） 2,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 2（班ごと） 3,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 3（班ごと） 4,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 4（班ごと） 5,中間発表 1 6,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 5（班ごと） 7,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 6（班ごと） 8,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 7（班ごと） 9,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 8（班ごと） 10,中間発表 2 11,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 9（班ごと） 12,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 10（班ごと） 13,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 11（班ごと） 14,興味のあるテーマについて資料収集＆発表の準備 12（班ごと） 15、本発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J90197011
科目名	専門ゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity B		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
授業概要	健康スポーツ心理学（スポーツ心理学、健康心理学、健康科学分野）の研究方法について、関連のある書籍および論文から知識を得ると同時に、レジュメやレポートの作成、プレゼンテーション・ソフトなどを効果的に用いた理解しやすい説明方法を学ぶことで、プレゼンテーション能力の習熟に繋げる。また、各々がプレゼンテーションした情報について意見交換を行うことで、健康スポーツ心理学の知識を獲得するとともにコミュニケーション能力の向上を図る。		
教材（教科書）	適宜資料を配布する。		
教材（参考資料）	適宜資料を配布する。		
教育方法	−		
評価方法	授業中に実施する課題（50%）、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換（50%）		
到達目標	運動・スポーツを心理的側面から捉え、さまざまな書籍および論文から知識を得ると同時に、自ら研究計画を立案し、データ収集および処理ができるようになる。		
授業時間外学習	日常生活の中で運動およびスポーツがもたらす心理的および生理的効果について考える機会を多く持つと同時に、疑問に思ったことを記録しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自ら疑問に思ったことを追求するとともに、一つひとつの実験・レポート・発表・討論に意欲的に取り組むよう努めること。

授業スケジュール

1.オリエンテーション、今後の予定と課題
2.心理指標の評価方法と生理的指標を用いた測定
3．論文検索方法と実験計画の作り方
4.受講者が研究論文を紹介（実施したい実験に関する背景および内容の説明）と実験計画の作成 1
5.実験計画の確認、実験開始 1
6．実験結果の整理・統計処理 1
7.　実験結果についてプレゼンテーションと討論、レポートの書き方について解説
8．受講者が研究論文を紹介（実施したい実験に関する背景および内容の説明）と実験計画の作成 2
9．実験計画の確認、実験開始 2
１０．実験結果の整理・統計処理 2
１１．プレゼンテーションと討論
１２．受講者が研究論文を紹介（実施したい実験に関する背景および内容の説明）と実験計画の作成 3
１３．実験計画の確認、実験開始 3
１４．実験結果の整理・統計処理 3
１５．プレゼンテーションと討論

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J90198001
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity C		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
授業概要	運動と生理機能についてグループあるいは個人研究を実施、文献考察、論文作成する。例えば筋収縮と循環動態、無酸素運動と呼吸機能など、運動と人体機能の関連についての研究課題を定める。その実験計画の作成、実験を実施する。安全性に配慮するとともに、実験ノートに記載、研究結果について討論し、研究の問題点を把握する。表計算ソフト、統計処理ソフト、画像作成ソフト、プレゼンテーションソフトなどの活用をはかり、関連する文献を検索、調査する。コミュニケーション力、協働力、創造力等を身につける。研究結果を論文にする。		
教材（教科書）	とくに指定しない。		
教材（参考資料）	とくに指定しない。		
教育方法	論文の輪読、スライドを用いた講義法ならびにグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題に対しての参加度（50%）、発表（50%）		
到達目標	1．　研究課題について、文献などを活用し討議できる。 2．　研究結果のプレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 3．　研究結果をレポートにまとめ、研究論文の作成を試みる。		
授業時間外学習	「専門ゼミ B」で修得した資料、討議、発表、レポート作成の基本スキルの復習をしておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業への主体的な参加。			
授業スケジュール			
1．運動と人体機能の関連についての研究課題を定める。例えば筋収縮と循環動態、無酸素運動と呼吸機能などを定める。 2．その実験計画を作成、討論する。 3．実験を実施する。その際に安全性に配慮する。 4．実験を実施する。その際に安全性に配慮する。 5．実験実施中、実験ノートの記載内容を確認する。 6．研究結果について討論する。研究の問題点の把握と重要性を認識する。 7．研究結果について討論する。研究の問題点の把握と重要性を認識する。 8．表計算・統計処理ソフト、画像作成ソフト、プレゼンテーションソフトなどの活用をはかる。 9．表計算・統計処理ソフト、画像作成ソフト、プレゼンテーションソフトなどの活用をはかる。 10．関連文献を検索、調査する。コミュニケーション力、協働力、創造力等を身につける。 11．関連文献を検索、調査する。コミュニケーション力、協働力、創造力等を身につける。 12．研究報告をとりまとめ、研究レポートを作製する。 13．研究報告をとりまとめ、研究レポートを作製する。 14．研究結果の発表会 15．研究結果の発表会		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J90198002
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity C		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミA，Bで行ってきた基礎材料を基にして、卒業研究論文の準備を始める。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	授業に必要な資料などはその都度配布する。		
教育方法	このゼミCではいよいよ卒業研究論文作成への最後の段階となるために、これまでに読んだ論文の内容から自分が興味関心のある内容を整理する。そのことから最後の研究へと発展させる方向性を見つけて論文作成の準備とする。実験を要する内容については予備実験を計画して、実験に与するものも準備して実際に行っていく。この授業ではまさしく実験と先行研究の検索を主たる内容とするので、毎回の授業時間では足らなくなる。1週間の時間をうまく計画して実行する計画性を持つことが重要である。		
評価方法	定期試験は実施しない。提出課題は期限までに提出すること。		
到達目標	1．ルール遵守で、インターネットや文献検索を活用し、資料収集する。 2．グループワークにおいて目的意識を持ち建設的な議論ができ、活動に積極的参加。 3．健康スポーツの専門指導者を目指す学生として、知的な態度、姿勢、マナーを体得。 4．活動の中で、必要な課題発見によるレポート作成及びプレゼンができる。 5．目指す専門領域の職業について理解し、自分の目標を持つ。		
授業時間外学習	日頃から健康、運動・スポーツ、教育分野など、自分のコースに関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などを読むこと。その内容を理解するとともに、情報に対して自分の考えを持つように訓練をしておくこと。また授業で活用した情報を整理し、各自で、さらに問題点を調べたり聞いたりして、自分の知識を広げておくこと。特に普段から国内外健康・スポーツ関連の自治体、団体、企業等の情報を積極的に把握しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
知的思考できる受講態度で臨むこと。			
授業スケジュール			
1、専門ゼミCのガイダンス 2、専門ゼミA，Bと同様に興味関心の深い研究論文を検索して読破する。 3、興味関心のある研究論文を検索し、その内容について検討する。 4、興味関心のある研究論文の内容をまとめて発表する。 5、検索した研究論文をまとめて発表する。 6、卒業研究論文に取り組む研究テーマについて検討する。 7、各自の研究テーマについて意見交換する。 8、研究テーマにそった、研究計画を立てる。 9、研究計画立案、公表。 １０、予備実験、調査の実際。 １１、予備実験、調査の実際。 １２、予備実験、調査の実際。 １３、予備実験の分析と文献検索。 １４、予備実験の分析と文献作。 １５、予備実験の結果発表と執筆練習。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J90198003
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity C		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
授業概要	この専門ゼミでは、卒業論文作成を最終ゴールにする。テーマとしては、健康・運動（身体活動）・栄養・体力・エイジング等をキーワードにした課題を考えている。 具体的には、「専門ゼミA」、「専門ゼミB」での学修を踏まえて、さらに卒業研究に向けて、各自、どのようなことをしたいのか、どのような方法論があるのか、どのような結果が期待できるのか、等を明らかにしながら、研究が具体化できるように学修する。実験が必要な場合はその実験方法を、調査が必要な場合はその調査方法を、学生自らが主体的に動けるように具体化する。常に、ゼミの仲間や指導教員とディスカッションしながら、研究の方向性を揺らぎないものにする。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	自分で調べて発表したり、現場に出かけて調査・測定に参加するなど、自らが動いて学修をすすめる演習授業。		
評価方法	毎回の小レポート（40%）、課題レポート（60%）		
到達目標	1）研究テーマに沿った文献を収集・蓄積し、卒論に役立たせることができる。 2）レポート発表では、互いに意見交換したり、知識の共有ができる。 3）他人の発表に対して必ず意見を発表できる 4）機会があれば、実際の研究に参加する。 上記を繰り返すことで、研究と論文との関連、理論の一貫性について理解する。 卒論研究テーマと研究計画の検討に繋げる。		
授業時間外学習	興味ある領域の文献を収集し、毎回の授業では、新しい情報を発表できる準備をしてくること。また、卒論作成に向けての必要なテクニック（例えばデータの解析方法）などについては、事前に調べ、担当教員や専門家に相談し、身につける。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義には毎回出席し、意欲的に取り組んで欲しい。
研究を難しく考えないで、“なんでやろう”の気持ちが大事。
身近なところで”なんでやろう”を探して欲しい。
よい論文をいっぱい読もう！
研究者の研究や、友人の研究に積極的に参加し、研究現場の体験を積もう！
いつでも必ず自分の意見を発表しよう。

授業スケジュール

1. イントロダクション：専門ゼミCについて
2. 卒論テーマの決定と研究計画書の作成
3. データ収集（調査、実験など）
4. データ収集（調査、実験など）
5. データ収集（調査、実験など）
6. データ収集（調査、実験など）
7.データ収集（調査、実験など）の中間発表
8.データ収集（調査、実験など）と解析
9.データ収集（調査、実験など）と解析
10. 地域高齢者の測定参加
11. 地域高齢者の測定参加
12. データ収集（調査、実験など）と解析・卒論作成

13.データ収集（調査、実験など）と解析・卒論作成
14.卒論の進捗状況の発表
15. 卒論の進捗状況の発表・まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90198004
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity C		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミCでは、専門ゼミA・Bでの学びを通して深めてきた卒業研究について、具体的に調査・実験等を実施し、得られたデータの分析を進める。そのために必要な運動生理学的手法や体力科学的手法による研究・実験方法を修得することが出来る。また得られたデータを分析するため、コンピュータ処理・統計処理に関するす手法も学ぶことができる。づ時に研究論文の読み方、卒業研究の書き方について学び、これら卒業研究論文作成の過程での新たな経験を通して、何かを突きつめる上で大切な見方・考え方の能力を修得できる。		
教材（教科書）	特に指定はない。 授業において適時紹介するとともに、資料を配布する。		
教材（参考資料）	特に指定はない。 授業において適時紹介するとともに、資料として配布する。		
教育方法	ゼミ生が輪番で発表することを原則とする。 パワーポイントの活用と資料配布による発表とグループディスカッションを組み合わせて授業を行う。		
評価方法	授業における発表レポート（50%）、プレゼンテーション能力（30%）、受講平常点（20%）		
到達目標	専門ゼミCの間に、卒業研究の調査・実験等が終了し、データ解析・論文作詞に取りかかることができる。 データに裏付けられたプレゼンテーションによりゼミ生と論議できるようになる。		
授業時間外学習	・調査・実験結果について出来るだけ早く、指導教員と検討できるように準備する。 ・予備実験をしっかりやることにより、本事件がスムーズに行えるよう準備する。 ・コンピュータ操作方法・必要なアプリケーション使用方法を事前に修得しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件

・専門ゼミA・Bを履修していることが受講条件となる。

受講のルール

・遅刻や私語・寝ることは厳禁とする。授業中携帯の使用も厳禁とする。これらのことが順守できなければ、他者への迷惑を勘案し退室を求めることがある。

・実験・調査等で授業に出れない場合は、次週の時間に必ず経過報告をする。

学習上の助言

・自ら進んで学ぶ姿勢が最も重要である。

・ゼミでの発表等を担当する場合、しっかりと準備し、自信を持って発表する。

・ゼミ生はお互い助け・支え合い、何事も積極的に協力し合う。

・人前で話し行動することを積極的に心掛けなければならない。

・ゼミ活動は全出席を目標とする。

授業スケジュール

ゼミ生の人数を 10 名（1回に2～3名）程度として計画する。

1．　ゼミガイダンス：運営方針の説明、ゼミ生の役割

2.　運動生理学的研究法の演習・解説

3．　体力科学的研究手法の演習・解説

4．　第1回卒業研究課題発表と論議　①

5．　第１回卒業研究課題発表と論議　②
6．　第１回卒業研究課題発表と論議　③
7．　コンピュータおよびデータ解析・統計処理に関する演習と解説　①
8．　第２回卒業研究課題発表と論議　①
9．　第２回卒業研究課題発表と論議　②
10.　第２回卒業研究課題発表と論議　③
11.　コンピュータおよびデータ解析・統計処理に関する演習と解説　②
12.　第３回卒業研究課題発表と論議　①
13.　第３回卒業研究課題発表と論議　②
14.　第３回卒業研究課題発表と論議　③
15.　研究論文の書き方の解説

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	J90198005
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity C		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
授業概要	一般の人々に健康・体力づくりや生活習慣病の予防のためには運動が大切であることを伝え、安全で効果的な正しいトレーニング方法を指導していくことは健康スポーツの専門家としての重要な使命のひとつであり、わたしたちが大きく社会貢献できる可能性のある分野である。 本演習では、健康体力科学に関する文献資料を収集して発表することによって理論をより深く学び、各自が興味のあるテーマについて研究計画を立案・遂行し、卒業研究論文としてまとめ、研究成果を発表する。これと並行して、一般人を対象とした体力測定の企画・運営に参加したり、一般人を対象とした健康づくりのための運動指導法（理論・実技）について学修し、GFI、健康運動実践指導者、健康運動指導士の資格取得を目指す。 将来、スポーツクラブやフィットネスジムで活動するインストラクターやトレーナー、健康増進施設や医療機関併設の運動施設等での一般人を対象とした健康体力づくりの運動指導者を目指している人向けの実践的内容を含む。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	必要に応じて資料を配布して授業を行う。グループワークや実習を含む。		
評価方法	ゼミの活動への取り組み（参加態度、発表・発言、等）、レポートの総合評価		
到達目標	一般人を対象とした体力測定の企画・運営に参加したり、一般人を対象とした健康づくりのための簡単な運動指導ができる。		
授業時間外学習	分担して発表を行うので、自分の担当部分をしっかり予習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
目的意識を持って、ゼミの活動に積極的に取り組むこと。			
授業スケジュール			
１．ゼミの概要説明とこの語の計画について ２．健康（理論・実技）運動指導法１ ３．健康（理論・実技）運動指導法２ ４．健康（理論・実技）運動指導法３ ５．健康（理論・実技）運動指導法４ ６．健康（理論・実技）運動指導法５ ７．健康（理論・実技）運動指導法６ ８．健康（理論・実技）運動指導法７ ９．健康（理論・実技）運動指導法８ １０．健康（理論・実技）運動指導法９ １１．健康（理論・実技）運動指導法１０ １２．健康（理論・実技）運動指導法１１ １３．健康（理論・実技）運動指導法１２ １４．健康（理論・実技）運動指導法１３ １５．健康（理論・実技）運動指導法１４			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J90198006
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity C		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
授業概要	健康・スポーツビジネスの実践における健康フィットネス企業、スポーツ製造・物販企業、スポーツ指導関連企業、プロスポーツビジネス企業、スポーツイベント関連企業、体力重視専門職等の事例を調査し、それらの概要及び実態、人材活用について精査したものから、自己の興味ある健康・スポーツビジネス領域の独自のオリジナルビジネスのアイデア・試作モデルを提案する。卒業論文完成に向けて、自己の健康・スポーツマネジメント施策に関する先行研究論文を探り、それらを元に自己のモデル考察との関連性について探求する。専門ゼミD（卒業論文完成）に向けての高い関連性で授業展開をはかる。		
教材（教科書）	随時資料配付		
教材（参考資料）	図とイラストで学ぶ新しいスポーツマネジメント　山下秋二ら編著（大修館書店）		
教育方法	講義・リサーチ・フィールドワーク・プレゼン等の形式。		
評価方法	出席、毎回の進捗状況報告と調査発表での総合評価。		
到達目標	健康・スポーツビジネスの企業実態及び人材活用を知り、オリジナル企画、試作提案できる様に企画考察力を付ける。　健康・スポーツビジネスのマネジメントシステムに関する先行研究論文から探求力を高め、専門ゼミD（卒業論文完成）に向けた、深い考察力を高められる事を狙いとする。		
授業時間外学習	①健康・スポーツマネジメントに関する情報収集（ネット記事、新聞記事、専門誌、専門書籍等）に努める ②健康・スポーツマネジメントの関連書籍を積極的に読破する ③健康・スポーツイベントに注視し、現場観察及び事象情報取得に努める。 ①、②、③の準備の上、積極的に実践活動を行い、個人でも日々のフィールドワークでマネジメント事象の情報収集に努める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①自己都合による遅刻・無断欠席は厳禁
②積極的な提案、行動力、問題解決思考を要望
③ゼミ員間の協調性にも意識努力する事を要望
④卒業論文完成に向けた現場での実践データー取得にも積極的に取り組む事を要望。
①②③④の姿勢の元、ゼミ室や大学図書館、スポーツ実践現場での積極的な知的活動に従事され、卒業論文完成に向けた知的考動を努めて頂きたい。

授業スケジュール

1.　健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った文献収集の仕方
2.　健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った文献収集・考察整理の仕方
3.　健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った論文構成（項目構成）について
4.　健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った論文執筆の緒言（はじめに）についての書き方
5.　健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った本論の書き方について
6.　健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った本論から考察への導き方について
7.　健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った考察のまとめ方について
8.　健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った文献整理について
9.　健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った先行研究からの論文執筆の解説
10.健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った仮説と想定考察の関連の確認
11.健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った発展的今後の課題と展望整理
12.健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添ったプレゼンテーション準備
13.プレゼンテーション１（卒論研究進捗状況発表：健康・スポーツプロダクトビジネス領域
14.プレゼンテーション２（卒論研究進捗状況発表：健康・スポーツプロデュースビジネス領域
15.プレゼンテーション３（卒論研究進捗状況発表：健康・スポーツイベントビジネス領域

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J90198007
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity C		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
授業概要	「専門ゼミA」「専門ゼミB」で学んだ研究課題を発展させて、「生理機能とその制御因子」の関連領域で興味・関心のある卒業研究テーマと研究仮説を決定し、卒業研究テーマの解明に必要な資料や文献を集めながら、具体的な実験・調査計画を立て、卒業研究を進める．実験・調査結果は、指導教員とディスカッションすることや研究室内の報告会で他の学生と互いに討論することで、卒業研究の進捗状況を把握し、研究の方向性も再確認する．また、具体的な実験結果の解釈・解析方法やプレゼンテーションのスキルについても修得する．		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	研究テーマ関連文献を適宜紹介したり、自ら検索する。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	文献発表、レポート、授業態度を総合的に評価する。		
到達目標	1．　研究テーマの背景となる「健康寿命の阻害因子」について簡潔に説明できるようになる。 2．　文献検索のスキルを身につけ、必要な文献を探すことができるようになる。 3．　科学論文を読んで、その概要を理解できるようになる。		
授業時間外学習	1．　これまで履修した理系科目（特に、解剖生理学、生活習慣病）を復習しておく。 2．　最近の健康に関連した新聞・雑誌記事を見つけてチェックしておく。 3.　ゼミでの研究内容は、一定の区切りごとにレポート提出を課すので、 指摘期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．　能動的な態度で臨み、主体的に課題に取り組む。
2．　何事にも興味を持ち、目標を達成する努力をする。
3.　ゼミでの研究内容は、一定の区切りごとにレポート提出を課すので、毎回のディスカッションの内容などの
記録をしっかりと取ること。
4. 遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
5. ゼミ内容に関わる健康長寿・生活習慣病関連の報道・新聞記事などに目を通すよう心がける。

授業スケジュール

1．　今後の研究方向の決定
2．　卒業研究の書き方指導（1）
3．　卒業研究の書き方指導（2）
4．　卒業研究の書き方指導（3）
5．　関連論文・データの収集（1）
6．　関連論文・データの収集（2）
7．　関連論文・データの収集（3）
8．　テーマに沿った議論と考察（1）
9．　テーマに沿った議論と考察（2）
10．　テーマに沿った議論と考察（3）
11．　テーマに沿った議論と考察（4）
12．　テーマに沿った議論と考察（5）
13．　中間報告（1）
14．　中間報告（2）
15．　中間報告（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J90198008
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity C		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
授業概要	「専門ゼミA」、「専門ゼミB」を基礎として各自の興味に応じて研究を進めていく。研究テーマ、研究計画をゼミ内で発表し、お互いに意見交換を行いながら、課題へのアプローチ方法や社会的背景への洞察力を深めていきながら研究テーマに取り組む。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	・考える技術・書く技術　山﨑康司, ダイヤモンド社 ・健康・スポーツ科学のための研究方法　出村眞一, 杏林書院 ・保健医療福祉の研究ナビ　福田吉治監修　金原出版株式会社		
教育方法	・SPSS による統計解析入門（小田利勝, プレアデス出版）、アンケートデータの分析（菅民郎, 現代数学社）も参考にしながら、分析方法を実践的に学ぶ		
評価方法	・中間発表（60%） ・課題への取組み(40%)		
到達目標	・研究計画を作成する。 ・研究テーマ、目的、方法をまとめ、説明する。 ・研究計画にそって、研究を進める		
授業時間外学習	・関連資料を読むこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講に際し自ら考え行動し、工夫する積極的な姿勢を望みます。　また人の話を聞き、意見を述べるようにしましょう。			
授業スケジュール			
1．卒業論文テーマの決定 2．研究テーマへの取組み 3．研究テーマへの取組み 4．研究テーマへの取組み 5．研究テーマへの取組み 6．研究テーマへの取組み 7．研究テーマへの取組み 8．研究テーマへの取組み 9．研究テーマへの取組み 10．中間発表 11．研究テーマへの取組み 12．研究テーマへの取組み			

13. 研究テーマへの取組み
14. 研究テーマへの取組み
15. 研究テーマへの取組み

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J90198009
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity C		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
授業概要	子どもの発育発達過程における身体活動・体力・生活習慣や健康等、あるいは障がい者のスポーツや身体活動等に関わる興味関心のあるテーマについて、研究を計画し進める。研究計画においては、関連する先行文献を読解し理解したうえで、学生が主体的に研究を遂行できるよう、学生の工夫を取り入れるようにして進める。結果の整理方法や統計的な意味について理解するとともに、その成果や考えをゼミ内で報告し合い論議を重ねて、さらに考察を深め、考えを言葉で理解させる力を育成する。		
教材（教科書）	適宜紹介する。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	受講生が必要とする資料を提示しながら、調査や分析、論文執筆、発表を通して、全体および個別に指導を進める。		
評価方法	授業中に実施する課題への積極的姿勢･態度(50%)、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換(50%)		
到達目標	子どもや障がい者と運動やスポーツに関して、さまざまな書籍や論文から知識を得るとともに、自ら研究計画を立案し、データ収集ができるとともに処理ができる。研究成果を他者に分かりやすくプレゼンテーションができる。		
授業時間外学習	障害者スポーツ、発育発達、自分の研究テーマ等に関する情報を常に収集（ネット記事、新聞記事、専門誌、専門書籍等）するように努めること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自ら疑問に思ったことを追求するとともに、一つひとつの体験・観察・実験・レポート・発表・討論等に意欲的に取り組むよう努めること。
発表担当者は、自身の発表について多くの論文を検索し、十分な準備を行うこと。
お互いのテーマや内容に関心をもち、協力し合って研究や実験を進めること。
調査協力者や子どもへの対応など、その場にふさわしい身なり、服装、態度。姿勢で臨むこと。

授業スケジュール

1．オリエンテーション、卒業論文作成に向けて今後の予定と課題
2．卒業論文テーマ設定と予備調査の結果報告・調査計画の作成
3．予備調査の分析方法とまとめ方
4．調査の進捗状況報告および調査準備
5．調査の進捗状況報告および卒業論文に関連する研究論文を紹介 1（調査に関する背景の説明）
6． 調査の進捗状況報告および卒業論文に関連する研究論文を紹介 2（調査に関する背景の説明）
7. 卒業論文の書き方について解説（序論 1）
8．卒業論文の書き方について解説（序論 2）
9．卒業論文の書き方について解説（方法 1）
１０．卒業論文の書き方について解説（方法 2）
１１．卒業論文の書き方について解説（統計処理 1）
１２．卒業論文の書き方について解説（統計処理 2）
１３．卒業論文の書き方について解説（結果）
１４．卒業論文の書き方について解説（考察 1）
１５．卒業論文の書き方について解説（考察 2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	J90198010
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity C		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミA」、「専門ゼミB」を通して掘り下げたテーマを、実際に実験などを行い自ら検証していく作業に入る。まずグループごとに被験者の構成、数、実験方法や倫理審査の申請方法、仮説の設定など実験を行うにあたって必要な準備を整え、実験計画書の作成を行う。また同時に必要な実験機器の選定を行い、パイロットスタディを開始して実験プロセスの妥当性を検討していく。さらに途中実験経過などを報告しながら意見交換を行い、より質の高い実験を目指す予定である。		
教材（教科書）	特に指定しないが、必要な資料等は適宜配布する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	実験や発表、調査など基本的に体験型学習法で行う。		
評価方法	レポートなどの提出物から発表など授業に取り組む姿勢から総合的に評価する。欠席は総合評価から減点される。		
到達目標	卒業論文制作に必要な実験の準備や方法の構築、さらにデータの解釈やそれら出力されたデータの効果的な発表方法を実績できるようになる。		
授業時間外学習	統計方法や発表方法を文献や書籍と通じて事前に学んでおくことが望ましい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
今回の専門ゼミCはBからさらに発展した科目です。Bまでに習得した知識を実験や発表などの実践的な場で使いこなすことを期待します。			
授業スケジュール			
1,実験とその準備1（班ごと） 2,実験とその準備2（班ごと） 3,実験とその準備3（班ごと） 4,実験とその準備4（班ごと） 5,経過発表1 6,実験とその準備5（班ごと） 7,実験とその準備6（班ごと） 8,実験とその準備7（班ごと） 9,実験とその準備8（班ごと） 10,経過発表2 11 実験とその準備9（班ごと） 12,実験とその準備10（班ごと） 13,実験とその準備11（班ごと） 14,実験とその準備12（班ごと） 15、経過発表　3			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J90198011
科目名	専門ゼミC	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity C		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
授業概要	健康スポーツ心理学（スポーツ心理学、健康心理学、応用健康科学分野）研究を自ら調べた文献を参考にして疑問点をまとめるとともに、興味のあるテーマに対して適切に実験器具・情報機器を用いて実験または調査が実施できるようになることを目指す。 得られた結果は整理し、意見交換を行う。		
教材（教科書）	適宜資料を配布する。		
教材（参考資料）	適宜資料を配布する。		
教育方法	−		
評価方法	授業中に実施する課題（50%）、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換（50%）		
到達目標	運動・スポーツを心理的側面から捉え、さまざまな書籍および論文から知識を得ると同時に、自ら研究計画を立案し、データ収集および処理ができるようになる。 加えて、研究成果を分かりやすく他者に伝えるプレゼンテーション能力を高めることができる。		
授業時間外学習	日常生活の中で運動およびスポーツがもたらす心理的および生理的効果について考える機会を多く持つと同時に、疑問に思ったことを記録しておくこと。 発表担当者は、自身の発表について多くの論文を検索し、十分な準備を行うこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自ら疑問に思ったことを追求するとともに、一つひとつの実験・レポート・発表・討論に意欲的に取り組むよう努めること。

授業スケジュール

1．オリエンテーション、卒業論文作成に向けて今後の予定と課題
2．卒業論文テーマ設定と実験計画の確認
3．進捗状況報告および卒業論文に関連する研究論文を紹介 1（実施したい実験に関する背景の説明）
4．進捗状況報告および卒業論文に関連する研究論文を紹介 2（実施したい実験に関する背景の説明）
5．進捗状況報告および卒業論文に関連する研究論文を紹介 3（実施したい実験に関する背景の説明）
6．進捗状況報告および卒業論文に関連する研究論文を紹介 4（実施したい実験に関する背景の説明）
7. 卒業論文の書き方について解説（序論 1）
8．卒業論文の書き方について解説（序論 2）
9．卒業論文の書き方について解説（方法 1）
１０．卒業論文の書き方について解説（方法 2）
１１．卒業論文の書き方について解説（統計処理 1）
１２．卒業論文の書き方について解説（統計処理 2）
１３．卒業論文の書き方について解説（結果）
１４．卒業論文の書き方について解説（考察 1）
１５．卒業論文の書き方について解説（考察 2）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2018	授業コード	J90199001
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity D		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
授業概要	運動と生理機能について実験・解析する。例えば循環動態と筋収縮、呼吸機能と無酸素運動など、運動と人体機能の関連についての研究課題について実験・解析する。実験計画、研究結果について討論し、研究の問題点の把握と重要性を認識する。表計算・統計処理ソフト、画像作成ソフト、プレゼンテーションソフトなどの活用をはかる。関連する文献をデータベース検索、調査する。コミュニケーション力、協働力、創造力等を身につける。論文作成し、投稿、再構成、校正などを経る学術出版を試みる。		
教材（教科書）	とくに指定しない。		
教材（参考資料）	とくに指定しない。		
教育方法	論文の輪読、スライドを用いた講義法ならびにグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題に対しての参加度（50%）、発表（50%）		
到達目標	１．　研究課題について、文献などを活用して討議できる。 ２．　研究結果のプレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．　研究論文にまとめ、出版を試みる。		
授業時間外学習	「専門ゼミ C」で修得した資料、討議、発表、レポート作成の基本スキルの復習をしておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
主体的な研究対応。			
授業スケジュール			
１．運動と人体機能の関連についての研究課題を定める。循環動態と筋収縮、呼吸機能と無酸素運動などを定める。、 ２．その実験計画を作成、討論する。 ３．実験する。実験中、実験ノートの記載内容を確認する。 ４．研究結果について討論する。研究の問題点の把握と重要性を認識する。 ５．表計算・統計処理ソフト、画像作成ソフト、プレゼンテーションソフトなどの活用をはかる。 ６．表計算・統計処理ソフト、画像作成ソフト、プレゼンテーションソフトなどの活用をはかる。 ７．関連文献を検索、調査する。コミュニケーション力、協働力、創造力等を身につける。 ８．関連文献を検索、調査する。コミュニケーション力、協働力、創造力等を身につける。 ９．研究報告をとりまとめる。 １０．研究報告をとりまとめる。 １１．研究結果を発表する。 １２．研究論文を作成する。 １３．研究論文の投稿を試みる。 １４．研究論文の再構成を試みる。 １５．研究論文の出版を試みる。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J90199002
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity D		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
授業概要	卒業研究論文の作成。これまでの研究というものへの集大成であるので、しっかりとした文章作成、分析技術の確立などをめざして、実社会での活用に努める。		
教材（教科書）	必要な文献などは適時提供する。		
教材（参考資料）	参考にする文献などは大学で準備するが、将来にわたって活用できる書籍などは紹介します。		
教育方法	卒業研究論文として完成へと向かう。執筆に時間を要すると思われるので、早い段階から論理上問題を生じないように注意しながら論文内容を構築していく。また図表の作成も繰り返すことでより理解しやすい出来栄えとなるので、早い段階で納得せず、満足できるまで作業を繰り返す。		
評価方法	レポートなどの提出物。卒業研究論文の完成版を提出する。		
到達目標	これまでの 2 年間の専門ゼミの集大成。また 4 年間の総まとめを論文に著す。		
授業時間外学習	専門ゼミＡからＣで学んだ内容を活かす。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
大学での学びの集大成であるので、時間を惜しむことなく情熱を注いで論文を完成させる。			
授業スケジュール			
１、ゼミＤの計画立案。 ２、各自の課題に取り組む。 ３、各自の課題に取り組む。 ４、各自の課題に取り組む。 ５、実験研究、調査何度、各自の研究進捗状況発表会。 ６、各自の研究実行。 ７、研究課題の実行。 ８、研究論文の執筆 ９、執筆 １０、執筆 １１、執筆 １２、中間発表練習と論文構成の検討。 １３、執筆 １４、各自の研究発表 １５、研究発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90199003
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity D		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
授業概要	本ゼミでは、「専門ゼミ A」「専門ゼミ B」「専門ゼミ C」で、積み重ねてきた知識と経験をもとに、できるだけはやい段階で、各自の卒業研究のテーマと研究計画に沿ったデータ収集（調査や実験）と解析を進め、卒業研究論文の作成に取りかかる。本ゼミでは、適宜、経過を発表し、ゼミ仲間や指導教員とディスカッションしながら、今までの研究内容をより深め、最終的に卒業研究論文を完成させる。卒業研究論文作成にあたっては、科学的な思考に加え、文章表現力やプレゼンテーション能力についても学修する。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	自分で調べて発表したり、現場に出かけて調査・測定に参加するなど、自らが動いて学修をすすめる演習授業。		
評価方法	卒業研究論文（80）　研究への取り組み姿勢（20）		
到達目標	1）論理的思考を身につけ、自分の意見を持つ。 2）卒業論文を仕上げる。		
授業時間外学習	常に卒論テーマに沿った情報を収集し、発表できる準備をしてくること。また、卒論作成に向けての必要なテクニック（例えばデータの解析方法）などについては、事前に調べ、担当教員や専門家に相談し、身につける。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

何事にも意欲的に取り組んで欲しい。
研究を難しく考えないで、“なんでやろう”の気持ちが大事。
身近なところにある”なんでやろう”の探究心を持とう。
よい論文をいっぱい読んで、文章力を磨こう！

授業スケジュール

1. イントロダクション：専門ゼミ D について
2. データ収集（調査、実験など）と解析・卒論作成
3. データ収集（調査、実験など）と解析・卒論作成
4. 卒論作成
5. 卒論作成
6. 卒論作成
7. 中間報告会
8. 卒論作成
9. 卒論作成
10. 卒論作成
11. 卒論作成
12. 卒論作成・要約の作成
13. 発表資料の作成
14. 発表資料の作成
15. 卒論発表会・まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90199004
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity D		
担当者名	平川　和文	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミ D では、専門ゼミ C での卒業研究を進めるための調査・実験、データ処理を受けて、研究論文としてまとめ、研究内容を分かりやすくプレゼンテーションするためのアカデミックスキルを総合的に修得できる。さらに、卒業研究発表会や 3 年次生の研究指導にも携わることにより、指導力・協働力・コミュニケーション能力の習得も可能となる。 4 年間の学びの集大成である卒業研究活動を通して行動力・自己効力感の習得も可能であり、実践力を備えた社会人基礎力を身に付けることも可能である。		
教材（教科書）	特に指定はない。 授業において適時紹介するとともに、資料を配布する。		
教材（参考資料）	特に指定はない。 授業において適時紹介するとともに、資料として配布する。		
教育方法	ゼミ生が輪番で卒業研究の発表することを原則とする。 パワーポイントの活用と資料配布による発表とグループディスカッションを組み合わせて授業を行う。		
評価方法	授業における発表レポート（50%）、プレゼンテーション能力（30%）、受講平常点（20%）		
到達目標	自分自身でも頑張ったと自己評価でき、他者にも認められる素晴らしい卒業論文を完成させる。 卒業後の活動にしっかりとした夢と方向性が持て、自信を持って卒業できる。		
授業時間外学習	・常に先行研究を調べ、卒業研究の質的向上を考えて、地道な事前学習をする。 ・多くの本を読み、文章能力を高める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件

・専門ゼミＡ・Ｂ・Ｃを履修していることが受講条件となる。

受講のルール

・遅刻や私語・寝ることは厳禁とする。授業中携帯の使用も厳禁とする。これらのことが順守できなければ、他者への迷惑を勘案し退室を求めることがある。

・実験・調査等で授業を欠席する場合は、次週の時間に必ず経過報告をする。

学習上の助言

・自ら進んで学ぶ姿勢が最も重要である。
・ゼミでの発表等を担当する場合、しっかりと準備し、自信を持って発表する。
・ゼミ生はお互い助け・支え合い、何事も積極的に協力し合う。
・人前で話し行動することを積極的に心掛けなければならない。
・ゼミ活動は全出席を目標とする。

授業スケジュール

ゼミ生の人数を 10 名（１回に２～３名）程度として計画する。

1．　ゼミガイダンス：運営方針の説明、ゼミ生の役割
2.　卒業研究論文作成に関する解説と演習
3．　効果的なプレゼンテーションに関する解説と演習
4．　第１回卒業研究課題発表と論議　①
5．　第１回卒業研究課題発表と論議　②
6．　第１回卒業研究課題発表と論議　③

7．　卒業研究口頭試問の要点と発表の解説と演習 8．　卒業論文口頭試問練習会　① 9．　卒業論文口頭試問練習会　② 10.　卒業論文口頭試問練習会　③ 11.　卒業研究発表会のポイントの解説と演習 12.　卒業研究論文発表会練習　① 13.　卒業研究論文発表会練習　② 14.　卒業研究論文発表会練習　③ 15.　専門ゼミ A・B・C・D を通しての総括

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	J90199005
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity D		
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
授業概要	一般の人々に健康・体力づくりや生活習慣病の予防のためには運動が大切であることを伝え、安全で効果的な正しいトレーニング方法を指導していくことは健康スポーツの専門家としての重要な使命のひとつであり、わたしたちが大きく社会貢献できる可能性のある分野である。 本演習では、健康体力科学に関する文献資料を収集して発表することによって理論をより深く学び、各自が興味のあるテーマについて研究計画を立案・遂行し、卒業研究論文としてまとめ、研究成果を発表する。これと並行して、一般人を対象とした体力測定の企画・運営に参加したり、一般人を対象とした健康づくりのための運動指導法（理論・実技）について学修し、GFI、健康運動実践指導者、健康運動指導士の資格取得を目指す。 将来、スポーツクラブやフィットネスジムで活動するインストラクターやトレーナー、健康増進施設や医療機関併設の運動施設等での一般人を対象とした健康体力づくりの運動指導者を目指している人向けの実践的内容を含む。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	必要に応じて資料を配布して授業を行う。グループワークや実習を含む。		
評価方法	ゼミの活動への取り組み（参加態度、発表・発言、等）、レポートの総合評価		
到達目標	一般人を対象とした体力測定の企画・運営に参加したり、一般人を対象とした健康づくりのための運動指導ができる。		
授業時間外学習	分担して発表を行うので、自分の担当部分をしっかり予習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
目的意識を持って、ゼミの活動に積極的に取り組むこと。			
授業スケジュール			
１．ゼミの概要説明と今後の計画について ２．健康（理論・実技）運動指導法１ ３．健康（理論・実技）運動指導法２ ４．健康（理論・実技）運動指導法３ ５．健康（理論・実技）運動指導法４ ６．健康（理論・実技）運動指導法５ ７．健康（理論・実技）運動指導法６ ８．健康（理論・実技）運動指導法７ ９．健康（理論・実技）運動指導法８ １０．健康（理論・実技）運動指導法９ １１．健康（理論・実技）運動指導法１０ １２．健康（理論・実技）運動指導法１１ １３．健康（理論・実技）運動指導法１２ １４．健康（理論・実技）運動指導法１３ １５．健康（理論・実技）運動指導法１４			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	J90199006
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity D		
担当者名	池川　哲史	旧科目名称	
授業概要	健康・スポーツビジネスの実践における健康フィットネス企業、スポーツ製造・物販企業、スポーツ指導関連企業、プロスポーツビジネス企業、スポーツイベント関連企業、体力重視専門職等の事例を調査し、それらの概要及び実態、人材活用について精査したものから、自己の興味ある健康・スポーツビジネス領域の独自のオリジナルビジネスのアイデア・試作モデルを提案する。卒業論文完成に向けて、自己の健康・スポーツマネジメント施策に関する先行研究論文を探り、それらを元に自己のモデル考察との関連性について探求する。卒業論文完成に向けての論文執筆作業を進め、健康・スポーツマネジメント領域の実践的考察をまとめて完成させる事とする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	体育・スポーツ系大学生のための論文レポートの書き方　　(株)アイオーエム発行		
教育方法	講義・リサーチ・フィールドワーク・プレゼン等の形式。		
評価方法	卒業論文完成に向けた添削指導を受け、完成論文を期限提出が条件。		
到達目標	健康・スポーツビジネスの企業実態及び人材活用を知り、オリジナル企画、試作提案できる様に企画考察力を付ける。　健康・スポーツビジネスのマネジメントシステムに関する先行研究論文から探求力を高め、卒業論文完成達成の為にの深い論理的考察力が到達目標である。		
授業時間外学習	毎回、論文完成進捗状況に関して報告・連絡・相談を要し、関連する文献・記事・資料等を読み説いた内容を項目毎に整理する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎時間、積み上げた論文執筆内容を報告し、論文構成並びに添削指導を受ける事。

授業スケジュール

1. 健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った論文執筆第 1 段階
2. 健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った論文執筆事項の確認と添削指導
3. 健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った論文執筆第 2 段階
4. 健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った論文執筆事項の確認と添削指導
5. 健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った論文執筆第 3 段階
6. 健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った論文執筆事項の確認と添削指導
7. 健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った論文執筆第 4 段階
8. 健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った論文執筆事項の確認と添削指導
9. 健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った論文執筆第 5 段階
10. 健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った論文執筆事項の確認と添削指導
11. 健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った論文執筆第 6 段階
12. 健康・スポーツビジネス関連の自己テーマに添った論文執筆事項の確認と添削指導
13. プレゼンテーション１（卒論研究発表：健康・スポーツプロダクトビジネス領域
14. プレゼンテーション２（卒論研究発表：健康・スポーツプロデュースビジネス領域
15. プレゼンテーション３（卒論研究発表：健康・スポーツイベントビジネス領域

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	J90199007
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity D		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
授業概要	「専門ゼミ D」では、卒業研究の完成に向けて、「専門ゼミ C」で決定した卒業研究テーマと研究仮説に基づいて計画した実験・調査をさらに遂行し、得られた実験・調査結果の解析・考察を繰り返して行いながら、再実験・再調査が必要であれば実施する．最終的に、実験・調査結果を論理的に組み立て、実験・調査から導き出される結論を指導教員とディスカッションしながら卒業論文として完成させ、学科内で開催される卒業研究発表会でプレゼンテーションする．また、研究成果は、可能であれば積極的に学会や研究会で発表し、研究へのモチベーションを向上させる.		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	研究テーマ関連文献を適宜紹介したり、自ら検索する。		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	文献発表、レポート、授業態度・発表会での発表内容を総合的に評価する。		
到達目標	1．　研究テーマの背景となる「健康寿命の阻害因子」について簡潔に説明できるようになる。 2．　文献検索のスキルを身につけ、必要な文献を探すことができるようになる。 3．　科学論文を読んで、その概要を理解できるようになる。		
授業時間外学習	1．　これまで履修した理系科目（特に、解剖生理学、生活習慣病）を復習しておく。 2．　最近の健康に関連した新聞・雑誌記事を見つけてチェックしておく。 3.　ゼミでの研究内容は、一定の区切りごとにレポート提出を課すので、 指摘期日までに完成させて提出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．　能動的な態度で臨み、主体的に課題に取り組む。
2．　何事にも興味を持ち、目標を達成する努力をする。
3.　ゼミでの研究内容は、一定の区切りごとにレポート提出を課すので、毎回のディスカッションの内容などの
記録をしっかりと取ること。
4. 遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
5. ゼミ内容に関わる健康長寿・生活習慣病関連の報道・新聞記事などに目を通すよう心がける。

授業スケジュール

1．　卒業研究の方向性の確認(1)
2．　卒業研究の方向性の確認(２)
3．　卒業研究の方向性の確認(３)
4．　テーマに沿った議論と考察(1)
5．　テーマに沿った議論と考察(２)
6．　テーマに沿った議論と考察(３)
7．　テーマに沿った議論と考察(４)
8．　テーマに沿った議論と考察(５)
9．　．論文形式の再確認
１０．　問題点とその確認(1)
１１．　問題点とその確認(２)
１２．　問題点とその確認(３)
１３．　問題点とその確認(４)
１４．　．最終報告(1)
１５．　．最終報告(２)

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	★	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J90199008
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity D		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
授業概要	これまでのゼミを通じて修得した疫学的研究手法に基づいて卒業研究を進めていく。特に「専門ゼミC」において各自が策定した研究計画に基づいて調査を実施し、データを分析し結果をまとめる一連の研究活動を学修する。さらに研究成果の発表に向けてプレゼンテーション能力を高めるため、ゼミにおいて研究を発表し、お互いに意見交換を行ないながら最終的に卒業論文に仕上げる。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	ゼミ内で卒論発表を行い、自分の研究内容をわかりやすく伝えるとともに、他者の発表にも質問を行うようグループワーク形式で学ぶ		
評価方法	・卒業論文の提出（100%）		
到達目標	・論文の構成を理解し、まとめていくことができる。 ・研究の発表資料を作成し、発表できる。		
授業時間外学習	・関連資料を読むこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講に際し自ら考え行動し、工夫する積極的な姿勢を望みます。　また人の話を聞き、意見を述べるようにしましょう。

授業スケジュール

1．卒業論文の作成
2．卒業論文の作成
3．卒業論文の作成
4．卒業論文の作成
5．卒業論文の作成
6．卒業論文の作成
7．卒業論文の作成
8．卒業論文の作成
9．卒業論文の作成
10．卒業論文の発表準備
11．卒業研究の発表準備
12．卒業研究の発表準備
13．卒業研究の発表準備
14．ゼミ内卒業研究発表
15．ゼミ内卒業研究発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	J90199009
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity D		
担当者名	青木　好子	旧科目名称	
授業概要	卒業研究完成に向けて、「専門ゼミC」の研究を継続し、子どもの発育発達過程における身体活動・体力・生活習慣や健康等、あるいは障がい者のスポーツや身体活動等に関わる各自のテーマを設定して、見通しをもって研究を進める。その過程の報告会において、繰り返し論議を行うことで考察を深め、研究の進捗状況や方向性を確かめるとともに、科学的、論理的な思考力、表現力を身に付け、プレゼンテーション能力を高める。最終的に卒業研究論文としてまとめ、学科内での卒論発表会において研究成果を発表する。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	受講生が必要とする資料を提示しながら、調査や分析、論文執筆、発表を通して、全体および個別に指導を進める。		
評価方法	定期試験は実施せず、下記内容により総合的に評価する。 授業中に実施する課題（50%）、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換（50%）		
到達目標	卒業研究完成に向けて、専門ゼミCで実施した調査から得られたデータを整理し、考察を行うことを繰り返し行う。再実験や再調査が必要な場合は実施し、再び意見交換を行い、自分の調査結果を論理的にまとめ、説明できる。 これまでの調査や研究を卒業論文にまとめることができる。		
授業時間外学習	障害者スポーツ、発育発達、自分の研究テーマ等に関する情報を常に収集（ネット記事、新聞記事、専門誌、専門書籍等）するように努めること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自ら疑問に思ったことを追求するとともに、一つひとつの調査・レポート・発表・討論に意欲的に取り組むよう努めること。
調査協力者や子どもへの対応など、その場にふさわしい身なり、服装、態度、姿勢で臨むこと。

授業スケジュール

1．オリエンテーション、卒業論文作成に向けて今後の予定と課題
2．卒業論文テーマおよび実験内容の確認
3．進捗状況報告および卒業論文に関連する研究論文を紹介1（実施した調査に関する背景・方法・結果の説明）
4．進捗状況報告および卒業論文に関連する研究論文を紹介2（実施した調査に関する背景・方法・結果の説明）
5．進捗状況報告および卒業論文に関連する研究論文を紹介3（実施した調査に関する背景・方法・結果の説明）
6．進捗状況報告および卒業論文に関連する研究論文を紹介4（実施した調査に関する背景・方法・結果の説明）
7. 卒業論文およびプレゼンテーション資料の作成1
8．卒業論文およびプレゼンテーション資料の作成2
9．卒業論文およびプレゼンテーション資料の作成3
10．卒業論文およびプレゼンテーション資料の作成4
11．卒業論文プレゼンテーションの方法について解説
12．卒業論文プレゼンテーションと討論1
13．卒業論文プレゼンテーションと討論2
14．卒業論文プレゼンテーションと討論3
15．卒業論文プレゼンテーションと討論4

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★★	★	★

年度	2018	授業コード	J90199010
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity D		
担当者名	井口　順太	旧科目名称	
授業概要	専門ゼミの集大成として、主に専門ゼミ C で確立した実験や調査を行い、データを集積していく。また同時にデータの解釈に必要な統計方法から図表の書き方、卒業論文の具体的な執筆方法を学んでいく。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	実験や発表、調査など基本的に体験型学習法で行う。		
評価方法	レポートなどの提出物から発表など授業に取り組む姿勢から総合的に評価する。欠席は総合評価から減点される。		
到達目標	卒業論文作成に必要なデータの解析、適切な統計方法を学び、さらに論文として必要な文章スキルを学ぶことを目的とする。		
授業時間外学習	できる限り多くの関連論文に目を通し、極力自分自身で論文を作成することを望む。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
卒業論文作成の最終学期なので、専門ゼミ A から学んできた知識・技術を実践的に使いこなし、学生生活の集大成として卒業論文を仕上げて欲しい。			
授業スケジュール			
1,実験とその準備 1（班ごと） 2,実験とその準備 2（班ごと） 3,実験とその準備 3（班ごと） 4,実験とその準備 4（班ごと） 5,経過発表 1 6,論文作成 1（班ごと） 7,論文作成 2（班ごと） 8,論文作成 3（班ごと） 9,論文作成 4（班ごと） 10,経過発表 2 11 論文作成 5（班ごと） 12,論文作成 6（班ごと） 13,論文作成 7（班ごと） 14,論文発表会 1 15 論文発表会 2			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	J90199011
科目名	専門ゼミD	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar for Research Activity D		
担当者名	満石　寿	旧科目名称	
授業概要	卒業研究完成に向けて、専門ゼミ C で実施した実験または調査から得られたデータを整理し、考察を行うことを繰り返し行う。再実験や再調査が必要な場合は実施し、再び意見交換を行うことで、個々の興味がある卒業研究に対する充実を図る.		
教材（教科書）	適宜資料を配布する。		
教材（参考資料）	適宜資料を配布する。		
教育方法	−		
評価方法	授業中に実施する課題（50%）、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換（50%）		
到達目標	運動・スポーツを心理的側面から捉え、さまざまな書籍および論文から知識を得ると同時に、自ら研究計画を立案し、データ収集および処理ができるようになる。また、最終的には卒業論文を完成させ、ファイルで研究室に残すことを到達目標とする。		
授業時間外学習	日常生活の中で運動およびスポーツがもたらす心理的および生理的効果について考える機会を多く持つと同時に、疑問に思ったことを記録しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自ら疑問に思ったことを追求するとともに、一つひとつの実験・レポート・発表・討論に意欲的に取り組むよう努めること。

授業スケジュール

1．オリエンテーション、卒業論文作成に向けて今後の予定と課題
2．卒業論文テーマおよび実験内容の確認
3．進捗状況報告および卒業論文に関連する研究論文を紹介 1（実施したい実験に関する背景の説明）
4．進捗状況報告および卒業論文に関連する研究論文を紹介 2（実施したい実験に関する背景の説明）
5．進捗状況報告および卒業論文に関連する研究論文を紹介 3（実施したい実験に関する背景の説明）
6．進捗状況報告および卒業論文に関連する研究論文を紹介 4（実施したい実験に関する背景の説明）
7. 卒業論文およびプレゼンテーション資料の作成 1
8．卒業論文およびプレゼンテーション資料の作成 2
9．卒業論文およびプレゼンテーション資料の作成 3
１０．卒業論文およびプレゼンテーション資料の作成 4
１１．卒業論文プレゼンテーションの方法について解説
１２．卒業論文プレゼンテーションと討論 1
１３．卒業論文プレゼンテーションと討論 2
１４．卒業論文プレゼンテーションと討論 3
１５．卒業論文プレゼンテーションと討論 4

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	★	−	★★	−

年度	2018	授業コード	JC1000101
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	人びとが社会で生きていくためには、日々の生活に必要な財とサービスが充足されなければななならないし、また財とサービスを購入するための貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済システムの仕組みを学ぶ学問であるが、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」、そして「政府」である。「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者にわかるように講義する。		
教材（教科書）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編］・［マクロ編］』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕 ＊担当者が異なる別クラスの授業では、教科書も異なる場合があるので注意してください。		
教材（参考資料）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教育方法	毎回授業資料を配布する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋中間レポート試験（３０％）＋学期末レポート試験（４０％）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
授業時間外学習	講義の第１～第６回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第７回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

(1)「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって異なる場合がある。それゆえ別クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講してください。
(2) 日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。

授業スケジュール

１．経済学とは何か――ミクロとマクロ
２．財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
３．労働市場と資本市場
４．完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
５．負の外部性と正の外部性
６．公共財、貧困と福祉、格差問題
７．マクロ経済と GDP
８．経済成長
９．失業率――インフレとデフレ
１０．総需要と総供給（国民所得の決定）
１１．財政政策――景気対策と赤字国債の累積
１２．金融と金融政策
１３．国際収支と貿易
１４．自由貿易と保護貿易
１５．国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1000102
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	良き社会人となるためには、経済学の知識があった方がよい。また経済学は公務員試験などでもよく出題される分野です。そこで、この科目では、経済学の基本的な考え方を解説します。具体的には、企業はどのようにして産出量（生産量）を決めているのか、政府はなぜ税金をとるのか、GDP とは何か、といった問題を取り上げます。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考資料）	ハバード・オブライエン（2014）『ハバード経済学Ⅰ』日本経済新聞出版社。 ハバード・オブライエン（2014）『ハバード経済学Ⅱ』日本経済新聞出版社。 ハバード・オブライエン（2014）『ハバード経済学Ⅲ』日本経済新聞出版社。		
教育方法	講義法で授業を進めます。		
評価方法	授業内レポートと授業外レポートの合計（100%）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する参考文献のページを読んでおくこと（各回の学習推定時間は 45 分間）。 第 1 回　『ハバード経済学Ⅱ』159－178 頁。 第 2 回　『ハバード経済学Ⅱ』192－197 頁。 第 3 回　『ハバード経済学Ⅱ』197－201 頁。 第 4 回　『ハバード経済学Ⅱ』7－12 頁。 第 5 回　『ハバード経済学Ⅱ』167－169 頁。 第 6 回　『ハバード経済学Ⅱ』201－204 頁。 第 7 回　『ハバード経済学Ⅰ』77―82 頁。 第 8 回　『ハバード経済学Ⅰ』67－76 頁。 第 9 回　『ハバード経済学Ⅰ』96－107 頁。 第 10 回　『ハバード経済学Ⅰ』82－89 頁。 第 11 回　『ハバード経済学Ⅰ』132－149 頁。 第 12 回　『ハバード経済学Ⅰ』281－282 頁。 第 13 回　『ハバード経済学Ⅰ』149－151 頁。 第 14 回　『ハバード経済学Ⅲ』51－77 頁。 第 15 回　『ハバード経済学Ⅲ』189－235 頁。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

経済学は論理的な体系になっているので、階段を一段、一段あがっていくようにして理解する必要があります。そのためには、当然のことですが、授業には全て出席しなければなりません。

授業スケジュール

1　限界費用
2　完全競争市場
3　産出量の決定
4　価格機構
5　限界費用曲線と平均費用曲線
6　損益分岐点
7　供給曲線
8　需要曲線

9　消費者余剰と生産者余剰
10　均衡点
11　外部性
12　特許権・著作権
13　公共財
14　GDP の定義と意義
15　 GDP の決定

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1000103
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	渡辺　恵一	旧科目名称	
授業概要	人びとが社会で生きていくためには、日々の生活に必要な財とサービスが充足されなければならないし、また財とサービスを購入するためには貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣が循環する経済システムの仕組みを学ぶ学問であり、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」、そして「政府」である。 「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者に楽しく学んでもらうことを課題としている。		
教材（教科書）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編］・［マクロ編］』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕 授業時間外の学習（予習・復習）において必要であるばかりではなく、授業でも使用する場合がある。		
教材（参考資料）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教育方法	1. 講義資料とパワーポイントを利用しながら、講義形式で授業を行う。 2. 毎回の授業開始時に講義資料を配布する。講義資料は、当該授業の 1 週間前に「京学なび」の講義資料としてアップしておくので、教科書とともに目を通してから授業に臨むこと。 3. 毎回の講義の最後に「確認問題」を出します。受講生には、自宅学習（復習）で回答を準備し、次回の講義の初めに挙手をもって自主的に発表することを求める。		
評価方法	平常点（30%）受講態度等＋中間レポート試験（30 %）＋学期末レポート試験（40%）		
到達目標	1. 経済学の基本的用語や簡単な理論を学び、現代経済の動きが理解できるようになる。 2. 現実の経済の動きを説明できるレベルにまで経済学の知識を修得することができる。 3. 公務員試験や各種資格試験で出題される経済問題が、ある程度解けるレベルにまで引き上げる。		
授業時間外学習	講義の第 1 ～第 6 回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第 7 回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席することを求める。 第 1 回目　教科書[ミクロ]15 - 31 頁 第 2 回目　教科書[ミクロ]42 - 61 頁、73－86 頁 第 3 回目　教科書[ミクロ]87 - 116 頁 第 4 回目　教科書[ミクロ]135-161 頁 第 5 回目　教科書[ミクロ]172-193 頁 第 6 回目　教科書[ミクロ]194-225 頁 第 7 回目　教科書[マクロ]13-25 頁 第 8 回目　教科書[マクロ]26-36 頁 第 9 回目　教科書[マクロ]37-61 頁 第 10 回目　教科書[マクロ]78 - 87 頁 第 11 回目　教科書[マクロ]99 - 122 頁 第 12 回目　教科書[マクロ]136 - 167 頁 第 13 回目　教科書[マクロ]62 - 77 頁 第 14 回目　教科書[マクロ]185 - 212 頁 第 15 回目　教科書[マクロ]213 - 230 頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1)　「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって異なる場合がある。それゆえ別クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講してください。 (2)日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。			
授業スケジュール			

1. 経済学とは何か――ミクロとマクロ
2. 財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
3. 労働市場と資本市場
4. 完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
5. 負の外部性と正の外部性
6. 公共財、貧困と福祉、格差問題
7. マクロ経済と GDP
8. 経済成長
9. 失業率――インフレとデフレ
10. 総需要と総供給（国民所得の決定）
11. 財政政策――景気対策と赤字国債の累積
12. 金融と金融政策
13. 国際収支と貿易
14. 自由貿易と保護貿易
15. 国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1000105
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	道和　孝治郎	旧科目名称	
授業概要	人びとが社会で生きていくためには、日々の生活に必要な財とサービスが充足されなければならないし、また財とサービスを購入するためには貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣が循環する経済システムの仕組みを学ぶ学問であり、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」、そして「政府」である。 「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者に楽しく学んでもらうことを課題としている。		
教材（教科書）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編］・［マクロ編］』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕 授業時間外の学習（予習・復習）において必要であるばかりではなく、授業でも使用する場合がある。		
教材（参考資料）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教育方法	1. 講義資料とパワーポイントを利用しながら、講義形式で授業を行う。 2. 毎回の授業開始時に講義資料を配布する。講義資料は、当該授業の 1 週間前に「京学なび」の講義資料としてアップしておくので、教科書とともに目を通してから授業に臨むこと。 3. 毎回の講義の最後に「確認問題」を出します。受講生には、自宅学習（復習）で回答を準備し、次回の講義の初めに挙手をもって自主的に発表することを求める。		
評価方法	平常点（30%）受講態度等＋中間レポート試験（30 %）＋学期末レポート試験（40%）		
到達目標	1. 経済学の基本的用語や簡単な理論を学び、現代経済の動きが理解できるようになる。 2. 現実の経済の動きを説明できるレベルにまで経済学の知識を修得することができる。 3. 公務員試験や各種資格試験で出題される経済問題が、ある程度解けるレベルにまで引き上げる。		
授業時間外学習	講義の第 1 ～第 6 回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第 7 回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席することを求める。 第 1 回目　教科書[ミクロ]15 - 31 頁 第 2 回目　教科書[ミクロ]42 - 61 頁、73－86 頁 第 3 回目　教科書[ミクロ]87 - 116 頁 第 4 回目　教科書[ミクロ]135-161 頁 第 5 回目　教科書[ミクロ]172-193 頁 第 6 回目　教科書[ミクロ]194-225 頁 第 7 回目　教科書[マクロ]13-25 頁 第 8 回目　教科書[マクロ]26-36 頁 第 9 回目　教科書[マクロ]37-61 頁 第 10 回目　教科書[マクロ]78 - 87 頁 第 11 回目　教科書[マクロ]99 - 122 頁 第 12 回目　教科書[マクロ]136 - 167 頁 第 13 回目　教科書[マクロ]62 - 77 頁 第 14 回目　教科書[マクロ]185 - 212 頁 第 15 回目　教科書[マクロ]213 - 230 頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1)　「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって異なる場合がある。それゆえ別クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講してください。 (2)日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。			
授業スケジュール			

1. 経済学とは何か――ミクロとマクロ
2. 財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
3. 労働市場と資本市場
4. 完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
5. 負の外部性と正の外部性
6. 公共財、貧困と福祉、格差問題
7. マクロ経済と GDP
8. 経済成長
9. 失業率――インフレとデフレ
10. 総需要と総供給（国民所得の決定）
11. 財政政策――景気対策と赤字国債の累積
12. 金融と金融政策
13. 国際収支と貿易
14. 自由貿易と保護貿易
15. 国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1000106
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	大野　彰	旧科目名称	
授業概要	良き社会人となるためには、経済学の知識があった方がよい。また経済学は公務員試験などでもよく出題される分野です。そこで、この科目では、経済学の基本的な考え方を解説します。具体的には、企業はどのようにして産出量（生産量）を決めているのか、政府はなぜ税金をとるのか、GDP とは何か、といった問題を取り上げます。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布します。		
教材（参考資料）	ハバード・オブライエン（2014）『ハバード経済学Ⅰ』日本経済新聞出版社。 ハバード・オブライエン（2014）『ハバード経済学Ⅱ』日本経済新聞出版社。 ハバード・オブライエン（2014）『ハバード経済学Ⅲ』日本経済新聞出版社。		
教育方法	講義法で授業を進めます。		
評価方法	定期試験（77%）と授業外レポート（23%）の合計（100%）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
授業時間外学習	各回の授業内容に該当する参考文献のページを読んでおくこと（各回の学習推定時間は 45 分間）。 第 1 回　『ハバード経済学Ⅱ』159－178 頁。 第 2 回　『ハバード経済学Ⅱ』192－197 頁。 第 3 回　『ハバード経済学Ⅱ』197－201 頁。 第 4 回　『ハバード経済学Ⅱ』7－12 頁。 第 5 回　『ハバード経済学Ⅱ』167－169 頁。 第 6 回　『ハバード経済学Ⅱ』201－204 頁。 第 7 回　『ハバード経済学Ⅰ』77ー82 頁。 第 8 回　『ハバード経済学Ⅰ』67－76 頁。 第 9 回　『ハバード経済学Ⅰ』96－107 頁。 第 10 回　『ハバード経済学Ⅰ』82－89 頁。 第 11 回　『ハバード経済学Ⅰ』132－149 頁。 第 12 回　『ハバード経済学Ⅰ』281－282 頁。 第 13 回　『ハバード経済学Ⅰ』149－151 頁。 第 14 回　『ハバード経済学Ⅲ』51－77 頁。 第 15 回　『ハバード経済学Ⅲ』189－235 頁。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

経済学は論理的な体系になっているので、階段を一段、一段あがっていくようにして理解する必要があります。そのためには、当然のことですが、授業には全て出席しなければなりません。

授業スケジュール

1　限界費用
2　完全競争市場
3　産出量の決定
4　価格機構
5　限界費用曲線と平均費用曲線
6　損益分岐点
7　供給曲線
8　需要曲線
9　消費者余剰と生産者余剰

10　均衡点
11　外部性
12　特許権・著作権
13　公共財
14　GDP の定義と意義
15　 GDP の決定

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1000107
科目名	経済学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	人びとが社会で生きていくためには、日々の生活に必要な財とサービスが充足されなければななならないし、また財とサービスを購入するための貨幣が必要である。経済学は、こうした財・サービス・貨幣を循環させる経済システムの仕組みを学ぶ学問であるが、その経済システムを実際に動かしているのは、「消費者」と「企業」、そして「政府」である。「経済学入門」では、「消費者」「企業」「政府」のそれぞれの観点からみて経済システムがどのように動くのかを、初心者にわかるように講義する。		
教材（教科書）	ティモシー・テイラー（高橋璃子訳・池上彰監訳）『経済学入門 ［ミクロ編］・［マクロ編］』（かんき出版）2013 年〔2 分冊、各 1,500 円〕 ＊担当者が異なる別クラスの授業では、教科書も異なる場合があるので注意してください。		
教材（参考資料）	小塩隆志『高校生のための経済学入門』（ちくま新書）		
教育方法	毎回授業資料を配布する。		
評価方法	平常点（３０％）受講態度等＋中間レポート試験（３０％）＋学期末レポート試験（４０％）		
到達目標	経済学は、われわれの日々の生活を支えている経済を扱う学問であるから、経済学を学ぶことの重要性についてあらためて指摘するまでもない。本講義の目標は、経済学の基礎をしっかり学習すれば、ただ「経済の動き」がわかるだけではなく、「世の中の仕組み」それ自体が見えてくるというレベルにまで、受講生を導くことにある。		
授業時間外学習	講義の第１～第６回は教科書（テキスト）の『経済学入門[ミクロ編]』に対応し、第７回以降は『経済学入門[マクロ編]』に対応している。受講生は、事前に教科書（テキスト）の当該部分を必ず予習してから、授業に出席すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

(1)「経済学入門」の実際のシラバス内容については、担当者によって異なる場合がある。それゆえ別クラスの受講生は、各担当教員が初回の講義で提示するシラバスに従って受講してください。
(2) 日頃から新分野ニュースを見て、日本や世界の経済情報に関心をもつように心がけること。

授業スケジュール

１．経済学とは何か――ミクロとマクロ
２．財市場（需要と供給、価格の決定、価格の弾力性）
３．労働市場と資本市場
４．完全競争と独占（独占禁止法と規制緩和）
５．負の外部性と正の外部性
６．公共財、貧困と福祉、格差問題
７．マクロ経済と GDP
８．経済成長
９．失業率――インフレとデフレ
１０．総需要と総供給（国民所得の決定）
１１．財政政策――景気対策と赤字国債の累積
１２．金融と金融政策
１３．国際収支と貿易
１４．自由貿易と保護貿易
１５．国際金融と為替相場

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1000108
科目名	経済学入門 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
授業概要	この授業は、「グローバルクラス」および「航空観光プログラム」の特別授業です 本講義では経済学の基本的な考え方を説明します。 経済学については、多くの人が「お金に関する学問」だと誤解をしていますが、経済学の目的は、「社会全体にとっての幸せの大きさ」から「その幸せの実現のために必要とされる費用」をひいた、ネットの幸せの部分を最大化することにあります。ここでいう「幸せ」は、金銭的なものだけでなく、愛情や苦痛といった非金銭的なものも含まれます。 この点を理解するために、この講義では、経済学の役割、市場メカニズムの役割、その限界と政策の必要性をわかりやすく説明します。		
教材（教科書）	伊藤元重『ミクロ経済学』		
教材（参考資料）	使用しません。		
教育方法	前もって担当者が指示した教科書の所定の箇所の要約を学生は授業で発表し、それに基づいて全員で議論し、必要に応じて担当教員がコメントします。		
評価方法	学期末試験 20%と授業内演習の準備の程度及び参加の態度 80%。必要に応じて小テストを実施します。		
到達目標	経済に対する興味を持つようになること。2 年生時にミクロ経済学をきちんと学びたいと思うようになること。		
授業時間外学習	毎回のグループ発表の準備（担当箇所の説明の準備、レジュメの用意）。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この授業はグローバルクラス生、航空観光プログラム生以外は履修できません。

少人数の講義なので、受講者の興味に沿って内容を適宜変更します。どんな内容の講義をどのようにすすめるかについて、積極的に希望を述べてください。それを反映しながらすすめます。

授業スケジュール

1．経済学の目的～「効率化」、「資源配分の適正化」、「総余剰の最大化」とは？
2．経済学における「効率」とは？
3．効用、消費者余剰、生産者余剰の概念
4．需要曲線と消費者余剰
5．供給曲線と生産者余剰
6．「限界」と「平均」の概念～限界費用、平均費用、総費用～
7．社会の幸せが最大化される条件
8．市場均衡と社会の幸せの最大化
9．完全競争市場における総余剰の最大化
10．市場メカニズムの限界～独占と市場の失敗～
11．計画経済と市場経済のどちらを選ぶべきか
12．政策の間違いの検証～安易な課税、価格規制～
13．政策の間違いの検証～自由貿易への介入～
14．弾力性の概念～価格弾力性、所得弾力性～
15．　独占均衡

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	JC1000109
科目名	経済学入門 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Economics		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
授業概要	「経済学は，日常生活における人々を研究するものである.」これは，19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが，1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である．それから 120 年以上が過ぎ，その間に経済学は格段の進歩を果たしたが，今でもこの経済学の定義は変わらない． ハーバード大学のマンキュー教授は，21 世紀に生きる学生諸君が，なぜ経済学を学ぶべきなのか，その 3 つの理由を挙げている． （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから． （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから． （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから． したがって，経済学の諸原理というものは，日常生活のさまざまな局面に応用できるものであり，とても役立つものである． 本授業の目的は，経済学の諸原理を修得することで，その考え方を使えば現実の世界の多くを説明することができるということを理解することである．また、その考え方を日常生活のさまざまな局面に活かせるようになることである．前半はミクロ経済理論として「消費者」と「企業」の行動に，また後半はマクロ経済理論として「政府」の行動に焦点をあてる．		
教材（教科書）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳）『マンキュー入門経済学』（第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年） 3,200 円 （英語名： N.Gregory Mankiw: Principles of Economics, Sixth Edition, 2012） この教科書は世界的ベストセラーであり，世界の何十もの国や何百もの大学の経済学の授業で用いられている．世界で最も読まれている経済学テキストとも呼ばれ，ハーバード大学，シカゴ大学などの一流校でも使用されている．高校生でも十分読みこなせると言われるほどの解り易い記述ながら，内容の水準は非常に高い教科書である．		
教材（参考資料）	（1） N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳）『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） （2） N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳）『マンキュー経済学Ⅱ マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年） これらの参考書は，中級レベルの経済学の授業で使用されている教科書である．今回使用する初級レベルの教科書『マンキュー入門経済学』は，これら 2 冊の中級レベルの教科書の基本的な章を集めて構成されている．（参考書も図書館に各 3 冊を設置していますので，閲覧できます.）		
教育方法	1. 毎回の授業は講義形式で，書き込み式の授業ノートを配布して，教科書の内容をできるだけわかりやすく解説していく． 2. 授業内容を深く理解するために，教科書『マンキュー入門経済学』を出版している東洋経済新報社が提供しているイーラーニングサービス（各学生がネットにログインして問題を解いてネットで教員に宿題を提出するシステム）を利用する． 3. 学んだ経済学の諸原理を応用して，我々を取り巻く国内問題や国際問題についても考察していく．そのために、新聞や雑誌等の資料も配布する．		
評価方法	1. 宿題（演習問題）の提出（30%） 2. 中間試験（take home）（30%）		

	3. 期末試験（40%）
到達目標	1. 自分の暮らしている経済や社会がなぜそうなっているのかを理解できるようになる. 2. 現実の経済や社会へもっと積極的に参加できるようになる. 3. 政府の経済政策（たとえばアベノミクス）の可能性と限界が理解できるようになる. 4. 人生において A か B かの選択をする際に合理的（ベスト）な選択ができるようになる. 5. 論理的に物事を考える（根拠に基づいて考える）ことができるようになる.
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回　教科書 4-28，64-76 頁（推定時間 45 分） 第 2 回　教科書 104-121 頁（推定時間 30 分） 第 3 回　教科書 121-132 頁（推定時間 30 分） 第 4 回　教科書 140-153 頁（推定時間 30 分） 第 5 回　教科書 153-165 頁（推定時間 30 分） 第 6 回　教科書 184-197 頁（推定時間 30 分） 第 7 回　教科書 197-205 頁（推定時間 30 分） 第 8 回　教科書 230-246 頁（推定時間 30 分） 第 9 回　教科書 262-286 頁（推定時間 45 分） 第 10 回　教科書 294-315 頁（推定時間 45 分） 第 11 回　教科書 322-336 頁（推定時間 30 分） 第 12 回　教科書 336-352 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　教科書 378-392 頁（推定時間 30 分） 第 14 回　教科書 392-407 頁（推定時間 30 分） 第 15 回　教科書 414-435 頁（推定時間 45 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 経済学では，はじめて遭遇する概念や用語を理解するのは難しい．したがって、講義の前に教科書を読んで準備し，
　　授業内容を理解しやすくすることが重要である.
2. 経済学は数学と同じで，問題を解くことで深く理解することができるので，イーラーニングサービスを使って，
　　必ず問題を解いてネットから提出すること.
3. 毎回の授業で配布する書き込み式の授業ノート（自筆のもの）は、期末試験での持ち込みを許可するので，
　　毎回の授業に出席して授業ノートに書き込んで整理すること.

授業スケジュール

1. 経済学の十大原理・グラフの用法　＜教科書第 1 章・第 2 章付論＞

＜ミクロ経済学＞
2. 市場と競争，需要と供給　＜教科書第 4 章＞
3. 市場における需要と供給の作用　＜　〃　＞
4. 政府の政策（価格規制）　＜教科書第 5 章＞
5. 政府の政策（税金）　＜　〃　＞
6. 消費者余剰と生産者余剰　＜教科書第 6 章＞
7. 市場の効率性　＜　〃　＞
8. 外部性と市場の非効率性　＜教科書第 7 章＞

＜マクロ経済学＞
9. 国民所得の測定（国内総生産： GDP）　＜教科書第 8 章＞
10. 生計費の測定（消費者物価指数： CPI）　＜教科書第 9 章＞
11. 経済成長と生産性　＜教科書第 10 章＞

12. 経済成長と公共政策	＜　〃　＞
13. 貯蓄，投資と金融システム	＜教科書第 11 章＞
14. 貸付資金市場	＜　〃　＞
15. 貨幣システム・貨幣の需給	＜教科書第 11 章付論＞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	JC1000201
科目名	経営学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
授業概要	This course is to set a goal for students to learn basic knowledge of business strategy. No test required, but all students are required to contribute to all sessions and present their own business plan at their self-selected topics. Using case method (Harvard Business School). Expected to achieve fundamental skill and knowledge of management and business strategy, with logical thinking and presentation. 当科目は 15 回のセッションを通じて学生が経営戦略の基礎を学ぶことを目標とする。試験は設定しないが、各位が毎講義に貢献し、自ら選択した企業、団体に関しての事業計画を策定、講義終了時にプレゼンテーションを行うものとする。ケースメソッド（HBS）を用いる。講義を通じ、受講生は、基礎的な経営、戦略策定の基礎を学び、論理的思考、プレゼンテーション能力を養うことができる。		
教材（教科書）	Handout and Case should be distributed at the each session, upon Students' best interest (Past examples, Nike, Starbucks, Apple, Google, NBA, MLB, Ritz Carlton, Seven Eleven, Yoshinoya etc.) 受講生の興味ある産業、分野を考慮し、毎回提示する。		
教材（参考資料）	Competitive Strategy as a Narrative Story/ストーリーとしての競争戦略（楠木建、東洋経済新報社）ISBN978-4-492-55270-6, and others should be suggested at the each session.		
教育方法	Never to excuse your life, Never to be late, Never to cheat/short cut.　All students should be communicated by faculty, one by one. 講義法と学生によるプレゼンテーションを中心に授業は行われる。言い訳を言わない、今からでも遅くない、ごまかさない。 全ての受講生は教官により認識されコミュニケーションが取られる。		
評価方法	50% Class contribution, 35% Last presentation, 15% Quiz at the each session		
到達目標	学生は経営、戦略策定を説明できるようになるとともに、コミュニケーション、論理的思考、マナー、基礎的語学、会計知識を身につけることができる。		
授業時間外学習	Quick quiz should be distributed at the each session and Students should submit before the next session. Expected to spend 20-30 minutes each and send by e-mail. 毎回次回の Quiz が提示されるので、学生は次回講義の期限までにメールで提出することとなる（想定毎回 20-30 分活用）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
Be Humble, Be Hungry, Be Innovative			
授業スケジュール			
1．Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting オリエンテーション、事業計画の説明、目標設定 2．On Vision / Case Study of visionary company and setting attendant's own vision ビジョンに関して、ビジョナリーカンパニーのケース 3．On Strategy /Definition of Strategy and Tactics 戦略に関して、戦略、戦術に関するケース 4．On Competition /Case Study in competitive strategy 競争に関して、競争戦略のケース 5．On Ethics / Case Study on how ethics work in strategy 倫理に関して、倫理の戦略への生かし方 6. On Financials 1 / Fundamental of financials 1 財務、会計に関しての基礎 1 7．Midterm Review, Presentation practice of business plan 中間レビュー、事業計画の中間プレゼンテーション 8．On Financials 2 / Fundamental of financials 2 財務、会計に関しての基礎 2			

9．On Service and Hospitality / Best practice at service and hospitality サービス、ホスピタリティでのケース

１０．On Innovation / Best practice at innovation イノベーションのベストプラクティス

１１．On Entrepreneur / Case of entrepreneurship 起業に関するケース

１２．On Sports Management / Case at sports management スポーツマネジメントに関するケース

１３．Case, Most requested company 受講者から一番リクエストあった企業

１４．Presentation of Business Plan 1 事業計画発表 1

１５．Presentation of Business Plan 2 事業計画発表 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JC1000202
科目名	経営学入門	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
授業概要	This course is to set a goal for students to learn basic knowledge of business strategy. No test required, but all students are required to contribute to all sessions and present their own business plan at their self-selected topics. Using case method (Harvard Business School). Expected to achieve fundamental skill and knowledge of management and business strategy, with logical thinking and presentation. 当科目は 15 回のセッションを通じて学生が経営戦略の基礎を学ぶことを目標とする。試験は設定しないが、各位が毎講義に貢献し、自ら選択した企業、団体に関しての事業計画を策定、講義終了時にプレゼンテーションを行うものとする。ケースメソッド（HBS）を用いる。講義を通じ、受講生は、基礎的な経営、戦略策定の基礎を学び、論理的思考、プレゼンテーション能力を養うことができる。		
教材（教科書）	Handout and Case should be distributed at the each session, upon Students' best interest (Past examples, Nike, Starbucks, Apple, Google, NBA, MLB, Ritz Carlton, Seven Eleven, Yoshinoya etc.) 受講生の興味ある産業、分野を考慮し、毎回提示する。		
教材（参考資料）	Competitive Strategy as a Narrative Story/ストーリーとしての競争戦略（楠木建、東洋経済新報社）ISBN978-4-492-55270-6, and others should be suggested at the each session.		
教育方法	Never to excuse your life, Never to be late, Never to cheat/short cut.　All students should be communicated by faculty, one by one. 講義法と学生によるプレゼンテーションを中心に授業は行われる。言い訳を言わない、今からでも遅くない、ごまかさない。 全ての受講生は教官により認識されコミュニケーションが取られる。		
評価方法	50% Class contribution, 35% Last presentation, 15% Quiz at the each session		
到達目標	学生は経営、戦略策定を説明できるようになるとともに、コミュニケーション、論理的思考、マナー、基礎的語学、会計知識を身につけることができる。		
授業時間外学習	Quick quiz should be distributed at the each session and Students should submit before the next session. Expected to spend 20-30 minutes each and send by e-mail. 毎回次回の Quiz が提示されるので、学生は次回講義の期限までにメールで提出することとなる（想定毎回 20-30 分活用）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
Be Humble, Be Hungry, Be Innovative			
授業スケジュール			
1．Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting オリエンテーション、事業計画の説明、目標設定 2．On Vision / Case Study of visionary company and setting attendant's own vision ビジョンに関して、ビジョナリーカンパニーのケース 3．On Strategy /Definition of Strategy and Tactics 戦略に関して、戦略、戦術に関するケース 4．On Competition /Case Study in competitive strategy 競争に関して、競争戦略のケース 5．On Ethics / Case Study on how ethics work in strategy 倫理に関して、倫理の戦略への生かし方 6. On Financials 1 / Fundamental of financials 1 財務、会計に関しての基礎 1 7．Midterm Review, Presentation practice of business plan 中間レビュー、事業計画の中間プレゼンテーション 8．On Financials 2 / Fundamental of financials 2 財務、会計に関しての基礎 2			

9．On Service and Hospitality / Best practice at service and hospitality サービス、ホスピタリティでのケース

１０．On Innovation / Best practice at innovation イノベーションのベストプラクティス

１１．On Entrepreneur / Case of entrepreneurship 起業に関するケース

１２．On Sports Management / Case at sports management スポーツマネジメントに関するケース

１３．Case, Most requested company 受講者から一番リクエストあった企業

１４．Presentation of Business Plan 1 事業計画発表 1

１５．Presentation of Business Plan 2 事業計画発表 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JC1000204
科目名	経営学入門 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management		
担当者名	中条　潮	旧科目名称	
授業概要	この授業は、「グローバルクラス」および「航空観光プログラム」のための特別授業で、集中講義です。 　経営学が対象とする産業分野は多岐にわたりますが、産業分野が異なっても、経営学の学び方は同じであり、そこには共通の基本として学ぶべき切り口があります。たとえば、当該産業の市場構造、ボーダレス市場、競争の形態、政府の支援や規制の現状、雇用戦略、社会的責任といった要素は、業種の違いを超えて経営戦略に影響する重要な要素です。 　この講義では、そのような経営学を学ぶ際に基本となる要因を、航空観光産業を例にあげながら説明することによって、抽象的な説明によるあいまいさと理解困難さを避けながら、初心者に経営学の基本的な考え方を提供することを目的とします。		
教材（教科書）	この講義用に作成した教材を授業の際に配布します。		
教材（参考資料）	授業の内容に応じて紹介します。		
教育方法	毎日、次の日の講義資料を配布し、次の日には 1 日の最後に毎日の講義内容について小テストを行い、最後にまとめのテストを実施して理解が定着するよう努めます。		
評価方法	筆記小テスト 3 回とまとめのテストの合計で 100%評価します。		
到達目標	①経営学の基本的切り口を航空輸送市場の分析をとおして理解できるようになること。 ②経営の基礎指標を用いて会社の経営状況を概略把握できるようになること。		
授業時間外学習	毎日、授業の終了時に次の日の資料（これをもとに次の日の最後に試験をします）を配布するので、それを読んでくること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この授業は「グローバルクラス」および「航空観光プログラム」のための特別講義ですので、同クラスおよび同プログラム参加者のみが履修可能です。「航空観光プログラム」の選考方法や選考日程、履修条件については、すでに説明会で示したとおりです。

ただし、人数に余裕がある場合は、一般の学生の課外授業としての受講を認めます（夏休み前にお知らせします）。その場合は必ず教育修学センターに届けて許可を得てください。

授業を休む場合は必ず出席する友人を通じて、あるいは前もって連絡してください。

授業スケジュール

夏休み中の 4 日間の集中講義です。以下を毎日 4 コマないし 3 コマずつ講義します。

1）本講義の視点：航空観光産業の事例から経営戦略の一般論をみることの有用性
2）日本経済の特質とサービス産業を代表する観光ビジネスの歴史と現状
3）経営学の基本 1）主要経営指標を用いて航空会社の経営を分析する
4）経営学の基本 2）市場構造の把握
　（1）幼稚産業保護の時代　（2）規制緩和と新規参入～競争の時代～
5）経営学の基本 3）市場競争の実態
　（1）大手 vs 新規参入の競争実態、シェア比較
6）　（2）連携と競争～アライアンスか独立か～既存大手と新規参入で異なる戦略
7）　（3）既存大手の経営戦略の典型例：日本航空、全日空の戦略
8）　（4）新規参入者の経営戦略の典型例：LCC の経営戦略
9）経営学の基本 4）ボーダレス市場～国際ビジネスとしての特徴～
10）経営学の基本 5）産業間競争と経営戦略
　鉄道と既存大手航空会社の競争　LCC とバスの競争
11）経営学の基本 6）雇用戦略と企業の発展

エアラインスタッフとの１問１答にみるサービス産業における
ホスピタリティと従業員満足度の重要性、ワークライフバランス
12）経営学の基本７）下部構造との連携～空港の発展とエアラインの発展関係～
13）経営学の基本８）企業の社会的責任
～ステークホルダー、コンプライアンス、社会的責任を考える～
14）経営学の基本９）政府政策との連携
～VISIT Japan キャンペーンにおける企業と自治体の役割分担～
15）全体の総括　ビデオによる感想発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1000301
科目名	国際関係論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	玉井　良尚	旧科目名称	
授業概要	現在、経済や人の流れのグローバル化がますます進んでいる。経済の相互依存が進んだ現在、世界規模の大規模な戦争の脅威は薄れたが、一方で地球温暖化などの地球規模の問題は、一国及び数か国の単位での解決が困難となってきている。またその行為主体（アクター）も国家のみならず、国際機構や NGO など様々なアクターが活動している。本講義の目的は、国際政治のアリーナにおける様々なアクター及びそれらのアクターによる政策決定に関して、その決定がどのようになされ、そしてどのように実施されるのかという点に関して学ぶことである。		
教材（教科書）	教科書は以下のとおりである。 ・庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆（編）『新グローバル公共政策［改訂版］』 晃洋書房、2,484 円		
教材（参考資料）	参考書は以下のとおりである。 ・宮脇昇・玉井雅隆（編）『コンプライアンス論から規範競合論へ―ウソの社会的発生から消滅まで』晃洋書 房、2,808 円 ・玉井雅隆『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』 国際書院、6,048 円 ・吉川元『国際平和とは何か - 人間の安全を脅かす平和秩序の逆説 』中公叢書、2592 円 この他、授業にて適宜、参考文献を紹介する。		
教育方法	毎回授業開始時に授業に関するレジュメを配布する。		
評価方法	・定期テスト（60%） ・授業中の小テスト（40%）		
到達目標	国際関係や国際公共政策の決定には、どのようなアクターがどのような役割を果たしているのか、ということを理解することができる。また、国際社会における様々な問題を解決するためには何が必要かを、総合的に考察することができる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書該当ページ）を指定するので、予習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業内容に関する要望
・新聞・ニュースなどで、世界情勢に関して情報を常に集めること。
・講義終了後の質問などは歓迎する。常に「何でだろう」と考えながら、講義を受けてほしい。

授業全般に関する要望
・当然のことながら、授業中の私語は厳禁。私語に関しては厳しく対応する。

授業スケジュール

第 1 回　イントロダクション「国際関係論とは？」
key word：国際政治理論、グローバル公共政策、公共財、公共性

第 2 回　国際政治のアクター 1
Key word:国際機構、国際連合

第 3 回　国際政治のアクター 2
Key word:地域的国際機構、OSCE（欧州安全保障協力機構）、EU

第 4 回　国際政治のアクター 3
Key word：世界銀行、IMF、WTO

第 5 回　国際政治のアクター 4
Key word：NGO/NPO、CSO（市民社会組織）

第 6 回　国際政治のアクター 5
Key word：企業、企業の社会的責任論

第 7 回　国際政治と問題領域 1
Key word:安全保障概念の拡大、人間の安全保障

第 8 回　国際政治と問題領域 2
Key word：軍備管理、軍備縮小、NPT 体制

第 9 回　国際政治と問題領域 3
Key word：民主化、人権、選挙監視

第 10 回　国際政治と問題領域 4
Key word：マイノリティ、OSCE 少数民族高等弁務官

第 11 回　国際政治と問題領域 5
Key word：貧困と格差、開発

第 12 回　国際政治と問題領域 6
Key word：環境問題 1（概論）

第 13 回　国際政治と問題領域 7
Key word：環境問題 2（地球温暖化)、新しい問題領域　、極地、宇宙、深海底

第 14 回　国際政治と平和-テロと平和
Key word：IS（イスラム国)、アルカイダ、低強度紛争

第 15 回　国際政治と平和-欧州の事例をもとに
Key word：「民主的平和論」、「民主的安全保障論（Council of Europe)」人権、民主主義、
平和構築、安全保障

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1000302
科目名	国際関係論入門	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	玉井　良尚	旧科目名称	
授業概要	現在、経済や人の流れのグローバル化がますます進んでいる。経済の相互依存が進んだ現在、世界規模の大規模な戦争の脅威は薄れたが、一方で地球温暖化などの地球規模の問題は、一国及び数か国の単位での解決が困難となってきている。またその行為主体（アクター）も国家のみならず、国際機構や NGO など様々なアクターが活動している。本講義の目的は、国際政治のアリーナにおける様々なアクター及びそれらのアクターによる政策決定に関して、その決定がどのようになされ、そしてどのように実施されるのかという点に関して学ぶことである。		
教材（教科書）	教科書は以下のとおりである。 ・庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆（編）『新グローバル公共政策［改訂版］』 晃洋書房、2,484 円		
教材（参考資料）	参考書は以下のとおりである。 ・宮脇昇・玉井雅隆（編）『コンプライアンス論から規範競合論へ―ウソの社会的発生から消滅まで』晃洋書 房、2,808 円 ・玉井雅隆『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』 国際書院、6,048 円 ・吉川元『国際平和とは何か - 人間の安全を脅かす平和秩序の逆説 』中公叢書、2592 円 この他、授業にて適宜、参考文献を紹介する。		
教育方法	毎回授業開始時に授業に関するレジュメを配布する。		
評価方法	・定期テスト（60%） ・授業中の小テスト（40%）		
到達目標	国際関係や国際公共政策の決定には、どのようなアクターがどのような役割を果たしているのか、ということを理解することができる。また、国際社会における様々な問題を解決するためには何が必要かを、総合的に考察することができる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（教科書該当ページ）を指定するので、予習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業内容に関する要望
・新聞・ニュースなどで、世界情勢に関して情報を常に集めること。
・講義終了後の質問などは歓迎する。常に「何でだろう」と考えながら、講義を受けてほしい。

授業全般に関する要望
・当然のことながら、授業中の私語は厳禁。私語に関しては厳しく対応する。

授業スケジュール

第 1 回　イントロダクション「国際関係論とは？」
key word：国際政治理論、グローバル公共政策、公共財、公共性

第 2 回　国際政治のアクター 1
Key word:国際機構、国際連合

第 3 回　国際政治のアクター 2
Key word:地域的国際機構、OSCE（欧州安全保障協力機構）、EU

第 4 回　国際政治のアクター 3
Key word：世界銀行、IMF、WTO

第 5 回　国際政治のアクター 4
Key word：NGO/NPO、CSO（市民社会組織）

第 6 回　国際政治のアクター 5
Key word：企業、企業の社会的責任論

第 7 回　国際政治と問題領域 1
Key word:安全保障概念の拡大、人間の安全保障

第 8 回　国際政治と問題領域 2
Key word：軍備管理、軍備縮小、NPT 体制

第 9 回　国際政治と問題領域 3
Key word：民主化、人権、選挙監視

第 10 回　国際政治と問題領域 4
Key word：マイノリティ、OSCE 少数民族高等弁務官

第 11 回　国際政治と問題領域 5
Key word：貧困と格差、開発

第 12 回　国際政治と問題領域 6
Key word：環境問題 1（概論）

第 13 回　国際政治と問題領域 7
Key word：環境問題 2（地球温暖化)、新しい問題領域　、極地、宇宙、深海底

第 14 回　国際政治と平和-テロと平和
Key word：IS（イスラム国)、アルカイダ、低強度紛争

第 15 回　国際政治と平和-欧州の事例をもとに
Key word：「民主的平和論」、「民主的安全保障論（Council of Europe)」人権、民主主義、
平和構築、安全保障

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1000303
科目名	国際関係論入門 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
授業概要	この授業では、グローバル化時代における国際社会について学ぶ。国際社会の特徴、国際関係の理論、国際社会のアクター（国家、国際機構、NGO など）、国際社会の現代的課題（平和、環境、テロなど）について講義しながら、われわれが世界とつながり、地球社会の一員であることを伝えていきたい。この授業では、現代の社会を国際的な視点から捉える力を養うために、受講生が国際社会の特徴やアクターについて知り、世界の現代的課題について理解を深めることを目的とする。		
教材（教科書）	教科書は使用しない。講義レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考資料）	最近出版された主な教科書 滝田 賢治ほか編『国際関係学』（有信堂、2015 年） 中嶋 嶺雄『国際関係論』（中公新書、2013 年） 初瀬 龍平編著『国際関係論入門』（法律文化社、2012 年） 山影 進『国際関係論講義』（東京大学出版会、2012 年） 山田 高敬・大矢根 聡『グローバル社会の国際関係論［新版］』（有斐閣コンパクト、2011 年） ＊その他のものは講義で適宜紹介する。		
教育方法	第 1 回から第 8 回までは、基本的に講義法で行う。第 5 回ではビデオ教材を用いる。第 9 回から第 15 回までは、前半に担当教員が講義を行い、後半に受講生が自ら選んだテーマについてパワーポイントを用いて報告を行い、最後に全員で討論する。報告者は報告テーマについて教員と事前に相談しながら準備を行う。		
評価方法	講義の最後に毎回行う小テスト 40%、2 本のレポート（30%と 20%）、報告（10%）。その他、積極的な授業参加により加点する。詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	1．国際社会の特徴やアクターの役割について具体的に説明できるようになる。 2．現代社会の諸問題について、グローバルな視点から説明できるようになる。 3．選んだテーマについて調査をし、スライドにまとめて報告できるようになる。		
授業時間外学習	事前に配布するシラバス・資料を読んでくること（各回のがくしゅう推定時間は 30 分）。 第 1 回　シラバス 第 2 回　第 2 回のレジュメ・資料 第 3 回　第 3 回のレジュメ・資料 第 4 回　第 4 回のレジュメ・資料 第 5 回　第 5 回のレジュメ・資料 第 6 回　第 6 回のレジュメ・資料 第 7 回　第 7 回のレジュメ・資料 第 8 回　第 8 回のレジュメ・資料 第 9 回　第 9 回のレジュメ・資料 第 10 回　第 10 回のレジュメ・資料 第 11 回　第 11 回のレジュメ・資料 第 12 回　第 12 回のレジュメ・資料 第 13 回　第 13 回のレジュメ・資料 第 14 回　第 14 回のレジュメ・資料 第 15 回　第 15 回のレジュメ・資料		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．毎日ニュースを見る習慣を身につけて、国際社会の時事問題に関心をもってほしい。			

２．間違うことを恐れず、積極的に授業に参加することを求める。
授業スケジュール
１．受講ガイダンス、序論：国際社会はどのような社会か ２．国際関係のとらえ方（１）：リアリズム ３．国際関係のとらえ方（２）：リベラリズムその他 ４．国際社会のアクター（１）：国家 ５．国際社会のアクター（２）：普遍的国際機構（国連の活動に関するＤＶＤ鑑賞も行う） ６．国際社会のアクター（３）：地域的国際機構 ７．国際社会のアクター（４）：個人、エスニック集団 ８．国際社会のアクター（５）：企業、ＮＧＯ ９．国際社会の現代的課題（１）：平和 １０．国際社会の現代的課題（２）：平和 １１．国際社会の現代的課題（３）：貧困と開発 １２．国際社会の現代的課題（４）：地球温暖化 １３．国際社会の現代的課題（５）：生物多様性 １４．国際社会の現代的課題（６）：多文化共生 １５．国際社会の現代的課題（７）：難民、テロ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1000304
科目名	国際関係論入門 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西片　聡哉	旧科目名称	
授業概要	この授業では、グローバル化時代における国際社会について学ぶ。国際社会の特徴、国際関係の理論、国際社会のアクター（国家、国際機構、NGO など）、国際社会の現代的課題（平和、環境、テロなど）について講義しながら、われわれが世界とつながり、地球社会の一員であることを伝えていきたい。この授業では、現代の社会を国際的な視点から捉える力を養うために、受講生が国際社会の特徴やアクターについて知り、世界の現代的課題について理解を深めることを目的とする。		
教材（教科書）	教科書は使用しない。講義レジュメ・資料を毎回配布する。		
教材（参考資料）	最近出版された主な教科書 滝田 賢治ほか編『国際関係学』（有信堂、2015 年） 中嶋 嶺雄『国際関係論』（中公新書、2013 年） 初瀬 龍平編著『国際関係論入門』（法律文化社、2012 年） 山影 進『国際関係論講義』（東京大学出版会、2012 年） 山田 高敬・大矢根 聡『グローバル社会の国際関係論［新版］』（有斐閣コンパクト、2011 年） ＊その他のものは講義で適宜紹介する。		
教育方法	第 1 回から第 8 回までは、基本的に講義法で行う。第 5 回ではビデオ教材を用いる。第 9 回から第 15 回までは、前半に担当教員が講義を行い、後半に受講生が自ら選んだテーマについてパワーポイントを用いて報告を行い、最後に全員で討論する。報告者は報告テーマについて教員と事前に相談しながら準備を行う。		
評価方法	講義の最後に毎回行う小テスト 40%、2 本のレポート（30%と 20%）、報告（10%）。その他、積極的な授業参加により加点する。詳細は初回の受講ガイダンスで説明する。		
到達目標	1．国際社会の特徴やアクターの役割について具体的に説明できるようになる。 2．現代社会の諸問題について、グローバルな視点から説明できるようになる。 3．選んだテーマについて調査をし、スライドにまとめて報告できるようになる。		
授業時間外学習	事前に配布するシラバス・資料を読んでくること（各回のがくしゅう推定時間は 30 分）。 第 1 回　シラバス 第 2 回　第 2 回のレジュメ・資料 第 3 回　第 3 回のレジュメ・資料 第 4 回　第 4 回のレジュメ・資料 第 5 回　第 5 回のレジュメ・資料 第 6 回　第 6 回のレジュメ・資料 第 7 回　第 7 回のレジュメ・資料 第 8 回　第 8 回のレジュメ・資料 第 9 回　第 9 回のレジュメ・資料 第 10 回　第 10 回のレジュメ・資料 第 11 回　第 11 回のレジュメ・資料 第 12 回　第 12 回のレジュメ・資料 第 13 回　第 13 回のレジュメ・資料 第 14 回　第 14 回のレジュメ・資料 第 15 回　第 15 回のレジュメ・資料		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．毎日ニュースを見る習慣を身につけて、国際社会の時事問題に関心をもってほしい。			

２．間違うことを恐れず、積極的に授業に参加することを求める。
授業スケジュール
１．受講ガイダンス、序論：国際社会はどのような社会か ２．国際関係のとらえ方（１）：リアリズム ３．国際関係のとらえ方（２）：リベラリズムその他 ４．国際社会のアクター（１）：国家 ５．国際社会のアクター（２）：普遍的国際機構（国連の活動に関するＤＶＤ鑑賞も行う） ６．国際社会のアクター（３）：地域的国際機構 ７．国際社会のアクター（４）：個人、エスニック集団 ８．国際社会のアクター（５）：企業、ＮＧＯ ９．国際社会の現代的課題（１）：平和 １０．国際社会の現代的課題（２）：平和 １１．国際社会の現代的課題（３）：貧困と開発 １２．国際社会の現代的課題（４）：地球温暖化 １３．国際社会の現代的課題（５）：生物多様性 １４．国際社会の現代的課題（６）：多文化共生 １５．国際社会の現代的課題（７）：難民、テロ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1000401
科目名	知的財産	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	テクノロジーやブランド、デザイン、エンタテインメントなどの「知的財産」を対象に、「知的財産」を「知的財産権」として所有または交換すること、またこれを第三者の侵害から防衛することなどについて、紛争事例なども交えながら、関係法規の基本的な考え方を問題解決のツールとして学ぶこととする。 以上を通して、学生は、知的財産権の所有と利用、またその侵害に対する排除のルールである「知的財産制度」の役割･機能を具体的に把握することができるようにする。 授業の方法としては、できるだけ双方向のやりとりができるよう、授業内課題・レポート等を活用していくこととする。		
教材（教科書）	プリント教材を配布。		
教材（参考資料）	平嶋・宮脇･蘆立『入門知的財産法』(2016 年、有斐閣) 福井健策『18 歳の著作権入門』(2015 年、ちくまプリマー新書)		
教育方法	テーマに関係したビデオ等を積極的に利用するが、基本は、配付資料に基づき、パワーポイントを使った講義形式で進める。		
評価方法	授業内課題　10 回程度実施　記入内容に基づき、授業に積極的に参加していたかどうかを評価する(４０％)。 レポート課題　2 回出題　提出されたレポートの体裁・内容に基づき評価する(６０％)		
到達目標	テクノロジーやブランド、デザイン、エンタテインメントなどの「知的財産」について、「知的財産権」として所有または交換すること、またこれを第三者の侵害から防衛することなどについて、学生は、関係法規の基本的な考え方を習得することができる。		
授業時間外学習	第 1 回目…池井戸潤原作・下町ロケットを見て、知的財産[主として特許権]が、どのような役割を果たしているか考えてみて下さい。(文庫本で出ているほか、動画配信サービスでも提供されている。いずれでもよい。) 第 2 回目…配布プリント第 2 章を読み、重要な点をマークすること。 第 3 回目…配布プリント第 3 章を読み、重要な点をマークすること。 第 4 回目…配布プリント第 4 章を読み、重要な点をマークすること。 第 5 回目…配布プリント第 5 章を読み、重要な点をマークすること。 第 6 回目…配布プリント第 6 章を読み、重要な点をマークすること。 第 7 回目…配布プリント第 7 章を読み、重要な点をマークすること。 第 8 回目…配布プリント第 8 章を読み、重要な点をマークすること。 第 9 回目…配布プリント第 9 章を読み、重要な点をマークすること。 第 10 回目…配布プリント第 10 章を読み、重要な点をマークすること。 第 11 回目…配布プリント第 11 章を読み、重要な点をマークすること。 第 12 回目…配布プリント第 12 章を読み、重要な点をマークすること。 第 13 回目…配布プリント第 13 章を読み、重要な点をマークすること。 第 14 回目…配布プリント第 14 章を読み、重要な点をマークすること。 第 15 回目…配布プリントテキスト第 15 章を読み、重要な点をマークすること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業課題は、授業終了時に簡単な質問を提示するので、これを京学ナビ・課題管理に入力していただく。その記入内容によって講義がしっかり聴けているかを評価するので、授業内容については確実に理解するようにしていただきたい。			

授業スケジュール
1．知的財産と企業経営 「下町ロケット」では、知的財産はどのように取り扱われていたか？ 2．財産に関する基本法・民法の基本 法の役割は何か 財産権の所有・利用・侵害に関する民法ルールは？ 3．知的財産と知的財産法 知的財産権とは何か？ 4．特許法で保護されている「発明」 5．著作権法で保護されている「著作物」 6．権利の主体(1)－発明者等 7．権利の主体(2)－著作者等 8．特許権の侵害と救済 9．著作権の侵害と救済 10.「特許権・発明」の利用 11.「著作権・著作物」の利用 12. 商標と商標権の保護 13. 商標をめぐるいくつかの問題 スイスの高級腕時計「フランク・ミュラー」を連想させる「フランク三浦」の商標登録など 14. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(1) 米国特許訴訟のリスクマネジメント－パテントロールとは？ 15. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(2) ＡＫＢ４８の写真を無許可でポスターに使用してよいか？ －パブリシティ権の問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1000402
科目名	知的財産	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	テクノロジーやブランド、デザイン、エンタテインメントなどの「知的財産」を対象に、「知的財産」を「知的財産権」として所有または交換すること、またこれを第三者の侵害から防衛することなどについて、紛争事例なども交えながら、関係法規の基本的な考え方を問題解決のツールとして学ぶこととする。 以上を通して、学生は、知的財産権の所有と利用、またその侵害に対する排除のルールである「知的財産制度」の役割･機能を具体的に把握することができるようにする。 授業の方法としては、できるだけ双方向のやりとりができるよう、授業内課題・レポート等を活用していくこととする。		
教材（教科書）	プリント教材を配布。		
教材（参考資料）	平嶋・宮脇･蘆立『入門知的財産法』(2016 年、有斐閣) 福井健策『18 歳の著作権入門』(2015 年、ちくまプリマー新書)		
教育方法	テーマに関係したビデオ等を積極的に利用するが、基本は、配付資料に基づき、パワーポイントを使った講義形式で進める。		
評価方法	授業内課題　10 回程度実施　記入内容に基づき、授業に積極的に参加していたかどうかを評価する(４０％)。 レポート課題　2 回出題　提出されたレポートの体裁・内容に基づき評価する(６０％)		
到達目標	テクノロジーやブランド、デザイン、エンタテインメントなどの「知的財産」について、「知的財産権」として所有または交換すること、またこれを第三者の侵害から防衛することなどについて、学生は、関係法規の基本的な考え方を習得することができる。		
授業時間外学習	第 1 回目…池井戸潤原作・下町ロケットを見て、知的財産[主として特許権]が、どのような役割を果たしているか考えてみて下さい。(文庫本で出ているほか、動画配信サービスでも提供されている。いずれでもよい。) 第 2 回目…配布プリント第 2 章を読み、重要な点をマークすること。 第 3 回目…配布プリント第 3 章を読み、重要な点をマークすること。 第 4 回目…配布プリント第 4 章を読み、重要な点をマークすること。 第 5 回目…配布プリント第 5 章を読み、重要な点をマークすること。 第 6 回目…配布プリント第 6 章を読み、重要な点をマークすること。 第 7 回目…配布プリント第 7 章を読み、重要な点をマークすること。 第 8 回目…配布プリント第 8 章を読み、重要な点をマークすること。 第 9 回目…配布プリント第 9 章を読み、重要な点をマークすること。 第 10 回目…配布プリント第 10 章を読み、重要な点をマークすること。 第 11 回目…配布プリント第 11 章を読み、重要な点をマークすること。 第 12 回目…配布プリント第 12 章を読み、重要な点をマークすること。 第 13 回目…配布プリント第 13 章を読み、重要な点をマークすること。 第 14 回目…配布プリント第 14 章を読み、重要な点をマークすること。 第 15 回目…配布プリントテキスト第 15 章を読み、重要な点をマークすること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業課題は、授業終了時に簡単な質問を提示するので、これを京学ナビ・課題管理に入力していただく。その記入内容によって講義がしっかり聴けているかを評価するので、授業内容については確実に理解するようにしていただきたい。			

授業スケジュール
1．知的財産と企業経営 「下町ロケット」では、知的財産はどのように取り扱われていたか？ 2．財産に関する基本法・民法の基本 法の役割は何か 財産権の所有・利用・侵害に関する民法ルールは？ 3．知的財産と知的財産法 知的財産権とは何か？ 4．特許法で保護されている「発明」 5．著作権法で保護されている「著作物」 6．権利の主体(1)－発明者等 7．権利の主体(2)－著作者等 8．特許権の侵害と救済 9．著作権の侵害と救済 10.「特許権・発明」の利用 11.「著作権・著作物」の利用 12. 商標と商標権の保護 13. 商標をめぐるいくつかの問題 スイスの高級腕時計「フランク・ミュラー」を連想させる「フランク三浦」の商標登録など 14. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(1) 米国特許訴訟のリスクマネジメント－パテントロールとは？ 15. 最近の知的財産権を巡るいくつかの問題(2) ＡＫＢ４８の写真を無許可でポスターに使用してよいか？ －パブリシティ権の問題

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1000501
科目名	コーポレートガバナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	コーポレートガバナンス（企業統治）には大きく 2 つの狙いがある。第 1 は経営の適性さ、健全性の確保であり、第 2 は、会社の業績の向上である。この授業では、「日本経済と日本的経営」「日本の雇用・労使関係」「会計制度の国際化」「株主代表訴訟とコーポレートガバナンス」「コーポレートガバナンスの展望」などいくつかの入門的トピックを取り上げる。また、経営の適性さ、健全性はコンプライアンス（法令遵守）とも重なるので、その基礎を紹介する。		
教材（教科書）	特に指定しない。毎回講義レジュメを配布する。		
教材（参考資料）	手塚貞治『コーポレートガバナンスの基本』（日本実業出版社、2017 年）　2,000 円		
教育方法	事前に「京学なび」にアップロードした講義レジュメに沿って、講義法で行う。講義では、教員が冒頭で最近のニュースなどにより具体例を提示しながらポイント・目標を明確にし、学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講する。授業の最後には、講義内容に関する小レポートを課し、次回の授業で解説を行う。		
評価方法	授業の最後に行う小レポート（授業内容を前提に考察力を問う　40%)、 期末試験（正誤問題と記述問題　60%)。期末試験は、出題問題の理解力や論理的な説明力を問う。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	1．株式会社の特徴について説明することができるようになる。 2．コーポレートガバナンスとの関係で、ステークホルダーの概念について理解し説明できるようになる。 3．エージェンシー問題の概要を理解し、説明できるようになる。 4．コンプライアンスとはどのような概念か説明できるようになる。 5．コーポレートガバナンス・コードの概要について説明できるようになる。		
授業時間外学習	各回の授業のレジュメ・資料を「京学なび」に事前にアップロードするので、それを読了し、レジュメの空欄に記入するキーワードを考えてくること（各回の学習推定時間は 45 分)。 第 1 回　レジュメ（株式会社とは） 第 2 回　レジュメ（ステークホルダーとコーポレートガバナンス） 第 3 回　レジュメ（エージェンシー問題） 第 4 回　レジュメ（欧米におけるコーポレートガバナンス） 第 5 回　レジュメ（日本経済と日本的経営） 第 6 回　レジュメ（日本の雇用・労使関係とコーポレートガバナンス） 第 7 回　レジュメ（株主総会のしくみ） 第 8 回　レジュメ（取締役会のしくみ） 第 9 回　レジュメ（監査役・会計監査人のしくみ） 第 10 回　レジュメ（会計制度の国際化とコーポレートガバナンス） 第 11 回　レジュメ（資金調達とコーポレートガバナンス） 第 12 回　レジュメ（内部統制システム） 第 13 回　レジュメ（株主代表訴訟とコーポレートガバナンス） 第 14 回　レジュメ（コンプライアンスとは） 第 15 回　レジュメ（コーポレートガバナンス・コード）		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
新聞記事の経済面などに努めて目を通し、経済や企業経営に幅広く興味関心を持ってみよう。			
授業スケジュール			
1．株式会社とは 2．ステークホルダーとコーポレートガバナンス 3．エージェンシー問題			

4．欧米におけるコーポレートガバナンス 5．日本経済と日本的経営 6．日本の雇用・労使関係とコーポレートガバナンス 7．株主総会のしくみ 8．取締役会のしくみ 9．監査役・会計監査人のしくみ 10.会計制度の国際化とコーポレートガバナンス 11.資金調達とコーポレートガバナンス 12.内部統制システム 13.株主代表訴訟とコーポレートガバナンス 14.コンプライアンスとは 15.コーポレートガバナンス・コード

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1000502
科目名	コーポレートガバナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	コーポレートガバナンス（企業統治）には大きく 2 つの狙いがある。第 1 は経営の適性さ、健全性の確保であり、第 2 は、会社の業績の向上である。この授業では、「日本経済と日本的経営」「日本の雇用・労使関係」「会計制度の国際化」「株主代表訴訟とコーポレートガバナンス」「コーポレートガバナンスの展望」などいくつかの入門的トピックを取り上げる。また、経営の適性さ、健全性はコンプライアンス（法令遵守）とも重なるので、その基礎を紹介する。		
教材（教科書）	特に指定しない。毎回講義レジュメを配布する。		
教材（参考資料）	手塚貞治『コーポレートガバナンスの基本』（日本実業出版社、2017 年）　2,000 円		
教育方法	事前に「京学なび」にアップロードした講義レジュメに沿って、講義法で行う。講義では、教員が冒頭で最近のニュースなどにより具体例を提示しながらポイント・目標を明確にし、学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講する。授業の最後には、講義内容に関する小レポートを課し、次回の授業で解説を行う。		
評価方法	授業の最後に行う小レポート（授業内容を前提に考察力を問う　40%)、 期末試験（正誤問題と記述問題　60%)。期末試験は、出題問題の理解力や論理的な説明力を問う。評価方法の詳細は初回の講義で説明する。		
到達目標	1．株式会社の特徴について説明することができるようになる。 2．コーポレートガバナンスとの関係で、ステークホルダーの概念について理解し説明できるようになる。 3．エージェンシー問題の概要を理解し、説明できるようになる。 4．コンプライアンスとはどのような概念か説明できるようになる。 5．コーポレートガバナンス・コードの概要について説明できるようになる。		
授業時間外学習	各回の授業のレジュメ・資料を「京学なび」に事前にアップロードするので、それを読了し、レジュメの空欄に記入するキーワードを考えてくること（各回の学習推定時間は 45 分)。 第 1 回　レジュメ（株式会社とは） 第 2 回　レジュメ（ステークホルダーとコーポレートガバナンス） 第 3 回　レジュメ（エージェンシー問題） 第 4 回　レジュメ（欧米におけるコーポレートガバナンス） 第 5 回　レジュメ（日本経済と日本的経営） 第 6 回　レジュメ（日本の雇用・労使関係とコーポレートガバナンス） 第 7 回　レジュメ（株主総会のしくみ） 第 8 回　レジュメ（取締役会のしくみ） 第 9 回　レジュメ（監査役・会計監査人のしくみ） 第 10 回　レジュメ（会計制度の国際化とコーポレートガバナンス） 第 11 回　レジュメ（資金調達とコーポレートガバナンス） 第 12 回　レジュメ（内部統制システム） 第 13 回　レジュメ（株主代表訴訟とコーポレートガバナンス） 第 14 回　レジュメ（コンプライアンスとは） 第 15 回　レジュメ（コーポレートガバナンス・コード）		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
新聞記事の経済面などに努めて目を通し、経済や企業経営に幅広く興味関心を持ってみよう。			
授業スケジュール			
1．株式会社とは 2．ステークホルダーとコーポレートガバナンス 3．エージェンシー問題			

4．欧米におけるコーポレートガバナンス 5．日本経済と日本的経営 6．日本の雇用・労使関係とコーポレートガバナンス 7．株主総会のしくみ 8．取締役会のしくみ 9．監査役・会計監査人のしくみ 10.会計制度の国際化とコーポレートガバナンス 11.資金調達とコーポレートガバナンス 12.内部統制システム 13.株主代表訴訟とコーポレートガバナンス 14.コンプライアンスとは 15.コーポレートガバナンス・コード

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1000601
科目名	ビジネスパーソンの常識	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
授業概要	学生がビジネスパーソンになり、収入を得るようになったときに必要な、金融の基本知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標とします。 大きく 3 部構成としています。 第 1 部　社会保障と税の仕組み 給与明細を読むことを通して、所得税・住民税や健康保険・厚生年金保険・雇用保険の制度について学びます。 第 2 部　人生におけるリスクとリスクへの備えとしての生命保険 死亡のリスク、重い病気や介護等のリスク、医療のリスク、老後のリスク、それぞれのリスクをヘッジするために、どのような生命保険があるか、学びます。 第 3 部　投資信託による資産運用 債券、株式、REIT に投資する投資信託を取り上げます。10 年以上の長期間をかけて資産形成していくには、どのような投資信託を活用すればよいか、具体的な投資信託を取り上げながら、事例で学びます。 就職活動にも役立つような形で各トピックスを学習していきます。		
教材（教科書）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	レポート（50%）、授業内小テスト等による平常点（50%） (1) レポートの内容は、そのつど授業において指示する。 (2) 授業内小テスト等は、授業の理解度を確認するための問題を中心に出題する。		
到達目標	学生が、社会人としての基本的なマネーに関する知識（ファイナンシャル・リテラシー）を修得する。 投資信託選び、生命保険選びについて、自分で良し悪しを判断できるようになる。		
授業時間外学習	毎授業の最初に、前回の授業内容に関する復習プリントを実施します。 そのため、前回の授業内容のポイントの復習を、毎回の授業の準備学習として行ってください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
社会人になると給与により収入を得るようになります。でも、その全てが使えるわけではありません。税金を払ったり、社会保険料を払ったり、将来のために貯蓄したりしなければなりません。 そのようなときに必要となる知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標にしています。 将来必要になる知識ですので、ぜひ積極的に履修してください。			
授業スケジュール			
1.ガイダンスとライフプランニング 就職して初任給を得たとき、実際銀行口座にはいくら振り込まれるのでしょうか？ 給料から様々なものが控除され、生活費に使い、それでもなお残ったお金は、貯蓄や投資にまわすはずです。 でも、貯蓄や投資にはどのような手段があるのでしょうか？ ライフイベント表や個人のバランスシートについても取り上げます。			

【第 1 部　社会保障の仕組み】
2.年収・所得と所得税・住民税
　給料からは、所得税や住民税が差し引かれます。
　所得税や住民税とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
　所得税や住民税がどのように利用されているのでしょうか？

3.社会保障 1
　給料から引かれる健康保険料、厚生年金保険料とは何なのか？
　さらに給料からは、健康保険料や厚生年金保険料が差し引かれます。
　健康保険料や厚生年金保険料とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
　また、健康保険や厚生年金の会計がどのような状態なのか、財政問題も取り上げます。

4.社会保障 2
　健康保険、介護保険、労災保険、雇用保険について取り上げます。
　高額療養費制度についても取り上げます。

5.社会保障 3
　公的年金と老齢給付、障害給付、遺族給付について取り上げます。

【第 2 部　人生におけるリスクと生命保険を使ったリスクへの備え】
6.リスクに対する保障
　死亡保障の役割、医療保障の役割、緊急予備資金、保険商品の収益構造について取り上げます。

7.生命保険 1
　家計の問題を解決するひとつの手段が生命保険です。定期保険、終身保険、養老保険といった基本的な保険の特徴について学習します。
　実際の定期保険、終身保険、養老保険商品を取り上げ、それぞれの目的（活用方法)、選択する際のポイントに触れます。
　また、団体信用生命保険を紹介します。

8.生命保険 2
　医療保険、がん保険、所得補償保険について取り上げます。
　高額療養費制度について。

9.生命保険 3
　個人年金保険について取り上げます。

【第 3 部　投資信託による資産運用】
10.資産運用とは投資とは
　投資とは何かを学びます。

11.投資信託 1
　・投資信託とはいったいどのようなものでしょうか？
　　投資の一手段である投資信託とは、どのような仕組みなのでしょうか。
　　委託会社、受託会社、販売会社の関係や、どのような仕組みで、投資信託から利益や損失が発生するのかを取り上げます。
　・投資信託の値動きと経済指標の関係
　長期金利や株価の動向が投資信託の基準価額にどのように影響するかを学びます。

12.投資信託 2
　　交付目論見書の読み方
　投資信託の内容を判断するためには、目論見書（もくろみしょ）を読めなくてはなりません。

実際の投資信託の交付目論見書を見ながら、どこにポイントがあるのか、事例で学んでいきます。

13.投資信託 3

・インデックス型とアクティブ型

投資信託の投資対象としての資産クラス（国内、国外の債券、株式、不動産）を取り上げます。

投資信託にはインデックス型とアクティブ型があります。

それぞれの特徴や違いを学びます。

・分配金、シャープレシオ、税制（NISA）

投資信託のパフォーマンスを評価するために、分配金とシャープレシオを学びます。

分配金については、普通分配金と特別分配金の違いに注目します。

14.iDeCo（個人型確定拠出年金制度）

確定拠出年金について、具体的にどのような制度なのかを確認します。

【情報リテラシー】

15.日本経済新聞を使った情報収集

投資信託、生命保険、社会保障などに関連する情報を収集するためにはどうすればよいか？

日本経済新聞を使った情報収集方法を紹介します。

また、情報を読み取るために必要なリテラシーについても取り上げます。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1000602
科目名	ビジネスパーソンの常識	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
授業概要	学生がビジネスパーソンになり、収入を得るようになったときに必要な、金融の基本知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標とします。 大きく 3 部構成としています。 第 1 部　社会保障と税の仕組み 給与明細を読むことを通して、所得税・住民税や健康保険・厚生年金保険・雇用保険の制度について学びます。 第 2 部　人生におけるリスクとリスクへの備えとしての生命保険 死亡のリスク、重い病気や介護等のリスク、医療のリスク、老後のリスク、それぞれのリスクをヘッジするために、どのような生命保険があるか、学びます。 第 3 部　投資信託による資産運用 債券、株式、REIT に投資する投資信託を取り上げます。10 年以上の長期間をかけて資産形成していくには、どのような投資信託を活用すればよいか、具体的な投資信託を取り上げながら、事例で学びます。 就職活動にも役立つような形で各トピックスを学習していきます。		
教材（教科書）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	レポート（50%）、授業内小テスト等による平常点（50%） (1) レポートの内容は、そのつど授業において指示する。 (2) 授業内小テスト等は、授業の理解度を確認するための問題を中心に出題する。		
到達目標	学生が、社会人としての基本的なマネーに関する知識（ファイナンシャル・リテラシー）を修得する。 投資信託選び、生命保険選びについて、自分で良し悪しを判断できるようになる。		
授業時間外学習	毎授業の最初に、前回の授業内容に関する復習プリントを実施します。 そのため、前回の授業内容のポイントの復習を、毎回の授業の準備学習として行ってください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
社会人になると給与により収入を得るようになります。でも、その全てが使えるわけではありません。税金を払ったり、社会保険料を払ったり、将来のために貯蓄したりしなければなりません。 そのようなときに必要となる知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標にしています。 将来必要になる知識ですので、ぜひ積極的に履修してください。			
授業スケジュール			
1.ガイダンスとライフプランニング 就職して初任給を得たとき、実際銀行口座にはいくら振り込まれるのでしょうか？ 給料から様々なものが控除され、生活費に使い、それでもなお残ったお金は、貯蓄や投資にまわすはずです。 でも、貯蓄や投資にはどのような手段があるのでしょうか？ ライフイベント表や個人のバランスシートについても取り上げます。			

【第 1 部　社会保障の仕組み】
2.年収・所得と所得税・住民税
　給料からは、所得税や住民税が差し引かれます。
　所得税や住民税とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
　所得税や住民税がどのように利用されているのでしょうか？

3.社会保障 1
　給料から引かれる健康保険料、厚生年金保険料とは何なのか？
　さらに給料からは、健康保険料や厚生年金保険料が差し引かれます。
　健康保険料や厚生年金保険料とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
　また、健康保険や厚生年金の会計がどのような状態なのか、財政問題も取り上げます。

4.社会保障 2
　健康保険、介護保険、労災保険、雇用保険について取り上げます。
　高額療養費制度についても取り上げます。

5.社会保障 3
　公的年金と老齢給付、障害給付、遺族給付について取り上げます。

【第 2 部　人生におけるリスクと生命保険を使ったリスクへの備え】
6.リスクに対する保障
　死亡保障の役割、医療保障の役割、緊急予備資金、保険商品の収益構造について取り上げます。

7.生命保険 1
　家計の問題を解決するひとつの手段が生命保険です。定期保険、終身保険、養老保険といった基本的な保険の特徴について学習します。
　実際の定期保険、終身保険、養老保険商品を取り上げ、それぞれの目的（活用方法)、選択する際のポイントに触れます。
　また、団体信用生命保険を紹介します。

8.生命保険 2
　医療保険、がん保険、所得補償保険について取り上げます。
　高額療養費制度について。

9.生命保険 3
　個人年金保険について取り上げます。

【第 3 部　投資信託による資産運用】
10.資産運用とは投資とは
　投資とは何かを学びます。

11.投資信託 1
　・投資信託とはいったいどのようなものでしょうか？
　　投資の一手段である投資信託とは、どのような仕組みなのでしょうか。
　　委託会社、受託会社、販売会社の関係や、どのような仕組みで、投資信託から利益や損失が発生するのかを取り上げます。
　・投資信託の値動きと経済指標の関係
　長期金利や株価の動向が投資信託の基準価額にどのように影響するかを学びます。

12.投資信託 2
　　交付目論見書の読み方
　投資信託の内容を判断するためには、目論見書（もくろみしょ）を読めなくてはなりません。

実際の投資信託の交付目論見書を見ながら、どこにポイントがあるのか、事例で学んでいきます。

13.投資信託 3

・インデックス型とアクティブ型

投資信託の投資対象としての資産クラス（国内、国外の債券、株式、不動産）を取り上げます。

投資信託にはインデックス型とアクティブ型があります。

それぞれの特徴や違いを学びます。

・分配金、シャープレシオ、税制（NISA）

投資信託のパフォーマンスを評価するために、分配金とシャープレシオを学びます。

分配金については、普通分配金と特別分配金の違いに注目します。

14.iDeCo（個人型確定拠出年金制度）

確定拠出年金について、具体的にどのような制度なのかを確認します。

【情報リテラシー】

15.日本経済新聞を使った情報収集

投資信託、生命保険、社会保障などに関連する情報を収集するためにはどうすればよいか？

日本経済新聞を使った情報収集方法を紹介します。

また、情報を読み取るために必要なリテラシーについても取り上げます。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1000603
科目名	ビジネスパーソンの常識 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
授業概要	学生がビジネスパーソンになり、収入を得るようになったときに必要な、金融の基本知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標とします。 大きく 3 部構成としています。 第 1 部　社会保障と税の仕組み 給与明細を読むことを通して、所得税・住民税や健康保険・厚生年金保険・雇用保険の制度について学びます。 第 2 部　人生におけるリスクとリスクへの備えとしての生命保険 死亡のリスク、重い病気や介護等のリスク、医療のリスク、老後のリスク、それぞれのリスクをヘッジするために、どのような生命保険があるか、学びます。 第 3 部　投資信託による資産運用 債券、株式、REIT に投資する投資信託を取り上げます。10 年以上の長期間をかけて資産形成していくには、どのような投資信託を活用すればよいか、具体的な投資信託を取り上げながら、事例で学びます。 就職活動にも役立つような形で各トピックスを学習していきます。		
教材（教科書）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	レポート（50%）、授業内小テスト等による平常点（50%） (1) レポートの内容は、そのつど授業において指示する。 (2) 授業内小テスト等は、授業の理解度を確認するための問題を中心に出題する。		
到達目標	学生が、社会人としての基本的なマネーに関する知識（ファイナンシャル・リテラシー）を修得する。 投資信託選び、生命保険選びについて、自分で良し悪しを判断できるようになる。		
授業時間外学習	毎授業の最初に、前回の授業内容に関する復習プリントを実施します。 そのため、前回の授業内容のポイントの復習を、毎回の授業の準備学習として行ってください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
社会人になると給与により収入を得るようになります。でも、その全てが使えるわけではありません。税金を払ったり、社会保険料を払ったり、将来のために貯蓄したりしなければなりません。 そのようなときに必要となる知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標にしています。 将来必要になる知識ですので、ぜひ積極的に履修してください。			
授業スケジュール			
1.ガイダンスとライフプランニング 就職して初任給を得たとき、実際銀行口座にはいくら振り込まれるのでしょうか？ 給料から様々なものが控除され、生活費に使い、それでもなお残ったお金は、貯蓄や投資にまわすはずです。 でも、貯蓄や投資にはどのような手段があるのでしょうか？ ライフイベント表や個人のバランスシートについても取り上げます。			

【第 1 部　社会保障の仕組み】
2.年収・所得と所得税・住民税
　給料からは、所得税や住民税が差し引かれます。
　所得税や住民税とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
　所得税や住民税がどのように利用されているのでしょうか？

3.社会保障 1
　給料から引かれる健康保険料、厚生年金保険料とは何なのか？
　さらに給料からは、健康保険料や厚生年金保険料が差し引かれます。
　健康保険料や厚生年金保険料とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
　また、健康保険や厚生年金の会計がどのような状態なのか、財政問題も取り上げます。

4.社会保障 2
　健康保険、介護保険、労災保険、雇用保険について取り上げます。
　高額療養費制度についても取り上げます。

5.社会保障 3
　公的年金と老齢給付、障害給付、遺族給付について取り上げます。

【第 2 部　人生におけるリスクと生命保険を使ったリスクへの備え】
6.リスクに対する保障
　死亡保障の役割、医療保障の役割、緊急予備資金、保険商品の収益構造について取り上げます。

7.生命保険 1
　家計の問題を解決するひとつの手段が生命保険です。定期保険、終身保険、養老保険といった基本的な保険の特徴について学習します。
　実際の定期保険、終身保険、養老保険商品を取り上げ、それぞれの目的（活用方法)、選択する際のポイントに触れます。
　また、団体信用生命保険を紹介します。

8.生命保険 2
　医療保険、がん保険、所得補償保険について取り上げます。
　高額療養費制度について。

9.生命保険 3
　個人年金保険について取り上げます。

【第 3 部　投資信託による資産運用】
10.資産運用とは投資とは
　投資とは何かを学びます。

11.投資信託 1
　・投資信託とはいったいどのようなものでしょうか？
　　投資の一手段である投資信託とは、どのような仕組みなのでしょうか。
　　委託会社、受託会社、販売会社の関係や、どのような仕組みで、投資信託から利益や損失が発生するのかを取り上げます。
　・投資信託の値動きと経済指標の関係
　長期金利や株価の動向が投資信託の基準価額にどのように影響するかを学びます。

12.投資信託 2
　　交付目論見書の読み方
　投資信託の内容を判断するためには、目論見書（もくろみしょ）を読めなくてはなりません。

実際の投資信託の交付目論見書を見ながら、どこにポイントがあるのか、事例で学んでいきます。

13.投資信託 3

・インデックス型とアクティブ型

投資信託の投資対象としての資産クラス（国内、国外の債券、株式、不動産）を取り上げます。

投資信託にはインデックス型とアクティブ型があります。

それぞれの特徴や違いを学びます。

・分配金、シャープレシオ、税制（NISA）

投資信託のパフォーマンスを評価するために、分配金とシャープレシオを学びます。

分配金については、普通分配金と特別分配金の違いに注目します。

14.iDeCo（個人型確定拠出年金制度）

確定拠出年金について、具体的にどのような制度なのかを確認します。

【情報リテラシー】

15.日本経済新聞を使った情報収集

投資信託、生命保険、社会保障などに関連する情報を収集するためにはどうすればよいか？

日本経済新聞を使った情報収集方法を紹介します。

また、情報を読み取るために必要なリテラシーについても取り上げます。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1000604
科目名	ビジネスパーソンの常識 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	齊藤　稔	旧科目名称	
授業概要	学生がビジネスパーソンになり、収入を得るようになったときに必要な、金融の基本知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標とします。 大きく 3 部構成としています。 第 1 部　社会保障と税の仕組み 給与明細を読むことを通して、所得税・住民税や健康保険・厚生年金保険・雇用保険の制度について学びます。 第 2 部　人生におけるリスクとリスクへの備えとしての生命保険 死亡のリスク、重い病気や介護等のリスク、医療のリスク、老後のリスク、それぞれのリスクをヘッジするために、どのような生命保険があるか、学びます。 第 3 部　投資信託による資産運用 債券、株式、REIT に投資する投資信託を取り上げます。10 年以上の長期間をかけて資産形成していくには、どのような投資信託を活用すればよいか、具体的な投資信託を取り上げながら、事例で学びます。 就職活動にも役立つような形で各トピックスを学習していきます。		
教材（教科書）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	レポート（50%）、授業内小テスト等による平常点（50%） (1) レポートの内容は、そのつど授業において指示する。 (2) 授業内小テスト等は、授業の理解度を確認するための問題を中心に出題する。		
到達目標	学生が、社会人としての基本的なマネーに関する知識（ファイナンシャル・リテラシー）を修得する。 投資信託選び、生命保険選びについて、自分で良し悪しを判断できるようになる。		
授業時間外学習	毎授業の最初に、前回の授業内容に関する復習プリントを実施します。 そのため、前回の授業内容のポイントの復習を、毎回の授業の準備学習として行ってください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

社会人になると給与により収入を得るようになります。でも、その全てが使えるわけではありません。税金を払ったり、社会保険料を払ったり、将来のために貯蓄したりしなければなりません。
そのようなときに必要となる知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標にしています。

将来必要になる知識ですので、ぜひ積極的に履修してください。

授業スケジュール

1.ガイダンスとライフプランニング
　就職して初任給を得たとき、実際銀行口座にはいくら振り込まれるのでしょうか？
　給料から様々なものが控除され、生活費に使い、それでもなお残ったお金は、貯蓄や投資にまわすはずです。
　でも、貯蓄や投資にはどのような手段があるのでしょうか？
　ライフイベント表や個人のバランスシートについても取り上げます。

【第 1 部　社会保障の仕組み】
2.年収・所得と所得税・住民税
　給料からは、所得税や住民税が差し引かれます。
　所得税や住民税とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
　所得税や住民税がどのように利用されているのでしょうか？

3.社会保障 1
　給料から引かれる健康保険料、厚生年金保険料とは何なのか？
　さらに給料からは、健康保険料や厚生年金保険料が差し引かれます。
　健康保険料や厚生年金保険料とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
　また、健康保険や厚生年金の会計がどのような状態なのか、財政問題も取り上げます。

4.社会保障 2
　健康保険、介護保険、労災保険、雇用保険について取り上げます。
　高額療養費制度についても取り上げます。

5.社会保障 3
　公的年金と老齢給付、障害給付、遺族給付について取り上げます。

【第 2 部　人生におけるリスクと生命保険を使ったリスクへの備え】
6.リスクに対する保障
　死亡保障の役割、医療保障の役割、緊急予備資金、保険商品の収益構造について取り上げます。

7.生命保険 1
　家計の問題を解決するひとつの手段が生命保険です。定期保険、終身保険、養老保険といった基本的な保険の特徴について学習します。
　実際の定期保険、終身保険、養老保険商品を取り上げ、それぞれの目的（活用方法)、選択する際のポイントに触れます。
　また、団体信用生命保険を紹介します。

8.生命保険 2
　医療保険、がん保険、所得補償保険について取り上げます。
　高額療養費制度について。

9.生命保険 3
　個人年金保険について取り上げます。

【第 3 部　投資信託による資産運用】
10.資産運用とは投資とは
　投資とは何かを学びます。

11.投資信託 1
　・投資信託とはいったいどのようなものでしょうか？
　　投資の一手段である投資信託とは、どのような仕組みなのでしょうか。
　　委託会社、受託会社、販売会社の関係や、どのような仕組みで、投資信託から利益や損失が発生するのかを取り上げます。
　・投資信託の値動きと経済指標の関係
　長期金利や株価の動向が投資信託の基準価額にどのように影響するかを学びます。

12.投資信託 2
　　交付目論見書の読み方
　投資信託の内容を判断するためには、目論見書（もくろみしょ）を読めなくてはなりません。

実際の投資信託の交付目論見書を見ながら、どこにポイントがあるのか、事例で学んでいきます。

13.投資信託 3

・インデックス型とアクティブ型

投資信託の投資対象としての資産クラス（国内、国外の債券、株式、不動産）を取り上げます。

投資信託にはインデックス型とアクティブ型があります。

それぞれの特徴や違いを学びます。

・分配金、シャープレシオ、税制（NISA）

投資信託のパフォーマンスを評価するために、分配金とシャープレシオを学びます。

分配金については、普通分配金と特別分配金の違いに注目します。

14.iDeCo（個人型確定拠出年金制度）

確定拠出年金について、具体的にどのような制度なのかを確認します。

【情報リテラシー】

15.日本経済新聞を使った情報収集

投資信託、生命保険、社会保障などに関連する情報を収集するためにはどうすればよいか？

日本経済新聞を使った情報収集方法を紹介します。

また、情報を読み取るために必要なリテラシーについても取り上げます。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1000605
科目名	ビジネスパーソンの常識	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	日根野　健	旧科目名称	
授業概要	学生がビジネスパーソンになり、収入を得るようになったときに必要な、金融の基本知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標とします。 大きく 3 部構成としています。 第 1 部　社会保障と税の仕組み 給与明細を読むことを通して、所得税・住民税や健康保険・厚生年金保険・雇用保険の制度について学びます。 第 2 部　人生におけるリスクとリスクへの備えとしての生命保険 死亡のリスク、重い病気や介護等のリスク、医療のリスク、老後のリスク、それぞれのリスクをヘッジするために、どのような生命保険があるか、学びます。 第 3 部　投資信託による資産運用 債券、株式、REIT に投資する投資信託を取り上げます。10 年以上の長期間をかけて資産形成していくには、どのような投資信託を活用すればよいか、具体的な投資信託を取り上げながら、事例で学びます。 就職活動にも役立つような形で各トピックスを学習していきます。		
教材（教科書）	各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	レポート（50%）、授業内小テスト等による平常点（50%） (1) レポートの内容は、そのつど授業において指示する。 (2) 授業内小テスト等は、授業の理解度を確認するための問題を中心に出題する。		
到達目標	学生が、社会人としての基本的なマネーに関する知識（ファイナンシャル・リテラシー）を修得する。 投資信託選び、生命保険選びについて、自分で良し悪しを判断できるようになる。		
授業時間外学習	毎授業の最初に、前回の授業内容に関する復習プリントを実施します。 そのため、前回の授業内容のポイントの復習を、毎回の授業の準備学習として行ってください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
社会人になると給与により収入を得るようになります。でも、その全てが使えるわけではありません。税金を払ったり、社会保険料を払ったり、将来のために貯蓄したりしなければなりません。 そのようなときに必要となる知識（ファイナンシャル・リテラシー）を身につけることを目標にしています。 将来必要になる知識ですので、ぜひ積極的に履修してください。			
授業スケジュール			
1.ガイダンスとライフプランニング 就職して初任給を得たとき、実際銀行口座にはいくら振り込まれるのでしょうか？ 給料から様々なものが控除され、生活費に使い、それでもなお残ったお金は、貯蓄や投資にまわすはずです。 でも、貯蓄や投資にはどのような手段があるのでしょうか？ ライフイベント表や個人のバランスシートについても取り上げます。			

【第 1 部　社会保障の仕組み】
2.年収・所得と所得税・住民税
　給料からは、所得税や住民税が差し引かれます。
　所得税や住民税とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
　所得税や住民税がどのように利用されているのでしょうか？

3.社会保障 1
　給料から引かれる健康保険料、厚生年金保険料とは何なのか？
　さらに給料からは、健康保険料や厚生年金保険料が差し引かれます。
　健康保険料や厚生年金保険料とはいったい何か？　金額はどのようにして計算されるか？を取り扱います。
　また、健康保険や厚生年金の会計がどのような状態なのか、財政問題も取り上げます。

4.社会保障 2
　健康保険、介護保険、労災保険、雇用保険について取り上げます。
　高額療養費制度についても取り上げます。

5.社会保障 3
　公的年金と老齢給付、障害給付、遺族給付について取り上げます。

【第 2 部　人生におけるリスクと生命保険を使ったリスクへの備え】
6.リスクに対する保障
　死亡保障の役割、医療保障の役割、緊急予備資金、保険商品の収益構造について取り上げます。

7.生命保険 1
　家計の問題を解決するひとつの手段が生命保険です。定期保険、終身保険、養老保険といった基本的な保険の特徴について学習します。
　実際の定期保険、終身保険、養老保険商品を取り上げ、それぞれの目的（活用方法)、選択する際のポイントに触れます。
　また、団体信用生命保険を紹介します。

8.生命保険 2
　医療保険、がん保険、所得補償保険について取り上げます。
　高額療養費制度について。

9.生命保険 3
　個人年金保険について取り上げます。

【第 3 部　投資信託による資産運用】
10.資産運用とは投資とは
　投資とは何かを学びます。

11.投資信託 1
　・投資信託とはいったいどのようなものでしょうか？
　　投資の一手段である投資信託とは、どのような仕組みなのでしょうか。
　　委託会社、受託会社、販売会社の関係や、どのような仕組みで、投資信託から利益や損失が発生するのかを取り上げます。
　・投資信託の値動きと経済指標の関係
　長期金利や株価の動向が投資信託の基準価額にどのように影響するかを学びます。

12.投資信託 2
　　交付目論見書の読み方
　投資信託の内容を判断するためには、目論見書（もくろみしょ）を読めなくてはなりません。

実際の投資信託の交付目論見書を見ながら、どこにポイントがあるのか、事例で学んでいきます。

13.投資信託 3

・インデックス型とアクティブ型

投資信託の投資対象としての資産クラス（国内、国外の債券、株式、不動産）を取り上げます。

投資信託にはインデックス型とアクティブ型があります。

それぞれの特徴や違いを学びます。

・分配金、シャープレシオ、税制（NISA）

投資信託のパフォーマンスを評価するために、分配金とシャープレシオを学びます。

分配金については、普通分配金と特別分配金の違いに注目します。

14.iDeCo（個人型確定拠出年金制度）

確定拠出年金について、具体的にどのような制度なのかを確認します。

【情報リテラシー】

15.日本経済新聞を使った情報収集

投資信託、生命保険、社会保障などに関連する情報を収集するためにはどうすればよいか？

日本経済新聞を使った情報収集方法を紹介します。

また、情報を読み取るために必要なリテラシーについても取り上げます。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1000701
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山中　延之	旧科目名称	
授業概要	大学生としてまず身に付けるべき「話す」「書く」能力を学びます。高校の国語の復習から始め、大学でのレポートの書き方の基礎までを習得することを目指します。 ここでいう「話す」能力とは、一定の格調のある表現で話す能力のことです。それを身に付けるため、敬語やその他の語句を中心とした小テストを行います。小テストには詳しい解説を付し、知識が定着しやすいようにします。 さらに、「書く」能力を身に付けるため、書き言葉（文章語）の習得を重視します。高校までは書き言葉（文章語）と話し言葉（口語）の区別を教わらないことが多いため、話し言葉で文章を書いてしまうことが多いものです。初めの数回の授業では書き分けの基本を学びます。その後は、レポートの基礎となる説明文・論説文の書き方を学びます。 基本的に毎回提出物があり、提出物は全て評価の対象となります。提出物は以下の 2 種類です。 1，課題に沿った長めの文章を教室で書き、提出する（2 回） 2，敬語・漢字・慣用句等の小テストと短い作文（原則毎回。学期末試験の出題範囲は主にここ）		
教材（教科書）	授業で配布します。		
教材（参考資料）	木下是雄『理科系の作文技術』中公新書（624）、1981 年 木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、1994 年		
教育方法	講義と作文。基本事項を理解したのち、実際に短い文章を書く、という作業を基本的に毎回行う。		
評価方法	課題提出等による平常点 50%（提出必須課題 2 回を含む） 学期末テスト 50%（小テストの復習を中心とする）		
到達目標	1，標準的な書きことばを用いて試験答案・レポートを執筆できるようになる。 2，1 に基づく格調ある話しことばを用いて質問等の会話ができるようになる。		
授業時間外学習	毎回の授業後に、理解の不十分だったところ（特に小テスト）を辞書を引くなどして復習する。 提出物が返却（ある程度まとめて行う）されたら、確認（場合によっては書き直し）・復習を行う。 ＊授業開始までに国語辞典と国語便覧を自宅の勉強机の上に置き、復習に活用すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
【学習上の助言】復習を重視してください。事前学習は特に必要ありませんが、日頃から自分（とその周囲）のことばづかいを自覚するようにすると学習効率が上がると思います。 【注意事項】20 分以上の遅刻者には出席を認めません。また、授業と関係のない行為（私語・娯楽目的でのスマホ等の操作・居眠り・飲食等）は厳禁です。場合によってはそのような行為に至った理由説明を求めます。			
授業スケジュール			
第 1 回　これからの授業の説明 第 2 回　話しことばと書きことば 第 3 回　トピック・センテンス 第 4 回　事実と意見 第 5 回　課題 1　説明文の執筆　＊提出必須 第 6 回　課題 1 の復習 第 7 回　序論・本論・結論 第 8 回　段落（パラグラフ） 第 9 回　接続詞 第 10 回　引用 第 11 回　要約 第 12 回　11 回目までの復習			

第 13 回　課題 2　論説文の執筆　＊提出必須 第 14 回　課題 2 の復習 第 15 回　手紙の書き方 学期末試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1000702
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	言語表現論ｆ
授業概要	日常生活において、手紙やメール、レポートなど、文章を書く機会は多い。これらの文章による表現や伝達は、情報についての誤解や勘違いを生じやすく、また、言葉遣いによっては相手に不快感をあたえてしまう。このような問題を克服し、読む人の立場に立った、より正確でわかりやすい文章表現が求められる。本講義では、レポートや論文、手紙などを作成する際の適切な文章表現の方法を学ぶ。講義は、①課題についての説明　②実際に文章を作成する　③添削　④残された問題点についての説明、の順に行う。		
教材（教科書）	随時プリントを配布する		
教材（参考資料）	米田明美・蔵中さやか・山上登志美（2005）『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	学期末レポートと取り組み姿勢、小テスト、提出物等による平常点から総合的に評価する。		
到達目標	さまざまな場面での文章表現について、実践を通じて学ぶ		
授業時間外学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
基本的に、課題は講義時間内に提出すること。講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む。			
授業スケジュール			
１．ガイダンス　論文やレポートで使う言葉 ２．新聞・論文のモデルを読む ３．論文の構成・事物を説明する ４．先行研究を紹介する ５．問題提起・方向付け ６．データの読み取り ７．データに基づいて意見を述べる ８．結論を述べる ９．論文全体のまとめ・今後の展望を述べる １０．ここまでのまとめ・復習テスト １１．敬語① １２．敬語② １３．メールや手紙を書く① １４．メールや手紙を書く② １５．社会と言葉・全体のまとめ ※講義の内容は、受講生の要望に応じて変更する場合がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1000703
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	言語表現論ｆ
授業概要	日常生活において、手紙やメール、レポートなど、文章を書く機会は多い。これらの文章による表現や伝達は、情報についての誤解や勘違いを生じやすく、また、言葉遣いによっては相手に不快感をあたえてしまう。このような問題を克服し、読む人の立場に立った、より正確でわかりやすい文章表現が求められる。本講義では、レポートや論文、手紙などを作成する際の適切な文章表現の方法を学ぶ。講義は、①課題についての説明　②実際に文章を作成する　③添削　④残された問題点についての説明、の順に行う。		
教材（教科書）	随時プリントを配布する		
教材（参考資料）	米田明美・蔵中さやか・山上登志美（2005）『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	学期末レポートと取り組み姿勢、小テスト、提出物等による平常点から総合的に評価する。		
到達目標	さまざまな場面での文章表現について、実践を通じて学ぶ		
授業時間外学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
基本的に、課題は講義時間内に提出すること。講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む。			
授業スケジュール			
１．ガイダンス　論文やレポートで使う言葉 ２．新聞・論文のモデルを読む ３．論文の構成・事物を説明する ４．先行研究を紹介する ５．問題提起・方向付け ６．データの読み取り ７．データに基づいて意見を述べる ８．結論を述べる ９．論文全体のまとめ・今後の展望を述べる １０．ここまでのまとめ・復習テスト １１．敬語① １２．敬語② １３．メールや手紙を書く① １４．メールや手紙を書く② １５．社会と言葉・全体のまとめ ※講義の内容は、受講生の要望に応じて変更する場合がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1000704
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山中　延之	旧科目名称	
授業概要	大学生としてまず身に付けるべき「話す」「書く」能力を学びます。高校の国語の復習から始め、大学でのレポートの書き方の基礎までを習得することを目指します。 ここでいう「話す」能力とは、一定の格調のある表現で話す能力のことです。それを身に付けるため、敬語やその他の語句を中心とした小テストを行います。小テストには詳しい解説を付し、知識が定着しやすいようにします。 さらに、「書く」能力を身に付けるため、書き言葉（文章語）の習得を重視します。高校までは書き言葉（文章語）と話し言葉（口語）の区別を教わらないことが多いため、話し言葉で文章を書いてしまうことが多いものです。初めの数回の授業では書き分けの基本を学びます。その後は、レポートの基礎となる説明文・論説文の書き方を学びます。 基本的に毎回提出物があり、提出物は全て評価の対象となります。提出物は以下の 2 種類です。 1，課題に沿った長めの文章を教室で書き、提出する（2 回） 2，敬語・漢字・慣用句等の小テストと短い作文（原則毎回。学期末試験の出題範囲は主にここ）		
教材（教科書）	授業で配布します。		
教材（参考資料）	木下是雄『理科系の作文技術』中公新書（624）、1981 年 木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、1994 年		
教育方法	講義と作文。基本事項を理解したのち、実際に短い文章を書く、という作業を基本的に毎回行う。		
評価方法	課題提出等による平常点 50%（提出必須課題 2 回を含む） 学期末テスト 50%（小テストの復習を中心とする）		
到達目標	1，標準的な書きことばを用いて試験答案・レポートを執筆できるようになる。 2，1 に基づく格調ある話しことばを用いて質問等の会話ができるようになる。		
授業時間外学習	毎回の授業後に、理解の不十分だったところ（特に小テスト）を辞書を引くなどして復習する。 提出物が返却（ある程度まとめて行う）されたら、確認（場合によっては書き直し）・復習を行う。 ＊授業開始までに国語辞典と国語便覧を自宅の勉強机の上に置き、復習に活用すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
【学習上の助言】復習を重視してください。事前学習は特に必要ありませんが、日頃から自分（とその周囲）のことばづかいを自覚するようにすると学習効率が上がると思います。 【注意事項】20 分以上の遅刻者には出席を認めません。また、授業と関係のない行為（私語・娯楽目的でのスマホ等の操作・居眠り・飲食等）は厳禁です。場合によってはそのような行為に至った理由説明を求めます。			
授業スケジュール			
第 1 回　これからの授業の説明 第 2 回　話しことばと書きことば 第 3 回　トピック・センテンス 第 4 回　事実と意見 第 5 回　課題 1　説明文の執筆　＊提出必須 第 6 回　課題 1 の復習 第 7 回　序論・本論・結論 第 8 回　段落（パラグラフ） 第 9 回　接続詞 第 10 回　引用 第 11 回　要約 第 12 回　11 回目までの復習			

第 13 回　課題 2　論説文の執筆　＊提出必須 第 14 回　課題 2 の復習 第 15 回　手紙の書き方 学期末試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1000705
科目名	実用日本語	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	言語表現論ｆ
授業概要	日常生活において、手紙やメール、レポートなど、文章を書く機会は多い。これらの文章による表現や伝達は、情報についての誤解や勘違いを生じやすく、また、言葉遣いによっては相手に不快感をあたえてしまう。このような問題を克服し、読む人の立場に立った、より正確でわかりやすい文章表現が求められる。本講義では、レポートや論文、手紙などを作成する際の適切な文章表現の方法を学ぶ。講義は、①課題についての説明　②実際に文章を作成する　③添削　④残された問題点についての説明、の順に行う。		
教材（教科書）	随時プリントを配布する		
教材（参考資料）	米田明美・蔵中さやか・山上登志美（2005）『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	学期末レポートと取り組み姿勢、小テスト、提出物等による平常点から総合的に評価する。		
到達目標	さまざまな場面での文章表現について、実践を通じて学ぶ		
授業時間外学習	各講義の最後に次の講義のための準備学習を指示する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
基本的に、課題は講義時間内に提出すること。講義中の積極的な発言、質問、意見交換を望む。			
授業スケジュール			
１．ガイダンス　論文やレポートで使う言葉 ２．新聞・論文のモデルを読む ３．論文の構成・事物を説明する ４．先行研究を紹介する ５．問題提起・方向付け ６．データの読み取り ７．データに基づいて意見を述べる ８．結論を述べる ９．論文全体のまとめ・今後の展望を述べる １０．ここまでのまとめ・復習テスト １１．敬語① １２．敬語② １３．メールや手紙を書く① １４．メールや手紙を書く② １５．社会と言葉・全体のまとめ ※講義の内容は、受講生の要望に応じて変更する場合がある。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1000706
科目名	実用日本語 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
授業概要	社会人として通用する「話す」言葉と「書く」言葉の技法を身に付ける。		
教材（教科書）	プリントを配布する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	毎時の漢字小テスト、提出物、敬語チェック等の得点により評価する。		
到達目標	社会人として通用するプレゼンテーションなどの「話す」言葉と、レポートなどの「書く」言葉を使用することができる。		
授業時間外学習	第二回の授業以降、毎回、「今週、私の受けた興味深い授業とその内容」という 200 字の文章を「京学なび」に提出すること。書き方は初回の授業で説明する。締め切りは授業前の土曜日の 23 時 59 分とする。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

平素より言葉遣いに注意し、講義で得た知識や技術を生活上で実践すること。　授業においては、作業が中心となるので、積極的に取り組み、質問すること。

授業スケジュール

1　自己紹介の方法　話し言葉と書き言葉　授業の進め方　毎週の課題文の書き方
2　敬語１
3　敬語２
4　敬語３
5　敬語４
6　敬語５
7　手紙１
8　手紙２
9　書き言葉の技法１
10　書き言葉の技法２
11　書き言葉の技法３
12　書き言葉の技法４
13　書き言葉の技法５
14　書き言葉の技法６
15　最終提出作品の作成と発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1000707
科目名	実用日本語 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
授業概要	社会人として通用する「話す」言葉と「書く」言葉の技法を身に付ける。		
教材（教科書）	プリントを配布する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	毎時の漢字小テスト、提出物、敬語チェック等の得点により評価する。		
到達目標	社会人として通用するプレゼンテーションなどの「話す」言葉と、レポートなどの「書く」言葉を使用することができる。		
授業時間外学習	第二回の授業以降、毎回、「今週、私の受けた興味深い授業とその内容」という 200 字の文章を「京学なび」に提出すること。書き方は初回の授業で説明する。締め切りは授業前の土曜日の 23 時 59 分とする。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

平素より言葉遣いに注意し、講義で得た知識や技術を生活上で実践すること。　授業においては、作業が中心となるので、積極的に取り組み、質問すること。

授業スケジュール

1　自己紹介の方法　話し言葉と書き言葉　授業の進め方　毎週の課題文の書き方
2　敬語１
3　敬語２
4　敬語３
5　敬語４
6　敬語５
7　手紙１
8　手紙２
9　書き言葉の技法１
10　書き言葉の技法２
11　書き言葉の技法３
12　書き言葉の技法４
13　書き言葉の技法５
14　書き言葉の技法６
15　最終提出作品の作成と発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1110101
科目名	文学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鎌田　智恵	旧科目名称	
授業概要	京都は古くから政治・文化の中心地だった。日本の文学作品には京都で生みだされたものや、京都を舞台とするものも多い。 本講義では、京都を舞台とする作品に親しむことで、京都の新たな魅力を発見することを目指す。 各回の講義では、現代語訳を手がかりに作品の一部を原文で読む。その中に描かれた名所の姿を味わい、またその場所が現代ではどうなっているのかを知ることで、京都という土地の積み重ねてきた歴史や文化を感じとってほしい。 また実際に作品にふれることで、日本の文学作品に対する知識・理解も深めていきたい。 なお受講者の状況などにより、シラバスを一部変更することがある。		
教材（教科書）	なし（授業寺にプリントを配布する）		
教材（参考資料）	適宜プリントを配布する。また授業中に紹介する。		
教育方法	－		
評価方法	平常点（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）		
到達目標	・京都の歴史・文化・地理への理解を深める。 ・原文を読んで作品世界を味わうとともに、文学的な知識や感性を豊かにする。		
授業時間外学習	京都の地図を見たり実際にいろいろな場所を訪れたりして、京都の地形・地理などをある程度身につけておくのが望ましい。 講義内容を復習した上で次の授業に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

私語が講義の妨げになる場合は退出を求めることがある。
講義で扱った場所・作品については、ぜひ自分でも訪れたり手に取って読んでほしい。
古文の知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。

授業スケジュール

1，概説
2，羅城門　『今昔物語集』
3，伏見①　『伊勢物語』
4，伏見②　『枕草子』
5，宇治①　『古今和歌集』
6，宇治②／貴船神社　『平家物語』
7，上賀茂・下鴨神社　『源氏物語』
8，野宮神社　『源氏物語』
9，北野天満宮　『大鏡』
10，石清水八幡宮　『十訓抄』
11，仁和寺　『徒然草』
12，清水寺　『義経記』
13，大江山　『大江山絵詞』
14，與謝　『お伽草子』
15，祇園　『古都』（川端康成）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1110102
科目名	文学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵中　祐子	旧科目名称	
授業概要	授業は講義形式で行い、適宜プリントやパワーポイントを使用する。 京都は長らく、文化・文学の中心地であった。 京都を舞台にした文学作品を通して、京都の新たな側面を知ってほしい。授業では、京都の名所にまつわる文学作品を読む。今までに訪れたことがある場所であっても、文学作品を通して新たな見方ができるのではないかと思う。 題材としては、主に日本の古典文学作品を扱う。物語、和歌、軍記物、随筆、漢詩文など様々なジャンルにふれられるようにする。高校の古文の授業では扱わないような場面も紹介し、古典文学の魅力にふれる機会を提供する。古典文学は、長く読み続けられるに耐える普遍性を持っている。先人の考え方や、登場人物の生き様にふれることは、自らの思考や体験を相対化する一助となるであろう。若い時に読んだ古典文学作品は、その後の人生を必ず豊かにしてくれるものである。 古典文学作品を読み、京都の町を実際に歩き、見聞を広げることによって、日本文化・文学についての知識を身につけよう。		
教材（教科書）	講義法で授業は進められる。		
教材（参考資料）	適宜プリントを配布する。また、授業中に適宜紹介する。		
教育方法	講義法で授業は進められる。		
評価方法	レポート（40%）　定期試験（50%）　授業への参加度（10%）		
到達目標	・日本古典文学を通して日本人の考え方、ものの見方を知り、日本文化への理解を深める。また、理解した日本文化について説明できるようになる。 ・日本文化・文学に対する知識を身につけ、世代間・異文化間におけるコミュニケーション能力を高める。 ・机上の学習に終始せず実際に京都の名所を訪れることによって、自らの目で対象を確認した上で思考し、判断することの重要性を学ぶ。		
授業時間外学習	配布プリントを中心に各講義の内容を復習した上で次の授業にのぞむこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な態度で授業に出席するよう心がけてもらいたい。私語は厳禁とする。
京都を舞台とした文学を、この京都という地で読むという環境は、とても恵まれている。机上の学習に終始せず、文学の舞台となった地に足を運んでほしい。
また、京都近辺で開催されている展示や催し物についても授業中に告知し、積極的な参加を求める。
レポートでは、実際に授業で取りあげた場所（いずれか一箇所）に出向いた上での調査を求める。ある程度の労力と費用がかかる授業であることを予め承知しておいてほしい。
題材としては主に古典文学を扱うけれども、現代語訳を都度示すため、特に古文の知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。

授業スケジュール

1　授業のすすめ方　レポート・小テストについての説明　穴太寺　『今昔物語集』
2　比叡山　『伊勢物語』
3　三十三間堂　『平家物語』(1)
4　三十三間堂　『平家物語』(2)
5　清水寺　『ものくさ太郎』(1)
6　清水寺『ものくさ太郎』(2)　『義経記』
7　野宮神社　『源氏物語』

8　貴船神社 『鉄輪』　和歌(1)
9　北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(1)
10　北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(2)
11　伏見稲荷 『枕草子』
12　下鴨神社『方丈記』
13　仁和寺『徒然草』
14　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受）(1)　和歌(2)
15　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受（2）　『更級日記』

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1110103
科目名	文学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵中　祐子	旧科目名称	
授業概要	授業は講義形式で行い、適宜プリントやパワーポイントを使用する。 京都は長らく、文化・文学の中心地であった。 京都を舞台にした文学作品を通して、京都の新たな側面を知ってほしい。授業では、京都の名所にまつわる文学作品を読む。今までに訪れたことがある場所であっても、文学作品を通して新たな見方ができるのではないかと思う。 題材としては、主に日本の古典文学作品を扱う。物語、和歌、軍記物、随筆、漢詩文など様々なジャンルにふれられるようにする。高校の古文の授業では扱わないような場面も紹介し、古典文学の魅力にふれる機会を提供する。古典文学は、長く読み続けられるに耐える普遍性を持っている。先人の考え方や、登場人物の生き様にふれることは、自らの思考や体験を相対化する一助となるであろう。若い時に読んだ古典文学作品は、その後の人生を必ず豊かにしてくれるものである。 古典文学作品を読み、京都の町を実際に歩き、見聞を広げることによって、日本文化・文学についての知識を身につけよう。		
教材（教科書）	講義法で授業は進められる。		
教材（参考資料）	適宜プリントを配布する。また、授業中に適宜紹介する。		
教育方法	講義法で授業は進められる。		
評価方法	レポート（40%）　定期試験（50%）　授業への参加度（10%）		
到達目標	・日本古典文学を通して日本人の考え方、ものの見方を知り、日本文化への理解を深める。また、理解した日本文化について説明できるようになる。 ・日本文化・文学に対する知識を身につけ、世代間・異文化間におけるコミュニケーション能力を高める。 ・机上の学習に終始せず実際に京都の名所を訪れることによって、自らの目で対象を確認した上で思考し、判断することの重要性を学ぶ。		
授業時間外学習	配布プリントを中心に各講義の内容を復習した上で次の授業にのぞむこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な態度で授業に出席するよう心がけてもらいたい。私語は厳禁とする。
京都を舞台とした文学を、この京都という地で読むという環境は、とても恵まれている。机上の学習に終始せず、文学の舞台となった地に足を運んでほしい。
また、京都近辺で開催されている展示や催し物についても授業中に告知し、積極的な参加を求める。
レポートでは、実際に授業で取りあげた場所（いずれか一箇所）に出向いた上での調査を求める。ある程度の労力と費用がかかる授業であることを予め承知しておいてほしい。
題材としては主に古典文学を扱うけれども、現代語訳を都度示すため、特に古文の知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。

授業スケジュール

1　授業のすすめ方　レポート・小テストについての説明　穴太寺　『今昔物語集』
2　比叡山　『伊勢物語』
3　三十三間堂　『平家物語』(1)
4　三十三間堂　『平家物語』(2)
5　清水寺　『ものくさ太郎』(1)
6　清水寺『ものくさ太郎』(2)　『義経記』
7　野宮神社　『源氏物語』

8　貴船神社 『鉄輪』　和歌(1)
9　北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(1)
10　北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(2)
11　伏見稲荷 『枕草子』
12　下鴨神社『方丈記』
13　仁和寺『徒然草』
14　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受）(1)　和歌(2)
15　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受（2）　『更級日記』

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1110201
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	福田　美紀	旧科目名称	
授業概要	心理学は、人間の行動や心のありよう、心のはたらきを探求する学問である。人間の行動や心のありよう、心のはたらきを知ることは、人間を理解するためには 不可欠であり、人間にかかわる他学問すべてに関連しているといえる。心理学の基礎的領域を中心に、人間の心理的構造と機能について、実験的な事例をあげながら理解を深める。また、これらの基礎的な事実に基づいて、実際に人間の行動にどのように反映されているのかについて考えていく。		
教材（教科書）	加藤　司（編）（2008）心理学の基礎－新しい知見とトピックスから学ぶ－　樹村房　1800 円		
教材（参考資料）	岡市 廣成, 鈴木 直人（監）(2014）心理学概論[第 2 版]. ナカニシヤ出版　3200 円		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。必要に応じてグループワークを用いた講義を行う。		
評価方法	授業中に実施される小テスト・小レポートなどによる平常点（40%） 授業時間外に課される課題・レポート(20%) 筆記試験（40%）		
到達目標	①　心理学の基礎的知識の説明ができる ②　日常生活でみられるさまざまな現象を心理学の理論と結びつけることができる		
授業時間外学習	講義終了時に次回の範囲を指定するので、予習を行うことが望ましい。また、授業内容の全てをプリントにするわけではないため、口頭での説明箇所等については、各自授業後にノートを整理するなど積極的な予習復習を行うこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

イメージする心理学と，学問としての心理学とではギャップを感じるかもしれない。しかしながら心理学が扱う問題は、日常生活で感じる問題とリンクしていることが多い。心理学がわれわれの行動を解明するためにどのような役割を担っているのかについて、自分の生活と照らし合わせながら理解してほしい。
また、他者とのディスカッションを通して理解を深めてほしい。授業に対し，積極的に参加する意欲のある学生の受講を求める。
特別な事情がある場合を除き，すべての授業に遅刻・欠席なく出席すること。

授業スケジュール

1．　オリエンテーション　なぜ心理学を学ぶのか
2．　感覚と知覚
3．　記憶のメカニズム
4．　学習①　行動と学習の理論
5．　学習②　学習理論の応用
6．　情動と動機付け
7．　健康①　ストレス
8．　健康②　適応と不適応
9．　性格①　パーソナリティとは
10.　性格②　パーソナリティの理解
11.　発達①　乳・幼児期
12.　発達②　児童期・青年期
13.　発達③　壮年期・老年期
14.　社会的行動
15.　自己理解・他者理解

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1110202
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
授業概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。本講義では、心理学への入り口になると思われるトピックを取り上げながら、新たな知識や理論を理解し、自分について、また自分の身近な出来事について、心理学という視点から分析できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	斎藤　勇編　『図説心理学入門』　誠信書房		
教材（参考資料）	授業の中で、適宜紹介する。		
教育方法	毎時間の最後に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定し、次回の授業の最初に小テストを実施する。その後正答を提示し、内容について解説する。		
評価方法	定期テスト　70% 授業内小テスト　30%		
到達目標	心理学の基礎的な理論について説明できるようになる。人間についての理解が深まり，多面的な見方ができるようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール
他の受講生の受講の妨げになるような行動は厳禁。私語・小テストのカンニングなどの場合は退出を求める。

授業スケジュール

1. 心と行動 （講義概要の説明） ① 心の科学の領域や分野の概観 ② 行動の法則
2. 知覚と認知：ものの見え方、見方の心理 ① 知覚・認知とは何か ② かたちの知覚
3. 空間・運動知覚 ① 知覚の選択性 ② 知覚情報処理 ③ 知覚のずれ（錯視） ④ 社会的認知
4. 欲求と感情：欲望と喜怒哀楽の心理 ① 欲求と動機づけ ② 欲求の種類 ③ 欲求と認知の関連
   ④ フラストレーションとコンフリクト
5. ⑤ 感情とは何か ⑥ 感情の構造 ⑦ 感情に関する理論
6. 学習心理学 ①条件づけ
7. ② 記憶
8. 思考心理 ① 概念と課題解決（創造性テスト） ② 社会的学習
9. 発達と教育：育つ心と育てる心 ① 発達とは何か ② 発達の様相 （エリクソンの自我同一性の確立）
10. ③ 発達と教育に関わる問題
11. 性格と異常心理：心のやまいとパーソナリティ ① 精神病 ② 神経症
12. ③ 精神分析理論 ④ 行動理論 ⑤ 自己理論 （性格テスト）
13. 対人心理と社会心理：人間関係の心理 ① 対人認知とその過程 ② 親和と対人魅力
    ③ 社会的態度と態度変容
14. ④ 社会的相互作用 ：援助行動、攻撃行動、群集心理
15. 臨床心理：①アセスメント、② 心理検査法 ③ 心理療法：精神分析療法、クライエント中心療法
    行動療法、認知療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1110203
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
授業概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 　この授業では、そのような心理学への入り口になると思われるトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。そして、心理学という視点から見えてくる世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深める。		
教材（教科書）	図説心理学入門　斉藤勇（編）　誠心書房		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	講義形式で行う。		
評価方法	授業（授業内小テスト　授業内レポートなど）　５０％　試験　５０％		
到達目標	心理学の基礎的な理論を学び，人間についての理解を深め，多面的な見方ができるようになることを目標とする。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自分なりに考えを深め，積極的に授業に参加することを期待する。他の受講生が授業を聞く権利を妨害するような態度は厳禁です。その場合には、単位を出さなかったり、退室を求めることもあります。			
授業スケジュール			
１、心理学の様々な分野 ２、発達とは何か ３、発達①　思春期・青年期　エリクソンの理論　対人恐怖傾向・無気力学生 ４、発達②フロイトの発達理論 ５、発達③乳児期　幼児期　母子関係　マーラーの理論 ６、性格　自分の性格を知る ７、記憶①　　記憶と自分であること ８、記憶②作業記憶　長期記憶　記憶の変容　記憶の障害 ９、知覚と認知　①形の知覚　②図と地　③錯視図形 １０、条件付け・学習　①古典的条件付け　②オペラント条件付け　③学習性無力感 １１、社会的学習　　①模倣学習　②観察学習 １２、行為の自己調節　行動のコントロール １３、臨床心理学　カウンセリングにおける話の聞き方 １４、ストレスについて １５、心の健康			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1110204
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
授業概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。本講義では、心理学への入り口になると思われるトピックを取り上げながら、新たな知識や理論を理解し、自分について、また自分の身近な出来事について、心理学という視点から分析できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	斎藤　勇編　『図説心理学入門』　誠信書房		
教材（参考資料）	授業の中で、適宜紹介する。		
教育方法	毎時間の最後に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定し、次回の授業の最初に小テストを実施する。その後正答を提示し、内容について解説する。		
評価方法	定期テスト　70% 授業内小テスト　30%		
到達目標	心理学の基礎的な理論について説明できるようになる。人間についての理解が深まり，多面的な見方ができるようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール
他の受講生の受講の妨げになるような行動は厳禁。私語・小テストのカンニングなどの場合は退出を求める。

授業スケジュール

1. 心と行動 （講義概要の説明） ① 心の科学の領域や分野の概観 ② 行動の法則
2. 知覚と認知：ものの見え方、見方の心理 ① 知覚・認知とは何か ② かたちの知覚
3. 空間・運動知覚 ① 知覚の選択性 ② 知覚情報処理 ③ 知覚のずれ（錯視） ④ 社会的認知
4. 欲求と感情：欲望と喜怒哀楽の心理 ① 欲求と動機づけ ② 欲求の種類 ③ 欲求と認知の関連
   ④ フラストレーションとコンフリクト
5. ⑤ 感情とは何か ⑥ 感情の構造 ⑦ 感情に関する理論
6. 学習心理学 ①条件づけ
7. ② 記憶
8. 思考心理 ① 概念と課題解決（創造性テスト） ② 社会的学習
9. 発達と教育：育つ心と育てる心 ① 発達とは何か ② 発達の様相 （エリクソンの自我同一性の確立）
10. ③ 発達と教育に関わる問題
11. 性格と異常心理：心のやまいとパーソナリティ ① 精神病 ② 神経症
12. ③ 精神分析理論 ④ 行動理論 ⑤ 自己理論 （性格テスト）
13. 対人心理と社会心理：人間関係の心理 ① 対人認知とその過程 ② 親和と対人魅力
    ③ 社会的態度と態度変容
14. ④ 社会的相互作用 ：援助行動、攻撃行動、群集心理
15. 臨床心理：①アセスメント、② 心理検査法 ③ 心理療法：精神分析療法、クライエント中心療法
    行動療法、認知療法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1110205
科目名	心理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山添　正	旧科目名称	

授業概要	心について、先人達はさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。 心理学では、そのような理論を参照することで、普段は当然と考えられているような心の動きや、心の成長に新しく光を当てて、把握する面白さがある。 本講義では、そのような心理学の入り口なると思われる男女関係の問題や人間関係などのトピックをいくつか取り上げることで、自分について、また自分の身近な出来事について考えていく。 心理学というか視点から見えてく世界について、新たな知識や理論を通じて理解を深めることを目的としている。
教材（教科書）	なし。授業で資料を配布
教材（参考資料）	『ヒルガードの心理学』　（ブレーン出版）　内田一成　監訳
教育方法	毎回、教科書のテーマン関連する DVD の視聴をする事で、教科書の理解を助ける。
評価方法	授業の最後に毎回行う作文６０％、レポート４０％。評価方法については、勉強方法と関連しているので授業の始めに説明します。心理学の勉強は客観的に進める方法と主観的に進める二つの方法があります。本講義は、後者の方法をとっていますので、勉強法の理解が大切になります。
到達目標	毎回取り上げる、心理学のトピックを学ぶ事で、心理学から見えて来る、新たな知識や理論を通じて、自分自身の日常生活の、その日のテーマと対応する身近な出来事について理解する力や考える力をつける。このように心理学のテーマと自分の日常を結びつける力を１５回の講義と作文の訓練を通して身につけることを目標にしている。
授業時間外学習	回数　日時　テキストのテーマ　テキストページ 1　4月12日　心の歴史 p２４－３７ 2　4月19日　知覚　p５０－５７ 3　4月26日　感情　p６０－６１ 4　5月10日　記憶　p７８－７９ 5　5月17日　知能　p８８－８９ 6　5月24日　男らしさ女らしさ　p１１２－１１３ 7　5月31日　印総形成 p１２８－１３１ 8　6月7日　好き嫌い p１３４－１３７ 9　6月14日　説得的コミュニケーション　p１４６－１４７ 10　6月21日　権力　p１５６－１５７ 11　6月28日　群衆　p１５８－１５９ 12　7月5日　出産・育児　p２０８－２０９ 13　7月12日　発達障害 p１９６－１９７ 14　7月19日　死の受容 p２１４－２１５ 15　7月26日　まとめ
受講条件・受講のルール・学習上の助言など	講義と同様、視聴覚教材視聴の時も毎回作文を書いていただきますので、講義を聴きながら、視聴しながらどの部分を作文で取り上げるか考えながら、または取り上げる部分のメモをとりながら聞き、視聴する事が大切です。
授業スケジュール	日時　テキストのテーマ 1　4月12日　歴史 2　4月19日　知覚 3　4月26日　感情 4　5月10日　記憶 5　5月17日　知能

6	5 月 24 日	男らしさ女らしさ
7	5 月 31 日	印総形成
8	6 月 7 日	好き嫌い
9	6 月 14 日	コミュニケーション
10	6 月 21 日	権力
11	6 月 28 日	群衆
12	7 月 5 日	出産育児
13	7 月 12 日	発達障害
14	7 月 19 日	死の受容
15	7 月 26 日	まとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	JC1110301
科目名	日本史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　英一	旧科目名称	
授業概要	本講義では、古代から近世に至る日本の歴史について、政治・社会・文化などいくつかのテーマをとりあげて検討する。特に、平安京・京都を中心に展開する政治、祭礼やそれに関わる人々などを素材に、京都という場を通して日本の歴史の展開と特質について考えることとする。平安京遷都以来、京都は日本の首都として、日本の歴史の中心的な位置に存在し続けてきたのであり、京都の歴史には政治・社会・経済・文化などあらゆる側面にわたって、日本史の様々な特徴があらわれているからである。また、災害・戦争など現代的課題に関わるテーマもとりあげ、現代社会をとらえ直す新しい視座を獲得することも目指す。その際、我々が普段見聞きする日本史叙述が、史料の内容を踏まえて構築されているという歴史学の方法論にもできるだけ触れていきたい。		
教材（教科書）	特になし。各授業で適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	参考文献は授業中に適宜紹介する。		
教育方法	授業は講義形式で行う。毎回プリントを配布し、それに沿って授業を進める。また、期間中に数回、講義内容に関する小テストを行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１、日本の歴史や伝統・文化について認識を深め、現代日本社会がその歴史的所産の上に成り立っていることを正しく理解する。 ２、日本史の基礎的知識を習得・確認するとともに、自らの歴史認識を他者に伝達するための論理的な思考法を磨く。 ３、授業中にとりあげた事項やそれに関連する事項について、自分で調べる・考えるという姿勢を身につける。		
授業時間外学習	授業前に各自、概説書や通史などで日本史の通説的理解を確認しておくこと。概説書・通史については授業中にも適宜紹介する予定である。高校の日本史教科書を参照してもよいが、本講義では教科書的・一般的歴史像を批判・再検討する内容も含まれるので注意すること。 また、毎回の授業の終了後、その日のうちにノートや配布プリントを見直し・整理したり、紹介された参考文献を熟読しておくと、授業の復習や理解の深化に役に立つ。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業では集中して聴講し、板書や必要と判断した事項をきちんとノートにとることが、授業内容の理解のために不可欠である。私語・飲食や携帯電話・スマートフォンの利用など、授業の妨げになる行為は厳禁とする。過剰な場合は退出を求める。			
授業スケジュール			
１、はじめに ２、古代（１）　古代日本の誕生 ３、古代（２）　藤原京・平城京から平安京へ ４、古代（３）　平安京の変貌と貴族社会 ５、古代（４）　平安京の衛生環境と祇園御霊会（１） ６、古代（５）　平安京の衛生環境と祇園御霊会（２） ７、中世（１）　武士とは何か ８、中世（２）　源平合戦と鎌倉幕府の成立 ９、中世（３）　鎌倉時代の公武関係と都市京都 １０、中世（４）　中世社会と仏教・寺院 １１、中世（５）　室町幕府の確立と東アジア １２、中世（６）　中世後期の京都と祇園祭 １３、中世（７）　飢饉・戦争と戦国時代の日本 １４、近世（１）　天下統一と京都の変貌 １５、近世（２）　江戸幕府と朝廷			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1110302
科目名	日本史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　英一	旧科目名称	
授業概要	本講義では、古代から近世に至る日本の歴史について、政治・社会・文化などいくつかのテーマをとりあげて検討する。特に、平安京・京都を中心に展開する政治、祭礼やそれに関わる人々などを素材に、京都という場を通して日本の歴史の展開と特質について考えることとする。平安京遷都以来、京都は日本の首都として、日本の歴史の中心的な位置に存在し続けてきたのであり、京都の歴史には政治・社会・経済・文化などあらゆる側面にわたって、日本史の様々な特徴があらわれているからである。また、災害・戦争など現代的課題に関わるテーマもとりあげ、現代社会をとらえ直す新しい視座を獲得することも目指す。その際、我々が普段見聞きする日本史叙述が、史料の内容を踏まえて構築されているという歴史学の方法論にもできるだけ触れていきたい。		
教材（教科書）	特になし。各授業で適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	参考文献は授業中に適宜紹介する。		
教育方法	授業は講義形式で行う。毎回プリントを配布し、それに沿って授業を進める。また、期間中に数回、講義内容に関する小テストを行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１、日本の歴史や伝統・文化について認識を深め、現代日本社会がその歴史的所産の上に成り立っていることを正しく理解する。 ２、日本史の基礎的知識を習得・確認するとともに、自らの歴史認識を他者に伝達するための論理的な思考法を磨く。 ３、授業中にとりあげた事項やそれに関連する事項について、自分で調べる・考えるという姿勢を身につける。		
授業時間外学習	授業前に各自、概説書や通史などで日本史の通説的理解を確認しておくこと。概説書・通史については授業中にも適宜紹介する予定である。高校の日本史教科書を参照してもよいが、本講義では教科書的・一般的歴史像を批判・再検討する内容も含まれるので注意すること。 また、毎回の授業の終了後、その日のうちにノートや配布プリントを見直し・整理したり、紹介された参考文献を熟読しておくと、授業の復習や理解の深化に役に立つ。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業では集中して聴講し、板書や必要と判断した事項をきちんとノートにとることが、授業内容の理解のために不可欠である。私語・飲食や携帯電話・スマートフォンの利用など、授業の妨げになる行為は厳禁とする。過剰な場合は退出を求める。			
授業スケジュール			
１、はじめに ２、古代（１）　古代日本の誕生 ３、古代（２）　藤原京・平城京から平安京へ ４、古代（３）　平安京の変貌と貴族社会 ５、古代（４）　平安京の衛生環境と祇園御霊会（１） ６、古代（５）　平安京の衛生環境と祇園御霊会（２） ７、中世（１）　武士とは何か ８、中世（２）　源平合戦と鎌倉幕府の成立 ９、中世（３）　鎌倉時代の公武関係と都市京都 １０、中世（４）　中世社会と仏教・寺院 １１、中世（５）　室町幕府の確立と東アジア １２、中世（６）　中世後期の京都と祇園祭 １３、中世（７）　飢饉・戦争と戦国時代の日本 １４、近世（１）　天下統一と京都の変貌 １５、近世（２）　江戸幕府と朝廷			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1110303
科目名	日本史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　英一	旧科目名称	
授業概要	本講義では、古代から近世に至る日本の歴史について、政治・社会・文化などいくつかのテーマをとりあげて検討する。特に、平安京・京都を中心に展開する政治、祭礼やそれに関わる人々などを素材に、京都という場を通して日本の歴史の展開と特質について考えることとする。平安京遷都以来、京都は日本の首都として、日本の歴史の中心的な位置に存在し続けてきたのであり、京都の歴史には政治・社会・経済・文化などあらゆる側面にわたって、日本史の様々な特徴があらわれているからである。また、災害・戦争など現代的課題に関わるテーマもとりあげ、現代社会をとらえ直す新しい視座を獲得することも目指す。その際、我々が普段見聞きする日本史叙述が、史料の内容を踏まえて構築されているという歴史学の方法論にもできるだけ触れていきたい。		
教材（教科書）	特になし。各授業で適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	参考文献は授業中に適宜紹介する。		
教育方法	授業は講義形式で行う。毎回プリントを配布し、それに沿って授業を進める。また、期間中に数回、講義内容に関する小テストを行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期試験（70%）		
到達目標	１、日本の歴史や伝統・文化について認識を深め、現代日本社会がその歴史的所産の上に成り立っていることを正しく理解する。 ２、日本史の基礎的知識を習得・確認するとともに、自らの歴史認識を他者に伝達するための論理的な思考法を磨く。 ３、授業中にとりあげた事項やそれに関連する事項について、自分で調べる・考えるという姿勢を身につける。		
授業時間外学習	授業前に各自、概説書や通史などで日本史の通説的理解を確認しておくこと。概説書・通史については授業中にも適宜紹介する予定である。高校の日本史教科書を参照してもよいが、本講義では教科書的・一般的歴史像を批判・再検討する内容も含まれるので注意すること。 また、毎回の授業の終了後、その日のうちにノートや配布プリントを見直し・整理したり、紹介された参考文献を熟読しておくと、授業の復習や理解の深化に役に立つ。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業では集中して聴講し、板書や必要と判断した事項をきちんとノートにとることが、授業内容の理解のために不可欠である。私語・飲食や携帯電話・スマートフォンの利用など、授業の妨げになる行為は厳禁とする。過剰な場合は退出を求める。			
授業スケジュール			
１、はじめに ２、古代（１）　古代日本の誕生 ３、古代（２）　藤原京・平城京から平安京へ ４、古代（３）　平安京の変貌と貴族社会 ５、古代（４）　平安京の衛生環境と祇園御霊会（１） ６、古代（５）　平安京の衛生環境と祇園御霊会（２） ７、中世（１）　武士とは何か ８、中世（２）　源平合戦と鎌倉幕府の成立 ９、中世（３）　鎌倉時代の公武関係と都市京都 １０、中世（４）　中世社会と仏教・寺院 １１、中世（５）　室町幕府の確立と東アジア １２、中世（６）　中世後期の京都と祇園祭 １３、中世（７）　飢饉・戦争と戦国時代の日本 １４、近世（１）　天下統一と京都の変貌 １５、近世（２）　江戸幕府と朝廷			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1110401
科目名	東洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	磯部　淳史	旧科目名称	
授業概要	「皇帝政治から見た東洋史」 本講義では「東洋史」を、中国を中心とする東アジア世界に展開した「皇帝政治」をキーワードに概観する。二千年の長きに渡って繰り広げられた皇帝政治は、前近代史のみならず、皇帝が消滅した後の近現代東アジアにも少なからぬ影響を与えている。本講義を受講することで、前近代中国史、および東洋史に対する理解を深めるとともに、現代中国・アジアを理解するために必要な知識を修得できる。		
教材（教科書）	基本的に使用しない。教員作成のレジュメを配布する。		
教材（参考資料）	全体に関わる参考文献：梅原郁『皇帝政治と中国』白帝社、1944 円 この他の参考文献は、レジュメに適宜掲載する。		
教育方法	レジュメ、画像などの視覚資料を用いながら、講義法で行う。		
評価方法	授業内に行う課題などの平常点（30%）　レポート（70%）		
到達目標	（1）前近代中国・アジアの政治史の流れを理解し、説明することができる。 （2）前近代中国・アジアにおける皇帝政治の特徴について理解し、説明することができる。 （3）皇帝政治が現代中国・アジアに与えた影響を理解し、説明することができる。		
授業時間外学習	（1）授業のレジュメを、京学なびの「授業資料」に、授業一週間前までにアップロードするので、プリントアウトして各自事前に目を通しておくこと。なお、第１回目のレジュメのみは授業の際に配布する。 （2）毎回のレジュメに参考文献を掲載するので、授業で疑問に思ったこと、関心を持ったことなどは各自で調べるようにすること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講条件：特になし 受講のルール：私語など、授業の進行を妨げるような行為は厳禁とする。 学習上の助言：高校世界史で学習する程度の中国史・アジア史に関する事柄を復習していることが望ましい。			
授業スケジュール			
１．イントロダクション／授業の進め方、成績評価等の説明、参考文献の紹介 ２．皇帝の誕生 ３．皇帝政治の展開 ４．皇帝と外戚 ５．分裂の時代と皇帝 ６．東アジアの中の皇帝 ７．女帝の時代 ８．独裁君主の登場 ９．アジアの「征服王朝」 １０．世界帝国と皇帝 １１．君主独裁制の完成 １２．明から清へ １３．最後の大帝国 １４．皇帝政治の舞台 １５．皇帝政治の終焉			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1110402
科目名	東洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	磯部　淳史	旧科目名称	
授業概要	「皇帝政治から見た東洋史」 本講義では「東洋史」を、中国を中心とする東アジア世界に展開した「皇帝政治」をキーワードに概観する。二千年の長きに渡って繰り広げられた皇帝政治は、前近代史のみならず、皇帝が消滅した後の近現代東アジアにも少なからぬ影響を与えている。本講義を受講することで、前近代中国史、および東洋史に対する理解を深めるとともに、現代中国・アジアを理解するために必要な知識を修得できる。		
教材（教科書）	基本的に使用しない。教員作成のレジュメを配布する。		
教材（参考資料）	全体に関わる参考文献：梅原郁『皇帝政治と中国』白帝社、1944 円 この他の参考文献は、レジュメに適宜掲載する。		
教育方法	レジュメ、画像などの視覚資料を用いながら、講義法で行う。		
評価方法	授業内に行う課題などの平常点（30%）　レポート（70%）		
到達目標	（1）前近代中国・アジアの政治史の流れを理解し、説明することができる。 （2）前近代中国・アジアにおける皇帝政治の特徴について理解し、説明することができる。 （3）皇帝政治が現代中国・アジアに与えた影響を理解し、説明することができる。		
授業時間外学習	（1）授業のレジュメを、京学なびの「授業資料」に、授業一週間前までにアップロードするので、プリントアウトして各自事前に目を通しておくこと。なお、第１回目のレジュメのみは授業の際に配布する。 （2）毎回のレジュメに参考文献を掲載するので、授業で疑問に思ったこと、関心を持ったことなどは各自で調べるようにすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件：特になし
受講のルール：私語など、授業の進行を妨げるような行為は厳禁とする。
学習上の助言：高校世界史て?学習する程度の中国史・アジア史に関する事柄を復習していることか?望ましい。

授業スケジュール

１．イントロダクション／授業の進め方、成績評価等の説明、参考文献の紹介

２．皇帝の誕生
３．皇帝政治の展開
４．皇帝と外戚
５．分裂の時代と皇帝
６．東アジアの中の皇帝
７．女帝の時代
８．独裁君主の登場
９．アジアの「征服王朝」
１０．世界帝国と皇帝
１１．君主独裁制の完成
１２．明から清へ
１３．最後の大帝国
１４．皇帝政治の舞台
１５．皇帝政治の終焉

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1110501
科目名	西洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
授業概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（教科書）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考資料）	授業中に指示します。		
教育方法	板書を中心にした講義法を行います。		
評価方法	中間レポート（２０%）、レポート試験（期末レポート）（４０%）、平常点（４０%）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
授業時間外学習	中間レポート課題と期末レポート課題以外の教科書の各章を学期中に読破する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件

　西洋史を学ぶ意欲を持っていること。

受講のルール

　授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を守らなかったり、受講態度が悪い場合は減点します。

学習上の助言

　過去と現在との違いを認識して、両者を理解するように努めて下さい。

授業スケジュール

１．西洋史の課題
２．ハーメルンの笛吹き男伝説（１）　―　伝説の概要
３．ハーメルンの笛吹き男伝説（２）　―　伝説をめぐる解釈
４．死生観の歴史（１）　―　西洋中世の死生観
５．死生観の歴史（２）　―　西洋近世・近代の死生観
６．魔女裁判（１）　―　魔女裁判の歴史
７．魔女裁判（２）　―　魔女裁判とは何か
８．犯罪と刑罰の歴史（１）　―　西洋中世の処刑
９．犯罪と刑罰の歴史（２）　―　西洋近世の刑罰
１０．疫病の歴史（１）　―　黒死病の歴史
１１．疫病の歴史（２）　―　黒死病と人々
１２．「流行」の歴史（１）　―　服飾の流行史
１３．「流行」の歴史（２）　―　産業革命と「流行」
１４．奴隷貿易の歴史（１）　―　奴隷貿易の起源
１５．奴隷貿易の歴史（２）　―　奴隷貿易の展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1110502
科目名	西洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
授業概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（教科書）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考資料）	授業中に指示します。		
教育方法	板書を中心にした講義法を行います。		
評価方法	中間レポート（２０%）、レポート試験（期末レポート）（４０%）、平常点（４０%）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
授業時間外学習	中間レポート課題と期末レポート課題以外の教科書の各章を学期中に読破する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件

　西洋史を学ぶ意欲を持っていること。

受講のルール

　授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を守らなかったり、受講態度が悪い場合は減点します。

学習上の助言

　過去と現在との違いを認識して、両者を理解するように努めて下さい。

授業スケジュール

１．西洋史の課題
２．ハーメルンの笛吹き男伝説（１）　―　伝説の概要
３．ハーメルンの笛吹き男伝説（２）　―　伝説をめぐる解釈
４．死生観の歴史（１）　―　西洋中世の死生観
５．死生観の歴史（２）　―　西洋近世・近代の死生観
６．魔女裁判（１）　―　魔女裁判の歴史
７．魔女裁判（２）　―　魔女裁判とは何か
８．犯罪と刑罰の歴史（１）　―　西洋中世の処刑
９．犯罪と刑罰の歴史（２）　―　西洋近世の刑罰
１０．疫病の歴史（１）　―　黒死病の歴史
１１．疫病の歴史（２）　―　黒死病と人々
１２．「流行」の歴史（１）　―　服飾の流行史
１３．「流行」の歴史（２）　―　産業革命と「流行」
１４．奴隷貿易の歴史（１）　―　奴隷貿易の起源
１５．奴隷貿易の歴史（２）　―　奴隷貿易の展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1110503
科目名	西洋史	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
授業概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（教科書）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考資料）	授業中に指示します。		
教育方法	板書を中心にした講義法を行います。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（期末レポート）（４０％）、平常点（４０％）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
授業時間外学習	中間レポート課題と期末レポート課題以外の教科書の各章を学期中に読破する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件

　西洋史を学ぶ意欲を持っていること。

受講のルール

　授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を守らなかったり、受講態度が悪い場合は減点します。

学習上の助言

　過去と現在との違いを認識して、両者を理解するように努めて下さい。

授業スケジュール

１．西洋史の課題
２．ハーメルンの笛吹き男伝説（１）　―　伝説の概要
３．ハーメルンの笛吹き男伝説（２）　―　伝説をめぐる解釈
４．死生観の歴史（１）　―　西洋中世の死生観
５．死生観の歴史（２）　―　西洋近世・近代の死生観
６．魔女裁判（１）　―　魔女裁判の歴史
７．魔女裁判（２）　―　魔女裁判とは何か
８．犯罪と刑罰の歴史（１）　―　西洋中世の処刑
９．犯罪と刑罰の歴史（２）　―　西洋近世の刑罰
１０．疫病の歴史（１）　―　黒死病の歴史
１１．疫病の歴史（２）　―　黒死病と人々
１２．「流行」の歴史（１）　―　服飾の流行史
１３．「流行」の歴史（２）　―　産業革命と「流行」
１４．奴隷貿易の歴史（１）　―　奴隷貿易の起源
１５．奴隷貿易の歴史（２）　―　奴隷貿易の展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1110601
科目名	哲学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
授業概要	「人間とは何か」とは、西洋哲学の最も根本的な問題である。講義の前半では、この問いに対する西洋の哲学や思想の代表的な解答を検討していく。後半では、別の角度からこの問題に迫る。人間はしばしば「社会的動物」と言われる。しかし、人間の中には、他者を憎んだり他者と争ったりするという反社会的な側面もある。それ故、「社会的動物」という人間の定義は不十分ということになる。講義の後半では、西洋の哲学や思想を素材にしてこれら人間の二側面（社会的・反社会的側面）について考察していくことにする。この考察を通して、人間とは何か、そして自分とは何かという哲学の最も根本的な問題に迫っていくことにしたい。		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教育方法	講義法で授業は進められる。授業内で学生の発言を求めることがある。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	哲学史を手がかりにして、自分自身について考えること（自己探求）の立脚点を得る。		
授業時間外学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。			
授業スケジュール			
１．導入－１哲学と「人間への問い」　２ギリシアの思想とヘブライの信仰 ２．ギリシア哲学の人間観１－１神話から哲学へ　２ソクラテスとプラトン　３プラトンの「魂の三分説」 ３．『聖書』の人間観１－１『聖書』　２天地創造と人間創造の神話　３アダムとエバの神話 ４．キリスト教の人間観１－１キリスト教の成立　２アウグスティヌス　３魂の分裂 ５．近代哲学の人間観１－１科学革命と近代哲学　２デカルトの機械論的自然学　３自然支配 ６．現代思想の人間観１－１ダーウィンの進化論　２非理性的人間像　３前半のまとめ ７．「社会的動物」としての人間－１別の人間観　２性善説と性悪説　３ペルソナ ８．『聖書』の人間観２－１知恵の木の実　２カインとアベル ９．ギリシア神話－１ヒーロー　２『イリアス』　３アレテー １０.ギリシア哲学の人間観２－１気概　２魂の四徳 １１.キリスト教の人間観２－１神と人間　２七つの大罪　３認められたいという誘惑 １２.近代哲学の人間観２－１社会の変動　２中世と近代のはざま　３悪の根源 １３.近代哲学の人間観３－１ホッブズ　２自惚れる人間　３高い評価を得るために戦う人間たち １４.近代哲学の人間観４－１ヘーゲル　２「承認のための闘争」　３相互承認 １５.現代思想の人間観２－１ニーチェ　２優越願望と対等願望　３認めるということ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1110602
科目名	哲学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
授業概要	「人間とは何か」とは、西洋哲学の最も根本的な問題である。講義の前半では、この問いに対する西洋の哲学や思想の代表的な解答を検討していく。後半では、別の角度からこの問題に迫る。人間はしばしば「社会的動物」と言われる。しかし、人間の中には、他者を憎んだり他者と争ったりするという反社会的な側面もある。それ故、「社会的動物」という人間の定義は不十分ということになる。講義の後半では、西洋の哲学や思想を素材にしてこれら人間の二側面（社会的・反社会的側面）について考察していくことにする。この考察を通して、人間とは何か、そして自分とは何かという哲学の最も根本的な問題に迫っていくことにしたい。		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教育方法	講義法で授業は進められる。授業内で学生の発言を求めることがある。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	哲学史を手がかりにして、自分自身について考えること（自己探求）の立脚点を得る。		
授業時間外学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。			
授業スケジュール			
１．導入－１哲学と「人間への問い」　２ギリシアの思想とヘブライの信仰 ２．ギリシア哲学の人間観１－１神話から哲学へ　２ソクラテスとプラトン　３プラトンの「魂の三分説」 ３．『聖書』の人間観１－１『聖書』　２天地創造と人間創造の神話　３アダムとエバの神話 ４．キリスト教の人間観１－１キリスト教の成立　２アウグスティヌス　３魂の分裂 ５．近代哲学の人間観１－１科学革命と近代哲学　２デカルトの機械論的自然学　３自然支配 ６．現代思想の人間観１－１ダーウィンの進化論　２非理性的人間像　３前半のまとめ ７．「社会的動物」としての人間－１別の人間観　２性善説と性悪説　３ペルソナ ８．『聖書』の人間観２－１知恵の木の実　２カインとアベル ９．ギリシア神話－１ヒーロー　２『イリアス』　３アレテー １０.ギリシア哲学の人間観２－１気概　２魂の四徳 １１.キリスト教の人間観２－１神と人間　２七つの大罪　３認められたいという誘惑 １２.近代哲学の人間観２－１社会の変動　２中世と近代のはざま　３悪の根源 １３.近代哲学の人間観３－１ホッブズ　２自惚れる人間　３高い評価を得るために戦う人間たち １４.近代哲学の人間観４－１ヘーゲル　２「承認のための闘争」　３相互承認 １５.現代思想の人間観２－１ニーチェ　２優越願望と対等願望　３認めるということ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1110603
科目名	哲学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
授業概要	「人間とは何か」とは、西洋哲学の最も根本的な問題である。講義の前半では、この問いに対する西洋の哲学や思想の代表的な解答を検討していく。後半では、別の角度からこの問題に迫る。人間はしばしば「社会的動物」と言われる。しかし、人間の中には、他者を憎んだり他者と争ったりするという反社会的な側面もある。それ故、「社会的動物」という人間の定義は不十分ということになる。講義の後半では、西洋の哲学や思想を素材にしてこれら人間の二側面（社会的・反社会的側面）について考察していくことにする。この考察を通して、人間とは何か、そして自分とは何かという哲学の最も根本的な問題に迫っていくことにしたい。		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教育方法	講義法で授業は進められる。授業内で学生の発言を求めることがある。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	哲学史を手がかりにして、自分自身について考えること（自己探求）の立脚点を得る。		
授業時間外学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。			
授業スケジュール			
１．導入－１哲学と「人間への問い」　２ギリシアの思想とヘブライの信仰 ２．ギリシア哲学の人間観１－１神話から哲学へ　２ソクラテスとプラトン　３プラトンの「魂の三分説」 ３．『聖書』の人間観１－１『聖書』　２天地創造と人間創造の神話　３アダムとエバの神話 ４．キリスト教の人間観１－１キリスト教の成立　２アウグスティヌス　３魂の分裂 ５．近代哲学の人間観１－１科学革命と近代哲学　２デカルトの機械論的自然学　３自然支配 ６．現代思想の人間観１－１ダーウィンの進化論　２非理性的人間像　３前半のまとめ ７．「社会的動物」としての人間－１別の人間観　２性善説と性悪説　３ペルソナ ８．『聖書』の人間観２－１知恵の木の実　２カインとアベル ９．ギリシア神話－１ヒーロー　２『イリアス』　３アレテー １０.ギリシア哲学の人間観２－１気概　２魂の四徳 １１.キリスト教の人間観２－１神と人間　２七つの大罪　３認められたいという誘惑 １２.近代哲学の人間観２－１社会の変動　２中世と近代のはざま　３悪の根源 １３.近代哲学の人間観３－１ホッブズ　２自惚れる人間　３高い評価を得るために戦う人間たち １４.近代哲学の人間観４－１ヘーゲル　２「承認のための闘争」　３相互承認 １５.現代思想の人間観２－１ニーチェ　２優越願望と対等願望　３認めるということ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1110701
科目名	生命倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	棚次　正和	旧科目名称	
授業概要	本講義は、生命の尊厳について考えを深め、人間相互の違いを認め合い尊重できる自他共生の倫理観を涵養することを目的とする。1970 年前後にアメリカ合衆国で誕生した生命倫理（Bioethics）の基本的な考え方を紹介しながら、QOL（生命の質）と SOL（生命の尊厳）の相違、患者の自己決定権、パーソン論、尊厳死、脳死と臓器移植、人工妊娠中絶、出生前診断、健康の定義、緩和ケアとスピリチュアルケアなどの根本問題を取り上げ、何が重要かをともに考える。また、「いのち」の深さや日本固有の生命観についても検討する。		
教材（教科書）	『医療倫理と生命倫理』（私家版のテキスト）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	特定のテーマについて概要を述べた後、論点を指摘しながら、何が問題かをともに考える。また、それに関する自分の考えを整理してもらうために、毎回、授業の最後に小テストを行なう。		
評価方法	授業での小テストによる平常点（50%）。定期試験（50%）。		
到達目標	生命の尊厳について理解を深め、自他共生の倫理観を涵養すること。		
授業時間外学習	テキストを事前に予習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

板書したことを書き写すことが勉強なのではない。固定観念を捨てて、講義をよく聴き、何がポイントかを自分なりに考えること。

授業スケジュール

1　「生命」概念と「倫理」概念の収縮　（テキスト p.2-p.3）
2　生命倫理と医療倫理　（p.6-p.7）
3　生命倫理の四原則　（p.9-p.11）
4　患者の自己決定権　（p.11）
5　インフォームド・コンセント　（p.11-p.13）
6　QOL（生命の質）と SOL（生命の尊厳）　（p.8-p.9）
7　人間の尊厳、自他共生　（p.8-p.9）
8　生と死の問題　（p.14-p.15）
9　死生学、尊厳死　（p.17-p.19）
10　脳死と臓器移植　（p.20-p.23）
11　人体実験と臨床試験　（p.25-p.26）
12　出生前診断と人工妊娠中絶　（p.27-p.28）
13　緩和ケア、スピリチュアルケア　（p.29-p.32）
14　健康とは何か　（p.33-p.35）
15　日本型生命倫理の可能性　（資料配布）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1110702
科目名	生命倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鶴　真一	旧科目名称	
授業概要	医療技術のめざましい発展によって、私たちは病気の治療や予防をはじめとして実にさまざまな恩恵を享受している。しかしその一方で、医療技術の発展は、人類が長年にわたって培ってきた生命観や人生観を大きく変えるものでもあり、それらに対する「反省」が私たちに迫られている。 こうした自覚のもと、この授業では、「生命倫理学」で議論される一連のテーマを取り上げ、何が問題になっているのかを見ていき、自身の生命観や人生観を今一度反省するとともに、自分なりの考えを構築することを目的とする。		
教材（教科書）	オリジナルの授業用資料を使用する		
教材（参考資料）	特になし（授業中に適宜紹介する）		
教育方法	生命倫理学で議論される一連のテーマを取り上げ、何が問題になっているのかを解説する。 １）毎回テーマを定め、空欄補充式の授業用資料に基づいて授業を進めていく。 ２）空欄に入れるべき語句はスライドで表示するので、講義を聴きながら各自記入してもらう。		
評価方法	全講義回数の３分の２以上の出席を条件とし、以下の要領で評価を行う。 １）　定期課題（授業期間中適宜５回）　　：50% ２）　期末レポート（授業終了後１回）　　：50%		
到達目標	１）　現代の医療現場で何が問題になっているのかを学ぶことで、みずからの生命観、「生きるとは何か」という問題を反省できるようにする。 ２）　生命倫理学の諸問題について、自分の見解を持ち、説明できるようにする。		
授業時間外学習	授業で使用する教材は、京学なびの「授業資料」に事前にアップロードするので、プリントアウトして持参すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
初回授業で授業の進め方について詳しい説明（課題の要領や評価基準など）を行うので、必ず出席すること。 初回授業を欠席する場合は、事前に連絡するか、次回授業の際にその旨申し出ること。			
授業スケジュール			
第　１回　オリエンテーション（授業の進め方・評価に関する説明） 第　２回　倫理学とは（１） 第　３回　倫理学とは（２） 第　４回　倫理と道徳 第　５回　生命倫理学とは 第　６回　道徳的ディレンマ 第　７回　健康と病気 第　８回　安楽死と尊厳死 第　９回　生殖技術 第１０回　遺伝子治療 第１１回　人工妊娠中絶 第１２回　パーソン論 第１３回　パターナリズム 第１４回　インフォームド・コンセント 第１５回　臓器移植			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1110703
科目名	生命倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鶴　真一	旧科目名称	
授業概要	医療技術のめざましい発展によって、私たちは病気の治療や予防をはじめとして実にさまざまな恩恵を享受している。しかしその一方で、医療技術の発展は、人類が長年にわたって培ってきた生命観や人生観を大きく変えるものでもあり、それらに対する「反省」が私たちに迫られている。 こうした自覚のもと、この授業では、「生命倫理学」で議論される一連のテーマを取り上げ、何が問題になっているのかを見ていき、自身の生命観や人生観を今一度反省するとともに、自分なりの考えを構築することを目的とする。		
教材（教科書）	オリジナルの授業用資料を使用する		
教材（参考資料）	特になし（授業中に適宜紹介する）		
教育方法	生命倫理学で議論される一連のテーマを取り上げ、何が問題になっているのかを解説する。 １）毎回テーマを定め、空欄補充式の授業用資料に基づいて授業を進めていく。 ２）空欄に入れるべき語句はスライドで表示するので、講義を聴きながら各自記入してもらう。		
評価方法	全講義回数の３分の２以上の出席を条件とし、以下の要領で評価を行う。 １）　定期課題（授業期間中適宜５回）　　：50% ２）　期末レポート（授業終了後１回）　　：50%		
到達目標	１）　現代の医療現場で何が問題になっているのかを学ぶことで、みずからの生命観、「生きるとは何か」という問題を反省できるようにする。 ２）　生命倫理学の諸問題について、自分の見解を持ち、説明できるようにする。		
授業時間外学習	授業で使用する教材は、京学なびの「授業資料」に事前にアップロードするので、プリントアウトして持参すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
初回授業で授業の進め方について詳しい説明（課題の要領や評価基準など）を行うので、必ず出席すること。 初回授業を欠席する場合は、事前に連絡するか、次回授業の際にその旨申し出ること。			
授業スケジュール			
第　１回　オリエンテーション（授業の進め方・評価に関する説明） 第　２回　倫理学とは（１） 第　３回　倫理学とは（２） 第　４回　倫理と道徳 第　５回　生命倫理学とは 第　６回　道徳的ディレンマ 第　７回　健康と病気 第　８回　安楽死と尊厳死 第　９回　生殖技術 第１０回　遺伝子治療 第１１回　人工妊娠中絶 第１２回　パーソン論 第１３回　パターナリズム 第１４回　インフォームド・コンセント 第１５回　臓器移植			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1110704
科目名	生命倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鶴　真一	旧科目名称	
授業概要	医療技術のめざましい発展によって、私たちは病気の治療や予防をはじめとして実にさまざまな恩恵を享受している。しかしその一方で、医療技術の発展は、人類が長年にわたって培ってきた生命観や人生観を大きく変えるものでもあり、それらに対する「反省」が私たちに迫られている。 こうした自覚のもと、この授業では、「生命倫理学」で議論される一連のテーマを取り上げ、何が問題になっているのかを見ていき、自身の生命観や人生観を今一度反省するとともに、自分なりの考えを構築することを目的とする。		
教材（教科書）	オリジナルの授業用資料を使用する		
教材（参考資料）	特になし（授業中に適宜紹介する）		
教育方法	生命倫理学で議論される一連のテーマを取り上げ、何が問題になっているのかを解説する。 １）毎回テーマを定め、空欄補充式の授業用資料に基づいて授業を進めていく。 ２）空欄に入れるべき語句はスライドで表示するので、講義を聴きながら各自記入してもらう。		
評価方法	全講義回数の３分の２以上の出席を条件とし、以下の要領で評価を行う。 １）　定期課題（授業期間中適宜５回）　　：50% ２）　期末レポート（授業終了後１回）　　：50%		
到達目標	１）　現代の医療現場で何が問題になっているのかを学ぶことで、みずからの生命観、「生きるとは何か」という問題を反省できるようにする。 ２）　生命倫理学の諸問題について、自分の見解を持ち、説明できるようにする。		
授業時間外学習	授業で使用する教材は、京学なびの「授業資料」に事前にアップロードするので、プリントアウトして持参すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
初回授業で授業の進め方について詳しい説明（課題の要領や評価基準など）を行うので、必ず出席すること。 初回授業を欠席する場合は、事前に連絡するか、次回授業の際にその旨申し出ること。			
授業スケジュール			
第　１回　オリエンテーション（授業の進め方・評価に関する説明） 第　２回　倫理学とは（１） 第　３回　倫理学とは（２） 第　４回　倫理と道徳 第　５回　生命倫理学とは 第　６回　道徳的ディレンマ 第　７回　健康と病気 第　８回　安楽死と尊厳死 第　９回　生殖技術 第１０回　遺伝子治療 第１１回　人工妊娠中絶 第１２回　パーソン論 第１３回　パターナリズム 第１４回　インフォームド・コンセント 第１５回　臓器移植			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1110705
科目名	生命倫理学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	鶴　真一	旧科目名称	
授業概要	医療技術のめざましい発展によって、私たちは病気の治療や予防をはじめとして実にさまざまな恩恵を享受している。しかしその一方で、医療技術の発展は、人類が長年にわたって培ってきた生命観や人生観を大きく変えるものでもあり、それらに対する「反省」が私たちに迫られている。 こうした自覚のもと、この授業では、「生命倫理学」で議論される一連のテーマを取り上げ、何が問題になっているのかを見ていき、自身の生命観や人生観を今一度反省するとともに、自分なりの考えを構築することを目的とする。		
教材（教科書）	オリジナルの授業用資料を使用する		
教材（参考資料）	特になし（授業中に適宜紹介する）		
教育方法	生命倫理学で議論される一連のテーマを取り上げ、何が問題になっているのかを解説する。 １）毎回テーマを定め、空欄補充式の授業用資料に基づいて授業を進めていく。 ２）空欄に入れるべき語句はスライドで表示するので、講義を聴きながら各自記入してもらう。		
評価方法	全講義回数の３分の２以上の出席を条件とし、以下の要領で評価を行う。 １）　定期課題（授業期間中適宜５回）　　：50% ２）　期末レポート（授業終了後１回）　　：50%		
到達目標	１）　現代の医療現場で何が問題になっているのかを学ぶことで、みずからの生命観、「生きるとは何か」という問題を反省できるようにする。 ２）　生命倫理学の諸問題について、自分の見解を持ち、説明できるようにする。		
授業時間外学習	授業で使用する教材は、京学なびの「授業資料」に事前にアップロードするので、プリントアウトして持参すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
初回授業で授業の進め方について詳しい説明（課題の要領や評価基準など）を行うので、必ず出席すること。 初回授業を欠席する場合は、事前に連絡するか、次回授業の際にその旨申し出ること。			
授業スケジュール			
第　１回　オリエンテーション（授業の進め方・評価に関する説明） 第　２回　倫理学とは（１） 第　３回　倫理学とは（２） 第　４回　倫理と道徳 第　５回　生命倫理学とは 第　６回　道徳的ディレンマ 第　７回　健康と病気 第　８回　安楽死と尊厳死 第　９回　生殖技術 第１０回　遺伝子治療 第１１回　人工妊娠中絶 第１２回　パーソン論 第１３回　パターナリズム 第１４回　インフォームド・コンセント 第１５回　臓器移植			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1120101
科目名	法学	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction of Law		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	主要な法の分野である「憲法」「民法」「刑法」それぞれについて、最近話題になった、または現に話題になっている諸問題を取り上げ、 なぜ問題になっているのか、 どういった解決の方向性が考えられるか、 などについて、考えていくこととする。 これらを通して、学生は、現代の法・法学が取り組んでいる様々な課題について、関心を持つことができるようにする。 もちろん入門的な講義であることにも配意し、法学の専門的な、ある面マニアックな議論はできるだけ避けることとし、一般市民感覚で受講生と一緒になって議論を進めていくことができるようにしたい。		
教材（教科書）	渡邊博己・右近潤一『トピック現代法学ガイド』(北大路書房、2018 年 4 月刊行予定)		
教材（参考資料）	早川吉尚「法学入門」(有斐閣ストゥディア)		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行うことを基本とする。 テーマによっては、映像(動画)を使うこともある。		
評価方法	レポート 60％ 授業課題 40％ (各回の講義に関連する「問題」を京学ナビ・課題管理に提示するので、この解答を京学ナビから提出する。)		
到達目標	◯学生は、法(憲法・民法・刑法)が関係するニュース報道を理解することができる。 ◯学生は、憲法・民法・刑法の意義と役割を理解することができる。		
授業時間外学習	第 1 回目…次の事例について、何が問題になるか、考えてみて下さい。 「大学 4 年生の鶴太郎(２１歳)は、就職も決まり、最後の学生生活を楽しむため、つきあい始めたばかりの彼女とドライブに出かけた。ビールを飲んでハイな気分に浸りながら、深夜のリゾート地の道路を高速で走るのは最高の気分だった。気分がよすぎたためか、鶴太郎は、交差点の赤信号を見落とし、交差点を青信号で通行中のバイクに衝突して、運転手 A をはね飛ばしてしまった。 A は病院に運ばれたが、治療の甲斐もなく死亡した。もちろん、 A のバイクも修理不可能で廃車にせざるを得ない状態だった。」 第 2 回目…配布プリント(または「指定教科書」。以下同じ。)第 2 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 3 回目…配布プリント第 3 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 4 回目…配布プリント第 4 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 5 回目…配布プリント第 5 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 6 回目…配布プリント第 6 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 7 回目…配布プリント第 7 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 8 回目…配布プリント第 8 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 9 回目…配布プリント第 9 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 10 回目…配布プリント第 10 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 11 回目…配布プリント第 11 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 12 回目…配布プリント第 12 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 13 回目…配布プリント第 13 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 14 回目…配布プリント第 14 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 15 回目…配布プリント第 15 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 出席登録だけで満足しているような学生を時折見かける。本科目については、このような態度はまったく意味をなさないことは、改めてお伝えしておきたい。少なくとも授業時間中の真剣な取り組みを何よりも期待したい。
２．授業課題・レポートについては、何をどう考え、どのように書き進めていくか、授業内で具体的に指示するので、これに従って記述する。

授業スケジュール

1　導入
　１法学とは?何を何のために学ぶか
　２六法とは何か
　　憲法・民法・刑法
　３裁判所は何をするところか

2　憲法
　４法律が憲法に違反すると
　　違憲立法審査　一票の格差
　５憲法で守られる人権とは
　　幸福追求権・新しい人権
　６憲法は差別問題についてどう考えているか
　　法の下の平等

3　民事法
　７民法の適用は年齢によって区別されるか
　　成年年齢　１８歳選挙権
　８契約は守らなければならないか
　　例えば、「恋愛禁止」を定める契約条項に違反したアイドルは？
　９子どもの遊びが原因の事故でも損害賠償請求に応じなければならないか
　　不法行為　責任無能力者　監督責任者
　10 お父さんと呼べるのはなぜ
　　嫡出推定制度　女性の再婚禁止期間
　11 夫婦は同一姓を名乗らなければならないか
　　夫婦別姓
　12 相続のルールはなぜ必要なの
　　非嫡出子相続差別

4　刑事法
　13 冤罪事件を防ぐには
　　取調べの録音・録画制度
　14 裁判員になって死刑判決にかかわる
　　裁判員裁判と死刑
　　ある死刑判決－元少年石巻殺傷事件

5　法・法学の未来
　15ＡＩのある生活－自動運転に付き合う　／　ＡＩは法の夢を見るか？

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	JC1120102
科目名	法学	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction of Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	本講義は、主要な法の分野である「憲法」「民法」「刑法」それぞれについて、最近話題になったか、または現に話題になっている諸問題を取り上げ、 ・なぜ問題になっているのか、 ・どういった解決の方向性が考えられるか、 などについて、考えてゆくこととする。 これらを通して、学生は、現代の法・法学が取り組んでいる様々な課題について、関心を持つことができるようにする。 もちろん入門的な講義であることにも配慮し、法学の専門的な、ある面マニアックな議論はできるだけ避けることとし、一般市民感覚で受講生と一緒になって議論を進めていくことができるようにしたい。		
教材（教科書）	渡邊博己・右近潤一『トピック現代法学ガイド』（北大路書房）【2018 年 4 月刊行予定】		
教材（参考資料）	・早川吉尚『法学入門』（有斐閣） ・池田真朗ほか『法の世界へ』（有斐閣） ・副田隆重ほか『ライフステージと法』（有斐閣） ・松井茂記ほか『はじめての法律学 -- Ｈとｊの物語』（有斐閣） ・大谷實編『エッセンシャル法学』（成文堂） ・髙橋明弘『法学への招待』（法律文化社） ・西村裕三編『リーガル・マインド入門』（有信堂）		
教育方法	重要語句を中心に空欄を作成したレジュメを配布し講義を行う。スライドは用いない。講義の最後には、同日扱った内容についての確認を行う。この確認は、受講生の受講意識を高め、講義の内容をもう一度受講生自ら整理することを目的としている。		
評価方法	３回の小テストの結果を 60％；講義中に課した課題を 40％で評価する。		
到達目標	・身近には様々な法律が存在することを認識する。 ・法律が関係するニュース報道を理解することができる。 ・憲法・民法・刑法の意義と役割を理解することができる。		
授業時間外学習	・テレビ、インターネットや新聞で法律に関係するニュースを意識的に見ておこう。 ・条文を暗記する必要はないが、条文の意味や置かれた理由を理解しよう。 ・こまめに小テストを行うので、必ず自宅での復習をしよう。復習は教科書の該当箇所を一読すること。 １．法学とは？ 何を何のために学ぶか ２．法律が憲法に違反すると―違憲立法審査 ３．憲法で守られる人権とは―幸福追求権・新しい人権 ４．憲法は差別問題についてどう考えているか―法の下の平等 ５．六法とは何か―憲法・民法・刑法 ６．民法の適用は年齢によって区別されるか―成年年齢・１８歳選挙権 ７．契約は守らなければならないか―例えば、「恋愛禁止」を定める契約条項に違反したアイドルは？ ８．子どもの遊びが原因の事故でも損害賠償請求に応じなければならないか―不法行為・責任無能力者・監督責任者 ９．お父さんと呼べるのはなぜ―嫡出推定制度・女性の再婚禁止期間 １０．裁判所は何をするところか １１．夫婦は同一姓を名乗らなければならないか―夫婦別姓 １２．相続のルールはなぜ必要なの １３．冤罪事件を防ぐには―取調べの録音・録画制度 １４．裁判員になって死刑判決にかかわる―裁判員裁判と死刑（ある死刑判決－元少年石巻殺傷事件） １５．ＡＩのある生活－自動運転に付き合う・ＡＩは法の夢を見るか？		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
・講義中の出入りは周りの迷惑になるのでしないこと。トイレは休み時間中に済ませること。 ・講義中は、スマートフォンの電源を切り、鞄にしまうこと。 ・その他履修要項の「第一部　履修の心得」参照。
授業スケジュール
１．法学とは？ 何を何のために学ぶか ２．法律が憲法に違反すると―違憲立法審査 ３．憲法で守られる人権とは―幸福追求権・新しい人権 ４．憲法は差別問題についてどう考えているか―法の下の平等 ５．【小テスト１】テスト１解説；六法とは何か―憲法・民法・刑法 ６．テスト１講評；民法の適用は年齢によって区別されるか―成年年齢・１８歳選挙権 ７．契約は守らなければならないか―例えば、「恋愛禁止」を定める契約条項に違反したアイドルは？ ８．子どもの遊びが原因の事故でも損害賠償請求に応じなければならないか―不法行為・責任無能力者・監督責任者 ９．お父さんと呼べるのはなぜ―嫡出推定制度・女性の再婚禁止期間 １０．【小テスト２】テスト２解説；裁判所は何をするところか １１．テスト２講評；夫婦は同一姓を名乗らなければならないか―夫婦別姓 １２．相続のルールはなぜ必要なの １３．冤罪事件を防ぐには―取調べの録音・録画制度 １４．裁判員になって死刑判決にかかわる―裁判員裁判と死刑（ある死刑判決－元少年石巻殺傷事件） １５．【小テスト３】テスト３解説；ＡＩのある生活－自動運転に付き合う・ＡＩは法の夢を見るか？

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	JC1120201
科目名	社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
授業概要	なぜ社会学を学ぶべきなのか。 人間が社会的動物だからである。人間は二人以上集まれば必ず社会をつくる。「社会」とは、大は国際社会・国家から小は家族・友人関係まで、すべて社会であり、人間はいつでもこうした大小の集団＝社会をせっせとつくり、その盛衰とともに生きていく。出生、結婚、死といった最も私的にみえることすらも実は社会的なルールや社会的な状況に大きく規定されながら行われる。生まれてから死ぬまで、人はずっと社会の中にある。 この授業では、そうした社会学の基本的な視角から、家族・学校・地域・労働をはじめとする現代社会の様相を、人間の心身の成長の段階にそくして、歴史的な視野も織り交ぜながら、体系的かつ幅広く学ぶ。そのさい、レポートを書くことなどを通じて身近な社会的体験を自省的に振り返る。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	毎回の授業でプリントを配る。また、参考書としては、アンソニー・ギデンズ『社会学（第５版)』（而立書房、2009 年）と橋爪大三郎『面白くて眠れなくなる社会学』（PHP、2014 年）　を推奨する。		
教育方法	講義法を中心とし、毎回の授業後（ないし授業内）にレポートを書く。また、授業内で発言を求めることがある。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（70%）＋期末試験（30%）		
到達目標	一人の人は、生まれてから死ぬまでずっと何らかの形で社会と関わりながら生きていきている。この授業では、そうした社会学的な視角から、家族・学校・労働など、日本の社会の諸相を、人間の心身の成長にそくして、歴史的視野も織り交ぜながら、幅広く学んでいくことによって、現代社会と社会学についての幅広い知識を、より体系的・総合的に学び理解を深めていく。		
授業時間外学習	毎回の授業後、授業内容に関わるテーマについての小レポートを書く。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

世の中にはいろいろな社会的な問題がある。それらをどうとらえるのが適切か、自分ならどうするか？といった当事者意識をもって授業に臨んでほしい。また、授業内で学生間の質疑応答やグループワークをしてもらう場合があるので、そのつもりでいてほしい。

授業スケジュール

１・個人と社会の関係
２・出産をとりまく家族と社会の諸問題
３・最初期の子どもの心身の発達
４・家族のなかでの成長と葛藤
５・家族の歴史
６・現代の家族とその特徴
７・学校の社会的機能
８・学校のなかでの葛藤と成長
９・青春期の様々な心的・社会的課題
１０・労働の歴史的・社会的諸問題
１１・現代日本における労働の諸問題
１２・中年期の葛藤と社会
１３・老年期と脱社会化
１４・最晩年の諸段階と死後の社会的対応
１５・現代社会のなかでの人間の成長

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1120202
科目名	社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｆ
授業概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、など,、現代社会のいろいろな側面について考えます。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義時に紹介する。		
教育方法	主に講義による。毎時間、授業の初めに前回の授業内容の復習をおこなう。毎時間、授業の終わりに受講者に、質問･意見などを書いてもらう。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。授業終了時の質問カード提出による。）		
到達目標	社会学の考え方の基礎を理解する。 身の回りの社会現象についての関心と理解を深める。 自分の専門分野が社会とどのように関わりがあるかについて考える。		
授業時間外学習	1.「社会」に関する現象についてメディアで見かけたことを 200 字程度でまとめておくこと。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、授業の見通しを付けておくこと） 2. 配付資料 No.1「家族 1」 3. 配付資料 No.2「家族 2」 4. 配付資料 No.3「学校と歴史」 5. 配付資料 No.4「企業 1」 6. 配付資料 No.5「企業 2」 7. 配付資料 No.6「格差社会」 8. 配付資料 No.7「政治」 9. 配付資料 No.8「マスメディア 1」 10. 配付資料 No.9「マスメディア 2」 11. 配付資料 No.10「国際化」 12. 配付資料 No.11「近代化」 13. 配付資料 No.12「高齢化」 14. 配付資料 No.13「社会調査」 15. 配付資料 No.14「社会学と現代社会」 　また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。

授業スケジュール

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（家族１）他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。
3，（家族２）社会における家族の役割が、以前の社会とはかなり変化していること。
4，（学校）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を残している面があること。
5，（企業１）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
6，（企業２）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）
7，（格差社会）日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。
8，（政治）祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。
9，（マスメディア１）現在ではマスメディアの力は大変大きく、自分の意見も実はマスメディアの受け売りかもしれない。

10, （マスメディア２）犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライヴァシーのバランスの問題。
11, （国際化）社会は国際化しているが、国内の外国人の実態は必ずしも知られていないこと。
12, （近代化）近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。
13, （高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
14, （社会調査）世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。
15, 社会学と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1120203
科目名	社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
授業概要	なぜ社会学を学ぶべきなのか。 人間が社会的動物だからである。人間は二人以上集まれば必ず社会をつくる。「社会」とは、大は国際社会・国家から小は家族・友人関係まで、すべて社会であり、人間はいつでもこうした大小の集団＝社会をせっせとつくり、その盛衰とともに生きていく。出生、結婚、死といった最も私的にみえることすらも実は社会的なルールや社会的な状況に大きく規定されながら行われる。生まれてから死ぬまで、人はずっと社会の中にある。 この授業では、そうした社会学の基本的な視角から、家族・学校・地域・労働をはじめとする現代社会の様相を、人間の心身の成長の段階にそくして、歴史的な視野も織り交ぜながら、体系的かつ幅広く学ぶ。そのさい、レポートを書くことなどを通じて身近な社会的体験を自省的に振り返る。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	毎回の授業でプリントを配布する。また、参考書として、アンソニー・ギデンズ『社会学（第５版）』（而立書房、2009 年）、橋爪大三郎『面白くて眠れなくなる社会学』（PHP、2014 年）　を推奨する。		
教育方法	講義法を中心とし、毎回の授業後（ないし授業内）にレポートを書く。また、授業内で発言を求めることがある。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（70%）＋期末試験（30%）		
到達目標	一人の人は、生まれてから死ぬまでずっと何らかの形で社会と関わりながら生きていきている。この授業では、そうした社会学的な視角から、家族・学校・労働など、日本の社会の諸相を、人間の心身の成長にそくして、歴史的視野も織り交ぜながら、幅広く学んでいくことによって、現代社会と社会学についての幅広い知識を、より体系的・総合的に学び理解を深めていく。		
授業時間外学習	毎回の授業後、授業内容に関わるテーマについての小レポートを書く。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
世の中にはいろいろな社会的な問題がある。それらをどうとらえるのが適切か、自分ならどうするか？といった当事者意識をもって授業に臨んでほしい。また、授業内で学生間の質疑応答やグループワークをしてもらう場合があるので、そのつもりでいてほしい。			
授業スケジュール			
１・個人と社会の関係 ２・出産をとりまく家族と社会の諸問題 ３・最初期の子どもの心身の発達 ４・家族のなかでの成長と葛藤 ５・家族の歴史 ６・現代の家族とその特徴 ７・学校の社会的機能 ８・学校のなかでの葛藤と成長 ９・青春期の様々な心的・社会的課題 １０・労働の歴史的・社会的諸問題 １１・現代日本における労働の諸問題 １２・中年期の葛藤と社会 １３・老年期と脱社会化 １４・最晩年の諸段階と死後の社会的対応 １５・現代社会のなかでの人間の成長			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1120204
科目名	社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
授業概要	なぜ社会学を学ぶべきなのか。 人間が社会的動物だからである。人間は二人以上集まれば必ず社会をつくる。「社会」とは、大は国際社会・国家から小は家族・友人関係まで、すべて社会であり、人間はいつでもこうした大小の集団＝社会をせっせとつくり、その盛衰とともに生きていく。出生、結婚、死といった最も私的にみえることすらも実は社会的なルールや社会的な状況に大きく規定されながら行われる。生まれてから死ぬまで、人はずっと社会の中にある。 この授業では、そうした社会学の基本的な視角から、家族・学校・地域・労働をはじめとする現代社会の様相を、人間の心身の成長の段階にそくして、歴史的な視野も織り交ぜながら、体系的かつ幅広く学ぶ。そのさい、レポートを書くことなどを通じて身近な社会的体験を自省的に振り返る。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	毎回の授業でプリントを配る。また、参考書としては、アンソニー・ギデンズ『社会学（第５版)』（而立書房、2009 年）と橋爪大三郎『面白くて眠れなくなる社会学』（PHP、2014 年）　を推奨する。		
教育方法	講義法を中心とし、毎回の授業後（ないし授業内）にレポートを書く。また、授業内で発言を求めることがある。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（70%）＋期末試験（30%）		
到達目標	一人の人は、生まれてから死ぬまでずっと何らかの形で社会と関わりながら生きていきている。この授業では、そうした社会学的な視角から、家族・学校・労働など、日本の社会の諸相を、人間の心身の成長にそくして、歴史的視野も織り交ぜながら、幅広く学んでいくことによって、現代社会と社会学についての幅広い知識を、より体系的・総合的に学び理解を深めていく。		
授業時間外学習	毎回の授業後、授業内容に関わるテーマについての小レポートを書く。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
世の中にはいろいろな社会的な問題がある。それらをどうとらえるのが適切か、自分ならどうするか？といった当事者意識をもって授業に臨んでほしい。また、授業内で学生間の質疑応答やグループワークをしてもらう場合があるので、そのつもりでいてほしい。			
授業スケジュール			
１・個人と社会の関係 ２・出産をとりまく家族と社会の諸問題 ３・最初期の子どもの心身の発達 ４・家族のなかでの成長と葛藤 ５・家族の歴史 ６・現代の家族とその特徴 ７・学校の社会的機能 ８・学校のなかでの葛藤と成長 ９・青春期の様々な心的・社会的課題 １０・労働の歴史的・社会的諸問題 １１・現代日本における労働の諸問題 １２・中年期の葛藤と社会 １３・老年期と脱社会化 １４・最晩年の諸段階と死後の社会的対応 １５・現代社会のなかでの人間の成長			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1120205
科目名	社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
授業概要	なぜ社会学を学ぶべきなのか。 人間が社会的動物だからである。人間は二人以上集まれば必ず社会をつくる。「社会」とは、大は国際社会・国家から小は家族・友人関係まで、すべて社会であり、人間はいつでもこうした大小の集団＝社会をせっせとつくり、その盛衰とともに生きていく。出生、結婚、死といった最も私的にみえることすらも実は社会的なルールや社会的な状況に大きく規定されながら行われる。生まれてから死ぬまで、人はずっと社会の中にある。 この授業では、そうした社会学の基本的な視角から、家族・学校・地域・労働をはじめとする現代社会の様相を、人間の心身の成長の段階にそくして、歴史的な視野も織り交ぜながら、体系的かつ幅広く学ぶ。そのさい、レポートを書くことなどを通じて身近な社会的体験を自省的に振り返る。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	毎回の授業でプリントを配布する。また、参考書として、アンソニー・ギデンズ『社会学（第５版）』（而立書房、2009 年）、橋爪大三郎『面白くて眠れなくなる社会学』（PHP、2014 年）　を推奨する。		
教育方法	講義法を中心とし、毎回の授業後（ないし授業内）にレポートを書く。また、授業内で発言を求めることがある。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（70%）＋期末試験（30%）		
到達目標	一人の人は、生まれてから死ぬまでずっと何らかの形で社会と関わりながら生きていきている。この授業では、そうした社会学的な視角から、家族・学校・労働など、日本の社会の諸相を、人間の心身の成長にそくして、歴史的視野も織り交ぜながら、幅広く学んでいくことによって、現代社会と社会学についての幅広い知識を、より体系的・総合的に学び理解を深めていく。		
授業時間外学習	毎回の授業後、授業内容に関わるテーマについての小レポートを書く。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
世の中にはいろいろな社会的な問題がある。それらをどうとらえるのが適切か、自分ならどうするか？といった当事者意識をもって授業に臨んでほしい。また、授業内で学生間の質疑応答やグループワークをしてもらう場合があるので、そのつもりでいてほしい。			
授業スケジュール			
１・個人と社会の関係 ２・出産をとりまく家族と社会の諸問題 ３・最初期の子どもの心身の発達 ４・家族のなかでの成長と葛藤 ５・家族の歴史 ６・現代の家族とその特徴 ７・学校の社会的機能 ８・学校のなかでの葛藤と成長 ９・青春期の様々な心的・社会的課題 １０・労働の歴史的・社会的諸問題 １１・現代日本における労働の諸問題 １２・中年期の葛藤と社会 １３・老年期と脱社会化 １４・最晩年の諸段階と死後の社会的対応 １５・現代社会のなかでの人間の成長			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1120206
科目名	社会学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
授業概要	なぜ社会学を学ぶべきなのか。 人間が社会的動物だからである。人間は二人以上集まれば必ず社会をつくる。「社会」とは、大は国際社会・国家から小は家族・友人関係まで、すべて社会であり、人間はいつでもこうした大小の集団＝社会をせっせとつくり、その盛衰とともに生きていく。出生、結婚、死といった最も私的にみえることすらも実は社会的なルールや社会的な状況に大きく規定されながら行われる。生まれてから死ぬまで、人はずっと社会の中にある。 この授業では、そうした社会学の基本的な視角から、家族・学校・地域・労働をはじめとする現代社会の様相を、人間の心身の成長の段階にそくして、歴史的な視野も織り交ぜながら、体系的かつ幅広く学ぶ。そのさい、レポートを書くことなどを通じて身近な社会的体験を自省的に振り返る。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	毎回の授業でプリントを配る。また、参考書としては、アンソニー・ギデンズ『社会学（第５版)』(而立書房、2009 年）と橋爪大三郎『面白くて眠れなくなる社会学』(PHP、2014 年）　を推奨する。		
教育方法	講義法を中心とし、毎回の授業後（ないし授業内）にレポートを書く。また、授業内で発言を求めることがある。		
評価方法	授業内レポート等による平常点（70%）＋期末試験（30%）		
到達目標	一人の人は、生まれてから死ぬまでずっと何らかの形で社会と関わりながら生きていきている。この授業では、そうした社会学的な視角から、家族・学校・労働など、日本の社会の諸相を、人間の心身の成長にそくして、歴史的視野も織り交ぜながら、幅広く学んでいくことによって、現代社会と社会学についての幅広い知識を、より体系的・総合的に学び理解を深めていく。		
授業時間外学習	毎回の授業後、授業内容に関わるテーマについての小レポートを書く。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

世の中にはいろいろな社会的な問題がある。それらをどうとらえるのが適切か、自分ならどうするか？といった当事者意識をもって授業に臨んでほしい。また、授業内で学生間の質疑応答やグループワークをしてもらう場合があるので、そのつもりでいてほしい。

授業スケジュール

１・個人と社会の関係
２・出産をとりまく家族と社会の諸問題
３・最初期の子どもの心身の発達
４・家族のなかでの成長と葛藤
５・家族の歴史
６・現代の家族とその特徴
７・学校の社会的機能
８・学校のなかでの葛藤と成長
９・青春期の様々な心的・社会的課題
１０・労働の歴史的・社会的諸問題
１１・現代日本における労働の諸問題
１２・中年期の葛藤と社会
１３・老年期と脱社会化
１４・最晩年の諸段階と死後の社会的対応
１５・現代社会のなかでの人間の成長

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1120301
科目名	政治学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中川　洋一	旧科目名称	
授業概要	・政治学の一般的な基礎知識や考え方について、幅広い観点から学びます。 ・講義では自由民主主義体制、執政府、投票行動、政党と政党システム、利益集団、戦後の日本政治、平和や環境をめぐる国際協力、地域統合と EU といったテーマを扱う予定です。 ・現在進行中の政治問題を意識しつつ、それについて考えるツールとして政治学を学んで下さい。アクチュアルな政治の重要な案件については、適宜授業の中で取り上げ、解説する機会を持ちます。 ・参考文献については、シラバスに記載している文献とは別に、適宜講義内で紹介します。		
教材（教科書）	伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め（第 3 版)』（有斐閣ブックス、2011 年）		
教材（参考資料）	久米・古城・真淵編『政治学』（有斐閣、2003 年） 苅部・宇野・中本編『政治学をつかむ』（有斐閣、2011 年） 加茂・大西・石田編『現代政治学（第 4 版)』（有斐閣アルマ、2012 年） 福富満久『国際平和論』（岩波書店、2014 年）		
教育方法	・授業は講義法により進めます。指定の教科書を元に、講義内容を纏めたレジュメに基づいて授業を進めます。 ・受講者の理解度や関心に応じて、適宜講義の進度や内容を変更します。また、適宜写真や映像を使用し、視聴覚に訴える多彩な講義を目指します。		
評価方法	（予定） 授業への積極性 30%、小テスト 20%、期末試験 50%		
到達目標	・実社会で活躍する上でも必要な、政治や政治学に関する一般教養知識の獲得 ・中学・高等学校教員の「政治経済」科目で必要な基礎知識、教育理念（平和と民主主義）の獲得 ・マスコミやマスメディアによる政治報道を咀嚼して理解すると共に、一定の自分の意見を持つことができる。		
授業時間外学習	・毎回の授業終了後に必ず復習をすること。 ・日頃から積極的に新聞、雑誌、メディア報道に親しみ、アクチュアルな日本や世界の政治情勢を肌で感じて下さい。 また図書館や本屋に足を運び、関心を持つテーマから初めて構わないので、なるべく政治（学）に関する本を読んで下さい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・授業の進行や、他の学生の学習を妨げる行為（私語、授業途中の退室、睡眠、スマートフォンの使用など）をする者の受講は認めません。学習態度も平常点として加味します。 ・難しい内容も登場するかもしれませんが、お互いめげずに頑張って勉強しましょう。不明な内容は授業後に質問して下さい。 ・授業中には講師の話をメモに書きとめ、理解できなかった内容は授業後に質問する、関心のある内容については、授業的で示唆する参考書を頼りに独習するといったように、積極的な「学び」の姿勢が奨励されます。			
授業スケジュール			
第 1 回；イントロダクション／権力 授業の進め方や評価方法についての説明／政治（学）とは何か／権力とは何か／アンケートの実施 第 2 回；政治意識 政策の対立軸／政治的無関心／国家の成立と主権概念／市民の台頭と主権の変容／ナショナリズム 第 3 回：政治体制としての自由民主主義体制 政治体制とは／自由主義と民主主義／多様な自由民主主義／民主化の第 3 の波 ／自由民主主義の変容と課題／ポピュリズム			

第 4 回：選挙と政治参加、政治制度
政治参加とは／投票率の上下の要因／棄権や投票する人のタイプ／投票決定要因／政治制度

第 5 回：マスメディアと政治
マスメディアの環境監視機能／メディアフレーム／メディアの影響力／「沈黙の螺旋」

第 6 回：政党と政党政治①
政党の類型／派閥／55 年体制／自民党と社会党

第 7 回：政党と政党政治②・官僚制
政党システム／官僚とは／官僚の役割

第 8 回：利益集団
多元主義／ネオ・コーポラティズム

第 9 回：政策過程
政策決定理論／アリソン・モデル

第 10 回：執政府
議院内閣制と大統領制／リーダーシップのタイプ／比較の中の日本の首相

第 11 回：地方政治と地方自治
地方政府の役割／地方分権改革／「民主主義の学校」としての地方政治

第 12 回：国際社会を見る視座／冷戦期の世界
3 つの分析イメージ／ウエストファリア体制／冷戦期の世界

第 13 回：平和をめぐる国際協力
冷戦後の世界／平和とは何か／新しい戦争／国連と PKO

第 14 回：環境をめぐる国際協力
地球温暖化と環境問題

第 15 回：地域主義／纏めと学習内容の整理
地域主義としての欧州統合

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1120302
科目名	政治学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中川　洋一	旧科目名称	
授業概要	・政治学の一般的な基礎知識や考え方について、幅広い観点から学びます。 ・講義では自由民主主義体制、執政府、投票行動、政党と政党システム、利益集団、戦後の日本政治、平和や環境をめぐる国際協力、地域統合と EU といったテーマを扱う予定です。 ・現在進行中の政治問題を意識しつつ、それについて考えるツールとして政治学を学んで下さい。アクチュアルな政治の重要な案件については、適宜授業の中で取り上げ、解説する機会を持ちます。 ・参考文献については、シラバスに記載している文献とは別に、適宜講義内で紹介します。		
教材（教科書）	伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め（第 3 版)』（有斐閣ブックス、2011 年）		
教材（参考資料）	久米・古城・真淵編『政治学』（有斐閣、2003 年） 苅部・宇野・中本編『政治学をつかむ』（有斐閣、2011 年） 加茂・大西・石田編『現代政治学（第 4 版)』（有斐閣アルマ、2012 年） 福富満久『国際平和論』（岩波書店、2014 年）		
教育方法	・授業は講義法により進めます。指定の教科書を元に、講義内容を纏めたレジュメに基づいて授業を進めます。 ・受講者の理解度や関心に応じて、適宜講義の進度や内容を変更します。また、適宜写真や映像を使用し、視聴覚に訴える多彩な講義を目指します。		
評価方法	（予定） 授業への積極性 30%、小テスト 20%、期末試験 50%		
到達目標	・実社会で活躍する上でも必要な、政治や政治学に関する一般教養知識の獲得 ・中学・高等学校教員の「政治経済」科目で必要な基礎知識、教育理念（平和と民主主義）の獲得 ・マスコミやマスメディアによる政治報道を咀嚼して理解すると共に、一定の自分の意見を持つことができる。		
授業時間外学習	・毎回の授業終了後に必ず復習をすること。 ・日頃から積極的に新聞、雑誌、メディア報道に親しみ、アクチュアルな日本や世界の政治情勢を肌で感じて下さい。 また図書館や本屋に足を運び、関心を持つテーマから初めて構わないので、なるべく政治（学）に関する本を読んで下さい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・授業の進行や、他の学生の学習を妨げる行為（私語、授業途中の退室、睡眠、スマートフォンの使用など）をする者の受講は認めません。学習態度も平常点として加味します。
・難しい内容も登場するかもしれませんが、お互いめげずに頑張って勉強しましょう。不明な内容は授業後に質問して下さい。
・授業中には講師の話をメモに書きとめ、理解できなかった内容は授業後に質問する、関心のある内容については、授業的で示唆する参考書を頼りに独習するといったように、積極的な「学び」の姿勢が奨励されます。

授業スケジュール

第 1 回；イントロダクション／権力
　　授業の進め方や評価方法についての説明／政治（学）とは何か／権力とは何か／アンケートの実施

第 2 回；政治意識
　　政策の対立軸／政治的無関心／国家の成立と主権概念／市民の台頭と主権の変容／ナショナリズム

第 3 回：政治体制としての自由民主主義体制
　　政治体制とは／自由主義と民主主義／多様な自由民主主義／民主化の第 3 の波
　　／自由民主主義の変容と課題／ポピュリズム

第 4 回：選挙と政治参加、政治制度
政治参加とは／投票率の上下の要因／棄権や投票する人のタイプ／投票決定要因／政治制度

第 5 回：マスメディアと政治
マスメディアの環境監視機能／メディアフレーム／メディアの影響力／「沈黙の螺旋」

第 6 回：政党と政党政治①
政党の類型／派閥／55 年体制／自民党と社会党

第 7 回：政党と政党政治②・官僚制
政党システム／官僚とは／官僚の役割

第 8 回：利益集団
多元主義／ネオ・コーポラティズム

第 9 回：政策過程
政策決定理論／アリソン・モデル

第 10 回：執政府
議院内閣制と大統領制／リーダーシップのタイプ／比較の中の日本の首相

第 11 回：地方政治と地方自治
地方政府の役割／地方分権改革／「民主主義の学校」としての地方政治

第 12 回：国際社会を見る視座／冷戦期の世界
3 つの分析イメージ／ウエストファリア体制／冷戦期の世界

第 13 回：平和をめぐる国際協力
冷戦後の世界／平和とは何か／新しい戦争／国連と PKO

第 14 回：環境をめぐる国際協力
地球温暖化と環境問題

第 15 回：地域主義／纏めと学習内容の整理
地域主義としての欧州統合

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1120401
科目名	日本国憲法	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Constitution		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
授業概要	憲法の意味、日本国憲法の成立と歴史、基本的人権、統治機構について学ぶ。 憲法の基本的な内容を理解するとともに、現在の改憲動向について学ぶことができる。		
教材（教科書）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考資料）	市川正人・倉田原志編『憲法入門』(法律文化社、2012 年)		
教育方法	毎回配布する講義レジュメと教科書を使って講義する。 DVD などの映像も使う。		
評価方法	定期試験(80%) 、授業内レポート等による評価(20%)		
到達目標	日本国憲法の全体像について基礎的な知識の習得を目指すとともに、現在、問題となっている政治状況、憲法裁判、改憲動向が理解できることを目指す。		
授業時間外学習	教科書にしたがって章ごとに講義を進めるので、次回の範囲に該当する憲法の条文と教科書の該当頁を読んで予習する。毎日のテレビ、新聞を必ずチェックすること。 1　教科書 2 頁～12 頁 2　教科書 121 頁～126 頁 3　教科書 59 頁～66 頁 4　法の下の平等に関する判例を調べる 5　教科書 67 頁～72 頁 6　教科書 74 頁～81 頁 7　経済的自由権をめぐる判例を調べる 8　教科書 89 頁～94 頁 9　教科書 108 頁～113 頁 10　教科書 101 頁～107 頁 11　教科書 101 頁～107 頁 12　司法改革をめぐる話題をネットで調べる 13　教科書 115 頁～120 頁 14　教科書 32 頁～58 頁 15　教科書 13 頁～30 頁		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。
テレビや新聞で取り上げられている憲法問題に注目すること。憲法問題については、さまざまな立場があるので、一方的な情報のみで判断するのではなく、講義で学ぶ基本原理や学説・判例を正確に習得したうえで、現在の課題について考えてほしい。

授業スケジュール

1．憲法とは何か
2．天皇制
3．幸福追求権
4．法の下の平等
5．信教の自由と政教分離
6．表現の自由
7．経済的自由権
8．生存権
9．参政権と選挙制度
10．国会
11．内閣

１２．裁判所
１３．地方自治
１４．平和主義
１５．改憲の動き

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	JC1120402
科目名	日本国憲法	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Constitution		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
授業概要	憲法の意味、日本国憲法の成立と歴史、基本的人権、統治機構について学ぶ。 憲法の基本的な内容を理解するとともに、現在の改憲動向について学ぶことができる。		
教材（教科書）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考資料）	市川正人・倉田原志編『憲法入門』(法律文化社、2012 年)		
教育方法	毎回配布する講義レジュメと教科書を使って講義する。 DVD などの映像も使う。		
評価方法	定期試験(80%) 、授業内レポート等による評価(20%)		
到達目標	日本国憲法の全体像について基礎的な知識の習得を目指すとともに、現在、問題となっている政治状況、憲法裁判、改憲動向が理解できることを目指す。		
授業時間外学習	教科書にしたがって章ごとに講義を進めるので、次回の範囲に該当する憲法の条文と教科書の該当頁を読んで予習する。毎日のテレビ、新聞を必ずチェックすること。 1　教科書 2 頁～12 頁 2　教科書 121 頁～126 頁 3　教科書 59 頁～66 頁 4　法の下の平等に関する判例を調べる 5　教科書 67 頁～72 頁 6　教科書 74 頁～81 頁 7　経済的自由権をめぐる判例を調べる 8　教科書 89 頁～94 頁 9　教科書 108 頁～113 頁 10　教科書 101 頁～107 頁 11　教科書 101 頁～107 頁 12　司法改革をめぐる話題をネットで調べる 13　教科書 115 頁～120 頁 14　教科書 32 頁～58 頁 15　教科書 13 頁～30 頁		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。
テレビや新聞で取り上げられている憲法問題に注目すること。憲法問題については、さまざまな立場があるので、一方的な情報のみで判断するのではなく、講義で学ぶ基本原理や学説・判例を正確に習得したうえで、現在の課題について考えてほしい。

授業スケジュール

1．憲法とは何か
2．天皇制
3．幸福追求権
4．法の下の平等
5．信教の自由と政教分離
6．表現の自由
7．経済的自由権
8．生存権
9．参政権と選挙制度
10．国会
11．内閣

１２．裁判所
１３．地方自治
１４．平和主義
１５．改憲の動き

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	JC1120403
科目名	日本国憲法	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Constitution		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
授業概要	憲法の意味、日本国憲法の成立と歴史、基本的人権、統治機構について学ぶ。 憲法の基本的な内容を理解するとともに、現在の改憲動向について学ぶことができる。		
教材（教科書）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考資料）	市川正人・倉田原志編『憲法入門』(法律文化社、2012 年)		
教育方法	毎回配布する講義レジュメと教科書を使って講義する。 DVD などの映像も使う。		
評価方法	定期試験(80%) 、授業内レポート等による評価(20%)		
到達目標	日本国憲法の全体像について基礎的な知識の習得を目指すとともに、現在、問題となっている政治状況、憲法裁判、改憲動向が理解できることを目指す。		
授業時間外学習	教科書にしたがって章ごとに講義を進めるので、次回の範囲に該当する憲法の条文と教科書の該当頁を読んで予習する。毎日のテレビ、新聞を必ずチェックすること。 1　教科書 2 頁～12 頁 2　教科書 121 頁～126 頁 3　教科書 59 頁～66 頁 4　法の下の平等に関する判例を調べる 5　教科書 67 頁～72 頁 6　教科書 74 頁～81 頁 7　経済的自由権をめぐる判例を調べる 8　教科書 89 頁～94 頁 9　教科書 108 頁～113 頁 10　教科書 101 頁～107 頁 11　教科書 101 頁～107 頁 12　司法改革をめぐる話題をネットで調べる 13　教科書 115 頁～120 頁 14　教科書 32 頁～58 頁 15　教科書 13 頁～30 頁		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。
テレビや新聞で取り上げられている憲法問題に注目すること。憲法問題については、さまざまな立場があるので、一方的な情報のみで判断するのではなく、講義で学ぶ基本原理や学説・判例を正確に習得したうえで、現在の課題について考えてほしい。

授業スケジュール

1．憲法とは何か
2．天皇制
3．幸福追求権
4．法の下の平等
5．信教の自由と政教分離
6．表現の自由
7．経済的自由権
8．生存権
9．参政権と選挙制度
10．国会
11．内閣

１２．裁判所
１３．地方自治
１４．平和主義
１５．改憲の動き

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	JC1120501
科目名	人権の歴史と現代	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
授業概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（教科書）	教科書は特に指定しない。 毎回「京学なび」の「授業資料」で資料(PDF ファイル）を事前配布するので、各自印刷・持参のこと（原則、その週の月曜日までにアップロード)。 ※第１回のみ、印刷したものを講義時に配布欠席者用は講義後に京学なびにアップ） ミニレポート課題もこの配布資料に書かれており、また、これが教科書となるので、きちんと目を通して、欠席した場合には他の受講者に資料を見せてもらうなどして空欄に記入し、保存しておくこと（テスト時に必要なため)。ミニレポートの執筆要領も「授業資料」にて配布。		
教材（参考資料）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教育方法	事前配布資料に沿って講義法で行う。講義は教員がパワーポイントで板書を示し、学生は各自印刷・持参した PDF ファイルにキーワード（赤字）を記入、キーセンテンス（青字）にチェックを入れる。毎回、理解を深めるために講義内容に関するミニレポートを出題、次回講義前日までに京学なび「課題提出」に指定ファイルで提出する。第 10 回に中間テスト、期末に最終レポートを課す。		
評価方法	平常点（毎回のミニレポート、30%)、第 10 回講義内での中間テスト（35%)、最終レポート（35%）から総合的に評価。 ◆評点とは別に、第１回のミニレポートの提出を全員必須、正解するまで再提出。 （未提出又は不正解の場合、不合格とする場合がある） ◆出席は原則 3 分の 2（１０回）以上必要とする。就職活動や部活動・実習等公式行事で欠席する場合、必ず証明書を提出すること。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で､「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
授業時間外学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 ◆講義資料にミニレポートの課題も掲載するので確認しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール

◆中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。
そのため、課題が多く、評価も厳しいので、真剣に取り組んでください。
そして学んだことを日常生活の中で実践して下さい。
◆質問は随時、講義中・講義前後・京学なびの Q&A でも受け付けますが、教員が発言を許可した場合を除き、私語厳禁。(授業中、他の受講生の「学ぶ権利」を侵害しないことなども成績評価の際に考慮されます)

学習上の助言

◆ミニレポートは毎回出題、後日講評（コメント）を行いますので京学なびで確認してください。課題は基本的にその週の講義内容と関連しています。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでくだ

さい。
◆配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

授業スケジュール

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）人権概念の基礎と欧米の政治思想①
第３回：近代の人権思想（２）欧米の政治思想②と明治期の日本
第４回：近代の人権思想（３）明治憲法の「臣民の権利」から日本国憲法の「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）表現の自由とその規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権、アメリカの環境正義
第１２回：差別と環境問題（３）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１３回：差別と環境問題（４）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～障害者にとっての都市環境
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1120502
科目名	人権の歴史と現代	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
授業概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（教科書）	教科書は特に指定しない。 毎回「京学なび」の「授業資料」で資料(PDF ファイル）を事前配布するので、各自印刷・持参のこと（原則、その週の月曜日までにアップロード)。 ※第１回のみ、印刷したものを講義時に配布欠席者用は講義後に京学なびにアップ） ミニレポート課題もこの配布資料に書かれており、また、これが教科書となるので、きちんと目を通して、欠席した場合には他の受講者に資料を見せてもらうなどして空欄に記入し、保存しておくこと（テスト時に必要なため)。ミニレポートの執筆要領も「授業資料」にて配布。		
教材（参考資料）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教育方法	事前配布資料に沿って講義法で行う。講義は教員がパワーポイントで板書を示し、学生は各自印刷・持参した PDF ファイルにキーワード（赤字）を記入、キーセンテンス（青字）にチェックを入れる。毎回、理解を深めるために講義内容に関するミニレポートを出題、次回講義前日までに京学なび「課題提出」に指定ファイルで提出する。第 10 回に中間テスト、期末に最終レポートを課す。		
評価方法	平常点（毎回のミニレポート、30%)、第 10 回講義内での中間テスト（35%)、最終レポート（35%）から総合的に評価。 ◆評点とは別に、第１回のミニレポートの提出を全員必須、正解するまで再提出。 （未提出又は不正解の場合、不合格とする場合がある） ◆出席は原則 3 分の 2（１０回）以上必要とする。就職活動や部活動・実習等公式行事で欠席する場合、必ず証明書を提出すること。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で､「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
授業時間外学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 ◆講義資料にミニレポートの課題も掲載するので確認しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール

◆中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。
そのため、課題が多く、評価も厳しいので、真剣に取り組んでください。
そして学んだことを日常生活の中で実践して下さい。
◆質問は随時、講義中・講義前後・京学なびの Q&A でも受け付けますが、教員が発言を許可した場合を除き、私語厳禁。(授業中、他の受講生の「学ぶ権利」を侵害しないことなども成績評価の際に考慮されます)

学習上の助言

◆ミニレポートは毎回出題、後日講評（コメント）を行いますので京学なびで確認してください。課題は基本的にその週の講義内容と関連しています。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでくだ

さい。
◆配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

授業スケジュール

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）人権概念の基礎と欧米の政治思想①
第３回：近代の人権思想（２）欧米の政治思想②と明治期の日本
第４回：近代の人権思想（３）明治憲法の「臣民の権利」から日本国憲法の「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）表現の自由とその規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権、アメリカの環境正義
第１２回：差別と環境問題（３）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１３回：差別と環境問題（４）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～障害者にとっての都市環境
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1130101
科目名	科学の歴史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。学生は、この講義を通じて、「科学」とは何か？「技術」とは何か？という問いに真剣に向き合い、科学者や技術者の社会的責任について、考察を深めることができる。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい） その他の参考資料は授業内で適宜指示する。		
教育方法	ホワイトボード、黒板、スライドなどを活用しながら、主に講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト（２０％）、期末試験（８０％）（学生の学習状況に応じて、多少の変更があり得る。詳細は授業内で説明する。）		
到達目標	学生は、自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」と「技術」のありかたを総合的に把握し、説明することができるようになる。また学生は、科学者や技術者の社会的責任について理解を深め、説明することができるようになる。		
授業時間外学習	現代社会における「科学」と「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業内容について、参考文献やインターネットなどによって予習・復習すること。 各回ごとの準備学習のためのキーワードは以下の通り。（各回の学習推定時間は４５分） １.科学とは何か ２.科学の方法 ３.古代文明 ４.天文学史 ５.古代ギリシャの文化 ６.中世ヨーロッパの文化 ７.イスラーム文化 ８.科学革命 ９.医学史と化学史 １０.生物学史 １１.物理学史 １３.科学と戦争、科学者・技術者の社会的責任 １４-１５.コンピューターとインターネット		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教室内ではスマートフォンや携帯電話等の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には退出を求める。

授業スケジュール

１.授業ガイダンス、自然科学と人文・社会科学
２.科学の定義、科学の方法と限界、科学と技術
３.古代文明と科学
４.暦、占星術と天文学
５.古代ギリシャの科学
６.中世ヨーロッパの科学、科学と宗教
７.アラビアの科学
８.科学革命
９.医学と化学の発展
１０.進化論と生物学の発展
１１.新しい物質観と物理学の発展

１３.科学と戦争、科学者・技術者の社会的責任
１４.コンピューターとインターネットの歴史
１５.改めて「科学とは何か？」を再考、今後の学習の展望について
（なお学生の学習状況に応じて、授業の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1130102
科目名	科学の歴史	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。学生は、この講義を通じて、「科学」とは何か？「技術」とは何か？という問いに真剣に向き合い、科学者や技術者の社会的責任について、考察を深めることができる。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい） その他の参考資料は授業内で適宜指示する。		
教育方法	ホワイトボード、黒板、スライドなどを活用しながら、主に講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト（２０％）、期末試験（８０％）（学生の学習状況に応じて、多少の変更があり得る。詳細は授業内で説明する。）		
到達目標	学生は、自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」と「技術」のありかたを総合的に把握し、説明することができるようになる。また学生は、科学者や技術者の社会的責任について理解を深め、説明することができるようになる。		
授業時間外学習	現代社会における「科学」と「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業内容について、参考文献やインターネットなどによって予習・復習すること。 各回ごとの準備学習のためのキーワードは以下の通り。（各回の学習推定時間は４５分） １.科学とは何か ２.科学の方法 ３.古代文明 ４.天文学史 ５.古代ギリシャの文化 ６.中世ヨーロッパの文化 ７.イスラーム文化 ８.科学革命 ９.医学史と化学史 １０.生物学史 １１.物理学史 １２-１３.科学と戦争、科学者・技術者の社会的責任 １４-１５.コンピューターとインターネット		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教室内ではスマートフォンや携帯電話等の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には退出を求める。

授業スケジュール

１.授業ガイダンス、自然科学と人文・社会科学
２.科学の定義、科学の方法と限界、科学と技術
３.古代文明と科学
４.暦、占星術と天文学
５.古代ギリシャの科学
６.中世ヨーロッパの科学、科学と宗教
７.アラビアの科学
８.科学革命
９.医学と化学の発展
１０.進化論と生物学の発展
１１.新しい物質観と物理学の発展

１２.１３.科学と戦争、科学者・技術者の社会的責任 １４.コンピューターとインターネットの歴史 １５.改めて「科学とは何か？」を再考、今後の学習の展望について （なお学生の学習状況に応じて、授業の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1130201
科目名	生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
授業概要	生物学は、進化の結果としての生命体を維持している構造、生命継承の仕組み、生命体間の相互作用の原理を解き明かすことを目的とする。本講義では主に動物に焦点を当て、進化、細胞・形態と機能、遺伝、行動・生態の基礎について概観し、最近の話題を取り入れながら講義する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』丸善　16,200 円		
教育方法	パワーポイントを活用した講義法で行う。		
評価方法	レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	生物に共通する普遍的性質と生物間で異なる多様な性質を理解する。		
授業時間外学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。			
授業スケジュール			
1.　ガイダンス 2.　進化・適応　　自然淘汰（選択） 3.　生態学　性淘汰（選択） 4.　生態学　捕食、食う食われる関係 5.　生態学　種間競争 6.　細胞の基本構造 7.　細胞膜、細胞間の情報連絡 8.　細胞周期 9.　遺伝の仕組み 10.　染色体と DNA 11.　遺伝子からタンパク質へ 12.　免疫系 13.　ホルモンと内分泌系 14.　神経系 15.　総合演習			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1130202
科目名	生物学 -k(2015 生から)	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	これから多岐にわたる生物系の分野を学習する上で、基礎となり、かつ、生命現象全般に対する見通しのある視点を提供する。		
教材（教科書）	池内・伊藤・箸本（訳)、キャンベル生物学　原書 9 版、丸善出版（¥16,200）		
教材（参考資料）	東京大学生命科学教科書編集委員会「理系総合のための生命科学 第 2 版―分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ」羊土社		
教育方法	教科書に沿って講義を行い、演習問題などをおこないつつ、効果的に知識を定着していく。また、まとまった単元ごとに、授業中に演習を行う。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	生命現象について、どのようなメカニズムで生命現象が実現されているのかという視点と、どのような機能を果たしているのかという視点の双方を習得する。 多岐にわたる生物系の分野に対し、知見を広げるとともに、それらを個別の知識に終わらせることなく、生命現象全般を見通す力を養う。		
授業時間外学習	授業終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この講義では生物学の基礎を学んでもらいます。これまでに生物学を学んだ経験の有無は問いませんが、好奇心を持って講義を楽しんでください。生物学も例外なく、細分化されてしまっていますが、本講義では、細分化されてしまった分野を統合して生物を理解することを試みます。各講義で扱う現象を理解するとともに、全体を見通す視点を養ってください。さまざまなレベルの生命現象を理解して、生命のすばらしさを堪能してください。

授業スケジュール

1　イントロダクション　生物とは何か　生物構成する物質
2　メンデルと遺伝子の概念
3　染色体の挙動と遺伝子
4　遺伝子の複製
5　遺伝子の発現
6　タンパク質の構造
7　タンパク質の機能
8　遺伝子からタンパク質へ　遺伝子の発現制御
9　細胞
１０　動物の生殖と発生
１１　動物の内分泌系と神経系
１２　種の起源
１３　ダーウィンの生命観　集団の進化（１）自然淘汰
１４　ダーウィンの生命観　集団の進化（２）性淘汰
１５　動物の行動の進化

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1130203
科目名	生物学 -f	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	安達　修二	旧科目名称	
授業概要	細胞の構成と機能，細胞を構成する化学物質，遺伝の仕組みとそれを支える物質，生物学の食農学への関わりについて平易に講述し，食農学の基礎となる生物学的事項を理解する．		
教材（教科書）	ビギナーズ生物学（化学同人，ISBN 978-4-7598-1937-3）（教科書に従って，講義を進めるので，毎回必携）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義形式で進める．適宜まとめを配布し，小テストで習熟度を問う．		
評価方法	平常点（小テストを含む）30%，定期試験 70%		
到達目標	１．生物を構成する細胞の構造と機能およびそれを支える化学物質について基礎的な事項を理解する． ２．遺伝の仕組みとそれを支える化学的な基礎知識を習得する． ３．基本的な用語を覚え，それらの意味を理解する．		
授業時間外学習	講義終了時に次回の範囲を伝えるので，予習し，キーワードを覚えてくること．		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学習した内容を手書きでノートにまとめる．それを復習し，理解を深める．項目の区切りごとに適宜まとめを配布するので，理解を確実なものとするように心がけること．

授業スケジュール

第１回　食農学と生物学
第２回　生物の基本単位：細胞
第３回　細胞の構造
第４回　細胞の機能
第５回　細胞を構成する成分①：総論
第６回　細胞を構成する成分②：糖
第７回　細胞を構成する成分③：脂質
第８回　細胞を構成する成分④：アミノ酸
第９回　細胞を構成する成分⑤：タンパク質
第 10 回　遺伝情報とその発現①：総論
第 11 回　遺伝情報とその発現②：ＤＮＡ
第 12 回　遺伝情報とその発現③：転写
第 13 回　遺伝情報とその発現④：翻訳
第 14 回　生物学と食品①：食品の製造
第 15 回　生物学と食品②：食品の保存

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	−	★	★

年度	2018	授業コード	JC1130204
科目名	生物学 -s(2015 生から)	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	本講義は、バイオ環境学部で行われる様々な講義の導入科目として位置づけている。従って、生物学全般についてできるだけ幅広くその概略を説明するとともに、以後の学科の講義で必要となる基礎知識、専門用語をしっかりと理解する。この講義をとおして、生命活動を物質レベルで考える力を身につける。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	Eric J. Simon 著　池内正彦監訳 『エッセンシャル　キャンベル生物学』　丸善　7,000 円 Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』丸善　16,200 円 Richard Allan 著 後藤太一郎監訳 『ワークブックで学ぶ生物学の基礎 第 3 版』オーム社　3,200 円 南雲保　編著　今井一志・大島海一・鈴木秀和・田中次郎　著 『やさしい基礎生物学第 2 版』羊土社　2,900 円		
教育方法	パワーポイントを用いて説明する。 説明後に演習問題を行う。		
評価方法	期末試験(75%)　毎回の演習およびレポート(25%)		
到達目標	生物学の基本事項について正しく理解する。 生物学の専門用語について説明ができる。 生物学関連のマスコミや科学雑誌などの記事を理解し、説明できる。 講義後に行う演習問題をしっかりと理解し解答することができる。		
授業時間外学習	大学のコンピュータシステムのレポート（R）領域の教員個人フォルダ内の資料提供フォルダに、次回のレジメを入れておくので、授業までに読んでおくこと。復習の演習問題は、同じファルダに入れておくので、自分で解けるようにしておくこと。疑問点があれば次回の授業までにまとめておくこと。 講義で学んだ基本事項、専門用語については、次の講義までに説明できるようにしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

バイオサイエンス学科の学生は積極的にこの講義を受けること。
演習問題やレポート提出などが重要な評価対象となるので、講義の中で理解し分からないところはそのままにしないこと。
日頃から生物学の分野について関心を持つように心がける。

授業スケジュール

1. ガイダンス　（科目の概略説明。講義の心構え、勉強の方法などについて言及）
2. 生物学とは？　（生物と無生物の違い、バイオとは？）
3. 生物の進化　（進化論、生物多様性など）
4. 生態学　（生物の分布、個体群、生態系など）
5. 細胞の基本構造　（生命の基本単位である細胞とは）
6. 生命の化学 I　（生命の化学的基盤、水と環境）
7. 生命の化学 II　（生命分子の多様性、高分子の構造）
8. 確認試験とその解説
9. 遺伝のしくみ（メンデルと遺伝子の概念）
10. 遺伝子からタンパク質へ　（遺伝子の複製、転写、翻訳、セントラルドグマなど）
11. バイオテクノロジー　（バイオ研究の基本技術）
12. 生物の恒常性　（内分泌系とホルモンなど）

13. 植物の機能　（光合成、植物のバイオテクノロジーなど）
14. 細胞呼吸と発酵　（解糖系、電子伝達系など）
15. 生物学の講義を通して学んだことの総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1130205
科目名	生物学	単位数	2
科目名（英語表記）	Biology		
担当者名	大西　信弘	旧科目名称	
授業概要	これから多岐にわたる生物系の分野を学習する上で、基礎となり、かつ、生命現象全般に対する見通しのある視点を提供する。		
教材（教科書）	ビジュアル生物学（ニュートンプレス：￥2593＋税）		
教材（参考資料）	池内・伊藤・箸本（訳）、キャンベル生物学　原書９版、丸善出版（￥16,200）		
教育方法	教科書に沿って講義を行い、演習問題などをおこないつつ、効果的に知識を定着していく。また、まとまった単元ごとに、授業中に試験を行う。		
評価方法	試験による		
到達目標	生命現象について、どのようなメカニズムで生命現象が実現されているのかという視点と、どのような機能を果たしているのかという視点の双方を習得すること。また、多岐にわたる生物系の分野に対し、知見を広げるとともに、それらを個別の知識に終わらせることなく、生命現象全般を見通す力を養うこと。		
授業時間外学習	授業終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この講義では生物学の基礎を学んでもらいます。これまでに生物学を学んだ経験の有無は問いませんが、好奇心を持って講義を楽しんでください。生物学も例外なく、細分化されてしまっていますが、本講義では、細分化されてしまった分野を統合して生物を理解することを試みます。各講義で扱う現象を理解するとともに、全体を見通す視点を養ってください。さまざまなレベルの生命現象を理解して、生命のすばらしさを堪能してください。

授業スケジュール

1　生命現象を理解するための４つの視点：ティンバーゲンの４つのなぜ
2　遺伝の法則・遺伝子 DNA
3　タンパク質と酵素
4　遺伝子の発現調節
5　遺伝子プールとハーディ・ワインベルグ平衡
6　自然選択と性選択
7　遺伝子のダイナミクス
8　性について
9　生命の歴史：系統樹
１０　生命の起源・繁栄・絶滅
１１　細胞の構造と機能
１２　個体の構造と機能
１３　生物の社会
１４　生態系
１５　ヒトの生物学

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1130301
科目名	物理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physics		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
授業概要	物理学は、精密科学として、自然科学の中でも最も基本的な分野をなしている。これは、物理学が数学を基礎としていることに因るところが大きいが、物理現象を理解するには必ずしも数学は必要としない。 この授業は、自然現象の正しい理解や環境問題のような自然科学に関する問題について正しく判断する力を養うため、物理現象の基本的な概念と法則を理解し、自然現象を科学的に捉える態度を修得することを目標としている。具体的には、音と光、物質と原子、原子核と放射線などを題材にして授業を進める。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	木下紀正 他　『物理学の基礎（身近なアプローチ)』　東京教学社		
教育方法	各講義で配布するプリントに沿って、簡単な実験なども取り入れ、講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。　定期試験(70%)		
到達目標	・物理学の基本概念と法則を理解している。 ・自然現象を科学的に捉える態度を身に付けている。		
授業時間外学習	講義終了後、次回の講義のレジメを京学なびにアップロードするので、事前にキーワードや専門用語等を調べておくこと。 第１回　波動、原子、原子核（復習） 第２回　音の３要素、媒質、波の基本式 第３回　波を表す式、波の重ね合わせ、音の合成 第４回　光の回折・干渉、光の分散、スペクトル 第５回　電場、磁場、電磁波 第６回　原子説、質量保存の法則、定比例の法則 第７回　陰極線、電子、原子 第８回　真空放電、原子のスペクトル、原子の構造 第９回　オーロラのスペクトル、オーロラの発光物質 第 10 回　オーロラ粒子、太陽風、地磁気 第 11 回　原子核、同位体 第 12 回　不安定な原子、放射線 第 13 回　自然放射線、壊変、半減期 第 14 回　人口放射性物質、外部・内部被曝、確定的・確率的影響 第 15 回　放射線防護、年代測定、PET		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
２．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。
３．高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように進めるつもりであるが、新しい概念が次々と出てくるので、予習を欠かさないこと。

授業スケジュール

１．物理学の講義について
２．音と光(１)　音
３．音と光(２)　波
４．音と光(３)　光
５．音と光(４)　電磁波
６．物質と原子(１)　物質と原子
７．物質と原子(２)　原子
８．物質と原子(３)　原子と光

9．物質と原子(４)　オーロラ１
10．物質と原子(５)　オーロラ２
11．原子核と放射線(１)　原子と原子核
12．原子核と放射線(２)　不安定な原子
13．原子核と放射線(３)　身のまわりの放射線
14．原子核と放射線(４)　放射線の影響
15．原子核と放射線(５)　放射線の利用

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1130302
科目名	物理学	単位数	2
科目名（英語表記）	Physics		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	物理学は自然科学のすべての分野の中で，精密科学を構成するための基礎として最も重要な要素をなしている。したがって，自然科学的概念の精確な理解のためにはまず最初に物理学的概念とその手法の修得が必要となる。この講義では物理学の体系の中で古典物理学の基礎となる物理空間，運動法則，放物運動，エネルギー，運動量などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　上』　共立出版（2，５００円＋税）		
教材（参考資料）	後藤　憲一　他　編　『詳解　物理・応用　数学演習』　共立出版（3，４００円＋税） 後藤　憲一　他　編　『詳解　物理学演習　下』　共立出版（2，４００円＋税）		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	１．自然科学の基本原理にもとづいた理論の具体的な構成力を修得する。 ２．目的に応じた適切なデータ解析力を修得する。 ３．結果について考察する能力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキストの要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキストの問題を演習しておくこと。また，日常から自然現象について理論的に考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
数学，地球科学を履修することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．物理空間（１）：位置 ２．物理空間（２）：速度 ３．物理空間（３）：加速度 ４．運動法則（１）：第１法則 ５．運動法則（２）：第２法則 ６．運動法則（３）：第３法則 ７．放物運動（１）：等加速度運動 ８．放物運動（２）：自由落下 ９．放物運動（３）：斜方投射 10．エネルギー（１）：仕事 11．エネルギー（２）：ポテンシャル 12．エネルギー（３）：エネルギー保存則 13．運動量（１）：衝突 14．運動量（２）：力積 15．運動量（３）：運動量保存則			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1130401
科目名	統計学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
授業概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（教科書）	なし，各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	講義中に適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら，講義法で授業は進められる。		
評価方法	授業レポート（56%），その理解度を確認する演習・試験（44%），この２つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握し説明できること。確率分布の基本を理解し，それを推定や検定に応用し，具体的な事例について確率的な説明ができること。		
授業時間外学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講すること。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。

授業スケジュール

1.統計と情報
2.データの視覚的なまとめ
3.代表値－平均値
4.散布度－分散・標準偏差
5.散布図と相関係数
6.回帰分析
7.事象と確率
8.データの処理と確率について総合演習
9.確率変数
10.2 次元以上の確率分布
11.二項分布
12.ポアソン分布
13.正規分布
14.統計量の分布
15.確率分布について総合演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1130402
科目名	統計学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
授業概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（教科書）	なし，各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	講義中に適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら，講義法で授業は進められる。		
評価方法	授業レポート（56%），その理解度を確認する演習・試験（44%），この２つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握し説明できること。確率分布の基本を理解し，それを推定や検定に応用し，具体的な事例について確率的な説明ができること。		
授業時間外学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講すること。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。

授業スケジュール

1.統計と情報
2.データの視覚的なまとめ
3.代表値－平均値
4.散布度－分散・標準偏差
5.散布図と相関係数
6.回帰分析
7.事象と確率
8.データの処理と確率について総合演習
9.確率変数
10.2 次元以上の確率分布
11.二項分布
12.ポアソン分布
13.正規分布
14.統計量の分布
15.確率分布について総合演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1130403
科目名	統計学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
授業概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（教科書）	なし，各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	講義中に適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら，講義法で授業は進められる。		
評価方法	授業レポート（56%），その理解度を確認する演習・試験（44%），この２つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握し説明できること。確率分布の基本を理解し，それを推定や検定に応用し，具体的な事例について確率的な説明ができること。		
授業時間外学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講すること。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。

授業スケジュール

1.統計と情報
2.データの視覚的なまとめ
3.代表値－平均値
4.散布度－分散・標準偏差
5.散布図と相関係数
6.回帰分析
7.事象と確率
8.データの処理と確率について総合演習
9.確率変数
10.2 次元以上の確率分布
11.二項分布
12.ポアソン分布
13.正規分布
14.統計量の分布
15.確率分布について総合演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1130501
科目名	生命有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
授業概要	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について講義する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	・Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』　丸善 ・橋本祐一・村田道雄編著 『生体有機化学』　東京化学同人 ・Molly M. Blomfield 著　伊藤俊洋ら共訳 『生命科学のための基礎科学ー有機・生化学編』　丸善		
教育方法	パワーポイントを活用した講義法で行う。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について理解する。		
授業時間外学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。			
授業スケジュール			
1　ガイダンス 2　糖質（炭水化物） 3　アミノ酸 4　タンパク質の構造 5　タンパク質の機能 6　演習 1 7　ヌクレオチドと核酸 8　核酸の機能 9　脂質 10　ビタミン 11　演習 2 12　サイトカイン 13　動物のホルモン 14　フェロモン／神経伝達物質 15　植物ホルモン			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1130502
科目名	生命有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
授業概要	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について講義する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	・Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』　丸善 ・橋本祐一・村田道雄編著 『生体有機化学』　東京化学同人 ・Molly M. Blomfield 著　伊藤俊洋ら共訳 『生命科学のための基礎科学ー有機・生化学編』　丸善		
教育方法	パワーポイントを活用した講義法で行う。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について理解する。		
授業時間外学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。			
授業スケジュール			
1　ガイダンス 2　糖質（炭水化物） 3　アミノ酸 4　タンパク質の構造 5　タンパク質の機能 6　演習 1 7　ヌクレオチドと核酸 8　核酸の機能 9　脂質 10　ビタミン 11　演習 2 12　サイトカイン 13　動物のホルモン 14　フェロモン／神経伝達物質 15　植物ホルモン			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1130503
科目名	生命有機化学	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	大秦　正揚	旧科目名称	
授業概要	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について講義する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	・Jane B. Reece 著　池内正彦監訳 『キャンベル生物学　原書 9 版』　丸善 ・橋本祐一・村田道雄編著 『生体有機化学』　東京化学同人 ・Molly M. Blomfield 著　伊藤俊洋ら共訳 『生命科学のための基礎科学ー有機・生化学編』　丸善		
教育方法	パワーポイントを活用した講義法で行う。		
評価方法	不定期の小テスト、レポート課題（50%）、期末テスト（50%）		
到達目標	生命体の行動、生命の維持と継承にかかわる有機化合物の役割、構造と相互作用について理解する。		
授業時間外学習	参考文献を通して各回のテーマを予習しておくことが望ましい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各回の講義で一つでも興味深いと感じる現象・事柄を見つけていただきたい。そして、その現象・事柄をノートやメモに記録し、さらなる学習の糸口として活用してほしい。			
授業スケジュール			
1　ガイダンス 2　糖質（炭水化物） 3　アミノ酸 4　タンパク質の構造 5　タンパク質の機能 6　演習 1 7　ヌクレオチドと核酸 8　核酸の機能 9　脂質 10　ビタミン 11　演習 2 12　サイトカイン 13　動物のホルモン 14　フェロモン／神経伝達物質 15　植物ホルモン			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1140101
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
授業概要	《ゴルフ》というスポーツは、 ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれるという、真に国際的なスポーツである。 ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男女すべてが一緒に楽しむことができる。 ③ハンディキャップ制を採用している。 ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。 ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と技術がものをいう。 ⑤未知の人との出会いがある ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3～4 人が一組となってプレーするため、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるのである。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など人間的なマナーが必用となる。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	グループ学習参加度、実技評価、体力と生活習慣レポート及びその他の提出物を総合して評価する		
到達目標	構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。 将来ラウンドができるためのマナーや基礎的な能力・技術を体得する。 スポーツを継続的に行う意義と方法を説明できる。		
授業時間外学習	運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かす。 １回目　　宿題：体力と生活習慣のレポート作成 ２回目　　宿題：ゴルフのルール ３回目　　振り返り ４回目　　振り返り ５回目　　振り返り ６回目　　ホームを携帯の動画に取り込み、ホームの確認 ７回目　　宿題：ホームの修正点を確認 ８回目　　振り返り ９回目　　振り返り １０回目　　宿題：ゴルフ練習場に行き各クラブの飛距離の確認 １１回目　　振り返り １２回目　　ゴルフの試合をテレビ等で見て、ラウンドイメージを持つ １３回目　　運動習慣と健康寿命のレポート １４回目　　振り返り １５回目　　振り返り		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りする。 お互いに学び合い、お互いにリスペクトし、楽しい場を創出する。			

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。ゴルフ用手袋が必要。
授業スケジュール
・ゴルフ概略指導（ルール・マナー)、安全指導 ・ボールを真っ直ぐに打つための理論 〔初心者〕・正しいゴルフスイングを理解する ・ショートアイアン（PW）のショット練習 ・ミドルアイアン（7 番）のアプローチ練習 ・10～50 ヤードのアプローチ練習 ・パターマットを使ってのパッティング練習 〔中・上級者〕・ゴルフコースラウンドを目標 ・ショートアイアンを正確に ・ミドルアイアンを真っ直ぐに打つ ・ロングアイアンの練習 ・ウッド（1W、3W．4W．5W）の練習 ・パテイング練習 ・正確なアプローチ 1.オリエンテーション、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること） 2.フィットネステスト B（室内練習－グリップ、アドレス、スイング理論） 3.ショートアイアン（ＰＷ）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング 4.ショートアイアンのハーフスイング　軸を作ってのスイング 5.ショートアイアンのハーフスイング　体重移動のスイング 6.ミドルアイアン（７Ｉ）のハーフスイング 7.ヘッドスピードの加速　ホロースイング 8.アプローチ　ランニング・アプローチとロブショット 9.ヘッドスピードの加速　ホロー・スイング．ミドルアイアン 10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上 11.グラウンドでのコースラウンド練習　方向性の向上 12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー 13.ＰＷ，７Ｉ，アプローチ・テスト 14. 15.コースラウンド（学外実習)個別指導

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JC1140102
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
授業概要	《ゴルフ》というスポーツは、 ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれるという、真に国際的なスポーツである。 ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男女すべてが一緒に楽しむことができる。 ③ハンディキャップ制を採用している。 ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。 ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と技術がものをいう。 ⑤未知の人との出会いがある ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3～4 人が一組となってプレーするため、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるのである。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など人間的なマナーが必用となる。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	グループ学習参加度、実技評価、体力と生活習慣レポート及びその他の提出物を総合して評価する		
到達目標	構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。 将来ラウンドができるためのマナーや基礎的な能力・技術を体得する。 スポーツを継続的に行う意義と方法を説明できる。		
授業時間外学習	運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かす。 １回目　　宿題：体力と生活習慣のレポート作成 ２回目　　宿題：ゴルフのルール ３回目　　振り返り ４回目　　振り返り ５回目　　振り返り ６回目　　ホームを携帯の動画に取り込み、ホームの確認 ７回目　　宿題：ホームの修正点を確認 ８回目　　振り返り ９回目　　振り返り １０回目　　宿題：ゴルフ練習場に行き各クラブの飛距離の確認 １１回目　　振り返り １２回目　　ゴルフの試合をテレビ等で見て、ラウンドイメージを持つ １３回目　　運動習慣と健康寿命のレポート １４回目　　振り返り １５回目　　振り返り		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りする。 お互いに学び合い、お互いにリスペクトし、楽しい場を創出する。			

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。ゴルフ用手袋が必要。
授業スケジュール
・ゴルフ概略指導（ルール・マナー)、安全指導 ・ボールを真っ直ぐに打つための理論 〔初心者〕・正しいゴルフスイングを理解する ・ショートアイアン（PW）のショット練習 ・ミドルアイアン（7 番）のアプローチ練習 ・10～50 ヤードのアプローチ練習 ・パターマットを使ってのパッティング練習 〔中・上級者〕・ゴルフコースラウンドを目標 ・ショートアイアンを正確に ・ミドルアイアンを真っ直ぐに打つ ・ロングアイアンの練習 ・ウッド（1W、3W．4W．5W）の練習 ・パテイング練習 ・正確なアプローチ 1.オリエンテーション、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること） 2.フィットネステスト B（室内練習－グリップ、アドレス、スイング理論） 3.ショートアイアン（ＰW）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング 4.ショートアイアンのハーフスイング　軸を作ってのスイング 5.ショートアイアンのハーフスイング　体重移動のスイング 6.ミドルアイアン（７Ｉ）のハーフスイング 7.ヘッドスピードの加速　ホロースイング 8.アプローチ　ランニング・アプローチとロブショット 9.ヘッドスピードの加速　ホロー・スイング．ミドルアイアン 10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上 11.グラウンドでのコースラウンド練習　方向性の向上 12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー 13.ＰW，７Ｉ，アプローチ・テスト 14. 15.コースラウンド（学外実習)個別指導

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JC1140105
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を活かし、チーム力の向上を目指します。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要に応じてプリント配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度４０％ レポート２０％ 技術４０％		
到達目標	ソフトボールのルールや競技特性を理解できる。 ソフトボールを通じて、スポーツを楽しむためのスキルが習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にソフトボールの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

授業スケジュール

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽﾃストＡ
２．ﾌｨｯﾄﾈｽテストＢ
３．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①
・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）
・バッティング（トス・フリー・バンド）
４．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②
５．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）
・ノック（内野・外野）
・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）
６．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
７．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
８．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
．守備フォーメイション
・攻撃フォーメイション
９．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
１０．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
１１．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①
１２．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②
１３．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③
１４．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1140106
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を活かし、チーム力の向上を目指します。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要に応じてプリント配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度４０％ レポート２０％ 技術４０％		
到達目標	ソフトボールのルールや競技特性を理解できる。 ソフトボールを通じて、スポーツを楽しむためのスキルが習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にソフトボールの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

授業スケジュール

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽテストＡ
２．ﾌｨｯﾄﾈｽテストＢ
３．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①
・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）
・バッティング（トス・フリー・バンド）
４．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②
５．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）
・ノック（内野・外野）
・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）
６．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
７．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
８．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
．守備フォーメイション
・攻撃フォーメイション
９．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
１０．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
１１．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①
１２．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②
１３．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③
１４．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1140107
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供から高齢者まで、性別を問わず誰でも気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができるだろう。　しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに立ってプレーしてみると、なかなか思い通りにはいかないものである。そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップやフェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリースポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	平常点（技能・態度）80%、レポート 20%		
到達目標	1、シングルス・ダブルスのゲームが楽しめるようにする。 2、練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 3、社会人としていろいろな施設を利用して安全にテニスを楽しむようにする。		
授業時間外学習	事前にテニスの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動に相応しい服装を準備すること。三国山オム二コートで実施するため、テニスシューズが必要。

授業スケジュール

1. オリエンテーション、フィットネステストA
2. フィットネステストB　グリップ
3. グリップと面作り　ボレー練習、ボレーゲーム
4. 簡単なグランドストローク(ラケットに慣れる・ボールのバウンドに慣れる)　ミニコートゲーム
5. 移動によるグランドストローク(フットワークを覚える・打点の位置を覚える)　ストロークゲーム
6. ボール出しによるグランドストローク
7. 簡単なサーブを覚える　　サーブからラリーを覚える
8. ローボレー、オバーハンドサービス　ラリー練習からダブルスゲーム
9. 簡単なダブルスゲーム
10. ダブルスのホーメーション(雁行陣営)
11. ダブルスの簡単なスコアーを付けてのゲーム
12. ダブルスゲーム
13. ダブルスゲーム
14. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト
15. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	–	★	–	–

年度	2018	授業コード	JC1140108
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供から高齢者まで、性別を問わず誰でも気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができるだろう。　しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに立ってプレーしてみると、なかなか思い通りにはいかないものである。そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップやフェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリースポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	平常点（技能・態度）80%、レポート 20%		
到達目標	1、シングルス・ダブルスのゲームが楽しめるようにする。 2、練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 3、社会人としていろいろな施設を利用して安全にテニスを楽しむようにする。		
授業時間外学習	事前にテニスの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動に相応しい服装を準備すること。三国山オム二コートで実施するため、テニスシューズが必要。

授業スケジュール

1. オリエンテーション、フィットネステストA
2. フィットネステストB　グリップ
3. グリップと面作り　ボレー練習、ボレーゲーム
4. 簡単なグランドストローク(ラケットに慣れる・ボールのバウンドに慣れる)　ミニコートゲーム
5. 移動によるグランドストローク(フットワークを覚える・打点の位置を覚える)　ストロークゲーム
6. ボール出しによるグランドストローク
7. 簡単なサーブを覚える　　サーブからラリーを覚える
8. ローボレー、オバーハンドサービス　ラリー練習からダブルスゲーム
9. 簡単なダブルスゲーム
10. ダブルスのホーメーシヨン(雁行陣営)
11. ダブルスの簡単なスコアーを付けてのゲーム
12. ダブルスゲーム
13. ダブルスゲーム
14. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト
15. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	–	★	–	–

年度	2018	授業コード	JC1140110
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	バスケットボールはこれまでの学校教育の中でも取り組んだことのあるスポーツと思われるが、この講義の中では、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身に付けると共に、集団技能も身に付け、バスケットボール競技経験者も未経験者も互いに協力し合い、ゲームを楽しむこと目的とする。 また、ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。 平常点(技能・態度)80%、レポート点 20%		
到達目標	毎時の練習により、個人スキルを高め、バスケットボールのゲームが楽しくできるようにする。 また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。 更にはグループワークにおいてコミュニケーション能力、協調性等様々な力を養う。		
授業時間外学習	事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

活動にふさわしい、スポーツウェアー・シューズを用意すること。
グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

授業スケジュール

＊内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。
1.　オリエンテーション、フィットネステスト A
2.　コーディネーション、フィットネステスト B、個人技能練習（シュート）
3.　コーディネーション、スキルテスト（シュート）、個人技能練習（パス）、パッシングゲーム（ハーフコート）
4.　コーディネーション、スキルテスト（パス）、個人技能練習（ドリブル）、ハーフコートゲーム
5.　技能練習（シュート・パス・ドリブル）、スキルテスト（ドリブル）、
　　対人練習（1 対 0・2 対 1・3 対 2　数的優位な場面でのオフェンス及びディフェンス）、ハーフコートゲーム
6.　技能練習（シュート・ドリブル・パス）、対人練習（1 対 1・2 対 2・3 対 3　同数場面でのオフェンス及びディフェンス）、ゲーム
7.　グループ編成、グループワークⅠ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）
8.9.10.　グループワークⅠ、リーグ戦Ⅰ～Ⅲ
11.グループ編成、グループワークⅡ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）
12.13.14　グループワークⅡ、リーグ戦Ⅳ～Ⅵ
15.　最終スキルテスト、まとめのゲーム、レポートの説明、及び提出について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	JC1140111
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	バスケットボールはこれまでの学校教育の中でも取り組んだことのあるスポーツと思われるが、この講義の中では、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身に付けると共に、集団技能も身に付け、バスケットボール競技経験者も未経験者も互いに協力し合い、ゲームを楽しむこと目的とする。 また、ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。 平常点(技能・態度)80%、レポート点 20%		
到達目標	毎時の練習により、個人スキルを高め、バスケットボールのゲームが楽しくできるようにする。 また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。 更にはグループワークにおいてコミュニケーション能力、協調性等様々な力を養う。		
授業時間外学習	事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

活動にふさわしい、スポーツウェアー・シューズを用意すること。
グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

授業スケジュール

＊内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。
1.　オリエンテーション、フィットネステスト A
2.　コーディネーション、フィットネステスト B、個人技能練習（シュート）
3.　コーディネーション、スキルテスト（シュート)、個人技能練習（パス)、パッシングゲーム（ハーフコート）
4.　コーディネーション、スキルテスト（パス)、個人技能練習（ドリブル)、ハーフコートゲーム
5.　技能練習（シュート・パス・ドリブル)、スキルテスト（ドリブル)、
　　対人練習（1 対 0・2 対 1・3 対 2　数的優位な場面でのオフェンス及びディフェンス)、ハーフコートゲーム
6.　技能練習（シュート・ドリブル・パス)、対人練習（1 対 1・2 対 2・3 対 3　同数場面でのオフェンス及びディフェンス)、ゲーム
7.　グループ編成、グループワークⅠ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）
8.9.10.　グループワークⅠ、リーグ戦Ⅰ～Ⅲ
11.グループ編成、グループワークⅡ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）
12.13.14　グループワークⅡ、リーグ戦Ⅳ～Ⅵ
15.　最終スキルテスト、まとめのゲーム、レポートの説明、及び提出について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	JC1140114
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	バドミントンを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、スポーツ活動を楽しく展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を高めるとともに、仲間意識の向上を目指します。 技術面では、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、その技術を楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要に応じてプリント配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解できる。 バドミントンを通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にバドミントンの技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

授業スケジュール

1　　オリエンテーション、フィットネステストA
2　　フィットネステストB
3　　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　ダブルスのゲームとジャッジ
9　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1140115
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	バドミントンを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、スポーツ活動を楽しく展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を高めるとともに、仲間意識の向上を目指します。 技術面では、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、その技術を楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要に応じてプリント配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解できる。 バドミントンを通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にバドミントンの技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

授業スケジュール

1　　オリエンテーション、フィットネステストA
2　　フィットネステストB
3　　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　ダブルスのゲームとジャッジ
9　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1140116
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	バドミントンを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、スポーツ活動を楽しく展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を高めるとともに、仲間意識の向上を目指します。 技術面では、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、その技術を楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要に応じてプリント配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解できる。 バドミントンを通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にバドミントンの技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

授業スケジュール

1　　オリエンテーション、フィットネステストA
2　　フィットネステストB
3　　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　ダブルスのゲームとジャッジ
9　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1140117
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	バドミントンを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、スポーツ活動を楽しく展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を高めるとともに、仲間意識の向上を目指します。 技術面では、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、その技術を楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要に応じてプリント配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解できる。 バドミントンを通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にバドミントンの技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

授業スケジュール

1　　オリエンテーション、フィットネステストA
2　　フィットネステストB
3　　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　ダブルスのゲームとジャッジ
9　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1140118
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	バドミントンを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、スポーツ活動を楽しく展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を高めるとともに、仲間意識の向上を目指します。 技術面では、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、その技術を楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要に応じてプリント配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解できる。 バドミントンを通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にバドミントンの技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

授業スケジュール

1　　オリエンテーション、フィットネステストA
2　　フィットネステストB
3　　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　ダブルスのゲームとジャッジ
9　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1140119
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	バドミントンを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、スポーツ活動を楽しく展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を高めるとともに、仲間意識の向上を目指します。 技術面では、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、その技術を楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要に応じてプリント配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解できる。 バドミントンを通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にバドミントンの技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

授業スケジュール

1　　オリエンテーション、フィットネステストA
2　　フィットネステストB
3　　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　ダブルスのゲームとジャッジ
9　　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1140124
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	バレーボールには、「ボールを落とさないでラリーを続ける楽しさ」、「いろいろな攻撃を通じてボールを落としあう楽しさ」、「相手のプレイを予測して攻守を工夫していく楽しさ」というようにさまざまな楽しさがあります。 自分たちの現状を見つめ可能性を求めて、一人一人の力を結集する。共に協力しながら活動をする協同の気持ちを大切にしながら楽しい授業展開を目指します。 また、学部間の学生交流を横断的に促進し、技術の向上だけではなく、コミュニケーション力やチーム力など、トータルバランスのとれた授業展開を目的とします。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要時にはプリントを配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	バレーボールのルールや競技特性を理解できる。 バレーボールを通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にバレーボールの技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。			
授業スケジュール			
1.オリエンテーション、フィットネステストＡ 2.フィットネステストＢ 、グループ編成 3.各種ボールトレーニング、パス、サーブ、簡易ゲーム 4.基礎技術の習得とルール、試しのゲームと今後の課題 5.トス、アタック、ブロック練習、ゲーム 6.組織的な攻撃と防御　ゲーム 7.組織的な攻撃と防御　ゲーム　ゲーム分析と今後の課題 8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、ゲーム 9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーション、ゲーム 10.ゲームと審判法 11.ゲームと審判法 12.ゲームと審判法 13.ゲームと審判法 14.ゲームと審判法 15.ゲーム			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1140125
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	バレーボールには、「ボールを落とさないでラリーを続ける楽しさ」、「いろいろな攻撃を通じてボールを落としあう楽しさ」、「相手のプレイを予測して攻守を工夫していく楽しさ」というようにさまざまな楽しさがあります。 自分たちの現状を見つめ可能性を求めて、一人一人の力を結集する。共に協力しながら活動をする協同の気持ちを大切にしながら楽しい授業展開を目指します。 また、学部間の学生交流を横断的に促進し、技術の向上だけではなく、コミュニケーション力やチーム力など、トータルバランスのとれた授業展開を目的とします。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要時にはプリントを配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	バレーボールのルールや競技特性を理解できる。 バレーボールを通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にバレーボールの技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。			
授業スケジュール			
1.オリエンテーション、フィットネステストＡ 2.フィットネステストＢ 、グループ編成 3.各種ボールトレーニング、パス、サーブ、簡易ゲーム 4.基礎技術の習得とルール、試しのゲームと今後の課題 5.トス、アタック、ブロック練習、ゲーム 6.組織的な攻撃と防御　ゲーム 7.組織的な攻撃と防御　ゲーム　ゲーム分析と今後の課題 8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、ゲーム 9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーション、ゲーム 10.ゲームと審判法 11.ゲームと審判法 12.ゲームと審判法 13.ゲームと審判法 14.ゲームと審判法 15.ゲーム			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1140126
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。 具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要時にプリントを配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　50% トレーニング計画　３0% レポート（20%）		
到達目標	トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解できる。 トレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法が習得できる。 個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得できる。		
授業時間外学習	実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。日々の健康管理を十分に留意すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。

授業スケジュール

1　オリエンテーション、フィットネステストＡ
2　フィットネステストＢ、トレーニングルーム利用説明
3　ストレッチングの理論と実技
4　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技
5　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技
6　フィットネスプロフィールの作成
7　フィットネストレーニング
8　フィットネストレーニング
9　フィットネストレーニング
１０　フィットネストレーニング
１１　フィットネストレーニング
１２　フィットネストレーニング
１３　トレーニング計画立案と実践
１４　トレーニング計画立案と実践
１５　トレーニング計画立案と実践

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	JC1140127
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。 具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要時にプリントを配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　50% トレーニング計画　３0% レポート（20%）		
到達目標	トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解できる。 トレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法が習得できる。 個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得できる。		
授業時間外学習	実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。日々の健康管理を十分に留意すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。

授業スケジュール

1　オリエンテーション、フィットネステストＡ
2　フィットネステストＢ、トレーニングルーム利用説明
3　ストレッチングの理論と実技
4　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技
5　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技
6　フィットネスプロフィールの作成
7　フィットネストレーニング
8　フィットネストレーニング
9　フィットネストレーニング
１０　フィットネストレーニング
１１　フィットネストレーニング
１２　フィットネストレーニング
１３　トレーニング計画立案と実践
１４　トレーニング計画立案と実践
１５　トレーニング計画立案と実践

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	JC1140132
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	加藤　隆司	旧科目名称	
授業概要	剣道は、先人が命をかけた真剣勝負を通して悟道した剣の理法の修練による人間形成の道である。 実習では、相手への打突という剣道における特殊な運動の理解・実践に加えて、相手との関係に基ずく「技」の学習を通じて、相手を尊重する態度や自己を最大限に発揮する態度などを習得します。 特に武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を重視しており、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められます。 日常生活のなかでも、しっかりと挨拶（礼）ができることを目標とします。		
教材（教科書）	授業中に専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（参考資料）	プリントを配布する。		
教育方法	授業は講義法に基づいて行いますが、適時グループに分かれて実践し、意見交換を交えながら、技の理解や習得に取り組みます。 また、教員や他の受講者との意見交換やピアテイーチングを交えながら授業は進めます。		
評価方法	実技科目なので出席することが大切です。 ・関心・意欲・態度ー安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重できる。(30%) ・知識・理解　　ー技術を学ぶ。正確に防具の着脱ができる。有効打突を理解する。(50%) ・レポート　　ー「体力プロフィールの考察」　(20%)		
到達目標	基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間習ったところの復習を必ずすること、、特に基本の習得は繰り返し行い、体に覚えさせることが大切です、体の動き、足運び、呼吸法など毎日行うこと。 剣道実技と同時に、日本剣道形も習得します、少なくとも、大太刀３本目までを、実際に行えるように指導しますが、授業時間外での復習が必要です、プリントを配布しますので、それをもとに取り組んでください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体操服で出席してください。防具・竹刀・稽古着・袴は準備しなくてよい。裸足で行います。相手と打突しあう場面が出てきます、粗暴な行動は慎んでください。 初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。			
授業スケジュール			
1.　　オリエンテーションとフィットネステスト（２回目はシャトルランを実施します） 2.　　基本動作１－礼法・構え・足さばき・素振り 3.-5　基本動作２－打突の基本　　日本剣道型（１～３） 6.　　剣道具の着脱・手ぬぐいの付け方・対人的技能（対人打突の基本） 7-9　　対人的技能（切り返し、二・三段の技、連続技）　　日本剣道型（１～３） 10-13　対人的技能（応じ技）、かかり稽古、互角稽古　　日本剣道型（１～３） 14.　　審判規則・試合規則、試合（簡易試合） 15.　　試合（簡易試合・互角稽古）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1140133
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	加藤　隆司	旧科目名称	
授業概要	剣道は、先人が命をかけた真剣勝負を通して悟道した剣の理法の修練による人間形成の道である。 実習では、相手への打突という剣道における特殊な運動の理解・実践に加えて、相手との関係に基ずく「技」の学習を通じて、相手を尊重する態度や自己を最大限に発揮する態度などを習得します。 特に武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を重視しており、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められます。 日常生活のなかでも、しっかりと挨拶（礼）ができることを目標とします。		
教材（教科書）	授業中に専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（参考資料）	プリントを配布する。		
教育方法	授業は講義法に基づいて行いますが、適時グループに分かれて実践し、意見交換を交えながら、技の理解や習得に取り組みます。 また、教員や他の受講者との意見交換やピアテイーチングを交えながら授業は進めます。		
評価方法	実技科目なので出席することが大切です。 ・関心・意欲・態度ー安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重できる。(30%) ・知識・理解　　ー技術を学ぶ。正確に防具の着脱ができる。有効打突を理解する。(50%) ・レポート　　ー「体力プロフィールの考察」　(20%)		
到達目標	基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間習ったところの復習を必ずすること、、特に基本の習得は繰り返し行い、体に覚えさせることが大切です、体の動き、足運び、呼吸法など毎日行うこと。 剣道実技と同時に、日本剣道形も習得します、少なくとも、大太刀３本目までを、実際に行えるように指導しますが、授業時間外での復習が必要です、プリントを配布しますので、それをもとに取り組んでください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体操服で出席してください。防具・竹刀・稽古着・袴は準備しなくてよい。裸足で行います。相手と打突しあう場面が出てきます、粗暴な行動は慎んでください。 初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。			
授業スケジュール			
1.　　オリエンテーションとフィットネステスト（２回目はシャトルランを実施します） 2.　　基本動作１－礼法・構え・足さばき・素振り 3.-5　基本動作２－打突の基本　　日本剣道型（１～３） 6.　　剣道具の着脱・手ぬぐいの付け方・対人的技能（対人打突の基本） 7-9　　対人的技能（切り返し、二・三段の技、連続技）　　日本剣道型（１～３） 10-13　対人的技能（応じ技）、かかり稽古、互角稽古　　日本剣道型（１～３） 14.　　審判規則・試合規則、試合（簡易試合） 15.　　試合（簡易試合・互角稽古）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1140134
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	林　弘典	旧科目名称	
授業概要	柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習に由って、身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を体得する事である。そうして、是に由って己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である（嘉納治五郎師範遺訓)。 本授業では、柔道の楽しさを理解する。また、有段者に絶対不可欠な知識や技術を習得する。具体的には、柔道の概要、礼法、受け身、投げ技（立ち技)、固め技（抑み込み技、絞め技、関節技）を学習し、乱取りと試合を実践する。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	必要な人は、担当者に相談してください。		
教育方法	必要な人は、担当者に相談してください。		
評価方法	授業内の発表（30%)、レポート（30%)、技能チェック（40%）によって評価します。発表、レポートの内容は、柔道の概要です。技能チェックの内容は、礼法（立礼、座礼)、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）です。		
到達目標	１．柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）を暗唱できる。 ２．礼法（立礼、座礼）ができる。 ３．受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）ができる。		
授業時間外学習	講義の順序とポイントにある学習内容を図書館やインターネットで調べてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．柔道衣を持っていない人は、柔道衣を貸し出します。
２．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は必ず外して参加してください。
３．長髪の者は、ゴムで束ねて参加してください（ピンは使用しないでください)。
４．柔道衣の下は、男子は着用せず、女子はＴシャツ等ボタンのない衣類を着用してください。
５．感染症の防止のため、使用した柔道衣は必ず持ち帰って洗濯し、貸し借りはしないでください。
６．体調管理に十分に留意してください（特に授業前日は十分な栄養と睡眠をとり、当日は朝食を摂ってください)。
７．怪我防止のために、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
８．貴重品は自己管理してください。
※本単位の修得者で昇段を希望する者は、初段に推薦することが可能です。

授業スケジュール

１．フィットネステスト①、柔道のオリエンテーション、スポーツと武道の違い
２．フィットネステスト②、柔道衣の貸し出しと着方、柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）
３．礼の意味、礼法（立礼、座礼)、後ろ受け身、横受け身、前受け身（その場、低い位置、高い位置、他力）
４．前回り受け身（立ち上がらない)、抑え込み技の定義、横四方固め
５．前回り受け身（立ち上がる)、上四方固め
６．袈裟固め、組み方、八方の崩し
７．絞め技の定義、裸絞め（2 種類)、膝車
８．送り襟絞め（2 種類)、支え釣り込み足
９．片羽絞め、出足払い、燕返し
１０．昇段の説明会、柔道の概要の暗唱チェック
１１．三角絞、大外落とし
１２．関節技の定義、腕緘、大内刈り
１３．腕挫十字固め、体落とし
１４．審判法・試合
１５．技能チェック、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1140135
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	林　弘典	旧科目名称	
授業概要	柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習に由って、身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を体得する事である。そうして、是に由って己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である（嘉納治五郎師範遺訓)。 本授業では、柔道の楽しさを理解する。また、有段者に絶対不可欠な知識や技術を習得する。具体的には、柔道の概要、礼法、受け身、投げ技（立ち技)、固め技（抑み込み技、絞め技、関節技）を学習し、乱取りと試合を実践する。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	必要な人は、担当者に相談してください。		
教育方法	必要な人は、担当者に相談してください。		
評価方法	授業内の発表（30%)、レポート（30%)、技能チェック（40%）によって評価します。発表、レポートの内容は、柔道の概要です。技能チェックの内容は、礼法（立礼、座礼)、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）です。		
到達目標	１．柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）を暗唱できる。 ２．礼法（立礼、座礼）ができる。 ３．受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）ができる。		
授業時間外学習	講義の順序とポイントにある学習内容を図書館やインターネットで調べてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．柔道衣を持っていない人は、柔道衣を貸し出します。
２．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は必ず外して参加してください。
３．長髪の者は、ゴムで束ねて参加してください（ピンは使用しないでください)。
４．柔道衣の下は、男子は着用せず、女子はＴシャツ等ボタンのない衣類を着用してください。
５．感染症の防止のため、使用した柔道衣は必ず持ち帰って洗濯し、貸し借りはしないでください。
６．体調管理に十分に留意してください（特に授業前日は十分な栄養と睡眠をとり、当日は朝食を摂ってください)。
７．怪我防止のために、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
８．貴重品は自己管理してください。
※本単位の修得者で昇段を希望する者は、初段に推薦することが可能です。

授業スケジュール

１．フィットネステスト①、柔道のオリエンテーション、スポーツと武道の違い
２．フィットネステスト②、柔道衣の貸し出しと着方、柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）
３．礼の意味、礼法（立礼、座礼)、後ろ受け身、横受け身、前受け身（その場、低い位置、高い位置、他力）
４．前回り受け身（立ち上がらない)、抑え込み技の定義、横四方固め
５．前回り受け身（立ち上がる)、上四方固め
６．袈裟固め、組み方、八方の崩し
７．絞め技の定義、裸絞め（2 種類)、膝車
８．送り襟絞め（2 種類)、支え釣り込み足
９．片羽絞め、出足払い、燕返し
１０．昇段の説明会、柔道の概要の暗唱チェック
１１．三角絞、大外落とし
１２．関節技の定義、腕緘、大内刈り
１３．腕挫十字固め、体落とし
１４．審判法・試合
１５．技能チェック、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1140136
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	卓球を通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を活かし、仲間意識や協働力の向上を目指します。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、その技術を楽しみながらゲームで実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要時にはプリントを配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	卓球のルールや競技特性を理解できる。 卓球を通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識や協働力の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前に卓球の技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。			
授業スケジュール			
1　　オリエンテーリング、フィットネステストＡ 2　　フィットネステストＢ、卓球授業のためのオリエンテーション 3　　卓球台の設置と準備、ラケットの選び方とグリップ、簡易試合と技術レベルの確認 4　　スイングの仕方と乱打 5　　サービス、シングルスのルール、シングルスの簡易ゲーム 6　　クロス打ちの乱打、シングルスゲーム 7　　ドライブ、バックハンド、シングルスゲーム 8　　ショート、ツッツキ、シングルスゲーム 9　　カット、　シングルスゲーム 10　スマッシュ、シングルスゲーム 11　シングルスリーグ戦 12　シングルスリーグ戦 13　ダブルスのルール、ダブルスゲーム 14　ダブルスリーグ戦 15　ダブルスリーグ戦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1140137
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	卓球を通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を活かし、仲間意識や協働力の向上を目指します。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、その技術を楽しみながらゲームで実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要時にはプリントを配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	卓球のルールや競技特性を理解できる。 卓球を通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識や協働力の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前に卓球の技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。			
授業スケジュール			
1　　オリエンテーリング、フィットネステストＡ 2　　フィットネステストＢ、卓球授業のためのオリエンテーション 3　　卓球台の設置と準備、ラケットの選び方とグリップ、簡易試合と技術レベルの確認 4　　スイングの仕方と乱打 5　　サービス、シングルスのルール、シングルスの簡易ゲーム 6　　クロス打ちの乱打、シングルスゲーム 7　　ドライブ、バックハンド、シングルスゲーム 8　　ショート、ツッツキ、シングルスゲーム 9　　カット、　シングルスゲーム 10　スマッシュ、シングルスゲーム 11　シングルスリーグ戦 12　シングルスリーグ戦 13　ダブルスのルール、ダブルスゲーム 14　ダブルスリーグ戦 15　ダブルスリーグ戦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1140138
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
授業概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、学生は自己の課題を解決できるようになるとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を磨くことができる。 学生は本日義の楽しさの気づきにより、自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。また、各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高めることができる。加えて、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を確認、実技指導に活かし、実践能力をさらに高めることができる。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力・行動力につなげる。できれば、健康スポーツ理論やヘルスプロモーションの健康増進理論を受講することを進める。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学び、健康寿命の延伸を目指そう。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	吉中　康子著「健康スポーツとヘルスマネジメント―リーダーのための健康理論」晃洋書房		
教育方法	学生はこの実技を受講することで、グループワークの中で協力し合ったり、リーダーシップを発揮することを学ぶ。授業は主に講義法に基づくが、適時グループワークをまじえて、試合の企画・運営やお互いに協働することを学ぶ。		
評価方法	グループ学習参加度、実技評価、体力と生活習慣レポート及びその他の提出物を総合して評価する		
到達目標	１．運動を楽しみ、仲間と協力することができる。 ２．グループで協力し、自分の役割を果たすことができる。 ３．目標を掲げ、練習計画立てて、説明し、仲間と時間を有効に使うことができる。 ４．集団をまとめることができる。 ５．準備、片付けや危機管理・安全管理ができる		
授業時間外学習	運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。 １回目　宿題：体力と生活習慣のレポート作成：３０分以上 ２回目　宿題：バドミントン＆卓球のルール ３回目　振り返り ４回目　振り返り ５回目　振り返り ６回目　宿題：テニス・ローンボウルズのルール ７回目　振り返り ８回目　宿題：バスケットボールのルール ９回目　振り返り 10 回目　宿題：レクリエーションの歴史とアクテビティ 11 回目　宿題：クリケットのルール 12 回目　宿題：ソフトバレーボール＆バレーボールのルール 13 回目　宿題：運動習慣と健康寿命 14 回目　振り返り 15 回目　振り返り		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方と注意事項の説明。（宿題：体力と生活習慣のレポート作成：３０分以上）			

2．体力測定の評価法とレクリエーション（宿題：バドミントン＆卓球のルール）
3．バドミントン
4．卓球
5．バドミントン
6．卓球（宿題：テニス・ローンボウルズのルール）
7．テニス
8．ローンボウルズ（宿題：バスケットボールのルール）
9．バスケットボール
10．レクリエーション（宿題：レクリエーションの歴史とアクテビティ）
11．バスケットボール（宿題：クリケットのルール）
12．クリケット（宿題：ソフトバレーボール＆バレーボールのルール）
13．ソフトバレーボール（宿題：運動習慣と健康寿命）
14．バレーボール
15．ソフトバレーボール

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1140139
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
授業概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、学生は自己の課題を解決できるようになるとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を磨くことができる。 学生は本日義の楽しさの気づきにより、自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。また、各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高めることができる。加えて、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を確認、実技指導に活かし、実践能力をさらに高めることができる。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力・行動力につなげる。できれば、健康スポーツ理論やヘルスプロモーションの健康増進理論を受講することを進める。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学び、健康寿命の延伸を目指そう。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	吉中　康子著「健康スポーツとヘルスマネジメント―リーダーのための健康理論」晃洋書房		
教育方法	学生はこの実技を受講することで、グループワークの中で協力し合ったり、リーダーシップを発揮することを学ぶ。授業は主に講義法に基づくが、適時グループワークをまじえて、試合の企画・運営やお互いに協働することを学ぶ。		
評価方法	グループ学習参加度、実技評価、体力と生活習慣レポート及びその他の提出物を総合して評価する		
到達目標	１．運動を楽しみ、仲間と協力することができる。 ２．グループで協力し、自分の役割を果たすことができる。 ３．目標を掲げ、練習計画立てて、説明し、仲間と時間を有効に使うことができる。 ４．集団をまとめることができる。 ５．準備、片付けや危機管理・安全管理ができる		
授業時間外学習	運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。 １回目　宿題：体力と生活習慣のレポート作成：３０分以上 ２回目　宿題：バドミントン＆卓球のルール ３回目　振り返り ４回目　振り返り ５回目　振り返り ６回目　宿題：テニス・ローンボウルズのルール ７回目　振り返り ８回目　宿題：バスケットボールのルール ９回目　振り返り 10 回目　宿題：レクリエーションの歴史とアクテビティ 11 回目　宿題：クリケットのルール 12 回目　宿題：ソフトバレーボール＆バレーボールのルール 13 回目　宿題：運動習慣と健康寿命 14 回目　振り返り 15 回目　振り返り		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方と注意事項の説明。（宿題：体力と生活習慣のレポート作成：３０分以上）			

2．体力測定の評価法とレクリエーション（宿題：バドミントン＆卓球のルール）
3．バドミントン
4．卓球
5．バドミントン
6．卓球（宿題：テニス・ローンボウルズのルール）
7．テニス
8．ローンボウルズ（宿題：バスケットボールのルール）
9．バスケットボール
10．レクリエーション（宿題：レクリエーションの歴史とアクテビティ）
11．バスケットボール（宿題：クリケットのルール）
12．クリケット（宿題：ソフトバレーボール＆バレーボールのルール）
13．ソフトバレーボール（宿題：運動習慣と健康寿命）
14．バレーボール
15．ソフトバレーボール

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1140140
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、学生は自己の課題を解決できるようになるとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を磨くことができる。 学生は本日義の楽しさの気づきにより、自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。また、各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高めることができる。加えて、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を確認、実技指導に活かし、実践能力をさらに高めることができる。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力・行動力につなげる。できれば、健康スポーツ理論やヘルスプロモーションの健康増進理論を受講することを進める。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学び、健康寿命の延伸を目指そう。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	吉中　康子著「健康スポーツとヘルスマネジメント―リーダーのための健康理論」晃洋書房		
教育方法	学生はこの実技を受講することで、グループワークの中で協力し合ったり、リーダーシップを発揮することを学ぶ。授業は主に講義法に基づくが、適時グループワークをまじえて、試合の企画・運営やお互いに協働することを学ぶ。		
評価方法	グループ学習参加度、実技評価、体力と生活習慣レポート及びその他の提出物を総合して評価する		
到達目標	１．運動を楽しみ、仲間と協力することができる。 ２．グループで協力し、自分の役割を果たすことができる。 ３．目標を掲げ、練習計画立てて、説明し、仲間と時間を有効に使うことができる。 ４．集団をまとめることができる。 ５．準備、片付けや危機管理・安全管理ができる		
授業時間外学習	運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。 １回目　宿題：体力と生活習慣のレポート作成：３０分以上 ２回目　宿題：バドミントン＆卓球のルール ３回目　振り返り ４回目　振り返り ５回目　振り返り ６回目　宿題：テニス・ローンボウルズのルール ７回目　振り返り ８回目　宿題：バスケットボールのルール ９回目　振り返り 10 回目　宿題：レクリエーションの歴史とアクテビティ 11 回目　宿題：クリケットのルール 12 回目　宿題：ソフトバレーボール＆バレーボールのルール 13 回目　宿題：運動習慣と健康寿命 14 回目　振り返り 15 回目　振り返り		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方と注意事項の説明。（宿題：体力と生活習慣のレポート作成：３０分以上）			

2．体力測定の評価法とレクリエーション（宿題：バドミントン＆卓球のルール）
3．バドミントン
4．卓球
5．バドミントン
6．卓球（宿題：テニス・ローンボウルズのルール）
7．テニス
8．ローンボウルズ（宿題：バスケットボールのルール）
9．バスケットボール
10．レクリエーション（宿題：レクリエーションの歴史とアクテビティ）
11．バスケットボール（宿題：クリケットのルール）
12．クリケット（宿題：ソフトバレーボール＆バレーボールのルール）
13．ソフトバレーボール（宿題：運動習慣と健康寿命）
14．バレーボール
15．ソフトバレーボール

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1140141
科目名	スポーツ実技	単位数	1
科目名（英語表記）	Sports Practice		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、学生は自己の課題を解決できるようになるとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を磨くことができる。 学生は本日義の楽しさの気づきにより、自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。また、各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高めることができる。加えて、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を確認、実技指導に活かし、実践能力をさらに高めることができる。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力・行動力につなげる。できれば、健康スポーツ理論やヘルスプロモーションの健康増進理論を受講することを進める。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学び、健康寿命の延伸を目指そう。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	吉中　康子著「健康スポーツとヘルスマネジメント―リーダーのための健康理論」晃洋書房		
教育方法	学生はこの実技を受講することで、グループワークの中で協力し合ったり、リーダーシップを発揮することを学ぶ。授業は主に講義法に基づくが、適時グループワークをまじえて、試合の企画・運営やお互いに協働することを学ぶ。		
評価方法	グループ学習参加度、実技評価、体力と生活習慣レポート及びその他の提出物を総合して評価する		
到達目標	１．運動を楽しみ、仲間と協力することができる。 ２．グループで協力し、自分の役割を果たすことができる。 ３．目標を掲げ、練習計画立てて、説明し、仲間と時間を有効に使うことができる。 ４．集団をまとめることができる。 ５．準備、片付けや危機管理・安全管理ができる		
授業時間外学習	運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。 １回目　宿題：体力と生活習慣のレポート作成：３０分以上 ２回目　宿題：バドミントン＆卓球のルール ３回目　振り返り ４回目　振り返り ５回目　振り返り ６回目　宿題：テニス・ローンボウルズのルール ７回目　振り返り ８回目　宿題：バスケットボールのルール ９回目　振り返り 10 回目　宿題：レクリエーションの歴史とアクテビティ 11 回目　宿題：クリケットのルール 12 回目　宿題：ソフトバレーボール＆バレーボールのルール 13 回目　宿題：運動習慣と健康寿命 14 回目　振り返り 15 回目　振り返り		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方と注意事項の説明。（宿題：体力と生活習慣のレポート作成：３０分以上）			

2．体力測定の評価法とレクリエーション（宿題：バドミントン＆卓球のルール）
3．バドミントン
4．卓球
5．バドミントン
6．卓球（宿題：テニス・ローンボウルズのルール）
7．テニス
8．ローンボウルズ（宿題：バスケットボールのルール）
9．バスケットボール
10．レクリエーション（宿題：レクリエーションの歴史とアクテビティ）
11．バスケットボール（宿題：クリケットのルール）
12．クリケット（宿題：ソフトバレーボール＆バレーボールのルール）
13．ソフトバレーボール（宿題：運動習慣と健康寿命）
14．バレーボール
15．ソフトバレーボール

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1140201
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
授業概要	生涯における健康スポーツは健康維持・増進、疾病の予防、精神疾患の予防のために重要となってきている。生活習慣病による死亡率は高い。また、ストレスによる精神疾患の発症も増加しており、これらの疾患を予防するための運動の知識や実践は重要となっている。スライド・動画を使用した講義を通じて健康のあり方、栄養管理のあり方、生活習慣病・癌、スポーツ障害、救急医療、健康管理の考え方などの基礎知識を学修する。 各方面の話題を取り上げて、幅広い視野を持てるようにする。 臨床例をケースとした講義を通じて学生自身による健康管理や指導者の育成も目指す。		
教材（教科書）	とくにありません。		
教材（参考資料）	『新・健康スポーツの科学』(晃洋書房) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 『スポーツ医学研修ハンドブック(基礎科目・応用科目)』　(文光堂)		
教育方法	事前に用意した PDF と、当日のスライドを使用して講義を進めます。 重要な点についてはショートテストで確認します。 一般教養も提示する予定です。		
評価方法	課題レポートの評価を 30%、授業内テストなどを 70%とする。		
到達目標	健康の概念を把握し、健康の維持・増進について理解する。		
授業時間外学習	厚生労働省の健康関連情報について、チェックしておくこと。 国立がん研究センターのホームページを見て自習してください。 いきいき健康ライフ／滋賀県立成人病センターのホームページを見て自習してください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。
出席の代返は禁止です。
講義中の私語は禁止です。
小テストはスクリーンを使用しますので、なるべく前に座ってください。
筆記用具は毎回、持参してください。

授業スケジュール

１．オリエンテーション・健康とは何か・健康づくり施策
２．栄養摂取と運動
３．骨の病気、筋肉の病気
４．放射線の ABC・被曝の基礎知識・緊急被曝ガイド(水田先生)
５．人体の解剖・画像解剖(水田先生)
６．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 1
７．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 2
８．生活習慣病としての発癌
９．大学生の健康知識
１０．運動療法の基礎
１１．心臓病と高血圧・動脈硬化の運動療法
１２．スポーツ障害と画像診断
１３．運動負荷試験
１４．運動プログラムの管理
１５．健康管理、まとめ

京都医療科学大学の水田先生に講義をお願いしています。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1140202
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
授業概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の 3 分の 2 が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約 6 割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで 2 位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。スポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学ぼう。 　学生はこの授業を学ぶことで、運動の必要性に気づき、行動に結びつけることができる。自分の健康状態を管理するマネジメント力とセルフコントロールの能力が身につく。		
教材（教科書）	吉中康子著「健康スポーツとヘルスプロモーション―リーダーのための健康理論―」（晃洋書房）		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	パワーポイントや動画を活用しながら、スポーツの最新の動向を学ぶ。教科書の重要な点をマークしたり、教科書の事前学習シートに沿って、予習をすること。実践活動も重視する。		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。 以上の目標を達成し、学生は運動習慣を構築することができる。競技スポーツを目指す学生は、さらに高い目標をもって、チーム一丸となって目標を目指し活動することができる。		
授業時間外学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを 5 点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
授業スケジュール			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労			

１３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	JC1140203
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
授業概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の 3 分の 2 が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約 6 割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで 2 位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。スポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学ぼう。 　学生はこの授業を学ぶことで、運動の必要性に気づき、行動に結びつけることができる。自分の健康状態を管理するマネジメント力とセルフコントロールの能力が身につく。		
教材（教科書）	吉中康子著「健康スポーツとヘルスプロモーション―リーダーのための健康理論―」（晃洋書房）		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	パワーポイントや動画を活用しながら、スポーツの最新の動向を学ぶ。教科書の重要な点をマークしたり、教科書の事前学習シートに沿って、予習をすること。実践活動も重視する。		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。 以上の目標を達成し、学生は運動習慣を構築することができる。競技スポーツを目指す学生は、さらに高い目標をもって、チーム一丸となって目標を目指し活動することができる。		
授業時間外学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを 5 点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
授業スケジュール			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労			

１３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	JC1140204
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
授業概要	生涯における健康スポーツは健康維持・増進、疾病の予防、精神疾患の予防のために重要となってきている。生活習慣病による死亡率は高い。また、ストレスによる精神疾患の発症も増加しており、これらの疾患を予防するための運動の知識や実践は重要となっている。スライド・動画を使用した講義を通じて健康のあり方、栄養管理のあり方、生活習慣病・癌、スポーツ障害、救急医療、健康管理の考え方などの基礎知識を学修する。 各方面の話題を取り上げて、幅広い視野を持てるようにする。 臨床例をケースとした講義を通じて学生自身による健康管理や指導者の育成も目指す。		
教材（教科書）	とくにありません。		
教材（参考資料）	『新・健康スポーツの科学』(晃洋書房) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 『スポーツ医学研修ハンドブック(基礎科目・応用科目)』　(文光堂)		
教育方法	事前に用意した PDF と、当日のスライドを使用して講義を進めます。 重要な点についてはショートテストで確認します。 一般教養も提示する予定です。		
評価方法	課題レポートの評価を 30%、授業内テストなどを 70%とする。		
到達目標	健康の概念を把握し、健康の維持・増進について理解する。		
授業時間外学習	厚生労働省の健康関連情報について、チェックしておくこと。 国立がん研究センターのホームページを見て自習してください。 いきいき健康ライフ／滋賀県立成人病センターのホームページを見て自習してください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。
出席の代返は禁止です。
講義中の私語は禁止です。
小テストはスクリーンを使用しますので、なるべく前に座ってください。
筆記用具は毎回、持参してください。

授業スケジュール

１．オリエンテーション・健康とは何か・健康づくり施策
２．栄養摂取と運動
３．骨の病気、筋肉の病気
４．放射線の ABC・被曝の基礎知識・緊急被曝ガイド(水田先生)
５．人体の解剖・画像解剖(水田先生)
６．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 1
７．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 2
８．生活習慣病としての発癌
９．大学生の健康知識
１０．運動療法の基礎
１１．心臓病と高血圧・動脈硬化の運動療法
１２．スポーツ障害と画像診断
１３．運動負荷試験
１４．運動プログラムの管理
１５．健康管理、まとめ

京都医療科学大学の水田先生に講義をお願いしています。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1140205
科目名	健康スポーツ理論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
授業概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の 3 分の 2 が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約 6 割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで 2 位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。スポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学ぼう。 　学生はこの授業を学ぶことで、運動の必要性に気づき、行動に結びつけることができる。自分の健康状態を管理するマネジメント力とセルフコントロールの能力が身につく。		
教材（教科書）	吉中康子著「健康スポーツとヘルスプロモーション―リーダーのための健康理論―」（晃洋書房）		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	パワーポイントや動画を活用しながら、スポーツの最新の動向を学ぶ。教科書の重要な点をマークしたり、教科書の事前学習シートに沿って、予習をすること。実践活動も重視する。		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。 以上の目標を達成し、学生は運動習慣を構築することができる。競技スポーツを目指す学生は、さらに高い目標をもって、チーム一丸となって目標を目指し活動することができる。		
授業時間外学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを 5 点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
授業スケジュール			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労			

１３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	JC1140301
科目名	食の安全安心（2015 生から）	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	植野　洋志	旧科目名称	
授業概要	「食」は衣食住という私たちの生活における基本要素のなかでは，ヒトの生命（いのち）そのものに直接関与する重要な要素である．どのように「食」が生命とかかわるかを理解しないと，安全安心の概念は生じない． 本講義では，「食」を１）食素材から食品という製品として，２）食物として体内に取り込み，代謝されるとき，３）外部環境要因がいかに１）や２）に関与するか，という点を中心に理解を深めることになる． 一般に知られている食の安全安心という言葉の意味をより正確にとらえるためには，「食」のもつ性質を知る必要がある．食の性質とは，もちろん，物質としての概念であろう．食素材は化学物質としてとらえないとだめで，その本質は，食素材が物質変換（化学反応）することに他ならない．一般教養として，食素材がどのように変化するのかを理解し，いわゆる発酵や腐敗という言葉が何を意味するのかを本質的に判ることを目標とする． 近年，「食」と安全で話題になっている食中毒，鳥インフルエンザ，遺伝子組み換え食品，バイオ燃料といった内容にも触れる予定でいる．		
教材（教科書）	別に用いない		
教材（参考資料）	京学なびを活用した情報提供		
教育方法	－		
評価方法	不定期に実施する予定でいる小テストもしくはレポート提出（40%），そして平常点（受講態度や取組姿勢）（40%），学期末のレポート提出（20%）を総計して評価する．場合によっては，筆記試験を期末試験とする．		
到達目標	社会常識として，生命現象を化学というツールで眺めることが大切である．そうすると，共通する基本概念が見えてくる．生命の大原則と「食」が密接につながっていること，また，その関連性に影響をあたえるようが現象が安全安心という側面から理解することができる．このような自然のなかの関連性に気づくことが本講義の目標である．また，これまで耳学問で習得した知識を，科学的裏付けで考えることができる力を育成する．		
授業時間外学習	市民教養科目なので，基本，準備学習を期待しない．ただ，希望者にはネットを利用した教材（配布プリントと授業でのパワポ）閲覧を推奨する．		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
一般教養的内容なのと，生活と密接に関係するので，講義中の話題がいろんな方向に飛ぶことがある．きちんとノートやメモをとれることを学習しよう．質問はできるだけその場でするように心がけよう．積極的な授業への参加が望ましい．			
授業スケジュール			
1〜3. ヒトの体に影響を与える食生活について，DVD を教材として学習する 4〜5. 体に取り込まれる栄養素はどのようにして使われるのか，代謝という概念を習得する 6〜7. 化学反応が生命体の基本であることを学ぶ 8. 環境因子（農薬・殺虫剤などを含む）がどのように体に影響するのかを DVD を教材として学習する 9〜10. 食素材がもたらす効果（たとえば，食中毒）について，安全安心の観点と分子生物学の観点から眺める 11〜12. 遺伝子組換え技術について概説する 13〜14. 食品の保存・保蔵の基礎と原理を理解する 15. 食にまつわる話題を共有する			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1140302
科目名	食の安全安心（2015 生から）	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
授業概要	食の安全については、毎年のように表示偽造や、食中毒が発生しており、またその原因に大手食品企業がなることも多く、大きな社会問題となっている。ひるがえって、一般家庭における食の安全に関する知識も十分とは言えず、ノロウイルスによる食中毒をはじめ、自然毒に対する知識不足から生じる祥中毒に関しても、問題が起こったときには、その都度食品の安全性に関する機運が高まりはするが、その時だけで終わってしまい定着しているとはいえないのが現状である。 ところで、多くの一般の人が食品に手を触れ、眼に入れることが多いのは、スーパーや飲食店であろう。このように食品が流通するためには、消費者庁、厚生労働省、農林水産省、等の多くの省庁が絡んだ基準や規格が多く存在している。例えば食品に記載されている義務表示に関しても、カップラーメン一つとっても原材料表示をはじめとして、エネルギー量などの栄養表示、卵由来などのアレルギー表示さらには分別に関する、「プラ」や「紙」等の表示もあり、すべてを理解している消費者は少ないであろう。さらに、これに関わる表示基準を正確に理解することは、食品を扱う会社のも者であっても大変難しい。 一方、食品を安全に流通させるためには、加工食品であれば、保存料等の食品添加物、農産物であれば農薬を使用しており、これらの使用方法や事例について、単に「化学合成品」であるから危険、と言うイメージだけで判断するのではなく、どのようにその安全基準が決められているのかを知る機会は少ないと思われる。 また、生鮮食品も必ずしも安全というわけではなく、調理法を誤ればジャガイモやインゲン豆でも毒になり得ることを理解しておかなければいけない。 そこで、本講義では、食品の安全や安心について、より身近なところの知識を得ることを目的として、日常生活に生かせる講義を行いたい。		
教材（教科書）	特定の教科書を指定しない。		
教材（参考資料）	・食品表示検定認定テキスト・中級-一般社団法人食品表示検定協会編-(ダイヤモンド社) ・食品安全検定テキスト中級-食品安全検定協会編-(中央法規出版) ・「食をめぐるほんとうの話」講談社現代新書		
教育方法	・基本的に配付資料に従って講義法により行う。 ・補助的な資料を OHC での説明や、内閣府食品安全委員会作成の DVD を使用して説明を行う。		
評価方法	指定した課題に対するレポート 80% 授業後アンケート 20%		
到達目標	本来、「安全」とは、客観的な科学的根拠を持って評価される物であり、逆に「安心」とは主観的であり、個人によってとらえ方が異なる物である。本講義においては、「安全」について、どのように科学的に検証されてきたかを理解し、どのように担保されてきたのかを考えると共に、それを前提に「安心」をどのようにとらえるかについて学習する。		
授業時間外学習	・参考図書を読むことや、消費者庁の食の安全性に関するホームページや、食品安全委員会のホームページを閲覧するなど、安全性に関する知識を得るとともに、現在どのようなことが問題になっているか、知るように努める。 消費者庁 HP {http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/food_safety/} 食品安全委員会 HP {http://www.fsc.go.jp/index.html}		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・受講生の学習環境を阻害するような私語は禁止する。 ・毎日食べている食品のみならず、食事そのもの、さらには流通についても興味を持ち、常に行動できること。			
授業スケジュール			
1～4：食品の表示について理解しよう。			

食品に表示する義務のある事項、表記方法について学ぶ(食品表示基準)。
5～7：食品に係わる有害物質について理解しよう。
食中毒を起こす原因となる、微生物、動植物に含まれる毒素、有害金属、等について学ぶ。
8～10：加工食品や農産物に使用される食品添加物や農薬について理解しよう。
食品添加物や農薬がどのように評価され使用されてきたかを学ぶ。
11～12：遺伝子組会食品について理解しよう。
遺伝子組み換え食品とはどういう物か、またその安全性についても理解する。
13　：食品の加工や流通における安心システムについて理解しよう。
14　：安全な食品を担保するための加工システム（HACCP、等)や流通経路についても
15　：健康食品の安全について理解しよう。
様々な健康食品が流通しているが、これらの食品の安全性だけでなく、その有効性についても理解する。
講義全体を通して、専門的な知識を得ることを目的にするのではなく、より日常生活に生かせる食の安全について知ることを目的として進めていく。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	JC1140303
科目名	食の安全安心（2015 生から）	単位数	2
科目名（英語表記）	Food Safety I		
担当者名	渡部　紀久子	旧科目名称	
授業概要	「食」は衣食住という私たちの生活における基本要素のなかでは、ヒトの命（いのち）そのものに直接関与する重要な要素である。どのように「食」が生命とかかわるかを理解しないと、安全安心の概念は生じない。 本講義では、「食」を１）食素材から食品という製品として、２）食物として体内に取り込み、代謝されるとき、３）外部環境要因がいかに１）や２）に関与するか、という点を中心に理解を深めることになる。 一般に知られている食の安全安心という言葉の意味をより正確にとらえるためには、「食」のもつ性質を知る必要がある。食の性質とは、もちろん、物質としての概念であろう。食素材は化学物質としてとらえないとだめで、その本質は、食素材が物質変換（化学反応）することに他ならない。一般教養として、食素材がどのように変化するのかを理解し、いわゆる発酵や腐敗という言葉が何を意味するのかを本質的に判ることを目標とする。 近年、「食」と安全で話題になっている食中毒、鳥インフルエンザ、遺伝子組み換え食品、バイオ燃料といった内容にも触れる予定でいる。		
教材（教科書）	別に用いない		
教材（参考資料）	京学なびを活用した情報提供		
教育方法	「スーパーサイズ・ミー」および「未来の食卓」の DVD を講義の進行に合わせて放映し、これらを DVD をもとに、食について学生自ら、考える力を身につける。 また、「食の安全安心」について基礎力を身につけるために、栄養、食中毒、添加物等の基本的知識、情報をポワーポイントを使って講義する。		
評価方法	不定期に実施する予定でいる小テスト（２０％）（京学なび）、レポート提出（４０％）、そして平常点（４０％）を総計して評価する。場合によっては、筆記試験を期末試験とする。なお、特別な理由がない５回以上の欠席は、評価対象外とする。		
到達目標	社会常識として、生命現象を化学というツールで眺めることが大切である。そうすると、共通する基本概念が見えてくる。生命の大原則と「食」が密接につながっていること、また、その関連性に影響をあたえるような現象が安全安心という側面から理解することができる。このような自然のなかの関連性に気づくことが本講義の目標である。また、これまで耳学問で習得した知識を、科学的裏付けで考えることができる力を育成する。		
授業時間外学習	市民教養科目なので、基本、準備学習を期待しない。ただ、希望者にはネットを利用した教材（配布プリントと 授業でのパワポ）閲覧を推奨する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
一般教養内容なのと、生活と密接に関係するので、講義中の話題がいろんな方向に飛ぶことがある。きちんとノートやメモをとれることを学習しよう。質問はできるだけその場でするように心がけよう。積極的な授業への参加が望ましい。			
授業スケジュール			
１～２．ヒトの体に影響を与える食生活について、DVD を教材として学習する。 ３～４．体に取り込まれる栄養素はどのようにして使われるのか、代謝という概念を習得する。 ５～６．化学反応が生命体の基本であることを学ぶ。 ７～８．食素材がもたらす効果（たとえば、食中毒）について、安全安心の観点と分子生物学の観点から眺める。 ９～１０．遺伝子組換え技術について概説する。 １１～１２．食品の保存・保蔵の基礎と原理を理解する。 １３～１５．食にまつわる制約（法律や規則）、輸入食品の安全性、農薬とはなど広く生活に関係する話題を共有する。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	★	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1140401
科目名	ヘルスプロモーション	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
授業概要	信長が好んだ「敦盛」の一節に「人間 50 年、下天の内くらぶれば、夢、幻、如くなり（人間がどのような一生を送ろうと、それはほんの五十年くらいの 短い間に過ぎない)」というのがある。そんな時代とは比較にならない「長寿」となったが、手放しで喜べない事情がある。健康問題もその一つである。 ヘルスプロモーションは日本語では「健康増進」と訳されている。本講義では、ヘルスプロモーションの歴史と概念およびわが国における健康づくり施策とその変遷について学ぶとともに、現在の健康課題、具体的には、日本人の死因や国民医療費において大きな構成割合を占めるがん、心臓病、脳血管疾患、糖尿病などの生活習慣病やこころの健康について学修する。 日常生活の中で、自らが生涯にわたって実践できる生活習慣病予防対策を考える時間にしたい。		
教材（教科書）	津田謹輔 著『健康科学　知っておきたい予防医学』（丸善出版)、1900 円　講義中に使用する。 本書で示される古いデータについては、最新データに更新しながら授業を進める。		
教材（参考資料）	島内憲夫、鈴木美奈子著『ヘルスプロモーション、WHO:オタワ憲章』堀内出版、1700 円 島内憲夫、鈴木美奈子著『ヘルスプロモーション、WHO:バンコク憲章』堀内出版、1900 円 近藤尚己『健康格差対策の進め方』医学書院、2500 円		
教育方法	授業形態は、テキスト、パワーポイント、プリントによる講義が中心である。 血圧測定では簡易血圧計を用意するので自分の血圧を測ってみる。 また、小グループによるグループディスカッションで、健康格差等の健康問題について議論する。		
評価方法	ミニテスト（20%)、レポート（10%)、定期試験（70%）		
到達目標	1.ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケアの基本概念を説明でき、健康に対する様々な価値観を理解する。 2.疾病の予防、寿命の延長、ＱＯＬについて理解し、ヘルスプロモーションとの関連性を考えることができる。 3.ヘルスプロモーションの展開例を身近な生活の中のテーマを取り上げ、考えることができる。 また、生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
授業時間外学習	授業のテキスト（レジメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業 1 週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日頃から、自分のライフスタイル（運動や食生活）に関心を持つこと。
講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。遅刻や早退はしない。
講義で得た知識を用いてより健康を増進させるためのライフスタイルを実践・確立してほしい。

授業スケジュール

１．ヘルスプロモーションとは？　その理論と歴史
２．健康増進のためのキーワド
３．長寿・超高齢化の現状と健康課題
４．がんと日常生活
５．動脈硬化と日常生活
６．高血圧と日常生活
７．糖尿病（Ⅰ型糖尿病とⅡ型糖尿病）と日常生活
８．肥満と肥満症、やせ
９．倹約遺伝子とメタボリックシンドローム
１０．ひとり暮らしの食生活、日本人の食生活の変遷

１１．何を食べるか、食べないか。食事摂取基準・食事バランスガイド
１２．運動不足がもたらすもの、健康づくりのための身体活動基準・アクティブガイド
１３．たばことアルコール
１４．こころの健康
１５．まとめ（健康長寿のために、個人の健康、社会の健康）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1140402
科目名	ヘルスプロモーション	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
授業概要	体育・スポーツやレクリエーションは心身の発達を健全に促す手立てとして、またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている。 しかし、国民の 2/3 は運動習慣が身についていないという報告もある。また死亡原因でも生活習慣病が約 6 割（がん 30.5%、虚血性心疾患 15.7%、脳血管疾患 13.0%、糖尿病 1.3%、高血圧性疾患 0.6%）を占め、医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。このような現状と、国の施策や地域での取り組みを紹介し、各自の生活スタイル改善を促す。		
教材（教科書）	吉中　康子著「健康スポーツとヘルスプロモーション―リーダーのための健康理論―」（晃洋書房）		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する		
教育方法	パワーポイントや動画を活用しながら、ヘルスプロモーションの最新の動向を学ぶ。教科書の重要な点をマークしたり、教科書の事前学習に沿って、予習をすること。		
評価方法	レポート（40%）、定期試験（60%）		
到達目標	1.ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケアの基本概念を説明でき、健康に対する様々な価値観を理解する。 2.疾病の予防、寿命の延長、ＱＯＬについて理解し、ヘルスプロモーションとの関連性を考えることができる。 3.ヘルスプロモーションの展開例を身近な生活の中のテーマを取り上げ、考えることができる。 また、生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
授業時間外学習	毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと 事前・事後学習には 0.5 時間以上の時間を充てること。 配布プリントの専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の最後に授業内容についてのミニレポートや京学ナビの課題を提出させる。必ず復習をし、授業をしっかり聞き、ﾍﾙｽﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝの概念・実践理論を自分のものとすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日頃から、自分のライフスタイル（運動や食生活）に関心を持つこと。
講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。遅刻や早退はしない。
講義で得た知識を用いてより健康を増進させるためのライフスタイルを実践・確立してほしい。

授業スケジュール

１．健康の定義とヘルスプロモーション
２．個人への働きかけ（健康教育）
３．個人への働きかけ（情報提供）
４．個人の環境への働きかけ（公共政策）
５．個人の環境への働きかけ（環境づくり）
６．個人の環境への働きかけ（地域活動）
７．個人の環境への働きかけ（保健サービス）
８．生活習慣病とヘルスプロモーション
９．こころの健康と日常生活
１０．日本人の食生活の変遷と課題
１１．食の課題とヘルスプロモーション、食事摂取基準について
１２．健康づくりのための人材育成と健康づくりのための身体活動基準・アクティブガイド
１３．運動・スポーツ推進のための国の施策・地域での活動
１４．セーフティプロモーションと外傷予防

１５．まとめ:ヘルスプロモーションの個人と集団へのアプローチ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1140403
科目名	ヘルスプロモーション	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
授業概要	ヘルスプロモーションとは何か。自らの力、住民組織の力、支援する環境が組み合わさって、どのような健康状態であっても健康的な生活習慣の実践、社会参加を通して豊かな人生を送れるようにする事です。 主だった生活習慣病への取り組みについても考えてみます。 大学生自身にとって必要なヘルスプロモーションについても考えてみます。 様々な話題を取り上げて、幅広い視野を持てるようにします。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	『健康なくに 2011』(医療文化社) 『災害時のヘルスプロモーション』(荘道社) 『健康科学ヘルスプロモーションの理念』(犀書房) 『学生と健康』(南江堂)		
教育方法	事前に用意した PDF と、当日のスライドを使用して講義を進めます。 重要な点についてはショートテストで確認します。 一般教養も提示する予定です。		
評価方法	課題レポートの評価を 30%、小テストなどを 70%とする。		
到達目標	健康とは何か、健康のために何をすべきかを理解する。		
授業時間外学習	厚生労働省や関連のホームページを見ておくこと。 国立がん研究センターのホームページを見て自習してください。 いきいき健康ライフ／滋賀県立成人病センターのホームページを見て自習してください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

健康は個人だけの課題ではなく、社会全体の問題である事を感じていただければよいと思います。
出席の代返は禁止です。
講義中の私語は禁止です。
小テストはスクリーンを使用しますので、なるべく前に座ってください。
筆記用具は毎回、持参してください。

授業スケジュール

1．ヘルスプロモーションの歴史・ヘルスプロモーションとは何か
2．食生活・栄養とヘルスプロモーション
3．脳血管障害とヘルスプロモーション
4．大学生の健康
5．画像で見る生活習慣病(大井先生)
6．タバコとヘルスプロモーション
7．熟年・高齢の健康
8．がんとヘルスプロモーション
9．心身医学、精神衛生学とヘルスプロモーション
１０．心臓疾患患者とヘルスプロモーション
１１．肥満とヘルスプロモーション
１２．認知症とヘルスプロモーション
１３．健康診断と健康管理
１４．病気を画像で見る
１５．身体活動とアンチエイジング

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1140404
科目名	ヘルスプロモーション	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
授業概要	信長が好んだ「敦盛」の一節に「人間 50 年、下天の内くらぶれば、夢、幻、如くなり（人間がどのような一生を送ろうと、それはほんの五十年くらいの 短い間に過ぎない)」というのがある。そんな時代とは比較にならない「長寿」となったが、手放しで喜べない事情がある。健康問題もその一つである。 ヘルスプロモーションは日本語では「健康増進」と訳されている。本講義では、ヘルスプロモーションの歴史と概念およびわが国における健康づくり施策とその変遷について学ぶとともに、現在の健康課題、具体的には、日本人の死因や国民医療費において大きな構成割合を占めるがん、心臓病、脳血管疾患、糖尿病などの生活習慣病やこころの健康について学修する。 日常生活の中で、自らが生涯にわたって実践できる生活習慣病予防対策を考える時間にしたい。		
教材（教科書）	津田謹輔 著『健康科学　知っておきたい予防医学』（丸善出版)、1900 円　講義中に使用する。 本書で示される古いデータについては、最新データに更新しながら授業を進める。		
教材（参考資料）	島内憲夫、鈴木美奈子著『ヘルスプロモーション、WHO:オタワ憲章』堀内出版、1700 円 島内憲夫、鈴木美奈子著『ヘルスプロモーション、WHO:バンコク憲章』堀内出版、1900 円 近藤尚己『健康格差対策の進め方』医学書院、2500 円		
教育方法	授業形態は、テキスト、パワーポイント、プリントによる講義が中心である。 血圧測定では簡易血圧計を用意するので自分の血圧を測ってみる。 また、小グループによるグループディスカッションで、健康格差等の健康問題について議論する。		
評価方法	ミニテスト（20%)、レポート（10%)、定期試験（70%）		
到達目標	1.ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケアの基本概念を説明でき、健康に対する様々な価値観を理解する。 2.疾病の予防、寿命の延長、ＱＯＬについて理解し、ヘルスプロモーションとの関連性を考えることができる。 3.ヘルスプロモーションの展開例を身近な生活の中のテーマを取り上げ、考えることができる。 また、生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。		
授業時間外学習	授業のテキスト（レジメ）を、京学なびの「授業資料」に、授業 1 週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、事前に読んで、専門用語等を理解しておくこと。毎回、授業の初めに前回の授業内容についてのミニテスト（5 分間テスト）を実施するので、必ず復習をしてくること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日頃から、自分のライフスタイル（運動や食生活）に関心を持つこと。
講義には毎回出席し，意欲的に取り組んでほしい。遅刻や早退はしない。
講義で得た知識を用いてより健康を増進させるためのライフスタイルを実践・確立してほしい。

授業スケジュール

１．ヘルスプロモーションとは？　その理論と歴史
２．健康増進のためのキーワド
３．長寿・超高齢化の現状と健康課題
４．がんと日常生活
５．動脈硬化と日常生活
６．高血圧と日常生活
７．糖尿病（Ⅰ型糖尿病とⅡ型糖尿病）と日常生活
８．肥満と肥満症、やせ
９．倹約遺伝子とメタボリックシンドローム
１０．ひとり暮らしの食生活、日本人の食生活の変遷

１１．何を食べるか、食べないか。食事摂取基準・食事バランスガイド
１２．運動不足がもたらすもの、健康づくりのための身体活動基準・アクティブガイド
１３．たばことアルコール
１４．こころの健康
１５．まとめ（健康長寿のために、個人の健康、社会の健康）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1210101
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．遅刻をしないこと。 2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。 3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。 4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。			
授業スケジュール			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、U ドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 1 3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画			

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210102
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．遅刻をしないこと。 2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。 3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。 4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。			
授業スケジュール			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、U ドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 1 3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画			

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210103
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　卓	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．遅刻をしないこと。
2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。
4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

授業スケジュール

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理 1
3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210104
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	足塚　智志	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．遅刻をしないこと。
2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。
4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

授業スケジュール

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理 1
3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210105
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	足塚　智志	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．遅刻をしないこと。 2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。 3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。 4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。			
授業スケジュール			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、U ドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 1 3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画			

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210106
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　卓	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．遅刻をしないこと。
2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。
4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

授業スケジュール

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理 1
3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210107
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	玉井　信吾	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．遅刻をしないこと。 2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。 3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。 4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。			
授業スケジュール			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、U ドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 1 3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画			

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210108
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	玉井　信吾	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．遅刻をしないこと。
2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。
4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

授業スケジュール

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理 1
3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210109
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．遅刻をしないこと。
2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。
4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

授業スケジュール

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理 1
3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210110
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　卓	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．遅刻をしないこと。
2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。
4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

授業スケジュール

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理 1
3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210111
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．遅刻をしないこと。
2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。
4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

授業スケジュール

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理 1
3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210112
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．遅刻をしないこと。
2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。
4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

授業スケジュール

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理 1
3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210113
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．遅刻をしないこと。
2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。
4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

授業スケジュール

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理 1
3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210114
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．遅刻をしないこと。
2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。
4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

授業スケジュール

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理 1
3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210115
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　卓	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．遅刻をしないこと。
2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。
4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

授業スケジュール

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理 1
3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210116
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	山本　卓	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．遅刻をしないこと。
2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。
4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

授業スケジュール

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理 1
3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210117
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．遅刻をしないこと。
2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。
4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

授業スケジュール

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理 1
3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210118
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	玉井　信吾	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．遅刻をしないこと。
2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。
4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。

授業スケジュール

1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更)、Uドライブ、京学なび（課題提出)、タッチタイピング
2．Web メールの利用、情報倫理 1
3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210119
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	足塚　智志	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．遅刻をしないこと。 2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。 3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。 4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。			
授業スケジュール			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、U ドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 1 3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画			

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210120
科目名	情報リテラシー	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	玉井　信吾	旧科目名称	
授業概要	現代社会は、コンピュータ（特にパソコン）を抜きにしては考えられません。ビジネス文書の作成、データの分析、プレゼンテーションや情報の遣り取りなど様々な場面コンピュータを利用しています。この授業は、社会人として求められる情報を利活用する力を養うため、文書の作成・表現技法やデータ分析技法、情報を正しく取り扱うルールについて理解し、情報処理技術を修得することを目的としている。具体的には、本学のコンピュータ環境の利用方法、図書館蔵書等の情報検索、情報倫理、ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成技法や表計算の活用方法について学習する。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版 情報倫理ハンドブック　noa 出版		
教材（参考資料）	Word2016 基礎・応用、Excel2016 基礎・応用、 PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	教科書と担当教員が用意した練習問題等の課題に沿って、実習形式で行う。		
評価方法	授業中の実習参画度（45%）　授業内・授業外の課題（55%） （担当者により若干異なることもある）		
到達目標	・キーボードのタッチタイピングができるようになること。 ・10 分間で 300 字の文章入力ができるようになること。 ・ビジネス文書（図を含む）が作成できること。 ・エクセルで表の作成、グラフの作成、簡単な関数操作ができること。		
授業時間外学習	リファレンス動画（教科書に付属）で操作方法をチェックする。また、担当者が指示する課題に取り組む。 第 1 回　パソコン利用ガイドブック：大学コンピュータ環境の利用方法 第 2 回　情報倫理ハンドブック：1 情報を利用する　2 情報を正しく取り扱う 第 3 回　情報倫理ハンドブック：3 情報の安全性を守る 第 4 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 1 第 5 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 2 第 6 回　リファレンス動画：Section 1　STEP 3 第 7 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 1 第 8 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 2 第 9 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 3 第 10 回　リファレンス動画：Section 2　STEP 4 第 11 回　リファレンス動画：Section 3　STEP 1、2 第 12 回　教科書：Section 4　STEP 1　リファレンス動画：Section 4　STEP 2 第 13 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 3 第 14 回　リファレンス動画：Section 4　STEP 4 第 15 回　担当者が指示する		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．遅刻をしないこと。 2．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。 3．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。 4．自宅のパソコンや、パソコン教室のオープン時間を活用し、リファレンス動画等を利用して自学自習をすること。			
授業スケジュール			
1．大学のコンピュータ環境（ログイン、パスワードの変更）、U ドライブ、京学なび（課題提出）、タッチタイピング 2．Web メールの利用、情報倫理 1 3．図書館の情報検索、情報倫理 2、リファレンス動画			

4．Word の基本操作と 文書の作成（文章の入力、文字の配置・修飾）
5．Word 表の作成（表と罫線）
6．Word 文書の表現（画像など）、練習問題
7．Excel 基本操作（データ・計算式の入力、訂正・削除、オートフィル）
8．Excel 表計算機能（罫線、書式の設定、関数）
9．Excel グラフの利用
10. Excel データベースの利用、練習問題
11. Word と Excel の連携
12. PowerPoint プレゼンテーションと基本操作
13. PowerPoint スライドの作成
14. PowerPoint スライドの表現
15. 総合問題
＊　担当者や授業の進度によって変更することがあります。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210131
科目名	情報リテラシー -k1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
授業概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（教科書）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社） 「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル）		
教材（参考資料）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教育方法	指示に従って各自のコンピュータを操作し、指定された内容のファイルを作成する。		
評価方法	レポート（100％）		
到達目標	（ａ）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （ｂ）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （ｃ）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （ｄ）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．情報基礎（１）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション ２．情報基礎（２）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア ３．情報通信（１）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用 ４．文書処理（１）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存 ５．文書処理（２）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集 ６．文書処理（３）：文書作成ソフトによる文章の構造化 ７．文書処理（４）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成 ８．データ処理基礎（１）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存 ９．データ処理基礎（２）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数 10．データ処理基礎（３）：表計算ソフトでのグラフの作成 11．データ処理基礎（４）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け 12．情報表現基礎（１）：プレゼンテーションの基礎（１）、プレゼンテーションソフトの基礎 13．情報表現基礎（２）：プレゼンテーションの基礎（２）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現 14．情報表現基礎（３）：プレゼンテーションの作成 15．情報表現基礎（４）：プレゼンテーション実習		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1210132
科目名	情報リテラシー -k2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
授業概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（教科書）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社） 「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル）		
教材（参考資料）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教育方法	指示に従って各自のコンピュータを操作し、指定された内容のファイルを作成する。		
評価方法	レポート（100％）		
到達目標	（ａ）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （ｂ）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （ｃ）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （ｄ）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．情報基礎（１）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション ２．情報基礎（２）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア ３．情報通信（１）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用 ４．文書処理（１）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存 ５．文書処理（２）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集 ６．文書処理（３）：文書作成ソフトによる文章の構造化 ７．文書処理（４）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成 ８．データ処理基礎（１）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存 ９．データ処理基礎（２）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数 10．データ処理基礎（３）：表計算ソフトでのグラフの作成 11．データ処理基礎（４）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け 12．情報表現基礎（１）：プレゼンテーションの基礎（１）、プレゼンテーションソフトの基礎 13．情報表現基礎（２）：プレゼンテーションの基礎（２）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現 14．情報表現基礎（３）：プレゼンテーションの作成 15．情報表現基礎（４）：プレゼンテーション実習		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1210133
科目名	情報リテラシー -s1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	北島　宣	旧科目名称	
授業概要	現代の科学技術研究の過程において、情報機器の利用は不可欠である。本実習は、情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として、最初にパーソナルコンピューターについての基本的な知識を学修する。その後、文書作成、表計算ソフトウエアによるデータ処理技術、プレゼンテーションソフトウェアによる資料作成技術について学修する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	嶋貫健二著「実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書」　カットシステム　2,500 円		
教育方法	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル）や e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」などを用い、実習形式で行う。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	1．コンピュータのハードウェアについての基本的な俊樹の修得 2．文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 3．コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 4．プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．定刻には着席し、受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。
2．原則としてトイレは授業前に済ませるか休憩時に行く（体調が悪い場合は申し出ること）。

授業スケジュール

1．情報基礎（1）：情報処理実習概論・コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3．情報通信（1）：WEB プラウザを用いたインターネットの利用
4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化
7．文書処理（4）：文書作成ソフト文書の体裁とオブジェクトの作成
8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
１０．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成
１１．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
１２．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションソフトの基礎
１３．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携
１４．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成
１５．情報表現基礎（3）：プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1210134
科目名	情報リテラシー -s2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	北島　宣	旧科目名称	
授業概要	現代の科学技術研究の過程において、情報機器の利用は不可欠である。本実習は、情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として、最初にパーソナルコンピューターについての基本的な知識を学修する。その後、文書作成、表計算ソフトウエアによるデータ処理技術、プレゼンテーションソフトウェアによる資料作成技術について学修する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	嶋貫健二著「実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書」　カットシステム　2,500 円		
教育方法	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル）や e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」などを用い、実習形式で行う。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	1．コンピュータのハードウェアについての基本的な俊樹の修得 2．文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 3．コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 4．プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．定刻には着席し、受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。
2．原則としてトイレは授業前に済ませるか休憩時に行く（体調が悪い場合は申し出ること）。

授業スケジュール

1．情報基礎（1）：情報処理実習概論・コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3．情報通信（1）：WEB プラウザを用いたインターネットの利用
4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化
7．文書処理（4）：文書作成ソフト文書の体裁とオブジェクトの作成
8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
１０．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成
１１．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
１２．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションソフトの基礎
１３．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携
１４．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成
１５．情報表現基礎（3）：プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1210135
科目名	情報リテラシー -f1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
授業概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（教科書）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社） 「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル）		
教材（参考資料）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教育方法	指示に従って各自のコンピュータを操作し、指定された内容のファイルを作成する。		
評価方法	レポート（100％）		
到達目標	（ａ）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （ｂ）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （ｃ）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （ｄ）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．情報基礎（１）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション ２．情報基礎（２）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア ３．情報通信（１）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用 ４．文書処理（１）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存 ５．文書処理（２）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集 ６．文書処理（３）：文書作成ソフトによる文章の構造化 ７．文書処理（４）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成 ８．データ処理基礎（１）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存 ９．データ処理基礎（２）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数 10．データ処理基礎（３）：表計算ソフトでのグラフの作成 11．データ処理基礎（４）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け 12．情報表現基礎（１）：プレゼンテーションの基礎（１）、プレゼンテーションソフトの基礎 13．情報表現基礎（２）：プレゼンテーションの基礎（２）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現 14．情報表現基礎（３）：プレゼンテーションの作成 15．情報表現基礎（４）：プレゼンテーション実習		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1210136
科目名	情報リテラシー -f2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
授業概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（教科書）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社） 「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル）		
教材（参考資料）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教育方法	指示に従って各自のコンピュータを操作し、指定された内容のファイルを作成する。		
評価方法	レポート（100％）		
到達目標	（ａ）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （ｂ）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （ｃ）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （ｄ）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
授業スケジュール			
１．情報基礎（１）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション ２．情報基礎（２）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア ３．情報通信（１）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用 ４．文書処理（１）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存 ５．文書処理（２）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集 ６．文書処理（３）：文書作成ソフトによる文章の構造化 ７．文書処理（４）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成 ８．データ処理基礎（１）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存 ９．データ処理基礎（２）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数 10．データ処理基礎（３）：表計算ソフトでのグラフの作成 11．データ処理基礎（４）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け 12．情報表現基礎（１）：プレゼンテーションの基礎（１）、プレゼンテーションソフトの基礎 13．情報表現基礎（２）：プレゼンテーションの基礎（２）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現 14．情報表現基礎（３）：プレゼンテーションの作成 15．情報表現基礎（４）：プレゼンテーション実習		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1210137
科目名	情報リテラシー -kf(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　真理子	旧科目名称	情報処理実習Ⅰ
授業概要	現代の科学技術研究の過程において，情報機器の利用は不可欠である。本実習は，情報処理機器を利用する際に必要な技術と知識の修得を目的として，最初にパーソナルコンピュータについての基本的な知識を学修する。その後，文書作成，表計算ソフトウエアによるデータ処理技術，プレゼンテーションソフトウエアによる資料作成技術について学修する。		
教材（教科書）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考資料）	『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円 『パソコン利用ガイドブック』（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）		
教育方法	主に教科書とパワーポイントに沿って講義法で行い、各自がパーソナルコンピュータを使って受講内容に従い実習する。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（a）コンピュータのハードウエアについての基本的な知識の修得 （b）文書作成ソフトを利用した効率的な文書処理技術の修得 （c）コンピュータによるデータ処理の基本的な理解と表計算ソフトウエア活用技術の修得 （d）プレゼンテーションの基本的な理解と資料作成技術の修得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察する習慣を身につけておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

授業スケジュール

1．情報基礎（1）：情情報処理実習概論-コンピュータの基礎、ネットワークの基礎、OS とアプリケーション
2．情報基礎（2）：メールとファイルの転送、ハードウエアとソフトウエア
3．情報通信（1）：WEB ブラウザを用いたインターネットの利用
4．文書処理（1）：文書作成ソフトの基礎、文字入力、文書の作成と保存
5．文書処理（2）：文書作成ソフトによる文字と文章の編集
6．文書処理（3）：文書作成ソフトによる文章の構造化
7．文書処理（4）：文書作成ソフトによる文書の体裁とオブジェクトの作成
8．データ処理基礎（1）：表計算ソフトの基礎、ブックの作成と保存
9．データ処理基礎（2）：表計算ソフトでのデータ処理の基礎、数式と基礎的な関数
10．データ処理基礎（3）：表計算ソフトでのグラフの作成
11．データ処理基礎（4）：文書作成ソフトと表計算ソフトの連携、オブジェクトの貼り付け
12．情報表現基礎（1）：プレゼンテーションの基礎（1）、プレゼンテーションソフトの基礎
13．情報表現基礎（2）：プレゼンテーションの基礎（2）、プレゼンテーションソフトと文書作成ソフトや表計算ソフトとの連携、さまざまな表現
14．情報表現基礎（3）：プレゼンテーションの作成
15．情報表現基礎（4）：プレゼンテーション実習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1210201
科目名	情報セキュリティ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
授業概要	インターネットの普及とともに，ネットワークの世界も，サーバを攻撃対象とする不正アクセス，ユーザを対象とする詐欺など，現実の社会と同じような危険に直面している。脅威と対策に関するいくつかの事例をオープンソースの OS である Linux 上で実験することにより，セキュリティに対する具体的な理解を深めていく。		
教材（教科書）	教科書： 独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　540 円　授業時間外学習使用する。		
教材（参考資料）	講義中に適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら，講義法で授業は進められる。		
評価方法	授業レポート（52%）、その理解度を確認するレポート試験（48%）、この２つの項目を総合して評価する。		
到達目標	実社会やネットワークにおける脅威と対策の基本を習得し，実際の個々の事例について脅威と対策を説明できるようになること。		
授業時間外学習	普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

第一に実習においてキーボード入力（アルファベット）が必要なので、標準的なスピードでタイピングが出来ること。
第二に大学の電子メールのＩＤを取得し、使い方を理解していること。
簡潔に書かれたテキストを採用していますので事前に該当箇所に目を通しておいてください。

授業スケジュール

1.今日のセキュリティリスク
2.情報セキュリティの基礎
3.マルウェア(コンピュータウィルス)
4.見えない脅威とその対策
5.組織の一員としての情報セキュリティ対策
6.実際のセキュリティ対策
7.セキュリティ技術
8.情報セキュリティの基本についてのまとめと演習
9.暗号
10.電子認証
11.暗号化通信 1
12.暗号化通信 2
13.ファイアウォール
14.情報セキュリティ関連の法規と制度
15.情報セキュリティのまとめと現在の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1210202
科目名	情報セキュリティ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
授業概要	インターネットの普及とともに，ネットワークの世界も，サーバを攻撃対象とする不正アクセス，ユーザを対象とする詐欺など，現実の社会と同じような危険に直面している。脅威と対策に関するいくつかの事例をオープンソースの OS である Linux 上で実験することにより，セキュリティに対する具体的な理解を深めていく。		
教材（教科書）	教科書： 独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　540 円 授業時間外学習使用する。		
教材（参考資料）	講義中に適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら，講義法で授業は進められる。		
評価方法	授業レポート（52%）、その理解度を確認するレポート試験（48%）、この２つの項目を総合して評価する。		
到達目標	実社会やネットワークにおける脅威と対策の基本を習得し，実際の個々の事例について脅威と対策を説明できるようになること。		
授業時間外学習	普段から新聞・テレビ・インターネットなどで取り上げられるネットワーク上の脅威・リスク・事件に注意をはらっておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
第一に実習においてキーボード入力（アルファベット）が必要なので、標準的なスピードでタイピングが出来ること。 第二に大学の電子メールのＩＤを取得し、使い方を理解していること。 簡潔に書かれたテキストを採用していますので事前に該当箇所に目を通しておいてください。			
授業スケジュール			
1.今日のセキュリティリスク 2.情報セキュリティの基礎 3.マルウェア(コンピュータウィルス) 4.見えない脅威とその対策 5.組織の一員としての情報セキュリティ対策 6.実際のセキュリティ対策 7.セキュリティ技術 8.情報セキュリティの基本についてのまとめと演習 9.暗号 10.電子認証 11.暗号化通信 1 12.暗号化通信 2 13.ファイアウォール 14.情報セキュリティ関連の法規と制度 15.情報セキュリティのまとめと現在の課題			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1210203
科目名	情報セキュリティ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	コンピュータを単体で利用する時代が終わりを告げ、コンピュータが相互にネットワーク接続された状態が日常となっている昨今、私たちは常にコンピュータウイルス、不正アクセス、機密漏洩、物理的破損といった危険と常に向き合っている。このような情報環境下では、セキュリティを従来のように一部の人に任せておけば良いというわけにはならず、一人一人が最低限のセキュリティ知識を身につけておかなければ本人が知らないうちに情報面で被害者になったり、加害者になったりする可能性がある。学生は、本講義によって、セキュリティの概念を整理するとともに、情報社会を生きていく我々が知っておきたいセキュリティ知識の理解を深めることができる。 講義概要、講義スケジュールの変更、ホームワークなどのインフォメーションは 京学なび に公開する。		
教材（教科書）	中村行宏ほか 『情報セキュリティの基礎知識』　技術評論社　1,980 円(税別)		
教材（参考資料）	独立行政法人　情報処理推進機構　著　「情報セキュリティ読本」四訂版　実教出版　500 円(税別)		
教育方法	講義法で授業は進められる。		
評価方法	授業内小テスト・反転学習(35%)、レポート（30%)、定期試験(35%)を総合して評価する。		
到達目標	情報システム、中でもネットワークシステムにおけるセキュリティについて理解を深め、実際に適用行動をとることができる。		
授業時間外学習	各講義の前に 2 時間程度の予習、講義後に 2 時間程度の復習を行うこと。 各回の授業内容に該当する教科書のページを事前に読んで、専門用語の確認などを含めて事前学習をしておく事。 復習については授業終了時のまとめの時に要点を整理するので、理解を深めるために再度確認学習する事。 01:教科書 pp1-pp8 02:教科書 pp9-pp22 03:教科書 pp23-pp46 04:教科書 pp47-pp58 05:教科書 pp1-pp58 06:教科書 pp59-pp68 07:教科書 pp69-pp88 08:教科書 pp89-pp118 09:教科書 pp119-pp148 10:教科書 pp149-pp200 11:教科書 pp59-pp200 12:教科書 pp201-pp212 13:教科書 pp213-pp240 14:教科書 pp241-pp258 15:教科書 pp259-pp267		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義と講義に基づいた実践のための考察を多く取り入れているため、遅刻、欠席すると理解が困難になるので、注意されたい。

授業スケジュール

講義は、大体次の順序で展開する予定であるが、開講後の種々の状況に基づく変更もあり得ることをご承知願いたい。

01:情報セキュリティとは
　事前対策と事後対策/脅威と脆弱性

02:最新技術を取り巻くセキュリティのリスク
　スマートフォンタブレット/SNS/クラウド//IOT
03:情報セキュリティを理解するために知っておきたい技術 1
　プロトコル(通信規約) /TCP/IP/DNS/SMTP、POP、IMAP/HTTP
04:情報セキュリティを理解するために知っておきたい技術 2
　SSH/IDS/IPS/WAF
05:反転学習(理解度確認)
06:パスワードを理解する
　アカウント/生体認証/ワンタイムパスワード/パスワード攻撃
07:暗号の基本を理解する
　暗号化/共通鍵暗号/公開鍵暗号/ハッシュ関数
08:暗号を利用する技術
　認証/SSL/TLS/HTTPS/インターネット VPN/WEP、WPA、WPA2
09:サイバー攻撃のしくみ 1
　フィッシング詐欺/Web サイトの改ざん/水飲み場型攻撃/ポートスキャン
10:サイバー攻撃のしくみ 2
　エクスプロイト/バックドア/RAT/ゼロディ攻撃/バッファオーバーフロー/SQL インジェクション/ クロスサイトスクリプティング/ DOS 攻撃/ DDOS 攻撃/ボット、ボットネット、C&C サーバ
11:反転学習(理解度確認)
12:マルウェア、ウイルス、ランサムウェア
　マクロウイルス/トロイの木馬/ワーム/ランサムウェア/マルウェア対策
13:脆弱性は何が危ないのか
　脆弱性/セキュリティ診断/CVSS/脆弱性への対応
14:インシデントに対応するために
　CSIRT/インシデントレスポンス/デジタルフォレンジック
15:セキュリティ対策のしおり
　ファイアウォールと IDS/IPS/多層防御

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1210301
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
授業概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版		
教材（参考資料）	PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	1.パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 2.講義法と学生の発表を織り交ぜ授業を進める。		
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。 自己表現のために、情報の分析、評価、整理の方法がおこなえ、表現のための情報取集スキルを身に付ける。 自分のメッセージを相手にきちんと理解してもらえるスキルを身に付ける。 説得力のあるプレゼンテーション技法を身に付ける。		
授業時間外学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。 授業資料に提示されたパワーポイント資料をプレゼンを行うための準備を行う。 任意課題の情報の分析・評価・整理・表現のための情報取集を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

授業スケジュール

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出

課題演習[スライドを仕様に従い修正] 13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価 話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術 15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	JC1210302
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
授業概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版		
教材（参考資料）	PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	1.パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 2.講義法と学生の発表を織り交ぜ授業を進める。		
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。 自己表現のために、情報の分析、評価、整理の方法がおこなえ、表現のための情報取集スキルを身に付ける。 自分のメッセージを相手にきちんと理解してもらえるスキルを身に付ける。 説得力のあるプレゼンテーション技法を身に付ける。		
授業時間外学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。 授業資料に提示されたパワーポイント資料をプレゼンを行うための準備を行う。 任意課題の情報の分析・評価・整理・表現のための情報取集を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

授業スケジュール

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出

課題演習[スライドを仕様に従い修正] 13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価 話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術 15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	JC1210303
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	玉井　信吾	旧科目名称	
授業概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版		
教材（参考資料）	PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	1.パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 2.講義法と学生の発表を織り交ぜ授業を進める。		
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。 自己表現のために、情報の分析、評価、整理の方法がおこなえ、表現のための情報取集スキルを身に付ける。 自分のメッセージを相手にきちんと理解してもらえるスキルを身に付ける。 説得力のあるプレゼンテーション技法を身に付ける。		
授業時間外学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。 授業資料に提示されたパワーポイント資料をプレゼンを行うための準備を行う。 任意課題の情報の分析・評価・整理・表現のための情報取集を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

授業スケジュール

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出

課題演習[スライドを仕様に従い修正] 13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価 話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術 15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	JC1210304
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	大塚　素子	旧科目名称	
授業概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版		
教材（参考資料）	PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	1.パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 2.講義法と学生の発表を織り交ぜ授業を進める。		
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。 自己表現のために、情報の分析、評価、整理の方法がおこなえ、表現のための情報取集スキルを身に付ける。 自分のメッセージを相手にきちんと理解してもらえるスキルを身に付ける。 説得力のあるプレゼンテーション技法を身に付ける。		
授業時間外学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。 授業資料に提示されたパワーポイント資料をプレゼンを行うための準備を行う。 任意課題の情報の分析・評価・整理・表現のための情報取集を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

授業スケジュール

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出

課題演習[スライドを仕様に従い修正] 13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価 話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術 15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	JC1210305
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	玉井　信吾	旧科目名称	
授業概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版		
教材（参考資料）	PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	1.パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 2.講義法と学生の発表を織り交ぜ授業を進める。		
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。 自己表現のために、情報の分析、評価、整理の方法がおこなえ、表現のための情報取集スキルを身に付ける。 自分のメッセージを相手にきちんと理解してもらえるスキルを身に付ける。 説得力のあるプレゼンテーション技法を身に付ける。		
授業時間外学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。 授業資料に提示されたパワーポイント資料をプレゼンを行うための準備を行う。 任意課題の情報の分析・評価・整理・表現のための情報取集を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

授業スケジュール

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出

課題演習[スライドを仕様に従い修正] 13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価 話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術 15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	JC1210306
科目名	情報プレゼンテーション	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	玉井　信吾	旧科目名称	
授業概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版		
教材（参考資料）	PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	1.パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 2.講義法と学生の発表を織り交ぜ授業を進める。		
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。 自己表現のために、情報の分析、評価、整理の方法がおこなえ、表現のための情報取集スキルを身に付ける。 自分のメッセージを相手にきちんと理解してもらえるスキルを身に付ける。 説得力のあるプレゼンテーション技法を身に付ける。		
授業時間外学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。 授業資料に提示されたパワーポイント資料をプレゼンを行うための準備を行う。 任意課題の情報の分析・評価・整理・表現のための情報取集を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

授業スケジュール

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出

課題演習[スライドを仕様に従い修正] 13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価 話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術 15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	JC1210307
科目名	情報プレゼンテーション 【G】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
授業概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版		
教材（参考資料）	PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	1.パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 2.講義法と学生の発表を織り交ぜ授業を進める。		
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。 自己表現のために、情報の分析、評価、整理の方法がおこなえ、表現のための情報取集スキルを身に付ける。 自分のメッセージを相手にきちんと理解してもらえるスキルを身に付ける。 説得力のあるプレゼンテーション技法を身に付ける。		
授業時間外学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。 授業資料に提示されたパワーポイント資料をプレゼンを行うための準備を行う。 任意課題の情報の分析・評価・整理・表現のための情報取集を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

授業スケジュール

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]

13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価 　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術 15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1210308
科目名	情報プレゼンテーション 【G】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	プレゼンテーションの基礎と効果的なプレゼンテーション技法の修得をねらいとする。プレゼンテーションとは、自分の持つ知識を正しくかつわかりやすく伝えるとか、意見を意図したとおりに伝えるといった行動である。この目的を達成するためには、聞き手の立場にたって、話す内容を組み立てる必要がある。プレゼンテーションは目的をもった重要な活動であり、自己表現を実現する道具として、プレゼンテーションツールや関連機器を有効活用し、効果的なプレゼンテーションを行えるよう、能力の育成を図る。		
教材（教科書）	実践ドリルで学ぶ　Office　活用術（2016 対応）　noa 出版		
教材（参考資料）	PowerPoint2016 基礎・応用		
教育方法	1.パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 2.講義法と学生の発表を織り交ぜ授業を進める。		
評価方法	各回演習（４５％）と、課題（授業内、授業外）の提出（５５％）により評価します。		
到達目標	目的に応じたプレゼンテーションを行い、効果的な資料作成が行える。 自己表現のために、情報の分析、評価、整理の方法がおこなえ、表現のための情報取集スキルを身に付ける。 自分のメッセージを相手にきちんと理解してもらえるスキルを身に付ける。 説得力のあるプレゼンテーション技法を身に付ける。		
授業時間外学習	復習と、キーボード・マウス等の基本操作の習熟を心がけること。 授業資料に提示されたパワーポイント資料をプレゼンを行うための準備を行う。 任意課題の情報の分析・評価・整理・表現のための情報取集を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

授業スケジュール

1.講座概要とプレゼン作成セオリー・基本操作
2.基本的なスライドの作成・各種オブジェクトを含んだスライドの作成
3.プレゼン作成演習:箇条書き・図・表を含む製品紹介のスライド作成
4.スライド表示演習：テーマと目標・スライドの構成を考慮した
　スライド切り替えとオブジェクトへの動き付加
5.図解：箇条書きから、図解へ、図を使ったスライドの作成と
　様々な要素を持つプレゼンテーションの作成
6.統一感と効果：統一感のあるスライド作成とアニメ設定
各種機器への対応
7.プレゼン計画の作成：プレゼン概要の作成
　（テーマと目標の決定、聞き手の分析と事前準備、プレゼンテーションの組立）
　課題演習[既存資料からプレゼン発表資料の作成]
8.課題テーマプレゼン演習（とビデオ撮影）
9.プレゼン演習から、プレゼンの改善（プレゼンと資料）
10.プレゼン資料作成：発表資料作成
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]
11.プレゼンの留意点：発表の構成・発表時の留意点に関して
　演習[プレゼン資料の作成]
12.プレゼン資料作成と提出：発表資料作成と提出
　課題演習[スライドを仕様に従い修正]

13.14.プレゼン演習：プレゼンの実施と評価 　話し方の技術、発問・応答の技術、その他の技術 15.プレゼンの改善：（ビデオ・）コメントを参考にプレゼンの改善

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1210331
科目名	情報プレゼンテーション -k1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習 II
授業概要	情報リテラシーで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（教科書）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社） 「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル）		
教材（参考資料）	『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』 新田 英雄　監修、 山本 将史　著（オーム社）2,800 円 『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教育方法	指示に従って各自のコンピュータを操作し、指定された内容のファイルを作成する。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し，動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
授業スケジュール			
1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論 2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権 3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現 4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ 5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理 6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化 7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化 8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA 9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式 10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式 11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成 12．情報機器応用（3）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化 13．情報機器応用（4）：表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化 14．情報機器応用（5）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1） 15．情報機器応用（6）：表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210332
科目名	情報プレゼンテーション -k2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習 II
授業概要	情報リテラシーで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（教科書）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社） 「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル）		
教材（参考資料）	『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』 新田 英雄　監修、 山本 将史　著（オーム社）2,800 円 『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教育方法	指示に従って各自のコンピュータを操作し、指定された内容のファイルを作成する。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（a）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （b）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （c）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （d）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （e）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し，動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

授業スケジュール

1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論
2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権
3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ
5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理
6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化
7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化
8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式
10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式
11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成
12．情報機器応用（3）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化
13．情報機器応用（4）：表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化
14．情報機器応用（5）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1）
15．情報機器応用（6）：表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210333
科目名	情報プレゼンテーション -s1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	北島　宣	旧科目名称	
授業概要	情報処理実習Ⅰで修得した知識を応用し、より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎ソフトウエア活用の基礎を踏まえながら、初歩的なプログラミングを行い、今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	嶋貫健二著「実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書」　カットシステム　2,500 円		
教育方法	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル）や e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」などを用い、実習形式で行う。		
評価方法	レポート（100％）		
到達目標	1．情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 2．表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 3．プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 4．HTML による基本的な WEB ページの作製技術の修得 5．ソフトワエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の修得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．定刻には着席し、受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。
2．原則としてトイレは授業前に済ませるか休憩時に行く（体調が悪い場合は申し出ること）。

授業スケジュール

1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論
2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産
3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ
5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理
6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化
7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化
8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式
10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式
11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティー、インターネットでの情報表現
12．情報表現応用（5）：表計算ソフトの応用・表計算ソフトを使った学習（1）数式の数表化
13．情報表現応用（6）：表計算ソフトの応用・表計算ソフトを使った学習（2）数式のグラフ化
14．情報表現応用（7）：表計算ソフトの応用・表計算ソフトを使った学習（2）シミュレーションモデルの構築
15．情報表現応用（8）：表計算ソフトの応用・表計算ソフトを使った学習（3）シミュレーションモデル結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1210334
科目名	情報プレゼンテーション -s2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	北島　宣	旧科目名称	
授業概要	情報処理実習Ⅰで修得した知識を応用し、より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎ソフトウエア活用の基礎を踏まえながら、初歩的なプログラミングを行い、今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	嶋貫健二著「実験データ処理に使う Excel2010 活用法　はじめて使う Excel のちょっとした入門書」　カットシステム　2,500 円		
教育方法	「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル）や e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）による「よくわかる Word2010 基礎」および「よくわかる Excel2010 基礎」などを用い、実習形式で行う。		
評価方法	レポート（100％）		
到達目標	1．情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 2．表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 3．プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 4．HTML による基本的な WEB ページの作製技術の修得 5．ソフトワエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の修得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．定刻には着席し、受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。
2．原則としてトイレは授業前に済ませるか休憩時に行く（体調が悪い場合は申し出ること）。

授業スケジュール

1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論
2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産
3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ
5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理
6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化
7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化
8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式
10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式
11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティー、インターネットでの情報表現
12．情報表現応用（5）：表計算ソフトの応用・表計算ソフトを使った学習（1）数式の数表化
13．情報表現応用（6）：表計算ソフトの応用・表計算ソフトを使った学習（2）数式のグラフ化
14．情報表現応用（7）：表計算ソフトの応用・表計算ソフトを使った学習（2）シミュレーションモデルの構築
15．情報表現応用（8）：表計算ソフトの応用・表計算ソフトを使った学習（3）シミュレーションモデル結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	★	★★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1210335
科目名	情報プレゼンテーション -f1	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習 II
授業概要	情報リテラシーで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（教科書）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社） 「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル）		
教材（参考資料）	『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』 新田 英雄　監修、 山本 将史　著（オーム社）2,800 円 『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教育方法	指示に従って各自のコンピュータを操作し、指定された内容のファイルを作成する。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し，動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

授業スケジュール

1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論
2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権
3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ
5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理
6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化
7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化
8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式
10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式
11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成
12．情報機器応用（3）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化
13．情報機器応用（4）：表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化
14．情報機器応用（5）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1）
15．情報機器応用（6）：表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210336
科目名	情報プレゼンテーション -f2	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	相原　友紀	旧科目名称	情報処理実習 II
授業概要	情報リテラシーで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（教科書）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社） 「パソコン利用ガイドブック」（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル）		
教材（参考資料）	『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』 新田 英雄　監修、 山本 将史　著（オーム社）2,800 円 『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円		
教育方法	指示に従って各自のコンピュータを操作し、指定された内容のファイルを作成する。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し，動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。

授業スケジュール

1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論
2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権
3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現
4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ
5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理
6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化
7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化
8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA
9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式
10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式
11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成
12．情報機器応用（3）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化
13．情報機器応用（4）：表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化
14．情報機器応用（5）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1）
15．情報機器応用（6）：表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210337
科目名	情報プレゼンテーション -kf(再)	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	鈴木　真理子	旧科目名称	情報処理実習 II
授業概要	情報リテラシーで修得した知識を応用し，より高度な情報処理技術の修得を目的とする。情報理論の基礎とソフトウエア活用の基礎を踏まえながら，初歩的なプログラミングを行い，今後の講義・演習や実験・実習および研究などに利用可能で実用的な応用技術を学ぶ。		
教材（教科書）	『情報リテラシー　Windows 10・Office 2016 対応』　FOM 出版　2,000 円 （著作／制作　富士通エフ・オー・エム株式会社）		
教材（参考資料）	『Excel で学ぶ基礎物理学 ― Excel 2010/2007 対応版 ― 』 新田 英雄　監修、 山本 将史　著（オーム社）2,800 円 『実験データ処理に使う Excel2010 活用法 ― はじめて使う Excel のちょっとした入門書 ―』 嶋貫 健司 著（カットシステム）2,500 円 『パソコン利用ガイドブック』（大学内コンピューターネットワーク上の電子ファイル） e-learning（大学内コンピューターネットワーク上のオンライン学習システム）		
教育方法	主に教科書とパワーポイントに沿って講義法で行い、各自がパーソナルコンピュータを使って受講内容に従い実習する。		
評価方法	レポート（100%）		
到達目標	（ａ）情報とコミュニケーションについての理解とネットワークに関する知識の修得 （ｂ）表計算ソフトを応用した高度なデータ処理技術の修得 （ｃ）プログラムの動作の仕組みについての基本的な理解 （ｄ）ＨＴＭＬによる基本的なＷＥＢページ作製技術の修得 （ｅ）ソフトウエアの統合的な利用による高度な資料作成技術の習得		
授業時間外学習	講義の終了時に、次回の学習内容とそれに対応する教科書や e-learning 等の範囲を指示するので、予習しておくこと。 日常から身近な情報機器や情報応用機器について観察し, 動作原理を考察する習慣を身につけておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
論理的・数学的思考に関する書籍を講読することが望ましい。			
授業スケジュール			
1．情報機器応用（1）：情報処理実習概論 2．情報機器応用（2）：ハードウエアと OS について、データ構造と情報整理法、情報セキュリティおよび知的財産権 3．情報表現応用（1）：表計算ソフトを用いた様々なデータの表現 4．データ処理応用（1）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（1）数表とグラフ 5．データ処理応用（2）：表計算ソフトによる実験・観察データの表現（2）多数データの統計的処理 6．データ処理応用（3）：表計算ソフトの様々な機能（1）データ処理の省力化 7．データ処理応用（4）：表計算ソフトの様々な機能（2）繰り返し作業のプログラム化 8．データ処理応用（5）：プログラムを実行するとは、プログラミング言語 VBA 9．情報表現応用（2）：長文レポート作成（1）レポートの形式 10．情報表現応用（3）：長文レポート作成（2）データ表現の形式 11．情報表現応用（4）：インターネットと通信の基礎、ネットワークセキュリティ、インターネットでの情報表現と Web ページの作成 12．情報機器応用（3）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った数学の学習（1）数式の数表化 13．情報機器応用（4）：表計算ソフトを使った数学の学習（2）数式のグラフ化 14．情報機器応用（5）：学習・表現ツールとしての表計算ソフトの応用ー表計算ソフトを使った物理シミュレーション（1） 15．情報機器応用（6）：表計算ソフトを使った物理シミュレーション（2）結果の整理と表現		

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1210401
科目名	情報社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
授業概要	情報と社会の関わりを、多様な視点から概観し、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を論じ、今後の情報化社会を展望する。情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化、情報化が社会に及ぼす影響、情報機器の発達と生活・意識の変化、ネットワーク社会を支える情報技術、知っておくべき安全・安心のための知識について講義する。現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化に対応できる知識を学ぶ。		
教材（教科書）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考資料）	ウエブサイト: 総務省情報通信統計データベース http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	1.パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
授業時間外学習	毎回授業中に課題を出すので京学なび「課題提出」に指定期日（次週講義日の前日までに）提出すること。 新聞・Web ページ等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。

授業スケジュール

1.消費社会と情報社会
情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化
マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済
2.情報技術
情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理
3.新しい情報技術
ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題
電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点
電子署名・電子認証、電子取引
4.情報システム
集中と分散、情報産業の多様化
コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業
5.情報と産業
情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化
企業倫理
高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット
6.情報と職業
労働・職業上の問題
情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質
職業と自己実現、職業観と職業意識

7.情報と個人
日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差
個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール
知的財産、企業等による個人情報の利用
8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権
知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育
情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用
IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法
11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消
情報アクセスへの格差、情報格差
通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護
13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール
個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化
15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり
現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1210402
科目名	情報社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
授業概要	情報と社会の関わりを、多様な視点から概観し、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を論じ、今後の情報化社会を展望する。情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化、情報化が社会に及ぼす影響、情報機器の発達と生活・意識の変化、ネットワーク社会を支える情報技術、知っておくべき安全・安心のための知識について講義する。現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化に対応できる知識を学ぶ。		
教材（教科書）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考資料）	ウエブサイト: 総務省情報通信統計データベース http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	1.パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
授業時間外学習	毎回授業中に課題を出すので京学なび「課題提出」に指定期日（次週講義日の前日までに）提出すること。 新聞・Web ページ等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。

授業スケジュール

1.消費社会と情報社会
情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化
マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済
2.情報技術
情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理
3.新しい情報技術
ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題
電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点
電子署名・電子認証、電子取引
4.情報システム
集中と分散、情報産業の多様化
コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業
5.情報と産業
情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化
企業倫理
高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット
6.情報と職業
労働・職業上の問題
情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質
職業と自己実現、職業観と職業意識

7.情報と個人
日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差
個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール
知的財産、企業等による個人情報の利用
8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権
知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育
情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用
IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法
11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消
情報アクセスへの格差、情報格差
通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護
13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール
個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化
15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり
現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1210403
科目名	情報社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Information Society		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
授業概要	情報と社会の関わりを、多様な視点から概観し、急速に進展した消費社会から情報社会への変化が社会に及ぼした影響と現状を論じ、今後の情報化社会を展望する。情報通信ネットワークによるマスメディアの多様化と情報環境の変化、情報化が社会に及ぼす影響、情報機器の発達と生活・意識の変化、ネットワーク社会を支える情報技術、知っておくべき安全・安心のための知識について講義する。現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化に対応できる知識を学ぶ。		
教材（教科書）	なし、各講義で資料を配布する。		
教材（参考資料）	ウエブサイト: 総務省情報通信統計データベース http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	1.パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	講義時の小課題（10%）、レポート（35%）、定期試験（55%）		
到達目標	情報と社会の関わりを、情報産業・機器・生活から知り、現代社会の情報の意義役割や高度情報通信社会の諸課題を把握し、情報化と社会の変化、職業と自己実現、自己のあり方生き方と職業を考えられる。		
授業時間外学習	毎回授業中に課題を出すので京学なび「課題提出」に指定期日（次週講義日の前日までに）提出すること。 新聞・Web ページ等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に講義前には、任意の情報関連の事項を一件選択し、概要を他の人に説明できるように整理する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。講義は主としてプリントを使って進める。新しい出来事を素材に講義することもあり、講義要項のテーマ順序が変わる場合がある。

授業スケジュール

1.消費社会と情報社会
情報化と社会の変化、情報化社会の形成、生活意識様式の変化
マスメディアの多様化と情報環境の変化、ディジタル経済
2.情報技術
情報機器の発達と生活の変化、情報通信技術と人間・社会、技術倫理
3.新しい情報技術
ユビキタスネットワーク社会の実現と課題、企業課題
電子タグに関するプライバシー保護、情報通信ネットワーク利用の問題点
電子署名・電子認証、電子取引
4.情報システム
集中と分散、情報産業の多様化
コンピュータ産業、情報処理産業、情報処理サービス・情報提供産業
5.情報と産業
情報産業と産業構造の変化、産業システムの情報化、産業とメディアの変化
企業倫理
高度情報通信ネットワーク環境と企業メリット
6.情報と職業
労働・職業上の問題
情報化で求められる人材、職業人・社会人として求められる資質
職業と自己実現、職業観と職業意識

7.情報と個人
日常生活と情報システム、情報モラル、ディジタル格差
個人情報の保護、個人情報の取得・利用に際してのルール
知的財産、企業等による個人情報の利用
8.情報と著作権
情報と著作権の関係、著作権制度の概要、インターネットと著作権
知的所有権
9.情報と教育
人間形成、情報社会で求められる教育
情報環境、マルチメディア
10.IT 技術者
IT 技術者の技術・教育、産業別 ICT 教育の状況、企業の ICT 利用
IT スキル標準、IT 人材の効果的な育成方法
11.情報と通信
u-Japan とネットワークインフラ、デジタル・ディバイドの解消
情報アクセスへの格差、情報格差
通信・放送の融合・連携
12.情報倫理 （1）
情報倫理、倫理観の変容、情報の公開と保護
13.情報倫理 （2）
情報通信と規制・法、プロバイダーと情報開示法、不正アクセス、メール
個人情報の保護
14.情報化と社会 （1）
高度情報通信社会の諸課題
情報化とグローバル化に伴う生活の変化
15.情報化と社会 （2）
産業、社会生活、モラル、人との関わり
現代社会の情報の意義役割の理解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1210501
科目名	情報と職業	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
授業概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（教科書）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考資料）	ウエブサイト： 厚生労働省 白書、年次報告書 http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/ 経済産業省 白書、報告書 http://www.meti.go.jp/report/whitepaper/index.html その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	e ラーニング講義には教室講義との併用と、e ラーニング講義のみで行う講義を組み合わせる。必要とする資料はレポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況等と各回課題による。（30%）,e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
授業時間外学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

授業スケジュール

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等

統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
高卒者と大奏者の評価、採用問題
雇用情勢・経済成長
6．職業意識
自分が望むあるいは目標とする職業
何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について
職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1210502
科目名	情報と職業	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
授業概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（教科書）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考資料）	ウエブサイト： 厚生労働省 白書、年次報告書 http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/ 経済産業省 白書、報告書 http://www.meti.go.jp/report/whitepaper/index.html その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	e ラーニング講義には教室講義との併用と、e ラーニング講義のみで行う講義を組み合わせる。必要とする資料はレポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況等と各回課題による。（30%）,e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
授業時間外学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

授業スケジュール

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等

統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
高卒者と大奏者の評価、採用問題
雇用情勢・経済成長
6．職業意識
自分が望むあるいは目標とする職業
何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について
職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1210503
科目名	情報と職業	単位数	2
科目名（英語表記）	Information and Occupation		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
授業概要	情報通信技術は社会と職に大きな変化をもたらし、社会に影響を及ぼしている。このような情報化社会において、若者を取り巻く現状を多角的に捕え、現状を把握し、情報化社会での職業の意義と役割、自己のあり方、生き方と職業を論じる。大量の情報が交換蓄積され、利用される高度情報通信社会の中で、職業と自己のあり方、生き方と職業を考え、望ましい勤労観と職業観を養い、主体的に自己の生き方を選択し、将来職業人として活躍するための情報に関する知識や技術、さらに情報通信をどのように活用していくか言及する。		
教材（教科書）	レポートドライブから教材・資料を配布する。		
教材（参考資料）	ウエブサイト： 厚生労働省 白書、年次報告書 http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/ 経済産業省 白書、報告書 http://www.meti.go.jp/report/whitepaper/index.html その他のものについては、授業で適宜紹介する。		
教育方法	e ラーニング講義には教室講義との併用と、e ラーニング講義のみで行う講義を組み合わせる。必要とする資料はレポートドライブから教材・資料を配布する。		
評価方法	学習履歴状況等と各回課題による。（30%）,e-learning により課す課題評価（70%）		
到達目標	職とキャリアの関係を知り、職に必要とされるキャリアを構築するための情報や、職を遂行するために必要な情報を収集・整理し、活用することができ、さらに自らの職に対する考えを定めることができる。		
授業時間外学習	新聞等のメディアから、新技術・制度等の推移を知ることを心がける。特に、白書や今週の指標等の Web ページは週 1 回以上閲覧し、短く説明できるように整理する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講義は、e-learning 形式の講義です。決まった講義の時間はなく、任意の時間にｺﾝﾋﾟｭｰﾀ教室で受講のこと。学期の最初に、講義形式の講義を受ける必要があり、欠席の場合、受講意志がないものとみなす場合がある。能動的な姿勢で講義に出席し、他者への迷惑になる行為は慎むこと。

授業スケジュール

1．白書等から、若者を取り巻く現状
　職業の意義と役割
　職業とキャリア
1-1．職業指導とは何か
　学習指導要領の規定
2．情報産業の現状
　これからの情報化社会で求められる人材
　人材ニーズ調査と職種・業種毎に求められる能力・スキル
3．厚生労働省等統計データから、現状分析
3-1．高等学校における進路指導の現状
4．高校生の就職に関わる法・制度・仕組み
　職業安定法・男女雇用機会均等法・労働基準法
　公共職業安定所と学校との職業紹介の分担
　新規高等学校卒業者の就職のための推薦および選考開始期日等

統一応募書類
5．高等学校卒業者・大卒の就職の推移と現状
高卒者と大奏者の評価、採用問題
雇用情勢・経済成長
6．職業意識
自分が望むあるいは目標とする職業
何のために働くか
6-1．生徒の職業意識の希薄化
7．インターンシップの実施
8．キャリアデザイン
職種に必要な能力、何が必要か
8-1．ホームルーム等での進路指導
9．職業と職業生活について
職業及び職業生活
勤労・職業の意義と役割
職業生活と法令
１０．情報化と社会の変化について
情報化に伴う産業と社会生活の変化
情報関連産業の発達と資源・環境問題
情報社会のモラル
１１．職業と自己実現
職業適性の理解
自己のあり方生き方と職業
進路選択と自己実現
１２．求められる進路指導の改善
キャリア教育の意義と内容、基本方向と推進方策
１３．インターネットの進路指導への活用
１４．若年失業者問題と対策
１５．職業とキャリアの形成

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1220101
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	様々な分野の話題に関する英文を読んで、多様な形式の練習問題をこなしながら、 「話す・読む・書く」等の基礎的な英語力を更に向上させる。		
教材（教科書）	佐藤明彦　他著 『Reading Success 3』 成美堂 ￥２，０００ またプリント教材を使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	理解度テスト(（中間・期末）の平均点　　（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉　（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	各課の単語、イディオム、文法事項を理解し、テキストの英文が正確に読めるようにし、読解、英文法、英作文の力のレベルアップを目指す。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・語彙を学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成し、リーディングの訳を書く。 ３　練習問題をする		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

授業スケジュール

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。

１回目は Unit 1 の 2 Word Definitions　3 Completing the Sentences をするので、
予習しておいて下さい。
すべての Unit はできないので、クラスで希望の多いものからやっていく。
３回目以降はまだ未定なので、暫定的な計画と承知しておいて下さい。

２回目　　Unit 1 残り
３回目　　Unit　2
４回目　　Unit　3
５回目　　Unit　4
６回目　　Unit　5
７回目　　Unit　1-5 の復習
８回目　　Unit 1-5 の理解度テスト
９回目　　Unit　8
１０回目　　Unit　9

１１回目　　Unit 10 １２回目　　Unit 11 １３回目　　Unit 12 １４回目　　Unit 8-12 の復習 １５回目　　Unit 8-12 の理解度テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JC1220103
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	越間　将平	旧科目名称	
授業概要	この授業では、比較的平易な英語で書かれたテキストの学習を通じて、英語の基礎となる語彙や文法の定着を図り、読解力と聴解力の向上を目指していきます。日常的な場面や異国の文化を題材とした文章に触れ、英語に対する理解を深めていきます。		
教材（教科書）	土屋武久, 本多吉彦, Braven Smillie. Hello New York!（金星堂）		
教材（参考資料）	英語の学習には辞書が必要です。授業の時は辞書を持参するようにしましょう。電子辞書でも構いません。		
教育方法	映像を観ながら授業を進めていきます。授業担当者による説明と、受講者による問題への取り組み、発表（質問に対する回答等）が含まれます。		
評価方法	授業内テスト 70%、課題・授業への参加状況 30%の割合で総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	英語の基礎となる語彙や文法の定着を図り、読解力と聴解力の向上を目指す。		
授業時間外学習	シーンごとに小テストを実施しますので、授業で学んだ内容を復習するようにしましょう。詳しくは授業中に説明します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

公欠等で、授業を欠席・遅刻する場合は、事前に授業担当者へお知らせください。

授業スケジュール

※毎回１シーン分の内容を学んでいくことを目標とします（進捗状況によって変更する可能性もあります）。

1. イントロダクション（授業概要や評価方法に関する説明を行います）
　　Scene 1　It's so nice to meet you!（be 動詞と一般動詞）
2. Scene 2　Is he a popular professor?（疑問文と否定文）
3. Scene 3　He showed me "a" way（現在形と過去形）
4. Scene 4　For here or to go?（可算名詞と不可算名詞）
5. Scene 5　She is so beautiful（代名詞）
6. Scene 6　Catching a cab（前置詞）
7. Scene 7　How romantic!（形容詞と副詞）
8. Scene 8　I'm not feeling well（助動詞）
9. Scene 9　Tickets for a Yankees game（進行形）
10. Scene 10　What's on the shopping list?（接続詞）
11. Scene 11　MoMA is fun!（現在完了形）
12. Scene 12　The "Fourth of July" is coming up!（未来形）
13. Scene 13　Who is that guy?!（不定詞と動名詞）
14. Scene 14　You're my best friend（比較級と最上級）
15. Scene 15　We're going to be late!（受動態）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220104
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	村上　陽香	旧科目名称	
授業概要	大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化をはかると共に、必要な語彙、文法知識をさらに多く習得して英文の読解や聴解に活用できるようにする。平易な総合英語教材を使用し、「読む、書く、聞く、話す」の4技能の基礎力を養成し、受講生への課題、発表を含む演習を行う。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解できる力を身につける。		
教材（教科書）	Takaaki Kumazawa, Tetsuhito Shizuka, Masamichi Mochizuki 著 Ambitions: Elementary（金星堂） その他プリント教材		
教材（参考資料）	英和、和英、英英辞書などを持参してください。予習・復習でも使用すること。 電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能は使用不可です。		
教育方法	テキストに沿ってユニットの内容を確認し、問題演習やペアワークなどを行います。 随時、音声 CD を用います。		
評価方法	授業内テスト（小テスト含む）70%、予習課題・授業への参加態度 30%で総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。ただし、これは 3 分の 2 以上の出席があれば必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までに学んだ文法事項を点検しながら、英語の基礎固めを行います。英語で自分の意思を伝え、相手の意思を理解出来るようになることを目標とします。		
授業時間外学習	第二回以降、前回の授業で扱った範囲に関する小テストを行います。そのテストの準備として、学んだことを十分に復習して来てください。テストはボキャブラリーや文法問題を含みます。 また、授業の際に、次回に向けての予習箇所を課題として指定する場合があります。次回授業は該当箇所を予習済みと見なして進めますので、必ず準備した上で授業に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・授業には積極的に参加し、欠席しないよう心がけてください。遅刻や私語は進行の支障になるだけではなく、他の受講生にも迷惑をかけますので、注意してください。
・指定された予習箇所は、間違えてもいいので自分なりに必ずやって来てください。明らかに予習が行われていない場合は減点対象とします。
・英和、和英、英英辞書などを持参してください。高校時代に使用していたものがあればそれでも構いませんし、電子辞書でも構いません。ただし、携帯電話の辞書機能は使用不可です。

授業スケジュール

テキストを一回の授業あたり 1 ユニット進めていきます。
第二回以降、前回授業の内容に関する小テストを行います。

第一回：イントロダクション/Cross-Cultural Understanding
　　「強く発音される語を聞きとる」＆「文の主語を見つける」
第二回：Foods
　　「語順のまま理解する」＆「文の動詞を見つける」
第三回：Foreign Language Learning
　　「消えるｔとｄを聞きとる」＆「動詞の目的語を見つける」
第四回：Sports
　　「似た音に注意して聞きとる」＆「補語を見つける」
第五回：Fashion
　　「n でつながる語句を聞きとる」＆「何の代わりかを見抜く（代名詞）」
第六回：Living Things
　　「弱い can を聞きとる」＆「『to＋動詞』を理解する（不定詞）」
第七回：Art

「話の展開を予測する」＆「『動詞＋ing』を理解する（動名詞）」
第八回：Global Issues
「強弱のリズムに慣れる」＆「主語が『されること』を理解する（受動態）」
第九回：Japanese Culture
「t でつながる語句を聞き取る」＆「比較を理解する（同等比較・比較級・最上級）」
第十回：Human Rights
「l でつながる語句を聞き取る」＆「後ろからの説明を見抜く（後置修飾）」
第十一回：Health&Medical Issues
「弱い of を聞き取る」＆「名詞を限定していることを見抜く（関係代名詞）」
第十二回：Environmental Issues
「対比による強調を理解する」＆「and がつなぐものを見抜く（並列 1）」
第十三回：Economy&Industry
「r でつながる語句を聞き取る」＆「but や or がつなぐものを見抜く（並列 2）」
第十四回：Legal Issues
「のみこまれる tn を聞き取る」＆「文脈に合った意味を選ぶ（多義語）」
第十五回：Science&Technology/まとめ
「弱い for を聞き取る」＆「知らない単語の意味を推測する」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JC1220105
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第３版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1〜7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220107
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	越間　将平	旧科目名称	
授業概要	この授業では、比較的平易な英語で書かれたテキストの学習を通じて、英語の基礎となる語彙や文法の定着を図り、読解力と聴解力の向上を目指していきます。日常的な場面や異国の文化を題材とした文章に触れ、英語に対する理解を深めていきます。		
教材（教科書）	土屋武久, 本多吉彦, Braven Smillie. Hello New York! （金星堂）		
教材（参考資料）	英語の学習には辞書が必要です。授業の時は辞書を持参するようにしましょう。電子辞書でも構いません。		
教育方法	映像を観ながら授業を進めていきます。授業担当者による説明と、受講者による問題への取り組み、発表（質問に対する回答等）が含まれます。		
評価方法	授業内テスト 70%、課題・授業への参加状況 30%の割合で総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	英語の基礎となる語彙や文法の定着を図り、読解力と聴解力の向上を目指す。		
授業時間外学習	シーンごとに小テストを実施しますので、授業で学んだ内容を復習するようにしましょう。詳しくは授業中に説明します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

公欠等で、授業を欠席・遅刻する場合は、事前に授業担当者へお知らせください。

授業スケジュール

※毎回１シーン分の内容を学んでいくことを目標とします（進捗状況によって変更する可能性もあります）。

1. イントロダクション（授業概要や評価方法に関する説明を行います）
　　Scene 1　It's so nice to meet you! （be 動詞と一般動詞）
2. Scene 2　Is he a popular professor? （疑問文と否定文）
3. Scene 3　He showed me "a" way （現在形と過去形）
4. Scene 4　For here or to go? （可算名詞と不可算名詞）
5. Scene 5　She is so beautiful （代名詞）
6. Scene 6　Catching a cab （前置詞）
7. Scene 7　How romantic! （形容詞と副詞）
8. Scene 8　I'm not feeling well （助動詞）
9. Scene 9　Tickets for a Yankees game （進行形）
10. Scene 10　What's on the shopping list? （接続詞）
11. Scene 11　MoMA is fun! （現在完了形）
12. Scene 12　The "Fourth of July" is coming up! （未来形）
13. Scene 13　Who is that guy?! （不定詞と動名詞）
14. Scene 14　You're my best friend （比較級と最上級）
15. Scene 15　We're going to be late! （受動態）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220108
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ⅰ」は、大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化を図りながら、英語コミュニケーションに必須の語彙や文法の知識をさらに多く習得して、英文の読解や聴解の力量を高めていく科目である。平易な総合英語教材を使用し、発表や課題をこなす演習に取り組んで「読む、書く、聞く、話す」の４技能の基礎力を固め、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある注意事項や通知などを理解できる英語力を身につけていく。 　このクラスでは、「健康」と「食」を中心テーマとした英文を読み、各種の演習に取り組んで英語基礎力を強化しながら、所属学科での研究に不可欠な語彙などを学んでいく。		
教材（教科書）	Josh Norman et. al., Living Well, Eating Well （『ヘルシーライフをめざして』）、朝日出版社、1,700 円		
教材（参考資料）	１．ハンドアウト（プリント）教材 ２．英和辞典などの英語の辞書		
教育方法	１．名簿順指名での発表： 名簿順に指名して問題への答えや音読などを求めていく。予習不足で直ぐに答えられない場合は「パス」とはっきり申し出ること。発表があれば、正誤に関わらず発表点を記録する。 ２．指名に基づかない発表： クラス全体に問いかけることがある。その場合は、複数の受講生が一斉に答えてよい。所定（通常、小テスト）の用紙に、発表回数（１／３／５回以上）を誠実に自主申告する。 ３．小テスト用紙の提出： 通常、教科書のいずれかの演習問題を小テストとする。用紙は、出席の最終確認の用紙でもあるため、提出を怠ると欠席となる。 ４．時間の都合上、授業では教科書の演習を省略することがある。		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに２回の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ１回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	１．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 ２．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。 ３．食農学科の分野において必要となる基礎的な英語の語彙が身につく。		
授業時間外学習	各回とも、 １．教科書に記載のサイトより音声ファイルをダウンロードし、再生して活用する。 ２．次回授業で取り扱う Chapter を確認し、先ずその Vocabulary の問題に答える。 ３．当該 Chapter の Reading の音声を聴いた後、その英文を何十回も音読する。 ４．続いて、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completion の問題に答えておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。 ２．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。 ３．英検や TOEIC?などの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。			
授業スケジュール			

１回の授業で１つの Chapter を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Chapter 1: Why do people love sweets?
2．Chapter 2: Do you have a "deseert stomach"?
3．Chapter 3: Why Japanese cuisine so popular? & Dialogue 1: Skipping Breakfast
4．Chapter 4: Did you enjoy your school meals?
5．Chapter 5: Why do children dislike vegetables so much?
6．Dialogue 2: Enjoing Lunch & Chapter 7: What a long way frozen food has come!
7．授業内課題１、Chapter 6: How do you wash your dishes and vegetables?
8．Chapter 8: Where do you get your food?
9．Chapter 9: Do you know the power of fermentation? & Dialogue 3: Cooking Dinner
10. Chapter 10: Do you take your medicine correctly?
11. Chapter 11: Are you dieting the right way?
12. Chapter 12: Is collagen really effective? &
13. Dialogue 4: Doing Ecercise & Chapter 14: What kind of tea would you like?
14. 授業内課題２、Chapter 13: What is the water content?
15. Dalogues 1-4 の復習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220109
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ⅰ」は、大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化を図りながら、英語コミュニケーションに必須の語彙や文法の知識をさらに多く習得して、英文の読解や聴解の力量を高めていく科目である。平易な総合英語教材を使用し、発表や課題をこなす演習に取り組んで「読む、書く、聞く、話す」の4技能の基礎力を固め、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある注意事項や通知などを理解できる英語力を身につけていく。 　このクラスでは、スポーツに関連した英文を読んで英問英答演習により基礎的な読解力と運用力を高めるとともに、所属学科での学びに必要な英語の語彙や表現の増強を図る。		
教材（教科書）	Matthew J. Cotter et al.、Sports and English: Communicating with the World （『スポーツでつなぐ世界』）、南雲堂、2,000 円		
教材（参考資料）	1．ハンドアウト（プリント）教材 2．英和辞典などの英語の辞書		
教育方法	1．名簿順指名での発表： 名簿順に指名して問題への答えや音読などを求めていく。予習不足で直ぐに答えられない場合は「パス」とはっきり申し出ること。発表があれば、正誤に関わらず発表点を記録する。 2．指名に基づかない発表： クラス全体に問いかけることがある。その場合は、複数の受講生が一斉に答えてよい。所定（通常、小テスト）の用紙に、発表回数（1／3／5回以上）を誠実に自主申告する。 3．小テスト用紙の提出： 通常、教科書のいずれかの演習問題を小テストとする。用紙は、出席の最終確認の用紙でもあるため、提出を怠ると欠席となる。 4．時間の都合上、授業では教科書の演習を省略することがある。		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに2回の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は59点以下の不合格となる。また、たとえ1回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
授業時間外学習	各回とも、 1．次回授業で取り扱う Unit を確認し、添付の CD で音声を聴いた後、その英文（passage）を何十回も音読する。 2．何品詞であるかに注意しながら、Need to know words の各語の意味を調べておく。 3．Understanding the passage の英語の問いをよく読んで、それぞれの問題に英語で答えておく。 4．時間的に余裕があれば、Activities の問題にも答えておく。なお、難度がやや高いこともあり、Activities は授業内演習では省略する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。必要な教材を持たずに授業出席することは断じて認めない。 2．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。 3．可能な限り大きな声を出して英文を何度も音読し、諳んじられるようにすること。 4．英検や TOEIC?などの英語資格試験の受験に挑戦すること。			

授業スケジュール

１回の授業で１つの Unit を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。教科書の Contents 通りではない箇所があるので注意すること！

1．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 1: Warming UP!
2．Unit 2: Sportsu Nutrition!
3．Unit 3: Sevens Rugby!
4．Unit 4: Athletics!
5．Unit 6: Women's Soccer!
6．Unit 7: Sports Supplements!
7．　授業内課題１、Unit 5: Weight Training
8．Unit 8: Swimming!
9．Unit 9: Judo!
10．Unit 10: Sports Psychology!
11．Unit 11: Equestrian!
12．Unit 12: The Paralympic Games & Special Olympic World Games
13．Unit 13: Golf!
14．授業内課題２、Unit 15: Sportsmanship!
15．Unit 14: Gymnastics!

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	−	−	★

年度	2018	授業コード	JC1220131
科目名	総合英語Ⅰ -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「総合英語Ⅰ」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（教科書）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。		
教材（参考資料）	Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
授業スケジュール			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2.〜5. 英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 7.　中間テストをする。 8.〜12.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 13.〜15.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220133
科目名	総合英語Ⅰ -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
授業概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「総合英語Ⅰ」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（教科書）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。		
教材（参考資料）	Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
授業スケジュール			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2.〜5. 英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 7.　中間テストをする。 8.〜12.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 13.〜15.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220134
科目名	総合英語Ⅰ -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
授業スケジュール			
１．英文・和文基礎 ２．可算名詞・不可算名詞 ３．自動詞・他動詞・人称代名詞 ４．第１文型・第３文型 ５．形容詞 ６．第２文型 ７．第４文型・第５文型 ８．総合演習（１）：英文・和文基礎～第４文型・第５文型 ９．副詞 10．形容詞・副詞の比較級・最上級 11．前置詞 12．助動詞 13．動詞の時制 14．受動態 15．総合演習（２）：副詞～受動態			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1220135
科目名	総合英語Ⅰ -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
授業スケジュール			
１．英文・和文基礎 ２．可算名詞・不可算名詞 ３．自動詞・他動詞・人称代名詞 ４．第１文型・第３文型 ５．形容詞 ６．第２文型 ７．第４文型・第５文型 ８．総合演習（１）：英文・和文基礎～第４文型・第５文型 ９．副詞 10．形容詞・副詞の比較級・最上級 11．前置詞 12．助動詞 13．動詞の時制 14．受動態 15．総合演習（２）：副詞～受動態			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1220136
科目名	総合英語Ⅰ -s(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	世界的レベルで展開される科学や環境分野の研究の成果は、国際共通語である英語で記述され、専門書や科学論文として発表される。その科学論文は、専門用語を除けば、比較的平易な文法に従い、簡潔な科学英語として記述されている。英語の基礎的読解力および表現力の涵養は、本学部における専門科目の理解と修得のために必要不可欠な要素となる。１回生から２回生まで必修科目とし、総合英語と科学英語として段階的に展開される。「総合英語Ⅰ」では、高校までの英語力を基礎に、一般的な科学論文で使用頻度の高い文法や英語表現を習得することを目標とする。		
教材（教科書）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道)』(京都学園大学、バイオ環境学部)。		
教材（参考資料）	Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』(成美堂)。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社)。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』(文英堂)。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	期末試験（60%)、中間テスト（20%)、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
授業スケジュール			
1.　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2.〜5. 英語の基礎能力をつける。文章構成の基礎を理解しながら、名詞、冠詞、代名詞、形容詞などについて学習する。 7.　中間テストをする。 8.〜12.　英語の基礎能力をつける。動詞、副詞、前置詞、接続詞などについて学習する。 13.〜15.　文章構成の理解を深めながら、英文分類について学習する。			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220137
科目名	総合英語Ⅰ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では英語の体系の中で文章構成の基礎となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
授業スケジュール			
１．英文・和文基礎 ２．可算名詞・不可算名詞 ３．自動詞・他動詞・人称代名詞 ４．第１文型・第３文型 ５．形容詞 ６．第２文型 ７．第４文型・第５文型 ８．総合演習（１）：英文・和文基礎～第４文型・第５文型 ９．副詞 10．形容詞・副詞の比較級・最上級 11．前置詞 12．助動詞 13．動詞の時制 14．受動態 15．総合演習（２）：副詞～受動態			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1220141
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	中山　大輝	旧科目名称	
授業概要	この授業では、平易な総合英語教材を使用し、基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化を図るとともに、「読む、書く、聞く、話す」の４技能を総合的に養成します。音声 CD を使用してリスニング問題に取り組み、「聞く」能力を向上させながら、リスニングのポイントをおさえます。また、少し短めの文章を読み、内容を理解し、要約できるようにします。そして、ペアワークなどの活動に取り組むことにより、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指します。		
教材（教科書）	熊澤孝昭、靜哲人、望月正道（著）『AMBITIONS：Elementary』、金星堂、 ISBN:978-4-7647-4054-9		
教材（参考資料）	授業中に適宜、支持します。 毎回の授業に、辞書（英和・和英など）と文法書を持参してください。ただし、携帯電話、スマートフォンを辞書として使用することはできません。		
教育方法	授業中に音声 CD を使用します。 また、この授業は主に演習方式で進められ、一部ペアワークやグループディスカッションなどが行われます。		
評価方法	以下の基準に基づいて総合的に評価します。 （１）平常点（授業内小テストや授業への積極的参加など）：４５点 （２）定期試験：５５点 ただし、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となります。		
到達目標	講義概要で記載した内容に即して、以下の内容ができるようになることを目指します。 （１）少し短めの文章を理解し、要約できるようになる （２）ダイアログなどの会話が聞き取れるようになる （３）自分の意見を英語で書けるようになる （４）（３）で書いた内容を英語で話せるようになる		
授業時間外学習	詳しい予復習の方法は授業内で指示しますが、この授業では毎回の授業開始時に前回の授業内容の確認テスト（授業内小テスト）を行いますので、授業で学習した内容の復習をしてください。また、予習として、次回授業時に扱う UNIT の指示された範囲をあらかじめ解答しておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（１）語学学習には継続的な学習が不可欠です。欠席や遅刻は極力しないでください。
（２）この授業では、毎週予習課題を指示するとともに、授業開始時に前回の授業内容の確認テスト（授業内小テスト）を行います。継続的な予復習に努めてください。
（３）教材（参考文献）欄に記載したように、毎回の授業に辞書（英和・和英など）と文法書を持参してください。なお、文法書は高等学校で使用したものでも構いません。
（４）（１）で記載したように、当科目のみならず、英語の勉強を自主的に行ってください。
（５）TOEIC や実用英語技能検定など、外部検定試験を積極的に受験してください。

授業スケジュール

各項目を、約１回の授業で消化していきます。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。初回授業時に具体的な予復習の方法を指示しますので、初回授業時に教科書を持参してくることを強く推奨します。

Unit 1: Cross-Cultural Understanding
文の主語を見つける / 強く発音される語を聞き取る
Unit 2: Foods
文の動詞を見つける / 語順のまま理解する
Unit 3: Foreign Language Learning
動詞の目的語を見つける / 消える t と d を聞き取る
Unit 4: Sports

補語を見つける / 似た音に注意して聞き取る
Unit 5: Fashion
代名詞の指示内容 / n でつながる語句を聞き取る
Unit 6: Living Things
不定詞 / 弱い can を聞き取る
Unit 7: Art
動名詞 / 話の展開を予測する
Unit 8: Global Issues
受動態 / 強弱のリズムに慣れる
Unit 9: Japanese Culture
比較（原級、比較級、最上級） / t でつながる語句を聞き取る
Unit 10: Human Rights
後置修飾 / l でつながる語句を聞き取る
Unit 11: Health & Medical Issues
関係代名詞 / 弱い of を聞き取る
Unit 12: Environmental Issues
並列その 1 / 対比による強調を理解する
Unit 13: Economy & Industry
並列その 2 / r でつながる語句を聞き取る
Unit 14: Legal Issues
多義語 / のみこまれる tn を聞き取る
Unit 15: Science & Technology
未知単語の推測 / 弱い for を聞き取る

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220142
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	中山　大輝	旧科目名称	
授業概要	この授業では、平易な総合英語教材を使用し、基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化を図るとともに、「読む、書く、聞く、話す」の4技能を総合的に養成します。音声 CD を使用してリスニング問題に取り組み、「聞く」能力を向上させながら、リスニングのポイントをおさえます。また、350 語程度の文章を読み、内容を理解し、要約できるようにします。そして、ペアワークなどの活動に取り組むことにより、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指します。		
教材（教科書）	森田彰、飯尾牧子、橋本健広、佐竹幸信、Gordon Myskow（著）『TARGET!: pre-intermediate』、金星堂 ISBN:978-4-7647-4017-4		
教材（参考資料）	授業中に適宜、指示します。 毎回の授業に、辞書（英和・和英など）と文法書を持参してください。ただし、携帯電話、スマートフォンを辞書として使用することはできません。		
教育方法	授業中に音声 CD を使用します。 また、この授業は主に演習方式で進められ、一部ペアワークやグループディスカッションなどが行われます。		
評価方法	以下の基準に基づいて総合的に評価します。 （1）平常点（授業内小テストや授業への積極的参加など）：４５点 （2）定期試験：５５点 ただし、全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となります。		
到達目標	講義概要で記載した内容に即して、以下の内容ができるようになることを目指します。 （1）英文の内容を理解し、要約できるようになる （2）ダイアログなどの会話が聞き取れるようになる （3）自分の意見を英語で書けるようになる （4）（3）で書いた内容を英語で話せるようになる		
授業時間外学習	詳しい予復習の方法は授業中で指示しますが、この授業では毎回の授業開始時に前回の授業内容の確認テスト（授業内小テスト）を行いますので、授業で学習した内容の復習をしてください。また、予習として、次回授業時に扱う UNIT の指示された範囲をあらかじめ解答しておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（1）語学学習には継続的な学習が不可欠です。欠席や遅刻は極力しないでください。
（2）この授業では、毎週予習課題を指示するとともに、授業開始時に前回の授業内容の確認テスト（授業内小テスト）を行います。継続的な予復習に努めてください。
（3）教材（参考文献）欄に記載したように、毎回の授業に辞書（英和・和英など）と文法書を持参してください。なお、文法書は高等学校で使用したものでも構いません。
（4）（1）で記載したように、当科目のみならず、英語の勉強を自主的に行ってください。
（5）TOEIC や実用英語技能検定など、外部検定試験を積極的に受験してください。

授業スケジュール

各項目を、約1回の授業で消化していきます。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。初回授業時に具体的な予復習の方法を指示しますので、初回授業時に教科書を持参してくることを強く推奨します。

Unit 1: Small Talk（日常生活）
基本5文型 / いろいろな数値①
Unit 2: Human Relations（人間関係・コミュニケーション）
文の種類 / いろいろな数値
Unit 3: Culture and Globalization（言葉・文化）
基本時制 / 発音しづらい語句
Unit 4: Healthy Life（健康・医療）

進行形 / 固有名詞（人名・地名など）
Unit 5: Future Careers（職業・キャリア）
完了形 / 簡単な挨拶文
Unit 6: That Shirt Suits You!（ファッション）
助動詞① / 提案文、勧誘文
Unit 7: Taking a Trip（旅行・観光）
助動詞② / 依頼文
Unit 8: Do You Like Sports?（スポーツ）
受動態 / Yes / No 疑問文
Unit 9: Let's Do Something Fun!（レジャー・エンタメ）
不定詞 / wh 疑問文
Unit 10: Art Appreciation（アート）
動名詞 / 否定・付加疑問文
Unit 11: Let's Eat Out!（食）
分詞 / カジュアルな表現
Unit12: A Career in International Business（ビジネス）
比較 / フォーマルな表現
Unit 13: Science for the Future（サイエンス）
関係代名詞 / 意味のかたまり（チャンク）
Unit 14: Technology and Modern Life（産業・テクノロジー）
話法 / 主張や理由を導くキーワード
Unit 15: Saving the Environment（環境）
特殊構文（強調・倒置・同格） / 名詞から話題をイメージする

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220143
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
授業概要	平易な総合英語教材を用いて、＜読む・書く・聞く・話す＞4技能の基礎力を養成する。様々なタイプの、200 語程度の英文を読み、読解力を養う。本文を読んだ後、各種の設問を通して理解度をチェックする。最低限必要な使える文法の基礎を確実に習得し、語彙力を高める。空欄を埋める例文を通して、文法の知識を補強する。また積極的に声を出して、実践的な発音・発声練習をする。リスニングのセクションでは、英語の音声面の特徴を、単音・音節・語・句・文などのレベルで順に学ぶ。		
教材（教科書）	『Quick-Step English 1 』（南雲堂） 1,836 円 テキスト各章の本文を、学生は単語の意味と発音の下調べ、本文の黙読・音読など、毎回予習しておく。授業では、本文の読解を中心に進め、本文理解を確認するため、学生は各章の設問に沿って、解答を記述する。学生は、講義内容のポイントをノートに取り、ノートの記述内容を参照しながら、テキストの重要事項を復習する。参考資料など、授業中に適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。テキスト各章の本文を、リスニング（ＣＤのネイティブ・スピーカーの音声を聞く）、学生自身の黙読と音読により理解したうえで、理解度確認のために、学生はテキストの設問に答えを記入し、教員の求めに応じて発表する。講義と学生自身の予習・復習の成果を確認するために、学期を前半と後半に分けて、小テストを行う。		
評価方法	授業中の、積極的な学習態度（しっかり英語の声を出す等 10%）・発表（10%）・小テスト 2 回（各 10%）・課題（10%）などによる平常点（合計 50%）、定期テスト（50%）。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。（3 分の 2 以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	学生は英語の 4 技能の習得により、基礎的なコミュニケーション力を得ることができる。 英語音声を反復練習によって聞きとり、しっかり英語の声を出せるようになる。		
授業時間外学習	毎回指示するページ項目の予習と復習の課題を完成させる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
積極的な態度で授業に参加する。しっかり声を出す。テキストと筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食・英語以外の作業など等は厳禁。			
授業スケジュール			
1．The End of Newspapers? ストレッチ式「ネイティブ発音」について 2．The Hero of the Hudson 母音と子音について 3．E-mail: Online Shopping つながる音に慣れる（1） 4．The Homeless Man with a Golden Voice つながる音に慣れる（2） 5．Exhibit Preview 消える音に慣れる（1） 6．Improving Memory 消える音に慣れる（2） 7．The Brownings: A Poetic Love Story 消える音に慣れる（3） 8．Invitation to a Party 変化する音に慣れる（1） 9．The Prince of Poyais 変化する音に慣れる（2） 10. Superheroes in the Real World 変化する音に慣れる（3） 11. Thank You Note 変化する音に慣れる（4） 12. Human-Powered Machines カタカナ語の音に慣れる 13. Twitter 発音のまとめ（1） 14. Twitter Feed 発音のまとめ（2） 15. Okamoto Taro: The Artist among Us 発音のまとめ（3）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1220150
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第３版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1～7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9～14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220151
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
授業概要	比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という４技能の活用力を養成する。この授業では特に、日本語を第１言語とする人びとが間違いやすい英語表現を正すことを通して、読解やリスニング、英作文問題に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかる。また、基本的な文法事項の復習も行う。		
教材（教科書）	Mark Thompson, Toshihiro Tanioka 著. Say It Right in English. 『ネイティブが気になる日本人の英語』（英宝社, ￥1900)。その他プリント教材		
教材（参考資料）	英和、和英、英英辞書など		
教育方法	授業は演習方式で進められる。毎回の授業で取り上げるトピックについてあらかじめ考えてきた意見を出し合った後、新出の語彙、長文読解、長文の内容に関する英語の問題、リスニング問題、内容に関するディスカッションという順番で進めてゆく。授業の最初、あるいは最後に復習／予習小テストを行うことがある。		
評価方法	授業内テスト（小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただしこれは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではない。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につける。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につける。		
授業時間外学習	この授業では、前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行うことがある。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をすること。復習に十分な時間をかけて授業に臨んむようにする。小テストには語彙、文法問題が含まれる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参する。テキストがないと、授業内の課題を行うことができない。テキストを持参しなかった場合は減点とする。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参すること。携帯電話の辞書機能を授業中に使用することはできない。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用する。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修するように努める。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験するように努める。

授業スケジュール

次の各項目を、約１回の授業で学習する。但し、授業の進度によって変更になることがある。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行う。

1. Unit 1: Mansion （be 動詞）
2. Unit 2: Repeater 〔動詞①（現在)〕
3. Unit 3: Talent 〔動詞②（過去・未来)〕
4. Unit 4: Service （助動詞）
5. Unit 5: OL & Businessman （進行形）
6. Unit 6: Challenge （受動態）
7. Unit 7: Claim （現在完了形）
8. Unit 8: Manner Up （不定詞）
9. Unit 9: I Cut My Hair （比較①）
10. Unit 10: Hearing & Listening （比較②）
11. Unit 11: Rent & Borrow（ 関係代名詞）

12.Unit 12: Trip, Tour, Travel （形容詞と副詞）
13.Unit 13: Customer, Guest, Client （分詞と動名詞）
14.Unit 14: Pay, Wage, Salary （前置詞）
15.Unit 15: Cost, Price, Fee, Fare （否定）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220152
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	本テキストは文化・社会・生活・環境・ビジネス・観光等のジャンルから成る初級レベルの教材である。 興味深いトピックを読んで、英語の基礎を固め、総合的な英語力向上を目指す。 自分で考え課題を解決する思考力を養い、常に積極的に取り組む。		
教材（教科書）	テリー・オブライエン他著 『English Indicator 1』［Essential］　（英語総合インディケーター〈初級〉） 南雲堂 ￥２，０００ またプリント教材を使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	理解度テスト(（中間・期末）の平均点　　（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉　（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	基礎的な英文法や語彙を学習し、練習問題で読解・英作・リスニング等の基礎力をアップさせる。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・語彙を学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成し、リーディングの訳を書く。 ３　練習問題をする		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

授業スケジュール

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。

１回目は Unit１の文法、リスニングから始めるので、目を通しておいて下さい。
すべての Unit はできないので、クラスで希望の多いものからやっていく。
３回目以降はまだ未定なので、目安として見てもらいたい。

２回目　　Ｕｎｉｔ　１　　残り
３回目　　Ｕｎｉｔ　２
４回目　　Ｕｎｉｔ　３
５回目　　Ｕｎｉｔ　４
６回目　　Ｕｎｉｔ　５
７回目　　Ｕｎｉｔ　６
８回目　　Ｕｎｉｔ１－６の復習及び理解度テスト
９回目　　Ｕｎｉｔ　７

１０回目　　Ｕｎｉｔ　８ １１回目　　Ｕｎｉｔ　９ １２回目　　Ｕｎｉｔ　１０ １３回目　　Ｕｎｉｔ　１１ １４回目　　Ｕｎｉｔ　１２ １５回目　　Ｕｎｉｔ７－１２の復習及び理解度テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220153
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	本テキストは文化・社会・生活・環境・ビジネス・観光等のジャンルから成る初級レベルの教材である。 興味深いトピックを読んで、英語の基礎を固め、総合的な英語力向上を目指す。 自分で考え課題を解決する思考力を養い、常に積極的に取り組む。		
教材（教科書）	テリー・オブライエン他著 『English Indicator 1』［Essential］　（英語総合インディケーター〈初級〉） 南雲堂 ￥２，０００ またプリント教材を使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	理解度テスト(（中間・期末）の平均点　　（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉　（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	基礎的な英文法や語彙を学習し、練習問題で読解・英作・リスニング等の基礎力をアップさせる。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・語彙を学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成し、リーディングの訳を書く。 ３　練習問題をする		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

授業スケジュール

１回目は Unit１の文法、リスニングから始めるので、目を通しておいて下さい。
すべての Unit はできないので、クラスで希望の多いものからやっていく。
３回目以降はまだ未定なので、目安として見てもらいたい。

２回目　Ｕｎｉｔ　１　残り
３回目　Ｕｎｉｔ　２
４回目　Ｕｎｉｔ　３
５回目　Ｕｎｉｔ　４
６回目　Ｕｎｉｔ　５
７回目　Ｕｎｉｔ　６
８回目　Ｕｎｉｔ１－６の復習及び理解度テスト
９回目　Ｕｎｉｔ　７
１０回目　Ｕｎｉｔ　８
１１回目　Ｕｎｉｔ　９

１２回目　　Ｕｎｉｔ　１０ １３回目　　Ｕｎｉｔ　１１ １４回目　　Ｕｎｉｔ　１２ １５回目　　Ｕｎｉｔ７－１２の復習及び理解度テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220156
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
授業概要	比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という４技能の活用力を養成する。この授業は日本語を第１言語とする人びとが間違いやすい英語表現を正すことを通して、読解やリスニング，特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（教科書）	Mark Thompson, Toshihiro Tanioka 著. Say It Right in English 『ネイティブが気になる日本人の英語』（英宝社 1900 円）		
教材（参考資料）	プリント、英和、和英、英英辞書など　。毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教育方法	必要に応じて音声 CD を使用します。講義は可能な限り簡単な英語で行い、難しいところは日本語で説明をします。質問や答えするときは間違いを恐れることなく英語で話すようにしてもらいます。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の文化紹介文等を通して生活に必要な常識と英語力を身につけます。		
授業時間外学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

授業スケジュール

次の各項目を、約１回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Mansion (be 動詞)
2. Unit 2: Repeater 〔動詞①（現在)〕
3. Unit 3: Talent 〔動詞②（過去・未来)〕
4. Unit 4: Service （助動詞）
5. Unit 5: OL & Businessman （進行形）
6. Unit 6: Challenge （受動態）
7. Unit 7: Claim （現在完了形）
8. Unit 8: Manner Up （不定詞）
9. Unit 9: I Cut My Hair （比較①）
10. Unit 10: Hearing & Listening （比較②）
11. Unit 11: Rent & Borrow （関係代名詞）
12. Unit 12: Trip, Tour, Travel （形容詞と副詞）

13.Unit 13: Customer, Guest, Client （分詞と動名詞）
14.Unit 14: Pay, Wage, Salary （前置詞）
15.Unit 15: Cost, Price, Fee, Fare （否定）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220157
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	本テキストは文化・社会・生活・環境・ビジネス・観光等のジャンルから成る初級レベルの教材である。 興味深いトピックを読んで、英語の基礎を固め、総合的な英語力向上を目指す。 自分で考え課題を解決する思考力を養い、常に積極的に取り組む。		
教材（教科書）	テリー・オブライエン他著 『English Indicator 1』［Essential］　（英語総合インディケーター〈初級〉） 南雲堂 ￥２，０００ またプリント教材を使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	理解度テスト(（中間・期末）の平均点　　（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉　（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	基礎的な英文法や語彙を学習し、練習問題で読解・英作・リスニング等の基礎力をアップさせる。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・語彙を学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成し、リーディングの訳を書く。 ３　練習問題をする		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

授業スケジュール

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。

１回目は Unit１の文法、リスニングから始めるので、目を通しておいて下さい。
すべての Unit はできないので、クラスで希望の多いものからやっていく。
３回目以降はまだ未定なので、目安として見てもらいたい。

２回目　　Ｕｎｉｔ　１　　残り
３回目　　Ｕｎｉｔ　２
４回目　　Ｕｎｉｔ　３
５回目　　Ｕｎｉｔ　４
６回目　　Ｕｎｉｔ　５
７回目　　Ｕｎｉｔ　６
８回目　　Ｕｎｉｔ１－６の復習及び理解度テスト
９回目　　Ｕｎｉｔ　７

１０回目　　Ｕｎｉｔ　８
１１回目　　Ｕｎｉｔ　９
１２回目　　Ｕｎｉｔ　１０
１３回目　　Ｕｎｉｔ　１１
１４回目　　Ｕｎｉｔ　１２
１５回目　　Ｕｎｉｔ７－１２の復習及び理解度テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220158
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
授業概要	英語教育において外国語の習得理論に則った授業を行う事が何より大切であることは言うまでもない。学生の実力に合うように作成された教材を用いて、脳科学の考察を活動に取り入れる事により、英語を単なる大学の一教科ではなく身近な技能になるよう指導する。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	授業内で紹介する。		
教育方法	第 2 言語習得の方法に則り、英文を読む→英文の意味を日本語で理解→音読→プ?アウトプットの順で授業活動を行う。個人、グループなど、様々なパターンで 4 技の実践演習なども加え学習のバリア―を無くす試みをする。		
評価方法	・毎回 20 点満点のテスト（筆記、音読等）を行う。到達点を超える点数が必要。 ・クリアすべき到達点数に達しなかった学生は課題を提出し、それをもって点数をクリアしたと認める。 ・欠席者は該当授業の課題を提出する。 平常点：９０％ 音読等の授業参加:10% ・授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。		
到達目標	外国語の習得に欠かすことのできない 4 技能のうち、特に「読む」、「聞く」、を中心に指導する。学生は正しく読めて、聞いて理解し、暗唱等もできるようになる。		
授業時間外学習	1 課題につき、2 授業を 1 セットとする。2 授業目には筆記テスト（暗唱を確認する）を行うのでその準備をすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

これまで英語が苦手であったり、嫌いだったと言う学生が多いが、この授業で必ず英語に対する劣等感や嫌悪感を少なくする！と言う気合いをもって参加してほしい。

授業スケジュール

1.授業の進め方　日本的事象の説明
2.神社仏閣の参拝の仕方(1)
3.神社仏閣の参拝の仕方.(2)
4.都をどり(1)
5.都をどり(2)
6.八ッ橋(1)
7.八ッ橋(2)
8.禅(1)
9.禅(2)
10.祇園祭(1)
11.祇園祭(2)
12.大覚寺(1)
13.大覚寺(2)
14.銭湯
15.今期の復習および総評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JC1220159
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
授業概要	英語教育において外国語の習得理論に則った授業を行う事が何より大切であることは言うまでもない。学生の実力に合うように作成された教材を用いて、脳科学の考察を活動に取り入れる事により、英語を単なる大学の一教科ではなく身近な技能になるよう指導する。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	授業内で紹介する。		
教育方法	第 2 言語習得の方法に則り、英文を読む→英文の意味を日本語で理解→音読→プ?アウトプットの順で授業活動を行う。個人、グループなど、様々なパターンで 4 技の実践演習なども加え学習のバリア―を無くす試みをする。		
評価方法	・毎回 20 点満点のテスト（筆記、音読等）を行う。到達点を超える点数が必要。 ・クリアすべき到達点数に達しなかった学生は課題を提出し、それをもって点数をクリアしたと認める。 ・欠席者は該当授業の課題を提出する。 平常点：９０％ 音読等の授業参加:10% ・授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。		
到達目標	外国語の習得に欠かすことのできない 4 技能のうち、特に「読む」、「聞く」、を中心に指導する。学生は正しく読めて、聞いて理解し、暗唱等もできるようになる。		
授業時間外学習	1 課題につき、2 授業を 1 セットとする。2 授業目には筆記テスト（暗唱を確認する）を行うのでその準備をすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

これまで英語が苦手であったり、嫌いだったと言う学生が多いが、この授業で必ず英語に対する劣等感や嫌悪感を少なくする！と言う気合いをもって参加してほしい。

授業スケジュール

1.授業の進め方　日本的事象の説明
2.神社仏閣の参拝の仕方(1)
3.神社仏閣の参拝の仕方.(2)
4.都をどり(1)
5.都をどり(2)
6.八ッ橋(1)
7.八ッ橋(2)
8.禅(1)
9.禅(2)
10.祇園祭(1)
11.祇園祭(2)
12.大覚寺(1)
13.大覚寺(2)
14.銭湯
15.今期の復習および総評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JC1220160
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第３版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1～7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9～14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220161
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
授業概要	比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という４技能の活用力を養成する。この授業では特に、日本語を第１言語とする人びとが間違いやすい英語表現を正すことを通して、読解やリスニング、英作文問題に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかる。また、基本的な文法事項の復習も行う。		
教材（教科書）	Mark Thompson, Toshihiro Tanioka 著. Say It Right in English. 『ネイティブが気になる日本人の英語』（英宝社, ￥1900)。その他プリント教材		
教材（参考資料）	英和、和英、英英辞書など		
教育方法	授業は演習方式で進められる。毎回の授業で取り上げるトピックについてあらかじめ考えてきた意見を出し合った後、新出の語彙、長文読解、長文の内容に関する英語の問題、リスニング問題、内容に関するディスカッションという順番で進めてゆく。授業の最初、あるいは最後に復習／予習小テストを行うことがある。		
評価方法	授業内テスト （小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況 （30 %） により総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただしこれは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではない。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につける。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を養成する。		
授業時間外学習	この授業では、前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行うことがある。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をすること。復習に十分な時間をかけて授業に臨んむようにする。小テストには語彙、文法問題が含まれる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参する。テキストがないと、授業内の課題を行うことができない。テキストを持参しなかった場合は減点とする。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参する。携帯電話の辞書機能を授業中に使用することはできない。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用する。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修するように努める。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験すること。

授業スケジュール

次の各項目を、約 1 回の授業で学習する。但し、授業の進度によって変更になることがある。授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行うことがある。

1. Unit 1: Mansion （be 動詞）
2. Unit 2: Repeater 〔動詞①（現在)〕
3. Unit 3: Talent 〔動詞②（過去・未来)〕
4. Unit 4: Service （助動詞）
5. Unit 5: OL & Businessman （進行形）
6. Unit 6: Challenge （受動態）
7. Unit 7: Claim （現在完了形）
8. Unit 8: Manner Up （不定詞）
9. Unit 9: I Cut My Hair （比較①）
10. Unit 10: Hearing & Listening （比較②）
11. Unit 11: Rent & Borrow （関係代名詞）

12.Unit 12: Trip, Tour, Travel （形容詞と副詞）
13.Unit 13: Customer, Guest, Client （分詞と動名詞）
14.Unit 14: Pay, Wage, Salary （前置詞）
15.Unit 15: Cost, Price, Fee, Fare （否定）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220162
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	中山　大輝	旧科目名称	
授業概要	この授業では、平易な総合英語教材を使用し、基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化を図るとともに、「読む、書く、聞く、話す」の４技能を総合的に養成します。音声 CD を使用してリスニング問題に取り組み、「聞く」能力を向上させながら、リスニングのポイントをおさえます。また、少し短めの文章を読み、内容を理解し、要約できるようにします。そして、ペアワークなどの活動に取り組むことにより、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指します。		
教材（教科書）	熊澤孝昭、靜哲人、望月正道（著）『AMBITIONS：Elementary』、金星堂、 ISBN:978-4-7647-4054-9		
教材（参考資料）	授業中に適宜、指示します。 毎回の授業に、辞書（英和・和英など）と文法書を持参してください。ただし、携帯電話、スマートフォンを辞書として使用することはできません。		
教育方法	授業中に音声 CD を使用します。 また、この授業は主に演習方式で進められ、一部ペアワークやグループディスカッションなどが行われます。		
評価方法	以下の基準に基づいて総合的に評価します。 （１）平常点（授業内小テストや授業への積極的参加など）：４５点 （２）定期試験：５５点 ただし、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となります。		
到達目標	講義概要で記載した内容に即して、以下の内容ができるようになることを目指します。 （１）少し短めの文章を理解し、要約できるようになる （２）ダイアログなどの会話が聞き取れるようになる （３）自分の意見を英語で書けるようになる （４）（３）で書いた内容を英語で話せるようになる		
授業時間外学習	詳しい予復習の方法は授業内で指示しますが、この授業では毎回の授業開始時に前回の授業内容の確認テスト（授業内小テスト）を行いますので、授業で学習した内容の復習をしてください。また、予習として、次回授業時に扱う UNIT の指示された範囲をあらかじめ解答しておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（１）語学学習には継続的な学習が不可欠です。欠席や遅刻は極力しないでください。
（２）この授業では、毎週予習課題を指示するとともに、授業開始時に前回の授業内容の確認テスト（授業内小テスト）を行います。継続的な予復習に努めてください。
（３）教材（参考文献）欄に記載したように、毎回の授業に辞書（英和・和英など）と文法書を持参してください。なお、文法書は高等学校で使用したものでも構いません。
（４）（１）で記載したように、当科目のみならず、英語の勉強を自主的に行ってください。
（５）TOEIC や実用英語技能検定など、外部検定試験を積極的に受験してください。

授業スケジュール

各項目を、約１回の授業で消化していきます。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。初回授業時に具体的な予復習の方法を指示しますので、初回授業時に教科書を持参してくることを強く推奨します。

Unit 1: Cross-Cultural Understanding
文の主語を見つける / 強く発音される語を聞き取る
Unit 2: Foods
文の動詞を見つける / 語順のまま理解する
Unit 3: Foreign Language Learning
動詞の目的語を見つける / 消える t と d を聞き取る
Unit 4: Sports

補語を見つける / 似た音に注意して聞き取る
Unit 5: Fashion
代名詞の指示内容 / n でつながる語句を聞き取る
Unit 6: Living Things
不定詞 / 弱い can を聞き取る
Unit 7: Art
動名詞 / 話の展開を予測する
Unit 8: Global Issues
受動態 / 強弱のリズムに慣れる
Unit 9: Japanese Culture
比較（原級、比較級、最上級） / t でつながる語句を聞き取る
Unit 10: Human Rights
後置修飾 / l でつながる語句を聞き取る
Unit 11: Health & Medical Issues
関係代名詞 / 弱い of を聞き取る
Unit 12: Environmental Issues
並列その 1 / 対比による強調を理解する
Unit 13: Economy & Industry
並列その 2 / r でつながる語句を聞き取る
Unit 14: Legal Issues
多義語 / のみこまれる tn を聞き取る
Unit 15: Science & Technology
未知単語の推測 / 弱い for を聞き取る

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220163
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
授業概要	このクラスの　「総合英語Ⅰ」は、看護学科１回生向けの必修科目です。比較的平易な総合英語教材を使用することにより、受講生の皆さんは英語を読み、書き、聞き、話すための基本的な力を育成することができます。 　授業では、Reading Choice（センゲージラーニング社） を用いて英語の４技能を高めます。このテキストは評論やエッセイなどの長い文章を要点を把握しながら読み進める読解力を身につけるために、パラグラフリーディングの手法を学ぶ中級向けのリーディング教材です。 　まず、「パラグラフごとの内容を理解する」ということに主眼を置き、パラグラフごとのトピックや内容理解を確認しながら学修を進めていきます。選択問題や穴埋め問題も多くあり、学生が自ら問題に取り組み、答えを見つけ、スピーディに情報を整理できるようになっています。 　一通りパラグラフを読んだ段階で、文章全体の流れを確認するための問題に取り組みます。 　これらの作業に繰り返し取り組んでいけば、徐々に大学生として英文を読むための基礎力が身につきます。 　本書には、「時間厳守の意味」「ライフスタイルと食生活の変遷」「技術の進歩が家族の時間を奪う」医療技術の発達:ロボットが命を奪う」といって身近な話題から現代の科学技術に関するものまでまで幅広い話題が取り上げられています。 　授業や自律学習を通じて、英語を総合的に理解し、英語によるコミュニケーション能力を高めて欲しいと願っています。 　なお、定員は３５名です。		
教材（教科書）	Reading Choice　（センゲージ・ラーニング）		
教材（参考資料）	辞書（英和、英英辞典など)。 「総合英語 FACTBOOK」(桐原書店）は文法項目の確認に最適な参考書であり、購読を推奨します。なお、太秦キャンパス図書室にも設置してあります。		
教育方法	テキストには CD がついていませんが、テキスト購入者は無料で音声をダウンロードできるようになっています。ぜひともスマートホンなどにダウンロードして、活用してください。 　毎回の授業では、最初に事前学修としてあらかじめ自宅で予習した練習問題の解答と解説を行い、その後にテキスト内容の確認を行います。したがって、授業の予習は不可欠です。がんばって取り組んでください。		
評価方法	「総合英語Ⅰ」では、授業中の発表などの授業参加（10%)、課題提出（30%)、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 　なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	受講生は、中学や高校で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得して活用できるようになる。日常的な話題および社会の身近な問題について、読み、書き、聞き、話すことができる英語力を身につけることができる。春学期修了までに英検準２～２級レベルの英語力を獲得できる。		
授業時間外学習	まず４月の授業が始まるまでに、中学校や高校で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 　授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 　また、毎回の授業の前に、当日の unit に関する事前学修として、京学なびを通じて練習問題等の課題の提出を求めます。授業ではその解答を確認し、何を理解できていて、まだ何が理解できていないのかを確認してから授業に入ります。 授業は、全員が何らかのタスクを行うアクティブラーニング方式ですすめたいと思っています。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。
③英語学習のために図書室の問題集やラーニングコモンズをできるだけ活用し、自律学習に励んでください。

授業スケジュール

初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。

第 1 回　Introduction
第 2 回 ＆ 第 3 回　A Cultural Difference: Being on Time　（時間厳守の意味:その文化的差異）
第 4 回 ＆ 第 5 回　Changing Lifestyles and New Eating Habits　（ライフスタイルと食生活の変遷）
第 6 回　Technology Competes for Family Time　（技術の進歩が家族の時間を奪う）
第 7 回　Language: Is it Always Spoken?　（言語とは話すだけのもの？）
第 8 回　前半の授業の振り返りおよび反転学修
第 9 回　Loneliness: How Can We Overcome It?　（人は孤独をどのように克服するのか？）
第 10 回　The Importance of Grandmothers　（祖母の存在の重要性）
第 11 回　The Reliability of Eyewitnesses　（目撃者の信頼性）
第 12 回　Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System　（推定無罪:アメリカの刑事裁判制度）
第 13 回　Solving Crimes with Modern Techonology　（現代科学が犯罪を暴く）
第 14 回　Ancient Artifacts and Ancient Air　（遺物に密封された古代の空気）
第 15 回　後半の授業の振り返りおよび反転学修

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220164
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
授業概要	平易な総合英語教材を用いて、＜読む・書く・聞く・話す＞4技能の基礎力を養成する。様々なタイプの、200 語程度の英文を読み、読解力を養う。本文を読んだ後、各種の設問を通して理解度をチェックする。最低限必要な使える文法の基礎を確実に習得し、語彙力を高める。空欄を埋める例文を通して、文法の知識を補強する。また積極的に声を出して、実践的な発音・発声練習をする。リスニングのセクションでは、英語の音声面の特徴を、単音・音節・語・句・文などのレベルで順に学ぶ。		
教材（教科書）	Quick-Step English 1 南雲堂 1,700＋税。 テキスト各章の本文を、学生は単語の意味と発音の下調べ、本文の黙読・音読など、毎回予習しておく。授業では、本文の読解を中心に進め、本文理解を確認するため、学生は各章の設問に沿って、解答を記述する。学生は、講義内容のポイントをノートに取り、ノートの記述内容を参照しながら、テキストの重要事項を復習する。参考資料など、授業中に適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。テキスト各章の本文を、リスニング（ＣＤのネイティブ・スピーカーの音声を聞く）、学生自身の黙読と音読により理解したうえで、理解度確認のために、学生はテキストの設問に答えを記入し、教員の求めに応じて発表する。講義と学生自身の予習・復習の成果を確認するために、学期を前半と後半に分けて、小テストを行う。		
評価方法	授業中の、積極的な学習態度（しっかり英語の声を出す等 10%）・発表（10%）・小テスト 2 回（各 10%）・課題（10%）などによる平常点（合計 50%）、定期テスト（50%）。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。（3 分の 2 以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	学生は英語の 4 技能の習得により、基礎的なコミュニケーション力を得ることができる。 英語音声を反復練習によって聞きとり、しっかり英語の声を出せるようになる。		
授業時間外学習	毎回指示するページ項目の予習と復習の課題を完成させる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
積極的な態度で授業に参加する。しっかり声を出す。テキストと筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食・英語以外の作業など等は厳禁。			
授業スケジュール			
1．The End of Newspapers? ストレッチ式「ネイティブ発音」について 2．The Hero of the Hudson 母音と子音について 3．E-mail: Online Shopping つながる音に慣れる（1） 4．The Homeless Man with a Golden Voice つながる音に慣れる（2） 5．Exhibit Preview 消える音に慣れる（1） 6．Improving Memory 消える音に慣れる（2） 7．The Brownings: A Poetic Love Story 消える音に慣れる（3） 8．Invitation to a Party 変化する音に慣れる（1） 9．The Prince of Poyais 変化する音に慣れる（2） 10. Superheroes in the Real World 変化する音に慣れる（3） 11. Thank You Note 変化する音に慣れる（4） 12. Human-Powered Machines カタカナ語の音に慣れる 13. Twitter 発音のまとめ（1） 14. Twitter Feed 発音のまとめ（2） 15. Okamoto Taro: The Artist among Us 発音のまとめ（3）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1220165
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	村上　陽香	旧科目名称	
授業概要	大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化をはかると共に、必要な語彙、文法知識をさらに多く習得して英文の読解や聴解に活用できるようにする。平易な総合英語教材を使用し、「読む、書く、聞く、話す」の4技能の基礎力を養成し、受講生への課題、発表を含む演習を行う。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解できる力を身につける。		
教材（教科書）	Takaaki Kumazawa, Tetsuhito Shizuka, Masamichi Mochizuki 著 Ambitions: Elementary（金星堂） その他プリント教材		
教材（参考資料）	英和、和英、英英辞書などを持参してください。予習・復習でも使用すること。 電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能は使用不可です。		
教育方法	テキストに沿ってユニットの内容を確認し、問題演習やペアワークなどを行います。 随時、音声 CD を用います。		
評価方法	授業内テスト（小テスト含む）70%、予習課題・授業への参加態度 30%で総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。ただし、これは 3 分の 2 以上の出席があれば必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までに学んだ文法事項を点検しながら、英語の基礎固めを行います。英語で自分の意思を伝え、相手の意思を理解出来るようになることを目標とします。		
授業時間外学習	第二回以降、前回の授業で扱った範囲に関する小テストを行います。そのテストの準備として、学んだことを十分に復習して来てください。テストはボキャブラリーや文法問題を含みます。 また、授業の際に、次回に向けての予習箇所を課題として指定する場合があります。次回授業は該当箇所を予習済みと見なして進めますので、必ず準備した上で授業に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・授業には積極的に参加し、欠席しないよう心がけてください。遅刻や私語は進行の支障になるだけではなく、他の受講生にも迷惑をかけますので、注意してください。
・指定された予習箇所は、間違えてもいいので自分なりに必ずやって来てください。明らかに予習が行われていない場合は減点対象とします。
・英和、和英、英英辞書などを持参してください。高校時代に使用していたものがあればそれでも構いませんし、電子辞書でも構いません。ただし、携帯電話の辞書機能は使用不可です。

授業スケジュール

テキストを一回の授業あたり 1 ユニット進めていきます。
第二回以降、前回授業の内容に関する小テストを行います。

第一回：イントロダクション/Cross-Cultural Understanding
　　「強く発音される語を聞きとる」＆「文の主語を見つける」
第二回：Foods
　　「語順のまま理解する」＆「文の動詞を見つける」
第三回：Foreign Language Learning
　　「消えるｔとｄを聞きとる」＆「動詞の目的語を見つける」
第四回：Sports
　　「似た音に注意して聞きとる」＆「補語を見つける」
第五回：Fashion
　　「n でつながる語句を聞きとる」＆「何の代わりかを見抜く（代名詞）」
第六回：Living Things
　　「弱い can を聞きとる」＆「『to＋動詞』を理解する（不定詞）」
第七回：Art

「話の展開を予測する」＆「『動詞＋ing』を理解する（動名詞）」
第八回：Global Issues
「強弱のリズムに慣れる」＆「主語が『されること』を理解する（受動態）」
第九回：Japanese Culture
「t でつながる語句を聞き取る」＆「比較を理解する（同等比較・比較級・最上級）」
第十回：Human Rights
「l でつながる語句を聞き取る」＆「後ろからの説明を見抜く（後置修飾）」
第十一回：Health&Medical Issues
「弱い of を聞き取る」＆「名詞を限定していることを見抜く（関係代名詞）」
第十二回：Environmental Issues
「対比による強調を理解する」＆「and がつなぐものを見抜く（並列 1）」
第十三回：Economy&Industry
「r でつながる語句を聞き取る」＆「but や or がつなぐものを見抜く（並列 2）」
第十四回：Legal Issues
「のみこまれる tn を聞き取る」＆「文脈に合った意味を選ぶ（多義語）」
第十五回：Science&Technology/まとめ
「弱い for を聞き取る」＆「知らない単語の意味を推測する」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JC1220166
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	様々な分野の話題に関する英文を読んで、多様な形式の練習問題をこなしながら、 「話す・読む・書く」等の基礎的な英語力を更に向上させる。		
教材（教科書）	佐藤明彦　他著 『Reading Success 3』 成美堂 ￥２，０００ またプリント教材を使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	理解度テスト(（中間・期末）の平均点　　（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉　（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	各課の単語、イディオム、文法事項を理解し、テキストの英文が正確に読めるようにし、読解、英文法、英作文の力のレベルアップを目指す。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・語彙を学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成し、リーディングの訳を書く。 ３　練習問題をする		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

授業スケジュール

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。

１回目は Unit 1 の 2 Word Definitions　3 Completing the Sentences をするので、
予習しておいて下さい。
すべての Unit はできないので、クラスで希望の多いものからやっていく。
３回目以降はまだ未定なので、暫定的な計画と承知しておいて下さい。

２回目　　Unit 1 残り
３回目　　Unit　2
４回目　　Unit　3
５回目　　Unit　4
６回目　　Unit　5
７回目　　Unit　1-5 の復習
８回目　　Unit 1-5 の理解度テスト
９回目　　Unit　8
１０回目　　Unit　9

１１回目　　Unit 10 １２回目　　Unit 11 １３回目　　Unit 12 １４回目　　Unit 8-12 の復習 １５回目　　Unit 8-12 の理解度テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JC1220167
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第３版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1～7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9～14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220169
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第３版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1～7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9～14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220170
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
授業概要	比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という４技能の活用力を養成する。この授業は日本語を第１言語とする人びとが間違いやすい英語表現を正すことを通して、読解やリスニング，特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（教科書）	Mark Thompson, Toshihiro Tanioka 著. Say It Right in English 『ネイティブが気になる日本人の英語』（英宝社 1900 円）		
教材（参考資料）	プリント、英和、和英、英英辞書など　。毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教育方法	必要に応じて音声 CD を使用します。講義は可能な限り簡単な英語で行い、難しいところは日本語で説明をします。質問や答えするときは間違いを恐れることなく英語で話すようにしてもらいます。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の文化紹介文等を通して生活に必要な常識と英語力を身につけます。		
授業時間外学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

授業スケジュール

次の各項目を、約１回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Mansion (be 動詞)
2. Unit 2: Repeater 〔動詞①（現在)〕
3. Unit 3: Talent 〔動詞②（過去・未来)〕
4. Unit 4: Service （助動詞）
5. Unit 5: OL & Businessman （進行形）
6. Unit 6: Challenge （受動態）
7. Unit 7: Claim （現在完了形）
8. Unit 8: Manner Up （不定詞）
9. Unit 9: I Cut My Hair （比較①）
10. Unit 10: Hearing & Listening （比較②）
11. Unit 11: Rent & Borrow （関係代名詞）
12. Unit 12: Trip, Tour, Travel （形容詞と副詞）

13.Unit 13: Customer, Guest, Client （分詞と動名詞）
14.Unit 14: Pay, Wage, Salary （前置詞）
15.Unit 15: Cost, Price, Fee, Fare （否定）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220171
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
授業概要	比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という４技能の活用力を養成する。この授業では特に、日本語を第１言語とする人びとが間違いやすい英語表現を正すことを通して、読解やリスニング、英作文問題に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかる。また、基本的な文法事項の復習も行う。		
教材（教科書）	Mark Thompson, Toshihiro Tanioka 著. Say It Right in English 『ネイティブが気になる日本人の英語』（英宝社，￥1900）．その他プリント教材		
教材（参考資料）	英和、和英、英英辞書など		
教育方法	授業は演習方式で進められる。毎回の授業で取り上げるトピックについてあらかじめ考えてきた意見を出し合った後、新出の語彙、長文読解、長文の内容に関する英語の問題、リスニング問題、内容に関するディスカッションという順番で進めてゆく。授業の最初、あるいは最後に復習／予習小テストを行うことがある。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただしこれは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではない。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につける。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につける。		
授業時間外学習	この授業では、前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行うことがある。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をすること。復習に十分な時間をかけて授業に臨んむようにする。小テストには語彙、文法問題が含まれる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参する。テキストがないと、授業内の課題を行うことができない。　テキスト　を持参しなかった場合は減点とする。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機能を授業中　　に使用することはできない。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用すること。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修すること。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験すること。

授業スケジュール

次の各項目を、約 1 回の授業で学習する。但し、授業の進度によって変更になることがある。授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行うことがある。

1. Unit 1:　Mansion (be 動詞)
2. Unit 2:　Repeater 〔動詞①（現在)〕
3. Unit 3:　Talent 〔動詞②（過去・未来)〕
4. Unit 4:　Service （助動詞）
5. Unit 5:　OL & Businessman （進行形）
6. Unit 6:　Challenge （受動態）
7. Unit 7:　Claim （現在完了形）
8. Unit 8:　Manner Up （不定詞）
9. Unit 9:　I Cut My Hair （比較①）
10. Unit 10: Hearing & Listening （比較②）
11. Unit 11: Rent & Borrow （関係代名詞）

12.Unit 12: Trip, Tour, Travel （形容詞と副詞）
13.Unit 13: Customer, Guest, Client （分詞と動名詞）
14.Unit 14: Pay, Wage, Salary （前置詞）
15.Unit 15: Cost, Price, Fee, Fare （否定）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220172
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
授業概要	比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という４技能の活用力を養成する。この授業は日本語を第１言語とする人びとが間違いやすい英語表現を正すことを通して、読解やリスニング，特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（教科書）	Mark Thompson, Toshihiro Tanioka 著. Say It Right in English 『ネイティブが気になる日本人の英語』（英宝社 1900 円）		
教材（参考資料）	プリント、英和、和英、英英辞書など 。毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教育方法	必要に応じて音声 CD を使用します。講義は可能な限り簡単な英語で行い、難しいところは日本語で説明をします。質問や答えするときは間違いを恐れることなく英語で話すようにしてもらいます。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の文化紹介文等を通して生活に必要な常識と英語力を身につけます。		
授業時間外学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

授業スケジュール

次の各項目を、約１回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Mansion (be 動詞)
2. Unit 2: Repeater 〔動詞①（現在)〕
3. Unit 3: Talent 〔動詞②（過去・未来)〕
4. Unit 4: Service （助動詞）
5. Unit 5: OL & Businessman （進行形）
6. Unit 6: Challenge （受動態）
7. Unit 7: Claim （現在完了形）
8. Unit 8: Manner Up （不定詞）
9. Unit 9: I Cut My Hair （比較①）
10. Unit 10: Hearing & Listening （比較②）
11. Unit 11: Rent & Borrow （関係代名詞）
12. Unit 12: Trip, Tour, Travel （形容詞と副詞）

13.Unit 13: Customer, Guest, Client （分詞と動名詞）
14.Unit 14: Pay, Wage, Salary （前置詞）
15.Unit 15: Cost, Price, Fee, Fare （否定）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220173
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	総合英語 A
授業概要	「総合英語Ⅰ」は、大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化を図りながら、英語コミュニケーションに必須の語彙や文法の知識をさらに多く習得して、英文の読解や聴解の力量を高めていく科目である。平易な総合英語教材を使用し、発表や課題をこなす演習に取り組んで「読む、書く、聞く、話す」の4技能の基礎力を固め、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある注意事項や通知などを理解できる英語力を身につけていく。 このクラスでは、元々の意味とは違う意味で日本人が用いている「英語」本来の意味や表現を学ぶことを契機として、各種の演習を行い、大学基礎レベルでの英語力の強化を図っていく。		
教材（教科書）	Mark Thompson & Toshihiro Tanioka、Say It Right in English （『ネイティブが気になる日本人の英語』)、英宝社、1,900 円		
教材（参考資料）	1．ハンドアウト（プリント）教材 2．英和辞典などの英語の辞書		
教育方法	1．名簿順指名での発表： 名簿順に指名して問題への答えや音読などを求めていく。予習不足で直ぐに答えられない場合は「パス」とはっきり申し出ること。発表があれば、正誤に関わらず発表点を記録する。 2．指名に基づかない発表： クラス全体に問いかけることがある。その場合は、複数の受講生が一斉に答えてよい。所定（通常、小テスト）の用紙に、発表回数（1／3／5回以上）を誠実に自主申告する。 3．小テスト用紙の提出： 通常、教科書のいずれかの演習問題を小テストとする。用紙は、出席の最終確認の用紙でもあるため、提出を怠ると欠席となる。 4．時間の都合上、授業では教科書の演習を省略することがある。		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに2回の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は59点以下の不合格となる。また、たとえ1回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
授業時間外学習	各回とも、 1．出版社ホームページより音声データを各自ダウンロードし、再生して活用すること。 2．次回授業で取り扱う Unit を確認し、その Passage の音声を聴いた後、何十回も音読する。 3．音声を聴き、Listening Comprehension の問題を解く。 4．Writing Exercise の 1〜3 の問題を解く。 5．「ミニ英会話」の音声を聴き、A または B になり切って対話練習を行う。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。 2．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。 3．可能な限り大きな声を出して英文を何度も音読し、諳んじられるようにすること。 4．英検や TOEIC?などの英語資格試験の受験に挑戦すること。			

授業スケジュール
１回の授業で１つの Unit を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。 １．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 1: Mansion、be 動詞 ２．Unit 2: Repeater、動詞①（現在） ３．Unit 3: Talent、動詞②（過去、未来） ４．Unit 4: Service、助動詞 ５．Unit 5: OL & Businessman、進行形 ６．授業内課題１、Unit 6: Challenge、受動態 ７．Unit 7: Claim、現在完了 ８．Unit 8: Manner Up、不定詞 ９．Unit 9: I Cut My Hair、比較① 10．Unit 10: Hearing & Listening、比較② 11．Unit 11: Rent & Borrow、関係代名詞 12．Unit 12: Trip, Tour, Travel、形容詞と副詞 13．授業内課題、Unit 13: Customer, Guest, Client、分詞と動名詞 14．Unit 14: Pay, Wage, Salary、前置詞 15．Unit 15: Cost, Price, Fee, fare、否定

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220174
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	総合英語 A
授業概要	「総合英語Ⅰ」は、大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化を図りながら、英語コミュニケーションに必須の語彙や文法の知識をさらに多く習得して、英文の読解や聴解の力量を高めていく科目である。平易な総合英語教材を使用し、発表や課題をこなす演習に取り組んで「読む、書く、聞く、話す」の4技能の基礎力を固め、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある注意事項や通知などを理解できる英語力を身につけていく。 このクラスでは、英語圏に留学した際に想定される日常的なさまざまな場面でよく使われる英語表現の習得を軸として、各種の演習に取り組み、大学基礎レベルでの英語力の強化を図っていく。		
教材（教科書）	Kiyoshi Yukitoki, Junko Nagata & Antony J. Parker、First Time Studying Abroad （『初めての英会話コミュニケーション留学編』)、松柏社、1,900 円		
教材（参考資料）	1．ハンドアウト（プリント）教材 2．英和辞典などの英語の辞書		
教育方法	1．名簿順指名での発表： 名簿順に指名して問題への答えや音読などを求めていく。予習不足で直ぐに答えられない場合は「パス」とはっきり申し出ること。発表があれば、正誤に関わらず発表点を記録する。 2．指名に基づかない発表： クラス全体に問いかけることがある。その場合は、複数の受講生が一斉に答えてよい。所定（通常、小テスト）の用紙に、発表回数（1／3／5回以上）を誠実に自主申告する。 3．小テスト用紙の提出： 通常、教科書のいずれかの演習問題を小テストとする。用紙は、出席の最終確認の用紙でもあるため、提出を怠ると欠席となる。 4．時間の都合上、授業では教科書の演習を省略することがある。		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに2回の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は59点以下の不合格となる。また、たとえ1回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
授業時間外学習	各回とも、 1．出版社ホームページより音声データを各自ダウンロードし、再生して活用すること。 2．次回授業で取り扱う Unit を確認し、先ず Words & Phrases の問題を解く。 3．次に音声データを再生して聴き、Warm-up の空所を補充する。 4．同様に Exercises 1-4 も音声を聴き、英文を完成させたり、空所を補充したりした後、問題にも答えておく。 5．Challenge Corner の問題に取り組むのは時間に余裕がある場合でよいが、上記2～4の事前学習は必須である。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。必要な教材を持たずに授業出席することは認めない。 2．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。 3．可能な限り大きな声を出して英文を何度も音読し、諳んじられるようにすること。			

4．英検や TOEIC?などの英語資格試験の受験に挑戦すること。

授業スケジュール

１回の授業で１つの Unit を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 1: On Cloud Nine （飛行機内では）
2．Unit 2: San Francisco, Here I am! （到着後の空港では）
3．Unit 3: A Warm Welcome （日常会話＋SNS で）
4．Unit 4: Up and Down the Hills （日常会話－その２）
5．Unit 5: A Little Cold for Summer （日常会話－その３）
6．Unit 6: Now I'm a International Student （自己紹介では）
7．授業内課題１、Unit 7: I'd Like to Know a Bit More about You （お互いの出身地などを質問し合うには）
8．Unit 8: Getting Around La-La Land （日常会話－観光 その１）
9．Unit 9: You Sure Like sports! （日常会話－スポーツ）
10．Unit 10: At a Restaurant （レストランでは）
11．Unit 11: I'm Not Feeling Well （体調を崩したら）
12．Unit 12: Day Trip to San Diego and Tijuana （日常会話－観光 その２）
13．Unit 13: Let's Hit the Beach! （日常会話－観光 その３）
14．授業内課題２、Buying Gifts （ショッピングでは）
15．Unit 15: Farewell to My Friends （帰国する）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JC1220175
科目名	総合英語Ⅰ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
授業概要	このクラスは、グローバルコースおよびプレースメントテストによって選抜された優秀なバイオ環境学部生および人文学部心理学科生を対象とした１回生向けの必修科目です。 受講生の皆さんは、中級程度の総合英語教材を使用することにより、英語を読み、書き、聞き、話すための基本的な力を育成することができます。 この授業では、Reading Choice（センゲージラーニング社） を用いて英語の４技能を高めます。このテキストは評論やエッセイなどの長い文章を要点を把握しながら読み進める読解力を身につけるために、パラグラフリーディングの手法を学ぶ中級向けのリーディング教材です。 まず、「パラグラフごとの内容を理解する」ということに主眼を置き、パラグラフごとのトピックや内容理解を確認しながら学修を進めていきます。選択問題や穴埋め問題も多くあり、学生が自ら問題に取り組み、答えを見つけ、スピーディに情報を整理できるようになっています。 一通りパラグラフを読んだ段階で、文章全体の流れを確認するための問題に取り組みます。 これらの作業に繰り返し取り組んでいけば、徐々に大学生として英文を読むための基礎力が身につき、書き、聞き、話すための力を身につけることができます。 本書には、「時間厳守の意味」「ライフスタイルと食生活の変遷」「技術の進歩が家族の時間を奪う」医療技術の発達:ロボットが命を奪う」といって身近な話題から現代の科学技術に関するものまでまで幅広い話題が取り上げられています。 授業や自律学習を通じて、英語を総合的に理解し、英語によるコミュニケーション能力を高めて欲しいと願っています。 なお、定員は３０名です。		
教材（教科書）	Reading Choice （センゲージ・ラーニング）		
教材（参考資料）	辞書（英和、英英辞典など）。 「総合英語 FACTBOOK」（桐原書店）は文法項目の確認に最適な参考書であり、購読を推奨します。なお、亀岡キャンパス図書館にも設置してあります。		
教育方法	テキストには CD がついていませんが、テキスト購入者は無料で音声をダウンロードできるようになっています。ぜひとも PC やスマートホンにダウンロードして、日々のリスニングに活用してください。 毎回の授業では、最初に事前学修として自宅で行った練習問題の解答と解説を行い、その後にテキスト内容の確認を行います。したがって、授業の予習は不可欠です。がんばって取り組んでください。授業は、できるだけ指名ではなく挙手によって進める予定です。受講者のみなさんが積極的に参加できるような教育環境にし、アクティブラーニング方式で行います。		
評価方法	「総合英語Ⅰ」では、授業中の発表など授業参加（10%）、課題提出（30%）、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	受講生は、中学や高校で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得して活用できるようになれます。日常的な話題および社会の身近な問題について、読み、書き、聞き、話すことができる英語力を身につけることができます。春学期修了までに英検準２～２級レベルの英語力を獲得できることを目標とします。		
授業時間外学習	まず４月の授業が始まるまでに、中学校や高校で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。 授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、毎回の授業の前に、当日の unit に関する事前学修として、京学なびを通じて練習問題等の課題の提出を求めます。授業ではその解答を確認し、何を理解できていて、まだ何が理解できていないのかを確認してから授業に入ります。 授業は、全員が何らかのタスクを行うアクティブラーニング方式ですすめたいと思っています。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 ③英語学習のための設備がある学志館１階「セルフラーニング室」をできるだけ活用し、自律学習に励んでください。
授業スケジュール
初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。 第１回　Introduction 第２回 ＆ 第３回　A Cultural Difference: Being on Time　（時間厳守の意味:その文化的差異） 第４回 ＆ 第５回　Changing Lifestyles and New Eating Habits　（ライフスタイルと食生活の変遷） 第６回　Technology Competes for Family Time　（技術の進歩が家族の時間を奪う） 第７回　Language: Is it Always Spoken?　（言語とは話すだけのもの？） 第８回　前半の授業の振り返りおよび反転学習 第９回　Loneliness: How Can We Overcome It?　（人は孤独をどのように克服するのか？） 第 10 回　The Importance of Grandmothers　（祖母の存在の重要性） 第 11 回　The Reliability of Eyewitnesses　（目撃者の信頼性） 第 12 回　Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System　（推定無罪:アメリカの刑事裁判制度） 第 13 回　Solving Crimes with Modern Techonology　（現代科学が犯罪を暴く） 第 14 回　Ancient Artifacts and Ancient Air　（遺物に密封された古代の空気） 第 15 回　後半の授業の振り返りおよび反転学習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220176
科目名	総合英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
授業概要	比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という４技能の活用力を養成する。この授業は日本語を第１言語とする人びとが間違いやすい英語表現を正すことを通して、読解やリスニング，特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（教科書）	Mark Thompson, Toshihiro Tanioka 著. Say It Right in English 『ネイティブが気になる日本人の英語』（英宝社 1900 円）		
教材（参考資料）	プリント、英和、和英、英英辞書など　。毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教育方法	必要に応じて音声 CD を使用します。講義は可能な限り簡単な英語で行い、難しいところは日本語で説明をします。質問や答えするときは間違いを恐れることなく英語で話すようにしてもらいます。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の文化紹介文等を通して生活に必要な常識と英語力を身につけます。		
授業時間外学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

授業スケジュール

次の各項目を、約１回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Mansion (be 動詞)
2. Unit 2: Repeater 〔動詞①（現在)〕
3. Unit 3: Talent 〔動詞②（過去・未来)〕
4. Unit 4: Service （助動詞）
5. Unit 5: OL & Businessman （進行形）
6. Unit 6: Challenge （受動態）
7. Unit 7: Claim （現在完了形）
8. Unit 8: Manner Up （不定詞）
9. Unit 9: I Cut My Hair （比較①）
10. Unit 10: Hearing & Listening （比較②）
11. Unit 11: Rent & Borrow （関係代名詞）
12. Unit 12: Trip, Tour, Travel （形容詞と副詞）

13.Unit 13: Customer, Guest, Client （分詞と動名詞）
14.Unit 14: Pay, Wage, Salary （前置詞）
15.Unit 15: Cost, Price, Fee, Fare （否定）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220177
科目名	総合英語Ⅰ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅰ		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
授業概要	この授業では、TOEFL の形式に基づいた読解、リスニング、文法の英語教材を使用し、比較的高度な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成する。英語の文章の読解を通して、内容把握、要約、英作文の練習などを行う。また、音声 CD を利用してリスニング問題、それを基にしたペアワークなどにも取り組み、英語によるコミュニケーション力の向上を目指す。		
教材（教科書）	Tadayoshi Kaya, Bill Benfield 著. Get Ready for the TOEFL Test. 成美堂. 2300 円（税別）		
教材（参考資料）	英和、和英、英英辞書など		
教育方法	授業は演習方式で進められる。毎回の授業で、それぞれ定められたトピックに基づいて、TOEFL の形式に準じて、新出の英語の語彙、英語対話および文章のリスニング問題、英語文法および語法の問題、英語長文読解という順番で進めてゆく。授業の最初、あるいは最後に復習／予習小テストを行うことがある。		
評価方法	授業内テスト （小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただしこれは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではない。なお、20 分以上の遅刻、無断の途中退出は欠席扱いとする。また、教科書を持参しなかった場合は、最終評価から 1 点ずつの減点とする。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につける。英語の簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につける。終了までに実用英語検定 2 級程度、TOEFL 450 点程度の英語力を身に付けることを目指す。		
授業時間外学習	この授業では、前回の授業で学んだ内容についての小テストあるいはクイズを、各授業の初めに行うことがある。そのテストの準備、及び授業中に解答するべき問題の準備のため、十分に予習復習をして授業に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参する。テキストがないと、授業内の課題を行うことができない。テキストを　持参しなかった場合は減点とする。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参すること。携帯電話の辞書機能を授業中に
　使用することはできない。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用すること。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修する。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験すること。

授業スケジュール

次の各項目を、約 1 回の授業で学習する。ただし、授業の進度によって変更になることがある。授業の初めに前回までの授業内容の確認テストを行うことがある。

1. Unit 1: Campus Life
　　語彙選択問題の対処法（1) / トピック聴きとり問題の対処法 / 論理的な話し方
2. Unit 2: Music, Arts, and Literature
　　語彙選択問題の対処法（2) / 人物の立場の明確化 / 論理的に書く
3. Unit 3　Medicine and Health:
　　選択問題の対処法（1) / 話題の流れを捉える / Speaking での話題展開方法（1）
4. Unit 4: Environment
　　選択問題の対処法（2) / Listening での選択問題の対処法 / Writing での話題展開方法（1）
5. Unit 5: Botany
　　選択問題の対処法（3) / Listening Section の聴き方 / 副詞を活用しよう

6. Unit 6: Education
内容把握のテクニック（1）/ メモの取り方（1） / Writing での話題展開方法（2）
7. Unit 7: Global Climate
内容把握のテクニック（2）/ メモの取り方（2） / Speaking での話題展開方法（2）
8. Unit 8: Earth Science
センテンス挿入問題の対処法 / メモの取り方（3） / 効果的な Writing (1)
9. Unit 9: Astronomy
パラグラフごとに内容を整理 / ワーキングメモリーを活用しよう / 効果的な Speaking
10.Unit 10: History
Reading の内容を分類する問題の対処法（1）/ 話の流れから、次の流れを予測する / 効果的な Writing (2)
11. Unit 11: Anthlopology and Archaeology
Reading の内容を分類する問題の対処法（2）/ 学術的な内容には語彙力が不可欠
Speaking の Integrated Tasks の解き方（1）
12.Unit 12: Philosophy
Reading に必要な読む速度 / 人名や地名の発音に注意する/ Writiing の Integrated Tasks の解き方（1）
13.Unit 13: Psychology
Reading の要約問題の対処法 / Listening のテストを受けるときの注意点（1）
Speaking の Integrated Tasks の解き方（2）
14.Unit 14: Biology
Reading の問題を解く時の注意点/ Listening のテストを受けるときの注意点（2）
Writiing の Integrated Tasks の解き方（2）
15.Unit 15: TOEFL Test 総復習 模擬試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220201
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
授業概要	「総合英語 I 」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語 I」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（教科書）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円.		
教材（参考資料）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教育方法	必要に応じて音声 CD を使用します。講義は可能な限り簡単な英語で行い、難しいところは日本語で説明をします。質問や答えするときは間違いを恐れることなく英語で話すようにしてもらいます。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこ れは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
授業時間外学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

授業スケジュール

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「8 月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220202
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ｉ」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる増強をはかり、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の４技能の基礎力をさらに発展させる。「総合英語Ｉ」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力をさらに向上させることを目指す。 このクラスでは、英語に馴染むことを第一目的として音読を軸とした演習を行うとともに、併せて基本英文法の復習をしながらも将来のビジネスの現場で多少とも役立つ英語表現の習得を図っていく。		
教材（教科書）	Teruhiko Kadoyama & Simon Capper、Let's Read Aloud More!　(『音読で極める基礎英語』)、成美堂、2,200 円		
教材（参考資料）	１．ハンドアウト（プリント）教材 ２．英和辞典などの英語の辞書		
教育方法	１．名簿順指名での発表： 名簿順に指名して問題への答えや音読などを求めていく。予習不足で直ぐに答えられない場合は「パス」とはっきり申し出ること。発表があれば、正誤に関わらず発表点を記録する。 ２．指名に基づかない発表： クラス全体に問いかけることがある。その場合は、複数の受講生が一斉に答えてよい。所定（通常、小テスト）の用紙に、発表回数（１／３／５回以上）を誠実に自主申告する。 ３．小テスト用紙の提出： 通常、教科書のいずれかの演習問題を小テストとする。用紙は、出席の最終確認の用紙でもあるため、提出を怠ると欠席となる。 ４．時間の都合上、授業では教科書の演習を省略することがある。		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ１回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	１．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 ２．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および口頭や文章で伝達する力を身につける。		
授業時間外学習	各回とも、 １．音声ファイルについては、教科書に記載のサイトより（無料）ダウンロードし、再生して活用する。 ２．WARM-UP では、"Vocabulary Preview"の問題に解答し、かつ、 "Grammar Point"をよく読んでおく。 ３．次は GRAMMAR の頁に進み、A と B の問題だけは解いておく。 ４．LET'S CHECK & READ ALOUD! の頁に戻り、音声を聴いて空所を補充する。 ５．最後に LET'S READ! の頁で、枠内の英文（パッセージ）を何十回も音読する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。必要な教材を持たずに授業出席することは断じて認めない。 ２．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。 ３．可能な限り大きな声を出して英文を何度も音読し、諳んじられるようにすること。 ４．英検や TOEIC?などの英語資格試験の受験に挑戦すること。			

授業スケジュール

１回の授業で 1 つの Unit を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 01: This is my first visit there. 、現在形・過去形 1
2．Unit 02: How do you like Bangkok?、現在形・過去形 2
3．Unit 03: It's going well so far.、進行形・未来形
4．Unit 04: Have they decided on the design yet?、現在完了形
5．Unit 05: Could you take a look at them?、助動詞
6．授業内課題 1 、Unit 06: My flight was cancelled.、受動態
7．Unit 07: What do you want me to do?、不定詞
8．Unit 08: She knows marketing very well.、関係詞 1
9．Unit 09: Thank you for coming to our interview.、動名詞
10．Unit 10: The competition will be very strong.、形容詞・副詞
11．Unit 11: This is where we hold meetings.、関係詞 2
12．Unit 12: I'd like to talk about our latest model.、分詞
13．授業内課題 2 、Unit 13: You are much better than me.、比較
14．Unit 14: If I were you, I wouldn't miss it.、仮定法
15．Unit 15: I'd like to propose a toast.、接続詞・前置詞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2018	授業コード	JC1220203
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	総合英語Ⅰに引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検やTOEICといった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第3版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の3分の2以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検やTOEICといった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検やTOEICの教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220204
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	村上　陽香	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ⅰ」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」の4技能の基礎力をさらに発展させることを目指し、受講生への課題、発表を含む演習を実施する。「総合英語Ⅰ」に引き続き、英語圏での生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解出来る力をさらに向上させることを目指す。		
教材（教科書）	Akira Morita, Makiko Lio, Takehiro Hashimoto, 他, 著 Target!: Elementary（金星堂） その他プリント教材		
教材（参考資料）	英和、和英、英英辞書などを持参してください。予習・復習でも使用すること。 電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能は使用不可です。		
教育方法	テキストに沿ってユニットの内容を確認し、問題演習やペアワークなどを行います。 随時、音声 CD を用います。		
評価方法	授業内テスト（小テスト含む）70%、予習課題・授業への参加態度 30%で総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。ただし、これは 3 分の 2 以上の出席があれば必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までに学んだ文法事項を点検しながら、英語の基礎固めを行います。英語で自分の意思を伝え、相手の意思を理解出来るようになることを目標とします。		
授業時間外学習	第二回以降、前回の授業で扱った範囲に関する小テストを行います。そのテストの準備として、学んだことを十分に復習して来てください。テストはボキャブラリーや文法問題を含みます。 また、授業の際に、次回に向けての予習箇所を課題として指定する場合があります。次回授業は該当箇所を予習済みと見なして進めますので、必ず準備した上で授業に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・授業には積極的に参加し、欠席しないよう心がけてください。遅刻や私語は進行の支障になるだけではなく、他の受講生にも迷惑をかけますので、注意してください。
・指定された予習箇所は、間違えてもいいので自分なりに必ずやって来てください。明らかに予習が行われていない場合は減点対象とします。
・英和、和英、英英辞書などを持参してください。高校時代に使用していたものがあればそれでも構いませんし、電子辞書でも構いません。ただし、携帯電話の辞書機能は使用不可です。

授業スケジュール

テキストを一回の授業あたり 1 ユニット進めていきます。
第二回以降、前回授業の内容に関する小テストを行います。

第一回：イントロダクション/In Your Free Time
　　「基本的な数字の聞き取り」＆「be 動詞と一般動詞」
第二回：Communication Skills
　　「時間・日付・年号の聞き取り」＆「代名詞」
第三回：World Languages and Cultures
　　「聞き分けにくい音の聞き取り」＆「否定文」
第四回：Healthy Body, Healthy Mind
　　「カタカナ語とのギャップ」＆「疑問文の基本」
第五回：Carrers Nowadays
　　「短縮形の聞き取り」＆「過去形の基本」
第六回：Fashion Trends

「つながる音」＆「進行形の基本」
第七回：Planning a Trip Abroad
「消える音」＆「未来を表す表現」
第八回：Are You into Sports?
「イントネーション（上昇・下降)」＆「現在完了」
第九回：Parties Are a Lot of Fun!
「写真や絵を見ながらの聞き取り」＆「助動詞の基本」
第十回：Art in Our Life
「挨拶文の聞き取り」＆「動名詞の基本」
第十一回：What Shall We Eat?
「誘う時の表現」＆「不定詞（名詞的用法)」
第十二回：What Makes a Good Company?
「依頼する時の表現」＆「不定詞（形容詞/副詞的用法)」
第十三回：Advances in Science
「Yes/No 疑問文とその答え方」＆「受動態の基本」
第十四回：Life with Technology
「Wh-疑問文とその答え方」＆「前置詞の基本」
第十五回：Eco-Friendly Life/まとめ
「付加疑問文の聞き取り」＆「接続詞の基本」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JC1220205
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
授業概要	「総合英語 I 」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語 I」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（教科書）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円.		
教材（参考資料）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教育方法	必要に応じて音声 CD を使用します。講義は可能な限り簡単な英語で行い、難しいところは日本語で説明をします。質問や答えするときは間違いを恐れることなく英語で話すようにしてもらいます。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこ れは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
授業時間外学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

授業スケジュール

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「8 月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220207
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	多くの人が関心を持つ食文化や食べ物に関する英文を読み、基礎的なリーディング力、語彙力、ライティング力を獲得することを目指す。		
教材（教科書）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著 『A Taste of English:　Food and Fiction』（フィクションにみる食文化） 朝日出版社 ￥１，７００ プリントを使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。 Chapter によっては一部ＤＶＤで関連部分を鑑賞する。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な単語、文法事項を学習し、読解、語彙、英作等の英語の総合力を向上させる。食文化を通して海外の文化への理解を深める。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

授業スケジュール

１回目
テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。すべては出来ないので、クラスで希望の多い Chapter からやる。
以下各回の内容を記すが、進度・課は大幅に変わる可能性があるので
あくまで暫定的なものと承知しておいてもらいたい。

２回目
Chapter1　Harry Potter and Chocolate Frogs　本文、他の練習問題

３回目
Chapter2 Peter Rabbit and Pie　　語彙・文法
Chapter 3 Mrs. Rabbit and Herb Tea　　語彙・文法と本文

４回目
Chapter 3　本文残りと他の練習問題
Chapter 4 Winnie-the-Pooh and Honey　語彙・文法と本文

５回目
Chapter 4　本文残りと他の練習問題
Chapter5　 Daddy-Long-Legs and Ice Cream の語彙・文法と本文

６回目
Chapter 5　本文残りと他の練習問題
Chapter 6　Kenji Miyazawa and Tomatoes の語彙・文法と本文

７回目
Chapter 6 の本文残りと他の練習問題

８回目
Chapter 1-6 の復習と理解度テスト

９回目
Chapter 9　East of Eden and Lettuce　 Chapter9 の語彙・文法と本文

１０回目
Chapter 9 の本文残りと他の練習問題
Chapter 10 Laura and Cheese-Making on the Prairie の語彙・文法と本文

１１回目
Chapter 10 の本文残りと他の練習問題
Chapter 11 Breakfast and Tiffany's の語彙・文法と本文

１２回目
Chapter11 の本文残りと他の練習問題
Chapter 12 "Mujina" and "Soba"の語彙・文法と本文

１３回目
Chapter12 の本文残りと他の練習問題
Chapter 13 Bridget Jones and Dieting の語彙・文法と本文

１４回目
Chapter 13 の本文残りと他の練習問題

１５回目
Chapter　８－１３の復習と理解度テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1220208
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ⅰ」を継承、発展させた演習を行う科目である。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語コミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる増強をはかり、発表や課題をこなす演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の4技能の基礎力をさらに発展させる。「総合英語Ⅰ」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある注意事項や通知などを理解できる英語力をさらに向上させることを目指す。 このクラスでは、健康と環境を話題としたVOA（Voice of America）のニュース英文に学び、英語リスニング力の向上をはかりながら、同時にバイオ環境学の分野において不可欠な英語表現を学んでいく。		
教材（教科書）	Seisuke Yasunami & Richard S. Lavin、Living for Tomorrow: Health & Environment Topics from VOA、松柏社、1,800円		
教材（参考資料）	1．ハンドアウト（プリント）教材 2．英和辞典などの英語の辞書		
教育方法	1．名簿順指名での発表： 名簿順に指名して問題への答えや音読などを求めていく。予習不足で直ぐに答えられない場合は「パス」とはっきり申し出ること。発表があれば、正誤に関わらず発表点を記録する。 2．指名に基づかない発表： クラス全体に問いかけることがある。その場合は、複数の受講生が一斉に答えてよい。所定（通常、小テスト）の用紙に、発表回数（1／3／5回以上）を誠実に自主申告する。 3．小テスト用紙の提出： 通常、教科書のいずれかの演習問題を小テストとする。用紙は、出席の最終確認の用紙でもあるため、提出を怠ると欠席となる。 4．時間の都合上、授業では教科書の演習を省略することがある。		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに2回の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ1回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。 3．「総合英語Ⅰ」に続き、バイオ環境の分野において必要な基礎的な英語の語彙をさらに多く習得する。		
授業時間外学習	各回とも、 1．教科書に記載のサイトより先ず音声ファイルをダウンロードしておく。これは必須である。 2．次回授業で取り扱う Unit を確認し、ダウンロードした音声ファイルでそのニュースを何度も聴いて Text の空所を補充しておく。 3．Vocabulary、Summary Check、True or False、Vocabulary Buildings の問題には必ず解答しておく。いずれかを小テスト問題として利用する。 4．時間的な都合により、通常、Useful Expressions、Translations の演習は省略するが、小テスト問題などに利用することがある。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。 2．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。			

３．英検や TOEIC?などの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。

授業スケジュール

１回の授業で h１つの Unit を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。

１．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 1: A Pain in the Neck
２．Unit 2: Why is that Farm Floating?
３．Unit 3: Did You Forget to Eat Some Chocolate?
４．Unit 4: Where are All the Birds?
５．Unit 5: Print My Heart Out, Would You?
６．Unit 6: Fishing for an Image
７．授業内課題１、Unit 7: Healing by Magic
８．Unit 8: A Doctor for the Planet
９．Unit 9: Forgetting Alzheimer's
10．Unit 10: Are You Anti-antibiotics?
11．Unit 11: No Flying, No Jet Lag?
12．Unit 12: May the Force be with the Hippos
13．Unit 13: Robots and Drugs
14．授業内課題２、Unit 14: It's Too Light Here!
15．Unit 15: How Bad is a Western Diet?

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220209
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	越間　将平	旧科目名称	
授業概要	この授業では、総合英語Ⅰに引き続き、比較的平易な英語で書かれたテキストの学習を通じて、英語の基礎となる語彙や文法の定着を図り、読解力と聴解力の向上を目指していきます。日常的な場面や異国の文化を題材とした文章に触れ、英語に対する理解を深めていきます。		
教材（教科書）	靜哲人，望月正道，熊澤孝昭. Ambitions: Elementary（金星堂）		
教材（参考資料）	英語の学習には辞書が必要です。授業の時は辞書を持参するようにしましょう。電子辞書でも構いません。		
教育方法	授業は基本的にテキストに沿って進めます。授業担当者による説明と、受講者による問題への取り組み、発表（質問に対する回答等）が含まれます。		
評価方法	授業内テスト 70%、課題・授業への参加状況 30%の割合で総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	英語の基礎となる語彙や文法の定着を図り、読解力と聴解力の向上を目指す。		
授業時間外学習	授業では毎回小テストを実施します。授業で学んだ内容を復習するようにしましょう。詳しくは授業中に説明します。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
公欠等で、授業を欠席・遅刻する場合は、事前に授業担当者へお知らせください。			
授業スケジュール			
※2 度の授業で 1 ユニット分を学んでいくことを目標とします。（進捗状況によって変更する可能性もあります）。 1.イントロダクション（授業概要や評価方法に関する説明を行います） Unit 1 Cross-Cultural Understanding（強く発音される語を聞き取る / 文の主語を見つける ） 2. Unit 1 Cross-Cultural Understanding（強く発音される語を聞き取る / 文の主語を見つける ） 3. Unit 2 Foods（語順のまま理解する / 文の動詞を見つける） 4. Unit 2 Foods（語順のまま理解する / 文の動詞を見つける） 5. Unit 3 Foreign Language Learning（消えるｔとｄを聞き取る / 動詞の目的語を見つける） 6. Unit 3 Foreign Language Learning（消えるｔとｄを聞き取る / 動詞の目的語を見つける） 7. Unit 4 Sports（似た音に注意して聞き取る / 補語を見つける） 8. Unit 4 Sports（似た音に注意して聞き取る / 補語を見つける） 9. Unit 5 Fashion（n でつながる語句を聞き取る / 何の代わりかを見抜く[代名詞]） 10. Unit 5 Fashion（n でつながる語句を聞き取る / 何の代わりかを見抜く[代名詞]） 11. Unit 6 Living Things（弱い can を聞き取る / 「to＋動詞」を理解する[不定詞]） 12. Unit 6 Living Things（弱い can を聞き取る / 「to＋動詞」を理解する[不定詞]） 13. Unit 7 Art（話の展開を予測する / 「動詞＋ing」を理解する[動名詞]） 14. Unit 7 Art（話の展開を予測する / 「動詞＋ing」を理解する[動名詞]） 15. Unit 8 Global Issues（強弱のリズムに慣れる / 主語が「されること」を理解する[受動態]）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220210
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	総合英語Ⅰに引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検やTOEICといった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第3版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の3分の2以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検やTOEICといった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検やTOEICの教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220212
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	総合英語Ⅰに引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検やTOEICといった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第3版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の3分の2以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検やTOEICといった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検やTOEICの教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220214
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	中山　大輝	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ｉ」を発展させたこの授業では、平易な総合英語教材を使用し、基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化を図るとともに、「読む、書く、聞く、話す」の４技能を総合的に養成します。音声 CD を使用してリスニング問題に取り組み、「聞く」能力を向上させながら、リスニングのポイントをおさえます。また、少し長めの文章を読み、内容を理解し、要約できるようにします。そして、ペアワークやディスカッションなどの活動に取り組むことにより、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指します。		
教材（教科書）	熊澤孝昭、靜哲人、望月正道（著）『AMBITIONS: Pre-intermediate』、金星堂 ISBN:978-4-7647-4055-6		
教材（参考資料）	授業中に適宜、指示します。 毎回の授業に、辞書（英和・和英など）と文法書を持参してください。ただし、携帯電話、スマートフォンを辞書として使用することはできません。		
教育方法	授業中に音声 CD を使用します。 また、この授業は主に演習方式で進められ、一部ペアワークやグループディスカッションなどが行われます。		
評価方法	以下の基準に基づいて総合的に評価します。 （１）平常点（授業内小テストや授業への積極的参加など）：４５点 （２）定期試験：５５点 ただし、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となります。		
到達目標	講義概要で記載した内容に即して、以下の内容ができるようになることを目指します。 （１）少し長めの文章を理解し、要約できるようになる （２）ダイアログなどの会話が聞き取れるようになる （３）自分の意見を英語で書けるようになる （４）（３）で書いた内容を英語で話せるようになる		
授業時間外学習	詳しい予復習の方法は授業内で指示しますが、この授業では毎回の授業開始時に前回の授業内容の確認テスト（授業内小テスト）を行いますので、授業で学習した内容の復習をしてください。また、予習として、次回授業時に扱う UNIT の指示された範囲をあらかじめ解答しておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（１）語学学習には継続的な学習が不可欠です。欠席や遅刻は極力しないでください。
（２）この授業では、毎週予習課題を指示するとともに、授業開始時に前回の授業内容の確認テスト（授業内小テスト）を行います。継続的な予復習に努めてください。
（３）教材（参考文献）欄に記載したように、毎回の授業に辞書（英和・和英など）と文法書を持参してください。なお、文法書は高等学校で使用したものでも構いません。
（４）（１）で記載したように、当科目のみならず、英語の勉強を自主的に行ってください。
（５）TOEIC や実用英語技能検定など、外部検定試験を積極的に受験してください。

授業スケジュール

各項目を、約１回の授業で消化していきます。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。初回授業時に具体的な予復習の方法を指示しますので、初回授業時に教科書を持参してくることを強く推奨します。

Unit 1: Cross-Cultural Understanding
仮主語 it / 強く発音される語を聞き取る
Unit 2: Foods
後置修飾 / 語順のまま理解する
Unit 3: Foreign Language Learning
仮定法 / 消える t と d を聞き取る
Unit 4: Sports

並列① / 弱い can を聞き取る
Unit 5: Fashion
並列② / 弱い that を聞き取る
Unit 6: Living Things
多義語 / n でつながる語句を聞き取る
Unit 7: Art
未知単語の推測① / 弱い of を聞き取る
Unit 8: Global Issues
未知単語の推測② / 対比による強調
Unit 9: Japanese Culture
代名詞の指示内容 / 話の展開の予測
Unit 10: Human Rights
同意表現 / のみこまれる dn を聞き取る
Unit 11: Health & Medical Issues
談話標識 / 似た音の聞き分け
Unit 12: Environmental Issues
文章展開の予測① / 強弱のリズム
Unit 13: Economy & Industry
文章展開の予測② / t でつながる語句を聞き取る
Unit 14: Legal Issues
文章展開の予測③ / 弱い for を聞き取る
Unit 15: Science & Technology
全体の要点の把握 / r でつながる語句を聞き取る

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220218
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ｉ」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる増強をはかり、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の４技能の基礎力をさらに発展させる。「総合英語Ｉ」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力をさらに向上させることを目指す。 このクラスでは、英語に馴染むことを第一目的として音読を軸とした演習を行うとともに、併せて基本英文法の復習をしながらも将来のビジネスの現場で多少とも役立つ英語表現の習得を図っていく。		
教材（教科書）	Teruhiko Kadoyama & Simon Capper、Let's Read Aloud More!　(『音読で極める基礎英語』)、成美堂、2,200 円		
教材（参考資料）	１．ハンドアウト（プリント）教材 ２．英和辞典などの英語の辞書		
教育方法	１．名簿順指名での発表： 名簿順に指名して問題への答えや音読などを求めていく。予習不足で直ぐに答えられない場合は「パス」とはっきり申し出ること。発表があれば、正誤に関わらず発表点を記録する。 ２．指名に基づかない発表： クラス全体に問いかけることがある。その場合は、複数の受講生が一斉に答えてよい。所定（通常、小テスト）の用紙に、発表回数（１／３／５回以上）を誠実に自主申告する。 ３．小テスト用紙の提出： 通常、教科書のいずれかの演習問題を小テストとする。用紙は、出席の最終確認の用紙でもあるため、提出を怠ると欠席となる。 ４．時間の都合上、授業では教科書の演習を省略することがある。		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに２回の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ１回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	１．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 ２．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および口頭や文章で伝達する力を身につける。		
授業時間外学習	各回とも、 １．音声ファイルについては、教科書に記載のサイトよりダウンロードし、再生して活用する。 ２．WARM-UP では、Vocabulary Preview の問題に解答し、かつ、Grammar Point をよく読んでおく。 ３．次は GRAMMAR の頁に進み、A と B の問題だけは解いておく。 ４．LET'S CHECK & READ ALOUD! の頁に戻り、音声を聴いて空所を補充する。 ５．最後に LET'S READ! の頁で、枠内の英文（パッセージ）を何十回も音読する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。必要な教材を持たずに授業出席することは断じて認めない。
２．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
３．可能な限り大きな声を出して英文を何度も音読し、諳んじられるようにすること。
４．英検や TOEIC?などの英語資格試験の受験に挑戦すること。

授業スケジュール
１回の授業で１つのＵｎｉｔ を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。 １．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 01: This is my first visit there. 、現在形・過去形１ ２．Unit 02: How do you like Bangkok?、現在形・過去形２ ３．Unit 03: It's going well so far.、進行形・未来形 ４．Unit 04: Have they decided on the design yet?、現在完了形 ５．Unit 05: Could you take a look at them?、助動詞 ６．Unit 06: My flight was cancelled.、受動態 ７．授業内課題１、Unit 07: What do you want me to do?、不定詞 ８．Unit 08: She knows marketing very well.、関係詞１ ９．Unit 09: Thank you for coming to our interview.、動名詞 10．Unit 10: The competition will be very strong.、形容詞・副詞 11．Unit 11: This is where we hold meetings.、関係詞２ 12．Unit 12: I'd like to talk about our latest model.、分詞 13．Unit 13: You are much better than me.、比較 14．授業内課題２、Unit 14: If I were you, I wouldn't miss it.、仮定法 15．Unit 15: I'd like to propose a toast.、接続詞・前置詞

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	★	－

年度	2018	授業コード	JC1220231
科目名	総合英語Ⅱ -s1	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「総合英語Ⅱ」では、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、英文の読解力をつける。		
教材（教科書）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。		
教材（参考資料）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
授業スケジュール			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2.〜8.　文章構成の理解を深めるとともに、不定詞、動名詞、分詞について学習する。 9.　　中間テストをする。 10.〜15.　文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞などについて学習する			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220233
科目名	総合英語Ⅱ -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	井川　浩司	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「総合英語Ⅱ」では、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、英文の読解力をつける。		
教材（教科書）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。		
教材（参考資料）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
授業スケジュール			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2.〜8.　文章構成の理解を深めるとともに、不定詞、動名詞、分詞について学習する。 9.　　中間テストをする。 10.〜15.　文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞などについて学習する			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220234
科目名	総合英語Ⅱ -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語　Ⅰ・科学英語基礎　Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

授業スケジュール

1．基本英語
2．疑問詞・特殊疑問文
3．一般・選択・付加疑問文
4．命令文・特殊な文
5．否定文
6．動名詞・不定詞
7．分詞・不定詞基本
8．総合演習（1）：基本英語～分詞・不定詞基本
9．品詞・句・節
10．目的語をとる分詞句
11．目的語をとる不定詞句
12．使役動詞と原型不定詞
13．知覚動詞
14．等位接続詞
15．総合演習（2）：品詞・句・節～等位接続詞

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1220235
科目名	総合英語Ⅱ -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語　Ⅰ・科学英語基礎　Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。

授業スケジュール

1．基本英語
2．疑問詞・特殊疑問文
3．一般・選択・付加疑問文
4．命令文・特殊な文
5．否定文
6．動名詞・不定詞
7．分詞・不定詞基本
8．総合演習（1）：基本英語～分詞・不定詞基本
9．品詞・句・節
10．目的語をとる分詞句
11．目的語をとる不定詞句
12．使役動詞と原型不定詞
13．知覚動詞
14．等位接続詞
15．総合演習（2）：品詞・句・節～等位接続詞

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1220236
科目名	総合英語Ⅱ -s(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ⅰ」に続く科目として、１回生の秋学期に開講する。「総合英語Ⅱ」では、よく使われる英語表現や関連する文法についてさらに学習し、英文の読解力をつける。		
教材（教科書）	R. Prieto, J. Sekiya 著『Road to Scientific English（科学英語への道）』（京都学園大学、バイオ環境学部）。		
教材（参考資料）	T. Kobayashi, S. M. Clankie 著『The Earth and Our Health』（成美堂）。 ライフサイエンス必須英和辞典（羊土社）。 J.H.M. Webb 著　『EARNEST 英文法・語法』（文英堂）。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	期末試験（60%）、中間テスト（20%）、実力問題、課題など（20%）の結果を総合的に評価する。		
到達目標	本講義の目的は、本学部における専門科目、また研究室に分属後の研究に関連した英語で書かれた書物、論文などを正確に理解できるようにすることである。		
授業時間外学習	予習・復習を毎回行うこと。　教科書実力問題などについて小テストを行って、次回の授業でその答え合わせをするので、復習しておくこと。講義終了時に、次回の範囲を指定するので、予習しておくこと。課題を完成させて指定期日までに提出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義に出席し、積極的に質問などをして学習することを期待する。また、英語力を試す検定試験などに積極的に挑戦してほしい。			
授業スケジュール			
1.　　ガイダンス、シラバスの説明。英語を勉強する方法など。 2.〜8.　文章構成の理解を深めるとともに、不定詞、動名詞、分詞について学習する。 9.　　中間テストをする。 10.〜15.　文章構成の理解を深めるとともに、さらに動詞、準動詞、数詞などについて学習する			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220237
科目名	総合英語Ⅱ -k(再)	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	伊東　和彦	旧科目名称	
授業概要	英語は自然科学の成果を記述するための言語として最も重要な要素をなしている。したがって，科学的情報の獲得のためにはまず最初に英語の文章構造の理解と文章解析力の修得が必要となる。この講義では『総合英語 Ⅰ・科学英語基礎 Ⅰ』を基礎として，文章構成の要素となる単語，語法，文，文法，構文などについて具体例をもとに考察する。		
教材（教科書）	萩野　敏　他　著　『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』　改訂版　文英堂（１，６００円＋税） 小西　友七　他　編　『ジーニアス英和辞典』　第５版　大修館書店（３，５００円＋税） Timothy Gowers　著　『Mathematics: A Very Short Introduction』　Oxford University Press（１，３００円＋税）		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	各回の内容を理解する上で必要となる教科書の要項に沿って解説する。さらに理解を深めるために，関連問題の演習と解答確認の時間を設ける。		
評価方法	演習課題（１００％）		
到達目標	英語の基本文法構造にもとづいた論理的な文章の解析力を修得する。		
授業時間外学習	事前に各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の要項を熟読しておくこと。事後には各単元に該当するテキスト『ＥＡＲＮＥＳＴ　英文法・語法』の問題を演習しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日常から積極的に英語の文章に接する機会を求め，辞書を引く習慣を身につけておくこと。			
授業スケジュール			
１．基本英語 ２．疑問詞・特殊疑問文 ３．一般・選択・付加疑問文 ４．命令文・特殊な文 ５．否定文 ６．動名詞・不定詞 ７．分詞・不定詞基本 ８．総合演習（１）：基本英語～分詞・不定詞基本 ９．品詞・句・節 10．目的語をとる分詞句 11．目的語をとる不定詞句 12．使役動詞と原型不定詞 13．知覚動詞 14．等位接続詞 15．総合演習（２）：品詞・句・節～等位接続詞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1220251
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
授業概要	「総合英語 I 」に引き続き、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成する。本授業では特に、イギリスの文化やしきたりについて学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかる。		
教材（教科書）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円. その他プリント教材.		
教材（参考資料）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参すること。電子辞書でも構わないが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできない。 その他授業中に指示する。		
教育方法	授業は演習方式で進められる。毎回の授業で取り上げるトピックについてあらかじめ考えてきた意見を出し合った後、平易な英語のダイアログに関するリスニング問題、英語の長文読解、長文の内容に関する英語の問題という順番で進めてゆく。授業の最初、あるいは最後に復習／予習小テストを行うことがある。		
評価方法	授業内テスト（小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただしこれは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではない。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につける。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を養う。		
授業時間外学習	この授業では、前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行うことがある。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をすること。復習に十分な時間をかけて授業に臨んむようにする。小テストには語彙、文法問題が含まれる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参する。テキストがないと、授業内の課題を行うことができない。テキストを　持参しなかった場合は減点とする。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参すること。携帯電話の辞書機能を授業中に
　使用することはできない。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用すること。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修する。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験すること。

授業スケジュール

以下の各項目を約 1 回の授業で学習する。ただし、授業の進度によって変更になることがある。

1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2 How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3 The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4 What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5 This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6 What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7 Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8 You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9. Day 9　It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10 Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11 I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」

12. Day 12 I’m Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13 Don’t You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14 Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15 That’s the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220252
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	越間　将平	旧科目名称	
授業概要	この授業では、総合英語Ⅰに引き続き、比較的平易な英語で書かれたテキストの学習を通じて、英語の基礎となる語彙や文法の定着を図り、読解力と聴解力の向上を目指していきます。日常的な場面や異国の文化を題材とした文章に触れ、英語に対する理解を深めていきます。		
教材（教科書）	靜哲人，望月正道，熊澤孝昭. Ambitions: Elementary（金星堂）		
教材（参考資料）	英語の学習には辞書が必要です。授業の時は辞書を持参するようにしましょう。電子辞書でも構いません。		
教育方法	授業は基本的にテキストに沿って進めます。授業担当者による説明と、受講者による問題への取り組み、発表（質問に対する回答等）が含まれます。		
評価方法	授業内テスト 70%、課題・授業への参加状況 30%の割合で総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	英語の基礎となる語彙や文法の定着を図り、読解力と聴解力の向上を目指す。		
授業時間外学習	授業では毎回小テストを実施します。授業で学んだ内容を復習するようにしましょう。詳しくは授業中に説明します。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
公欠等で、授業を欠席・遅刻する場合は、事前に授業担当者へお知らせください。			
授業スケジュール			
※2 度の授業で 1 ユニット分を学んでいくことを目標とします。（進捗状況によって変更する可能性もあります）。 1.イントロダクション（授業概要や評価方法に関する説明を行います） Unit 1 Cross-Cultural Understanding（強く発音される語を聞き取る / 文の主語を見つける ） 2. Unit 1 Cross-Cultural Understanding（強く発音される語を聞き取る / 文の主語を見つける ） 3. Unit 2 Foods（語順のまま理解する / 文の動詞を見つける） 4. Unit 2 Foods（語順のまま理解する / 文の動詞を見つける） 5. Unit 3 Foreign Language Learning（消えるｔとｄを聞き取る / 動詞の目的語を見つける） 6. Unit 3 Foreign Language Learning（消えるｔとｄを聞き取る / 動詞の目的語を見つける） 7. Unit 4 Sports（似た音に注意して聞き取る / 補語を見つける） 8. Unit 4 Sports（似た音に注意して聞き取る / 補語を見つける） 9. Unit 5 Fashion（n でつながる語句を聞き取る / 何の代わりかを見抜く[代名詞]） 10. Unit 5 Fashion（n でつながる語句を聞き取る / 何の代わりかを見抜く[代名詞]） 11. Unit 6 Living Things（弱い can を聞き取る / 「to＋動詞」を理解する[不定詞]） 12. Unit 6 Living Things（弱い can を聞き取る / 「to＋動詞」を理解する[不定詞]） 13. Unit 7 Art（話の展開を予測する / 「動詞＋ing」を理解する[動名詞]） 14. Unit 7 Art（話の展開を予測する / 「動詞＋ing」を理解する[動名詞]） 15. Unit 8 Global Issues（強弱のリズムに慣れる / 主語が「されること」を理解する[受動態]）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220253
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	多くの人が関心を持つ食文化や食べ物に関する英文を読み、基礎的なリーディング力、語彙力、ライティング力 を獲得することを目指す。		
教材（教科書）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著 『A Taste of English:　Food and Fiction』（フィクションにみる食文化） 朝日出版社 ￥１，７００ プリントを使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。 Chapter によっては一部ＤＶＤで関連部分を鑑賞する。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な単語、文法事項を学習し、読解、語彙、英作等の英語の総合力を向上させる。食文化を通して海外の文化への理解を深める。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
授業スケジュール			

１回目
テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。
Chapter 1 の Grammar&Vocabulary は進む予定なのでやっておいてもらいたい。
すべては出来ないので、クラスで希望の多い Chapter からやる。
以下各回の内容を記すが、進度・課は大幅に変わる可能性があるので
あくまで暫定的なものと承知しておいてもらいたい。

２回目
Chapter1　Harry Potter and Chocolate Frogs　本文、他の練習問題

３回目

Chapter2　Peter Rabbit and Pie　　語彙・文法
Chapter 3　Mrs. Rabbit and Herb Tea　　語彙・文法と本文

４回目
Chapter 3　本文残りと他の練習問題
Chapter 4　Winnie-the-Pooh and Honey　語彙・文法と本文

５回目
Chapter 4　本文残りと他の練習問題
Chapter5　 Daddy-Long-Legs and Ice Cream の語彙・文法と本文

６回目
Chapter 5　本文残りと他の練習問題
Chapter 6　Kenji Miyazawa and Tomatoes の語彙・文法と本文

７回目
Chapter 6 の本文残りと他の練習問題

８回目
Chapter 1-6 の復習と理解度テスト

９回目
Chapter 9　East of Eden and Lettuce　 Chapter9 の語彙・文法と本文

１０回目
Chapter 9 の本文残りと他の練習問題
Chapter 10 Laura and Cheese-Making on the Prairie の語彙・文法と本文

１１回目
Chapter 10 の本文残りと他の練習問題
Chapter 11　Breakfast and Tiffany's の語彙・文法と本文

１２回目
Chapter11 の本文残りと他の練習問題
Chapter 12 "Mujina" and "Soba"の語彙・文法と本文

１３回目
Chapter12 の本文残りと他の練習問題
Chapter 13 Bridget Jones and Dieting の語彙・文法と本文

１４回目
Chapter 13 の本文残りと他の練習問題

１５回目
Chapter　８－１３の復習と理解度テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1220256
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
授業概要	「総合英語 I 」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語 I」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（教科書）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円.		
教材（参考資料）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教育方法	必要に応じて音声 CD を使用します。講義は可能な限り簡単な英語で行い、難しいところは日本語で説明をします。質問や答えするときは間違いを恐れることなく英語で話すようにしてもらいます。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこ れは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
授業時間外学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

授業スケジュール

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「8 月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220257
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	多くの人が関心を持つ食文化や食べ物に関する英文を読み、基礎的なリーディング力、語彙力、ライティング力を獲得することを目指す。		
教材（教科書）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著 『A Taste of English:　Food and Fiction』（フィクションにみる食文化） 朝日出版社 ￥１，７００ プリントを使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。 Chapter によっては一部ＤＶＤで関連部分を鑑賞する。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な単語、文法事項を学習し、読解、語彙、英作等の英語の総合力を向上させる。食文化を通して海外の文化への理解を深める。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

授業スケジュール

１回目
テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。すべては出来ないので、クラスで希望の多い Chapter からやる。
以下各回の内容を記すが、進度・課は大幅に変わる可能性があるので
あくまで暫定的なものと承知しておいてもらいたい。

２回目
Chapter1　Harry Potter and Chocolate Frogs　本文、他の練習問題

３回目
Chapter2 Peter Rabbit and Pie　　語彙・文法
Chapter 3 Mrs. Rabbit and Herb Tea　　語彙・文法と本文

４回目
Chapter 3　本文残りと他の練習問題
Chapter 4 Winnie-the-Pooh and Honey　語彙・文法と本文

５回目
Chapter 4　本文残りと他の練習問題
Chapter5　 Daddy-Long-Legs and Ice Cream の語彙・文法と本文

６回目
Chapter 5　本文残りと他の練習問題
Chapter 6　Kenji Miyazawa and Tomatoes の語彙・文法と本文

７回目
Chapter 6 の本文残りと他の練習問題

８回目
Chapter 1-6 の復習と理解度テスト

９回目
Chapter 9　East of Eden and Lettuce　 Chapter9 の語彙・文法と本文

１０回目
Chapter 9 の本文残りと他の練習問題
Chapter 10 Laura and Cheese-Making on the Prairie の語彙・文法と本文

１１回目
Chapter 10 の本文残りと他の練習問題
Chapter 11 Breakfast and Tiffany's の語彙・文法と本文

１２回目
Chapter11 の本文残りと他の練習問題
Chapter 12 "Mujina" and "Soba"の語彙・文法と本文

１３回目
Chapter12 の本文残りと他の練習問題
Chapter 13 Bridget Jones and Dieting の語彙・文法と本文

１４回目
Chapter 13 の本文残りと他の練習問題

１５回目
Chapter　８－１３の復習と理解度テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1220258
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 B
授業概要	英語教育において外国語の習得理論に則った授業を行う事が何より大切であることは言うまでもない。学生の実力に合うように作成された教材を用いて、脳科学の考察を活動に取り入れる事により、英語を単なる大学の一教科ではなく身近な技能になるよう指導する。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	授業内で紹介する。		
教育方法	第 2 言語習得の方法に則り、英文を読む→英文の意味を日本語で理解→音読→プ?アウトプットの順で授業活動を行う。個人、グループなど、様々なパターンで 4 技の実践演習なども加え学習のバリア―を無くす試みをする。		
評価方法	・毎回 20 点満点のテスト（筆記、音読等）を行う。到達点を超える点数が必要。 ・クリアすべき到達点数に達しなかった学生は課題を提出し、それをもって点数をクリアしたと認める。 ・欠席者は該当授業の課題を提出する。 平常点：90% 音読等の授業参加:10% ・授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	外国語の習得に欠かすことのできない 4 技能のうち、特に「読む」、「聞く」、を中心に指導する。学生は正しく読めて、聞いて理解し、暗唱等もできるようになる。		
授業時間外学習	1 課題につき、2 授業を 1 セットとする。2 授業目には筆記テスト（暗唱を確認する）を行うのでその準備をすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

これまで英語が苦手であったり、嫌いだったと言う学生が多いが、この授業で必ず英語に対する劣等感や嫌悪感を少なくする！と言う気合いをもって参加してほしい。

授業スケジュール

1.授業の進め方　日本的事象の説明
2.日本の生活(1)
3.日本の生活(2)
4.舞妓(1)
5.舞妓(2)
6.日本料理(1)
7.日本料理(2)
8.稲荷大社(1)
9.稲荷大社(2)
10.京都御所(1)
11.京都御所(2)
12.日本酒(1)
13.日本酒(2)
14.将棋
15.今期の復習および総評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JC1220259
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 B
授業概要	英語教育において外国語の習得理論に則った授業を行う事が何より大切であることは言うまでもない。学生の実力に合うように作成された教材を用いて、脳科学の考察を活動に取り入れる事により、英語を単なる大学の一教科ではなく身近な技能になるよう指導する。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	授業内で紹介する。		
教育方法	第 2 言語習得の方法に則り、英文を読む→英文の意味を日本語で理解→音読→プ?アウトプットの順で授業活動を行う。個人、グループなど、様々なパターンで 4 技の実践演習なども加え学習のバリア―を無くす試みをする。		
評価方法	・毎回 20 点満点のテスト（筆記、音読等）を行う。到達点を超える点数が必要。 ・クリアすべき到達点数に達しなかった学生は課題を提出し、それをもって点数をクリアしたと認める。 ・欠席者は該当授業の課題を提出する。 平常点：90% 音読等の授業参加:10% ・授業回数の 3 の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	外国語の習得に欠かすことのできない 4 技能のうち、特に「読む」、「聞く」、を中心に指導する。学生は正しく読めて、聞いて理解し、暗唱等もできるようになる。		
授業時間外学習	1 課題につき、2 授業を 1 セットとする。2 授業目には筆記テスト（暗唱を確認する）を行うのでその準備をすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

これまで英語が苦手であったり、嫌いだったと言う学生が多いが、この授業で必ず英語に対する劣等感や嫌悪感を少なくする！と言う気合いをもって参加してほしい。

授業スケジュール

1.授業の進め方　日本的事象の説明
2.日本の生活(1)
3.日本の生活(2)
4.舞妓(1)
5.舞妓(2)
6.日本料理(1)
7.日本料理(2)
8.稲荷大社(1)
9.稲荷大社(2)
10.京都御所(1)
11.京都御所(2)
12.日本酒(1)
13.日本酒(2)
14.将棋
15.今期の復習および総評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JC1220261
科目名	総合英語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
授業概要	「総合英語 I 」に引き続き、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成する。本授業では特に、イギリスの文化やしきたりについて学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかる。		
教材（教科書）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円.		
教材（参考資料）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参すること。電子辞書でも構わないが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできない。 その他授業中に指示する。		
教育方法	授業は演習方式で進められる。毎回の授業で取り上げるトピックについてあらかじめ考えてきた意見を出し合った後、平易な英語のダイアログに関するリスニング問題、英語の長文読解、長文の内容に関する英語の問題という順番で進めてゆく。授業の最初、あるいは最後に復習／予習小テストを行うことがある。		
評価方法	授業内テスト（小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただしこれは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではない。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につける。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を養う。		
授業時間外学習	この授業では、前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行うことがある。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をすること。復習に十分な時間をかけて授業に臨んむようにする。小テストには語彙、文法問題が含まれる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参する。テキストがないと、授業内の課題を行うことができない。テキストを　持参しなかった場合は減点とする。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参すること。携帯電話の辞書機能を授業中に
　使用することはできない。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用すること。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修する。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験すること。

授業スケジュール

以下の各項目を約 1 回の授業で学習する。ただし、授業の進度によって変更になることがある。

1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」

13. Day 13: Don’t You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That’s the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220262
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	中山　大輝	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ｉ」を発展させたこの授業では、平易な総合英語教材を使用し、基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化を図るとともに、「読む、書く、聞く、話す」の４技能を総合的に養成します。音声 CD を使用してリスニング問題に取り組み、「聞く」能力を向上させながら、リスニングのポイントをおさえます。また、少し長めの文章を読み、内容を理解し、要約できるようにします。そして、ペアワークやディスカッションなどの活動に取り組むことにより、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指します。		
教材（教科書）	熊澤孝昭、靜哲人、望月正道（著）『AMBITIONS: Pre-intermediate』、金星堂 ISBN:978-4-7647-4055-6		
教材（参考資料）	授業中に適宜、指示します。 毎回の授業に、辞書（英和・和英など）と文法書を持参してください。ただし、携帯電話、スマートフォンを辞書として使用することはできません。		
教育方法	授業中に音声 CD を使用します。 また、この授業は主に演習方式で進められ、一部ペアワークやグループディスカッションなどが行われます。		
評価方法	以下の基準に基づいて総合的に評価します。 （１）平常点（授業内小テストや授業への積極的参加など）：４５点 （２）定期試験：５５点 ただし、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となります。		
到達目標	講義概要で記載した内容に即して、以下の内容ができるようになることを目指します。 （１）少し長めの文章を理解し、要約できるようになる （２）ダイアログなどの会話が聞き取れるようになる （３）自分の意見を英語で書けるようになる （４）（３）で書いた内容を英語で話せるようになる		
授業時間外学習	詳しい予復習の方法は授業内で指示しますが、この授業では毎回の授業開始時に前回の授業内容の確認テスト（授業内小テスト）を行いますので、授業で学習した内容の復習をしてください。また、予習として、次回授業時に扱う UNIT の指示された範囲をあらかじめ解答しておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（１）語学学習には継続的な学習が不可欠です。欠席や遅刻は極力しないでください。
（２）この授業では、毎週予習課題を指示するとともに、授業開始時に前回の授業内容の確認テスト（授業内小テスト）を行います。継続的な予復習に努めてください。
（３）教材（参考文献）欄に記載したように、毎回の授業に辞書（英和・和英など）と文法書を持参してください。なお、文法書は高等学校で使用したものでも構いません。
（４）（１）で記載したように、当科目のみならず、英語の勉強を自主的に行ってください。
（５）TOEIC や実用英語技能検定など、外部検定試験を積極的に受験してください。

授業スケジュール

各項目を、約１回の授業で消化していきます。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。初回授業時に具体的な予復習の方法を指示しますので、初回授業時に教科書を持参してくることを強く推奨します。

Unit 1: Cross-Cultural Understanding
仮主語 it / 強く発音される語を聞き取る
Unit 2: Foods
後置修飾 / 語順のまま理解する
Unit 3: Foreign Language Learning
仮定法 / 消える t と d を聞き取る
Unit 4: Sports

並列① / 弱い can を聞き取る
Unit 5: Fashion
並列② / 弱い that を聞き取る
Unit 6: Living Things
多義語 / n でつながる語句を聞き取る
Unit 7: Art
未知単語の推測① / 弱い of を聞き取る
Unit 8: Global Issues
未知単語の推測② / 対比による強調
Unit 9: Japanese Culture
代名詞の指示内容 / 話の展開の予測
Unit 10: Human Rights
同意表現 / のみこまれる dn を聞き取る
Unit 11: Health & Medical Issues
談話標識 / 似た音の聞き分け
Unit 12: Environmental Issues
文章展開の予測① / 強弱のリズム
Unit 13: Economy & Industry
文章展開の予測② / t でつながる語句を聞き取る
Unit 14: Legal Issues
文章展開の予測③ / 弱い for を聞き取る
Unit 15: Science & Technology
全体の要点の把握 / r でつながる語句を聞き取る

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220263
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ⅱ」は春学期開講の「総合英語Ⅰ」に引き続き、健康医療学部看護学科１回生向けの必修科目です。 この授業では、Take Care 3rd edition!（三修社） を用いて英語の４技能を高めます。このテキストは医療系の大学で学ぶ人を対象として作成されたものです。看護学部における英語学習にふさわしい役に立つ題材を使って、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの４技能をバランスよく学べるように構成されています。 将来の仕事に直結した英語によるコミュニケーション能力の養成を目的として、できる限り医療現場で実際に使用されている題材を用い、ESP（English for Specific Purposes）の考え方を取り入れて構成されています。 ワークブックの要素も取り入れられていますので、みなさんが書き込みできるようになっており、授業中の活動でアクティブ・ラーニングを行えるようになっています。 受講生のみなさんは、このテキストを使って、医療や看護の現場で英語を読み、書き、聞き、話すための基本的な力を育成することができます。		
教材（教科書）	Take Care! 3rd edition （三修社）		
教材（参考資料）	辞書（英和、英英辞典など）。 文法事項の復習には「総合英語 FACTBOOK 」（桐原書店）を推奨します。図書室にも設置していますので、活用してください。		
教育方法	テキストには CD がついていませんが、教室では音声も使ってリスニングやリーディング能力の向上に努めます。 なお、音声は三修社音声サイトより無料でダウンロードおよびストリーミング再生可能ですので、ぜひとも PC やスマートホンにダウンロードして、活用してください。 毎回の授業では、最初に事前学修として自宅で行った練習問題の解答と解説を行い、その後にテキスト内容の確認を行います。したがって、授業の予習は不可欠です。がんばって取り組んでください。 授業は、できるだけ指名ではなく挙手によって進める予定です。受講姿勢のみなさんが積極的に参加できるような教育環境を設定し、アクティブラーニング方式で行います。		
評価方法	「総合英語Ⅱ」では、授業中の発表など授業参加（10%）、課題提出（30%）、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	受講生は、中学や高校で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに医療や看護といった将来の仕事現場で必要な語彙を獲得して活用できるようになれます。 受講生のみなさんは秋学期修了までに英検２級レベルの英語力を獲得できます。		
授業時間外学習	授業開始までに、高校や春学期の「総合英語Ⅰ」で学んだ英語の基本語彙、専門用語、文法本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 授業開始後は、事後学修として当日の授業の復習を行うと同時に、次回の授業に向けて自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各 Chapter に入る前に、事前学修として京学なびを通じて課題の提出を求めます。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ②実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 ③英語学習には継続的な学習習慣が必要であり、自律学習に励んでください。			

授業スケジュール
初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。 第 1 回　Inroduction 第 2 回　Unit 1: What Worries Barbara? 第 3 回　Unit 2: That's Mama's Hair! 第 4 回　Unit 3:Menstrual Problems 第 5 回　Unit 4: Right or Left? 第 6 回　Unit 5: How to Give First Aid 第 7 回　Unit 6:Make a Restroom More Accessible to LGBT People 第 8 回　前半の授業の振り返りおよび反転学習 第 9 回　Unit 7: Are You Being Abused? 第 10 回　Unit 8: Giving Blood 第 11 回　Unit 9: Living　a Healthy Life 第 12 回　Unit 10: Is the Treatment Different or Not? 第 13 回　Unit 11: Is Hepatitis B Curable? 第 14 回　Unit 12:Do you want to be skinny? 第 15 回　後半の授業の振り返りおよび反転学習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1220265
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	村上　陽香	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ⅰ」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」の4技能の基礎力をさらに発展させることを目指し、受講生への課題、発表を含む演習を実施する。「総合英語Ⅰ」に引き続き、英語圏での生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解出来る力をさらに向上させることを目指す。		
教材（教科書）	Akira Morita, Makiko Lio, Takehiro Hashimoto, 他, 著 Target!: Elementary（金星堂） その他プリント教材		
教材（参考資料）	英和、和英、英英辞書などを持参してください。予習・復習でも使用すること。 電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能は使用不可です。		
教育方法	テキストに沿ってユニットの内容を確認し、問題演習やペアワークなどを行います。 随時、音声 CD を用います。		
評価方法	授業内テスト（小テスト含む）70%、予習課題・授業への参加態度 30%で総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。ただし、これは 3 分の 2 以上の出席があれば必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までに学んだ文法事項を点検しながら、英語の基礎固めを行います。英語で自分の意思を伝え、相手の意思を理解出来るようになることを目標とします。		
授業時間外学習	第二回以降、前回の授業で扱った範囲に関する小テストを行います。そのテストの準備として、学んだことを十分に復習して来てください。テストはボキャブラリーや文法問題を含みます。 また、授業の際に、次回に向けての予習箇所を課題として指定する場合があります。次回授業は該当箇所を予習済みと見なして進めますので、必ず準備した上で授業に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・授業には積極的に参加し、欠席しないよう心がけてください。遅刻や私語は進行の支障になるだけではなく、他の受講生にも迷惑をかけますので、注意してください。
・指定された予習箇所は、間違えてもいいので自分なりに必ずやって来てください。明らかに予習が行われていない場合は減点対象とします。
・英和、和英、英英辞書などを持参してください。高校時代に使用していたものがあればそれでも構いませんし、電子辞書でも構いません。ただし、携帯電話の辞書機能は使用不可です。

授業スケジュール

テキストを一回の授業あたり 1 ユニット進めていきます。
第二回以降、前回授業の内容に関する小テストを行います。

第一回：イントロダクション/In Your Free Time
　　「基本的な数字の聞き取り」＆「be 動詞と一般動詞」
第二回：Communication Skills
　　「時間・日付・年号の聞き取り」＆「代名詞」
第三回：World Languages and Cultures
　　「聞き分けにくい音の聞き取り」＆「否定文」
第四回：Healthy Body, Healthy Mind
　　「カタカナ語とのギャップ」＆「疑問文の基本」
第五回：Carrers Nowadays
　　「短縮形の聞き取り」＆「過去形の基本」
第六回：Fashion Trends
　　「つながる音」＆「進行形の基本」

第七回：Planning a Trip Abroad
「消える音」＆「未来を表す表現」
第八回：Are You into Sports?
「イントネーション（上昇・下降)」＆「現在完了」
第九回：Parties Are a Lot of Fun!
「写真や絵を見ながらの聞き取り」＆「助動詞の基本」
第十回：Art in Our Life
「挨拶文の聞き取り」＆「動名詞の基本」
第十一回：What Shall We Eat?
「誘う時の表現」＆「不定詞（名詞的用法)」
第十二回：What Makes a Good Company?
「依頼する時の表現」＆「不定詞（形容詞/副詞的用法)」
第十三回：Advances in Science
「Yes/No 疑問文とその答え方」＆「受動態の基本」
第十四回：Life with Technology
「Wh-疑問文とその答え方」＆「前置詞の基本」
第十五回：Eco-Friendly Life/まとめ
「付加疑問文の聞き取り」＆「接続詞の基本」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JC1220266
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
授業概要	総合英語Ⅰを発展させた形で授業を行う。平易な総合英語教材「クリティカル・シンキングのすすめ」を用いて、＜読む･書く･聞く･話す＞4技能の基礎力をさらに向上させる。日本人と外国人の会話の Dictation で、英語独特の音声変化に慣れながら、＜聞く･話す＞の力を養う。続く Reading を読み、“Critical Thinking” のヒントを得ながら、＜読む・書く＞の力を養う。そのヒントを補強するために、様々な Exercises があり、英作文や語彙、文法の力を増強する。		
教材（教科書）	『An Invitation to Critical Thinking 』（南雲堂） 2,052 円。 テキスト各章の本文を、学生は単語の意味と発音の下調べ、本文の黙読・音読など、毎回予習しておく。授業では、本文の読解を中心に進め、本文理解を確認するため、学生は各章の設問に沿って、解答を記述する。学生は、講義内容のポイントをノートに取り、ノートの記述内容を参照しながら、テキストの重要事項を復習する。参考資料など、授業中に適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。テキスト各章の本文を、リスニング（ＣＤのネイティブ・スピーカーの音声を聞く）、学生自身の黙読と音読により理解したうえで、理解度確認のために、学生はテキストの設問に答えを記入し、教員の求めに応じて発表する。講義と学生自身の予習・復習の成果を確認するために、学期を前半と後半に分けて、小テストを行う。		
評価方法	授業中の、積極的な学習態度（しっかり英語の声を出す等 10%）・発表（10%）・小テスト 2 回（各 10%）・課題（10%）などによる平常点（合計 50%）、定期テスト（50%）。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。（3 分の 2 以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	学生は英語の 4 技能の習得により、実際の場面でのコミュニケーション力をさらに向上させることができる。 反復練習により英語音声を聞きとる力を得ることが出来る。しっかり英語の声を出せるようになる。		
授業時間外学習	毎回指示するページ項目の予習と復習の課題を完成させる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的な態度で授業に参加する。しっかり声を出す。テキストと筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食・英語以外の作業など等は厳禁。

授業スケジュール

1．What is Critical Thinking? ストレッチ式「ネイティブ発音」について
2．Write Your Problems on a Note Pad 日本語にない音（1）
3．Media Literacy: Don’t Believe Everything the Media Say! 日本語にない音（2）
4．The Spirit of Wa (Harmony) まぎらわしい音の区別（1）
5．Xenophobia まぎらわしい音の区別（2）
6．Telephone Message Game まぎらわしい音の区別（3）
7． Analyze Your Pattern of Thinking まぎらわしい音の区別（4）
8．The Difference between Fact and Opinion 語頭と語尾で違って聞こえる音
9．The Pitfalls of the English Language つづりと発音（1）
10. What Is Your Blood Type? つづりと発音（1）
11. Gender Bias ポーズ（pause）のとり方
12. Skepticism イントネーション
13. Life after Trauma: PTSD and PTG 発音のまとめ（1）
14. How to Make a Persuasive Presentation 発音のまとめ（2）
15. Facing Ambiguity 発音のまとめ（3）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1220267
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
授業概要	総合英語Ⅰを発展させた形で授業を行う。平易な総合英語教材「クリティカル・シンキングのすすめ」を用いて、＜読む･書く･聞く･話す＞4技能の基礎力をさらに向上させる。日本人と外国人の会話の Dictation で、英語独特の音声変化に慣れながら、＜聞く･話す＞の力を養う。続く Reading を読み、“Critical Thinking” のヒントを得ながら、＜読む・書く＞の力を養う。そのヒントを補強するために、様々な Exercises があり、英作文や語彙、文法の力を増強する。		
教材（教科書）	An Invitation to Critical Thinking 南雲堂 1,900＋税。 テキスト各章の本文を、学生は単語の意味と発音の下調べ、本文の黙読・音読など、毎回予習しておく。授業では、本文の読解を中心に進め、本文理解を確認するため、学生は各章の設問に沿って、解答を記述する。学生は、講義内容のポイントをノートに取り、ノートの記述内容を参照しながら、テキストの重要事項を復習する。参考資料など、授業中に適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	なし		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。テキスト各章の本文を、リスニング（ＣＤのネイティブ・スピーカーの音声を聞く）、学生自身の黙読と音読により理解したうえで、理解度確認のために、学生はテキストの設問に答えを記入し、教員の求めに応じて発表する。講義と学生自身の予習・復習の成果を確認するために、学期を前半と後半に分けて、小テストを行う。		
評価方法	授業中の、積極的な学習態度（しっかり英語の声を出す等10%）・発表（10%）・小テスト2回（各10%）・課題（10%）などによる平常点（合計50%）、定期テスト（50%）。なお、全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。（3分の2以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	学生は英語の4技能の習得により、実際の場面でのコミュニケーション力をさらに向上させることができる。 反復練習により英語音声を聞きとる力を得ることが出来る。しっかり英語の声を出せるようになる。		
授業時間外学習	毎回指示するページ項目の予習と復習の課題を完成させる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
積極的な態度で授業に参加する。しっかり声を出す。テキストと筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食・英語以外の作業など等は厳禁。			
授業スケジュール			
1．What is Critical Thinking? ストレッチ式「ネイティブ発音」について 2．Write Your Problems on a Note Pad 日本語にない音（1） 3．Media Literacy: Don’t Believe Everything the Media Say! 日本語にない音（2） 4．The Spirit of Wa (Harmony) まぎらわしい音の区別（1） 5．Xenophobia まぎらわしい音の区別（2） 6．Telephone Message Game まぎらわしい音の区別（3） 7． Analyze Your Pattern of Thinking まぎらわしい音の区別（4） 8．The Difference between Fact and Opinion 語頭と語尾で違って聞こえる音 9．The Pitfalls of the English Language つづりと発音（1） 10. What Is Your Blood Type? つづりと発音（1） 11. Gender Bias ポーズ（pause）のとり方 12. Skepticism イントネーション 13. Life after Trauma: PTSD and PTG 発音のまとめ（1） 14. How to Make a Persuasive Presentation 発音のまとめ（2） 15. Facing Ambiguity 発音のまとめ（3）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1220270
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	映画の中に出てくる食文化や食べ物を通して、映画を楽しみながら英語の基礎的な語彙、読解、文法、英作の力を伸ばす。また食文化を通して海外の文化への理解を深める.。		
教材（教科書）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著 『A Flavor of English: Cinema and Cuisine』（映画で味わう食文化） 朝日出版社 ￥１，７００ プリントを使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。 Chapter によっては一部ＤＶＤで関連部分を鑑賞する。		
評価方法	理解度テスト(（中間・期末）の平均点　　（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉　（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	各課の要点となる文法事項の理解を基礎にして、読解、語彙、英作等の英語の総合力を向上させる。 また食に対する海外の人々との共通点・相違点も味わってもらいたい。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・語彙を学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成し、リーディングの訳を書く。 ３　練習問題をする		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
授業スケジュール			
１回目　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明 １回目は Chapter 1 の Vocabulary, Grammar に目を通しておいて下さい。 すべての Chapter はできないので、クラスで希望の多いものからやっていく。 ３回目以降は未定なので、下の計画表は暫定的なものとと承知しておいて下さい。 ２回目　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　前半 ３回目　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　後半 ４回目　Chapter 4　かもめ食堂前半 ５回目　Chapter 4　かもめ食堂後半 ６回目　Chapter 7　No Reservations　前半 ７回目　Chapter 7　No Reservations　後半 ８回目　ここまでの復習及び理解度テスト（中間）			

9回目　　Chapter 8　Dear Frankie　前半 １０回目　Chapter 8　Dear Frankie　後半 １１回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　前半 １２回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　後半 １３回目　Chapter11 Everybody's Fine　前半 １４回目　Chapter11 Everybody's Fine　後半 １５回目　ここまでの復習及び理解度テスト（期末）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1220271
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	総合英語Ⅰに引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検やTOEICといった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第3版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の3分の2以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検やTOEICといった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検やTOEICの教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220272
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	総合英語Ⅰに引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検やTOEICといった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第3版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の3分の2以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検やTOEICといった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検やTOEICの教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220273
科目名	総合英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	映画の中に出てくる食文化や食べ物を通して、 映画を楽しみながら英語の基礎的な語彙、読解、文法、英作の力を伸ばす。 また食文化を通して海外の文化への理解を深める.。		
教材（教科書）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著 『A Flavor of English: Cinema and Cuisine』（映画で味わう食文化） 朝日出版社 ￥１，７００ プリントを使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。 Chapter によっては一部ＤＶＤで関連部分を鑑賞する。		
評価方法	理解度テスト(（中間・期末）の平均点　　（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉　（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	各課の要点となる文法事項の理解を基礎にして、読解、語彙、英作等の英語の総合力を向上させる。 また食に対する海外の人々との共通点・相違点も味わってもらいたい。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・語彙を学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成し、リーディングの訳を書く。 ３　練習問題をする		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
授業スケジュール			
１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明 １回目は Chapter 1 の Vocabulary, Grammar に目を通しておいて下さい。 すべての Chapter はできないので、クラスで希望の多いものからやっていく。 ３回目以降は未定なので、下の計画表は暫定的なものとと承知しておいて下さい。 ２回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　前半 ３回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　後半 ４回目　　Chapter 4　かもめ食堂前半 ５回目　　Chapter 4　かもめ食堂後半 ６回目　　Chapter 7　No Reservations　前半			

7回目　　Chapter 7　No Reservations　後半 8回目　　ここまでの復習及び理解度テスト（中間） 9回目　　Chapter 8　Dear Frankie　前半 １０回目　Chapter 8　Dear Frankie　後半 １１回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　前半 １２回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　後半 １３回目　Chapter11 Everybody’s Fine　前半 １４回目　Chapter11 Everybody’s Fine　後半 １５回目　ここまでの復習及び理解度テスト（期末）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1220276
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
授業概要	「総合英語 I 」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語 I」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（教科書）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円.		
教材（参考資料）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教育方法	必要に応じて音声 CD を使用します。講義は可能な限り簡単な英語で行い、難しいところは日本語で説明をします。質問や答えするときは間違いを恐れることなく英語で話すようにしてもらいます。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこ れは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
授業時間外学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

授業スケジュール

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「8 月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220277
科目名	総合英語II	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English II		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	総合英語 B
授業概要	「総合英語Ｉ」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる増強をはかり、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の４技能の基礎力をさらに発展させる。「総合英語Ｉ」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力をさらに向上させることを目指す。 このクラスでは、日本の名所や文化、行事などを外国人に紹介する実践的な英語を題材として演習を行い、４技能の基礎力をさらに高めていく。		
教材（教科書）	Carolyn Wright et al.、Hospitality English （『おもてなしの観光英語』）、三修社、1,800 円		
教材（参考資料）	１．ハンドアウト（プリント）教材 ２．英和辞典などの英語の辞書		
教育方法	１．名簿順指名での発表： 名簿順に指名して問題への答えや音読などを求めていく。予習不足で直ぐに答えられない場合は「パス」とはっきり申し出ること。発表があれば、正誤に関わらず発表点を記録する。 ２．指名に基づかない発表： クラス全体に問いかけることがある。その場合は、複数の受講生が一斉に答えてよい。所定（通常、小テスト）の用紙に、発表回数（１／３／５回以上）を誠実に自主申告する。 ３．小テスト用紙の提出： 通常、教科書のいずれかの演習問題を小テストとする。用紙は、出席の最終確認の用紙でもあるため、提出を怠ると欠席となる。 ４．時間の都合上、授業では教科書の演習を省略することがある。		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに２回の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ１回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	１．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 ２．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
授業時間外学習	各回とも、 １．教科書に記載のサイトより音声ファイルをダウンロードし、再生して活用する。これは必須である。 ２．次回授業で取り扱う Lesson を確認し、音声を聴いた後、その Reading を何十回も音読する。 ３．次に T/F の問題に答えておく。 ４．さらに Exercises 1-3 の問題にも答えておく。特に Dialogue の空所を補充しておくこと。 ５．時間の都合上、Cultural Questions の授業内演習を省略するが、小テスト問題には利用することがある。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。必要な教材を持たずに授業出席することは断じて認めない。 ２．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。 ３．可能な限り大きな声を出して英文を何度も音読し、諳んじられるようにすること。 ４．英検や TOEIC?などの英語資格試験の受験に挑戦すること。			

授業スケジュール
１回の授業で１つの Lesson を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。教科書の Contents とは順序が異なる回があるので注意。 １．演習概要と評価方法に関する説明、Lesson 1: An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan! ２．Lesson 2: Preparations for the 2020 Olympic Games in Tokyo ３．Lesoon 3: Do You Like to Watch Kabuki? ４．Lesson 4: The Sapporo Snow Festival ５．Lesson 6: Yokohama Port ６．Lesson 7: Mt. Fuji ７．授業内課題１、Lesson 5: Hiraizumi as the Buddhist Pure Land ８．Lesson 8: Omi Province and Its Military History ９．Lesson 9: The Deer in Nara 10．Lesson 10: Kyoto Sation 11．Lesson 11: Let’s Explore Osaka 12．Lesson 12: Port City Kobe: A Phoenix Rises 13．Lesson 13: Sand Dunes in Tottori 14．授業内課題２、Lesson 16: The Shimazu Clan and Satsuma Culture 15．Lesson 14: The Atomic Bomb Dome

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2018	授業コード	JC1220278
科目名	総合英語Ⅱ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
授業概要	このクラスは、グローバルコースおよびプレースメントテストによって選抜された優秀な１回生向けの必修科目です。中級程度の総合英語教材を使用し、英語を読み、書き、聞き、話す力を養成します。 この授業では、Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 （センゲージラーニング社）を用いて英語の４技能を高めつつ、とりわけ書く力と話す力を強化していきたいと考えています。 このテキストは、現在、国内外で最も論争となっているさまざまな分野の社会問題について、その背景知識を身につけ、英語で討論ができるような力を育成するように構成されています。各ユニットのテーマは「SNS のメリットとは？」、「女性専用車両は不平等？」、「エコ活動は誰のため?」、「オンラインゲームは有意義な娯楽？」、「民主主義は最良の政治体制か？」、「カジノ合法化への期待と恐れ」、「高校時代のアルバイトの是非」、「グローバリゼーションの光と影」などのトピックを取り扱っています。 したがって、これからみなさんがディスカッションやディベートなどで求められるアーギュメント力を高めることにも役立てていただきたいと思っています。 受講生のみなさんは、今学期の学修を通じて、日本人として国際社会で適用する英語のスピーキング力を身につけられるだけでなく、クリティカルシンキング、英語プレゼンテーション能力とアーギュメント力も身につけることができます。 授業や、事前学修・事後学修などの自律学習を通じて、英語を総合的に理解し、英語によるコミュニケーション能力を高めて欲しいと願っています。		
教材（教科書）	Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 （センゲージラーニング社） 2,000 円		
教材（参考資料）	辞書（英和・英英辞典など） 図書館にあるいろいろな本やネット上の記事などを参考図書として活用してください。		
教育方法	このテキストには Downloadable AUDIO がセットになっていますので、購入者は無料で音声をダウンロードできるようになっています。ぜひとも音声を PC やスマートホンにダウンロードして、リスニング能力も高めてください。 毎回の授業では、最初に事前学修として毎回の話題に関して自宅で自分の意見をまとめたエッセーを発表していただきます。その後にテキスト内容の確認を行います。したがって、授業の予習は不可欠です。がんばって取り組んでください。授業は、できるだけ指名ではなく挙手によって進める予定です。受講生のみなさんが積極的にディスカッションに参加できるような教育環境にし、アクティブラーニング方式で行います。		
評価方法	「総合英語Ⅱ」では、授業中の発表など授業参加（30%）、課題提出（50%）、およびプレゼンテーション（20%）の評価を合算して最終評価をします。 最終授業では、授業参加者に英語によるプレゼンテーションをしていただきます。 なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。		
到達目標	高校や「総合英語Ⅰ」で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、コミュニケーション分野で英語を活用できるようになる。日常的な話題および社会の身近な問題について、読み、書き、聞き、話すことができる英語力を身につけることができる。今学期修了までに英検２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
授業時間外学習	授業開始までに、これまでに学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握して、自らの考えをまとめておいてください。 また、各 unit に入る前に、事前学修として、京学なびを通じて課題の提出を求めます。 各話題に関して、英語で自分の意見も書いていただきます。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
①英語の修得には継続的な学修が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。			

②実用英語検定、TOEIC、TOEFL などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。
③英語学習のための設備がある学志館１階「セルフラーニング室」をできるだけ活用し、自律学習にも励んでください。

授業スケジュール

初回授業時に、授業内容や成績評価などについての重要な説明を行うので、必ず出席してください。
第 1 回　Introduction
第 2 回　Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks?
第 3 回　Women's Protection or Gender Equality?
第 4 回　Eco or Ego?
第 5 回　A Rewarding Pastime or a Waste of Time?
第 6 回　Democracy: Its Advantages and Disadvantages
第 7 回　Hopes and Fears around Casinos
第 8 回　Should High Schoolers Work Part-time?
第 9 回　The Pros and Cons of Globalization
第 10 回　Humans or AI?
第 11 回　A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting?
第 12 回　Big Government or Limited Government?
第 13 回　Are the Homeless Responsible for Their Homelessness?
第 14 回　Severe Punishment or Rehabilitation?
第 15 回　Presentations by Students

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220279
科目名	総合英語Ⅱ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English Ⅱ		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
授業概要	「総合英語Ⅰ」に引き続き、比較的語彙レベルの高い英文テキストを使用し、英語の語彙や文法のさらなる習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成する。本授業では特に、経済学の基礎知識を英語学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかる。		
教材（教科書）	Yoko Kurahashi, Julyan Nuff. Learning Essential Economics in English（『英語で学ぶやさしい経済学』）英宝社（1900 円）　その他プリント教材.		
教材（参考資料）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参すること。電子辞書でも構わないが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできない。 その他授業中に指示する。		
教育方法	授業は演習方式で進められる。毎回の授業で取り上げるトピックについてあらかじめ考えてきた意見を出し合った後、新出の語彙、長文読解、長文の内容に関する英語の問題、長文の概要をまとめる問題、リスニング問題という順番で進めてゆく。授業の最初あるいは最後に復習／予習小テストを行うことがある。		
評価方法	授業内テスト（小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただしこれは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではない。なお、20 分以上の遅刻、無断の途中退出は欠席扱いとする。また、教科書を持参しなかった場合は、最終評価から 1 点ずつの減点とする。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につける。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につける。終了までに英検 2 級、TOEFL450 点程度の英語力を身に付けることを目標とする。		
授業時間外学習	この授業では、前回の授業で学んだ内容についての小テストあるいはクイズを、各授業の初めに行うことがある。そのテストの準備、及び授業中に解答するべき問題の準備のため、十分に予習復習をして授業に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参する。テキストがないと、授業内の課題を行うことができない。テキストを　持参しなかった場合は減点とする。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参すること。携帯電話の辞書機能を授業中に
　使用することはできない。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用すること。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修する。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験すること。

授業スケジュール

以下の各項目を約 1 回の授業で学習する。ただし、授業の進度によって変更になることがある。前回までの内容の復習のための小テストを授業の初めに行うことがある。

1. Introduction / 授業の紹介
　Unit 1 What is Economics? Microeconomics and Macroeconomics （経済学とは？　ミクロ経済とマクロ経済）
2. Unit 2 Money （金）
3. Unit 3　Banks （銀行）
4. Unit 4　Supply and Demand （需要と供給）
5. Unit 5　Inflation and deflation （インフレ＆デフレ）
6. Unit 6　Exchange Rates （為替相場）
7. Unit 7　The Stock Exchange （株式取引）
8. Unit 8　Capitalism （資本主義）

9. Unit 9　Adam Smith and John Maynard Keynes （アダム・スミス＆ジョン・メイナード・ケインズ）
10. Unit 10 Bubble Economics （バブル経済）
11. Unit 11 Bursting the Bubble and Recession （バブル崩壊と景気後退）
12. Unit 12 Rrotectionism vs. Free Trade （保護貿易主義対自由主義）
13. Unit 13 Comparative Advantage （比較優位）
14. Unit 14 Balance of Trade （貿易収支）
15. Unit 15 Kanban, Toyota （かんばん、トヨタ）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220301
科目名	英語会話演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills.		
教材（教科書）	Tom Huchinson & Kristin Sherman, "Network　1", (Oxford University Press 2012)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。
You should try to attend ALL your classes ON TIME.

授業スケジュール

1) Class introductions. TEST.
2) Talking about everyday life.
3) Talking about what you like to do.
4) Family.
5) Places.
6) Talking about what you are doing.
7) PRESENTATION
8) Invitations.
9) Explaining things.
10) People and places.
11) Past classes.
12) Injuries and illnesses.
13) Vacation plans.
14) Diets.
15) PRESENTATION.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220303
科目名	英語会話演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills.		
教材（教科書）	Tom Huchinson & Kristin Sherman, "Network　1", (Oxford University Press 2012)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Class introductions. TEST. 2) Talking about everyday life. 3) Talking about what you like to do. 4) Family. 5) Places. 6) Talking about what you are doing. 7) PRESENTATION 8) Invitations. 9) Explaining things. 10) People and places. 11) Past classes. 12) Injuries and illnesses. 13) Vacation plans. 14) Diets. 15) PRESENTATION.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220305
科目名	英語会話演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills.		
教材（教科書）	Tom Huchinson & Kristin Sherman, "Network　1", (Oxford University Press 2012)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。
You should try to attend ALL your classes ON TIME.

授業スケジュール

1) Class introductions. TEST.
2) Talking about everyday life.
3) Talking about what you like to do.
4) Family.
5) Places.
6) Talking about what you are doing.
7) PRESENTATION
8) Invitations.
9) Explaining things.
10) People and places.
11) Past classes.
12) Injuries and illnesses.
13) Vacation plans.
14) Diets.
15) PRESENTATION.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220306
科目名	英語会話演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	円滑なコミュニケーションがとれるような能力を養う総合的会話講座です。自己紹介からはじめ、自分の生活習慣、好み、将来への気持ち等を英語で表現できる会話能力を養います。各授業に学生同士の練習、ロールプレイなどで会話スキルを習得した後、ネーティブ・スピーカー教員との短い会話テストを通して駆使します。徐々にモティベーションをあげ、色んな会話場面に参加できるようにします。また、語用論の研究に基づいた英語と日本語の会話構成を学んで、より自然な会話の運び方に挑戦する。		
教材（教科書）	Jerry Talandis et al. Conversations in Class 3rd Edition. Alma Publishing. ISBN：978-4-905343-12-7		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	和英英和辞典（電子可）を持参すること。		
評価方法	1. 授業参加度　　20% 2. 授業内テスト・課題　80%?		
到達目標	1. 英検２級レベルにあたる英語語彙、文法、読解、会話力を習得する。 2. 基礎的英語講座で習得した能力を会話に応用できるようになる。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1.　Course Introduction / Getting started/The Three Golden Rules of English conversation
2. Unit 1:　Getting Acquainted: Basic information
3. Unit 2:　Daily Life: Daily routines
4. Unit 2:　Daily Life: Spending time
5. Unit 3: Hometown: Hometown attractions/likes and dislikes
6. Unit 3: Hometown: Where to live in the future
7.Unit 4: Travel: Travel experiences
8. Unit 4: Travel: Future ideas and plans
9. Unit 5: Free Time: Talking about breaks
10. Unit 5: Free Time: Future hobbies
11. Unit 6: Entertainment: Music/Movies/TV & games
12. Unit 7: Food: Likes and dislikes
13. Unit 7: Food: Exotic foods and eating out
14. Unit 8: The Future: Imagining life in five years
15. Unit 8: The Future: Dream jobs

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1220352
科目名	英語会話演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills.		
教材（教科書）	Tom Huchinson & Kristin Sherman, "Network　1", (Oxford University Press 2012)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。
You should try to attend ALL your classes ON TIME.

授業スケジュール

1) Class introductions. TEST.
2) Talking about everyday life.
3) Talking about what you like to do.
4) Family.
5) Places.
6) Talking about what you are doing.
7) PRESENTATION
8) Invitations.
9) Explaining things.
10) People and places.
11) Past classes.
12) Injuries and illnesses.
13) Vacation plans.
14) Diets.
15) PRESENTATION.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220353
科目名	英語会話演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	In this course we will practise English skills for nursing. You will have the opportunity to learn medical vocabulary and practice speaking with each other in English. We will role-play situations between nurse and patient. This course requires you to remember medical vocabulary, so a good dictionary is needed.		
教材（教科書）	総合医学英語テキスト　English for Medical Purposes, Step 1 JASMEE, 日本医学英語教育学会編,メジカルビュー社２０１６.		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	This class has two main focuses: 1) Doctor/patient conversations, 2) Learning nursing related vocabulary. Please be aware that there is lots of vocabulary to learn in class. We will work in pairs or small groups.		
評価方法	Three in-term tests: 25% each. One end of term examination: 25%. Total: 100%		
到達目標	Use this course book to help you together with your other classes.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Introduction/Fever. 2) Anemia. 3) Dehydration. 4) TEST 1 5) Obesity. 6) Headache. 7) Chest Pain. 8) TEST 2. 9) Cough. 10) Abdominal Pain. 11) Dysphagia. 12) TEST 3. 13) Hearing Loss. 14) Fracture. 15) Pregnancy.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★★	★	－

年度	2018	授業コード	JC1220354
科目名	英語会話演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	円滑なコミュニケーションがとれるような能力を養う総合的会話講座です。自己紹介からはじめ、自分の生活習慣、好み、将来への気持ち等を英語で表現できる会話能力を養います。各授業に学生同士の練習、ロールプレイなどで会話スキルを習得した後、ネーティブ・スピーカー教員との短い会話テストを通して駆使します。徐々にモティベーションをあげ、色んな会話場面に参加できるようにします。また、語用論の研究に基づいた英語と日本語の会話構成を学んで、より自然な会話の運び方に挑戦する。		
教材（教科書）	Jerry Talandis et al. Conversations in Class 3rd Edition. Alma Publishing. ISBN：978-4-905343-12-7		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	英会話の文法、語彙、フレーズを習ってすぐペアワークや会話テストに進む参加型コミュニケーションコース。英和・和英辞典や単語帳用ノートを持参すること。		
評価方法	1. 授業参加度　　20% 2. 授業内テスト・課題　80%?		
到達目標	1. 英検２級レベルにあたる英語語彙、文法、読解、会話力を習得する。 2. 基礎的英語講座で習得した能力を会話に応用できるようになる。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1.　Course Introduction / Getting started/The Three Golden Rules of English conversation
2. Unit 1:　Getting Acquainted: Basic information
3. Unit 2:　Daily Life: Daily routines
4. Unit 2:　Daily Life: Spending time
5. Unit 3: Hometown: Hometown attractions/likes and dislikes
6. Unit 3: Hometown: Where to live in the future
7.Unit 4: Travel: Travel experiences
8. Unit 4: Travel: Future ideas and plans
9. Unit 5: Free Time: Talking about breaks
10. Unit 5: Free Time: Future hobbies
11. Unit 6: Entertainment: Music/Movies/TV & games
12. Unit 7: Food: Likes and dislikes
13. Unit 7: Food: Exotic foods and eating out
14. Unit 8: The Future: Imagining life in five years
15. Unit 8: The Future: Dream jobs

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1220355
科目名	英語会話演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills.		
教材（教科書）	Tom Huchinson & Kristin Sherman, "Network　1", (Oxford University Press 2012)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。
You should try to attend ALL your classes ON TIME.

授業スケジュール

1) Class introductions. TEST.
2) Talking about everyday life.
3) Talking about what you like to do.
4) Family.
5) Places.
6) Talking about what you are doing.
7) PRESENTATION
8) Invitations.
9) Explaining things.
10) People and places.
11) Past classes.
12) Injuries and illnesses.
13) Vacation plans.
14) Diets.
15) PRESENTATION.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220356
科目名	英語会話演習Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	円滑なコミュニケーションがとれるような能力を養う総合的会話講座です。自己紹介からはじめ、自分の生活習慣、好み、将来への気持ち等を英語で表現できる会話能力を養います。各授業に学生同士の練習、ロールプレイなどで会話スキルを習得した後、ネーティブ・スピーカー教員との短い会話テストを通して駆使します。徐々にモティベーションをあげ、色んな会話場面に参加できるようにします。また、語用論の研究に基づいた英語と日本語の会話構成を学んで、より自然な会話の運び方に挑戦する。		
教材（教科書）	Jerry Talandis et al. Conversations in Class 3rd Edition. Alma Publishing. ISBN：978-4-905343-12-7		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	英会話の文法、語彙、フレーズを習ってすぐペアワークや会話テストに進む参加型コミュニケーションコース。英和・和英辞典や単語帳用ノートを持参すること。		
評価方法	1. 授業参加度　　20% 2. 授業内テスト・課題　80%?		
到達目標	1. 英検２級レベルにあたる英語語彙、文法、読解、会話力を習得する。 2. 基礎的英語講座で習得した能力を会話に応用できるようになる。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1.　Course Introduction / Getting started/The Three Golden Rules of English conversation
2. Unit 1:　Getting Acquainted: Basic information
3. Unit 2:　Daily Life: Daily routines
4. Unit 2:　Daily Life: Spending time
5. Unit 3: Hometown: Hometown attractions/likes and dislikes
6. Unit 3: Hometown: Where to live in the future
7.Unit 4: Travel: Travel experiences
8. Unit 4: Travel: Future ideas and plans
9. Unit 5: Free Time: Talking about breaks
10. Unit 5: Free Time: Future hobbies
11. Unit 6: Entertainment: Music/Movies/TV & games
12. Unit 7: Food: Likes and dislikes
13. Unit 7: Food: Exotic foods and eating out
14. Unit 8: The Future: Imagining life in five years
15. Unit 8: The Future: Dream jobs

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1220357
科目名	英語会話演習Ⅰ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This is a specialist course for "Global" students. In this course, you will have the chance to improve your communication skills, however, you will also be expected to develop your reading, listening, and grammar skills. We will be using a textbook in class every week which you will be expected to study.		
教材（教科書）	Robin Mills & Laurie Frazier, "NorthStar Listening & Speaking 2 4th Edition", (Pearson)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Use audio materials to improve listening skills. 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。
You should try to attend ALL your classes ON TIME.

授業スケジュール

1) Class introduction. TEST.
2) Talking about jobs 1.
3) Talking about jobs 2.
4) Student life 1.
5) Student life 2.
6) Money 1.
7) Money 2.
8) PRESENTATION.
9) Talking about etiquette 1.
10) Talking about etiquette 2.
11) Food 1.
12) Food 2.
13) Everyday heroes 1.
14) Everyday heroes 2.
15) PRESENTATION.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220358
科目名	英語会話演習Ⅰ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This is a specialist course for "Global" students. In this course, you will have the chance to improve your communication skills, however, you will also be expected to develop your reading, listening, and grammar skills. We will be using a textbook in class every week which you will be expected to study.		
教材（教科書）	Robin Mills and Laurie Frazier, "NorthStar Listening & Speaking 2 4th Edition", (Pearson)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Use audio materials to improve listening skills. 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Class introduction. TEST. 2) Talking about jobs 1. 3) Talking about jobs 2. 4) Student life 1. 5) Student life 2. 6) Money 1. 7) Money 2. 8) PRESENTATION. 9) Talking about etiquette 1. 10) Talking about etiquette 2. 11) Food 1. 12) Food 2. 13) Everyday heroes 1. 14) Everyday heroes 2. 15) PRESENTATION.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220401
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills. Students who can not register for 英語会話演習 I, please register for this course.		
教材（教科書）	Richards, Jack. "Interchange 1", (Cambridge University Press 2013)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Class introductions. TEST. 2) Describing school. 3) Talking about prices. 4) Likes and dislikes. 5) Family. 6) Exercise and routine. 7) PRESENTATION. 8) Past activities. 9) Describing places. 10) Describing people. 11) Describing experiences. 12) Cities and towns. 13) Health problems. 14) Food. 15) PRESENTATION.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220402
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	英語会話演習 I で学んだ会話の語彙・文法・表現をより広い舞台で応用する実施的講座です。「グローバル人材」になるため、異文化を理解したうえ、世界で通用する対話力や発表力を身に付けることを主な目的とします。毎回ペアワークで会話を徹底的に練習した後、教員との短い会話テストやプレゼンテーションで発表します。グローバルな言語能力、モティベーションを同時に向上させます。		
教材（教科書）	Shinichi Shibata, Rie Jindo, Lindsay Wells. Must-have English Skills for Global Communication. Kinseido Publishing ISBN: 9784764740594		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	英会話の文法、語彙、フレーズを習ってすぐペアワークや会話テストに進む参加型コミュニケーションコース。英和・和英辞典や単語帳用ノートを持参すること。		
評価方法	授業内態度・参加度　２０％　授業内テスト・発表　８０％		
到達目標	１．本コース終了時で、英語会話で意志到達、問題解決、簡単なスピーチアクト（お願いする、アドバイスするなど）ができるようになります。 ２．コミュニケーションに関する異文化理解を深めていきます。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1. Course Introduction/Unit 1 : May I help you? 困っている人に話しかける

2. What do you do on the weekend?　初対面の人と会話を続ける

3. That sounds interesting!　ポジティブ／ネガティブな意見を述べる

?4. I’m not feeling well. 体調を伝える

5. You shouldn’t step there! 注意する

?6. Why don’t we buy potatoes, too? 提案する

?7. Would 5pm be convenient for you? スケジュールを調整する

8. I’ll have to pass. 依頼を断る

?9. I have an idea. 解決策を提案する／協働作業する

10. Could you do me a favor?　お願いする

11. I think you could explain this more.　アドバイスをする

?12. I don’t get what you mean.　発言を聞き返す

?13. I’m so sorry to hear that.　相手を励ます

?14. That’s not what I meant.　誤解を解く／真意を伝える

15. Let’s keep in touch!　別れの挨拶／感謝を伝える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	–	★	–	–

年度	2018	授業コード	JC1220403
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills. Students who can not register for 英語会話演習 I, please register for this course.		
教材（教科書）	Richards, Jack. "Interchange 1", (Cambridge University Press 2013)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Class introductions. TEST. 2) Describing school. 3) Talking about prices. 4) Likes and dislikes. 5) Family. 6) Exercise and routine. 7) PRESENTATION. 8) Past activities. 9) Describing places. 10) Describing people. 11) Describing experiences. 12) Cities and towns. 13) Health problems. 14) Food. 15) PRESENTATION.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220404
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	英語会話演習 I で学んだ会話の語彙・文法・表現をより広い舞台で応用する実施的講座です。「グローバル人材」になるため、異文化を理解したうえ、世界で通用する対話力や発表力を身に付けることを主な目的とします。毎回ペアワークで会話を徹底的に練習した後、教員との短い会話テストやプレゼンテーションで発表します。グローバルな言語能力、モティベーションを同時に向上させます。		
教材（教科書）	Shinichi Shibata, Rie Jindo, Lindsay Wells. Must-have English Skills for Global Communication. Kinseido Publishing ISBN: 9784764740594		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	英会話の文法、語彙、フレーズを習ってすぐペアワークや会話テストに進む参加型コミュニケーションコース。英和・和英辞典や単語帳用ノートを持参すること。		
評価方法	授業内態度・参加度　２０％　授業内テスト・発表　８０％		
到達目標	１．本コース終了時で、英語会話で意志到達、問題解決、簡単なスピーチアクト（お願いする、アドバイスするなど）ができるようになります。 ２．コミュニケーションに関する異文化理解を深めていきます。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1. Course Introduction/Unit 1 : May I help you? 困っている人に話しかける
2. What do you do on the weekend?　初対面の人と会話を続ける
3. That sounds interesting!　ポジティブ／ネガティブな意見を述べる
4. I'm not feeling well. 体調を伝える
5. You shouldn't step there! 注意する
6. Why don't we buy potatoes, too? 提案する
7. Would 5pm be convenient for you? スケジュールを調整する
8. I'll have to pass. 依頼を断る
9. I have an idea. 解決策を提案する／協働作業する
10. Could you do me a favor?　お願いする
11. I think you could explain this more.　アドバイスをする
12. I don't get what you mean.　発言を聞き返す
13. I'm so sorry to hear that.　相手を励ます
14. That's not what I meant.　誤解を解く／真意を伝える
15. Let's keep in touch!　別れの挨拶／感謝を伝える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1220405
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills. Students who can not register for 英語会話演習 I, please register for this course.		
教材（教科書）	Richards, Jack. "Interchange 1", (Cambridge University Press 2013)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Class introductions. TEST. 2) Describing school. 3) Talking about prices. 4) Likes and dislikes. 5) Family. 6) Exercise and routine. 7) PRESENTATION. 8) Past activities. 9) Describing places. 10) Describing people. 11) Describing experiences. 12) Cities and towns. 13) Health problems. 14) Food. 15) PRESENTATION.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220406
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	英語会話演習 I で学んだ会話の語彙・文法・表現をより広い舞台で応用する実施的講座です。「グローバル人材」になるため、異文化を理解したうえ、世界で通用する対話力や発表力を身に付けることを主な目的とします。毎回ペアワークで会話を徹底的に練習した後、教員との短い会話テストやプレゼンテーションで発表します。グローバルな言語能力、モティベーションを同時に向上させます。		
教材（教科書）	Shinichi Shibata, Rie Jindo, Lindsay Wells. Must-have English Skills for Global Communication. Kinseido Publishing ISBN: 9784764740594		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	英会話の文法、語彙、フレーズを習ってすぐペアワークや会話テストに進む参加型コミュニケーションコース。英和・和英辞典や単語帳用ノートを持参すること。		
評価方法	授業内態度・参加度　２０％　授業内テスト・発表　８０％		
到達目標	１．本コース終了時で、英語会話で意志到達、問題解決、簡単なスピーチアクト（お願いする、アドバイスするなど）ができるようになります。 ２．コミュニケーションに関する異文化理解を深めていきます。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1. Course Introduction/Unit 1 : May I help you? 困っている人に話しかける
2. What do you do on the weekend?　初対面の人と会話を続ける
3. That sounds interesting!　ポジティブ／ネガティブな意見を述べる
4. I'm not feeling well. 体調を伝える
5. You shouldn't step there! 注意する
6. Why don't we buy potatoes, too? 提案する
7. Would 5pm be convenient for you? スケジュールを調整する
8. I'll have to pass. 依頼を断る
9. I have an idea. 解決策を提案する／協働作業する
10. Could you do me a favor?　お願いする
11. I think you could explain this more.　アドバイスをする
12. I don't get what you mean.　発言を聞き返す
13. I'm so sorry to hear that.　相手を励ます
14. That's not what I meant.　誤解を解く／真意を伝える
15. Let's keep in touch!　別れの挨拶／感謝を伝える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220451
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills. Students who can not register for 英語会話演習 I, please register for this course.		
教材（教科書）	Richards, Jack. "Interchange 1", (Cambridge University Press 2013)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Class introductions. TEST. 2) Describing school. 3) Talking about prices. 4) Likes and dislikes. 5) Family. 6) Exercise and routine. 7) PRESENTATION. 8) Past activities. 9) Describing places. 10) Describing people. 11) Describing experiences. 12) Cities and towns. 13) Health problems. 14) Food. 15) PRESENTATION.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220453
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills. Students who can not register for 英語会話演習 I, please register for this course.		
教材（教科書）	Richards, Jack. "Interchange 1", (Cambridge University Press 2013)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Class introductions. TEST. 2) Describing school. 3) Talking about prices. 4) Likes and dislikes. 5) Family. 6) Exercise and routine. 7) PRESENTATION. 8) Past activities. 9) Describing places. 10) Describing people. 11) Describing experiences. 12) Cities and towns. 13) Health problems. 14) Food. 15) PRESENTATION.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220454
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	英語会話演習 I で学んだ会話の語彙・文法・表現をより広い舞台で応用する実施的講座です。「グローバル人材」になるため、異文化を理解したうえ、世界で通用する対話力や発表力を身に付けることを主な目的とします。毎回ペアワークで会話を徹底的に練習した後、教員との短い会話テストやプレゼンテーションで発表します。グローバルな言語能力、モティベーションを同時に向上させます。		
教材（教科書）	Shinichi Shibata, Rie Jindo, Lindsay Wells. Must-have English Skills for Global Communication. Kinseido Publishing ISBN: 9784764740594		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	英会話の文法、語彙、フレーズを習ってすぐペアワークや会話テストに進む参加型コミュニケーションコース。英和・和英辞典や単語帳用ノートを持参すること。		
評価方法	授業内態度・参加度　２０％　授業内テスト・発表　８０％		
到達目標	１．本コース終了時で、英語会話で意志到達、問題解決、簡単なスピーチアクト（お願いする、アドバイスするなど）ができるようになります。 ２．コミュニケーションに関する異文化理解を深めていきます。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1. Course Introduction/Unit 1 : May I help you? 困っている人に話しかける
2. What do you do on the weekend?　初対面の人と会話を続ける
3. That sounds interesting!　ポジティブ／ネガティブな意見を述べる
4. I'm not feeling well. 体調を伝える
5. You shouldn't step there! 注意する
6. Why don't we buy potatoes, too? 提案する
7. Would 5pm be convenient for you? スケジュールを調整する
8. I'll have to pass. 依頼を断る
9. I have an idea. 解決策を提案する／協働作業する
10. Could you do me a favor?　お願いする
11. I think you could explain this more.　アドバイスをする
12. I don't get what you mean.　発言を聞き返す
13. I'm so sorry to hear that.　相手を励ます
14. That's not what I meant.　誤解を解く／真意を伝える
15. Let's keep in touch!　別れの挨拶／感謝を伝える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220455
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills. Students who can not register for 英語会話演習 I, please register for this course.		
教材（教科書）	Richards, Jack. "Interchange 1", (Cambridge University Press 2013)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Class introductions. TEST. 2) Describing school. 3) Talking about prices. 4) Likes and dislikes. 5) Family. 6) Exercise and routine. 7) PRESENTATION. 8) Past activities. 9) Describing places. 10) Describing people. 11) Describing experiences. 12) Cities and towns. 13) Health problems. 14) Food. 15) PRESENTATION.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220456
科目名	英語会話演習 II	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	英語会話演習 I で学んだ会話の語彙・文法・表現をより広い舞台で応用する実施的講座です。「グローバル人材」になるため、異文化を理解したうえ、世界で通用する対話力や発表力を身に付けることを主な目的とします。毎回ペアワークで会話を徹底的に練習した後、教員との短い会話テストやプレゼンテーションで発表します。グローバルな言語能力、モティベーションを同時に向上させます。		
教材（教科書）	Shinichi Shibata, Rie Jindo, Lindsay Wells. Must-have English Skills for Global Communication. Kinseido Publishing ISBN: 9784764740594		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	英会話の文法、語彙、フレーズを習ってすぐペアワークや会話テストに進む参加型コミュニケーションコース。英和・和英辞典や単語帳用ノートを持参すること。		
評価方法	授業内態度・参加度　２０％　授業内テスト・発表　８０％		
到達目標	１．本コース終了時で、英語会話で意志到達、問題解決、簡単なスピーチアクト（お願いする、アドバイスするなど）ができるようになります。 ２．コミュニケーションに関する異文化理解を深めていきます。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1. Course Introduction/Unit 1 : May I help you? 困っている人に話しかける
2. What do you do on the weekend?　初対面の人と会話を続ける
3. That sounds interesting!　ポジティブ／ネガティブな意見を述べる
4. I'm not feeling well. 体調を伝える
5. You shouldn't step there! 注意する
6. Why don't we buy potatoes, too? 提案する
7. Would 5pm be convenient for you? スケジュールを調整する
8. I'll have to pass. 依頼を断る
9. I have an idea. 解決策を提案する／協働作業する
10. Could you do me a favor?　お願いする
11. I think you could explain this more.　アドバイスをする
12. I don't get what you mean.　発言を聞き返す
13. I'm so sorry to hear that.　相手を励ます
14. That's not what I meant.　誤解を解く／真意を伝える
15. Let's keep in touch!　別れの挨拶／感謝を伝える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220457
科目名	英語会話演習Ⅱ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This is a specialist course for "Global" students. In this course, you will have the chance to improve your communication skills, however, you will also be expected to develop your reading, listening, and grammar skills. We will be using a textbook in class every week which you will be expected to study. The autumn and spring courses use different textbooks.		
教材（教科書）	Margaret Brooks, "Q: Skills for Success 2 Listening & Speaking", (Oxford University Press)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Use audio materials to improve listening skills. 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Class introductions. TEST. 2) Fashion trends. 3) Good manners. 4) Games and real life. 5) Cambridge test feedback. 6) Family history. 7) PRESENTATIONS. 8) Do it yourself. 9) Recycling and garbage. 10) Storytelling. 11) Using numbers. 12) Cleanliness. 13) Cambridge test feedback. 14) Review. 15) PRESENTATIONS.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220458
科目名	英語会話演習Ⅱ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This is a specialist course for "Global" students. In this course, you will have the chance to improve your communication skills, however, you will also be expected to develop your reading, listening, and grammar skills. We will be using a textbook in class every week which you will be expected to study. The autumn and spring courses use different textbooks.		
教材（教科書）	Margaret Brooks, "Q: Skills for Success 2 Listening & Speaking", (Oxford University Press)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Use audio materials to improve listening skills. 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Class introductions. TEST. 2) Fashion trends. 3) Good manners. 4) Games and real life. 5) Cambridge test feedback. 6) Family history. 7) PRESENTATIONS. 8) Do it yourself. 9) Recycling and garbage. 10) Storytelling. 11) Using numbers. 12) Cleanliness. 13) Cambridge test feedback. 14) Review. 15) PRESENTATIONS.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1220551
科目名	ビジネス英語Ⅰ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
授業概要	本講義では、日本の代表的企業における 15 のビジネスケースを取り上げ、国際社会で活躍を目指す人物のロールモデルについての英文テキストを読解し、それに関連した問題に取り組む。その英語学習を通して、リーダーシップの意味と、それを発揮する方法について学ぶ。 一見難解なマーケティングや経営戦略に関する英語のビジネス用語やコンセプトを、実際のケースに触れることで身につけるように導く。また、英語テキストの内容理解を TOEIC 形式に準じた問題で確認し、TOEIC での高得点取得を目指す。		
教材（教科書）	Yasuo Nakatani, Ryan Smithers, Global Leadership. 金星堂．2017 年．1900 円（税別）		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	授業は演習方式で進められる。毎回の授業で取り上げるトピックについてあらかじめ考えてきた意見を出し合った後、新出の語彙、長文読解、長文の内容に関する英語の問題、長文の概要をまとめる問題、リスニング問題、内容に関するディスカッションという順番で進めてゆく。授業の最初あるいは最後に復習／予習小テストを行うことがある。		
評価方法	授業内テスト（小テスト含む、70%）、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただしこれは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではない。		
到達目標	高校の 3 年間と大学 1 年間で身に付けた英語力のさらなるレベルアップを目指し、日常的な話題から専門的な問題、時事問題、および経済やビジネスの基礎知識を英語で学ぶことを目標とする。ビジネスシーンで英語を活用できるようになる力を養う。春学期修了までにおおよそ TOEIC500 点・英検 2 級レベルの英語力に到達できることを目標とする。		
授業時間外学習	この授業では、毎回の授業において、前回の授業で学んだ内容についての小テストを行うことがある。そのテストの準備として、復習に十分な時間をかけて授業に臨むこと。小テストには語彙、文法問題が含まれる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参する。テキストがないと、授業内の課題を行うことができない。テキストを　持参しなかった場合は減点とする。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。携帯電話の辞書機能を授業中に
　使用することはできない。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用すること。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修する。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験すること。

授業スケジュール

以下の各項目を一回の授業で終了する。ただし、授業の進度によっては変更になることがある。

1. Initiating World's Biggest Joint Marketing Project
　（世界最大の共同＝協働マーケティングを立ち上げる―インテル株式会社）
2. Creating Value and Making a Difference
　（新しい価値を創造し変化をもたらす―日本コカ・コーラ株式会社）
3. Enhancing Luxury Brand Identity
　（日本の消費者に向けたブランド構築―シェネル株式会社、パルファン・クリスチャン・ディオール・ジャポン株式会社）
4. Changing a Big Company with Management of Technology
　（技術経営で大企業に変革を起こす―サッポロビール株式会社）
5. Reviving a Leading Brand

（時代をリードするブランドの再生―株式会社良品計画）

6. Negotiating with Headquarters
（アメリカ本社との交渉戦術で日本の品質管理を世界標準に―インテル株式会社

7. Making a Challenging Business Profitable
（困難なビジネスを長期的展望で黒字化に―ＪＲ九州高速船株式会社）

8. Becoming a Representative Corporate Citizen in China
（中国人のためのブランド作りと企業活動―株式会社資生堂）

9. Developing New Business in Emerging Markets
（新興国の開拓者―株式会社東芝）

10. De-centraizling Marketing Strategies
（日本の消費者に伝わるコミュニケーション戦略―インテル株式会社）

11. Cmpeting with Big Companies by Establishing a Regional Brand
（地域密着ブランドで全国ブランドに対抗する―株式会社明月堂）

12. Sustaining Brand Identity and Global Business Strategies
（ブランド・アイデンティティの持続とブローバルビジネス戦略―株式会社良品計画）

13. Enhancing Clobal Brand Communication
（グローバルブランドコミュニケーションの向上―株式会社資生堂）

14. Developing a Global Leader for Diversity Management
（グローバルリーダーの育成をめざすダイバーシティ経営―株式会社東芝）

15. Building Global Business Models
（グローバルビジネスモデルの構築―コニカミノルタ株式会社）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220552
科目名	ビジネス英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
授業概要	将来のビジネス社会において活躍するために、その基礎となる初歩的なビジネス英語の演習を行う。国際化の進展により英語の重要性が高まっており、近年、TOEIC?（Test of English for International Communication）のスコアが要求される場面が増えてきた。TOEIC?が、国際ビジネス社会での実用英語力を測るものとして有用だからである。TOEIC?対策として基本的な語彙力、聴解力、読解力の向上を目指すが、ただ問題を解くだけではなく、問題の意図を理解し、音読を徹底しながら、総合的な英語の基礎力を養成する。 このクラスでは先ず入門レベルのビジネス英語表現を習得していく。契約書の作成などに必要な専門用語を学ぶ旧来のビジネス英語ではなく、来客や電話応対、ビジネス・レターやＥメール作成など、どちらかと言えばビジネス場面の「入り口」で必要となる英語表現を習得していく。		
教材（教科書）	芳野聡子／植竹由美子／遊佐重樹、Business English for Beginners （『はじめてのビジネス・イングリッシュ』）、三修社、1,800 円		
教材（参考資料）	１．ハンドアウト（プリント）教材 ２．英和辞典などの英語の辞書		
教育方法	１．名簿順指名での発表： 名簿順に指名して問題への答えや音読などを求めていく。予習不足で直ぐに答えられない場合は「パス」とはっきり申し出ること。発表があれば、正誤に関わらず発表点を記録する。 ２．指名に基づかない発表： クラス全体に問いかけることがある。その場合は、複数の受講生が一斉に答えてよい。所定（通常、小テスト）の用紙に、発表回数（１／３／５回以上）を誠実に自主申告する。 ３．小テスト用紙の提出： 通常、教科書のいずれかの演習問題を小テストとする。用紙は、出席の最終確認の用紙でもあるため、提出を怠ると欠席となる。 ４．時間の都合上、授業では教科書の演習を省略することがある。		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）および２回の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ１回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	１．「総合英語」の履修などで身につけた英語表現をビジネスに特化した場面で応用できるようになる。 ２．TOEIC?問題に頻出する英語使用場面や表現に習熟し、TOEIC?において未履修者よりも高いスコアを取得することができる。 ３．日常的な話題や社会の身近な問題についても、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
授業時間外学習	各回とも、 １．次回授業で取り扱う Unit の演習範囲を確認する。 ２．Note を参照しながら、Useful Expressions をすべて何度も音読しておく。なお、Useful Expressions は同じテーマの Part 1 にのみ掲載される。 ３．Sample Dialog(s) も声を出して読んでおく。できれば友人とペアを組んで対話練習しておくとよい。 ４．Exercises の問題を解いておく。いずれかを授業内での小テスト問題とする。 ５．「インフォメーション」は、将来のビジネス場面での心得として覚えておくとよい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。必要な教材なく授業出席することは認めない。 ２．TOEIC?公開テストか、または学内で実施 TOEIC?-IP テストを受験すること。			

3．「総合英語」において、大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力を定着化させ、大学においてさらに多くの語彙を習得して活用できるようになった学生の履修を望む。
4．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。

授業スケジュール

1回の授業で1つの Unit を終える予定であり、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 1: Receiving Visitors Part 1
2．Unit 2: Receiving Visitors Part 2
3．Unit 3: Telephoning Part 1
4．Unit 4: Telephoning Part 2
5．Unit 5: Business Etiquette & Protocol Part 1
6．Unit 6: Business Etiquette & Protocol Part 2
7．授業内課題1、Unit 7: Business Etiquette & Protocol Part 3
8．Unit 8: Presentations Part 1
9．Unit 9: Presentations Part 2
10．Unit 10: Presentations Part 3
11．Unit 11: Business Email Writing Part 1
12．Unit 12: Business Email Writing Part 2
13．Unit 13: Business Letters
14．授業内課題2、Unit 14: Job Hunting Part 1
15．Unit 15: Job Hunting Part 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	JC1220553
科目名	ビジネス英語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
授業概要	最初にこのクラスの履修を希望するみなさまへの注意事項です。 　このクラスはグローバルコースの学生を中心に組織されますので、その内容はかなり高度なものとなり、課題の提出も多く、単位の修得も厳しい基準になると理解しておいてください。 　インターネットの進展と世界のボーダレス化に伴い、高度に情報化・国際化した現代社会において、英語は今やコミュニケーションの手段として、政治、経済、文化、外交などの分野で非常に大きな役割を果たしています。　また、企業の海外進出、海外企業との合弁事業、海外での子会社の設立といった激変するビジネス・ワールドに対応して、ビジネス英語のニーズも急速に増大し、その対象範囲も飛躍的に広がってきています。 　この授業では、日本を代表する有名企業の商品開発及び研究に関する記事や、ホームページに掲載された英文を素材として、語彙力と読解力の養成を目的としたテキストを用いて、それぞれの企業の最新研究の動向や、ヒット商品にまつわる興味深いエピソードなどを学びます。 　この授業に参加する皆さんはビジネス英語を読み、書き、聞き、話すための基本的な力を育成することができるだけでなく、TOEIC テストや TOEFL　iBT テストなども念頭に置き、同義語選択問題や空所補充問題、内容把握問題になどを通して検定試験受験対策もできます。		
教材（教科書）	Innovative Japanese Companies （松柏社）		
教材（参考資料）	辞書（英和、英英辞典など）。 文法事項の復習には「総合英語 FACTBOOK 」（桐原書店）、 ビジネス場面での口語表現の修得には「ビジネスフォレスト」（桐原書店）が最適な参考資料なので、購入を勧めます。なお、亀岡キャンパス図書館にも設置してあります。		
教育方法	この授業では、事前に当日の授業範囲に関する練習問題を京学なびで課題として提出していただきます。 　毎回の授業では、最初にその解答と解説を行い、何を理解できていて、まだ何が理解出来ていないかを各人で確認していただき、その後にテキスト内容の確認を行います。したがって、事前学修としての課題提出はは不可欠です。 　授業は全員がタスクをこなし、自発的にすすめてアクティブな授業にしていく予定です。 　がんばって取り組んでください。		
評価方法	「ビジネス英語Ⅰ」では、授業中の発表など授業参加（10%）、課題提出（30%）、および定期試験（60%）の評価を合算して最終評価をします。 　まお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	高校や大学１年間で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を獲得し、日常的な話題から専門的な問題にまだ活用できる英語力を身につけることができます。EGP（English for General Purposes）から ESP（English for Specific Purposes）へと、ビジネスシーンで基本的な事柄に関しては英語を活用できるようになれます。春学期修了までに TOEIC500 点・英検２級レベルの英語力に仕上げたいと思っています。		
授業時間外学習	授業開始までに、高校や大学１年間で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、毎回の授業の前に、当日のｕｎｉｔ に関する事前学修として、京学なびを通じて練習問題等の課題の提出を求めます。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
① 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ② この授業以外にもできるだけ多くの英語科目を履修するようにしてください。			

③ 実用英語検定、TOEIC などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。
授業スケジュール
第 1 回　Intoroduction to the class 第 2 回　Unit 1:　サイバーダイン株式会社 第 3 回　Unit 2: 株式会社ミライセンス 第 4 回　Unit 3: フリュー株式会社 第 5 回　Unit 4: マリンバイオテクノロジー株式会社 第 6 回　Unit 5: アサヒ飲料株式会社 第 7 回　Unit 6: 株式会社キーストーンテクノロジー 第 8 回　Unit 7: 三菱重工株式会社 および前半のふり返りと反転学習 第 9 回　Unit 8: 富士フイルム・ホールディングス株式会社 第 10 回　Unit 9: 株式会社アシックス 第 11 回　Unit　10:　シャチハタ株式会社 第 12 回　Unit 11: アイシン精機株式会社 第 13 回　Unit 12: 任天堂株式会社 第 14 回　Unit 13: 株式会社タニタ および後半のふり返りと反転学習 第 15 回　Unit 14: AuthaGraph 株式会社

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2018	授業コード	JC1220651
科目名	ビジネス英語Ⅱ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
授業概要	高校の 3 年間と大学 1 年間で身に付けた英語力のさらなるレベルアップを目指し、日常的な話題から専門的な問題、時事問題、および経済やビジネスの基礎知識を英語で学ぶことを目標とする。本講義では特に、ニューヨークタイムズとロイターの記事の中から、グローバルビジネスにおける様々なトレンドを紹介する英文記事を読み、それに関する内容把握およびリスニング問題に取り組む。		
教材（教科書）	Kayoko Shiomi, Hisataka Ohki, Richard Silver, Global Trends in Business. 金星堂. 2015 年.		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	授業は演習方式で進められる。毎回の授業で取り上げるトピックについてあらかじめ予習として考えてきた意見を出し合った後、新出の語彙、長文読解、長文の内容に関する英語の問題、長文の概要をまとめる問題、リスニング問題、内容に関するディスカッションという順番で進めてゆく。授業の最初あるいは最後に復習／予習小テストを行うことがある。		
評価方法	授業内テスト（小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただしこれは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではない。		
到達目標	時事問題、および経済やビジネスの基礎知識を英語で学ぶことを目標とする。ビジネスシーンで英語を活用できる力、最新のビジネス動向を英語で把握する力を養う。また、TOEIC に頻出する語彙やビジネス分野の語彙を増強する。春学期修了までにおおよそ TOEIC600 点・英検 2 級レベル以上の英語力に到達できることを目標とする。		
授業時間外学習	この授業では、前回の授業で学んだ内容についての小テストを行うことがある。そのテストの準備として、復習に十分な時間をかけて授業に臨むこと。小テストには語彙、文法問題が含まれる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参する。テキストがないと、授業内の課題を行うことができない。テキストを　持参しなかった場合は減点とする。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参すること。携帯電話の辞書機能を授業中に
　使用することはできない。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用すること。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修する。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験すること。

授業スケジュール

以下の各項目を一回の授業で終了する。ただし、授業の進度によって変更することがある。

1. Rebranding Disney Stores （ディズニー、ＩＴを駆使した新店舗構想）
2. Intel's New Ad Campaign （インテル、新たな広告キャンペーン展開）
3. Making Consumption "Sustainable" （小売企業、環境指標の提案へ）
4. Which Career Will Be King? （経済危機後の新たなキャリア選択）
5. Balancing Growth and Job Stability （日本経済の行方、成長か安定か）
6. New Strategies at Starbucks （スターバックス、原点に戻り復活）
7. The Power of Global Sports Stars （世界におけるスポーツ選手の影響力）
8. Big Brands and Their Copycats （有名ブランドと氾濫する違法コピー）
9. Getting Women into Boardrooms （ノルウェー、法律化された女性幹部の起用）
10. Social Media and Airlines （ソーシャルメディアと航空会社の対応）
11. Health Food Prospects in Asia （アジア、食生活の変化で健康食品ブーム到来？）
12. Minding Your Manners at Work （デジタル時代のビジネスマナー）

13. The New Outsourcing Movement　（海外外注の新しい動向）
14. Turning Rock Stars into Entrepreneurs　（ロックスターから起業家へ）
15. Changes in the Expatriate Haven　（ビジネスマンの海外駐在生活に変化）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	－	★	★	★

年度	2018	授業コード	JC1220652
科目名	ビジネス英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
授業概要	「ビジネス英語Ⅰ」を発展、継承させる形で中級レヴェルのビジネス英語演習を行う。具体的には、英語コミュニケーション能力を測る TOEIC?（Test of English for International Communication）の問題に取り組み、社会的に通用する TOEIC?スコアの取得を目指す。すなわち、TOEIC?の模擬テストおよび予想問題集を教材として得点力を向上させるための実践的な演習を行い、「ビジネス英語Ⅰ」で身につけた基本的な語彙力と聴解力、読解力のさらなる向上を目指す。TOEIC?に頻出する語彙、表現、文法事項を学習しながら、問題を体系的に攻略していく。 このクラスで使用するテキストは、前半では日常シーン、後半ではビジネスシーンを題材としている。実際の TOEIC?の問題も、ビジネス場面ばかりではなく、それを包括する日常場面の英語表現も対象としている。		
教材（教科書）	Yumi Hasegawa et al.、Primary Practice for the TOEIC? Listening and Reading Test、三修社、1,800円		
教材（参考資料）	1．ハンドアウト（プリント）教材 2．英和辞典などの英語の辞書		
教育方法	1．名簿順指名での発表： 名簿順に指名して問題への答えや音読などを求めていく。予習不足で直ぐに答えられない場合は「パス」とはっきり申し出ること。発表があれば、正誤に関わらず発表点を記録する。 2．指名に基づかない発表： クラス全体に問いかけることがある。その場合は、複数の受講生が一斉に答えてよい。所定（通常、小テスト）の用紙に、発表回数（1／3／5回以上）を誠実に自主申告する。 3．小テスト用紙の提出： 通常、教科書のいずれかの演習問題を小テストとする。用紙は、出席の最終確認の用紙でもあるため、提出を怠ると欠席となる。 4．時間の都合上、授業では教科書の演習を省略することがある。		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）および2回の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の3分の2以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ1回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．TOEIC?に対応した問題演習に継続的に取り組むことにより、少なくとも今より 100 点以上高いスコアの取得を図ることができる。 2．ビジネスやビジネスに関連した生活場面で使用される英語表現に習熟し、将来、同様の生活場面において活用することができる。		
授業時間外学習	各回とも、 1．出版社のホームページより音声データをダウンロードするか、またはいつでもストリーミング再生できるようにしておくこと。これは必須である。 2．次回授業で取り扱う Unit において、先ず Word Check! 1 の語句の意味を確認しておく。 3．次に音声データを再生して Listening Section（Parts 1-4）の問題に取り組み、解答しておくこと。 4．続いて、Word Check! 2 の語句の意味を確認した後、Reading Section（Parts 5-7）の問題についてもすべて解いておく。 5．General Tips については、授業時に TOEIC?の説明と併せて担当者より解説する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。			

2．TOEIC?公開テストか、または学内で実施される TOEIC?-IP テストを受験すること。

3．「総合英語」において、大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力を定着化させ、大学においてさらに多くの語彙を習得して活用できるようになった学生、あるいは「ビジネス英語Ⅰ」において、初歩的なレベルのビジネス英語表現を習得した学生の履修を望む。

4．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。

授業スケジュール

1回の授業で1つの Unit の演習を終える予定であり、万一時間不足となった場合は、省略する項目も生じる。 進捗状況によっては一部変更することもある。TOEIC?に関する説明は各 Unit の General Tips の解説において行う。

1．演習概要と評価方法に関する説明、、Unit 1: Shopping＋名詞
2．Unit 2: Food＋形容詞・副詞
3．Unit 3: Health＋比較
4．Unit 4: Media＋動詞・助動詞
5．Unit 5: Daily Life 1＋受動態と使役
6．Unit 6: Daily Life 2＋主語・動詞の一致
7．授業内課題1、Unit 7: Travel＋文の構造
8．Unit 8: Office Work 1＋動名詞・不定詞
9．Unit 9: Office Work 2＋前置詞
10．Unit 10: Meetings＋接続詞
11．Unit 11: Factories＋時制
12．Unit 12: Products＋完了形
13．Unit 13: Technology＋仮定法
14．授業内課題2、Unit 14: Job Hunting＋分詞
15．Unit 15: Finance＋関係詞

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1220654
科目名	ビジネス英語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
授業概要	最初に、このクラスの履修を希望するみなさまへの注意事項です。 このクラスはグローバルコースの学生を中心に組織されますので、その内容はかなり高度なものとなり、課題の提出も多く、単位の修得も厳しい基準になると理解しておいてください。 この授業は春学期開講の「ビジネス英語Ⅰ」の上級クラスです。 世界中がインターネットでつながる現代、今後ますますグローバル化が進み、英語による情報の発信力、受信力がさらに問われる時代になります。この授業では、知っておきたいビジネスルールを書き下ろしたエッセイです。ビジネス界で活躍するために必要な、コミュニケーションと文化、会議と交渉、ソーシャルメディアと情報支援、オフィス街の外交、の 4 つに野ジャンルから学生に役立つトピックが選ばれています。そして、学生たちが自ら考え、判断し、課題を解決できる思考力を養えるような形式になっています。 主体的に英語に慣れ親しむことができる学習活動を盛り込み、楽しく無理なく英語に向き合っていただけようになっています。 この授業を受けたみなさんはビジネス英語を読み、書き、聞き、話すための基本的な力を育成することができるだけでなく、このテキストで学んだ英語を活用して、仕事現場で使える英語を身につけることが出来ます。 授業においても、ペアワークやロールプレイを取り入れて、実際の仕事現場のように、アクティブラーニングを行えるように進めていきたいと思っています。		
教材（教科書）	English Indicator 4 [Upper Intermediate]　（南雲堂）		
教材（参考資料）	辞書（英和、英英辞典など）。 文法事項の復習には「総合英語 FACTBOOK 」（桐原書店）、 ビジネス場面での口語表現の修得には「ビジネスフォレスト」（桐原書店）が最適な参考資料なので、購入を勧めます。なお、亀岡キャンパス図書館にも設置してあります。		
教育方法	テキストには CD がついていますので、リスニングやスピーキング能力の育成に活用してください。 毎回の授業では、最初に事前学修として自宅で行った練習問題の解答と解説を行い、その後にテキスト内容の確認を行います。したがって、授業の予習は不可欠です。がんばって取り組んでください。授業は、できるだけ指名ではなく挙手によって進める予定です。受講者のみなさんが積極的に参加できるような教育環境にし、アクティブラーニング方式で行い、将来の仕事現場で活用できる英語力を身につけることが出来るようにします。		
評価方法	「ビジネス英語Ⅱ」では、授業中の発表など授業参加およびプレゼンテーション（20%）、課題提出（30%）、および定期試験（50%）の評価を合算して最終評価をします。 まお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。		
到達目標	「ビジネス英語Ⅰ」で培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらにビジネスで必要な語彙を獲得し、日常的な話題から専門的な問題にまで活用できる英語力を身につけることを目標としています。 受講生のみなさんは EGP(English for General Purposes)から ESP(English for Specific Purposes)へと英語力をアップすることにより、ビジネスシーンで英語を活用できるようになります。		
授業時間外学習	① 英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。 ② この授業以外にもできるだけ多くの英語科目を履修するようにしてください。 ③ 実用英語検定、TOEIC、TOEFL などの英語資格試験を受験することに積極的に挑戦してください。 毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 当日の Unit に関する事前学修として、京学なびを通じて練習問題等の課題の提出を求めます。 授業終了後には、事後学修として復習にも努めてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など	
授業開始までに、高校や大学１年間で学んだ英語の基本語彙、文法の基本事項などの復習をしておいてください。授業開始後は、毎回の授業の前に自宅などでテキストを音読し、全体的な内容を把握しておいてください。 また、各 Unit に入る前に、事前学修を兼ねて、京学なびを通じて課題の提出を求めます。	
授業スケジュール	
第１回　Intoroduction to the class 第２回　Uni 1 : It's pleasure to meet you. 第３回　Unit 2 : Business English 第４回　Unit 3: Culture Skills 第５回　Unit 4 : More than Just Words 第６回　Unit 5 : Meetings 第７回　Unit 6: Business Communication Style 第８回　Unit 7: Let's negotiate.　Half time quiz. 第９回　Unit 8 : The Modern Workplace 第 10 回　Unit 9:　The Use of Social Media 第 11 回　Unit 10: Effective Business Writing 第 12 回　Unit 11: The Modern Office 第 13 回　Unit 12 : Socializing with a Purpose 第 14 回　Unit 13: The Business Trip & Final Check. 第 15 回　Unit 15:　Business Presentations by Students	

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1221101
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語Ⅰ
授業概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（教科書）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考資料）	授業中に適宜に指示します。		
教育方法	暗唱、会話などの語学特訓を行う。中国語で自己紹介（発表）もある。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。基礎的な語彙、基礎的な文法、基礎的な挨拶、自己紹介、基礎的な質疑応答などできるように特訓する。		
授業時間外学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

　大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

授業スケジュール

1.授業の進め方、発音、簡単な会話
2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣
3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4.ピンイン、第1課　人称代名詞など
5.発音基礎、第1課「是」など
6.発音基礎、第1課「請」など
7.発音基礎、第2課否定など
8.総合練習、第2課「的」など
9.会話、第3課　形容詞述語文など
10.会話、第3課　疑問詞など
11.会話、第4課　量詞など
12.会話、第4課　数詞など
13.会話、第5課　在、想、要
14.会話、第5課　場所指示代名詞
15.総合練習、自己紹介の練習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1221102
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語Ⅰ
授業概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（教科書）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考資料）	授業中に適宜に指示します。		
教育方法	暗唱、会話などの語学特訓を行う。中国語で自己紹介（発表）もある。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。基礎的な語彙、基礎的な文法、基礎的な挨拶、自己紹介、基礎的な質疑応答などできるように特訓する。		
授業時間外学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

　大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

授業スケジュール

1.授業の進め方、発音、簡単な会話
2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣
3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4.ピンイン、第1課　人称代名詞など
5.発音基礎、第1課「是」など
6.発音基礎、第1課「請」など
7.発音基礎、第2課否定など
8.総合練習、第2課「的」など
9.会話、第3課　形容詞述語文など
10.会話、第3課　疑問詞など
11.会話、第4課　量詞など
12.会話、第4課　数詞など
13.会話、第5課　在、想、要
14.会話、第5課　場所指示代名詞
15.総合練習、自己紹介の練習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1221103
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語Ⅰ
授業概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（教科書）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考資料）	授業中に適宜に指示します。		
教育方法	暗唱、会話などの語学特訓を行う。中国語で自己紹介（発表）もある。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。基礎的な語彙、基礎的な文法、基礎的な挨拶、自己紹介、基礎的な質疑応答などできるように特訓する。		
授業時間外学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

　大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

授業スケジュール

1.授業の進め方、発音、簡単な会話
2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣
3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4.ピンイン、第1課　人称代名詞など
5.発音基礎、第1課「是」など
6.発音基礎、第1課「請」など
7.発音基礎、第2課否定など
8.総合練習、第2課「的」など
9.会話、第3課　形容詞述語文など
10.会話、第3課　疑問詞など
11.会話、第4課　量詞など
12.会話、第4課　数詞など
13.会話、第5課　在、想、要
14.会話、第5課　場所指示代名詞
15.総合練習、自己紹介の練習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1221105
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語Ⅰ
授業概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（教科書）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考資料）	授業中に適宜に指示します。		
教育方法	暗唱、会話などの語学特訓を行う。中国語で自己紹介（発表）もある。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。基礎的な語彙、基礎的な文法、基礎的な挨拶、自己紹介、基礎的な質疑応答などできるように特訓する。		
授業時間外学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

　大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

授業スケジュール

1.授業の進め方、発音、簡単な会話
2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣
3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4.ピンイン、第1課　人称代名詞など
5.発音基礎、第1課「是」など
6.発音基礎、第1課「請」など
7.発音基礎、第2課否定など
8.総合練習、第2課「的」など
9.会話、第3課　形容詞述語文など
10.会話、第3課　疑問詞など
11.会話、第4課　量詞など
12.会話、第4課　数詞など
13.会話、第5課　在、想、要
14.会話、第5課　場所指示代名詞
15.総合練習、自己紹介の練習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1221106
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	劉　礫岩	旧科目名称	
授業概要	この講義では、初習者を対象に、中国語の発声、基礎的な文法などについて学び、初歩的なコミュニケーション能力を身につけることを目的とします。同時に、語順などの文法構造の特徴についても学び、さらなる学習の土台作りを目指します。		
教材（教科書）	教科書：塚本慶一(監修)　劉穎(著)　最新版　「1 年生のコミュニケーション中国語」(CD 付き)　白水社　2,200 円(税抜き)		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	授業の進行は基本教科書に従い、日本人学生にとって難しい発音に留意しつつ、発音と基本文法などを繰り返し練習します。パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。定期テスト(70%)。		
到達目標	中国語の基本的な発音を聞き取れ、発声できるようになること。 簡単なあいさつを習得し、実際使えるようになること。 基礎的な文型を理解し、それを読み書きができるようになること。		
授業時間外学習	基本毎回宿題を出し、復習と予習をします。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎回出席し、積極的に授業に参加してください。
予習、復習をしてくること前提に進めますので、しっかり宿題をしてください。
私語は他の学生に迷惑なので退出してもらうことがあります。

授業スケジュール

１．授業の進め方、発音、簡単な会話
２．ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
３．ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
４．ピンイン、人称代名詞など
５．発音基礎、第１課　「是」など
６．発音基礎、第１課　「請」など
７．発音基礎、第２課　否定文など
８．総合練習、第２課　「的」など
９．会話、第３課　形容詞述語文など
１０．会話、第３課　疑問詞など
１１．会話、第４課　量詞など
１２．会話、第４課　数詞など
１３．会話、第５課　在、想、要
１４．会話、第５課　場所指示代名詞
１５．総合練習、自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1221107
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	劉　礫岩	旧科目名称	
授業概要	この講義では、初習者を対象に、中国語の発声、基礎的な文法などについて学び、初歩的なコミュニケーション能力を身につけることを目的とします。同時に、語順などの文法構造の特徴についても学び、さらなる学習の土台作りを目指します。		
教材（教科書）	教科書：塚本慶一(監修)　劉穎(著)　最新版　「1 年生のコミュニケーション中国語」(CD 付き)　白水社　2,200 円(税抜き)		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	授業の進行は基本教科書に従い、日本人学生にとって難しい発音に留意しつつ、発音と基本文法などを繰り返し練習します。パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。定期テスト(70%)。		
到達目標	中国語の基本的な発音を聞き取れ、発声できるようになること。 簡単なあいさつを習得し、実際使えるようになること。 基礎的な文型を理解し、それを読み書きができるようになること。		
授業時間外学習	基本毎回宿題を出し、復習と予習をします。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎回出席し、積極的に授業に参加してください。
予習、復習をしてくること前提に進めますので、しっかり宿題をしてください。
私語は他の学生に迷惑なので退出してもらうことがあります。

授業スケジュール

１．授業の進め方、発音、簡単な会話
２．ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
３．ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
４．ピンイン、人称代名詞など
５．発音基礎、第１課　「是」など
６．発音基礎、第１課　「請」など
７．発音基礎、第２課　否定文など
８．総合練習、第２課　「的」など
９．会話、第３課　形容詞述語文など
１０．会話、第３課　疑問詞など
１１．会話、第４課　量詞など
１２．会話、第４課　数詞など
１３．会話、第５課　在、想、要
１４．会話、第５課　場所指示代名詞
１５．総合練習、自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1221109
科目名	中国語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅰ		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語Ⅰ
授業概要	中国語は世界人口の約5分の1の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（教科書）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200円　CDつき		
教材（参考資料）	授業中に適宜に指示します。		
教育方法	暗唱、会話などの語学特訓を行う。中国語で自己紹介（発表）もある。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点50% 各種のテスト50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。基礎的な語彙、基礎的な文法、基礎的な挨拶、自己紹介、基礎的な質疑応答などできるように特訓する。		
授業時間外学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

　大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

授業スケジュール

1.授業の進め方、発音、簡単な会話
2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣
3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4.ピンイン、第1課　人称代名詞など
5.発音基礎、第1課「是」など
6.発音基礎、第1課「請」など
7.発音基礎、第2課否定など
8.総合練習、第2課「的」など
9.会話、第3課　形容詞述語文など
10.会話、第3課　疑問詞など
11.会話、第4課　量詞など
12.会話、第4課　数詞など
13.会話、第5課　在、想、要
14.会話、第5課　場所指示代名詞
15.総合練習、自己紹介の練習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1221201
科目名	中国語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese II		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 s
授業概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（教科書）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考資料）	授業中に適宜に指示します。		
教育方法	暗唱、会話などの語学特訓を行う。中国語で自己紹介（発表）もある。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50％ 各種のテスト 50％		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。基礎的な語彙、基礎的な文法、基礎的な挨拶、自己紹介、基礎的な質疑応答などできるように特訓する。		
授業時間外学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

授業スケジュール

1.授業の進め方、第 6 課　有、初級の方は発音練習など
2.第 6 課　助数詞、初級の方は発音、第 1 課など
3.第 7 課　時刻、初級の方は第 1 課など
4.第 7 課　時間の長さ、初級の方は発音、第 1 課など
5.第 8 課　了など、初級の方は発音、第 2 課など
6.第 8 課　選択疑問文、初級の方は発音、第 2 課など
7.第 9 課　前置詞、初級の方は発音、第 3 課など
8.総合練習、第 9 課　給など、初級の方は発音、第 3 課など
9.会話、第 10 課　助動詞、初級の方は第 4 課など
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法、初級の方は第 4 課など
11.会話、第 11 課　量詞など、初級の方は第 5 課など
12.会話、第 11 課　去、来、初級の方は第 5 課など
13.会話、第 12 課　是～的など、初級の方は総合練習
14. 会話、第 12 課　質問の練習、初級の方は自己紹介の練習
15.総合練習、初級の方は自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★★	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1221203
科目名	中国語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅱ		
担当者名	劉　礫岩	旧科目名称	
授業概要	この講義では前期の授業に引き続き、中国語能力のレベルアップを図り、基本文型を学ぶとともに場面に応じて中国語会話を練習する。中国の文化・習慣・事情なども紹介する。基本的な文法事項を運用し、簡単な日常会話をマスターする。		
教材（教科書）	教科書：塚本慶一(監修)　劉穎(著)　最新版　「1 年生のコミュニケーション中国語」(CD 付き)　白水社 2,200 円(税抜き)		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	授業の進行は基本教科書に従い、日本人学生にとって難しい発音に留意しつつ、発音と基本文法などを繰り返し練習します。パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。定期テスト(70%)。		
到達目標	中国語の基本的な発音を聞き取れ、発声できるようになること。 基礎的な文型を理解し、それを読み書きができるようになること。 いくつか限定的な場面での会話を理解できるようになること。		
授業時間外学習	基本毎回宿題を出し、復習と予習をします。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎回出席し、積極的に授業に参加してください。
予習、復習をしてくること前提に進めますので、しっかり宿題をしてください。
私語は他の学生に迷惑なので退出してもらうことがあります。
前期授業の続きなので、中国語Ⅰを履修した上でこちらを履修してください。

授業スケジュール

１．授業の進め方、第６課　「有」など
２．第６課　助数詞など
３．第７課　時刻など
４．第７課　時間の長さなど
５．第８課　「了」など
６．第８課　選択疑問文など
７．第９課　前置詞など
８．総合練習、第９課　「給」など
９．会話、第１０課　助動詞など
１０．会話、第１０課　動詞の重ね用法など

１１．会話、第１１課　量詞など
１２．会話、第１１課　「去」、「来」など
１３．会話、第１２課　「是～的」など
１４．会話、第１２課　質問練習
１５．総合練習、会話練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1221205
科目名	中国語 II	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese II		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 s
授業概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（教科書）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考資料）	授業中に適宜に指示します。		
教育方法	暗唱、会話などの語学特訓を行う。中国語で自己紹介（発表）もある。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50％ 各種のテスト 50％		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。基礎的な語彙、基礎的な文法、基礎的な挨拶、自己紹介、基礎的な質疑応答などできるように特訓する。		
授業時間外学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

授業スケジュール

1.授業の進め方、第 6 課　有、初級の方は発音練習など
2.第 6 課　助数詞、初級の方は発音、第 1 課など
3.第 7 課　時刻、初級の方は第 1 課など
4.第 7 課　時間の長さ、初級の方は発音、第 1 課など
5.第 8 課　了など、初級の方は発音、第 2 課など
6.第 8 課　選択疑問文、初級の方は発音、第 2 課など
7.第 9 課　前置詞、初級の方は発音、第 3 課など
8.総合練習、第 9 課　給など、初級の方は発音、第 3 課など
9.会話、第 10 課　助動詞、初級の方は第 4 課など
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法、初級の方は第 4 課など
11.会話、第 11 課　量詞など、初級の方は第 5 課など
12.会話、第 11 課　去、来、初級の方は第 5 課など
13.会話、第 12 課　是～的など、初級の方は総合練習
14. 会話、第 12 課　質問の練習、初級の方は自己紹介の練習
15.総合練習、初級の方は自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★★	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1221206
科目名	中国語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Chinese Ⅱ		
担当者名	劉　礫岩	旧科目名称	
授業概要	この講義では前期の授業に引き続き、中国語能力のレベルアップを図り、基本文型を学ぶとともに場面に応じて中国語会話を練習する。中国の文化・習慣・事情なども紹介する。基本的な文法事項を運用し、簡単な日常会話をマスターする。		
教材（教科書）	教科書：塚本慶一(監修)　劉穎(著)　最新版　「1 年生のコミュニケーション中国語」(CD 付き)　白水社　2,200 円(税抜き)		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	授業の進行は基本教科書に従い、日本人学生にとって難しい発音に留意しつつ、発音と基本文法などを繰り返し練習します。パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。定期テスト(70%)。		
到達目標	中国語の基本的な発音を聞き取れ、発声できるようになること。 基礎的な文型を理解し、それを読み書きができるようになること。 いくつか限定的な場面での会話を理解できるようになること。		
授業時間外学習	基本毎回宿題を出し、復習と予習をします。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎回出席し、積極的に授業に参加してください。
予習、復習をしてくること前提に進めますので、しっかり宿題をしてください。
私語は他の学生に迷惑なので退出してもらうことがあります。
前期授業の続きなので、中国語Ⅰを履修した上でこちらを履修してください。

授業スケジュール

１．授業の進め方、第６課　「有」など
２．第６課　助数詞など
３．第７課　時刻など
４．第７課　時間の長さなど
５．第８課　「了」など
６．第８課　選択疑問文など
７．第９課　前置詞など
８．総合練習、第９課　「給」など
９．会話、第１０課　助動詞など
１０．会話、第１０課　動詞の重ね用法など

１１．会話、第１１課　量詞など
１２．会話、第１１課　「去」、「来」など
１３．会話、第１２課　「是～的」など
１４．会話、第１２課　質問練習
１５．総合練習、会話練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1222101
科目名	ハングルⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字を正しく書き、正確に発音できるようになることを目指す。 その後、韓国語でのコミュニケ ーションに必要な基礎的能力（読む、書く、話す、聴く）を培う。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく）となりますが、一方的な講義とはならず、 学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行く。また、直ぐ使える決まり文句などが、確実に身に付くように楽しく学ぶ。 画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト， 複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1回　シラバスを読み、授業内容について理解する。 2回　テキスト 6-8 頁まで読んで文字を覚える。　（基本母音を書きながら覚える） 3回　テキスト 9 頁の内容を確認する。（子音を書きながら覚える） 4回　テキスト 13-17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 5回　テキスト 13 頁から 17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 6回　テキスト 22-23 頁の内容を確認する。（単語を発音してみる） 7回　テキスト 28-32 頁の内容を確認する。（発音の変化に従って発音する） 8回　レポートを作成（日本語） 9回　テキスト 38-39 頁の内容を確認する。（本文を読む練習をする） 10回　テキスト 44-45 頁の内容を確認する。（自己紹介①をやってみる） 11回　テキスト 50-51 頁の内容を確認する。（位置を表す言葉を覚える） 12回　テキスト 56-57 頁の内容を確認する。（自己紹介②をやってみる） 13回　テキスト 64-65 頁の内容を確認する。（ヘヨ体を練習する） 14回　テキスト 72-73 頁の内容を確認する。（否定文を作ってみる） 15回　数詞を練習する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。 欠席しないようにすること。			

韓国の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと。
是非、韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を目指してほしい。
受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2回　ステージ1．第1課　基本母音
3回　ステージ1．第2課　子音（1）
4回　ステージ1．第3課　子音（2）激音と濃音
5回　ステージ1．第4課　複合母音
6回　ステージ1．第5課　終声（パッチム）
7回　ステージ1．第6課　発音の変化
8回　ステージ1の内容を整理、韓国の文化体験①
9回　ステージ2．　第1課　私は～です　（名詞文のハムニダ体 ）
10回　ステージ2．第2課　専攻は何ですか　（名詞文のヘヨ体と否定）
11回　ステージ2．　第3課　図書館の横にあります。（指示詞）
12回　ステージ2．第4課　～をします　（用言文のハムニダ体）
13回　ステージ2．第5課　～が好きですか（用言文のヘヨ体）
14回　ステージ2．第6課　～ない（用言文の否定形）
15回　数詞練習、韓国の文化体験②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1222102
科目名	ハングルⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字を正しく書き、正確に発音できるようになることを目指す。 その後、韓国語でのコミュニケ ーションに必要な基礎的能力（読む、書く、話す、聴く）を培う。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく）となりますが、一方的な講義とはならず、 学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行く。また、直ぐ使える決まり文句などが、確実に身に付くように楽しく学ぶ。 画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト， 複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1回　シラバスを読み、授業内容について理解する。 2回　テキスト 6-8 頁まで読んで文字を覚える。　（基本母音を書きながら覚える） 3回　テキスト 9 頁の内容を確認する。（子音を書きながら覚える） 4回　テキスト 13-17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 5回　テキスト 13 頁から 17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 6回　テキスト 22-23 頁の内容を確認する。（単語を発音してみる） 7回　テキスト 28-32 頁の内容を確認する。（発音の変化に従って発音する） 8回　レポートを作成（日本語） 9回　テキスト 38-39 頁の内容を確認する。（本文を読む練習をする） 10回　テキスト 44-45 頁の内容を確認する。（自己紹介①をやってみる） 11回　テキスト 50-51 頁の内容を確認する。（位置を表す言葉を覚える） 12回　テキスト 56-57 頁の内容を確認する。（自己紹介②をやってみる） 13回　テキスト 64-65 頁の内容を確認する。（ヘヨ体を練習する） 14回　テキスト 72-73 頁の内容を確認する。（否定文を作ってみる） 15回　数詞を練習する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。 欠席しないようにすること。			

韓国の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと。
是非、韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を目指してほしい。
受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2回　ステージ1．第1課　基本母音
3回　ステージ1．第2課　子音（1）
4回　ステージ1．第3課　子音（2）激音と濃音
5回　ステージ1．第4課　複合母音
6回　ステージ1．第5課　終声（パッチム）
7回　ステージ1．第6課　発音の変化
8回　ステージ1の内容を整理、韓国の文化体験①
9回　ステージ2．　第1課　私は～です　（名詞文のハムニダ体 ）
10回　ステージ2．第2課　専攻は何ですか　（名詞文のヘヨ体と否定）
11回　ステージ2．　第3課　図書館の横にあります。（指示詞）
12回　ステージ2．第4課　～をします　（用言文のハムニダ体）
13回　ステージ2．第5課　～が好きですか（用言文のヘヨ体）
14回　ステージ2．第6課　～ない（用言文の否定形）
15回　数詞練習、韓国の文化体験②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1222103
科目名	ハングルⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字を正しく書き、正確に発音できるようになることを目指す。 その後、韓国語でのコミュニケ ーションに必要な基礎的能力（読む、書く、話す、聴く）を培う。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく）となりますが、一方的な講義とはならず、 学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行く。また、直ぐ使える決まり文句などが、確実に身に付くように楽しく学ぶ。 画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト， 複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1回　シラバスを読み、授業内容について理解する。 2回　テキスト 6-8 頁まで読んで文字を覚える。　（基本母音を書きながら覚える） 3回　テキスト 9 頁の内容を確認する。（子音を書きながら覚える） 4回　テキスト 13-17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 5回　テキスト 13 頁から 17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 6回　テキスト 22-23 頁の内容を確認する。（単語を発音してみる） 7回　テキスト 28-32 頁の内容を確認する。（発音の変化に従って発音する） 8回　レポートを作成（日本語） 9回　テキスト 38-39 頁の内容を確認する。（本文を読む練習をする） 10回　テキスト 44-45 頁の内容を確認する。（自己紹介①をやってみる） 11回　テキスト 50-51 頁の内容を確認する。（位置を表す言葉を覚える） 12回　テキスト 56-57 頁の内容を確認する。（自己紹介②をやってみる） 13回　テキスト 64-65 頁の内容を確認する。（ヘヨ体を練習する） 14回　テキスト 72-73 頁の内容を確認する。（否定文を作ってみる） 15回　数詞を練習する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。 欠席しないようにすること。			

韓国の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと。
是非、韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を目指してほしい。
受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2回　ステージ1．第1課　基本母音
3回　ステージ1．第2課　子音（1）
4回　ステージ1．第3課　子音（2）激音と濃音
5回　ステージ1．第4課　複合母音
6回　ステージ1．第5課　終声（パッチム）
7回　ステージ1．第6課　発音の変化
8回　ステージ1の内容を整理、韓国の文化体験①
9回　ステージ2．　第1課　私は～です　（名詞文のハムニダ体 ）
10回　ステージ2．第2課　専攻は何ですか　（名詞文のヘヨ体と否定）
11回　ステージ2．　第3課　図書館の横にあります。（指示詞）
12回　ステージ2．第4課　～をします　（用言文のハムニダ体）
13回　ステージ2．第5課　～が好きですか（用言文のヘヨ体）
14回　ステージ2．第6課　～ない（用言文の否定形）
15回　数詞練習、韓国の文化体験②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1222104
科目名	ハングルⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字を正しく書き、正確に発音できるようになることを目指す。 その後、韓国語でのコミュニケ ーションに必要な基礎的能力（読む、書く、話す、聴く）を培う。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく）となりますが、一方的な講義とはならず、 学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行く。また、直ぐ使える決まり文句などが、確実に身に付くように楽しく学ぶ。 画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト， 複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1回　シラバスを読み、授業内容について理解する。 2回　テキスト 6-8 頁まで読んで文字を覚える。　（基本母音を書きながら覚える） 3回　テキスト 9 頁の内容を確認する。（子音を書きながら覚える） 4回　テキスト 13-17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 5回　テキスト 13 頁から 17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 6回　テキスト 22-23 頁の内容を確認する。（単語を発音してみる） 7回　テキスト 28-32 頁の内容を確認する。（発音の変化に従って発音する） 8回　レポートを作成（日本語） 9回　テキスト 38-39 頁の内容を確認する。（本文を読む練習をする） 10回　テキスト 44-45 頁の内容を確認する。（自己紹介①をやってみる） 11回　テキスト 50-51 頁の内容を確認する。（位置を表す言葉を覚える） 12回　テキスト 56-57 頁の内容を確認する。（自己紹介②をやってみる） 13回　テキスト 64-65 頁の内容を確認する。（ヘヨ体を練習する） 14回　テキスト 72-73 頁の内容を確認する。（否定文を作ってみる） 15回　数詞を練習する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。 欠席しないようにすること。			

韓国の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと。
是非、韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を目指してほしい。
受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2回　ステージ1．第1課　基本母音
3回　ステージ1．第2課　子音（1）
4回　ステージ1．第3課　子音（2）激音と濃音
5回　ステージ1．第4課　複合母音
6回　ステージ1．第5課　終声（パッチム）
7回　ステージ1．第6課　発音の変化
8回　ステージ1の内容を整理、韓国の文化体験①
9回　ステージ2．　第1課　私は～です　（名詞文のハムニダ体 ）
10回　ステージ2．第2課　専攻は何ですか　（名詞文のヘヨ体と否定）
11回　ステージ2．　第3課　図書館の横にあります。（指示詞）
12回　ステージ2．第4課　～をします　（用言文のハムニダ体）
13回　ステージ2．第5課　～が好きですか（用言文のヘヨ体）
14回　ステージ2．第6課　～ない（用言文の否定形）
15回　数詞練習、韓国の文化体験②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1222105
科目名	ハングルⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字を正しく書き、正確に発音できるようになることを目指す。 その後、韓国語でのコミュニケ ーションに必要な基礎的能力（読む、書く、話す、聴く）を培う。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく）となりますが、一方的な講義とはならず、 学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行く。また、直ぐ使える決まり文句などが、確実に身に付くように楽しく学ぶ。 画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト， 複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1回　シラバスを読み、授業内容について理解する。 2回　テキスト 6-8 頁まで読んで文字を覚える。　（基本母音を書きながら覚える） 3回　テキスト 9 頁の内容を確認する。（子音を書きながら覚える） 4回　テキスト 13-17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 5回　テキスト 13 頁から 17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 6回　テキスト 22-23 頁の内容を確認する。（単語を発音してみる） 7回　テキスト 28-32 頁の内容を確認する。（発音の変化に従って発音する） 8回　レポートを作成（日本語） 9回　テキスト 38-39 頁の内容を確認する。（本文を読む練習をする） 10回　テキスト 44-45 頁の内容を確認する。（自己紹介①をやってみる） 11回　テキスト 50-51 頁の内容を確認する。（位置を表す言葉を覚える） 12回　テキスト 56-57 頁の内容を確認する。（自己紹介②をやってみる） 13回　テキスト 64-65 頁の内容を確認する。（ヘヨ体を練習する） 14回　テキスト 72-73 頁の内容を確認する。（否定文を作ってみる） 15回　数詞を練習する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。 欠席しないようにすること。			

韓国の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと。
是非、韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を目指してほしい。
受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2回　ステージ1．第1課　基本母音
3回　ステージ1．第2課　子音（1）
4回　ステージ1．第3課　子音（2）激音と濃音
5回　ステージ1．第4課　複合母音
6回　ステージ1．第5課　終声（パッチム）
7回　ステージ1．第6課　発音の変化
8回　ステージ1の内容を整理、韓国の文化体験①
9回　ステージ2．　第1課　私は～です　（名詞文のハムニダ体 ）
10回　ステージ2．第2課　専攻は何ですか　（名詞文のヘヨ体と否定）
11回　ステージ2．　第3課　図書館の横にあります。（指示詞）
12回　ステージ2．第4課　～をします　（用言文のハムニダ体）
13回　ステージ2．第5課　～が好きですか（用言文のヘヨ体）
14回　ステージ2．第6課　～ない（用言文の否定形）
15回　数詞練習、韓国の文化体験②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1222106
科目名	ハングルⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字を正しく書き、正確に発音できるようになることを目指す。 その後、韓国語でのコミュニケ ーションに必要な基礎的能力（読む、書く、話す、聴く）を培う。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく）となりますが、一方的な講義とはならず、 学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行く。また、直ぐ使える決まり文句などが、確実に身に付くように楽しく学ぶ。 画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト， 複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1回　シラバスを読み、授業内容について理解する。 2回　テキスト 6-8 頁まで読んで文字を覚える。　（基本母音を書きながら覚える） 3回　テキスト 9 頁の内容を確認する。（子音を書きながら覚える） 4回　テキスト 13-17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 5回　テキスト 13 頁から 17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 6回　テキスト 22-23 頁の内容を確認する。（単語を発音してみる） 7回　テキスト 28-32 頁の内容を確認する。（発音の変化に従って発音する） 8回　レポートを作成（日本語） 9回　テキスト 38-39 頁の内容を確認する。（本文を読む練習をする） 10回　テキスト 44-45 頁の内容を確認する。（自己紹介①をやってみる） 11回　テキスト 50-51 頁の内容を確認する。（位置を表す言葉を覚える） 12回　テキスト 56-57 頁の内容を確認する。（自己紹介②をやってみる） 13回　テキスト 64-65 頁の内容を確認する。（ヘヨ体を練習する） 14回　テキスト 72-73 頁の内容を確認する。（否定文を作ってみる） 15回　数詞を練習する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。 欠席しないようにすること。			

韓国の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと。
是非、韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を目指してほしい。
受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2回　ステージ1．第1課　基本母音
3回　ステージ1．第2課　子音（1）
4回　ステージ1．第3課　子音（2）激音と濃音
5回　ステージ1．第4課　複合母音
6回　ステージ1．第5課　終声（パッチム）
7回　ステージ1．第6課　発音の変化
8回　ステージ1の内容を整理、韓国の文化体験①
9回　ステージ2．　第1課　私は～です　（名詞文のハムニダ体 ）
10回　ステージ2．第2課　専攻は何ですか　（名詞文のヘヨ体と否定）
11回　ステージ2．　第3課　図書館の横にあります。（指示詞）
12回　ステージ2．第4課　～をします　（用言文のハムニダ体）
13回　ステージ2．第5課　～が好きですか（用言文のヘヨ体）
14回　ステージ2．第6課　～ない（用言文の否定形）
15回　数詞練習、韓国の文化体験②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1222107
科目名	ハングルⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字を正しく書き、正確に発音できるようになることを目指す。 その後、韓国語でのコミュニケ ーションに必要な基礎的能力（読む、書く、話す、聴く）を培う。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく）となりますが、一方的な講義とはならず、 学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行く。また、直ぐ使える決まり文句などが、確実に身に付くように楽しく学ぶ。 画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト， 複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1回　シラバスを読み、授業内容について理解する。 2回　テキスト 6-8 頁まで読んで文字を覚える。　（基本母音を書きながら覚える） 3回　テキスト 9 頁の内容を確認する。（子音を書きながら覚える） 4回　テキスト 13-17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 5回　テキスト 13 頁から 17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 6回　テキスト 22-23 頁の内容を確認する。（単語を発音してみる） 7回　テキスト 28-32 頁の内容を確認する。（発音の変化に従って発音する） 8回　レポートを作成（日本語） 9回　テキスト 38-39 頁の内容を確認する。（本文を読む練習をする） 10回　テキスト 44-45 頁の内容を確認する。（自己紹介①をやってみる） 11回　テキスト 50-51 頁の内容を確認する。（位置を表す言葉を覚える） 12回　テキスト 56-57 頁の内容を確認する。（自己紹介②をやってみる） 13回　テキスト 64-65 頁の内容を確認する。（ヘヨ体を練習する） 14回　テキスト 72-73 頁の内容を確認する。（否定文を作ってみる） 15回　数詞を練習する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。 欠席しないようにすること。			

韓国の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと。
是非、韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を目指してほしい。
受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2回　ステージ1．第1課　基本母音
3回　ステージ1．第2課　子音（1）
4回　ステージ1．第3課　子音（2）激音と濃音
5回　ステージ1．第4課　複合母音
6回　ステージ1．第5課　終声（パッチム）
7回　ステージ1．第6課　発音の変化
8回　ステージ1の内容を整理、韓国の文化体験①
9回　ステージ2．　第1課　私は～です　（名詞文のハムニダ体 ）
10回　ステージ2．第2課　専攻は何ですか　（名詞文のヘヨ体と否定）
11回　ステージ2．　第3課　図書館の横にあります。（指示詞）
12回　ステージ2．第4課　～をします　（用言文のハムニダ体）
13回　ステージ2．第5課　～が好きですか（用言文のヘヨ体）
14回　ステージ2．第6課　～ない（用言文の否定形）
15回　数詞練習、韓国の文化体験②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1222108
科目名	ハングルⅠ	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean Ⅰ		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字を正しく書き、正確に発音できるようになることを目指す。 その後、韓国語でのコミュニケ ーションに必要な基礎的能力（読む、書く、話す、聴く）を培う。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく）となりますが、一方的な講義とはならず、 学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行く。また、直ぐ使える決まり文句などが、確実に身に付くように楽しく学ぶ。 画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト， 複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1回　シラバスを読み、授業内容について理解する。 2回　テキスト 6-8 頁まで読んで文字を覚える。　（基本母音を書きながら覚える） 3回　テキスト 9 頁の内容を確認する。（子音を書きながら覚える） 4回　テキスト 13-17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 5回　テキスト 13 頁から 17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 6回　テキスト 22-23 頁の内容を確認する。（単語を発音してみる） 7回　テキスト 28-32 頁の内容を確認する。（発音の変化に従って発音する） 8回　レポートを作成（日本語） 9回　テキスト 38-39 頁の内容を確認する。（本文を読む練習をする） 10回　テキスト 44-45 頁の内容を確認する。（自己紹介①をやってみる） 11回　テキスト 50-51 頁の内容を確認する。（位置を表す言葉を覚える） 12回　テキスト 56-57 頁の内容を確認する。（自己紹介②をやってみる） 13回　テキスト 64-65 頁の内容を確認する。（ヘヨ体を練習する） 14回　テキスト 72-73 頁の内容を確認する。（否定文を作ってみる） 15回　数詞を練習する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。 欠席しないようにすること。			

韓国の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと。
是非、韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を目指してほしい。
受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2回　ステージ1．第1課　基本母音
3回　ステージ1．第2課　子音（1）
4回　ステージ1．第3課　子音（2）激音と濃音
5回　ステージ1．第4課　複合母音
6回　ステージ1．第5課　終声（パッチム）
7回　ステージ1．第6課　発音の変化
8回　ステージ1の内容を整理、韓国の文化体験①
9回　ステージ2．　第1課　私は～です　（名詞文のハムニダ体 ）
10回　ステージ2．第2課　専攻は何ですか　（名詞文のヘヨ体と否定）
11回　ステージ2．　第3課　図書館の横にあります。（指示詞）
12回　ステージ2．第4課　～をします　（用言文のハムニダ体）
13回　ステージ2．第5課　～が好きですか（用言文のヘヨ体）
14回　ステージ2．第6課　～ない（用言文の否定形）
15回　数詞練習、韓国の文化体験②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1222201
科目名	ハングルII	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean II		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	ハングル（Ｉ）に引き続き、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養うことを目指す。授業は講義形式でおこないまずが（基本的に教科書に沿って進めていきます)、できるだけ一方的な講義にならないよう心がけ、受講者とのコミュニケーションをとりながら進めて行く予定である。また画像や映像も援用し、韓国の社会・文化などの韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト, 複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1 回　ハムニダ体とヘヨ体について復習する。 2 回　テキスト 78-79 頁の内容を確認する。(?数詞を練習する） 3 回　テキスト 86-87 頁の内容を確認する。(固有数字を練習する） 4 回　練習問題をやってみる。 5 回　練習問題をやってみる。 6 回　テキスト 94-95 頁の内容を確認する。(過去形の練習問題をやってみる） 7 回　テキスト 102-103 の内容を確認する。(尊敬形の練習問題をやってみる） 8 回　レポートを作成（日本語） 9 回　テキスト 112-113 頁の内容を確認する。 10 回　テキスト 120-121 頁の内容を確認する。 11 回　テキスト 128-129 の内容を確認する。 12 回　テキスト 136-137 の内容を確認する。 13 回　テキスト 142-143 の内容を確認する。 14 回　テキスト 148-149 頁の内容を確認する。 15 回　テキスト 154-155 頁の内容を確認する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
この授業は、「ハングルⅠ」と「ハングル s」の単位を取得した学生を対象に講義を行う。 よって、「ハングルⅠ」と「ハングル s」を履修した学生が次の段階として受講することが望ましい。 本講座の受講生は韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を、是非、目指してほしい。			

受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　前期の復習（1）　（用言文のハムニダ体とヘヨ体）
2回　ステージ2．第7課　～いつですか（?数詞）
3回　ステージ2．第8課　～時から　～時までです（固有数詞）
4回　漢数字と固有数字の練習①（年月日）
5回　漢数字と固有数字の練習②（時間）
6回　ステージ2．9課　～ました　～でした（過去形）
7回　ステージ2．10課　～（ら）れます（尊敬形）
8回　韓国の文化体験
9回　ステージ3．11課　～したい（希望と羅列の表現）
10回　ステージ3．12課　～て　～ので（理由、動作の先行）
11回　ステージ3．13課　～られた（尊敬過去形）
12回　ステージ3．14課　～れば　～たら　～と（仮定と条件）
13回　ステージ3　15課　～します　～けれども（意志逆接）
14回　ステージ3　16課　～しようと思う　～てください（意図と丁寧な依頼）
15回　ステージ3　17課　～できない（不可能の表現）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1222204
科目名	ハングルII	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean II		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	ハングル（Ｉ）に引き続き、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養うことを目指す。授業は講義形式でおこないまずが（基本的に教科書に沿って進めていきます)、できるだけ一方的な講義にならないよう心がけ、受講者とのコミュニケーションをとりながら進めて行く予定である。また画像や映像も援用し、韓国の社会・文化などの韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト, 複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1 回　ハムニダ体とヘヨ体について復習する。 2 回　テキスト 78-79 頁の内容を確認する。(?数詞を練習する） 3 回　テキスト 86-87 頁の内容を確認する。(固有数字を練習する） 4 回　練習問題をやってみる。 5 回　練習問題をやってみる。 6 回　テキスト 94-95 頁の内容を確認する。(過去形の練習問題をやってみる） 7 回　テキスト 102-103 の内容を確認する。(尊敬形の練習問題をやってみる） 8 回　レポートを作成（日本語） 9 回　テキスト 112-113 頁の内容を確認する。 10 回　テキスト 120-121 頁の内容を確認する。 11 回　テキスト 128-129 の内容を確認する。 12 回　テキスト 136-137 の内容を確認する。 13 回　テキスト 142-143 の内容を確認する。 14 回　テキスト 148-149 頁の内容を確認する。 15 回　テキスト 154-155 頁の内容を確認する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
この授業は、「ハングルⅠ」と「ハングル s」の単位を取得した学生を対象に講義を行う。 よって、「ハングルⅠ」と「ハングル s」を履修した学生が次の段階として受講することが望ましい。 本講座の受講生は韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を、是非、目指してほしい。			

受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　前期の復習（1）　（用言文のハムニダ体とヘヨ体）
2回　ステージ2．第7課　～いつですか（?数詞）
3回　ステージ2．第8課　～時から　～時までです（固有数詞）
4回　漢数字と固有数字の練習①（年月日）
5回　漢数字と固有数字の練習②（時間）
6回　ステージ2．9課　～ました　～でした（過去形）
7回　ステージ2．10課　～（ら）れます（尊敬形）
8回　韓国の文化体験
9回　ステージ3．11課　～したい（希望と羅列の表現）
10回　ステージ3．12課　～て　～ので（理由、動作の先行）
11回　ステージ3．13課　～られた（尊敬過去形）
12回　ステージ3．14課　～れば　～たら　～と（仮定と条件）
13回　ステージ3　15課　～します　～けれども（意志逆接）
14回　ステージ3　16課　～しようと思う　～てください（意図と丁寧な依頼）
15回　ステージ3　17課　～できない（不可能の表現）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1222205
科目名	ハングルII	単位数	2
科目名（英語表記）	Korean II		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	ハングル（Ｉ）に引き続き、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養うことを目指す。授業は講義形式でおこないまずが（基本的に教科書に沿って進めていきます)、できるだけ一方的な講義にならないよう心がけ、受講者とのコミュニケーションをとりながら進めて行く予定である。また画像や映像も援用し、韓国の社会・文化などの韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト, 複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1 回　ハムニダ体とヘヨ体について復習する。 2 回　テキスト 78-79 頁の内容を確認する。(?数詞を練習する） 3 回　テキスト 86-87 頁の内容を確認する。(固有数字を練習する） 4 回　練習問題をやってみる。 5 回　練習問題をやってみる。 6 回　テキスト 94-95 頁の内容を確認する。(過去形の練習問題をやってみる） 7 回　テキスト 102-103 の内容を確認する。(尊敬形の練習問題をやってみる） 8 回　レポートを作成（日本語） 9 回　テキスト 112-113 頁の内容を確認する。 10 回　テキスト 120-121 頁の内容を確認する。 11 回　テキスト 128-129 の内容を確認する。 12 回　テキスト 136-137 の内容を確認する。 13 回　テキスト 142-143 の内容を確認する。 14 回　テキスト 148-149 頁の内容を確認する。 15 回　テキスト 154-155 頁の内容を確認する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
この授業は、「ハングルⅠ」と「ハングル s」の単位を取得した学生を対象に講義を行う。 よって、「ハングルⅠ」と「ハングル s」を履修した学生が次の段階として受講することが望ましい。 本講座の受講生は韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を、是非、目指してほしい。			

受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　前期の復習（1）　（用言文のハムニダ体とヘヨ体）
2回　ステージ2．第7課　～いつですか（?数詞）
3回　ステージ2．第8課　～時から　～時までです（固有数詞）
4回　漢数字と固有数字の練習①（年月日）
5回　漢数字と固有数字の練習②（時間）
6回　ステージ2．9課　～ました　～でした（過去形）
7回　ステージ2．10課　～（ら）れます（尊敬形）
8回　韓国の文化体験
9回　ステージ3．11課　～したい（希望と羅列の表現）
10回　ステージ3．12課　～て　～ので（理由、動作の先行）
11回　ステージ3．13課　～られた（尊敬過去形）
12回　ステージ3．14課　～れば　～たら　～と（仮定と条件）
13回　ステージ3　15課　～します　～けれども（意志逆接）
14回　ステージ3　16課　～しようと思う　～てください（意図と丁寧な依頼）
15回　ステージ3　17課　～できない（不可能の表現）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1223101
科目名	ドイツ語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	German Ⅰ		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	ドイツ語Ⅰ
授業概要	ドイツは 9 か国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中心的存在。その政治動向には、常に世界中の注目が集められています。今は「英語でまにあう」時代。しかし英語以外の言語を学習することは、文化の多様性を知るきっかけになり、グローバルな人間性の構築につながります。この授業の目標は、ずばりドイツ語のコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするため、文法の基礎を学習します。ドイツ語で投げかけられた質問に、物怖じすることなく、正しい発音で応じられるようになること。できればドイツに行って、ドイツ人と臆せずに会話ができるようになること。それがこの授業の最終到達目標です。		
教材（教科書）	羽根田知子・熊谷知実共著『ネコと学ぶドイツ語』（三修社、2015 年）2592 円 授業中並びに授業時間外の復習に使用します。		
教材（参考資料）	印刷資料や練習問題は適宜配布します。		
教育方法	1．前回の学習内容の確認（筆記テスト） 前週の授業内容の復習からスタート。単語の発音練習、文法内容の復習、そして筆記試験へ。 試験終了後は答え合わせを通じて、正しいスペルの再確認をする。 2．文化体験（ビデオ） その日学習する授業内容に関連した映像を鑑賞し、ドイツ文化に触れる。 3．新しい文法・新しい表現を学ぶ（教科書で学習） ドイツ語の文章を聴き取り、発音し、意味内容や文法構造を理解する。 4．ペアワーク（口頭テスト） ペアで独自の会話をつくり、ドイツ語でテンポよく会話する練習をする。それを暗記して発表。		
評価方法	授業の最初に行う授業の復習筆記テスト（40%）、授業の最後に行うペア口頭テスト（40%）、学期末に行う習熟度確認テスト（20%）、基本的に毎回出席してもらって、その習熟度を確認するという評価方法です。毎回の積み重ねは語学力となって、学期末には身についているはずです。		
到達目標	1．異文化を理解すること。 2．そのために必要なドイツの知識とドイツ語の学習法を身につけること。 3．外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得すること。 具体的には、正しい発音を身につけ、自己紹介し、簡単な問いに答えられるようになること。		
授業時間外学習	第 1 回　教科書の地図を参考に配布資料でドイツについて学習 第 2 回　教科書 1 頁 第 3 回　教科書 2 頁、8 頁 第 4 回　教科書 3－6 頁 第 5 回　教科書 7 頁 第 6 回　教科書 9 頁、14 頁 第 7 回　教科書 14 頁 第 8 回　教科書 10－12 頁 第 9 回　教科書 13 頁 第 10 回　教科書 15－18 頁 第 11 回　教科書 19 頁 第 12 回　教科書 18－20 頁 第 13 回　教科書 21－24 頁 第 14 回　教科書 25 頁 第 15 回　教科書 26－28 頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．授業中の私語、携帯電話の利用は禁止。 2．1 日休むと次週の授業が大変になるので、できるだけ連続して出席すること。			

3．やむをえず欠席した場合は、次週の範囲試験について情報収集し、事前学習しておくこと。
授業スケジュール
1　授業の進め方とドイツについて 2　発音の基礎 3　単語の発音と挨拶 4　自己紹介 5　趣味 6　天候と数字 7　時刻と数字 8　ここあいていますか 9　持っているか、持っていないか 10　ドイツ語で何というのか 11　これはいくらですか 12　珈琲１杯ください 13　何が飲みたいですか 14　何ができますか 15　トイレはどこですか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1223105
科目名	ドイツ語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	German Ⅰ		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	ドイツ語Ⅰ
授業概要	ドイツは 9 か国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中心的存在。その政治動向には、常に世界中の注目が集められています。今は「英語でまにあう」時代。しかし英語以外の言語を学習することは、文化の多様性を知るきっかけになり、グローバルな人間性の構築につながります。この授業の目標は、ずばりドイツ語のコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするため、文法の基礎を学習します。ドイツ語で投げかけられた質問に、物怖じすることなく、正しい発音で応じられるようになること。できればドイツに行って、ドイツ人と臆せずに会話ができるようになること。それがこの授業の最終到達目標です。		
教材（教科書）	羽根田知子・熊谷知実共著『ネコと学ぶドイツ語』（三修社、2015 年）2592 円 授業中並びに授業時間外の復習に使用します。		
教材（参考資料）	印刷資料や練習問題は適宜配布します。		
教育方法	1．前回の学習内容の確認（筆記テスト） 前週の授業内容の復習からスタート。単語の発音練習、文法内容の復習、そして筆記試験へ。 試験終了後は答え合わせを通じて、正しいスペルの再確認をする。 2．文化体験（ビデオ） その日学習する授業内容に関連した映像を鑑賞し、ドイツ文化に触れる。 3．新しい文法・新しい表現を学ぶ（教科書で学習） ドイツ語の文章を聴き取り、発音し、意味内容や文法構造を理解する。 4．ペアワーク（口頭テスト） ペアで独自の会話をつくり、ドイツ語でテンポよく会話する練習をする。それを暗記して発表。		
評価方法	授業の最初に行う授業の復習筆記テスト（40%）、授業の最後に行うペア口頭テスト（40%）、学期末に行う習熟度確認テスト（20%）、基本的に毎回出席してもらって、その習熟度を確認するという評価方法です。毎回の積み重ねは語学力となって、学期末には身についているはずです。		
到達目標	1．異文化を理解すること。 2．そのために必要なドイツの知識とドイツ語の学習法を身につけること。 3．外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得すること。 具体的には、正しい発音を身につけ、自己紹介し、簡単な問いに答えられるようになること。		
授業時間外学習	第 1 回　教科書の地図を参考に配布資料でドイツについて学習 第 2 回　教科書 1 頁 第 3 回　教科書 2 頁、8 頁 第 4 回　教科書 3－6 頁 第 5 回　教科書 7 頁 第 6 回　教科書 9 頁、14 頁 第 7 回　教科書 14 頁 第 8 回　教科書 10－12 頁 第 9 回　教科書 13 頁 第 10 回　教科書 15－18 頁 第 11 回　教科書 19 頁 第 12 回　教科書 18－20 頁 第 13 回　教科書 21－24 頁 第 14 回　教科書 25 頁 第 15 回　教科書 26－28 頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．授業中の私語、携帯電話の利用は禁止。 2．1 日休むと次週の授業が大変になるので、できるだけ連続して出席すること。			

3．やむをえず欠席した場合は、次週の範囲試験について情報収集し、事前学習しておくこと。
授業スケジュール
1　授業の進め方とドイツについて 2　発音の基礎 3　単語の発音と挨拶 4　自己紹介 5　趣味 6　天候と数字 7　時刻と数字 8　ここあいていますか 9　持っているか、持っていないか 10　ドイツ語で何というのか 11　これはいくらですか 12　珈琲１杯ください 13　何が飲みたいですか 14　何ができますか 15　トイレはどこですか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1223201
科目名	ドイツ語II	単位数	2
科目名（英語表記）	German II		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	ドイツ語II
授業概要	「ドイツ語Ｉ」を春学期に学習した学生、ドイツ語の発音の基礎が身についている学生を対象にした会話の授業です。春学期に引き続き、ドイツ文法の基礎を学びながら、様々なシーンで使える表現や語彙を増やしていきます。ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。様々なドイツ語の質問に、正しい発音のドイツ語で答えられるようになること、平易な文章を組み立てて、自分の意思を伝えられるようになること。できればドイツに行って、ドイツ人と臆せずに会話ができるようになること。それがこの授業の到達目標です。		
教材（教科書）	羽根田知子・熊谷知実共著『ネコと学ぶドイツ語』（三修社、2015 年）2592 円 授業中並びに授業時間外の復習に使用します。		
教材（参考資料）	印刷資料や練習問題は適宜配布します。		
教育方法	１．前回の学習内容の確認（筆記テスト） 前週の授業内容の復習からスタート。単語の発音練習、文法内容の復習、そして筆記試験へ。 試験終了後は答え合わせを通じて、正しいスペルの再確認をする。 ２．文化体験（ビデオ） その日学習する授業内容に関連した映像を鑑賞し、ドイツ文化に触れる。 ３．新しい文法・新しい表現を学ぶ（教科書で学習） ドイツ語の文章を聴き取り、発音し、意味内容や文法構造を理解する。 ４．ペアワーク（口頭テスト） ペアで独自の会話をつくり、ドイツ語でテンポよく会話する練習をする。それを暗記して発表。		
評価方法	授業の最初に行う授業の復習筆記テスト（40%）、授業の最後に行うペア口頭テスト（40%）、学期末に行う習熟度確認テスト（20%）、基本的に毎回出席してもらって、その習熟度を確認するという評価方法です。毎回の積み重ねは語学力となって、学期末には身についているはずです。		
到達目標	１．異文化を理解すること。 ２．そのために必要なドイツの知識とドイツ語の学習法を身につけること。 ３．外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得すること。 具体的には、正しい発音のドイツ語でドイツ人に問いかけ、答えられるようになること。		
授業時間外学習	第 1 回　教科書 27－18 頁、印刷物を配布 第 2 回　教科書 29－32 頁 第 3 回　教科書 33 頁 第 4 回　教科書 34－36 頁 第 5 回　教科書該当頁なし、カードを使って復習 第 6 回　教科書 37－40 頁 第 7 回　教科書 41－44 頁、46 頁 第 8 回　教科書 45 頁 第 9 回　教科書該当頁なし、印刷物を配布 第 10 回　教科書 47－50 頁 第 11 回　教科書 51－52 頁 第 12 回　教科書 53－54 頁、56－57 頁 第 13 回　教科書 54 頁、56 頁 第 14 回　教科書 55－58 頁 第 15 回　教科書 60 頁、印刷物を配布		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
【重要】この授業は、「ドイツ語Ｉ」をすでに履修している方、あるいは同等の語学力がある方を対象としています。 ドイツ語の発音が身についていない初心者にとっては、非常に困難な授業です。ご注意ください。			

1．授業中の私語、携帯電話の利用は禁止。 2．1 日休むと次週の授業が大変になるので、できるだけ連続して出席すること。 3．やむをえず欠席した場合は、次週の範囲試験について情報収集し、事前学習しておくこと。
授業スケジュール
1　春学期の復習：動詞の発音と命令 2　春学期の復習：名詞の発音と「もっているか」 3　おじいちゃんを好きですか、元気にしていますか 4　どこへ行くんですか 5　どこで、どこへ、なにを、だれ 6　どうやって行くんですか 7　何を食べますか 8　塩をとって 9　どこにいるの、こっちに来て 10　おめでとう、これはプレゼントです 11　おいしいね 12　どこを訪問したの、何を見たの 13　どこへ行ったの、おいしかったの 14　どうだった、楽しかったの 15　私といっしょに行く気はありますか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1224101
科目名	フランス語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅰ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
授業概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 １） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現を修得します。 ２） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（教科書）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税　必ず購入すること		
教材（参考資料）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教育方法	PowerPoint（スライド）を用いながら講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、定期テスト（30%）、		
到達目標	１） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 ２） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
授業時間外学習	１） 次回授業までに学習した内容をしっかり理解すること。 ２） 各課終了後に宿題を配布するので、次回授業時に提出できるようにすること。 ３） 各課終了後に小テストを実施する。宿題の内容を中心に出題するので、授業で学んだ例文・単語・表現をしっかり復習すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１） 授業への積極的な参加を期待しています。
２） 私語は厳禁です。問題があると判断した場合には他社への迷惑を勘案し退出を求めます。
３） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
４） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

授業スケジュール

01. はじめに
02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1
03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説）
04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3
05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2
06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説）
07. Lecon 03 名前・住所について-2
08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説）
09. Lecon 04 所有-1
10. Lecon 04 所有-2
11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説）
12. Lecon 05 好み・嗜好について-1
13. Lecon 05 好み・嗜好について-2
14. Lecon 05 好み・嗜好について-3

15. 春学期内容確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	JC1224102
科目名	フランス語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅰ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
授業概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 １） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現を修得します。 ２） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（教科書）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税　必ず購入すること		
教材（参考資料）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教育方法	PowerPoint（スライド）を用いながら講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、定期テスト（30%）、		
到達目標	１） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 ２） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
授業時間外学習	１） 次回授業までに学習した内容をしっかり理解すること。 ２） 各課終了後に宿題を配布するので、次回授業時に提出できるようにすること。 ３） 各課終了後に小テストを実施する。宿題の内容を中心に出題するので、授業で学んだ例文・単語・表現をしっかり復習すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１） 授業への積極的な参加を期待しています。
２） 私語は厳禁です。問題があると判断した場合には他社への迷惑を勘案し退出を求めます。
３） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
４） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

授業スケジュール

01. はじめに
02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1
03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説）
04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3
05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2
06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説）
07. Lecon 03 名前・住所について-2
08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説）
09. Lecon 04 所有-1
10. Lecon 04 所有-2
11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説）
12. Lecon 05 好み・嗜好について-1
13. Lecon 05 好み・嗜好について-2
14. Lecon 05 好み・嗜好について-3

15. 春学期内容確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	JC1224103
科目名	フランス語Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅰ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
授業概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 １） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現を修得します。 ２） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（教科書）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税　必ず購入すること		
教材（参考資料）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教育方法	PowerPoint（スライド）を用いながら講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、定期テスト（30%）、		
到達目標	１） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 ２） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
授業時間外学習	１） 次回授業までに学習した内容をしっかり理解すること。 ２） 各課終了後に宿題を配布するので、次回授業時に提出できるようにすること。 ３） 各課終了後に小テストを実施する。宿題の内容を中心に出題するので、授業で学んだ例文・単語・表現をしっかり復習すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１） 授業への積極的な参加を期待しています。
２） 私語は厳禁です。問題があると判断した場合には他社への迷惑を勘案し退出を求めます。
３） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
４） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

授業スケジュール

01. はじめに
02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1
03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説）
04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3
05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2
06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説）
07. Lecon 03 名前・住所について-2
08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説）
09. Lecon 04 所有-1
10. Lecon 04 所有-2
11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説）
12. Lecon 05 好み・嗜好について-1
13. Lecon 05 好み・嗜好について-2
14. Lecon 05 好み・嗜好について-3

15. 春学期内容確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	JC1224104
科目名	フランス語 I	単位数	2
科目名（英語表記）	French I		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
授業概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人...「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 1） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現を修得します。 2） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（教科書）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税　必ず購入すること		
教材（参考資料）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教育方法	PowerPoint（スライド）を用いながら講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、定期テスト（30%）、		
到達目標	1） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 2） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
授業時間外学習	1） 次回授業までに学習した内容をしっかり理解すること。 2） 各課終了後に宿題を配布するので、次回授業時に提出できるようにすること。 3） 各課終了後に小テストを実施する。宿題の内容を中心に出題するので、授業で学んだ例文・単語・表現をしっかり復習すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1） 授業への積極的な参加を期待しています。
2） 私語は厳禁です。問題があると判断した場合には他社への迷惑を勘案し退出を求めます。
3） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
4） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

授業スケジュール

01. はじめに
02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1
03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説）
04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3
05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2
06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説）
07. Lecon 03 名前・住所について-2
08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説）
09. Lecon 04 所有-1
10. Lecon 04 所有-2
11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説）
12. Lecon 05 好み・嗜好について-1
13. Lecon 05 好み・嗜好について-2
14. Lecon 05 好み・嗜好について-3

15. 春学期内容確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	JC1224201
科目名	フランス語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅱ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
授業概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人...「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 １） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現を修得します。 ２） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（教科書）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税　必ず購入すること		
教材（参考資料）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教育方法	PowerPoint（スライド）を用いながら講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	１） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 ２） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
授業時間外学習	１） 次回授業までに学習した内容をしっかり理解すること。 ２） 各課終了後に宿題を配布するので、次回授業時に提出できるようにすること。 ３） 各課終了後に小テストを実施する。宿題の内容を中心に出題するので、授業で学んだ例文・単語・表現をしっかり復習すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１） 「フランス語Ⅰ」または「入門フランス語ｓ」を履修していることが受講条件となります。
２） 授業への積極的な参加を期待しています。
３） 私語は厳禁です。問題があると判断した場合には他社への迷惑を勘案し退出を求めます。
４） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
５） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

授業スケジュール

01. はじめに （フランス文化解説）
02. Lecon 06 言語能力-1
03. Lecon 06 言語能力-2
04. Lecon 06 言語能力-3（フランス文化解説）
05. Lecon 07 年齢について-1
06. Lecon 07 年齢について-2
07. Lecon 07 年齢について-3（フランス文化解説）
08. フランス文化解説
09. Lecon 08 時間・天候について-1
10. Lecon 08 時間・天候について-2
11. Lecon 08 時間・天候について-3（フランス文化解説）
12. Lecon 11 相手のことについて-1
13. Lecon 11 相手のことについて-2

14. Lecon 11 相手のことについて-3（フランス文化解説） 15. 秋学期内容確認

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	JC1224204
科目名	フランス語Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	French Ⅱ		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
授業概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人…「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 １） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現を修得します。 ２） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（教科書）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税　必ず購入すること		
教材（参考資料）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教育方法	PowerPoint（スライド）を用いながら講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	１） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 ２） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
授業時間外学習	１） 次回授業までに学習した内容をしっかり理解すること。 ２） 各課終了後に宿題を配布するので、次回授業時に提出できるようにすること。 ３） 各課終了後に小テストを実施する。宿題の内容を中心に出題するので、授業で学んだ例文・単語・表現をしっかり復習すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１） 「フランス語Ⅰ」または「入門フランス語ｓ」を履修していることが受講条件となります。
２） 授業への積極的な参加を期待しています。
３） 私語は厳禁です。問題があると判断した場合には他社への迷惑を勘案し退出を求めます。
４） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
５） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

授業スケジュール

01. はじめに （フランス文化解説）
02. Lecon 06 言語能力-1
03. Lecon 06 言語能力-2
04. Lecon 06 言語能力-3（フランス文化解説）
05. Lecon 07 年齢について-1
06. Lecon 07 年齢について-2
07. Lecon 07 年齢について-3（フランス文化解説）
08. フランス文化解説
09. Lecon 08 時間・天候について-1
10. Lecon 08 時間・天候について-2
11. Lecon 08 時間・天候について-3（フランス文化解説）
12. Lecon 11 相手のことについて-1
13. Lecon 11 相手のことについて-2

14. Lecon 11 相手のことについて-3（フランス文化解説） 15. 秋学期内容確認

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	JC1225101
科目名	日本語Ⅰ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	日本語Ⅲ
授業概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（教科書）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考資料）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教育方法	双方向の講義形式。		
評価方法	授業中の受け答え、発表（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
授業時間外学習	日本の短編小説を読んでおくこと。 次回の授業の予習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件　なし
受講のルール　私語厳禁
学習上の助言　毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

授業スケジュール

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1225102
科目名	日本語Ⅰ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	日本語Ⅲ
授業概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（教科書）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考資料）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教育方法	双方向の講義形式。		
評価方法	授業中の受け答え、発表（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
授業時間外学習	日本の短編小説を読んでおくこと。 次回の授業の予習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件　なし
受講のルール　私語厳禁
学習上の助言　毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

授業スケジュール

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1225103
科目名	日本語Ⅰ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語Ⅲ
授業概要	外国人留学生を対象とした日本語プログラムで、主に、日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験 N1 レベルを目指す。 さらに、様々なテーマについて書かれた文章の理解、それに関する意見述べもできるように指導する。進度によって、授業内容を変更することもある。		
教材（教科書）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』 アルク　1800 円＋税		
教材（参考資料）	随時指示する。		
教育方法	主に講義法で行い、グループワークや簡単な意見発表も行う。		
評価方法	試験（60%）、課題提出（20%）、授業の参加度による平常点（20%）で総合的に評価する。		
到達目標	専門科目の講義および、様々なテーマで書かれた文章を理解し、さらに意見述べができる、日本語能力試験 N1 程度の実力を身につける。		
授業時間外学習	日本語能力試験 N１程度の日本語能力を身につけるために、日頃から日本の小説や新聞等を意識して読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

授業スケジュール

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。 日本語力を確認するための実力テスト。
2　第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　おいしい食感の理由
6　第５課　日本人の意識ー結婚と家庭に関する 40 年の変容ー
7　第６課　フリーター問題
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　第１０課　応用①
12　第１１課～応用②
13　小説、新聞、映像他
14　小説、新聞、映像他
15　小説、新聞、映像他、確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1225104
科目名	日本語Ⅰ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語Ⅲ
授業概要	外国人留学生を対象とした日本語プログラムで、主に、日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験 N1 レベルを目指す。 さらに、様々なテーマについて書かれた文章の理解、それに関する意見述べもできるように指導する。進度によって、授業内容を変更することもある。		
教材（教科書）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』 アルク　1800 円＋税		
教材（参考資料）	随時指示する。		
教育方法	主に講義法で行い、グループワークや簡単な意見発表も行う。		
評価方法	試験（60%）、課題提出（20%）、授業の参加度による平常点（20%）で総合的に評価する。		
到達目標	専門科目の講義および、様々なテーマで書かれた文章を理解し、さらに意見述べができる、日本語能力試験 N1 程度の実力を身につける。		
授業時間外学習	日本語能力試験 N１程度の日本語能力を身につけるために、日頃から日本の小説や新聞等を意識して読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

授業スケジュール

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。 日本語力を確認するための実力テスト。
2　第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　おいしい食感の理由
6　第５課　日本人の意識ー結婚と家庭に関する 40 年の変容ー
7　第６課　フリーター問題
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　第１０課　応用①
12　第１１課～応用②
13　小説、新聞、映像他
14　小説、新聞、映像他
15　小説、新聞、映像他、確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	JC1225201
科目名	日本語Ⅱ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
授業概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（教科書）	プリント教材を使用する。		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	基本的にはプリント教材を用いた講義法となるが、日本語技能を伸ばすための様々な活動（日本語による質疑応答、グループワーク、プレゼンテーション、作文など）を大いに取り入れた授業となる。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
授業時間外学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
授業スケジュール			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3 15.全体的な復習と確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JC1225202
科目名	日本語Ⅱ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
授業概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（教科書）	プリント教材を使用する。		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	基本的にはプリント教材を用いた講義法となるが、日本語技能を伸ばすための様々な活動（日本語による質疑応答、グループワーク、プレゼンテーション、作文など）を大いに取り入れた授業となる。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
授業時間外学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
授業スケジュール			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3 15.全体的な復習と確認			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JC1225203
科目名	日本語Ⅱ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
授業概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（教科書）	プリント教材を使用する。		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
授業時間外学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
授業スケジュール			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.グループワーク 4、全体的な復習 2、小テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JC1225204
科目名	日本語Ⅱ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
授業概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（教科書）	プリント教材を使用する。		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
授業時間外学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
授業スケジュール			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.グループワーク 4、全体的な復習 2、小テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JC1225601
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
授業概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（教科書）	プリント配布		
教材（参考資料）	随時指示する。		
教育方法	基本的にはプリント教材を使用しての講義法となる。日本語作文に必要な表現の学習・練習を行う、あるトピックについて、互いに意見を出し合った上で文章化を行う、といった活動がある。		
評価方法	授業時の取り組み状況による平常点３０％、課題作成・小テスト３０％、試験４０％。		
到達目標	レポート・論文作成のための基礎的な力を身に付け、学生生活や社会生活に必要な日本語の文章が作成できるようになる。		
授業時間外学習	授業で扱った内容についての練習問題や復習問題、作文などを毎回宿題として課す。宿題をする中で、わからないこと等があった場合は、次回の授業で質問して、必ず解決できるようにすること。また日程の告知を行った上で、数回の小テストを行うので、その準備をすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

授業スケジュール

1　ガイダンス　作文の基本
2　情報を文章にする
3　状況を説明し、意見を述べる
4　体験したことを報告する文
5　テーマに沿った意見を述べる
6　段落を作る
7　　レポートを書くための基礎知識
8　レポートの語彙・文体
9　アウトライン
１０　引用
１１　資料を利用する
１２　レポートを書く
１３　意見文を書く１
１４　意見文を書く２
１５　小論文を書く

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JC1225602
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
授業概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（教科書）	プリント配布		
教材（参考資料）	随時指示する。		
教育方法	基本的にはプリント教材を使用しての講義法となる。日本語作文に必要な表現の学習・練習を行う、あるトピックについて、互いに意見を出し合った上で文章化を行う、といった活動がある。		
評価方法	授業時の取り組み状況による平常点３０％、課題作成・小テスト３０％、試験４０％。		
到達目標	レポート・論文作成のための基礎的な力を身に付け、学生生活や社会生活に必要な日本語の文章が作成できるようになる。		
授業時間外学習	授業で扱った内容についての練習問題や復習問題、作文などを毎回宿題として課す。宿題をする中で、わからないこと等があった場合は、次回の授業で質問して、必ず解決できるようにすること。また日程の告知を行った上で、数回の小テストを行うので、その準備をすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

授業スケジュール

1　ガイダンス　作文の基本
2　情報を文章にする
3　状況を説明し、意見を述べる
4　体験したことを報告する文
5　テーマに沿った意見を述べる
6　段落を作る
7　　レポートを書くための基礎知識
8　レポートの語彙・文体
9　アウトライン
１０　引用
１１　資料を利用する
１２　レポートを書く
１３　意見文を書く１
１４　意見文を書く２
１５　小論文を書く

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JC1225603
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
授業概要	留学生の作文能力を高め、レポートや論文作成に必要な能力を身につけることを目標にしている。実践的な練習が大切なので毎回、受講者には 400 字程度の短い作文を書いてもらい講評を加える。またそれに加え語彙力を高めるために新聞記事や評論文を授業中に読み、役に立つ語彙や言い回しを習得してもらう。テクストには『小論文への 12 のステップ』スリーエーネットワークを用いる。成績評価は毎回の作文提出による平常点評価である。		
教材（教科書）	『小論文への 12 のステップ』スリーエーネットワーク		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教科書から理論的な事柄を学び、実践的な作文作成とその添削によって実力をつける。		
評価方法	毎回の授業で提出してもらう作文によって評価する。		
到達目標	大学生としてふさわしい小論文を書くことのできる能力を身に着ける。		
授業時間外学習	作文を添削するので間違ったところや不備なところを自覚し、同じ間違いをしないようによく復習をしてほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自分の書いた作文だけでなくクラスメートの作文もよく読んで、お互い批評するといった積極的な態度を取ってほしい。

授業スケジュール

1.表記の仕方について
2．文体について
3.話し言葉から書き言葉へ
4．正しい構造の文
5．文のつながりについて
6．小論文に使われる表現について
7．段落のつけかた
8．要約文の書き方
9．説明文の書き方
10．意見文の書き方
11．事実を示す方法（図、チャート）
12．小論文のはじめとおわり：要約とまとめ
13．小論文を書く準備（資料を集める）
14．小論文執筆
15．小論文の批評とまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	JC1225604
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
授業概要	留学生の作文能力を高め、レポートや論文作成に必要な能力を身につけることを目標にしている。実践的な練習が大切なので毎回、受講者には 400 字程度の短い作文を書いてもらい講評を加える。またそれに加え語彙力を高めるために新聞記事や評論文を授業中に読み、役に立つ語彙や言い回しを習得してもらう。テクストには『小論文への 12 のステップ』スリーエーネットワークを用いる。成績評価は毎回の作文提出による平常点評価である。		
教材（教科書）	『小論文への 12 のステップ』スリーエーネットワーク		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教科書から理論的な事柄を学び、実践的な作文作成とその添削によって実力をつける。		
評価方法	毎回の授業で提出してもらう作文によって評価する。		
到達目標	大学生としてふさわしい小論文を書くことのできる能力を身に着ける。		
授業時間外学習	作文を添削するので間違ったところや不備なところを自覚し、同じ間違いをしないようによく復習をしてほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自分の書いた作文だけでなくクラスメートの作文もよく読んで、お互い批評するといった積極的な態度を取ってほしい。

授業スケジュール

1.表記の仕方について
2．文体について
3.話し言葉から書き言葉へ
4．正しい構造の文
5．文のつながりについて
6．小論文に使われる表現について
7．段落のつけかた
8．要約文の書き方
9．説明文の書き方
10．意見文の書き方
11．事実を示す方法（図、チャート）
12．小論文のはじめとおわり：要約とまとめ
13．小論文を書く準備（資料を集める）
14．小論文執筆
15．小論文の批評とまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	JC1226101
科目名	海外研修 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad A		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
授業概要	外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考資料）	研修先で指定される可能性もある。		
教育方法	研修先の指導方法に依存する。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
授業時間外学習	事前学習として、英語の学習を行う（4 時間から 12 時間）。さらに、訪問国の歴史・文化の調査および企業研究を行う場合もある（4 時間）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
授業スケジュール			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	−	−	−

年度	2018	授業コード	JC1226102
科目名	海外研修 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad A		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
授業概要	外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考資料）	研修先で指定される可能性もある。		
教育方法	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
授業時間外学習	事前学習として、英語の学習を行う（4 時間から 12 時間）。さらに、訪問国の歴史・文化の調査および企業研究を行う場合もある（4 時間）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
授業スケジュール			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	JC1226103
科目名	海外研修 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad A		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
授業概要	外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考資料）	研修先で指定される可能性もある。		
教育方法	レポートの提出を課す。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する。		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得すること。		
授業時間外学習	事前学習として、英語の学習を行う（4 時間から 12 時間)。さらに、訪問国の歴史・文化の調査および企業研究を行う場合もある（4 時間)。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
授業スケジュール			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	JC1226104
科目名	海外研修 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad A		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
授業概要	外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考資料）	研修先で指定される可能性もある。		
教育方法	レポートの提出を課す。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する。		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得すること。		
授業時間外学習	事前学習として、英語の学習を行う（4 時間から 12 時間)。さらに、訪問国の歴史・文化の調査および企業研究を行う場合もある（4 時間)。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
授業スケジュール			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	JC1226201
科目名	海外研修Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad B		
担当者名	宇佐美　照夫	旧科目名称	
授業概要	「海外研修Ａ」を履修したものが、外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考資料）	研修先で指定される可能性もある。		
教育方法	研修先の指導方法に依存する。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
授業時間外学習	事前学習として、英語の学習を行う（4 時間から 12 時間)。さらに、訪問国の歴史・文化の調査および企業研究を行う場合もある（4 時間)。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
授業スケジュール			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★★	−	−	−

年度	2018	授業コード	JC1226202
科目名	海外研修Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad B		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
授業概要	「海外研修Ａ」を履修したものが、外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考資料）	研修先で指定される可能性もある。		
教育方法	特に指定しないが、研修先でレジメ等が配布される可能性がある。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得することが目標とする。		
授業時間外学習	事前学習として、英語の学習を行う（4 時間から 12 時間)。さらに、訪問国の歴史・文化の調査および企業研究を行う場合もある（4 時間)。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
授業スケジュール			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1226203
科目名	海外研修Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad B		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
授業概要	「海外研修Ａ」を履修したものが、外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考資料）	研修先で指定される可能性もある。		
教育方法	レポートの提出を課す。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する。		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得すること。		
授業時間外学習	事前学習として、英語の学習を行う（4 時間から 12 時間)。さらに、訪問国の歴史・文化の調査および企業研究を行う場合もある（4 時間)。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
授業スケジュール			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1226204
科目名	海外研修Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Learning Abroad B		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
授業概要	「海外研修Ａ」を履修したものが、外国の大学等の教育機関で、研修を 1 ヶ月程おこない、終了証明書を取得して、かつ指定されたレポート（4000 字程度）を提出し、審査に合格した場合に単位を認定する。		
教材（教科書）	授業の性格上、テキストはない。		
教材（参考資料）	研修先で指定される可能性もある。		
教育方法	レポートの提出を課す。		
評価方法	研修修了書を取得し指定されたレポートの内容を審査し評価する。		
到達目標	海外での語学研修課程を終了し、研修先での生活で支障のない語学力を習得すること。		
授業時間外学習	事前学習として、英語の学習を行う（4 時間から 12 時間)。さらに、訪問国の歴史・文化の調査および企業研究を行う場合もある（4 時間)。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
研修先のニュースや企業について事前にチェックしておくこと。			
授業スケジュール			
各研修先のプログラムに従います。			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1230101
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230102
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230103
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230104
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230105
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230106
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230107
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	小野里　光広	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230108
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230109
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230110
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230111
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230112
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	田中　秀樹	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230113
科目名	スタートアップゼミＡ 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230114
科目名	スタートアップゼミＡ 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230115
科目名	スタートアップゼミＡ 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230116
科目名	スタートアップゼミＡ 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230117
科目名	スタートアップゼミＡ 【秋入学】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230118
科目名	スタートアップゼミA 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）

大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ

大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④

大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④

大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③

大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230119
科目名	スタートアップゼミA 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）

大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ

大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④

大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④

大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③

大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230120
科目名	スタートアップゼミＡ 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）
　大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ
　大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④
　大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④
　大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③
　大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230121
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）

大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ

大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④

大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④

大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③

大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230122
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）

大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ

大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④

大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④

大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③

大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230123
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）

大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ

大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④

大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④

大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③

大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230124
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）

大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ

大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④

大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④

大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③

大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230126
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）

大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ

大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④

大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④

大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③

大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230127
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）

大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ

大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④

大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④

大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③

大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230128
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）

大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ

大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④

大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④

大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③

大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230133
科目名	スタートアップゼミＡ 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）

大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ

大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④

大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④

大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③

大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230150
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山田　豊子	旧科目名称	
授業概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（教科書）	佐藤智明　他(著)「大学学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック」（ナカニシヤ出版） 名古屋大学日本語研究会 GK7 (著)「スキルアップ!　日本語力―大学生のための日本語練習帳」		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	1．ゼミの早い時期に図書館利用案内（蔵書検索の利用、データベースの活用など）を行う。 2．レポート・資料の作成の際には、著作権法に基づいた「引用」ができるように指導する。 3．グループワーク・ディスカッションにより、コミュニケーション力、論理的思考を鍛え、 集団における合意形成力や説得力を高めるように指導する。 4．効果的なプレゼンテーションを行うために、プレゼンテーションの構成要素・口頭発表の要件とは何かを示し、資料作成の技術を指導する。 5．日本語能力検定試験 3 級合格をめざし、日本語能力の技術を高める。予習として各自、問題集を解き、ゼミにて解答・解説を行う。 6．演習室にて、病院・病棟に入るための基本的な看護技術、身だしなみ、態度・マナーに身についているかを確認する。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）・発表（30%）		
到達目標	1．ルールに則り、インターネットや図書館文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 2．レポートを作成することができる。 3．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 4．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
授業時間外学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 2．授業ノートの取り方 3．情報収集　（文献検索等） 4．文章を読んで要約する 5．資料を用いてのディスカッション 6．レポートの書き方 7．レポートの書き方 8．レポートの書き方 9．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） 10．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） 11．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） 12．発表・まとめ 13．実習室の使用方法 14．実習に向けてのマナー 15．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1230151
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	西田　直子	旧科目名称	
授業概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（教科書）	佐藤智明　他(著)「大学学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック」（ナカニシヤ出版） 名古屋大学日本語研究会 GK7 (著)「スキルアップ!　日本語力―大学生のための日本語練習帳」		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	1．ゼミの早い時期に図書館利用案内（蔵書検索の利用、データベースの活用など）を行う。 2．レポート・資料の作成の際には、著作権法に基づいた「引用」ができるように指導する。 3．グループワーク・ディスカッションにより、コミュニケーション力、論理的思考を鍛え、 集団における合意形成力や説得力を高めるように指導する。 4．効果的なプレゼンテーションを行うために、プレゼンテーションの構成要素・口頭発表の要件とは何かを示し、資料作成の技術を指導する。 5．日本語能力検定試験 3 級合格をめざし、日本語能力の技術を高める。予習として各自、問題集を解き、ゼミにて解答・解説を行う。 6．演習室にて、病院・病棟に入るための基本的な看護技術、身だしなみ、態度・マナーに身についているかを確認する。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）・発表（30%）		
到達目標	1．ルールに則り、インターネットや図書館文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 2．レポートを作成することができる。 3．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 4．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
授業時間外学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 2．授業ノートの取り方 3．情報収集　（文献検索等） 4．文章を読んで要約する 5．資料を用いてのディスカッション 6．レポートの書き方 7．レポートの書き方 8．レポートの書き方 9．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） 10．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） 11．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） 12．発表・まとめ 13．実習室の使用方法 14．実習に向けてのマナー 15．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1230152
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	杉島　優子	旧科目名称	
授業概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（教科書）	佐藤智明　他(著)「大学学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック」（ナカニシヤ出版） 名古屋大学日本語研究会 GK7 (著)「スキルアップ!　日本語力―大学生のための日本語練習帳」		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	1．ゼミの早い時期に図書館利用案内（蔵書検索の利用、データベースの活用など）を行う。 2．レポート・資料の作成の際には、著作権法に基づいた「引用」ができるように指導する。 3．グループワーク・ディスカッションにより、コミュニケーション力、論理的思考を鍛え、 集団における合意形成力や説得力を高めるように指導する。 4．効果的なプレゼンテーションを行うために、プレゼンテーションの構成要素・口頭発表の要件とは何かを示し、資料作成の技術を指導する。 5．日本語能力検定試験 3 級合格をめざし、日本語能力の技術を高める。予習として各自、問題集を解き、ゼミにて解答・解説を行う。 6．演習室にて、病院・病棟に入るための基本的な看護技術、身だしなみ、態度・マナーに身についているかを確認する。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）・発表（30%）		
到達目標	1．ルールに則り、インターネットや図書館文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 2．レポートを作成することができる。 3．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 4．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
授業時間外学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 2．授業ノートの取り方 3．情報収集　（文献検索等） 4．文章を読んで要約する 5．資料を用いてのディスカッション 6．レポートの書き方 7．レポートの書き方 8．レポートの書き方 9．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） 10．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） 11．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） 12．発表・まとめ 13．実習室の使用方法 14．実習に向けてのマナー 15．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1230153
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	杉山　智春	旧科目名称	
授業概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（教科書）	佐藤智明　他(著)「大学学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック」（ナカニシヤ出版） 名古屋大学日本語研究会 GK7 (著)「スキルアップ!　日本語力―大学生のための日本語練習帳」		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	1．ゼミの早い時期に図書館利用案内（蔵書検索の利用、データベースの活用など）を行う。 2．レポート・資料の作成の際には、著作権法に基づいた「引用」ができるように指導する。 3．グループワーク・ディスカッションにより、コミュニケーション力、論理的思考を鍛え、 集団における合意形成力や説得力を高めるように指導する。 4．効果的なプレゼンテーションを行うために、プレゼンテーションの構成要素・口頭発表の要件とは何かを示し、資料作成の技術を指導する。 5．日本語能力検定試験 3 級合格をめざし、日本語能力の技術を高める。予習として各自、問題集を解き、ゼミにて解答・解説を行う。 6．演習室にて、病院・病棟に入るための基本的な看護技術、身だしなみ、態度・マナーに身についているかを確認する。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）・発表（30%）		
到達目標	1．ルールに則り、インターネットや図書館文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 2．レポートを作成することができる。 3．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 4．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
授業時間外学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 2．授業ノートの取り方 3．情報収集　（文献検索等） 4．文章を読んで要約する 5．資料を用いてのディスカッション 6．レポートの書き方 7．レポートの書き方 8．レポートの書き方 9．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） 10．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） 11．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） 12．発表・まとめ 13．実習室の使用方法 14．実習に向けてのマナー 15．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1230154
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	滝沢　美智子	旧科目名称	
授業概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（教科書）	佐藤智明　他(著)「大学学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック」（ナカニシヤ出版） 名古屋大学日本語研究会 GK7 (著)「スキルアップ!　日本語力―大学生のための日本語練習帳」		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	1．ゼミの早い時期に図書館利用案内（蔵書検索の利用、データベースの活用など）を行う。 2．レポート・資料の作成の際には、著作権法に基づいた「引用」ができるように指導する。 3．グループワーク・ディスカッションにより、コミュニケーション力、論理的思考を鍛え、 集団における合意形成力や説得力を高めるように指導する。 4．効果的なプレゼンテーションを行うために、プレゼンテーションの構成要素・口頭発表の要件とは何かを示し、資料作成の技術を指導する。 5．日本語能力検定試験 3 級合格をめざし、日本語能力の技術を高める。予習として各自、問題集を解き、ゼミにて解答・解説を行う。 6．演習室にて、病院・病棟に入るための基本的な看護技術、身だしなみ、態度・マナーに身についているかを確認する。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）・発表（30%）		
到達目標	1．ルールに則り、インターネットや図書館文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 2．レポートを作成することができる。 3．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 4．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
授業時間外学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 2．授業ノートの取り方 3．情報収集　（文献検索等） 4．文章を読んで要約する 5．資料を用いてのディスカッション 6．レポートの書き方 7．レポートの書き方 8．レポートの書き方 9．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） 10．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） 11．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） 12．発表・まとめ 13．実習室の使用方法 14．実習に向けてのマナー 15．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1230155
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	今西　誠子	旧科目名称	
授業概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（教科書）	佐藤智明　他(著)「大学学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック」（ナカニシヤ出版） 名古屋大学日本語研究会 GK7 (著)「スキルアップ!　日本語力―大学生のための日本語練習帳」		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	1．ゼミの早い時期に図書館利用案内（蔵書検索の利用、データベースの活用など）を行う。 2．レポート・資料の作成の際には、著作権法に基づいた「引用」ができるように指導する。 3．グループワーク・ディスカッションにより、コミュニケーション力、論理的思考を鍛え、 集団における合意形成力や説得力を高めるように指導する。 4．効果的なプレゼンテーションを行うために、プレゼンテーションの構成要素・口頭発表の要件とは何かを示し、資料作成の技術を指導する。 5．日本語能力検定試験 3 級合格をめざし、日本語能力の技術を高める。予習として各自、問題集を解き、ゼミにて解答・解説を行う。 6．演習室にて、病院・病棟に入るための基本的な看護技術、身だしなみ、態度・マナーに身についているかを確認する。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）・発表（30%）		
到達目標	1．ルールに則り、インターネットや図書館文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 2．レポートを作成することができる。 3．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 4．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
授業時間外学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 2．授業ノートの取り方 3．情報収集　（文献検索等） 4．文章を読んで要約する 5．資料を用いてのディスカッション 6．レポートの書き方 7．レポートの書き方 8．レポートの書き方 9．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） 10．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） 11．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） 12．発表・まとめ 13．実習室の使用方法 14．実習に向けてのマナー 15．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1230157
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	和田　恵美子	旧科目名称	
授業概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（教科書）	佐藤智明　他(著)「大学学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック」（ナカニシヤ出版） 名古屋大学日本語研究会 GK7 (著)「スキルアップ!　日本語力―大学生のための日本語練習帳」		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	1．ゼミの早い時期に図書館利用案内（蔵書検索の利用、データベースの活用など）を行う。 2．レポート・資料の作成の際には、著作権法に基づいた「引用」ができるように指導する。 3．グループワーク・ディスカッションにより、コミュニケーション力、論理的思考を鍛え、 集団における合意形成力や説得力を高めるように指導する。 4．効果的なプレゼンテーションを行うために、プレゼンテーションの構成要素・口頭発表の要件とは何かを示し、資料作成の技術を指導する。 5．日本語能力検定試験 3 級合格をめざし、日本語能力の技術を高める。予習として各自、問題集を解き、ゼミにて解答・解説を行う。 6．演習室にて、病院・病棟に入るための基本的な看護技術、身だしなみ、態度・マナーに身についているかを確認する。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）・発表（30%）		
到達目標	1．ルールに則り、インターネットや図書館文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 2．レポートを作成することができる。 3．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 4．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
授業時間外学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 2．授業ノートの取り方 3．情報収集　（文献検索等） 4．文章を読んで要約する 5．資料を用いてのディスカッション 6．レポートの書き方 7．レポートの書き方 8．レポートの書き方 9．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） 10．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） 11．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） 12．発表・まとめ 13．実習室の使用方法 14．実習に向けてのマナー 15．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1230158
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	村田　友紀子	旧科目名称	
授業概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（教科書）	佐藤智明　他(著)「大学学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック」（ナカニシヤ出版） 名古屋大学日本語研究会 GK7 (著)「スキルアップ!　日本語力―大学生のための日本語練習帳」		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	1．ゼミの早い時期に図書館利用案内（蔵書検索の利用、データベースの活用など）を行う。 2．レポート・資料の作成の際には、著作権法に基づいた「引用」ができるように指導する。 3．グループワーク・ディスカッションにより、コミュニケーション力、論理的思考を鍛え、 集団における合意形成力や説得力を高めるように指導する。 4．効果的なプレゼンテーションを行うために、プレゼンテーションの構成要素・口頭発表の要件とは何かを示し、資料作成の技術を指導する。 5．日本語能力検定試験 3 級合格をめざし、日本語能力の技術を高める。予習として各自、問題集を解き、ゼミにて解答・解説を行う。 6．演習室にて、病院・病棟に入るための基本的な看護技術、身だしなみ、態度・マナーに身についているかを確認する。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）・発表（30%）		
到達目標	1．ルールに則り、インターネットや図書館文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 2．レポートを作成することができる。 3．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 4．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
授業時間外学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 2．授業ノートの取り方 3．情報収集　（文献検索等） 4．文章を読んで要約する 5．資料を用いてのディスカッション 6．レポートの書き方 7．レポートの書き方 8．レポートの書き方 9．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） 10．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） 11．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） 12．発表・まとめ 13．実習室の使用方法 14．実習に向けてのマナー 15．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1230159
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	夏山　洋子	旧科目名称	
授業概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（教科書）	佐藤智明　他(著)「大学学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック」（ナカニシヤ出版） 名古屋大学日本語研究会 GK7 (著)「スキルアップ!　日本語力―大学生のための日本語練習帳」		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	1．ゼミの早い時期に図書館利用案内（蔵書検索の利用、データベースの活用など）を行う。 2．レポート・資料の作成の際には、著作権法に基づいた「引用」ができるように指導する。 3．グループワーク・ディスカッションにより、コミュニケーション力、論理的思考を鍛え、 集団における合意形成力や説得力を高めるように指導する。 4．効果的なプレゼンテーションを行うために、プレゼンテーションの構成要素・口頭発表の要件とは何かを示し、資料作成の技術を指導する。 5．日本語能力検定試験 3 級合格をめざし、日本語能力の技術を高める。予習として各自、問題集を解き、ゼミにて解答・解説を行う。 6．演習室にて、病院・病棟に入るための基本的な看護技術、身だしなみ、態度・マナーに身についているかを確認する。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）・発表（30%）		
到達目標	1．ルールに則り、インターネットや図書館文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 2．レポートを作成することができる。 3．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 4．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
授業時間外学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 2．授業ノートの取り方 3．情報収集　（文献検索等） 4．文章を読んで要約する 5．資料を用いてのディスカッション 6．レポートの書き方 7．レポートの書き方 8．レポートの書き方 9．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） 10．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） 11．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） 12．発表・まとめ 13．実習室の使用方法 14．実習に向けてのマナー 15．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1230160
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	江頭　典江	旧科目名称	
授業概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（教科書）	佐藤智明　他(著)「大学学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック」（ナカニシヤ出版） 名古屋大学日本語研究会 GK7 (著)「スキルアップ!　日本語力―大学生のための日本語練習帳」		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	1．ゼミの早い時期に図書館利用案内（蔵書検索の利用、データベースの活用など）を行う。 2．レポート・資料の作成の際には、著作権法に基づいた「引用」ができるように指導する。 3．グループワーク・ディスカッションにより、コミュニケーション力、論理的思考を鍛え、 集団における合意形成力や説得力を高めるように指導する。 4．効果的なプレゼンテーションを行うために、プレゼンテーションの構成要素・口頭発表の要件とは何かを示し、資料作成の技術を指導する。 5．日本語能力検定試験 3 級合格をめざし、日本語能力の技術を高める。予習として各自、問題集を解き、ゼミにて解答・解説を行う。 6．演習室にて、病院・病棟に入るための基本的な看護技術、身だしなみ、態度・マナーに身についているかを確認する。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）・発表（30%）		
到達目標	1．ルールに則り、インターネットや図書館文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 2．レポートを作成することができる。 3．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 4．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
授業時間外学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 2．授業ノートの取り方 3．情報収集　（文献検索等） 4．文章を読んで要約する 5．資料を用いてのディスカッション 6．レポートの書き方 7．レポートの書き方 8．レポートの書き方 9．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） 10．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） 11．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） 12．発表・まとめ 13．実習室の使用方法 14．実習に向けてのマナー 15．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1230161
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	松井　達也	旧科目名称	
授業概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（教科書）	佐藤智明　他(著)「大学学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック」（ナカニシヤ出版） 名古屋大学日本語研究会 GK7 (著)「スキルアップ!　日本語力―大学生のための日本語練習帳」		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	1．ゼミの早い時期に図書館利用案内（蔵書検索の利用、データベースの活用など）を行う。 2．レポート・資料の作成の際には、著作権法に基づいた「引用」ができるように指導する。 3．グループワーク・ディスカッションにより、コミュニケーション力、論理的思考を鍛え、 集団における合意形成力や説得力を高めるように指導する。 4．効果的なプレゼンテーションを行うために、プレゼンテーションの構成要素・口頭発表の要件とは何かを示し、資料作成の技術を指導する。 5．日本語能力検定試験 3 級合格をめざし、日本語能力の技術を高める。予習として各自、問題集を解き、ゼミにて解答・解説を行う。 6．演習室にて、病院・病棟に入るための基本的な看護技術、身だしなみ、態度・マナーに身についているかを確認する。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）・発表（30%）		
到達目標	1．ルールに則り、インターネットや図書館文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 2．レポートを作成することができる。 3．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 4．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
授業時間外学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 2．授業ノートの取り方 3．情報収集　（文献検索等） 4．文章を読んで要約する 5．資料を用いてのディスカッション 6．レポートの書き方 7．レポートの書き方 8．レポートの書き方 9．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） 10．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） 11．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） 12．発表・まとめ 13．実習室の使用方法 14．実習に向けてのマナー 15．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1230162
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	伊豆　一郎	旧科目名称	
授業概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（教科書）	佐藤智明　他(著)「大学学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック」（ナカニシヤ出版） 名古屋大学日本語研究会 GK7 (著)「スキルアップ!　日本語力―大学生のための日本語練習帳」		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	1．ゼミの早い時期に図書館利用案内（蔵書検索の利用、データベースの活用など）を行う。 2．レポート・資料の作成の際には、著作権法に基づいた「引用」ができるように指導する。 3．グループワーク・ディスカッションにより、コミュニケーション力、論理的思考を鍛え、 集団における合意形成力や説得力を高めるように指導する。 4．効果的なプレゼンテーションを行うために、プレゼンテーションの構成要素・口頭発表の要件とは何かを示し、資料作成の技術を指導する。 5．日本語能力検定試験 3 級合格をめざし、日本語能力の技術を高める。予習として各自、問題集を解き、ゼミにて解答・解説を行う。 6．演習室にて、病院・病棟に入るための基本的な看護技術、身だしなみ、態度・マナーに身についているかを確認する。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）・発表（30%）		
到達目標	1．ルールに則り、インターネットや図書館文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 2．レポートを作成することができる。 3．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 4．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
授業時間外学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 2．授業ノートの取り方 3．情報収集　（文献検索等） 4．文章を読んで要約する 5．資料を用いてのディスカッション 6．レポートの書き方 7．レポートの書き方 8．レポートの書き方 9．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） 10．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） 11．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） 12．発表・まとめ 13．実習室の使用方法 14．実習に向けてのマナー 15．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1230163
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	河田　志帆	旧科目名称	
授業概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（教科書）	佐藤智明　他(著)「大学学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック」（ナカニシヤ出版） 名古屋大学日本語研究会 GK7 (著)「スキルアップ!　日本語力―大学生のための日本語練習帳」		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	1．ゼミの早い時期に図書館利用案内（蔵書検索の利用、データベースの活用など）を行う。 2．レポート・資料の作成の際には、著作権法に基づいた「引用」ができるように指導する。 3．グループワーク・ディスカッションにより、コミュニケーション力、論理的思考を鍛え、 集団における合意形成力や説得力を高めるように指導する。 4．効果的なプレゼンテーションを行うために、プレゼンテーションの構成要素・口頭発表の要件とは何かを示し、資料作成の技術を指導する。 5．日本語能力検定試験 3 級合格をめざし、日本語能力の技術を高める。予習として各自、問題集を解き、ゼミにて解答・解説を行う。 6．演習室にて、病院・病棟に入るための基本的な看護技術、身だしなみ、態度・マナーに身についているかを確認する。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）・発表（30%）		
到達目標	1．ルールに則り、インターネットや図書館文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 2．レポートを作成することができる。 3．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 4．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
授業時間外学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 2．授業ノートの取り方 3．情報収集　（文献検索等） 4．文章を読んで要約する 5．資料を用いてのディスカッション 6．レポートの書き方 7．レポートの書き方 8．レポートの書き方 9．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） 10．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） 11．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） 12．発表・まとめ 13．実習室の使用方法 14．実習に向けてのマナー 15．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1230164
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	高尾　憲司	旧科目名称	
授業概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（教科書）	佐藤智明　他(著)「大学学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック」（ナカニシヤ出版） 名古屋大学日本語研究会 GK7 (著)「スキルアップ!　日本語力―大学生のための日本語練習帳」		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	1．ゼミの早い時期に図書館利用案内（蔵書検索の利用、データベースの活用など）を行う。 2．レポート・資料の作成の際には、著作権法に基づいた「引用」ができるように指導する。 3．グループワーク・ディスカッションにより、コミュニケーション力、論理的思考を鍛え、 集団における合意形成力や説得力を高めるように指導する。 4．効果的なプレゼンテーションを行うために、プレゼンテーションの構成要素・口頭発表の要件とは何かを示し、資料作成の技術を指導する。 5．日本語能力検定試験 3 級合格をめざし、日本語能力の技術を高める。予習として各自、問題集を解き、ゼミにて解答・解説を行う。 6．演習室にて、病院・病棟に入るための基本的な看護技術、身だしなみ、態度・マナーに身についているかを確認する。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）・発表（30%）		
到達目標	1．ルールに則り、インターネットや図書館文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 2．レポートを作成することができる。 3．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 4．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
授業時間外学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 2．授業ノートの取り方 3．情報収集　（文献検索等） 4．文章を読んで要約する 5．資料を用いてのディスカッション 6．レポートの書き方 7．レポートの書き方 8．レポートの書き方 9．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） 10．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） 11．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） 12．発表・まとめ 13．実習室の使用方法 14．実習に向けてのマナー 15．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1230165
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	矢山　壮	旧科目名称	
授業概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（教科書）	佐藤智明　他(著)「大学学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック」（ナカニシヤ出版） 名古屋大学日本語研究会 GK7 (著)「スキルアップ!　日本語力―大学生のための日本語練習帳」		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	1．ゼミの早い時期に図書館利用案内（蔵書検索の利用、データベースの活用など）を行う。 2．レポート・資料の作成の際には、著作権法に基づいた「引用」ができるように指導する。 3．グループワーク・ディスカッションにより、コミュニケーション力、論理的思考を鍛え、 集団における合意形成力や説得力を高めるように指導する。 4．効果的なプレゼンテーションを行うために、プレゼンテーションの構成要素・口頭発表の要件とは何かを示し、資料作成の技術を指導する。 5．日本語能力検定試験 3 級合格をめざし、日本語能力の技術を高める。予習として各自、問題集を解き、ゼミにて解答・解説を行う。 6．演習室にて、病院・病棟に入るための基本的な看護技術、身だしなみ、態度・マナーに身についているかを確認する。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）・発表（30%）		
到達目標	1．ルールに則り、インターネットや図書館文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 2．レポートを作成することができる。 3．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 4．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
授業時間外学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法 2．授業ノートの取り方 3．情報収集　（文献検索等） 4．文章を読んで要約する 5．資料を用いてのディスカッション 6．レポートの書き方 7．レポートの書き方 8．レポートの書き方 9．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画） 10．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成） 11．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について） 12．発表・まとめ 13．実習室の使用方法 14．実習に向けてのマナー 15．手洗い、マスク装着			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1230171
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	松平　登志正	旧科目名称	
授業概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む）、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（教科書）	『読書力』　（岩波新書）　齋藤隆 著 760 円　（入学前教育として配付済み） 『記者ハンドブック第１３版』　（共同通信社）　共同通信社編 著 1,944 円　（入学前教育として配付済み）		
教材（参考資料）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書）　川井龍介 著 907 円 『学びの技』（玉川大学出版部）　後藤芳文 他 著 1,728 円 『理科系の作文技術』（中公新書）木下是雄　著　756 円 その他、ゼミで紹介する。		
教育方法	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つのレポート課題（30%・40%・30%）の提出。課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる。 ２．体裁の整ったレポートを作成できる。 ３．将来の仕事となる医療と専門職について知る。		
授業時間外学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各回すべきことを適時行い、課題（1）（2）（3）をすすめる。 能動的に講義に参加し、意思表示を行い、質問で疑問点などを明確にする。			
授業スケジュール			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明）、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明）、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．臨床に向かう準備（全体説明）、課題（２）提出 １２．準備する①　リハビリテーション医療 １３．準備する②　言語聴覚士の仕事 １４．準備する③　医療におけるコミュニケーションの重要性 １５．準備する④　医療者に求められる態度、課題（３）提出			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★★	−	★

年度	2018	授業コード	JC1230172
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	能登谷　晶子	旧科目名称	
授業概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む）、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（教科書）	『読書力』　（岩波新書）　齋藤隆 著 760 円　（入学前教育として配付済み） 『記者ハンドブック第１３版』　（共同通信社）　共同通信社編 著 1,944 円　（入学前教育として配付済み）		
教材（参考資料）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書）　川井龍介 著 907 円 『学びの技』（玉川大学出版部）　後藤芳文 他 著 1,728 円 『理科系の作文技術』（中公新書）木下是雄　著　756 円 その他、ゼミで紹介する。		
教育方法	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つのレポート課題（30%・40%・30%）の提出。課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる。 ２．体裁の整ったレポートを作成できる。 ３．将来の仕事となる医療と専門職について知る。		
授業時間外学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各回すべきことを適時行い、課題（1）（2）（3）をすすめる。 能動的に講義に参加し、意思表示を行い、質問で疑問点などを明確にする。			
授業スケジュール			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明）、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明）、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．臨床に向かう準備（全体説明）、課題（２）提出 １２．準備する①　リハビリテーション医療 １３．準備する②　言語聴覚士の仕事 １４．準備する③　医療におけるコミュニケーションの重要性 １５．準備する④　医療者に求められる態度、課題（３）提出			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1230173
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	久　育男	旧科目名称	
授業概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む）、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（教科書）	『読書力』　（岩波新書）　齋藤隆　著　760 円　（入学前教育として配付済み） 『記者ハンドブック第１３版』　（共同通信社）　共同通信社編　著　1,944 円　（入学前教育として配付済み）		
教材（参考資料）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書）　川井龍介　著　907 円 『学びの技』（玉川大学出版部）　後藤芳文　他　著　1,728 円 『理科系の作文技術』（中公新書）木下是雄　著　756 円 その他、ゼミで紹介する。		
教育方法	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つのレポート課題（30%・40%・30%）の提出。課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる。 ２．体裁の整ったレポートを作成できる。 ３．将来の仕事となる医療と専門職について知る。		
授業時間外学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各回すべきことを適時行い、課題（1）（2）（3）をすすめる。 能動的に講義に参加し、意思表示を行い、質問で疑問点などを明確にする。			
授業スケジュール			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明）、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明）、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．臨床に向かう準備（全体説明）、課題（２）提出 １２．準備する①　リハビリテーション医療 １３．準備する②　言語聴覚士の仕事 １４．準備する③　医療におけるコミュニケーションの重要性 １５．準備する④　医療者に求められる態度、課題（３）提出			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1230174
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	吉村　貴子	旧科目名称	
授業概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む）、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（教科書）	『読書力』　（岩波新書）　齋藤隆 著 760 円　（入学前教育として配付済み） 『記者ハンドブック第１３版』　（共同通信社）　共同通信社編 著 1,944 円　（入学前教育として配付済み）		
教材（参考資料）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書）　川井龍介 著 907 円 『学びの技』（玉川大学出版部）　後藤芳文 他 著 1,728 円 『理科系の作文技術』（中公新書）木下是雄　著　756 円 その他、ゼミで紹介する。		
教育方法	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つのレポート課題（30%・40%・30%）の提出。課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる。 ２．体裁の整ったレポートを作成できる。 ３．将来の仕事となる医療と専門職について知る。		
授業時間外学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各回すべきことを適時行い、課題（1）（2）（3）をすすめる。 能動的に講義に参加し、意思表示を行い、質問で疑問点などを明確にする。			
授業スケジュール			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明）、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明）、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．臨床に向かう準備（全体説明）、課題（２）提出 １２．準備する①　リハビリテーション医療 １３．準備する②　言語聴覚士の仕事 １４．準備する③　医療におけるコミュニケーションの重要性 １５．準備する④　医療者に求められる態度、課題（３）提出			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1230175
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	橋本　かほる	旧科目名称	
授業概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む）、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（教科書）	『読書力』　（岩波新書）　齋藤隆 著 760 円　（入学前教育として配付済み） 『記者ハンドブック第１３版』　（共同通信社）　共同通信社編 著 1,944 円　（入学前教育として配付済み）		
教材（参考資料）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書）　川井龍介 著 907 円 『学びの技』（玉川大学出版部）　後藤芳文 他 著 1,728 円 『理科系の作文技術』（中公新書）木下是雄　著　756 円 その他、ゼミで紹介する。		
教育方法	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つのレポート課題（30%・40%・30%）の提出。課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる。 ２．体裁の整ったレポートを作成できる。 ３．将来の仕事となる医療と専門職について知る。		
授業時間外学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各回すべきことを適時行い、課題（1）（2）（3）をすすめる。 能動的に講義に参加し、意思表示を行い、質問で疑問点などを明確にする。			
授業スケジュール			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明）、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明）、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．臨床に向かう準備（全体説明）、課題（２）提出 １２．準備する①　リハビリテーション医療 １３．準備する②　言語聴覚士の仕事 １４．準備する③　医療におけるコミュニケーションの重要性 １５．準備する④　医療者に求められる態度、課題（３）提出			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JC1230176
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	苅安　誠	旧科目名称	
授業概要	大学生として主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。具体的な課題は以下のとおりである。①「調べること」：図書館やデータベースを活用し、必要な資料を集め、要点を書きだし、文献の記載をする。②「書くこと」：ソフトウェア（文書と図表の作成用）を使い、あるテーマに沿った短いレポートを作成する（レポートの構成、資料集め、原稿の校正を含む）、③「準備すること」：将来の仕事となる医療と専門職について調べ、医療施設と実務を見学する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。		
教材（教科書）	『読書力』　（岩波新書）　齋藤隆 著 760 円　（入学前教育として配付済み） 『記者ハンドブック第１３版』　（共同通信社）　共同通信社編 著 1,944 円　（入学前教育として配付済み）		
教材（参考資料）	『伝えるための教科書』（岩波ジュニア新書）　川井龍介 著 907 円 『学びの技』（玉川大学出版部）　後藤芳文 他 著 1,728 円 『理科系の作文技術』（中公新書）木下是雄　著　756 円 その他、ゼミで紹介する。		
教育方法	適宜、資料を提供する。		
評価方法	定期試験なし。３つのレポート課題（30%・40%・30%）の提出。課題未提出は不合格とする。		
到達目標	１．情報源にあたり必要な情報を得て整理することができる。 ２．体裁の整ったレポートを作成できる。 ３．将来の仕事となる医療と専門職について知る。		
授業時間外学習	教科書の該当部分を読んでおく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
各回すべきことを適時行い、課題（1）（2）（3）をすすめる。 能動的に講義に参加し、意思表示を行い、質問で疑問点などを明確にする。			
授業スケジュール			
１．大学生に求められるスタディスキル（全体説明）、個別の調べることを決める（ゼミ別） ２．調べる①　情報源（辞書、教科書、専門書、専門誌、その他） ３．調べる②　図書館の活用、データベース・インターネット検索 ４．調べる③　情報の整理と文献の記載方法 ５．調べる④　内容の理解と専門用語の使用、課題（１）提出 ６．書くこと（全体説明）、書く①　テーマと全体構成（アウトライン） ７．書く②　ソフトウエアの活用、体裁と校正 ８．書く③　レポートの準備、資料集め ９．書く④　レポートの作成 １０．書く⑤レポートの修正 １１．臨床に向かう準備（全体説明）、課題（２）提出 １２．準備する①　リハビリテーション医療 １３．準備する②　言語聴覚士の仕事 １４．準備する③　医療におけるコミュニケーションの重要性 １５．準備する④　医療者に求められる態度、課題（３）提出			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★★	−	★

年度	2018	授業コード	JC1230177
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	共通使用	旧科目名称	
授業概要	大学における知識修得や研究遂行に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを養うための基礎的内容とする。具体的には、資料収集、討議、発表、レポート作成の基本を学ぶ。この中で既存資料の倫理的な取扱い、インターネットマナーについても理解する。また、医療を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、言葉遣い）を修得する。さらに対人コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの意義と目的、構造、医療場面におけるコミュニケーションの特性について理解する。		
教材（教科書）	『大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック』（ナカニシヤ出版） 佐藤智明 他 編 2,052 円		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	・学術的資料（論文）の種類と定義について調べる。 ・図書館ガイダンスを予定しており、文献等(図書、雑誌、視聴覚資料)の検索方法(OPAC、CiNii 等)を学ぶ。 ・看護への動機づけを高めるため、１年次履修科目に関連したテーマ、課題や問題点などについて論議する。 その準備として、日頃から、マスメディアで聞いた事がある専門用語、言葉を書きとめる習慣づける。 ・複数の他者に理解し、納得してもらうための技術を習得するため、グループ討論を行う。 ・資料の倫理的扱いについては、「引用」の定義、「引用」の要件として ①明瞭区分性、②主従関係、③公正 な慣行、④目的上正当性の範囲について調べる。 ・少人数で毎週開講する演習であるので、論議の中で友人や先生と関係性も深めともに、お互いの個性を理 解と尊重を育む時間とする。		
評価方法	課題に対しての提出物（70%）・発表（30%）		
到達目標	１．ルールに則り、インターネットや、図書文献検索などを使って必要な資料を集めることができる。 ２．レポートを作成することができる。 ３．グループワークにおいて積極的に参加し、討議することができる。 ４．医療サービスを志す学生として、ふさわしいマナーが身についている。		
授業時間外学習	日頃から新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			

１．本ゼミナールに関するガイダンス、　図書館の利用方法
２．授業ノートの取り方
３．情報収集　（文献検索等）
４．文章を読んで要約する
５．資料を用いてのディスカッション
６．レポートの書き方
７．レポートの書き方
８．レポートの書き方
９．課題レポート作成プレゼンテーション（プレゼン計画）
１０．課題レポート作成プレゼンテーション（発表資料の作成）
１１．課題レポート作成プレゼンテーション（口頭発表について）
１２．発表・まとめ
１３．実習室の使用方法

１４．実習に向けてのマナー
１５．手洗い、マスク装着

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JC1230180
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
授業概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人として、自らの実践的な健康を意識した生活態度を身につける。４年間の就学とはいえケガや病気を経験した場合においても、医学的な興味関心を持って対応し、予防医学と治療医学に関して学ぶ姿勢を指導する。健康スポーツを学ぶ学生として、これらの基本姿勢を身につけるとともに、大学での学修における基礎的なスキルである「読み、書き、聴く、話す、調べる」を身につけさせるとともに、大学での学修における基礎的な知識である論文やレポートの書き方や必要な機器の紹介と操作方法の教育を行う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教育方法	講義形式とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題に対するレポート（８0%)、受講態度（20%）		
到達目標	１．健康スポーツ分野において自分がもっている興味、関心あるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ説明できるようになること ２．大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
授業時間外学習	1.　日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活　字」を読むことを習慣づける。 ２．　読んだ　情報や記事の内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする。 ３．　授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。 4.　学外講師などによる講話や読書感想文などのレポートを課すので、課題を完成させて指定期日までに提　出すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。
２．　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。
3.　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
4.　トイレは原則として授業前あるいは休憩時間に行くことが望ましい（体調が悪い時には申し出ること)。

授業スケジュール

１．　イントロダクション：大学で学ぶ心構えと基本姿勢
２．　「文章」を読むこと：文章の内容を要約する
３．　「自分の考え」を言葉にする：　分かりやすい文章とは
４．　「文章」を読むこと：文章の内容について自分の考えを述べる
５．　「他人の話を聴く」：　耳からの情報の整理する
６．　「調べる」ということ
７．　情報の探求方法（１）：　図書館の活用
８．　情報の探求方法（２）：　データベースの活用
９．　「自分の考え」を整理して伝える（１）
１０．「自分の考え」を整理して伝える（２）
１１．知りたい情報を集める
１２．集めた情報を読み解く
１３．集めた情報をまとめる
１４．成果発表：まとめた情報の発表
１５．成果発表：まとめた情報の発表

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	–	★★	–

年度	2018	授業コード	JC1230181
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
授業概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人を目指す学生として、大学で学ぶための心構えや基本姿勢を理解し、規則正しい生活習慣を身につけ、健康・スポーツ・基礎医学分野に興味をもって何事にも積極的に取り組むことができる学生としての学修基盤を構築するための教育を行う。さらに、大学での学修に必要な「読み、書き、聴く、話す、調べる」ための基礎を学び、自分の考えを言葉や文章でしっかりと表現でき、社会性・主体性・表現力・コミュニケーション能力を養うための指導を行う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教育方法	講義形式とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題に対するレポート（８0%)、受講態度（20%）		
到達目標	１．　健康スポーツ分野において自分がもっている興味、関心あるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ説明できるようになること ２．　大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
授業時間外学習	1.　　日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活　　字」を読むことを習慣づける。 ２．　　読んだ　情報や記事の内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする。 ３．　　授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。 4.　学外講師などによる講話や読書感想文などのレポートを課すので、課題を完成させて指定期日までに提　　出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．　　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。 ２．　　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。 3.　　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。 4.　　トイレは原則として授業前あるいは休憩時間に行くことが望ましい（体調が悪い時には申し出ること)。			
授業スケジュール			
１．　　イントロダクション：大学で学ぶ心構えと基本姿勢 ２．　　「文章」を読むこと：文章の内容を要約する ３．　　「自分の考え」を言葉にする：　分かりやすい文章とは ４．　　「文章」を読むこと：文章の内容について自分の考えを述べる ５．　「他人の話を聴く」:　耳からの情報の整理する ６．　　「調べる」ということ ７．　　情報の探求方法（１）:　図書館の活用 ８．　　情報の探求方法（２）:　データベースの活用 ９．　　「自分の考え」を整理して伝える（１） １０．　「自分の考え」を整理して伝える（２） １１．　知りたい情報を集める １２．　集めた情報を読み解く １３．　集めた情報をまとめる １４．　成果発表：まとめた情報の発表 １５．　成果発表：まとめた情報の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1230182
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
授業概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人を目指す学生として、大学で学ぶための心構えや基本姿勢を理解し、規則正しい生活習慣を身につけ、健康・スポーツ・基礎医学分野に興味をもって何事にも積極的に取り組むことができる学生としての学修基盤を構築するための教育を行う。さらに、大学での学修に必要な「読み、書き、聴く、話す、調べる」ための基礎を学び、自分の考えを言葉や文章でしっかりと表現でき、社会性・主体性・表現力・コミュニケーション能力を養うための指導を行う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教育方法	講義形式とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題に対するレポート（８0%)、受講態度（20%）		
到達目標	１．健康スポーツ分野において自分がもっている興味、関心あるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ説明できるようになること ２．大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
授業時間外学習	1.　日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活　字」を読むことを習慣づける。 ２.　読んだ　情報や記事の内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする。 ３.　授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。 4.　学外講師などによる講話や読書感想文などのレポートを課すので、課題を完成させて指定期日までに提　出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１.　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。 ２.　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。 3.　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。 4.　トイレは原則として授業前あるいは休憩時間に行くことが望ましい（体調が悪い時には申し出ること)。			
授業スケジュール			
１.　イントロダクション：大学で学ぶ心構えと基本姿勢 ２.　「文章」を読むこと：文章の内容を要約する ３.　「自分の考え」を言葉にする：　分かりやすい文章とは ４.　「文章」を読むこと：文章の内容について自分の考えを述べる ５.　「他人の話を聴く」:　耳からの情報の整理する ６.　「調べる」ということ ７.　情報の探求方法（１）:　図書館の活用 ８.　情報の探求方法（２）:　データベースの活用 ９.　「自分の考え」を整理して伝える（１） １０.　「自分の考え」を整理して伝える（２） １１.　知りたい情報を集める １２.　集めた情報を読み解く １３.　集めた情報をまとめる １４.　成果発表：まとめた情報の発表 １５.　成果発表：まとめた情報の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1230183
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
授業概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人を目指す学生として、大学で学ぶための心構えや基本姿勢を理解し、規則正しい生活習慣を身につけ、健康・スポーツ・基礎医学分野に興味をもって何事にも積極的に取り組むことができる学生としての学修基盤を構築するための教育を行う。さらに、大学での学修に必要な「読み、書き、聴く、話す、調べる」ための基礎を学び、自分の考えを言葉や文章でしっかりと表現でき、社会性・主体性・表現力・コミュニケーション能力を養うための指導を行う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教育方法	講義形式とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題に対するレポート（８0%)、受講態度（20%）		
到達目標	１．　健康スポーツ分野において自分がもっている興味、関心あるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ説明できるようになること ２．　大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
授業時間外学習	1.　　日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活　　字」を読むことを習慣づける。 ２．　　読んだ　情報や記事の内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする。 ３．　　授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。 4.　学外講師などによる講話や読書感想文などのレポートを課すので、課題を完成させて指定期日までに提　　出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．　　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。 ２．　　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。 3.　　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。 4.　　トイレは原則として授業前あるいは休憩時間に行くことが望ましい（体調が悪い時には申し出ること)。			
授業スケジュール			
１．　　イントロダクション：大学で学ぶ心構えと基本姿勢 ２．　　「文章」を読むこと：文章の内容を要約する ３．　　「自分の考え」を言葉にする：　分かりやすい文章とは ４．　　「文章」を読むこと：文章の内容について自分の考えを述べる ５．　「他人の話を聴く」：　耳からの情報の整理する ６．　　「調べる」ということ ７．　　情報の探求方法（１）：　図書館の活用 ８．　　情報の探求方法（２）：　データベースの活用 ９．　　「自分の考え」を整理して伝える（１） １０．　「自分の考え」を整理して伝える（２） １１．　知りたい情報を集める １２．　集めた情報を読み解く １３．　集めた情報をまとめる １４．　成果発表：まとめた情報の発表 １５．　成果発表：まとめた情報の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1230184
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
授業概要	ヘルスプロモーションに関わる職業人を目指す学生として、大学で学ぶための心構えや基本姿勢を理解し、規則正しい生活習慣を身につけ、健康・スポーツ・基礎医学分野に興味をもって何事にも積極的に取り組むことができる学生としての学修基盤を構築するための教育を行う。さらに、大学での学修に必要な「読み、書き、聴く、話す、調べる」ための基礎を学び、自分の考えを言葉や文章でしっかりと表現でき、社会性・主体性・表現力・コミュニケーション能力を養うための指導を行う。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教育方法	講義形式とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題に対するレポート（８0%)、受講態度（20%）		
到達目標	１．　健康スポーツ分野において自分がもっている興味、関心あるテーマについて、言葉で簡潔にまとめ説明できるようになること ２．　大学において自主的に学ぶ態度を身につけること		
授業時間外学習	1.　　日頃から健康、運動・スポーツ分野に関する情報に関心を持ち、新聞やインターネット、雑誌などの「活　　字」を読むことを習慣づける。 ２．　　読んだ　情報や記事の内容を理解するとともに、情報に対して自身の考えを持つ訓練をする。 ３．　　授業時に配布された資料を整理し、各自で積極的に予習・復習する習慣を身につける。 4.　学外講師などによる講話や読書感想文などのレポートを課すので、課題を完成させて指定期日までに提　　出すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．　　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。 ２．　　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。 3.　　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。 4.　　トイレは原則として授業前あるいは休憩時間に行くことが望ましい（体調が悪い時には申し出ること)。			
授業スケジュール			
１．　　イントロダクション：大学で学ぶ心構えと基本姿勢 ２．　　「文章」を読むこと：文章の内容を要約する ３．　　「自分の考え」を言葉にする：　分かりやすい文章とは ４．　　「文章」を読むこと：文章の内容について自分の考えを述べる ５．　「他人の話を聴く」：　耳からの情報の整理する ６．　　「調べる」ということ ７．　　情報の探求方法（１）：　図書館の活用 ８．　　情報の探求方法（２）：　データベースの活用 ９．　　「自分の考え」を整理して伝える（１） １０．　「自分の考え」を整理して伝える（２） １１．　知りたい情報を集める １２．　集めた情報を読み解く １３．　集めた情報をまとめる １４．　成果発表：まとめた情報の発表 １５．　成果発表：まとめた情報の発表			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1230185
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	川﨑　雄二郎	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）

大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ

大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④

大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④

大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③

大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230186
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	池田　晃彦	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）

大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ

大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④

大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④

大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③

大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230187
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）

大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ

大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④

大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④

大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③

大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230188
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	この科目は大学における初年次教育の中心に位置づけられる科目であり、これから大学で学ぶための技能（スタディスキル）の育成を目的とする。また、大学で学ぶべきことを理解し、その学習態度を身に付ける。具体的には、大学における学びの基本となる「聴く」「調べる」「読み」「書く」「話す」を身に付けられるよう少人数クラスで指導を行い、大学での学習において不可欠である論文やレポートの書き方、必要な施設の利用や機器の操作方法についても教育を行う。		
教材（教科書）	本学経済経営学部作成の冊子『アカデミック・ライティング』を配布する。		
教材（参考資料）	「大学生活の基本８項目」を配布する。 その他、必要に応じて指示または配布する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	各回の授業の前後に、下記の学習を行うこと。 １　『履修要項』第１部、「大学生活の基本８項目」を読む。 ２　『アカデミック・ライティング』の「はじめに」を読む。 ３　図書室で実際に図書を借りる、雑誌や新聞を閲覧する。 ４　『アカデミック・ライティング』の第１章を読む。 ５～８　与えられた課題文から要約文を作成する。 ９～１２　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－５～１０）、第３章を読む。各自のレポートのテーマの決定、資料収集、作成。完成したレポートのレジュメの作成。 １３～１５　『アカデミック・ライティング』の第２章（２－１～５、２－１１～１５）を読む。 その他、随時「情報リテラシー」での学習内容を復習し、Word 文書および PowerPoint スライドの基本的な作成技術を修得しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．大学生活の基本を知る①
２．大学生活の基本を知る②
　大学と高校までとの違い、大学生としてすべきこととしてはならないことなど、これから大学で学ぶに当たって重要な事項を理解する。また、大学の施設やその利用方法など、大学生活を有意義なものとするための事柄を確認する。

３．図書館を利用する（図書館ガイダンス）

大学での学習をより効果的かつ効率的に進めるには、図書館を利用することが有効である。そのために、ここでは図書館（太秦キャンパス図書室）に足を運び、図書の閲覧・貸し出しの手順等について説明を受けるとともに、実際に図書館のパソコン端末を使っての文献検索等を体験する。

４．講義ノートのとり方を学ぶ

大学の講義でノートをとる際、たんに板書されたことを書き写すだけでは十分とは言えない。板書は必要最低限のものなので、それについての説明を書き加えておかなければ後で読み返しても意味が分からないということになりかねない。資料が配布される場合も同様である。そこでここでは、どのようにすれば優れたノートを作成できるか、その方法を学ぶ。

５．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）①
６．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）②
７．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）③
８．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（基礎）④

大学での学習において、教科書や参考資料などの文献を読み理解することが重要であることは言うまでもない。ここでは、文献を読む際にどのような点に注意を払えば内容の理解により有効であるか、実際にいくつかの文献を題材として取り上げて、そのポイントを学ぶ。また、長文から要点を見つけ出し、それを分かりやすく短い文章にまとめ直す（要約する）技術を修得する。

９．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）①
１０．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）②
１１．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）③
１２．文献を「読む」・内容をまとめて「書く」（発展）④

大学では、レポート、筆記試験、卒業論文など、様々な形で文章を書くことが求められる。また、ゼミなどにおいては、発表する内容を短くまとめた「レジュメ」と呼ばれる文書を作成しなければならないことも多い。（Word を使用する場合でも PowerPoint を使用する場合でも基本は同じである。）そこでここでは、５～８で得た技術をさらに発展させ、それぞれが自らの視点から独自性のある文章を書けるようになることを目指すとともに、それをレジュメにまとめる練習を行う。

１３．分かりやすく「話す」①
１４．分かりやすく「話す」②
１５．分かりやすく「話す」③

大学ではゼミなどにおいて、自分の理解した内容や考えを話す（プレゼンテーションする、議論する）ことを求められる機会が多くある。ここでは、どのようにすれば相手に自分の伝えたいことを上手く伝えられるのか、実際に体験することを通じてそのスキルアップを図る。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230201
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	共通使用	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230202
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230203
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	色川　豪一	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230204
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230205
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230206
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230207
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230208
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230209
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	西　政治	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230210
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	袖川　芳之	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230211
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	上川　芳実	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230212
科目名	スタートアップゼミＢ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミＡから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミＡ」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミＡ」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230214
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230221
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	阿部　千寿子	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230222
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230223
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230224
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	澤田　吉孝	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230226
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	駒田　忠一	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230227
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230228
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	川田　耕	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230261
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	渡部　洋子	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（教科書）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考資料）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教育方法	到達目標が達成できるように、少人数のゼミにおいて個人やグループで課題に取り組む。		
評価方法	課題提出（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	1.一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用してグループ討議ができる。 2.適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 3.討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
授業時間外学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1.イントロダクション 2.レポート・論文とは 3.レポート・論文の書式・構成 4.テーマ（主題）を決める 5.アウトライン・暫定目次の作成 6.資料・データの収集 7.資料・データの整理 8.目次の詳細検討と確定 9.現行の執筆、表記法 10.引用参考の仕方 11.プレゼンテーションの原理と基本 12.プレゼンテーションの準備 13.プレゼンテーションの実行 14.プレゼンテーションの実行 15.プレゼンテーションの評価			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1230262
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	共通使用	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAで修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心のあるテーマを討議の上設定し、それを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして設定したテーマについて他者に説明できるよう、ふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（教科書）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教材（参考資料）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教育方法	到達目標が達成できるように、少人数のゼミにおいて個人やグループで課題に取り組む。		
評価方法	課題提出（50%）、参加度（30%）、発表（20%）		
到達目標	1.一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用してグループ討議ができる。 2.適切な方法で、プレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 3.討議で深めた内容を含め、レポートにまとめ提出する。		
授業時間外学習	「スタートアップゼミA」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本のスキルの復習をしておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業への主体的な参加を望む。			
授業スケジュール			
1.イントロダクション 2.レポート・論文とは 3.レポート・論文の書式・構成 4.テーマ（主題）を決める 5.アウトライン・暫定目次の作成 6.資料・データの収集 7.資料・データの整理 8.目次の詳細検討と確定 9.現行の執筆、表記法 10.引用参考の仕方 11.プレゼンテーションの原理と基本 12.プレゼンテーションの準備 13.プレゼンテーションの実行 14.プレゼンテーションの実行 15.プレゼンテーションの評価			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	JC1230271
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	吉村　貴子	旧科目名称	
授業概要	大学生として、主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。 具体的には、「スタートアップゼミＡ」で得たスタディ・スキルを踏まえて、医療福祉に関連するテーマで、①「発表をする」②「ディベートをする」。そして、情報収集および情報共有した内容を③「レポートとしてまとめる」。加えて、これらの過程をとおして、医療福祉を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、ことば遣い）を修得することも目指す。		
教材（教科書）	講義内容に関する資料を適宜配布する。		
教材（参考資料）	『学生・研究者のための使え！PowerPoint スライドデザイン伝わるプレゼン 1 つの原理と 3 つの技術』（化学同人）　宮野公樹 著　1,994 円 『学生・研究者のための伝わる！学会ポスターのデザイン術　ポスター発表を成功に導くプレゼン手法』（化学同人）　宮野公樹 著　2,052 円 『はじめのてディベート聴く・話す・考える力を身につける』（あさ出版）　西部直樹 著　1,620 円		
教育方法	スタートアップゼミ A で配布した資料や知識を利用し、プレゼンテーションや討議の準備を行う。		
評価方法	プレゼンテーション（発表 10 点，参加度 15 点，レポート 25 点），ディベート（討議 15 点，参加度 10 点，レポート 25 点）		
到達目標	１．論理的に考えることができる。 ２．自分の考えを他者に伝えることができる。 ３．他者の考えを理解することができる。 ４．上記の１～３を達成する手段として、プレゼンテーションやディベートを実践することができる。		
授業時間外学習	１．文献検索の方法を復習する。 ２．必要な資料を熟読する。 ３．グループ課題では、役割分担をして、共同できる体制を作る。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．自分の周りで起こっている出来事について、「なぜ」「どうして」という興味や関心を持つ。
２．「なぜ」「どうして」に対する、答えを探す力を身につけるように努める。
３．得た情報を論理的に客観的にみる。
４．これらは臨床家としてのみならず、社会生活を遂行する上での基礎力となる。

授業スケジュール

１．全体説明：スタゼミ B の目標、前半の流れ，後半の流れ(テーマ含む)　見学発表の発表の仕方　発表に向けて準備をする（パワーポイント資料作成）
２．発表に向けて準備をする（パワーポイント資料および読み原稿完成）
３．発表
４．発表
５．全体説明：ディベートの概要と情報収集の仕方　ディベートに向けて準備をする（役割分担）
６．ディベートに向けて準備をする（情報収集）
７．ディベートに向けて準備をする（情報収集）
８．ディベートに向けての準備（収集した情報の整理）
９．ディベートに向けての準備（収集した情報の整理とディベートの予行演習）
１０．ディベート
１１．ディベート
１２．ディベート　レポートに向けての準備（構成，草案作成）
１３．ジグソー学習による情報共有　レポート完成に向けての準備（レポート作成）
１４．レポート完成に向けての準備（レポート作成）
１５．レポートの完成と振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1230272
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	外山　稔	旧科目名称	
授業概要	大学生として、主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。 具体的には、「スタートアップゼミＡ」で得たスタディ・スキルを踏まえて、医療福祉に関連するテーマで、①「発表をする」②「ディベートをする」。そして、情報収集および情報共有した内容を③「レポートとしてまとめる」。加えて、これらの過程をとおして、医療福祉を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、ことば遣い）を修得することも目指す。		
教材（教科書）	講義内容に関する資料を適宜配布する。		
教材（参考資料）	『学生・研究者のための使え！PowerPoint スライドデザイン伝わるプレゼン 1 つの原理と 3 つの技術』（化学同人）　宮野公樹 著　1,994 円 『学生・研究者のための伝わる！学会ポスターのデザイン術　ポスター発表を成功に導くプレゼン手法』（化学同人）　宮野公樹 著　2,052 円 『はじめのてディベート聴く・話す・考える力を身につける』（あさ出版）　西部直樹 著　1,620 円		
教育方法	スタートアップゼミ A で配布した資料や知識を利用し、プレゼンテーションや討議の準備を行う。		
評価方法	プレゼンテーション（発表 10 点，参加度 15 点，レポート 25 点），ディベート（討議 15 点，参加度 10 点，レポート 25 点）		
到達目標	１．論理的に考えることができる。 ２．自分の考えを他者に伝えることができる。 ３．他者の考えを理解することができる。 ４．上記の１～３を達成する手段として、プレゼンテーションやディベートを実践することができる。		
授業時間外学習	１．文献検索の方法を復習する。 ２．必要な資料を熟読する。 ３．グループ課題では、役割分担をして、共同できる体制を作る。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．自分の周りで起こっている出来事について、「なぜ」「どうして」という興味や関心を持つ。
２．「なぜ」「どうして」に対する、答えを探す力を身につけるように努める。
３．得た情報を論理的に客観的にみる。
４．これらは臨床家としてのみならず、社会生活を遂行する上での基礎力となる。

授業スケジュール

１．全体説明：スタゼミ B の目標、前半の流れ、後半の流れ(テーマ含む)　見学発表の発表の仕方　発表に向けて準備をする（パワーポイント資料作成）
２．発表に向けて準備をする（パワーポイント資料および読み原稿完成）
３．発表
４．発表
５．全体説明：ディベートの概要と情報収集の仕方　ディベートに向けて準備をする（役割分担）
６．ディベートに向けて準備をする（情報収集）
７．ディベートに向けて準備をする（情報収集）
８．ディベートに向けての準備（収集した情報の整理）
９．ディベートに向けての準備（収集した情報の整理とディベートの予行演習）
１０．ディベート
１１．ディベート
１２．ディベート　レポートに向けての準備（構成，草案作成）
１３．ジグソー学習による情報共有　レポート完成に向けての準備（レポート作成）
１４．レポート完成に向けての準備（レポート作成）
１５．レポートの完成と振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1230273
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	弓削　明子	旧科目名称	
授業概要	大学生として、主体的・能動的に学ぶために必要なスタディスキルを身につけることを目的とする。 具体的には、「スタートアップゼミＡ」で得たスタディ・スキルを踏まえて、医療福祉に関連するテーマで、①「発表をする」②「ディベートをする」。そして、情報収集および情報共有した内容を③「レポートとしてまとめる」。加えて，これらの過程をとおして、医療福祉を専門領域として学ぶ学生として必要な態度（挨拶、接遇、身だしなみ、ことば遣い）を修得することも目指す。		
教材（教科書）	講義内容に関する資料を適宜配布する。		
教材（参考資料）	『学生・研究者のための使え！PowerPoint スライドデザイン伝わるプレゼン 1 つの原理と 3 つの技術』（化学同人）　宮野公樹 著　1,994 円 『学生・研究者のための伝わる！学会ポスターのデザイン術　ポスター発表を成功に導くプレゼン手法』（化学同人）　宮野公樹 著　2,052 円 『はじめのてディベート聴く・話す・考える力を身につける』（あさ出版）　西部直樹 著　1,620 円		
教育方法	スタートアップゼミ A で配布した資料や知識を利用し、プレゼンテーションや討議の準備を行う。		
評価方法	プレゼンテーション（発表 10 点，参加度 15 点，レポート 25 点），ディベート（討議 15 点，参加度 10 点，レポート 25 点）		
到達目標	１．論理的に考えることができる。 ２．自分の考えを他者に伝えることができる。 ３．他者の考えを理解することができる。 ４．上記の１～３を達成する手段として、プレゼンテーションやディベートを実践することができる。		
授業時間外学習	１．文献検索の方法を復習する。 ２．必要な資料を熟読する。 ３．グループ課題では、役割分担をして、共同できる体制を作る。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．自分の周りで起こっている出来事について、「なぜ」「どうして」という興味や関心を持つ。
２．「なぜ」「どうして」に対する、答えを探す力を身につけるように努める。
３．得た情報を論理的に客観的にみる。
４．これらは臨床家としてのみならず、社会生活を遂行する上での基礎力となる。

授業スケジュール

１．全体説明：スタゼミ B の目標、前半の流れ，後半の流れ(テーマ含む)　見学発表の発表の仕方　発表に向けて準備をする（パワーポイント資料作成）
２．発表に向けて準備をする（パワーポイント資料および読み原稿完成）
３．発表
４．発表
５．全体説明：ディベートの概要と情報収集の仕方　ディベートに向けて準備をする（役割分担）
６．ディベートに向けて準備をする（情報収集）
７．ディベートに向けて準備をする（情報収集）
８．ディベートに向けての準備（収集した情報の整理）
９．ディベートに向けての準備（収集した情報の整理とディベートの予行演習）
１０．ディベート
１１．ディベート
１２．ディベート　レポートに向けての準備（構成，草案作成）
１３．ジグソー学習による情報共有　レポート完成に向けての準備（レポート作成）
１４．レポート完成に向けての準備（レポート作成）
１５．レポートの完成と振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1230276
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	新里　直美	旧科目名称	
授業概要	「スタートアップゼミＡ」から引き続き、健康スポーツを学ぶ学生として必要な初年次教育の位置づけとして、スタディスキルの育成を目的とする。特に自らの健康だけでなく他者への健康に配慮する姿勢を持つために、協同学修の意義を理解し、その手法・方法を学び、互いを思いやりつつ実践的な教育を行う際の基本的な作法を修得する。また、論理的な思考をトレーニングするために、論文を読んでの問題点の指摘、あるいは関連文献の検索を通してレポートを作成し、プレゼンテーションする機会を持つ。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教育方法	講義形式とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題・講話に対するレポート（６0%)、課題への参加度や授業態度（２0%)、発表（20%）		
到達目標	１．　一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用し、グループで討議できる。 ２．　適切な方法でプレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．　討議で深めた内容を含め、レポートにまとめて提出する。		
授業時間外学習	1. 「スタートアップゼミＡ」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルについて、配布した プリントをよく読んで復習をしておく。 2. 学外講師などによる講話や読書感想文などのレポートを課すので、課題を完成させて指定期日までに提出す ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。
２．　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。
3.　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
4.　トイレは原則として授業前あるいは休憩時間に行くことが望ましい（体調が悪い時には申し出ること)。

授業スケジュール

１．　ガイダンス
２．　レポート・論文とは
３　．レポート・論文の書式
４．　テーマ（主題）を決める
５．　アウトライン・暫定目次の作成
６．　資料・データの収集
７．　資料・データの整理
８．　目次の詳細検討と確定（理論の道筋の確定）
９．　原稿の執筆・表記法
１０．引用参考の仕方
１１．プレゼンテーションの原理と基本
１２．プレゼンテーションの準備
１３．プレゼンテーションの実行
１４．プレゼンテーションの実行
１５．学科全体による発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1230281
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	吉﨑　和男	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミ A で習得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心あるテーマを設定し、それぞれを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして、設定したテーマについて他者に説明できるようにふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教育方法	講義形式とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題・講話に対するレポート（６0%)、課題への参加度や授業態度（２0%)、発表（20%）		
到達目標	１．　一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用し、グループで討議できる。 ２．　適切な方法でプレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．　討議で深めた内容を含め、レポートにまとめて提出する。		
授業時間外学習	1. 「スタートアップゼミＡ」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルについて、配布した プリントをよく読んで復習をしておく。 2. 学外講師などによる講話や読書感想文などのレポートを課すので、課題を完成させて指定期日までに提出す ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。
２．　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。
3.　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
4.　トイレは原則として授業前あるいは休憩時間に行くことが望ましい（体調が悪い時には申し出ること)。

授業スケジュール

１．　ガイダンス
２．　レポート・論文とは
３　．レポート・論文の書式
４．　テーマ（主題）を決める
５．　アウトライン・暫定目次の作成
６．　資料・データの収集
７．　資料・データの整理
８．　目次の詳細検討と確定（理論の道筋の確定）
９．　原稿の執筆・表記法
１０．引用参考の仕方
１１．プレゼンテーションの原理と基本
１２．プレゼンテーションの準備
１３．プレゼンテーションの実行
１４．プレゼンテーションの実行
１５．学科全体による発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1230282
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	柳田　泰義	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミ A で習得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心あるテーマを設定し、それぞれを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして、設定したテーマについて他者に説明できるようにふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教育方法	講義形式とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題・講話に対するレポート（６0%)、課題への参加度や授業態度（２0%)、発表（20%）		
到達目標	１．　一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用し、グループで討議できる。 ２．　適切な方法でプレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．　討議で深めた内容を含め、レポートにまとめて提出する。		
授業時間外学習	1. 「スタートアップゼミＡ」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルについて、配布した プリントをよく読んで復習をしておく。 2. 学外講師などによる講話や読書感想文などのレポートを課すので、課題を完成させて指定期日までに提出す ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。
２．　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。
3.　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
4.　トイレは原則として授業前あるいは休憩時間に行くことが望ましい（体調が悪い時には申し出ること)。

授業スケジュール

１．　ガイダンス
２．　レポート・論文とは
３　．レポート・論文の書式
４．　テーマ（主題）を決める
５．　アウトライン・暫定目次の作成
６．　資料・データの収集
７．　資料・データの整理
８．　目次の詳細検討と確定（理論の道筋の確定）
９．　原稿の執筆・表記法
１０．引用参考の仕方
１１．プレゼンテーションの原理と基本
１２．プレゼンテーションの準備
１３．プレゼンテーションの実行
１４．プレゼンテーションの実行
１５．学科全体による発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1230283
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	木村　みさか	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミ A で習得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心あるテーマを設定し、それぞれを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして、設定したテーマについて他者に説明できるようにふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教育方法	講義形式とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題・講話に対するレポート（６0%)、課題への参加度や授業態度（２0%)、発表（20%）		
到達目標	１．　一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用し、グループで討議できる。 ２．　適切な方法でプレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．　討議で深めた内容を含め、レポートにまとめて提出する。		
授業時間外学習	1. 「スタートアップゼミＡ」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルについて、配布した プリントをよく読んで復習をしておく。 2. 学外講師などによる講話や読書感想文などのレポートを課すので、課題を完成させて指定期日までに提出す ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。
２．　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。
3.　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
4.　トイレは原則として授業前あるいは休憩時間に行くことが望ましい（体調が悪い時には申し出ること)。

授業スケジュール

１．　ガイダンス
２．　レポート・論文とは
３　．レポート・論文の書式
４．　テーマ（主題）を決める
５．　アウトライン・暫定目次の作成
６．　資料・データの収集
７．　資料・データの整理
８．　目次の詳細検討と確定（理論の道筋の確定）
９．　原稿の執筆・表記法
１０．引用参考の仕方
１１．プレゼンテーションの原理と基本
１２．プレゼンテーションの準備
１３．プレゼンテーションの実行
１４．プレゼンテーションの実行
１５．学科全体による発表会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1230284
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	三宅　基子	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミ A で習得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルを実際のテーマを設定して実践する。グループで興味関心あるテーマを設定し、それぞれを探求するための資料を収集し、著作権侵害に抵触しないための留意事項を確認しながら資料を作成する。そして、設定したテーマについて他者に説明できるようにふさわしいプレゼンテーション方法を選択して実践する。プレゼンテーションで受けた評価や明らかになった課題を成果とし、それをレポートにまとめる。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	各ゼミの担当教員から指示する。		
教育方法	講義形式とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題・講話に対するレポート（６0%)、課題への参加度や授業態度（２0%)、発表（20%）		
到達目標	１．　一つのテーマについて、文献、新聞、メディア等を活用し、グループで討議できる。 ２．　適切な方法でプレゼンテーションができ、討議でテーマを深められる。 ３．　討議で深めた内容を含め、レポートにまとめて提出する。		
授業時間外学習	1. 「スタートアップゼミＡ」で修得した資料収集、討議、発表、レポート作成の基本スキルについて、配布した プリントをよく読んで復習をしておく。 2. 学外講師などによる講話や読書感想文などのレポートを課すので、課題を完成させて指定期日までに提出す ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．　自分の考えをしっかりと持ち、主体的に自分の考えを述べると共に、他者の話を聞くことを身につける。
２．　周りの人たちとコミュニケーションを図り、ディスカッションに参加する積極的な姿勢を望む。
3.　遅刻や私語を厳禁とし、他の学生の聴講の迷惑になる行為をする学生には退出を求める。
4.　トイレは原則として授業前あるいは休憩時間に行くことが望ましい（体調が悪い時には申し出ること)。

授業スケジュール

１．　ガイダンス
２．　レポート・論文とは
３　．レポート・論文の書式
４．　テーマ（主題）を決める
５．　アウトライン・暫定目次の作成
６．　資料・データの収集
７．　資料・データの整理
８．　目次の詳細検討と確定（理論の道筋の確定）
９．　原稿の執筆・表記法
１０．引用参考の仕方
１１．プレゼンテーションの原理と基本
１２．プレゼンテーションの準備
１３．プレゼンテーションの実行
１４．プレゼンテーションの実行
１５．学科全体による発表会

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JC1230285
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	川﨑　雄二郎	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230286
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	池田　晃彦	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230287
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	李　立栄	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC1230288
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	木口　武博	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAから引き続き、大学における初年次教育の位置づけとして、これから大学で学ぶためのスタディスキルの育成を目的とする。特に、協同学習の意義を理解し、その手法・方法を学び、実践的教育を行う際の基本的な作法を習得する。また同時に、定性的・定量的な分析方法やケーススタディによる分析方法を理解し、根拠に基づく意見表明ができるように教育を行う。		
教材（教科書）	『アカデミック・ライティング』（「スタートアップゼミA」で配布済み。）		
教材（参考資料）	各自の選択したテーマに沿って各自で収集する。		
教育方法	レジュメ、レポート等の作成課題においては個別指導を基本とするが、ペアやグループで課題に取り組んでもらう場合もある。プレゼンテーション実習の際には、ゼミ全体でディスカッションを行う。		
評価方法	平常点（授業中の小課題への取り組み、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度等）（50%）、提出課題（レジュメ、レポート等）の完成度（50%）		
到達目標	・図書館やインターネットを利用した文献検索、利用が円滑にできること。 ・レポート、レジュメなどの文書作成が適切に行えるとともに、その内容を口頭で分かりやすく説明できること。 ・日本語検定３級～準２級レベルの日本語運用能力を身に付けること。		
授業時間外学習	・配布された資料を熟読しておくこと。 ・各回に与えられる課題を指定された期日までに終えておくこと。 ・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題に関心を払っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・大学での修学においてゼミはその中心に位置付けられるものであり、また大学行事等に関する連絡の主要なルートにもなるので、必ずテキストを持参し、毎回欠かさず出席すること。（５回以上欠席した場合には原則として単位を認定しない。）
・受講のマナーを守り、私語など、他の受講生の迷惑になる行為や、スマートホンの使用、途中退室、居眠りなど、自身の受講の効果を低下させる行為は行わないこと。特別な事情がある場合は担当教員に申し出て、指示を受けること。
・日頃から新聞を読む習慣を付け、時事問題にも注意を払っておくこと。

授業スケジュール

１．春学期の内容を復習し今学期の方針を確認する
　テキスト「アカデミック・ライティング」を使って、「スタートアップゼミA」で学んだ内容を復習するとともに、今学期の内容と目標（レポート作成）を確認する。

２．レポートのテーマを決定する
　ゼミ内をいくつかのグループに分け、互いに意見を出し合いながら、レポートのテーマを決定する。

３．資料を収集し整理する①
４．資料を収集し整理する②
５．資料を収集し整理する③
　図書館の蔵書やインターネットなどから、テーマに関する資料を収集する。収集した資料は、その内容を短い文章にまとめて整理する。

６．調べたことを発表する（中間発表会）①
７．調べたことを発表する（中間発表会）②
　収集した資料の内容を、口頭で説明する。

８．レポートの構成を考える①
９．レポートの構成を考える②

収集した文献を元にして、レポートの構成を考え、レジュメ形式にまとめる。

１０．レポートを作成する①
１１．レポートを作成する②
１２．レポートを作成する③
１３．レポートを作成する④
９までに考えた構成に沿って、内容を文章化し、レポートを完成させる。

１４．レポートの内容を発表する（最終発表会）①
１５．レポートの内容を発表する（最終発表会）②
完成したレポートの内容を、口頭で説明する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JC2000111
科目名	キャリアデザイン A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000112
科目名	キャリアデザイン A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000113
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000114
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	上村　知子	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000115
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000116
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000117
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000118
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	上村　知子	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000119
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000120
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000121
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000122
科目名	キャリアデザインA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる皆さんは「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活，ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教育方法	講義とペアあるいはグループワーク等を組み合わせて行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に講義テーマに関連した課題の提出を求めます。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
授業スケジュール			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JC2000123
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000124
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	松川　晴美	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000125
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000126
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	松川　晴美	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000127
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000128
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000129
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000130
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000131
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000132
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000133
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000134
科目名	キャリアデザイン A	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000135
科目名	キャリアデザインA	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる1回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　主体的な大学生活を送るために
3.　高校と大学の違い
4.　大学生活に潜むリスク
5.　生活習慣再考
6.　円滑な意思疎通
7.　「聴く」ことの大切さ
8.　他者への配慮
9.　合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCAサイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JC2000136
科目名	キャリアデザインA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる皆さんは「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活，ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教育方法	講義とペアあるいはグループワーク等を組み合わせて行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に講義テーマに関連した課題の提出を求めます。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
授業スケジュール			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JC2000137
科目名	キャリアデザインA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる皆さんは「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活，ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教育方法	講義とペアあるいはグループワーク等を組み合わせて行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に講義テーマに関連した課題の提出を求めます。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
授業スケジュール			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2018	授業コード	JC2000138
科目名	キャリアデザインA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる皆さんは「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活，ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教育方法	講義とペアあるいはグループワーク等を組み合わせて行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に講義テーマに関連した課題の提出を求めます。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
授業スケジュール			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2018	授業コード	JC2000139
科目名	キャリアデザインA （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる皆さんは「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活，ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教育方法	講義とペアあるいはグループワーク等を組み合わせて行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に講義テーマに関連した課題の提出を求めます。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
授業スケジュール			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JC2000140
科目名	キャリアデザインA 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design A		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず,「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，そこで求められる「学生」としての役割は，高校までに求められていたものとは大きく異なります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活,ひいては社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 高校と大学の違いについて理解し，大学生活に対して主体的な姿勢を持つことができる 2. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 3. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 大学は良くも悪くも「自由」です。しかし自由とはいえ，何をしても良いというわけではありません。講義の邪魔となる行為は禁止します。
2. 大学生活で求められるのは「主体性」「自発性」です。本科目でも様々なことを皆さん自身に考えて頂く機会があります。初めから全てを自分自身で完璧に出来るようになっていることを求めているわけではありません。失敗しても良いので．まずは一歩踏み出して，自分自身でモノを考え取り組むということにチャレンジしてみてください。

授業スケジュール

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 主体的な大学生活を送るために
3. 高校と大学の違い
4. 大学生活に潜むリスク
5. 生活習慣再考
6. 円滑な意思疎通
7. 「聴く」ことの大切さ
8. 他者への配慮
9. 合意形成の図り方
10. 適切な情報共有のあり方
11. 成果を出すこと・PDCA サイクル
12. 今後の大学生活を考える（1）
13. 今後の大学生活を考える（2）
14. 今後の大学生活を考える（3）
15. 今後の大学生活を考える（4）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2018	授業コード	JC2000211
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	JC2000212
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000213
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000214
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	上村　知子	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000215
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000216
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000217
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000218
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	上村　知子	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000219
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000220
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	浅田　実果	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000221
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000222
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	松川　晴美	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000223
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000224
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	松川　晴美	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000225
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000226
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000227
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000228
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000229
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	JC2000230
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000231
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000232
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000233
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000234
科目名	キャリアデザインB	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（1）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（2）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000235
科目名	キャリアデザインＢ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる 1 回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる。		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000236
科目名	キャリアデザインＢ 【G】	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design B		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。そして，「キャリア」を考える上で重要なのは各個人が担っている「役割」です。本科目の受講対象となる１回生は「学生」としての役割を担っている最中にありますが，卒業後には多くの学生は，「職業人」へと役割が変化します。そこで本科目では，今後の大学生活そして職業社会への参入を考える上で重要である「自己理解」「社会理解」に焦点を当て，自ら自身と、自らを取りまく状況についての理解を促進することを狙いとしています。		
教材（教科書）	初回授業時に配布。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示します。		
教育方法	パワーポイントによる講義と、グループワーク・グループディスカッションなどを必要に応じて組み合わせて行う。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：60%　レポート：40%		
到達目標	1. 将来に向けた進路選択において重要となる，自分自身および自らを取りまく状況についての理解を促進することができる。 2. 大学生活，将来に向けた目的意識をより現実に即した形で再構築することができる。		
授業時間外学習	授業開始時までに必ず事前に提示した課題を済ませた上で授業に臨んでください。提出課題等の締切を守ること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. 授業への主体的な参加を求めます。

授業スケジュール

1.　ガイダンスとイントロダクション
2.　これまでの自分を振り返る
3.　現在の自分を多面的に見てみよう（１）
4.　現在の自分を多面的に見てみよう（２）
5.　働くことを考える（1）
6.　働くことを考える（2）
7.　様々な職業を調べてみよう
8.　働く上での価値観を知ろう
9.　キャリア・インタビュー（1）
10. キャリア・インタビュー（2）
11. 人生に必要なお金（1）
12. 人生に必要なお金（2）
13. 働くことについての理解を深めよう
14. 働くことに関するトラブル
15. 今後の大学生活を改めてデザインしよう

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000301
科目名	労働と社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Work and Society		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
授業概要	社会における労働の仕組みを理解し、その仕組みの中に法を位置づけて、法の機能を講義する。その際、長期雇用システムからの雇用管理についても講義する。 具体的には、労働における当事者・規範・人事管理・企業の運営・職業キャリアの展開・引退の過程・労働組合運営・労使交渉などについて、法律および判例理論を中心に講義する。		
教材（教科書）	テーマごとにレジュメを配布する。 最新版六法		
教材（参考資料）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税		
教育方法	テーマ毎にレジュメを配布する（原則 1 回のみ）・最新版六法に沿って、講義法で行なう。このほかに、対話的なやり取りに対し優れた解答した場合は、所定の用紙を提出した場合に加点する。		
評価方法	毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート(30%）で評価する。その他に、講義中の対話的なやり取りに対し、優れた解答をした場合は、指定の用紙を提出することを要件に加点する。		
到達目標	1)労働の仕組みおよび長期雇用システムの変化について説明できるようになる。 2)労働法制の基本的な事項における専門用語・および定義が説明できるようになる。 3)労働における判例理論を説明できるようになる。		
授業時間外学習	1)講義終了時に、次回の講義内容キーワードを明示するので、テキストの事項索引を利用して次回までに通読しておくこと。 2)各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1)イヤ・フォーンをはずすこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
2)スマートフォンなどの電子機器は、電源を切って机上におくこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
3)私語および食事は，厳禁とする。
4)トイレは原則として講義前にすませること(体調が悪い場合は申し出ること)。
5)教科書および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。
6)法学又は民事法入門などの基本的な法律科目を履修済みであること。
7)期末のレポートは、指定された方法によって期日までに提出すること。教員への直接の提出および遅延は、認められない。

授業スケジュール

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第 1 回　講義の進め方・その他諸注意
第 2 回　労働の概観（歴史・労働法とは）
第 3 回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第 4 回　労働契約と権利・義務　就業規則
第 5 回　労働協約
第 6 回　個別化する労働条件（1）　成果主義の導入
第 7 回　個別化する労働条件（2）　労働能力不足と解雇
第 8 回　多様化するワークスタイル（1）　パート店長の処遇
第 9 回　多様化するワークスタイル（2）　在宅勤務における労務管理
第 10 回　不安定化する雇用(1)　労働基準法の適用除外とされる管理監督者の範囲
第 11 回　不安定化する雇用（2）　引退の過程における配置転換と出向
第 12 回　男性中心社会からの脱却（1）　コース別人事管理制度と間接差別

第 13 回　男性中心社会からの脱却（2）　家庭責任とキャリア 第 14 回　脱皮を迫られる労働組合（1）　パートタイマーの増加と労働組合の運営 第 15 回　脱皮を迫られる労働組合（2）　労使協議とインサイダー情報規制への対応

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	JC2000302
科目名	労働と社会	単位数	2
科目名（英語表記）	Work and Society		
担当者名	柏﨑　洋美	旧科目名称	
授業概要	社会における労働の仕組みを理解し、その仕組みの中に法を位置づけて、法の機能を講義する。その際、長期雇用システムからの雇用管理についても講義する。 具体的には、労働における当事者・規範・人事管理・企業の運営・職業キャリアの展開・引退の過程・労働組合運営・労使交渉などについて、法律および判例理論を中心に講義する。		
教材（教科書）	テーマごとにレジュメを配布する。 最新版六法		
教材（参考資料）	菅野和夫『労働法〔第 11 版補正版〕』（弘文堂、2017 年）6200 円＋税		
教育方法	テーマ毎にレジュメを配布する（原則 1 回のみ）・最新版六法に沿って、講義法で行なう。このほかに、対話的なやり取りに対し優れた解答した場合は、所定の用紙を提出した場合に加点する。		
評価方法	毎回講義の最初に参照不可で厳格に行なう復習小テスト（70%）、および、レポート(30%）で評価する。その他に、講義中の対話的なやり取りに対し、優れた解答をした場合は、指定の用紙を提出することを要件に加点する。		
到達目標	1)労働の仕組みおよび長期雇用システムの変化について説明できるようになる。 2)労働法制の基本的な事項における専門用語・および定義が説明できるようになる。 3)労働における判例理論を説明できるようになる。		
授業時間外学習	1)講義終了時に、次回の講義内容キーワードを明示するので、テキストの事項索引を利用して次回までに通読しておくこと。 2)各講義の最初に前回講義内容に係る復習小テストを参照不可で行なうので、準備しておくこと。翌週に優秀答案を紹介するので、参考にすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1)イヤ・フォーンをはずすこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
2)スマートフォンなどの電子機器は、電源を切って机上におくこと(守れない場合は,減点し退室を命ずる)。
3)私語および食事は，厳禁とする。
4)トイレは原則として講義前にすませること(体調が悪い場合は申し出ること)。
5)教科書および最新版六法は必ず持参すること。講義開始までに教科書を通読しておくことが望ましい。また、新聞記事やＴＶニュース等で労働法に関連する問題に大いに関心を持つこと。
6)法学又は民事法入門などの基本的な法律科目を履修済みであること。
7)期末のレポートは、指定された方法によって期日までに提出すること。教員への直接の提出および遅延は、認められない。

授業スケジュール

おおむね以下の内容で進める予定であるが、受講生の理解の状況により内容を多少組み替える場合がある。

第 1 回　講義の進め方・その他諸注意
第 2 回　労働の概観（歴史・労働法とは）
第 3 回　労働法の主体（労働者・使用者・労働組合）
第 4 回　労働契約と権利・義務　就業規則
第 5 回　労働協約
第 6 回　個別化する労働条件（1）　成果主義の導入
第 7 回　個別化する労働条件（2）　労働能力不足と解雇
第 8 回　多様化するワークスタイル（1）　パート店長の処遇
第 9 回　多様化するワークスタイル（2）　在宅勤務における労務管理
第 10 回　不安定化する雇用(1)　労働基準法の適用除外とされる管理監督者の範囲
第 11 回　不安定化する雇用（2）　引退の過程における配置転換と出向
第 12 回　男性中心社会からの脱却（1）　コース別人事管理制度と間接差別

第 13 回　男性中心社会からの脱却（2）　家庭責任とキャリア 第 14 回　脱皮を迫られる労働組合（1）　パートタイマーの増加と労働組合の運営 第 15 回　脱皮を迫られる労働組合（2）　労使協議とインサイダー情報規制への対応

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	–	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	JC2000401
科目名	仕事とキャリア形成	単位数	2
科目名（英語表記）	Work and Career Planning		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
授業概要	「働く」ということについて、社会・組織の視点と個人の視点との双方から考えます。社会・組織の視点として、組織が個人に求める要件の変化や多様化する雇用形態などについて概説します。個人の視点としては、自己の強みや価値観、またモチベーションの原点や人生全体における仕事の位置づけについて考える枠組みを提供します。社会と組織、および個人の双方の視点を取り入れることにより、職業社会へのスムーズな移行と、自己のキャリアを切りひらく力を育むことを目的としています。		
教材（教科書）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義、DVD の視聴、個人ワークなどを必要に応じて織り交ぜて行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：50％ レポート課題 2 回：50%		
到達目標	1. 組織と個人の関係性を踏まえ、職業社会への適応に必要な条件を理解する。 2. 自分が望む生き方や働き方を考え、その実現に向けて一歩踏み出すことができる。		
授業時間外学習	・授業の最初と最後に各回のテーマに関する「問い」を出題する。適宜、授業開始時と終了時に出した「問い」についての答えが書いている出席表の提出を求める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施する回があるので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. わたしたちをとりまく社会は日々変化しています。新聞や本、インターネットを通じて、社会の変化について情報を取り入れ、それらの変化について自分の頭で考えられるようにしてください。

授業スケジュール

1. ガイダンス：「働く」ことについて考える
2. 産業社会の変化と働く環境の変化
3. 組織と個人の関係性 I
4. 組織と個人の関係性 II
5. 職業・ワークスタイル研究 I
6. 職業・ワークスタイル研究 II
7. 職業・ワークスタイル研究III
8. 大学から職業社会への移行の現状
9. 職業人生の始まり：採用する側から捉える「就職活動」
10. 自分が望む働き方について考える：価値観を知る
11. 自分が望む働き方について考える：強みを知る
12. 自分が望む働き方について考える：パーソナリテイアセスメント
13. 働く人のモチベーション
14. 仕事と人生と幸福感
15. まとめ：幸せな職業人生のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	JC2000402
科目名	仕事とキャリア形成	単位数	2
科目名（英語表記）	Work and Career Planning		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
授業概要	「働く」ということについて、社会・組織の視点と個人の視点との双方から考えます。社会・組織の視点として、組織が個人に求める要件の変化や多様化する雇用形態などについて概説します。個人の視点としては、自己の強みや価値観、またモチベーションの原点や人生全体における仕事の位置づけについて考える枠組みを提供します。社会と組織、および個人の双方の視点を取り入れることにより、職業社会へのスムーズな移行と、自己のキャリアを切りひらく力を育むことを目的としています。		
教材（教科書）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義、DVD の視聴、個人ワークなどを必要に応じて織り交ぜて行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：50％ レポート課題 2 回：50%		
到達目標	1. 組織と個人の関係性を踏まえ、職業社会への適応に必要な条件を理解する。 2. 自分が望む生き方や働き方を考え、その実現に向けて一歩踏み出すことができる。		
授業時間外学習	・授業の最初と最後に各回のテーマに関する「問い」を出題する。適宜、授業開始時と終了時に出した「問い」についての答えが書いている出席表の提出を求める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施する回があるので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. わたしたちをとりまく社会は日々変化しています。新聞や本、インターネットを通じて、社会の変化について情報を取り入れ、それらの変化について自分の頭で考えられるようにしてください。

授業スケジュール

1. ガイダンス：「働く」ことについて考える
2. 産業社会の変化と働く環境の変化
3. 組織と個人の関係性 I
4. 組織と個人の関係性 II
5. 職業・ワークスタイル研究 I
6. 職業・ワークスタイル研究 II
7. 職業・ワークスタイル研究III
8. 大学から職業社会への移行の現状
9. 職業人生の始まり：採用する側から捉える「就職活動」
10. 自分が望む働き方について考える：価値観を知る
11. 自分が望む働き方について考える：強みを知る
12. 自分が望む働き方について考える：パーソナリテイアセスメント
13. 働く人のモチベーション
14. 仕事と人生と幸福感
15. まとめ：幸せな職業人生のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	JC2000403
科目名	仕事とキャリア形成	単位数	2
科目名（英語表記）	Work and Career Planning		
担当者名	神原　歩	旧科目名称	
授業概要	「働く」ということについて、社会・組織の視点と個人の視点との双方から考えます。社会・組織の視点として、組織が個人に求める要件の変化や多様化する雇用形態などについて概説します。個人の視点としては、自己の強みや価値観、またモチベーションの原点や人生全体における仕事の位置づけについて考える枠組みを提供します。社会と組織、および個人の双方の視点を取り入れることにより、職業社会へのスムーズな移行と、自己のキャリアを切りひらく力を育むことを目的としています。		
教材（教科書）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考資料）	授業内で適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントによる講義、DVD の視聴、個人ワークなどを必要に応じて織り交ぜて行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：50％ レポート課題 2 回：50%		
到達目標	1. 組織と個人の関係性を踏まえ、職業社会への適応に必要な条件を理解する。 2. 自分が望む生き方や働き方を考え、その実現に向けて一歩踏み出すことができる。		
授業時間外学習	・授業の最初と最後に各回のテーマに関する「問い」を出題する。適宜、授業開始時と終了時に出した「問い」についての答えが書いている出席表の提出を求める。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施する回があるので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。
2. わたしたちをとりまく社会は日々変化しています。新聞や本、インターネットを通じて、社会の変化について情報を取り入れ、それらの変化について自分の頭で考えられるようにしてください。

授業スケジュール

1. ガイダンス：「働く」ことについて考える
2. 産業社会の変化と働く環境の変化
3. 組織と個人の関係性 I
4. 組織と個人の関係性 II
5. 職業・ワークスタイル研究 I
6. 職業・ワークスタイル研究 II
7. 職業・ワークスタイル研究III
8. 大学から職業社会への移行の現状
9. 職業人生の始まり：採用する側から捉える「就職活動」
10. 自分が望む働き方について考える：価値観を知る
11. 自分が望む働き方について考える：強みを知る
12. 自分が望む働き方について考える：パーソナリテイアセスメント
13. 働く人のモチベーション
14. 仕事と人生と幸福感
15. まとめ：幸せな職業人生のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	JC2000501
科目名	ライフプランとファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
授業概要	大学卒業後から 90 歳までの人生を見通し、自らの価値観・人生観に基づき人生設計に取り組むと同時に、その実現のために必要な金融に関する知識を習得する。特に、生涯を通じた資金配分の在り方を、具体的なライフイベントについてその詳細を受講者各自が検討しデザインする。		
教材（教科書）	特に指定しない。課題の解説のための説明資料を配布する。		
教材（参考資料）	・滝沢ななみ『みんなが欲しかった！FP 3 級の教科書』TAC 出版 ・FP ｱｿｼｴｲﾂ&ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ 株式会社『やさしく学ぶ FP 技能士 3 級』翔泳社 ・SBI ｸﾞﾙｰﾌﾟ『一目でわかるあなたの最適資産運用法』高橋書店		
教育方法	（1）ライフプランニングの基本形について講義形式で解説する。 （2）ライフイベント毎の初期計画を、指定の Excel ファイルの上で各自が作成する。 （3）諸条件を踏まえた初期計画の見直しを各自が行い、完成版を R ドライブに提出する。		
評価方法	授業内課題 80％　　レポート 20％		
到達目標	（1）大まかな人生設計とそこでのイベントについて整理する。 （2）各イベントに関連する費用・支出を概算し、その資金準備計画を立案する能力を身に付ける。		
授業時間外学習	（1）ライフイベント毎に具体的なイメージを持てるよう、ネット等で事前に検索しておく。特に、イベントに関連する支出費目をリストアップしておく。 （2）Excel の基本操作、特に基本関数の使い方を確認しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（1）人生 90 年の基本計画とその実現のための課題を整理し、そのイメージを持てるようになること
（2）Excel の基本的な使用方法を確実に身に付けること
（3）私語等の講義の進行の妨げになる行為は慎むこと

授業スケジュール

【Ⅰ】ライフプランとファイナンスの基本
1．講義の目的と概要：パーソナル・ファイナンスとは何か
2．ライフプランニングの手法：ライフイベント表、キャッシュフロー表、個人バランスシート、基本係数

【Ⅱ】ライフイベントと準備
3．就職活動とその費用１：概算
4．就職活動費用とその費用２：準備計画
5．結婚とその費用１：概算
6．結婚とその費用２：準備計画
7．住宅取得とその費用１：概算
8．住宅取得とその費用２：準備計画

【Ⅲ】資産運用とリスクへの備え
9．株式投資入門１：配当と株主優待から選ぶ株取引
10．株式投資入門２：キャピタルゲインを目指しての株取引－各種指標の意味－
11．株式投資入門３：株取引のシミュレーション
12．健康上のリスクへの備え：公的医療保険、私的医療保険、傷害保険、生命保険
13．災害・事故のリスクへの備え：火災保険、地震保険、自動車保険、賠償責任保険

【Ⅳ】資金計画立案の実践
14．子ども関連の資金計画：出産と教育を中心とした資金計画の立案
15．老後生活の資金計画：退職金給付、公的年金の計算、リバースモーゲージ、養老保険

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000503
科目名	ライフプランとファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
授業概要	大学卒業後から 90 歳までの人生を見通し、自らの価値観・人生観に基づき人生設計に取り組むと同時に、その実現のために必要な金融に関する知識を習得する。特に、生涯を通じた資金配分の在り方を、具体的なライフイベントについてその詳細を受講者各自が検討しデザインする。		
教材（教科書）	特に指定しない。課題の解説のための説明資料を配布する。		
教材（参考資料）	・滝沢ななみ『みんなが欲しかった！FP 3 級の教科書』TAC 出版 ・FP ｱｿｼｴｲﾂ&ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ 株式会社『やさしく学ぶ FP 技能士 3 級』翔泳社 ・SBI ｸﾞﾙｰﾌﾟ『一目でわかるあなたの最適資産運用法』高橋書店		
教育方法	（1）ライフプランニングの基本形について講義形式で解説する。 （2）ライフイベント毎の初期計画を、指定の Excel ファイルの上で各自が作成する。 （3）諸条件を踏まえた初期計画の見直しを各自が行い、完成版を R ドライブに提出する。		
評価方法	授業内課題 80％　　レポート 20％		
到達目標	（1）大まかな人生設計とそこでのイベントについて整理する。 （2）各イベントに関連する費用・支出を概算し、その資金準備計画を立案する能力を身に付ける。		
授業時間外学習	（1）ライフイベント毎に具体的なイメージを持てるよう、ネット等で事前に検索しておく。特に、イベントに関連する支出費目をリストアップしておく。 （2）Excel の基本操作、特に基本関数の使い方を確認しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（1）人生 90 年の基本計画とその実現のための課題を整理し、そのイメージを持てるようになること
（2）Excel の基本的な使用方法を確実に身に付けること
（3）私語等の講義の進行の妨げになる行為は慎むこと

授業スケジュール

【Ⅰ】ライフプランとファイナンスの基本
1．講義の目的と概要：パーソナル・ファイナンスとは何か
2．ライフプランニングの手法：ライフイベント表、キャッシュフロー表、個人バランスシート、基本係数

【Ⅱ】ライフイベントと準備
3．就職活動とその費用１：概算
4．就職活動費用とその費用２：準備計画
5．結婚とその費用１：概算
6．結婚とその費用２：準備計画
7．住宅取得とその費用１：概算
8．住宅取得とその費用２：準備計画

【Ⅲ】資産運用とリスクへの備え
9．株式投資入門１：配当と株主優待から選ぶ株取引
10．株式投資入門２：キャピタルゲインを目指しての株取引－各種指標の意味－
11．株式投資入門３：株取引のシミュレーション
12．健康上のリスクへの備え：公的医療保険、私的医療保険、傷害保険、生命保険
13．災害・事故のリスクへの備え：火災保険、地震保険、自動車保険、賠償責任保険

【Ⅳ】資金計画立案の実践
14．子ども関連の資金計画：出産と教育を中心とした資金計画の立案
15．老後生活の資金計画：退職金給付、公的年金の計算、リバースモーゲージ、養老保険

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2000504
科目名	ライフプランとファイナンス	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	久下沼　仁笥	旧科目名称	
授業概要	大学卒業後から 90 歳までの人生を見通し、自らの価値観・人生観に基づき人生設計に取り組むと同時に、その実現のために必要な金融に関する知識を習得する。特に、生涯を通じた資金配分の在り方を、具体的なライフイベントについてその詳細を受講者各自が検討しデザインする。		
教材（教科書）	特に指定しない。課題の解説のための説明資料を配布する。		
教材（参考資料）	・滝沢ななみ『みんなが欲しかった！FP 3 級の教科書』TAC 出版 ・FP ｱｿｼｴｲﾂ&ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ 株式会社『やさしく学ぶ FP 技能士 3 級』翔泳社 ・SBI ｸﾞﾙｰﾌﾟ『一目でわかるあなたの最適資産運用法』高橋書店		
教育方法	（1）ライフプランニングの基本形について講義形式で解説する。 （2）ライフイベント毎の初期計画を、指定の Excel ファイルの上で各自が作成する。 （3）諸条件を踏まえた初期計画の見直しを各自が行い、完成版を R ドライブに提出する。		
評価方法	授業内課題 80％　　レポート 20％		
到達目標	（1）大まかな人生設計とそこでのイベントについて整理する。 （2）各イベントに関連する費用・支出を概算し、その資金準備計画を立案する能力を身に付ける。		
授業時間外学習	（1）ライフイベント毎に具体的なイメージを持てるよう、ネット等で事前に検索しておく。特に、イベントに関連する支出費目をリストアップしておく。 （2）Excel の基本操作、特に基本関数の使い方を確認しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（1）人生 90 年の基本計画とその実現のための課題を整理し、そのイメージを持てるようになること
（2）Excel の基本的な使用方法を確実に身に付けること
（3）私語等の講義の進行の妨げになる行為は慎むこと

授業スケジュール

【Ⅰ】ライフプランとファイナンスの基本
1．講義の目的と概要：パーソナル・ファイナンスとは何か
2．ライフプランニングの手法：ライフイベント表、キャッシュフロー表、個人バランスシート、基本係数

【Ⅱ】ライフイベントと準備
3．就職活動とその費用１：概算
4．就職活動費用とその費用２：準備計画
5．結婚とその費用１：概算
6．結婚とその費用２：準備計画
7．住宅取得とその費用１：概算
8．住宅取得とその費用２：準備計画

【Ⅲ】資産運用とリスクへの備え
9．株式投資入門１：配当と株主優待から選ぶ株取引
10．株式投資入門２：キャピタルゲインを目指しての株取引－各種指標の意味－
11．株式投資入門３：株取引のシミュレーション
12．健康上のリスクへの備え：公的医療保険、私的医療保険、傷害保険、生命保険
13．災害・事故のリスクへの備え：火災保険、地震保険、自動車保険、賠償責任保険

【Ⅳ】資金計画立案の実践
14．子ども関連の資金計画：出産と教育を中心とした資金計画の立案
15．老後生活の資金計画：退職金給付、公的年金の計算、リバースモーゲージ、養老保険

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JC2100101
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
授業概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（教科書）	・テキスト：　実践 コミュニケーション・マナー　ー大学生向け演習ノートー 湯口恭子・東城佐知子・柳生利恵著　昌美堂出版　（1000 円＋税） (注) ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること。購入していない場合は減点扱いとする。 なお、テキスト内にワークシートがあるため、テキストを必ず持参すること(その他資料は必要に応じて配布する。)		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教育方法	授業前半は、講義法を主として適宜グループワークを交えて行う。 授業後半は、学生主体のグループワークと発表を行う。		
評価方法	・平常点：60 点（出席時の課題達成度、提出物、取り組み姿勢、理解度の総合） ・グループ提出物と発表：40 点（グループでの課題達成度、グループ発表と提出物）　合計 100 点 ＊欠席が 3 分の 1 以上となった場合、単位は付与しない。 ＊参加態度が悪い（寝ている、指示したことをやらない・私語・内職や携帯の操作など）場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退出を促す。		
到達目標	①コミュニケーション・マナーの基本知識を理解する。 ②ビジネスの場面で必要な基本的態度を身につける。 ③上記①②で学んだことを試し、実践場面での活用に向けて自分の課題を確認する。		
授業時間外学習	・授業内で指示するテキスト、参考文献等について、予習・復習をしておくこと ・グループプロジェクトについて、課題達成のための役割分担をし、準備を進めること ・授業内で終わらなかった課題を確認しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

コミュニケーションを前提とした学生主体の「参加型」授業である。参加しなければ目標達成は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。また、グループプロジェクトがあるため、休むとメンバーに迷惑をかける。なぜマナーを学ぶのかの目的を明確にし、必ず出席をすること。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

授業スケジュール

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方、コミュニケーション・マナーの基本
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（5）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（6）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（7）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（8）これまでの振り返りとグループプロジェクトの説明（目的、内容、進め方）

（9）グループプロジェクトの準備①
（１０）グループプロジェクトの準備②
（１１）グループプロジェクトの準備③
（１２)）グループプロジェクト（インタビュー）
（１３）グループプロジェクトの振り返りと発表準備
（１４）グループプロジェクト発表①
（１５）グループプロジェクト発表②と全体振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	JC2100102
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
授業概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（教科書）	・テキスト：　実践 コミュニケーション・マナー　ー大学生向け演習ノートー 湯口恭子・東城佐知子・柳生利恵著　昌美堂出版　（1000 円＋税） (注）ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること。購入していない場合は減点扱いとする。 なお、テキスト内にワークシートがあるため、テキストを必ず持参すること(その他資料は必要に応じて配布する。)		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教育方法	授業前半は、講義法を主として適宜グループワークを交えて行う。 授業後半は、学生主体のグループワークと発表を行う。		
評価方法	・平常点：60 点（出席時の課題達成度、提出物、取り組み姿勢、理解度の総合） ・グループ提出物と発表：40 点（グループでの課題達成度、グループ発表と提出物）　合計 100 点 ＊欠席が 3 分の 1 以上となった場合、単位は付与しない。 ＊参加態度が悪い（寝ている、指示したことをやらない・私語・内職や携帯の操作など）場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退出を促す。		
到達目標	①コミュニケーション・マナーの基本知識を理解する。 ②ビジネスの場面で必要な基本的態度を身につける。 ③上記①②で学んだことを試し、実践場面での活用に向けて自分の課題を確認する。		
授業時間外学習	・授業内で指示するテキスト、参考文献等について、予習・復習をしておくこと ・グループプロジェクトについて、課題達成のための役割分担をし、準備を進めること ・授業内で終わらなかった課題を確認しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

コミュニケーションを前提とした学生主体の「参加型」授業である。参加しなければ目標達成は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。また、グループプロジェクトがあるため、休むとメンバーに迷惑をかける。なぜマナーを学ぶのかの目的を明確にし、必ず出席をすること。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

授業スケジュール

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方、コミュニケーション・マナーの基本
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（5）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（6）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（7）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（8）これまでの振り返りとグループプロジェクトの説明（目的、内容、進め方）

（9）グループプロジェクトの準備①
（１０）グループプロジェクトの準備②
（１１）グループプロジェクトの準備③
（１２)）グループプロジェクト（インタビュー）
（１３）グループプロジェクトの振り返りと発表準備
（１４）グループプロジェクト発表①
（１５）グループプロジェクト発表②と全体振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	JC2100103
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
授業概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（教科書）	・テキスト：　実践 コミュニケーション・マナー　ー大学生向け演習ノートー 湯口恭子・東城佐知子・柳生利恵著　昌美堂出版　（1000 円＋税） (注) ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること。購入していない場合は減点扱いとする。 なお、テキスト内にワークシートがあるため、テキストを必ず持参すること(その他資料は必要に応じて配布する。)		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教育方法	授業前半は、講義法を主として適宜グループワークを交えて行う。 授業後半は、学生主体のグループワークと発表を行う。		
評価方法	・平常点：60 点（出席時の課題達成度、提出物、取り組み姿勢、理解度の総合） ・グループ提出物と発表：40 点（グループでの課題達成度、グループ発表と提出物）　合計 100 点 ＊欠席が 3 分の 1 以上となった場合、単位は付与しない。 ＊参加態度が悪い（寝ている、指示したことをやらない・私語・内職や携帯の操作など）場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退出を促す。		
到達目標	①コミュニケーション・マナーの基本知識を理解する。 ②ビジネスの場面で必要な基本的態度を身につける。 ③上記①②で学んだことを試し、実践場面での活用に向けて自分の課題を確認する。		
授業時間外学習	・授業内で指示するテキスト、参考文献等について、予習・復習をしておくこと ・グループプロジェクトについて、課題達成のための役割分担をし、準備を進めること ・授業内で終わらなかった課題を確認しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

コミュニケーションを前提とした学生主体の「参加型」授業である。参加しなければ目標達成は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。また、グループプロジェクトがあるため、休むとメンバーに迷惑をかける。なぜマナーを学ぶのかの目的を明確にし、必ず出席をすること。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

授業スケジュール

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方、コミュニケーション・マナーの基本
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（5）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（6）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（7）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（8）これまでの振り返りとグループプロジェクトの説明（目的、内容、進め方）

（9）グループプロジェクトの準備①
（１０）グループプロジェクトの準備②
（１１）グループプロジェクトの準備③
（１２)）グループプロジェクト（インタビュー）
（１３）グループプロジェクトの振り返りと発表準備
（１４）グループプロジェクト発表①
（１５）グループプロジェクト発表②と全体振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	JC2100104
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
授業概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（教科書）	・テキスト：　実践 コミュニケーション・マナー　ー大学生向け演習ノートー 湯口恭子・東城佐知子・柳生利恵著　昌美堂出版　（1000 円＋税） (注) ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること。購入していない場合は減点扱いとする。 なお、テキスト内にワークシートがあるため、テキストを必ず持参すること(その他資料は必要に応じて配布する。)		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教育方法	授業前半は、講義法を主として適宜グループワークを交えて行う。 授業後半は、学生主体のグループワークと発表を行う。		
評価方法	・平常点：60 点（出席時の課題達成度、提出物、取り組み姿勢、理解度の総合） ・グループ提出物と発表：40 点（グループでの課題達成度、グループ発表と提出物）　合計 100 点 ＊欠席が 3 分の 1 以上となった場合、単位は付与しない。 ＊参加態度が悪い（寝ている、指示したことをやらない・私語・内職や携帯の操作など）場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退出を促す。		
到達目標	①コミュニケーション・マナーの基本知識を理解する。 ②ビジネスの場面で必要な基本的態度を身につける。 ③上記①②で学んだことを試し、実践場面での活用に向けて自分の課題を確認する。		
授業時間外学習	・授業内で指示するテキスト、参考文献等について、予習・復習をしておくこと ・グループプロジェクトについて、課題達成のための役割分担をし、準備を進めること ・授業内で終わらなかった課題を確認しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

コミュニケーションを前提とした学生主体の「参加型」授業である。参加しなければ目標達成は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。また、グループプロジェクトがあるため、休むとメンバーに迷惑をかける。なぜマナーを学ぶのかの目的を明確にし、必ず出席をすること。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

授業スケジュール

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方、コミュニケーション・マナーの基本
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（5）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（6）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（7）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（8）これまでの振り返りとグループプロジェクトの説明（目的、内容、進め方）

（9）グループプロジェクトの準備①
（１０）グループプロジェクトの準備②
（１１）グループプロジェクトの準備③
（１２)）グループプロジェクト（インタビュー）
（１３）グループプロジェクトの振り返りと発表準備
（１４）グループプロジェクト発表①
（１５）グループプロジェクト発表②と全体振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	JC2100105
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
授業概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（教科書）	・テキスト：　実践 コミュニケーション・マナー　ー大学生向け演習ノートー 湯口恭子・東城佐知子・柳生利恵著　昌美堂出版　（1000 円＋税） (注) ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること。購入していない場合は減点扱いとする。 なお、テキスト内にワークシートがあるため、テキストを必ず持参すること(その他資料は必要に応じて配布する。)		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教育方法	授業前半は、講義法を主として適宜グループワークを交えて行う。 授業後半は、学生主体のグループワークと発表を行う。		
評価方法	・平常点：60 点（出席時の課題達成度、提出物、取り組み姿勢、理解度の総合） ・グループ提出物と発表：40 点（グループでの課題達成度、グループ発表と提出物）　合計 100 点 ＊欠席が 3 分の 1 以上となった場合、単位は付与しない。 ＊参加態度が悪い（寝ている、指示したことをやらない・私語・内職や携帯の操作など）場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退出を促す。		
到達目標	①コミュニケーション・マナーの基本知識を理解する。 ②ビジネスの場面で必要な基本的態度を身につける。 ③上記①②で学んだことを試し、実践場面での活用に向けて自分の課題を確認する。		
授業時間外学習	・授業内で指示するテキスト、参考文献等について、予習・復習をしておくこと ・グループプロジェクトについて、課題達成のための役割分担をし、準備を進めること ・授業内で終わらなかった課題を確認しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

コミュニケーションを前提とした学生主体の「参加型」授業である。参加しなければ目標達成は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。また、グループプロジェクトがあるため、休むとメンバーに迷惑をかける。なぜマナーを学ぶのかの目的を明確にし、必ず出席をすること。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

授業スケジュール

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方、コミュニケーション・マナーの基本
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（5）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（6）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（7）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（8）これまでの振り返りとグループプロジェクトの説明（目的、内容、進め方）

（9）グループプロジェクトの準備①
（１０）グループプロジェクトの準備②
（１１）グループプロジェクトの準備③
（１２)）グループプロジェクト（インタビュー）
（１３）グループプロジェクトの振り返りと発表準備
（１４）グループプロジェクト発表①
（１５）グループプロジェクト発表②と全体振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	JC2100106
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
授業概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（教科書）	・テキスト：　実践 コミュニケーション・マナー　ー大学生向け演習ノートー 湯口恭子・東城佐知子・柳生利恵著　昌美堂出版　（1000 円＋税） (注) ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること。購入していない場合は減点扱いとする。 なお、テキスト内にワークシートがあるため、テキストを必ず持参すること(その他資料は必要に応じて配布する。)		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教育方法	授業前半は、講義法を主として適宜グループワークを交えて行う。 授業後半は、学生主体のグループワークと発表を行う。		
評価方法	・平常点：60 点（出席時の課題達成度、提出物、取り組み姿勢、理解度の総合） ・グループ提出物と発表：40 点（グループでの課題達成度、グループ発表と提出物）　合計 100 点 ＊欠席が 3 分の 1 以上となった場合、単位は付与しない。 ＊参加態度が悪い（寝ている、指示したことをやらない・私語・内職や携帯の操作など）場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退出を促す。		
到達目標	①コミュニケーション・マナーの基本知識を理解する。 ②ビジネスの場面で必要な基本的態度を身につける。 ③上記①②で学んだことを試し、実践場面での活用に向けて自分の課題を確認する。		
授業時間外学習	・授業内で指示するテキスト、参考文献等について、予習・復習をしておくこと ・グループプロジェクトについて、課題達成のための役割分担をし、準備を進めること ・授業内で終わらなかった課題を確認しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

コミュニケーションを前提とした学生主体の「参加型」授業である。参加しなければ目標達成は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。また、グループプロジェクトがあるため、休むとメンバーに迷惑をかける。なぜマナーを学ぶのかの目的を明確にし、必ず出席をすること。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

授業スケジュール

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方、コミュニケーション・マナーの基本
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（5）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（6）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（7）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（8）これまでの振り返りとグループプロジェクトの説明（目的、内容、進め方）

（9）グループプロジェクトの準備①
（１０）グループプロジェクトの準備②
（１１）グループプロジェクトの準備③
（１２)）グループプロジェクト（インタビュー）
（１３）グループプロジェクトの振り返りと発表準備
（１４）グループプロジェクト発表①
（１５）グループプロジェクト発表②と全体振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	JC2100107
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
授業概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（教科書）	・テキスト：　実践 コミュニケーション・マナー　ー大学生向け演習ノートー 湯口恭子・東城佐知子・柳生利恵著　昌美堂出版　（1000 円＋税） (注) ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること。購入していない場合は減点扱いとする。 なお、テキスト内にワークシートがあるため、テキストを必ず持参すること(その他資料は必要に応じて配布する。)		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教育方法	授業前半は、講義法を主として適宜グループワークを交えて行う。 授業後半は、学生主体のグループワークと発表を行う。		
評価方法	・平常点：60 点（出席時の課題達成度、提出物、取り組み姿勢、理解度の総合） ・グループ提出物と発表：40 点（グループでの課題達成度、グループ発表と提出物）　合計 100 点 ＊欠席が 3 分の 1 以上となった場合、単位は付与しない。 ＊参加態度が悪い（寝ている、指示したことをやらない・私語・内職や携帯の操作など）場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退出を促す。		
到達目標	①コミュニケーション・マナーの基本知識を理解する。 ②ビジネスの場面で必要な基本的態度を身につける。 ③上記①②で学んだことを試し、実践場面での活用に向けて自分の課題を確認する。		
授業時間外学習	・授業内で指示するテキスト、参考文献等について、予習・復習をしておくこと ・グループプロジェクトについて、課題達成のための役割分担をし、準備を進めること ・授業内で終わらなかった課題を確認しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

コミュニケーションを前提とした学生主体の「参加型」授業である。参加しなければ目標達成は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。また、グループプロジェクトがあるため、休むとメンバーに迷惑をかける。なぜマナーを学ぶのかの目的を明確にし、必ず出席をすること。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

授業スケジュール

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方、コミュニケーション・マナーの基本
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（5）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（6）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（7）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（8）これまでの振り返りとグループプロジェクトの説明（目的、内容、進め方）

（9）グループプロジェクトの準備①
（１０）グループプロジェクトの準備②
（１１）グループプロジェクトの準備③
（１２)）グループプロジェクト（インタビュー）
（１３）グループプロジェクトの振り返りと発表準備
（１４）グループプロジェクト発表①
（１５）グループプロジェクト発表②と全体振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	JC2100108
科目名	ビジネスマナー実践講座	単位数	2
科目名（英語表記）	Business Etiquette		
担当者名	柳生　利恵	旧科目名称	
授業概要	将来社会人として活躍するためには、土台となる基本的なビジネススキルとして、コミュニケーション、ビジネスマナー等の習得が必要となる。仕事は人と人とのコミュニケーションで成り立っているという基本を踏まえ、実習や課題演習を取り入れながら、マナーに留まることなく、仕事上必要な内容を実践的に行う。また、単に知識として身につけるだけではなく、仕事の場面でどのように対応すべきなのかを考え、行動していくことをねらいとする。		
教材（教科書）	・テキスト：　実践 コミュニケーション・マナー　ー大学生向け演習ノートー 湯口恭子・東城佐知子・柳生利恵著　昌美堂出版　（1000 円＋税） (注) ビジネスでは必要な道具を揃える事は当たり前であり、持参しないのはマナーに反する。テキストは必ず購入すること。購入していない場合は減点扱いとする。 なお、テキスト内にワークシートがあるため、テキストを必ず持参すること(その他資料は必要に応じて配布する。)		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがある。指示があった場合は、必ず目を通しておくこと。		
教育方法	授業前半は、講義法を主として適宜グループワークを交えて行う。 授業後半は、学生主体のグループワークと発表を行う。		
評価方法	・平常点：60 点（出席時の課題達成度、提出物、取り組み姿勢、理解度の総合） ・グループ提出物と発表：40 点（グループでの課題達成度、グループ発表と提出物）　合計 100 点 ＊欠席が 3 分の 1 以上となった場合、単位は付与しない。 ＊参加態度が悪い（寝ている、指示したことをやらない・私語・内職や携帯の操作など）場合や、授業妨害と判断した場合には欠席扱いとし、退出を促す。		
到達目標	①コミュニケーション・マナーの基本知識を理解する。 ②ビジネスの場面で必要な基本的態度を身につける。 ③上記①②で学んだことを試し、実践場面での活用に向けて自分の課題を確認する。		
授業時間外学習	・授業内で指示するテキスト、参考文献等について、予習・復習をしておくこと ・グループプロジェクトについて、課題達成のための役割分担をし、準備を進めること ・授業内で終わらなかった課題を確認しておくこと		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

コミュニケーションを前提とした学生主体の「参加型」授業である。参加しなければ目標達成は難しいため、理由のない欠席や遅刻等は厳禁とする。また、グループプロジェクトがあるため、休むとメンバーに迷惑をかける。なぜマナーを学ぶのかの目的を明確にし、必ず出席をすること。インターンシップを受講する学生には、積極的に受講してもらいたい。

授業スケジュール

（1）オリエンテーション：講義の目的、内容、進め方、コミュニケーション・マナーの基本
（2）基本的態度と適切な話し方：基本編（敬語の使い方と場面対応①）
（3）基本的態度と適切な話し方：応用編（敬語の使い方と場面対応②）
（4）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（5）コミュニケーション：ビジネスマナーの基本②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（6）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践①（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（7）コミュニケーション：ビジネスマナーの実践②（電話応対、名刺交換、訪問応対、報連相など）
（8）これまでの振り返りとグループプロジェクトの説明（目的、内容、進め方）

（9）グループプロジェクトの準備①
（１０）グループプロジェクトの準備②
（１１）グループプロジェクトの準備③
（１２)）グループプロジェクト（インタビュー）
（１３）グループプロジェクトの振り返りと発表準備
（１４）グループプロジェクト発表①
（１５）グループプロジェクト発表②と全体振り返り

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	JC2100201
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
授業概要	高度情報化時代の今、SNS などの発達により、文書の短文化、簡略化が進んでいる。しかし、ビジネス社会では「文書主義の原則」に基づき、すべての仕事は「文書」によって進められている。そのため、正確でわかりやすく簡潔な文書を効率的に作成する能力は、社会人として必須の要件といえる。本講座の目的はビジネス文書の機能、種類を理解し、ルールを守りマナーにかなった一般的なビジネス文書作成能力の習得である。同時に、人間関係や場に配慮し、必要な場面で適切な語句を選択する日本語表現力を養う。 講座前半（基礎・応用編）においては、実際のビジネスシーンを想定した具体的な演習を通して、PC スキル（Word）をブラッシュアップし、基本的な文書作成能力を身につける。また、後半（総合実習編）では、企画書の作成ととプレゼンテーションまでを実践することにより、論理的思考力および事実や意見、情報をわかりやすく相手に伝える力の向上を目指す。		
教材（教科書）	初回に冊子を配布し、継続して使用する。各自で責任をもって保管し、講義には必ず持参すること。 ※持参しない場合は、講義内容の理解度、習熟度に影響するため、減点対象とする場合あり。 その他、適宜、参考資料を配布する。		
教材（参考資料）	参考書は授業の中で紹介する。		
教育方法	初回配布の冊子（講義レジュメ）を活用しながら、講義法と個人ワーク、グループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題演習・発表 70 点　　平常点（提出物、参加態度、意欲など）30 点		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題演習を通して、PC スキル（Word）のブラッシュアップを行い、基本的な文書作成能力を習得する。 ・場面に応じて適切に活用できる敬語表現力および日本語表現力を高める。 ・企画書の作成、プレゼンテーションを実践し、論理的思考力、伝える力を養う。		
授業時間外学習	事前学習として、参考資料の配布、参考文献を紹介することがある。次回の講義までに目を通して講義に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・講義では演習を中心に進めるため、積極的な受講姿勢を求める。
・各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底する習慣を身につけてほしい。
・講師が添削し返却した課題については、指摘箇所を復習し、改善に努めてもらいたい。
・私語や居眠り、スマートフォンは厳禁とする。マナーを守り、皆が気持ちよく学び合える環境づくりを心がけること。
・演習を中心とした講義であり、受講しなければ目標到達は難しい。そのため、理由のない欠席や遅刻は禁止とする。

授業スケジュール

1．オリエンテーション：講義の内容、進め方、評価方法、注意点等およびビジネス文書とは何かを理解する
2．ビジネス文書の基礎①
3．ビジネス文書の基礎②
4．ビジネス文書の基礎③
5．ビジネス文書の基礎④
6．ビジネス文書の基礎編まとめ：課題演習
7．ビジネス文書の応用①
8．ビジネス文書の応用②
9．ビジネス文書の応用③
10．ビジネス文書の応用編まとめ：課題演習
11．総合実習①

１２．総合実習②
１３．総合実習③
１４．総合実習④
１５．総合実習：講義の振り返りとまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC2100202
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
授業概要	高度情報化時代の今、SNS などの発達により、文書の短文化、簡略化が進んでいる。しかし、ビジネス社会では「文書主義の原則」に基づき、すべての仕事は「文書」によって進められている。そのため、正確でわかりやすく簡潔な文書を効率的に作成する能力は、社会人として必須の要件といえる。本講座の目的はビジネス文書の機能、種類を理解し、ルールを守りマナーにかなった一般的なビジネス文書作成能力の習得である。同時に、人間関係や場に配慮し、必要な場面で適切な語句を選択する日本語表現力を養う。 講座前半（基礎・応用編）においては、実際のビジネスシーンを想定した具体的な演習を通して、PC スキル（Word）をブラッシュアップし、基本的な文書作成能力を身につける。また、後半（総合実習編）では、企画書の作成ととプレゼンテーションまでを実践することにより、論理的思考力および事実や意見、情報をわかりやすく相手に伝える力の向上を目指す。		
教材（教科書）	初回に冊子を配布し、継続して使用する。各自で責任をもって保管し、講義には必ず持参すること。 ※持参しない場合は、講義内容の理解度、習熟度に影響するため、減点対象とする場合あり。 その他、適宜、参考資料を配布する。		
教材（参考資料）	参考書は授業の中で紹介する。		
教育方法	初回配布の冊子（講義レジュメ）を活用しながら、講義法と個人ワーク、グループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題演習・発表 70 点　　平常点（提出物、参加態度、意欲など）30 点		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題演習を通して、PC スキル（Word）のブラッシュアップを行い、基本的な文書作成能力を習得する。 ・場面に応じて適切に活用できる敬語表現力および日本語表現力を高める。 ・企画書の作成、プレゼンテーションを実践し、論理的思考力、伝える力を養う。		
授業時間外学習	事前学習として、参考資料の配布、参考文献を紹介することがある。次回の講義までに目を通して講義に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・講義では演習を中心に進めるため、積極的な受講姿勢を求める。
・各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底する習慣を身につけてほしい。
・講師が添削し返却した課題については、指摘箇所を復習し、改善に努めてもらいたい。
・私語や居眠り、スマートフォンは厳禁とする。マナーを守り、皆が気持ちよく学び合える環境づくりを心がけること。
・演習を中心とした講義であり、受講しなければ目標到達は難しい。そのため、理由のない欠席や遅刻は禁止とする。

授業スケジュール

1．オリエンテーション：講義の内容、進め方、評価方法、注意点等およびビジネス文書とは何かを理解する
2．ビジネス文書の基礎①
3．ビジネス文書の基礎②
4．ビジネス文書の基礎③
5．ビジネス文書の基礎④
6．ビジネス文書の基礎編まとめ：課題演習
7．ビジネス文書の応用①
8．ビジネス文書の応用②
9．ビジネス文書の応用③
10．ビジネス文書の応用編まとめ：課題演習
11．総合実習①

１２．総合実習②
１３．総合実習③
１４．総合実習④
１５．総合実習：講義の振り返りとまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC2100204
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
授業概要	高度情報化時代の今、SNS などの発達により、文書の短文化、簡略化が進んでいる。しかし、ビジネス社会では「文書主義の原則」に基づき、すべての仕事は「文書」によって進められている。そのため、正確でわかりやすく簡潔な文書を効率的に作成する能力は、社会人として必須の要件といえる。本講座の目的はビジネス文書の機能、種類を理解し、ルールを守りマナーにかなった一般的なビジネス文書作成能力の習得である。同時に、人間関係や場に配慮し、必要な場面で適切な語句を選択する日本語表現力を養う。 講座前半（基礎・応用編）においては、実際のビジネスシーンを想定した具体的な演習を通して、PC スキル（Word）をブラッシュアップし、基本的な文書作成能力を身につける。また、後半（総合実習編）では、企画書の作成ととプレゼンテーションまでを実践することにより、論理的思考力および事実や意見、情報をわかりやすく相手に伝える力の向上を目指す。		
教材（教科書）	初回に冊子を配布し、継続して使用する。各自で責任をもって保管し、講義には必ず持参すること。 ※持参しない場合は、講義内容の理解度、習熟度に影響するため、減点対象とする場合あり。 その他、適宜、参考資料を配布する。		
教材（参考資料）	参考書は授業の中で紹介する。		
教育方法	初回配布の冊子（講義レジュメ）を活用しながら、講義法と個人ワーク、グループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題演習・発表 70 点　　平常点（提出物、参加態度、意欲など）30 点		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題演習を通して、PC スキル（Word）のブラッシュアップを行い、基本的な文書作成能力を習得する。 ・場面に応じて適切に活用できる敬語表現力および日本語表現力を高める。 ・企画書の作成、プレゼンテーションを実践し、論理的思考力、伝える力を養う。		
授業時間外学習	事前学習として、参考資料の配布、参考文献を紹介することがある。次回の講義までに目を通して講義に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・講義では演習を中心に進めるため、積極的な受講姿勢を求める。
・各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底する習慣を身につけてほしい。
・講師が添削し返却した課題については、指摘箇所を復習し、改善に努めてもらいたい。
・私語や居眠り、スマートフォンは厳禁とする。マナーを守り、皆が気持ちよく学び合える環境づくりを心がけること。
・演習を中心とした講義であり、受講しなければ目標到達は難しい。そのため、理由のない欠席や遅刻は禁止とする。

授業スケジュール

1．オリエンテーション：講義の内容、進め方、評価方法、注意点等およびビジネス文書とは何かを理解する
2．ビジネス文書の基礎①
3．ビジネス文書の基礎②
4．ビジネス文書の基礎③
5．ビジネス文書の基礎④
6．ビジネス文書の基礎編まとめ：課題演習
7．ビジネス文書の応用①
8．ビジネス文書の応用②
9．ビジネス文書の応用③
10．ビジネス文書の応用編まとめ：課題演習
11．総合実習①

１２．総合実習②
１３．総合実習③
１４．総合実習④
１５．総合実習：講義の振り返りとまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC2100205
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
授業概要	高度情報化時代の今、SNS などの発達により、文書の短文化、簡略化が進んでいる。しかし、ビジネス社会では「文書主義の原則」に基づき、すべての仕事は「文書」によって進められている。そのため、正確でわかりやすく簡潔な文書を効率的に作成する能力は、社会人として必須の要件といえる。本講座の目的はビジネス文書の機能、種類を理解し、ルールを守りマナーにかなった一般的なビジネス文書作成能力の習得である。同時に、人間関係や場に配慮し、必要な場面で適切な語句を選択する日本語表現力を養う。 講座前半（基礎・応用編）においては、実際のビジネスシーンを想定した具体的な演習を通して、PC スキル（Word）をブラッシュアップし、基本的な文書作成能力を身につける。また、後半（総合実習編）では、企画書の作成ととプレゼンテーションまでを実践することにより、論理的思考力および事実や意見、情報をわかりやすく相手に伝える力の向上を目指す。		
教材（教科書）	初回に冊子を配布し、継続して使用する。各自で責任をもって保管し、講義には必ず持参すること。 ※持参しない場合は、講義内容の理解度、習熟度に影響するため、減点対象とする場合あり。 その他、適宜、参考資料を配布する。		
教材（参考資料）	参考書は授業の中で紹介する。		
教育方法	初回配布の冊子（講義レジュメ）を活用しながら、講義法と個人ワーク、グループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題演習・発表 70 点　　平常点（提出物、参加態度、意欲など）30 点		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題演習を通して、PC スキル（Word）のブラッシュアップを行い、基本的な文書作成能力を習得する。 ・場面に応じて適切に活用できる敬語表現力および日本語表現力を高める。 ・企画書の作成、プレゼンテーションを実践し、論理的思考力、伝える力を養う。		
授業時間外学習	事前学習として、参考資料の配布、参考文献を紹介することがある。次回の講義までに目を通して講義に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・講義では演習を中心に進めるため、積極的な受講姿勢を求める。
・各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底する習慣を身につけてほしい。
・講師が添削し返却した課題については、指摘箇所を復習し、改善に努めてもらいたい。
・私語や居眠り、スマートフォンは厳禁とする。マナーを守り、皆が気持ちよく学び合える環境づくりを心がけること。
・演習を中心とした講義であり、受講しなければ目標到達は難しい。そのため、理由のない欠席や遅刻は禁止とする。

授業スケジュール

1．オリエンテーション：講義の内容、進め方、評価方法、注意点等およびビジネス文書とは何かを理解する
2．ビジネス文書の基礎①
3．ビジネス文書の基礎②
4．ビジネス文書の基礎③
5．ビジネス文書の基礎④
6．ビジネス文書の基礎編まとめ：課題演習
7．ビジネス文書の応用①
8．ビジネス文書の応用②
9．ビジネス文書の応用③
10．ビジネス文書の応用編まとめ：課題演習
11．総合実習①

１２．総合実習②
１３．総合実習③
１４．総合実習④
１５．総合実習：講義の振り返りとまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC2100206
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
授業概要	高度情報化時代の今、SNS などの発達により、文書の短文化、簡略化が進んでいる。しかし、ビジネス社会では「文書主義の原則」に基づき、すべての仕事は「文書」によって進められている。そのため、正確でわかりやすく簡潔な文書を効率的に作成する能力は、社会人として必須の要件といえる。本講座の目的はビジネス文書の機能、種類を理解し、ルールを守りマナーにかなった一般的なビジネス文書作成能力の習得である。同時に、人間関係や場に配慮し、必要な場面で適切な語句を選択する日本語表現力を養う。 講座前半（基礎・応用編）においては、実際のビジネスシーンを想定した具体的な演習を通して、PC スキル（Word）をブラッシュアップし、基本的な文書作成能力を身につける。また、後半（総合実習編）では、企画書の作成ととプレゼンテーションまでを実践することにより、論理的思考力および事実や意見、情報をわかりやすく相手に伝える力の向上を目指す。		
教材（教科書）	初回に冊子を配布し、継続して使用する。各自で責任をもって保管し、講義には必ず持参すること。 ※持参しない場合は、講義内容の理解度、習熟度に影響するため、減点対象とする場合あり。 その他、適宜、参考資料を配布する。		
教材（参考資料）	参考書は授業の中で紹介する。		
教育方法	初回配布の冊子（講義レジュメ）を活用しながら、講義法と個人ワーク、グループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題演習・発表 70 点　　平常点（提出物、参加態度、意欲など）30 点		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題演習を通して、PC スキル（Word）のブラッシュアップを行い、基本的な文書作成能力を習得する。 ・場面に応じて適切に活用できる敬語表現力および日本語表現力を高める。 ・企画書の作成、プレゼンテーションを実践し、論理的思考力、伝える力を養う。		
授業時間外学習	事前学習として、参考資料の配布、参考文献を紹介することがある。次回の講義までに目を通して講義に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・講義では演習を中心に進めるため、積極的な受講姿勢を求める。
・各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底する習慣を身につけてほしい。
・講師が添削し返却した課題については、指摘箇所を復習し、改善に努めてもらいたい。
・私語や居眠り、スマートフォンは厳禁とする。マナーを守り、皆が気持ちよく学び合える環境づくりを心がけること。
・演習を中心とした講義であり、受講しなければ目標到達は難しい。そのため、理由のない欠席や遅刻は禁止とする。

授業スケジュール

1．オリエンテーション：講義の内容、進め方、評価方法、注意点等およびビジネス文書とは何かを理解する
2．ビジネス文書の基礎①
3．ビジネス文書の基礎②
4．ビジネス文書の基礎③
5．ビジネス文書の基礎④
6．ビジネス文書の基礎編まとめ：課題演習
7．ビジネス文書の応用①
8．ビジネス文書の応用②
9．ビジネス文書の応用③
10．ビジネス文書の応用編まとめ：課題演習
11．総合実習①

１２．総合実習②
１３．総合実習③
１４．総合実習④
１５．総合実習：講義の振り返りとまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC2100207
科目名	ビジネス文書実践講座（日本語表現）	単位数	2
科目名（英語表記）	Writing Business Documents (Japanese)		
担当者名	東城　佐知子	旧科目名称	
授業概要	高度情報化時代の今、SNS などの発達により、文書の短文化、簡略化が進んでいる。しかし、ビジネス社会では「文書主義の原則」に基づき、すべての仕事は「文書」によって進められている。そのため、正確でわかりやすく簡潔な文書を効率的に作成する能力は、社会人として必須の要件といえる。本講座の目的はビジネス文書の機能、種類を理解し、ルールを守りマナーにかなった一般的なビジネス文書作成能力の習得である。同時に、人間関係や場に配慮し、必要な場面で適切な語句を選択する日本語表現力を養う。 講座前半（基礎・応用編）においては、実際のビジネスシーンを想定した具体的な演習を通して、PC スキル（Word）をブラッシュアップし、基本的な文書作成能力を身につける。また、後半（総合実習編）では、企画書の作成ととプレゼンテーションまでを実践することにより、論理的思考力および事実や意見、情報をわかりやすく相手に伝える力の向上を目指す。		
教材（教科書）	初回に冊子を配布し、継続して使用する。各自で責任をもって保管し、講義には必ず持参すること。 ※持参しない場合は、講義内容の理解度、習熟度に影響するため、減点対象とする場合あり。 その他、適宜、参考資料を配布する。		
教材（参考資料）	参考書は授業の中で紹介する。		
教育方法	初回配布の冊子（講義レジュメ）を活用しながら、講義法と個人ワーク、グループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	課題演習・発表 70 点　　平常点（提出物、参加態度、意欲など）30 点		
到達目標	・ビジネス文書の機能や目的、種類、文書化の手順を理解する。 ・具体的なビジネスシーンを想定した課題演習を通して、PC スキル（Word）のブラッシュアップを行い、基本的な文書作成能力を習得する。 ・場面に応じて適切に活用できる敬語表現力および日本語表現力を高める。 ・企画書の作成、プレゼンテーションを実践し、論理的思考力、伝える力を養う。		
授業時間外学習	事前学習として、参考資料の配布、参考文献を紹介することがある。次回の講義までに目を通して講義に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・講義では演習を中心に進めるため、積極的な受講姿勢を求める。
・各回のレクチャーポイントをおさえながら課題に取り組み、提出前のセルフチェックを徹底する習慣を身につけてほしい。
・講師が添削し返却した課題については、指摘箇所を復習し、改善に努めてもらいたい。
・私語や居眠り、スマートフォンは厳禁とする。マナーを守り、皆が気持ちよく学び合える環境づくりを心がけること。
・演習を中心とした講義であり、受講しなければ目標到達は難しい。そのため、理由のない欠席や遅刻は禁止とする。

授業スケジュール

1．オリエンテーション：講義の内容、進め方、評価方法、注意点等およびビジネス文書とは何かを理解する
2．ビジネス文書の基礎①
3．ビジネス文書の基礎②
4．ビジネス文書の基礎③
5．ビジネス文書の基礎④
6．ビジネス文書の基礎編まとめ：課題演習
7．ビジネス文書の応用①
8．ビジネス文書の応用②
9．ビジネス文書の応用③
１０．ビジネス文書の応用編まとめ：課題演習
１１．総合実習①

１２．総合実習②
１３．総合実習③
１４．総合実習④
１５．総合実習：講義の振り返りとまとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JC2100301
科目名	インターンシップＡＩ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship ＡＩ		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	この科目では、企業等で２週間程度の就業体験を行い、大学での学びと実社会における実践の場との違いを認識することにより、学びへの動機付けを深めることを目的とする。 そのため、学生は、本科目において、 ・課題設定を職業観や勤労意識の醸成と労働に対する態度を身につけることとする。 ・事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。 ・実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果を発表を行うことができるようにする。 インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	事前学習では、必要最低限の情報は講義で伝達することとし、グループワークを通してその定着を図る。 事後学修では、グループワーク、プレゼンテーションを通して、実習の成果を自分のものにする。		
評価方法	以下の 4 項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【40%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【30%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	・学生は、大学での学びについて、卒業までの目標が設定できる。 ・学生は、職業について働くことを意識する。 ・学生は、自主性・独創性を身につける。		
授業時間外学習	期間を通して、毎日３０分～１時間程度は、新聞(日本経済新聞)・雑誌(東洋経済･ダイヤモンド・プレジデントなど)等を読み、企業社会の実情や企業所属する個人の働き方等に触れるようにする。 Ⅰ　事前学習期間 ･「インターンシップ」について、最近のニュース報道を調べる。 ･著名経営者の体験談等の雑誌記事を紹介するので、これを読み、「社会で活躍できる人材とは」について、各自の考えをまとめる。 ・職場での基礎的なマナーとルール、困ったときの対処法について、実習期間中を想定しながら具体的に考えてみる。 ･「実習に向けた目標設定」を行い、レポートにまとめる。 Ⅱ　実習中期間 実習先担当者からの指示・指導内容等について、ノートにまとめる。(毎日３０分～１時間程度の時間をかけること) Ⅲ　事後学習期間 実習の成果をまとめ、報告会に向けてプレゼンテーションの準備をする。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加する。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておく。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められない。

授業スケジュール

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」
2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」
3　一般的マナーについてのプログラム
4　ビジネスマナーについてのプログラム
5　ビジネスマナーについての実習
6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」
7　効果的なプレゼン方法の習得
8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション
9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習

10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム

ビジネスコース･パブリックコース

Ⅰ　事前学習

1　オリエンテーション（プログラムの概要・リスクマネジメント） プロジェクトの形成（目標の提示）
2　プロジェクトの形成（プロジェクト概要の発表）
3　プロジェクト・マネジメント （PCM の講義・ワークシートの進め方について）
4　プロジェクト・マネジメント（ワークシート①）
5　プロジェクト・マネジメント（ワークシート②）
6　プロジェクト・マネジメント（ワークシート③）
7　コミュニケーショントレーニング(1)
8　コミュニケーショントレーニング(2)
9　プロジェクト・マネジメント（今後の活動の確認、活動計画の発表）
10　プロジェクト・マネジメント(他プロジェクトとの意見交換)

Ⅱ　実習の実施

（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で、受入先ごとのプロジェクトを実施する。）

Ⅲ　事後学習
11　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト夏期活動報告①）
12　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト夏期活動報告②）
13　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト評価方法の概要）
14　プロジェクト・マネジメント（ワークシート④）
15　プロジェクト・マネジメント　（自己評価：プログラム受講を通して自己の変化を振り返る）
16　プロジェクト・マネジメント　（成果報告会にむけたプレゼンテーション準備）
17　成果報告会・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC2100302
科目名	インターンシップＡＩ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship ＡＩ		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	この科目では、企業等で２週間程度の就業体験を行い、大学での学びと実社会における実践の場との違いを認識することにより、学びへの動機付けを深めることを目的とする。 そのため、学生は、本科目において、 ・課題設定を職業観や勤労意識の醸成と労働に対する態度を身につけることとする。 ・事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。 ・実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果を発表を行うことができるようにする。 インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	事前学習では、必要最低限の情報は講義で伝達することとし、グループワークを通してその定着を図る。 事後学修では、グループワーク、プレゼンテーションを通して、実習の成果を自分のものにする。		
評価方法	以下の 4 項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【40%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【30%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	・学生は、大学での学びについて、卒業までの目標が設定できる。 ・学生は、職業について働くことを意識する。 ・学生は、自主性・独創性を身につける。		
授業時間外学習	期間を通して、毎日３０分～１時間程度は、新聞(日本経済新聞)・雑誌(東洋経済･ダイヤモンド・プレジデントなど)等を読み、企業社会の実情や企業所属する個人の働き方等に触れるようにする。 Ⅰ　事前学習期間 ･「インターンシップ」について、最近のニュース報道を調べる。 ･著名経営者の体験談等の雑誌記事を紹介するので、これを読み、「社会で活躍できる人材とは」について、各自の考えをまとめる。 ・職場での基礎的なマナーとルール、困ったときの対処法について、実習期間中を想定しながら具体的に考えてみる。 ･「実習に向けた目標設定」を行い、レポートにまとめる。 Ⅱ　実習中期間 実習先担当者からの指示・指導内容等について、ノートにまとめる。(毎日３０分～１時間程度の時間をかけること) Ⅲ　事後学習期間 実習の成果をまとめ、報告会に向けてプレゼンテーションの準備をする。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加する。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておく。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められない。

授業スケジュール

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」
2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」
3　一般的マナーについてのプログラム
4　ビジネスマナーについてのプログラム
5　ビジネスマナーについての実習
6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」
7　効果的なプレゼン方法の習得
8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション
9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習

10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム

ビジネスコース･パブリックコース

Ⅰ　事前学習

1　オリエンテーション（プログラムの概要・リスクマネジメント） プロジェクトの形成（目標の提示）
2　プロジェクトの形成（プロジェクト概要の発表）
3　プロジェクト・マネジメント （PCM の講義・ワークシートの進め方について）
4　プロジェクト・マネジメント（ワークシート①）
5　プロジェクト・マネジメント（ワークシート②）
6　プロジェクト・マネジメント（ワークシート③）
7　コミュニケーショントレーニング(1)
8　コミュニケーショントレーニング(2)
9　プロジェクト・マネジメント（今後の活動の確認、活動計画の発表）
10　プロジェクト・マネジメント(他プロジェクトとの意見交換)

Ⅱ　実習の実施

（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で、受入先ごとのプロジェクトを実施する。）

Ⅲ　事後学習
11　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト夏期活動報告①）
12　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト夏期活動報告②）
13　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト評価方法の概要）
14　プロジェクト・マネジメント（ワークシート④）
15　プロジェクト・マネジメント　（自己評価：プログラム受講を通して自己の変化を振り返る）
16　プロジェクト・マネジメント　（成果報告会にむけたプレゼンテーション準備）
17　成果報告会・修了式

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC2100401
科目名	インターンシップＡⅡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship AⅡ		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	この科目では、「インターンシップＡＩ」を履修した者が、再び２週間程度のインターンシップ実習を行う場合の科目である。１度目の実習を踏まえて、大学における学びと実社会における実践の関係を理解し、有機的に結び付けることにより、理論と実践の融合を図ることを目的とする。 そのため、学生は、本科目において、 ・事前学習では１度目の実習を振り返り、新たに課題設定し、２週間程度の企業実習を行う。その中で課題発見力や論理的思考力を身につける。 ・実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果発表を行うことができるようにする。 インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	以下の 4 項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【40%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【30%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	インターンシップＡＩの成果を踏まえ、新たな目標設定を行って実習することにより、学生は、次の各点について一段と高いレベルの態度を身につけることができるようにする。 ・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
授業時間外学習	期間を通して、毎日３０分～１時間程度は、新聞(日本経済新聞)・雑誌(東洋経済･ダイヤモンド・プレジデントなど)等を読み、企業社会の実情や企業所属する個人の働き方等に触れるようにする。 Ⅰ　事前学習期間 ・「インターンシップ」について、最近のニュース報道を調べる。 ・著名経営者の体験談等の雑誌記事を紹介するので、これを読み、「社会で活躍できる人材とは」について、各自の考えをまとめる。 ・職場での基礎的なマナーとルール、困ったときの対処法について、実習期間中を想定しながら具体的に考えてみる。 ・「実習に向けた目標設定」を行い、レポートにまとめる。 Ⅱ　実習中期間 実習先担当者からの指示・指導内容等について、ノートにまとめる。(毎日３０分～１時間程度の時間をかけること) Ⅲ　事後学習期間		

	実習の成果をまとめ、報告会に向けてプレゼンテーションの準備をする。

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加する。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておく。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められない。

授業スケジュール

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習
1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」
2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」
3　一般的マナーについてのプログラム
4　ビジネスマナーについてのプログラム
5　ビジネスマナーについての実習
6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」
7　効果的なプレゼン方法の習得
8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション
9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
ビジネスコース･パブリックコース

Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション：実習参加の心綱え
2　クラスの相互理解
3　実習に向けた目栂と仮脱設定
　＜グループディスカッション＞
4　コミュニケーショントレーニング(1)
5　コミュニケーショントレーニング(2)
6　業界と社会に対する学習①
　＜ケストスピーカーの講演＞
7　業界と社会に対する学習②
　＜ディスカッション＞

8　スキルアップトレーニング(1)
9　スキルアップトレーニング(2)
10　実習に向けた目標と仮説設定①
　＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
11　実習に向けた目標と仮説設定②
　＜実習直前の相互破腿＞
12　実習に向けた目標と仮説設定③
　＜事前学習レポートの内容の充実＞
13　オリエンテーション：リスクマネジメント講習、実習にあたって

II　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによる中間指導があります。）

III　事後学習
14　実習における経験交流
　<経験の共有①＞
15　実習における経験交流
　<経験の共有②＞
16　実習における経験交流
　<経験の共有③＞
17　実習における経験交流
　＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
18　今後の学生生活を考える／全体講評・修了式
　＜レポート作成に向けてのまとめ＞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC2100402
科目名	インターンシップＡⅡ	単位数	2
科目名（英語表記）	Internship AⅡ		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	この科目では、「インターンシップＡＩ」を履修した者が、再び２週間程度のインターンシップ実習を行う場合の科目である。１度目の実習を踏まえて、大学における学びと実社会における実践の関係を理解し、有機的に結び付けることにより、理論と実践の融合を図ることを目的とする。 そのため、学生は、本科目において、 ・事前学習では１度目の実習を振り返り、新たに課題設定し、２週間程度の企業実習を行う。その中で課題発見力や論理的思考力を身につける。 ・実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果発表を行うことができるようにする。 インターンシップ実習については、本学インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムビジネス・パブリックコースのいずれかに参加する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	以下の 4 項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【40%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【30%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	インターンシップＡＩの成果を踏まえ、新たな目標設定を行って実習することにより、学生は、次の各点について一段と高いレベルの態度を身につけることができるようにする。 ・大学での学びに対する意欲を喚起させること。 ・高い職業意識を育成すること。 ・自主性・独創性を身につけること。		
授業時間外学習	期間を通して、毎日３０分～１時間程度は、新聞(日本経済新聞)・雑誌(東洋経済･ダイヤモンド・プレジデントなど)等を読み、企業社会の実情や企業所属する個人の働き方等に触れるようにする。 Ⅰ　事前学習期間 ・「インターンシップ」について、最近のニュース報道を調べる。 ・著名経営者の体験談等の雑誌記事を紹介するので、これを読み、「社会で活躍できる人材とは」について、各自の考えをまとめる。 ・職場での基礎的なマナーとルール、困ったときの対処法について、実習期間中を想定しながら具体的に考えてみる。 ・「実習に向けた目標設定」を行い、レポートにまとめる。 Ⅱ　実習中期間 実習先担当者からの指示・指導内容等について、ノートにまとめる。(毎日３０分～１時間程度の時間をかけること) Ⅲ　事後学習期間		

	実習の成果をまとめ、報告会に向けてプレゼンテーションの準備をする。

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加する。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておく。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められない。

授業スケジュール

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習
1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」
2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」
3　一般的マナーについてのプログラム
4　ビジネスマナーについてのプログラム
5　ビジネスマナーについての実習
6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」
7　効果的なプレゼン方法の習得
8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション
9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
ビジネスコース･パブリックコース

Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション：実習参加の心綱え
2　クラスの相互理解
3　実習に向けた目栂と仮脱設定
　＜グループディスカッション＞
4　コミュニケーショントレーニング(1)
5　コミュニケーショントレーニング(2)
6　業界と社会に対する学習①
　＜ケストスピーカーの講演＞
7　業界と社会に対する学習②
　＜ディスカッション＞

8　スキルアップトレーニング(1)
9　スキルアップトレーニング(2)
10　実習に向けた目標と仮説設定①
　＜グループディスカッションを通した軌道修正＞
11　実習に向けた目標と仮説設定②
　＜実習直前の相互破腿＞
12　実習に向けた目標と仮説設定③
　＜事前学習レポートの内容の充実＞
13　オリエンテーション：リスクマネジメント講習、実習にあたって

II　実習の実施
（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に担当ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによる中間指導があります。）

III　事後学習
14　実習における経験交流
　<経験の共有①＞
15　実習における経験交流
　<経験の共有②＞
16　実習における経験交流
　<経験の共有③＞
17　実習における経験交流
　＜グループディスカッションを通した仮説の検証＞
18　今後の学生生活を考える／全体講評・修了式
　＜レポート作成に向けてのまとめ＞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC2100501
科目名	インターンシップB	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	この科目では、企業等で4週間程度の就業体験を行うことにより、大学における学びの理論と実社会における実践の場との関係性を深く理解し、有機的に結びつけることにより、幅広く理論と実践の融合を図ることを目的とする。 そのため、学生は、本科目において、 ・長期間の企業での実習の中で、職場における協働力や適応力、行動力を身につける。 ・事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。 ・実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや4週間にわたる実習の成果を発表することができるようにする。 インターンシップ実習については、本学海外インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムプログレスコースのいずれかに参加する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	以下の4項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	学生は、次の各点について一段と高いレベルの態度を身につけることができるようにする。 ・大学での学びについて、卒業までの目標が設定できる。 ・職業について働くことを意識する。 ・自主性・独創性を身につける。		
授業時間外学習	期間を通して、毎日３０分～１時間程度は、新聞(日本経済新聞)・雑誌(東洋経済･ダイヤモンド・プレジデントなど)等を読み、企業社会の実情や企業所属する個人の働き方等に触れるようにする。 Ⅰ　事前学習期間 ・「インターンシップ」について、最近のニュース報道を調べる。 ・著名経営者の体験談等の雑誌記事を紹介するので、これを読み、「社会で活躍できる人材とは」について、各自の考えをまとめる。 ・職場での基礎的なマナーとルール、困ったときの対処法について、実習期間中を想定しながら具体的に考えてみる。 ・「実習に向けた目標設定」を行い、レポートにまとめる。 Ⅱ　実習中期間 実習先担当者からの指示・指導内容等について、ノートにまとめる。(毎日３０分～１時間程度の時間をかけること) Ⅲ　事後学習期間 実習の成果をまとめ、報告会に向けてプレゼンテーションの準備をする。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

授業スケジュール

■本学海外インターンシッププログラム
Ⅰ　事前学習
1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」
2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」
3　一般的マナーについてのプログラム
4　ビジネスマナーについてのプログラム
5　ビジネスマナーについての実習
6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」
7　効果的なプレゼン方法の習得
8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション
9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施
（8月～9月の間で1か月程度実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
プログレスコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション（プログラムの概要・リスクマネジメント）
　プロジェクト・マネジメントの概要　－PCM の講義-
2　プロジェクトメンバーの相互理解（ワークシート①）
3～4　プロジェクト・マネジメント(ワークシート②、③)
5　修了生によるプレゼンテーション
　プロジェクト・マネジメント(他プロジェクトとの意見交換)
6　コミュニケーショントレーニング
7～8　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン）
9　　プロジェクト・マネジメント(今後の活動の確認、活動計画の発表)
10　プロジェクト・マネジメント(他プロジェクトとの意見交換)

Ⅱ　実習の実施

夏休み期間中には、受入れ先ごとにプロジェクトを行う。

Ⅲ　事後学習

11　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト中間報告）

12　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト評価方法の概要）（ワークシート④）

13　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備①）

14　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備②）

15　プロジェクト・マネジメント（自己評価：プログラム受講を通しての自己の変化を振り返る）"

16　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備③）"

17～20　成果報告会・修了式

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC2100502
科目名	インターンシップB	単位数	4
科目名（英語表記）	Internship B		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	この科目では、企業等で4週間程度の就業体験を行うことにより、大学における学びの理論と実社会における実践の場との関係性を深く理解し、有機的に結びつけることにより、幅広く理論と実践の融合を図ることを目的とする。 そのため、学生は、本科目において、 ・長期間の企業での実習の中で、職場における協働力や適応力、行動力を身につける。 ・事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。 ・実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや4週間にわたる実習の成果を発表することができるようにする。 インターンシップ実習については、本学海外インターンシッププログラムか大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムプログレスコースのいずれかに参加する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	以下の4項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【20%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【50%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	学生は、次の各点について一段と高いレベルの態度を身につけることができるようにする。 ・大学での学びについて、卒業までの目標が設定できる。 ・職業について働くことを意識する。 ・自主性・独創性を身につける。		
授業時間外学習	期間を通して、毎日３０分～１時間程度は、新聞(日本経済新聞)・雑誌(東洋経済･ダイヤモンド・プレジデントなど)等を読み、企業社会の実情や企業所属する個人の働き方等に触れるようにする。 Ⅰ　事前学習期間 ・「インターンシップ」について、最近のニュース報道を調べる。 ・著名経営者の体験談等の雑誌記事を紹介するので、これを読み、「社会で活躍できる人材とは」について、各自の考えをまとめる。 ・職場での基礎的なマナーとルール、困ったときの対処法について、実習期間中を想定しながら具体的に考えてみる。 ・「実習に向けた目標設定」を行い、レポートにまとめる。 Ⅱ　実習中期間 実習先担当者からの指示・指導内容等について、ノートにまとめる。(毎日３０分～１時間程度の時間をかけること) Ⅲ　事後学習期間 実習の成果をまとめ、報告会に向けてプレゼンテーションの準備をする。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加すること。
・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておくこと。
・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められないので、注意のこと。

授業スケジュール

■本学海外インターンシッププログラム
Ⅰ　事前学習
1　履修についてのオリエンテーション
　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」
2　実習準備についてのプログラム
　　実習先企業の調査･研究
　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」
3　一般的マナーについてのプログラム
4　ビジネスマナーについてのプログラム
5　ビジネスマナーについての実習
6　グループワーク
　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」
7　効果的なプレゼン方法の習得
8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション
9　実習直前ミーティング
　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施
（8月～9月の間で1か月程度実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習
10　最終報告プレゼンテーションについて
　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認
11　インターンシップ報告会
12　全体総括
　　教員からの総括(講評)

■大学コンソーシアム京都インターンシッププログラム
プログレスコース
Ⅰ　事前学習
1　オリエンテーション（プログラムの概要・リスクマネジメント）
　プロジェクト・マネジメントの概要　－PCM の講義-
2　プロジェクトメンバーの相互理解（ワークシート①）
3～4　プロジェクト・マネジメント(ワークシート②、③)
5　修了生によるプレゼンテーション
　プロジェクト・マネジメント(他プロジェクトとの意見交換)
6　コミュニケーショントレーニング
7～8　プロジェクト・マネジメント（テーマに応じて実習や事業のデザイン）
9　　プロジェクト・マネジメント(今後の活動の確認、活動計画の発表)
10　プロジェクト・マネジメント(他プロジェクトとの意見交換)

Ⅱ　実習の実施

夏休み期間中には、受入れ先ごとにプロジェクトを行う。

Ⅲ　事後学習

11　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト中間報告）

12　プロジェクト・マネジメント（プロジェクト評価方法の概要）（ワークシート④）

13　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備①）

14　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備②）

15　プロジェクト・マネジメント（自己評価：プログラム受講を通しての自己の変化を振り返る）"

16　プロジェクト・マネジメント（プレゼンテーション準備③）"

17～20　成果報告会・修了式

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC2100601
科目名	サービス・ラーニングA	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	社会と個人、組織と個人等を考えながら社会貢献活動を行い、大学での学修等で身につけるべき課題を明確にすることを目的とする。約１週間程度の活動を通して、協働力、適応力、行動力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法)、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法)、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の３つを想定している。		
教材（教科書）	必要に応じて配布		
教材（参考資料）	必要に応じて配布		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせる（毎回、必ずグループワークが入る)。		
評価方法	活動日誌(10%)、活動先の評価(20%)、レポート(70%)によって評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、自らの身につけるべき課題を意識する。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる.		
授業時間外学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

[実習先の選定－１]：実習先を自ら探すことも本授業の課題の一つである。探し方も授業の中で教える。太秦キャンパスの受講者は、毎年５月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明するので、原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―２]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、１週間の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての 1 週間である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

授業スケジュール

１．　社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
２．　地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
３．　実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
４．　ビジネスマナーI
５．　ビジネスマナーII

実習１週間
（8 時間＋日報 1 時間）/日*5 日＝45 時間

６．　事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
７．　事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ)、ワークショップ
８．　事後学習 III－レポート作成
９．　事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2018	授業コード	JC2100602
科目名	サービス・ラーニングA	単位数	1
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning A		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	社会と個人、組織と個人等を考えながら社会貢献活動を行い、大学での学修等で身につけるべき課題を明確にすることを目的とする。約１週間程度の活動を通して、協働力、適応力、行動力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法)、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法)、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の３つを想定している。		
教材（教科書）	必要に応じて配布		
教材（参考資料）	必要に応じて配布		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせる（毎回、必ずグループワークが入る)。		
評価方法	活動日誌(10%)、活動先の評価(20%)、レポート(70%)によって評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、自らの身につけるべき課題を意識する。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる.		
授業時間外学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

[実習先の選定－１]：実習先を自ら探すことも本授業の課題の一つである。探し方も授業の中で教える。太秦キャンパスの受講者は、毎年５月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明するので、原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―２]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、１週間の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての 1 週間である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

授業スケジュール

１．　社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
２．　地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
３．　実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
４．　ビジネスマナーI
５．　ビジネスマナーII

実習１週間
（8 時間＋日報１時間）/日*5 日＝45 時間

６．　事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
７．　事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ)、ワークショップ
８．　事後学習 III－レポート作成
９．　事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2018	授業コード	JC2100701
科目名	サービス・ラーニングB	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	社会貢献活動を通して、大学における学びと実社会における実践の場との関係性を理解することを目的とする。約２週間程度の活動を通して、理論と実践の融合を図るための課題発見力や論理的思考力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法)、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法)、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の３つを想定している。		
教材（教科書）	必要に応じて配布		
教材（参考資料）	必要に応じて配布		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせる（毎回、必ずグループワークが入る)。		
評価方法	活動日誌(10%)、活動先の評価(20%)、レポート(70%)によって評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、大学で学んだ学修を社会活動の中で最大限に生かす。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる。		
授業時間外学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

[実習先の選定－１]：実習先を自ら探すことも本授業の課題の一つである。探し方も授業の中で教える。太秦キャンパスの受講者は、毎年５月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明するので、原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―２]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、２週間の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての１週間、２週間である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

授業スケジュール

１．　社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
２．　地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
３．　実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
４．　ビジネスマナーI
５．　ビジネスマナーII

実習２週間
（8 時間＋日報１時間）/日*10 日＝90 時間

６．　実習中に、１回/週、大学で経過報告（１回目）
７．　実習中に、１回/週、大学で経過報告（２回目）
８．　事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
９．　事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ)、ワークショップ
１０．　事後学習 III－レポート作成
１１．　事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2018	授業コード	JC2100702
科目名	サービス・ラーニングB	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	社会貢献活動を通して、大学における学びと実社会における実践の場との関係性を理解することを目的とする。約２週間程度の活動を通して、理論と実践の融合を図るための課題発見力や論理的思考力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法)、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法)、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の３つを想定している。		
教材（教科書）	必要に応じて配布		
教材（参考資料）	必要に応じて配布		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせる（毎回、必ずグループワークが入る)。		
評価方法	活動日誌(10%)、活動先の評価(20%)、レポート(70%)によって評価する。		
到達目標	社会貢献活動を行って、大学で学んだ学修を社会活動の中で最大限に生かす。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる。		
授業時間外学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

[実習先の選定－１]：実習先を自ら探すことも本授業の課題の一つである。探し方も授業の中で教える。太秦キャンパスの受講者は、毎年５月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明するので、原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―２]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、２週間の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての１週間、２週間である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

授業スケジュール

１．　社会貢献とは：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
２．　地域社会で何ができるか：講義、ワークショップ
３．　実習目的の明確化と目標設定：講義、ワークショップ（個人の目標を設定）
４．　ビジネスマナーI
５．　ビジネスマナーII

実習２週間
（8 時間＋日報１時間）/日*10 日＝90 時間

６．　実習中に、１回/週、大学で経過報告（１回目）
７．　実習中に、１回/週、大学で経過報告（２回目）
８．　事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
９．　事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか。講義（ゲスト or ビデオ)、ワークショップ
１０．　事後学習 III－レポート作成
１１．　事後学習 IV－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	★	–	★★	–	–

年度	2018	授業コード	JC2100801
科目名	サービス・ラーニングC	単位数	4
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning C		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	約1か月程度の社会貢献活動を通して、社会貢献の必要性と有効性を理解することを目的とする。また、社会の発展を目指すための、創造力や発想力、課題解決力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法)、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法)、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の3つを想定している。		
教材（教科書）	必要に応じて配布		
教材（参考資料）	必要に応じて配布		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせる（毎回、必ずグループワークが入る)。		
評価方法	活動日誌(10%)、活動先の評価(20%)、レポート(70%)によって評価する。		
到達目標	社会貢献活動の中で、具体的な課題解決を図る。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる。		
授業時間外学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

[実習先の選定－1]：実習先を自ら探すことも本授業の課題の一つである。探し方も授業の中で教える。太秦キャンパスの受講者は、毎年5月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明するので、原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定―2]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、1週間、2週間、1か月の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての1週間、2週間、1か月である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

授業スケジュール

1．　社会貢献と自らの社会的役割：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
2．　NPO組織論：講義、ビデオ or ゲスト
3．　実習目的の明確化と目標設定：ワークショップ（個人の目標設定）
4．　ビジネスマナーI
5．　ビジネスマナーII

実習1か月（4週間）
（8時間＋日報1時間）/日*20日＝180時間

6．　実習中に、1回/週、大学で経過報告（1回目）
7．　実習中に、1回/週、大学で経過報告（2回目）
8．　実習中に、1回/週、大学で経過報告（3回目）
9．　実習中に、1回/週、大学で経過報告（4回目）
10．　事後学習I－何を学んだか：ワークショップ
11．　事後学習II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか：講義（ゲスト or ビデオ)、ワークショップ
12．　事後学習III－レポート作成
13．　事後学習IV－レポート作成
14．　事後学習V－報告会準備
15．　事後学習VI－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC2100802
科目名	サービス・ラーニングC	単位数	4
科目名（英語表記）	Introduction to Service Learning C		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	約 1 か月程度の社会貢献活動を通して、社会貢献の必要性と有効性を理解することを目的とする。また、社会の発展を目指すための、創造力や発想力、課題解決力を身につける。事前授業、事後授業においては、ワークショップ形式の授業を行うことが多い。ワークショップの手法は、個人の考えを深く掘り下げるもの（マイプロジェクトという手法)、他の学生の想いを聞きながら考えを深めるもの（ワールドカフェという手法)、ゲストやビデオでの実践者の話を聞いて個人の考えを再構築するもの、の 3 つを想定している。		
教材（教科書）	必要に応じて配布		
教材（参考資料）	必要に応じて配布		
教育方法	講義法とグループワークを組み合わせる（毎回、必ずグループワークが入る)。		
評価方法	活動日誌(10%)、活動先の評価(20%)、レポート(70%)によって評価する。		
到達目標	社会貢献活動の中で、具体的な課題解決を図る。併せて、授業を通して、自らが「考える、表現する、コミュニケーションする、振り返る」、という事が出来るようになる。		
授業時間外学習	実習時には日報を書いてその日の振り返りを行うとともに、次回（翌日）の実習内容の準備を行う。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

[実習先の選定－ 1]：実習先を自ら探すことも本授業の課題の一つである。探し方も授業の中で教える。太秦キャンパスの受講者は、毎年 5 月に右京区でボランティア活動の諸団体が集まって、各自の活動内容を説明するので、原則として、この説明会に参加すること。
[実習先の選定― 2]：京都学園大学における学内ボアンティアも実習に含めることができる。ピア・サポーター、学友会、見回り隊などの活動において、1 週間、2 週間、1 か月の実習を行う場合は、それらの活動を実習と認定する。
[実習時間に関して]：実習時間は連続しての 1 週間、2 週間、1 か月である必要はない。延べの計算も可能、活動期間が春・秋の両学期にまたがっても良いものとする。

授業スケジュール

1． 社会貢献と自らの社会的役割：講義、簡単なワークショップ（ワークショップの練習）
2． NPO 組織論：講義、ビデオ or ゲスト
3． 実習目的の明確化と目標設定：ワークショップ（個人の目標設定）
4． ビジネスマナーI
5． ビジネスマナーII

実習 1 か月（4 週間）
（8 時間＋日報 1 時間）/日*20 日＝180 時間

6． 実習中に、1 回/週、大学で経過報告（1 回目）
7． 実習中に、1 回/週、大学で経過報告（2 回目）
8． 実習中に、1 回/週、大学で経過報告（3 回目）
9． 実習中に、1 回/週、大学で経過報告（4 回目）
10． 事後学習 I－何を学んだか：ワークショップ
11． 事後学習 II－この経験を、以後の大学の学修やさらなる社会活動にどう反映させるか：講義（ゲスト or ビデオ)、ワークショップ
12． 事後学習 III－レポート作成
13． 事後学習 IV－レポート作成
14． 事後学習 V－報告会準備
15． 事後学習 VI－報告会：パワーポイントにて報告

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC9000201
科目名	インターンシップ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	この科目では、企業等で２週間程度の就業体験を行い、大学での学びと実社会における実践の場との違いを認識することにより、学びへの動機付けを深めることを目的とする。 そのため、学生は、本科目において、。 ・課題設定を職業観や勤労意識の醸成と労働に対する態度を身につけることとする。 ・事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果を発表を行うことができるようにする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	事前学習では、必要最低限の情報は講義で伝達することとし、グループワークを通してその定着を図る。 事後学修では、グループワーク、プレゼンテーションを通して、実習の成果を自分のものにする。		
評価方法	以下の 4 項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【40%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【30%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	・学生は、大学での学びについて、卒業までの目標が設定できる。 ・学生は、職業について働くことを意識する。 ・学生は、自主性・独創性を身につける。		
授業時間外学習	期間を通して、毎日３０分～１時間程度は、新聞(日本経済新聞)・雑誌(東洋経済･ダイヤモンド・プレジデントなど)等を読み、企業社会の実情や企業所属する個人の働き方等に触れるようにする。 Ⅰ　事前学習期間 ・「インターンシップ」について、最近のニュース報道を調べる。 ・著名経営者の体験談等の雑誌記事を紹介するので、これを読み、「社会で活躍できる人材とは」について、各自の考えをまとめる。 ・職場での基礎的なマナーとルール、困ったときの対処法について、実習期間中を想定しながら具体的に考えてみる。 ・「実習に向けた目標設定」を行い、レポートにまとめる。 Ⅱ　実習中期間 実習先担当者からの指示・指導内容等について、ノートにまとめる。(毎日３０分～１時間程度の時間をかけること) Ⅲ　事後学習期間 実習の成果をまとめ、報告会に向けてプレゼンテーションの準備をする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加する。 ・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておく。 ・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められない。			
授業スケジュール			

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション

　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」

2　実習準備についてのプログラム

　　実習先企業の調査･研究

　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」

3　一般的マナーについてのプログラム

4　ビジネスマナーについてのプログラム

5　ビジネスマナーについての実習

6　グループワーク

　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」

7　効果的なプレゼン方法の習得

8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション

9　実習直前ミーティング

　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習

10　最終報告プレゼンテーションについて

　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認

11　インターンシップ報告会

12　全体総括

　　教員からの総括(講評)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC9000202
科目名	インターンシップ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	この科目では、企業等で２週間程度の就業体験を行い、大学での学びと実社会における実践の場との違いを認識することにより、学びへの動機付けを深めることを目的とする。 そのため、学生は、本科目において、。 ・課題設定を職業観や勤労意識の醸成と労働に対する態度を身につけることとする。 ・事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果を発表を行うことができるようにする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	事前学習では、必要最低限の情報は講義で伝達することとし、グループワークを通してその定着を図る。 事後学修では、グループワーク、プレゼンテーションを通して、実習の成果を自分のものにする。		
評価方法	以下の 4 項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【40%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【30%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	・学生は、大学での学びについて、卒業までの目標が設定できる。 ・学生は、職業について働くことを意識する。 ・学生は、自主性・独創性を身につける。		
授業時間外学習	期間を通して、毎日３０分～１時間程度は、新聞(日本経済新聞)・雑誌(東洋経済･ダイヤモンド・プレジデントなど)等を読み、企業社会の実情や企業所属する個人の働き方等に触れるようにする。 Ⅰ　事前学習期間 ・「インターンシップ」について、最近のニュース報道を調べる。 ・著名経営者の体験談等の雑誌記事を紹介するので、これを読み、「社会で活躍できる人材とは」について、各自の考えをまとめる。 ・職場での基礎的なマナーとルール、困ったときの対処法について、実習期間中を想定しながら具体的に考えてみる。 ・「実習に向けた目標設定」を行い、レポートにまとめる。 Ⅱ　実習中期間 実習先担当者からの指示・指導内容等について、ノートにまとめる。(毎日３０分～１時間程度の時間をかけること) Ⅲ　事後学習期間 実習の成果をまとめ、報告会に向けてプレゼンテーションの準備をする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加する。 ・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておく。 ・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められない。			
授業スケジュール			

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション

　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」

2　実習準備についてのプログラム

　　実習先企業の調査･研究

　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」

3　一般的マナーについてのプログラム

4　ビジネスマナーについてのプログラム

5　ビジネスマナーについての実習

6　グループワーク

　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」

7　効果的なプレゼン方法の習得

8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション

9　実習直前ミーティング

　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習

10　最終報告プレゼンテーションについて

　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認

11　インターンシップ報告会

12　全体総括

　　教員からの総括(講評)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JC9000203
科目名	インターンシップ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	谷口　有子	旧科目名称	
授業概要	この科目では、企業等で２週間程度の就業体験を行い、大学での学びと実社会における実践の場との違いを認識することにより、学びへの動機付けを深めることを目的とする。 そのため、学生は、本科目において、。 ・課題設定を職業観や勤労意識の醸成と労働に対する態度を身につけることとする。 ・事前学習では、実習の目標設定や企業研究、社会人マナーを学修するとともに、コミュニケーション・スキルを身につける。実習終了後には、プレゼンテーション・スキルを学び、実習のまとめや成果を発表を行うことができるようにする。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	事前学習では、必要最低限の情報は講義で伝達することとし、グループワークを通してその定着を図る。 事後学修では、グループワーク、プレゼンテーションを通して、実習の成果を自分のものにする。		
評価方法	以下の 4 項目を基準に単位認定を行う (1)事前・事後学習の受講態度【40%】 (2)レポートの内容【20%】 (3)実習の参加状況（実習状況報告書の評価を参考にしてください）【30%】 (4)全体を通じて成長が見られたこと【10%】		
到達目標	・学生は、大学での学びについて、卒業までの目標が設定できる。 ・学生は、職業について働くことを意識する。 ・学生は、自主性・独創性を身につける。		
授業時間外学習	期間を通して、毎日３０分～１時間程度は、新聞(日本経済新聞)・雑誌(東洋経済･ダイヤモンド・プレジデントなど)等を読み、企業社会の実情や企業所属する個人の働き方等に触れるようにする。 Ⅰ　事前学習期間 ・「インターンシップ」について、最近のニュース報道を調べる。 ・著名経営者の体験談等の雑誌記事を紹介するので、これを読み、「社会で活躍できる人材とは」について、各自の考えをまとめる。 ・職場での基礎的なマナーとルール、困ったときの対処法について、実習期間中を想定しながら具体的に考えてみる。 ・「実習に向けた目標設定」を行い、レポートにまとめる。 Ⅱ　実習中期間 実習先担当者からの指示・指導内容等について、ノートにまとめる。(毎日３０分～１時間程度の時間をかけること) Ⅲ　事後学習期間 実習の成果をまとめ、報告会に向けてプレゼンテーションの準備をする。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・参加予定のインターンシッププログラムの説明会には、必ず参加する。 ・実習期間中は、原則、アルバイト等を行うことができないので、スケジュール調整を行っておく。 ・実習中はいうまでもないことであるが、事前･事後学習においても、遅刻･欠席は認められない。			
授業スケジュール			

■本学インターンシッププログラム

Ⅰ　事前学習

1　履修についてのオリエンテーション

　　テーマ「有意義なインターンシップにするために」

2　実習準備についてのプログラム

　　実習先企業の調査･研究

　　前年度実習生の体験発表「インターンシップは自分を変える」

3　一般的マナーについてのプログラム

4　ビジネスマナーについてのプログラム

5　ビジネスマナーについての実習

6　グループワーク

　　テーマ「有意義なインターンシップにするためには」

7　効果的なプレゼン方法の習得

8　実習先調査結果についてのプレゼンテーション

9　実習直前ミーティング

　　インターンシップに参加するにあたっての留意事項

Ⅱ　実習の実施

（原則として 8 月中旬～9 月中旬の期間で実施されます。実習期間中に中間指導があります。）

Ⅲ　事後学習

10　最終報告プレゼンテーションについて

　　実習で得たものと今後の学生生活の目標を確認

11　インターンシップ報告会

12　全体総括

　　教員からの総括(講評)

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JE0020001
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills.		
教材（教科書）	Tom Huchinson & Kristin Sherman, "Network　1", (Oxford University Press 2012)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。
You should try to attend ALL your classes ON TIME.

授業スケジュール

1) Class introductions. TEST.
2) Talking about everyday life.
3) Talking about what you like to do.
4) Family.
5) Places.
6) Talking about what you are doing.
7) PRESENTATION
8) Invitations.
9) Explaining things.
10) People and places.
11) Past classes.
12) Injuries and illnesses.
13) Vacation plans.
14) Diets.
15) PRESENTATION.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JE0020003
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills.		
教材（教科書）	Tom Huchinson & Kristin Sherman, "Network　1", (Oxford University Press 2012)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。
You should try to attend ALL your classes ON TIME.

授業スケジュール

1) Class introductions. TEST.
2) Talking about everyday life.
3) Talking about what you like to do.
4) Family.
5) Places.
6) Talking about what you are doing.
7) PRESENTATION
8) Invitations.
9) Explaining things.
10) People and places.
11) Past classes.
12) Injuries and illnesses.
13) Vacation plans.
14) Diets.
15) PRESENTATION.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JE0020005
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills.		
教材（教科書）	Tom Huchinson & Kristin Sherman, "Network　1", (Oxford University Press 2012)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。
You should try to attend ALL your classes ON TIME.

授業スケジュール

1) Class introductions. TEST.
2) Talking about everyday life.
3) Talking about what you like to do.
4) Family.
5) Places.
6) Talking about what you are doing.
7) PRESENTATION
8) Invitations.
9) Explaining things.
10) People and places.
11) Past classes.
12) Injuries and illnesses.
13) Vacation plans.
14) Diets.
15) PRESENTATION.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JE0020006
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	円滑なコミュニケーションがとれるような能力を養う総合的会話講座です。自己紹介からはじめ、自分の生活習慣、好み、将来への気持ち等を英語で表現できる会話能力を養います。各授業に学生同士の練習、ロールプレイなどで会話スキルを習得した後、ネーティブ・スピーカー教員との短い会話テストを通して駆使します。徐々にモティベーションをあげ、色んな会話場面に参加できるようにします。また、語用論の研究に基づいた英語と日本語の会話構成を学んで、より自然な会話の運び方に挑戦する。		
教材（教科書）	Jerry Talandis et al. Conversations in Class 3rd Edition. Alma Publishing. ISBN：978-4-905343-12-7		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	英会話の文法、語彙、フレーズを習ってすぐペアワークや会話テストに進む参加型コミュニケーションコース。英和・和英辞典や単語帳用ノートを持参すること。		
評価方法	1. 授業参加度　　20% 2. 授業内テスト・課題　80%?		
到達目標	1. 英検２級レベルにあたる英語語彙、文法、読解、会話力を習得する。 2. 基礎的英語講座で習得した能力を会話に応用できるようになる。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1.　Course Introduction / Getting started/The Three Golden Rules of English conversation
2. Unit 1:　Getting Acquainted: Basic information
3. Unit 2:　Daily Life: Daily routines
4. Unit 2:　Daily Life: Spending time
5. Unit 3: Hometown: Hometown attractions/likes and dislikes
6. Unit 3: Hometown: Where to live in the future
7.Unit 4: Travel: Travel experiences
8. Unit 4: Travel: Future ideas and plans
9. Unit 5: Free Time: Talking about breaks
10. Unit 5: Free Time: Future hobbies
11. Unit 6: Entertainment: Music/Movies/TV & games
12. Unit 7: Food: Likes and dislikes
13. Unit 7: Food: Exotic foods and eating out
14. Unit 8: The Future: Imagining life in five years
15. Unit 8: The Future: Dream jobs

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JE0020052
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills.		
教材（教科書）	Tom Huchinson & Kristin Sherman, "Network　1", (Oxford University Press 2012)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。
You should try to attend ALL your classes ON TIME.

授業スケジュール

1) Class introductions. TEST.
2) Talking about everyday life.
3) Talking about what you like to do.
4) Family.
5) Places.
6) Talking about what you are doing.
7) PRESENTATION
8) Invitations.
9) Explaining things.
10) People and places.
11) Past classes.
12) Injuries and illnesses.
13) Vacation plans.
14) Diets.
15) PRESENTATION.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JE0020054
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	円滑なコミュニケーションがとれるような能力を養う総合的会話講座です。自己紹介からはじめ、自分の生活習慣、好み、将来への気持ち等を英語で表現できる会話能力を養います。各授業に学生同士の練習、ロールプレイなどで会話スキルを習得した後、ネーティブ・スピーカー教員との短い会話テストを通して駆使します。徐々にモティベーションをあげ、色んな会話場面に参加できるようにします。また、語用論の研究に基づいた英語と日本語の会話構成を学んで、より自然な会話の運び方に挑戦する。		
教材（教科書）	Jerry Talandis et al. Conversations in Class 3rd Edition. Alma Publishing. ISBN：978-4-905343-12-7		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	英会話の文法、語彙、フレーズを習ってすぐペアワークや会話テストに進む参加型コミュニケーションコース。英和・和英辞典や単語帳用ノートを持参すること。		
評価方法	1. 授業参加度　　20% 2. 授業内テスト・課題　80%?		
到達目標	1. 英検２級レベルにあたる英語語彙、文法、読解、会話力を習得する。 2. 基礎的英語講座で習得した能力を会話に応用できるようになる。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1.　Course Introduction / Getting started/The Three Golden Rules of English conversation
2. Unit 1:　Getting Acquainted: Basic information
3. Unit 2:　Daily Life: Daily routines
4. Unit 2:　Daily Life: Spending time
5. Unit 3: Hometown: Hometown attractions/likes and dislikes
6. Unit 3: Hometown: Where to live in the future
7.Unit 4: Travel: Travel experiences
8. Unit 4: Travel: Future ideas and plans
9. Unit 5: Free Time: Talking about breaks
10. Unit 5: Free Time: Future hobbies
11. Unit 6: Entertainment: Music/Movies/TV & games
12. Unit 7: Food: Likes and dislikes
13. Unit 7: Food: Exotic foods and eating out
14. Unit 8: The Future: Imagining life in five years
15. Unit 8: The Future: Dream jobs

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JE0020055
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills.		
教材（教科書）	Tom Huchinson & Kristin Sherman, "Network　1", (Oxford University Press 2012)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。
You should try to attend ALL your classes ON TIME.

授業スケジュール

1) Class introductions. TEST.
2) Talking about everyday life.
3) Talking about what you like to do.
4) Family.
5) Places.
6) Talking about what you are doing.
7) PRESENTATION
8) Invitations.
9) Explaining things.
10) People and places.
11) Past classes.
12) Injuries and illnesses.
13) Vacation plans.
14) Diets.
15) PRESENTATION.

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JE0020056
科目名	英語スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	English Speaking		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	円滑なコミュニケーションがとれるような能力を養う総合的会話講座です。自己紹介からはじめ、自分の生活習慣、好み、将来への気持ち等を英語で表現できる会話能力を養います。各授業に学生同士の練習、ロールプレイなどで会話スキルを習得した後、ネーティブ・スピーカー教員との短い会話テストを通して駆使します。徐々にモティベーションをあげ、色んな会話場面に参加できるようにします。また、語用論の研究に基づいた英語と日本語の会話構成を学んで、より自然な会話の運び方に挑戦する。		
教材（教科書）	Jerry Talandis et al. Conversations in Class 3rd Edition. Alma Publishing. ISBN：978-4-905343-12-7		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	英会話の文法、語彙、フレーズを習ってすぐペアワークや会話テストに進む参加型コミュニケーションコース。英和・和英辞典や単語帳用ノートを持参すること。		
評価方法	1. 授業参加度　　20% 2. 授業内テスト・課題　80%?		
到達目標	1. 英検２級レベルにあたる英語語彙、文法、読解、会話力を習得する。 2. 基礎的英語講座で習得した能力を会話に応用できるようになる。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1.　Course Introduction / Getting started/The Three Golden Rules of English conversation
2. Unit 1:　Getting Acquainted: Basic information
3. Unit 2:　Daily Life: Daily routines
4. Unit 2:　Daily Life: Spending time
5. Unit 3: Hometown: Hometown attractions/likes and dislikes
6. Unit 3: Hometown: Where to live in the future
7.Unit 4: Travel: Travel experiences
8. Unit 4: Travel: Future ideas and plans
9. Unit 5: Free Time: Talking about breaks
10. Unit 5: Free Time: Future hobbies
11. Unit 6: Entertainment: Music/Movies/TV & games
12. Unit 7: Food: Likes and dislikes
13. Unit 7: Food: Exotic foods and eating out
14. Unit 8: The Future: Imagining life in five years
15. Unit 8: The Future: Dream jobs

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JE0054001
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills. Students who can not register for 英語スピーキング, please register for this course.		
教材（教科書）	Richards, Jack. "Interchange 1", (Cambridge University Press 2013)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Class introductions. TEST. 2) Describing school. 3) Talking about prices. 4) Likes and dislikes. 5) Family. 6) Exercise and routine. 7) PRESENTATION. 8) Past activities. 9) Describing places. 10) Describing people. 11) Describing experiences. 12) Cities and towns. 13) Health problems. 14) Food. 15) PRESENTATION.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JE0054003
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills. Students who can not register for 英語スピーキング, please register for this course.		
教材（教科書）	Richards, Jack. "Interchange 1", (Cambridge University Press 2013)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Class introductions. TEST. 2) Describing school. 3) Talking about prices. 4) Likes and dislikes. 5) Family. 6) Exercise and routine. 7) PRESENTATION. 8) Past activities. 9) Describing places. 10) Describing people. 11) Describing experiences. 12) Cities and towns. 13) Health problems. 14) Food. 15) PRESENTATION.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JE0054004
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	英語会話演習Ⅰで学んだ会話の語彙・文法・表現をより広い舞台で応用する実施的講座です。「グローバル人材」になるため、異文化を理解したうえ、世界で通用する対話力や発表力を身に付けることを主な目的とします。毎回ペアワークで会話を徹底的に練習した後、教員との短い会話テストやプレゼンテーションで発表します。グローバルな言語能力、モティベーションを同時に向上させます。		
教材（教科書）	Shinichi Shibata, Rie Jindo, Lindsay Wells. Must-have English Skills for Global Communication. Kinseido Publishing ISBN: 9784764740594		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	英会話の文法、語彙、フレーズを習ってすぐペアワークや会話テストに進む参加型コミュニケーションコース。英和・和英辞典や単語帳用ノートを持参すること。		
評価方法	授業内態度・参加度　２０％　授業内テスト・発表　８０％		
到達目標	１．本コース終了時で、英語会話で意志到達、問題解決、簡単なスピーチアクト（お願いする、アドバイスするなど）ができるようになります。 ２．コミュニケーションに関する異文化理解を深めていきます。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1. Course Introduction/Unit 1 : May I help you? 困っている人に話しかける

2. What do you do on the weekend?　初対面の人と会話を続ける

3. That sounds interesting!　ポジティブ／ネガティブな意見を述べる

?4. I'm not feeling well. 体調を伝える

5. You shouldn't step there! 注意する

?6. Why don't we buy potatoes, too? 提案する

?7. Would 5pm be convenient for you? スケジュールを調整する

8. I'll have to pass. 依頼を断る

?9. I have an idea. 解決策を提案する／協働作業する

10. Could you do me a favor?　お願いする

11. I think you could explain this more.　アドバイスをする

?12. I don't get what you mean.　発言を聞き返す

?13. I’m so sorry to hear that.　相手を励ます

?14. That’s not what I meant.　誤解を解く／真意を伝える

15. Let’s keep in touch!　別れの挨拶／感謝を伝える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	–	★	–	–

年度	2018	授業コード	JE0054005
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills. Students who can not register for 英語スピーキング, please register for this course.		
教材（教科書）	Richards, Jack. "Interchange 1", (Cambridge University Press 2013)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Class introductions. TEST. 2) Describing school. 3) Talking about prices. 4) Likes and dislikes. 5) Family. 6) Exercise and routine. 7) PRESENTATION. 8) Past activities. 9) Describing places. 10) Describing people. 11) Describing experiences. 12) Cities and towns. 13) Health problems. 14) Food. 15) PRESENTATION.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JE0054006
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	英語会話演習Ⅰで学んだ会話の語彙・文法・表現をより広い舞台で応用する実施的講座です。「グローバル人材」になるため、異文化を理解したうえ、世界で通用する対話力や発表力を身に付けることを主な目的とします。毎回ペアワークで会話を徹底的に練習した後、教員との短い会話テストやプレゼンテーションで発表します。グローバルな言語能力、モティベーションを同時に向上させます。		
教材（教科書）	Shinichi Shibata, Rie Jindo, Lindsay Wells. Must-have English Skills for Global Communication. Kinseido Publishing ISBN: 9784764740594		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	英会話の文法、語彙、フレーズを習ってすぐペアワークや会話テストに進む参加型コミュニケーションコース。英和・和英辞典や単語帳用ノートを持参すること。		
評価方法	授業内態度・参加度　２０％　授業内テスト・発表　８０％		
到達目標	１．本コース終了時で、英語会話で意志到達、問題解決、簡単なスピーチアクト（お願いする、アドバイスするなど）ができるようになります。 ２．コミュニケーションに関する異文化理解を深めていきます。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1. Course Introduction/Unit 1 : May I help you? 困っている人に話しかける

2. What do you do on the weekend?　初対面の人と会話を続ける

3. That sounds interesting!　ポジティブ／ネガティブな意見を述べる

?4. I'm not feeling well. 体調を伝える

5. You shouldn't step there! 注意する

?6. Why don't we buy potatoes, too? 提案する

?7. Would 5pm be convenient for you? スケジュールを調整する

8. I'll have to pass. 依頼を断る

?9. I have an idea. 解決策を提案する／協働作業する

10. Could you do me a favor?　お願いする

11. I think you could explain this more.　アドバイスをする

?12. I don't get what you mean.　発言を聞き返す

?13. I’m so sorry to hear that.　相手を励ます

?14. That’s not what I meant.　誤解を解く／真意を伝える

15. Let’s keep in touch!　別れの挨拶／感謝を伝える

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	–	★	–	–

年度	2018	授業コード	JE0054007
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	英語会話演習Ⅰで学んだ会話の語彙・文法・表現をより広い舞台で応用する実施的講座です。「グローバル人材」になるため、異文化を理解したうえ、世界で通用する対話力や発表力を身に付けることを主な目的とします。毎回ペアワークで会話を徹底的に練習した後、教員との短い会話テストやプレゼンテーションで発表します。グローバルな言語能力、モティベーションを同時に向上させます。		
教材（教科書）	Shinichi Shibata, Rie Jindo, Lindsay Wells. Must-have English Skills for Global Communication. Kinseido Publishing ISBN: 9784764740594		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	英会話の文法、語彙、フレーズを習ってすぐペアワークや会話テストに進む参加型コミュニケーションコース。英和・和英辞典や単語帳用ノートを持参すること。		
評価方法	授業内態度・参加度　２０％　授業内テスト・発表　８０％		
到達目標	１．本コース終了時で、英語会話で意志到達、問題解決、簡単なスピーチアクト（お願いする、アドバイスするなど）ができるようになります。 ２．コミュニケーションに関する異文化理解を深めていきます。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1. Course Introduction/Unit 1 : May I help you? 困っている人に話しかける
2. What do you do on the weekend?　初対面の人と会話を続ける
3. That sounds interesting!　ポジティブ／ネガティブな意見を述べる
4. I'm not feeling well. 体調を伝える
5. You shouldn't step there! 注意する
6. Why don't we buy potatoes, too? 提案する
7. Would 5pm be convenient for you? スケジュールを調整する
8. I'll have to pass. 依頼を断る
9. I have an idea. 解決策を提案する／協働作業する
10. Could you do me a favor?　お願いする
11. I think you could explain this more.　アドバイスをする
12. I don't get what you mean.　発言を聞き返す
13. I'm so sorry to hear that.　相手を励ます
14. That's not what I meant.　誤解を解く／真意を伝える
15. Let's keep in touch!　別れの挨拶／感謝を伝える

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JE0054051
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills. Students who can not register for 英語スピーキング, please register for this course.		
教材（教科書）	Richards, Jack. "Interchange 1", (Cambridge University Press 2013)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Class introductions. TEST. 2) Describing school. 3) Talking about prices. 4) Likes and dislikes. 5) Family. 6) Exercise and routine. 7) PRESENTATION. 8) Past activities. 9) Describing places. 10) Describing people. 11) Describing experiences. 12) Cities and towns. 13) Health problems. 14) Food. 15) PRESENTATION.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JE0054053
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills. Students who can not register for 英語スピーキング, please register for this course.		
教材（教科書）	Richards, Jack. "Interchange 1", (Cambridge University Press 2013)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Class introductions. TEST. 2) Describing school. 3) Talking about prices. 4) Likes and dislikes. 5) Family. 6) Exercise and routine. 7) PRESENTATION. 8) Past activities. 9) Describing places. 10) Describing people. 11) Describing experiences. 12) Cities and towns. 13) Health problems. 14) Food. 15) PRESENTATION.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JE0054054
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	英語会話演習Ⅰで学んだ会話の語彙・文法・表現をより広い舞台で応用する実施的講座です。「グローバル人材」になるため、異文化を理解したうえ、世界で通用する対話力や発表力を身に付けることを主な目的とします。毎回ペアワークで会話を徹底的に練習した後、教員との短い会話テストやプレゼンテーションで発表します。グローバルな言語能力、モティベーションを同時に向上させます。		
教材（教科書）	Shinichi Shibata, Rie Jindo, Lindsay Wells. Must-have English Skills for Global Communication. Kinseido Publishing ISBN: 9784764740594		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	英会話の文法、語彙、フレーズを習ってすぐペアワークや会話テストに進む参加型コミュニケーションコース。英和・和英辞典や単語帳用ノートを持参すること。		
評価方法	授業内態度・参加度　２０％　授業内テスト・発表　８０％		
到達目標	１．本コース終了時で、英語会話で意志到達、問題解決、簡単なスピーチアクト（お願いする、アドバイスするなど）ができるようになります。 ２．コミュニケーションに関する異文化理解を深めていきます。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1. Course Introduction/Unit 1 : May I help you? 困っている人に話しかける
2. What do you do on the weekend?　初対面の人と会話を続ける
3. That sounds interesting!　ポジティブ／ネガティブな意見を述べる
4. I'm not feeling well. 体調を伝える
5. You shouldn't step there! 注意する
6. Why don't we buy potatoes, too? 提案する
7. Would 5pm be convenient for you? スケジュールを調整する
8. I'll have to pass. 依頼を断る
9. I have an idea. 解決策を提案する／協働作業する
10. Could you do me a favor?　お願いする
11. I think you could explain this more.　アドバイスをする
12. I don't get what you mean.　発言を聞き返す
13. I'm so sorry to hear that.　相手を励ます
14. That's not what I meant.　誤解を解く／真意を伝える
15. Let's keep in touch!　別れの挨拶／感謝を伝える

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JE0054055
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Paul James Bird	旧科目名称	
授業概要	This course is for improving your English communication skills. You will have the chance to make new friends and improve your communication skills. We will be using a textbook during the lesson. This textbook will help you to study skills like speaking and writing. This course is around EIKEN level 3, so it is good for beginners or students who want to review their English skills. Students who can not register for 英語スピーキング, please register for this course.		
教材（教科書）	Richards, Jack. "Interchange 1", (Cambridge University Press 2013)		
教材（参考資料）	Raymond Murphy, "Essential Grammar in Use", (Cambridge University Press) プリント		
教育方法	In this class it is important to communicate with your classmates. Therefore, we will: 1) Practise conversations together. 2) Teach grammar skills 3) Work in pairs or small groups for discussion.		
評価方法	1) Attendance and Participation: 25% 2) Homework Completion: 25% 3) In-Lesson Presentations: 25% 4) End of Term Examination: 25%		
到達目標	You should think about trying TOEIC or EIKEN preparation after completing this course.		
授業時間外学習	You must study your textbook and do extra homework for at least 90 minutes each week.		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 You should try to attend ALL your classes ON TIME.			
授業スケジュール			
1) Class introductions. TEST. 2) Describing school. 3) Talking about prices. 4) Likes and dislikes. 5) Family. 6) Exercise and routine. 7) PRESENTATION. 8) Past activities. 9) Describing places. 10) Describing people. 11) Describing experiences. 12) Cities and towns. 13) Health problems. 14) Food. 15) PRESENTATION.			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JE0054056
科目名	英語中級スピーキング	単位数	2
科目名（英語表記）	Intermediate English Speaking		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	英語会話演習Ⅰで学んだ会話の語彙・文法・表現をより広い舞台で応用する実施的講座です。「グローバル人材」になるため、異文化を理解したうえ、世界で通用する対話力や発表力を身に付けることを主な目的とします。毎回ペアワークで会話を徹底的に練習した後、教員との短い会話テストやプレゼンテーションで発表します。グローバルな言語能力、モティベーションを同時に向上させます。		
教材（教科書）	Shinichi Shibata, Rie Jindo, Lindsay Wells. Must-have English Skills for Global Communication. Kinseido Publishing ISBN: 9784764740594		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	英会話の文法、語彙、フレーズを習ってすぐペアワークや会話テストに進む参加型コミュニケーションコース。英和・和英辞典や単語帳用ノートを持参すること。		
評価方法	授業内態度・参加度　２０％　授業内テスト・発表　８０％		
到達目標	１．本コース終了時で、英語会話で意志到達、問題解決、簡単なスピーチアクト（お願いする、アドバイスするなど）ができるようになります。 ２．コミュニケーションに関する異文化理解を深めていきます。		
授業時間外学習	授業外でも、できる限りにインターネット、雑誌、書籍、映画などを通して英語に触れておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 評価は毎回行われるため、各授業に遅刻せずに出席することが大切です。
２．目標に向けて、クラスメートと協力しながら積極的に参加する覚悟も必要です。
３．第二言語の上達が授業外の努力でも大きく左右されます。きちんと予習・復習してください。

授業スケジュール

1. Course Introduction/Unit 1 : May I help you? 困っている人に話しかける
2. What do you do on the weekend?　初対面の人と会話を続ける
3. That sounds interesting!　ポジティブ／ネガティブな意見を述べる
4. I'm not feeling well. 体調を伝える
5. You shouldn't step there! 注意する
6. Why don't we buy potatoes, too? 提案する
7. Would 5pm be convenient for you? スケジュールを調整する
8. I'll have to pass. 依頼を断る
9. I have an idea. 解決策を提案する／協働作業する
10. Could you do me a favor?　お願いする
11. I think you could explain this more.　アドバイスをする
12. I don't get what you mean.　発言を聞き返す
13. I'm so sorry to hear that.　相手を励ます
14. That's not what I meant.　誤解を解く／真意を伝える
15. Let's keep in touch!　別れの挨拶／感謝を伝える

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JE0068A51
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
授業概要	比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という４技能の活用力を養成する。この授業では特に、日本語を第１言語とする人びとが間違いやすい英語表現を正すことを通して、読解やリスニング、英作文問題に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかる。また、基本的な文法事項の復習も行う。		
教材（教科書）	Mark Thompson, Toshihiro Tanioka 著. Say It Right in English. 『ネイティブが気になる日本人の英語』（英宝社，￥1900)。その他プリント教材		
教材（参考資料）	英和、和英、英英辞書など		
教育方法	授業は演習方式で進められる。毎回の授業で取り上げるトピックについてあらかじめ考えてきた意見を出し合った後、新出の語彙、長文読解、長文の内容に関する英語の問題、リスニング問題、内容に関するディスカッションという順番で進めてゆく。授業の最初、あるいは最後に復習／予習小テストを行うことがある。		
評価方法	授業内テスト（小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただしこれは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではない。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につける。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を養成する。		
授業時間外学習	この授業では、前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行うことがある。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をすること。復習に十分な時間をかけて授業に臨んむようにする。小テストには語彙、文法問題が含まれる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参する。テキストがないと、授業内の課題を行うことができない。テキストを持参しなかった場合は減点とする。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参すること。携帯電話の辞書機能を授業中に使用することはできない。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用する。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修するように努める。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験するように努める。

授業スケジュール

次の各項目を、約 1 回の授業で学習する。但し、授業の進度によって変更になることがある。授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行うことがある。

1. Unit 1:　Mansion （be 動詞）
2. Unit 2:　Repeater 〔動詞①（現在)〕
3. Unit 3:　Talent 〔動詞②（過去・未来)〕
4. Unit 4:　Service （助動詞）
5. Unit 5:　OL & Businessman （進行形）
6. Unit 6:　Challenge （受動態）
7. Unit 7:　Claim （現在完了形）
8. Unit 8:　Manner Up （不定詞）
9. Unit 9:　I Cut My Hair （比較①）
10. Unit 10: Hearing & Listening （比較②）
11. Unit 11: Rent & Borrow （関係代名詞）

12.Unit 12: Trip, Tour, Travel （形容詞と副詞）
13.Unit 13: Customer, Guest, Client （分詞と動名詞）
14.Unit 14: Pay, Wage, Salary （前置詞）
15.Unit 15: Cost, Price, Fee, Fare （否定）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	JE0068A53
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	本テキストは文化・社会・生活・環境・ビジネス・観光等のジャンルから成る初級レベルの教材である。 興味深いトピックを読んで、英語の基礎を固め、総合的な英語力向上を目指す。 自分で考え課題を解決する思考力を養い、常に積極的に取り組む。		
教材（教科書）	テリー・オブライエン他著 『English Indicator 1』［Essential］　（英語総合インディケーター〈初級〉） 南雲堂 ￥２，０００ またプリント教材を使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	理解度テスト(（中間・期末）の平均点　　（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉　（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	基礎的な英文法や語彙を学習し、練習問題で読解・英作・リスニング等の基礎力をアップさせる。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・語彙を学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成し、リーディングの訳を書く。 ３　練習問題をする		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

授業スケジュール

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。

１回目は Unit 1 の文法、リスニングから始めるので、目を通しておいて下さい。
すべての Unit はできないので、クラスで希望の多いものからやっていく。
３回目以降はまだ未定なので、目安として見てもらいたい。

２回目　　Ｕｎｉｔ　１　　残り
３回目　　Ｕｎｉｔ　２
４回目　　Ｕｎｉｔ　３
５回目　　Ｕｎｉｔ　４
６回目　　Ｕｎｉｔ　５
７回目　　Ｕｎｉｔ　６
８回目　　Ｕｎｉｔ１－６の復習及び理解度テスト
９回目　　Ｕｎｉｔ　７

１０回目　　Ｕｎｉｔ　８ １１回目　　Ｕｎｉｔ　９ １２回目　　Ｕｎｉｔ　１０ １３回目　　Ｕｎｉｔ　１１ １４回目　　Ｕｎｉｔ　１２ １５回目　　Ｕｎｉｔ７－１２の復習及び理解度テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068A60
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1〜7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068A61
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	中山　大輝	旧科目名称	
授業概要	この授業では、平易な総合英語教材を使用し、基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化を図るとともに、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能を総合的に養成します。音声 CD を使用してリスニング問題に取り組み、「聞く」能力を向上させながら、リスニングのポイントをおさえます。また、少し短めの文章を読み、内容を理解し、要約できるようにします。そして、ペアワークなどの活動に取り組むことにより、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指します。		
教材（教科書）	熊澤孝昭、靜哲人、望月正道（著）『AMBITIONS：Elementary』、金星堂、 ISBN:978-4-7647-4054-9		
教材（参考資料）	授業中に適宜、指示します。 毎回の授業に、辞書（英和・和英など）と文法書を持参してください。ただし、携帯電話、スマートフォンを辞書として使用することはできません。		
教育方法	授業中に音声 CD を使用します。 また、この授業は主に演習方式で進められ、一部ペアワークやグループディスカッションなどが行われます。		
評価方法	以下の基準に基づいて総合的に評価します。 （1）平常点（授業内小テストや授業への積極的参加など）：４５点 （2）定期試験：５５点 ただし、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となります。		
到達目標	講義概要で記載した内容に即して、以下の内容ができるようになることを目指します。 （1）少し短めの文章を理解し、要約できるようになる （2）ダイアログなどの会話が聞き取れるようになる （3）自分の意見を英語で書けるようになる （4）（3）で書いた内容を英語で話せるようになる		
授業時間外学習	詳しい予復習の方法は授業内で指示しますが、この授業では毎回の授業開始時に前回の授業内容の確認テスト（授業内小テスト）を行いますので、授業で学習した内容の復習をしてください。また、予習として、次回授業時に扱う UNIT の指示された範囲をあらかじめ解答しておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（1）語学学習には継続的な学習が不可欠です。欠席や遅刻は極力しないでください。
（2）この授業では、毎週予習課題を指示するとともに、授業開始時に前回の授業内容の確認テスト（授業内小テスト）を行います。継続的な予復習に努めてください。
（3）教材（参考文献）欄に記載したように、毎回の授業に辞書（英和・和英など）と文法書を持参してください。なお、文法書は高等学校で使用したものでも構いません。
（4）（1）で記載したように、当科目のみならず、英語の勉強を自主的に行ってください。
（5）TOEIC や実用英語技能検定など、外部検定試験を積極的に受験してください。

授業スケジュール

各項目を、約 1 回の授業で消化していきます。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。初回授業時に具体的な予復習の方法を指示しますので、初回授業時に教科書を持参してくることを強く推奨します。

Unit 1: Cross-Cultural Understanding
文の主語を見つける / 強く発音される語を聞き取る
Unit 2: Foods
文の動詞を見つける / 語順のまま理解する
Unit 3: Foreign Language Learning
動詞の目的語を見つける / 消える t と d を聞き取る
Unit 4: Sports

補語を見つける / 似た音に注意して聞き取る
Unit 5: Fashion
代名詞の指示内容 / n でつながる語句を聞き取る
Unit 6: Living Things
不定詞 / 弱い can を聞き取る
Unit 7: Art
動名詞 / 話の展開を予測する
Unit 8: Global Issues
受動態 / 強弱のリズムに慣れる
Unit 9: Japanese Culture
比較（原級、比較級、最上級） / t でつながる語句を聞き取る
Unit 10: Human Rights
後置修飾 / l でつながる語句を聞き取る
Unit 11: Health & Medical Issues
関係代名詞 / 弱い of を聞き取る
Unit 12: Environmental Issues
並列その 1 / 対比による強調を理解する
Unit 13: Economy & Industry
並列その 2 / r でつながる語句を聞き取る
Unit 14: Legal Issues
多義語 / のみこまれる tn を聞き取る
Unit 15: Science & Technology
未知単語の推測 / 弱い for を聞き取る

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	JE0068A62
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
授業概要	平易な総合英語教材を用いて、＜読む・書く・聞く・話す＞４技能の基礎力を養成する。様々なタイプの、200 語程度の英文を読み、読解力を養う。本文を読んだ後、各種の設問を通して理解度をチェックする。最低限必要な使える文法の基礎を確実に習得し、語彙力を高める。空欄を埋める例文を通して、文法の知識を補強する。また積極的に声を出して、実践的な発音・発声練習をする。リスニングのセクションでは、英語の音声面の特徴を、単音・音節・語・句・文などのレベルで順に学ぶ。		
教材（教科書）	Quick-Step English 1 南雲堂 1,836 円。 テキスト各章の本文を、学生は単語の意味と発音の下調べ、本文の黙読・音読など、毎回予習しておく。授業では、本文の読解を中心に進め、本文理解を確認するため、学生は各章の設問に沿って、解答を記述する。学生は、講義内容のポイントをノートに取り、ノートの記述内容を参照しながら、テキストの重要事項を復習する。参考資料など、授業中に適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。テキスト各章の本文を、リスニング（ＣＤのネイティブ・スピーカーの音声を聞く）、学生自身の黙読と音読により理解したうえで、理解度確認のために、学生はテキストの設問に答えを記入し、教員の求めに応じて発表する。講義と学生自身の予習・復習の成果を確認するために、学期を前半と後半に分けて、小テストを行う。		
評価方法	授業中の、積極的な学習態度（しっかり英語の声を出す等 10%）・発表（10%）・小テスト２回（各 10%）・課題（10%）などによる平常点（合計 50%）、定期テスト（50%）。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。（３分の２以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	学生は英語の４技能の習得により、基礎的なコミュニケーション力を得ることができる。 英語音声を反復練習によって聞きとり、しっかり英語の声を出せるようになる。		
授業時間外学習	毎回指示するページ項目の予習と復習の課題を完成させる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
積極的な態度で授業に参加する。しっかり声を出す。テキストと筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食・英語以外の作業など等は厳禁。			
授業スケジュール			
１．The End of Newspapers? ストレッチ式「ネイティブ発音」について ２．The Hero of the Hudson 母音と子音について ３．E-mail: Online Shopping つながる音に慣れる（１） ４．The Homeless Man with a Golden Voice つながる音に慣れる（２） ５．Exhibit Preview 消える音に慣れる（１） ６．Improving Memory 消える音に慣れる（２） ７．The Brownings: A Poetic Love Story 消える音に慣れる（３） ８．Invitation to a Party 変化する音に慣れる（１） ９．The Prince of Poyais 変化する音に慣れる（２） 10. Superheroes in the Real World 変化する音に慣れる（３） 11. Thank You Note 変化する音に慣れる（４） 12. Human-Powered Machines カタカナ語の音に慣れる 13. Twitter 発音のまとめ（１） 14. Twitter Feed 発音のまとめ（２） 15. Okamoto Taro: The Artist among Us 発音のまとめ（３）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JE0068A63
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	様々な分野の話題に関する英文を読んで、多様な形式の練習問題をこなしながら、 「話す・読む・書く」等の基礎的な英語力を更に向上させる。		
教材（教科書）	佐藤明彦　他著 『Reading Success 3』 成美堂 ￥２，０００ またプリント教材を使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	理解度テスト(（中間・期末）の平均点　　（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉　（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	各課の単語、イディオム、文法事項を理解し、テキストの英文が正確に読めるようにし、読解、英文法、英作文の力のレベルアップを目指す。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・語彙を学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成し、リーディングの訳を書く。 ３　練習問題をする		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

授業スケジュール

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。

１回目は Unit 1 の 2 Word Definitions　3 Completing the Sentences をするので、
予習しておいて下さい。
すべての Unit はできないので、クラスで希望の多いものからやっていく。
３回目以降はまだ未定なので、暫定的な計画と承知しておいて下さい。

２回目　　Unit 1 残り
３回目　　Unit　2
４回目　　Unit　3
５回目　　Unit　4
６回目　　Unit　5
７回目　　Unit　1-5 の復習
８回目　　Unit 1-5 の理解度テスト
９回目　　Unit　8
１０回目　　Unit　9

１１回目　　Unit 10 １２回目　　Unit 11 １３回目　　Unit 12 １４回目　　Unit 8-12 の復習 １５回目　　Unit 8-12 の理解度テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JE0068A64
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	中山　大輝	旧科目名称	
授業概要	この授業では、平易な総合英語教材を使用し、基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化を図るとともに、「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能を総合的に養成します。音声 CD を使用してリスニング問題に取り組み、「聞く」能力を向上させながら、リスニングのポイントをおさえます。また、350 語程度の文章を読み、内容を理解し、要約できるようにします。そして、ペアワークなどの活動に取り組むことにより、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指します。		
教材（教科書）	森田彰、飯尾牧子、橋本健広、佐竹幸信、Gordon Myskow（著）『TARGET!: pre-intermediate』、金星堂 ISBN:978-4-7647-4017-4		
教材（参考資料）	授業中に適宜、指示します。 毎回の授業に、辞書（英和・和英など）と文法書を持参してください。ただし、携帯電話、スマートフォンを辞書として使用することはできません。		
教育方法	授業中に音声 CD を使用します。 また、この授業は主に演習方式で進められ、一部ペアワークやグループディスカッションなどが行われます。		
評価方法	以下の基準に基づいて総合的に評価します。 （1）平常点（授業内小テストや授業への積極的参加など）：４５点 （2）定期試験：５５点 ただし、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となります。		
到達目標	講義概要で記載した内容に即して、以下の内容ができるようになることを目指します。 （1）英文の内容を理解し、要約できるようになる （2）ダイアログなどの会話が聞き取れるようになる （3）自分の意見を英語で書けるようになる （4）（3）で書いた内容を英語で話せるようになる		
授業時間外学習	詳しい予復習の方法は授業中で指示しますが、この授業では毎回の授業開始時に前回の授業内容の確認テスト（授業内小テスト）を行いますので、授業で学習した内容の復習をしてください。また、予習として、次回授業時に扱う UNIT の指示された範囲をあらかじめ解答しておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（1）語学学習には継続的な学習が不可欠です。欠席や遅刻は極力しないでください。
（2）この授業では、毎週予習課題を指示するとともに、授業開始時に前回の授業内容の確認テスト（授業内小テスト）を行います。継続的な予復習に努めてください。
（3）教材（参考文献）欄に記載したように、毎回の授業に辞書（英和・和英など）と文法書を持参してください。なお、文法書は高等学校で使用したものでも構いません。
（4）（1）で記載したように、当科目のみならず、英語の勉強を自主的に行ってください。
（5）TOEIC や実用英語技能検定など、外部検定試験を積極的に受験してください。

授業スケジュール

各項目を、約 1 回の授業で消化していきます。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。初回授業時に具体的な予復習の方法を指示しますので、初回授業時に教科書を持参してくることを強く推奨します。

Unit 1: Small Talk（日常生活）
基本 5 文型 / いろいろな数値①
Unit 2: Human Relations（人間関係・コミュニケーション）
文の種類 / いろいろな数値
Unit 3: Culture and Globalization（言葉・文化）
基本時制 / 発音しづらい語句
Unit 4: Healthy Life（健康・医療）

進行形 / 固有名詞（人名・地名など）
Unit 5: Future Careers（職業・キャリア）
完了形 / 簡単な挨拶文
Unit 6: That Shirt Suits You!（ファッション）
助動詞① / 提案文、勧誘文
Unit 7: Taking a Trip（旅行・観光）
助動詞② / 依頼文
Unit 8: Do You Like Sports?（スポーツ）
受動態 / Yes / No 疑問文
Unit 9: Let's Do Something Fun!（レジャー・エンタメ）
不定詞 / wh 疑問文
Unit 10: Art Appreciation（アート）
動名詞 / 否定・付加疑問文
Unit 11: Let's Eat Out!（食）
分詞 / カジュアルな表現
Unit12: A Career in International Business（ビジネス）
比較 / フォーマルな表現
Unit 13: Science for the Future（サイエンス）
関係代名詞 / 意味のかたまり（チャンク）
Unit 14: Technology and Modern Life（産業・テクノロジー）
話法 / 主張や理由を導くキーワード
Unit 15: Saving the Environment（環境）
特殊構文（強調・倒置・同格） / 名詞から話題をイメージする

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	JE0068A65
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	様々な分野の話題に関する英文を読んで、多様な形式の練習問題をこなしながら、「話す・読む・書く」等の基礎的な英語力をさらに向上させる。		
教材（教科書）	佐藤明彦　他著 『Reading Success 3』 成美堂 ￥２，０００ またプリント教材を使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	理解度テスト(（中間・期末）の平均点　　（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉　（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	各課の単語、イディオム、文法事項を理解し、テキストの英文が正確に読めるようにし、読解、英文法、英作文の力のレベルアップを目指す。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・語彙を学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成し、リーディングの訳を書く。 ３　練習問題をする		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

授業スケジュール

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。

１回目は Unit 1 の 2 Word Definitions　3 Completing the Sentences をするので、
予習しておいて下さい。
すべての Unit はできないので、クラスで希望の多いものからやっていく。
３回目以降はまだ未定なので、暫定的な計画と承知しておいて下さい。

２回目　　Unit 1 残り
３回目　　Unit　2
４回目　　Unit　3
５回目　　Unit　4
６回目　　Unit　5
７回目　　Unit　1-5 の復習
８回目　　Unit 1-5 の理解度テスト
９回目　　Unit　8
１０回目　　Unit　9

１１回目　　Unit 10 １２回目　　Unit 11 １３回目　　Unit 12 １４回目　　Unit 8-12 の復習 １５回目　　Unit 8-12 の理解度テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JE0068A66
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	本テキストは文化・社会・生活・環境・ビジネス・観光等のジャンルから成る初級レベルの教材である。 興味深いトピックを読んで、英語の基礎を固め、総合的な英語力向上を目指す。 自分で考え課題を解決する思考力を養い、常に積極的に取り組む。		
教材（教科書）	テリー・オブライエン他著 『English Indicator 1』［Essential］　（英語総合インディケーター〈初級〉） 南雲堂 ￥２，０００ またプリント教材を使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	理解度テスト(（中間・期末）の平均点　　（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉　（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	基礎的な英文法や語彙を学習し、練習問題で読解・英作・リスニング等の基礎力をアップさせる。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・語彙を学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成し、リーディングの訳を書く。 ３　練習問題をする		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

授業スケジュール

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。

１回目は Unit 1 の文法、リスニングから始めるので、目を通しておいて下さい。
すべての Unit はできないので、クラスで希望の多いものからやっていく。
３回目以降はまだ未定なので、目安として見てもらいたい。

２回目　　Ｕｎｉｔ　１　残り
３回目　　Ｕｎｉｔ　２
４回目　　Ｕｎｉｔ　３
５回目　　Ｕｎｉｔ　４
６回目　　Ｕｎｉｔ　５
７回目　　Ｕｎｉｔ　６

8回目　Ｕｎｉｔ１－６の復習及び理解度テスト 9回目　Ｕｎｉｔ　7 １０回目　Ｕｎｉｔ　8 １１回目　Ｕｎｉｔ　9 １２回目　Ｕｎｉｔ　１０ １３回目　Ｕｎｉｔ　１１ １４回目　Ｕｎｉｔ　１２ １５回目　Ｕｎｉｔ７－１２の復習及び理解度テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068A67
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
授業概要	比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という４技能の活用力を養成する。この授業は日本語を第１言語とする人びとが間違いやすい英語表現を正すことを通して、読解やリスニング，特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（教科書）	Mark Thompson, Toshihiro Tanioka 著. Say It Right in English 『ネイティブが気になる日本人の英語』（英宝社 1900 円）		
教材（参考資料）	プリント、英和、和英、英英辞書など 。毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教育方法	必要に応じて音声 CD を使用します。講義は可能な限り簡単な英語で行い、難しいところは日本語で説明をします。質問や答えするときは間違いを恐れることなく英語で話すようにしてもらいます。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の文化紹介文等を通して生活に必要な常識と英語力を身につけます。		
授業時間外学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

授業スケジュール

次の各項目を、約１回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Mansion (be 動詞)
2. Unit 2: Repeater 〔動詞①（現在)〕
3. Unit 3: Talent 〔動詞②（過去・未来)〕
4. Unit 4: Service （助動詞）
5. Unit 5: OL & Businessman （進行形）
6. Unit 6: Challenge （受動態）
7. Unit 7: Claim （現在完了形）
8. Unit 8: Manner Up （不定詞）
9. Unit 9: I Cut My Hair （比較①）
10. Unit 10: Hearing & Listening （比較②）
11. Unit 11: Rent & Borrow （関係代名詞）
12. Unit 12: Trip, Tour, Travel （形容詞と副詞）

13.Unit 13: Customer, Guest, Client （分詞と動名詞）
14.Unit 14: Pay, Wage, Salary （前置詞）
15.Unit 15: Cost, Price, Fee, Fare （否定）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068A68
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	本テキストは文化・社会・生活・環境・ビジネス・観光等のジャンルから成る初級レベルの教材である。 興味深いトピックを読んで、英語の基礎を固め、総合的な英語力向上を目指す。 自分で考え課題を解決する思考力を養い、常に積極的に取り組む。		
教材（教科書）	テリー・オブライエン他著 『English Indicator 1』［Essential］　（英語総合インディケーター〈初級〉） 南雲堂 ￥２，０００ またプリント教材を使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	理解度テスト(（中間・期末）の平均点　　（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉　（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	基礎的な英文法や語彙を学習し、練習問題で読解・英作・リスニング等の基礎力をアップさせる。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・語彙を学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成し、リーディングの訳を書く。 ３　練習問題をする		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

授業スケジュール

１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。

１回目は Unit 1 の文法、リスニングから始めるので、目を通しておいて下さい。
すべての Unit はできないので、クラスで希望の多いものからやっていく。
３回目以降はまだ未定なので、目安として見てもらいたい。

２回目　　Ｕｎｉｔ　１　　残り
３回目　　Ｕｎｉｔ　２
４回目　　Ｕｎｉｔ　３
５回目　　Ｕｎｉｔ　４
６回目　　Ｕｎｉｔ　５
７回目　　Ｕｎｉｔ　６
８回目　　Ｕｎｉｔ１－６の復習及び理解度テスト
９回目　　Ｕｎｉｔ　７

１０回目　　Ｕｎｉｔ　８ １１回目　　Ｕｎｉｔ　９ １２回目　　Ｕｎｉｔ　１０ １３回目　　Ｕｎｉｔ　１１ １４回目　　Ｕｎｉｔ　１２ １５回目　　Ｕｎｉｔ７－１２の復習及び理解度テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068A69
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
授業概要	英語教育において外国語の習得理論に則った授業を行う事が何より大切であることは言うまでもない。学生の実力に合うように作成された教材を用いて、脳科学の考察を活動に取り入れる事により、英語を単なる大学の一教科ではなく身近な技能になるよう指導する。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	授業内で紹介する。		
教育方法	第 2 言語習得の方法に則り、英文を読む→英文の意味を日本語で理解→音読→プ?アウトプットの順で授業活動を行う。個人、グループなど、様々なパターンで 4 技の実践演習なども加え学習のバリア―を無くす試みをする。		
評価方法	・毎回 20 点満点のテスト（筆記、音読等）を行う。到達点を超える点数が必要。 ・クリアすべき到達点数に達しなかった学生は課題を提出し、それをもって点数をクリアしたと認める。 ・欠席者は該当授業の課題を提出する。 平常点：９０％ 音読等の授業参加:10% ・授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。		
到達目標	外国語の習得に欠かすことのできない 4 技能のうち、特に「読む」、「聞く」、を中心に指導する。学生は正しく読めて、聞いて理解し、暗唱等もできるようになる。		
授業時間外学習	1 課題につき、2 授業を 1 セットとする。2 授業目には筆記テスト（暗唱を確認する）を行うのでその準備をすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

これまで英語が苦手であったり、嫌いだったと言う学生が多いが、この授業で必ず英語に対する劣等感や嫌悪感を少なくする！と言う気合いをもって参加してほしい。

授業スケジュール

1.授業の進め方　日本的事象の説明
2.神社仏閣の参拝の仕方(1)
3.神社仏閣の参拝の仕方.(2)
4.都をどり(1)
5.都をどり(2)
6.八ッ橋(1)
7.八ッ橋(2)
8.禅(1)
9.禅(2)
10.祇園祭(1)
11.祇園祭(2)
12.大覚寺(1)
13.大覚寺(2)
14.銭湯
15.今期の復習および総評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JE0068A70
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 A
授業概要	英語教育において外国語の習得理論に則った授業を行う事が何より大切であることは言うまでもない。学生の実力に合うように作成された教材を用いて、脳科学の考察を活動に取り入れる事により、英語を単なる大学の一教科ではなく身近な技能になるよう指導する。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	授業内で紹介する。		
教育方法	第 2 言語習得の方法に則り、英文を読む→英文の意味を日本語で理解→音読→プ?アウトプットの順で授業活動を行う。個人、グループなど、様々なパターンで 4 技の実践演習なども加え学習のバリア―を無くす試みをする。		
評価方法	・毎回 20 点満点のテスト（筆記、音読等）を行う。到達点を超える点数が必要。 ・クリアすべき到達点数に達しなかった学生は課題を提出し、それをもって点数をクリアしたと認める。 ・欠席者は該当授業の課題を提出する。 平常点：９０％ 音読等の授業参加:10% ・授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。		
到達目標	外国語の習得に欠かすことのできない 4 技能のうち、特に「読む」、「聞く」、を中心に指導する。学生は正しく読めて、聞いて理解し、暗唱等もできるようになる。		
授業時間外学習	1 課題につき、2 授業を 1 セットとする。2 授業目には筆記テスト（暗唱を確認する）を行うのでその準備をすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

これまで英語が苦手であったり、嫌いだったと言う学生が多いが、この授業で必ず英語に対する劣等感や嫌悪感を少なくする！と言う気合いをもって参加してほしい。

授業スケジュール

1.授業の進め方　日本的事象の説明
2.神社仏閣の参拝の仕方(1)
3.神社仏閣の参拝の仕方.(2)
4.都をどり(1)
5.都をどり(2)
6.八ッ橋(1)
7.八ッ橋(2)
8.禅(1)
9.禅(2)
10.祇園祭(1)
11.祇園祭(2)
12.大覚寺(1)
13.大覚寺(2)
14.銭湯
15.今期の復習および総評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JE0068A72
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1〜7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068A73
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1〜7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068A74
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1〜7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068A76
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本講座の担当者が学生を鍛えるので英語力不問（本講座に来てから一生懸命勉強すれば良い）。英語の基本に自信がない場合は相談にも応じる。授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性がある。その都度担当者の指示を聞くように。

1. 仕事にとりかかろう ／Aspirin
2. ニュース／Ball-point pen
3. 最も重要な教え／Badminton
4. カメラの保証書／Blue Jeans
5. ハグが双子を救う／Bingo
6. パンケーキの作り方／Can Opener
7. 親友／Cellophane/ Comic Books
8. 1〜7 までの復習
9. 新しい言語を学ぼう／Chewing Gum
10. 本棚の組み立て方／Chess
11. 危険なドライブ／Doughnut
12. 獄中からのお手伝い／Credit Card
13. スペシャルコーヒー／Dominoes
14. 宿題の言い訳／Hot Dog
15. 9〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068A77
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	総合英語 A
授業概要	「総合英語 A」は、大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化を図りながら、英語コミュニケーションに必須の語彙や文法の知識をさらに多く習得して、英文の読解や聴解の力量を高めていく科目である。平易な総合英語教材を使用し、発表や課題をこなす演習に取り組んで「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力を固め、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある注意事項や通知などを理解できる英語力を身につけていく。 このクラスでは、英語圏に留学した際に想定される日常的なさまざまな場面でよく使われる英語表現の習得を軸として、各種の演習に取り組み、大学基礎レベルでの英語力の強化を図っていく。		
教材（教科書）	Kiyoshi Yukitoki, Junko Nagata & Antony J. Parker、First Time Studying Abroad （『初めての英会話コミュニケーション留学編』)、松柏社、1,900 円		
教材（参考資料）	1．ハンドアウト（プリント）教材 2．英和辞典などの英語の辞書		
教育方法	1．名簿順指名での発表： 名簿順に指名して問題への答えや音読などを求めていく。予習不足で直ぐに答えられない場合は「パス」とはっきり申し出ること。発表があれば、正誤に関わらず発表点を記録する。 2．指名に基づかない発表： クラス全体に問いかけることがある。その場合は、複数の受講生が一斉に答えてよい。所定（通常、小テスト）の用紙に、発表回数（1／3／5 回以上）を誠実に自主申告する。 3．小テスト用紙の提出： 通常、教科書のいずれかの演習問題を小テストとする。用紙は、出席の最終確認の用紙でもあるため、提出を怠ると欠席となる。 4．時間の都合上、授業では教科書の演習を省略することがある。		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに 2 回の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ 1 回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
授業時間外学習	各回とも、 1．出版社ホームページより音声データを各自ダウンロードし、再生して活用すること。 2．次回授業で取り扱う Unit を確認し、先ず Words & Phrases の問題を解く。 3．次に音声データを再生して聴き、Warm-up の空所を補充する。 4．同様に Exercises 1-4 も音声を聴き、英文を完成させたり、空所を補充したりした後、問題にも答えておく。 5．Challenge Corner の問題に取り組むのは時間に余裕がある場合でよいが、上記 2 ～ 4 の事前学習は必須である。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。必要な教材を持たずに授業出席することは認めない。 2．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。 3．可能な限り大きな声を出して英文を何度も音読し、諳んじられるようにすること。			

4．英検や TOEIC?などの英語資格試験の受験に挑戦すること。

授業スケジュール

１回の授業で１つの Unit を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 1: On Cloud Nine （飛行機内では）
2．Unit 2: San Francisco, Here I am! （到着後の空港では）
3．Unit 3: A Warm Welcome （日常会話＋SNS で）
4．Unit 4: Up and Down the Hills （日常会話－その２）
5．Unit 5: A Little Cold for Summer （日常会話－その３）
6．Unit 6: Now I'm a International Student （自己紹介では）
7．授業内課題１、Unit 7: I'd Like to Know a Bit More about You （お互いの出身地などを質問し合うには）
8．Unit 8: Getting Around La-La Land （日常会話－観光 その１）
9．Unit 9: You Sure Like sports! （日常会話－スポーツ）
10．Unit 10: At a Restaurant （レストランでは）
11．Unit 11: I'm Not Feeling Well （体調を崩したら）
12．Unit 12: Day Trip to San Diego and Tijuana （日常会話－観光 その２）
13．Unit 13: Let's Hit the Beach! （日常会話－観光 その３）
14．授業内課題２、Buying Gifts （ショッピングでは）
15．Unit 15: Farewell to My Friends （帰国する）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JE0068A78
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
授業概要	比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という４技能の活用力を養成する。この授業は日本語を第１言語とする人びとが間違いやすい英語表現を正すことを通して、読解やリスニング，特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（教科書）	Mark Thompson, Toshihiro Tanioka 著. Say It Right in English 『ネイティブが気になる日本人の英語』（英宝社 1900 円）		
教材（参考資料）	プリント、英和、和英、英英辞書など 。毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教育方法	必要に応じて音声 CD を使用します。講義は可能な限り簡単な英語で行い、難しいところは日本語で説明をします。質問や答えするときは間違いを恐れることなく英語で話すようにしてもらいます。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の文化紹介文等を通して生活に必要な常識と英語力を身につけます。		
授業時間外学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

授業スケジュール

次の各項目を、約１回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Mansion (be 動詞)
2. Unit 2: Repeater 〔動詞①（現在)〕
3. Unit 3: Talent 〔動詞②（過去・未来)〕
4. Unit 4: Service （助動詞）
5. Unit 5: OL & Businessman （進行形）
6. Unit 6: Challenge （受動態）
7. Unit 7: Claim （現在完了形）
8. Unit 8: Manner Up （不定詞）
9. Unit 9: I Cut My Hair （比較①）
10. Unit 10: Hearing & Listening （比較②）
11. Unit 11: Rent & Borrow （関係代名詞）
12. Unit 12: Trip, Tour, Travel （形容詞と副詞）

13.Unit 13: Customer, Guest, Client （分詞と動名詞）
14.Unit 14: Pay, Wage, Salary （前置詞）
15.Unit 15: Cost, Price, Fee, Fare （否定）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068A79
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 A
授業概要	比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という４技能の活用力を養成する。この授業では特に、日本語を第１言語とする人びとが間違いやすい英語表現を正すことを通して、読解やリスニング、英作文問題に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかる。また、基本的な文法事項の復習も行う。		
教材（教科書）	Mark Thompson, Toshihiro Tanioka 著. Say It Right in English. 『ネイティブが気になる日本人の英語』（英宝社，￥1900)。その他プリント教材		
教材（参考資料）	英和、和英、英英辞書など		
教育方法	授業は演習方式で進められる。毎回の授業で取り上げるトピックについてあらかじめ考えてきた意見を出し合った後、新出の語彙、長文読解、長文の内容に関する英語の問題、リスニング問題、内容に関するディスカッションという順番で進めてゆく。授業の最初、あるいは最後に復習／予習小テストを行うことがある。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただしこれは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではない。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につける。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につける。		
授業時間外学習	この授業では、前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行うことがある。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をすること。復習に十分な時間をかけて授業に臨むようにする。小テストには語彙、文法問題が含まれる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参する。テキストがないと、授業内の課題を行うことができない。テキストを持参しなかった場合は減点する。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参すること。携帯電話の辞書機能を授業中に使用することはできない。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用すること。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修する。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験すること。

授業スケジュール

次の各項目を、約 1 回の授業で学習する。但し、授業の進度によって変更になることがある。授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行うことがある。

1. Unit 1: Mansion （be 動詞）
2. Unit 2: Repeater 〔動詞①（現在)〕
3. Unit 3: Talent 〔動詞②（過去・未来)〕
4. Unit 4: Service （助動詞）
5. Unit 5: OL & Businessman （進行形）
6. Unit 6: Challenge （受動態）
7. Unit 7: Claim （現在完了形）
8. Unit 8: Manner Up （不定詞）
9. Unit 9: I Cut My Hair （比較①）
10. Unit 10: Hearing & Listening （比較②）
11. Unit 11: Rent & Borrow （関係代名詞）

12.Unit 12: Trip, Tour, Travel （形容詞と副詞）
13.Unit 13: Customer, Guest, Client （分詞と動名詞）
14.Unit 14: Pay, Wage, Salary （前置詞）
15.Unit 15: Cost, Price, Fee, Fare （否定）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	JE0068A80
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
授業概要	比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という４技能の活用力を養成する。この授業は日本語を第１言語とする人びとが間違いやすい英語表現を正すことを通して、読解やリスニング，特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（教科書）	Mark Thompson, Toshihiro Tanioka 著. Say It Right in English 『ネイティブが気になる日本人の英語』（英宝社 1900 円）		
教材（参考資料）	プリント、英和、和英、英英辞書など 。毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教育方法	必要に応じて音声 CD を使用します。講義は可能な限り簡単な英語で行い、難しいところは日本語で説明をします。質問や答えするときは間違いを恐れることなく英語で話すようにしてもらいます。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の文化紹介文等を通して生活に必要な常識と英語力を身につけます。		
授業時間外学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

授業スケジュール

次の各項目を、約１回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Mansion (be 動詞)
2. Unit 2: Repeater 〔動詞①（現在)〕
3. Unit 3: Talent 〔動詞②（過去・未来)〕
4. Unit 4: Service （助動詞）
5. Unit 5: OL & Businessman （進行形）
6. Unit 6: Challenge （受動態）
7. Unit 7: Claim （現在完了形）
8. Unit 8: Manner Up （不定詞）
9. Unit 9: I Cut My Hair （比較①）
10. Unit 10: Hearing & Listening （比較②）
11. Unit 11: Rent & Borrow （関係代名詞）
12. Unit 12: Trip, Tour, Travel （形容詞と副詞）

13.Unit 13: Customer, Guest, Client （分詞と動名詞）
14.Unit 14: Pay, Wage, Salary （前置詞）
15.Unit 15: Cost, Price, Fee, Fare （否定）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068A81
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	総合英語 A
授業概要	「総合英語 A」は、大学入学時までに培った基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化を図りながら、英語コミュニケーションに必須の語彙や文法の知識をさらに多く習得して、英文の読解や聴解の力量を高めていく科目である。平易な総合英語教材を使用し、発表や課題をこなす演習に取り組んで「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能の基礎力を固め、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある注意事項や通知などを理解できる英語力を身につけていく。 このクラスでは、元々の意味とは違う意味で日本人が用いている「英語」本来の意味や表現を学ぶことを契機として、各種の演習を行い、大学基礎レベルでの英語力の強化を図っていく。		
教材（教科書）	Mark Thompson & Toshihiro Tanioka、Say It Right in English （『ネイティブが気になる日本人の英語』)、英宝社、1,900 円		
教材（参考資料）	1．ハンドアウト（プリント）教材 2．英和辞典などの英語の辞書		
教育方法	1．名簿順指名での発表： 名簿順に指名して問題への答えや音読などを求めていく。予習不足で直ぐに答えられない場合は「パス」とはっきり申し出ること。発表があれば、正誤に関わらず発表点を記録する。 2．指名に基づかない発表： クラス全体に問いかけることがある。その場合は、複数の受講生が一斉に答えてよい。所定（通常、小テスト）の用紙に、発表回数（1／3／5 回以上）を誠実に自主申告する。 3．小テスト用紙の提出： 通常、教科書のいずれかの演習問題を小テストとする。用紙は、出席の最終確認の用紙でもあるため、提出を怠ると欠席となる。 4．時間の都合上、授業では教科書の演習を省略することがある。		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに 2 回の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ 1 回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	1．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 2．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
授業時間外学習	各回とも、 1．出版社ホームページより音声データを各自ダウンロードし、再生して活用すること。 2．次回授業で取り扱う Unit を確認し、その Passage の音声を聴いた後、何十回も音読する。 3．音声を聴き、Listening Comprehension の問題を解く。 4．Writing Exercise の 1〜3 の問題を解く。 5．「ミニ英会話」の音声を聴き、A または B になり切って対話練習を行う。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。必要な教材を持たずに授業に出席することは断じて認めない。 2．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。 3．英検や TOEIC?などの英語資格試験の受験に挑戦するとよい。			
授業スケジュール			

１回の授業で１つの Unit を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 1: Mansion、be 動詞
2．Unit 2: Repeater、動詞①（現在）
3．Unit 3: Talent、動詞②（過去、未来）
4．Unit 4: Service、助動詞
5．Unit 5: OL & Businessman、進行形
6．授業内課題１、Unit 6: Challenge、受動態
7．Unit 7: Claim、現在完了
8．Unit 8: Manner Up、不定詞
9．Unit 9: I Cut My Hair、比較①
10．Unit 10: Hearing & Listening、比較②
11．Unit 11: Rent & Borrow、関係代名詞
12．Unit 12: Trip, Tour, Travel、形容詞と副詞
13．授業内課題、Unit 13: Customer, Guest, Client、分詞と動名詞
14．Unit 14: Pay, Wage, Salary、前置詞
15．Unit 15: Cost, Price, Fee, fare、否定

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	–	–	–	★	★

年度	2018	授業コード	JE0068A82
科目名	総合英語 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English A		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
授業概要	比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という４技能の活用力を養成する。この授業は日本語を第１言語とする人びとが間違いやすい英語表現を正すことを通して、読解やリスニング，特に英語文法の基礎、構文の理解を促すことを主眼にします。文法学習が英語のコミュニケーション力の修得を妨げているという主張がありますが、英語のルールを学ぶことは、コミュニケーション力を向上させるうえでの土台となるものであり、その土台がなければ、コミュニケーション力の向上もありえません。そのため、この授業では、英語の文法と構文の理解という正しい土台をしっかり身につけることを目指します。		
教材（教科書）	Mark Thompson, Toshihiro Tanioka 著. Say It Right in English 『ネイティブが気になる日本人の英語』（英宝社 1900 円）		
教材（参考資料）	プリント、英和、和英、英英辞書など 。毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教育方法	必要に応じて音声 CD を使用します。講義は可能な限り簡単な英語で行い、難しいところは日本語で説明をします。質問や答えするときは間違いを恐れることなく英語で話すようにしてもらいます。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこれは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の文化紹介文等を通して生活に必要な常識と英語力を身につけます。		
授業時間外学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

授業スケジュール

次の各項目を、約１回の授業で学習します。但し、授業の進度によって変更になることがあります。ほぼ毎回、授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行います。

1. Unit 1: Mansion (be 動詞)
2. Unit 2: Repeater 〔動詞①（現在)〕
3. Unit 3: Talent 〔動詞②（過去・未来)〕
4. Unit 4: Service （助動詞）
5. Unit 5: OL & Businessman （進行形）
6. Unit 6: Challenge （受動態）
7. Unit 7: Claim （現在完了形）
8. Unit 8: Manner Up （不定詞）
9. Unit 9: I Cut My Hair （比較①）
10. Unit 10: Hearing & Listening （比較②）
11. Unit 11: Rent & Borrow （関係代名詞）
12. Unit 12: Trip, Tour, Travel （形容詞と副詞）

13.Unit 13: Customer, Guest, Client （分詞と動名詞）
14.Unit 14: Pay, Wage, Salary （前置詞）
15.Unit 15: Cost, Price, Fee, Fare （否定）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068B03
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	映画の中に出てくる食文化や食べ物を通して、 映画を楽しみながら英語の基礎的な語彙、読解、文法、英作の力を伸ばす。 また食文化を通して海外の文化への理解を深める.。		
教材（教科書）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著 『A Flavor of English: Cinema and Cuisine』（映画で味わう食文化） 朝日出版社 ￥１，７００ プリントを使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。 Chapter によっては一部ＤＶＤで関連部分を鑑賞する。		
評価方法	理解度テスト(（中間・期末）の平均点　　（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉　（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	各課の要点となる文法事項の理解を基礎にして、読解、語彙、英作等の英語の総合力を向上させる。 また食に対する海外の人々との共通点・相違点も味わってもらいたい。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・語彙を学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成し、リーディングの訳を書く。 ３　練習問題をする		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
授業スケジュール			
１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明 １回目は Chapter 1 の Vocabulary, Grammar に目を通しておいて下さい。 すべての Chapter はできないので、クラスで希望の多いものからやっていく。 ３回目以降は未定なので、下の計画表は暫定的なものとと承知しておいて下さい。 ２回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　前半 ３回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　後半 ４回目　　Chapter 4　かもめ食堂前半 ５回目　　Chapter 4　かもめ食堂後半 ６回目　　Chapter 7　No Reservations　前半			

7回目　　Chapter 7　No Reservations　後半 8回目　　ここまでの復習及び理解度テスト（中間） 9回目　　Chapter 8　Dear Frankie　前半 １０回目　Chapter 8　Dear Frankie　後半 １１回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　前半 １２回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　後半 １３回目　Chapter11 Everybody’s Fine　前半 １４回目　Chapter11 Everybody’s Fine　後半 １５回目　ここまでの復習及び理解度テスト（期末）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JE0068B51
科目名	総合英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	古木　圭子	旧科目名称	総合英語 B
授業概要	「総合英語 Ⅰ」に引き続き、比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成する。本授業では特に、イギリスの文化やしきたりについて学びながら、英語の長文読解、リスニング、英作文の問題演習に取り組み、英語コミュニケーション力の向上をはかる。		
教材（教科書）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円. その他プリント教材.		
教材（参考資料）	毎回の授業に必ず辞書（英和・和英など）を持参すること。電子辞書も可。ただし、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできない。 その他授業中に指示する。		
教育方法	授業は演習方式で進められる。毎回の授業で取り上げるトピックについてあらかじめ考えてきた意見を出し合った後、平易な英語のダイアログに関するリスニング問題、英語の長文読解、長文の内容に関する英語の問題という順番で進めてゆく。授業の最初、あるいは最後に復習／予習小テストを行うことがある。		
評価方法	授業内テスト（小テストを含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価する。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。ただしこれは、3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではない。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につける。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を養う。		
授業時間外学習	この授業では、前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行うことがある。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をすること。復習に十分な時間をかけて授業に臨むようにする。小テストは語彙、文法問題を含む。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参する。テキストがないと、授業内の課題を行うことができない。テキストを　持参しなかった場合は減点とする。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参すること。携帯電話の辞書機能を授業中に
　使用することはできない。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用すること。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修する。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験すること。

授業スケジュール

以下の各項目を約 1 回の授業で学習する。ただし、授業の進度によって変更になることがある。

1. Introduction / Day 1 I Can’t Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2 How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3 The Scenery Is Breathtaking, Isn’t It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4 What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5 This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6 What’s It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7 Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8 You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9. Day 9　It’s Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10 Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11 I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」

12. Day 12 I’m Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13 Don’t You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14 Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15 That’s the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JE0068B52
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	多くの人が関心を持つ食文化や食べ物に関する英文を読み、基礎的なリーディング力、語彙力、ライティング力 を獲得することを目指す。		
教材（教科書）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著 『A Taste of English:　Food and Fiction』（フィクションにみる食文化） 朝日出版社 ￥１，７００ プリントを使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。 Chapter によっては一部ＤＶＤで関連部分を鑑賞する。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な単語、文法事項を学習し、読解、語彙、英作等の英語の総合力を向上させる。食文化を通して海外の文化への理解を深める。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
授業スケジュール			
１回目 テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。すべては出来ないので、クラスで希望の多い Chapter からやる。 以下各回の内容を記すが、進度・課は大幅に変わる可能性があるので あくまで暫定的なものと承知しておいてもらいたい。 ２回目 Chapter1　Harry Potter and Chocolate Frogs　本文、他の練習問題 ３回目 Chapter2 Peter Rabbit and Pie　　語彙・文法 Chapter 3 Mrs. Rabbit and Herb Tea　　語彙・文法と本文 ４回目 Chapter 3　本文残りと他の練習問題			

Chapter 4 Winnie-the-Pooh and Honey　語彙・文法と本文

５回目
Chapter 4　本文残りと他の練習問題
Chapter5　 Daddy-Long-Legs and Ice Cream の語彙・文法と本文

６回目
Chapter 5　本文残りと他の練習問題
Chapter 6　Kenji Miyazawa and Tomatoes の語彙・文法と本文

７回目
Chapter 6 の本文残りと他の練習問題

８回目
Chapter 1-6 の復習と理解度テスト

９回目
Chapter 9　East of Eden and Lettuce　 Chapter9 の語彙・文法と本文

１０回目
Chapter 9 の本文残りと他の練習問題
Chapter 10 Laura and Cheese-Making on the Prairie の語彙・文法と本文

１１回目
Chapter 10 の本文残りと他の練習問題
Chapter 11 Breakfast and Tiffany's の語彙・文法と本文

１２回目
Chapter11 の本文残りと他の練習問題
Chapter 12 "Mujina" and "Soba"の語彙・文法と本文

１３回目
Chapter12 の本文残りと他の練習問題
Chapter 13 Bridget Jones and Dieting の語彙・文法と本文

１４回目
Chapter 13 の本文残りと他の練習問題

１５回目
Chapter　８－１３の復習と理解度テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JE0068B53
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	多くの人が関心を持つ食文化や食べ物に関する英文を読み、基礎的なリーディング力、語彙力、ライティング力 を獲得することを目指す。		
教材（教科書）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著 『A Taste of English:　Food and Fiction』（フィクションにみる食文化） 朝日出版社 ￥１，７００ プリントを使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。 Chapter によっては一部ＤＶＤで関連部分を鑑賞する。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な単語、文法事項を学習し、読解、語彙、英作等の英語の総合力を向上させる。食文化を通して海外の文化への理解を深める。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

授業スケジュール

１回目
テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。
Chapter 1 の Grammar&Vocabulary は進む予定なのでやっておいてもらいたい。
すべては出来ないので、クラスで希望の多い Chapter からやる。
以下各回の内容を記すが、進度・課は大幅に変わる可能性があるので
あくまで暫定的なものと承知しておいてもらいたい。

２回目
Chapter1　Harry Potter and Chocolate Frogs　本文、他の練習問題

３回目

Chapter2　Peter Rabbit and Pie　　語彙・文法
Chapter 3　Mrs. Rabbit and Herb Tea　　語彙・文法と本文

４回目
Chapter 3　本文残りと他の練習問題
Chapter 4　Winnie-the-Pooh and Honey　語彙・文法と本文

５回目
Chapter 4　本文残りと他の練習問題
Chapter5　 Daddy-Long-Legs and Ice Cream の語彙・文法と本文

６回目
Chapter 5　本文残りと他の練習問題
Chapter 6　Kenji Miyazawa and Tomatoes の語彙・文法と本文

７回目
Chapter 6 の本文残りと他の練習問題

８回目
Chapter 1-6 の復習と理解度テスト

９回目
Chapter 9　East of Eden and Lettuce　 Chapter9 の語彙・文法と本文

１０回目
Chapter 9 の本文残りと他の練習問題
Chapter 10 Laura and Cheese-Making on the Prairie の語彙・文法と本文

１１回目
Chapter 10 の本文残りと他の練習問題
Chapter 11　Breakfast and Tiffany's の語彙・文法と本文

１２回目
Chapter11 の本文残りと他の練習問題
Chapter 12 "Mujina" and "Soba"の語彙・文法と本文

１３回目
Chapter12 の本文残りと他の練習問題
Chapter 13 Bridget Jones and Dieting の語彙・文法と本文

１４回目
Chapter 13 の本文残りと他の練習問題

１５回目
Chapter　８－１３の復習と理解度テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	★	★★	–

年度	2018	授業コード	JE0068B60
科目名	総合英語B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	総合英語 A に引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検や TOEIC の教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7 までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068B62
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	藤田　佳信	旧科目名称	
授業概要	総合英語Ｉを発展させた形で授業を行う。平易な総合英語教材「クリティカル・シンキングのすすめ」を用いて、＜読む･書く･聞く･話す＞４技能の基礎力をさらに向上させる。日本人と外国人の会話の Dictation で、英語独特の音声変化に慣れながら、＜聞く･話す＞の力を養う。続く Reading を読み、“Critical Thinking” のヒントを得ながら、＜読む・書く＞の力を養う。そのヒントを補強するために、様々な Exercises があり、英作文や語彙、文法の力を増強する。		
教材（教科書）	An Invitation to Critical Thinking 南雲堂 1,900＋税。 テキスト各章の本文を、学生は単語の意味と発音の下調べ、本文の黙読・音読など、毎回予習しておく。授業では、本文の読解を中心に進め、本文理解を確認するため、学生は各章の設問に沿って、解答を記述する。学生は、講義内容のポイントをノートに取り、ノートの記述内容を参照しながら、テキストの重要事項を復習する。参考資料など、授業中に適宜プリントを配布する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。テキスト各章の本文を、リスニング（ＣＤのネイティブ・スピーカーの音声を聞く）、学生自身の黙読と音読により理解したうえで、理解度確認のために、学生はテキストの設問に答えを記入し、教員の求めに応じて発表する。講義と学生自身の予習・復習の成果を確認するために、学期を前半と後半に分けて、小テストを行う。		
評価方法	授業中の、積極的な学習態度（しっかり英語の声を出す等 10%）・発表（10%）・小テスト２回（各 10%）・課題（10%）などによる平常点（合計 50%）、定期テスト（50%）。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となる。（３分の２以上の出席があれば、必ず合格という意味ではない。）		
到達目標	学生は英語の４技能の習得により、実際の場面でのコミュニケーション力をさらに向上させることができる。 反復練習により英語音声を聞きとる力を得ることが出来る。しっかり英語の声を出せるようになる。		
授業時間外学習	毎回指示するページ項目の予習と復習の課題を完成させる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

積極的な態度で授業に参加する。しっかり声を出す。テキストと筆記具を必ず持参する。遅刻・無断退出・居眠り・私語・スマホ操作・飲食・英語以外の作業など等は厳禁。

授業スケジュール

1．What is Critical Thinking? ストレッチ式「ネイティブ発音」について
2．Write Your Problems on a Note Pad 日本語にない音（１）
3．Media Literacy: Don’t Believe Everything the Media Say! 日本語にない音（２）
4．The Spirit of Wa (Harmony) まぎらわしい音の区別（１）
5．Xenophobia まぎらわしい音の区別（２）
6．Telephone Message Game まぎらわしい音の区別（３）
7． Analyze Your Pattern of Thinking まぎらわしい音の区別（４）
8．The Difference between Fact and Opinion 語頭と語尾で違って聞こえる音
9．The Pitfalls of the English Language つづりと発音（１）
10. What Is Your Blood Type? つづりと発音（１）
11. Gender Bias ポーズ（pause）のとり方
12. Skepticism イントネーション
13. Life after Trauma: PTSD and PTG 発音のまとめ（１）
14. How to Make a Persuasive Presentation 発音のまとめ（２）
15. Facing Ambiguity 発音のまとめ（３）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JE0068B63
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ⅰ」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という4技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語Ⅰ」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（教科書）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る15日間の旅』金星堂. 1900円.		
教材（参考資料）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教育方法	必要に応じて音声CDを使用します。講義は可能な限り簡単な英語で行い、難しいところは日本語で説明をします。質問や答えするときは間違いを恐れることなく英語で話すようにしてもらいます。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこ　れは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である1,500語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
授業時間外学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

授業スケジュール

以下の各項目を約１回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068B64
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ⅰ」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という4技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語Ⅰ」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（教科書）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る15日間の旅』金星堂. 1900円.		
教材（参考資料）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教育方法	必要に応じて音声CDを使用します。講義は可能な限り簡単な英語で行い、難しいところは日本語で説明をします。質問や答えするときは間違いを恐れることなく英語で話すようにしてもらいます。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこ　れは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である1,500語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
授業時間外学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

授業スケジュール

以下の各項目を約１回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068B66
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	総合英語 B
授業概要	「総合英語Ａ」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる増強をはかり、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の４技能の基礎力をさらに発展させる。「総合英語Ａ」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力をさらに向上させることを目指す。 このクラスでは、日本の名所や文化、行事などを外国人に紹介する実践的な英語を題材として演習を行い、４技能の基礎力をさらに高めていく。		
教材（教科書）	Carolyn Wright et al.、Hospitality English （『おもてなしの観光英語』）、三修社、1,800 円		
教材（参考資料）	１．ハンドアウト（プリント）教材 ２．英和辞典などの英語の辞書		
教育方法	１．名簿順指名での発表： 名簿順に指名して問題への答えや音読などを求めていく。予習不足で直ぐに答えられない場合は「パス」とはっきり申し出ること。発表があれば、正誤に関わらず発表点を記録する。 ２．指名に基づかない発表： クラス全体に問いかけることがある。その場合は、複数の受講生が一斉に答えてよい。所定（通常、小テスト）の用紙に、発表回数（１／３／５回以上）を誠実に自主申告する。 ３．小テスト用紙の提出： 通常、教科書のいずれかの演習問題を小テストとする。用紙は、出席の最終確認の用紙でもあるため、提出を怠ると欠席となる。 ４．時間の都合上、授業では教科書の演習を省略することがある。		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに２回の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ１回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	１．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 ２．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解力や聴解力が向上し、口頭や文章で伝達する力が身につく。		
授業時間外学習	各回とも、 １．教科書に記載のサイトより音声ファイルをダウンロードし、再生して活用する。これは必須である。 ２．次回授業で取り扱う Lesson を確認し、音声を聴いた後、その Reading を何十回も音読する。 ３．次に T/F の問題に答えておく。 ４．さらに Exercises 1-3 の問題にも答えておく。特に Dialogue の空所を補充しておくこと。 ５．時間の都合上、Cultural Questions の授業内演習を省略するが、小テスト問題には利用することがある。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。必要な教材を持たずに授業出席することは断じて認めない。 ２．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。 ３．可能な限り大きな声を出して英文を何度も音読し、諳んじられるようにすること。 ４．英検や TOEIC?などの英語資格試験の受験に挑戦すること。			

授業スケジュール
１回の授業で１つの Lesson を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。教科書の Contents とは順序が異なる回があるので注意。 １．演習概要と評価方法に関する説明、Lesson 1: An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan! ２．Lesson 2: Preparations for the 2020 Olympic Games in Tokyo ３．Lesoon 3: Do You Like to Watch Kabuki? ４．Lesson 4: The Sapporo Snow Festival ５．Lesson 6: Yokohama Port ６．Lesson 7: Mt. Fuji ７．授業内課題１、Lesson 5: Hiraizumi as the Buddhist Pure Land ８．Lesson 8: Omi Province and Its Military History ９．Lesson 9: The Deer in Nara 10．Lesson 10: Kyoto Sation 11．Lesson 11: Let’s Explore Osaka 12．Lesson 12: Port City Kobe: A Phoenix Rises 13．Lesson 13: Sand Dunes in Tottori 14．授業内課題２、Lesson 16: The Shimazu Clan and Satsuma Culture 15．Lesson 14: The Atomic Bomb Dome

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2018	授業コード	JE0068B68
科目名	総合英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	総合英語 A に引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検や TOEIC の教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7 までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068B69
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ａ」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる増強をはかり、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の４技能の基礎力をさらに発展させる。「総合英語Ａ」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力をさらに向上させることを目指す。 このクラスでは、英語に馴染むことを第一目的として音読を軸とした演習を行うとともに、併せて基本英文法の復習をしながらも将来のビジネスの現場で多少とも役立つ英語表現の習得を図っていく。		
教材（教科書）	Teruhiko Kadoyama & Simon Capper、Let's Read Aloud More!　(『音読で極める基礎英語』)、成美堂、2,200 円		
教材（参考資料）	１．ハンドアウト（プリント）教材 ２．英和辞典などの英語の辞書		
教育方法	１．名簿順指名での発表： 名簿順に指名して問題への答えや音読などを求めていく。予習不足で直ぐに答えられない場合は「パス」とはっきり申し出ること。発表があれば、正誤に関わらず発表点を記録する。 ２．指名に基づかない発表： クラス全体に問いかけることがある。その場合は、複数の受講生が一斉に答えてよい。所定（通常、小テスト）の用紙に、発表回数（１／３／５回以上）を誠実に自主申告する。 ３．小テスト用紙の提出： 通常、教科書のいずれかの演習問題を小テストとする。用紙は、出席の最終確認の用紙でもあるため、提出を怠ると欠席となる。 ４．時間の都合上、授業では教科書の演習を省略することがある。		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに２回の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ１回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	１．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 ２．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および口頭や文章で伝達する力を身につける。		
授業時間外学習	各回とも、 １．音声ファイルについては、教科書に記載のサイトよりダウンロードし、再生して活用する。 ２．WARM-UP では、Vocabulary Preview の問題に解答し、かつ、Grammar Point をよく読んでおく。 ３．次は GRAMMAR の頁に進み、A と B の問題だけは解いておく。 ４．LET'S CHECK & READ ALOUD! の頁に戻り、音声を聴いて空所を補充する。 ５．最後に LET'S READ! の頁で、枠内の英文（パッセージ）を何十回も音読する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。必要な教材を持たずに授業出席することは断じて認めない。
２．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。
３．可能な限り大きな声を出して英文を何度も音読し、諳んじられるようにすること。
４．英検や TOEIC?などの英語資格試験の受験に挑戦すること。

授業スケジュール
１回の授業で１つのＵｎｉｔ を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。 １．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 01: This is my first visit there. 、現在形・過去形１ ２．Unit 02: How do you like Bangkok?、現在形・過去形２ ３．Unit 03: It's going well so far.、進行形・未来形 ４．Unit 04: Have they decided on the design yet?、現在完了形 ５．Unit 05: Could you take a look at them?、助動詞 ６．Unit 06: My flight was cancelled.、受動態 ７．授業内課題１、Unit 07: What do you want me to do?、不定詞 ８．Unit 08: She knows marketing very well.、関係詞１ ９．Unit 09: Thank you for coming to our interview.、動名詞 10．Unit 10: The competition will be very strong.、形容詞・副詞 11．Unit 11: This is where we hold meetings.、関係詞２ 12．Unit 12: I'd like to talk about our latest model.、分詞 13．Unit 13: You are much better than me.、比較 14．授業内課題２、Unit 14: If I were you, I wouldn't miss it.、仮定法 15．Unit 15: I'd like to propose a toast.、接続詞・前置詞

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	★	－

年度	2018	授業コード	JE0068B70
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	中山　大輝	旧科目名称	
授業概要	「総合英語 A」を発展させたこの授業では、平易な総合英語教材を使用し、基礎的な語彙力、文法力、読解力の定着化を図るとともに、「読む、書く、聞く、話す」の４技能を総合的に養成します。音声 CD を使用してリスニング問題に取り組み、「聞く」能力を向上させながら、リスニングのポイントをおさえます。また、少し長めの文章を読み、内容を理解し、要約できるようにします。そして、ペアワークやディスカッションなどの活動に取り組むことにより、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指します。		
教材（教科書）	熊澤孝昭、靜哲人、望月正道（著）『AMBITIONS: Pre-intermediate』、金星堂 ISBN:978-4-7647-4055-6		
教材（参考資料）	授業中に適宜、指示します。 毎回の授業に、辞書（英和・和英など）と文法書を持参してください。ただし、携帯電話、スマートフォンを辞書として使用することはできません。		
教育方法	授業中に音声 CD を使用します。 また、この授業は主に演習方式で進められ、一部ペアワークやグループディスカッションなどが行われます。		
評価方法	以下の基準に基づいて総合的に評価します。 （１）平常点（授業内小テストや授業への積極的参加など）：４５点 （２）定期試験：５５点 ただし、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は、５９点以下の不合格となります。		
到達目標	講義概要で記載した内容に即して、以下の内容ができるようになることを目指します。 （１）少し長めの文章を理解し、要約できるようになる （２）ダイアログなどの会話が聞き取れるようになる （３）自分の意見を英語で書けるようになる （４）（３）で書いた内容を英語で話せるようになる		
授業時間外学習	詳しい予復習の方法は授業内で指示しますが、この授業では毎回の授業開始時に前回の授業内容の確認テスト（授業内小テスト）を行いますので、授業で学習した内容の復習をしてください。また、予習として、次回授業時に扱う UNIT の指示された範囲をあらかじめ解答しておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（１）語学学習には継続的な学習が不可欠です。欠席や遅刻は極力しないでください。
（２）この授業では、毎週予習課題を指示するとともに、授業開始時に前回の授業内容の確認テスト（授業内小テスト）を行います。継続的な予復習に努めてください。
（３）教材（参考文献）欄に記載したように、毎回の授業に辞書（英和・和英など）と文法書を持参してください。なお、文法書は高等学校で使用したものでも構いません。
（４）（１）で記載したように、当科目のみならず、英語の勉強を自主的に行ってください。
（５）TOEIC や実用英語技能検定など、外部検定試験を積極的に受験してください。

授業スケジュール

各項目を、約１回の授業で消化していきます。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。初回授業時に具体的な予復習の方法を指示しますので、初回授業時に教科書を持参してくることを強く推奨します。

Unit 1: Cross-Cultural Understanding
仮主語 it / 強く発音される語を聞き取る
Unit 2: Foods
後置修飾 / 語順のまま理解する
Unit 3: Foreign Language Learning
仮定法 / 消える t と d を聞き取る
Unit 4: Sports

並列① / 弱い can を聞き取る
Unit 5: Fashion
並列② / 弱い that を聞き取る
Unit 6: Living Things
多義語 / n でつながる語句を聞き取る
Unit 7: Art
未知単語の推測① / 弱い of を聞き取る
Unit 8: Global Issues
未知単語の推測② / 対比による強調
Unit 9: Japanese Culture
代名詞の指示内容 / 話の展開の予測
Unit 10: Human Rights
同意表現 / のみこまれる dn を聞き取る
Unit 11: Health & Medical Issues
談話標識 / 似た音の聞き分け
Unit 12: Environmental Issues
文章展開の予測① / 強弱のリズム
Unit 13: Economy & Industry
文章展開の予測② / t でつながる語句を聞き取る
Unit 14: Legal Issues
文章展開の予測③ / 弱い for を聞き取る
Unit 15: Science & Technology
全体の要点の把握 / r でつながる語句を聞き取る

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	−	−	★	★

年度	2018	授業コード	JE0068B72
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	映画の中に出てくる食文化や食べ物を通して、 映画を楽しみながら英語の基礎的な語彙、読解、文法、英作の力を伸ばす。 また食文化を通して海外の文化への理解を深める.。		
教材（教科書）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著 『A Flavor of English: Cinema and Cuisine』（映画で味わう食文化） 朝日出版社 ￥１，７００ プリントを使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。 Chapter によっては一部ＤＶＤで関連部分を鑑賞する。		
評価方法	理解度テスト(（中間・期末）の平均点　　（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉　（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。 （３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない）		
到達目標	各課の要点となる文法事項の理解を基礎にして、読解、語彙、英作等の英語の総合力を向上させる。 また食に対する海外の人々との共通点・相違点も味わってもらいたい。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　各課で学ぶ文法項目・語彙を学習し理解する ２　自分の学習ノートを作成し、リーディングの訳を書く。 ３　練習問題をする		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。			
授業スケジュール			
１回目　　テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明 １回目は Chapter 1 の Vocabulary, Grammar に目を通しておいて下さい。 すべての Chapter はできないので、クラスで希望の多いものからやっていく。 ３回目以降は未定なので、下の計画表は暫定的なものとと承知しておいて下さい。 ２回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　前半 ３回目　　Chapter 1　Kramer vs. Kramer　後半 ４回目　　Chapter 4　かもめ食堂前半 ５回目　　Chapter 4　かもめ食堂後半 ６回目　　Chapter 7　No Reservations　前半			

7回目　　Chapter 7　No Reservations　後半 8回目　　ここまでの復習及び理解度テスト（中間） 9回目　　Chapter 8　Dear Frankie　前半 １０回目　Chapter 8　Dear Frankie　後半 １１回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　前半 １２回目　Chapter10 Charlie and the Chocolate Factory　後半 １３回目　Chapter11 Everybody’s Fine　前半 １４回目　Chapter11 Everybody’s Fine　後半 １５回目　ここまでの復習及び理解度テスト（期末）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JE0068B73
科目名	総合英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	総合英語 A に引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検や TOEIC の教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7 までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068B74
科目名	総合英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	総合英語 A に引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検や TOEIC の教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7 までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068B75
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 B
授業概要	英語教育において外国語の習得理論に則った授業を行う事が何より大切であることは言うまでもない。学生の実力に合うように作成された教材を用いて、脳科学の考察を活動に取り入れる事により、英語を単なる大学の一教科ではなく身近な技能になるよう指導する。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	授業内で紹介する。		
教育方法	第 2 言語習得の方法に則り、英文を読む→英文の意味を日本語で理解→音読→プ?アウトプットの順で授業活動を行う。個人、グループなど、様々なパターンで 4 技の実践演習なども加え学習のバリア―を無くす試みをする。		
評価方法	・毎回 20 点満点のテスト（筆記、音読等）を行う。到達点を超える点数が必要。 ・クリアすべき到達点数に達しなかった学生は課題を提出し、それをもって点数をクリアしたと認める。 ・欠席者は該当授業の課題を提出する。 平常点：90% 音読等の授業参加:10% ・授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	外国語の習得に欠かすことのできない 4 技能のうち、特に「読む」、「聞く」、を中心に指導する。学生は正しく読めて、聞いて理解し、暗唱等もできるようになる。		
授業時間外学習	1 課題につき、2 授業を 1 セットとする。2 授業目には筆記テスト（暗唱を確認する）を行うのでその準備をすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

これまで英語が苦手であったり、嫌いだったと言う学生が多いが、この授業で必ず英語に対する劣等感や嫌悪感を少なくする！と言う気合いをもって参加してほしい。

授業スケジュール

1.授業の進め方　日本的事象の説明
2.日本の生活(1)
3.日本の生活(2)
4.舞妓(1)
5.舞妓(2)
6.日本料理'(1)
7.日本料理(2)
8.稲荷大社(1)
9.稲荷大社(2)
10.京都御所(1)
11.京都御所(2)
12.日本酒(1)
13.日本酒(2)
14.将棋
15.今期の復習および総評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JE0068B76
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ⅰ」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という4技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語Ⅰ」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（教科書）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る15日間の旅』金星堂. 1900円.		
教材（参考資料）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教育方法	必要に応じて音声CDを使用します。講義は可能な限り簡単な英語で行い、難しいところは日本語で説明をします。質問や答えするときは間違いを恐れることなく英語で話すようにしてもらいます。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。ただしこ　れは、３分の２以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である1,500語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
授業時間外学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

授業スケジュール

以下の各項目を約１回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「８月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068B77
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	浜田　史子	旧科目名称	
授業概要	多くの人が関心を持つ食文化や食べ物に関する英文を読み、基礎的なリーディング力、語彙力、ライティング力を獲得することを目指す。		
教材（教科書）	フィオナ・ウォール・ミナミ他著 『A Taste of English:　Food and Fiction』（フィクションにみる食文化） 朝日出版社 ￥１，７００ プリントを使用することもある。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学生の予習・発表を中心に授業は進められる。 Chapter によっては一部ＤＶＤで関連部分を鑑賞する。		
評価方法	理解度テストの平均点（６０％） 平常点〈授業への積極参加・提出物・小テスト等〉（４０％） 全授業回数の３分の２以上の出席がない場合は５９点以下の不合格となる ３分の２以上の出席があった場合は必ず合格という意味ではない		
到達目標	基礎的な単語、文法事項を学習し、読解、語彙、英作等の英語の総合力を向上させる。食文化を通して海外の文化への理解を深める。		
授業時間外学習	毎回の授業の進む範囲を予習 １　新しい語句を調べる ２　自分の訳文ノートを作成する ３　練習問題をする		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

準備学習をしっかりやって、授業には積極的に参加してもらいたい。

授業スケジュール

１回目
テキストの内容、授業の進め方、成績評価について説明。すべては出来ないので、クラスで希望の多い Chapter からやる。
以下各回の内容を記すが、進度・課は大幅に変わる可能性があるので
あくまで暫定的なものと承知しておいてもらいたい。
２回目
Chapter1　Harry Potter and Chocolate Frogs　本文、他の練習問題

３回目
Chapter2 Peter Rabbit and Pie　　語彙・文法
Chapter 3 Mrs. Rabbit and Herb Tea　　語彙・文法と本文

４回目
Chapter 3　本文残りと他の練習問題
Chapter 4 Winnie-the-Pooh and Honey　語彙・文法と本文

５回目
Chapter 4　本文残りと他の練習問題
Chapter5　 Daddy-Long-Legs and Ice Cream の語彙・文法と本文

６回目
Chapter 5　本文残りと他の練習問題
Chapter 6　Kenji Miyazawa and Tomatoes の語彙・文法と本文

７回目
Chapter 6 の本文残りと他の練習問題

８回目
Chapter 1-6 の復習と理解度テスト

９回目
Chapter 9　East of Eden and Lettuce　 Chapter9 の語彙・文法と本文

１０回目
Chapter 9 の本文残りと他の練習問題
Chapter 10 Laura and Cheese-Making on the Prairie の語彙・文法と本文

１１回目
Chapter 10 の本文残りと他の練習問題
Chapter 11 Breakfast and Tiffany's の語彙・文法と本文

１２回目
Chapter11 の本文残りと他の練習問題
Chapter 12 "Mujina" and "Soba"の語彙・文法と本文

１３回目
Chapter12 の本文残りと他の練習問題
Chapter 13 Bridget Jones and Dieting の語彙・文法と本文

１４回目
Chapter 13 の本文残りと他の練習問題

１５回目
Chapter　８－１３の復習と理解度テスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JE0068B78
科目名	総合英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	古賀　眞紀	旧科目名称	総合英語 B
授業概要	英語教育において外国語の習得理論に則った授業を行う事が何より大切であることは言うまでもない。学生の実力に合うように作成された教材を用いて、脳科学の考察を活動に取り入れる事により、英語を単なる大学の一教科ではなく身近な技能になるよう指導する。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	授業内で紹介する。		
教育方法	第 2 言語習得の方法に則り、英文を読む→英文の意味を日本語で理解→音読→プ?アウトプットの順で授業活動を行う。個人、グループなど、様々なパターンで 4 技の実践演習なども加え学習のバリア―を無くす試みをする。		
評価方法	・毎回 20 点満点のテスト（筆記、音読等）を行う。到達点を超える点数が必要。 ・クリアすべき到達点数に達しなかった学生は課題を提出し、それをもって点数をクリアしたと認める。 ・欠席者は該当授業の課題を提出する。 平常点：90% 音読等の授業参加:10% ・授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。		
到達目標	外国語の習得に欠かすことのできない 4 技能のうち、特に「読む」、「聞く」、を中心に指導する。学生は正しく読めて、聞いて理解し、暗唱等もできるようになる。		
授業時間外学習	1 課題につき、2 授業を 1 セットとする。2 授業目には筆記テスト（暗唱を確認する）を行うのでその準備をすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

これまで英語が苦手であったり、嫌いだったと言う学生が多いが、この授業で必ず英語に対する劣等感や嫌悪感を少なくする！と言う気合いをもって参加してほしい。

授業スケジュール

1.授業の進め方　日本的事象の説明
2.日本の生活(1)
3.日本の生活(2)
4.舞妓(1)
5.舞妓(2)
6.日本料理(1)
7.日本料理(2)
8.稲荷大社(1)
9.稲荷大社(2)
10.京都御所(1)
11.京都御所(2)
12.日本酒(1)
13.日本酒(2)
14.将棋
15.今期の復習および総評

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JE0068B79
科目名	総合英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	西垣　有夏	旧科目名称	
授業概要	総合英語 A に引き続き、エッセー、物語や保証書など様々な英文形式に触れる。なお、一つの単元が終わるごとにその単元で用いた単語で英作文の練習をする。英検や TOEIC といった検定試験の説明も合間に行う。		
教材（教科書）	プリント教材		
教材（参考資料）	英和辞典必携。推薦する辞書は『ジーニアス英和辞典第 3 版』（大修館書店）。しかし、大学入学前に利用していた辞書でも本講座て使える場合があるので、所持している辞書を担当者に見せると良い。		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業での発表（15%）、課題プリント（20%）、定期試験（65%）で評価。 なお、単位取得には全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要。		
到達目標	多読を通じて英文内容と英文構造を正しく把握し、英検や TOEIC といった検定試験に備えた土台作りをする。また、基本的な単語についてはその意味を理解するだけにとどまらず、その単語を用いて英作文ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間復習を兼ねた課題プリントを渡すので次回の授業までに仕上げて提出すること。また、講義のない日であっても教材を持ち歩いて電車やバスを待つ合間などを利用して常に英語に触れる習慣を付けて頂きたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業ではどんどん学生に当てるので、主体性、積極性をもっての参加を心がけて頂きたい。本講義の担当者は学生の持つ潜在能力を引き出し、鍛えることを大切にする。答えを出すことは確かに大事だが、何のための授業なのかを常に考えながら学問に励む姿勢が大学生にとっては肝心だ。なお、英検や TOEIC の教材は本講座では利用しないが、英語資格検定関係の相談には個別に応じることも可能である。

授業スケジュール

以下に授業計画を記すが、学生のレベルによって進度に変更が生じる可能性があるので、その都度担当者の指示を聞くように。

1. 気象予報／Ice-cream Cone
2. 送別会のお知らせ／Paper bag
3. 記憶するコツ／Jigsaw Puzzle
4. 散歩のススメ／Potato Chips
5. 製品ラベル／Motor Scooter
6. 伝言メモ／Refrigerator
7. 泣くことの効果／Parachute
8. 1〜7 までの復習
9. 象の綱／Pockets
10. カップの中のコーヒー／Toothbrush
11. 求人広告／Traffic Light
12. 台所用品の保証書／Sandwich
13. 悲しみに対処する／Scooter
14. 秘密保持契約書／Typewriter
15. 8〜14 までの復習、定期試験の説明

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068B81
科目名	総合英語 B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	桑村　テレサ	旧科目名称	
授業概要	「総合英語 Ⅰ」に引き続き、は比較的平易な総合教材を使用し、基本的な語彙や文法の習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能の活用力を養成します。本授業では特に、「総合英語 I」に引き続き、英語文法の基礎を学ぶことに主眼を置きます。		
教材（教科書）	Paul Chris McVay・川田伸道 著. Let's Check Out the UK. 『マクベイ先生と行くイギリスを知る 15 日間の旅』金星堂. 1900 円.		
教材（参考資料）	毎回の授業に必ず英語辞書を持参してください。電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能を授業内で使用することはできません。その他授業中に指示します。		
教育方法	必要に応じて音声 CD を使用します。講義は可能な限り簡単な英語で行い、難しいところは日本語で説明をします。質問や答えするときは間違いを恐れることなく英語で話すようにしてもらいます。		
評価方法	授業内テスト(小テスト含む、70%)、課題, 授業への参加状況（30 %）により総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 5 9 点以下の不合格となります。ただしこ れは、 3 分の 2 以上の出席があった場合は、必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までの既習語である 1,500 語程度を活用し、さらに増強を目指し、読解において構文を理解できる文法知識を身につけます。英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解し、必要な情報を得る力を身につけます。		
授業時間外学習	この授業では、毎回前回の授業で学んだ内容についての小テストを授業の初めに行います。そのテストの準備として、毎回の授業の内容を次回の授業までによく復習をしてください。予習、復習に十分な時間をかけて授業に臨んでください。小テストは主に授業内で行った文章の応用問題を中心とした内容です。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①英語の習得には継続的な学習が何よりも大切です。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めてください。
②テキストは、初回の授業までに必ず購入し、授業に持参してください。テキストがないと、授業内の課題を行うことができません。テキストを持参しなかった場合は減点とします。また、授業には必ず辞書（英和、和英）を持参してください。
③課題の提出にはなるべく「京学なび」を活用してください。
④当科目以外にも、できるだけ多くの英語科目を履修してください。
⑤TOEIC、実用英語検定などの資格、検定試験をなるべく積極的に受験してください。

授業スケジュール

以下の各項目を約 1 回の授業で学習します。ただし、授業の進度によって変更になることがあります。
1. Introduction / Day 1 I Can't Wait to Explore Britain!--「イギリス」は英語で何て言う？」
2. Day 2: How about Going to a Pub?--「パブカルチャーと飲酒問題」
3. Day 3: The Scenery Is Breathtaking, Isn't It?--「ナショナルトラストに守られる美しき湖水地方」
4. Day 4: What Do You Suggest We Do Today?--「雨の日には美術館へ」
5. Day 5: This Is a Multi-Ethnic Country--「多民族社会イギリス」
6. Day 6: What's It Like Being a Student in the UK?--「大学生でいるのも楽じゃない！」
7. Day 7: Mmm... It Sounds Too Risky--「賭けてみる？ ブックメーカーの行く末は」
8　Day 8: You Should Try Fish and Chips!--「多彩で美味しい！ イギリス料理」
9.　Day 9: It's Fun Listening to Different Accents--「8 月のエディンバラ」
10. Day 10: Do You Fancy Something Sweet?--「そのチョコレート、原料はどこから？」
11. Day 11: I Guess I Should Have a Black-Cab Experience--「市内どこへも最短距離で！ ロンドンタクシー」
12. Day 12: I'm Looking forward to Seeing Wales!--「ウェールズ語とチャールズ皇太子」
13. Day 13: Don't You Know that UK Designs Are Popular?--「カッコイイだけにあらず、ブリティッシュ・スタイル」
14. Day 14: Would You Like to See a Play?--「英語は詩人シェイクスピアに学べ」
15. Day 15: That's the Great Thing about Travel!--「変わりゆくイギリス王室」

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068B82
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	越間　将平	旧科目名称	
授業概要	この授業では、総合英語Ｉに引き続き、比較的平易な英語で書かれたテキストの学習を通じて、英語の基礎となる語彙や文法の定着を図り、読解力と聴解力の向上を目指していきます。日常的な場面や異国の文化を題材とした文章に触れ、英語に対する理解を深めていきます。		
教材（教科書）	靜哲人，望月正道，熊澤孝昭. Ambitions: Elementary（金星堂）		
教材（参考資料）	英語の学習には辞書が必要です。授業の時は辞書を持参するようにしましょう。電子辞書でも構いません。		
教育方法	授業は基本的にテキストに沿って進めます。授業担当者による説明と、受講者による問題への取り組み、発表（質問に対する回答等）が含まれます。		
評価方法	授業内テスト 70%、課題・授業への参加状況 30%の割合で総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	英語の基礎となる語彙や文法の定着を図り、読解力と聴解力の向上を目指す。		
授業時間外学習	授業では毎回小テストを実施します。授業で学んだ内容を復習するようにしましょう。詳しくは授業中に説明します。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
公欠等で、授業を欠席・遅刻する場合は、事前に授業担当者へお知らせください。			
授業スケジュール			
※2 度の授業で 1 ユニット分を学んでいくことを目標とします。（進捗状況によって変更する可能性もあります）。 1.イントロダクション（授業概要や評価方法に関する説明を行います） Unit 1 Cross-Cultural Understanding（強く発音される語を聞き取る / 文の主語を見つける ） 2. Unit 1 Cross-Cultural Understanding（強く発音される語を聞き取る / 文の主語を見つける ） 3. Unit 2 Foods（語順のまま理解する / 文の動詞を見つける） 4. Unit 2 Foods（語順のまま理解する / 文の動詞を見つける） 5. Unit 3 Foreign Language Learning（消えるｔとｄを聞き取る / 動詞の目的語を見つける） 6. Unit 3 Foreign Language Learning（消えるｔとｄを聞き取る / 動詞の目的語を見つける） 7. Unit 4 Sports（似た音に注意して聞き取る / 補語を見つける） 8. Unit 4 Sports（似た音に注意して聞き取る / 補語を見つける） 9. Unit 5 Fashion（n でつながる語句を聞き取る / 何の代わりかを見抜く[代名詞]） 10. Unit 5 Fashion（n でつながる語句を聞き取る / 何の代わりかを見抜く[代名詞]） 11. Unit 6 Living Things（弱い can を聞き取る / 「to＋動詞」を理解する[不定詞]） 12. Unit 6 Living Things（弱い can を聞き取る / 「to＋動詞」を理解する[不定詞]） 13. Unit 7 Art（話の展開を予測する / 「動詞＋ing」を理解する[動名詞]） 14. Unit 7 Art（話の展開を予測する / 「動詞＋ing」を理解する[動名詞]） 15. Unit 8 Global Issues（強弱のリズムに慣れる / 主語が「されること」を理解する[受動態]）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068B83
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	越間　将平	旧科目名称	
授業概要	この授業では、総合英語Ｉに引き続き、比較的平易な英語で書かれたテキストの学習を通じて、英語の基礎となる語彙や文法の定着を図り、読解力と聴解力の向上を目指していきます。日常的な場面や異国の文化を題材とした文章に触れ、英語に対する理解を深めていきます。		
教材（教科書）	靜哲人，望月正道，熊澤孝昭. Ambitions: Elementary（金星堂）		
教材（参考資料）	英語の学習には辞書が必要です。授業の時は辞書を持参するようにしましょう。電子辞書でも構いません。		
教育方法	授業は基本的にテキストに沿って進めます。授業担当者による説明と、受講者による問題への取り組み、発表（質問に対する回答等）が含まれます。		
評価方法	授業内テスト 70%、課題・授業への参加状況 30%の割合で総合的に評価します。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は５９点以下の不合格となります。		
到達目標	英語の基礎となる語彙や文法の定着を図り、読解力と聴解力の向上を目指す。		
授業時間外学習	授業では毎回小テストを実施します。授業で学んだ内容を復習するようにしましょう。詳しくは授業中に説明します。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
公欠等で、授業を欠席・遅刻する場合は、事前に授業担当者へお知らせください。			
授業スケジュール			
※2 度の授業で 1 ユニット分を学んでいくことを目標とします。（進捗状況によって変更する可能性もあります）。 1.イントロダクション（授業概要や評価方法に関する説明を行います） Unit 1 Cross-Cultural Understanding（強く発音される語を聞き取る / 文の主語を見つける ） 2. Unit 1 Cross-Cultural Understanding（強く発音される語を聞き取る / 文の主語を見つける ） 3. Unit 2 Foods（語順のまま理解する / 文の動詞を見つける） 4. Unit 2 Foods（語順のまま理解する / 文の動詞を見つける） 5. Unit 3 Foreign Language Learning（消えるｔとｄを聞き取る / 動詞の目的語を見つける） 6. Unit 3 Foreign Language Learning（消えるｔとｄを聞き取る / 動詞の目的語を見つける） 7. Unit 4 Sports（似た音に注意して聞き取る / 補語を見つける） 8. Unit 4 Sports（似た音に注意して聞き取る / 補語を見つける） 9. Unit 5 Fashion（n でつながる語句を聞き取る / 何の代わりかを見抜く[代名詞]） 10. Unit 5 Fashion（n でつながる語句を聞き取る / 何の代わりかを見抜く[代名詞]） 11. Unit 6 Living Things（弱い can を聞き取る / 「to＋動詞」を理解する[不定詞]） 12. Unit 6 Living Things（弱い can を聞き取る / 「to＋動詞」を理解する[不定詞]） 13. Unit 7 Art（話の展開を予測する / 「動詞＋ing」を理解する[動名詞]） 14. Unit 7 Art（話の展開を予測する / 「動詞＋ing」を理解する[動名詞]） 15. Unit 8 Global Issues（強弱のリズムに慣れる / 主語が「されること」を理解する[受動態]）			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JE0068B84
科目名	総合英語Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	諸戸　樹一	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ｉ」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる増強をはかり、課題や発表を含む演習を行って、「読む、書く、聞く、話す」の４技能の基礎力をさらに発展させる。「総合英語Ｉ」に引き続き、英語圏の生活や文化に関する簡単な説明文や公共施設などにある通知や注意事項を理解できる英語力をさらに向上させることを目指す。 このクラスでは、英語に馴染むことを第一目的として音読を軸とした演習を行うとともに、併せて基本英文法の復習をしながらも将来のビジネスの現場で多少とも役立つ英語表現の習得を図っていく。		
教材（教科書）	Teruhiko Kadoyama & Simon Capper、Let's Read Aloud More!　（『音読で極める基礎英語』）、成美堂、2,200 円		
教材（参考資料）	１．ハンドアウト（プリント）教材 ２．英和辞典などの英語の辞書		
教育方法	１．名簿順指名での発表： 名簿順に指名して問題への答えや音読などを求めていく。予習不足で直ぐに答えられない場合は「パス」とはっきり申し出ること。発表があれば、正誤に関わらず発表点を記録する。 ２．指名に基づかない発表： クラス全体に問いかけることがある。その場合は、複数の受講生が一斉に答えてよい。所定（通常、小テスト）の用紙に、発表回数（１／３／５回以上）を誠実に自主申告する。 ３．小テスト用紙の提出： 通常、教科書のいずれかの演習問題を小テストとする。用紙は、出席の最終確認の用紙でもあるため、提出を怠ると欠席となる。 ４．時間の都合上、授業では教科書の演習を省略することがある。		
評価方法	応答・発表／小テストなどにおける授業内演習評価（60%）ならびに中間および期末の授業内課題の成果（40%）で総合的に評価する。なお、全授業回数の３分の２以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となる。また、たとえ１回でも出席記録などで不正をはたらいた場合も不合格となる。		
到達目標	１．大学入学時までに培った語彙力、文法力、読解力の定着化をはかり、さらに必要な語彙を習得して活用できるようになる。 ２．日常的な話題および社会の身近な問題について、読解、聴解、および口頭や文章で伝達する力を身につける。		
授業時間外学習	各回とも、 １．音声ファイルについては、教科書に記載のサイトより（無料）ダウンロードし、再生して活用する。 ２．WARM-UP では、"Vocabulary Preview"の問題に解答し、かつ、 "Grammar Point"をよく読んでおく。 ３．次は GRAMMAR の頁に進み、A と B の問題だけは解いておく。 ４．LET'S CHECK & READ ALOUD! の頁に戻り、音声を聴いて空所を補充する。 ５．最後に LET'S READ! の頁で、枠内の英文（パッセージ）を何十回も音読する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
１．初回授業から演習を行うので必ず教科書を持参すること。必要な教材を持たずに授業出席することは断じて認めない。 ２．英語の習得には継続的な学習が何よりも大切である。欠席や遅刻をしないように心掛け、予習や復習に努めること。 ３．可能な限り大きな声を出して英文を何度も音読し、諳んじられるようにすること。 ４．英検や TOEIC?などの英語資格試験の受験に挑戦すること。			

授業スケジュール

１回の授業で 1 つの Unit を終える予定であるため、授業では省略する演習も生じる。進捗状況によっては一部変更することもある。

1．演習概要と評価方法に関する説明、Unit 01: This is my first visit there. 、現在形・過去形 1
2．Unit 02: How do you like Bangkok?、現在形・過去形 2
3．Unit 03: It's going well so far.、進行形・未来形
4．Unit 04: Have they decided on the design yet?、現在完了形
5．Unit 05: Could you take a look at them?、助動詞
6．授業内課題 1 、Unit 06: My flight was cancelled.、受動態
7．Unit 07: What do you want me to do?、不定詞
8．Unit 08: She knows marketing very well.、関係詞 1
9．Unit 09: Thank you for coming to our interview.、動名詞
10．Unit 10: The competition will be very strong.、形容詞・副詞
11．Unit 11: This is where we hold meetings.、関係詞 2
12．Unit 12: I'd like to talk about our latest model.、分詞
13．授業内課題 2 、Unit 13: You are much better than me.、比較
14．Unit 14: If I were you, I wouldn't miss it.、仮定法
15．Unit 15: I'd like to propose a toast.、接続詞・前置詞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	−	★	−

年度	2018	授業コード	JE0068B85
科目名	総合英語B	単位数	2
科目名（英語表記）	Comprehensive English B		
担当者名	村上　陽香	旧科目名称	
授業概要	「総合英語Ⅰ」を継承、発展させた形での授業を行う。比較的平易な総合英語教材を使用し、英語のコミュニケーションに必要な語彙力、文法力のさらなる習得をはかり、「読む、書く、聞く、話す」の4技能の基礎力をさらに発展させることを目指し、受講生への課題、発表を含む演習を実施する。「総合英語Ⅰ」に引き続き、英語圏での生活や文化に関する簡単な説明文や、公共施設などにある通知や注意事項を理解出来る力をさらに向上させることを目指す。		
教材（教科書）	Akira Morita, Makiko Lio, Takehiro Hashimoto, 他, 著 Target!: Elementary（金星堂） その他プリント教材		
教材（参考資料）	英和、和英、英英辞書などを持参してください。予習・復習でも使用すること。 電子辞書でも構いませんが、携帯電話の辞書機能は使用不可です。		
教育方法	テキストに沿ってユニットの内容を確認し、問題演習やペアワークなどを行います。 随時、音声 CD を用います。		
評価方法	授業内テスト（小テスト含む）70%、予習課題・授業への参加態度 30%で総合的に評価します。なお、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がなかった場合は 59 点以下の不合格となります。ただし、これは 3 分の 2 以上の出席があれば必ず合格するという意味ではありません。		
到達目標	高校までに学んだ文法事項を点検しながら、英語の基礎固めを行います。英語で自分の意思を伝え、相手の意思を理解出来るようになることを目標とします。		
授業時間外学習	第二回以降、前回の授業で扱った範囲に関する小テストを行います。そのテストの準備として、学んだことを十分に復習して来てください。テストはボキャブラリーや文法問題を含みます。 また、授業の際に、次回に向けての予習箇所を課題として指定する場合があります。次回授業は該当箇所を予習済みと見なして進めますので、必ず準備した上で授業に臨んでください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・授業には積極的に参加し、欠席しないよう心がけてください。遅刻や私語は進行の支障になるだけではなく、他の受講生にも迷惑をかけますので、注意してください。
・指定された予習箇所は、間違えてもいいので自分なりに必ずやって来てください。明らかに予習が行われていない場合は減点対象とします。
・英和、和英、英英辞書などを持参してください。高校時代に使用していたものがあればそれでも構いませんし、電子辞書でも構いません。ただし、携帯電話の辞書機能は使用不可です。

授業スケジュール

テキストを一回の授業あたり 1 ユニット進めていきます。
第二回以降、前回授業の内容に関する小テストを行います。

第一回：イントロダクション/In Your Free Time
　　「基本的な数字の聞き取り」＆「be 動詞と一般動詞」
第二回：Communication Skills
　　「時間・日付・年号の聞き取り」＆「代名詞」
第三回：World Languages and Cultures
　　「聞き分けにくい音の聞き取り」＆「否定文」
第四回：Healthy Body, Healthy Mind
　　「カタカナ語とのギャップ」＆「疑問文の基本」
第五回：Carrers Nowadays
　　「短縮形の聞き取り」＆「過去形の基本」
第六回：Fashion Trends

「つながる音」＆「進行形の基本」
第七回：Planning a Trip Abroad
「消える音」＆「未来を表す表現」
第八回：Are You into Sports?
「イントネーション（上昇・下降)」＆「現在完了」
第九回：Parties Are a Lot of Fun!
「写真や絵を見ながらの聞き取り」＆「助動詞の基本」
第十回：Art in Our Life
「挨拶文の聞き取り」＆「動名詞の基本」
第十一回：What Shall We Eat?
「誘う時の表現」＆「不定詞（名詞的用法)」
第十二回：What Makes a Good Company?
「依頼する時の表現」＆「不定詞（形容詞/副詞的用法)」
第十三回：Advances in Science
「Yes/No 疑問文とその答え方」＆「受動態の基本」
第十四回：Life with Technology
「Wh-疑問文とその答え方」＆「前置詞の基本」
第十五回：Eco-Friendly Life/まとめ
「付加疑問文の聞き取り」＆「接続詞の基本」

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JH0004A01
科目名	入門ドイツ語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (s)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語 s
授業概要	ドイツは 9 か国と国境を接していて、地理的にも経済的にも EU の中心的存在。その政治動向には、常に世界中の注目が集められています。今は「英語でまにあう」時代。しかし英語以外の言語を学習することは、文化の多様性を知るきっかけになり、グローバルな人間性の構築につながります。この授業の目標は、ずばりドイツ語のコミュニケーションの基礎を学ぶこと。簡単な挨拶表現からはじまって、実際にドイツ語で会話をするため、文法の基礎を学習します。ドイツ語で投げかけられた質問に、物怖じすることなく、正しい発音で応じられるようになること。できればドイツに行って、ドイツ人と臆せずに会話ができるようになること。それがこの授業の最終到達目標です。		
教材（教科書）	羽根田知子・熊谷知実共著『ネコと学ぶドイツ語』（三修社、2015 年）2592 円 授業中並びに授業時間外の復習に使用します。		
教材（参考資料）	印刷資料や練習問題は適宜配布します。		
教育方法	1．前回の学習内容の確認（筆記テスト） 前週の授業内容の復習からスタート。単語の発音練習、文法内容の復習、そして筆記試験へ。 試験終了後は答え合わせを通じて、正しいスペルの再確認をする。 2．文化体験（ビデオ） その日学習する授業内容に関連した映像を鑑賞し、ドイツ文化に触れる。 3．新しい文法・新しい表現を学ぶ（教科書で学習） ドイツ語の文章を聴き取り、発音し、意味内容や文法構造を理解する。 4．ペアワーク（口頭テスト） ペアで独自の会話をつくり、ドイツ語でテンポよく会話する練習をする。それを暗記して発表。		
評価方法	授業の最初に行う授業の復習筆記テスト（40%）、授業の最後に行うペア口頭テスト（40%）、学期末に行う習熟度確認テスト（20%）、基本的に毎回出席してもらって、その習熟度を確認するという評価方法です。毎回の積み重ねは語学力となって、学期末には身についているはずです。		
到達目標	1．異文化を理解すること。 2．そのために必要なドイツの知識とドイツ語の学習法を身につけること。 3．外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得すること。 具体的には、正しい発音を身につけ、自己紹介し、簡単な問いに答えられるようになること。		
授業時間外学習	第 1 回　教科書の地図を参考に配布資料でドイツについて学習 第 2 回　教科書 1 頁 第 3 回　教科書 2 頁、8 頁 第 4 回　教科書 3－6 頁 第 5 回　教科書 7 頁 第 6 回　教科書 9 頁、14 頁 第 7 回　教科書 14 頁 第 8 回　教科書 10－12 頁 第 9 回　教科書 13 頁 第 10 回　教科書 15－18 頁 第 11 回　教科書 19 頁 第 12 回　教科書 18－20 頁 第 13 回　教科書 21－24 頁 第 14 回　教科書 25 頁 第 15 回　教科書 26－28 頁		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．授業中の私語、携帯電話の利用は禁止。 2．1 日休むと次週の授業が大変になるので、できるだけ連続して出席すること。			

3．やむをえず欠席した場合は、次週の範囲試験について情報収集し、事前学習しておくこと。
授業スケジュール
1　授業の進め方とドイツについて 2　発音の基礎 3　単語の発音と挨拶 4　自己紹介 5　趣味 6　天候と数字 7　時刻と数字 8　ここあいていますか 9　持っているか、持っていないか 10　ドイツ語で何というのか 11　これはいくらですか 12　珈琲１杯ください 13　何が飲みたいですか 14　何ができますか 15　トイレはどこですか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JH0004B01
科目名	入門ドイツ語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic German (f)		
担当者名	熊谷　知実	旧科目名称	入門ドイツ語 f
授業概要	「ドイツ語Ⅰ」を春学期に学習した学生、ドイツ語の発音の基礎が身についている学生を対象にした会話の授業です。春学期に引き続き、ドイツ文法の基礎を学びながら、様々なシーンで使える表現や語彙を増やしていきます。ビデオ教材を通じて、ドイツの歳時記や若者文化にも積極的に触れていきましょう。様々なドイツ語の質問に、正しい発音のドイツ語で答えられるようになること、平易な文章を組み立てて、自分の意思を伝えられるようになること。できればドイツに行って、ドイツ人と臆せずに会話ができるようになること。それがこの授業の到達目標です。		
教材（教科書）	羽根田知子・熊谷知実共著『ネコと学ぶドイツ語』（三修社、2015 年）2592 円 授業中並びに授業時間外の復習に使用します。		
教材（参考資料）	印刷資料や練習問題は適宜配布します。		
教育方法	1．前回の学習内容の確認（筆記テスト） 前週の授業内容の復習からスタート。単語の発音練習、文法内容の復習、そして筆記試験へ。 試験終了後は答え合わせを通じて、正しいスペルの再確認をする。 2．文化体験（ビデオ） その日学習する授業内容に関連した映像を鑑賞し、ドイツ文化に触れる。 3．新しい文法・新しい表現を学ぶ（教科書で学習） ドイツ語の文章を聴き取り、発音し、意味内容や文法構造を理解する。 4．ペアワーク（口頭テスト） ペアで独自の会話をつくり、ドイツ語でテンポよく会話する練習をする。それを暗記して発表。		
評価方法	授業の最初に行う授業の復習筆記テスト（40%）、授業の最後に行うペア口頭テスト（40%）、学期末に行う習熟度確認テスト（20%）、基本的に毎回出席してもらって、その習熟度を確認するという評価方法です。毎回の積み重ねは語学力となって、学期末には身についているはずです。		
到達目標	1．異文化を理解すること。 2．そのために必要なドイツの知識とドイツ語の学習法を身につけること。 3．外国語（ドイツ語）によるコミュニケーションの基礎を習得すること。 具体的には、正しい発音のドイツ語でドイツ人に問いかけ、答えられるようになること。		
授業時間外学習	第 1 回　教科書 27－18 頁、印刷物を配布 第 2 回　教科書 29－32 頁 第 3 回　教科書 33 頁 第 4 回　教科書 34－36 頁 第 5 回　教科書該当頁なし、カードを使って復習 第 6 回　教科書 37－40 頁 第 7 回　教科書 41－44 頁、46 頁 第 8 回　教科書 45 頁 第 9 回　教科書該当頁なし、印刷物を配布 第 10 回　教科書 47－50 頁 第 11 回　教科書 51－52 頁 第 12 回　教科書 53－54 頁、56－57 頁 第 13 回　教科書 54 頁、56 頁 第 14 回　教科書 55－58 頁 第 15 回　教科書 60 頁、印刷物を配布		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
【重要】この授業は、「ドイツ語Ⅰ」をすでに履修している方、あるいは同等の語学力がある方を対象としています。 ドイツ語の発音が身についていない初心者にとっては、非常に困難な授業です。ご注意ください。			

1．授業中の私語、携帯電話の利用は禁止。 2．1 日休むと次週の授業が大変になるので、できるだけ連続して出席すること。 3．やむをえず欠席した場合は、次週の範囲試験について情報収集し、事前学習しておくこと。
授業スケジュール
1　春学期の復習：動詞の発音と命令 2　春学期の復習：名詞の発音と「もっているか」 3　おじいちゃんを好きですか、元気にしていますか 4　どこへ行くんですか 5　どこで、どこへ、なにを、だれ 6　どうやって行くんですか 7　何を食べますか 8　塩をとって 9　どこにいるの、こっちに来て 10　おめでとう、これはプレゼントです 11　おいしいね 12　どこを訪問したの、何を見たの 13　どこへ行ったの、おいしかったの 14　どうだった、楽しかったの 15　私といっしょに行く気はありますか

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	−	★	−	−

年度	2018	授業コード	JH0007A01
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字を正しく書き、正確に発音できるようになることを目指す。その後、韓国語でのコミュニケ ーションに必要な基礎的能力（読む、書く、話す、聴く）を培う。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく）となりますが、一方的な講義とはならず、 学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行く。また、直ぐ使える決まり文句などが、確実に身に付くように楽しく学ぶ。 画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト:複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1 回　シラバスを読み、授業内容について理解する。 2 回　テキスト 6-8 頁まで読んで文字を覚える。　（基本母音を書きながら覚える） 3 回　テキスト 9 頁の内容を確認する。（子音を書きながら覚える） 4 回　テキスト 13-17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 5 回　テキスト 13 頁から 17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 6 回　テキスト 22-23 頁の内容を確認する。（単語を発音してみる） 7 回　テキスト 28-32 頁の内容を確認する。（発音の変化に従って発音する） 8 回　レポートを作成（日本語） 9 回　テキスト 38-39 頁の内容を確認する。（本文を読む練習をする） 10 回　テキスト 44-45 頁の内容を確認する。（自己紹介①をやってみる） 11 回　テキスト 50-51 頁の内容を確認する。（位置を表す言葉を覚える） 12 回　テキスト 56-57 頁の内容を確認する。（自己紹介②をやってみる） 13 回　テキスト 64-65 頁の内容を確認する。（ヘヨ体を練習する） 14 回　テキスト 72-73 頁の内容を確認する。（否定文を作ってみる） 15 回　数詞を練習する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。 欠席しないようにすること。
韓国の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと。
是非、韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を目指してほしい。
受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2回　ステージ1．第1課　基本母音
3回　ステージ1．第2課　子音（1）
4回　ステージ1．第3課　子音（2）激音と濃音
5回　ステージ1．第4課　複合母音
6回　ステージ1．第5課　終声（パッチム）
7回　ステージ1．第6課　発音の変化
8回　ステージ1の内容を整理、韓国の文化体験①
9回　ステージ2．　第1課　私は～です　（名詞文のハムニダ体 ）
10回　ステージ2．第2課　専攻は何ですか　（名詞文のヘヨ体と否定）
11回　ステージ2．　第3課　図書館の横にあります。（指示詞）
12回　ステージ2．第4課　～をします　（用言文のハムニダ体）
13回　ステージ2．第5課　～が好きですか（用言文のヘヨ体）
14回　ステージ2．第6課　～ない（用言文の否定形）
15回　数詞練習、韓国の文化体験②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JH0007A02
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字を正しく書き、正確に発音できるようになることを目指す。その後、韓国語でのコミュニケ ーションに必要な基礎的能力（読む、書く、話す、聴く）を培う。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく）となりますが、一方的な講義とはならず、 学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行く。また、直ぐ使える決まり文句などが、確実に身に付くように楽しく学ぶ。 画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト:複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1 回　シラバスを読み、授業内容について理解する。 2 回　テキスト 6-8 頁まで読んで文字を覚える。　（基本母音を書きながら覚える） 3 回　テキスト 9 頁の内容を確認する。（子音を書きながら覚える） 4 回　テキスト 13-17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 5 回　テキスト 13 頁から 17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 6 回　テキスト 22-23 頁の内容を確認する。（単語を発音してみる） 7 回　テキスト 28-32 頁の内容を確認する。（発音の変化に従って発音する） 8 回　レポートを作成（日本語） 9 回　テキスト 38-39 頁の内容を確認する。（本文を読む練習をする） 10 回　テキスト 44-45 頁の内容を確認する。（自己紹介①をやってみる） 11 回　テキスト 50-51 頁の内容を確認する。（位置を表す言葉を覚える） 12 回　テキスト 56-57 頁の内容を確認する。（自己紹介②をやってみる） 13 回　テキスト 64-65 頁の内容を確認する。（ヘヨ体を練習する） 14 回　テキスト 72-73 頁の内容を確認する。（否定文を作ってみる） 15 回　数詞を練習する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。 欠席しないようにすること。
韓国の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと。
是非、韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を目指してほしい。
受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2回　ステージ1．第1課　基本母音
3回　ステージ1．第2課　子音（1）
4回　ステージ1．第3課　子音（2）激音と濃音
5回　ステージ1．第4課　複合母音
6回　ステージ1．第5課　終声（パッチム）
7回　ステージ1．第6課　発音の変化
8回　ステージ1の内容を整理、韓国の文化体験①
9回　ステージ2．　第1課　私は～です　（名詞文のハムニダ体 ）
10回　ステージ2．第2課　専攻は何ですか　（名詞文のヘヨ体と否定）
11回　ステージ2．　第3課　図書館の横にあります。（指示詞）
12回　ステージ2．第4課　～をします　（用言文のハムニダ体）
13回　ステージ2．第5課　～が好きですか（用言文のヘヨ体）
14回　ステージ2．第6課　～ない（用言文の否定形）
15回　数詞練習、韓国の文化体験②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JH0007A03
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字を正しく書き、正確に発音できるようになることを目指す。その後、韓国語でのコミュニケ ーションに必要な基礎的能力（読む、書く、話す、聴く）を培う。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく）となりますが、一方的な講義とはならず、 学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行く。また、直ぐ使える決まり文句などが、確実に身に付くように楽しく学ぶ。 画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト:複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1 回　シラバスを読み、授業内容について理解する。 2 回　テキスト 6-8 頁まで読んで文字を覚える。　（基本母音を書きながら覚える） 3 回　テキスト 9 頁の内容を確認する。（子音を書きながら覚える） 4 回　テキスト 13-17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 5 回　テキスト 13 頁から 17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 6 回　テキスト 22-23 頁の内容を確認する。（単語を発音してみる） 7 回　テキスト 28-32 頁の内容を確認する。（発音の変化に従って発音する） 8 回　レポートを作成（日本語） 9 回　テキスト 38-39 頁の内容を確認する。（本文を読む練習をする） 10 回　テキスト 44-45 頁の内容を確認する。（自己紹介①をやってみる） 11 回　テキスト 50-51 頁の内容を確認する。（位置を表す言葉を覚える） 12 回　テキスト 56-57 頁の内容を確認する。（自己紹介②をやってみる） 13 回　テキスト 64-65 頁の内容を確認する。（ヘヨ体を練習する） 14 回　テキスト 72-73 頁の内容を確認する。（否定文を作ってみる） 15 回　数詞を練習する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。 欠席しないようにすること。
韓国の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと。
是非、韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を目指してほしい。
受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2回　ステージ1．第1課　基本母音
3回　ステージ1．第2課　子音（1）
4回　ステージ1．第3課　子音（2）激音と濃音
5回　ステージ1．第4課　複合母音
6回　ステージ1．第5課　終声（パッチム）
7回　ステージ1．第6課　発音の変化
8回　ステージ1の内容を整理、韓国の文化体験①
9回　ステージ2．　第1課　私は～です　（名詞文のハムニダ体 ）
10回　ステージ2．第2課　専攻は何ですか　（名詞文のヘヨ体と否定）
11回　ステージ2．　第3課　図書館の横にあります。（指示詞）
12回　ステージ2．第4課　～をします　（用言文のハムニダ体）
13回　ステージ2．第5課　～が好きですか（用言文のヘヨ体）
14回　ステージ2．第6課　～ない（用言文の否定形）
15回　数詞練習、韓国の文化体験②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JH0007A04
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字を正しく書き、正確に発音できるようになることを目指す。その後、韓国語でのコミュニケ ーションに必要な基礎的能力（読む、書く、話す、聴く）を培う。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく）となりますが、一方的な講義とはならず、 学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行く。また、直ぐ使える決まり文句などが、確実に身に付くように楽しく学ぶ。 画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト:複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1 回　シラバスを読み、授業内容について理解する。 2 回　テキスト 6-8 頁まで読んで文字を覚える。　（基本母音を書きながら覚える） 3 回　テキスト 9 頁の内容を確認する。（子音を書きながら覚える） 4 回　テキスト 13-17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 5 回　テキスト 13 頁から 17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 6 回　テキスト 22-23 頁の内容を確認する。（単語を発音してみる） 7 回　テキスト 28-32 頁の内容を確認する。（発音の変化に従って発音する） 8 回　レポートを作成（日本語） 9 回　テキスト 38-39 頁の内容を確認する。（本文を読む練習をする） 10 回　テキスト 44-45 頁の内容を確認する。（自己紹介①をやってみる） 11 回　テキスト 50-51 頁の内容を確認する。（位置を表す言葉を覚える） 12 回　テキスト 56-57 頁の内容を確認する。（自己紹介②をやってみる） 13 回　テキスト 64-65 頁の内容を確認する。（ヘヨ体を練習する） 14 回　テキスト 72-73 頁の内容を確認する。（否定文を作ってみる） 15 回　数詞を練習する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。 欠席しないようにすること。
韓国の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと。
是非、韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を目指してほしい。
受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2回　ステージ1．第1課　基本母音
3回　ステージ1．第2課　子音（1）
4回　ステージ1．第3課　子音（2）激音と濃音
5回　ステージ1．第4課　複合母音
6回　ステージ1．第5課　終声（パッチム）
7回　ステージ1．第6課　発音の変化
8回　ステージ1の内容を整理、韓国の文化体験①
9回　ステージ2．　第1課　私は～です　（名詞文のハムニダ体 ）
10回　ステージ2．第2課　専攻は何ですか　（名詞文のヘヨ体と否定）
11回　ステージ2．　第3課　図書館の横にあります。（指示詞）
12回　ステージ2．第4課　～をします　（用言文のハムニダ体）
13回　ステージ2．第5課　～が好きですか（用言文のヘヨ体）
14回　ステージ2．第6課　～ない（用言文の否定形）
15回　数詞練習、韓国の文化体験②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JH0007A05
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字を正しく書き、正確に発音できるようになることを目指す。その後、韓国語でのコミュニケ ーションに必要な基礎的能力（読む、書く、話す、聴く）を培う。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく）となりますが、一方的な講義とはならず、 学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行く。また、直ぐ使える決まり文句などが、確実に身に付くように楽しく学ぶ。 画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト:複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1 回　シラバスを読み、授業内容について理解する。 2 回　テキスト 6-8 頁まで読んで文字を覚える。　（基本母音を書きながら覚える） 3 回　テキスト 9 頁の内容を確認する。（子音を書きながら覚える） 4 回　テキスト 13-17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 5 回　テキスト 13 頁から 17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 6 回　テキスト 22-23 頁の内容を確認する。（単語を発音してみる） 7 回　テキスト 28-32 頁の内容を確認する。（発音の変化に従って発音する） 8 回　レポートを作成（日本語） 9 回　テキスト 38-39 頁の内容を確認する。（本文を読む練習をする） 10 回　テキスト 44-45 頁の内容を確認する。（自己紹介①をやってみる） 11 回　テキスト 50-51 頁の内容を確認する。（位置を表す言葉を覚える） 12 回　テキスト 56-57 頁の内容を確認する。（自己紹介②をやってみる） 13 回　テキスト 64-65 頁の内容を確認する。（ヘヨ体を練習する） 14 回　テキスト 72-73 頁の内容を確認する。（否定文を作ってみる） 15 回　数詞を練習する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。 欠席しないようにすること。
韓国の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと。
是非、韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を目指してほしい。
受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2回　ステージ1．第1課　基本母音
3回　ステージ1．第2課　子音（1）
4回　ステージ1．第3課　子音（2）激音と濃音
5回　ステージ1．第4課　複合母音
6回　ステージ1．第5課　終声（パッチム）
7回　ステージ1．第6課　発音の変化
8回　ステージ1の内容を整理、韓国の文化体験①
9回　ステージ2．　第1課　私は～です　（名詞文のハムニダ体 ）
10回　ステージ2．第2課　専攻は何ですか　（名詞文のヘヨ体と否定）
11回　ステージ2．　第3課　図書館の横にあります。（指示詞）
12回　ステージ2．第4課　～をします　（用言文のハムニダ体）
13回　ステージ2．第5課　～が好きですか（用言文のヘヨ体）
14回　ステージ2．第6課　～ない（用言文の否定形）
15回　数詞練習、韓国の文化体験②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JH0007A06
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字を正しく書き、正確に発音できるようになることを目指す。その後、韓国語でのコミュニケ ーションに必要な基礎的能力（読む、書く、話す、聴く）を培う。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく）となりますが、一方的な講義とはならず、 学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行く。また、直ぐ使える決まり文句などが、確実に身に付くように楽しく学ぶ。 画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト:複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1 回　シラバスを読み、授業内容について理解する。 2 回　テキスト 6-8 頁まで読んで文字を覚える。　（基本母音を書きながら覚える） 3 回　テキスト 9 頁の内容を確認する。（子音を書きながら覚える） 4 回　テキスト 13-17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 5 回　テキスト 13 頁から 17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 6 回　テキスト 22-23 頁の内容を確認する。（単語を発音してみる） 7 回　テキスト 28-32 頁の内容を確認する。（発音の変化に従って発音する） 8 回　レポートを作成（日本語） 9 回　テキスト 38-39 頁の内容を確認する。（本文を読む練習をする） 10 回　テキスト 44-45 頁の内容を確認する。（自己紹介①をやってみる） 11 回　テキスト 50-51 頁の内容を確認する。（位置を表す言葉を覚える） 12 回　テキスト 56-57 頁の内容を確認する。（自己紹介②をやってみる） 13 回　テキスト 64-65 頁の内容を確認する。（ヘヨ体を練習する） 14 回　テキスト 72-73 頁の内容を確認する。（否定文を作ってみる） 15 回　数詞を練習する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。 欠席しないようにすること。
韓国の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと。
是非、韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を目指してほしい。
受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2回　ステージ1．第1課　基本母音
3回　ステージ1．第2課　子音（1）
4回　ステージ1．第3課　子音（2）激音と濃音
5回　ステージ1．第4課　複合母音
6回　ステージ1．第5課　終声（パッチム）
7回　ステージ1．第6課　発音の変化
8回　ステージ1の内容を整理、韓国の文化体験①
9回　ステージ2．　第1課　私は～です　（名詞文のハムニダ体 ）
10回　ステージ2．第2課　専攻は何ですか　（名詞文のヘヨ体と否定）
11回　ステージ2．　第3課　図書館の横にあります。（指示詞）
12回　ステージ2．第4課　～をします　（用言文のハムニダ体）
13回　ステージ2．第5課　～が好きですか（用言文のヘヨ体）
14回　ステージ2．第6課　～ない（用言文の否定形）
15回　数詞練習、韓国の文化体験②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JH0007A07
科目名	入門ハングル s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (s)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字を正しく書き、正確に発音できるようになることを目指す。その後、韓国語でのコミュニケ ーションに必要な基礎的能力（読む、書く、話す、聴く）を培う。 授業は講義形式（基本的には教科書の構成に沿って進めていく）となりますが、一方的な講義とはならず、 学生とのコミュニケーションを取りながら授業を進めて行く。また、直ぐ使える決まり文句などが、確実に身に付くように楽しく学ぶ。 画像や映像も使用し、韓国の社会・文化等、韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト:複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。また、 前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1 回　シラバスを読み、授業内容について理解する。 2 回　テキスト 6-8 頁まで読んで文字を覚える。　（基本母音を書きながら覚える） 3 回　テキスト 9 頁の内容を確認する。（子音を書きながら覚える） 4 回　テキスト 13-17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 5 回　テキスト 13 頁から 17 頁の内容を確認する。（激音と濃音を書きながら覚える） 6 回　テキスト 22-23 頁の内容を確認する。（単語を発音してみる） 7 回　テキスト 28-32 頁の内容を確認する。（発音の変化に従って発音する） 8 回　レポートを作成（日本語） 9 回　テキスト 38-39 頁の内容を確認する。（本文を読む練習をする） 10 回　テキスト 44-45 頁の内容を確認する。（自己紹介①をやってみる） 11 回　テキスト 50-51 頁の内容を確認する。（位置を表す言葉を覚える） 12 回　テキスト 56-57 頁の内容を確認する。（自己紹介②をやってみる） 13 回　テキスト 64-65 頁の内容を確認する。（ヘヨ体を練習する） 14 回　テキスト 72-73 頁の内容を確認する。（否定文を作ってみる） 15 回　数詞を練習する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

外国語は、粘り強く継続に学習することが大事である。 欠席しないようにすること。
韓国の社会、文化、政治、歴史などについても興味を持つこと。
是非、韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を目指してほしい。
受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　オリエンテーション、文字と発音の予備知識
2回　ステージ1．第1課　基本母音
3回　ステージ1．第2課　子音（1）
4回　ステージ1．第3課　子音（2）激音と濃音
5回　ステージ1．第4課　複合母音
6回　ステージ1．第5課　終声（パッチム）
7回　ステージ1．第6課　発音の変化
8回　ステージ1の内容を整理、韓国の文化体験①
9回　ステージ2．　第1課　私は～です　（名詞文のハムニダ体 ）
10回　ステージ2．第2課　専攻は何ですか　（名詞文のヘヨ体と否定）
11回　ステージ2．　第3課　図書館の横にあります。（指示詞）
12回　ステージ2．第4課　～をします　（用言文のハムニダ体）
13回　ステージ2．第5課　～が好きですか（用言文のヘヨ体）
14回　ステージ2．第6課　～ない（用言文の否定形）
15回　数詞練習、韓国の文化体験②

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JH0007B0A
科目名	入門ハングル f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (f)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	ハングル（Ⅰ）に引き続き、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養うことを目指す。授業は講義形式でおこないまずが（基本的に教科書に沿って進めていきます)、できるだけ一方的な講義にならないよう心がけ、受講者とのコミュニケーションをとりながら進めて行く予定である。また画像や映像も援用し、韓国の社会・文化などの韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト,複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1 回　ハムニダ体とヘヨ体について復習する。 2 回　テキスト 78-79 頁の内容を確認する。(?数詞を練習する) 3 回　テキスト 86-87 頁の内容を確認する。(固有数字を練習する) 4 回　練習問題をやってみる。 5 回　練習問題をやってみる。 6 回　テキスト 94-95 頁の内容を確認する。(過去形の練習問題をやってみる) 7 回　テキスト 102-103 の内容を確認する。(尊敬形の練習問題をやってみる) 8 回　レポートを作成（日本語） 9 回　テキスト 112-113 頁の内容を確認する。 10 回　テキスト 120-121 頁の内容を確認する。 11 回　テキスト 128-129 の内容を確認する。 12 回　テキスト 136-137 の内容を確認する。 13 回　テキスト 142-143 の内容を確認する。 14 回　テキスト 148-149 頁の内容を確認する。 15 回　テキスト 154-155 頁の内容を確認する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この授業は、「ハングルⅠ」と「ハングルs」の単位を取得した学生を対象に講義を行う。
よって、「ハングルⅠ」と「ハングルs」を履修した学生が次の段階として受講することが望ましい。
本講座の受講生は韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を、是非、目指してほしい。受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　前期の復習（1）　（用言文のハムニダ体とヘヨ体）
2回　ステージ2．第7課　～いつですか（?数詞）
3回　ステージ2．第8課　～時から　～時までです（固有数詞）
4回　漢数字と固有数字の練習①（年月日）
5回　漢数字と固有数字の練習②（時間）
6回　ステージ2．9課　～ました　～でした（過去形）
7回　ステージ2．10課　～（ら）れます（尊敬形）
8回　韓国の文化体験
9回　ステージ3．11課　～したい（希望と羅列の表現）
10回　ステージ3．12課　～て　～ので（理由、動作の先行）
11回　ステージ3．13課　～られた（尊敬過去形）
12回　ステージ3．14課　～れば　～たら　～と（仮定と条件）
13回　ステージ3　15課　～します　～けれども（意志逆接）
14回　ステージ3　16課　～しようと思う　～てください（意図と丁寧な依頼）
15回　ステージ3　17課　～できない（不可能の表現）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JH0007B0B
科目名	入門ハングル f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (f)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	ハングル（Ⅰ）に引き続き、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養うことを目指す。授業は講義形式でおこないまずが（基本的に教科書に沿って進めていきます)、できるだけ一方的な講義にならないよう心がけ、受講者とのコミュニケーションをとりながら進めて行く予定である。また画像や映像も援用し、韓国の社会・文化などの韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト,複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1 回　ハムニダ体とヘヨ体について復習する。 2 回　テキスト 78-79 頁の内容を確認する。(?数詞を練習する) 3 回　テキスト 86-87 頁の内容を確認する。(固有数字を練習する) 4 回　練習問題をやってみる。 5 回　練習問題をやってみる。 6 回　テキスト 94-95 頁の内容を確認する。(過去形の練習問題をやってみる) 7 回　テキスト 102-103 の内容を確認する。(尊敬形の練習問題をやってみる) 8 回　レポートを作成（日本語） 9 回　テキスト 112-113 頁の内容を確認する。 10 回　テキスト 120-121 頁の内容を確認する。 11 回　テキスト 128-129 の内容を確認する。 12 回　テキスト 136-137 の内容を確認する。 13 回　テキスト 142-143 の内容を確認する。 14 回　テキスト 148-149 頁の内容を確認する。 15 回　テキスト 154-155 頁の内容を確認する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この授業は、「ハングルⅠ」と「ハングルs」の単位を取得した学生を対象に講義を行う。
よって、「ハングルⅠ」と「ハングルs」を履修した学生が次の段階として受講することが望ましい。
本講座の受講生は韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を、是非、目指してほしい。受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　前期の復習（1）　（用言文のハムニダ体とヘヨ体）
2回　ステージ2．第7課　～いつですか（?数詞）
3回　ステージ2．第8課　～時から　～時までです（固有数詞）
4回　漢数字と固有数字の練習①（年月日）
5回　漢数字と固有数字の練習②（時間）
6回　ステージ2．9課　～ました　～でした（過去形）
7回　ステージ2．10課　～（ら）れます（尊敬形）
8回　韓国の文化体験
9回　ステージ3．11課　～したい（希望と羅列の表現）
10回　ステージ3．12課　～て　～ので（理由、動作の先行）
11回　ステージ3．13課　～られた（尊敬過去形）
12回　ステージ3．14課　～れば　～たら　～と（仮定と条件）
13回　ステージ3　15課　～します　～けれども（意志逆接）
14回　ステージ3　16課　～しようと思う　～てください（意図と丁寧な依頼）
15回　ステージ3　17課　～できない（不可能の表現）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JH0007B0C
科目名	入門ハングル f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Korean (f)		
担当者名	方　俊植	旧科目名称	
授業概要	ハングル（Ⅰ）に引き続き、韓国語でのコミュニケーションに必要な基礎的能力（読み、書き、聴く、話す）を総合的に養うことを目指す。授業は講義形式でおこないまずが（基本的に教科書に沿って進めていきます)、できるだけ一方的な講義にならないよう心がけ、受講者とのコミュニケーションをとりながら進めて行く予定である。また画像や映像も援用し、韓国の社会・文化などの韓国事情についても随時、紹介する。		
教材（教科書）	北原スマ子監修　金孝珍著　、『即!実践楽しもう韓国語』、 白帝社、2017 年。（ISBN-13: 978-4863982772）		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への取り組み 50%（課題 20%、授業態度 30%） 学習到達確認 50%（小テスト,複数実施） 2／3 の以上授業に出席して小テスや課題を提出した人のみを成績評価の対象とする。		
到達目標	（1）入門レベルの韓国語の知識を身につけ、簡単な読み書きができる。 （2） あいさつなどの決まり文句を使いこなし、自己紹介や日常生活において簡単な質疑応答ができる。 （3） 韓国の文化や社会に興味を持つようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲（テキスト）を指定するので、予習しておくこと。 また、前回授業内容に係わる復習小テストをするので、復習をしておくうこと。 小テストと課題は添削のうえ次回以後の授業に返却する。 1 回　ハムニダ体とヘヨ体について復習する。 2 回　テキスト 78-79 頁の内容を確認する。(?数詞を練習する) 3 回　テキスト 86-87 頁の内容を確認する。(固有数字を練習する) 4 回　練習問題をやってみる。 5 回　練習問題をやってみる。 6 回　テキスト 94-95 頁の内容を確認する。(過去形の練習問題をやってみる) 7 回　テキスト 102-103 の内容を確認する。(尊敬形の練習問題をやってみる) 8 回　レポートを作成（日本語） 9 回　テキスト 112-113 頁の内容を確認する。 10 回　テキスト 120-121 頁の内容を確認する。 11 回　テキスト 128-129 の内容を確認する。 12 回　テキスト 136-137 の内容を確認する。 13 回　テキスト 142-143 の内容を確認する。 14 回　テキスト 148-149 頁の内容を確認する。 15 回　テキスト 154-155 頁の内容を確認する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この授業は、「ハングルⅠ」と「ハングルs」の単位を取得した学生を対象に講義を行う。
よって、「ハングルⅠ」と「ハングルs」を履修した学生が次の段階として受講することが望ましい。
本講座の受講生は韓国語検定試験（韓国語能力試験、ハングル能力検定試験）を、是非、目指してほしい。受講生の学習環境を阻害するような私語や食事は禁止する。

授業スケジュール

1回　前期の復習（1）　（用言文のハムニダ体とヘヨ体）
2回　ステージ2．第7課　～いつですか（?数詞）
3回　ステージ2．第8課　～時から　～時までです（固有数詞）
4回　漢数字と固有数字の練習①（年月日）
5回　漢数字と固有数字の練習②（時間）
6回　ステージ2．9課　～ました　～でした（過去形）
7回　ステージ2．10課　～（ら）れます（尊敬形）
8回　韓国の文化体験
9回　ステージ3．11課　～したい（希望と羅列の表現）
10回　ステージ3．12課　～て　～ので（理由、動作の先行）
11回　ステージ3．13課　～られた（尊敬過去形）
12回　ステージ3．14課　～れば　～たら　～と（仮定と条件）
13回　ステージ3　15課　～します　～けれども（意志逆接）
14回　ステージ3　16課　～しようと思う　～てください（意図と丁寧な依頼）
15回　ステージ3　17課　～できない（不可能の表現）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JH0010A01
科目名	入門フランス語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (s)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
授業概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人...「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 １） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現を修得します。 ２） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（教科書）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税　必ず購入すること		
教材（参考資料）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教育方法	PowerPoint（スライド）を用いながら講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、定期テスト（30%）、		
到達目標	１） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 ２） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
授業時間外学習	１） 次回授業までに学習した内容をしっかり理解すること。 ２） 各課終了後に宿題を配布するので、次回授業時に提出できるようにすること。 ３） 各課終了後に小テストを実施する。宿題の内容を中心に出題するので、授業で学んだ例文・単語・表現をしっかり復習すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１） 授業への積極的な参加を期待しています。
２） 私語は厳禁です。問題があると判断した場合には他社への迷惑を勘案し退出を求めます。
３） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
４） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

授業スケジュール

01. はじめに
02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1
03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説）
04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3
05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2
06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説）
07. Lecon 03 名前・住所について-2
08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説）
09. Lecon 04 所有-1
10. Lecon 04 所有-2
11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説）
12. Lecon 05 好み・嗜好について-1
13. Lecon 05 好み・嗜好について-2
14. Lecon 05 好み・嗜好について-3

15. 春学期内容確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	JH0010A02
科目名	入門フランス語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (s)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
授業概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人...「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 １） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現を修得します。 ２） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（教科書）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」 （朝日出版社） 本体 2,100 円＋税　 必ず購入すること		
教材（参考資料）	「ロベール・クレ仏和辞典」 （駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教育方法	PowerPoint（スライド）を用いながら講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、定期テスト（30%）、		
到達目標	１） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 ２） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
授業時間外学習	１） 次回授業までに学習した内容をしっかり理解すること。 ２） 各課終了後に宿題を配布するので、次回授業時に提出できるようにすること。 ３） 各課終了後に小テストを実施する。宿題の内容を中心に出題するので、授業で学んだ例文・単語・表現をしっかり復習すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１） 授業への積極的な参加を期待しています。
２） 私語は厳禁です。問題があると判断した場合には他社への迷惑を勘案し退出を求めます。
３） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
４） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

授業スケジュール

01. はじめに
02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1
03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説）
04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3
05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2
06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説）
07. Lecon 03 名前・住所について-2
08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説）
09. Lecon 04 所有-1
10. Lecon 04 所有-2
11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説）
12. Lecon 05 好み・嗜好について-1
13. Lecon 05 好み・嗜好について-2
14. Lecon 05 好み・嗜好について-3

15. 春学期内容確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	JH0010A03
科目名	入門フランス語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (s)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
授業概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人...「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 １） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現を修得します。 ２） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（教科書）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」 （朝日出版社） 本体 2,100 円＋税　 必ず購入すること		
教材（参考資料）	「ロベール・クレ仏和辞典」 （駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教育方法	PowerPoint（スライド）を用いながら講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、定期テスト（30%）、		
到達目標	１） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 ２） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
授業時間外学習	１） 次回授業までに学習した内容をしっかり理解すること。 ２） 各課終了後に宿題を配布するので、次回授業時に提出できるようにすること。 ３） 各課終了後に小テストを実施する。宿題の内容を中心に出題するので、授業で学んだ例文・単語・表現をしっかり復習すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１） 授業への積極的な参加を期待しています。
２） 私語は厳禁です。問題があると判断した場合には他社への迷惑を勘案し退出を求めます。
３） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
４） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

授業スケジュール

01. はじめに
02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1
03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説）
04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3
05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2
06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説）
07. Lecon 03 名前・住所について-2
08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説）
09. Lecon 04 所有-1
10. Lecon 04 所有-2
11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説）
12. Lecon 05 好み・嗜好について-1
13. Lecon 05 好み・嗜好について-2
14. Lecon 05 好み・嗜好について-3

15. 春学期内容確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	JH0010A04
科目名	入門フランス語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (s)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
授業概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人...「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 １） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現を修得します。 ２） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（教科書）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税　必ず購入すること		
教材（参考資料）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教育方法	PowerPoint（スライド）を用いながら講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、定期テスト（30%）、		
到達目標	１） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 ２） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
授業時間外学習	１） 次回授業までに学習した内容をしっかり理解すること。 ２） 各課終了後に宿題を配布するので、次回授業時に提出できるようにすること。 ３） 各課終了後に小テストを実施する。宿題の内容を中心に出題するので、授業で学んだ例文・単語・表現をしっかり復習すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１） 授業への積極的な参加を期待しています。
２） 私語は厳禁です。問題があると判断した場合には他社への迷惑を勘案し退出を求めます。
３） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
４） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

授業スケジュール

01. はじめに
02. Lecon 0 1　挨拶の表現-1、発音と構文-1
03. Lecon 0 1　挨拶の表現-2、発音と構文-2 （フランス文化解説）
04. Lecon 02 身分・職業・国籍について-1、発音と構文-3
05. Lecon 02 身分・職業・国籍について-2
06. Lecon 03 名前・住所について-1 （フランス文化解説）
07. Lecon 03 名前・住所について-2
08. Lecon 03 名前・住所について-3 （フランス文化解説）
09. Lecon 04 所有-1
10. Lecon 04 所有-2
11. Lecon 04 所有-3 （フランス文化解説）
12. Lecon 05 好み・嗜好について-1
13. Lecon 05 好み・嗜好について-2
14. Lecon 05 好み・嗜好について-3

15. 春学期内容確認

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	JH0010B01
科目名	入門フランス語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (f)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
授業概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人...「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 １） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現を修得します。 ２） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（教科書）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税　必ず購入すること		
教材（参考資料）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教育方法	PowerPoint（スライド）を用いながら講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	１） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 ２） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
授業時間外学習	１） 次回授業までに学習した内容をしっかり理解すること。 ２） 各課終了後に宿題を配布するので、次回授業時に提出できるようにすること。 ３） 各課終了後に小テストを実施する。宿題の内容を中心に出題するので、授業で学んだ例文・単語・表現をしっかり復習すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１） 「フランス語Ⅰ」または「入門フランス語ｓ」を履修していることが受講条件となります。
２） 授業への積極的な参加を期待しています。
３） 私語は厳禁です。問題があると判断した場合には他社への迷惑を勘案し退出を求めます。
４） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
５） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

授業スケジュール

01. はじめに （フランス文化解説）
02. Lecon 06 言語能力-1
03. Lecon 06 言語能力-2
04. Lecon 06 言語能力-3（フランス文化解説）
05. Lecon 07 年齢について-1
06. Lecon 07 年齢について-2
07. Lecon 07 年齢について-3（フランス文化解説）
08. フランス文化解説
09. Lecon 08 時間・天候について-1
10. Lecon 08 時間・天候について-2
11. Lecon 08 時間・天候について-3（フランス文化解説）
12. Lecon 11 相手のことについて-1
13. Lecon 11 相手のことについて-2

14. Lecon 11 相手のことについて-3（フランス文化解説） 15. 秋学期内容確認

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	JH0010B03
科目名	入門フランス語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic French (f)		
担当者名	山川　清太郎	旧科目名称	
授業概要	みなさんは「フランス」という言葉を聞いて、どのようなことを感じるでしょうか？ 華やかなパリのイメージを持つ人、グルメやファッションを思い浮かべる人、フランス語は難しい言葉だと思った人、ジャンヌ・ダルクやフランス革命といった歴史上の人物や出来事がひらめいた人、フランスに関するニュースが頭に浮かんだ人...「フランス」に対して様々なことを感じたと思います。 この授業では以下の観点から皆さんのフランスに対する興味を深めていきます。 １） フランス語コミュニケーションとして、自己表現・他者表現を修得します。 ２） プリントや DVD を用いて、フランスやフランス語圏の文化について知見を広げます。 楽しくまじめにフランス語を学びましょう！		
教材（教科書）	小倉博史、山川清太郎 著　「ヌーヴォー！―フランス語で伝えてみよう―」（朝日出版社） 本体 2,100 円＋税　必ず購入すること		
教材（参考資料）	「ロベール・クレ仏和辞典」（駿河台出版社） 3,200 円＋税		
教育方法	PowerPoint（スライド）を用いながら講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（70%）、定期テスト（30%）		
到達目標	１） 初級フランス語を理解することで、簡単な自己表現・他者表現ができるようになること。 ２） フランス、フランス語圏文化に対する理解を深め、世界を見る視点を養う。		
授業時間外学習	１） 次回授業までに学習した内容をしっかり理解すること。 ２） 各課終了後に宿題を配布するので、次回授業時に提出できるようにすること。 ３） 各課終了後に小テストを実施する。宿題の内容を中心に出題するので、授業で学んだ例文・単語・表現をしっかり復習すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１） 「フランス語Ⅰ」または「入門フランス語ｓ」を履修していることが受講条件となります。
２） 授業への積極的な参加を期待しています。
３） 私語は厳禁です。問題があると判断した場合には他社への迷惑を勘案し退出を求めます。
４） 授業を欠席する（した）場合は事前（事後）に必ず報告すること。
５） 質問などがあれば、 bpr5000@saturn.dti.ne.jp まで連絡すること。

授業スケジュール

01. はじめに （フランス文化解説）
02. Lecon 06 言語能力-1
03. Lecon 06 言語能力-2
04. Lecon 06 言語能力-3（フランス文化解説）
05. Lecon 07 年齢について-1
06. Lecon 07 年齢について-2
07. Lecon 07 年齢について-3（フランス文化解説）
08. フランス文化解説
09. Lecon 08 時間・天候について-1
10. Lecon 08 時間・天候について-2
11. Lecon 08 時間・天候について-3（フランス文化解説）
12. Lecon 11 相手のことについて-1
13. Lecon 11 相手のことについて-2

14. Lecon 11 相手のことについて-3（フランス文化解説） 15. 秋学期内容確認

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	JH0013A02
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 I
授業概要	中国語は世界人口の約 5 分の 1 の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（教科書）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考資料）	授業中に適宜に指示します。		
教育方法	暗唱、会話などの語学特訓を行う。中国語で自己紹介（発表）もある。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50％ 各種のテスト 50％		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。基礎的な語彙、基礎的な文法、基礎的な挨拶、自己紹介、基礎的な質疑応答などできるように特訓する。		
授業時間外学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

　大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

授業スケジュール

1.授業の進め方、発音、簡単な会話
2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣
3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4.ピンイン、第 1 課　人称代名詞など
5.発音基礎、第 1 課「是」など
6.発音基礎、第 1 課「請」など
7.発音基礎、第 2 課否定など
8.総合練習、第 2 課「的」など
9.会話、第 3 課　形容詞述語文など
10.会話、第 3 課　疑問詞など
11.会話、第 4 課　量詞など
12.会話、第 4 課　数詞など
13.会話、第 5 課　在、想、要
14.会話、第 5 課　場所指示代名詞
15.総合練習、自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2018	授業コード	JH0013A03
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	劉　礫岩	旧科目名称	
授業概要	この講義では、初習者を対象に、中国語の発声、基礎的な文法などについて学び、初歩的なコミュニケーション能力を身につけることを目的とします。同時に、語順などの文法構造の特徴についても学び、さらなる学習の土台作りを目指します。		
教材（教科書）	教科書：塚本慶一(監修)　劉穎(著)　最新版 「1 年生のコミュニケーション中国語」(CD 付き)　白水社 2,200 円(税抜き)		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	授業の進行は基本教科書に従い、日本人学生にとって難しい発音に留意しつつ、発音と基本文法などを繰り返し練習します。パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。定期テスト(70%)。		
到達目標	中国語の基本的な発音を聞き取れ、発声できるようになること。 簡単なあいさつを習得し、実際使えるようになること。 基礎的な文型を理解し、それを読み書きができるようになること。		
授業時間外学習	基本毎回宿題を出し、復習と予習をします。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎回出席し、積極的に授業に参加してください。
予習、復習をしてくること前提に進めますので、しっかり宿題をしてください。
私語は他の学生に迷惑なので退出してもらうことがあります。

授業スケジュール

１．授業の進め方、発音、簡単な会話
２．ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
３．ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
４．ピンイン、人称代名詞など
５．発音基礎、第１課　「是」など
６．発音基礎、第１課　「請」など
７．発音基礎、第２課　否定文など
８．総合練習、第２課　「的」など
９．会話、第３課　形容詞述語文など
１０．会話、第３課　疑問詞など
１１．会話、第４課　量詞など
１２．会話、第４課　数詞など
１３．会話、第５課　在、想、要
１４．会話、第５課　場所指示代名詞
１５．総合練習、自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	★★

年度	2018	授業コード	JH0013A05
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	劉　礫岩	旧科目名称	
授業概要	この講義では、初習者を対象に、中国語の発声、基礎的な文法などについて学び、初歩的なコミュニケーション能力を身につけることを目的とします。同時に、語順などの文法構造の特徴についても学び、さらなる学習の土台作りを目指します。		
教材（教科書）	教科書：塚本慶一(監修)　劉穎(著)　最新版 「1 年生のコミュニケーション中国語」(CD 付き)　白水社 2,200 円(税抜き)		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	授業の進行は基本教科書に従い、日本人学生にとって難しい発音に留意しつつ、発音と基本文法などを繰り返し練習します。パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。定期テスト(70%)。		
到達目標	中国語の基本的な発音を聞き取れ、発声できるようになること。 簡単なあいさつを習得し、実際使えるようになること。 基礎的な文型を理解し、それを読み書きができるようになること。		
授業時間外学習	基本毎回宿題を出し、復習と予習をします。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎回出席し、積極的に授業に参加してください。
予習、復習をしてくること前提に進めますので、しっかり宿題をしてください。
私語は他の学生に迷惑なので退出してもらうことがあります。

授業スケジュール

１．授業の進め方、発音、簡単な会話
２．ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
３．ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
４．ピンイン、人称代名詞など
５．発音基礎、第１課　「是」など
６．発音基礎、第１課　「請」など
７．発音基礎、第２課　否定文など
８．総合練習、第２課　「的」など
９．会話、第３課　形容詞述語文など
１０．会話、第３課　疑問詞など
１１．会話、第４課　量詞など
１２．会話、第４課　数詞など
１３．会話、第５課　在、想、要
１４．会話、第５課　場所指示代名詞
１５．総合練習、自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	★★	－	★★

年度	2018	授業コード	JH0013A06
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 I
授業概要	中国語は世界人口の約 5 分の 1 の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（教科書）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考資料）	授業中に適宜に指示します。		
教育方法	暗唱、会話などの語学特訓を行う。中国語で自己紹介（発表）もある。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。基礎的な語彙、基礎的な文法、基礎的な挨拶、自己紹介、基礎的な質疑応答などできるように特訓する。		
授業時間外学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

　大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

授業スケジュール

1.授業の進め方、発音、簡単な会話
2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣
3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4.ピンイン、第 1 課　人称代名詞など
5.発音基礎、第 1 課「是」など
6.発音基礎、第 1 課「請」など
7.発音基礎、第 2 課否定など
8.総合練習、第 2 課「的」など
9.会話、第 3 課　形容詞述語文など
10.会話、第 3 課　疑問詞など
11.会話、第 4 課　量詞など
12.会話、第 4 課　数詞など
13.会話、第 5 課　在、想、要
14.会話、第 5 課　場所指示代名詞
15.総合練習、自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2018	授業コード	JH0013A07
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 I
授業概要	中国語は世界人口の約 5 分の 1 の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（教科書）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考資料）	授業中に適宜に指示します。		
教育方法	暗唱、会話などの語学特訓を行う。中国語で自己紹介（発表）もある。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50% 各種のテスト 50%		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。基礎的な語彙、基礎的な文法、基礎的な挨拶、自己紹介、基礎的な質疑応答などできるように特訓する。		
授業時間外学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

　大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

授業スケジュール

1.授業の進め方、発音、簡単な会話
2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣
3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4.ピンイン、第 1 課　人称代名詞など
5.発音基礎、第 1 課「是」など
6.発音基礎、第 1 課「請」など
7.発音基礎、第 2 課否定など
8.総合練習、第 2 課「的」など
9.会話、第 3 課　形容詞述語文など
10.会話、第 3 課　疑問詞など
11.会話、第 4 課　量詞など
12.会話、第 4 課　数詞など
13.会話、第 5 課　在、想、要
14.会話、第 5 課　場所指示代名詞
15.総合練習、自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2018	授業コード	JH0013A09
科目名	入門中国語 s	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (s)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 I
授業概要	中国語は世界人口の約 5 分の 1 の人が用いている。中国語の習得は今後の仕事にもプラスになる。日本の未来を担うあなたの国際的対応力、実力を高めるにも、簡単な日常会話を覚えることが確実に役立てる一歩になるだろう。 　この講義ではまず中国語の学習のコツを伝授し、学生に興味を持たせる。中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 　教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の発音(声調、発音表記を含む)を完全にマスターし、基本的な文法事項を理解して、運用できる能力を身につける。		
教材（教科書）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考資料）	授業中に適宜に指示します。		
教育方法	暗唱、会話などの語学特訓を行う。中国語で自己紹介（発表）もある。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50％ 各種のテスト 50％		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。基礎的な語彙、基礎的な文法、基礎的な挨拶、自己紹介、基礎的な質疑応答などできるように特訓する。		
授業時間外学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

　大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

授業スケジュール

1.授業の進め方、発音、簡単な会話
2.ピンイン、簡単なあいさつ、中国の習慣
3.ピンイン、簡単なあいさつ、中国事情
4.ピンイン、第 1 課　人称代名詞など
5.発音基礎、第 1 課「是」など
6.発音基礎、第 1 課「請」など
7.発音基礎、第 2 課否定など
8.総合練習、第 2 課「的」など
9.会話、第 3 課　形容詞述語文など
10.会話、第 3 課　疑問詞など
11.会話、第 4 課　量詞など
12.会話、第 4 課　数詞など
13.会話、第 5 課　在、想、要
14.会話、第 5 課　場所指示代名詞
15.総合練習、自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	−	★	★	−	−

年度	2018	授業コード	JH0013B0C
科目名	入門中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (f)		
担当者名	劉　礫岩	旧科目名称	
授業概要	この講義では前期の授業に引き続き、中国語能力のレベルアップを図り、基本文型を学ぶとともに場面に応じて中国語会話を練習する。中国の文化・習慣・事情なども紹介する。基本的な文法事項を運用し、簡単な日常会話をマスターする。		
教材（教科書）	教科書：塚本慶一(監修)　劉穎(著)　最新版　「1 年生のコミュニケーション中国語」(CD 付き)　白水社　2,200 円(税抜き)		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	授業の進行は基本教科書に従い、日本人学生にとって難しい発音に留意しつつ、発音と基本文法などを繰り返し練習します。パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。定期テスト(70%)。		
到達目標	中国語の基本的な発音を聞き取れ、発声できるようになること。 基礎的な文型を理解し、それを読み書きができるようになること。 いくつか限定的な場面での会話を理解できるようになること。		
授業時間外学習	基本毎回宿題を出し、復習と予習をします。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎回出席し、積極的に授業に参加してください。
予習、復習をしてくること前提に進めますので、しっかり宿題をしてください。
私語は他の学生に迷惑なので退出してもらうことがあります。
前期授業の続きなので、中国語Ｉを履修した上でこちらを履修してください。

授業スケジュール

１．授業の進め方、第６課　「有」など
２．第６課　助数詞など
３．第７課　時刻など
４．第７課　時間の長さなど
５．第８課　「了」など
６．第８課　選択疑問文など
７．第９課　前置詞など
８．総合練習、第９課　「給」など
９．会話、第１０課　助動詞など
１０．会話、第１０課　動詞の重ね用法など

１１．会話、第１１課　量詞など
１２．会話、第１１課　「去」、「来」など
１３．会話、第１２課　「是～的」など
１４．会話、第１２課　質問練習
１５．総合練習、会話練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JH0013B0E
科目名	入門中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (f)		
担当者名	劉　礫岩	旧科目名称	
授業概要	この講義では前期の授業に引き続き、中国語能力のレベルアップを図り、基本文型を学ぶとともに場面に応じて中国語会話を練習する。中国の文化・習慣・事情なども紹介する。基本的な文法事項を運用し、簡単な日常会話をマスターする。		
教材（教科書）	教科書：塚本慶一(監修)　劉穎(著)　最新版　「1 年生のコミュニケーション中国語」(CD 付き)　白水社 2,200 円(税抜き)		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	授業の進行は基本教科書に従い、日本人学生にとって難しい発音に留意しつつ、発音と基本文法などを繰り返し練習します。パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。定期テスト(70%)。		
到達目標	中国語の基本的な発音を聞き取れ、発声できるようになること。 基礎的な文型を理解し、それを読み書きができるようになること。 いくつか限定的な場面での会話を理解できるようになること。		
授業時間外学習	基本毎回宿題を出し、復習と予習をします。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎回出席し、積極的に授業に参加してください。
予習、復習をしてくること前提に進めますので、しっかり宿題をしてください。
私語は他の学生に迷惑なので退出してもらうことがあります。
前期授業の続きなので、中国語Ｉを履修した上でこちらを履修してください。

授業スケジュール

１．授業の進め方、第６課　「有」など
２．第６課　助数詞など
３．第７課　時刻など
４．第７課　時間の長さなど
５．第８課　「了」など
６．第８課　選択疑問文など
７．第９課　前置詞など
８．総合練習、第９課　「給」など
９．会話、第１０課　助動詞など
１０．会話、第１０課　動詞の重ね用法など

１１．会話、第１１課　量詞など
１２．会話、第１１課　「去」、「来」など
１３．会話、第１２課　「是～的」など
１４．会話、第１２課　質問練習
１５．総合練習、会話練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	★	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JH0013B0F
科目名	入門中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (f)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 s
授業概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（教科書）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考資料）	授業中に適宜に指示します。		
教育方法	暗唱、会話などの語学特訓を行う。中国語で自己紹介（発表）もある。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50％ 各種のテスト 50％		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。基礎的な語彙、基礎的な文法、基礎的な挨拶、自己紹介、基礎的な質疑応答などできるように特訓する。		
授業時間外学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

授業スケジュール

1.授業の進め方、第 6 課　有、初級の方は発音練習など
2.第 6 課　助数詞、初級の方は発音、第 1 課など
3.第 7 課　時刻、初級の方は第 1 課など
4.第 7 課　時間の長さ、初級の方は発音、第 1 課など
5.第 8 課　了など、初級の方は発音、第 2 課など
6.第 8 課　選択疑問文、初級の方は発音、第 2 課など
7.第 9 課　前置詞、初級の方は発音、第 3 課など
8.総合練習、第 9 課　給など、初級の方は発音、第 3 課など
9.会話、第 10 課　助動詞、初級の方は第 4 課など
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法、初級の方は第 4 課など
11.会話、第 11 課　量詞など、初級の方は第 5 課など
12.会話、第 11 課　去、来、初級の方は第 5 課など
13.会話、第 12 課　是～的など、初級の方は総合練習
14. 会話、第 12 課　質問の練習、初級の方は自己紹介の練習
15.総合練習、初級の方は自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★★	★	−	−

年度	2018	授業コード	JH0013B0G
科目名	入門中国語 f	単位数	2
科目名（英語表記）	Basic Chinese (f)		
担当者名	彭　飛	旧科目名称	入門中国語 s
授業概要	この講義では前期に引き続き、中国語のレベルアップを図り、場面に応じて中国語会話を練習する。練習用のプリントを用意し、中国語と同時に中国語の文化・習慣・事情なども紹介する。 教科書の各課を順に学習し、半年間で中国語の簡単な日常会話をマスターし、基本的な文法事項を理解し、運用できる能力を身ににつける。		
教材（教科書）	塚本慶一監修　　劉穎著《新版》　「一年生のコミュニケーション中国語」　白水社　2200 円　CD つき		
教材（参考資料）	授業中に適宜に指示します。		
教育方法	暗唱、会話などの語学特訓を行う。中国語で自己紹介（発表）もある。		
評価方法	学習態度、練習、習熟度による平常点 50％ 各種のテスト 50％		
到達目標	異文化の理解を深めるために必要な中国語の初級知識と学び方を身につけ、必要なコミュニケーションの語学力の基礎を習得する。基礎的な語彙、基礎的な文法、基礎的な挨拶、自己紹介、基礎的な質疑応答などできるように特訓する。		
授業時間外学習	各講義の最後に次回の授業のための復習と予習ポイントを指示します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

大きな声で練習してください。遅刻、私語は禁物。中国語ネィティブによる中国語の特訓の時間を大切に、中国語が話せるようがんばってください。

授業スケジュール

1.授業の進め方、第 6 課　有、初級の方は発音練習など
2.第 6 課　助数詞、初級の方は発音、第 1 課など
3.第 7 課　時刻、初級の方は第 1 課など
4.第 7 課　時間の長さ、初級の方は発音、第 1 課など
5.第 8 課　了など、初級の方は発音、第 2 課など
6.第 8 課　選択疑問文、初級の方は発音、第 2 課など
7.第 9 課　前置詞、初級の方は発音、第 3 課など
8.総合練習、第 9 課　給など、初級の方は発音、第 3 課など
9.会話、第 10 課　助動詞、初級の方は第 4 課など
10.会話、第 10 課　動詞の重ね用法、初級の方は第 4 課など
11.会話、第 11 課　量詞など、初級の方は第 5 課など
12.会話、第 11 課　去、来、初級の方は第 5 課など
13.会話、第 12 課　是～的など、初級の方は総合練習
14. 会話、第 12 課　質問の練習、初級の方は自己紹介の練習
15.総合練習、初級の方は自己紹介の練習

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	★	★★	★	−	−

年度	2018	授業コード	JM0003A0A
科目名	日本語応用Ａ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	日本語Ⅲ
授業概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（教科書）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考資料）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教育方法	双方向の講義形式。		
評価方法	授業中の受け答え、発表（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
授業時間外学習	日本の短編小説を読んでおくこと。 次回の範囲の予習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件　なし
受講のルール　私語厳禁
学習上の助言　毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

授業スケジュール

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	JM0003A0B
科目名	日本語応用Ａ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese A		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語Ⅲ
授業概要	外国人留学生を対象とした日本語プログラムで、主に、日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験 N1 レベルを目指す。 さらに、様々なテーマについて書かれた文章の理解、それに関する意見述べもできるように指導する。進度によって、授業内容を変更することもある。		
教材（教科書）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』 アルク　1800 円＋税		
教材（参考資料）	随時指示する。		
教育方法	主に講義法で行い、グループワークや簡単な意見発表も行う。		
評価方法	試験（60%）、課題提出（20%）、授業の参加度による平常点（20%）で総合的に評価する。		
到達目標	専門科目の講義および、様々なテーマで書かれた文章を理解し、さらに意見述べができる、日本語能力試験 N1 程度の実力を身につける。		
授業時間外学習	日本語能力試験 N１程度の日本語能力を身につけるために、日頃から日本の小説や新聞等を意識して読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

授業スケジュール

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。 日本語力を確認するための実力テスト。
2　第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　おいしい食感の理由
6　第５課　日本人の意識ー結婚と家庭に関する 40 年の変容ー
7　第６課　フリーター問題
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　第１０課　応用①
12　第１１課～応用②
13　小説、新聞、映像他
14　小説、新聞、映像他
15　小説、新聞、映像他、確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	JM0003A0C
科目名	日本語応用Ａ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	日本語Ⅲ
授業概要	日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験１級レベルを目指す。		
教材（教科書）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』（アカデミックジャパニーズ研究会編著）		
教材（参考資料）	近代短編小説（芥川龍之介全集）		
教育方法	双方向の講義形式。		
評価方法	授業中の受け答え、発表（６０％）、試験（４０％）で総合的に評価する。		
到達目標	日本語能力試験１級の実力を身につける。		
授業時間外学習	日本の短編小説を読んでおくこと。 次回の範囲の予習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件　なし
受講のルール　私語厳禁
学習上の助言　毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

授業スケジュール

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。
2　『留学生の日本語』第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　ビデオカメラの人間工学
6　第５課　多様化の中のテレビ
7　第６課　フリーター
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　杜子春（１）
12　杜子春（２）
13　蜘蛛の糸
14　猿蟹合戦
15　日本のことわざ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	JM0003A0D
科目名	日本語応用Ａ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese A		
担当者名	塩谷　尚子	旧科目名称	日本語Ⅲ
授業概要	外国人留学生を対象とした日本語プログラムで、主に、日本語読解の応用力を育成する。日本語能力試験 N1 レベルを目指す。 さらに、様々なテーマについて書かれた文章の理解、それに関する意見述べもできるように指導する。進度によって、授業内容を変更することもある。		
教材（教科書）	『大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編』 アルク　1800 円＋税		
教材（参考資料）	随時指示する。		
教育方法	主に講義法で行い、グループワークや簡単な意見発表も行う。		
評価方法	試験（60%）、課題提出（20%）、授業の参加度による平常点（20%）で総合的に評価する。		
到達目標	専門科目の講義および、様々なテーマで書かれた文章を理解し、さらに意見述べができる、日本語能力試験 N1 程度の実力を身につける。		
授業時間外学習	日本語能力試験 N１程度の日本語能力を身につけるために、日頃から日本の小説や新聞等を意識して読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎回出席することが重要である。予習・復習を欠かさぬ事。特に予習に力を入れて欲しい。

授業スケジュール

1　授業の進め方についての説明。出席者の自己紹介。 日本語力を確認するための実力テスト。
2　第１課　異文化適応
3　第２課　いじめ
4　第３課　衝動買いを誘導する
5　第４課　おいしい食感の理由
6　第５課　日本人の意識ー結婚と家庭に関する 40 年の変容ー
7　第６課　フリーター問題
8　第７課　安全でおいしい水を飲むために
9　第８課　「まじめ」という言葉
10　第９課　がん告知
11　第１０課　応用①
12　第１１課～応用②
13　小説、新聞、映像他
14　小説、新聞、映像他
15　小説、新聞、映像他、確認テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	JM0004B0A
科目名	日本語応用Ｂ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese B		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
授業概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（教科書）	プリント教材を使用する。		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	基本的にはプリント教材を用いた講義法となるが、日本語技能を伸ばすための様々な活動（日本語による質疑応答、グループワーク、プレゼンテーション、作文など）を大いに取り入れた授業となる。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
授業時間外学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
授業スケジュール			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3 15.全体的な復習と確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JM0004B0B
科目名	日本語応用Ｂ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese B		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
授業概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（教科書）	プリント教材を使用する。		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	基本的にはプリント教材を用いた講義法となるが、日本語技能を伸ばすための様々な活動（日本語による質疑応答、グループワーク、プレゼンテーション、作文など）を大いに取り入れた授業となる。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
授業時間外学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
授業スケジュール			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3 15.全体的な復習と確認			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JM0004B0C
科目名	日本語応用Ｂ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese B		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
授業概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（教科書）	プリント教材を使用する。		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
授業時間外学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
授業スケジュール			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.グループワーク 4、全体的な復習 2、小テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JM0004B0D
科目名	日本語応用Ｂ 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Applied Japanese B		
担当者名	松本　朋子	旧科目名称	
授業概要	さまざまなジャンルの日本語の文章を読む、聞く、話す、書く活動をとおして、日本語の総合的な運用能力を高める。		
教材（教科書）	プリント教材を使用する。		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	授業への積極的な参加態度(20%)　課題・クイズ(40%)　テスト(40%)		
到達目標	大学生活に必要な上級の日本語運用能力を身につけ、レポートや口頭発表で自分の考えを伝えたり、他者の考えを理解し、意見交換したりすることができるようになることを目指す。		
授業時間外学習	事前に指定された範囲の予習をしてくること。 定期的に前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回、辞書（電子辞書可）を持参し、積極的に授業に取り組んでください。 欠席や遅刻をしないようにしてください。			
授業スケジュール			
1.導入：授業の進め方や評価の仕方についての説明、自己紹介等 2.語彙・文法の導入 1、聞き取り 1 3.語彙・文法の導入 2、聞き取り 2 4.クイズ 1、読解 1、作文 1 5.クイズ 2、語彙・文法の導入 3、聞き取り 3 6.語彙・文法の導入 4、聞き取り 4 7.クイズ 3、読解 2、作文 2 8.クイズ 4、プレンゼンテーション 1 9.プレゼンテーション 2 10.プレゼンテーション 3、語彙・文法の導入 5 11.語彙・文法の導入 6、読解 3 12.クイズ 5、グループワーク 1 13.グループワーク 2 14.グループワーク 3、全体的な復習 1 15.グループワーク 4、全体的な復習 2、小テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JM000600A
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
授業概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（教科書）	プリント配布		
教材（参考資料）	随時指示する。		
教育方法	基本的にはプリント教材を使用しての講義法となる。日本語作文に必要な表現の学習・練習を行う、あるトピックについて、互いに意見を出し合った上で文章化を行う、といった活動がある。		
評価方法	授業時の取り組み状況による平常点３０％、課題作成・小テスト３０％、試験４０％。		
到達目標	レポート・論文作成のための基礎的な力を身に付け、学生生活や社会生活に必要な日本語の文章が作成できるようになる。		
授業時間外学習	授業で扱った内容についての練習問題や復習問題、作文などを毎回宿題として課す。宿題をする中で、わからないこと等があった場合は、次回の授業で質問して、必ず解決できるようにすること。また日程の告知を行った上で、数回の小テストを行うので、その準備をすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

授業スケジュール

1　ガイダンス　作文の基本
2　情報を文章にする
3　状況を説明し、意見を述べる
4　体験したことを報告する文
5　テーマに沿った意見を述べる
6　段落を作る
7　　レポートを書くための基礎知識
8　レポートの語彙・文体
9　アウトライン
１０　引用
１１　資料を利用する
１２　レポートを書く
１３　意見文を書く１
１４　意見文を書く２
１５　小論文を書く

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JM000600B
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
授業概要	大学生としてふさわしい作文（レポート、論文）を書く能力を養うことを目標にする。毎回、400 字程度の作文を書いてもらい、講評を行う。毎回、異なった題材を提示しそれらについて解説し、ディスカッションを経た後、作文を執筆してもらう。		
教材（教科書）	『小論文への１２のステップ』スリーエーステップ		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教科書を通じて小論文作成の理論を学び、作文作成の練習と添削を通じて実践力をつける。		
評価方法	授業中に提出してもらう作文によって評価する。		
到達目標	アカデミックな論文の文体や表現方法の基礎を身に着ける。		
授業時間外学習	毎回、作文の間違いや、表現の不備などを講評で指摘するのでそれらをよく理解して同じ間違いをしないようにしてほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自分の書いた作文だけでなくクラスメートの書いた作文にも注意を払い、間違いと良い表現の両方から学ぶという態度を取ってほしい。			
授業スケジュール			
1.表記の仕方 ２．文体について ３．話し言葉から書き言葉について ４．正しい構造の文について ５．文のつながりについて ６．小論文に使われる表現について ７．段落について ８要約文を書く ９．説明文を書く １０．意見文を書く １１．事実を示す方法（図、チャート） １２．小論文のはじめとおわり １３．小論文執筆の準備（資料収集） １４．小論文の執筆 １５．小論文への批評とまとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JM000600C
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	小鹿原　敏夫	旧科目名称	
授業概要	大学生としてふさわしい作文（レポート、論文）を書く能力を養うことを目標にする。毎回、400 字程度の作文を書いてもらい、講評を行う。毎回、異なった題材を提示しそれらについて解説し、ディスカッションを経た後、作文を執筆してもらう。		
教材（教科書）	『小論文への１２のステップ』スリーエーステップ		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	教科書を通じて小論文作成の理論を学び、作文作成の練習と添削を通じて実践力をつける。		
評価方法	授業中に提出してもらう作文によって評価する。		
到達目標	アカデミックな論文の文体や表現方法の基礎を身に着ける。		
授業時間外学習	毎回、作文の間違いや、表現の不備などを講評で指摘するのでそれらをよく理解して同じ間違いをしないようにしてほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
自分の書いた作文だけでなくクラスメートの書いた作文にも注意を払い、間違いと良い表現の両方から学ぶという態度を取ってほしい。			
授業スケジュール			
1.表記の仕方 ２．文体について ３．話し言葉から書き言葉について ４．正しい構造の文について ５．文のつながりについて ６．小論文に使われる表現について ７．段落について ８要約文を書く ９．説明文を書く １０．意見文を書く １１．事実を示す方法（図、チャート） １２．小論文のはじめとおわり １３．小論文執筆の準備（資料収集） １４．小論文の執筆 １５．小論文への批評とまとめ			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	JM000600D
科目名	日本語作文演習 【留】	単位数	2
科目名（英語表記）	Seminar on Japanese Writing		
担当者名	廣坂　直子	旧科目名称	
授業概要	現代社会では、言葉によって事実や状況を伝えたり、自分の意見を論理的に述べることが必要となる。この演習では、正しい構造の文、文章の構成、小論文を書くための基礎的な表現技術などを学ぶ。		
教材（教科書）	プリント配布		
教材（参考資料）	随時指示する。		
教育方法	基本的にはプリント教材を使用しての講義法となる。日本語作文に必要な表現の学習・練習を行う、あるトピックについて、互いに意見を出し合った上で文章化を行う、といった活動がある。		
評価方法	授業時の取り組み状況による平常点３０％、課題作成・小テスト３０％、試験４０％。		
到達目標	レポート・論文作成のための基礎的な力を身に付け、学生生活や社会生活に必要な日本語の文章が作成できるようになる。		
授業時間外学習	授業で扱った内容についての練習問題や復習問題、作文などを毎回宿題として課す。宿題をする中で、わからないこと等があった場合は、次回の授業で質問して、必ず解決できるようにすること。また日程の告知を行った上で、数回の小テストを行うので、その準備をすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・遅刻や欠席をしないように心がけて下さい。
・授業中配布した教材を必ず持参して下さい。
・辞書、電子辞書を持ってきて、授業中活用して下さい。
・課題は期限内に提出して下さい。

授業スケジュール

1　ガイダンス　作文の基本
2　情報を文章にする
3　状況を説明し、意見を述べる
4　体験したことを報告する文
5　テーマに沿った意見を述べる
6　段落を作る
7　　レポートを書くための基礎知識
8　レポートの語彙・文体
9　アウトライン
１０　引用
１１　資料を利用する
１２　レポートを書く
１３　意見文を書く１
１４　意見文を書く２
１５　小論文を書く

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JM0008002
科目名	キャリアベーシックトレーニング	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Basic Training		
担当者名	足塚　智志	旧科目名称	
授業概要	この科目は、本学のキャリア形成支援講座の１つとして開講されます。この講座は、就職に必要な基礎能力の修得を目標にしています。中でも、「読み書き（ビジネス文書）」と「計算・計数・数学的思考」能力の修得が、本講座の目的です。 前半の文書表現では、事務・営業職の職務に必要な文書の知識について、後半の数学・数的処理の基礎では、計算方法、数学的な思考方法や知識について勉強します。		
教材（教科書）	西尾宣明編著『日本語表現法』樹村房		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）　到達度確認テスト・定期試験（70%）		
到達目標	・ビジネス文書の約束事や役割を理解している。 ・誤字・脱字に加え、文章表現の妥当性についてチェックし、適切な修正ができる。 ・不定型の文書（企画書等）を論理立てて作成できる。 ・3 桁程度の四則計算（分数、少数を含む）が正確にできる。 ・演繹的・帰納的な手法を用いて数学的・論理的に順序立てて考えることができる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回の範囲を提示するので、復習と予習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この科目は、各自のキャリア形成のための科目です。 明確な目的意識を持って受講することを望みます。
就職活動において自己アピールするための大きな材料になりますので、多くの学生がチャレンジすることを望みます。

授業スケジュール

1　文書表現①（文書によるコミュニケーション）
2　文書表現②（ビジネス文書作成の要領）
3　文書表現③（文書作成実務　1）
4　文書表現④（文書作成実務　2）
5　文書表現⑤（企画書を作成する）
6　文書表現⑥（郵送の実務）
7　文書表現⑦（長文を読む）
8　文書表現⑧（復習と到達度の確認）
9　数学・数的処理の基礎①（分数・小数の計算）
10　数学・数的処理の基礎②（計算の工夫、割合）
11　数学・数的処理の基礎③（原価計算、仕事算）
12　数学・数的処理の基礎④（年齢算、鶴亀算）
13　数学・数的処理の基礎⑤（速度算）
14　数学・数的処理の基礎⑥（濃度算）
15　数学・数的処理の基礎⑦（資料、推論）
（定期試験　数学・数的処理の基礎）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	★	−	★★

年度	2018	授業コード	JM0009001
科目名	コミュニケーション・スキル	単位数	2
科目名（英語表記）	Communication Skill		
担当者名	中尾　都史子	旧科目名称	
授業概要	「コミュニケーション・スキル」は、就職活動だけでなく、人生を送るうえで非常に大切なスキルである。コミュニケーションは、人と人をつなぐものであり、潤滑油ともなる。また、「コミュニケーション力」は、私たちの生活を充実したものにしてくれる。大学では、専門分野の勉強をするだけでなく、教養を深め、人や情報との付き合い方など様々なことを学ぶ場でもある。 授業では、当たり前にできるはずと思ってしまうコミュニケーション・スキルを再確認しながら、これから社会へ出ていくにあたり、ビジネス・シーンで必要とされるコミュニケーションについての考え方やコミュニケーション・スキルが身につくように進めていく。知識を身につけるより現実の場で活用できるよう、参加型のトレーニングを予定している。		
教材（教科書）	特に使用しない。 必要があれば、適宜紹介する。		
教材（参考資料）	キャリアデザインワーク　プロフェッショナル社会人　ホルス出版　稲本恵子・白井弘子・中村真由美著 大学１年生からのコミュニケーション入門　ナカニシヤ出版　中野美香著 実践　日本語表現　ナカニシヤ出版　松浦照子編 他、適宜紹介する		
教育方法	授業は、講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	授業中に出すミニレポートや受講態度、課題レポートで総合的に判断する。 ・授業内で実施するミニレポート（50%） ・課題提出（30%） ・受講態度（20%）		
到達目標	・他者の話をしっかり聞くことができる ・相手に自分の考えや意見などを伝わるように話すことができる ・相手との信頼関係を築くことができる		
授業時間外学習	授業終了後に次回のテーマを紹介するので、そのテーマについての自己のコミュニケーション・スキルについて考えをまとめておくこと。 授業で学んだスキルを、学生生活でアウトプットすることが復習になるので、その都度、振り返りをし、自己のコミュニケーション・スキルを確認し、身につけるようにすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・学生同士、学生と教員との間での活発なコミュニーションを期待する。
・私語や受講態度については厳しく注意する。場合によっては退出を求めることもある。
・遅刻や休みについては、その都度理由を求める。
・主体的に行動をとること。
・大人としての当たり前の行動や態度をとること
・コミュニケーションは、実践することで身につくので、準備学習で述べたように必ず授業以外の場で実践すること。

授業スケジュール

1．オリ～エンテーション～大学生とコミュニケーション～
2．自己のコミュニケーションの傾向を知る
3．コミュニケーションと第一印象
4．言語・非言語のコミュニケーション
5．言葉遣い
6．表現方法
7．報・連・相

8．話の聞き方
9．質問
10．チームワーク
11．ディスカッション
12．スピーチ・プレゼンテーション
13．通信手段
14．電話対応
15．自己のコミュニケーションの評価

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JM0012001
科目名	ビジネス実務論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Practical Business		
担当者名	足塚　智志	旧科目名称	
授業概要	信頼される職業人としての基礎を養い、日常業務の流れや円滑な人間関係のあり方などを学び、さまざまなビジネスシーンにおいて適切な行動ができるようになることを目指す。 また、就職活動においてプラスになるようビジネスマナーを学び、好感の持てる外見・動作・行動を身に付ける。 加えて、時事問題を題材に、タイムリーなビジネス業界のあり方を知る。		
教材（教科書）	水原道子編著『ビジネスとオフィスワーク』 樹村房 1900 円		
教材（参考資料）	秘書検定２級問題集（受験希望者）		
教育方法	講義法と学生の発表を中心に授業は進められる。		
評価方法	１．授業内プリントによる平常点　10% ２．授業内小テストによる提出物　20% ３．各章の確認課題　70% 以上３点による総合評価とする		
到達目標	社会人として、常識のある話し方ができ、態度や行動も含め、好感度の高いコミュニケーションが取れる人物となることを目指す。 また、就職活動に活用できるよう、ビジネス用語・時事用語を積極的に学ぶ。		
授業時間外学習	講義終了時に、講義内容に付随する資料を配布するので、解答を記入し、次回に必ず持参すること。 ニュースや新聞等で興味ある時事問題を収集しし、的確に話せるようにまとめておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講にあたっては、必ずテキスト「ビジネスとオフィスワーク」を持参すること			
授業スケジュール			
１．ガイダンス…授業の概要及び受講ルール ２．企業とビジネス活動…ビジネス界の動き ３．学生と社会人…それぞれの立場の違い ４．ビジネス業務と組織…協働の精神と社会人のルール ５．接遇の重要性…挨拶と第一印象の大切さ ６．接遇(1)・・・ビジネスシーンにおける対応 ７．接遇(2)・・・敬語と話し方 ８．応対の基本Ⅰ…電話に関する基本マナー ９．応対の基本Ⅱ…訪問に関する基本マナー 10．冠婚葬祭Ⅰ…常識としての冠婚葬祭マナー(1) 11．冠婚葬祭Ⅱ…常識としての冠婚葬祭マナー(2) 12．ファイリングⅠ…ファイリングシステムについて 13．ファイリングⅡ…ファイリングの実際 14．クレーム対応…クレーム処理の原則 15．心構え…ビジネスパーソンとしての知識と行動			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JM0015A01
科目名	フィールドワーク京都（歴史と文化） A	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork in Kyoto (History & Culture) A		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	フィールドワーク形態の授業。「京都歩き」をコンセプトとして、京都地域に所在する史跡、文化遺跡、遺構、文化施設、歴史や文学に関わる名所旧跡などについて、調査・探訪・発表する。		
教材（教科書）	適宜紹介する。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	野外観察活動形式。		
評価方法	各回終了時に課するレポートにより評価する。１００％		
到達目標	京都の文化に触れ、そのよき理解者となる。		
授業時間外学習	探訪先について、事前に文献等で調査しておくこと.		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講ルール　授業には交通費・拝観料を要することがある。
授業は不定期に実施するので、実施日に注意すること。
京都学園大学生としての自覚を忘れず、模範的に行動すること。

学習上の助言　ネットや書籍を利用して、事前学習をすると興味が倍増する。

授業スケジュール

授業は下記の日程で、１回につき５校時ずつ実施する。

第一回　月日　4 月 14 日（土）
集合場所　京都太秦キャンパスラーニングコモンズ
集合時間　午前９時
探訪場所　京都御所・蘆山寺・下鴨神社
費用　交通費　蘆山寺拝観料（５００円）が必要。

第二回　月日　5 月 12 日(土)
集合場所　東山七条の京都国立博物館正門前
集合時間　午前１０時
探訪場所　京都国立博物館
費用　入館料

第三回　月日　6 月 23 日（土）
集合場所　太秦キャンパス　東館南側
集合時間　午前 9 時 30 分
探訪場所　比叡山延暦寺と三井寺
費用　交通費不要。昼食代と拝観料

なお、各回とも学生証を必ず持参すること。
また、この授業では学生諸君から最大 3000 円は徴収が可能になっている。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JM0015B01
科目名	フィールドワーク京都（歴史と文化） B	単位数	2
科目名（英語表記）	Fieldwork in Kyoto (History & Culture) B		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	フィールドワーク形態の授業。「京都歩き」をコンセプトとして、京都地域に所在する史跡、文化遺跡、遺構、文化施設、歴史や文学に関わる名所旧跡などについて、調査・探訪・発表する。		
教材（教科書）	適宜紹介する。		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	野外活動形式。		
評価方法	各回終了時に課するレポートにより評価する。100%		
到達目標	京都の文化に触れ、そのよき理解者となる。		
授業時間外学習	探訪先について、事前に文献等で調べておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業には、交通費・拝観料を要することがある。
授業は不定期に実施するので、実施日に注意すること。
京都学園大学生としての自覚を忘れず、模範的に行動すること。

授業スケジュール

授業は下記の日程で、１回につき５校時ずつ実施する。

第一回　　月日　　10 月 13 日（土）
集合場所　京都学園大学京町家
集合時間　9 時 30 分
探訪場所　平安京大内裏・内裏跡・平安京創生館・風俗博物館
費用　　交通費　風俗博物館入館料 500 円

第二回　　月日　　11 月 3 日（土）
集合場所　百万遍交差点南東角
集合時間　午前 9 時 30 分
探訪場所　京大総合博物館　京大構内　相国寺承天閣美術館　同志社構内
費用　　交通費　博物館美術館入館料が必要。

第三回　　月日　　12 月 1 日（土）
集合場所　京町家キャンパス
集合時間　午前 9 時
探訪場所　銀閣寺
費用　　銀閣寺は拝観料(500 円)が必要。

なお、各回、学生証を必ず持ってくること。
また、この授業では、学生諸君から最大 3000 円の徴収が可能となっている。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JM0030B01
科目名	京都商人論	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Kyoto Merchants I		
担当者名	植田　知子	旧科目名称	
授業概要	今、京都の老舗は国内外から高い評価を得ている。評価の内容は、卓越した技術で作られた高品質の商品、細やかで心のこもった応対、品格ある店のたたずまいなど多岐にわたるが、こうした評価は、リンゴの木に例えるなら見事に実ったリンゴの果実に相当するものである。しかし重要なのは、大地から養分を吸い上げて枝葉に送り、木の幹を支える「根」の部分である。京都の老舗が高い評価を受けるのも、この「根」の部分がしっかりしているからに他ならない。これから家業経営に携わる者、起業を志す者にとって、京都商人の「根」の部分から学ぶべきことは少なくない。この授業では、まず、京都における商いの歴史や商家の仕組み・制度・経営姿勢などについて説明し、次に、京都の伝統産業製品を取り上げて、商品が生まれた歴史的背景、製造工程、商品の特性、工夫やこだわりなどについて解説する。また、それぞれの業界の現状や課題についてもみていく。		
教材（教科書）	教科書は使用しない。毎回講義プリントを配布する。		
教材（参考資料）	参考文献は各回の講義プリントに記載する。また、写真・図・地図・図表・グラフなどの資料類は、パワーポイントで授業中に示すが、特に必要と思われるものは講義プリントにも載せる。		
教育方法	講義は、毎回配布する講義プリントに従って講義法でおこなう。講義では、講義プリントを読み進めながら、パワーポイントで写真・図・地図・グラフなどを示して学生の理解を助ける。また、講義プリントの内容で重要と思われる部分は、パワーポイントで要点を整理・説明するので、学生は講義プリントに書き込み、またはマーカーなどでチェックしながら受講する。		
評価方法	毎回、授業のはじめ 10 分間におこなう「復習の小テスト」（３０％）、授業中に課す小レポート（１０％）、定期試験（６０％）		
到達目標	①京都商人の商家経営の歴史と特徴について説明できるようになる。 ②京都の伝統産業製品がどのように作られ、どのような特色があり、商人たちがこれまでにどのような工夫や改善をしてきたかが説明できるようになる。 ③京都の伝統産業の現状が理解でき、今後解決すべき課題に目が向けられるようになる。		
授業時間外学習	毎回、授業のはじめに、前回の授業内容に関する「復習の小テスト」をするので、復習しておくこと。（各回の学習推定時間は３０分）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

①歴史に関連する内容が多いので、中学・高校の教科書レベルの内容は理解できるようにしておくこと。
②受講生の授業環境を阻害する私語や飲食は禁止する。
③体調が悪い場合は、事前に申し出ること。
④授業終了前の約１０分間を「質問タイム」とするので、疑問点やよく理解できなかったところがあれば質問すること。

授業スケジュール

１、はじめに－京都の商いの歴史－
２、商家の仕組み・制度・商いの姿勢
３、京都の伝統産業について；現状と課題
４、京都の伝統産業　　文化①　日本人と「きもの」
５、京都の伝統産業　　食品①　茶
６、京都の伝統産業　　食品②　京料理
７、京都の伝統産業　　工芸①　京扇子・京うちわ
８、京都の伝統産業　　醸造①　みそ
９、京都の伝統産業　　醸造②　清酒
１０、京都の伝統産業　工芸②　薫香
１１、京都の伝統産業　食品③　京漬物
１２、京都の伝統産業　文化②　旅と楽しみ
１３、京都の伝統産業　食品④　京菓子

１４、京都の伝統産業　　工芸③　京焼・清水焼 １５、伝統産業を新たな分野へ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JM0032A01
科目名	経営学入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management A		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
授業概要	This course is to set a goal for students to learn basic knowledge of business strategy. No test required, but all students are required to contribute to all sessions and present their own business plan at their self-selected topics. Using case method (Harvard Business School). Expected to achieve fundamental skill and knowledge of management and business strategy, with logical thinking and presentation. 当科目は 15 回のセッションを通じて学生が経営戦略の基礎を学ぶことを目標とする。試験は設定しないが、各位が毎講義に貢献し、自ら選択した企業、団体に関しての事業計画を策定、講義終了時にプレゼンテーションを行うものとする。ケースメソッド（HBS）を用いる。講義を通じ、受講生は、基礎的な経営、戦略策定の基礎を学び、論理的思考、プレゼンテーション能力を養うことができる。		
教材（教科書）	Handout and Case should be distributed at the each session, upon Students' best interest (Past examples, Nike, Starbucks, Apple, Google, NBA, MLB, Ritz Carlton, Seven Eleven, Yoshinoya etc.) 受講生の興味ある産業、分野を考慮し、毎回提示する。		
教材（参考資料）	Competitive Strategy as a Narrative Story/ストーリーとしての競争戦略（楠木建、東洋経済新報社）ISBN978-4-492-55270-6, and others should be suggested at the each session.		
教育方法	Never to excuse your life, Never to be late, Never to cheat/short cut.　All students should be communicated by faculty, one by one. 講義法と学生によるプレゼンテーションを中心に授業は行われる。言い訳を言わない、今からでも遅くない、ごまかさない。 全ての受講生は教官により認識されコミュニケーションが取られる。		
評価方法	50% Class contribution, 35% Last presentation, 15% Quiz at the each session		
到達目標	学生は経営、戦略策定を説明できるようになるとともに、コミュニケーション、論理的思考、マナー、基礎的語学、会計知識を身につけることができる。		
授業時間外学習	Quick quiz should be distributed at the each session and Students should submit before the next session. Expected to spend 20-30 minutes each and send by e-mail. 毎回次回の Quiz が提示されるので、学生は次回講義の期限までにメールで提出することとなる（想定毎回 20-30 分活用）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
Be Humble, Be Hungry, Be Innovative			
授業スケジュール			
1．Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting オリエンテーション、事業計画の説明、目標設定 2．On Vision / Case Study of visionary company and setting attendant's own vision ビジョンに関して、ビジョナリーカンパニーのケース 3．On Strategy /Definition of Strategy and Tactics 戦略に関して、戦略、戦術に関するケース 4．On Competition /Case Study in competitive strategy 競争に関して、競争戦略のケース 5．On Ethics / Case Study on how ethics work in strategy 倫理に関して、倫理の戦略への生かし方 6. On Financials 1 / Fundamental of financials 1 財務、会計に関しての基礎 1 7．Midterm Review, Presentation practice of business plan 中間レビュー、事業計画の中間プレゼンテーション 8．On Financials 2 / Fundamental of financials 2 財務、会計に関しての基礎 2			

9．On Service and Hospitality / Best practice at service and hospitality サービス、ホスピタリティでのケース

１０．On Innovation / Best practice at innovation イノベーションのベストプラクティス

１１．On Entrepreneur / Case of entrepreneurship 起業に関するケース

１２．On Sports Management / Case at sports management スポーツマネジメントに関するケース

１３．Case, Most requested company 受講者から一番リクエストあった企業

１４．Presentation of Business Plan 1 事業計画発表 1

１５．Presentation of Business Plan 2 事業計画発表 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JM0032A02
科目名	経営学入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Management A		
担当者名	中川　雅博	旧科目名称	経営学入門 s
授業概要	This course is to set a goal for students to learn basic knowledge of business strategy. No test required, but all students are required to contribute to all sessions and present their own business plan at their self-selected topics. Using case method (Harvard Business School). Expected to achieve fundamental skill and knowledge of management and business strategy, with logical thinking and presentation. 当科目は 15 回のセッションを通じて学生が経営戦略の基礎を学ぶことを目標とする。試験は設定しないが、各位が毎講義に貢献し、自ら選択した企業、団体に関しての事業計画を策定、講義終了時にプレゼンテーションを行うものとする。ケースメソッド（HBS）を用いる。講義を通じ、受講生は、基礎的な経営、戦略策定の基礎を学び、論理的思考、プレゼンテーション能力を養うことができる。		
教材（教科書）	Handout and Case should be distributed at the each session, upon Students' best interest (Past examples, Nike, Starbucks, Apple, Google, NBA, MLB, Ritz Carlton, Seven Eleven, Yoshinoya etc.) 受講生の興味ある産業、分野を考慮し、毎回提示する。		
教材（参考資料）	Competitive Strategy as a Narrative Story/ストーリーとしての競争戦略（楠木建、東洋経済新報社）ISBN978-4-492-55270-6, and others should be suggested at the each session.		
教育方法	Never to excuse your life, Never to be late, Never to cheat/short cut.　All students should be communicated by faculty, one by one. 講義法と学生によるプレゼンテーションを中心に授業は行われる。言い訳を言わない、今からでも遅くない、ごまかさない。 全ての受講生は教官により認識されコミュニケーションが取られる。		
評価方法	50% Class contribution, 35% Last presentation, 15% Quiz at the each session		
到達目標	学生は経営、戦略策定を説明できるようになるとともに、コミュニケーション、論理的思考、マナー、基礎的語学、会計知識を身につけることができる。		
授業時間外学習	Quick quiz should be distributed at the each session and Students should submit before the next session. Expected to spend 20-30 minutes each and send by e-mail. 毎回次回の Quiz が提示されるので、学生は次回講義の期限までにメールで提出することとなる（想定毎回 20-30 分活用）。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
Be Humble, Be Hungry, Be Innovative			
授業スケジュール			
1．Orientation / What is business plan? Introduction of this course and goal setting オリエンテーション、事業計画の説明、目標設定 2．On Vision / Case Study of visionary company and setting attendant's own vision ビジョンに関して、ビジョナリーカンパニーのケース 3．On Strategy /Definition of Strategy and Tactics 戦略に関して、戦略、戦術に関するケース 4．On Competition /Case Study in competitive strategy 競争に関して、競争戦略のケース 5．On Ethics / Case Study on how ethics work in strategy 倫理に関して、倫理の戦略への生かし方 6. On Financials 1 / Fundamental of financials 1 財務、会計に関しての基礎 1 7．Midterm Review, Presentation practice of business plan 中間レビュー、事業計画の中間プレゼンテーション 8．On Financials 2 / Fundamental of financials 2 財務、会計に関しての基礎 2			

9．On Service and Hospitality / Best practice at service and hospitality サービス、ホスピタリティでのケース

１０．On Innovation / Best practice at innovation イノベーションのベストプラクティス

１１．On Entrepreneur / Case of entrepreneurship 起業に関するケース

１２．On Sports Management / Case at sports management スポーツマネジメントに関するケース

１３．Case, Most requested company 受講者から一番リクエストあった企業

１４．Presentation of Business Plan 1 事業計画発表 1

１５．Presentation of Business Plan 2 事業計画発表 2

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JM0036001
科目名	現代基礎教養	単位数	2
科目名（英語表記）	Modern General Education		
担当者名	山下　功	旧科目名称	
授業概要	本講義では、公務員試験における教養科目「判断推理」の対策を通じて、皆さんの論理的思考能力のトレーニングを行います。テキストには公務員試験対策の定番の問題集を使用し、多くの演習時間を取る予定です。 「判断推理」の問題は、あまり多くの事前知識を必要としません。問題で与えられた情報から形式的な論理関係を見出し、そこから解答に相応しい結論を演繹することが求められます。 膨大な知識へのアクセスが可能となった現代社会においては、「必要な知識を取捨選択する能力」と「複数の知識を組み合わせて活用する能力」を持った人材が強く求められており、そのため公務員試験のみならず、SPI2 など現在の就職試験においては、「判断推理」のような論理力を問う問題に重きが置かれています。 こうした論理的思考能力はトレーニングを通じて必ず伸ばすことが出来ます。公務員試験を考えている方だけではなく、社会に出て広く羽ばたくことになる学生の皆さん全員を本講義の対象とします。		
教材（教科書）	資格試験研究会編『大卒程度 警察官 消防官 新スーパー過去問ゼミ 判断推理』実務教育出版,2012 ISBN:9784788939080		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	適宜講義中にプリントを配布		
評価方法	定期試験（40%） 授業内の試験等による平常点（60%）		
到達目標	社会人として求められる論理的な推論能力の獲得		
授業時間外学習	テキストにはトピック毎に多くの問題が用意されています。 全ての問題を講義中に演習・解説することは出来ないため、講義中に扱えなかった問題については必ず次回の講義までに解いておくようにしてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

熱意をもって取り組むこと。
話を聞くことも大切ですが、自ら手を動かして考えてみることが理解への一番の近道です。
また、講義中の質問を歓迎します。

授業スケジュール

１．講義ガイダンス
２．操作の手順
３．命題の真偽
４．発言の真偽
５．暗号の解読
６．まとめ１
７．対応関係
８．順序関係
９．位置関係
１０．試合の勝敗
１１．まとめ２
１２．平面図形の移動と軌跡
１３．平面図形の構成と分割
１４．立体図形とその組み立て
１５．展開図とその応用

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JM0042B01
科目名	自然地理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Physical Geography B		
担当者名	青木　哲哉	旧科目名称	
授業概要	自然地理学は自然環境を研究対象とする地理学の主要な分野である。自然環境は多岐にわたり、中でも代表的なものに気候と地形が挙げられる。これらをはじめとする自然環境は、第四紀（人類の時代で約 200 万年前から現在まで）における人間生活と密接に関係し、人間の活動に多大な影響を及ぼしてきた。ゆえに自然環境は、人間社会を理解する上での大切な知識になるとともに、人間が活動する際に必要な教養に数えられる。 この授業では、こうした第四紀の自然環境を具体的に認識するために、気候と地形を中心とする包括的な自然環境について習得し、その基本的な内容の記述・説明ができるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	なし。プリントを適宜配布する。。		
教材（参考資料）	必要に応じて紹介する。		
教育方法	授業は、基本的に講義法で行い、要点と簡単な図を黒板（ボード）に板書しながら進める。また多くの授業では、問題を 5 つ前後出題する。問題は以前の授業内容や自然環境の基礎知識などに関するものである。問題には挙手をして答えてもらい、正解すれば加点する。 15 回のうち 2 回の授業はレポート（授業内レポート）を作成・提出するものである。		
評価方法	基本的に定期試験の成績（90%）と授業中の問題正解や授業内レポートによる平常点（10%）とで評価を行う。定期試験、授業における問題の出題、ならびに授業内レポートは到達目標(1)(2)(3)に関する達成の度合いを確認するため実施する。これらを総合した点数が 60 点以上であれば、単位を認定する。 詳細は第 1 回授業で説明する。		
到達目標	(1) 自然地理学で多用する用語とその意味を記述することができる。 (2) 第四紀における自然環境の基本的内容を説明することができる。 (3) 自然地理学の調査・考察方法を知識として身につけ、その要点を説明できる。		
授業時間外学習	各授業の後、ノートの記述内容を早急に見直して整理し、授業内容を深くしっかり理解するように（各授業後の学習推定時間は 60〜120 分）。 授業は前回までの内容を踏まえて進めるので、このような復習が授業を理解する上での予習にもなる。多くの授業では、以前の授業内容から復習問題を出題する。また、授業内レポートは教員が指示するテーマについて復習した内容を論述するもので、定期試験も授業内容からの出題となる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
(1) 受講マナーを守ること。とくに私語、携帯電話（スマートフォンを含む）の無断使用、食事は厳禁なので注意するように。マナー違反がひどい場合、他の受講生に対する迷惑となるため退室を求める。 (2) 授業に能動的な姿勢で出席し、問題を出題した際には積極的に挙手して解答するように。 (3) 授業では、簡単な図を複数の色で板書するので、3 色程度の筆記具を各自持参することが望ましい。 (4) 質問などは、授業終了後の約 5 分間に授業の教室で受け付ける。			
授業スケジュール			
1. 講義の概要と導入 ― 講義のテーマ、講義の進め方と計画、成績評価方法、受講上の注意事項などについて 2. 氷河期(1) ― 丘（ターミナルモレーン）とその堆積物について 3. 氷河期(2) ― 氷河の性質と丘の堆積物から分析された氷河期の発見について 4. 氷河地形と土壌 ― 人類に恩恵を与えたフィヨルドとレスの特色及び形成過程について 5. 気候変化(1) ― 氷河期終了後の温暖期における寒冷化について 6. 気候変化(2) ― 段丘地形によって明かされた過去約 2 万年間の降水量変化について 7. 平野(1) ― 沖積平野の定義と扇状地の特色について 8. 平野(2) ― 沖積平野に分布する自然堤防帯と三角州の特色について 9. 平野(3) ― 三角州における沖積層の特色と環境復原の分析について 10. 平野(4) ― 日本の河川下流部における沖積平野の形成過程と環境変化について 11. 水害(1) ― 水害常襲地域における輪中の成立とその背景について			

12. 水害(2) ― 近世・近代の輪中地域における人間と洪水の闘いについて
13. 授業内レポート(1) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下がる。
14. 授業内レポート(2) ― レポート実施の日程は未定で、実施後の講義内容は順次繰り下がる。
15. 総括と定期試験の説明 ― 成績評価方法（確認)、試験の出題形式、解答の注意事項などについて

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	JM0045A01
科目名	社会学入門Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
授業概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義時に紹介する。		
教育方法	主に講義による。毎時間、授業の初めに前回の授業内容の復習をおこなう。毎時間、授業の終わりに受講者に、質問･意見などを書いてもらう。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。授業終了時の質問カード提出による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解する。 身の回りの社会現象についての関心と理解を深める。 自分の専門分野が社会とどのように関わりがあるかについて考える。		
授業時間外学習	1.「社会」という言葉について考えることを 200 字程度でまとめておくこと。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、授業の見通しを付けておくこと） 2. 配付資料 No.1「遊び」 3. 配付資料 No.2「家族」 4. 配付資料 No.3「学校」 5. 配付資料 No.4「資本主義」 6. 配付資料 No.5「労働 1」 7. 配付資料 No.6「労働 2」 8. 配付資料 No.7「基本的人権」 9. 配付資料 No.8「宗教と社会」 10. 配付資料 No.9「管理社会化」 11. 配付資料 No.10「音楽と社会」 12. 配付資料 No.11「スポーツ」 13. 配付資料 No.12「犯罪」 14. 配付資料 No.13「日本社会の特質」 15. 配付資料 No.14「社会学と現代社会の関係」 　また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。 また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

授業スケジュール

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の４種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など）。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。

9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。
10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。
11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15, 社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JM0045A02
科目名	社会学入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
授業概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義時に紹介する。		
教育方法	主に講義による。毎時間、授業の初めに前回の授業内容の復習をおこなう。毎時間、授業の終わりに受講者に、質問･意見などを書いてもらう。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。授業終了時の質問カード提出による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解する。 身の回りの社会現象についての関心と理解を深める。 自分の専門分野が社会とどのように関わりがあるかについて考える。		
授業時間外学習	1.「社会」という言葉について考えることを 200 字程度でまとめておくこと。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、授業の見通しを付けておくこと） 2. 配付資料 No.1「遊び」 3. 配付資料 No.2「家族」 4. 配付資料 No.3「学校」 5. 配付資料 No.4「資本主義」 6. 配付資料 No.5「労働 1」 7. 配付資料 No.6「労働 2」 8. 配付資料 No.7「基本的人権」 9. 配付資料 No.8「宗教と社会」 10. 配付資料 No.9「管理社会化」 11. 配付資料 No.10「音楽と社会」 12. 配付資料 No.11「スポーツ」 13. 配付資料 No.12「犯罪」 14. 配付資料 No.13「日本社会の特質」 15. 配付資料 No.14「社会学と現代社会の関係」 　また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。 また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

授業スケジュール

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の４種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など）。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。

9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。
10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。
11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15, 社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JM0045B01
科目名	社会学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門 f
授業概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、など,、現代社会のいろいろな側面について考えます。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義時に紹介する。		
教育方法	主に講義による。毎時間、授業の初めに前回の授業内容の復習をおこなう。毎時間、授業の終わりに受講者に、質問･意見などを書いてもらう。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。授業終了時の質問カード提出による。）		
到達目標	社会学の考え方の基礎を理解する。 身の回りの社会現象についての関心と理解を深める。 自分の専門分野が社会とどのように関わりがあるかについて考える。		
授業時間外学習	1.「社会」に関する現象についてメディアで見かけたことを 200 字程度でまとめておくこと。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、授業の見通しを付けておくこと） 2. 配付資料 No.1「家族 1」 3. 配付資料 No.2「家族 2」 4. 配付資料 No.3「学校と歴史」 5. 配付資料 No.4「企業 1」 6. 配付資料 No.5「企業 2」 7. 配付資料 No.6「格差社会」 8. 配付資料 No.7「政治」 9. 配付資料 No.8「マスメディア 1」 10. 配付資料 No.9「マスメディア 2」 11. 配付資料 No.10「国際化」 12. 配付資料 No.11「近代化」 13. 配付資料 No.12「高齢化」 14. 配付資料 No.13「社会調査」 15. 配付資料 No.14「社会学と現代社会」 　また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。

授業スケジュール

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（家族１）他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。
3，（家族２）社会における家族の役割が、以前の社会とはかなり変化していること。
4，（学校）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を残している面があること。
5，（企業１）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
6，（企業２）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）
7，（格差社会）日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。
8，（政治）祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。
9，（マスメディア１）現在ではマスメディアの力は大変大きく、自分の意見も実はマスメディアの受け売りかもしれない。

10, （マスメディア２）犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライヴァシーのバランスの問題。
11, （国際化）社会は国際化しているが、国内の外国人の実態は必ずしも知られていないこと。
12, （近代化）近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。
13, （高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
14, （社会調査）世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。
15, 社会学と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JM0045B02
科目名	社会学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門 f
授業概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、など,、現代社会のいろいろな側面について考えます。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義時に紹介する。		
教育方法	主に講義による。毎時間、授業の初めに前回の授業内容の復習をおこなう。毎時間、授業の終わりに受講者に、質問･意見などを書いてもらう。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。授業終了時の質問カード提出による。）		
到達目標	社会学の考え方の基礎を理解する。 身の回りの社会現象についての関心と理解を深める。 自分の専門分野が社会とどのように関わりがあるかについて考える。		
授業時間外学習	1.「社会」に関する現象についてメディアで見かけたことを 200 字程度でまとめておくこと。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、授業の見通しを付けておくこと） 2. 配付資料 No.1「家族 1」 3. 配付資料 No.2「家族 2」 4. 配付資料 No.3「学校と歴史」 5. 配付資料 No.4「企業 1」 6. 配付資料 No.5「企業 2」 7. 配付資料 No.6「格差社会」 8. 配付資料 No.7「政治」 9. 配付資料 No.8「マスメディア 1」 10. 配付資料 No.9「マスメディア 2」 11. 配付資料 No.10「国際化」 12. 配付資料 No.11「近代化」 13. 配付資料 No.12「高齢化」 14. 配付資料 No.13「社会調査」 15. 配付資料 No.14「社会学と現代社会」 　また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。

授業スケジュール

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（家族１）他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。
3，（家族２）社会における家族の役割が、以前の社会とはかなり変化していること。
4，（学校）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を残している面があること。
5，（企業１）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
6，（企業２）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）
7，（格差社会）日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。
8，（政治）祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。
9，（マスメディア１）現在ではマスメディアの力は大変大きく、自分の意見も実はマスメディアの受け売りかもしれない。

10, （マスメディア２）犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライヴァシーのバランスの問題。
11, （国際化）社会は国際化しているが、国内の外国人の実態は必ずしも知られていないこと。
12, （近代化）近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。
13, （高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
14, （社会調査）世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。
15, 社会学と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JM0046A01
科目名	宗教学Ⅰ	単位数	2
科目名（英語表記）	Religions Ⅰ		
担当者名	橋本　章彦	旧科目名称	
授業概要	「宗教学入門」をテーマに講義を行う。総論と各論に分けて講義を展開するが、総論では「宗教」の概念や性格を論じ、各論では世界の諸宗教のいくつかについて簡単に紹介する。		
教材（教科書）	なし。プリントを配布する。		
教材（参考資料）	岸本英夫『宗教学』（大朋堂　1991） 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫、1997） 棚次正和『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005） その他授業内で指示。		
教育方法	ビデオやパワーポイントを使用する		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点（40%）。授業内小テスト（20%）。期末レポート（40%）		
到達目標	宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。		
授業時間外学習	身の回りの宗教現象に関心を向けつつ、宗教とは人間にとって如何なる意味を持っているのかについて考えること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・講義を聴きながら常に考えることを忘れないで欲しい。
・毎回の授業終了後に自身の振り替えりのために数行のコメントを提出していただくので、能動的に授業を受けること。
・今年度は、インターネットを使った授業（clica）を導入するので、授業にはできるかぎり毎回スマートフォンあるいはタブレット端末を持参してほしい。これにより、簡単な質問にその場で答えたり、クラス内でコメントを発表したり、あるいは理解度を確認できたりが可能となる。積極的に参加してもらいたい。

授業スケジュール

1．はじめに―あなたは宗教をどのようにイメージしているか
2．総論Ⅰ　宗教と宗教学―宗教にどのようにアプローチするか―
3．総論Ⅱ　宗教をどのように定義するか。
4．総論Ⅲ　世界の宗教を分類する
5．総論Ⅳ　個人において宗教はどのように顕れるか―信仰ということ―
6．総論Ⅴ　宗教における祈りと修行について
7．総論Ⅵ　宗教は人間と世界をどのように見てきたか
8．各論Ⅰ　世界の三大宗教―キリスト教の歴史・それは西欧文化のもとになった
9．各論Ⅱ　世界の三大宗教―イスラーム（その１）・アッラーはユダヤ・キリストの神と同じ！？
10．各論Ⅲ　世界の三大宗教―イスラーム（その２）・スンナ派とシーア派はなぜ生まれた？
11．各論Ⅳ　世界の三大宗教―仏教・釈迦とその後の展開―
12．各論Ⅴ　日本の仏教ー神仏関係の展開
13．各論Ⅵ　日本の新宗教概説
14．各論Ⅶ　世界で起こっていることを宗教をキーワードに考える
15．まとめ　人は宗教とどのように向き合うべきか

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JM0051A01
科目名	人権の歴史と現代A	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights A		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
授業概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（教科書）	教科書は特に指定しない。 毎回「京学なび」の「授業資料」で資料(PDF ファイル）を事前配布するので、各自印刷・持参のこと（原則、その週の月曜日までにアップロード)。 ※第１回のみ、印刷したものを講義時に配布欠席者用は講義後に京学なびにアップ） ミニレポート課題もこの配布資料に書かれており、また、これが教科書となるので、きちんと目を通して、欠席した場合には他の受講者に資料を見せてもらうなどして空欄に記入し、保存しておくこと（テスト時に必要なため)。ミニレポートの執筆要領も「授業資料」にて配布。		
教材（参考資料）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教育方法	事前配布資料に沿って講義法で行う。講義は教員がパワーポイントで板書を示し、学生は各自印刷・持参した PDF ファイルにキーワード（赤字）を記入、キーセンテンス（青字）にチェックを入れる。毎回、理解を深めるために講義内容に関するミニレポートを出題、次回講義前日までに京学なび「課題提出」に指定ファイルで提出する。第 10 回に中間テスト、期末に最終レポートを課す。		
評価方法	平常点（毎回のミニレポート、30%)、第 10 回講義内での中間テスト（35%)、最終レポート（35%）から総合的に評価。 ◆評点とは別に、第１回のミニレポートの提出を全員必須、正解するまで再提出。 （未提出又は不正解の場合、不合格とする場合がある） ◆出席は原則 3 分の 2（１０回）以上必要とする。就職活動や部活動・実習等公式行事で欠席する場合、必ず証明書を提出すること。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で、「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
授業時間外学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 ◆講義資料にミニレポートの課題も掲載するので確認しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール

◆中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。
そのため、課題が多く、評価も厳しいので、真剣に取り組んでください。
そして学んだことを日常生活の中で実践して下さい。
◆質問は随時、講義中・講義前後・京学なびの Q&A でも受け付けますが、教員が発言を許可した場合を除き、私語厳禁。(授業中、他の受講生の「学ぶ権利」を侵害しないことなども成績評価の際に考慮されます)

学習上の助言

◆ミニレポートは毎回出題、後日講評（コメント）を行いますので京学なびで確認してください。課題は基本的にその週の講義内容と関連しています。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでくだ

さい。
◆配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

授業スケジュール

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）人権概念の基礎と欧米の政治思想①
第３回：近代の人権思想（２）欧米の政治思想②と明治期の日本
第４回：近代の人権思想（３）明治憲法の「臣民の権利」から日本国憲法の「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）表現の自由とその規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権、アメリカの環境正義
第１２回：差別と環境問題（３）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１３回：差別と環境問題（４）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～障害者にとっての都市環境
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JM0051A02
科目名	人権の歴史と現代A	単位数	2
科目名（英語表記）	The History and Modernization of Human Rights A		
担当者名	一宮　真佐子	旧科目名称	
授業概要	現在、人権の尊重が謳われているにもかかわらず、深刻な人権侵害が続いている。私たちの日常にも人権問題が潜んでおり、誰もが偏見･差別と向き合って生きていかなければならない。 この講義ではまず、世界および日本の現代に至るまでの人権概念の成立と変遷について、その思想的背景と歴史を 学ぶ。その後、何が「差別」となるのかについて具体的に考えるため、メディアのなかの「差別表現」をとりあげる。 また、環境問題は人権･差別問題でもあり、日本の公害以前から公害以後まで、海外の環境問題と人権、 生活環境の人権問題、環境と女性問題など、さまざまな環境とそこに生きる人々の人権について学ぶ。さらに自分自身の日常生活、身近な地域で起こっている（起こりうる）問題とその解決に向けて何ができるのか、考えていく。		
教材（教科書）	教科書は特に指定しない。 毎回「京学なび」の「授業資料」で資料(PDF ファイル）を事前配布するので、各自印刷・持参のこと（原則、その週の月曜日までにアップロード)。 ※第１回のみ、印刷したものを講義時に配布欠席者用は講義後に京学なびにアップ） ミニレポート課題もこの配布資料に書かれており、また、これが教科書となるので、きちんと目を通して、欠席した場合には他の受講者に資料を見せてもらうなどして空欄に記入し、保存しておくこと（テスト時に必要なため)。ミニレポートの執筆要領も「授業資料」にて配布。		
教材（参考資料）	講義中に参考文献を適宜指示する。その回のメインとなる文献は講義資料にも掲載する。		
教育方法	事前配布資料に沿って講義法で行う。講義は教員がパワーポイントで板書を示し、学生は各自印刷・持参した PDF ファイルにキーワード（赤字）を記入、キーセンテンス（青字）にチェックを入れる。毎回、理解を深めるために講義内容に関するミニレポートを出題、次回講義前日までに京学なび「課題提出」に指定ファイルで提出する。第 10 回に中間テスト、期末に最終レポートを課す。		
評価方法	平常点（毎回のミニレポート、30%)、第 10 回講義内での中間テスト（35%)、最終レポート（35%）から総合的に評価。 ◆評点とは別に、第１回のミニレポートの提出を全員必須、正解するまで再提出。 （未提出又は不正解の場合、不合格とする場合がある） ◆出席は原則 3 分の 2（１０回）以上必要とする。就職活動や部活動・実習等公式行事で欠席する場合、必ず証明書を提出すること。		
到達目標	歴史的経緯を学ぶことで人権思想の成立とその基本概念を理解した上で、「差別表現」や環境問題の中の人権軽視や差別など現代におけるさまざまな人権問題について学び、社会の一員として個別の問題に対応できるようになることを目的とする。		
授業時間外学習	◆事前配布する講義資料をダウンロード、印刷して目を通しておくこと。 ◆講義資料にミニレポートの課題も掲載するので確認しておくこと。 ◆人権･差別問題に関する新聞記事、テレビ番組等に積極的に目を通したり、日常の生活で人権に配慮した（またはしていない）環境に関心を持って見ておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール

◆中途半端な知識は偏見につながります。自分の中にある偏見を見つめ直すためにも、深く学び、理解することを望みます。
そのため、課題が多く、評価も厳しいので、真剣に取り組んでください。
そして学んだことを日常生活の中で実践して下さい。
◆質問は随時、講義中・講義前後・京学なびの Q&A でも受け付けますが、教員が発言を許可した場合を除き、私語厳禁。(授業中、他の受講生の「学ぶ権利」を侵害しないことなども成績評価の際に考慮されます)

学習上の助言

◆ミニレポートは毎回出題、後日講評（コメント）を行いますので京学なびで確認してください。課題は基本的にその週の講義内容と関連しています。講義内容や講評を理解し、その都度、自分自身の経験なども活かしつつ、真摯に課題に取り組んでくだ

さい。
◆配付資料から中間テストに出題するので、資料はきちんと記入して保存しておくこと。

授業スケジュール

第１回：ガイダンス～人権・差別・偏見
第２回：近代の人権思想（１）人権概念の基礎と欧米の政治思想①
第３回：近代の人権思想（２）欧米の政治思想②と明治期の日本
第４回：近代の人権思想（３）明治憲法の「臣民の権利」から日本国憲法の「基本的人権」へ
第５回：何が「差別表現」とされるのか（１）表現の自由とその規制
第６回：何が「差別表現」とされるのか（２）ひとつの「ことば」をめぐって
第７回：メディアで見る「差別」（１）マンガのなかの「人種」
第８回：メディアで見る「差別」（２）イギリスの階級社会
第９回：メディアで見る「差別」（３）日本のマイノリティ
第１０回：差別と環境問題（１）公害「以前」～近世・近代日本の労働環境における人権
第１１回：差別と環境問題（２）公害「以後」～現代日本の労働環境における人権、アメリカの環境正義
第１２回：差別と環境問題（３）生活環境問題～被差別部落と「迷惑施設」
第１３回：差別と環境問題（４）都市のなかの差別～路上で生きるということ
第１４回：差別と環境問題（５）都市のなかの差別～障害者にとっての都市環境
第１５回：差別と環境問題（６）エコフェミニズム、リプロダクティブヘルス

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JM0058A01
科目名	西洋史概説Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）	General History of Europe A		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
授業概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（教科書）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	板書を中心にした講義法を行う。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
授業時間外学習	中間レポート課題と期末レポート課題以外の教科書の各章を学期中に読破する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
　西洋史を学ぶ意欲を持っていること。
受講のルール
　授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。
学習上の助言
　過去と現在との違いを認識して、両者を理解するように努めて下さい。

授業スケジュール

１．西洋史学の課題
２．古代ギリシアの人口と身分構成
３．古代ギリシアの奴隷と社会（１）　―　奴隷の労働形態
４．古代ギリシアの奴隷と社会（２）　―　奴隷の事例
５．犯罪と刑罰（１）　―　中世における処刑の意味
６．犯罪と刑罰（２）　―　処刑方法
７．犯罪と刑罰（３）　―　考察
８．動物裁判（１）　―　世俗裁判所の事例
９．動物裁判（２）　―　教会裁判所の事例
１０．動物裁判（３）　―　動物裁判についての学説
１１．新大陸の征服史（１）　―　新大陸の古代文明
１２．新大陸の征服史（２）　―　征服の歴史
１３．新大陸の征服史（３）　―　考察
１４．近代奴隷貿易の展開（１）　―　奴隷貿易の起源
１５．近代奴隷貿易の展開（２）　―　奴隷貿易の意味

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JM0058B01
科目名	西洋史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	General History of Europe B		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
授業概要	歴史を学ぶ目的の一つは、過去の社会を異文化として捉え、われわれの社会や文化との異質性を理解することで、われわれ自身をよりよく認識することにある。この講義では、古代から近現代までの西洋史における様々な問題を取り上げ、当時の社会状況や人々のものの考え方を理解していきたいと思う。		
教材（教科書）	乳原　孝著　『「怠惰」に対する闘い』　嵯峨野書院　（教科書は中間レポートとレポート試験用に用います。）		
教材（参考資料）	授業中に指示する。		
教育方法	板書を中心にした講義法を行う。		
評価方法	中間レポート（２０％）、レポート試験（４０％）、授業内レポート（４０％）		
到達目標	西洋史における様々な問題を考察し、現代をよりよく理解できることを目標とする。		
授業時間外学習	中間レポート課題と期末レポート課題以外の教科書の各章を学期中に読破する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件
　西洋史を学ぶ意欲を持っていること。
講義のルール
　授業中の禁止事項を授業で指示します。授業態度が悪い場合は減点します。
学習上の助言
　過去と現在との違いを認識して、両者を理解するように努めて下さい。

授業スケジュール

１．西洋史学の課題
２．古代ギリシアにおける女性と社会
３．古代ギリシアにおける女性の財産権
４．古代ギリシアにおける女性の地位
５．疫病の歴史（１）　―　ペストの歴史
６．疫病の歴史（２）　―　ペストと人々
７．疫病の歴史（３）　―　コレラの歴史
８．「流行」と社会（１）　―　贅沢禁止法の歴史
９．「流行」と社会（２）　―　流行と産業革命
１０．「流行」と社会（３）　―　流行の企業化
１１．近代世界システムの理論の概要（１）　―　従属理論の基礎
１２．近代世界システムの理論の概要（２）　―　世界システム論の基礎
１３．近代世界システムの成立史（１）　―　16 世紀の世界
１４．近代世界システムの成立史（２）　―　世界システムの意義
１５．近代世界システムと奴隷制　―　奴隷貿易との関わり

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JM0059001
科目名	地誌	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Geography		
担当者名	本多　健一	旧科目名称	
授業概要	「地誌」とは、ある特定の地域の特徴・特質をできるだけ詳しく調べ上げて記述すること、あるいはそのような書物を意味する。すなわち地域調査の結果として得られるものである。大学で学ぶべき「地誌学」とは、様々な地域の「地誌」を漫然と覚えるだけではなく、それらを自ら調査・記述できるような能力を身につけることにあろう。 本授業では、様々な見方から比較的身近な地域、特に都市の特徴・特質を紹介するが、その結果だけでなく、いかにしてそのような結果に至ったかのという方法も紹介していく。すなわち地域調査のために必要な地図（地形図)、文書資料（史料)、統計、写真・映像、フィールドワークなどの基本的活用方法の習得にも重点をおきたい。 また、本授業は社会科教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって毎回出席することはもちろん、しっかりと予習・復習をしなければ単位取得はむずかしい。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（教科書）	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	講義法で授業は進められる。レジュメを中心に解説しつつ映像資料も活用する。		
評価方法	定期試験 85% 平常点評価 15 % 平常点として講義中に 2 回程度、コミュニケーションペーパーを利用してそれまでの講義への質問事項などを記述してもらい、講義内容の理解度や復習状況を評価する。 また、講義中に私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。私語・「内職」を繰り返すなど目に余る学生は、単位認定を取り消す場合もあるので注意してほしい。		
到達目標	様々な地域の特徴・特質を把握できるとともに、諸資料の活用を通じた地域調査の基本的方法を理解できる。		
授業時間外学習	あらかじめ中学または高校の地理教科書、特に地図の読み方・使い方の部分をよく読み返しておくこと。 毎回指示する参考文献を必ず熟読して復習し、理解すること。 電車やバス、徒歩で移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。 講義中に私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。私語・「内職」を繰り返すなど目に余る学生は、単位認定を取り消す場合もあるので注意してほしい。			
授業スケジュール			
1．オリエンテーション－地理学と地誌学 2．歴史都市・奈良の形成①－古代日本の都市とミヤコ 3．歴史都市・奈良の形成②－藤原京と平城京 4．歴史都市・大阪の形成①－古代難波宮を中心に 5．歴史都市・大阪の形成②－大坂本願寺と大坂城 6．歴史都市・大阪の形成③－近世商業都市「天下の台所」 7．亀岡市と亀岡盆地①－地域概観、開発の伝承 8．亀岡市と亀岡盆地②－神社の分布から考える古代の開発 9．信仰から考える都市①－城下町（高山・小浜・萩など）を中心に 10．信仰から考える都市②－商業・宗教都市（堺・奈良など）を中心に			

11. 滋賀県・草津川－天井川と水害
12. 富山県・常願寺川と立山カルデラ－河川治水の必要性とその問題点
13. 観光からみた京都①－日本における観光の現状と課題、インバウンド観光
14. 観光からみた京都②－京都観光の実態と戦略、入込客数とリピーター
15. 講義を終えるにあたって－風土（あるいは環境）と人間

※諸般の事情で順序や内容を変更する可能性がありうる。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JM0059002
科目名	地誌	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Geography		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	「地誌」とは、ある特定の地域の特徴・特質をできるだけ詳しく調べ上げて記述すること、あるいはそのような書物を意味する。すなわち地域調査の結果として得られるものである。大学で学ぶべき「地誌学」とは、様々な地域の「地誌」を漫然と覚えるだけではなく、それらを自ら調査・記述できるような能力を身につけることにあろう。 本授業では、様々な見方から比較的身近な地域、特に都市の特徴・特質を紹介するが、その結果だけでなく、いかにしてそのような結果に至ったかのという方法も紹介していく。すなわち地域調査のために必要な地図（地形図)、文書資料（史料)、統計、写真・映像、フィールドワークなどの基本的活用方法の習得にも重点をおきたい。 また、本授業は社会科教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって毎回出席することはもちろん、しっかりと予習・復習をしなければ単位取得はむずかしい。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（教科書）	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	講義法で授業は進められる。レジュメを中心に解説しつつ映像資料も活用する。		
評価方法	定期試験 85% 平常点評価 15 % 平常点として講義中に 2 回程度、コミュニケーションペーパーを利用してそれまでの講義への質問事項などを記述してもらい、講義内容の理解度や復習状況を評価する。 また、講義中に私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。私語・「内職」を繰り返すなど目に余る学生は、単位認定を取り消す場合もあるので注意してほしい。		
到達目標	様々な地域の特徴・特質を把握できるとともに、諸資料の活用を通じた地域調査の基本的方法を理解できる。		
授業時間外学習	あらかじめ中学または高校の地理教科書、特に地図の読み方・使い方の部分をよく読み返しておくこと。 毎回指示する参考文献を必ず熟読して復習し、理解すること。 電車やバス、徒歩で移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。 講義中に私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。私語・「内職」を繰り返すなど目に余る学生は、単位認定を取り消す場合もあるので注意してほしい。			
授業スケジュール			
1．オリエンテーション－地理学と地誌学 2．歴史都市・奈良の形成①－古代日本の都市とミヤコ 3．歴史都市・奈良の形成②－藤原京と平城京 4．歴史都市・大阪の形成①－古代難波宮を中心に 5．歴史都市・大阪の形成②－大坂本願寺と大坂城 6．歴史都市・大阪の形成③－近世商業都市「天下の台所」 7．亀岡市と亀岡盆地①－地域概観、開発の伝承 8．亀岡市と亀岡盆地②－神社の分布から考える古代の開発 9．信仰から考える都市①－城下町（高山・小浜・萩など）を中心に 10．信仰から考える都市②－商業・宗教都市（堺・奈良など）を中心に			

11. 滋賀県・草津川－天井川と水害
12. 富山県・常願寺川と立山カルデラ－河川治水の必要性とその問題点
13. 観光からみた京都①－日本における観光の現状と課題、インバウンド観光
14. 観光からみた京都②－京都観光の実態と戦略、入込客数とリピーター
15. 講義を終えるにあたって－風土（あるいは環境）と人間

※諸般の事情で順序や内容を変更する可能性がありうる。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JM0059A02
科目名	地誌 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Regional Geography A		
担当者名	本多　健一	旧科目名称	
授業概要	「地誌」とは、ある特定の地域の特徴・特質をできるだけ詳しく調べ上げて記述すること、あるいはそのような書物を意味する。すなわち地域調査の結果として得られるものである。大学で学ぶべき「地誌学」とは、様々な地域の「地誌」を漫然と覚えるだけではなく、それらを自ら調査・記述できるような能力を身につけることにあろう。 本授業では、様々な見方から比較的身近な地域、特に都市の特徴・特質を紹介するが、その結果だけでなく、いかにしてそのような結果に至ったかのという方法も紹介していく。すなわち地域調査のために必要な地図（地形図)、文書資料（史料)、統計、写真・映像、フィールドワークなどの基本的活用方法の習得にも重点をおきたい。 また、本授業は社会科教職資格の取得をめざす学生に重点を置いた内容とする。したがって毎回出席することはもちろん、しっかりと予習・復習をしなければ単位取得はむずかしい。決して安易な気持ちで選択しないこと。		
教材（教科書）	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を行う。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	講義法で授業は進められる。レジュメを中心に解説しつつ映像資料も活用する。		
評価方法	定期試験 85% 平常点評価 15 % 平常点として講義中に 2 回程度、コミュニケーションペーパーを利用してそれまでの講義への質問事項などを記述してもらい、講義内容の理解度や復習状況を評価する。 また、講義中に私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。私語・「内職」を繰り返すなど目に余る学生は、単位認定を取り消す場合もあるので注意してほしい。		
到達目標	様々な地域の特徴・特質を把握できるとともに、諸資料の活用を通じた地域調査の基本的方法を理解できる。		
授業時間外学習	あらかじめ中学または高校の地理教科書、特に地図の読み方・使い方の部分をよく読み返しておくこと。 毎回指示する参考文献を必ず熟読して復習し、理解すること。 電車やバス、徒歩で移動する際には、まわりの景色をよく観察してみること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回、中学または高校の地理の授業で用いた地図帳を持参することが望ましい。 講義中に私語やスマホをいじるなどの「内職」は厳しく減点する。私語・「内職」を繰り返すなど目に余る学生は、単位認定を取り消す場合もあるので注意してほしい。			
授業スケジュール			
1．オリエンテーション－地理学と地誌学 2．歴史都市・奈良の形成①－古代日本の都市とミヤコ 3．歴史都市・奈良の形成②－藤原京と平城京 4．歴史都市・大阪の形成①－古代難波宮を中心に 5．歴史都市・大阪の形成②－大坂本願寺と大坂城 6．歴史都市・大阪の形成③－近世商業都市「天下の台所」 7．亀岡市と亀岡盆地①－地域概観、開発の伝承 8．亀岡市と亀岡盆地②－神社の分布から考える古代の開発 9．信仰から考える都市①－城下町（高山・小浜・萩など）を中心に 10．信仰から考える都市②－商業・宗教都市（堺・奈良など）を中心に			

11. 滋賀県・草津川－天井川と水害
12. 富山県・常願寺川と立山カルデラ－河川治水の必要性とその問題点
13. 観光からみた京都①－日本における観光の現状と課題、インバウンド観光
14. 観光からみた京都②－京都観光の実態と戦略、入込客数とリピーター
15. 講義を終えるにあたって－風土（あるいは環境）と人間

※諸般の事情で順序や内容を変更する可能性がありうる。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JM0060B01
科目名	哲学概論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy B		
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
授業概要	哲学は、紀元前６世紀のギリシアに誕生し現代にいたるまで欧米において独自の発展を遂げてきた学問であるが、同じ時期にインドや中国でも誕生し異なった発展をしてきた。この授業では、これら哲学の三つの伝統をとりあげ、その発展の道筋を比較しながらたどっていく。このことによってそれぞれの伝統の大きな特徴を学び、現代の我々が生きる西洋技術文明についての理解をも深めることができる。また、古代においてインド、中国から影響を受け、また近代の明治維新以降欧米から影響を受けた日本が、諸外国の哲学思想をどのように受容し独自の文化に変容させていったかについても学んでいく。		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	野田又夫著『哲学の三つの伝統』岩波書店　平成２５年。そのほか、各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教育方法	講義法で授業は進められる。授業内で学生の発言を求めることがある。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	将来、国際社会に生きる者として他国・自国の文化についての理解を深めるために、諸外国や日本の哲学思想について基本的な知識を習得する。		
授業時間外学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、参考書にあげた野田又夫著『哲学の三つの伝統』にも目を通しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（１）私語は厳禁である。（２）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（３）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

授業スケジュール

１　導入－－１哲学とは？　２哲学の問いと三つの起源　３哲学的思考の特徴　４枢軸時代
２　人間をめぐる神話－－１哲学以前の神話　２インドの神話　３中国の神話　４ギリシアの神話
３　神話と哲学－－１神話から哲学へ　２ウパニシャッド　３『易経』　４ヘラクレイトス
４　インドの哲学１－－１仏陀　２仏典結集　３法（ダルマ）　４三法印
５　中国の哲学１－－１孔子　２孔子の弟子たち　３徳治主義　４孔子以降の儒教
６　中国の哲学２－－１老荘思想　２墨家　３孫子　４韓非子
７　ギリシアの哲学１－－１最初の「哲学者」タレス　２ソクラテス　３対話術
８　ギリシアの哲学２－－１産婆術　２哲人統治論
９　古代哲学の継承－－１大乗仏教の成立　２中国における仏教の衝撃　３儒教の発展　４新しい神話との出会い
１０　西洋近代のスタート－－１整理　２新しい神話としてのキリスト教　３ルネサンスと大航海時代
１１　世界像の変遷１－－１天動説　２太陽中心説と太陽崇拝思想　３力学的自然観
１２　世界像の変遷２－－１信仰か理性か　２啓蒙主義　３信仰と理性の棲み分け　４徳治主義への批判
１３　世界像の変遷３－－１汎神論　２疾風怒濤　３ロマン主義の哲学　４美徳なき世界？
１４　日本の哲学思想１－－１儒教・仏教の伝来　２仏教の隆盛　３仏教の展開　４儒教の再登場
１５　日本の哲学思想２－－１西洋哲学の導入　２インド哲学と西洋哲学との融合

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JM0060B02
科目名	哲学概論Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Philosophy B		
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
授業概要	哲学は、紀元前６世紀のギリシアに誕生し現代にいたるまで欧米において独自の発展を遂げてきた学問であるが、同じ時期にインドや中国でも誕生し異なった発展をしてきた。この授業では、これら哲学の三つの伝統をとりあげ、その発展の道筋を比較しながらたどっていく。このことによってそれぞれの伝統の大きな特徴を学び、現代の我々が生きる西洋技術文明についての理解をも深めることができる。また、古代においてインド、中国から影響を受け、また近代の明治維新以降欧米から影響を受けた日本が、諸外国の哲学思想をどのように受容し独自の文化に変容させていったかについても学んでいく。		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	野田又夫著『哲学の三つの伝統』岩波書店　平成２５年。そのほか、各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教育方法	講義法で授業は進められる。授業内で学生の発言を求めることがある。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	将来、国際社会に生きる者として他国・自国の文化についての理解を深めるために、諸外国や日本の哲学思想について基本的な知識を習得する。		
授業時間外学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。また、参考書にあげた野田又夫著『哲学の三つの伝統』にも目を通しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（１）私語は厳禁である。（２）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（３）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

授業スケジュール

１　導入－－１哲学とは？　２哲学の問いと三つの起源　３哲学的思考の特徴　４枢軸時代
２　人間をめぐる神話－－１哲学以前の神話　２インドの神話　３中国の神話　４ギリシアの神話
３　神話と哲学－－１神話から哲学へ　２ウパニシャッド　３『易経』　４ヘラクレイトス
４　インドの哲学１－－１仏陀　２仏典結集　３法（ダルマ）　４三法印
５　中国の哲学１－－１孔子　２孔子の弟子たち　３徳治主義　４孔子以降の儒教
６　中国の哲学２－－１老荘思想　２墨家　３孫子　４韓非子
７　ギリシアの哲学１－－１最初の「哲学者」タレス　２ソクラテス　３対話術
８　ギリシアの哲学２－－１産婆術　２哲人統治論
９　古代哲学の継承－－１大乗仏教の成立　２中国における仏教の衝撃　３儒教の発展　４新しい神話との出会い
１０　西洋近代のスタート－－１整理　２新しい神話としてのキリスト教　３ルネサンスと大航海時代
１１　世界像の変遷１－－１天動説　２太陽中心説と太陽崇拝思想　３力学的自然観
１２　世界像の変遷２－－１信仰か理性か　２啓蒙主義　３信仰と理性の棲み分け　４徳治主義への批判
１３　世界像の変遷３－－１汎神論　２疾風怒濤　３ロマン主義の哲学　４美徳なき世界？
１４　日本の哲学思想１－－１儒教・仏教の伝来　２仏教の隆盛　３仏教の展開　４儒教の再登場
１５　日本の哲学思想２－－１西洋哲学の導入　２インド哲学と西洋哲学との融合

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JM0063A01
科目名	東洋史概説 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Asian History A		
担当者名	岡本　隆司	旧科目名称	
授業概要	ここでいう「近代中国史」とは、西洋「近代」が始動し、東アジアに影響をあたえて、中国を近代国家の形成に向かわせる、西暦でいえば、16 世紀から 20 世紀初頭までの歴史過程を指す。本講義では、そのプロセスを中心とする東洋史全体を社会経済史的な視野でたどる。とりわけ最も近隣に位置し、のちに抜き差しならない間柄になる日本との対比・関係を重視する。		
教材（教科書）	毎回の授業に講義レジュメを配布する。その具体的・展開的な内容として、以下を必ず熟読すること。 岡本隆司『近代中国史』ちくま新書（2013 年）		
教材（参考資料）	岡本隆司『中国「反日」の源流』講談社選書メチエ（2011 年） 岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会（2013 年） 岡本隆司『ラザフォード・オルコック』ウェッジ選書（2012 年）		
教育方法	－		
評価方法	試験ないしレポートの成績によって、評価をくだす。論述方式により、授業内容の理解をみて成績を判断する。なお平常の受講態度をみて、適宜平常点も加味する。		
到達目標	・近代中国史を中心に東洋史を概論する。アジア史・日本史・西洋史を一国史・専門の枠内だけにとどまらず、世界的な全体的な規模と角度から分析する視野を養う。		
授業時間外学習	指示した教科書ないしは参考文献で予習、復習を怠らないこと。具体的には授業時に解説する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教科書・参考文献をよく読んで授業に臨んでください。留意点は授業中に説明します。

授業スケジュール

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：公権力と社会
第３回：古代中世のアジア史――遊牧世界と農耕世界
第４回：二元的世界の形成――江南の開発と唐宋変革の世界史的意義
第５回：14 世紀の危機と明朝の世界史的位置
第６回：明から清へ――「近世」日本との対比
第７回：マクロな社会経済動向
第８回：19 世紀の転換
第９回：西洋近代との邂逅――開港（アジア）と開国（日本）
第１０回：動乱の時代と社会構成の変化
第１１回：「督撫重権」――アジアからの視点と国民国家と対比
第１２回：「洋務」の時代――日本・西アジアとの比較
第１３回：国民経済へ向かって
第１４回：産業革命と「黄金時代」――第一次大戦前後
第１５回：戦争と革命

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JM0063B01
科目名	東洋史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Asian History B		
担当者名	岡本　隆司	旧科目名称	
授業概要	ここでいう「近代中国史」とは、西洋「近代」が始動し、東アジアに影響をあたえて、中国を近代国家の形成に向かわせる、西暦でいえば、16 世紀から 20 世紀初頭までの歴史過程を指す。本講義では、そのプロセスを中心とする東洋史全体を政治外交史的な視野でたどる。とりわけ最も近隣に位置し、のちに抜き差しならない間柄になる朝鮮・日本との関係を重視する。		
教材（教科書）	毎回の授業に講義レジュメを配布する。その具体的・展開的な内容として、以下を必ず熟読すること。 岡本隆司『李鴻章』岩波新書（2011 年） 岡本隆司『世界のなかの日清韓関係史』講談社選書メチエ（2008 年）		
教材（参考資料）	岡本隆司『ラザフォード・オルコック』ウェッジ選書（2012 年） 岡本隆司『中国「反日」の源流』講談社選書メチエ（2011 年）		
教育方法	－		
評価方法	試験ないしレポートの成績によって、評価をくだす。論述方式により、授業内容の理解をみて成績を判断する。なお平常の受講態度をみて、適宜平常点も加味する。		
到達目標	・近代中国史を中心に東洋史を概論する。アジア史・日本史・西洋史を一国史・専門の枠内だけにとどまらず、世界的な全体的な規模と角度から分析する視野を養う。		
授業時間外学習	指示した教科書ないしは参考文献で予習、復習を怠らないこと。具体的には授業時に解説する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教科書・参考文献をよく読んで授業に臨んでください。留意点は授業中に説明します。

授業スケジュール

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：「東アジアにおける古代の終末」――東アジア世界の特質と西アジア・中央アジア
第３回：多元化のアジア――宋・遼・金とイスラーム世界
第４回：モンゴル帝国の「混一」と「蒙古襲来」の位置づけ
第５回：14 世紀の危機と秩序の再編――「朝貢システム」とティムール・オスマン
第６回：大航海時代――16 世紀の世界
第７回：日本と満洲族の興起――17 世紀の北東アジア
第８回：清朝と徳川の平和――18 世紀の東アジアとイスラーム世界の危機
第９回：西洋近代との邂逅――開港（アジア）と開国（日本）
第１０回：日清修好条規と日朝修好条規
第１１回：台湾出兵と琉球処分――西アジアとの比較
第１２回：李鴻章と対外関係――グレート・ゲームのなかで
第１３回：日清戦争――東アジアの分水嶺
第１４回：変法・反動・列強
第１５回：日露戦争から革命へ――アジアの変貌

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JM0064A01
科目名	統計学入門A	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Statistics A		
担当者名	濵﨑　淳洋	旧科目名称	
授業概要	この講義では、統計学の基本である　記述統計「収集したデータの要約統計量(平均、分散など）を計算して分布を明らかにすることにより、データの示す傾向や性質をしること」と、推測統計学「標本から母集団の性質を推定する統計学の分野」に必要な確率分布の基本的な概念の説明と実際の計算・論証処理の演習を行う。		
教材（教科書）	なし，各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	講義中に適宜指示する。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら，講義法で授業は進められる。		
評価方法	授業レポート（56%），その理解度を確認する演習・試験（44%），この２つの項目を総合して評価する。		
到達目標	データの統計処理を実行し、結果の意味を適切に把握し説明できること。確率分布の基本を理解し，それを推定や検定に応用し，具体的な事例について確率的な説明ができること。		
授業時間外学習	新聞などのメディアに登場する統計データを常に意識し、その意味・信憑性を考えるように心がけること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

数学的な記号や法則は，本だけで修得するのは困難であるので，毎回受講すること。具体的な例題を実際に解きながら講義を進め，簡単な演習問題を課し提出してもらうので電卓を用意して欲しい。

授業スケジュール

1.統計と情報
2.データの視覚的なまとめ
3.代表値－平均値
4.散布度－分散・標準偏差
5.散布図と相関係数
6.回帰分析
7.事象と確率
8.データの処理と確率について総合演習
9.確率変数
10.2 次元以上の確率分布
11.二項分布
12.ポアソン分布
13.正規分布
14.統計量の分布
15.確率分布について総合演習

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JM0064B01
科目名	統計学入門B	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Statistics B		
担当者名	森田　洋二	旧科目名称	
授業概要	経済の諸現象を量的に把握したものが経済統計である。統計調査やその利用・分析を重点的に展開する。 とくに分析に必要となる「データのまとめ方」や「統計利用の実際」を重視するが、統計分析の初歩も当然必要となる。 SNA 統計や、物価、労働、金融、為替、外国貿易等様々な統計データを用いて、その処理方法や数量的分析の基礎を学習する。 当初、データは教員が提供し、それを Excel 等を使って表や図、数値指標にまとめて分析する。 分析結果をレポートにして完成させる。図表の書き方、文章の書き方などもチェックし、細かく修正してもらう。 これを何回も題材を変えながら繰り返す。		
教材（教科書）	毎回、EXCEL でデータと分析方法を配布。		
教材（参考資料）	縄田和満、EViews による計量経済分析入門、朝倉書店、2009		
教育方法	（1）日銀や政府が発行するデータをインターネット経由で入手。または「京学なび」上から EXCEL で配布。 （2）EViews 上で分析開始。データの背景にある経済学的な仕組みを見つけ出す。 上記の（1）から（2）を、テーマごとに繰り返し、データ分析手法の理解を目指す。コンピュータ漬けの日々が続く。グループワークは行わない（行う暇がない）。		
評価方法	授業中に取り組んで作成した資料を適当な段階で提出してもらう。全 5 回を予定。その「できぐあい」によって評価する(20％＊5＝100%)。 期末テストは実施しない。		
到達目標	Excel を使いこなし、統計的処理の基礎を固める 高い水準のレポートが書けるようにする		
授業時間外学習	Excel は授業外でも使う機会を増やして欲しい。 レポートは授業内で改訂するだけでは全く不十分なので、必ず、自宅でも検討しておく事が必要である。 授業外の時間にその勉強をすること、次回の授業でそれを確かめること、ノートの整理などに時間を使ってほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ノートを必ず作り書き込むこと。これは特に重要である。 積極的に参加することが必要で、授業に出て、おとなしく座っていることが良いのではない。質問したり、相談したりすることが必要。 授業中のおしゃべり、スマホいじり、飲食、途中退室は厳禁である。			
授業スケジュール			
以下のように講義を進めるが、取り扱う内容は上記のように各種関連統計を随時利用する。 1　講義の全体構成 2　表を作る 3　グラフの作成と大小関係 4　円グラフと比率 5　折れ線グラフと時間の推移 6　棒グラフとその性質			

7　2 軸を使った複合グラフの分析
8　ヒストグラムと分布
9　データのばらつき
１０　散布図と 2 変数の関係
１１　不平等、格差を測る
１２　経済成長を測る
１３　世界の豊かさ
１４　相関係数の話
１５　回帰分析の話

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	JM0065001
科目名	統計分析の基礎	単位数	4
科目名（英語表記）	The Basic of Metric Analysis		
担当者名	臼井　正	旧科目名称	
授業概要	日常生活でも視聴率や世論調査などで広く用いられており、心理学など文系科目にとっても必須である統計学について、基本的なことを解説する。単なる公式の暗記ではなく、統計学の基礎的な考え方がどのように形成されるのか、具体例を挙げながら考えて行く。 特に数学は自分の手で問題を解かないと理解が進まないので、積極的に問題を解いて欲しい。 数列と和の記号、順列と組み合わせといった高校の復習も適宜行う。それから、データをヒストグラム（度数分布図）を使って視覚化したり、平均値や分散のような数値として表わす方法を学習する。次に、確率変数と期待値の基礎も学ぶ。さらに二項分布、正規分布などの確率分布の性質を調べ、推定や検定の考え方や、その方法を解説する。 適宜、エクセルでの統計データの扱い方についても触れる。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	小寺平治、『新統計入門』、裳華房、1996 年		
教育方法	適宜プリントを配布して、講義法で行う。		
評価方法	平常点（１０点、出席状況等による）＋授業時間内の小テスト（3回×１０点=３０点）＋定期試験（６０点）		
到達目標	統計学の基本的な考え方を学んでいく。		
授業時間外学習	予習・復習をして次の講義に備えてください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
積み重ねの授業なので、出来るだけ欠席しないように。			
授業スケジュール			
1. 数列と等差数列：数列とは何か、数列の中でも基本的な等差数列とその和の求め方を学ぶ。 2. 等比数列：等比数列の考え方を学び、一般項を求める。 3. 和の記号 Σ：和の記号 Σ の定義とその線形性、簡単な数列の和の求め方を学ぶ。 4. 度数分布表とヒストグラム：与えられたデータを度数分布表と累積度数分布表にまとめ、ヒストグラムにして見やすくする。 5. 代表値：平均・メディアン・モード：データを一つの値で代表させる代表値３種類と、それらの違いを考える。 6. 度数分布表から代表値を求める方法：個々のデータが与えられていなくても、度数分布表から代表値が求められる。 7. 散布度：分散・標準偏差・四分偏差：データの分布を知るには代表値だけでなく、データのばらつきを示す指標も必要である。 8. 相関係数とクロス集計：2 種類のデータを集計する方法を学ぶ。また、相関関係と因果関係の違いについても考える。 9. 小テスト・１：1〜8 で扱った範囲の理解度を見ます。 10. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。 11. 集合と場合の数：集合の表し方と、起こりうる全ての場合の数え上げを学ぶ。 12. 順列と組み合わせ：順列と考え方と、計算法を学ぶ。 13. 組み合わせ：組み合わせの考え方と、計算法を学ぶ。 14. 確率とその計算：確率の定義と意味、その基本性質を学ぶ。 15. 確率変数と期待値：確率変数と確率分布の意味、期待値の考え方と計算の仕方を学ぶ。 16. 二項分布：コインやサイコロを投げたときの確率分布である二項分布を考える。 17. 標準正規分布と正規分布表の見方：正規分布の特徴と正規分布表の見方を学ぶ。 18. 正規分布の標準化：一般の正規分布を標準正規分布に変換する方法を学ぶ。 19. 小テスト・２：11〜18 で扱った範囲の理解度を見ます。 20. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。 21. 標本調査の考え方：全数調査と標本調査、母集団や無作為抽出の意味を考える。 22. 区間推定：正規分布を使った、母平均の区間推定を行う。 23. ｔ分布：t 分布と、t 分布を使った区間推定を学ぶ。		

24. 仮説検定と母平均の検定：仮説検定とは何かを考えた上で、正規分布とｔ分布を使って母平均の仮説検定を行う。
25. 母比率の差の検定：二項分布または正規分布を使って、母比率の差の仮説検定を行う。
26. ２次元確率変数と確率変数の独立性：２つの確率変数の扱い方と、独立性の意味を考える。
27. カイ二乗分布・適合度・独立性の検定：カイ二乗分布を使って、適合度と独立性の検定を行う。
28. 小テスト・３：21～27 で扱った範囲の理解度を見ます。
29. 小テストの返却と解説：点数の良し悪しではなく、自分がどこが間違ったかを確認して下さい。
30. これまで学んだ事柄を、エクセルで実行します。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JM0066B01
科目名	日本の文学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Literature B		
担当者名	鎌田　智恵	旧科目名称	
授業概要	京都は古くから政治・文化の中心地だった。日本の文学作品には京都で生みだされたものや、京都を舞台とするものも多い。 本講義では、京都を舞台とする作品に親しむことで、京都の新たな魅力を発見することを目指す。 各回の講義では、現代語訳を手がかりに作品の一部を原文で読む。その中に描かれた名所の姿を味わい、またその場所が現代ではどうなっているのかを知ることで、京都という土地の積み重ねてきた歴史や文化を感じとってほしい。 また実際に作品にふれることで、日本の文学作品に対する知識・理解も深めていきたい。 なお受講者の状況などにより、シラバスを一部変更することがある。		
教材（教科書）	なし（授業寺にプリントを配布する）		
教材（参考資料）	適宜プリントを配布する。また授業中に紹介する。		
教育方法	－		
評価方法	平常点（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）		
到達目標	・京都の歴史・文化・地理への理解を深める。 ・原文を読んで作品世界を味わうとともに、文学的な知識や感性を豊かにする。		
授業時間外学習	京都の地図を見たり実際にいろいろな場所を訪れたりして、京都の地形・地理などをある程度身につけておくのが望ましい。 講義内容を復習した上で次の授業に臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

私語が講義の妨げになる場合は退出を求めることがある。
講義で扱った場所・作品については、ぜひ自分でも訪れたり手に取って読んでほしい。
古文の知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。

授業スケジュール

1，概説
2，羅城門　『今昔物語集』
3，伏見①　『伊勢物語』
4，伏見②　『枕草子』
5，宇治①　『古今和歌集』
6，宇治②／貴船神社　『平家物語』
7，上賀茂・下鴨神社　『源氏物語』
8，野宮神社　『源氏物語』
9，北野天満宮　『大鏡』
１０，石清水八幡宮　『十訓抄』
１１，仁和寺　『徒然草』
１２，清水寺　『義経記』
１３，大江山　『大江山絵詞』
１４，與謝　『お伽草子』
１５，祇園　『古都』（川端康成）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	JM0066B02
科目名	日本の文学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Literature B		
担当者名	濵中　祐子	旧科目名称	
授業概要	授業は講義形式で行い、適宜プリントやパワーポイントを使用する。 京都は長らく、文化・文学の中心地であった。 京都を舞台にした文学作品を通して、京都の新たな側面を知ってほしい。授業では、京都の名所にまつわる文学作品を読む。今までに訪れたことがある場所であっても、文学作品を通して新たな見方ができるのではないかと思う。 題材としては、主に日本の古典文学作品を扱う。物語、和歌、軍記物、随筆、漢詩文など様々なジャンルにふれられるようにする。高校の古文の授業では扱わないような場面も紹介し、古典文学の魅力にふれる機会を提供する。古典文学は、長く読み続けられるに耐える普遍性を持っている。先人の考え方や、登場人物の生き様にふれることは、自らの思考や体験を相対化する一助となるであろう。若い時に読んだ古典文学作品は、その後の人生を必ず豊かにしてくれるものである。 古典文学作品を読み、京都の町を実際に歩き、見聞を広げることによって、日本文化・文学についての知識を身につけよう。		
教材（教科書）	講義法で授業は進められる。		
教材（参考資料）	適宜プリントを配布する。また、授業中に適宜紹介する。		
教育方法	講義法で授業は進められる。		
評価方法	レポート（40%）　定期試験（50%）　授業への参加度（10%）		
到達目標	・日本古典文学を通して日本人の考え方、ものの見方を知り、日本文化への理解を深める。また、理解した日本文化について説明できるようになる。 ・日本文化・文学に対する知識を身につけ、世代間・異文化間におけるコミュニケーション能力を高める。 ・机上の学習に終始せず実際に京都の名所を訪れることによって、自らの目で対象を確認した上で思考し、判断することの重要性を学ぶ。		
授業時間外学習	配布プリントを中心に各講義の内容を復習した上で次の授業にのぞむこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な態度で授業に出席するよう心がけてもらいたい。私語は厳禁とする。
京都を舞台とした文学を、この京都という地で読むという環境は、とても恵まれている。机上の学習に終始せず、文学の舞台となった地に足を運んでほしい。
また、京都近辺で開催されている展示や催し物についても授業中に告知し、積極的な参加を求める。
レポートでは、実際に授業で取りあげた場所（いずれか一箇所）に出向いた上での調査を求める。ある程度の労力と費用がかかる授業であることを予め承知しておいてほしい。
題材としては主に古典文学を扱うけれども、現代語訳を都度示すため、特に古文の知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。

授業スケジュール

1　授業のすすめ方　レポート・小テストについての説明　穴太寺　『今昔物語集』
2　比叡山　『伊勢物語』
3　三十三間堂　『平家物語』(1)
4　三十三間堂　『平家物語』(2)
5　清水寺　『ものくさ太郎』(1)
6　清水寺『ものくさ太郎』(2)　『義経記』
7　野宮神社　『源氏物語』

8　貴船神社 『鉄輪』　和歌(1)
9　北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(1)
10　北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(2)
11　伏見稲荷 『枕草子』
12　下鴨神社『方丈記』
13　仁和寺『徒然草』
14　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受）(1)　和歌(2)
15　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受（2）　『更級日記』

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JM0066B03
科目名	日本の文学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Literature B		
担当者名	濵中　祐子	旧科目名称	
授業概要	授業は講義形式で行い、適宜プリントやパワーポイントを使用する。 京都は長らく、文化・文学の中心地であった。 京都を舞台にした文学作品を通して、京都の新たな側面を知ってほしい。授業では、京都の名所にまつわる文学作品を読む。今までに訪れたことがある場所であっても、文学作品を通して新たな見方ができるのではないかと思う。 題材としては、主に日本の古典文学作品を扱う。物語、和歌、軍記物、随筆、漢詩文など様々なジャンルにふれられるようにする。高校の古文の授業では扱わないような場面も紹介し、古典文学の魅力にふれる機会を提供する。古典文学は、長く読み続けられるに耐える普遍性を持っている。先人の考え方や、登場人物の生き様にふれることは、自らの思考や体験を相対化する一助となるであろう。若い時に読んだ古典文学作品は、その後の人生を必ず豊かにしてくれるものである。 古典文学作品を読み、京都の町を実際に歩き、見聞を広げることによって、日本文化・文学についての知識を身につけよう。		
教材（教科書）	講義法で授業は進められる。		
教材（参考資料）	適宜プリントを配布する。また、授業中に適宜紹介する。		
教育方法	講義法で授業は進められる。		
評価方法	レポート（40%）　定期試験（50%）　授業への参加度（10%）		
到達目標	・日本古典文学を通して日本人の考え方、ものの見方を知り、日本文化への理解を深める。また、理解した日本文化について説明できるようになる。 ・日本文化・文学に対する知識を身につけ、世代間・異文化間におけるコミュニケーション能力を高める。 ・机上の学習に終始せず実際に京都の名所を訪れることによって、自らの目で対象を確認した上で思考し、判断することの重要性を学ぶ。		
授業時間外学習	配布プリントを中心に各講義の内容を復習した上で次の授業にのぞむこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

能動的な態度で授業に出席するよう心がけてもらいたい。私語は厳禁とする。
京都を舞台とした文学を、この京都という地で読むという環境は、とても恵まれている。机上の学習に終始せず、文学の舞台となった地に足を運んでほしい。
また、京都近辺で開催されている展示や催し物についても授業中に告知し、積極的な参加を求める。
レポートでは、実際に授業で取りあげた場所（いずれか一箇所）に出向いた上での調査を求める。ある程度の労力と費用がかかる授業であることを予め承知しておいてほしい。
題材としては主に古典文学を扱うけれども、現代語訳を都度示すため、特に古文の知識は必要としない。京都と日本の文化・文学に関心がある者の履修を歓迎する。

授業スケジュール

1　授業のすすめ方　レポート・小テストについての説明　穴太寺　『今昔物語集』
2　比叡山　『伊勢物語』
3　三十三間堂　『平家物語』(1)
4　三十三間堂　『平家物語』(2)
5　清水寺　『ものくさ太郎』(1)
6　清水寺『ものくさ太郎』(2)　『義経記』
7　野宮神社　『源氏物語』

8　貴船神社 『鉄輪』　和歌(1)
9　北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(1)
10　北野天満宮 『大鏡』『菅家文草』『菅家後集』(2)
11　伏見稲荷 『枕草子』
12　下鴨神社『方丈記』
13　仁和寺『徒然草』
14　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受）(1)　和歌(2)
15　平等院 『古今和歌集』と『源氏物語』の享受（2）　『更級日記』

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JM0069A02
科目名	日本史概説 A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japan A		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	日本の古代から中世後期にいたる歴史の展開を、近年の歴史研究の達成を踏まえ、政治史を中心に文化・社会の諸方面にわたって考察する。特に文化や意識が歴史に与えた影響や東アジア世界が日本の社会に及ぼした影響について、ていねいに考察したい。		
教材（教科書）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	授業で実施する小テスト（30%）、定期テスト（70%）		
到達目標	・日本の古代中世についての最新の歴史の見方を理解する。 ・柔軟で批判的な思考様式を体得する。		
授業時間外学習	・高校日本史の教科書の古代・中世の項を復習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。

授業スケジュール

1.なぜ歴史を学ぶのか？
2.東アジアと古代朝廷
3.平安前期の朝廷
4.平安京の光と影
5.中世は武士の時代か
6.王朝国家体制
7.中世王権の登場
8.荘園公領制の成立
9.平氏政権と『平家物語』
10.鎌倉幕府の成立
11.大殿九条道家と将軍九条頼経
12.仏教革新運動の登場
13.モンゴル襲来
14.室町幕府と東アジア世界
15.京都の文化財と戦争

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	JM0069B02
科目名	日本史概説Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japan B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	高校までの日本史といえば暗記科目という印象が強いでしょう。しかし大学で学ぶ歴史では、年号の暗記を求められたりはしません。また歴史といえば、テレビや漫画などで描かれる戦国武将や新選組などのイメージが強いかもしれません。しかし歴史は一部の有名人だけが活躍するものではありません。本講義では、主に江戸時代以降の日本史に関して、さまざまな話題をとりあげながら、歴史学の基本である、史料に基づきながら、過去の社会のありようや人々の営みを明らかにする手法を学び、当時の社会の仕組みや、その歴史の流れを把握してもらいます。		
教材（教科書）	特に使用しません。		
教材（参考資料）	その都度、指示します。		
教育方法	パワーポイントによるスライドと、毎回、配布するレジュメを使用する講義形式の授業。		
評価方法	毎回の感想・質問ペーパー（30%） 定期テスト（70%）		
到達目標	・日本の社会や文化の歴史にかんして興味をもち、それを深く探る方法をしっている ・江戸時代から近代までの日本史のおおまかな流れを理解している ・史料から歴史を読み解く歴史学の学問としての基礎を理解している		
授業時間外学習	・教科書は用いないので、毎回の予習を行う必要はないが、高校で日本史Ｂを習っていない人は、通読して日本史の流れを理解しておくこと。 ・毎回のレジュメを熟読して復習をすること。 ・また講義を休んだ人も、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくこと。 ・15 回の講義のなかで、気になる回について、最低１冊は関連する本を読むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。			
授業スケジュール			
第１回：歴史と歴史学 第２回：史料とは歴史の材料である、ということ 第３回：土のなかの戦場　―考古史料からみる島原の乱― 第４回：水戸黄門の歴史学 第５回：生類憐れみの令と〈子供〉の発見 第６回：江戸時代の教育 第７回：江戸時代の流行病とその対応 第８回：江戸時代の舞妓ハーン 第９回：歴史学と歴史創作　―新選組を事例に― 第１０回：歴史学と歴史創作　―屋根の上に鴨はいるか― 第１１回：史料から歴史をよむ ―坂本龍馬と大政奉還― 第１２回：幕末期諷刺錦絵と武鑑 第１３回：初詣の歴史 第１４回：この世界の片隅から歴史を読み解く 第１５回：歴史学とはなにか			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JM0072A02
科目名	物質の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Materials Science A		
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
授業概要	物理学は、精密科学として、自然科学の中でも最も基本的な分野をなしている。これは、物理学が数学を基礎としていることに因るところが大きいが、物理現象を理解するには必ずしも数学は必要としない。 この授業は、自然現象の正しい理解や環境問題のような自然科学に関する問題について正しく判断する力を養うため、物理現象の基本的な概念と法則を理解し、自然現象を科学的に捉える態度を修得することを目標としている。具体的には、音と光、物質と原子、原子核と放射線などを題材にして授業を進める。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	木下紀正 他　『物理学の基礎（身近なアプローチ)』　東京教学社		
教育方法	各講義で配布するプリントに沿って、簡単な実験なども取り入れ、講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点(30%)。　定期試験(70%)		
到達目標	・物理学の基本概念と法則を理解している。 ・自然現象を科学的に捉える態度を身に付けている。		
授業時間外学習	講義終了後、次回の講義のレジメを京学なびにアップロードするので、事前にキーワードや専門用語等を調べておくこと。 第 1 回　波動、原子、原子核（復習） 第 2 回　音の 3 要素、媒質、波の基本式 第 3 回　波を表す式、波の重ね合わせ、音の合成 第 4 回　光の回折・干渉、光の分散、スペクトル 第 5 回　電場、磁場、電磁波 第 6 回　原子説、質量保存の法則、定比例の法則 第 7 回　陰極線、電子、原子 第 8 回　真空放電、原子のスペクトル、原子の構造 第 9 回　オーロラのスペクトル、オーロラの発光物質 第 10 回　オーロラ粒子、太陽風、地磁気 第 11 回　原子核、同位体 第 12 回　不安定な原子、放射線 第 13 回　自然放射線、壊変、半減期 第 14 回　人口放射性物質、外部・内部被曝、確定的・確率的影響 第 15 回　放射線防護、年代測定、PET		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．他の受講生の迷惑になるので私語は禁止する。
2．学修を妨げるスマホ等の使用は禁止する。
3．高校で物理を履修していない学生にも理解出来るように進めるつもりであるが、新しい概念が次々と出てくるので、予習を欠かさないこと。

授業スケジュール

1．物理学の講義について
2．音と光(1)　音
3．音と光(2)　波
4．音と光(3)　光
5．音と光(4)　電磁波
6．物質と原子(1)　物質と原子
7．物質と原子(2)　原子
8．物質と原子(3)　原子と光

9．物質と原子(４)　オーロラ１
10．物質と原子(５)　オーロラ２
11．原子核と放射線(１)　原子と原子核
12．原子核と放射線(２)　不安定な原子
13．原子核と放射線(３)　身のまわりの放射線
14．原子核と放射線(４)　放射線の影響
15．原子核と放射線(５)　放射線の利用

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JM0073A01
科目名	文化人類学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Anthropology A		
担当者名	中谷　和人	旧科目名称	
授業概要	文化人類学は、他者について学ぶことを通して、自分自身を不断に変容させてゆく学問です。これは、この学問が「フィールドワーク」（現地調査）という方法を土台にしてきたことと深く関連しています。この授業では、こうした文化人類学のエッセンスを、さまざまな地域／領域における具体的な事例と共に学ぶことで、文化人類学的な思考と実践のための感性を磨くことを目指します。		
教材（教科書）	教科書は使用しません。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示します。		
教育方法	パワーポイント、DVD を活用するとともに、適宜資料を配布します。		
評価方法	授業後の質問・感想（20%）、期末レポート（80%）		
到達目標	文化人類学の基本的な方法と知見を具体的な事例と共に学ぶことで、他者と自己の世界についての「当たり前」を疑い、それをより深いところから捉え直すための新しい視座の獲得を目指します。同時にこの学びを、身近な出来事や自分自身の体験と関連づけて熟考し、自分の言葉で人に説明できるようになることを目標にします。		
授業時間外学習	あなたが最近出会った「他者」について考えてくること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この講義は授業後の復習を重視しています。配布資料を読み返しながら授業内容を振り返り、身近な出来事や自分の体験に照らして熟考する中で、文化人類学を一般的知識としてだけでなく、世界や自分自身を新しく捉え直すための方法として学ぶことを目指しています。

授業スケジュール

1. イントロダクションーなぜ文化人類学を学ぶのか？
2. マリノフスキとクラ―贈与がつくる社会関係
3. 野生のナヴィゲーション―イヌイットにおける移動と動物に「なる」こと
4. レヴィ＝ストロースの思想(1)―「構造」の発見
5. レヴィ＝ストロースの思想(2)―神話とブリコラージュ
6. 「文化」概念再考―誰が文化を語る権利を持つのか？
7. 前半のまとめ
8. 生命を人類学的に考える(1)―アニミズムと「心」の問題
9. 生命を人類学的に考える(2)―動きが生命をつくる
10. 医療を人類学的に考える(1)―病いと疾患
11. 医療を人類学的に考える(2)―医療人類学の現在
12. 芸術を人類学的に考える(1)―誰が「アール・ブリュット」を語るのか？
13. 芸術を人類学的に考える(2)―芸術の生態学に向かって
14. 芸術を人類学的に考える(3)―「線」が物語る生
15. 全体のまとめ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JM0073B01
科目名	文化人類学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Anthropology B		
担当者名	中谷　和人	旧科目名称	
授業概要	芸術作品は何を「する」のか？アルフレッド・ジェルは、彼の遺作となった『芸術とエージェンシー』(1998年）において、芸術的な対象/物（西洋のいわゆる「芸術作品」だけでなく、宗教的な偶像や呪物、装飾模様なども含む）が社会関係の中で「仕事をする」様態について分析しました。それは芸術を美や象徴的意味の観点から論じる既存の方法とは全く異なった、「人類学的」な芸術理論の構築を目指すものでした。この授業では、芸術の人類学のみならず、芸術理論一般に対しても大きな影響を及ぼしてきたこの著作を読みながら、芸術が今日の私たちの生にもたらす可能性について考えます。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	原著（Art and Agency: An Anthropological Theory, 1998 Oxford University Press）は高価なので教材には指定しません。レジュメと日本語の引用集を配布資料として用います。		
評価方法	授業後の質問・感想（20%）、期末レポート（80%）		
到達目標	ジェルの著作を深く読み解く中で、芸術についてのステレオタイプ的な見方を脱し、世界とそこに生きる私たちの生をもっと面白く捉え直すための感性を磨くことを目標とします。		
授業時間外学習	「芸術とは何か？」という問いに自分ならどう答えるかを考えておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

この講義では、より創造的な眼で世界を見直してみたいという熱意を重視しています。授業内容を身近な出来事や事物、また自分自身の体験と関連づけながら熟考することが求められます。芸術に関する事前の知識は必ずしも必要ありませんが、受講者は同じ担当者による「文化人類学 A」を受講しておくことが望ましいです。

授業スケジュール

1. イントロダクション―『芸術とエージェンシー』を読む目的
2. 第 1 章 問題の定義：芸術の人類学の必要性
3. 第 2 章 芸術のネクサス理論
4. 第 3 章 芸術のネクサスとインデックス
5. 第 4 章 芸術のネクサスにおけるインデックスの内旋
6. 第 5 章 インデックスの創生
7. 第 6 章 インデックスの批評
8. 第 7 章 分配された人格(1)
9. 第 7 章 分配された人格(2)
10. 第 7 章 分配された人格(3)
11. 第 8 章 様式と文化(1)
12. 第 8 章 様式と文化(2)
13. 第 9 章 結論：拡張した心(1)
14. 第 9 章 結論：拡張した心(2)
15. まとめ―世界の再魔術化のために

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JM0091A01
科目名	科学の歴史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。学生は、この講義を通じて、「科学」とは何か？「技術」とは何か？という問いに真剣に向き合い、科学者や技術者の社会的責任について、考察を深めることができる。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい） その他の参考資料は授業内で適宜指示する。		
教育方法	ホワイトボード、黒板、スライドなどを活用しながら、主に講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト（２０％）、期末試験（８０％）（学生の学習状況に応じて、多少の変更があり得る。詳細は授業内で説明する。）		
到達目標	学生は、自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」と「技術」のありかたを総合的に把握し、説明することができるようになる。また学生は、科学者や技術者の社会的責任について理解を深め、説明することができるようになる。		
授業時間外学習	現代社会における「科学」と「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業内容について、参考文献やインターネットなどによって予習・復習すること。 各回ごとの準備学習のためのキーワードは以下の通り。（各回の学習推定時間は４５分） １.科学とは何か ２.科学の方法 ３.古代文明 ４.天文学史 ５.古代ギリシャの文化 ６.中世ヨーロッパの文化 ７.イスラーム文化 ８.科学革命 ９.医学史と化学史 １０.生物学史 １１.物理学史 １３.科学と戦争、科学者・技術者の社会的責任 １４-１５.コンピューターとインターネット		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教室内ではスマートフォンや携帯電話等の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には退出を求める。

授業スケジュール

１.授業ガイダンス、自然科学と人文・社会科学
２.科学の定義、科学の方法と限界、科学と技術
３.古代文明と科学
４.暦、占星術と天文学
５.古代ギリシャの科学
６.中世ヨーロッパの科学、科学と宗教
７.アラビアの科学
８.科学革命
９.医学と化学の発展
１０.進化論と生物学の発展
１１.新しい物質観と物理学の発展

１３.科学と戦争、科学者・技術者の社会的責任
１４.コンピューターとインターネットの歴史
１５.改めて「科学とは何か？」を再考、今後の学習の展望について
（なお学生の学習状況に応じて、授業の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JM0091A02
科目名	科学の歴史 A	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Science A		
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	科学の歴史を理解することを通して、現代社会における「科学」と「技術」のありかたについて考える。学生は、この講義を通じて、「科学」とは何か？「技術」とは何か？という問いに真剣に向き合い、科学者や技術者の社会的責任について、考察を深めることができる。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	八杉龍一著　『新版　科学とは何か』　(1991 年)　東京教学社など（図書館で借りるだけでもよい） その他の参考資料は授業内で適宜指示する。		
教育方法	ホワイトボード、黒板、スライドなどを活用しながら、主に講義法で行う。		
評価方法	授業内小テスト（２０％）、期末試験（８０％）（学生の学習状況に応じて、多少の変更があり得る。詳細は授業内で説明する。）		
到達目標	学生は、自然科学に限らず、社会科学や人文科学など様々な領域における「科学」と「技術」のありかたを総合的に把握し、説明することができるようになる。また学生は、科学者や技術者の社会的責任について理解を深め、説明することができるようになる。		
授業時間外学習	現代社会における「科学」と「技術」のあり方に常に関心をもつこと。 各回ごとの授業内容について、参考文献やインターネットなどによって予習・復習すること。 各回ごとの準備学習のためのキーワードは以下の通り。（各回の学習推定時間は４５分） １.科学とは何か ２.科学の方法 ３.古代文明 ４.天文学史 ５.古代ギリシャの文化 ６.中世ヨーロッパの文化 ７.イスラーム文化 ８.科学革命 ９.医学史と化学史 １０.生物学史 １１.物理学史 １３.科学と戦争、科学者・技術者の社会的責任 １４-１５.コンピューターとインターネット		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教室内ではスマートフォンや携帯電話等の電源を切り、私語をやめ、授業に集中せよ。これが守れない学生には退出を求める。

授業スケジュール

１.授業ガイダンス、自然科学と人文・社会科学
２.科学の定義、科学の方法と限界、科学と技術
３.古代文明と科学
４.暦、占星術と天文学
５.古代ギリシャの科学
６.中世ヨーロッパの科学、科学と宗教
７.アラビアの科学
８.科学革命
９.医学と化学の発展
１０.進化論と生物学の発展
１１.新しい物質観と物理学の発展

１３.科学と戦争、科学者・技術者の社会的責任
１４.コンピューターとインターネットの歴史
１５.改めて「科学とは何か？」を再考、今後の学習の展望について
（なお学生の学習状況に応じて、授業の順番や内容を一部変更することもある。）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JM0094B01
科目名	ジェンダー論Ⅱ	単位数	2
科目名（英語表記）	Gender and Society Ⅱ		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
授業概要	一般的には「ジェンダー」とは社会的・文化的につくられた性別として、生物学的な性別である「セックス」と区別して使われてきました。身近な例は「女らしさ」や「男らしさ」という社会規範です。残念ながら多くの学生は、ジェンダー論を女性問題と理解しているようです。しかし男性が抱える問題はジェンダー規範が関わり、女性だけでなく男性にも「生きづらさ」をもたらしています。学生には、これまでジェンダーとは無関係と考えられてきた様々な社会問題を、ジェンダー・リテラシーを通して読み解いてもらいます。		
教材（教科書）	毎回の授業のはじめで、レジメと参考資料を配布する。		
教材（参考資料）	『女性学事典』岩波書店、(『図解雑学　ジェンダー』ナツメ社、『はじめてのジェンダー論』有斐斐　（図書館所蔵）		
教育方法	講義。DVD を使った課題などを授業後に提出してもらい、フィードバックは翌週に行う。		
評価方法	平常点（出席状況と授業内課題など）:40%、　テスト：60%		
到達目標	ジェンダー・リテラシーを用いて女と男の人間関係を理解する		
授業時間外学習	各授業最後に次回の準備学習を指定する		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ジェンダーをめぐる国内外の最新ニュースなど、常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や想像力で女と男の問題をとらえよう。			
授業スケジュール			
1,イントロダクション: ジェンダーとセックス 2,　ジェンダーの学習と社会化 3,主婦の誕生と性別役割分担 4. 女性労働の実態と格差社会 5,憲法から男女共同参画まで 6、セクシュアリティとは 7.人権問題としてのセクシュアリティ 8.母性愛と父性愛 9. 生殖技術の光と陰 10. 男性学：なぜ男性は「生きづらい」 11 近代家族 12.恋愛・結婚・仕事 13,少子化社会とジェンダー役割 14. 超高齢社会とライフコースの変化 15.　宗教とジェンダー			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JM0096A01
科目名	経済学概論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economics A		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
授業概要	「経済学は，日常生活における人々を研究するものである.」これは，19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが，1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である．それから 120 年以上が過ぎ，その間に経済学は格段の進歩を果たしたが，今でもこの経済学の定義は変わらない． ハーバード大学のマンキュー教授は，21 世紀に生きる学生諸君が，なぜ経済学を学ぶべきなのか，その 3 つの理由を挙げている． （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから． （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから． （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから． したがって，経済学の諸原理というものは，日常生活のさまざまな局面に応用できるものであり，とても役立つものである． 本授業の目的は，経済学の諸原理を修得することで，その考え方を使えば現実の世界の多くを説明することができるということを理解することである．また、その考え方を日常生活のさまざまな局面に活かせるようになることである．前半はミクロ経済理論として「消費者」と「企業」の行動に，また後半はマクロ経済理論として「政府」の行動に焦点をあてる．		
教材（教科書）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳）『マンキュー入門経済学』（第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年） 3,200 円 （英語名： N.Gregory Mankiw: Principles of Economics, Sixth Edition, 2012） この教科書は世界的ベストセラーであり，世界の何十もの国や何百もの大学の経済学の授業で用いられている．世界で最も読まれている経済学テキストとも呼ばれ，ハーバード大学，シカゴ大学などの一流校でも使用されている．高校生でも十分読みこなせると言われるほどの解り易い記述ながら，内容の水準は非常に高い教科書である．		
教材（参考資料）	（1） N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳）『マンキュー経済学 I ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） （2） N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳）『マンキュー経済学 II マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年） これらの参考書は，中級レベルの経済学の授業で使用されている教科書である．今回使用する初級レベルの教科書『マンキュー入門経済学』は，これら 2 冊の中級レベルの教科書の基本的な章を集めて構成されている．（参考書も図書館に各 3 冊を設置していますので，閲覧できます.）		
教育方法	1. 毎回の授業は講義形式で，書き込み式の授業ノートを配布して，教科書の内容をできるだけわかりやすく解説していく． 2. 授業内容を深く理解するために，教科書『マンキュー入門経済学』を出版している東洋経済新報社が提供しているイーラーニングサービス（各学生がネットにログインして問題を解いてネットで教員に宿題を提出するシステム）を利用する． 3. 学んだ経済学の諸原理を応用して，我々を取り巻く国内問題や国際問題についても考察していく．そのために、新聞や雑誌等の資料も配布する．		
評価方法	1. 宿題（演習問題）の提出（30%） 2. 中間試験（take home）（30%）		

	3. 期末試験（40%）
到達目標	1. 自分の暮らしている経済や社会がなぜそうなっているのかを理解できるようになる. 2. 現実の経済や社会へもっと積極的に参加できるようになる. 3. 政府の経済政策（たとえばアベノミクス）の可能性と限界が理解できるようになる. 4. 人生において A か B かの選択をする際に合理的（ベスト）な選択ができるようになる. 5. 論理的に物事を考える（根拠に基づいて考える）ことができるようになる.
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回　教科書 4-28，64-76 頁（推定時間 45 分） 第 2 回　教科書 104-121 頁（推定時間 30 分） 第 3 回　教科書 121-132 頁（推定時間 30 分） 第 4 回　教科書 140-153 頁（推定時間 30 分） 第 5 回　教科書 153-165 頁（推定時間 30 分） 第 6 回　教科書 184-197 頁（推定時間 30 分） 第 7 回　教科書 197-205 頁（推定時間 30 分） 第 8 回　教科書 230-246 頁（推定時間 30 分） 第 9 回　教科書 262-286 頁（推定時間 45 分） 第 10 回　教科書 294-315 頁（推定時間 45 分） 第 11 回　教科書 322-336 頁（推定時間 30 分） 第 12 回　教科書 336-352 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　教科書 378-392 頁（推定時間 30 分） 第 14 回　教科書 392-407 頁（推定時間 30 分） 第 15 回　教科書 414-435 頁（推定時間 45 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 経済学では，はじめて遭遇する概念や用語を理解するのは難しい．したがって、講義の前に教科書を読んで準備し，
　　授業内容を理解しやすくすることが重要である.
2. 経済学は数学と同じで，問題を解くことで深く理解することができるので，イーラーニングサービスを使って，
　　必ず問題を解いてネットから提出すること.
3. 毎回の授業で配布する書き込み式の授業ノート（自筆のもの）は、期末試験での持ち込みを許可するので，
　　毎回の授業に出席して授業ノートに書き込んで整理すること.

授業スケジュール

1. 経済学の十大原理・グラフの用法　＜教科書第 1 章・第 2 章付論＞

＜ミクロ経済学＞
2. 市場と競争，需要と供給　＜教科書第 4 章＞
3. 市場における需要と供給の作用　＜　〃　＞
4. 政府の政策（価格規制）　＜教科書第 5 章＞
5. 政府の政策（税金）　＜　〃　＞
6. 消費者余剰と生産者余剰　＜教科書第 6 章＞
7. 市場の効率性　＜　〃　＞
8. 外部性と市場の非効率性　＜教科書第 7 章＞

＜マクロ経済学＞
9. 国民所得の測定（国内総生産： GDP）　＜教科書第 8 章＞
10. 生計費の測定（消費者物価指数： CPI）　＜教科書第 9 章＞
11. 経済成長と生産性　＜教科書第 10 章＞

12. 経済成長と公共政策	＜　〃　＞
13. 貯蓄，投資と金融システム	＜教科書第 11 章＞
14. 貸付資金市場	＜　〃　＞
15. 貨幣システム・貨幣の需給	＜教科書第 11 章付論＞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	JM0096A02
科目名	経済学概論 A	単位数	2
科目名（英語表記）	Economics A		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
授業概要	「経済学は，日常生活における人々を研究するものである.」これは，19 世紀の偉大な経済学者であるアルフレッド・マーシャルが，1890 年に出版した『経済学原理』で示した経済学の定義である．それから 120 年以上が過ぎ，その間に経済学は格段の進歩を果たしたが，今でもこの経済学の定義は変わらない． ハーバード大学のマンキュー教授は，21 世紀に生きる学生諸君が，なぜ経済学を学ぶべきなのか，その 3 つの理由を挙げている． （1）自分の暮らしている世界を理解するのに役立つから． （2）経済へもっと機敏に参加できるようになるから． （3）経済政策の可能性と限界をもっとよく理解できるようになるから． したがって，経済学の諸原理というものは，日常生活のさまざまな局面に応用できるものであり，とても役立つものである． 本授業の目的は，経済学の諸原理を修得することで，その考え方を使えば現実の世界の多くを説明することができるということを理解することである．また、その考え方を日常生活のさまざまな局面に活かせるようになることである．前半はミクロ経済理論として「消費者」と「企業」の行動に，また後半はマクロ経済理論として「政府」の行動に焦点をあてる．		
教材（教科書）	N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳）『マンキュー入門経済学』（第 2 版） 東洋経済新報社 （2014 年） 3,200 円 （英語名： N.Gregory Mankiw: Principles of Economics, Sixth Edition, 2012） この教科書は世界的ベストセラーであり，世界の何十もの国や何百もの大学の経済学の授業で用いられている．世界で最も読まれている経済学テキストとも呼ばれ，ハーバード大学，シカゴ大学などの一流校でも使用されている．高校生でも十分読みこなせると言われるほどの解り易い記述ながら，内容の水準は非常に高い教科書である．		
教材（参考資料）	（1） N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳）『マンキュー経済学 I ミクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2013 年） （2） N. グレゴリー・マンキュー著 （足立英之他訳）『マンキュー経済学 II マクロ編』 （第 3 版） 東洋経済新報社 （2014 年） これらの参考書は，中級レベルの経済学の授業で使用されている教科書である．今回使用する初級レベルの教科書『マンキュー入門経済学』は，これら 2 冊の中級レベルの教科書の基本的な章を集めて構成されている．（参考書も図書館に各 3 冊を設置していますので，閲覧できます.）		
教育方法	1. 毎回の授業は講義形式で，書き込み式の授業ノートを配布して，教科書の内容をできるだけわかりやすく解説していく． 2. 授業内容を深く理解するために，教科書『マンキュー入門経済学』を出版している東洋経済新報社が提供しているイーラーニングサービス（各学生がネットにログインして問題を解いてネットで教員に宿題を提出するシステム）を利用する． 3. 学んだ経済学の諸原理を応用して，我々を取り巻く国内問題や国際問題についても考察していく．そのために、新聞や雑誌等の資料も配布する．		
評価方法	1. 宿題（演習問題）の提出（30%） 2. 中間試験（take home）（30%）		

	3. 期末試験（40%）
到達目標	1. 自分の暮らしている経済や社会がなぜそうなっているのかを理解できるようになる. 2. 現実の経済や社会へもっと積極的に参加できるようになる. 3. 政府の経済政策（たとえばアベノミクス）の可能性と限界が理解できるようになる. 4. 人生において A か B かの選択をする際に合理的（ベスト）な選択ができるようになる. 5. 論理的に物事を考える（根拠に基づいて考える）ことができるようになる.
授業時間外学習	＜教科書リーディング＞ 第 1 回　教科書 4-28，64-76 頁（推定時間 45 分） 第 2 回　教科書 104-121 頁（推定時間 30 分） 第 3 回　教科書 121-132 頁（推定時間 30 分） 第 4 回　教科書 140-153 頁（推定時間 30 分） 第 5 回　教科書 153-165 頁（推定時間 30 分） 第 6 回　教科書 184-197 頁（推定時間 30 分） 第 7 回　教科書 197-205 頁（推定時間 30 分） 第 8 回　教科書 230-246 頁（推定時間 30 分） 第 9 回　教科書 262-286 頁（推定時間 45 分） 第 10 回　教科書 294-315 頁（推定時間 45 分） 第 11 回　教科書 322-336 頁（推定時間 30 分） 第 12 回　教科書 336-352 頁（推定時間 30 分） 第 13 回　教科書 378-392 頁（推定時間 30 分） 第 14 回　教科書 392-407 頁（推定時間 30 分） 第 15 回　教科書 414-435 頁（推定時間 45 分）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 経済学では，はじめて遭遇する概念や用語を理解するのは難しい．したがって、講義の前に教科書を読んで準備し，
　　授業内容を理解しやすくすることが重要である.
2. 経済学は数学と同じで，問題を解くことで深く理解することができるので，イーラーニングサービスを使って，
　　必ず問題を解いてネットから提出すること.
3. 毎回の授業で配布する書き込み式の授業ノート（自筆のもの）は、期末試験での持ち込みを許可するので，
　　毎回の授業に出席して授業ノートに書き込んで整理すること.

授業スケジュール

1. 経済学の十大原理・グラフの用法　＜教科書第 1 章・第 2 章付論＞

＜ミクロ経済学＞
2. 市場と競争，需要と供給　＜教科書第 4 章＞
3. 市場における需要と供給の作用　＜　〃　＞
4. 政府の政策（価格規制）　＜教科書第 5 章＞
5. 政府の政策（税金）　＜　〃　＞
6. 消費者余剰と生産者余剰　＜教科書第 6 章＞
7. 市場の効率性　＜　〃　＞
8. 外部性と市場の非効率性　＜教科書第 7 章＞

＜マクロ経済学＞
9. 国民所得の測定（国内総生産： GDP）　＜教科書第 8 章＞
10. 生計費の測定（消費者物価指数： CPI）　＜教科書第 9 章＞
11. 経済成長と生産性　＜教科書第 10 章＞

12. 経済成長と公共政策	＜　〃　＞
13. 貯蓄，投資と金融システム	＜教科書第 11 章＞
14. 貸付資金市場	＜　〃　＞
15. 貨幣システム・貨幣の需給	＜教科書第 11 章付論＞

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	JM0097A05
科目名	心の科学 A	単位数	2
科目名（英語表記）	The Mind A		
担当者名	伊原　千晶	旧科目名称	
授業概要	心について、先人たちはさまざまなイメージを持って考え、実験し、多くの理論を作ってきた。本講義では、心理学への入り口になると思われるトピックを取り上げながら、新たな知識や理論を理解し、自分について、また自分の身近な出来事について、心理学という視点から分析できるようになることを目的とする。		
教材（教科書）	斎藤　勇編　『図説心理学入門』　誠信書房		
教材（参考資料）	授業の中で、適宜紹介する。		
教育方法	毎時間の最後に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定し、次回の授業の最初に小テストを実施する。その後正答を提示し、内容について解説する。		
評価方法	定期テスト　70% 授業内小テスト　30%		
到達目標	心理学の基礎的な理論について説明できるようになる。人間についての理解が深まり，多面的な見方ができるようになる。		
授業時間外学習	講義終了時に、次回授業で扱う教科書の範囲を指定するので、予習すること。次回の授業の最初に、予習内容にかかわる小テストを実施する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール
他の受講生の受講の妨げになるような行動は厳禁。私語・小テストのカンニングなどの場合は退出を求める。

授業スケジュール

1. 心と行動 （講義概要の説明） ① 心の科学の領域や分野の概観 ② 行動の法則
2. 知覚と認知：ものの見え方、見方の心理 ① 知覚・認知とは何か ② かたちの知覚
3. 空間・運動知覚 ① 知覚の選択性 ② 知覚情報処理 ③ 知覚のずれ（錯視の実験） ④ 社会的認知
4. 欲求と感情：欲望と喜怒哀楽の心理 ① 欲求と動機づけ ② 欲求の種類 ③ 欲求と認知の関連
   ④ フラストレーションとコンフリクト
5. ⑤ 感情とは何か ⑥ 感情の構造 ⑦ 感情に関する理論
6. 学習心理学 ①条件づけ
7. ② 記憶
8. 思考心理学 ① 概念と課題解決（創造性テスト） ② 社会的学習
9. 発達と教育：育つ心と育てる心 ① 発達とは何か ② 発達の様相 （エリクソンの自我同一性の確立）
10. ③ 発達と教育に関わる問題
11. 性格と異常心理：心のやまいとパーソナリティ ① 精神病 ② 神経症
12. ③ 精神分析理論 ④ 行動理論 ⑤ 自己理論 （性格テスト）
13. 対人心理と社会心理：人間関係の心理 ① 対人認知とその過程 ② 親和と対人魅力
    ③ 社会的態度と態度変容
14. ④ 社会的相互作用 ：援助行動、攻撃行動、群集心理
15. 臨床心理：①アセスメント、② 心理検査法 ③ 心理療法：精神分析療法、クライエント中心療法
    行動療法、認知療法

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	−	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	JM0098A01
科目名	キャリアデザインⅠ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design Ⅰ		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる皆さんは「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活，ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教育方法	講義とペアあるいはグループワーク等を組み合わせて行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に講義テーマに関連した課題の提出を求めます。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
授業スケジュール			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JM0098A02
科目名	キャリアデザインⅠ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design Ⅰ		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる皆さんは「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活，ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教育方法	講義とペアあるいはグループワーク等を組み合わせて行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に講義テーマに関連した課題の提出を求めます。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
授業スケジュール			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2018	授業コード	JM0098A03
科目名	キャリアデザインⅠ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design Ⅰ		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる皆さんは「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活，ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教育方法	講義とペアあるいはグループワーク等を組み合わせて行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に講義テーマに関連した課題の提出を求めます。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
授業スケジュール			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2018	授業コード	JM0098A04
科目名	キャリアデザインⅠ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	Career Design Ⅰ		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる皆さんは「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活，ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教育方法	講義とペアあるいはグループワーク等を組み合わせて行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に講義テーマに関連した課題の提出を求めます。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
授業スケジュール			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	−	−	−

年度	2018	授業コード	JM0152A01
科目名	人文地理学Ａ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	人間は地表面を離れて生活でき得ないし、文化を生むこともできない。その意味で、人と場所の関係を探ることは極めて重要である。この人と場所の関係を探るのが人文地理学である。人文地理学ｓでは、文化の空間的特性を探る、人文地理学の５つのテーマ、文化地域、文化拡散、文化生態学、文化的相互作用、文化景観について、具体例を示しつつ概説する。また様々な学問分野との交流の具体的事例についても紹介する。		
教材（教科書）	佐々木高弘著『民話の地理学』古今書院、2014 年。		
教材（参考資料）	T.G.Jordan, M.Domosh and Rowntree,L.,The Human Mosaic; A Thematic Introduction to Cultural Geography, Longman, 1997.		
教育方法	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 40%　学期末レポート 60%		
到達目標	様々な文化の空間的特性の重要性を理解することを目標とする。		
授業時間外学習	講義終了後に提示された授業内レポートの課題を復習し、現地調査や図書館での資料調査をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読むこと。			
授業スケジュール			
1　人文地理学とは：文化とは 2　人文地理学の考える文化：民俗文化と大衆文化 3　近代以降の私たちの場所：sense of place　placelessness 4　文化地域：形式文化地域圏、機能文化地域、認知文化地域 5　文化拡散：拡大拡散：伝染的拡散、階層的拡散、刺激的拡散・移転拡散 6　文化生態学：環境決定論、可能論 7　文化生態学：環境知覚、平安京の意思決定、三輪山の知覚と文化拡散、地理的空間知覚の概念図、メンタルマップ 8　文化的相互作用：社会科学、人文主義地理学、economic man、賢者の贈り物、 9　人文主義地理学：貴船の本地、天狗の内裏、一条戻橋、妖怪研究 10　伝統文化と大衆文化の継承性：大統領選挙、フォークソング、ビートルズ、ケルト 11　文化景観：景観を読む（解釈学的分析） 12　東南アジアの都市景観を読む：都市記号論、都市プラン 13　民話の文化地域、文化拡散、文化生態学、文化統合、文化景観 14　民俗文化と大衆文化の景観、sense of place, placelessness、映画の文化景観 15　生命としての風景：アニメーションの文化景観、クールジャパンとは		

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★	★★

年度	2018	授業コード	JM0152B01
科目名	人文地理学Ｂ	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	近年の学際的な人文地理学の動向に目を向ける。特に行動科学、心理学、社会学、歴史学、文化研究、文化人類学、民俗学との接点を持つ、行動地理学や人文主義地理学の方法論に焦点を当てる。そしてこれらの方法論を使うことによって、どのような研究が出来るのかを具体例をもって示す。特に本講義では、空想の場所と現実の場所の関係を、内外の具体的事例を示し、人文地理学の可能性についても模索していく。		
教材（教科書）	佐々木高弘著『民話の地理学』古今書院、2014 年。		
教材（参考資料）	T.G.Jordan, M.Domosh and Rowntree,L.,The Human Mosaic; A Thematic Introduction to Cultural Geography, Longman, 1997.		
教育方法	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 40%　学期末レポート 60%		
到達目標	化の空様々な文間的特性の重要性を理解することを目標とする。		
授業時間外学習	講義終了後に提示された授業内レポートの課題を復習し、現地調査や図書館での資料調査をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読むこと。

授業スケジュール

1　民話とは、神話・伝説・昔話、民話の地理学（人文主義地理学・環境知覚研究）
2　研究の集大成としての文化景観、ログハウスとニューヨークの摩天露、狂気の景観、
3　昔話の感覚地理：鬼の鼻、心のなかの景観、視覚以外の感覚世界、無意識
4　大工と鬼六、大工と鬼六の分析、地理学的意義、聴覚を使う場所の世界的共通点
5　山姥の口、グレート・マザー、食わず女房
6　昔話と心のなかの景観：奈良梨採り
7　映画エイリアンと心のなかの景観：「原初の卵」「原風景」、リプリーのアニムス
8　宇宙空間とジャングル、母殺しのテーマ、リプリーの自己実現
9　心と交流する景観、通過儀礼との類似点、池田の民話とサウンドスケープ
10　昔話の触覚地理：木の知恵、二人の旅人、感覚地理学と触覚地理
11　世界樹で首を吊る、瞬間の風景、神聖甲虫、科学の知と神話の知
12　昔話の原風景：瞬間の風景（DEF の野原）、プロップの構造分析、野原の聴覚地理
13　野原の聴覚地理、立ち帰りたい場所、
14　実在する原風景、池田の民話と原風景
15　『ツインズ』と二人の旅人：昔話と映画の空間移動

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	★	★	★★

年度	2018	授業コード	JMC001A01
科目名	スタートアップゼミＡ 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
授業概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考資料）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教育方法	教科書を用いながら、さまざまな作業に取り組む授業となる。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

授業スケジュール

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001AFA
科目名	スタートアップゼミA -f1	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力の向上を目指す。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫）新聞		
教育方法	前半は複数のゼミ合同で、図書館の仕方や講義ノートの書き方、コミュニケーション法について学ぶ。後半は、各ゼミごとに教科書に沿って日本語検定に向けての演習を行う。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
授業時間外学習	講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JMC001AFB
科目名	スタートアップゼミA -f2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	佐藤　隆徳	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力の向上を目指す。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫）新聞		
教育方法	前半は複数のゼミ合同で、図書館の仕方や講義ノートの書き方、コミュニケーション法について学ぶ。後半は、各ゼミごとに教科書に沿って日本語検定に向けての演習を行う。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
授業時間外学習	講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JMC001AFC
科目名	スタートアップゼミA -f3	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力の向上を目指す。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫）新聞		
教育方法	前半は複数のゼミ合同で、図書館の仕方や講義ノートの書き方、コミュニケーション法について学ぶ。後半は、各ゼミごとに教科書に沿って日本語検定に向けての演習を行う。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
授業時間外学習	講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JMC001AFD
科目名	スタートアップゼミA -f4	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力の向上を目指す。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫）新聞		
教育方法	前半は複数のゼミ合同で、図書館の仕方や講義ノートの書き方、コミュニケーション法について学ぶ。後半は、各ゼミごとに教科書に沿って日本語検定に向けての演習を行う。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
授業時間外学習	講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JMC001AFE
科目名	スタートアップゼミA -f5	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力の向上を目指す。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫）新聞		
教育方法	前半は複数のゼミ合同で、図書館の仕方や講義ノートの書き方、コミュニケーション法について学ぶ。後半は、各ゼミごとに教科書に沿って日本語検定に向けての演習を行う。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
授業時間外学習	講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JMC001AFF
科目名	スタートアップゼミA -f6	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力の向上を目指す。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫）新聞		
教育方法	前半は複数のゼミ合同で、図書館の仕方や講義ノートの書き方、コミュニケーション法について学ぶ。後半は、各ゼミごとに教科書に沿って日本語検定に向けての演習を行う。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
授業時間外学習	講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JMC001AFG
科目名	スタートアップゼミA -f7	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力の向上を目指す。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫）新聞		
教育方法	前半は複数のゼミ合同で、図書館の仕方や講義ノートの書き方、コミュニケーション法について学ぶ。後半は、各ゼミごとに教科書に沿って日本語検定に向けての演習を行う。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
授業時間外学習	講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JMC001AFI
科目名	スタートアップゼミA -f9	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力の向上を目指す。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫）新聞		
教育方法	前半は複数のゼミ合同で、図書館の仕方や講義ノートの書き方、コミュニケーション法について学ぶ。後半は、各ゼミごとに教科書に沿って日本語検定に向けての演習を行う。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
授業時間外学習	講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JMC001AFJ
科目名	スタートアップゼミA -f10	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	安達　修二	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行う。特にスタートアップゼミ A では大学での学びについて学んだうえで、個々の国語力の向上を目指す。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍） 1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫）新聞		
教育方法	前半は複数のゼミ合同で、図書館の仕方や講義ノートの書き方、コミュニケーション法について学ぶ。後半は、各ゼミごとに教科書に沿って日本語検定に向けての演習を行う。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	大学での学びについて説明することができる。 正しい国語表現をすることができる。 話を聴いてその内容を正しく理解し、書くことができる。 必要な情報を探すことができる。 自分の意見をまとめ、順序立てて説明することができる。		
授業時間外学習	講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. 大学での学びを知る
3. 話を聴いてまとめる（メモの取り方）
4. 話を聴いてまとめる（要約の書き方）
5. 図書を利用する（図書館ガイダンス）
6. 国語表現の基礎を学ぶ（表記法）
7. 国語表現の基礎を学ぶ（文法）
8. 国語表現の基礎を学ぶ（語彙・敬語）
9. 文章をまとめる（縮約の書き方）
10. 人に伝えるように書く（説明文の書き方）
11. 意見と事実を区別する
12. 報告書を書く（レポートの書き方）
13. SPI 問題を解く（言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
15. 国語表現の基礎を復習する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JMC001AHA
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考資料）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教育方法	教科書を用いながら、さまざまな作業に取り組む授業となる。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

授業スケジュール

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001AHC
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
授業概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会		
教材（参考資料）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年 学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教育方法	教科書を用いながら、さまざまな作業に取り組む授業となる。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

授業スケジュール

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001AHD
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
授業概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会		
教材（参考資料）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年 学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教育方法	教科書を用いながら、さまざまな作業に取り組む授業となる。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

授業スケジュール

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001AHE
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
授業概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。歴史文化学科の一回生は、この「スタートアップゼミ」が、もっとも基本的な科目となります。この授業では、みなさんが大学という高等教育機関で、４年間かけて、「歴史文化」に関して専門的に深く学ぶ力をつけるための、さまざまな準備をしていきます。大学では、高校までのような教員の話を聴くことが主になる「講義」形式の授業だけではなく、教員ではなく受講生が発表をして、それに基づき、全員で議論を進めていく「演習」形式の授業も多くあります。ある物事について徹底的に調べること、自分が調べたことを人前で発表することなどにも慣れていく必要があります。受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 日本語検定委員会編『ステップアップ日本語講座　中級』東京書籍、2009 年		
教育方法	教員による講義を行う回、受講生の作業中心の回、受講生による発表中心の回、フィールドワークにいく回などがあります。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（70%） 学期末のレポート（30%） ※レポートが未提出の場合、単位はでません。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受け身な態度で授業をうけるのではなく、授業に積極的に参加する必要があります。わからないことがあったら、どんどん教員に質問してください。事前に発表があたっている際は、入念な準備をして、発表に臨んで下さい。ゼミで知り合った隣の人と大学４年間のさらには一生の友達になることもあります。積極的に周りの人に話しかけて、また一緒に作業をする時は、しっかり話し合って、作業に臨んで下さい。

授業スケジュール

1回目　日本語を学ぶ1
2回目　日本語を学ぶ2
3回目　日本語を学ぶ3
4回目　文献をよむ（1）
5回目　文献をよむ（2）
6回目　文献をよむ（3）
7回目　歴史文化に触れてみる
8回目　歴史について調べて発表してみる
9回目　レポートの書き方・図書館の蔵書検索
10回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（1）
11回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（2）
12回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（3）
13回目　京都の交通ガイドと日本語の語彙
14回目　京都の町を歩く
15回目　文化を体験する
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001AHF
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
授業概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。歴史文化学科の一回生は、この「スタートアップゼミ」が、もっとも基本的な科目となります。この授業では、みなさんが大学という高等教育機関で、４年間かけて、「歴史文化」に関して専門的に深く学ぶ力をつけるための、さまざまな準備をしていきます。大学では、高校までのような教員の話を聴くことが主になる「講義」形式の授業だけではなく、教員ではなく受講生が発表をして、それに基づき、全員で議論を進めていく「演習」形式の授業も多くあります。ある物事について徹底的に調べること、自分が調べたことを人前で発表することなどにも慣れていく必要があります。受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 日本語検定委員会編『ステップアップ日本語講座　中級』東京書籍、2009 年		
教育方法	教員による講義を行う回、受講生の作業中心の回、受講生による発表中心の回、フィールドワークにいく回などがあります。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（70%） 学期末のレポート（30%） ※レポートが未提出の場合、単位はでません。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受け身な態度で授業をうけるのではなく、授業に積極的に参加する必要があります。わからないことがあったら、どんどん教員に質問してください。事前に発表があたっている際は、入念な準備をして、発表に臨んで下さい。ゼミで知り合った隣の人と大学４年間のさらには一生の友達になることもあります。積極的に周りの人に話しかけて、また一緒に作業をする時は、しっかり話し合って、作業に臨んで下さい。

授業スケジュール

１回目　日本語を学ぶ１
２回目　日本語を学ぶ２
３回目　日本語を学ぶ３
４回目　文献をよむ（１）
５回目　文献をよむ（２）
６回目　文献をよむ（３）
７回目　歴史文化に触れてみる
８回目　歴史について調べて発表してみる
９回目　レポートの書き方・図書館の蔵書検索
10 回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（１）
11 回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（２）
12 回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（３）
13 回目　京都の交通ガイドと日本語の語彙
14 回目　京都の町を歩く
15 回目　文化を体験する
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001AHG
科目名	スタートアップゼミ A	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。歴史文化学科の一回生は、この「スタートアップゼミ」が、もっとも基本的な科目となります。この授業では、みなさんが大学という高等教育機関で、４年間かけて、「歴史文化」に関して専門的に深く学ぶ力をつけるための、さまざまな準備をしていきます。大学では、高校までのような教員の話を聴くことが主になる「講義」形式の授業だけではなく、教員ではなく受講生が発表をして、それに基づき、全員で議論を進めていく「演習」形式の授業も多くあります。ある物事について徹底的に調べること、自分が調べたことを人前で発表することなどにも慣れていく必要があります。受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 日本語検定委員会編『ステップアップ日本語講座　中級』東京書籍、2009 年		
教育方法	教員による講義を行う回、受講生の作業中心の回、受講生による発表中心の回、フィールドワークにいく回などがあります。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（70%） 学期末のレポート（30%） ※レポートが未提出の場合、単位はでません。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受け身な態度で授業をうけるのではなく、授業に積極的に参加する必要があります。わからないことがあったら、どんどん教員に質問してください。事前に発表があたっている際は、入念な準備をして、発表に臨んで下さい。ゼミで知り合った隣の人と大学４年間のさらには一生の友達になることもあります。積極的に周りの人に話しかけて、また一緒に作業をする時は、しっかり話し合って、作業に臨んで下さい。

授業スケジュール

１回目　日本語を学ぶ１
２回目　日本語を学ぶ２
３回目　日本語を学ぶ３
４回目　文献をよむ（１）
５回目　文献をよむ（２）
６回目　文献をよむ（３）
７回目　歴史文化に触れてみる
８回目　歴史について調べて発表してみる
９回目　レポートの書き方・図書館の蔵書検索
10 回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（１）
11 回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（２）
12 回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（３）
13 回目　京都の交通ガイドと日本語の語彙
14 回目　京都の町を歩く
15 回目　文化を体験する
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001AHH
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。歴史文化学科の一回生は、この「スタートアップゼミ」が、もっとも基本的な科目となります。この授業では、みなさんが大学という高等教育機関で、４年間かけて、「歴史文化」に関して専門的に深く学ぶ力をつけるための、さまざまな準備をしていきます。大学では、高校までのような教員の話を聴くことが主になる「講義」形式の授業だけではなく、教員ではなく受講生が発表をして、それに基づき、全員で議論を進めていく「演習」形式の授業も多くあります。ある物事について徹底的に調べること、自分が調べたことを人前で発表することなどにも慣れていく必要があります。受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 日本語検定委員会編『ステップアップ日本語講座　中級』東京書籍、2009 年		
教育方法	教員による講義を行う回、受講生の作業中心の回、受講生による発表中心の回、フィールドワークにいく回などがあります。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（70%） 学期末のレポート（30%） ※レポートが未提出の場合、単位はでません。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受け身な態度で授業をうけるのではなく、授業に積極的に参加する必要があります。わからないことがあったら、どんどん教員に質問してください。事前に発表があたっている際は、入念な準備をして、発表に臨んで下さい。ゼミで知り合った隣の人と大学４年間のさらには一生の友達になることもあります。積極的に周りの人に話しかけて、また一緒に作業をする時は、しっかり話し合って、作業に臨んで下さい。

授業スケジュール

1回目　日本語を学ぶ1
2回目　日本語を学ぶ2
3回目　日本語を学ぶ3
4回目　文献をよむ（1）
5回目　文献をよむ（2）
6回目　文献をよむ（3）
7回目　歴史文化に触れてみる
8回目　歴史について調べて発表してみる
9回目　レポートの書き方・図書館の蔵書検索
10回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（1）
11回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（2）
12回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（3）
13回目　京都の交通ガイドと日本語の語彙
14回目　京都の町を歩く
15回目　文化を体験する
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001AHI
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
授業概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会		
教材（参考資料）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年 学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教育方法	教科書を用いながら、さまざまな作業に取り組む授業となる。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

授業スケジュール

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001AHK
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
授業概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。歴史文化学科の一回生は、この「スタートアップゼミ」が、もっとも基本的な科目となります。この授業では、みなさんが大学という高等教育機関で、４年間かけて、「歴史文化」に関して専門的に深く学ぶ力をつけるための、さまざまな準備をしていきます。大学では、高校までのような教員の話を聴くことが主になる「講義」形式の授業だけではなく、教員ではなく受講生が発表をして、それに基づき、全員で議論を進めていく「演習」形式の授業も多くあります。ある物事について徹底的に調べること、自分が調べたことを人前で発表することなどにも慣れていく必要があります。受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 日本語検定委員会編『ステップアップ日本語講座　中級』東京書籍、2009 年		
教育方法	教員による講義を行う回、受講生の作業中心の回、受講生による発表中心の回、フィールドワークにいく回などがあります。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（70%） 学期末のレポート（30%） ※レポートが未提出の場合、単位はでません。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受け身な態度で授業をうけるのではなく、授業に積極的に参加する必要があります。わからないことがあったら、どんどん教員に質問してください。事前に発表があたっている際は、入念な準備をして、発表に臨んで下さい。ゼミで知り合った隣の人と大学４年間のさらには一生の友達になることもあります。積極的に周りの人に話しかけて、また一緒に作業をする時は、しっかり話し合って、作業に臨んで下さい。

授業スケジュール

1回目　日本語を学ぶ1
2回目　日本語を学ぶ2
3回目　日本語を学ぶ3
4回目　文献をよむ（1）
5回目　文献をよむ（2）
6回目　文献をよむ（3）
7回目　歴史文化に触れてみる
8回目　歴史について調べて発表してみる
9回目　レポートの書き方・図書館の蔵書検索
10回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（1）
11回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（2）
12回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（3）
13回目　京都の交通ガイドと日本語の語彙
14回目　京都の町を歩く
15回目　文化を体験する
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001AHL
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
授業概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会		
教材（参考資料）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年 学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教育方法	教科書を用いながら、さまざまな作業に取り組む授業となる。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

授業スケジュール

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001AHY
科目名	スタートアップゼミA	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	Stephen Richmond	旧科目名称	
授業概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考資料）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教育方法	教科書を用いながら、さまざまな作業に取り組む授業となる。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

授業スケジュール

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001AHZ
科目名	スタートアップゼミA 【再】	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
授業概要	新入生のみなさん、ご入学おめでとう。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミです。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教材（参考資料）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教育方法	教科書を用いながら、さまざまな作業に取り組む授業となる。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

授業スケジュール

１．オリエンテーション（１）～知り合う～
２．　同　（２）～大学で学ぶとは～
３．　同　（３）～履修要項とスタディ・スキルズ～（テキスト第１章）
４．ノートをとる（テキスト第２章）
５．テキストや資料を読む（１）～基本編～（テキスト第３章）
６．　同　（２）～より深く～（テキスト第４章）
７．図書館で情報を集める（テキスト第５章）
８．インターネットで情報を集める（テキスト第６章）
９．情報の整理（テキスト第７章）
１０．レポートの書き方（１）～基本編～（テキスト第８章）
１１．　同　（２）～より効果的に～（テキスト第９章）
１２．　同　（３）～パソコンの有効利用～（テキスト第１０章）
１３．プレゼンテーションの方法（１）～基本編～（テキスト第１１章）
１４．　同　（２）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
１５．　同　（３）～よりよい工夫～（テキスト第１２章）
（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001AKA
科目名	スタートアップゼミA -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	阿野　晃秀	旧科目名称	
授業概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけることを目的とします。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力―大学生のための日本語練習帳」（東京書籍　1429 円+税）		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	・ゼミ形式のディスカッション ・課題演習 ・グループワーク		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	・自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明する能力を身につける。 ・大学において自主的に学ぶ態度を身につける。		
授業時間外学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
授業スケジュール			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JMC001AKB
科目名	スタートアップゼミA -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	丹羽　英之	旧科目名称	
授業概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけることを目的とします。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力―大学生のための日本語練習帳」（東京書籍　1429 円+税）		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	・ゼミ形式のディスカッション ・課題演習 ・グループワーク		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	・自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明する能力を身につける。 ・大学において自主的に学ぶ態度を身につける。		
授業時間外学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
授業スケジュール			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JMC001AKC
科目名	スタートアップゼミA -k3	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	金川　貴博	旧科目名称	
授業概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけることを目的とします。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力―大学生のための日本語練習帳」（東京書籍　1429 円+税）		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	・ゼミ形式のディスカッション ・課題演習 ・グループワーク		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	・自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明する能力を身につける。 ・大学において自主的に学ぶ態度を身につける。		
授業時間外学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
授業スケジュール			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JMC001AKD
科目名	スタートアップゼミA -k4	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
授業概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけることを目的とします。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力―大学生のための日本語練習帳」（東京書籍　1429 円+税）		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	・ゼミ形式のディスカッション ・課題演習 ・グループワーク		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	・自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明する能力を身につける。 ・大学において自主的に学ぶ態度を身につける。		
授業時間外学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
授業スケジュール			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JMC001AKE
科目名	スタートアップゼミA -k5	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	原　雄一	旧科目名称	
授業概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけることを目的とします。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力―大学生のための日本語練習帳」（東京書籍　1429 円+税）		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	・ゼミ形式のディスカッション ・課題演習 ・グループワーク		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	・自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明する能力を身につける。 ・大学において自主的に学ぶ態度を身につける。		
授業時間外学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
授業スケジュール			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JMC001AKH
科目名	スタートアップゼミA -k6	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。大学入学を機に、論理的な思考力や課題解決にむけた知識の応用などの視点から、コミュニケーション力、行動力などの基本的な能力を再確認して、学び方の基本を身につけることを目的とします。スタートアップゼミ A では、大学で学びかたや、自分の関心について掘り下げることに主眼をおきます。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力―大学生のための日本語練習帳」（東京書籍　1429 円+税）		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	・ゼミ形式のディスカッション ・課題演習 ・グループワーク		
評価方法	与えられた課題について、各ゼミでの発表を総合して評価します		
到達目標	・自分が持っている興味、関心を、言葉で簡潔に説明する能力を身につける。 ・大学において自主的に学ぶ態度を身につける。		
授業時間外学習	日頃から、新聞やインターネット、雑誌などの「活字」を読み、批判的に情報を読む訓練を積み重ねてください。NIE（Newspaper in Education：教育に新聞を）は、世界６０カ国以上で採用されている教育方法で、コミュニケーション力や、自主性の向上に効果があると言われています。 また、講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
単なる知識の蓄積ではなく、実際に周りの人たちとコミュニケーションを図り、論理的な批判力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
授業スケジュール			
1 イントロダクション　大学で学ぶ 2 「話」を聞いて記録する力 3 「活字」を読む力 4 「レポート」のまとめ方 5 「文章」を要約する力 6 言いたいことを書く力 7 いろいろ発想　ブレーンストーミング 8 いろいろ発想　KJ 法 9 発想したものをまとめる力 10 自分の疑問を深めてみる 11 情報を集める 12 集めた情報を読み解く 13 情報を足がかりに行動する 14 成果発表 15 成果発表			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JMC001ASA
科目名	スタートアップゼミA -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ということが出来るようにする。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力を身につける。		
教材（教科書）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。

授業スケジュール

1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル
2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習
3）読書目標：学習を支える国語力
4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記
5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記
6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記
7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館

8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション
9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介
１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JMC001ASB
科目名	スタートアップゼミA -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ということが出来るようにする。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力を身につける。		
教材（教科書）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。

授業スケジュール

1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル
2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習
3）読書目標：学習を支える国語力
4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記
5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記
6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記
7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館

8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション
9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介
１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JMC001ASD
科目名	スタートアップゼミA -s4	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	寶関　淳	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ということが出来るようにする。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力を身につける。		
教材（教科書）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
授業スケジュール			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館			

8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション
9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介
１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JMC001ASE
科目名	スタートアップゼミA -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ということが出来るようにする。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力を身につける。		
教材（教科書）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
授業スケジュール			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館			

8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション
9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介
１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JMC001ASF
科目名	スタートアップゼミA -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ということが出来るようにする。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力を身につける。		
教材（教科書）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。

授業スケジュール

1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル
2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習
3）読書目標：学習を支える国語力
4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記
5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記
6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記
7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館

8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション
9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介
１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JMC001ASG
科目名	スタートアップゼミA -s7	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ということが出来るようにする。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力を身につける。		
教材（教科書）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
授業スケジュール			
1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル 2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習 3）読書目標：学習を支える国語力 4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記 5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記 6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記 7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館			

8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション
9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介
１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JMC001ASH
科目名	スタートアップゼミA -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ということが出来るようにする。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力を身につける。		
教材（教科書）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。

授業スケジュール

1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル
2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習
3）読書目標：学習を支える国語力
4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記
5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記
6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記
7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館

8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション
9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介
１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JMC001ASI
科目名	スタートアップゼミA -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	高瀬　尚文	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ということが出来るようにする。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力を身につける。		
教材（教科書）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。

授業スケジュール

1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル
2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習
3）読書目標：学習を支える国語力
4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記
5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記
6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記
7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館

8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション
9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介
１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JMC001ASJ
科目名	スタートアップゼミA -s10	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ということが出来るようにする。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力を身につける。		
教材（教科書）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。

授業スケジュール

1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル
2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習
3）読書目標：学習を支える国語力
4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記
5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記
6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記
7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館

8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション
9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介
１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JMC001ASK
科目名	スタートアップゼミA -s11	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar A		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ということが出来るようにする。 スタートアップゼミ A では、バイオサイエンスの高度な学習を実現するための国語力を身につける。		
教材（教科書）	日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級　日本語検定委員会編集（2016）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）70% 定期試験　30%		
到達目標	大学とはどういうところかを理解し、大学生にふさわしいマナーを身につける。 講義の聴き方・ノートの取り方に習熟する。 国語力を向上させ、たくさんの文章を読む習慣をつける。 図書館、ウェブなどを使った情報の探し方に習熟する。 「調査して報告する」レポートの書き方に習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に「日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級」、指定テキストの問題の範囲を指定するので、次回までに問題を解いておくこと。 指定期日までに本を読むことを義務づけるので、その期日までに読んでおく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。

授業スケジュール

1）大学・大学生とは何か？：バイオサイエンス学科の学習ステップ・履修モデル
2）大学でのノートのとり方：講義を再現・予習と復習
3）読書目標：学習を支える国語力
4）国語力のトレーニング１：敬語・文法・語彙・表記
5）国語力のトレーニング２：敬語・文法・語彙・表記
6）国語力のトレーニング３：敬語・文法・語彙・表記
7）大学生の調べ方１：インターネットと図書館

8）大学生の調べ方２：図書館オリエンテーション
9）キャリアを考える：キャリアサポートセンターの紹介
１０）国語力のトレーニング４：伝わる日本語を書く
１１）国語力のトレーニング５：伝わる日本語を書く
１２）国語力のトレーニング６：伝わる日本語を書く
１３）レポートの書き方：レポートの種類・「盗用」にならないために・研究倫理について
１４）国語力のトレーニング７：小規模な調査と考察
１５）国語力のトレーニング８：小規模な調査と考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JMC001BFA
科目名	スタートアップゼミB -f1	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	大城　閑	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行うことを目的としている。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指した演習を行う。後半は、濃度計算や SPI 試験など数的処理の演習を行う。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫） 適宜配布するプリント、新聞		
教育方法	日本語や数的処理の演習とその解説を行う。課題によってはグループワークも取り入れる。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい日本語の文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
授業時間外学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. 夏休みの課題を発表する
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙）
5. 国語表現の応用力を付ける（敬語）
6. 国語表現の応用力を確認する（日本語検定過去問を解く）
7. データを扱う（データ解析）
8. 発想する（ブレーンストーミング）
9. グループディスカッション（課題を発見・解決する）
10. 人に伝える発表方法を学ぶ
11. さまざまな濃度計算法を学ぶ
12. SPI 問題を解く（言語能力検査）
13. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（総合問題）
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	－	★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BFB
科目名	スタートアップゼミB -f2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	佐藤　隆徳	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行うことを目的としている。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指した演習を行う。後半は、濃度計算や SPI 試験など数的処理の演習を行う。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫） 適宜配布するプリント、新聞		
教育方法	日本語や数的処理の演習とその解説を行う。課題によってはグループワークも取り入れる。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい日本語の文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
授業時間外学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. 夏休みの課題を発表する
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙）
5. 国語表現の応用力を付ける（敬語）
6. 国語表現の応用力を確認する（日本語検定過去問を解く）
7. データを扱う（データ解析）
8. 発想する（ブレーンストーミング）
9. グループディスカッション（課題を発見・解決する）
10. 人に伝える発表方法を学ぶ
11. さまざまな濃度計算法を学ぶ
12. SPI 問題を解く（言語能力検査）
13. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（総合問題）
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	－	★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BFC
科目名	スタートアップゼミB -f3	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	河田　尚之	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行うことを目的としている。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指した演習を行う。後半は、濃度計算や SPI 試験など数的処理の演習を行う。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫） 適宜配布するプリント、新聞		
教育方法	日本語や数的処理の演習とその解説を行う。課題によってはグループワークも取り入れる。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい日本語の文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
授業時間外学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. 夏休みの課題を発表する
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙）
5. 国語表現の応用力を付ける（敬語）
6. 国語表現の応用力を確認する（日本語検定過去問を解く）
7. データを扱う（データ解析）
8. 発想する（ブレーンストーミング）
9. グループディスカッション（課題を発見・解決する）
10. 人に伝える発表方法を学ぶ
11. さまざまな濃度計算法を学ぶ
12. SPI 問題を解く（言語能力検査）
13. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（総合問題）
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	－	★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BFD
科目名	スタートアップゼミB -f4	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	藤井　孝夫	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行うことを目的としている。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指した演習を行う。後半は、濃度計算や SPI 試験など数的処理の演習を行う。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫） 適宜配布するプリント、新聞		
教育方法	日本語や数的処理の演習とその解説を行う。課題によってはグループワークも取り入れる。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい日本語の文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
授業時間外学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. 夏休みの課題を発表する
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙）
5. 国語表現の応用力を付ける（敬語）
6. 国語表現の応用力を確認する（日本語検定過去問を解く）
7. データを扱う（データ解析）
8. 発想する（ブレーンストーミング）
9. グループディスカッション（課題を発見・解決する）
10. 人に伝える発表方法を学ぶ
11. さまざまな濃度計算法を学ぶ
12. SPI 問題を解く（言語能力検査）
13. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（総合問題）
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	－	★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BFE
科目名	スタートアップゼミB -f5	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	藤井　康代	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行うことを目的としている。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指した演習を行う。後半は、濃度計算や SPI 試験など数的処理の演習を行う。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫） 適宜配布するプリント、新聞		
教育方法	日本語や数的処理の演習とその解説を行う。課題によってはグループワークも取り入れる。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい日本語の文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
授業時間外学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. 夏休みの課題を発表する
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙）
5. 国語表現の応用力を付ける（敬語）
6. 国語表現の応用力を確認する（日本語検定過去問を解く）
7. データを扱う（データ解析）
8. 発想する（ブレーンストーミング）
9. グループディスカッション（課題を発見・解決する）
10. 人に伝える発表方法を学ぶ
11. さまざまな濃度計算法を学ぶ
12. SPI 問題を解く（言語能力検査）
13. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（総合問題）
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	－	★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BFF
科目名	スタートアップゼミB -f6	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	篠田　吉史	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行うことを目的としている。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指した演習を行う。後半は、濃度計算や SPI 試験など数的処理の演習を行う。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫） 適宜配布するプリント、新聞		
教育方法	日本語や数的処理の演習とその解説を行う。課題によってはグループワークも取り入れる。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい日本語の文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
授業時間外学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. 夏休みの課題を発表する
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙）
5. 国語表現の応用力を付ける（敬語）
6. 国語表現の応用力を確認する（日本語検定過去問を解く）
7. データを扱う（データ解析）
8. 発想する（ブレーンストーミング）
9. グループディスカッション（課題を発見・解決する）
10. 人に伝える発表方法を学ぶ
11. さまざまな濃度計算法を学ぶ
12. SPI 問題を解く（言語能力検査）
13. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（総合問題）
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	－	★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BFG
科目名	スタートアップゼミB -f7	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	井口　博之	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行うことを目的としている。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指した演習を行う。後半は、濃度計算や SPI 試験など数的処理の演習を行う。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫） 適宜配布するプリント、新聞		
教育方法	日本語や数的処理の演習とその解説を行う。課題によってはグループワークも取り入れる。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい日本語の文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
授業時間外学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. 夏休みの課題を発表する
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙）
5. 国語表現の応用力を付ける（敬語）
6. 国語表現の応用力を確認する（日本語検定過去問を解く）
7. データを扱う（データ解析）
8. 発想する（ブレーンストーミング）
9. グループディスカッション（課題を発見・解決する）
10. 人に伝える発表方法を学ぶ
11. さまざまな濃度計算法を学ぶ
12. SPI 問題を解く（言語能力検査）
13. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（総合問題）
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	－	★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BFI
科目名	スタートアップゼミB -f9	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	四日　洋和	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行うことを目的としている。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指した演習を行う。後半は、濃度計算や SPI 試験など数的処理の演習を行う。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫） 適宜配布するプリント、新聞		
教育方法	日本語や数的処理の演習とその解説を行う。課題によってはグループワークも取り入れる。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい日本語の文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
授業時間外学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. 夏休みの課題を発表する
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙）
5. 国語表現の応用力を付ける（敬語）
6. 国語表現の応用力を確認する（日本語検定過去問を解く）
7. データを扱う（データ解析）
8. 発想する（ブレーンストーミング）
9. グループディスカッション（課題を発見・解決する）
10. 人に伝える発表方法を学ぶ
11. さまざまな濃度計算法を学ぶ
12. SPI 問題を解く（言語能力検査）
13. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（総合問題）
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	－	★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BFJ
科目名	スタートアップゼミB -f10	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	安達　修二	旧科目名称	
授業概要	これから大学の学びで大切なことは、単に授業に出て、板書を写し、知識を覚えることではない。知識を得たうえで、どのように論理的に考え表現するかが大切である。「学ぶ」「理解する」「思考する」「批判する」「表現する」など大学での学びの基礎には、日本語力は必須である。そこで、スタートアップゼミでは「読む」「書く」「聴く」「話す」ための実践的なトレーニングを行うことを目的としている。特にスタートアップゼミ B の前半では秋に行われる日本語検定試験の 3 級以上の合格を目指した演習を行う。後半は、濃度計算や SPI 試験など数的処理の演習を行う。		
教材（教科書）	「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」（東京書籍）1429 円＋税		
教材（参考資料）	「日本語検定公式テキスト日本語中級」（東京書籍） 「日本語検定 3 級公式練習問題集」（東京書籍） 「大学生のための日本語表現トレーニング」（三省堂） 「理工系のための日本語表現法」（東信堂） 「理科系の作文技術」（中公新書） 「日本語の作文技術」（朝日文庫） 適宜配布するプリント、新聞		
教育方法	日本語や数的処理の演習とその解説を行う。課題によってはグループワークも取り入れる。		
評価方法	平常点（講義中の取り組み、レポート、発表、宿題を含む）70%　　学科共通定期試験 30%		
到達目標	簡潔で正しい日本語の文章を書くことができる。 グループ内で議論を深め、その内容をまとめることができる。 興味を持ったことについて調べ、その内容をわかりやすく説明することができる。 濃度を正しく計算することができる。		
授業時間外学習	講義で学んだことを簡単にまとめておくこと。講義ごとに次回の範囲が示されるので予習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．この講義で学んだことをほかの講義や大学生活内で実践し、身に付けるようにする。
2．日本語の学習は、短時間でできるものではない。日ごろから積極的に文章に触れる機会を作り、スキルを高める。
3．ここで学ぶことは、生涯学習にも有効な「学び」についての技術や姿勢であることを理解する。

授業スケジュール

1. 夏休みの課題を発表する
2. 国語表現の応用力を付ける（表記法）
3. 国語表現の応用力を付ける（文法）
4. 国語表現の応用力を付ける（語彙）
5. 国語表現の応用力を付ける（敬語）
6. 国語表現の応用力を確認する（日本語検定過去問を解く）
7. データを扱う（データ解析）
8. 発想する（ブレーンストーミング）
9. グループディスカッション（課題を発見・解決する）
10. 人に伝える発表方法を学ぶ
11. さまざまな濃度計算法を学ぶ
12. SPI 問題を解く（言語能力検査）
13. SPI 問題を解く（非言語能力検査）
14. SPI 問題を解く（総合問題）
15. 成果発表とディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★★	－	★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BHA
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（教科書）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会 伊藤誠彦『超速マスター！ＳＰＩ無敵の解法パターン』高橋書店		
教材（参考資料）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教育方法	教科書を用いながら、さまざまな作業に取り組む授業となる。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

授業スケジュール

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)

（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BHB
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	橋本　尚子	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（教科書）	『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会		
教材（参考資料）	尾藤健『文系学生のためのＳＰＩ３　完全攻略問題集』高橋書店 藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年 学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教育方法	教科書を用いながら、さまざまな作業に取り組む授業となる。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

授業スケジュール

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)

（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BHC
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	服部　陽介	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（教科書）	『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会		
教材（参考資料）	尾藤健『文系学生のためのＳＰＩ３　完全攻略問題集』高橋書店 藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年 学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教育方法	教科書を用いながら、さまざまな作業に取り組む授業となる。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

授業スケジュール

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)

（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BHD
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	黒木　雅子	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（教科書）	『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会		
教材（参考資料）	尾藤健『文系学生のためのＳＰＩ３　完全攻略問題集』高橋書店 藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年 学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教育方法	教科書を用いながら、さまざまな作業に取り組む授業となる。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%）、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%）。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

授業スケジュール

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)

（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BHE
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
授業概要	この半年間で、大学生活にも大分慣れてきたと思います。後期の「スタートアップゼミ B」では、二回生から本格的に始まる学科の専門的な講義に対応できるような学びを準備しています。前期末にさまざまな科目で、レポートや試験なども経験したと思いますが、さらに調べる力、考える力をのばしていきましょう。興味があることは貪欲に知識を吸収して、いろんな体験をしていきましょう。一つ一つの積み重ねにより、二回生以降の専門的な学習へもスムーズに移行することが可能になります。前期に引き続き、受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『ステップアップ日本語講座　中級』　東京書籍		
教材（参考資料）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教育方法	教員による講義や、作業、受講生による発表など、さまざまな形式での授業です。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（75%） 学期末のレポート（25%） ※レポートが未提出の場合、単位はでません。		
到達目標	・講義を聞きながらノートをとれるようになること ・歴史文化学科でものを調べる基本をしること ・図書館の使い方の基本をしること ・発表の基本を知ること ・レポートの書き方の基本をしること		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。			
授業スケジュール			
１回目　夏休みの宿題の発表 ２回目　地形図を読み取る（基礎編） ３回目　地図を利用する（基礎編） ４回目　日本語を学ぶ ５回目　文献を読む（１） ６回目　文献を読む（２） ７回目　図書館やネットを使いこなす ８回目　くずし字を読んでみよう ９回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（４） 10 回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（５） 11 回目　図書館情報を使い倒す！（１）ＯＰＡＣを使い倒す！ 12 回目　図書館情報を使い倒す！（２）DataBase を使い倒す！ 13 回目　２回生資料講読・実践プロジェクト授業説明会 14 回目　京都の文化財に関する特別講義			

15 回目　小松和彦先生特別講義 （以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BHF
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	関口　久雄	旧科目名称	
授業概要	この半年間で、大学生活にも大分慣れてきたと思います。後期の「スタートアップゼミ B」では、二回生から本格的に始まる学科の専門的な講義に対応できるような学びを準備しています。前期末にさまざまな科目で、レポートや試験なども経験したと思いますが、さらに調べる力、考える力をのばしていきましょう。興味があることは貪欲に知識を吸収して、いろんな体験をしていきましょう。一つ一つの積み重ねにより、二回生以降の専門的な学習へもスムーズに移行することが可能になります。前期に引き続き、受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『ステップアップ日本語講座　中級』　東京書籍		
教材（参考資料）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教育方法	教員による講義や、作業、受講生による発表など、さまざまな形式での授業です。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（75%） 学期末のレポート（25%） ※レポートが未提出の場合、単位はでません。		
到達目標	・講義を聞きながらノートをとれるようになること ・歴史文化学科でものを調べる基本をしること ・図書館の使い方の基本をしること ・発表の基本を知ること ・レポートの書き方の基本をしること		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。			
授業スケジュール			
１回目　夏休みの宿題の発表 ２回目　地形図を読み取る（基礎編） ３回目　地図を利用する（基礎編） ４回目　日本語を学ぶ ５回目　文献を読む（１） ６回目　文献を読む（２） ７回目　図書館やネットを使いこなす ８回目　くずし字を読んでみよう ９回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（４） 10 回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（５） 11 回目　図書館情報を使い倒す！（１）ＯＰＡＣを使い倒す！ 12 回目　図書館情報を使い倒す！（２）DataBase を使い倒す！ 13 回目　２回生資料講読・実践プロジェクト授業説明会 14 回目　京都の文化財に関する特別講義			

15 回目　小松和彦先生特別講義 （以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BHG
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	この半年間で、大学生活にも大分慣れてきたと思います。後期の「スタートアップゼミ B」では、二回生から本格的に始まる学科の専門的な講義に対応できるような学びを準備しています。前期末にさまざまな科目で、レポートや試験なども経験したと思いますが、さらに調べる力、考える力をのばしていきましょう。興味があることは貪欲に知識を吸収して、いろんな体験をしていきましょう。一つ一つの積み重ねにより、二回生以降の専門的な学習へもスムーズに移行することが可能になります。前期に引き続き、受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『ステップアップ日本語講座　中級』　東京書籍		
教材（参考資料）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教育方法	教員による講義や、作業、受講生による発表など、さまざまな形式での授業です。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（75%） 学期末のレポート（25%） ※レポートが未提出の場合、単位はでません。		
到達目標	・講義を聞きながらノートをとれるようになること ・歴史文化学科でものを調べる基本をしること ・図書館の使い方の基本をしること ・発表の基本を知ること ・レポートの書き方の基本をしること		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。			
授業スケジュール			
1回目　夏休みの宿題の発表 2回目　地形図を読み取る（基礎編） 3回目　地図を利用する（基礎編） 4回目　日本語を学ぶ 5回目　文献を読む（1） 6回目　文献を読む（2） 7回目　図書館やネットを使いこなす 8回目　くずし字を読んでみよう 9回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（4） 10回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（5） 11回目　図書館情報を使い倒す！（1）ＯＰＡＣを使い倒す！ 12回目　図書館情報を使い倒す！（2）DataBase を使い倒す！ 13回目　２回生資料講読・実践プロジェクト授業説明会 14回目　京都の文化財に関する特別講義			

15 回目　小松和彦先生特別講義 （以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BHH
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
授業概要	この半年間で、大学生活にも大分慣れてきたと思います。後期の「スタートアップゼミ B」では、二回生から本格的に始まる学科の専門的な講義に対応できるような学びを準備しています。前期末にさまざまな科目で、レポートや試験なども経験したと思いますが、さらに調べる力、考える力をのばしていきましょう。興味があることは貪欲に知識を吸収して、いろんな体験をしていきましょう。一つ一つの積み重ねにより、二回生以降の専門的な学習へもスムーズに移行することが可能になります。前期に引き続き、受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『ステップアップ日本語講座　中級』　東京書籍		
教材（参考資料）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教育方法	教員による講義や、作業、受講生による発表など、さまざまな形式での授業です。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（75%） 学期末のレポート（25%） ※レポートが未提出の場合、単位はでません。		
到達目標	・講義を聞きながらノートをとれるようになること ・歴史文化学科でものを調べる基本をしること ・図書館の使い方の基本をしること ・発表の基本を知ること ・レポートの書き方の基本をしること		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。			
授業スケジュール			
１回目　夏休みの宿題の発表 ２回目　地形図を読み取る（基礎編） ３回目　地図を利用する（基礎編） ４回目　日本語を学ぶ ５回目　文献を読む（１） ６回目　文献を読む（２） ７回目　図書館やネットを使いこなす ８回目　くずし字を読んでみよう ９回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（４） 10 回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（５） 11 回目　図書館情報を使い倒す！（１）ＯＰＡＣを使い倒す！ 12 回目　図書館情報を使い倒す！（２）DataBase を使い倒す！ 13 回目　２回生資料講読・実践プロジェクト授業説明会 14 回目　京都の文化財に関する特別講義			

15 回目　小松和彦先生特別講義 （以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BHI
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	岡本　裕介	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（教科書）	『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会		
教材（参考資料）	尾藤健『文系学生のためのＳＰＩ３　完全攻略問題集』高橋書店 藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年 学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教育方法	教科書を用いながら、さまざまな作業に取り組む授業となる。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

授業スケジュール

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)

（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BHK
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
授業概要	この半年間で、大学生活にも大分慣れてきたと思います。後期の「スタートアップゼミ B」では、二回生から本格的に始まる学科の専門的な講義に対応できるような学びを準備しています。前期末にさまざまな科目で、レポートや試験なども経験したと思いますが、さらに調べる力、考える力をのばしていきましょう。興味があることは貪欲に知識を吸収して、いろんな体験をしていきましょう。一つ一つの積み重ねにより、二回生以降の専門的な学習へもスムーズに移行することが可能になります。前期に引き続き、受講生１人１人が受け身ではなく、高い参加意識で授業に参加して、活発なゼミになることを期待しています。		
教材（教科書）	学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年 『ステップアップ日本語講座　中級』　東京書籍		
教材（参考資料）	藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年		
教育方法	教員による講義や、作業、受講生による発表など、さまざまな形式での授業です。		
評価方法	毎回の授業への参加度、受講態度、課題物などの提出状況（75%） 学期末のレポート（25%） ※レポートが未提出の場合、単位はでません。		
到達目標	・講義を聞きながらノートをとれるようになること ・歴史文化学科でものを調べる基本をしること ・図書館の使い方の基本をしること ・発表の基本を知ること ・レポートの書き方の基本をしること		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して歴史的なものに触れることを意識して、博物館や美術館の展覧会、寺社の特別公開、祭礼などの情報にも気を配り、積極的に歴史都市京都を体験してほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。			
授業スケジュール			
１回目　夏休みの宿題の発表 ２回目　地形図を読み取る（基礎編） ３回目　地図を利用する（基礎編） ４回目　日本語を学ぶ ５回目　文献を読む（１） ６回目　文献を読む（２） ７回目　図書館やネットを使いこなす ８回目　くずし字を読んでみよう ９回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（４） 10 回目　大学で学ぶ・考えるためのリテラシー（５） 11 回目　図書館情報を使い倒す！（１）ＯＰＡＣを使い倒す！ 12 回目　図書館情報を使い倒す！（２）DataBase を使い倒す！ 13 回目　２回生資料講読・実践プロジェクト授業説明会 14 回目　京都の文化財に関する特別講義			

15 回目　小松和彦先生特別講義 （以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BHL
科目名	スタートアップゼミB	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	内藤　登世一	旧科目名称	
授業概要	スタートアップゼミAに引き続き、自分を磨いてください。「スタートアップ」とは「コンピューターを起動させること」です。「ゼミ」は「ゼミナール」で、日本語 では「演習」ですが、担当の教員のもとでお互いに発表しあいながら学びあう形と中身の授業のことをいいます。だから教員の話を聴くことが主になる「講義」とは異 なります。コンピュータを起動させるように、大学生としてのあなたをあなた自身が起動させていく、その最初の１年間をサポートしていこうというのがこのゼミ です。サポートは、あなたがゼミの中で自ら考え、動くことを前提にしています。さて、このゼミでは１人ひとりのスタートアップをお手伝いし、大学４年間で身につけるべき近い将来の社会人としての基礎力の、またその初歩的基礎を養うことを目的にしています。就職活動の際に求められる基礎的な学力の強化にも努めるよう頑張りましょう。１人ひとりの学びたいという意欲に支えられた、活発なゼミになることを期待します。		
教材（教科書）	『日本語検定３級　公式練習問題集』日本語検定委員会		
教材（参考資料）	尾藤健『文系学生のためのＳＰＩ３　完全攻略問題集』高橋書店 藤田哲也他『改増版 大学基礎講座』北大路書房、2006 年 松野弘『大学生のための知的勉強術』講談社現代新書、2010 年 近田政博『学びのチップス』玉川大学出版部、2009 年 学習技術研究会編著『改訂版 知へのステップ』 くろしお出版、2006 年		
教育方法	教科書を用いながら、さまざまな作業に取り組む授業となる。		
評価方法	ゼミへの参加姿勢や日常の課題の提出などの平常点（５０%)、学期末の発表やレポート提出などの有無とそれらの内容に関する評価点（５０%)。		
到達目標	下記の各回のポイントごとにその内容を理解し、利用、実行に移すことができるようになること。		
授業時間外学習	前回の授業内容をふりかえり、十分に復習をしたうえで次回に参加すること。また、普段から新聞やテレビ、インターネットなどを通して社会の動きをキャッチし、何が課題かなどについて自分なりに思いを巡らせたり、友人と意見交換してみてほしい。参考文献に挙げられている本を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

ともかく積極的な参加をお願いしたい。担当教員から与えられたことをこなすだけでなく、自分の意見を言い、企画し、自分たちでゼミを創っていくような気構えをもってほしい。なお、ゼミ生全体で一斉に行っていく作業などもあるので、遅刻をすると迷惑がかかるし、欠席するとその作業はできないことになる。やむを得ない遅刻や欠席については、必ず事前に担当教員に連絡すること。

授業スケジュール

１．協働力を自分たちで育て合う（１）
２．　同　（２）
３．　同　（３）
４．適応力を高める（１）
５．　同　（２）
６．コミュニケーション力をつける（１）
７．　同　（２）
８．　同　（３）
９．行動力を発揮する（１）
１０．　同　（２）
１１．課題発見力を自分の中に見つける（１）
１２．　同　（２）
１３．論理的思考力を積み上げる（１）
１４．　同　（２）
１５．　同　(3)

（以上の講義の順序やポイントは、変更される場合がある）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JMC001BKA
科目名	スタートアップゼミB -k1	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。スタートアップゼミ B では、自然科学分野の学問の理解に必要な数学的思考法の学習や計算演習、学術的文章の読解、要約、記述などを通じて論理的思考力を涵養し、バイオ環境デザイン学科の専門基礎科目・専門科目を学ぶための基礎学力を向上させることを目的とします。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	「キャンベル生物学 原書 9 版」　池内 ・伊藤・ 箸本 春樹（監修・翻訳） 丸善出版		
教育方法	・輪読形式の文章理解 ・小テスト形式の演習 ・ゼミ形式のディスカッション		
評価方法	毎回の授業におけるレポート・課題などによる平常点（50 点）とテスト（50 点）により評価します。		
到達目標	・自然科学分野の様々な学問の理解の基礎となる数学的思考法や論理的思考力を身につける。		
授業時間外学習	講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
単なる知識の蓄積ではなく、論理的思考力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
授業スケジュール			
1　イントロダクション　論理的思考力とは？ 2　学術的文章の論理的読解　その① 3　学術的文章の論理的読解　その② 4　文章の要約と縮約　その① 5　文章の要約と縮約　その② 6　説明文の論理的記述　その① 7　説明文の論理的記述　その② 8　説明文の論理的記述　その③ 9　役に立つ"算数"　その① 10 役に立つ”算数”　その② 11 役に立つ”算数"　その③ 12 役に立つ”算数”　その④ 13 役に立つ”算数”　その⑤ 14 役に立つ”算数"　　その⑥ 15 役に立つ”算数”　その⑦			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	JMC001BKB
科目名	スタートアップゼミB -k2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
授業概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。スタートアップゼミ B では、自然科学分野の学問の理解に必要な数学的思考法の学習や計算演習、学術的文章の読解、要約、記述などを通じて論理的思考力を涵養し、バイオ環境デザイン学科の専門基礎科目・専門科目を学ぶための基礎学力を向上させることを目的とします。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	「キャンベル生物学 原書 9 版」　池内 ・伊藤・ 箸本 春樹（監修・翻訳） 丸善出版		
教育方法	・輪読形式の文章理解 ・小テスト形式の演習 ・ゼミ形式のディスカッション		
評価方法	毎回の授業におけるレポート・課題などによる平常点（50 点）とテスト（50 点）により評価します。		
到達目標	・自然科学分野の様々な学問の理解の基礎となる数学的思考法や論理的思考力を身につける。		
授業時間外学習	講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
単なる知識の蓄積ではなく、論理的思考力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
授業スケジュール			
1　イントロダクション　論理的思考力とは？ 2　学術的文章の論理的読解　その① 3　学術的文章の論理的読解　その② 4　文章の要約と縮約　その① 5　文章の要約と縮約　その② 6　説明文の論理的記述　その① 7　説明文の論理的記述　その② 8　説明文の論理的記述　その③ 9　役に立つ"算数"　その① 10 役に立つ”算数”　その② 11 役に立つ”算数"　その③ 12 役に立つ”算数”　その④ 13 役に立つ”算数”　その⑤ 14 役に立つ”算数"　　その⑥ 15 役に立つ”算数”　その⑦			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	JMC001BKC
科目名	スタートアップゼミB -k3	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。スタートアップゼミ B では、自然科学分野の学問の理解に必要な数学的思考法の学習や計算演習、学術的文章の読解、要約、記述などを通じて論理的思考力を涵養し、バイオ環境デザイン学科の専門基礎科目・専門科目を学ぶための基礎学力を向上させることを目的とします。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	「キャンベル生物学 原書 9 版」　池内 ・伊藤・ 箸本 春樹（監修・翻訳） 丸善出版		
教育方法	・輪読形式の文章理解 ・小テスト形式の演習 ・ゼミ形式のディスカッション		
評価方法	毎回の授業におけるレポート・課題などによる平常点（50 点）とテスト（50 点）により評価します。		
到達目標	・自然科学分野の様々な学問の理解の基礎となる数学的思考法や論理的思考力を身につける。		
授業時間外学習	講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
単なる知識の蓄積ではなく、論理的思考力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
授業スケジュール			
1　イントロダクション　論理的思考力とは？ 2　学術的文章の論理的読解　その① 3　学術的文章の論理的読解　その② 4　文章の要約と縮約　その① 5　文章の要約と縮約　その② 6　説明文の論理的記述　その① 7　説明文の論理的記述　その② 8　説明文の論理的記述　その③ 9　役に立つ"算数"　その① 10 役に立つ”算数”　その② 11 役に立つ”算数"　その③ 12 役に立つ”算数”　その④ 13 役に立つ”算数”　その⑤ 14 役に立つ”算数"　　その⑥ 15 役に立つ”算数”　その⑦			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★	★★

年度	2018	授業コード	JMC001BKH
科目名	スタートアップゼミB -k4	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	高澤　伸江	旧科目名称	
授業概要	これまでの学習を、単に学校の中で必要な知識ととらえている人も多いのではないでしょうか。単に、様々な知識を学習することが目的なのではなく、そうした学習を通じて、論理的な批判力や課題解決能力などを培うことが必要です。スタートアップゼミ B では、自然科学分野の学問の理解に必要な数学的思考法の学習や計算演習、学術的文章の読解、要約、記述などを通じて論理的思考力を涵養し、バイオ環境デザイン学科の専門基礎科目・専門科目を学ぶための基礎学力を向上させることを目的とします。		
教材（教科書）	特に指定しない		
教材（参考資料）	「キャンベル生物学 原書 9 版」　池内 ・伊藤・ 箸本 春樹（監修・翻訳） 丸善出版		
教育方法	・輪読形式の文章理解 ・小テスト形式の演習 ・ゼミ形式のディスカッション		
評価方法	毎回の授業におけるレポート・課題などによる平常点（50 点）とテスト（50 点）により評価します。		
到達目標	・自然科学分野の様々な学問の理解の基礎となる数学的思考法や論理的思考力を身につける。		
授業時間外学習	講義中に配布した資料を用いて、各自で主体的に予習・復習に取り組んで下さい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
単なる知識の蓄積ではなく、論理的思考力や課題解決能力を向上させるためのプログラムですから、各自が積極的な姿勢で参加することが必要です。			
授業スケジュール			
1　イントロダクション　論理的思考力とは？ 2　学術的文章の論理的読解　その① 3　学術的文章の論理的読解　その② 4　文章の要約と縮約　その① 5　文章の要約と縮約　その② 6　説明文の論理的記述　その① 7　説明文の論理的記述　その② 8　説明文の論理的記述　その③ 9　役に立つ"算数"　その① 10 役に立つ”算数”　その② 11 役に立つ”算数"　その③ 12 役に立つ”算数”　その④ 13 役に立つ”算数”　その⑤ 14 役に立つ”算数"　　その⑥ 15 役に立つ”算数”　その⑦			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	JMC001BSA
科目名	スタートアップゼミB -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	若村　定男	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ことが出来るようにする この授業をとおして、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を身につける。		
教材（教科書）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
授業スケジュール			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ			

8）プレゼンテーションの準備：アウトライン
9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド
１０）ディベートの技法：議論の深め方
１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表①
１４）小論文についての発表②
１５）小論文についての発表のディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JMC001BSB
科目名	スタートアップゼミB -s2	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	清水　伸泰	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ことが出来るようにする この授業をとおして、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を身につける。		
教材（教科書）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
授業スケジュール			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ			

8）プレゼンテーションの準備：アウトライン
9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド
１０）ディベートの技法：議論の深め方
１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表①
１４）小論文についての発表②
１５）小論文についての発表のディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JMC001BSD
科目名	スタートアップゼミB -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	寳関　淳	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ことが出来るようにする この授業をとおして、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を身につける。		
教材（教科書）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
授業スケジュール			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ			

8）プレゼンテーションの準備：アウトライン
9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド
１０）ディベートの技法：議論の深め方
１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表①
１４）小論文についての発表②
１５）小論文についての発表のディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JMC001BSE
科目名	スタートアップゼミB -s5	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	松原　守	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ことが出来るようにする この授業をとおして、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を身につける。		
教材（教科書）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
授業スケジュール			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ			

8）プレゼンテーションの準備：アウトライン
9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド
１０）ディベートの技法：議論の深め方
１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表①
１４）小論文についての発表②
１５）小論文についての発表のディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JMC001BSF
科目名	スタートアップゼミB -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	櫻間　晴子	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ことが出来るようにする この授業をとおして、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を身につける。		
教材（教科書）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
授業スケジュール			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ			

8）プレゼンテーションの準備：アウトライン
9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド
１０）ディベートの技法：議論の深め方
１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表①
１４）小論文についての発表②
１５）小論文についての発表のディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JMC001BSG
科目名	スタートアップゼミB -s7	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	萩下　大郎	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ことが出来るようにする この授業をとおして、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を身につける。		
教材（教科書）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
授業スケジュール			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ			

8）プレゼンテーションの準備：アウトライン
9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド
１０）ディベートの技法：議論の深め方
１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表①
１４）小論文についての発表②
１５）小論文についての発表のディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JMC001BSH
科目名	スタートアップゼミB -s8	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	矢野　善久	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ことが出来るようにする この授業をとおして、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を身につける。		
教材（教科書）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
授業スケジュール			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ			

8）プレゼンテーションの準備：アウトライン
9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド
１０）ディベートの技法：議論の深め方
１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表①
１４）小論文についての発表②
１５）小論文についての発表のディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JMC001BSI
科目名	スタートアップゼミB -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ことが出来るようにする この授業をとおして、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を身につける。		
教材（教科書）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
授業スケジュール			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ			

8）プレゼンテーションの準備：アウトライン
9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド
１０）ディベートの技法：議論の深め方
１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表①
１４）小論文についての発表②
１５）小論文についての発表のディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JMC001BSJ
科目名	スタートアップゼミB -s10	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	Rafael　Prieto	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ことが出来るようにする この授業をとおして、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を身につける。		
教材（教科書）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
授業スケジュール			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ			

8）プレゼンテーションの準備：アウトライン
9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド
１０）ディベートの技法：議論の深め方
１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表①
１４）小論文についての発表②
１５）小論文についての発表のディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JMC001BSK
科目名	スタートアップゼミB -s	単位数	2
科目名（英語表記）	Start-up Seminar B		
担当者名	藤田　裕之	旧科目名称	
授業概要	学習ステップにおける「導入」科目の中心的な科目と位置づけ、大学生としてのマナーと心得を学ぶとともに、学習の基本となる「読む・書く」「調べる」「聴く・話す」ことが出来るようにする この授業をとおして、大学で課される小論文の書き方、プレゼンテーション、ディスカッションなど、アウトプットのやり方を身につける。		
教材（教科書）	スタートアップゼミ A と同じ 日本語検定 公式練習問題集 3 訂版 3 級 日本語検定委員会編集（2012）東京書籍 下記教材（参考文献）の中で担当教員から指定されたものを購入する。		
教材（参考資料）	スタートアップゼミ A と同じ 大学生のための日本語再発見 小野 博 林部英雄 監修（2006）旺文社 「大学生のための日本語表現トレーニング」スキルアップ編　橋本修 他 （2008）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」実践編　福嶋健伸　他 （2009）三省堂 「大学生のための日本語表現トレーニング」ドリル編　安部朋世　他 （2010）三省堂 「スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳」 名古屋大学日本語研究会 GK7 （2009） 東京書籍 大学生のための文章表現入門 演習編　速水 博司（2003）蒼丘書林		
教育方法	アクティブラーニング形式で行う。		
評価方法	平常点（質疑討論、作文、レポート、発表、宿題など）80% 「日本語検定」3 級以上の認定　20%		
到達目標	国語力を向上させ、「日本語検定 3 級」以上の認定を受ける。 年間読書目標を達成する。 図書館、ウェブなどから得た情報の使い方に習熟する。 「論を組み立てて主張する」レポートの書き方に習熟する。 プレゼンテーションやディスカッション、グループディスカッションに習熟する。		
授業時間外学習	講義終了時に次回の課題を指定するので、次回の講義時にその課題を発表する。 事前に指定された本や資料を熟読すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
内容に積極的に関与し、学んだことをセミナー外の活動や今後の学習に活用することで、4 年間学力を伸ばし続けること。			
授業スケジュール			
1）夏期休暇の課題レポート発表 2）小論文の書き方：主張のあるレポート 3）小論文の書き方：組み立てプランと情報収集 4）文章を読解する：アカデミック・リーディング 5）文章を要約する：パラグラフの分析 6）データを読み取る：リサーチ・リテラシー入門 7）プレゼンテーションの準備：レジュメ			

8）プレゼンテーションの準備：アウトライン
9）視覚資料のつくりかた：効果的なスライド
１０）ディベートの技法：議論の深め方
１１）ディベートの技法：議論の深め方
１２）口頭表現の基礎：印象のよい話し方
１３）小論文についての発表①
１４）小論文についての発表②
１５）小論文についての発表のディスカッション

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JMC002A0B
科目名	私の人生設計ＩＡ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IA		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる皆さんは「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活，ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教育方法	講義とペアあるいはグループワーク等を組み合わせて行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に講義テーマに関連した課題の提出を求めます。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。

授業スケジュール

1. ガイダンス
2. これまでの生活を振り返ろう
3. 自己管理　(1)
4. 自己管理　(2)
5. 自己管理　(3)
6. コミュニケーション（1）
7. コミュニケーション（2）
8. コミュニケーション（3）
9. 他者と協働する（1）
10. 他者と協働する（2）
11. 今後の生活をデザインする（1）
12. 今後の生活をデザインする（2）
13. 計画の実行に必要なこと（1）
14. 計画の実行に必要なこと（2）
15. 明るい将来のために

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JMC002A0C
科目名	私の人生設計ＩＡ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IA		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる皆さんは「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活，ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教育方法	講義とペアあるいはグループワーク等を組み合わせて行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に講義テーマに関連した課題の提出を求めます。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
授業スケジュール			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JMC002A0D
科目名	私の人生設計ＩＡ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IA		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる皆さんは「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活，ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教育方法	講義とペアあるいはグループワーク等を組み合わせて行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に講義テーマに関連した課題の提出を求めます。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。			
授業スケジュール			
1. ガイダンス 2. これまでの生活を振り返ろう 3. 自己管理　(1) 4. 自己管理　(2) 5. 自己管理　(3) 6. コミュニケーション（1） 7. コミュニケーション（2） 8. コミュニケーション（3） 9. 他者と協働する（1） 10. 他者と協働する（2） 11. 今後の生活をデザインする（1） 12. 今後の生活をデザインする（2） 13. 計画の実行に必要なこと（1） 14. 計画の実行に必要なこと（2） 15. 明るい将来のために			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JMC002A0H
科目名	私の人生設計ＩＡ （再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning IA		
担当者名	山本　理恵	旧科目名称	
授業概要	「キャリア」とは就職のみならず，「人生そのもの」を意味する言葉です。本科目の受講対象となる皆さんは「学生」としての役割を担っている最中にあります。そこで本科目では，大学生として求められる事柄（役割）を様々な側面から理解し，今後の大学生活，ひいては職業社会で求められる力について考えることを狙いとしています。		
教材（教科書）	使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
教材（参考資料）	講義中に関連する文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。		
教育方法	講義とペアあるいはグループワーク等を組み合わせて行います。		
評価方法	講義中に提示する課題の達成度：60% レポート課題，発表など：40%		
到達目標	1. 他者との良好な関わり方を学び，共に主体的に動き協働するために必要な基礎力を獲得することができる 2. 今後の大学生活に対する視野を広げ，大学生活を有意義にするための目的意識を持つことができる		
授業時間外学習	講義終了時に参考文献を提示することがあります。必ず目を通すようにしてください。また，これとは別に講義テーマに関連した課題の提出を求めます。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.講義への主体的な参加を求めます。講義内でペアあるいはグループでのワークを実施しますので，周囲の人との協力的な姿勢を持つようにしてください。

授業スケジュール

1. ガイダンス
2. これまでの生活を振り返ろう
3. 自己管理　(1)
4. 自己管理　(2)
5. 自己管理　(3)
6. コミュニケーション（1）
7. コミュニケーション（2）
8. コミュニケーション（3）
9. 他者と協働する（1）
10. 他者と協働する（2）
11. 今後の生活をデザインする（1）
12. 今後の生活をデザインする（2）
13. 計画の実行に必要なこと（1）
14. 計画の実行に必要なこと（2）
15. 明るい将来のために

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JMC003B01
科目名	私の人生設計ⅡＢ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning ⅡB		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
授業概要	人生を理解する上で重要な視点の一つに「役割」があります。職業社会に参入することにより，学生諸君は重要な役割が「学生」から「労働者」に変化すると同時に，この劇的な変化に適応していくことが求められます。このような変化に適応する為に必要になる事柄が「自己理解」そして「社会理解」です。 本科目では，「自己理解」「社会理解」を促進させる上で必要になる学術的知識を理解することを目的としています。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料配布を行います。		
教材（参考資料）	必要に応じて資料配布を行います。		
教育方法	ディスカッション形式による講義と PC による資料作成を通じて，授業内容の理解を深めます。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：65%　最終レポート：35%		
到達目標	1. 将来のキャリアを考える上でヒントとなる学術的知見，理論を深く理解することができる 2. 現在の自分が置かれている状況を客観視することができる 3. 自らの人生設計を行う上でのヒントを得ることができる		
授業時間外学習	指定された範囲の内容について事前に理解してくることが必要です。また，授業内では発表を実施しますので，そのための事前準備や図書館などでの資料検索などが必要となります。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 能動的な姿勢で講義に出席してください。
2. 周囲の人に迷惑となる行為（授業とは関係ない過度な私語など）を行わないこと。指示に従わない場合，教室からの退出を求め欠席扱いとします。
3. 提出期限等の期日を守ること。

授業スケジュール

1. ガイダンス（授業の進め方）・イントロダクション
《第１クール》：大学生のキャリア選択と支援
2. 担当箇所の決定＆関連資料の収集
3. 資料をまとめる，発表の準備①
4. 資料をまとめる，発表の準備②
5. 発表と解説（環境はどう変わったのか）
6. 発表と解説（就職はなぜ難しいのか）
7. 発表と解説（決められないのはなぜか）
8. 発表と解説（何のために働くのか）
《第２クール》：キャリアを考える
9. 担当箇所の決定＆関連資料の収集
10. 資料をまとめる，発表の準備①
11. 資料をまとめる，発表の準備②
12. 発表と解説（キャリア選択の性差）
13. 発表と解説（社会人になるとはどういうことか）
14. 発表と解説（キャリアガイダンスでは何が重要か）
15. 発表と解説（学生から職業人への橋渡し）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JMC003B0G
科目名	私の人生設計ⅡＢ　（再）	単位数	2
科目名（英語表記）	My Life Planning ⅡB		
担当者名	三保　紀裕	旧科目名称	
授業概要	人生を理解する上で重要な視点の一つに「役割」があります。職業社会に参入することにより，学生諸君は重要な役割が「学生」から「労働者」に変化すると同時に，この劇的な変化に適応していくことが求められます。このような変化に適応する為に必要になる事柄が「自己理解」そして「社会理解」です。 本科目では，「自己理解」「社会理解」を促進させる上で必要になる学術的知識を理解することを目的としています。		
教材（教科書）	特になし。必要に応じて資料配布を行います。		
教材（参考資料）	必要に応じて資料配布を行います。		
教育方法	ディスカッション形式による講義と PC による資料作成を通じて，授業内容の理解を深めます。		
評価方法	授業内で提示する課題（発表・資料提出など）：65%　最終レポート：35%		
到達目標	1. 将来のキャリアを考える上でヒントとなる学術的知見，理論を深く理解することができる 2. 現在の自分が置かれている状況を客観視することができる 3. 自らの人生設計を行う上でのヒントを得ることができる		
授業時間外学習	指定された範囲の内容について事前に理解してくることが必要です。また，授業内では発表を実施しますので，そのための事前準備や図書館などでの資料検索などが必要となります。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 能動的な姿勢で講義に出席してください。
2. 周囲の人に迷惑となる行為（授業とは関係ない過度な私語など）を行わないこと。指示に従わない場合，教室からの退出を求め欠席扱いとします。
3. 提出期限等の期日を守ること。

授業スケジュール

1. ガイダンス（授業の進め方）・イントロダクション
《第１クール》：大学生のキャリア選択と支援
2. 担当箇所の決定＆関連資料の収集
3. 資料をまとめる，発表の準備①
4. 資料をまとめる，発表の準備②
5. 発表と解説（環境はどう変わったのか）
6. 発表と解説（就職はなぜ難しいのか）
7. 発表と解説（決められないのはなぜか）
8. 発表と解説（何のために働くのか）
《第２クール》：キャリアを考える
9. 担当箇所の決定＆関連資料の収集
10. 資料をまとめる，発表の準備①
11. 資料をまとめる，発表の準備②
12. 発表と解説（キャリア選択の性差）
13. 発表と解説（社会人になるとはどういうことか）
14. 発表と解説（キャリアガイダンスでは何が重要か）
15. 発表と解説（学生から職業人への橋渡し）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0005A01
科目名	教育原論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Education		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
授業概要	中学校・高校の教員として働くにふさわしい知力、そして豊かな人間性を、４年間の大学教育を通して培うプログラムが教職課程である。この科目では、「教職」のための教養の基礎部分として、教育の理念、思想および歴史を学び、人間社会でなされる教育という活動の本質と意味を理解する。 講義は４部に分かれている。第１部では人間における教育の必要性とそこから生まれる発達の可能性を確認し、第２部では教育の基本的な概念を代表的な思想家から学ぶ。第３部では社会生活における教育の機能をミクロとマクロの観点から整理する。最後に第４部で、近代以降の社会において教育制度がどのように成立し進展してきたか、歴史的な考察を行う。		
教材（教科書）	テキスト１冊を定めることはしない。		
教材（参考資料）	かつてテキストとして使用した書籍の部分コピーを配布して、準教科書的な資料として常に用いる。その他にも、社会学や心理学の分野などの論考を、教育を考える重要な材料として取り上げる。		
教育方法	前回の講義の復習から授業を始める。その際、重要項目を整理したプリント資料を配布するが、それが講義ノートとして学生の手元で編集されていくことになる。また講義内では、ＶＴＲやＤＶＤなどの映像資料も活用する。		
評価方法	授業への出席は重視するが、それは学期末試験を受けるための条件に過ぎない。その筆記試験での得点を、成績評価の最大の材料とする。		
到達目標	人間という特別な生き物にとってなぜ「教育」という配慮が欠かせないのか、その解答を得ること。		
授業時間外学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のために参考資料を精読した上で出席すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「先生になりたい」という意志が一番大事だ、とは言わない。教職への憧れや熱意の底に、学ぶ者に必須の〈読む力〉、〈考える力〉、〈書く力〉を十分備えているかがポイントなので、そうした点で真の力を備えた学生に、受講を限定したい。

基本的に、１、２回生を対象とする科目である。

授業スケジュール

1．　講義の概要と成績評価について
2．　人間と教育――人間と動物の違い
3．　人間の特殊性――「生理的早産」
4．　教育の必要性と可能性――人間と文化
5．　人間形成の要素――素質と環境
6．　素質と環境に加わる〈教育〉（学習経験）という要素
7．　教育の基本概念①「自然」と「文化」――ルソーの思想
8．　教育の基本概念②「学校」と「社会」――デューイの思想
9．　教育のミクロ的な機能――個人の成長と発達
10．教育のマクロ的な機能――社会による「社会化」
11．近代国家と学校教育
12．国民国家と産業社会――「国民教育」の意義
13．わが国における公教育の成立と展開
14．第２次世界大戦後の教育
15．学期末試験に向けた、本年度の講義の要点整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JP0005A02
科目名	教育原論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Education		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
授業概要	中学校・高校の教員として働くにふさわしい知力、そして豊かな人間性を、４年間の大学教育を通して培うプログラムが教職課程である。この科目では、「教職」のための教養の基礎部分として、教育の理念、思想および歴史を学び、人間社会でなされる教育という活動の本質と意味を理解する。 講義は４部に分かれている。第１部では人間における教育の必要性とそこから生まれる発達の可能性を確認し、第２部では教育の基本的な概念を代表的な思想家から学ぶ。第３部では社会生活における教育の機能をミクロとマクロの観点から整理する。最後に第４部で、近代以降の社会において教育制度がどのように成立し進展してきたか、歴史的な考察を行う。		
教材（教科書）	テキスト１冊を定めることはしない。		
教材（参考資料）	かつてテキストとして使用した書籍の部分コピーを配布して、準教科書的な資料として常に用いる。その他にも、社会学や心理学の分野などの論考を、教育を考える重要な材料として取り上げる。		
教育方法	前回の講義の復習から授業を始める。その際、重要項目を整理したプリント資料を配布するが、それが講義ノートとして学生の手元で編集されていくことになる。また講義内では、ＶＴＲやＤＶＤなどの映像資料も活用する。		
評価方法	授業への出席は重視するが、それは学期末試験を受けるための条件に過ぎない。その筆記試験での得点を、成績評価の最大の材料とする。		
到達目標	人間という特別な生き物にとってなぜ「教育」という配慮が欠かせないのか、その解答を得ること。		
授業時間外学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のために参考資料を精読した上で出席すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「先生になりたい」という意志が一番大事だ、とは言わない。教職への憧れや熱意の底に、学ぶ者に必須の〈読む力〉、〈考える力〉、〈書く力〉を十分備えているかがポイントなので、そうした点で真の力を備えた学生に、受講を限定したい。

基本的に、１、２回生を対象とする科目である。

授業スケジュール

1．　講義の概要と成績評価について
2．　人間と教育――人間と動物の違い
3．　人間の特殊性――「生理的早産」
4．　教育の必要性と可能性――人間と文化
5．　人間形成の要素――素質と環境
6．　素質と環境に加わる〈教育〉（学習経験）という要素
7．　教育の基本概念①「自然」と「文化」――ルソーの思想
8．　教育の基本概念②「学校」と「社会」――デューイの思想
9．　教育のミクロ的な機能――個人の成長と発達
10.　教育のマクロ的な機能――社会による「社会化」
11.　近代国家と学校教育
12.　国民国家と産業社会――「国民教育」の意義
13.　わが国における公教育の成立と展開
14.　第２次世界大戦後の教育
15.　学期末試験に向けた、本年度の講義の要点整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JP0005A03
科目名	教育原論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Education		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
授業概要	中学校・高校の教員として働くにふさわしい知力、そして豊かな人間性を、４年間の大学教育を通して培うプログラムが教職課程である。この科目では、「教職」のための教養の基礎部分として、教育の理念、思想および歴史を学び、人間社会でなされる教育という活動の本質と意味を理解する。 講義は４部に分かれている。第１部では人間における教育の必要性とそこから生まれる発達の可能性を確認し、第２部では教育の基本的な概念を代表的な思想家から学ぶ。第３部では社会生活における教育の機能をミクロとマクロの観点から整理する。最後に第４部で、近代以降の社会において教育制度がどのように成立し進展してきたか、歴史的な考察を行う。		
教材（教科書）	テキスト１冊を定めることはしない。		
教材（参考資料）	かつてテキストとして使用した書籍の部分コピーを配布して、準教科書的な資料として常に用いる。その他にも、社会学や心理学の分野などの論考を、教育を考える重要な材料として取り上げる。		
教育方法	前回の講義の復習から授業を始める。その際、重要項目を整理したプリント資料を配布するが、それが講義ノートとして学生の手元で編集されていくことになる。また講義内では、ＶＴＲやＤＶＤなどの映像資料も活用する。		
評価方法	授業への出席は重視するが、それは学期末試験を受けるための条件に過ぎない。その筆記試験での得点を、成績評価の最大の材料とする。		
到達目標	人間という特別な生き物にとってなぜ「教育」という配慮が欠かせないのか、その解答を得ること。		
授業時間外学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のために参考資料を精読した上で出席すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「先生になりたい」という意志が一番大事だ、とは言わない。教職への憧れや熱意の底に、学ぶ者に必須の〈読む力〉、〈考える力〉、〈書く力〉を十分備えているかがポイントなので、そうした点で真の力を備えた学生に、受講を限定したい。

基本的に、１、２回生を対象とする科目である。

授業スケジュール

1．　講義の概要と成績評価について
2．　人間と教育――人間と動物の違い
3．　人間の特殊性――「生理的早産」
4．　教育の必要性と可能性――人間と文化
5．　人間形成の要素――素質と環境
6．　素質と環境に加わる〈教育〉（学習経験）という要素
7．　教育の基本概念①「自然」と「文化」――ルソーの思想
8．　教育の基本概念②「学校」と「社会」――デューイの思想
9．　教育のミクロ的な機能――個人の成長と発達
10.　教育のマクロ的な機能――社会による「社会化」
11.　近代国家と学校教育
12.　国民国家と産業社会――「国民教育」の意義
13.　わが国における公教育の成立と展開
14.　第２次世界大戦後の教育
15.　学期末試験に向けた、本年度の講義の要点整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JP0005A04
科目名	教育原論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Education		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
授業概要	中学校・高校の教員として働くにふさわしい知力、そして豊かな人間性を、４年間の大学教育を通して培うプログラムが教職課程である。この科目では、「教職」のための教養の基礎部分として、教育の理念、思想および歴史を学び、人間社会でなされる教育という活動の本質と意味を理解する。 講義は４部に分かれている。第１部では人間における教育の必要性とそこから生まれる発達の可能性を確認し、第２部では教育の基本的な概念を代表的な思想家から学ぶ。第３部では社会生活における教育の機能をミクロとマクロの観点から整理する。最後に第４部で、近代以降の社会において教育制度がどのように成立し進展してきたか、歴史的な考察を行う。		
教材（教科書）	テキスト１冊を定めることはしない。		
教材（参考資料）	かつてテキストとして使用した書籍の部分コピーを配布して、準教科書的な資料として常に用いる。その他にも、社会学や心理学の分野などの論考を、教育を考える重要な材料として取り上げる。		
教育方法	前回の講義の復習から授業を始める。その際、重要項目を整理したプリント資料を配布するが、それが講義ノートとして学生の手元で編集されていくことになる。また講義内では、ＶＴＲやＤＶＤなどの映像資料も活用する。		
評価方法	授業への出席は重視するが、それは学期末試験を受けるための条件に過ぎない。その筆記試験での得点を、成績評価の最大の材料とする。		
到達目標	人間という特別な生き物にとってなぜ「教育」という配慮が欠かせないのか、その解答を得ること。		
授業時間外学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のために参考資料を精読した上で出席すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

「先生になりたい」という意志が一番大事だ、とは言わない。教職への憧れや熱意の底に、学ぶ者に必須の〈読む力〉、〈考える力〉、〈書く力〉を十分備えているかがポイントなので、そうした点で真の力を備えた学生に、受講を限定したい。

基本的に、１、２回生を対象とする科目である。

授業スケジュール

1．　講義の概要と成績評価について
2．　人間と教育――人間と動物の違い
3．　人間の特殊性――「生理的早産」
4．　教育の必要性と可能性――人間と文化
5．　人間形成の要素――素質と環境
6．　素質と環境に加わる〈教育〉（学習経験）という要素
7．　教育の基本概念①「自然」と「文化」――ルソーの思想
8．　教育の基本概念②「学校」と「社会」――デューイの思想
9．　教育のミクロ的な機能――個人の成長と発達
10.　教育のマクロ的な機能――社会による「社会化」
11.　近代国家と学校教育
12.　国民国家と産業社会――「国民教育」の意義
13.　わが国における公教育の成立と展開
14.　第２次世界大戦後の教育
15.　学期末試験に向けた、本年度の講義の要点整理

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JP0007001
科目名	教育相談 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Counseling		
担当者名	川畑　隆	旧科目名称	
授業概要	教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸張や人格の成長を支援する教育活動である。学生はこの授業をとおして、幼児、児童及び生徒の発達の状況に応じた心理的特質や教育的課題を確認したうえで、それらの支援のための教育相談の意義と理論、その方法について基礎的な知識を得ることができる。そして、教育相談の展開に関して、相談のさまざまな内容、その内容ごとの相談の具体的な進め方(組織的な取組みや他機関との連携の必要性を含む)についても知ることができる。		
教材（教科書）	川畑隆著「教師・保育士・保健師・相談支援員に役立つ子どもと家族の援助法～よりよい展開へのヒント」明石書店 2,376 円　※授業の最初に割引販売するので、事前購入の必要はない。また、必要に応じてプリント類を配布する。		
教材（参考資料）	授業中に適宜資料を配付する。		
教育方法	授業資料にそった講義と、学生と教員の相互のやりとり、実習等から構成される。		
評価方法	授業内レポート(50%)、授業内での課題やロールプレイ等への取組み(50%)		
到達目標	幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)が身につく。		
授業時間外学習	講義内容をよく整理しノートにまとめておくこと。そのことが次の授業の内容をスムーズに理解することにつながる。また、教育や教育相談に関連することはさまざまに報道されている。それらに日々接して思考することも教育相談についての学習を進めるうえで重要なので、ぜひ勧めたい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

少人数授業なので、講義や演習のなかで疑問がでてきたら即座に尋ねてほしい。そのような相互性を大切にしたい。また、配布した資料にはよく目を通してほしい。

授業スケジュール

1.就学前児の発達に応じた心理的特質や教育的課題
2.児童及び生徒の発達に応じた心理的特質や教育的課題
3.学校の現状と学校における教育相談の意義と課題
4.個人の資質と環境との相互性による人間関係
5.幼児、児童及び生徒についての理解の方法
6.幼児、児童及び生徒をとりまく集団、家族や地域などの理解の方法
7.教育相談に関わる心理学その他の基礎的な理論・概念
8.援助的な面接や対応のために必要な姿勢や技法
9.障害や個性に関する課題への対応
10.不登校や登校しぶり、社会的ひきこもりなどの非社会課題への対応
11.非行や犯罪等の反社会的課題及びいじめ問題への対応
12.児童虐待や貧困問題他の福祉的課題への対応
13.事例についてのトータルな理解と対応の計画及び実施
14.教育相談を全校体制で進めるための配慮と工夫
15.地域の医療や福祉機関等との連携の意義と必要性

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0007003
科目名	教育相談 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Counseling		
担当者名	竹中　菜苗	旧科目名称	
授業概要	教育現場においても「カウンセリング・マインド」という言葉が用いられるように、学校の教員にもカウンセリングについての基本的な知識が求められるようになってきている。本授業では教育現場で起きやすい心の問題をいかに理解し、関わっていくかについて、臨床心理学的な視点から学ぶ。適宜、講義のトピックに関連する小説や映画、心理臨床事例を具体的な素材として取り上げ、グループディスカッションなどを通じて自分自身で考える力を身に着け、実践的な力を養う。		
教材（教科書）	『教師のためのカウンセリングワークブック』菅野純（金子書房）		
教材（参考資料）	『フツーの子の思春期』岩宮恵子（岩波書店） 他、適宜授業内で紹介。		
教育方法	講義形式。適宜グループワークや実習、DVD 鑑賞を取り入れる。		
評価方法	グループディスカッション、意見の発表など授業への積極的な参加、および、授業内に課すレポート提出などの平常点（50%）、試験（50%）として、総合して 60 点以上で合格とする。		
到達目標	子どもの心理発達的課題や心理的障害についての知識、カウンセリングの基本的な姿勢を習得し、問題に直面した際に柔軟に考え、対応するための力を身に着ける。		
授業時間外学習	近年、学校現場で問題になっている発達障がい、いじめ、不登校、保護者への対応といったテーマについての基礎文献を読んでおくこと。また、それらの問題に関連する事件やニュースに関心をもち、自分なりの考えをまとめておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業への積極的な参加、ディスカッションやレポートを通じて真摯に課題に取り組み、自分なりに考える姿勢を大切にしてください。			
授業スケジュール			
以下のように講義を進めます。 1. イントロダクション 2. カウンセリングの基本的態度 3. 子どもの問題行動の理解①―思春期の心理 4. 子どもの問題行動の理解②―事例から考える問題行動への対応 5. いじめについて①―いじめのメカニズム 6. いじめについて②―いじめの事例における心のケア 7. いじめのない教室づくり 8. 不登校について 9. 不登校への対応 10. 発達障がいの基本的理解 11. 発達障がいの事例的理解①―基本的な個別的対応 12. 発達障がいの事例的理解②―学内外での連携 13. 生徒理解のために必要な工夫・配慮 14. 保護者への対応 15. 教員自身のストレスマネジメント			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	–	–	–

年度	2018	授業コード	JP0007004
科目名	教育相談 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Counseling		
担当者名	竹中　菜苗	旧科目名称	
授業概要	教育現場においても「カウンセリング・マインド」という言葉が用いられるように、学校の教員にもカウンセリングについての基本的な知識が求められるようになってきている。本授業では教育現場で起きやすい心の問題をいかに理解し、関わっていくかについて、臨床心理学的な視点から学ぶ。適宜、講義のトピックに関連する小説や映画、心理臨床事例を具体的な素材として取り上げ、グループディスカッションなどを通じて自分自身で考える力を身に着け、実践的な力を養う。		
教材（教科書）	『教師のためのカウンセリングワークブック』菅野純（金子書房）		
教材（参考資料）	『フツーの子の思春期』岩宮恵子（岩波書店） 他、適宜授業内で紹介。		
教育方法	講義形式。適宜グループワークや実習、DVD 鑑賞を取り入れる。		
評価方法	グループディスカッション、意見の発表など授業への積極的な参加、および、授業内に課すレポート提出などの平常点（50%）、試験（50%）として、総合して 60 点以上で合格とする。		
到達目標	子どもの心理発達的課題や心理的障害についての知識、カウンセリングの基本的な姿勢を習得し、問題に直面した際に柔軟に考え、対応するための力を身に着ける。		
授業時間外学習	近年、学校現場で問題になっている発達障がい、いじめ、不登校、保護者への対応といったテーマについての基礎文献を読んでおくこと。また、それらの問題に関連する事件やニュースに関心をもち、自分なりの考えをまとめておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業への積極的な参加、ディスカッションやレポートを通じて真摯に課題に取り組み、自分なりに考える姿勢を大切にしてください。			
授業スケジュール			
以下のように講義を進めます。 1. イントロダクション 2. カウンセリングの基本的態度 3. 子どもの問題行動の理解①―思春期の心理 4. 子どもの問題行動の理解②―事例から考える問題行動への対応 5. いじめについて①―いじめのメカニズム 6. いじめについて②―いじめの事例における心のケア 7. いじめのない教室づくり 8. 不登校について 9. 不登校への対応 10. 発達障がいの基本的理解 11. 発達障がいの事例的理解①―基本的な個別的対応 12. 発達障がいの事例的理解②―学内外での連携 13. 生徒理解のために必要な工夫・配慮 14. 保護者への対応 15. 教員自身のストレスマネジメント			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JP0008001
科目名	教育方法 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Methods of Teaching		
担当者名	立田　慶裕	旧科目名称	
授業概要	本講義では、継続的な学習者としての教員の資質向上を図り、従来の教育方法に加えて IT 活用を重視し、学習者の動機付けと学習スキルの向上を図る多様な教育と学習法を実践的手法により論じる。 目標　（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。		
教材（教科書）	各回でプリントを配布		
教材（参考資料）	赤尾勝己・山本慶裕『学びのデザイン』玉川大学出版部		
教育方法	グループ学習の方法の学習、電子ポートフォリオを用いたアクティブラーニングにより、板書やノートテイキング についての学習、動画作成ソフトによる教材作成。		
評価方法	成績は平常受講の評価と課題達成を重視。下記のミニッツレポート 15 回（40%），中間課題レポート 2 回（40%），最終課題レポート(20%）の総合判断。		
到達目標	（1）教員としての指導方法の基礎的知識と技能の取得を第一の目的とする。 （2）今後の学校組織では、教員の専門的職能の継続的な開発が期待されている。 （3）また、教育方法としてのＩＴ活用を積極的に活用するこ		
授業時間外学習	講義終了後に、次回の講義についての予告を行いますので、関連する情報や本を読んでおいてください。また、できれば、教育方法に関する多様なメディアについての情報を収集しておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

授業を通じて、話すのが苦手な人にも伝え方、表現の方法などを学んでいってもらいます。ノートの取り方や情報収集の方法を身につけていきますので、コンピュータが苦手な人にもわかりやすく解説しますが、みなさんがいろんなことに興味を持つようにしてください。

授業スケジュール

第 1 回　オリエンテーション
講義の目標、内容と方法、評価の説明
第 2 回　学習意欲を引き出す工夫
アイスブレイクの手法について多様な方法を紹介し、体験する
第 3 回　教育方法論の系譜
メディアの発展をふりかえり、それが教育指導法の変化に及ぼした歴史を考える
第 4 回　教育方法論の意義と目標
実際の授業では、学習指導要領を参考とするため、その内容を方法論的に検討する
第 5 回　授業の計画
授業構成と指導案の書き方を説明し、書いてもらう
第 6 回　授業の方法（1）
知識の整理法として、ノートや電子ファイルでナレッジベースを作成する
第 7 回　授業の方法（2）
デジタル教材とアナログ教材の長短と利用法を論じ、体験する
第 8 回　授業の方法（3）
進化するデータベースの利用と、学校図書館の活用法を論じる
第 9 回　授業の方法（4）
ＩＴを活用したワークショップの方法を論じ、体験する
第 10 回　授業の方法（5）
授業に必須のプレゼンテーション活用のコツを論じ、学ぶ
第 11 回　授業の方法（6）マルチメディアの活用
学習法として多様なマルチメディアの活用法を紹介する
第 12 回　授業の実践例（1）
具体的な教科として社会科をとりあげ、ネットワークを用いた国際理解学習について学ぶ

第 13 回　授業の実践例（２） 算数や数学教科での多様な数学ソフトの活用法を学ぶ 第 14 回　授業の評価 授業の必須事項、e ポートフォリオの評価の実態と課題を学ぶ 第 15 回　総論 テクノロジーの進歩の中で教育方法を学び続ける工夫を論じる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JP0010B01
科目名	教育実習Ｂ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice B		
担当者名	眞里谷　隆司	旧科目名称	
授業概要	四回生で行う、「教育実習」とそれにかかわる事前・事後の講義である。中学校で教育実習を行う場合は、「教育実習 A」と「教育実習 B」の両方を履修しなければならない。 事前の学習では、教育実習の概要を知るとともに具体的な準備を行い、事後の学習では、実習での成果と課題を明らかにして、教員となるための準備を行う。		
教材（教科書）	「実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考資料）	とくになし		
教育方法	中等教育の教員を目指すため、学習指導要領に明記されている「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けて、多様な教育方法（指導方法）を用い、体験させる。		
評価方法	授業出の発表２０％、実習ノート２０％、実習校による評価６０％ 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。 学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術 生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導 実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野		
到達目標	・教育実習で必要となる、「学習指導」や「生徒指導」にかかわる知識・技能・能力・態度を身につける。 ・教育実習での体験を通して、教員となるための最終的な準備を行う。		
授業時間外学習	新聞や文献等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。 事前に実習校との連絡をとり、実習の内容、担当する授業の単元などについて理解し、予習しておくておくこと。 実習の終了後は、「実習ノート」をまとめるとともに、「履修カルテ」についても整理し、授業担当者に提出する。その中で指摘された各自に課題に取り組むようにする。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

３週間あるいは４週間におよぶ実習でまず取り組まなければならないのは、やはり学習指導の力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちに興味をもって学習してもらうためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そしてまた、生徒たちのものの考え方、感じ方などの心理的な特性をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。

学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感をもって理解し、生活指導的な働きかけが（安易にそれができると考えてはならないが）少しでもできたならば実習の意義はいっそう高まるだろう。

自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、人間性全体で応えることを忘れないでほしい。

授業スケジュール

1. 学校教育全体で進める教育活動（1）　①　学校教育目標を達成するための教育活動　②　教育活動を進めるための組織体制
2. 学校教育全体で進める教育活動（2）　①　キャリア教育と進路指導　②　人権教育
3. 学校教育全体で進める教育活動（3）　①　体育・健康安全に関する指導（学校体育・スポーツ、学校保健、学校安全、食育・学校給食、性教育等）　②　防災教育
4. 道徳教育と特別な教科「道徳」　①　全教育活動を通して進める道徳教育　②　特別な教科「道徳」の内容　③　特別な教科「道徳」の指導の基本的な在り方　④　特別な教科「道徳」の評価　⑤　特別な教科「道徳」の参観の視点
5. 特別支援教育　①　特別な配慮を必要とする生徒への指導　②　生徒一人一人のニーズに応じた教育
6. 学級活動と学級指導　①　学級活動とは　②　学級指導とは
7. 中学校における生徒指導・教育相談　①　授業・休み時間・清掃時間・放課後　②　特別活動と生徒指導　③　道徳教育と生徒指導

8. 教育実習（1）　学級指導（学級活動、朝学活、終学活）
9. 教育実習（2）　特別な教科「道徳」
10. 教育実習（3）　生徒指導（様々な活動での生徒との関り）
11. 学校教育全体で進める教育活動（4）　①　情報教育　②　環境教育　③　国際理解教育
12. 学校教育全体で進める教育活動（5）　①　福祉教育　②　社会奉仕体験活動を生かした学習
13. 学校教育全体で進める教育活動（6）　①　読書活動　②　校種間連携の推進
14. 教育実習の振り返り（1）　①　教科　②　道徳　③　総合的な学習の時間
15. 教育実習の振り返り（2）　①　学級活動、学校行事等特別活動　②　生徒との関わり
教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JP0010B02
科目名	教育実習Ｂ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice B		
担当者名	眞里谷　隆司	旧科目名称	
授業概要	四回生で行う、「教育実習」とそれにかかわる事前・事後の講義である。中学校で教育実習を行う場合は、「教育実習 A」と「教育実習 B」の両方を履修しなければならない。 事前の学習では、教育実習の概要を知るとともに具体的な準備を行い、事後の学習では、実習での成果と課題を明らかにして、教員となるための準備を行う。		
教材（教科書）	「実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考資料）	とくになし		
教育方法	中等教育の教員を目指すため、学習指導要領に明記されている「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けて、多様な教育方法（指導方法）を用い、体験させる。		
評価方法	授業出の発表２０％、実習ノート２０％、実習校による評価６０％ 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。 学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術 生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導 実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野		
到達目標	・教育実習で必要となる、「学習指導」や「生徒指導」にかかわる知識・技能・能力・態度を身につける。 ・教育実習での体験を通して、教員となるための最終的な準備を行う。		
授業時間外学習	新聞や文献等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。 事前に実習校との連絡をとり、実習の内容、担当する授業の単元などについて理解し、予習しておくておくこと。 実習の終了後は、「実習ノート」をまとめるとともに、「履修カルテ」についても整理し、授業担当者に提出する。その中で指摘された各自に課題に取り組むようにする。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

３週間あるいは４週間におよぶ実習でまず取り組まなければならないのは、やはり学習指導の力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちに興味をもって学習してもらうためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そしてまた、生徒たちのものの考え方、感じ方などの心理的な特性をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。

学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感をもって理解し、生活指導的な働きかけが（安易にそれができると考えてはならないが）少しでもできたならば実習の意義はいっそう高まるだろう。

自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、人間性全体で応えることを忘れないでほしい。

授業スケジュール

1. 学校教育全体で進める教育活動（1）　①　学校教育目標を達成するための教育活動　②　教育活動を進めるための組織体制
2. 学校教育全体で進める教育活動（2）　①　キャリア教育と進路指導　②　人権教育
3. 学校教育全体で進める教育活動（3）　①　体育・健康安全に関する指導（学校体育・スポーツ、学校保健、学校安全、食育・学校給食、性教育等）　②　防災教育
4. 道徳教育と特別な教科「道徳」　①　全教育活動を通して進める道徳教育　②　特別な教科「道徳」の内容　③　特別な教科「道徳」の指導の基本的な在り方　④　特別な教科「道徳」の評価　⑤　特別な教科「道徳」の参観の視点
5. 特別支援教育　①　特別な配慮を必要とする生徒への指導　②　生徒一人一人のニーズに応じた教育
6. 学級活動と学級指導　①　学級活動とは　②　学級指導とは
7. 中学校における生徒指導・教育相談　①　授業・休み時間・清掃時間・放課後　②　特別活動と生徒指導　③　道徳教育と生徒指導

8. 教育実習（1）　学級指導（学級活動、朝学活、終学活）
9. 教育実習（2）　特別な教科「道徳」
10. 教育実習（3）　生徒指導（様々な活動での生徒との関り）
11. 学校教育全体で進める教育活動（4）　①　情報教育　②　環境教育　③　国際理解教育
12. 学校教育全体で進める教育活動（5）　①　福祉教育　②　社会奉仕体験活動を生かした学習
13. 学校教育全体で進める教育活動（6）　①　読書活動　②　校種間連携の推進
14. 教育実習の振り返り（1）　①　教科　②　道徳　③　総合的な学習の時間
15. 教育実習の振り返り（2）　①　学級活動、学校行事等特別活動　②　生徒との関わり
教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JP0010B11
科目名	教育実習Ｂ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice B		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
授業概要	四回生で行う、「教育実習」とそれにかかわる事前・事後の講義である。中学校で教育実習を行う場合は、「教育実習 A」と「教育実習 B」の両方を履修しなければならない。 事前の学習では、教育実習の概要を知るとともに具体的な準備を行い、事後の学習では、実習での成果と課題を明らかにして、教員となるための準備を行う。		
教材（教科書）	「実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考資料）	とくになし		
教育方法	中等教育の教員を目指すため、学習指導要領に明記されている「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けて、多様な教育方法（指導方法）を用い、体験させる。		
評価方法	授業出の発表２０％、実習ノート２０％、実習校による評価６０％ 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。 学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術 生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導 実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野		
到達目標	・教育実習で必要となる、「学習指導」や「生徒指導」にかかわる知識・技能・能力・態度を身につける。 ・教育実習での体験を通して、教員となるための最終的な準備を行う。		
授業時間外学習	新聞や文献等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。 事前に実習校との連絡をとり、実習の内容、担当する授業の単元などについて理解し、予習しておくておくこと。 実習の終了後は、「実習ノート」をまとめるとともに、「履修カルテ」についても整理し、授業担当者に提出する。その中で指摘された各自に課題に取り組むようにする。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

３週間あるいは４週間におよぶ実習でまず取り組まなければならないのは、やはり学習指導の力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちに興味をもって学習してもらうためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そしてまた、生徒たちのものの考え方、感じ方などの心理的な特性をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。

学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感をもって理解し、生活指導的な働きかけが（安易にそれができると考えてはならないが）少しでもできたならば実習の意義はいっそう高まるだろう。

自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、人間性全体で応えることを忘れないでほしい。

授業スケジュール

1. 学校教育全体で進める教育活動（1）　①　学校教育目標を達成するための教育活動　②　教育活動を進めるための組織体制
2. 学校教育全体で進める教育活動（2）　①　キャリア教育と進路指導　②　人権教育
3. 学校教育全体で進める教育活動（3）　①　体育・健康安全に関する指導（学校体育・スポーツ、学校保健、学校安全、食育・学校給食、性教育等）　②　防災教育
4. 道徳教育と特別な教科「道徳」　①　全教育活動を通して進める道徳教育　②　特別な教科「道徳」の内容　③　特別な教科「道徳」の指導の基本的な在り方　④　特別な教科「道徳」の評価　⑤　特別な教科「道徳」の参観の視点
5. 特別支援教育　①　特別な配慮を必要とする生徒への指導　②　生徒一人一人のニーズに応じた教育
6. 学級活動と学級指導　①　学級活動とは　②　学級指導とは
7. 中学校における生徒指導・教育相談　①　授業・休み時間・清掃時間・放課後　②　特別活動と生徒指導　③　道徳教育と生徒指導

8. 教育実習（1）　学級指導（学級活動、朝学活、終学活）
9. 教育実習（2）　特別な教科「道徳」
10. 教育実習（3）　生徒指導（様々な活動での生徒との関り）
11. 学校教育全体で進める教育活動（4）　①　情報教育　②　環境教育　③　国際理解教育
12. 学校教育全体で進める教育活動（5）　①　福祉教育　②　社会奉仕体験活動を生かした学習
13. 学校教育全体で進める教育活動（6）　①　読書活動　②　校種間連携の推進
14. 教育実習の振り返り（1）　①　教科　②　道徳　③　総合的な学習の時間
15. 教育実習の振り返り（2）　①　学級活動、学校行事等特別活動　②　生徒との関わり
教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JP0010B12
科目名	教育実習Ｂ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Practice B		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
授業概要	四回生で行う、「教育実習」とそれにかかわる事前・事後の講義である。中学校で教育実習を行う場合は、「教育実習 A」と「教育実習 B」の両方を履修しなければならない。 事前の学習では、教育実習の概要を知るとともに具体的な準備を行い、事後の学習では、実習での成果と課題を明らかにして、教員となるための準備を行う。		
教材（教科書）	「実習の手引き」その他を配布する。		
教材（参考資料）	とくになし		
教育方法	中等教育の教員を目指すため、学習指導要領に明記されている「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けて、多様な教育方法（指導方法）を用い、体験させる。		
評価方法	授業出の発表２０％、実習ノート２０％、実習校による評価６０％ 実習校での「教育実習成績評価表」の事項は以下の通りであり、これに総合評価が加わる。 学習指導＝基礎学力・知識、教材研究・工夫、指導態度・技術 生活指導＝個別・集団指導、生徒理解、教科外指導 実習態度＝勤務態度・熱意、事務・実務能力、レポートなどの提出、教育的視野		
到達目標	・教育実習で必要となる、「学習指導」や「生徒指導」にかかわる知識・技能・能力・態度を身につける。 ・教育実習での体験を通して、教員となるための最終的な準備を行う。		
授業時間外学習	新聞や文献等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。 事前に実習校との連絡をとり、実習の内容、担当する授業の単元などについて理解し、予習しておくておくこと。 実習の終了後は、「実習ノート」をまとめるとともに、「履修カルテ」についても整理し、授業担当者に提出する。その中で指摘された各自に課題に取り組むようにする。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

３週間あるいは４週間におよぶ実習でまず取り組まなければならないのは、やはり学習指導の力の伸長である。教材の内容をどれほど深く理解するか、そしてそれを生徒たちに興味をもって学習してもらうためにどのように工夫するか、効果的な指導方法と態度を身につけていかなければならない。そしてまた、生徒たちのものの考え方、感じ方などの心理的な特性をしっかり把握しておくことも、指導にとって欠かせない条件である。

学習指導とともに、学級経営の実際にふれ、かつそれに参加することも教育実習の大きな目的の一つである。生徒一人一人の性格、能力、興味を共感をもって理解し、生活指導的な働きかけが（安易にそれができると考えてはならないが）少しでもできたならば実習の意義はいっそう高まるだろう。

自分の未熟さを謙虚にうけとめること、そのうえで誠実に努力すること、かけがえのない経験をあたえてくれた学校と生徒たちに、人間性全体で応えることを忘れないでほしい。

授業スケジュール

1. 学校教育全体で進める教育活動（1）　①　学校教育目標を達成するための教育活動　②　教育活動を進めるための組織体制
2. 学校教育全体で進める教育活動（2）　①　キャリア教育と進路指導　②　人権教育
3. 学校教育全体で進める教育活動（3）　①　体育・健康安全に関する指導（学校体育・スポーツ、学校保健、学校安全、食育・学校給食、性教育等）　②　防災教育
4. 道徳教育と特別な教科「道徳」　①　全教育活動を通して進める道徳教育　②　特別な教科「道徳」の内容　③　特別な教科「道徳」の指導の基本的な在り方　④　特別な教科「道徳」の評価　⑤　特別な教科「道徳」の参観の視点
5. 特別支援教育　①　特別な配慮を必要とする生徒への指導　②　生徒一人一人のニーズに応じた教育
6. 学級活動と学級指導　①　学級活動とは　②　学級指導とは
7. 中学校における生徒指導・教育相談　①　授業・休み時間・清掃時間・放課後　②　特別活動と生徒指導　③　道徳教育と生徒指導

8. 教育実習（1）　学級指導（学級活動、朝学活、終学活）
9. 教育実習（2）　特別な教科「道徳」
10. 教育実習（3）　生徒指導（様々な活動での生徒との関り）
11. 学校教育全体で進める教育活動（4）　①　情報教育　②　環境教育　③　国際理解教育
12. 学校教育全体で進める教育活動（5）　①　福祉教育　②　社会奉仕体験活動を生かした学習
13. 学校教育全体で進める教育活動（6）　①　読書活動　②　校種間連携の推進
14. 教育実習の振り返り（1）　①　教科　②　道徳　③　総合的な学習の時間
15. 教育実習の振り返り（2）　①　学級活動、学校行事等特別活動　②　生徒との関わり
教育実習の期間がそれぞれの実習校で異なるため、時間を変更して講義を行うことがある。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	－	★

年度	2018	授業コード	JP0012001
科目名	教育制度論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Education System		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
授業概要	国家社会における教育制度の柱は、いうまでもなく学校制度である。本講では、学校の歴史、法制、行政など、その制度全般に関わる事項を学ぶとともに、実際の学校の組織と運営、学校安全の目的と取組、学校と地域の連携といった現代の重要な諸課題についても十分な知識や理解を養っていく。		
教材（教科書）	特定の１冊をテキストとして用いることはしない。		
教材（参考資料）	藤田祐介『学校の制度を学ぶ』（2015 年、文化書房博文社）の重要な部分をコピーし、参考文献として適宜授業のなかで配布する。		
教育方法	講義とグループワークを組み合わせて授業をすすめる。また、文科省などによる統計資料、あるいはメディアからの資料（ＴＶ報道、新聞記事など）を多用する。		
評価方法	授業中に課すリポート（３０％）と学期末の筆記試験の成績（７０％）が評価の柱となる。授業への出席は期末試験を受けるための基礎条件で、出席点というようなものはない。逆に出席不良は減点の対象となる。		
到達目標	わが国の学校制度が、公教育としてどのような原理・原則に基づき、どのような構造に組み立てられて運営されているのかを理解し、さらに今日的な運営課題についても知識を深めること。		
授業時間外学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のために参考資料を精読した上で出席すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教職課程の導入部分の科目のひとつである。教職への強い意志はもちろんだが、自分自身の基礎学力に十分な自信をもっていることが受講の条件である。

また普段から、今日の学校教育について広い関心を持ち、マスメディアなどの報道に絶えず目を配る習慣も肝要。

授業スケジュール

1. 講義の概要と目標
2. 学校の意味と役割
3. 公教育の思想
4. 近代公教育制度の誕生
5. 近代日本における学校制度の展開
6. 戦後日本における学校制度の展開
7. 教育法令の体系
8. 教育を受ける権利と義務教育
9. 学校の種類と目的・目標
10. 国の教育行政と学校
11. 地方の教育行政と学校
12. 学校の組織と運営
13. 学校安全の目的と取組み
14. 学校と地域の連携
15. 学期末試験に向けた要点の整理と解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0012002
科目名	教育制度論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Education System		
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
授業概要	国家社会における教育制度の柱は、いうまでもなく学校制度である。本講では、学校の歴史、法制、行政など、その制度全般に関わる事項を学ぶとともに、実際の学校の組織と運営、学校安全の目的と取組、学校と地域の連携といった現代の重要な諸課題についても十分な知識や理解を養っていく。		
教材（教科書）	特定の１冊をテキストとして用いることはしない。		
教材（参考資料）	藤田祐介『学校の制度を学ぶ』（2015 年、文化書房博文社）の重要な部分をコピーし、参考文献として適宜授業のなかで配布する。		
教育方法	講義とグループワークを組み合わせて授業をすすめる。また、文科省などによる統計資料、あるいはメディアからの資料（ＴＶ報道、新聞記事など）を多用する。		
評価方法	授業中に課すリポート（３０％）と学期末の筆記試験の成績（７０％）が評価の柱となる。授業への出席は期末試験を受けるための基礎条件で、出席点というようなものはない。逆に出席不良は減点の対象となる。		
到達目標	わが国の学校制度が、公教育としてどのような原理・原則に基づき、どのような構造に組み立てられて運営されているのかを理解し、さらに今日的な運営課題についても知識を深めること。		
授業時間外学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のために参考資料を精読した上で出席すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教職課程の導入部分の科目のひとつである。教職への強い意志はもちろんだが、自分自身の基礎学力に十分な自信をもっていることが受講の条件である。

また普段から、今日の学校教育について広い関心を持ち、マスメディアなどの報道に絶えず目を配る習慣も肝要。

授業スケジュール

1. 講義の概要と目標
2. 学校の意味と役割
3. 公教育の思想
4. 近代公教育制度の誕生
5. 近代日本における学校制度の展開
6. 戦後日本における学校制度の展開
7. 教育法令の体系
8. 教育を受ける権利と義務教育
9. 学校の種類と目的・目標
10. 国の教育行政と学校
11. 地方の教育行政と学校
12. 学校の組織と運営
13. 学校安全の目的と取組み
14. 学校と地域の連携
15. 学期末試験に向けた要点の整理と解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0012003
科目名	教育制度論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Education System		
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
授業概要	国家社会における教育制度の柱は、いうまでもなく学校制度である。本講では、学校の歴史、法制、行政など、その制度全般に関わる事項を学ぶとともに、実際の学校の組織と運営、学校安全の目的と取組、学校と地域の連携といった現代の重要な諸課題についても十分な知識や理解を養っていく。		
教材（教科書）	特定の１冊をテキストとして用いることはしない。		
教材（参考資料）	藤田祐介『学校の制度を学ぶ』（2015 年、文化書房博文社）の重要な部分をコピーし、参考文献として適宜授業のなかで配布する。		
教育方法	講義とグループワークを組み合わせて授業をすすめる。また、文科省などによる統計資料、あるいはメディアからの資料（ＴＶ報道、新聞記事など）を多用する。		
評価方法	授業中に課すリポート（３０％）と学期末の筆記試験の成績（７０％）が評価の柱となる。授業への出席は期末試験を受けるための基礎条件で、出席点というようなものはない。逆に出席不良は減点の対象となる。		
到達目標	わが国の学校制度が、公教育としてどのような原理・原則に基づき、どのような構造に組み立てられて運営されているのかを理解し、さらに今日的な運営課題についても知識を深めること。		
授業時間外学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のために参考資料を精読した上で出席すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教職課程の導入部分の科目のひとつである。教職への強い意志はもちろんだが、自分自身の基礎学力に十分な自信をもっていることが受講の条件である。

また普段から、今日の学校教育について広い関心を持ち、マスメディアなどの報道に絶えず目を配る習慣も肝要。

授業スケジュール

1. 講義の概要と目標
2. 学校の意味と役割
3. 公教育の思想
4. 近代公教育制度の誕生
5. 近代日本における学校制度の展開
6. 戦後日本における学校制度の展開
7. 教育法令の体系
8. 教育を受ける権利と義務教育
9. 学校の種類と目的・目標
10. 国の教育行政と学校
11. 地方の教育行政と学校
12. 学校の組織と運営
13. 学校安全の目的と取組み
14. 学校と地域の連携
15. 学期末試験に向けた要点の整理と解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0012004
科目名	教育制度論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	The Education System		
担当者名	竹熊　耕一	旧科目名称	
授業概要	国家社会における教育制度の柱は、いうまでもなく学校制度である。本講では、学校の歴史、法制、行政など、その制度全般に関わる事項を学ぶとともに、実際の学校の組織と運営、学校安全の目的と取組、学校と地域の連携といった現代の重要な諸課題についても十分な知識や理解を養っていく。		
教材（教科書）	特定の１冊をテキストとして用いることはしない。		
教材（参考資料）	藤田祐介『学校の制度を学ぶ』（2015 年、文化書房博文社）の重要な部分をコピーし、参考文献として適宜授業のなかで配布する。		
教育方法	講義とグループワークを組み合わせて授業をすすめる。また、文科省などによる統計資料、あるいはメディアからの資料（ＴＶ報道、新聞記事など）を多用する。		
評価方法	授業中に課すリポート（３０％）と学期末の筆記試験の成績（７０％）が評価の柱となる。授業への出席は期末試験を受けるための基礎条件で、出席点というようなものはない。逆に出席不良は減点の対象となる。		
到達目標	わが国の学校制度が、公教育としてどのような原理・原則に基づき、どのような構造に組み立てられて運営されているのかを理解し、さらに今日的な運営課題についても知識を深めること。		
授業時間外学習	講義終了時に、その回の授業と次回の予定範囲のなかのキーワードを挙げる。それらの復習と予習のために参考資料を精読した上で出席すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教職課程の導入部分の科目のひとつである。教職への強い意志はもちろんだが、自分自身の基礎学力に十分な自信をもっていることが受講の条件である。

また普段から、今日の学校教育について広い関心を持ち、マスメディアなどの報道に絶えず目を配る習慣も肝要。

授業スケジュール

1. 講義の概要と目標
2. 学校の意味と役割
3. 公教育の思想
4. 近代公教育制度の誕生
5. 近代日本における学校制度の展開
6. 戦後日本における学校制度の展開
7. 教育法令の体系
8. 教育を受ける権利と義務教育
9. 学校の種類と目的・目標
10. 国の教育行政と学校
11. 地方の教育行政と学校
12. 学校の組織と運営
13. 学校安全の目的と取組み
14. 学校と地域の連携
15. 学期末試験に向けた要点の整理と解説

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0013A01
科目名	教育実習事前指導Ⅰ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	教職演習Ⅰ
授業概要	教育実習の事前指導のための科目である。教育実習を真に実りあるものにするために、本学ではとくにこの演習を設けている。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学校もしくは高等学校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 各自が模擬授業を行う１ヶ月前には科目や単元を教職指導室に連絡し、授業までの計画を作成する。また、少なくとも１週間前には学習指導案を指導教員に一旦は提出する。この期限が守られない場合は、模擬授業を取りやめ、演習を放棄したものとみなす。指導案提出から模擬授業までの期間は、授業や指導案を完成させるために使う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。すべては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる		
教材（教科書）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学習指導案作成における個別指導、模擬授業のための模擬授業における協働学習、模擬授業における実習・体験学習及びロールプレイング・観察法、模擬授業後のフィードバック法及び動画による振り返り法など		
評価方法	討議での発言 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）。		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。		
授業時間外学習	授業づくりや教材研究は一朝一夕では困難である。日頃より情報を収集し、文献や資料を読む努力をしてほしい。 必ず１カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の１週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
毎回出席は当たり前。介護体験や次年度の実習のための諸手続きについても、この授業時に指導がなされるので、介護体験などの理由以外では欠席をしないように。 受講者は、次年度に「教育実習」を履修するだけの単位取得（教職課程だけでなく一般教科もふくめて）ができている者に限る。 自分から意欲的に授業を「見せ合う」ことができるようになってもらいたい。 教育実習を見通して演習を行っている。提出期限の遅れや低い次元での自己満足は許されない。
授業スケジュール
1.オリエンテーション 2.模擬授業参観　①　前年度の受講生の授業を参観する 3.模擬授業参観　②　前年度の受講生の授業を参観する 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で 2 度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.教育実習報告会 15.「履修カルテ」作成　今学期の学習内容のまとめと次学期への課題発見

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2018	授業コード	JP0013A02
科目名	教育実習事前指導Ⅰ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	眞里谷　隆司	旧科目名称	教職演習Ⅰ
授業概要	教育実習の事前指導のための科目である。教育実習を真に実りあるものにするために、本学ではとくにこの演習を設けている。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 各自が模擬授業を行う１ヶ月前には科目や単元を教職指導室に連絡し、授業までの計画を作成する。また、少なくとも１週間前には学習指導案を指導教員に一旦は提出する。この期限が守られない場合は、模擬授業を取りやめ、演習を放棄したものとみなす。指導案提出から模擬授業までの期間は、授業や指導案を完成させるために使う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。す べては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる		
教材（教科書）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	模擬的授業を通し、個別指導を行い教科指導力を養成する。		
評価方法	討議での発言 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）。		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。		
授業時間外学習	授業づくりや教材研究は一朝一夕では困難である。日頃より情報を収集し、文献や資料を読む努力をしてほしい。 必ず１カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の１週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			

毎回出席は当たり前。介護体験や次年度の実習のための諸手続きについても、この授業時に指導がなされるので、介護体験などの理由以外では欠席をしないように。 受講者は、次年度に「教育実習」を履修するだけの単位取得（教職課程だけでなく一般教科もふくめて）ができている者に限る。 自分から意欲的に授業を「見せ合う」ことができるようになってもらいたい。 教育実習を見通して演習を行っている。提出期限の遅れや低い次元での自己満足は許されない。
授業スケジュール
1.オリエンテーション 2.模擬授業参観　①　前年度の受講生の授業を参観する 3.模擬授業参観　②　前年度の受講生の授業を参観する 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で 2 度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.教育実習報告会 15.「履修カルテ」作成　今学期の学習内容のまとめと次学期への課題発見

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2018	授業コード	JP0013A03
科目名	教育実習事前指導Ⅰ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
授業概要	教育実習で行う授業による教科指導の実践力を養うために，本学ではこの授業を設けている。授業の前半は担当の学生が 50 分の模擬授業を行い，他の学生は生徒役として参加する。後半は，行われた模擬授業の改善点などについて受講者全員で話し合いをする。 そして，この授業で最も大切にしているのが模擬授業の事前準備である。担当教員に相談をしながら教材研究を進め，学習指導案（細案）を作成する。その時に，授業に応じた教具の選択をしたり，仲間と共に模擬授業の練習を行ったりする。さらに，模擬授業を担当した学生は，授業後に模擬授業と話し合いを撮影した映像を見ながら自分自身の取組を振り返り，成果と課題を明らかにしていく。 授業の中では，介護等体験実習や教育実習の続きについても適宜伝えていく。さらに，学校現場の授業が参観できる研究発表会の情報なども伝えていく。		
教材（教科書）	教職指導室に準備されている教科書や資料集を使用する。		
教材（参考資料）	授業の内容に関わるものをその都度紹介する。		
教育方法	授業中は，模擬授業の実践と実践された授業について話し合いをする。事前には学習指導案の作成と授業の準備，事後には模擬授業の映像を見ての振り返りを行う。		
評価方法	学習指導案の作成（50%）　模擬授業の準備と実践（30%）　模擬授業の振り返り（10%） 生徒役としての参加態度（10%）		
到達目標	・模擬授業で教科指導ができる。 ・学習指導案（細案）を作成することができる。 ・授業に応じた教具を選択することができる。		
授業時間外学習	担当教員の指導を受けながら，模擬授業までに必ず学習指導案の作成や準備をすること。また，仲間と共に模擬授業の練習を行うこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・受講生には，教育実習事前指導受講の条件を満たしていること，教員免許取得への強い意志と自主的な行動力を求める。
・学習指導案の作成などの模擬授業の十分な準備ができていなければ，模擬授業は行わない。
・模擬授業の準備は，教員に相談をしたり仲間と協力をしたりしながら行うこと。
・生徒役としても，積極的な態度で模擬授業に参加し，授業後の話し合いでも積極的に発言をすること。

授業スケジュール

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：模擬授業参観①　四回生の模擬授業を参観する
第 3 回：模擬授業参観②　四回生の模擬授業を参観する
第 4 回：模擬授業①
第 5 回：模擬授業②
第 6 回：模擬授業③
第 7 回：模擬授業④
第 8 回：模擬授業⑤
第 9 回：模擬授業⑥
第 10 回：模擬授業⑦
第 11 回：模擬授業⑧
第 12 回：模擬授業⑨
第 13 回：模擬授業⑩
第 14 回：模擬授業⑪
第 15 回：教育実習報告会　四回生の教育実習の報告を聞く

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JP0013B01
科目名	教育実習事前指導Ⅱ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
授業概要	教育実習事前指導Ⅰから継続して行う。授業の進め方は同じであるが，内容のさらなる充実を求める。具体的には，模擬授業でより効果的な教科指導が行えるようになるために，他社に授業の構想が伝わる学習指導案（細案）を作成することや，選択した教具を模擬授業の中で活用できるようになることなどを目指す。 授業の中では，介護等体験実習や教育実習の続きについても適宜伝えていく。さらに，学校現場の授業が参観できる研究発表会の情報なども伝えていく。		
教材（教科書）	教職指導室に準備されている教科書や資料集を使用する。		
教材（参考資料）	授業の内容に関わるものをその都度紹介する。		
教育方法	授業中は，模擬授業の実践と実践された授業について話し合いをする。事前には学習指導案の作成と授業の準備，事後には模擬授業の映像を見ての振り返りを行う。		
評価方法	学習指導案の作成（50%）　模擬授業の準備と実践（30%）　模擬授業の振り返り（10%） 生徒役としての参加態度（10%）		
到達目標	・模擬授業でより効果的な教科指導ができる。 ・他者に授業の構想が伝わる学習指導案（細案）を作成することができる。 ・授業に応じた教具を選択し，活用することができる。		
授業時間外学習	担当教員の指導を受けながら，模擬授業までに必ず学習指導案の作成や準備をすること。また，仲間どうして模擬授業の練習を行うこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・受講生には，教育実習事前指導Ⅰを受講していること，教員免許取得への強い意志と自主的な行動力を求める。
・学習指導案の作成などの模擬授業の十分な準備ができていなければ，模擬授業は行わない。
・模擬授業の準備は，教員に相談をしたり仲間と協力をしたりしながら行うこと。
・生徒役としても，積極的な態度で模擬授業に参加し，授業後の話し合いでも積極的に発言をすること。

授業スケジュール

第 1 回：オリエンテーション
第 2 回：模擬授業①
第 3 回：模擬授業②
第 4 回：模擬授業③
第 5 回：模擬授業④
第 6 回：模擬授業⑤
第 7 回：模擬授業⑥
第 8 回：模擬授業⑦
第 9 回：模擬授業⑧
第 10 回：模擬授業⑨
第 11 回：模擬授業⑩
第 12 回：模擬授業⑪
第 13 回：模擬授業⑫
第 14 回：模擬授業⑬
第 15 回：模擬授業⑭

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	★	★★	−

年度	2018	授業コード	JP0013B02
科目名	教育実習事前指導Ⅱ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	眞里谷　隆司	旧科目名称	教職演習Ⅱ
授業概要	「教育実習事前指導Ⅰ」から継続して行う。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学もしくは高校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 「教職演習Ⅱ」では、それまでとは異なる科目、分野・単元での授業づくりを行う。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 春学期から継続し、準備を進める。「教職演習Ⅰ」と同様に期限を守って学習指導案を作り、練習を行う。50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。すべては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる。		
教材（教科書）	教職指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	模擬的授業を通し､個別指導を行い教科指導力を養成する。		
評価方法	討議での発言 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。 これらに加え、教育実習での実習授業や教員となることを意識し、複数の校種、教科などの模擬授業を行う。		
授業時間外学習	模擬授業は授業者だけが学ぶものではない。参観者は講評するだけでなく、授業での不明な点や不十分と考える点を自分で明らかにできるように努力してほしい。その積み重ねが自分の教材研究・授業づくりを質の高いものにしていくことになる。 また、授業を参観する機会を意識して増やそうと努力してほしい。 必ず１カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の１週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、禅宗に授業の概要を説明するので、高等学校の教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。 「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など	
教育実習では実習校の指導計画にあわせて、科目や単元が決まる。苦手なものでも授業を行うことが求められる場合がある。また、教員になれば、教科の内容をすべて受け持つ可能性がある。 このような状況にできるだけ円滑に対応するためにも、さまざまな授業を計画、練習しておく必要がある。「教職演習Ⅱ」では、あえて苦手なものに挑戦する意欲をもって臨んでもらいたい。 介護体験など3回生には忙しい時期となるが、事前の準備をしっかりと行うことを求める。「忙しい」「時間がなかった」は不十分な授業の理由にはならない。満足な授業ができないと判断した場合は、教育実習を辞退してもらうことになる。	
授業スケジュール	
「教職演習Ⅰ」と同様に行う。科目や分野を幅広く選択し、苦手なものを少なくしてほしい。 1.オリエンテーション 2.模擬授業 3.模擬授業 4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する 5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある 6.模擬授業 7.模擬授業 8.模擬授業 9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で2度目の模擬授業を行う 10.模擬授業 11.模擬授業 12.模擬授業 13.模擬授業 14.介護等体験報告会 15.「履修カルテ」作成　本年度のまとめと次年度への課題発見	

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2018	授業コード	JP0013B03
科目名	教育実習事前指導Ⅱ 【教】	単位数	1
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	教職演習Ⅱ
授業概要	「教育実習事前指導Ⅰ」から継続して行う。 複数の教員が分担して学生の個別指導を行ない、その成果を、週１回の授業時に、中学校もしくは高等学校における授業の模擬的実践として発表させる。 学生は、学校教師の実践形式にならい、希望する科目の１時限の単元を他の受講生と担当教員たちの前で展開する。その際、教育実習の「研究授業」と同様の形式で学習指導案（細案）を作成し参観者に配布する。 「教育実習事前指導Ⅱ」では、それまでとは異なる科目、分野・単元での授業づくりを行う。 受講生に対し、教育実習で担当を希望する校種・教科別に、指導教員がつく。 受講生はそれぞれの指導教員のもとで、時間をかけて、単元の選択→教材の選択→資料収集・整理→指導案の作成→指導方法の考案、を行なう。 そのうえで、毎週１回の合同演習の場で、順番に模擬授業を行なう。 ぶっつけ本番で模擬授業をすれば、必ず失敗する。そこで本学の学生たちは、受講生を集めて模擬授業のための模擬授業（模擬のための模擬）を数回行ない、友人のアドヴァイスをもとに計画を組みなおして本番に臨むようにしている。この助け合いが、課程履修者のまとまりと連携、そして各人の力量形成に役立っている。たがいに授業を見せ合うことが大切な学習である。 春学期から継続し、準備を進める。「教育実習事前指導Ⅰ」と同様に期限を守って学習指導案を作り、練習を行う。 50 分の授業が終わると、批評や意見を、すべての教員、学生からもらう。オープンな雰囲気のもとで、遠慮のない活発な意見のやりとりがくり広げられる。厳しい容赦のない批判が出ることが多いが絶望することはない。すべては、「よい授業」というもののあり方を、ともに考え追求しようという協同関係によるものであるから、謙虚に、かつ前向きに受け止めること。また、これらの批評を踏まえ、「事後指導」が行われる。		
教材（教科書）	教職課程指導室に準備されている教科書、資料などを利用する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	学習指導案作成における個別指導、模擬授業のための模擬授業における協働学習、模擬授業における実習・体験学習及びロールプレイング・観察法、模擬授業後のフィードバック法及び動画による振り返り法など		
評価方法	討議での発言 20%、模擬授業の成果 80%（学習指導案の内容も含む）		
到達目標	模擬授業の実践を通して、教科指導の力を養うこと。 教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案)」を作成することができる。 授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。 これらに加え、教育実習での実習授業や教員となることを意識し、複数の校種、教科などの模擬授業を行う。		
授業時間外学習	模擬授業は授業者だけが学ぶものではない。参観者は講評するだけでなく、授業での不明な点や不十分と考える点を自分で明らかにできるように努力してほしい。その積み重ねが自分の教材研究・授業づくりを質の高いものにしていくことになる。 また、授業を参観する機会を意識して増やそうと努力してほしい。 必ず 1 カ月以上前に各自の担当する授業の内容を決定し、教材研究を始める。指導案は担当する日の 1 週間以上前に提出する。その後練習をしながら、修正を加える。 他の受講生の担当の日については、前週に授業の概要を説明するので、中学校や高等学校のときの教科書などを利用してその内容を復習しておくようにすること。 実際の教育実習とは違い、自分で科目や分野・単元を選ぶことができるのだから、時間が足りないということはあり得ない。不十分な学習指導案や授業しかできない場合は、「意欲」という観点から以後の受講を認めない。		

	「良い授業とはどのようなものか」ということを意識し、知識を伝えるだけの授業にならないように心がけてほしい。

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教育実習では実習校の指導計画にあわせて、科目や単元が決まる。苦手なものでも授業を行うことが求められる場合がある。また、教員になれば、教科の内容をすべて受け持つ可能性がある。
このような状況にできるだけ円滑に対応するためにも、さまざまな授業を計画、練習しておく必要がある。「教育実習事前指導Ⅱ」では、あえて苦手なものに挑戦する意欲をもって臨んでもらいたい。
介護体験など３回生には忙しい時期となるが、事前の準備をしっかりと行うことを求める。「忙しい」「時間がなかった」は不十分な授業の理由にはならない。満足な授業ができないと判断した場合は、教育実習を辞退してもらうことになる。

授業スケジュール

「教育実習事前指導Ⅰ」と同様に行う。科目や分野を幅広く選択し、苦手なものを少なくしてほしい。
1.オリエンテーション
2.模擬授業
3.模擬授業
4.模擬授業　　各受講生が順に模擬授業を行い、事後の研究会で授業や指導案について議論する
5.模擬授業　　受講生の人数によって、いくつかのグループに分け、並行して行うこともある
6.模擬授業
7.模擬授業
8.模擬授業
9.模擬授業　　複数の校種・教科の教員免許を取得する受講生は、異なる校種・教科で２度目の模擬授業を行う
10.模擬授業
11.模擬授業
12.模擬授業
13.模擬授業
14.介護等体験報告会
15.「履修カルテ」作成　本年度のまとめと次年度への課題発見

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	★	★	★	★

年度	2018	授業コード	JP0016001
科目名	教職入門 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Teaching Profession		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
授業概要	現代社会に求められている教員の役割・資質能力・職務内容等について理解を深め，教職の意義について考えることにより，教職に対する適性を判断し，進路選択に生かせるようにする。 授業では，教員についての基本的な法令やチーム学校運営，生徒指導，学習指導，教育評価など，教員の職務内容の全体像を具体的に取り上げる。そして，それらについて各自が意見を出し合い，議論することで，教員としての見方や考え方を身につけられるようにする。		
教材（教科書）	林勲編『教育の原理』法律文化社　2300 円（税別）		
教材（参考資料）	授業の内容に関わるものをその都度紹介する。		
教育方法	基本的にはスライドを用いて授業を進め，最後には小レポート（授業内容のまとめ，自分の考えなど）を書いて提出するようにする。また，授業の中では小グループ及び全体で話し合いなどの活動を取り入れていく。		
評価方法	授業内小レポート等による平常点（30%）　学期末試験（70%）		
到達目標	・現代社会に求められている教員の役割・資質能力・職務内容等について具体的に説明できる。 ・教職の意義について考えることにより、教職に対する適性を判断し、進路選択に生かすことができる。 ・教員としての見方や考え方を生かして自分の考えを述べることができる。		
授業時間外学習	毎回の授業の復習を行う。具体的には、授業で取り扱った教科書の該当箇所や資料をもう一度読み直したり、まとめ直したりする。また、教育の時事的な話題は新聞やテレビ、インターネットを通じて入手しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・教員免許の取得目指すものとしてふさわしい態度で授業に臨むこと。ふさわしくない態度であれば指摘をさせてもらう。
・話し合いなどの場面では、積極的に発言をしたり、他者の意見を真摯な態度で聞いたりすること。
・常に思考を働かせること。
・授業内小レポートを書く際は、できるだけ丁寧な文字で書き、用紙すべてを使いきること。

授業スケジュール

第１回：オリエンテーション
第２回：教員の資質能力
第３回：教員の種類と職務
第４回：教員の資格と要件
第５回：教員の任用
第６回：教員の服務
第７回：教員の分限と懲戒
第８回：学校経営への参画「チーム学校運営」
第９回：生徒指導①「生徒指導の意義」
第１０回：生徒指導②「生徒指導の組織と方法」
第１１回：学習指導①「授業実践」
第１２回：学習指導②「指導案作り」
第１３回：学習指導③「学習指導上の注意」
第１４回：教育評価
第１５回：学習指導要領の歴史的変遷

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	JP0016002
科目名	教職入門 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Teaching Profession		
担当者名	田中　曜次	旧科目名称	
授業概要	現在日本では、明治期・戦後改革期とならぶ教育改革が進められている。教育改革が進む中で、求められる教師像も大きく変わろうとしている。本講義では、教師の職務及び教師に必要とされる資質・能力のうち、時代や社会が変わっても必要とされる「不易の部分」と、時代や社会の変化に対応する「流行の部分」の両方を取り上げていきたい。		
教材（教科書）	『学習指導要領』　改訂されているので、授業時に説明する。		
教材（参考資料）	参考文献については、講義内容とかかわるものをその都度紹介する。		
教育方法	講義を中心としている。 授業時の課題についての発表を求めることがある。 課題について相互評価や意見交流を通して省察を行う。		
評価方法	小テスト 30%　（各授業の最後に提出する） 課題レポート 30%　（2 回以上おこなう　課題レポートの未提出は、授業を放棄したものとみなす。） 学期末試験 40% 以上の素点を総合し、このような割合になるように調整する。 自由課題を提示し、救済措置とするが、採点は厳密に行う。		
到達目標	・学校教育や教員について関心を持ち、その概要について理解を進める。 ・教職課程のカリキュラム全体を見通し、計画的に学習を進めることができるようになる。 ・学習指導、生徒指導など学校教育の中心となる活動について理解を進め、基本的な能力を身につける。		
授業時間外学習	・基礎的な学力（知識だけではない）が身についていないと、高い目標を目指すことはできない。「読む」「書く」「調べる」「まとめる」などのことが正確にできるように予習や復習を心がけること。 ・授業の最後に履修内容を確認と予習のための課題を出す。予習と復習繰り返ししながら、課題に取り組むこと。授業の最初に小テストを行う。予習や復習に利用するだけでなく、さらに関連する内容を自分で学んでもらいたい。 ・ボランティアや公開授業など、学校現場に直接かかわる機会を積極的に作り、学んだことを実際に確認できるようにしてもらいたい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
教職への強い意志・真摯な受講態度・学習態度が望まれる。出席重視。 当たり前のことではあるけれど、ノート、ファイルを持ってくる。 試験はノートを持ち込むことを認めている。日頃からノートの整理を心がける。			
授業スケジュール			
1.オリエンテーション 2.教育にかかわる問題（学力低下など） 3.教育にかかわる問題（学校の国際化など） 4.教職員の種類と職務（教員の資格と要件） 5.教職員の種類と職務（教員の任用） 6.教職員の種類と職務（教員の服務　教員の分限と懲戒） 7.教員の資質・能力（学習指導） 8.教員の資質・能力（教材研究） 9.教員の資質・能力（授業研究） 10.教員の資質・能力（教育評価） 11.教員の資質・能力（生徒理解） 12.教員の資質・能力（生徒指導） 13.教員の資質・能力（学校経営への参画）			

14.教員の研修
15.教育改革と学校（今後の学校について考える）
定期試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JP0016003
科目名	教職入門 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Teaching Profession		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
授業概要	現代社会に求められている教員の役割・資質能力・職務内容等について理解を深め，教職の意義について考えることにより，教職に対する適性を判断し，進路選択に生かせるようにする。 授業では，教員についての基本的な法令やチーム学校運営，生徒指導，学習指導，教育評価など，教員の職務内容の全体像を具体的に取り上げる。そして，それらについて各自が意見を出し合い，議論することで，教員としての見方や考え方を身につけられるようにする。		
教材（教科書）	林勲編『教育の原理』法律文化社　2300 円（税別）		
教材（参考資料）	授業の内容に関わるものをその都度紹介する。		
教育方法	基本的にはスライドを用いて授業を進め，最後には小レポート（授業内容のまとめ，自分の考えなど）を書いて提出するようにする。また，授業の中では小グループ及び全体で話し合いなどの活動を取り入れていく。		
評価方法	授業内小レポート等による平常点（30%）　学期末試験（70%）		
到達目標	・現代社会に求められている教員の役割・資質能力・職務内容等について具体的に説明できる。 ・教職の意義について考えることにより、教職に対する適性を判断し、進路選択に生かすことができる。 ・教員としての見方や考え方を生かして自分の考えを述べることができる。		
授業時間外学習	毎回の授業の復習を行う。具体的には、授業で取り扱った教科書の該当箇所や資料をもう一度読み直したり、まとめ直したりする。また、教育の時事的な話題は新聞やテレビ、インターネットを通じて入手しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・教員免許の取得目指すものとしてふさわしい態度で授業に臨むこと。ふさわしくない態度であれば指摘をさせてもらう。
・話し合いなどの場面では、積極的に発言をしたり、他者の意見を真摯な態度で聞いたりすること。
・常に思考を働かせること。
・授業内小レポートを書く際は、できるだけ丁寧な文字で書き、用紙すべてを使いきること。

授業スケジュール

第１回：オリエンテーション
第２回：教員の資質能力
第３回：教員の種類と職務
第４回：教員の資格と要件
第５回：教員の任用
第６回：教員の服務
第７回：教員の分限と懲戒
第８回：学校経営への参画「チーム学校運営」
第９回：生徒指導①「生徒指導の意義」
第１０回：生徒指導②「生徒指導の組織と方法」
第１１回：学習指導①「授業実践」
第１２回：学習指導②「指導案作り」
第１３回：学習指導③「学習指導上の注意」
第１４回：教育評価
第１５回：学習指導要領の歴史的変遷

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	JP0017A02
科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Cibics I		
担当者名	奥野　浩之	旧科目名称	
授業概要	将来，社会科の教師として，中学校の教壇に立つ諸君とともに，社会科・公民科教育の原理及び実践について，考察していきたい。そこで，この科目においては，中学校社会科の学習指導要領を常時座右に置かせ，随時，教場において小レポート，小テストなどを行い，更に，ミニ模擬授業と期末レポートを課す。 中学校社会科教師としての専門性を深め必要な指導理念の確立をはかるために，現代社会と社会科公民的分野との関連性に言及しながら，社会科公民的分野の意義，目標，内容について考察していく。授業では，中学校社会科の年間指導計画や学習指導案の作成をレポートとして課し，それらの相互評価を行う。なお，授業づくりに際しては背景となる学問領域との関係に留意し，効果的な授業形態・メディアなどについても考察する。		
教材（教科書）	1 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 2 東京書籍編『新編 新しい社会 公民』東京書籍（2016 年）		
教材（参考資料）	講義で必要に応じて紹介する。		
教育方法	講義と演習を組み合わせて行う。		
評価方法	グループ作業の成果等　30% 小レポート　30% 期末レポート　40%		
到達目標	①教科教育学の研究動向を背景に，中学校社会科公民的分野について，社会認識の育成を目指した原理，目標，内容を理解し，説明できるようになる。 ②学習指導要領をふまえた上で，中学校社会科公民的分野の年間指導計画の作成，教材研究，学習指導案の作成を通じて，授業実践に臨む態度と技能を示すことが出来る。 ③社会諸科学の研究成果を活用し，教材研究・開発を行うことの重要性を認識できるようになる。		
授業時間外学習	・社会の動きを知り、授業の種を見つけるためにも、テレビ・ウェブ・新聞・雑誌などから情報を収集してほしい。 ・これまで受けてきた授業や、多様な指導案・テレビの教育番組を通して「良い授業」「悪い授業」について考えてもらいたい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．この講義では、授業を「受ける」側から「作る」側に視点を転換してもらいたい。そのため、①遅刻・欠席などには厳しく取り組むこと、②講義において活動に積極的にとりくむこと、③子ども達や社会状況をめぐる動きを探ること、を意識的に行ってもらいたい。 2．第１回の講義でこれからの進め方について説明を行う。資料を読んで、内容を理解してもらいたい。			
授業スケジュール			
第１回　社会科・公民科教育の意義 第２回　社会科・公民科教育の歴史 第３回　社会的意識と社会認識 第４回　中学校社会科公民的分野の授業（1）教授・学習過程 第５回　中学校社会科公民的分野の授業（2）教授・学習形態 第６回　中学校社会科公民的分野の授業（3）学習評価 第７回　中学校社会科公民的分野の授業（4）政治的な課題 第８回　中学校社会科公民的分野の授業（5）経済的な課題 第９回　中学校社会科公民的分野の授業（6）国際的な課題			

第 10 回　中学校社会科公民的分野の授業計画（1）年間指導計画作成演習
第 11 回　中学校社会科公民的分野の授業計画（2）授業記録と授業分析
第 12 回　中学校社会科公民的分野の授業計画（3）学習指導案作成演習
第 13 回　中学校社会科公民的分野の授業計画（4）政治に関わる単元のミニ模擬授業
第 14 回　中学校社会科公民的分野の授業計画（5）経済に関わる単元のミニ模擬授業
第 15 回　中学校社会科公民的分野の授業計画（6）国際問題に関わる単元のミニ模擬授業

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JP0017B02
科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Cibics Ⅱ		
担当者名	奥野　浩之	旧科目名称	
授業概要	社会科・公民科教育の理論について原理的理解をさらに深めること，また，実践について技術・技能と内容構成の向上を目標としている。授業では学習指導案の作成と模擬授業を中心に据えることとなる。将来，社会科の教師として，中学校の教壇に立つことを強く希望する諸君とともに，社会科・公民科教育の原理及び実践について考察し，教材研究・授業づくりを行っていきたい。 なお，行った授業を素材にストップ・モーション方式などを用い，分析，評価をいかにしてするか演習してもらう。教場では，随時，作業などを行う。		
教材（教科書）	1 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 2 東京書籍編『新編 新しい社会 公民』東京書籍（2016 年）		
教材（参考資料）	講義で必要に応じて紹介する。		
教育方法	講義と演習を組み合わせて行う。		
評価方法	グループ作業の成果等　30% 模擬授業　30% 期末レポート　40%		
到達目標	①中学校社会科公民的分野について，学習指導要領をより一層理解し，その趣旨を活かして学習指導案の改善，改良ができるようになる。 ②中学校社会科学習指導要領および検定済中学校社会科教科書をもとにして，教材研究のポイントを理解したうえで学習指導案を作成し，作成した指導案に沿った模擬授業などを行うことにより，授業実践に望む態度と技能を示すとともに授業改善・改良ができるようになる。		
授業時間外学習	・社会の動きを知り、授業の種を見つけるためにも、テレビ・ウェブ・新聞・雑誌などから情報を収集してほしい。 ・これまで受けてきた授業や、多様な指導案・テレビの教育番組を通して「良い授業」「悪い授業」について考えてもらいたい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
1．この講義では、授業を「受ける」側から「作る」側に視点を転換してもらいたい。そのため、①遅刻・欠席などには厳しく取り組むこと、②講義において活動に積極的にとりくむこと、③子ども達や社会状況をめぐる動きを探ること、を意識的に行ってもらいたい。 2．第１回の講義でこれからの進め方について説明を行う。資料を読んで、内容を理解してもらいたい。			
授業スケジュール			
第１回　社会科・公民科教育の理論 第２回　中学校社会科公民的分野の位置と役割 第３回　中学校社会科公民的分野の学習指導要領／教科書と教材研究 第４回　中学校社会科公民的分野の学習指導要領と社会科見学／調査演習 第５回　中学校社会科公民的分野の学習指導要領と学習指導案作成のポイント 第６回　中学校社会科公民的分野の実践記録に学ぶ（1）実践記録（著作など）からのよみとり 第７回　中学校社会科公民的分野の実践記録に学ぶ（2）授業ビデオからのよみとり 第８回　中学校社会科公民的分野の模擬授業とその検討（1）現代社会と私たちの生活 第９回　中学校社会科公民的分野の模擬授業とその検討（2）個人の尊重と日本国憲法 第 10 回　中学校社会科公民的分野の模擬授業とその検討（3）現代の民主政治と社会			

第 11 回　中学校社会科公民的分野の模擬授業とその検討（4）私たちの暮らしと経済
第 12 回　中学校社会科公民的分野の模擬授業とその検討（5）地球社会と私たち
第 13 回　中学校社会科公民的分野における ICT の活用（1）e ラーニングを利用した反転学習
第 14 回　中学校社会科公民的分野における ICT の活用（2）電子黒板を活用した授業の可能性
第 15 回　まとめ―持続可能な社会の実現に向けた社会科・公民科教育

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JP0018A02
科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ　【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Social Studies I		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
授業概要	中学校社会科地理的分野，歴史的分野，高等学校地理歴史科の授業づくりを行う方法を身に付ける。学習指導要領解説と教科書などの具体的な教材を用いて実際に教材研究を行いながら，生徒が主体的に考えることができる授業づくりをするための考え方を習得していく。また，教材研究の成果を学習指導案にまとめていく。		
教材（教科書）	中学校学習指導要領解説　社会編（平成 29 年 6 月　文部科学省） 高等学校学習指導要領解説　地理歴史編（平成 26 年 1 月　文部科学省）		
教材（参考資料）	教科書，資料集など		
教育方法	教材について調べたことを持ち寄り，受講生全員で生徒が主体的に考えることができる授業づくりのための教材研究を行い，最後は学習指導案にまとめていく。		
評価方法	課題（40%）授業中の発言（10%）学習指導案（20%）学期末試験（30%）		
到達目標	・学習指導要領解説と教科書などの具体的な教材を用いて教材研究ができる。 ・教材研究を基に、生徒が主体的に考えることができる授業づくりをするための考え方を例示できる。 ・教材研究の成果を学習指導案にまとめることができる。		
授業時間外学習	毎回課題を出すので，その課題についてあらゆるメディアを駆使して調べてくること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・必ず，課題を終えてから授業に臨むこと。 ・授業では話し合いを中心とするので，積極的に発言をしたり，他者の意見を真摯な態度で聞いたりすること。			
授業スケジュール			
第１回：オリエンテーション（授業の進め方、社会科の歴史） 第２回：小学校・中学校・高等学校の地理学習・歴史学習の目標と内容、学習指導案の書き方 第３回：教材研究：中学地理「世界と日本の地域構成」 第４回：教材研究：中学地理「世界の様々な地域」 第５回：教材研究：中学地理「日本の様々な地域」 第６回：教材研究：高校地理「様々な地図と地理的技能」 第７回：教材研究：高校地理「現代世界の系統地理的考察」 第８回：教材研究：高校地理「現代社会の地誌的考察」 第９回：教材研究：高校地理「現代社会の特色と諸課題の地域的考察」 第１０回：教材研究：高校地理「生活圏の諸課題の地理的考察」 第１１回：教材研究：中高歴史「古代までの日本」 第１２回：教材研究：中高歴史「中世の日本」 第１３回：教材研究：中高歴史「近世の日本」 第１４回：教材研究：中高歴史「近代の日本と世界」 第１５回：教材研究：中高歴史「現代の日本と世界」			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	★	★★	−

年度	2018	授業コード	JP0018B02
科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Teaching Method : Social Studies Ⅱ		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
授業概要	中学校社会科地理的分野，歴史的分野，高等学校地理歴史科の授業づくりを行う方法を身に付ける。学習指導要領解説と教科書などの具体的な教材を用いて実際に教材研究を行い，作成した指導案を基に模擬授業をして生徒が主体的に考えることができる授業を行う技能を高めていく。また，様々な授業の場面に応じた教具（情報機器）の使用方法も身に付けていく。		
教材（教科書）	中学校学習指導要領解説　社会編（平成 29 年 6 月　文部科学省） 高等学校学習指導要領解説　地理歴史編（平成 26 年 1 月　文部科学省）		
教材（参考資料）	教科書，資料集など		
教育方法	教材研究をして作成した指導案を基に模擬授業を行っていく。授業後は授業内容を検証し，教材研究や指導案と授業実践のつながりについて考えていく。さらに，黒板での板書から情報機器まで，様々な教具の有効活用の仕方についても考えていく。		
評価方法	学習指導案（30%）模擬授業（30%）生徒役としての態度（20%）授業後の話し合いでの発言（20%）		
到達目標	・作成した指導案を基に生徒が主体的に考えることを意識した模擬授業を行うことができる。 ・様々な授業の場面に応じた教具（情報機器）の基礎的な使用ができる。 ・模擬授業を基に、生徒が主体的に考えることができる授業づくりをするための考え方を例示できる。		
授業時間外学習	出された課題について，あらゆるメディアを駆使して調べてくること。 模擬授業で使用する学習指導案は，模擬授業までに必ず完成させること。完成までに必ず数度の添削指導を受けること。さらに，必要であれば模擬授業の練習もしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・必ず，課題を終えてから授業に臨むこと。
・模擬授業を行うものだけではなく，生徒役も学ぶべきことがたくさんあることを意識して授業に臨むこと。
・話し合いのときは積極的に発言をしたり，他者の意見を真摯な態度で聞いたりすること。

授業スケジュール

第１回：オリエンテーション（授業の進め方）
第２回：教材研究：高校世界史「世界史への扉」
第３回：教材研究：高校世界史「諸地域の世界の形成」
第４回：教材研究：高校世界史「諸地域世界の交流と再編」
第５回：教材研究：高校世界史「諸地域政界の結合と変容」
第６回：教材研究：高校世界史「地球世界の到来」
第７回：模擬授業：地理
第８回：模擬授業：地理
第９回：模擬授業：地理
第１０回：模擬授業：地理
第１１回：模擬授業：歴史
第１２回：模擬授業：歴史
第１３回：模擬授業：歴史
第１４回：模擬授業：歴史
第１５回：模擬授業：歴史

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	JP0022001
科目名	生徒・進路指導論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Guidance		
担当者名	坂口　義裕	旧科目名称	
授業概要	学校における生徒指導と進路指導の目的及び意義を理解し具体的な展開例と方法論を学ぶ。また、これらの方法論が学校の現場でどのように適用されているか等の具体的な問題と指導実践の方法と体制の理解を深める。さらに、キャリア形成の観点から生徒指導と進路指導がめざす方向性の基本的理解を促す。		
教材（教科書）	なし。レジュメを用意する。		
教材（参考資料）	「生徒指導提要」(著作権所有)文部科学省　（出版社）教育図書　　価格２７６円＋税		
教育方法	講義に加えて、グループ討議及び発表と講義のまとめ。		
評価方法	授業時に提出する小レポート及び授業時の議論内容と参加状況 30% ・課題レポート 30% ・学期末試験 40%		
到達目標	生徒指導及び進路指導の基本的な理論及びそれらの諸問題について理解を深める。併せて教員として生徒指導と進路指導の実践的指導力の基礎・基本の育成をめざす。		
授業時間外学習	事前学習として、各回の授業内容について関心をもち、参考文献・教育誌・新聞等により予習を行いまとめておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義形式を基本としつつ、授業内容によりグループ討議・発表等を取り入れ、また各回の授業では受講者が考えをまとめ表現する時間をもつので、主体的に授業に参加すること。			
授業スケジュール			
第１回：ガイダンス　生徒指導の理念と基本原理 第２回：生徒指導と教育課程 第３回：生徒指導と生徒理解 第４回：生徒指導と教育相談 第５回：学級経営と生徒指導及び学校における指導体制 第６回：不登校問題と生徒指導 第７回：いじめ問題と生徒指導 第８回：生徒指導の今日的課題と展望 第９回：.生徒指導と法規関係 第１０回：学校を中心にした家庭・地域・関係機関との連携 第１１回：保護者から寄せられる相談・苦情・要求 第１２回：事例演習 生徒からの相談 第１３回：事例演習 保護者からの相談 第１４回：キャリア教育と進路指導 第１５回：生徒指導と進路指導・キャリア教育 定期試験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JP0022002
科目名	生徒・進路指導論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Guidance		
担当者名	坂口　義裕	旧科目名称	
授業概要	学校における生徒指導と進路指導の目的及び意義を理解し具体的な展開例と方法論を学ぶ。また、これらの方法論が学校の現場でどのように適用されているか等の具体的な問題と指導実践の方法と体制の理解を深める。さらに、キャリア形成の観点から生徒指導と進路指導がめざす方向性の基本的理解を促す。		
教材（教科書）	なし。レジュメを用意する。		
教材（参考資料）	「生徒指導提要」(著作権所有)文部科学省　（出版社）教育図書　　価格２７６円＋税		
教育方法	講義に加えて、グループ討議及び発表と講義のまとめ。		
評価方法	授業時に提出する小レポート及び授業時の議論内容と参加状況 30% ・課題レポート 30% ・学期末試験 40%		
到達目標	生徒指導及び進路指導の基本的な理論及びそれらの諸問題について理解を深める。併せて教員として生徒指導と進路指導の実践的指導力の基礎・基本の育成をめざす。		
授業時間外学習	事前学習として、各回の授業内容について関心をもち、参考文献・教育誌・新聞等により予習を行いまとめておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義形式を基本としつつ、授業内容によりグループ討議・発表等を取り入れ、また各回の授業では受講者が考えをまとめ表現する時間をもつので、主体的に授業に参加すること。			
授業スケジュール			
第１回：ガイダンス　生徒指導の理念と基本原理 第２回：生徒指導と教育課程 第３回：生徒指導と生徒理解 第４回：生徒指導と教育相談 第５回：学級経営と生徒指導及び学校における指導体制 第６回：不登校問題と生徒指導 第７回：いじめ問題と生徒指導 第８回：生徒指導の今日的課題と展望 第９回：.生徒指導と法規関係 第１０回：学校を中心にした家庭・地域・関係機関との連携 第１１回：保護者から寄せられる相談・苦情・要求 第１２回：事例演習 生徒からの相談 第１３回：事例演習 保護者からの相談 第１４回：キャリア教育と進路指導 第１５回：生徒指導と進路指導・キャリア教育 定期試験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JP0023001
科目名	道徳教育の指導法 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Study on Moral Education		
担当者名	牧﨑　幸夫	旧科目名称	
授業概要	道徳の意義を踏まえ、学習指導要領に示された道徳教育の目標、内容等について理解するとともに、道徳教育の「要」とされる道徳科の学習指導案作成や模擬授業等を行いながら実践的指導力の基礎を身につける。		
教材（教科書）	『楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる』牧﨑幸夫他、ミネルヴァ書房		
教材（参考資料）	『楽しく豊かな道徳科の授業をつくる』牧﨑幸夫他、ミネルヴァ書房 『道徳教育とは何だろう』横山利弘、暁教育図書 『道徳教育、画餅からの脱却』横山利弘、暁教育図書 『中学校読み物資料集』文部科学省、廣済堂あかつき 『私たちの道徳　中学校』文部科学省、廣済堂あかつき 『やさしく学ぶ道徳教育』金光靖樹他、ミネルヴァ書房		
教育方法	主として道徳科で使用する教材を分析し、学習指導案の作成や模擬授業等を行い、指導法を学んでいく。		
評価方法	定期試験（55%）、小テスト（20%）、レポート提出（25%）		
到達目標	1　道徳の意義及び必要性を理解している。 2　学習指導要領に示された道徳教育の目標や内容等を理解している。 3　道徳科について、人間としての生き方についての考えを深める授業を行うための学習指導案が作成 できる。		
授業時間外学習	1　道徳教育に係る各種研究会や小中学校で行われる公開授業等の日程を紹介するので、積極的に参加すること。 2　道徳科の教材を配布し、中心発問や内容項目を考えてくるよう宿題を出し、次回の授業の最初に発　表させるので準備しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学習指導要領が改訂され、平成 31 年度からは道徳が教科化される。教育実習では道徳の授業をすることはもちろん、教員採用試験の筆記試験や面接、模擬授業などで道徳に関する出題が多くなることも予想される。本授業は、教壇に立って実際に道徳の授業ができるようになるために、学習指導案の作成や模擬授業に重点を置いて行うことにしている。授業を受ける際には、生徒や保護者の信頼に応えられる教員を目指しているという自覚をもって受講すること。具体的には、遅刻や私語の禁止、提出物の期限内提出など、生徒を指導する立場の教員としてふさわしい言動を求める。

授業スケジュール

第１回：道徳教育の意義　　－なぜ、今、道徳なのか－
〈キーワード：道徳とは、生徒指導と道徳教育、道徳の教科化１、道徳と生徒指導〉
第２回：道徳教育の目標と内容
－道徳教育の目標と内容はどのように示されているのか－
〈キーワード：道徳性、内容項目〉
第３回：道徳教育の変遷
－学習指導要領における道徳教育はどのように改訂されてきたのか－
〈キーワード：学習指導要領の改訂、道徳の教科化２〉
第４回：道徳科の授業の実際　　－道徳科の授業はどのように行われているのか－
〈キーワード：道徳科の授業、読み物教材、教材分析〉
第５回：道徳科の学習指導案（１）
－生き方を考える授業を行うための指導案作成は、どのような手順によるのか－
〈キーワード：学習指導案とは、学習指導案の様式、作成手順〉
第６回：道徳科の学習指導案（２）
－物事を多面的・多角的に考える中心発問はどのように作るのか－
〈キーワード：中心発問、多面的・多角的、補助発問〉

第７回：道徳科の学習指導案（３）　－中心発問につなぐ基本発問はどのように作るのか－
〈キーワード：発問構成、基本発問、導入段階の発問〉
第８回：道徳科の学習指導案（４）　－「指導上の留意点」はどのように書くのか－
〈キーワード：学習活動、指導上の留意点〉
第９回：道徳科の授業（１）　－自主性や自律性を育てる授業をどうつくるのか－
〈キーワード：自主・自律、自由と責任、道徳と学力〉
第１０回：道徳科の授業（２）－思いやりを育てる授業をどうつくるのか－
〈キーワード：思いやり、感謝、感想文、道徳だより〉
第１１回：道徳科の授業（３）－よりよく生きる喜びを育てる授業をどうつくるのか－
〈キーワード：よりよく生きる喜び、現代的な課題と道徳〉
第１２回：道徳科の授業（４）－生命の尊さを考える授業をどうつくるのか－
〈キーワード：生命の尊重、問題解決的な学習、体験的な学習〉
第１３回：道徳科の授業（５）－規範意識を育てる授業をどうつくるのか－
〈キーワード：規範意識、公徳心、公正・公平、社会正義、いじめ問題と道徳教育〉
第１４回：学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育
－道徳教育の全体計画、道徳科の年間指導計画はどのように作成するのか－
〈キーワード：道徳教育推進教師、道徳教育の全体計画、道徳科の年間指導計画、家庭や地域社会との連携〉
第１５回：まとめ　－道徳の教科化を見据えて－
〈キーワード：道徳科の評価、教育実習〉
定期試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JP0023002
科目名	道徳教育の指導法 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Study on Moral Education		
担当者名	牧﨑　幸夫	旧科目名称	
授業概要	道徳の意義を踏まえ、学習指導要領に示された道徳教育の目標、内容等について理解するとともに、道徳教育の「要」とされる道徳科の学習指導案作成や模擬授業等を行いながら実践的指導力の基礎を身につける。		
教材（教科書）	『楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる』牧﨑幸夫他、ミネルヴァ書房		
教材（参考資料）	『楽しく豊かな道徳科の授業をつくる』牧﨑幸夫他、ミネルヴァ書房 『道徳教育とは何だろう』横山利弘、暁教育図書 『道徳教育、画餅からの脱却』横山利弘、暁教育図書 『中学校読み物資料集』文部科学省、廣済堂あかつき 『私たちの道徳　中学校』文部科学省、廣済堂あかつき 『やさしく学ぶ道徳教育』金光靖樹他、ミネルヴァ書房		
教育方法	主として道徳科で使用する教材を分析し、学習指導案の作成や模擬授業等を行い、指導法を学んでいく。		
評価方法	定期試験（55%）、小テスト（20%）、レポート提出（25%）		
到達目標	1　道徳の意義及び必要性を理解している。 2　学習指導要領に示された道徳教育の目標や内容等を理解している。 3　道徳科について、人間としての生き方についての考えを深める授業を行うための学習指導案が作成 できる。		
授業時間外学習	1　道徳教育に係る各種研究会や小中学校で行われる公開授業等の日程を紹介するので、積極的に参加すること。 2　道徳科の教材を配布し、中心発問や内容項目を考えてくるよう宿題を出し、次回の授業の最初に発　表させるので準備しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学習指導要領が改訂され、平成 31 年度からは道徳が教科化される。教育実習では道徳の授業をすることはもちろん、教員採用試験の筆記試験や面接、模擬授業などで道徳に関する出題が多くなることも予想される。本授業は、教壇に立って実際に道徳の授業ができるようになるために、学習指導案の作成や模擬授業に重点を置いて行うことにしている。授業を受ける際には、生徒や保護者の信頼に応えられる教員を目指しているという自覚をもって受講すること。具体的には、遅刻や私語の禁止、提出物の期限内提出など、生徒を指導する立場の教員としてふさわしい言動を求める。

授業スケジュール

第１回：道徳教育の意義　　－なぜ、今、道徳なのか－
〈キーワード：道徳とは、生徒指導と道徳教育、道徳の教科化１、道徳と生徒指導〉
第２回：道徳教育の目標と内容
－道徳教育の目標と内容はどのように示されているのか－
〈キーワード：道徳性、内容項目〉
第３回：道徳教育の変遷
－学習指導要領における道徳教育はどのように改訂されてきたのか－
〈キーワード：学習指導要領の改訂、道徳の教科化２〉
第４回：道徳科の授業の実際　　－道徳科の授業はどのように行われているのか－
〈キーワード：道徳科の授業、読み物教材、教材分析〉
第５回：道徳科の学習指導案（１）
－生き方を考える授業を行うための指導案作成は、どのような手順によるのか－
〈キーワード：学習指導案とは、学習指導案の様式、作成手順〉
第６回：道徳科の学習指導案（２）
－物事を多面的・多角的に考える中心発問はどのように作るのか－
〈キーワード：中心発問、多面的・多角的、補助発問〉

第７回：道徳科の学習指導案（３）　－中心発問につなぐ基本発問はどのように作るのか－
〈キーワード：発問構成、基本発問、導入段階の発問〉
第８回：道徳科の学習指導案（４）　－「指導上の留意点」はどのように書くのか－
〈キーワード：学習活動、指導上の留意点〉
第９回：道徳科の授業（１）　－自主性や自律性を育てる授業をどうつくるのか－
〈キーワード：自主・自律、自由と責任、道徳と学力〉
第１０回：道徳科の授業（２）－思いやりを育てる授業をどうつくるのか－
〈キーワード：思いやり、感謝、感想文、道徳だより〉
第１１回：道徳科の授業（３）－よりよく生きる喜びを育てる授業をどうつくるのか－
〈キーワード：よりよく生きる喜び、現代的な課題と道徳〉
第１２回：道徳科の授業（４）－生命の尊さを考える授業をどうつくるのか－
〈キーワード：生命の尊重、問題解決的な学習、体験的な学習〉
第１３回：道徳科の授業（５）－規範意識を育てる授業をどうつくるのか－
〈キーワード：規範意識、公徳心、公正・公平、社会正義、いじめ問題と道徳教育〉
第１４回：学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育
－道徳教育の全体計画、道徳科の年間指導計画はどのように作成するのか－
〈キーワード：道徳教育推進教師、道徳教育の全体計画、道徳科の年間指導計画、家庭や地域社会との連携〉
第１５回：まとめ　－道徳の教科化を見据えて－
〈キーワード：道徳科の評価、教育実習〉
定期試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JP0024001
科目名	特別活動論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Extra-curriculum Activity		
担当者名	今西　幸蔵	旧科目名称	
授業概要	特別活動とは学級活動やホームルーム活動、生徒会、それに学校行事などを総称する教科・科目外の教育活動を指し、その教育的営為は生徒の学習力を育成する上で重要であると認識されている。学習指導要領をふまえて、学級活動やホームルーム活動、生徒会、学校行事の内容と方法について学修する。さらに、特別活動の本質である集団組織と活動の在り方、人間関係づくりの理論についても講義する。本講義が教職課程のプログラムとして位置づけられており、受講生が教員志望者であることから、ディプロマ・ポリシーの視点からも実際の学校現場での集団活動の進め方やリーダーシップの育成方法などについて応用できる力量を形成することが求められている。適宜、アクティブラーニングなどの実践的な教育内容・方法をとおして授業を進める。		
教材（教科書）	今西幸蔵・古川　治・矢野裕俊『教職に関する基礎知識』（八千代出版） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（ぎょうせい）		
教材（参考資料）	立田慶裕・今西幸蔵『学校教員の現代的課題』（法律文化社） 林　　勲『教育の原理』（法律文化社） 長尾和英『教職と人間形成』（八千代出版） ほか今西幸蔵編『特別活動の指導法資料集』などの資料を適宜配付する。		
教育方法	基本的には講義が主となるが、学習指導要領の考え方をふまえて主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）につながる教育方法を取り入れる。学級指導、生徒会指導や学校行事指導計画の実際や応用については、学生間でのグループ・ディスカッションやブレーンストーミング、ディベートなどのワークショップを行い、討議法による実践的活動を実施し、特別活動の指導モデルを探ることになる。また適宜、ジクソー法によるディスカッションなども実施し、学生の意欲や関心を高める。		
評価方法	授業時に配付する小レポート（60%）、演習課題（40%）等から総合的に評価する。		
到達目標	１．教科・科目外の教育活動である特別活動の意義や特性についてよく理解すること。 ２．学校現場で役に立つ特別活動の指導法を理解し、教員として実践できるようになること。 ３．実際的なスキルを身につけるための演習を通して、能動的な学習者を育成する態度を身につけること。 ４．アクティブラーニングの進め方を理解し、体験的問題解決学習が指導できるようになること。		
授業時間外学習	シラバスによって計画された学習内容や前時に予告された課題について各自が予習することを求める。その際には教科書や事前に配付された資料を活用することはもちろんのこと、基本的な語句や事項については図書館資料や IT 資料などで確認することが必要である。また授業で課される小課題や小レポートの作成をとおして振り返り学習を行い、授業等で得られた知見や実務的スキルを自分のものとする復習が望まれる。予習や復習に 30 分以上の時間をかけて欲しい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

教職に就こうとする者を対象とする授業であるところから、教員養成の視点から学生諸君に接することを伝えておきたい。具体的には、出席はもとより遅刻についても厳しく対応する。また準備学習で示した内容について実行していただくことを期待する。また本授業は講義に加えて演習的な内容もあるので、能動的に参加することを求める。

授業スケジュール

1.学習指導要領と特別活動の考え方
２．特別活動の歴史と課外活動
３．特別活動の意義と教育課程
４．学級活動・ホームルーム活動
５．学級活動の企画・立案
６．児童会・生徒会活動
７．生徒会の組織と運営

8．学校行事の内容
9．学校行事の企画・立案
10．授業のデザインとアクティブラーニング
11．いじめ問題への対応と仲間づくり
12．チームワークづくり、人間関係・リーダーシップ論
13．討議法と自己表現・自己開示の方法
14．体験的問題解決学習
15．特別活動の評価

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★★	－	★	★	－

年度	2018	授業コード	JP0024002
科目名	特別活動論 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Extra-curriculum Activity		
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
授業概要	学校における様々な構成の集団活動において，課題の発見や解決を行い，よりよい集団や学校生活を目指して行われる特別活動について，学習指導要領解説に基づいて理解を深めていく。さらに，学校現場でより効果的な学習活動をするための指導計画の作成における基礎的な知識や考え方を身に付けていく。また，具体的な事例を通して，特別活動の指導や評価の方法などについての考察を進めていく。		
教材（教科書）	中学校学習指導要領解説　特別活動編（平成 29 年 7 月　文部科学省）		
教材（参考資料）	高等学校学習指導要領解説　特別活動編（平成 21 年 7 月　文部科学省）		
教育方法	基本的にはスライドを用いて授業を進め，最後には小レポート（授業内容のまとめ，自分の考えなど）を書いて提出するようにする。また，授業の中では小グループ及び全体で話し合いなどの活動を取り入れていく。		
評価方法	授業内小レポート等による平常点（30%） 学期末試験（70%）		
到達目標	・特別活動の目標や内容などの特質、指導計画の作成における考え方について，学習指導要領解説の文言を 用いて具体的に説明できる。 ・特別活動の指導や評価の方法などについて自分の考えを述べることができる。		
授業時間外学習	毎回の授業の復習を行う。具体的には，授業で取り扱った教科書の該当箇所や資料をもう一度読み直したり，まとめ直したりする。また，教育の時事的な話題は新聞やテレビ，インターネットを通じて入手しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・教員免許の取得目指すものとしてふさわしい態度で授業に臨むこと。ふさわしくない態度であれば指摘をさせてもらう。
・話し合いなどの場面では、積極的に発言をしたり、他者の意見を真摯な態度で聞いたりすること。
・常に思考を働かせること。
・授業内小レポートを書く際は、できるだけ丁寧な文字で書き、用紙すべてを使いきること。

授業スケジュール

第１回：オリエンテーションと特別活動の内容
第２回：特別活動の目標
第３回：学級活動・ホームルーム活動①「目標と学級開き」
第４回：学級活動・ホームルーム活動②「学級経営の方針と学級目標」
第５回：学級活動・ホームルーム活動③「話し合い活動」
第６回：学級活動・ホームルーム活動④「適応と成長及び健康安全、学業と進路」
第７回：生徒会活動①「目標と内容」
第８回：生徒会活動②「話し合い活動①」
第９回：生徒会活動③「話し合い活動②」
第１０回：学校行事①「目標と内容」
第１１回：学校行事②「具体的事例」
第１２回：特別活動における評価
第１３回：特別活動と他教科・領域との関連
第１４回：学習指導要領の変遷
第１５回：授業の振り返り

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	−	−	★★	−

年度	2018	授業コード	JP0025001
科目名	発達と学習の心理学 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Development and Learning Psychology		
担当者名	黄　ワン茜	旧科目名称	
授業概要	社会が高度化し、多様化したことで、教育の現場では、幼児・児童・生徒の心身の発達過程、学びのメカニズム、動機づけ、学級集団での社会性などの心理特性を十分に理解することがことさら必要となっている。その知見をふまえ、自ら学び、考え、創造する態度を養い、生涯にわたって成長する生徒を育てることが重要である。この講義では、幼児・児童・生徒の発達と学習のメカニズムを理解し、教師として教育現場で必要な心理学的な知識を概説する。		
教材（教科書）	井上智義　他　『発達と学習－心理学をいかした指導・援助のポイント―』　樹村房 その他に、講義レジュメ・資料を配布する		
教材（参考資料）	講義内で随時紹介		
教育方法	１．パワーポイントを活用しながら，講義法で行う。 ２．事前に配布した講義レジュメにそって，基本的に講義法で行う。講義では，教員が冒頭で具体的を提示しながら，ポイント・目標を明確にし，学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講する。授業中に，記入するキーワードや基本的な知識を問う質問を行い，積極的に発言する受講生には平常点ポイントを与える。学生の意思疎通のため，コミュニケーションペーパーを使って，学生から授業の感想･要望を聴取し，授業改善に生かす。また，講義内容についての確認小テストを行う。学生の疑問点や小テストの回答等は次回の授業で答える。		
評価方法	期末筆記試験　30% クループ発表やレポート　20% 平常点（受講態度）　20% 小テスト　30%		
到達目標	幼児，児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用，発達に関する代表的理論を踏まえ，発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。		
授業時間外学習	授業前，教科書を読む。授業後，授業ノートを使って復習する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．遅刻や私語を禁止する。遅刻の場合，その理由を求める。私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める。
２．成績評価に際しては，授業で募集する実験や調査などへの参加による学習，もしくはそれに変わる課題などにより総合的に判断し，評価に加味する場合がある。

授業スケジュール

１．授業のガイダンス-発達的理解とはどういうことなのか
２．発達過程の理解-発達心理学の基本的な考え方，ピアジェの理論や青年期，老年期の発達など
３．認知発達の理解-数概念の発達やことばの発達の基礎
４．社会的認識の基礎-発達初期の社会性の重要さ，心の理論など
５．学習と記憶の基礎-学習のメカニズム
６．外界の認知と社会性の発達-子どもの「うそ」の発達，ユーモアの認知発達など
７．発達障がいとその支援-特別支援と個性に応じた教育
８．学習意欲と動機づけ-モチベーション，報酬，実理性，強化

９．自己効力感とやる気と教室構造
１０．学習教材としてのコンピュータの活用-情報活用能力
１１．遊びの中の学び-幼児期にしっかり遊ぶことの意義，早期教育の重要性と必要性など

１２．子どもの行動と適切な援助-メタ認知の発達とそれをふまえた教育
１３．外国語学習と異文化理解-小学校の英語教育，子どもの発達と異文化適応
１４．外国につながる子どもの発達環境
１５．授業のまとめとテスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JP0025002
科目名	発達と学習の心理学 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Development and Learning Psychology		
担当者名	黄　ワン茜	旧科目名称	
授業概要	社会が高度化し、多様化したことで、教育の現場では、幼児・児童・生徒の心身の発達過程、学びのメカニズム、動機づけ、学級集団での社会性などの心理特性を十分に理解することがことさら必要となっている。その知見をふまえ、自ら学び、考え、創造する態度を養い、生涯にわたって成長する生徒を育てることが重要である。この講義では、幼児・児童・生徒の発達と学習のメカニズムを理解し、教師として教育現場で必要な心理学的な知識を概説する。		
教材（教科書）	井上智義　他　『発達と学習－心理学をいかした指導・援助のポイント―』　樹村房 その他に、講義レジュメ・資料を配布する		
教材（参考資料）	講義内で随時紹介		
教育方法	１．パワーポイントを活用しながら，講義法で行う。 ２．事前に配布した講義レジュメにそって，基本的に講義法で行う。講義では，教員が冒頭で具体的を提示しながら，ポイント・目標を明確にし，学生はキーワードをレジュメに記入しながら受講する。授業中に，記入するキーワードや基本的な知識を問う質問を行い，積極的に発言する受講生には平常点ポイントを与える。学生の意思疎通のため，コミュニケーションペーパーを使って，学生から授業の感想･要望を聴取し，授業改善に生かす。また，講義内容についての確認小テストを行う。学生の疑問点や小テストの回答等は次回の授業で答える。		
評価方法	期末筆記試験　30% クループ発表やレポート　20% 平常点（受講態度）　20% 小テスト　30%		
到達目標	幼児，児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用，発達に関する代表的理論を踏まえ，発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。		
授業時間外学習	授業前，教科書を読む。授業後，授業ノートを使って復習する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．遅刻や私語を禁止する。遅刻の場合，その理由を求める。私語が過ぎれば，他者への迷惑を勘案し退出を求める。
２．成績評価に際しては，授業で募集する実験や調査などへの参加による学習，もしくはそれに変わる課題などにより総合的に判断し，評価に加味する場合がある。

授業スケジュール

１．授業のガイダンス-発達的理解とはどういうことなのか
２．発達過程の理解-発達心理学の基本的な考え方，ピアジェの理論や青年期，老年期の発達など
３．認知発達の理解-数概念の発達やことばの発達の基礎
４．社会的認識の基礎-発達初期の社会性の重要さ，心の理論など
５．学習と記憶の基礎-学習のメカニズム
６．外界の認知と社会性の発達-子どもの「うそ」の発達，ユーモアの認知発達など
７．発達障がいとその支援-特別支援と個性に応じた教育
８．学習意欲と動機づけ-モチベーション，報酬，実理性，強化

９．自己効力感とやる気と教室構造
１０．学習教材としてのコンピュータの活用-情報活用能力
１１．遊びの中の学び-幼児期にしっかり遊ぶことの意義，早期教育の重要性と必要性など

１２．子どもの行動と適切な援助-メタ認知の発達とそれをふまえた教育
１３．外国語学習と異文化理解-小学校の英語教育，子どもの発達と異文化適応
１４．外国につながる子どもの発達環境
１５．授業のまとめとテスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JP0025003
科目名	発達と学習の心理学 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Development and Learning Psychology		
担当者名	田中　希穂	旧科目名称	
授業概要	社会が高度化し、多様化したことで、教育の現場では，幼児・児童・生徒の心身の発達過程、学びのメカニズム、動機づけ、学級集団での社会性などの心理特性を十分に理解することがことさら必要となっている。その知見をふまえ、自ら学び、考え、創造する態度を養い、生涯にわたって成長する生徒を育てることが重要である。この講義では、幼児・児童・生徒の発達と学習のメカニズムを理解し、教師として教育現場で必要な心理学的な知識を概説する。		
教材（教科書）	特に指定しない。毎回講義レジュメ・資料を配布する。		
教材（参考資料）	櫻井茂男（編）『改訂版楽しく学べる最新教育心理学－教職に関わる全ての人に－』　図書文化 2000 円 櫻井茂男（編）『たのしく学べる最新発達心理学―乳幼児から中学生までの心と体の育ち』　図書文化 2160 円 その他、講義内で随時紹介。		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 理解を深めるためにビデオ映像などを視聴する。 具体的な事例についての思考を深めるため、グループディスカッションを行うこともある。		
評価方法	平常点　　３０％　毎回のコメントシートや講義への参加状況 小レポート　　２０％　講義内で出題する課題への取り組み状況 期末筆記試験　５０％　講義内容全般に関する知識の理解・習得状況		
到達目標	子どもが学び発達する様相を理解し、子どもと接するときに心理学的な視点からその発達と学習活動を支え、かかわることができるようになる。		
授業時間外学習	事前に配布資料がある場合はそれを読み，簡単に整理しておくこと。講義の復習を行うこと。 ６回目と１２回目にレポート課題を出す。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
私語やスマートフォンの操作、他の受講者に迷惑となるような行為は認めない。 日本の学校教育や学校現場での取り組み・課題・問題などについてのニュースについて目を通し、理解し、自分なりにその事象について考える。			
授業スケジュール			
１．生涯発達と生涯学習　発達の規定因と学習活動との関連 ２．子どもの発達①　運動と言葉の発達 ３．子どもの発達②　記憶構造と認知の発達 ４．子どもの発達③　感情の発達と道徳判断 ５．子どもの発達④　自己の認識とアイデンティティの確立 ６．子どもの発達⑤　社会性の発達と向社会性 ７．子どもの発達⑥　発達障害とその支援 ８．前半のまとめと質問 ９．子どもの学習①　学習のメカニズム １０．子どもの学習②　原因帰属と学習性無力感 １１．子どもの学習③　内発的動機づけと報酬 １２．子どもの学習④　達成動機と自己効力感 １３．.子どもの学習⑤　やる気と教室構造 １４．子どもの学習⑥　やる気と学習評価 １５．後半のまとめと質問・テスト			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	−	−	★	−	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0026A01
科目名	理科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
授業概要	中学校及び高等学校理科の目標や内容についての基礎知識を、中学校学習指導要領解説・理科編及び高等学校学習指導要領解説・理科編・理数編の精読とグループ討議を通して、課題解決的に習得できるようにする。また、理科教育における特徴的な指導法や環境教育などの事例研究を通して、授業づくりの手がかりを得る。さらに、安全管理や学習指導案の構成・評価方法などの講義を通して、実務上の課題についての見識を深める。		
教材（教科書）	文部科学省「中学校省学習指導要領解説・理科編」（平成 29 年 6 月 http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387018_5.pdf） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説・理科編　理数編」実教出版（平成 21 年 12 月）発行　　３３６円		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	学習指導要領に明記されている「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けて、多様な教育方法（指導方法）を用い、体験させる。		
評価方法	授業内の課題研究への取組状況と発表内容等（３０％） 課題レポート、学習指導案等提出物の内容（３０％） 定期試験（４０％）		
到達目標	1　中学校及び高等学校学習指導要領・理科の目標と要点を説明できる。 2　中学校理科及び高等学校理科の科目構成、内容の構成と取扱いの要点を説明できる。 3　めざしたい理科の授業像や重視したい指導法を、具体例を挙げて提案できる。		
授業時間外学習	・課題研究や文献調査などの報告書作成の課題を複数回出す。指定期日までにレポートを提出する。 ・課題研究の結果や課題レポートは、口頭発表の機会があるので、練習して臨む。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
課題の発表やグループでの意見交換の機会を多く作るので、積極的に参加してほしい。			
授業スケジュール			
1　中学校及び高等学校学習指導要領　（1）理科教育の目的と小学校・中学校・高等学校の理科の目標 2　中学校及び高等学校学習指導要領　（2）理科教育の歴史　―主として、学習指導要領の変遷― 3　中学校及び高等学校学習指導要領　（3）理科における改訂の趣旨・要点 4　中学校及び高等学校学習指導要領　（4）理科における小学校・中学校の 4 領域(物理学・化学・生物学・地球科学)と高等学校			

の科目の内容の構成の要点 5　理科の授業の進め方　―探究学習―　（1）グループワークによる課題研究 6　理科の授業の進め方　―探究学習―　（2）研究結果の発表 7　中学校及び高等学校学習指導要領　（5）理科における小学校・中学校の4領域(物理学・化学・生物学・地球科学)と高等学校の科目構成とそれぞれの取扱いの要点 8　中学校及び高等学校学習指導要領　（6）理科における指導計画の作成と内容の取扱いにおける配慮事項 9　中学校及び高等学校学習指導要領　（7）理科における内容の取扱いにおける配慮事項　―安全管理を中心にして― 10　理科の授業の進め方　―探究学習―　（3）課題レポート「自然の事物・現象の生活への活用」のテーマの決定と調査 11　理科の授業の進め方　―探究学習―　（4）課題レポート「自然の事物・現象の生活への活用」の発表と評価 12　理科教育における環境教育、エネルギー教育、安全教育、防災教育　（1）グループワークによる事例研究 13　理科教育における環境教育、エネルギー教育、安全教育、防災教育（2）研究結果の発表 14　理科学習指導案の構成と、理科の評価 15　めざしたい理科の授業像と重視したい指導法

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0026B01
科目名	理科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
授業概要	理科の授業づくりの要件の習得と、教材研究を生かした学習指導案の作成ができるようになることをめざす。また、模擬授業と事後の授業検討会などを通して、わかりやすい授業の要素と授業参観の視点を体得する。		
教材（教科書）	特に定めない。		
教材（参考資料）	1　左巻健男・内村　浩編「授業にいかす！　理科教育法　中学校・高校編」東京書籍（２００９年４月）発行　２，２００円 2　広木正紀・内山裕之編著「小・中・高一貫カリキュラムへの改革を先取りした　理科の授業づくり」東京書籍（２０１２年６月）発行　３，０００円 3　高等学校検定教科書		
教育方法	学習指導要領に明記されている「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けて、多様な教育方法（指導方法）を用い、体験させる。		
評価方法	授業内の課題研究への取組状況と発表内容等（３０％） 課題レポート、学習指導案等提出物の内容（３０％） 定期試験（４０％）		
到達目標	1　教材研究をいかした高等学校理科学習指導案が作成できる。 2　わかりやすさを観点にして、模擬授業などの良い点や問題点を指摘できる。		
授業時間外学習	・高等学校理科の生物領域を中心に、教材になりそうな文献や新聞記事などを収集する。 ・模擬授業の展開計画・板書計画、カード等の教材作成、模擬授業実施後の評価と感想や学習指導案など、各自で作成する課題を複数回出す。指定期日までに提出する。 ・模擬授業は、練習をして授業に臨む。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

模擬授業やグループ討議の機会が多いので、積極的に発言してほしい。

授業スケジュール

1　楽しくわかる理科の授業
2　理科教育における「習得・活用・探究型の学習活動」
3　理科における教材取扱いの工夫及び授業の進め方
4　理科の授業づくりⅠ　（１）授業例（遺伝子の発現）のビデオ視聴と授業検討
5　理科の授業づくりⅠ　（２）学習指導案の書き方１　―主として、展開計画・板書計画―
6　理科の授業づくりⅠ　（３）マイクロティーチング１の計画　―本時の目標・学習課題・評価―
7　理科の授業づくりⅠ　（４）マイクロティーチング１①　―発問・学習者主体の活動・板書―
8　理科の授業づくりⅠ　（５）マイクロティーチング１②　―模擬授業の実施―
9　理科の授業づくりⅠ　（６）マイクロティーチング１③　―学習指導案及び教材教具の再検討と模擬授業再実施―
10　理科の授業づくりⅡ　（１）マイクロティーチング２①　―カードなどの教材を生かした授業―
11　理科の授業づくりⅡ　（２）マイクロティーチング２②　―目標と評価、教材観・生徒観・指導観―
12　理科の授業づくりⅡ　（３）マイクロティーチング２③　―板書計画、ワークシートの作成―
13　理科の授業づくりⅡ　（４）マイクロティーチング２④　―模擬授業と事後研究―
14　理科の授業づくりⅢ　（１）学習指導案の書き方２　―学習指導案の評価の観点―
15　理科の授業づくりⅢ　（２）学習指導案の書き方３　―発問と生徒の反応―

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0026C01
科目名	理科教育法Ⅲ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
授業概要	中学校理科の目標や内容についての基礎知識を、中学校学習指導要領解説・理科編の精読とグループ討議を通して、問題解決的に習得できるようにする。また、検定教科書や学校現場の実践例を資料にした講義･演習をもとに、中学校理科の教材や授業の進め方及び評価方法についての理解を深める。これらを通して、中学校理科の授業づくりの基礎・基本の習得をめざす。		
教材（教科書）	文部科学省「中学校学習指導要領解説・理科編」（平成２９年６月 http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/10/13/1387018_5.pdf）		
教材（参考資料）	適宜紹介する。		
教育方法	学習指導要領に明記されている「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けて、多様な教育方法（指導方法）を用い、体験させる。		
評価方法	授業内の課題研究への取組状況と発表内容等（３０％） 課題レポート、学習指導案等提出物の内容（３０％） 定期試験（４０％）		
到達目標	1　中学校学習指導要領・理科の目標と要点を説明できる。 2　中学校学習指導要領・理科の内容の構成と取扱いの要点を説明できる。 3　中学校理科で取り上げられている、観察・実験を行う授業の展開計画を立案できる。 4　理科を通して身に付けさせたい力と、重視したい指導法や授業の工夫を提案できる。		
授業時間外学習	・文献調査や資料分析等の課題を複数回出す。指定期日までにレポートを提出する。 ・模擬授業の展開計画、実施後の修正などの課題を出す。指定期日までに展開計画をまとめて提出する。 ・模擬授業の機会があるので、練習して臨む。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
課題の発表やグループでの意見交換の機会を多く作るので、積極的に参加してほしい。			
授業スケジュール			
1　心に残る理科授業と、重視したい指導法 2　中学校学習指導要領Ⅰ　（1）中学校理科における改訂の要点と中学校理科の目標 3　中学校学習指導要領Ⅰ　（2）理科における小学校・中学校・高等学校理科の内容の構成 4　中学校学習指導要領Ⅰ　（3）理科における第１分野の内容			

5	中学校学習指導要領Ⅰ　（4）理科における第2分野の内容
6	中学校学習指導要領Ⅰ　（5）中学校理科における指導計画の作成と、内容の取扱いにおける配慮事項
7	中学校学習指導要領Ⅱ　（1）グループワークによる展開計画の立案
8	中学校学習指導要領Ⅱ　（2）グループ別模擬授業の実施と展開計画の再検討
9	中学校学習指導要領Ⅱ　（3）グループ代表者による模擬授業の実施と相互評価
10	中学校学習指導要領Ⅱ　（4）課題レポートの内容と評価方法
11	中学校理科教科書における教材の具体例　（1）「生物の観察」「生物の分類」
12	中学校理科教科書における教材の具体例　（2）学習指導案作成における注意事項と「顕微鏡の使い方」の展開計画の作成
13	中学校理科教科書における教材の具体例　（3）主として観察・実験の内容
14	中学校理科授業の進め方　（1）グループ学習、ノート指導、課題研究など
15	中学校理科授業の進め方　（2）主として、環境教育の事例

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0026D01
科目名	理科教育法Ⅳ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	友松　勝之	旧科目名称	
授業概要	中学校理科の授業づくりの要件の習得と、教具や指導方法の工夫など教材研究を生かした学習指導案の作成ができるようになることをめざす。また、模擬授業と事後の授業検討会などを通して、わかりやすい授業の要素と授業参観の視点を体得する。		
教材（教科書）	特に定めない。		
教材（参考資料）	1　左巻健男・内村　浩編　「授業にいかす！　理科教育法　中学校・高校編」東京書籍（２００９年４月）発行　　２，２００円 2　広木正紀・内山裕之編著「小・中・高一貫カリキュラムへの改革を先取りした理科の授業づくり」東京書籍（２０１２年６月）発行　　３，０００円 3　中学校理科検定教科書		
教育方法	学習指導要領に明記されている「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けて、多様な教育方法（指導方法）を用い、体験させる。		
評価方法	授業内の課題研究への取組状況と発表内容等（３０％） 課題レポート、学習指導案等提出物の内容（３０％） 定期試験（４０％）		
到達目標	1　教材研究を充実させ、指導方法の工夫を図った理科学習指導案が作成できる。 2　わかりやすさ、生徒の活動を観点にして、模擬授業などの良い点や問題点を指摘できる。		
授業時間外学習	・中学校理科の、教材になりそうな文献や新聞記事などを収集する。 ・模擬授業の展開計画・板書計画、模擬授業実施後の感想と評価や学習指導案など、各自で作成する課題を複数回出す。指定期日までに提出する。 ・模擬授業のための準備物作成や予備実験の課題を出す。準備して授業に臨む。 ・模擬授業は、練習して臨む。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

模擬授業やグループ討議の機会が多いので、積極的に発言してほしい。

授業スケジュール

1　楽しくわかる理科の授業
2　中学校理科の授業の進め方　―「活用する力」を育てる授業の実践例―
3　中学校理科の授業における教材・教具の工夫
4　中学校理科の授業づくりⅠ　（１）学習指導案の書き方
5　中学校理科の授業づくりⅠ　（２）授業例（１分野）のビデオ視聴と授業検討
6　中学校理科の授業づくりⅠ　（３）学習指導案の作成と模擬授業の計画―主として、展開計画・板書計画―
7　中学校理科の授業づくりⅠ　（４）マイクロティーチング①―展開・板書・発問・教材・教具―
8　中学校理科の授業づくりⅠ　（５）学習指導案及び教材教具の再検討と模擬授業再実施の計画
9　中学校理科の授業づくりⅠ　（６）マイクロティーチング②―展開・板書・発問・教材・教具―
10　中学校理科の授業づくりⅠ　（７）生徒の興味・関心を引き出すには―生徒への指導と支援―
11　中学校理科の授業づくりⅡ　（１）授業例（２分野）のビデオ視聴と授業検討
12　中学校理科の授業づくりⅡ　（２）学習指導案の作成と模擬授業の計画
13　中学校理科の授業づくりⅡ　（３）マイクロティーチング①―様々な学習形態を用いた展開―
14　中学校理科の授業づくりⅡ　（４）評価計画を含む学習指導案の作成
15　中学校理科の授業づくりⅡ　（５）マイクロティーチング②―評価を生かした展開―

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0042001
科目名	博物館教育論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Methods of Museology		
担当者名	千田　康治	旧科目名称	教育学概論
授業概要	博物館学芸員として業務をすすめるにあたり、博物館教育の役割を認識し、その理論を学ぶ。そして様々な目的・対象にあわせた博物館における教育手法の実際を学ぶ。		
教材（教科書）	レジュメを適時配布		
教材（参考資料）	講義時に適時紹介します。		
教育方法	配布した講義レジュメに沿って、講義法で行う。適時スクリーンにて画像を投影して解説する他、随時受講者に意見を発言することを求める。発言は評価の対象とする。		
評価方法	授業時の発言、積極性において６０％、期末レポート（もしくはテスト）４０％で評価します。		
到達目標	社会教育施設である博物館における教育活動について、その基盤となる理論や実践に関する知識を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。		
授業時間外学習	様々な博物館・美術館等を訪れ、展示見学・講座聴講・ワークショップ参加等の経験する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
博物館教育は、実際に見たり、体験しないと理解できません。京都とその一円には、良質なコレクションを所蔵していたり、独自の活動を展開している博物館・美術館が数多く存在しており、これらに興味を持ち、足を運んでください。			
授業スケジュール			
第 1 回 社会教育施設としての博物館教育の意義 第 2 回 博物館教育の歴史 第 3 回 博物館教育の特性 第 4 回 設置者・種別による博物館教育の目的の違い 第 5 回 コミュニケーションとしての博物館教育 第 6 回 文化財の保存と博物館教育 第 7 回 博物館と学校教育 第 8 回 博物館と生涯学習 第 9 回 調査研究と博物館教育 第 10 回 博物館教育の実際Ⅰ　体制 第 11 回 博物館教育の実際Ⅱ　展示 第 12 回 博物館教育の実際Ⅲ　ワークシート 第 13 回 博物館教育の実際Ⅳ　教材開発 第 14 回 博物館教育の実際Ⅴ　体験教室 第 15 回 博物館教育の今後			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0042002
科目名	博物館教育論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Methods of Museology		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
授業概要	博物館学芸員としての業務に占める博物館教育の役割の重要性を認識し、その理論的枠組みを学ぶ。そのうえで、さまざまな目的・対象に合わせた博物館における教育手法の実際を理解し、基本的な教材の作成法を習得する。		
教材（教科書）	特に指定しない.各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	講義時に適宜紹介する		
教育方法	毎回図版プリントを配布する。OHC・動画を併用して画像を多く見てもらいながら説明を加えてゆく講義方法を取る。		
評価方法	平常点（５０％）はノートなど毎回の授業における努力で評価する。残りの５０％は合計３回提出を求める簡単な課題レポートで評価する。		
到達目標	・博物館の教育機能を基本的に理解して説明できる。 ・博物館の教育的機能を具体的に遂行するための各種手段を説明できる。 ・博物館の各種教育的機能を果たす教材を作成できる。		
授業時間外学習	博物館相当の施設を実際に訪れたり、各館のホームページを見たりして、どのように教育的な活動をしているか、その具体的な運営・活動の姿を調べて欲しい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール

博物館学芸員資格や社会教育主事の資格を取得することを目指すもののための講義である
ことを自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。大学の講義の形にはなっているが
実際は国家資格取得のための講習会であることを自覚して受講して欲しい。
なお、この科目の単位は、卒業に必要な単位にはいかなる形でも算入されないので、
資格取得希望者以外は受講しないこと。

学習上の助言

各館のホームページを出来るだけ数多く調べて、教育的活動の実際を理解して欲しい。

授業スケジュール

１・　社会教育施設としての博物館教育の意義
２・　博物館教育の歴史
３・　博物館と学校教育
４・　博物館と生涯学習
５・　博物館教育の実際（教育の考え方）
６・　博物館教育の実際（展示）
７・　博物館教育の実際（ワークシート・解説シート）
８・　博物館教育の実際（体験教室・講座）
９・　博物館教育の実際（公開公演・講座）
１０・　博物館教育の実際（教材開発・広報）
１１・　博物館教育の実際（調査研究との連携）
１２・　博物館教育の実際（文化財保存の促進）
１３・　博物館教育の実際（博物館相当施設の種別による特性）
１４・　博物館教育の担い手
１５・　博物館教育の今後

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JP0045001
科目名	博物館経営論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Management		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
授業概要	博物館・資料館等を取り巻く環境は、年々厳しい状況となっているが、博物館・資料館等の目的・役割と機能を十分に発揮するための経営的理念・手法が求められている。 職員体制及び施設・設備の充実に、行政・財政施策における博物館・資料館等の位置付けが重要であるといえる。 講義では具体的な実践例を紹介しながら、博物館・資料館等の経営論としての基本的理念・指針・方針の理解と、地域に連動し市民協働によるまちづくりとも連携する博物館・資料館等の方法論の習得を図る。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	講義時に随時紹介する。		
教育方法	板書を中心に講義を進め、関係資料コピー等を配布して解説し、内容の理解を深めるようにする。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況、受講態度、コメントシートの提出。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等の経営に関する基本的理念・指針・方針の理解と、人づくり、まちづくりに連携するための方法論の習得を目標とする。		
授業時間外学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
学芸員の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。			
授業スケジュール			
1　博物館・資料館等における経営論全般について＜概説１＞ 2　博物館経営論について　財務・予算（各論１） 3　博物館経営論について　財務・予算（各論２） 4　博物館経営論について　財務・予算（各論３） 5　博物館・資料館等における事業計画実施・事業評価について＜概説２＞ 6　博物館事業計画の戦略・理念について（各論１） 7　博物館事業計画の指針・方針について（各論２） 8　博物館事業実施について　地域連携（各論３） 9　博物館事業実施について　市民協働（各論４） 10　博物館事業評価について（各論５） 11　博物館施設管理について＜概説３＞ 12　博物館施設管理について　もの（各論１） 13　博物館施設管理について　ひと（各論２） 14　博物館施設管理について　ば（各論３） 15　博物館経営論の課題と将来展望について＜概説４＞			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	JP0045002
科目名	博物館経営論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Management		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
授業概要	博物館・資料館等を取り巻く環境は、年々厳しい状況となっているが、博物館・資料館等の目的・役割と機能を十分に発揮するための経営的理念・手法が求められている。 職員体制及び施設・設備の充実に、行政・財政施策における博物館・資料館等の位置付けが重要であるといえる。 講義では具体的な実践例を紹介しながら、博物館・資料館等の経営論としての基本的理念・指針・方針の理解と、地域に連動し市民協働によるまちづくりとも連携する博物館・資料館等の方法論の習得を図る。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	講義時に随時紹介する。		
教育方法	板書を中心に講義を進め、関係資料コピー等を配布して解説し、内容の理解を深めるようにする。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況、受講態度、コメントシートの提出。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等の経営に関する基本的理念・指針・方針の理解と、人づくり、まちづくりに連携するための方法論の習得を目標とする。		
授業時間外学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学芸員の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な姿勢・態度での受講を望む。

授業スケジュール

1　博物館・資料館等における経営論全般について＜概説１＞
2　博物館経営論について　財務・予算（各論１）
3　博物館経営論について　財務・予算（各論２）
4　博物館経営論について　財務・予算（各論３）
5　博物館・資料館等における事業計画実施・事業評価について＜概説２＞
6　博物館事業計画の戦略・理念について（各論１）
7　博物館事業計画の指針・方針について（各論２）
8　博物館事業実施について　地域連携（各論３）
9　博物館事業実施について　市民協働（各論４）
10　博物館事業評価について（各論５）
11　博物館施設管理について＜概説３＞
12　博物館施設管理について　もの（各論１）
13　博物館施設管理について　ひと（各論２）
14　博物館施設管理について　ば（各論３）
15　博物館経営論の課題と将来展望について＜概説４＞

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	JP0046001
科目名	博物館資料論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Materials & Artifacts		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	博物館情報論
授業概要	博物館・資料館等において、各分野の各種資料を蓄積することは、重要な機能のひとつといえる。資料は収集・整理・保管の手続き処理の過程を経て初めて博物館資料としての価値を持ち、展示・普及などに活用され、さらに調査・研究の重要な素材・原資料となる。講義では、特に歴史資料を中心として、具体的な方法論を紹介し、いかなる理論で展示・調査・研究に活用するかを概説する。また、貴重な資料の保存・管理等についても言及する。学芸員の職種に従事しようとする者への博物館・資料館等における資料論に関する基礎的知識と技術の習得を図る。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	講義時に随時紹介する。		
教育方法	板書を中心に講義を進め、関係資料コピー等を配布して解説し、内容の理解を深めようにする。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況、受講態度、コメントシートの提出。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等における資料の収集・整理・保管についての具体的方法論の理解。貴重な資料の保存・管理等に関する基礎的技術知識の習得を目標とする。		
授業時間外学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学芸員の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な態度での受講を望む。

授業スケジュール

１　博物館資料論全般について＜概説１＞
２．博物館資料について　文化財とは（各論１）

３．博物館資料について　文化財の分類（各論２）

４．博物館資料について　文化財の保護（各論３）

５．博物館資料について　文化財の活用（各論４）

６．博物館資料の収集・整理・保管について＜概説２＞

７．博物館資料の収集・整理・保管について　歴史文化資料（各論１）

８．博物館資料の収集・整理・保管について　考古民俗資料（各論２）

９．博物館資料の収集・整理・保管について　自然資料（各論３）

１０．博物館資料の調査・研究・展示について＜概説３＞

１１．博物館資料の取り扱い技術について　歴史文化資料（各論１）

１２．博物館資料の取り扱い技術について　考古民俗資料（各論２）

１３．博物館資料の取り扱い技術について　自然資料（各論３）

１４．博物館資料の調査研究への活用について＜概説４＞

１５．博物館資料論の課題と将来展望について＜概説５＞

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0046002
科目名	博物館資料論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）	Museum Materials & Artifacts		
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	博物館情報論
授業概要	博物館・資料館等において、各分野の各種資料を蓄積することは、重要な機能のひとつといえる。資料は収集・整理・保管の手続き処理の過程を経て初めて博物館資料としての価値を持ち、展示・普及などに活用され、さらに調査・研究の重要な素材・原資料となる。講義では、特に歴史資料を中心として、具体的な方法論を紹介し、いかなる理論で展示・調査・研究に活用するかを概説する。また、貴重な資料の保存・管理等についても言及する。学芸員の職種に従事しようとする者への博物館・資料館等における資料論に関する基礎的知識と技術の習得を図る。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	講義時に随時紹介する。		
教育方法	板書を中心に講義を進め、関係資料コピー等を配布して解説し、内容の理解を深めようにする。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況、受講態度、コメントシートの提出。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館・資料館等における資料の収集・整理・保管についての具体的方法論の理解。貴重な資料の保存・管理等に関する基礎的技術知識の習得を目標とする。		
授業時間外学習	博物館・資料館等の各種事業への関心を持ち、できれば積極的に参加し、新聞等のメディアに注意を持っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学芸員の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な態度での受講を望む。

授業スケジュール

１　博物館資料論全般について＜概説１＞
２．博物館資料について　文化財とは（各論１）

３．博物館資料について　文化財の分類（各論２）

４．博物館資料について　文化財の保護（各論３）

５．博物館資料について　文化財の活用（各論４）

６．博物館資料の収集・整理・保管について＜概説２＞

７．博物館資料の収集・整理・保管について　歴史文化資料（各論１）

８．博物館資料の収集・整理・保管について　考古民俗資料（各論２）

９．博物館資料の収集・整理・保管について　自然資料（各論３）

１０．博物館資料の調査・研究・展示について＜概説３＞

１１．博物館資料の取り扱い技術について　歴史文化資料（各論１）

１２．博物館資料の取り扱い技術について　考古民俗資料（各論２）

１３．博物館資料の取り扱い技術について　自然資料（各論３）

１４．博物館資料の調査研究への活用について＜概説４＞

１５．博物館資料論の課題と将来展望について＜概説５＞

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0064001
科目名	博物館実習 【博】	単位数	3
科目名（英語表記）	Practical Museum Training		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
授業概要	博物館の学芸員資格の取得を目指すものに、必要な実務的経験の場を提供し、知識を教授して、学芸員としての実践的能力を身に着ける。具体的には、見学を含むあらかじめの学内実習を通じて博物館実務の実際に習熟したうえで、実際に機能している博物館での館園実習に赴いて現場とはどのようなものかを理解する。館園実習後ふたたび学内実習において、現場体験に基づいて、博物館理解をさらに深める。		
教材（教科書）	特に用いない。		
教材（参考資料）	特に用いない		
教育方法	授業中に参考資料を適宜配布する、		
評価方法	平常点 70%（実習状況等による）と学外実習成績 30%の合計で評価する。		
到達目標	・学内における実習と実際に活動している博物館における実習を通じて、 博物館学芸員として必要とされる業務に対する理解を深める。 ・学内における実習と実際に活動している博物館における実習を通じて、 博物館学芸員として必要とされる業務に必要とされる技術を習得する。 ・博物館学芸員とはどのような職種かを、体験を通じて把握する。		
授業時間外学習	自ら体験して体得するすることがすべての授業であり、何かを準備する必要はありません。積極的に授業の課題に取り組み、自ら体験して覚えることが全てです。その心構えをしておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講ルール

学外博物館での実習も含む、文字通りの実習科目です。原則的に欠席は認められません。
実習科目なので、変則的な授業が行われることがあります。かならず掲示を確認してください。
また、興味本位の履修は断ります。この科目の単位は卒業に必要な単位にはいかなる形でも
算入されません。学芸員資格取得に必要な単位の大部分を取得しているか否かを確認した
うえで、要件を満たしている履修希望者のみに最終的な履修登録を認めます。

学習上の助言

実習ですが、何かのうまい下手が成績評価基準になることはありません。欠席しないことも
含めて真摯な態度が全てです。

授業スケジュール

1．学内実習ー考古系博物館の見学実習 1
2．学内実習ー考古系博物館の見学実習 2
3．学内実習ー美術系博物館の見学実習 1
4．学内実習ー美術系博物館の見学実習 2
5．学内実習ー展示・資料の保管の実務 1
6．学内実習ー展示・資料の保管の実務 2
7．学内実習ー陶磁器・掛軸・巻物の取り扱い実習 1
8．学内実習ー陶磁器・掛軸・巻物の取り扱い実習 2
9．学内実習 ー各種茶道具の取り扱い実習 1
10．学内実習ー各種茶道具の取り扱い実習 2
11．学内実習 ー館園実習に関する事前指導、注意点の把握
12．館園実習ー博物館における実務体験 1
13．館園実習ー博物館における実務体験 2
14．学内実習ー各自の博物館実習体験の報告と問題点の指摘並びに指導
15．学内実習ー館園実習経験による理解に基づいて、各自の理想の博物館像を構想して発表する

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JP0068A01
科目名	職業指導Ⅰ（農業）【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Vocational Guidance I		
担当者名	中井　順市	旧科目名称	
授業概要	教育政策における進路指導・キャリア教育及び職業の概念、職業指導の役割や課題、専門高校の進路状況や生徒の進路意識、専門高校と高等教育機関や産業界との連携などについて学ぶ。また、関連する各種データを用いて分析を行うとともに、その分析に基づく意見交換等も行う。		
教材（教科書）	授業中に配布する資料		
教材（参考資料）	高等学校キャリア教育の手引き（平成 23 年 11 月）文部科学省 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）（平成 23 年 1 月）中央教育審議会		
教育方法	講義形式で授業を進めるが、グループ単位でで調査分析し発表も行う。		
評価方法	授業への取組み状況（40%）、各授業中でのレポート等(30%)、最終レポート（30%）		
到達目標	次代の農業を担う人材を育成するために、(1)職業教育・キャリア教育の現状と課題を理解できる。(2)産業・就業構造及び専門教育の現状と課題を理解できる。(3)職業指導の変遷とその背景を理解し、学習に活用できる。		
授業時間外学習	我が国の産業（特に農業）や就業動向に関する新聞記事等を読み、記事やコピーをファイルして保存しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1　授業中では高校教員になることを意識した言動をとる。
2　準備学習してきた情報・知識などを主体的に発表するよう心掛ける。

授業スケジュール

1　ガイダンス、職業の概念
2　職業観・勤労観と教育
3　職業指導の意義と役割
4　職業指導とその歴史経緯①
5　職業指導とその歴史経緯②
6　産業、職業の種類と分類
7　産業教育と職業教育
8　わが国の学校教育・職業教育制度
9　職業教育の現状と課題
10　高等学校における進路指導と労働関係法規
11　専門高校の今日の状況と課題～進路指導の観点から～
12　専門高校生の進路状況と進路意識
13　専門高校における職業教育、専門高校と高等教育機関や産業界との連携①
14　専門高校における職業教育、専門高校と高等教育機関や産業界との連携②
15　まとめ－職業指導に求められているもの－（討議等）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JP0068B01
科目名	職業指導Ⅱ（農業）【教】	単位数	2
科目名（英語表記）	Vocational Guidance Ⅱ		
担当者名	中井　順市	旧科目名称	
授業概要	キャリア教育の概要、学習指導要領における職業指導の取扱い、職業指導に関する教育行政や労働政策、将来を見通したキャリア学習に基づく指導計画の作成、諸外国におけるキャリア教育の現状と課題等を学ぶ。また、次代を担う人材を育む教育の観点から今後の職業指導のあり方についての意見交換も行う。		
教材（教科書）	授業中に配布する資料		
教材（参考資料）	「高等学校　キャリア教育の手引き」平成 23 年 11 月　文部科学省 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）平成 23 年 1 月　中央教育審議会 高等学校学習指導要領解説　特別活動編　平成 21 年 12 月　文部科学省		
教育方法	講義形式で授業を進めるが、グループ単位で調査分析し発表も行う。		
評価方法	授業への取組み状況（40%）、各授業中でのレポート等(30%)、最終レポート（30%）		
到達目標	次代の農業を担う人材を育成するために、(1)学習指導要領における職業指導の扱いを理解できる。(2)基本的な進路学習（キャリア学習）計画の作成ができる。(3)職業指導を行うことができる基礎的な実践力を身につける。		
授業時間外学習	我が国の産業や就業動向に関する新聞記事等をコピーやファイルして保存しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1　授業中では高校教員になることを意識した言動をとる。
2　高校時代の 3 年間に受けた進路指導・キャリア教育の中で、特徴的な内容を発表できるようにしておく。

授業スケジュール

1　職業指導の変遷とキャリア教育
2　キャリア教育の定義と意義
3　キャリア教育の現状と課題
4　高等学校学習指導要領（特別活動における進路指導）
5　職業指導（キャリア教育）の現状と課題①～特別活動による指導～
6　職業指導（キャリア教育）の現状と課題②～共通する各教科による指導～
7　職業指導（キャリア教育）の現状と課題③～専門学科の各教科による指導～
8　職業指導に関する教育行政
9　指導体制と教員の役割
10　職業指導の方法と技術～進路相談・キャリアガイダンスに関して～
11　職業指導・キャリア教育の評価
12　指導の展開～指導計画の作成～
13　諸外国における職業・キャリア教育①
14　諸外国における職業・キャリア教育②
15　まとめ～次代の人材育成に求められているもの～（討議等）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	－	★★

年度	2018	授業コード	JP0069A01
科目名	農業科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中井　順市	旧科目名称	
授業概要	農業及び農業教育の置かれた状況や関連する法規・法令等の背景及び関係を理解するとともに、農業教育の特質や特徴を踏まえた上で、実際の教育活動について事例をとおして学習する。また、農業教育を支える学校農場やその運営システム等についても学習し、学習指導要領に示された内容を中心に学ぶ農業科教育法Ⅱの学習に繋げる。		
教材（教科書）	「農業と環境」新訂版（平成 29 年 2 月）塩谷哲夫ほか（実教出版株式会社） 授業中に配布する資料		
教材（参考資料）	高等学校学習指導要領解説　総則編（平成 21 年 11 月）文部科学省 高等学校学習指導要領解説　農業編（平成 22 年 6 月）文部科学省 Q＆A 高等学校産業教育ハンドブック（平成 21 年 5 月）財団法人産業教育振興中央会		
教育方法	講義を中心に進めるが、個別にインターネットを使った調査学習も行う。		
評価方法	授業への取組み状況（30%）、レポート等(30%)、定期試験（40%）		
到達目標	将来の農業高校教員として必要な下記の能力を身に付ける。 ・農業教育の背景となる内容等の理解を深め、実際の授業計画作成や指導に活用することができる。 ・様々な教育活動の事例学習をとおして、授業を展開する際の実践力の習得の参考にできる。		
授業時間外学習	農業高校の教育活動を理解するために日頃から全国の農業高校のＨＰを閲覧して情報収集をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1　授業中には高校教員になることを意識した言動をとる。
2　農業に興味関心をもつため、日頃から農業に関する新聞記事等を読んでおく。
3　授業のはじめに行うガイダンスの内容を理解し、受講ルールを順守する。

授業スケジュール

第 1 回：農業科教育法の学習意義と目的　～農業高校の教育を知る～
第 2 回：農業教育の目的とその変遷
第 3 回：農業（産業）教育に関する法規・法令と農業の現状と課題①
第 4 回：農業（産業）教育に関する法規・法令と農業の現状と課題②
第 5 回：農業教育及び農業高校の現状と課題
第 6 回：農業教育の特質と特徴
第 7 回：農業教育の関連分野とその概要
第 8 回：農業高校の教育活動①　～全国農業高等学校校長協会アクションプランの概要～
第 9 回：農業高校の教育活動②　～アクションプランからⅠ～
第 10 回：農業高校の教育活動②　～アクションプランからⅡ～
第 11 回：学校農業クラブとプロジェクト活動
第 12 回：農業高校の運営と教員としての役割
第 13 回：学校農場と実験実習及び施設設備
第 14 回：学習指導要領とその移り変わり
第 15 回：学習指導要領と学習指導案
定期試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0069B01
科目名	農業科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中井　順市	旧科目名称	
授業概要	高等学校学習指導要領の内容を踏まえた上で、農業に関する科目の指導方法、指導計画や学習評価の意義・目的・方法等について理解するとともに、指導計画の作成、模擬授業等をとおして、指導に関する基本的な知識や技能を学ぶ。		
教材（教科書）	「農業と環境」新訂版（平成 29 年 2 月）塩谷哲夫ほか（実教出版株式会社） 高等学校学習指導要領解説　農業編（平成 22 年 6 月）文部科学省 授業中に配布する資料		
教材（参考資料）	高等学校学習指導要領解説　総則編（平成 21 年 11 月）文部科学省		
教育方法	講義形式で進めていくが、与えた課題について調査分析を行い発表も行う。		
評価方法	授業への取組み状況（40%）、レポート等(30%)、定期試験（30%）		
到達目標	将来の農業関係高校教員として必要な下記の能力を身に付ける。 ・高等学校学習指導要領教科「農業」について、理解するとともに説明できる。 ・授業を展開する基礎的な実践力を習得する。		
授業時間外学習	農業科教育法Ⅰで使用した教材（テキスト）を事前によく読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1　高校教員になることを意識して、主体的に積極的に演習等に取り組む。
2　授業中に板書を行うため、漢字の書き順などを日頃から練習しておく。
3　高校での授業を意識して講義を展開するので、見習うつもりで授業に臨む。

授業スケジュール

第１回：農業科教育法Ⅰの復習、学習指導要領と解説①　～全体概要～
第２回：学習指導要領と解説②総則編　～単位及び履修、教育課程の編成～
第３回：学習指導要領と解説③農業編　～目標～
第４回：学習指導要領と解説④農業編　～各科目～
第５回：学習指導要領と解説⑤農業編　～指導計画の作成と取扱い～
第６回：学校設定科目とその状況（調査を含む）
第７回：教育課程の編成と年間指導計画①（作成演習を含む）
第８回：教育課程の編成と年間指導計画②（作成演習を含む）
第９回：農業に関する授業展開①　～教材の取扱いと教材研究のあり方～
第１０回：農業に関する授業展開②　～評価規準とその作成（演習）～
第１１回：農業に関する授業展開③　～指導案とその作成（演習）～
第１２回：農業に関する授業展開④　～模擬授業とその評価Ⅰ～
第１３回：農業に関する授業展開⑤　～模擬授業とその評価Ⅱ～
第１４回：農業に関する授業展開⑥　～模擬授業とその評価Ⅲ～
第１５回：まとめ　～農業教育の課題と今後の展望（発表を含む）～
定期試験

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	★	－	★★	－	★

年度	2018	授業コード	JP0071001
科目名	博物館資料保存論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	千田　康治	旧科目名称	
授業概要	博物館の使命は資料（文化財）を適切に保存し、活用しながら次世代へと伝えることである。 保存の対象となる資料の材質・特性を知ると共に、温度・湿度・空気環境等の諸条件が資料を保存にどのような影響をあたえるかを学ぶ。そして資料の適切な保存に必要な博物館の建物や設備といったハード面と、資料の取り扱いなどのソフト面について知識を学ぶ。		
教材（教科書）	レジュメを適時配布		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	配布した講義レジュメに沿って、講義法で行う。適時スクリーンにて画像を投影して解説する他、随時受講者に意見を発言することを求める。発言は評価の対象とする。		
評価方法	授業への積極性（６０％）　定期試験（４０％）		
到達目標	博物館施設における資料保存に必要な科学的知識や手法を習得することで、資料の保存に関する基礎的な能力を養う。		
授業時間外学習	他の博物館・美術館等施設を見学する		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
「百聞は一見に如かず」の言葉のとおり、自分の足で博物館や美術館をまわっていろいろ見て、感じてください。			
授業スケジュール			
第１回　博物館における資料保存の意義 第２回　資料の保存と科学１　温湿度管理① 第３回　資料の保存と科学２　温湿度管理② 第４回　資料の保存と科学３　温湿度管理③ 第５回　資料の保存と科学４　照明 第６回　資料の保存と科学５　空気環境 第７回　資料の保存と科学６　有害生物対策① 第８回　資料の保存と科学７　有害生物対策② 第９回　資料の保存と科学８　有害生物対策③ 第１０回　資料保存の実際１　文化財の取り扱い 第１１回　資料保存の実際２　防災① 第１２回　資料保存の実際３　防災②と博物館の施設・機能Ⅳ 第１３回　資料保存の実際４　防災③と博物館の施設・機能Ⅴ 第１４回　資料保存の実際５　修復① 第１５回　資料保存の実際６　修復②			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JP0071002
科目名	博物館資料保存論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
授業概要	博物館の最も根本的な使命に、収蔵品（文化財）を適切に保存し、後世に伝える責務がある。保存の対象となる資料にどのような種類のものがあり、それらに湿度・温度・環境の諸条件がどのような影響を及ぼすかを理解する。そのうえで、資料保存に関わる様々な側面、資料の適切な保存を行うための建物や設備などの施設面と、資料の取り扱いなどの行動面についての知識を習得してゆく。		
教材（教科書）	特に指定しない。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	講義時に適宜紹介する		
教育方法	毎回、図版プリントを配布する。OHC・動画を併用して画像を数多く見てもらいながら説明を加えてゆく講義方法を取る。		
評価方法	平常点（５０％）はノートなど毎回の授業における努力を見極めて評価する。残り５０％は合計３回提出を求める簡単な課題レポートで行う		
到達目標	・博物館相当施設における資料保存に不可欠な要素を、具体的に説明できる。 ・博物館相当施設における資料保存に不可欠な要素を、具体的に行ってゆく作業手順を説明できる。 ・博物館相当施設における資料保存作業の手順・年間スケジュールを作成できる。		
授業時間外学習	博物館相当施設などを実際に訪れて、どのように資料が扱われているか、資料の安全にどのように配慮しているかなどを、実際に目で見てチェックして確認してほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール

博物館学芸員資格や社会教育主事の資格の取得を目指すもののための講義である
ことを自覚して、真摯な姿勢・態度で受講することを望む。大学の講義の形にはなって
いるが、実際は国家資格取得のための講習会であることを自覚して受講してほしい。
なお。この科目の単位は卒業に必要な単位にはいかなる形でも算入されないので、
資格取得希望者以外は履修登録をしないこと。

学習上の助言

単位さえ取れればよいという発想をまず捨捨てること。学芸員並びにそれに類似する
職業に就いて仕事をする上での必要最低条件になることを伝える内容なので、聞き
逃せば資格を与えられなくても当然だという認識で臨んでほしい。

授業スケジュール

１・　博物館における資料保存の意義
２・　資料の保存（収蔵庫）
３・　資料の保存（温湿度管理）
４・　資料の保存（光と照明）
５・　資料の保存（空気汚染）
６・　資料の保存（有害生物による被害）
７・　資料の保存（防災、火災・地震・水害）
８・　資料の取り扱い（資料の取り扱い１）
９・　資料の取り扱い（資料の取り扱い２）
１０・　資料の取り扱い（収蔵品の点検作業）
１１・　資料の取り扱い（梱包と輸送）
１２・　資料の取り扱い（修復）
１３・　資料保存と行政・法律

１４・　埋蔵文化財の保存 １５・　文化財保存の将来

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JP0072001
科目名	博物館展示論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	黒川　孝宏	旧科目名称	
授業概要	博物館や資料館における展示は、　来館者、見学者にとって、様々な資料を知り理解し興味や関心を高める契機となるため、最も重要な要素といえる。 　この講義では、博物館や資料館での展示の歴史とその現状、展示理念と展示環境などに言及し、歴史・民俗・考古・美術工芸・彫刻の各分野の具体的展示手法を紹介する。あわせて、新しい展示技術にも触れながら、展示計画の作成、実施手順について講義し学芸員としての展示論の習得を図る。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	講義時に随時紹介する。		
教育方法	板書を中心に講義を進め、関係資料コピー等を配布して解説し、内容の理解を深めようにする。		
評価方法	平常点（５０％）出席状況、受講態度、コメントシートの提出。定期テスト（５０％）。		
到達目標	博物館や資料館における学芸員として、展示理念と展示方法・技術、環境の理解と、展示計画・実施のノウハウの習得を目標とする		
授業時間外学習	博物館や資料館における各分野の展示会に関心を持ち、積極的に見学参加し、展示の実際を知っておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

学芸員の資格取得のための講義である点をしっかりと自覚して、真摯な態度での受講を望む。

授業スケジュール

1　博物館・資料館における展示の歴史と現状について＜概説１＞
2　博物館での展示理念について（各論１）
3　博物館での展示技法・技術について（各論２）
4　博物館での展示設備・環境について（各論３）
5　博物館・資料館における分野別展示について＜概説２＞
6　博物館での民俗分野の展示について（各論１）
7　博物館での考古分野の展示について（各論２）
8　博物館での歴史分野の展示について（各論３）
9　博物館での美術工芸・彫刻の展示について（各論４）
10　博物館での新しい展示方法について－その１－（各論５）
11　博物館での新しい展示手法について－その２－（各論６）
12　博物館・資料館における展示計画と実施について＜概説３＞
13　博物館での具体的展示計画の作成について（各論１）
14　博物館での具体的展示実施の手順について（各論２）
15　博物館・資料館における展示の課題と展望について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0072002
科目名	博物館展示論 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	千田　康治	旧科目名称	
授業概要	博物館の主要な機能の一つである展示について、展示の歴史や様々な展示の形態を学ぶ。そして、博物館での展示活動の実際を、企画立案から展示作業、展示解説、展示の終了まで一連の流れの中で解説するとともに、展示の制作、演出手法、解説手法などの現場で必要とされる知識を学ぶ。		
教材（教科書）	適時レジュメを配布		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	配布した講義レジュメに沿って、講義法で行う。適時スクリーンにて画像を投影して解説する他、随時受講者に意見を発言することを求める。発言は評価の対象とする。		
評価方法	出席状況や授業態度等による平常点６０％。　定期試験もしくはレポート４０％		
到達目標	博物館での展示について、その歴史、方法、展示による教育活動、諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。		
授業時間外学習	美術館や博物館、ショールーム等の見学		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

美術館や博物館のみならず、店のショーウィンドウの飾り付け等、様々な展示や演出を日頃から注意して見てください。

授業スケジュール

第１回　博物館展示の意義
第２回　展示と展示論の歴史
第３回　展示の分類
第４回　博物館展示の実際１　事業展開の流れ
第５回　博物館展示の実際２　事前準備１
第６回　博物館展示の実際３　事前準備２
第７回　博物館展示の実際４　展示のプランニング１
第８回　博物館展示の実際５　展示のプランニング２
第９回　博物館展示の実際６　展示照明１
第１０回　博物館展示の実際７　展示照明２
第１１回　博物館展示の実際８　展示の工夫
第１２回　博物館展示の実際９　ポスター・図録の作成
第１３回　博物館展示の実際１０　キャプション・展示解説１
第１４回　博物館展示の実際１１　キャプション・展示解説２
第１５回　博物館展示と法律

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0073001
科目名	教職実践演習 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
授業概要	教育実習での校種や教科，受講者の課題などを考慮したグループで授業を進める。前半は教育実習での経験をふまえ，「授業」「生徒理解」「学級経営と学校運営」の 3 つをテーマに学内でのグループ討論，ロールプレイ，模擬授業などを行う。後半は，学校現場の参観・見学や児童・生徒と直接触れ合う機会をとおしてより実践的な資質能力を身につける。また，学校現場の今日的な課題について話を聞く場を設け，その内容を踏まえて地域や保護者とのかかわり方，組織の一員として自覚などのテーマについてグループ討論を行う。		
教材（教科書）	授業の内容に関わるものをその都度紹介する。		
教材（参考資料）	授業の内容に関わるものをその都度紹介する。		
教育方法	グループ討論，ロールプレイ，模擬授業などの活動を中心に授業を進める。		
評価方法	各活動に対する参加状況や態度（50%）　グループ討論などでの発言（30%）　履修カルテ（20%）		
到達目標	・教育実習での経験をふまえ，「授業」「生徒理解」「学級経営と学校運営」の 3 つをテーマに学内でのグループ討論，ロールプレイ，模擬授業などを行うことができる。 ・学校現場の今日的な課題について話を聞く場を設け，その内容を踏まえて地域や保護者とのかかわり方，組織の一員として自覚などのテーマについてグループ討論を行うことができる。		
授業時間外学習	授業までに出された課題をしっかりやっておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・教育実習を終えていること。
・教員免許の取得を目指すものとしてふさわしい態度で授業に臨むこと。
・グループ活動では，積極的に行動すること。

授業スケジュール

第 1 回：オリエンテーション　履修カルテの整理と教育実習の振り返り
第 2 回：「授業 1 」模擬授業に向けての指導案作り　グループ討論
第 3 回：「授業 2 」模擬授業に向けての指導案作り　グループ討論
第 4 回：「生徒理解 1 」教育相談のための基礎演習（事例研究）
第 5 回：「生徒理解 2 」教育相談のための基礎演習（ロールプレイ）
第 6 回：「学級経営」　学級経営案作り　グループ討論
第 7 回：「学校運営」　教育目標や校務分掌についてグループ討論
第 8 回：講義　学校現場の今日的な問題について
第 9 回：「保護者や地域の関係者との人間関係の構築等」について　グループ討論

第 10 回：以下の A と B の 2 つの内容について、それぞれの中から 1 つ以上（合計 2 つ以上）の参観・見学、実習を行う
第 11 回：(3 名の担当教員が分担し、引率と事前事後の指導を行う)
第 12 回：　A　学校現場などの参観・見学
第 13 回：　・ 特別支援学校・ 日本語教室（外国人児童・生徒を対象とした教室）
・ 教育研究発表会への参加・ 保育園、幼稚園・ 福祉施設などの関連機関
B　子どもや保護者と直接触れ合う実習
・ サイエンスフェスタなどの地域の行事への参加
・ 放課後の補充指導や「学びサポーター」への参加
・ 宿泊学習や校外学習への協力

第 14 回：模擬授業発表会　模擬授業と事後研究会　演習のまとめ　グループ討論
第 15 回：総括　履修カルテの完成と相互評価

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	★	－

年度	2018	授業コード	JP0073002
科目名	教職実践演習 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	池田　恭浩	旧科目名称	
授業概要	教育実習での校種や教科，受講者の課題などを考慮したグループで授業を進める。前半は教育実習での経験をふまえ，「授業」「生徒理解」「学級経営と学校運営」の 3 つをテーマに学内でのグループ討論，ロールプレイ，模擬授業などを行う。後半は，学校現場の参観・見学や児童・生徒と直接触れ合う機会をとおしてより実践的な資質能力を身につける。また，学校現場の今日的な課題について話を聞く場を設け，その内容を踏まえて地域や保護者とのかかわり方，組織の一員として自覚などのテーマについてグループ討論を行う。		
教材（教科書）	授業の内容に関わるものをその都度紹介する。		
教材（参考資料）	授業の内容に関わるものをその都度紹介する。		
教育方法	グループ討論，ロールプレイ，模擬授業などの活動を中心に授業を進める。		
評価方法	各活動に対する参加状況や態度（50%）　グループ討論などでの発言（30%）　履修カルテ（20%）		
到達目標	・教育実習での経験をふまえ，「授業」「生徒理解」「学級経営と学校運営」の 3 つをテーマに学内でのグループ討論，ロールプレイ，模擬授業などを行うことができる。 ・学校現場の今日的な課題について話を聞く場を設け，その内容を踏まえて地域や保護者とのかかわり方，組織の一員として自覚などのテーマについてグループ討論を行うことができる。		
授業時間外学習	授業までに出された課題をしっかりやっておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・教育実習を終えていること。
・教員免許の取得を目指すものとしてふさわしい態度で授業に臨むこと。
・グループ活動では，積極的に行動すること。

授業スケジュール

第 1 回：オリエンテーション　履修カルテの整理と教育実習の振り返り
第 2 回：「授業 1 」模擬授業に向けての指導案作り　グループ討論
第 3 回：「授業 2 」模擬授業に向けての指導案作り　グループ討論
第 4 回：「生徒理解 1 」教育相談のための基礎演習（事例研究）
第 5 回：「生徒理解 2 」教育相談のための基礎演習（ロールプレイ）
第 6 回：「学級経営」　学級経営案作り　グループ討論
第 7 回：「学校運営」　教育目標や校務分掌についてグループ討論
第 8 回：講義　学校現場の今日的な問題について
第 9 回：「保護者や地域の関係者との人間関係の構築等」について　グループ討論

第 10 回：以下の A と B の 2 つの内容について、それぞれの中から 1 つ以上（合計 2 つ以上）の参観・見学、実習を行う
第 11 回：(3 名の担当教員が分担し、引率と事前事後の指導を行う)
第 12 回：　A　学校現場などの参観・見学
第 13 回：　・ 特別支援学校・ 日本語教室（外国人児童・生徒を対象とした教室）
・ 教育研究発表会への参加・ 保育園、幼稚園・ 福祉施設などの関連機関
B　子どもや保護者と直接触れ合う実習
・ サイエンスフェスタなどの地域の行事への参加
・ 放課後の補充指導や「学びサポーター」への参加
・ 宿泊学習や校外学習への協力

第 14 回：模擬授業発表会　模擬授業と事後研究会　演習のまとめ　グループ討論
第 15 回：総括　履修カルテの完成と相互評価

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★★	★	－

年度	2018	授業コード	JP0077A01
科目名	西洋美術史Ａ 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	吉川　節子	旧科目名称	
授業概要	美術展があちこちで開かれ，入場するのに長い待ち時間！　皆さんもそんな経験があるでしょう。美術は大人気です。なぜ美術は人を惹きつけるのか，それを探るのがこの授業です。 「美術史」は美術の歴史ですが，いわゆる「歴史」とはちがって，具体的な「作品」を対象としています。ある「作品」が好まれるのは，必ず理由があります。いやぁ，好き嫌いは趣味の問題で，理屈ではない・・たしかに，このように考える人が多いのも事実です。ところが趣味こそ時代によって形成されるのです。ファッションに流行があるように，ある「作品」がなぜその時代に魅力的であったのかを考えてみましょう。すると不思議なことに，作品を生んだ時代そのものの本質が浮かび上がってきます。 授業では西洋美術の代表的な作品を選びます。社会人になってからも知識が役立つような基本的な作品を中心に授業をすすめます。美術愛好の手引きとして「創造」のすばらしさを是非，学んでください。		
教材（教科書）	教科書は特に指定しないので，配布するプリントを中心に授業でノートをとってください。		
教材（参考資料）	基本的な通史としては ★高階秀爾監修『カラー版　西洋美術史』（美術出版社，２００２年） ★千足伸行監修『新西洋美術史』（西村書店，１９９９年） 近刊書としては木村泰司著『世界のビジネスエリートが身につける教養「西洋美術史」』（ダイヤモンド社，２０１７年） そのほか，授業中に随時指示します。		
教育方法	教育方法として ★毎回パワーポイントを活用し，スライド、DVD 等で西洋美術史を概観しながら、個々の作品の細部も詳細に検討します。過去の芸術がどのような影響を後世に与えているか、アーティストや鑑賞者の「視覚」とはどのようなものなのか、こうしたことを念頭において作品を考察し，作品を成立させた社会構造を分析します。 ★美術史の基本は実際に作品を観るということです。授業では基礎知識習得のためにスライド，DVD 等で作品を見ますが、みなさんにはスライドなどではなく、できるだけ多くの機会をとらえて実際に作品を見ていただきたい。関連する展覧会、催し物などを紹介しますから，足を運んで，数多くの作品に実際に接してください。なお紹介した展覧会のなかで，課題と定めた展覧会（課題展）は必ず観なければなりません。		
評価方法	期末試験⇒５０％　授業内容を踏まえて，西洋美術史の基礎知識習得，および「創造」の豊かさへの理解を確認します 小レポート　⇒２０％　課題展についての小レポートです。このレポートは，予め作成しておくのではなく，授業時間内に１５分程度でまとめます 授業への取り組み，小テスト　⇒３０％　授業に出席して，授業の進行を把握し，基礎事項を理解しているか？課題作品等について積極的に発表しているか？		
到達目標	★西洋の歴史をたどり，西洋美術史の基礎知識を身に付ける。 ★西洋美術を代表する作品の分析。芸術的観点からの作品分析だけではなく，歴史的・社会的背景についても考察し，芸術を多角的に分析することを目標とします。「“時代”を表象する作品」ということを考え，芸術作品を成立させた社会構造に対する分析力を養います。 ★芸術のすばらしさ，「創造」の豊かさに触れる。		
授業時間外学習	★授業で今学期の「課題作品」を設定します。課題作品について，作者・背景等を予め調べておいてください。（１作品につきおよそ１時間） ★授業と関連する展覧会，催し物などを紹介しますから，会場に出掛け，芸術を見る「眼」を養ってくだ		

	さい。なお課題と定めた展覧会（課題展）は必ず観なければなりません。（課題展鑑賞およそ 2 時間，紹介展に関しては各自じっくりと鑑賞してください。）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

★授業内容に関しての発言，発表など，授業に積極的に参加してください。ただし私語は厳禁です。
★可能であれば，「西洋美術史 A」・「西洋美術史 B」どちらかではなく，通年で「西洋美術史」A，B を連続して履修してください。
★授業スケジュールは一応目安として以下に示しましたが，履修者の人数・興味など第一回授業で実施するアンケート結果によって具体的なテーマと詳細を決めたいと思います。

授業スケジュール

授業計画（第１回から第１５回授業）は以下の通りです。
１．アンケート。みなさんの興味にそってテーマをしぼるためにまず，アンケートを行います。履修者は西洋美術に対してどのような関心をもっているのか，またどのくらいの知識をすでに習得しているのか，こうしたことを質問し授業の進捗に反映させます。第二回以降の授業計画は概ね以下に示す通りですが，詳細はアンケート結果に基づいて決定します。
２．イントロダクション
３．芸術の都「パリ」と美術館　I
４．芸術の都「パリ」と美術館　II
５．古代ギリシア・ローマ　I
６．古代ギリシア・ローマ　II
７．中世　ロマネスク美術とは？
８．中世　ロマネスク美術とは？　ゴシック美術とは？
９．中世　ゴシック美術とは？
１０．ルネサンス　I
１１．ルネサンス　II
１２．西洋美術の諸問題（課題作品を中心に）　I
１３．西洋美術の諸問題（課題作品を中心に）　II
１４．西洋美術の諸問題（課題作品を中心に）　III
１５．西洋美術の諸問題（課題作品を中心に）　IV

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0077B01
科目名	西洋美術史Ｂ 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	吉川　節子	旧科目名称	
授業概要	美術展があちこちで開かれ，入場するのに長い待ち時間！　皆さんもそんな経験があるでしょう。美術は大人気です。なぜ美術は人を惹きつけるのか，それを探るのがこの授業です。 「美術史」は美術の歴史ですが，いわゆる「歴史」とはちがって，具体的な「作品」を対象としています。ある「作品」が好まれるのは，必ず理由があります。いやぁ，好き嫌いは趣味の問題で，理屈ではない・・たしかに，このように考える人が多いのも事実です。ところが趣味こそ時代によって形成されるのです。ファッションに流行があるように，ある「作品」がなぜその時代に魅力的であったのかを考えてみましょう。すると不思議なことに，作品を生んだ時代そのものの本質が浮かび上がってきます。 授業では「西洋美術史 A」に引き続き，西洋美術の代表的な作品を選びます。社会人になってからも知識が役立つような基本的な作品を中心に授業をすすめます。美術愛好の手引きとして｢創造｣のすばらしさを是非，学んでください。		
教材（教科書）	教科書は特に指定しないので，配布するプリントを中心に授業でノートをとってください。		
教材（参考資料）	基本的な通史としては ★高階秀爾監修『カラー版　西洋美術史』（美術出版社，２００２年） ★千足伸行監修『新西洋美術史』（西村書店，１９９９年） 近刊書としては木村泰司著『世界のビジネスエリートが身につける教養「西洋美術史」』（ダイヤモンド社，２０１７年） 19 世紀印象派に関しては ★吉川節子『印象派の誕生』（中公新書，２０１０年） そのほか，授業中に随時指示します。		
教育方法	教育方法として ★毎回パワーポイントを活用し，スライド、DVD 等で西洋美術史を概観しながら、個々の作品の細部も詳細に検討します。過去の芸術がどのような影響を後世に与えているか、アーティストや鑑賞者の「視覚」とはどのようなものなのか、こうしたことを念頭において作品を考察し，作品を成立させた社会構造を分析します。 ★美術史の基本は実際に作品を観るということです。授業では基礎知識習得のためにスライド，DVD 等で作品を見ますが、みなさんにはスライドなどではなく、できるだけ多くの機会をとらえて実際に作品を見ていただきたい。関連する展覧会、催し物などを紹介しますから，足を運んで，数多くの作品に実際に接してください。なお紹介した展覧会のなかで，課題と定めた展覧会（課題展）は必ず観なければなりません。		
評価方法	期末試験⇒５０％　授業内容を踏まえて，西洋美術史の基礎知識の習得，および「創造」の豊かさへの理解を確認します 小レポート　⇒２０％　課題展についての小レポートです。このレポートは，予め作成しておくのではなく，授業時間内に１５分程度でまとめます 授業への取り組み，小テスト　⇒３０％　授業に出席して，授業の進行を把握し，基礎事項を理解しているか？課題作品等について積極的に発表しているか？		
到達目標	★西洋の歴史をたどり，西洋美術史の基礎知識を身に付ける。 ★西洋美術を代表する作品の分析。芸術的観点からの作品分析だけではなく，歴史的・社会的背景についても考察し，芸術を多角的に分析することを目標とします。｢“時代”を表象する作品」ということを考え，芸術作品を成立させた社会構造に対する分析力を養います。 ★芸術のすばらしさ，｢創造｣の豊かさに触れる。		
授業時間外学習	★授業で今学期の「課題作品」を設定します。課題作品について，作者・背景等を予め調べておいてください。（１作品につき、およそ１時間）		

	★授業と関連する展覧会，催し物などを紹介しますから，会場に出掛け，芸術を見る「眼」を養ってください。なお課題と定めた展覧会（課題展）は必ず観なければなりません。（課題展鑑賞およそ 2 時間，紹介展に関しては各自じっくりと鑑賞してください。）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

★授業内容に関しての発言，発表など，授業に積極的に参加してください。ただし私語は厳禁です。
★可能であれば，「西洋美術史 A」・「西洋美術史 B」どちらかではなく，通年で「西洋美術史」A，B を連続して履修してください。
★授業スケジュールは一応目安として以下に示しましたが，履修者の人数・興味など第一回授業で実施するアンケート結果によって具体的なテーマと詳細を決めたいと思います。

授業スケジュール

授業スケジュール（第１回から第１５回授業）は以下の通りです。
１．アンケート。みなさんの興味にそってテーマをしぼるためにまず，アンケートを行います。履修者は西洋美術に対してどのような関心をもっているのか，またどのくらいの知識をすでに習得しているのか，こうしたことを質問し授業の進捗に反映させます。第二回以降の授業計画は概ね以下に示す通りですが，詳細はアンケート結果に基づいて決定します。
２．イントロダクション
３．続イントロダクション
４．ルネサンス
５．マニエリスム，バロック
６．バロック
７．バロックの展開
８．ロココ
９．古典主義
１０．古典主義の展開
１１．近代の西洋美術
１２．近代の西洋美術（現実への眼差し）
１３．印象派　Ⅰ
１４．印象派　Ⅱ
１５．西洋美術の諸問題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JP0078A01
科目名	現代アート論Ａ 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	吉川　節子	旧科目名称	
授業概要	「現代アートはわからない」といわれます。その現代アートを身近に読み解くこと，これが授業の目標です。そもそも現代アートとは，私たちが生きている時代に創られた作品たちです。芸術に時代が反映されるなら，現代アートこそもっとも身近な美術と言えるのです。テレビや広告，ウェブ上など，現代社会はさまざまな情報伝達を通して視覚文化を成立させていますが，私たちの生活を彩るこうしたイメージをとりあげ、「表現」と現代社会のあり方を結び付けて検証しましょう。イメージを生産・消費する現代社会の「創造」を問い直します。 これまで美術にあまり馴染みのなかった履修者も大歓迎です。「創造」は作家の鋭いインスピレーションと過去の芸術への深い洞察に立脚しています。現代における「創造」を理解するためには，過去の芸術の流れを知ること，つまり，美術史の基本的な知識が不可欠です。西洋美術史の基礎知識も学びながら，現代アートの展開を見ていきましょう！		
教材（教科書）	特に指定はしません。配布するプリントで授業のアウトラインをつかんでください。		
教材（参考資料）	・主な参考書は次の通り： 末永照和監修『２０世紀の美術』（美術出版社，２０００） 勝井三雄，田中一光，向井周太郎監修『２００３年版　現代デザイン事典』（平凡社，２００３） 柏木博著『芸術の複製技術時代　日常のデザイン』（岩波書店，１９９６） 授業で紹介する展覧会の図録 古代から現代までの西洋美術史の基礎知識を学ぶには，高階秀爾監修『カラー版　西洋美術史』（美術出版社，２００２年）や千足伸行監修『新西洋美術史』（西村書店，１９９９年） 印象派に関しては吉川節子『印象派の誕生』（中公新書，２０１０年）。 そのほか，授業中随時指示します。		
教育方法	教育方法として ★毎回パワーポイントを活用し，スライド、DVD 等で現代アートの多様な「作品」を幅広く見ていきます。鍵となる重要作品は，細部も詳細に検討します。現代アートへの過去の芸術の影響を念頭において，現代社会における「表現」を考察します。 ★美術史の基本は実際に作品を観るということです。授業では基礎知識習得のためにスライド，DVD 等で作品を見ますが、みなさんにはスライドなどではなく、できるだけ多くの機会をとらえて実際に作品を見ていただきたい。関連する展覧会、催し物などを紹介しますから，足を運んで，数多くの作品に実際に接してください。なお紹介した展覧会のなかで，課題と定めた展覧会（課題展）は必ず観なければなりません。		
評価方法	期末試験　⇒５０％　授業内容を踏まえて，西洋美術史の基礎知識習得，および「創造」の豊かさへの理解を確認します 小レポート　⇒２０％　課題展についての小レポートです。このレポートは，予め作成しておくのではなく，授業時間内に１５分程度でまとめます 授業への取り組み，小テスト　⇒３０％　授業に出席して，授業の進行を把握し，基礎事項を理解しているか？課題作品等について積極的に発表しているか？		
到達目標	・「現代アート」を歴史的に解体し、その核を探ります。私たちの生活空間を彩る芸術作品をとりあげ，それらが生産・消費される現代の「創造」を，みなさんとともに問い直してみようと思います。現代アートを考察すると、きっとその彼方に錯綜する現代社会の本質が見えてくるはずです。 ・美術を見る「眼」を養う。		
授業時間外学習	展覧会・美術家の動向など，メディアの発信情報に関心を寄せてください。（１週間に延べ１時間）		

	授業と関連する展覧会・催し物などに行き，実際に「作品」を鑑賞してください。(少なくとも月に１回)

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

美術愛好者の履修希望が多いと思います。鑑賞した作品，授業内容への意見や感想を述べて積極的に授業に参加してください。ただし授業に関係のない私語は厳禁です。

授業スケジュール

授業スケジュール（第１回から第１５回授業）は以下の通りです。

１．アンケート：履修者が現代アートに対して，どのような関心があり美術史の知識をどのくらいもっているのか，こうしたことを知るために，アンケートを行います。その後，授業のコンセプトを説明します。第二回以降の授業計画は概ね以下に示す通りですが，詳細はアンケート結果に基づいて決定します。

２．イントロダクションⅠ：美術史は伝統的に絵画，彫刻，建築といった「純粋」芸術を主な研究対象としてきましたが，現代社会には，ＣＧ，モード，デザインなど，こうした領域からはみ出した映像，イメージが氾濫しています。私たちの生活空間を彩る作品が生産・消費される現代の「創造」を概観しましょう。

３．イントロダクション　Ⅱ

４．２０世紀初頭，ヨーロッパで絵画革新運動が起こり，写実・再現を目的とする伝統的な絵画技法が否定されました。フォヴィスムによって色彩が開放され，キュビスムによって形態が解体されたのです。人類に強い衝撃を与えた第一次世界大戦，第二次世界大戦をへて，芸術はさらに大きく変貌し，ヨーロッパからアメリカへとその中心も移りました。「写実」・「再現」を歴史のなかで検証します。

５．現代アートの諸問題（「写実」「再現」の検証）

６．現代アートの諸問題（「写実」「再現」の検証，遠近法の展開　Ⅰ）

７．現代アートの諸問題（「写実」「再現」の検証，遠近法の展開　Ⅱ）

８．現代アートの諸問題（「写実」「再現」の検証，写真　Ⅰ）

９．現代アートの諸問題（「写実」「再現」の検証，写真　Ⅱ）

１０．現代アートの諸問題（「写実」「再現」の検証，写真　Ⅲ）

１１．現代アートの諸問題（デザイン，ファッション　Ⅰ）

１２．現代アートの諸問題（デザイン，ファッション　Ⅱ）

１３．現代アートの諸問題（デザイン　Ⅰ）

１４．現代アートの諸問題（デザイン　Ⅱ）

１５．現代社会とアート

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JP0078B01
科目名	現代アート論Ｂ　【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	吉川　節子	旧科目名称	
授業概要	「現代アートはわからない」といわれます。その現代アートを身近に読み解くこと，これが授業の到達目標です。そもそも現代アートとは，私たちが生きている時代に創られた作品たちです。芸術に時代が反映されるなら，現代アートこそもっとも身近な美術と言えるのです。テレビや広告，ウェブ上など，現代社会はさまざまな情報伝達を通して視覚文化を成立させていますが，私たちの生活を彩るこうしたイメージをとりあげ、「表現」と現代社会のあり方を結び付けて検証しましょう。イメージを生産・消費する現代社会の「創造」を問い直します。 これまで美術にあまり馴染みのなかった履修者も大歓迎です。「創造」は作家の鋭いインスピレーションと過去の芸術への深い洞察に立脚しています。現代における「創造」を理解するためには，過去の芸術の流れを知ること，つまり，美術史の基本的な知識が不可欠です。西洋美術史の基礎知識も学びながら，現代アートの展開を見ていきましょう！		
教材（教科書）	特に指定はしません。配布するプリントで授業のアウトラインをつかんでください。		
教材（参考資料）	・主な参考書は次の通り： 末永照和監修『２０世紀の美術』（美術出版社，２０００） 勝井三雄，田中一光，向井周太郎監修『２００３年版　現代デザイン事典』（平凡社，２００３） 柏木博著『芸術の複製技術時代　日常のデザイン』（岩波書店，１９９６） 授業で紹介する展覧会の図録 古代から現代までの西洋美術史の基礎知識を学ぶには，高階秀爾監修『カラー版　西洋美術史』（美術出版社，２００２年）や千足伸行監修『新西洋美術史』（西村書店，１９９９年） 印象派に関しては吉川節子『印象派の誕生』（中公新書，２０１０年）。 そのほか，授業中随時指示します。		
教育方法	教育方法として ★授業では毎回パワーポイントを活用し，スライド、DVD 等で現代アートのさまざまな「作品」を幅広く見ていきます。鍵となる重要作品は，細部も詳細に検討します。現代アートと過去の芸術作品を比べましょう。現代アートへの過去からの影響を考え，現代社会における「表現」を分析します。 ★美術史の基本は実際に作品を観るということです。授業では基礎知識習得のためにスライド，DVD 等で作品を見ますが、みなさんにはスライドなどではなく、できるだけ多くの機会をとらえて実際に作品を見ていただきたい。関連する展覧会、催し物などを紹介しますから，足を運んで，数多くの作品に実際に接してください。なお紹介した展覧会のなかで，課題と定めた展覧会（課題展）は必ず観なければなりません。		
評価方法	期末試験　⇒５０％　授業内容を踏まえて，西洋美術史の基礎知識習，および「創造」の豊かさへの理解を確認します 小レポート　⇒２０％　課題展についての小レポートです。このレポートは，予め作成しておくのではなく，授業時間内に１５分程度でまとめます 授業への取り組み，小テスト　⇒３０％　授業に出席して，授業の進行を把握し，基礎事項を理解しているか？課題作品等について積極的に発表しているか？		
到達目標	・「現代アート」を歴史的に解体し、その核を探ります。私たちの生活空間を彩る芸術作品をとりあげ，それらが生産・消費される現代の「創造」を，みなさんとともに問い直してみようと思います。現代アートを考察すると、きっとその彼方に錯綜する現代社会の本質が見えてくるはずです。 ・美術を見る「眼」を養う。		
授業時間外学習	展覧会・美術家の動向など，メディアの発信情報に関心を寄せてください。（１週間に延べ１時間） 授業と関連する展覧会・催し物などに行き，実際に「作品」を鑑賞してください。（少なくとも月に１回）		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
美術愛好者の履修希望が多いと思います。鑑賞した作品，授業内容への意見や感想を述べて積極的に授業に参加してください。ただし授業に関係のない私語は厳禁です。
授業スケジュール
授業スケジュール(第１回から第１５回授業）は以下の通りです。 １．アンケート：履修者が現代アートに対して，どのような関心があり美術史の知識をどのくらいもっているのか，こうしたことを知るために，アンケートを行います。その後，授業のコンセプトを説明します。第二回以降の授業計画は概ね以下に示す通りですが，詳細はアンケート結果に基づいて決定します。 ２．イントロダクションⅠ：美術史は伝統的に絵画，彫刻，建築といった「純粋」芸術を主な研究対象としてきましたが，現代社会には，ＣＧ，モード，デザインなど，こうした領域からはみ出した映像，イメージが氾濫しています。私たちの生活空間を彩る作品が生産・消費される現代の「創造」を概観しましょう。 ３．イントロダクション　Ⅱ ４．イントロダクション　Ⅲ ５．現代アートの諸問題（「オリジナル」であることの意味　Ⅰ） ６．現代アートの諸問題（「オリジナル」であることの意味　Ⅱ） ７．現代アートの諸問題（現代アートの重要な概念である「オリジナリティ」の検証　Ⅰ） ８．現代アートの諸問題（「オリジナリティ」の検証　Ⅱ） ９．現代アートの諸問題（「オリジナリティ」の検証　Ⅲ） １０．現代アートの諸問題（パブリックアート　Ⅰ） １１．現代アートの諸問題（パブリックアート　Ⅱ） １２．現代アートの諸問題（パブリックアート　Ⅲ） １３．現代アートの諸問題（現代アートとパトロン，メセナ　Ⅰ） １４．現代アートの諸問題（現代アートとパトロン，メセナ　Ⅱ） １５．現代社会におけるアートとは？

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JP0079A01
科目名	日欧比較芸術論Ａ　【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	吉川　節子	旧科目名称	
授業概要	京都国立近代美術館で今年の３月４日まで開かれていた「ゴッホ展」は御覧になった方も多いと思います。「巡りゆく日本の夢」という副題がつけられたこの展覧会では，ゴッホが浮世絵など「日本」に大きな影響を受けたこと，１８９０年ゴッホ他界後は彼に憧れた日本人が作品を訪ねてゴッホ巡礼を始めたことが鮮やかに示され，ゴッホと「日本」の双方向の熱い関係が浮き彫りになりました。さらに東京・上野の国立西洋美術館では昨秋から，浮世絵師：北斎（1849 年没）が破格の存在感で西欧のアーティストを魅了した軌跡をたどる「北斎とジャポニスム展」が評判になりました。19 世紀半ば以降日本が西欧に影響を与えた現象を「ジャポニスム」と呼びますが，この授業は「ジャポニスム」をはじめ，日本と西欧の影響関係を皆さんとともに考察・検証するものです。さまざまな異文化との交流によって「日本」は形成されています。日本のすばらしい伝統が集積した京都で，古代からの東西文化交流の足跡をたどってみましょう。私たちの伝統文化は，西欧という異文化と比較することによっていっそう輝きを増します。そうしたおもしろさを探っていきたいと思います。		
教材（教科書）	特に指定はしません。配布するプリントで授業のアウトラインをつかんでください。 授業に出席してノートをとってください。		
教材（参考資料）	・主な参考文献は次の通り： 古代から現代までの西洋美術史の基礎知識を学ぶには，高階秀爾監修『カラー版　西洋美術史』（美術出版社，２００２年）や千足伸行監修『新西洋美術史』（西村書店，１９９９年） 『北斎とジャポニスム展』図録（国立西洋美術館／読売新聞東京本社，２０１７年） 『ゴッホ展　巡りゆく日本の夢』図録（北海道新聞社，２０１７年） 印象派に関しては吉川節子『印象派の誕生』（中公新書，２０１０年）。 そのほか，授業中随時指示します。		
教育方法	教育方法として ★毎回パワーポイントを活用し，スライド、DVD 等で作品を鑑賞します。過去の芸術がどのような影響を後世に与えているか⇒時間軸，日本と西欧の美術のあいだにどのような関連がみられるのか⇒空間軸を定め，両軸にそって作品を解説します。 ★美術史の基本は実際に作品を観るということです。授業では基礎知識習得のためにスライド，DVD 等で作品を見ますが、みなさんにはスライドなどではなく、できるだけ多くの機会をとらえて実際に作品を見ていただきたい。授業と関連する展覧会、催し物などを紹介しますから，足を運んで，数多くの作品に実際に接してください。なお紹介した展覧会のなかで，課題と定めた展覧会（課題展）は必ず観なければなりません。		
評価方法	期末試験　⇒５０％　授業内容を踏まえて，基本的な知識習得，および「創造」の豊かさへの理解を確認します。 小レポート　⇒２０％　課題展についての小レポートです。このレポートは，予め作成しておくのではなく，授業時間内に１５分程度でまとめてください。 授業への取り組み，小テスト　⇒３０％　授業に出席して，授業の進行を把握し，基礎事項を理解しているか？課題作品等について積極的に発表しているか？		
到達目標	★日本・西欧の文化交流の基礎知識を身に付ける。 ★代表作品の分析。異文化の，過去の，あるいは同時代の作品などとある作品を幅広く比較することによって地理的・歴史的・社会的背景についても考察し，芸術を多角的に分析することを目標とする。 ★京都のすばらしさ，および「創造」の豊かさに触れる。		
授業時間外学習	★授業で「課題作品」を設定します。課題作品について，作者・背景等を予め調べておいてください。（1 作品につきおおよそ 1 時間） ★授業と関連する展覧会，催し物などを紹介しますから，会場に出掛け，芸術を見る「眼」を養ってください。なお課題と定めた展覧会（課題展）は必ず観なければなりません。（課題展鑑賞およそ 2 時間，紹介		

	展に関しては各自じっくりと鑑賞してください）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

★授業内容に関しての発言，発表など，授業に積極的に参加してください。ただし私語は厳禁です。
★授業スケジュールは一応目安として以下に示しましたが，履修者の人数・興味など第一回授業で実施するアンケート結果によって具体的なテーマと詳細を決めたいと思います。

授業スケジュール

授業スケジュール
１．アンケート。みなさんの興味にそってテーマをしぼるためにまず，アンケートを行います。履修者は西洋美術，日本美術に対してどのような関心をもっているのか，またどのくらいの知識をすでに習得しているのか，こうしたことを質問し授業の進捗に反映させます。第二回以降の授業計画はおおむね以下に示す通りですが，詳細はアンケート結果に基づいて決定します。
２．イントロダクション
３．東西文化交流（ギリシアの神々　I）
４．東西文化交流（ギリシアの神々　II）
５．東西文化交流（法隆寺，伊東忠太　I）
６．東西文化交流（法隆寺，伊東忠太　II）
７．東西文化交流（建築）
８．東西文化交流（印象派とは？　I）
９．東西文化交流（印象派とは？　II）
１０．東西文化交流（ジャポニスム，林忠正　I）
１１．東西文化交流（ジャポニスム，林忠正　II）
１２．東西文化交流（ジャポニスム　I）
１３．東西文化交流（ジャポニスム　II）
１４．東西文化交流（ジャポニスムの展開　I）
１５．東西文化交流（ジャポニスムの展開　II）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JP0079B01
科目名	日欧比較芸術論Ｂ　【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	吉川　節子	旧科目名称	
授業概要	京都国立近代美術館で今年の３月４日まで開かれていた「ゴッホ展」は御覧になった方も多いと思います。「巡りゆく日本の夢」という副題がつけられたこの展覧会では，ゴッホが浮世絵など「日本」に大きな影響を受けたこと，１８９０年ゴッホ他界後は彼に憧れた日本人が作品を訪ねてゴッホ巡礼を始めたことが鮮やかに示され，ゴッホと「日本」の双方向の熱い関係が浮き彫りになりました。さらに東京・上野の国立西洋美術館で昨秋開幕した「北斎とジャポニスム展」は，浮世絵師：北斎（1849 年没）が破格の存在感で西欧のアーティストを魅了した軌跡をたどり，この展覧会もたいそう評判になりました。19 世紀半ば以降日本が西欧に影響を与えた現象を「ジャポニスム」と呼びますが，日欧比較芸術論は「ジャポニスム」をはじめ，日本と西欧の影響関係を皆さんとともに考察・検証するものです。さまざまな異文化との交流によって「日本」は形成されています。日本のすばらしい伝統が集積した京都で，古代からの東西文化交流の足跡をたどってみましょう。私たちの伝統文化は，西欧という異文化と比較することによっていっそう輝きを増します。そうしたおもしろさを探っていきたいと思います。		
教材（教科書）	特に指定はしません。配布するプリントで授業のアウトラインをつかんでください。 授業に出席してノートをとってください。		
教材（参考資料）	・主な参考書は次の通り： 古代から現代までの西洋美術史の基礎知識を学ぶには，高階秀爾監修『カラー版　西洋美術史』（美術出版社，２００２年）や千足伸行監修『新西洋美術史』（西村書店，１９９９年） 『北斎とジャポニスム展』図録（国立西洋美術館／読売新聞東京本社，２０１７年） 『ゴッホ展　巡りゆく日本の夢』図録（北海道新聞社，２０１７年） 印象派に関しては吉川節子『印象派の誕生』（中公新書，２０１０年）。 そのほか，授業中随時指示します。		
教育方法	教育方法として ★毎回パワーポイントを活用し，スライド、DVD 等で作品を鑑賞します。過去の芸術がどのような影響を後世に与えているか⇒時間軸，日本と西欧の美術のあいだにどのような関連がみられるのか⇒空間軸を定め，両軸にそって作品を解説します。 ★美術史の基本は実際に作品を観るということです。授業では基礎知識習得のためにスライド，DVD 等で作品を見ますが、みなさんにはスライドなどではなく、できるだけ多くの機会をとらえて実際に作品を見ていただきたい。授業と関連する展覧会、催し物などを紹介しますから，足を運んで，数多くの作品に実際に接してください。なお紹介した展覧会のなかで，課題と定めた展覧会（課題展）は必ず観なければなりません。		
評価方法	期末試験　⇒５0%　授業内容を踏まえて，基本的な知識習得，および「創造」の豊かさへの理解を確認します。 小レポート　⇒２０％　課題展についての小レポートです。このレポートは，予め作成しておくのではなく，授業時間内に１５分程度でまとめてください。 授業への取り組み，小テスト　⇒３０％　授業に出席して，授業の進行を把握し，基礎事項を理解しているか？課題作品等について積極的に発表しているか？		
到達目標	★日本・西欧の文化交流の基礎知識を身に付ける。 ★代表作品の分析。異文化の，過去の，あるいは同時代の作品などとある作品を幅広く比較することによって地理的・歴史的・社会的背景についても考察し，芸術を多角的に分析することを目標とする。 ★京都のすばらしさ，および「創造」の豊かさに触れる。		
授業時間外学習	★授業で「課題作品」を設定します。課題作品について，作者・背景等を予め調べておいてください。（1 作品につきおおよそ 1 時間） ★授業と関連する展覧会，催し物などを紹介しますから，会場に出掛け，芸術を見る「眼」を養ってください。なお課題と定めた展覧会（課題展）は必ず観なければなりません。（課題展鑑賞およそ 2 時間，紹介		

	展に関しては各自じっくりと鑑賞してください）

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

★授業内容に関しての発言，発表など，授業に積極的に参加してください。ただし私語は厳禁です。
★授業スケジュールは一応目安として以下に示しましたが，履修者の人数・興味など第一回授業で実施するアンケート結果によって具体的なテーマと詳細を決めたいと思います。

授業スケジュール

授業スケジュール
１．アンケート。みなさんの興味にそってテーマをしぼるためにまず，アンケートを行います。履修者は西洋美術，日本美術に対してどのような関心をもっているのか，またどのくらいの知識をすでに習得しているのか，こうしたことを質問し授業の進捗に反映させます。第二回以降の授業計画はおおむね以下に示す通りですが，詳細はアンケート結果に基づいて決定します。
２．イントロダクション
３．東西文化交流（ギリシアの神々　I）
４．東西文化交流（ギリシアの神々　II）
５．東西文化交流（法隆寺，伊東忠太　I）
６．東西文化交流（法隆寺，伊東忠太　II）
７．東西文化交流（建築）
８．東西文化交流（印象派とは？　I）
９．東西文化交流（印象派とは？　II）
１０．東西文化交流（ジャポニスム，林忠正　I）
１１．東西文化交流（ジャポニスム，林忠正　II）
１２．東西文化交流（ジャポニスム　I）
１３．東西文化交流（ジャポニスム　II）
１４．東西文化交流（ジャポニスムの展開　I）
１５．東西文化交流（ジャポニスムの展開　II）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	JP5042A01
科目名	生涯学習概論Ⅰ 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	林　潤平	旧科目名称	
授業概要	生涯学習の考え方や思想は、社会教育行政に携わるための基本的な知識であるのはもちろんのこと、今日ではしばしばメディア上などの、様々な場面で耳にする言葉となっています。本科目では生涯学習の基本的な概念や理論を、行政組織や他の教育機関との関係、社会教育施設などの幅広い問題と関連づけながら解説することで、生涯学習の本質と意義の理解を目指します。また本科目では、とくに生涯学習の歴史と現状との関連という側面を重視し、その視点から現在推進されている具体的な生涯学習実践を眺めてみることで、生涯学習に関する今日的な課題を理解することを目指します。		
教材（教科書）	特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介します。		
教育方法	主として黒板・ホワイトボードを用いた講義法で授業を行います。具体的には授業の最初に配布したレジュメに必要事項を記入しながら進行する講義を実施します。またそのなかで発言や発表を求める場面もあります。そして講義の最後では、毎回の授業内容理解を問い、同時にその内容に対する感想や意見を問う、授業内アンケートの記入を行い、平常点評価の対象としていきます。		
評価方法	成績は、平常点と授業内に実施する小テスト、レポートの 3 点を総合して評価します。 成績に占める各課題の採点配分は以下のとおりとなっています。 授業内アンケートを中心とする平常点（授業内の発言・発表等を含む）（40%） 小テスト（20%） レポート（40%）		
到達目標	・生涯学習、社会教育に関する基本的な知識を身につける。 ・上記の基本的な知識の理解の上にたって、生涯学習の本質や現代的な意味、意義について、説明することができるようになる。 ・今日的な課題との関連で、生涯学習に対する自身の考えを確立し、その考えを説明することができるようになる。		
授業時間外学習	毎回の講義終了時に次回の講義及び小テストに関連する資料を配布し、同時に予習キーワードを伝達するので、次回の講義までに目を通し、キーワードを参考にしながらわからない箇所を自分で調べるようにしてください。また学期中に小テストを数回実施するので、授業後には復習として、内容の確認と要点の整理をかかさず行うようにしてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

【受講のルール】
遅刻をしないこと、及び他者の学習環境を阻害するような私語・食事をしないなど、最低限のマナーを守ってください。悪質な場合は退室を命じたり、平常点の減点対象としたりすることがあります。
【学習上の助言】
メディア（新聞・テレビ・インターネットなど）上に登場する色々な学習の形の報告や記事に目を通し、気になったものをメモしておくと、生涯学習の知識の取得に役立ちますので、日々この点を意識してもらうことを推奨します。

授業スケジュール

1．ガイダンス：本講義の概要と成績評価方法
2．イントロダクション：生涯学習とは何か
3．世界の生涯学習の理論①：ユネスコの提唱した生涯教育、生涯学習論
4．世界の生涯学習の理論②：OECD の提唱する生涯学習
5．世界の生涯学習の理論③：アメリカの生涯学習
6．世界の生涯学習の理論④：さまざまな学習論、成人教育論の諸相
7．日本における生涯学習の展開と実践①：青少年・若者を対象とした生涯学習の実践
8．日本における生涯学習の展開と実践②：生涯スポーツの実践
9．日本における生涯学習の展開と実践③：日本における生涯学習政策の推移と現状

１０．日本における生涯学習の展開と実践④：地方自治体による生涯学習行政
１１．社会教育の展開と関連施設①：社会教育の歴史
１２．社会教育の展開と関連施設②：図書館の機能と役割
１３．社会教育の展開と関連施設③：公民館の機能と役割
１４．社会教育の展開と関連施設④：博物館の機能と役割
１５．今後の生涯学習の課題と生涯学習を実践していくこと

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JP5042A02
科目名	生涯学習概論Ⅰ 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	林　潤平	旧科目名称	
授業概要	生涯学習の考え方や思想は、社会教育行政に携わるための基本的な知識であるのはもちろんのこと、今日ではしばしばメディア上などの、様々な場面で耳にする言葉となっています。本科目では生涯学習の基本的な概念や理論を、行政組織や他の教育機関との関係、社会教育施設などの幅広い問題と関連づけながら解説することで、生涯学習の本質と意義の理解を目指します。また本科目では、とくに生涯学習の歴史と現状との関連という側面を重視し、その視点から現在推進されている具体的な生涯学習実践を眺めてみることで、生涯学習に関する今日的な課題を理解することを目指します。		
教材（教科書）	特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介します。		
教育方法	主として黒板・ホワイトボードを用いた講義法で授業を行います。具体的には授業の最初に配布したレジュメに必要事項を記入しながら進行する講義を実施します。またそのなかで発言や発表を求める場面もあります。そして講義の最後では、毎回の授業内容理解を問い、同時にその内容に対する感想や意見を問う、授業内アンケートの記入を行い、平常点評価の対象としていきます。		
評価方法	成績は、平常点と授業内に実施する小テスト、レポートの 3 点を総合して評価します。 成績に占める各課題の採点配分は以下のとおりとなっています。 授業内アンケートを中心とする平常点（授業内の発言・発表等を含む）（40%） 小テスト（20%） レポート（40%）		
到達目標	・生涯学習、社会教育に関する基本的な知識を身につける。 ・上記の基本的な知識の理解の上にたって、生涯学習の本質や現代的な意味、意義について、説明することができるようになる。 ・今日的な課題との関連で、生涯学習に対する自身の考えを確立し、その考えを説明することができるようになる。		
授業時間外学習	毎回の講義終了時に次回の講義及び小テストに関連する資料を配布し、同時に予習キーワードを伝達するので、次回の講義までに目を通し、キーワードを参考にしながらわからない箇所を自分で調べるようにしてください。また学期中に小テストを数回実施するので、授業後には復習として、内容の確認と要点の整理をかかさず行うようにしてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

【受講のルール】
遅刻をしないこと、及び他者の学習環境を阻害するような私語・食事をしないなど、最低限のマナーを守ってください。悪質な場合は退室を命じたり、平常点の減点対象としたりすることがあります。
【学習上の助言】
メディア（新聞・テレビ・インターネットなど）上に登場する色々な学習の形の報告や記事に目を通し、気になったものをメモしておくと、生涯学習の知識の取得に役立ちますので、日々この点を意識してもらうことを推奨します。

授業スケジュール

1．ガイダンス：本講義の概要と成績評価方法
2．イントロダクション：生涯学習とは何か
3．世界の生涯学習の理論①：ユネスコの提唱した生涯教育、生涯学習論
4．世界の生涯学習の理論②：OECD の提唱する生涯学習
5．世界の生涯学習の理論③：アメリカの生涯学習
6．世界の生涯学習の理論④：さまざまな学習論、成人教育論の諸相
7．日本における生涯学習の展開と実践①：青少年・若者を対象とした生涯学習の実践
8．日本における生涯学習の展開と実践②：生涯スポーツの実践
9．日本における生涯学習の展開と実践③：日本における生涯学習政策の推移と現状

１０．日本における生涯学習の展開と実践④：地方自治体による生涯学習行政
１１．社会教育の展開と関連施設①：社会教育の歴史
１２．社会教育の展開と関連施設②：図書館の機能と役割
１３．社会教育の展開と関連施設③：公民館の機能と役割
１４．社会教育の展開と関連施設④：博物館の機能と役割
１５．今後の生涯学習の課題と生涯学習を実践していくこと

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JP5042B01
科目名	生涯学習概論Ⅱ 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	林　潤平	旧科目名称	
授業概要	私たちの生きる現代社会は、実は生涯学習の理論を理解することにとどまらないで、その理論を実際に適用し、生涯学習を実践していくことまで実現できる能力に、重要な価値をおく社会になります。本科目では生涯学習の理論に目を配りつつも、とくにその「応用」の側面、つまりこの生涯学習の実践がいかになされているのかを、実際例に即しながら理解することを目指します。そしてその理解の上にたって、自ら生涯学習の実践を、着実に積み上げていける態度を養成することを目指します。		
教材（教科書）	特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介します。		
教育方法	主として黒板・ホワイトボードを用いた講義法で授業を行います。具体的には授業の最初に配布したレジュメに必要事項を記入しながら進行する講義を実施します。またそのなかで発言や発表を求める場面もあります。そして講義の最後では、毎回の授業内容理解を問い、同時にその内容に対する感想や意見を問う、授業内アンケートの記入を行い、平常点評価の対象としていきます。		
評価方法	成績は、平常点と授業内に実施する小テスト、レポートの 3 点を総合して評価します。 成績に占める各課題の採点配分は以下のとおりとなっています。 授業内アンケートを中心とする平常点（授業内の発言・発表等を含む）（40%） 小テスト（20%） レポート（40%）		
到達目標	・生涯学習の実践とその方法に関する基本的な知識を習得する。 ・それらの知識と生涯学習の理論及び現代社会の課題との関連を理解し、説明することができるようになる。 ・上記の知識・理解を踏まえて、実際に生涯学習を実践していくための展望を、明示することができるようになる。		
授業時間外学習	毎回の講義終了時に次回の講義及び小テストに関連する資料を配布するので、次回の講義までに目を通しておいて、わからない箇所などを調べるようにしてください。また学期中に小テストを数回実施するので、授業後には復習として、内容の確認と要点の整理をかかさず行うようにしてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

【受講条件】
事前に「生涯学習概論Ⅰ」を履修しておいてもらうことが望ましいです。
【受講のルール】
遅刻をしないこと、及び他者の学習環境を阻害するような私語・食事をしないなど、最低限のマナーを守ってください。悪質な場合は退室を命じたり、平常点の減点対象としたりすることがあります。
【学習上の助言】
授業中に紹介した事例などを参考に、とくに興味をもった生涯学習の実践や関連施設について、運動の実態を調べたり施設に実際に訪問してみたりするなど、調査・体験を積極的に行うようにしてもらうことを推奨します。

授業スケジュール

1．ガイダンス：本講義の概要と成績評価方法
2．生涯学習理論・実践の現状と現代社会との関係
3．現代社会の課題に対応する生涯学習の実践①：個人化の進行と人権尊重の実現を目指す生涯学習
4．現代社会の課題に対応する生涯学習の実践②：自己実現・生きがいづくりのための生涯学習
5．現代社会の課題に対応する生涯学習の実践③：格差・孤立の解消を目指す若者支援の生涯学習
6．現代社会の課題に対応する生涯学習の実践④：生涯学習と環境教育・ESD
7．問題解決のための生涯学習の取り組み①：すべての人へのサービスをめざす図書館の実践と理念・方法
8．問題解決のための生涯学習の取り組み②：資格取得・キャリア形成の生涯学習
9．問題解決のための生涯学習の取り組み③：職業能力開発の生涯学習

１０．問題解決のための生涯学習の取り組み④：ボランティアなどに結実した青少年・若者たちへの生涯学習プラン
１１．ESD の観点から生涯学習の実践を考える①：公民館の実践する ESD 実践
１２．ESD の観点から生涯学習の実践を考える②：エコミュージアムを例にみた博物館教育のありよう
１３．ESD の観点から生涯学習の実践を考える③：京都で ESD を実践してみる（1）
１４．ESD の観点から生涯学習の実践を考える④：京都で ESD を実践してみる（2）
１５．これまでの授業の総括：生涯学習を実践していくことの意味をさらに深めてみる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JP5042B02
科目名	生涯学習概論Ⅱ 【博】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	林　潤平	旧科目名称	
授業概要	私たちの生きる現代社会は、実は生涯学習の理論を理解することにとどまらないで、その理論を実際に適用し、生涯学習を実践していくことまで実現できる能力に、重要な価値をおく社会になります。本科目では生涯学習の理論に目を配りつつも、とくにその「応用」の側面、つまりこの生涯学習の実践がいかになされているのかを、実際例に即しながら理解することを目指します。そしてその理解の上にたって、自ら生涯学習の実践を、着実に積み上げていける態度を養成することを目指します。		
教材（教科書）	特に指定しません。授業時にレジュメを配布します。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介します。		
教育方法	主として黒板・ホワイトボードを用いた講義法で授業を行います。具体的には授業の最初に配布したレジュメに必要事項を記入しながら進行する講義を実施します。またそのなかで発言や発表を求める場面もあります。そして講義の最後では、毎回の授業内容理解を問い、同時にその内容に対する感想や意見を問う、授業内アンケートの記入を行い、平常点評価の対象としていきます。		
評価方法	成績は、平常点と授業内に実施する小テスト、レポートの 3 点を総合して評価します。 成績に占める各課題の採点配分は以下のとおりとなっています。 授業内アンケートを中心とする平常点（授業内の発言・発表等を含む）（40%） 小テスト（20%） レポート（40%）		
到達目標	・生涯学習の実践とその方法に関する基本的な知識を習得する。 ・それらの知識と生涯学習の理論及び現代社会の課題との関連を理解し、説明することができるようになる。 ・上記の知識・理解を踏まえて、実際に生涯学習を実践していくための展望を、明示することができるようになる。		
授業時間外学習	毎回の講義終了時に次回の講義及び小テストに関連する資料を配布するので、次回の講義までに目を通しておいて、わからない箇所などを調べるようにしてください。また学期中に小テストを数回実施するので、授業後には復習として、内容の確認と要点の整理をかかさず行うようにしてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

【受講条件】
事前に「生涯学習概論Ⅰ」を履修しておいてもらうことが望ましいです。
【受講のルール】
遅刻をしないこと、及び他者の学習環境を阻害するような私語・食事をしないなど、最低限のマナーを守ってください。悪質な場合は退室を命じたり、平常点の減点対象としたりすることがあります。
【学習上の助言】
授業中に紹介した事例などを参考に、とくに興味をもった生涯学習の実践や関連施設について、運動の実態を調べたり施設に実際に訪問してみたりするなど、調査・体験を積極的に行うようにしてもらうことを推奨します。

授業スケジュール

1．ガイダンス：本講義の概要と成績評価方法
2．生涯学習理論・実践の現状と現代社会との関係
3．現代社会の課題に対応する生涯学習の実践①：個人化の進行と人権尊重の実現を目指す生涯学習
4．現代社会の課題に対応する生涯学習の実践②：自己実現・生きがいづくりのための生涯学習
5．現代社会の課題に対応する生涯学習の実践③：格差・孤立の解消を目指す若者支援の生涯学習
6．現代社会の課題に対応する生涯学習の実践④：生涯学習と環境教育・ESD
7．問題解決のための生涯学習の取り組み①：すべての人へのサービスをめざす図書館の実践と理念・方法
8．問題解決のための生涯学習の取り組み②：資格取得・キャリア形成の生涯学習
9．問題解決のための生涯学習の取り組み③：職業能力開発の生涯学習

１０．問題解決のための生涯学習の取り組み④：ボランティアなどに結実した青少年・若者たちへの生涯学習プラン
１１．ESD の観点から生涯学習の実践を考える①：公民館の実践する ESD 実践
１２．ESD の観点から生涯学習の実践を考える②：エコミュージアムを例にみた博物館教育のありよう
１３．ESD の観点から生涯学習の実践を考える③：京都で ESD を実践してみる（1）
１４．ESD の観点から生涯学習の実践を考える④：京都で ESD を実践してみる（2）
１５．これまでの授業の総括：生涯学習を実践していくことの意味をさらに深めてみる

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JP7002501
科目名	保健体育科教育法Ⅰ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　彰	旧科目名称	
授業概要	「保健体育科教育法Ⅰ」は，保健体育科指導の基礎を学ぶ科目である。この講義では，「よい体育授業」とは何かを考えるとともに，中学校を中心とした学習指導要領（保健体育編）の理解や保健体育科教育の変遷，学習形態等の基礎的内容の修得をとおして，保健体育科の指導を行うに当たっての大まかなイメージをもつことができるようにする。		
教材（教科書）	『中学校学習指導要領解説　保健体育編』2017 年 3 月改訂を踏まえたもの		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	適宜プリントを配布するとともに、ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業に取り組む態度等の平常点（20%）、小テスト（80%）		
到達目標	１．自らが受けてきた体育授業を振り返り，「よい体育授業」のイメージをもつことができるようになる。 ２．保健体育科を取り巻く現状や指導に当たっての基礎的内容が理解できるようになる。 ３．中学校学習指導要領の構造や目標・内容が理解できるようになる。		
授業時間外学習	講義時に配布するプリントを読み理解しておくこと。また、講義で学習した内容をノートに整理しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
４年次教育実習で「先生」と呼ばれる身となる【自覚】と【責任】をもち、本講義に臨むこと。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション ２．よい体育授業とは ３．保健体育科の指導をめぐる現状と課題 ４．運動にともなう事故 ５．スポーツ時における死亡事故･重大事故を防ぐために ６．保健体育科教育の授業を取り巻く制度的条件 ７．保健体育科教育の変遷 ８．中学校学習指導要領について(1)（目標、内容を中心に） ９．中学校学習指導要領について(2)（技能を中心に） １０．身に付けさせたい技能 １１．教材・教具，学習指導 １２．学習形態，学習過程 １３．中学校の保健学習 １４．学習の振り返り １５．まとめ、総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★★	－	－	－

年度	2018	授業コード	JP7002601
科目名	保健体育科教育法Ⅱ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　彰	旧科目名称	
授業概要	「保健体育科教育法Ⅱ」では，「保健体育科教育法Ⅰ」を基礎に，中学校保健体育科で行う各領域の教材研究（授業づくり）の仕方を理解するとともに，指導を行うに当たっての具体的なイメージをもてるようにする。なお，授業では，各運動の授業づくりの具体的イメージをもつことができるよう，ビデオなどをできる限り活用する。		
教材（教科書）	『中学校学習指導要領解説　保健体育編』 2017 年 3 月改訂を踏まえたもの		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	適宜プリントを配布するとともに、ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業に取り組む態度等の平常点（20%）、複数回課す小レポート（80%）		
到達目標	１．効果的な教授技術など、授業づくりの基本的構造が理解できるようになる。 ２．各領域の教材研究（授業づくり）の仕方の具体的イメージを描くことができるようになる。		
授業時間外学習	次の授業で行う学習指導要領解説の領域を読んでおくこと。また、講義で学習した内容をノートに整理しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
４年次教育実習で「先生」と呼ばれる身となる【自覚】と【責任】をもち、本講義に臨んでもらいたい。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション ２．授業づくりの構造 ３．選択制授業の授業づくり ４．「Ａ体つくり運動」の教材研究（授業づくり） ５．「Ｂ器械運動」の教材研究（授業づくり） ６．「Ｃ陸上競技」の教材研究（授業づくり） ７．「Ｄ水泳」の教材研究（授業づくり） ８．「Ｅ球技」の教材研究（授業づくり） ９．「Ｆ武道」の教材研究（授業づくり） １０．「Ｇダンス」の教材研究（授業づくり） １１．「保健」の教材研究（授業づくり） １２．集団行動と新スポーツテスト １３．「時案」の作成方法について １４．「時案」の作成 １５．まとめ･総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JP7002701
科目名	保健体育科教育法Ⅲ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　彰	旧科目名称	
授業概要	「保健体育科教育法Ⅲ」は，保健体育科の指導方法の基礎を学ぶ科目である。この講義では，高等学校で教える中身の理解とともに，目標に準拠した評価や指導案の作成など，保健体育科の指導を行うに当たっての具体的なイメージがもてるようにする。		
教材（教科書）	『高等学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房，２０１０）　４５５円		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	適宜プリントを配布するとともに、ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業に取り組む態度等の平常点（20%）、小テスト（50%）、小レポート（30%）		
到達目標	１．高等学校学習指導要領が理解できるようになる。 ２．指導案の作成方法が理解できるようになる。		
授業時間外学習	講義時に配布するプリントを読み理解しておくこと。また、講義で学習した内容をノートに整理しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

４年次教育実習で「先生」と呼ばれる身となる【自覚】と【責任】をもち、本講義に臨んでもらいたい。

授業スケジュール

１．オリエンテーション
２．体育教師に期待されているもの
３．高等学校学習指導要領について(1)（目標・内容を中心に）
４．高等学校学習指導要領について(2)（身に付けさせたいことを中心に）
５．高等学校の保健学習
６．柔道の安全指導について
７．指導計画の作成
８．目標に準拠した評価(1)（様々な学習評価）
９．目標に準拠した評価(2)（観点別学習状況と評価規準）
１０．指導案の作成方法(1)（体育）
１１．体育学習で身に付けさせたいこと（４観点）
１２．指導案の作成方法(2)（保健）
１３．「保健」時案の作成
１４．魅力ある保健体育科授業の創造
１５．まとめ、総括

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★★	－	★	－

年度	2018	授業コード	JP7002801
科目名	保健体育科教育法Ⅳ 【教】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	渡邉　彰	旧科目名称	
授業概要	「保健体育科教育法Ⅳ」は，保健体育科の指導方法の基礎を学ぶ科目である。この講義では，指導案の作成や模擬授業などを行い，保健体育科の実践的指導力を養うことができるようにする。		
教材（教科書）	『中学校学習指導要領解説　保健体育編』 2017 年 3 月改訂を踏まえたもの 『高等学校学習指導要領解説　保健体育編』（東山書房，２０１０） ４５５円		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	適宜プリントを配布するとともに、ビデオ教材やパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業に取り組む態度等の平常点（20%）、小レポート（30%）、学期末のレポート（50%）。		
到達目標	１．身に付けさせたいことへ向けた指導案の作成ができるようになる。 ２．指導案に基づく実践的指導ができるようになる。 ３．授業を客観的に振り返り，改善することができるようになる。		
授業時間外学習	講義時に配布するプリントを読み理解しておくこと。また、講義で学習した内容をノートに整理しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
４年次教育実習で「先生」と呼ばれる身となる【自覚】と【責任】をもち、本講義に臨んでもらいたい。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション ２．模擬授業及び指導案の構想 ３．指導案の検討（体つくり運動） ４．指導案の検討（器械運動） ５．指導案の検討（陸上競技） ６．指導案の検討（球技） ７．指導案の検討（武道 or ダンス） ８．指導案の検討（保健） ９．模擬授業（体つくり運動） １０．模擬授業（器械運動） １１．模擬授業（陸上競技） １２．模擬授業（球技） １３．模擬授業（武道 or ダンス） １４．模擬授業（保健） １５．まとめ、総括			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	JSJ040101
科目名	生涯スポーツ実技（ゴルフ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Golf)		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
授業概要	《ゴルフ》というスポーツは、 ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれるという、真に国際的なスポーツである。 ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男女すべてが一緒に楽しむことができる。 ③ハンディキャップ制を採用している。 ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。 ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と技術がものをいう。 ⑤未知の人との出会いがある ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3～4 人が一組となってプレーするため、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるのである。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など人間的なマナーが必用となる。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	グループ学習参加度、実技評価、体力と生活習慣レポート及びその他の提出物を総合して評価する		
到達目標	構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。 将来ラウンドができるためのマナーや基礎的な能力・技術を体得する。 スポーツを継続的に行う意義と方法を説明できる。		
授業時間外学習	運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かす。 １回目　　宿題：体力と生活習慣のレポート作成 ２回目　　宿題：ゴルフのルール ３回目　　振り返り ４回目　　振り返り ５回目　　振り返り ６回目　　ホームを携帯の動画に取り込み、ホームの確認 ７回目　　宿題：ホームの修正点を確認 ８回目　　振り返り ９回目　　振り返り １０回目　　宿題：ゴルフ練習場に行き各クラブの飛距離の確認 １１回目　　振り返り １２回目　　ゴルフの試合をテレビ等で見て、ラウンドイメージを持つ １３回目　　運動習慣と健康寿命のレポート １４回目　　振り返り １５回目　　振り返り		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りする。 お互いに学び合い、お互いにリスペクトし、楽しい場を創出する。			

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。ゴルフ用手袋が必要。
授業スケジュール
・ゴルフ概略指導（ルール・マナー)、安全指導 ・ボールを真っ直ぐに打つための理論 〔初心者〕・正しいゴルフスイングを理解する ・ショートアイアン（PW）のショット練習 ・ミドルアイアン（7 番）のアプローチ練習 ・10～50 ヤードのアプローチ練習 ・パターマットを使ってのパッティング練習 〔中・上級者〕・ゴルフコースラウンドを目標 ・ショートアイアンを正確に ・ミドルアイアンを真っ直ぐに打つ ・ロングアイアンの練習 ・ウッド（1W、3W．4W．5W）の練習 ・パテイング練習 ・正確なアプローチ 1.オリエンテーション、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること） 2.フィットネステスト B（室内練習－グリップ、アドレス、スイング理論） 3.ショートアイアン（ＰW）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング 4.ショートアイアンのハーフスイング　軸を作ってのスイング 5.ショートアイアンのハーフスイング　体重移動のスイング 6.ミドルアイアン（７Ｉ）のハーフスイング 7.ヘッドスピードの加速　ホロースイング 8.アプローチ　ランニング・アプローチとロブショット 9.ヘッドスピードの加速　ホロー・スイング．ミドルアイアン 10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上 11.グラウンドでのコースラウンド練習　方向性の向上 12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー 13.ＰW，７Ｉ，アプローチ・テスト 14. 15.コースラウンド（学外実習)個別指導

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JSJ040102
科目名	生涯スポーツ実技（ゴルフ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Golf)		
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
授業概要	《ゴルフ》というスポーツは、 ①国際的な種目であるゴルフは、人種、宗教、性別に無関係にいつでもどこでも共通の仲間意識で結ばれるという、真に国際的なスポーツである。 ②少年から高齢者そして、男女とも参加できる。ティショットの位置をそれなりにずらすことによって、老若男女すべてが一緒に楽しむことができる。 ③ハンディキャップ制を採用している。 ハンディキャップというシステムのおかげで、スキルの上手・下手に関係なく共通のコンペティションに参加することができ、誰にでもスポーティングチャンス（勝つ可能性）が保証されている。 ④自己の年齢、体力に応じてそれぞれがプレーを楽しめる ゴルフゲームにおいては、体力、体格などの差は大した意味を持たず、長い経験によって磨かれた知恵と技術がものをいう。 ⑤未知の人との出会いがある ゴルフは個人競技であるが、一般に行われるストロークプレーでは 3～4 人が一組となってプレーするため、自然とそこに会話が生まれ、心の交流が生まれる。ゴルフは大自然の中でそれぞれ個性をもつ様々な男女が、各自の責任において、それぞれ個性的なやり方で共通のターゲットに向かってプレーできるのである。そこには相互理解、相互学習、公正な競い合い、協力など人間的なマナーが必用となる。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	授業は講義法とグループワークを組み合わせて行う。		
評価方法	グループ学習参加度、実技評価、体力と生活習慣レポート及びその他の提出物を総合して評価する		
到達目標	構成員一人ひとりのコミュニケーション、自己確認、技術向上により、生活を豊かにし、健康、体力の維持増進、友情や人間関係を深め、スポーツ文化の生活化をはかることを目的として授業を行います。 将来ラウンドができるためのマナーや基礎的な能力・技術を体得する。 スポーツを継続的に行う意義と方法を説明できる。		
授業時間外学習	運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かす。 １回目　宿題：体力と生活習慣のレポート作成 ２回目　宿題：ゴルフのルール ３回目　振り返り ４回目　振り返り ５回目　振り返り ６回目　ホームを携帯の動画に取り込み、ホームの確認 ７回目　宿題：ホームの修正点を確認 ８回目　振り返り ９回目　振り返り １０回目　宿題：ゴルフ練習場に行き各クラブの飛距離の確認 １１回目　振り返り １２回目　ゴルフの試合をテレビ等で見て、ラウンドイメージを持つ １３回目　運動習慣と健康寿命のレポート １４回目　振り返り １５回目　振り返り		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りする。 お互いに学び合い、お互いにリスペクトし、楽しい場を創出する。			

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。ゴルフ用手袋が必要。
授業スケジュール
・ゴルフ概略指導（ルール・マナー)、安全指導 ・ボールを真っ直ぐに打つための理論 〔初心者〕・正しいゴルフスイングを理解する ・ショートアイアン（PW）のショット練習 ・ミドルアイアン（7 番）のアプローチ練習 ・10～50 ヤードのアプローチ練習 ・パターマットを使ってのパッティング練習 〔中・上級者〕・ゴルフコースラウンドを目標 ・ショートアイアンを正確に ・ミドルアイアンを真っ直ぐに打つ ・ロングアイアンの練習 ・ウッド（1W、3W．4W．5W）の練習 ・パテイング練習 ・正確なアプローチ 1.オリエンテーション、フィットネステスト A（体育館シューズを準備すること） 2.フィットネステスト B（室内練習－グリップ、アドレス、スイング理論） 3.ショートアイアン（ＰＷ）の振り子理論・ショートアイアンのハーフスイング 4.ショートアイアンのハーフスイング　軸を作ってのスイング 5.ショートアイアンのハーフスイング　体重移動のスイング 6.ミドルアイアン（７Ｉ）のハーフスイング 7.ヘッドスピードの加速　ホロースイング 8.アプローチ　ランニング・アプローチとロブショット 9.ヘッドスピードの加速　ホロー・スイング．ミドルアイアン 10.テニスコートでコースラウンドの仕方とパター練習、アプローチ向上 11.グラウンドでのコースラウンド練習　方向性の向上 12.コースを仮定してのラウンド練習、ルールとマナー 13.ＰＷ，７Ｉ，アプローチ・テスト 14. 15.コースラウンド（学外実習)個別指導

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	－	★★

年度	2018	授業コード	JSJ060201
科目名	生涯スポーツ実技（ソフトボール）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Softball)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を活かし、チーム力の向上を目指します。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要に応じてプリント配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度４０％ レポート２０％ 技術４０％		
到達目標	ソフトボールのルールや競技特性を理解できる。 ソフトボールを通じて、スポーツを楽しむためのスキルが習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にソフトボールの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

授業スケジュール

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽﾃストＡ
２．ﾌｨｯﾄﾈｽテストＢ
３．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①
・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）
・バッティング（トス・フリー・バンド）
４．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②
５．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）
・ノック（内野・外野）
・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）
６．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
７．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
８．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
．守備フォーメイション
・攻撃フォーメイション
９．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
１０．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
１１．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①
１２．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②
１３．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③
１４．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JSJ060202
科目名	生涯スポーツ実技（ソフトボール）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Softball)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	ソフトボールを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を活かし、チーム力の向上を目指します。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、習得した技術をチームプレイに具体的に活かし、楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要に応じてプリント配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度４０％ レポート２０％ 技術４０％		
到達目標	ソフトボールのルールや競技特性を理解できる。 ソフトボールを通じて、スポーツを楽しむためのスキルが習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にソフトボールの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。

授業スケジュール

１．オリエンテーション、ﾌｨｯﾄﾈｽﾃストＡ
２．ﾌｨｯﾄﾈｽﾃストＢ
３．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム①
・キャッチボール（正確さ・速さ・遠投）
・バッティング（トス・フリー・バンド）
４．基本技術の習得と競技の特性及び競技規則を理解する。簡易ゲーム②
５．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
・投法（スタンダード・ウインドミル・エイトフィギア）
・ノック（内野・外野）
・ランニング（ベース・ランニング・盗塁）
６．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
７．組織的な攻撃と守備の理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
８．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。①
．守備フォーメイション
・攻撃フォーメイション
９．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。②
１０．チームプレーイの基本と理論を知り、より高度なチームワークを発揮できるようにする。③
１１．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。①
１２．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。②
１３．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。③
１４．ゲームの実践、ゲーム運営、みんなで協力しながら楽しく試合ができるようにする。④
１５．総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JSJ070101
科目名	生涯スポーツ実技（テニス）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Tennis)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供から高齢者まで、性別を問わず誰でも気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができるだろう。　しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに立ってプレーしてみると、なかなか思い通りにはいかないものである。そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップやフェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリースポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	平常点（技能・態度）80%、レポート 20%		
到達目標	1、シングルス・ダブルスのゲームが楽しめるようにする。 2、練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 3、社会人としていろいろな施設を利用して安全にテニスを楽しむようにする。		
授業時間外学習	事前にテニスの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動に相応しい服装を準備すること。三国山オム二コートで実施するため、テニスシューズが必要。

授業スケジュール

1. オリエンテーション、フィットネステストA
2. フィットネステストB　グリップ
3. グリップと面作り　ボレー練習、ボレーゲーム
4. 簡単なグランドストローク(ラケットに慣れる・ボールのバウンドに慣れる)　ミニコートゲーム
5. 移動によるグランドストローク(フットワークを覚える・打点の位置を覚える)　ストロークゲーム
6. ボール出しによるグランドストローク
7. 簡単なサーブを覚える　　サーブからラリーを覚える
8. ローボレー、オバーハンドサービス　ラリー練習からダブルスゲーム
9. 簡単なダブルスゲーム
10. ダブルスのホーメーシヨン(雁行陣営)
11. ダブルスの簡単なスコアーを付けてのゲーム
12. ダブルスゲーム
13. ダブルスゲーム
14. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト
15. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	–	★	–	–

年度	2018	授業コード	JSJ070102
科目名	生涯スポーツ実技（テニス）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Tennis)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	テニスは長い歴史と伝統をもったスポーツである。それが世界中で楽しまれ、日本でも数多くの人によってプレーされているのは、明るさ、さわやかさ、かっこよさだけでなく、エアロビックな運動であり、健康の維持、増進に大きな役割を担っているからであろう。 テニスは適度な運動で、小さな子供から高齢者まで、性別を問わず誰でも気楽に楽しめるスポーツであり、二人そろえば簡単に楽しむことができ、生涯スポーツとして最もふさわしいスポーツであるということができるだろう。　しかし、テニスというスポーツはとりつきやすさとは裏腹に、実際にコートに立ってプレーしてみると、なかなか思い通りにはいかないものである。そして、それと同時に何度も壁に当たり、なかなか上達しない。技術的な幅の広さ、難しさをもつスポーツでもある。練習を重ねて上達してテニスの素晴らしさを体験してほしい。さらに、テニスにおいては、スポーツマンシップやフェアプレーの精神が強調される。また、テニスの仲間づくりやファミリースポーツとしての家庭の団欒は、明るく豊かな人間関係を築き、それを通して好ましい社会的態度を自然のうちに身につけることができる。テニスを正しく理解し、初心者は初心者なりに、上級者は上級者なりに技術レベルに応じた技能の向上を楽しみながら、確実にレベルアップを果たしてもらいたい。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	−		
評価方法	平常点（技能・態度）80%、レポート 20%		
到達目標	1、シングルス・ダブルスのゲームが楽しめるようにする。 2、練習やゲームの企画・運営が自分たちでできるようにする。 3、社会人としていろいろな施設を利用して安全にテニスを楽しむようにする。		
授業時間外学習	事前にテニスの技術やルールについて学習し専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動に相応しい服装を準備すること。三国山オム二コートで実施するため、テニスシューズが必要。

授業スケジュール

1. オリエンテーション、フィットネステストA
2. フィットネステストB　グリップ
3. グリップと面作り　ボレー練習、ボレーゲーム
4. 簡単なグランドストローク(ラケットに慣れる・ボールのバウンドに慣れる)　ミニコートゲーム
5. 移動によるグランドストローク(フットワークを覚える・打点の位置を覚える)　ストロークゲーム
6. ボール出しによるグランドストローク
7. 簡単なサーブを覚える　　サーブからラリーを覚える
8. ローボレー、オバーハンドサービス　ラリー練習からダブルスゲーム
9. 簡単なダブルスゲーム
10. ダブルスのホーメーシヨン(雁行陣営)
11. ダブルスの簡単なスコアーを付けてのゲーム
12. ダブルスゲーム
13. ダブルスゲーム
14. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト
15. ダブルスゲームとストロークとサービスのテスト

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★★	★	–	★	–	–

年度	2018	授業コード	JSJ080101
科目名	生涯スポーツ実技(バスケットボール)	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Basketball)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	バスケットボールはこれまでの学校教育の中でも取り組んだことのあるスポーツと思われるが、この講義の中では、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身に付けると共に、集団技能も身に付け、バスケットボール競技経験者も未経験者も互いに協力し合い、ゲームを楽しむこと目的とする。 また、ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。 平常点(技能・態度)80%、レポート点 20%		
到達目標	毎時の練習により、個人スキルを高め、バスケットボールのゲームが楽しくできるようにする。 また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。 更にはグループワークにおいてコミュニケーション能力、協調性等様々な力を養う。		
授業時間外学習	事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

活動にふさわしい、スポーツウェアー・シューズを用意すること。
グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

授業スケジュール

＊内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。
1.　オリエンテーション、フィットネステスト A
2.　コーディネーション、フィットネステスト B、個人技能練習（シュート）
3.　コーディネーション、スキルテスト（シュート)、個人技能練習（パス)、パッシングゲーム（ハーフコート）
4.　コーディネーション、スキルテスト（パス)、個人技能練習（ドリブル)、ハーフコートゲーム
5.　技能練習（シュート・パス・ドリブル)、スキルテスト（ドリブル)、
　　対人練習（1 対 0・2 対 1・3 対 2　数的優位な場面でのオフェンス及びディフェンス)、ハーフコートゲーム
6.　技能練習（シュート・ドリブル・パス)、対人練習（1 対 1・2 対 2・3 対 3　同数場面でのオフェンス及びディフェンス)、ゲーム
7.　グループ編成、グループワークⅠ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）
8.9.10.　グループワークⅠ、リーグ戦Ⅰ～Ⅲ
11.グループ編成、グループワークⅡ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）
12.13.14　グループワークⅡ、リーグ戦Ⅳ～Ⅵ
15.　最終スキルテスト、まとめのゲーム、レポートの説明、及び提出について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	JSJ080102
科目名	生涯スポーツ実技(バスケットボール)	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Basketball)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	バスケットボールはこれまでの学校教育の中でも取り組んだことのあるスポーツと思われるが、この講義の中では、バスケットボールの基礎技術であるパス・ドリブル・シュートなどの個人技能を身に付けると共に、集団技能も身に付け、バスケットボール競技経験者も未経験者も互いに協力し合い、ゲームを楽しむこと目的とする。 また、ゲーム運営ができるように、ルールを理解し、審判も経験すること。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	授業内で実施するフィットネステストの結果から、自分の体力を分析・考察、レポートを作成し提出する。 バスケットボールでは技術・知識・態度、バスケットボールに関するレポートを総合的に評価する。 平常点(技能・態度)80%、レポート点 20%		
到達目標	毎時の練習により、個人スキルを高め、バスケットボールのゲームが楽しくできるようにする。 また、ルールを理解してゲームの運営ができ、練習を通して体力の維持、増進をし、健康な生活を目指す。 更にはグループワークにおいてコミュニケーション能力、協調性等様々な力を養う。		
授業時間外学習	事前にバスケットボールの技術やルールについての本を読み、専門用語を理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

活動にふさわしい、スポーツウェアー・シューズを用意すること。
グループワークとして実施するので公式試合や就職活動で欠席する場合は必ず事前に申し出ること。

授業スケジュール

＊内容については、受講者の技術レベルにより変更することがあります。
1.　オリエンテーション、フィットネステスト A
2.　コーディネーション、フィットネステスト B、個人技能練習（シュート）
3.　コーディネーション、スキルテスト（シュート)、個人技能練習（パス)、パッシングゲーム（ハーフコート）
4.　コーディネーション、スキルテスト（パス)、個人技能練習（ドリブル)、ハーフコートゲーム
5.　技能練習（シュート・パス・ドリブル)、スキルテスト（ドリブル)、
　　対人練習（1 対 0・2 対 1・3 対 2　数的優位な場面でのオフェンス及びディフェンス)、ハーフコートゲーム
6.　技能練習（シュート・ドリブル・パス)、対人練習（1 対 1・2 対 2・3 対 3　同数場面でのオフェンス及びディフェンス)、ゲーム
7.　グループ編成、グループワークⅠ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）
8.9.10.　グループワークⅠ、リーグ戦Ⅰ～Ⅲ
11.グループ編成、グループワークⅡ（これまでの講義内容や各グループオリジナルの活動内容を考え、スキルの向上を目指す）
12.13.14　グループワークⅡ、リーグ戦Ⅳ～Ⅵ
15.　最終スキルテスト、まとめのゲーム、レポートの説明、及び提出について

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	JSJ090803
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	バドミントンを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、スポーツ活動を楽しく展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を高めるとともに、仲間意識の向上を目指します。 技術面では、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、その技術を楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要に応じてプリント配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解できる。 バドミントンを通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にバドミントンの技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

授業スケジュール

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	JSJ090804
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	バドミントンを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、スポーツ活動を楽しく展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を高めるとともに、仲間意識の向上を目指します。 技術面では、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、その技術を楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要に応じてプリント配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解できる。 バドミントンを通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にバドミントンの技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

授業スケジュール

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	JSJ090805
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	バドミントンを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、スポーツ活動を楽しく展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を高めるとともに、仲間意識の向上を目指します。 技術面では、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、その技術を楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要に応じてプリント配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解できる。 バドミントンを通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にバドミントンの技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

授業スケジュール

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	JSJ090806
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	バドミントンを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、スポーツ活動を楽しく展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を高めるとともに、仲間意識の向上を目指します。 技術面では、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、その技術を楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要に応じてプリント配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解できる。 バドミントンを通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にバドミントンの技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

授業スケジュール

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	JSJ090807
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	バドミントンを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、スポーツ活動を楽しく展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を高めるとともに、仲間意識の向上を目指します。 技術面では、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、その技術を楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要に応じてプリント配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解できる。 バドミントンを通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にバドミントンの技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

授業スケジュール

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	JSJ090808
科目名	生涯スポーツ実技（バドミントン）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Badminton)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	バドミントンを通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、スポーツ活動を楽しく展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を高めるとともに、仲間意識の向上を目指します。 技術面では、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、その技術を楽しみながらゲームが実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要に応じてプリント配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	バドミントンのルールや競技特性を理解できる。 バドミントンを通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にバドミントンの技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

運動にふさわしい服装をすること。スポーツウエア・スポーツシューズを必ず着用すること。

授業スケジュール

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB
3　ラケットワークとフットワーク（ステップ・スキップ走法）・フットワークとストロークの連携
4　ストローク（アンダー・オーバー）・サービス・ドロップショット・スマッシュ・ヘアピン
5　サービス（ショート・ロング）・ドロップショット・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
6　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスの簡易ゲームとジャッジ
7　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスの簡易ゲームとジャッジ
8　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　ダブルスのゲームとジャッジ
9　基礎打ち（ドロップ・ドライブ）・クリア・ヘアピン・プッシュ・スマッシュ＆レシーブ
　シングルスのゲームとジャッジ
１０　ダブルスのリーグ戦と運営
１１　ミックスダブルスのリーグ戦と運営
１２　シングルスのリーグ戦と運営
１３　シングルスのリーグ戦と運営
１４　トーナメント戦と運営
１５　総合的ゲーム運営

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	−	★★	−	−

年度	2018	授業コード	JSJ100101
科目名	生涯スポーツ実技（バレーボール）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Volleyball)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	バレーボールには、「ボールを落とさないでラリーを続ける楽しさ」、「いろいろな攻撃を通じてボールを落としあう楽しさ」、「相手のプレイを予測して攻守を工夫していく楽しさ」というようにさまざまな楽しさがあります。 自分たちの現状を見つめ可能性を求めて、一人一人の力を結集する。共に協力しながら活動をする協同の気持ちを大切にしながら楽しい授業展開を目指します。 また、学部間の学生交流を横断的に促進し、技術の向上だけではなく、コミュニケーション力やチーム力など、トータルバランスのとれた授業展開を目的とします。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要時にはプリントを配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	バレーボールのルールや競技特性を理解できる。 バレーボールを通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にバレーボールの技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。			
授業スケジュール			
1.オリエンテーション、フィットネステストＡ 2.フィットネステストＢ 、グループ編成 3.各種ボールトレーニング、パス、サーブ、簡易ゲーム 4.基礎技術の習得とルール、試しのゲームと今後の課題 5.トス、アタック、ブロック練習、ゲーム 6.組織的な攻撃と防御　ゲーム 7.組織的な攻撃と防御　ゲーム　ゲーム分析と今後の課題 8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、ゲーム 9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーション、ゲーム 10.ゲームと審判法 11.ゲームと審判法 12.ゲームと審判法 13.ゲームと審判法 14.ゲームと審判法 15.ゲーム			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JSJ100102
科目名	生涯スポーツ実技（バレーボール）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Volleyball)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	バレーボールには、「ボールを落とさないでラリーを続ける楽しさ」、「いろいろな攻撃を通じてボールを落としあう楽しさ」、「相手のプレイを予測して攻守を工夫していく楽しさ」というようにさまざまな楽しさがあります。 自分たちの現状を見つめ可能性を求めて、一人一人の力を結集する。共に協力しながら活動をする協同の気持ちを大切にしながら楽しい授業展開を目指します。 また、学部間の学生交流を横断的に促進し、技術の向上だけではなく、コミュニケーション力やチーム力など、トータルバランスのとれた授業展開を目的とします。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要時にはプリントを配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	バレーボールのルールや競技特性を理解できる。 バレーボールを通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前にバレーボールの技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
運動に相応しい服装をすること。スポーツウェア・スポーツシューズを必ず着用すること。			
授業スケジュール			
1.オリエンテーション、フィットネステストＡ 2.フィットネステストＢ 、グループ編成 3.各種ボールトレーニング、パス、サーブ、簡易ゲーム 4.基礎技術の習得とルール、試しのゲームと今後の課題 5.トス、アタック、ブロック練習、ゲーム 6.組織的な攻撃と防御　ゲーム 7.組織的な攻撃と防御　ゲーム　ゲーム分析と今後の課題 8.サーブレシーブとアタックレシーブのフォーメーション、攻撃フォーメーション、ゲーム 9.攻撃フォーメーションとレシーブのフォーメーション、ゲーム 10.ゲームと審判法 11.ゲームと審判法 12.ゲームと審判法 13.ゲームと審判法 14.ゲームと審判法 15.ゲーム			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JSJ110101
科目名	生涯スポーツ実技（フィットネス）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Fitness)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。 具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要時にプリントを配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　50% トレーニング計画　30% レポート（20%）		
到達目標	トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解できる。 トレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法が習得できる。 個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得できる。		
授業時間外学習	実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。日々の健康管理を十分に留意すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。

授業スケジュール

1　オリエンテーション、フィットネステストA
2　フィットネステストB、トレーニングルーム利用説明
3　ストレッチングの理論と実技
4　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技
5　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技
6　フィットネスプロフィールの作成
7　フィットネストレーニング
8　フィットネストレーニング
9　フィットネストレーニング
10　フィットネストレーニング
11　フィットネストレーニング
12　フィットネストレーニング
13　トレーニング計画立案と実践
14　トレーニング計画立案と実践
15　トレーニング計画立案と実践

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	JSJ110102
科目名	生涯スポーツ実技（フィットネス）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Fitness)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	人生 80 年以上の長寿社会を迎えた現代。課題とされるのは全てのライフステージで健康で活気のある時を過ごすということである。それは個人のライフステージや目的に応じたものであり、自主的に継続できる身体活動でなければならない。本授業では、生涯にわたって健やかな生活を営むために必要な知識と能力を理論および実技を通して身につけることを目的とする。 具体的には、「心身の健康」を維持・増進するための体力・運動・栄養・休養等に関する基礎知識を運動・スポーツの科学的根拠に基づいたエアロビクス運動（有酸素運動）・筋力アップ運動・コンディショニング運動を主軸に理解・実践する。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要時にプリントを配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　50% トレーニング計画　30% レポート（20%）		
到達目標	トレーニング科学の知見に基づく正しいフィットネストレーニングの方法を理解できる。 トレーニング機器の安全かつ効果的な利用方法が習得できる。 個々の目的に応じたトレーニングプログラムを作成・実践することにより、安全で適切な健康体力づくりの方法および要点を習得できる。		
授業時間外学習	実技科目であり、トレーニングルームを使用するため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。日々の健康管理を十分に留意すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
健康運動実践指導者の受験資格認定科目であり、遅刻・早退は認められない。			
授業スケジュール			
1　オリエンテーション、フィットネステストA 2　フィットネステストB、トレーニングルーム利用説明 3　ストレッチングの理論と実技 4　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 5　ストレッチング・フィットネストレーニングの実技 6　フィットネスプロフィールの作成 7　フィットネストレーニング 8　フィットネストレーニング 9　フィットネストレーニング 10　フィットネストレーニング 11　フィットネストレーニング 12　フィットネストレーニング 13　トレーニング計画立案と実践 14　トレーニング計画立案と実践 15　トレーニング計画立案と実践			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★★	★	－

年度	2018	授業コード	JSJ150101
科目名	生涯スポーツ実技（柔道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Judo)		
担当者名	林　弘典	旧科目名称	
授業概要	柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習に由って、身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を体得する事である。そうして、是に由って己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である（嘉納治五郎師範遺訓)。 本授業では、柔道の楽しさを理解する。また、有段者に絶対不可欠な知識や技術を習得する。具体的には、柔道の概要、礼法、受け身、投げ技（立ち技)、固め技（抑み込み技、絞め技、関節技）を学習し、乱取りと試合を実践する。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	必要な人は、担当者に相談してください。		
教育方法	必要な人は、担当者に相談してください。		
評価方法	授業内の発表（30%)、レポート（30%)、技能チェック（40%）によって評価します。発表、レポートの内容は、柔道の概要です。技能チェックの内容は、礼法（立礼、座礼)、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）です。		
到達目標	１．柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）を暗唱できる。 ２．礼法（立礼、座礼）ができる。 ３．受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）ができる。		
授業時間外学習	講義の順序とポイントにある学習内容を図書館やインターネットで調べてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．柔道衣を持っていない人は、柔道衣を貸し出します。
２．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は必ず外して参加してください。
３．長髪の者は、ゴムで束ねて参加してください（ピンは使用しないでください)。
４．柔道衣の下は、男子は着用せず、女子はＴシャツ等ボタンのない衣類を着用してください。
５．感染症の防止のため、使用した柔道衣は必ず持ち帰って洗濯し、貸し借りはしないでください。
６．体調管理に十分に留意してください（特に授業前日は十分な栄養と睡眠をとり、当日は朝食を摂ってください)。
７．怪我防止のために、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
８．貴重品は自己管理してください。
※本単位の修得者で昇段を希望する者は、初段に推薦することが可能です。

授業スケジュール

１．フィットネステスト①、柔道のオリエンテーション、スポーツと武道の違い
２．フィットネステスト②、柔道衣の貸し出しと着方、柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）
３．礼の意味、礼法（立礼、座礼)、後ろ受け身、横受け身、前受け身（その場、低い位置、高い位置、他力）
４．前回り受け身（立ち上がらない)、抑え込み技の定義、横四方固め
５．前回り受け身（立ち上がる)、上四方固め
６．袈裟固め、組み方、八方の崩し
７．絞め技の定義、裸絞め（2 種類)、膝車
８．送り襟絞め（2 種類)、支え釣り込み足
９．片羽絞め、出足払い、燕返し
１０．昇段の説明会、柔道の概要の暗唱チェック
１１．三角絞、大外落とし
１２．関節技の定義、腕緘、大内刈り
１３．腕挫十字固め、体落とし
１４．審判法・試合
１５．技能チェック、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JSJ150102
科目名	生涯スポーツ実技（柔道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Judo)		
担当者名	林　弘典	旧科目名称	
授業概要	柔道は、心身の力を最も有効に使用する道である。その修行は、攻撃防御の練習に由って、身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髄を体得する事である。そうして、是に由って己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である（嘉納治五郎師範遺訓)。 本授業では、柔道の楽しさを理解する。また、有段者に絶対不可欠な知識や技術を習得する。具体的には、柔道の概要、礼法、受け身、投げ技（立ち技)、固め技（抑み込み技、絞め技、関節技）を学習し、乱取りと試合を実践する。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	必要な人は、担当者に相談してください。		
教育方法	必要な人は、担当者に相談してください。		
評価方法	授業内の発表（30%)、レポート（30%)、技能チェック（40%）によって評価します。発表、レポートの内容は、柔道の概要です。技能チェックの内容は、礼法（立礼、座礼)、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）です。		
到達目標	１．柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）を暗唱できる。 ２．礼法（立礼、座礼）ができる。 ３．受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）ができる。		
授業時間外学習	講義の順序とポイントにある学習内容を図書館やインターネットで調べてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．柔道衣を持っていない人は、柔道衣を貸し出します。
２．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は必ず外して参加してください。
３．長髪の者は、ゴムで束ねて参加してください（ピンは使用しないでください)。
４．柔道衣の下は、男子は着用せず、女子はＴシャツ等ボタンのない衣類を着用してください。
５．感染症の防止のため、使用した柔道衣は必ず持ち帰って洗濯し、貸し借りはしないでください。
６．体調管理に十分に留意してください（特に授業前日は十分な栄養と睡眠をとり、当日は朝食を摂ってください)。
７．怪我防止のために、早めに柔道場に来てストレッチ等のウォーミングアップを行ってください。
８．貴重品は自己管理してください。
※本単位の修得者で昇段を希望する者は、初段に推薦することが可能です。

授業スケジュール

１．フィットネステスト①、柔道のオリエンテーション、スポーツと武道の違い
２．フィットネステスト②、柔道衣の貸し出しと着方、柔道の概要（創始者名、成立年、正式名称、理念・原理、遺訓）
３．礼の意味、礼法（立礼、座礼)、後ろ受け身、横受け身、前受け身（その場、低い位置、高い位置、他力）
４．前回り受け身（立ち上がらない)、抑え込み技の定義、横四方固め
５．前回り受け身（立ち上がる)、上四方固め
６．袈裟固め、組み方、八方の崩し
７．絞め技の定義、裸絞め（2 種類)、膝車
８．送り襟絞め（2 種類)、支え釣り込み足
９．片羽絞め、出足払い、燕返し
１０．昇段の説明会、柔道の概要の暗唱チェック
１１．三角絞、大外落とし
１２．関節技の定義、腕緘、大内刈り
１３．腕挫十字固め、体落とし
１４．審判法・試合
１５．技能チェック、まとめ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	★★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JSJ160201
科目名	生涯スポーツ実技（卓球）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Table Tennis)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	卓球を通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を活かし、仲間意識や協働力の向上を目指します。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、その技術を楽しみながらゲームで実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要時にはプリントを配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	卓球のルールや競技特性を理解できる。 卓球を通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識や協働力の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前に卓球の技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。			
授業スケジュール			
1　オリエンテーリング、フィットネステストA 2　フィットネステストB、卓球授業のためのオリエンテーション 3　卓球台の設置と準備、ラケットの選び方とグリップ、簡易試合と技術レベルの確認 4　スイングの仕方と乱打 5　サービス、シングルスのルール、シングルスの簡易ゲーム 6　クロス打ちの乱打、シングルスゲーム 7　ドライブ、バックハンド、シングルスゲーム 8　ショート、ツッツキ、シングルスゲーム 9　カット、　シングルスゲーム 10　スマッシュ、シングルスゲーム 11　シングルスリーグ戦 12　シングルスリーグ戦 13　ダブルスのルール、ダブルスゲーム 14　ダブルスリーグ戦 15　ダブルスリーグ戦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JSJ160202
科目名	生涯スポーツ実技（卓球）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Table Tennis)		
担当者名	三浦　重則	旧科目名称	
授業概要	卓球を通じて学部間の学生交流を横断的に促進し、楽しいスポーツ活動を展開する中で、体力の保持・増進の必要性を認識しながら、自己の健康管理を意識した身体活動の実践を行います。 また、コミュニケーション力を活かし、仲間意識や協働力の向上を目指します。 実技においては、基本技術を系統的な習得過程の中で学習し、その技術を楽しみながらゲームで実践できることを目標に授業を進めます。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	必要時にはプリントを配布。		
教育方法	教員による実技指導。内容および上達度によりグループ学習を導入する場合もある。		
評価方法	受講における関心・意欲・態度　４０％ レポート　２０％ 技術　４０％		
到達目標	卓球のルールや競技特性を理解できる。 卓球を通じて、スポーツを楽しむためのスキルを習得できる。 コミュニケーション力と仲間意識や協働力の向上。 練習・試合の企画・立案・運営ができるようになる。		
授業時間外学習	事前に卓球の技術やルールについて学習し、専門用語などを理解しておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
実技科目であるため、トレーニングウェアおよび室内用トレーニングシューズを準備すること。			
授業スケジュール			
1　オリエンテーリング、フィットネステストA 2　フィットネステストB、卓球授業のためのオリエンテーション 3　卓球台の設置と準備、ラケットの選び方とグリップ、簡易試合と技術レベルの確認 4　スイングの仕方と乱打 5　サービス、シングルスのルール、シングルスの簡易ゲーム 6　クロス打ちの乱打、シングルスゲーム 7　ドライブ、バックハンド、シングルスゲーム 8　ショート、ツッツキ、シングルスゲーム 9　カット、　シングルスゲーム 10　スマッシュ、シングルスゲーム 11　シングルスリーグ戦 12　シングルスリーグ戦 13　ダブルスのルール、ダブルスゲーム 14　ダブルスリーグ戦 15　ダブルスリーグ戦			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	★★	－	－

年度	2018	授業コード	JSJ200101
科目名	生涯スポーツ実技（剣道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Kendo)		
担当者名	加藤　隆司	旧科目名称	
授業概要	剣道は、先人が命をかけた真剣勝負を通して悟道した剣の理法の修練による人間形成の道である。 実習では、相手への打突という剣道における特殊な運動の理解・実践に加えて、相手との関係に基ずく「技」の学習を通じて、相手を尊重する態度や自己を最大限に発揮する態度などを習得します。 特に武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を重視しており、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められます。 日常生活のなかでも、しっかりと挨拶（礼）ができることを目標とします。		
教材（教科書）	授業中に専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（参考資料）	プリントを配布する。		
教育方法	授業は講義法に基づいて行いますが、適時グループに分かれて実践し、意見交換を交えながら、技の理解や習得に取り組みます。 また、教員や他の受講者との意見交換やピアテイーチングを交えながら授業は進めます。		
評価方法	実技科目なので出席することが大切です。 ・関心・意欲・態度ー安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重できる。(30%) ・知識・理解　　ー技術を学ぶ。正確に防具の着脱ができる。有効打突を理解する。(50%) ・レポート　　ー「体力プロフィールの考察」　(20%)		
到達目標	基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間習ったところの復習を必ずすること、、特に基本の習得は繰り返し行い、体に覚えさせることが大切です、体の動き、足運び、呼吸法など毎日行うこと。 剣道実技と同時に、日本剣道形も習得します、少なくとも、大太刀３本目までを、実際に行えるように指導しますが、授業時間外での復習が必要です、プリントを配布しますので、それをもとに取り組んでください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体操服で出席してください。防具・竹刀・稽古着・袴は準備しなくてよい。裸足で行います。相手と打突しあう場面が出てきます、粗暴な行動は慎んでください。 初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。			
授業スケジュール			
1.　　オリエンテーションとフィットネステスト（２回目はシャトルランを実施します） 2.　　基本動作１－礼法・構え・足さばき・素振り 3.-5　基本動作２－打突の基本　　日本剣道型（１～３） 6.　　剣道具の着脱・手ぬぐいの付け方・対人的技能（対人打突の基本） 7-9　　対人的技能（切り返し、二・三段の技、連続技）　　日本剣道型（１～３） 10-13　対人的技能（応じ技)、かかり稽古、互角稽古　　日本剣道型（１～３） 14.　　審判規則・試合規則、試合（簡易試合） 15.　　試合（簡易試合・互角稽古）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JSJ200102
科目名	生涯スポーツ実技（剣道）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Kendo)		
担当者名	加藤　隆司	旧科目名称	
授業概要	剣道は、先人が命をかけた真剣勝負を通して悟道した剣の理法の修練による人間形成の道である。 実習では、相手への打突という剣道における特殊な運動の理解・実践に加えて、相手との関係に基ずく「技」の学習を通じて、相手を尊重する態度や自己を最大限に発揮する態度などを習得します。 特に武道では、「礼に始まり礼に終わる」といわれるように、「礼法」を重視しており、正しい形で丁寧な「礼」を行うことが求められます。 日常生活のなかでも、しっかりと挨拶（礼）ができることを目標とします。		
教材（教科書）	授業中に専門書・専門雑誌の紹介をする。		
教材（参考資料）	プリントを配布する。		
教育方法	授業は講義法に基づいて行いますが、適時グループに分かれて実践し、意見交換を交えながら、技の理解や習得に取り組みます。 また、教員や他の受講者との意見交換やピアテイーチングを交えながら授業は進めます。		
評価方法	実技科目なので出席することが大切です。 ・関心・意欲・態度ー安全に留意する。互いに助言したりできる。公正な態度で相手を尊重できる。(30%) ・知識・理解　　ー技術を学ぶ。正確に防具の着脱ができる。有効打突を理解する。(50%) ・レポート　　ー「体力プロフィールの考察」　(20%)		
到達目標	基本動作、基本技術の習得と応用技術を用いた試合ができるようにする。		
授業時間外学習	毎時間習ったところの復習を必ずすること、、特に基本の習得は繰り返し行い、体に覚えさせることが大切です、体の動き、足運び、呼吸法など毎日行うこと。 剣道実技と同時に、日本剣道形も習得します、少なくとも、大太刀３本目までを、実際に行えるように指導しますが、授業時間外での復習が必要です、プリントを配布しますので、それをもとに取り組んでください。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体操服で出席してください。防具・竹刀・稽古着・袴は準備しなくてよい。裸足で行います。相手と打突しあう場面が出てきます、粗暴な行動は慎んでください。 初回はオリエンテーションとフィットネステストをします。			
授業スケジュール			
1.　　オリエンテーションとフィットネステスト（２回目はシャトルランを実施します） 2.　　基本動作１－礼法・構え・足さばき・素振り 3.-5　基本動作２－打突の基本　　日本剣道型（１～３） 6.　　剣道具の着脱・手ぬぐいの付け方・対人的技能（対人打突の基本） 7-9　　対人的技能（切り返し、二・三段の技、連続技）　　日本剣道型（１～３） 10-13　対人的技能（応じ技)、かかり稽古、互角稽古　　日本剣道型（１～３） 14.　　審判規則・試合規則、試合（簡易試合） 15.　　試合（簡易試合・互角稽古）　まとめ			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	JSJ210101
科目名	生涯スポーツ実技（生涯スポーツ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Lifelong Sports)		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
授業概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、学生は自己の課題を解決できるようになるとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を磨くことができる。 学生は本日義の楽しさの気づきにより、自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。また、各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高めることができる。加えて、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を確認、実技指導に活かし、実践能力をさらに高めることができる。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力・行動力につなげる。できれば、健康スポーツ理論やヘルスプロモーションの健康増進理論を受講することを進める。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学び、健康寿命の延伸を目指そう。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	吉中　康子著「健康スポーツとヘルスマネジメント―リーダーのための健康理論」晃洋書房		
教育方法	学生はこの実技を受講することで、グループワークの中で協力し合ったり、リーダーシップを発揮することを学ぶ。授業は主に講義法に基づくが、適時グループワークをまじえて、試合の企画・運営やお互いに協働することを学ぶ。		
評価方法	グループ学習参加度、実技評価、体力と生活習慣レポート及びその他の提出物を総合して評価する		
到達目標	１．運動を楽しみ、仲間と協力することができる。 ２．グループで協力し、自分の役割を果たすことができる。 ３．目標を掲げ、練習計画立てて、説明し、仲間と時間を有効に使うことができる。 ４．集団をまとめることができる。 ５．準備、片付けや危機管理・安全管理ができる		
授業時間外学習	運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。 １回目　宿題：体力と生活習慣のレポート作成：３０分以上 ２回目　宿題：バドミントン＆卓球のルール ３回目　振り返り ４回目　振り返り ５回目　振り返り ６回目　宿題：テニス・ローンボウルズのルール ７回目　振り返り ８回目　宿題：バスケットボールのルール ９回目　振り返り 10 回目　宿題：レクリエーションの歴史とアクテビティ 11 回目　宿題：クリケットのルール 12 回目　宿題：ソフトバレーボール＆バレーボールのルール 13 回目　宿題：運動習慣と健康寿命 14 回目　振り返り 15 回目　振り返り		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方と注意事項の説明。（宿題：体力と生活習慣のレポート作成：３０分以上）			

2．体力測定の評価法とレクリエーション（宿題：バドミントン＆卓球のルール）
3．バドミントン
4．卓球
5．バドミントン
6．卓球（宿題：テニス・ローンボウルズのルール）
7．テニス
8．ローンボウルズ（宿題：バスケットボールのルール）
9．バスケットボール
10．レクリエーション（宿題：レクリエーションの歴史とアクテビティ）
11．バスケットボール（宿題：クリケットのルール）
12．クリケット（宿題：ソフトバレーボール＆バレーボールのルール）
13．ソフトバレーボール（宿題：運動習慣と健康寿命）
14．バレーボール
15．ソフトバレーボール

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JSJ210102
科目名	生涯スポーツ実技（生涯スポーツ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Lifelong Sports)		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
授業概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、学生は自己の課題を解決できるようになるとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を磨くことができる。 学生は本日義の楽しさの気づきにより、自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。また、各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高めることができる。加えて、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を確認、実技指導に活かし、実践能力をさらに高めることができる。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力・行動力につなげる。できれば、健康スポーツ理論やヘルスプロモーションの健康増進理論を受講することを進める。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学び、健康寿命の延伸を目指そう。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	吉中　康子著「健康スポーツとヘルスマネジメント―リーダーのための健康理論」晃洋書房		
教育方法	学生はこの実技を受講することで、グループワークの中で協力し合ったり、リーダーシップを発揮することを学ぶ。授業は主に講義法に基づくが、適時グループワークをまじえて、試合の企画・運営やお互いに協働することを学ぶ。		
評価方法	グループ学習参加度、実技評価、体力と生活習慣レポート及びその他の提出物を総合して評価する		
到達目標	１．運動を楽しみ、仲間と協力することができる。 ２．グループで協力し、自分の役割を果たすことができる。 ３．目標を掲げ、練習計画立てて、説明し、仲間と時間を有効に使うことができる。 ４．集団をまとめることができる。 ５．準備、片付けや危機管理・安全管理ができる		
授業時間外学習	運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。 １回目　宿題：体力と生活習慣のレポート作成：３０分以上 ２回目　宿題：バドミントン＆卓球のルール ３回目　振り返り ４回目　振り返り ５回目　振り返り ６回目　宿題：テニス・ローンボウルズのルール ７回目　振り返り ８回目　宿題：バスケットボールのルール ９回目　振り返り 10 回目　宿題：レクリエーションの歴史とアクテビティ 11 回目　宿題：クリケットのルール 12 回目　宿題：ソフトバレーボール＆バレーボールのルール 13 回目　宿題：運動習慣と健康寿命 14 回目　振り返り 15 回目　振り返り		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方と注意事項の説明。（宿題：体力と生活習慣のレポート作成：３０分以上）			

2．体力測定の評価法とレクリエーション（宿題：バドミントン＆卓球のルール）
3．バドミントン
4．卓球
5．バドミントン
6．卓球（宿題：テニス・ローンボウルズのルール）
7．テニス
8．ローンボウルズ（宿題：バスケットボールのルール）
9．バスケットボール
10．レクリエーション（宿題：レクリエーションの歴史とアクテビティ）
11．バスケットボール（宿題：クリケットのルール）
12．クリケット（宿題：ソフトバレーボール＆バレーボールのルール）
13．ソフトバレーボール（宿題：運動習慣と健康寿命）
14．バレーボール
15．ソフトバレーボール

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JSJ210103
科目名	生涯スポーツ実技（生涯スポーツ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Lifelong Sports)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、学生は自己の課題を解決できるようになるとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を磨くことができる。 学生は本日義の楽しさの気づきにより、自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。また、各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高めることができる。加えて、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を確認、実技指導に活かし、実践能力をさらに高めることができる。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力・行動力につなげる。できれば、健康スポーツ理論やヘルスプロモーションの健康増進理論を受講することを進める。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学び、健康寿命の延伸を目指そう。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	吉中　康子著「健康スポーツとヘルスマネジメント―リーダーのための健康理論」晃洋書房		
教育方法	学生はこの実技を受講することで、グループワークの中で協力し合ったり、リーダーシップを発揮することを学ぶ。授業は主に講義法に基づくが、適時グループワークをまじえて、試合の企画・運営やお互いに協働することを学ぶ。		
評価方法	グループ学習参加度、実技評価、体力と生活習慣レポート及びその他の提出物を総合して評価する		
到達目標	１．運動を楽しみ、仲間と協力することができる。 ２．グループで協力し、自分の役割を果たすことができる。 ３．目標を掲げ、練習計画立てて、説明し、仲間と時間を有効に使うことができる。 ４．集団をまとめることができる。 ５．準備、片付けや危機管理・安全管理ができる		
授業時間外学習	運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。 １回目　宿題：体力と生活習慣のレポート作成：３０分以上 ２回目　宿題：バドミントン＆卓球のルール ３回目　振り返り ４回目　振り返り ５回目　振り返り ６回目　宿題：テニス・ローンボウルズのルール ７回目　振り返り ８回目　宿題：バスケットボールのルール ９回目　振り返り 10 回目　宿題：レクリエーションの歴史とアクテビティ 11 回目　宿題：クリケットのルール 12 回目　宿題：ソフトバレーボール＆バレーボールのルール 13 回目　宿題：運動習慣と健康寿命 14 回目　振り返り 15 回目　振り返り		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方と注意事項の説明。（宿題：体力と生活習慣のレポート作成：３０分以上）			

2．体力測定の評価法とレクリエーション（宿題：バドミントン＆卓球のルール）
3．バドミントン
4．卓球
5．バドミントン
6．卓球（宿題：テニス・ローンボウルズのルール）
7．テニス
8．ローンボウルズ（宿題：バスケットボールのルール）
9．バスケットボール
10．レクリエーション（宿題：レクリエーションの歴史とアクテビティ）
11．バスケットボール（宿題：クリケットのルール）
12．クリケット（宿題：ソフトバレーボール＆バレーボールのルール）
13．ソフトバレーボール（宿題：運動習慣と健康寿命）
14．バレーボール
15．ソフトバレーボール

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JSJ210104
科目名	生涯スポーツ実技（生涯スポーツ）	単位数	1
科目名（英語表記）	Lifelong Sports Practice (Lifelong Sports)		
担当者名	佐藤　亜紀子	旧科目名称	
授業概要	高等教育の最終段階として、各種スポーツ種目の専門的な理解とスポーツの技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、学生は自己の課題を解決できるようになるとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を磨くことができる。 学生は本日義の楽しさの気づきにより、自主・自発的に運動に関わり続け、健康増進を仲間と共に実践できる力を身につける。また、各種スポーツを指導するために必要な知識を習得するとともに実践能力を高めることができる。加えて、クラブ活動経験者は中・高校時代に身につけた指導法を確認、実技指導に活かし、実践能力をさらに高めることができる。部活動をこれまで継続してこなかった学生は楽しく運動が継続できるように実践力・行動力につなげる。できれば、健康スポーツ理論やヘルスプロモーションの健康増進理論を受講することを進める。理論と実践の乖離がないよう、総合的に学び、健康寿命の延伸を目指そう。		
教材（教科書）	適宜指示する		
教材（参考資料）	吉中　康子著「健康スポーツとヘルスマネジメント―リーダーのための健康理論」晃洋書房		
教育方法	学生はこの実技を受講することで、グループワークの中で協力し合ったり、リーダーシップを発揮することを学ぶ。授業は主に講義法に基づくが、適時グループワークをまじえて、試合の企画・運営やお互いに協働することを学ぶ。		
評価方法	グループ学習参加度、実技評価、体力と生活習慣レポート及びその他の提出物を総合して評価する		
到達目標	１．運動を楽しみ、仲間と協力することができる。 ２．グループで協力し、自分の役割を果たすことができる。 ３．目標を掲げ、練習計画立てて、説明し、仲間と時間を有効に使うことができる。 ４．集団をまとめることができる。 ５．準備、片付けや危機管理・安全管理ができる		
授業時間外学習	運動後は、各グループで振り返りを行い、改善点は次回の学習に活かしてください。 １回目　宿題：体力と生活習慣のレポート作成：３０分以上 ２回目　宿題：バドミントン＆卓球のルール ３回目　振り返り ４回目　振り返り ５回目　振り返り ６回目　宿題：テニス・ローンボウルズのルール ７回目　振り返り ８回目　宿題：バスケットボールのルール ９回目　振り返り 10 回目　宿題：レクリエーションの歴史とアクテビティ 11 回目　宿題：クリケットのルール 12 回目　宿題：ソフトバレーボール＆バレーボールのルール 13 回目　宿題：運動習慣と健康寿命 14 回目　振り返り 15 回目　振り返り		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
体調管理など各自で気を付け、安全に運動ができるようお互いに気配りをしてください。 運動能力の高い人や運動経験の長い人は、運動経験が未熟な学生に配慮をしてください。 お互いに学び合い、お互いに尊重し合い楽しい場を創出してください。			
授業スケジュール			
１．オリエンテーション 体力測定、授業の進め方と注意事項の説明。（宿題：体力と生活習慣のレポート作成：３０分以上）			

2．体力測定の評価法とレクリエーション（宿題：バドミントン＆卓球のルール）
3．バドミントン
4．卓球
5．バドミントン
6．卓球（宿題：テニス・ローンボウルズのルール）
7．テニス
8．ローンボウルズ（宿題：バスケットボールのルール）
9．バスケットボール
10．レクリエーション（宿題：レクリエーションの歴史とアクテビティ）
11．バスケットボール（宿題：クリケットのルール）
12．クリケット（宿題：ソフトバレーボール＆バレーボールのルール）
13．ソフトバレーボール（宿題：運動習慣と健康寿命）
14．バレーボール
15．ソフトバレーボール

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	－	★	★	－	－

年度	2018	授業コード	JSR051A01
科目名	健康スポーツ理論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
授業概要	生涯における健康スポーツは健康維持・増進、疾病の予防、精神疾患の予防のために重要となってきている。生活習慣病による死亡率は高い。また、ストレスによる精神疾患の発症も増加しており、これらの疾患を予防するための運動の知識や実践は重要となっている。スライド・動画を使用した講義を通じて健康のあり方、栄養管理のあり方、生活習慣病・癌、スポーツ障害、救急医療、健康管理の考え方などの基礎知識を学修する。 各方面の話題を取り上げて、幅広い視野を持てるようにする。 臨床例をケースとした講義を通じて学生自身による健康管理や指導者の育成も目指す。		
教材（教科書）	とくにありません。		
教材（参考資料）	『新・健康スポーツの科学』(晃洋書房) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 『スポーツ医学研修ハンドブック(基礎科目・応用科目)』　(文光堂)		
教育方法	事前に用意した PDF と、当日のスライドを使用して講義を進めます。 重要な点についてはショートテストで確認します。 一般教養も提示する予定です。		
評価方法	課題レポートの評価を 30%、授業内テストなどを 70%とする。		
到達目標	健康の概念を把握し、健康の維持・増進について理解する。		
授業時間外学習	厚生労働省の健康関連情報について、チェックしておくこと。 国立がん研究センターのホームページを見て自習してください。 いきいき健康ライフ／滋賀県立成人病センターのホームページを見て自習してください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。
出席の代返は禁止です。
講義中の私語は禁止です。
小テストはスクリーンを使用しますので、なるべく前に座ってください。
筆記用具は毎回、持参してください。

授業スケジュール

１．オリエンテーション・健康とは何か・健康づくり施策
２．栄養摂取と運動
３．骨の病気、筋肉の病気
４．放射線の ABC・被曝の基礎知識・緊急被曝ガイド(水田先生)
５．人体の解剖・画像解剖(水田先生)
６．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 1
７．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 2
８．生活習慣病としての発癌
９．大学生の健康知識
１０．運動療法の基礎
１１．心臓病と高血圧・動脈硬化の運動療法
１２．スポーツ障害と画像診断
１３．運動負荷試験
１４．運動プログラムの管理
１５．健康管理、まとめ

京都医療科学大学の水田先生に講義をお願いしています。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JSR051A02
科目名	健康スポーツ理論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
授業概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の 3 分の 2 が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約 6 割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで 2 位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。スポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学ぼう。 　学生はこの授業を学ぶことで、運動の必要性に気づき、行動に結びつけることができる。自分の健康状態を管理するマネジメント力とセルフコントロールの能力が身につく。		
教材（教科書）	吉中康子著「健康スポーツとヘルスプロモーション―リーダーのための健康理論―」（晃洋書房）		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	パワーポイントや動画を活用しながら、スポーツの最新の動向を学ぶ。教科書の重要な点をマークしたり、教科書の事前学習シートに沿って、予習をすること。実践活動も重視する。		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。 以上の目標を達成し、学生は運動習慣を構築することができる。競技スポーツを目指す学生は、さらに高い目標をもって、チーム一丸となって目標を目指し活動することができる。		
授業時間外学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを 5 点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
授業スケジュール			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労			

１３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	JSR051A03
科目名	健康スポーツ理論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
授業概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の 3 分の 2 が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約 6 割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで 2 位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。スポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学ぼう。 　学生はこの授業を学ぶことで、運動の必要性に気づき、行動に結びつけることができる。自分の健康状態を管理するマネジメント力とセルフコントロールの能力が身につく。		
教材（教科書）	吉中康子著「健康スポーツとヘルスプロモーション―リーダーのための健康理論―」（晃洋書房）		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	パワーポイントや動画を活用しながら、スポーツの最新の動向を学ぶ。教科書の重要な点をマークしたり、教科書の事前学習シートに沿って、予習をすること。実践活動も重視する。		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。 以上の目標を達成し、学生は運動習慣を構築することができる。競技スポーツを目指す学生は、さらに高い目標をもって、チーム一丸となって目標を目指し活動することができる。		
授業時間外学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを 5 点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
授業スケジュール			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労			

１３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	JSR051A04
科目名	健康スポーツ理論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	坂﨑　富夫	旧科目名称	
授業概要	生涯における健康スポーツは健康維持・増進、疾病の予防、精神疾患の予防のために重要となってきている。生活習慣病による死亡率は高い。また、ストレスによる精神疾患の発症も増加しており、これらの疾患を予防するための運動の知識や実践は重要となっている。スライド・動画を使用した講義を通じて健康のあり方、栄養管理のあり方、生活習慣病・癌、スポーツ障害、救急医療、健康管理の考え方などの基礎知識を学修する。 各方面の話題を取り上げて、幅広い視野を持てるようにする。 臨床例をケースとした講義を通じて学生自身による健康管理や指導者の育成も目指す。		
教材（教科書）	とくにありません。		
教材（参考資料）	『新・健康スポーツの科学』(晃洋書房) 『健康・スポーツ科学講義』(杏林書院) 『スポーツ医学研修ハンドブック(基礎科目・応用科目)』　(文光堂)		
教育方法	事前に用意した PDF と、当日のスライドを使用して講義を進めます。 重要な点についてはショートテストで確認します。 一般教養も提示する予定です。		
評価方法	課題レポートの評価を 30%、授業内テストなどを 70%とする。		
到達目標	健康の概念を把握し、健康の維持・増進について理解する。		
授業時間外学習	厚生労働省の健康関連情報について、チェックしておくこと。 国立がん研究センターのホームページを見て自習してください。 いきいき健康ライフ／滋賀県立成人病センターのホームページを見て自習してください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

質問は随時受付けます。積極的な姿勢は大歓迎です。
出席の代返は禁止です。
講義中の私語は禁止です。
小テストはスクリーンを使用しますので、なるべく前に座ってください。
筆記用具は毎回、持参してください。

授業スケジュール

１．オリエンテーション・健康とは何か・健康づくり施策
２．栄養摂取と運動
３．骨の病気、筋肉の病気
４．放射線の ABC・被曝の基礎知識・緊急被曝ガイド(水田先生)
５．人体の解剖・画像解剖(水田先生)
６．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 1
７．生活習慣病と医用画像・生活習慣病の予防と対策 2
８．生活習慣病としての発癌
９．大学生の健康知識
１０．運動療法の基礎
１１．心臓病と高血圧・動脈硬化の運動療法
１２．スポーツ障害と画像診断
１３．運動負荷試験
１４．運動プログラムの管理
１５．健康管理、まとめ

京都医療科学大学の水田先生に講義をお願いしています。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	JSR051A05
科目名	健康スポーツ理論A	単位数	2
科目名（英語表記）	Theory of Health & Sports A		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
授業概要	体育・スポーツやレクリエーションは子どもの心身の発達を健全に促す手立てとして，またヘルスプロモーションや仲間づくり、自己実現の手段、セーフティプロモーションにおける外傷予防や自殺の防止対策として、新たに注目を浴びる存在となっている．しかし、現在は子供から大人まで、国民の 3 分の 2 が運動習慣を身につけていないし，死亡原因でも生活習慣病が約 6 割（がん 30.5%，虚血性心疾患 15.7%，脳血管疾患 13.0%，糖尿病 1.3%，高血圧性疾患 0.6%）を占め，医療費に占める生活習慣病の割合も 10 兆円を超えている。自殺率はロシアに次いで 2 位である。 　そこで、様々な視点から健康やスポーツの意義について学んでいく。運動のメリットを深く知り、行動につなげていくことを目的に講義します。スポーツ実技を積極的に受講し、理論と実践を学ぼう。 　学生はこの授業を学ぶことで、運動の必要性に気づき、行動に結びつけることができる。自分の健康状態を管理するマネジメント力とセルフコントロールの能力が身につく。		
教材（教科書）	吉中康子著「健康スポーツとヘルスプロモーション―リーダーのための健康理論―」（晃洋書房）		
教材（参考資料）	適宜指示する		
教育方法	パワーポイントや動画を活用しながら、スポーツの最新の動向を学ぶ。教科書の重要な点をマークしたり、教科書の事前学習シートに沿って、予習をすること。実践活動も重視する。		
評価方法	授業内レポート（60%）テスト（40%）		
到達目標	１．自身のからだについての理解を深め、健康な生活習慣の確立を目指す。 ２．高齢化の実態とそれにともなう健康課題を理解する。 ３．生活習慣病については運動や食事との関連を理解した上で、実際の生活に応用できる知識を身につける。 以上の目標を達成し、学生は運動習慣を構築することができる。競技スポーツを目指す学生は、さらに高い目標をもって、チーム一丸となって目標を目指し活動することができる。		
授業時間外学習	前回の授業内容について、復習し実践につなぐ。実践したことを振り返り、運動のメリットデメリットを考える。 運動を習慣づけるための方法を自分自身で構築していく。 運動の継続がもたらす効果を文章にする。 運動が習慣化できていない人に対して、どのようなアプローチが有効かを見出す。 毎回の授業終了時に、次回の範囲や次回までにすべき課題を指定するので予習・復習しておくこと		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
出席と授業内ミニレポートの提出により評価。毎回の授業を大切にしよう。ミニレポートには①授業中の課題　②新しい知識　③感想や質問　を書き、これを 5 点満点で評価。優れた内容には加点をする。			
授業スケジュール			
１．身体運動の意味と意義 ２．スポーツとは何か ３．健康と体力、チャレンジドと運動 ４．身体運動と生活習慣病の予防 ５．身体機能の発達と加齢変化 ６．発育と発達 ７．身体運動とこころの健康 ８．身体運動の生命科学的基礎 ９．筋・骨格系と運動トレーニング １０．運動不活発の影響 １１．呼吸・循環・内分泌系と運動トレーニング １２．運動による疲労			

１３．脳・神経系と運動トレーニング １４．肥満と食生活 １５．運動の実践

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★★	★	★

年度	2018	授業コード	T50178001
科目名	家族社会学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Family Sociology		
担当者名	桂　容子	旧科目名称	
授業概要	「家族」とは何なのだろう。通常、「家族」は、家族愛や家族の絆、というような言葉で表現されるように、一般に流通するイメージがあって、あるべき姿が共有されているように思われる。そして、そのあるべき姿からの距離を測りながら、家族の問題を憂えたり、危ぶんだりするという状況にあるようだ。 しかし、私たちが現在、「家族」イメージとしてとらえているものは、マスメディア等が流布させる限定的なイメージであり、実態を概観すると、これら流通しているイメージが現代の日本社会に遍くいきわたっているライフスタイルとは言い難いということがわかる。家族のスタンダードとされてきた、夫と妻と子どもから成る核家族の形態は、歴史的にも普遍的なものではなく、もはや多数派でもない。 授業では、イメージ家族を脱却して、制度としての「家族」の歴史的な変化や、「家族」概念の変化及び様々な側面から家族の実態を見て行きたい。さらに、「家族」における現代の諸問題をトピックとして取り上げ、人権の問題やジェンダーの視点に沿って、「家族」を読み解いていく。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介する		
教育方法	パワーポイントや映像資料を活用する。		
評価方法	平常点（レポート+ミニテスト）＝５０％ 定期試験＝５０％		
到達目標	固定的な「家族」イメージを検証し、自分と家族の関わりを見つめ直し、社会における家族の位置を相対的に捉え、人が幸福に生きるためには何が大切なのかを模索する視点を養う。		
授業時間外学習	授業内レポート、ミニテストを行うに当たって、予め課題や範囲を提示するので、準備をして臨むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

普段の授業を大切にすること。授業内レポート等の作成にあたっては、丁寧な文字と文章を心がけ、真面目に取り組んでください。
社会通念や偏見にとらわれず、それらを相対化し、思考する態度を望みます。

授業スケジュール

１　導入：授業ガイダンス　「家族」とは何か
２　社会とともに変化する家族（１）
３　社会とともに変化する家族（２）
４　高度経済成長期の家族の特徴
５　高度経済成長期から変化する家族
６　子どもと家族（１）
７　子どもと家族（２）
８　家族と暴力（１）
９　家族と暴力（２）
１０　現代家族のかかえる諸問題（１）
１１　現代家族のかかえる諸問題（２）
１２　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（１）
１３　ジェンダー、セクシュアリティからの検証（２）
１４　多様化する家族（１）
１５　多様化する家族（２）

上記テーマの配列は、授業の進度、その時々の社会情勢などにからめて、調整します。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	T50220A01
科目名	教育社会学Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Educational Sociology A		
担当者名	新堂　粧子	旧科目名称	教育社会学ｓ
授業概要	教育の機能は、国民社会にとって有用でありかつそれの要請に適応する人間を形成することに限られない、という論点を明示するために、「社会化」とは区別される「超社会化」という用語を呈示する。人間の欲望と能力はたしかに社会によって変容され補完されるが、この社会化により人間の潜在性がすべて開発されるわけではない。逆にその潜在性を損ない歪めて現実化することもある。はたして人間の独創性や創造力はどこからやってくるのだろうか。このような問いを発する時、我々は社会化には還元できない人間形成のもうひとつの側面＝超社会化について論じざるをえないだろう。 本講義ではまず社会化の教育論として、教育社会学の基礎文献である E.デュルケームの『道徳教育論』を学習する。「規律の精神」「社会集団への愛着」「意志の自律性」を道徳の 3 要素とする彼の教育論は、彼が生きた近代国民社会の成立期に、理想の社会の形成にとって必要とされる教育とはどのようなものか、を問う議論であった。彼の議論をたどりながら、社会化の教育論の特徴と不十分な点を理解し、超社会化の教育論へとつなげてゆく。次に、超社会化の教育論の可能性を探るために、超社会化概念の成立根拠となる、生成の思想にもとづく人間学の一端に触れる。H.ベルクソンの「閉じたもの」と「開いたもの」、作田啓一の「拡大体験」と「溶解体験」など。最後に社会化と超社会化を念頭に置きながら、生命感や自己意識とは何かを問い、現代社会における教育の課題について考える。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	作田啓一『三次元の人間 ― 生成の思想を語る』行路社、1998 年再版 亀山佳明・麻生武・矢野智司編『野性の教育をめざして ― 子どもの社会化から超社会化へ』新曜社、2000 年 エミール・デュルケム（麻生誠・山村健訳）『道徳教育論』講談社学術文庫、2010 年		
教育方法	適宜配布するプリントを用いながら、講義法で行う。		
評価方法	授業中に適宜課するレポート、または学期末の試験。 受講者の人数や理解度により変更し、配点その他の詳細については授業の中で示す。		
到達目標	今日の社会における教育を論じるさいに「社会化」とは区別される「超社会化」概念を用いることの意味を理解し、この概念により検討されうる人間形成の根源的側面への各自の関心、直観力を引き出すことを目標とする。		
授業時間外学習	毎回の授業後に学習内容を整理するノートを各自で作成しておくこと。次の授業のはじめに復習のための質疑応答時間を設けるので、ノートを見ながら応答できるように、また疑問が出た場合は質問できるように準備をしておくこと（各回の学習推定時間は３０分程度）。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

出席した以上は、私語を慎んでほしい。

授業スケジュール

1. 社会化と超社会化
2. デュルケームによる道徳の三要素：規律の精神
3. デュルケームによる道徳の三要素：社会集団への愛着
4. ナショナリズムとコスモポリタニズム
5. デュルケームによる道徳の三要素：意志の自律性
6. 近代国民社会と人格崇拝の観念
7. 2 つの道徳と 2 つの正義・愛・自由(1)
8. 2 つの道徳と 2 つの正義・愛・自由(2)
9. 自己境界の拡大と 溶解(1)
10. 自己境界の拡大と溶解(2)
11. 主体－客体関係の三類型(1)
12. 主体－客体関係の三類型(2)

13. 生命感について
14. 自己意識論
15. 現代社会における教育の諸課題／超近代の教育に向けて
16.定期試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	T50256101
科目名	古文書学　Ⅰ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Paleography Ⅰ		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	古文書の写真コピーを使いながらその読解を行う。古文書の多様な形態に触れる中で、古文書学の基礎をマスターすることを目ざす。文書を読むことは、内容を把握することである以上、文字を読むだけではなく、それぞれの史料の性格や歴史的意義を考えてゆく。取りあげる古文書は比較的やさしいものから始め、順次、レベルの高い古文書へと進んでゆく。		
教材（教科書）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考資料）	・佐藤進一『新版　古文書学入門』（法政大学出版局） ・『演習　古文書選』（吉川弘文館）古代・中世編、様式編、荘園編上下など。 ・東京大学史料編纂所 HP のデータベース検索画面〈 http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller〉に入ると「電子くずし字字典データベース」がある。これはくずし字の用例が非常に多いので、図書館架蔵の『くずし字事典』とともに、これを参考にして予習してくること。		
教育方法	－		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（40%）、定期テスト（60%）		
到達目標	古代中世の古文書学の基礎を学び、古文書の読解とそれぞれの史料の歴史的背景や、史料批判の方法を学ぶ。		
授業時間外学習	教材となる史料は事前に配付しておくので、十分に予習してほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・古文書学の基礎をじっくり学ぶ機会にしたい。
・分からないことは恥ではない。何でも積極的に質問してほしい。分からないこと、疑問に思ったこと、これがすべての始まりだ。

授業スケジュール

1.古文書学とは？
2.古文書習得の基礎
3.浄土寺文書の読解
4.浄土寺文書の読解
5.浄土寺文書の読解
6.鶴岡八幡宮文書の読解
7.鶴岡八幡宮文書の読解
8.鶴岡八幡宮文書の読解
9.東寺百合文書の読解
10.東寺百合文書の読解
11.東寺百合文書の読解
12.東寺百合文書の読解
13.東寺百合文書の読解
14.東寺百合文書の読解
15.東寺百合文書の読解

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	－

年度	2018	授業コード	T50256202
科目名	古文書学　Ⅱ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Paleography Ⅱ		
担当者名	佐竹　朋子	旧科目名称	
授業概要	江戸時代は、文書に基づいて社会の仕組みが整えられていた時代であった。すなわち、支配者層のみならず、庶民にいたるまでが日々文書を作成していた。 そこで、本講義では、江戸時代に作成された文書（古文書）の解読の仕方を解説していきながら、共に様々な種類の古文書を読み解いていくことで、江戸時代の社会の特質や社会のあり様を考えていくことを目的とする。また、古文書の基礎的な解読方法を身につけることを目的とする。		
教材（教科書）	授業で用いるテキストは、適宜配布する。		
教材（参考資料）	児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、１９９３年） 児玉幸多編『くずし字解読辞典』（東京堂出版、１９７０年） 日本歴史学会編『概説　古文書学　近世編』（吉川弘文館、１９８９年）		
教育方法	事前に配布したテキストを解読していく形で、講義を進めていく。具体的には、学生がノートやルーズリーフなどに予習してくることを前提とし、講義では教員や時には学生に回答を答えを求めながら、答え合わせをしていく。その際、教員が、テキストについて、古文書の解読方法について説明するとともに、このテキストから、江戸時代のどのような特質が分かるのかについての解説を行う。		
評価方法	評価は、受講態度やレポート等による平常点（５０％）と、定期テスト（記述問題５０％）の合計で算出する。 レポートの提出時期や内容については、授業中に提示します。 期末試験は、講義で取り組んだテキストと同類の問題を出すことで、講義が理解出来ているのかを問います。		
到達目標	①江戸時代の武家、天皇・朝廷、村、町など様々な社会集団において作成された文書を通じて、各自の文書の様式や種類を学び、江戸時代の古文書全般についての理解を深める。 ②江戸時代に発給された文書を学ぶことで、行政（江戸幕府）と社会との関係を考える。 ③古文書の初歩的な解読方法を学ぶ。		
授業時間外学習	予習方法 ・ノートまたはルーズリーフを必ず準備すること。そして、授業終了時に配布されたテキストを、ノートまたはルーズリーフに解読し、分からない文字はどれであるのかを確認してくること。 復習方法 ・授業で用いたテキストを、何度か読み上げたり、書き写していくことで理解を深め、解答を見ずとも答えられるようにしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてもらいたい。 ・遅刻や私語を厳禁とする。遅刻の場合、その理由を求める。私語が過ぎれば、他者への迷惑を勘案して退出を求める。 ・常識や偏見にとらわれない柔軟な発想や思考力を求める。			
授業スケジュール			
第１回：ガイダンス―史料と資料について― 第２回：近世社会と文書 第３回：紙の種類と形態 第４回：変体仮名について 第５回：崩し字の勉強の仕方について 第６回：朝廷・公家関係文書 第７回：将軍関係			

第８回：将軍関係
第９回：幕府関係
第１０回：幕府関係
第１１回：藩関係
第１２回：藩関係
第１３回：町方文書
第１４回：村方文書
第１５回：全体のまとめ
定期試験

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★★	★	★	★★

年度	2018	授業コード	T50311002
科目名	社会病理学 【他】	単位数	4
科目名（英語表記）	Social Pathology		
担当者名	高橋　裕子	旧科目名称	
授業概要	現代社会において、私たちは「自分らしさ」や「その人らしさ」、「個性」といったものに価値を置く。 「個々人が尊重されることは大切だ」と私たちは思うし、逆に言うと、このような考え方に異を唱えることは容易ではない。「人格の尊重」は良いことだと一般には信じられているのだ。 しかし、「不登校」や「ひきこもり」問題の深刻化、児童虐待や家庭内暴力の増加、頻発するデート DV やセクハラ問題といった社会問題は「人格の尊重」に源を発しているし、善きにつけ悪しきにつけ、異なった次元にある様々な社会現象の多くは「人格の尊重」を絶対視する傾向を抜きにして語ることができない。だとするならば、私たちは「人格の尊重」をいかに捉え、それとどのように付き合っていけば良いのだろうか。 閉塞感の漂う、不安定な現状況にあればなおのこと、「自由」や「自立」、「個性」、「私らしさ」、「自尊心」など、「私が私らしくあること」と「他者と共にあること」のかねあい、「他者と繋がること」の意味を今一度立ち止まって、ゆっくりと、考えてみる時間が必要なのではないだろうか。 「社会病理学」の授業が、みなさんにとって、そのような機会のひとつとなれば幸いである。 本講義では、まず、社会学の知見を借りながら、社会病理が生成されるメカニズムを学習する。 その上で事例研究を行ない、最終的には、「社会に鋳型取られた個人がいかにしてアクションを起こすことのできる主体たりえるのか」というテーマへとみなさんを誘って行きたい。 授業を通して、論理的に考えたり、互いの意見を交換したり、参考文献をもとにレポートを書いたりする経験を積んでいただきたいと思う。		
教材（教科書）	使用しない		
教材（参考資料）	適宜紹介する		
教育方法	授業は講義法に主に基づくが、適時グループワークをまじえる。		
評価方法	基本的には課題レポート（50%）と検証テスト（50%）による総合評価によって成績を判定するが、授業中にミニテストを行ない加算することも考えている。		
到達目標	1）社会病理が生成されるメカニズムを理論的に理解できるようになること。 2）社会学の用語を用いてレポートを書けるようになること。 3）自分自身の問題関心に即して「社会病理」とは何かを考え自らの見解を述べることができるようになること。		
授業時間外学習	グループワークやディスカッションの前にはワークシートを配布するので、参考文献の指定されたページを 読み、ワークシートを完成させてから講義に臨むこと。 講義形式の授業においてはミニテストを課すので講義後の復習をすること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
社会学系科目の既習が望ましいが、未履修の学生はとりわけ継続的に講義に出席することが不可欠である。 参考文献を適宜紹介するので自分で学習を進めていく姿勢をもってほしい。 その上で、学習の進め方や講義内容に関する質問はいつでも歓迎するので遠慮なく尋ねてくること。 授業中、学生の発言や参加、作業を求めるので、そのつもりでいて欲しい。 当然のことながら、講義時間内の飲食、携帯電話やスマートフォンの使用、私語は、禁止する。 退室は特段の事情がない限り認めない。			
授業スケジュール			
1.イントロダクション　（自己紹介・授業の進め方・約束事の確認など） 2.イデオロギーの磁場としての社会 3.社会病理学の方法論			

4.『愛を乞う人』鑑賞
5.事例研究：児童虐待①
6.事例研究：児童虐待②
7.「家族愛」の発見
8.「近代家族」の形成
9.「近代家族」の崩壊
10.グループワーク：リスク化する家族
11.【レポート課題指導】①
12.【レポート課題指導】②
13.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）①
14.犯罪とは何か（デュルケイムの定義より）②
15.論文提出(＋検証テスト)
16.事例研究：「まなざしの地獄」①
17.事例研究：「まなざしの地獄」②
18.ラベリング論
19.グループワーク：いじめ問題
20.狂気①
21.狂気②
22.『17 歳のカルテ』鑑賞
23.【レポート課題指導】③
24.事例研究：自殺①
25.事例研究：自殺②
26.デュルケイム『自殺論』
27.自殺データから見る現代日本
28.若者の「労働」問題
29.若者の「貧困」問題
30.検証テスト

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	T50318A01
科目名	社会福祉論Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory I		
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
授業概要	人間は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、国は憲法第 25 条に生存権を規定し、生活の安定を図るとともに国民の最低限度の生活を保障する公的な制度である社会保障制度を設けている。また社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障害者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、大多数の人にとっては，自分とはあまり関係のないものとして、捉えがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などが抱える諸問題により、社会保障や社会福祉は、若者から高齢者まで誰もが関わりを持つ普遍的な制度として認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化により、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、今後も機能していくかどうかが、国民の最大の関心事になっているのは新聞やテレビなどの報道をみれば、間違いのないことであろう。社会福祉論Ⅰでは、社会保障・社会福祉の概要、社会保障や社会福祉を取り巻くさまざまな問題や課題を取り上げ，学生の皆さんと考えたい。また社会福祉論Ⅰでは、福祉の現場で活躍している２～3 名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（教科書）	テキストはなし。 テーマに合わせてレジュメを配布する。 また理解を促すためにＤＶＤ視聴や新聞記事も使用する。		
教材（参考資料）	テーマに合わせて、その都度、参考文献等を紹介したい。		
教育方法	テーマに合わせて、その都度、鑑賞してもらいたいＤＶＤ等を紹介する。		
評価方法	評価方法は、授業内での小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価、出席を重視する。なお、レポート課題は、受取等のトラブル等を防ぐために就学支援センターの窓口に提出。		
到達目標	1. 社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 2. 社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 3. 社会保障や社会福祉の事例や課題を通して社会の動きを考える。		
授業時間外学習	日頃からインターネットやテレビ・新聞などの情報に接して、現在、世間や社会ではどのような問題が起こっているのか、把握しておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

社会保障や社会福祉は、政治や経済、社会の状況がダイレクトに反映され、人々の暮らしに及ぼす影響は極めて大きい。インターネットやテレビ・新聞などの情報に接して、現在、世間や社会ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてほしい。現在、社会で起こっている社会保障や社会福祉の問題を題材に取り上げ、講義を進めていきたい。

授業スケジュール

1　オリエンテーション
2 障害を持って生きるということ
3 社会保障と社会福祉①
4 社会保障と社会福祉②
5 社会保障・社会福祉の動向
6 社会保障制度の諸問題①
7 社会保障制度の諸問題②
8 ゲストスピーカーの講義①
9 社会保障制度の諸問題③
10 社会保障制度の諸問題④
11 ゲストスピーカーの講義②
12 社会福祉制度の諸問題①

13 社会福祉制度の諸問題②
14 社会福祉制度の諸問題③
15 社会福祉制度の諸問題④
※講義の内容・順番を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	T50318B01
科目名	社会福祉論Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Welfare Theory Ⅱ		
担当者名	小出　享一	旧科目名称	
授業概要	人間は出生から死ぬまでの間において、個人の努力だけでは対応できない難しい困難に直面することがある。そのような困難に対して、国は憲法第 25 条に生存権を規定し、生活の安定を図るとともに国民の最低限度の生活を保障する公的な制度である社会保障制度を設けている。また社会福祉とは、さまざまな生活上の諸問題に直面して生活がしにくくなっている人々（障害者、要介護高齢者など）に対して、何らかの形で援助しようとする社会的な取り組みである。かって社会保障や社会福祉の制度は、特定の者の支援を対象とする選別的な制度であり、大多数の人にとっては，自分とはあまり関係のないものとして、捉えがちであった。しかしながら、急速な少子高齢化に伴う介護保険制度の創設や年金・医療制度などが抱える諸問題により、社会保障や社会福祉は、若者から高齢者まで誰もが関わりを持つ普遍的な制度として認識されてきている。少子高齢化が進む中で、日本の社会構造や経済状況の変化により、社会保障や社会福祉の制度が国民生活を支えるものとして、今後も機能していくかどうかが、国民の最大の関心事になっているのは新聞やテレビなどの報道をみれば、間違いのないことであろう。社会福祉論Ⅱの授業テーマとしては、障害者運動及び自立生活の展開、バリアフリー、ノーマライゼーション、出生診断、就労支援、差別・虐待など障害者・高齢者・児童にまつわるさまざまな問題や課題を取り上げ，学生の皆さんと考えたい。また社会福祉論Ⅱでは、福祉の現場で活躍している２～3 名のゲストスピーカーによる講義も予定している。		
教材（教科書）	テキストはなし。 テーマに合わせてレジュメを配布する。 また理解を促すためにＤＶＤ視聴や新聞記事も使用する。		
教材（参考資料）	テーマに合わせて、その都度、参考文献等を紹介したい。		
教育方法	テーマに合わせて、その都度、鑑賞してもらいたいＤＶＤ等を紹介する。		
評価方法	評価方法は、授業内での小レポート（３０％）及びレポート課題（７０％）によって評価、出席を重視する。なお、レポート課題は、受取等のトラブル等を防ぐために就学支援センターの窓口に提出。		
到達目標	1. 障害者・高齢者・児童の問題から社会保障や社会福祉の概要を学ぶ。 2. 障害者・高齢者・児童の問題から社会保障や社会福祉の制度やサービスを学ぶ。 3. 障害者・高齢者・児童の問題や課題を通して社会の動きを考える。		
授業時間外学習	日頃からインターネットやテレビ・新聞などの情報に接して、現在、世間や社会ではどのような問題が起こっているのか、把握しておいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

社会保障や社会福祉は、政治や経済、社会の状況がダイレクトに反映され、人々の暮らしに及ぼす影響は極めて大きい。インターネットやテレビ・新聞などの情報に接して、現在、世間や社会ではどのような問題が起こっているのか、知っておいてほしい。現在、社会で起こっている障害者や高齢者及び子どもの問題を取り上げ、授業を進めていきたい。

授業スケジュール

1　オリエンテーション
2 障害者福祉の諸問題①障害者差別
3 障害者福祉の諸問題②障害者運動及び自立生活の展開
4 障害者福祉の諸問題③バリアフリーとまちづくり
5 障害者福祉の諸問題④障害者運動の到達点
6　障害者福祉の諸問題⑤障害者の恋愛と性
7　障害者福祉の諸問題⑥優性思想と強制不妊手術
8 ゲストスピーカーの講義①
9　障害者福祉の諸問題⑦障害者の就労①
10　障害者福祉の諸問題⑧障害者の就労②
11 ゲストスピーカーの講義②

12　高齢者福祉の諸問題①高齢者の動向
13　高齢者福祉の諸問題②介護保険と介護問題
14　高齢者福祉の諸問題③高齢者の貧困
15　高齢者福祉の諸問題④高齢者の社会参加
※講義の内容・順番を変更することがあります。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	T50321001
科目名	社会問題論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Social Problems		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	
授業概要	人々の生活と心理に大きな影響を与える現代社会の諸側面、特にその問題点について講じる。個人の心理をよりよく理解するためには、その個人が生きている社会の実情･問題点を把握しておくことが必要である。この講義ではそれらについて講義する。 また、それらの理解に役立つので、その時々の時事問題についても解説する。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義時に紹介する。		
教育方法	主に講義による。毎時間、授業の初めに前回の授業内容の復習をおこなう。毎時間、授業の終わりに受講者に、質問･意見などを書いてもらう。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。授業終了時の質問カード提出による。）		
到達目標	現代社会の様々な社会問題について知る。 現代社会について関心を持つ。 日々のニュースに触れる。 現代社会の諸事情が将来の自分の就職とどのような関係があるかについて考える。		
授業時間外学習	1. 現代の日本社会にはどんな問題があるか考えて、200 字程度でまとめておくこと。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、授業の見通しを付けておくこと） 2. 配付資料 No.1「貧困」 3. 配付資料 No.2「子どもの貧困」 4. 配付資料 No.3「母子家庭の経済的脆弱性」 5. 配付資料 No.4「非正規雇用」 6. 配付資料 No.5「少子高齢化」 7. 配付資料 No.6「医療制度」 8. 配付資料 No.7「健康保険制度」 9. 配付資料 No.8「財政」 10. 配付資料 No.9「税制」 11. 配付資料 No.10「食糧自給率」 12. 配付資料 No.11「食品添加物」 13. 配付資料 No.12「グローバリゼーション」 14. 配付資料 No.13「監視社会」 15. 配付資料 No.14「現代社会についての考察」 また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。 なお、日頃から新聞やテレビなどに接して、社会的な問題に対する関心を持つようにしてほしい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1．積極的に学ぼうという姿勢を持って講義に臨んでほしい。
2．私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑になるので、退室を求める。

授業スケジュール

1．ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて
2．経済的格差と貧困
3．子どもの貧困
4．母子家庭の経済的弱者性

5．非正規雇用
6．少子高齢化
7．医療制度
8．健康保険制度
9．財政
10．税制
11．食糧自給率
12．食品添加物
13．グローバリゼーション
14．監視社会・管理社会
15．現代社会についての考察

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	T50330B01
科目名	宗教社会学Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Sociology of Religion B		
担当者名	岡尾　将秀	旧科目名称	
授業概要	本講義では、近代以降の社会制度の発展による宗教の世俗化にもかかわらず、新しい宗教がその都度出現してきたことを理解する。第１に、日本の明治維新という政治体制の転換期に、「教派神道」と呼ばれた天理教のような「新宗教」が、どのように成立したのかを学ぶ。第２に、明治後期から大正時代にかけて資本主義経済が地方の民衆層にまで浸透する時期に、上記の教派神道をモデルとしつつも、よりラディカルな社会変革を予言する大本のような新宗教がどのように成立したかも学ぶ。これらの歴史的な事例の学習を踏まえて、第３に、オウム真理教のような「カルト」と呼ばれる未成熟の宗教集団の一部が、高度経済成長終了後のどのような状況において、悪質な犯行に踏み切るようになったかを考える。このような未解明な事件の考察を踏まえて、「スピリチュアリティ」と呼ばれる自己の霊性の聖化による世界の浄化を目指す「新霊性運動」が、バブル景気終了後にどのような方向に向かおうとしているかを予想する。		
教材（教科書）	特に指定しない。		
教材（参考資料）	高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔編著『宗教と社会のフロンティア――宗教社会学からみる現代日本』勁草書房 村上重良『近代民衆宗教研究史の研究』法蔵館 安丸良夫『出口なお』朝日新聞社 対馬路人「解説『人類愛善新聞』」細田哲史編『復刻版　人類愛善新聞　別冊』不二出版 櫻井義秀『「カルト」を問い直す――信教の自由というリスク』中公新書ラクレ 201 島薗進『精神世界のゆくえ――現代世界と新霊性運動』東京堂出版		
教育方法	１授業でとりあげる各教団の教義書の一部を、授業の目的に合わせて解読したり、一部の教団のビデオの一部を視聴する。 ２現代の宗教現象についてのテレビ番組の一部を視聴したり、新聞記事のコピーを講読してから、各自の意見や疑問を述べ合ってもらうこともある。		
評価方法	期末レポートもしくは期末テストに（５割）、講義中の小レポートもしくは小テスト（３割）、出席率（２割）を加えて評価する。		
到達目標	世俗化した現代社会において、小さくなった多様な宗教がどのように存立しているかを理解し、それらに私たちがどのように関わったらよいかを考える。		
授業時間外学習	噂や新聞やテレビ、インターネットにおいて、新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームがどのような社会現象としてとりあげられているかを見聞しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
身の周りの新宗教やカルト、スピリチュアリティ・ブームについて、事実に即して考え、言葉に表すことによって、いずれも他人事ではなく私たち自身の生き方を左右する問題であることに気づいて欲しい。			
授業スケジュール			
１　秋学期の目標と計画 ２　日本の近代における「世俗化」と「宗教革新」 ３　幕末維新期における「教派神道」の出現 ４　「民衆宗教」から「新宗教」へ ５　教祖崇拝の展開 ６　「生命主義的救済観」の形成 ７　新宗教の組織化 ８　明治大正期における宗教革新 ９　開祖と後継者の協力と葛藤 １０　新宗教と国民国家の緊張			

１１　新宗教から「新新宗教」へ
１２　「カルト」の台頭
１３　「スピリチュアリティ」の追求
１４　神秘主義から合理主義へ
１５　秋学期のまとめと補足

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	T50333A01
科目名	宗教民俗学Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Religious folklore I		
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
授業概要	本講義では、暮しの中にとけこみ、私達の生活習慣や思想の基盤となっている民間信仰について学んでいきます。 民間信仰とは、神職や僧侶などの宗教者から離れ、民間のみで行われている宗教現象を指すといわれています。この民間信仰は、祭礼・年中行事、人生儀礼を主とし、生活の基盤となる生業や衣食住にも反映されています。 また、この民間信仰は、あらゆる宗教を吸収し、各地域の伝統文化に影響を与えながら独特な展開をみせます。その基礎となる組織として宮座や講が挙げら、これらの祭祀組織の動向をみることにより該当地域の信仰形態の一端を知ることができます。しかし、そのためには各地域の歴史も知る必要性があります。この講義では民間信仰の歴史も踏まえながら、日本人の宗教観、すなわち日本の民俗宗教について一緒に探っていければと思います。		
教材（教科書）	なし。プリント類は各回の講義のみで配布します。		
教材（参考資料）	・宮家準『宗教民俗学への招待』（丸善ライブラリー） ・『日本民俗大辞典』（吉川弘文館） ・『国史大辞典』（吉川弘文館） ・『神道事典』（弘文堂）		
教育方法	講義および講義内容と関連する映像資料を使いながら講義を行います。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点４０％ レポート６０％ 最終講義のレポート未提出者は授業放棄とみなします。		
到達目標	受講者のゆかりのある地域の信仰、歴史、伝統文化に興味を持ち、自らの手で調査・研究する意欲を有するところまで進んでください。これらを知ることは人生の糧となります。		
授業時間外学習	今までで聞いたことのない用語や難解な事例が出てきます。分からない場合は記録し、自ら調べるという姿勢を望みます。また、各自が今まで見てきた、体験してきた事例は貴重な資料となりますので、まとめておくと役に立つでしょう。また、両親や祖父、祖母などから自分自身とゆかりの強い地域に関する祭礼や習慣、信仰などに関する事例を聞いておくと理解度が増します。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール
・遅刻や私語は厳禁。
・私語が過ぎる場合は退出を命じます。
・授業内の態度も評価の対象となります。
学習上の助言
・直接、お祭りを見に行くことを勧めます。

授業スケジュール

１，宗教民俗学とは何か
２，宗教の種類と民間宗教の研究方法
３，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅰ（古代）
４，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅱ（中世）
５，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅲ（近世）
６，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅳ（近代）
７，民俗宗教と歴史－日本宗教史Ⅴ（現代）
８，神道と民俗宗教
９，仏教と民俗宗教
１０，山岳信仰－修験道

１１，シャーマニズムの世界
１２，俗信の世界
１３，京都の民間信仰と研究者
１４，日本人の原風景－風土論
１５，日本人と宗教

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	T50333B01
科目名	宗教民俗学Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Religious folklore Ⅱ		
担当者名	新木　直安	旧科目名称	
授業概要	この講義では、日本固有の宗教である神道について学びます。「神道とは？」と尋ねられ、明快な回答はできるでしょうか。これは研究者の中でも難解な問題の一つです。神道は自然崇拝から派生したといわれ、日本人の生活の中の宗教として捉えられています。しかし、神道をどう捉えるのかと考えは、時代によって大きく変化しています。また、どの部分に焦点をあてるのかによってみえてくる姿も違い、場合によっては全く捉えどころのない宗教となります。そこで、本講義では、あらゆる学問がみる「神道とは何か？」ということを時間をかけてみていきます。		
教材（教科書）	阪本是丸・石井研士編『プレステップ神道学』（弘文堂）。1800 円＋税。 プリント類は各回の講義のみ配布します。		
教材（参考資料）	『国史大辞典』（吉川弘文館） 宮地直一・佐伯有義監修『神道大辞典』（平凡社）（縮刷版：臨川書店） 國學院大學日本文化研究所編『神道事典』（弘文堂） 國學院大學日本文化研究所編『神道要語集』全五巻（國學院大學日本文化研究所） 小口偉一・堀一郎監修『宗教学辞典』（東京大学出版会）		
教育方法	講義および各講義のテーマに関した映像を用います。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点４０％ レポート６０％ 最終講義のレポート未提出者は授業放棄とみなします。		
到達目標	宗教民俗学Ⅰと同様に、自らの手で神社や祭礼を調査・研究する意欲を有するところまで進んでください。 そして、私達の遠祖の思いがこもった神道について考えてください。		
授業時間外学習	できるだけ、神社に参拝に行く、お祭りを見るという体験をして下さい。 今は「観光」という目的で様々なメディアで「神道」、「神社」が伝えられることが多くなりました。 大きく変貌しようとするのか、伝統を維持するのか、自分の目で確認して下さい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール
遅刻や私語は厳禁。
私語が過ぎる場合は退出を命じる。
学習上の助言
京都には、朝廷とつながりのある神社、民衆が支える神社、神仏習合色の濃い神社、摩訶不思議な神社など色々あります。目の前に貴重な資料があります。直接、見て体験してください。

授業スケジュール

１、神道とは何か
２、神社とは何か
３、神道と神話－神代の時代・古事記と日本書紀－
４、神道と歴史Ⅰ（古代）
５、神道と歴史Ⅱ（中世）
６、神道と歴史Ⅳ（近世）
７、神道と歴史Ⅴ（近代）
８、神道と歴史Ⅵ（現代）
９、神道と祭礼－山車・鉾・屋台－
１０、神道と祭礼－神事の根幹・宮中祭祀－
１１、神道と祭礼－祈りと感謝のまつり・予祝と新嘗－
１２、神道と祭礼－神饌の世界－
１３、Japanologist たちがみた神道

１４、式年遷宮－継承のこころ １５、まとめ－日本人の宗教・神道

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T50463A01
科目名	伝統文化実習 A（茶道） 【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Traditional Culture A		
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
授業概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎をビデオ・プリント等交えて概観し、茶の湯の実技を中心に行う。また茶の湯の菓子をデザインし、抹茶を点てる、頂くという、もてなしも体験していただきます。 また日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化の茶との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違にも言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、伝統文化の茶の湯を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	成果物 50%、レポート（課題）50%		
到達目標	茶の湯の実践を通じて日本の伝統文化を理解する		
授業時間外学習	実技の予習及び復習とプリントの確認をする		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日本の伝統文化である「茶の湯」に興味のある方			
授業スケジュール			
１．実習のための総論 ２．　茶の湯の基礎・割稽古 ３．　同上 ４．　同上 ５．　茶の湯の基礎・盆略点前 ６．　同上 ７．　同上 ８．　同上 ９．　同上独自のお菓子をデザインして創作する １０．　実践茶の湯のもてなし １１．　同上 １２．　同上 １３．　同上 １４．　伝統的なお菓子と濃茶を体験する １５．　世界のお茶でもてなす			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★★	★	★	－	－	－

年度	2018	授業コード	T50463B01
科目名	伝統文化実習Ｂ（能楽）　【他】	単位数	1
科目名（英語表記）	Practical Traditional Culture B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	仕舞は、扇を持って、舞台で着物・紋付き、袴（はかま）の姿で能の一部分を舞うものです。 　謡は能の台本を、登場人物のせりふと、ナレーターの部分をみんなで一緒に謡って練習します。 どちらも能を演じる上での、修業の基本の部分ですが、仕舞では身体を動かし足拍子のリズムを楽しみ、 謡では少し慣れたら、鬼や姫君や殿様などいろんな登場人物のせりふ回しを学んでみましょう。 着付けも練習します。 平安神宮の薪能を見学に行きます。		
教材（教科書）	プリントと CD を配布します		
教材（参考資料）	能・狂言図典　　小林保治・森田拾四郎編　　小学館　　2003 刊		
教育方法	毎回、舞の実技を行い、後半の時間で謡の実技を行います。 最初はお手本をする「先生のまねをしていますが、しだいに ３人ずつ、２人ずつで舞うようになり完璧に動きを覚えると１人で舞えるようになります。 １人で舞えるようになると、注意を受けながら少しずつ修正をしていきます。 謡のリズムに合わせて舞えるようになれば完成です。 １０回の練習で完成するように計画的に行います。 謡の場合も同じです。		
評価方法	授業への参加度や熱意。練習の習熟度。最後の発表会参加は必須です。薪能見学のレポート。		
到達目標	仕舞が一番（一曲）舞えるようになること 海外で日本の伝統文化を紹介出来るようになること 姿勢が正しくなり、大きな声が出るようになること		
授業時間外学習	配布したＣＤを、繰り返し聞いて復習してください。 牛若丸（源義経）と弁慶の話を漫画でもよいので読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
初心者歓迎。伝統文化論Ｂの講義をあらかじめ受講する必要はありません。 不安な場合は担当者に相談してください。 授業時間内に他の人の練習を見学する時間もありますが、「芸は盗むもの」といいます。 伝統芸能は熱心に見ることで上達しますから、そのつもりで意欲的に授業に取り組んでください。 フィールドワークとして平安神宮の薪能の見学があります。 チケット代自己負担が千円程度かかります。たびを持っていない人は、購入費千円程度を用意して下さい。
授業スケジュール
１　仕舞の基本　　扇の持ち方と構え方　運歩　足拍子のリズム ２　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（前半） ３　復習 ４　入門の曲　鶴亀　　仕舞「鶴亀」（後半） ５　薪能見学の事前学習 ６　薪能の見学（フィールドワーク） ７　謡　復習・仕舞の復習 ８　謡「橋弁慶」弁慶と従者のやりとり　　仕舞「鶴亀」 ９　謡「橋弁慶」牛若丸登場　　仕舞「鶴亀」 １０　謡「橋弁慶」五条の橋の対決　　仕舞「鶴亀」 １１　練習 １２　リハーサル １３　着物や袴を身につけて仕舞を舞う　発表会　第一グループ 14　　同上　第二グループ

１５　着物や袴のたたみ方の習得

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★★	－	★	－	－

年度	2018	授業コード	T50476A01
科目名	伝統文化論Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Traditional Culture A		
担当者名	飯島　照仁	旧科目名称	
授業概要	日本の代表する伝統文化の一つに茶の湯がある。茶の湯は、総合芸術として建築・庭園・染織・懐石をはじめ、書・絵画・陶芸・彫刻・金工・竹工・漆工など多岐の分野にわたる。この茶の湯は衣・食・住において五百年ほどの歴史を持ち、現在まで茶家を中心に伝えられてきている。また近年、茶の湯は国際文化交流として欧米・アジアをはじめとし、諸外国において様々な交流が盛んである。 本講義では、このわが国を代表する伝統文化である茶の湯の基礎や歴史を教科書・ビデオ等交えて概観し、茶の湯の舞台ともいえる茶の湯の庭(露地)と茶の湯の建築(茶室)の成り立ち、茶人のこだわり、そしてそこから窺える精神性をも解説したい。 更に、日本の伝統文化の茶の湯の基礎をもとに異文化との関わりに目配りをし、衣・食・住の価値観の相違に言及したい。国際文化交流の機会が増えている今日だからこそ、自国の伝統文化を少しでも理解することで、異文化のさらに深い理解へと繋がるものと考える。		
教材（教科書）	『茶道文化検定公式テキスト３級』飯島照仁共著　淡交社		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	成果物 20%、レポート（課題）30%、筆記試験 50%		
到達目標	茶の湯を通じて日本の伝統文化を理解する。		
授業時間外学習	教科書の予習及び復習		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日本の伝統文化である「茶の湯」に興味のある方			
授業スケジュール			
１．　伝統文化総論 ２．　日本の伝統文化(茶の湯)と衣・食・住の基礎知識 ３．　同上 ４．　茶の湯入門 ５．　同上 ６．　同上 ７．　同上 ８．　茶の湯の建築入門 ９．　同上 １０．　同上 １１．　同上 １２．　茶の湯の庭入門 １３．　同上 １４．　同上 １５．　茶の湯体験			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★★	★	－	－	★	－

年度	2018	授業コード	T50476B01
科目名	伝統文化論Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Theories of Traditional Culture B		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	日本の伝統文化は、中世に源流があると言われる。伝統文化論Ａは茶道を取りあげ、 この伝統文化論Ｂは能楽を取りあげるがいずれも中世に確立し、今日まで発展している 日本の伝統文化である。とくに京都は、その本場であるから、しっかり知識を身につけて欲しい。 茶道は静寂を旨とするから、音楽であり、劇である能楽は、茶道が持っていない面を補い、茶道と能楽は深く関わりつつ互いに補完する関係である。 講義では、伝統芸能の歴史から、能楽の内容、つまり文学（謡曲）・音楽（囃子）・工芸（能衣装）・彫刻（能面）・演技（型と舞）・能舞台（建築）の諸要素を、実際にシテ方能楽師（＝能面をかけて主役を担当する）として長年活動している山﨑が演技者の立場から解説する。 　百聞は一見にしかず、というが、演劇に関してはまさにその通りなので、１２月８日（土）に行われる能の催しを見学する。		
教材（教科書）	プリントを作成して配布する。		
教材（参考資料）	『能楽と崑曲』（赤松紀彦他編　汲古書院　２５００円）		
教育方法	基本的には作品内容の講義とビデオ鑑賞を組み合わせて１回とする。 １回は実際に能楽堂へのフィールドワークをする。 能のワークショップの機会が得られれば、フィールドワークを行う。 毎回ではないが、質問を記入してもらい次の時間に説明して疑問を解消していく。		
評価方法	授業内小テスト 能見学レポート 授業内の質問など		
到達目標	日本の伝統芸能の基本的な知識の修得。 舞台を見て能楽・文楽・歌舞伎の区別がつくこと。 芸能の素地となっている物語を理解していること。 実技がどんなものか、体験をしていること。 実際の生の舞台を見る経験をすること。		
授業時間外学習	前回の授業内容の復習をすること。 興味をもって専門用語などを調べてみること。 古典芸能のテレビ放送などを見ておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回の講義を簡単にノートにまとめてみること。きちんと授業に出席すること。 能見学のチケット代が自己負担千円程度必要です。 １２月８日（土）はフィールドワークなので午後の予定を空けておくこと。			
授業スケジュール			
1　古典芸能史……能楽・文楽・歌舞伎のちがい 2　いちばん面白い能・「道成寺」…ＤＶＤで見る 3　「道成寺」後半を見る 4　能面のいろいろ 5　能「鉄輪」と『陰陽師』 6　能の五番立て　　神・男（武将）・女（姫君）・現在物（ドラマ）・鬼 7　フィールドワーク事前学習 8　フィールドワーク能の見学（12 月 8 日（土）午後）			

（都合がつかない人は別の日の公演を代用します）
9　「橋弁慶」牛若丸・弁慶の出会いと間狂言の寸劇
１０　能楽の楽器のいろいろ　大鼓・小鼓・笛・太鼓
１１「松風」伊勢物語と能
１２　「海士」玉取り伝説と能
１３「邯鄲」中国の伝説と能
１４　「靱猿（うつぼざる)」の狂言
１５　能装束の工芸品としての要素

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	T50478B01
科目名	都市文化史Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Urban Culture History B		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
授業概要	都市伝説というコトバが学術用語ではなく一般の日常会話のなかに現れるようになったのは、それほど古い話ではない。村落共同体での口頭伝承である昔話の研究が進められる中で、都市においてもかつての昔話や伝説のような口頭伝承が生成されつつあることが明らかになり、「学校の怪談」などポピュラーな切り口がされるに至って、一般の人気を得たものと思われる。近代都市が生み出した様々な文化のあり処に思いを致す時、都市伝説の語感による都市と、文化史を結びつけた都市文化史は、その複雑怪奇性といい、百鬼夜行性といい申し分のない括り方ではないだろうか。都市文化史Ｂでは大衆と死の共同体という観点から都市文化史を考える。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	板書とパワーポイントによる講義形式で行う。その都度文献を紹介するので、関心を持った部分についてそれを読むようにすると、「都市」への理解が深まるだろう。		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（30%）レポート（70%）		
到達目標	現代文明への批評的観点の養成と、歴史的事実との接続への関心。		
授業時間外学習	各自関連文献を読んでおくのは重要である。毎回関連文献を提示するので、適時それに時間を割くように。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
一見合理的に成立しているような事象でも、歴史的に検証するとまったく違う理由から成立していることがわかったりする。そういうことへの関心を育てるように。			
授業スケジュール			
（1）大衆と都市 （2）秋葉原と夢野久作 （3）バタイユ『青空』 （4）死の共同体 （5）神話としてのドン・ジュアン （6）ファウスト （7）死の時代 （8）虐殺・神話 （9）図像学の誕生 （10）アビ・ヴァールブルグ （11）ゴーレム （12）絵引 （13）街をあるく （14）異形異類 （15）再び江戸の大衆社会			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	T50501A01
科目名	歴史学特殊講義（日本近現代史） Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Modern J apanese History) I		
担当者名	平良　聡弘	旧科目名称	
授業概要	本授業のテーマは、「幕末維新の政治社会と人物群像」です。今年は「明治 150 年」にあたり、全国的に記念事業が催される予定ですが、この機会に、明治の幕開けとなった幕末維新の歩みについて、歴史学的に眺め直してみようというのが狙いです。 授業の前半では、幕末維新期における政治社会の展開過程について、研究史をふまえながら、概説的な流れをおさえていきます。後半では、幕末維新期に実在した人物をとりあげ、その人物の軌跡を通じて幕末維新という時代の特質を考えていきます。 なお授業は、主に講義形式で進めますが、小レポートを課したり話を振るなど、学生の諸君とのコミュニケーションをはかるつもりです。		
教材（教科書）	とくに使用しません。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介します。		
教育方法	毎回、レジュメ・資料プリントを配布します。		
評価方法	平常点（出席・授業態度・小レポート等）50%　＋　学期末課題 50%		
到達目標	「なんとなくそうだと思っていること（思わされていること)」を疑い、みずからの考えを変えていける柔軟性と思考力を、歴史を題材に身につける。		
授業時間外学習	授業のなかで紹介する文献に目を通す。 授業のあとにはかならず、レジュメ・資料プリントを読みなおし、復習する。 歴史を題材にした映画・ドラマ・小説などにふれる。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

日本史に関する知識の多寡は問いません。授業で得たものを通じて自分で考えること、これだけを望みます。
ばくぜんと受け身で授業に臨むのではなく、問題関心をもって能動的な姿勢を求めます。
なお、授業態度については厳しく対処します（とくに途中退席・スマホなど)。

授業スケジュール

1　　ガイダンス
2　　日本の開国
3　　幕末政治の展開
4　　維新の諸相
5　　日本近代の明治維新像
6　　大久保利通と西郷隆盛　―薩摩藩「誠忠組」の若人たち―
7　　木戸孝允と高杉晋作・久坂玄瑞　―吉田松陰の「遺志」を継ぐものたち―
8　　坂本龍馬と中岡慎太郎　―新たな国家を目指して―
9　　近藤勇　―浪士組から新撰組へ―
１０　徳川慶喜　―大政奉還の真意やいかに？―
１１　岩倉具視　―王政復古への道―
１２　湯浅五郎兵衛　―名もなき志士の軌跡―
１３　羽山大学　―政治情報を求める地方知識人―
１４　若山要助　―洛中郊外から見た幕末維新―
１５　アーネスト・サトウ　―英国外交官の見た幕末維新―

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	T50501B01
科目名	歴史学特殊講義（日本近現代史）II 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Modern J apanese History) II		
担当者名	平良　聡弘	旧科目名称	
授業概要	本授業のテーマは、「外国から見た日本の近代」です。外国人が日本の近代をどのように認識していたのか、同時代の外国人の言説や図像にふれながら、日本の近代史を多面的に再考することを狙いとしています。 具体的には、外国で刊行されていた新聞・雑誌、日本に設けられた居留地に居住する外国人が発刊した居留地新聞、来日・滞在・帰化した外国人の日記・随筆・紀行文にもとづき、外国人の日本イメージについて理解を深め、日本の近代史を外の視点から見直そうと試みます。 本授業の性格上、使用する資料はもとは外国語のものですが、私のほうで翻訳したものや翻訳刊行文献を用いますので、外国語が読めなくてもまったく支障ありません。 なお授業は、主に講義形式で進めますが、小レポートを課したり話を振るなど、学生諸君とのコミュニケーションをはかるつもりです。		
教材（教科書）	とくに使用しません。		
教材（参考資料）	授業中に適宜紹介します。		
教育方法	毎回、レジュメ・資料プリントを配布します。		
評価方法	平常点（出席・授業態度・小レポート等）50%　＋　学期末課題 50%		
到達目標	「なんとなくそうだと思っていること（思わされていること）」を疑い、みずからの考えを変えていける柔軟性と思考力を、歴史を題材に身につける。		
授業時間外学習	授業のなかで紹介する文献に目を通す。 授業のあとにはかならず、レジュメ・資料プリントを読みなおし、復習する。 歴史を題材にした映画・ドラマ・小説などにふれる。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
日本史に関する知識の多寡は問いません。授業で得たものを通じて自分で考えること、これだけを望みます。 ばくぜんと受け身で授業に臨むのではなく、問題関心をもって能動的な姿勢を求めます。 なお、授業態度については厳しく対処します（とくに途中退席・スマホなど）。			
授業スケジュール			
1　ガイダンス 2　不平等条約と日本近代 3　日本開国運動から見た日本 4　外国新聞・雑誌から見た日本開国 5　外国新聞・雑誌から見た幕末維新 6　外国新聞・雑誌から見た文明開化 7　外国新聞・雑誌から見た日本の近代化 8　外国新聞・雑誌から見た日清・日露戦争 9　「日本的市場」論 １０　「日本的社会」論 １１　「日本的精神」論 １２　ジャパノロジーの成立 １３　アジアイメージのなかの日本 １４　オリエンタリズムと「文明化の使命」論 １５　「日本文化」論について考える			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	★	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	T50505A01
科目名	歴史学特殊講義（日本近世史）Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (History at the Early Modern Age of Japan) I		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	江戸時代は書物の時代ともいわれています。色鮮やかな錦絵や、小説や教科書、辞書、儒学書、まじないの本など、多種多様な本が出版され、日本各地の村々にいたるまで書物が行き渡った時代です。本講義では、そのような江戸時代の多様な出版物を紹介し、さらにそれらがどのように作られ、広まっていたのかを検討しながら、書物を史料として、江戸時代という時代の特色を読み解いていきます。		
教材（教科書）	使用しません。		
教材（参考資料）	その都度、指示します。		
教育方法	パワーポイントと毎回、配布するレジュメを使用する講義。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　30% レポート　70% ※受講生の数によって、試験になる場合があります。		
到達目標	・江戸時代の書物文化の特色を理解する ・歴史へのアプローチの方法がさまざまにあることを理解する ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を理解する		
授業時間外学習	・教科書は用いないので、予習を行う必要はない。 ・毎回のレジュメを熟読して復習をすること。 ・また講義を休んだ人も、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくこと。 ・15 回の講義のなかで、気になる回について、最低１冊は関連する本を読むこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。なお授業中もスマホをずっとやっていたい、スマホ中毒の人の受講は認めません。当方がそのように判断した場合、単位はだしません。

授業スケジュール

第１回　ガイダンス
第２回　江戸時代の地震となまず絵
第３回　江戸時代の『源氏物語』
第４回　錦絵の生産と流通
第５回　江戸時代前期の出版関係法令
第６回　歌麿と幕府の出版統制
第７回　奇想の画家国芳と風刺浮世絵
第８回　判じ絵を読み解く
第９回　出版文化と日用教養書
第 10 回　京都の通り名歌の歴史
第 11 回　江戸時代教養文化のなかの天皇・公家像
第 12 回　江戸時代の七夕文化
第 13 回　江戸時代、書物文化の広がりと常識の形成
第 14 回　疱瘡神の詫び証文と小浜の豪商組屋六郎左衛門
第 15 回　おまじないの歴史

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	T50505B01
科目名	歴史学特殊講義（日本近世史）II 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (History at the early modern age of Japan) II		
担当者名	鍛治　宏介	旧科目名称	
授業概要	近世史研究、すなわち、江戸時代を対象とした歴史研究について、さまざまな分野の研究をとりあげて、古典的論文から最新研究成果まで紹介する講義である。秀吉、休日、法律からおっぱいまでさまざまなものが歴史の対象となる。この講義を通して江戸時代の豊かな世界に触れることとなる。また歴史学の対象としての江戸時代の特色は、それまでの時代と比べて、格段に大量の、またバラエティに富んだ史料が残されていることにある。そのような史料を読み解く眼も養う。		
教材（教科書）	使用しません。		
教材（参考資料）	その都度、指示します。		
教育方法	パワーポイントと毎回、配布するレジュメを使用する講義。		
評価方法	毎回の質問ペーパー　30% レポート　70% ※受講生の数によって、試験になる場合があります。		
到達目標	・江戸時代の社会の仕組みを理解する ・歴史へのアプローチの方法がさまざまにあることを理解する ・史料から歴史を読み解く歴史学の方法を理解する		
授業時間外学習	・教科書は用いないので、予習を行う必要はない。 ・毎回のレジュメを熟読して復習をすること。 ・また講義を休んだ人も、その回のレジュメを入手して、次回の講義までに必ず読んでおくこと。 ・15 回の講義のなかで、気になる回について、最低 1 冊は関連する本を読むこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回の講義に、疑問・感想の提出を求めます。次回の講義の冒頭で、それらの疑問への回答を行います。講義はばくぜんと受け身で聴くのではなく、能動的な姿勢で挑んで下さい。なお授業中もスマホをずっとやっていたい、スマホ中毒の人の受講は認めません。当方がそのように判断した場合、単位はだしません。			
授業スケジュール			
第 1 回　ガイダンス 第 2 回　政治史：秀吉の平和 第 3 回　政治史：「惣無事令」はなかった！？ 第 4 回　政治史：江戸時代のお殿様の役割 第 5 回　文化史：江戸時代における文字の役割 第 6 回　文化史：音読と黙読 第 7 回　文化史：江戸時代の識字率は世界一！？ 第 8 回　女性史：遊女へのまなざし 第 9 回　女性史：おっぱいの歴史 第 10 回　社会史：休日の歴史 第 11 回　地域史：保津川の歴史 第 12 回　地域史：隠岐と京都 第 13 回　史料論：一次史料と二次史料 第 14 回　史料論：史料批判について考える 第 15 回　卒業論文の書き方			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	T50510C01
科目名	日本文学特殊講義Ｃ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature C		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	文学と歴史の宝庫、京都から学ぶ。授業を受け、その後自由な時間を使って各自フィールドワークし、その成果をレポートとする。授業では古典作品を扱うが、すべて現代語訳付なので恐れるには足りない。講義と体験で、古典も京都も自分のものにしよう。 ただし、費用と時間と労力がかかる授業であることを承知の上、受講してほしい。		
教材（教科書）	プリントを配布する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	毎回の授業における発言、朗読、提出物による平常点（40%）　課題（30%×２）		
到達目標	古典文学と資料を読み解きながら、京都に実感的に親しむ。作品や史料を知識として知るだけでなく、自分の心でそれを鑑賞・考察する。京都についても、自分で調べ自分で歩き、京都の史跡を体感する。		
授業時間外学習	授業外の任意の時間を使って、課題であるフィールドワークを行うこと。 卒業研究に平安時代の文学・歴史・文化を予定している場合は、授業時に紹介される参考文献を読んでおくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

しばしば意見や感想を求めるので、積極的に答えてほしい。

授業スケジュール

1　単位取得方法の説明等
2　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生１
3　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生２
4　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生３
5　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生４
6　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生５
7　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生６
8　源氏物語　光源氏栄光と苦悩の人生７
9　安倍晴明　平安京ミステリー１
10　安倍晴明　平安京ミステリー２
11　安倍晴明　平安京ミステリー３
12　安倍晴明　平安京ミステリー４
13　安倍晴明　平安京ミステリー５
14　安倍晴明　平安京ミステリー　６
15　安倍晴明　平安京ミステリー　７（レポート外授業）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	T50510D01
科目名	日本文学特殊講義Ｄ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Literature D		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	日本の江戸時代の文化を中心に扱う。江戸時代、三都と言われたのは江戸・京・大坂であった。江戸前期に京・大坂を中心とする上方文化が栄え、後期は文化が東漸し江戸文化が栄える。この講義では、東西の文化を比較しつつ、江戸文化を紹介することによって、上方、特に京都文化を逆照射することを試みたい。 武士・町人の人口割合も影響したといわれる当時の東西文化の特徴が、現代の当地気質にも及んでいることを考察したいと考える。 具体的には、浮世絵を文学の立場から読み解いてみることを試みたい。 北斎の『北斎漫画』や国芳の絵本を題材に、北斎に取りあげられユーモラスに描かれた 江戸時代の町の人々のくらしの様子を読み解き、 時には歴史上の英雄や妖怪などの 絵にまつわる日本と中国の多彩な物語を紹介していく。 フィールドワークとして、江戸時代の遊里の代表的な建築物である島原の「角屋」の見学を行う。		
教材（教科書）	『北斎漫画』『国芳の絵本』（岩崎美術社）の必要部分をプリントして配布する		
教材（参考資料）	『北斎漫画』１～５編、『国芳の絵本』一二、（岩崎美術社）		
教育方法	初めから数回は北斎や江戸時代絵画史について講義。 中盤以降は各学生が担当部分について調べてきて発表する。		
評価方法	授業中の発言や作業の提出２０％、発表５０％、およびフィールドワークのレポート３０％。		
到達目標	絵の出典はさまざまなので、 多様な資料に接することになる。		
授業時間外学習	葛飾北斎について、展覧会などがあったら見に行ってほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
毎回出席すること。 意見や感想を遠慮なく発言すること			
授業スケジュール			
１　江戸時代の絵画 ２　浮世絵師の勢力分布と画風 ３　葛飾北斎の画風の変遷 ４　『北斎漫画』の紹介 ５　『国芳の絵本』の紹介 ６～１１　各図の出典を考える １２　フィールドワーク　島原の「角屋」見学 １３　同じ画題がどのように絵師によって違ってえがかれているかを比較する １４　清水勲著『北斎漫画～日本マンガの原点～』について考察する（１） １５　清水勲著『北斎漫画～日本マンガの原点～』について考察する（２）			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	T50513A01
科目名	歴史学特殊講義（日本古代史）Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese Ancient History) I		
担当者名	西山　良平	旧科目名称	
授業概要	古代都市（首都）は日本の歴史の総体を直接に反映する。日本の古代都市の成立から、摂関・院政期の平安京の変貌までを理解する。日本の古代都市の成立は、７世紀末の都城・藤原京とされることが多い。古代都城・藤原京の意義と限界、平城京の特質と実態を修得し、さらに長岡京遷都の背景を理解する。ついで平安京遷都の経過を検証し、初期平安京の構造を理念と実際の両面から学習する。つぎに、西暦 1000 年前後の平安京の変貌を多面的に考察し、院政期の開発・再開発を権門と都市住人の両面から修得する。平城京・平安京の都市社会や住人に焦点をあて、西暦 1000 年前後の画期を強調する。文献史料のほか、近年は発掘調査の成果が顕著であるので、発掘調査のデータや絵画史料を活用する。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	木下正史・佐藤信編『飛鳥から藤原京へ』（古代の都１）吉川弘文館、２０１０年 田辺征夫・佐藤信編『平城京の時代』（古代の都２）吉川弘文館、２０１０年 西山良平・鈴木久男編『恒久の都 平安京』（古代の都３）吉川弘文館、２０１０年		
教育方法	プリントを画面に映写し、板書しつつ講義する。発掘調査や絵画資料のスライドを使用する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０％）。定期テスト（５０％）。		
到達目標	１ 日本の７世紀末から１２世紀までの正確で幅広い知識を獲得する。 ２ 発掘調査の成果や文献史料の原典から新しい情報を発見して歴史像を組み立てる。 ３ 歴史情報を外部に発信するための技術を身につける。		
授業時間外学習	授業のテキスト（プリント）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、資料や図面の内容を理解しておくこと。また、参考文献の該当箇所を読んでおくこと。授業終了時に復習課題を指示する。授業の区切りごとに復習課題から小テストを出題する。小テストの範囲は事前に知らせるので、学習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件：日本史概説Ａ・日本史概説Ｂを履修していることが望ましい。
受講のルール：能動的な姿勢で講義に出席すること。遅刻や私語は禁止。遅刻は理由を申告すること。私語は退出を求める。
学習上の助言：教材（参考資料）を読むことを推奨する。

授業スケジュール

1　「古代」都市の変遷と日本都市史
2　藤原京の成立過程
3　藤原京の意義と限界
4　平城京遷都
5　平城宮・京の特質
6　平城京の社会構造
7　長岡京遷都
8　平安京遷都
9　初期平安京の特質
10　初期平安京の社会構造
11　平安京の変貌と町屋の成立
12　摂関期の「随近の人」「近辺の人々」
13　摂関・院政期の町小路
14　院政期の開発と再開発
15　西暦 1000 年前後の画期と院政期以降の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	T50513B01
科目名	歴史学特殊講義（日本古代史）II 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese Ancient History) II		
担当者名	西山　良平	旧科目名称	
授業概要	八世紀・九世紀を中心に、日本の歴史を学習する。八世紀・九世紀には様々な政変・謀反が生起する。政変・謀反を素材に王権や政治のあり方を理解する。岸俊男氏は天皇・太上天皇の「崩御」に注目し、「皇権」の所在や強度を測定する。皇太子は自分を任命した天皇が存命するかぎり地位は安泰であるが、その天皇が死亡した場合、先帝の決定は不安定となる。ここに天皇の実権の限界があり、そのため天皇の死後にしばしば王位継承の紛争（政変）が勃発するとする。早川庄八氏は宣命を素材に、八世紀の天皇は「率直であり、人間的」であるが、桓武天皇を起源に定型化し、「人間性を喪失」するとする。岸氏や早川氏の見解を手がかりに、紛争・政変の目的と顛末を追跡し、八世紀・九世紀の王権や政治のあり方を修得する。		
教材（教科書）	なし、各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	岸　俊男『日本古代政治史研究』塙書房、１９６６年 早川庄八『天皇と古代国家』講談社学術文庫、２０００年 河内祥輔『古代政治史における天皇制の論理［増訂版］』吉川弘文館、２０１４年		
教育方法	プリントを画面に映写し、板書しつつ講義する。平城宮・京や平安宮・京の発掘調査のスラ		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（５０％）。定期テスト（５０％）。		
到達目標	１　８世紀から９世紀の歴史とその背景を具体的な素材を通して理解し、歴史的に思考する。 ２　歴史的な思考の根拠となる歴史史料・情報（文字資料、発掘調査など）を読み解く。 ３　外部に意見や情報を発信できる知識を身につける。		
授業時間外学習	授業のテキスト（プリント）を、京学なびの「授業資料」に、授業１週間前までにアップロードするので、プリントアウトして、資料や図面の内容を理解しておくこと。また、１週間前に参考文献の該当箇所を指示するので、読んでおくこと。授業終了時に復習課題を指示する。授業の区切りごとに復習課題から小テストを出題する。小テストの範囲は事前に知らせるので、学習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件：日本史概説Ａ・日本史概説Ｂを履修していることが望ましい。
受講のルール：能動的な姿勢で講義に出席すること。遅刻や私語は禁止。遅刻は理由を申告すること。私語は退出を求める。
学習上の助言：教材（参考資料）を読むことを推奨する。

授業スケジュール

1　八世紀の政変と八世紀政治史の方法
2　橘奈良麿の変の計画
3　橘奈良麻呂の変の前史
4　橘奈良麻呂の変の結末
5　藤原仲麻呂の乱の経過
6　藤原仲麻呂の乱の戦闘
7　藤原仲麻呂の乱の結末
8　廃太子の実態
9　廃皇后の特色
10　廃帝の実例
11　謀反人の幽閉
12　九世紀の謀反人の行方
13　八世紀前半の謀反の結末
14　八世紀中期の変化
15　九世紀以降の展望

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	T50529C01
科目名	日本語学特殊講義Ｃ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Japanese Language Study C		
担当者名	丸田　博之	旧科目名称	
授業概要	「京ことば」を多角的に探究する講義である。 京都が舞台となるテレビや映画、アニメは多いが、それらで使われている京都の言葉に問題はないかを検証することから始める。 また、京都の言葉は長く日本の中央語であった。つまり、京都語の歴史はそのまま日本語の歴史と言ってよい。本講義では、その京都語の中央語性に鑑み、その音韻的・文法的・語彙的な変遷を詳しく見ていきたい。		
教材（教科書）	こちらで用意する。		
教材（参考資料）	授業内で適宜紹介する。		
教育方法	講義形式。		
評価方法	期末試験 or レポート（100％）による評価。		
到達目標	京都語学（日本語学）の基礎知識が身につく。 京都の大学に通っていたことを将来示せるような京ことばについての知識が身につく。		
授業時間外学習	京都が舞台の番組、映画、小説などに触れておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件　なし
受講ルール　授業中の私語は厳禁。
学習上の助言　常に京ことばと自分の出身地のことばを比較すること。

授業スケジュール

1　ドラマ・映画・アニメの京ことば
2　京ことばリテラシー
3　京ことばの位置
4　中央語としての京都語の変遷
5　京都語の文法１
6　京都語の文法２
7　京都語の音韻
8　唇音退化
9　ハ行転呼音現象
10　仮名遣
11　アクセント１
12　アクセント２
13　現代の京ことば研究
14　標準語は存在するか
15　将来の京ことば像

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	T50539101
科目名	日本史研究入門　Ⅰ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Study of Japanese Histor y Ⅰ		
担当者名	中町　美香子	旧科目名称	
授業概要	日本史を研究していく上で、史料を読み、内容を正確に理解することは最も基本であり、また、不可欠なことである。この講義では、そのためにまず知っておくべき基礎知識を学び、また、史料解釈や研究に必要なさまざまな事柄を調べる方法を学ぶ。そして、実際に調べたり史料の読解を行ったりしながら、それらを習得していく。春学期の「日本史研究入門Ⅰ」はその基礎編、秋学期の「日本史研究入門Ⅱ」はその応用編という位置づけである。「日本史研究入門Ⅰ」では、とくに基礎的な知識を身につけ、調べる力を養うことに重点をおく予定である。		
教材（教科書）	プリントを配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて指示する。		
教育方法	基本は講義形式で行うが、実習や演習の形式も取り入れる。		
評価方法	講義への参加態度や講義内での課題等による平常点（60%）と期末課題（40%）で評価する。		
到達目標	日本史の史料を読む上での基本的な事項を理解する。日本史の研究に必要なさまざまな事柄を自力で調べられるようになる。		
授業時間外学習	学んだことを復習し、それを利用して出された課題を仕上げる。あらかじめプリントを配布した場合は指示した作業を行っておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義ではあるが、各自に作業してもらうことも多いので、積極的に取り組んでもらいたい。 指示した時以外の携帯・スマホの使用は禁止する。一時退室する場合は理由を述べる。			
授業スケジュール			
１．　ガイダンス ２．　日本史の基礎知識① ３．　日本史の基礎知識② ４．　日本史関係の辞書・文献① ５．　日本史関係の辞書・文献② ６．　日本史関係のデータベース等 ７．　図書館・博物館等 ８．　日本史の史料① ９．　日本史の史料② １０．日本史の史料③ １１．日本史の史料④ １２．日本史の史料⑤ １３．日本史の研究分野① １４．日本史の研究分野② １５．日本史の論文の作法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	T50539201
科目名	日本史研究入門　II　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Study of Japanese Histor y II		
担当者名	中町　美香子	旧科目名称	
授業概要	日本史を研究していく上で、史料を読み、内容を正確に理解することは最も基本であり、また、不可欠なことである。この講義では、そのためにまず知っておくべき基礎知識を学び、また、史料解釈や研究に必要なさまざまな事柄を調べる方法を学ぶ。そして、実際に調べたり史料の読解を行ったりしながら、それらを習得していく。春学期の「日本史研究入門Ⅰ」はその基礎編、秋学期の「日本史研究入門Ⅱ」はその応用編という位置づけである。「日本史研究入門Ⅱ」では、「日本史研究入門Ⅰ」で学んだ知識を活かしながら、史料を読み、関連事項を調べて、史料解釈の能力を養うことに重点をおく予定である。なお、史料は古代・中世史料が中心となる。		
教材（教科書）	プリントを配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて指示する。		
教育方法	基本は講義形式で行うが、実習や演習の形式も取り入れる。		
評価方法	講義への参加態度や講義内での課題等による平常点（60%）と期末課題（40%）で評価する。		
到達目標	日本史の史料を読む上での基本的な事項を理解し、日本史の研究に必要なさまざまな事柄を自力で調べられるようになる。史料読解の基礎力を身につける。		
授業時間外学習	学んだことを復習し、それを利用して出された課題を仕上げる。あらかじめプリントを配布した場合は指示した作業を行っておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
講義ではあるが、各自に作業してもらうことも多いので、積極的に取り組んでもらいたい。 指示した時以外の携帯・スマホの使用は禁止する。一時退室する場合は理由を述べる。			
授業スケジュール			
１．　ガイダンス ２．　史料読解の基礎① ３．　史料読解の基礎② ４．　史料読解の基礎③ ５．　古代史の研究と史料 ６．　中世史の研究と史料 ７．　近世史の研究と史料 ８．　近代史の研究と史料 ９．　史料の読解① １０．史料の読解② １１．史料の読解③ １２．史料の読解④ １３．史料の読解⑤ １４．総合的な課題にとりくむ １５．日本史の論文の作法			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	T50544A01
科目名	歴史学特殊講義（日本中世史）Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese History in the Middle Ages) I		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	中世の歴史文化に関して、２つのテーマをとりあげる。第１は、中世の人々はなぜ宗教を信じていたのかという問題を、技術史的背景から考える、第２は外来文化である仏教がなぜナショナリズムと結びついたのかという問題を、神仏関係を素材に考察する。 ①中世は技術が進歩したという側面と、技術がまだまだ未熟であるという二つの側面をもつ。宗教は合理性を超越したものだが、しかし技術や知識が進歩してくると、宗教の内部に合理性を取り入れなければ社会の信頼を維持することができなくなる。他方、技術の未熟さ、人間の力の限界は、呪術や宗教への依存を不可避とする。これらを通して、中世仏教における合理と非合理との関係について考えたい。 ②仏教はもともと外来文化であるが、それが日本社会に定着するようになると、仏教が日本的なものとみなされ、仏教の繁栄が日本の卓越性を示すものとされた。そしてそれがモンゴル襲来を機に独善的な神国思想へと変容してゆく。外来文化がナショナルな感情と結びついていった原因について考えたい。		
教材（教科書）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	－		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期テスト（70%）		
到達目標	・日本中世の歴史文化について、最新の研究動向を理解する。 ・柔軟で批判的な思考を涵養する。		
授業時間外学習	・高校の日本史教科書の古代・中世の文化の項を復習しておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。

授業スケジュール

1.中世は呪術からの解放の時代か？
2.肖像画と呪詛
3.護持僧
4.顕密仏教の合理性
5.治病と祈祷
6.万能でない神仏
7.古代・中世における神と仏
8.神仏同体論
9.賀茂社と神仏習合
10.伊勢神宮と仏教
11.神々と三国世界
12.辺土小国観の克服
13.中世神道と顕密仏教
14.神国思想と仏国思想
15.仏教の時代の終焉と世界地図

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	T50544B01
科目名	歴史学特殊講義（日本中世史）II 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized Historical Science (Japanese History in the Middle Ages) II		
担当者名	平　雅行	旧科目名称	
授業概要	近年の高校日本史の教科書では、中世を鎌倉幕府ではなく、院政時代から始めるものが増えている。学界の定説を反映させたものであるが、これは中世の始まりが 150 年早くなったというだけの話ではない。鎌倉幕府の成立よりも、院政時代の方が重要な歴史的画期であるということだ。それはまた、中世を武士・幕府・鎌倉新仏教で捉えてきた歴史像への批判であるし、鎌倉新仏教という概念の有効性すら否定されようとしている。日本中世は本当に武士の時代なのだろうか。鎌倉新仏教の時代なのか。 本講では、仏教・寺院を中心的素材としながら、日本の古代社会から中世社会への転換過程を検討する。		
教材（教科書）	プリントを適宜配付する。		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	プリントを適宜配付する。		
評価方法	授業内小テスト等による平常点（30%）、定期テスト（70%）		
到達目標	・日本の古代中世史についての最新の学説を理解する。 ・柔軟で批判的な思考様式を体得する。		
授業時間外学習	・高校日本史の教科書の古代・中世の項を復習しておく。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・講義は理解することが大切だが、たやすく納得してはならない。疑問点や不明点を積極的に指摘してほしい。小テストや定期試験では、これらを問う出題が必ず出される。			
授業スケジュール			
1.「鎌倉新仏教」概念の破綻 2.呪詛と祈祷 3.律令体制から王朝国家体制へ 4.宗教政策の転換 5.中世寺院への転換 6.寺院による文書偽造 7.末法思想の流布 8.民衆にとっての強訴とは？ 9.　顕密仏教の民衆的基盤 10.鎌倉初期の仏教改革 11.異端とその弾圧 12.禅律僧の時代 13.非人救済活動の二面性 14. 禅宗と朝廷・幕府 15.法然・親鸞の登場			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	T50551A01
科目名	日本美術史Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Arts A		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
授業概要	日本の絵画史の概説を行う。日本の絵画の歴史は、大陸からもたらされる外来美術の摂取と、それを吸収したうえでの独自の様式の確立を繰り返すという著しい特色がある。その具体的内容は、時代によってさまざまながら、技法や様式を摂取しつつ日本独自の繊細な感性的世界の表出に用いるありさまには、共通点が認められる。 その特色を、各時代の絵画作品の具体例を紹介しつつ解説する。		
教材（教科書）	特に用いない。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	守屋正彦「すぐわかる日本の絵画」（東京美術、２００２年）		
教育方法	講義の性格上、毎回、図版プリントを配布し、OHC・動画を併用してカラー画像を数多く見てもらいながら説明を加えてゆく講義方法をとる。		
評価方法	期末のレポート(７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了後に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。出席回数が極端に少ない場合は、評価の対象としないので、注意すること。		
到達目標	・各時代において絵画の果たした役割について、正しく説明できる。 ・絵画の主題として描かれるものに見える時代の美意識について、正しく説明できる。 ・中国・ヨーロッパとの貿易を通じて、日本の絵画が受けた影響について、正しく説明できる。		
授業時間外学習	毎回。授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、 当日の復習と併せて参考文献などを用いてその具体的な意味内容を調べて、次回の授業のノートを取る部分の最初に記入しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール

授業中の私語を慎むこと。繰り返して注意しても従わないものには、退席を求めることがある。

学習上の助言

各地の美術館における日本絵画関連の展示の参観を推奨する。

授業スケジュール

１．　奈良時代以前の絵画
２．　平安時代の絵画１（仏画）
３．　平安時代の絵画２（絵巻物）
４．　鎌倉時代の絵画（肖像画と縁起絵巻）
５．　室町時代の絵画(水墨画)
６．　安土桃山時代の絵画１（狩野派ほか）
７．　安土桃山時代の絵画２（風俗画・長谷川派）
８．　江戸時代の狩野派・土佐派
９．　琳派
１０．浮世絵
１１．文人画
１２．円山・四条派
１３．洋風画
１４．奇想の画家たち(曽我蕭白・伊藤若冲)
１５．絵画の材料と絵の具

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	T50551B01
科目名	日本美術史Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Japanese Arts B		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
授業概要	日本の陶磁史の概説を行う。日本は古くは中国文化圏の周辺に位置した島国であり、その陶磁発展の歴史的過程では、たびたび大陸の先進的な陶磁製作技術が導入されるとともに、それを意欲的かつ柔軟に吸収しながらも日本独自の感性に根ざした様式美を発展させてきた。また、日本には歴代にわたって大量の中国陶磁が輸入されており、その存在を抜きにしては日本における陶磁の使用状況を語ることができない。その特色を、各時代の陶磁の具体例を紹介しつつ解説する。		
教材（教科書）	特に用いない。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	矢部良明「日本やきもの史」（美術出版社、１９９８年）		
教育方法	講義の性格上、毎回図版プリントを配布し、OHC・動画を併用してカラー画像を数多く見てもらいながら説明を加えてゆく講義方法を取る。		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックして、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに認める。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	・各時代の陶磁が果たした役割につぃて、正しく説明することができる。 ・陶磁の文様に見える時代ごとの美意識について、正しく説明することができる。 ・中国と日本の貿易に占める陶磁の位置づけについて、正しく説明することができる。		
授業時間外学習	毎回、授業終了時に、次回の講義範囲のキーワードをいくつか提示するので、当日の復習と併せて参考文献などを用いてその具体的な意味内容を調べて、次回の授業のノートを取る部分の最初に記入しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール

私語を慎むこと。繰り返して注意しても従わないものには退席を求めることがある。

学習上の助言

各地の美術館における日本陶磁関連の展示の参観を推奨する

授業スケジュール

１．　縄文土器・弥生土器
２．　土師器・須恵器・奈良三彩
３．　初期貿易陶磁（三彩ほか）
４．　初期貿易陶磁（青磁・白磁）
５．　灰釉・緑釉
６．　荘園貿易の時代
７．　六古窯
８．　鎌倉・室町時代の輸入陶磁
９．　新安海底遺物
１０．安土桃山時代の茶陶
１１．伊万里焼
１２．後期伊万里・鍋島
１３．磁器、ヨーロッパへ
１４．京焼
１５．明治以降の陶磁

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	T50564A01
科目名	日本文化論Ⅰ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan I		
担当者名	山本　淳子	旧科目名称	
授業概要	一般に「国風文化」と呼ばれる平安中期に新しく起こった日本文化について、『源氏物語』の関係するエピソードを通じて理解する。		
教材（教科書）	プリントを用意する		
教材（参考資料）	授業時に適宜紹介する		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行う。 授業内容によっては、グループワークを行う回も予定している。		
評価方法	期末レポート点 50％と平常点 50％で評価する。 期末レポートは、次の内容とする。 ①授業内容のまとめ ②大覚寺文献調査 ③大覚寺フィールドワーク報告		
到達目標	『源氏物語』に描かれている平安期の貴族や庶民の生活文化を知り、その思想や美意識について考える。		
授業時間外学習	受講前に、高校で学習した古代（平安時代まで）の文学史または文化史について、復習しておくこと。 新単元開始の前の授業で次の単元のプリントを配布するので、あらかじめ内容を読んでおくこと。 毎時、または毎単元の終了時にレポートの「授業内容のまとめ」部分を作成すること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

本時のレポートは大覚寺のフィールドワークを伴うため、作成に時間と手間と経費が掛かる。
それを了承の上で積極的に授業に参加し、意欲的なレポートを提出してほしい。

授業スケジュール

1　授業の進め方
2　「桐壷」巻――平安の都と政治１
3　「桐壷」巻――平安の都と政治２
4　「桐壷」巻――平安の都と政治３
5　「桐壷」巻――平安の都と政治４
6　番外編　陰陽師・僧・医師・武士
7　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異１
8　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異２
9　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異３
10　「夕顔」巻――人々の生活と恋と怪異４
11 番外編　平安京心霊スポット
12　「少女」巻――子供たちの成長１
13　「少女」巻――子供たちの成長２
14　「少女」巻――子供たちの成長３
15　番外編　初恋のかなえ方

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T50564B01
科目名	日本文化論Ⅱ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Theory about Japan Ⅱ		
担当者名	山崎　ふさ子	旧科目名称	
授業概要	日本文化論Ⅰで平安時代までの文化を扱うので、この授業では中世以降の日本の文化を取り上げたい。 今日の日本の文化は、中世にその源流があるものがたくさんある。茶道・華道・香道・能楽など多くの分野に関わる芸術が中世を源流としている。 この講義では、世界から見て大変魅力的な日本独自の文化を、いろいろな角度から眺めてみたい。各回に一つのテーマを設定し、取り上げていく。 この講義はそれぞれの分野の紹介であり、いわば入り口に過ぎないので、各自興味を持った分野の追及をしていってもらいたい。しかし、将来どんな分野に進む人も、日本の文化について最低限の知識が身に付くような講義を展開する予定である。		
教材（教科書）	プリントを配布する		
教材（参考資料）	特になし		
教育方法	分野ごとの２～３回の講義が終わるごとに、小テストをしていく。 最後に小テストの成績が良くない場合は追加の補習プリントを記入して提出してもらう。 比較的自由な課題レポートを途中で課す。 映像、実技の見学を組み込みつつ行う。		
評価方法	授業中の確認テストや課題レポートを総合する		
到達目標	日本の文化について総括的な知識の習得を目標とする。各種の文化的事象の理解は必要であるがそれぞれの事象を有機的に関連付けて理解できるようにするのこの授業の目標である。		
授業時間外学習	文化的な事象に触れる機会を増やすため積極的に京都やその他の観光地に出かけてほしい.。 シラバスにテーマが書いてあるので、関連の分野の事物に触れておいてほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
授業中の私語はほかの人の迷惑になるのでしないこと。 授業中のスマホ使用は、授業内容に関係のあるものを調べる場合に限定してください。			
授業スケジュール			
中世からの文化 １、茶道と文化 ２、茶道の歴史・小テスト ３、華道　外部講師による「生け花」実演と華道のお話 ４、香道 ５、まとめと小テスト ６、能・狂言の紹介 ７、能楽 ８、狂言 ９、まとめと小テスト １０、中世までの庭園 １１、大名庭園 １２、茶庭 １３、まとめと小テスト １４、尾形光琳 １５、尾形光琳			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★

年度	2018	授業コード	T50613A01
科目名	文化遺産論Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Heritage A		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
授業概要	考古学は我々の政治・経済・社会文化の基礎となるものが、どのようなものであったかを正しく認識するための大事な手助けとなることから、過去に日本のさまざまな分野に大きな影響を与えた中国のことを学んでゆきます。講義では中国の考古学的な通史に対する理解を身につけることで、その歴史的発展を多角的に理解することができます。		
教材（教科書）	特に用いない。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	西江清高ほか『中国の考古学』（世界の考古学７、１９９９年、同成社）		
教育方法	講義の性格上、毎回図版プリントを配布し、OHC・動画を併用してカラー画像を数多く見てもらいながら説明を加えてゆく講義方法を取る。		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックし、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに与える。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	・東アジア世界の歴史的様相について、考古学的に説明することができる。 ・日本の政治・経済・社会・文化の源流について、考古学的に説明することができる。 ・中華世界・ユーラシア世界と日本とのつながりについて、考古学的に説明することができる。		
授業時間外学習	授業終了時までに、次回の講義のキーワードをいくつか提示するので、当日の復習と併せて参考文献などを用いて、その具体的意味内容を調べて、次回の授業のノートを取る部分の最初に記入しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール

私語を慎んで、授業に集中すること。繰り返して注意しても従わないものには、他の学生の妨げとなるので退室を求めることがある。

学習上の助言

各地の博物館における中国関連の展示の参観を推奨する。

授業スケジュール

1. 中国の歴史の概説
2. 旧石器時代　北京原人と周口店遺跡
3. 新石器時代１　華北の彩陶文化の発達
4. 新石器時代２　華中の河姆渡遺跡と稲作文化
5. 殷周時代１　殷の城壁都市と王墓
6. 殷周時代２　西周の周原遺跡と青銅器
7. 春秋戦国時代　貨幣経済の発達
8. 秦漢時代１　秦の始皇帝
9. 秦漢時代２　前漢の都・長安と皇帝陵
10. 魏晉南北朝時代１　魏晉の都城と城坊制都市
11. 魏晉南北朝時代２　仏教の伝来と石窟寺院
12. 隋唐時代１　国際都市・長安と陵墓の構造
13. 隋唐時代２　唐三彩と大運河の物資輸送
14. シルクロードの考古学（中国の海外交流）
15. 日中の交易の歴史

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力

期　待	–	–	–	–	★★	★

年度	2018	授業コード	T50613B01
科目名	文化遺産論Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Cultural Heritage B		
担当者名	西村　俊範	旧科目名称	
授業概要	考古学は我々の政治・経済・社会文化の基礎となるものが、どのようなものであったかを正しく認識するための手助けとなることから、その特色を理解してゆきます。奈良時代以前の日本の政治・経済・文化の様相に対する理解を身につけることで、日本の歴史的発展を幅広く理解することができます。		
教材（教科書）	特に指定しない。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	「日本の古代遺跡」４（奈良飛鳥）、同７（奈良北部）（保育社刊、２００５年）		
教育方法	講義の性格上、毎回図版プリントを配布し、ＯＨＣ・動画を併用してカラー画像を数多く見てもらいながら説明を加えてゆく講義方法を取る。		
評価方法	期末のレポート（７５点）と平常点（２５点）の合計で評価する。平常点は、毎回授業終了時に各自のノートをチェックし、講義内容を怠らずに聴講して理解していたと認定したもののみに与える。出席が極端に少ない場合は、評価の対象としないので注意すること。		
到達目標	・大和地方の発展の具体的様相について、考古学的に説明することができる。 ・大陸からの先進文化の流入が日本に与えた影響について、考古学的に説明することができる。 ・広範なユーラシア大陸各地の文化と日本のつながりについて、考古学的に説明することができる。		
授業時間外学習	授業終了時までに、次回の講義のキーワードをいくつか提示するので、当日の復習と併せて参考文献などを用いて、その具体的意味内容を調べて、次回の授業のノートを取る部分の最初に記入しておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講のルール

私語を慎んで、授業に集中すること。繰り返して注意しても従わないものには、他の学生の妨げとなるので退室を　　求めることがある。

学習上の助言

各地の博物館の考古関連の展示の参観を推奨する。

授業スケジュール

1. 大和（奈良）の歴史概説並びに大和（奈良）の地理・交通路
2. 旧石器時代・縄文時代
3. 弥生時代
4. 古墳時代前期
5. 古墳時代中期・後期
6. 古墳時代特論（纏向遺跡）
7. 飛鳥時代１ー　宮殿・苑池遺跡
8. 飛鳥時代２－　飛鳥寺・水落遺跡
9. 飛鳥時代３－　高松塚古墳・キトラ古墳
10. 飛鳥時代４－　飛鳥の石造物
11. 藤原京の時代
12. 奈良時代１ー平城京
13. 奈良時代２ー東大寺大仏の建立
14. 奈良時代３－正倉院宝物
15. 奈良時代４－シルクロードと遣唐使

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	T50655A01
科目名	妖怪文化論Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture and Conceptions of the Strange A		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになっています。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、漫画、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。 妖怪文化論 A では、そのうち特に、語られた妖怪と、妖怪が出没する場所、風景について論じます。		
教材（教科書）	佐々木高弘著『怪異の風景学―妖怪文化の民俗地理』古今書院、2014 年		
教材（参考資料）	小松和彦著『妖怪文化入門』せりか書房、2006 年		
教育方法	ビデオやパワーポイントを活用する。		
評価方法	授業内レポート 20%、学期末レポート 80%		
到達目標	妖怪文化が様々な学問分野にまたがっている点、妖怪文化の多様な見方がある点を理解することを目標とする。		
授業時間外学習	講義ごとに提示する教科書の指定箇所を予習・復習した上で受講すること。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。			
授業スケジュール			
1　妖怪文化とは：語りから造形化へ（百鬼夜行絵巻、画図百鬼夜行、水木しげる） 2　妖怪文化研究の歴史：井上円了・柳田国男から小松和彦まで 3　妖怪の見える風景：『今昔物語集』『源氏物語』『宇治拾遺物語』 4　妖怪体験とことば：風景認識の三角形 5　妖怪の走る風景：柳田国男の『妖怪談義』、「クビナシウマ」と「首切れ馬」 6　集団の見た妖怪：妖怪の出没場所を選ぶ伝承集団 7　頭の中の妖怪地図：伝説の構造分析とメンタルマップ 8　妖怪の二つの場所：妖怪の聞き取り調査 9　『千と千尋の神隠し』に描かれた怪異世界の風景：少女の引っ越し 10　怪異世界と心のなかの景観：見えない風景の知覚 11　現代日本人の怪異世界イメージ：『リング』『ワンダフル・ライフ』『呪怨』 12　廃墟と幽霊・怪異世界：18 世紀後半の妖怪画革命とピクチャレスクの流行 13　現代の廃墟と近代化遺産：18 世紀後半と現代の比較 14　妖怪の出没する場所と時代：妖怪のメッセージ 15　世界に進出する妖怪文化：求められる日本人の世界観			

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	T50655B01
科目名	妖怪文化論Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Culture and Conceptions of the Strange B		
担当者名	堀田　穣	旧科目名称	
授業概要	古来、日本人は、身近に、妖怪なる存在を認識してきました。人が病気になったり、日照りが続いたり、洪水が起こったりした時、人々は、その原因を妖怪に求めてきたのです。その正体は、最初は誰も見たことのない、形のない、存在として、気配や音、あるいは匂いや肌で認識していました。つまりそれは、語りの世界でのみ存在していたわけです。後に、日本人はそれを図像化するようになります。それが妖怪画として知られるようになり、現代の私たちにとっては、妖怪を漫画や映画等によって、具体的な姿形と共に、想像するようになっています。このように、妖怪なる存在は、語り、文学、絵画、マンガ、映画等で描かれ続けてきた、一つの日本文化の姿なのです。 　妖怪文化論Ｂでは、そのうち特に、描かれた妖怪と、妖怪が跳梁するメディア、表現について論じます。		
教材（教科書）	小松和彦『妖怪文化論入門』角川ソフィア文庫		
教材（参考資料）	適宜紹介		
教育方法	板書とパワーポイントでの講義形式をとる。妖怪文化論Ｂは造形ー妖怪の段階を扱うので、映像を紹介したり分析したりすることが多い。これをただのテレビ番組のように見ておしまいとするのではなく、取り扱う手つきや、分析の方法として学ぶように工夫している。フィールドワークの成果も取り入れているので、「現場へ行って見る」ことも促している。		
評価方法	平常点（30%）レポート（70%）		
到達目標	妖怪文化論という視点、位置を理解する。		
授業時間外学習	テキストは事前に読んでおくこと。また各講義で参考文献を提示するので、読んで理解を深めるための学習に時間を割く必要がある。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
テクスト『妖怪文化論入門』は各自読んでおくこと。それを前提に講義をする。適宜紹介する文献についても、講義の展開について行きたいのなら、できるだけ読んでおくこと。前半にかなり詳細に方法論に触れるので、自らの卒業研究などに応用するつもりでいるとよいだろう。			
授業スケジュール			
（1）イントロダクション I.絵を解読する （2）絵を読む方法 （3）図像学 （4）絵引き （5）絵解き （6）アニメ『平成狸合戦ぽんぽこ』 （7）狸のイメージ II. 妖怪の造形 （8）狸という妖怪存在 （9）八百八狸 （10）八百八狸続 （11）絵巻物の表現 （12）絵巻物と芸能 （13）浮世絵の表現 （14）仏教美術の表現 （15）神経にもぐりこんだ妖怪			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	★	★★	★

年度	2018	授業コード	T50681B01
科目名	歴史地理学Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Historical Geography B		
担当者名	佐々木　高弘	旧科目名称	
授業概要	私たちの歴史時代の地理的行動と、その結果としての地理的空間を研究するのが、歴史地理学である。歴史地理学Ｂでは、心理学や文化人類学の研究成果を積極的に取り入れた、人文主義地理学の観点からの歴史地理学の研究史、方法論を紹介、検討する。また、この方法論にもとづく野外調査（特に聞き取り調査）の方法についても講義する。 特に歴史地理学Ｂでは、文化・民俗・環境に焦点を当てる。私たちの祖先の地理的行動は、彼らの時代の文化や民俗を知ることなしには説明できない。彼らがどのように環境を知覚し、行動を起こし、環境と共存してきたのかを知ることは、歴史時代の地理的行動の知識を得るだけでなく、これからの私たちの環境思想にとっても重要なことである。以上のような観点から、古代文化、異文化から現在に伝承される民俗までを見据え、過去の人間集団の環境への接し方から、これからの環境問題についても講義する。		
教材（教科書）	佐々木高弘『神話の風景』古今書院、2014。		
教材（参考資料）	菊池利夫『歴史地理学方法論』大明堂。佐々木高弘『民話の地理学』古今書院。		
教育方法	プリントの配布、パワーポイント、ビデオを使用		
評価方法	出席状況・受講態度などによる平常点（２０％）学期末レポート（８０％）		
到達目標	歴史地理学の方法論とフィールドワークの融合の重要性の理解を目標とする。		
授業時間外学習	受講生は講義中に紹介する論文や単行本を必ずいくつかは読み、配布されたプリントの予習と復習をしておくこと。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
現地調査や図書館での資料調査をした上でレポートを作成すること。			
授業スケジュール			
1　歴史地理学の三つの分野と領域、歴史地理学の時代区分 2　北欧神話の歴史地理－オーディンの供儀 3　象徴化される生き物－オシリスの冥界： 4　土蜘蛛と蛇－オホクニヌシの苦悩 5　星座の神話の風景―世界を守護する北極星 6　星座の伝承と古代都市－天と地を結ぶ物語 7　旧約聖書の原初的風景、世界軸、信濃の国造り神話―神話世界の風景① 8　上田市の口頭伝承群、開拓神話の原点―神話世界の風景② 9　北欧神話の風景－ウプサラの樹と排水 10　中つ国（中間世界）へ語りかける神々―深層心理学的解釈 11　洪水神話の環境知覚－災害知覚の歴史地理 12　洪水神話の構造と変容－伝承から神話へ 13　日本の洪水神話－失われた伝承 14　平安京の神話空間－疫病の神の登場 15　永遠回帰の神話風景－想像された欠損と充足			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	★	★	★★

年度	2018	授業コード	T50703A02
科目名	歴史民俗学特殊講義ＩＡ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Specialized History and Folklore IA		
担当者名	堤　邦彦	旧科目名称	
授業概要	ある特定の説話が時をこえて数世代にわたり語り伝えられることは、珍しくない。たとえば古代社会に発生した神話や伝説が今日の昔話、童話の世界に引き継がれているのはその一例といえるだろう。 ただし、だからといって、それらが時代の移り変わりとまったく無縁に存在していないことも事実である。古くから語り継がれた話は、つねに各時代のものの考え方や思想、価値観の影響を受け、さらには文芸の流行色などの大衆文化に左右されてきた。 以上の観点にもとづき、本年度は近世以降の怪異小説、芝居、絵画などに描かれた怪異談の流れをとりあげ、日本怪談が成立する文化基層となった仏教の役割について考えてみたい。日本人の霊魂観、冥府観や因果応報を怖れる観念は、いかにして生成したのか。これらの点を明らかにしながら、江戸から明治にかけて流行した怪談文芸の宗教・思想的な原風景を明らかにしていく。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	・堤邦彦『現代語で読む「江戸怪談」傑作選』（祥伝社、2008） ・高田衛『江戸の悪霊祓い師』（角川ソフィヤ文庫、2015）		
教育方法	特になし		
評価方法	小レポート３回：15%×３、最終レポート１回：40%、コミュニケーションペーパーなどの授業参加度：15%		
到達目標	（１）日本の怪異談を生み出す背景となった仏教思想や宗教民俗について理解を深める。 （２）現代の表現文化と古典の連続性を理解する。 （３）上記をことばで説明できる能力を身につける。		
授業時間外学習	小レポート（3 回分）の作成などに週 4 時間の学習時間を要する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

説話・伝承史が対象とする領域は、文芸を中心として民俗、宗教、芸能、メディアなどの多分野におよぶ。ひとつの作品をさまざまな角度から読み解くので、途中欠席すると全体像がつかみにくくなる。休まず遅刻せず授業に集中して欲しい。

　また、講義中に使う専門用語やキーワードを予習し、小レポートにまとめて提出してもらう（月１回）。こうした学習をふまえて授業にのぞむことにより、皆さんの理解度は倍増するはずである。したがって指定された小レポートの提出期限を厳守するようにしていただきたい。

授業スケジュール

１．説話・伝承史の視点とは何か。
２．寺と怪談
　・『墓場の鬼太郎』のルーツ
　・京都の幽霊飴伝説
　・寺と葬送民俗
３．幽婚説話の伝統と現代・その１
　・一休伝説
　・子を産む幽霊
４．幽婚説話の伝統と現代・その２
　・ムカサリ絵馬の習俗
　・TV ドラマ『幽婚』より
　※小レポート①の提出と評価
５．死霊結婚説話のアジア的ひろがり

・東アジアそして東南アジアへ
・タイ映画『ナン・ナーク』の場合
6．東南アジアの仏教儀礼と妖怪変化
・「ピイ（精霊）」のまつりと仏教
・山岳民族の霊魂観
7．仏教と江戸怪談
・因果、因縁を語るということ
・鈴木正三『因果物語』
・奥方の呪いと血筋の断絶
8．祟る女の系譜と女人蛇体
・道成寺の縁起とものがたり
・くちなわ道心の懺悔
※小レポート②の提出と評価
9．説教が怪談に変わるとき
・女と蛇と黒髪と
・鳥山石燕・妖怪絵本の世界
・杉浦日向子『百物語』の表現
10．幽霊画を供養するということ
・幽霊画は美術品か
・伝円山応挙の寺蔵幽霊画
・祭りと鎮魂の死者図像
11．累ヶ淵怪談の原風景
・浄土僧・祐天の法力と水辺の風土
・『死霊解脱物語聞書』の刊行
・累曼荼羅の絵解き
12．馬琴、京伝、南北から三遊亭円朝へ
・江戸小説、芝居の脚色
・人情咄の成立
※小レポート③の提出と評価
13．「累ヶ淵」の映像化
・昭和の怪談邦画
・歌舞伎の影響
14．中田秀夫『怪談』の映像表現・その 1
・リングホラーとの共通点
・雪の日の因縁
・因果応報の現代的アレンジ
15．中田秀夫『怪談』の映像表現・その 2
・逃げる男と祟る女の構図
・仏教説話から怪談へ

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	T50772001
科目名	サムライ文化論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	History of Samurai culture		
担当者名	中西 裕樹	旧科目名称	
授業概要	近年、映画やアニメ、スポーツなど、さまざまな場面で「サムライ」という言葉が使用され、その歴史・文化は海外からも注目されています。この「サムライ」と、歴史的存在である「侍」「士」には、共通する部分とそうではない部分があります。また、サムライは時代によって性格を変え、精神的活動を含む文化に自らを反映しました。 本講義では、サムライの歴史を確認しながら、その文化や考え方を学びます。また、各論として、民俗学・歴史地理学の視点からもサムライの存在を考えます。これらの作業を通じ、今の私たちが使うサムライという言葉の中身をとらえ、文化への視野を広げることを目的とします。		
教材（教科書）	特になし。		
教材（参考資料）	適宜紹介します。		
教育方法	パワーポイントや映像、プリントなどを使用。		
評価方法	平常点 20%(出席状況による)、学期末レポート 80%として評価します。		
到達目標	歴史学など様々な分野の研究成果をふまえ、現代をとらえる視点を養う。		
授業時間外学習	日本史の知識が必要になるので、不明な点は質問や自主学習で補ってほしい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
「サムライ」をキーワードとする文化や事象を自らで考え、講義との対比を行った上でレポート作成に臨むこと。			
授業スケジュール			
1 武士道とサムライ(中西裕樹) 2 現代のサムライ文化論(佐々木高弘) 3 民俗とサムライ文化論(堀田穣) 4 源氏と平氏(中西裕樹) 5 鎌倉と京都(中西裕樹) 6 刀と甲冑(中西裕樹) 7 戦国と下克上(中西裕樹) 8 城郭の歴史(中西裕樹) 9 信長と秀吉(中西裕樹) 10 江戸時代のサラリーマン(鍛治宏介) 11 武士と恋愛(鍛治宏介) 12 切腹(鍛治宏介) 13 敵討ちの歴史(鍛治宏介) 14 江戸時代の城(鍛治宏介) 15 忍者の歴史(鍛治宏介)			

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期 待	−	−	★	−	★	★★

年度	2018	授業コード	T60006001
科目名	環境教育・富良野自然塾 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Environmental Education/ Furano Field		
担当者名	鈴木　玲治	旧科目名称	
授業概要	大学コンソーシアム京都の単位互換科目として開講するもの。環境問題に対する特定の解決策を導き出すことを目的としているのではなく、自然体験活動と学生間の交流を通して、環境問題や自然環境に関する豊かな見かたや価値観が醸成されてくることをめざす。「北の国から」などで著名な脚本家の倉本聰氏が主宰する「富良野自然塾」（講座協賛 三井住友銀行）の全面的協力で、北海道での現地実習を行う。京都における事前学習および事後学習も実施する。		
教材（教科書）	特になし		
教材（参考資料）	・「愚者の質問」　倉本聰、林原博光 著　（日本経済新聞出版社　2010 年） ・「ヒトに問う」　倉本聰 著　（双葉社　2013 年）		
教育方法	・野外実習 ・農作業体験 ・コミュニケーション WS ・パワーポイントを用いた講義法		
評価方法	事前学習、現地実習、事後学習の出席状況や実習への取り組み状況等による（７０％） レポート（３０％）		
到達目標	・フィールドでの体験を通じ、環境問題を主体的に考える力を身につける。 ・森林フィールドでの環境教育について深く理解する。		
授業時間外学習	参考文献欄に挙げた文献を読んでおいてください。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

自然のなかで無心に遊んでみてください。鈍感になった感性が生き返ってきます。楽しい協力的な集いになるように、各人それぞれが心がけてください。
「富良野自然塾・倉本聰対談集　愚者の質問」日本経済新聞出版社を読んでおくと参考になります。

授業スケジュール

富良野自然塾は、人間が自らの五感を使って自然から学ぶことをデザインした環境教育・五感プログラムを、そしてそれらのすぐれたインストラクターを用意している。

富良野自然塾からのメッセージ（エクアドルの民話「ハチドリの一滴」）：　山火事のおこった森林で、/小さなハチドリが一滴ずつ/水を運んで火を消そうとします。/ そんなことして山火事が消せるかと、/ 動物たちが笑います。/でもハチドリは真剣に云います。/ 「ジブンニデキルコトハコレクライダカラ」と。/ 我々の仕事はハチドリの一滴に過ぎません。/ でも、全ては一滴からしか始まりません。

事前学習（キャンパスプラザ京都）：７月２７日（金）　１８：１０～（３時間）

現地実習（北海道・富良野自然塾）：８月３１日（金）～９月２日（日）

事後学習（キャンパスプラザ京都）：９月７日（金）　１６：２０～（３時間）

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	★	－	－	★★	－

年度	2018	授業コード	T80000101
科目名	日本経済入門 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to the Japanese Economy		
担当者名	内山　隆夫	旧科目名称	
授業概要	2012 年 12 月に発足した第 2 次安倍内閣は、デフレからの脱却を目指して「3 本の矢」を放ち、2015 年 10 月に発足した第 3 次安倍内閣は、一億総活躍社会を目指して「新 3 本の矢」を放った．そして昨年(2017 年)11 月に発足した第 4 次安倍内閣は、「人づくり革命」と「生産性革命」を車の両輪として、経済の好循環の実現に向けて取り組むことになった． この間、財政再建に向けて 2014 年 4 月に 17 年振りに引き上げられた消費税率は、2017 年 4 月に再度引き上げられる予定であったが、「世界経済のリスク」を考慮して見送られた．とはいえ、財政再建のめどが立っているわけでもないし、社会保障制度の見直しも必至である．そこには人口減少社会に入った我が国が解決しなければならない問題も潜んでいる．人口の減少は労働力人口の減少を意味し、産業のあり方も大きく変わらざるをえないだろう．このように我が国経済は、多くの相互に関連する諸問題に直面している． 講義ではその時々のトピックスを取り上げながら、日本経済再生に向けての課題を平易に解説していく．		
教材（教科書）	特に使用しない		
教材（参考資料）	塚崎公義(2013)『よくわかる日本経済入門』（朝日新書 396），朝日新聞出版 伊藤元重(2015)『日本経済を「見通す」力』（光文社新書 758），光文社 盛山和夫(2015)『社会保障が経済を強くする』（光文社新書 740），光文社		
教育方法	講義資料にもとづいて講義する		
評価方法	課題内レポート（30%）と学期末試験（70%）		
到達目標	世界の中の日本経済の現状と課題をデータに基づいて説明することができる		
授業時間外学習	講義資料に目を通し，関連するその時々の経済動向を確認する		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
「失われた 20 年」を取り戻すべく様々な政策が実施されている．新聞や雑誌の経済記事に目を向ける習慣を身につける．			
授業スケジュール			
1．序　章　日本経済の現況(1) 2．序　章　日本経済の現況(2) 2．第 1 章　ブレトン・ウッズ体制と高度経済成長 3．第 2 章　ブレトン・ウッズ体制の崩壊と高度経済成長の終焉 4．第 3 章　プラザ合意と円高不況 5．第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（1） 6．第 4 章　バブル景気と失われた 20 年（2） 7．第 5 章　金融システムの動揺（1） 8．第 5 章　金融システムの動揺（2） 9．第 6 章　財政赤字の急増（1） 10．第 6 章　財政赤字の急増（2） 11．第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（1） 12．第 7 章　産業構造の変化と労働市場の変容（2） 13．第 8 章　生活不安とセイフティネット（1）			

14. 第 8 章　生活不安とセイフティネット（2）
15. 終　章　日本経済の課題

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	−	−	−	★	★★	★

年度	2018	授業コード	T80000201
科目名	経営学総論 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Principles of Business Administration		
担当者名	宮田　将吾	旧科目名称	
授業概要	経営学は主として企業を対象とした社会科学であり、企業をマネジメントする上で生じるさまざまな課題を解決するのに必要とされる知識を修得する学問である。 本講義では、経営学を学ぶ上で不可欠な企業の基礎的な特徴や考え方を理解することによって、「経営学とはどのようなことを研究するのか」「どのように応用することができるのか」などの関心を喚起し、より深い学びへと誘うことを目的としている。		
教材（教科書）	基本的に教科書は使用しないが、必要に応じて指示する。 毎回、プリントやレジュメをを配布する。		
教材（参考資料）	必要に応じて指示する。		
教育方法	講義形式で授業を行う。		
評価方法	基本的には，平常点（理解度の確認のための感想文など）20%，小テスト（講義の切りの良いところで 1 度行う予定であるが、場合によっては小テストではなく、他の課題やレポートに変更する場合もあり得る。）30%，学期末に行う試験 50%の割合で評価する。 また，講義に関して積極的な発言あるいは意見を行う学生に対しては，評価の際に考慮に含める。		
到達目標	1. 経営学の主な対象である企業の特徴を理解し、説明することができる。 2. 経営学のとはどういう学問かを理解し、説明することができる。 3. 今後、経営学を深めていき、それを応用することができるようになるための基礎的な知識を修得する。		
授業時間外学習	1. 次の講義内容について図書館等で予め調べ、それに関する文献を探してその部分を熟読しておく。 2. 毎回、講義の内容を復習し、次の講義までに理解を深めておく。 3. 復習してわからない点をまとめ、次回の講義で担当教員に質問する。 4. 日常から経営学に関連する時事問題に注意を払い、講義で学んだ理論で説明できるかどうかを考える。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

１．経営学関係の科目を履修していることが望ましい。
２．講義への積極的な参加を望む。
３．板書が多いので、日ごろから文字を書く練習をしておくこと。

授業スケジュール

基本的には下記の項目に従って講義を進める予定であるが，学生の興味や理解度に応じて臨機応変に対応していく。
講義では板書を行うが、受講者は配布されレジュメの空白部分に板書を見ながら記入するという形式で進める。

第 1 回　オリエンテーション（講義の概要）
第 2 回　経営学で学ぶこと
第 3 回　経営学の生成と発展
第 4 回　企業の特徴
第 5 回　企業の分類
第 6 回　株式会社の特徴と仕組み①株式会社の仕組み
第 7 回　株式会社の特徴と仕組み②所有と経営の分離
第 8 回　前半のまとめと理解度の確認
第 9 回　企業の目標
第 10 回　コーポレートガバナンス①欧米企業におけるコーポレートガバナンス
第 11 回　コーポレートガバナンス②日本企業におけるコーポレートガバナンス
第 12 回　企業の社会的責任
第 13 回　日本的経営論
第 14 回　経営学における個人と組織の考え方
第 15 回　まとめと理解度の確認（期末試験を予定）

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	T85000104
科目名	チャレンジショップ入門Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルを習得する。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを習得する。 4　特色をお客様に説明できるようにするために、すべての商品について価格や原材料などを覚える。 5　仕入れ契約や条件を理解する。 6　発注の仕方を覚え、実行する。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を理解し、その方法を習得する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成を習得する。 10　在庫管理とその記録の仕方を理解し、記録する。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　 売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　 売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T85000105
科目名	チャレンジショップ入門Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	田中　宏明	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。		

授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルを習得する。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを習得する。 4　特色をお客様に説明できるようにするために、すべての商品について価格や原材料などを覚える。 5　仕入れ契約や条件を理解する。 6　発注の仕方を覚え、実行する。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を理解し、その方法を習得する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成を習得する。 10　在庫管理とその記録の仕方を理解し、記録する。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　 売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　 売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T85000106
科目名	チャレンジショップ入門Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。		

授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルを習得する。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを習得する。 4　特色をお客様に説明できるようにするために、すべての商品について価格や原材料などを覚える。 5　仕入れ契約や条件を理解する。 6　発注の仕方を覚え、実行する。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を理解し、その方法を習得する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成を習得する。 10　在庫管理とその記録の仕方を理解し、記録する。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　 売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　 売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　 今期の反省と来期の活動について

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T85000204
科目名	チャレンジショップ入門Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	大島　博行	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。		

授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルを習得する。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを習得する。 4　特色をお客様に説明できるようにするために、すべての商品について価格や原材料などを覚える。 5　仕入れ契約や条件を理解する。 6　発注の仕方を覚え、実行する。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を理解し、その方法を習得する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成を習得する。 10　在庫管理とその記録の仕方を理解し、記録する。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　今期の反省と来期の活動について。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T85000205
科目名	チャレンジショップ入門Ｂ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Retailing Management by University Students B		
担当者名	吉中　康子	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。
＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。
＊登録において選抜が行われることもある。
＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。
＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。
＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。

授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルを習得する。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを習得する。 4　特色をお客様に説明できるようにするために、すべての商品について価格や原材料などを覚える。 5　仕入れ契約や条件を理解する。 6　発注の仕方を覚え、実行する。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を理解し、その方法を習得する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成を習得する。 10　在庫管理とその記録の仕方を理解し、記録する。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　今期の反省と来期の活動について。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T85000601
科目名	女性企業家講座 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	安達　房子	旧科目名称	
授業概要	ビジネスの第一線で活躍する女性企業家を講師としてお迎えし、今の仕事につくまでの体験やキャリア形成等についての講義を行っていただく講座である。本講義では受講生が、どのようにして起業したのか、どのようにしてトップになったのか、管理職の仕事とは何か等を聞くこと通じて、自らのキャリアをデザインし、就職力を向上させることができるようになることを目的とする。 各講義では、質問時間を設けるので、多くの質問ができるようにすること。 ※女子学生だけでなく、男子学生も受講可能。		
教材（教科書）	なし。		
教材（参考資料）	授業中に適宜指示する。		
教育方法	講義法を中心として行う。		
評価方法	各回の講義内容についてのレポート（55%）、各回の受講態度および講師への質問（45%）。 レポートでは各講義内容の理解力を問う。		
到達目標	1. 経営の現場の知識を学び、新しいものの見方を身につけることができる。 2. 自分らしいキャリアをデザインするための知識を習得することができる。 3. 聞き取り力、質問力など、就職活動で役立つスキルを習得することができる。		
授業時間外学習	各回の学習推定時間は 60 分。 第 1 回　女性を取り巻く環境に関する配布レジュメを読み、要点をまとめる 第 2 回　第 3 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 3 回　第 4 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 4 回　第 5 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 5 回　第 3～第 5 回の講師が配布した資料を読み、要点をまとめる 第 6 回　第 7 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 7 回　第 8 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 8 回　第 7 回・第 8 回の講師が配布した資料を読み、要点をまとめる 第 9 回　第 10 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 10 回　第 11 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 11 回　第 10 回・第 11 回の講師が配布した資料を読み、要点をまとめる 第 12 回　第 13 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 13 回　第 14 回の講師の所属されている会社のホームページ等を読み、要点をまとめる 第 14 回　第 13 回・第 14 回の講師が配布した資料を読み、要点をまとめる 第 15 回　すべての講師の講演に対する要点と感想をまとめる		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1.外部から講師を迎えることもあり、受講態度については通常以上に十分気を遣うこと。講義中の私語、飲食および無用な出入り、スマートフォンの操作は厳禁。注意をしても改善しない者には単位を授与しないことがある。
ルールに納得できない者は履修しないこと。
2. メモ用紙を持参し、質問したいことなどをメモすること。

授業スケジュール

1. ガイダンス
2. 女性企業家を取り巻く環境①
3. 女性企業家を取り巻く環境②
4. (5/8)　望月　美佐緒 氏　「~動けば変わる　動けば分かる~　企業の中で新たな事業を生み出すために…」
（株式会社ルネサンス　常務執行役員、 ヘルスケア・新業態　新規事業担当補佐、新規事業推進部　部長）
5. (5/15)　未定

6.　要点整理と確認テスト
7.　（5 /29）　未定
8.　（6/5）　　未定
9.　要点整理と確認テスト
10.（6/19）　未定
11.（6/26）　　未定
12.　要点整理と確認テスト
13.（7/10）　未定
14.（7/17）　未定
15. 女性企業家講座を通して学んだことの展望

講師の都合などにより変更になる可能性がある。

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	★	－	★★	★

年度	2018	授業コード	T86013902
科目名	チャレンジショップA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。		

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T86013903
科目名	チャレンジショップA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。		

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T86013904
科目名	チャレンジショップA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	翁長　朝英	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。		

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T86013905
科目名	チャレンジショップA 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	新長　章典	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T86014003
科目名	チャレンジショップB 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	倉田　致知	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T86014004
科目名	チャレンジショップB 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　勤	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。		

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	T86014005
科目名	チャレンジショップB 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	山下　哲	旧科目名称	
授業概要	平成 21～23 年度大学教育・学生支援推進事業「学生支援プログラム」における取り組みである「経営知識の習得・実践を通じた就職力強化（平成 24 年度 S 評価)」を目的として開設された「学生の学生による学生のためのチャレンジショップ」の経営を通じて、受講者は、販売経営管理、店舗管理、ストアオペレーション、マーケティング、計数管理などの幅広い領域への学びへの意欲を高めることができ、学んだことを実際に活かしつつ経営・経営学を修得することができる。 　店舗経営は、多くの利害関係者【顧客（一般消費者を含む)、仕入先、学生、教職員、父母の会、同窓会、商工会議所、商工会、官公庁、他大学、公共団体など】の下において運営されるものであり、これら利害関係者とのコミュニケーションおよび連携を図り、チャレンジショップを通して、受講者は、地域における大学の果たす役割のあり方なども把握できるようになる。 　さらには日常実習を通じて生じるであろう課題や問題について適切に対応する問題発見力や解決力のみならず、受講者は、店舗経営における革新に向けて取り組むことにより、起業家精神を涵養することができる。		
教材（教科書）	必要に応じその都度紹介する。		
教材（参考資料）	必要に応じその都度紹介する。		
教育方法	本学太秦キャンパスのショップ（店名：京學堂）を主に用いて、2 限目または 3 限目（12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に授業は行われる。冒頭で教員と参加学生が相談しながら、その日または時間帯の売上高や販売個数などの目標が伝えられ、それに向けて実際に商品を販売するが、販売だけではなく、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、などにも取り組む。また、オープンキャンパスなどの土日や祝日あるいは開講期以外においてもこれらに従事する。 　尚、毎回の授業終了時には、日報や個人票などに毎週の活動内容や時間を記入する。第 15 回目には、第 1 回目の際に記入した遂行能力やスキルがどの程度向上したかを各自評価する。		
評価方法	販売・発表・企画・交渉,などにおける取組姿勢 70%、　レポート 30%。		
到達目標	・受講者は、チャレンジショップの経営を通じて、受講者は経営知識および実践力を修得し、構想力、革新力、判断力、リーダーシップ、コミュニケーション力などを就職活動や社会において活用できる。 ・受講者は、自身の暗黙知を形式知化できる。		
授業時間外学習	この科目は授業時間外学習がそもそも多く、学期を通して授業時間外において下記が求められる（推定授業時間外学習・活動は学期あたりで十時間以上に及ぶ)。 ＊オープンキャンパスや校外出店、等の授業時間外での活動計画・実行に参加し、事後にはその結果を分析・伝達する。 ＊過去の売上高・利益などのデータの見方を理解する。また、各種帳簿の作成の仕方を理解しておく。可能ならば、それらを活用して改善提案する。 ＊新商品・サービスや新イベントについて検討し、受講者全員にそれらについて提案を行なう。 ＊チャレンジショップに参加している学生や指導教員が召集する会議などに出席する。それら会議等において課される、仕入れ先あるいは地域との折衝、または販売促進などに関する課題の解決に着手する。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
＊受講希望者は、この科目の登録説明会に必ず参加すること。 ＊2 限目または 3 限目に販売(12：00～12：40 を含む)、ならびに 4 限目に締め作業、反省会、企画などが行われる。詳しくはこの科目の登録説明会で述べる。 ＊登録において選抜が行われることもある。 ＊チャレンジショップに興味を持ち、店舗経営に積極的に参加すること。 ＊参加者全員で連絡を取り合う“ショップメール”に自身のメールアドレスを登録していただく。 ＊学びの場所は本学だけとは限らない。また、土日や祝日あるいは開講期以外においても、販売、発注、在庫管理、記帳、広報、企画、市場調査、価格設定、新規開拓、折衝、　などが行なわれる。			

＊チャレンジショップを継続して受講している上回生には、ピアティーチング（peer-teaching)が求められる。
授業スケジュール
進行的に留意して記述されているが、店舗経営にあたっては下記が同時並行的に行われるのが普通である。 1　ショップでの実習における注意点。店舗運営に関する各種マニュアルの説明を新規登録者へ行う。 2　レジ打ちから商品渡しまでのマニュアルの説明を新規登録者へ行う。 3　入金・精算、チケット等の対応仕方、などを新規登録者に説明し、指導を行う。 4　すべての商品について価格や原材料などを覚え、メンバーの理解度の把握に努める。 5　仕入れ契約や条件を理解し、メンバーの理解度の把握に努める。 6　発注の仕方を新規登録者に対して説明し、発注を促す。 7　適切な日々の売上目標設定と達成できない場合の原因追究を行う。 8　 レイアウトやＰＯＰやＨＰなどの広告・広報の仕方を指導し、メンバーに指示する。 9　納品書、請求書、領収書、京學堂のチケットなどの作成の仕方を説明し、メンバーに作成を促す。 10　在庫管理とその記録の仕方を説明し、メンバーに記録を促す。 11　在庫が合わないときの原因追究を行う。 12　当日の売上高と精算レシートとをチェックし、金額の一致を確認する。 不一致の場合の原因追究を行う。 13　売上高・利益などのデータの見方を理解し、その元となる台帳に適切に記帳する。 14　売上高・利益などのデータの見方を理解し、それを使って改善案や提案を行う。 15　来期の活動方針を立て、活動計画を策定する。

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	★	－	★	★★	－

年度	2018	授業コード	TC1110401
科目名	東洋史 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	磯部　淳史	旧科目名称	
授業概要	「皇帝政治から見た東洋史」 本講義では「東洋史」を、中国を中心とする東アジア世界に展開した「皇帝政治」をキーワードに概観する。二千年の長きに渡って繰り広げられた皇帝政治は、前近代史のみならず、皇帝が消滅した後の近現代東アジアにも少なからぬ影響を与えている。本講義を受講することで、前近代中国史、および東洋史に対する理解を深めるとともに、現代中国・アジアを理解するために必要な知識を修得できる。		
教材（教科書）	基本的に使用しない。教員作成のレジュメを配布する。		
教材（参考資料）	全体に関わる参考文献：梅原郁『皇帝政治と中国』白帝社、1944 円 この他の参考文献は、レジュメに適宜掲載する。		
教育方法	レジュメ、画像などの視覚資料を用いながら、講義法で行う。		
評価方法	授業内に行う課題などの平常点（30%）　レポート（70%）		
到達目標	（1）前近代中国・アジアの政治史の流れを理解し、説明することができる。 （2）前近代中国・アジアにおける皇帝政治の特徴について理解し、説明することができる。 （3）皇帝政治が現代中国・アジアに与えた影響を理解し、説明することができる。		
授業時間外学習	（1）授業のレジュメを、京学なびの「授業資料」に、授業一週間前までにアップロードするので、プリントアウトして各自事前に目を通しておくこと。なお、第１回目のレジュメのみは授業の際に配布する。 （2）毎回のレジュメに参考文献を掲載するので、授業で疑問に思ったこと、関心を持ったことなどは各自で調べるようにすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件：特になし
受講のルール：私語など、授業の進行を妨げるような行為は厳禁とする。
学習上の助言：高校世界史て?学習する程度の中国史・アジア史に関する事柄を復習していることか?望ましい。

授業スケジュール

１．イントロダクション／授業の進め方、成績評価等の説明、参考文献の紹介

２．皇帝の誕生
３．皇帝政治の展開
４．皇帝と外戚
５．分裂の時代と皇帝
６．東アジアの中の皇帝
７．女帝の時代
８．独裁君主の登場
９．アジアの「征服王朝」
１０．世界帝国と皇帝
１１．君主独裁制の完成
１２．明から清へ
１３．最後の大帝国
１４．皇帝政治の舞台
１５．皇帝政治の終焉

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	TC1110402
科目名	東洋史 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	磯部　淳史	旧科目名称	
授業概要	「皇帝政治から見た東洋史」 本講義では「東洋史」を、中国を中心とする東アジア世界に展開した「皇帝政治」をキーワードに概観する。二千年の長きに渡って繰り広げられた皇帝政治は、前近代史のみならず、皇帝が消滅した後の近現代東アジアにも少なからぬ影響を与えている。本講義を受講することで、前近代中国史、および東洋史に対する理解を深めるとともに、現代中国・アジアを理解するために必要な知識を修得できる。		
教材（教科書）	基本的に使用しない。教員作成のレジュメを配布する。		
教材（参考資料）	全体に関わる参考文献：梅原郁『皇帝政治と中国』白帝社、1944 円 この他の参考文献は、レジュメに適宜掲載する。		
教育方法	レジュメ、画像などの視覚資料を用いながら、講義法で行う。		
評価方法	授業内に行う課題などの平常点（30%）　レポート（70%）		
到達目標	（1）前近代中国・アジアの政治史の流れを理解し、説明することができる。 （2）前近代中国・アジアにおける皇帝政治の特徴について理解し、説明することができる。 （3）皇帝政治が現代中国・アジアに与えた影響を理解し、説明することができる。		
授業時間外学習	（1）授業のレジュメを、京学なびの「授業資料」に、授業一週間前までにアップロードするので、プリントアウトして各自事前に目を通しておくこと。なお、第１回目のレジュメのみは授業の際に配布する。 （2）毎回のレジュメに参考文献を掲載するので、授業で疑問に思ったこと、関心を持ったことなどは各自で調べるようにすること。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件：特になし
受講のルール：私語など、授業の進行を妨げるような行為は厳禁とする。
学習上の助言：高校世界史て?学習する程度の中国史・アジア史に関する事柄を復習していることか?望ましい。

授業スケジュール

１．イントロダクション／授業の進め方、成績評価等の説明、参考文献の紹介

２．皇帝の誕生
３．皇帝政治の展開
４．皇帝と外戚
５．分裂の時代と皇帝
６．東アジアの中の皇帝
７．女帝の時代
８．独裁君主の登場
９．アジアの「征服王朝」
１０．世界帝国と皇帝
１１．君主独裁制の完成
１２．明から清へ
１３．最後の大帝国
１４．皇帝政治の舞台
１５．皇帝政治の終焉

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	TC1110501
科目名	西洋史 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
授業概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（教科書）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考資料）	授業中に指示します。		
教育方法	板書を中心にした講義法を行います。		
評価方法	中間レポート（２０%）、レポート試験（期末レポート）（４０%）、平常点（４０%）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
授業時間外学習	中間レポート課題と期末レポート課題以外の教科書の各章を学期中に読破する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件

　西洋史を学ぶ意欲を持っていること。

受講のルール

　授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を守らなかったり、受講態度が悪い場合は減点します。

学習上の助言

　過去と現在との違いを認識して、両者を理解するように努めて下さい。

授業スケジュール

１．西洋史の課題
２．ハーメルンの笛吹き男伝説（１）　―　伝説の概要
３．ハーメルンの笛吹き男伝説（２）　―　伝説をめぐる解釈
４．死生観の歴史（１）　―　西洋中世の死生観
５．死生観の歴史（２）　―　西洋近世・近代の死生観
６．魔女裁判（１）　―　魔女裁判の歴史
７．魔女裁判（２）　―　魔女裁判とは何か
８．犯罪と刑罰の歴史（１）　―　西洋中世の処刑
９．犯罪と刑罰の歴史（２）　―　西洋近世の刑罰
１０．疫病の歴史（１）　―　黒死病の歴史
１１．疫病の歴史（２）　―　黒死病と人々
１２．「流行」の歴史（１）　―　服飾の流行史
１３．「流行」の歴史（２）　―　産業革命と「流行」
１４．奴隷貿易の歴史（１）　―　奴隷貿易の起源
１５．奴隷貿易の歴史（２）　―　奴隷貿易の展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	TC1110502
科目名	西洋史 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
授業概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（教科書）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考資料）	授業中に指示します。		
教育方法	板書を中心にした講義法を行います。		
評価方法	中間レポート（２０%）、レポート試験（期末レポート）（４０%）、平常点（４０%）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
授業時間外学習	中間レポート課題と期末レポート課題以外の教科書の各章を学期中に読破する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件

　西洋史を学ぶ意欲を持っていること。

受講のルール

　授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を守らなかったり、受講態度が悪い場合は減点します。

学習上の助言

　過去と現在との違いを認識して、両者を理解するように努めて下さい。

授業スケジュール

１．西洋史の課題
２．ハーメルンの笛吹き男伝説（１）　―　伝説の概要
３．ハーメルンの笛吹き男伝説（２）　―　伝説をめぐる解釈
４．死生観の歴史（１）　―　西洋中世の死生観
５．死生観の歴史（２）　―　西洋近世・近代の死生観
６．魔女裁判（１）　―　魔女裁判の歴史
７．魔女裁判（２）　―　魔女裁判とは何か
８．犯罪と刑罰の歴史（１）　―　西洋中世の処刑
９．犯罪と刑罰の歴史（２）　―　西洋近世の刑罰
１０．疫病の歴史（１）　―　黒死病の歴史
１１．疫病の歴史（２）　―　黒死病と人々
１２．「流行」の歴史（１）　―　服飾の流行史
１３．「流行」の歴史（２）　―　産業革命と「流行」
１４．奴隷貿易の歴史（１）　―　奴隷貿易の起源
１５．奴隷貿易の歴史（２）　―　奴隷貿易の展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	TC1110503
科目名	西洋史 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	乳原　孝	旧科目名称	
授業概要	過去の歴史を知らなければ、現在のことも未来のことも語れないと言われます。確かにその通りです。また、歴史は過去の様々な社会や人間を捉えることによって、社会というものが色々な社会であり得ること、人間の生き方も色々であり得ることを教えてくれます。つまり、歴史を学ぶと、現在われわれが当たり前のことだと思っていることでも、実は当たり前のこととは限らないことが分かってきます。歴史は人間の考えを自由にしてくれるのです。この授業では、受講者に興味を持ってもらえそうな、西洋史におけるテーマをいくつか取り上げて、なるべく分かりやすく、歴史を旅したいと思います。		
教材（教科書）	乳原孝著　『エリザベス朝時代の犯罪者たち』　嵯峨野書院、を教科書にします。教科書は、中間レポートとレポート試験（期末レポート）用に用います。		
教材（参考資料）	授業中に指示します。		
教育方法	板書を中心にした講義法を行います。		
評価方法	中間レポート（２０%）、レポート試験（期末レポート）（４０%）、平常点（４０%）で評価します。平常点は、授業内レポート（複数回）で評価します。		
到達目標	西洋史の各テーマについての理解を深め、当時の社会や人間を異文化理解の視点から捉えられるようになることを目標にします。		
授業時間外学習	中間レポート課題と期末レポート課題以外の教科書の各章を学期中に読破する。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

受講条件

　西洋史を学ぶ意欲を持っていること。

受講のルール

　授業中の禁止事項については、授業で説明します。禁止事項を守らなかったり、受講態度が悪い場合は減点します。

学習上の助言

　過去と現在との違いを認識して、両者を理解するように努めて下さい。

授業スケジュール

１．西洋史の課題
２．ハーメルンの笛吹き男伝説（１）　―　伝説の概要
３．ハーメルンの笛吹き男伝説（２）　―　伝説をめぐる解釈
４．死生観の歴史（１）　―　西洋中世の死生観
５．死生観の歴史（２）　―　西洋近世・近代の死生観
６．魔女裁判（１）　―　魔女裁判の歴史
７．魔女裁判（２）　―　魔女裁判とは何か
８．犯罪と刑罰の歴史（１）　―　西洋中世の処刑
９．犯罪と刑罰の歴史（２）　―　西洋近世の刑罰
１０．疫病の歴史（１）　―　黒死病の歴史
１１．疫病の歴史（２）　―　黒死病と人々
１２．「流行」の歴史（１）　―　服飾の流行史
１３．「流行」の歴史（２）　―　産業革命と「流行」
１４．奴隷貿易の歴史（１）　―　奴隷貿易の起源
１５．奴隷貿易の歴史（２）　―　奴隷貿易の展開

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	★	★★

年度	2018	授業コード	TC1110601
科目名	哲学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
授業概要	「人間とは何か」とは、西洋哲学の最も根本的な問題である。講義の前半では、この問いに対する西洋の哲学や思想の代表的な解答を検討していく。後半では、別の角度からこの問題に迫る。人間はしばしば「社会的動物」と言われる。しかし、人間の中には、他者を憎んだり他者と争ったりするという反社会的な側面もある。それ故、「社会的動物」という人間の定義は不十分ということになる。講義の後半では、西洋の哲学や思想を素材にしてこれら人間の二側面（社会的・反社会的側面）について考察していくことにする。この考察を通して、人間とは何か、そして自分とは何かという哲学の最も根本的な問題に迫っていくことにしたい。		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教育方法	講義法で授業は進められる。授業内で学生の発言を求めることがある。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	哲学史を手がかりにして、自分自身について考えること（自己探求）の立脚点を得る。		
授業時間外学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

授業スケジュール

１．導入－１哲学と「人間への問い」　２ギリシアの思想とヘブライの信仰
２．ギリシア哲学の人間観１－１神話から哲学へ　２ソクラテスとプラトン　３プラトンの「魂の三分説」
３．『聖書』の人間観１－１『聖書』　２天地創造と人間創造の神話　３アダムとエバの神話
４．キリスト教の人間観１－１キリスト教の成立　２アウグスティヌス　３魂の分裂
５．近代哲学の人間観１－１科学革命と近代哲学　２デカルトの機械論的自然学　３自然支配
６．現代思想の人間観１－１ダーウィンの進化論　２非理性的人間像　３前半のまとめ
７．「社会的動物」としての人間－１別の人間観　２性善説と性悪説　３ペルソナ
８．『聖書』の人間観２－１知恵の木の実　２カインとアベル
９．ギリシア神話－１ヒーロー　２『イリアス』　３アレテー
１０.ギリシア哲学の人間観２－１気概　２魂の四徳
１１.キリスト教の人間観２－１神と人間　２七つの大罪　３認められたいという誘惑
１２.近代哲学の人間観２－１社会の変動　２中世と近代のはざま　３悪の根源
１３.近代哲学の人間観３－１ホッブズ　２自惚れる人間　３高い評価を得るために戦う人間たち
１４.近代哲学の人間観４－１ヘーゲル　２「承認のための闘争」　３相互承認
１５.現代思想の人間観２－１ニーチェ　２優越願望と対等願望　３認めるということ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	TC1110602
科目名	哲学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
授業概要	「人間とは何か」とは、西洋哲学の最も根本的な問題である。講義の前半では、この問いに対する西洋の哲学や思想の代表的な解答を検討していく。後半では、別の角度からこの問題に迫る。人間はしばしば「社会的動物」と言われる。しかし、人間の中には、他者を憎んだり他者と争ったりするという反社会的な側面もある。それ故、「社会的動物」という人間の定義は不十分ということになる。講義の後半では、西洋の哲学や思想を素材にしてこれら人間の二側面（社会的・反社会的側面）について考察していくことにする。この考察を通して、人間とは何か、そして自分とは何かという哲学の最も根本的な問題に迫っていくことにしたい。		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教育方法	講義法で授業は進められる。授業内で学生の発言を求めることがある。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	哲学史を手がかりにして、自分自身について考えること（自己探求）の立脚点を得る。		
授業時間外学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

授業スケジュール

１．導入－１哲学と「人間への問い」　２ギリシアの思想とヘブライの信仰
２．ギリシア哲学の人間観１－１神話から哲学へ　２ソクラテスとプラトン　３プラトンの「魂の三分説」
３．『聖書』の人間観１－１『聖書』　２天地創造と人間創造の神話　３アダムとエバの神話
４．キリスト教の人間観１－１キリスト教の成立　２アウグスティヌス　３魂の分裂
５．近代哲学の人間観１－１科学革命と近代哲学　２デカルトの機械論的自然学　３自然支配
６．現代思想の人間観１－１ダーウィンの進化論　２非理性的人間像　３前半のまとめ
７．「社会的動物」としての人間－１別の人間観　２性善説と性悪説　３ペルソナ
８．『聖書』の人間観２－１知恵の木の実　２カインとアベル
９．ギリシア神話－１ヒーロー　２『イリアス』　３アレテー
１０.ギリシア哲学の人間観２－１気概　２魂の四徳
１１.キリスト教の人間観２－１神と人間　２七つの大罪　３認められたいという誘惑
１２.近代哲学の人間観２－１社会の変動　２中世と近代のはざま　３悪の根源
１３.近代哲学の人間観３－１ホッブズ　２自惚れる人間　３高い評価を得るために戦う人間たち
１４.近代哲学の人間観４－１ヘーゲル　２「承認のための闘争」　３相互承認
１５.現代思想の人間観２－１ニーチェ　２優越願望と対等願望　３認めるということ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	TC1110603
科目名	哲学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	樋口　善郎	旧科目名称	
授業概要	「人間とは何か」とは、西洋哲学の最も根本的な問題である。講義の前半では、この問いに対する西洋の哲学や思想の代表的な解答を検討していく。後半では、別の角度からこの問題に迫る。人間はしばしば「社会的動物」と言われる。しかし、人間の中には、他者を憎んだり他者と争ったりするという反社会的な側面もある。それ故、「社会的動物」という人間の定義は不十分ということになる。講義の後半では、西洋の哲学や思想を素材にしてこれら人間の二側面（社会的・反社会的側面）について考察していくことにする。この考察を通して、人間とは何か、そして自分とは何かという哲学の最も根本的な問題に迫っていくことにしたい。		
教材（教科書）	なし。各講義でプリントを配布する。		
教材（参考資料）	各講義で配布するプリントの「家庭学習」を参照。		
教育方法	講義法で授業は進められる。授業内で学生の発言を求めることがある。		
評価方法	平常点（４０パーセント）と学期末試験（６０パーセント）で評価する。平常点は、授業内で四回実施予定の小テストによる。原則、出席率が三分の二未満の者は評価の対象外とする。		
到達目標	哲学史を手がかりにして、自分自身について考えること（自己探求）の立脚点を得る。		
授業時間外学習	各講義で配布するプリントの「家庭学習」の課題を調べておく。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

（1）私語は厳禁である。（2）授業の中で発言を求めることがあるので、積極的に意見を述べて欲しい。（3）評価における平常点の割合が大きいので、出席や小テストの提出を欠かさないように（小テストは、四回目、七回目、十回目、十三回目の授業の後半で実施の予定)。

授業スケジュール

１．導入－１哲学と「人間への問い」　２ギリシアの思想とヘブライの信仰
２．ギリシア哲学の人間観１－１神話から哲学へ　２ソクラテスとプラトン　３プラトンの「魂の三分説」
３．『聖書』の人間観１－１『聖書』　２天地創造と人間創造の神話　３アダムとエバの神話
４．キリスト教の人間観１－１キリスト教の成立　２アウグスティヌス　３魂の分裂
５．近代哲学の人間観１－１科学革命と近代哲学　２デカルトの機械論的自然学　３自然支配
６．現代思想の人間観１－１ダーウィンの進化論　２非理性的人間像　３前半のまとめ
７．「社会的動物」としての人間－１別の人間観　２性善説と性悪説　３ペルソナ
８．『聖書』の人間観２－１知恵の木の実　２カインとアベル
９．ギリシア神話－１ヒーロー　２『イリアス』　３アレテー
１０.ギリシア哲学の人間観２－１気概　２魂の四徳
１１.キリスト教の人間観２－１神と人間　２七つの大罪　３認められたいという誘惑
１２.近代哲学の人間観２－１社会の変動　２中世と近代のはざま　３悪の根源
１３.近代哲学の人間観３－１ホッブズ　２自惚れる人間　３高い評価を得るために戦う人間たち
１４.近代哲学の人間観４－１ヘーゲル　２「承認のための闘争」　３相互承認
１５.現代思想の人間観２－１ニーチェ　２優越願望と対等願望　３認めるということ

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	★	－	★	★★

年度	2018	授業コード	TC1120101
科目名	法学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction of Law		
担当者名	渡邊　博己	旧科目名称	
授業概要	主要な法の分野である「憲法」「民法」「刑法」それぞれについて、最近話題になった、または現に話題になっている諸問題を取り上げ、 なぜ問題になっているのか、 どういった解決の方向性が考えられるか、 などについて、考えていくこととする。 これらを通して、学生は、現代の法・法学が取り組んでいる様々な課題について、関心を持つことができるようにする。 もちろん入門的な講義であることにも配意し、法学の専門的な、ある面マニアックな議論はできるだけ避けることとし、一般市民感覚で受講生と一緒になって議論を進めていくことができるようにしたい。		
教材（教科書）	渡邊博己・右近潤一『トピック現代法学ガイド』(北大路書房、2018 年 4 月刊行予定)		
教材（参考資料）	早川吉尚「法学入門」(有斐閣ストゥディア)		
教育方法	パワーポイントを活用しながら、講義法で行うことを基本とする。 テーマによっては、映像(動画)を使うこともある。		
評価方法	レポート 60％ 授業課題 40％ (各回の講義に関連する「問題」を京学ナビ・課題管理に提示するので、この解答を京学ナビから提出する。)		
到達目標	◯学生は、法(憲法・民法・刑法)が関係するニュース報道を理解することができる。 ◯学生は、憲法・民法・刑法の意義と役割を理解することができる。		
授業時間外学習	第 1 回目…次の事例について、何が問題になるか、考えてみて下さい。 「大学 4 年生の鶴太郎(２１歳)は、就職も決まり、最後の学生生活を楽しむため、つきあい始めたばかりの彼女とドライブに出かけた。ビールを飲んでハイな気分に浸りながら、深夜のリゾート地の道路を高速で走るのは最高の気分だった。気分がよすぎたためか、鶴太郎は、交差点の赤信号を見落とし、交差点を青信号で通行中のバイクに衝突して、運転手 A をはね飛ばしてしまった。 A は病院に運ばれたが、治療の甲斐もなく死亡した。もちろん、 A のバイクも修理不可能で廃車にせざるを得ない状態だった。」 第 2 回目…配布プリント(または「指定教科書」。以下同じ。)第 2 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 3 回目…配布プリント第 3 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 4 回目…配布プリント第 4 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 5 回目…配布プリント第 5 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 6 回目…配布プリント第 6 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 7 回目…配布プリント第 7 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 8 回目…配布プリント第 8 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 9 回目…配布プリント第 9 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 10 回目…配布プリント第 10 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 11 回目…配布プリント第 11 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 12 回目…配布プリント第 12 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 13 回目…配布プリント第 13 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 14 回目…配布プリント第 14 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。 第 15 回目…配布プリント第 15 章の Case を読み、何が問題になるか、考えてみて下さい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1. 出席登録だけで満足しているような学生を時折見かける。本科目については、このような態度はまったく意味をなさないことは、改めてお伝えしておきたい。少なくとも授業時間中の真剣な取り組みを何よりも期待したい。
２．授業課題・レポートについては、何をどう考え、どのように書き進めていくか、授業内で具体的に指示するので、これに従って記述する。

授業スケジュール

1　導入
　１法学とは?何を何のために学ぶか
　２六法とは何か
　　憲法・民法・刑法
　３裁判所は何をするところか

2　憲法
　４法律が憲法に違反すると
　　違憲立法審査　一票の格差
　５憲法で守られる人権とは
　　幸福追求権・新しい人権
　６憲法は差別問題についてどう考えているか
　　法の下の平等

3　民事法
　７民法の適用は年齢によって区別されるか
　　成年年齢　１８歳選挙権
　８契約は守らなければならないか
　　例えば、「恋愛禁止」を定める契約条項に違反したアイドルは？
　９子どもの遊びが原因の事故でも損害賠償請求に応じなければならないか
　　不法行為　責任無能力者　監督責任者
　10 お父さんと呼べるのはなぜ
　　嫡出推定制度　女性の再婚禁止期間
　11 夫婦は同一姓を名乗らなければならないか
　　夫婦別姓
　12 相続のルールはなぜ必要なの
　　非嫡出子相続差別

4　刑事法
　13 冤罪事件を防ぐには
　　取調べの録音・録画制度
　14 裁判員になって死刑判決にかかわる
　　裁判員裁判と死刑
　　ある死刑判決－元少年石巻殺傷事件

5　法・法学の未来
　15ＡＩのある生活－自動運転に付き合う　／　ＡＩは法の夢を見るか？

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	TC1120102
科目名	法学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction of Law		
担当者名	右近　潤一	旧科目名称	
授業概要	本講義は、主要な法の分野である「憲法」「民法」「刑法」それぞれについて、最近話題になったか、または現に話題になっている諸問題を取り上げ、 ・なぜ問題になっているのか、 ・どういった解決の方向性が考えられるか、 などについて、考えてゆくこととする。 これらを通して、学生は、現代の法・法学が取り組んでいる様々な課題について、関心を持つことができるようにする。 もちろん入門的な講義であることにも配慮し、法学の専門的な、ある面マニアックな議論はできるだけ避けることとし、一般市民感覚で受講生と一緒になって議論を進めていくことができるようにしたい。		
教材（教科書）	渡邊博己・右近潤一『トピック現代法学ガイド』（北大路書房）【2018 年 4 月刊行予定】		
教材（参考資料）	・早川吉尚『法学入門』（有斐閣） ・池田真朗ほか『法の世界へ』（有斐閣） ・副田隆重ほか『ライフステージと法』（有斐閣） ・松井茂記ほか『はじめての法律学 -- Ｈとｊの物語』（有斐閣） ・大谷實編『エッセンシャル法学』（成文堂） ・髙橋明弘『法学への招待』（法律文化社） ・西村裕三編『リーガル・マインド入門』（有信堂）		
教育方法	重要語句を中心に空欄を作成したレジュメを配布し講義を行う。スライドは用いない。講義の最後には、同日扱った内容についての確認を行う。この確認は、受講生の受講意識を高め、講義の内容をもう一度受講生自ら整理することを目的としている。		
評価方法	３回の小テストの結果を 60％；講義中に課した課題を 40％で評価する。		
到達目標	・身近には様々な法律が存在することを認識する。 ・法律が関係するニュース報道を理解することができる。 ・憲法・民法・刑法の意義と役割を理解することができる。		
授業時間外学習	・テレビ、インターネットや新聞で法律に関係するニュースを意識的に見ておこう。 ・条文を暗記する必要はないが、条文の意味や置かれた理由を理解しよう。 ・こまめに小テストを行うので、必ず自宅での復習をしよう。復習は教科書の該当箇所を一読すること。 １．法学とは？ 何を何のために学ぶか ２．法律が憲法に違反すると―違憲立法審査 ３．憲法で守られる人権とは―幸福追求権・新しい人権 ４．憲法は差別問題についてどう考えているか―法の下の平等 ５．六法とは何か―憲法・民法・刑法 ６．民法の適用は年齢によって区別されるか―成年年齢・１８歳選挙権 ７．契約は守らなければならないか―例えば、「恋愛禁止」を定める契約条項に違反したアイドルは？ ８．子どもの遊びが原因の事故でも損害賠償請求に応じなければならないか―不法行為・責任無能力者・監督責任者 ９．お父さんと呼べるのはなぜ―嫡出推定制度・女性の再婚禁止期間 １０．裁判所は何をするところか １１．夫婦は同一姓を名乗らなければならないか―夫婦別姓 １２．相続のルールはなぜ必要なの １３．冤罪事件を防ぐには―取調べの録音・録画制度 １４．裁判員になって死刑判決にかかわる―裁判員裁判と死刑（ある死刑判決－元少年石巻殺傷事件） １５．ＡＩのある生活－自動運転に付き合う・ＡＩは法の夢を見るか？		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など
・講義中の出入りは周りの迷惑になるのでしないこと。トイレは休み時間中に済ませること。 ・講義中は、スマートフォンの電源を切り、鞄にしまうこと。 ・その他履修要項の「第一部　履修の心得」参照。
授業スケジュール
１．法学とは？ 何を何のために学ぶか ２．法律が憲法に違反すると―違憲立法審査 ３．憲法で守られる人権とは―幸福追求権・新しい人権 ４．憲法は差別問題についてどう考えているか―法の下の平等 ５．【小テスト１】テスト１解説；六法とは何か―憲法・民法・刑法 ６．テスト１講評；民法の適用は年齢によって区別されるか―成年年齢・１８歳選挙権 ７．契約は守らなければならないか―例えば、「恋愛禁止」を定める契約条項に違反したアイドルは？ ８．子どもの遊びが原因の事故でも損害賠償請求に応じなければならないか―不法行為・責任無能力者・監督責任者 ９．お父さんと呼べるのはなぜ―嫡出推定制度・女性の再婚禁止期間 １０．【小テスト２】テスト２解説；裁判所は何をするところか １１．テスト２講評；夫婦は同一姓を名乗らなければならないか―夫婦別姓 １２．相続のルールはなぜ必要なの １３．冤罪事件を防ぐには―取調べの録音・録画制度 １４．裁判員になって死刑判決にかかわる―裁判員裁判と死刑（ある死刑判決－元少年石巻殺傷事件） １５．【小テスト３】テスト３解説；ＡＩのある生活－自動運転に付き合う・ＡＩは法の夢を見るか？

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★★

年度	2018	授業コード	TC1120301
科目名	政治学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中川　洋一	旧科目名称	
授業概要	・政治学の一般的な基礎知識や考え方について、幅広い観点から学びます。 ・講義では自由民主主義体制、執政府、投票行動、政党と政党システム、利益集団、戦後の日本政治、平和や環境をめぐる国際協力、地域統合と EU といったテーマを扱う予定です。 ・現在進行中の政治問題を意識しつつ、それについて考えるツールとして政治学を学んで下さい。アクチュアルな政治の重要な案件については、適宜授業の中で取り上げ、解説する機会を持ちます。 ・参考文献については、シラバスに記載している文献とは別に、適宜講義内で紹介します。		
教材（教科書）	伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め（第 3 版)』（有斐閣ブックス、2011 年）		
教材（参考資料）	久米・古城・真淵編『政治学』（有斐閣、2003 年） 苅部・宇野・中本編『政治学をつかむ』（有斐閣、2011 年） 加茂・大西・石田編『現代政治学（第 4 版)』（有斐閣アルマ、2012 年） 福富満久『国際平和論』（岩波書店、2014 年）		
教育方法	・授業は講義法により進めます。指定の教科書を元に、講義内容を纏めたレジュメに基づいて授業を進めます。 ・受講者の理解度や関心に応じて、適宜講義の進度や内容を変更します。また、適宜写真や映像を使用し、視聴覚に訴える多彩な講義を目指します。		
評価方法	（予定） 授業への積極性 30%、小テスト 20%、期末試験 50%		
到達目標	・実社会で活躍する上でも必要な、政治や政治学に関する一般教養知識の獲得 ・中学・高等学校教員の「政治経済」科目で必要な基礎知識、教育理念（平和と民主主義）の獲得 ・マスコミやマスメディアによる政治報道を咀嚼して理解すると共に、一定の自分の意見を持つことができる。		
授業時間外学習	・毎回の授業終了後に必ず復習をすること。 ・日頃から積極的に新聞、雑誌、メディア報道に親しみ、アクチュアルな日本や世界の政治情勢を肌で感じて下さい。 また図書館や本屋に足を運び、関心を持つテーマから初めて構わないので、なるべく政治（学）に関する本を読んで下さい。		
受講条件・受講のルール・学習上の助言など			
・授業の進行や、他の学生の学習を妨げる行為（私語、授業途中の退室、睡眠、スマートフォンの使用など）をする者の受講は認めません。学習態度も平常点として加味します。 ・難しい内容も登場するかもしれませんが、お互いめげずに頑張って勉強しましょう。不明な内容は授業後に質問して下さい。 ・授業中には講師の話をメモに書きとめ、理解できなかった内容は授業後に質問する、関心のある内容については、授業的で示唆する参考書を頼りに独習するといったように、積極的な「学び」の姿勢が奨励されます。			
授業スケジュール			
第 1 回；イントロダクション／権力 授業の進め方や評価方法についての説明／政治（学）とは何か／権力とは何か／アンケートの実施 第 2 回；政治意識 政策の対立軸／政治的無関心／国家の成立と主権概念／市民の台頭と主権の変容／ナショナリズム 第 3 回：政治体制としての自由民主主義体制 政治体制とは／自由主義と民主主義／多様な自由民主主義／民主化の第 3 の波 ／自由民主主義の変容と課題／ポピュリズム			

第 4 回：選挙と政治参加、政治制度
政治参加とは／投票率の上下の要因／棄権や投票する人のタイプ／投票決定要因／政治制度

第 5 回：マスメディアと政治
マスメディアの環境監視機能／メディアフレーム／メディアの影響力／「沈黙の螺旋」

第 6 回：政党と政党政治①
政党の類型／派閥／55 年体制／自民党と社会党

第 7 回：政党と政党政治②・官僚制
政党システム／官僚とは／官僚の役割

第 8 回：利益集団
多元主義／ネオ・コーポラティズム

第 9 回：政策過程
政策決定理論／アリソン・モデル

第 10 回：執政府
議院内閣制と大統領制／リーダーシップのタイプ／比較の中の日本の首相

第 11 回：地方政治と地方自治
地方政府の役割／地方分権改革／「民主主義の学校」としての地方政治

第 12 回：国際社会を見る視座／冷戦期の世界
3 つの分析イメージ／ウエストファリア体制／冷戦期の世界

第 13 回：平和をめぐる国際協力
冷戦後の世界／平和とは何か／新しい戦争／国連と PKO

第 14 回：環境をめぐる国際協力
地球温暖化と環境問題

第 15 回：地域主義／纏めと学習内容の整理
地域主義としての欧州統合

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	TC1120302
科目名	政治学 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）			
担当者名	中川　洋一	旧科目名称	
授業概要	・政治学の一般的な基礎知識や考え方について、幅広い観点から学びます。 ・講義では自由民主主義体制、執政府、投票行動、政党と政党システム、利益集団、戦後の日本政治、平和や環境をめぐる国際協力、地域統合と EU といったテーマを扱う予定です。 ・現在進行中の政治問題を意識しつつ、それについて考えるツールとして政治学を学んで下さい。アクチュアルな政治の重要な案件については、適宜授業の中で取り上げ、解説する機会を持ちます。 ・参考文献については、シラバスに記載している文献とは別に、適宜講義内で紹介します。		
教材（教科書）	伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め（第 3 版)』（有斐閣ブックス、2011 年）		
教材（参考資料）	久米・古城・真淵編『政治学』（有斐閣、2003 年） 苅部・宇野・中本編『政治学をつかむ』（有斐閣、2011 年） 加茂・大西・石田編『現代政治学（第 4 版)』（有斐閣アルマ、2012 年） 福富満久『国際平和論』（岩波書店、2014 年）		
教育方法	・授業は講義法により進めます。指定の教科書を元に、講義内容を纏めたレジュメに基づいて授業を進めます。 ・受講者の理解度や関心に応じて、適宜講義の進度や内容を変更します。また、適宜写真や映像を使用し、視聴覚に訴える多彩な講義を目指します。		
評価方法	（予定） 授業への積極性 30%、小テスト 20%、期末試験 50%		
到達目標	・実社会で活躍する上でも必要な、政治や政治学に関する一般教養知識の獲得 ・中学・高等学校教員の「政治経済」科目で必要な基礎知識、教育理念（平和と民主主義）の獲得 ・マスコミやマスメディアによる政治報道を咀嚼して理解すると共に、一定の自分の意見を持つことができる。		
授業時間外学習	・毎回の授業終了後に必ず復習をすること。 ・日頃から積極的に新聞、雑誌、メディア報道に親しみ、アクチュアルな日本や世界の政治情勢を肌で感じて下さい。 また図書館や本屋に足を運び、関心を持つテーマから初めて構わないので、なるべく政治（学）に関する本を読んで下さい。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

・授業の進行や、他の学生の学習を妨げる行為（私語、授業途中の退室、睡眠、スマートフォンの使用など）をする者の受講は認めません。学習態度も平常点として加味します。
・難しい内容も登場するかもしれませんが、お互いめげずに頑張って勉強しましょう。不明な内容は授業後に質問して下さい。
・授業中には講師の話をメモに書きとめ、理解できなかった内容は授業後に質問する、関心のある内容については、授業的で示唆する参考書を頼りに独習するといったように、積極的な「学び」の姿勢が奨励されます。

授業スケジュール

第 1 回；イントロダクション／権力
　　授業の進め方や評価方法についての説明／政治（学）とは何か／権力とは何か／アンケートの実施

第 2 回；政治意識
　　政策の対立軸／政治的無関心／国家の成立と主権概念／市民の台頭と主権の変容／ナショナリズム

第 3 回：政治体制としての自由民主主義体制
　　政治体制とは／自由主義と民主主義／多様な自由民主主義／民主化の第 3 の波
　　／自由民主主義の変容と課題／ポピュリズム

第 4 回：選挙と政治参加、政治制度
政治参加とは／投票率の上下の要因／棄権や投票する人のタイプ／投票決定要因／政治制度

第 5 回：マスメディアと政治
マスメディアの環境監視機能／メディアフレーム／メディアの影響力／「沈黙の螺旋」

第 6 回：政党と政党政治①
政党の類型／派閥／55 年体制／自民党と社会党

第 7 回：政党と政党政治②・官僚制
政党システム／官僚とは／官僚の役割

第 8 回：利益集団
多元主義／ネオ・コーポラティズム

第 9 回：政策過程
政策決定理論／アリソン・モデル

第 10 回：執政府
議院内閣制と大統領制／リーダーシップのタイプ／比較の中の日本の首相

第 11 回：地方政治と地方自治
地方政府の役割／地方分権改革／「民主主義の学校」としての地方政治

第 12 回：国際社会を見る視座／冷戦期の世界
3 つの分析イメージ／ウエストファリア体制／冷戦期の世界

第 13 回：平和をめぐる国際協力
冷戦後の世界／平和とは何か／新しい戦争／国連と PKO

第 14 回：環境をめぐる国際協力
地球温暖化と環境問題

第 15 回：地域主義／纏めと学習内容の整理
地域主義としての欧州統合

人間力（6 つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	★	−	−	−	★	★★

年度	2018	授業コード	TC1120401
科目名	日本国憲法 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Constitution		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
授業概要	憲法の意味、日本国憲法の成立と歴史、基本的人権、統治機構について学ぶ。 憲法の基本的な内容を理解するとともに、現在の改憲動向について学ぶことができる。		
教材（教科書）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考資料）	市川正人・倉田原志編『憲法入門』(法律文化社、2012 年)		
教育方法	毎回配布する講義レジュメと教科書を使って講義する。 DVD などの映像も使う。		
評価方法	定期試験(80%) 、授業内レポート等による評価(20%)		
到達目標	日本国憲法の全体像について基礎的な知識の習得を目指すとともに、現在、問題となっている政治状況、憲法裁判、改憲動向が理解できることを目指す。		
授業時間外学習	教科書にしたがって章ごとに講義を進めるので、次回の範囲に該当する憲法の条文と教科書の該当頁を読んで予習する。毎日のテレビ、新聞を必ずチェックすること。 1　教科書 2 頁～12 頁 2　教科書 121 頁～126 頁 3　教科書 59 頁～66 頁 4　法の下の平等に関する判例を調べる 5　教科書 67 頁～72 頁 6　教科書 74 頁～81 頁 7　経済的自由権をめぐる判例を調べる 8　教科書 89 頁～94 頁 9　教科書 108 頁～113 頁 10　教科書 101 頁～107 頁 11　教科書 101 頁～107 頁 12　司法改革をめぐる話題をネットで調べる 13　教科書 115 頁～120 頁 14　教科書 32 頁～58 頁 15　教科書 13 頁～30 頁		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。
テレビや新聞で取り上げられている憲法問題に注目すること。憲法問題については、さまざまな立場があるので、一方的な情報のみで判断するのではなく、講義で学ぶ基本原理や学説・判例を正確に習得したうえで、現在の課題について考えてほしい。

授業スケジュール

1．憲法とは何か
2．天皇制
3．幸福追求権
4．法の下の平等
5．信教の自由と政教分離
6．表現の自由
7．経済的自由権
8．生存権
9．参政権と選挙制度
10．国会
11．内閣

１２．裁判所
１３．地方自治
１４．平和主義
１５．改憲の動き

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	TC1120402
科目名	日本国憲法 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Constitution		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
授業概要	憲法の意味、日本国憲法の成立と歴史、基本的人権、統治機構について学ぶ。 憲法の基本的な内容を理解するとともに、現在の改憲動向について学ぶことができる。		
教材（教科書）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考資料）	市川正人・倉田原志編『憲法入門』(法律文化社、2012 年)		
教育方法	毎回配布する講義レジュメと教科書を使って講義する。 DVD などの映像も使う。		
評価方法	定期試験(80%) 、授業内レポート等による評価(20%)		
到達目標	日本国憲法の全体像について基礎的な知識の習得を目指すとともに、現在、問題となっている政治状況、憲法裁判、改憲動向が理解できることを目指す。		
授業時間外学習	教科書にしたがって章ごとに講義を進めるので、次回の範囲に該当する憲法の条文と教科書の該当頁を読んで予習する。毎日のテレビ、新聞を必ずチェックすること。 1　教科書 2 頁～12 頁 2　教科書 121 頁～126 頁 3　教科書 59 頁～66 頁 4　法の下の平等に関する判例を調べる 5　教科書 67 頁～72 頁 6　教科書 74 頁～81 頁 7　経済的自由権をめぐる判例を調べる 8　教科書 89 頁～94 頁 9　教科書 108 頁～113 頁 10　教科書 101 頁～107 頁 11　教科書 101 頁～107 頁 12　司法改革をめぐる話題をネットで調べる 13　教科書 115 頁～120 頁 14　教科書 32 頁～58 頁 15　教科書 13 頁～30 頁		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。
テレビや新聞で取り上げられている憲法問題に注目すること。憲法問題については、さまざまな立場があるので、一方的な情報のみで判断するのではなく、講義で学ぶ基本原理や学説・判例を正確に習得したうえで、現在の課題について考えてほしい。

授業スケジュール

1．憲法とは何か
2．天皇制
3．幸福追求権
4．法の下の平等
5．信教の自由と政教分離
6．表現の自由
7．経済的自由権
8．生存権
9．参政権と選挙制度
10．国会
11．内閣

１２．裁判所
１３．地方自治
１４．平和主義
１５．改憲の動き

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	TC1120403
科目名	日本国憲法 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Japanese Constitution		
担当者名	木藤　伸一朗	旧科目名称	
授業概要	憲法の意味、日本国憲法の成立と歴史、基本的人権、統治機構について学ぶ。 憲法の基本的な内容を理解するとともに、現在の改憲動向について学ぶことができる。		
教材（教科書）	京都憲法会議監修　木藤伸一朗・倉田原志・奥野恒久編『憲法「改正」の論点』(法律文化社、2014 年)		
教材（参考資料）	市川正人・倉田原志編『憲法入門』(法律文化社、2012 年)		
教育方法	毎回配布する講義レジュメと教科書を使って講義する。 DVD などの映像も使う。		
評価方法	定期試験(80%) 、授業内レポート等による評価(20%)		
到達目標	日本国憲法の全体像について基礎的な知識の習得を目指すとともに、現在、問題となっている政治状況、憲法裁判、改憲動向が理解できることを目指す。		
授業時間外学習	教科書にしたがって章ごとに講義を進めるので、次回の範囲に該当する憲法の条文と教科書の該当頁を読んで予習する。毎日のテレビ、新聞を必ずチェックすること。 1　教科書 2 頁～12 頁 2　教科書 121 頁～126 頁 3　教科書 59 頁～66 頁 4　法の下の平等に関する判例を調べる 5　教科書 67 頁～72 頁 6　教科書 74 頁～81 頁 7　経済的自由権をめぐる判例を調べる 8　教科書 89 頁～94 頁 9　教科書 108 頁～113 頁 10　教科書 101 頁～107 頁 11　教科書 101 頁～107 頁 12　司法改革をめぐる話題をネットで調べる 13　教科書 115 頁～120 頁 14　教科書 32 頁～58 頁 15　教科書 13 頁～30 頁		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

講義に出席し、教科書を熟読することは大前提である。
テレビや新聞で取り上げられている憲法問題に注目すること。憲法問題については、さまざまな立場があるので、一方的な情報のみで判断するのではなく、講義で学ぶ基本原理や学説・判例を正確に習得したうえで、現在の課題について考えてほしい。

授業スケジュール

1．憲法とは何か
2．天皇制
3．幸福追求権
4．法の下の平等
5．信教の自由と政教分離
6．表現の自由
7．経済的自由権
8．生存権
9．参政権と選挙制度
10．国会
11．内閣

１２．裁判所
１３．地方自治
１４．平和主義
１５．改憲の動き

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　　待	－	－	－	－	－	★

年度	2018	授業コード	TM0045A01
科目名	社会学入門Ａ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
授業概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義時に紹介する。		
教育方法	主に講義による。毎時間、授業の初めに前回の授業内容の復習をおこなう。毎時間、授業の終わりに受講者に、質問･意見などを書いてもらう。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。授業終了時の質問カード提出による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解する。 身の回りの社会現象についての関心と理解を深める。 自分の専門分野が社会とどのように関わりがあるかについて考える。		
授業時間外学習	1.「社会」という言葉について考えることを 200 字程度でまとめておくこと。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、授業の見通しを付けておくこと） 2. 配付資料 No.1「遊び」 3. 配付資料 No.2「家族」 4. 配付資料 No.3「学校」 5. 配付資料 No.4「資本主義」 6. 配付資料 No.5「労働 1」 7. 配付資料 No.6「労働 2」 8. 配付資料 No.7「基本的人権」 9. 配付資料 No.8「宗教と社会」 10. 配付資料 No.9「管理社会化」 11. 配付資料 No.10「音楽と社会」 12. 配付資料 No.11「スポーツ」 13. 配付資料 No.12「犯罪」 14. 配付資料 No.13「日本社会の特質」 15. 配付資料 No.14「社会学と現代社会の関係」 　また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。 また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

授業スケジュール

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の４種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など）。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。

9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。
10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。
11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15, 社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	TM0045A02
科目名	社会学入門Ａ 【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology A		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｓ
授業概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気が付きにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことによって、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、音楽、宗教、国家、マスメディア、社会の近代化、などの問題を取り上げます。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義時に紹介する。		
教育方法	主に講義による。毎時間、授業の初めに前回の授業内容の復習をおこなう。毎時間、授業の終わりに受講者に、質問･意見などを書いてもらう。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。授業終了時の質問カード提出による。）		
到達目標	社会学の考え方を理解する。 身の回りの社会現象についての関心と理解を深める。 自分の専門分野が社会とどのように関わりがあるかについて考える。		
授業時間外学習	1.「社会」という言葉について考えることを 200 字程度でまとめておくこと。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、授業の見通しを付けておくこと） 2. 配付資料 No.1「遊び」 3. 配付資料 No.2「家族」 4. 配付資料 No.3「学校」 5. 配付資料 No.4「資本主義」 6. 配付資料 No.5「労働 1」 7. 配付資料 No.6「労働 2」 8. 配付資料 No.7「基本的人権」 9. 配付資料 No.8「宗教と社会」 10. 配付資料 No.9「管理社会化」 11. 配付資料 No.10「音楽と社会」 12. 配付資料 No.11「スポーツ」 13. 配付資料 No.12「犯罪」 14. 配付資料 No.13「日本社会の特質」 15. 配付資料 No.14「社会学と現代社会の関係」 　また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。 また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1，積極的に学びたいという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講者への迷惑となるので、退室を求める。

授業スケジュール

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（遊び）「遊び」は、真似、競争、偶然を楽しむ、非日常的な体験、の４種類に分類できること。
3，（家族）家族のあり方が急激に変化していること（結婚しない人の増加、できちゃった婚の容認、など)。
4，（学校）学校教育の、個人の人格や能力を育てる側面と、社会に従順に収まる人間を養成する側面。
5，（資本主義）資本主義社会では、努力が評価されると言われるが、他方で貧富の格差も拡大する。
6，（労働１）経営者に対して立場の不利な労働者のために、労働組合の存在が認められていること。
7，（労働２）労働組合の存在の基礎に、労働者の基本的な権利が存在していること。
8，（基本的人権）国家と基本的人権の関係から、基本的人権の意味をとらえ直す。

9，（宗教と社会）科学文明の発達した現代社会に、外部の人には理解のしがたい宗教団体が勢力を伸ばしていること。
10,（管理社会化）社会が近代化してくると管理社会化も進行してくること。
11,（音楽と社会）様々な音楽はその時代の社会の特徴と関係があるということ。
12,（スポーツ）スポーツは、メディアとの関わり、国家による政治的利用、人種差別など、社会と切っても切れない関係にある。
13,（犯罪）近年、青少年や外国人による犯罪が増えていると言われている。その実態と、メディアの影響。
14,（日本社会の特徴）日本の社会は外国の社会とどのように違う特徴を持っているのか。
15, 社会学と現代社会の関係

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	TM0045B01
科目名	社会学入門Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｆ
授業概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、など,、現代社会のいろいろな側面について考えます。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義時に紹介する。		
教育方法	主に講義による。毎時間、授業の初めに前回の授業内容の復習をおこなう。毎時間、授業の終わりに受講者に、質問･意見などを書いてもらう。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。授業終了時の質問カード提出による。）		
到達目標	社会学の考え方の基礎を理解する。 身の回りの社会現象についての関心と理解を深める。 自分の専門分野が社会とどのように関わりがあるかについて考える。		
授業時間外学習	1.「社会」に関する現象についてメディアで見かけたことを 200 字程度でまとめておくこと。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、授業の見通しを付けておくこと） 2. 配付資料 No.1「家族 1」 3. 配付資料 No.2「家族 2」 4. 配付資料 No.3「学校と歴史」 5. 配付資料 No.4「企業 1」 6. 配付資料 No.5「企業 2」 7. 配付資料 No.6「格差社会」 8. 配付資料 No.7「政治」 9. 配付資料 No.8「マスメディア 1」 10. 配付資料 No.9「マスメディア 2」 11. 配付資料 No.10「国際化」 12. 配付資料 No.11「近代化」 13. 配付資料 No.12「高齢化」 14. 配付資料 No.13「社会調査」 15. 配付資料 No.14「社会学と現代社会」 　また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。

授業スケジュール

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（家族１）他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。
3，（家族２）社会における家族の役割が、以前の社会とはかなり変化していること。
4，（学校）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を残している面があること。
5，（企業１）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
6，（企業２）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）
7，（格差社会）日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。
8，（政治）祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。
9，（マスメディア１）現在ではマスメディアの力は大変大きく、自分の意見も実はマスメディアの受け売りかもしれない。

10, （マスメディア２）犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライヴァシーのバランスの問題。
11, （国際化）社会は国際化しているが、国内の外国人の実態は必ずしも知られていないこと。
12, （近代化）近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。
13, （高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
14, （社会調査）世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。
15, 社会学と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★

年度	2018	授業コード	TM0045B02
科目名	社会学入門Ｂ　【他】	単位数	2
科目名（英語表記）	Introduction to Sociology B		
担当者名	小川　賢治	旧科目名称	社会学入門ｆ
授業概要	社会学は、社会の様々な側面について考える学問です。普段気づかれにくいことに注目し、当たり前と思われていることを別の角度から考える、という特徴があります。社会学を学ぶことで、現代社会を生きていくのに必要な知識が得られます。家族、学校、企業、国家、外国人、マスメディア、高齢社会、社会の近代化、など,、現代社会のいろいろな側面について考えます。		
教材（教科書）	なし		
教材（参考資料）	講義時に紹介する。		
教育方法	主に講義による。毎時間、授業の初めに前回の授業内容の復習をおこなう。毎時間、授業の終わりに受講者に、質問･意見などを書いてもらう。		
評価方法	定期試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%。授業終了時の質問カード提出による。）		
到達目標	社会学の考え方の基礎を理解する。 身の回りの社会現象についての関心と理解を深める。 自分の専門分野が社会とどのように関わりがあるかについて考える。		
授業時間外学習	1.「社会」に関する現象についてメディアで見かけたことを 200 字程度でまとめておくこと。 （以下の回は、前回の授業時に配付する資料を当日までに読んでおいて、授業の見通しを付けておくこと） 2. 配付資料 No.1「家族 1」 3. 配付資料 No.2「家族 2」 4. 配付資料 No.3「学校と歴史」 5. 配付資料 No.4「企業 1」 6. 配付資料 No.5「企業 2」 7. 配付資料 No.6「格差社会」 8. 配付資料 No.7「政治」 9. 配付資料 No.8「マスメディア 1」 10. 配付資料 No.9「マスメディア 2」 11. 配付資料 No.10「国際化」 12. 配付資料 No.11「近代化」 13. 配付資料 No.12「高齢化」 14. 配付資料 No.13「社会調査」 15. 配付資料 No.14「社会学と現代社会」 　また、毎回、講義の初めに、前回の講義内容に関する復習小テストを実施するので、復習をしておくこと。		

受講条件・受講のルール・学習上の助言など

1，積極的に学ぼうという姿勢をもって講義に臨んでほしい。
2，私語を慎んでほしい。注意しても改まらない場合は、他の受講生への迷惑となるので、退室を求める。

授業スケジュール

1，ガイダンス。この講義のねらい、成績評価方法などについて。
2，（家族１）他の動物は結婚を役所に届けないが、人間は届ける。当たり前と思う前に、なぜかを考える。
3，（家族２）社会における家族の役割が、以前の社会とはかなり変化していること。
4，（学校）日本の学校教育は第二次大戦以前の教育の影響を残している面があること。
5，（企業１）日本の会社の従来の特徴（終身雇用、年功賃金など）
6，（企業２）日本の会社の変化（リストラ、賃金上昇の停止など）
7，（格差社会）日本社会はかつては「一億総中流社会」と呼ばれていたが、近年は格差が拡大しつつある。
8，（政治）祖国という意味での「くに」と、政治の仕組みとしての「国家」が区別できること。
9，（マスメディア１）現在ではマスメディアの力は大変大きく、自分の意見も実はマスメディアの受け売りかもしれない。

10, （マスメディア２）犯罪容疑者の氏名の公表と、知る権利とプライヴァシーのバランスの問題。
11, （国際化）社会は国際化しているが、国内の外国人の実態は必ずしも知られていないこと。
12, （近代化）近代社会では、音楽のような芸術も含めて、あらゆるものが「合理的」になっていること。
13, （高齢化）社会の高齢化が進み、若い世代の負担が増えていくと言われていること。
14, （社会調査）世論調査の結果が新聞などで発表されているが、その意味を正しく理解する必要があること。
15, 社会学と現代社会

人間力（6つの基礎力）	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力	協働力	適応力	行動力	課題発見力	倫理的思考力
期　待	－	－	－	－	★★	★